User's Manual

32

SH7752 グループ

ユーザーズマニュアル　ハードウェア編

ルネサス 32 ビット RISC マイクロコンピュータ

SuperH™ RISC エンジンファミリ／SH7780 シリーズ

本資料に記載の全ての情報は本資料発行時点のものであり、ルネサス エレクトロニクスは、
予告なしに、本資料に記載した製品または仕様を変更することがあります。
ルネサス エレクトロニクスのホームページなどにより公開される最新情報をご確認ください。

ルネサス エレクトロニクス
www.renesas.com

Rev.1.00　2012.07

ご注意書き

1. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。お客様の機器・システムの設計において、回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。これらの使用に起因して、お客様または第三者に生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
2. 本資料に記載されている情報は、正確を期すため慎重に作成したものですが、誤りがないことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、当社は、一切その責任を負いません。
3. 本資料に記載された製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズム、応用回路例等の情報の使用に起因して発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権に対する侵害に関し、当社は、何らの責任を負うものではありません。当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
4. 当社製品を改造、改変、複製等しないでください。かかる改造、改変、複製等により生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
5. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」および「高品質水準」に分類しており、
   各品質水準は、以下に示す用途に製品が使用されることを意図しております。

   標準水準：　コンピュータ、OA 機器、通信機器、計測機器、AV 機器、
   家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット等

   高品質水準：　輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通用信号機器、
   防災・防犯装置、各種安全装置等

   当社製品は、直接生命・身体に危害を及ぼす可能性のある機器・システム（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの等）、もしくは多大な物的損害を発生させるおそれのある機器・システム（原子力制御システム、軍事機器等）に使用されることを意図しておらず、使用することはできません。たとえ、意図しない用途に当社製品を使用したことによりお客様または第三者に損害が生じても、当社は一切その責任を負いません。なお、ご不明点がある場合は、当社営業にお問い合わせください。
6. 当社製品をご使用の際は、当社が指定する最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他の保証範囲内でご使用ください。当社保証範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
7. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めていますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は耐放射線設計については行っておりません。当社製品の故障または誤動作が生じた場合も、人身事故、火災事故、社会的損害等を生じさせないよう、お客様の責任において、冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、お客様の機器・システムとしての出荷保証を行ってください。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様の機器・システムとしての安全検証をお客様の責任で行ってください。
8. 当社製品の環境適合性等の詳細につきましては、製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制する RoHS 指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。お客様がかかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関して、当社は、一切その責任を負いません。
9. 本資料に記載されている当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器・システムに使用することはできません。また、当社製品および技術を大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的その他軍事用途に使用しないでください。当社製品または技術を輸出する場合は、「外国為替及び外国貿易法」その他輸出関連法令を遵守し、かかる法令の定めるところにより必要な手続を行ってください。
10. お客様の転売等により、本ご注意書き記載の諸条件に抵触して当社製品が使用され、その使用から損害が生じた場合、当社は何らの責任も負わず、お客様にてご負担して頂きますのでご了承ください。
11. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを禁じます。

注 1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサス エレクトロニクス株式会社およびルネサス エレクトロニクス株式会社がその総株主の議決権の過半数を直接または間接に保有する会社をいいます。

注 2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注１において定義された当社の開発、製造製品をいいます。

製品ご使用上の注意事項

ここでは、マイコン製品全体に適用する「使用上の注意事項」について説明します。個別の使用上の注意事項については、本文を参照してください。なお、本マニュアルの本文と異なる記載がある場合は、本文の記載が優先するものとします。

1. 未使用端子の処理
   【注意】未使用端子は、本文の「未使用端子の処理」に従って処理してください。
   CMOS 製品の入力端子のインピーダンスは、一般に、ハイインピーダンスとなっています。未使用端子を開放状態で動作させると、誘導現象により、LSI 周辺のノイズが印加され、LSI 内部で貫通電流が流れたり、入力信号と認識されて誤動作を起こす恐れがあります。未使用端子は、本文「未使用端子の処理」で説明する指示に従い処理してください。
2. 電源投入時の処置
   【注意】電源投入時は，製品の状態は不定です。
   電源投入時には、LSI の内部回路の状態は不確定であり、レジスタの設定や各端子の状態は不定です。
   外部リセット端子でリセットする製品の場合、電源投入からリセットが有効になるまでの期間、端子の状態は保証できません。
   同様に、内蔵パワーオンリセット機能を使用してリセットする製品の場合、電源投入からリセットのかかる一定電圧に達するまでの期間、端子の状態は保証できません。
3. リザーブアドレス（予約領域）のアクセス禁止
   【注意】リザーブアドレス（予約領域）のアクセスを禁止します。
   アドレス領域には、将来の機能拡張用に割り付けられているリザーブアドレス（予約領域）があります。これらのアドレスをアクセスしたときの動作については、保証できませんので、アクセスしないようにしてください。
4. クロックについて
   【注意】リセット時は、クロックが安定した後、リセットを解除してください。
   プログラム実行中のクロック切り替え時は、切り替え先クロックが安定した後に切り替えてください。
   リセット時、外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックで動作を開始するシステムでは、クロックが十分安定した後、リセットを解除してください。また、プログラムの途中で外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックに切り替える場合は、切り替え先のクロックが十分安定してから切り替えてください。
5. 製品間の相違について
   【注意】型名の異なる製品に変更する場合は、製品型名ごとにシステム評価試験を実施してください。
   同じグループのマイコンでも型名が違うと、内部 ROM、レイアウトパターンの相違などにより、電気的特性の範囲で、特性値、動作マージン、ノイズ耐量、ノイズ輻射量などが異なる場合があります。型名が違う製品に変更する場合は、個々の製品ごとにシステム評価試験を実施してください。

このマニュアルの使い方

1. 目的と対象者

このマニュアルは、本マイコンのハードウェア機能と電気的特性をユーザに理解していただくためのマニュアルです。本マイコンを用いた応用システムを設計するユーザを対象にしています。このマニュアルを使用するには、電気回路、論理回路、マイクロコンピュータに関する基本的な知識が必要です。

このマニュアルは、大きく分類すると、製品の概要、CPU、システム制御機能、周辺機能、電気的特性、使用上の注意で構成されています。

本マイコンは、注意事項を十分確認の上、使用してください。注意事項は、各章の本文中、各章の最後に記載しています。

改訂記録は旧版の記載内容に対して訂正又は追加した主な箇所をまとめたものです。改訂内容すべてを記載したものではありません。詳細は、このマニュアルの本文でご確認ください。

SH7752 グループでは次のドキュメントを用意しています。ドキュメントは最新版を使用してください。最新版はルネサス エレクトロニクスホームページに掲載されています。

ドキュメントの種類	記載内容	資料名	資料番号
データシート	ハードウェアの概要と電気的特性	SH7752 グループデータシート	R01DS0172JJ0100
ユーザーズマニュアル ハードウェア編	ハードウェアの仕様 (ピン配置、メモリマップ、周辺機能の仕様、電気的特性、タイミング) と動作説明 ※周辺機能の使用方法はアプリケーションノートを参照してください。	SH7752 グループユーザーズマニュアル ハードウェア編	本ユーザーズマニュアル
ユーザーズマニュアル ソフトウェア編	CPU 命令セットの説明	SH-4A 拡張機能ソフトウェアマニュアル	RJJ09B0235
アプリケーションノート	周辺機能の使用方法、応用例 参考プログラム アセンブリ言語、C 言語によるプログラムの作成方法	ルネサス エレクトロニクスホームページに掲載されています。	
RENESAS TECHNICAL UPDATE	製品の仕様、ドキュメント等に関する速報		

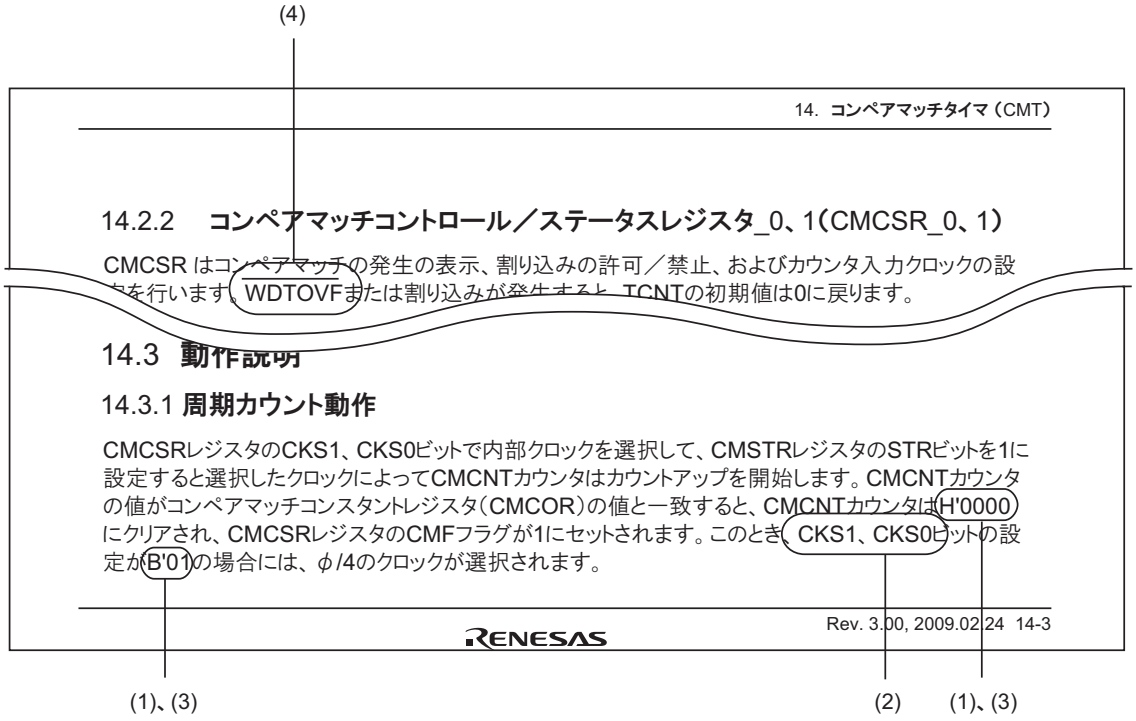
2. 数や記号の表記

(1) ビット表記
MSBを左側、LSBを右側に表記します。

(2) ビット名の表記
本文中に記載されているビット名は、左側が上位ビット、右側が下位ビットの順になります。
（例）CSK1、CSK0

(3) 数字の表記
2進数はB'nnnn (明らかに2進数と判断できる場合はB'を省略)、16進数はH'nnnn、10進数はnnnn で表します。
(例) 2進数 : B'11 又は 11
16進数 : H'EFA0 又は 0xEFA0
10進数 : 1234

(4) Lアクティブの表記
Lアクティブの信号及び端子にはオーババーを付けています。
(例) $\overline{\text{WDTOVF}}$



注. 上図で示しているビット名や文章は例であり、本マニュアルの内容とは関係ありません。

3. 図中の信号レベル

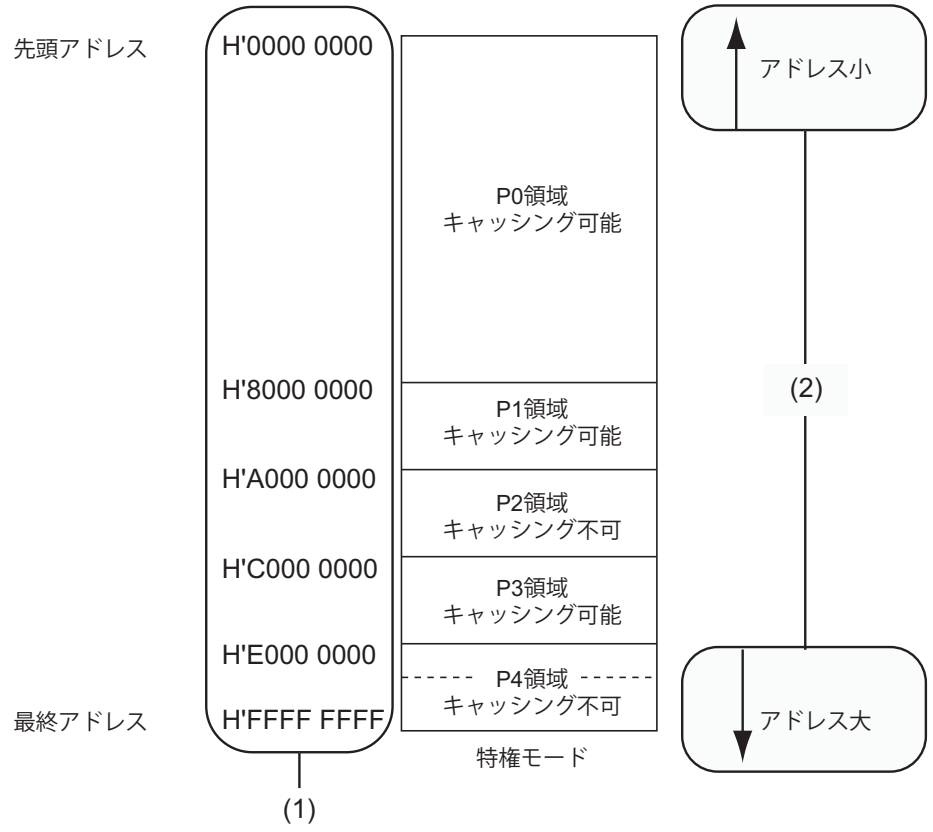
各機能の動作例及びタイミング例の図中の信号レベルは、原則として以下の意味を持ちます。

・信号レベルは、上が“1”、下が“0”

・端子の入出力レベルは、上がH、下がL

原則に沿わないものについては、信号の左側に表示します。

4. メモリマップとアドレスの表記



(1)メモリマップは最下位アドレス（上）→ 最上位アドレス（下）の順に表記します。

(2)アドレス表記のルールは以下の通りです。
　下位：小さいアドレス値
　上位：大きいアドレス値
　先頭：最小アドレス値
　最終：最大アドレス値

5. レジスタの表記

5.1 レジスター覧

x.x.x. SPI0レジスタ構成

レジスタ名	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
					パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウエアリセット
WDMA 転送先アドレスレジスタ		R/W	H'FE00 1018	32	H'0020 0000	H'0020 0000	H'0020 0000
WDMA転送語数レジスタ	SPIWDMCNTR	R/W	H'FE00 1020	32	H'0000 0800	H'0000 0800	H'0000 0800
DMA コントロールレジスタ	SPIDMCOR	R/W	H'FE00 1028	32	H'0000 000X	H'0000 000X	H'0000 000X
割り込みステータスレジスタ	SPIDMINTSR	R/W	H'FE00 1188	32	H'XXXX XXXX	H'XXXX XXXX	H'XXXX XXXX
マスクレジスタ	SPIDMINTMR	R/W		32	H'XXXX XXXX	H'XXXX XXXX	

(1) (2) (3)

(1) R/Wレジスタ属性

R/W : 読み出し又は書き込み可能なビットです。
R : 読み出し可能なビットです。
W : 書き込み可能なビットです。

注. R/Wについては「5.2 レジスタの説明」を参照してください。

(2) アクセスサイズ

特に注記がない場合、ここに記載されたサイズでアクセスしてください。
他のサイズでアクセスした場合は、動作の保証はできません。

(3) レジスタの状態

パワーオンリセット、マニュアルリセット及びソフトウェアリセット時のレジスタ値を示します。
ただし、ソフトウェアリセットビットがないモジュールについてはソフトウェアリセットの欄はありません。

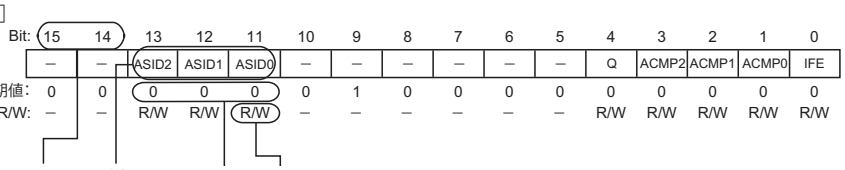
X: 4ビット中、1ビットでも不定値がある場合

注 表に記載のアドレス以外にアクセスを行った場合は、動作の保証はできません。

5.2 レジスタの説明

各レジスタの説明には、ビットの並びを示すビット図とビットに設定する内容を説明するビット表があります。使用する記号や用語を以下に示します。

［ビット図］



［ビット表］

(1) ビット	(2) ビット名	(3) 初期値	(4) R/W	(5) 説明
15、14	–	0	–	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
13～11	ASID2～ASID0	0	R/W	アドレス識別子 端子機能の有効／無効を設定できます。
10	–	0	–	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
9	–	1	–	リザーブビット （読み出すと“1”が読めます。書き込む値は“1”にしてください）
–	–	0		

注. 上図で示しているビット名や文章は例であり、本マニュアルの内容とは関係ありません。

(1) ビット
ビット番号を示します。
32ビットのレジスタの場合、ビットは31～0の順になっています。16ビットの場合は15～0です。

(2) ビット名
ビット名またはフィールドを示します。
複数ビットで一つの機能を持つビットについては、ASID2～0又はASID[2:0]と表記します。
また、リザーブビットの場合は「-」と表記します。

(3) 初期値
各ビットのパワーオンリセット後の値を初期値として示します。
0 ：初期値が“0”であることを示します。
1 ：初期値が“1”であることを示します。
- ：初期値が不定であることを示します。

(4) R/W
各ビット又はフィールドが読み出し可能か、書き込み可能か、又は読み出しも書き込みも不可であるかを示します。
使用する表記を以下に説明します。

R/W ：読み出すとビットの状態が読み出せます。書き込んだ値は有効データになります。
R ：読み出すとビットの状態が読み出せます。
書き込んだ値は無効になります。したがって書き込む値は“0”又は“1”いずれでも可能です。
ただし、説明欄又は注に「書き込む値は“0”（又は“1”）にしてください」と書いてあるビットは、“0”（又は“1”）を書き込んでください。

W ：書き込んだ値は有効データになります。
ビットの状態は読み出せません。読み出し時の値は不定です。
ただし、説明欄又は注に「読み出し時の値は“0”（又は“1”）」と書いてあるビットは、読み出し時の値が“0”（又は“1”）になります。

- ：ビットの状態は読み出せません。読み出し時の値は不定です。
ただし、機能欄又は注に「読み出し時の値は“0”（又は“1”）」と書いてあるビットは、読み出し時の値が“0”（又は“1”）になります。
書き込んだ値は無効になります。したがって、書き込む値は“0”または“1”いずれでも可能です。
ただし、説明欄又は注に「書き込む値は“0”（又は“1”）にしてください」と書いてあるヒットは、“0”（又は“1”）を書き込んでください。

(5) リザーブビット
何も割り当てられていないビットです。
読み出し値及び書き込み値が記載されている場合はそれに従ってください。

注. 初期値と異なる値を書き込む必要のあるリザーブビットもあります。

すべての商標及び登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。

目次

1 . 概要
1.1 SH7752 の特長 ..... 1−1
1.2 アドレスマップ 1-8
1.3 ブロック図 1-9
1.4 ピン配置図 1-10
1.5 端子機能 1-27

2 . プログラミングモデル
2.1 データフォーマット 2-1
2.2 レジスタの構成 2-2
2.2.1 特権モードとバンク 2-2
2.2.2 汎用レジスタ 2-5
2.2.3 浮動小数点レジスタ 2-6
2.2.4 コントロールレジスタ 2-8
2.2.5 システムレジスタ 2-10
2.3 メモリ割り付けレジスタ 2-12
2.4 レジスタのデータ形式 2-13
2.5 メモリ上でのデータ形式 2-13
2.6 処理状態 2-14
2.7 使用上の注意事項 2-15
2.7.1 自己書き換えコード（注）に対する注意事項 2-15

3 . 命令セット
3.1 実行環境 3-1
3.2 アドレッシングモード 3-3
3.3 命令セット 3-6

4 . パイプライン動作
4.1 パイプライン 4-1
4.2 並列実行性 4-12
4.3 発行レートと実行ステート 4-14

5 . 浮動小数点ユニット（FPU）
5.1 概要 5-1
5.2 データフォーマット 5-1
5.2.1 浮動小数点フォーマット 5-1
5.2.2 非数（NaN） 5-3
5.2.3 非正規化数 5-3
5.3 レジスタ 5-4
5.3.1 浮動小数点レジスタ 5-4
5.3.2 浮動小数点ステータス／コントロールレジスタ（FPSCR） 5-5

5.3.3 浮動小数点通信レジスタ（FPUL）.....5-7
5.4 丸め.....5-8
5.5 浮動小数点例外.....5-8
5.5.1 一般 FPU 抑止／スロット FPU 抑止例外.....5-8
5.5.2 FPU 例外.....5-8
5.5.3 FPU 例外処理.....5-9
5.6 グラフィックサポート機能.....5-9
5.6.1 ジオメトリック演算命令.....5-9
5.6.2 ペア単精度データ転送.....5-10

6 .例外処理
6.1 概要.....6-1
6.2 レジスタの説明.....6-1
6.2.1 TRAPA 例外レジスタ（TRA）.....6-2
6.2.2 例外事象レジスタ（EXPEVT）.....6-2
6.2.3 割り込み事象レジスタ（INTEVT）.....6-3
6.2.4 非サポート検出例外レジスタ（EXPMASK）.....6-4
6.3 例外処理の機能.....6-5
6.3.1 例外処理の流れ.....6-5
6.3.2 例外処理ベクタアドレス.....6-5
6.4 例外の種類と優先順位.....6-6
6.5 例外フロー.....6-7
6.5.1 例外フロー.....6-7
6.5.2 例外要因の受け付け.....6-8
6.5.3 例外要求と BL ビット.....6-9
6.5.4 例外処理からの復帰.....6-9
6.6 各例外の説明.....6-10
6.6.1 リセット.....6-10
6.6.2 一般例外.....6-11
6.6.3 割り込み.....6-25
6.6.4 複数回の例外が発生する場合の優先順位.....6-27
6.7 注意事項.....6-28

7 .メモリマネジメントユニット（MMU）
7.1 MMU の概要.....7-1
7.1.1 アドレス空間.....7-3
7.2 レジスタの説明.....7-8
7.2.1 ページテーブルエントリ上位レジスタ（PTEH）.....7-8
7.2.2 ページテーブルエントリ下位レジスタ（PTEL）.....7-9
7.2.3 変換テーブルベースレジスタ（TTB）.....7-10
7.2.4 TLB 例外アドレスレジスタ（TEA）.....7-10
7.2.5 MMU 制御レジスタ（MMUCR）.....7-10
7.2.6 ページテーブルエントリアシスタンスレジスタ（PTEA）.....7-13
7.2.7 物理アドレス空間制御レジスタ（PASCR）.....7-13
7.2.8 命令再フェッチ抑止制御レジスタ（IRMCR）.....7-15
7.3 TLB の機能（TLB 互換モード；
ME ビット（MMUCR レジスタのビット 0））.....7-16

7.3.1 共用 TLB（UTLB）の構成 7-16
7.3.2 命令 TLB（ITLB）の構成 7-18
7.3.3 アドレス変換方式 7-19
7.4 TLB の機能（TLB 拡張モード；（MMUCR レジスタの ME ビット＝1） 7-21
7.4.1 共用 TLB（UTLB）の構成 7-21
7.4.2 命令 TLB（ITLB）の構成 7-24
7.4.3 アドレス変換方式 7-25
7.5 MMU の機能 7-27
7.5.1 MMU のハードウェア管理 7-27
7.5.2 MMU のソフトウェア管理 7-27
7.5.3 MMU の命令（LDTLB） 7-28
7.5.4 ハードウェア ITLB ミスハンドリング 7-30
7.5.5 シノニム問題の回避 7-30
7.6 MMU 例外 7-31
7.6.1 命令 TLB 多重ヒット例外 7-31
7.6.2 命令 TLB ミス例外 7-31
7.6.3 命令 TLB 保護違反例外 7-32
7.6.4 データ TLB 多重ヒット例外 7-32
7.6.5 データ TLB ミス例外 7-33
7.6.6 データ TLB 保護違反例外 7-33
7.6.7 初期ページ書き込み例外 7-34
7.7 メモリ割り付け TLB の構成 7-36
7.7.1 IITLB アドレスアレイ 7-37
7.7.2 ITLB データアレイ（TLB 互換モード） 7-38
7.7.3 ITLB データアレイ（TLB 拡張モード） 7-39
7.7.4 UTLB アドレスアレイ 7-41
7.7.5 UTLB データアレイ（TLB 互換モード） 7-42
7.7.6 UTLB データアレイ（TLB 拡張モード） 7-43
7.8 32 ビットアドレス拡張モード 7-45
7.8.1 32 ビットアドレス拡張モード概要 7-45
7.8.2 32 ビットアドレス拡張モードへの切り替え 7-46
7.8.3 特権空間マッピングバッファ（PMB）構成 7-46
7.8.4 PMB の機能 7-48
7.8.5 メモリ割り付け PMB の構成 7-49
7.8.6 32 ビットアドレス拡張モード使用時の注意事項 7-50
7.9 32 ビットブート機能 7-51
7.9.1 PMB の初期エントリ 7-51
7.9.2 32 ビットブート時の注意点 7-51
7.10 使用上の注意事項 7-53
7.10.1 LDTLB 命令使用上の注意事項 7-53

8 .キャッシュ
8.1 特長 8-1
8.2 レジスタの説明 8-4
8.2.1 キャッシュ制御レジスタ（CCR） 8-4
8.2.2 キューアドレス制御レジスタ 0（QACR0） 8-6
8.2.3 キューアドレス制御レジスタ 1（QACR1） 8-6
8.2.4 内蔵メモリ制御レジスタ（RAMCR） 8-7

8.3 オペランドキャッシュの動作説明 8-9
8.3.1 読み出し動作 8-9
8.3.2 プリフェッチ動作 8-10
8.3.3 書き込み動作 8-11
8.3.4 ライトバックバッファ 8-12
8.3.5 ライトスルーバッファ 8-12
8.3.6 OC 2 ウェイモード 8-12
8.4 命令キャッシュの動作説明 8-13
8.4.1 読み出し動作 8-13
8.4.2 プリフェッチ動作 8-13
8.4.3 IC 2 ウェイモード 8-14
8.4.4 命令キャッシュウェイ予測 8-14
8.5 キャッシュ操作命令 8-15
8.5.1 キャッシュと外部メモリとのコヒーレンシ 8-15
8.5.2 プリフェッチ動作 8-17
8.6 メモリ割り付けキャッシュの構成 8-18
8.6.1 IC アドレスアレイ 8-18
8.6.2 IC データアレイ 8-19
8.6.3 OC アドレスアレイ 8-20
8.6.4 OC データアレイ 8-21
8.6.5 メモリ割り付け連想ライトの動作 8-21
8.7 ストアキュー 8-22
8.7.1 SQ の構成 8-22
8.7.2 SQ への書き込み 8-22
8.7.3 外部メモリへの転送 8-22
8.7.4 SQ アクセスの例外判定 8-23
8.7.5 SQ からの読み出し 8-23
8.8 32 ビットアドレス拡張モード使用時の注意事項 8-24

9 .内蔵メモリ

9.1 特長 9-1
9.2 レジスタの説明 9-2
9.2.1 内蔵メモリ制御レジスタ（RAMCR） 9-3
9.2.2 OL メモリ転送元アドレスレジスタ 0（LSA0） 9-4
9.2.3 OL メモリ転送元アドレスレジスタ 1（LSA1） 9-5
9.2.4 OL メモリ転送先アドレスレジスタ 0（LDA0） 9-6
9.2.5 OL メモリ転送先アドレスレジスタ 1（LDA1） 9-7
9.3 動作説明 9-8
9.3.1 CPU からの命令フェッチアクセス 9-8
9.3.2 CPU からのオペランドアクセス、及び FPU からのアクセス 9-8
9.3.3 SuperHyway バスマスタモジュールからのアクセス 9-8
9.3.4 OL メモリブロック転送 9-8
9.4 内蔵メモリの保護機能 9-10
9.5 使用上の注意事項 9-11
9.5.1 ページ競合 9-11
9.5.2 ページの切り替わり 9-11
9.5.3 内蔵メモリのコヒーレンシ 9-11

9.5.4 スリープモード 9-11
9.6 32 ビットアドレス拡張モード使用時の注意事項 9-12

10 .割り込みコントローラ（INTC）
10.1 特長 10-1
10.1.1 割り込み方式 10-3
10.1.2 INTC で想定する割り込み 10-3
10.2 入出力端子 10-9
10.3 レジスタの説明 10-10
10.3.1 割り込みコントロールレジスタ 0（ICR0） 10-14
10.3.2 割り込みコントロールレジスタ 1（ICR1） 10-15
10.3.3 割り込みコントロールレジスタ 2 （ICR2） 10-16
10.3.4 割り込み優先順位設定レジスタ （INTPRI） 10-17
10.3.5 割り込み要因レジスタ （INTREQ） 10-18
10.3.6 割り込みマスクレジスタ 0（INTMSK0） 10-19
10.3.7 割り込みマスクレジスタ 1 （INTMSK1） 10-20
10.3.8 割り込みマスクレジスタ 2（INTMSK2） 10-21
10.3.9 割り込みマスククリアレジスタ 0 （INTMSKCLR0） 10-23
10.3.10 割り込みマスククリアレジスタ 1 （INTMSKCLR1） 10-24
10.3.11 割り込みマスククリアレジスタ 2 （INTMSKCLR2） 10-25
10.3.12 NMI フラグコントロールレジスタ （NMIFCR） 10-27
10.3.13 ユーザ割り込みマスクレベル設定レジスタ （USERIMASK） 10-28
10.3.14 内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ
（INT2PRI0 ～ INT2PRI47） 10-29
10.3.15 割り込み要因レジスタ 0（マスク状態の影響なし）（INT2A0） 10-32
10.3.16 割り込み要因レジスタ 01（マスク状態の影響なし）（INT2A01） 10-33
10.3.17 割り込み要因レジスタ 02 （マスク状態の影響なし）（INT2A02） 10-35
10.3.18 割り込み要因レジスタ 03 （マスク状態の影響なし）（INT2A03） 10-37
10.3.19 割り込み要因レジスタ 04 （マスク状態の影響なし）（INT2A04） 10-38
10.3.20 割り込み要因レジスタ 05 （マスク状態の影響なし）（INT2A05） 10-40
10.3.21 割り込み要因レジスタ 1 （マスク状態の影響あり）（INT2A1） 10-42
10.3.22 割り込み要因レジスタ 11 （マスク状態の影響あり）（INT2A11） 10-43
10.3.23 割り込み要因レジスタ 12（マスク状態の影響あり）（INT2A12） 10-44
10.3.24 割り込み要因レジスタ 13 （マスク状態の影響あり）（INT2A13） 10-46
10.3.25 割り込み要因レジスタ 14 （マスク状態の影響あり）（INT2A14） 10-47
10.3.26 割り込み要因レジスタ 15 （マスク状態の影響あり）（INT2A15） 10-49
10.3.27 割り込みマスクレジスタ （INT2MSKR） 10-50
10.3.28 割り込みマスクレジスタ 1（INT2MSKR1） 10-52
10.3.29 割り込みマスクレジスタ 2 （INT2MSKR2） 10-54
10.3.30 割り込みマスクレジスタ 3 （INT2MSKR3） 10-55
10.3.31 割り込みマスクレジスタ 4 （INT2MSKR4） 10-57
10.3.32 割り込みマスクレジスタ 5 （INT2MSKR5） 10-58
10.3.33 割り込みマスククリアレジスタ （INT2MSKCR） 10-60
10.3.34 割り込みマスククリアレジスタ 1 （INT2MSKCR1） 10-61
10.3.35 割り込みマスククリアレジスタ 2 （INT2MSKCR2） 10-62
10.3.36 割り込みマスククリアレジスタ 3 （INT2MSKCR3） 10-63
10.3.37 割り込みマスククリアレジスタ 4 （INT2MSKCR4） 10-65
10.3.38 割り込みマスククリアレジスタ 5 （INT2MSKCR5） 10-66

10.3.39 内部モジュール別割り込み要因レジスタ（INT2B0 ～ INT2B3、INT2B6、INT2B9 ～ INT2B11） 10-67
10.4 割り込み要因 10-72
10.4.1 NMI 割り込み 10-72
10.4.2 IRQ0 ～ 7 割り込み 10-72
10.4.3 IRL 割り込み 10-72
10.4.4 内部モジュール割り込み（IRQ8 ～ 15 を含む） 10-74
10.4.5 内部モジュール割り込み優先レベル 10-74
10.4.6 割り込み例外処理と優先順位 10-75
10.5 動作説明 10-84
10.5.1 割り込み動作の流れ 10-84
10.5.2 多重割り込み 10-86
10.5.3 MAI ビットによる割り込みマスク 10-87
10.6 割り込み応答時間 10-87
10.7 使用上の注意事項 10-88
10.7.1 IRL 割り込み及びレベル検出時の IRQ 割り込みの処理ルーチン例 10-88
10.7.2 IRQ7/IRL7 ～ IRQ0/IRL0 端子機能設定時の注意事項 10-89
10.7.3 IRL 割り込み要求及び IRQ 0 ～ 7 割り込み要求のクリア方法 10-89
10.7.4 RIIC 割り込み及び IRQ8 ～ 15 割り込み使用時の注意 10-90

11 . ローカルバスステートコントローラ（LBSC）
11.1 特長 11-1
11.2 入出力端子 11-3
11.3 エリアの概要 11-4
11.3.1 空間分割 11-4
11.3.2 メモリバス幅 11-6
11.3.3 データアライメント 11-6
11.4 レジスタの説明 11-7
11.4.1 バスコントロールレジスタ（BCR） 11-7
11.4.2 CSn バスコントロールレジスタ（CSnBCR） 11-9
11.4.3 CSn ウェイトコントロールレジスタ (CSnWCR) 11-12
11.5 動作説明 11-16
11.5.1 エンディアン／アクセスサイズとデータアライメント 11-16
11.5.2 エリアの説明 11-18
11.5.3 SRAM インタフェース 11-20
11.5.4 バースト ROM インタフェース 11-25
11.5.5 アクセスサイクル間ウェイト 11-27
11.5.6 バスアービトレーション 11-28
11.6 実装上の注意事項 11-29
11.6.1 制限事項 11-29
11.6.2 概要 11-29

12 .DDR3-SDRAMインタフェース（DBSC3）
12.1 概要 12-1
12.1.1 特長 12-1
12.1.2 ブロック図 12-3
12.1.3 入出力端子 12-4

12.1.4 M_ZQ 端子用外部抵抗値 12-4
12.2 データアライメント 12-5
12.2.1 DDR3-SDRAM でのデータアライメント 12-5
12.2.2 レジスタ構成 12-9
12.3 レジスタの説明 12-11
12.3.1 DBSC3 ステータスレジスタ 1（DBSTATE1） 12-11
12.3.2 SDRAM アクセス許可レジスタ（DBACEN） 12-12
12.3.3 自動リフレッシュ許可レジスタ（DBRFEN） 12-13
12.3.4 手動コマンド発行レジスタ（DBCMD） 12-14
12.3.5 操作完了待ちレジスタ（DBWAIT） 12-16
12.3.6 SDRAM 種類設定レジスタ（DBKIND） 12-17
12.3.7 SDRAM 構成設定レジスタ（DBCONF） 12-18
12.3.8 SDRAM タイミングレジスタ 0（DBTR0） 12-20
12.3.9 SDRAM タイミングレジスタ 1（DBTR1） 12-21
12.3.10 SDRAM タイミングレジスタ 2（DBTR2） 12-22
12.3.11 SDRAM タイミングレジスタ 3（DBTR3） 12-23
12.3.12 SDRAM タイミングレジスタ 4（DBTR4） 12-24
12.3.13 SDRAM タイミングレジスタ 5（DBTR5） 12-25
12.3.14 SDRAM タイミングレジスタ 6（DBTR6） 12-26
12.3.15 SDRAM タイミングレジスタ 7（DBTR7） 12-27
12.3.16 SDRAM タイミングレジスタ 8（DBTR8） 12-28
12.3.17 SDRAM タイミングレジスタ 9（DBTR9） 12-29
12.3.18 SDRAM タイミングレジスタ 10（DBTR10） 12-30
12.3.19 SDRAM タイミングレジスタ 11（DBTR11） 12-31
12.3.20 SDRAM タイミングレジスタ 12（DBTR12） 12-32
12.3.21 SDRAM タイミングレジスタ 13（DBTR13） 12-33
12.3.22 SDRAM タイミングレジスタ 14（DBTR14） 12-34
12.3.23 SDRAM タイミングレジスタ 15（DBTR15） 12-34
12.3.24 SDRAM タイミングレジスタ 16（DBTR16） 12-35
12.3.25 SDRAM タイミングレジスタ 17（DBTR17） 12-37
12.3.26 SDRAM タイミングレジスタ 18（DBTR18） 12-38
12.3.27 SDRAM タイミングレジスタ 19（DBTR19） 12-40
12.3.28 DBSC 動作調整レジスタ 0（DBADJ0） 12-41
12.3.29 DBSC 動作調整レジスタ 1（DBADJ1） 12-42
12.3.30 DBSC 動作調整レジスタ 2（DBADJ2） 12-43
12.3.31 リフレッシュ設定レジスタ 0（DBRFCNF0） 12-44
12.3.32 リフレッシュ設定レジスタ 1（DBRFCNF1） 12-45
12.3.33 リフレッシュ設定レジスタ 2（DBRFCNF2） 12-48
12.3.34 DDR3-SDRAM キャリブレーション構成レジスタ（DBCALCNF） 12-49
12.3.35 ODT 動作設定レジスタ（DBRNK0） 12-50
12.3.36 PHY 部制御レジスタ 0（DBPDCNT0） 12-51
12.3.37 PHY 部制御レジスタ 1（DBPDCNT1） 12-51
12.3.38 PHY 部制御レジスタ 2（DBPDCNT2） 12-52
12.3.39 PHY 部制御レジスタ 3（DBPDCNT3） 12-52
12.3.40 PHY 部ロックレジスタ（DBPDLCK） 12-54
12.3.41 PHY 部内部レジスタアドレス（DBPDRGA） 12-55
12.3.42 PHY 部内部レジスタアクセス（DBPDRGD） 12-56
12.3.43 バス制御部 0 設定レジスタ 0（DBBS0CNT0） 12-58
12.3.44 バス制御部 0 設定レジスタ 1（DBBS0CNT1） 12-59

12.4 動作説明 12-60
12.4.1 サポートする SDRAM コマンド 12-60
12.4.2 SDRAM コマンド発行詳細 12-61
12.4.3 初期化シーケンス 12-63
12.4.4 セルフリフレッシュ動作について 12-64
12.4.5 パワーダウン 12-65
12.4.6 動作中のリフレッシュの設定変更 12-66
12.4.7 SDRAM 構成設定レジスタの設定方法 12-66
12.4.8 アドレスマルチプレクスについて 12-67
12.4.9 SDRAM アクセスとタイミング制約について 12-70

13 .DDR3-SDRAM エラーコレクションコントローラ（ECD）
13.1 特長 13-1
13.2 ブロック図 13-1
13.3 レジスタの説明 13-2
13.3.1 モードコントロールレジスタ（MCR） 13-3
13.3.2 ECC 領域空間選択レジスタ（SPACER） 13-4
13.3.3 非 ECC 領域先頭アドレスレジスタ（TOPNONECC） 13-5
13.3.4 割り込み許可レジスタ（INTENR） 13-6
13.3.5 割り込み要因レジスタ（INTSR） 13-7
13.3.6 リカバラブルエラー しきい値指定レジスタ（RERRTHR） 13-8
13.3.7 リカバラブルエラーカウントレジスタ（RERRCR） 13-9
13.3.8 リカバラブルエラーカウントコントロールレジスタ（RERRCCR） 13-9
13.3.9 リカバラブルエラー アドレスレジスタ（RERRADDR） 13-10
13.3.10 リカバラブルエラープレデータレジスタ（RERRPREDR） 13-10
13.3.11 リカバラブルエラー ポストデータレジスタ（RERRPOSTDR） 13-11
13.3.12 アンコレクタブルエラーアドレスレジスタ（UERRADDR） 13-11
13.3.13 アンコレクタブルエラープレデータレジスタ（UERRPREDR） 13-12
13.3.14 アクセスバイトカウントレジスタ 0 ～ 3（ABCR0 ～ 3） 13-12
13.3.15 アクセスバイトカウント コントロールレジスタ（ABCCR） 13-14
13.3.16 ECD イネーブルレジスタ（ECDEN） 13-14
13.4 動作説明 13-15
13.4.1 初期設定 13-15
13.4.2 割り込み 13-16
13.4.3 自動ライトバック機能 13-16
13.4.4 デバッグ機能 13-17

14 .ダイレクトメモリアクセスコントローラ（DMAC）
14.1 特長 14-1
14.2 入出力端子 14-3
14.3 レジスタの説明 14-4
14.3.1 DMA ソースアドレスレジスタ 0 ～ 23（SAR0 ～ SAR23） 14-13
14.3.2 DMA ソースアドレスレジスタ B0 ～ 3、6 ～ 9、12 ～ 15，18 ～ 21（SARB0 ～ 3、SARB6 ～ 9、SARB12 ～ 15、SARB18 ～ 21） 14-13
14.3.3 DMA デスティネーションアドレスレジスタ 0 ～ 23（DAR0 ～ DAR23） 14-14
14.3.4 DMA デスティネーションアドレスレジスタ B0 ～ 3、6 ～ 9、

12 ～ 15、18 ～ 21
（DARB0 ～ 3、DARB6 ～ 9、SARB12 ～ 15、SARB18 ～ 21）.....14-14
14.3.5 DMA トランスファカウントレジスタ 0 ～ 23（TCR0 ～ TCR23）.....14-15
14.3.6 DMA トランスファカウントレジスタ B0 ～ 3、6 ～ 9、12 ～ 15、
18 ～ 21
（TCRB0 ～ 3、TCRB6 ～ 9、TCRB12 ～ 15、TCRB18 ～ 21）.....14-15
14.3.7 DMA チャネルコントロールレジスタ 0 ～ 23（CHCR0 ～ CHCR23）14-16
14.3.8 DMA オペレーションレジスタ 0 ～ 3（DMAOR0 ～ 3）.....14-20
14.3.9 DMA 拡張リソースセレクタ 0 ～ 11（DMARS0 ～ DMARS11）..... 14-22
14.3.10 DMA イネーブルレジスタ 0（DMAER0）..... 14-25
14.3.11 DMA イネーブルレジスタ 1（DMAER1）.....14-26
14.3.12 DMA イネーブルレジスタ 2 (DMAER2) 14-27
14.4 動作説明 14-29
14.4.1 DMA 転送要求 14-29
14.4.2 チャネルの優先順位 14-36
14.4.3 DMA 転送の種類 14-39
14.4.4 転送フロー 14-44
14.4.5 データ転送モード 14-46
14.5 使用上の注意 14-49
14.5.1 モジュールストップについて 14-49
14.5.2 アドレスエラーについて..... 14-49
14.5.3 バーストモード転送時の注意 14-49
14.5.4 DACK、TEND の分割出力 14-49
14.5.5 DMINT 割り込みのクリアについて 14-49
14.5.6 外部バス幅を超える DMA 転送サイズにおける CSn 出力の設定 14-50
14.5.7 ACK のアサートと DREQ 検出について 14-50

15 .シリアルペリフェラルインタフェース（SPI0）
15.1 特長 15-2
15.1.1 特長 15-2
15.1.2 外部 SPI フラッシュメモリからのブートシーケンス 15-3
15.2 ブロック図 15-4
15.3 入出力端子 15-5
15.4 レジスタの説明 15-6
15.4.1 WDMA 転送先アドレスレジスタ（SPIWDMADR）.....15-7
15.4.2 WDMA 転送語数レジスタ（SPIWDMCNTR）.....15-8
15.4.3 DMA コントロールレジスタ（SPIDMCOR）.....15-9
15.4.4 割り込みステータスレジスタ（SPIDMINTSR）.....15-10
15.4.5 割り込みマスクレジスタ（SPIDMINTMR）.....15-11
15.4.6 SPI コア送信バッファレジスタ（TBR）.....15-12
15.4.7 SPI コア受信バッファレジスタ（RBR）..... 15-12
15.4.8 SPI コアコントロール／ステータスレジスタ 1（CR1）.....15-13
15.4.9 SPI コアコントロールレジスタ 2（CR2）.....15-15
15.4.10 SPI コアコントロールレジスタ 3（CR3）.....15-17
15.4.11 SPI コアコントロールレジスタ 4（CR4）.....15-18
15.4.12 SPI コアコントロールレジスタ 5 (CR5) 15-19
15.4.13 SPI コアコントロールレジスタ 6 (CR6) 15-20
15.4.14 SPI コアコントロールレジスタ 7 (CR7) 15-20

15.4.15 SPI コアコントロールレジスタ 8 (CR8) 15-21
15.4.16 SPI オペレーションレジスタ 0 (OR0) (コンフィグレーションピン)、Index = 0 15-22
15.4.17 SPI オペレーションレジスタ 1 (OR1) (WRPG)、Index = 1 15-23
15.4.18 SPI オペレーションレジスタ 2 (OR2) (ER32)、Index = 2 15-24
15.4.19 SPI オペレーションレジスタ 3 (OR3) (ER64)、Index = 3 15-24
15.4.20 SPI オペレーションレジスタ 4 (OR4) (ERSC)、Index = 4 15-25
15.4.21 SPI オペレーションレジスタ 5 (OR5) (ERC1)、Index = 5 15-26
15.4.22 SPI オペレーションレジスタ 6 (OR6) (ERC2)、Index = 6 15-26
15.4.23 SPI オペレーションレジスタ 7 (OR7) (READ)、Index = 7 15-27
15.4.24 SPI オペレーションレジスタ 8 (OR8) (RDFT)、Index = 8 15-28
15.4.25 SPI オペレーションレジスタ 9 (OR9) (RDDO)、Index = 9 15-28
15.4.26 SPI オペレーションレジスタ A (ORA) (WPA2)、Index = 0xA 15-29
15.4.27 SPI オペレーションレジスタ B (ORB) (WPA1)、Index = 0xB 15-30
15.4.28 SPI オペレーションレジスタ C (ORC) (WPA0)、Index = 0xC 15-30
15.4.29 SPI オペレーションレジスタ D (ORD) (WPM2)、Index = 0xD 15-31
15.4.30 SPI オペレーションレジスタ E (ORE) (WPM1)、Index = 0xE 15-32
15.4.31 SPI オペレーションレジスタ F (ORF) (WPM0)、Index = 0xF 15-32
15.5 SPI ブート機能の動作説明 15-33
15.5.1 データ転送の種類 15-33
15.5.2 ブートモード（MD6）端子 15-35
15.5.3 外部 SPI フラッシュメモリ内部空間 15-36
15.5.4 外部 SPI フラッシュメモリに対するリードコマンド発行及び先頭アドレス出力 15-36
15.5.5 SPI データ転送時の概略動作 15-37
15.6 SPI コア機能の動作説明 15-39
15.6.1 SPI 送信サイクル 15-39
15.6.2 SPI 受信サイクル 15-39
15.6.3 SPI 送信に続く SPI 受信 15-40
15.6.4 フラッシュメモリコントロール 15-40
15.6.5 ライトプロテクト機能 15-41
15.7 使用上の注意事項 15-45
15.7.1 CPHA ビットの制限 15-45
15.7.2 CS0 空間アクセス制限（MD6 端子＝ H ） 15-45
15.7.3 書き込みデータサイズの制限 15-45

16 . クロック発振器（CPG）
16.1 特長 16-1
16.2 入出力端子 16-3
16.3 クロック動作モード 16-3
16.4 レジスタの説明 16-4
16.4.1 PLL 制御レジスタ（PLLCR） 16-4
16.5 発振回路例 16-5
16.5.1 発振子の接続例（MD8 ＝ H） 16-5
16.5.2 外部で生成されたクロックの入力例（MD8 ＝ L） 16-5

17 .リセット、ウォッチドッグタイマ（WDT）

17.1 WDT0とWDT1 17-3
17.1.1 特長 17-3
17.1.2 入出力端子 17-3
17.1.3 レジスタの説明 17-4
17.2 WDT2 17-8
17.2.1 特長 17-8
17.2.2 入出力端子 17-8
17.2.3 レジスタの説明 17-9
17.3 リセット 17-14
17.3.1 特長 17-14
17.3.2 入出力端子 17-14
17.3.3 レジスタの説明 17-14
17.4 動作説明 17-26
17.4.1 リセット要求 17-26
17.4.2 ウォッチドッグタイマモード 17-28
17.4.3 インターバルタイマモード 17-29
17.5 リセット中の端子タイミング 17-30
17.5.1 PRESET 端子によるパワーオンリセット 17-30
17.5.2 WDT オーバフローによるマニュアルリセット 17-32
17.6 割り込み要因 17-33
17.7 使用上の注意事項 17-34
17.7.1 レジスタアクセス時の注意 17-34
17.7.2 タイマカウンタ（WTCNT）のライトとカウントアップの競合（WTCNT） 17-35
17.7.3 WTCSR のビットの書き換えについて 17-35
17.7.4 オルタネートブートブロックリカバリ（WDT2） 17-35
17.7.5 WDTOVF 信号によるシステムのリセット 17-36
17.8 使用上の注意事項 17-36
17.8.1 制限 17-36
17.8.2 概略 17-36

18 .低消費電力モード

18.1 特長 18-1
18.1.1 低消費電力モードの種類 18-1
18.2 入出力端子 18-1
18.3 レジスタの説明 18-2
18.3.1 モジュールストップレジスタ 0（MSTPCR0） 18-2
18.3.2 モジュールストップレジスタ 1（MSTPCR1） 18-4
18.3.3 モジュールストップレジスタ 2 (MSTPCR2) 18-8
18.4 スリープモード 18-10
18.4.1 スリープモードへの遷移 18-10
18.4.2 スリープモードの解除 18-10
18.5 モジュールストップモード 18-11
18.5.1 モジュールストップモードへの遷移 18-11
18.5.2 モジュールストップモードの解除 18-11
18.6 STATUS 端子の変化タイミング 18-11

18.6.1 リセットの場合 18-11
18.6.2 スリープ解除の場合 18-11

19 .14 ビットPWM タイマ（PWMX）
19.1 特長 19-1
19.2 入出力端子 19-2
19.3 レジスタの説明 19-3
19.3.1 PWMX（D/A）カウンタ（PWXCNT） 19-4
19.3.2 PWMX（D/A）データレジスタ A、B（PWXDRA、PWXDRB） 19-5
19.3.3 PWMX（D/A）コントロールレジスタ（PWXCR） 19-7
19.3.4 周辺クロックセレクトレジスタ 0（PCSR0） 19-8
19.3.5 周辺クロックセレクトレジスタ 1（PCSR1） 19-9
19.4 バスマスタとのインタフェース 19-11
19.5 動作説明 19-12

20 .16 ビットフリーランニングタイマ（FRT）
20.1 特長 20-1
20.2 レジスタの説明 20-2
20.2.1 フリーランニングカウンタ（FRC） 20-2
20.2.2 アウトプットコンペアレジスタ A、B（OCRA、OCRB） 20-3
20.2.3 アウトプットコンペアレジスタ AR、AF（OCRAR、OCRAF） 20-3
20.2.4 タイマインタラプトイネーブルレジスタ（TIER） 20-4
20.2.5 タイマコントロール／ステータスレジスタ（TCSR） 20-5
20.2.6 タイマコントロールレジスタ（TCR） 20-6
20.2.7 タイマアウトプットコンペアコントロールレジスタ（TOCR） 20-7
20.3 動作タイミング 20-8
20.3.1 FRC のカウントタイミング 20-8
20.3.2 コンペアマッチタイミング 20-8
20.3.3 FRC のクリアタイミング 20-8
20.3.4 アウトプットコンペアフラグ (OCF) のセットタイミング 20-9
20.3.5 FRC オーバーフローフラグ (OVF) のセットタイミング 20-9
20.3.6 自動加算タイミング 20-10
20.4 割り込み要因 20-11
20.5 使用上の注意事項 20-12
20.5.1 FRC のライトとクリアの競合 20-12
20.5.2 FRC のライトとカウントアップの競合 20-12
20.5.3 OCR のライトとコンペアマッチの競合 20-13
20.5.4 内部クロックの切り替えとカウンタの動作 20-15

21 .8-Bit Timers （TMR）
21.1 特長 21-1
21.2 レジスタの説明 21-5
21.2.1 タイマカウンタ（TCNT） 21-7
21.2.2 タイムコンスタントレジスタ A（TCORA） 21-7
21.2.3 タイムコンスタントレジスタ B（TCORB） 21-7
21.2.4 タイマコントロールレジスタ（TCR） 21-8

21.2.5 タイマカウンタコントロールレジスタ（TCCR）.....21-9
21.2.6 タイマコントロール／ステータスレジスタ（TCSR）.....21-11
21.3 動作タイミング.....21-13
21.3.1 TCNT のカウントタイミング.....21-13
21.3.2 コンペアマッチ時の CMFA、CMFB フラグのセットタイミング.....21-13
21.3.3 コンペアマッチによるカウンタクリアタイミング.....21-14
21.3.4 オーバフローフラグ（OVF）のセットタイミング.....21-14
21.4 カスケード接続時の動作.....21-15
21.4.1 16 ビットカウントモード.....21-15
21.4.2 コンペアマッチカウントモード.....21-15
21.5 割り込み要因.....21-16
21.5.1 割り込み要因.....21-16
21.5.2 A/D 変換器の起動.....21-16
21.5.3 DMA 転送器の起動.....21-16
21.6 使用上の注意.....21-17
21.6.1 周期設定上の注意.....21-17
21.6.2 TCNT のライトとカウンタクリアの競合.....21-17
21.6.3 TCNT のライトとカウントアップの競合.....21-17
21.6.4 TCOR のライトとコンペアマッチの競合.....21-18
21.6.5 内部クロックの切り替えと TCNT の動作.....21-19
21.6.6 カスケード接続時のモード設定.....21-20
21.6.7 モジュールストップの設定.....21-20
21.6.8 モジュールストップ時の割り込み.....21-20

22 .タイマユニット（TMU）
22.1 特長.....22-1
22.2 入出力端子.....22-2
22.3 レジスタの説明.....22-3
22.3.1 タイマスタートレジスタ（TSTR0、TSTR1）.....22-4
22.3.2 タイマコンスタントレジスタ（TCORn）（n ＝ 0 ～ 5）.....22-5
22.3.3 タイマカウンタ（TCNTn）（n ＝ 0 ～ 5）.....22-5
22.3.4 タイマコントロールレジスタ（TCRn）（n ＝ 0 ～ 5）.....22-6
22.3.5 インプットキャプチャレジスタ 2（TCPR2）.....22-8
22.4 動作説明.....22-9
22.4.1 カウンタの動作.....22-9
22.4.2 インプットキャプチャ機能.....22-11
22.5 割り込み.....22-12
22.6 使用上の注意事項.....22-13
22.6.1 レジスタの書き込みについて.....22-13
22.6.2 TCNT レジスタの読み出しについて.....22-13
22.6.3 外部クロック周波数について.....22-13

23 .ギガビットイーサネットコントローラ（GETHER）
23.1 特長.....23-1
23.2 入出力端子.....23-3
23.3 レジスタの説明.....23-4

23.3.1 ソフトウェアリセットレジスタ（ARSTR）.....23-13
23.3.2 E-MAC モードレジスタ（ECMR）.....23-14
23.3.3 E-MAC ステータスレジスタ（ECSR）.....23-17
23.3.4 E-MAC 割り込み許可レジスタ（ECSIPR）.....23-18
23.3.5 PHY 部インタフェースレジスタ（PIR）.....23-19
23.3.6 MAC アドレス上位設定レジスタ（MAHR）.....23-20
23.3.7 MAC アドレス下位設定レジスタ（MALR）.....23-20
23.3.8 受信フレーム長上限レジスタ（RFLR）.....23-21
23.3.9 送信リトライオーバカウンタレジスタ（TROCR）.....23-22
23.3.10 遅延衝突検出カウンタレジスタ（CDCR）.....23-22
23.3.11 キャリア消失カウンタレジスタ（LCCR）.....23-23
23.3.12 CRC エラーフレーム受信カウンタレジスタ（CEFCR）.....23-23
23.3.13 フレーム受信エラーカウンタレジスタ（FRECR）.....23-24
23.3.14 64 バイト未満フレーム受信カウンタレジスタ （TSFRCR）.....23-25
23.3.15 指定バイト超フレーム受信カウンタレジスタ（TLFRCR）.....23-25
23.3.16 端数ビットフレーム受信カウンタレジスタ（RFCR）.....23-26
23.3.17 キャリア拡張消失カウンタレジスタ（CERCR）.....23-27
23.3.18 キャリア拡張エラーカウンタレジスタ（CEECR）.....23-27
23.3.19 マルチキャストアドレスフレーム受信カウンタレジスタ（MAFCR）23-28
23.3.20 自動 PAUSE フレーム設定レジスタ（APR）.....23-28
23.3.21 手動 PAUSE フレーム設定レジスタ（MPR）.....23-29
23.3.22 自動 PAUSE フレーム再送回数設定レジスタ（TPAUSER）.....23-30
23.3.23 PAUSE フレーム送信カウンタレジスタ（PFTCR）.....23-31
23.3.24 PAUSE フレーム受信カウンタレジスタ（PFRCR）.....23-31
23.3.25 GETHER モードレジスタ（GECMR）.....23-32
23.3.26 バーストサイクル回数上限設定レジスタ（BCULR）.....23-32
23.3.27 インバンドステータスモード設定レジスタ（IBSMR）.....23-33
23.3.28 インバンドステータス（IBSR）.....23-34
23.3.29 E-MAC モードのスピード／デュプレックス通知（SDLR）.....23-35
23.3.30 RGMII モードレジスタ（RGMIIMR）.....23-35
23.3.31 ブロードキャストフレーム受信カウント設定レジスタ（GBE_BCFRR）.....23-37
23.3.32 BCFRR カウントリセット（GBE_CRBCFRR）.....23-38
23.3.33 MDIO コントローラステータス（MDIOSTS）.....23-38
23.3.34 MDIO コントローラコマンド（MDIOCMD）.....23-39
23.3.35 MDIO コントローラアドレス（MDIOADR）.....23-39
23.3.36 MDIO コントローラデータ（MDIODAT）.....23-40
23.3.37 MDIO コントローラモード設定（MDIOMOD）.....23-40
23.3.38 TSU カウンタリセットレジスタ（TSU_CTRST）.....23-42
23.3.39 転送イネーブルレジスタ（0 → 1 系）（TSU_FWEN0）.....23-42
23.3.40 転送イネーブルレジスタ（1 → 0 系）（TSU_FWEN1）.....23-43
23.3.41 転送 FIFO 容量選択レジスタ（TSU_FCM）.....23-44
23.3.42 転送 FIFO オーバフロー予告設定レジスタ（0 系）（TSU_BSYSL0）23-45
23.3.43 転送 FIFO オーバフロー予告制御設定レジスタ（1 系）（TSU_BSYSL1）.....23-46
23.3.44 送信・転送優先制御モードレジスタ（0 系）（TSU_PRISL0）.....23-47
23.3.45 送信・転送優先制御モードレジスタ（1 系）（TSU_PRISL1）.....23-48
23.3.46 受信・転送機能設定レジスタ（0 → 1 系）（TSU_FWSL0）.....23-49
23.3.47 受信・転送機能設定レジスタ（1 → 0 系）（TSU_FWSL1）.....23-50

23.3.48 転送機能設定レジスタ（共通）（TSU_FWSLC）.....23-51
23.3.49 Qtag 追加・削除設定レジスタ（0 → 1 系）（TSU_QTAG0）.....23-52
23.3.50 Qtag 追加・削除設定レジスタ（1 → 0 系）（TSU_QTAG1）.....23-53
23.3.51 転送ステータスレジスタ（TSU_FWSR）.....23-54
23.3.52 転送ステータス割り込みマスクレジスタ（TSU_FWINMK）.....23-56
23.3.53 追加 Qtag 値設定レジスタ（0 → 1 系）（TSU_ADQT0）..... 23-57
23.3.54 追加 Qtag 値設定レジスタ（1 → 0 系）（TSU_ADQT1）.....23-58
23.3.55 VLANtag 設定レジスタ（0 系）（TSU_VTAG0）.....23-59
23.3.56 VLANtag 設定レジスタ（1 系）（TSU_VTAG1）.....23-59
23.3.57 CAM エントリテーブル設定ビジーレジスタ（TSU_ADSBSY）..... 23-60
23.3.58 CAM エントリテーブルイネーブル設定レジスタ（TSU_TEN）.....23-61
23.3.59 CAM エントリテーブル POST 設定 1 レジスタ（TSU_POST1）.....23-63
23.3.60 CAM エントリテーブル POST 設定 2 レジスタ（TSU_POST2）.....23-65
23.3.61 CAM エントリテーブル POST 設定 3 レジスタ（TSU_POST3）.....23-67
23.3.62 CAM エントリテーブル POST 設定 4 レジスタ（TSU_POST4）.....23-69
23.3.63 CAM エントリテーブル 0 ～ 31H レジスタ
（TSU_ADRH0 ～ TSU_ADRH31）..... 23-70
23.3.64 CAM エントリテーブル 0 ～ 31L レジスタ
（TSU_ADRL0 ～ TSU_ADRL31）.....23-71
23.3.65 送信フレーム数カウンタレジスタ（0 系）（正常送信のみ）（TXNLCR0）
..... 23-72
23.3.66 送信フレーム数カウンタレジスタ（0 系）
（正常及び障害発生を含むすべて）（TXALCR0）.....23-72
23.3.67 受信フレーム数カウンタレジスタ（0 系）（正常受信のみ）
（RXNLCR0）.....23-73
23.3.68 受信フレーム数カウンタレジスタ（0 系）
（正常及び障害発生を含むすべて）（RXALCR0）.....23-73
23.3.69 転送フレーム数カウンタレジスタ（1 → 0 系）（正常転送のみ）
（FWNLCR0）.....23-74
23.3.70 転送フレーム数カウンタレジスタ（1 → 0 系）
（正常及び障害発生を含むすべて）（FWALCR0）.....23-74
23.3.71 送信フレーム数カウンタレジスタ（1 系）（正常送信のみ）
（TXNLCR1）.....23-75
23.3.72 送信フレーム数カウンタレジスタ（1 系）
（正常及び障害発生を含むすべて）（TXALCR1）.....23-75
23.3.73 受信フレーム数カウンタレジスタ（1 系）（正常受信のみ）
（RXNLCR1）.....23-76
23.3.74 受信フレーム数カウンタレジスタ（1 系）
（正常及び障害発生を含むすべて）（RXALCR1）.....23-76
23.3.75 転送フレーム数カウンタレジスタ（0 → 1 系）（正常転送のみ）
（FWNLCR1）.....23-77
23.3.76 転送フレーム数カウンタレジスタ（0 → 1 系）
（正常及び障害発生を含むすべて）（FWALCR1）..... 23-77
23.3.77 E-DMAC 起動レジスタ（EDSR）.....23-78
23.3.78 E-DMAC モードレジスタ（EDMR）.....23-79
23.3.79 E-DMAC 送信要求レジスタ（EDTRR）.....23-80
23.3.80 E-DMAC 受信要求レジスタ（EDRRR）..... 23-81
23.3.81 送信ディスクリプタリスト先頭アドレスレジスタ（TDLAR）..... 23-82
23.3.82 受信ディスクリプタリスト先頭アドレスレジスタ（RDLAR）..... 23-83

23.3.83 E-MAC/E-DMAC ステータスレジスタ（EESR） 23-83
23.3.84 E-MAC/E-DMAC ステータス割り込み許可レジスタ（EESIPR） 23-87
23.3.85 送受信ステータスコピー指示レジスタ（TRSCER） 23-90
23.3.86 ミスドフレームカウンタレジスタ（RMFCR） 23-92
23.3.87 送信 FIFO しきい値指定レジスタ（TFTR） 23-92
23.3.88 FIFO 容量指定レジスタ（FDR） 23-93
23.3.89 受信方式制御レジスタ（RMCR） 23-94
23.3.90 受信ディスクリプタフェッチアドレスレジスタ（RDFAR） 23-95
23.3.91 受信ディスクリプタ処理済アドレスレジスタ（RDFXR） 23-95
23.3.92 受信ディスクリプタ最終フラグレジスタ（RDFFR） 23-96
23.3.93 送信ディスクリプタフェッチアドレスレジスタ（TDFAR） 23-96
23.3.94 送信ディスクリプタ処理済アドレスレジスタ（TDFXR） 23-97
23.3.95 送信ディスクリプタ最終フラグレジスタ（TDFFR） 23-97
23.3.96 オーバフロー予告 FIFO しきい値設定レジスタ（FCFTR） 23-98
23.3.97 受信データパディング挿入設定レジスタ（RPADIR） 23-99
23.3.98 Gigabit イーサネットコントロールレジスタ（GBECONT） 23-99
23.4 動作説明 23-102
23.4.1 ディスクリプタとディスクリプタリスト 23-104
23.4.2 送信動作 23-117
23.4.3 受信動作 23-120
23.4.4 転送動作 23-124
23.4.5 CAM 機能 23-125
23.4.6 マルチバッファフレーム（1 フレーム／複数ディスクリプタ）の送受信処理について 23-127
23.4.7 受信データへのパディング挿入について 23-129
23.4.8 割り込み動作 23-130
23.4.9 起動手順 23-133
23.4.10 フロー制御 23-134
23.4.11 Magic Packet の検出 23-135
23.4.12 IEEE802.1Q Qtag 使用方法 23-136
23.5 PHY-LSI との接続 23-137
23.5.1 MII レジスタのアクセス方法 23-137
23.6 使用上の注意事項 23-140
23.6.1 イーサネットフレームのサムチェック計算 23-140
23.6.2 TSU 使用時の注意 23-140
23.6.3 GETHER、ETHER との組み合わせで 3 チャネル以上を使用する場合の注意事項 23-141

24 .イーサネットコントローラ(ETHER)
24.1 特長 24-1
24.2 入出力端子 24-3
24.3 レジスタの説明 24-4
24.3.1 EtherC モードレジスタ (ECMR) 24-8
24.3.2 EtherC ステータスレジスタ（ECSR） 24-10
24.3.3 EtherC 割り込み許可レジスタ（ECSIPR） 24-11
24.3.4 PHY 部インタフェースレジスタ（PIR） 24-12
24.3.5 MAC アドレス上位設定レジスタ（MAHR） 24-12
24.3.6 MAC アドレス下位設定レジスタ（MALR） 24-13

24.3.7 受信フレーム長上限レジスタ（RFLR）.....24-13
24.3.8 送信リトライオーバカウンタレジスタ（TROCR）.....24-14
24.3.9 遅延衝突検出カウンタレジスタ（CDCR）.....24-15
24.3.10 キャリア消失カウンタレジスタ（LCCR）.....24-15
24.3.11 キャリア未検出カウンタレジスタ（CNDCR）.....24-16
24.3.12 CRC エラーフレーム受信カウンタレジスタ（CEFCR）.....24-16
24.3.13 フレーム受信エラーカウンタレジスタ（FRECR）.....24-17
24.3.14 64 バイト未満フレーム受信カウンタレジスタ（TSFRCR）.....24-17
24.3.15 指定バイト超フレーム受信カウンタレジスタ（TLFRCR）.....24-18
24.3.16 端数ビットフレーム受信カウンタレジスタ（RFCR）.....24-18
24.3.17 マルチキャストアドレスフレーム受信カウンタレジスタ（MAFCR）24-19
24.3.18 IPG 設定レジスタ（IPGR）.....24-19
24.3.19 自動 PAUSE フレーム設定レジスタ（APR）.....24-20
24.3.20 手動 PAUSE フレーム設定レジスタ（MPR）.....24-20
24.3.21 自動 PAUSE フレーム再送回数設定レジスタ（TPAUSER）.....24-21
24.3.22 乱数生成カウンタ上限値設定レジスタ（RDMLR）.....24-21
24.3.23 受信 PAUSE フレームカウンタレジスタ（RFCF）.....24-22
24.3.24 PAUSE フレーム再送回数カウンタレジスタ（TPAUSECR）.....24-22
24.3.25 Broadcast フレーム受信回数設定レジスタ（BCFRR）.....24-23
24.3.26 BCFRR カウントリセット（CRBCFRR）.....24-23
24.3.27 送受信レート設定レジスタ（RTRATE）.....24-24
24.3.28 E-DMAC モードレジスタ（EDMR）.....24-25
24.3.29 E-DMAC 送信要求レジスタ（EDTRR）.....24-26
24.3.30 E-DMAC 受信要求レジスタ（EDRRR）.....24-26
24.3.31 送信ディスクリプタリスト先頭アドレスレジスタ（TDLAR）.....24-27
24.3.32 受信ディスクリプタリスト先頭アドレスレジスタ（RDLAR）.....24-28
24.3.33 EtherC/E-DMAC ステータスレジスタ（EESR）.....24-28
24.3.34 EtherC/E-DMAC ステータス割り込み許可レジスタ（EESIPR）.....24-31
24.3.35 送受信ステータスコピー指示レジスタ（TRSCER）.....24-34
24.3.36 ミスドフレームカウンタレジスタ（RMFCR）.....24-35
24.3.37 送信 FIFO しきい値指定レジスタ（TFTR）.....24-35
24.3.38 FIFO 容量指定レジスタ（FDR）.....24-37
24.3.39 受信方式制御レジスタ（RMCR）.....24-38
24.3.40 送信 FIFO アンダランカウント（TFUCR）.....24-39
24.3.41 受信 FIFO オーバフローカウント（RFOCR）.....24-40
24.3.42 受信バッファライトアドレスレジスタ（RBWAR）.....24-40
24.3.43 受信ディスクリプタフェッチアドレスレジスタ（RDFAR）.....24-41
24.3.44 送信バッファリードアドレスレジスタ（TBRAR）.....24-41
24.3.45 送信ディスクリプタフェッチアドレスレジスタ（TDFAR）.....24-42
24.3.46 フロー制御開始 FIFO しきい値設定レジスタ（FCFTR）.....24-42
24.3.47 受信データパディング挿入設定レジスタ（RPADIR）.....24-43
24.3.48 送信割り込み設定レジスタ（TRIMD）.....24-44
24.4 動作説明.....24-45
24.4.1 ディスクリプタ.....24-45
24.4.2 送信機能.....24-52
24.4.3 受信動作.....24-55
24.4.4 マルチバッファフレームの送受信処理について.....24-58
24.4.5 RMII フレームタイミング.....24-60
24.4.6 MII レジスタのアクセス方法.....24-61

24.4.7 Magic Packet の検出 24-64
24.4.8 IPG 設定による動作 24-64
24.4.9 フロー制御 24-65
24.4.10 PHY-LSI との接続 24-65
24.5 使用上の注意事項 24-66
24.5.1 フロー制御不具合その 1 24-66
24.5.2 フロー制御不具合その 2 24-66
24.5.3 GETHER、ETHER との組み合わせで 3 チャネル以上を使用する場合の注意事項 24-66

25 . I2C バスインタフェース（RIIC）
25.1 概要 25-1
25.2 レジスタの説明 25-6
25.2.1 I2C バスコントロールレジスタ 1（ICCR1）..... 25-13
25.2.2 I2C バスコントロールレジスタ 2（ICCR2）..... 25-15
25.2.3 I2C バスモードレジスタ 1（ICMR1）..... 25-19
25.2.4 I2C バスモードレジスタ 2（ICMR2）..... 25-21
25.2.5 I2C バスモードレジスタ 3（ICMR3）..... 25-23
25.2.6 I2C バスファンクションイネーブルレジスタ（ICFER）..... 25-25
25.2.7 I2C バスステータスイネーブルレジスタ（ICSER）..... 25-27
25.2.8 I2C バスインタラプトイネーブルレジスタ（ICIER）..... 25-29
25.2.9 I2C バスステータスレジスタ 1（ICSR1）..... 25-31
25.2.10 I2C バスステータスレジスタ 2（ICSR2）..... 25-34
25.2.11 スレーブアドレスレジスタ Lm（SARLm）（m= 0 ～ 2）..... 25-37
25.2.12 スレーブアドレスレジスタ Um（SARUm）（m= 0 ～ 2）..... 25-38
25.2.13 I2C バスビットレート L レベルレジスタ（ICBRL）..... 25-39
25.2.14 I2C バスビットレート H レベルレジスタ（ICBRH）..... 25-40
25.2.15 I2C バス送信データレジスタ（ICDRT）..... 25-41
25.2.16 I2C バス受信データレジスタ（ICDRR）..... 25-41
25.2.17 I2C バスシフトレジスタ（ICDRS）..... 25-42
25.3 動作説明 25-43
25.3.1 通信データフォーマット 25-43
25.3.2 初期設定 25-44
25.3.3 マスタ送信動作 25-45
25.3.4 マスタ受信動作 25-48
25.3.5 スレーブ送信動作 25-53
25.3.6 スレーブ受信動作 25-56
25.4 SCL 同期回路 25-59
25.5 SDA 出力遅延機能 25-60
25.6 デジタルノイズフィルタ回路 25-60
25.7 アドレス一致検出機能 25-62
25.7.1 スレーブアドレス一致検出機能 25-62
25.7.2 ジェネラルコールアドレス検出機能 25-65
25.7.3 デバイス ID アドレス検出機能 25-66
25.7.4 ホストアドレス検出機能 25-68
25.8 SCL の自動Low ホールド機能 25-69
25.8.1 送信データ誤送信防止機能 25-69
25.8.2 NACK 受信転送中断機能 25-70

25.8.3 受信データ取りこぼし防止機能 25-71
25.9 アービトレーションロスト検出機能 25-73
25.9.1 マスタアービトレーションロスト検出機能（MALE ビット） 25-73
25.9.2 NACK 送信アービトレーションロスト検出機能（NALE ビット） 25-75
25.9.3 スレーブアービトレーションロスト検出機能（SALE ビット） 25-76
25.10 スタートコンディション、リスタートコンディション、
ストップコンディション発行機能 25-77
25.10.1 スタートコンディション発行動作 25-77
25.10.2 リスタートコンディション発行動作 25-77
25.10.3 ストップコンディション発行動作 25-78
25.11 バスハングアップ 25-79
25.11.1 タイムアウト検出機能 25-79
25.11.2 SCL クロック追加出力機能 25-80
25.11.3 RIIC/ 内部リセット 25-81
25.12 SMBus 動作 25-82
25.12.1 SMBus タイムアウト測定 25-82
25.12.2 SMBus ホスト通知プロトコル /Notify ARP master 25-83
25.13 割り込み要因 25-84
25.14 リセット状況 25-85
25.15 使用上の注意事項 25-86
25.15.1 RXI と TXI の制限 25-86
25.15.2 タイムアウト検出機能の制限 25-86
25.15.3 マスタ受信におけるストップコンディション発行要求の注意事項 25-86

26 . シリアルペリフェラルインタフェース 1（SPI1）
26.1 特長 26-1
26.2 入出力端子 26-2
26.3 レジスタの説明 26-3
26.3.1 送信バッファレジスタ（TBR） 26-4
26.3.2 受信バッファレジスタ（RBR） 26-4
26.3.3 コントロールレジスタ 1（CR1） 26-5
26.3.4 コントロールレジスタ 2（CR2） 26-6
26.3.5 コントロールレジスタ 3（CR3） 26-9
26.3.6 コントロールレジスタ 4（CR4） 26-9
26.3.7 コントロールレジスタ 5（CR5） 26-11
26.3.8 コントロールレジスタ 6（CR6） 26-11
26.3.9 コントロールレジスタ 7（CR7） 26-12
26.3.10 コントロールレジスタ 9（CR9） 26-13
26.3.11 コントロールレジスタ 10（CR10） 26-13
26.3.12 コントロールレジスタ 11（CR11） 26-14
26.4 機能説明 26-15
26.4.1 Power-On-Reset ストラップ入力信号 26-15
26.4.2 SPI1 の構成と動作 26-17
26.5 使用上の注意事項 26-20
26.5.1 WP 更新の制約 26-20
26.5.2 使用上の注意事項 26-20

27 .FIFO 内蔵シリアルコミュニケーションインタフェース0、1（SCIF0、SCIF1）
27.1 特長 27-1
27.2 入出力端子 27-3
27.3 レジスタの説明 27-4
27.3.1 受信シフトレジスタ (FRSR) 27-6
27.3.2 レシーブバッファレジスタ (FRBR) 27-6
27.3.3 送信シフトレジスタ (FTSR) 27-6
27.3.4 トランスミッタホールディングレジスタ (FTHR) 27-6
27.3.5 ディバイザラッチ H、L (FDLH、FDLL) 27-7
27.3.6 割り込みイネーブルレジスタ (FIER) 27-7
27.3.7 割り込み識別レジスタ (FIIR) 27-8
27.3.8 FIFO 制御レジスタ (FFCR) 27-9
27.3.9 ライン制御レジスタ (FLCR) 27-10
27.3.10 モデム制御レジスタ (FMCR) 27-11
27.3.11 ラインステータスレジスタ (FLSR) 27-13
27.3.12 モデムステータスレジスタ (FMSR) 27-16
27.3.13 スクラッチパッドレジスタ (FSCR) 27-17
27.3.14 SCIF コントロールレジスタ (SCIFCR) 27-17
27.4 動作説明 27-19
27.4.1 ボーレート 27-19
27.4.2 調歩同期式通信の動作 27-20
27.4.3 SCIF の初期化 27-21
27.4.4 シリアルデータ送信 27-22
27.4.5 シリアルデータ受信 27-23
27.4.6 フロー制御を行った送受信 27-24
27.5 割り込み要因 27-28
27.6 使用上の注意事項 27-29
27.6.1 キャラクタタイムアウト割り込みセット / クリアが同時に発生する場合 27-29
27.6.2 SCIFCR に対するリードアクセス 27-29

28 .FIFO 内蔵シリアルコミュニケーションインタフェース2、3、4（SCIF2、SCIF3、SCIF4）
28.1 特長 28-1
28.2 入出力端子 28-7
28.3 レジスタの説明 28-8
28.3.1 レシーブシフトレジスタ（SCRSR） 28-10
28.3.2 レシーブ FIFO データレジスタ（SCFRDR） 28-10
28.3.3 トランスミットシフトレジスタ（SCTSR） 28-10
28.3.4 トランスミット FIFO データレジスタ（SCFTDR） 28-11
28.3.5 シリアルモードレジスタ（SCSMR） 28-11
28.3.6 シリアルコントロールレジスタ（SCSCR） 28-13
28.3.7 シリアルステータスレジスタ（SCFSR） 28-16
28.3.8 ビットレートレジスタ（SCBRR） 28-20
28.3.9 FIFO コントロールレジスタ（SCFCR） 28-21
28.3.10 FIFO データ数レジスタ（SCFDR） 28-23
28.3.11 シリアルポートレジスタ（SCSPTR） 28-24

28.3.12 ラインステータスレジスタ（SCLSR）.....28-26
28.3.13 RS485 モードレジスタ（RS485M）.....28-27
28.4 動作説明 28-28
28.4.1 概要 28-28
28.4.2 調歩同期式モードの動作 28-29
28.4.3 クロック同期式モードの動作 28-40
28.4.4 RS-485 送信モード 28-47
28.5 SCIF 割り込み要因とDMAC 28-49
28.6 使用上の注意事項 28-50
28.7 実装上の注意事項 28-53
28.7.1 TXD のデフォルト 出力値.....28-53

29 .シリアルコミュニケーションインタフェース端子マルチプレクス機能 (SERMUX)
29.1 特長 29-1
29.2 入出力端子 29-2
29.3 レジスタの説明 29-4
29.3.1 シリアルマルチプレクスレジスタ 0（SMR0）.....29-5
29.3.2 シリアルマルチプレクスレジスタ 1（SMR1）.....29-7
29.3.3 シリアルマルチプレクスレジスタ 2（SMR2）.....29-8
29.3.4 シリアルマルチプレクスレジスタ 3（SMR3）.....29-9
29.3.5 シリアルマルチプレクスレジスタ 4（SMR4）.....29-11
29.3.6 シリアルマルチプレクスレジスタ 5（SMR5）.....29-12
29.4 動作モード 29-14
29.4.1 シリアルマルチプレクスモード 0 29-15
29.4.2 シリアルマルチプレクスモード 1 29-16
29.4.3 シリアルマルチプレクスモード 2 29-17
29.4.4 シリアルマルチプレクスモード 3 29-18
29.4.5 シリアルマルチプレクスモード 4 29-19
29.4.6 シリアルマルチプレクスモード 5 29-20
29.4.7 シリアルマルチプレクスモード 6 29-21
29.4.8 シリアルマルチプレクスモード 8 29-22
29.4.9 シリアルマルチプレクスモード 9 29-23
29.4.10 シリアルマルチプレクスモード A 29-24
29.4.11 シリアルマルチプレクスモード B 29-25
29.4.12 シリアルマルチプレクスモード C 29-26
29.4.13 シリアルマルチプレクスモード D 29-27
29.4.14 シリアルマルチプレクスディスエーブル時の接続 29-28

30 .SIM カードモジュール(SIM)
30.1 特長.....30-1
30.2 入出力端子 30-2
30.3 レジスタの説明.....30-3
30.3.1 シリアルモードレジスタ（SCSMR）.....30-4
30.3.2 ビットレートレジスタ (SCBRR) 30-5
30.3.3 シリアルコントロールレジスタ (SCSCR) 30-5
30.3.4 トランスミットシフトレジスタ (SCTSR) 30-8
30.3.5 トランスミットデータレジスタ (SCTDR) 30-8

30.3.6 シリアルステータスレジスタ (SCSSR) 30-8
30.3.7 レシーブシフトレジスタ (SCRSR) 30-13
30.3.8 レシーブデータレジスタ (SCRDR) 30-13
30.3.9 スマートカードモードレジスタ (SCSCMR) 30-13
30.3.10 シリアルコントロール 2 レジスタ (SCSC2R) 30-15
30.3.11 ガードエクステンションレジスタ (SCGRD) 30-15
30.3.12 ウェイトタイムレジスタ (SCWAIT) 30-16
30.3.13 サンプリングレジスタ (SCSMPL) 30-16
30.4 動作説明 30-17
30.4.1 概要 30-17
30.4.2 データフォーマット 30-17
30.4.3 レジスタ設定 30-18
30.4.4 クロック 30-19
30.4.5 データの送信／受信動作 30-20
30.5 使用上の注意事項 30-26

31 .USB ファンクションモジュール0（USB0）
31.1 特長 31-1
31.2 入出力端子 31-2
31.3 リセット 31- 3
31.3.1 PHY インタフェースレジスタの説明 31-3
31.3.2 PHY リセットレジスタ（RESET） 31-3
31.3.3 PHY ポートコントロールレジスタ（PORTSEL） 31-4
31.4 システムコンフィギュレーション 31-4
31.5 レジスタの説明 31-6
31.5.1 システムコンフィギュレーションコントロールレジスタ（SYSCFG） .31-9
31.5.2 SH-4A バスウエイトレジスタ（BUSWAIT） 30-10
31.5.3 システムコンフィギュレーションステータスレジスタ（SYSSTS） ...31-11
31.5.4 デバイスステートコントロールレジスタ（DVSTCTR） 31-12
31.5.5 テストモードレジスタ（TESTMODE） 31-13
31.5.6 FIFO ポートレジスタ（CFIFO） 31-14
31.5.7 FIFO ポート選択レジスタ（CFIFOSEL、D0FIFOSEL） 31-16
31.5.8 FIFO ポートコントロールレジスタ（CFIFOCTR、D0FIFOCTR） 31-20
31.5.9 割り込み許可レジスタ（INTENB） 31-23
31.5.10 BRDY 割り込み許可レジスタ（BRDYENB） 31-24
31.5.11 NRDY 割り込み許可レジスタ（NRDYENB） 31-25
31.5.12 BEMP 割り込み許可レジスタ（BEMPENB） 31-27
31.5.13 SOF 出力コンフィグレーションレジスタ（SOFCFG） 31-28
31.5.14 割り込みステータスレジスタ（INTSTS） 31-28
31.5.15 BRDY 割り込みステータスレジスタ（BRDYSTS） 31-31
31.5.16 NRDY 割り込みステータスレジスタ（NRDYSTS） 31-32
31.5.17 BEMP 割り込みステータスレジスタ（BEMPSTS） 31-34
31.5.18 フレームナンバーレジスタ（FRMNUM） 31-35
31.5.19 マイクロフレームナンバーレジスタ（UFRMNUM） 31-36
31.5.20 USB アドレスレジスタ（USBADDR） 31-37
31.5.21 USB リクエストタイプレジスタ（USBREQ） 31-38
31.5.22 USB リクエストバリューレジスタ（USBVAL） 31-38
31.5.23 USB リクエストインデックスレジスタ（USBINDX） 31-39

31.5.24 USB リクエストレングスレジスタ（USBLENG）..... 31-39
31.5.25 DCP マックスパケットサイズレジスタ（DCPMAXP）.....31-40
31.5.26 DCP コントロールレジスタ（DCPCTR）.....31-40
31.5.27 パイプウィンドウ選択レジスタ（PIPESEL）.....31-44
31.5.28 パイプコンフィギュレーションレジスタ（PIPECFG）..... 31-45
31.5.29 パイプバッファ指定レジスタ（PIPEBUF）..... 31-50
31.5.30 パイプマックスパケットサイズレジスタ（PIPEMAXP）.....31-52
31.5.31 パイプ周期制御レジスタ（PIPEPERI）..... 31-53
31.5.32 パイプ n コントロールレジスタ（PIPEnCTR）（n = 1 ～ 9）.....31-54
31.5.33 パイプ n トランザクションカウンタイネーブルレジスタ（PIPEnTRE）
（n = 1 ～ 5）.....31- 63
31.5.34 パイプ n トランザクションカウンタレジスタ（PIPEnTRN）
（n = 1 ～ 5）.....31- 64
31.5.35 UTMI サスペンドモードレジスタ（SUSPMODE）.....31-65
31.6 SUDMAC レジスタの構成 31-66
31.6.1 コンフィグレーションレジスタ（CH0CFG）..... 31-67
31.6.2 ベースアドレスレジスタ（CH0BA）.....31-68
31.6.3 ベースバイトカウントレジスタ（CH0BBC）.....31-69
31.6.4 カレントアドレスレジスタ（CH0CA）.....31-70
31.6.5 カレントバイトカウントレジスタ（CH0CBC）.....31-71
31.6.6 DMA イネーブルレジスタ（CH0DEN）..... 31-71
31.6.7 DMA ステータスクリアレジスタ（DSTSCLR）.....31-73
31.6.8 DMA バッファコントロールレジスタ（DBUFCTRL）.....31-73
31.6.9 DMA 割り込みコントロールレジスタ（DINTCTRL）.....31-75
31.6.10 DMA 割り込みステータスレジスタ（DINTSTS）.....31-76
31.6.11 DMA 割り込みステータスクリアレジスタ（DINTSTSCLR）.....31-77
31.6.12 SHwy 転送コントロールレジスタ（CH0SHCTRL）.....31-78
31.7 動作説明 31-79
31.7.1 システム制御及び発振制御 31-79
31.7.2 割り込み機能 31-81
31.7.3 パイプコントロール 31-93
31.7.4 FIFO バッファメモリ 31-97
31.7.5 コントロール転送（DCP）.....31-104
31.7.6 バルク転送（パイプ 1 ～ 5）.....31-105
31.7.7 インタラプト転送（パイプ 6 ～ 9）.....31-105
31.7.8 アイソクロナス転送（パイプ 1、2）.....31-105
31.7.9 SOF 補間機能 31-112
31.7.10 SUDMAC..... 31-113

32 .USB ホスト/ファンクションモジュール 1 （USB1）
32.1 特長 32-1
32.2 入出力端子 32-2
32.3 リセット 32-3
32.4 USB1 端子 マルチプレクサ 32-3
32.4.1 ブロック図 32-3
32.4.2 レジスタの説明 32-4
32.4.3 USB1 ポートコントローラ選択レジスタ（PORT1SEL）..... 32-4
32.4.4 USB1 割り込みステータスレジスタ（USB1INTSTS）.....32-5

32.5 レジスタの説明 32-6
32.5.1 USB ファンクション コントローラレジスタ 32-7
32.5.2 EHCI コントローラレジスタ 32-7
32.5.3 OHCI コントローラレジスタ 32-28
32.5.4 パワーイネーブルコントロールレジスタ（OCPOWEN） 32-53
32.5.5 過電流コントロールレジスタ（OCMSK） 32-54
32.5.6 EHCI データアラインメントコントロールレジスタ（EHCIDATAC） . 32-54
32.5.7 OHCI データアラインメントコントロールレジスタ（OHCIDATAC） . 32-55
32.6 USB HCによるデータの格納 32-56
32.6.1 データの格納 32-56
32.6.2 ディスクリプタテーブルの格納 32-56

33 .CRC 演算器
33.1 特長 33-1
33.2 レジスタの説明 33-1
33.2.1 CRC コントロールレジスタ（CRCCR） 33-2
33.2.2 CRC データ入力レジスタ（CRCDIR） 33-2
33.2.3 CRC データ出力レジスタ（CRCDOR） 33-3
33.3 動作説明 33- 4
33.4 使用上の注意事項 33-7

34 .ルネサスシリアルペリフェラルインタフェース（RSPI）
34.1 特長 34-1
34.1.1 内部ブロック図 34-3
34.2 入出力端子 34-4
34.3 レジスタの説明 34-5
34.3.1 RSPI 制御レジスタ（SPCR） 34-6
34.3.2 RSPI スレーブセレクト極性レジスタ（SSLP） 34-8
34.3.3 RSPI 端子制御レジスタ（SPPCR） 34-9
34.3.4 RSPI ステータスレジスタ（SPSR） 34-10
34.3.5 RSPI データレジスタ（SPDR） 34-12
34.3.6 RSPI シーケンス制御レジスタ（SPSCR） 34-13
34.3.7 RSPI シーケンスステータスレジスタ（SPSSR） 34-14
34.3.8 RSPI ビットレートレジスタ（SPBR） 34-16
34.3.9 RSPI データコントロールレジスタ（SPDCR） 34-17
34.3.10 RSPCK 遅延レジスタ（SPCKD） 34-21
34.3.11 RSPI スレーブセレクトネゲート遅延レジスタ（SSLND） 34-22
34.3.12 RSPI 次アクセス遅延レジスタ（SPND） 34-23
34.3.13 RSPI 制御レジスタ 2 (SPCR2) 34-24
34.3.14 RSPI コマンドレジスタ (SPCMD) 34-26
34.4 動作説明 34-29
34.4.1 RSPI 動作の概要 34-30
34.4.2 RSPI 端子の制御 34-31
34.4.3 RSPI システム構成例 34-32
34.4.4 転送フォーマット 34-37
34.4.5 データフォーマット 34-39
34.4.6 通信動作モード 34-47

34.4.7 送信バッファエンプティ／受信バッファフルフラグ 34-49
34.4.8 エラー検出 34-50
34.4.9 RSPI の初期化 34-54
34.4.10 SPI 動作 34-55
34.4.11 クロック同期式動作 34-66
34.4.12 エラー処理 34-73
34.4.13 ループバックモード 34-75
34.4.14 パリティ機能のセルフダイアグノシス 34-76
34.4.15 割り込み要求 34-77

35 .イベントカウンタ（EVC）
35.1 特長 35-1
35.2 入出力 35-2
35.3 レジスタの説明 35-3
35.3.1 イベントカウンタチャネルイネーブルレジスタ（EVCCE） 35-4
35.3.2 イベントカウンタエッジ制御レジスタ（EVCECR） 35-6
35.3.3 イベントカウンタ 0 ～ 15（EVCNT0 ～ EVCNT15） 35-7

39 .A/D 変換器（ADC）
39.1 特長 39-1
39.2 入出力端子 39-3
39.3 レジスタの説明 39-4
39.3.1 A/D データレジスタ A ～ H (ADDRA_i ～ ADDRH_i(i=0,1)) 39-5
39.3.2 A/D コントロール／ステータスレジスタ（ADCSR） 39-6
39.4 動作説明 39-8
39.4.1 シングルモード 39-8
39.4.2 マルチモード 39-10
39.4.3 スキャンモード 39-12
39.4.4 外部トリガ、TMR による A/D 変換器の起動 39-14
39.4.5 入力サンプリングと A/D 変換時間 39-14
39.4.6 外部トリガ入力タイミング 39-15
39.5 割り込み要因と DMAC 転送要求 39-16
39.6 A/D 変換精度の定義 39-17
39.7 使用上の注意事項 39-18
39.7.1 モジュールスタンバイモードの設定 39-18
39.7.2 アナログ電圧の設定 39-18
39.7.3 ボード設計上の注意 39-18
39.7.4 アナログ入力端子の取り扱い 39-18
39.7.5 許容信号源インピーダンス 39-20
39.7.6 絶対精度への影響 39-20

40 .汎用入出力ポート（GPIO）
40.1 特長 40-1
40.2 レジスタの説明 40-14
40.2.1 ポート A コントロールレジスタ（PACR） 40-16
40.2.2 ポート B コントロールレジスタ（PBCR） 40-17

40.2.3 ポート C コントロールレジスタ（PCCR）.....40-18
40.2.4 ポート D コントロールレジスタ（PDCR）.....40-20
40.2.5 ポート E コントロールレジスタ（PECR）.....40-21
40.2.6 ポート F コントロールレジスタ（PFCR）.....40-22
40.2.7 ポート G コントロールレジスタ（PGCR）.....40-23
40.2.8 ポート H コントロールレジスタ（PHCR）.....40-25
40.2.9 ポート I コントロールレジスタ（PICR）.....40-26
40.2.10 ポート J コントロールレジスタ（PJCR）.....40-27
40.2.11 ポート K コントロールレジスタ（PKCR）.....40-28
40.2.12 ポート L コントロールレジスタ（PLCR）.....40-30
40.2.13 ポート M コントロールレジスタ（PMCR）.....40-31
40.2.14 ポート N コントロールレジスタ（PNCR）.....40-32
40.2.15 ポート O コントロールレジスタ（POCR）.....40-34
40.2.16 ポート Q コントロールレジスタ（PQCR）.....40-35
40.2.17 ポート R コントロールレジスタ（PRCR）.....40-36
40.2.18 ポート S コントロールレジスタ（PSCR）.....40-38
40.2.19 ポート T コントロールレジスタ（PTCR）.....40-39
40.2.20 ポート U コントロールレジスタ（PUCR）.....40-40
40.2.21 ポート V コントロールレジスタ（PVCR）.....40-42
40.2.22 ポート W コントロールレジスタ（PWCR）.....40-43
40.2.23 ポート X コントロールレジスタ（PXCR）.....40-44
40.2.24 ポート Y コントロールレジスタ（PYCR）.....40-46
40.2.25 ポート Z コントロールレジスタ（PZCR）.....40-47
40.2.26 ポート A データレジスタ（PADR）.....40-48
40.2.27 ポート B データレジスタ（PBDR）.....40-49
40.2.28 ポート C データレジスタ（PCDR）.....40-49
40.2.29 ポート D データレジスタ（PDDR）.....40-50
40.2.30 ポート E データレジスタ（PEDR）.....40-50
40.2.31 ポート F データレジスタ（PFDR）.....40-51
40.2.32 ポート G データレジスタ（PGDR）.....40-51
40.2.33 ポート H データレジスタ（PHDR）.....40-52
40.2.34 ポート I データレジスタ（PIDR）.....40-52
40.2.35 ポート J データレジスタ（PJDR）.....40-53
40.2.36 ポート K データレジスタ（PKDR）.....40-53
40.2.37 ポート L データレジスタ（PLDR）.....40-54
40.2.38 ポート M データレジスタ（PMDR）.....40-54
40.2.39 ポート N データレジスタ（PNDR）.....40-55
40.2.40 ポート O データレジスタ（PODR）.....40-55
40.2.41 ポート P データレジスタ（PPDR）.....40-56
40.2.42 ポート Q データレジスタ（PQDR）.....40-56
40.2.43 ポート R データレジスタ（PRDR）.....40-57
40.2.44 ポート S データレジスタ（PSDR）.....40-57
40.2.45 ポート T データレジスタ（PTDR）.....40-58
40.2.46 ポート U データレジスタ（PUDR）.....40-58
40.2.47 ポート V データレジスタ（PVDR）.....40-59
40.2.48 ポート W データレジスタ（PWDR）.....40-59
40.2.49 ポート X データレジスタ（PXDR）.....40-60
40.2.50 ポート Y データレジスタ（PYDR）.....40-60
40.2.51 ポート Z データレジスタ（PZDR）.....40-61

40.2.52 ピンセレクトレジスタ 0（PSEL0）.....40-61
40.2.53 ピンセレクトレジスタ 1（PSEL1）.....40-62
40.2.54 ピンセレクトレジスタ 2（PSEL2）.....40-63
40.2.55 ピンセレクトレジスタ 3（PSEL3）.....40-64
40.2.56 ピンセレクトレジスタ 4（PSEL4）.....40-65
40.2.57 ピンセレクトレジスタ 5（PSEL5）.....40-67
40.2.58 ピンセレクトレジスタ 6（PSEL6）.....40-68
40.2.59 ピンセレクトレジスタ 7（PSEL7）.....40-69
40.2.60 ノイズキャンセライネーブルレジスタ（NCER）.....40-70
40.2.61 ノイズキャンセラモードコントロールレジスタ（NCMCR）.....40-71
40.2.62 ノイズキャンセラ周期設定レジスタ（NCCSR）.....40-71
40.3 使用例.....40-74
40.3.1 ポート出力機能.....40-74
40.3.2 ポート入力機能.....40-74
40.3.3 周辺モジュール機能.....40-74
40.3.4 AUD モジュール機能.....40-74

41 .ユーザブレークコントローラ（UBC）
41.1 特長.....41-1
41.2 レジスタの説明.....41-3
41.2.1 マッチ条件設定レジスタ 0、1（CBR0、CBR1）.....41-4
41.2.2 マッチ動作設定レジスタ 0、1（CRR0、CRR1）.....41-8
41.2.3 マッチアドレス設定レジスタ 0、1（CAR0、CAR1）.....41-9
41.2.4 マッチアドレスマスク設定レジスタ 0、1（CAMR0、CAMR1）.....41-10
41.2.5 マッチデータ設定レジスタ 1（CDR1）.....41-11
41.2.6 マッチデータマスク設定レジスタ 1（CDMR1）.....41-12
41.2.7 実行回数ブレークレジスタ 1（CETR1）.....41-12
41.2.8 チャネルマッチフラグレジスタ（CCMFR）.....41-13
41.2.9 ブレークコントロールレジスタ（CBCR）.....41-14
41.3 動作説明.....41-15
41.3.1 アクセスに関する用語の説明.....41-15
41.3.2 ユーザブレーク動作の流れ.....41-15
41.3.3 命令フェッチサイクルブレーク.....41-16
41.3.4 オペランドアクセスサイクルブレーク.....41-17
41.3.5 シーケンシャルブレーク.....41-18
41.3.6 退避されるプログラムカウンタの値.....41-19
41.4 ユーザブレークデバッグサポート機能.....41-20
41.5 ユーザブレーク使用例.....41-21
41.6 使用上の注意事項.....41-24

42 .ユーザデバッグインタフェース（H-UDI）
42.1 特長.....42-1
42.2 入出力端子.....42-3
42.3 バウンダリスキャン用TAP コントローラ
（IDCODE、EXTEST、SAMPLE/PRELOAD、BYPASS）.....42-4
42.4 レジスタの説明.....42-5

42.4.1 インストラクションレジスタ（SDIR）.....42-6
42.4.2 割り込み要因レジスタ（SDINT）.....42-6
42.4.3 バイパスレジスタ（SDBPR）.....42-7
42.4.4 バウンダリスキャンレジスタ（SDBSR）..... 42-7
42.5 動作説明 42-8
42.5.1 TAP 制御 42-8
42.5.2 H-UDI リセット 42-9
42.5.3 H-UDI 割り込み 42-9
42.6 注意事項 42-9

43 .eMMCホストインタフェース
43.1 特徴.....43-1
43.2 モジュールの構成.....43-1
43.3 入出力端子 43-2
43.4 レジスタの説明 43-2
43.4.1 コマンド設定レジスタ（CE_CMD_SET）.....43-3
43.4.2 アーギュメントレジスタ（CE_ARG）.....43-5
43.4.3 自動 CMD12 アーギュメントレジスタ（CE_ARG_CMD12）.....43-5
43.4.4 コマンド制御レジスタ（CE_CMD_CTRL）.....43-6
43.4.5 転送ブロック設定レジスタ（CE_BLOCK_SET）.....43-6
43.4.6 クロックコントロールレジスタ（CE_CLK_CTRL）.....43-7
43.4.7 バッファアクセス設定レジスタ（CE_BUF_ACC）.....43-8
43.4.8 レスポンスレジスタ３～０（CE_RESP3 ～ 0）.....43-9
43.4.9 自動 CMD12 レスポンスレジスタ（CE_RESP_CMD12）.....43-10
43.4.10 データレジスタ（CE_DATA）.....43-11
43.4.11 割り込みフラグレジスタ（CE_INT）.....43-11
43.4.12 割り込みマスクレジスタ（CE_INT_MASK）.....43-15
43.4.13 ステータスレジスタ１（CE_HOST_STS1）.....43-18
43.4.14 ステータスレジスタ２（CE_HOST_STS2）.....43-19
43.4.15 バージョンレジスタ（CE_VERSION）.....43-21
43.5 割り込み要求 43-22
43.6 DMA仕様 43-23
43.6.1 バッファライト DMA 43-23
43.6.2 バッファリード DMA 43-23
43.7 動作説明 43-23
43.7.1 コマンド / レスポンスのフォーマット 43-23
43.7.2 自動 CMD12 発行 43-25
43.7.3 バッファ構造とバッファアクセス 43-26
43.7.4 CE_DATA アクセス時のバッファアクセス選択機能 43-27
43.7.5 データフォーマット 43-28
43.7.6 エラー、タイムアウト発生時の本モジュールの処理 43-29
43.8 設定例.....43-30
43.8.1 凡例 43-30
43.8.2 コマンド送信設定例 43-30
43.8.3 コマンド送信→レスポンス受信設定例 43-31
43.8.4 コマンド送信→レスポンス受信（レスポンスビジー有り）設定例 43-32
43.8.5 シングルブロックリード設定例 43-33
43.8.6 マルチブロックリード（自動 CMD12 発行有り）設定例 43-34

43.8.7 シングルブロックライト設定例 43-35
43.8.8 マルチブロックライト（自動 CMD12 発行有り）設定例 43-36
43.8.9 強制終了設定例 43-37
43.8.10 CE_CMD_SET 設定値 43-38

44 .シリアル汎用入出力ポート（SGPIO）
44.1 特長 44-1
44.2 入出力端子 44-3
44.3 レジスタの説明 44-4
44.3.1 転送設定レジスタ（XFERCFG） 44-7
44.3.2 転送数指定レジスタ（XFERNUM） 44-7
44.3.3 転送ビット位置モニタレジスタ（XFERBLMON） 44-8
44.3.4 SClock 周波数選択レジスタ（SCLOCKFREQ） 44-9
44.3.5 SGPIO ステートモニタレジスタ（STATEMON） 44-10
44.3.6 送信データレジスタ（TRSDATA0-3） 44-10
44.3.7 受信データレジスタ（RCVDATA0-3） 44-11
44.3.8 割り込み許可レジスタ（INTEN） 44-12
44.3.9 割り込み要因レジスタ（INTSRC） 44-12
44.3.10 GPI 設定レジスタ（GPICFG） 44-13
44.3.11 GPI ラッチ有効レジスタ（GPILATCHEN0-3） 44-14
44.3.12 GPI 極性レジスタ（GPIPOLARITY0-3） 44-14
44.3.13 ビット一致レジスタ（BITMATCH0-3） 44-15
44.4 動作説明 44-16
44.4.1 ビットストリーム構成 44-16
44.4.2 出力端子制御 44-17
44.4.3 単発転送モード 44-18
44.4.4 連続転送モード 44-19
44.4.5 割り込み 44-21
44.5 使用上の注意事項 44-22
44.5.1 システム起動直後の転送 44-22

45 .8 ビットPWM タイマ（PWMU）
45.1 特長 45-1
45.2 入出力端子 45-3
45.3 レジスタの説明 45-3
45.3.1 PWM クロックコントロールレジスタ（PWMCKCR） 45-4
45.3.2 PWM 出力コントロールレジスタ（PWMOUTCR） 45-4
45.3.3 PWM Mode Control Register (PWMMDCR) 45-6
45.3.4 PWM 位相コントロールレジスタ（PWMPCR） 45-7
45.3.5 PWM プリスケーララッチレジスタ（PRELAT） 45-8
45.3.6 PWM デューティ設定ラッチレジスタ（REGLAT） 45-8
45.3.7 PWM プリスケーラレジスタ 0 ～ 5（PWMPRE0 ～ PWMPRE5） 45-9
45.3.8 PWM デューティ設定レジスタ 0 ～ 5（PWMREG0 ～ PWMREG5） 45-11
45.4 動作説明 45-12
45.4.1 単パルスモード（8 ビット、12 ビット、16 ビット） 45-12
45.4.2 Pulse Division Mode 45-15
45.4.3 D/A として使用する場合の回路例 45-17

46 .電気的特性

46.1　絶対最大定格 46-1
46.2　電源投入・切断シーケンス 46-2
46.2.1　電源投入・切断シーケンス 46-2
46.3　DC 特性 46-3
46.3.1　DC 特性 (1) 46-3
46.3.2　DC 特性 (2) 46-4
46.3.3　DC 特性 (USB トランシーバ、RIIC 関連端子を除く) 46-5
46.3.4　DC 特性 (RIIC) 46-6
46.3.5　DC 特性 （USB（ハイスピードトランシーバ)） 46-6
46.3.6　DC 特性 （USB（フルスピード／ロースピードトランシーバ)） 46-7
46.3.7　DC 特性 （出力許容電流値） 46-8
46.3.8　DC 特性（シュミットトリガ入力） 46-9
46.4　AC特性 46-10
46.4.1　クロック・制御信号タイミング 46-10
46.4.2　バスタイミング 46-13
46.4.3　DBSC3 モジュール信号タイミング 46-21
46.4.4　INTC モジュール信号タイミング 46-25
46.4.5　DMAC モジュール信号タイミング 46-26
46.4.6　SPI0 モジュール信号タイミング 46-27
46.4.7　WDT モジュール信号タイミング 46-28
46.4.8　PWMX モジュール信号タイミング 46-29
46.4.9　PWMU モジュール信号タイミング 46-29
46.4.10　TMU モジュール信号タイミング 46-30
46.4.11　ETHER モジュール信号タイミング 46-31
46.4.12　RGMII モジュール信号タイミング 46-33
46.4.13　RIIC モジュール信号タイミング 46-36
46.4.14　SPI1 モジュール信号タイミング 46-38
46.4.15　SCIF2 ～ 4 モジュール信号タイミング 46-39
46.4.16　USB0/USB1 モジュール信号タイミング 46-40
46.4.17　A/D モジュール信号タイミング 46-41
46.4.18　GPIO モジュール信号タイミング 46-42
46.4.19　H-UDI モジュール信号タイミング 46-43
46.4.20　RSPI モジュール信号タイミング 46-45
46.4.21　eMMC モジュール信号タイミング 46-49
46.4.22　SGPIO モジュール信号タイミング 46-50
46.4.23　EVC モジュール信号タイミング 46-51
46.5　A/D 変換器特性 46-51

付録

A.CPU 動作モードレジスタ（CPUOPM） ..... 付録 -1
B.命令プリフェッチとその副作用について ..... 付録 -2
C. バージョンレジスタ（PVR、PRR） ..... 付録 -3
D.外形寸法図 ..... 付録 -5
E.ストラップピン一覧表 ..... 付録 -6

1. 概要

1.1 SH7752の特長

本LSIは、メモリトレンドに追随したDDR3- SDRAMインタフェース、２チャネルのギガビットイーサネットコントローラ（GETHER）、USBホスト／ファンクション（USB）、I2Cバスインタフェース（RIIC）、SDホストインタフェース（SDHI）、MMCホストインタフェース（eMMC）、タイマ、及びシリアルコミュニケーションインタフェース（SCIF、SPI）等を内蔵しており、通信用の組み込みシステムなどに適しています。

本LSIの内部CPUコアSH-4Aは、RISCタイプの命令セットを内蔵しており、スーパースカラアーキテクチャを使用しています。これにより命令実行速度は大幅に向上します。このCPUで、高速処理が要求されるリアルタイム制御のような、従来のマイクロプロセッサでは処理できなかったアプリケーションに対しても、低コスト、高性能、及び高機能なシステムを組むことができます。

本LSIには、32Kバイトの命令キャッシュ、及び32Kバイトのオペランドキャッシュ領域があります。オペランドキャッシュ領域では、コピーバックとライト・スルーモードを切り替えることができます。さらに、内蔵されているMMU（memory management unit）により4Gバイトの仮想アドレス空間へアクセスすることができます。命令キャッシュには、命令に対する4エントリのフルアソシアティブTLB及びTLBと共有の64エントリのフルアソシアティブがあります。また、32KバイトのSRAM (16KバイトILRAM／16KバイトOLRAM)を内蔵しています。SRAMは高速アクセスが可能なので、スタックポインタやリアルタイム性を必要とする処理に使用できます。

本LSIの特長を表1.1に示します。

表1.1 SH7752の特長

項目	特 長
CPU (SH-4A)	• ルネサス独自のSuperHアーキテクチャ • 32ビット内部データバス • 汎用レジスタファイル： - 16本の32ビット汎用レジスタ（及び8本の32ビットシャドウレジスタ） - 7本の32ビット制御レジスタ - 4本の32ビットシステムレジスタ • RISCタイプ命令セット（SH-1、SH-2、SH-3、SH-4マイクロプロセッサと上位互換性あり） - 命令長：コードの効率改善のための16ビット固定長 - ロードストアアーキテクチャ - 遅延分岐命令 - 条件付き実行 - C言語に基づく命令セット • FPUを含む2命令同時実行型スーパースカラ • 命令実行時間：最大2命令／サイクル • アドレス空間：4Gバイト • 空間識別子ASID：8ビット、256の仮想アドレス空間 • 乗算器内蔵 • 8段パイプライン

項目	特 長
浮動小数点 ユニット (FPU)	• 浮動小数点コプロセッサ内蔵 • 単精度（32ビット）及び倍精度（64ビット）をサポート • IEEE754に準拠したデータタイプ及び例外をサポート • 丸めモード：近傍及び0方向への丸め • 非正規化数の扱い：0への切り捨て、又はIEEE754に準拠のための割り込み発生 • 浮動小数点レジスタ：32ビット×16レジスタ×2バンク (単精度×16レジスタ又は倍精度×8レジスタ）×2バンク • 32ビットCPU-FPU浮動小数点通信レジスタ（FPUL） • FMAC（乗算及びアキュムレート）命令をサポート • FDIV（除算）／FSQRT（平方根）命令をサポート • FLDI0/FLDI1（ロード定数0/1）命令をサポート • 命令実行時間 - レイテンシ（FADD/FSUB）：3サイクル（単精度）、5サイクル（倍精度） - レイテンシ（FMAC/FMUL）：5サイクル（単精度）、7サイクル（倍精度） - ピッチ（FADD/FSUB）：1サイクル（単精度／倍精度） - ピッチ（FMAC/FMUL）：1サイクル（単精度）、3サイクル（倍精度） 注. FMACは単精度に対してのみサポートしています • 3Dグラフィック命令（単精度のみ） - 4 次元ベクトル変換及び行列演算（FTRV）：4サイクル（ピッチ）、8サイクル（レイテンシ） - 4次元ベクトル（FIPR）の内積：1サイクル（ピッチ）、5サイクル（レイテンシ） • 10段パイプライン
メモリ管理 ユニット（MMU）	• 4Gバイトのアドレス空間、256のアドレス空間識別子（ASID：8ビット） • 単一仮想記憶モードと多重仮想記憶モード • 複数のページサイズをサポート：1K、4K、8K、64K、256K、1M、4M、64Mバイト • 命令に対する4エントリのフルアソシアティブTLB • 命令及びオペランドに対する64エントリのフルアソシアティブTLB • ソフトウェアにより入れ換え方法及びランダムカウンタ方式入れ替えアルゴリズムをサポート • TLBの内容はアドレスマッピングにより直接アクセス可能 • 29ビット物理アドレスモードと32ビット物理アドレスモードをサポート
キャッシュメモリ	• 命令キャッシュ（IC）：32Kバイト - 4ウェイセットアソシエイティブ - 32バイトブロック長 • オペランドキャッシュ (OC)：32Kバイト - 4ウェイセットアソシエイティブ - 32バイトブロック長 - 選択可能な書き込み方式（コピーバック/ライトスルー） • ストアキュー（32バイト×2エントリ）
ILメモリ (ILRAM)	• 命令ローカルメモリ：16Kバイト • 3本の独立した読み出し／書き込みポート - SH-4Aからの命令フェッチアクセス - SH-4Aからの8／16／32／64ビットオペランドアクセス - 外部要求による8／16／32／64ビット及び16／32バイトアクセス
OLメモリ （OLRAM）	• オペランドローカルメモリ：16Kバイト • 3本の独立した読み出し／書き込みポート - SH-4Aからの命令フェッチアクセス - SH-4Aからの8／16／32／64ビットオペランドアクセス - 外部要求による8／16／32／64ビット及び16／32バイトアクセス
ユーザブレーク コントローラ （UBC）	• ユーザブレーク割り込みによるデバックをサポート • 2本のブレークチャネル • アドレス、データ値、アクセスのタイプ、データサイズはすべてブレーク条件として設定可能 • シーケンシャルブレーク機能をサポート

項目	特 長
クロックパルス発振器（CPG）	• メインクロック：EXTAL入力クロック周波数の8又は12倍 • クロックモード： - SH-4A周波数：最大576MHz - SHwyバス周波数：最大192MHz - ローカルバス周波数：最大48MHz - DDR3-SDRAM周波数：最大1056Mbps - 周辺周波数：最大48MHz - 外部WDTサブクロック周波数：32.768kHz • 低消費電力モード： - モジュールストップモード：選択された周辺装置へのクロック供給を停止 - スリープモード：SH-4Aの動作を停止
割り込みコントローラ（INTC）	• ダイレクトジャンプ方式（SH-4互換） • 17本の外部割り込み端子（NMI、IRQ15～IRQ0） • 内蔵周辺割り込み：モジュールごとに優先順位を設定 • 非サポート検出例外レジスタ（EXPMASK）
ローカルバスステートコントローラ（LBSC）	• 外部非同期形メモリアクセスをサポート - 各エリア最大64Mバイト - SRAM/NOR型フラッシュメモリ接続可能 - ウェイトサイクルをソフトウエアによって挿入可能 - ウェイトサイクル機能（ハードウェアによるウェイトサイクル：$\overline{\text{RDY}}$信号） - データバスの衝突を防ぐためのウェイト制御（アイドルサイクル挿入） - バス幅：16、8ビット - サポートエリア：CS0、CS4～CS6 • ビッグエンディアン又はリトルエンディアンを設定可能
ダイレクトメモリアクセスコントローラ（DMAC）	• 24チャネル（うち2チャネルは外部リクエスト可能） • 転送要求： - 外部リクエスト（チャネル0、1） - 内蔵周辺モジュールリクエスト： SCIF2、SCIF3、SCIF4、ADC0、ADC1、SIM、ARC4、SDHI、CRYPTO ENGINE、RSPI、eMMC、RIIC、TMR - オートリクエストモード：メモリ間転送 • 転送データサイズ：バイト、ワード（2バイト）、ロングワード(4バイト)、16バイト、32バイト • 最大転送回数：16,777,216回 • アドレスモード：デュアルアドレスモード • バスモード：サイクルスチールモードとバーストモードから選択可能 • チャネル優先順位選択可能： - チャネル優先レベルは固定モードとラウンドロビンモードから選択可能
DDR3-SDRAMインタフェース(DBSC3)	• JEDEC JESD79-3準拠 • データバス幅：16ビット • リフレッシュ機能サポート - セルフリフレッシュモード • DDR3-SDRAM 1056Mbpsに対応 • 8バンクDDR3-SDRAMデバイスに対応 • バースト長：8 • CASレイテンシ：5～8サイクル • アドレス指定可能メモリ空間は8Gbits（＝1Gバイト）まで - 32M×16bit（512Mビット）×1 - 64M×16bit（1Gビット）×1、64M×8bit（512Mビット）×2 - 128M×16bit（2Gビット）×1、128M×8bit（1Gビット）×2 - 256M×16bit（4Gビット）×1、256M×8bit（2Gビット）×2 - 512M×16bit（8Gビット）×1、512M×8bit（4Gビット）×2 • ECC(SECDEC方式)によるデータ訂正機能サポート

項目	特 長
イーサネット コントローラ (ETHER)	• MAC（Media Access Control 機能） - データフレームの組み立て／分解（IEEE802.3 準拠フレーム形式） - CRC計算 - 全二重／半二重送受信サポート - ショートパケット、ロングパケット送受信検出 • RMII（Reduced Media Independent Interface）標準転送レート：10/100Mbpsに対応 - 2CH • 1ディスクリプタで1フレーム、複数のディスクリプタ（マルチバッファ）で1フレームの方式に対応 • イーサネットコントローラ専用DMAチャネル • SH-4A負荷軽減のためディスクリプタ管理方式を使用 • チャネルごとに受信用FIFO(8KB)、送信用FIFO(2KB)を搭載 • 32バイトバースト転送によりシステムバスを効率よく使用 • シングルフレーム・マルチバッファ対応可能
ギガビット イーサネット コントローラ (GETHER)	• MAC（Media Access Control 機能） - データフレームの組み立て／分解（IEEE802.3 2000Edition準拠フレーム形式） - CRC計算 - 全二重／半二重送受信サポート - ショートパケット、ロングパケット送受信検出 - マルチキャストフィルタ • RGMII（Reduced Gigabit Media Independent Interface）標準転送レート：10/100/1000 Mbpsに対応 - 2CH • 1ディスクリプタで1フレーム、複数のディスクリプタ（マルチバッファ）で1フレームの方式に対応 • IEEE802.1Q （VLAN）に対応 • ギガビットイーサネットコントローラ専用DMAチャネル • SH-4A負荷軽減のためディスクリプタ管理方式を使用 • チャネルごとに受信用FIFO(12KB)、送信用FIFO(2KB)を搭載 • 32バイトバースト転送によりシステムバスを効率よく使用 • シングルフレーム・マルチバッファ対応可能
SIMカードインタフェース（SIM）	• 1チャネル • ISO7816-3 データプロトコルに対応（T=0、T=1） • 調歩同期式半二重キャラクタ伝送プロトコル • データ長8ビット • パリティビットの生成及びチェック • キャラクタ保護追加時間選択可能 • 1etu当たりの出力クロック数を選択可能 • ダイレクトコンベンション／インバースコンベンションの選択可能 • 周辺クロックPckプリスケーラ内蔵 • アイドル時のクロック極性変更可（L レベル又はH レベル）
I2C インタフェース (RIIC)	• I2Cバスインタフェース方式サポート • マスタ／スレーブ機能 • 10チャネル • 最大1Mbpsをサポート • 7ビット及び10ビットのアドレスモード対応 • システムクロックからプログラマブルにクロックを生成

項目	特 長
USBホスト／ファンクション機能（USB0、USB1）	• 2ポート（各ポートにUSB PHYを内蔵） • USB0、USB1共に、Universal Serial Bus Specification Revision 2.0準拠 • USB0（ファンクション機能）：ハイスピード/フルスピードサポート • USB1（ファンクション機能）：ハイスピード/フルスピードサポート USB1（ホスト機能）　：ハイスピード（EHCI）、フルスピード/ロースピード（OHCI）サポート • パイプ構成 - 各USBファンクションで最大10パイプ使用可能 - 各USBファンクションで8.5Kバイト専用RAMバッファ内蔵 - パイプ0：64バイト　コントロール転送 - パイプ1、2：最大2k×2のバルク転送／アイソクロナス転送 - パイプ3～5：最大2k×2のバルク転送 - パイプ6～9：64バイト インタラプト転送 - 最大10個の双方向のエンドポイントをサポート
FIFO内蔵シリアルコミュニケーションインタフェース0、1（SCIF0、SCIF1）	• 2チャネル内蔵 • 送受信用FIFO 各16 バイト内蔵 - 16550シリーズと一部を除きレジスタ互換（以下の2点は非対応） ・スティックパリティ ・DMAモード • 全二重通信が可能 • モデムコントロール信号サポート（$\overline{\text{DSR}}$、$\overline{\text{DTR}}$、$\overline{\text{CTS}}$、$\overline{\text{RTS}}$及び$\overline{\text{DCD}}$） • 送受信クロックソースをボーレートジェネレータから選択可能 • 1.5Mbpsまでサポート • ループバックモードサポート • シリアルコミュニケーションインタフェース端子マルチプレクス機能を使用することにより、モデムステータス信号のモニタが可能
FIFO内蔵シリアルコミュニケーションインタフェース2、3、4（SCIF2、SCIF3、SCIF4）	• 3チャネル内蔵 • 送受信用FIFO各16バイト内蔵 • 調歩同期式モードまたはクロック同期式モードの選択が可能 • 全二重通信が可能 • 1.5Mbpsまでサポート（調歩同期式モード） • 送受信クロックソースを、ボーレートジェネレータからの内部クロック、又はSCK端子からの外部クロックから選択可能 • RS485　半二重通信の方向制御機能をサポート
8ビットタイマ（TMR）	• 2チャネルの8ビットタイマを3ユニット • 6種類のクロックを選択可能 - Pck/2、Pck/8、Pck/32、Pck/64、Pck/1024、Pck/2048（Pckは48MHzの周辺クロック） • カスケード接続 - 2つのチャネルを接続し、16ビットタイマとして使用可能 • 複数の割り込み要因
16ビットフリーランニングタイマ（FRT）	• 16ビットのフリーランニングカウンタ • カウンタに入力するクロックを３種類から選択可能
32ビットタイマユニット(TMU)	• 6チャネルオートリロード型32ビットタイマ • チャネル2のみ、インプットキャプチャ機能を搭載 • カウンタに入力するクロックを６種類から選択可能 - 外部クロック、5種類の周辺クロック（Pck/4、Pck/16、Pck/64、Pck/256、Pck/1024）

項目	特 長
ウォッチドックタイマ（WDT）	• マニュアルリセット発生（WDT0/1）用2チャネル、ABR機能（WDT2）用１チャネル • WDT0/1は以下の2モードに対応 - ウォッチドッグタイマモード：カウンタオーバフローにより内部をリセット - インターバルタイマモード：カウンタオーバフローにより割り込みを発生 • 16種類のカウンタ入力クロックを選択可能 - WDT0は16種類のカウンタクロック入力ソースを選択可能 - WDT1は16+8種類のカウンタクロック入力ソースを選択可能 - WDT2は16種類のカウンタクロック入力ソースを選択可能 • 最大計測時間は178秒（48MHz動作時）、又は512秒（32768Hz動作時）
14ビットPWMタイマ（PWMX）	• 8チャネル • 14ビットPWMタイマ • 13種類の分解能を選択可能 （1/2/4/8/12/16/32/64/128/256/1024/4096/16384） • 2種類の基本周期を設定可能：T×64あるいはT×256(T：分解能) • 26種類の動作クロックを選択可能（13種類の分解能と２種類の基本周期設定の組み合わせ）
8ビットPWMタイマ（PWMU）	• ６チャネル • ８ビットPWMタイマ • ４種類の動作クロックを選択可能 • ８ビット、12ビット、16ビット単パルスモード • ８ビットパルス分割モード
ルネサスシリアルペリフェラルインタフェース(RSPI)	• 1チャネルのSPIインタフェース • ２本のチップセレクトをサポート • マスタモード／スレーブモードをサポート • データサイズ、クロック極性／位相を設定可能 • MSBファースト方式／LSBファースト方式が選択可能 • 最大転送レート：24Mbps
シリアルペリフェラルインタフェース0（SPI0）	• シングルレールモード／デュアルレールモードをサポート。 • １Mバイト、２Mバイト、４Mバイト、及び８Mバイトのメモリサイズのみ指定可能（その他のメモリサイズには非対応） • チップセレクト×4 • マスタモードのみサポート • SPIブート機能専用DMACを内蔵 • 5種類の転送クロック選択可能（24MHz、27.4MHz、32MHz、38.4MHz、48MHz） • 転送データ同期をクロックの立上りエッジ／立下りエッジで選択可能 • MSBファースト方式／LSBファースト方式が選択可能 • SPIブート機能サポート（ブート時に2KバイトのコードをILメモリに自動転送）
シリアルペリフェラルインタフェース1（SPI1）	• シングルレールモードをサポート • 2Mバイト、４Mバイト、８Mバイト及び16Mバイトのメモリサイズのみ指定可能（その他のメモリサイズには非対応） • チップセレクト×２ • マスタモードのみサポート • 8種類の転送クロックを選択可能（6MHz、6.9MHz、8MHz、9.6MHz、12MHz、16MHz、24MHz、48MHz） • 転送データ同期をクロックの立上りエッジ／立下りエッジで選択可能 • MSBファースト方式／LSBファースト方式が選択可能
A/D変換器（ADC）	• 16チャネル（8チャネル×2ユニット） • 10ビットの分解能、変換時間は5.5μ秒 • ユニットごとにサンプル＆ホールド回路搭載 • シングルモード／マルチモード／スキャンモード選択可能 • 外部基準電圧を使用
イベントカウンタ（EVC）	• 16チャネル • 外部のイベント入力をカウントする16ビットカウンタ • イベントは、立上りエッジ／立下りエッジを選択可能

項目	特 長
CRC演算器（CRC）	• 8ビット単位の任意のデータ長に対してCRCコードを生成 • ３種類の生成多項式から選択可能 • LSBファースト通信用CRCコード生成／MSBファースト通信用CRCコード生成の選択が可能
暗号機能	• AES128/256 • 3DES • SHA1、SHA256 • シード生成用の32ビットの真の乱数ジェネレータ • ARC4
SDホストインタフェース（SDHI）	• 1チャネル。SD Specification Ver.2.00に対応 • 最大動作周波数：48MHz • カード検出機能
MMCホストインタフェース(eMMC)	• eMMC-v4.3（JESD84-A43）に対応 • 1/4/8ビットバス • 最大動作周波数：48MHz • 送受信データバッファ：512バイト
シリアル汎用I/Oポートインタフェース(SGPIO)	• ３チャネル • 74LV595Aプロトコル及び74LV165Aプロトコルと互換性あり • シフトクロック周波数選択可能（93 KHz～48 MHz） • 転送単位は2ビット～128ビット • 受信データのビット一致割り込みをサポート
I/Oポート（GPIO）	• 入出力ポートはビットごとに入出力切り替え可能 • ノイズキャンセラ内蔵端子×16 • 12mA駆動ポート×8
デバッグインタフェース	• H-UDI (User Debugging Interface) - E10Aエミュレータのサポート - JTAG標準端子の割り当て • AUD (Advanced User Debugger)
低消費電力モード	• 2種類の低消費電力モード - スリープモード - モジュールストップモード（モジュールごとにクロック供給を停止可能）
電源電圧	• 内部コア：1.25V • I/O：3.3V • ADC：3.3V • DBSC3：1.5V • USB：3.3V、1.25V • GETHER：1.5V • PLL：1.25V
パッケージ	• BGA-524 23 x 23 mm、0.8mm ball pitch

1.2 アドレスマップ

図1.1にSH7752のアドレスマップを示します。

注. MD6がLの時、H'0000 0000からH'03FF FFFFのエリアはブートプログラムエリア（$\overline{\text{CS0}}$エリア）として割り当てられます。
MD6がHの時、H'0000 0000からH'03FF FFFFのエリアはILRAM エリアとして割り当てられます。

図 1.1 アドレスマップ

1.3 ブロック図

図1.2にSH7752のブロック図を示します。

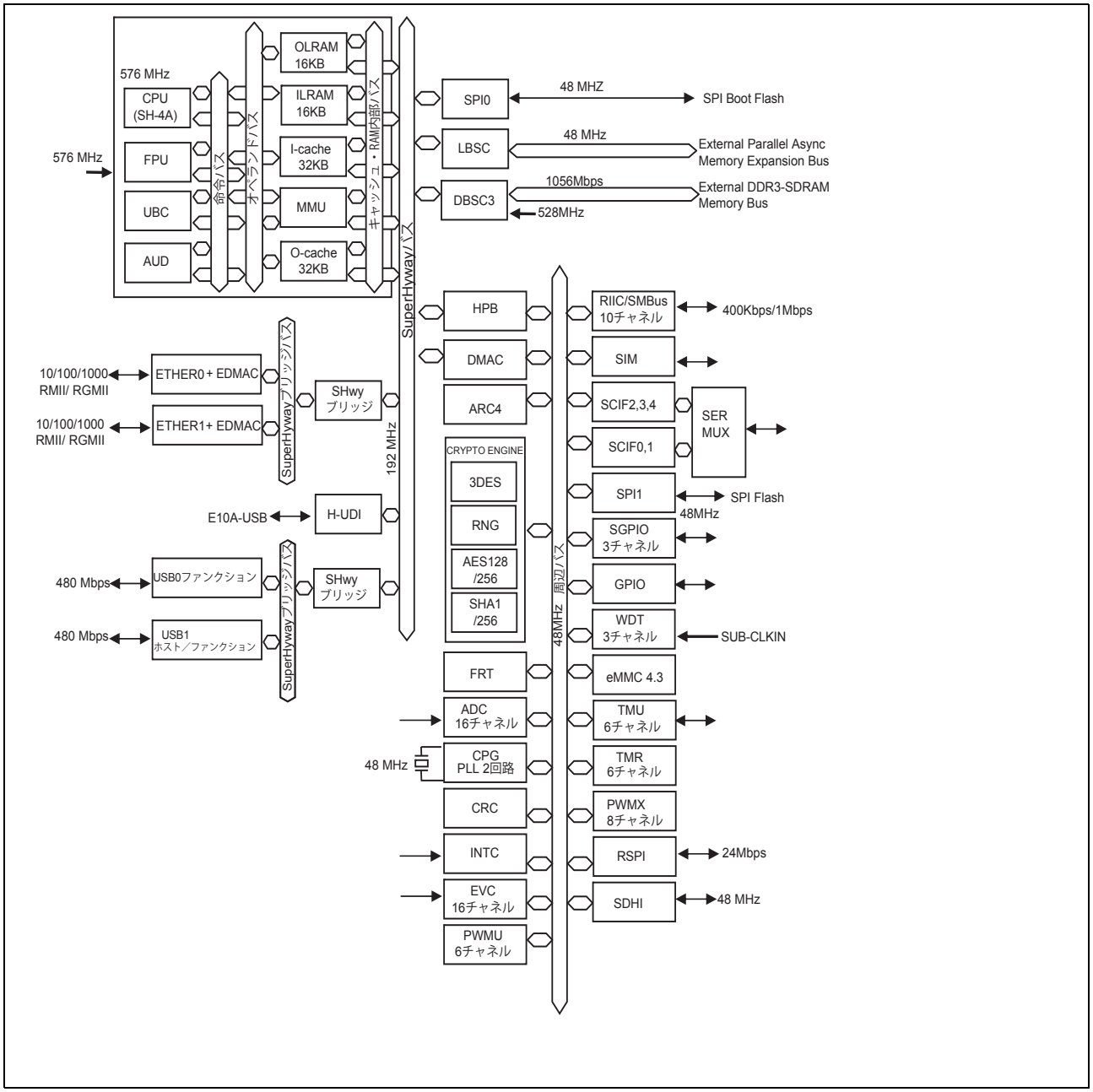
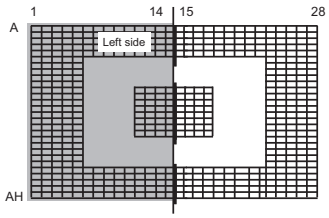


図 1.2 SH7752ブロック図

1.4　ピン配置図

Left side

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
A	VSS	SDA4	SCL7	VCCQ	SDA7	RXD3	BOOTWP	SCL9	SP1-SS1	SP1-SCK_FB	SGPIO2-LOAD	COM2-TXD	COM2-DSR	RAC-RXD
	A1	A2	A3	A4	A5	A6	A7	A8	A9	A10	A11	A12	A13	A14
B	IRQ5	IRQ2	SDA5	RXD4	SCL5	CTS3	TXD3	SDA9	SP0-SS3	SP0-MISO	SP0-SCK_FB	COM2-CTS	COM2-DCD	RAC-CTS
	B1	B2	B3	B4	B5	B6	B7	B8	B9	B10	B11	B12	B13	B14
C	IRQ7	IRQ6	IRQ4	SCL4	SDA6	RTS4	SP1-SCK	SCL8	SP0-SS2	SP1-SS0	SP0-SS1	SGPIO2-DO	COM2-RXD	RAC-DTR
	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	C9	C10	C11	C12	C13	C14
D	SDA3	SDA2	IRQ3	IRQ1	SCL6	TXD4	SP1-MOSI	SDA8	SP1-MISO	SP0-SS0	SP0-SCK	SGPIO2-CLK (注1)	SGPIO2-DI	COM2-DTR
	D1	D2	D3	D4	D5	D6	D7	D8	D9	D10	D11	D12	D13	D14
E	VCCQ	VSS	VSS	IRQ0	VCCQ	VCCQ	RTS3	VDD	BOOTFMS	VSS	VCCQ	SP0-MOSI	VDD	COM2-RTS
	E1	E2	E3	E4	E5	E6	E7	E8	E9	E10	E11	E12	E13	E14
F	PRESET	VCCQ	SCL2	SCL3	VSS									
	F1	F2	F3	F4	F5									
G	RAC-DSR	SCL1	SDA1	SDA0	VDD									
	G1	G2	G3	G4	G5									
H	PWMX6 (注2)	PWMX7	RAC-DCD	SCL0	VSS									
	H1	H2	H3	H4	H5									
J	PWMX0	PWMX2	PWMX4	PWMX5	VCCQ									
	J1	J2	J3	J4	J5									
K	PWMX1	PWMX3	VSS	VSS	ASEBRK									
	K1	K2	K3	K4	K5									
L	VSS	VSS	VSS	VSS	VSS							VDD	VDD	VCCQ	VSS
	L1	L2	L3	L4	L5							L11	L12	L13	L14
M	VSS	VSS	VSS	VSS	VSS							VDD	VDD	VSS	VSS
	M1	M2	M3	M4	M5							M11	M12	M13	M14
N	NC	NC	VSS	VSS	VSS							VCCQ	VSS	VSS	VSS
	N1	N2	N3	N4	N5							N11	N12	N13	N14
P	VSS	VSS	VSS	VSS	VSS							VSS	VSS	VSS	VSS
	P1	P2	P3	P4	P5							P11	P12	P13	P14
R	VSS	VSS	VSS	VSS	VSS							VSS	VSS	VSS	VSS
	R1	R2	R3	R4	R5							R11	R12	R13	R14
T	NC	NC	NC	NC	VSS							VCCQ	VSS	VSS	VSS
	T1	T2	T3	T4	T5							T11	T12	T13	T14
U	A25	NC	NC	NC	VSS							VDD	VDD	VSS	VSS
	U1	U2	U3	U4	U5							U11	U12	U13	U14
V	A24	A23	A22	A21	VSS							VDD	VDD	VCCQ	VSS
	V1	V2	V3	V4	V5							V11	V12	V13	V14
W	A20	A19	A18	A17	VCCQ									
	W1	W2	W3	W4	W5									
Y	A16	A15	A14	A13	VSS									
	Y1	Y2	Y3	Y4	Y5									
AA	VCCQ	A12	A11	A10	VCCQ									
	AA1	AA2	AA3	AA4	AA5									
AB	A9	A8	A7	A6	A5									
	AB1	AB2	AB3	AB4	AB5									
AC	A4	A3	A2	A1	VSS									
	AC1	AC2	AC3	AC4	AC5									
AD	D13	D14	D15	A0	VSS	VCCQ	VSS	VSS	RMII1-RXD0	VCCQ	VDD	VSS	VCCQ-GET	RGMII-VREF
	AD1	AD2	AD3	AD4	AD5	AD6	AD7	AD8	AD9	AD10	AD11	AD12	AD13	AD14
AE	D12	D11	D10	D9	MMCDAT0	MMCDAT2	IRQ15	IRQ14	RMII1-TXD0	RMII1-REFCLK	RMII0-TXD0	RGMII-MAC-CLK	ET1-RD2	ET1-TD2
	AE1	AE2	AE3	AE4	AE5	AE6	AE7	AE8	AE9	AE10	AE11	AE12	AE13	AE14
AF	D8	D7	D6	D5	MMCDAT4 (注2)	MMCDAT6	IRQ10	IRQ9	RMII1-TXEN（注1）	RMII0-RXD0	RMII0-TXEN	ET1-RD0	ET1-RX_CTL	ET1-RXC
	AF1	AF2	AF3	AF4	AF5	AF6	AF7	AF8	AF9	AF10	AF11	AF12	AF13	AF14
AG	D4	D3	D2	MMCDAT1	MMCDAT3	IRQ13	IRQ12	RMII1-CRS_DV	RMII1-TXD1	RMII0-CRS_DV	RMII0-RXD1	RMII0-REFCLK	ET1-TD3	ET1-RD3
	AG1	AG2	AG3	AG4	AG5	AG6	AG7	AG8	AG9	AG10	AG11	AG12	AG13	AG14
AH	VSS	D1	D0	MMCDAT5	MMCDAT7 (注1)	IRQ11	VSS	RMII1-RXD1	RMII1-RX_ER	VCCQ	RMII0-TXD1	RMII0-RX_ER	ET1-TXC	ET1-TD0
	AH1	AH2	AH3	AH4	AH5	AH6	AH7	AH8	AH9	AH10	AH11	AH12	AH13	AH14
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14



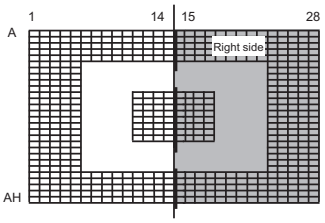
注1. パワーオンリセット中、この端子はLレベルに固定してください。
2. パワーオンリセット中、この端子はHレベルに固定してください。

NC：開放してください。

図 1.3　ピン配置図（1）

Right side

15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	
$\overline{\text{RDY}}$	$\overline{\text{RD}}$	VSS	MPMD	VSS	VCCQ-DDR	M_A4	VSS	M_A11	VCCQ-DDR	M_A1	M_A12	VCCQ-DDR	VSS	A
A15	A16	A17	A18	A19	A20	A21	A22	A23	A24	A25	A26	A27	A28	
$\overline{\text{RDWR}}$	$\overline{\text{CS0}}$	$\overline{\text{TRST}}$	TMS	VSS	M_A7	M_A14	M_A5	M_A9	M_A3	M_A2	VCCQ-DDR	VSS	M_BA2	B
B15	B16	B17	B18	B19	B20	B21	B22	B23	B24	B25	B26	B27	B28	
$\overline{\text{WE1}}$	$\overline{\text{CS4}}$	TDO	TCK	VSS	M_ZQ	M_A6	M_A13	M_BA1	M_BA0	VCCQ-DDR	VSS	$\overline{\text{M_WE}}$	M_A10	C
C15	C16	C17	C18	C19	C20	C21	C22	C23	C24	C25	C26	C27	C28	
RAC-TXD	$\overline{\text{RAC-RTS}}$	$\overline{\text{BS}}$	TDI	VSS	$\overline{\text{M_RESET}}$	M_A8	M_A0	M_A15	VCCQ-DDR	VSS	$\overline{\text{M_RAS}}$	$\overline{\text{M_CAS}}$	VSS	D
D15	D16	D17	D18	D19	D20	D21	D22	D23	D24	D25	D26	D27	D28	
VSS	VCCQ	$\overline{\text{WE0}}$	VDD	VSS	M_VREF_CA	VCCQ-DDR	VSS	VCCQ-DDR	VSS	M_DQ7	M_DQ4	M_DQ6	M_DQ2	E
E15	E16	E17	E18	E19	E20	E21	E22	E23	E24	E25	E26	E27	E28	
									VCCQ-DDR	M_DQS0	$\overline{\text{M_DQS0}}$	M_DM0	VCCQ-DDR	F
									F24	F25	F26	F27	F28	
									VSS	M_DQ3	M_DQ0	M_DQ5	M_DQ1	G
									G24	G25	G26	G27	G28	
									VCCQ-DDR	VSS	VSS	VSS	VSS	H
									H24	H25	H26	H27	H28	
									M_VREF_DQ	M_DQ11	M_DQ15	M_DQ13	M_DQ9	J
									J24	J25	J26	J27	J28	
									VSS	$\overline{\text{M_DQS1}}$	M_DQS1	M_DM1	VCCQ-DDR	K
									K24	K25	K26	K27	K28	
VSS	VCCQ	VDD	VDD						VCCQ-DDR	M_DQ10	M_DQ8	M_DQ12	M_DQ14	L
L15	L16	L17	L18						L24	L25	L26	L27	L28	
VSS	VSS	VDD	VDD						VSS	VSS	VSS	VSS	M_CLK	M
M15	M16	M17	M18						M24	M25	M26	M27	M28	
VSS	VSS	VSS	VDD-PLL4						VCCQ-DDR	M_CKE	$\overline{\text{M_CS}}$	M_ODT	$\overline{\text{M_CLK}}$	N
N15	N16	N17	N18						N24	N25	N26	N27	N28	
VSS	VSS	VSS	VSS						VSS	VSS	VSS	VSS	VSS	P
P15	P16	P17	P18						P24	P25	P26	P27	P28	
VSS	VSS	VSS	VSS						VCCQ	IRQ8	CLKOUT	XTAL	EXTAL	R
R15	R16	R17	R18						R24	R25	R26	R27	R28	
VSS	VSS	VSS	VDD-PLL3						VDD-PLL1	SUB-CLKIN	NMI	VSS	VSS	T
T15	T16	T17	T18						T24	T25	T26	T27	T28	
VSS	VSS	VDD	VDD						VSS	SGPIO1-CLK	$\overline{\text{WDTOVF}}$	$\overline{\text{WP}}$	PTH0	U
U15	U16	U17	U18						U24	U25	U26	U27	U28	
VSS	VCCQ	VDD	VDD						VSS	SGPIO0-CLK	SGPIO1-DO	SGPIO1-DI	VCCQ	V
V15	V16	V17	V18						V24	V25	V26	V27	V28	
									VDD-PLL2	PTQ5	PTQ0	SGPIO0-DO (注)	SGPIO1-LOAD	W
									W24	W25	W26	W27	W28	
									VSS	PTQ4	PTQ3	SGPIO0-DI	SGPIO0-LOAD	Y
									Y24	Y25	Y26	Y27	Y28	
									AVCCQ ADC	PTU1	PTQ6	PTG0	PTG3	AA
									AA24	AA25	AA26	AA27	AA28	
									AVCCQ ADC	ET1-MDC	ET0-MDC	ET0-MDIO	ET1-MDIO	AB
									AB24	AB25	AB26	AB27	AB28	
									VSS	PTQ1	PTG1	PTQ2	PTU2	AC
									AC24	AC25	AC26	AC27	AC28	
VSS	VCCQ-GET	VSS	VCCQ	VDD	VDD-USB	VDD-USB	VSS	VDD-USB	VSS	PTU5	PTU3	PTU0	VCCQ	AD
AD15	AD16	AD17	AD18	AD19	AD20	AD21	AD22	AD23	AD24	AD25	AD26	AD27	AD28	
ET1-TD1	ET0-TD2	ET0-RD0	ET0-RD1	VSS	REFRIN	VSS	VDD-USB	AN0	AN2	AN6	PTU7	PTU4	PTU6	AE
AE15	AE16	AE17	AE18	AE19	AE20	AE21	AE22	AE23	AE24	AE25	AE26	AE27	AE28	
ET0-RD2	ET0-RXC	ET0-TD1	ET0-RX_CTL	VSS	VBUS0	VBUS_OC	VBUS_EN	AN1	AN4	AN10	AN8	AN14	AN12	AF
AF15	AF16	AF17	AF18	AF19	AF20	AF21	AF22	AF23	AF24	AF25	AF26	AF27	AF28	
ET1-RD1	ET1-TX_CTL	ET0-TD3	VCCQ-USB	USDP0	VBUS1	USDP1	VCCQ-USB	VSS	AN3	AN7	AN11	AN13	AVREF1	AG
AG15	AG16	AG17	AG18	AG19	AG20	AG21	AG22	AG23	AG24	AG25	AG26	AG27	AG28	
ET0-RD3	ET0-TXC	ET0-TD0	ET0-TX_CTL	USDM0	VCCQ-USB	USDM1	VCCQ-USB	NC	AN5	AN9	AVREF0	AN15	VSS	AH
AH15	AH16	AH17	AH18	AH19	AH20	AH21	AH22	AH23	AH24	AH25	AH26	AH27	AH28	
15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	



注．パワーオンリセット中、この端子はLレベルに固定してください。
NC：開放してください。

図 1.4　ピン配置図（2）

表1.2 ピン配置表

端子番号	端子名	機能
M28	M_CLK	DDR3クロック
N28	$\overline{\text{M_CLK}}$	DDR3クロック
N25	M_CKE	DDR3クロックイネーブル
N26	$\overline{\text{M_CS}}$	DDR3チップセレクト
C27	$\overline{\text{M_WE}}$	DDR3ライトイネーブル
D23	M_A15	DDR3アドレスバス
B21	M_A14	DDR3アドレスバス
C22	M_A13	DDR3アドレスバス
A26	M_A12	DDR3アドレスバス
A23	M_A11	DDR3アドレスバス
C28	M_A10	DDR3アドレスバス
B23	M_A9	DDR3アドレスバス
D21	M_A8	DDR3アドレスバス
B20	M_A7	DDR3アドレスバス
C21	M_A6	DDR3アドレスバス
B22	M_A5	DDR3アドレスバス
A21	M_A4	DDR3アドレスバス
B24	M_A3	DDR3アドレスバス
B25	M_A2	DDR3アドレスバス
A25	M_A1	DDR3アドレスバス
D22	M_A0	DDR3アドレスバス
B28	M_BA2	DDR3バンクアクティブ
C23	M_BA1	DDR3バンクアクティブ
C24	M_BA0	DDR3バンクアクティブ
J26	M_DQ15	DDR3データバス
L28	M_DQ14	DDR3データバス
J27	M_DQ13	DDR3データバス
L27	M_DQ12	DDR3データバス
J25	M_DQ11	DDR3データバス
L25	M_DQ10	DDR3データバス
J28	M_DQ9	DDR3データバス
L26	M_DQ8	DDR3データバス
E25	M_DQ7	DDR3データバス
E27	M_DQ6	DDR3データバス
G27	M_DQ5	DDR3データバス
E26	M_DQ4	DDR3データバス

端子番号	端子名	機能
G25	M_DQ3	DDR3データバス
E28	M_DQ2	DDR3データバス
G28	M_DQ1	DDR3データバス
G26	M_DQ0	DDR3データバス
K26	M_DQS1	DDR3データストローブ
K25	$\overline{\text{M_DQS1}}$	DDR3データストローブ
F25	M_DQS0	DDR3データストローブ
F26	$\overline{\text{M_DQS0}}$	DDR3データストローブ
K27	M_DM1	DDR3データマスク
F27	M_DM0	DDR3データマスク
D26	$\overline{\text{M_RAS}}$	DDR3ロウアドレスストローブ
D27	$\overline{\text{M_CAS}}$	DDR3カラムアドレスストローブ
J24	M_VREF_DQ	DDR3基準電圧入力
N27	M_ODT	DDR3ODTイネーブル
D20	$\overline{\text{M_RESET}}$	DDR3リセット
C20	M_ZQ	DDR3インピーダンスマッチング
E20	M_VREF_CA	DDR3TEST用基準電圧入力
AH5	PTZ7/MMCDAT7	ポート／MMCデータバス 注．パワーオンリセット中、この端子はLレベルに固定してください。
AF6	PTZ6/MMCDAT6/WPSZ1	ポート／MMCデータバス／SPI1ライトプロテクトサイズ選択
AH4	PTZ5/MMCDAT5/WPSZ0	ポート／MMCデータバス／SPI1ライトプロテクトサイズ選択
AF5	PTZ4/MMCDAT4	ポート／MMCデータバス 注．パワーオンリセット中、この端子はHレベルに固定してください。
AG5	PTZ3/MMCDAT3/MD6	ポート／MMCデータバス／モード設定
AE6	PTZ2/MMCDAT2/MD9	ポート／MMCデータバス／モード設定
AG4	PTZ1/MMCDAT1/FLSHSZ1	ポート／MMCデータバス／SPI1フラッシュサイズ選択
AE5	PTZ0/MMCDAT0/FLSHSZ0	ポート／MMCデータバス／SPI1フラッシュサイズ選択
E12	SP0-MOSI	SPIマスタ出力／入力
B10	PTD6/SP0-MISO	ポート／SPIマスター入力
D11	SP0-SCK	SPIクロック
B11	PTD4/SP0-SCK_FB	ポート／SPIクロックフィードバック
D10	$\overline{\text{SP0-SS0}}$	SPIチップセレクト
C11	PTD2/$\overline{\text{SP0-SS1}}$/$\overline{\text{DREQ0}}$	ポート／SPIチップセレクト／DMA転送要求
C9	PTD1/$\overline{\text{SP0-SS2}}$/$\overline{\text{DACK0}}$	ポート／SPIチップセレクト／DMA転送要求アクノリッジ
B9	PTD0/$\overline{\text{SP0-SS3}}$/$\overline{\text{TEND0}}$	ポート／SPIチップセレクト／DMA転送終了出力
D7	SP1-MOSI/$\overline{\text{TEND1}}$/MD5	SPIマスタ出力／DMA転送終了出力／モード設定

端子番号	端子名	機能
D9	PTH6/SP1-MISO/$\overline{\text{DREQ1}}$	ポート／SPIマスタ入力／DMA転送要求
C7	SP1-SCK/$\overline{\text{DACK1}}$	SPIクロック／DMA転送要求アクノリッジ
A10	PTH4/SP1-SCK_FB/$\overline{\text{ADTRG1}}$	ポート／SPIクロックフィードバック／A／D外部トリガ入力
C10	$\overline{\text{SP1-SS0}}$	SPIチップセレクト
A9	PTH2/$\overline{\text{SP1-SS1}}$/$\overline{\text{ADTRG0}}$	ポート／SPIチップセレクト／A／D外部トリガ入力
U27	$\overline{\text{WP}}$	SPI1ライトプロテクト有効
U28	PTH0	ポート
W25	PTQ5	ポート
W26	PTQ0	ポート
Y25	PTQ4	ポート
Y26	PTQ3	ポート
AA25	PTU1	ポート
AA26	PTQ6	ポート
AA27	PTG0	ポート
AA28	PTG3	ポート
AC25	PTQ1	ポート
AC26	PTG1	ポート
AC27	PTQ2	ポート
AC28	PTU2	ポート
AD25	PTU5	ポート
AD26	PTU3	ポート
AD27	PTU0	ポート
AE26	PTU7	ポート
AE27	PTU4	ポート
AE28	PTU6	ポート
E9	PTG7/BOOTFMS	ポート／SPIブートフラッシュメモリエリアを選択
A7	$\overline{\text{BOOTWP}}$	SPIブートフラッシュライトプロテクト有効
AF18	ET0-RX_CTL	ETHER RGMII受信制御
AF13	ET1-RX_CTL	ETHER RGMII受信制御
AF17	ET0-TD1	ETHER RGMII送信データ
AH17	ET0-TD0	ETHER RGMII送信データ
AE15	ET1-TD1	ETHER RGMII送信データ
AH14	ET1-TD0	ETHER RGMII送信データ
AH18	ET0-TX_CTL	ETHER RGMII送信制御
AG16	ET1-TX_CTL	ETHER RGMII送信制御
AF16	ET0-RXC	ETHER RGMII受信クロック
AF14	ET1-RXC	ETHER RGMII受信クロック
AE18	ET0-RD1	ETHER RGMII受信データ

端子番号	端子名	機能
AE17	ET0-RD0	ETHER RGMII受信データ
AG15	ET1-RD1	ETHER RGMII受信データ
AF12	ET1-RD0	ETHER RGMII受信データ
AH16	ET0-TXC	ETHER RGMII送信クロック
AH13	ET1-TXC	ETHER RGMII送信クロック
AF15	ET0-RD2	ETHER RGMII受信データ
AH15	ET0-RD3	ETHER RGMII受信データ
AE16	ET0-TD2	ETHER RGMII送信データ
AG17	ET0-TD3	ETHER RGMII送信データ
AE13	ET1-RD2	ETHER RGMII受信データ
AG14	ET1-RD3	ETHER RGMII受信データ
AE14	ET1-TD2	ETHER RGMII送信データ
AG13	ET1-TD3	ETHER RGMII送信データ
AB26	PTA3/ET0-MDC	ポート／ETHERマネージメントクロック
AB27	PTA2/ET0-MDIO	ポート／ETHERマネージメントクロック
AB25	PTA1/ET1-MDC	ポート／ETHERマネージメントクロック
AB28	PTA0/ET1-MDIO	ポート／ETHERマネージメントクロック
AE12	RGMII-MAC-CLK	ETHER RGMIIリファレンスクロック
AG10	PTE7/RMII0-CRS_DV	ポート／ETHER RMIIキャリア検出／受信データ有効
AF10	PTE1/RMII0-RXD0	ポート／ETHER RMII受信データ
AG11	PTE2/RMII0-RXD1	ポート／ETHER RMII受信データ
AE11	PTE5/RMII0-TXD0/ BOOTWPSZ0	ポート／ETHER RMII送信データ／ SPIブートフラッシュライトプロテクトエリアのデバイスサイズを選択
AH11	PTE6/RMII0-TXD1/ BOOTWPSZ1	ポート／ETHER RMII送信データ／ SPIブートフラッシュライトプロテクトエリアのデバイスサイズを選択
AH12	PTE0/RMII0-RX_ER	ポート／ETHER RMII受信エラー
AF11	PTE4/RMII0-TXEN/MD3	ポート／ETHER RMII送信イネーブル／モード設定
AG12	PTE3/RMII0-REFCLK	ポート／ETHER RMII送受信クロック
AE10	PTF3/RMII1-REFCLK	ポート／ETHER RMII送受信クロック
AG8	PTF7/RMII1-CRS_DV	ポート／ETHER RMIIキャリア検出／受信データ有効
AH9	PTF0/RMII1-RX_ER	ポート／ETHER RMII受信エラー
AD9	PTF1/RMII1-RXD0	ポート／ETHER RMII受信データ
AH8	PTF2/RMII1-RXD1/ RAC-RI/$\overline{\text{RI0}}$	ポート／ETHER RMII受信データ／RACポート／ SCIFリングインジケータ
AF9	PTF4/RMII1-TXEN	ポート／ETHER RMII送信イネーブル 注．パワーオンリセット中、この端子はLレベルに固定してください。

端子番号	端子名	機能
AE9	PTF5/RMII1-TXD0/ WDTFOT1	ポート／ETHER RMII送信データ／ ウォッチドッグタイマABR遅延時間選択
AG9	PTF6/RMII1-TXD1/ WDTFOT0	ポート／ETHER RMII送信データ／ ウォッチドッグタイマABR遅延時間選択
H4	PTR0/SCL0	ポート／RIICシリアルクロック
G4	PTR1/SDA0	ポート／RIICシリアルデータ
G2	PTR2/SCL1	ポート／RIICシリアルクロック
G3	PTR3/SDA1	ポート／RIICシリアルデータ
F3	PTR4/SCL2	ポート／RIICシリアルクロック
D2	PTR5/SDA2	ポート／RIICシリアルデータ
F4	PTS0/SCL3	ポート／RIICシリアルクロック
D1	PTS1/SDA3	ポート／RIICシリアルデータ
A2	PTS3/SDA4	ポート／RIICシリアルデータ
C4	PTS2/SCL4	ポート／RIICシリアルクロック
B5	PTS4/SCL5	ポート／RIICシリアルクロック
B3	PTS5/SDA5	ポート／RIICシリアルデータ
C5	PTM3/SDA6	ポート／RIICシリアルデータ
D5	PTM2/SCL6	ポート／RIICシリアルクロック
A5	PTM1/SDA7	ポート／RIICシリアルデータ
A3	PTM0/SCL7	ポート／RIICシリアルクロック
AG19	USDP0	USB D+ データ
AH19	USDM0	USB D- データ
AF20	VBUS0	USB Vbus入力
AE20	REFRIN	USBリファレンス入力
AG21	USDP1	USB D+ データ
AH21	USDM1	USB D- データ
AG20	VBUS1	USB Vbus入力
AF22	PTN6/VBUS_EN	ポート／USB V-busパワーイネーブル
AF21	PTN5/VBUS_OC	ポート／USB Vbusパワーイネーブル
D8	PTR7/SDA8	ポート／RIICシリアルデータ
C8	PTR6/SCL8	ポート／RIICシリアルクロック
B8	PTS7/SDA9	ポート／RIICシリアルデータ
A8	PTS6/SCL9	ポート／RIICシリアルクロック
AE23	AN0	アナログ入力
AF23	AN1	アナログ入力
AE24	AN2	アナログ入力
AG24	AN3	アナログ入力
AF24	AN4	アナログ入力

端子番号	端子名	機能
AH24	AN5	アナログ入力
AE25	AN6	アナログ入力
AG25	AN7	アナログ入力
AH26	AVREF0	基準電圧入力
AG28	AVREF1	基準電圧入力
U1	PTG5/A25/MMCCLK	ポート／アドレスバス／MMCクロック
V1	PTG4/A24/MMCCMD	ポート／アドレスバス／MMCコマンド
V2	PTV7/A23/$\overline{\text{COM2-RI}}$/$\overline{\text{RI1}}$	ポート／アドレスバス／COM2ポート／SCIFリングインジケータ
V3	PTV6/A22/RSPI-MOSI	ポート／アドレスバス／RSPIマスタ送信データ
V4	PTV5/A21/RSPI-MISO	ポート／アドレスバス／RSPIスレーブ送信データ
W1	PTV4/A20/RSPI-RSPCK	ポート／アドレスバス／RSPIクロック入出力
W2	PTV3/A19/$\overline{\text{RSPI-SSL0}}$	ポート／アドレスバス／RSPIスレーブセレクト
W3	PTV2/A18/$\overline{\text{RSPI-SSL1}}$	ポート／アドレスバス／RSPIスレーブセレクト
W4	PTV1/A17/EVENT7	ポート／アドレスバス／イベント入力
Y1	PTV0/A16/EVENT6	ポート／アドレスバス／イベント入力
Y2	PTW7/A15/EVENT5	ポート／アドレスバス／イベント入力
Y3	PTW6/A14/EVENT4	ポート／アドレスバス／イベント入力
Y4	PTW5/A13/EVENT3	ポート／アドレスバス／イベント入力
AA2	PTW4/A12/EVENT2	ポート／アドレスバス／イベント入力
AA3	PTW3/A11/EVENT1	ポート／アドレスバス／イベント入力
AA4	PTW2/A10/EVENT0	ポート／アドレスバス／イベント入力
AB1	PTW1/A9/$\overline{\text{CTS4}}$	ポート／アドレスバス／SCIF送信許可
AB2	PTW0/A8/$\overline{\text{CTS2}}$	ポート／アドレスバス／SCIF送信許可
AB3	PTX7/A7/$\overline{\text{RTS2}}$	ポート／アドレスバス／SCIF送信要求
AB4	PTX6/A6/SIM_D	ポート／アドレスバス／SIM送受信データ
AB5	PTX5/A5/SIM_CLK	ポート／アドレスバス／SIMクロック
AC1	PTX4/A4/SIM_RST	ポート／アドレスバス／SIMリセット
AC2	PTX3/A3	ポート／アドレスバス
AC3	PTX2/A2	ポート／アドレスバス
AC4	PTX1/A1	ポート／アドレスバス
AD4	PTX0/A0	ポート／アドレスバス
AD3	PTI7/D15/SDWP	ポート／データバス／SDHIライトプロテクト
AD2	PTI6/D14/SDCD	ポート／データバス／SDHIカード検出
AD1	PTI5/D13/SDCLK	ポート／データバス／SDHIクロック
AE1	PTI4/D12/SDCMD	ポート／データバス／SDHIコマンド
AE2	PTI3/D11/SDDAT3	ポート／データバス／SDHIデータバス
AE3	PTI2/D10/SDDAT2	ポート／データバス／SDHIデータバス
AE4	PTI1/D9/SDDAT1	ポート／データバス／SDHIデータバス

端子番号	端子名	機能
AF1	PTI0/D8/SDDAT0	ポート／データバス／SDHIデータバス
AF2	PTY7/D7	ポート／データバス
AF3	PTY6/D6	ポート／データバス
AF4	PTY5/D5	ポート／データバス
AG1	PTY4/D4	ポート／データバス
AG2	PTY3/D3	ポート／データバス
AG3	PTY2/D2	ポート／データバス
AH2	PTY1/D1	ポート／データバス
AH3	PTY0/D0	ポート／データバス
C15	PTA5/$\overline{\text{WE1}}$	ポート／ライトイネーブル
A15	PTA4/$\overline{\text{RDY}}$	ポート／レディ
D17	PTA7/$\overline{\text{BS}}$	ポート／バススタート
B15	PTA6/$\overline{\text{RDWR}}$	ポート／ライト
C16	PTM7/$\overline{\text{CS4}}$	ポート／チップセレクト
A16	PTM6/$\overline{\text{RD}}$	ポート／リード
E17	PTM5/$\overline{\text{WE0}}$	ポート／ライトイネーブル
B16	PTM4/$\overline{\text{CS0}}$	ポート／チップセレクト
T26	NMI	ノンマスカブル割り込み
AE7	PTB7/IRQ15	ポート／インタラプトリクエスト
AE8	PTB6/IRQ14	ポート／インタラプトリクエスト
AG6	PTB5/IRQ13	ポート／インタラプトリクエスト
AG7	PTB4/IRQ12	ポート／インタラプトリクエスト
AH6	PTB3/IRQ11	ポート／インタラプトリクエスト
AF7	PTB2/IRQ10	ポート／インタラプトリクエスト
AF8	PTB1/IRQ9	ポート／インタラプトリクエスト
R25	PTB0/IRQ8/TCLK	ポート／インタラプトリクエスト／タイマクロック
C1	PTC7/IRQ7/$\overline{\text{IRL7}}$/PWMU0	ポート／インタラプトリクエスト／PWMUパルス出力
C2	PTC6/IRQ6/$\overline{\text{IRL6}}$/PWMU1	ポート／インタラプトリクエスト／PWMUパルス出力
B1	PTC5/IRQ5/$\overline{\text{IRL5}}$/PWMU2	ポート／インタラプトリクエスト／PWMUパルス出力
C3	PTC4/IRQ4/$\overline{\text{IRL4}}$/PWMU3	ポート／インタラプトリクエスト／PWMUパルス出力
D3	PTC3/IRQ3/$\overline{\text{IRL3}}$/PWMU4	ポート／インタラプトリクエスト／PWMUパルス出力
B2	PTC2/IRQ2/$\overline{\text{IRL2}}$/PWMU5	ポート／インタラプトリクエスト／PWMUパルス出力
D4	PTC1/IRQ1/$\overline{\text{IRL1}}$	ポート／インタラプトリクエスト
E4	PTC0/IRQ0/$\overline{\text{IRL0}}$	ポート／インタラプトリクエスト
AF26	PTP0/EVENT8/AN8	ポート／イベント入力／アナログ入力
AH25	PTP1/EVENT9/AN9	ポート／イベント入力／アナログ入力
AF25	PTP2/EVENT10/AN10	ポート／イベント入力／アナログ入力
AG26	PTP3/EVENT11/AN11	ポート／イベント入力／アナログ入力
AF28	PTP4/EVENT12/AN12	ポート／イベント入力／アナログ入力

端子番号	端子名	機能
AG27	PTP5/EVENT13/AN13	ポート／イベント入力／アナログ入力
AF27	PTP6/EVENT14/AN14	ポート／イベント入力／アナログ入力
AH27	PTP7/EVENT15/AN15	ポート／イベント入力／アナログ入力
J1	PTT0/PWMX0	ポート／PWMXパルス出力
K1	PTT1/PWMX1	ポート／PWMXパルス出力
J2	PTT2/PWMX2/STATUS0	ポート／PWMXパルス出力／ステータス出力
K2	PTT3/PWMX3/STATUS1	ポート／PWMXパルス出力／ステータス出力
H2	PTT7/PWMX7/AUDATA3/MD2	ポート／PWMXパルス出力／エミュレータ／モード設定
H1	PTT6/PWMX6/AUDATA2	ポート／PWMXパルス出力／エミュレータ 注．パワーオンリセット中、この端子はHレベルに固定してください。
J4	PTT5/PWMX5/AUDATA1	ポート／PWMXパルス出力／エミュレータ
J3	PTT4/PWMX4/AUDATA0	ポート／PWMXパルス出力／エミュレータ
V25	PTO7/SGPIO0-CLK/MD10	ポート／SGPIOクロック／モード設定
Y28	PTO6/SGPIO0-LOAD/MD8	ポート／SGPIOロード／モード設定
Y27	PTO5/SGPIO0-DI	ポート／SGPIOデータ入力
W27	PTO4/SGPIO0-DO	ポート／SGPIOデータ出力 注．パワーオンリセット中、この端子はLレベルに固定してください。
D12	PTO3/SGPIO2-CLK/COM1-TXD	ポート／SGPIOクロック／COM1ポート 注．パワーオンリセット中、この端子はLレベルに固定してください。
A11	PTO2/SGPIO2-LOAD/ COM1-RXD/MD1	ポート／SGPIOロード／COM1ポート／モード設定
D13	PTO1/SGPIO2-DI/$\overline{\text{COM1-RTS}}$	ポート／SGPIOデータ入力／COM1ポート
C12	PTO0/SGPIO2-DO/$\overline{\text{COM1-CTS}}$/ MD0	ポート／SGPIOデータ出力／COM1ポート／モード設定
A12	PTK7/COM2-TXD/TXD1/SCK2	ポート／COM2ポート／SCIF送信データ／SCIFシリアルクロック
C13	PTK6/COM2-RXD/RXD1	ポート／COM2ポート／SCIF受信データ
E14	PTK5/$\overline{\text{COM2-RTS}}$/$\overline{\text{RTS1}}$	ポート／COM2ポート／SCIF送信要求
B12	PTK4/$\overline{\text{COM2-CTS}}$/$\overline{\text{CTS1}}$	ポート／COM2ポート／SCIF送信許可
D14	PTK3/$\overline{\text{COM2-DTR}}$/$\overline{\text{DTR1}}$	ポート／COM2ポート／SCIFデータターミナルレディ
A13	PTK2/$\overline{\text{COM2-DSR}}$/$\overline{\text{DSR1}}$/SCK4	ポート／COM2ポート／SCIFデータセットレディ／ SCIFシリアルクロック
B13	PTK1/$\overline{\text{COM2-DCD}}$/$\overline{\text{DCD1}}$/SCK3	ポート／COM2ポート／SCIFデータキャリア検出／ SCIFシリアルクロック
E7	PTJ6/$\overline{\text{RTS3}}$	ポート／SCIF送信要求
B6	PTJ5/$\overline{\text{CTS3}}$	ポート／SCIF送信許可
B7	PTJ4/TXD3	ポート／SCIF送信データ
A6	PTJ3/RXD3	ポート／SCIF受信データ

端子番号	端子名	機能
C6	PTJ2/$\overline{\text{RTS4}}$	ポート／SCIF送信要求
B4	PTJ1/RXD4	ポート／SCIF受信データ
D6	PTJ0/TXD4	ポート／SCIF送信データ
D15	PTL0/RAC-TXD/TXD0/TXD2	ポート／RACポート／SCIF送信データ／SCIF送信データ
A14	PTL6/RAC-RXD/RXD0/RXD2	ポート／RACポート／SCIF受信データ／SCIF受信データ
D16	PTL5/$\overline{\text{RAC-RTS}}$/$\overline{\text{RTS0}}$/$\overline{\text{CS5}}$	ポート／RACポート／SCIF送信要求／チップセレクト
B14	PTL4/$\overline{\text{RAC-CTS}}$/$\overline{\text{CTS0}}$/$\overline{\text{CS6}}$	ポート／RACポート／SCIF送信許可／チップセレクト
C14	PTL3/$\overline{\text{RAC-DTR}}$/$\overline{\text{DTR0}}$	ポート／RACポート／SCIFデータターミナルレディ
G1	PTL2/$\overline{\text{RAC-DSR}}$/$\overline{\text{DSR0}}$/ AUDSYNC	ポート／RACポート／SCIFデータセットレディ／エミュレータ
H3	PTL1/$\overline{\text{RAC-DCD}}$/$\overline{\text{DCD0}}$/AUDCK	ポート／RACポート／SCIFデータキャリア検出／エミュレータ
R27	XTAL	水晶発振子
R28	EXTAL	水晶発振子／外部クロック
F1	$\overline{\text{PRESET}}$	パワーオンリセット
U26	PTG2/$\overline{\text{WDTOVF}}$	ポート／ウオッチドッグタイマオーバフロー
C18	TCK	テストクロック
B18	TMS	テストモードセレクト
B17	$\overline{\text{TRST}}$	テストリセット
D18	TDI	テストデータ入力
C17	TDO	テストデータ出力
U25	PTN4/SGPIO1-CLK/SPI0VER	ポート／SGPIOクロック／SPI0モジュール選択
W28	PTN3/SGPIO1-LOAD/BOOTSZ0	ポート／SGPIOロード／SPIブートフラッシュメモリのデバイスサイズを選択
V26	PTN2/SGPIO1-DO/BOOTSZ1	ポート／SGPIOデータ出力／SPIブートフラッシュメモリのデバイスサイズを選択
V27	PTN1/SGPIO1-DI	ポート／SGPIOデータ入力
T25	PTN0/SUB-CLKIN	ポート／32-kHzクロック入力端子
A18	MPMD	チップモード指定
R26	PTK0/CLKOUT	ポート／システムクロック出力
K5	$\overline{\text{ASEBRK}}$/BRKACK	ブレークモードアクノリッジ
AD14	RGMII-VREF	RGMII基準電圧入力
E8	VDD	内部コア用1.25V電源
E13	VDD	内部コア用1.25V電源
E18	VDD	内部コア用1.25V電源
G5	VDD	内部コア用1.25V電源
L11	VDD	内部コア用1.25V電源
L12	VDD	内部コア用1.25V電源
L17	VDD	内部コア用1.25V電源
L18	VDD	内部コア用1.25V電源

端子番号	端子名	機能
M11	VDD	内部コア用1.25V電源
M12	VDD	内部コア用1.25V電源
M17	VDD	内部コア用1.25V電源
M18	VDD	内部コア用1.25V電源
U11	VDD	内部コア用1.25V電源
U12	VDD	内部コア用1.25V電源
U17	VDD	内部コア用1.25V電源
U18	VDD	内部コア用1.25V電源
V11	VDD	内部コア用1.25V電源
V12	VDD	内部コア用1.25V電源
V17	VDD	内部コア用1.25V電源
V18	VDD	内部コア用1.25V電源
AD11	VDD	内部コア用1.25V電源
AD19	VDD	内部コア用1.25V電源
A4	VCCQ	I／O用3.3V電源
E1	VCCQ	I／O用3.3V電源
E5	VCCQ	I／O用3.3V電源
E6	VCCQ	I／O用3.3V電源
E11	VCCQ	I／O用3.3V電源
E16	VCCQ	I／O用3.3V電源
F2	VCCQ	I／O用3.3V電源
J5	VCCQ	I／O用3.3V電源
L13	VCCQ	I／O用3.3V電源
L16	VCCQ	I／O用3.3V電源
N11	VCCQ	I／O用3.3V電源
R24	VCCQ	I／O用3.3V電源
T11	VCCQ	I／O用3.3V電源
V13	VCCQ	I／O用3.3V電源
V16	VCCQ	I／O用3.3V電源
V28	VCCQ	I／O用3.3V電源
W5	VCCQ	I／O用3.3V電源
AA1	VCCQ	I／O用3.3V電源
AA5	VCCQ	I／O用3.3V電源
AD6	VCCQ	I／O用3.3V電源
AD10	VCCQ	I／O用3.3V電源
AD18	VCCQ	I／O用3.3V電源
AD28	VCCQ	I／O用3.3V電源

端子番号	端子名	機能
AH10	VCCQ	I／O用3.3V電源
AA24	AVCCQADC	ADC用3.3Vアナログ電源
AB24	AVCCQADC	ADC用3.3Vアナログ電源
A20	VCCQ-DDR	DDR3 I／O用1.5V電源
A24	VCCQ-DDR	DDR3 I／O用1.5V電源
A27	VCCQ-DDR	DDR3 I／O用1.5V電源
B26	VCCQ-DDR	DDR3 I／O用1.5V電源
C25	VCCQ-DDR	DDR3 I／O用1.5V電源
D24	VCCQ-DDR	DDR3 I／O用1.5V電源
E21	VCCQ-DDR	DDR3 I／O用1.5V電源
E23	VCCQ-DDR	DDR3 I／O用1.5V電源
F24	VCCQ-DDR	DDR3 I／O用1.5V電源
F28	VCCQ-DDR	DDR3 I／O用1.5V電源
H24	VCCQ-DDR	DDR3 I／O用1.5V電源
K28	VCCQ-DDR	DDR3 I／O用1.5V電源
L24	VCCQ-DDR	DDR3 I／O用1.5V電源
N24	VCCQ-DDR	DDR3 I／O用1.5V電源
AG18	VCCQ-USB	USB用3.3V電源
AG22	VCCQ-USB	USB用3.3V電源
AH20	VCCQ-USB	USB用3.3V電源
AH22	VCCQ-USB	USB用3.3V電源
AD13	VCCQ-GET	GETHER用1.5V電源
AD16	VCCQ-GET	GETHER用1.5V電源
AD20	VDD-USB	USB用1.25V電源
AD21	VDD-USB	USB用1.25V電源
AD23	VDD-USB	USB用1.25V電源
AE22	VDD-USB	USB用1.25V電源
T24	VDD-PLL1	PLL1用1.25V電源
W24	VDD-PLL2	PLL2用1.25V電源
T18	VDD-PLL3	PLL3用1.25V電源
N18	VDD-PLL4	PLL4用1.25V電源
A1	VSS	グランド
A17	VSS	グランド
A19	VSS	グランド
A22	VSS	グランド
A28	VSS	グランド
B19	VSS	グランド

端子番号	端子名	機能
B27	VSS	グランド
C19	VSS	グランド
C26	VSS	グランド
D19	VSS	グランド
D25	VSS	グランド
D28	VSS	グランド
E2	VSS	グランド
E3	VSS	グランド
E10	VSS	グランド
E15	VSS	グランド
E19	VSS	グランド
E22	VSS	グランド
E24	VSS	グランド
F5	VSS	グランド
G24	VSS	グランド
H5	VSS	グランド
H25	VSS	グランド
H26	VSS	グランド
H27	VSS	グランド
H28	VSS	グランド
K3	VSS	グランド
K4	VSS	グランド
K24	VSS	グランド
L1	VSS	グランド
L2	VSS	グランド
L3	VSS	グランド
L4	VSS	グランド
L5	VSS	グランド
L14	VSS	グランド
L15	VSS	グランド
M1	VSS	グランド
M2	VSS	グランド
M3	VSS	グランド
M4	VSS	グランド
M5	VSS	グランド
M13	VSS	グランド
M14	VSS	グランド
M15	VSS	グランド
M16	VSS	グランド
M24	VSS	グランド

端子番号	端子名	機能
M25	VSS	グランド
M26	VSS	グランド
M27	VSS	グランド
N3	VSS	グランド
N4	VSS	グランド
N5	VSS	グランド
N12	VSS	グランド
N13	VSS	グランド
N14	VSS	グランド
N15	VSS	グランド
N16	VSS	グランド
N17	VSS	グランド
P1	VSS	グランド
P2	VSS	グランド
P3	VSS	グランド
P4	VSS	グランド
P5	VSS	グランド
P11	VSS	グランド
P12	VSS	グランド
P13	VSS	グランド
P14	VSS	グランド
P15	VSS	グランド
P16	VSS	グランド
P17	VSS	グランド
P18	VSS	グランド
P24	VSS	グランド
P25	VSS	グランド
P26	VSS	グランド
P27	VSS	グランド
P28	VSS	グランド
R1	VSS	グランド
R2	VSS	グランド
R3	VSS	グランド
R4	VSS	グランド
R5	VSS	グランド
R11	VSS	グランド
R12	VSS	グランド
R13	VSS	グランド
R14	VSS	グランド
R15	VSS	グランド

端子番号	端子名	機能
R16	VSS	グランド
R17	VSS	グランド
R18	VSS	グランド
T5	VSS	グランド
T12	VSS	グランド
T13	VSS	グランド
T14	VSS	グランド
T15	VSS	グランド
T16	VSS	グランド
T17	VSS	グランド
T27	VSS	グランド
T28	VSS	グランド
U5	VSS	グランド
U13	VSS	グランド
U14	VSS	グランド
U15	VSS	グランド
U16	VSS	グランド
U24	VSS	グランド
V5	VSS	グランド
V14	VSS	グランド
V15	VSS	グランド
V24	VSS	グランド
Y5	VSS	グランド
Y24	VSS	グランド
AC5	VSS	グランド
AC24	VSS	グランド
AD5	VSS	グランド
AD7	VSS	グランド
AD8	VSS	グランド
AD12	VSS	グランド
AD15	VSS	グランド
AD17	VSS	グランド
AD22	VSS	グランド
AD24	VSS	グランド
AE19	VSS	グランド
AE21	VSS	グランド
AF19	VSS	グランド
AH1	VSS	グランド
AH7	VSS	グランド
AH28	VSS	グランド

端子番号	端子名	機能
AG23	VSS	グランド
N1	NC	開放
N2	NC	開放
U4	NC	開放
T1	NC	開放
T2	NC	開放
T3	NC	開放
T4	NC	開放
U2	NC	開放
U3	NC	開放
AH23	NC	開放

1.5 端子機能

SH7752の各端子の機能を表1.3に示します。

表1.3 端子機能

分類	端子名	入出力	機能	説明
電源	VDD	入力	内部電源用電源	内部コア電源用の電源端子（1.25V）。すべてのVDD端子をシステムの電源に接続してください。開放すると動作しません。
	VSS	入力	グランド	グランド端子。すべてのVSS端子をシステム電源（0V）に接続してください。開放すると動作しません。
	VCCQ	入力	入出力回路用電源	入出力端子用（IO）の電源端子（3.3V）。すべてのVCCQ端子をシステムの電源に接続してください。開放端子があると動作しません。
	AVCCQADC	入力	ADC用電源	ADC用の電源端子（3.3V）。開放すると動作しません。
	VDD-PLL1	入力	PLL1用電源	内蔵PLL1発振器用の電源端子（1.25V）。 開放すると動作しません。
	VDD-PLL2	入力	PLL2用電源	内蔵PLL2発振器用の電源端子（1.25V）。 開放すると動作しません。
	VDD-PLL3	入力	PLL3用電源	内蔵PLL3発振器用の電源端子（1.25V）。 開放すると動作しません。
	VDD-PLL4	入力	PLL4用電源	内蔵PLL4発振器用の電源端子（1.25V）。 開放すると動作しません。
	VCCQ-GET	入力	GETHER-IF用電源	GETHERインターフェイス用の電源端子（1.5V）。 開放すると動作しません。
	VCCQ-DDR	入力	DBSC3用電源	DBSC3用の電源端子（1.5V）。開放すると動作しません。
	VCCQ-USB	入力	USB用電源	USB-PHY用の電源端子（3.3V）。開放すると動作しません。
	VDD-USB	入力	USB用電源	USB-PHY用の電源端子（1.25V）。開放すると動作しません。
クロック	EXTAL	入力	水晶発振子／ 外部クロック	水晶発振子を接続します。また、外部クロック信号を入力することもできます。
	XTAL	出力	水晶発振子	水晶発振子を接続します。
	CLKOUT	出力	システムクロック出力	外部デバイスにシステムクロックを供給します。
動作モードコントロール	MD10	入力	CPUブートモード設定	L：32ビットブートモード H：29ビットブートモード
	MD6、MD9	入力	ブートモード設定	LL：LBSCブート HL：2KB SPIブート 注. 上記以外は設定禁止。
	MD8	入力	クロック端子機能設定	L：外部クロック入力（EXTAL端子に外部クロック信号を入力） H：水晶発振子接続（EXTAL/XTAL端子間に水晶発振子を接続）
	MD2、MD1、MD0	入力	クロック動作モード設定	LLL：クロック動作モード0（注1） LLH：クロック動作モード1（注2） 注. 上記以外は設定禁止。
	MD3	入力	バスモード設定	LBSCエリア0のバス幅を設定 L：16ビット H：8ビット
	MD5	入力	エンディアン設定	LBSC、DBSC3バス及びSHwyバス用にSH-4Aのエンディアンを設定 L：ビッグエンディアン H：リトルエンディアン

分類	端子名	入出力	機能	説明
システム制御1	$\overline{\text{PRESET}}$	入力	パワーオンリセット	この信号がLレベルになると、本LSIはリセット状態になります。
	STATUS1、STATUS0	出力	ステータス出力	プロセッサの動作状態を表します。
	$\overline{\text{WDTOVF}}$	出力	ウオッチドッグタイマオーバフロー	WDTからのオーバフロー出力信号
システム制御2（ストラップピン）	BOOTSZ1、BOOTSZ0	入力	SPI0ブートフラッシュメモリサイズ設定	SPI0フラッシュメモリサイズ（ABR用）を設定 LL　：1 MB LH　：2 MB HL　：4 MB HH　：8 MB
	SPI0VER	入力	SPI0モジュール設定	Lを入力してください
	BOOTWPSZ1 BOOTWPSZ0	入力	SPIブートフラッシュライトプロテクトエリアサイズ設定	SPI0フラッシュのライトプロテクトエリアサイズを設定 LL　：64 KB LH　：128 KB HL　：256 KB HH　：設定禁止
	BOOTFMS	入力	SPIブートフラッシュメモリ領域選択（ABR開始アドレス）	SPI0のABR動作の初期ロード領域を設定 L　：SPIフラッシュメモリエリアの下位半分からロード H　：SPIフラッシュメモリエリアの上位半分からロード
	$\overline{\text{BOOTWP}}$	入力	SPI0ブートフラッシュライトプロテクト設定	L　：SPI0ライトプロテクト有効 H　：SPI0ライトプロテクト無効
	WDTFOT1、WDTFOT0	入力	ウォッチドッグタイマのABR遅延時間設定	SPI0のABR遅延時間を設定 LL　：ABR機能無効 LH　：22 秒 HL　：44 秒 HH　：88 秒
	FLSHSZ1、FLSHSZ0	入力	SPI1フラッシュメモリサイズ設定	SPI1フラッシュメモリサイズを設定 LL　：2 MB LH　：4 MB HL　：8 MB HH　：16 MB
	WPSZ1、WPSZ0	入力	SPI1フラッシュライトプロテクトエリアサイズ設定	SPI1フラッシュのライトプロテクトエリアサイズを設定 LL　：256 KB LH　：512 KB HL　：1 MB HH　：設定禁止
	$\overline{\text{WP}}$	入力	SPI1フラッシュライトプロテクト設定	L　：SPI1ライトプロテクト有効 H　：SPI1ライトプロテクト無効
割り込み	NMI	入力	ノンマスカブル割り込み	ノンマスカブル割り込み要求端子。使用しない場合はHレベルに固定してください。
	IRQ15 ～ IRQ0	入力	外部割り込み要求15～0	マスク可能な外部割り込み要求端子 レベル入力、エッジ入力の選択が可能です。
アドレスバス	A25 ～ A0	出力	アドレスバス	アドレスバス出力端子
データバス	D15 ～ D0	入出力	データバス	データバス入出力端子

分類	端子名	入出力	機能	説明
バス制御	$\overline{CS6}$、$\overline{CS5}$、$\overline{CS4}$、$\overline{CS0}$	出力	チップセレクト	外部メモリ又はデバイスのためのチップセレクト信号
	$\overline{RD}$	出力	リード	外部のデバイスから読み出すことを示します
	$\overline{RDWR}$	出力	リード／ライト	外部のデバイスに対する読み出し、書き込み状態を示します
	$\overline{RDY}$	入力	レディ	外部空間をアクセスするときのバスサイクルにウェイトサイクルを挿入させる入力です
	$\overline{WE0}$	出力	ライトイネーブル0	外部メモリ又はデバイスのデータのビット7～0に書き込みすることを示します（8/16ビットバスアクセス時）
	$\overline{WE1}$	出力	ライトイネーブル1	外部メモリ又はデバイスのデータのビット15～8に書き込みすることを示します（16ビットバスアクセス時）
	$\overline{BS}$	出力	バススタート	バスサイクルの開始を示します。
バス制御DDR3-SDRAMインタフェース(DBSC3)	M_A15 ～ M_A0	出力	DDR3アドレスバス	DDR3-SDRAM用アドレス信号
	M_BA2 ～ M_BA0	出力	DDR3バンクアクティブ	DDR3-SDRAM用のバンクアドレス
	M_DQ15 ～ M_DQ0	入出力	DDR3データバス	DDR3-SDRAM用入出力データ
	$\overline{M_CS}$	出力	DDR3チップセレクト	DDR3-SDRAM用のチップセレクト信号
	$\overline{M_RAS}$	出力	DDR3ロウアドレスストローブ	DDR3-SDRAM用のロウアドレスストローブ信号
	$\overline{M_CAS}$	出力	DDR3カラムアドレスストローブ	DDR3-SDRAM用のカラムアドレスストローブ信号
	$\overline{M_WE}$	出力	DDR3ライトイネーブル	DDR3-SDRAM用のライトイネーブル信号
	M_CKE	出力	DDR3クロックイネーブル	DDR3-SDRAM用のクロックイネーブル信号
	M_CLK、$\overline{M_CLK}$	出力	DDR3クロック	DDR3-SDRAM用クロック信号（差動信号）
	M_VREF_DQ	入力	DDR3基準電圧入力	基準電圧入力（VDDQ-DDRの半分）
	M_VREF_CA	入力	テスト用DDR3基準電圧入力	グランドに接続してください
	M_DQS1、M_DQS0、$\overline{M_DQS1}$、$\overline{M_DQS0}$	入出力	DDR3データストローブ	DDR3-SDRAM用データストローブ信号（差動信号）
	M_ODT	出力	DDR3ODTイネーブル	DDR3-SDRAM用ODTイネーブル信号
	M_DM1、M_DM0	出力	DDR3データマスク	DDR3-SDRAM用データマスク信号
	$\overline{M_RESET}$	出力	DDR3リセット	DDR3-SDRAM用リセット信号
	M_ZQ	入出力	DDR3インピーダンスマッチング	インピーダンスマッチング
DMAコントローラ(DMAC)	$\overline{DREQ0}$、$\overline{DREQ1}$	入力	DMA転送要求	外部からのDMA転送要求の入力端子
	$\overline{DACK0}$、$\overline{DACK1}$	出力	DMA転送要求アクノリッジ	外部からのDMA転送要求に対する、DMAアクノリッジ出力端子
	$\overline{TEND0}$、$\overline{TEND1}$	出力	DMA転送終了出力	DMA転送終了出力信号

分類	端子名	入出力	機能	説明
イーサネットコントローラ（RMII）	RMII0-CRS_DV、RMII1-CRS_DV	入力	キャリア検出／データ有効	キャリア検出／受信データ有効信号の入力端子
	RMII0-TXD1、RMII0-TXD0、RMII1-TXD1、RMII1-TXD0	出力	送信データ	2ビットの送信データ用端子
	RMII0-TXEN、RMII1-TXEN	出力	送信イネーブル	TXD端子上に送信データが準備できたことを示します
	RMII0-REFCLK、RMII1-REFCLK	入力	送受信クロック	送受信信号用タイミング参照信号
	RMII0-RXD1、RMII0-RXD0、RMII1-RXD1、RMII1-RXD0	入力	受信データ	2ビットの受信用入力端子
	RMII0-RX_ER、RMII1-RX_ER	入力	受信エラー	受信中に発生したエラーを通知する端子
イーサネットコントローラ(RMII-RGMII共通)	ET0-MDC、ET1-MDC	出力	管理用クロック	MDIOによる転送情報のクロック信号
	ET0-MDIO、ET1-MDIO	入出力	管理用データ	管理情報を交換する為の双方向のデータ端子
イーサネットコントローラ(RGMII)	ET0-TX_CTL、ET1-TX_CTL	出力	送信制御	送信信号用制御信号出力
	ET0-TXC、ET1-TXC	出力	送信クロック	送信信号用クロック出力
	ET0-TD0 ~ ET0-TD3、ET1-TD0 ~ ET1-TD3	出力	送信データ	4ビットの送信データ用出力端子
	ET0-RX_CTL、ET1-RX_CTL	入力	受信制御	受信信号用制御信号入力
	ET0-RXC、ET1-RXC	入力	受信クロック	受信信号用クロック入力
	ET0-RD0 ~ ET0-RD3、ET1-RD0 ~ ET1-RD3	入力	受信データ	4ビットの受信データ用入力端子
	RGMII-MAC-CLK	入力	基準クロック	RGMII用基準クロック入力
	RGMII-VREF	入力	VREF	RGMII基準電圧入力
FIFO内蔵シリアルコミュニケーションインタフェース（SCIF0、SCIF1）	TXD0、TXD1	出力	送信データ	送信データ出力端子
	RXD0、RXD1	入力	受信データ	受信データ入力端子
	$\overline{\text{RTS0}}$、$\overline{\text{RTS1}}$	出力	送信要求	モデム制御信号で送信要求出力端子
	$\overline{\text{CTS0}}$、$\overline{\text{CTS1}}$	入力	送信許可	モデム制御信号で送信許可入力端子

分類	端子名	入出力	機能	説明
FIFO内蔵シリアルコミュニケーションインタフェース（SCIF0、SCIF1）	$\overline{\text{DTR0}}$、$\overline{\text{DTR1}}$	出力	データターミナルレディ	データターミナルレディ出力端子
	$\overline{\text{DSR0}}$、$\overline{\text{DSR1}}$	入力	データセットレディ	データセットレディ入力端子
	$\overline{\text{DCD0}}$、$\overline{\text{DCD1}}$	入力	データキャリア検出	データキャリア検出入力端子
	$\overline{\text{RI0}}$、$\overline{\text{RI1}}$	入力	リングインジケータ	リングインジケータ入力端子
FIFO内蔵シリアルコミュニケーションインタフェース（SCIF2、SCIF3、SCIF4）	SCK2 ~ SCK4	入出力	シリアルクロック	クロック入出力端子
	TXD2 ~ TXD4	出力	送信データ	送信データ出力端子
	RXD2 ~RXD4	入力	受信データ	受信データ入力端子
	$\overline{\text{RTS2}}$ ~ $\overline{\text{RTS4}}$	入出力	送信要求	モデム制御信号端子（送信要求）
	$\overline{\text{CTS2}}$ ~ $\overline{\text{CTS4}}$	入出力	送信許可	モデム制御信号端子（送信許可）
I2Cバスインタフェース（RIIC）	SCL0 ~ SCL9	入出力	シリアルクロック	シリアルクロック入出力端子
	SDA0 ~ SDA9	入出力	シリアルデータ	シリアルデータ入出力端子
USBファンクション0（USB0）	USDP0	入出力	D+ data	USB0 D+ データ
	USDM0	入出力	D- data	USB0 D- データ
	VBUS0	入力	Vbus入力	USB0 Vbus 入力
USB0、USB1共通リファレンス入力	REFRIN	入力	リファレンス入力	5.6KΩ（±1%）の抵抗を介してグランドに接続してください
USB ホスト/ファンクション1（USB1）	USDP1	入出力	D+ データ	USB1 D+ データ
	USDM1	入出力	D- データ	USB1 D- データ
	VBUS1	入力	Vbus入力	USB1 Vbus 入力
	VBUS_EN	出力	Vbusパワーイネーブル	USB Vbusパワーイネーブル出力
	VBUS_OC	入力	Vbus過電流信号入力	USB過電流モニタ
ルネサスシリアルペリフェラルインタフェース(RSPI)	RSPI-RSPCK	入出力	RSPIクロック	RSPIクロック入出力端子
	RSPI-MOSI	入出力	RSPIデータ	RSPIデータ入出力端子
	RSPI-MISO	入出力	RSPIデータ	RSPIデータ入出力端子
	$\overline{\text{RSPI-SSL0}}$、RSPI-SSL1	入出力	RSPIチップセレクト	RSPIチップセレクト入出力端子
SIMカードモジュール（SIM）	SIM_D	入出力	SIM送受信データ	SIM送受信データ入出力端子
	SIM_CLK	出力	SIMクロック	SIMクロック出力端子
	SIM_RST	出力	SIMリセット	SIMリセット出力端子
シリアルペリフェラルインタフェース（SPI0、SPI1）	SP0-MOSI	入出力	SPIマスタ入出力	SPIマスタデータ入出力端子
	SP1-MOSI	出力	SPIマスタ出力	SPIマスタデータ出力端子
	SP0-MISO、SP1-MISO	入力	SPIマスタ入力	SPIマスタデータ入力端子
	SP0-SCK、SP1-SCK	出力	SPIクロック	SPIシリアルクロック出力端子
	SP0-SCK_FB、SP1-SCK_FB	入力	SPIクロックフィードバック	SPIシリアルクロックフィードバック入力端子

分類	端子名	入出力	機能	説明
シリアルペリフェラルインタフェース（SPI0、SPI1）	$\overline{\text{SP0-SS3}}$ ~ $\overline{\text{SP0-SS0}}$、$\overline{\text{SP1-SS1}}$、$\overline{\text{SP1-SS0}}$	出力	SPIチップセレクト	SPIスレーブデバイスセレクト出力端子
タイマユニット（TMU）	TCLK	入力	タイマクロック	タイマの外部クロック入力 チャネル2のインプットキャプチャ信号端子としても使用できます
14ビットPWMタイマ（PWMX）	PWMX7～PWMX0	出力	パルス出力	14ビットPWMタイマのパルス出力端子
8ビットPWMタイマ（PWMU）	PWMU5～PWMU0	出力	パルス出力	8ビットPWMタイマのパルス出力端子
サブクロック	SUB-CLKIN	入力	クロック入力	32.768kHzのクロック入力端子です
A/D変換器（ADC）	AN15～AN0	入力	アナログ入力	アナログ入力端子
	$\overline{\text{ADTRG0}}$、$\overline{\text{ADTRG1}}$	入力	A/D外部トリガ入力	A/D変換開始のための外部トリガ入力端子
	AVREF0、AVREF1	入力	リファレンス電圧	A/D変換器の基準電圧端子
シリアル端子マルチプレクサ（SERMUX）	COM1-TXD、COM1-RXD、$\overline{\text{COM1-RTS}}$、$\overline{\text{COM1-CTS}}$	出力 入力 出力 入力	COM1ポート	COM1ポート入出力端子
	COM2-TXD、COM2-RXD、$\overline{\text{COM2-RTS}}$、$\overline{\text{COM2-CTS}}$、$\overline{\text{COM2-DTR}}$、$\overline{\text{COM2-DSR}}$、$\overline{\text{COM2-DCD}}$、$\overline{\text{COM2-RI}}$	出力 入力 出力 入力 出力 入力 入力 入力	COM2ポート	COM2ポート入出力端子
	RAC-TXD、RAC-RXD、$\overline{\text{RAC-RTS}}$、$\overline{\text{RAC-CTS}}$、$\overline{\text{RAC-DTR}}$、$\overline{\text{RAC-DSR}}$、$\overline{\text{RAC-DCD}}$、$\overline{\text{RAC-RI}}$	入出力	RACポート	RACポート入出力端子
SDホストインタフェース(SDHI)	SDCD	入力	カード検出	SDHIカード検出信号
	SDWP	入力	ライトプロテクト	SDHIライトプロテクト信号
	SDDAT3～SDDAT0	入出力	データバス	SDHIデータバス信号
	SDCMD	入出力	コマンド出力、レスポンス入力	SDHIコマンド出力、レスポンス入力信号
	SDCLK	出力	クロック	SDHIクロック出力端子
イベントカウンタ(EVC)	EVENT15～EVENT0	入力	イベント入力	イベントカウンタの入力端子

分類	端子名	入出力	機能	説明
I/Oポート	PTA ～ PTI、PTK、PTM、PTP、PTO、PTR ～ PTZ	入出力	汎用ポート	8ビットの汎用ポート PTB、PTC：ノイズキャンセラ内蔵 PTT　　：12mA駆動
	PTJ、PTL、PTN、PTQ	入出力	汎用ポート	7ビットの汎用ポート
汎用シリアル入出力ポート(SGPIO)	SGPIO0-CLK	出力	SGPIOクロック	SGPIO0のクロック信号
	SGPIO0-LOAD	出力	SGPIOロード	SGPIO0のロード信号
	SGPIO0-DI	入力	SGPIO-DI	SGPIO0のデータ入力
	SGPIO0-DO	出力	SGPIO-DO	SGPIO0のデータ出力
	SGPIO1-CLK	出力	SGPIOクロック	SGPIO1のクロック信号
	SGPIO1-LOAD	出力	SGPIOロード	SGPIO1のロード信号
	SGPIO1-DI	入力	SGPIO-DI	SGPIO1のデータ入力
	SGPIO1-DO	出力	SGPIO-DO	SGPIO1のデータ出力
	SGPIO2-CLK	出力	SGPIOクロック	SGPIO2のクロック信号
	SGPIO2-LOAD	出力	SGPIOロード	SGPIO2のロード信号
	SGPIO2-DI	入力	SGPIO-DI	SGPIO2のデータ入力
	SGPIO2-DO	出力	SGPIO-DO	SGPIO2のデータ出力
eMMCホストインタフェース	MMCCLK	出力	MMCクロック	MMCクロック出力端子
	MMCCMD	入出力	MMCコマンド／レスポンス	MMCコマンド入力端子／レスポンス出力端子
	MMCDAT7～MMCDAT0	入出力	MMC送受信データ	MMC送信出力端子／受信入力端子
ハイパフォーマンスユーザデバッグインタフェース（H-UDI）	TCK	入力	テストクロック	テストクロック入力端子
	TMS	入力	テストモードセレクト	テストモードセレクト信号入力端子
	$\overline{\text{TRST}}$	入力	テストリセット	初期化信号入力端子
	TDI	入力	テストデータ入力	インストラクションとデータのシリアル入力端子
	TDO	出力	テストデータ出力	インストラクションとデータのシリアル出力端子
アドバンストユーザデバッガ（AUD）	AUDATA3 ～ AUDATA0、AUDCK、AUDSYNC	出力	エミュレータ用端子	エミュレータ専用端子
	$\overline{\text{ASEBRK}}$/BRKACK	入出力	エミュレータ用端子	エミュレータ専用端子
	MPMD	入力	チップモード指定	L：エミュレーションモード H：ノーマルモード（チップモード）

注1. SH-4Aクロック = 384 MHz、SHwyクロック = 192 MHz、ローカルバスクロック = 48 MHz、周辺クロック = 48 MHz
2. SH-4Aクロック = 576 MHz、SHwy クロック = 192 MHz、ローカルバスクロック = 48 MHz、周辺クロック = 48 MHz

2. プログラミングモデル

本章では、本LSIのプログラミングモデルについて記述します。本LSIでは以下に示すレジスタとデータ形式を持っています。

2.1 データフォーマット

本LSIでサポートしているデータフォーマットを図2.1に示します。

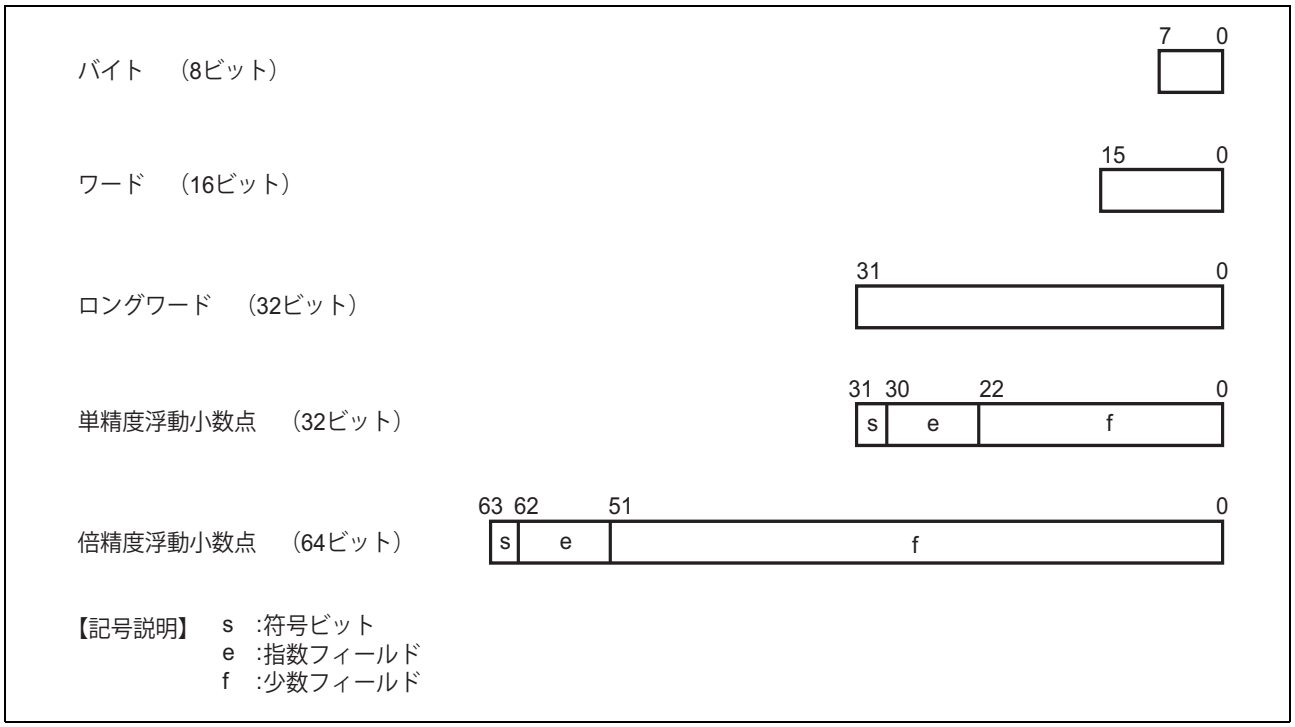


図 2.1 データフォーマット

2.2 レジスタの構成

2.2.1 特権モードとバンク

(1) 処理モード

処理モードにはユーザモードと特権モードの2つがあります。通常はユーザモードで動作し、例外が発生又は割り込みを受け付けると特権モードになります。レジスタには、汎用レジスタ、システムレジスタ、コントロールレジスタ、及び浮動小数点レジスタがあり、アクセスできるレジスタはそれぞれの処理モードで異なります。

(2) 汎用レジスタ

汎用レジスタにはR0～R15までの16本のレジスタがあります。汎用レジスタR0～R7は、バンクレジスタで、処理モードで切り替えることができます。

- 特権モードの場合

ステータスレジスタ（SR）のレジスタバンクビット（RB）により、汎用レジスタとしてアクセスできるレジスタとできないレジスタが決められます。汎用レジスタとしてアクセスできないレジスタは、コントロールレジスタのロード命令（LDC）とストア命令（STC）でアクセスします。

RBビットが1のとき、つまりバンク1が選ばれているときは、バンク1の汎用レジスタR0_BANK1～R7_BANK1とバンクに関係ないR8～R15との合計16本のレジスタが汎用レジスタR0～R15としてアクセスすることができ、バンク0の汎用レジスタR0_BANK0～R7_BANK0の8本のレジスタはLDC/STC命令でアクセスできます。

RBビットが0のとき、つまりバンク0が選ばれているときは、バンク0の汎用レジスタR0_BANK0～R7_BANK0とバンクに関係ないR8～R15との合計16本のレジスタが汎用レジスタR0～R15としてアクセスすることができ、バンク1の汎用レジスタR0_BANK1～R7_BANK1の8本のレジスタはLDC/STC命令でアクセスできます。

- ユーザモードの場合

バンク0の汎用レジスタR0_BANK0～R7_BANK0とバンクに関係ないR8～R15との合計16本のレジスタが汎用レジスタR0～R15としてアクセスすることができ、バンク1の汎用レジスタR0_BANK1～R7_BANK1の8本のレジスタはアクセスできません。

(3) コントロールレジスタ

コントロールレジスタには、処理モードで共通のグローバルベースレジスタ（GBR）とステータスレジスタ（SR）があり、特権モードでのみアクセスできる退避ステータスレジスタ（SSR）、退避プログラムカウンタ（SPC）、ベクタベースレジスタ（VBR）、退避ジェネラルレジスタ15（SGR）、デバッグベースレジスタ（DBR）があります。ステータスレジスタには、特権モードでのみアクセスできるビット（例えばRBビット）があります。

(4) システムレジスタ

システムレジスタには、積和レジスタ（MACH/MACL）、プロシージャレジスタ（PR）、プログラムカウンタ（PC）があり、処理モードに関係しません。

(5) 浮動小数点レジスタとFPU に関するシステムレジスタ

浮動小数点レジスタには、FR0～FR15、XF0～XF15 の32 本のレジスタがあります。FR0～FR15、XF0～XF15 をおのおのFPR0_BANK0～FPR15_BANK0、FPR0_BANK1～FPR15_BANK1 のいずれのバンクに割り付けるか選択できます。

また、FR0～FR15 は、DR0/2/4/6/8/10/12/14（倍精度浮動小数点レジスタ、又はレジスタペア）の8 本、FV0/4/8/12（レジスタベクタ）の4 本として使用でき、XF0～XF15 は、XD0/2/4/6/8/10/12/14（レジスタペア）の8 本、XMTRX（レジスタ行列）の1 本として使用できます。

FPU に関するシステムレジスタには、浮動小数点コミュニケーションレジスタ（FPUL）と浮動小数点ステータス／コントロールレジスタ（FPSCR）があり、FPU-CPU 間の通信や例外処理の設定を行います。

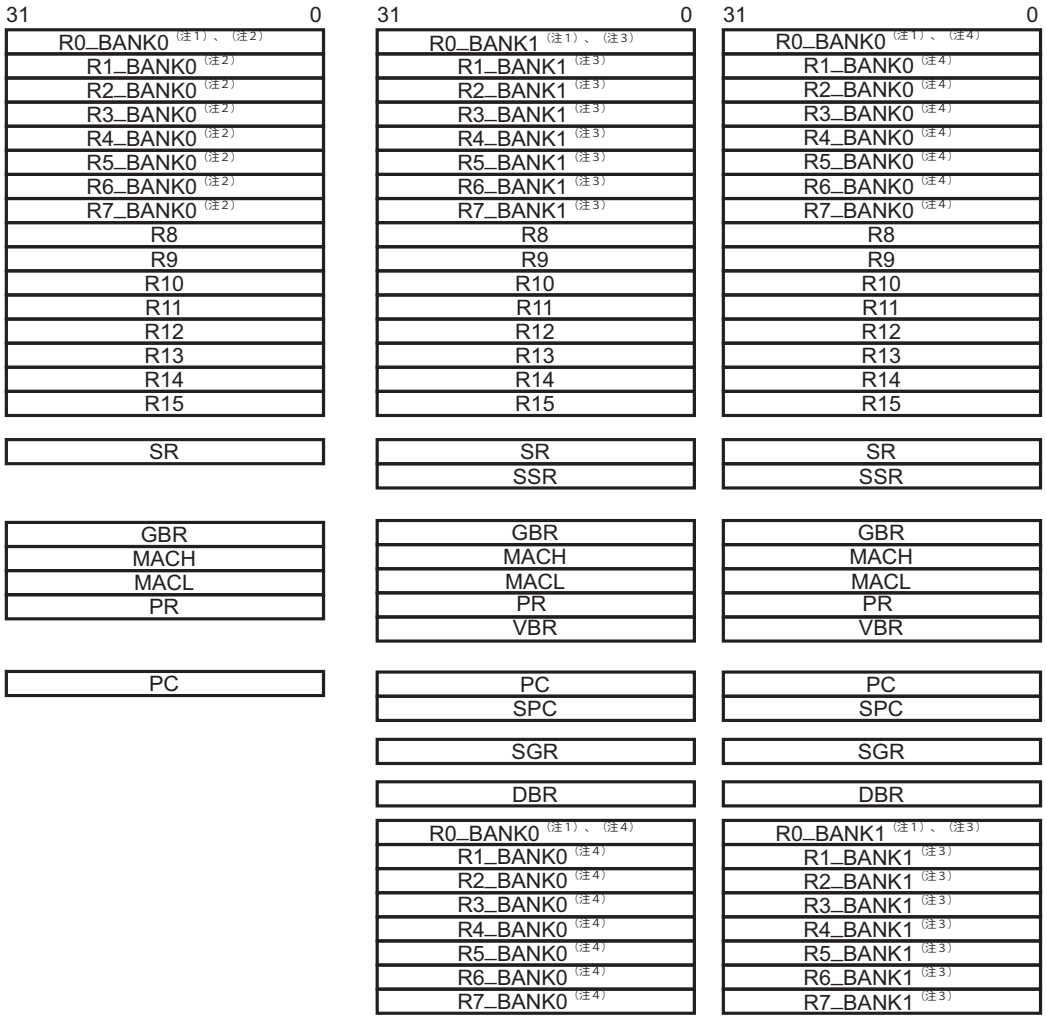
リセット後のレジスタの値を表2.1 に示します。

表2.1　レジスタの初期値

区分	レジスタ	初期値（注）
汎用レジスタ	R0_BANK0 ～ R7_BANK0、 R0_BANK1 ～ R7_BANK1、 R8 ～ R15	不定
コントロールレジスタ	SR	MD ビット=1、RB ビット=1、BL ビット=1、 FD ビット=0、IMASK=B'1111、その他はすべて0
	GBR、SSR、SPC、SGR、DBR	不定
	VBR	H'00000000
システムレジスタ	MACH、MACL、PR	不定
	PC	H'A0000000
浮動小数点レジスタ	FR0 ～ FR15、XF0 ～ XF15、FPUL	不定
	FPSCR	H'00040001

注．パワーオンリセット、マニュアルリセットで初期化されます。

処理モード別のCPU レジスタ構成を図2.2 に示します。
ユーザモードと特権モードは、ステータスレジスタの処理モードビット（MD）で切り替えます。



（a）ユーザモードのレジスタ構成　（b）特権モードのレジスタ構成（RB＝1）　（c）特権モードのレジスタ構成（RB＝0）

注1.　R0レジスタは、インデックス付きレジスタ間接アドレッシングモードと、インデックス付きGBR間接アドレッシングモードのインデックスレジスタとして使われます。
2.　バンクレジスタ
3.　バンクレジスタ
SRレジスタのRBビットが１のとき、汎用レジスタとしてアクセスされます。
RBビットが０のとき、LDC/STC命令でのみアクセスされます。
4.　バンクレジスタ
SRレジスタのRBビットが０のとき、汎用レジスタとしてアクセスされます。
RBビットが１のとき、LDC/STC命令でのみアクセスされます。

図 2.2　処理モード別のCPU レジスタ構成

2.2.2　汎用レジスタ

図 2.3 に処理モードと汎用レジスタの関係を示します。本 LSI には 24 本の 32 ビット汎用レジスタ（R0_BANK0～R7_BANK0、R0_BANK1～R7_BANK1、R8～R15）があります。ただし、これらのうち 16 本のレジスタのみ 1 つの処理モードで汎用レジスタ R0～R15 としてアクセスできます。本 LSI には特権モードとユーザモードの 2 つの処理モードがあります。R0～R7 はその 2 つのモードにより次のように割り当てられます。

- R0_BANK0～R7_BANK0
  ユーザモード（MD ビット（SR レジスタのビット 30）＝0）では、常に R0～R7 に割り当てられます。
  特権モード（SR レジスタの MD ビット＝1）では、RB ビット（SR レジスタのビット 29＝0）の場合に限り R0～R7 に割り当てられます。
- R0_BANK1～R7_BANK1
  ユーザモードでは、アクセスできません。
  特権モードでは、SR レジスタの RB ビット＝1 の場合に限り、R0～R7 に割り当てられます。

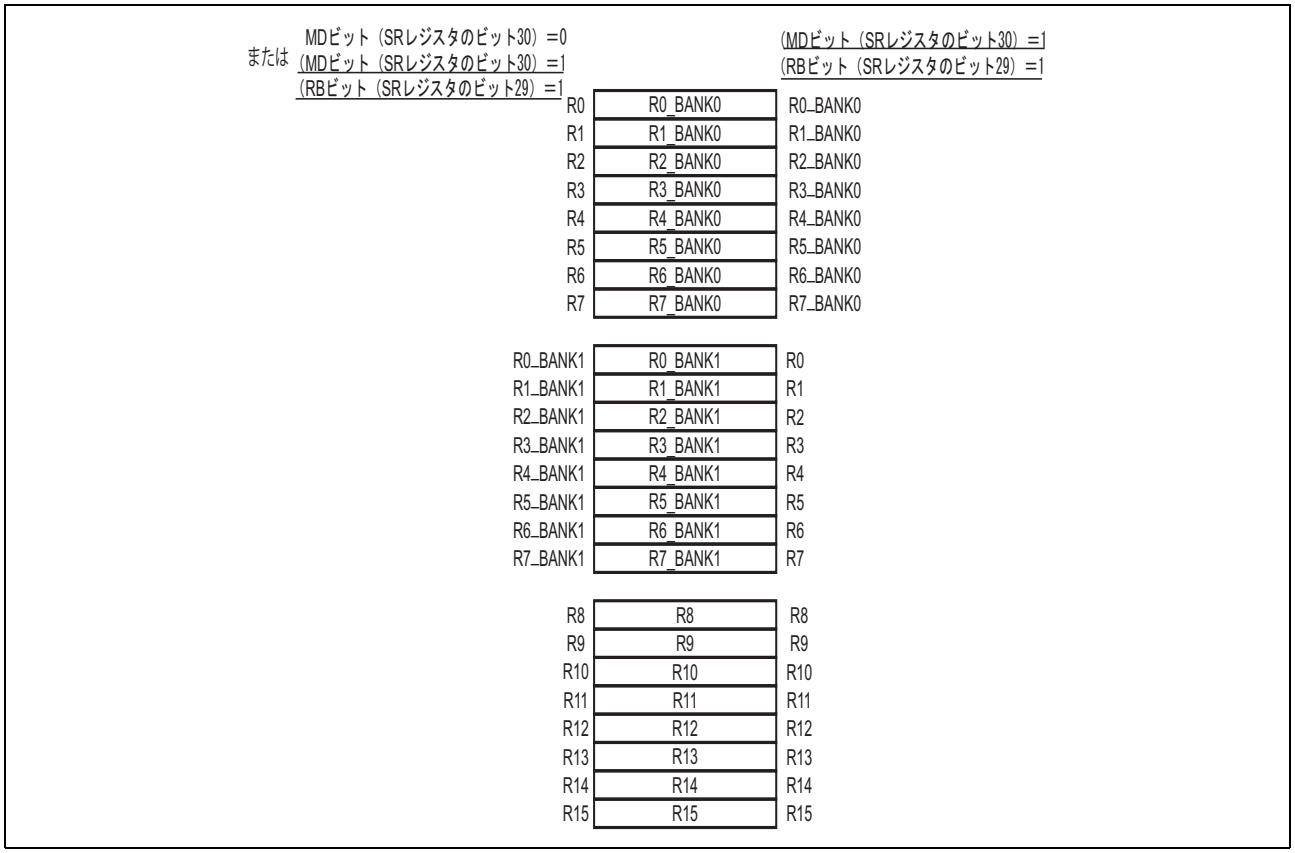


図 2.3　汎用レジスタ

【プログラミング上の注意】
ユーザモードの R0～R7 は R0_BANK0～R7_BANK0 に、例外・割り込み後の R0～R7 は R0_BANK1～R7_BANK1 に割り当てられるので、割り込みハンドラはユーザモードの R0～R7（R0_BANK0～R7_BANK0）を退避又は復帰する必要はありません。

2.2.3　浮動小数点レジスタ

図 2.4 に浮動小数点レジスタを示します。32 本の 32 ビット浮動小数点レジスタがあります。これらは、2 つのバンクで構成され、FPR0_BANK0～FPR15_BANK0、FPR0_BANK1～FPR15_BANK1 があります。また、この 32 本レジスタは FR0 ～ FR15、DR0/2/4/6/8/l0/12/14、FV0/4/8/12、XF0 ～ XF15、XD0/2/4/6/8/l0/12/14、XMTRX として参照されます。FPRn_BANKi と参照名の対応は FPSCR の FR ビットによって決まります。図2.4 を参照してください。

(1)　浮動小数点レジスタ FPRn_BANKi（32 レジスタ）

FPR0_BANK0、FPR l_BANK0、FPR2_BANK0、FPR3_BANK0、
FPR4_BANK0、FPR5_BANK0、FPR6_BANK0、FPR7_BANK0、
FPR8_BANK0、FPR9_BANK0、FPR10_BANK0、FPR11_BANK0、
FPR12_BANK0、FPR13_BANK0、FPR14_BANK0、FPR15_BANK0
FPR0_BANK1、FPR1_BANK1、FPR2_BANK1、FPR3_BANK1、
FPR4_BANK1、FPR5_BANK1、FPR6_BANK1、FPR7_BANK1、
FPR8_BANK1、FPR9_BANK1、FPR10_BANK1、FPR11_BANK1、
FPR12_BANK1、FPR13_BANK1、FPR14_BANK1、FPR15_BANK1

(2)　単精度浮動小数点レジスタ FRi（16 レジスタ）

FR ビット（FPSCR レジスタのビット 21）＝0 のとき、FR0～FR15 は FPR0_BANK0～FPR15_BANK0 に割り当てられます。
FPSCR レジスタの FR ビット＝1 のとき、FR0～FR15 は FPR0_BANK1～FPR15_BANK1 に割り当てられます。

(3)　倍精度浮動小数点レジスタ、又は単精度浮動小数点レジスタのペア DRi（8 レジスタ）

DR レジスタは、2 つの FR レジスタから構成されます。
DR0＝{FR0、FR1}、DR2＝{FR2、FR3}、
DR4＝{FR4、FR5}、DR6＝{FR6、FR7}、
DR8＝{FR8、FR9}、DR10＝{FR10、FR11}、
DR12＝{FR12、FR13}、DR14＝{FR14、FR15}

(4)　単精度浮動小数点ベクトルレジスタ FVi（4 レジスタ）

FV レジスタは 4 つの FR レジスタから構成されます。
FV0＝{FR0、FR1、FR2、FR3}、
FV4＝{FR4、FR5、FR6、FR7}、
FV8＝{FR8、FR9、FR10、FR11}、
FVl2＝{FR12、FR13、FR14、FR15}

(5)　単精度浮動小数点拡張レジスタ XFi（16 レジスタ）

FPSCR レジスタの FR ビット＝0 のとき、XF0～XF15 は FPR0_BANK1～FPR15_BANK1 に割り当てられます。
FPSCR レジスタの FR ビット＝1 のとき、XF0～XF15 は FPR0_BANK0～FPR15_BANK0 に割り当てられます。

(6)　単精度浮動小数点拡張レジスタのペア XDi（8 レジスタ）

XD レジスタは 2 つの XF レジスタから構成されます。
XD0＝{XF0、XF1}、XD2＝{XF2、XF3}、
XD4＝{XF4、XF5}、XD6＝{XF6、XF7}、
XD8＝{XF8、XF9}、XD10＝{XF10、XF11}、
XD12＝{XF12、XF13}、XD14＝{XF14、XF15}

(7)　単精度浮動小数点拡張レジスタ行列 XMTRX

XMTRX は16 本のXF レジスタから構成されます。

XMTRX =				
	XF0	XF4	XF8	XF12
	XF1	XF5	XF9	XF13
	XF2	XF6	XF10	XF14
	XF3	XF7	XF11	XF15

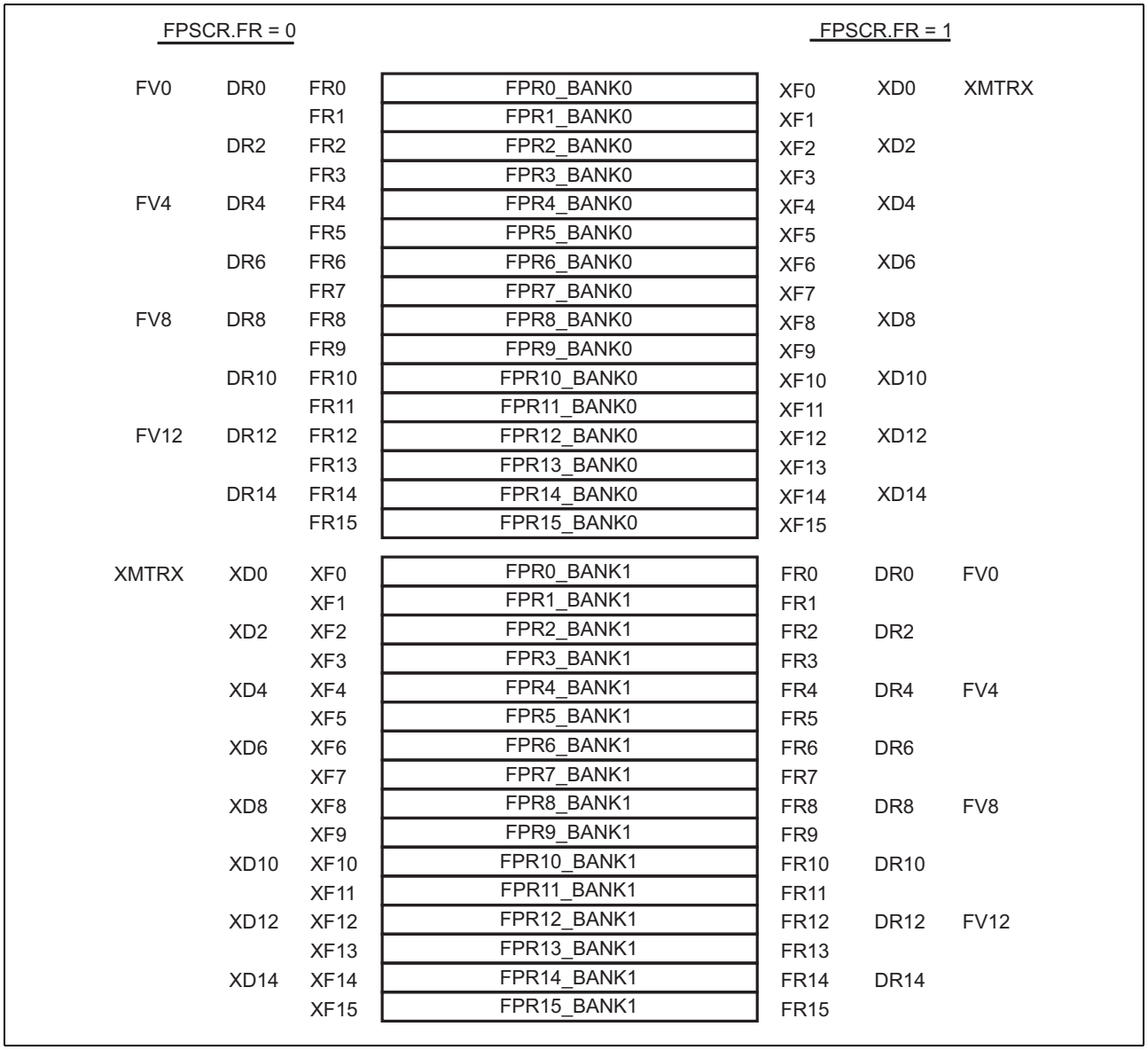


図 2.4　浮動小数点レジスタ

2.2.4　コントロールレジスタ

(1)　ステータスレジスタ（SR）

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	MD	RB	BL	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	FD	—	—	—	—	—	M	Q	IMASK				—	—	S	T
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0
R/W:	R/W	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
30	MD	1	R/W	処理モード 処理モードを選択します。 0：ユーザモード （命令の中には実行できない命令があります。また、リソースの中にはアクセスできないリソースがあります。） 1：特権モード 例外又は割り込みにより1にセットされます。
29	RB	1	R/W	特権モードでの汎用レジスタバンク指定ビット 0：R0_BANK0～R7_BANK0は汎用レジスタR0～R7としてアクセスでき、R0_BANK1～R7_BANK1はLDC/STC命令でアクセスできます。 1：R0_BANK1～R7_BANK1は汎用レジスタR0～R7としてアクセスでき、R0_BANK0～R7_BANK0はLDC/STC命令でアクセスできます。 例外又は割り込みにより1にセットされます。
28	BL	1	R/W	例外／割り込みブロックビット このビットが1のとき、割り込み要求はマスクされ、ユーザブレーク以外の一般例外が発生すると、プロセッサはリセット状態に遷移します。 一般例外又は割り込みにより1にセットされます。
27～16	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
15	FD	0	R/W	FPUディスエーブルビット このビットが1のとき、FPU命令は一般FPU抑止例外を発生させ、FPU命令が遅延スロットにある場合、スロットFPU抑止例外が発生します（FPU命令：H'F***命令、FPUL/FPSCRに対するLDS(.L)/STS(.L)命令）。
14～10	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
9	M	0	R/W	Mビット DIV0S、DIV0U、DIV1命令で使用します。
8	Q	0	R/W	Qビット DIV0S、DIV0U、DIV1命令で使用します。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～ 4	IMASK	1	R/W	割り込みマスクレベル IMASK 以下のレベルの割り込みはマスクされます。また、割り込みが発生した場合に、IMASK が割り込み受け付けレベルに変化する動作と変化しない動作を、CPU 動作モードレジスタ（CPUOPM）を用いて切り替えることができます。CPUOPM の動作は、「付録A. CPU 動作モードレジスタ（CPUOPM）」を参照してください。
3、2	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
1	S	0	R/W	S ビット MAC 命令の飽和動作を指定します。
0	T	0	R/W	T ビット 真／偽条件、キャリ／ボロー、オーバフロー／アンダフローなどを表します。 詳細は、「3. 命令セット」を参照してください。

(2)　退避ステータスレジスタ（SSR）（32 ビット、特権保護、初期値＝不定）

SR の内容は例外又は割り込みの発生時、SSR に退避されます。

(3)　退避プログラムカウンタ（SPC）（32 ビット、特権保護、初期値＝不定）

例外又は割り込みの発生した命令のアドレスはSPC に退避されます。

(4)　グローバルベースレジスタ（GBR）（32 ビット、初期値＝不定）

例外又は割り込みの発生した命令のアドレスはSPC に退避されます。

(5)　ベクタベースレジスタ（VBR）（32 ビット、特権保護、初期値＝H'0000 0000）

VBR は例外及び割り込み発生時、分岐先のベースアドレスとして参照されます。詳細については「6. 例外処理」を参照してください。

(6)　退避ジェネラルレジスタ 15（SGR）（32 ビット、特権保護、初期値＝不定）

R15 の内容は例外又は割り込みの発生時SGR に退避されます。

(7)　デバッグベースレジスタ（DBR）（32 ビット、特権保護、初期値＝不定）

ユーザブレークデバッグ機能を有効にする場合UBDE ビット（CBCR レジスタのビット 0）＝1、DBR はVBR の代わりにユーザブレークハンドラへの分岐先アドレスとして参照されます。

2.2.5　システムレジスタ

(1)　積和上位レジスタ（MACH）（32 ビット、初期値＝不定）、
　　積和下位レジスタ（MACL）（32 ビット、初期値＝不定）

MACH／MACL は、MAC 命令の加算値として用いられます。またMAC 命令、MUL 命令の演算結果を格納するためにも用いられます。

(2)　プロシージャレジスタ（PR）（32 ビット、初期値＝不定）

BSR、BSRF、JSR 命令を用いたサブルーチンコールの戻りアドレスはPR に格納されます。PR は、サブルーチンからの復帰命令（RTS）によって参照されます。

(3)　プログラムカウンタ（PC）（32 ビット、初期値＝H'A000 0000）

PC は実行中の命令アドレスを示します。

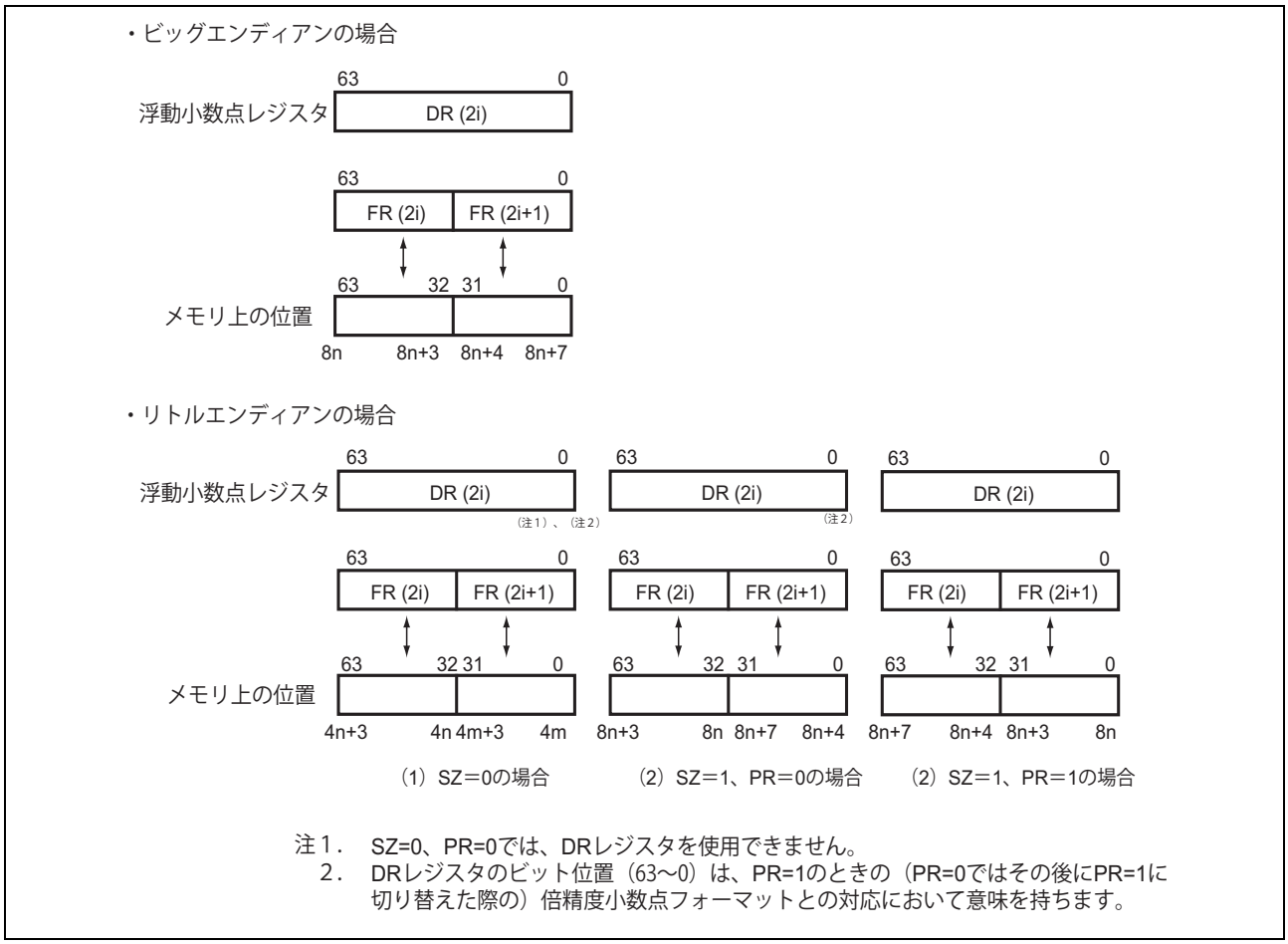
(4)　浮動小数点ステータス／コントロールレジスタ（FPSCR）

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	FR	SZ	PR	DN	Cause	
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	Cause				Enable (EN)					Flag					RM	
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 22	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
21	FR	0	R/W	浮動小数点レジスタバンク 0：FPR0_BANK0～FPR15_BANK0 はFR0～FR15 に、FPR0_BANK1～FPR15_BANK1 はXF0～XF15 に割り当てられます。 1：FPR0_BANK0～FPR15_BANK0 はXF0～XF15 に、FPR0_BANK1～FPR15～BANK1 はFR0～FR15 に割り当てられます。
20	SZ	0	R/W	転送サイズモード 0：FMOV 命令のデータサイズは32 ビットです。 1：FMOV 命令のデータサイズは32 ビットペア、又は64 ビットです。 SZ ビットとエンディアンとの関係については、図2.5 を参照してください。
19	PR	0	R/W	精度モード 0：浮動小数点命令を単精度演算として実行します。 1：浮動小数点命令を倍精度演算として実行します（グラフィックサポート命令は未定義です）。 PR ビットとエンディアンとの関係については、図2.5 を参照してください。
18	DN	1	R/W	非正規化モード 0：非正規化数を非正規化数として扱います。 1：非正規化数を0 として扱います。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
17 ～ 12	Cause	0	R/W	FPU 例外要因フィールド FPU 例外イネーブルフィールド FPU 例外フラグフィールド FPU 演算命令を実行すると、FPU 例外要因フィールドは最初に0に設定されます。次にFPU 例外が発生すると、FPU 例外要因フィールドとFPU 例外フラグフィールドの該当ビットが1 にセットされます。FPU 例外フラグフィールドは、FPU 例外フラグフィールドが最後にクリアされたそれ以降に発生した例外のステータスを保持します。各フィールドのビットの割り付けについては表2.2 を参照してください。
11 ～ 7	Enable (EN)	0	R/W	
6 ～ 2	Flag	0	R/W	
1、0	RM	01	R/W	丸めモード 丸めの方法を選択します。 00：近傍への丸め 01：0 方向への丸め 10：設定禁止 11：設定禁止



注1. SZ=0、PR=0では、DRレジスタを使用できません。
2. DRレジスタのビット位置（63～0）は、PR=1のときの（PR=0ではその後にPR=1に切り替えた際の）倍精度小数点フォーマットとの対応において意味を持ちます。

図 2.5　SZ ビット及びPR ビットとエンディアンの関係

表2.2　FPU 例外処理に関連するビットの割り付け

フィールド名		FPU エラー（E）	無効演算（V）	0 除算（Z）	オーバフロー(O)	アンダフロー（U）	不正確（I）
Cause	FPU 例外要因フィールド	ビット 17	ビット 16	ビット 15	ビット 14	ビット 13	ビット 12
Enable	FPU 例外イネーブルフィールド	なし	ビット 11	ビット 10	ビット 9	ビット 8	ビット 7
Flag	FPU 例外フラグフィールド	なし	ビット 6	ビット 5	ビット 4	ビット 3	ビット 2

(5)　浮動小数点通信レジスタ（FPUL）（32 ビット、初期値＝不定）

FPU レジスタとCPU レジスタ間のデータ転送は、FPUL を介して行われます。

2.3　メモリ割り付けレジスタ

制御レジスタのうち、以下のメモリ領域にマッピングされているものがあります。これらのメモリ領域に割り付けられたレジスタには、2 つのアドレスがあります。

H'1C00 0000～H'1FFF FFFF
H'FC00 0000～H'FFFF FFFF
以上2 つの領域は次のように使用します。

- H'1C00 0000～H'1FFF FFFF

  この領域はMMUのアドレス変換機能を用いてアクセスしなければなりません。この領域のページ番号をTLB の該当フィールドに設定することでメモリ割り付けレジスタへアクセスできます。この領域に対して、MMUのアドレス変換機能を用いずにアクセスした場合の動作は保証されません。
- H'FC00 0000～H'FFFF FFFF

  ユーザモードで領域 H'FC00 0000～H'FFFF FFFF にアクセスすると、アドレスエラーが発生します。ユーザモードではメモリ割り付けレジスタはアドレス変換によるアクセスで参照することができます。

注．2つの領域のレジスタが割り付けられていないアドレスにはアクセスしないでください。レジスタが割り付けられていないアドレスに対するアクセスの動作は不定になります。また、メモリ割り付けレジスタは一定のデータサイズでアクセスしなければなりません。不正なサイズでアクセスした場合も動作は不定になります。

2.4　レジスタのデータ形式

レジスタオペランドのデータサイズは常にロングワード（32 ビット）です。メモリ上のデータをレジスタへロードするとき、メモリオペランドのデータサイズがバイト（8 ビット）、もしくはワード（16 ビット）の場合は、ロングワードに符号拡張し、レジスタに格納します。

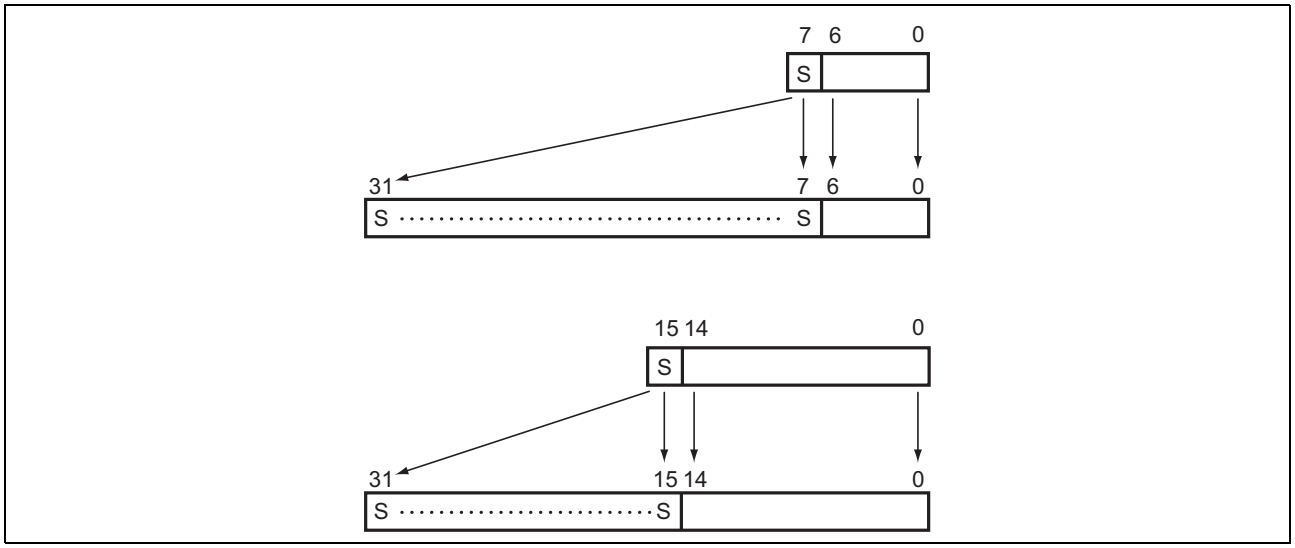


図 2.6　バイトデータ、ワードデータのレジスタ中のデータ形式

2.5　メモリ上でのデータ形式

バイト、ワード、ロングワードのデータ形式があります。メモリは 8 ビットのバイト、16 ビットのワード、32 ビットのロングワードいずれの形でもアクセスすることができます。32 ビットに満たないメモリオペランドは符号拡張されてレジスタに格納されます。

ワードオペランドはワード境界（2 バイト刻みの偶数番地：2n 番地）から、ロングワードオペランドはロングワード境界（4 バイト刻みの偶数番地：4n 番地）からアクセスしてください。これを守らない場合は、アドレスエラーになります。バイトオペランドはどの番地からでもアクセスできます。

データフォーマットは、ビッグエンディアンかリトルエンディアンのどちらかのバイト順を選択できます。エンディアンはパワーオンリセット時に外部ピンで設定してください。エンディアンは動的には変更できません。ただしビット位置は常に最上位（most-significant）から最下位（least-significant）へ左から右へ減少するように番号が付けられています。すなわち 32 ビットのロングワードでは、一番左のビット、ビット 31 が最上位ビットで、一番右のビット、ビット 0 が最下位ビットです。

メモリ上のデータ形式を図 2.7 に示します。

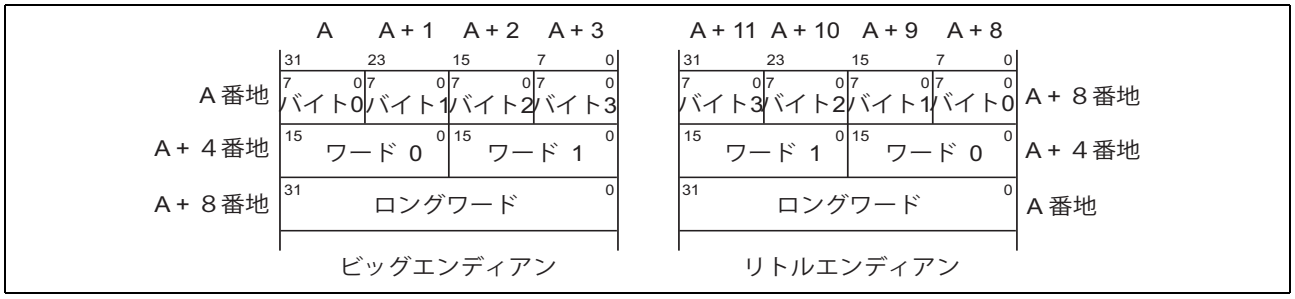


図 2.7　メモリ上のデータ形式

64 ビットのデータ形式については図 2.5 を参照してください。

2.6　処理状態

処理状態には、大きく分けてリセット状態、命令実行状態、低消費電力状態の3種類があります。

(1)　リセット状態

CPUがリセットされている状態です。リセット状態は、パワーオンリセット状態とマニュアルリセット状態に分類されます。

パワーオンリセット状態では、CPUの内部状態と内蔵周辺モジュールのレジスタが初期化されます。マニュアルリセット状態では、一部の内蔵周辺モジュールのレジスタとCPUの内部状態とが初期化されます。詳細は、各章のレジスタ構成を参照してください。

(2)　命令実行状態

CPUが順次プログラムを実行している状態です。命令実行状態には、一般のプログラム実行状態と例外処理状態があります。

(3)　低消費電力状態

CPUの動作が停止し消費電力が低い状態です。スリープ命令で低消費電力状態になります。スリープモード、及びモジュールストップモードの2つのモードがあります。低消費電力状態の詳細は、「18. 低消費電力モード」を参照してください。

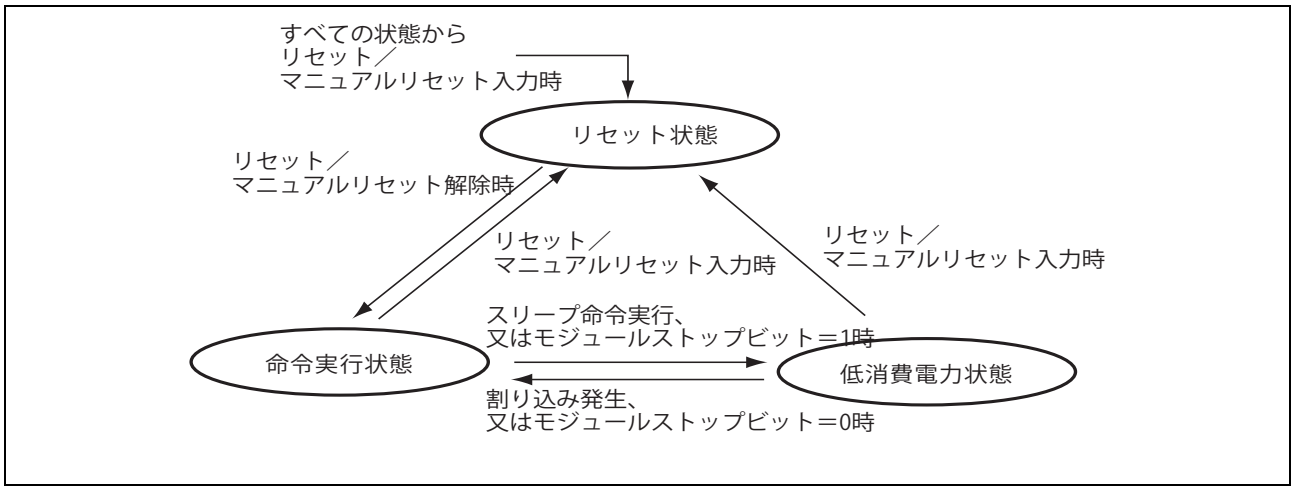


図 2.8　処理状態遷移図

2.7 使用上の注意事項

2.7.1 自己書き換えコード（注）に対する注意事項

本LSIは、処理を高速に行うために命令の先読みを従来のSH-4に比べ大幅に強化しています。このためメモリ上の命令列の書き換えを行った直後に当該命令を実行しようとすると、すでに先読みされた更新前の命令が実行される可能性が高くなります。確実に更新された命令を実行するためには、書き換えを行う命令と書き換えられた命令の実行の間に下記の命令列を実行するようにしてください。

(1) 書き換える命令がキャッシング不可能領域にある場合

```
SYNCO
ICBI @Rn
```

ICBI命令のRnで指定するアドレスは、アドレスエラーにならない範囲で任意のアドレスで構いません。

(2) 書き換える命令列がキャッシング可能領域にある場合（ライトスルーモード時）

```
SYNCO
ICBI @Rn
```

書き換えた命令列に対応する命令キャッシュの領域すべてをICBI命令で無効化してください。ICBIはライン単位で行います。1ラインは32バイトです。

(3) 書き換える命令列がキャッシング可能領域にある場合（コピーバックモード時）

```
OCBP @Rm 又はOCBWB @Rm
SYNCO
ICBI @Rn
```

書き換えた命令列に対応するオペランドキャッシュの領域すべてをOCBP命令又はOCBWB命令で主記憶に書き戻しを行い、その後ICBI命令で対応する命令キャッシュ領域の無効化を行ってください。ICBI/OCBP/OCBWBはライン単位で行います。1ラインは32バイトです。

注．自己書き換えコード：動的にメモリ上の命令列を書き換えながら実行する命令列

3. 命令セット

本LSIの命令セットは固定長16ビット命令で実現されます。本LSIはバイト（8ビット）、ワード（16ビット）、ロングワード（32ビット）、クワッドワード（64ビット）のデータサイズでメモリにアクセスします。単精度浮動小数点データ（32ビット）は、ロングワード又はクワッドワードサイズでメモリとのやりとりが可能です。倍精度浮動小数点データ（64ビット）は、クワッドワードサイズでメモリとのやりとりが可能です。本LSIがバイトサイズ、及びワードサイズのデータをメモリからレジスタに移動するとデータは符号拡張されます。

3.1 実行環境

(1) PC

PCはその命令自身の命令アドレスを示します。

(2) ロード／ストアアーキテクチャ

本LSIは基本的演算をレジスタで実行するロード／ストアアーキテクチャを特長としています。メモリで直接実行する論理AND演算のようなビット操作演算を除き、メモリアクセスを必要とする演算はレジスタにロードした後、レジスタで実行されます。

(3) 遅延分岐

本LSIの分岐命令、及びRTEは、BF、BTの2つの分岐命令を除き遅延分岐です。遅延分岐では分岐命令の次の命令は分岐先命令の前に実行されます。

(4) 遅延スロット

遅延分岐後のこの実行スロットは「遅延スロット」と呼ばれます。たとえば、BRA実行シーケンスは次のとおりです。

表3.1 遅延分岐命令の実行順序

命令列				実行順序
	BRA	TARGET	（遅延分岐命令）	BRA
	ADD		（遅延スロット）	↓
	:			ADD
	:			↓
TARGET	target-inst		（分岐先命令）	target-inst

命令によっては遅延スロットで実行するとスロット不当命令例外を発生します。「6. 例外処理」を参照してください。分岐が成立しなかったBF/S、BT/Sの次の命令も遅延スロット命令です。

(5) T ビット

ステータスレジスタ（SR）のTビットは、比較演算の結果などを示すために使用し、条件付き分岐命令で参照します。たとえば、以下に条件付き分岐命令例を示します。

```
ADD     #1、R0      ; T ビットはADD 演算では変更されない。
CMP/EQ  R1、R0      ; R0=R1 のときT ビットは1 にセットされる。
BT      TARGET      ; T ビット=1（R0=R1）のときTARGET に分岐する。
```

RTEの遅延スロットで、ステータスレジスタ（SR）の各ビットは次のように参照されます。命令アクセスは変更の前にMDビットを使用し、データアクセスは変更後のMDビットにアクセスします。変更後の他のS、T、M、Q、FD、BL、RBビットを遅延スロットの命令実行のために使用します。STC、STC.L SR命令は、変更後すべてのSRのビットにアクセスします。

(6) 定数値

8 ビットの定数値は命令コード、イミディエイト値で指定できます。また16 ビット、32 ビットの定数値はメモリで定義することができ、PC 相対ロード命令で参照できます。

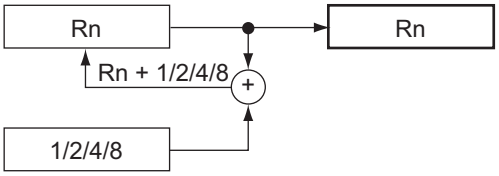
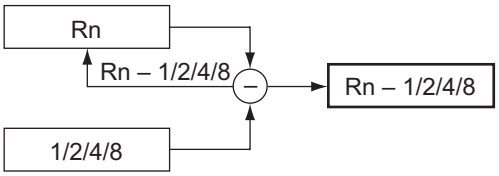
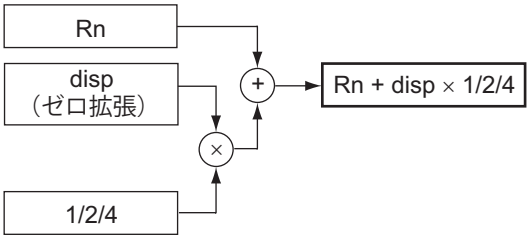
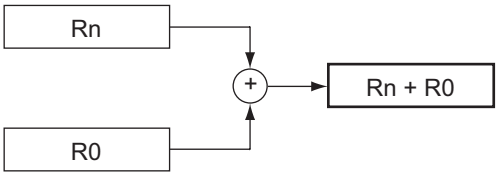
```
MOV.W    @(disp, PC), Rn
MOV.L    @(disp, PC), Rn
```

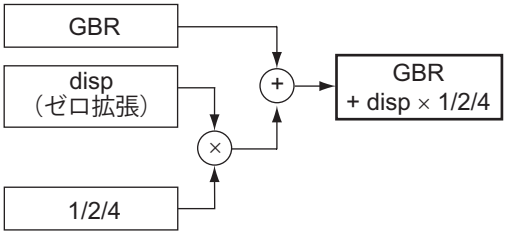
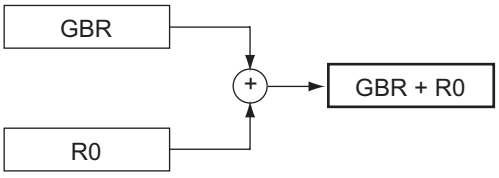
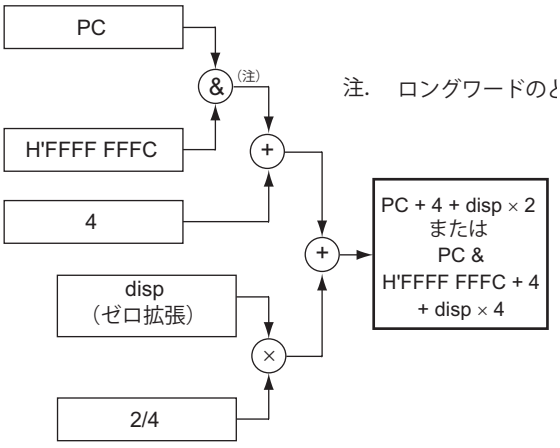
浮動小数点に対する PC 相対ロード命令はありません。ただし、単精度浮動小数点レジスタに対してFLDI0、FLDI1 命令を使用することによって、0.0 又は1.0 にセットすることができます。

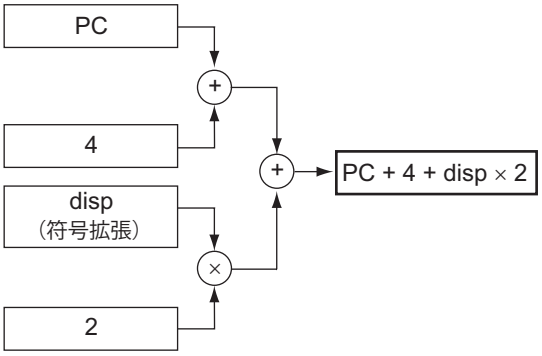
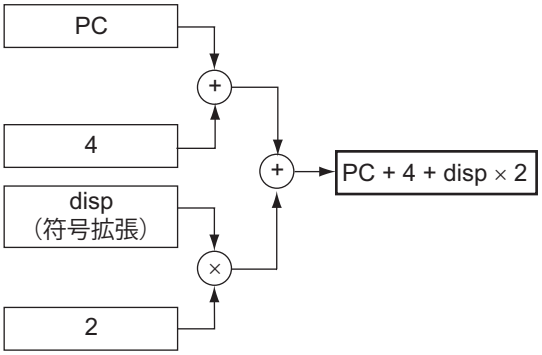
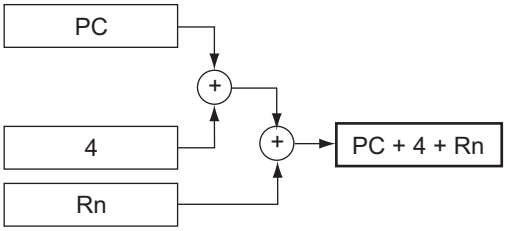
3.2　アドレッシングモード

表3.2にアドレッシングモードと実効アドレスの計算を示します。仮想アドレス空間のある位置をアクセスすると（ATビット（MMUCRレジスタのビット0）＝1）、実効アドレスは物理アドレスに変換されます。複数の仮想メモリ空間システムを選択した場合（SVビット（MMUCRレジスタのビット8）＝0）、PTEHの最下位ビットもアクセスのASIDとして参照されます。「7. メモリマネジメントユニット（MMU）」を参照してください。

表3.2　アドレッシングモードと実効アドレス

アドレッシングモード	命令フォーマット	実効アドレスの計算方法	計算式
レジスタ直接	Rn	実効アドレスはレジスタRnです。 （オペランドはレジスタRnの内容です。）	—
レジスタ間接	@Rn	実効アドレスはレジスタRnの内容です。 	Rn→EA（EA：実効アドレス）
ポストインクリメントレジスタ間接	@Rn+	実効アドレスはレジスタRnの内容です。命令実行後Rnに定数を加算します。定数はオペランドサイズがバイトのとき1、ワードのとき2、ロングワードのとき4、クワッドワードのとき8です。 	Rn→EA 命令実行後 バイト：Rn＋1→Rn ワード：Rn＋2→Rn ロングワード：Rn＋4→Rn クワッドワード：Rn＋8→Rn
プリデクリメントレジスタ間接	@–Rn	実効アドレスは、あらかじめ定数を減算したレジスタRnの内容です。定数はバイトのとき1、ワードのとき2、ロングワードのとき4、クワッドワードのとき8です。 	バイト：Rn－1→Rn ワード：Rn－2→Rn ロングワード：Rn－4→Rn クワッドワード：Rn－8→Rn Rn→EA （計算後のRnで命令実行）
ディスプレースメント付きレジスタ間接	@(disp:4, Rn)	実効アドレスはレジスタRnに4ビットディスプレースメントdispを加算した内容です。dispはゼロ拡張後、オペランドサイズによってバイトで1倍、ワードで2倍、ロングワードで4倍します。 	バイト：Rn＋disp→EA ワード：Rn＋disp × 2→EA ロングワード：Rn＋disp × 4→EA
インデックス付きレジスタ間接	@(R0, Rn)	実効アドレスはレジスタRnにR0を加算した内容です。 	Rn + R0 → EA

アドレッシング モード	命令 フォーマット	実効アドレスの計算方法	計算式
ディスプレースメント付きGBR 間接	@(disp:8, GBR)	実効アドレスはレジスタGBR に8 ビットディスプレースメントdisp を加算した内容です。disp はゼロ拡張後、オペランドサイズによってバイトで1 倍、ワードで2 倍、ロングワードで4 倍します。 	バイト：GBR＋disp→EA ワード：GBR＋disp × 2→EA ロングワード：GBR＋disp × 4→EA
インデックス付きGBR 間接	@(R0, GBR)	実効アドレスはレジスタGBR にR0 を加算した内容です。 	GBR + R0 → EA
ディスプレースメント付きPC 相対	@(disp:8, PC)	実効アドレスはPC＋4 に8 ビットディスプレースメントdisp を加算した内容です。disp はゼロ拡張後、オペランドサイズによってワードで2 倍、ロングワードで4 倍します。さらにロングワードのときはPCの下位2 ビットをマスクします。 	ワード：PC＋4＋disp × 2→EA ロングワード： PC & H'FFFF FFFC + 4 + disp × 4 → EA

アドレッシングモード	命令フォーマット	実効アドレスの計算方法	計算式
PC 相対	disp:8	実効アドレスはPC＋4 に8 ビットディスプレースメントdisp を符号拡張後2 倍し、加算した内容です。 	PC + 4 + disp × 2 → Branch-Target
	disp:12	実効アドレスはPC＋4 に12 ビットディスプレースメントdisp を符号拡張後2 倍し、加算した内容です。 	PC + 4 + disp × 2 → Branch-Target
PC 相対	Rn	実効アドレスはPC＋4 にRn を加算した内容です。 	PC + 4 + Rn → Branch-Target
イミディエイト	#imm:8	TST、AND、OR、XOR命令の8 ビットイミディエイトimm はゼロ拡張します。	—
	#imm:8	MOV、ADD、CMP/EQ 命令の8 ビットイミディエイトimm は符号拡張します。	—
	#imm:8	TRAPA 命令の8 ビットイミディエイトimm はゼロ拡張後、4 倍します。	—

注. 下記のディスプレースメント（disp）を伴うアドレッシングモードにおいて、本マニュアルのアセンブラ記述は、オペランドサイズに応じたスケーリング（×1、×2、×4）を行う前の値を書いています。これは、LSI の動作を明確にするためで、実際のアセンブラの記述は、各アセンブラの表記ルールを参照してください。

@（disp:4, Rn）　：ディスプレースメント付きレジスタ間接
@（disp:8, GBR）　：ディスプレースメント付きGBR 間接
@（disp:8, PC）　：ディスプレースメント付きPC 相対
disp: 8, disp:12　：PC 相対

3.3　命令セット

表3.4～表3.13 に示すSuperH 命令の説明に使用する表記を表3.3 に示します。

表3.3　命令リストの表記

項目	フォーマット	説 明
命令ニーモニック	OP.Sz SRC, DEST	OP　：オペレーションコード Sz　：サイズ SRC　：ソースオペランド DEST：ソース及び／又はデスティネーションオペランド Rm　：ソースレジスタ Rn　：デスティネーションレジスタ imm　：イミディエイトデータ disp　：ディスプレースメント
演算の要約		→、←　：転送方向 (xx)　：メモリオペランド M/Q/T　：SR のフラグビット &　：各ビットの論理積 |　：各ビットの論理和 ^　：各ビット排他的論理和 ~　：各ビットの論理否定 <<n,>>n　：n ビットシフト
命令コード	MSB ↔ LSB	mmmm　：レジスタ番号（Rm、FRm） nnnn　：レジスタ番号（Rn、FRn） 0000　：R0, FR0 0001　：R1, FR1 ： 1111　：R15, FR15 mmm　：レジスタ番号（DRm、XDm、Rm_BANK） nnn　：レジスタ番号（DRn、XDn、Rn_BANK） 000　：DR0、XD0、R0_BANK 001　：DR2、XD2、R1_BANK ： 111　：DR14、XD14、R7_BANK mm　：レジスタ番号(FVm) nn　：レジスタ番号(FVn) 00　：FV0 01　：FV4 10　：FV8 11　：FV12 iiii　：イミディエイト値 dddd　：ディスプレースメント
特権モード	—	「特権」と記載してある場合、特権モードでのみ実行可能です。
T ビット	命令実行後のT ビットの値	－：変更なし
新規	—	「新規」と記載してある場合は、プロセッサバージョンレジスタ（PVR）のVER ビットの値がH'20 のSH-4A で新規に追加された命令です。

注. スケーリング（x1、x2、x4、x8）は命令オペランドのサイズに応じて実行されます。

表3.4 固定小数点転送命令

命令		動作	命令コード	特権	T ビット	新規
MOV	#imm,Rn	imm → sign extension → Rn	1110nnnniiiiiiii	—	—	—
MOV.W	@(disp(注),PC), Rn	(disp × 2 + PC + 4) → sign extension → Rn	1001nnnnddddddd	—	—	—
MOV.L	@(disp(注),PC), Rn	(disp × 4 + PC & H'FFFF FFFC + 4) → Rn	1101nnnnddddddd	—	—	—
MOV	Rm,Rn	Rm → Rn	0110nnnnmmmm0011	—	—	—
MOV.B	Rm,@Rn	Rm → (Rn)	0010nnnnmmmm0000	—	—	—
MOV.W	Rm,@Rn	Rm → (Rn)	0010nnnnmmmm0001	—	—	—
MOV.L	Rm,@Rn	Rm → (Rn)	0010nnnnmmmm0010	—	—	—
MOV.B	@Rm,Rn	(Rm) → sign extension → Rn	0110nnnnmmmm0000	—	—	—
MOV.W	@Rm,Rn	(Rm) → sign extension → Rn	0110nnnnmmmm0001	—	—	—
MOV.L	@Rm,Rn	(Rm) → Rn	0110nnnnmmmm0010	—	—	—
MOV.B	Rm,@-Rn	Rn-1 → Rn, Rm → (Rn)	0010nnnnmmmm0100	—	—	—
MOV.W	Rm,@-Rn	Rn-2 → Rn, Rm → (Rn)	0010nnnnmmmm0101	—	—	—
MOV.L	Rm,@-Rn	Rn-4 → Rn, Rm → (Rn)	0010nnnnmmmm0110	—	—	—
MOV.B	@Rm+,Rn	(Rm)→ sign extension → Rn, Rm + 1 → Rm	0110nnnnmmmm0100	—	—	—
MOV.W	@Rm+,Rn	(Rm) → sign extension → Rn, Rm + 2 → Rm	0110nnnnmmmm0101	—	—	—
MOV.L	@Rm+,Rn	(Rm) → Rn, Rm + 4 → Rm	0110nnnnmmmm0110	—	—	—
MOV.B	R0,@(disp(注),Rn)	R0 → (disp + Rn)	10000000nnnndddd	—	—	—
MOV.W	R0,@(disp(注),Rn)	R0 → (disp × 2 + Rn)	10000001nnnndddd	—	—	—
MOV.L	Rm,@(disp(注),Rn)	Rm → (disp × 4 + Rn)	0001nnnnmmmmdddd	—	—	—
MOV.B	@(disp(注),Rm),R0	(disp + Rm) → sign extension → R0	10000100mmmmdddd	—	—	—
MOV.W	@(disp(注),Rm),R0	(disp × 2 + Rm) → sign extension → R0	10000101mmmmdddd	—	—	—
MOV.L	@(disp(注),Rm),Rn	(disp × 4 + Rm) → Rn	0101nnnnmmmmdddd	—	—	—
MOV.B	Rm,@(R0,Rn)	Rm → (R0 + Rn)	0000nnnnmmmm0100	—	—	—
MOV.W	Rm,@(R0,Rn)	Rm → (R0 + Rn)	0000nnnnmmmm0101	—	—	—
MOV.L	Rm,@(R0,Rn)	Rm → (R0 + Rn)	0000nnnnmmmm0110	—	—	—
MOV.B	@(R0,Rm),Rn	(R0 + Rm) → sign extension → Rn	0000nnnnmmmm1100	—	—	—
MOV.W	@(R0,Rm),Rn	(R0 + Rm) → sign extension → Rn	0000nnnnmmmm1101	—	—	—
MOV.L	@(R0,Rm),Rn	(R0 + Rm) → Rn	0000nnnnmmmm1110	—	—	—
MOV.B	R0,@(disp(注),GBR)	R0 → (disp + GBR)	11000000dddddddd	—	—	—
MOV.W	R0@(disp(注),GBR)	R0 → (disp × 2 + GBR)	11000001dddddddd	—	—	—
MOV.L	R0,@(disp(注),GBR)	R0 → (disp × 4 + GBR)	11000010dddddddd	—	—	—
MOV.B	@(disp(注),GBR),R0	(disp + GBR) → sign extension → R0	11000100dddddddd	—	—	—
MOV.W	@(disp(注),GBR)R0	(disp × 2 + GBR) → sign extension → R0	11000101dddddddd	—	—	—
MOV.L	@(disp(注),GBR),R0	(disp × 4 + GBR) → R0	11000110dddddddd	—	—	—
MOVA	@(disp(注),PC),R0	disp × 4 + PC & H'FFFF FFFC + 4 → R0	11000111dddddddd	—	—	—
MOVCO.L	R0,@Rn	LDST → T If (T == 1) R0 → (Rn)0 → LDST	0000nnnn01110011	—	LDST	新規

命令		動作	命令コード	特権	T ビット	新規
MOVLI.L	@Rm,R0	1 → LDST(Rm) → R0 When interrupt/exception occurred 0 → LDST	0000mmmm01100011	—	—	新規
MOVUA.L	@Rm,R0	(Rm) → R0 Load non-boundary alignment data	0100mmmm10101001	—	—	新規
MOVUA.L	@Rm+,R0	(Rm) → R0, Rm + 4 → Rm Load non-boundary alignment data	0100mmmm11101001	—	—	新規
MOVT	Rn	T → Rn	0000nnnn00101001	—	—	—
SWAP.B	Rm,Rn	Rm → swap lower 2 bytes→ Rn	0110nnnnmmmm1000	—	—	—
SWAP.W	Rm,Rn	Rm → swap upper/lower words → Rn	0110nnnnmmmm1001	—	—	—
XTRCT	Rm,Rn	Rm:Rn middle 32 bits → Rn	0010nnnnmmmm1101	—	—	—

注. ルネサスのアセンブラでは、disp にスケーリング後（×1、×2、×4）の値を設定します。

表3.5 算術演算命令

命令		動作	命令コード	特権	T ビット	新規
ADD	Rm,Rn	Rn + Rm → Rn	0011nnnnmmmm1100	—	—	—
ADD	#imm,Rn	Rn + imm → Rn	0111nnnniiiiiiii	—	—	—
ADDC	Rm,Rn	Rn + Rm + T → Rn, carry → T	0011nnnnmmmm1110	—	キャリ	—
ADDV	Rm,Rn	Rn + Rm → Rn, overflow → T	0011nnnnmmmm1111	—	オーバフロー	—
CMP/EQ	#imm,R0	When R0 = imm, 1 → T Otherwise, 0 → T	10001000iiiiiiii	—	比較結果	—
CMP/EQ	Rm,Rn	When Rn = Rm, 1 → T Otherwise, 0 → T	0011nnnnmmmm0000	—	比較結果	—
CMP/HS	Rm,Rn	When Rn ≥ Rm (unsigned), 1 → T Otherwise, 0 → T	0011nnnnmmmm0010	—	比較結果	—
CMP/GE	Rm,Rn	When Rn ≥ Rm (signed), 1 → T Otherwise, 0 → T	0011nnnnmmmm0011	—	比較結果	—
CMP/HI	Rm,Rn	When Rn > Rm (unsigned), 1 → T Otherwise, 0 → T	0011nnnnmmmm0110	—	比較結果	—
CMP/GT	Rm,Rn	When Rn > Rm (signed), 1 → T Otherwise, 0 → T	0011nnnnmmmm0111	—	比較結果	—
CMP/PZ	Rn	When Rn ≥ 0, 1 → T Otherwise, 0 → T	0100nnnn00010001	—	比較結果	—
CMP/PL	Rn	When Rn > 0, 1 → T Otherwise, 0 → T	0100nnnn00010101	—	比較結果	—
CMP/STR	Rm,Rn	When any bytes are equal, 1 → T Otherwise, 0 → T	0010nnnnmmmm1100	—	比較結果	—
DIV1	Rm,Rn	1-step division (Rn ÷ Rm)	0011nnnnmmmm0100	—	計算結果	—
DIV0S	Rm,Rn	MSB of Rn → Q, MSB of Rm → M, M^Q → T	0010nnnnmmmm0111	—	計算結果	—
DIV0U		0 → M/Q/T	0000000000011001	—	0	—
DMULS.L	Rm,Rn	Signed, Rn × Rm → MAC, 32 × 32 → 64 bits	0011nnnnmmmm1101	—	—	—
DMULU.L	Rm,Rn	Unsigned, Rn × Rm → MAC, 32 × 32 → 64 bits	0011nnnnmmmm0101	—	—	—
DT	Rn	Rn – 1 → Rn; when Rn = 0, 1 → T When Rn ≠ 0, 0 → T	0100nnnn00010000	—	比較結果	—
EXTS.B	Rm,Rn	Rm sign-extended from byte → Rn	0110nnnnmmmm1110	—	—	—
EXTS.W	Rm,Rn	Rm sign-extended from word → Rn	0110nnnnmmmm1111	—	—	—
EXTU.B	Rm,Rn	Rm zero-extended from byte → Rn	0110nnnnmmmm1100	—	—	—
EXTU.W	Rm,Rn	Rm zero-extended from word → Rn	0110nnnnmmmm1101	—	—	—

命令	動作	命令コード	特権	T ビット	新規
MAC.L @Rm+,@Rn+	Signed, (Rn) × (Rm) + MAC → MAC Rn + 4 → Rn, Rm + 4 → Rm 32 × 32 + 64 → 64 bits	0000nnnnmmmm1111	—	—	—
MAC.W @Rm+,@Rn+	Signed, (Rn) × (Rm) + MAC → MAC Rn + 2 → Rn, Rm + 2 → Rm 16 × 16 + 64 → 64 bits	0100nnnnmmmm1111	—	—	—
MUL.L Rm,Rn	Rn × Rm → MACL 32 × 32 → 32 bits	0000nnnnmmmm0111	—	—	—
MULS.W Rm,Rn	Signed, Rn × Rm → MACL 16 × 16 → 32 bits	0010nnnnmmmm1111	—	—	—
MULU.W Rm,Rn	Unsigned, Rn × Rm → MACL 16 × 16 → 32 bits	0010nnnnmmmm1110	—	—	—
NEG Rm,Rn	0 – Rm → Rn	0110nnnnmmmm1011	—	—	—
NEGC Rm,Rn	0 – Rm – T → Rn, borrow → T	0110nnnnmmmm1010	—	ボロー	—
SUB Rm,Rn	Rn – Rm → Rn	0011nnnnmmmm1000	—	—	—
SUBC Rm,Rn	Rn – Rm – T → Rn, borrow → T	0011nnnnmmmm1010	—	ボロー	—
SUBV Rm,Rn	Rn – Rm → Rn, underflow → T	0011nnnnmmmm1011	—	アンダフロー	—

表3.6 論理演算命令

命令		動作	命令コード	特権	T ビット	新規
AND	Rm,Rn	Rn & Rm → Rn	0010nnnnmmmm1001	—	—	—
AND	#imm,R0	R0 & imm → R0	11001001iiiiiiii	—	—	—
AND.B	#imm, @(R0,GBR)	(R0 + GBR) & imm → (R0 + GBR)	11001101iiiiiiii	—	—	—
NOT	Rm,Rn	~Rm → Rn	0110nnnnmmmm0111	—	—	—
OR	Rm,Rn	Rn | Rm → Rn	0010nnnnmmmm1011	—	—	—
OR	#imm,R0	R0 | imm → R0	11001011iiiiiiii	—	—	—
OR.B	#imm, @(R0,GBR)	(R0 + GBR) | imm → (R0 + GBR)	11001111iiiiiiii	—	—	—
TAS.B	@Rn	When (Rn) = 0, 1 → T Otherwise, 0 → T In both cases, 1 → MSB of (Rn)	0100nnnn00011011	—	テスト結果	—
TST	Rm,Rn	Rn & Rm; when result = 0, 1 → T Otherwise, 0 → T	0010nnnnmmmm1000	—	テスト結果	—
TST	#imm,R0	R0 & imm; when result = 0, 1 → T Otherwise, 0 → T	11001000iiiiiiii	—	テスト結果	—
TST.B	#imm, @(R0,GBR)	(R0 + GBR) & imm; when result = 0, 1 → T Otherwise, 0 → T	11001100iiiiiiii	—	テスト結果	—
XOR	Rm,Rn	Rn ∧ Rm → Rn	0010nnnnmmmm1010	—	—	—
XOR	#imm,R0	R0 ∧ imm → R0	11001010iiiiiiii	—	—	—
XOR.B	#imm, @(R0,GBR)	(R0 + GBR) ∧ imm → (R0 + GBR)	11001110iiiiiiii	—	—	—

表3.7 シフト命令

命令		動作	命令コード	特権	T ビット	新規
ROTL	Rn	T ← Rn ← MSB	0100nnnn00000100	—	MSB	—
ROTR	Rn	LSB → Rn → T	0100nnnn00000101	—	LSB	—
ROTCL	Rn	T ← Rn ← T	0100nnnn00100100	—	MSB	—
ROTCR	Rn	T → Rn → T	0100nnnn00100101	—	LSB	—
SHAD	Rm,Rn	When Rm ≥ 0, Rn << Rm → Rn When Rm < 0, Rn >> Rm → [MSB → Rn]	0100nnnnmmmm1100	—	—	—
SHAL	Rn	T ← Rn ← 0	0100nnnn00100000	—	MSB	—
SHAR	Rn	MSB → Rn → T	0100nnnn00100001	—	LSB	—
SHLD	Rm,Rn	When Rm ≥ 0, Rn << Rm → Rn When Rm < 0, Rn >> Rm → [0 → Rn]	0100nnnnmmmm1101	—	—	—
SHLL	Rn	T ← Rn ← 0	0100nnnn00000000	—	MSB	—
SHLR	Rn	0 → Rn → T	0100nnnn00000001	—	LSB	—
SHLL2	Rn	Rn << 2 → Rn	0100nnnn00001000	—	—	—
SHLR2	Rn	Rn >> 2 → Rn	0100nnnn00001001	—	—	—
SHLL8	Rn	Rn << 8 → Rn	0100nnnn00011000	—	—	—
SHLR8	Rn	Rn >> 8 → Rn	0100nnnn00011001	—	—	—
SHLL16	Rn	Rn << 16 → Rn	0100nnnn00101000	—	—	—
SHLR16	Rn	Rn >> 16 → Rn	0100nnnn00101001	—	—	—

表3.8 分岐命令

命令		動作	命令コード	特権	T ビット	新規
BF	label	When T = 0, disp × 2 + PC +4 → PC When T = 1, nop	10001011dddddddd	—	—	—
BF/S	label	Delayed branch; when T = 0, disp × 2 + PC + 4 → PC When T = 1, nop	10001111dddddddd	—	—	—
BT	label	When T = 1, disp × 2 + PC + 4 → PC When T = 0, nop	10001001dddddddd	—	—	—
BT/S	label	Delayed branch; when T = 1, disp × 2 + PC + 4 → PC When T = 0, nop	10001101dddddddd	—	—	—
BRA	label	Delayed branch, disp × 2 + PC + 4 → PC	1010dddddddddddd	—	—	—
BRAF	Rn	Delayed branch, Rn + PC + 4 → PC	0000nnnn00100011	—	—	—
BSR	label	Delayed branch, PC + 4 → PR, disp × 2 + PC + 4 → PC	1011dddddddddddd	—	—	—
BSRF	Rn	Delayed branch, PC + 4 → PR, Rn + PC + 4 → PC	0000nnnn00000011	—	—	—
JMP	@Rn	Delayed branch, Rn → PC	0100nnnn00101011	—	—	—
JSR	@Rn	Delayed branch, PC + 4 → PR, Rn → PC	0100nnnn00001011	—	—	—
RTS		Delayed branch, PR → PC	0000000000001011	—	—	—

表3.9 システム制御命令

命令		動作	命令コード	特権	T ビット	新規
CLRMAC		0 → MACH, MACL	0000000000101000	—	—	—
CLRS		0 → S	0000000001001000	—	—	—
CLRT		0 → T	0000000000001000	—	0	—
ICBI	@Rn	Invalidates instruction cache block	0000nnnn11100011	—	—	新規
LDC	Rm,SR	Rm → SR	0100mmmm00001110	特権	LSB	—
LDC	Rm,GBR	Rm → GBR	0100mmmm00011110	—	—	—
LDC	Rm,VBR	Rm → VBR	0100mmmm00101110	特権	—	—
LDC	Rm,SGR	Rm → SGR	0100mmmm00111010	特権	—	新規
LDC	Rm,SSR	Rm → SSR	0100mmmm00111110	特権	—	—
LDC	Rm,SPC	Rm → SPC	0100mmmm01001110	特権	—	—
LDC	Rm,DBR	Rm → DBR	0100mmmm11111010	特権	—	—
LDC	Rm, Rn_BANK	Rm → Rn_BANK (n = 0 to 7)	0100mmmm1nnn1110	特権	—	—
LDC.L	@Rm+,SR	(Rm) → SR, Rm + 4 → Rm	0100mmmm00000111	特権	LSB	—
LDC.L	@Rm+,GBR	(Rm) → GBR, Rm + 4 → Rm	0100mmmm00010111	—	—	—
LDC.L	@Rm+,VBR	(Rm) → VBR, Rm + 4 → Rm	0100mmmm00100111	特権	—	—
LDC.L	@Rm+,SGR	(Rm) → SGR, Rm + 4 → Rm	0100mmmm00110110	特権	—	新規
LDC.L	@Rm+,SSR	(Rm) → SSR, Rm + 4 → Rm	0100mmmm00110111	特権	—	—
LDC.L	@Rm+,SPC	(Rm) → SPC, Rm + 4 → Rm	0100mmmm01000111	特権	—	—
LDC.L	@Rm+,DBR	(Rm) → DBR, Rm + 4 → Rm	0100mmmm11110110	特権	—	—
LDC.L	@Rm+,Rn_BANK	(Rm) → Rn_BANK, Rm + 4 → Rm	0100mmmm1nnn0111	特権	—	—

命令		動作	命令コード	特権	T ビット	新規
LDS	Rm,MACH	Rm → MACH	0100mmmm00001010	—	—	—
LDS	Rm,MACL	Rm → MACL	0100mmmm00011010	—	—	—
LDS	Rm,PR	Rm → PR	0100mmmm00101010	—	—	—
LDS.L	@Rm+,MACH	(Rm) → MACH, Rm + 4 → Rm	0100mmmm00000110	—	—	—
LDS.L	@Rm+,MACL	(Rm) → MACL, Rm + 4 → Rm	0100mmmm00010110	—	—	—
LDS.L	@Rm+,PR	(Rm) → PR, Rm + 4 → Rm	0100mmmm00100110	—	—	—
LDTLB		PTEH/PTEL (/PTEA) → TLB	0000000000111000	特権	—	—
MOVCA.L	R0,@Rn	R0 → (Rn) (without fetching cache block)	0000nnnn11000011	—	—	—
NOP		No operation	0000000000001001	—	—	—
OCBI	@Rn	Invalidates operand cache block	0000nnnn10010011	—	—	—
OCBP	@Rn	Writes back and invalidates operand cache block	0000nnnn10100011	—	—	—
OCBWB	@Rn	Writes back operand cache block	0000nnnn10110011	—	—	—
PREF	@Rn	(Rn) → operand cache	0000nnnn10000011	—	—	—
PREFI	@Rn	Reads 32-byte instruction block into instruction cache	0000nnnn11010011	—	—	新規
RTE		Delayed branch, SSR/SPC → SR/PC	0000000000101011	特権	—	—
SETS		1 → S	0000000001011000	—	—	—
SETT		1 → T	0000000000011000	—	1	—
SLEEP		Sleep or standby	0000000000011011	特権	—	—
STC	SR,Rn	SR → Rn	0000nnnn00000010	特権	—	—
STC	GBR,Rn	GBR → Rn	0000nnnn00010010	—	—	—
STC	VBR,Rn	VBR → Rn	0000nnnn00100010	特権	—	—
STC	SSR,Rn	SSR → Rn	0000nnnn00110010	特権	—	—
STC	SPC,Rn	SPC → Rn	0000nnnn01000010	特権	—	—
STC	SGR,Rn	SGR → Rn	0000nnnn00111010	特権	—	—
STC	DBR,Rn	DBR → Rn	0000nnnn11111010	特権	—	—
STC	Rm_BANK,Rn	Rm_BANK → Rn (m = 0 to 7)	0000nnnn1mmm0010	特権	—	—
STC.L	SR,@-Rn	Rn – 4 → Rn, SR → (Rn)	0100nnnn00000011	特権	—	—
STC.L	GBR,@-Rn	Rn – 4 → Rn, GBR → (Rn)	0100nnnn00010011	—	—	—
STC.L	VBR,@-Rn	Rn – 4 → Rn, VBR → (Rn)	0100nnnn00100011	特権	—	—
STC.L	SSR,@-Rn	Rn – 4 → Rn, SSR → (Rn)	0100nnnn00110011	特権	—	—
STC.L	SPC,@-Rn	Rn – 4 → Rn, SPC → (Rn)	0100nnnn01000011	特権	—	—
STC.L	SGR,@-Rn	Rn – 4 → Rn, SGR → (Rn)	0100nnnn00110010	特権	—	—
STC.L	DBR,@-Rn	Rn – 4 → Rn, DBR → (Rn)	0100nnnn11110010	特権	—	—
STC.L	Rm_BANK,@-Rn	Rn – 4 → Rn, Rm_BANK → (Rn) (m = 0 to 7)	0100nnnn1mmm0011	特権	—	—
STS	MACH,Rn	MACH → Rn	0000nnnn00001010	—	—	—
STS	MACL,Rn	MACL → Rn	0000nnnn00011010	—	—	—
STS	PR,Rn	PR → Rn	0000nnnn00101010	—	—	—
STS.L	MACH,@-Rn	Rn – 4 → Rn, MACH → (Rn)	0100nnnn00000010	—	—	—
STS.L	MACL,@-Rn	Rn – 4 → Rn, MACL → (Rn)	0100nnnn00010010	—	—	—
STS.L	PR,@-Rn	Rn – 4 → Rn, PR → (Rn)	0100nnnn00100010	—	—	—

命令	動作	命令コード	特権	T ビット	新規
SYNCO	本命令に先行するデータアクセスの完了まで、本命令以降の命令によるデータアクセスを開始しません	0000000010101011	—	—	新規
TRAPA #imm	PC + 2 → SPC, SR → SSR, R15 → SGR, 1 → SR.MD/BL/RB, #imm << 2 → TRA, H'160 → EXPEVT, VBR + H'0100 → PC	11000011iiiiiiii	—	—	—

表3.10 浮動小数点単精度命令

命令		動作	命令コード	特権	T ビット	新規
FLDI0	FRn	H'0000 0000 → FRn	1111nnnn10001101	—	—	—
FLDI1	FRn	H'3F80 0000 → FRn	1111nnnn10011101	—	—	—
FMOV	FRm,FRn	FRm → FRn	1111nnnnmmmm1100	—	—	—
FMOV.S	@Rm,FRn	(Rm) → FRn	1111nnnnmmmm1000	—	—	—
FMOV.S	@(R0,Rm),FRn	(R0 + Rm) → FRn	1111nnnnmmmm0110	—	—	—
FMOV.S	@Rm+,FRn	(Rm) → FRn, Rm + 4 → Rm	1111nnnnmmmm1001	—	—	—
FMOV.S	FRm,@Rn	FRm → (Rn)	1111nnnnmmmm1010	—	—	—
FMOV.S	FRm,@-Rn	Rn-4 → Rn, FRm → (Rn)	1111nnnnmmmm1011	—	—	—
FMOV.S	FRm,@(R0,Rn)	FRm → (R0 + Rn)	1111nnnnmmmm0111	—	—	—
FMOV	DRm,DRn	DRm → DRn	1111nnn0mmm01100	—	—	—
FMOV	@Rm,DRn	(Rm) → DRn	1111nnn0mmmm1000	—	—	—
FMOV	@(R0,Rm),DRn	(R0 + Rm) → DRn	1111nnn0mmmm0110	—	—	—
FMOV	@Rm+,DRn	(Rm) → DRn, Rm + 8 → Rm	1111nnn0mmmm1001	—	—	—
FMOV	DRm,@Rn	DRm → (Rn)	1111nnnnmmm01010	—	—	—
FMOV	DRm,@-Rn	Rn-8 → Rn, DRm → (Rn)	1111nnnnmmm01011	—	—	—
FMOV	DRm,@(R0,Rn)	DRm → (R0 + Rn)	1111nnnnmmm00111	—	—	—
FLDS	FRm,FPUL	FRm → FPUL	1111mmmm00011101	—	—	—
FSTS	FPUL,FRn	FPUL → FRn	1111nnnn00001101	—	—	—
FABS	FRn	FRn & H'7FFF FFFF → FRn	1111nnnn01011101	—	—	—
FADD	FRm,FRn	FRn + FRm → FRn	1111nnnnmmmm0000	—	—	—
FCMP/EQ	FRm,FRn	When FRn = FRm, 1 → T Otherwise, 0 → T	1111nnnnmmmm0100	—	比較結果	—
FCMP/GT	FRm,FRn	When FRn > FRm, 1 → T Otherwise, 0 → T	1111nnnnmmmm0101	—	比較結果	—
FDIV	FRm,FRn	FRn/FRm → FRn	1111nnnnmmmm0011	—	—	—
FLOAT	FPUL,FRn	(float) FPUL → FRn	1111nnnn00101101	—	—	—
FMAC	FR0,FRm,FRn	FR0 × FRm + FRn → FRn	1111nnnnmmmm1110	—	—	—
FMUL	FRm,FRn	FRn × FRm → FRn	1111nnnnmmmm0010	—	—	—
FNEG	FRn	FRn ∧ H'8000 0000 → FRn	1111nnnn01001101	—	—	—
FSQRT	FRn	√FRn → FRn	1111nnnn01101101	—	—	—
FSUB	FRm,FRn	FRn – FRm → FRn	1111nnnnmmmm0001	—	—	—
FTRC	FRm,FPUL	(long) FRm → FPUL	1111mmmm00111101	—	—	—

表3.11 浮動小数点倍精度命令

命令		動作	命令コード	特権	T ビット	新規
FABS	DRn	DRn & H'7FFF FFFF FFFF FFFF → DRn	1111nnn001011101	—	—	—
FADD	DRm,DRn	DRn + DRm → DRn	1111nnn0mmm00000	—	—	—
FCMP/EQ	DRm,DRn	When DRn = DRm, 1 → T Otherwise, 0 → T	1111nnn0mmm00100	—	比較結果	—
FCMP/GT	DRm,DRn	When DRn > DRm, 1 → T Otherwise, 0 → T	1111nnn0mmm00101	—	比較結果	—
FDIV	DRm,DRn	DRn /DRm → DRn	1111nnn0mmm00011	—	—	—
FCNVDS	DRm,FPUL	double_to_ float(DRm) → FPUL	1111mmm010111101	—	—	—
FCNVSD	FPUL,DRn	float_to_ double (FPUL) → DRn	1111nnn010101101	—	—	—
FLOAT	FPUL,DRn	(float)FPUL → DRn	1111nnn000101101	—	—	—
FMUL	DRm,DRn	DRn × DRm → DRn	1111nnn0mmm00010	—	—	—
FNEG	DRn	DRn ^ H'8000 0000 0000 0000 → DRn	1111nnn001001101	—	—	—
FSQRT	DRn	√DRn → DRn	1111nnn001101101	—	—	—
FSUB	DRm,DRn	DRn – DRm → DRn	1111nnn0mmm00001	—	—	—
FTRC	DRm,FPUL	(long) DRm → FPUL	1111mmm000111101	—	—	—

表3.12 浮動小数点制御命令

命令		動作	命令コード	特権	T ビット	新規
LDS	Rm,FPSCR	Rm → FPSCR	0100mmmm01101010	—	—	—
LDS	Rm,FPUL	Rm → FPUL	0100mmmm01011010	—	—	—
LDS.L	@Rm+,FPSCR	(Rm) → FPSCR, Rm+4 → Rm	0100mmmm01100110	—	—	—
LDS.L	@Rm+,FPUL	(Rm) → FPUL, Rm+4 → Rm	0100mmmm01010110	—	—	—
STS	FPSCR,Rn	FPSCR → Rn	0000nnnn01101010	—	—	—
STS	FPUL,Rn	FPUL → Rn	0000nnnn01011010	—	—	—
STS.L	FPSCR,@-Rn	Rn – 4 → Rn, FPSCR → (Rn)	0100nnnn01100010	—	—	—
STS.L	FPUL,@-Rn	Rn – 4 → Rn, FPUL → (Rn)	0100nnnn01010010	—	—	—

表3.13 浮動小数点グラフィック強化命令

命令		動作	命令コード	特権	T ビット	新規
FMOV	DRm,XDn	DRm → XDn	1111nnn1mmm01100	—	—	—
FMOV	XDm,DRn	XDm → DRn	1111nnn0mmm11100	—	—	—
FMOV	XDm,XDn	XDm → XDn	1111nnn1mmm11100	—	—	—
FMOV	@Rm,XDn	(Rm) → XDn	1111nnn1mmmm1000	—	—	—
FMOV	@Rm+,XDn	(Rm) → XDn, Rm + 8 → Rm	1111nnn1mmmm1001	—	—	—
FMOV	@(R0,Rm),XDn	(R0 + Rm) → XDn	1111nnn1mmmm0110	—	—	—
FMOV	XDm,@Rn	XDm → (Rn)	1111nnnnmmm11010	—	—	—
FMOV	XDm,@-Rn	Rn – 8 → Rn, XDm → (Rn)	1111nnnnmmm11011	—	—	—
FMOV	XDm,@(R0,Rn)	XDm → (R0 + Rn)	1111nnnnmmm10111	—	—	—
FIPR	FVm,FVn	inner_product (FVm, FVn) → FR[n+3]	1111nnmm11101101	—	—	—
FTRV	XMTRX,FVn	transform_vector (XMTRX, FVn) → FVn	1111nn0111111101	—	—	—
FRCHG		~FPSCR.FR → FPSCR.FR	1111101111111101	—	—	—
FSCHG		~FPSCR.SZ → FPSCR.SZ	1111001111111101	—	—	—
FPCHG		~FPSCR.PR → FPSCR.PR	1111011111111101	—	—	新規
FSRRA	FRn	√FRn → FRn	1111nnnn01111101	—	—	新規
FSCA	FPUL,DRn	sin(FPUL) → FRn cos(FPUL) → FR[n + 1]	1111nnn011111101	—	—	新規

4. パイプライン動作

本LSIは2命令並列型（2-ILP, Instruction-Level-Parallelism）のスーパスカラパイプライン処理マイクロプロセッサです。命令実行はパイプライン化され、2つの命令を並行して実行できます。

4.1 パイプライン

図4.1に基本パイプラインを示します。通常、パイプラインは命令フェッチ（I1、I2、I3）、デコード・レジスタリード（ID）、実行（E1、E2、E3）、ライトバック（WB）の8ステージから構成されます。1つの命令は基本パイプラインの組み合わせとして実行されます。

図 4.1　基本パイプライン

図4.2 に命令実行パターンを示します。図4.2 で使用する表記とその意味を以下に示します。

表4.1　命令実行パターン表記説明

表 記	意 味
E1 E2 E3 WB	CPU EX パイプ占有
S1 S2 S3 WB	CPU LS パイプ占有（メモリアクセスを伴う場合）
s1 s2 s3 WB	CPU LS パイプ占有（メモリアクセスを伴わない場合）
E1/S1	CPU EX かLS のいずれか一方を占有
E1S1 , E1s1	CPU EX とLS の両方を占有
M2 M3 MS	CPU MULT 演算器占有
FE1 FE2 FE3 FE4 FE5 FE6 FS	FPU-EX パイプ占有
FS1 FS2 FS3 FS4 FS	FPU-LS パイプ占有
ID	ID ステージをロック
└──	CPU とFPU 両方のパイプを占有

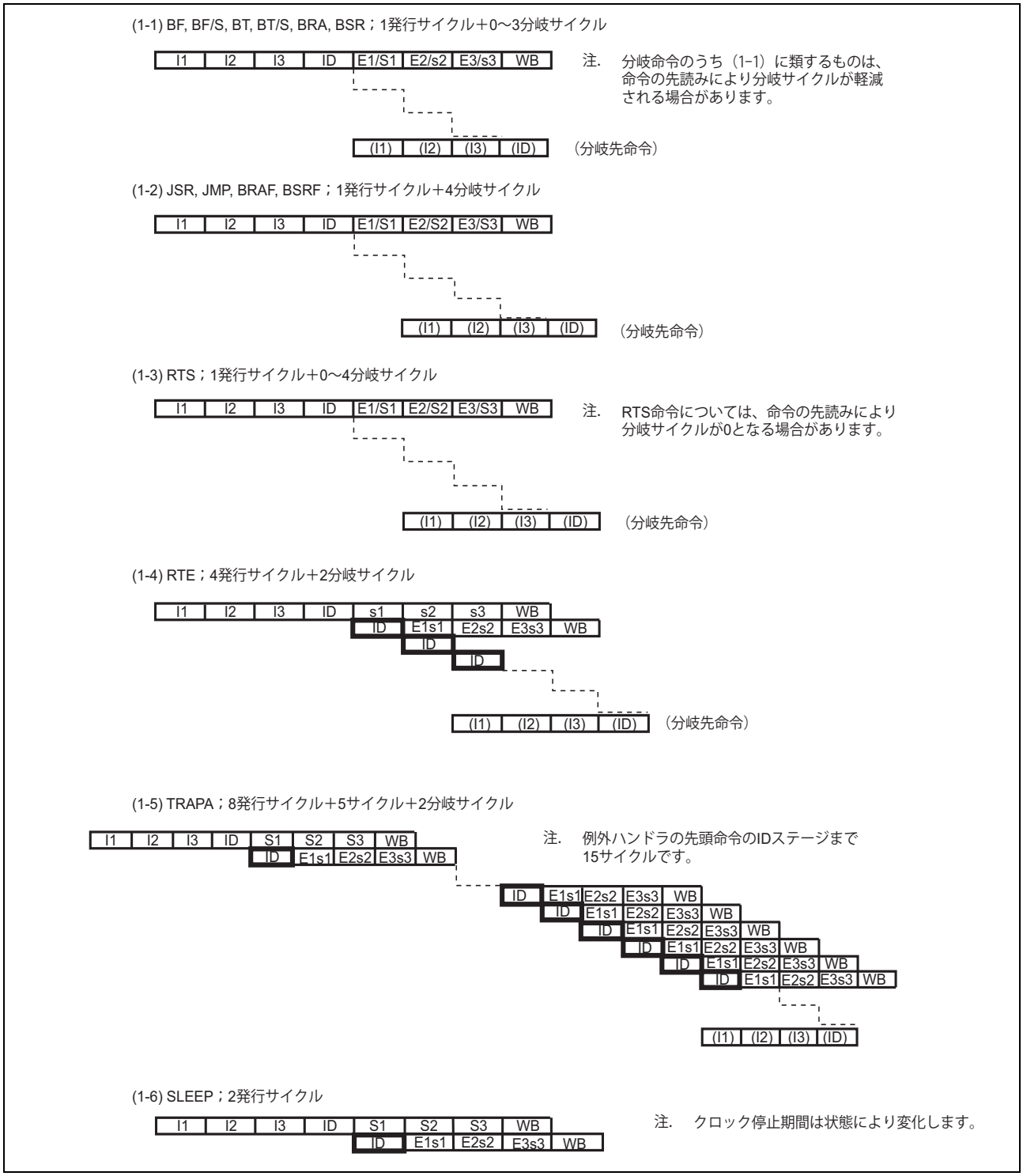


図 4.2　命令実行パターン（1）

(2-1) 1ステップ演算（EXタイプ）；1発行サイクル

EXT[SU].[BW]、 MOVT、 SWAP、 XTRCT、 ADD (注)、 CMP (注)、 DIV (注)、 DT、 NEG (注)、 SUB (注)、 AND、 AND#、
NOT、 OR、 OR#、 TST、 TST#、 XOR、 XOR#、 ROT (注)、 SHA (注)、 SHL (注)、 CLRS、 CLRT、 SETS、 SETT

注.　AND#、OR#、TST#、XOR#はGBR相対命令を除く

I1	I2	I3	ID	E1	E2	E3	WB

(2-2) 1ステップ演算（LSタイプ）；1発行サイクル

MOVA

I1	I2	I3	ID	s1	s2	s3	WB

(2-3) 1ステップ演算（MTタイプ）；1発行サイクル

MOV#、 NOP

I1	I2	I3	ID	E1/S1	E2/s2	E3/s3	WB

(2-4) MOV（MTタイプ）；1発行サイクル

MOV

I1	I2	I3	ID	E1/s1	E2/s2	E3/S3	WB

図 4.2　命令実行パターン（2）

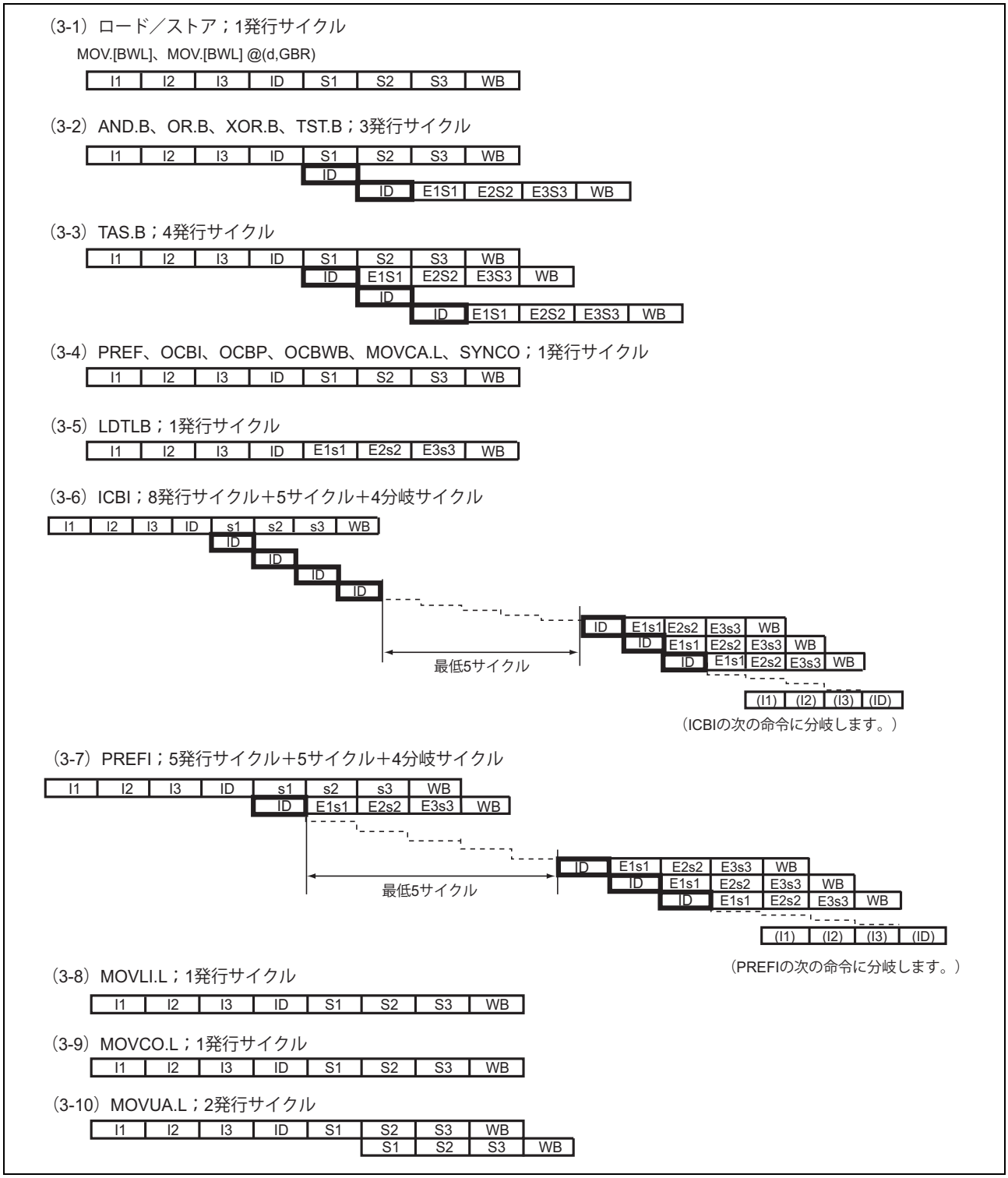


図 4.2　命令実行パターン（3）

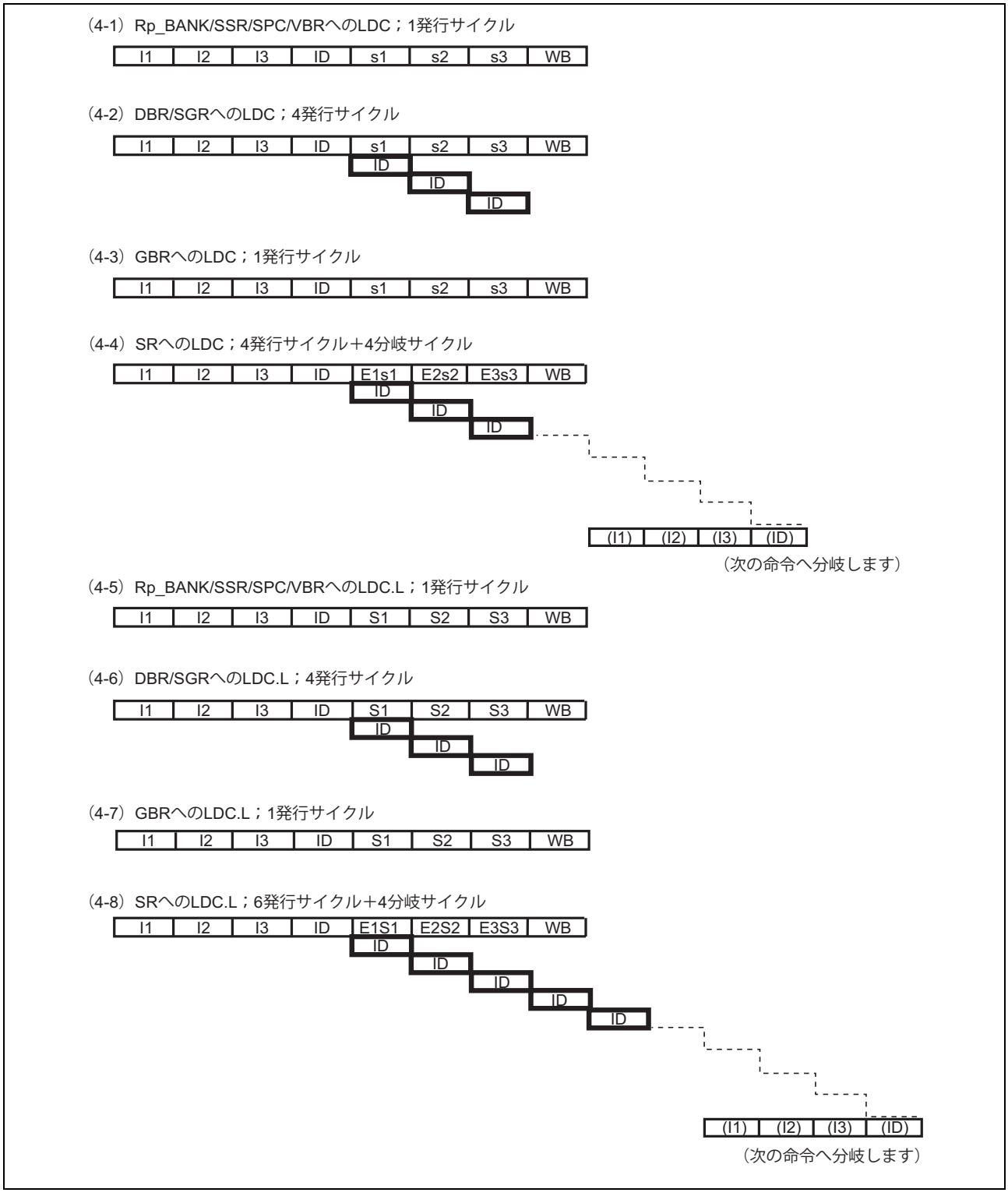


図 4.2 命令実行パターン（4）

（4-9）DBR/GBR/Rp_BANK/SSR/SPC/VBR/SGRからのSTC；1発行サイクル

I1	I2	I3	ID	s1	s2	s3	WB

（4-10）SRからのSTC；1発行サイクル

I1	I2	I3	ID	E1s1	E2s2	E3s3	WB

（4-11）DBR/GBR/Rp_BANK/SSR/SPC/VBR/SGRからのSTC.L；1発行サイクル

I1	I2	I3	ID	S1	S2	S3	WB

（4-12）SRからのSTC.L；1発行サイクル

I1	I2	I3	ID	E1S1	E2S2	E3S3	WB

（4-13）PRへのLDS；1発行サイクル

I1	I2	I3	ID	s1	s2	s3	WB

（4-14）PRへのLDS.L；1発行サイクル

I1	I2	I3	ID	S1	S2	S3	WB

（4-15）PRからのSTS；1発行サイクル

I1	I2	I3	ID	s1	s2	s3	WB

（4-16）PRからのSTS.L；1発行サイクル

I1	I2	I3	ID	S1	S2	S3	WB

（4-17）BSRF、BSR、JSRの遅延スロット命令（PRセット）；0発行サイクル

(I1)	(I2)	(I3)	(ID)	(??1)	(??2)	(??3)	(WB)

注. 遅延スロット命令のE3ステージでPRの値が更新されます。
遅延スロットにPRからのSTS、STS.L命令が使用されている場合、
更新されたPRの値が使用されます。

図 4.2　命令実行パターン（5）

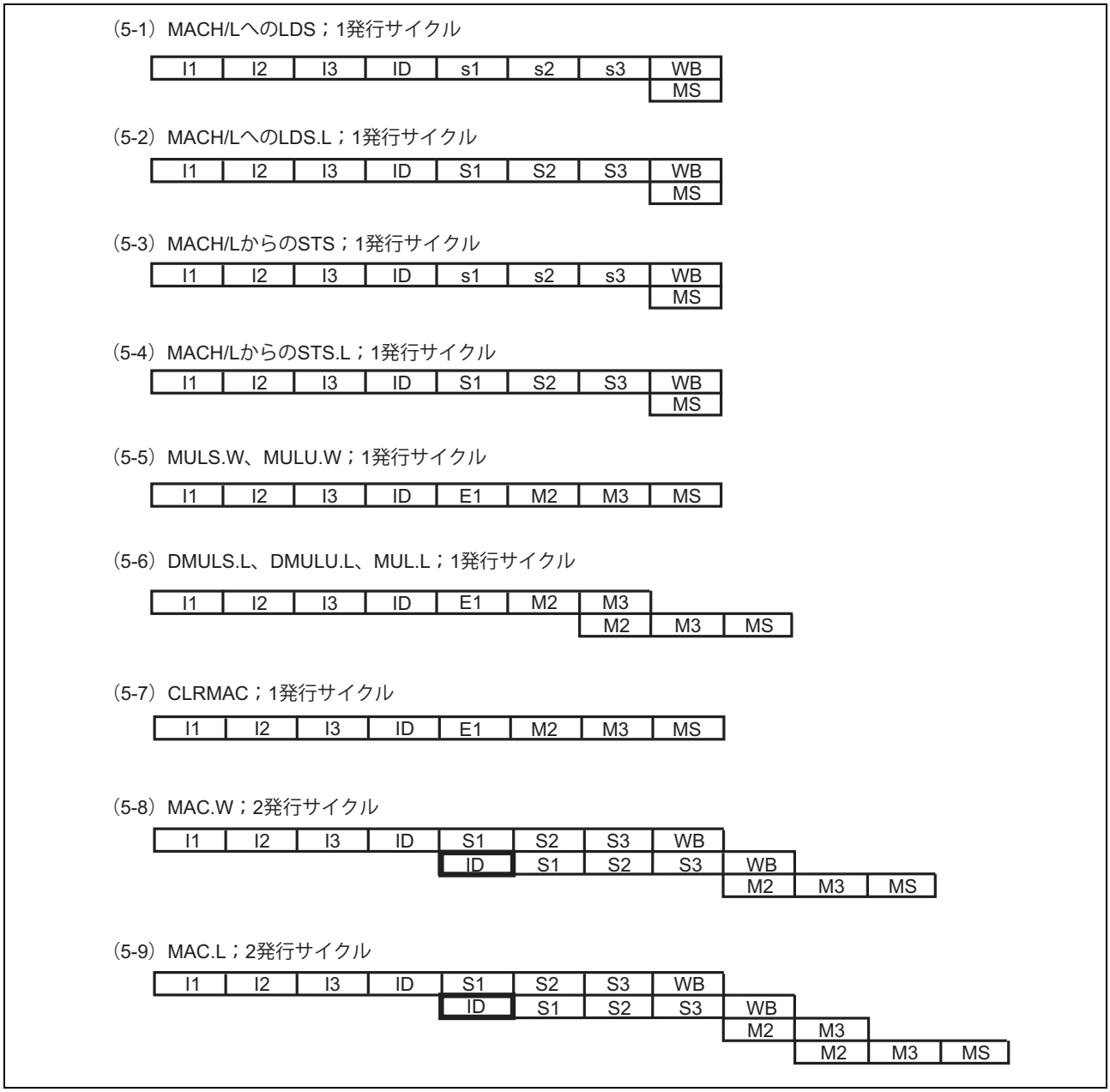


図 4.2　命令実行パターン（6）

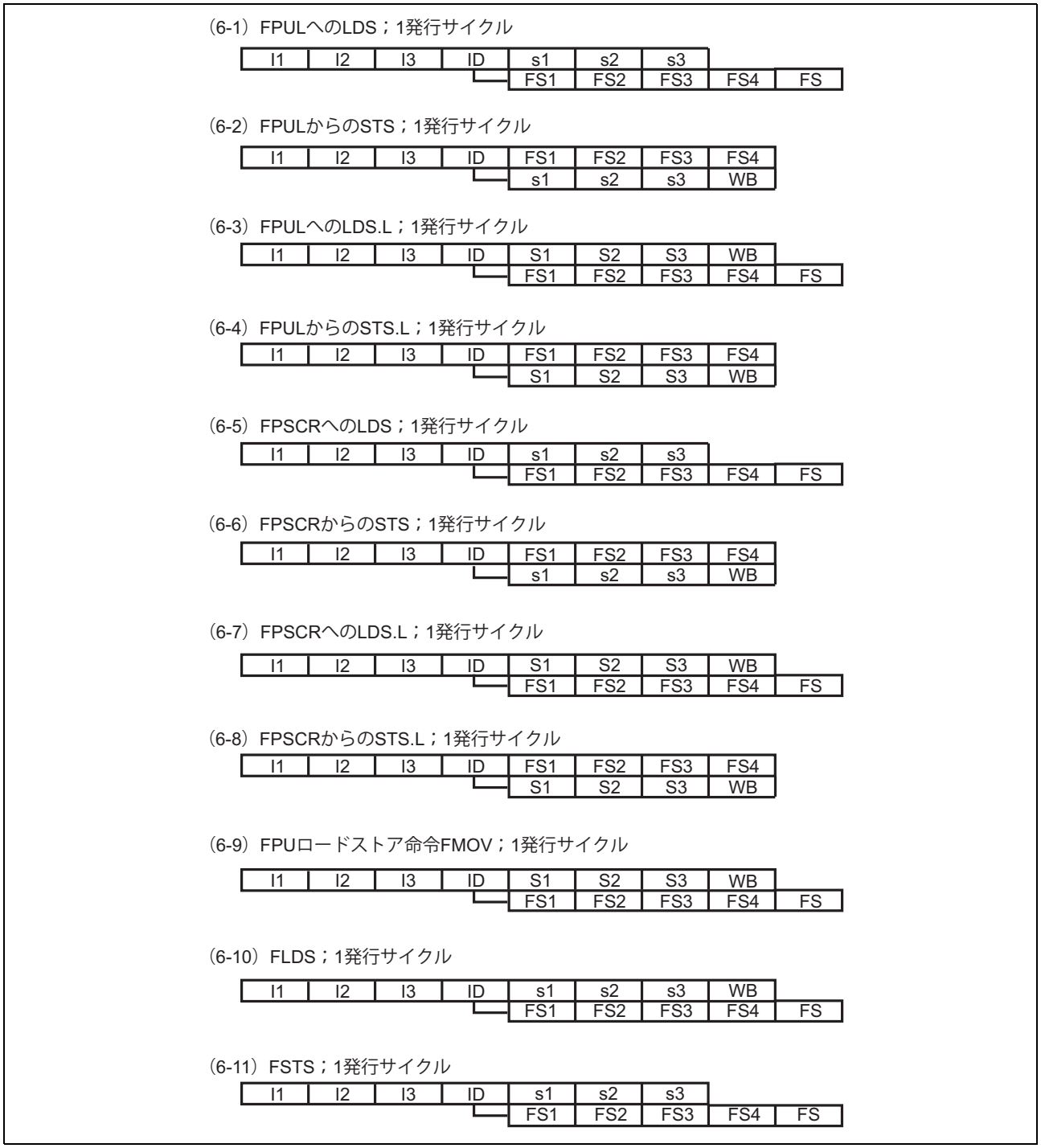


図 4.2 命令実行パターン（7）

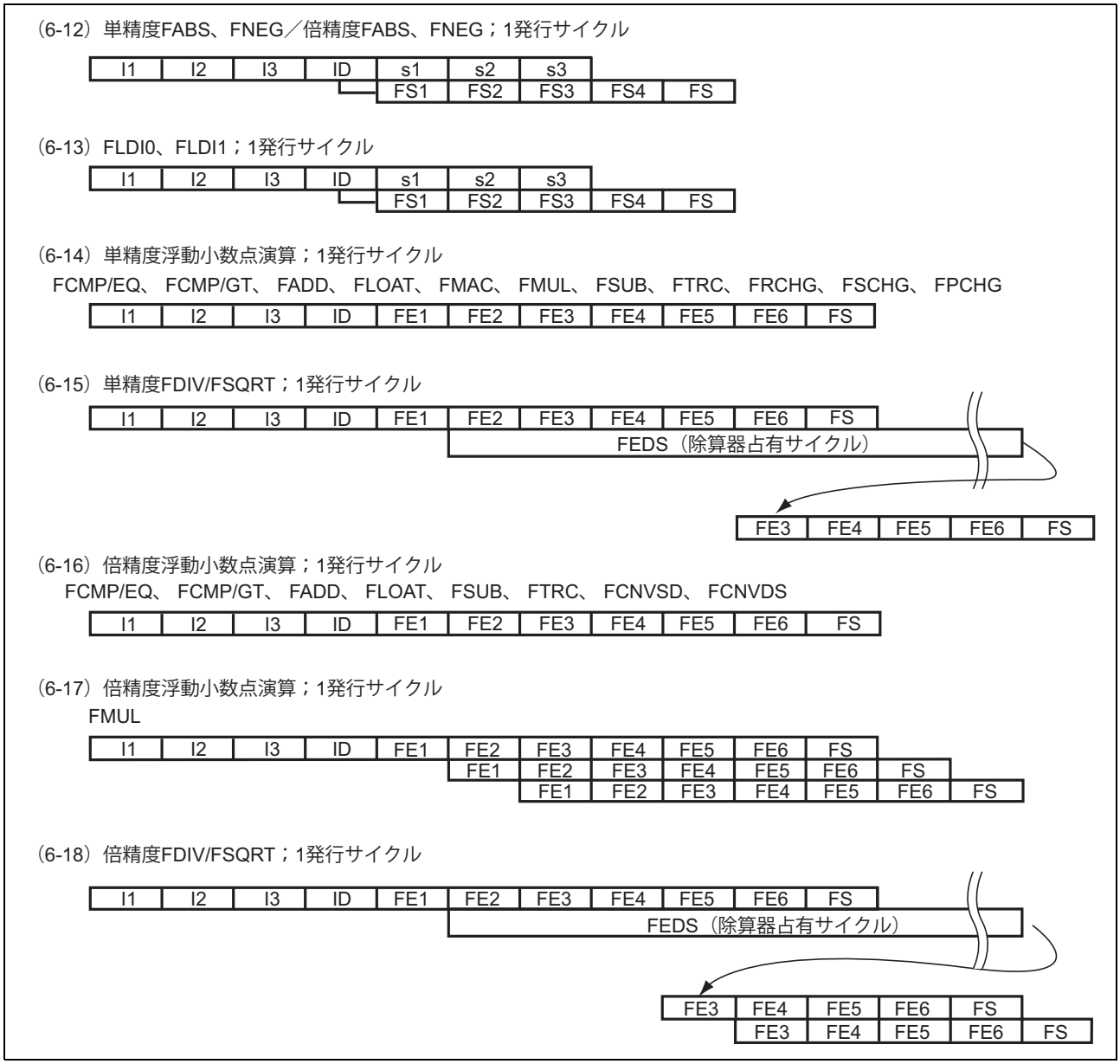


図 4.2　命令実行パターン（8）

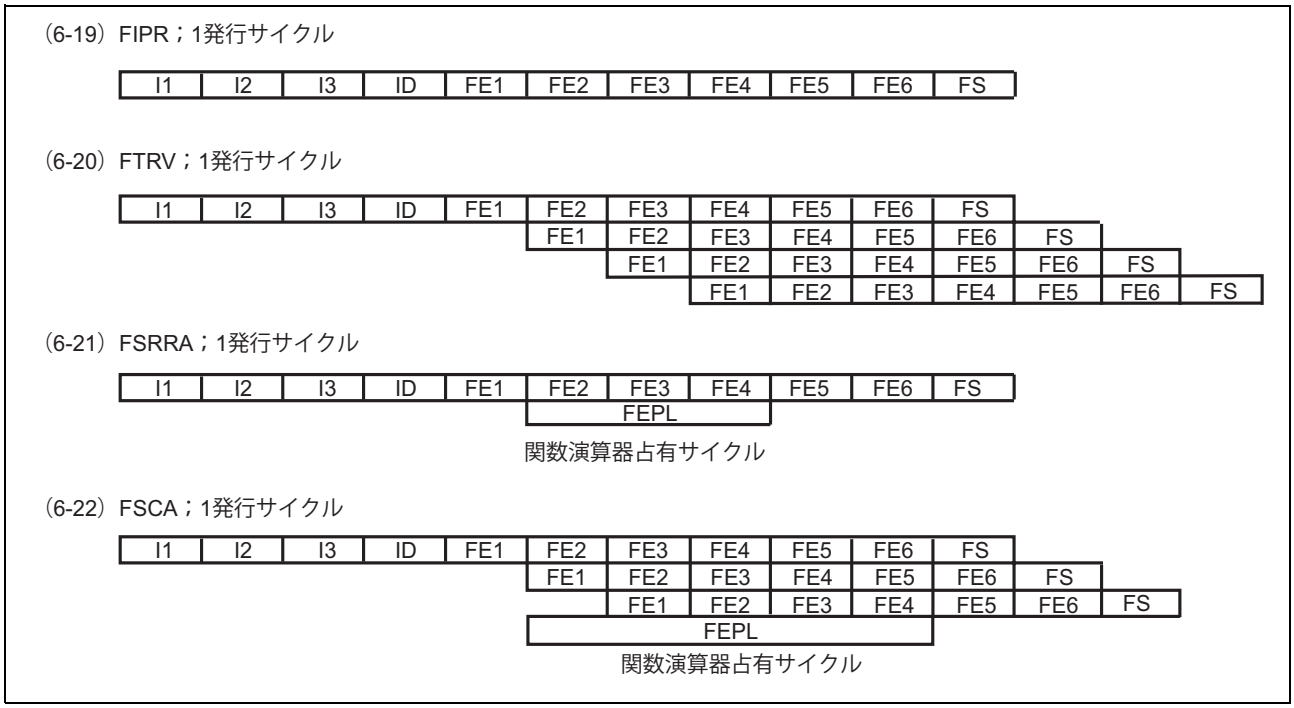


図 4.2 命令実行パターン（9）

4.2　並列実行性

命令は利用する内部機能ブロックにより、表4.2 に示すようなグループに分類されます。表4.3 に並列実行可能な 2 つの命令の組み合わせをグループごとに示します。たとえば、EX グループに分類された ADD と BR グループの BRA は並列実行できます。

表4.2　命令グループ

命令グループ	命 令			
EX	ADD ADDC ADDV AND #imm,R0 AND Rm,Rn CLRMAC CLRS CLRT CMP DIV0S DIV0U DIV1 DMUS.L DMULU.L	DT EXTS EXTU MOVT MUL.L MULS.W MULU.W NEG NEGC NOT OR #imm,R0 OR Rm,Rn ROTCL ROTCR	ROTL ROTR SETS SETT SHAD SHAL SHAR SHLD SHLL SHLL2 SHLL8 SHLL16 SHLR SHLR2	SHLR8 SHLR16 SUB SUBC SUBV SWAP TST #imm,R0 TST Rm,Rn XOR #imm,R0 XOR Rm,Rn XTRCT
MT	MOV #imm,Rn	MOV Rm,Rn	NOP	
BR	BF BF/S BRA	BRAF BSR BSRF	BT BT/S JMP	JSR RTS

LS	FABS
	FNEG
	FLDI0
	FLDI1
	FLDS
	FMOV @adr,FR
	FMOV FR,@adr
	FMOV FR,FR
	FMOV.S @adr,FR
		FMOV.S FR,@adr
		FSTS
		LDC Rm,CR1
		LDC.L @Rm+,CR1
		LDS Rm,SR1
		LDS Rm,SR2
		LDS.L @adr,SR2
		LDS.L @Rm+,SR1
		LDS.L @Rm+,SR2
			MOV.[BWL] @adr,R
			MOV.[BWL] R,@adr
			MOVA
			MOVCA.L
			MOVUA
			OCBI
			OCBP
			OCBWB
			PREF
				STC CR2,Rn
				STC.L CR2,@-Rn
				STS SR2,Rn
				STS.L SR2,@-Rn
				STS SR1,Rn
				STS.L SR1,@-Rn

FE	FADD FSUB FCMP (S/D) FCNVDS FCNVSD	FDIV FIPR FLOAT FMAC FMUL	FRCHG FSCHG FSQRT FTRC FTRV	FSCA FSRRA FPCHG

CO	AND.B #imm,@(R0,GBR)
	ICBI
	LDC Rm,DBR
	LDC Rm, SGR
	LDC Rm,SR
	LDC.L @Rm+,DBR
	LDC.L @Rm+,SGR
		LDC.L @Rm+,SR
		LDTLB
		MAC.L
		MAC.W
		MOVCO
		MOVLI
		OR.B #imm,@(R0,GBR)
			PREFI
			RTE
			SLEEP
			STC SR,Rn
			STC.L SR,@-Rn
			SYNCO
			TAS.B
				TRAPA
				TST.B #imm,@(R0,GBR)
				XOR.B #imm,@(R0,GBR)

記号説明.　R　：Rm/Rn
@adr　：アドレス
SR1　：MACH/MACL/PR
SR2　：FPUL/FPSCR
CR1　：GBR/Rp_BANK/SPC/SSR/VBR
CR2　：CR1/DBR/SGR
FR　：FRm/FRn/DRm/DRn/XDm/XDn

2 命令の同時実行は次の場合に限ります。

1. addr（先行）とaddr+2（後行）の2命令で1Kバイト（最小のページサイズ）をまたがないこと
2. 表4.3（先行・後行掛け合わせ表）で同時実行可能である（○となっている）こと
3. addrにある命令がそれ以前の命令とデータコンフリクトがないこと
4. addr+2にある命令がそれ以前の命令とデータコンフリクトがないこと
5. 2命令とも有効であること

表4.3　先行・後行掛け合わせ表

		先行命令（addr）					
		EX	MT	BR	LS	FE	CO
後行命令（addr+2）	EX	×	○	○	○	○	
	MT	○	○	○	○	○	
	BR	○	○	×	○	○	
	LS	○	○	○	×	○	
	FE	○	○	○	○	×	
	CO						×

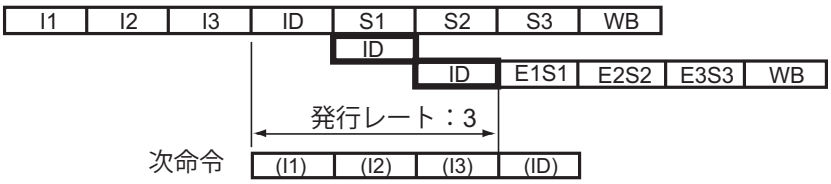
4.3　発行レートと実行ステート

命令の発行レートと実行ステートを表4.4に示します。表4.4中の命令グループは表4.2における分類に対応します。また、本節に示す発行レートと実行ステートでは、パイプラインストールによるペナルティサイクルは考慮していません。

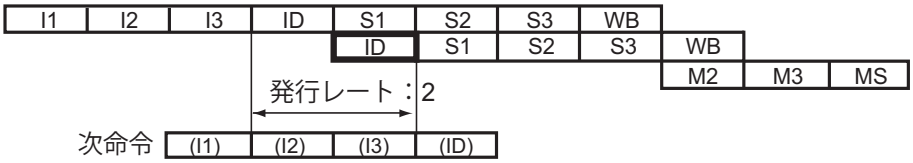
(1) 発行レート

発行レートは、命令の発行と次の命令の発行の間隔を示します。

(例) AND.B命令



(例) MAC.W命令

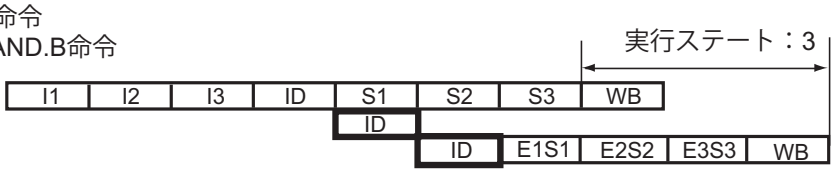


(2) 実行ステート

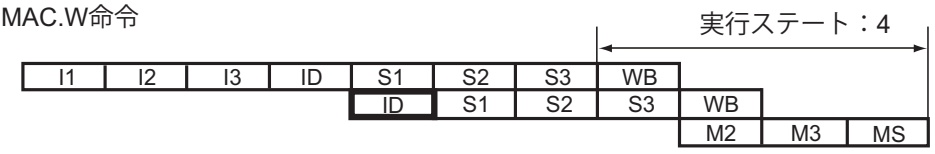
実行ステートは、命令がパイプラインを占有するサイクル数を次の基準で示します。

・CPU命令

(例) AND.B命令

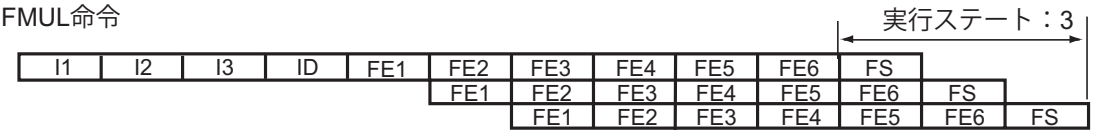


(例) MAC.W命令



・FPU命令

(例) FMUL命令



(例) FDIV命令

表4.4 発行レートと実行ステート

機能分類	No.	命令		命令グループ	発行レート	実行ステート	実行パターン
データ転送命令	1	EXTS.B	Rm,Rn	EX	1	1	2-1
	2	EXTS.W	Rm,Rn	EX	1	1	2-1
	3	EXTU.B	Rm,Rn	EX	1	1	2-1
	4	EXTU.W	Rm,Rn	EX	1	1	2-1
	5	MOV	Rm,Rn	MT	1	1	2-4
	6	MOV	#imm,Rn	MT	1	1	2-3
	7	MOVA	@(disp,PC),R0	LS	1	1	2-2
	8	MOV.W	@(disp,PC),Rn	LS	1	1	3-1
	9	MOV.L	@(disp,PC),Rn	LS	1	1	3-1
	10	MOV.B	@Rm,Rn	LS	1	1	3-1
	11	MOV.W	@Rm,Rn	LS	1	1	3-1
	12	MOV.L	@Rm,Rn	LS	1	1	3-1
	13	MOV.B	@Rm+,Rn	LS	1	1	3-1
	14	MOV.W	@Rm+,Rn	LS	1	1	3-1
	15	MOV.L	@Rm+,Rn	LS	1	1	3-1
	16	MOV.B	@(disp,Rm),R0	LS	1	1	3-1
	17	MOV.W	@(disp,Rm),R0	LS	1	1	3-1
	18	MOV.L	@(disp,Rm),Rn	LS	1	1	3-1
	19	MOV.B	@(R0,Rm),Rn	LS	1	1	3-1
	20	MOV.W	@(R0,Rm),Rn	LS	1	1	3-1
	21	MOV.L	@(R0,Rm),Rn	LS	1	1	3-1
	22	MOV.B	@(disp,GBR),R0	LS	1	1	3-1
	23	MOV.W	@(disp, GBR),R0	LS	1	1	3-1
	24	MOV.L	@(disp, GBR),R0	LS	1	1	3-1
	25	MOV.B	Rm,@Rn	LS	1	1	3-1
	26	MOV.W	Rm,@Rn	LS	1	1	3-1
	27	MOV.L	Rm,@Rn	LS	1	1	3-1
	28	MOV.B	Rm,@-Rn	LS	1	1	3-1
	29	MOV.W	Rm,@-Rn	LS	1	1	3-1
	30	MOV.L	Rm,@-Rn	LS	1	1	3-1
	31	MOV.B	R0,@(disp,Rn)	LS	1	1	3-1
	32	MOV.W	R0,@(disp,Rn)	LS	1	1	3-1
	33	MOV.L	Rm,@(disp,Rn)	LS	1	1	3-1
	34	MOV.B	Rm,@(R0,Rn)	LS	1	1	3-1
	35	MOV.W	Rm,@(R0,Rn)	LS	1	1	3-1
	36	MOV.L	Rm,@(R0,Rn)	LS	1	1	3-1
	37	MOV.B	R0,@(disp,GBR)	LS	1	1	3-1

機能分類	No.	命令		命令グループ	発行レート	実行ステート	実行パターン
データ転送命令	38	MOV.W	R0,@(disp,GBR)	LS	1	1	3-1
	39	MOV.L	R0,@(disp,GBR)	LS	1	1	3-1
	40	MOVCA.L	R0,@Rn	LS	1	1	3-4
	41	MOVCO.L	R0,@Rn	CO	1	1	3-9
	42	MOVLI.L	@Rm,R0	CO	1	1	3-8
	43	MOVUA.L	@Rm,R0	LS	2	2	3-10
	44	MOVUA.L	@Rm+,R0	LS	2	2	3-10
	45	MOVT	Rn	EX	1	1	2-1
	46	OCBI	@Rn	LS	1	1	3-4
	47	OCBP	@Rn	LS	1	1	3-4
	48	OCBWB	@Rn	LS	1	1	3-4
	49	PREF	@Rn	LS	1	1	3-4
	50	SWAP.B	Rm,Rn	EX	1	1	2-1
	51	SWAP.W	Rm,Rn	EX	1	1	2-1
	52	XTRCT	Rm,Rn	EX	1	1	2-1
固定小数点算術命令	53	ADD	Rm,Rn	EX	1	1	2-1
	54	ADD	#imm,Rn	EX	1	1	2-1
	55	ADDC	Rm,Rn	EX	1	1	2-1
	56	ADDV	Rm,Rn	EX	1	1	2-1
	57	CMP/EQ	#imm,R0	EX	1	1	2-1
	58	CMP/EQ	Rm,Rn	EX	1	1	2-1
	59	CMP/GE	Rm,Rn	EX	1	1	2-1
	60	CMP/GT	Rm,Rn	EX	1	1	2-1
	61	CMP/HI	Rm,Rn	EX	1	1	2-1
	62	CMP/HS	Rm,Rn	EX	1	1	2-1
	63	CMP/PL	Rn	EX	1	1	2-1
	64	CMP/PZ	Rn	EX	1	1	2-1
	65	CMP/STR	Rm,Rn	EX	1	1	2-1
	66	DIV0S	Rm,Rn	EX	1	1	2-1
	67	DIV0U		EX	1	1	2-1
	68	DIV1	Rm,Rn	EX	1	1	2-1
	69	DMULS.L	Rm,Rn	EX	1	2	5-6
	70	DMULU.L	Rm,Rn	EX	1	2	5-6
	71	DT	Rn	EX	1	1	2-1
	72	MAC.L	@Rm+,@Rn+	CO	2	5	5-9
	73	MAC.W	@Rm+,@Rn+	CO	2	4	5-8
	74	MUL.L	Rm,Rn	EX	1	2	5-6

機能分類	No.	命令		命令グループ	発行レート	実行ステート	実行パターン
固定小数点算術命令	75	MULS.W	Rm,Rn	EX	1	1	5-5
	76	MULU.W	Rm,Rn	EX	1	1	5-5
	77	NEG	Rm,Rn	EX	1	1	2-1
	78	NEGC	Rm,Rn	EX	1	1	2-1
	79	SUB	Rm,Rn	EX	1	1	2-1
	80	SUBC	Rm,Rn	EX	1	1	2-1
	81	SUBV	Rm,Rn	EX	1	1	2-1
論理命令	82	AND	Rm,Rn	EX	1	1	2-1
	83	AND	#imm,R0	EX	1	1	2-1
	84	AND.B	#imm,@(R0,GBR)	CO	3	3	3-2
	85	NOT	Rm,Rn	EX	1	1	2-1
	86	OR	Rm,Rn	EX	1	1	2-1
	87	OR	#imm,R0	EX	1	1	2-1
	88	OR.B	#imm,@(R0,GBR)	CO	3	3	3-2
	89	TAS.B	@Rn	CO	4	4	3-3
	90	TST	Rm,Rn	EX	1	1	2-1
	91	TST	#imm,R0	EX	1	1	2-1
	92	TST.B	#imm,@(R0,GBR)	CO	3	3	3-2
	93	XOR	Rm,Rn	EX	1	1	2-1
	94	XOR	#imm,R0	EX	1	1	2-1
	95	XOR.B	#imm,@(R0,GBR)	CO	3	3	3-2
シフト命令	96	ROTL	Rn	EX	1	1	2-1
	97	ROTR	Rn	EX	1	1	2-1
	98	ROTCL	Rn	EX	1	1	2-1
	99	ROTCR	Rn	EX	1	1	2-1
	100	SHAD	Rm,Rn	EX	1	1	2-1
	101	SHAL	Rn	EX	1	1	2-1
	102	SHAR	Rn	EX	1	1	2-1
	103	SHLD	Rm,Rn	EX	1	1	2-1
	104	SHLL	Rn	EX	1	1	2-1
	105	SHLL2	Rn	EX	1	1	2-1
	106	SHLL8	Rn	EX	1	1	2-1
	107	SHLL16	Rn	EX	1	1	2-1
	108	SHLR	Rn	EX	1	1	2-1
	109	SHLR2	Rn	EX	1	1	2-1
	110	SHLR8	Rn	EX	1	1	2-1
	111	SHLR16	Rn	EX	1	1	2-1

機能分類	No.	命令		命令グループ	発行レート	実行ステート	実行パターン
分岐命令	112	BF	disp	BR	1+0 ～ 2	1	1-1
	113	BF/S	disp	BR	1+0 ～ 2	1	1-1
	114	BT	disp	BR	1+0 ～ 2	1	1-1
	115	BT/S	disp	BR	1+0 ～ 2	1	1-1
	116	BRA	disp	BR	1+0 ～ 2	1	1-1
	117	BRAF	Rm	BR	1+3	1	1-2
	118	BSR	disp	BR	1+0 ～ 2	1	1-1
	119	BSRF	Rm	BR	1+3	1	1-2
	120	JMP	@Rn	BR	1+3	1	1-2
	121	JSR	@Rn	BR	1+3	1	1-2
	122	RTS		BR	1+0 ～ 3	1	1-3
システム制御命令	123	NOP		MT	1	1	2-3
	124	CLRMAC		EX	1	1	5-7
	125	CLRS		EX	1	1	2-1
	126	CLRT		EX	1	1	2-1
	127	ICBI	@Rn	CO	8+5+3	13	3-6
	128	SETS		EX	1	1	2-1
	129	SETT		EX	1	1	2-1
	130	PREFI	@Rn	CO	5+5+3	10	3-7
	131	SYNCO		CO	不定	不定	3-4
	132	TRAPA	#imm	CO	8+5+1	13	1-5
	133	RTE		CO	4+1	4	1-4
	134	SLEEP		CO	不定	不定	1-6
	135	LDTLB		CO	1	1	3-5
	136	LDC	Rm,DBR	CO	4	4	4-2
	137	LDC	Rm,SGR	CO	4	4	4-2
	138	LDC	Rm,GBR	LS	1	1	4-3
	139	LDC	Rm,Rp_BANK	LS	1	1	4-1
	140	LDC	Rm,SR	CO	4+3	4	4-4
	141	LDC	Rm,SSR	LS	1	1	4-1
	142	LDC	Rm,SPC	LS	1	1	4-1
	143	LDC	Rm,VBR	LS	1	1	4-1
	144	LDC.L	@Rm+,DBR	CO	4	4	4-6
	145	LDC.L	@Rm+,SGR	CO	4	4	4-6

機能分類	No.	命令		命令グループ	発行レート	実行ステート	実行パターン
システム制御命令	146	LDC.L	@Rm+,GBR	LS	1	1	4-7
	147	LDC.L	@Rm+,Rp_BANK	LS	1	1	4-5
	148	LDC.L	@Rm+,SR	CO	6+3	4	4-8
	149	LDC.L	@Rm+,SSR	LS	1	1	4-5
	150	LDC.L	@Rm+,SPC	LS	1	1	4-5
	151	LDC.L	@Rm+,VBR	LS	1	1	4-5
	152	LDS	Rm,MACH	LS	1	1	5-1
	153	LDS	Rm,MACL	LS	1	1	5-1
	154	LDS	Rm,PR	LS	1	1	4-13
	155	LDS.L	@Rm+,MACH	LS	1	1	5-2
	156	LDS.L	@Rm+,MACL	LS	1	1	5-2
	157	LDS.L	@Rm+,PR	LS	1	1	4-14
	158	STC	DBR,Rn	LS	1	1	4-9
	159	STC	SGR,Rn	LS	1	1	4-9
	160	STC	GBR,Rn	LS	1	1	4-9
	161	STC	Rp_BANK,Rn	LS	1	1	4-9
	162	STC	SR,Rn	CO	1	1	4-10
	163	STC	SSR,Rn	LS	1	1	4-9
	164	STC	SPC,Rn	LS	1	1	4-9
	165	STC	VBR,Rn	LS	1	1	4-9
	166	STC.L	DBR,@-Rn	LS	1	1	4-11
	167	STC.L	SGR,@-Rn	LS	1	1	4-11
	168	STC.L	GBR,@-Rn	LS	1	1	4-11
	169	STC.L	Rp_BANK,@-Rn	LS	1	1	4-11
	170	STC.L	SR,@-Rn	CO	1	1	4-12
	171	STC.L	SSR,@-Rn	LS	1	1	4-11
	172	STC.L	SPC,@-Rn	LS	1	1	4-11
	173	STC.L	VBR,@-Rn	LS	1	1	4-11
	174	STS	MACH,Rn	LS	1	1	5-3
	175	STS	MACL,Rn	LS	1	1	5-3
	176	STS	PR,Rn	LS	1	1	4-15
	177	STS.L	MACH,@-Rn	LS	1	1	5-4
	178	STS.L	MACL,@-Rn	LS	1	1	5-4
	179	STS.L	PR,@-Rn	LS	1	1	4-16

機能分類	No.	命令		命令グループ	発行レート	実行ステート	実行パターン
単精度浮動小数点命令	180	FLDI0	FRn	LS	1	1	6-13
	181	FLDI1	FRn	LS	1	1	6-13
	182	FMOV	FRm,FRn	LS	1	1	6-9
	183	FMOV.S	@Rm,FRn	LS	1	1	6-9
	184	FMOV.S	@Rm+,FRn	LS	1	1	6-9
	185	FMOV.S	@(R0,Rm),FRn	LS	1	1	6-9
	186	FMOV.S	FRm,@Rn	LS	1	1	6-9
	187	FMOV.S	FRm,@-Rn	LS	1	1	6-9
	188	FMOV.S	FRm,@(R0,Rn)	LS	1	1	6-9
	189	FLDS	FRm,FPUL	LS	1	1	6-10
	190	FSTS	FPUL,FRn	LS	1	1	6-11
	191	FABS	FRn	LS	1	1	6-12
	192	FADD	FRm,FRn	FE	1	1	6-14
	193	FCMP/EQ	FRm,FRn	FE	1	1	6-14
	194	FCMP/GT	FRm,FRn	FE	1	1	6-14
	195	FDIV	FRm,FRn	FE	1	14	6-15
	196	FLOAT	FPUL,FRn	FE	1	1	6-14
	197	FMAC	FR0,FRm,FRn	FE	1	1	6-14
	198	FMUL	FRm,FRn	FE	1	1	6-14
	199	FNEG	FRn	LS	1	1	6-12
	200	FSQRT	FRn	FE	1	14	6-15
	201	FSUB	FRm,FRn	FE	1	1	6-14
	202	FTRC	FRm,FPUL	FE	1	1	6-14
	203	FMOV	DRm,DRn	LS	1	1	6-9
	204	FMOV	@Rm,DRn	LS	1	1	6-9
	205	FMOV	@Rm+,DRn	LS	1	1	6-9
	206	FMOV	@(R0,Rm),DRn	LS	1	1	6-9
	207	FMOV	DRm,@Rn	LS	1	1	6-9
	208	FMOV	DRm,@-Rn	LS	1	1	6-9
	209	FMOV	DRm,@(R0,Rn)	LS	1	1	6-9

機能分類	No.	命令		命令グループ	発行レート	実行ステート	実行パターン
倍精度浮動小数点命令	210	FABS	DRn	LS	1	1	6-12
	211	FADD	DRm,DRn	FE	1	1	6-16
	212	FCMP/EQ	DRm,DRn	FE	1	1	6-16
	213	FCMP/GT	DRm,DRn	FE	1	1	6-16
	214	FCNVDS	DRm,FPUL	FE	1	1	6-16
	215	FCNVSD	FPUL,DRn	FE	1	1	6-16
	216	FDIV	DRm,DRn	FE	1	30	6-18
	217	FLOAT	FPUL,DRn	FE	1	1	6-16
	218	FMUL	DRm,DRn	FE	1	3	6-17
	219	FNEG	DRn	LS	1	1	6-12
	220	FSQRT	DRn	FE	1	30	6-18
	221	FSUB	DRm,DRn	FE	1	1	6-16
	222	FTRC	DRm,FPUL	FE	1	1	6-16
FPUシステム制御命令	223	LDS	Rm,FPUL	LS	1	1	6-1
	224	LDS	Rm,FPSCR	LS	1	1	6-5
	225	LDS.L	@Rm+,FPUL	LS	1	1	6-3
	226	LDS.L	@Rm+,FPSCR	LS	1	1	6-7
	227	STS	FPUL,Rn	LS	1	1	6-2
	228	STS	FPSCR,Rn	LS	1	1	6-6
	229	STS.L	FPUL,@-Rn	LS	1	1	6-4
	230	STS.L	FPSCR,@-Rn	LS	1	1	6-8
グラフィクス強化命令	231	FMOV	DRm,XDn	LS	1	1	6-9
	232	FMOV	XDm,DRn	LS	1	1	6-9
	233	FMOV	XDm,XDn	LS	1	1	6-9
	234	FMOV	@Rm,XDn	LS	1	1	6-9
	235	FMOV	@Rm+,XDn	LS	1	1	6-9
	236	FMOV	@(R0,Rm),XDn	LS	1	1	6-9
	237	FMOV	XDm,@Rn	LS	1	1	6-9
	238	FMOV	XDm,@-Rn	LS	1	1	6-9
	239	FMOV	XDm,@(R0,Rn)	LS	1	1	6-9
	240	FIPR	FVm,FVn	FE	1	1	6-19
	241	FRCHG		FE	1	1	6-14
	242	FSCHG		FE	1	1	6-14
	243	FPCHG		FE	1	1	6-14
	244	FSRRA	FRn	FE	1	1	6-21
	245	FSCA	FPUL,DRn	FE	1	3	6-22
	246	FTRV	XMTRX,FVn	FE	1	4	6-20

5. 浮動小数点ユニット（FPU）

5.1 概要

FPU には次のような特長があります。

- IEEE754規格に準拠
- 32本の単精度浮動小数点レジスタ（16本の倍精度レジスタとしても参照できます）
- 2つの丸めモード：近傍、及び0方向への丸め
- 2つの非正規化数処理モード：0へのフラッシュと非正規化数の扱い
- 6つの例外要因：
  FPUエラー、無効演算、0による除算、オーバフロー、アンダフロー、不正確
- 包括命令：
  単精度、倍精度、グラフィックサポート、システム制御
- SH-4AでSH-4に対して下記の3命令を追加しました。
  FSRRA、FSCA、FPCHG

SR のFD ビットを”1 ”にセットすると、浮動小数点ユニット（FPU）は使用できなくなり、FPU 命令を実行しようとするとFPU 抑止例外（一般FPU 抑止例外又はスロットFPU 抑止例外）が発生します。

5.2 データフォーマット

5.2.1 浮動小数点フォーマット

浮動小数点は次の3 つのフィールドから構成されています。

- 符号ビット（s）
- 指数フィールド（e）
- 小数フィールド（f）

本LSI は図5.1 と図5.2 に示すフォーマットを用いて単精度､倍精度浮動小数点を扱うことができます。

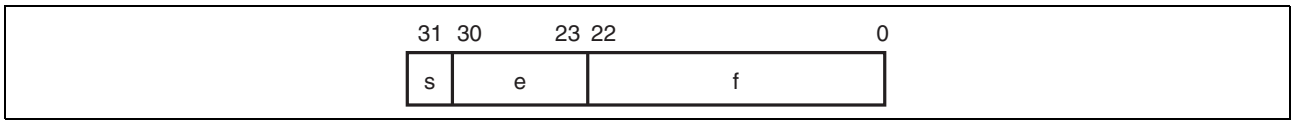


図 5.1　単精度浮動小数点フォーマット

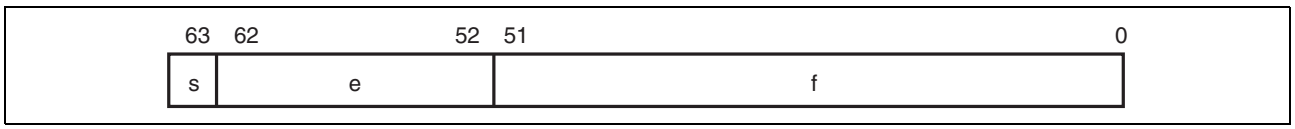


図 5.2　倍精度浮動小数点フォーマット

指数は次のようにバイアス付きで表します。

e＝E＋バイアス

バイアスのない指数E の範囲は、E_{min} - 1 からE_{max} + 1 までです。E_{min} - 1 とE_{max} + 1 の2 つの値は次のように区別します。E_{min} - 1 は0（正、負両方の符号）と非正規化数を表し、E_{max} + 1 は正又は負の無限大又は非数（NaN）を表します。表5.1 に浮動小数点のフォーマットとパラメータを示します。

表5.1　浮動小数点のフォーマットとパラメータ

パラメータ	単精度	倍精度
総ビット幅	32 ビット	64 ビット
符号ビット（s）	1 ビット	1 ビット
指数フィールド（e）	8 ビット	11 ビット
小数フィールド（f）	23 ビット	52 ビット
精度	24 ビット	53 ビット
バイアス	+127	+1023
E_{max}	+127	+1023
E_{min}	–126	–1022

浮動小数点の数値v は次のようにして決められます。

- E = E_{max} + 1 かつ f ≠ 0 の場合、v は符号 s に関係なく非数（NaN）です。
- E = E_{max} + 1 かつ f = 0 の場合、v は $(-1)^s$（無限）「正又は負の無限」です。
- E_{min} ≦ E ≦ E_{max} の場合、v は $(-1)^s 2^E$（1.f）「正規化数」です。
- E = E_{min} - 1 かつ f ≠ 0 の場合、v は $(-1)^s 2^{Emin}$（0.f）「非正規化数」です。
- E = E_{min} - 1 かつ f = 0 の場合、v は $(-1)^s$ 0「正又は負の0」です。

表5.2 に16 進数による各タイプの範囲を示します。シグナリング非数とクワイアット非数については、「5.2.2 非数（NaN）」を、非正規化数については「5.2.3 非正規化数」を参照してください。

表5.2　浮動小数点の範囲

タイプ	単精度	倍精度
シグナリング非数	H'7FFF FFFF ～ H'7FC0 0000	H'7FFF FFFF FFFF FFFF ～ H'7FF8 0000 0000 0000
クワイアット非数	H'7FBF FFFF ～ H'7F80 0001	H'7FF7 FFFF FFFF FFFF ～ H'7FF0 0000 0000 0001
正の無限大	H'7F80 0000	H'7FF0 0000 0000 0000
正の正規化数	H'7F7F FFFF ～ H'0080 0000	H'7FEF FFFF FFFF FFFF ～ H'0010 0000 0000 0000
正の非正規化数	H'007F FFFF ～ H'0000 0001	H'000F FFFF FFFF FFFF ～ H'0000 0000 0000 0001
正のゼロ	H'0000 0000	H'0000 0000 0000 0000
負のゼロ	H'8000 0000	H'8000 0000 0000 0000
負の非正規化数	H'8000 0001 ～ H'807F FFFF	H'8000 0000 0000 0001 ～ H'800F FFFF FFFF FFFF
負の正規化数	H'8080 0000 ～ H'FF7F FFFF	H'8010 0000 0000 0000 ～ H'FFEF FFFF FFFF FFFF
負の無限大	H'FF80 0000	H'FFF0 0000 0000 0000
クワイアット非数	H'FF80 0001 ～ H'FFBF FFFF	H'FFF0 0000 0000 0001 ～ H'FFF7 FFFF FFFF FFFF
シグナリング非数	H'FFC0 0000 ～ H'FFFF FFFF	H'FFF8 0000 0000 0000 ～ H'FFFF FFFF FFFF FFFF

5.2.2　非数（NaN）

図5.3 に非数（NaN）のビットパターンを示します。次の場合の値はNaN です。

- 符号ビット　：don't care
- 指数フィールド：すべてのビットが1
- 小数フィールド：少なくとも1ビットが1

NaN は、小数フィールドの MSB が 1 の場合はシグナリング非数（sNaN）であり、0 の場合はクワイアット非数（qNaN）です。

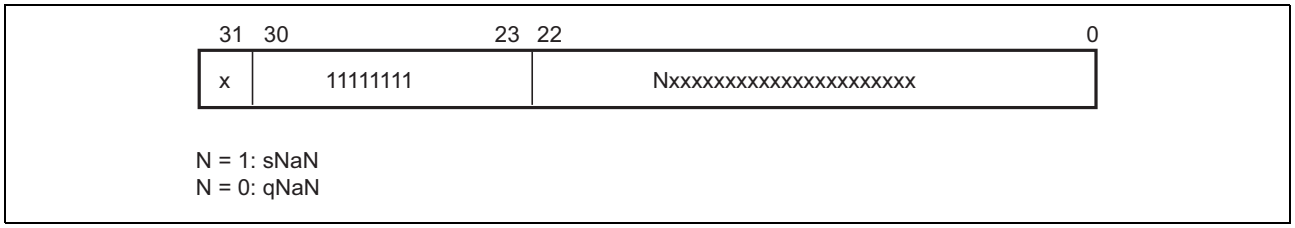


図 5.3　単精度のNaN ビットパターン

sNaN をレジスタ・レジスタ間の転送命令FABS 又はFNEG 以外の浮動小数点値を生成する演算の入力データとすると、

- FPSCR レジスタのEN.V ビットが0の場合、演算結果（出力）はqNaNになります。
- FPSCR レジスタのEN.V ビットが1の場合、無効演算例外が発生します。この場合、演算のデスティネーションレジスタの内容は変更しません。

レジスタ・レジスタ間の転送命令には、下記の3 命令があります。

- FMOV FRm,FRn
- FLDS FRm,FPUL
- FSTS FPUL,FRn

浮動小数点値を生成する演算で qNaN を入力し、その演算に sNaN を入力していない場合、FPSCR レジスタのEN.V ビットの設定に関係なく出力は常にqNaN です。この場合、例外は発生しません。

演算結果として本LSI が生成するqNaN の値は、常に次のような値になります。

- 単精度qNaN：H'7FBF FFFF
- 倍精度qNaN：H'7FF7 FFFF FFFF FFFF

非数（NaN）を入力した場合の浮動小数点演算の詳細については「SH-4A 拡張機能ソフトウェアマニュアル」の「第11 章 各命令の説明」を参照してください。

5.2.3　非正規化数

非正規化数の浮動小数点値は、指数フィールドは0 として、小数フィールドは0 以外の値として表現します。

FPU のステータスレジスタFPSCR のDN ビットが1 の場合、非正規化数（ソースオペランド又は演算結果）は、（レジスタ・レジスタ間の転送命令、FNEG、FABS 以外の演算の）値を生成する浮動小数点演算で正のゼロ又は負のゼロになります。

FPSCR のDN ビットが0 の場合、非正規化数（ソースオペランド又は演算結果）はそのまま処理されます。非正規化数を入力する場合の浮動小数点演算の詳細については、「SH-4A 拡張機能ソフトウェアマニュアル」の「第11 章 各命令の説明」を参照してください。

5.3　レジスタ

5.3.1　浮動小数点レジスタ

図5.4 に浮動小数点レジスタの構成を示します。32 本の32 ビット浮動小数点レジスタがあります。これらは、2 つのバンクで構成され、FPR0_BANK0～FPR15_BANK0、FPR0_BANK1～FPR15_BANK1 があります。また、この 32 本レジスタは FR0 ～ FR15、DR0/2/4/6/8/l0/12/14、FV0/4/8/12、XF0 ～ XF15、XD0/2/4/6/8/l0/12/14、XMTRX として参照されます。FPRn_BANKi と参照名の対応は FPSCR の FR ビットによって決まります。

(1) 浮動小数点レジスタ FPRn_BANKi（32 レジスタ）
FPR0_BANK0～FPR15_BANK0
FPR0_BANK1～FPR15_BANK1

(2) 単精度浮動小数点レジスタ FRi（16 レジスタ）
FR ビット（FPSCR レジスタのビット21）＝0 のとき、FR0～FR15 はFPR0_BANK0～FPR15_BANK0 に割り当てられます。
FPSCR レジスタのFR ビット＝1 のとき、FR0～FR15 はFPR0_BANK1～FPR15_BANK1 に割り当てられます。

(3) 倍精度浮動小数点レジスタ、又は単精度浮動小数点レジスタのペア DRi（8 レジスタ）
DR レジスタは、2 つのFR レジスタから構成されます。
DR0＝{FR0、FR1}、DR2＝{FR2、FR3}、
DR4＝{FR4、FR5}、DR6＝{FR6、FR7}、
DR8＝{FR8、FR9}、DR10＝{FR10、FR11}、
DR12＝{FR12、FR13}、DR14＝{FR14、FR15}

(4) 単精度浮動小数点ベクトルレジスタ FVi（4 レジスタ）
FV レジスタは4 つのFR レジスタから構成されます。
FV0＝{FR0、FR1、FR2、FR3},
FV4＝{FR4、FR5、FR6、FR7},
FV8＝{FR8、FR9、FR10、FR11},
FVl2＝{FR12、FR13、FR14、FR15}

(5) 単精度浮動小数点拡張レジスタ XFi（16 レジスタ）
FPSCR レジスタのFR ビット＝0 のとき、XF0～XF15 はFPR0_BANK1～FPR15_BANK1 に割り当てられます。
FPSCR レジスタのFR ビット＝1 のとき、XF0～XF15 はFPR0_BANK0～FPR15_BANK0 に割り当てられます。

(6) 単精度浮動小数点拡張レジスタのペア XDi（8 レジスタ）
XD レジスタは2 つのXF レジスタから構成されます。
XD0＝{XF0、XF1}、XD2＝{XF2、XF3}、
XD4＝{XF4、XF5}、XD6＝{XF6、XF7}、
XD8＝{XF8、XF9}、XD10＝{XF10、XF11}、
XD12＝{XF12、XF13}、XD14＝{XF14、XF15}

(7) 単精度浮動小数点拡張レジスタ行列 XMTRX
XMTRX は16 本のXF レジスタから構成されます。

$$XMTRX = \begin{bmatrix} XF0 & XF4 & XF8 & XF12 \\ XF1 & XF5 & XF9 & XF13 \\ XF2 & XF6 & XF10 & XF14 \\ XF3 & XF7 & XF11 & XF15 \end{bmatrix}$$

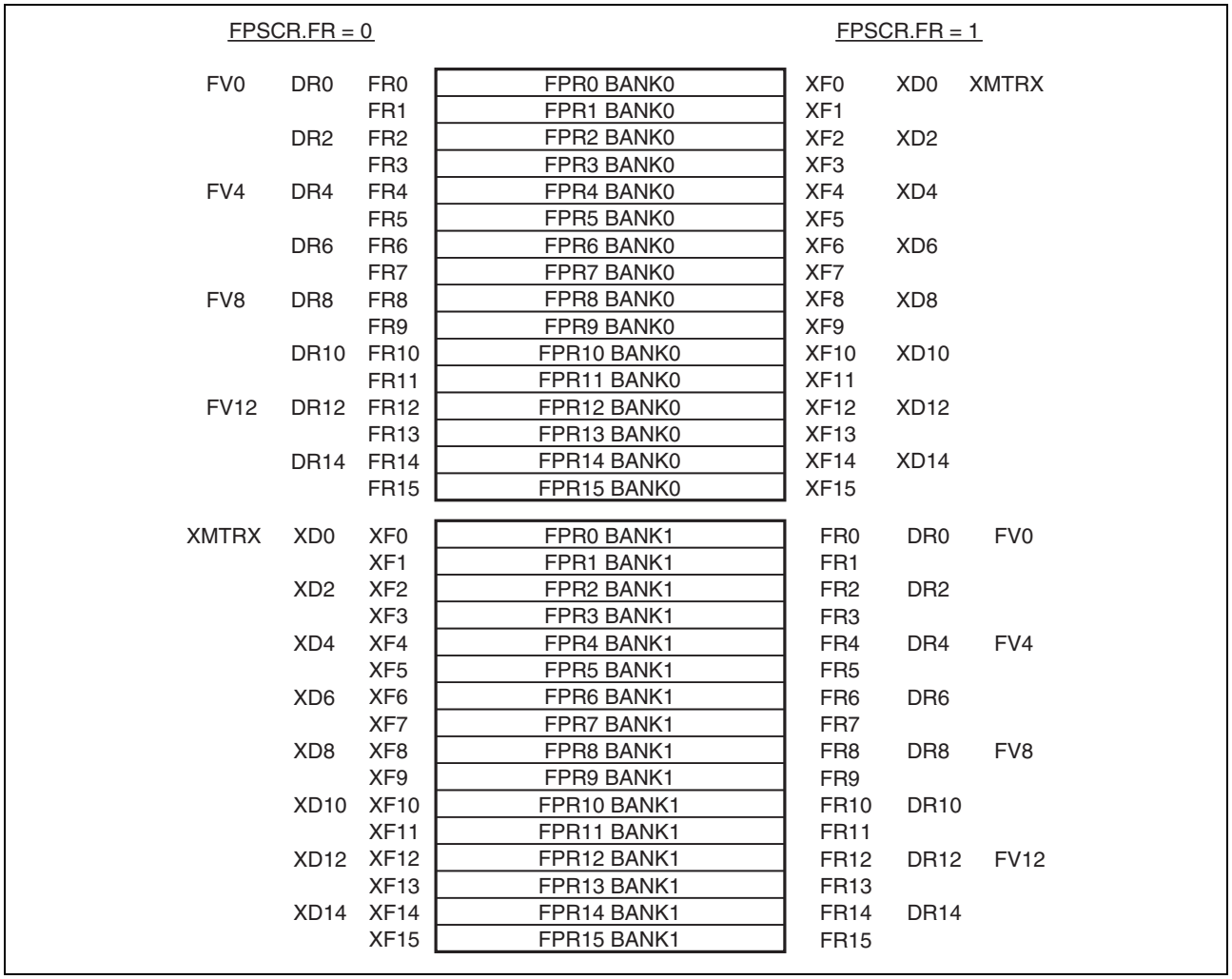


図 5.4　浮動小数点レジスタ

5.3.2　浮動小数点ステータス／コントロールレジスタ（FPSCR）

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	FR	SZ	PR	DN	Cause	
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	Cause				Enable (EN)					Flag					RM	
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 22	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
21	FR	0	R/W	浮動小数点レジスタバンク 0：FPR0_BANK0～FPR15_BANK0 はFR0～FR15 に、FPR0_BANK1～FPR15_BANK1 はXF0～XF15 に割り当てられます。 1：FPR0_BANK0～FPR15_BANK0 はXF0～XF15 に、FPR0_BANK1～FPR15～BANK1 はFR0～FR15 に割り当てられます。
20	SZ	0	R/W	転送サイズモード 0：FMOV 命令のデータサイズは32 ビットです。 1：FMOV 命令のデータサイズは32 ビットペア、又は64 ビットです。 SZ ビットとエンディアンとの関係については、図5.5 を参照してください。
19	PR	0	R/W	精度モード 0：浮動小数点命令を単精度演算として実行します。 1：浮動小数点命令を倍精度演算として実行します（グラフィックサポート命令は未定義です）。 PR ビットとエンディアンとの関係については、図5.5 を参照してください。
18	DN	1	R/W	非正規化モード 0：非正規化数を非正規化数として扱います。 1：非正規化数を0 として扱います。
17 ～ 12	Cause	0	R/W	FPU 例外要因フィールド FPU 例外イネーブルフィールド FPU 例外フラグフィールド FPU 演算命令を実行すると、FPU 例外要因フィールドは最初に”0” に設定されます。次にFPU 例外が発生すると、FPU 例外要因フィールドとFPU 例外フラグフィールドの該当ビットが”1” にセットされます。FPU 例外フラグフィールドは、FPU 例外フラグフィールドが最後にクリアされたそれ以降に発生した例外のステータスを保持します。各フィールドのビットの割り付けについては表5.3 を参照してください。
11 ～ 7	Enable（EN）	0	R/W	
6 ～ 2	Flag	0	R/W	
1	RM	0	R/W	丸めモード 丸めの方法を選択します。 00：近傍への丸め 01：0 方向への丸め 10：選択禁止 11：選択禁止
0	RM	1	R/W	

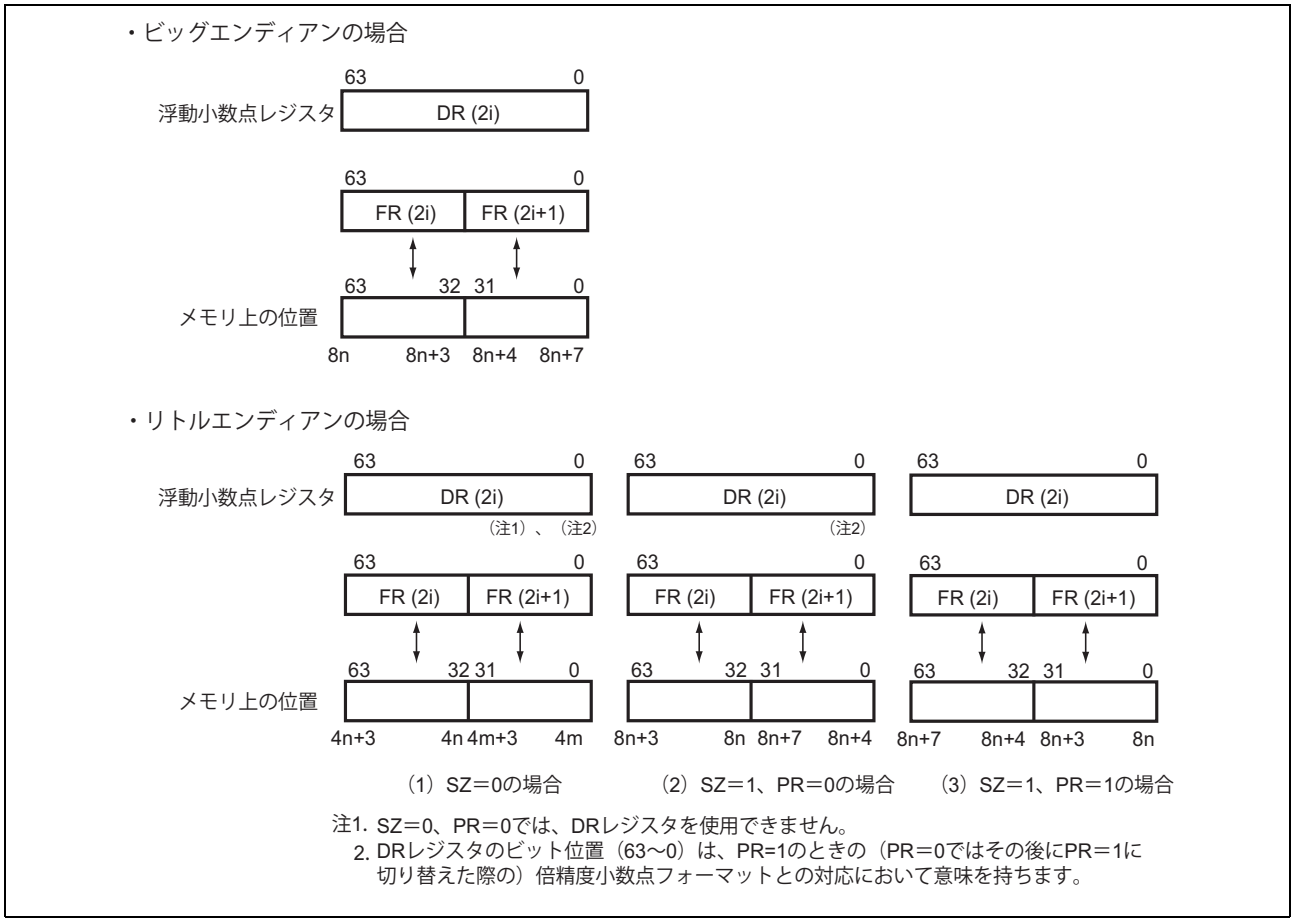


図 5.5　SZ ビット及びPR ビットとエンディアンの関係

表5.3　FPU 例外処理に関連するビットの割り付け

フィールド名		FPU エラー（E）	無効演算（V）	0 除算（Z）	オーバフロー（O）	アンダフロー（U）	不正確（I）
Cause	FPU 例外要因フィールド	ビット17	ビット16	ビット15	ビット14	ビット13	ビット12
Enable	FPU 例外イネーブルフィールド	なし	ビット11	ビット10	ビット9	ビット8	ビット7
Flag	FPU 例外フラグフィールド	なし	ビット6	ビット5	ビット4	ビット3	ビット2

5.3.3　浮動小数点通信レジスタ（FPUL）

FPU とCPU 間の情報伝達はFPUL レジスタを介して行われます。FPUL レジスタは32 ビットのシステムレジスタで、LDS、STS 命令によってCPU からもアクセスします。たとえば、汎用レジスタR1 に格納した整数を単精度浮動小数点に変換する処理フローは次のとおりです。

R1 →（LDS 命令）→ FPUL →（単精度FLOAT 命令）→ FR1

5.4　丸め

浮動小数点命令において、丸めは中間結果から最終演算結果を生成する際に実行されます。したがって、FMAC、FTRV、FIPR のような組み合わせ命令の結果は、FADD、FSUB、FMUL などの基本命令だけを用いた結果とは異なります。FMAC は1 度、FADD、FSUB 及びFMUL は2 度というように丸めの回数が異なるためです。

丸めには2 つの方法があり、使用する方法はFPSCR のRM フィールドで決まります。

RM=00：近傍への丸め
RM=01：0 方向への丸め

(1)　近傍への丸め

演算結果はもっとも近い表現可能な値に丸められます。もっとも近い表現可能な値が 2 つある場合、LSB が0の方を選択します。

丸め前の値が $2^{Emax}(2-2^{-p})$ 以上であれば丸め前と同じ符号の無限となります。ここでEmax、p は単精度でそれぞれ127、24、倍精度で1023、53 です。

(2)　0 方向への丸め

丸め前の値の丸めビット以下の桁は切り捨てられます。

ただし、丸め前の値が表現可能な最大絶対値数よりも絶対値が大きい場合、丸め前と同じ符号の表現可能な最大絶対値の数になります。

5.5　浮動小数点例外

FPU 関連の例外は次のとおりです。

5.5.1　一般FPU 抑止／スロットFPU 抑止例外

FDビット（SRレジスタのビット15）＝1 のときにFPU 命令を実行すると発生します。FPU 命令が遅延スロット以外にある場合は一般FPU 抑止例外が、FPU 命令が遅延スロットにある場合はスロットFPU 抑止例外が発生します。

5.5.2　FPU 例外

例外要因は次のとおりです。

- **FPUエラー（E）：**
  DNビット（FPSCRレジスタのビット18）＝0かつ非正規化数の入力時
- **無効演算（V）：**
  NaN入力のような無効な演算の場合
- **0による除算（Z）：**
  除数0による除算
- **オーバフロー（O）：**
  演算結果がオーバフローする場合
- **アンダフロー（U）：**
  演算結果がアンダフローする場合
- **不正確例外（I）：**
  丸めが発生する場合

FPSCR のFPU 例外要因フィールドには上記E、V、Z、O、U、I のすべてに該当するビットが含まれ、FPSCR のフラグ、及びイネーブルフィールドにはV、Z、O、U、I に該当するビットが含まれていますがE に該当するビットは含まれていません。このようにFPU エラーはディスエーブルにすることができません。

FPU 例外が発生すると、FPU 例外要因フィールドの該当するビットは”1”ににセットされFPU 例外フラグフィールドに該当するビットに”1”に が累積されます。FPU 例外が発生しない場合、FPU 例外

要因フィールドの該当するビットは”0” にクリアされ、FPU 例外フラグフィールドに該当するビットは変更されません。

5.5.3　FPU 例外処理

FPU 例外は次の場合に発生します。

- **FPUエラー（E）：**
  DNビット（FPSCRレジスタのビット18）＝0かつ非正規化数を扱えない命令への非正規化数の入力時
- **無効演算（V）：**
  FPSCR.EN.V＝1かつ（命令=FTRV又は無効演算）の場合
- **0による除算（Z）：**
  FPSCR.EN.Z＝1かつ除数0による除算又はFSRRAの入力が0の場合
- **オーバフロー（O）：**
  FPSCR.EN.O＝1かつ演算結果がオーバフローする可能性のある場合
- **アンダフロー（U）：**
  FPSCR.EN.U＝1かつ演算結果がアンダフローする可能性のある場合
- **不正確例外（I）：**
  FPSCR.EN.I＝1かつ演算結果が不正確になる可能性のある命令

FPU 例外が発 FPU 例外が発生する場合の詳細については、**「SH-4A 拡張機能ソフトウェアマニュアル」**の**「第11 章 各命令の説明」**を参照してください。

FPU 演算に起因するすべての例外事象は、同一の例外事象として割り付けられています。例外の意味内容は、システムレジスタ FPSCR を読み出して、保持されている情報を解釈することでソフトウェアにより決定します。

また、いかなるFPU 例外処理動作によっても、デスティネーションレジスタは変更されません。

上記以外でFPU 例外要因が発生すると、V、Z、O、U、I に対する該当ビットを”1” にセットし、演算結果としてデフォルト値を生成します。

- **無効演算（V）：**
  結果としてqNaNを生成します。
- **0による除算（Z）：**
  丸め前と同じ符号付きの無限大を生成します。
- **オーバフロー（O）：**
  0方向への丸めのとき、丸め前と同じ符号付き最大正規化数を生成します。
  近傍への丸めのとき、丸め前と同じ符号付き無限大を生成します。
- **アンダフロー（U）：**
  DNビット（FPSCRレジスタのビット18）＝0のとき、丸め前と同じ符号付き非正規化数、又は丸め前と同じ符号付き0を生成します。
  DNビット（FPSCRレジスタのビット18）＝1のとき、丸め前と同じ符号付き0を生成します。
- **不正確例外（I）：**
  不正確な結果を生成します。

5.6　グラフィックサポート機能

本LSI は2 種類のグラフィック機能をサポートしています。1 つはジオメトリック演算用の命令であり、もう一つは高速データ転送を可能にするペア単精度転送命令です。

5.6.1　ジオメトリック演算命令

ジオメトリック演算命令は最小のハードウェアで高速演算を可能とするため、本LSI は4 つの乗算の部分的演算結果のうち相対的に小さな値を無視します。したがって、演算結果には以下に示す誤差が生じます。

最大誤差＝MAX（各乗算結果×2－MIN（乗数の有効数字桁数－1、被乗数の有効数字桁数－1））＋MAX（結果値×2－23、2－149）

ただし、有効数字桁数は正規化数が24、非正規化数が23（小数部のリーディングゼロの桁数）となります。

将来のSuperH シリーズでの演算誤差は保証しますが、異なるプロセッサコア間の同一の演算結果は保証しません。

(1)　FIPR FVm,FVn（m、n：0、4、8、12）

この命令の用途例を以下に示します。

- **内積（m≠n）**：
  一般的に、この演算はポリゴン表面の輝度や表面／裏面を判定するために使用されます。
- **各要素の平方和（m=n）**：
  一般的に、この演算はベクトルの長さを得るために使用されます。

FIPR 命令は不正確例外を検出しないため、命令を実行すると、FPU 例外要因フィールド、及びFPU 例外フラグフィールドの不正確例外（I）ビットが常に”1”にセットされます。したがって、FPU 例外イネーブルフィールドのI ビットがセットされていれば、FPU 例外処理が実行されます。

(2)　FTRV XMTRX,FVn（n：0、4、8、12）

この命令の用途例を以下に示します。

- **行列（4×4）・ベクトル（4）**：
  一般的に、この演算は、視点の変更、角度の変更、又は移動といったベクトル変換（4次元）に使用されます。基本的に、角度＋平行移動のためのアフィン変換処理は、4×4行列を必要とします。したがって、本LSIは4次元演算をサポートしています。

- **行列（4×4）×行列（4×4）**：
  この演算を行うためには、FTRV命令を4回実行する必要があります。

FIRV 命令は不正確例外を検出しないため、命令を実行すると、FPU 例外要因フィールド、及びFPU 例外フラグフィールドの不正確例外（I）ビットが常に”1”にセットされます。したがって、イネーブルフィールドのI ビットがセットされていれば、FPU 例外処理が実行されます。また、FTRV 命令の実行の際、レジスタ内のすべてのデータタイプを実行前にチェックすることができません。FPU 例外イネーブルフィールドのV ビットがセットされていると、FPU 例外処理が実行されます。

(3)　FRCHG

この命令はバンクレジスタを変更します。例えば、FTRV 命令を使用する場合、背後にあるバンク上に行列の要素を設定する必要があります。しかし、変換行列の要素自体を作成するには、前面にあるバンクのレジスタを使用する方が簡単です。FPSCR に対するLDS 命令を使用すると、この命令はFPU の状態を維持するために、4～5 サイクルを費やします。FRCHG 命令ではFPSCR.FR ビットの変更を1 サイクルで行うことができます。

5.6.2　ペア単精度データ転送

強力なジオメトリック演算命令に加えて、本LSI は高速データ転送命令をサポートしています。FPSCR.SZ＝1 のとき、ペア単精度データ転送命令によるデータ転送を行えます。

- FMOV DRm/XDm、DRn/XDRn（m、n：0、2、4、6、8、10、12、14）
- FMOV DRm/XDm、@Rn（m：0、2、4、6、8、10、12、14、n：0～15）

これらの命令により、2 つの単精度（2×32 ビット）データを転送することができます。つまり、これらの命令の転送性能が2倍となります。

• FSCHG

この命令はFPSCRレジスタのSZビットの値を変更します。ペア単精度データ転送を行うか行わないかを高速に切り替えることができます。

6. 例外処理

6.1 概要

例外処理とは、リセット、一般例外、割り込みが検出されたときに、通常とは異なるプログラムで必要な処理を行うことをいいます。たとえば、実行中の命令の異常終了が発生した場合、適切な処置をすることで、元のプログラムに復帰したり、異常を報告して終了するといった制御が必要になります。このような機能をサポートするために、異常終了に対して、例外処理要求を発生させ、ユーザが作成した例外処理ルーチンに制御の流れが渡ることなどを総称して例外処理と呼びます。

本LSI の例外処理は、リセット、一般例外、割り込みの3 つに分類されます。

6.2 レジスタの説明

例外処理に関するレジスタ構成を表6.1 に示します。

表6.1 レジスタ構成

名称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態	
					パワーオンリセット	マニュアルリセット
TRAPA 例外レジスタ	TRA	R/W	H'FF00 0020	32	H'0000 0XXX	H'0000 0XXX
例外事象レジスタ	EXPEVT	R/W	H'FF00 0024	32	H'0000 0000	H'0000 0020
割り込み事象レジスタ	INTEVT	R/W	H'FF00 0028	32	H'0000 XXXX	H'0000 XXXX
非サポート検出例外レジスタ	EXPMASK	R/W	H'FF2F 0004	32	H'0000 001F	H'0000 001F

6.2.1 TRAPA 例外レジスタ（TRA）

TRAPA 例外レジスタ（TRA）は、TRAPA 命令の 8 ビットイミディエイトデータ（imm）が設定されるレジスタです。TRA はTRAPA 命令実行時にハードウェアにより自動的に設定されます。TRA はソフトウェアからも変更が可能です。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	TRACODE								—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 10	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
9 ～ 2	TRACODE	不定	R/W	TRAPA コード TRAPA 命令の8 ビットイミディエイトデータが設定されます。
1、0	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

6.2.2 例外事象レジスタ（EXPEVT）

例外事象レジスタ（EXPEVT）には、12 ビットのリセットと一般例外事象による例外コードが設定されます。例外コードは例外受け付け時にハードウェアにより自動的に設定されます。EXPEVT はソフトウェアからも変更が可能です。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	EXPCODE											
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0/1	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 12	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
11 ～ 0	EXPCODE	H'000 又は H'020	R/W	例外コード リセット、一般例外の例外コードが設定されます。詳細は表6.2 を参照してください。

6.2.3 割り込み事象レジスタ（INTEVT）

割り込み事象レジスタ（INTEVT）には、14 ビットの割り込み要求による例外コードが設定されます。例外コードは例外受け付け時にハードウェアにより自動的に設定されます。INTEVT はソフトウェアからも変更が可能です。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	INTCODE													
初期値：	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W:	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 14	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
13 ～ 0	INTCODE	不定	R/W	例外コード 割り込みの例外コードが設定されます。詳細は表6.2 を参照してください。

6.2.4 非サポート検出例外レジスタ（EXPMASK）

EXPMASK レジスタは、下記1.～3.に該当する機能が使用された場合に例外を発生、及び抑止することができます。この1.～3.に該当する機能は、今後のSuperH シリーズでサポートされなくなる可能性があります。あらかじめEXPMASK レジスタの例外発生機能を用いることで、ソフトウェアがこれらの機能を用いているかを調べることが可能となり、今後のSuperH シリーズで本機能が未サポートになった場合に容易にソフトウェアの移行を行うことが可能となります。

1. RTE命令の遅延スロットがNOP命令以外である場合
2. 分岐命令の遅延スロットがSLEEP命令である場合
3. IC/OCメモリ割り付け連想書き込みを実行した場合

非サポート検出例外レジスタ（EXPMASK）の値により、１、２はスロット不当命令例外、3はデータアドレスエラー例外をそれぞれ発生させることができます。

EXPMASK レジスタの該当ビットに1 を書き込むことにより例外の発生を抑止できますが、今後の互換性を維持するため、上記機能を使用しないプログラムを作成することを強く推奨します。

EXPMASK レジスタの更新はCPU のストア命令で行ってください。更新後一度レジスタを読み出した後、以下の操作のどちらかを実行してください。この操作をすることによって、更新後のレジスタ値で動作することが保証されます。

- RTE命令を実行
- 任意アドレス（キャッシング不可領域でも良い）に対するICBI命令を実行

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	MMCAW	–	–	BRDSSLP	RTEDS
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1
R/W:	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	R/W	–	–	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 5	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
4	MMCAW	1	R/W	メモリ割り付けキャッシュ連想ライト 0：メモリ割り付け連想書き込みを禁止します。（データアドレスエラー例外発生） 1：メモリ割り付け連想書き込みを許可します。 詳細は「8.6.5 メモリ割り付け連想ライトの動作」を参照してください。
3、2	—	1	—	リザーブビット（書き込む値は“1”にしてください）
1	BRDSSLP	1	R/W	遅延スロットSLEEP 命令 0：遅延スロットにあるSLEEP 命令を禁止します。 （SLEEP 命令をスロット不当命令とします） 1：遅延スロットにあるSLEEP 命令を許可します。
0	RTEDS	1	R/W	RTE 遅延スロット 0：RTE 命令の遅延スロットにあるNOP 命令以外を禁止します。 （NOP 命令以外をスロット不当命令とします） 1：RTE 命令の遅延スロットにあるNOP 命令以外を許可します。

6.3 例外処理の機能

6.3.1 例外処理の流れ

例外処理では、プログラムカウンタ（PC）、ステータスレジスタ（SR）、R15 の内容がそれぞれ退避プログラムカウンタ（SPC）、退避ステータスレジスタ（SSR）、退避ジェネラルレジスタ（SGR）に退避され、ベクタアドレスに従って対応する例外処理ルーチンの実行を開始します。例外処理ルーチンとは、ユーザによって、個々の例外の内容に応じて作成されたプログラムです。例外処理ルーチンを終了させ、元のプログラムに戻るためには、例外処理からの復帰命令（RTE）を実行します。本命令によって、PC と SR の内容が復帰し、例外などが発生した時点での通常処理ルーチンに戻ることができます。なお、SGR の内容はRTE 命令ではR15 に書き戻されません。

基本的な例外処理の流れは次のようになります。SR のビットの意味の詳細は、「2. プログラミングモデル」を参照してください。

1. PC、SR、及びR15の内容がそれぞれSPC、SSR、及びSGRに退避されます。
2. BL ビット（SR レジスタのビット28）が1に設定されます。
3. MD ビット（SR レジスタのビット30）が1に設定されます。
4. RB ビット（SR レジスタのビット29）が1に設定されます。
5. リセット時、FD ビット（SR レジスタのビット15）が0に設定されます。
6. 例外コードは、例外要因の例外事象レジスタ（EXPEVT）のビット11～0、又は割り込み事象レジスタ（INTEVT）のビット13～0に書き込まれます。
7. INTMU ビット（CPUOPM レジスタのビット3）が1の場合、IMASK ビット（SR レジスタの7～4ビット）が割り込み受け付けレベルに変更されます。
8. 決められた例外処理のベクタアドレスに分岐して、例外処理ルーチンを開始します。

6.3.2 例外処理ベクタアドレス

リセットベクタアドレスはH'A000 0000 に固定されています。例外、割り込みのベクタアドレスはベクタベースアドレスに各事象のオフセット値を加えたアドレスです。ベクタベースアドレスはベクタベースレジスタ（VBR）にソフトウェアで設定します。たとえば、TLB ミス例外のオフセットはH'0000 0400 ですから、VBR にH'9C08 0000 を設定しておくと、例外処理ベクタアドレスはH'9C08 0400 になります。例外処理ベクタアドレスでさらに例外が発生すると、二重例外となり、回復が困難になりますので、ベクタアドレスはアドレス変換の対象とならないP1、P2 領域のアドレスを指定してください。

6.4 例外の種類と優先順位

表6.2 に、例外の種類、優先順位、ベクタアドレス、及び例外／割り込みコードを示します。

表6.2 例外一覧

例外区分	実行形態	例外	優先レベル	優先順位	例外遷移先		例外コード
					ベクタベース	オフセット	
リセット	中断型	パワーオンリセット	1	1	H'A000 0000	—	H'000
		マニュアルリセット	1	2	H'A000 0000	—	H'020
		H-UDI リセット	1	1	H'A000 0000	—	H'000
		命令TLB 多重ヒット例外	1	3	H'A000 0000	—	H'140
		データTLB 多重ヒット例外	1	4	H'A000 0000	—	H'140
一般例外	再実行型	命令実行前ユーザブレーク（注）	2	0	(VBR/DBR)	H'100/—	H'1E0
		命令アドレスエラー	2	1	(VBR)	H'100	H'0E0
		命令TLB ミス例外	2	2	(VBR)	H'400	H'040
		命令TLB 保護違反例外	2	3	(VBR)	H'100	H'0A0
		一般不当命令例外	2	4	(VBR)	H'100	H'180
		スロット不当命令例外	2	4	(VBR)	H'100	H'1A0
		一般FPU 抑止例外	2	4	(VBR)	H'100	H'800
		スロットFPU 抑止例外	2	4	(VBR)	H'100	H'820
		データアドレスエラー（読み出し）	2	5	(VBR)	H'100	H'0E0
		データアドレスエラー（書き込み）	2	5	(VBR)	H'100	H'100
		データTLB ミス例外（読み出し）	2	6	(VBR)	H'400	H'040
		データTLB ミス例外（書き込み）	2	6	(VBR)	H'400	H'060
		データTLB 保護違反例外（読み出し）	2	7	(VBR)	H'100	H'0A0
		データTLB 保護違反例外（書き込み）	2	7	(VBR)	H'100	H'0C0
		FPU 例外	2	8	(VBR)	H'100	H'120
		初期ページ書き込み例外	2	9	(VBR)	H'100	H'080
	完了型	無条件トラップ（TRAPA）	2	4	(VBR)	H'100	H'160
		命令実行後ユーザブレーク（注）	2	10	(VBR/DBR)	H'100/—	H'1E0
割り込み	完了型	ノンマスカブル割り込み	3	—	(VBR)	H'600	H'1C0
		一般割り込み要求	4	—	(VBR)	H'600	—

優先度 ：まず優先レベルで順位付けし、同一レベル内を優先順位で順位付けします（より小さい数値が、優先度が 高くなります）。

例外遷移先 ：リセットではH'A000 0000、その他では（VBR＋オフセット）へ制御が移ります。

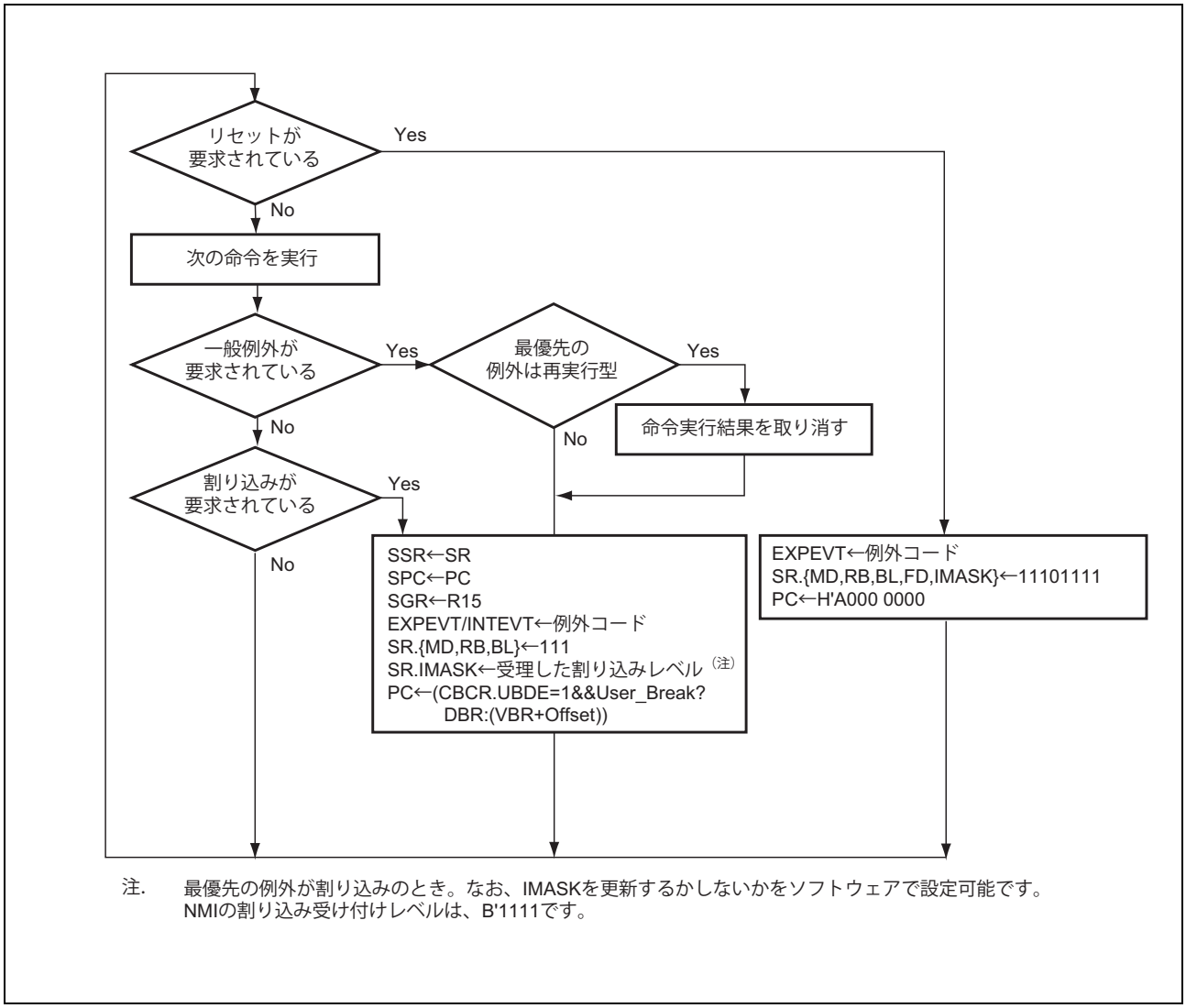
例外コード ：リセット、一般例外ではEXPEVT、割込みではINTEVT に格納されます。

注．UBDEビット（CBCR レジスタのビット0）＝1 のときPC=DBR、その他はPC=VBR+H'100。

6.5 例外フロー

6.5.1 例外フロー

図 6.1 に、命令実行と例外処理の基本動作を概念的に示します。ここでは説明の都合上、命令を 1 命令ずつ逐次的に実行することを基本として説明しています。図 6.1 には、例外種別（リセット、一般例外、割り込み）間の優先順位が表されています。なお図 6.1 では、例外成立時のレジスタ設定を SSR、SPC、SGR、EXPEVT/INTEVT、SR、及びPC に限っていますが、例外によってはこの他にもハードウェアによって自動的に設定されるレジスタがあります。詳細は、「6.6 各例外の説明」を参照してください。また、遅延分岐命令と遅延スロット命令を実行中の例外処理や、2 回データアクセスが発生する命令については「6.6.4 複数回の例外が発生する場合の優先順位」を参照してください。



注. 最優先の例外が割り込みのとき。なお、IMASKを更新するかしないかをソフトウェアで設定可能です。
NMIの割り込み受け付けレベルは、B'1111です。

図 6.1 命令実行と例外処理

6.5.2　例外要因の受け付け

2 つ以上の例外が同時に発生したときに受け付ける例外を決定するため、すべての例外には優先順位が決められています。一般例外の中の一般不当命令例外、スロット不当命令例外、一般 FPU 抑止例外、スロット FPU 抑止例外、無条件トラップ例外の 5 つは、それぞれの命令解析の過程で検出され、命令パイプラインの中では同時に発生しない例外です。このため優先順位は同じ値になっています。一般例外は命令実行に従った順序で検出されます。しかし、例外処理は命令の流れの順序（プログラム順）に従って処理されます。つまり、先の命令の例外が、後続の命令の例外よりも優先されて受け付けられます。一般例外の受け付け順序の例を図 6.2 に示します。

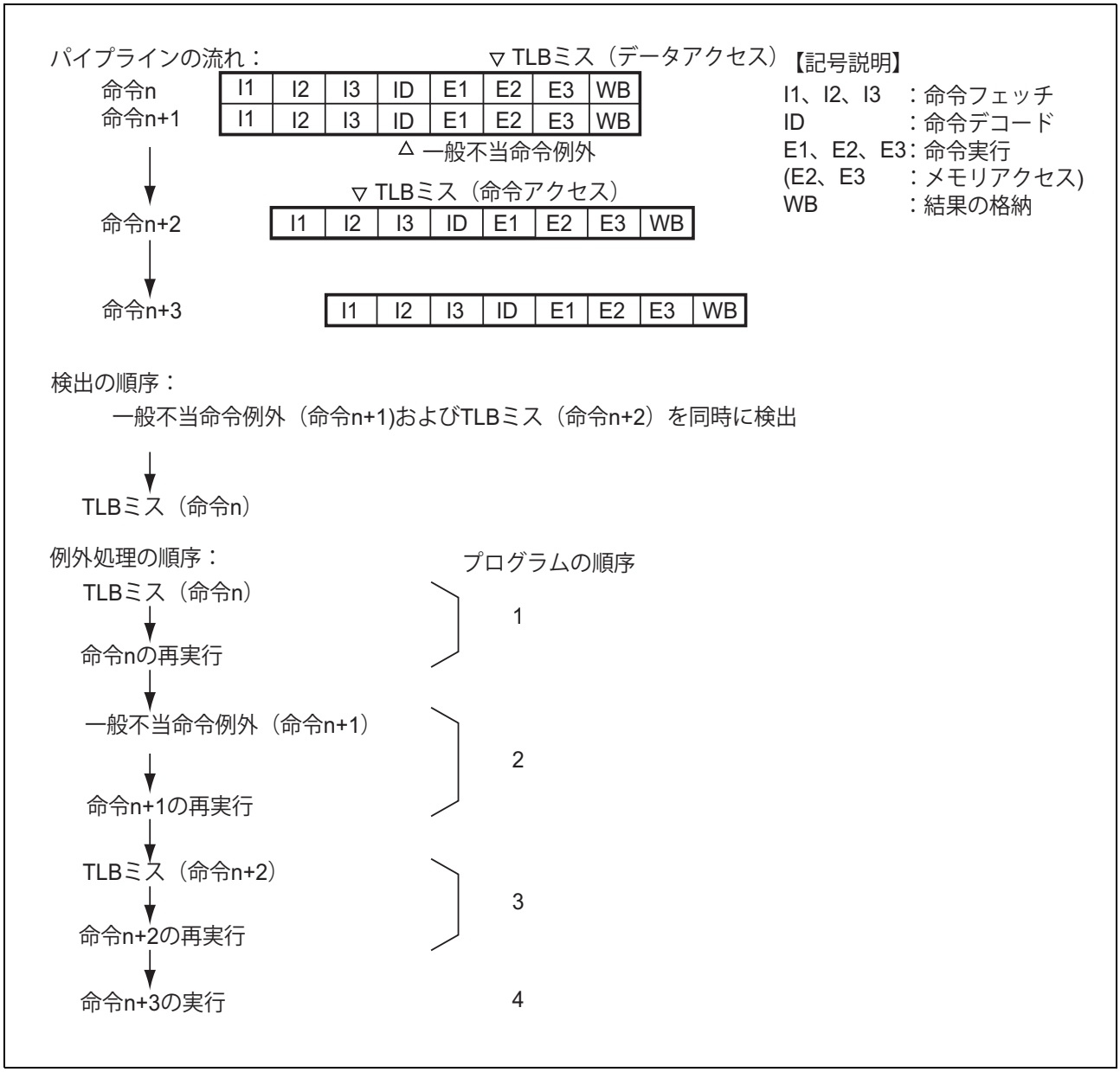


図 6.2　一般例外の受け付け順序の例

6.5.3 例外要求とBL ビット

SR レジスタのBL ビット＝0 のとき、一般例外、割り込みを受け付けます。

SR レジスタのBL ビット＝1 のときに、ユーザブレークを除く一般例外が発生した場合には、CPU の内部レジスタ、他のモジュールのレジスタは、マニュアルリセット後の状態になり、リセットと同アドレス（H'A000 0000）に分岐します。ユーザブレークが発生した場合の動作については「41. ユーザブレークコントローラ（UBC）」を参照してください。また、通常の割り込みが発生した場合には、割り込み要求は保留され、ソフトウェアでSR レジスタのBL ビットが0 にクリアされてから受け付けられます。ノンマスカブル割り込み（NMI）が発生した場合は、保留するか、受け付けるかをソフトウェアによって設定可能です。

このように、通常は例外状態を多重に受け付け可能にするためには、SPC とSSR を退避させ、その後SR レジスタのBL ビットを0 クリアします。

6.5.4 例外処理からの復帰

例外処理からの復帰は、RTE 命令を使用します。RTE 命令により、SPC がPC に、SSR がSR に回復され、SPC のアドレスに分岐して、例外処理ルーチンから復帰します。もし、メモリにSPC、SSR を退避していた場合には、SR レジスタのBL ビットを1 にセットしてから、SPC とSSR を回復し、RTE 命令を発行してください。

6.6 各例外の説明

個別の例外処理動作について、発生要因、発生時の遷移先アドレス、遷移時のプロセッサの動作を説明します。

6.6.1 リセット

注. 「17. リセット、ウォッチドッグタイマ（WDT）」も参照してください。

(1) パワーオンリセット

- 条件：
  パワーオンリセット要求
- 動作：
  EXPEVT に H'000 を設定し、CPU、及び内蔵周辺モジュールの初期化を行った後、リセットベクタ（H'A000 0000）に分岐します。詳細は、各章のレジスタの説明を参照してください。電源投入時には必ずパワーオンリセットを行ってください。

(2) マニュアルリセット

- 条件：
  マニュアルリセット要求
- 動作：
  EXPEVT に H'020 を設定し、CPU、及び内蔵周辺モジュールの初期化を行った後、リセットベクタ（H'A000 0000）に分岐します。パワーオンリセットとマニュアルリセットでは初期化されるレジスタが異なります。詳細は、各章のレジスタの説明を参照してください。

(3) H-UDI リセット

- 要因：SDIR. TI[7:4]がB'0110（ネゲート）、又はB'0111（アサート）
- 遷移先アドレス：H'A000 0000
- 遷移時動作：
  例外コードH'000をEXPEVTにセットします。VBR、SRの初期化を行い、PC＝H'A000 0000に分岐します。CPU、及び内蔵周辺モジュールの初期化を行います。詳細は、「42. ユーザデバッグインタフェース（H-UDI）」、及び各章のレジスタの説明を参照してください。

(4) 命令TLB 多重ヒット例外

- 要因：ITLBのアドレスが多重に一致
- 遷移先アドレス：H'A000 0000
- 遷移時動作：
  本例外を発生させた仮想アドレス（32ビット）をTEAに、対応する仮想ページ番号（22ビット）をPTEH[31:10]にセットします。PTEHのASIDは本例外発生時のASIDを示します。
  例外コードH'140をEXPEVTにセットします。VBR、SRの初期化を行い、PC＝H'A000 0000に分岐します。CPU、及び内蔵周辺モジュールの初期化をマニュアルリセットの場合と同様に行います。詳細は、各章のレジスタの説明を参照してください。

(5) データTLB 多重ヒット例外

- 要因：UTLBのアドレスが多重に一致
- 遷移先アドレス：H'A000 0000
- 遷移時動作：
  本例外を発生させた仮想アドレス（32ビット）をTEAに、対応する仮想ページ番号（22ビット）をPTEH[31:10]にセットします。PTEHのASIDは本例外発生時のASIDを示します。
  例外コードH'140をEXPEVTにセットします。VBR、SRの初期化を行い、PC＝H'A000 0000に分岐します。CPU、及び内蔵周辺モジュールの初期化をマニュアルリセットの場合と同様に行います。詳細は、各章のレジスタの説明を参照してください。

6.6.2 一般例外

(1) データTLBミス例外

- 要因：UTLBのアドレス比較の結果、アドレスが不一致
- 遷移先アドレス：VBR + H'0000 0400
- 遷移時動作：
  本例外を発生させた仮想アドレス（32ビット）をTEAに、対応する仮想ページ番号（22ビット）をPTEH[31:10]にセットします。PTEHのASIDは本例外発生時のASIDを示します。
  本例外を発生させた命令のPC、SRをそれぞれSPC、SSRに退避し、そのときのR15をSGRに退避します。読み出しの場合は例外コードH'040を、書き込みの場合は例外コードH'060をEXPEVTにセットします。SRレジスタのBLビット、MDビット、RBビットを1にセットし、PC＝VBR＋H'0400に分岐します。TLBミス処理高速化のために、他の例外とオフセットを分けています。

```
Data_TLB_miss_exception()
{
        TEA = EXCEPTION_ADDRESS;
        PTEH.VPN = PAGE_NUMBER;
        SPC = PC;
        SSR = SR;
        SGR = R15;
        EXPEVT = read_access ? H'0000 0040 : H'0000 0060;
        SR.MD = 1;
        SR.RB = 1;
        SR.BL = 1;
        PC = VBR + H'0000 0400;
}
```

(2) 命令TLB ミス例外

- 要因：ITLBのアドレス比較の結果、アドレスが不一致
- 遷移先アドレス：VBR + H'0000 0400
- 遷移時動作：
  本例外を発生させた仮想アドレス（32ビット）をTEAに、対応する仮想ページ番号（22ビット）をPTEH[31:10]にセットします。PTEHのASIDは本例外発生時のASIDを示します。
  本例外を発生させた命令のPC、SRをそれぞれSPC、SSRに退避し、そのときのR15をSGRに退避します。例外コードH'040をEXPEVTにセットします。SRレジスタのBL ビット、MD ビット、RBビットを1にセットし、PC＝VBR＋H'0400に分岐します。
  TLBミス処理高速化のために、他の例外とオフセットを分けています。

```
ITLB_miss_exception()

{

            TEA = EXCEPTION_ADDRESS;

            PTEH.VPN = PAGE_NUMBER;

            SPC = PC;

            SSR = SR;

            SGR = R15;

            EXPEVT = H'0000 0040;

            SR.MD = 1;

            SR.RB = 1;

            SR.BL = 1;

            PC = VBR + H'0000 0400;

}
```

(3) 初期ページ書き込み例外

- 要因：ストアアクセスでTLBにヒットしたが、ダーティビットD＝0
- 遷移先アドレス：VBR＋H'0000 0100
- 遷移時動作：
  本例外を発生させた仮想アドレス（32ビット）をTEAに、対応する仮想ページ番号（22ビット）をPTEH[31:10]にセットします。PTEHのASIDは本例外発生時のASIDを示します。
  本例外を発生させた命令のPC、SRをそれぞれSPC、SSRに退避し、そのときのR15をSGRに退避します。例外コードH'080をEXPEVTにセットします。SRレジスタのBL ビット、MD ビット、RB ビットを1にセットし、PC＝VBR＋H'0100に分岐します。

```
Initial_write_exception()
{
            TEA = EXCEPTION_ADDRESS;
            PTEH.VPN = PAGE_NUMBER;
            SPC = PC;
            SSR = SR;
            SGR = R15;
            EXPEVT = H'0000 0080;
            SR.MD = 1;
            SR.RB = 1;
            SR.BL = 1;
            PC = VBR + H'0000 0100;
}
```

(4) データTLB保護違反例外

- 要因：アクセスが表6.3、表6.4に示すUTLBのプロテクション情報（PRビット（FPSCRレジスタのビット19）あるいはEPRビット（PTEAレジスタのビット13～8））に反する。

表6.3 UTLBプロテクション情報（TLB互換モードの場合）

PR	特権モード	ユーザモード
00	読み出しのみ可	アクセス不可
01	読み出し／書き込み可	アクセス不可
10	読み出しのみ可	読み出しのみ可
11	読み出し／書き込み可	読み出し／書き込み可

表6.4 UTLBプロテクション情報（TLB拡張モードの場合）

EPR [5]	特権モードでの読み出しの可否
0	読み出し不可
1	読み出し可

EPR [4]	特権モードでの書き込みの可否
0	書き込み不可
1	書き込み可

EPR [2]	ユーザモードでの読み出しの可否
0	読み出し不可
1	読み出し可

EPR [1]	ユーザモードでの書き込みの可否
0	書き込み不可
1	書き込み可

- 遷移先アドレス：VBR + H'0000 0100
- 遷移時動作：
  本例外を発生させた仮想アドレス（32ビット）をTEAに、対応する仮想ページ番号（22ビット）をPTEH[31:10]にセットします。PTEHのASIDは本例外発生時のASIDを示します。
  本例外を発生させた命令のPC、SRをそれぞれSPC、SSRに退避し、そのときのR15をSGRに退避します。読み出しの場合には例外コードH'0A0を、書き込みの場合には例外コードH'0C0をEXPEVTにセットします。SRレジスタのBLビット、MDビット、RBビットを1にセットし、PC＝VBR＋H'0100に分岐します。

```
Data_TLB_protection_violation_exception()
{
            TEA = EXCEPTION_ADDRESS;
            PTEH.VPN = PAGE_NUMBER;
            SPC = PC;
            SSR = SR;
            SGR = R15;
            EXPEVT = read_access ? H'0000 00A0 : H'0000 00C0;
            SR.MD = 1;
            SR.RB = 1;
            SR.BL = 1;
            PC = VBR + H'0000 0100;
}
```

(5) 命令TLB 保護違反例外

• 要因：アクセスが表6.5、表6.6に示すITLBのプロテクション情報（FPSCR レジスタのPR ビット）に反する。

表6.5 ITLB プロテクション情報（TLB 互換モードの場合）

PR	特権モード	ユーザモード
0	アクセス可	アクセス不可
1	アクセス可	アクセス可

表6.6 ITLB プロテクション情報（TLB 拡張モードの場合）

EPR [5]、EPR [3]	特権モードでの実行の可否
11、01	実行可
10	命令フェッチは実行不可、ICBI のRn アクセスは実行可
00	実行不可

EPR [2]、EPR [0]	ユーザモードでの実行の可否
11、01	実行可
10	命令フェッチは実行不可、ICBI のRn アクセスは実行可
00	実行不可

• 遷移先アドレス：VBR + H'0000 0100

• 遷移時動作：
本例外を発生させた仮想アドレス（32 ビット）をTEAに、対応する仮想ページ番号（22 ビット）をPTEH[31:10]にセットします。PTEHのASIDは本例外発生時のASIDを示します。
本例外を発生させた命令のPC、SRをそれぞれSPC、SSRに退避し、そのときのR15をSGRに退避します。例外コードH'0A0をEXPEVTにセットします。SR レジスタのBL ビット、MD ビット、RB ビットを1にセットし、PC＝VBR＋H'0100に分岐します。

```
ITLB_protection_violation_exception()
{
        TEA = EXCEPTION_ADDRESS;
        PTEH.VPN = PAGE_NUMBER;
        SPC = PC;
        SSR = SR;
        SGR = R15;
        EXPEVT = H'0000 00A0;
        SR.MD = 1;
        SR.RB = 1;
        SR.BL = 1;
        PC = VBR + H'0000 0100;
}
```

(6) データアドレスエラー

• 要因：

- ワードデータをワード境界以外（2n＋1）からアクセス
- ロングワードデータをロングワードデータ境界以外（4n＋1、4n＋2、4n＋3）からアクセス（ただし、MOVUA命令は除きます）
- クワッドワードをクワッドワードデータ境界以外（8n＋1、8n＋2、8n＋3、8n＋4、8n＋5、8n＋6、8n＋7）からアクセス
- ユーザモードでの領域H'8000 0000～H'FFFF FFFFへのアクセス
  ただし、H'E000 0000～H'E3FF FFFF、及びH'E500 0000～H'E5FF FFFFは、それぞれユーザモードからアクセスする設定が可能です。詳しくは「7. メモリマネジメントユニット（MMU）」、及び「9. 内蔵メモリ」を参照してください。
- MMCAWビット（EXPMASKレジスタのビット4）が0で、IC/OCメモリ割り付け連想書き込み
  メモリ割り付け連想書き込みについては「8.6.5 メモリ割り付け連想ライトの動作」を参照してください。

• 遷移先アドレス：VBR + H'0000 0100

• 遷移時動作：
本例外を発生させた仮想アドレス（32ビット）をTEAに、対応する仮想ページ番号(22ビット)をPTEH[31:10]にセットします。PTEHのASIDは本例外発生時のASIDを示します。
本例外を発生させた命令のPC、SRをそれぞれSPC、SSRに退避し、そのときのR15をSGRに退避します。読み出しの場合は例外コードH'0E0を、書き込みの場合は例外コードH'100をEXPEVTにセットします。SRレジスタのBLビット、MDビット、RBビットを1にセットし、PC＝VBR＋H'0100に分岐します。詳細は「7. メモリマネジメントユニット（MMU）」を参照してください。

```
Data_address_error()
{
            TEA = EXCEPTION_ADDRESS;
            PTEH.VPN = PAGE_NUMBER;
            SPC = PC;
            SSR = SR;
            SGR = R15;
            EXPEVT = read_access? H'0000 00E0: H'0000 0100;
            SR.MD = 1;
            SR.RB = 1;
            SR.BL = 1;
            PC = VBR + H'0000 0100;
}
```

(7) 命令アドレスエラー

• 要因：

- ワード境界以外（2n＋1）から命令フェッチ

- ユーザモードでの領域H'8000 0000～H'FFFF FFFFから命令フェッチ
ただし、H'E500 0000～H'E5FF FFFFはユーザモードからアクセスする設定が可能です。詳しくは「9. 内蔵メモリ」を参照してください。

• 遷移先アドレス：VBR＋H'0000 0100

• 遷移時動作：
本例外を発生させた仮想アドレス（32ビット）をTEAに、対応する仮想ページ番号（22ビット）をPTEH[31:10]にセットします。PTEHのASIDは本例外発生時のASIDを示します。
本例外を発生させた命令のPC、SRをそれぞれSPC、SSRに退避し、そのときのR15をSGRに退避します。例外コードH'0E0をEXPEVTにセットします。SRレジスタのBLビット、MDビット、RBビットを1にセットし、PC＝VBR＋H'0100に分岐します。詳細は「7. メモリマネジメントユニット（MMU）」を参照してください。

```
Instruction_address_error()
{
            TEA = EXCEPTION_ADDRESS;
            PTEH.VPN = PAGE_NUMBER;
            SPC = PC;
            SSR = SR;
            SGR = R15;
            EXPEVT = H'0000 00E0;
            SR.MD = 1;
            SR.RB = 1;
            SR.BL = 1;
            PC = VBR + H'0000 0100;
}
```

(8) 無条件トラップ

- 要因：TRAPA命令の実行
- 遷移先アドレス：VBR + H'0000 0100
- 遷移時動作：
  処理完了型の例外のため、TRAPA命令の次の命令のPCをSPCに退避します。TRAPA命令実行時のSR、R15をSSR、SGRに退避します。TRAPA命令中の8ビットのイミディエイトを4倍して、TRA[9:0]にセットします。例外コードH'160をEXPEVTにセットします。SRレジスタのBLビット、MDビット、RBビットを1にセットし、PC＝VBR＋H'0100に分岐します。

```
TRAPA_exception()
{
            SPC = PC + 2;
            SSR = SR;
            SGR = R15;
            TRA = imm << 2;
            EXPEVT = H'0000 0160;
            SR.MD = 1;
            SR.RB = 1;
            SR.BL = 1;
            PC = VBR + H'0000 0100;
}
```

(9) 一般不当命令例外

• 要因：

- 遅延スロット以外にある未定義命令をデコード
  遅延分岐命令：JMP、JSR、BRA、BRAF、BSR、BSRF、RTS、RTE、BT/S、BF/S
  未定義命令：H'FFFD

- 遅延スロット以外にある特権命令をユーザモードでデコード
  特権命令：LDC、STC、RTE、LDTLB、SLEEP
  ただし、LDC、STCでGBRをアクセスする命令を除く

• 遷移先アドレス：VBR + H'0000 0100

• 遷移時動作：
本例外を発生させた命令のPC、SRをそれぞれSPC、SSRに退避し、そのときのR15をSGRに退避します。例外コードH'180をEXPEVTにセットします。SRレジスタのBL ビット、MDビット、RBビットを1にセットし、PC＝VBR＋H'0100に分岐します。なお、H'FFFD以外の未定義コードをデコードした場合には動作を保証しません。

```
General_illegal_instruction_exception()

{
            SPC = PC;

            SSR = SR;

            SGR = R15;

            EXPEVT = H'0000 0180;

            SR.MD = 1;

            SR.RB = 1;

            SR.BL = 1;

            PC = VBR + H'0000 0100;

}
```

(10) スロット不当命令例外

• 要因：

- 遅延スロットにある未定義命令をデコード
  遅延分岐命令：JMP、JSR、BRA、BRAF、BSR、BSRF、RTS、RTE、BT/S、BF/S
  未定義命令：H'FFFD

- 遅延スロット内のPCを書き換える命令をデコード
  PCを書き換える命令：JMP、JSR、BRA、BRAF、BSR、BSRF、RTS、RTE、BT、BF、BT/S、BF/S、
  TRAPA、LDC Rm, SR、LDC.L @Rm＋, SR、ICBI、PREFI

- 遅延スロット内の特権命令をユーザモードでデコード
  特権命令：LDC、STC、RTE、LDTLB、SLEEP
  ただし、LDC、STCでGBRをアクセスする命令を除く

- 遅延スロット内のPC相対MOV命令、MOVA命令をデコード

- BRDSSLPビット（EXPMASKレジスタのビット1）が0で、遅延スロットにあるSLEEP命令を実行

- RTEDSビット（EXPMASKレジスタのビット0）が0で、遅延スロットにあるNOP以外の命令を実行

• 遷移先アドレス：VBR＋H'0000 0100

• 遷移時動作：
直前の遅延分岐命令のPCをSPCに退避します。本例外発生時のSR、R15をSSR、SGRに退避します。例外コードH'1A0をEXPEVTにセットします。SRレジスタのBLビット、MDビット、RBビットを1にセットし、PC＝VBR＋H'0100に分岐します。なお、H'FFFD以外の未定義命令をデコードした場合には動作を保証しません。

```
Slot_illegal_instruction_exception()
{
            SPC = PC - 2;
            SSR = SR;
            SGR = R15;
            EXPEVT = H'0000 01A0;
            SR.MD = 1;
            SR.RB = 1;
            SR.BL = 1;
            PC = VBR + H'0000 0100;
}
```

(11) 一般FPU 抑止例外

- 要因：遅延スロット以外にあるFPU命令（注）をSR.FD=1でデコード
- 遷移先アドレス：VBR＋H'0000 0100
- 遷移時動作：
  本例外を発生させた命令のPC、SRをそれぞれSPC、SSRに退避し、そのときのR15をSGRに退避します。例外コードH'800をEXPEVTにセットします。SRレジスタのBL ビット、MD ビット、RB ビットを1にセットし、PC＝VBR＋H'0100に分岐します。

```
General_fpu_disable_exception()
{
            SPC = PC;
            SSR = SR;
            SGR = R15;
            EXPEVT = H'0000 0800;
            SR.MD = 1;
            SR.RB = 1;
            SR.BL = 1;
            PC = VBR + H'0000 0100;
}
```

注. FPU 命令とは命令コードの最初の4 ビットがF である命令（ただし、未定義命令H'FFFD を除く）と、FPUL、FPSCRに対するLDS、STS、LDS.L、STS.L 命令です。

(12) スロットFPU 抑止例外

- 要因：遅延スロットにあるFPU命令をSR.FD=1でデコード
- 遷移先アドレス：VBR＋H'0000 0100
- 遷移時動作：
  直前の遅延分岐命令のPCをSPCに退避します。本例外発生時のSR、R15をSSR、SGRに退避します。例外コードH'820をEXPEVTにセットします。SRレジスタのBLビット、MDビット、RBビットを1にセットし、PC＝VBR＋H'0100に分岐します。

```
Slot_fpu_disable_exception()
{
            SPC = PC - 2;
            SSR = SR;
            SGR = R15;
            EXPEVT = H'0000 0820;
            SR.MD = 1;
            SR.RB = 1;
            SR.BL = 1;
            PC = VBR + H'0000 0100;
}
```

(13) 命令実行前ユーザブレーク／命令実行後ユーザブレーク

- 要因：ユーザブレークポイントコントローラに設定したブレーク条件が成立
- 遷移先アドレス：VBR＋H'0000 0100、又はDBR
- 遷移時動作：
  命令実行後ブレークの場合、ブレークポイントを設定した命令の直後の命令のPCをSPCに退避します。命令実行前ブレークの場合、ブレークポイントを設定した命令のPCをSPCに退避します。
  ブレーク発生時のSR、R15をSSR、SGRに退避します。例外コードH'1E0をEXPEVTにセットします。SRレジスタのBLビット、MDビット、RBビットを1にセットし、PC＝VBR＋H'0100に分岐します。ただし、PC=DBRに分岐することも可能です。
  データブレークを設定した場合のPCについてなど、詳細は「41. ユーザブレークコントローラ（UBC）」を参照してください。

```
User_break_exception()
{
            SPC = (pre_execution break? PC : PC + 2);
            SSR = SR;
            SGR = R15;
            EXPEVT = H'0000 01E0;
            SR.MD = 1;
            SR.RB = 1;
            SR.BL = 1;
            PC = (BRCR.UBDE==1 ? DBR : VBR + H¢0000 0100);
}
```

(14) FPU 例外

- 要因：浮動小数点演算実行による例外
- 遷移先アドレス：VBR + H'0000 0100
- 遷移時動作：
  本例外を発生させた命令のPC、SRをそれぞれSPC、SSRに退避し、そのときのR15をSGRに退避します。例外コードH'120をEXPEVTにセットします。SRレジスタのBL ビット、MD ビット、RB ビットを1にセットし、PC=VBR+H'0100に分岐します。

```
FPU_exception()
{
            SPC = PC;
            SSR = SR;
            SGR = R15;
            EXPEVT = H'0000 0120;
            SR.MD = 1;
            SR.RB = 1;
            SR.BL = 1;
            PC = VBR + H'0000 0100;
}
```

6.6.3 割り込み

(1) NMI（ノンマスカブル割り込み）

- 要因：NMI端子のエッジ検出
- 遷移先アドレス：VBR＋H'0000 0600
- 遷移時動作：
  本割り込みを受け付けた命令の直後のPC、SRを、それぞれSPC、SSRに退避し、そのときのR15をSGRに退避します。
  例外コードH'1C0をINTEVTにセットします。SRレジスタのBL ビット、MDビット、RBビットを1にセットし、PC＝VBR＋H'0600に分岐します。本割り込みは、BL ビットが0のときはSRの割り込みマスクビットによってマスクされず、最優先で受け付けられます。BL ビットが1のとき本割り込みがマスクされるか、受け付けるかをソフトウェアによって設定可能です。 INTMU ビット（CPUOPMレジスタのビット3）が1のときに、NMI割り込みを受け付けた場合、IMASKビット（SRレジスタの7～4ビット）には、B'1111がセットされます。詳細は「10. 割り込みコントローラ（INTC）」を参照してください。

```
NMI()
{
            SPC = PC;
            SSR = SR;
            SGR = R15;
            INTEVT = H'0000 01C0;
            SR.MD = 1;
            SR.RB = 1;
            SR.BL = 1;
            If (cond) SR.IMASK = B'1111;
            PC = VBR + H'0000 0600;
}
```

(2) 一般割り込み要求

- 要因：
- SRの割り込みマスクビットが割り込み要求の割り込みレベルより小さく、かつSRのBLが0（命令の切れ目で受け付けます）
- 遷移先アドレス：VBR + H'0000 0600
- 遷移時動作：
  受け付けた命令の直後のPCをSPCにセットします。受け付けた時点のSR、R15をSSR、SGRにセットします。各割り込み要因に対応したコードをINTEVTにセットします。SRレジスタのBLビット、MDビット、RBビットを1にセットし、VBR＋H'0600に分岐します。CPUOPMレジスタのINTMUビットが1のときに、一般割り込みを受け付けた場合、SRレジスタのIMASKビットには、受け付けた割り込みのレベルが設定されます。詳細は「10. 割り込みコントローラ（INTC）」を参照してください。

```
Module_interruption()
{
            SPC = PC;
            SSR = SR;
            SGR = R15;
            INTEVT = H'0000 0400 ~ H'0000 3FE0;
            SR.MD = 1;
            SR.RB = 1;
            SR.BL = 1;
            if (cond) SR.IMASK = level_of accepted_interrupt ();
            PC = VBR + H'0000 0600;
}
```

6.6.4 複数回の例外が発生する場合の優先順位

メモリを2回アクセスする命令や、不可分である遅延付き分岐命令と遅延スロット命令などでは、複数回例外が発生します。この場合、通常の例外優先順位と異なるので、注意が必要です。

(1) メモリを2回アクセスする命令

MAC命令やメモリ―メモリ間論理演算命令、TAS命令、MOVUA命令は1つの命令でデータ転送が2回あるため、それぞれのデータ転送時に例外の発生を検出します。そのため、以下の順位で判定します。

1. 1回目のデータ転送のデータアドレスエラー
2. 1回目のデータ転送のTLBミス
3. 1回目のデータ転送のTLB保護違反
4. 1回目のデータ転送の初期ページ書き込み例外
5. 2回目のデータ転送のデータアドレスエラー
6. 2回目のデータ転送のTLBミス
7. 2回目のデータ転送のTLB保護違反
8. 2回目のデータ転送の初期ページ書き込み例外

(2) 不可分である遅延付き分岐命令と遅延スロット命令

遅延付き分岐命令と遅延スロット命令は不可分であるため、1つの命令として扱われます。そのため、それぞれの命令における例外についても、優先順位が通常と異なります。遅延スロット命令が1回のデータ転送しか持たない場合の順位を示します。

1. 遅延付き分岐命令における優先レベル1、2の中断型、及び再実行型例外をチェックします。
2. 遅延スロット命令における優先レベル1、2の中断型、及び再実行型例外をチェックします。
3. 遅延付き分岐命令における優先レベル2の完了型例外をチェックします。
4. 遅延スロット命令における優先レベル2の完了型例外をチェックします。
5. 遅延付き分岐命令における優先レベル3と遅延スロット命令における優先レベル3をチェックします（この2つの間の優先順位はありません）。
6. 遅延付き分岐命令における優先レベル4と遅延スロット命令における優先レベル4をチェックします（この2つの間の優先順位はありません）。

遅延スロット命令が2回目のデータ転送を持つ場合、2.において、(1) のように2回チェックを行います。

なお、受け付けた例外（最も優先度が高い例外）が遅延スロット命令の再実行型例外である場合、分岐命令のPRレジスタ書き込み動作（BSR、BSRF、JSRのPC→PR動作）は抑止されません。ただし、その場合のPRレジスタの内容は保証されません。

6.7 注意事項

(1) 例外処理からの復帰

1. SRレジスタのBLビットをソフトウェアでチェックしてください。メモリにSPC、SSRを退避していた場合には、BLビットを1にしてからそれらを回復してください。
2. RTE命令を発行してください。RTE命令により、SPCがPCに、SSRがSRにセットされ、SPCのアドレスに分岐して、例外処理から復帰します。

(2) BLビットが1のときに一般例外又は割り込みが発生した場合

1. 一般例外
   ユーザブレークを除く一般例外が発生した場合には、例外が発生した命令のPCがSPCにセットされ、マニュアルリセットが発生します。このときEXPEVTは、H'0000 0020となり、SSRは不定値となります。
2. 割り込み
   通常の割り込みが発生した場合には、割り込み要求は保留され、ソフトウェアでBLビットが0にクリアされてから受け付けられます。ノンマスカブル割り込み（NMI）が発生した場合は、保留するか、受け付けるかをソフトウェアによって設定可能です。ただし、スリープ又はスタンバイ状態では、BLビットが1であっても、割り込みを受け付けます。

(3) 例外発生時のSPC

1. 再実行型の一般例外
   例外が発生した命令のPCがSPCにセットされ、例外処理から復帰後に再実行されます。ただし、遅延スロット命令で発生した場合、直前の遅延分岐命令の条件が成立する、しないに関係なく遅延分岐命令のPCがSPCにセットされます。
2. 完了型の一般例外、割り込み
   例外が発生した命令の次の命令のPCがSPCにセットされます。ただし、遅延スロット付き分岐命令で発生した場合、分岐先のPCがSPCにセットされます。

(4) RTE命令の遅延スロット

1. RTE命令の遅延スロットに配置された命令は、SSRに退避されていた値がSRに復帰されたのち実行されます。命令アクセスに関する例外の受け付け判定は復帰前のSRの値に応じて決定され、その他の例外の受け付け判定は復帰後とのSRによる処理モードやBLビットに依存して決定されます。完了型の例外に関してはRTEの分岐先の実行前に受け付けられますが、再実行型の例外が発生すると動作が保証されません。
2. RTE命令の遅延スロットに配置された命令では、ユーザブレークの受け付けは行われません。

(5) SRレジスタ値変更と例外の受け付け

1. LDC命令によりBLビット、MDビットを操作した場合は、その次命令から新しいSRレジスタの値で例外の受け付けを再判定します（注）。完了型例外では次命令の実行後に例外が受け付けられますが、完了型例外のうち、割り込みに関しては次命令の実行前に受け付けを行います。

注. SRに対するLDC命令が実行されると、後続命令への命令フェッチが再び行われ、新しいSRの値で命令フェッチ例外の再評価が行われます。

7. メモリマネジメントユニット（MMU）

本LSIは、8ビットのアドレス空間識別子と32ビットの仮想アドレス空間から29ビットあるいは32ビットの物理アドレス空間を扱うことができます。仮想アドレスから物理アドレスへのアドレス変換は、本LSIに内蔵されたメモリマネジメントユニット（MMU：Memory Management Unit）を用いて行います。MMUは変換ルックアサイドバッファ（TLB：Translation Lookaside Buffer）にユーザ作成のアドレス変換テーブルの情報をキャッシングすることにより、高速にアドレス変換を行います。

本LSIは命令TLB（ITLB）を4エントリ、共用TLB（UTLB）を64エントリ内蔵しており、ITLBにはUTLBのコピーがハードウェアにより格納されます。アドレス変換方式はページング方式です。また特権モード、ユーザモードのそれぞれにおいて、仮想アドレス空間へのアクセス権を設定し、記憶保護を行うことができます。

本LSIのMMUではいくつかの動作モードがあります。物理アドレスのマッピング範囲に関しては、29ビットブートモードと32ビットブートモードがあります。MMUのフラグ機能に関しては、TLB互換モード（ページサイズ4種類、保護ビット4ビット）とTLB拡張モード（ページサイズ8種類、保護ビット6ビット）があります。

29ビットブートモードと32ビットブートモードの選択は、ソフトウェアからの制御レジスタ設定（PASCRレジスタのSEビット）で行います。また、外部ピンからの指定で32ビットブートモード（パワーオンリセット時点から32ビットブートモードであること）が可能です。

TLB互換モードとTLB拡張モードの選択は、ソフトウェアからの制御レジスタ設定（MMUCRレジスタのMEビット）で行います。物理アドレスのマッピング範囲に関しては、「7.1 MMUの概要」～「7.7 メモリ割り付けTLBの構成」を通じて、29ビットブートモードで説明し、その後「7.8 32ビットブートモード」で、32ビットブートモードでの差分機能をまとめて説明します。

MMUのフラグ機能に関しては、TLB互換モード、TLB拡張モードの両方を並列して説明します。

7.1 MMUの概要

MMUとは物理メモリを有効に利用するために考え出された機能です。図7.1（0）に示すように、プロセスのサイズが物理メモリより少ない場合、プロセスのすべてを物理メモリへマッピングすることが可能です。しかしプロセスのサイズが増大し、物理メモリに収まらない場合、プロセスを分割して実行に必要な部分を随時物理メモリへマッピングする必要が生じます（図7.1（1））。この物理メモリへのマッピングをプロセス自身が考えながら実行していては、プロセスにかかる負担が増大します。この負担を軽減するために物理メモリへのマッピングを一括して行おうとして生まれた考え方が仮想記憶方式です（図7.1（2））。仮想記憶方式では物理メモリに比べて十分に大きな仮想メモリを用意します。プロセスはこの仮想メモリにマッピングされます。このためプロセスは仮想メモリ上での動作だけを考えていればよくなります。仮想メモリから物理メモリへのマッピングには、MMUが用いられます。通常、OSがMMUを管理しており、プロセスが必要とする仮想メモリを円滑に物理メモリへマッピングできるように物理メモリの入れ換えを行います。物理メモリの入れ換えは2次記憶などとの間で行われます。

こうして生まれた仮想記憶方式は、複数のプロセスが同時に走行するタイムシェアリングシステム（TSS）の上で威力を発揮します（図7.1（3））。TSS上で走行する複数のプロセスが、おのおの物理メモリへのマッピングを意識しながら動作していたのでは効率が上がりません。この効率を上げ、各プロセスの負担を減らすために仮想記憶方式は使われます（図7.1（4））。この仮想記憶方式ではプロセスごとに仮想メモリが割り当てられます。MMUは複数の仮想メモリを効率よく物理メモリへマッピングする働きをします。さらに、あるプロセスが別のプロセスの物理メモリに誤ってアクセスしないように、MMUには記憶保護の機能も備わっています。

MMUを用いて仮想メモリから物理メモリへアドレス変換を行うとき、その変換情報がMMUに登録されていなかったり、別のプロセスの仮想メモリへ誤ってアクセスしたりすることがあります。そのときMMUは例外を発生させて、物理メモリのマッピングを変更し、新たなアドレス変換情報を登録します。

MMUの機能はソフトウェアのみでも実現可能ですが、プロセスが物理メモリへアクセスするたびにソフトウェアで変換を行っていたのでは効率が悪くなります。そのためハードウェア上にアドレス変換のためのバッファ（TLB）を用意し、頻繁に使用されるアドレス変換情報はTLBに置いておきます。TLBはアドレス変換情報のためのキャッシュといえます。しかしキャッシュと違いアドレス変換に失敗したとき、つまり例外が発生したときのアドレス変換情報の入れ換えは通常ソフトウェアで行います。このためソフトウェアで柔軟にメモリ管理を行うことが可能となります。

MMU が仮想メモリから物理メモリへのマッピングをする方式として、固定長のアドレス変換を用いる方式（ページング方式）と可変長のアドレス変換を用いる方式（セグメント方式）があります。ページング方式では固定サイズのページと呼ばれるアドレス空間が変換の単位となります。

以下、本 LSI では仮想メモリ上のアドレス空間のことを仮想アドレス空間、物理メモリ上のアドレス空間のことを物理アドレス空間と呼ぶことにします。

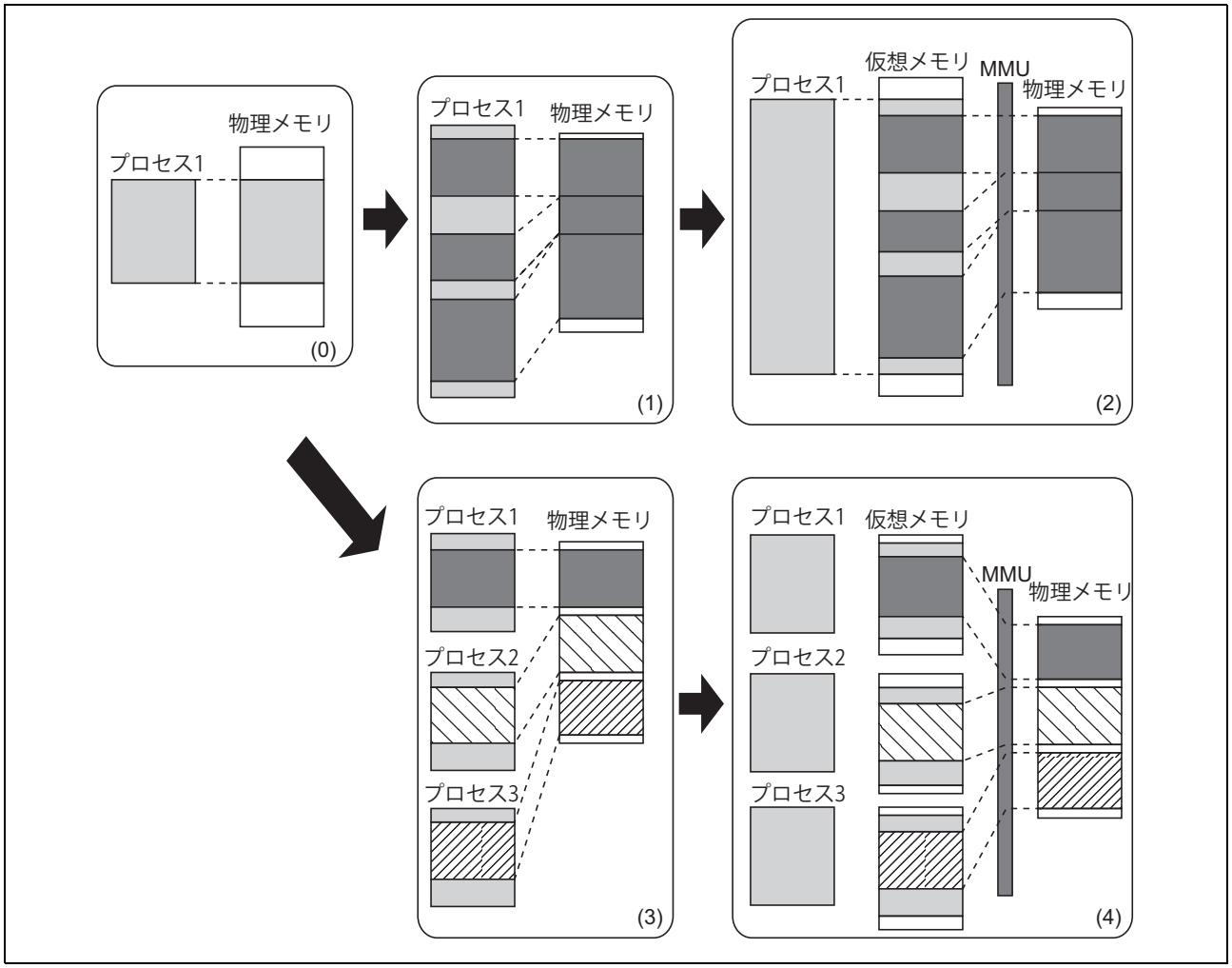


図 7.1　MMU の役割

7.1.1　アドレス空間

(1)　仮想アドレス空間

本LSIは32ビットの仮想アドレス空間をサポートし、4Gバイトのアドレス空間をアクセスできます。仮想アドレス空間は図7.2、図7.3に示すとおり、いくつかの領域に分かれています。特権モードではP0領域からP4領域の4Gバイトの空間をアクセスすることが可能です。ユーザモードではU0領域の2Gバイトの空間をアクセス可能です。またSQMDビット（MMU制御レジスタ（MMUCR）のビット9）が0の場合、ストアキュー領域の64Mバイトの空間もアクセス可能になり、RMDビット（内蔵メモリ制御レジスタ（RAMCR）のビット9）が1の場合、内蔵メモリ領域の16Mバイトの空間もアクセス可能になります。ユーザモードでU0領域、ストアキュー領域、内蔵メモリ領域以外をアクセスした場合、アドレスエラーとなります。

ATビット（MMUCRレジスタのビット0）を1にし、MMUをイネーブルにしたとき、これらの領域のうち、P0、P3、U0領域は、任意の物理アドレス空間へ1K/4K/64K/1Mバイトページ単位（TLB互換モード時）、あるいは1K/4K/8K/64K/256K/1M/4M/64Mバイトページ単位（TLB拡張モード時）でマッピングすることができます。また8ビットのアドレス空間識別子を用いることにより、P0、P3、U0領域を256個まで増やすことが可能です。仮想アドレス空間から29ビットの物理アドレス空間へのマッピングにはTLBを用います。

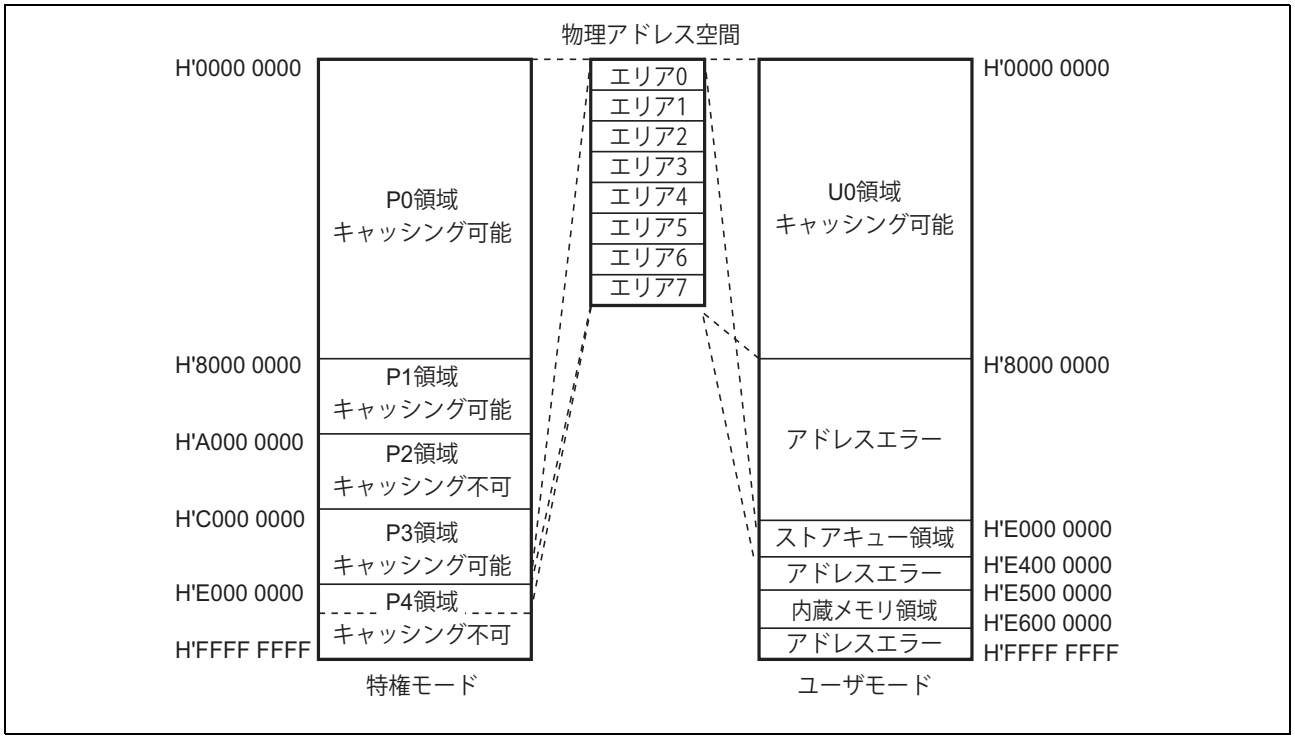


図 7.2　仮想アドレス空間（MMUCRレジスタのATビット＝0）

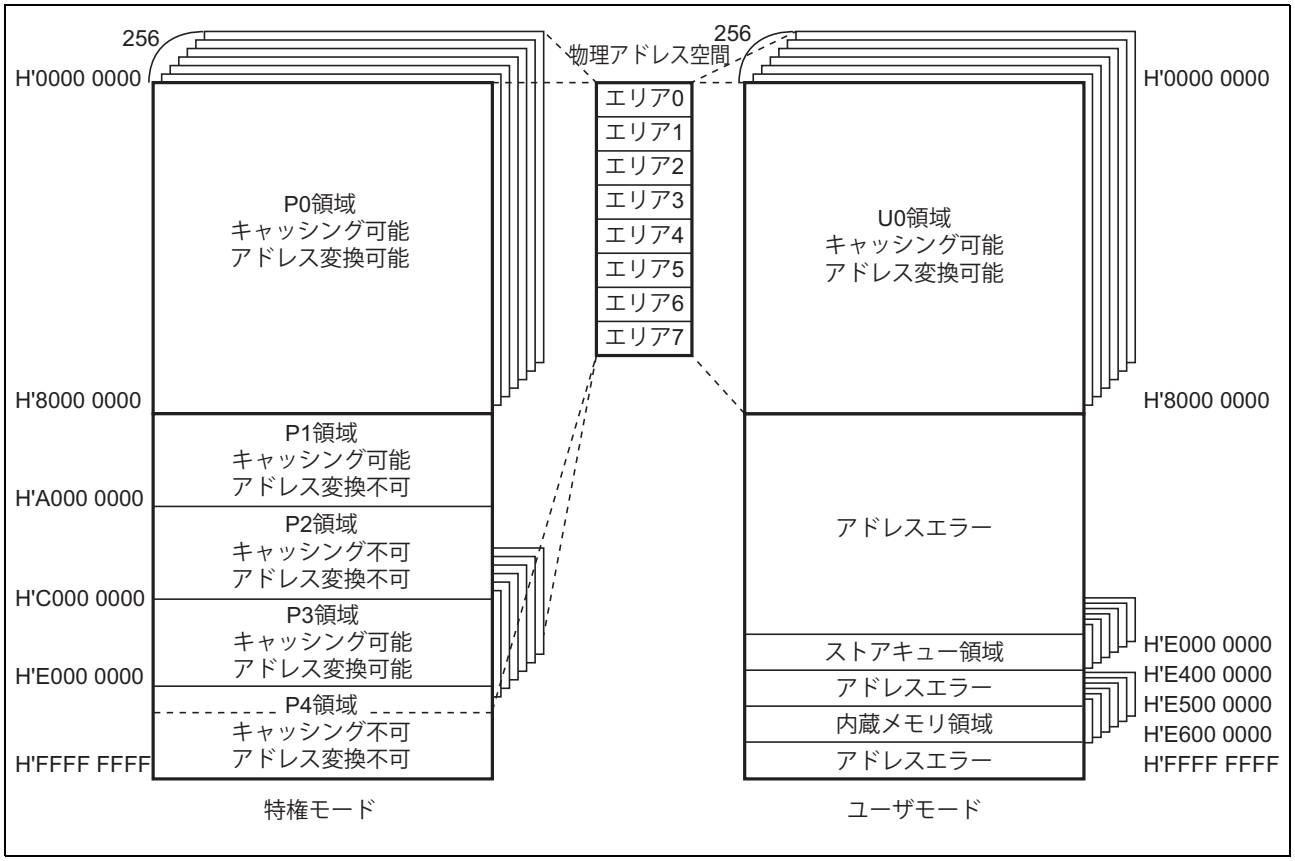


図 7.3　仮想アドレス空間（MMUCR レジスタの AT ビット＝1）

(a)　P0、P3、U0 領域

P0、P3、U0 領域は TLB を用いたアドレス変換とキャッシュを用いたアクセスが可能な領域です。MMU がディスエーブルの場合、アドレスの上位 3 ビットを 0 にしたものが対応する物理アドレス空間のアドレスとなります。キャッシュを用いるか否かはキャッシュコントロールレジスタ（CCR）に従います。キャッシュを用いた場合、ライトアクセスにおけるコピーバック方式とライトスルー方式の切り替えは、CCR レジスタの WT ビットに従います。

MMU がイネーブルの場合、これらの領域は TLB を用いて 1K/4K/64K/1M バイトページ単位（TLB 互換モード時）、あるいは 1K/4K/8K/64K/256K/1M/4M/64M バイトページ単位（TLB 拡張モード時）に任意の物理アドレス空間へマッピングできます。CCR がキャッシュイネーブル状態であり、かつ TLB エントリの当該ページのキャッシング可能ビット（C ビット）が 1 のとき、キャッシュを用いたアクセスが行えます。キャッシュを用いた場合、ライトアクセスにおけるコピーバック方式とライトスルー方式の切り替えは、TLB の WT ビットに従います。

これらの領域を、TLB により物理アドレス空間のエリア 7 に存在する制御レジスタ領域にマッピングする場合、当該ページの C ビットは 0 にしてください。

(b)　P1 領域

P1 領域は TLB を用いたアドレス変換が行えませんが、キャッシュを用いたアクセスは可能な領域です。MMU がイネーブルか否かにかかわらず、アドレスの上位 3 ビットを 0 にしたものが対応する物理アドレス空間のアドレスとなります。キャッシュを用いるか否かは CCR に従います。キャッシュを用いた場合、ライトアクセスにおけるコピーバック方式とライトスルー方式の切り替えは、CCR の CB ビットに従います。

(c)　P2 領域

P2 領域は TLB を用いたアドレス変換とキャッシュを用いたアクセスが行えない領域です。

MMU がイネーブルか否かにかかわらず、アドレスの上位 3 ビットを 0 にしたものが対応する物理アドレス空間のアドレスとなります。

(d) P4 領域

P4 領域は本LSI の内部リソースにマッピングされる領域です。この領域は、ストアキューと内蔵メモリ領域を除いてTLB を用いたアドレス変換ができません。また、この領域はキャッシュを用いたアクセスが行えません。

P4 領域の詳細を図7.4 に示します。

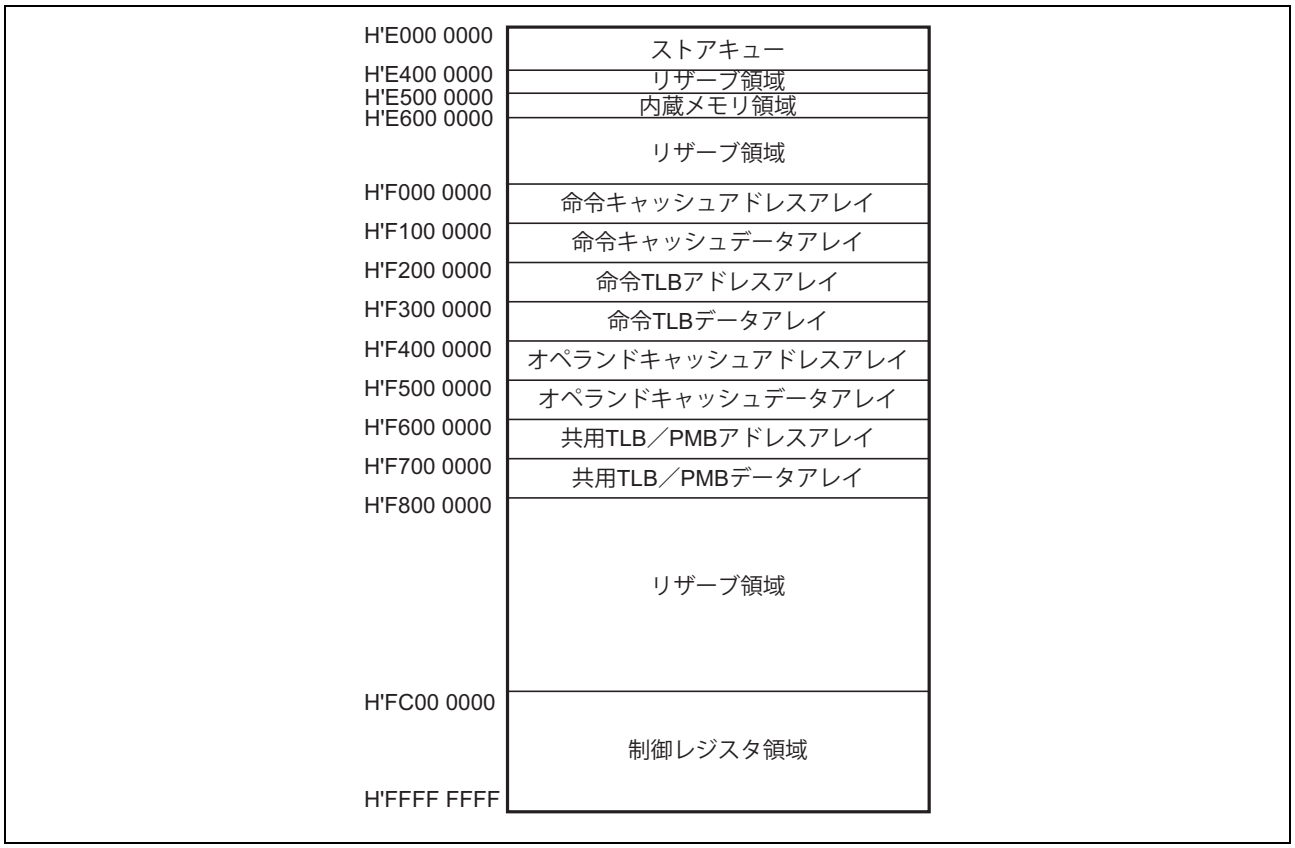


図 7.4　P4 領域

H'E000 0000～H'E3FF FFFF までは、ストアキュー（SQ）にアクセスするための領域です。ユーザモードでのアクセス権はMMUCR のSQMD ビットで指定します。詳細は「8.7 ストアキュー」を参照してください。

H'E500 0000～H'E5FF FFFF までは、内蔵メモリをアクセスするための領域です。ユーザモードでのアクセス権はRAMCR レジスタのRMD ビットで指定します。詳細は「9. 内蔵メモリ」を参照してください。

H'F000 0000～H'F0FF FFFF までは、命令キャッシュのアドレスアレイを直接アクセスするための領域です。詳細は「8.6.1 IC アドレスアレイ」を参照してください。

H'F100 0000～H'F1FF FFFF までは、命令キャッシュのデータアレイを直接アクセスするための領域 です。詳細は「8.6.2 IC データアレイ」を参照してください。

H'F200 0000～H'F2FF FFFF までは、命令TLB のアドレスアレイを直接アクセスするための領域です。詳細は「7.7.1 IITLB アドレスアレイ」を参照してください。

H'F300 0000～H'F37F FFFF までは、命令TLB のデータアレイを直接アクセスするための領域です。詳細は「7.7.2 ITLB データアレイ（TLB 互換モード）」及び「7.7.3 ITLB データアレイ（TLB 拡張モード）」を参照してください。

H'F400 0000～H'F4FF FFFF までは、オペランドキャッシュのアドレスアレイを直接アクセスするための領域です。詳細は「8.6.3 OC アドレスアレイ」を参照してください。

H'F500 0000～H'F5FF FFFF までは、オペランドキャッシュのデータアレイを直接アクセスするための領域です。詳細は「8.6.4 OC データアレイ」を参照してください。

H'F600 0000～H'F60F FFFF までは、共用TLB のアドレスアレイを直接アクセスするための領域です。詳細は「7.7.4 UTLB アドレスアレイ」を参照してください。

H'F610 0000 ～ H'F61F FFFF までは、PMB のアドレスアレイを直接アクセスするための領域です。詳細は、「7.8.5 メモリ割り付け PMB の構成」を参照してください。

H'F700 0000～H'F70F FFFF までは、共用 TLB のデータアレイを直接アクセスするための領域です。詳細は、「7.7.5 UTLB データアレイ（TLB 互換モード）」及び「7.7.6 UTLB データアレイ（TLB 拡張モード）」を参照してください。

H'F710 0000 ～ H'F71F FFFF までは、PMB のデータアレイを直接アクセスするための領域です。詳細は、「7.8.5 メモリ割り付け PMB の構成」を参照してください。

H'FC00 0000～H'FFFF FFFF までは内蔵周辺モジュールの制御レジスタの領域です。詳細は製品ハードウェアマニュアルの各章のレジスタ説明の項を参照してください。

(2)　物理アドレス空間

本 LSI は 29 ビットの物理アドレス空間をサポートします。物理アドレス空間は図 7.5 に示すとおり 8 つの領域に分かれています。エリア 7 はリザーブ領域です。詳細は「11. ローカルバスステートコントローラ（LBSC）」を参照してください。

TLB を用いて物理アドレス空間のエリア 7 をアクセスする場合のみ、エリア 7 の H'1C00 0000～H'1FFF FFFF までの領域がリザーブ領域ではなくなり、仮想アドレス空間の P4 領域に含まれる制御レジスタ領域と等価になります。

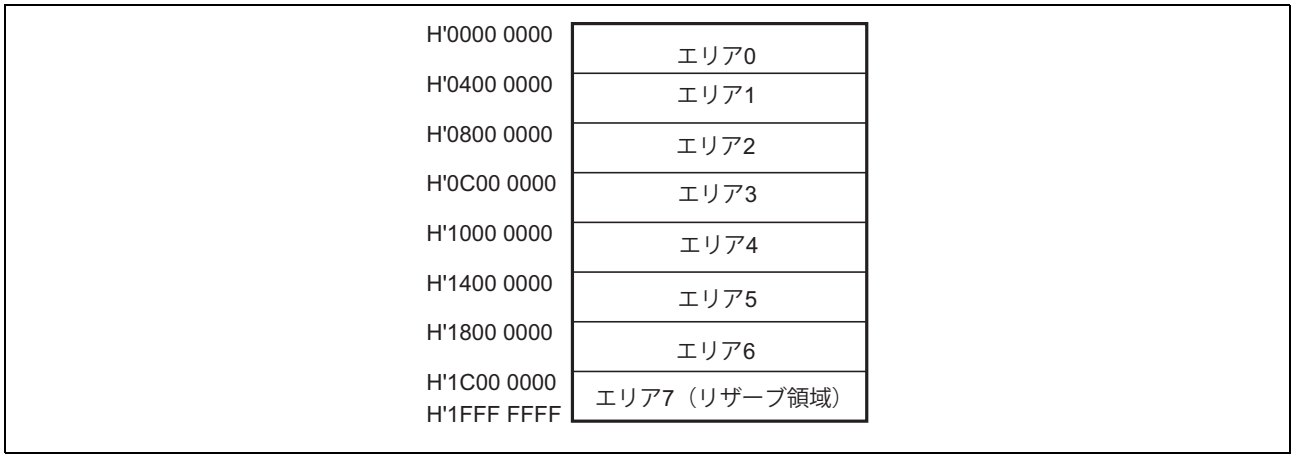


図 7.5　物理アドレス空間

(3)　アドレス変換

MMU を使用するとき、仮想アドレス空間はページという単位に分割され、そのページ単位で物理アドレスに変換されます。外部メモリ上のアドレス変換テーブルには、仮想アドレスに対応する物理アドレスや、記憶保護コードなどの付加情報が格納され、TLB にはアドレス変換の高速化のために、外部メモリ上のアドレス変換テーブルの内容がキャッシングされます。本 LSI では命令のアクセスには ITLB を、データのアクセスには UTLB を用います。P4 領域以外へのアクセスが発生するとそのアクセスされた仮想アドレスが物理アドレスへ変換されます。その仮想アドレスが P1、P2 領域に属する場合、TLB をアクセスせずに物理アドレスが一意に決定されます。その仮想アドレスが P0、U0、P3 領域に属する場合には、仮想アドレスで TLB が検索され、その仮想アドレスが TLB に登録されている場合には、TLB ヒットとなり、TLB から対応する物理アドレスが読み出されます。またアクセスされた仮想アドレスが TLB に登録されていない場合には、TLB ミス例外が発生し、処理が TLB ミス例外処理ルーチンへ移ります。TLB ミス例外処理ルーチンでは、外部メモリ上のアドレス変換テーブルを検索し、対応する物理アドレス、ページ管理情報を TLB に登録します。そして例外処理ルーチンから復帰後、TLB ミス例外を発生させた命令を再実行します。

(4)　単一仮想記憶モードと多重仮想記憶モード

仮想記憶方式には、単一仮想記憶方式と多重仮想記憶方式があり、SV ビット（MMUCR レジスタ のビット 8）により選択が可能です。単一仮想記憶方式では、複数のプロセスが仮想アドレス空間を排他的に使用しながら同時に走行し、ある仮想アドレスに対応する物理アドレスは一意に定まります。多重仮想記憶方式では、複数のプロセスが仮想アドレス空間を共有して使用しながら走行するため、ある仮

想アドレスはプロセスにより異なった物理アドレスに変換され得ます。単一仮想記憶方式と多重仮想記憶方式との動作上の違いは、TLB のアドレス比較の方式（「7.3.3 アドレス変換方式」参照）のみです。

(5) アドレス空間識別子（ASID）

多重仮想記憶モードの場合、8 ビットのアドレス空間識別子（ASID）は仮想アドレス空間を共有しながら同時に走行する複数のプロセスを区別するために用いられます。ASID は 8 ビットで、ソフトウェアが MMU 内の PTEH に現在走行中のプロセスの ASID をセットすることで設定可能です。また ASID によってプロセスを切り替えの際に TLB をパージしないで済みます。

単一仮想記憶モードの場合、ASID は仮想アドレス空間を排他的に使用しながら同時に走行する複数のプロセスの記憶保護のために用いられます。

注. 単一仮想記憶モードの設定で、ASID が異なる同一の仮想ページ番号（VPN）を持つエントリを複数同時に TLB に設定してはいけません。

7.2　レジスタの説明

MMU 処理に関するレジスタを以下に示します。

表7.1　レジスタ構成

名称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態	
					パワーオンリセット	マニュアルリセット
ページテーブルエントリ上位レジスタ	PTEH	R/W	H'FF00 0000	32	H'XXXX XXXX	H'XXXX XXXX
ページテーブルエントリ下位レジスタ	PTEL	R/W	H'FF00 0004	32	H'XXXX XXXX	H'XXXX XXXX
変換テーブルベースレジスタ	TTB	R/W	H'FF00 0008	32	H'XXXX XXXX	H'XXXX XXXX
TLB 例外アドレスレジスタ	TEA	R/W	H'FF00 000C	32	H'XXXX XXXX	保持
MMU 制御レジスタ	MMUCR	R/W	H'FF00 0010	32	H'0000 0000	H'0000 0000
ページテーブルエントリアシスタンスレジスタ	PTEA	R/W	H'FF00 0034	32	H'0000 XXX0	H'0000 XXX0
物理アドレス空間制御レジスタ	PASCR	R/W	H'FF00 0070	32	H'0000 0000	H'0000 0000
命令再フェッチ抑止制御レジスタ	IRMCR	R/W	H'FF00 0078	32	H'0000 0000	H'0000 0000

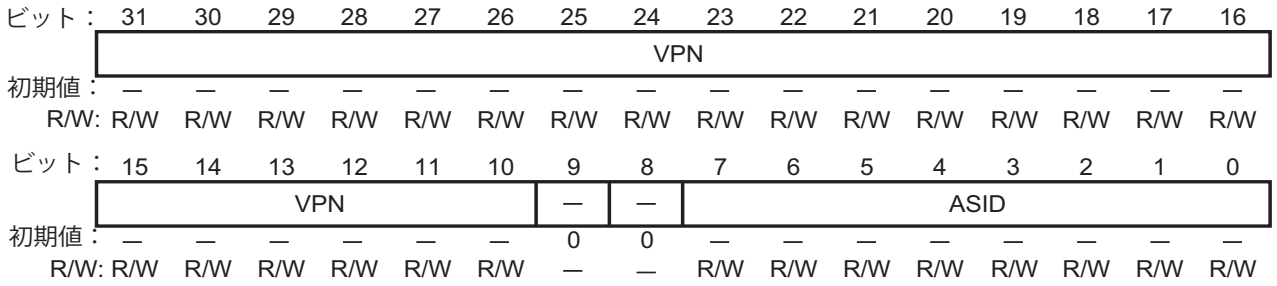
7.2.1　ページテーブルエントリ上位レジスタ（PTEH）

PTEH は仮想ページ番号（VPN）とアドレス空間識別子（ASID）から構成されています。VPN はMMU 例外又はアドレスエラー例外が発生した際に、ハードウェアにより例外を発生させた仮想アドレスの VPN が設定されます。VPN はページサイズによって異なりますが、例外発生時にハードウェアにより設定される VPN は例外を発生させた仮想アドレスの上位 22 ビットとなります。VPN の設定はソフトウェアにより行うことも可能です。ASID には現在実行中のプロセスの番号をソフトウェアにより設定します。ASID がハードウェアにより更新されることはありません。このVPN と ASID は、LDTLB 命令によりUTLB に登録されます。

PTEH レジスタのASID フィールドを更新後、更新後のASID 値を使用するP0、P3、U0 領域へのアクセス（命令フェッチを含む）を行う前に、以下の1～3 のいずれかを実行してください。

1. RTE命令による分岐を実行してください。この場合、分岐先はP0、P3、U0領域でかまいません。
2. 任意のアドレス（キャッシング不可領域でもよい）に対して、ICBI命令を実行してください。
3. PTEH更新の前にあらかじめR2ビット（IRMCRレジスタのビット0）（初期値）と設定されていた場合には、特定の命令の実行は不要です。しかしこの方法では、PTEH 更新命令の次命令を命令フェッチからやり直すため、CPUの処理性能が低下しますのでご注意ください。

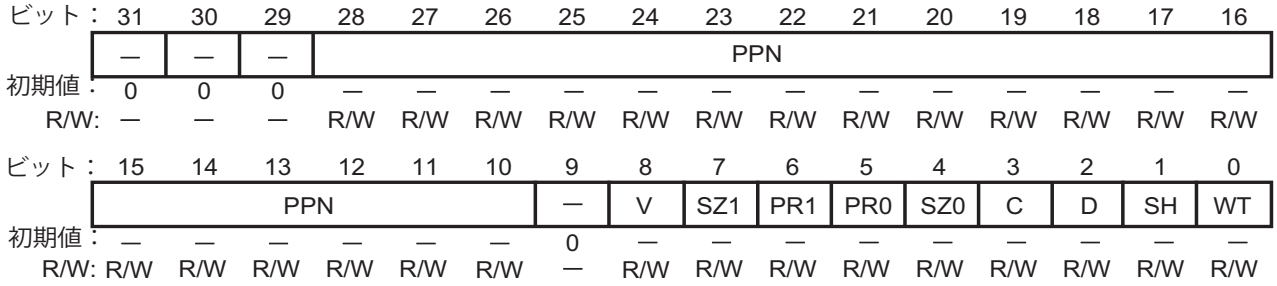
ただし、方法3 は今後のSuperH シリーズでは保証されない可能性があります。今後のSuperH シリーズでの互換性を保証するためには、1 又は2 を用いることを推奨します。



ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 10	VPN	不定	R/W	仮想ページ番号
9、8	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
7 ～ 0	ASID	不定	R/W	アドレス空間識別子

7.2.2　ページテーブルエントリ下位レジスタ（PTEL）

PTEL はLDTLB 命令によりUTLB へ登録する物理ページ番号とページ管理情報を格納するために使用されます。本レジスタはソフトウェアの指示がない限り内容が変更されることはありません。



ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～ 29	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
28～10	PPN	不定	R/W	物理ページ番号
9	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
8	V	不定	R/W	ページ管理情報 各ビットの意味は、共用TLB（UTLB）の対応するビットと同じです。 詳細は「7.3 TLB の機能（TLB 互換モード；ME ビット（MMUCR レジスタのビット0））」及び「7.4 TLB の機能（TLB 拡張モード；（MMUCR レジスタのME ビット＝1）」を参照してください。 注．SZ1、PR1、SZ0、PR0 はTLB 互換モード時のみ有効です。
7	SZ1	不定	R/W	
6	PR1	不定	R/W	
5	PR0	不定	R/W	
4	SZ0	不定	R/W	
3	C	不定	R/W	
2	D	不定	R/W	
1	SH	不定	R/W	
0	WT	不定	R/W	

7.2.3　変換テーブルベースレジスタ（TTB）

TTB は、現在使用しているページテーブルのベースアドレスの格納用などの用途に使用します。TTB はソフトウェアの指示がない限り内容が変更されることはありません。本レジスタはソフトウェアで自由に使用可能です。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	TTB															
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TTB															
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

7.2.4　TLB 例外アドレスレジスタ（TEA）

TEA は、MMU 例外又はアドレスエラー例外発生後に、例外を発生させた仮想アドレスが格納されます。このレジスタはソフトウェアにより変更することは可能です。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	TEA							MMU例外／アドレスエラーを発生させた仮想アドレス								
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TEA							MMU例外／アドレスエラーを発生させた仮想アドレス								
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

7.2.5　MMU 制御レジスタ（MMUCR）

MMUCR の各ビットは以下に示すように MMU の設定を行います。このため MMUCR の書き換えは P1、P2 領域のプログラムで行うようにしてください。

MMUCR レジスタを更新後、P0、P3、U0、ストアキュー領域へのアクセス（命令フェッチを含む）を行う前に、以下の 1～3 のどれかを実行してください。

1. RTE 命令による分岐を実行してください。この場合、分岐先は P0、P3、U0 領域でかまいません。
2. 任意のアドレス（キャッシング不可領域でもよい）に対して、ICBI 命令を実行してください。
3. MMUCR 更新の前にあらかじめ IRMCR レジスタの R2 ビット（初期値）と設定されていた場合には、特定の命令シーケンスは不要です。しかしこの方法では、MMUCR 更新命令の次命令を命令フェッチからやり直すため、CPU の処理性能が低下しますのでご注意ください。

ただし、方法 3 は今後の SuperH シリーズでは保証されない可能性があります。今後の SuperH シリーズでの互換性を保証するためには、1 又は 2 を用いることを推奨します。

MMUCR はソフトウェアにより変更可能です。ただし LRUI ビットと URC ビット（MMUCR レジスタのビット 31～26、ビット 15～10）はハードウェアにより更新されることもあります。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	LRUI						—	—	URB						—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	URC						SQMD	SV	ME	—	—	—	—	TI	—	AT
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—	R/W	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～26	LRUI	000000	R/W	入れ換えを行うITLB エントリを示すLRU ビット ITLB ミス発生時に入れ換えるITLB のエントリを決めるため、LRU 方式（Least Recently Used）を用います。LRUI ビットを用いてITLB の追い出すエントリを確定できます。 LRUI は、以下のアルゴリズムで更新が行われます。 なお、以下の「x」は更新を行わないことを意味します。 000xxx：ITLB のエントリ0 を用いたとき 1xx00x：ITLB のエントリ1 を用いたとき x1x1x0：ITLB のエントリ2 を用いたとき xx1x11：ITLB のエントリ3 を用いたとき xxxxxx：上記以外 またLRUI が以下の状態のとき、対応するITLB のエントリがITLB ミスにより更新されます。なお、下表で設定禁止の値にはソフトウェアの責任で設定しないようにしてください。またパワーオンリセット、マニュアルリセット後にLRUI は0 に初期化されるので、ハードウェアの更新によってLRUI が設定禁止の値になることはありません。 なお、以下の「x」はDon't care を意味します。 111xxx：ITLB のエントリ0 が更新される 0xx11x：ITLB のエントリ1 が更新される x0x0x1：ITLB のエントリ2 が更新される xx0x00：ITLB のエントリ3 が更新される 上記以外：設定禁止
25、24	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
23～18	URB	000000	R/W	入れ換えを行うUTLB エントリの境界を示すビット URB≠0 のときに有効となります。
17、16	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
15～10	URC	000000	R/W	LDTLB 命令により入れ換えを行うUTLB エントリを示すためのランダムカウンタ UTLB へのアクセスが発生するたびにインクリメントされます。ただしURB＞0 の場合、URC＝URB の条件が成立するとURC は0 にクリアされます。またソフトウェアによりURC＞URB となる値がURC に書き込まれた場合、最初はURC＝H'3F になるまでURB を超えてインクリメントされますので注意してください。なおURC は、LDTLB 命令によってカウントアップされません。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
9	SQMD	0	R/W	ストアキューモードビット ストアキューへのアクセス権を指定します。 0：ユーザ／特権アクセスが可能 1：特権アクセスが可能（ユーザアクセスの場合はアドレスエラー例外）
8	SV	0	R/W	単一仮想記憶モード／多重仮想記憶モード切り替えビット このビットを変更するときは、必ずTI ビットにも1 を書き込んでください。 0：多重仮想記憶モード 1：単一仮想記憶モード
7	ME	0	R/W	TLB 拡張モード切り替えビット 0：TLB 互換モード 1：TLB 拡張モード ME ビットの値を変更する場合には、必ずTI ビットに1 を指定して、ITLB、UTLB の内容を無効化してください。また、ME ビットによるTLB 動作モード選択は、PMB の機能や動作には影響を与えません。
6～3	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
2	TI	0	R/W	TLB 無効化ビット このビットに1 を書き込むと、UTLB/ITLB の有効ビットをすべて0 にクリアします。読み出すと常に0 が読み出されます
1	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
0	AT	0	R/W	アドレス変換有効ビット MMU のイネーブル（有効）とディスエーブル（無効）を指定します。 0：MMU ディスエーブルにする 1：MMU イネーブルにする AT ビットが0 の状態ではMMU 例外は発生しません。このためMMU を使用しないソフトウェアではAT ビットを0 の状態で使用してください。

7.2.6　ページテーブルエントリアシスタンスレジスタ（PTEA）

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	–	–	EPR						ESZ				–	–	–	–
初期値：	0	0	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	0	0	0	0
R/W:	–	–	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	–	–	–	–

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～14	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
13～8	EPR	不定	R/W	ページ管理情報 各ビットの意味は、共用TLB（UTLB）の対応するビットと同じです。 詳細は「7.4 TLB の機能（TLB 拡張モード；（MMUCR レジスタの MEビット＝1）」を参照してください。
7～4	ESZ	不定	R/W	
3～0	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

7.2.7　物理アドレス空間制御レジスタ（PASCR）

PASCR は物理アドレス空間の動作を制御します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	SE	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0/1(注1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	UB							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31	SE	0/1（注1）	R/W	0：29ビットブートモード 1：32ビットブートモード （注2）
30～8	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
7～0	UB	H'00	R/W	エリア（64M バイト）ごとのバッファドライト制御 キャッシュを使わない書き込みのバスアクセスが完了するまで次のCPUからのバスアクセスを待たせるかをエリアごとに指定します。 0：バッファドライト（CPU は書き込みのバスアクセスの完了を待たずに次のバスアクセスを行います） 1：アンバッファドライト（CPU は書き込みのバスアクセスの完了を待ってから次のバスアクセスを行います） UB[7]：制御レジスタ領域に対応 UB[6]：エリア6 に対応 UB[5]：エリア5 に対応 UB[4]：エリア4 に対応 UB[3]：エリア3 に対応 UB[2]：エリア2 に対応 UB[1]：エリア1 に対応 UB[0]：エリア0 に対応

注1. MD10＝Hのとき“0”、MD10＝Lのとき“1”になります。
2. パワーオンリセットまたはマニュアルリセット後、キャッシュ及びTLBがオフのときのみ、“0”から“1”に書き換えられます。“1”から“0”には書き換えないでください
（「7.8.6 32ビットブートモード使用時の注意事項」参照）。

7.2.8　命令再フェッチ抑止制御レジスタ（IRMCR）

IRMCR は特定のリソースが変更された場合に、次の命令を命令フェッチからやり直すかどうかを制御します。特定のリソースとは、制御レジスタの一部、TLB、キャッシュを示します。
初期状態ではリソース変更後、次の命令の命令フェッチをやり直すように設定されています。しかしこの状態では、リソースの変更を一回行うごとに命令フェッチのやり直しが起こり、CPU の処理性能が低下します。そのためIRMCR の各ビットを1 に設定し、必要なリソースの変更をまとめて行ったうえで、特定の命令を実行し、変更後のリソースを使用するプログラムの実行へ移るようにすることを推奨します。
特定のシーケンスに関しては、各リソースの説明を参照してください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R2	R1	LT	MT	MC
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 5	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
4	R2	0	R/W	レジスタ変更後再フェッチ抑止2 MMUCR、PASCR、CCR、RAMCR、PTEH の各レジスタが変更された場合に、次命令の再フェッチを行うかどうかを制御します。 0：再フェッチを行います 1：再フェッチを行いません
3	R1	0	R/W	レジスタ変更後再フェッチ抑止1 アドレスH'FF20 0000～H'FF2F FFFF に存在するレジスタが変更された場合に、次命令の再フェッチを行うかどうかを制御します。 0：再フェッチを行います 1：再フェッチを行いません
2	LT	0	R/W	LDTLB 実行後再フェッチ抑止 LDTLB 命令を実行後に、次命令の再フェッチを行うかどうかを制御します。 0：再フェッチを行います 1：再フェッチを行いません
1	MT	0	R/W	メモリ割り付けTLB ライト後再フェッチ抑止 MMUCR レジスタのATビット＝1 の状態で、メモリ割り付けITLB/UTLB ライトを行った後に、次命令の再フェッチを行うかどうかを制御します。 0：再フェッチを行います 1：再フェッチを行いません

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
0	MC	0	R/W	メモリ割り付けIC ライト後再フェッチ抑止 ICEビット（CCNレジスタのビット1）の状態で、メモリ割り付けIC ライトを行った後に、次命令の再フェッチを行うかどうかを制御します。 0：再フェッチを行います 1：再フェッチを行いません

7.3　TLB の機能（TLB 互換モード；MEビット（MMUCRレジスタのビット0））

7.3.1　共用TLB（UTLB）の構成

UTLB は次の2 つの目的のために使用されます。

1. データアクセスのとき、仮想アドレスを物理アドレスへ変換する。
2. 命令TLBミスのとき、ITLBへ登録するアドレス変換情報のテーブル。

このため共用TLB と呼ばれます。UTLB には外部メモリ上に置かれるアドレス変換テーブルの情報がキャッシングされます。アドレス変換テーブルには仮想ページ番号とアドレス空間識別子、それに対応する物理ページ番号とページ管理情報が格納されています。図7.6 にUTLB の構成を示します。UTLB はフルアソシアティブ方式の64 エントリで構成されています。図7.7 にページサイズとアドレスの関係を示します。

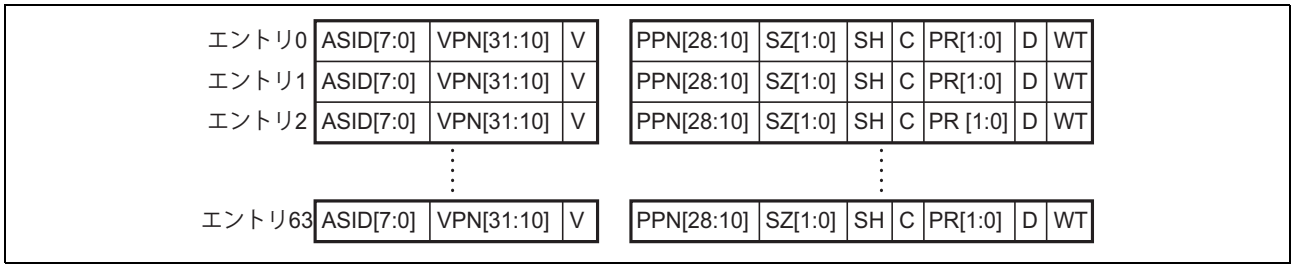


図 7.6　UTLB の構成（TLB 互換モード）

【記号説明】

- VPN：仮想ページ番号
  1Kバイトページのとき、仮想アドレスの上位22 ビット
  4K バイトページのとき、仮想アドレスの上位20 ビット
  64K バイトページのとき、仮想アドレスの上位16 ビット
  1M バイトページのとき、仮想アドレスの上位12 ビット

- ASID：アドレス空間識別子
  仮想ページをアクセスできるプロセスを示します。
  単一仮想記憶モードかつユーザモードか、多重仮想記憶モードのときで、SH ビットが0 ならアドレス比較の際にPTEH 中のASID と比較されます。

- SH：共有状態ビット
  0：複数のプロセスでページを共有しません。
  1：複数のプロセスでページを共有します。

- SZ[1:0]：ページサイズビット
  ページサイズを指定します。

00：1K バイトページ
01：4K バイトページ
10：64K バイトページ
11：1M バイトページ

- V：有効ビット

エントリが有効かどうかを示します。
0：無効
1：有効
パワーオンリセット時に0 にクリアされます。
マニュアルリセット時には変化しません。

- PPN：物理ページ番号

物理アドレスの上位22 ビット
1Kバイトページのときは PPN[28:10] が有効です。
4Kバイトページのときは PPN[28:12] が有効です。
64K バイトページのときは PPN[28:16] が有効です。
1Mバイトページのときは PPN[28:20] が有効です。
また PPN の設定においてはシノニム問題に注意してください
（「7.5.5 シノニム問題の回避」参照）。

- PR[1:0]：保護キーデータ

ページのアクセス権をコードで表した2 ビットデータ
00：特権モードで読み出しのみ可能
01：特権モードで読み出し／書き込み可能
10：特権／ユーザモードで読み出しのみ可能
11：特権／ユーザモードで読み出し／書き込み可能

- C：キャッシング可能ビット

ページがキャッシング可能かどうか示します。
0：キャッシング不可能。
1：キャッシング可能。
制御レジスタ空間のマッピングを行う場合、このビットは0 にしてください。

- D：ダーティビット

ページに書き込みが行われたかどうかを示します。
0：書き込みが行われていない。
1：書き込みが行われた。

- WT：ライトスルービット

キャッシュへの書き込みモードを指定します。
0：コピーバックモード
1：ライトスルーモード

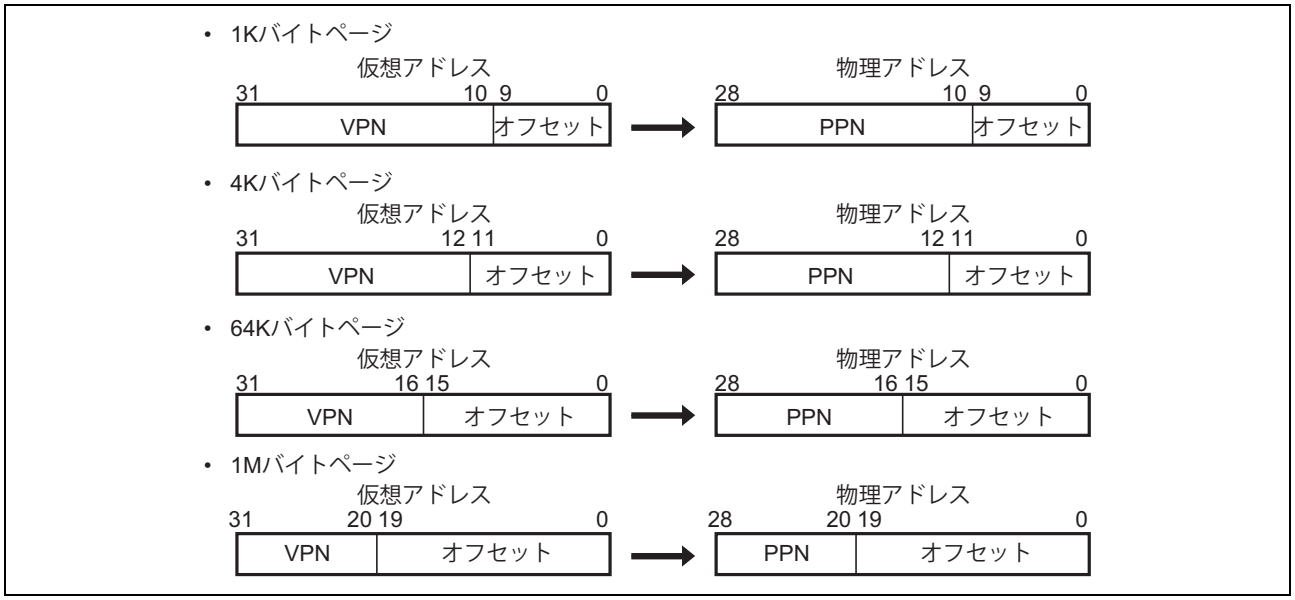


図 7.7　ページサイズとアドレスの関係（TLB 互換モード）

7.3.2　命令TLB（ITLB）の構成

ITLB は命令アクセスのとき、仮想アドレスを物理アドレスへ変換するために用いられます。ITLB にはUTLB上に置かれるアドレス変換テーブルの情報がキャッシングされます。図7.8 にITLB の構成を示します。ITLB はフルアソシアティブの4 エントリで構成されています。

エントリ0	ASID[7:0]	VPN[31:10]	V	PPN[28:10]	SZ[1:0]	SH	C	PR
エントリ1	ASID[7:0]	VPN[31:10]	V	PPN[28:10]	SZ[1:0]	SH	C	PR
エントリ2	ASID[7:0]	VPN[31:10]	V	PPN[28:10]	SZ[1:0]	SH	C	PR
エントリ3	ASID[7:0]	VPN[31:10]	V	PPN[28:10]	SZ[1:0]	SH	C	PR

注 1. D、WTビットをサポートしません。
2. PRビットが1ビットになり、UTLBのPRビットの上位1ビットに対応します。

図 7.8　ITLB の構成（TLB 互換モード）

7.3.3　アドレス変換方式

図7.9 に、UTLB を用いたメモリアクセスのフローを示します。

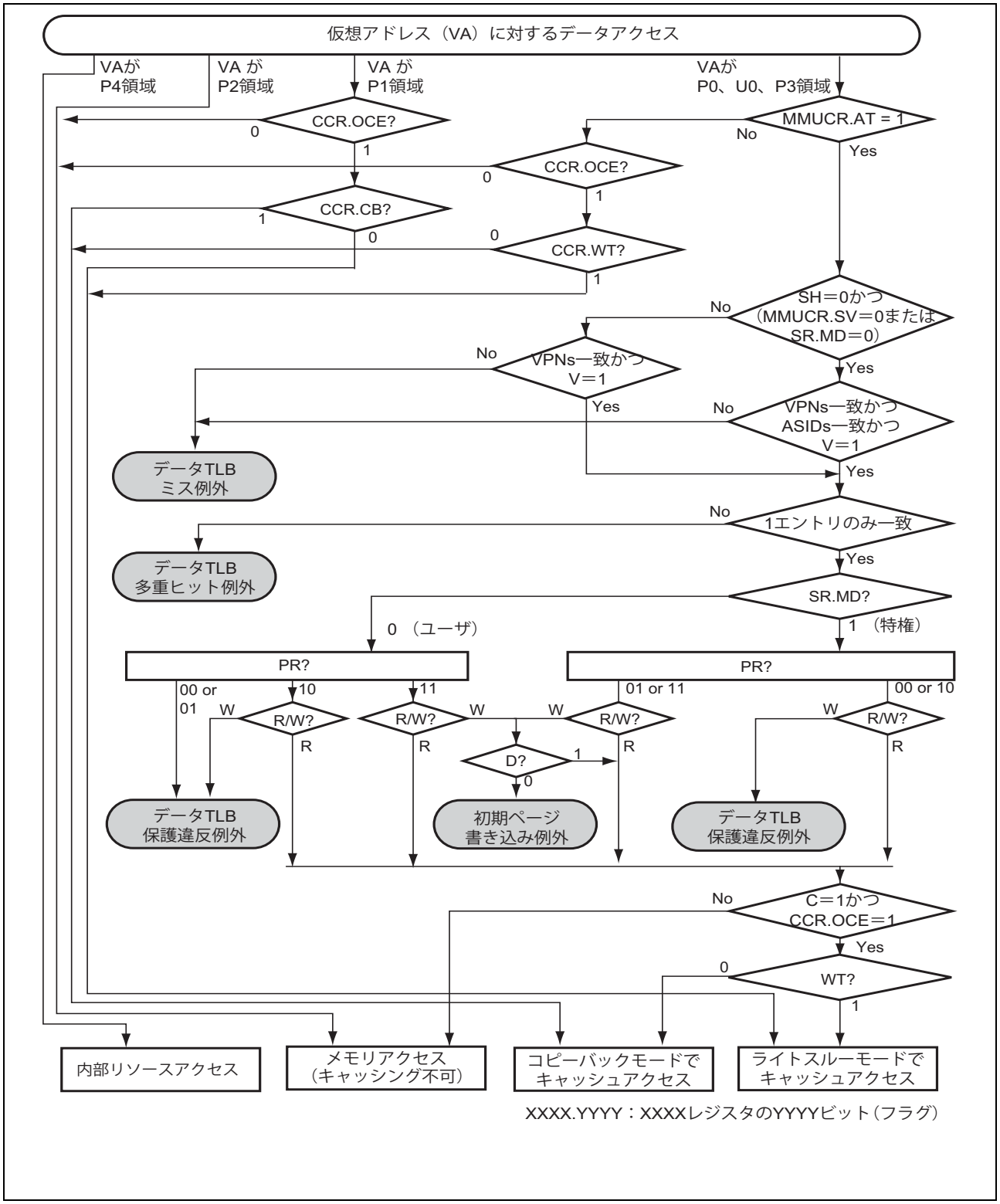


図 7.9　UTLB を用いたメモリアクセスフロー（TLB 互換モード）

図7.10にITLBを用いたメモリアクセスのフローを示します。

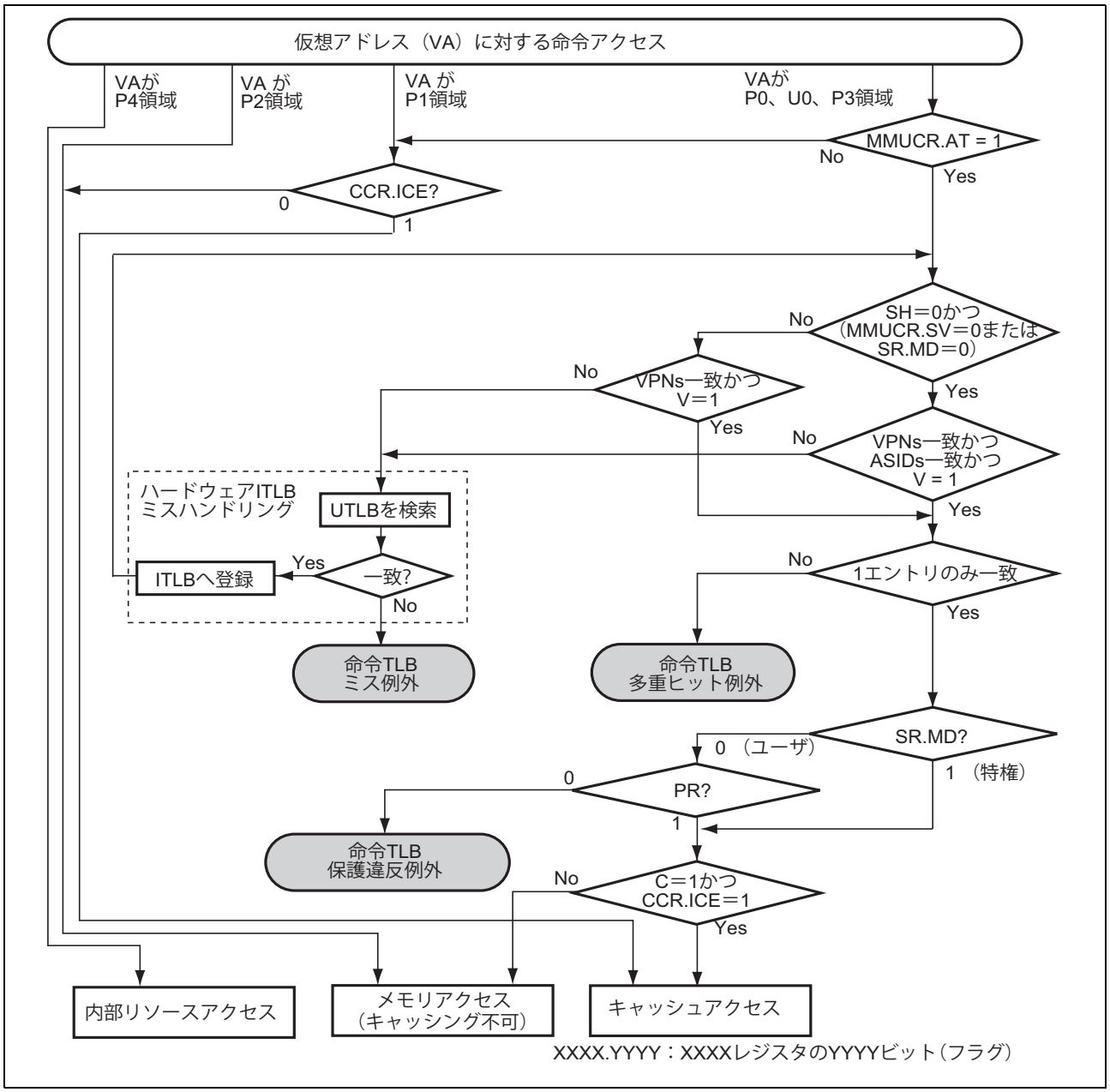


図 7.10　ITLB を用いたメモリアクセスフロー（TLB 互換モード）

7.4　TLB の機能（TLB 拡張モード；（MMUCR レジスタの ME ビット＝1）

7.4.1　共用 TLB（UTLB）の構成

図 7.11 に TLB 拡張モード時の UTLB の構成を示します。図 7.12 にページサイズとアドレスの関係を示します。

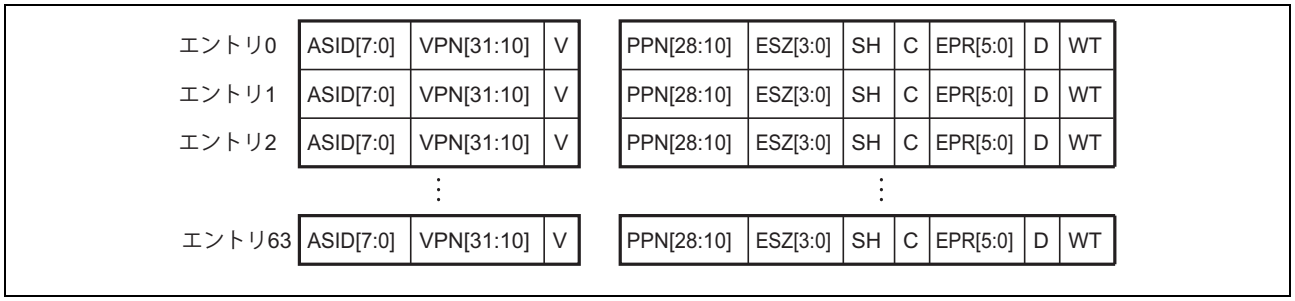


図 7.11　UTLB の構成（TLB 拡張モード）

【記号説明】

• VPN：仮想ページ番号
1K バイトページのとき、仮想アドレスの上位 22 ビット
4K バイトページのとき、仮想アドレスの上位 20 ビット
8K バイトページのとき、仮想アドレスの上位 19 ビット
64K バイトページのとき、仮想アドレスの上位 16 ビット
256K バイトページのとき、仮想アドレスの上位 14 ビット
1M バイトページのとき、仮想アドレスの上位 12 ビット
4M バイトページのとき、仮想アドレスの上位 10 ビット
64M バイトページのとき、仮想アドレスの上位 6 ビット

• ASID：アドレス空間識別子
仮想ページをアクセスできるプロセスを示します。
単一仮想記憶モードかつユーザモードか、多重仮想記憶モードのときで、SH ビットが 0 ならアドレス比較の際に PTEH 中の ASID と比較されます。

• SH：共有状態ビット
0：複数のプロセスでページを共有しません。
1：複数のプロセスでページを共有します。

• ESZ：ページサイズビット
ページサイズを指定します。
0000：1K バイトページ
0001 ：4K バイトページ
0010 ：8K バイトページ
0100 ：64K バイトページ
0101 ：256K バイトページ
0111 ：1M バイトページ
1000 ：4M バイトページ
1100 ：64M バイトページ
注.　上記以外の値を登録した場合の動作は保証しません。

• V：有効ビット
エントリが有効かどうかを示します。
0：無効

1：有効
パワーオンリセット時に0 にクリアされます。
マニュアルリセット時には変化しません。

- PPN：**物理ページ番号**

物理アドレスの上位19 ビット
1Kバイトページのときは PPN[28:10] が有効です。
4Kバイトページのときは PPN[28:12] が有効です。
8Kバイトページのときは PPN[28:13] が有効です。
64K バイトページのときは PPN[28:16] が有効です。
256K バイトページのときは PPN[28:18] が有効です。
1Mバイトページのときは PPN[28:20] が有効です。
4Mバイトページのときは PPN[28:22] が有効です。
64M バイトページのときは PPN[28:26] が有効です。
また PPN の設定においてはシノニム問題に注意してください
（「7.5.5 シノニム問題の回避」参照）。

- EPR：**保護キーデータ**

ページのアクセス権をコードで表した6 ビットデータ
特権モードでの読み出し／書き込み／実行（命令フェッチ）及びユーザモードでの読み出し／書き込み／実行（命令フェッチ）に対する許可を独立に設定可能です。各ビットそれぞれ0 で不許可、1 で許可を示します。
EPR[5]：特権モードでの読み出し
EPR[4]：特権モードでの書き込み
EPR[3]：特権モードでの実行（命令フェッチ）
EPR[2]：ユーザモードでの読み出し
EPR[1]：ユーザモードでの書き込み
EPR[0]：ユーザモードでの実行（命令フェッチ）

- C：**キャッシング可能ビット**

ページがキャッシング可能かどうか示します。
0：キャッシング不可能
1：キャッシング可能
制御レジスタ空間のマッピングを行う場合、このビットは0 にしてください。

- D：**ダーティビット**

ページに書き込みが行われたかどうかを示します。
0：書き込みが行われていない
1：書き込みが行われた

- WT：**ライトスルービット**

キャッシュへの書き込みモードを指定します。
0：コピーバックモード
1：ライトスルーモード

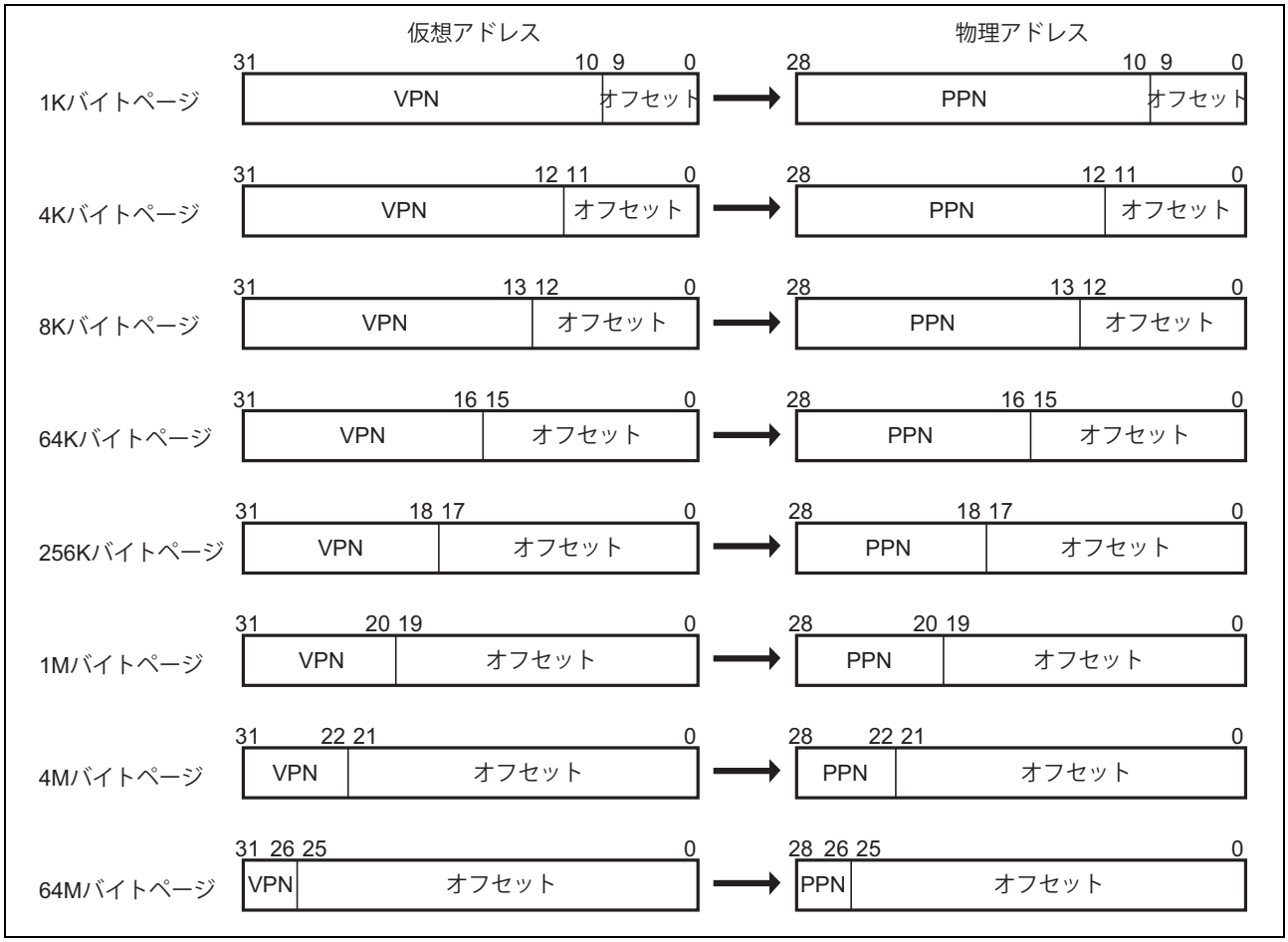


図 7.12　ページサイズとアドレスの関係（TLB 拡張モード）

7.4.2　命令TLB（ITLB）の構成

図7.13にTLB拡張モード時のITLBの構成を示します。

エントリ0	ASID[7:0]	VPN[31:10]	V	PPN[28:10]	ESZ[3:0]	SH	C	EPR[5]	EPR[3]	EPR[2]	EPR[0]
エントリ1	ASID[7:0]	VPN[31:10]	V	PPN[28:10]	ESZ[3:0]	SH	C	EPR[5]	EPR[3]	EPR[2]	EPR[0]
エントリ2	ASID[7:0]	VPN[31:10]	V	PPN[28:10]	ESZ[3:0]	SH	C	EPR[5]	EPR[3]	EPR[2]	EPR[0]
エントリ3	ASID[7:0]	VPN[31:10]	V	PPN[28:10]	ESZ[3:0]	SH	C	EPR[5]	EPR[3]	EPR[2]	EPR[0]

注. EPR[4]、EPR[1]、D、WTビットをサポートしません。

図 7.13　ITLB の構成（TLB 拡張モード）

7.4.3　アドレス変換方式

図7.14にTLB拡張モード時のUTLBを用いたメモリアクセスのフローを示します。

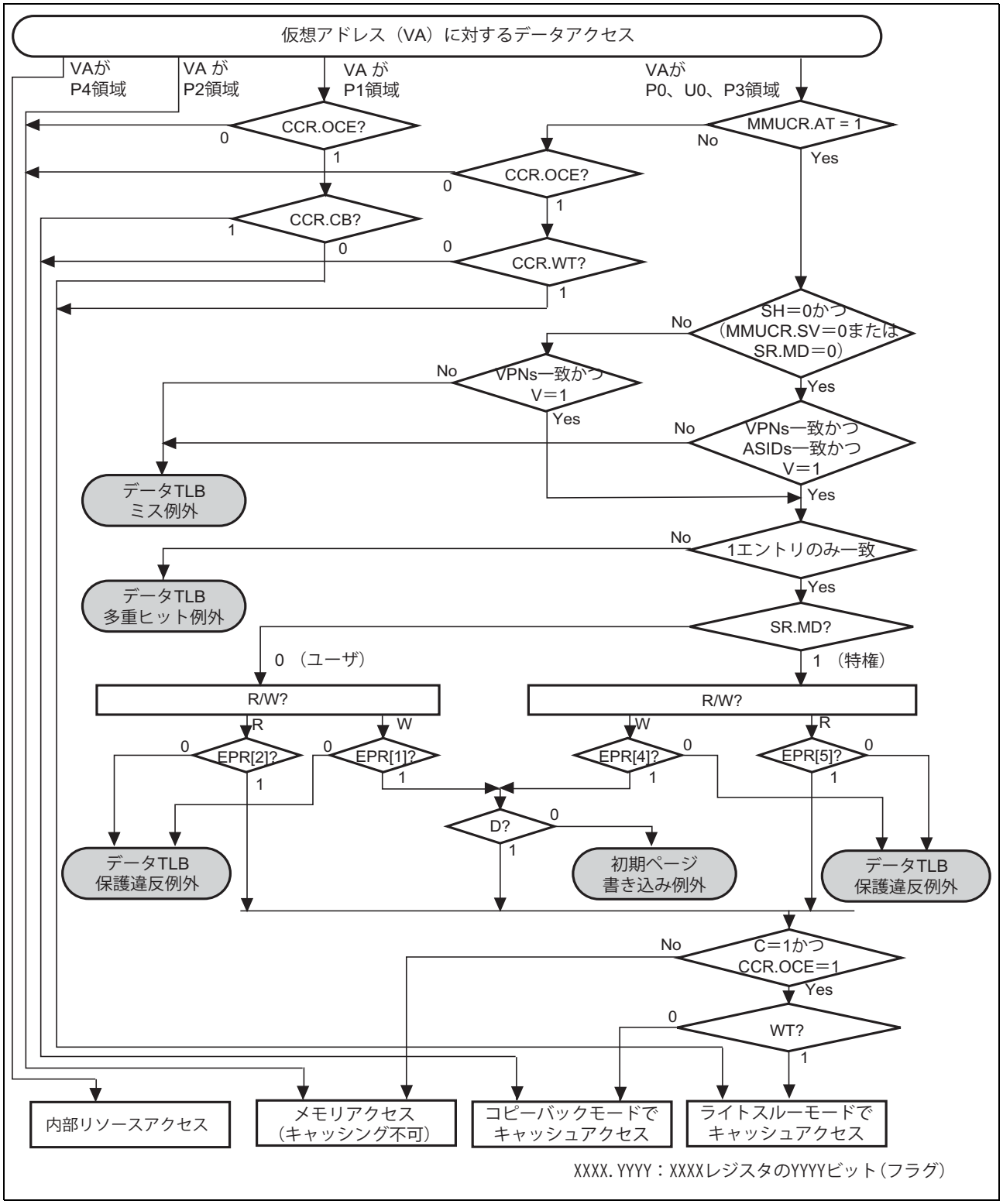


図 7.14　UTLB を用いたメモリアクセスフロー（TLB 拡張モード）

図7.15にTLB拡張モード時のITLBを用いたメモリアクセスのフローを示します。

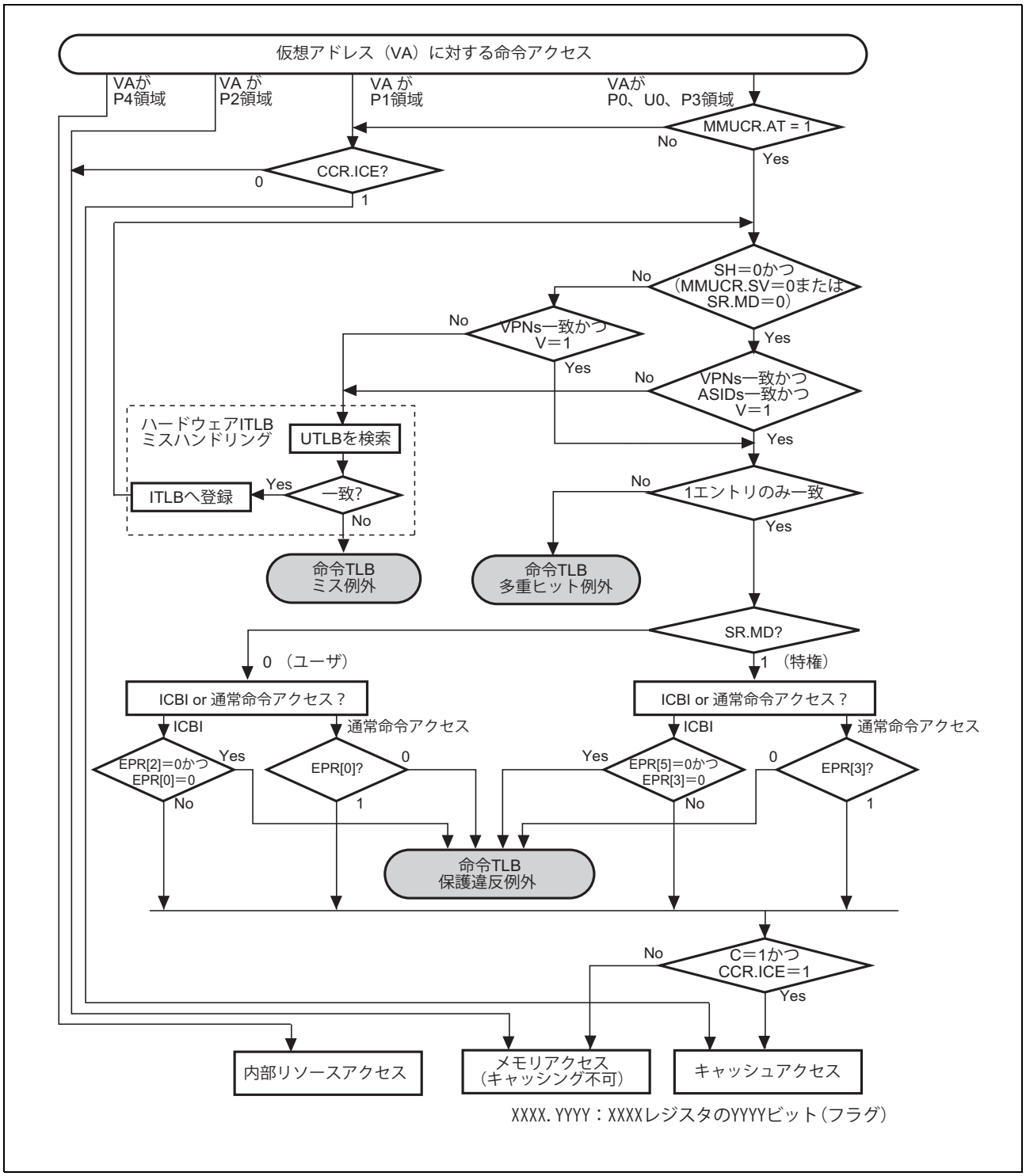


図 7.15　ITLB を用いたメモリアクセスフロー（TLB 拡張モード）

7.5 MMU の機能

7.5.1 MMU のハードウェア管理

本LSI がサポートするMMU の機能として次のものがあります。

1. ソフトウェアがアクセスする仮想アドレスをデコードし、MMUCR の設定に従ってUTLB、ITLB を制御してアドレス変換を行います。
2. アドレス変換の際に読み出されたページ管理情報をもとに、キャッシュへのアクセス状態を判定します（C、WT ビット）。
3. データアクセス、命令アクセスにおいて正常にアドレス変換が行われなかった場合、MMU 例外の発生によりソフトウェアに通知します。
4. 命令アクセスでITLB にアドレス変換情報が登録されていないとき、UTLB を検索します。必要なアドレス変換情報がUTLB に登録されていた場合、MMUCR のLRUI ビットに従い、ITLB にそのアドレス変換情報をコピーします。

7.5.2 MMU のソフトウェア管理

MMU に対するソフトウェアの処理として次のものがあります。

1. MMU関連レジスタの設定。一部ハードウェアにより自動的に更新されるものもあります。
2. TLB エントリの登録、削除、読み出し。UTLB エントリの登録にはLDTLB 命令を用いる方法と、メモリ割り付けUTLB に直接書き込む方法があります。ITLB エントリの登録はメモリ割り付けITLB に直接書き込む方法しかありません。UTLB、ITLB エントリの削除と読み出しは、メモリ割り付けUTLB、ITLB をアクセスすることで可能です。
3. MMU例外処理。MMU例外が発生したときにハードウェア側から設定された情報を元に処理を行います。

7.5.3　MMU の命令（LDTLB）

UTLB エントリを登録する命令として TLB ロード命令（LDTLB）があります。LDTLB 命令が発行されると、本LSI はPTEH と PTEL の内容を（加えて TLB 拡張モードの場合にはPTEA の内容を）URC ビットが指し示すUTLB エントリにコピーします。LDTLB 命令によりITLB エントリの更新は行われませんので、UTLB エントリから追い出されたアドレス変換情報が ITLB エントリに残る可能性があります。LDTLB 命令はアドレス変換情報を変更する命令のため、必ずP1、P2 領域のプログラムで発行するようにしてください。LDTLB 命令実行後、TLB が有効な領域へのアクセス（命令フェッチを含む）を行う前に、以下の1～3のどれかを実行してください。

1. RTE命令による分岐を実行してください。この場合、分岐先はTLBが有効な領域で構いません。
2. 任意のアドレス（キャッシング不可領域でもよい）に対して、ICBI命令を実行してください。
3. LDTLB命令実行前にあらかじめLTビット（IRMCR レジスタのビット0）（初期値）と設定されていた場合には、特定の命令シーケンスは不要です。しかしこの方法では、LDTLB命令の次命令を命令フェッチからやり直すため、CPUの処理性能が低下しますのでご注意ください。

ただし、方法 3 は今後の SuperH シリーズでは保証されない可能性があります。今後の SuperH シリーズでの互換性を保証するためには、1又は2を用いることを推奨します。

図7.16、図7.17 にLDTLB 命令の動作を示します。

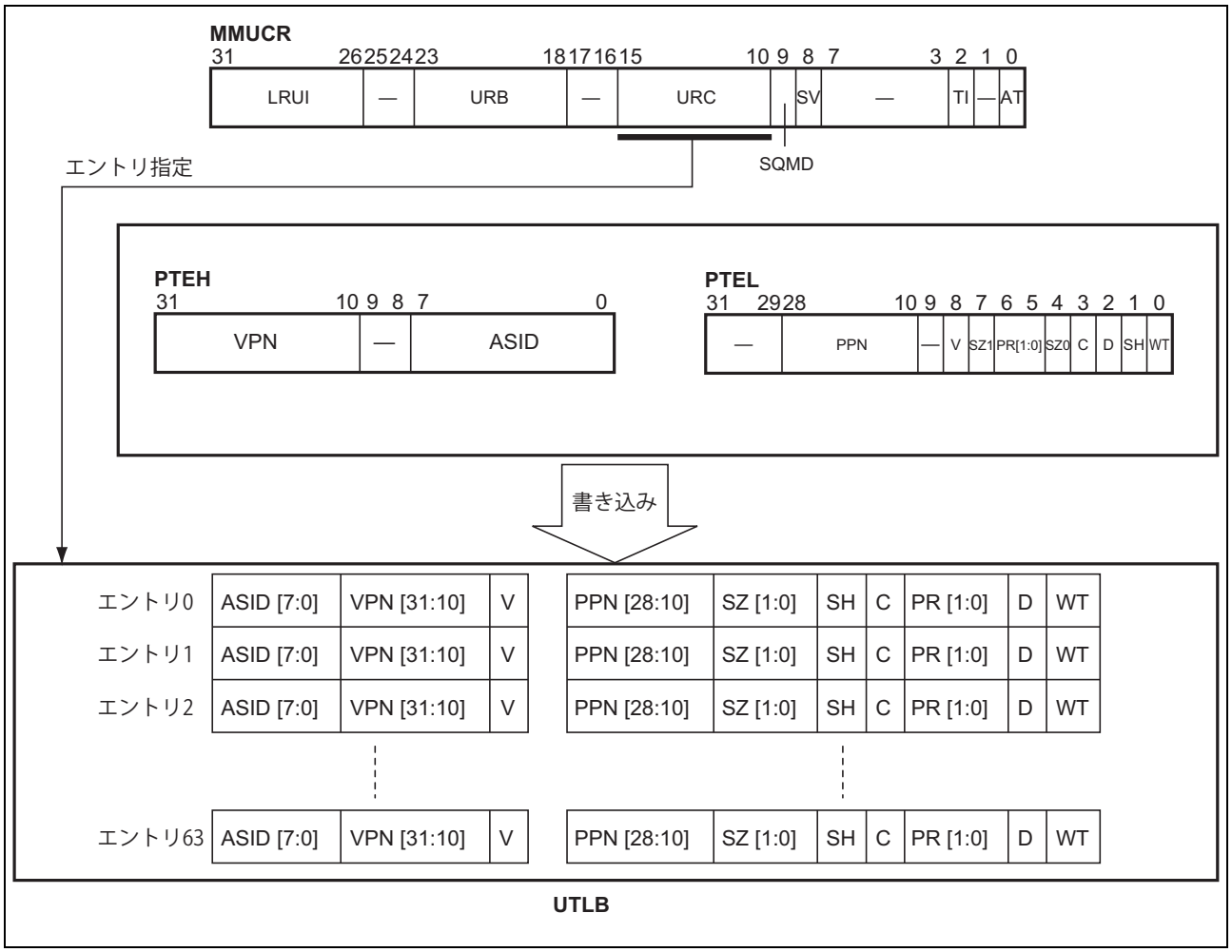


図 7.16　LDTLB 命令の動作（TLB 互換モード）

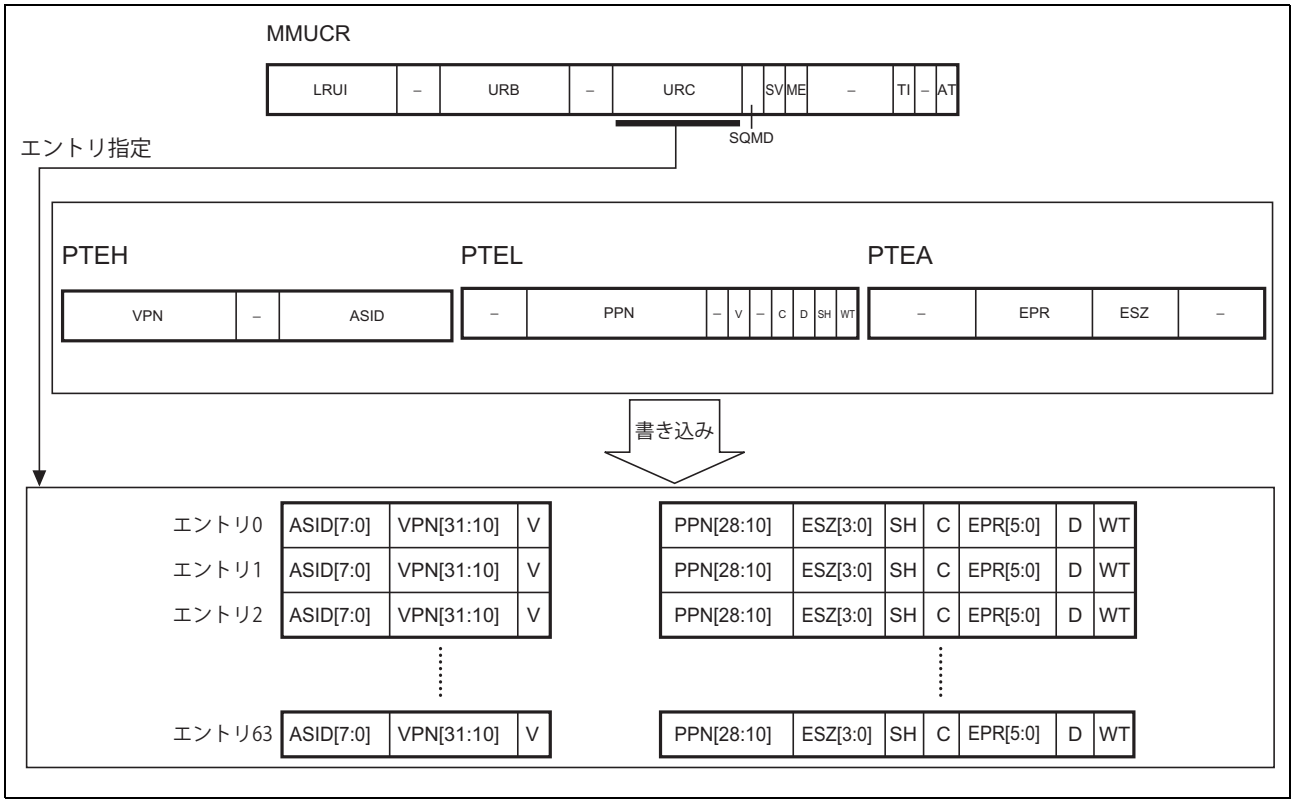


図 7.17　LDTLB 命令の動作（TLB 拡張モード）

7.5.4　ハードウェアITLB ミスハンドリング

本LSI は命令アクセスの際、ITLB を検索して必要なアドレス変換情報を見つけられなかった（ITLB ミス）場合、ハードウェアによりUTLB を検索し、必要なアドレス変換情報があればITLB への登録を行います。これをハードウェアITLB ミスハンドリングと呼びます。UTLB を検索しても必要なアドレス変換情報が見つからない場合、命令TLB ミス例外を発生し、処理をソフトウェアへ移します。

7.5.5　シノニム問題の回避

TLB エントリに1K、4K バイトページを登録するときにシノニム問題が発生する可能性があります。シノニム問題とは、複数の仮想アドレスが1 つの物理アドレスにマッピングされる場合に、キャッシュの複数のエントリに同一の物理アドレスのデータが登録されてしまい、データの一致性を保証できなくなるという問題です。この問題は命令TLB や命令キャッシュではデータの読み出ししか行わないため発生しません。本LSI ではオペランドキャッシュの高速動作のために仮想アドレスの[12:5] を用いて、エントリの指定を行います。しかし1K バイトページでは仮想アドレスの[12:10]が、4K バイトページでは仮想アドレスの[12]がアドレス変換の対象になります
このため変換後の物理アドレスの[12:10] と仮想アドレスの[12:10]が異なる可能性があります。

- 複数の 1K バイトページの UTLB エントリが同一の物理アドレスに変換されるアドレス変換情報をUTLB に登録するとき、VPN[12:10] は必ず等しくなるようにしてください。
- 複数の 4K バイトページの UTLB エントリが同一の物理アドレスに変換されるアドレス変換情報をUTLB に登録するとき、VPN[12] は必ず等しくなるようにしてください。
- 1K バイトページのUTLB エントリの物理アドレスを、異なるページサイズのUTLB エントリで使用しないでください。
- 4K バイトページのUTLB エントリの物理アドレスを、異なるページサイズのUTLB エントリで使用しないでください。

上記の制限はキャッシュを用いたアクセスを行う場合に限定されます。

32 Kバイト以外のキャッシュサイズの場合、シノニム問題が発生する可能性があるページサイズ、及びUTLB へのエントリ登録時に一致させる必要があるVPN 内のビット位置に関しては、上記説明と異なります。キャッシュサイズ8 Kバイト～ 64 Kバイトのシノニム問題が発生する可能性があるページサイズを表7.2に示します。

表7.2　キャッシュサイズとシノニム問題の回避策

キャッシュサイズ	ページサイズ	ビット値
8 K バイト	1 K バイト	VPN[1:0]
16 K バイト	1 K バイト	VPN[11:10]
32K バイト	1 K バイト	VPN[12:10]
	4 K バイト	VPN[12]
64 K バイト	1 K バイト	VPN[13:10]
	4 K バイト	VPN[13:12]

注. 将来のSuperH RISC engine ファミリ拡張に備えて、複数のアドレス変換情報が同一の物理メモリを使用する場合、VPN[20:10] を等しくなるようにしてください。
また異なるページサイズのアドレス変換情報で同一の物理アドレスを使用しないでください。

7.6 MMU 例外

MMU 例外には、命令TLB 多重ヒット例外、命令TLB ミス例外、命令TLB 保護違反例外、データTLB 多重ヒット例外、データTLB ミス例外、データTLB 保護違反例外、初期ページ書き込み例外の7 つの例外があります。各例外の発生条件については図7.9、図7.10、図7.14、図7.15 及び「6. 例外処理」を参照してください。

7.6.1 命令TLB 多重ヒット例外

命令TLB 多重ヒット例外は、命令アクセスした仮想アドレスに一致するITLB エントリが複数存在した場合に発生します。ハードウェアITLB ミスハンドリングによりUTLB を検索する際にUTLB で多重ヒットが発生した場合も、命令TLB 多重ヒット例外となります。

命令TLB 多重ヒット例外が発生するとリセットになり、キャッシュのコヒーレンシは保証しません。

• ハードウェア処理

命令TLB多重ヒット例外のとき、ハードウェアは次の処理を行います。

1. 例外の発生した仮想アドレスをTEAに設定します。
2. 例外コードH'140をEXPEVTに設定します。
3. リセット処理ルーチン（H'A000 0000）に分岐します。

• ソフトウェア処理（リセットルーチン）

リセット処理ルーチンで多重ヒットを発生させたITLBエントリを確認します。この例外はプログラムのデバッグ時に用いるためのもので、通常はこの例外を発生させないでください。

7.6.2 命令TLB ミス例外

命令TLB ミス例外は、ハードウェアITLB ミスハンドリングによりUTLB エントリに命令アクセスした仮想アドレスに対応するアドレス変換情報が見つからなかったときに発生します。命令TLB ミス例外のハードウェアで行われる処理と、ソフトウェアで行う処理は次のとおりです。これはデータTLB ミス例外時の処理と同じです。

• ハードウェア処理

命令TLBミス例外のとき、ハードウェアは次の処理を行います。

1. 例外が発生した仮想アドレスのVPNをPTEHに設定します。
2. 例外の発生した仮想アドレスをTEAに設定します。
3. 例外コードH'040を、EXPEVTに設定します。
4. 例外が発生した命令のアドレスを指すPCの値をSPCに設定します。もし例外が遅延スロットで発生した場合は、遅延分岐命令のアドレスを指すPCの値をSPCに設定します。
5. 例外が発生したときのSRの内容をSSRに設定します。そのときのR15をSGRに設定します。
6. SR レジスタのMD ビットを”1”に設定し、特権モードに切り替えます。
7. SR レジスタのBL ビットを”1”に設定し、これ以降の例外要求をマスクします。
8. SR レジスタのRB ビットを”1”に設定します。
9. VBRの内容にオフセットH'0000 0400を加えたアドレスに分岐し、命令TLBミス例外処理ルーチンを開始します。

• ソフトウェア処理（命令TLB ミス例外処理ルーチン）

外部メモリのページテーブルを検索し、必要なページテーブルエントリを割り当てるのはソフトウェアの責任です。必要なページテーブルエントリを探して割り当てるために、ソフトウェアでは次のように処理してください。

1. TLB換モードの場合､外部メモリのアドレス変換テーブルに記録されているページテーブルエントリのPPN、PR、SZ、C、D、SH、V、WTの各ビットの値を、PTELに書き込みます。

TLB 拡張モードの場合、外部メモリのアドレス変換テーブルに記録されているページテーブルエントリのPPN、EPR、ESZ、C、D、SH、V、WTの各ビットの値をPTEL、PTEAに書き込みます。

2. エントリ置き換えで置き換えられるエントリをソフトウェアで指定する場合、その値をMMUCRのURCに書き込みます。このときURCがURBを超えるような場合、LDTLB命令発行後に適切な値に変更してください。
3. LDTLB 命令を実行させ、TLB 互換モードの場合、PTEH、PTEL の内容を TLB に書き込みます。TLB拡張モードの場合は、PTEH、PTEL、及びPTEAの内容をUTLBに書き込みます。
4. 最後に、例外処理からの復帰命令（RTE）を実行させ、例外処理ルーチンを終わらせ、制御を通常の流れに戻してください。ただし、LDTLB命令の次の命令以降にRTE命令を発行してください。

LDTLB命令の実行については、「7.10.1 LDTLB 命令使用上の注意事項」を参照してください。

7.6.3　命令TLB 保護違反例外

命令TLB 保護違反例外は、命令アクセスした仮想アドレスに一致するアドレス変換情報がITLB エントリに存在するにもかかわらず、実際のアクセスタイプがPR あるいはEPR ビットで指定されるアクセス権で許されていない場合に発生します。命令TLB 保護違反例外のハードウェアで行われる処理と、ソフトウェアで行う処理は次のとおりです。

• ハードウェア処理

命令TLB保護違反例外のとき、ハードウェアは次の処理を行います。

1. 例外が発生した仮想アドレスのVPNをPTEHに設定します。
2. 例外の発生した仮想アドレスをTEAに設定します。
3. 例外コードH'0A0をEXPEVTに設定します。
4. 例外が発生した命令のアドレスを指すPCの値をSPCに設定します。もし例外が遅延スロットで発生した場合は、遅延分岐命令のアドレスを指すPCの値をSPCに設定します。
5. 例外が発生したときのSRの内容をSSRに設定します。そのときのR15をSGRに設定します。
6. SRレジスタのMDビットを”1”に設定し、特権モードに切り替えます。
7. SRレジスタのBLビットを”1”に設定し、これ以降の例外要求をマスクします。
8. SRレジスタのRBビットを”1”に設定します。
9. VBR の内容にオフセット H'0000　0100 を加えたアドレスに分岐し、命令 TLB 保護違反例外処理ルーチンを開始します。

• ソフトウェア処理（命令TLB保護違反例外処理ルーチン）

命令TLB 保護違反を解決し、例外処理からの復帰命令（RTE）を実行させ、例外処理ルーチンを終わらせ、制御を通常の流れに戻してください。ただしLDTLB命令の次の命令以降にRTE命令を発行してください。

7.6.4　データTLB 多重ヒット例外

データTLB 多重ヒット例外は、データアクセスした仮想アドレスに一致するUTLB エントリが複数存在した場合に発生します。

データ TLB 多重ヒット例外が発生するとリセットになり、キャッシュのコヒーレンシは保証しません。また例外発生以前のUTLB 内のPPN の内容は壊れることがあります。

• ハードウェア処理

データTLB多重ヒット例外のとき、ハードウェアは次の処理を行います。

1. 例外の発生した仮想アドレスをTEAに設定します。
2. 例外コードH'140をEXPEVTに設定します。
3. リセット処理ルーチン（H'A000 0000）に分岐します。

• ソフトウェア処理（リセットルーチン）
リセット処理ルーチンで多重ヒットを発生させたUTLBエントリを確認します。この例外はプログラムのデバッグ時に用いるためのもので、通常はこの例外を発生させないでください。

7.6.5 データTLBミス例外

データTLBミス例外は、データアクセスした仮想アドレスに対応するアドレス変換情報がUTLB内に見つからなかったときに発生します。データTLBミス例外のハードウェアで行われる処理と、ソフトウェアで行う処理は次のとおりです。

• ハードウェア処理
データTLBミス例外のとき、ハードウェアは次の処理を行います。

1. 例外が発生した仮想アドレスのVPNをPTEHに設定します。
2. 例外の発生した仮想アドレスをTEAに設定します。
3. 読み出しのとき例外コードH'040を、書き込みのとき例外コードH'060を、EXPEVTに設定します（OCBP、OCBWB：読み出し；OCBI、MOVCA.L：書き込み）。
4. 例外が発生した命令のアドレスを指すPCの値をSPCに設定します。もし例外が遅延スロットで発生した場合は、遅延分岐命令のアドレスを指すPCの値をSPCに設定します。
5. 例外が発生したときのSRの内容をSSRに設定します。そのときのR15をSGRに設定します。
6. SRレジスタのMDビットを”1”に設定し、特権モードに切り替えます。
7. SRレジスタのBLビットを”1”に設定し、これ以降の例外要求をマスクします。
8. SRレジスタのRBビットを”1”に設定します。
9. VBRの内容にオフセットH'0000 0400を加えたアドレスに分岐し、データTLBミス例外処理ルーチンを開始します。

• ソフトウェア処理（データTLBミス例外処理ルーチン）
外部メモリのページテーブルを検索し、必要なページテーブルエントリを割り当てるのはソフトウェアの責任です。必要なページテーブルエントリを探して割り当てるために、ソフトウェアでは次のように処理してください。

1. TLB 互換モードの場合、外部メモリのアドレス変換テーブルに記録されているページテーブルエントリのPPN、PR、SZ、C、D、SH、V、WTの各ビットの値を、PTELに書き込みます。TLB拡張モードの場合、外部メモリのアドレス変換テーブルに記録されているページテーブルエントリのPPN、EPR、ESZ、C、D、SH、V、WTの各ビットの値をPTEL、PTEAに書き込みます。
2. エントリ置き換えで置き換えられるエントリをソフトウェアで指定する場合、その値をMMUCRのURCに書き込みます。このときURCがURBを超えるような場合、LDTLB命令発行後に適切な値に変更してください。
3. LDTLB命令を実行させ、TLB互換モードの場合、PTEH、PTELの内容をUTLBに書き込みます。TLB拡張モードの場合は、PTEH、PTEL、及びPTEAの内容をUTLBに書き込みます。
4. 最後に、例外処理からの復帰命令（RTE）を実行させ、例外処理ルーチンを終わらせ、制御を通常の流れに戻してください。ただし、LDTLB命令の次の命令以降にRTE命令を発行してください。LDTLB命令の実行については、「7.10.1 LDTLB 命令使用上の注意事項」を参照してください。

7.6.6 データTLB保護違反例外

データTLB保護違反例外は、データアクセスした仮想アドレスに一致するアドレス変換情報がUTLBエントリに存在するにもかかわらず、実際のアクセスタイプがPRあるいはEPRビットで指定されるアクセス権で許されていない場合に発生します。データTLB保護違反例外のハードウェアで行われる処理と、ソフトウェアで行う処理は次のとおりです。

• ハードウェア処理

データTLB保護違反例外のとき、ハードウェアは次の処理を行います。

1. 例外が発生した仮想アドレスのVPNをPTEHに設定します。
2. 例外の発生した仮想アドレスをTEAに設定します。
3. 読み出しのとき例外コードH'0A0を、書き込みのとき例外コードH'0C0を、EXPEVTに設定します（OCBP、OCBWB：読み出し；OCBI、MOVCA.L：書き込み）。
4. 例外が発生した命令のアドレスを指すPCの値をSPCに設定します。もし例外が遅延スロットで発生した場合は、遅延分岐命令のアドレスを指すPCの値をSPCに設定します。
5. 例外が発生したときのSRの内容をSSRに設定します。そのときのR15をSGRに設定します。
6. SRレジスタのMDビットを”1”に設定し、特権モードに切り替えます。
7. SRレジスタのBLビットを”1”に設定し、これ以降の例外要求をマスクします。
8. SRレジスタのRBビットを”1”に設定します。
9. VBRの内容にオフセットH'0000 0100を加えたアドレスに分岐し、データTLB保護違反例外処理ルーチンを開始します。

• ソフトウェア処理（データTLB保護違反例外処理ルーチン）

データTLB保護違反を解決し、例外処理からの復帰命令（RTE）を実行させ、例外処理ルーチンを終わらせ、制御を通常の流れに戻してください。ただしLDTLB命令の次の命令以降にRTE命令を発行してください。

7.6.7 初期ページ書き込み例外

初期ページ書き込み例外は、データアクセス（書き込み）した仮想アドレスに一致するアドレス変換情報がUTLBエントリに存在し、アクセス権も許されているにもかかわらず、Dビットが0であった場合に発生します。初期ページ書き込み例外のハードウェアで行われる処理と、ソフトウェアで行う処理は次のとおりです。

• ハードウェア処理

初期ページ書き込み例外のとき、ハードウェアは次の処理を行います。

1. 例外が発生した仮想アドレスのVPNをPTEHに設定します。
2. 例外の発生した仮想アドレスをTEAに設定します。
3. 例外コードH'080をEXPEVTに設定します。
4. 例外が発生した命令のアドレスを指すPCの値をSPCに設定します。もし例外が遅延スロットで発生した場合は、遅延分岐命令のアドレスを指すPCの値をSPCに設定します。
5. 例外が発生したときのSRの内容をSSRに設定します。そのときのR15をSGRに設定します。
6. SRレジスタのMDビットを”1”に設定し、特権モードに切り替えます。
7. SRレジスタのBLビットを”1”に設定し、これ以降の例外要求をマスクします。
8. SRレジスタのRBビットを”1”に設定します。
9. VBRの内容にオフセットH'0000 0100を加えたアドレスに分岐し、初期ページ書き込み例外処理ルーチンを開始します。

• ソフトウェア処理（初期ページ書き込み例外処理ルーチン）

ソフトウェアの責任で、次のように処理してください。

1. 外部メモリから必要なページテーブルエントリを探し出します。
2. 外部メモリのページテーブルエントリのDビットに1を書き込んでください。
3. TLB互換モードの場合、外部メモリに記憶されているページテーブルエントリのPPN、PR、SZ、C、D、WT、SH、Vのビットの値をPTELに書き込みます。TLB拡張モードの場合、外部メモリのアドレス変換テーブルに記録されているページテーブルエントリのPPN、EPR、ESZ、C、D、SH、V、WTの各ビットの値をPTEL、PTEAに書き込みます。

4. エントリ置き換えで置き換えられるエントリをソフトウェアで指定する場合、その値をMMUCRのURCに書き込みます。このときURCがURBを超えるような場合、LDTLB命令発行後に適切な値に変更してください。
5. LDTLB命令を実行させ、TLB互換モードの場合、PTEH、PTELの内容をUTLBに書き込みます。TLB拡張モードの場合は、PTEH、PTEL、及びPTEAの内容をUTLBに書き込みます。
6. 最後に、例外処理からの復帰命令（RTE）を実行させ、例外処理ルーチンを終わらせ、制御を通常の流れに戻してください。ただし、LDTLB命令の次の命令以降にRTE命令を発行してください。

7.7　メモリ割り付けTLB の構成

ITLB 及びUTLB をソフトウェアで管理するために、特権モードのとき、P1/P2 領域のプログラムからMOV命令によってITLB 及びUTLB の内容の読み出し、書き込みが可能です。別の領域のプログラムからアクセスする場合、動作の保証はありません。

メモリ割り付け TLB アクセス後、P1/P2 領域以外へのアクセス（命令フェッチを含む）を行う前に、以下の1～3 のどれかを実行してください。

1. RTE命令による分岐を実行してください。この場合、分岐先はP1/P2領域以外でかまいません。
2. 任意のアドレス（キャッシング不可領域でもよい）に対して、ICBI命令を実行してください。
3. メモリ割り付けTLBアクセスの前にあらかじめMTビット（IRMCRレジスタのビット0）（初期値）と設定されていた場合には、特定の命令シーケンスは不要です。しかしこの方法では、MMUCR更新命令の次命令を命令フェッチからやり直すため、CPUの処理性能が低下しますのでご注意ください。

ただし、方法3 は今後のSuperH シリーズでは保証されない可能性があります。今後のSuperH シリーズでの互換性を保証するためには、1 又は2 を用いることを推奨します。

ITLB 及びUTLB は仮想アドレス空間のP4 領域に割り付けられています。

TLB 互換モードの場合、ITLB ではVPN、V、ASID をアドレスアレイとして、PPN、V、SZ、PR、C、SH をデータアレイとしてアクセス可能です。UTLB ではVPN、D、V、ASID をアドレスアレイとして、PPN、V、SZ、PR、C、D、WT、SH をデータアレイとしてアクセス可能です。V と D はアドレスアレイ側からとデータアレイ側からの両方からアクセスできるようになっています。

TLB 拡張モードの場合、ITLB ではVPN、V、ASID をアドレスアレイとして、PPN、V、ESZ、EPR、C、SH をデータアレイとしてアクセス可能です。UTLB ではVPN、D、V、ASID をアドレスアレイとして、PPN、V、ESZ、EPR、C、D、WT、SH をデータアレイとしてアクセス可能です。V と D は、アドレスアレイ側からとデータアレイ側からの両方からアクセスできるようになっています。

TLB 互換モード、TLB 拡張モードどちらの場合もアクセスサイズはロングワードサイズのみ可能です。この領域に対して命令フェッチは行えません。リザーブビットに対しては、書き込み値として0 を指定してください。読み出し値は保証しません。

7.7.1　IITLB アドレスアレイ

ITLB のアドレスアレイはP4 領域のH'F200 0000～H'F2FF FFFF に割り付けられています。アドレスアレイのアクセスには、32 ビットのアドレス部の指定（読み出し／書き込み時）と 32 ビットのデータ部の指定（書き込み時）が必要です。アドレス部はアクセスするエントリを選択するための情報を指定し、データ部にはアドレスアレイに書き込むVPN、V、ASID を指定します。

アドレス部は、[31:24]がITLB アドレスアレイを示すH'F2 になっており、[9:8]でエントリを選択するようになっています。アドレス部[1:0]はロングワードアクセスのため0 を指定してください。

データ部は、[31:10]がVPN を、[8]がV を、[7:0]がASID を示します。

ITLB アドレスアレイに対しては以下の２種類の操作が可能です。

1. ITLBアドレスアレイ 読み出し
   アドレス部に設定されたエントリに対応するITLBエントリから、データ部へVPN、V、ASIDを読み出します。
2. ITLBアドレスアレイ 書き込み
   アドレス部に設定されたエントリに対応するITLBエントリに対して、データ部で指定されたVPN、V、ASIDを書き込みます。

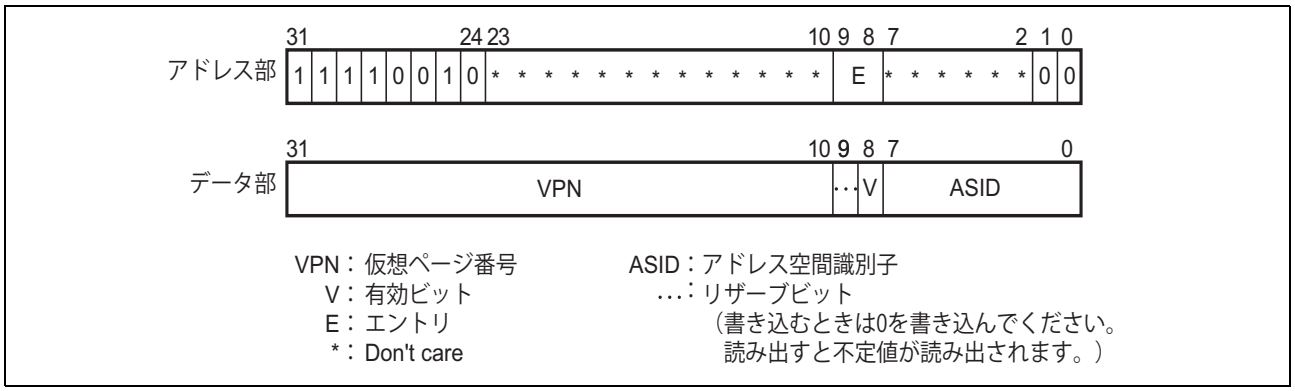


図 7.18　メモリ割り付けITLB アドレスアレイ

7.7.2　ITLB データアレイ（TLB 互換モード）

ITLB のデータアレイはP4 領域のH'F300 0000～H'F37F FFFF に割り付けられています。データアレイのアクセスには、32 ビットのアドレス部の指定（読み出し／書き込み時）と 32 ビットのデータ部の指定（書き込み時）が必要です。アドレス部はアクセスするエントリを選択するための情報を指定し、データ部にはデータアレイ 1 に書き込むPPN、V、SZ、PR、C、SH を指定します。

アドレス部は、[31:23] が ITLB データアレイを示すH'F30 になっており、[9:8] でエントリを選択するようになっています。

データ部は、[28:10] がPPN を、[8] がV を、[7]、[4] がSZ を、[6] がPR を、[3] がC を、[1] がSH を示します。ITLB データアレイに対しては以下の2 種類の操作が可能です。

1. ITLBデータアレイ 読み出し
   アドレス部に設定されたエントリに対応するITLBエントリから、データ部へPPN、V、SZ、PR、C、SHを読み出します。
2. ITLBデータアレイ 書き込み
   アドレス部に設定されたエントリに対応するITLBエントリに対して、データ部で指定されたPPN、V、SZ、PR、C、SHを書き込みます。

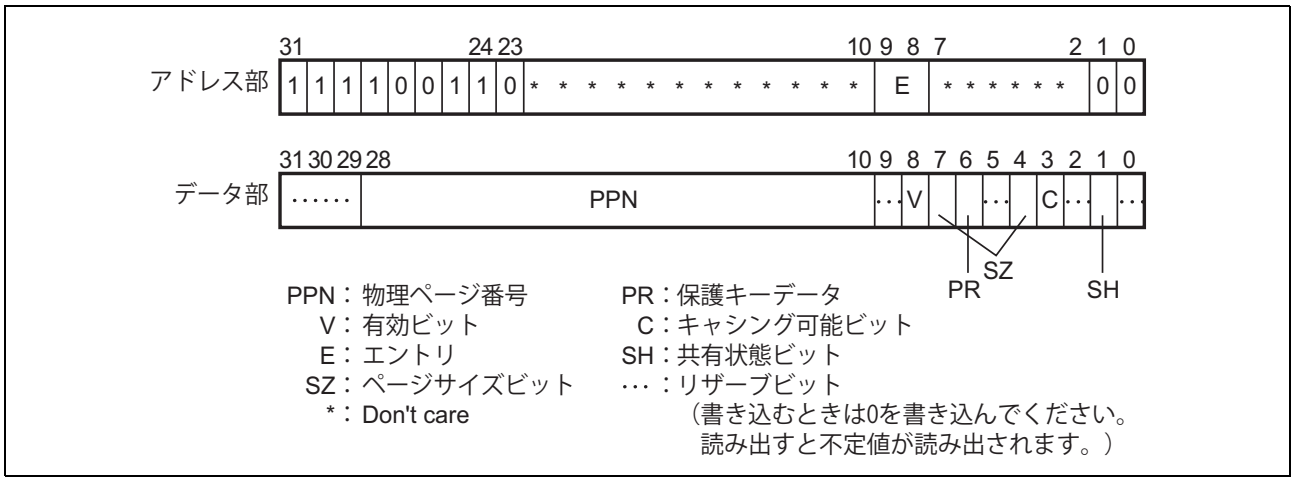


図 7.19　メモリ割り付けITLB データアレイ（TLB 互換モード）

7.7.3　ITLB データアレイ（TLB 拡張モード）

TLB 拡張モードのとき、ITLB データアレイは ITLB データアレイ 1 に名称が変更になります。また、ITLB データアレイ 2 が追加となり、EPR、ESZ をアクセス可能になります。TLB 拡張モードでは、ITLB データアレイ 1 の PR、SZ ビットはリザーブビットとなり、書き込み値は 0 を指定してください。また、ITLB データアレイ 1 への書き込みを行った場合には、その後必ず同一エントリの ITLB データアレイ 2 の書き込みを行ってください。
TLB 互換モード（MMUCR レジスタの＝0）のときには、ITLB データアレイ 2 のアクセスは行えません。アクセスした場合の動作は保証しません。

(1)　ITLB データアレイ 1

TLB 拡張モードでは、互換モードの PR、SZ ビットに対応するデータ部のビット 7、6、4 がリザーブビットになります。書き込み時には 0 を指定してください。

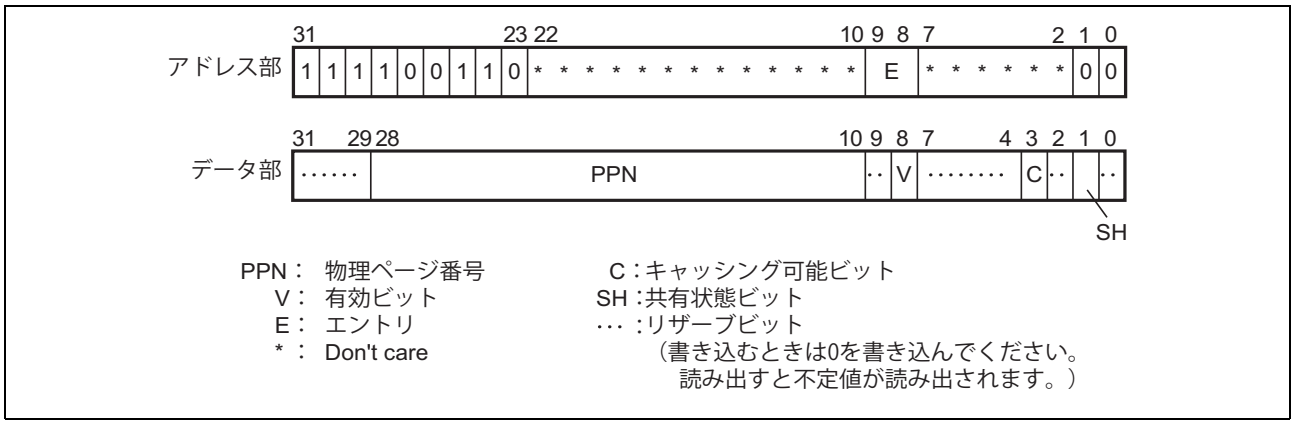


図 7.20　メモリ割り付けITLB データアレイ 1（TLB 拡張モード）

(2) ITLB データアレイ2

ITLB のデータアレイはP4 領域のH'F380 0000～H'F3FF FFFF に割り付けられています。データアレイ2 のアクセスには32 ビットのアドレス部の指定（読み出し／書き込み時）と 32 ビットのデータ部の指定（書き込み時）が必要です。アドレス部にはアクセスするエントリを選択するための情報を指定し、データ部にはデータアレイ2に書き込むEPR、ESZ を指定します。

アドレス部は、[31:23]がITLB データアレイ2 を示すH'F38 になっており、[9:8]でエントリを選択するようになっています。

データ部は、[13][11][10][8]がそれぞれEPR[5][3][2][0]を、[7:4]がESZ を示します。ITLB データアレイ2 に対しては以下の2 種類の操作が可能です。

1. TLBデータアレイ2 読み出し
   アドレス部に指定されたエントリに対応するITLBエントリから、データ部へEPR、ESZを読み出します。
2. ITLBデータアレイ2 書き込み
   アドレス部に指定されたエントリに対応するITLBエントリに対して、データ部で指定されたEPR、ESZを書き込みます。

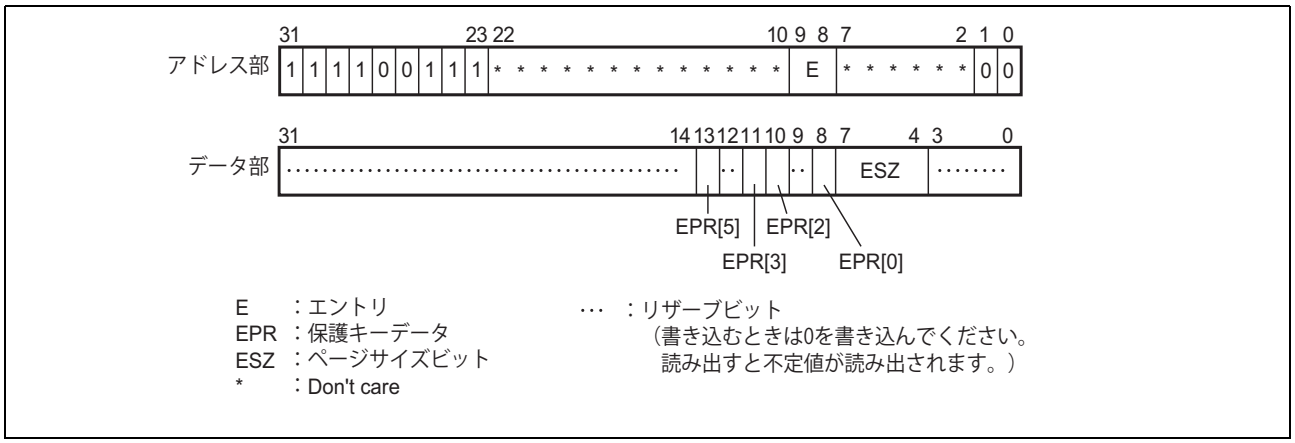


図 7.21　メモリ割り付けITLB データアレイ2（TLB 拡張モード）

7.7.4　UTLB アドレスアレイ

UTLB のアドレスアレイは P4 領域の H'F600 0000 ～ H'F60F FFFF に割り付けられています。アドレスアレイのアクセスには、32 ビットのアドレス部の指定（読み出し／書き込み時）と 32 ビットのデータ部の指定（書き込み時）が必要です。アドレス部はアクセスするエントリを選択するための情報を指定し、データ部にはアドレスアレイに書き込む VPN、D、V、ASID を指定します。

アドレス部は、[31:20]が UTLB アドレスアレイを示す H'F60 になっており、[13:8]でエントリを選択するようになっています。アドレス部[7]の連想ビット（A ビット）は、UTLB アドレスアレイへの書き込みのときのアドレス比較の有無を指定します。

データ部は、[31:10]が VPN を、[9]が D を、[8]が V を、[7:0]が ASID を示します。

UTLB アドレスアレイに対しては以下の 3 種類の操作が可能です。

1. UTLBアドレスアレイ 読み出し
   アドレス部に設定されたエントリに対応する UTLB エントリから、データ部へ VPN、D、V、ASID を読み出します。読み出す場合、アドレス部に指定される連想ビットは”1”でも”0”でも連想動作は行いません。
2. UTLBアドレスアレイ 書き込み（連想なし）
   アドレス部に設定されたエントリに対応する UTLB エントリに対して、データ部で指定された VPN、D、V、ASID を書き込みます。アドレス部の A ビットは”0”にしてください。
3. UTLBアドレスアレイ 書き込み（連想あり）
   アドレス部の A ビットが 1 で書き込みのとき、データ部で指定された VPN と PTEH.ASID を用い、UTLB の全エントリとの間で比較が行われます。比較は通常のアドレス比較の規則に従いますが、UTLB にミスした場合、例外は発生せずノーオペレーションとなります。比較によりデータ部で指定した VPN に対応する UTLB エントリが存在した場合、そのエントリに対してデータ部で指定した D と V を書き込みます。この連想動作は ITLB に対しても同時に行われ、ITLB 内に一致するエントリが存在した場合はそのエントリに対して V を書き込みます。UTLB での比較でノーオペレーションとなっても ITLB で一致していれば ITLB 側にのみ書き込みは行います。また UTLB と ITLB の両方で一致した場合、UTLB の情報が ITLB へも書き込まれます。

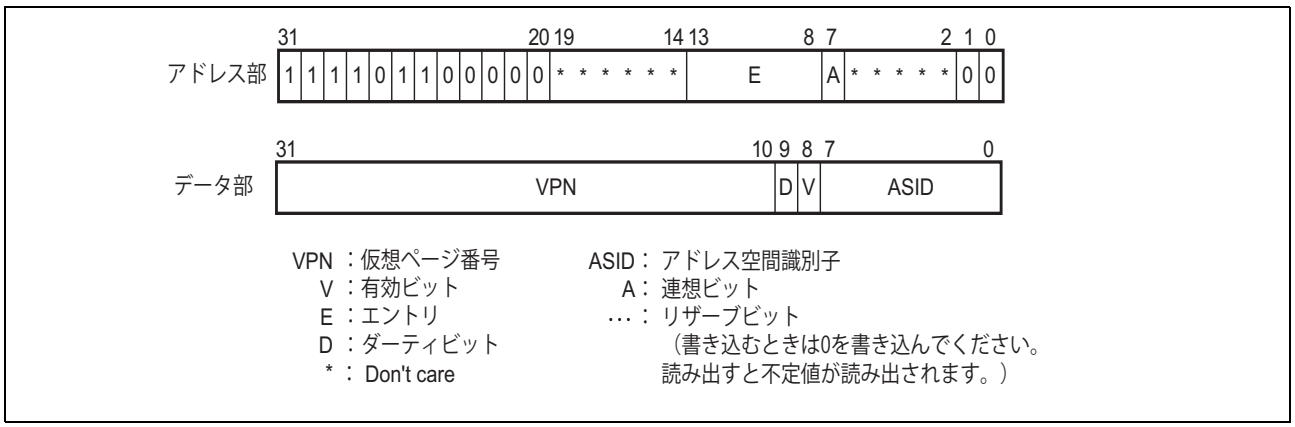


図 7.22　メモリ割り付けUTLB アドレスアレイ

7.7.5　UTLB データアレイ（TLB 互換モード）

UTLB のデータアレイは P4 領域の H'F700 0000 ～ H'F70F FFFF に割り付けられています。データアレイのアクセスには、32 ビットのアドレス部の指定（読み出し／書き込み時）と 32 ビットのデータ部の指定（書き込み時）が必要です。アドレス部はアクセスするエントリを選択するための情報を指定し、データ部にはデータアレイに書き込む PPN、V、SZ、PR、C、D、SH、WT を指定します。
アドレス部は、[31:20]が UTLB データアレイを示す H'F70 になっており、[13:8]でエントリを選択するようになっています。
データ部は、[28:10]が PPN を、[8]が V を、[7]、[4]が SZ を、[6:5]が PR を、[3]が C を、[2]が D を、[1]が SH を、[0]が WT を示します。
UTLB データアレイに対しては以下の 2 種類の操作が可能です。

1. UTLB データアレイ 読み出し
   アドレス部に設定されたエントリに対応する UTLB エントリから、データ部へ PPN、V、SZ、PR、C、D、SH、WT を読み出します。
2. UTLB データアレイ 書き込み
   アドレス部に設定されたエントリに対応する UTLB エントリに対して、データ部で指定された PPN、V、SZ、PR、C、D、SH、WT を書き込みます。

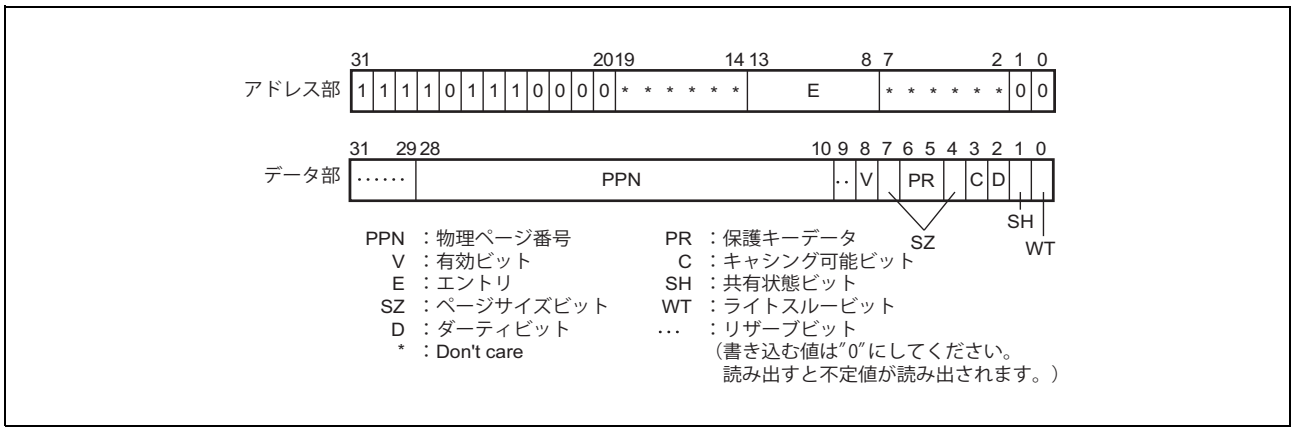


図 7.23　メモリ割り付け UTLB データアレイ（TLB 互換モード）

7.7.6　UTLB データアレイ（TLB 拡張モード）

TLB 拡張モードのとき、UTLB データアレイはUTLB データアレイ1 に名称が変更になります。また、UTLBデータアレイ2 が追加となり、EPR、ESZ をアクセス可能になります。TLB 拡張モードでは、UTLBデータアレイ1 のPR、SZ ビットはリザーブビットとなり、書き込み値は0 を指定してください。また、UTLB データアレイ1 への書き込みを行った場合には、その後必ず同一エントリのUTLB データアレイ2 の書き込みを行ってください。

TLB 互換モード（MMUCR レジスタのME ビット＝0）のときには、UTLB データアレイ2 のアクセスは行えません。アクセスした場合の動作は保証しません。

(1)　UTLB データアレイ1

TLB 拡張モードでは、互換モードのPR、SZ ビットに対応するデータ部のビット7～4 がリザーブビットになります。書き込み時には0 を指定してください。

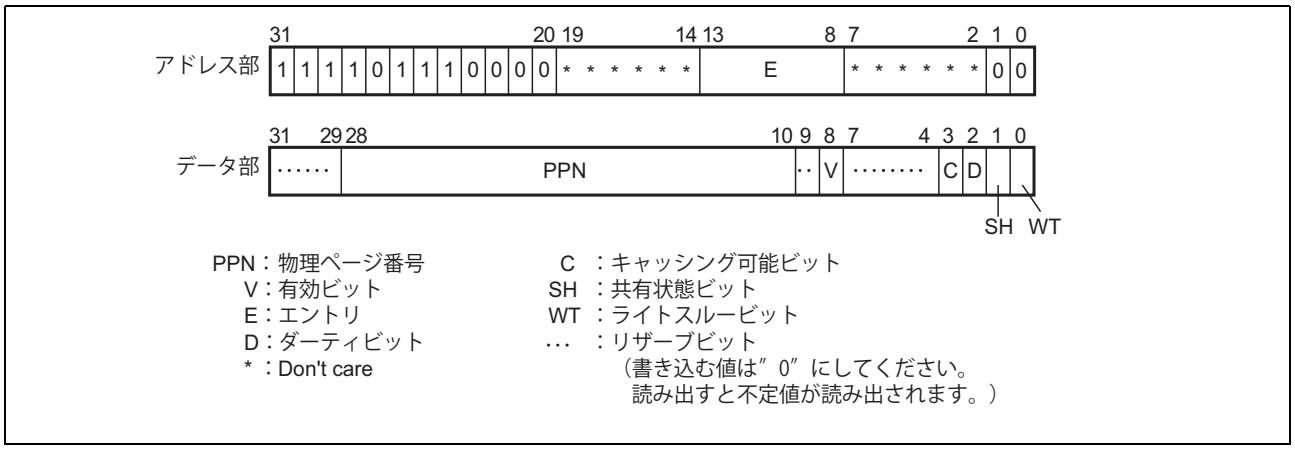


図 7.24　メモリ割り付けUTLB データアレイ1（TLB 拡張モード）

(2)　UTLB データアレイ2

UTLB のデータアレイはP4 領域のH'F780 0000 ～ H'F78F FFFF に割り付けられています。データアレイ2 のアクセスには32 ビットのアドレス部の指定（読み出し／書き込み時）と32 ビットのデータ部の指定（書き込み時）が必要です。アドレス部にはアクセスするエントリを選択するための情報を指定し、データ部にはデータアレイ2 に書き込むEPR、ESZ を指定します。アドレス部は[31:20] がUTLB データアレイ2 を示すH'F78 になっており、[13:8] でエントリを選択するようになっています。
データ部は、[13:8] がEPR を、[7:4] がESZ を示します。UTLB データアレイ2 に対しては以下の2 種類の操作が可能です。

1. UTLBデータアレイ2 読み出し
   アドレス部に指定されたエントリに対応するUTLB エントリから、データ部へEPR、ESZ を読み出します。
2. UTLBデータアレイ2 書き込み
   アドレス部に指定されたエントリに対応するUTLBエントリに対して、データ部で指定されたEPR、ESZを書き込みます。

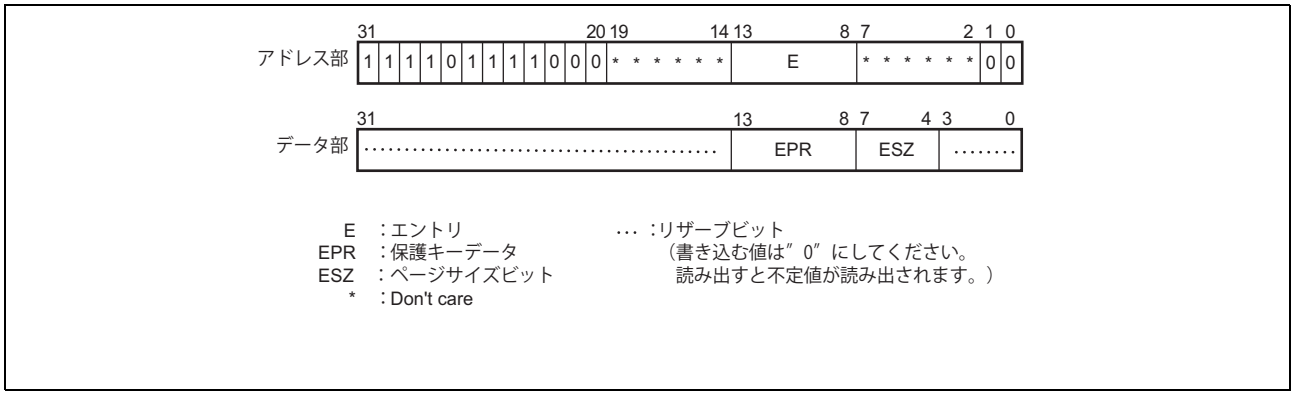


図 7.25　メモリ割り付けUTLB データアレイ2（TLB 拡張モード）

7.8　32ビットブートモード

本LSIはSEビット（PASCRレジスタのビット31）を1に設定することで、29ビットの物理アドレス空間を扱う29ビットブートモードから、32ビットの物理アドレス空間を扱う32ビットブートモードに変更することができます。

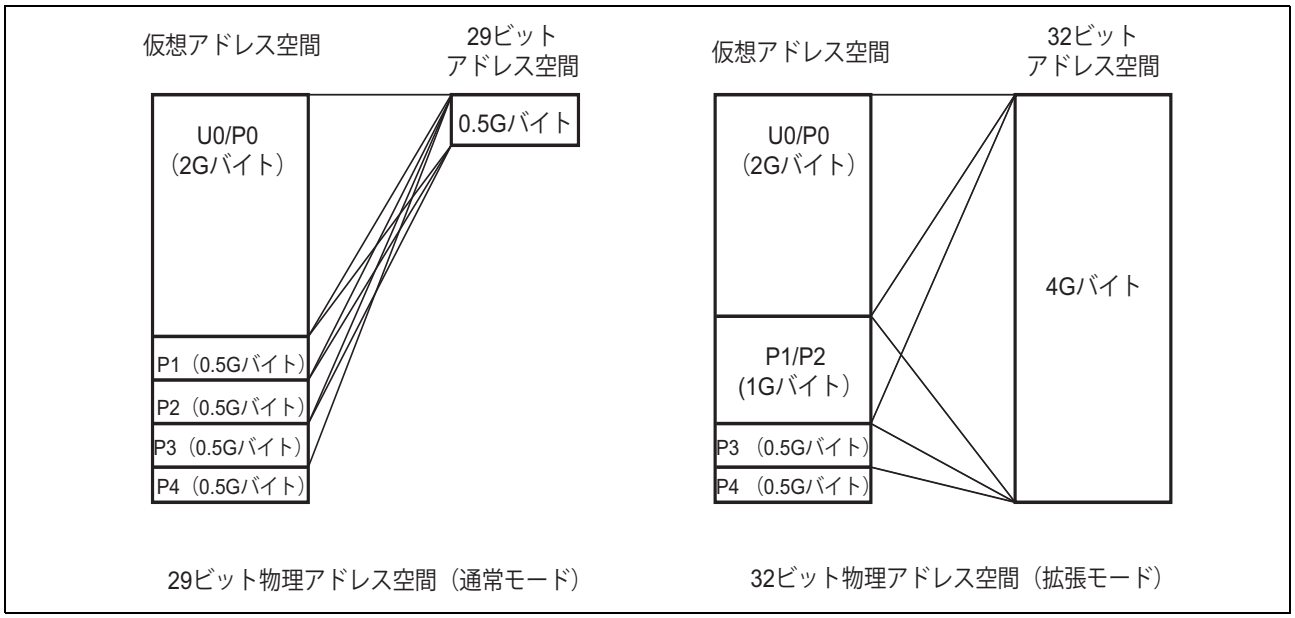


図 7.26　物理アドレス空間（32ビットブートモード）

7.8.1　32ビットブートモード概要

32ビットブートモードでは、29ビットブートモードではアドレス変換対象外であるP1/P2領域の仮想アドレスを、32ビットの物理アドレス空間にマッピングする特権空間マッピングバッファ（PMB）を導入します。
また、既存のTLB（UTLB/ITLB）のアドレス変換対象領域についても、UTLB/ITLBのPPNフィールドの上位3ビットを拡張して、TLB変換後のアドレスが32ビットの物理アドレスを扱えるようになります。
また、キャッシュの動作は、29ビットブートモードでは固定的にP1領域はキャッシング可能、P2領域はキャッシング不可ですが、32ビットブートモードではP1、P2領域ともPMBのCビット及びWTビットに従うようになります。

7.8.2　32ビットブートモードへの切り替え

PASCR レジスタのSE ビットに1 を書き込むことで、32ビットブートモードへと遷移します。32ビットブートモードではMMU の動作は次の様になります。

1. MMUCR レジスタのATビット＝0のとき、U0/P0/P3領域の仮想アドレスはそのまま32ビット物理アドレスとなります。P1/P2領域のアドレスはPMBマッピング情報に従いアドレス変換されます。PMBの仮想ページ番号の上位2ビット（VPN[31:30]）には、P1/P2領域を指し示すようにB'10を必ず設定してください。B'10以外の値を設定した場合の動作は保証しません。
2. MMUCR レジスタの AT ビット＝1 のとき、U0/P0/P3 領域の仮想アドレスはTLB 変換情報に従い32ビット物理アドレスに変換されます。P1/P2 領域のアドレスはPMB マッピングの情報に従いアドレス変換されます。PMBの仮想ページ番号の上位2ビット（VPN[31:30]）には、P1/P2領域を指し示すようにB'10を必ず設定してください。B'10以外の値を設定した場合の動作は保証しません。
3. 制御レジスタ領域（H'FC00 0000～H'FFFF FFFF）は、MMUCR.ATにかかわらず、物理アドレスの[31:29]がB'111となります。制御レジスタ領域をUTLBに登録してアクセスする場合には、PPN[31:29]にはB'111を設定してください。

7.8.3　特権空間マッピングバッファ（PMB）構成

32ビットブートモードでは、P1/P2 領域の仮想アドレスはPMB マッピング情報に従いアドレス変換されます。PMB は16 エントリで各エントリは以下の構成です。

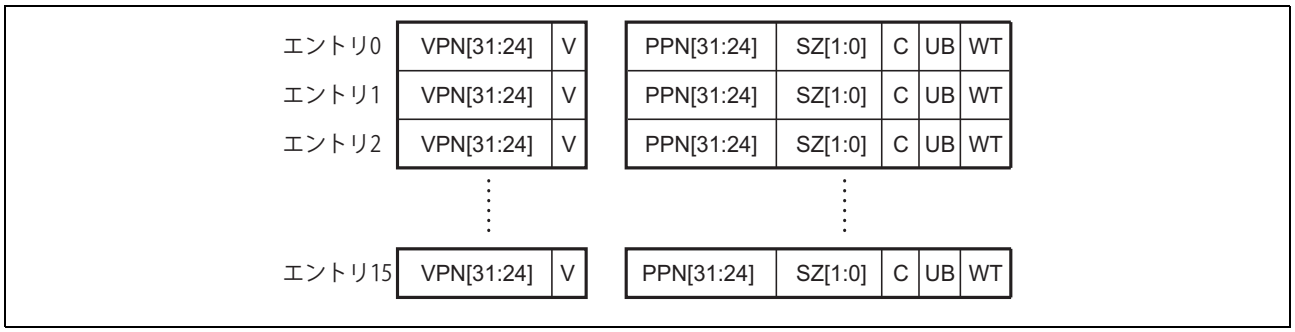


図 7.27　PMB の構成

【記号説明】

VPN：仮想ページ番号
16M バイトページのとき、仮想アドレスの上位8 ビット
64M バイトページのとき、仮想アドレスの上位6 ビット
128M バイトページのとき、仮想アドレスの上位5 ビット
512M バイトページのとき、仮想アドレスの上位3 ビット
注．VPN の上位2 ビットは、P1/P2 領域を指し示すように必ずB'10 を設定してください。

SZ ：ページサイズビット
ページサイズを指定します。
00：16M バイトページ
01：64M バイトページ
10：128M バイトページ
11：512M バイトページ

V ：有効ビット
エントリが有効かどうかを示します。
0：無効
1：有効

パワーオンリセット時に0にクリアされます。
マニュアルリセット時に変化しません。

PPN：物理ページ番号
物理アドレスの上位8ビット
16Mバイトページのとき、PPN[31:24]が有効
64Mバイトページのとき、PPN[31:26]が有効
128Mバイトページのとき、PPN[31:27]が有効
512Mバイトページのとき、PPN[31:29]が有効

C ：キャッシング可能ビット
ページがキャッシング可能かどうかを示します。
0：キャッシング不可能
1：キャッシング可能

WT ：ライトスルービット
キャッシュへの書き込みモードを指定します。
0：コピーバックモード
1：ライトスルーモード

UB ：バッファドライトビット
バッファドライトするかどうかを指定します。
0：バッファドライト（ライト完了を待たずに後続命令のデータアクセスを開始する）
1：アンバッファドライト（ライト完了を待ち後続命令のデータアクセスを開始する）

7.8.4 PMB の機能

本LSI がサポートするPMB の機能を以下に示します。

1. PMBへの書き込みはメモリ割り付けライトでのみ行えます。LDTLBでの登録はできません。
2. PMBマッピング対象であるP1/P2領域のアクセスするアドレスは必ずPMB登録されていることをソフトウェアで保証してください。PMBに変換情報がないP1/P2領域のアドレスにアクセスがあった場合、SH-4AはTLBリセットとなります。このとき、TEAにはTLBリセットの原因となったP1/P2領域へのアクセスアドレスが、EXPEVTにはコードH'140が格納されます。
3. 本 LSI は PMB が多重ヒットを起こした場合の動作を保証しません。ソフトウェアは十分注意してPMBマッピング情報を登録してください。
4. PMBには連想ライトの機能はありません。
5. PMB には PR フィールドは存在せず、リード／ライトのプロテクションを施すことはできません。PMBのアドレス変換対象はP1/P2アドレスなので、ユーザモードでのアクセスではアドレスエラー例外が発生します。
6. ITLBにはハードウェアITLBミスハンドリングによりUTLBとPMBの両方のエントリが混在して登録されます。ただしVPN[31:30]が10か否かで、UTLBから登録されたものかPMBから登録されたものか識別できます。
   PMBのエントリがITLBに登録される際に、PMBに存在しないフィールドであるASIDにはH'00、PRには01、SHには1が登録されます。

7.8.5　メモリ割り付けPMB の構成

PMB をソフトウェアで管理するために、特権モードのとき、プログラムからMOV.L 命令によってPMB の内容の読み出し、書き込みが可能です。PMB のアドレスアレイはP4 領域のH'F610 0000～H'F61F FFFF に、PMB のデータアレイはP4 領域の H'F710 0000 ～ H'F71F FFFF に割り付けられています。PMB では VPN、V をアドレスアレイとして、PPN、V、SZ、C、WT、UB をデータアレイとしてアクセス可能です。V はアドレスアレイ側からとデータアレイ側からの両方からアクセスできるようになっています。PMB メモリ割り付けアクセスを実行するプログラムは、PMB.C＝0に設定したページの領域に配置してください。

1. PMBアドレスアレイリード
   アドレスとして[31:20] にPMB アドレスアレイを示すH'F61、[11:8] にエントリを指定してメモリ読み出しを行うと、[31:24]にVPN、[8]にVが読み出されます。
2. PMBアドレスアレイライト
   アドレスとして[31:20] にPMB アドレスアレイを示すH'F61、[11:8] にエントリを指定し、データとして[31:24]にVPN、[8]にVを指定してメモリ書き込みを行うと、指定したエントリに書き込まれます。
3. PMBデータアレイリード
   アドレスとして[31:20] にPMB データアレイを示すH'F71、[11:8] にエントリを指定してメモリ読み出しを行うと、[31:24]にPPN、[9]にUB、[8]にV、[7][4]にSZ、[3]にC、[0]にWTが読み出されます。
4. PMBデータアレイライト
   アドレスとして[31:20] にPMB データアレイを示すH'F71、[11:8] にエントリを指定し、データとして[31:24]にPPN、[9]にUB、[8]にV、[7][4]にSZ、[3]にC、[0]にWTを指定してメモリ書き込みを行うと、指定したエントリに書き込まれます。

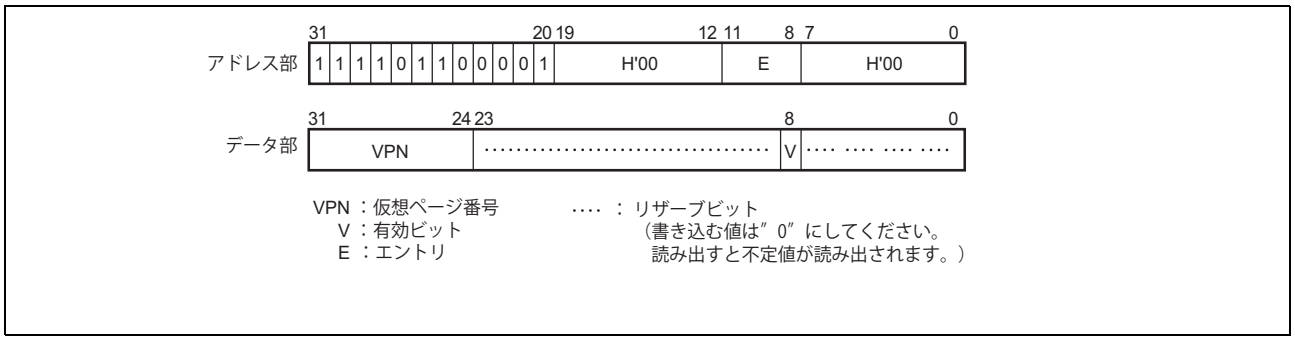


図 7.28　メモリ割り付けPMB アドレスアレイ

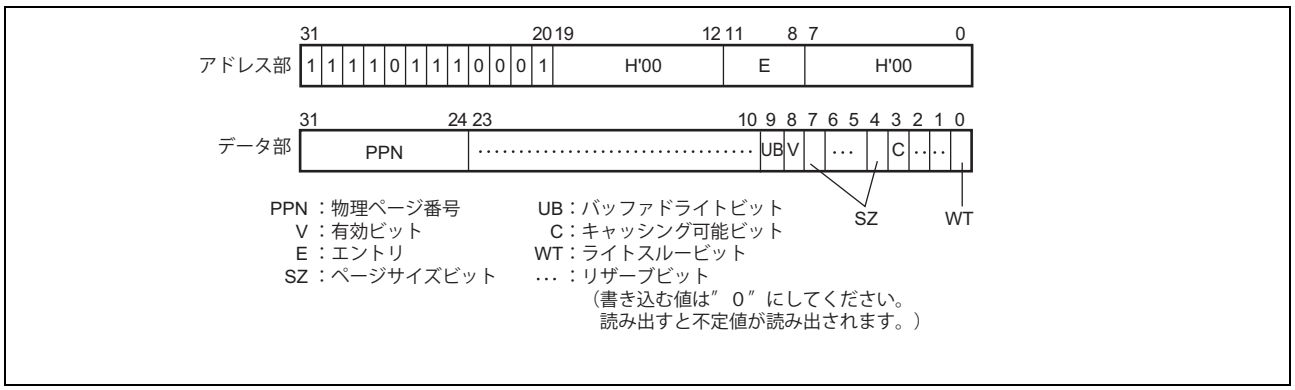


図 7.29　メモリ割り付けPMB データアレイ

7.8.6　32ビットブートモード使用時の注意事項

32ビットブートモードを使用する場合、本章ですでに述べた事項が以下のように拡張又は変更されますので、注意してください。

(1)　PASCR

制御レジスタPASCR[31]にSEビットが追加になります。また、UB[6:0]は無効になります（UB[7]は32ビットブートモードでも有効です）。
バッファドライトになるか否かは、P1/P2領域に対するライトではPMBのUBビットにより制御されます。P0/P3/U0領域に対するライトでは、MMUがイネーブルの場合TLBのUBビットにより制御され、MMUがディスエーブルの場合、常にバッファドライトになります。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31	SE	0/1（注）	R/W	アドレスモード 0：29ビットブートモード 1：32ビットブートモード（注2）
30 ～ 8	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
7 ～ 0	UB	0	R/W	エリア（64Mバイト）ごとのバッファドライト制御 キャッシュを使わない書き込みのバスアクセスが完了するまで次のCPUからのバスアクセスを待たせるかどうかをエリアごとに指定します。 0：バッファドライト（CPUは書き込みのバスアクセスの完了を待たずに次のバスアクセスを行います） 1：アンバッファドライト（CPUは書き込みのバスアクセスの完了を待ってから次のバスアクセスを行います） UB [7]：制御レジスタ領域のバッファドライト制御 UB [6:0]：エリア（64Mバイト）ごとのバッファドライト制御（32ビットブートモードでは無効）

注1.　MD10＝Hのとき“0”、MD10＝Lのとき“1”になります。
2.　パワーオンリセットまたはマニュアルリセット後、キャッシュ及びTLBがオフのときのみ、“0”から“1”に書き換えられます。“1”から“0”には書き換えないでください。

(2)　ITLB

ITLBのPPNフィールドが[31:10]へ拡張されます。

(3)　UTLB

UTLBの各エントリにPMBのUBビットと同じ意味のUBビットが追加になります。
UB ：バッファドライトビット
バッファドライトするかどうかを指定します。
0：バッファドライト（ライト完了を待たずに後続命令のデータアクセスを開始する）
1：アンバッファドライト（ライト完了を待ち後続命令のデータアクセスを開始する）
UBビットはメモリ割り付けTLBアクセスではデータアレイのビット[9]でリード／ライトが行えます。

(4)　PTEL

UTLBと同様にPTELレジスタのビット[9]にPMBのUBビットと同じ意味のUBビットが追加になります。
このUBビットはLDTLB命令によってUTLBのUBビットへ書き込まれます。またPPNフィールドが[31:10]に拡張されます。

(5)　CCRレジスタのCBビット

CCR レジスタのCB ビットは無効になります。P1 領域に対するキャッシャブルライトがコピーバックモードになるか、ライトスルーモードになるかは、PMB レジスタのWT ビットに従います。

(6) IRMCR レジスタのMT ビット

IRMCR レジスタのMT ビットが、メモリ割り付けPMB ライトに対しても有効になります。

(7) QACR0、QACR1

QACR0、QACR1 レジスタのAREA0[4:2]、AREA1[4:2]がそれぞれAREA0[7:2]、AREA1[7:2]に拡張され、物理アドレス31～26 に対応します。

(8) LSA0、LSA1、LDA0、LDA1

L0SADR、L1SADR、L0DADR、L1DADR がそれぞれ[31:10]に拡張されます。

また、32 ビット拡張アドレスモード使用時にはソフトウェアは以下の点に注意してください。

1. SE ビットの切り替えはパワーオンリセット又はマニュアルリセット後のキャッシュと TLB がオフのブートルーチンで0から1への切り替えのみサポートされています。
2. SE ビット切り替え後、そのプログラムの配置されている領域自体が PMB アドレス変換対象となりますので、SEビットの切り替えに先立ってPMBへの登録が必要です。例外ハンドラなど、P1/P2領域へのアクセスされる可能性のあるアドレスについても必ずPMBへの登録を行ってください。
3. SE ビットを切り替える MOV.L 命令の前にあるオペランドメモリアクセスが外部メモリアクセスを起こす場合、両アドレスモードでアクセスされる外部メモリ空間アドレスが異ならないようにしてください。
4. PMBの登録時にVビットがアドレスアレイとデータアレイの両方にマッピングされていることに注意してください。すなわち、1回目の一方への書き込みではV＝0を、2回目の他方への書き込みではV＝1を選んでください。

7.9 32 ビットブート機能

本LSI は外部ピンによる指定で、パワーオンリセット及びマニュアルリセット後のアドレスモードを29ビットブートモード／32ビットブートモードのどちらにするかを切り替え可能です。以下、32ビットブートモードでブートした場合の変更点を説明します。

7.9.1 PMB の初期エントリ

外部ピンで32ビットブートモードを指定した場合には、パワーオンリセット及びマニュアルリセット後、PMB に以下の初期エントリが登録され、PASCR レジスタのSE ビットの初期値が 1 となります。エントリ2～15 はV ビットのみ0 に初期化されます。

エントリ	VPN[31:24]	PPN[31:24]	V	SZ[1:0]	C	UB	WT
0	10000000	00000000	1	11	1	0	1
1	10100000	00000000	1	11	0	0	0

7.9.2 32 ビットブート時の注意点

パワーオンリセット及びマニュアルリセット直後からP1/P2 領域の PMB マッピングが行われるため、初期エントリとは異なるマッピングを行いたい場合にはブートルーチンでキャッシュと TLB をオン（CCR レジスタのICE ビット、OCE ビット とMMUCR レジスタのAT ビット を1）にする前に、以下の手順に従ってPMB ミス、PMB 多重ヒットが発生しないように注意してPMB を操作してください。なお、ブートルーチン以外でのPMB 登録内容の変更は行わないでください。

(1) P1/P2 領域のプログラムで変更する場合

1. 初期エントリに対してSZビットのみを変更したエントリを上書き登録し、ページサイズの縮小を行います。
   このとき、PMBを変更するプログラムは、ページサイズ縮小後のページの先頭1Mバイト以内に配置してください。
2. ITLBに残っているPMBに対応したエントリを無効化するため、MMUCRレジスタのTIビットに1を書き込みます。
3. 1.の操作でPMB変換情報が不在となったP1/P2領域を補うPMBエントリをメモリ割り付けPMBで登録します。
4. 以下の（a）～（c）のいずれかを実行します。この操作の前に1. の操作で PMB 変換情報が不在となったP1/P2領域に対する分岐やオペランドアクセスは行わないでください。

（a）RTE命令による分岐を実行
（b）任意のアドレス（キャッシング不可領域でもよい）に対してICBI命令を実行
（c）メモリ割り付けPMBアクセスの前にIRMCRレジスタのMTビット＝0（初期値）と設定されていた場合には特定の命令シーケンスは不要です。

ただし、方法（c）は今後のSuperHシリーズでは保証されない可能性があります。今後のSuperHシリーズでの互換性を保証するためには、（a）又は（b）を用いることを推奨します。

(2) P1/P2 領域以外のプログラムで変更する場合

1. ITLBに残っているPMBに対応したエントリを無効化するため、MMUCRレジスタのTIビットに1を書き込みます。
2. メモリ割り付けPMBでPMBエントリを変更します。
3. 以下の（a）～（c）のいずれかを実行します。この操作の前にP1/P2領域に対する分岐やオペランドアクセスは行わないでください。

（a）RTE命令による分岐を実行
（b）任意のアドレス（キャッシング不可領域でもよい）に対してICBI命令を実行
（c）メモリ割り付けPMBアクセスの前にIRMCRレジスタのMTビット＝0（初期値）と設定されていた場合には特定の命令シーケンスは不要です。

ただし、方法（c）は今後のSuperHシリーズでは保証されない可能性があります。今後のSuperHシリーズでの互換性を保証するためには、（a）又は（b）を用いることを推奨します。

7.10　使用上の注意事項

7.10.1　LDTLB 命令使用上の注意事項

MMUCR レジスタの URC ビットにソフトウェアで書き込まずに、LDTLB 命令を実行する場合は、下記の（1）又は（2）のどちらかを行ってください。

(1)　29 ビットブートモードのときは、次の（a）及び（d）の両方を行ってください。32 ビットブートモードのときは、（a）から（d）をすべて行ってください。

(a) TLB ミス例外処理ルーチン（注1）は P1 領域、P2 領域あるいは内蔵メモリ領域のみに配置し、TLB ミス例外処理ルーチンでの命令アクセス（注3）は P1 領域、P2 領域あるいは内蔵メモリ領域のみになるようにしてください。TLB ミス例外処理ルーチンを内蔵メモリ領域に配置する場合は、RAMCR の RP ビットを 0（初期値）にしてください。

(b) TLB ミス例外処理ルーチン（注1）での命令アクセス（注3）は、PMB の 1 ページのみを使用してください。かつ、PMB のページの最後 64 バイトに置かないでください（32 ビットブートモードの場合のみ）。

(c) MMU 関係例外（注2）処理ルーチンで UTLB に登録する際は、次の 1 と 2 の両方の条件に従ってください。
（32 ビットブートモードの場合のみ）

1. TLB ミス例外が発生したときで、アクセス権があるページを UTLB に登録する場合、次の 2 回の動作で例外が発生したページを UTLB に登録する方法は行わないでください。
   - TLB ミス例外を発生させた命令を再実行するときに保護違反例外が起こるような保護キーデータを指定して、TLB ミス例外が発生したページを UTLB に登録する。
   - 保護違反例外の例外処理ルーチンで保護違反例外が起こらない保護キーデータを指定して UTLB に登録し、保護違反例外を発生させた命令を再実行する。
2. 初期書き込み例外が発生し、UTLB のダーティビットに 1 を設定したページが、該当書き込み命令が完了する前に UTLB から追い出された場合、再度登録する場合は、ダーティビットを 1 で登録してください。

(d) TLB ミス例外処理ルーチンでは FDIV 命令又は FSQRT 命令を使用しないでください。

(2)　TLB ミス例外が発生した際は、MMUCR.URC に 1 を加算してから LDTLB 命令を実行してください。

注3. 例外処理ルーチン：例外発生時の VBR＋オフセットの番地から、元のプログラムに復帰する RTE 及び RTE の遅延スロットに至るまでに実行されるすべての命令を意味します。
4. MMU 関係例外：命令 TLB ミス例外、命令 TLB ミス保護違反例外、データ TLB ミス例外、データ TLB 保護違反例外、初期ページ書き込み例外を意味します。
5. 命令アクセス：PREFI 命令と ICBI 命令によるアクセスを含みます。

8. キャッシュ

本LSIは命令用に32Kバイトの命令キャッシュ（IC）を、データ用に32Kバイトのオペランドキャッシュ（OC）を内蔵しています。

8.1 特長

キャッシュの特長を表8.1に示します。

本LSIでは、外部メモリへの高速な書き込みを行うために32バイト×2のストアキュー（SQ）をサポートします。SQの特長を表8.2に示します。

表8.1 キャッシュの特長

項目	命令キャッシュ	オペランドキャッシュ
容量	32Kバイトキャッシュ	32Kバイトキャッシュ
方式	4ウェイセットアソシアティブ、 仮想アドレスインデックス／物理アドレスタグ	4ウェイセットアソシアティブ、 仮想アドレスインデックス／物理アドレスタグ
ラインサイズ	32バイト	32バイト
エントリ数	256エントリ／ウェイ	256エントリ／ウェイ
書き込み方式	—	コピーバック／ライトスルー選択可能
置換方式	LRU（Least Recently Used）アルゴリズム	LRU（Least Recently Used）アルゴリズム

表8.2 ストアキューの特長

項目	ストアキュー
容量	2×32バイト
方式	H'E000 0000 ～ H'E3FF FFFF
ライト	ストア命令（1サイクルライト）
ライトバック	プリフェッチ命令（PREF命令）
アクセス権	MMUディスエーブル時：SQMDビット（MMUCRレジスタのビット9）のによる MMUイネーブル時：個々のページのPRによる

本LSIのオペランドキャッシュは4ウェイセットアソシアティブ方式で、おのおののウェイは256本のキャッシュラインから構成されます。図8.1にオペランドキャッシュの構成を示します。

命令キャッシュは4ウェイセットアソシアティブ方式で、おのおののウェイは256本のキャッシュラインから構成されます。図8.2に命令キャッシュの構成を示します。

本LSIは消費電力を低減するためにICウェイ予測機構を搭載しています。また、非サポート検出例外レジスタ（EXPMASK）を用いて、メモリ割り付け連想ライト機能を例外として検出することが可能です。詳細は、「6. 例外処理」を参照してください。

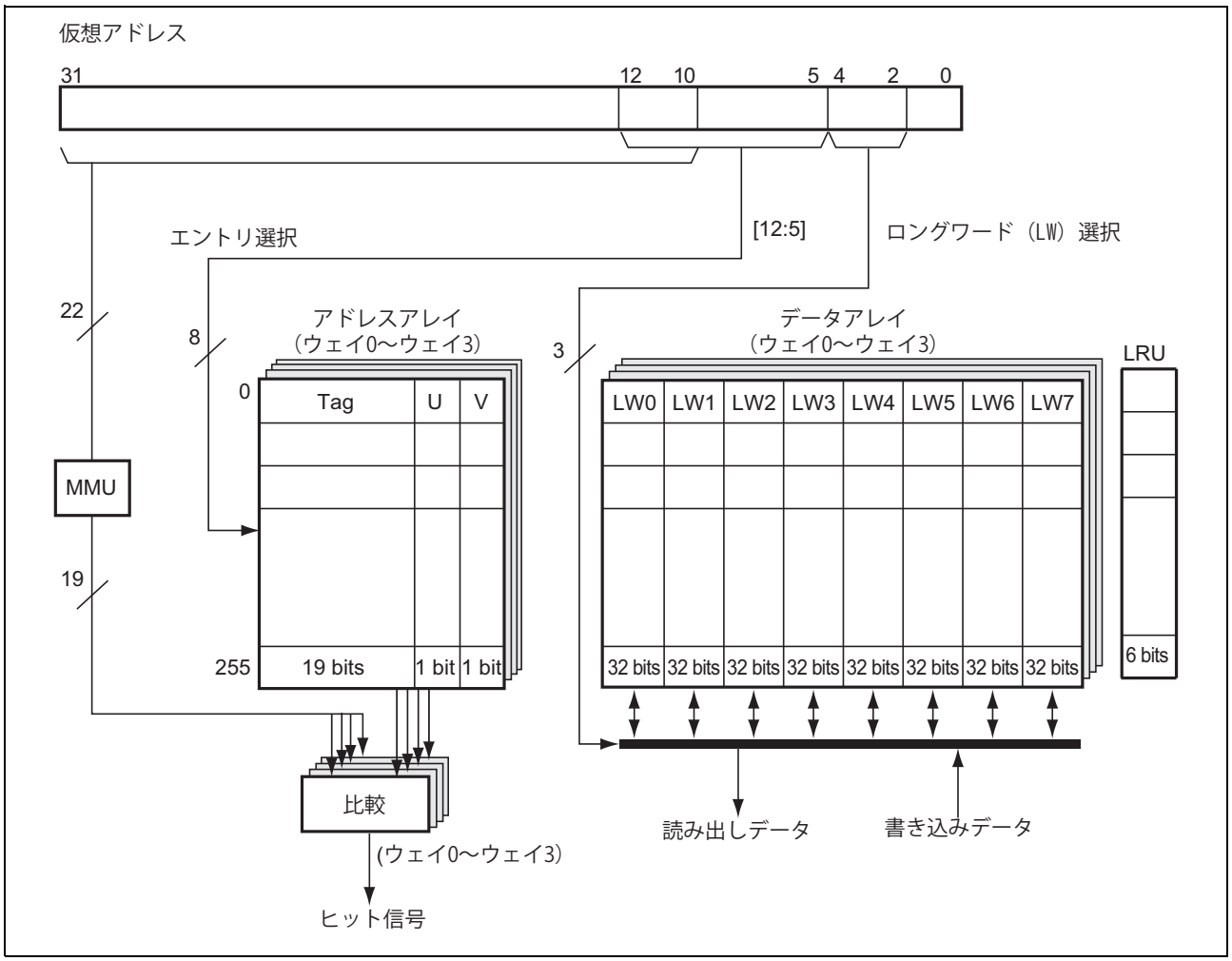


図 8.1　オペランドキャッシュの構成（キャッシュサイズ＝32K バイトの場合）

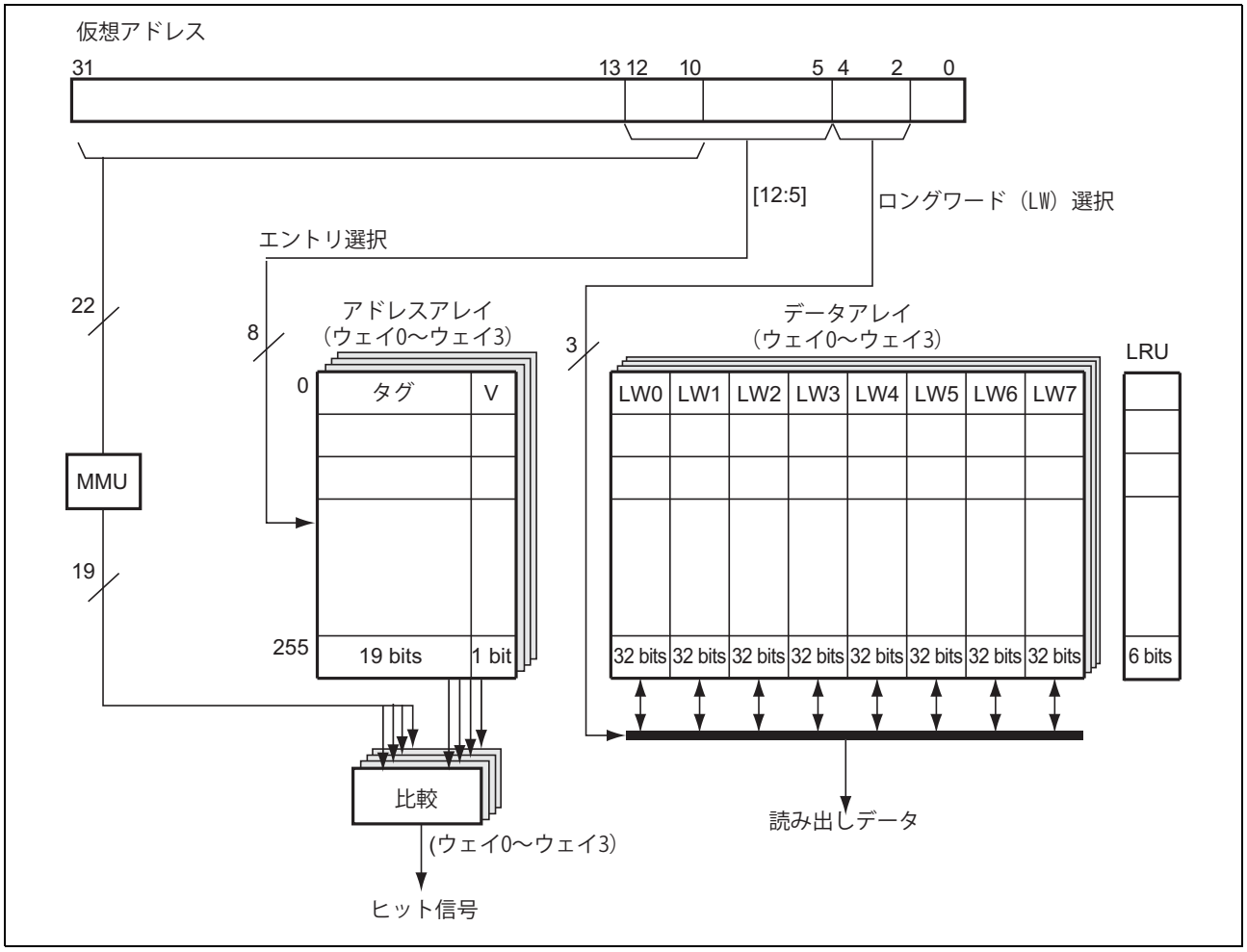


図 8.2　命令キャッシュの構成（キャッシュサイズ＝32K バイトの場合）

(1) タグ

キャッシュされるデータラインの物理アドレス 29 ビットの上位 19 ビットを格納します。タグはパワーオンリセット、マニュアルリセットで初期化されません。

(2) V ビット（有効ビット）

キャッシュラインに有効なデータが格納されているか否かを示します。このビットが”1”のとき、そのキャッシュラインのデータは有効となります。V ビットはパワーオンリセットで”0”に初期化されますが、マニュアルリセットでは値を保持します。

(3) U ビット（ダーティビット）

コピーバックモードでキャッシュを使用中に、キャッシュラインへデータを書き込んだとき、U ビットが ”1” になります。つまり U ビットはキャッシュライン中のデータと外部メモリ中のデータとの不一致を示します。メモリ割り付けキャッシュ（「8.6 メモリ割り付けキャッシュの構成」参照）をアクセスすることにより U ビットを書き換えない限り、ライトスルーモードでキャッシュを使用中は U ビットが”1”になることはありません。U ビットはパワーオンリセットで”0”に初期化されますが、マニュアルリセットでは値を保持します。

(4) データアレイ

データ部には 1 キャッシュラインあたり 32 バイト（256 ビット）のデータが格納されます。データアレイはパワーオンリセット、マニュアルリセットで初期化されません。

(5) LRU 部

4ウェイセットアソシアティブ方式では、エントリアドレスが同じデータを4つまでキャッシュに登録できます。エントリを登録するとき、4つのウェイのうち、どのウェイに登録するかをLRUビットが示します。LRUビットは各エントリ6ビットからなり、ハードウェアで制御します。ウェイ選択のアルゴリズムとして、最も以前にアクセスされたウェイを選ぶLRU（Least Recently Used）アルゴリズムを使用しています。LRUビットは、パワーオンリセットで”0”に初期化されますが、マニュアルリセットでは初期化されません。LRUビットは、ソフトウェアでは読み書きできません。

8.2 レジスタの説明

キャッシュに関連するレジスタを以下に示します。

指定されたビット幅でレジスタにアクセスしてください。指定されたビット幅以外のサイズでレジスタにアクセスした場合、動作は保証できません。

表8.3 レジスタ構成

名称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態	
					パワーオンリセット	マニュアルリセット
キャッシュ制御レジスタ	CCR	R/W	H'FF00 001C	32	H'0000 0000	H'0000 0000
キューアドレス制御レジスタ0	QACR0	R/W	H'FF00 0038	32	H'0000 00XX	H'0000 00XX
キューアドレス制御レジスタ1	QACR1	R/W	H'FF00 003C	32	H'0000 00XX	H'0000 00XX
内蔵メモリ制御レジスタ	RAMCR	R/W	H'FF00 0074	32	H'0000 0000	H'0000 0000

8.2.1 キャッシュ制御レジスタ（CCR）

CCRは、キャッシュの動作モードの選択、キャッシュの全エントリの無効化、キャッシュへの書き込みモードの選択を行います。

CCRの書き換えは、キャッシング不可のP2領域のプログラム又はILメモリ上のプログラムで行わなければなりません。CCR更新後、キャッシング可能領域へのアクセス（命令フェッチを含む）を行う前に、以下の1～3のどれかを実行してください。

1. RTE命令による分岐を実行してください。この場合、分岐先はキャッシング可能領域でかまいません。
2. 任意のアドレス（キャッシング不可領域でもよい）に対して、ICBI命令を実行してください。
3. CCR更新の前にあらかじめIRMCRレジスタのR2＝0（初期値）と設定されていた場合には、特定の命令シーケンスは不要です。しかしこの方法では、CCR更新命令の次命令を命令フェッチからやり直すため、CPUの処理性能が低下しますのでご注意ください。

ただし、方法3は今後のSuperHシリーズでは保証されない可能性があります。今後のSuperHシリーズでの互換性を保証するためには、1又は2を用いることを推奨します。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	ICI	—	—	ICE	—	—	—	—	OCI	CB	WT	OCE
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	—	—	—	—	R/W	—	—	R/W	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～12	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
11	ICI	0	R/W	IC 無効化ビット このビットに1 を書き込むとIC の全エントリのV ビットを0 にします。読み出すと常に0 が読み出されます。
10、9	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
8	ICE	0	R/W	IC 有効ビット IC の使用を選択します。ただしアドレス変換が行われる場合は、ページ管理情報のC ビットも1 でなければIC を使用できません。 0：IC を使用しない 1：IC を使用する
7～4	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
3	OCI	0	R/W	OC 無効化ビット このビットに1 を書き込むとOC の全エントリのV、U ビットを0 にします。読み出すと常に0 が読み出されます。
2	CB	0	R/W	コピーバックビット P1 領域のキャッシュへの書き込みモードを示します。 0：ライトスルーモード 1：コピーバックモード
1	WT	0	R/W	ライトスルーモード P0、U0、P3 領域のキャッシュへの書き込みモードを示します。ただし、アドレス変換が行われる場合は、ページ管理情報のWT ビットの値を優先します。 0：コピーバックモード 1：ライトスルーモード
0	OCE	0	R/W	OC 有効ビット OC の使用を選択します。ただしアドレス変換が行われる場合は、ページ管理情報のC ビットも1 でなければOC を使用できません。 0：OC を使用しない 1：OC を使用する

8.2.2 キューアドレス制御レジスタ0（QACR0）

QACR0は、MMUがディスエーブルのとき、ストアキュー0（SQ0）がマップされているエリアを設定します。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	AREA0			—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～5	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
4～2	AREA0	不定	R/W	MMUがディスエーブルのとき、SQ0に対する物理アドレス28～26を生成します。
1、0	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

8.2.3 キューアドレス制御レジスタ1（QACR1）

QACR1は、MMUがディスエーブルのとき、ストアキュー1（SQ1）がマップされているエリアを設定します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	AREA1			—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～5	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
4～2	AREA1	不定	R/W	MMUがディスエーブルのとき、SQ1に対する物理アドレス28～26を生成します。
1、0	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

8.2.4 内蔵メモリ制御レジスタ（RAMCR）

RAMCR はIC 及びOC のウェイ数とIC ウェイ予測の制御を行います。

RAMCR への書き換えは、キャッシング不可の P2 領域のプログラムで行われなければなりません。RAMCR 更新後、キャッシング可能領域又はIL メモリ、OL メモリあるいはU メモリ領域へのアクセス（命令フェッチを含む）を行う前に、以下の1～3 のどれかを実行してください。

1. RTE 命令による分岐を実行してください。この場合、分岐先はキャッシング可能領域又はILメモリ、OLメモリあるいはUメモリ領域でかまいません。
2. 任意のアドレス（キャッシング不可領域でもよい）に対して、ICBI命令を実行してください。
3. RAMCR更新の前にあらかじめIRMCRレジスタのR2ビット＝0（初期値）と設定されていた場合には、特定の命令シーケンスは不要です。しかしこの方法では、RAMCR 更新命令の次命令を命令フェッチからやり直すため、CPUの処理性能が低下しますのでご注意ください。

ただし、方法3 は今後の SuperH シリーズでは保証されない可能性があります。今後の SuperH シリーズでの互換性を保証するためには、1 又は2 を用いることを推奨します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	RMD	RP	IC2W	OC2W	ICWPD	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～10	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
9	RMD	0	R/W	内蔵メモリアクセスモードビット 仮想アドレス空間からの内蔵メモリへのアクセス権を指定します。 0：特権アクセスが可能(ユーザアクセスの場合はアドレスエラー例外) 1：ユーザ／特権アクセスが可能
8	RP	0	R/W	内蔵メモリ保護有効ビット 仮想アドレス空間からの内蔵メモリへのアクセスに対して、ITLB、UTLBを用いた保護機能の使用を選択します。 0：保護機能を使用しない 1：保護機能を使用する 詳細は「9.4 内蔵メモリの保護機能」を参照してください。
7	IC2W	0	R/W	IC 2 ウェイモードビット 0：IC は4 ウェイ動作 1：IC は2 ウェイ動作 詳細は「8.4.3 IC 2 ウェイモード」を参照してください。
6	OC2W	0	R/W	OC 2 ウェイモードビット 0：OC は4 ウェイ動作 1：OC は2 ウェイ動作 詳細は「8.3.6 OC 2 ウェイモード」を参照してください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
5	ICWPD	0	R/W	IC ウェイ予測抑止ビット IC ウェイ予測の使用を選択します。 0：命令キャッシュはウェイ予測を行う 1：命令キャッシュはウェイ予測を行わない 詳細は「8.4.4 命令キャッシュウェイ予測」を参照してください。
4 ～ 0	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

8.3 オペランドキャッシュの動作説明

8.3.1 読み出し動作

オペランドキャッシュ（OC）が有効（CCRレジスタのOCEビット=1）かつキャッシング可能な領域からデータを読み出す場合、OCは以下のように動作します。

1. 仮想アドレスのビット[12:5]でインデックスされる各ウェイのキャッシュラインから、タグ、Vビット、Uビット及びLRUビットを読み出します。

2. 仮想アドレスをMMUにより変換した物理アドレスのビット[28:10]と、各ウェイから読み出したタグを比較し、
   - タグが一致かつVビットが1のウェイが存在する場合 → 3.
   - タグが一致かつVビットが1のウェイが存在せず、LRUビットにより選択された置換対象ウェイのUビットが0の場合 → 4.
   - タグが一致かつVビットが1のウェイが存在せず、LRUビットにより選択された置換対象ウェイのUビットが1の場合 → 5.

3. キャッシュヒット
   ヒットしたウェイのデータ部から、仮想アドレスのビット[4:0]でインデックスされるデータをアクセスサイズに応じて読み出します。またヒットしたウェイが最新となるようにLRUビットを更新します。

4. キャッシュミス（書き戻しなし）
   仮想アドレスに対応する物理アドレス空間から、置換対象ウェイのキャッシュラインへデータを読み込みます。データの読み込みはキャッシュミスしたデータを含むクワッドワード（8バイト）から順にラップアラウンド方式で行い、該当するデータがキャッシュへ到着した時点で、CPUへ読み出しデータを返します。残りのキャッシュ1ライン分のデータが読み込まれている間、CPUは次の処理を実行することができます。キャッシュに1ライン分のデータの読み込みが完了した時点で、物理アドレスによるタグを登録し、Vビットに”1”を、Uビットに”0”を書き込みます。また置換したウェイが最新となるようにLRUビットを更新します。

5. キャッシュミス（書き戻しあり）
   置換対象ウェイのキャッシュラインのタグとデータ部をライトバックバッファへ退避します。その後、仮想アドレスに対応する物理アドレス空間から、置換対象ウェイのキャッシュラインへデータを読み込みます。データの読み込みはキャッシュミスしたデータを含むクワッドワード（8バイト）から順にラップアラウンド方式で行い、該当するデータがキャッシュへ到着した時点で、CPUへ読み出しデータを返します。残りのキャッシュ1ライン分のデータが読み込まれている間、CPUは次の処理を実行することができます。キャッシュに1ライン分のデータの読み込みが完了した時点で、物理アドレスによるタグを登録し、Vビットに”1”を、Uビットに”0”を書き込みます。また置換したウェイが最新となるようにLRUビットを更新します。その後、ライトバックバッファのデータを外部メモリへ書き戻します。

8.3.2 プリフェッチ動作

オペランドキャッシュ（OC）が有効（CCRレジスタのOCEビット=1）かつキャッシング可能な領域からデータをOCにプリフェッチする場合、OCは以下のように動作します。

1. 仮想アドレスのビット[12:5]でインデックスされる各ウェイのキャッシュラインから、タグ、Vビット、Uビット及びLRUビットを読み出します。

2. 仮想アドレスをMMUにより変換した物理アドレスのビット[28:10]と、各ウェイから読み出したタグを比較し、
   - タグが一致かつVビットが1のウェイが存在する場合 → 3.
   - タグが一致かつVビットが1のウェイが存在せず、LRUビットにより選択された置換対象ウェイのUビットが0の場合 → 4.
   - タグが一致かつVビットが1のウェイが存在せず、LRUビットにより選択された置換対象ウェイのUビットが1の場合 → 5.

3. キャッシュヒット
   ヒットしたウェイが最新となるようにLRUビットを更新します。

4. キャッシュミス（書き戻しなし）
   仮想アドレスに対応する物理アドレス空間から、置換対象ウェイのキャッシュラインへデータを読み込みます。データの読み込みはキャッシュミスしたデータを含むクワッドワード（8バイト）から順にラップアラウンド方式で行います。プリフェッチ動作ではCPUがデータの到着を待つことはなく、キャッシュ1ライン分のデータが読み込まれている間、CPUは次の処理を実行することができます。キャッシュに1ライン分のデータの読み込みが完了した時点で、物理アドレスによるタグを登録し、Vビットに”1”を、Uビットに”0”を書き込みます。また置換したウェイが最新となるようにLRUビットを更新します。

5. キャッシュミス（書き戻しあり）
   置換対象ウェイのキャッシュラインのタグとデータ部をライトバックバッファへ退避します。その後、仮想アドレスに対応する物理アドレス空間から、置換対象ウェイのキャッシュラインへデータを読み込みます。データの読み込みはキャッシュミスしたデータを含むクワッドワード（8バイト）から順にラップアラウンド方式で行います。プリフェッチ動作ではCPUがデータの到着を待つことはなく、キャッシュ1ライン分のデータが読み込まれている間、CPUは次の処理を実行することができます。キャッシュに1ライン分のデータの読み込みが完了した時点で、物理アドレスによるタグを登録し、Vビットに”1”を、Uビットに”0”を書き込みます。また置換したウェイが最新となるようにLRUビットを更新します。その後、ライトバックバッファのデータを外部メモリへ書き戻します。

8.3.3 書き込み動作

オペランドキャッシュ（OC）が有効（CCRレジスタのOCEビット=1）かつキャッシング可能な領域に対してデータが書き込まれる場合、OCは以下のように動作します。

1. 仮想アドレスのビット[12:5]でインデックスされる各ウェイのキャッシュラインから、タグ、Vビット、Uビット及びLRUビットを読み出します。

2. 仮想アドレスをMMUにより変換した物理アドレスのビット[28:10]と、各ウェイから読み出したタグの比較、及び対象となる領域の属性から、

	コピーバック	ライトスルー
• タグが一致かつVビットが1のウェイが存在する場合	→ 3.	→ 4.
• タグが一致かつVビットが1のウェイが存在せず、LRUビットにより選択された置換対象ウェイのUビットが0の場合	→ 5.	→ 7.
• タグが一致かつVビットが1のウェイが存在せず、LRUビットにより選択された置換対象ウェイのUビットが1の場合	→ 6.	→ 7.

3. キャッシュヒット（コピーバック）
ヒットしたウェイのデータ部の、仮想アドレスのビット[4:0]でインデックスされるデータ位置に対し、アクセスサイズに応じて書き込みます。またUビットに1を書き込み、ヒットしたウェイが最新となるようにLRUビットを更新します。

4. キャッシュヒット（ライトスルー）
ヒットしたウェイのデータ部の、仮想アドレスのビット[4:0]でインデックスされるデータ位置に対し、アクセスサイズに応じて書き込むとともに、仮想アドレスに対応する外部メモリに対しても書き込みを行います。またヒットしたウェイが最新となるようにLRUビットを更新します。この場合、Uビットは更新されません。

5. キャッシュミス(コピーバック、書き戻しなし)
置換対象ウェイのデータ部の、仮想アドレスのビット[4:0]でインデックスされるデータ位置に対し、アクセスサイズに応じて書き込みます。また仮想アドレスに対応する物理アドレス空間から、置換対象ウェイのキャッシュラインへデータを読み込みます（ただし、すでに書き込み済みのキャッシュミスしたデータを除く）。データの読み込みはキャッシュミスしたデータを含むクワッドワード(8バイト)から順にラップアラウンド方式で行います。キャッシュ1ライン分のデータが読み込まれている間、CPUは次の処理を実行することができます。キャッシュに1ライン分のデータの読み込みが完了した時点で、物理アドレスによるタグを登録し、Vビットに”1”を、Uビットに”1”を書き込みます。また置換したウェイが最新となるようにLRUビットを更新します。

6. キャッシュミス（コピーバック、書き戻しあり）
置換対象ウェイのキャッシュラインのタグとデータ部をライトバックバッファへ退避します。その後、置換対象ウェイのデータ部の、仮想アドレスのビット[4:0]でインデックスされるデータ位置に対し、アクセスサイズに応じて書き込みます。また仮想アドレスに対応する物理アドレス空間から、置換対象ウェイのキャッシュラインへデータを読み込みます（ただし、すでに書き込み済みのキャッシュミスしたデータを除く）。
データの読み込みはキャッシュミスしたデータを含むクワッドワード（8バイト）から順にラップアラウンド方式で行います。キャッシュ1ライン分のデータが読み込まれている間、CPUは次の処理を実行することができます。キャッシュに1ライン分のデータの読み込みが完了した時点で、物理アドレスによるタグを登録し、Vビットに”1”を、Uビットに”1”を書き込みます。また置換したウェイが最新となるようにLRUビットを更新します。その後、ライトバックバッファのデータを外部メモリへ書き戻します。

7. キャッシュミス（ライトスルー）

仮想アドレスに対応した外部メモリへ、指定されたアクセスサイズで書き込みを行います。この場合、キャッシュへの書き込みは行われません。タグ、V ビット、U ビット、LRU ビットも更新されません。

8.3.4 ライトバックバッファ

本 LSI は、キャッシュミスによりダーティなキャッシュのエントリを外部メモリに追い出す必要が生じた場合、キャッシュへのデータの読み込みを優先させ性能を向上させるために、追い出すキャッシュラインのデータを格納するためのライトバックバッファを内蔵しています。ライトバックバッファはキャッシュ 1 ライン分のデータと追い出す先の物理アドレスで構成されます。

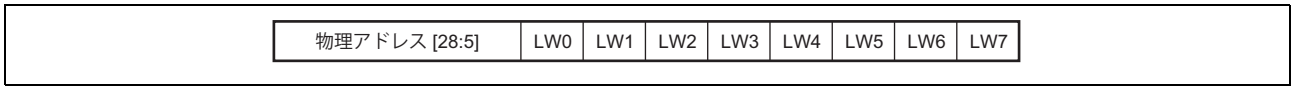


図 8.3 ライトバックバッファの構成

8.3.5 ライトスルーバッファ

本 LSI は、ライトスルーモード時のデータの書き込みや、キャッシング不可能な領域に対する書き込み動作において、書き込みデータを保持するための 64 ビットのバッファを内蔵しています。これにより CPU はライトスルーバッファへの書き込みが完了すると、外部メモリへの書き込みの完了を待たずに次の動作へ移ります。

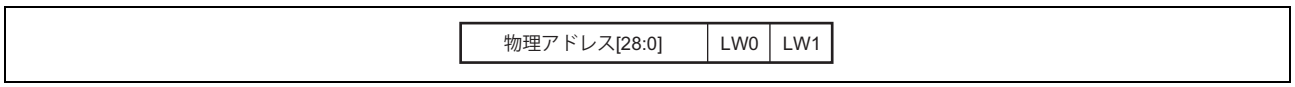


図 8.4 ライトスルーバッファの構成

8.3.6 OC 2 ウェイモード

OC2W ビット（RAMCR レジスタのビット 6）を 1 にセットすると、OC のウェイ 0 とウェイ 1 のみを使用する OC 2 ウェイモードとなり、消費電力を低減できます。本モードではメモリ割り付け OC アクセスも含め、ウェイ 0 とウェイ 1 のみが使用されます。

OC2W ビットの書き換えは P2 領域のプログラムで行ってください。また、書き換える時点ですでに OC に有効なラインが登録されている場合には、OC2W ビットを書き換える前に、必要に応じてソフトウェアにより書き戻しを行った後、OCI ビット（CCR レジスタのビット 3）に”1” を書き込み、OC の全エントリを無効にしてください。

8.4 命令キャッシュの動作説明

8.4.1 読み出し動作

命令キャッシュ（IC）が有効（CCRレジスタのICEビット=1）かつキャッシング可能な領域から命令フェッチを行う場合、ICは以下のように動作します。

1. 仮想アドレスのビット[12:5]でインデックスされる各ウェイのキャッシュラインから、タグ、Vビット及びLRUビットを読み出します。

2. 仮想アドレスをMMUにより変換した物理アドレスのビット[28:10]と、各ウェイから読み出したタグを比較し、
   - タグが一致かつVビットが1のウェイが存在する場合 → 3.
   - タグが一致かつVビットが1のウェイが存在しない場合 → 4.

3. キャッシュヒット
   ヒットしたウェイのデータ部から、仮想アドレスのビット[4:2]でインデックスされるデータを命令として読み出します。またヒットしたウェイが最新となるようにLRUビットを更新します。

4. キャッシュミス
   仮想アドレスに対応する物理アドレス空間から、LRUビットにより選択された置換対象ウェイのキャッシュラインへデータを読み込みます。データの読み込みはキャッシュミスしたデータを含むクワッドワード（8バイト）から順にラップアラウンド方式で行い、該当するデータがキャッシュへ到着した時点で、CPUへ読み出しデータを命令として返します。残りのキャッシュ1ライン分のデータが読み込まれている間、CPUは次の処理を実行することができます。キャッシュに1ライン分のデータの読み込みが完了した時点で、物理アドレスによるタグを登録し、Vビットに1を書き込みます。また置換したウェイが最新となるようにLRUビットを更新します。

8.4.2 プリフェッチ動作

命令キャッシュ（IC）が有効（CCRレジスタのICEビット=1）かつキャッシング可能な領域から、命令をICにプリフェッチする場合、ICは以下のように動作します。

1. 仮想アドレスのビット[12:5]でインデックスされる各ウェイのキャッシュラインから、タグ、Vビット及びLRUビットを読み出します。

2. 仮想アドレスをMMUにより変換した物理アドレスのビット[28:10]と、各ウェイから読み出したタグを比較し、
   - タグが一致かつVビットが1のウェイが存在する場合 → 3.
   - タグが一致かつVビットが1のウェイが存在しない場合 → 4.

3. キャッシュヒット
   ヒットしたウェイが最新となるようにLRUビットを更新します。

4. キャッシュミス
   仮想アドレスに対応する物理アドレス空間から、置換対象ウェイのキャッシュラインへデータを読み込みます。データの読み込みはキャッシュミスしたデータを含むクワッドワード（8バイト）から順にラップアラウンド方式で行います。プリフェッチ動作ではCPUがデータの到着を待つことはなく、キャッシュ1ライン分のデータが読み込まれている間、CPUは次の処理を実行することができます。キャッシュに1ライン分のデータの読み込みが完了した時点で、物理アドレスによるタグを登録し、Vビットに1を書き込みます。また置換したウェイが最新となるようにLRUビットを更新します。

8.4.3 IC 2 ウェイモード

IC 2W ビット（RAMCR レジスタのビット7）を1 にセットすると、IC のウェイ0 とウェイ1 のみを使用する IC 2 ウェイモードとなり、消費電力を低減できます。本モードではメモリ割り付け IC アクセスも含め、ウェイ0 とウェイ1 のみが使用されます。

IC2W ビットの書き換えはP2 領域のプログラムで行うようにしてください。また、書き換える時点ですでにICに有効なラインが登録されている場合には、IC2W ビットを書き換える前に、ICI ビット（CCR レジスタのビット11）に1 を書き込み、IC の全エントリを無効化してください。

8.4.4 命令キャッシュウェイ予測

本LSI は消費電力を低減するために命令キャッシュ（IC）ウェイ予測機構を内蔵し、予測したウェイのデータアレイのみを起動します。ウェイ予測ミスが発生した場合には正しいウェイのデータを再読み出しするため、命令フェッチ性能が低下することがあります。ICWPD ビット（RAMCR レジスタのビット5）を1 にセットすると、IC ウェイ予測機構を停止させることができます。本モードではウェイ予測ミスは発生しないため、命令フェッチ性能の低下はありませんが IC の消費電力が増加します。また、ICWPD ビット（RAMCR レジスタのビット5）の切り換えはキャッシング不可のP2 領域を走行するプログラムで行ってください。また、書き換える時点ですでに IC に有効なラインが登録されている場合には、ICWPD ビット（RAMCR レジスタのビット5）を書き換える前に、ICI ビット（CCR レジスタのビット11）に1 を書き込み、IC の全エントリを無効化してください。

8.5 キャッシュ操作命令

8.5.1 キャッシュと外部メモリとのコヒーレンシ

(1) キャッシュ操作命令一覧

キャッシュと外部メモリとのコヒーレンシはソフトウェアで保証してください。本LSIではキャッシュを操作する命令として次の6命令をサポートしています。各命令の詳細は「SH-4A拡張機能ソフトウェアマニュアル」の「第11章 各命令の説明」を参照してください。

- **オペランドキャッシュインバリデイト命令**：OCBI @Rn
  オペランドキャッシュの無効化（書き戻しなし）
- **オペランドキャッシュパージ命令**：OCBP @Rn
  オペランドキャッシュの無効化（書き戻しあり）
- **オペランドキャッシュライトバック命令**：OCBWB @Rn
  オペランドキャッシュの書き戻し
- **オペランドキャッシュアロケート命令**：MOVCA.L R0,@Rn
  オペランドキャッシュの確保
- **命令キャッシュインバリデイト命令**：ICBI @Rn
  命令キャッシュの無効化
- **オペランドアクセス同期命令**：SYNCO
  データ転送の完了待ち

(2) コヒーレンシ制御

オペランドキャッシュのコヒーレンシ制御のために、SuperHywayバスからのPURGE及びFLUSHトランザクションを受け付けることが可能です。PURGE/FLUSHトランザクションで与えられるアドレスは物理アドレスです。そのためMMUがイネーブルの場合、キャッシュシノニム問題を回避するため、1Kバイトのページサイズを使用しないでください。

- PURGEトランザクション
  オペランドキャッシュがイネーブルの時、オペランドキャッシュを検索し、ヒットしたエントリを無効化します。無効化されるラインがダーティであれば外部メモリへ書き戻しを行います。ミスした場合にはノーオペレーションです。
- FLUSHトランザクション
  オペランドキャッシュがイネーブルの時、オペランドキャッシュを検索し、ヒットしたエントリがあり、かつダーティであれば外部メモリへ書き戻しを行います。ヒットしたエントリの無効化は行いません。ミスした場合又はヒットしたエントリがダーティでなかった場合にはノーオペレーションです。

(3) コヒーレンシ制御に関連した命令仕様変更

オペランドキャッシュ操作命令のうち、OCBI、OCBP、OCBWBのコヒーレンシ制御に関連した仕様が、プロセッサバージョンレジスタ（PVR）のVERビットの値がH'20のSH-4Aから変更になっています。

1. インバリデイト命令：OCBI@Rnの変更点
   Rnが指し示すアドレスが非キャッシュ領域の場合、プロセッサバージョンレジスタ（PVR）のVERビットの値がH'20のSH-4Aでは本命令はNOPとして動作しましたが、本LSIでは、Rn[31:24]がH'F4（OCアドレスアレイ領域）の場合のみ、ウェイ＝Rn[14:13]、エントリ＝Rn[12:5]で示されるオペランドキャッシュラインを無効化します。このとき無効化されるラインがダーティであっても書き戻しは行いません。本操作は特権モードでのみ実行可能で、ユーザモードではアドレスエラー例外を発生します。また、TLB関連例外は発生しません。
   Rn[31:24]がH'F4以外のメモリ割り付けアレイ領域、制御レジスタ領域、及びそのリザーブ領域（H'F0

～H'F3、H'F5～H'FF）への本命令の実行は行わないでください。パージ命令：OCBP @Rnの変更点
Rnが指し示すアドレスが非キャッシュ領域の場合、プロセッサバージョンレジスタ（PVR）のVERビットの値がH'20のSH-4Aでは本命令はNOPとして動作しましたが、本LSIでは、Rn[31:24]がH'F4（OCアドレスアレイ領域）の場合のみ、ウェイ＝Rn[14:13]、エントリ＝Rn[12:5]で示されるオペランドキャッシュラインを無効化します。このとき無効化されるラインがダーティであれば書き戻しを行います。本操作は特権モードでのみ実行可能で、ユーザモードではアドレスエラー例外を発生します。また、TLB関連例外は発生しません。
Rn[31:24]がH'F4以外のメモリ割り付けアレイ領域、制御レジスタ領域、及びそのリザーブ領域（H'F0～H'F3、H'F5～H'FF）への本命令の実行は行わないでください。

2. ライトバック命令：OCBWB @Rnの変更点
Rnが指し示すアドレスが非キャッシュ領域の場合、プロセッサバージョンレジスタ（PVR）のVERビットの値がH'20のSH-4Aでは本命令はNOPとして動作しましたが、本LSIでは、Rn[31:24]がH'F4（OCアドレスアレイ領域）の場合のみ、ウェイ＝Rn[14:13]、エントリ＝Rn[12:5]で示されるオペランドキャッシュラインがダーティであれば書き戻しを行い、ダーティビットを0の状態にします。本操作は特権モードでのみ実行可能で、ユーザモードではアドレスエラー例外を発生します。また、TLB関連例外は発生しません。
Rn[31:24]がH'F4以外のメモリ割り付けアレイ領域、制御レジスタ領域、及びそのリザーブ領域（H'F0～H'F3、H'F5～H'FF）への本命令の実行は行わないでください。

8.5.2 プリフェッチ動作

キャッシュミスにより発生するキャッシュフィルのペナルティを削減するために、本LSIではプリフェッチ命令をサポートしています。読み出し動作、書き込み動作によりキャッシュミスの発生することがわかっていた場合、プリフェッチ命令によりあらかじめキャッシュへデータをフィルしておき、読み出し動作、書き込み動作においてキャッシュミスを発生させないようにできます。これによりソフトウェアの性能が向上します。すでにキャッシュに格納されているデータに対して、プリフェッチ命令を実行したり、プリフェッチしようとしたアドレスがUTLBにミスした場合やプロテクションに違反した場合は、ノーオペレーションとなり例外を発生させません。

プリフェッチ命令の詳細は「SH-4A拡張機能ソフトウェアマニュアル」の「第11章 各命令の説明」を参照してください。

- プリフェッチ命令（OC）：PREF @Rn
- プリフェッチ命令（IC）：PREFI @Rn

8.6 メモリ割り付けキャッシュの構成

IC、OC をソフトウェアで管理するために、特権モードのとき、P2 領域のプログラムから MOV 命令によって IC データアレイの内容の読み出し／書き込みが可能です。また特権モードのとき P2 領域のプログラムあるいは IL メモリ領域のプログラムから MOV 命令によって IC アドレスアレイの内容の読み出し／書き込みが可能です。他の領域のプログラムからのアクセスは保証しません。この場合、P0、U0、P1、P3 領域への分岐は、以下の 1～3 のどれかの方法で行ってください。

1. RTE 命令による分岐を実行してください。
2. 任意のアドレス（キャッシング不可領域でもよい）に対して、ICBI 命令を実行した後、P0、U0、P1、P3 領域への分岐を行ってください。
3. メモリ割り付け IC へのアクセスの前に、あらかじめ IRMCR レジスタの MC ビット＝0（初期値）と設定されていた場合には、特定の命令シーケンスは不要です。しかしこの方法では、メモリ割り付け IC アクセス命令の次命令を命令フェッチからやり直すため、CPU の処理性能が低下しますのでご注意ください。

ただし、方法 3 は今後の SuperH シリーズでは保証されない可能性があります。今後の SuperH シリーズでの互換性を保証するためには、1 又は 2 を用いることを推奨します。

また、特権モードのとき、P1、P2 領域のプログラムから MOV 命令によって OC の内容の読み出し／書き込みが可能です。他の領域のプログラムからのアクセスは保証しません。IC、OC は仮想アドレス空間の P4 領域に割り付けられています。IC のアドレスアレイ／データアレイ、OC のアドレスアレイ／データアレイともにデータアクセスのみ可能でアクセスサイズはロングワード固定です。この領域に対して命令フェッチは行えません。予約ビットには ”0” を設定するようにしてください。予約ビットの読み出し値は不定です。

8.6.1 IC アドレスアレイ

IC のアドレスアレイは P4 領域の H'F000 0000～H'F0FF FFFF に割り付けられています。アドレスアレイのアクセスには 32 ビットのアドレス部の指定（読み出し／書き込み時）と 32 ビットのデータ部の指定が必要です。アドレス部ではアクセスするウェイとエントリを指定し、データ部には書き込みタグと V ビットを指定します。

アドレス部は [31:24] が IC アドレスアレイを示す H'F0 になっており、[14:13] でウェイ、[12:5] でエントリを指定するようになっています。アドレス部 [3] の連想ビット（A ビット）は IC アドレスアレイへの書き込みのときに連想を行うかどうかを指定します。アクセスはロングワードサイズ固定なのでアドレス部 [1:0] は ”0” を指定してください。

データ部は [31:10] がタグを、[0] が V ビットを示します。IC アドレスアレイのタグは 19 ビットのためデータ部 [31:29] は連想を行わない書き込みのときには使用されません。データ部 [31:29] は連想を行う書き込みのときのみ仮想アドレスの指定のため用います。

IC アドレスアレイに対しては次の 3 種類の操作が可能です。

(1) IC アドレスアレイ 読み出し

アドレス部に設定されたウェイとエントリに対応する IC エントリから、データ部へタグと V ビットを読み出します。読み出す場合アドレス部に指定される連想ビットは ”1” でも ”0” でも連想動作は行いません。

(2) IC アドレスアレイ 書き込み（連想なし）

アドレス部に設定されたウェイとエントリに対応する IC エントリに対して、データ部で指定されたタグと V ビットを書き込みます。アドレス部の A ビットは ”0” にしてください。

(3) IC アドレスアレイ 書き込み（連想あり）

アドレス部の A ビットが 1 で書き込みのとき、アドレス部で指定されたエントリに格納されている各ウェイのタグとデータ部で指定されたタグとの間で一致判定が行われます。アドレス部 [14:13] のウェイ番号は使用されません。このとき MMU がイネーブルなら、データ部 [31:10] で指定した仮想アドレスを ITLB を用い物理アドレスに変換してから一致判定を行います。アドレスが一致しその

ウェイのVビットが1であったなら、データ部で指定したVビットをICのエントリに書き込みます。それ以外の場合はノーオペレーションとなります。本動作はICの特定のエントリの無効化に用いられます。アドレス変換の際にITLBにミスした場合や、一致判定で不一致になった場合、例外は発生せずノーオペレーションとなり書き込みは行われません。

注. **IC アドレスアレイ連想ライト機能は、今後のSuperH シリーズではサポートされない可能性があります。ITLB ミスハンドリングや命令TLB ミス例外の通知を行い、確実にIC の操作が可能なICBI 命令の使用を推奨します。**

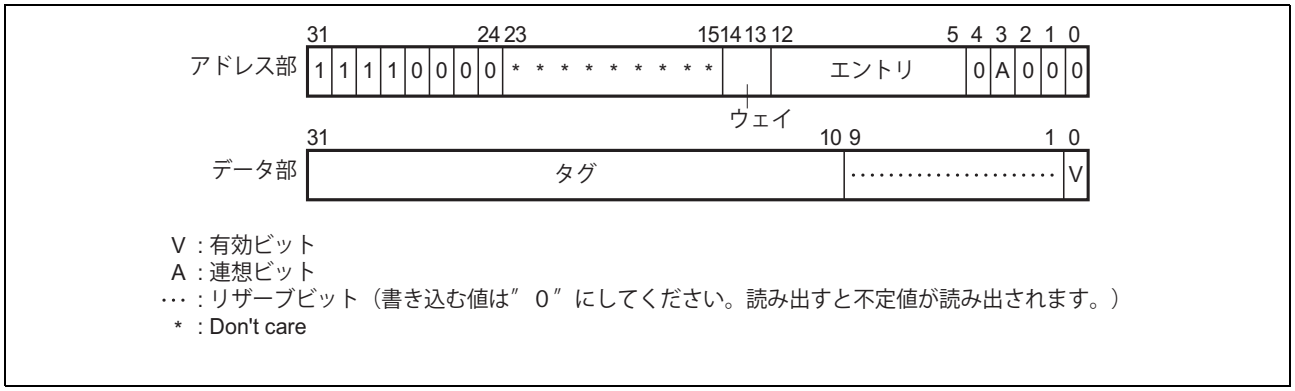


図 8.5　メモリ割り付けIC アドレスアレイ（キャッシュサイズ＝32K バイトの場合）

8.6.2　IC データアレイ

IC のデータアレイはP4 領域のH'F100 0000～H'F1FF FFFF に割り付けられています。データアレイのアクセスには32 ビットのアドレス部の指定（読み出し／書き込み時）と32 ビットのデータ部の指定が必要です。アドレス部ではアクセスするウェイとエントリを指定し、データ部には書き込むロングワードデータを指定します。

アドレス部は[31:24]がIC データアレイを示すH'F1 になっており、[14:13]でウェイ、[12:5]でエントリを指定するようになっています。アドレス部[4:2] はエントリ内のロングワードデータの指定に用います。アクセスはロングワードサイズ固定なのでアドレス部[1:0]は0 を指定してください。

データ部はロングワードデータの指定に用います。

IC データアレイに対しては次の2 種類の操作が可能です。

(1)　**IC データアレイ 読み出し**

アドレス部に設定されたウェイとエントリに対応するICエントリのうち、アドレス部のロングワード指定ビットで指定されたデータから、データ部へロングワードデータを読み出します。

(2)　**IC データアレイ 書き込み**

アドレス部に設定されたウェイとエントリに対応するICエントリのうち、アドレス部のロングワード指定ビットで指定されたデータに対して、データ部で指定されたロングワードデータを書き込みます。

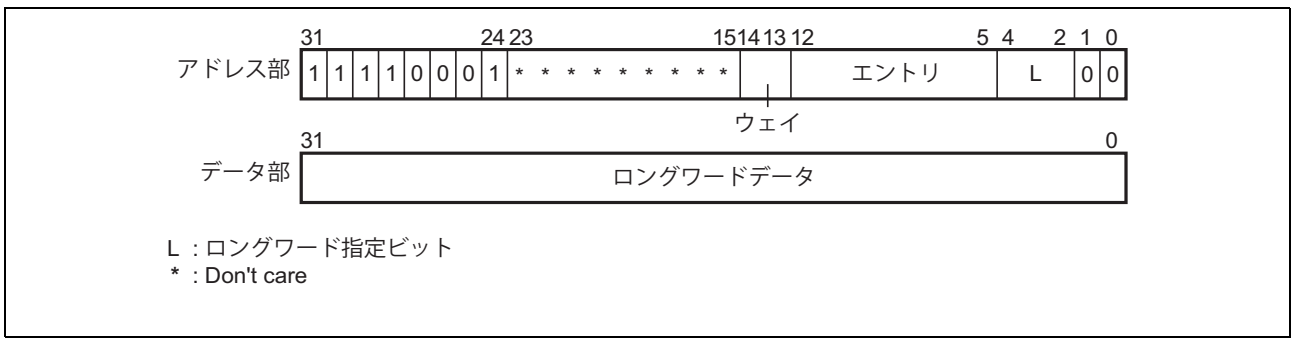


図 8.6　メモリ割り付けIC データアレイ（キャッシュサイズ＝32K バイトの場合）

8.6.3 OC アドレスアレイ

OC のアドレスアレイは P4 領域の H'F400 0000～H'F4FF FFFF に割り付けられています。アドレスアレイのアクセスには 32 ビットのアドレス部の指定（読み出し／書き込み時）と 32 ビットのデータ部の指定が必要です。アドレス部ではアクセスするウェイとエントリを指定し、データ部には書き込みタグと U ビットと V ビットを指定します。

アドレス部は [31:24] が OC アドレスアレイを示す H'F4 になっており、[14:13] でウェイ、[12:5] でエントリを指定するようになっています。アドレス部 [3] の連想ビット（A ビット）は OC アドレスアレイへの書き込みのときに連想を行うかどうかを指定します。アクセスはロングワードサイズ固定ですのでアドレス部 [1:0] は 0 を指定してください。

データ部は [31:10] がタグを、[1] が U ビットを、[0] が V ビットを示します。OC アドレスアレイのタグは 19 ビットのため、データ部 [31:29] は連想を行わない書き込みのときには使用されません。データ部 [31:29] は連想を行う書き込みのときのみ仮想アドレスの指定のため用います。

OC アドレスアレイに対しては次の 3 種類の操作が可能です。

(1) OC アドレスアレイ 読み出し

アドレス部に設定されたウェイとエントリに対応する OC エントリから、データ部へタグと U ビットと V ビットを読み出します。読み出す場合、アドレス部に指定される連想ビットは”1”でも”0”でも連想動作は行いません。

(2) OC アドレスアレイ 書き込み（連想なし）

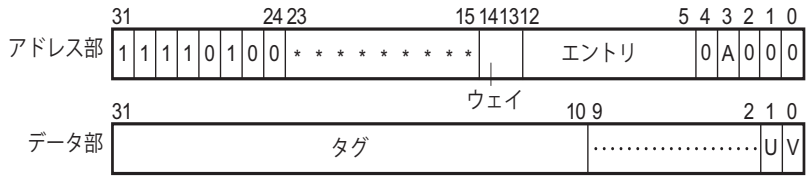
アドレス部に設定されたウェイとエントリに対応する OC エントリに対して、データ部で指定されたタグと U ビットと V ビットを書き込みます。アドレス部の A ビットは”0”にしてください。

書き込みを U ビットが”1”、V ビットが”1”のキャッシュラインに対して行った場合、そのキャッシュラインの書き戻しを行った後、データ部で指定されたタグと U ビットと V ビットを書き込みます。

(3) OC アドレスアレイ 書き込み（連想あり）

アドレス部の A ビットが”1”で書き込みのとき、アドレス部で指定されたエントリに格納されている各ウェイのタグとデータ部で指定されたタグとの間で一致判定が行われます。ビット [14:13] のウェイ番号は使用されません。このとき MMU がイネーブルなら、データ部 [31:10] で指定した仮想アドレスを UTLB を用い物理アドレスに変換してから一致判定を行います。アドレスが一致しそのウェイの V ビットが”1”であったなら、データ部で指定した U ビットと V ビットを OC のエントリに書き込みます。それ以外の場合はノーオペレーションとなります。本動作は OC の特定のエントリの無効化に用いられます。このとき OC のエントリの U ビットが”1”で、V ビットに”0”もしくは U ビットに”0”を書き込んだ場合、書き戻しが発生します。アドレス変換の際に UTLB にミスした場合や、一致判定で不一致になった場合、例外は発生せずノーオペレーションとなり書き込みは行われません。

注. OC アドレスアレイ連想ライト機能は、今後の SuperH シリーズではサポートされない可能性があります。データ TLB ミス例外の通知を行い、確実に OC の操作が可能な OCBI/OCBP/OCBWB 命令の使用を推奨します。



V：有効ビット
U：ダーティビット
A：連想ビット
…：リザーブビット（書き込む値は” 0 ”にしてください。読み出すと不定値が読み出されます。）
＊：Don't care

図 8.7 メモリ割り付けOC アドレスアレイ（キャッシュサイズ＝32K バイトの場合）

8.6.4 OC データアレイ

OC のデータアレイはP4 領域のH'F500 0000～H'F5FF FFFF に割り付けられています。データアレイのアクセスには32 ビットのアドレス部の指定（読み出し／書き込み時）と32 ビットのデータ部の指定が必要です。アドレス部ではアクセスするウェイとエントリを指定し、データ部には書き込むロングワードデータを指定します。

アドレス部は[31:24]がOC データアレイを示すH'F5 になっており、[14:13]でウェイ、[12:5]でエントリを指定するようになっています。アドレス部[4:2]はエントリ内のロングワードデータの指定に用います。アクセスはロングワードサイズ固定なのでアドレス部[1:0]は”0” を指定してください。

データ部はロングワードデータの指定に用います。

OC データアレイに対しては次の2 種類の操作が可能です。

(1) OC データアレイ 読み出し

アドレス部に設定されたウェイとエントリに対応するOCエントリのうち、アドレス部のロングワード指定ビットで指定されたデータから、データ部へロングワードデータを読み出します。

(2) OC データアレイ 書き込み

アドレス部に設定されたウェイとエントリに対応するOCエントリのうち、アドレス部のロングワード指定ビットで指定されたデータに対して、データ部で指定されたロングワードデータを書き込みます。この書き込みによりアドレスアレイ側のUビットは”1”になりません。

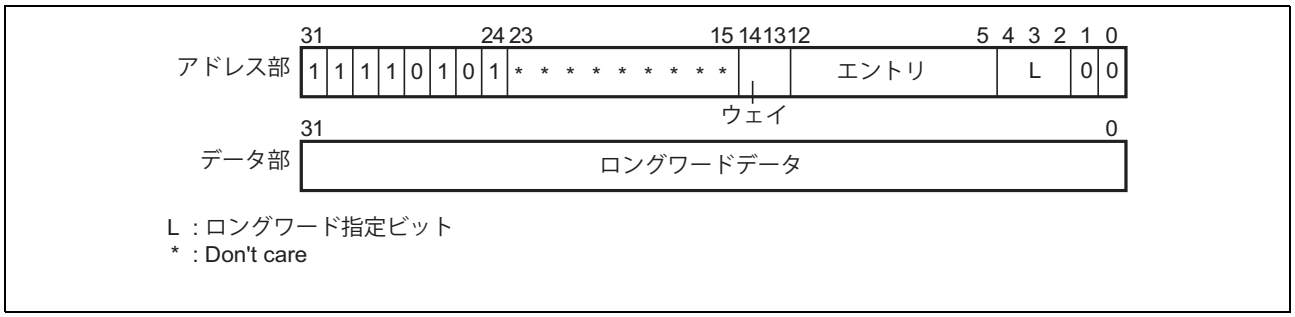


図 8.8 メモリ割り付けOC データアレイ（キャッシュサイズ＝32K バイトの場合）

8.6.5 メモリ割り付け連想ライトの動作

IC アドレスアレイ、OC アドレスアレイへの連想あり書き込みは、今後のSuperH シリーズではサポートされない可能性があります。ITLB ミスハンドリング、命令TLB ミス例外の通知やデータTLB ミス例外の通知を行い、確実にIC 又はOC の操作が可能なICBI、OCBI、OCBP、OCBWB 命令の使用を推奨します。本LSI では過渡的な措置として本機能を利用した場合にアドレスエラーを発生します。従来製品との互換性を重視する場合にはEXPMASK レジスタ（H'FF2F 0004）のMMCAW ビットを1 とすることで本機能を利用することが可能ですが、今後のSuperH シリーズでの互換性を保証するためには、ICBI、OCBI、OCBP、OCBWB 命令を使用してください。

8.7 ストアキュー

SQ は図8.9 に示すとおり、32 バイトのSQ0 と32 バイトのSQ1 から成り立っています。SQ0、SQ1 はそれぞれ独立に設定することが可能です。

8.7.1 SQ の構成

SQ は図8.9 に示すとおり、32 バイトのSQ0 と32 バイトのSQ1 から成り立っています。SQ0、SQ1 はそれぞれ独立に設定することが可能です。

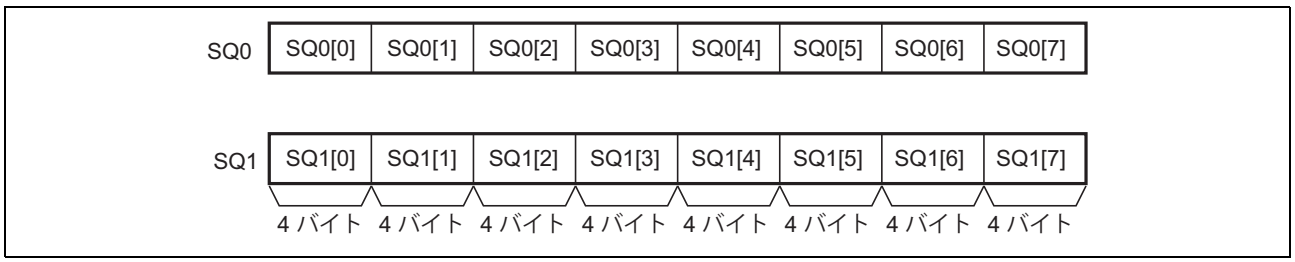


図 8.9 ストアキューの構成

8.7.2 SQ への書き込み

SQ への書き込みはP4 領域のH'E000 0000～H'E3FF FFFC に対するストア命令で行うことができます。アクセスサイズはロングワード、もしくはクワッドワードが可能です。このアドレスは以下の意味を持ちます。

[31:26]	: 111000	: ストアキュー指定
[25:6]	: Don't care	: 外部メモリへの転送・アクセス権で使用
[5]	: 0/1	: 0:SQ0 指定 1:SQ1 指定
[4:2]	: LW 指定	: SQ0、SQ1 内のロングワード位置を指定
[1:0]	: 00	: 0 固定

8.7.3 外部メモリへの転送

SQ から外部メモリへの転送は、プリフェッチ命令（PREF）により行えます。PREF 命令をP4 領域のH'E000 0000 ～ H'E3FF FFFC に対して発行することにより、SQ から外部メモリへの転送が開始します。転送は32 バイト固定で、開始アドレスは必ず32 バイト境界となります。一方のSQ を外部メモリへ転送中に、もう一方のSQ への書き込みはペナルティサイクルなしに行えますが、外部メモリへ転送中のSQ への書き込みは外部メモリへの転送が完了するまで待たされます。
SQ の転送先の物理アドレス[28:0]はMMU イネーブル／ディスエーブルにより次のように指定します。

(1) MMU イネーブル（MMUCR レジスタのAT＝1）の場合

UTLBのVPNにSQ領域（H'E000 0000～H'E3FF FFFF）を、PPNに転送先の物理アドレスを設定します。ASID、V、SZ、SH、PR、D ビットは通常のアドレス変換と同様の意味を持ちますが、C、WT ビットはこのページに関しては意味を持ちません。
SQ 領域へのプリフェッチ命令が発行されると、アドレス変換を行い、SZ ビットの指定に従い物理アドレス[28:10]を生成します。物理アドレスの[9:5]についてはMMUディスエーブルと同様にアドレス変換前のアドレスから生成します。物理アドレスの[4:0]は0固定です。SQから外部メモリへの転送はこのアドレスに対して行われます。

(2) MMU ディスエーブル（MMUCR レジスタのAT＝0）の場合

PREF命令を発行するアドレスにSQ領域（H'E000 0000～H'E3FF FFFF）を指定します。このアドレス[31:0]は次の意味を持ちます。

[31:26]	: 111000	: ストアキュー指定
[25:6]	: アドレス	: 転送先物理アドレス [25:6]
[5]	: 0/1	: 0:SQ0 指定 1:SQ1 指定
[4:2]	: Don't care	: プリフェッチのときは意味を持たない。
[1:0]	: 00	: 0 固定

上記のアドレスから生成できない物理アドレス [28:26] は、QACR0、QACR1から生成します。
QACR0[4:2]: : SQ0に対する物理アドレス [28:26]
QACR1[4:2]: : SQ1に対する物理アドレス [28:26]

物理アドレスの [4:0] は、バースト転送の開始が32バイト境界のため常に0固定となります。

8.7.4 SQ アクセスの例外判定

SQ への書き込み、及び外部メモリへの転送（PREF 命令）の例外判定は MMU イネーブル／ディスエーブルにより次のように行われます。なお、SQ への書き込みで例外が発生した場合、SQ の内容は元の値が保証されます。SQ から外部メモリへの転送で例外が発生した場合、外部メモリへの転送は抑止されます。

(1) MMU イネーブル（MMUCR レジスタの AT ビット＝1）の場合

UTLBに登録されたアドレス変換情報とSQMDビットに従います。SQへの書き込みはライトタイプ、SQから外部メモリへの転送（PREF命令）はリードタイプとして例外判定が行われ、TLB ミス例外、保護違反例外が発生します。ただし、SQMD ビットにより SQ へのアクセスを特権モードのみ許可している場合、ユーザモードでアドレス変換に成功してもアドレスエラーとなります。

(2) MMU ディスエーブル（MMUCR レジスタの AT ビット＝0）の場合

SQMD ビットに従います。
0：特権／ユーザアクセス可能
1：特権アクセス可能
SQMDビットが1のときに、ユーザモードでSQ領域をアクセスするとアドレスエラーが発生します。

8.7.5 SQ からの読み出し

本LSI では、特権モードのとき、SQ からの読み出しを P4 領域の H'FF00 1000～H'FF00 103C に対するロード命令で行うことができます。アクセスサイズはロングワードでのみアクセス可能です。

[31:6]	: H'FF00 1000	: ストアキュー指定
[5]	: 0/1	: 0：SQ0 指定、1：SQ1 指定
[4:2]	: LW 指定	: SQ0、SQ1 内のロングワード位置を指定
[1:0]	: 00	: 0 固定

8.8 32 ビットアドレス拡張モード使用時の注意事項

32 ビットアドレス拡張モードでは、本章ですでに述べた事項が以下のように拡張されます。

1. IC及びOCのタグが[28:10]の19ビットから、[31:10]の22ビットに拡張されます。
2. ICを操作する命令（メモリ割り付けICアクセス及びCCR.ICI書き込み）を配置する領域は、P1又はP2領域とし、PMBの当該エントリのキャッシング可能ビット（Cビット）を”0”にしてください。
3. AREA0ビット（QACR0レジスタのビット4～2）及びAREA1ビット（QACR1レジスタの4～2ビット）がそれぞれ[4:2]の3ビットから[7:2]の6ビットに拡張されます。

9. 内蔵メモリ

SH-4A はOL メモリ、IL メモリの2種類のメモリを内蔵しており、命令やデータを格納することができます。OL メモリはデータの格納に適しており、IL メモリは命令の格納に適しています。

9.1 特長

(1) OL メモリ

- 容量：
  OL メモリの容量は、16Kバイトです。
- ページ：
  OL メモリは4ページ（ページ0A、0B、1A、及び1B）に分かれています。
- メモリマップ：
  OL メモリは、仮想アドレス空間、物理アドレス空間とも、表 9.1 に示されるアドレスに配置されています。

表9.1 OL メモリアドレス

ページ	メモリアドレス
ページ 0A	H'E500 E000 ～ H'E500 EFFF（4 Kバイト）
ページ 0B	H'E500 F000 ～ H'E500 FFFF（4 Kバイト）
ページ 1A	H'E501 0000 ～ H'E501 0FFF（4 Kバイト）
ページ 1B	H'E501 1000 ～ H'E501 1FFF（4 Kバイト）

- **ポート**：
  各ページは3本の独立した読み出し／書き込みポートを持ち、SuperHywayバス、キャッシュ・RAM内蔵バス、オペランドバスと接続されています。オペランドアクセスにはオペランドバスが、命令フェッチにはキャッシュ・RAM内蔵バスが、SuperHywayバスマスタモジュールからのアクセスにはSuperHywayバスがそれぞれ使用されます。
- **優先順位**：
  同じページに対して異なるバスから同時にアクセス要求があった場合には、優先順位に従ってアクセスが処理されます。優先順位は高い順に SuperHyway バス、キャッシュ・RAM 内蔵バス、オペランドバス、となります。

(2) IL メモリ

- **容量**：
  IL メモリの容量は、16Kバイトです。
- **ページ**：
  IL メモリは4ページ（ページ0、1、2、及び3）に分かれています。
- **メモリマップ**：
  IL メモリは、仮想アドレス空間、物理アドレス空間ともに、表9.2に示されるアドレスに配置されています。

表9.2 IL メモリアドレス

ページ	メモリアドレス
ページ 0	H'E520 0000 ～ H'E520 0FFF（4 Kバイト）
ページ 1	H'E520 1000 ～ H'E520 1FFF（4 Kバイト）
ページ 2	H'E520 2000 ～ H'E520 2FFF（4 Kバイト）
ページ 3	H'E520 3000 ～ H'E520 3FFF（4 Kバイト）

- **ポート**：
  3本の独立した読み出し／書き込みポートを持ち、SuperHyway バス、キャッシュ・RAM 内蔵バス、及び命令バスと接続されています。命令フェッチには命令バスが、オペランドアクセスにはキャッシュ・RAM内蔵バスが、SuperHywayバスマスタモジュールからのアクセスにはSuperHywayバスがそれぞれ使用されます。
- **優先順位**：
  同じページに対して異なるバスから同時にアクセス要求があった場合には、優先順位に従ってアクセスが処理されます。優先順位は高い順に SuperHyway バス、キャッシュ・RAM 内蔵バス、命令バスとなります。

9.2 レジスタの説明

内蔵メモリに関するレジスタは以下のとおりです。

表9.3 レジスタ構成

名称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態	
					パワーオンリセット	マニュアルリセット
内蔵メモリ制御レジスタ	RAMCR	R/W	H'FF00 0074	32	H'0000 0000	H'0000 0000
OL メモリ転送元アドレスレジスタ 0	LSA0	R/W	H'FF00 0050	32	H'XXXX XXXX	H'XXXX XXXX
OL メモリ転送元アドレスレジスタ 1	LSA1	R/W	H'FF00 0054	32	H'XXXX XXXX	H'XXXX XXXX
OL メモリ転送先アドレスレジスタ0	LDA0	R/W	H'FF00 0058	32	H'XXXX XXXX	H'XXXX XXXX
OL メモリ転送先アドレスレジスタ1	LDA1	R/W	H'FF00 005C	32	H'XXXX XXXX	H'XXXX XXXX

9.2.1 内蔵メモリ制御レジスタ（RAMCR）

RAMCR は内蔵メモリの保護機能の制御を行います。
RAMCR を更新する場合は、「8.2.4 内蔵メモリ制御レジスタ（RAMCR）」を参照してください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	RMD	RP	IC2W	OC2W	ICWPD	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～10	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
9	RMD	0	R/W	内蔵メモリアクセスモードビット 仮想アドレス空間からの内蔵メモリへのアクセス権を指定します。 0：特権アクセスが可能(ユーザアクセスの場合はアドレスエラー例外) 1：ユーザ／特権アクセスが可能
8	RP	0	R/W	内蔵メモリ保護有効ビット 仮想アドレス空間からの内蔵メモリへのアクセスに対して、ITLB、UTLB を用いた保護機能の使用を選択します。 0：保護機能を使用しない 1：保護機能を使用する 詳細は「9.4 内蔵メモリの保護機能」を参照してください。
7	IC2W	0	R/W	IC 2 ウェイモードビット 0：IC は4 ウェイ動作 1：IC は2 ウェイ動作 詳細は「8.4.3 IC 2 ウェイモード」を参照してください。
6	OC2W	0	R/W	OC 2 ウェイモードビット 0：OC は4 ウェイ動作 1：OC は2 ウェイ動作 詳細は「8.3.6 OC 2 ウェイモード」を参照してください。
5	ICWPD	0	R/W	IC ウェイ予測抑止ビット IC ウェイ予測の使用を選択します。 0：命令キャッシュはウェイ予測を行う 1：命令キャッシュはウェイ予測を行わない 詳細は「8.4.4 命令キャッシュウェイ予測」を参照してください。
4 ～ 0	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

9.2.2 OL メモリ転送元アドレスレジスタ0（LSA0）

LSA0は、MMUCRレジスタのATビット＝0又はRAMCRレジスタのRPビット＝0のときに、OLメモリページ0A、0Bへのブロック転送において、転送元の物理アドレスを指定します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	L0SADR												
初期値：	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	L0SADR						—	—	—	—	L0SSZ					
初期値：	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	—	—	—	—	—	—
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 29	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
28 ～ 10	L0SADR	不定	R/W	OLメモリページ0 ブロック転送元アドレス MMUCRレジスタのATビット＝0 又はRAMCRレジスタのRPビット＝0 のとき、OL メモリページ0A、0Bに対するブロック転送の転送元となる物理アドレスを指定します。
9 ～ 6	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
5 ～ 0	L0SSZ	不定	R/W	OL メモリページ0 ブロック転送元アドレス選択ビット MMUCRレジスタのATビット＝0 又はRAMCRレジスタのRPビット＝0 のとき、OL メモリページ0A、0Bに対するブロック転送の転送元となる物理アドレスのうちビット15～10に関して、オペランドアドレス（仮想アドレス）を使用するか、L0SADR の値（物理アドレス）を使用するかを選択します。L0SSZ[5:0]が転送元物理アドレスの[15:10]に対応します。 111111：ビット15～10にL0SADRの値を使用する （転送元の物理アドレスを1K バイト単位で設定） 111110：ビット15～11にL0SADRの値、ビット10にオペランドアドレスを使用する （転送元の物理アドレスを2K バイト単位で設定） 111100：ビット15～12にL0SADRの値、ビット11、10にオペランドアドレスを使用する （転送元の物理アドレスを4K バイト単位で設定） 111000：ビット15～13にL0SADRの値、ビット12～10にオペランドアドレスを使用する （転送元の物理アドレスを8K バイト単位で設定） 110000：ビット15、14にL0SADRの値、ビット13～10にオペランドアドレスを使用する （転送元の物理アドレスを16K バイト単位で設定） 上記以外：設定禁止

9.2.3　OL メモリ転送元アドレスレジスタ1（LSA1）

LSA1 は、MMUCR レジスタの AT ビット＝0 又は RAMCR レジスタの RP ビット＝0 のときに、OL メモリページ1A、1B へのブロック転送において、転送元の物理アドレスを指定します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	L1SADR												
初期値：	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	L1SADR						—	—	—	—	L1SSZ					
初期値：	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	—	—	—	—	—	—
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 29	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
28 ～ 10	L1SADR	不定	R/W	OL メモリページ1 ブロック転送元アドレス MMUCR レジスタの AT ビット＝0 又は RAMCR レジスタの RP ビット＝0 のとき、OL メモリページ1A、1B に対するブロック転送の転送元となる物理アドレスを指定します。
9 ～ 6	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
5 ～ 0	L1SSZ	不定	R/W	OL メモリページ1 ブロック転送元アドレス選択ビット MMUCR レジスタの AT ビット＝0 又は RAMCR レジスタの RP ビット＝0 のとき、OL メモリページ1A、1B に対するブロック転送の転送元となる物理アドレスのうちビット15～10に関して、オペランドアドレス（仮想アドレス）を使用するか、L0SADR の値（物理アドレス）を使用するかを選択します。L0SSZ[5:0]が転送元物理アドレスの[15:10]に対応します。 111111：ビット15～10にL0SADRの値を使用する （転送元の物理アドレスを1K バイト単位で設定） 111110：ビット15～11にL0SADRの値、ビット10にオペランドアドレスを使用する （転送元の物理アドレスを2K バイト単位で設定） 111100：ビット15～12にL0SADRの値、ビット11、10にオペランドアドレスを使用する （転送元の物理アドレスを4K バイト単位で設定） 111000：ビット15～13にL0SADRの値、ビット12～10にオペランドアドレスを使用する （転送元の物理アドレスを8K バイト単位で設定） 110000：ビット15、14にL0SADRの値、ビット13～10にオペランドアドレスを使用する （転送元の物理アドレスを16K バイト単位で設定） 上記以外：設定禁止

9.2.4　OL メモリ転送先アドレスレジスタ0（LDA0）

LDA0 は、MMUCR レジスタの AT ビット＝0 又は RAMCR レジスタの RP ビット＝0 のときに、OL メモリページ0A、0B へのブロック転送において、転送先の物理アドレスを指定します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	L0DADR												
初期値：	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	L0DADR						—	—	—	—	L0DSZ					
初期値：	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	—	—	—	—	—	—
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 29	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
28 ～ 10	L0DADR	不定	R/W	OL メモリページ0 ブロック転送先アドレス MMUCR レジスタの AT ビット＝0 又は RAMCR レジスタの RP ビット＝0 のとき、OL メモリページ0A、0B に対するブロック転送の転送先となる物理アドレスを指定します。
9 ～ 6	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
5 ～ 0	L0DSZ	不定	R/W	OL メモリページ0 ブロック転送先アドレス選択ビット MMUCR レジスタの AT ビット＝0 又は RAMCR レジスタの RP ビット＝0 のとき、OL メモリページ0A、0B に対するブロック転送の転送先となる物理アドレスのうちビット15～10に関して、オペランドアドレス（仮想アドレス）を使用するか、L0SADR の値（物理アドレス）を使用するかを選択します。L0SSZ[5:0]が転送先物理アドレスの[15:10]に対応します。 111111：ビット15～10に L0SADR の値を使用する （転送先の物理アドレスを1K バイト単位で設定） 111110：ビット15～11に L0SADR の値、ビット10にオペランドアドレスを使用する （転送先の物理アドレスを2K バイト単位で設定） 111100：ビット15～12に L0SADR の値、ビット11、10にオペランドアドレスを使用する （転送先の物理アドレスを4K バイト単位で設定） 111000：ビット15～13に L0SADR の値、ビット12～10にオペランドアドレスを使用する （転送先の物理アドレスを8K バイト単位で設定） 110000：ビット15、14に L0SADR の値、ビット13～10にオペランドアドレスを使用する （転送先の物理アドレスを16K バイト単位で設定） 上記以外：設定禁止

9.2.5　OL メモリ転送先アドレスレジスタ1（LDA1）

LDA1 は、MMUCR レジスタの AT＝0 又は RAMCR レジスタの RP ビット＝0 のときに、OL メモリページ1A、1B へのブロック転送において、転送先の物理アドレスを指定します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	L1DADR												
初期値：	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	L1DADR						—	—	—	—	L1DSZ					
初期値：	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	—	—	—	—	—	—
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 29	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
28 ～ 10	L1DADR	不定	R/W	OL メモリページ1 ブロック転送先アドレス MMUCR レジスタの AT ビット＝0 又は RAMCR レジスタの RP ビット＝0 のとき、OL メモリページ1A、1B に対するブロック転送の転送先となる物理アドレスを指定します。
9 ～ 6	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
5 ～ 0	L1DSZ	不定	R/W	OL メモリページ1 ブロック転送先アドレス選択ビット MMUCR レジスタの AT ビット＝0 又は RAMCR レジスタの RP ビット＝0 のとき、OL メモリページ1A、1B に対するブロック転送の転送先となる物理アドレスのうちビット15～10に関して、オペランドアドレス（仮想アドレス）を使用するか、L0SADR の値（物理アドレス）を使用するかを選択します。L0SSZ[5:0]が転送先物理アドレスの[15:10]に対応します。 111111：ビット15～10に L0SADR の値を使用する （転送先の物理アドレスを1K バイト単位で設定） 111110：ビット15～11に L0SADR の値、ビット10にオペランドアドレスを使用する （転送先の物理アドレスを2K バイト単位で設定） 111100：ビット15～12に L0SADR の値、ビット11、10にオペランドアドレスを使用する （転送先の物理アドレスを4K バイト単位で設定） 111000：ビット15～13に L0SADR の値、ビット12～10にオペランドアドレスを使用する （転送先の物理アドレスを8K バイト単位で設定） 110000：ビット15、14に L0SADR の値、ビット13～10にオペランドアドレスを使用する （転送先の物理アドレスを16K バイト単位で設定） 上記以外：設定禁止

9.3 動作説明

9.3.1 CPU からの命令フェッチアクセス

(1) OL メモリ

CPU からの命令フェッチアクセスは、キャッシュ・RAM 内蔵バスからアクセスを行います。アクセスには複数サイクルかかります。

(2) IL メモリ

CPU からの命令フェッチアクセスは、仮想アドレスにより命令バスから直接アクセスを行います。命令バスからのアクセスは、IL メモリの同じページに連続してアクセスする場合、かつ競合が発生しない場合に1 サイクルアクセスになります。

9.3.2 CPU からのオペランドアクセス、及びFPU からのアクセス

注．PC 相対（@(disp,PC)）によるオペランドアクセスが可能です。

(1) OL メモリ

CPU 、及びFPU からのアクセスは仮想アドレスにより、オペランドバスから行います。オペランドバスからの仮想アドレスによるリードアクセスは、OL メモリの同じページへ連続してアクセスした場合、かつページ競合が発生しない場合に1 サイクルアクセスになります。オペランドバスからの仮想アドレスによるライトアクセスはページ競合が発生しない場合に1 サイクルアクセスになります。

(2) IL メモリ

CPU からのオペランドアクセス、及びFPU からのアクセスは、キャッシュ・RAM 内蔵バスからアクセスを行います。キャッシュ・RAM 内蔵バスからのアクセスは複数サイクルかかります。

9.3.3 SuperHyway バスマスタモジュールからのアクセス

DMAC などの SuperHyway バスマスタモジュールからの内蔵メモリへのアクセスは、物理アドレスバスである SuperHyway バスからのアクセスとなりますが、仮想アドレスと同じアドレスを使用してください。

9.3.4 OL メモリブロック転送

OL メモリと外部メモリの間で、キャッシュを介さずに、ブロック転送により高速にデータ転送を行うことができます。

外部メモリから OL メモリへの転送は、プリフェッチ命令（PREF）により行えます。PREF 命令を仮想アドレス空間の OL メモリ領域のアドレスに対して発行することにより、外部メモリから OL メモリへのブロック転送が開始されます。

OL メモリから外部メモリへの転送は、ライトバック命令（OCBWB）により行えます。OCBWB 命令を仮想アドレス空間の OL メモリ領域のアドレスに対して発行することにより、OL メモリから外部メモリへのブロック転送が開始されます。

いずれの転送も転送サイズは 32 バイト固定で、開始アドレスは必ず 32 バイト境界となるため、レジスタ Rn により指示されるアドレスの下位5 ビットは無視され、常にすべて0 として扱われます。またいずれの場合もブロック転送中に他のページやキャッシュに対するアクセスが可能ですが、転送中のページにアクセスした場合、転送が終了するまでCPU はストールします。

OL メモリと転送を行う外部メモリの物理アドレス[28:0]はMMU イネーブル／ディスエーブルにより次のように指定します。

(1) MMU イネーブル（MMUCR レジスタの AT ビット＝1）かつ RAMCR レジスタの RP ビット＝1 の場合

UTLB の VPN フィールドに OL メモリ領域のアドレスを、PPN フィールドに転送元（PREF 命令の場合）又は転送先（OCBWB 命令の場合）の物理アドレスを設定します。ASID、V、SZ、SH、PR、D ビットは通常のアドレス変換と同様の意味を持ちますが、C、WT ビットはこのページに関しては意味を持ちません。

OL メモリ領域への PREF 命令が発行されると、アドレス変換を行い、SZ ビットの指定に従い物理アドレス[28:10]を生成します。物理アドレスの[9:5]についてはアドレス変換前の仮想アドレスから生成します。物理アドレスの[4:0]は 0 固定です。この物理アドレスで指定される外部メモリから OL メモリへブロック転送が行われます。

OL メモリ領域への OCBWB 命令が発行されると、アドレス変換を行い、SZ ビットの指定に従い物理アドレス[28:10]を生成します。物理アドレスの[9:5]についてはアドレス変換前の仮想アドレスから生成します。物理アドレスの[4:0]は 0 固定です。OL メモリからこの物理アドレスで指定される外部メモリへブロック転送が行われます。

PREF 命令、OCBWB 命令はリードタイプとして MMU 例外の判定が行われ、必要に応じて TLB ミス例外、保護違反例外が発生します。例外が発生した場合、ブロック転送は抑止されます。

(2) MMU ディスエーブル（MMUCR レジスタの AT ビット＝0）又は RAMCR レジスタの RP ビット＝0 の場合

LSA0 レジスタの L0SADR ビットに OL メモリページ 0A、0B へのブロック転送の転送元となる物理アドレスを設定し、L0SSZ ビットに、転送元の物理アドレスのビット 15～10 として PREF 命令で指定された仮想アドレスを使用するか、L0SADR の値を使用するかをソフトウェアにより設定します。すなわち転送元の領域を 1K 、2K、4K、8K、16K バイト単位で設定可能です。

LDA0 レジスタの L0DADR ビットに OL メモリページ 0A、0B からのブロック転送の転送先となる物理アドレスを設定し、L0DSZ ビットに、転送先の物理アドレスのビット 15～10 として OCBWB 命令で指定された仮想アドレスを使用するか、L0DADR の値を使用するかをソフトウェアにより設定します。すなわち転送先の領域を 1K、2K、4K、8K、16K バイト単位で設定可能です。

OL メモリページ 1A、1B に対するブロック転送の設定も、ページ 0A、0B と同様に LSA1 、及び LDA1 に対して行います。

OL メモリ領域への PREF 命令が発行されると、LSA0 レジスタ又は LSA1 レジスタの指定に従い物理アドレス[28:10]を生成します。物理アドレスの[9:5]については仮想アドレスから生成します。物理アドレスの[4:0]は 0 固定です。この物理アドレスで指定される外部メモリから OL メモリへブロック転送が行われます。

OL メモリ領域への OCBWB 命令が発行されると、LDA0 レジスタ又は LDA1 レジスタの指定に従い物理アドレス[28:10]を生成します。物理アドレスの[9:5]については仮想アドレスから生成します。物理アドレスの[4:0]は 0 固定です。OL メモリからこの物理アドレスで指定される外部メモリへブロック転送が行われます。

9.4　内蔵メモリの保護機能

本LSIでは、内蔵メモリに対して、内蔵メモリ制御レジスタRAMCRの内蔵メモリアクセスモードビット（RMD）と内蔵メモリ保護有効ビット（RP）を使用して以下の保護機能を実現します。

- CPU、及びFPUからのアクセスに対する保護機能
  RAMCRレジスタのRMDビット＝0のとき、ユーザモードでの内蔵メモリ領域へのアクセスをアドレスエラー例外と判定します。
  またMMUCRレジスタのATビット＝1かつRAMCRレジスタのRP＝1のときは、アドレスエラー例外の判定に加えて、P4領域の一部である内蔵メモリ領域もP0/P3/U0領域と同じようにMMU例外の判定を行います。
  以上を表9.4にまとめます。

表9.4　内蔵メモリへのアクセスに対する保護機能による例外

MMUCR.AT	RAMCR.RP	SR.MD	RAMCR. RMD	必ず発生する例外	起こり得る例外
0	x	0	0	アドレスエラー例外	—
			1	—	—
		1	x	—	—
1	0	0	0	アドレスエラー例外	—
			1	—	—
		1	x	—	—
	1	0	0	アドレスエラー例外	—
			1	—	MMU 例外
		1	x	—	MMU 例外

x：Don't care

9.5 使用上の注意事項

9.5.1 ページ競合

同じページに対して異なるバスから同時にアクセス要求が発生した場合は、ページ競合となります。各アクセスは正しく完了しますが、このような競合はメモリアクセスの性能低下を招きます。したがって、できるだけ競合が起こらないようにソフトウェアでの対策を推奨いたします。たとえば各バスごとに異なるページをアクセスすると競合は発生しません。

9.5.2 ページの切り替わり

(1) OL メモリ

オペランドバスからのリードアクセスでは、連続して同じページをアクセスする場合は1 サイクルアクセスになりますが、ページをまたぐ場合、及びアクセスがOL メモリ以外からOL メモリに切り替わる場合には複数サイクル（最大2 サイクルウェイト）かかります。したがって、性能最適化の観点からは、オペランドバスからのリードアクセスアドレスが属するページが頻繁に切り替わることを避けるようにソフトウェアが配慮することを推奨します。

(2) IL メモリ

命令バスからのアクセスでは、連続して同じページをアクセスする場合は1 サイクルアクセスになりますが、ページをまたぐ場合、及びアクセスがIL メモリ以外からIL メモリに切り替わる場合には複数サイクル（最大2 サイクルウェイト）かかります。したがって、性能最適化の観点からは、命令バスからのアクセスはページが頻繁に切り替わることを避けるようにソフトウェアが配慮することを推奨します。例えばページ毎に独立したプログラムを配置すると効率がよくなります。

9.5.3 内蔵メモリのコヒーレンシ

(1) OL メモリ

OL メモリに命令を配置する場合、OL メモリに命令を書き込んだ後、以下のシーケンスを実行してから書き換え後の命令への分岐を行ってください。

- SYNCO
- ICBI @Rn

この場合、ICBI 命令の対象はアドレスエラー例外にならない範囲で任意のアドレスでよく（OL メモリのアドレスでもよい）、キャッシュヒット／ミスどちらでも構いません。

(2) IL メモリ

IL メモリに命令を配置する場合、IL メモリに命令を書き込んだ後、以下のシーケンスを実行してから書き換え後の命令への分岐を行ってください。

- SYNCO
- ICBI @Rn

この場合、ICBI 命令の対象はアドレスエラー例外にならない範囲で任意のアドレスでよく（IL メモリのアドレスでもよい）、キャッシュヒット／ミスどちらでも構いません。

9.5.4 スリープモード

スリープモード中は、DMAC などのSuperHyway バスマスタモジュールからOL メモリあるいはIL メモリへのアクセスは行えません。

9.6 32 ビットアドレス拡張モード使用時の注意事項

32 ビットアドレス拡張モードでは、LSA0 レジスタのL0SADR ビット、LSA1 レジスタのL1SADR ビット、LDA0 レジスタのL0DADR ビット、LDA1 レジスタのL1DADR ビットがそれぞれ[28:10]の19 ビットから[31:10]の22 ビットに拡張されます。

10. 割り込みコントローラ（INTC）

割り込みコントローラ（INTC）は、割り込み要因の優先順位を判定し、CPU（SH-4A）への割り込み要求を制御します。INTC には、各割り込みの優先順位を設定するためのレジスタがあり、ユーザがこのレジスタに設定した優先順位に従って割り込み要求を処理します。

10.1 特長

INTC には次のような特長があります。

1. 外部割り込みの割り込み優先順位を15レベル設定可能
   割り込み優先レベル設定レジスタにより、外部割り込みの優先順位を端子別に15レベルまで設定することができます。

2. 内部モジュール割り込みの優先順位は30レベル設定可能
   48本の割り込み優先レベル設定レジスタ（INT2PRI0～INT2PRI47）により、内部モジュール割り込みの優先順位を要因別に30レベルまで設定することができます。

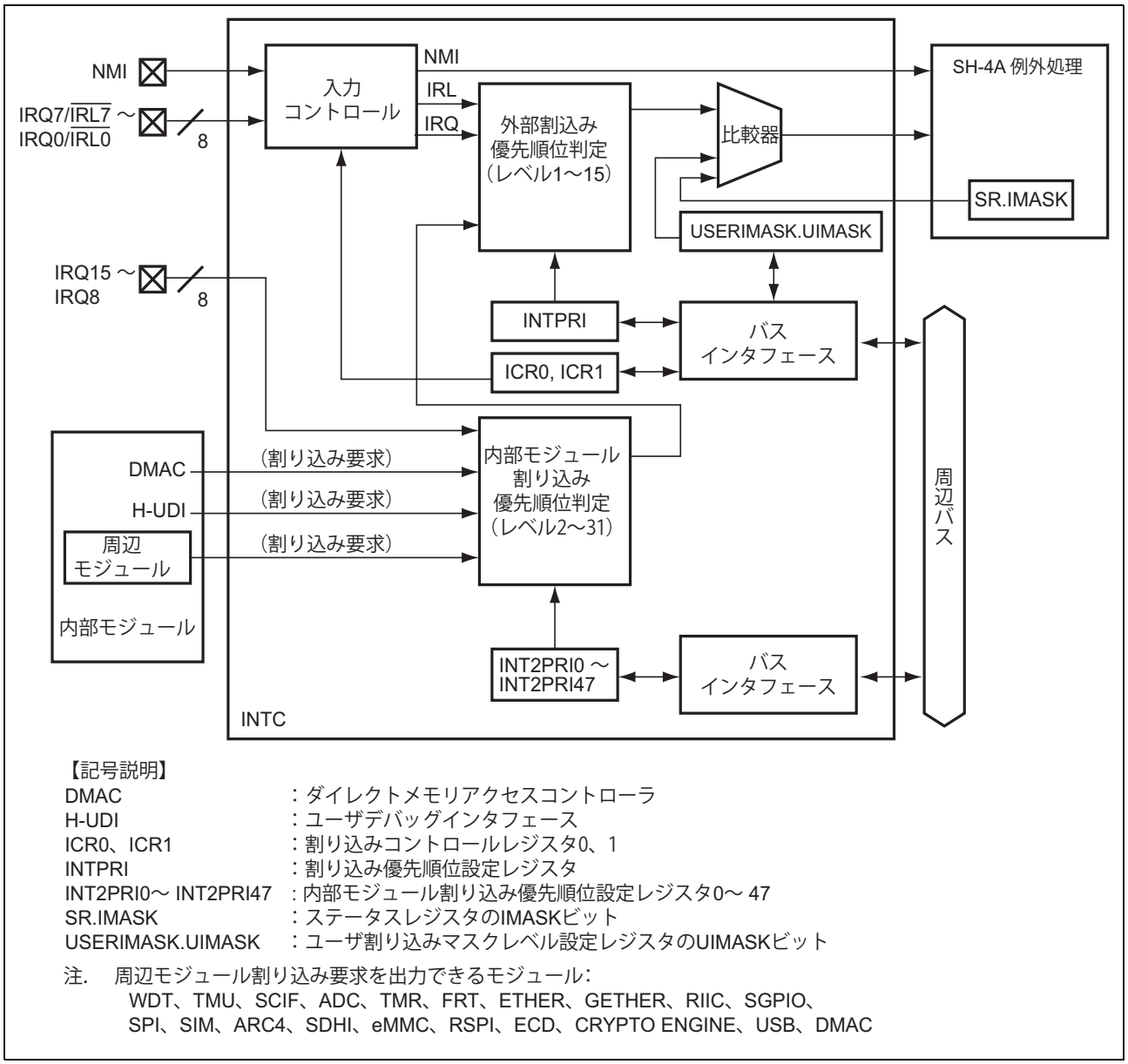
3. NMIノイズキャンセル
   NMI端子の状態を示すNMI入力レベルビットを持っています。割り込み例外処理ルーチンでこのビットを読み出すことにより端子状態を確認でき、ノイズキャンセラとして使用できます。

4. BLビット（SRレジスタのビット28）＝1のときのNMI要求のマスク
   SRレジスタのBLビットを“1”にした場合、NMI要求をマスクするかどうかを選択できます。

5. IMASKビット（SRレジスタのビット7～4）を、受け付けた割り込みレベルに自動更新可能

6. ユーザモード割り込み禁止機能
   ユーザモードで動作中、ユーザ割り込みマスクレベル設定レジスタ（USERIMASK）に割り込みマスクレベルを設定することにより、設定値以下のレベルの割り込みを禁止することができます。

図 10.1にINTC のブロック図を示します。



【記号説明】

DMAC	：ダイレクトメモリアクセスコントローラ
H-UDI	：ユーザデバッグインタフェース
ICR0、ICR1	：割り込みコントロールレジスタ0、1
INTPRI	：割り込み優先順位設定レジスタ
INT2PRI0～ INT2PRI47	：内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ0～ 47
SR.IMASK	：ステータスレジスタのIMASKビット
USERIMASK.UIMASK	：ユーザ割り込みマスクレベル設定レジスタのUIMASKビット

注.　周辺モジュール割り込み要求を出力できるモジュール：
WDT、TMU、SCIF、ADC、TMR、FRT、ETHER、GETHER、RIIC、SGPIO、
SPI、SIM、ARC4、SDHI、eMMC、RSPI、ECD、CRYPTO ENGINE、USB、DMAC

図 10.1　INTC のブロック図

10.1.1　割り込み方式

割り込み発生時の基本的な例外処理の流れは次のようになります。

例外処理では、プログラムカウンタ（PC）、ステータスレジスタ（SR）、汎用レジスタ15（R15）の内容がそれぞれ退避プログラムカウンタ（SPC）、退避ステータスレジスタ（SSR）、退避ジェネラルレジスタ15（SGR）に退避され、ベクタアドレスに従って対応する例外処理ルーチンの実行を開始します。例外処理ルーチンとは、ユーザによって、個々の例外の内容に応じて作成されたプログラムです。例外処理ルーチンを終了させ、元のプログラムに戻るためには、例外処理からの復帰命令（RTE）を実行します。本命令によって、PC とSR の内容が復帰し、例外などが発生した時点での通常処理ルーチンに戻ることができます。なお、SGR の内容はRTE 命令ではR15 に書き戻されません。

1. PC、SR及びR15の内容がそれぞれSPC、SSR及びSGRに退避されます。
2. SR レジスタのBL ビットが”1”に設定されます。
3. SR レジスタのMD ビットが”1”に設定されます。
4. SR のレジスタのRB ビットが”1”に設定されます。
5. 例外コードが割り込み事象レジスタ（INTEVT）のビット13～0に書き込まれます。
6. 割り込み例外処理ルーチンの先頭番地（ベクタベースレジスタ（VBR）＋H'600）にジャンプします。
7. 決められた例外処理のベクタアドレスに分岐して、例外処理ルーチンを開始します。

10.1.2　INTC で想定する割り込み

割り込みの種類を表10.1 に示します。INTC では外部割り込み要因と内部モジュール割り込み要因をサポートします。

外部割り込み要因には、外部端子からの入力によるNMI、IRL、IRQ 割り込みの３種類があります。IRQ、IRL 割り込み入力は同一端子に割り付けられているので、システム形態により使用方法を選択してください。

IRQ 割り込みでは、検出方法としてH レベル、L レベルのほか、立ち上がりエッジ、及び立ち下がりエッジが選択可能です。

表10.1　割り込みの種類

要 因		要因数（最大）	優先順位	INTEVT（例外コード）	備 考	
外部割り込み	NMI	1	—	H'1C0		
	IRL（注1）	15	端子入力値の反転値（Lアクティブ端子のため）（表10.5参照）	H'200	$\overline{IRL[7:4]}$ = LLLL（H'0）	高
					$\overline{IRL[3:0]}$ =LLLL（H'0）	
				H'220	$\overline{IRL[7:4]}$ = LLLH（H'1）	
					$\overline{IRL[3:0]}$ =LLLH（H'1）	
				H'240	$\overline{IRL[7:4]}$ = LLHL（H'2）	
					$\overline{IRL[3:0]}$ = LLHL（H'2）	
				H'260	$\overline{IRL[7:4]}$ = LLHH（H'3）	
					$\overline{IRL[3:0]}$ = LLHH（H'3）	
				H'280	$\overline{IRL[7:4]}$ = LHLL（H'4）	
					$\overline{IRL[3:0]}$ = LHLL（H'4）	
				H'2A0	$\overline{IRL[7:4]}$ = LHLH（H'5）	
					$\overline{IRL[3:0]}$ = LHLH（H'5）	
				H'2C0	$\overline{IRL[7:4]}$ = LHHL（H'6）	
					$\overline{IRL[3:0]}$ = LHHL（H'6）	
				H'2E0	$\overline{IRL[7:4]}$ = LHHH（H'7）	
					$\overline{IRL[3:0]}$ = LHHH（H'7）	
				H'300	$\overline{IRL[7:4]}$ = HLLL（H'8）	
					$\overline{IRL[3:0]}$ = HLLL（H'8）	
				H'320	$\overline{IRL[7:4]}$ = HLLH（H'9）	
					$\overline{IRL[3:0]}$ = HLLH（H'9）	
				H'340	$\overline{IRL[7:4]}$ = HLHL（H'A）	
					$\overline{IRL[3:0]}$ = HLHL（H'A）	
				H'360	$\overline{IRL[7:4]}$ = HLHH（H'B）	
					$\overline{IRL[3:0]}$ = HLHH（H'B）	
				H'380	$\overline{IRL[7:4]}$ = HHLL（H'C）	
					$\overline{IRL[3:0]}$ = HHLL（H'C）	
				H'3A0	$\overline{IRL[7:4]}$ = HHLH（H'D）	
					$\overline{IRL[3:0]}$ = HHLH（H'D）	
				H'3C0	$\overline{IRL[7:4]}$ = HHHL（H'E）	
					$\overline{IRL[3:0]}$ = HHHL（H'E）	低
	IRQ	8	INTPRI レジスタ設定値	H'200	IRQ[0]	高
				H'240	IRQ[1]	
				H'280	IRQ[2]	
				H'2C0	IRQ[3]	
				H'300	IRQ[4]	
				H'340	IRQ[5]	
				H'380	IRQ[6]	
				H'3C0	IRQ[7]	低

要 因		要因数（最大）	優先順位	INTEVT（例外コード）	備 考
内部モジュール割り込み（注2）	SDHI	3	INT2PRI0 ～INT2PRI47 レジスタ設定値	H'480	SDHI3
				H'4A0	SDHI0
				H'4C0	SDHI1
	IRQ8	1		H'500	IRQ8
	IRQ9	1		H'520	IRQ9
	IRQ10	1		H'540	IRQ10
	TMU0	1		H'580	TUNI0
	TMU1	1		H'5A0	TUNI1
	TMU2	2		H'5C0	TUNI2
				H'5E0	TICPI2
	H-UDI	1		H'600	H-UDI
	ARC4	1		H'620	ARC4I
	DMAC0～3	5		H'640	DMINT0
				H'660	DMINT1
				H'680	DMINT2
				H'6A0	DMINT3
				H'6C0	DMAE（ch0～ch11 共通）
	IRQ11	1		H6E0	IRQ11
	SCIF2	4		H'700	ERI2
				H'720	RXI2
				H'740	BRI2
				H'760	TXI2
	DMAC4、5	2		H'780	DMINT4
				H'7A0	DMINT5
	DMAC6、7	2		H'7C0	DMINT6
				H'7E0	DMINT7
	USB0	1		H'840	USB0INT0
	IRQ12	1		H'880	IRQ12
	SPI1	1		H'8C0	SPI1I
	IRQ13	1		H'8E0	IRQ13
	IRQ14	1		H'900	IRQ14
	USB1	1		H'920	USB1INT0
	TMR01	1		H'A00	TMR01I
	TMR23	1		H'A20	TMR23I
	TMR45	1		H'A40	TMR45I
	FRT	1		H'A80	FRTI
	SCIF0	1		H'B40	FINT0
	SCIF1	1		H'B60	FINT1

要 因		要因数（最大）	優先順位	INTEVT（例外コード）	備 考
内部モジュール割り込み（注2）	SCIF3	4	INT2PRI0 ～INT2PRI47 レジスタ設定値	H'B80	ERI3
				H'BA0	RXI3
				H'BC0	BRI3
				H'BE0	TXI3
	IRQ15	1		H'C60	IRQ15
	ETHER	2		H'C80	EINT0
				H'CA0	EINT1
	SPI0	1		H'CC0	SPI0I
	ADC1	1		H'CE0	ADCI1
	DMAC8～11	4		H'D00	DMINT8
				H'D20	DMINT9
				H'D40	DMINT10
				H'D60	DMINT11
	SIM	4		H'D80	ERI
				H'DA0	RXI
				H'DC0	TXI
				H'DE0	TEND
	TMU3	1		H'E00	TUNI3
	TMU4	1		H'E20	TUNI4
	TMU5	1		H'E40	TUNI5
	ADC0	1		H'E60	ADCI0
	SCIF4	4		H'F00	ERI4
				H'F20	RXI4
				H'F40	BRI4
				H'F60	TXI4
	IIC0_0	1		H'1400	RIIC0/TXI
	IIC0_1	1		H'1420	RIIC0/TEI
	IIC0_2	1		H'1440	RIIC0/RXI
	IIC0_3	1		H'1460	RIIC0/EEI
	IIC1_0	1		H'1480	RIIC1/TXI
	IIC1_1	1		H'14E0	RIIC1/TEI
	IIC1_2	1		H'1500	RIIC1/RXI
	IIC1_3	1		H'1520	RIIC1/EEI
	IIC2_0	1		H'1540	RIIC2/TXI
	IIC2_1	1		H'1560	RIIC2/TEI
	IIC2_2	1		H'1580	RIIC2/RXI
	IIC2_3	1		H'1600	RIIC2/EEI
	IIC3_0	1		H'1620	RIIC3/TXI
	IIC3_1	1		H'1640	RIIC3/TEI
	IIC3_2	1		H'16E0	RIIC3/RXI
	IIC3_3	1		H'1700	RIIC3/EEI

要 因		要因数（最大）	優先順位	INTEVT（例外コード）	備 考
内部モジュール割り込み（注 2）	IIC4_0	1	INT2PRI0 ～ INT2PRI47 レジスタ設定値	H'17C0	RIIC4/TXI
	IIC4_1	1		H'1800	RIIC4/TEI
	IIC4_2	1		H'1820	RIIC4/RXI
	IIC4_3	1		H'1840	RIIC4/EEI
	IIC5_0	1		H'1860	RIIC5/TXI
	IIC5_1	1		H'1880	RIIC5/TEI
	IIC5_2	1		H'18A0	RIIC5/RXI
	IIC5_3	1		H'18C0	RIIC5/EEI
	IIC6_0	1		H'18E0	RIIC6/TXI
	IIC6_1	1		H'1900	RIIC6/TEI
	IIC6_2	1		H'1920	RIIC6/RXI
	IIC6_3	1		H'1980	RIIC6/EEI
	IIC7_0	1		H'19A0	RIIC7/TXI
	IIC7_1	1		H'1A00	RIIC7/TEI
	IIC7_2	1		H'1A20	RIIC7/RXI
	IIC7_3	1		H'1A40	RIIC7/EEI
	IIC8_0	1		H'1A60	RIIC8/TXI
	IIC8_1	1		H'1A80	RIIC8/TEI
	IIC8_2	1		H'1AA0	RIIC8/RXI
	IIC8_3	1		H'1B40	RIIC8/EEI
	IIC9_0	1		H'1B60	RIIC9/TXI
	IIC9_1	1		H'1B80	RIIC9/TEI
	IIC9_2	1		H'1C00	RIIC9/RXI
	IIC9_3	1		H'1C20	RIIC9/EEI
	MMC1	1		H'1C60	MMC1 （エラー /タイムアウト）
	MMC2	1		H'1C80	MMC2（通常）
	RSPI	4		H'1D80	RXINT
				H'1DA0	TXINT
				H'1DC0	IDINT
				H'1DE0	ERRINT
	SGPIO0	1		H'1F80	SGPIO0
	SGPIO1	1		H'1FA0	SGPIO1
	SGPIO2	1		H'1FC0	SGPIO2
	DMAC12	1		H'2400	DMINT12
	DMAC13	1		H'2420	DMINT13
	DMAC14	1		H'2440	DMINT14
	DMAC15	1		H'2460	DMINT15
	DMAC16	1		H'2480	DMINT16
	DMAC17	1		H'24E0	DMINT17
	DMAC18	1		H'2500	DMINT18
	DMAC19	1		H'2520	DMINT19

要 因		要因数（最大）	優先順位	INTEVT（例外コード）	備 考
内部モジュール割り込み（注2）	DMAC20	1	INT2PRI0 ～ INT2PRI47 レジスタ設定値	H'2540	DMINT20
	DMAC21	1		H'2560	DMINT21
	DMAC22	1		H'2580	DMINT22
	DMAC23	1		H'2600	DMINT23
	ECD	1		H'2620	ECD
	CRYPTO ENGINE	1		H'2640	CRYPTO ENGINE
	WDT0B	1		H'2800	WDT_0/WOVI
	WDT1B	1		H'2820	WDT_0/EWI
	WDT2B	1		H'2840	WDT_0/INT
	WDT3B	1		H'2860	WDT_1/WOVI
	WDT4B	1		H'2880	WDT_1/EWI
	WDT5B	1		H'28A0	WDT_1/INT
	WDT6B	1		H'28C0	WDT_2/WOVI
	WDT7B	1		H'28E0	WDT_2/EWI
	WDT8B	1		H'2900	WDT_2/INT
	GETHER0	1		H'2960	GEINT0
	GETHER1	1		H'2980	GEINT1
	GETHER2	1		H'29A0	GEINT2
	DMAE2	1		H'2A60	DMAE2（ch12～ch17共通）
	DMAE3	1		H'2A80	DMAE3（ch18～ch23 共通）
	SERMUX2	1		H'2AA0	MIR2
	SERMUX3	1		H'2B40	MIR3

注1. $\overline{\text{IRL}}$[3:0]（IRQ3/$\overline{\text{IRL3}}$～IRQ0/$\overline{\text{IRL0}}$ 端子）によるIRL 割り込みと$\overline{\text{IRL}}$[7:4]（IRQ7/$\overline{\text{IRL7}}$～IRQ4/$\overline{\text{IRL4}}$ 端子）によるIRL割り込みには同じINTEVT コードが割り当てられているため、$\overline{\text{IRL}}$[3:0]によるIRL 割り込みか$\overline{\text{IRL}}$[7:4]によるIRL割り込みかを判別することはできません（本LSIには$\overline{\text{IRL}}$[3:0]によるIRL割り込みと$\overline{\text{IRL}}$[7:4]によるIRL割り込みとを区別する要因レジスタはありません）。

2. 内部モジュール割り込みの要因で使用している略称

WOVI	：インターバルタイマ割り込み
EWI	：早期警告割り込み
INT	：オーバフロー割り込み
TUNI0～ TUNI5	：TMUチャネル0～5 アンダフロー割り込み
TICPI2	：TMUチャネル2 インプットキャプチャ割り込み
RXINT	：受信バッファフル割り込み
TCINT	：送信バッファエンプティ割り込み
IDINT	：RSPIアイドル割り込み
ERRINT	：RSPIエラー割り込み
DMINT0 ～ DMINT23	：DMACチャネル0～23 転送終了割り込み
DMAE	：DMACアドレスエラー割り込み（チャネル0～11）
DMAE2	：DMACアドレスエラー割り込み（チャネル12～17）
DMAE3	：DMACアドレスエラー割り込み（チャネル18～23）
ERI2 ～ ERI4	：SCIFチャネル2～4 受信エラー割り込み
RXI2 ～ RXI4	：SCIFチャネル2～4 受信データフル割り込み
BRI2～BRI4	：SCIFチャネル2～4 ブレーク割り込み
TXI2～ TXI4	：SCIFチャネル2～4 送信データエンプティ割り込み

10.2 入出力端子

表10.2 に端子構成を示します。

表10.2 INTC の端子構成

端子名	機 能	入出力	説 明
NMI	ノンマスカブル割り込み	入力	ノンマスカブル割り込み要求端子。使用しない場合はHレベルに固定してください。
IRQ3/$\overline{\text{IRL3}}$ ～ IRQ0/IRL0	外部割り込み入力端子0	入力	ICR0 レジスタのIRLM0 ビット ＝0 のとき、$\overline{\text{IRL}}$[3:0]割り込み要求信号を入力 ICR0 レジスタのIRLM0 ビット ＝1 のとき、IRQ3～IRQ0 割り込み要求信号を入力
IRQ7/$\overline{\text{IRL7}}$ ～ IRQ4/IRL4	外部割り込み入力端子 1	入力	ICR0 レジスタのIRLM1 ビット ＝0 のとき、$\overline{\text{IRL}}$[7:4]割り込み要求信号を入力 ICR0 レジスタのIRLM1 ビット ＝1 のとき、IRQ7～IRQ4 割り込み要求信号を入力
IRQ15 ～ IRQ0	外部割り込み入力端子2	入力	IRQ15～IRQ8割り込み要求信号を入力（これらの割り込みは、内部モジュール割り込みに分類されます）

10.3　レジスタの説明

表 10.3 にINTC のレジスタ構成を示します

指定されたビット幅でレジスタにアクセスしてください。指定されたビット幅以外のサイズでレジスタにアクセスした場合、動作は保証できません。

表10.3　INTC のレジスタ構成

名 称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態	
					パワーオンリセット	マニュアルリセット
割り込みコントロールレジスタ0	ICR0	R/W	H'FFD0 0000	32	H'X000 0000	H'X000 0000
割り込みコントロールレジスタ1	ICR1	R/W	H'FFD0 001C	32	H'0000 0000	H'0000 0000
割り込みコントロールレジスタ2	ICR2	R/W	H'FFD1 00F8	32	H'0000 0000	H'0000 0000
割り込み優先順位設定レジスタ	INTPRI	R/W	H'FFD0 0010	32	H'0000 0000	H'0000 0000
割り込み要因レジスタ	INTREQ	R/(W)	H'FFD0 0024	32	H'0000 0000	H'0000 0000
割り込みマスクレジスタ0	INTMSK0	R/W	H'FFD0 0044	32	H'FF00 0000	H'FF00 0000
割り込みマスクレジスタ1	INTMSK1	R/W	H'FFD0 0048	32	H'FF00 0000	H'FF00 0000
割り込みマスクレジスタ2	INTMSK2	R/W	H'FFD4 0080	32	H'0000 0000	H'0000 0000
割り込みマスククリアレジスタ0	INTMSKCLR0	W	H'FFD0 0064	32	H'0000 0000	H'0000 0000
割り込みマスククリアレジスタ1	INTMSKCLR1	W	H'FFD0 0068	32	H'0000 0000	H'0000 0000
割り込みマスククリアレジスタ2	INTMSKCLR2	W	H'FFD4 0084	32	H'0000 0000	H'0000 0000
NMI フラグコントロールレジスタ	NMIFCR	R/(W)	H'FFD0 00C0	32	H'X000 0000	H'X000 0000
ユーザ割り込みマスクレベル設定レジスタ	USERIMASK	R/W	H'FFD3 0000	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 0	INT2PRI0	R/W	H'FFD4 0000	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ1	INT2PRI1	R/W	H'FFD4 0004	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ2	INT2PRI2	R/W	H'FFD4 0008	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ3	INT2PRI3	R/W	H'FFD4 000C	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ4	INT2PRI4	R/W	H'FFD4 0010	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ5	INT2PRI5	R/W	H'FFD4 0014	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 6	INT2PRI6	R/W	H'FFD4 0018	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ7	INT2PRI7	R/W	H'FFD4 001C	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 8	INT2PRI8	R/W	H'FFD4 00A0	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ9	INT2PRI9	R/W	H'FFD4 00A4	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 10	INT2PRI10	R/W	H'FFD4 00A8	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 11	INT2PRI11	R/W	H'FFD4 00AC	32	H'0000 0000	H'0000 0000

名 称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態	
					パワーオンリセット	マニュアルリセット
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 12	INT2PRI12	R/W	H'FFD4 00B0	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 13	INT2PRI13	R/W	H'FFD4 00B4	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 14	INT2PRI14	R/W	H'FFD4 00B8	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 15	INT2PRI15	R/W	H'FFD4 00BC	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 16	INT2PRI16	R/W	H'FFD1 0000	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 17	INT2PRI17	R/W	H'FFD1 0004	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 18	INT2PRI18	R/W	H'FFD1 0008	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 19	INT2PRI19	R/W	H'FFD1 000C	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 20	INT2PRI20	R/W	H'FFD1 0010	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 21	INT2PRI21	R/W	H'FFD1 0014	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 22	INT2PRI22	R/W	H'FFD1 0018	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 23	INT2PRI23	R/W	H'FFD1 001C	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 24	INT2PRI24	R/W	H'FFD1 00A0	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 25	INT2PRI25	R/W	H'FFD1 00A4	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 26	INT2PRI26	R/W	H'FFD1 00A8	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 27	INT2PRI27	R/W	H'FFD1 00AC	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 28	INT2PRI28	R/W	H'FFD1 00B0	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 29	INT2PRI29	R/W	H'FFD1 00B4	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 30	INT2PRI30	R/W	H'FFD1 00B8	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 31	INT2PRI31	R/W	H'FFD1 00BC	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 32	INT2PRI32	R/W	H'FFD2 0000	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 33	INT2PRI33	R/W	H'FFD2 0004	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 34	INT2PRI34	R/W	H'FFD2 0008	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 35	INT2PRI35	R/W	H'FFD2 000C	32	H'0000 0000	H'0000 0000

名 称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態	
					パワーオンリセット	マニュアルリセット
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 36	INT2PRI36	R/W	H'FFD2 0010	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 37	INT2PRI37	R/W	H'FFD2 0014	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 38	INT2PRI38	R/W	H'FFD2 0018	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 39	INT2PRI39	R/W	H'FFD2 001C	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 40	INT2PRI40	R/W	H'FFD2 00A0	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 41	INT2PRI41	R/W	H'FFD2 00A4	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 42	INT2PRI42	R/W	H'FFD2 00A8	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 43	INT2PRI43	R/W	H'FFD2 00AC	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 44	INT2PRI44	R/W	H'FFD2 00B0	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 45	INT2PRI45	R/W	H'FFD2 00B4	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 46	INT2PRI46	R/W	H'FFD2 00B8	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ 47	INT2PRI47	R/W	H'FFD2 00BC	32	H'0000 0000	H'0000 0000
割り込み要因レジスタ 0（マスク状態の影響なし）	INT2A0	R	H'FFD4 0030	32	H'0000 0000	H'0000 0000
割り込み要因レジスタ 01（マスク状態の影響なし）	INT2A01	R	H'FFD4 00C0	32	H'XXX0 0000	H'XXX0 0000
割り込み要因レジスタ 02（マスク状態の影響なし）	INT2A02	R	H'FFD1 0030	32	H'0000 0000	H'0000 0000
割り込み要因レジスタ 03（マスク状態の影響なし）	INT2A03	R	H'FFD1 00C0	32	H'0000 0000	H'0000 0000
割り込み要因レジスタ 04（マスク状態の影響なし）	INT2A04	R	H'FFD2 0030	32	H'0000 0000	H'0000 0000
割り込み要因レジスタ 05（マスク状態の影響なし）	INT2A05	R	H'FFD2 00C0	32	H'0000 0000	H'0000 0000
割り込み要因レジスタ 1（マスク状態の影響あり）	INT2A1	R	H'FFD4 0034	32	H'0000 0000	H'0000 0000
割り込み要因レジスタ 11（マスク状態の影響あり）	INT2A11	R	H'FFD4 00C4	32	H'0000 0000	H'0000 0000
割り込み要因レジスタ 12（マスク状態の影響あり）	INT2A12	R	H'FFD1 0034	32	H'0000 0000	H'0000 0000
割り込み要因レジスタ 13（マスク状態の影響あり）	INT2A13	R	H'FFD1 00C4	32	H'0000 0000	H'0000 0000
割り込み要因レジスタ 14（マスク状態の影響あり）	INT2A14	R	H'FFD2 0034	32	H'0000 0000	H'0000 0000
割り込み要因レジスタ 15（マスク状態の影響あり）	INT2A15	R	H'FFD2 00C4	32	H'0000 0000	H'0000 0000

名 称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態	
					パワーオンリセット	マニュアルリセット
割り込みマスクレジスタ	INT2MSKR	R/W	H'FFD4 0038	32	H'FFFF FFFF	H'FFFF FFFF
割り込みマスクレジスタ 1	INT2MSKR1	R/W	H'FFD4 00D0	32	H'FFFF FFFF	H'FFFF FFFF
割り込みマスクレジスタ 2	INT2MSKR2	R/W	H'FFD1 0038	32	H'FFFF FFFF	H'FFFF FFFF
割り込みマスクレジスタ 3	INT2MSKR3	R/W	H'FFD1 00D0	32	H'FFFF FFFF	H'FFFF FFFF
割り込みマスクレジスタ 4	INT2MSKR4	R/W	H'FFD2 0038	32	H'FFFF FFFF	H'FFFF FFFF
割り込みマスクレジスタ 5	INT2MSKR5	R/W	H'FFD2 00D0	32	H'FFFF FFFF	H'FFFF FFFF
割り込みマスククリアレジスタ	INT2MSKCR	W	H'FFD4 003C	32	H'0000 0000	H'0000 0000
割り込みマスククリアレジスタ1	INT2MSKCR1	W	H'FFD4 00D4	32	H'0000 0000	H'0000 0000
割り込みマスククリアレジスタ2	INT2MSKCR2	W	H'FFD1 003C	32	H'0000 0000	H'0000 0000
割り込みマスククリアレジスタ3	INT2MSKCR3	W	H'FFD1 00D4	32	H'0000 0000	H'0000 0000
割り込みマスククリアレジスタ4	INT2MSKCR4	W	H'FFD2 003C	32	H'0000 0000	H'0000 0000
割り込みマスククリアレジスタ5	INT2MSKCR5	W	H'FFD2 00D4	32	H'0000 0000	H'0000 0000
内部モジュール割り込み要因レジスタ0	INT2B0	R	H'FFD4 0040	32	H'XXXX XXXX	H'XXXX XXXX
内部モジュール割り込み要因レジスタ1	INT2B1	R	H'FFD4 0044	32	H'XXXX XXXX	H'XXXX XXXX
内部モジュール割り込み要因レジスタ2	INT2B2	R	H'FFD4 0048	32	H'XXXX XXXX	H'XXXX XXXX
内部モジュール割り込み要因レジスタ3	INT2B3	R	H'FFD4 004C	32	H'XXXX XXXX	H'XXXX XXXX
内部モジュール割り込み要因レジスタ6	INT2B6	R	H'FFD4 0058	32	H'XXXX XXXX	H'XXXX XXXX
内部モジュール割り込み要因レジスタ9	INT2B9	R	H'FFD4 0064	32	H'XXXX XXXX	H'XXXX XXXX
内部モジュール割り込み要因レジスタ10	INT2B10	R	H'FFD4 0068	32	H'XXXX XXXX	H'XXXX XXXX
内部モジュール割り込み要因レジスタ 11	INT2B11	R	H'FFD4 006C	32	H'XXXX XXXX	H'XXXX XXXX

10.3.1　割り込みコントロールレジスタ0（ICR0）

ICR0は、一部書き込み可能な32ビットのレジスタで、外部割り込み入力端子（IRQ7/$\overline{\text{IRL7}}$～IRQ0/$\overline{\text{IRL0}}$）やNMI端子の入力信号検出モードを設定し、NMI端子に入力されているレベルを示します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	NMIL	MAI	—	—	—	—	NMIB	NMIE	IRLM0	IRLM1	—	—	—	—	—	—
初期値：	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R/W	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31	NMIL	—	R	NMI入力レベル NMI端子に入力されている信号のレベルが設定されます。このビットを読むことによって、NMI端子のレベルを知ることができます。 0：NMI端子にLレベルが入力されている 1：NMI端子にHレベルが入力されている
30	MAI	0	R/W	MAI割り込みマスク CPUのSRレジスタのBLビットにかかわらず、NMI端子の入力レベルがLレベルの期間すべての割り込みをマスクするかどうかを指定します。 0：NMIがLレベルでも割り込み許可 1：NMIがLレベルの期間、割り込み禁止
29～26	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
25	NMIB	0	R/W	NMIブロックモード CPUのSRレジスタのBLビットが1のときにNMI割り込みをSRレジスタのBLビットが0になるまで保留するか、即時に検出するか選択します。 0：SRレジスタのBLビット＝1のときNMI割り込み要求を保留する 1：SRレジスタのBLビット＝1のときNMI割り込みを保留しない 注．SRレジスタのBLビット＝1のままで割り込みを受け付けると、以前の例外情報（SSR、SPC、SGR、INTEVT）は失われます。
24	NMIE	0	R/W	NMIエッジセレクト NMI端子への割り込み要求信号を、立ち下がりエッジで検出するか、立ち上がりエッジで検出するかを選択します。 0：NMI入力の立ち下がりエッジで割り込み要求を検出 1：NMI入力の立ち上がりエッジで割り込み要求を検出
23	IRLM0	0	R/W	IRL端子モード0 $\overline{\text{IRQ3/IRL3}}$～IRQ0/$\overline{\text{IRL0}}$端子をエンコードされたIRL割り込み（IRL[3:0]割り込み）として使用するか、独立したIRQ割り込み（IRQ3～IRQ0割り込み）として使用するかを選択します。 0：$\overline{\text{IRL3}}$～$\overline{\text{IRL0}}$割り込みとして使用（注） 1：IRQ3～IRQ0割り込みとして使用

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
22	IRLM1	0	R/W	IRL 端子モード1 IRQ7/IRL7～IRQ4/IRL4 端子をエンコードされたIRL割り込み（IRL[7:4]割り込み）として使用するか、独立したIRQ割り込み（IRQ7～IRQ4 割り込み）として使用するかを選択します。 0：IRL7～IRL4割り込みとして使用（注） 1：IRQ7～IRQ4割り込みとして使用
21～0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

注．IRL割り込み要求は、入力レベルが4バスクロック（CLKOUT）連続して同じ場合に検出されます。

10.3.2　割り込みコントロールレジスタ1（ICR1）

ICR1は、読み出し／書き込み可能な32ビットのレジスタで、外部割り込み入力端子IRQ7～IRQ0に対して、入力信号の検出モードを端子ごとに指定します。本レジスタは、IRQ7～IRQ0割り込み選択時（IRLM0ビット（ICR0レジスタのビット23）＝1、IRLM1ビット（ICR0レジスタのビット23）＝1）のみ有効です。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	IRQ0S		IRQ1S		IRQ2S		IRQ3S		IRQ4S		IRQ5S		IRQ6S		IRQ7S	
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31、30	IRQ0S	00	R/W	IRQn センスセレクト IRQ7～IRQ0端子に対する割り込み信号を、立ち下がりエッジ、立ち上がりエッジ、Lレベル、Hレベルのいずれで検出するか選択します。 00：割り込み要求をIRQn 入力の立ち下がりエッジで検出 01：割り込み要求をIRQn 入力の立ち上がりエッジで検出 10：割り込み要求をIRQn 入力のLレベルで検出 11：割り込み要求をIRQn 入力のHレベルで検出 n＝0～7
29、28	IRQ1S	00	R/W	
27、26	IRQ2S	00	R/W	
25、24	IRQ3S	00	R/W	
23、22	IRQ4S	00	R/W	
21、20	IRQ5S	00	R/W	
19、18	IRQ6S	00	R/W	
17、16	IRQ7S	00	R/W	
15 ～ 0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

注．IRQn（n＝0～7）がレベル検出に設定されている場合（IRQnS＝10又は11）、CPUにIRQn割り込みが受け付けられる前にIRQn端子入力レベルが無効になった場合でも、その割り込み要因は保持されます。このため、スリープモード中にIRQn端子の入力レベルが無効に変化しても、スリープモードから復帰し、IRQn割り込み処理に分岐します。IRQn割り込みがCPUで受け付けられると、IRQn割り込み要因はクリアされます。

10.3.3　割り込みコントロールレジスタ 2 （ICR2）

ICR2は、読み出し／書き込み可能な32ビットのレジスタで、外部割り込み入力端子IRQ15～IRQ8に対して、入力信号の検出モードを端子ごとに指定します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	IRQ15S		IRQ14S		IRQ13S		IRQ12S		IRQ11S		IRQ10S		IRQ9S		IRQ8S	
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31、30	IRQ15S	00	R/W	IRQn センスセレクト IRQ15～IRQ8端子に対する割り込み信号を、立ち下がりエッジ、立ち上がりエッジ、Lレベル、Hレベルのいずれで検出するかを選択します。 00：割り込み要求をIRQn 入力の立ち下がりエッジで検出 01：割り込み要求をIRQn 入力の立ち上がりエッジで検出 10：割り込み要求をIRQn 入力のLレベルで検出 11：割り込み要求をIRQn 入力のHレベルで検出 n＝8～15
29、28	IRQ14S	00	R/W	
27、26	IRQ13S	00	R/W	
25、24	IRQ12S	00	R/W	
23、22	IRQ11S	00	R/W	
21、20	IRQ10S	00	R/W	
19、18	IRQ9S	00	R/W	
17、16	IRQ8S	00	R/W	
15～0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

注1. IRQn（n＝8～15）がレベル検出に設定されている場合（IRQnS＝10又は11）、CPUにIRQn割り込みが受け付けられる前にIRQn端子入力レベルが無効になった場合でも、その割り込み要因は保持されます。このため、スリープモード中にIRQn端子の入力レベルが無効に変化しても、スリープモードから復帰し、IRQn割り込み処理に分岐します。IRQn割り込みがCPUで受け付けられると、IRQn割り込み要因はクリアされます。

2. このレジスタに書き込むと、割り込み要因はクリアされます。IRQ8～IRQ15割り込み要求が発行された後は、このレジスタに書き込まないでください。

10.3.4　割り込み優先順位設定レジスタ（INTPRI）

INTPRIは、読み出し／書き込み可能な32ビットのレジスタで、IRQ7～IRQ0割り込みの優先順位（レベル15～0）を設定します。本レジスタは、IRQ7～IRQ0割り込み選択時（ICR0レジスタのIRLM0ビット＝1、IRLM1ビット＝1）のみ有効です。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	IP0				IP1				IP2				IP3			
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	IP4				IP5				IP6				IP7			
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31～28	IP0	0000	R/W	IRQ0割り込み要求の優先順位
27～24	IP1	0000	R/W	IRQ1割り込み要求の優先順位
23～20	IP2	0000	R/W	IRQ2割り込み要求の優先順位
19～16	IP3	0000	R/W	IRQ3割り込み要求の優先順位
15～12	IP4	0000	R/W	IRQ4割り込み要求の優先順位
11～8	IP5	0000	R/W	IRQ5割り込み要求の優先順位
7～4	IP6	0000	R/W	IRQ6割り込み要求の優先順位
3～0	IP7	0000	R/W	IRQ7割り込み要求の優先順位

割り込み優先レベルを設定
0000：割り込み禁止
0001：割り込み優先レベル1
0002：割り込み優先レベル2
：
1111：割り込み優先レベル15

低 ↕ 高

10.3.5　割り込み要因レジスタ（INTREQ）

INTREQ は、読み出し／条件付き書き込み可能な32 ビットのレジスタで、INTC にどのIRQn（n＝0～7）割り込みが要求されているかを示します。

INTPRI、INTMSK0 によって割り込みがマスクされても本レジスタのビットは影響を受けません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	IR0	IR1	IR2	IR3	IR4	IR5	IR6	IR7	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	
				エッジ検出時 （ICR1 レジスタの IRQnS = 00 又は 01）	レベル検出時 （注2） （ICR1 レジスタのIRQnS = 10 又は11）
31	IR0	0	R/W（注1）	0：対応するIRQn 割り込み要求は未検出 1：対応するIRQn割り込み要求を検出	0：対応するIRQn割り込み端子 に有効レベルが入力されていない 1：対応するIRQn割り込み端子に有効レベルが入力され、まだCPUに受け付けられていない。
30	IR1	0	R/W（注1）		
29	IR2	0	R/W（注1）		
28	IR3	0	R/W（注1）		
27	IR4	0	R/W（注1）		
26	IR5	0	R/W（注1）		
25	IR6	0	R/W（注1）		
24	IR7	0	R/W（注1）		
23 ～ 0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）	

n＝0～7

注1.　エッジ検出時、“1”を読み出したビットに“0”を書くと“0”になります。“0”を読み出したビットには“1”を書いてください。“1”を書いても変化しません。
レベル検出時、“1”になったビットは、割り込みが受け付けられるまでその内容を保持します。割り込みが受け付けられると“0”になります。これらのビットに書き込んでもビットの内容は変化しません。

2.　「10.3.2　割り込みコントロールレジスタ１（ICR1）」の注記も併せて参照してください。

10.3.6　割り込みマスクレジスタ0（INTMSK0）

INTMSK0は、読み出し／条件付き書き込み可能な32ビットのレジスタで、IRQn（n＝0～7）割り込み要求ごとにマスクするかどうかを設定します。割り込みマスクを解除するには、INTMSKCLR0レジスタの対応するビットに1を書き込みます。本レジスタの各ビットに0を書き込んでも、値は変化しません。IRL割り込み選択時（ICR0レジスタのIRLM0ビット＝0、IRLM1ビット＝0）は、それぞれIM00～IM03、IM04～IM07に1を書き込んでください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	IM00	IM01	IM02	IM03	IM04	IM05	IM06	IM07	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	ビット
31	IM00	1	R/W（注1）	IRQ0割り込み要求のマスク	0：割り込みを受け付ける 1：割り込みをマスクする
30	IM01	1	R/W（注1）	IRQ1割り込み要求のマスク	
29	IM02	1	R/W（注1）	IRQ2割り込み要求のマスク	
28	IM03	1	R/W（注1）	IRQ3割り込み要求のマスク	
27	IM04	1	R/W（注1）	IRQ4割り込み要求のマスク	
26	IM05	1	R/W（注1）	IRQ5割り込み要求のマスク	
25	IM06	1	R/W（注1）	IRQ6割り込み要求のマスク	
24	IM07	1	R/W（注1）	IRQ7割り込み要求のマスク	
23～0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）	

注1. “1”を書くと対応するIRQn割り込みがマスク（禁止）されます。“0”を書いても変化しません。INTMSKCLR0レジスタの対応するビットに“1”を書くと“0”になります。

2. IRQn（n＝0～7）がレベル検出に設定されている場合（IRQnS＝10又は11）、対応するマスクビットが“1”のときに有効レベルが入力されても、割り込み要求は発生しません。対応するマスクビットが“0”のときに有効レベルが入力され、CPUに受け付けられる前にマスクビットを“1”にすると、割り込み要求は保持されたままとなり、次にマスクビットをクリアしたときに、割り込み要求がCPUに通知されます。
IRQnがエッジ検出に設定されている場合（IRQnS＝00又は01）は、対応するマスクビットの状態にかかわらず、有効エッジが入力されると割り込み要求が発生します。対応するマスクビットが“1”のときに発生した割り込み要求は保持されたままとなり、次にマスクビットをクリアしたときに、割り込み要求がCPUに通知されます。

10.3.7　割り込みマスクレジスタ 1 （INTMSK1）

INTMSK1 は、読み出し／条件付き書き込み可能な 32 ビットのレジスタで、IRL 割り込み要求をマスクするかどうかを設定します。割り込みマスクを解除するには、INTMSKCLR1 レジスタの対応するビットに”1” を書き込みます。本レジスタの各ビットに”0” を書き込んでも、値は変化しません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	IM10	IM11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W (注)	R/W (注)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	ビット
31	IM10	1	R/W （注）	$\overline{\text{IRL[3:0]}}$割り込み要求のマスク	0：割り込みを受け付ける 1：割り込みをマスクする
30	IM11	1	R/W （注）	$\overline{\text{IRL[7:4]}}$割り込み要求のマスク	
29 ～24	—	1	—	リザーブビット （読み出すと“1”が読めます。書き込む値は“1”にしてください）	
23～ 0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）	

注．“1”を書くと対応するIRL割り込みがマスク（禁止）されます。“0”を書いても変化しません。INTMSKCLR1 レジスタの対応するビットに“1”を書くと“0”になります。

10.3.8　割り込みマスクレジスタ2（INTMSK2）

INTMSK2は、読み出し／条件付き書き込み可能な32ビットのレジスタで、IRL割り込み要求をレベルごとにマスクするかどうかを設定します。割り込みマスクを解除するには、INTMSKCLR2レジスタの対応するビットに”1”を書き込みます。本レジスタの各ビットに”0”を書き込んでも、値は変化しません。

IRL割り込み選択時（ICR0レジスタのIRLM0ビット＝0、IRLM1ビット＝0）、かつ、IRL割り込みをマスクしていない（INTMSK1レジスタのIM10ビット＝0、IM11ビット＝0）場合に有効となります。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	IM015	IM014	IM013	IM012	IM011	IM010	IM009	IM008	IM007	IM006	IM005	IM004	IM003	IM002	IM001	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	IM115	IM114	IM113	IM112	IM111	IM110	IM109	IM108	IM107	IM106	IM105	IM104	IM103	IM102	IM101	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明	
31	IM015	0	R/W（注1）	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = LLLL (H'0)の場合の割り込み要求のマスク	0：割り込みを受け付ける 1：割り込みをマスクする
30	IM014	0	R/W（注1）	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = LLLH (H'1)の場合の割り込み要求のマスク	
29	IM013	0	R/W（注1）	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = LLHL (H'2)の場合の割り込み要求のマスク	
28	IM012	0	R/W（注1）	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = LLHH (H'3)の場合の割り込み要求のマスク	
27	IM011	0	R/W（注1）	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = LHLL (H'4)の場合の割り込み要求のマスク	
26	IM010	0	R/W（注1）	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = LHLH (H'5)の場合の割り込み要求のマスク	
25	IM009	0	R/W（注1）	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = LHHL (H'6)の場合の割り込み要求のマスク	
24	IM008	0	R/W（注1）	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = LHHH (H'7)の場合の割り込み要求のマスク	
23	IM007	0	R/W（注1）	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = HLLL (H'8)の場合の割り込み要求のマスク	
22	IM006	0	R/W（注1）	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = HLLH (H'9)の場合の割り込み要求のマスク	
21	IM005	0	R/W（注1）	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = HLHL (H'A)の場合の割り込み要求のマスク	
20	IM004	0	R/W（注1）	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = HLHH (H'B)の場合の割り込み要求のマスク	
19	IM003	0	R/W（注1）	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = HHLL (H'C)の場合の割り込み要求のマスク	
18	IM002	0	R/W（注1）	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = HHLH (H'D)の場合の割り込み要求のマスク	

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	
17	IM001	0	R/W（注1）	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = HHHL (H'E)の場合の割り込み要求のマスク	0：割り込みを受け付ける 1：割り込みをマスクする
16	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）	
15	IM115	0	R/W（注1）	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = LLLL (H'0)の場合の割り込み要求のマスク	0：割り込みを受け付ける 1：割り込みをマスクする
14	IM114	0	R/W（注1）	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = LLLH (H'1)の場合の割り込み要求のマスク	
13	IM113	0	R/W（注1）	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = LLHL (H'2)の場合の割り込み要求のマスク	
12	IM112	0	R/W（注1）	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = LLHH (H'3)の場合の割り込み要求のマスク	
11	IM111	0	R/W（注1）	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = LHLL (H'4)の場合の割り込み要求のマスク	
10	IM110	0	R/W（注1）	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = LHLH (H'5)の場合の割り込み要求のマスク	
9	IM109	0	R/W（注1）	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = LHHL (H'6)の場合の割り込み要求のマスク	
8	IM108	0	R/W（注1）	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = LHHH (H'7)の場合の割り込み要求のマスク	
7	IM107	0	R/W（注1）	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = HLLL (H'8)の場合の割り込み要求のマスク	
6	IM106	0	R/W（注1）	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = HLLH (H'9)の場合の割り込み要求のマスク	
5	IM105	0	R/W（注1）	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = HLHL (H'A)の場合の割り込み要求のマスク	
4	IM104	0	R/W（注1）	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = HLHH (H'B)の場合の割り込み要求のマスク	
3	IM103	0	R/W（注1）	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = HHLL (H'C)の場合の割り込み要求のマスク	
2	IM102	0	R/W（注1）	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = HHLH (H'D)の場合の割り込み要求のマスク	
1	IM101	0	R/W（注1）	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = HHHL (H'E)の場合の割り込み要求のマスク	
0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）	

注.1 “1”を書くと対応するレベルごとにIRL割り込みがマスク（禁止）されます。“0”を書 いても変化しません。
INTMSKCLR2レジスタの対応するビットに“1 ”を書くと“0”になります。

2. 対応するマスクビットが“1”のときに有効レベルが入力されても、割り込み要求は発生しません。対応するマスクビットが“0”のときに有効レベルが入力され、CPUに受け付けられる前にマスクビットを“1”にすると、割り込み要求は保持されたままとなり、次にマスクビットをクリアしたときに、割り込み要求がCPUに通知されます。

10.3.9　割り込みマスククリアレジスタ 0 （INTMSKCLR0）

INTMSKCLR0は、書き込み専用の32ビットのレジスタで、IRQn（n＝0～7）割り込み要求ごとのマスクをクリアします。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	IC00	IC01	IC02	IC03	IC04	IC05	IC06	IC07	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	W	W	W	W	W	W	W	W	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	
31	IC00	—	W	IRQ0 割り込み要求のマスククリア	“1”を書くと割り込みマスクをクリア（割り込みを許可）します。“0”を書いてもビットの内容は変化しません。
30	IC01	—	W	IRQ1 割り込み要求のマスククリア	
29	IC02	—	W	IRQ2 割り込み要求のマスククリア	
28	IC03	—	W	IRQ3 割り込み要求のマスククリア	
27	IC04	—	W	IRQ4 割り込み要求のマスククリア	
26	IC05	—	W	IRQ5 割り込み要求のマスククリア	
25	IC06	—	W	IRQ6 割り込み要求のマスククリア	
24	IC07	—	W	IRQ7 割り込み要求のマスククリア	
23～0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）	

10.3.10 割り込みマスククリアレジスタ1 （INTMSKCLR1）

INTMSKCLR1は、書き込み専用の32ビットのレジスタで、IRL割り込み要求のマスクをクリアします。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	IC10	IC11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	W	W	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	
31	IC10	—	W	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] 割り込み要求のマスククリア	“1”を書くと割り込みマスクをクリア（割り込みを許可）します。“0”を書いてもビットの内容は変化しません。
30	IC11	—	W	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] 割り込み要求のマスククリア	
29 ～ 0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）	

10.3.11 割り込みマスククリアレジスタ 2 （INTMSKCLR2）

INTMSKCLR2は、書き込み専用の32ビットのレジスタで、IRL割り込み要求のレベルごとのマスクをクリアします。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	IC015	IC014	IC013	IC012	IC011	IC010	IC009	IC008	IC007	IC006	IC005	IC004	IC003	IC002	IC001	—
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
R/W：	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	IC115	IC114	IC113	IC112	IC111	IC110	IC109	IC108	IC107	IC106	IC105	IC104	IC103	IC102	IC101	—
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
R/W：	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	
31	IC015	—	W	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = LLLL (H'0)の場合の割り込み要求のマスククリア	“1”を書くと割り込みマスクをクリア（割り込みを許可）します。“0”を書いてもビットの内容は変化しません。
30	IC014	—	W	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = LLLH (H'1)の場合の割り込み要求のマスククリア	
29	IC013	—	W	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = LLHL (H'2)の場合の割り込み要求のマスククリア	
28	IC012	—	W	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = LLHH (H'3)の場合の割り込み要求のマスククリア	
27	IC011	—	W	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = LHLL (H'4)の場合の割り込み要求のマスククリア	
26	IC010	—	W	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = LHLH (H'5)の場合の割り込み要求のマスククリア	
25	IC009	—	W	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = LHHL (H'6)の場合の割り込み要求のマスククリア	
24	IC008	—	W	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = LHHH (H'7)の場合の割り込み要求のマスククリア	
23	IC007	—	W	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = HLLL (H'8)の場合の割り込み要求のマスククリア	
22	IC006	—	W	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = HLLH (H'9)の場合の割り込み要求のマスククリア	
21	IC005	—	W	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = HLHL (H'A)の場合の割り込み要求のマスククリア	
20	IC004	—	W	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = HLHH (H'B)の場合の割り込み要求のマスククリア	
19	IC003	—	W	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = HHLL (H'C)の場合の割り込み要求のマスククリア	
18	IC002	—	W	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = HHLH (H'D)の場合の割り込み要求のマスククリア	
17	IC001	—	W	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = HHHL (H'E)の場合の割り込み要求のマスククリア	
16	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）	

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	
15	IC115	—	W	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = LLLL (H'0)の場合の割り込み要求のマスククリア	“1”を書くと割り込みマスクをクリア（割り込みを許可）します。“0”を書いてもビットの内容は変化しません。
14	IC114	—	W	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = LLLH (H'1)の場合の割り込み要求のマスククリア	
13	IC113	—	W	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = LLHL (H'2)の場合の割り込み要求のマスククリア	
12	IC112	—	W	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = LLHH (H'3)の場合の割り込み要求のマスククリア	
11	IC111	—	W	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = LHLL (H'4)の場合の割り込み要求のマスククリア	
10	IC110	—	W	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = LHLH (H'5)の場合の割り込み要求のマスククリア	
9	IC109	—	W	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = LHHL (H'6)の場合の割り込み要求のマスククリア	
8	IC108	—	W	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = LHHH (H'7)の場合の割り込み要求のマスククリア	
7	IC107	—	W	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = HLLL (H'8)の場合の割り込み要求のマスククリア	
6	IC106	—	W	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = HLLH (H'9)の場合の割り込み要求のマスククリア	
5	IC105	—	W	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = HLHL (H'A)の場合の割り込み要求のマスククリア	
4	IC104	—	W	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = HLHH (H'B)の場合の割り込み要求のマスククリア	
3	IC103	—	W	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = HHLL (H'C)の場合の割り込み要求のマスククリア	
2	IC102	—	W	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = HHLH (H'D)の場合の割り込み要求のマスククリア	
1	IC101	—	W	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = HHHL (H'E)の場合の割り込み要求のマスククリア	
0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）	

10.3.12 NMIフラグコントロールレジスタ（NMIFCR）

NMIFCR は、読み出し／一部条件付き書き込み可能な32 ビットのレジスタで、NMI の入力レベルとNMI検出を示します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	NMIL	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	NMIFL
初期値：	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W (注1)

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31	NMIL	不定	R	NMI 入力レベル 0：NMI 端子にL レベルが入力されている 1：NMI 端子にH レベルが入力されている
30 ～ 17	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
16	NMIFL	0	R/W（注1）	NMI フラグ（NMI 割り込み要求信号検出）（注2） 0: NMI 割り込み要求未検出 1: NMI 割り込み要求検出
15～0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

注1. “0”を書くと“0”になります。“1”を書いても変化しません。

2. INTCによりNMI割り込み要求が検出されると自動的に“1”になりますが、NMI割り込み要求がCPUに受け付けられてNMI割り込み要求自体がクリアされても、NMIFLフラグは自動的に“0”になりません。また、NMI割り込み要求がCPUに受け付けられるより前にこのビットに“0”を書き込んだ場合でも、NMI割り込み要求自体は取り消されません。

10.3.13 ユーザ割り込みマスクレベル設定レジスタ（USERIMASK）

USERIMASKは、読み出し／一部条件付き書き込み可能な32ビットレジスタで、受け付け可能な割り込みレベルを設定します。本レジスタは、INTCの他のレジスタとは異なる64Kバイト空間に配置されていますので、エリア7アドレスにMMUのアドレス変換を使用してアクセスすることにより、ユーザモードでアクセス可能です。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	UIMASK				—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 24	—	H'00	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます） UIMASK ビットに値を書き込むときは、同時にビット31～24にH'A5を書き込んでください。
23 ～ 8	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
7 ～ 4	UIMASK	H'0	R/W	ユーザ割り込みマスクレベル（注） 0000：全割り込みを許可 0001：優先レベルが2以上の割り込みを許可 0010：優先レベルが3以上の割り込みを許可 ： 1111：NMI割り込み以外の全割り込みを禁止
3 ～ 0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

注．UIMASK設定値より高い割り込み優先レベルに設定された割り込みは、以下の条件で受け付けられます。
・割り込みマスクレジスタの対応する割り込みマスクビット＝0（割り込み許可）
・SRレジスタのIMASKビット設定値 ＜ 割り込み優先レベル
なお、割り込みが受け付けられてもUIMASKの値は変化しません。

ユーザ割り込みマスクレベル設定レジスタの使用手順

USERIMASK に割り込みマスクレベルを設定することにより、設定値以下のレベルの割り込みを禁止することができます。本機能を用いることにより、ユーザモードで動作するデバイスドライバ等のタスク中で緊急度の高い処理を行う際に、より緊急度の低い割り込みを禁止することで完了までの時間を短縮できます。

USERIMASK は、INTC の他のレジスタとは異なる 64K バイト空間に配置されていますので、ユーザモードではMMUによるアドレス変換によりアクセスします。マルチタスクOS の場合、USERIMASK にアクセスできるプロセスはMMU の記憶保護機能により管理してください。また、そのタスクを終了する場合や他のタスクに切り替える場合は、必ずUIMASK ビットを 0 にクリアしてください。UIMASK ビットに0 以外の値を設定したままタスクを終了すると、その割り込みレベル以下の割り込みが禁止されたままとなり、OS のタスク切り替えが行われなくなるなどの不具合を起こすことがあります。

以下に使用手順例を示します。

割り込みA：デバイスドライバ中で受け付けたい割り込み
（OSで使用するタイマ割り込み等）
割り込みB：デバイスドライバ中で禁止したい割り込み

1. 割り込みA、Bに対して、
割り込みAの割り込み優先レベル ＞ 割り込みBの割り込み優先レベル
となるように設定する。
2. 割り込みを禁止したいデバイスドライバにのみUSERIMASKが存在するアドレス空間へのアクセスを許可するようにMMUを設定する。
3. デバイスドライバに分岐する。
4. ユーザモードで動作するデバイスドライバ中で、割り込みBがマスクされるようにUIMASKビットを設定する（UIMASK ＞ 割り込みBの割り込み優先レベル）。
5. デバイスドライバ中で緊急度の高い割り込みAの処理を行う。
6. UIMASKビットを“0”にし、デバイスドライバの処理から復帰する。

10.3.14 内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ（INT2PRI0 ～ INT2PRI47）

INT2PRIn（n＝0～47）は、読み出し／書き込み可能な32ビットのレジスタで、内部モジュール割り込みの優先順位（レベル31～0）を個々の割り込み要因ごとに設定します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	INT2PRIn[28:24]					—	—	—	INT2PRIn[20:16]				
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	INT2PRIn[12:8]					—	—	—	INT2PRIn[4:0]				
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 29	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
28 ～ 24	INT2PRIn[28:24]	00000	R/W	内部モジュール割り込み優先レベル（表10.4参照） 00000：割り込み要求をマスク（割り込み禁止） 00001：割り込み要求をマスク（割り込み禁止） 00010：割り込み優先レベル2　低 00011：割り込み優先レベル3 ： 11111：割り込み優先レベル31　高
23 ～ 21	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

20～16	INT2PRIn[20:16]	00000	R/W	内部モジュール割り込み優先レベル（表10.4参照） 00000：割り込み要求をマスク（割り込み禁止） 00001：割り込み要求をマスク（割り込み禁止） 00010：割り込み優先レベル2　低 00011：割り込み優先レベル3 ： 11111：割り込み優先レベル31　高
15～13	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
12～8	INT2PRIn[12:8]	00000	R/W	内部モジュール割り込み優先レベル（表10.4参照） 00000：割り込み要求をマスク（割り込み禁止） 00001：割り込み要求をマスク（割り込み禁止） 00010：割り込み優先レベル2　低 00011：割り込み優先レベル3 ： 11111：割り込み優先レベル31　高
7～5	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
4 ～ 0	INT2PRIn[4:0]	00000	R/W	内部モジュール割り込み優先レベル（表10.4参照） 00000：割り込み要求をマスク（割り込み禁止） 00001：割り込み要求をマスク（割り込み禁止） 00010：割り込み優先レベル2　低 00011：割り込み優先レベル3 ： 11111：割り込み優先レベル31　高

割り込み要因とINT2PRI0～INT2PRI47レジスタの各ビットの対応を表10.4に示します。

表10.4　割り込み要因とINT2PRI0～INT2PRI47レジスタの対応

レジスタ	ビット			
	INTPRIn[28:24]	INTPRIn[20:16]	INTPRIn[12:8]	INTPRIn[4:0]
INT2PRI0	TMU0	TMU1	TMU2 (TUNI2)	TMU2 (TICPI2)
INT2PRI1	TMU3	TMU4	TMU5	SDHI
INT2PRI2	SCIF2	SCIF3	リザーブ	IRQ8
INT2PRI3	H-UDI	DMAC0-5	ADC0	IRQ9
INT2PRI4	IRQ10	リザーブ	TMR01	TMR23
INT2PRI5	TMR45	リザーブ	FRT	リザーブ
INT2PRI6	リザーブ	ETHER	DMAC8-11	リザーブ
INT2PRI7	SCIF4	リザーブ	IRQ11	IRQ12
INT2PRI8	リザーブ	リザーブ	リザーブ	リザーブ
INT2PRI9	ARC4	リザーブ	SPI1	リザーブ
INT2PRI10	SPI0	SIM	リザーブ	リザーブ
INT2PRI11	ADC1	IRQ13	DMAC6-7	IRQ14
INT2PRI12	USB0	リザーブ	IRQ15	USB1

レジスタ	ビット			
	INTPRIn[28:24]	INTPRIn[20:16]	INTPRIn[12:8]	INTPRIn[4:0]
INT2PRI13	リザーブ	リザーブ	SCIF1	SCIF0
INT2PRI14	リザーブ	リザーブ	リザーブ	リザーブ
INT2PRI15	リザーブ	リザーブ	リザーブ	リザーブ
INT2PRI16	IIC2_2	リザーブ	リザーブ	リザーブ
INT2PRI17	リザーブ	リザーブ	リザーブ	IIC1_0
INT2PRI18	IIC3_3	IIC9_1	IIC2_1	IIC1_2
INT2PRI19	IIC2_3	IIC3_1	リザーブ	IIC1_3
INT2PRI20	IIC2_0	IIC6_3	IIC7_1	IIC7_2
INT2PRI21	IIC7_3	IIC8_0	IIC8_1	IIC8_2
INT2PRI22	IIC9_2	MMC2	リザーブ	リザーブ
INT2PRI23	リザーブ	SGPIO	IIC3_2	IIC5_1
INT2PRI24	リザーブ	リザーブ	リザーブ	IIC1_1
INT2PRI25	IIC3_0	リザーブ	IIC5_3	IIC5_2
INT2PRI26	リザーブ	RSPI	リザーブ	IIC9_3
INT2PRI27	リザーブ	IIC6_0	IIC4_0	IIC6_1
INT2PRI28	IIC4_3	IIC7_0	MMC1	IIC6_2
INT2PRI29	リザーブ	リザーブ	IIC9_0	IIC8_3
INT2PRI30	IIC4_1	IIC4_2	IIC5_0	リザーブ
INT2PRI31	IIC0_0	IIC0_1	IIC0_2	IIC0_3
INT2PRI32	DMINT22	リザーブ	リザーブ	リザーブ
INT2PRI33	リザーブ	リザーブ	リザーブ	DMINT16
INT2PRI34	リザーブ	リザーブ	DMINT21	DMINT18
INT2PRI35	DMINT23	CRYPTO ENGINE	リザーブ	DMINT19
INT2PRI36	DMINT20	GETHER1	リザーブ	リザーブ
INT2PRI37	リザーブ	DMAE2	DMAE3	SERMUX2
INT2PRI38	リザーブ	リザーブ	リザーブ	リザーブ
INT2PRI39	リザーブ	リザーブ	リザーブ	WDT4B
INT2PRI40	リザーブ	リザーブ	リザーブ	DMINT17
INT2PRI41	ECD	リザーブ	WDT6B	WDT5B
INT2PRI42	リザーブ	リザーブ	リザーブ	リザーブ
INT2PRI43	リザーブ	WDT7B	リザーブ	WDT8B
INT2PRI44	WDT2B	GETHER2	リザーブ	リザーブ
INT2PRI45	リザーブ	リザーブ	リザーブ	SERMUX3
INT2PRI46	WDT0B	WDT1B	WDT3B	GETHER0
INT2PRI47	DMINT12	DMINT13	DMINT14	DMINT15

10.3.15 割り込み要因レジスタ 0（マスク状態の影響なし）（INT2A0）

INT2A0 は、読み出し専用の 32 ビットのレジスタで、内部モジュールからの割り込み要因を表示します。割り込みがマスクされている場合でも、割り込みが発生すると、対応するビットが“1”になります（割り込み要求は受け付けられません）。マスクした割り込み要因を非表示としたい場合は、INT2A1 レジスタを使用してください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	DMAC 8-11	—	—	—	FRT	—	TMR45
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R	—	—	—	R	—	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TMR23	TMR01	—	—	—	—	—	DMAC 0-5	H-UDI	—	—	SCIF3	SCIF2	SDHI	TMU1	TMU0
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	—	—	—	—	—	R	R	—	—	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
31～23	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	0：割り込みなし 1：割り込み発生 注. 本レジスタを読む代わりに、INTEVT（例外コード）を直接読むことで割り込み要因を特定することもできます。なお、各モジュール内の割り込み要因ビットが“0”になると、本レジスタの対応するビットが“0”になります。
22	DMAC8-11	0	R	DMACチャネル8～11割り込み	
21	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
20、19	—	0	—	リザーブビット	
18	FRT	0	R	FRT 割り込み	
17	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
16	TMR45	0	R	TMR45割り込み	
15	TMR23	0	R	TMR23 割り込み	
14	TMR01	0	R	TMR01割り込み	
13～9	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
8	DMAC0-5	0	R	DMAC チャネル0～5及びアドレスエラー割り込み	
7	H-UDI	0	R	H-UDI割り込み	
6、5	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
4	SCIF3	0	R	SCIF3 割り込み	
3	SCIF2	0	R	SCIF2割り込み	
2	SDHI	0	R	SDHI割り込み	
1	TMU1	0	R	TMU チャネル3～5 割り込み	
0	TMU0	0	R	TMU チャネル0～2 割り込み	

10.3.16 割り込み要因レジスタ01（マスク状態の影響なし）（INT2A01）

INT2A01は、読み出し専用の32ビットのレジスタで、内部モジュールからの割り込み要因を表示します。割り込みがマスクされている場合でも、割り込みが発生すると、対応するビットが“1”になります（割り込み要求は受け付けられません）。マスクした割り込み要因を非表示としたい場合は、INT2A11レジスタを使用してください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	IRQ15	IRQ14	IRQ13	IRQ12	IRQ11	IRQ10	SCIF4	ETHER	IRQ9	IRQ8	SCIF1	SCIF0	USB0	—	—	USB1
初期値：	—	—	—	—	—	—	0	0	—	—	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	—	—	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	ADC1	—	DMAC 6-7	ADC0	SPI0	SIM	—	—	ARC4	—	SPI1	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	—	R	R	R	R	—	—	R	—	R	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
31	IRQ15	不定	R	IRQ15割り込み	0：割り込みなし 1：割り込み発生 注. 本レジスタを読む代わりに、INTEVT（例外コード）を直接読むことで割り込み要因を特定することもできます。 なお、各モジュール内の割り込み要因ビットが“0”になると、本レジスタの対応するビットが“0”になります。
30	IRQ14	不定	R	IRQ14 割り込み	
29	IRQ13	不定	R	IRQ13 割り込み	
28	IRQ12	不定	R	IRQ12割り込み	
27	IRQ11	不定	R	IRQ11 割り込み	
26	IRQ10	不定	R	IRQ10 割り込み	
25	SCIF4	0	R	SCIF4 割り込み	
24	ETHER	0	R	ETHER割り込み	
23	IRQ9	不定	R	IRQ9 割り込み	
22	IRQ8	不定	R	IRQ8割り込み	
21	SCIF1	0	R	SCIF1 割り込み	
20	SCIF0	0	R	SCIF0 割り込み	
19	USB0	0	R	USB0割り込み	
18、17	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
16	USB1	0	R	USB1割り込み	
15	ADC1	0	R	ADC1 割り込み	
14	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
13	DMAC6-7	0	R	DMAC チャネル6、7割り込み	
12	ADC0	0	R	ADC0割り込み	
11	SPI0	0	R	SPI0割り込み	
10	SIM	0	R	SIM 割り込み	
9、8	—	0	—	リザーブビット	

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
7	ARC4	0	R	ARC4 割り込み	0：割り込みなし 1：割り込み発生 注. 本レジスタを読む代わりに、INTEVT（例外コード）を直接読むことで割り込み要因を特定することもできます。 なお、各モジュール内の割り込み要因ビットが“0”になると、本レジスタの対応するビットが“0”になります。
6	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
5	SPI1	0	R	SPI1割り込み	
4	—	0	—	リザーブビット	
3～1	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
0	—	0	—	リザーブビット	

注.　「10.3.3　割り込みコントロールレジスタ 2 （ICR2）」の注記も併せて参照してください。

10.3.17 割り込み要因レジスタ 02 （マスク状態の影響なし）（INT2A02）

INT2A02は、読み出し専用の32ビットのレジスタで、内部モジュールからの割り込み要因を表示します。割り込みがマスクされている場合でも、割り込みが発生すると、対応するビットが“1”になります（割り込み要求は受け付けられません）。マスクした割り込み要因を非表示としたい場合は、INT2A12レジスタを使用してください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	IIC4_1	IIC4_2	IIC5_0	—	—	—	SGPIO	—	—	—	—	IIC9_2	IIC8_2	IIC8_1	IIC8_0	IIC7_3
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	—	—	—	R	—	—	—	—	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	IIC7_2	IIC7_1	IIC6_3	IIC0_0	IIC0_1	IIC0_2	IIC0_3	IIC3_1	IIC2_3	—	IIC2_1	IIC9_1	IIC3_3	IIC1_0	—	IIC2_2
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	—	R	R	R	R	—	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
31	IIC4_1	0	R	RIIC4/TEI割り込み	0：割り込みなし 1：割り込み発生 注. 本レジスタを読む代わりに、INTEVT（例外コード）を直接読むことで割り込み要因を特定することもできます。 なお、各モジュール内の割り込み要因ビットが“0”になると、本レジスタの対応するビットが“0”になります。
30	IIC4_2	0	R	RIIC4/RXI割り込み	
29	IIC5_0	0	R	RIIC5/TXI 割り込み	
28	—	0	—	リザーブビット	
27、26	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
25	SGPIO	0	R	SGPIO割り込み	
24 ～ 21	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
20	IIC9_2	0	R	RIIC9/RXI割り込み	
19	IIC8_2	0	R	RIIC8/RXI割り込み	
18	IIC8_1	0	R	RIIC8/TEI 割り込み	
17	IIC8_0	0	R	RIIC8/TXI 割り込み	
16	IIC7_3	0	R	RIIC7/EEI 割り込み	
15	IIC7_2	0	R	RIIC7/RXI 割り込み	
14	IIC7_1	0	R	RIIC7/TEI割り込み	
13	IIC6_3	0	R	RIIC6/EEI 割り込み	
12	IIC0_0	0	R	RIIC0/TXI 割り込み	
11	IIC0_1	0	R	RIIC0/TEI割り込み	
10	IIC0_2	0	R	RIIC0/RXI 割り込み	
9	IIC0_3	0	R	RIIC0/EEI 割り込み	
8	IIC3_1	0	R	RIIC3/TEI 割り込み	
7	IIC2_3	0	R	RIIC2/EEI 割り込み	
6	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
5	IIC2_1	0	R	RIIC2/TEI 割り込み	0：割り込みなし 1：割り込み発生 注. 本レジスタを読む代わりに、INTEVT（例外コード）を直接読むことで割り込み要因を特定することもできます。 なお、各モジュール内の割り込み要因ビットが“0”になると、本レジスタの対応するビットが“0”になります。
4	IIC9_1	0	R	RIIC9/TEI 割り込み	
3	IIC3_3	0	R	RIIC3/EEI 割り込み	
2	IIC1_0	0	R	RIIC1/TXI 割り込み	
1	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
0	IIC2_2	0	R	RIIC2/RXI割り込み	

10.3.18 割り込み要因レジスタ 03 （マスク状態の影響なし）（INT2A03）

INT2A03は、読み出し専用の32ビットのレジスタで、内部モジュールからの割り込み要因を表示します。割り込みがマスクされている場合でも、割り込みが発生すると、対応するビットが“1”になります（割り込み要求は受け付けられません）。マスクした割り込み要因を非表示としたい場合は、INT2A13レジスタを使用してください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	MMC1	IIC6_1	IIC6_0	IIC5_1	IIC3_2	IIC2_0	—	MMC2	IIC1_3	IIC1_2	IIC9_0	IIC8_3	IIC4_3	IIC7_0	—	IIC6_2
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	—	R	R	R	R	R	R	R	—	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	IIC4_0	—	—	RSPI	—	IIC9_3	IIC3_0	—	IIC5_3	IIC5_2	—	—	—	IIC1_1
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	R	—	—	R	—	R	R	—	R	R	—	—	—	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
31	MMC1	0	R	MMC1割り込み	0：割り込みなし 1：割り込み発生 注. 本レジスタを読む代わりに、INTEVT（例外コード）を直接読むことで割り込み要因を特定することもできます。 なお、各モジュール内の割り込み要因ビットが“0”になると、本レジスタの対応するビットが“0”になります。
30	IIC6_1	0	R	RIIC6/TEI割り込み	
29	IIC6_0	0	R	RIIC6/TXI 割り込み	
28	IIC5_1	0	R	RIIC5/TEI割り込み	
27	IIC3_2	0	R	RIIC3/RXI 割り込み	
26	IIC2_0	0	R	RIIC2/TXI 割り込み	
25	—	0	—	リザーブビット	
24	MMC2	0	R	MMC2 割り込み	
23	IIC1_3	0	R	RIIC1/EEI割り込み	
22	IIC1_2	0	R	RIIC1/RXI割り込み	
21	IIC9_0	0	R	RIIC9/TXI 割り込み	
20	IIC8_3	0	R	RIIC8/EEI割り込み	
19	IIC4_3	0	R	RIIC4/EEI割り込み	
18	IIC7_0	0	R	RIIC7/TXI 割り込み	
17	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
16	IIC6_2	0	R	IIC6/RXI割り込み	
15	—	0	—	リザーブビット	
14	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
13	IIC4_0	0	R	RIIC4/TXI 割り込み	
12	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
11	—	0	—	リザーブビット	
10	RSPI	0	R	RSPI割り込み	

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
9	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	0：割り込みなし 1：割り込み発生 注. 本レジスタを読む代わりに、INTEVT（例外コード）を直接読むことで割り込み要因を特定することもできます。 なお、各モジュール内の割り込み要因ビットが“0”になると、本レジスタの対応するビットが“0”になります。
8	IIC9_3	0	R	RIIC9/EEI割り込み	
7	IIC3_0	0	R	RIIC3/TXI 割り込み	
6	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
5	IIC5_3	0	R	RIIC5/EEI割り込み	
4	IIC5_2	0	R	RIIC5/RXI割り込み	
3、2	—	0	—	リザーブビット	
1	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
0	IIC1_1	0	R	RIIC1/TEI割り込み	

10.3.19 割り込み要因レジスタ04 （マスク状態の影響なし）（INT2A04）

INT2A04は、読み出し専用の32ビットのレジスタで、内部モジュールからの割り込み要因を表示します。割り込みがマスクされている場合でも、割り込みが発生すると、対応するビットが“1”になります（割り込み要求は受け付けられません）。マスクした割り込み要因を非表示としたい場合は、INT2A14レジスタを使用してください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	WDT0B	WDT1B	WDT3B	GETHER0	—	—	—	—	—	—	—	—	SERMUX2	DMAE3	DMAE2	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	—	—	—	—	—	—	—	—	R	R	R	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	GETHER1	DMINT12	DMINT13	DMINT14	DMINT15	CRYPTOENGINE	DMINT23	—	DMINT21	—	—	DMINT16	—	DMINT22
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	R	R	R	R	R	R	R	—	R	—	—	R	—	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
31	WDT0B	0	R	WDT0B 割り込み	0：割り込みなし 1：割り込み発生 注. 本レジスタを読む代わりに、INTEVT（例外コード）を直接読むことで割り込み要因を特定することもできます。 なお、各モジュール内の割り込み要因ビットが“0”になると、本レジスタの対応するビットが“0”になります。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
30	WDT1B	0	R	WDT1B 割り込み	0：割り込みなし 1：割り込み発生 注. 本レジスタを読む代わりに、INTEVT（例外コード）を直接読むことで割り込み要因を特定することもできます。 なお、各モジュール内の割り込み要因ビットが“0”になると、本レジスタの対応するビットが“0”になります。
29	WDT3B	0	R	WDT3B割り込み	
28	GETHER0	0	R	GETHER0割り込み	
27 ～ 21	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
20	—	0	—	リザーブビット	
19	SERMUX2	0	R	SERMUX2 割り込み	
18	DMAE3	0	R	DMAE3割り込み	
17	DMAE2	0	R	DMAE2割り込み	
16～14	—	0	—	リザーブビット	
13	GETHER1	0	R	GETHER1 割り込み	
12	DMINT12	0	R	DMINT12割り込み	
11	DMINT13	0	R	DMINT13 割り込み	
10	DMINT14	0	R	DMINT14 割り込み	
9	DMINT15	0	R	DMINT15割り込み	
8	CRYPTO ENGINE	0	R	CRYPTO ENGINE割り込み	
7	DMINT23	0	R	DMINT23割り込み	
6	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
5	DMINT21	0	R	DMINT21割り込み	
4	—	0	—	リザーブビット	
3	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
2	DMINT16	0	R	DMINT16 割り込み	
1	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
0	DMINT22	0	R	DMINT22割り込み	

10.3.20 割り込み要因レジスタ 05 （マスク状態の影響なし）（INT2A05）

INT2A05は、読み出し専用の32ビットのレジスタで、内部モジュールからの割り込み要因を表示します。割り込みがマスクされている場合でも、割り込みが発生すると、対応するビットが“1”になります（割り込み要求は受け付けられません）。マスクした割り込み要因を非表示としたい場合は、INT2A15レジスタを使用してください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	WDT8B	WDT7B	WDT4B	—	DMINT20	—	—	DMINT19	DMINT18	—	SERMUX3	WDT2B	GETHER2	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	R	R	R	—	R	—	—	R	R	—	R	R	R	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	ECD	—	WDT6B	WDT5B	—	—	—	DMINT17
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R	—	R	R	—	—	—	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
31	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	0：割り込みなし 1：割り込み発生 注. 本レジスタを読む代わりに、INTEVT（例外コード）を直接読むことで割り込み要因を特定することもできます。 なお、各モジュール内の割り込み要因ビットが“0”になると、本レジスタの対応するビットが“0”になります。
30	WDT8B	0	R	WDT8B割り込み	
29	WDT7B	0	R	WDT7B 割り込み	
28	WDT4B	0	R	WDT4B割り込み	
27	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
26	DMINT20	0	R	DMINT20割り込み	
25、24	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
23	DMINT19	0	R	DMINT19割り込み	
22	DMINT18	0	R	DMINT18割り込み	
21	—	0	—	リザーブビット	
20	SERMUX3	0	R	SERMUX3 割り込み	
19	WDT2B	0	R	WDT2B割り込み	
18	GETHER2	0	R	GETHER割り込み	
17 ～ 14	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
13	—	0	—	リザーブビット	

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
12 ～ 9	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	0：割り込みなし 1：割り込み発生 注. 本レジスタを読む代わりに、INTEVT（例外コード）を直接読むことで割り込み要因を特定することもできます。 なお、各モジュール内の割り込み要因ビットが“0”になると、本レジスタの対応するビットが“0”になります。
8	—	0	—	リザーブビット	
7	ECD	0	R	ECD割り込み	
6	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
5	WDT6B	0	R	WDT6B割り込み	
4	WDT5B	0	R	WDT5B割り込み	
3～ 1	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
0	DMINT17	0	R	DMINT17割り込み	

10.3.21 割り込み要因レジスタ1（マスク状態の影響あり）（INT2A1）

INT2A1は、読み出し専用の32ビットのレジスタで、内部モジュールからの割り込み要因を表示します。ただし、割り込みがマスクされている場合は、割り込みが発生しても、対応するビットは“1”になりません。マスク設定にかかわらず、割り込み発生の有無を確認したい場合は、INT2A0レジスタを使用してください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	DMAC 8-11	—	—	—	FRT	—	TMR45
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R	—	—	—	R	—	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TMR23	TMR01	—	—	—	—	—	DMAC 0-5	H-UDI	—	—	SCIF3	SCIF2	SDHI	TMU1	TMU0
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	—	—	—	—	—	R	R	—	—	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
31 ～ 23	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	0：割り込みなし 1：割り込み発生 （マスクされていない割り込みのみ） 注．本レジスタを読む代わりに、INTEVT（例外コード）を直接読むことで割り込み要因を特定することもできます。なお、各モジュール内の割り込み要因ビットが“0”になると、本レジスタの対応するビットが“0”になります。
22	DMAC8-11	0	R	DMAC チャネル8～11割り込み	
21	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
20、19	—	0	—	リザーブビット	
18	FRT	0	R	FRT割り込み	
17	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
16	TMR45	0	R	TMR45割り込み	
15	TMR23	0	R	TMR23割り込み	
14	TMR01	0	R	TMR01割り込み	
13 ～9	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
8	DMAC0-5	0	R	DMACチャネル0～5 及びアドレスエラー 割り込み	
7	H-UDI	0	R	H-UDI割り込み	
6、5	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
4	SCIF3	0	R	SCIF3割り込み	
3	SCIF2	0	R	SCIF2割り込み	
2	SDHI	0	R	SDHI割り込み	
1	TMU1	0	R	TMU チャネル3～5 割り込み	
0	TMU0	0	R	TMUチャネル0～ 2 割り込み	

10.3.22 割り込み要因レジスタ 11 （マスク状態の影響あり）（INT2A11）

INT2A11は、読み出し専用の32ビットのレジスタで、内部モジュールからの割り込み要因を表示します。ただし、割り込みがマスクされている場合は、割り込みが発生しても、対応するビットは“1”になりません。マスク設定にかかわらず、割り込み発生の有無を確認したい場合は、INT2A01レジスタを使用してください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	IRQ15	IRQ14	IRQ13	IRQ12	IRQ11	IRQ10	SCIF4	ETHER	IRQ9	IRQ8	SCIF1	SCIF0	USB0	—	—	USB1
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	—	—	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	ADC1	—	DMAC 6-7	ADC0	SPI0	SIM	—	—	ARC4	—	SPI1	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	—	R	R	R	R	—	—	R	—	R	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
31	IRQ15	0	R	IRQ15割り込み	0：割り込みなし 1：割り込み発生 （マスクされていない割り込みのみ） 注． 本レジスタを読む代わりに、INTEVT（例外コード）を直接読むことで割り込み要因を特定することもできます。 なお、各モジュール内の割り込み要因ビットが“0”になると、本レジスタの対応するビットが“0”になります。
30	IRQ14	0	R	IRQ14 割り込み	
29	IRQ13	0	R	IRQ13割り込み	
28	IRQ12	0	R	IRQ12割り込み	
27	IRQ11	0	R	IRQ11割り込み	
26	IRQ10	0	R	IRQ10 割り込み	
25	SCIF4	0	R	SCIF4割り込み	
24	ETHER	0	R	ETHER割り込み	
23	IRQ9	0	R	IRQ9割り込み	
22	IRQ8	0	R	IRQ8割り込み	
21	SCIF1	0	R	SCIF1割り込み	
20	SCIF0	0	R	SCIF0割り込み	
19	USB0	0	R	USB0 割り込み	
18、17	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
16	USB1	0	R	USB1割り込み	
15	ADC1	0	R	ADC1割り込み	
14	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
13	DMAC6-7	0	R	DMAC チャネル6、7割り込み	
12	ADC0	0	R	ADC0割り込み	
11	SPI0	0	R	SPI0割り込み	
10	SIM	0	R	SIM割り込み	

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
9、8	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	0：割り込みなし 1：割り込み発生 （マスクされていない割り込みのみ） 注. 本レジスタを読む代わりに、INTEVT（例外コード）を直接読むことで割り込み要因を特定することもできます。 なお、各モジュール内の割り込み要因ビットが“0”になると、本レジスタの対応するビットが“0”になります。
7	ARC4	0	R	ARC4 割り込み	
6	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
5	SPI1	0	R	SPI1 割り込み	
4~0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	

10.3.23 割り込み要因レジスタ 12（マスク状態の影響あり）（INT2A12）

INT2A12は、読み出し専用の32ビットのレジスタで、内部モジュールからの割り込み要因を表示します。ただし、割り込みがマスクされている場合は、割り込みが発生しても、対応するビットは“1”になりません。マスク設定にかかわらず、割り込み発生の有無を確認したい場合は、INT2A02 レジスタを使用してください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	IIC4_1	IIC4_2	IIC5_0	—	—	—	SGPIO	—	—	—	—	IIC9_2	IIC8_2	IIC8_1	IIC8_0	IIC7_3
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	—	—	—	R	—	—	—	—	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	IIC7_2	IIC7_1	IIC6_3	IIC0_0	IIC0_1	IIC0_2	IIC0_3	IIC3_1	IIC2_3	—	IIC2_1	IIC9_1	IIC3_3	IIC1_0	—	IIC2_2
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	—	R	R	R	R	—	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
31	IIC4_1	0	R	RIIC4/TEI割り込み	0：割り込みなし 1：割り込み発生 （マスクされていない割り込みのみ） 注. 本レジスタを読む代わりに、INTEVT（例外コード）を直接読むことで割り込み要因を特定することもできます。 なお、各モジュール内の割り込み要因ビットが“0”になると、本レジスタの対応するビットが“0”になります。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
30	IIC4_2	0	R	RIIC4/RXI割り込み	0：割り込みなし 1：割り込み発生 （マスクされていない割り込みのみ） 注. 本レジスタを読む代わりに、INTEVT（例外コード）を直接読むことで割り込み要因を特定することもできます。 なお、各モジュール内の割り込み要因ビットが“0”になると、本レジスタの対応するビットが“0”になります。
29	IIC5_0	0	R	RIIC5/TXI割り込み	
28~26	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
25	SGPIO	0	R	SGPIO割り込み	
24 ~ 21	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
20	IIC9_2	0	R	RIIC9/RXI割り込み	
19	IIC8_2	0	R	RIIC8/RXI割り込み	
18	IIC8_1	0	R	RIIC8/TEI割り込み	
17	IIC8_0	0	R	RIIC8/TXI 割り込み	
16	IIC7_3	0	R	RIIC7/EEI割り込み	
15	IIC7_2	0	R	RIIC7/RXI割り込み	
14	IIC7_1	0	R	RIIC7/TEI割り込み	
13	IIC6_3	0	R	RIIC6/EEI割り込み	
12	IIC0_0	0	R	RIIC0/TXI割り込み	
11	IIC0_1	0	R	RIIC0/TEI割り込み	
10	IIC0_2	0	R	RIIC0/RXI割り込み	
9	IIC0_3	0	R	RIIC0/EEI割り込み	
8	IIC3_1	0	R	RIIC3/TEI割り込み	
7	IIC2_3	0	R	RIIC2/EEI割り込み	
6	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
5	IIC2_1	0	R	RIIC2/TEI割り込み	
4	IIC9_1	0	R	RIIC9/TEI割り込み	
3	IIC3_3	0	R	RIIC3/EEI割り込み	
2	IIC1_0	0	R	RIIC1/TXI割り込み	
1	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
0	IIC2_2	0	R	RIIC2/RXI割り込み	

10.3.24 割り込み要因レジスタ13 （マスク状態の影響あり）（INT2A13）

INT2A13は、読み出し専用の32ビットのレジスタで、内部モジュールからの割り込み要因を表示します。ただし、割り込みがマスクされている場合は、割り込みが発生しても、対応するビットは“1”になりません。マスク設定にかかわらず、割り込み発生の有無を確認したい場合は、INT2A03レジスタを使用してください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	MMC1	IIC6_1	IIC6_0	IIC5_1	IIC3_2	IIC2_0	—	MMC2	IIC1_3	IIC1_2	IIC9_0	IIC8_3	IIC4_3	IIC7_0	—	IIC6_2
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	—	R	R	R	R	R	R	R	—	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	IIC4_0	—	—	RSPI	—	IIC9_3	IIC3_0	—	IIC5_3	IIC5_2	—	—	—	IIC1_1
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	R	—	—	R	—	R	R	—	R	R	—	—	—	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
31	MMC1	0	R	MMC1割り込み	0：割り込みなし 1：割り込み発生 （マスクされていない割り込みのみ） 注. 本レジスタを読む代わりに、INTEVT（例外コード）を直接読むことで割り込み要因を特定することもできます。 なお、各モジュール内の割り込み要因ビットが“0”になると、本レジスタの対応するビットが“0”になります。
30	IIC6_1	0	R	RIIC6/TEI割り込み	
29	IIC6_0	0	R	RIIC6/TXI割り込み	
28	IIC5_1	0	R	RIIC5/TEI割り込み	
27	IIC3_2	0	R	RIIC3/RXI割り込み	
26	IIC2_0	0	R	RIIC2/TXI割り込み	
25	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
24	MMC2	0	R	MMC2割り込み	
23	IIC1_3	0	R	RIIC1/EEI割り込み	
22	IIC1_2	0	R	RIIC1/RXI割り込み	
21	IIC9_0	0	R	RIIC9/TXI割り込み	
20	IIC8_3	0	R	RIIC8/EEI割り込み	
19	IIC4_3	0	R	RIIC4/EEI割り込み	
18	IIC7_0	0	R	RIIC7/TXI割り込み	
17	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
16	IIC6_2	0	R	RIIC6/RXI割り込み	
15、14	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
13	IIC4_0	0	R	RIIC4/TXI割り込み	
12、11	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
10	RSPI	0	R	RSPI 割り込み	

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
9	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	0：割り込みなし 1：割り込み発生 （マスクされていない割り込みのみ） 注. 本レジスタを読む代わりに、INTEVT（例外コード）を直接読むことで割り込み要因を特定することもできます。 なお、各モジュール内の割り込み要因ビットが“0”になると、本レジスタの対応するビットが“0”になります。
8	IIC9_3	0	R	RIIC9/EEI割り込み	
7	IIC3_0	0	R	RIIC3/TXI割り込み	
6	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
5	IIC5_3	0	R	RIIC5/EEI割り込み	
4	IIC5_2	0	R	RIIC5/RXI割り込み	
3~1	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
0	IIC1_1	0	R	RIIC1/TEI割り込み	

10.3.25 割り込み要因レジスタ 14 （マスク状態の影響あり）（INT2A14）

INT2A14は、読み出し専用の32ビットのレジスタで、内部モジュールからの割り込み要因を表示します。ただし、割り込みがマスクされている場合は、割り込みが発生しても、対応するビットは“1”になりません。マスク設定にかかわらず、割り込み発生の有無を確認したい場合は、INT2A04レジスタを使用してください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	WDT0B	WDT1B	WDT3B	GETHER0	—	—	—	—	—	—	—	—	SERMUX2	DMAE3	DMAE2	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	—	—	—	—	—	—	—	—	R	R	R	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	GETHER1	DMINT12	DMINT13	DMINT14	DMINT15	CRYPTOENGINE	DMINT23	—	DMINT21	—	—	DMINT16	—	DMINT22
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	R	R	R	R	R	R	R	—	R	—	—	R	—	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
31	WDT0B	0	R	WDT0B 割り込み	0：割り込みなし 1：割り込み発生 （マスクされていない割り込みのみ） 注. 本レジスタを読む代わりに、INTEVT（例外コード）を直接読むことで割り込み要因を特定することもできます。 なお、各モジュール内の割り込み要因ビットが“0”になると、本レジスタの対応するビットが“0”になります。
30	WDT1B	0	R	WDT1B割り込み	
29	WDT3B	0	R	WDT3B割り込み	
28	GETHER0	0	R	GETHER0 割り込み	

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
27 ~ 20	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	0：割り込みなし 1：割り込み発生 （マスクされていない割り込みのみ） 注. 本レジスタを読む代わりに、INTEVT（例外コード）を直接読むことで割り込み要因を特定することもできます。 なお、各モジュール内の割り込み要因ビットが“0”になると、本レジスタの対応するビットが“0”になります。
19	SERMUX2	0	R	SERMUX2割り込み	
18	DMAE3	0	R	DMAE3 割り込み	
17	DMAE2	0	R	DMAE2割り込み	
16 ~14	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
13	GETHER1	0	R	GETHER1 割り込み	
12	DMINT12	0	R	DMINT12 割り込み	
11	DMINT13	0	R	DMINT13 割り込み	
10	DMINT14	0	R	DMINT14 割り込み	
9	DMINT15	0	R	DMINT15 割り込み	
8	CRYPTO ENGINE	0	R	CRYPTO ENGINE 割り込み	
7	DMINT23	0	R	DMINT23 割り込み	
6	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
5	DMINT21	0	R	DMINT21 割り込み	
4、3	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
2	DMINT16	0	R	DMINT16割り込み	
1	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
0	DMINT22	0	R	DMINT22割り込み	

10.3.26 割り込み要因レジスタ15 （マスク状態の影響あり）（INT2A15）

INT2A15は、読み出し専用の32ビットのレジスタで、内部モジュールからの割り込み要因を表示します。ただし、割り込みがマスクされている場合は、割り込みが発生しても、対応するビットは“1”になりません。マスク設定にかかわらず、割り込み発生の有無を確認したい場合は、INT2A05レジスタを使用してください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	WDT8B	WDT7B	WDT4B	—	DMINT20	—	—	DMINT19	DMINT18	—	SERMUX3	WDT2B	GETHER2	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	R	R	R	—	R	—	—	R	R	—	R	R	R	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	ECD	—	WDT6B	WDT5B	—	—	—	DMINT17
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R	—	R	R	—	—	—	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
31	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	0：割り込みなし 1：割り込み発生 （マスクされていない割り込みのみ） 注. 本レジスタを読む代わりに、INTEVT（例外コード）を直接読むことで割り込み要因を特定することもできます。 なお、各モジュール内の割り込み要因ビットが“0”になると、本レジスタの対応するビットが“0”になります。
30	WDT8B	0	R	WDT8B割り込み	
29	WDT7B	0	R	WDT7B 割り込み	
28	WDT4B	0	R	WDT4B割り込み	
27	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
26	DMINT20	0	R	DMINT20割り込み	
25、24	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
23	DMINT19	0	R	DMINT19割り込み	
22	DMINT18	0	R	DMINT18割り込み	
21	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
20	SERMUX3	0	R	SERMUX3割り込み	
19	WDT2B	0	R	WDT2B割り込み	
18	GETHER2	0	R	GETHER2割り込み	
17 ~8	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
7	ECD	0	R	ECD 割り込み	0：割り込みなし 1：割り込み発生 （マスクされていない割り込みのみ） 注．本レジスタを読む代わりに、INTEVT（例外コード）を直接読むことで割り込み要因を特定することもできます。 なお、各モジュール内の割り込み要因ビットが“0”になると、本レジスタの対応するビットが“0”になります。
6	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
5	WDT6B	0	R	WDT6B割り込み	
4	WDT5B	0	R	WDT5B 割り込み	
3 ~ 1	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	
0	DMINT17	0	R	DMINT17 割り込み	

10.3.27 割り込みマスクレジスタ（INT2MSKR）

INT2MSKRは、読み出し／一部条件付き書き込み可能な32ビットのレジスタで、割り込み要因レジスタに表示される要因に対して、個別に割り込みマスクを設定することができます。本レジスタに1が設定された該当要因の割り込みは、CPUに通知されません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	DMAC 8-11	—	—	—	FRT	—	TMR45
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W (注)	—	—	—	R/W (注)	—	R/W (注)

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TMR23	TMR01	—	—	—	—	—	DMAC 0-5	H-UDI	—	—	SCIF3	SCIF2	SDHI	TMU1	TMU0
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W：	R/W (注)	R/W (注)	—	—	—	—	—	R/W (注)	R/W (注)	—	—	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
31~23	—	1	—	リザーブビット （読み出すと”1” が読めます。書き込む値は”1” にしてください）	0：マスク設定なし 1：マスク設定あり
22	DMAC8-11	1	R/W（注）	DMACチャネル8~11割り込み	
21~19	—	1	—	リザーブビット （読み出すと”1” が読めます。書き込む値は”1” にしてください）	
18	FRT	1	R/W（注）	FRT割り込み	
17	—	1	—	リザーブビット （読み出すと”1” が読めます。書き込む値は”1” にしてください）	

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
16	TMR45	1	R/W（注）	TMR45割り込み	0：マスク設定なし 1：マスク設定あり
15	TMR23	1	R/W（注）	TMR23割り込み	
14	TMR01	1	R/W（注）	TMR01割り込み	
13 ~9	—	1	—	リザーブビット （読み出すと”1” が読めます。書き込む値は”1” にしてください）	
8	DMAC0-5	1	R/W（注）	DMAC チャネル0~5 及びアドレスエラー 割り込み	
7	H-UDI	1	R/W（注）	H-UDI割り込み	
6、5	—	1	—	リザーブビット （読み出すと”1” が読めます。書き込む値は”1” にしてください）	
4	SCIF3	1	R/W（注）	SCIF3割り込み	
3	SCIF2	1	R/W（注）	SCIF2割り込み	
2	SDHI	1	R/W（注）	SDHI割り込み	
1	TMU1	1	R/W（注）	TMU チャネル3~5 割り込み	
0	TMU0	1	R/W（注）	TMUチャネル0~2 割り込み	

注．“1”を書くと対応する内部モジュール割り込みがマスク（禁止）されます。“0”を書いても変化しません。
INT2MSKCR レジスタの対応するビットに“1 ”を書くと“0”になります。

10.3.28 割り込みマスクレジスタ1（INT2MSKR1）

INT2MSKR1は、読み出し／一部条件付き書き込み可能な32ビットのレジスタで、割り込み要因レジスタに表示される要因に対して、個別に割り込みマスクを設定することができます。本レジスタに1が設定された該当要因の割り込みは、CPUに通知されません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	IRQ15	IRQ14	IRQ13	IRQ12	IRQ11	IRQ10	SCIF4	ETHER	IRQ9	IRQ8	SCIF1	SCIF0	USB0	—	—	USB1
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W：	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	—	—	R/W (注1)

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	ADC1	—	DMAC 6-7	ADC0	SPI0	SIM	—	—	ARC4	—	SPI1	—	—	—	—	—
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W：	R/W (注1)	—	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	—	—	R/W (注1)	—	R/W (注1)	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
31	IRQ15	1	R/W（注1）	IRQ15割り込み（注2）	0：マスク設定なし 1：マスク設定あり
30	IRQ14	1	R/W（注1）	IRQ14 割り込み（注2）	
29	IRQ13	1	R/W（注1）	IRQ13 割り込み（注2）	
28	IRQ12	1	R/W（注1）	IRQ12 割り込み（注2）	
27	IRQ11	1	R/W（注1）	IRQ11割り込み（注2）	
26	IRQ10	1	R/W（注1）	IRQ10割り込み（注2）	
25	SCIF4	1	R/W（注1）	SCIF4割り込み	
24	ETHER	1	R/W（注1）	ETHER割り込み	
23	IRQ9	1	R/W（注1）	IRQ9割り込み（注2）	
22	IRQ8	1	R/W（注1）	IRQ8割り込み（注2）	
21	SCIF1	1	R/W（注1）	SCIF1割り込み	
20	SCIF0	1	R/W（注1）	SCIF0割り込み	
19	USB0	1	R/W（注1）	USB0割り込み	
18、17	—	1	—	リザーブビット （読み出すと”1” が読めます。書き込む値は”1” にしてください）	
16	USB1	1	R/W（注1）	USB1割り込み	
15	ADC1	1	R/W（注1）	ADC1割り込み	
14	—	1	—	リザーブビット （読み出すと”1” が読めます。書き込む値は”1” にしてください）	
13	DMAC6-7	1	R/W（注1）	DMAC チャネル6、7割り込み	
12	ADC0	1	R/W（注1）	ADC0 割り込み	
11	SPI0	1	R/W（注1）	SPI0割り込み	

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
10	SIM	1	R/W（注1）	SIM割り込み	0：マスク設定なし 1：マスク設定あり
9、8	—	1	—	リザーブビット （読み出すと”1” が読めます。書き込む値は”1” にしてください）	
7	ARC4	1	R/W（注1）	ARC4割り込み	
6	—	1	—	リザーブビット （読み出すと”1” が読めます。書き込む値は”1” にしてください）	
5	SPI1	1	R/W（注1）	SPI1割り込み	
4~0	—	1	—	リザーブビット （読み出すと”1” が読めます。書き込む値は”1” にしてください）	

注1. “1”を書くと対応する内部モジュール割り込みがマスク（禁止）されます。“0”を書いても変化しません。
INT2MSKCR1レジスタの対応するビットに“1 ”を書くと“0”になります。
2. IRQ8～15は、対応するマスクビットの状態にかかわらず、有効エッジ又は有効レベルが入力されると割り込み要求が発生します。対応するマスクビットが“1”のときに発生した割り込み要求は保持されたままとなり、次にマスクビットをクリアしたときに、割り込み要求がCPUに通知されます。

10.3.29 割り込みマスクレジスタ 2 （INT2MSKR2）

INT2MSKR2は、読み出し／一部条件付き書き込み可能な32ビットのレジスタで、割り込み要因レジスタに表示される要因に対して、個別に割り込みマスクを設定することができます。本レジスタに1が設定された該当要因の割り込みは、CPUに通知されません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	IIC4_1	IIC4_2	IIC5_0	—	—	—	SGPIO	—	—	—	—	IIC9_2	IIC8_2	IIC8_1	IIC8_0	IIC7_3
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W：	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	—	—	—	R/W (注)	—	—	—	—	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	IIC7_2	IIC7_1	IIC6_3	IIC0_0	IIC0_1	IIC0_2	IIC0_3	IIC3_1	IIC2_3	—	IIC2_1	IIC9_1	IIC3_3	IIC1_0	—	IIC2_2
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W：	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	—	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	—	R/W (注)

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
31	IIC4_1	1	R/W（注）	RIIC4/TEI割り込み	0：マスク設定なし 1：マスク設定あり
30	IIC4_2	1	R/W（注）	RIIC4/RXI割り込み	
29	IIC5_0	1	R/W（注）	RIIC5/TXI割り込み	
28~26	—	11	—	リザーブビット （読み出すと”1” が読めます。書き込む値は”1” にしてください）	
25	SGPIO	1	R/W（注）	SGPIO割り込み	
24 ~ 21	—	1	—	リザーブビット （読み出すと”1” が読めます。書き込む値は”1” にしてください）	
20	IIC9_2	1	R/W（注）	RIIC9/RXI割り込み	
19	IIC8_2	1	R/W（注）	RIIC8/RXI割り込み	
18	IIC8_1	1	R/W（注）	RIIC8/TEI割り込み	
17	IIC8_0	1	R/W（注）	RIIC8/TXI割り込み	
16	IIC7_3	1	R/W（注）	RIIC7/EEI割り込み	
15	IIC7_2	1	R/W（注）	RIIC7/RXI割り込み	
14	IIC7_1	1	R/W（注）	RIIC7/TEI割り込み	
13	IIC6_3	1	R/W（注）	RIIC6/EEI割り込み	
12	IIC0_0	1	R/W（注）	RIIC0/TXI割り込み	
11	IIC0_1	1	R/W（注）	RIIC0/TEI割り込み	
10	IIC0_2	1	R/W（注）	RIIC0/RXI割り込み	
9	IIC0_3	1	R/W（注）	RIIC0/EEI割り込み	

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
8	IIC3_1	1	R/W（注）	RIIC3/TEI割り込み	0：マスク設定なし 1：マスク設定あり
7	IIC2_3	1	R/W（注）	RIIC2/EEI割り込み	
6	—	1	—	リザーブビット （読み出すと”1” が読めます。書き込む値は”1” にしてください）	
5	IIC2_1	1	R/W（注）	RIIC2/TEI割り込み	
4	IIC9_1	1	R/W（注）	RIIC9/TEI割り込み	
3	IIC3_3	1	R/W（注）	RIIC3/EEI割り込み	
2	IIC1_0	1	R/W（注）	RIIC1/TXI割り込み	
1	—	1	—	リザーブビット （読み出すと”1” が読めます。書き込む値は”1” にしてください）	
0	IIC2_2	1	R/W（注）	RIIC2/RXI割り込み	

注．“1”を書くと対応する内部モジュール割り込みがマスク（禁止）されます。“0”を書いてもは変化しません。
INT2MSKCR2 レジスタの対応するビットに“1 ”を書くと“0”になります。

10.3.30 割り込みマスクレジスタ 3 （INT2MSKR3）

INT2MSKR3 は、読み出し／一部条件付き書き込み可能な 32 ビットのレジスタで、割り込み要因レジスタに表示される要因に対して、個別に割り込みマスクを設定することができます。本レジスタに 1 が設定された該当要因の割り込みは、CPU に通知されません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	MMC1	IIC6_1	IIC6_0	IIC5_1	IIC3_2	IIC2_0	—	MMC2	IIC1_3	IIC1_2	IIC9_0	IIC8_3	IIC4_3	IIC7_0	—	IIC6_2
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W：	R/W（注）	R/W（注）	R/W（注）	R/W（注）	R/W（注）	R/W（注）	—	R/W（注）	R/W（注）	R/W（注）	R/W（注）	R/W（注）	R/W（注）	R/W（注）	—	R/W（注）

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	IIC4_0	—	—	RSPI	—	IIC9_3	IIC3_0	—	IIC5_3	IIC5_2	—	—	—	IIC1_1
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W：	—	—	R/W（注）	—	—	R/W（注）	—	R/W（注）	R/W（注）	—	R/W（注）	R/W（注）	—	—	—	R/W（注）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
31	MMC1	1	R/W（注）	MMC1割り込み	0：マスク設定なし 1：マスク設定あり
30	IIC6_1	1	R/W（注）	RIIC6/TEI割り込み	
29	IIC6_0	1	R/W（注）	RIIC6/TXI割り込み	
28	IIC5_1	1	R/W（注）	RIIC5/TEI 割り込み	
27	IIC3_2	1	R/W（注）	RIIC3/RXI割り込み	
26	IIC2_0	1	R/W（注）	RIIC2/TXI割り込み	

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
25	—	1	—	リザーブビット （読み出すと”1” が読めます。書き込む値は”1” にしてください）	0：マスク設定なし 1：マスク設定あり
24	MMC2	1	R/W（注）	MMC2 割り込み	
23	IIC1_3	1	R/W（注）	RIIC1/EEI割り込み	
22	IIC1_2	1	R/W（注）	RIIC1/RXI割り込み	
21	IIC9_0	1	R/W（注）	RIIC9/TXI 割り込み	
20	IIC8_3	1	R/W（注）	RIIC8/EEI割り込み	
19	IIC4_3	1	R/W（注）	RIIC4/EEI割り込み	
18	IIC7_0	1	R/W（注）	RIIC7/TXI割り込み	
17	—	1	—	リザーブビット （読み出すと”1” が読めます。書き込む値は”1” にしてください）	
16	IIC6_2	1	R/W（注）	RIIC6/RXI割り込み	
15、14	—	1	—	リザーブビット （読み出すと”1” が読めます。書き込む値は”1” にしてください）	
13	IIC4_0	1	R/W（注）	RIIC4/TXI割り込み	
12、11	—	1	—	リザーブビット （読み出すと”1” が読めます。書き込む値は”1” にしてください）	
10	RSPI	1	R/W	RSPI 割り込み	
9	—	1	—	リザーブビット （読み出すと”1” が読めます。書き込む値は”1” にしてください）	
8	IIC9_3	1	R/W	RIIC9/EEI割り込み	
7	IIC3_0	1	R/W	RIIC3/TXI割り込み	
6	—	1	—	リザーブビット （読み出すと”1” が読めます。書き込む値は”1” にしてください）	
5	IIC5_3	1	R/W（注）	RIIC5/EEI割り込み	
4	IIC5_2	1	R/W（注）	RIIC5/RXI割り込み	
3~1	—	1	—	リザーブビット （読み出すと”1” が読めます。書き込む値は”1” にしてください）	
0	IIC1_1	1	R/W（注）	RIIC1/TEI割り込み	

注．“1”を書くと対応する内部モジュール割り込みがマスク（禁止）されます。“0”を書いても変化しません。
INT2MSKCR3 レジスタの対応するビットに“1 ”を書くと“0”になります。

10.3.31 割り込みマスクレジスタ4 （INT2MSKR4）

INT2MSKR4は、読み出し／一部条件付き書き込み可能な32ビットのレジスタで、割り込み要因レジスタに表示される要因に対して、個別に割り込みマスクを設定することができます。本レジスタに1が設定された該当要因の割り込みは、CPUに通知されません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	WDT0B	WDT1B	WDT3B	GETHER0	—	—	—	—	—	—	—	—	SERMUX2	DMAE3	DMAE2	—
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W：	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	GETHER1	DMINT12	DMINT13	DMINT14	DMINT15	CRYPTO ENGINE	DMINT23	—	DMINT21	—	—	DMINT16	—	DMINT22
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W：	—	—	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	—	R/W (注)	—	—	R/W (注)	—	R/W (注)

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
31	WDT0B	1	R/W（注）	WDT0B割り込み	0：マスク設定なし 1：マスク設定あり
30	WDT1B	1	R/W（注）	WDT1B割り込み	
29	WDT3B	1	R/W（注）	WDT3B割り込み	
28	GETHER0	1	R/W（注）	GETHER0割り込み	
27 ~ 20	—	1	—	リザーブビット （読み出すと”1” が読めます。書き込む値は”1” にしてください）	
19	SERMUX2	1	R/W（注）	SERMUX2割り込み	
18	DMAE3	1	R/W（注）	DMAE3 割り込み	
17	DMAE2	1	R/W（注）	DMAE2割り込み	
16 ~14	—	1	—	リザーブビット （読み出すと”1” が読めます。書き込む値は”1” にしてください）	
13	GETHER1	1	R/W（注）	GETHER1割り込み	
12	DMINT12	1	R/W（注）	DMINT12割り込み	
11	DMINT13	1	R/W（注）	DMINT13割り込み	
10	DMINT14	1	R/W（注）	DMINT14割り込み	
9	DMINT15	1	R/W（注）	DMINT15割り込み	
8	CRYPTO ENGINE	1	R/W（注）	CRYPTO ENGINE割り込み	
7	DMINT23	1	R/W（注）	DMINT23割り込み	
6	—	1	—	リザーブビット （読み出すと”1” が読めます。書き込む値は”1” にしてください）	
5	DMINT21	1	R/W（注）	DMINT21割り込み	

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
4、3	—	1	—	リザーブビット （読み出すと”1” が読めます。書き込む値は”1” にしてください）	0：マスク設定なし 1：マスク設定あり
2	DMINT16	1	R/W（注）	DMINT16割り込み	
1	—	1	—	リザーブビット （読み出すと”1” が読めます。書き込む値は”1” にしてください）	
0	DMINT22	1	R/W（注）	DMINT22割り込み	

注．“1”を書くと対応する内部モジュール割り込みがマスク（禁止）されます。“0”を書いても変化しません。
INT2MSKCR4 レジスタの対応するビットに“1 ”を書くと“0”になります。

10.3.32 割り込みマスクレジスタ 5 （INT2MSKR5）

INT2MSKR5は、読み出し／一部条件付き書き込み可能な32ビットのレジスタで、割り込み要因レジスタに表示される要因に対して、個別に割り込みマスクを設定することができます。本レジスタに1 が設定された該当要因の割り込みは、CPUに通知されません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	WDT8B	WDT7B	WDT4B	—	DMINT20	—	—	DMINT19	DMINT18	—	SERMUX3	WDT2B	GETHER2	—	—
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W：	—	R/W（注）	R/W（注）	R/W（注）	—	R/W（注）	—	—	R/W（注）	R/W（注）	—	R/W（注）	R/W（注）	R/W（注）	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	ECD	—	WDT6B	WDT5B	—	—	—	DMINT17
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W（注）	—	R/W（注）	R/W（注）	—	—	—	R/W（注）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
31	—	1	—	リザーブビット （読み出すと”1” が読めます。書き込む値は”1” にしてください）	0：マスク設定なし 1：マスク設定あり
30	WDT8B	1	R/W（注）	WDT8B割り込み	
29	WDT7B	1	R/W（注）	WDT7B割り込み	
28	WDT4B	1	R/W（注）	WDT4B割り込み	
27	—	1	—	リザーブビット （読み出すと”1” が読めます。書き込む値は”1” にしてください）	
26	DMINT20	1	R/W（注）	DMINT20割り込み	
25、24	—	1	—	リザーブビット （読み出すと”1” が読めます。書き込む値は”1” にしてください）	
23	DMINT19	1	R/W（注）	DMINT19割り込み	
22	DMINT18	1	R/W（注）	DMINT18割り込み	

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
21	—	1	—	リザーブビット （読み出すと”1” が読めます。書き込む値は”1” にしてください）	0：マスク設定なし 1：マスク設定あり
20	SERMUX3	1	R/W（注）	SERMUX3割り込み	
19	WDT2B	1	R/W（注）	WDT2B割り込み	
18	GETHER2	1	R/W（注）	GETHER2割り込み	
17 ~ 8	—	1	—	リザーブビット （読み出すと”1” が読めます。書き込む値は”1” にしてください）	
7	ECD	1	R/W（注）	ECD割り込み	
6	—	1	—	リザーブビット （読み出すと”1” が読めます。書き込む値は”1” にしてください）	
5	WDT6B	1	R/W（注）	WDT6B割り込み	
4	WDT5B	1	R/W（注）	WDT5B割り込み	
3 ~ 1	—	1	—	リザーブビット （読み出すと”1” が読めます。書き込む値は”1” にしてください）	
0	DMINT17	1	R/W（注）	DMINT17割り込み	

注．“1”を書くと対応する内部モジュール割り込みがマスク（禁止）されます。“0”を書いても変化しません。
INT2MSKCR5レジスタの対応するビットに“1 ”を書くと“0”になります。

10.3.33 割り込みマスククリアレジスタ （INT2MSKCR）

INT2MSKCRは、書き込み専用の32ビットのレジスタで、該当する割り込みマスクレジスタに設定されたマスクをクリアします。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	DMAC 8-11	—	—	—	FRT	—	TMR45
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	W	—	—	—	W	—	W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TMR23	TMR01	—	—	—	—	—	DMAC 0-5	H-UDI	—	—	SCIF3	SCIF2	SDHI	TMU1	TMU0
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	W	W	—	—	—	—	—	W	W	—	—	W	W	W	W	W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
31 ~ 23	—	0	—	リザーブビット （書き込む値は"0" にしてください）	“1”を書くと割り込みマスクをクリア（割り込みを許可）します。“0”を書いてもビットの内容は変化しません。 読み出すと“0”が読めます。
22	DMAC8-11	0	W	DMAC チャネル8 ~11 割り込み	
21~19	—	0	—	リザーブビット （書き込む値は"0" にしてください）	
18	FRT	0	W	FRT 割り込み	
17	—	0	—	リザーブビット （書き込む値は"0" にしてください）	
16	TMR45	0	W	TMR45割り込み	
15	TMR23	0	W	TMR23割り込み	
14	TMR01	0	W	TMR01割り込み	
13 ~ 9	—	0	—	リザーブビット （書き込む値は"0" にしてください）	
8	DMAC0-5	0	W	DMAC チャネル0~5及びアドレスエラー 割り込み	
7	H-UDI	0	W	H-UDI割り込み	
6、5	—	0	—	リザーブビット （書き込む値は"0" にしてください）	
4	SCIF3	0	W	SCIF3割り込み	
3	SCIF2	0	W	SCIF2 割り込み	
2	SDHI	0	W	SDHI割り込み	
1	TMU1	0	W	TMU チャネル3~ 5割り込み	
0	TMU0	0	W	TMU チャネル0 ~ 2割り込み	

10.3.34 割り込みマスククリアレジスタ 1 （INT2MSKCR1）

INT2MSKCR1 は、書き込み専用の 32 ビットのレジスタで、該当する割り込みマスクレジスタに設定されたマスクをクリアします。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	IRQ15	IRQ14	IRQ13	IRQ12	IRQ11	IRQ10	SCIF4	ETHER	IRQ9	IRQ8	SCIF1	SCIF0	USB0	—	—	USB1
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	—	—	W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	ADC1	—	DMAC 6-7	ADC0	SPI0	SIM	—	—	ARC4	—	SPI1	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	W	—	W	W	W	W	—	—	W	—	W	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
31	IRQ15	0	W	IRQ15割り込み	“1”を書くと割り込みマスクをクリア（割り込みを許可）します。“0”を書いてもビットの内容は変化しません。 読み出すと“0”が読めます。
30	IRQ14	0	W	IRQ14割り込み	
29	IRQ13	0	W	IRQ13割り込み	
28	IRQ12	0	W	IRQ12割り込み	
27	IRQ11	0	W	IRQ11割り込み	
26	IRQ10	0	W	IRQ10割り込み	
25	SCIF4	0	W	SCIF4割り込み	
24	ETHER	0	W	ETHER割り込み	
23	IRQ9	0	W	IRQ9割り込み	
22	IRQ8	0	W	IRQ8割り込み	
21	SCIF1	0	W	SCIF1割り込み	
20	SCIF0	0	W	SCIF0割り込み	
19	USB0	0	W	USB0割り込み	
18、17	—	0	—	リザーブビット （書き込む値は"0" にしてください）	
16	USB1	0	W	USB1割り込み	
15	ADC1	0	W	ADC1割り込み	
14	—	0	—	リザーブビット （書き込む値は"0" にしてください）	
13	DMAC6-7	0	W	DMACチャネル6、7割り込み	
12	ADC0	0	W	ADC0割り込み	
11	SPI0	0	W	SPI0割り込み	
10	SIM	0	W	SIM割り込み	
9、8	—	0	—	リザーブビット （書き込む値は"0" にしてください）	
7	ARC4	0	W	ARC4割り込み	

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
6	—	0	—	リザーブビット （書き込む値は"0" にしてください）	“1”を書くと割り込みマスクをクリア（割り込みを許可）します。“0”を書いてもビットの内容は変化しません。 読み出すと“0”が読めます。
5	SPI1	0	W	SPI1割り込み	
4 ~ 0	—	0	—	リザーブビット （書き込む値は"0" にしてください）	

10.3.35 割り込みマスククリアレジスタ 2 （INT2MSKCR2）

INT2MSKCR2 は、書き込み専用の 32 ビットのレジスタで、該当する割り込みマスクレジスタに設定されたマスクをクリアします。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	IIC4_1	IIC4_2	IIC5_0	—	—	—	SGPIO	—	—	—	—	IIC9_2	IIC8_2	IIC8_1	IIC8_0	IIC7_3
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	W	W	W	—	—	—	W	—	—	—	—	W	W	W	W	W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	IIC7_2	IIC7_1	IIC6_3	IIC0_0	IIC0_1	IIC0_2	IIC0_3	IIC3_1	IIC2_3	—	IIC2_1	IIC9_1	IIC3_3	IIC1_0	—	IIC2_2
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	W	W	W	W	W	W	W	W	W	—	W	W	W	W	—	W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
31	IIC4_1	0	W	RIIC4/TEI割り込み	“1”を書くと割り込みマスクをクリア（割り込みを許可）します。“0”を書いてもビットの内容は変化しません。 読み出すと“0”が読めます。
30	IIC4_2	0	W	RIIC4/RXI割り込み	
29	IIC5_0	0	W	RIIC5/TXI割り込み	
28～26	—	0	—	リザーブビット (書き込む値は"0" にしてください)	
25	SGPIO	0	W	SGPIO 割り込み	
24 ～ 21	—	0	—	リザーブビット (書き込む値は"0" にしてください)	
20	IIC9_2	0	W	RIIC9/RXI割り込み	
19	IIC8_2	0	W	RIIC8/RXI割り込み	
18	IIC8_1	0	W	RIIC8/TEI割り込み	
17	IIC8_0	0	W	RIIC8/TXI割り込み	
16	IIC7_3	0	W	RIIC7/EEI割り込み	
15	IIC7_2	0	W	RIIC7/RXI割り込み	
14	IIC7_1	0	W	RIIC7/TEI割り込み	
13	IIC6_3	0	W	RIIC6/EEI割り込み	
12	IIC0_0	0	W	RIIC0/TXI割り込み	

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
11	IIC0_1	0	W	RIIC0/TEI割り込み	“1”を書くと割り込みマスクをクリア（割り込みを許可）します。“0”を書いてもビットの内容は変化しません。 読み出すと“0”が読めます。
10	IIC0_2	0	W	RIIC0/RXI割り込み	
9	IIC0_3	0	W	RIIC0/EEI割り込み	
8	IIC3_1	0	W	RIIC3/TEI割り込み	
7	IIC2_3	0	W	RIIC2/EEI割り込み	
6	—	0	—	リザーブビット （書き込む値は"0" にしてください）	
5	IIC2_1	0	W	RIIC2/TEI割り込み	
4	IIC9_1	0	W	RIIC9/TEI割り込み	
3	IIC3_3	0	W	RIIC3/EEI割り込み	
2	IIC1_0	0	W	RIIC1/TXI割り込み	
1	—	0	—	リザーブビット （書き込む値は"0" にしてください）	
0	IIC2_2	0	W	RIIC2/RXI割り込み	

10.3.36 割り込みマスククリアレジスタ 3 （INT2MSKCR3）

INT2MSKCR3 は、書き込み専用の 32 ビットのレジスタで、該当する割り込みマスクレジスタに設定されたマスクをクリアします。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	MMC1	IIC6_1	IIC6_0	IIC5_1	IIC3_2	IIC2_0	—	MMC2	IIC1_3	IIC1_2	IIC9_0	IIC8_3	IIC4_3	IIC7_0	—	IIC6_2
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	W	W	W	W	W	W	—	W	W	W	W	W	W	W	—	W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	IIC4_0	—	—	RSPI	—	IIC9_3	IIC3_0	—	IIC5_3	IIC5_2	—	—	—	IIC1_1
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	W	—	—	W	—	W	W	—	W	W	—	—	—	W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
31	MMC1	0	W	MMC1割り込み	“1”を書くと割り込みマスクをクリア（割り込みを許可）します。“0”を書いてもビットの内容は変化しません。 読み出すと“0”が読めます。
30	IIC6_1	0	W	RIIC6/TEI割り込み	
29	IIC6_0	0	W	RIIC6/TXI割り込み	
28	IIC5_1	0	W	RIIC5/TEI割り込み	
27	IIC3_2	0	W	RIIC3/RXI割り込み	
26	IIC2_0	0	W	RIIC2/TXI割り込み	
25	—	0	—	リザーブビット （書き込む値は"0" にしてください）	
24	MMC2	0	W	MMC2割り込み	

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
23	IIC1_3	0	W	RIIC1/EEI割り込み	“1”を書くと割り込みマスクをクリア（割り込みを許可）します。“0”を書いてもビットの内容は変化しません。 読み出すと“0”が読めます。
22	IIC1_2	0	W	RIIC1/RXI割り込み	
21	IIC9_0	0	W	RIIC9/TXI割り込み	
20	IIC8_3	0	W	RIIC8/EEI割り込み	
19	IIC4_3	0	W	RIIC4/EEI割り込み	
18	IIC7_0	0	W	RIIC7/TXI割り込み	
17	—	0	—	リザーブビット （書き込む値は"0" にしてください）	
16	IIC6_2	0	W	RIIC6/RXI割り込み	
15、14	—	0	—	リザーブビット （書き込む値は"0" にしてください）	
13	IIC4_0	0	W	RIIC4/TXI割り込み	
12、11	—	0	—	リザーブビット （書き込む値は"0" にしてください）	
10	RSPI	0	W	RSPI割り込み	
9	—	0	—	リザーブビット （書き込む値は"0" にしてください）	
8	IIC9_3	0	W	RIIC9/EEI割り込み	
7	IIC3_0	0	W	RIIC3/TXI割り込み	
6	—	0	—	リザーブビット （書き込む値は"0" にしてください）	
5	IIC5_3	0	W	RIIC5/EEI割り込み	
4	IIC5_2	0	W	IIC5/RXI割り込み	
3～1	—	0	—	リザーブビット （書き込む値は"0" にしてください）	
0	IIC1_1	0	W	RIIC1/TEI割り込み	

10.3.37 割り込みマスククリアレジスタ 4 （INT2MSKCR4）

INT2MSKCR4 は、書き込み専用の 32 ビットのレジスタで、該当する割り込みマスクレジスタに設定されたマスクをクリアします。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	WDT0B	WDT1B	WDT3B	GETHER0	—	—	—	—	—	—	—	—	SERMUX2	DMAE3	DMAE2	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	W	W	W	W	—	—	—	—	—	—	—	—	W	W	W	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	GETHER1	DMINT12	DMINT13	DMINT14	DMINT15	CRYPTO ENGINE	DMINT23	—	DMINT21	—	—	DMINT16	—	DMINT22
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	W	W	W	W	W	W	W	—	W	—	—	W	—	W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
31	WDT0B	0	W	WDT0B割り込み	“1”を書くと割り込みマスクをクリア（割り込みを許可）します。“0”を書いてもビットの内容は変化しません。 読み出すと“0”が読めます。
30	WDT1B	0	W	WDT1B割り込み	
29	WDT3B	0	W	WDT3B割り込み	
28	GETHER0	0	W	GETHER0割り込み	
27～20	—	0	—	リザーブビット （書き込む値は"0" にしてください）	
19	SERMUX2	0	W	SERMUX2割り込み	
18	DMAE3	0	W	DMAE3割り込み	
17	DMAE2	0	W	DMAE2割り込み	
16～14	—	0	—	リザーブビット （書き込む値は"0" にしてください）	
13	GETHER1	0	W	GETHER1割り込み	
12	DMINT12	0	W	DMINT12割り込み	
11	DMINT13	0	W	DMINT13割り込み	
10	DMINT14	0	W	DMINT14割り込み	
9	DMINT15	0	W	DMINT15割り込み	
8	CRYPTO ENGINE	0	W	CRYPTO ENGINE割り込み	
7	DMINT23	0	W	DMINT23割り込み	
6	—	0	—	リザーブビット （書き込む値は"0" にしてください）	
5	DMINT21	0	0	DMINT21割り込み	
4、3	—	0	—	リザーブビット （書き込む値は"0" にしてください）	
2	DMINT16	0	0	DMINT16割り込み	
1	—	0	—	リザーブビット （書き込む値は"0" にしてください）	
0	DMINT22	0	0	DMINT22割り込み	

10.3.38 割り込みマスククリアレジスタ 5 （INT2MSKCR5）

INT2MSKCR5 は、書き込み専用の 32 ビットのレジスタで、該当する割り込みマスクレジスタに設定されたマスクをクリアします。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	WDT8B	WDT7B	WDT4B	—	DMINT20	—	—	DMINT19	DMINT18	—	SERMUX3	WDT2B	GETHER2	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	W	W	W	—	W	—	—	W	W	—	W	W	W	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	ECD	—	WDT6B	WDT5B	—	—	—	DMINT17
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	W	—	W	W	—	—	—	W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明	内容
31	—	0	—	リザーブビット （書き込む値は"0" にしてください）	“1”を書くと割り込みマスクをクリア（割り込みを許可）します。“0”を書いてもビットの内容は変化しません。 読み出すと“0”が読めます。
30	WDT8B	0	W	WDT8B 割り込み	
29	WDT7B	0	W	WDT7B 割り込み	
28	WDT4B	0	W	WDT4B 割り込み	
27	—	0	—	リザーブビット （書き込む値は"0" にしてください）	
26	DMINT20	0	W	DMINT20 割り込み	
25、24	—	0	—	リザーブビット （書き込む値は"0" にしてください）	
23	DMINT19	0	W	DMINT19 割り込み	
22	DMINT18	0	W	DMINT18 割り込み	
21	—	0	—	リザーブビット （書き込む値は"0" にしてください）	
20	SERMUX3	0	W	SERMUC3 割り込み	
19	WDT2B	0	W	WDT2B 割り込み	
18	GETHER2	0	W	GETHER2 割り込み	
17 ～ 8	—	0	—	リザーブビット （書き込む値は"0" にしてください）	
7	ECD	0	W	ECD割り込み	
6	—	0	—	リザーブビット （書き込む値は"0" にしてください）	
5	WDT6B	0	W	WDT6B 割り込み	
4	WDT5B	0	W	WDT5B 割り込み	
3 ～ 1	—	0	—	リザーブビット （書き込む値は"0" にしてください）	
0	DMINT17	0	W	DMINT17 割り込み	

10.3.39 内部モジュール別割り込み要因レジスタ（INT2B0 ～ INT2B3、INT2B6、INT2B9 ～ INT2B11）

INT2B0～INT2B3、INT2B6、INT2B9～INT2B11は、読み出し専用の32ビットのレジスタで、割り込み要因レジスタで表示されているモジュール別の要因に対して、更に詳細の個別要因を表示するレジスタです。これらのレジスタは、割り込みマスク設定レジスタのマスク状態に影響を受けません。これら個々の詳細要因に対して個別にマスク設定を行う場合は、該当モジュールの割り込みマスクレジスタ、又は割り込みイネーブルレジスタなどを設定する必要があります。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(1) INT2B0 レジスタ：TMU モジュールの割り込み詳細要因

モジュール	ビット	要因		説明
TMU	31 ～7	—	リザーブビット （読み出すと”0” が読み出されます）	0：割り込みなし 1：割り込み発生（注）
	6	TUNI5	TMUチャネル5アンダフロー割り込み	
	5	TUNI4	TMUチャネル4アンダフロー割り込み	
	4	TUNI3	TMUチャネル3アンダフロー割り込み	
	3	TICPI2	TMUチャネル2インプットキャプチャ割り込み	
	2	TUNI2	TMUチャネル2アンダフロー割り込み	
	1	TUNI1	TMUチャネル1アンダフロー割り込み	
	0	TUNI0	TMUチャネル 0アンダフロー割り込み	

注.　割り込みマスクレジスタでTMU割り込みのマスク設定をしている場合でも、各詳細要因の割り込みが発生すると、対応するビットが“1”になります（割り込み要求は受け付けられません）。

(2) INT2B1 レジスタ：SDHI モジュールの割り込み詳細要因

モジュール	ビット	要因		説明
SDHI	31～3	—	リザーブビット （読み出すと”0” が読み出されます）	0：割り込みなし 1：割り込み発生（注）
	2	SDHI1	SDIO アクセス割り込み	
	1	SDHI0	カードアクセス割り込み	
	0	SDHI3	カード検出割り込み	

注.　割り込みマスクレジスタでSDHI割り込みのマスク設定をしている場合でも、各詳細要因の割り込みが発生すると、対応するビットが“1”になります（割り込み要求は受け付けられません）。

(3) INT2B2 レジスタ：SCIF3、2 モジュールの割り込み詳細要因

モジュール	ビット	要因		説明
SCIF3	31～8	—	リザーブビット （読み出すと”0” が読み出されます）	0：割り込みなし 1：割り込み発生（注）
	7	TXI3	SCIF チャネル3 送信FIFO データエンプティ割り込み	
	6	BRI3	SCIFチャネル3ブレーク又はオーバランエラー割り込み	
	5	RXI3	SCIFチャネル3 受信FIFO データフル又は受信データレディ割り込み	
	4	ERRI3	SCIFチャネル3 受信エラー割り込み	
SCIF2	3	TXI2	SCIFチャネル2 送信FIFO データエンプティ割り込み	
	2	BRI2	SCIFチャネル2ブレーク又はオーバランエラー割り込み	
	1	RXI2	SCIFチャネル2 受信FIFO データフル又は受信データレディ割り込み	
	0	ERRI2	SCIFチャネル2 受信エラー割り込み	

注. 割り込みマスクレジスタでSCIF3、SCIF2割り込みのマスク設定をしている場合でも、各詳細要因の割り込みが発生すると、対応するビットが“1”になります（割り込み要求は受け付けられません）。

(4) INT2B3 レジスタ：DMAC モジュールの割り込み詳細要因

モジュール	ビット	要因		説明
DMAC（チャネル0～11）	31 ～14	—	リザーブビット（読み出すと”0” が読み出されます）	0：割り込みなし 1：割り込み発生（注）
	13	DMAE1	チャネルDMA6～11 アドレスエラー割り込み	
	12	DMAE0	チャネルDMA0～ 5アドレスエラー割り込み	
	11	DMINT11	チャネル 11 DMA転送終了／ハーフエンド割り込み	
	10	DMINT10	チャネル10 DMA転送終了／ハーフエンド割り込み	
	9	DMINT9	チャネル9 DMA転送終了／ハーフエンド割り込み	
	8	DMINT8	チャネル8 DMA転送終了／ハーフエンド割り込み	
	7	DMINT7	チャネル 7 DMA転送終了／ハーフエンド割り込み	
	6	DMINT6	チャネル6 DMA転送終了／ハーフエンド割り込み	
	5	DMINT5	チャネル 5 DMA転送終了／ハーフエンド割り込み	
	4	DMINT4	チャネル 4 DMA転送終了／ハーフエンド割り込み	
	3	DMINT3	チャネル3 DMA転送終了／ハーフエンド割り込み	
	2	DMINT2	チャネル 2 DMA転送終了／ハーフエンド割り込み	
	1	DMINT1	チャネル1 DMA転送終了／ハーフエンド割り込み	
	0	DMINT0	チャネル 0 DMA転送終了／ハーフエンド割り込み	

注. 割り込みマスクレジスタでDMAC0～11割り込みのマスク設定をしている場合でも、各詳細要因の割り込みが発生すると、対応するビットが“1”になります（割り込み要求は受け付けられません）。

(5) INT2B6 レジスタ：SCIF4 モジュールの割り込み詳細要因

モジュール	ビット	要因		説明
SCIF4	31 ～ 4	—	リザーブビット (読み出すと”0” が読み出されます)	0：割り込みなし 1：割り込み発生
	3	TXI4	SCIF チャネル 4 送信 FIFO データエンプティ割り込み	
	2	BRI4	SCIF チャネル4 ブレーク又はオーバランエラー割り込み	
	1	RXI4	SCIF チャネル4 受信FIFO データフル又は受信データレディ割り込み	
	0	ERRI4	SCIF チャネル4 受信エラー割り込み	

注. 割り込みマスクレジスタでSCIF4割り込みのマスク設定をしている場合でも、各詳細要因の割り込みが発生すると、対応するビットが“1”になります（割り込み要求は受け付けられません）。

(6) INT2B9 レジスタ：USB1 モジュールの割り込み詳細要因

モジュール	ビット	要因		説明
USB1	31 ～ 1	—	リザーブビット (読み出すと”0” が読み出されます)	0：割り込みなし 1：割り込み発生（注）
	0	USB1INT0	USB1INT0 割り込み	

注. 割り込みマスクレジスタでUSB1割り込みのマスク設定をしている場合でも、各詳細要因の割り込みが発生すると、対応するビットが“1”になります（割り込み要求は受け付けられません）。

(7) INT2B10 レジスタ：ETHERモジュールの割り込み詳細要因

モジュール	ビット	要因		説明
ETHER	31～2	—	リザーブビット (読み出すと”0” が読み出されます)	0：割り込みなし 1：割り込み発生（注）
	1	EINT1	EINT1割り込み	
	0	EINT0	EINT0割り込み	

注. 割り込みマスクレジスタでETHER割り込みのマスク設定をしている場合でも、各詳細要因の割り込みが発生すると、対応するビットが“1”になります（割り込み要求は受け付けられません）。

(8)　INT2B11 レジスタ：SIM モジュールの割り込み詳細要因

モジュール	ビット	要因		説明
SIM	31~ 4	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます）	0：割り込みなし 1：割り込み発生（注）
	3	TEND	送信完了割り込み	
	2	TXI	送信データエンプティ割り込み	
	1	RXI	受信データフル割り込み	
	0	ERI	送受信エラー割り込み	

注.　割り込みマスクレジスタでSIM割り込みのマスク設定をしている場合でも、各詳細要因の割り込みが発生すると、対応するビットが“1”になります（割り込み要求は受け付けられません）。

10.4　割り込み要因

割り込み要因は、NMI、IRQ、IRL、内部モジュールの4つに分類されます。各割り込みは、個別にレベル16（最高）からレベル1（最低）の割り込み優先レベルを設定できます。レベル0を設定すると、その割り込みはマスクされ、割り込み要求は無視されます。

10.4.1　NMI割り込み

NMI割り込みは、レベル16の最優先の割り込みです。CPU内のSRレジスタのBLビット＝1でないかぎり、いつでも受け付けられます。ただし、スリープモード中はBLビットが1でも受け付けられます。また、設定によりBLビットが1でもNMIを受け付けることができます。

NMI端子からの入力はエッジで検出されます。検出エッジはNMIエッジセレクトビット（NMIE）（ICR0レジスタのビット24）の設定によって、立ち上がりエッジ又は立ち下がりエッジを選択できます。ICR0レジスタのNMIEビットを書き換えた場合、書き換えてから最大6バスクロックの期間はNMI割り込みを検出しません。

NMI割り込みが受け付けられてもSRの割り込みマスクレベル（IMASKビット）は変化しません。

10.4.2　IRQ0～7割り込み

IRQ0～7割り込みは、ICR0レジスタのIRLM0、IRLM1ビットに1を設定した場合に有効になります。ICR1レジスタのIRQnS1、IRQnS0（n＝7～0）ビットの設定により、立ち下がりエッジ、立ち上がりエッジ、Lレベル、Hレベルの検出が可能です。また、割り込み優先レベルは、割り込み優先順位設定レジスタ（INTPRI）により設定できます。

IRQ0～7割り込み要求をLレベル又はHレベルで検出する場合、割り込みを受け付けて割り込み処理を開始するまで、IRQ0～7割り込みの端子状態を保持してください。

ただし、IRQ0～7割り込み要求の検出後、CPUが受け付ける前にIRQ0～7割り込みの端子状態を変更して要求を取り下げても、CPUがIRQ0～7割り込みを含む何らかの割り込みを受け付けるか、該当する割り込みマスクビットを“1”にするまで、INTREQレジスタで要因を保持します。割り込み処理ルーチンでIRQ0～7割り込みの端子レベルを無効にした後、INTREQレジスタで保持している要因を0にしてください。割り込み要求クリア方法の詳細は「10.7.3　IRL割り込み要求及びIRQ 0～7割り込み要求のクリア方法」を参照してください。

INTMUビット（CPUOPMレジスタのビット3）が1の場合は、SRの割り込みマスクレベル（IMASKビット）は、受け付けられた割り込みレベルに自動的に設定されます。INTMUビットが0の場合は、割り込みが受け付けられても、IMASKビットは変化しません。

なお、IRQ8～15は内部モジュール割り込みに分類されます（「10.4.4　内部モジュール割り込み（IRQ8～15を含む）」参照）。

10.4.3　IRL割り込み

IRL割り込みは、IRQ3/$\overline{\text{IRL3}}$～IRQ0/$\overline{\text{IRL0}}$又はIRQ7/$\overline{\text{IRL7}}$～IRQ4/$\overline{\text{IRL4}}$の各4端子の入力レベルによって優先レベルが決まる割り込みです。4端子が全てLレベルのとき、最も高い割り込み要求（割り込み優先レベル15）、全てHレベルのとき、割り込み要求なし（割り込み優先レベル0）となります。

図10.2にIRL割り込みの接続例を、表10.5にIRL割り込み端子と割り込み優先レベルの対応を示します。

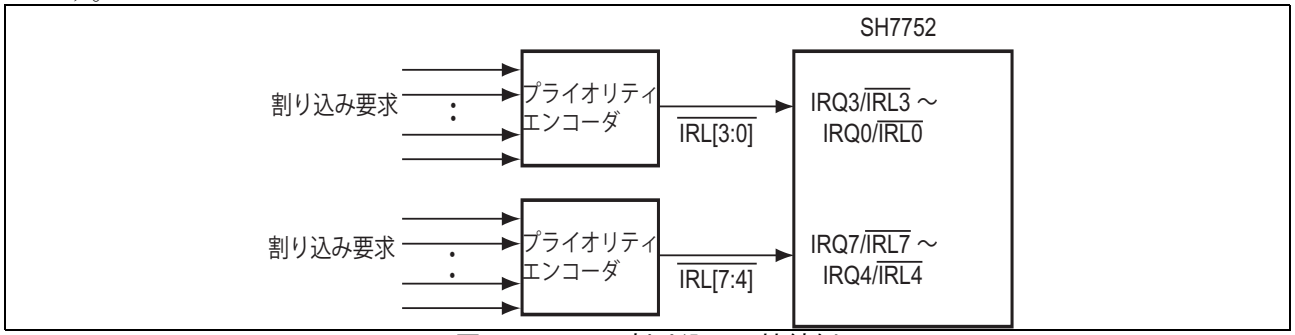


図 10.2　IRL 割り込みの接続例

表10.5　IRL割り込み端子（$\overline{\text{IRL7}}$ ～$\overline{\text{IRL4}}$ 又は $\overline{\text{IRL3}}$ ～ $\overline{\text{IRL0}}$）と割り込み優先レベル

IRL3 又は IRL7	IRL2 又は IRL6	IRL1 又は IRL5	IRL0 又は IRL4	割り込み優先レベル	割り込み要求
L	L	L	L	15	レベル15割り込み要求
L	L	L	H	14	レベル 14割り込み要求
L	L	H	L	13	レベル 13割り込み要求
L	L	H	H	12	レベル 12割り込み要求
L	H	L	L	11	レベル 11割り込み要求
L	H	L	H	10	レベル 10割り込み要求
L	H	H	L	9	レベル 9割り込み要求
L	H	H	H	8	レベル 8割り込み要求
H	L	L	L	7	レベル 7割り込み要求
H	L	L	H	6	レベル 6割り込み要求
H	L	H	L	5	レベル 5割り込み要求
H	L	H	H	4	レベル 4割り込み要求
H	H	L	L	3	レベル 3割り込み要求
H	H	L	H	2	レベル 2割り込み要求
H	H	H	L	1	レベル 1割り込み要求
H	H	H	H	0	割り込み要求なし

IRL 割り込みの検出回路には、ノイズキャンセル機構が内蔵されており、バスクロックごとにサンプリングしたレベルが 4 サイクル続けて同一の値になったとき、初めて IRL 割り込みを検出します。これにより、IRL 割り込み端子の変化時の誤ったレベルを取り込むことを防止できます。

IRL 割り込みの優先レベルは、割り込みを受け付けて割り込み処理を開始するまで、そのレベルを保持してください。より高い優先レベルに変化させることは構いません。

ただし、IRL 割り込み要求の検出後、CPU が受け付ける前に IRL 割り込みの端子状態を変更して要求を取り下げても、CPU が IRL 割り込みを含む何らかの割り込みを受け付けるか、該当する割り込みマスクビットを“1”にするまで INTREQ レジスタで要因を保持します。割り込み処理ルーチンで IRL 割り込み要因をクリアした後、IRL 割り込みをマスクして INTC 内部で保持している要因をクリアしてください。

クリア方法の詳細は「10.7.3　IRL 割り込み要求及び IRQ 0 ～ 7 割り込み要求のクリア方法」を参照してください。

IRL 割り込みが受け付けられても、IMASK ビットは変化しません。

10.4.4　内部モジュール割り込み（IRQ8～15を含む）

内部モジュール割り込みは、内部モジュールで発生する割り込みです。

要因ごとに異なる割り込みベクタは割り当てられてはいませんが、要因は割り込み事象レジスタ（INTEVT）に反映されますので、例外処理ルーチン中でINTEVT の値をオフセットとして分岐することによって、容易に要因が判定できます。

優先順位は、INT2PRI0 ～ INT2PRI47 によって、モジュールごとに優先レベル 31 ～ 0 の範囲で設定できます。ただし、CPU に通知する時には、最下位1 ビットを切り捨てた4 ビットに変換します。詳細は、「10.4.5　内部モジュール割り込み優先レベル」を参照してください。

内部モジュール割り込みが受け付けられても、IMASK ビットは変化しません。

内部モジュールの割り込み要因フラグ及び割り込み許可フラグの更新は、SR レジスタのBL ビットが1 のときに行ってください。なお、更新したはずの割り込み要因による誤った割り込みの受け付けを避けるために、いったん該当フラグを含む内部モジュールのレジスタを読み出してからBL ビットを0、又は対応する割り込みマスククリアビットを1 にしてください。これにより、内部的に必要なタイミングが確保されます。複数のフラグを更新する場合は、最後のフラグを更新した後で、そのフラグを含むレジスタを読み出すだけで問題ありません。

BL ビットが0 のときにフラグの更新を行うと、INTEVT の値が0 で割り込み処理ルーチンにジャンプする場合があります。この場合は、RTE 命令を実行してください。

10.4.5　内部モジュール割り込み優先レベル

内部モジュール割り込み要求発生時、INTC は要因固有の識別として割り込み例外コード（INTEVT コード）をCPU へ出力します。

CPU は割り込み要求を受け付けるとINTEVT レジスタに該当する例外コードを表示します。割り込み処理ルーチンでCPU のINTEVT レジスタを読むことにより、INTC の割り込み要因レジスタを読み込まなくても割り込み要因を知ることができます。内部モジュール割り込み要因と例外コードの対応は、表10.1 を参照してください。

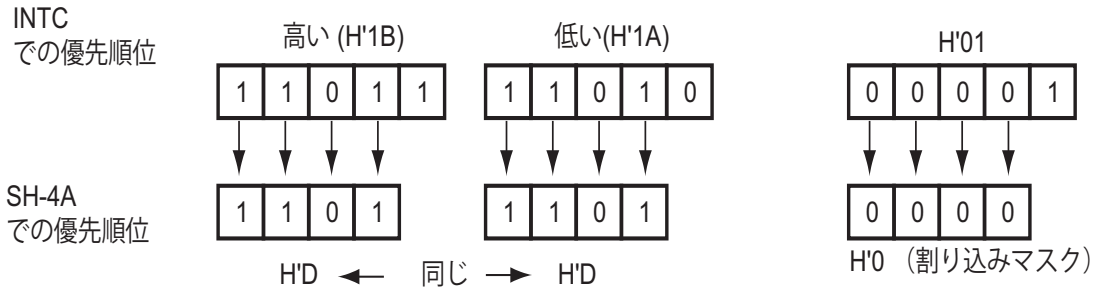
また、内部モジュール割り込みでは、「10.3.14　内部モジュール割り込み優先順位設定レジスタ（INT2PRI0 ～ INT2PRI47）」に示すように、個々の割り込み優先レベルを5 ビット（30 レベル）で設定します。

一方、CPU の割り込みレベル受信インタフェースは4 ビット（15 レベル：H'0 は割り込み要求をマスク）のため、内部モジュール割り込みについては5 ビット（30 レベル）で優先レベルを比較し、最高レベルの割り込み要因を選択した後、最下位1 ビットを切り捨てた4 ビットの優先レベルに変換してCPU に通知します（図10.3 参照）。例えば、優先レベルH'1A と優先レベルH'1B を設定した2 つの割り込み要因は、どちらもCPU に出力する優先レベル（4 ビット）ではH'D となりますが、CPU に通知される例外コードは、優先レベルH'1B の割り込みに該当するコードとなります。

なお、複数の割り込み要因について同じ優先レベルを設定した場合は、表10.1 に示す優先順位で例外コードが通知されます。

SH-4AにとってH'Dレベルの内部モジュール割り込みを、INTC内部では優先レベルH'1A とH'1Bの割り込み要求に分けることができます。

優先レベルH'01は、要求マスクと同じです。



内部モジュール割り込み要求が同時に発生した場合は、優先レベルがH'1Bの割り込み要求を優先します。しかし外部割込み要求と同時に発生した場合、外部割込み要求が優先されるケースがあります。

- NMI 割り込み要求が発生
- 優先レベルが同じかそれ以上のIRQ 、IRL割り込み要求が発生（図の例ではH'D以上）

優先レベルH'01は、最下位1ビットを切り捨てるとH'0になるので、割り込み要求が発生してもSH-4Aに通知されません。割り込み優先順位設定レジスタにはH'02～H'1Fまでの値（30レベル）を設定してください。

図 10.3　内部モジュール割り込みの優先レベルについて

10.4.6　割り込み例外処理と優先順位

割り込み要因と割り込み事象レジスタ（INTEVT）のコード、割り込み優先順位を表10.7 に示します。

各割り込み要因は、それぞれ異なるINTEVT のコードが割り当てられます。例外処理ルーチンの先頭アドレスは、各割り込み要因で共通です。このため、割り込み要因を識別するために、例外処理ルーチンの先頭で、INTEVT の値を使って分岐させます。たとえばINTEVT の値をオフセットにして分岐させます。

内部モジュールの優先順位は、INT2PRI0 ～ INT2PRI47 によって、優先レベル31 ～ 2 の範囲で任意に設定できます（優先レベル0及び1は割り込みマスク（割り込み禁止）となります）。

複数の割り込み要因の優先順位を同じレベルに設定した場合、それらの割り込みが同時に発生したときは、表10.7 に示すデフォルト優先順位に従って処理されます。

INTPRI、INT2PRI0～INT2PRI47 の更新は、SR レジスタ のBL ビットが1 のときに行ってください。なお、誤った割り込みの受け付けを避けるために、いったんいずれかの割り込み優先レベル設定レジスタを読み出してからBL ビットを0 にしてください。これにより内部的に必要なタイミングが確保されます。

表10.6　割り込み例外処理要因と優先順位

割り込み要因		INTEVT（例外コード）	割り込み優先順位	マスクレジスタ マスククリアレジスタ	割り込み要因レジスタ	内部モジュール割り込み要因レジスタ	要因内での優先順位	デフォルト優先順位
NMI	—	H'1C0	16	—	—	—	—	高
IRL（表10.5参照）	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = LLLL (H'0)	H'200	15	INTMSK2[15] INTMSKCLR2[15]	—	—	—	
	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = LLLL (H'0)			INTMSK2[31] INTMSKCLR2[31]	—	—		
	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = LLLH (H'1)	H'220	14	INTMSK2[14] INTMSKCLR2[14]	—	—	—	
	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = LLLH (H'1)			INTMSK2[30] INTMSKCLR2[30]	—	—		
	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = LLHL (H'2)	H'240	13	INTMSK2[13] INTMSKCLR2[13]	—	—	—	
	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = LLHL (H'2)			INTMSK2[29] INTMSKCLR2[29]	—	—		
	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = LLHH (H'3)	H'260	12	INTMSK2[12] INTMSKCLR2[12]	—	—	—	
	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = LLHH (H'3)			INTMSK2[28] INTMSKCLR2[28]	—	—		
	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = LHLL (H'4)	H'280	11	INTMSK2[11] INTMSKCLR2[11]	—	—	—	
	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = LHLL (H'4)			INTMSK2[27] INTMSKCLR2[27]	—	—		
	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = LHLH (H'5)	H'2A0	10	INTMSK2[10] INTMSKCLR2[10]	—	—	—	
	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = LHLH (H'5)			INTMSK2[26] INTMSKCLR2[26]	—	—		
	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = LHHL (H'6)	H'2C0	9	INTMSK2[9] INTMSKCLR2[9]	—	—	—	
	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = LHHL (H'6)			INTMSK2[25] INTMSKCLR2[25]	—	—		
	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = LHHH (H'7)	H'2E0	8	INTMSK2[8] INTMSKCLR2[8]	—	—	—	
	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = LHHH (H'7)			INTMSK2[24] INTMSKCLR2[24]	—	—		
	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = HLLL (H'8)	H'300	7	INTMSK2[7] INTMSKCLR2[7]	—	—	—	
	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = HLLL (H'8)			INTMSK2[23] INTMSKCLR2[23]	—	—		
	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = HLLH (H'9)	H'320	6	INTMSK2[6] INTMSKCLR2[6]	—	—	—	
	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = HLLH (H'9)			INTMSK2[22] INTMSKCLR2[22]	—	—		
	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = HLHL (H'A)	H'340	5	INTMSK2[5] INTMSKCLR2[5]	—	—	—	
	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = HLHL (H'A)			INTMSK2[21] INTMSKCLR2[21]	—	—		低

割り込み要因		INTEVT（例外コード）	割り込み優先順位	マスクレジスタ マスククリアレジスタ	割り込み要因レジスタ	内部モジュール割り込み要因レジスタ	要因内での優先順位	デフォルト優先順位
IRL（表10.5参照）	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = HLHH (H'B)	H'360	4	INTMSK2[4] INTMSKCLR2[4]	—	—	—	高
	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = HLHH (H'B)			INTMSK2[20] INTMSKCLR2[20]	—	—		
	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = HHLL (H'C)	H'380	3	INTMSK2[3] INTMSKCLR2[3]	—	—	—	
	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = HHLL (H'C)			INTMSK2[19] INTMSKCLR2[19]	—	—		
	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = HHLH (H'D)	H'3A0	2	INTMSK2[2] INTMSKCLR2[2]	—	—	—	
	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = HHLH (H'D)			INTMSK2[18] INTMSKCLR2[18]	—	—		
	$\overline{\text{IRL}}$[7:4] = HHHL (H'E)	H'3C0	1	INTMSK2[1] INTMSKCLR2[1]	—	—	—	
	$\overline{\text{IRL}}$[3:0] = HHHL (H'E)			INTMSK2[17] INTMSKCLR2[17]	—	—		
IRQ0～IRQ7	IRQ[0]	H'200	INTPRI [31:28]	INTMSK0[31] INTMSKCLR0 [31]	INTREQ[31]	—	高	
	IRQ[1]	H'240	INTPRI [27:24]	INTMSK0[30] INTMSKCLR0 [30]	INTREQ[30]	—		
	IRQ[2]	H'280	INTPRI [23:20]	INTMSK0[29] INTMSKCLR0 [29]	INTREQ[29]	—		
	IRQ[3]	H'2C0	INTPRI [19:16]	INTMSK0[28] INTMSKCLR0 [28]	INTREQ[28]	—		
	IRQ[4]	H'300	INTPRI [15:12]	INTMSK0[27] INTMSKCLR0 [27]	INTREQ[27]	—		
	IRQ[5]	H'340	INTPRI [11:8]	INTMSK0[26] INTMSKCLR0 [26]	INTREQ[26]	—		
	IRQ[6]	H'380	INTPRI [7:4]	INTMSK0[25] INTMSKCLR0 [25]	INTREQ[25]	—		
	IRQ[7]	H'3C0	INTPRI [3:0]	INTMSK0[24] INTMSKCLR0 [24]	INTREQ[24]	—	低	
SDHI	SDHI3	H'480	INT2PRI1 [4:0]	INT2MSKR[2] INT2MSKCR[2]	INT2A0[2] INT2A1[2]	INT2B1[0]	高	
	SDHI0	H'4A0				INT2B1[1]		
	SDHI1	H'4C0				INT2B1[2]	低	
IRQ8	IRQ8	H'500	INT2PRI2 [4:0]	INT2MSKR1[22] INT2MSKCR1[22]	INT2A01[22] INT2A11[22]	—	—	
IRQ9	IRQ9	H'520	INT2PRI3 [28:24]	INT2MSKR1[23] INT2MSKCR1[23]	INT2A01[23] INT2A11[23]	—	—	
IRQ10	IRQ10	H'540	INT2PRI4 [28:24]	INT2MSKR1[26] INT2MSKCR1[26]	INT2A01[26] INT2A11[26]	—	—	
TMU0	TUNI0（注）	H'580	INT2PRI0 [28:24]	INT2MSKR[0] INT2MSKCR[0]	INT2A0[0] INT2A1[0]	INT2B0[0]	—	
TMU1	TUNI1（注）	H'5A0	INT2PRI0 [20:16]			INT2B0[1]	—	
TMU2	TUNI2（注）	H'5C0	INT2PRI0 [12:8]	INT2MSKR[0] INT2MSKCR[0]	INT2A0[0] INT2A1[0]	INT2B0[2]	—	
	TICPI2（注）	H'5E0	INT2PRI0 [4:0]			INT2B0[3]	—	低

割り込み要因		INTEVT（例外コード）	割り込み優先順位	マスクレジスタ マスククリアレジスタ	割り込み要因レジスタ	内部モジュール割り込み要因レジスタ	要因内での優先順位	デフォルト優先順位
H-UDI	H-UDI	H'600	INT2PRI3 [28:24]	INT2MSKR[7] INT2MSKCR[7]	INT2A0[7] INT2A1[7]	—	—	高
ARC4	ARC4I	H'620	INT2PRI9 [28:24]	INT2MSKR1[7] INT2MSKCR1[7]	INT2A01 [7] INT2A11 [7]	—	—	
DMAC0-11	DMINT0（注）	H'640	INT2PRI3 [20:16]	INT2MSKR[8] INT2MSKCR[8]	INT2A0[8] INT2A1[8]	INT2B3[0]	高	
	DMINT1（注）	H'660				INT2B3[1]		
	DMINT2（注）	H'680				INT2B3[2]		
	DMINT3（注）	H'6A0				INT2B3[3]		
	DMAE (ch0 ～ 5)（注）	H'6C0				INT2B3[12]		
	DMAE (ch6 ～ 11)（注）					INT2B3[13]	低	
IRQ11	IRQ11	H'6E0	INT2PRI7 [12:8]	INT2MSKR1[27] INT2MSKCR1[27]	INT2A01[27] INT2A11[27]	—	—	
SCIF2	ERI2（注）	H'700	INT2PRI2 [28:24]	INT2MSKR[3] INT2MSKCR[3]	INT2A0[3] INT2A1[3]	INT2B2[0]	高	
	RXI2（注）	H'720				INT2B2[1]		
	BRI2（注）	H'740				INT2B2[2]		
	TXI2（注）	H'760				INT2B2[3]	低	
DMAC4-5	DMINT4（注）	H'780	INT2PRI3 [20:16]	INT2MSKR[8] INT2MSKCR[8]	INT2A0[8] INT2A1[8]	INT2B3[4]	高	
	DMINT5（注）	H'7A0				INT2B3[5]	低	
DMAC6-7	DMINT6（注）	H'7C0	INT2PRI11 [12:8]	INT2MSKR1[13] INT2MSKCR1[13]	INT2A01[13] INT2A11[13]	INT2B3[6]	高	
	DMINT7（注）	H'7E0				INT2B3[7]	低	
USB0	USB0INT0	H'840	INT2PRI12 [28:24]	INT2MSKR1[19] INT2MSKCR1[19]	INT2A01[19] INT2A11[19]	—	—	
IRQ12	IRQ12	H'880	INT2PRI7 [4:0]	INT2MSKR1[28] INT2MSKCR1[28]	INT2A01[28] INT2A11[28]	—	—	
SPI1	SPI1I	H'8C0	INT2PRI9 [12:8]	INT2MSKR1[5] INT2MSKCR1[5]	INT2A01 [5] INT2A11 [5]	—	—	
IRQ13	IRQ13	H'8E0	INT2PRI11 [20:16]	INT2MSKR1[29] INT2MSKCR1[29]	INT2A01[29] INT2A11[29]	—	—	
IRQ14	IRQ14	H'900	INT2PRI11 [4:0]	INT2MSKR1[30] INT2MSKCR1[30]	INT2A01[30] INT2A11[30]	—	—	
USB1	USB1INT0	H'920	INT2PRI12 [4:0]	INT2MSKR1[16] INT2MSKCR1[16]	INT2A01[16] INT2A11[16]	INT2B9[0]	—	
TMR01	TMR01I	H'A00	INT2PRI4 [12:8]	INT2MSKR[14] INT2MSKCR[14]	INT2A0[14] INT2A1[14]	—	—	
TMR23	TMR23I	H'A20	INT2PRI4 [4:0]	INT2MSKR[15] INT2MSKCR[15]	INT2A0[15] INT2A1[15]	—	—	
TMR45	TMR45I	H'A40	INT2PRI5 [28:24]	INT2MSKR[16] INT2MSKCR[16]	INT2A0[16] INT2A1[16]	—	—	
FRT	FRTI	H'A80	INT2PRI5 [12:8]	INT2MSKR[18] INT2MSKCR[18]	INT2A0[18] INT2A1[18]	—	—	
SCIF0	FINT0	H'B40	INT2PRI13 [4:0]	INT2MSKR1[20] INT2MSKCR1[20]	INT2A01[20] INT2A11[20]	—	—	低

割り込み要因		INTEVT（例外コード）	割り込み優先順位	マスクレジスタ マスククリアレジスタ	割り込み要因レジスタ	内部モジュール割り込み要因レジスタ	要因内での優先順位	デフォルト優先順位
SCIF1	FINT1	H'B60	INT2PRI13 [12:8]	INT2MSKR1[21] INT2MSKCR1[21]	INT2A01[21] INT2A11[21]	—	—	高
SCIF3	ERI3（注）	H'B80	INT2PRI2 [20:16]	INT2MSKR[4] INT2MSKCR[4]	INT2A0[4] INT2A1[4]	INT2B2[4]	高	
	RXI3（注）	H'BA0				INT2B2[5]		
	BRI3（注）	H'BC0				INT2B2[6]		
	TXI3（注）	H'BE0				INT2B2[7]	低	
IRQ15	IRQ15	H'C60	INT2PRI12 [12:8]	INT2MSKR1[31] INT2MSKCR1[31]	INT2A01[31] INT2A11[31]	—	—	
ETHER	EINT0	H'C80	INT2PRI6 [20:16]	INT2MSKR1[24] INT2MSKCR1[24]	INT2A01[24] INT2A11[24]	INT2B10[0]	高	
	EINT1	H'CA0				INT2B10[1]	低	
SPI0	SPI0I	H'CC0	INT2PRI10 [28:24]	INT2MSKR1[11] INT2MSKCR1[11]	INT2A01[11] INT2A11[11]	—	—	
ADC1	ADCI1	H'CE0	INT2PRI11 [28:24]	INT2MSKR1[15] INT2MSKCR1[15]	INT2A01[15] INT2A11[15]	—	—	
DMAC8-11	DMINT8（注）	H'D00	INT2PRI6 [12:8]	INT2MSKR[22] INT2MSKCR[22]	INT2A0[22] INT2A1[22]	INT2B3[8]	高	
	DMINT9（注）	H'D20				INT2B3[9]		
	DMINT10（注）	H'D40				INT2B3[10]		
	DMINT11（注）	H'D60				INT2B3[11]	低	
SIM	ERI	H'D80	INT2PRI10 [20:16]	INT2MSKR1[10] INT2MSKCR1[10]	INT2A01[10] INT2A11[10]	INT2B11[0]	高	
	RXI	H'DA0				INT2B11[1]		
	TXI	H'DC0				INT2B11[2]		
	TEND	H'DE0				INT2B11[3]	低	
TMU3	TUNI3	H'E00	INT2PRI1 [28:24]	INT2MSKR[1] INT2MSKCR[1]	INT2A0[1] INT2A1[1]	INT2B0[4]	—	
TMU4	TUNI4	H'E20	INT2PRI1 [20:16]			INT2B0[5]	—	
TMU5	TUNI5	H'E40	INT2PRI1 [12:8]			INT2B0[6]	—	
ADC0	ADCI0	H'E60	INT2PRI3 [12:8]	INT2MSKR1[12] INT2MSKCR1[12]	INT2A01[12] INT2A11[12]	—	—	
SCIF4	ERI4（注）	H'F00	INT2PRI7 [28:24]	INT2MSKR1[25] INT2MSKCR1[25]	INT2A01[25] INT2A11[25]	INT2B6[0]	高	
	RXI4（注）	H'F20				INT2B6[1]		
	BRI4（注）	H'F40				INT2B6[2]		
	TXI4（注）	H'F60				INT2B6[3]	低	
IIC0_0	RIIC0/TXI	H'1400	INT2PRI31 [28:24]	INT2MSKR2[12] INT2MSKCR2[12]	INT2A02[12] INT2A12[12]	—	—	
IIC0_1	RIIC0/TEI	H'1420	INT2PRI31 [20:16]	INT2MSKR2[11] INT2MSKCR2[11]	INT2A02[11] INT2A12[11]	—	—	
IIC0_2	RIIC0/RXI	H'1440	INT2PRI31 [12:8]	INT2MSKR2[10] INT2MSKCR2[10]	INT2A02[10] INT2A12[10]	—	—	
IIC0_3	RIIC0/EEI	H'1460	INT2PRI31 [4:0]	INT2MSKR2[9] INT2MSKCR2[9]	INT2A02[9] INT2A12[9]	—	—	低

割り込み要因		INTEVT（例外コード）	割り込み優先順位	マスクレジスタ マスククリアレジスタ	割り込み要因レジスタ	内部モジュール割り込み要因レジスタ	要因内での優先順位	デフォルト優先順位
IIC1_0	RIIC1/TXI	H'1480	INT2PRI17 [4:0]	INT2MSKR2[2] INT2MSKCR2[2]	INT2A02[2] INT2A12[2]	—	—	高
IIC1_1	RIIC1/TEI	H'14E0	INT2PRI24 [4:0]	INT2MSKR3[0] INT2MSKCR3[0]	INT2A03[0] INT2A13[0]	—	—	
IIC1_2	RIIC1/RXI	H'1500	INT2PRI18 [4:0]	INT2MSKR3[22] INT2MSKCR3[22]	INT2A03[22] INT2A13[22]	—	—	
IIC1_3	RIIC1/EEI	H'1520	INT2PRI19 [4:0]	INT2MSKR3[23] INT2MSKCR3[23]	INT2A03[23] INT2A13[23]	—	—	
IIC2_0	RIIC2/TXI	H'1540	INT2PRI20 [28:24]	INT2MSKR3[26] INT2MSKCR3[26]	INT2A03[26] INT2A13[26]	—	—	
IIC2_1	RIIC2/TEI	H'1560	INT2PRI18 [12:8]	INT2MSKR2[5] INT2MSKCR2[5]	INT2A02[5] INT2A12[5]	—	—	
IIC2_2	RIIC2/RXI	H'1580	INT2PRI16 [28:24]	INT2MSKR2[0] INT2MSKCR2[0]	INT2A02[0] INT2A12[0]	—	—	
IIC2_3	RIIC2/EEI	H'1600	INT2PRI19 [28:24]	INT2MSKR2[7] INT2MSKCR2[7]	INT2A02[7] INT2A12[7]	—	—	
IIC3_0	RIIC3/TXI	H'1620	INT2PRI25 [28:24]	INT2MSKR3[7] INT2MSKCR3[7]	INT2A03[7] INT2A13[7]	—	—	
IIC3_1	RIIC3/TEI	H'1640	INT2PRI19 [20:16]	INT2MSKR2[8] INT2MSKCR2[8]	INT2A02[8] INT2A12[8]	—	—	
IIC3_2	RIIC3/RXI	H'16E0	INT2PRI23 [12:8]	INT2MSKR3[27] INT2MSKCR3[27]	INT2A03[27] INT2A13[27]	—	—	
IIC3_3	RIIC3/EEI	H'1700	INT2PRI18 [28:24]	INT2MSKR2[3] INT2MSKCR2[3]	INT2A02[3] INT2A12[3]	—	—	
IIC4_0	RIIC4/TXI	H'17C0	INT2PRI27 [12:8]	INT2MSKR3[13] INT2MSKCR3[13]	INT2A03[13] INT2A13[13]	—	—	
IIC4_1	RIIC4/TEI	H'1800	INT2PRI30 [28:24]	INT2MSKR2[31] INT2MSKCR2[31]	INT2A02[31] INT2A12[31]	—	—	
IIC4_2	RIIC4/RXI	H'1820	INT2PRI30 [20:16]	INT2MSKR2[30] INT2MSKCR2[30]	INT2A02[30] INT2A12[30]	—	—	
IIC4_3	RIIC4/EEI	H'1840	INT2PRI28 [28:24]	INT2MSKR3[19] INT2MSKCR3[19]	INT2A03[19] INT2A1[19]	—	—	
IIC5_0	RIIC5/TXI	H'1860	INT2PRI30 [12:8]	INT2MSKR2[29] INT2MSKCR2[29]	INT2A02[29] INT2A12[29]	—	—	
IIC5_1	RIIC5/TEI	H'1880	INT2PRI23 [4:0]	INT2MSKR2[28] INT2MSKCR2[28]	INT2A02[28] INT2A12[28]	—	—	
IIC5_2	RIIC5/RXI	H'18A0	INT2PRI25 [4:0]	INT2MSKR3[4] INT2MSKCR3[4]	INT2A03[4] INT2A13[4]	—	—	
IIC5_3	RIIC5/EEI	H'18C0	INT2PRI25 [12:8]	INT2MSKR3[5] INT2MSKCR3[5]	INT2A03[5] INT2A13[5]	—	—	
IIC6_0	RIIC6/TXI	H'18E0	INT2PRI27 [20:16]	INT2MSKR3[29] INT2MSKCR3[29]	INT2A03[29] INT2A13[29]	—	—	
IIC6_1	RIIC6/TEI	H'1900	INT2PRI27 [4:0]	INT2MSKR3[30] INT2MSKCR3[30]	INT2A03[30] INT2A13[30]	—	—	
IIC6_2	RIIC6/RXI	H'1920	INT2PRI28 [4:0]	INT2MSKR3[16] INT2MSKCR3[16]	INT2A03[16] INT2A13[16]	—	—	
IIC6_3	RIIC6/EEI	H'1980	INT2PRI20 [20:16]	INT2MSKR2[13] INT2MSKCR2[13]	INT2A02[13] INT2A12[13]	—	—	低

割り込み要因		INTEVT（例外コード）	割り込み優先順位	マスクレジスタ マスククリアレジスタ	割り込み要因レジスタ	内部モジュール割り込み要因レジスタ	要因内での優先順位	デフォルト優先順位
IIC7_0	RIIC7/TXI	H'19A0	INT2PRI28 [20:16]	INT2MSKR3[18] INT2MSKCR3[18]	INT2A03[18] INT2A13[18]	—	—	高
IIC7_1	RIIC7/TEI	H'1A00	INT2PRI20 [12:8]	INT2MSKR2[14] INT2MSKCR2[14]	INT2A02[14] INT2A12[14]	—	—	
IIC7_2	RIIC7/RXI	H'1A20	INT2PRI20 [4:0]	INT2MSKR2[15] INT2MSKCR2[15]	INT2A02[15] INT2A12[15]	—	—	
IIC7_3	RIIC7/EEI	H'1A40	INT2PRI21 [28:24]	INT2MSKR2[16] INT2MSKCR2[16]	INT2A02[16] INT2A12[16]	—	—	
IIC8_0	RIIC8/TXI	H'1A60	INT2PRI21 [20:16]	INT2MSKR2[17] INT2MSKCR2[17]	INT2A02[17] INT2A12[17]	—	—	
IIC8_1	RIIC8/TEI	H'1A80	INT2PRI21 [12:8]	INT2MSKR2[18] INT2MSKCR2[18]	INT2A02[18] INT2A12[18]	—	—	
IIC8_2	RIIC8/RXI	H'1AA0	INT2PRI21 [4:0]	INT2MSKR2[19] INT2MSKCR2[19]	INT2A02[19] INT2A12[19]	—	—	
IIC8_3	RIIC8/EEI	H'1B40	INT2PRI29 [4:0]	INT2MSKR3[20] INT2MSKCR3[20]	INT2A03[20] INT2A13[20]	—	—	
IIC9_0	RIIC9/TXI	H'1B60	INT2PRI29 [12:8]	INT2MSKR3[21] INT2MSKCR3[21]	INT2A03[21] INT2A13[21]	—	—	
IIC9_1	RIIC9/TEI	H'1B80	INT2PRI18 [20:16]	INT2MSKR2[4] INT2MSKCR2[4]	INT2A02[4] INT2A12[4]	—	—	
IIC9_2	RIIC9/RXI	H'1C00	INT2PRI22 [28:24]	INT2MSKR2[20] INT2MSKCR2[20]	INT2A02[20] INT2A12[20]	—	—	
IIC9_3	RIIC9/EEI	H'1C20	INT2PRI26 [4:0]	INT2MSKR3[8] INT2MSKCR3[8]	INT2A03[8] INT2A13[8]	—	—	
MMC1	Err/time out	H'1C60	INT2PRI28 [12:8]	INT2MSKR3[31] INT2MSKCR3[31]	INT2A03[31] INT2A13[31]	—	—	
MMC2	Normal	H'1C80	INT2PRI22 [20:16]	INT2MSKR3[24] INT2MSKCR3[24]	INT2A03[24] INT2A13[24]	—	—	
RSPI	RXINT	H'1D80	INT2PRI26 [20:16]	INT2MSKR3[10] INT2MSKCR3[10]	INT2A03[10] INT2A13[10]	—	高	
	TXINT	H'1DA0				—		
	IDINT	H'1DC0				—		
	ERRINT	H'1DE0				—	低	
SPGIO	SPGIO0	H'1F80	INT2PRI23 [20:16]	INT2MSKR2[25] INT2MSKCR2[25]	INT2A02[25] INT2A12[25]	—	—	
	SGPIO1	H'1FA0						
	SGPIO2	H'1FC0						
DMINT12	DMINT12（注）	H'2400	INT2PRI47 [28:24]	INT2MSKR4[12] INT2MSKCR4[12]	INT2A04[12] INT2A14[12]	—	—	
DMINT13	DMINT13（注）	H'2420	INT2PRI47 [20:16]	INT2MSKR4[11] INT2MSKCR4[11]	INT2A04[11] INT2A14[11]	—	—	
DMINT14	DMINT14（注）	H'2440	INT2PRI47 [12:8]	INT2MSKR4[10] INT2MSKCR4[10]	INT2A04[10] INT2A14[10]	—	—	
DMINT15	DMINT15（注）	H'2460	INT2PRI47 [4:0]	INT2MSKR4[9] INT2MSKCR4[9]	INT2A04[9] INT2A14[9]	—	—	
DMINT16	DMINT16（注）	H'2480	INT2PRI17 [4:0]	INT2MSKR4[2] INT2MSKCR4[2]	INT2A04[2] INT2A14[2]	—	—	
DMINT17	DMINT17（注）	H'24E0	INT2PRI40 [4:0]	INT2MSKR5[0] INT2MSKCR5[0]	INT2A05[0] INT2A15[0]	—	—	低

割り込み要因		INTEVT（例外コード）	割り込み優先順位	マスクレジスタ マスククリアレジスタ	割り込み要因レジスタ	内部モジュール割り込み要因レジスタ	要因内での優先順位	デフォルト優先順位
DMINT18	DMINT18（注）	H'2500	INT2PRI34 [4:0]	INT2MSKR5[22] INT2MSKCR5[22]	INT2A05[22] INT2A15[22]	—	—	高
DMINT19	DMINT19（注）	H'2520	INT2PRI35 [4:0]	INT2MSKR5[23] INT2MSKCR5[23]	INT2A05[23] INT2A15[23]	—	—	
DMINT20	DMINT20（注）	H'2540	INT2PRI36 [28:24]	INT2MSKR4[26] INT2MSKCR4[26]	INT2A04[26] INT2A14[26]	—	—	
DMINT21	DMINT21（注）	H'2560	INT2PRI34 [12:8]	INT2MSKR4[5] INT2MSKCR4[5]	INT2A04[5] INT2A14[5]	—	—	
DMINT22	DMINT22（注）	H'2580	INT2PRI32 [28:24]	INT2MSKR4[0] INT2MSKCR4[0]	INT2A04[0] INT2A14[0]	—	—	
DMINT23	DMINT23（注）	H'2600	INT2PR35 [28:24]	INT2MSKR4[7] INT2MSKCR4[7]	INT2A04[7] INT2A14[7]	—	—	
ECD	ECD	H'2620	INT2PRI41 [28:24]	INT2MSKR5[7] INT2MSKCR5[7]	INT2A05[7] INT2A15[7]	—	—	
CRYPTO ENGINE	CRYPTO ENGINE	H'2640	INT2PRI35 [20:16]	INT2MSKR4[8] INT2MSKCR4[8]	INT2A02[8] INT2A12[8]	—	—	
WDT0B	WOVI	H'2800	INT2PRI46 [28:24]	INT2MSKR4[31] INT2MSKCR4[31]	INT2A04[31] INT2A14[31]	—	—	
WDT1B	EWI	H'2820	INT2PRI46 [20:16]	INT2MSKR4[30] INT2MSKCR4[30]	INT2A04[30] INT2A14[30]	—	—	
WDT2B	INT	H'2840	INT2PRI44 [28:24]	INT2MSKR5[19] INT2MSKCR5[19]	INT2A05[19] INT2A15[19]	—	—	
WDT3B	WOVI	H'2860	INT2PRI46 [12:8]	INT2MSKR4[29] INT2MSKCR4[29]	INT2A04[29] INT2A14[29]	—	—	
WDT4B	EWI	H'2880	INT2PRI39 [4:0]	INT2MSKR4[28] INT2MSKCR4[28]	INT2A04[28] INT2A14[28]	—	—	
WDT5B	INT	H'28A0	INT2PRI41 [4:0]	INT2MSKR5[4] INT2MSKCR5[4]	INT2A05[4] INT2A15[4]	—	—	
WDT6B	WOVI	H'28C0	INT2PRI41 [12:8]	INT2MSKR5[5] INT2MSKCR5[5]	INT2A05[5] INT2A15[5]	—	—	
WDT7B	EWI	H'28E0	INT2PRI43 [20:16]	INT2MSKR5[29] INT2MSKCR5[29]	INT2A05[29] INT2A15[29]	—	—	
WDT8B	INT	H'2900	INT2PRI43 [4:0]	INT2MSKR5[30] INT2MSKCR5[30]	INT2A05[30] INT2A15[30]	—	—	
GETHER0	GEINT0	H'2960	INT2PRI46 [4:0]	INT2MSKR2[28] INT2MSKCR2[28]	INT2A02[28] INT2A12[28]	—	—	
GETHER1	GEINT1	H'2980	INT2PRI36 [20:16]	INT2MSKR4[13] INT2MSKCR4[13]	INT2A04[13] INT2A14[13]	—	—	
GETHER2	GEINT2	H'29A0	INT2PRI44 [20:16]	INT2MSKR5[18] INT2MSKCR5[18]	INT2A05[18] INT2A15[18]	—	—	
DMAE2	DMAE2	H'2A60	INT2PRI37 [20:16]	INT2MSKR4[17] INT2MSKCR4[17]	INT2A04[17] INT2A14[17]	—	—	
DMAE3	DMAE3	H'2A80	INT2PRI37 [12:8]	INT2MSKR4[18] INT2MSKCR4[18]	INT2A04[18] INT2A14[18]	—	—	
SERMUX2	MIR2	H'2AA0	INT2PRI37 [4:0]	INT2MSKR4[19] INT2MSKCR4[19]	INT2A04[19] INT2A14[19]	—	—	
SERMUX3	MIR3	H'2B40	INT2PRI45 [4:0]	INT2MSKR5[20] INT2MSKCR5[20]	INT2A05[20] INT2A15[20]	—	—	低

【記号説明】

WOVI	：インターバルタイマ割り込み
EWI	：早期警告割り込み
INT	：オーバフロー割り込み
TUNI0～ TUNI5	：TMUチャネル0～5 アンダフロー割り込み
TICPI2	：TMUチャネル2 インプットキャプチャ割り込み
RXINT	：受信バッファフル割り込み
TCINT	：送信バッファエンプティ割り込み
IDINT	：RSPIアイドル割り込み
ERRINT	：RSPIエラー割り込み
DMINT0 ～ DMINT23	：DMACチャネル0～23 転送終了割り込み
DMAE	：DMACアドレスエラー割り込み（チャネル0～11）
DMAE2	：DMACアドレスエラー割り込み（チャネル12～17）
DMAE3	：DMACアドレスエラー割り込み（チャネル18～23）
ERI2 ～ ERI4	：SCIFチャネル2～4 受信エラー割り込み
RXI2 ～ RXI4	：SCIFチャネル2～4 受信データフル割り込み
BRI2～BRI4	：SCIFチャネル2～4 ブレーク割り込み
TXI2～ TXI4	：SCIFチャネル2～4 送信データエンプティ割り込み

10.5　動作説明

10.5.1　割り込み動作の流れ

割り込み発生時の動作の流れを以下に説明します。また、図10.4 に割り込み動作フローを示します。

1. INTCに対して、各割り込み要求元から割り込み要求信号が送られます。
2. INTCでは、送られた割り込み要求の中から、INTPRI、INT2PRI0～INT2PRI47に従って、最も優先順位の高い割り込みが選択され、それより優先順位の低い割り込みは保留されます。このとき、同一優先順位に設定された割り込み、又は同一モジュール内の割り込みが複数発生した場合は、表10.6に従って最も優先順位の高い割り込みが選択されます。
3. INTCで選択された割り込みの優先レベルと割り込みマスクレベル（SRのIMASKビット）とが比較されます。IMASKビットのレベルより高い優先順位の割り込みだけが受け付けられ、CPUへ割り込み要求信号が送られます。
4. CPUは、実行中の命令が終了後、割り込みを受け付けます。
5. 割り込み事象レジスタ（INTEVT）に例外コード（割り込み要因コード）がセットされます。
6. ステータスレジスタ（SR）とプログラムカウンタ（PC）が、それぞれSSRとSPCに退避されます。また、同時にそのときのR15をSGRに退避します。
7. SRのブロックビット（BL）、モードビット（MD）、レジスタバンクビット（RB）が”1”になります。
8. 割り込み関連の例外処理ルーチンの先頭番地（ベクタベースレジスタ（VBR）に設定された値とH'0000 0600の和）にジャンプします。

例外処理ルーチンでは、割り込み要因を識別するために、たとえばINTEVT レジスタの値をオフセットとして分岐します。これにより、容易に割り込み要因別の処理ルーチンへ分岐できます。

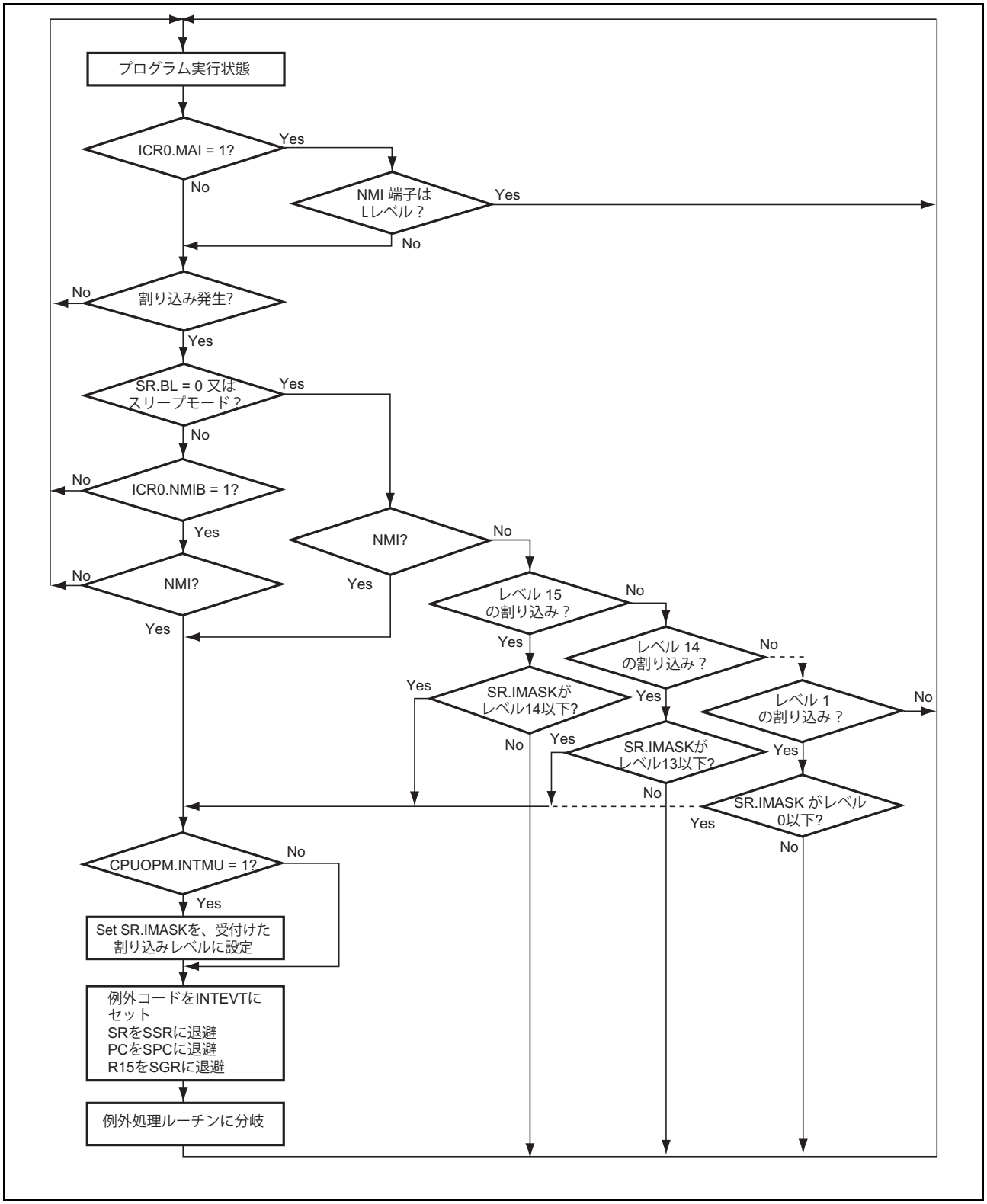


図 10.4　割り込み動作フロー

注1. CPU 動作モードレジスタのINTMU ビット（CPUOPM レジスタのINTMU）が1 に設定されている場合は、SR の割り込みマスクレベル（SR レジスタのIMASK）に受け付けられた割り込みの優先レベルが自動的に設定されます。CPUOPM レジスタのINTMU ビットが0 に設定されている場合は、割り込みが受け付けられてもSR レジスタのIMASK ビットは変化しません。
2. 各モジュール内の割り込み要因フラグは、割り込み処理ルーチンの中でクリアしてください。クリアしたはずの割り込み要因を誤って再度受け付けないようにするために、クリア後、要因フラグを読み出し、その後、表10.7で示される時間を待ってから、BL ビットをクリアする、又はRTE 命令を実行してください。
3. IRQ 割り込み、IRL 割り込み、及び内部モジュール割り込みは、パワーオンリセットで割り込みマスク状態に初期化されます。割り込みを使用する際は、INTMSKCLR0～2、INT2MSKCR、INT2MSKCR1～5の対応するビットを“0”にして、マスクをクリアしてください。

図 10.5 に示すように、同一モジュール内の複数の割り込み要因（A、B、C）が 1 つの割り込み要因（割り込みベクタ）X として割り付けられている場合、A、B、C全ての割り込み要因ビットが“0”になるまで、INTC に対して割り込み要求がアサートされ続けます。割り込み要求をクリアする場合は、全ての割り込み要因ビット（A、B、C）を“0”にしてください。

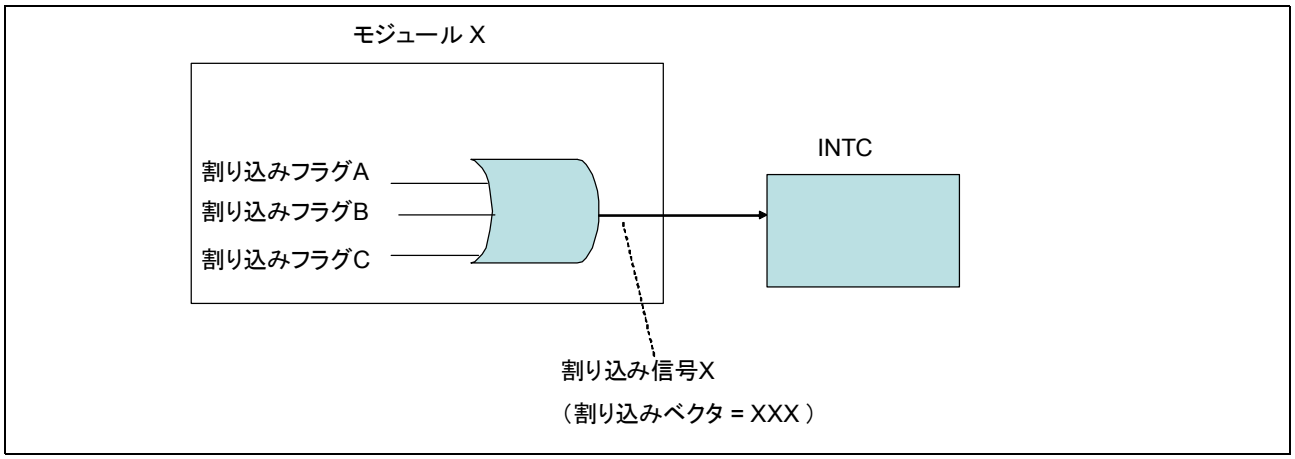


図 10.5　　モジュール内の割り込み要因と割り込み要求信号

10.5.2　多重割り込み

多重割り込みを行う場合は以下の手順で割り込み処理ルーチンを実行してください。

1. INTEVT の値をオフセットとして、各割り込み要因の割り込み処理ルーチンに分岐してください。
2. 各割り込み処理ルーチン中で、該当モジュール内の割り込み要因をクリアしてください。
3. SPC、SSR をスタックに退避してください。
4. SR レジスタの BL ビットをクリアしてください。CPUOPM レジスタの INTMU ビット＝0 のときは IMASK ビットを、受け付けた割り込みレベル優先レベルに設定してください。CPUOPM レジスタの INTMU ビット＝1 のときは、IMASK ビットに受け付けた割り込み優先レベルが自動的に設定されます。
5. この後、実際に行いたい処理を書いてください。
6. SR レジスタのBL ビットを”1”にしてください。
7. SSR と SPC をスタックから復帰してください。
8. RTE 命令を実行してください。

割り込み処理ルーチンで上記の処理を実行することにより、4 の直後に他の割り込み要求があった場合、より優先レベルの高いものであれば受け付けられます（多重割り込み）。これにより、緊急度の高い処理については、割り込み応答時間を短縮できます。

10.5.3　MAIビットによる割り込みマスク

ICR0のMAIビットを1に設定すると、通常動作時及びスリープモード時において、NMI端子がLレベルの間、SRレジスタのBL、IMASKビットに関係なくすべての割り込みをマスクすることができます。

ただし、NMI端子の変化によるNMI割り込みは発生します。

10.6　割り込み応答時間

割り込み要求が発生してから、例外処理ルーチンの先頭命令のフェッチが開始されるまでの時間を割り込み応答時間と呼びます。表10.7に各割り込みの割り込み応答時間を示します。

表10.7　割り込み応答時間

項 目		各割り込みのステート数			
		NMI	IRL	IRQ0～7	内部モジュール（IRQ8～15含む）
優先順位判定時間		5 Bcyc +2 Pcyc	8 Bcyc +2 Pcyc	4 Bcyc +2 Pcyc	5 Pcyc
SH-4Aが実行中のシーケンス終了までの待ち時間		S-1 (≧ 0)× Icyc			
割り込み例外処理（SR、PCの退避）から、例外処理ルーチンの先頭命令フェッチのSuperHyway バスリクエストを発行するまでの時間		11 Icyc+ 1 Scyc			
応答時間	合計	(S + 10) Icyc + 1 Scyc + 5 Bcyc + 2 Pcyc	(S + 10) Icyc + 1 Scyc + 8 Bcyc + 2 Pcyc	(S + 10) Icyc + 1 Scyc + 4 Bcyc + 2 Pcyc	(S + 10) Icyc + 1 Scyc + 5 Pcyc
	最小（注）	39 Icyc + S × Icyc	60 Icyc + S × Icyc	35 Icyc + S × Icyc	52 Icyc + S × Icyc

注．Icyc:Scyc:Bcyc:Pcyc＝8:4:2:1のとき。

Icyc　：CPUクロック（Ick）の1サイクル期間
Scyc　：SuperHywayクロック（SHck）の1サイクル期間
Bcyc　：バスクロック（CLKOUT出力）の1サイクル期間
Pcyc　：周辺クロック（Pck）の1サイクル期間
S　　：命令実行ステート数

10.7　使用上の注意事項

10.7.1　$\overline{\text{IRL}}$割り込み及びレベル検出時のIRQ割り込みの処理ルーチン例

$\overline{\text{IRL}}$割り込み及びレベル検出時のIRQ割り込み要求は、CPUが割り込みを受け付けた後も検出を行うため、割り込み処理ルーチンでINTCが保持している割り込み要求をクリアする必要があります。

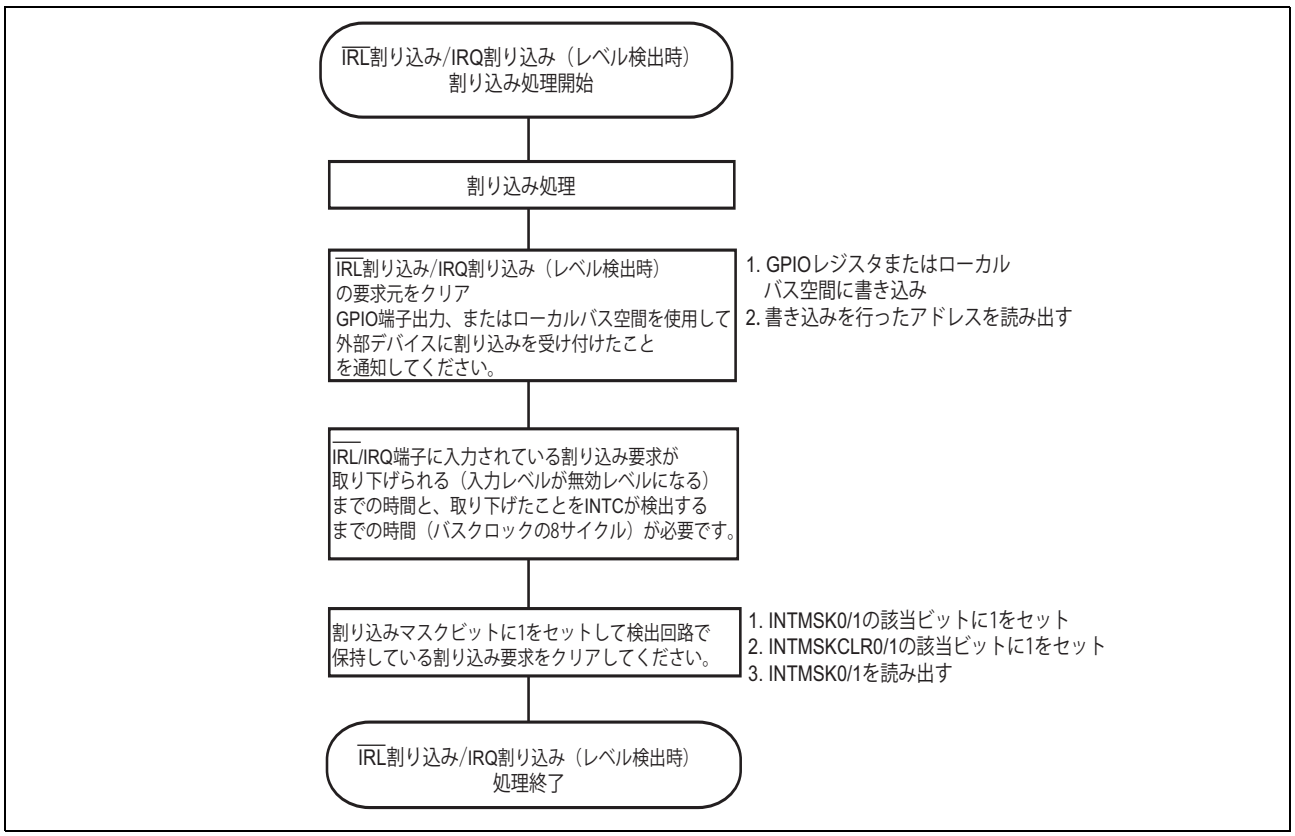


図 10.6　$\overline{\text{IRL}}$割り込み及びレベル検出時のIRQ割り込みの処理ルーチン例

10.7.2　IRQ7/$\overline{\text{IRL7}}$ ～ IRQ0/$\overline{\text{IRL0}}$ 端子機能設定時の注意事項

IRQ7/$\overline{\text{IRL7}}$ ～ IRQ0/$\overline{\text{IRL0}}$ 端子機能切り替え時に、割り込み要求を誤検出する可能性がありますので、表10.8に示すように、IRL 割り込み要求及びIRQ 割り込み要求をマスク状態に設定してから、IRQ7/$\overline{\text{IRL7}}$ ～IRQ0/$\overline{\text{IRL0}}$ 端子機能を切り替えてください。

表10.8　IRQ7/$\overline{\text{IRL7}}$～IRQ0/$\overline{\text{IRL0}}$ 端子機能切り替え手順

手順	項 目	内 容
1	IRL 割り込み要求、IRQ 割り込み要求をマスク	INTMSK0、INTMSK1 の全ビットに”1” を書き込む
2	IRQ7/$\overline{\text{IRL7}}$ ～IRQ0/$\overline{\text{IRL0}}$ 端子を選択	PSEL0のPC7SEL～PC2SEL ビットに”0” を書き込む PCCRのPCnMD1、PCnMD0 ビットに”0” を書き込む （n = 7 ～0）
3	IRQ7/$\overline{\text{IRL7}}$～ IRQ0/$\overline{\text{IRL0}}$ 端子をIRL 又はIRQに設定	ICR0 のIRLM0 ビット、IRLM1 ビットを設定する
4	IRL割り込み要求及びIRQ割り込み要求のマスクをクリア （IRL 割り込み要求及びIRQ 割り込み要求の検出を開始）	INTMSKCLR0、INTMSKCLR1 の該当するビットに”1” を書き込む

10.7.3　IRL割り込み要求及びIRQ 0～7割り込み要求のクリア方法

検出回路で保持しているIRL割り込み及びIRQ0～7割り込みの割り込み要求をクリアする場合は、以下の手順で行ってください。

(1)　IRL 割り込み要求のクリア方法

IRQ3/$\overline{\text{IRL3}}$～IRQ0/$\overline{\text{IRL0}}$端子のIRL 割り込み要求をクリアする場合は、INTMSK1 のIM10 ビットに”1” を、IRQ7/$\overline{\text{IRL7}}$～IRQ4/$\overline{\text{IRL4}}$ 端子のIRL 割り込み要求をクリアする場合は、INTMSK1 のIM11 ビットに”1 ”を書き込んでください。

(2)　レベル検出設定時のIRQ 0～7割り込み要求のクリア方法

レベル検出設定をしているIRQ7～IRQ0 割り込み要求のクリアは、INTMSK0 の該当するビットIM07～IM00 に”1” を書き込んでください。

(3)　エッジ検出設定時のIRQ 0～7割り込み要求のクリア方法

エッジ検出設定をしているIRQ7～IRQ0 割り込み要求のクリアは、INTREQ の該当するビットIR7～IR0 から”1”を読み出した後、”0” を書き込んでください。

10.7.4　RIIC割り込み及びIRQ8～15割り込み使用時の注意

図10.7に示すように、RIIC（チャネル0～9）割り込み及びIRQ8～15割り込みのうち、複数の割り込みを同時に使用している場合、割り込み要求が不正に消失する場合があります。

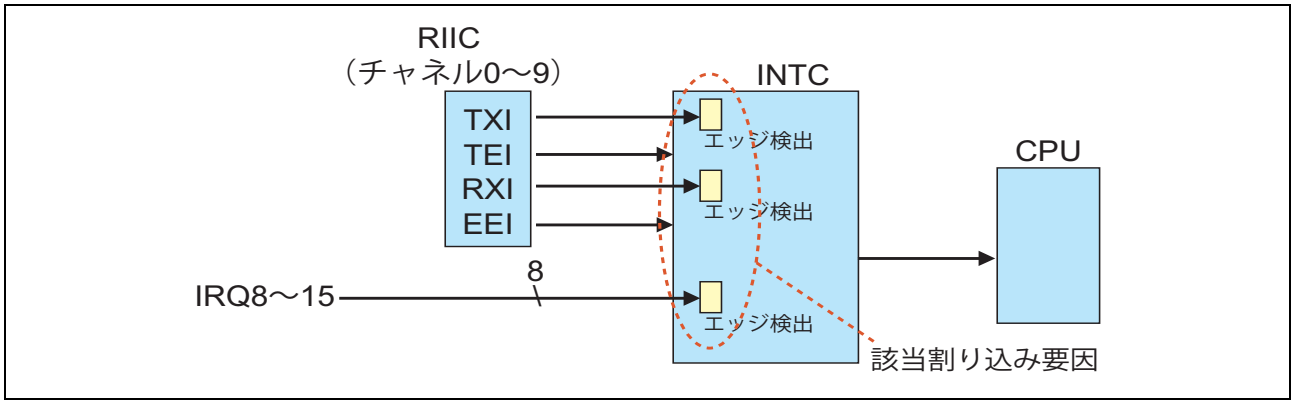
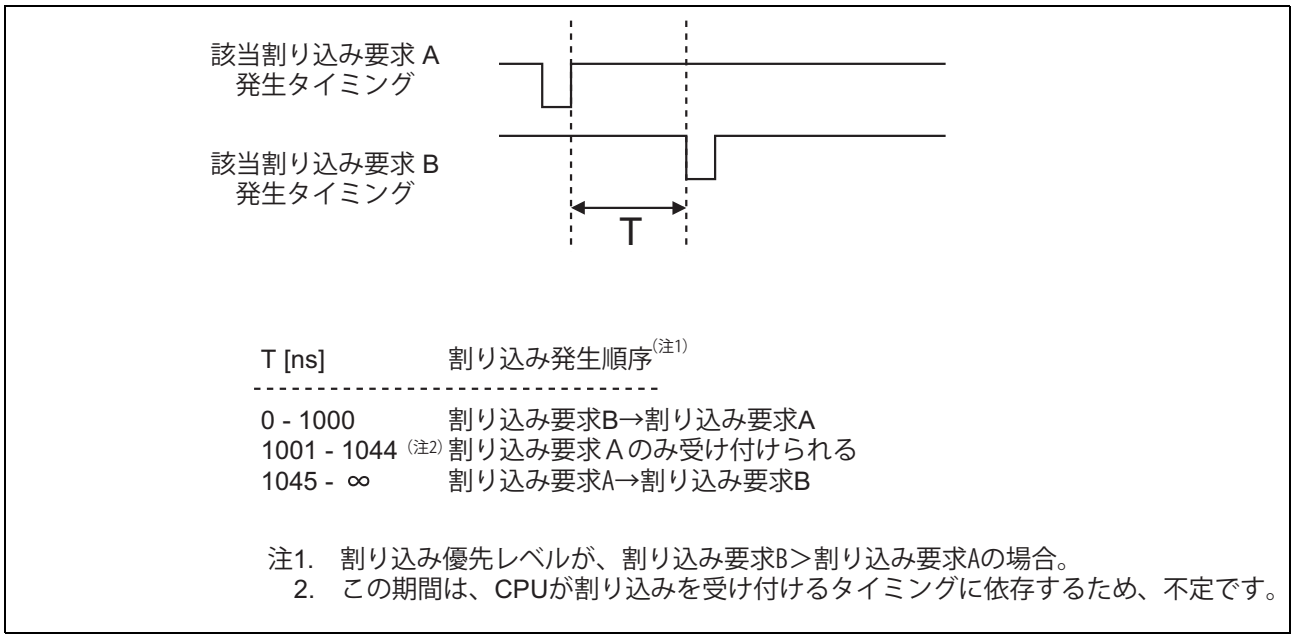


図 10.7　RIIC割り込み及びIRQ8～15割り込み

(1)　該当割り込み要求

以下の割り込み要求のうちの複数が、1001～1044nsの期間内に連続して発生した場合、最初に発生した割り込み要求のみが受け付けられ、残りの割り込み要求は消失します（図10.8参照）。

- RIIC0～9の送信データエンプティ（TXI）割り込み
- RIIC0～9の受信データフル（RXI）割り込み
- IRQ8～15割り込み



T [ns]	割り込み発生順序(注1)
0 - 1000	割り込み要求B→割り込み要求A
1001 - 1044 (注2)	割り込み要求Aのみ受け付けられる
1045 - ∞	割り込み要求A→割り込み要求B

注1.　割り込み優先レベルが、割り込み要求B＞割り込み要求Aの場合。
2.　この期間は、CPUが割り込みを受け付けるタイミングに依存するため、不定です。

図 10.8　割り込み消失例

(2)　RIIC0～9のTXI/RXI割り込みの使用方法

RIIC0～9のRXI割り込み及びTXI割り込みを使用する場合は、以下の手順でDMACを経由して割り込み要求を発生させてください。図10.9にRIIC割り込み使用時の接続例を示します。

1. TXI割り込み又はRXI割り込みを、DMAC12～23の転送要求元として設定してください（表14.3参照）。
2. 1バイトのDMA転送（ダミー転送）が実行されるよう、関連レジスタを設定してください。
（転送元／転送先アドレス、転送モードなどは任意、転送完了割り込み有効）

TXI割り込み又はRXI割り込みにより開始される1バイトのダミー転送終了時にMACの転送完了割り込み要求が発生しますので、これをRIICからの割り込みとして使用してください。

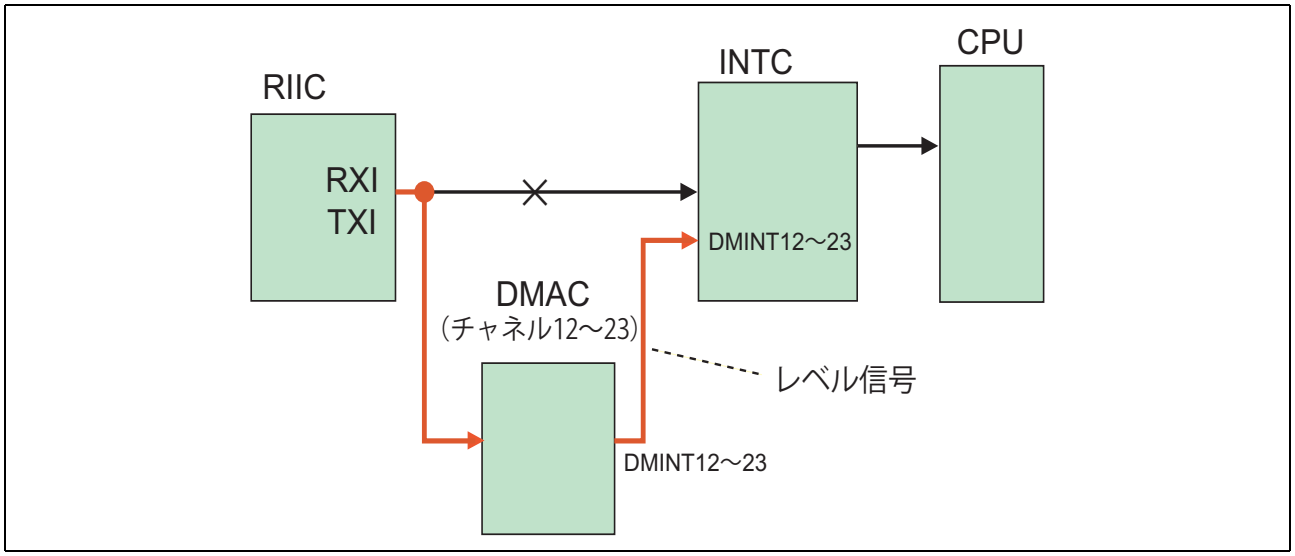


図 10.9　RIIC割り込み使用時の接続例

(3)　IRQ8～15割り込みの使用方法

2本以上使用しないでください。

11. ローカルバスステートコントローラ（LBSC）

ローカルバスステートコントローラ（LBSC）は、外部メモリ空間の分割、各種のメモリ及びバスインタフェース仕様に応じた制御信号の出力などを行います。LBSC の機能によって、SRAM、ROM などを本LSIに接続することができ、システム設計が容易になると同時に、コンパクトなシステムで高速なデータ転送を行うことができます。

11.1 特長

LBSC には、次のような特長があります。

- 7つに分割した外部メモリ空間のうちエリア0、4～6を管理

  エリア0、4～6の各エリアは、最大64Mバイト

  各エリアのバス幅をレジスタにより設定可能（エリア0のみ、外部端子により設定）

  $\overline{\text{RDY}}$端子によりウェイトステート挿入可能

  ウェイトステート挿入をプログラムで制御可能

  エリアごとに接続できるメモリの種類を設定可能

  各エリアに接続するメモリの制御信号を出力

  連続したメモリアクセス時におけるデータバスの衝突回避のためのウェイトサイクル自動挿入機能

  低速メモリとの接続用に書き込みサイクル時のライトストローブのセットアップタイムとホールドタイム期間を挿入可能

- SRAMインタフェース

  ウェイトステート挿入をプログラムで制御可能

  $\overline{\text{RDY}}$端子によるウェイトステート挿入

  接続可能エリア：エリア0、4～6

  設定可能バス幅：16、8ビット

- バーストROMインタフェース

  ウェイトステート挿入をプログラムで制御可能

  レジスタで設定した回数のバースト転送動作

  接続可能エリア：エリア0、4～6

  設定可能バス幅：16、8ビット

LBSC のブロック図を図11.1 に示します。

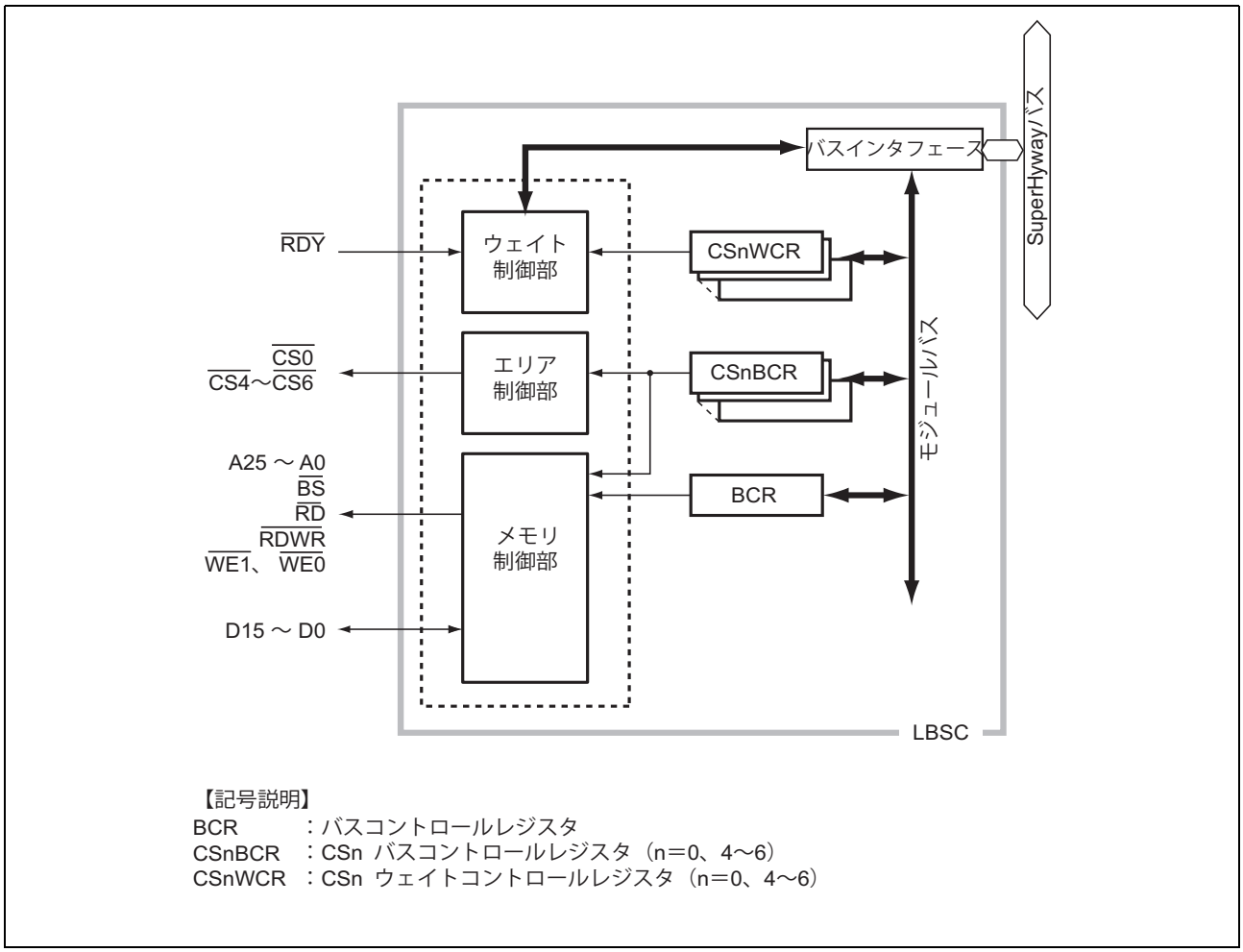


図 11.1　LBSC のブロック図

11.2 入出力端子

LBSC の端子構成を表11.1 に示します。

表11.1 端子構成

端子名	機 能	入出力	説 明
A25 ～ A0	アドレスバス	出力	アドレスバス出力端子
D15～ D0	データバス	入出力	データバス入出力端子
$\overline{BS}$	バススタート	出力	バスサイクルの開始を示します。
$\overline{CS6}$ 、$\overline{CS5}$、$\overline{CS4}$、$\overline{CS0}$	チップセレクト	出力	外部メモリ又はデバイスのためのチップセレクト信号
$\overline{RDWR}$	リード／ライト	出力	外部のデバイスに対する読み出し、書き込み状態を示します。
$\overline{RD}$	リード	出力	外部のデバイスから読み出すことを示します。
$\overline{WE0}$	ライトイネーブル0	出力	外部メモリ又はデバイスのデータのビット7～0 に書き込みすることを示します（8/16 ビットバスアクセス時）。
$\overline{WE1}$	ライトイネーブル1	出力	外部メモリ又はデバイスのデータのビット15～8 に書き込みすることを示します（16 ビットバスアクセス時）。
$\overline{RDY}$	レディ	入力	外部空間をアクセスするときのバスサイクルにウェイトサイクルを挿入させる入力です。H レベルがサンプリングされるとウエイトステートが挿入されます。
MD3	エリア0 バス幅	入力	パワーオンリセット時、エリア0 のバス幅設定信号
MD5	エンディアン切り替え	入力	パワーオンリセット時、エンディアン設定
MD6	SPI0 ブートイネーブル	入力	H'0000 0000 ～ H'03FF FFFF が MD6=L のとき、ブートプログラムエリア（CS0 領域）として割り当てられます。 H'0000 0000 ～ H'03FF FFFF が MD6=H のとき、ILRAM 領域として割り当てられます。

11.3　エリアの概要

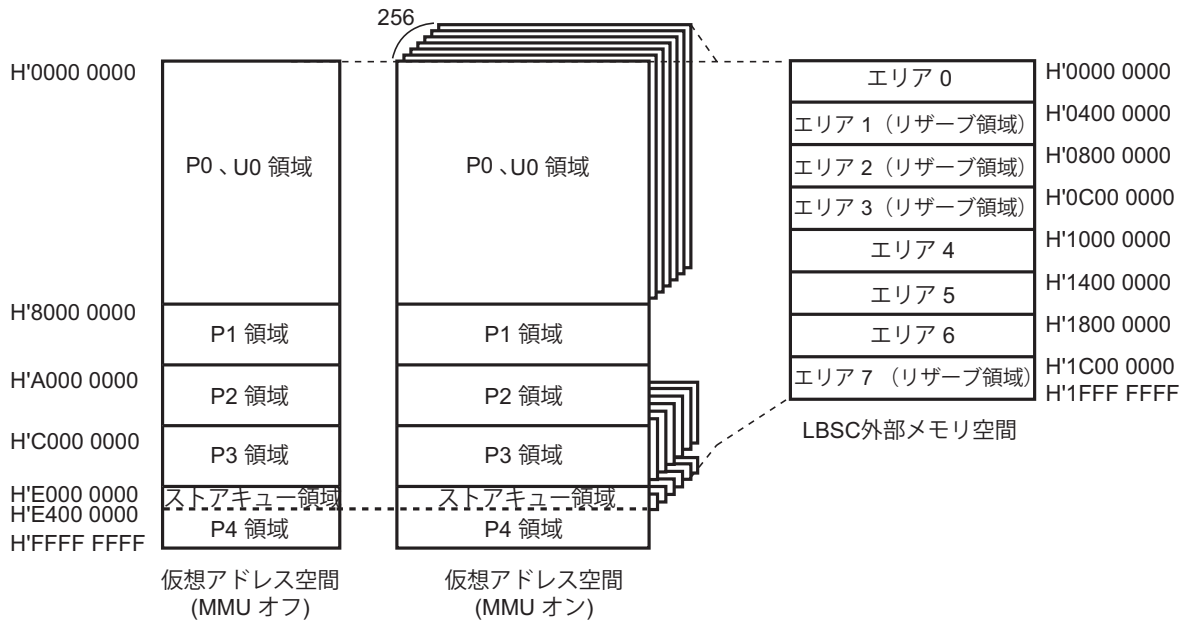
11.3.1　空間分割

本LSIは、アーキテクチャとして32ビットのアドレス空間を有しています。仮想アドレス空間は、上位側アドレスの値によって5領域（P0～P4）に分割されています。

本LSIは、物理アドレス空間としては、29ビット及び32ビット両方のアドレスモードをサポートしています。LBSCは29ビットモードをサポートします。29ビット物理アドレス空間は上位3ビットの値により8つのエリア（エリア0～7）に分割され、LBSCは、エリア0、4～6の4つのエリアを制御することができます。各エリアには外部メモリ空間として最大64Mバイトのメモリを接続することができ、LBSCは4つのエリア合計で最大256Mバイトの外部メモリ空間を制御することができます。

LBSCは表10.2に示すように4つのエリアにおのおの各種メモリを接続でき、おのおのに対応してチップセレクト信号（$\overline{CS0}$、$\overline{CS4}$～$\overline{CS6}$）を出力します。エリア0のアクセス時に$\overline{CS0}$が、エリア4～6のアクセス時に$\overline{CS4}$～$\overline{CS6}$がアサートされます。

エリア1～3、7はリザーブ領域です。エリア0は、LBSCブートモードがMD6=Lのときブートプログラムエリアとして割り当てられます。そのため、SPIブートモードがMD6=Hのときエリア0はリザーブ領域になります。



注1. MMUオフ時（MMUCR.AT＝0）には、32ビットアドレス中の上位3ビットを無視して、固定的に29ビット外部アドレスにマッピングされます。

2. MMUオン時（MMUCR.AT＝1）には、P0、U0、P3、ストアキューの各領域はTLBを用いて任意の外部アドレスにマッピングが可能です。
詳細は、「第7章　メモリマネジメントユニット（MMU）」を参照してください。

図 11.2　仮想アドレス空間とLBSC外部メモリ空間の対応

表11.2　LBSC 外部メモリ空間マップ

エリア	外部アドレス	容量	接続可能メモリ	設定可能バス幅（ビット）	アクセスサイズ（注5）
0	H'0000 0000 ～ H'03FF FFFF	64M バイト	SRAM	8、16（注1）	8/16/32 ビット、32 バイト
			バーストROM	8、16（注1）	
1（注3）	H'0400 0000 ～ H'07FF FFFF	64M バイト	—	—	—
2（注3）	H'0800 0000 ～ H'0BFF FFFF	64M バイト	—	—	—
3（注3）	H'0C00 0000 ～ H'0FFF FFFF	64M バイト	—	—	—
4（注4）	H'1000 0000 ～ H'13FF FFFF	64M バイト	SRAM	8、16（注2）	8/16/32 ビット、32バイト
			バースト ROM	8、16（注2）	
5	H'1400 0000 ～ H'17FF FFFF	64M バイト	SRAM	8、16（注2）	8/16/32 ビット、32 バイト
			バーストROM	8、16（注2）	
6	H'1800 0000 ～ H'1BFF FFFF	64M バイト	SRAM	8、16（注2）	8/16/32 ビット、32 バイト
			バーストROM	8、16（注2）	
7（注3）	H'1C00 0000 ～ H'1FFF FFFF	64M バイト	—	—	—

注1. MD3端子でメモリバス幅を指定します。
2. レジスタでメモリバス幅を指定します。
3. エリア1～3、7はリザーブ領域です。リザーブ領域にはアクセスしないでください。アクセスした場合、動作の保証はできません。
4. LBSC が8、16 バイトのアクセスをバスマスタから要求された場合、アクセスサイズ32 ビットとして、それぞれ2 回、4 回のアクセスを行います。

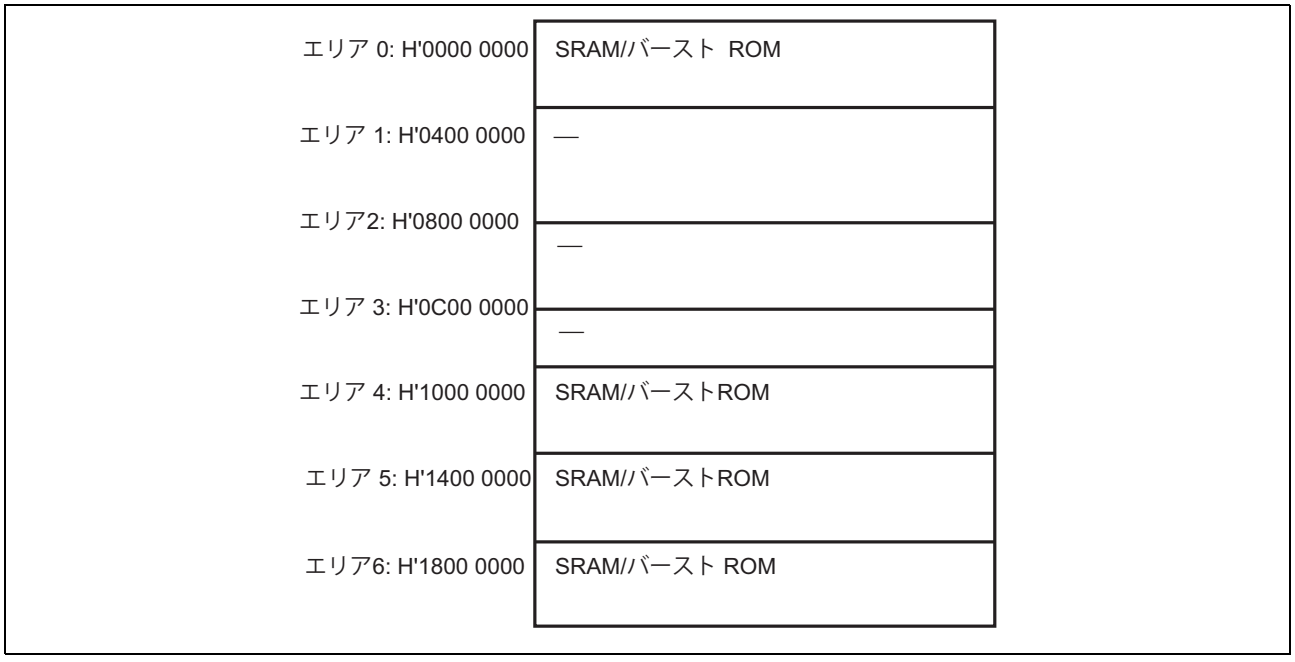


図 11.3　外部メモリ空間割り付け（29 ビットアドレスモード）

11.3.2　メモリバス幅

LBSC のメモリバス幅は、空間ごとに設定できます。エリア 0 では、$\overline{\text{PRESET}}$ 端子によるパワーオンリセット時に外部端子を用いてバスサイズを8 ビット、16 ビットから選ぶことができます。パワーオンリセット時のMD3端子とバス幅の関係を表11.3 に示します。

表 11.3　エリア0 メモリバス幅の設定

MD3	バス幅
High	8 ビット
Low	16 ビット

エリア4～6 でSRAM インタフェース、ROM のいずれかを使用する場合は、CSn バスコントロールレジスタ（CSnBCR）によってバス幅を 8 ビット、16 ビットから選ぶことができます。バースト ROM を使用する場合、バス幅を8 ビット、16 ビットから選ぶことができます。

詳しくは、「11.4.2 CSnバスコントロールレジスタ（CSnBCR）」を参照してください。

11.3.3　データアライメント

本LSI では、データアライメントとしてビッグエンディアンとリトルエンディアンをサポートします。データアライメントは、パワーオンリセット時の外部端子（MD5）の設定で決まります。

表 11.4　外部端子（MD5）とエンディアンの対応

MD5	データアライメント
Low	ビッグエンディアン
High	リトルエンディアン

11.4　レジスタの説明

表 11.5 にレジスタ構成と各リセット時のレジスタ状態を示します。LBSC には表 11.5 に示すように、10 本のレジスタがあります。これらのレジスタにより、各種メモリとのインタフェース、ウェイトステートなどの制御を行います。

指定されたビット幅で、レジスタにアクセスしてください。指定されたビット幅以外のサイズでレジスタにアクセスした場合、動作は保証できません。

表 11.5　レジスタ構成

名 称	略称	R/W	P4 領域アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態	
					パワーオンリセット	マニュアルリセット
バスコントロールレジスタ	BCR	R/W	H'FF80 1000	32	H'X000 0000(注 1)	保持
CS0 バスコントロールレジスタ	CS0BCR	R/W	H'FF80 2000	32	H'7777 7X70(注 2)	保持
CS4 バスコントロールレジスタ	CS4BCR	R/W	H'FF80 2040	32	H'7777 7570	保持
CS5 バスコントロールレジスタ	CS5BCR	R/W	H'FF80 2050	32	H'7777 7570	保持
CS6 バスコントロールレジスタ	CS6BCR	R/W	H'FF80 2060	32	H'7777 7570	保持
CS0 ウェイトコントロールレジスタ	CS0WCR	R/W	H'FF80 2008	32	H'7777 770F	保持
CS4 ウェイトコントロールレジスタ	CS4WCR	R/W	H'FF80 2048	32	H'7777 770F	保持
CS5 ウェイトコントロールレジスタ	CS5WCR	R/W	H'FF80 2058	32	H'7777 770F	保持
CS6 ウェイトコントロールレジスタ	CS6WCR	R/W	H'FF80 2068	32	H'7777 770F	保持

注 1.　ビット 31 の値は外部端子（MD5）の設定によります。
2.　ビット 8、ビット 9 の値は外部端子（MD3）の設定によります。

11.4.1　バスコントロールレジスタ（BCR）

バスコントロールレジスタ（BCR）は、各エリアの機能、バスサイクルの状態等を指定します。読み出し／書き込み可能な 32 ビットのレジスタです。

BCR レジスタは、パワーオンリセットで、ビッグエンディアン時には H'0000 0000、リトルエンディアン時には H'8000 0000 に初期化されますが、マニュアルリセット時には初期化されません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	ENDIAN	—	—	—	—	DPUP	—	OPUP	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0/1 (注)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	—	—	—	—	R/W	—	R/W	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ASYNC
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W

注.　ビット 31（ENDIAN ビット）の初期値は外部端子（MD5）の設定によります。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31	ENDIAN	0/1	R	エンディアンフラグ PRESET 端子によるパワーオンリセット時に、エンディアン指定の外部端子（MD5）の値をサンプリングします。全空間のエンディアンはこのビットで決定されます。 0：パワーオンリセット時に、エンディアン設定外部端子（MD5）がL レベルであり、本LSI がビッグエンディアンとして設定されたことを示します。 1：パワーオンリセット時に、エンディアン設定外部端子（MD5）がH レベルであり、本LSI がリトルエンディアンとして設定されたことを示します。
30～27	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
26	DPUP	0	R/W	データ端子プルアップ抵抗制御 データ端子（D7～D0）のプルアップ抵抗の状態を指定します。このビットは、パワーオンリセット時に初期化されます。オンの設定でもアクセス時はプルアップされません。 0：データ端子（D7～D0）のプルアップ抵抗は、メモリアクセス前後にオンになるサイクルがあります。(注) 1：データ端子（D7～D0）のプルアップ抵抗は、オフ。 注．　データ端子のプルアップが必要な場合、プルアップ抵抗を外付けすることを推奨します。
25	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
24	OPUP	0	R/W	コントロール出力端子プルアップ抵抗制御 コントロール出力端子（A[25:0]、CS0、CS4～CS6、RD、WE0）のハイインピーダンス時のプルアップ抵抗の状態を指定します。このビットは、パワーオンリセット時に初期化されます。 0：コントロール出力端子（A[25:0]、CS0、CS4～CS6、RD、WE0）のプルアップ抵抗は、オン。 1：コントロール出力端子（A[25:0]、CS0、CS4～CS6、RD、WE0）のプルアップ抵抗は、オフ。
23～1	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
0	ASYNC	0	R/W	非同期入力 RDY 端子の非同期入力を可能にします。 0：RDY 端子はCLKOUT に対する同期入力 1：RDY 端子はCLKOUT に対して非同期入力

11.4.2　CSnバスコントロールレジスタ（CSnBCR）

CSnバスコントロールレジスタ（CSnBCR、n＝0、4～6）は、エリア0、4～6のバス幅、サイクル間アイドル、バーストROMの設定、メモリタイプを指定します。読み出し／書き込み可能な32ビットのレジスタです。

メモリによっては、外部からの読み出し信号がオフになってもデータバスのドライブがすぐにはオフにならないものもあります。このため、連続したメモリアクセスが異なるエリアのメモリに対して行われる場合や、メモリ読み出し直後に書き込みが行われる場合、データバスが衝突する可能性があります。本LSIでは、このようなデータバスが衝突する可能性がある場合に、CSnBCRレジスタで設定したサイクル数だけ自動的にアイドルサイクルを挿入します。サイクル間アイドル中は該当する$\overline{CS0}$、$\overline{CS4}$～$\overline{CS6}$、$\overline{RD}$、$\overline{WE0}$、$\overline{WE1}$、$\overline{BS}$は非アサート状態、$\overline{RDWR}$はHレベル状態、データは非ドライブ状態になります。

CSnBCRは、パワーオンリセットでH'7777 7570に初期化されますが、マニュアルリセット時には初期化されません。CS0BCRのみ、MD3＝Hのとき H'7777 7570に、MD3＝Lのとき H'7777 7670に初期化されます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	IWW			—	IWRWD			—	IWRWS			—	IWRRD		
初期値：	0	1	1	1	0	1	1	1	0	1	1	1	0	1	1	1
R/W：	—	R/W	R/W	R/W	—	R/W	R/W	R/W	—	R/W	R/W	R/W	—	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	IWRRS			BST		SZ		RDSPL	BW			—	TYPE		
初期値：	0	1	1	1	0	1	0	1	0	1	1	1	0	0	0	0
R/W：	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W (注)	R/W (注)	R/W	R/W	R/W	R/W	—	R/W	R/W	R/W

注．CS0BCRのSZはリードのみ可能です。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
30 ～ 28	IWW	111	R/W	ライト-リード／ライト-ライトサイクル間アイドル 空間に接続されたメモリをアクセスした後に挿入するアイドルサイクル数を指定します。対象となるサイクルは、ライト-リードサイクルとライト-ライトサイクルの場合です。詳細については、「11.5.5 アクセスサイクル間ウェイト」の項を参照してください。 000：アイドルサイクルなし 001：1アイドルサイクル挿入 010：2アイドルサイクル挿入 011：3アイドルサイクル挿入 100：4アイドルサイクル挿入 101：5アイドルサイクル挿入 110：6アイドルサイクル挿入 111：7アイドルサイクル挿入
27	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
26 ～ 24	IWRWD	111	R/W	別空間リード-ライトサイクル間アイドル 空間に接続されたメモリをアクセスした後に挿入するアイドルサイクル数を指定します。対象となるサイクルは、連続するアクセスが別空間でかつリード-ライトサイクルの場合です。詳細については、「11.5.5 アクセスサイクル間ウェイト」の項を参照してください。 000：アイドルサイクルなし 001：1 アイドルサイクル挿入 010：2 アイドルサイクル挿入 011：3 アイドルサイクル挿入 100：4 アイドルサイクル挿入 101：5 アイドルサイクル挿入 110：6 アイドルサイクル挿入 111：7 アイドルサイクル挿入
23	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
22～ 20	IWRWS	111	R/W	同一空間リード-ライトサイクル間アイドル 空間に接続されたメモリをアクセスした後に挿入するアイドルサイクル数を指定します。対象となるサイクルは、連続するアクセスが同一空間でかつリード-ライトサイクルの場合です。詳細については、「11.5.5 アクセスサイクル間ウェイト」の項を参照してください。 000：アイドルサイクルなし 001：1 アイドルサイクル挿入 010：2 アイドルサイクル挿入 011：3 アイドルサイクル挿入 100：4 アイドルサイクル挿入 101：5 アイドルサイクル挿入 110：6 アイドルサイクル挿入 111：7 アイドルサイクル挿入
19	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
18 ～ 16	IWRRD	111	R/W	別空間リード-リードサイクル間アイドル 空間に接続されたメモリをアクセスした後に挿入するアイドルサイクル数を指定します。対象となるサイクルは、連続するアクセスが別空間でかつリード-リードサイクルの場合です。詳細については、「11.5.5 アクセスサイクル間ウェイト」の項を参照してください。 000：アイドルサイクルなし 001：1 アイドルサイクル挿入 010：2 アイドルサイクル挿入 011：3 アイドルサイクル挿入 100：4 アイドルサイクル挿入 101：5 アイドルサイクル挿入 110：6 アイドルサイクル挿入 111：7 アイドルサイクル挿入
15	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
14～12	IWRRS	111	R/W	同一空間リード-リードサイクル間アイドル 空間に接続されたメモリをアクセスした後に挿入するアイドルサイクル数を指定します。対象となるサイクルは、連続するアクセスが同一空間でかつリード-リードサイクルの場合です。詳細については、「11.5.5 アクセスサイクル間ウェイト」の項を参照してください。 000：アイドルサイクルなし 001：1 アイドルサイクル挿入 010：2 アイドルサイクル挿入 011：3 アイドルサイクル挿入 100：4 アイドルサイクル挿入 101：5 アイドルサイクル挿入 110：6 アイドルサイクル挿入 111：7 アイドルサイクル挿入
11、10	BST	01	R/W	バースト回数 バーストROM インタフェースを使用する場合の、バースト回数を指定します。 00：4 連続アクセス（バス幅8、16 ビット時、いずれでも使用可） 01：8 連続アクセス（バス幅8、16 ビット時、いずれでも使用可） 10：16 連続アクセス（バス幅8、16 ビット時、いずれでも使用可） 11：32 連続アクセス（バス幅8 ビット時のみ使用可）
9、8	SZ	01	R/W（注）	バス幅 CS0BCR ではパワーオンリセット時に、バスサイズを指定する外部端子（MD3）をサンプリングします。バイト制御SRAM インタフェース使用時は16 ビットに設定してください。 00：リザーブ（設定禁止） 01：8 ビット（CS0BCRのみが MD3 = H の場合） 10：16 ビット（CS0BCRのみが MD3 = Lの場合） 11：リザーブ（設定禁止） 注．　CS0BCR レジスタ のSZ ビットはリードのみ可能です。
7	RDSPL	0	R/W	$\overline{\text{RD}}$ ホールドサイクル $\overline{\text{RD}}$ のリードデータサンプルタイミングに対するホールド時間に挿入されるサイクル数を指定します。このビットを1 に設定するときは、CSnWCR レジスタのRDH ビットで設定する$\overline{\text{RD}}$ ネゲート－CSn ネゲート遅延サイクルを1以上に設定してください。またこのビットを1 に設定することにより、$\overline{\text{RD}}$ネゲート－CSn ネゲート遅延サイクルは1 サイクル減ります（SRAM インタフェース／バイト制御SRAM インタフェース設定時のみ有効）。 0：なし 1：1 サイクル挿入

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
6 ～ 4	BW	111	R/W	バーストピッチ バーストROM インタフェースを使用時のバースト転送における、第2 データアクセス以降に挿入される挿入ウェイト数を指定します。 000：挿入ウェイトステートなし、RDY 端子無視 001：1 ウェイトステート挿入、RDY 端子イネーブル 010：2 ウェイトステート挿入、RDY 端子イネーブル 011：3 ウェイトステート挿入、RDY 端子イネーブル 100：4 ウェイトステート挿入、RDY 端子イネーブル 101：5 ウェイトステート挿入、RDY 端子イネーブル 110：6 ウェイトステート挿入、RDY 端子イネーブル 111：7 ウェイトステート挿入、RDY 端子イネーブル
3	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
2 ～ 0	TYPE	000	R/W	メモリタイプ指定 空間に接続するメモリのタイプを指定します。 000：SRAM（初期値） 001：リザーブ（設定禁止） 010：バーストROM（リード時バースト、ライト時SRAM） 011：リザーブ（設定禁止） 100：リザーブ（設定禁止） 101：リザーブ（設定禁止） 110：リザーブ（設定禁止） 111：リザーブ（設定禁止）

11.4.3　CSnウェイトコントロールレジスタ (CSnWCR)

CSn ウェイトコントロールレジスタ（CSnWCR、n＝0、4～6）は、読み出し／書き込み可能な32 ビットのレジスタで、エリア0、4 ～ 6 の挿入ウェイトステート数、バーストメモリアクセスを行う場合のデータアクセスのピッチ数、アドレスから読み出し／書き込みストローブのアサートまでのセットアップ時間、書き込みストローブのネゲートからのデータホールド時間の挿入サイクルを指定します。

CSnWCR レジスタは、パワーオンリセットでH'7777 770F に初期化されますが、マニュアルリセット時には初期化されません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	ADS			—	ADH			—	RDS			—	RDH		
初期値：	0	1	1	1	0	1	1	1	0	1	1	1	0	1	1	1
R/W：	—	R/W	R/W	R/W	—	R/W	R/W	R/W	—	R/W	R/W	R/W	—	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	WTS			—	WTH			—	BSH			IW[3:0]			
初期値：	0	1	1	1	0	1	1	1	0	0	0	0	1	1	1	1
R/W：	—	R/W	R/W	R/W	—	R/W	R/W	R/W	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
30 ～ 28	ADS	111	R/W	アドレスセットアップサイクル アドレスの$\overline{\text{CSn}}$アサートに対するセットアップ時間に挿入されるサイクル数を指定します。 000：サイクル挿入なし 001：1 サイクル挿入 010：2 サイクル挿入 011：3 サイクル挿入 100：4 サイクル挿入 101：5 サイクル挿入 110：6 サイクル挿入 111：7 サイクル挿入
27	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
26 ～ 24	ADH	111	R/W	アドレスホールドサイクル アドレスの$\overline{\text{CSn}}$ネゲートに対するホールド時間に挿入されるサイクル数を指定します。 000：サイクル挿入なし 001：1 サイクル挿入 010：2 サイクル挿入 011：3 サイクル挿入 100：4 サイクル挿入 101：5 サイクル挿入 110：6 サイクル挿入 111：7 サイクル挿入
23	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
22～ 20	RDS	111	R/W	$\overline{\text{RD}}$ セットアップサイクル（$\overline{\text{CSn}}$ アサート -$\overline{\text{RD}}$ アサート遅延サイクル） $\overline{\text{CSn}}$ アサートから$\overline{\text{RD}}$ アサートに挿入されるサイクル数を指定します。 000：サイクル挿入なし 001：1 サイクル挿入 010：2 サイクル挿入 011：3 サイクル挿入 100：4 サイクル挿入 101：5 サイクル挿入 110：6 サイクル挿入 111：7 サイクル挿入
19	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
18 ～ 16	RDH	111	R/W	RD ホールドサイクル（RD ネゲート -CSn ネゲート遅延サイクル） RD ネゲートから CSn ネゲートに挿入されるサイクル数を指定します。 000：サイクル挿入なし 001：1 サイクル挿入 010：2 サイクル挿入 011：3 サイクル挿入 100：4 サイクル挿入 101：5 サイクル挿入 110：6 サイクル挿入 111：7 サイクル挿入
15	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
14 ～ 12	WTS	111	R/W	WE セットアップサイクル（CSn アサート -WE アサート遅延サイクル） WE ネゲートから CSn ネゲートに挿入されるサイクル数を指定します。 000：サイクル挿入なし 001：1 サイクル挿入 010：2 サイクル挿入 011：3 サイクル挿入 100：4 サイクル挿入 101：5 サイクル挿入 110：6 サイクル挿入 111：7 サイクル挿入
11	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
10 ～ 8	WTH	111	R/W	WE ホールドサイクル（WE ネゲート -CSn ネゲート遅延サイクル） WE ネゲートから CSn ネゲートに挿入されるサイクル数を指定します。 000：サイクル挿入なし 001：1 サイクル挿入 010：2 サイクル挿入 011：3 サイクル挿入 100：4 サイクル挿入 101：5 サイクル挿入 110：6 サイクル挿入 111：7 サイクル挿入
7	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
6～4	BSH	000	R/W	BS ホールドサイクル BS のアサートのサイクル数を指定します。このビットの設定により、アクセスの総サイクル数は変わりません。また、CSn アサート -RD／WE アサート遅延サイクル（RDS 、WTSの設定）が1 以上に設定されているとき有効です。 000：BS アサートは1 サイクル 001：BS アサートは2 サイクル 010：設定禁止 011：設定禁止 100：設定禁止 101：設定禁止 110：設定禁止 111：設定禁止
3～0	IW[3:0]	1111	R/W	挿入ウェイトサイクル 挿入ウェイトサイクル数を指定します。 RDY 端子による外部ウェイト挿入はサイクル挿入なしのときにはできません。 0000：サイクル挿入なし　1000：8 サイクル挿入 0001：1 サイクル挿入　1001：9 サイクル挿入 0010：2 サイクル挿入　1010：11 サイクル挿入 0011：3 サイクル挿入　1011：13 サイクル挿入 0100：4 サイクル挿入　1100：15 サイクル挿入 0101：5 サイクル挿入　1101：17 サイクル挿入 0110：6 サイクル挿入　1110：21 サイクル挿入 0111：7 サイクル挿入　1111 ：25 サイクル挿入

11.5　動作説明

11.5.1　エンディアン／アクセスサイズとデータアライメント

本LSIでは、バイトデータの並び方を上位バイトが0番地側になるビッグエンディアン、下位バイトが0番地側になるリトルエンディアンのいずれもサポートしています。この切り替えは、外部端子（MD5端子）で$\overline{\text{PRESET}}$端子によるパワーオンリセット時に設定します。$\overline{\text{PRESET}}$端子によるパワーオンリセット時、MD5端子がLレベルのときビッグエンディアンになり、MD5端子がHレベルのときリトルエンディアンになります。

また、データバス幅は、通常メモリとしては8ビット、16ビット幅の2種類から選べます。データのアライメントは、各デバイスのデータバス幅及びエンディアンに合わせて行われます。したがって、データバス幅がアクセスサイズより小さい場合、アクセスサイズになるまで複数回のバスサイクルを自動的に発生させます。この場合、バス幅分のアドレスを自動的にインクリメントしてアクセスを行います。たとえばSRAMインタフェースで8ビットバス幅のエリアにロングワードアクセスを行う場合、自動的にアドレスを1ずつインクリメントして、4回アクセスを行います。また、32バイト転送時は、設定したバス幅に従い合計32バイトのデータを連続して転送します。先頭のアクセスはアクセス要求があったデータに対して行われ、残りのアクセスは32バイト境界のデータに対してラップアラウンドで行われます。これらの転送の間、バス権の開放は行いません。本LSIでは、それぞれのインタフェース間で、データのアライメント及びデータ長の変換を自動的に行います。

8、16バイト転送時は、それぞれ4バイト2回、4バイト4回としてアクセスを行います。

エンディアンとデバイスのデータ幅とアクセスの単位との関係を表11.6～表11.9に示します。

表11.6　16ビット外部デバイス／ビッグエンディアンのアクセスとデータアライメント

動作		No.	データバス		ストローブ信号	
アクセスサイズ	アドレス		D15 ～ D8	D7 ～ D0	$\overline{\text{WE1}}$	$\overline{\text{WE0}}$
バイト	2n	1	データ 7 ～0	—	アサート	ネゲート
	2n + 1	1	—	データ7 ～ 0	ネゲート	アサート
ワード	2n	1	データ 15 ～ 8	データ 7 ～ 0	アサート	アサート
ロングワード	4n	1	データ31 ～ 24	データ 23 ～ 16	アサート	アサート
	4n + 2	2	データ 15 ～ 8	データ 7 ～ 0	アサート	アサート

表11.7　8ビット外部デバイス／ビッグエンディアンのアクセスとデータアライメント

動作		No.	データバス		ストローブ信号	
アクセスサイズ	アドレス		D15 ～ D8	D7 ～ D0	$\overline{WE1}$	$\overline{WE0}$
バイト	n	1	—	データ 7 ～ 0	ネゲート	アサート
ワード	2n	1	—	データ 15 ～ 8	ネゲート	アサート
	2n + 1	2	—	データ 7 ～ 0	ネゲート	アサート
ロングワード	4n	1		データ 31 ～ 24	ネゲート	アサート
	4n + 1	2	—	データ 23 ～ 16	ネゲート	アサート
	4n + 2	3	—	データ 15 ～ 8	ネゲート	アサート
	4n + 3	4	—	データ 7 ～ 0	ネゲート	アサート

表11.8　16ビット外部デバイス／リトルエンディアンのアクセスとデータアライメント

動作		No.	データバス		ストローブ信号	
アクセスサイズ	アドレス		D15 ～ D8	D7 ～ D0	$\overline{WE1}$	$\overline{WE0}$
バイト	2n	1	—	データ 7 ～ 0	ネゲート	アサート
	2n + 1	1	データ 7 ～ 0	—	アサート	ネゲート
ワード	2n	1	データ 15 ～ 8	データ 7 ～ 0	アサート	アサート
ロングワード	4n	1	データ 15 ～ 8	データ 7 ～ 0	アサート	アサート
	4n + 2	2	データ 31 ～ 24	データ 23 ～ 16	アサート	アサート

表11.9　8ビット外部デバイス／リトルエンディアンのアクセスとデータアライメント

動作		No.	データバス		ストローブ信号	
アクセスサイズ	アドレス		D15 ～ D8	D7 ～ D0	$\overline{WE1}$	$\overline{WE0}$
バイト	n	1	—	データ 7 ～ 0	ネゲート	アサート
ワード	2n	1	—	データ 7 ～ 0	ネゲート	アサート
	2n + 1	2	—	データ 15 ～ 8	ネゲート	アサート
ロングワード	4n	1	—	データ 7 ～ 0	ネゲート	アサート
	4n + 1	2	—	データ 15 ～ 8	ネゲート	アサート
	4n + 2	3	—	データ 23 ～ 16	ネゲート	アサート
	4n + 3	4	—	データ 31 ～ 24	ネゲート	アサート

11.5.2　エリアの説明

(1)　エリア0

エリア0は、物理アドレスのビット28～26が000のエリアです。

このエリアに設定できるインタフェースは、SRAM、バーストROMです。

バス幅は、外部端子のMD3によりパワーオンリセット時に、8ビット、16ビットから選べます。詳細は「11.3.2 メモリバス幅」を参照してください。

エリア0をアクセスするとCS0信号がアサートされます。

SRAMインタフェースを設定している場合、OEとして使用できるRD信号や書き込み制御のWE0、WE1がアサートされます。

バスサイクル数は、CS0WCRレジスタにより挿入ウェイトサイクル数を0～25から選択することができます。

バーストROMインタフェースを使用する場合、BWビット（CS0BCRレジスタ のビット6～4）によりバーストピッチを0～7から選ぶことができます。

また、外部ウェイト端子（RDY）により、バスサイクルごとに任意のウェイトを挿入することができます（挿入サイクル数が0の時は、RDY信号は無視されます）。

バーストROMインタフェースを使用する場合、ウェイト数に対応してバーストサイクルの転送ステート数が2～9の範囲で決まります。

アドレス信号のセットアップ／ホールドサイクル、リード／ライトストローブ信号アサート／ネゲートのCS0アサート／ネゲートに対する遅延サイクルは、CS0WCRレジスタより、0～7サイクルに設定することができます。

また、リード／ライトストローブセットアップウェイトが1以上のときにはBSホールドサイクルを0～1サイクルの範囲で設定できます。

(2)　エリア4

エリア4は、物理アドレスのビット28～26が100のエリアです。

このエリアに設定できるインタフェースは、SRAM、バーストROMです。

バス幅は、SZビット（CS4BCRレジスタのビット9、8）により8ビット、16ビットから選べます。詳細は、「11.3.2 メモリバス幅」を参照してください。

エリア4をアクセスするとCS4信号がアサートされます。

SRAMインタフェースを設定している場合、OEとして使用できるRD信号や書き込み制御のWE0、WE1がアサートされます。

バスサイクル数は、CS4WCRレジスタにより挿入ウェイトサイクル数を0～25から選択することができます。

バーストROMインタフェースを使用する場合、CS4BCRレジスタのBWビットによりバーストピッチを0～7から選ぶことができます。

また、外部ウェイト端子（RDY）により、バスサイクルごとに任意のウェイトを挿入することができます（挿入サイクル数が0の時は、RDY信号は無視されます）。

アドレス信号のセットアップ／ホールドサイクル、リード／ライトストローブ信号アサート／ネゲートのCS4アサート／ネゲートに対する遅延サイクルは、CS4WCRレジスタより、0～7サイクルに設定することができます。

また、リード／ライトストローブセットアップウェイトが1以上のときにはBSホールドサイクルを0～1の範囲で設定できます。

(3)　エリア5

エリア5は、物理アドレスのビット28～26が101のエリアです。

このエリアに設定できるインタフェースは、SRAM、バーストROMです。

バス幅は、CS5BCRレジスタのSZビットにより8ビット、16ビットから選べます。詳細は「11.3.2 メモリバス幅」を参照してください。

エリア5をアクセスするとCS5信号がアサートされます。

SRAMインタフェースを設定している場合、OEとして使用できるRD信号や書き込み制御のWE0、WE1がアサートされます。

バスサイクル数は、CS5WCRレジスタにより挿入ウェイトサイクル数を0～25から選択することができます。

バーストROMインタフェースを使用する場合、CS5BCRレジスタのBWビットによりバーストピッチを0～7から選ぶことができます。

また外部ウェイト端子（RDY）により、バスサイクルごとに任意のウェイトを挿入することができます（挿入サイクル数が0の時は、RDY信号は無視されます）。

アドレス信号のセットアップ／ホールドサイクル、リード／ライトストローブ信号アサート／ネゲートのCS5アサート／ネゲートに対する遅延サイクルは、CS5WCRレジスタより、0～7サイクルに設定することができます。

また、リード／ライトストローブセットアップウェイトが1以上のときにはBSホールドサイクルを0～1の範囲で設定できます。

(4) エリア6

エリア6は、物理アドレスのビット28～26が110のエリアです。

このエリアに設定できるインタフェースは、SRAM、バーストROMです。

バス幅は、CS6BCRレジスタのSZビットにより8ビット、16ビットから選べます。詳細は「11.3.2 メモリバス幅」を参照してください。

エリア6をアクセスするとCS6信号がアサートされます。

SRAMインタフェースを設定している場合、OEとして使用できるRD信号や書き込み制御のWE0、WE1がアサートされます。

バスサイクル数は、CS6BCRレジスタにより挿入ウェイトサイクル数を0～25から選択することができます。

バーストROMインタフェースを使用する場合、CS5BCRレジスタのBWビットによりバーストピッチを0～7から選ぶことができます。

また、外部ウェイト端子（RDY）により、バスサイクルごとに任意のウェイトを挿入することができます（挿入サイクル数が0のときは、RDY信号は無視されます）。

アドレス信号のセットアップ／ホールドサイクル、リード／ライトストローブ信号アサート／ネゲートのCS6アサート／ネゲートに対する遅延サイクルは、CS6WCRレジスタより、0～7サイクルに設定することができます。

また、リード／ライトストローブセットアップウェイトが1以上のときにはBSホールドサイクルを0～1の範囲で設定できます。

11.5.3　SRAM インタフェース

(1)　基本タイミング

本LSI のSRAMインタフェースは、主にSRAMの接続を考慮してストローブ信号を出力します。図10.4にSRAMインタフェースの基本タイミングを示します。ウェイトのない通常アクセスは2 サイクルで終了します。$\overline{\text{BS}}$ 信号はバスサイクルの開始を表すため、1 サイクル又は2 サイクルアサートされます。$\overline{\text{CSn}}$ 信号は、T1 の立ち上がりでアサートされT2 のクロックの次の立ち上がりでネゲートされます。したがって最小ピッチでアクセスする場合は、ネゲート期間は生まれません。

アクセスサイズは、読み出し時は指定がありません。アドレス端子（A[25:0]）に正しいアクセスアドレスが出力されていますが、アクセスサイズの指定がないので、16 ビットデバイスでは16 ビットを常に読み出すことになります。書き込み時には書き込みを行うバイトの $\overline{\text{WEn}}$ 信号のみがアサートされます。詳細は「11.5.1 エンディアン／アクセスサイズとデータアライメント」を参照してください。

32 バイト転送時は、設定したバス幅に従い、合計 32 バイトを連続して行います。先頭のアクセスはアクセス要求があったデータに対して行われ、残りのアクセスは32 バイト境界のデータに対してラップアラウンドで行われます。この途中ではバス権を解放しません。

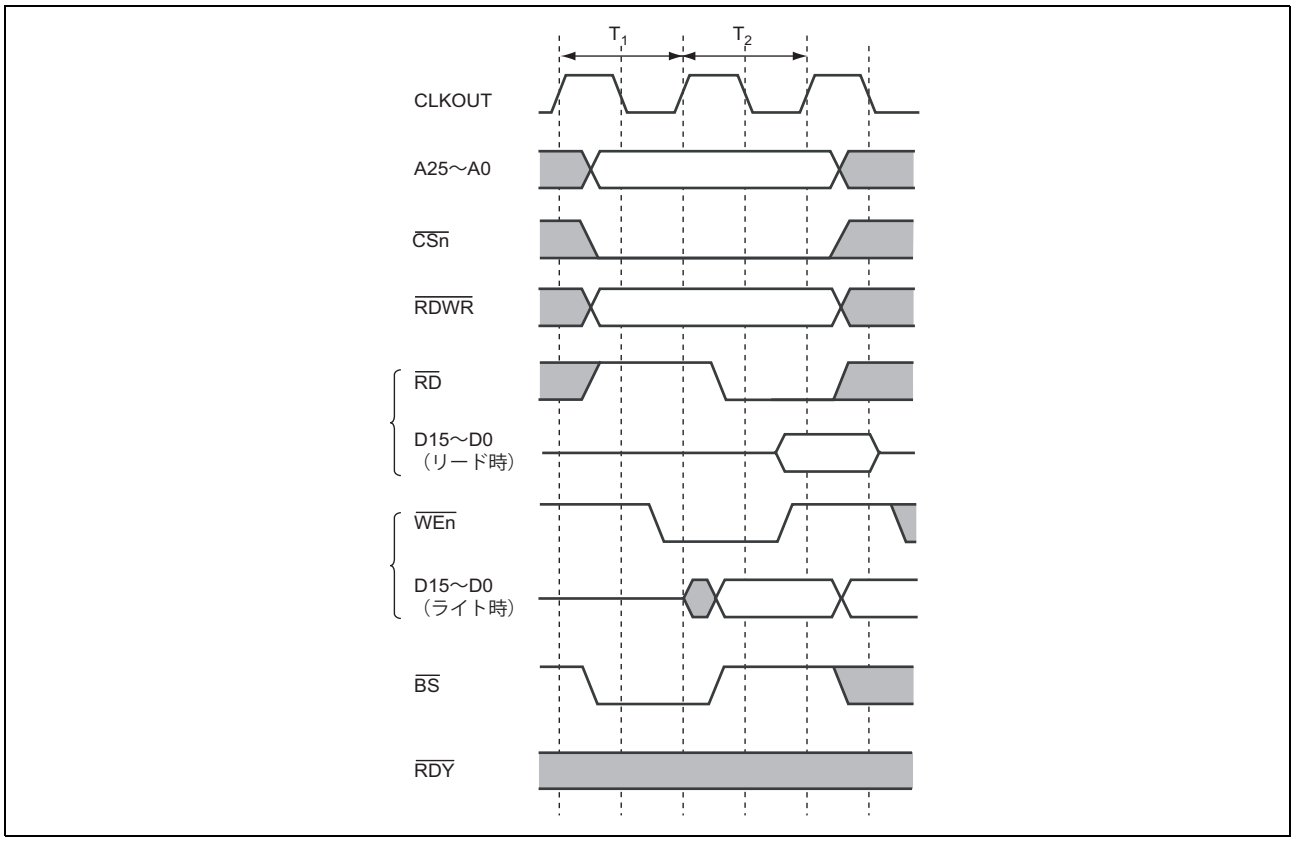


図 11.4　SRAM インタフェースの基本タイミング

図11.5 に16 ビットデータ幅のSRAM との接続例を、図11.6 に8 ビットデータ幅のSRAM との接続例を示します。

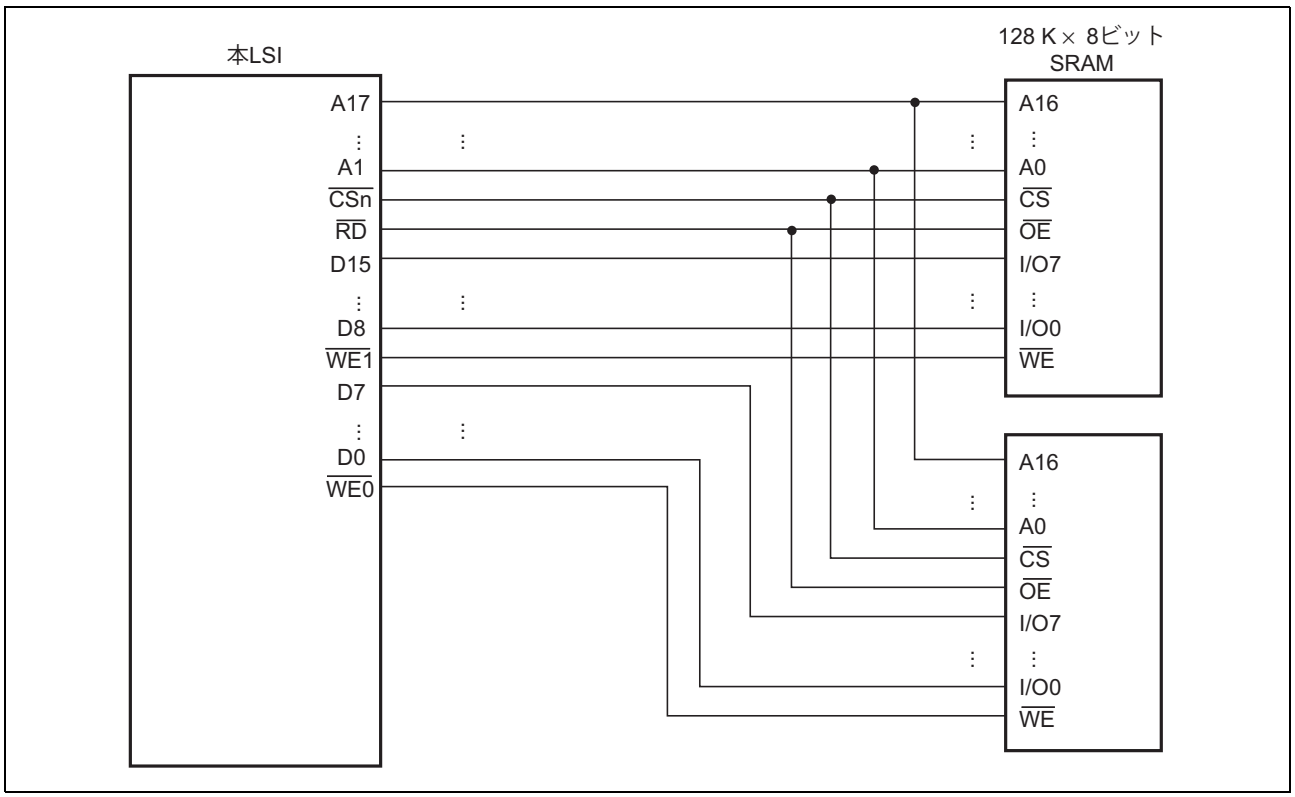


図 11.5　16 ビットデータ幅SRAM 接続例

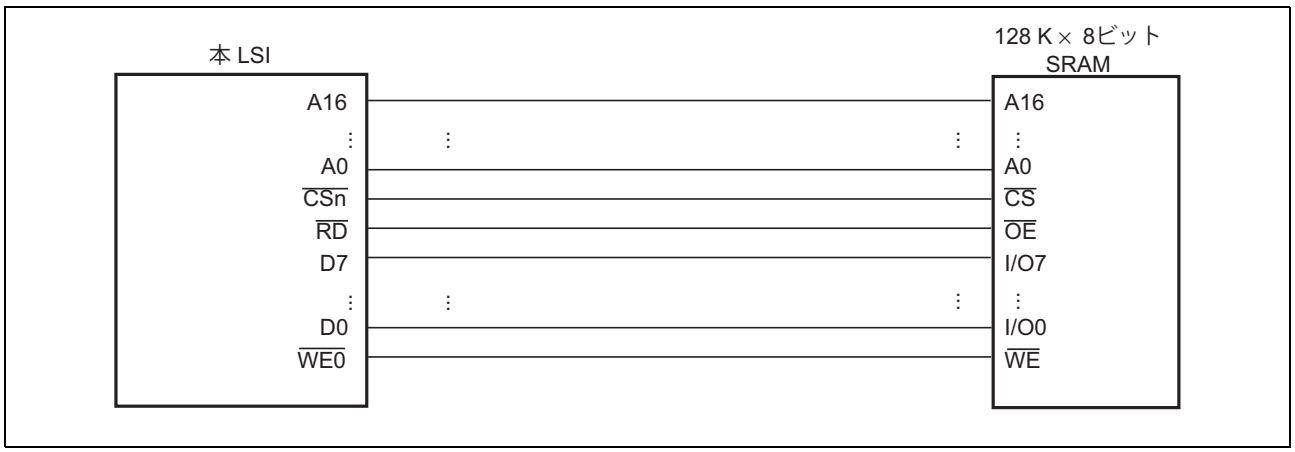


図 11.6　8 ビットデータ幅SRAM 接続例

(2)　ウェイトステート制御

CSnWCR の設定により、SRAM インタフェースのウェイトステートの挿入を制御できます。IW ビット（CSnWCR レジスタのビット3～0）が0 以外のときは、このウェイト指定に従ったソフトウェイトが挿入されます。詳細は「11.4.3 CSn ウェイトコントロールレジスタ (CSnWCR)」の項を参照してください。

CSnWCR によって、図11.7 に示すSRAM インタフェースのウェイトタイミングで、Tw のサイクルがウェイトサイクルとして指定サイクル数だけ挿入されます。

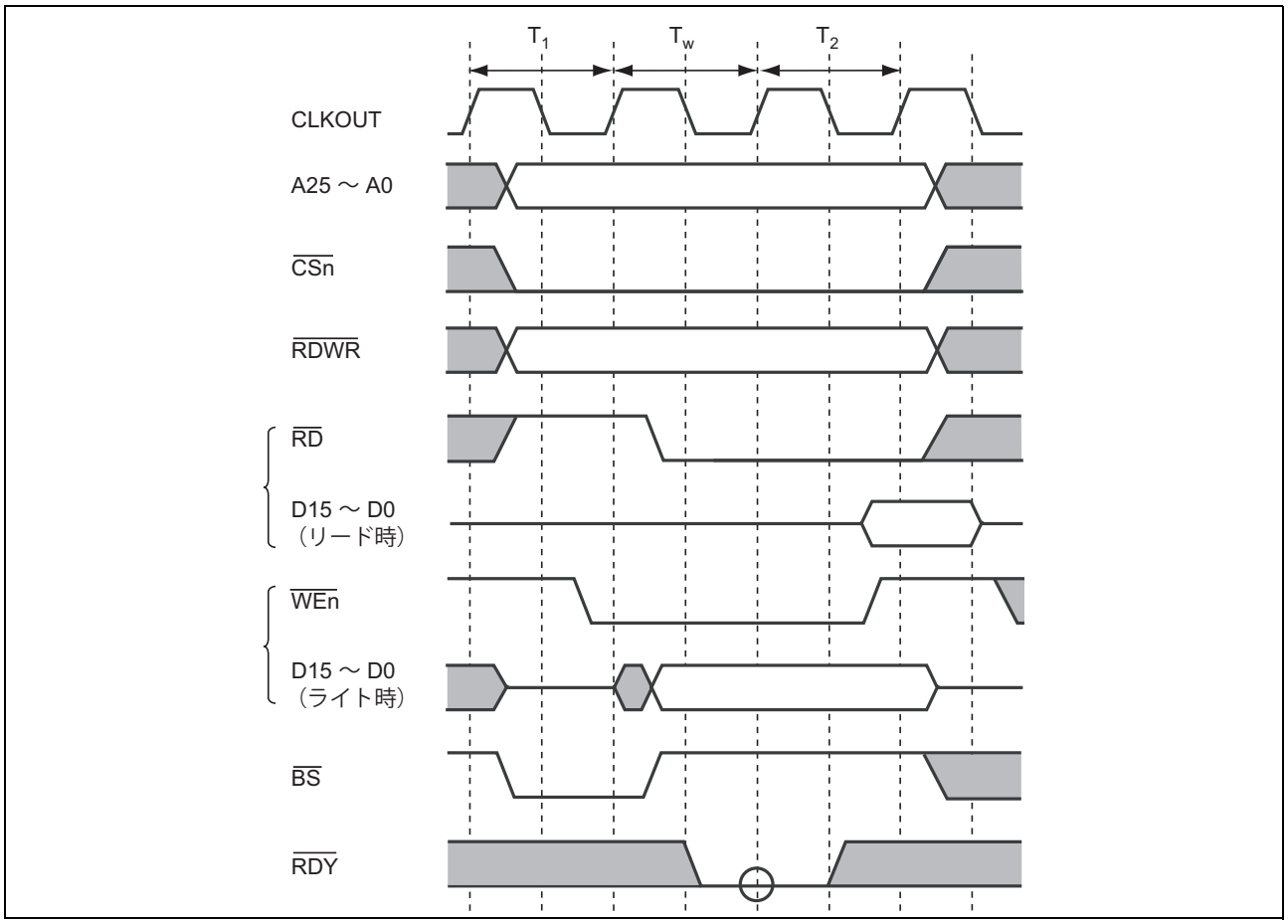


図 11.7　SRAM インタフェースのウェイトタイミング（ソフトウェアウェイトのみ）

CSnWCR によってソフトウェアによるウェイトを指定したときに、外部からのウェイト入力 $\overline{\text{RDY}}$ 信号もサンプリングされます。$\overline{\text{RDY}}$ 信号のサンプリングを図 11.8 に示します。ソフトウェアウェイトとして1 サイクルのウェイトを指定しています。サンプリングはTw ステートからT2 ステートに移行する際に行われるので、T1 のサイクル及び1 回目のTw サイクルで$\overline{\text{RDY}}$ 信号をH レベルにしてもなにも影響を与えません。$\overline{\text{RDY}}$ 信号はクロックの立ち上がりでサンプリングされます。

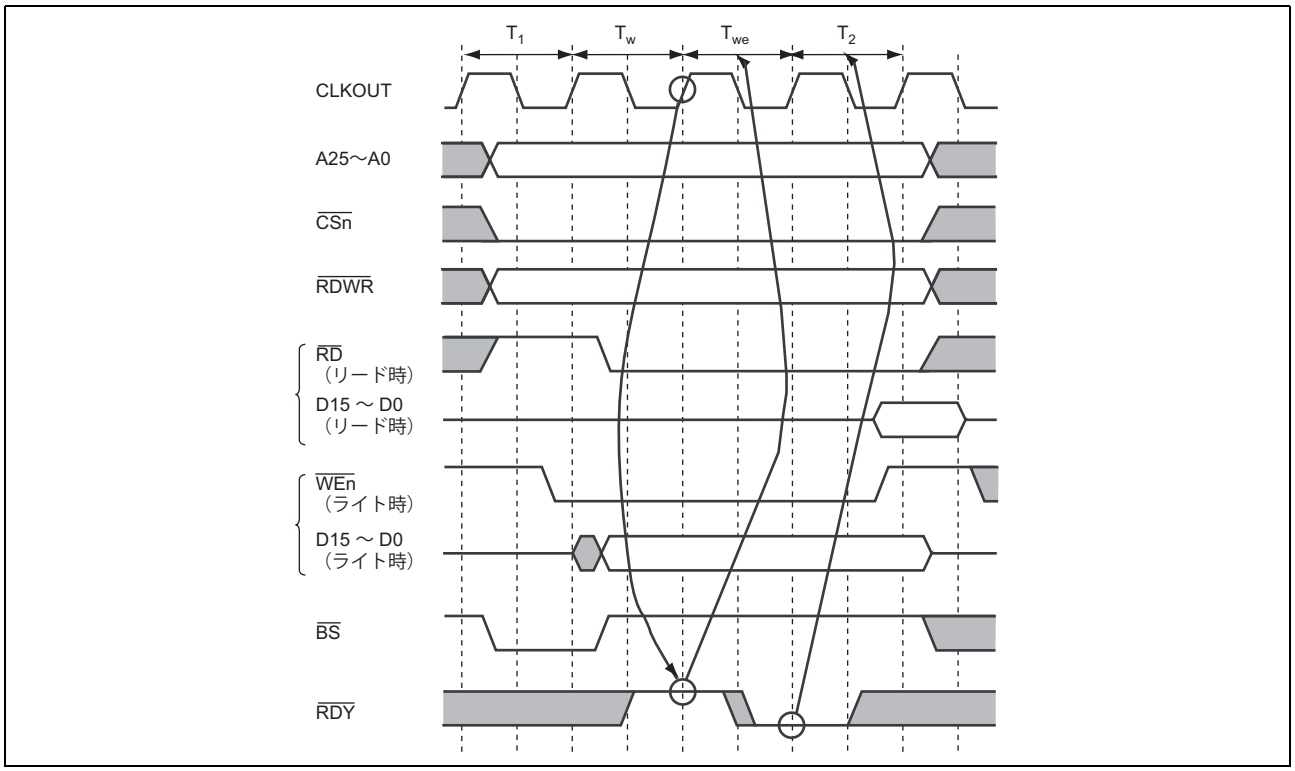
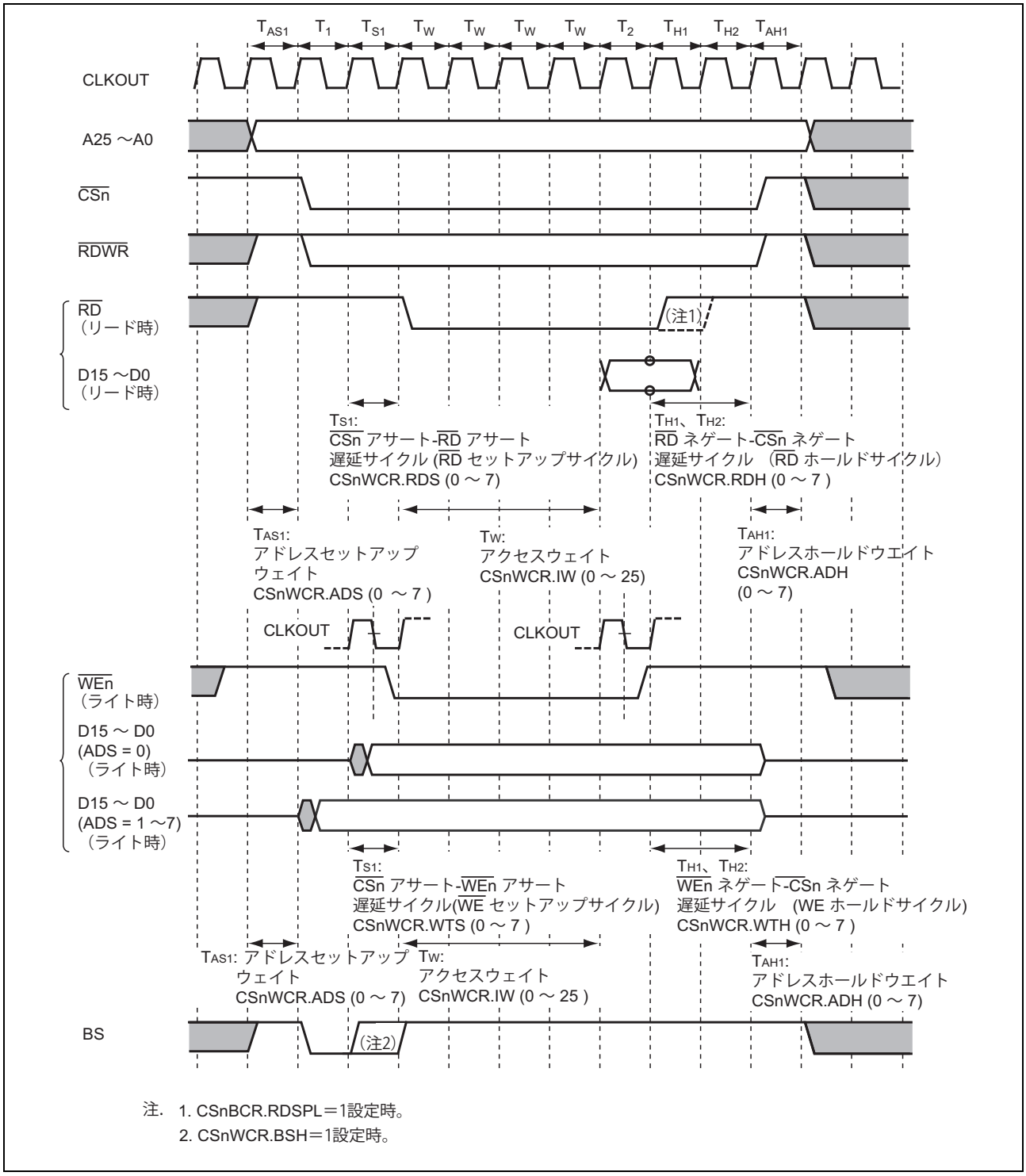


図 11.8　SRAM インタフェースのウェイトタイミング
（$\overline{\text{RDY}}$ 信号によるウェイトステート（T_{we}）挿入、RDY 信号は同期入力）

(3)　リードストローブネゲートタイミング

SRAM インタフェース時、RDSPL ビット（CSnBCR レジスタ のビット7）の設定により、リード時のストローブのネゲートタイミングを設定することができます。設定については「11.4.2 CSn バスコントロールレジスタ（CSnBCR）」のレジスタの項を参照してください。



注. 1. CSnBCR.RDSPL＝1設定時。
2. CSnWCR.BSH＝1設定時。

図 11.9　SRAM インタフェースのウェイトタイミング
（リードストローブネゲートタイミングの設定）

11.5.4　バーストROM インタフェース

TYPE ビット（CSnBCR レジスタのビット2～0）を010 に設定することにより、エリア0、4～6 にバーストROMの接続が可能となります。バーストROM インタフェースは、バーストアクセス機能を有するROM に高速にアクセスするためのものです。バーストROM に対するバーストアクセスのタイミングを図11.10 に示します。ウェイトサイクルは0 サイクルの設定です。基本的にはSRAM インタフェースと同じようなアクセスを行いますが、最初のサイクルを終了する際、アドレスのみを切り替えて、次のアクセスを行います。8 ビット幅のROM を接続する場合にはBST ビット（CSnBCR(n=0、4～6）レジスタのビット11、10）によって連続アクセスの回数を4 回、8 回、16回、32 回に設定できます。16 ビット幅のROM を接続する場合には同じく4 回、8 回、16 回に設定できます。

ウェイトステートを1 以上に設定した場合、常に$\overline{\text{RDY}}$ 端子のサンプリングを行います。

バーストROM の設定を行い、ウェイト指定を0 にした場合も2 回目以降のアクセスサイクルは2 サイクルとなります。この場合のタイミングを図11.11 に示します。

バーストROM インタフェースに対するライト動作は、SRAM インタフェースとして行われます。

32 バイト転送時は設定したバス幅に従い、合計32 バイトを連続して行います。先頭のアクセスはアクセス要求があったデータに対して行われ、残りのアクセスは32 バイト境界のデータに対して行われます。また、バス幅（CSnBCR レジスタのSZ ビット）とバースト回数（CSnBCR レジスタのBST ビット）を掛けたバイト境界でバーストを一旦中止し（$\overline{\text{RD}}$ をネゲート）、その後CSnWCR の設定に従い再開します。この途中ではバス権を解放しません。

バーストROM の設定を行い、CSnWCR でセットアップ／ホールドを指定した場合のタイミングを図11.12 に示します。

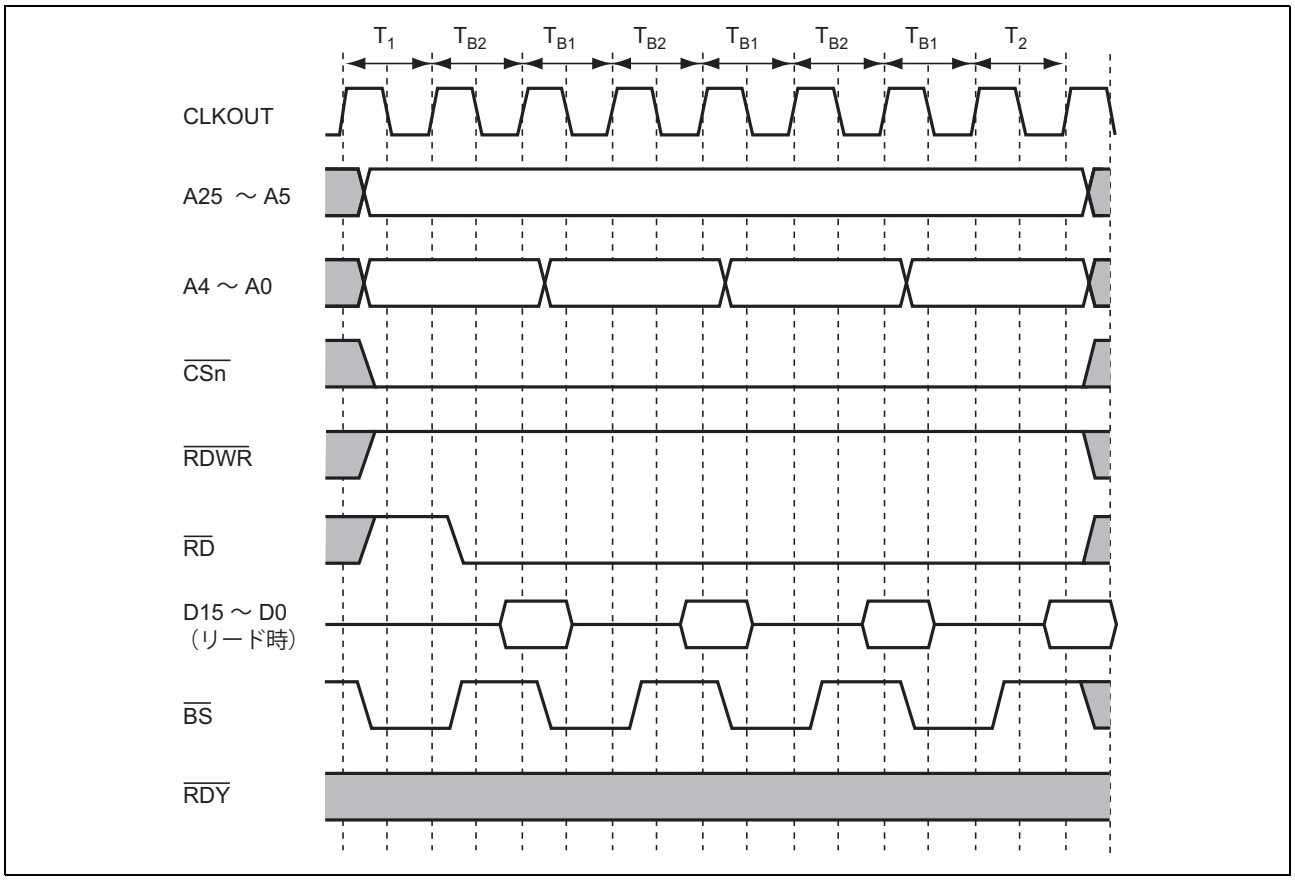


図 11.10　バーストROM 基本アクセスタイミング

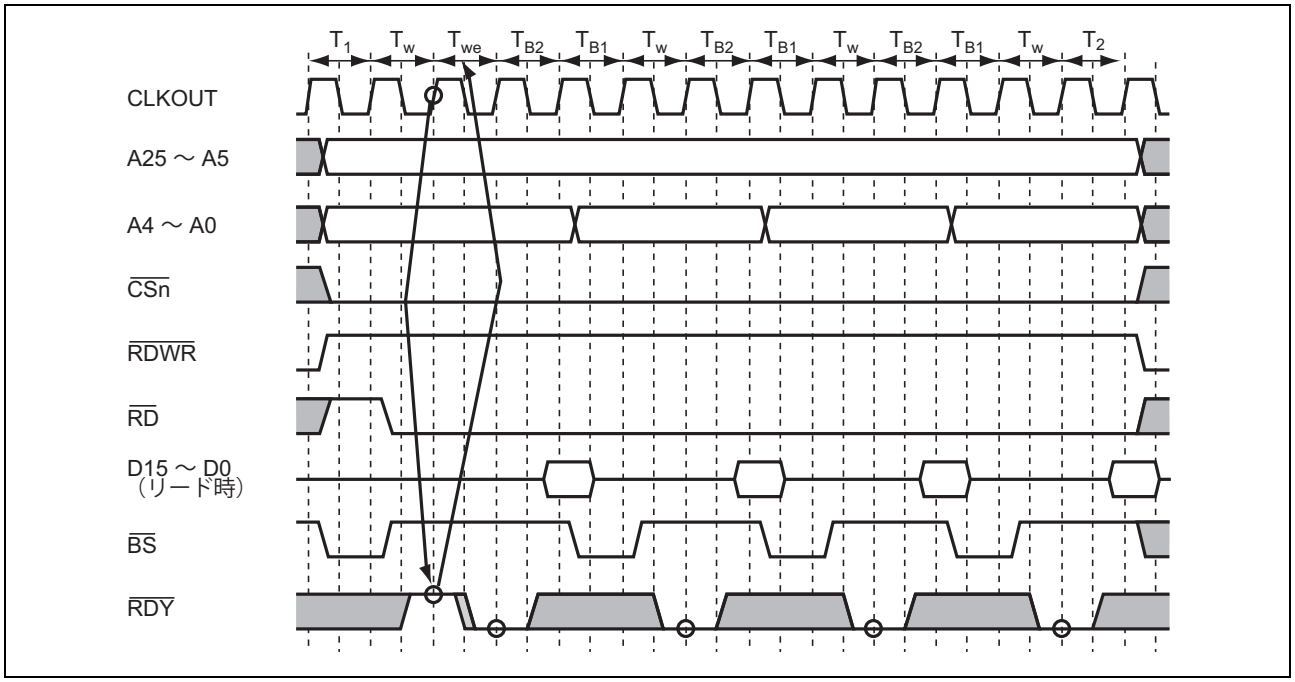
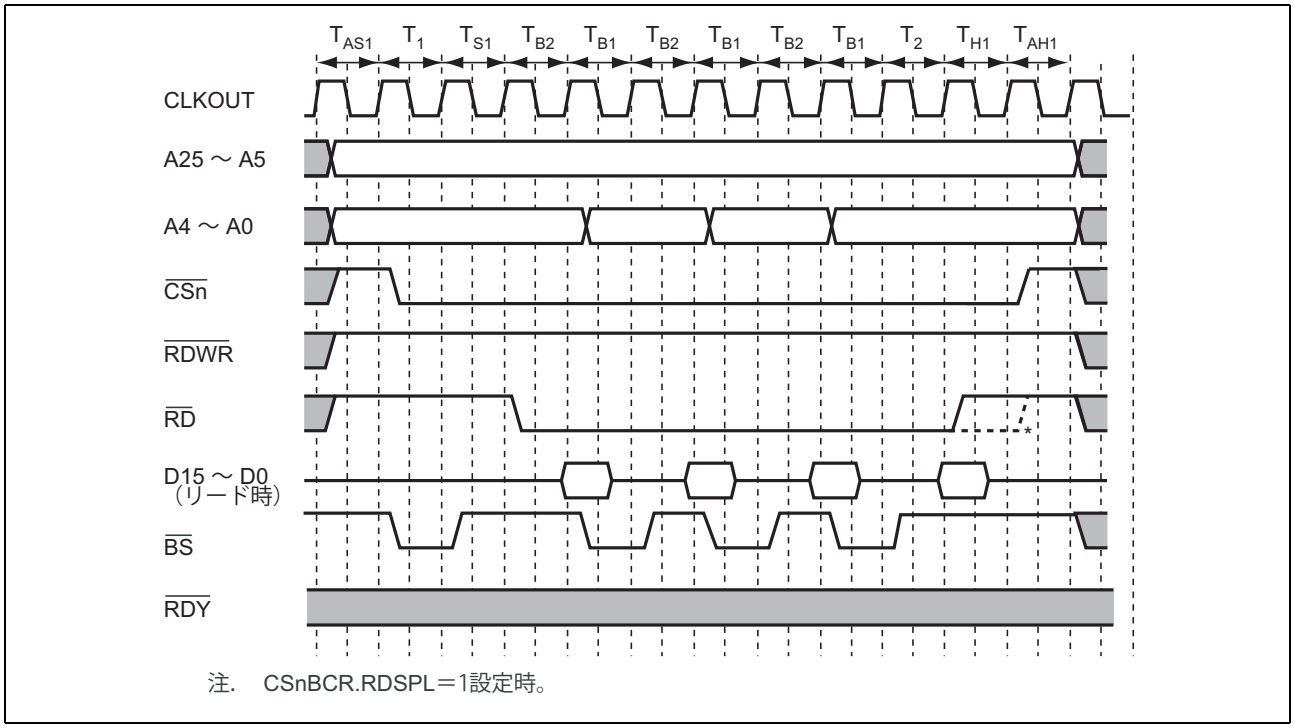


図 11.11　バーストROM ウェイトタイミング



注.　CSnBCR.RDSPL＝1設定時。

図 11.12　バーストROM ウェイトタイミング

11.5.5　アクセスサイクル間ウェイト

外部メモリバスの動作周波数が高くなってきたため、低速なデバイスからの読み出しが完了した際のデータバッファのターンオフが間に合わず、次のアクセスのデータと衝突してデバイスの信頼度を低下させたり、誤動作を引き起こしたりする事象が起こる場合があります。これを防止するため、直前のアクセスのエリアと読み出し／書き込みの種類を記憶しておき、次のアクセスを起動する際にバスが衝突する可能性があるケースではアクセスサイクルの前にウェイトサイクルを挿入して、データの衝突を回避する機能を設けました。ウェイトサイクル挿入のケースとしては、「11.4.2 CSnバスコントロールレジスタ（CSnBCR）」に示されるように、アクセスサイクル間にアイドルサイクルが挿入されます。CSnBCRのアイドルサイクル設定ビット（IWW、IWRWD、IWRWS、IWRRD、及びIWRRSビット）（n＝0、4～6）によって、少なくとも指定されたサイクルを、アイドルサイクルとして挿入します。

バスアービトレーションを行う場合には、アクセスサイクル間ウェイト後、バスが解放されます。

DMA転送の場合にも、CSnBCRアイドルサイクル指定ビットによって指定された通常のサイクル間ウェイトが挿入されます。

また、アクセスサイズが8バイト及び16バイトのときは、4バイトアクセスごとにアクセスサイクル間ウェイトが挿入されます。

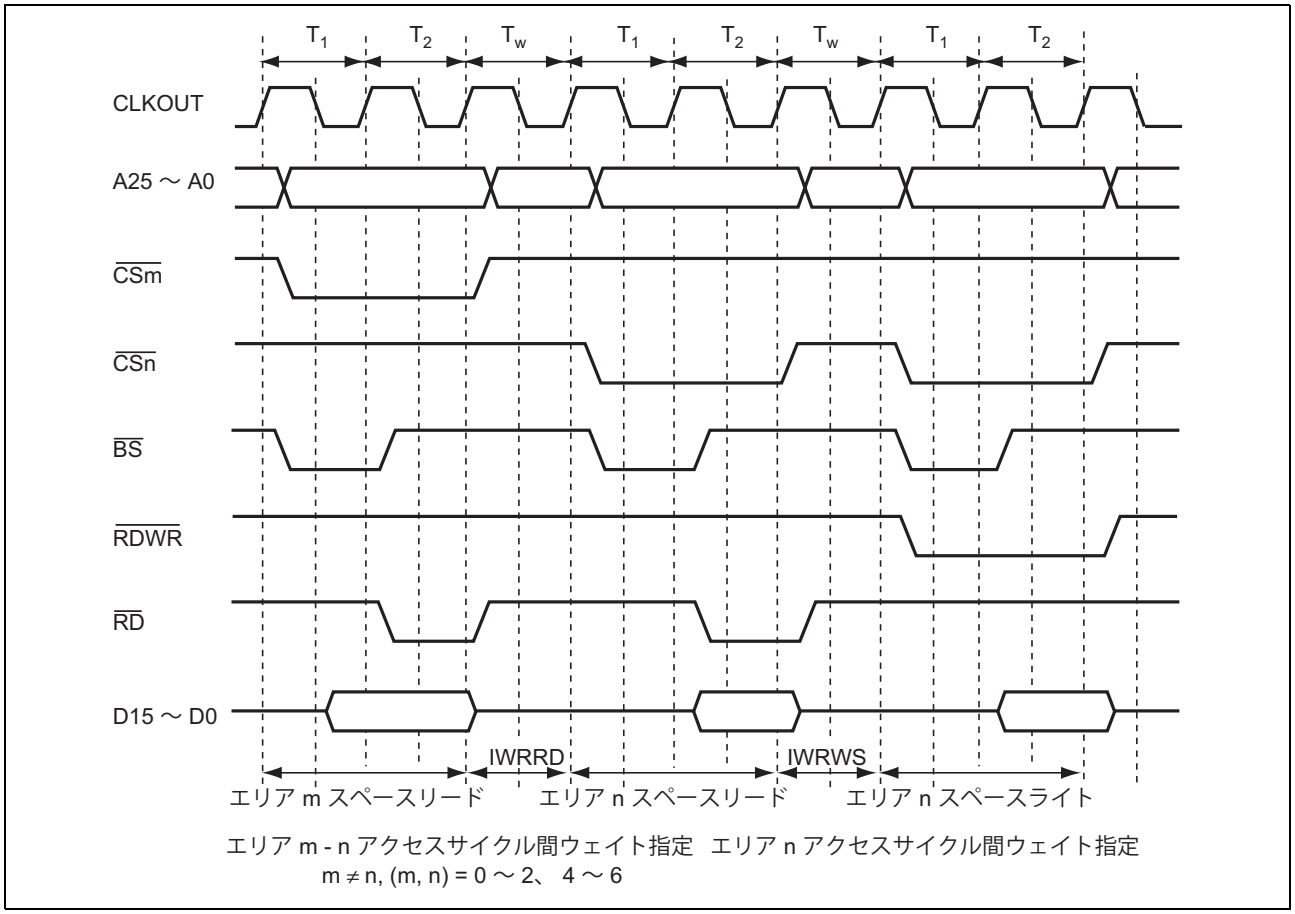


図 11.13　アクセスサイクル間ウェイト

11.5.6　バスアービトレーション

本LSI の内部にはCPU、DMAC の2 つのバスマスタがあります。同時に要求が発生した場合のバス権要求に関しての優先順位判定は、高い方から順に、DMAC、CPU の順となります。

バス権の委譲はバスサイクルの切れ目で行われます。

ただし、データバス幅がアクセスサイズより小さいことによって生じる複数のバスサイクル、たとえば8 ビットバス幅のメモリにロングワードアクセスを行う場合やキャッシュフィルやライトバックなどの32 バイト転送の途中でバス権の解放を行いません。また、TAS 命令実行中のリードサイクルとライトサイクルの間やDMA 転送実行時バスロックしているときのリードサイクルとライトサイクルの間にもバス権の解放を行いません。

CPU は、キャッシュメモリとの間を専用の内部バスで接続されているため、LSI 内部の他のバスマスタがバスを使用していても、キャッシュメモリからの読み出しを行うことができます。CPU からの書き込みの場合、本LSI のキャッシュでライトスルー方式を設定した場合又は、キャッシュオフエリアへのアクセスを行った場合、外部に対する書き込みサイクルが生じます。このためバス権が返還されるまで待たされます。

11.6　実装上の注意事項

11.6.1　制限事項

マスタモジュールで、LBSCの未使用領域（H'FF80 4000 ～ H'FF80 FFFF）にはアクセスしないでください。

11.6.2　概要

マスタモジュールでLBSCの未使用領域（H'FF80 4000 ～ H'FF80 FFFF）にアクセスすると、LBSCモジュールは応答せず、内部SHwy汎用バスはハングアップします。
この状態はパワーオンリセットで回復します。

12. DDR3-SDRAMインタフェース（DBSC3）

12.1 概要

12.1.1 特長

DDR3-SDRAM 用の外部バスコントローラ（DBSC3）は、DDR3-SDRAM をサポートします。DBSC3 はバス制御部とデバイス制御部とレジスタ制御部が存在します。バス制御部ではバスからのリクエスト要求を受け、デバイス制御部やレジスタ制御部へのコマンドを発行します。デバイス制御部では発行されたコマンドに従って、DDR3-SDRAM へのリード・ライトアクセスを実施します。また、DDR3-SDRAM に対するリフレッシュ動作を実施します。レジスタ制御部では発行されたコマンドに従って制御レジスタへのリード・ライトアクセスを実施します。

DBSC3 は、以下のような機能により、DDR3-SDRAM のバス帯域の最大限の活用を可能にします。

(1) マルチバンクオペレーション活用によるページヒット率の向上
(2) バースト長 8 にて DDR3-SDRAM を動作させることによる SDRAM コマンド数の削減
(3) 後続リクエストに対するバンクプリチャージ・アクティベートコマンドの先行実行

表 12.1 に DBSC3 の主な機能を示します。

表 12.1 DBSC3 機能

項目	機能
マルチバンク対応	8 バンクのマルチバンクオペレーションに対応。
バンク数	8 バンク (DDR3)に対応
外部バス幅	16bit に対応
先行プリチャージ・アクティベート機能	リクエストキュー中の後続リクエスト内容を判定し、ページミス時に、空きコマンドサイクルを見つけて、アクセス対象バンクの先行プリチャージ・アクティベート処理を実施。
動作モード	バースト長：8（固定）(バーストチョップには対応しません)。 バーストタイプ：シーケンシャル（固定）。 DLL OFF モードには対応していません。
低消費電力モード	セルフリフレッシュモード、及びプリチャージドパワーダウンモードをサポートします（アクティブパワーダウンモードには対応していません）。 アドレス変換機能を併用することにより、SDRAM のパーシャルアレイセルフリフレッシュ機能を効果的に使用できます。
アドレス並び （アドレス変換機能）	上位から、Bank アドレス、Row アドレス、Bank アドレス、Column アドレスの順。 （Bank アドレスは、3 ビットを 2 つの部分に分けて、Row アドレスの上位と下位に配置できる。Bank アドレスの分割の仕方はレジスタにて変更可能。）
タイミング設定	以下のタイミングをレジスタにて設定： CAS レイテンシ、CAS ライトレイテンシ、ACT-READ/WRITE 最小期間、PRE 期間、ACT-ACT/REF 最小期間、ACT-PRE 最小期間、ACT(A)-ACT(B)最小期間、4Active ウィンドウ最小期間、READ-PRE 最小期間、ライトリカバリ期間、READ-WRITE 最小期間、WRITE-READ 最小期間、REF-ACT/REF 最小期間、CKE-Hi 最小期間、CKE-Low 最小期間。 アディティブレイテンシ（AL）は 0 のみをサポートします。
リフレッシュ動作	平均間隔、及び最大ポスト数をレジスタ設定。 リクエストの空きサイクルがあれば、先行リフレッシュ動作を実施。

項目	機能
SHwyインターフェイス	SHwyバスに対応。 レジスタアクセス可。 Load/Store の1/2/4/8/16/32 バイト、Load/Store Group の1/2/4/8/16/32 バイト、Load/Store Incremental の1/2/4/8/16/32/64/128 バイト、NOP。 なお、Load Group, Store Group は、それぞれLoad, Store と同一に扱います。 エンディアンは、ビッグエンディアン/リトルエンディアンの両方に対応します。
動作周波数	SHwy とメモリコントローラは同期クロック動作。 SHwy クロック(SHck)、及びメモリコントローラクロック(mclk)は下記のクロック比をサポートします。 SHck:mclk = 192:264
接続対象メモリ	DDR3-SDRAM JEDEC JESD79-3 準拠 (512Mbit～8Gbit 品をサポート)

用語と記号の定義

DBSC3 仕様書では以下の用語・記号を使用します。

- DDR3-SDRAM を略してSDRAM と書く場合があります。
- 実数 x に対し、x 以上の最小の整数を ceil(x) と書きます。
- 実数 x に対し、x 以下の最大の整数を floor(x) と書きます。

12.1.2　ブロック図

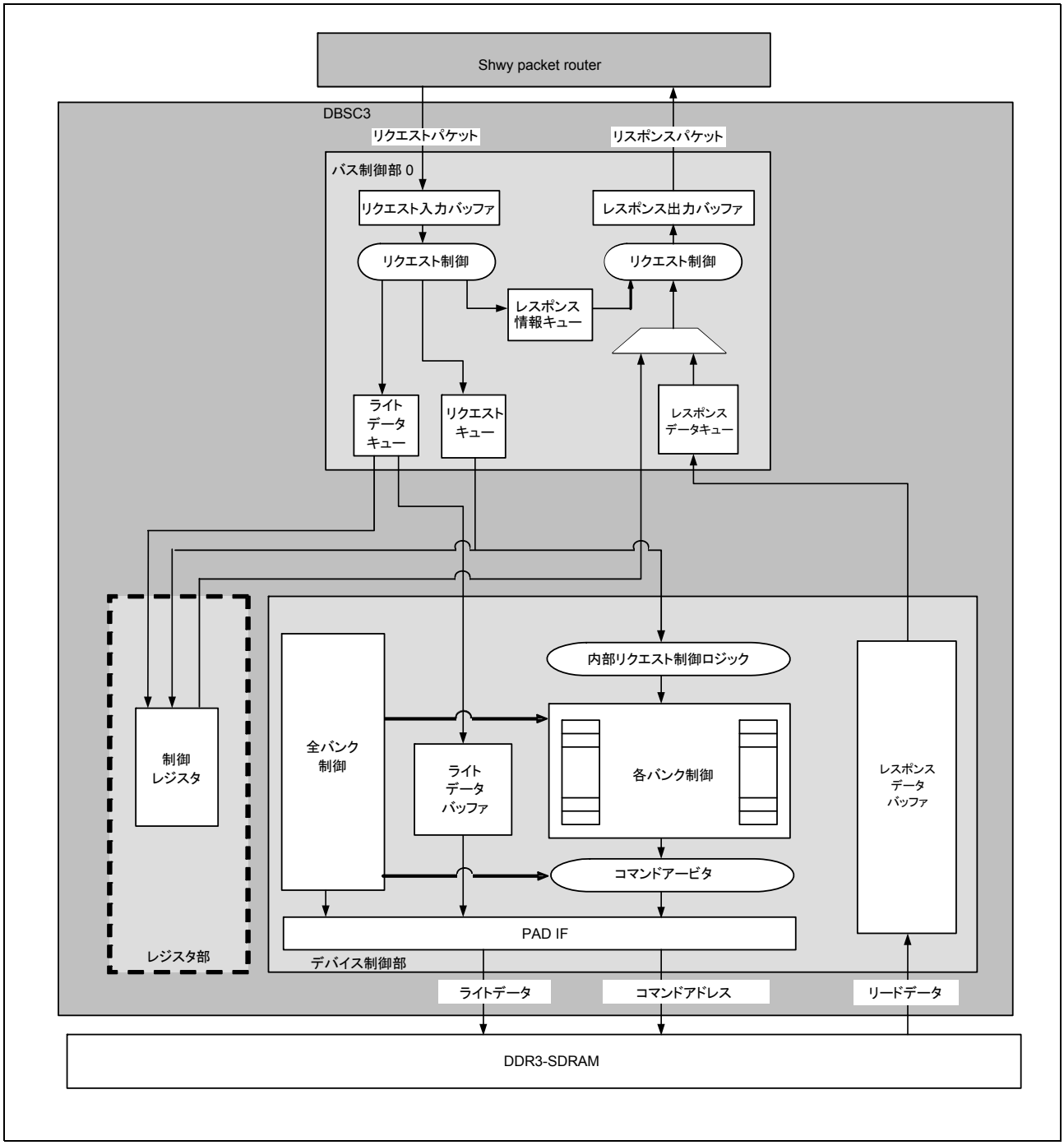


図 12.1　DBSC3 ブロック図

12.1.3　入出力端子

表12.2にDBSC3の端子構成を記載します。

表12.2　DBSC3 端子構成

端子名	機 能	入出力	説 明
M_CLK、 M_CLK	DDR3 クロック	出力	DDR3-SDRAM用クロック出力（差動信号）
M_A15～M_A0	DDR3 アドレスバス	出力	DDR3-SDRAM用アドレス信号
M_BA2～M_BA0	DDR3 バンクアクティブ	出力	DDR3-SDRAM 用のバンクアドレス
M_CS	DDR3 チップセレクト	出力	DDR3-SDRAM 用のチップセレクト信号
M_RAS	DDR3 ロウアドレスストローブ	出力	DDR3-SDRAM 用のロウアドレスストローブ信号
M_CAS	DDR3 カラムアドレスストローブ	出力	DDR3-SDRAM 用のカラムアドレスストローブ信号
M_WE	DDR3 ライトイネーブル	出力	DDR3-SDRAM 用のライトイネーブル信号
M_CKE	DDR3 クロックイネーブル	出力	CKE出力信号
M_ODT	DDR3 ODTイネーブル	出力	DDR3-SDRAM 用ODT イネーブル信号
M_RESET	DDR3 リセット	出力	DDR3-SDRAM用リセット信号
M_ZQ	DDR3 インピーダンスマッチング	入出力	インピーダンスマッチング
M_DM1、M_DM0	DDR3 データマスク	出力	DDR3-SDRAM 用データマスク信号
M_DQS1、 M_DQS0、 M_DQS1、M_DQS0	DDR3 データストローブ	入出力	DDR3-SDRAM 用データストローブ信号（差動信号）
M_DQ15～M_DQ0	DDR3 データバス	入出力	データ入出力信号
M_VREF_CA	テスト用 DDR3 基準電圧入力	入力	グランドに接続してください
M_VREF_DQ	DDR3 基準電圧入力	入力	基準電圧入力（VDDQ-DDRの半分）

12.1.4　M_ZQ端子用外部抵抗値

ZQ端子は120Ω（誤差±1%）を介してGNDに接続してください。

12.2　データアライメント

12.2.1　DDR3-SDRAM でのデータアライメント

本メモリコントローラは、DDR3-SDRAM をバースト長 8 でアクセス（図 12.2）するため、表 12.3 にあるようにアクセスサイズに応じて、不要なリードデータは読み捨て、ライト時にはデータマスク信号を使いデータをマスクしています。表 12.3 の回数は図 12.2 に示すライト／リード時のバースト回数に対応しています。例えばリトルエンディアン時、アドレス 8n+4,5 のバイトアクセスが生じた場合には、2 回目（DQS の fall edge に対応）に有効データが存在することになります。

表 12.4～表 12.5 に、外部バス上のデータの対応関係をアクセスサイズに応じて示します。エンディアン切り替えは、パワーオンリセット時に外部端子 MD5 の切り替えにより設定します。

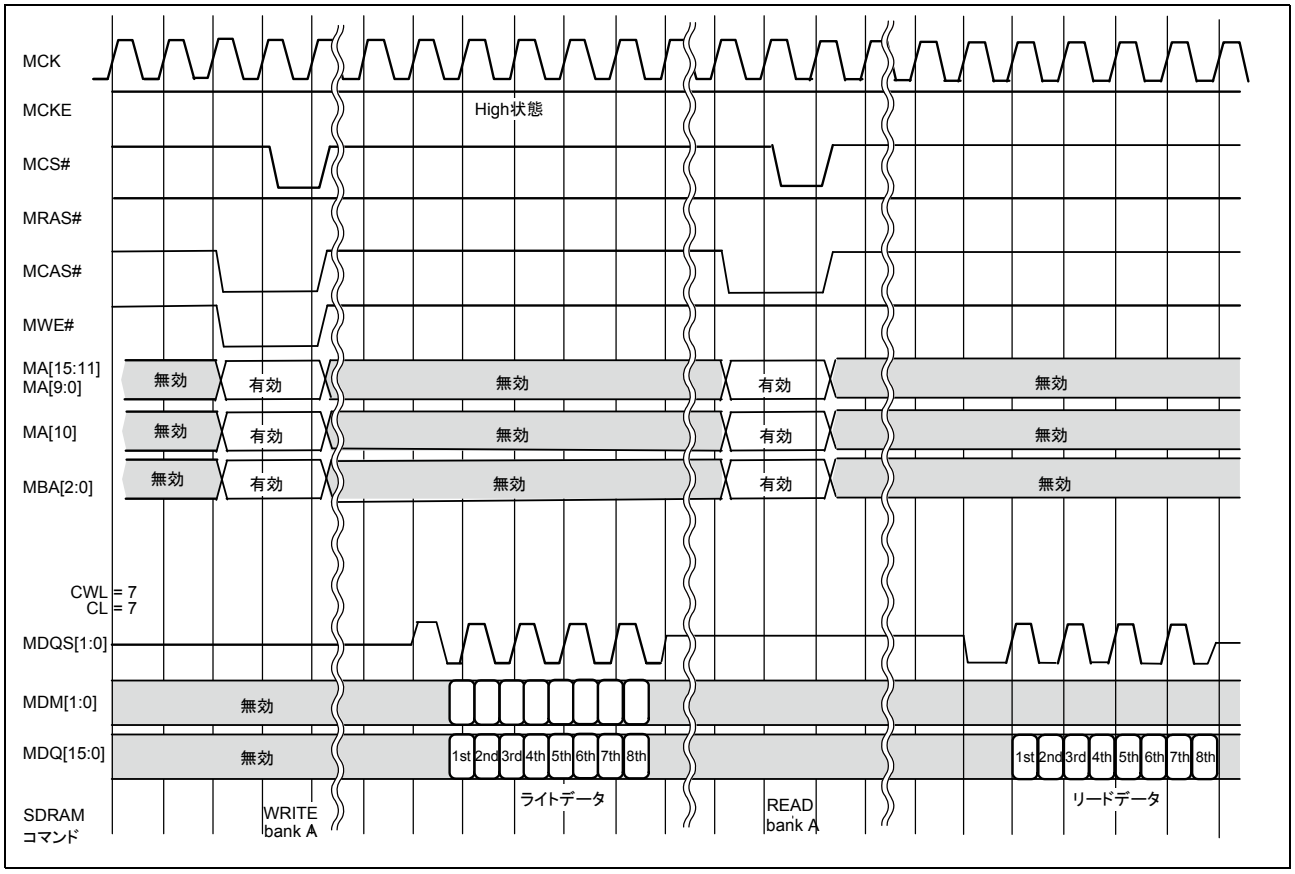


図 12.2　バーストアクセス動作

表12.3　バースト長8のアクセス内で有効なデータが存在する位置

リトルエンディアン時	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目
バイトアクセス (アドレス 8n + 0,1)	無効	無効	無効	有効	無効	無効	無効	無効
バイトアクセス (アドレス 8n + 2,3)	無効	無効	有効	無効	無効	無効	無効	無効
バイトアクセス (アドレス 8n + 4,5)	無効	有効	無効	無効	無効	無効	無効	無効
バイトアクセス (アドレス 8n + 6,7)	有効	無効	無効	無効	無効	無効	無効	無効
ワードアクセス (アドレス 8n + 0)	無効	無効	無効	有効	無効	無効	無効	無効
ワードアクセス (アドレス 8n + 2)	無効	無効	有効	無効	無効	無効	無効	無効
ワードアクセス (アドレス 8n + 4)	無効	有効	無効	無効	無効	無効	無効	無効
ワードアクセス (アドレス 8n + 6)	有効	無効	無効	無効	無効	無効	無効	無効
ロングワードアクセス (アドレス 8n + 0)	無効	無効	有効	有効	無効	無効	無効	無効
ロングワードアクセス (アドレス 8n + 4)	有効	有効	無効	無効	無効	無効	無効	無効
クワッドワードアクセス (アドレス 8n + 0)	有効	有効	有効	有効	無効	無効	無効	無効

ビッグエンディアン時	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目
バイトアクセス (アドレス 8n + 0,1)	有効	無効	無効	無効	無効	無効	無効	無効
バイトアクセス (アドレス 8n + 2,3)	無効	有効	無効	無効	無効	無効	無効	無効
バイトアクセス (アドレス 8n + 4,5)	無効	無効	有効	無効	無効	無効	無効	無効
バイトアクセス (アドレス 8n + 6,7)	無効	無効	無効	有効	無効	無効	無効	無効
ワードアクセス (アドレス 8n + 0)	有効	無効	無効	無効	無効	無効	無効	無効
ワードアクセス (アドレス 8n + 2)	無効	有効	無効	無効	無効	無効	無効	無効
ワードアクセス (アドレス 8n + 4)	無効	無効	有効	無効	無効	無効	無効	無効
ワードアクセス (アドレス 8n + 6)	無効	無効	無効	有効	無効	無効	無効	無効
ロングワードアクセス (アドレス 8n + 0)	有効	有効	無効	無効	無効	無効	無効	無効
ロングワードアクセス (アドレス 8n + 4)	無効	無効	有効	有効	無効	無効	無効	無効
クワッドワードアクセス (アドレス 8n + 0)	有効	有効	有効	有効	無効	無効	無効	無効

表12.4　リトルエンディアンのアクセスとデータアライメント

アクセスサイズ	アドレス	MDQ15～MDQ8	MDQ7～MDQ0
バイト	0番地		Data7～0
	1番地	データ7～0	
	2番地		データ7～0
	3番地	データ7～0	
	4番地		データ7～0
	5番地	データ7～0	
	6番地		データ7～0
	7番地	データ7～0	
ワード	0番地	データ 15～8	データ 7～0
	2番地	データ 15～8	データ 7～0
	4番地	データ 15～8	データ 7～0
	6番地	データ 15～8	データ 7～0
ロングワード	0番地(1回目：2番地)	データ 31～24	データ 23～16
	0番地(2回目：0番地)	データ 15～8	データ 7～0
	4番地(1回目：6番地)	データ 31～24	データ 23～16
	4番地(2回目：4番地)	データ 15～8	データ 7～0
クワッドワード	0番地(1回目：6番地)	データ 63～56	データ 55～48
	0番地(2回目：4番地)	データ 47～40	データ 39～32
	0番地(3回目：2番地)	データ 31～24	データ 23～16
	0番地(4回目：0番地)	データ 15～8	データ 7～0

表12.5　ビッグエンディアンのアクセスとデータアライメント

アクセスサイズ	アドレス	MDQ15～MDQ8	MDQ7～MDQ0
バイト	0番地	データ 7～0	
	1番地		データ 7～0
	2番地	データ 7～0	
	3番地		データ 7～0
	4番地	データ 7～0	
	5番地		データ 7～0
	6番地	データ 7～0	
	7番地		データ 7～0
ワード	0番地	データ 15～8	データ 7～0
	2番地	データ 15～8	データ 7～0
	4番地	データ 15～8	データ 7～0
	6番地	データ 15～8	データ 7～0
ロングワード	0番地(1回目：0番地)	データ 31～24	データ 23～16
	0番地(2回目：2番地)	データ 15～8	データ 7～0
	4番地(1回目：4番地)	データ 31～24	データ 23～16
	4番地(2回目：6番地)	データ 15～8	データ 7～0
クワッドワード	0番地(1回目：0番地)	データ 63～56	データ 55～48
	0番地(2回目：2番地)	データ 47～40	データ 39～32
	0番地(3回目：4番地)	データ 31～24	データ 23～16
	0番地(4回目：6番地)	データ 15～8	データ 7～0

12.2.2　レジスタ構成

表12.6にDBSC3レジスタマッピングを示し、以降に各レジスタについて説明します。

DBSC3 レジスタはすべて32bit でアクセスしてください。32bit アクセス以外でアクセスした場合の動作は保証しません。

表12.6　DBSC3レジスタ構成

名 称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態	
					パワーオンリセット	マニュアルリセット
DBSC3ステータスレジスタ1	DBSTATE1	R	H'FE80 000C	32	H'0000 0X00	保持
SDRAMアクセス許可レジスタ	DBACEN	R/W	H'FE80 0010	32	H'0000 0000	保持
自動リフレッシュ許可レジスタ	DBRFEN	R/W	H'FE80 0014	32	H'0000 0000	保持
手動コマンド発行レジスタ	DBCMD	R/W	H'FE80 0018	32	H'0000 0000	保持
操作完了待ちレジスタ	DBWAIT	R	H'FE80 001C	32	H'0000 0000	保持
SDRAM種類設定レジスタ	DBKIND	R/W	H'FE80 0020	32	H'0000 0000	保持
SDRAM構成設定レジスタ	DBCONF	R/W	H'FE80 0024	32	H'0000 0000	保持
SDRAM タイミングレジスタ 0	DBTR0	R/W	H'FE80 0040	32	H'0000 0000	保持
SDRAM タイミングレジスタ 1	DBTR1	R/W	H'FE80 0044	32	H'0000 0000	保持
SDRAM タイミングレジスタ 2	DBTR2	R/W	H'FE80 0048	32	H'0000 0000	保持
SDRAM タイミングレジスタ 3	DBTR3	R/W	H'FE80 0050	32	H'0000 0000	保持
SDRAM タイミングレジスタ 4	DBTR4	R/W	H'FE80 0054	32	H'0000 0000	保持
SDRAM タイミングレジスタ 5	DBTR5	R/W	H'FE80 0058	32	H'0000 0000	保持
SDRAM タイミングレジスタ 6	DBTR6	R/W	H'FE80 005C	32	H'0000 0000	保持
SDRAM タイミングレジスタ 7	DBTR7	R/W	H'FE80 0060	32	H'0000 0000	保持
SDRAM タイミングレジスタ 8	DBTR8	R/W	H'FE80 0064	32	H'0000 0000	保持
SDRAM タイミングレジスタ 9	DBTR9	R/W	H'FE80 0068	32	H'0000 0000	保持
SDRAM タイミングレジスタ 10	DBTR10	R/W	H'FE80 006C	32	H'0000 0000	保持
SDRAM タイミングレジスタ 11	DBTR11	R/W	H'FE80 0070	32	H'0000 0000	保持
SDRAM タイミングレジスタ 12	DBTR12	R/W	H'FE80 0074	32	H'0000 0000	保持
SDRAM タイミングレジスタ 13	DBTR13	R/W	H'FE80 0078	32	H'0000 0000	保持
SDRAM タイミングレジスタ 14	DBTR14	R/W	H'FE80 007C	32	H'0000 0000	保持
SDRAM タイミングレジスタ 15	DBTR15	R/W	H'FE80 0080	32	H'0000 0000	保持
SDRAM タイミングレジスタ 16	DBTR16	R/W	H'FE80 0084	32	H'0000 0000	保持
SDRAM タイミングレジスタ 17	DBTR17	R/W	H'FE80 0088	32	H'0000 0000	保持
SDRAM タイミングレジスタ 18	DBTR18	R/W	H'FE80 008C	32	H'0000 0000	保持
SDRAM タイミングレジスタ 19	DBTR19	R/W	H'FE80 0090	32	H'0000 0000	保持
DBSC 動作調整レジスタ 0	DBADJ0	R/W	H'FE80 00C0	32	H'0000 0000	保持
DBSC 動作調整レジスタ 1	DBADJ1	R/W	H'FE80 00C4	32	H'0000 0000	保持
DBSC 動作調整レジスタ 2	DBADJ2	R/W	H'FE80 00C8	32	H'0000 0000	保持
Refresh 設定レジスタ 0	DBRFCNF0	R/W	H'FE80 00E0	32	H'0000 0000	保持
Refresh 設定レジスタ 1	DBRFCNF1	R/W	H'FE80 00E4	32	H'0000 0000	保持

名 称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態	
					パワーオンリセット	マニュアルリセット
Refresh 設定レジスタ 2	DBRFCNF2	R/W	H'FE80 00E8	32	H'0000 0000	保持
DDR3-SDRAM キャリブレーション構成レジスタ	DBCALCNF	R/W	H'FE80 00F4	32	H'0000 0000	保持
ODT 動作設定レジスタ	DBRNK0	R/W	H'FE80 0100	32	H'0000 0000	保持
PHY 部制御レジスタ 0	DBPDCNT0	R/W	H'FE80 0200	32	H'0000 0000	保持
PHY 部制御レジスタ 1	DBPDCNT1	R/W	H'FE80 0204	32	H'0000 0000	保持
PHY 部制御レジスタ 2	DBPDCNT2	R/W	H'FE80 0208	32	H'0000 0000	保持
PHY 部制御レジスタ 3	DBPDCNT3	R/W	H'FE80 020C	32	H'0000 0000	保持
PHY部ロックレジスタ	DBPDLCK	R/W	H'FE80 0280	32	H'0000 0000	保持
PHY部内部レジスタアドレス	DBPDRGA	R/W	H'FE80 0290	32	H'0000 0000	保持
PHY部内部レジスタアクセス	DBPDRGD	R/W	H'FE80 02A0	32	H'XXXX XXXX	保持
バス制御部0制御レジスタ0	DBBS0CNT0	R/W	H'FE80 0300	32	H'0000 0000	保持
バス制御部0制御レジスタ1	DBBS0CNT1	R/W	H'FE80 0304	32	H'0000 0000	保持

12.3　レジスタの説明

12.3.1　DBSC3 ステータスレジスタ1（DBSTATE1）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	ENDN	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	R	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～9	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
8	ENDN	—	R	エンディアンモニタビット 現在のエンディアンをモニタする事ができます。 0：ビッグエンディアン 1：リトルエンディアン
7～0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

12.3.2　SDRAM アクセス許可レジスタ（DBACEN）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ACCEN
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～1	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
0	ACCEN	0	R/W	SDRAMアクセスイネーブルビット このビットによりSDRAMへのデータアクセスを許可します。SDRAMへのデータアクセスは、このビットを１にしてから実行ください。このビットが0の状態では、SDRAM領域にアクセスしないでください。 0：SDRAM アクセス禁止 1：SDRAMアクセス許可

注1. SDRAM領域へのアクセスがリクエストされ、ACCENビットが”0”になると、DBSC3はエラーのレスポンスを返します。ACCENビットがSDRAMからのアクセスを禁止するようセットされると、エラーのレスポンスがSHｗｙバスからのメモリアクセスに返されます。ACCENビットがSDRAMからのアクセスを禁止するようセットされると、グラフィックメモリからのメモリアクセスが禁止されます。アクセスが行われた場合、正しい動作は保証できません。

2. ACCENビットに”0”を書き込んでアクセス不許可に設定した際、SDRAM にPrecharge All 又はPrecharge コマンドが自動的に発行される場合があります。

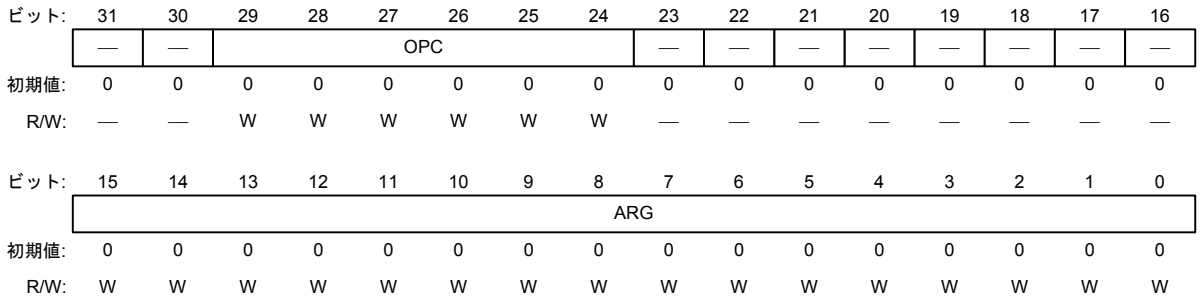
12.3.3　自動リフレッシュ許可レジスタ（DBRFEN）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ARFEN
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～1	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
0	ARFEN	0	R/W	自動リフレッシュ許可ビット 自動リフレッシュ機能を起動又は停止します。本ビットに１を書き込むと、DBSC3 内部のリフレッシュカウンタ（リフレッシュの履歴情報）がリセットされ、自動リフレッシュ機能が起動します。 本ビットの値が１である間、DBSC3は定期的にリフレッシュコマンドを発行します。リフレッシュ周期等の設定は、本ビットへ1を書き込んだ時点でのリフレッシュ設定レジスタ0～2（DBRFCNF0～DBRFCNF2）の値によって決定されます。 0：自動リフレッシュ機能停止 1：自動リフレッシュ機能起動

12.3.4　手動コマンド発行レジスタ（DBCMD）



ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31、30	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
29～24	OPC	0	W	オペコードビット 発行するコマンドの種類を指定するビットです。表12.7を参照してください。 本ビットにWait（OPC=H'00）を指定した場合は、有効なSDRAMコマンドの出力はなく、次の操作との間の時間間隔の確保のみを行います。 本ビットはリードした場合、不定値が読み出されます。
23～16	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
15～0	ARG	0	W	引数ビット OPCへ設定する値よって意味が異なります。 OPCがH'28~H'2B (MRS0～MRS3)である場合、SDRAMのアドレス端子(M_A) に出力される値を指定します。 OPCがそれ以外の場合は、次のコマンド発行までの最小間隔をSDRAMのサイクル数で指定します。ただし、ARG=0とした場合は、表12.7 の「間隔」欄に示すデフォルトの値が使用されます。 本ビットはリードした場合、不定値が読み出されます。

SDRAM の初期化シーケンス、セルフリフレッシュモードへの移行／解除 等を実行する為に必要なコマンド発行を行うためのレジスタです。本レジスタに書き込みを行うと、OPC ビットの値に応じたコマンドが1 回発行されます。例えば、リフレッシュコマンドを2 回発行する場合は、OPC=”001100” とした書き込みを 2 回行います。なお、SDRAM アクセス許可中 （ACCEN ビット（DBACEN レジスタのビット0=1）に本レジスタへの書き込みを行ってはなりません。

操作完了のタイミング（指定したSDRAMコマンドがDBSC3からPhy部へ出力されるタイミング）は、本レジスタへのライトに対するDBSC3の応答よりも後になる可能性があります。指定したSDRAMコマンドが実際にSDRAMに出力されるまで待ちたい場合は、後述するDBWAITレジスタへのリードを行ってください。

本レジスタを使用してコマンド発行を行うと、操作完了の時点（指定したSDRAM コマンドがSDRAMに出力される時点）から一定期間、後続のSDRAM コマンド発行は遅延されます。これは、複数のコマンドを続けて発行する際のコマンド間の時間の確保を容易にするための機能です。

この期間の長さは、OPCに応じて、表12.7 の「間隔」欄に示す長さが確保されます。また、ARGビットによってカスタマイズすることも可能です（ただしOPCが MRS0～MRS3である場合を除く）。

表12.7　手動コマンド発行機能

OPC	略号	操作内容	間隔 （SDRAMサイクル数）	ARGの機能
00 0000	Wait	Device Deselected発行 （待ち時間の挿入）	4	次のコマンドを発行するまでの間隔（SDRAMのサイクル数）を設定します。ARGがH'0000の場合「間隔」に示す値になります。
00 0010	ZQCS	ZQ calibration short 発行	4	
00 0011	ZQCL	ZQ calibration long 発行	4	
00 1011	PreA	Precharge All発行	TRPA	
00 1100	Ref	Refresh発行	TRFC	
01 0000	PDEn	Power Down Entry	4	
01 0001	PDXt	Power Down Exit	4	
01 1000	SREn	Self-Refresh Entry	4	
01 1001	SRXt	Self-Refresh Exit	TRFC	
10 0000	RstL	Reset端子をLowにする	4	
10 0001	RstH	Reset端子をHighにする	4	
10 1000	MRS0	ModeRegisterSet (MRS/MR0) 発行	TMOD	SDRAMの Mode Register に設定する値を指定
10 1001	MRS1	ModeRegisterSet (EMRS1/MR1) 発行	TMOD	
10 1010	MRS2	ModeRegisterSet (EMRS2/MR2) 発行	TMOD	
10 1011	MRS3	IModeRegisterSet (EMRS3/MR3) 発行	TMOD	

注1. 表 12.7 「間隔」欄のTRPA、TRFC、TMOD は、後述するタイミングレジスタで設定された値が使用されます。
2. SDRAM アクセス禁止中 (DBACEN レジスタ のACCEN ビット=0)に書き込みを行ってください。
3. 自動リフレッシュ機能停止中（ARFEN ビット（DBRFEN レジスタ のビット0）=0）のみ書き込みを行ってください。ただし、「12.4 動作説明」で定義されたシーケンスについては、この限りではありません。自動リフレッシュ機能動作中にOPC=H'00(Wait) を書いた場合、確保される間隔の間に自動リフレッシュ機能によるリフレッシュコマンドの発行が割り込むことがあります。

12.3.5　操作完了待ちレジスタ（DBWAIT）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	WAIT
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31~1	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
0	WAIT	0	R	操作完了待ちビット 値に意味はありません。常に”0”が読み出されます。

本レジスタをリードすると、それまでにDBCMD レジスタによって指示されたコマンド発行がすべて完了した後（DBSC3からPhy 部へ出力された後）で応答を返します。本レジスタを利用することにより、DBSC3 により発行される SDRAM コマンドのタイミングと、DBSC3 が管理していないタイミング（例えば、クロックの制御）の関係を正しく保証することが可能になります。

12.3.6　SDRAM 種類設定レジスタ（DBKIND）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	DDCG		
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～3	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
2～0	DDCG	0	R/W	SDRAM種類変更ビット SDRAMの種類を設定することができます。 111　：DDR3-SDRAM 上記以外：設定禁止

注1. 本レジスタは、初期化シーケンス(「12.4.3」参照）の中でのみ書き込みを行ってください。
2. 本レジスタは、以下の条件を両方満たす場合のみ書き込みを行ってください。
・SDRAM アクセス不許可中 (DBACEN レジスタのACCENビット=0)
・自動リフレッシュ機能停止中（DBRFEN レジスタのARFENビット=0）

12.3.7　SDRAM 構成設定レジスタ（DBCONF）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	AWRW					—	—	—	AWRK	—	—	AWBK	
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	R/W	—	—	R/W	R/W

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	AWCL				—	—	—	—	—	—	DW	
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～29	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
28～24	AWRW	0	R/W	Rowアドレスビット幅設定ビット Rowアドレスのビット幅を指定します。 01011　：11 ビット 01100　：12 ビット ： 10000　：16 ビット 上記以外：設定禁止
23～21	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
20	AWRK	0	R/W	ランク数設定ビット ランク数を指定します。 0　：1 ランク 上記以外 ：設定禁止
19、18	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
17、16	AWBK	0	R/W	Bank数設定ビット バンク数を指定します。 11　：8 バンク 上記以外：設定禁止
15～12	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
11～8	AWCL	0	R/W	Columnアドレスビット幅設定ビット Columnアドレスのビット幅を指定します。 1000　：8 ビット 1001　：9 ビット ： 1011　：11 ビット 上記以外 ：設定禁止
7～2	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
1、0	DW	0	R/W	外部データバス幅設定ビット 外部データバスの幅を設定します。 01　：16bit 上記以外：設定禁止

使用するメモリ構成を選択します。

DBSC3 がサポートするメモリ構成については、「12.4.7 SDRAM 構成設定レジスタの設定方法」を参照下さい。SDRAM のアドレス端子と本 LSI の論理アドレスとの関係については、「12.4.8 アドレスマルチプレクスについて」を参照ください。

注1. サポートするメモリ構成
1 個の 16bit 幅 SDRAM あるいは 2 個の 8bit 幅 SDRAM を接続した 16bit バス構成
2. DBSC3 は複数個の SDRAM の接続をサポートしますが、チップによっては電気特性上、複数個の SDRAM の接続ができない場合があります。
3. 本レジスタは、起動シーケンス（「12.4.3」参照）の中でのみ書き込みを行ってください。
4. 本レジスタは、以下の条件を両方満たす場合のみ書き込みを行ってください。
• SDRAM アクセス不許可中 (DBACEN レジスタの ACCEN ビット =0)
• 自動リフレッシュ機能停止中（DBRFEN レジスタの ARFEN ビット =0）

12.3.8　SDRAM タイミングレジスタ0（DBTR0）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	CL			
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～4	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
3～0	CL	0	R/W	CAS レイテンシ設定ビット 本ビットでSDRAMのCAS レイテンシを設定します。 0011　：3 サイクル ： 1010　：10 サイクル 上記以外：設定禁止

SDRAM のタイミングパラメータの設定を行います。

注1. サイクル数は、SDRAM の動作クロックにて設定します。
2. 本レジスタは、以下の条件を両方満たす場合のみ書き込みを行ってください。
- SDRAM アクセス不許可中 (DBACEN レジスタのACCEN ビット=0)
- 自動リフレッシュ機能停止中（DBRFEN レジスタのARFEN ビット=0）

12.3.9　SDRAM タイミングレジスタ1（DBTR1）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	CWL			
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～4	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
3～0	CWL	0	R/W	CASライトレイテンシ設定ビット 本ビットでSDRAMのCASライトレイテンシを設定します。 0010　：2サイクル ： 1000　：8サイクル 上記以外：設定禁止

SDRAM のタイミングパラメータの設定を行います。

注1. サイクル数は、SDRAM の動作クロックにて設定します。
2. 本レジスタは、以下の条件を両方満たす場合のみ書き込みを行ってください。
- SDRAM アクセス不許可中 (DBACEN レジスタのACCENビット=0)
- 自動リフレッシュ機能停止中（DBRFEN レジスタのARFENビット=0）

12.3.10 SDRAM タイミングレジスタ2（DBTR2）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	AL			
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 4	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
3 ～ 0	AL	0	R/W	アディティブレイテンシ設定ビット 本ビットでSDRAM のアディティブレイテンシを設定します。 0000　：0 サイクル 上記以外 ：設定禁止

SDRAM のタイミングパラメータの設定を行います。

注1. サイクル数は、SDRAM の動作クロックにて設定します。
2. 本レジスタは、以下の条件を両方満たす場合のみ書き込みを行ってください。
- SDRAM アクセス不許可中 (DBACEN レジスタのACCEN=0)
- 自動リフレッシュ機能停止中（DBRFEN レジスタのARFEN=0）

12.3.11 SDRAM タイミングレジスタ3（DBTR3）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	TRCD			
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～4	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
3～0	TRCD	0	R/W	ACT-READ/WRITE 期間設定ビット 本ビットで、ACT コマンドからリード/ライトコマンドまでの最小間隔を設定します。 0011　：3 サイクル 0100　：4 サイクル ： 1010　：10 サイクル 上記以外：設定禁止

SDRAM のタイミングパラメータの設定を行います。

注1. サイクル数は、SDRAM の動作クロックにて設定します。
2. 本レジスタは、以下の条件を両方満たす場合のみ書き込みを行ってください。
- SDRAM アクセス不許可中 (DBACEN レジスタのACCENビット=0)
- 自動リフレッシュ機能停止中（DBRFEN レジスタのARFENビット=0）

12.3.12 SDRAM タイミングレジスタ4（DBTR4）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	TRPA			
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	TRP			
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～20	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
19～16	TRPA	0	R/W	PREA期間設定ビット 本ビットで、PRE ALL（Precharge all banks）コマンドからACT/REFコマンドまでの最小間隔を設定します。必ず TRP ビットの設定値以上の値を設定してください。 0011　：3 サイクル 0100　：4 サイクル ： 1010　：10 サイクル 上記以外：設定禁止
15～4	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
3～0	TRP	0	R/W	PRE 期間設定ビット 本ビットで、ビットで、PRE（Precharge）コマンドからACT/REF コマンドまでの最小間隔を設定します。 0011　：3 サイクル 0100　：4 サイクル ： 1010　：10 サイクル 上記以外：設定禁止

SDRAM のタイミングパラメータの設定を行います。

注1. サイクル数は、SDRAM の動作クロックにて設定します。
2. 設定値は次の条件を満たす必要があります：
TRPA ≧ TRP
TRC - TRP ≦ 32
3. 本レジスタは、以下の条件を両方満たす場合のみ書き込みを行ってください。
• SDRAM アクセス不許可中 (DBACEN レジスタのACCENビット=0)
• 自動リフレッシュ機能停止中（DBRFEN レジスタのARFENビット=0）

12.3.13 SDRAM タイミングレジスタ5（DBTR5）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	TRC					
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～6	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
5～0	TRC	0	R/W	ACT-ACT/REF 期間設定ビット 本ビットで、ACT コマンドからACT（同一バンク）/REF コマンドまでの最小間隔を設定します。 001010　：10サイクル 001011　：11サイクル ： 100110　：38 サイクル 上記以外：設定禁止

SDRAM のタイミングパラメータの設定を行います。

注1. サイクル数は、SDRAM の動作クロックにて設定します。
2. 本レジスタは、以下の条件を両方満たす場合のみ書き込みを行ってください。
   • SDRAM アクセス不許可中 (DBACEN レジスタのACCENビット=0)
   • 自動リフレッシュ機能停止中（DBRFEN レジスタのARFENビット=0）
3. 設定値は次の条件を満たす必要があります：TRC - TRP ≦ 32

12.3.14 SDRAM タイミングレジスタ6（DBTR6）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	TRAS					
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～6	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
5～0	TRAS	0	R/W	ACT-PRE 期間設定ビット 本ビットで、ACT コマンドからPRE コマンドまでの最小間隔を設定します。 000111　：7サイクル 001000　：8サイクル ： 011100　：28 サイクル 上記以外：設定禁止

SDRAM のタイミングパラメータの設定を行います。

注1. サイクル数は、SDRAM の動作クロックにて設定します。
2. 本レジスタは、以下の条件を両方満たす場合のみ書き込みを行ってください。
- SDRAM アクセス不許可中 (DBACEN レジスタのACCENビット=0)
- 自動リフレッシュ機能停止中（DBRFEN レジスタのARFENビット=0）

12.3.15 SDRAM タイミングレジスタ7（DBTR7）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	TRRD			
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～4	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
3～0	TRRD	0	R/W	ACT(A)-ACT(B) 期間設定ビット 本ビットで、異なるバンクに対する ACT コマンドの最小間隔を設定します。 0010　：2 サイクル 0011　：3 サイクル ： 0111　：サイクル 上記以外：設定禁止

SDRAM のタイミングパラメータの設定を行います。

注1. サイクル数は、SDRAM の動作クロックにて設定します。
2. 本レジスタは、以下の条件を両方満たす場合のみ書き込みを行ってください。
   • SDRAM アクセス不許可中 (DBACEN レジスタのACCENビット=0)
   • 自動リフレッシュ機能停止中（DBRFEN レジスタのARFENビット=0）

12.3.16 SDRAM タイミングレジスタ8（DBTR8）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	TFAW							
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～8	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
7～0	TFAW	0	R/W	4 Activate ウィンドウ設定ビット 本ビットで、4 Activate ウィンドウの長さを設定します。 DBTR7 レジスタのTRRD ビットの設定値の4 倍以上の値を設定してください。 00001000：8 サイクル 00001001：9 サイクル ： 00011111 ：31 サイクル 上記以外 ：設定禁止

SDRAM のタイミングパラメータの設定を行います。

注1. サイクル数は、SDRAM の動作クロックにて設定します。
2. 設定値は次の条件を満たす必要があります：TFAW ≥ 4 × TRRD
3. 本レジスタは、以下の条件を両方満たす場合のみ書き込みを行ってください。
   • SDRAM アクセス不許可中 (DBACEN レジスタのACCENビット=0)
   • 自動リフレッシュ機能停止中（DBRFEN レジスタのARFENビット=0）

12.3.17 SDRAM タイミングレジスタ9（DBTR9）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	TRDPR			
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～4	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
3～0	TRDPR	0	R/W	READ-PRE 期間設定ビット 本ビットで、READ コマンドからPRE コマンドまでの最小間隔を設定します。 0010　：2 サイクル 0011　：3 サイクル ： 1000　：8 サイクル 上記以外：設定禁止

SDRAM のタイミングパラメータの設定を行います。

注1. サイクル数は、SDRAM の動作クロックにて設定します。
2. 設定値は次の条件を満たす必要があります：TRDPR ≧ 4
3. JEDEC 準拠のSDRAM の場合、設定値は次の式で計算できます。
（DDR3 の場合）TRDPR ＝ 4 ＋ max{ 2, ceil(tRTP / tCK) } － 2
4. 本レジスタは、以下の条件を両方満たす場合のみ書き込みを行ってください。
• SDRAM アクセス不許可中 (DBACEN レジスタのACCENビット=0)
• 自動リフレッシュ機能停止中（DBRFEN レジスタのARFENビット=0）

12.3.18 SDRAM タイミングレジスタ 10（DBTR10）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	TWR			
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～4	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
3～0	TWR	0	R/W	ライトリカバリ期間設定ビット 本ビットで、ライトリカバリ期間を設定します。 0011　：3 サイクル 0100　：4 サイクル ： 1100　：12 サイクル 上記以外：設定禁止

SDRAM のタイミングパラメータの設定を行います。

注1. サイクル数は、SDRAM の動作クロックにて設定します。
2. 本レジスタは、以下の条件を両方満たす場合のみ書き込みを行ってください。
- SDRAM アクセス不許可中 (DBACEN レジスタのACCENビット=0)
- 自動リフレッシュ機能停止中（DBRFEN レジスタのARFENビット=0）

12.3.19 SDRAM タイミングレジスタ 11（DBTR11）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	TRDWR					
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～6	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
5～0	TRDWR	0	R/W	READ-WRITE 期間設定ビット 本ビットで、リードコマンドからライトコマンドまでの最小間隔を設定します。 000100 ：4 サイクル 000101 ：5 サイクル ： 001001 ：9 サイクル 上記以外：設定禁止

SDRAM のタイミングパラメータの設定を行います。

注1. サイクル数は、SDRAM の動作クロックにて設定します。
2. 設定値は次の条件を満たす必要があります：TRDWR ≧ CL ＋ 4 ＋ 2 － CWL
3. 本レジスタは、以下の条件を両方満たす場合のみ書き込みを行ってください。
   • SDRAM アクセス不許可中 (DBACEN レジスタのACCENビット=0)
   • 自動リフレッシュ機能停止中（DBRFEN レジスタのARFENビット=0）

12.3.20 SDRAM タイミングレジスタ 12（DBTR12）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	TWRRD					
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～6	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
5～0	TWRRD	0	R/W	WRITE-READ 期間設定ビット 本ビットで、ライトコマンドからリードコマンドまでの最小間隔を設定します。 000110 ：6 サイクル 000111 ：7 サイクル ： 010010 ：18 サイクル 上記以外：設定禁止

SDRAM のタイミングパラメータの設定を行います。

注1. サイクル数は、SDRAM の動作クロックにて設定します。
2. 設定値は次の条件を満たす必要があります：TWRRD ≧ CWL ＋ 4
3. JEDEC 準拠のSDRAM の場合、設定値は次の式で計算できます。
TWRRD ＝ WL ＋ BL/2 ＋ ceil(tWTR / tCK)
4. 本レジスタは、以下の条件を両方満たす場合のみ書き込みを行ってください。
• SDRAM アクセス不許可中 (DBACEN レジスタのACCEN=0)
• 自動リフレッシュ機能停止中（DBRFEN レジスタのARFEN=0）

12.3.21 SDRAM タイミングレジスタ 13（DBTR13）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	TRFC									
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～10	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
9～0	TRFC	0	R/W	REF-ACT/REF 期間設定ビット 本ビットで、REF（リフレッシュ）コマンドから、ACT/REF コマンドまでの最小間隔を設定します H'00F　：15 サイクル H'010　：16 サイクル ： H'0FF　：255 サイクル 上記以外：設定禁止

SDRAM のタイミングパラメータの設定を行います。

注1. サイクル数は、SDRAM の動作クロックにて設定します。
2. 本レジスタは、以下の条件を両方満たす場合のみ書き込みを行ってください。
- SDRAM アクセス不許可中 (DBACEN レジスタのACCENビット=0)
- 自動リフレッシュ機能停止中（DBRFEN レジスタのARFENビット=0）

12.3.22 SDRAM タイミングレジスタ 14（DBTR14）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	TCKEH							
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～8	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
7～0	TCKEH	0	R/W	CKEH 期間設定ビット 本ビットでCKE がH になってから次の有効なコマンドが発行されるまでの最小間隔を設定します。なお、CKE がH になってから最初のリードコマンドまでの最小間隔は、TCKEH + TRCD となります。 H'02　：2 サイクル H'03　：3 サイクル ： H'0F　：15 サイクル 上記以外：設定禁止

SDRAM のタイミングパラメータの設定を行います。

注1. サイクル数は、SDRAM の動作クロックにて設定します。
2. パワーダウンモードを使用する場合は、本レジスタに適切な値を設定してください。
JEDEC 準拠のSDRAM の場合、設定値は次の式で計算できます。
DDR3-SDRAM でFast Exit Mode の場合：ceil(tXP/ tCK)
DDR3-SDRAM でSlow Exit Mode の場合：max{ ceil(tXP/ tCK), ceil(tXPDLL/ tCK)－ceil(tRCD/tCK) }
(tXPDLL、tXP が tCK サイクル単位の場合、tCK で割る必要はありません)
3. 本レジスタは、以下の条件を両方満たす場合のみ書き込みを行ってください。
• SDRAM アクセス不許可中 (DBACEN レジスタのACCENビット=0)
• 自動リフレッシュ機能停止中（DBRFEN レジスタのARFENビット=0）

12.3.23 SDRAM タイミングレジスタ 15 （DBTR15）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	TCKEL			
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～4	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
3～0	TCKEL	0	R/W	CKEL 期間設定ビット 本ビットでCKE をL にしてからH にするまでの期間の下限を設定します。 0010　：2 サイクル 0011　：3 サイクル ： 1111　：15 サイクル 上記以外：設定禁止

SDRAM のタイミングパラメータの設定を行います。

注1. サイクル数は、SDRAM の動作クロックにて設定します。
2. 本レジスタは、以下の条件を両方満たす場合のみ書き込みを行ってください。
- SDRAM アクセス不許可中 (DBACEN レジスタのACCEN ビット=0)
- 自動リフレッシュ機能停止中（DBRFEN レジスタのARFEN ビット=0）

12.3.24 SDRAM タイミングレジスタ 16（DBTR16）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	DQIENLTNCY		—	—	DQLOFFSET		—	—	DQL					
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	R/W	R/W	—	—	R/W	R/W	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	DQENLTNCY		—	—	—	—	—	—	—	—	WDQL			
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	R/W	R/W	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31、30	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
29、28	DQIENLTNCY	0	R/W	dqltncy 設定ビット このビットで、PHY 部へのリードコマンド発行時からdqi_en 信号出力までのレイテンシを設定します。 本製品ではこのビットに”0” を設定してください。 00　：0 サイクル 上記以外：設定禁止
27、26	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
25、24	DQLOFFSET	0	R/W	dqltncy オフセット設定ビット このビットで、PHY 部へのリードコマンド発行時に、dbsc3 の内部動作に必要な追加レイテンシを設定します。本製品ではこのビットに”0” を設定してください。 00　：0 サイクル 上記以外：設定禁止
23、22	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
21～16	DQL	0	R/W	dqltncy 設定ビット DDR3PHYの入力端dqltncyの値を設定します。 010110　：22 サイクル 上記以外 ：設定禁止
15、14	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
13、12	DQENLTNCY	0	R/W	dqenltncy 設定ビット このビットで、PHY 部へのライトコマンド発行時からdq_en 信号出力までのレイテンシを設定します。本製品ではこのビットに”0” を設定してください。 00　：0 サイクル 上記以外：設定禁止
11～4	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
3～0	WDQL	0	R/W	wdqltncy 設定ビット DDR3PHY の入力端wdqltncy の値を設定します。 0010　：2 サイクル 上記以外：設定禁止

SDRAM のタイミングパラメータの設定を行います。

注1. サイクル数は、SDRAM の動作クロックにて設定します。
2. 本レジスタは、以下の条件を両方満たす場合のみ書き込みを行ってください。
- SDRAM アクセス不許可中 (DBACEN レジスタのACCENビット=0)
- 自動リフレッシュ機能停止中（DBRFEN レジスタのARFENビット=0）

12.3.25 SDRAM タイミングレジスタ 17（DBTR17）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	TMOD					
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	TRDMR					
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～22	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
21～16	TMOD	0	R/W	MRS期間設定ビット 本ビットでMRS（Mode Register Set）コマンドから次のコマンドまでの最小間隔を指定します。 000010　：2 サイクル 000011　：3 サイクル ： 001111　：15 サイクル 上記以外：設定禁止
15～6	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
5～0	TRDMR	0	R/W	RD-MRS 期間設定ビット 本ビットでMPR モードの際の、リードコマンドからMRS コマンドまでの最小間隔を設定します。 000100　：4 サイクル 000101　：5 サイクル ： 010111　：23 サイクル 上記以外：設定禁止

SDRAM のタイミングパラメータの設定を行います。

注1. サイクル数は、SDRAM の動作クロックにて設定します。
2. 本レジスタは、以下の条件を両方満たす場合のみ書き込みを行ってください。
- SDRAM アクセス不許可中 (DBACEN レジスタのACCENビット=0)
- 自動リフレッシュ機能停止中（DBRFEN レジスタのARFENビット=0）

12.3.26 SDRAM タイミングレジスタ 18 （DBTR18）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	RODTL			—	—	—	—	—	RODTA		
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	WODTL			—	—	—	—	—	WODTA		
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～27	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
26～24	RODTL	0	R/W	RODTL（リード時ODT アサート期間設定）ビット このビットで、リードコマンド出力時に PHY に出力するODT 信号(py_odt)のアサート期間を設定します。対応するリードコマンドのバースト長/2 の値を基本として、+0～+7 の範囲で設定できます。 000：BL/2 サイクル 001：(BL/2 + 1) サイクル ： 111：(BL/2 + 7) サイクル
23～19	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
18～16	RODTA	0	R/W	RODTA（リード時ODT アサート開始タイミング設定）ビット このビットで、リードコマンド出力時に PHY に出力するODT 信号(py_odt)のアサート開始タイミングを設定します。対応するリードコマンド出力のタイミングを基準として、-1～+3 の範囲で設定できます。 000　：リードコマンドと同時 001　：リードコマンドの1サイクル後 010　：リードコマンドの2サイクル後 011　：リードコマンドの3サイクル後 111　：リードコマンドの1サイクル前 上記以外：設定禁止
15～11	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
10～8	WODTL	0	R/W	WODTL（ライト時ODT アサート期間設定）ビット このビットで、ライトコマンド出力時に PHY に出力するODT 信号(py_odt)のアサート期間を設定します。対応するライトコマンドのバースト長/2 の値を基本として、+0～+7 の範囲で設定できます。 000：BL/2 サイクル 001：(BL/2 + 1) サイクル ： 111：(BL/2 + 7) サイクル

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7～3	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
2～0	WODTA	0	R/W	WODTA（ライト時ODT アサート開始タイミング設定）ビット このビットで、ライトコマンド出力時に PHY に出力するODT 信号(py_odt)のアサート開始タイミングを設定します。対応するライトコマンド出力のタイミングを基準として、-1～+3 の範囲で設定できます。 000　：ライトコマンドと同時 001　：ライトコマンドの1サイクル後 010　：ライトコマンドの2サイクル後 011　：ライトコマンドの3サイクル後 111　：ライトコマンドの1サイクル前 上記以外：設定禁止

注．本レジスタは、以下の条件を両方満たす場合のみ書き込みを行ってください。
•SDRAM アクセス不許可中 (DBACEN レジスタのACCENビット=0)
•自動リフレッシュ機能停止中（DBRFEN レジスタのARFENビット=0）

12.3.27 SDRAM タイミングレジスタ 19 （DBTR19）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	TZQCS							
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～8	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
7～0	TZQCS	0	R/W	TZQCS（ショートキャリブレーション期間設定）ビット このビットで、ZQCS（ショートキャリブレーション）コマンドから次のコマンドまでの最小間隔を指定します。 01000000：64 サイクル 上記以外　：設定禁止

注1. サイクル数は、SDRAM の動作クロックにて設定します。
2. 本レジスタは、以下の条件を両方満たす場合のみ書き込みを行ってください。
- SDRAM アクセス不許可中 (DBACEN レジスタのACCENビット=0)
- 自動リフレッシュ機能停止中（DBRFEN レジスタのARFENビット=0）

12.3.28 DBSC 動作調整レジスタ 0 （DBADJ0）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	CA SHIFT	—	—	—	CA MODE
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	—	—	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～5	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
4	CASHIFT	0	R/W	コマンド/アドレス出力シフト設定ビット SDRAM コマンド/アドレスの出力シフトの有無をMSPAD2 に指示します。CASHIFT=1 の場合、MSPAD2 はコマンド/アドレス出力の出力を1/2MCK 分後ろにシフトします。 0：コマンド/アドレス出力タイミングのシフト無し 1：コマンド/アドレス出力タイミングを1/2MCK分後ろにシフト
3～1	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
0	CAMODE	0	R/W	コマンド/アドレス出力モード設定ビット SDRAM のコマンド/アドレスの出力モードを設定します。 CAMODE=0 の時、dbsc3 は1 クロックにつき1 コマンドを出力します。 CAMODE=1 の時、dbsc3 は2 クロックにつき1 コマンドを出力します。この際SDRAM のCS信号を除くコマンド信号、及びアドレス信号を2クロックの期間一定に保ちます。またCS信号はこの期間の後半1クロックのみ'L'となります。 0：1クロックにつき1コマンド出力 1：2クロックにつき1コマンド出力

注. 本レジスタは、SDRAM アクセス不許可中（DBACEN レジスタのACCENビット=0）のみ書き込みを行ってください。

12.3.29 DBSC 動作調整レジスタ 1 （DBADJ1）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	AOOEN
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～1	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
0	AOOEN	0	R/W	アウトオブオーダー処理イネーブルビット SDRAM へのコマンド発行順序の入れ替え処理を許可/禁止します。コマンド発行順序入れ替え処理を許可した場合、dbsc3 は SDRAM のデータバス使用効率向上のためコマンド発行順序の入れ替え処理をおこない、リクエストを受け付けた順序とは異なる順序でSDRAM に対してコマンド発行を行います。コマンド発行順序入れ替え処理を禁止した場合、dbsc3 はリクエストを受け付けた順序どおりにSDRAM に対してコマンド発行を行います。 アウトオブオーダー処理を可能とした場合、アウトオブオーダー処理を禁止とした場合と比較してSDRAM のデータバス使用効率は向上しますがワーストレイテンシが増加します。 0：コマンド発行順序入れ替え処理禁止 1：コマンド発行順序入れ替え処理可能

注. 本レジスタは、SDRAM アクセス不許可中 (DBACEN レジスタのACCENビット=0)のみ書き込みを行ってください。

12.3.30 DBSC 動作調整レジスタ 2 （DBADJ2）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	ACAPC0								—	—	—	—	ACAPX0			
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～16	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
15～8	ACAPC0	0	R/W	デバイス制御部受付可能リクエスト数（バス制御部0側）設定ビット dbsc3のデバイス制御内に受付可能なリクエスト(バス制御部0から発行されたもの)を64ビットデータのアクセス単位で設定します。64ビット未満のデータの場合は1リクエストとなります。 dbsc3は、ページミス時に発生するPrecharge-Activateの処理のペナルティを、現在実行中のリード/ライトにオーバーラップさせて実行することで隠蔽できるような先行PRE-ACT処理を行っています。このためにある程度のリクエストをため込む必要があります。設定値が初期値(H’00)の場合、最大値(H’20)設定と同じ動作になり、最大の先行PRE-ACT処理を行うことができ、DDRのデータ転送効率(スループット)を最大とすることができます。 ただし、本設定により受付可能なリクエスト数を増やした場合、後から発生した優先順位の高いリクエストの実行は、受付済みのリクエストの処理の後に実行されるために、優先度の高いリクエストに対するレイテンシが悪化する可能性があります。この場合、ACAPC設定を書きに示す値以上で調整し、スループットとレイテンシのバランスを調整してください。下記未満ではスループットが悪化することがあります。 ACAPC設定の最小値: ACAPC = (TRP + TRCD) / 2 H'00　：初期値（32リクエスト。特に設定する必要が無い場合、初期値としてください） H'01　：1 リクエスト ： H'20　：32 リクエスト 上記以外：設定禁止
7～4	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
3～0	ACAPX0	0	R/W	デバイス制御部受付可能トランザクション数（バス制御部0側）設定ビット dbsc3のデバイス制御内に受付可能なリクエスト(バス制御部0から発行されたもの)をトランザクション単位で設定します。1トランザクションに含まれるリクエスト数は、アクセスサイズにより幅がありますので、トランザクション数のみの制御ではリクエスト数を制御できません。よって、本ビットでは多めのトランザクション数を設定し、上記のACAPCビットでリクエスト数の上限を制御してください。設定値が初期値（H'0）の場合、最大値（H'8）設定と同じ動作になります。ACAPX設定値が小さい場合、ACAPCの設定を行ってもスループットが悪化することがあります。 H'0　：初期値（8 トランザクション。特に設定する必要が無い場合、初期値としてください） H'1　：1 トランザクション ： H'8　：8 トランザクション 上記以外：設定禁止

注．本レジスタは、SDRAM アクセス不許可中 (DBACEN レジスタのACCENビット=0)のみ書き込みを行ってください。

12.3.31 リフレッシュ設定レジスタ0（DBRFCNF0）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	REFTHF											
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～12	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

11～0	REFTHF	0	R/W	強制リフレッシュ閾値設定ビット バスリクエストがある場合でも強制的にリフレッシュを実施するタイミングを設定します。本ビットの設定値は、リフレッシュ間隔の変動の大きさ、及びメモリアクセス性能に影響します。小さくするほどリフレッシュ間隔のバラツキは小さくなりますが、メモリアクセス性能に悪影響が出る場合があります。リフレッシュ間隔の変動幅の詳細については、リフレッシュ設定レジスタ1（DBRFCNF1）の説明の中で述べます。 設定可能な最小値は、次の式のとおりです。この下限値＋50 以上の値を設定することを推奨します。 Max {128, 64 + max { TCKEL + TCKEH, TRPA + max {CWL + 4 + TWR, TRDPR, TRAS, TRC – TRP }}} H'080　：128 サイクル ： H'1FF　：511 サイクル 上記以外：設定禁止

SDRAM のリフレッシュ動作のタイミングを設定します。

自動リフレッシュ機能動作中（DBRFEN レジスタのARFEN=1）に本レジスタの値を変更した場合、新たな設定値をリフレッシュ動作に反映させるためには自動リフレッシュ機能の再起動が必要です。自動リフレッシュ機能を再起動するには、DBRFEN レジスタのARFEN ビットに1 を書き込んでください。

注．本レジスタに上記の下限値を下回る値が設定された状態で自動リフレッシュ機能を起動した場合（DBRFEN レジスタのARFEN ビットを1 にした場合）の動作は保証されません。

12.3.32 リフレッシュ設定レジスタ1（DBRFCNF1）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	REFPMAX				—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	REFINT															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～28	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

27～24	REFPMAX	0	R/W	リフレッシュコマンド最大ポスト数設定ビット 自動リフレッシュ機能により蓄積されるリフレッシュコマンドの数（post数）の上限を設定します。蓄積されているリフレッシュコマンドの数がREFPMAXよりも小さい場合、バスリクエストのない期間にリフレッシュが発行されます。 0000　：0 （リフレッシュコマンド間隔のジッタ最小） 0001　：1 サイクル ： 1000　：8サイクル (リフレッシュコマンド間隔のジッタ最大） 上記以外：設定禁止
23～16	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
15～0	REFINT	0	R/W	平均リフレッシュ間隔設定ビット リフレッシュコマンド発行の平均間隔を設定するためのビットです。DBRFCNF2 レジスタのREFINTS ビットが“0”の場合、平均間隔は REFINT サイクルとなります。REFINTS ビットが”1”の場合、平均間隔は floor(REFINT/ 2) サイクルとなります。以下で、この平均間隔をREFINT_E と表記します。すなわち、REFINT_E = REFINT >> REFINTS です。ここで >> は論理右シフト演算子です。 H'0080　：128 サイクル H'0081　：129 サイクル ： H'3FFF　：16383 サイクル 上記以外　：設定禁止

SDRAM のリフレッシュ動作のタイミングを設定します。

自動リフレッシュ機能動作中（DBRFEN レジスタのARFEN ビット=1）に本レジスタの値を変更した場合、新たな設定値をリフレッシュ動作に反映させるためには自動リフレッシュ機能の再起動が必要です。自動リフレッシュ機能を再起動するには、DBRFEN レジスタの ARFEN ビットに 1 を書き込んでください。

以下の説明で、「サイクル数」は特に断らない限り SDRAM のクロックで測ったものを意味します。

(1)　レジスタの設定値とリフレッシュ発行タイミング

リフレッシュ設定レジスタ 1 ～ 2 の設定例と、その場合のリフレッシュの発行タイミングについて説明します。

以下で、a±b は a－b 以上a＋b 以下の範囲 を意味します。

- リフレッシュ間隔の変動を最小にする場合
  REFPMAX は、0 を設定します。
  この場合、リフレッシュ発行から次のリフレッシュ発行までの時間は、REFINT_E ± REFTHF サイクルとなります。より一般に、n をある正整数として、あるリフレッシュ発行からその n 個後のリフレッシュ発行までの時間は、n × REFINT_E ± REFTHF サイクルとなります。ただし、この間DBRFEN レジスタへの書き込みはないと仮定しています。

- リフレッシュ間隔に柔軟性を持たせる場合
  REFPMAX は、1 以上の値を設定します。
  REFINT は、メモリベンダのデータシートに記載されている平均リフレッシュ間隔（Normal Operating Temperature Range におけるtREFI）をサイクル数で表し整数に切り捨てた値を設定します。REFINTS は、温度によって”0” 又は”1” を設定します。
  この場合、n をある正整数として、あるリフレッシュ発行からその n 個後のリフレッシュ発行までの

時間は、n × REFINT_E ＋ REFPMAX × REFINT_E サイクル以下 となります。ただし、この間DBRFENレジスタへの書き込みはないと仮定しています。

(2)　平均リフレッシュ間隔の下限制約

REFINT に設定可能な下限値は次の式のとおりです。ここで << は左シフト演算子です。

(REFTHF ＋ TRFC ＋ 2×TMOD ＋ TRDMR ＋ 2×TFAW
＋ max{ TFAW, TRAS, TRC － TRP, TRCD } ＋ 100) << REFINTS

注1. 本レジスタに上記の下限値を下回る値が設定された状態で自動リフレッシュ機能を起動した場合（DBRFEN レジスタのARFEN ビットを1 にした場合）の動作は保証されません。
2. 品種によっては、Phy の仕様により、本レジスタの設定値に関して上記の制約以外にも制約が生じる場合があります。

12.3.33 リフレッシュ設定レジスタ2（DBRFCNF2）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	REF INTS
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W

以下の説明で、「サイクル数」は特に断らない限り SDRAM のクロックで測ったものを意味します。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～1	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
0	REFINTS	0	R/W	平均リフレッシュ間隔調整ビット 本ビットに0 を設定すると、リフレッシュコマンド発行の平均間隔はREFINT サイクルとなります。 本ビットに1を設定すると、リフレッシュコマンド発行の平均間隔はfloor(REFINT / 2) サイクルとなります。 0：平均リフレッシュ間隔は REFINT 1：平均リフレッシュ間隔は REFINT の 1/2

SDRAM のリフレッシュ動作のタイミングを設定します。

自動リフレッシュ機能動作中（DBRFEN レジスタの ARFEN ビット=1）に本レジスタの値を変更した場合、新たな設定値をリフレッシュ動作に反映させるためには自動リフレッシュ機能の再起動が必要です。自動リフレッシュ機能を再起動するには、DBRFEN レジスタの ARFEN ビットに 1 を書き込んでください。

12.3.34 DDR3-SDRAM キャリブレーション構成レジスタ （DBCALCNF）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	CALEN	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	R/W	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	CALINT															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～25	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
24	CALEN	0	R/W	DDR3-SDRAM キャリブレーションイネーブルビット 本ビットが 1 である間、定期的にDDR3 のキャリブレーションを実行(ZQCS コマンドを発行)します。 0：DDR3-SDRAMキャリブレーション不許可 1：DDR3-SDRAMキャリブレーション許可
23～16	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
15～0	CALINT	0	R/W	DDR3-SDRAM キャリブレーション頻度設定ビット 本ビットで、DDR3-SDRAM キャリブレーション実行の頻度を調整します。CALINT の設定値をn とすると、自動リフレッシュ機能によってリフレッシュコマンドがn 回発行される毎に 1 回 ZQCS コマンドの発行を行います。 H'0001 ：自動リフレッシュ 1回毎に実施 H'0002 ：自動リフレッシュ 2回毎に実施 ： H'FFFF ：自動リフレッシュ 65535回毎に実施 上記以外：設定禁止

注．CALEN=1 となっている場合でも、自動リフレッシュ機能停止中（DBRFEN レジスタのARFENビット=0）は、ZQCS コマンドの発行は行われません。

12.3.35 ODT 動作設定レジスタ （DBRNK0）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	RODTOUTO
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	WODTOUTO
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～17	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
16	RODTOUT0	0	R/W	リード時ODT 出力レベル設定ビット このビットで、リード時の ODT 出力レベルを設定します。 0：リード時のODT 出力レベルを“0”とする 1：リード時のODT 出力レベルを“1”とする
15～1	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
0	WODTOUT0	0	R/W	ライト時ODT 出力レベル設定ビット このビットで、ライト時の ODT 出力レベルを設定します。 0：ライト時のODT 出力レベルを“0”とする 1：ライト時のODT 出力レベルを“1”とする

注．本レジスタは、以下の条件を両方満たす場合のみ書き込みを行ってください。
- SDRAM アクセス不許可中 (DBACEN レジスタのACCEN ビット=0)
- 自動リフレッシュ機能停止中（DBRFEN レジスタのARFEN ビット=0）

12.3.36 PHY部制御レジスタ0 （DBPDCNT0）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	DLLRST
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～1	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
0	DLLRST	0	R/W	DLL リセットビット 本ビットに0 を設定すると、DLL がリセット状態になります。本ビットに1 を設定すると、DLL のリセットが解除されます。本ビットの詳細については「12.4.3 初期化シーケンス」を参照ください。 0：DLL リセット（初期値） 1：DLL リセット解除

12.3.37 PHY 部制御レジスタ1（DBPDCNT1）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	CALEN
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～1	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
0	CALEN	0	R/W	自動キャリブレーション設定ビット 自動キャリブレーションをイネーブルにします。本ビットはDBPDCNT3のCMODE=”H”の場合にのみ有効です。本ビットの詳細については「12.4.3 初期化シーケンス」を参照ください。 0：自動キャリブレーションをディセーブル（初期値） 1：自動キャリブレーションをイネーブル

12.3.38 PHY 部制御レジスタ2（DBPDCNT2）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	DETFIXH	CMD MOD	—	—	RLADD	
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	—	—	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～6	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
5	DETFIXH	0	R/W	リード用９０度シフタ設定ビット リード用９０度シフタのHZ 検出回路を設定します。 0：HZ 検出回路オン（初期値） 1：HZ検出回路オフ
4	CMDMOD	0	R/W	CMD ハードマクロ出力遅延モード設定ビット CMD ハードマクロの出力遅延モードを設定します 0：コマンドアドレス信号の出力遅延モードオフ（初期値） 1：コマンドアドレス信号の出力遅延モードオン
3、2	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
1、0	RLADD	0	R/W	追加リードレイテンシ設定ビット ラウンドトリップタイムが大きい場合に、DDR3PHY に追加するリードレイテンシを設定します。 00：追加リードレイテンシなし（初期値） 01：追加リードレイテンシ１サイクル 10：追加リードレイテンシ２サイクル 11：追加リードレイテンシ３サイクル

12.3.39 PHY 部制御レジスタ3（DBPDCNT3）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	CMODE	DIC_AD		DIC_CK		DIC_DQ		—	ODT			—	FREQ		
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	R/W	R/W	R/W	—	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～15	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
14	CMODE	0	R/W	キャリブレーションモード設定ビット キャリブレーションモードを設定します。本ビットの詳細については「12.4.3 初期化シーケンス」を参照ください。 0：外部制御モード（初期値） 1：自動キャリブレーションモード
13、12	DIC_AD	0	R/W	制御信号バッファドライブ強度設定ビット バッファドライブ強度（制御信号）を設定します。本ビットの詳細については「12.4.3 初期化シーケンス」を参照ください。 00　：40Ω（初期値） 上記以外：設定禁止
11、10	DIC_CK	0	R/W	クロック信号バッファドライブ強度設定ビット バッファドライブ強度（クロック信号）を設定します。本ビットの詳細については「12.4.3 初期化シーケンス」を参照ください。 00　：40Ω（初期値） 上記以外：設定禁止
9、8	DIC_DQ	0	R/W	データ信号バッファドライブ強度設定ビット バッファドライブ強度（データ信号）を設定します。本ビットの詳細については「12.4.3 初期化シーケンス」を参照ください。 00　：40Ω（初期値） 上記以外：設定禁止
7	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
6～4	ODT	0	R/W	内部ODT インピーダンス設定ビット 内部ODT インピーダンスを設定します。。本ビットの詳細については「12.4.3 初期化シーケンス」を参照ください。 000　：外部制御モード（初期値） 001　：60Ω 上記以外：設定禁止
3	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
2～0	FREQ	0	R/W	ロック待ちスキップモード設定ビット ロック待ちスキップモードを設定します。本ビットの詳細について「12.4.3 初期化シーケンス」を参照ください。 000　：通常モード（初期値） 001　：ロック待ちスキップモード 上記以外：設定禁止

12.3.40 PHY部ロックレジスタ （DBPDLCK）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PLOCK															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～16	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
15～0	PLOCK	0	R/W	PHY-Unit アクセスロック設定ビット H'A55A をセットすると ＰＨＹ 部の内部レジスタへのアクセスが許可されます。 H’A55A　　：PHY 部内部レジスタへのアクセス許可 H’A55A 以外　：PHY 部内部レジスタへのアクセス不許可

12.3.41 PHY部内部レジスタアドレス （DBPDRGA）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	PRA							
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～8	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
7～0	PRA	0	R/W	PHY部内部レジスタアドレス PHY 部内部レジスタ（PHY 部に内蔵されたレジスタ）をアクセス（値の設定又は参照）する際に使用します。 詳細は「12.3.42 PHY部内部レジスタアクセス （DBPDRGD）」の説明を参照してください

表12.8　DBSC3PHY の内部レジスタ構成

レジスタ名	略称	R/W	PRA 設定	初期値	アクセスサイズ（ビット）
リザーブビット	—	—	H'00～H'27	—	—
プリアンプル検出制御レジスタ	PACNT	R/W	H'28	H'00017200	32
リザーブビット	—	—	H'29～H'FF	—	—

12.3.42 PHY部内部レジスタアクセス （DBPDRGD）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	PRD															
初期値:	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PRD															
初期値:	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～0	PRD	—	R/W	PHY部内部レジスタ 本ビットにライト又はリードを行うことで、PHY 部内部レジスタのアクセス（値の設定又は参照）ができます。 アクセス対象のレジスタは、PHY 部内部レジスタアドレス（DBPDRGA）のPRA ビットの値によって選択されます。 PHY 部内部レジスタをアクセスする際は、先にPHY 部ロックレジスタ（DBPDLCK）、及びPHY 部内部レジスタアドレス（DBPDRGA）の設定を行ってから、本ビットへのライト又はリードを行ってください。 PHY 部ロックレジスタ（DBPDLCK）の設定が「アクセス不許可」となっている状態で本ビットへのライトを行った場合、無視されます（書き込みは行われず、エラーも発生しません）

(1)　プリアンプル検出制御レジスタ (DBPDRGA レジスタの PRA ビット = H'28)

本レジスタは読み出し時、プリアンプルを検出するタイミングを指定するときに使用されます。セットすると MCK-MDQS ラップアラウンド時間が制御できます。

ビット	ビット名	R/W	説 明
31～17	—	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
16	en	R/W	読み出した FIFO 入力タイミングを制御します。 書き込む値は常に 1 にしてください。 1 以外の値を書き込んだときの動作は保証しません。
15～12	rprst_str	R/W	1MCK サイクルの前に追加されることになっている期間をセットします。これは読み出した FIFO ポインタリセット期間用に RL 指定時間に開始します。初期値は 3.5 サイクルです。 0000　：0-MCK サイクル 0001　：0.5-MCK サイクル 0010　：1-MCK サイクル 0011　：1.5-MCK サイクル 0100　：2-MCK サイクル 0101　：2.5-MCK サイクル 0110　：3-MCK サイクル 0111　：3.5-MCK サイクル 1000　：4-MCK サイクル 上記以外：設定禁止
11、10	—	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
9～8	rprst_end	R/W	1MCK サイクルの後に追加されることになっている期間をセットします。これは読み出した FIFO ポインタリセット期間用に RL 指定時間に開始します。初期値は 1MCK サイクルです。 00：0-MCK サイクル 01：0.5-MCK サイクル 10：1-MCK サイクル 11：設定禁止
7～0	—	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

12.3.43 バス制御部0 設定レジスタ0（DBBS0CNT0）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	BKCEN
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～1	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
0	BKCEN	0	R/W	バンクキャッシュイネーブルビット 本ビットによりバス制御部内のバンクキャッシュの使用/不使用を指定します。本ビットを0から1に変化させるとバンクキャッシュの内容を初期化します。 0：バンクキャッシュを使用しない 1：バンクキャッシュを使用する

注1. 本レジスタは、初期化シーケンス（「12.4.3」節参照）の中でのみ書き込みを行ってください。
2. 本レジスタは、SDRAM アクセス不許可中 (DBACEN レジスタのACCENビット=0)のみ書き込みを行ってください。

12.3.44 バス制御部0 設定レジスタ1（DBBS0CNT1）

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	BKADM	
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～2	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
1、0	BKADM	0	R/W	バンク配置方式設定ビット 論理アドレス空間に対するSDRAM のバンクの配置方式を設定します。論理アドレスを複数のブロックに分割し、それぞれのブロックへ異なるSDRAM のメモリバンクを割り当てます。 論理アドレスとSDRAMのアドレスの対応の詳細は、「12.4.8 アドレスマルチプレクスについて」を参照してください。 00：論理アドレス空間全体を1 つのブロックとする 01：論理アドレス空間を次の2 ブロックに分ける：バンク0～3 のブロック、バンク4～7 のブロック 10：論理アドレス空間を次の3 ブロックに分ける：バンク0～1 のブロック、バンク2～3 のブロック、バンク4～7 のブロック 11：論理アドレス空間を次の4ブロックに分ける：バンク0のブロック、バンク1のブロック、バンク2～3のブロック、バンク4～7のブロック

注1. 本レジスタは、初期化シーケンス（「12.4.3」参照）の中でのみ書き込みを行ってください。
2. レジスタは、以下の条件を両方満たす場合のみ書き込みを行ってください。
- SDRAM アクセス不許可中 (DBACEN レジスタのACCENビット=0)
- バンクキャッシュ無効（DBBS0CNT0 レジスタのBKCENビット=0

12.4　動作説明

12.4.1　サポートするSDRAM コマンド

DBSC3 が発行するSDRAM コマンドを表12.9 に示します。コマンドはMCK0、$\overline{\text{MCK0}}$、MCK1、$\overline{\text{MCK1}}$ に同期してSDRAM へ与えられます。「n-1」はコマンドを発行する1 サイクル前にSDRAM に与えた信号の状態、「n」はコマンド発行時の信号の状態を示しています。

表12.9　発行するSDRAM コマンド

機 能	シンボル	MCKE		$\overline{\text{MCS}}$	$\overline{\text{MRAS}}$	$\overline{\text{MCAS}}$	$\overline{\text{MWE}}$	MBA [2:0]	MA [15:3]	MA12/ BC	MA10/ AP	MA11, MA [9:0]
		n-1	n									
Device deselected	DES	H	H	H	X	X	X	X	X	X	X	X
Read	READ	H	H	L	H	L	H	V	V	V	L	V
Write	WRITE	H	H	L	H	L	L	V	V	V	H	V
Bank activate	ACT	H	H	L	L	H	H	V	V	V	V	V
Single bank precharge	PRE	H	H	L	L	H	L	V	V	V	L	V
Precharge all banks	PREA	H	H	L	L	H	L	V	V	V	H	V
Refresh	REF	H	H	L	L	L	H	V	V	V	V	V
Self-refresh entry	SRE	H	L	L	L	L	H	V	V	V	V	V
Self-refresh exit	SRX	L	H	H	V	V	V	V	V	V	V	V
				L	H	H	H					
Power down entry	PDE	H	L	L	H	H	H	V	V	V	V	V
				H	V	V	V					
Power down exit	PDX	L	H	L	H	H	H	V	V	V	V	V
				H	V	V	V					
Mode register set	MRS	H	H	L	L	L	L	V	V	V	V	V
ZQ calibration short issue	ZQCS	H	H	L	H	H	L	X	X	X	H	X
ZQ calibration long issue	ZQCL	H	H	L	H	H	L	X	X	X	L	X

記号.H：Hレベル
L：Lレベル
X：Hレベル又はLレベル （don't care）
V：有効データ

上記のDES コマンドは、SDRAM に対しアクセスを行わないときに発行しますので、ユーザが明示的に発行することはできません。

12.4.2　SDRAM コマンド発行詳細

(1)　基本アクセス

DBSC3 は、SHwy から与えられたリクエストをキューに格納した後、処理の開始は後で説明する「(2) 先行プリチャージ／アクティベート処理」により前後しますが、完了はキューの受け付け順になります。

初めに、リード／ライトリクエストが与えられると、SDRAM の初期化が完了した時点では、すべてのバンクはクローズ状態でページミスとなるため、DBSC3 は最初にアクティベート（ACT）コマンドを発行して対応するバンクを開きます。バンクを開いた後、リード／ライトリクエストに対応したSDRAM に対するリード/ライトコマンドを発行します。このとき、発行するリード／ライトコマンドの回数は、図12.3 に示すようにバス幅やリクエストサイズ（1、2、4、8、16、32バイト）によって異なります。たとえば、外部バス幅16 ビットでSHwy から32 バイトリードを行った場合には、2 回のリードコマンド発行が必要です。1 サイクル目のリードコマンド発行でデータが8 バースト長分（DDR クロックで4 サイクル分）読み出されるため、リードコマンド発行は5 サイクル目まで待たされることになります。

アクセスが終了した時点で、DBSC3 はプリチャージ（PRE）コマンドを発行することなくバンクを開いたままにしておきます。バンクを閉じるのは（1）後続のリクエストが同じバンクでロウアドレスが異なる場合、（2）オートリフレッシュ要求が発生した場合、（3）セルフリフレッシュの処理のためユーザがSDRAM コマンド制御レジスタでプリチャージオール（PREA）コマンドを発行した場合です。

このように、セルフリフレッシュを除いた通常のアクセス時では、DBSC3 がバンクの管理をハードウェアで行うため、ユーザ側での考慮は初期化時のレジスタ設定を除き不要です。

また、本コントローラは8 バンクのマルチバンクオペレーションを行います。したがって、同時に開かれているバンクの最大数は8 個です。SHwy からのアクセスアドレスと SDRAM のバンク／ロウアドレスの対応は「12.4.8 アドレスマルチプレクスについて」を参照してください。

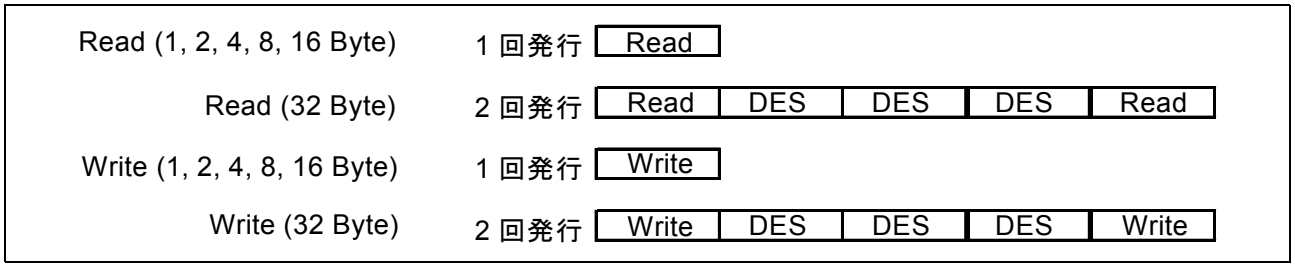


図 12.3　SHwy からのリクエストに応じSDRAM に対して発行するリード/ライトコマンド

(2)　先行プリチャージ／アクティベート処理

DBSC3 は、SDRAM のマルチバンク機能を生かし、SDRAM コマンドの空きサイクルをできるだけなくしバスの利用効率を上げるため、後続のリクエストキューのページミス処理に対応する PRE/ACT コマンドを先行して発行します。先行するのは PRE/ACT コマンドのみですので、リードライトの順番が崩れることはありません。先行PRE/ACT コマンドを発行するのは、後続リクエストが（1）ページミスかつ（2）現在処理中のリクエストと異なったバンクへのアクセスの場合に限られます。先行プリチャージ/アクティベート処理の実行例（動作説明のための例）を図 12.4 に示します。この例では、外部バス幅が16 ビットで、PRE-ACT 最小時間制約が4 サイクル、ACT-READ/WRITE最小時間制約が4 サイクル、ACT-ACT 最小時間制約が2 サイクルのとき、SDRAMに対するコマンド発行がどのように行われているかを示しています。CAMODEビット（DBSC動作調整レジスタ（DBADJ0）のビット0）は”1”にセットされています。この例では、1 番目から4 番目までリクエストが積まれており1 番目が最初にキューに与えられたリクエストです。

まず、DBSC3 はコマンドの発行はメモリクロック2 クロックにつき1 回発行となるので、コマンドの間隔は必ず偶数になります。Time1 で1 番目のRead（16Byte）のリクエスト処理に対するPRE コマンドを SDRAM へ発行します。その後、時刻 Time3 で発行するコマンドを決定する際、優先順位の高い1 番目の Read（16Byte）のリクエスト処理として必要な ACT コマンドの発行は、タイミング制約のために Time3 では発行することができないことがわかります。そのため、DBSC3 はTime3 で発行するコマンドを後続のリクエストキューから検索します。検索の結果、3 番目のRead（8Byte）のリクエストが、先行プリチャージ処理可能であることがわかります。DBSC3 は先行したリクエストを優先するため、3 番目

の Read（8Byte）に対する先行プリチャージ処理を行うことを決定し、SDRAM へ PRE コマンドを発行します。

Time5 になって、1 番目の Read（16Byte）のリクエスト処理を実行することができるようになり、SDRAM へ ACT コマンドを発行します。Time7 では 1 番目の Read（8Byte）の SDRAM へ ACT コマンドを発行します。4 番目の Read（16Byte）リクエスト処理に対する PRE コマンドは、1 番目の Read（16Byte）の Read コマンド発行後、Time11 で PRE コマンドを SDRAM へ発行します。

その後は、上記で示した処理を繰り返します。

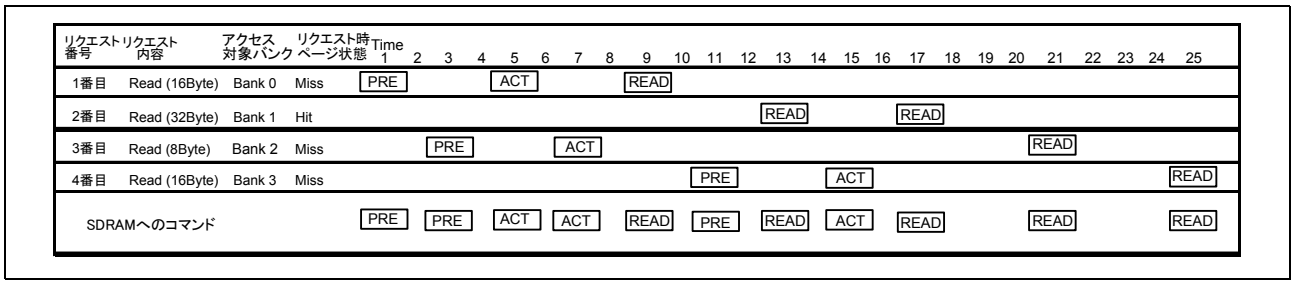


図 12.4　先行プリチャージ／アクティベート処理の例

12.4.3　初期化シーケンス

以下に初期化シーケンス例を示します。電源やタイミングパラメータなど、詳細は各メモリベンダのデータシートを参照して決定してください。

1. 各社SDRAM ベンダのガイドに従い電源やリファレンス電圧を供給してください。
2. SH7752 のパワーオンリセット解除後、SH-4A が動作開始してから初期化シーケンスであった場合100µs以上ソフトウェアで待ちます。
3. 手動コマンド発行レジスタ（DBCMD）によりSDRAM のRESET 端子をLow にします。レジスタに書き込む値は、opc= RstL, arg = 0 とします。
4. 手動コマンド発行レジスタ（DBCMD）によりSDRAM のCKE 端子をLow にします。レジスタに書き込む値は、opc =PDEn, arg = 100µs とします。
5. SDRAM 種類設定レジスタ（DBKIND）によりメモリの種類を設定します。
6. SDRAM 構成設定レジスタ（DBCONF）、SDRAM タイミングレジスタ 0～19（DBTR0～DBTR19）とODT動作構成レジスタ（DBRNK0）
7. PHY 部制御レジスタ3（DBPDCNT3）より自動キャリブレーションを選択します。
8. PHY 部制御レジスタ1（DBPDCNT1）より自動キャリブレーションを起動します。
9. 10µs 以上ソフトウェアで待ちます。
10. PHY 部制御レジスタ0（DBPDCNT0）よりDLL のリセットを解除します。
11. 50µs 以上ソフトウェアで待ちます。
12. 手動コマンド発行レジスタ（DBCMD）を利用して待ち時間を挿入します。レジスタに書き込む値は、opc = Wait,arg = 100µs とします。
13. 手動コマンド発行レジスタ（DBCMD）によりSDRAM のRESET 端子をHigh にします。レジスタに書き込む値は、opc= RstH, arg = 100µs とします。
14. 手動コマンド発行レジスタ（DBCMD）を利用して待ち時間を挿入します。DBCMD レジスタに opc = Wait, arg = 100µs を4 回書き込んでください。
15. 手動コマンド発行レジスタ（DBCMD）によりSDRAM のCKE 端子をHigh にします。レジスタに書き込む値は、opc =PDXt, arg = tXPR（通常、tRFC + 10ns）とします。
16. 手動コマンド発行レジスタ（DBCMD）によりMRS（MR2）コマンドを発行します。CWL の設定は、SDRAM タイミングレジスタ1（DBTR1）のCWL ビットの設定と合わせてください。
17. 手動コマンド発行レジスタ（DBCMD）によりMRS（MR3）コマンドを発行します。MPR はNormal operation に設定します。
18. 手動コマンド発行レジスタ（DBCMD）によりMRS（MR1）コマンドを発行します。Additive Latency は0、DLL EnableはEnable に設定します。
19. 手動コマンド発行レジスタ（DBCMD）によりMRS（MR0）コマンドを発行します。このとき、動作モードはNormal、DLL リセットはリセット、バースト長は8、バーストタイプはシーケンシャルに設定します。また、CAS Latency の設定はCL ビット（SDRAM タイミングレジスタ0（DBTR0）のビット3～0）の設定と合わせてください。WR の設定はTWR ビット（SDRAM タイミングレジスタ10（DBTR10）のビット3～0）の設定と合わせてください。
20. 手動コマンド発行レジスタ（DBCMD）によりZQ Calibration Long コマンドを発行します。レジスタに書き込む値は、opc = ZQCL, arg = max{tZQinit, tDLLK－tMOD}（通常、512）とします。
21. 必要に応じて、バス制御部0 設定レジスタ の設定を行います。
22. リフレッシュ設定レジスタ0～2（DBRFCNF0 DBRFCNF2）の設定を行います。
23. DDR3-SDRAMキャリブレーション構成レジスタ（DBCALCNF)の設定を行います。
24. 自動リフレッシュ許可レジスタ（DBRFEN）のARFEN ビットを”1” に設定します。
25. SDRAM アクセス許可レジスタ（DBACEN）のACCEN ビットを”1”（アクセス許可）に設定します。
26. 操作完了待ちレジスタ（DBWAIT）をリードし、応答が返るまで待ちます。

12.4.4　セルフリフレッシュ動作について

セルフリフレッシュにより、SDRAM の低消費電力化を図り、クロック周波数の変更とクロックの停止を可能にします。

(1)　セルフリフレッシュ

SDRAM にアクセスする必要がない場合、SDRAM をセルフリフレッシュモードに移行させることで、SDRAM 中のデータ内容を保持したまま SDRAM の消費電力を抑えることが可能です。

セルフリフレッシュ中はアクセス不許可になっているため、SDRAM に対するデータアクセスを実施すると、アクセスは無視されます。

セルフリフレッシュへの移行は、以下の手順に従い、行ってください。

① 本コントローラへのアクセスが行われていないことを確認し、割り込みなどにより処理が中断して、SDRAMが要求するオートリフレッシュの間隔を超えないようにしてください。
② SDRAM動作許可レジスタ（DBACEN）のACCENビットを0（アクセス不許可）に設定します。
③ 手動コマンド発行レジスタ（DBCMD）により PREA（プリチャージオール）コマンドを発行します。レジスタに書き込む値は、opc = PreA, arg = 0 とします。
④ 手動コマンド発行レジスタ（DBCMD）により Self-Refresh Entry コマンドを発行します。レジスタに書き込む値は、opc = SREn, arg = 0 とします。
⑤ 自動リフレッシュ許可レジスタ（DBRFEN）のARFENビットを0に設定します。

セルフリフレッシュの解除は下記の手順に従い、行ってください。

① 割込みなどにより解除処理が中断しないようにしてください（オートリフレッシュの期間確保のため）。
② 自動リフレッシュ許可レジスタ（DBRFEN）のARFENビットを”1”に設定します。
③ 手動コマンド発行レジスタ（DBCMD）により Self-Refresh Exit コマンドを発行します。レジスタに書き込む値は、opc = SRXt, arg = 0 とします。
④ 手動コマンド発行レジスタ（DBCMD）を利用して SDRAM へのアクセスが可能になるまでの待ち時間を挿入します。レジスタに書き込む値は、opc = Wait, arg = tXSDLL（通常、512）とします。
⑤ SDRAMアクセス許可レジスタ（DBACEN）のACCENビットを1（アクセス許可）に設定します。

12.4.5　パワーダウン

SDRAM にアクセスする必要が無い場合、パワーダウンモードに移行する事で、SDRAM の内部クロックを非活性にして、デバイスの消費電力を低く抑えることが可能です。なお、パワーダウンモードにおいても、クロック、及び電源は供給されている必要があります。

パワーダウンモードへの移行時は、以下の手順に従ってください。

①SDRAM 動作許可レジスタ（DBACEN）のACCEN ビットを”0”（アクセス不許可）に設定します。
②手動コマンド発行レジスタ（DBCMD）により Power Down Entry コマンドを発行します。レジスタに書き込む値は、opc = PDEn, arg = 0 とします。

パワーダウンモードの解除時には、以下の手順に従ってください。

①手動コマンド発行レジスタ（DBCMD）により Power Down Exit コマンドを発行します。レジスタに書き込む値は、opc = PDXt, arg = 0 とします。
②SDRAM アクセス許可レジスタ（DBACEN）のACCEN ビットを1（アクセス許可）に設定します。

パワーダウンモードにおいてSDRAM のデータを保持し続けるためには、通常動作時と同様に定期的なリフレッシュコマンドの発行が必要です。dbsc3 では、自動リフレッシュ機能を稼動させた状態（DBRFEN レジスタの ARFEN ビット=1）のままパワーダウンモードに入ることにより、パワーダウンモードの間も定期的なリフレッシュを行い、SDRAMのデータを保持することができます。

パワーダウンモードの間はアクセス不許可状態となっているため、dbsc3 に SDRAM へのデータアクセス要求を投入すると、エラーとなります。

12.4.6　動作中のリフレッシュの設定変更

dbsc3 では、動作中にリフレッシュの設定（リフレッシュ頻度等）を変更することが可能です。リフレッシュの設定を変更する際の手順の例を以下に示します。① 必要に応じてリフレッシュ設定レジスタ 0～2（DBRFCNF0～DBRFCNF2）に書き込みを行い、設定を変更します。

①必要に応じてリフレッシュ設定レジスタ 0～2（DBRFCNF0～DBRFCNF2）に書き込みを行い、設定を変更します。
②自動リフレッシュ許可レジスタ（DBRFEN）の ARFEN ビットに 1 を書き込みます。

手順②の書き込みの後、手順①で書き込んだ新しい設定がリフレッシュ動作に反映されます。

12.4.7　SDRAM 構成設定レジスタの設定方法

(1)　DDR3-SDRAM(外部バス 16bit)

メモリ構成	バンク[個]	ロウ[bit]	カラム[bit]	AWRW	AWRK	AWBK	AWCL	DW
32 M x 16 bit "512 Mbit"(1 個)	8	12	10	01100	0	11	1010	01
64 M x 8 bit "512 Mbit"(2 個)	8	13	10	01101	0	11	1010	01
64 M x 16 bit "1 Gbit"(1 個)	8	13	10	01101	0	11	1010	01
128 M x 8 bit "1 Gbit"(2 個)	8	14	10	01110	0	11	1010	01
128 M x 16 bit "2 Gbit"(1 個)	8	14	10	01110	0	11	1010	01
256 M x 8 bit "2 Gbit"(2 個)	8	15	10	01111	0	11	1010	01
256 M x 16 bit "4 Gbit"(1 個)	8	15	10	01111	0	11	1010	01
512 M x 8 bit "4 Gbit"(2 個)	8	16	10	10000	0	11	1010	01
512 M x 16 bit "8 Gbit" (1 個	8	16	10	10000	0	11	1010	01

注. コントローラとしては複数個の接続をサポートしますが、チップによっては電気特性上複数個の接続ができない場合があります。

12.4.8　アドレスマルチプレクスについて

SDRAM 構成レジスタ（DBCONF）の設定により各種サイズのメモリを接続可能です。BWIDTH ビットで外部バス幅を設定し、SPLIT ビットで接続するメモリサイズを設定します。BASFT ビットの設定によりバンクアドレスの位置を下位ビットの方に移すため、アプリケーションによってはページヒットの可能性が高まります。

A31-A0 はバイト単位の論理アドレスビットであり、A31 がMSB 側、A0 がLSB 側を示します。AP はオートプリチャージオプションを示します。

表12.10　アドレス端子と論理アドレスの関係(BKADM=00)
（16bit 幅SDRAM 1 個、8bit 幅SDRAM2 個接続時）

種類		BA2	BA1	BA0	MA 15	MA 14	MA 13	MA 12	MA 11	MA 10	MA9	MA8	MA7	MA6	MA5	MA4	MA3	MA2	MA1	MA0
32 M × 16 b	ROW	A13	A12	A11	—	—	—	—	A25	A24	A23	A22	A21	A20	A19	A18	A17	A16	A15	A14
	COL	A13	A12	A11	—	—	—	—	—	AP	A10	A9	A8	A7	A6	A5	A4	0	0	0
64 M × 16 b	ROW	A13	A12	A11	—	—	—	A26	A25	A24	A23	A22	A21	A20	A19	A18	A17	A16	A15	A14
	COL	A13	A12	A11	—	—	—	—	—	AP	A10	A9	A8	A7	A6	A5	A4	0	0	0
128 M × 16 b	ROW	A13	A12	A11	—	—	A27	A26	A25	A24	A23	A22	A21	A20	A19	A18	A17	A16	A15	A14
	COL	A13	A12	A11	—	—	—	—	—	AP	A10	A9	A8	A7	A6	A5	A4	0	0	0
256 M × 16 b	ROW	A13	A12	A11	—	A28	A27	A26	A25	A24	A23	A22	A21	A20	A19	A18	A17	A16	A15	A14
	COL	A13	A12	A11	—	—	—	—	—	AP	A10	A9	A8	A7	A6	A5	A4	0	0	0
512M × 16 b	ROW	A13	A12	A11	A29	A28	A27	A26	A25	A24	A23	A22	A21	A20	A19	A18	A17	A16	A15	A14
	COL	A13	A12	A11	—	—	—	—	—	AP	A10	A9	A8	A7	A6	A5	A4	0	0	0

表12.11　アドレス端子と論理アドレスの関係(BKADM=01)
（16bit 幅SDRAM 1 個、8bit 幅SDRAM2 個接続時）

種類		BA2	BA1	BA0	MA 15	MA 14	MA 13	MA 12	MA 11	MA 10	MA9	MA8	MA7	MA6	MA5	MA4	MA3	MA2	MA1	MA0
32 M × 16 b	ROW	A25	A12	A11	—	—	—	—	A13	A24	A23	A22	A21	A20	A19	A18	A17	A16	A15	A14
	COL	A25	A12	A11	—	—	—	—	—	AP	A10	A9	A8	A7	A6	A5	A4	0	0	0
64 M × 16 b	ROW	A26	A12	A11	—	—	—	A13	A25	A24	A23	A22	A21	A20	A19	A18	A17	A16	A15	A14
	COL	A26	A12	A11	—	—	—	—	—	AP	A10	A9	A8	A7	A6	A5	A4	0	0	0
128 M × 16 b	ROW	A27	A12	A11	—	—	A13	A26	A25	A24	A23	A22	A21	A20	A19	A18	A17	A16	A15	A14
	COL	A27	A12	A11	—	—	—	—	—	AP	A10	A9	A8	A7	A6	A5	A4	0	0	0
256 M × 16 b	ROW	A28	A12	A11	—	A13	A27	A26	A25	A24	A23	A22	A21	A20	A19	A18	A17	A16	A15	A14
	COL	A28	A12	A11	—	—	—	—	—	AP	A10	A9	A8	A7	A6	A5	A4	0	0	0
512M × 16 b	ROW	A29	A12	A11	A13	A28	A27	A26	A25	A24	A23	A22	A21	A20	A19	A18	A17	A16	A15	A14
	COL	A29	A12	A11	—	—	—	—	—	AP	A10	A9	A8	A7	A6	A5	A4	0	0	0

注．BA2、MA11～MA15欄のグレーの部分はBKADM＝0の場合と異なります。

表12.12 アドレス端子と論理アドレスの関係(BKADM=10)
（16bit 幅SDRAM 1 個、8bit 幅SDRAM2 個接続時）

種類		BA2	BA1	BA0	MA 15	MA 14	MA 13	MA 12	MA 11	MA 10	MA 9	MA 8	MA 7	MA 6	MA 5	MA 4	MA 3	MA 2	MA 1	MA 0
32 M ×16 b (A25 = 0)	ROW	A25	A24	A11	—	—	—	—	A13	A12	A23	A22	A21	A20	A19	A18	A17	A16	A15	A14
	COL	A25	A24	A11	—	—	—	—	—	AP	A10	A9	A8	A7	A6	A5	A4	0	0	0
32 M ×16 b (A25 = 1)	ROW	A25	A12	A11	—	—	—	—	A13	A24	A23	A22	A21	A20	A19	A18	A17	A16	A15	A14
	COL	A25	A12	A11	—	—	—	—	—	AP	A10	A9	A8	A7	A6	A5	A4	0	0	0
64 M ×16 b (A26 = 0)	ROW	A26	A25	A11	—	—	—	A13	A12	A24	A23	A22	A21	A20	A19	A18	A17	A16	A15	A14
	COL	A26	A25	A11	—	—	—	—	—	AP	A10	A9	A8	A7	A6	A5	A4	0	0	0
64 M ×16 b (A26 = 1)	ROW	A26	A12	A11	—	—	—	A13	A25	A24	A23	A22	A21	A20	A19	A18	A17	A16	A15	A14
	COL	A26	A12	A11	—	—	—	—	—	AP	A10	A9	A8	A7	A6	A5	A4	0	0	0
128 M ×16 b (A27 = 0)	ROW	A27	A26	A11	—	—	A13	A12	A25	A24	A23	A22	A21	A20	A19	A18	A17	A16	A15	A14
	COL	A27	A26	A11	—	—	—	—	—	AP	A10	A9	A8	A7	A6	A5	A4	0	0	0
128 M ×16 b (A27 = 1)	ROW	A27	A12	A11	—	—	A13	A26	A25	A24	A23	A22	A21	A20	A19	A18	A17	A16	A15	A14
	COL	A27	A12	A11	—	—	—	—	—	AP	A10	A9	A8	A7	A6	A5	A4	0	0	0
256 M ×16 b (A28=0)	ROW	A28	A27	A11	—	A13	A12	A26	A25	A24	A23	A22	A21	A20	A19	A18	A17	A16	A15	A14
	COL	A28	A27	A11	—	—	—	—	—	AP	A10	A9	A8	A7	A6	A5	A4	0	0	0
256 M ×16 b (A28 = 1)	ROW	A28	A12	A11	—	A13	A27	A26	A25	A24	A23	A22	A21	A20	A19	A18	A17	A16	A15	A14
	COL	A28	A12	A11	—	—	—	—	—	AP	A10	A9	A8	A7	A6	A5	A4	0	0	0
512 M ×16 b (A29 = 0)	ROW	A29	A28	A11	A13	A12	A27	A26	A25	A24	A23	A22	A21	A20	A19	A18	A17	A16	A15	A14
	COL	A29	A28	A11	—	—	—	—	—	AP	A10	A9	A8	A7	A6	A5	A4	0	0	0
512 M ×16 b (A29 = 1)	ROW	A29	A12	A11	A13	A28	A27	A26	A25	A24	A23	A22	A21	A20	A19	A18	A17	A16	A15	A14
	COL	A29	A12	A11	—	—	—	—	—	AP	A10	A9	A8	A7	A6	A5	A4	0	0	0

注．BA2、BA1、MA10～MA15欄のグレーの部分はBKADM＝00の場合と異なります。

表12.13 アドレス端子と論理アドレスの関係(BKADM=11)
（16bit 幅SDRAM 1個、8bit 幅SDRAM2 個接続時）

種類		BA2	BA1	BA0	MA 15	MA 14	MA 13	MA 12	MA 11	MA 10	MA 9	MA 8	MA 7	MA 6	MA 5	MA 4	MA 3	MA 2	MA 1	MA 0
32 M × 16 b (A[25:24] = 00)	ROW	A25	A24	A23	—	—	—	—	A13	A12	A11	A22	A21	A20	A19	A18	A17	A16	A15	A14
	COL	A25	A24	A23	—	—	—	—	—	AP	A10	A9	A8	A7	A6	A5	A4	0	0	0
32 M × 16 b (A[25:24] = 01)	ROW	A25	A24	A11	—	—	—	—	A13	A12	A23	A22	A21	A20	A19	A18	A17	A16	A15	A14
	COL	A25	A24	A11	—	—	—	—	—	AP	A10	A9	A8	A7	A6	A5	A4	0	0	0
32 M × 16 b (A25 = 1)	ROW	A25	A12	A11	—	—	—	—	A13	A24	A23	A22	A21	A20	A19	A18	A17	A16	A15	A14
	COL	A25	A12	A11	—	—	—	—	—	AP	A10	A9	A8	A7	A6	A5	A4	0	0	0
64 M × 16 b (A[26:25] = 00)	ROW	A26	A25	A24	—	—	—	A13	A12	A11	A23	A22	A21	A20	A19	A18	A17	A16	A15	A14
	COL	A26	A25	A24	—	—	—	—	—	AP	A10	A9	A8	A7	A6	A5	A4	0	0	0
64 M × 16 b (A[26:25] = 01)	ROW	A26	A25	A11	—	—	—	A13	A12	A24	A23	A22	A21	A20	A19	A18	A17	A16	A15	A14
	COL	A26	A25	A11	—	—	—	—	—	AP	A10	A9	A8	A7	A6	A5	A4	0	0	0
64 M × 16 b (A26 = 1)	ROW	A26	A12	A11	—	—	—	A13	A25	A24	A23	A22	A21	A20	A19	A18	A17	A16	A15	A14
	COL	A26	A12	A11	—	—	—	—	—	AP	A10	A9	A8	A7	A6	A5	A4	0	0	0
128 M × 16 b (A[27:26] = 00)	ROW	A27	A26	A25	—	—	A13	A12	A11	A24	A23	A22	A21	A20	A19	A18	A17	A16	A15	A14
	COL	A27	A26	A25	—	—	—	—	—	AP	A10	A9	A8	A7	A6	A5	A4	0	0	0
128 M × 16 b (A[27:26] = 01)	ROW	A27	A26	A11	—	—	A13	A12	A25	A24	A23	A22	A21	A20	A19	A18	A17	A16	A15	A14
	COL	A27	A26	A11	—	—	—	—	—	AP	A10	A9	A8	A7	A6	A5	A4	0	0	0
128 M × 16 b (A27 = 1)	ROW	A27	A12	A11	—	—	A13	A26	A25	A24	A23	A22	A21	A20	A19	A18	A17	A16	A15	A14
	COL	A27	A12	A11	—	—	—	—	—	AP	A10	A9	A8	A7	A6	A5	A4	0	0	0
256 M × 16 b (A[28:27] = 00)	ROW	A28	A27	A26	—	A13	A12	A11	A25	A24	A23	A22	A21	A20	A19	A18	A17	A16	A15	A14
	COL	A28	A27	A26	—	—	—	—	—	AP	A10	A9	A8	A7	A6	A5	A4	0	0	0
256 M × 16 b (A[28:27] = 01)	ROW	A28	A27	A11	—	A13	A12	A26	A25	A24	A23	A22	A21	A20	A19	A18	A17	A16	A15	A14
	COL	A28	A27	A11	—	—	—	—	—	AP	A10	A9	A8	A7	A6	A5	A4	0	0	0
256 M × 16 b (A28 = 1)	ROW	A28	A12	A11	—	A13	A27	A26	A25	A24	A23	A22	A21	A20	A19	A18	A17	A16	A15	A14
	COL	A28	A12	A11	—	—	—	—	—	AP	A10	A9	A8	A7	A6	A5	A4	0	0	0
512 M × 16 b (A[29:28] = 00)	ROW	A29	A28	A27	A13	A12	A11	A26	A25	A24	A23	A22	A21	A20	A19	A18	A17	A16	A15	A14
	COL	A29	A28	A27	—	—	—	—	—	AP	A10	A9	A8	A7	A6	A5	A4	0	0	0
512 M × 16 b (A[29:28] = 01)	ROW	A29	A28	A11	A13	A12	A27	A26	A25	A24	A23	A22	A21	A20	A19	A18	A17	A16	A15	A14
	COL	A29	A28	A11	—	—	—	—	—	AP	A10	A9	A8	A7	A6	A5	A4	0	0	0

種類		BA2	BA1	BA0	MA 15	MA 14	MA 13	MA 12	MA 11	MA 10	MA 9	MA 8	MA 7	MA 6	MA 5	MA 4	MA 3	MA 2	MA 1	MA 0
512 M × 16 b (A29 = 1)	ROW	A29	A12	A11	A13	A28	A27	A26	A25	A24	A23	A22	A21	A20	A19	A18	A17	A16	A15	A14
	COL	A29	A12	A11	—	—	—	—	À\	AP	A10	A9	A8	A7	A6	A5	A4	0	0	0

注．BA2～BA0、MA9～MA15欄のグレーの部分はBKADM＝00の場合と異なります。

12.4.9　SDRAM アクセスとタイミング制約について

本節では、SDRAM の基本アクセスと観測される波形の関係を示した後、SDRAM アクセスとSDRAM タイミングレジスタ 0～19（DBTR0～DBTR19）の設定による CAS レイテンシ（CL、CWL）、tRAS、tRFC、tRCD、tRP、tRRD、tWR、tRTP、tRC、READ-WRITE 間最小間隔、WRITE-READ 間最小間隔の制約の対応を示します。

(1)　Basic SDRAM Access

本節では基本的なSDRAM アクセスであるリード、ライト、オートリフレッシュ、セルフリフレッシュ動作時に外部バスで観測される波形について説明します。CAMODE ビット（DBSC 動作調整レジスタ 0（DBADJ0)のビット 0）は”1”にセットされています。

1/2/4/8/16 バイトリードを行った場合の波形を図12.5 に示します。READ コマンドを1 回だけ発行するシングルリードとなります。この図の例では、bankA に対するリードアクセス処理がACT コマンド発行から開始されていますが、もし、ページヒットしている場合にはREAD コマンド発行からアクセスが開始されます。

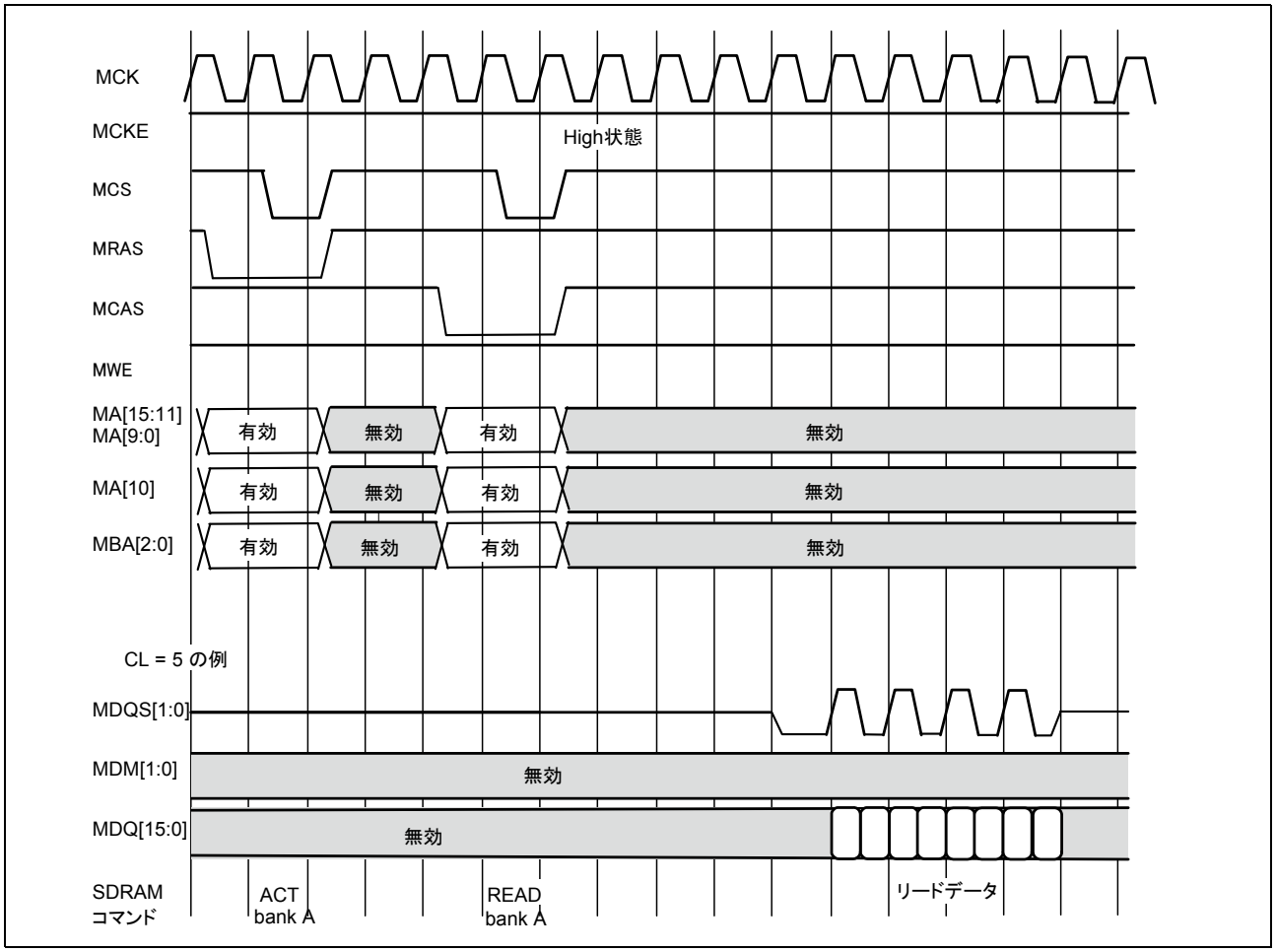


図 12.5　1/2/4/8/16 バイトリード

1/2/4/8/16 バイトライトを行った場合の波形を、図 12.6 に示します。WRITE コマンドを 1 回だけ発行するシングルライトとなります。この図の例では、bankA に対するライトアクセス処理が ACT コマンド発行から開始されていますが、もし、ページヒットしている場合には WRITE コマンド発行からアクセスが開始されます。

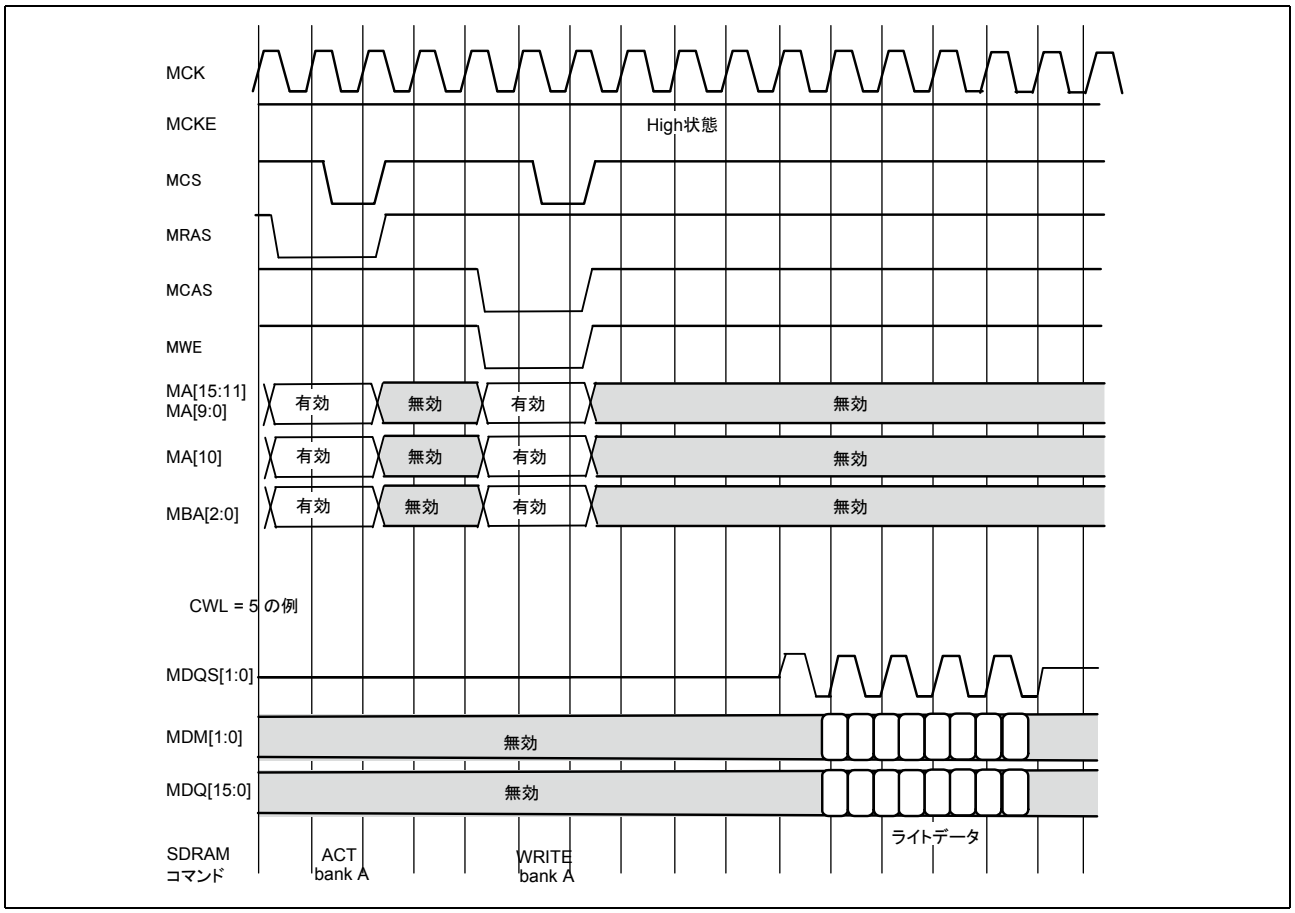


図 12.6　1/2/4/8/16 バイトライト

図 12.7 にSDRAM リフレッシュ制御レジスタ 0、1、2 の設定により発生したオートリフレッシュ動作時の波形を示します。DBSC3 は、REF コマンド発行前に DDR3-SDRAM のバンクが一つでもアクティベートされている場合、PALL コマンドを発行してからREF コマンド発行を自動的に行います。そのため、オートリフレッシュ動作のために、バンクがすべてプリチャージされていることをソフトウェアで管理する必要はありません。

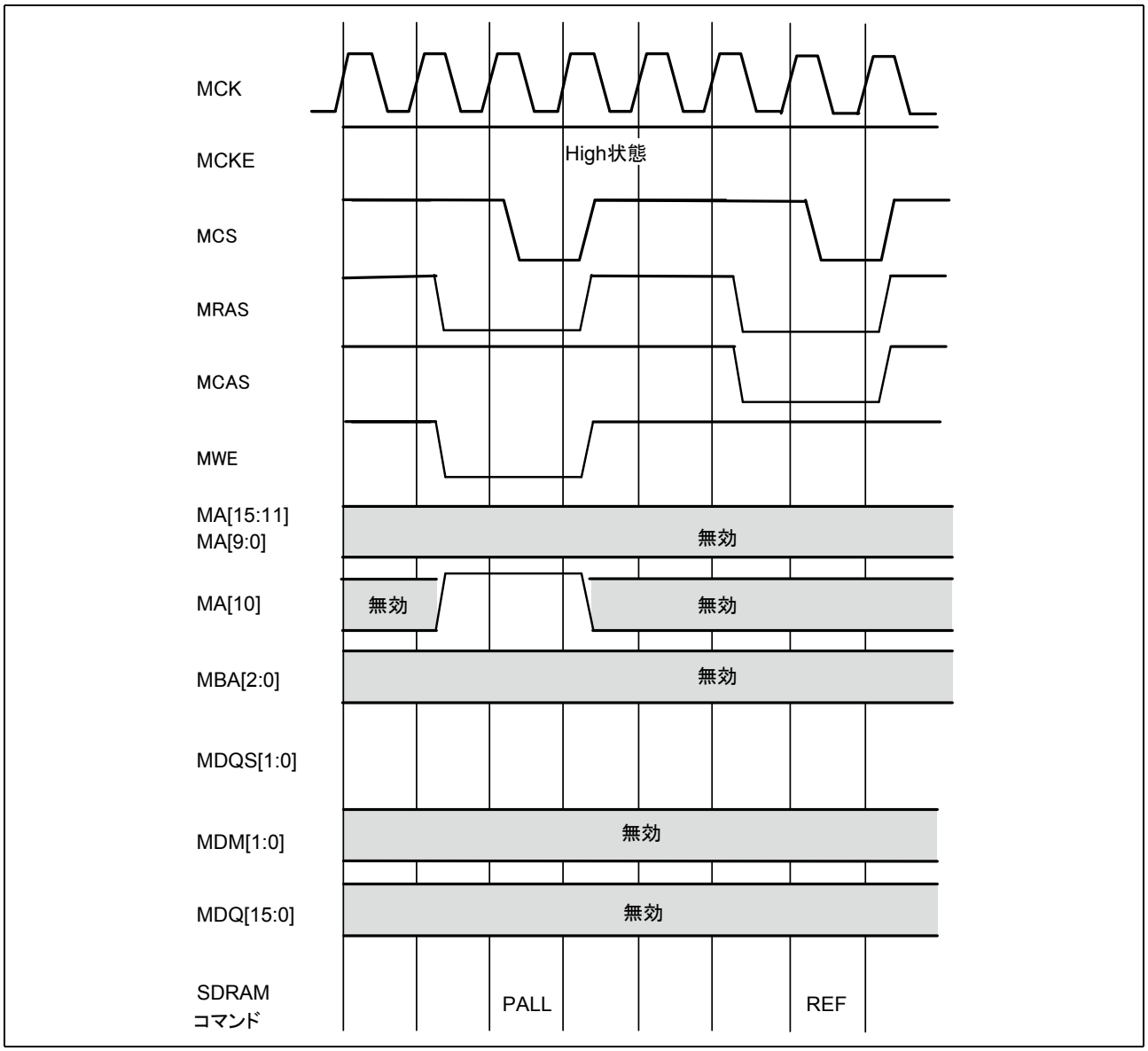


図 12.7　オートリフレッシュ動作

図12.8にセルフリフレッシュ動作を示します。セルフリフレッシュ動作を行うためには、シーケンスを守る必要があり、詳細は「12.4.4 セルフリフレッシュ動作について」に記載がありますので参照してください。

「12.4.4 セルフリフレッシュ動作について」のシーケンスとおりに処理を行うと、SDRAMに対して与えるコマンドは図12.8のようになります。セルフリフレッシュへ遷移させる前に、PREAコマンドをソフトウェアにて発行します。その後、ソフトウェアでREFコマンドを発行し、ソフトウェアでSRE（セルフリフレッシュ）コマンドを発行します。ソフトウェアでセルフリフレッシュ解除を行うまでSDRAMはセルフリフレッシュ状態になります。ソフトウェアでのSRX（セルフリフレッシュ解除）コマンド発行後、REFコマンド発行までの時間にはSDRAMが要求する制約があり、時間tXSNRだけ待つ必要があります。

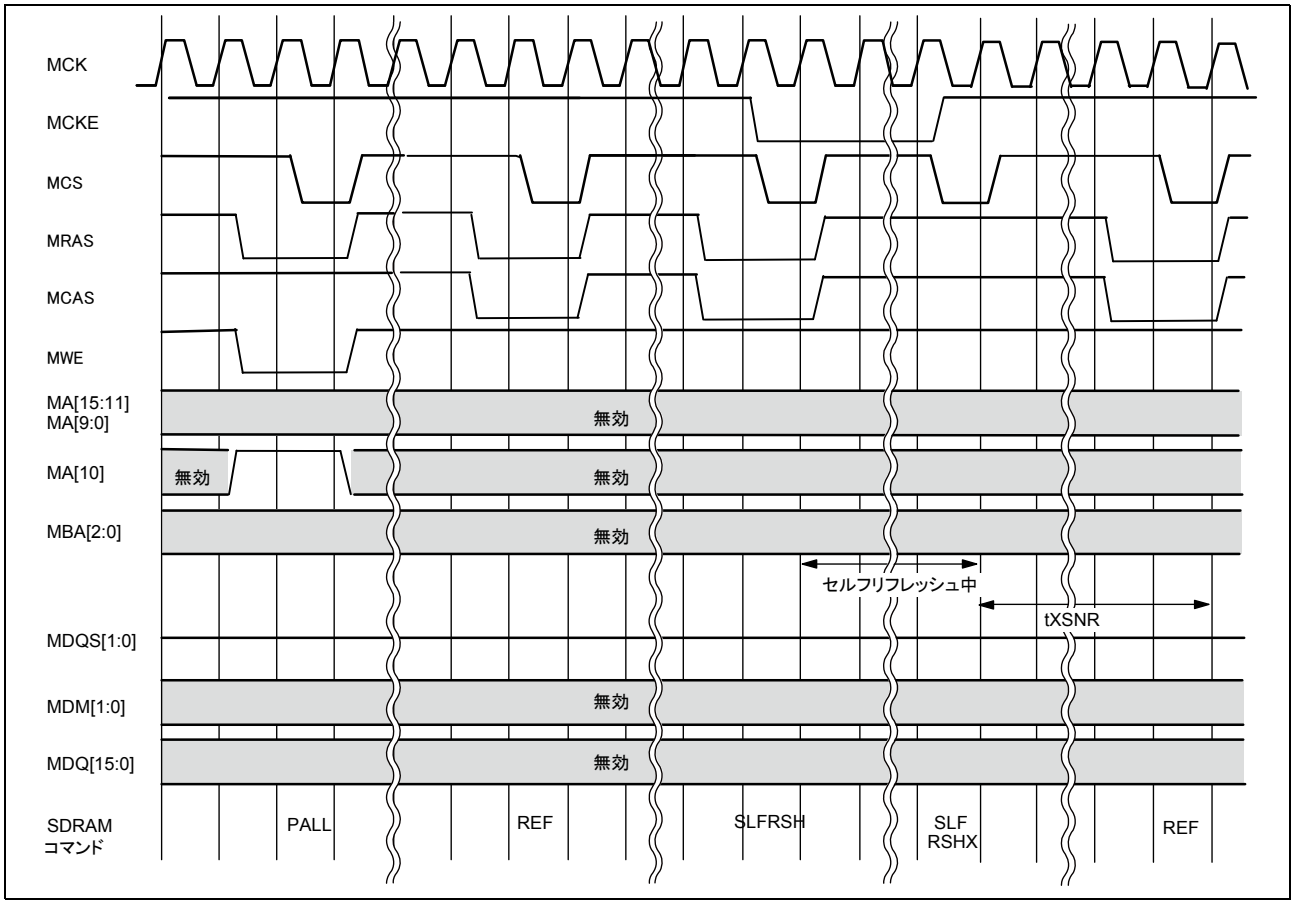


図 12.8　セルフリフレッシュ動作

(2)　タイミング制約について

図12.9にCL、tRAS、tRCD、tRPの設定値とコマンド発行の関係を示します。図12.10にはtRRD、tRTPの関係、図12.11はtWRの関係、図12.12 tRCの関係、図12.13 READ-WRITE間の関係、図12.14 WRITE-READ間の関係、図12.15 tRFCの関係を示しています。

図12.9、バンクAが開かれている状態で同じバンクAに対するリードアクセスがありページミスが発生した場合の動作に対応しています。PREコマンドとACTコマンド間の制約tRP、ACTコマンドとREADコマンド間の制約tRCD、ACTコマンドとPREコマンド間の制約tRCDが関係します。DBSC3は各制約を満たすまでコマンドの発行を延期します。

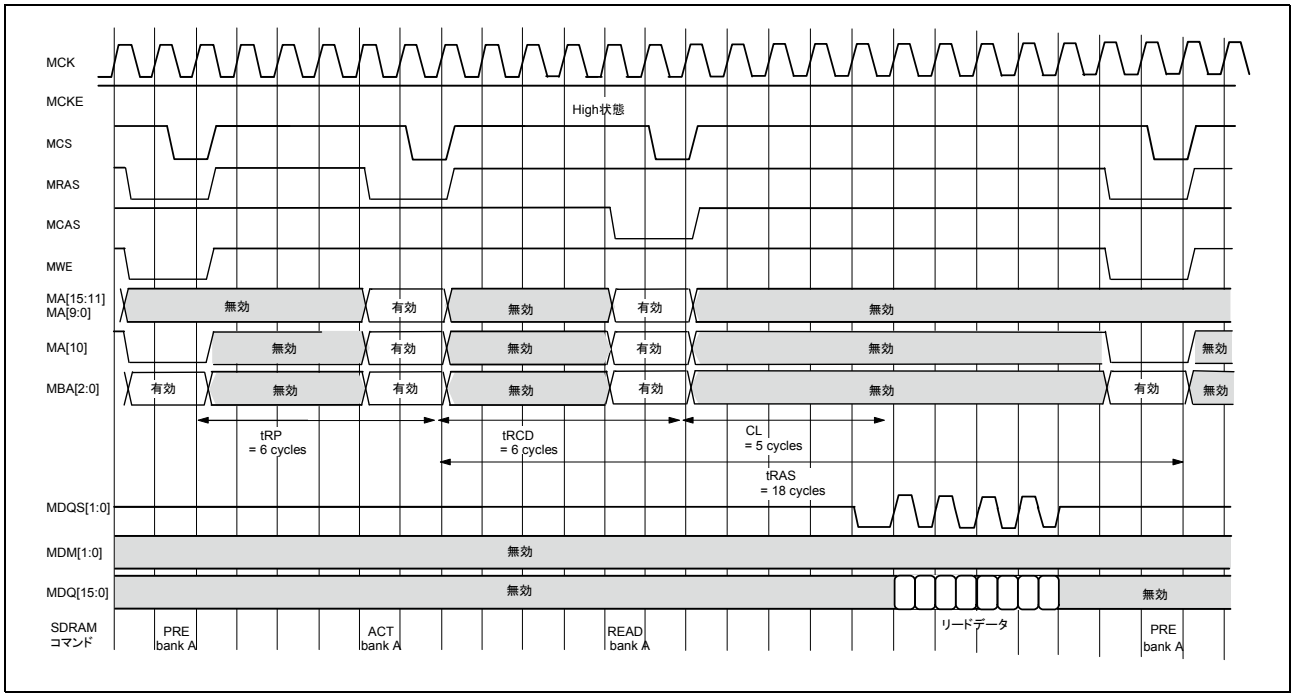


図 12.9　tRP、tRCD、CL、tRASについて

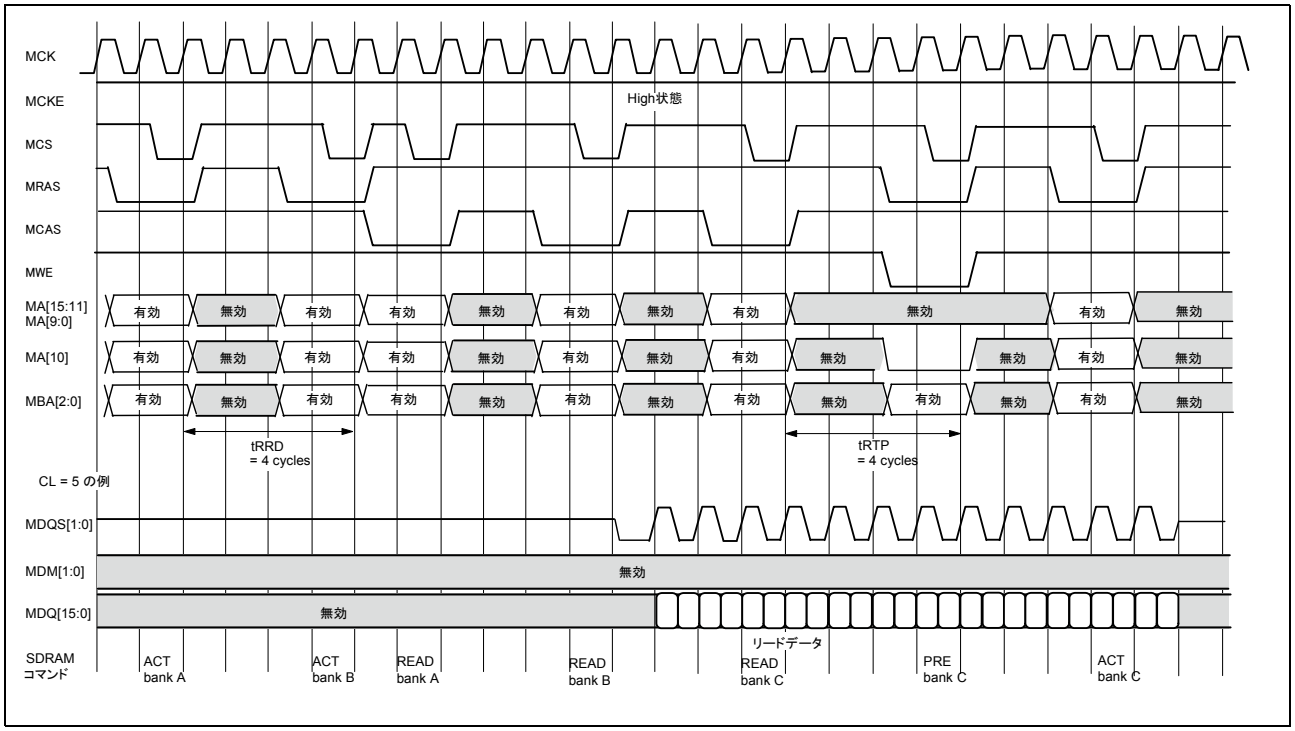


図 12.10　tRRD、tRTP について

図 12.10 は、バンク A,B のページが共に閉じており、バンク C のページが開かれてページヒットしている場合を示しています。まずバンク A の ACT コマンド発行から開始し、tRRD 時間制約を満たした後、バンク B の ACT コマンドを発行します。バンク A の ACT コマンド発行から tRCD 時間経過したため、READ コマンド発行が可能になります。READ コマンドはバースト長 8 なので 4 サイクル後に、バンク B に対する READ コマンドを発行することが可能になります。さらに 4 サイクル後、バンク C に対する READ コマンドを発行します。ただし、次のリクエストはバンク C を閉じる必要のあるアクセスなので、tRTP 時間経過後に PRE コマンドを発行しています。

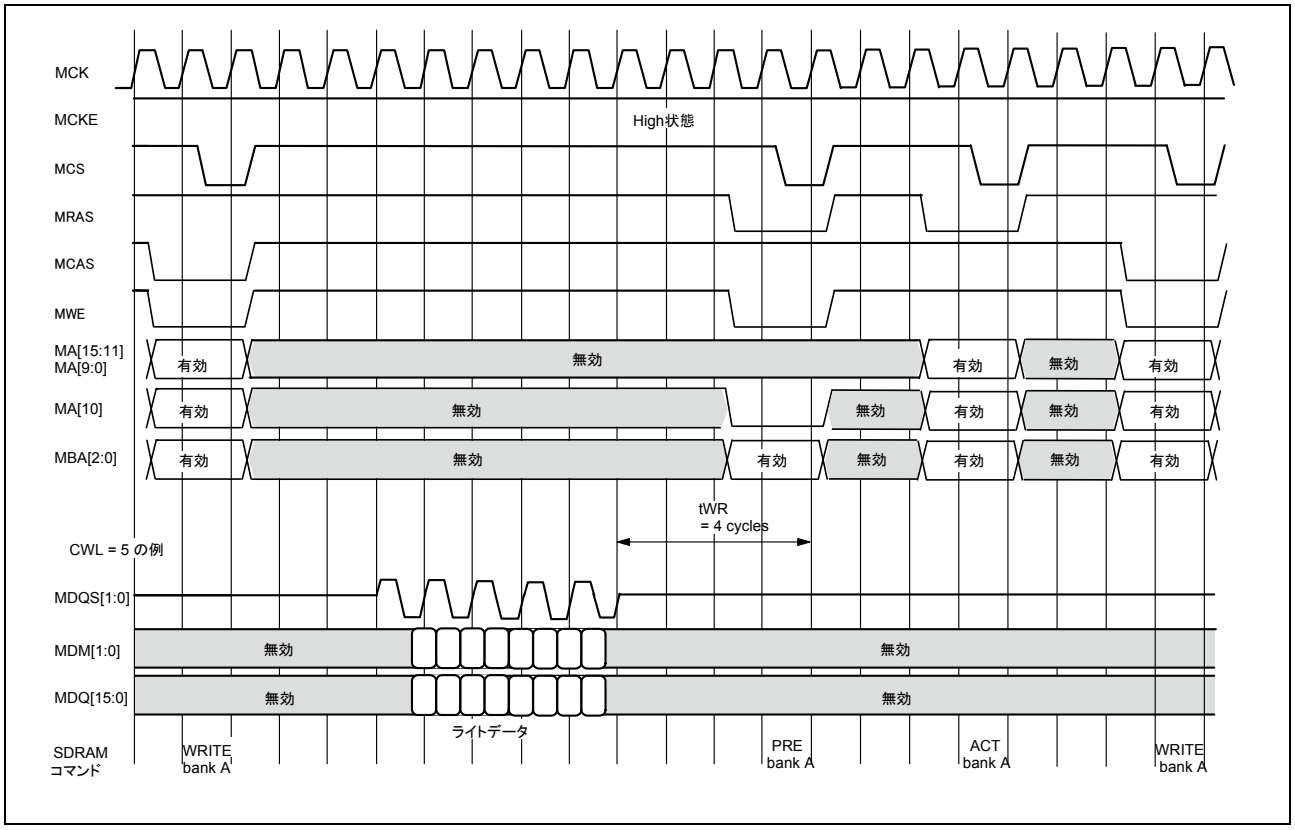


図 12.11　tWR について

図 12.11 は、ライトリクエスト後にバンク B を閉じる必要のあるアクセスが生じた場合を示しています。WRITE コマンド発行後に、PRE コマンド発行のためには、ライトデータが出力されてから tWR 時間以上経過を待つ必要があります。

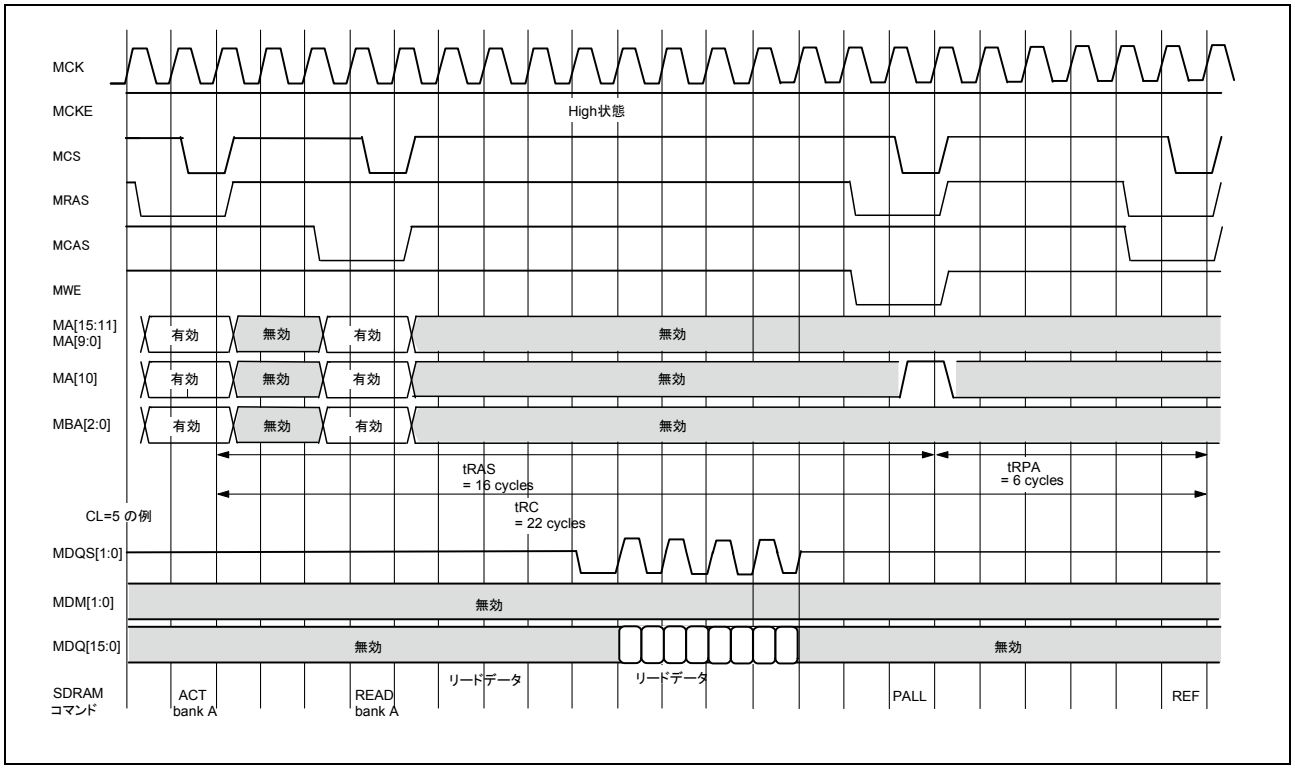


図 12.12　tRC

図 12.12 は、ページが閉じられていたバンク A のリードアクセスの後、オートリフレッシュを行う場合の例です。バンク A に対して ACT コマンドと READ コマンドを発行してデータリードを行った後、オートリフレッシュを行うため、PALL コマンドを使いすべてのバンクを閉じる必要があります。PREA コマンド発行のためには、tRAS 時間制約を満たす必要があり、それまでPREA コマンド発行が延期されます。その後、REF コマンドを発行する際、tRPA と tRC 時間を同時に満たす必要があります。それらの制約がすべて満たされた際に、REF コマンドが発行されオートリフレッシュが行われます。

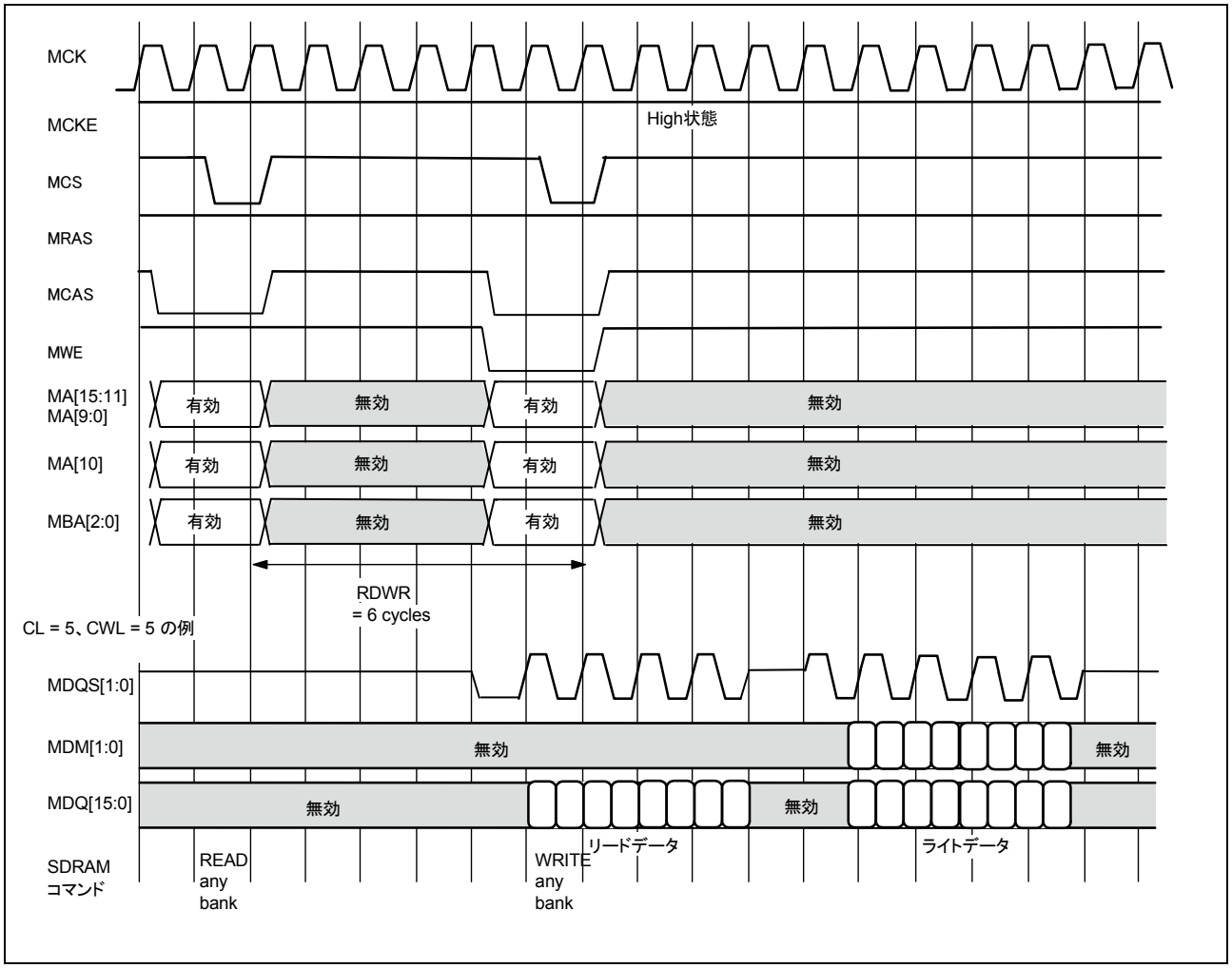


図 12.13　READ-WRITE 間最小間隔について

図12.13 はREAD コマンド発行後、WRITE コマンドを発行した場合の例です。DBSC3は、READ コマンド発行後、WRITE コマンド発行のために、最低RDWR で規定した時間分経過するのを待ちます。

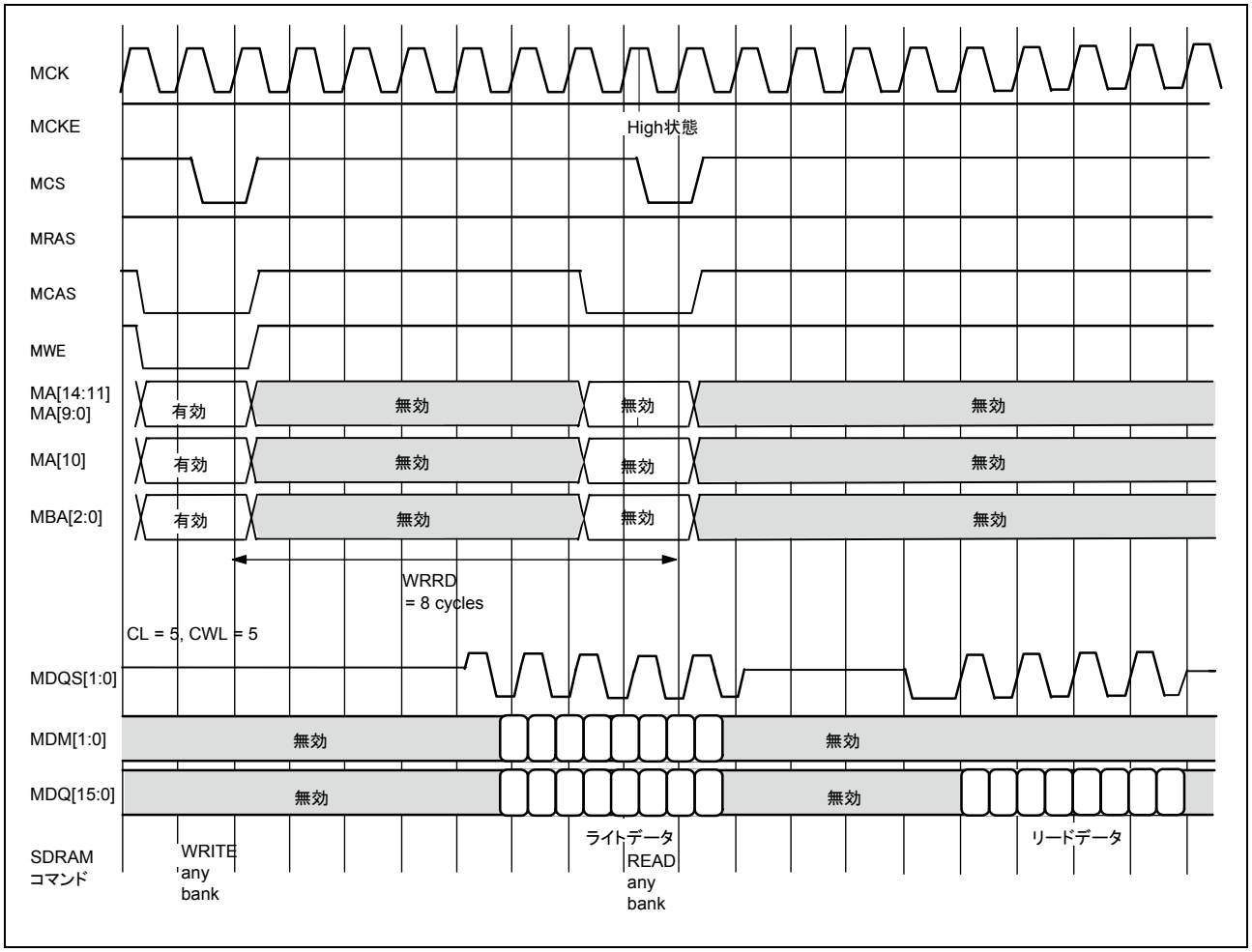


図 12.14　WRITE-READ 間最小間隔について

図 12.14 はWRITE コマンド発行後、READ コマンドを発行した場合の例です。DBSC3 は、WRITE コマンド発行後、READ コマンド発行のために、最低WRRD で規定した時間分経過するのを待ちます。

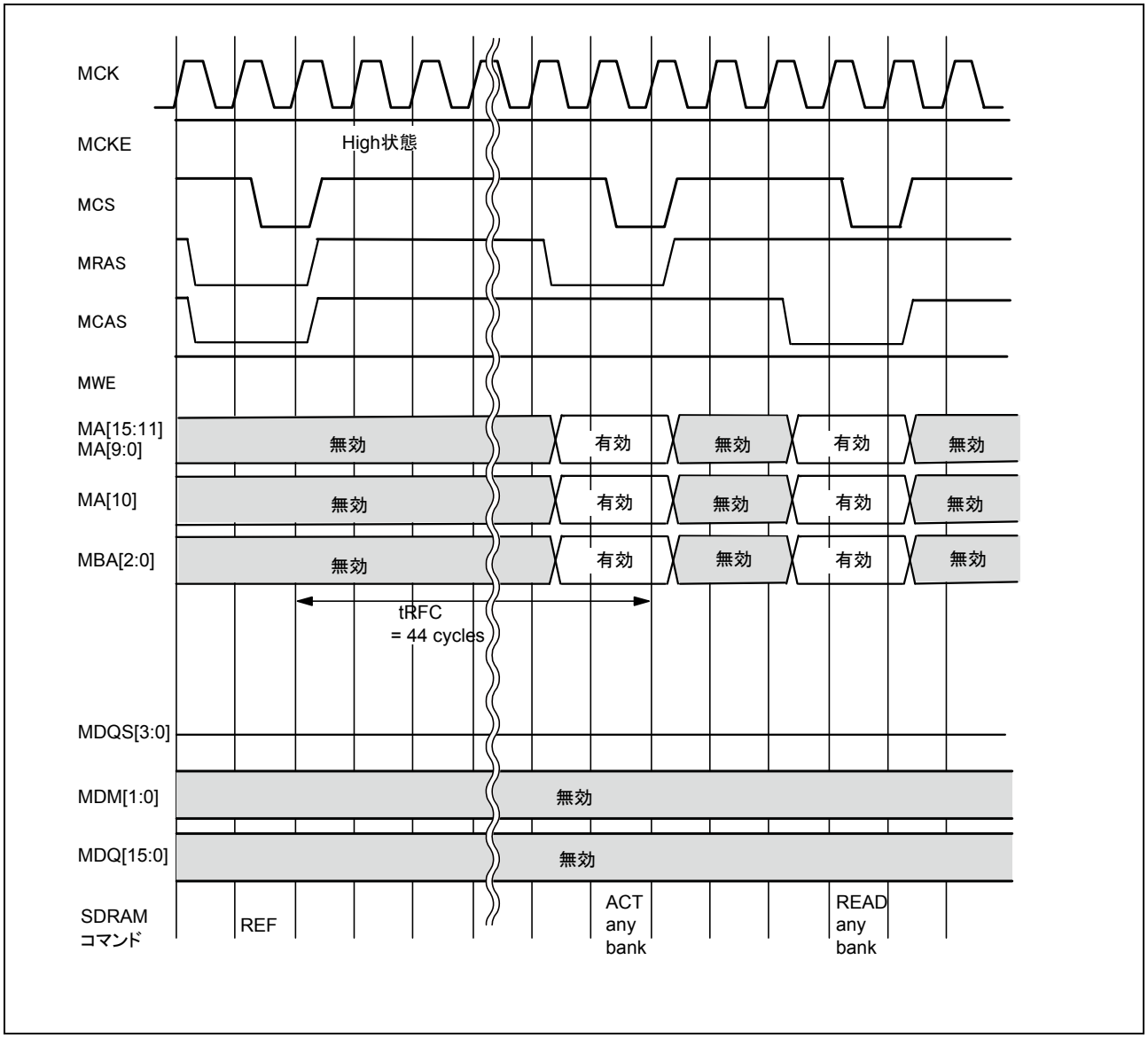


図 12.15　tRFC について

図12.15 はREF コマンド発行後、READ リクエストが発生した場合の動作例です。DBSC3 はREF コマンド発行後、tRFC で規定した時間分、ACT コマンド発行を待ちます。

13. DDR3-SDRAM エラーコレクションコントローラ（ECD）

DDR3-SDRAM エラーコレクションコントローラ（ECD）は、エラー訂正コードを生成し、8 ビットデータ（DDR3-SDRAMに割り当てられたアドレス空間のユーザデータ又はプログラムコード）内の1ビットのエラー（リカバラブルエラー）を修正します。8ビットデータ内に2ビット以上のエラー（アンコレクタブルエラー）がある場合は、修正しません。

13.1　特長

- 3つの割り込み要因
  - リカバラブルエラー割り込み　：発生回数をカウントし、その数がレジスタで設定された任意のしきい値を超えた場合に発生
  - アンコレクタブルエラー割り込み：アンコレクタブルエラーが発生した場合に発生
  - SuperHyway バスエラー割り込み　：SuperHyway バスで何らかのエラーが発生した場合に発生
- 最大8GビットのDDR3-SDRAM をサポート
- レジスタの設定により DDR3 アドレス空間を ECC 領域と非 ECC領域に区分可能（ECC領域として確保した領域の半分が、データ領域として使用可能）
- 任意のアクセスサイズがデータ単位として使用可能（バイト、ワード、ロングワード、8バイト、16バイト、32バイト、64バイト、128バイト）
- 自動ライトバック機能（リカバラブルエラー発生時のみ）

13.2　ブロック図

図 13.1 に ECD のブロック図を示します。

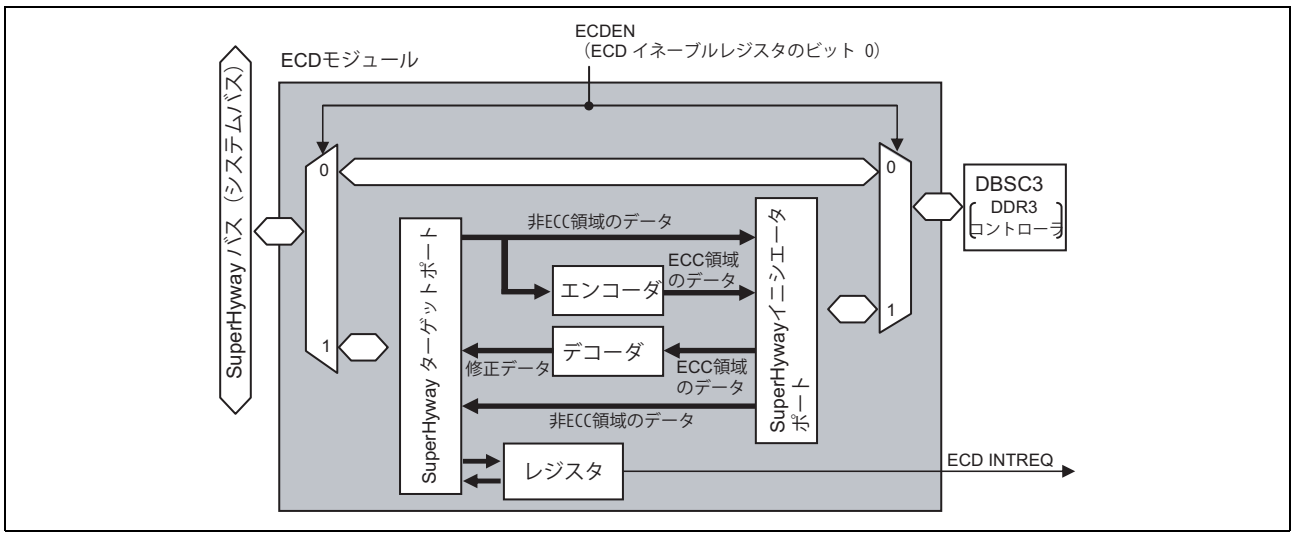


図 13.1　ブロック図

ECDモジュールはSuperHyway バスと DBSC3 の間に配置され、ECDENビット（ECD イネーブルレジスタのビット0）でモジュールの有効／無効を切り替えます。

13.3　レジスタの説明

表 13.1 にECDのレジスタ構成を示します。

指定されたビット幅でレジスタにアクセスしてください。指定されたビット幅以外のサイズでレジスタにアクセスした場合、動作は保証できません。

また、ECD のレジスタ領域は、H'FE90 0000 ～ H'FE9F FFFF で、DBSC3 のレジスタ領域の一部です。表 13.1 に示すレジスタアドレス以外のアドレスにアクセスした場合、動作は保証できません。

表13.1　レジスタ構成

名称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
					パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウエアリセット
モードコントロールレジスタ	MCR	R/W	H'FE90 0010	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
ECC領域空間選択レジスタ	SPACER	R/W	H'FE90 0018	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
非ECC領域先頭アドレスレジスタ	TOPNONECC	R	H'FE90 001C	32	H'4000 0000	H'4000 0000	H'4000 0000
割り込み許可レジスタ	INTENR	R/W	H'FE90 0020	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
割り込み要因レジスタ	INTSR	R/W	H'FE90 0024	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
リカバラブルエラーしきい値指定レジスタ	RERRTHR	R/W	H'FE90 0030	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
リカバラブルエラーカウントレジスタ	RERRCR	R	H'FE90 0034	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
リカバラブルエラーカウントコントロールレジスタ	RERRCCR	W	H'FE90 0038	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
リカバラブルエラーアドレスレジスタ	RERRADDR	R	H'FE90 0044	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
リカバラブルエラープレデータレジスタ	RERRPREDR	R	H'FE90 0048	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
リカバラブルエラーポストデータレジスタ	RERRPOSTDR	R	H'FE90 004C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
アンコレクタブルエラーアドレスレジスタ	UERRADDR	R	H'FE90 0054	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
アンコレクタブルエラープレデータレジスタ	UERRPREDR	R	H'FE90 0058	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
アクセスバイトカウントレジスタ 0	ABCR0	R	H'FE90 0060	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
アクセスバイトカウントレジスタ 1	ABCR1	R	H'FE90 0064	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
アクセスバイトカウントレジスタ 2	ABCR2	R	H'FE90 0068	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
アクセスバイトカウントレジスタ 3	ABCR3	R	H'FE90 006C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
アクセスバイトカウントコントロールレジスタ	ABCCR	W	H'FE90 0070	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
ECD イネーブルレジスタ	ECDEN	R/W	H'FFC1 012C	32	H'0000 0000	保持	保持

13.3.1　モードコントロールレジスタ（MCR）

MCR は、読み出し／書き込み可能な32 ビットのレジスタで、ECD の動作モードと有効／無効を指定します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	AWB_EN	—	—	—	—	—	—	—	ECC_EN
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	R/W	—	—	—	—	—	—	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 9	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
8	AWB_EN	0	R/W	自動ライトバック機能 0：自動ライトバック機能無効 1：自動ライトバック機能有効
7～ 1	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
0	ECC_EN	0	R/W	ECC 動作 0：ECC 無効（DDR3-SDRAM メモリの全空間は非 ECC 領域） 1：ECC 有効

13.3.2　ECC領域空間選択レジスタ（SPACER）

SPACER は、読み出し／書き込み可能な32 ビットのレジスタで、ECC 領域の空間サイズを指定します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	ECC_SPACE									—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31、30	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
29 ～21	ECC_SPACE	すべて0	R/W	ECC領域の空間サイズを指定します。 00 0000 000　：0 MB 00 0000 001　：2 MB 00 0000 010　：4 MB ：　： 01 1111 110　：508 MB 01 1111 111　：510 MB 1x xxxx xxx ：512 MB
20～0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

13.3.3　非ECC領域先頭アドレスレジスタ（TOPNONECC）

TOPNONECC は、読み出し可能な32 ビットのレジスタで、非ECC 領域の先頭アドレスを示します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	TOP_NONECC															
初期値：	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TOP_NONECC															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	TOP_NONECC	H'4000 0000	R	非ECC領域の先頭アドレスを示します。 H'4000 0000 ：ECC領域は0Mバイト H'4040 0000 ：ECC領域は2Mバイト H'4080 0000 ：ECC領域は4Mバイト ： H'7F80 0000 ：ECC領域は508Mバイト H'7FC0 0000 ：ECC領域は510Mバイト H'8000 0000 ：ECC領域は512Mバイト

13.3.4　割り込み許可レジスタ（INTENR）

INTENR は、読み出し／書き込み可能な32 ビットのレジスタで、INTSR レジスタの対応するビットによって示される割り込み要因の許可又は、禁止を設定します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	SHWYERR_INTEN	UERR_INTEN	RERR_INTEN
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 3	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
2	SHWYERR_INTEN	0	R/W	SuperHyway エラー割り込み許可 0：禁止 1：許可（SHWYERR ビットが“1”になったとき割り込み発生）
1	UERR_INTEN	0	R/W	アンコレクタブルエラー割り込み許可 0：禁止 1：許可（UERR ビットが“1”になったとき割り込み発生）
0	RERR_INTEN	0	R/W	リカバラブルエラー割り込み許可 0：禁止 1：許可（RERR_INT ビットが“1”になったとき割り込み発生）

13.3.5　割り込み要因レジスタ（INTSR）

INTSR は、読み出し／書き込み可能な32 ビットのレジスタで、ECD のステータスを示します。各ビットに“1”を書くと、対応するフラグが“0”になります。“0”を書いてもフラグは変化しません。

ステータスは割り込みによってSH-4A に通知することができ、INTENR レジスタの対応するビットによって、それらの割り込みを許可又は、禁止することができます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	RERRC_OVF	SHWYERR_INT	UERR_INT	RERR_INT
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 4	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
3	RERRC_OVF	0	R/W（注1）	RERR_COUNT ビットの示すカウント数がオーバフローすると“1”になります。（注2）
2	SHWYERR_INT	0	R/W（注1）	SuperHyway でエラーが発生すると“1”になります。（注2）
1	UERR_INT	0	R/W（注1）	アンコレクタブルエラーが発生すると“1”になります。（注2）
0	RERR_INT	0	R/W（注1）	リカバラブルエラー発生回数（RERR_COUNT ビットの値）がRERR_TH ビットに設定したしきい値を超えると“1”になります。（注2,3）

注1. “1”を書くと“0”になります。“0”を書いても変化しません。
2. 一度“1”になると、“1”が書き込まれるまで“0”になりません。
3. RERR_COUNT ビットの値がRERR_TH ビットの値を超えている間は、“1”を書いても“0”になりません。

13.3.6　リカバラブルエラー しきい値指定レジスタ（RERRTHR）

RERRTHR は、読み出し／書き込み可能な32 ビットのレジスタで、リカバラブルエラーが何回以上発生した場合にリカバラブルエラー割り込みを発生させるかのしきい値を設定します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RERR_TH															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～16	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
15 ～ 0	RERR_TH	H'00	R/W	リカバラブルエラーのしきい値を設定します。 リカバラブルエラーの発生回数（RERR_COUNT ビットの値）がこのビットに設定した値（1～65535）以上になると、RERR_INT ビットが“1”になります。 H'0000 を設定すると、リカバラブルエラーが65536 回以上発生した場合に、RERR_INT ビットが“1”になります。

13.3.7　リカバラブルエラーカウントレジスタ（RERRCR）

RERRCR は、読み出し可能な32 ビットのレジスタで、リカバラブルエラーの発生回数を示します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RERR_COUNT															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
15 ～ 0	RERR_COUNT	H'0000	R	リカバラブルエラーの発生回数を示します。 RERRC_CLEAR ビットに“1”を書くと、これらのビットはH'0000 になります。

13.3.8　リカバラブルエラーカウントコントロールレジスタ（RERRCCR）

RERRCR は、書き込み可能な32 ビットのレジスタで、RERRC_CLEAR ビットに “1”を書くと RERRCR レジスタをH'0000 0000にできます。“0”を書いてもRERRCR レジスタは変化しません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	RERRC_CLEAR
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～1	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
0	RERRC_CLEAR	0	W	“1”を書くと、RERRCR レジスタがH'0000 0000になります。“0”を書いてもRERRCR レジスタは変化しません（読み出し時は“0”）。

13.3.9　リカバラブルエラー アドレスレジスタ（RERRADDR）

RERRADDR は、読み出し可能な32 ビットのレジスタで、最後に発生したリカバラブルエラーのアドレスを示します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	RERR_ADDR[31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RERR_ADDR[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	RERR_ADDR	H'0000 0000	R	最後に発生したリカバラブルエラーのアドレスを示します。

13.3.10　リカバラブルエラー プレデータレジスタ（RERRPREDR）

RERRPREDR は、読み出し可能な 32 ビットのレジスタで、最後に発生したリカバラブルエラーの修正処理前データを示します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	RERR_PREDATA[31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RERR_PREDATA[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	RERR_ PREDATA	H'0000 0000	R	最後に発生したリカバラブルエラーの修正処理前データを示します。

13.3.11 リカバラブルエラー ポストデータレジスタ（RERRPOSTDR）

RERRPOSTDR は、読み出し可能な32 ビットのレジスタで、最後に発生したリカバラブルエラーの修正処理後データを示します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	RERR_POSTDATA[31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RERR_POSTDATA[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	RERR_ POSTDATA	H'0000 0000	R	最後に発生したリカバラブルエラーの修正処理後データを示します。

13.3.12 アンコレクタブルエラー アドレスレジスタ（UERRADDR）

UERRADDR は、読み出し可能な32 ビットのレジスタで、最後に発生したアンコレクタブルエラーのアドレスを示します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	UERR_ADDR[31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	UERR_ADDR[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	UERR_ ADDR	H'0000 0000	R	最後に発生したアンコレクタブルエラーのアドレスを示します。

13.3.13 アンコレクタブルエラー プレデータレジスタ（UERRPREDR）

UERRPREDR は、読み出し可能な 32 ビットのレジスタで、最後に発生したアンコレクタブルエラーの修正処理前データを示します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	UERR_PREDATA[31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	UERR_PREDATA[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～0	UERR_ PREDATA	H'0000 0000	R	最後に発生したアンコレクタブルエラーの修正処理前データを示します。

13.3.14 アクセスバイトカウントレジスタ 0～3（ABCR0～3）

ABCR は、読み出し可能な128 ビットのレジスタで、読み出されたバイト数を示します。

[ABCR3]

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	BYTE_COUNT[127:112]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	BYTE_COUNT[111:96]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

[ABCR2]

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	BYTE_COUNT[95:80]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	BYTE_COUNT[79:64]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

[ABCR1]

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	BYTE_COUNT[63:48]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	BYTE_COUNT[47:32]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

[ABCR0]

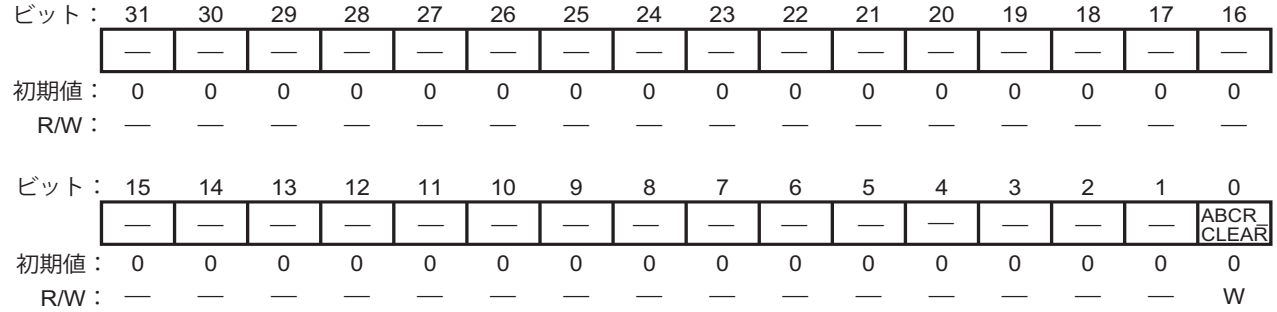
ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	BYTE_COUNT[31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	BYTE_COUNT[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
127 ～ 0	BYTE_ COUNT	すべて0	R	読み出されたバイト数を示します。 ABCR_CLEARビットに“1”を書くと、これらのビットは“0”になります。

13.3.15 アクセスバイトカウント コントロールレジスタ（ABCCR）

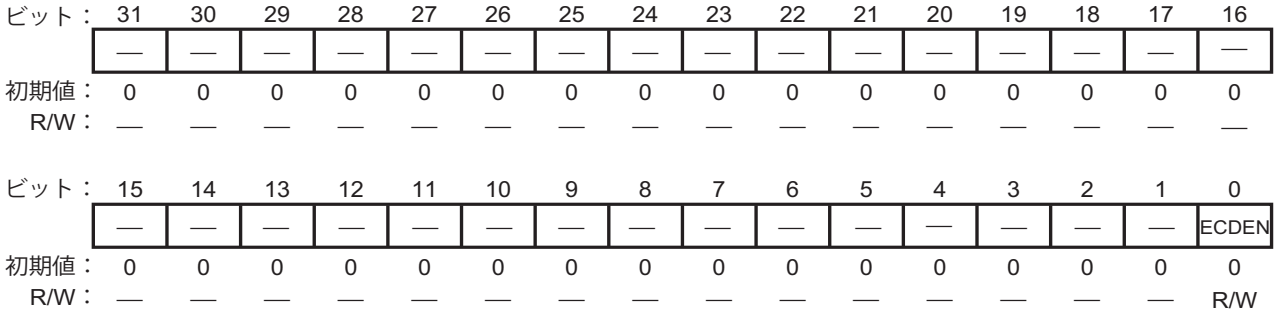
ABCCR は、書き込み可能な32 ビットのレジスタで、ABCR_CLEAR ビットに “1” を書くと ABCR0～3 レジスタを H'0000 0000 にできます。“0” を書いても ABCR0～3 レジスタは変化しません。



ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 1	—	0	—	リザーブビット （読み出すと “0” が読めます。書き込む値は “0” にしてください）
0	ABCR_CLEAR	0	W	“1” を書くと、ABCR0～3 レジスタ（BYTE_COUNT ビット）が H'0000 0000 になります。“0” を書いても ABCR0～3 レジスタは変化しません（読み出し時は “0”）。

13.3.16 ECD イネーブルレジスタ（ECDEN）

ECDEN は、読み出し／書き込み可能な32 ビットのレジスタで、ECD モジュールを有効にするか無効にするかを制御します。



ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～1	—	0	—	リザーブビット （読み出すと “0” が読めます。書き込む値は “0” にしてください）
0	ECDEN	0	R/W	0：ECD モジュール無効 1：ECD モジュール有効

13.4　動作説明

13.4.1　初期設定

ECDの初期設定を以下に示します。

1. ECD イネーブルレジスタのECDEN ビットに“1”を設定してください。

2. ECC_SPACE ビット（SPACERレジスタ の ビット29 ～ 21) にECC 領域サイズを指定してください。
   - ECC領域サイズは、2MB単位で指定できます（最大512MB）。
   - ECC 領域の最大サイズは、システム内で使用されているDDR3-SDRAM のアドレス空間の半分です。
     例：4 GビットのDDR3-SDRAM を使用した場合、最大256Mバイトまで指定できる。
   - ECC 領域は、DDR3-SDRAM の先頭アドレス (H'4000 0000) から上位の方向に確保されます。残りのアドレス空間は、非ECC領域として使用できます（非ECC領域ではエラー処理は行われません）。
   - 非ECC領域として使用可能な領域の先頭アドレスは、TOPNONECC レジスタに示されます。

3. 必要に応じて、INTENR レジスタで割り込み要因、RERRTHR レジスタでリカバラブルエラーのしきい値を設定してください。

4. ECC_EN ビット（MCR レジスタのビット0）に“1”を設定し、ECC機能を有効にしてください。

上記初期設定後は、特別なアクセスやレジスタ制御は必要ありません。ECC 領域内の DDR3-SDRAM へのアクセス時に、ECCが機能します。

ECC機能を有効にしてから一度も書き込まれていない領域に対して読み出すと、アンコレクタブルエラーが発生する場合があります。これを防ぐため、ECC機能を有効にした直後に全ECC領域にデータを書き込んでください。

図 13.2 にECC領域設定例を示します。

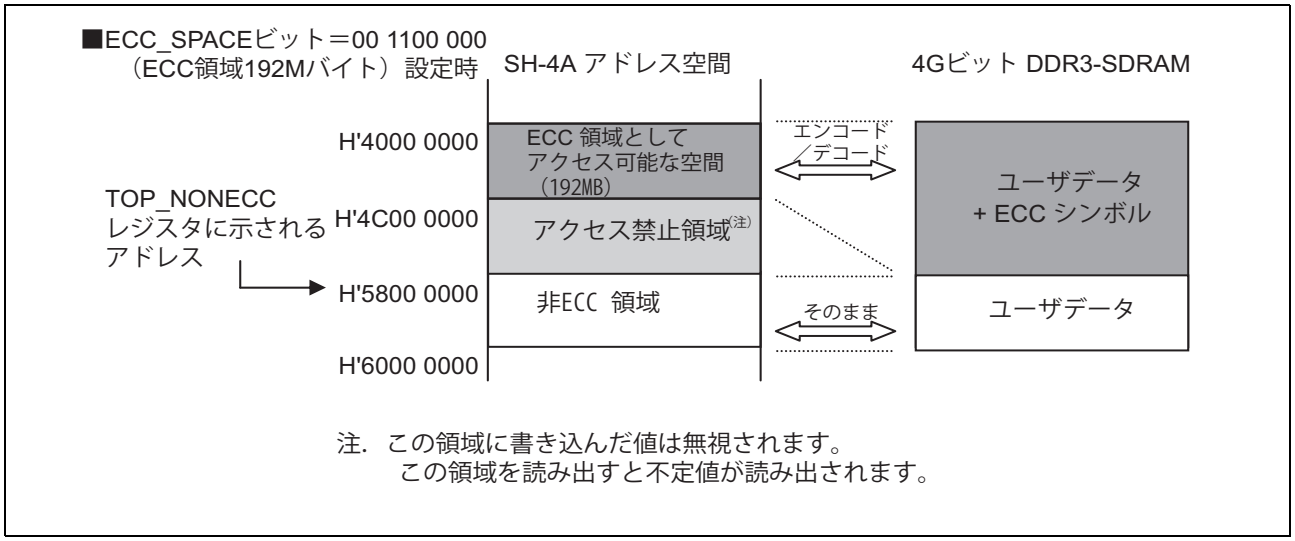


図 13.2　ECC領域設定例

13.4.2　割り込み

ECD には３つの割り込み要因（リカバラブルエラー、アンコレクタブルエラー、SuperHyway バスエラー）があります。これらはそれぞれINTENR レジスタの対応ビットで許可／禁止を設定できます。許可に設定したいずれかのエラーが発生すると、ECD 割り込み要求信号が INTC に送信されます。どの要因（エラー）でECD割り込みが発生したかは、INTSR レジスタの対応ビットで判別してください。

なお、INTSR レジスタの各ビットを“0”にするまで、INTCに対してECD割り込み要求が送信され続けることになりますので、INTSR レジスタの内容を読み出した（要因を判断した）後、各ビットに“1” を書き込んで“0”にしてください。

(1)　リカバラブルエラー

リカバラブルエラーが任意の回数以上発生した場合に発生する割り込み要因です。

リカバラブルエラー発生回数（RERR_COUNT ビットの値）がRERR_TH ビット（RERRTHR レジスタのビット 15～0）に設定した値を超えると、RERR_INT ビット（INTSR レジスタのビット 0）が“1”になります。

この要因での割り込みが発生した場合は、ユーザデータは修正されているため、エラー処理などは不要です。DDR3-SDRAMに格納されたユーザデータの信頼性判断などに使用してください。

RERR_INT ビットが“1”になっても、RERR_COUNT ビット（RERRCR レジスタのビット 15～0）の値はリカバラブルエラーが発生する度にインクリメントされるため、RERRC_CLEAR ビット（RERRCCR レジスタのビット 0）に “1” を書いて値をクリアしない限り、RERR_COUNT ビットの値は RERR_TH ビット設定値（しきい値）を超えた状態が続きます。この場合、プログラムでRERR_INT ビットを“0”にはできません（“1” に戻ってしまう）ので、再度リカバラブルエラー割り込みが発生することになります。従って、RERR_INT ビットが “1” になったときに（リカバラブルエラー割り込み処理内などで）、RERRC_CLEAR ビットに“1”を書いて、RERR_COUNT ビットをクリアしてください。

なお、リカバラブルエラーが 65536 回以上発生した場合は、RERRC_OVF ビット（INTSR レジスタのビット 3）が“1”になります。

(2)　アンコレクタブルエラー

アンコレクタブルエラーが発生した場合に発生する割り込み要因です。

アンコレクタブルエラーが発生すると、UERR_INT（INTSR レジスタのビット 1）が“1”になります。

アンコレクタブルエラーは致命的なエラーの１つで、ECD ではこのエラーを修正できないため、システムレベルでの適切な修復処理を実行してください。

(3)　SuperHyway バスエラー

SuperHyway バスで何らかの内部エラーが発生した場合に発生する割り込み要因です。

SuperHyway バスで何らかの内部エラーが発生すると、SHWYERR_INT ビット（INTSR レジスタのビット 2）が“1”になります。

SuperHyway バスエラーは ECD で修復できない致命的なエラーの１つで、通常の使用では発生しませんが、発生した場合は、システムレベルでの適切な修復処理を実行してください。

13.4.3　自動ライトバック機能

自動ライトバック機能を有効にすると、リカバラブルエラー発生時、読み出しデータのエラーを修正すると同時に、修正したデータを自動的にDDR3-SDRAMに書き戻します。これにより、DDR3-SDRAM データの信頼性を高めることができます。

AWB_EN ビット（MCR レジスタのビット 8）を“1”にすると、自動ライトバック機能が有効になります。

自動ライトバック機能は、アンコレクタブルエラー発生時には動作しません。

なお、本機能を有効にすると、書き戻し処理のレイテンシにより、DDR3-SDRAM へのアクセスパフォーマンスが低下します。したがって、データの信頼性よりもパフォーマンスを優先する場合は、この機能を無効にしてください。

13.4.4　デバッグ機能

エラーログ取得方法、及びリカバラブルエラー率の算出方法を以下に示します。

(1)　エラーログの取得

リカバラブルエラー及びアンコレクタブルエラー発生時に、表13.2に示すレジスタを読み出すことによって、各エラーのログ（エラー発生アドレス／エラー修正前データ／エラー修正後データ）を取得できます。これらのレジスタは、各エラー発生時に自動的に上書きされ、常に最新のエラーに対する情報が格納されます。

表13.2　エラー情報格納レジスタ

エラー	発生アドレス	修正前データ	修正後データ
リカバラブルエラー	RERRADDR	RERRPREDR	RERRPOSTDR
アンコレクタブルエラー	UERRADDR	UERRPREDR	–

(2)　リカバラブルエラー率

リカバラブルエラーがどの程度の割合で発生したか（リカバラブルエラー率）は、以下の式で算出できます。

$$\text{リカバラブルエラー率} = \frac{\text{RERR_COUNT[15:0]}\ \text{：リカバラブルエラー発生回数}}{\text{BYTE_COUNT[127:0]}\ \text{：読み出されたバイト数}}$$

14. ダイレクトメモリアクセスコントローラ（DMAC）

本LSIは、ダイレクトメモリアクセスコントローラ（DMAC）を内蔵しています。DMACは、DACK（DREQ受け付け確認）付き外部デバイス、外部メモリ、内蔵メモリ、メモリマップド外部デバイス、及び周辺モジュール間のデータ転送を、CPUに代わって高速に行うことができます。

14.1 特長

- チャネル数：24チャネル（うちチャネル0、1は外部リクエスト受け付け可能）
- アドレス空間：4Gバイト
- 転送データ長：バイト、ワード（2バイト）、ロングワード（4バイト）、16バイト、32バイトを選択可能
- 最大転送回数：16,777,216回
- アドレスモード：デュアルアドレスモード
- 転送要求：
  外部リクエスト（チャネル0、1）、周辺モジュールリクエスト（チャネル0～23）、オートリクエスト（チャネル0～23）の3種類から選択可能
  周辺モジュールリクエストを発行できるモジュール：
  SCIF2、SCIF3、SCIF4、ADC0、ADC1、SIM、ARC4、SDHI、CRYPTO ENGINE、RSPI、eMMC、RIIC、TMR
- バスモード：
  サイクルスチールモード（通常モード／インタミッテントモード）とバーストモードから選択可能
- 優先順位：チャネル優先順位固定モードとラウンドロビンモードから選択可能
- 割り込み要求：データ転送ハーフエンド時、データ転送終了時、及びアドレスエラー発生時
- 外部リクエスト検出：DREQ入力のL／Hレベル検出、立ち上がり／立ち下がりエッジ検出から選択可能
- DMA転送要求受け付け信号（DACK）、及びDMA転送終了信号（TEND）はアクティブレベルを設定可能

DMAC のブロック図を図14.1 に示します。

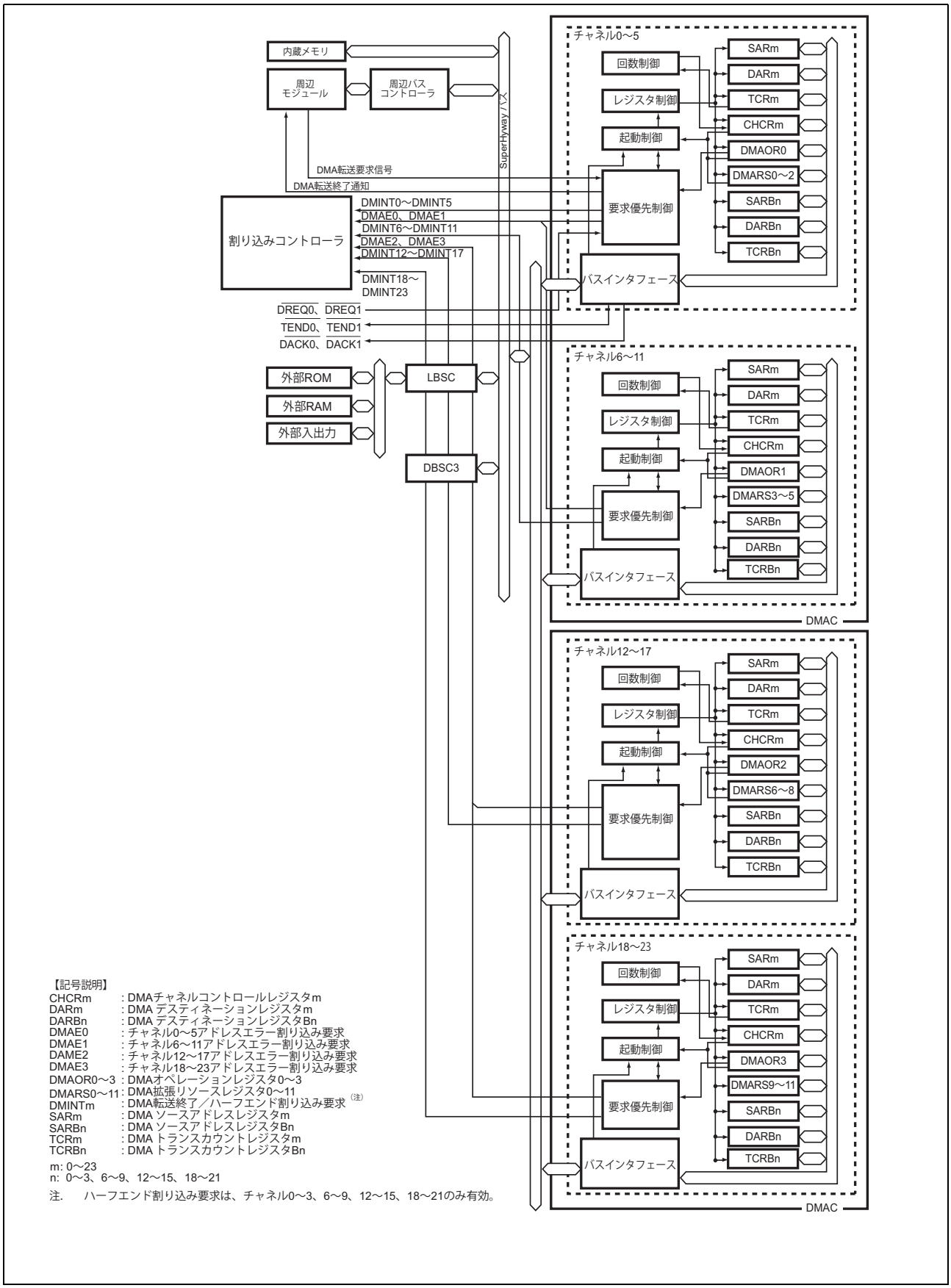


図 14.1　DMAC ブロック図

14.2 入出力端子

DMAC の端子構成を表 14.1 に示します。DMAC としては、外部バス用に 2 チャネル分の端子（チャネル0、1）を持ちます。

表14.1　端子構成

チャネル	端子名	機能	入出力	説明
0	$\overline{\text{DREQ0}}$ (注1)	DMA 転送要求	入力	外部デバイスからチャネル0 へのDMA 転送要求入力
	$\overline{\text{DACK0}}$ (注2)	$\overline{\text{DREQ}}$ 受け付け確認	出力	チャネル0から外部デバイスへのDMA転送要求に対するストローブ出力
	$\overline{\text{TEND0}}$ (注2)	DMA 転送終了通知	出力	チャネル0 から外部デバイスへのDMA 転送終了出力
1	$\overline{\text{DREQ1}}$ (注1)	DMA 転送要求	入力	外部デバイスからチャネル1 へのDMA 転送要求入力
	$\overline{\text{DACK1}}$ (注2)	$\overline{\text{DREQ}}$ 受け付け確認	出力	チャネル1から外部デバイスへのDMA転送要求に対するストローブ出力
	$\overline{\text{TEND1}}$ (注2)	DMA 転送終了通知	出力	チャネル1 から外部デバイスへのDMA 転送終了出力

注1.　初期値はL レベル検出です。
2.　初期値はLアクティブです。

14.3 レジスタの説明

DMAC のレジスタ構成を表 14.2 に示します。指定されたビット幅でレジスタにアクセスしてください。指定されたビット幅以外のサイズでレジスタにアクセスした場合、動作は保証できません。

DMACのレジスタには、各チャネルごとの設定ができるレジスタと、複数チャネル共通の設定ができるレジスタがあります。表14.3に各チャネルと対応レジスタを示します。

表14.2　レジスタ構成

チャネル	名称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
						パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウェアリセット
0	DMA ソースアドレスレジスタ 0	SAR0	R/W	H'FF60 8020	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ 0	DAR0	R/W	H'FF60 8024	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ 0	TCR0	R/W	H'FF60 8028	32	不定	不定	不定
	DMA チャネルコントロールレジスタ0	CHCR0	R/W（注1）	H'FF60 802C	32	H'4000 0000	H'4000 0000	H'4000 0000
1	DMA ソースアドレスレジスタ 1	SAR1	R/W	H'FF60 8030	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ 1	DAR1	R/W	H'FF60 8034	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ 1	TCR1	R/W	H'FF60 8038	32	不定	不定	不定
	DMA チャネルコントロールレジスタ1	CHCR1	R/W（注1）	H'FF60 803C	32	H'4000 0000	H'4000 0000	H'4000 0000
2	DMA ソースアドレスレジスタ 2	SAR2	R/W	H'FF60 8040	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ 2	DAR2	R/W	H'FF60 8044	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ 2	TCR2	R/W	H'FF60 8048	32	不定	不定	不定
	DMA チャネルコントロールレジスタ2	CHCR2	R/W（注1）	H'FF60 804C	32	H'4000 0000	H'4000 0000	H'4000 0000
3	DMA ソースアドレスレジスタ 3	SAR3	R/W	H'FF60 8050	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ 3	DAR3	R/W	H'FF60 8054	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ 3	TCR3	R/W	H'FF60 8058	32	不定	不定	不定
	DMA チャネルコントロールレジスタ3	CHCR3	R/W（注1）	H'FF60 805C	32	H'4000 0000	H'4000 0000	H'4000 0000
0～5	DMA オペレーションレジスタ0	DMAOR0	R/W（注2）	H'FF60 8060	16	H'0000	H'0000	H'0000

チャネル	名称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
						パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウェアリセット
4	DMA ソースアドレスレジスタ 4	SAR4	R/W	H'FF60 8070	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ 4	DAR4	R/W	H'FF60 8074	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ 4	TCR4	R/W	H'FF60 8078	32	不定	不定	不定
	DMA チャネルコントロールレジスタ 4	CHCR4	R/W（注1）	H'FF60 807C	32	H'4000 0000	H'4000 0000	H'4000 0000
5	DMA ソースアドレスレジスタ 5	SAR5	R/W	H'FF60 8080	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ 5	DAR5	R/W	H'FF60 8084	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ 5	TCR5	R/W	H'FF60 8088	32	不定	不定	不定
	DMA チャネルコントロールレジスタ 5	CHCR5	R/W（注1）	H'FF60 808C	32	H'4000 0000	H'4000 0000	H'4000 0000
0	DMA ソースアドレスレジスタ B0	SARB0	R/W	H'FF60 8120	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ B0	DARB0	R/W	H'FF60 8124	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ B0	TCRB0	R/W	H'FF60 8128	32	不定	不定	不定
1	DMA ソースアドレスレジスタ B1	SARB1	R/W	H'FF60 8130	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ B1	DARB1	R/W	H'FF60 8134	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ B1	TCRB1	R/W	H'FF60 8138	32	不定	不定	不定
2	DMA ソースアドレスレジスタ B2	SARB2	R/W	H'FF60 8140	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ B2	DARB2	R/W	H'FF60 8144	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ B2	TCRB2	R/W	H'FF60 8148	32	不定	不定	不定
3	DMA ソースアドレスレジスタ B3	SARB3	R/W	H'FF60 8150	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ B3	DARB3	R/W	H'FF60 8154	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ B3	TCRB3	R/W	H'FF60 8158	32	不定	不定	不定
0、1	DMA 拡張リソースセレクタ 0	DMARS0	R/W	H'FF60 9000	16	H'0000	H'0000	H'0000
2、3	DMA 拡張リソースセレクタ 1	DMARS1	R/W	H'FF60 9004	16	H'0000	H'0000	H'0000

チャネル	名称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
						パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウェアリセット
4、5	DMA 拡張リソースセレクタ 2	DMARS2	R/W	H'FF60 9008	16	H'0000	H'0000	H'0000
6	DMA ソースアドレスレジスタ 6	SAR6	R/W	H'FF61 8020	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ 6	DAR6	R/W	H'FF61 8024	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ 6	TCR6	R/W	H'FF61 8028	32	不定	不定	不定
	DMA チャネルコントロールレジスタ 6	CHCR6	R/W（注1）	H'FF61 802C	32	H'4000 0000	H'4000 0000	H'4000 0000
7	DMA ソースアドレスレジスタ 7	SAR7	R/W	H'FF61 8030	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ 7	DAR7	R/W	H'FF61 8034	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ 7	TCR7	R/W	H'FF61 8038	32	不定	不定	不定
	DMA チャネルコントロールレジスタ 7	CHCR7	R/W（注1）	H'FF61 803C	32	H'4000 0000	H'4000 0000	H'4000 0000
8	DMA ソースアドレスレジスタ 8	SAR8	R/W	H'FF61 8040	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ 8	DAR8	R/W	H'FF61 8044	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ 8	TCR8	R/W	H'FF61 8048	32	不定	不定	不定
	DMA チャネルコントロールレジスタ 8	CHCR8	R/W（注1）	H'FF61 804C	32	H'4000 0000	H'4000 0000	H'4000 0000
9	DMA ソースアドレスレジスタ 9	SAR9	R/W	H'FF61 8050	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ 9	DAR9	R/W	H'FF61 8054	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ 9	TCR9	R/W	H'FF61 8058	32	不定	不定	不定
	DMA チャネルコントロールレジスタ 9	CHCR9	R/W（注1）	H'FF61 805C	32	H'4000 0000	H'4000 0000	H'4000 0000
6～11	DMA オペレーションレジスタ 1	DMAOR1	R/W（注2）	H'FF61 8060	16	H'0000	H'0000	H'0000
10	DMA ソースアドレスレジスタ 10	SAR10	R/W	H'FF61 8070	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ 10	DAR10	R/W	H'FF61 8074	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ 10	TCR10	R/W	H'FF61 8078	32	不定	不定	不定
	DMA チャネルコントロールレジスタ 10	CHCR10	R/W（注1）	H'FF61 807C	32	H'4000 0000	H'4000 0000	H'4000 0000

チャネル	名称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
						パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウェアリセット
11	DMA ソースアドレスレジスタ 11	SAR11	R/W	H'FF61 8080	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ 11	DAR11	R/W	H'FF61 8084	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ 11	TCR11	R/W	H'FF61 8088	32	不定	不定	不定
	DMA チャネルコントロールレジスタ 11	CHCR11	R/W（注1）	H'FF61 808C	32	H'4000 0000	H'4000 0000	H'4000 0000
6	DMA ソースアドレスレジスタ B6	SARB6	R/W	H'FF61 8120	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ B6	DARB6	R/W	H'FF61 8124	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ B6	TCRB6	R/W	H'FF61 8128	32	不定	不定	不定
7	DMA ソースアドレスレジスタ B7	SARB7	R/W	H'FF61 8130	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ B7	DARB7	R/W	H'FF61 8134	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ B7	TCRB7	R/W	H'FF61 8138	32	不定	不定	不定
8	DMA ソースアドレスレジスタ B8	SARB8	R/W	H'FF61 8140	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ B8	DARB8	R/W	H'FF61 8144	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ B8	TCRB8	R/W	H'FF61 8148	32	不定	不定	不定
9	DMA ソースアドレスレジスタ B9	SARB9	R/W	H'FF61 8150	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ B9	DARB9	R/W	H'FF61 8154	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ B9	TCRB9	R/W	H'FF61 8158	32	不定	不定	不定
6,7	DMA 拡張リソースセレクタ 3	DMARS3	R/W	H'FF61 9000	16	H'0000	H'0000	H'0000
8,9	DMA 拡張リソースセレクタ 4	DMARS4	R/W	H'FF61 9004	16	H'0000	H'0000	H'0000
10,11	DMA 拡張リソースセレクタ 5	DMARS5	R/W	H'FF61 9008	16	H'0000	H'0000	H'0000
0～5	DMA イネーブルレジスタ 0	DMAER0	R/W	H'FFFC 0000	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
6～11	DMA イネーブルレジスタ 1	DMAER1	R/W	H'FE46 0000	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000

チャネル	名称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
						パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウェアリセット
12	DMA ソースアドレスレジスタ 12	SAR12	R/W	H'FF70 8020	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ 12	DAR12	R/W	H'FF70 8024	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ 12	TCR12	R/W	H'FF70 8028	32	不定	不定	不定
	DMA チャネルコントロールレジスタ 12	CHCR12	R/W（注1）	H'FF70 802C	32	H'4000 0000	H'4000 0000	H'4000 0000
13	DMA ソースアドレスレジスタ 13	SAR13	R/W	H'FF70 8030	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ 13	DAR13	R/W	H'FF70 8034	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ 13	TCR13	R/W	H'FF70 8038	32	不定	不定	不定
	DMA チャネルコントロールレジスタ 13	CHCR13	R/W（注1）	H'FF70 803C	32	H'4000 0000	H'4000 0000	H'4000 0000
14	DMA ソースアドレスレジスタ 14	SAR14	R/W	H'FF70 8040	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ 14	DAR14	R/W	H'FF70 8044	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ 14	TCR14	R/W	H'FF70 8048	32	不定	不定	不定
	DMA チャネルコントロールレジスタ 14	CHCR14	R/W（注1）	H'FF70 804C	32	H'4000 0000	H'4000 0000	H'4000 0000
15	DMA ソースアドレスレジスタ 15	SAR15	R/W	H'FF70 8050	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ 15	DAR15	R/W	H'FF70 8054	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ 15	TCR15	R/W	H'FF70 8058	32	不定	不定	不定
	DMA チャネルコントロールレジスタ 15	CHCR15	R/W（注1）	H'FF70 805C	32	H'4000 0000	H'4000 0000	H'4000 0000
12～17	DMA オペレーションレジスタ 2	DMAOR2	R/W（注2）	H'FF70 8060	16	H'0000	H'0000	H'0000
16	DMA ソースアドレスレジスタ 16	SAR16	R/W	H'FF70 8070	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ 16	DAR16	R/W	H'FF70 8074	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ 16	TCR16	R/W	H'FF70 8078	32	不定	不定	不定
	DMA チャネルコントロールレジスタ 16	CHCR16	R/W（注1）	H'FF70 807C	32	H'4000 0000	H'4000 0000	H'4000 0000

チャネル	名称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
						パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウェアリセット
17	DMA ソースアドレスレジスタ 17	SAR17	R/W	H'FF70 8080	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ 17	DAR17	R/W	H'FF70 8084	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ 17	TCR17	R/W	H'FF70 8088	32	不定	不定	不定
	DMA チャネルコントロールレジスタ 17	CHCR17	R/W（注1）	H'FF70 808C	32	H'4000 0000	H'4000 0000	H'4000 0000
12	DMA ソースアドレスレジスタ B12	SARB12	R/W	H'FF70 8120	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ B12	DARB12	R/W	H'FF70 8124	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ B12	TCRB12	R/W	H'FF70 8128	32	不定	不定	不定
13	DMA ソースアドレスレジスタ B13	SARB13	R/W	H'FF70 8130	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ B13	DARB13	R/W	H'FF70 8134	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ B13	TCRB13	R/W	H'FF70 8138	32	不定	不定	不定
14	DMA ソースアドレスレジスタ B14	SARB14	R/W	H'FF70 8140	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ B14	DARB14	R/W	H'FF70 8144	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ B14	TCRB14	R/W	H'FF70 8148	32	不定	不定	不定
15	DMA ソースアドレスレジスタ B15	SARB15	R/W	H'FF70 8150	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ B15	DARB15	R/W	H'FF70 8154	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ B15	TCRB15	R/W	H'FF70 8158	32	不定	不定	不定
12、13	DMA 拡張リソースセレクタ 6	DMARS6	R/W	H'FF70 9000	16	H'0000	H'0000	H'0000
14、15	DMA 拡張リソースセレクタ 7	DMARS7	R/W	H'FF70 9004	16	H'0000	H'0000	H'0000
16、17	DMA 拡張リソースセレクタ 8	DMARS8	R/W	H'FF70 9008	16	H'0000	H'0000	H'0000

チャネル	名称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
						パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウェアリセット
18	DMA ソースアドレスレジスタ 18	SAR18	R/W	H'FF71 8020	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ 18	DAR18	R/W	H'FF71 8024	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ 18	TCR18	R/W	H'FF71 8028	32	不定	不定	不定
	DMA チャネルコントロールレジスタ 18	CHCR18	R/W（注1）	H'FF71 802C	32	H'4000 0000	H'4000 0000	H'4000 0000
19	DMA ソースアドレスレジスタ 19	SAR19	R/W	H'FF71 8030	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ 19	DAR19	R/W	H'FF71 8034	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ 19	TCR19	R/W	H'FF71 8038	32	不定	不定	不定
	DMA チャネルコントロールレジスタ 19	CHCR19	R/W（注1）	H'FF71 803C	32	H'4000 0000	H'4000 0000	H'4000 0000
20	DMA ソースアドレスレジスタ 20	SAR20	R/W	H'FF71 8040	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ 20	DAR20	R/W	H'FF71 8044	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ 20	TCR20	R/W	H'FF71 8048	32	不定	不定	不定
	DMA チャネルコントロールレジスタ 20	CHCR20	R/W（注1）	H'FF71 804C	32	H'4000 0000	H'4000 0000	H'4000 0000
21	DMA ソースアドレスレジスタ 21	SAR21	R/W	H'FF71 8050	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ 21	DAR21	R/W	H'FF71 8054	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ 21	TCR21	R/W	H'FF71 8058	32	不定	不定	不定
	DMA チャネルコントロールレジスタ 21	CHCR21	R/W（注1）	H'FF71 805C	32	H'4000 0000	H'4000 0000	H'4000 0000
18～23	DMA オペレーションレジスタ 3	DMAOR3	R/W（注2）	H'FF71 8060	16	H'0000	H'0000	H'0000
22	DMA ソースアドレスレジスタ 22	SAR22	R/W	H'FF71 8070	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ 22	DAR22	R/W	H'FF71 8074	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ 22	TCR22	R/W	H'FF71 8078	32	不定	不定	不定
	DMA チャネルコントロールレジスタ 22	CHCR22	R/W（注1）	H'FF71 807C	32	H'4000 0000	H'4000 0000	H'4000 0000

チャネル	名称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
						パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウェアリセット
23	DMA ソースアドレスレジスタ 23	SAR23	R/W	H'FF71 8080	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ 23	DAR23	R/W	H'FF71 8084	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ 23	TCR23	R/W	H'FF71 8088	32	不定	不定	不定
	DMA チャネルコントロールレジスタ 23	CHCR23	R/W（注1）	H'FF71 808C	32	H'4000 0000	H'4000 0000	H'4000 0000
18	DMA ソースアドレスレジスタ B18	SARB18	R/W	H'FF71 8120	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ B18	DARB18	R/W	H'FF71 8124	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ B18	TCRB18	R/W	H'FF71 8128	32	不定	不定	不定
19	DMA ソースアドレスレジスタ B19	SARB19	R/W	H'FF71 8130	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ B19	DARB19	R/W	H'FF71 8134	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ B19	TCRB19	R/W	H'FF71 8138	32	不定	不定	不定
20	DMA ソースアドレスレジスタ B20	SARB20	R/W	H'FF71 8140	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ B20	DARB20	R/W	H'FF71 8144	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ B20	TCRB20	R/W	H'FF71 8148	32	不定	不定	不定
21	DMA ソースアドレスレジスタ B21	SARB21	R/W	H'FF71 8150	32	不定	不定	不定
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ B21	DARB21	R/W	H'FF71 8154	32	不定	不定	不定
	DMA トランスファカウントレジスタ B21	TCRB21	R/W	H'FF71 8158	32	不定	不定	不定
18,19	DMA 拡張リソースセレクタ 9	DMARS9	R/W	H'FF71 9000	16	H'0000	H'0000	H'0000
20,21	DMA 拡張リソースセレクタ 10	DMARS10	R/W	H'FF71 9004	16	H'0000	H'0000	H'0000
22,23	DMA 拡張リソースセレクタ 11	DMARS11	R/W	H'FF71 9008	16	H'0000	H'0000	H'0000
12～23	DMA イネーブルレジスタ 2	DMAER2	R/W	H'FFFA 0000	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000

注1.　CHCR のHE、TE ビットは、フラグをクリアするために、1 リード後の0 ライトのみ可能です。
2.　DMAOR のAE、NMIF ビットは、フラグをクリアするために、1 リード後の0 ライトのみ可能です。

表14.3　各チャネルと対応レジスタ

チャネル	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
レジスタ	SAR0	SAR1	SAR2	SAR3	SAR4	SAR5	SAR6	SAR7	SAR8	SAR9	SAR10	SAR11
	DAR0	DAR1	DAR2	DAR3	DAR4	DAR5	DAR6	DAR7	DAR8	DAR9	DAR10	DAR11
	TCR0	TCR1	TCR2	TCR3	TCR4	TCR5	TCR6	TCR7	TCR8	TCR9	TCR10	TCR11
	CHCR0	CHCR1	CHCR2	CHCR3	CHCR4	CHCR5	CHCR6	CHCR7	CHCR8	CHCR9	CHCR10	CHCR11
	DMARS0		DMARS1		DMARS2		DMARS3		DMARS4		DMARS5	
	SARB0	SARB1	SARB2	SARB3	—	—	SARB6	SARB7	SARB8	SARB9	—	—
	DARB0	DARB1	DARB2	DARB3	—	—	DARB6	DARB7	DARB8	DARB9	—	—
	TCRB0	TCRB1	TCRB2	TCRB3	—	—	TCRB6	TCRB7	TCRB8	TCRB9	—	—
	DMAOR0						DMAOR1					
	DMAER0						DMAER1					

チャネル	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
レジスタ	SAR12	SAR13	SAR14	SAR15	SAR16	SAR17	SAR18	SAR19	SAR20	SAR21	SAR22	SAR23
	DAR12	DAR13	DAR14	DAR15	DAR16	DAR17	DAR18	DAR19	DAR20	DAR21	DAR22	DAR23
	TCR12	TCR13	TCR14	TCR15	TCR16	TCR17	TCR18	TCR19	TCR20	TCR21	TCR22	TCR23
	CHCR12	CHCR13	CHCR14	CHCR15	CHCR16	CHCR17	CHCR18	CHCR19	CHCR20	CHCR21	CHCR22	CHCR23
	DMARS6		DMARS7		DMARS8		DMARS9		DMARS10		DMARS11	
	SARB12	SARB13	SARB14	SARB15	—	—	SARB18	SARB19	SARB20	SARB21	—	—
	DARB12	DARB13	DARB14	DARB15	—	—	DARB18	DARB19	DARB20	DARB21	—	—
	TCRB12	TCRB13	TCRB14	TCRB15	—	—	TCRB18	TCRB19	TCRB20	TCRB21	—	—
	DMAOR2						DMAOR3					
	DMAER2											

14.3.1　DMA ソースアドレスレジスタ 0～23（SAR0～SAR23）

SAR は、読み出し／書き込み可能な 32 ビットのレジスタで、DMA 転送元のアドレスを指定します。DMA 転送中は、次の転送元アドレスを示しています。ワード、ロングワード、16 バイト、32 バイト幅でデータ転送を行う場合は、それぞれワード、ロングワード、16 バイト、32 バイト境界のアドレスを設定してください。

SAR の初期値は不定です。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	SAR															
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	SAR															
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

14.3.2　DMA ソースアドレスレジスタ B0～3、6～9、12～15，18～21（SARB0～3、SARB6～9、SARB12～15、SARB18～21）

SARB は、読み出し／書き込み可能な 32 ビットのレジスタで、リピート／リロードモードで SAR に再設定する DMA 転送元のアドレスを指定します。CPU からの SAR への書き込みデータが SARB にも書き込まれます。SAR と異なるアドレスを設定したい場合は、SAR 書き込み後に SARB への書き込みを行ってください。

ワード、ロングワード、16 バイト、32 バイト幅でデータ転送を行う場合は、それぞれワード、ロングワード、16 バイト、32 バイト境界のアドレスを設定してください。

SARB の初期値は不定です。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	SARB															
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	SARB															
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

14.3.3　DMAデスティネーションアドレスレジスタ0～23（DAR0～DAR23）

DARは、読み出し／書き込み可能な32ビットのレジスタで、DMA転送先のアドレスを指定します。DMA転送中は、次の転送先アドレスを示しています。

ワード、ロングワード、16バイト、32バイト幅でデータ転送を行う場合は、それぞれワード、ロングワード、16バイト、32バイト境界のアドレスを設定してください。

DARの初期値は不定です。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	DAR															
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	DAR															
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

14.3.4　DMAデスティネーションアドレスレジスタB0～3、6～9、12～15、18～21（DARB0～3、DARB6～9、SARB12～15、SARB18～21）

DARBは、読み出し／書き込み可能な32ビットのレジスタで、リピート／リロードモードでDARに再設定するDMA転送先のアドレスを指定します。CPUからのDARへの書き込みデータがDARBにも書き込まれます。DARと異なるアドレスを設定したい場合は、DAR書き込み後にDARBへの書き込みを行ってください。

ワード、ロングワード、16バイト、32バイト幅でデータ転送を行う場合は、それぞれワード、ロングワード、16バイト、32バイト境界のアドレスを設定してください。

DARBの初期値は不定です。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	DARB															
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	DARB															
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

14.3.5　DMAトランスファカウントレジスタ0～23（TCR0～TCR23）

TCRは、読み出し／書き込み可能な32ビットのレジスタで、DMA転送回数を指定します。転送回数は、設定値がH'0000 0001のときは1回、H'00FF FFFFのときは16,777,215回で、H'0000 0000のときは16,777,216回（最大転送回数）になります。DMA転送中は、残りの転送回数を示しています。

TCRのビット31～24は、読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。

TCRの初期値は不定です。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	TCR															
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TCR															
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

14.3.6　DMAトランスファカウントレジスタB0～3、6～9、12～15、18～21（TCRB0～3、TCRB6～9、TCRB12～15、TCRB18～21）

TCRBは、読み出し／書き込み可能な32ビットのレジスタで、CPUからのTCRへの書き込みデータがTCRBにも書き込まれます。ハーフエンド機能使用時はハーフエンド検出に使用する初期値保持レジスタとして用いられます。リピートモードでは、本レジスタにTCRに再設定するDMA転送回数を指定します。リロードモードでは、DMA転送回数の設定、及び転送回数カウンタとして用いられます。

リロードモード時、ビット23～16はリロードするまでの転送回数を設定してください。ビット7～0は転送回数カウンタとして動作し、値が0になるとSAR／DARが更新され、TCRBのビット23～16がビット7～0にロードされます。リロードモード時、設定可能なTCRBのビット23～16とビット7～0の値はH'FF（255回）～H'01（1回）で、ビット23～16とビット7～0は同じ値を設定し、ビット15～8はH'00を設定してください。また、リロードモード時は、CHCRのHIEビットを0とし、ハーフエンド機能を使用しないでください。

TCRBのビット31～24は、読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。

TCRBの初期値は不定です。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	TCRB															
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TCRB															
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

14.3.7　DMAチャネルコントロールレジスタ0～23（CHCR0～CHCR23）

CHCR は、読み出し／書き込み可能な32 ビットのレジスタで、DMA 転送モードを制御します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	LCKN	—	—	RPT2	RPT1	RPT0	—	DO	—	—	TS2	HE	HIE	AM	AL
初期値：	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	R/W	—	—	R/W	R/W	R/W	—	R/W	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	DM1	DM0	SM1	SM0	RS3	RS2	RS1	RS0	DL	DS	TB	TS1	TS0	IE	TE	DE
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/(W) (注)	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
30	LCKN	1	R/W	バスロック信号出力禁止ビット SuperHyway バス読み出し命令時にSuperHyway バスロック信号出力の許可／禁止を設定します。本ビットはサイクルスチールモード実行時に有効となります。バーストモード実行時には0 を設定してください。 SuperHyway バスロック信号出力を禁止することにより、DMAC以外のバスマスタのバス要求が受け付けられます。これにより、バス使用効率をあげることが可能です。 0：バスロック信号出力許可 1：バスロック信号出力禁止
29、28	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
27～25	RPT[2:0]	000	R/W	転送モード指定ビット 本ビットはCHCR0～CHCR3、CHCR6～CHCR9 、CHCR12～CHCR15、CHCR18～CHCR21でのみ有効となります。 000：通常モード 001：リピートモード（SAR/DAR/TCR リピート） 010：リピートモード（DAR/TCR リピート） 011：リピートモード（SAR/TCR リピート） 100：選択禁止 101：リロードモード（SAR/DAR リロード） 110：リロードモード（DAR リロード） 111：リロードモード（SAR リロード）
24	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
23	DO	0	R/W	DMA オーバラン $\overline{\text{DREQ}}$ をオーバラン0 で検出するか、オーバラン1 で検出するかを選択します。本ビットはCHCR0、CHCR1 でのみ有効です。 0：$\overline{\text{DREQ}}$ をオーバラン0 で検出 1：$\overline{\text{DREQ}}$ をオーバラン1 で検出

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
22、21	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
20	TS2	0	R/W	DMA 転送サイズ指定ビット TS1、TS0 ビット（ビット4、3）と合わせてDMA 転送サイズの設定を行います。アクセスサイズが指定された周辺モジュールのレジスタが転送元又は転送先の場合には、必ずその転送サイズとアクセスサイズを合わせてください。転送元又は転送先としてSAR 又はDAR に設定するアドレスは、転送サイズとアドレス境界を必ず一致させてください。 TS[2:0] 000：バイト単位 001：ワード（2 バイト）単位 010：ロングワード（4 バイト）単位 011：16 バイト単位 100：32 バイト単位 上記以外：選択禁止
19	HE	0	R/W（注1）	ハーフエンドフラグビット 0：転送回数が、設定した回数の半数に達していない TCR＞（転送前にセットしたTCR）÷2 1：転送回数が、設定した回数の半数（下記）に達した TCR設定値が偶数のとき：（転送前にセットしたTCR）÷2 TCR設定値が奇数のとき：（転送前にセットしたTCR-1）÷2 TCR設定値が最大転送回数（H'0000 0000）のとき ：8,388,608（H'0080 0000） NMI 割り込み、又はアドレスエラーによって転送が終了した場合、及びDE ビット（ビット0）、DME ビット（DMAORレジスタのビット0）をクリアして転送を終了させた場合は、直前の内容を保持します。 本ビットは、CHCR0～CHCR3、CHCR6～CHCR9、CHCR12～CHCR15、CHCR18～CHCR21でのみ有効です。 また、本ビットはHIEビット（ビット18）が“1”のとき、有効です。
18	HIE	0	R/W	ハーフエンドイネーブルビット 転送開始前にセットしたTCR の値の1/2 回目の転送の読み出しサイクルが終わった時点（HEビット（ビット19）＝1）で、CPU に割り込み要求を発生させるかどうかを指定します。 TCR の値の1/2 回目の転送完了を確認するには、割り込み発生後に転送先空間にダミーリードをした後、SYNCO 命令を発行してください。リロードモード設定時は本ビットを”0” に設定してください。 本ビットはCHCR0～CHCR3、CHCR6～CHCR9 、CHCR12～CHCR15、CHCR18～CHCR21でのみ有効となります。 0：ハーフエンド割り込みを禁止 1：ハーフエンド割り込みを許可
17	AM	0	R/W	アクノリッジモード $\overline{\text{DACK}}$ をデータ読み出しサイクルで出力するか、書き込みサイクルで出力するかを選択します。本ビットはCHCR0、CHCR1 でのみ有効です。 0：読み出しサイクルで$\overline{\text{DACK}}$ を出力 1：書き込みサイクルで$\overline{\text{DACK}}$ を出力

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
16	AL	0	R/W	アクノリッジレベル DACK、及びTEND 信号をHアクティブにするかLアクティブにするかを指定します。本ビットはCHCR0、CHCR1 でのみ有効です。 0：DACK、及びTEND をLアクティブ出力 1：DACK、及びTEND をHアクティブ出力
15、14	DM[1:0]	00	R/W	デスティネーションアドレスモード1、0 DMA 転送先のアドレスの増減を指定します。 00：デスティネーションアドレスは固定 01：デスティネーションアドレスは増加 バイト単位転送時は＋1 ワード単位転送時は＋2 ロングワード単位転送時は＋4 16 バイト単位転送時は＋16 32 バイト単位転送時は＋32 10：デスティネーションアドレスは減少 バイト単位転送時は－1 ワード単位転送時は－2 ロングワード単位転送時は－4 16／32 バイト単位転送時は設定禁止 11：設定禁止
13、12	SM[1:0]	00	R/W	ソースアドレスモード1、0 DMA 転送元のアドレスの増減を指定します。 00：ソースアドレスは固定 01：ソースアドレスは増加 バイト単位転送時は＋1 ワード単位転送時は＋2 ロングワード単位転送時は＋4 16 バイト単位転送時は＋16 32 バイト単位転送時は＋32 10：ソースアドレスは減少 バイト単位転送時は－1 ワード単位転送時は－2 ロングワード単位転送時は－4 16／32 バイト単位転送時は設定禁止 11：設定禁止
11～8	RS[3:0]	0000	R/W	リソースセレクト3～0 転送要求元を指定します。転送要求元の変更は、必ずDMA イネーブルビット（DE）が0 の状態で行ってください。 0000：外部リクエスト（CHCR0、CHCR1 でのみ有効）（注2） 0100：オートリクエスト 1000：周辺モジュールリクエスト DMA 拡張リソースセレクタ（DMARS0～11）で選択 上記以外：設定禁止

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7、6	DL、DS	00	R/W	$\overline{\text{DREQ}}$ レベル／エッジセレクト $\overline{\text{DREQ}}$ 入力の検出方法と、検出レベルを選択します。 本ビットはCHCR0、CHCR1 でのみ有効です。なお、チャネル0、チャネル1でも転送要求元を周辺モジュール、又はオートリクエストに指定した場合、本ビットは無効です。 00：Lレベル検出 01：立ち下がりエッジ検出 10：Hレベル検出 11：立ち上がりエッジ検出
5	TB	0	R/W	トランスファバスモード DMA 転送のバスモードを選択します。 0：サイクルスチールモード 1：バーストモード 周辺モジュールリクエスト選択時はサイクルスチールモードを設定してください。
4、3	TS[1:0]	00	R/W	DMA 転送サイズ指定ビット TS2ビット（ビット20）参照
2	IE	0	R/W	インタラプトイネーブル DMA 最終転送の読み出しサイクルが終わったときにCPU に割り込み要求を発生させるかどうかを指定します。最終転送完了を確認するには、割り込み発生後に転送先空間にダミーリードをした後、SYNCO 命令を発行してください。 0：転送完了割り込み要求を禁止 1：転送完了割り込み要求を許可
1	TE	0	R/W（注1）	トランスファエンドフラグ DMA トランスファカウントレジスタ（TCR）の値が0 になると（DMA 最終転送の実行を開始するとき）、TE ビットは1 になります。TCR が 0 にならないときに、NMI 割り込み、又は アドレスエラーによって転送が終了した場合、及びDE ビット、DMAORレジスタのDME ビットをクリアして転送を終了させた場合は、TE ビットは1 になりません。 TE ビットが1 の間はDE ビットを1 にしていても転送は許可されません。 0：DMA 転送中又はDMA 転送中断 1：DMA 最終転送中又はDMA 転送終了（TCR＝0）
0	DE	0	R/W	DMA イネーブル 0：DMA 転送を禁止（転送中断） 1：DMA 転送を許可

注1.　“1”を読み出した後、“0”を書くと“0”になります。“1”を書いても変化しません。
2.　CHCR2～CHCR23 では外部リクエスト指定を選択しないでください。

14.3.8　DMAオペレーションレジスタ0～3（DMAOR0～3）

DMAOR は、読み出し／書き込み可能な16 ビットのレジスタで、DMA 転送時のチャネルの優先順位を指定します。また、DMA の転送状態（ステータス）も示します。

DMAOR0 はチャネル0～5 の共通レジスタ、DMAOR1 はチャネル6～11 の共通レジスタ、DMAOR2 はチャネル12～17 の共通レジスタ、DMAOR3 はチャネル18～23 の共通レジスタです。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	CMS1	CMS0	—	—	PR1	PR0	—	—	—	—	—	AE	NMIF	DME
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	R/W	R/W	—	—	R/W	R/W	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15、14	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
13、12	CMS[1:0]	00	R/W	サイクルスチールモードセレクト1、0 サイクルスチールモード時に通常モードとインタミッテントモードを選択します。 インタミッテントモードを有効にするためには、DMAOR0 に対応する全チャネル（チャネル0～5）、又はDMAOR1 に対応する全チャネル（チャネル6～11）のバスモードがサイクルスチールモードであることが必要です。 00：通常モード 01：設定禁止 10：インタミッテントモード16 8Pckクロック待った後に1 回DMA 転送を実行 11：インタミッテントモード64 32Pckクロック待った後に1 回DMA 転送を実行
11、10	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
9、8	PR[1:0]	00	R/W	プライオリティーモード1、0 同時に複数のチャネルに転送要求があった場合に、実行するチャネルの優先順位を決定するビットです。 00：CH0＞CH1＞CH2＞CH3＞CH4＞CH5 （DMAOR0） CH6＞CH7＞CH8＞CH9＞CH10＞CH11 （DMAOR1） CH12 > CH13 > CH14> CH15 > CH16 > CH17 (DMAOR2) CH18 > CH19 > CH20 > CH21 > CH22 > CH23 (DMAOR3) 01：CH0＞CH2＞CH3＞CH1＞CH4 ＞CH5 （DMAOR0） CH6＞CH8＞CH9＞CH7＞CH10＞CH11 （DMAOR1） CH12 > CH14 > CH15 > CH13 > CH16 > CH17 (DMAOR2) CH18 > CH20 > CH21 > CH19 > CH22 > CH23 (DMAOR3) 10：設定禁止 11：ラウンドロビンモード ラウンドロビンモードを指定した場合、DMAOR0 に対応する全チャネル（チャネル0～5）、DMAOR1 に対応する全チャネル（チャネル6～11）、DMAOR2 に対応する全チャネル（チャネル12～17）、DMAOR3 に対応する全チャネル（チャネル18～23）のそれぞれでサイクルスチールモードとバーストモードの混在はできません。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7～3	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
2	AE	0	R/W（注）	アドレスエラーフラグ 0：DMAC によるアドレスエラーなし 1：DMA 転送中にアドレスエラー発生 （SAR 又はDAR に設定された値が転送サイズ境界と一致しない場合） 本ビットが1になると、対応するチャネル（DMAOR0の場合はチャネル0～5、DMAOR1の場合はチャネル6～11、DMAOR2の場合はチャネル12～17、DMAOR3の場合はチャネル18～23）のDE ビットとDME ビットを1 にセットしても、DMA 転送は許可されません。
1	NMIF	0	R/W（注）	NMI フラグ NMI 割り込みが発生したことを示すフラグです。本ビットが1になると、対応するチャネル（DMAOR0の場合はチャネル0～5、DMAOR1の場合はチャネル6～11、DMAOR2の場合はチャネル12～17、DMAOR3の場合はチャネル18～23）のDE ビットとDMAOR のDME ビットを1 にセットしても、DMA 転送は許可されません。 NMI が入力されたとき、少なくとも実行中のDMA 転送の1 転送単位までは行われます。DMAC が動作していないときにNMI 割り込みが入力されても、NMIF ビットは1 になります。 0：NMI 割り込みなし 1：NMI 割り込み発生
0	DME	0	R/W	DMA マスタイネーブル 対応するチャネル（DMAOR0の場合はチャネル0～5、DMAOR1の場合はチャネル6～11、DMAOR2の場合はチャネル12～17、DMAOR3の場合はチャネル18～23）のDMA 転送を許可又は禁止します。DME ビット、及びCHCR のDE ビットを1 にすると、DMA 転送が許可されます。ただし転送を行うチャネルのCHCR にあるTE ビットとチャネルに対応するDMAOR のNMIF ビット、AE ビットのすべてが0 であることが必要です。本 ビットを0 にすると対応するチャネル（DMAOR0の場合はチャネル0～5、DMAOR1の場合はチャネル6～11、DMAOR2の場合はチャネル12～17、DMAOR3の場合はチャネル18～23）のDMA 転送が中断されます。 0：チャネル0～5 のDMA 転送を禁止（DMAOR0） チャネル6～11 のDMA 転送を禁止（DMAOR1） チャネル12～17のDMA転送を禁止（DMAOR2） チャネル18～23のDMA転送を禁止（DMAOR3） 1：チャネル0～5 のDMA 転送を許可（DMAOR0） チャネル6～11 のDMA 転送を許可（DMAOR1） チャネル12～17のDMA転送を許可（DMAOR2） チャネル18～23のDMA転送を許可（DMAOR3）

注.　“1”を読み出した後、“0”を書くと“0”になります。“1”を書いても変化しません。

14.3.9 DMA拡張リソースセレクタ0～11（DMARS0～DMARS11）

DMARSn（n＝0～11）は、読み出し／書き込み可能な16ビットレジスタです。各DMARSレジスタは、表14.3に示す対応チャネルの周辺モジュールからのDMA転送要求元を設定します。本レジスタで、SCIF2、SCIF3、SCIF4、ADC0、ADC1、SIM、ARC4、SDHI、CRYPTO ENGINE、RSPI、eMMC、RIIC、TMRの転送要求を設定できます。

表14.4以外のMID／RIDを設定したときの動作は保証できません。DMARSレジスタからの転送要求は、CHCR0～23レジスタのリソースセレクトビット（RS3～RS0）＝B'1000に設定したときのみ有効です。B'1000以外の場合は、DMARSを設定しても転送要求元として受け付けられません。また、1つの周辺モジュールの転送要求をDMACの複数のチャネルのリソースに割り当てないでください。割り当てた場合の動作の保証はできません。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	CjMID[5:0]						CjRID[1:0]		CkMID[5:0]						CkRID[1:0]	
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

注.　j＝2n+1、k＝2n

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15～10	CjMID[5:0]	000000	R/W	DMA チャネルj 転送要求元モジュールID5～ID0（MID） 表14.4 参照
9、8	CjRID[1:0]	00	R/W	DMA チャネルj転送要求元レジスタID1、ID0（RID） 表14.4 参照
7～2	CkMID[5:0]	000000	R/W	DMA チャネルk 転送要求元モジュールID5～ID0（MID） 表14.4 参照
1、0	CkRID[1:0]	00	R/W	DMA チャネルk 転送要求元レジスタID1、ID0（RID） 表14.4 参照

注.　j＝2n+1、k＝2n

表14.4　転送要求元一覧

DMAC チャネル	周辺モジュール	1チャネル分の設定値（MID 、及びRID フィールド）	MID	RID	機能
DMAC チャネル 0～5	ARC4	H'A1	B'1010 00	B'01	書き込み
		H'A2		B'10	読み出し
	ADC0	H'AB	B'1010 10	B'11	読み出し
	ADC1	H'AF	B'1010 11	B'11	読み出し
	SDHI	H'C5	B'1100 01	B'01	送信
		H'C6		B'10	受信
	CRYPTO ENGINE	H’21	B’0010 00	B’01	書き込み (WRRDYB_4)
		H’22		B’10	書き込み (WRRDYB_0)
		H’29	B’0010 10	B’01	読み出し (RDRDYB_0)
		H’2A		B’10	読み出し (INTEGRATE_RDRDYB)
		H’73	B’0111 00	B’11	書き込み (WRRDYB_1)
		H’77	B’0111 01	B’11	読み出し (RDRDYB_1)
	eMMC	H'D3	B'1101 00	B'11	送信
		H'D7	B'1101 01	B'11	受信
DMAC チャネル 6～11	SCIF2	H'21	B'0010 00	B'01	送信
		H'22		B'10	受信
	SCIF3	H'29	B'0010 10	B'01	送信
		H'2A		B'10	受信
	SCIF4	H'41	B'0100 00	B'01	送信
		H'42		B'10	受信
	SIM	H'A1	B'1010 00	B'01	送信
		H'A2		B'10	受信
	RSPI	H'C1	B'1100 00	B'01	送信
		H'C2		B'10	受信
DMAC チャネル 12～17	TMR_0	H’73	B’0111 00	B’11	コンペアマッチ A
	TMR_2	H’77	B’0111 01	B’11	コンペアマッチ A
	RIIC0	H’21	B'0010 00	B'01	送信
		H’22		B'10	受信
	RIIC1	H’29	B'0010 10	B'01	送信
		H’2A		B'10	受信
	RIIC2	H’A1	B'1010 00	B'01	送信
		H’A2		B'10	受信
	RIIC3	H’AB	B'1010 10	B'11	送信
		H’AF	B'1010 11	B'11	受信
	RIIC4	H’C5	B'1100 01	B'01	送信
		H’C6		B'10	受信

DMAC チャネル	周辺モジュール	1チャネル分の設定値 （MID 、及びRID フィールド）	MID	RID	機能
DMAC チャネル 18～23	RIIC5	H’21	B'0010 00	B'01	送信
		H’22		B'10	受信
	RIIC6	H’29	B'0010 10	B'01	送信
		H’2A		B'10	受信
	RIIC7	H’41	B'0100 00	B'01	送信
		H’42		B'10	受信
	RIIC8	H’45	B'0100 01	B'01	送信
		H’46		B'10	受信
	RIIC9	H’51	B'0101 00	B'01	送信
		H’52		B'10	受信
	ADC0_SCAN	H’D3	B’1101 00	B'11	スキャン／マルチモード
	ADC1_SCAN	H’D7	B’1101 01	B'11	スキャン／マルチモード

14.3.10 DMA イネーブルレジスタ0（DMAER0）

DMAER0 は、読み出し／書き込み可能な 32 ビットのレジスタで、CRYPTO ENGINE、ADC0、ADC1 モジュールからの DMA 転送要求の許可／禁止を設定します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	DMAE_CRYPTO ENGINE2	DMAE_CRYPTO ENGINE1	DMAE_CRYPTO ENGINE0	DMAE_ADC1	DMAE_ADC0	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～6	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
5	DMAE_CRYPTO ENGINE2	0	R/W	CRYPTO ENGINE (RDRDYB_1) DMA イネーブル 0：CRYPTO ENGINEのDMA 転送要求出力禁止 1：CRYPTO ENGINEのDMA 転送要求出力許可（注1）
4	DMAE_CRYPTO ENGINE1	0	R/W	CRYPTO ENGINE (WRRDYB_1) DMA イネーブル 0：CRYPTO ENGINEのDMA 転送要求出力禁止 1：CRYPTO ENGINEのDMA 転送要求出力許可（注1）
3	DMAE_CRYPTO ENGINE0	0	R/W	CRYPTO ENGINE (WRRDYB_0、WRRDYB_4、INTEGRATE_RDRDYB、RDRDYB_0) DMA イネーブル 0：CRYPTO ENGINEのDMA 転送要求出力禁止 1：CRYPTO ENGINEのDMA 転送要求出力許可（注1）
2	DMAE_ADC1	0	R/W	ADC1 DMA イネーブル 0：ADC1 のDMA 転送要求出力禁止 1：ADC1 のDMA 転送要求出力許可（注2）
1	DMAE_ADC0	0	R/W	ADC0 DMA イネーブル 0：ADC0のDMA 転送要求出力禁止 1：ADC0のDMA 転送要求出力許可（注3）
0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

注1. CRYPTO ENGINEのDMA転送要求を許可した場合、INT2MSKR4 レジスタのCRYPTO ENGINEビットに 1 を設定してINTC への割り込みを発生させないようにすることを推奨します。
2. ADC1 のDMA 転送要求を許可した場合、INT2MSKR1 レジスタのADC1 ビットに1 を設定してINTC への割り込みを発生させないようにすることを推奨します。
3. ADC0 のDMA 転送要求を許可した場合、INT2MSKR1 レジスタのADC0 ビットに1 を設定してINTC への割り込みを発生させないようにすることを推奨します。

14.3.11 DMA イネーブルレジスタ1（DMAER1）

DMAER1は、読み出し／書き込み可能な32ビットのレジスタで、RSPIモジュールからのDMA転送要求の許可／禁止を設定します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	DMAE_RSPI	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	—	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～7	—	すべて0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
6	DMAE_RSPI	0	R/W	RSPI DMA イネーブル 0：RSPIのDMA転送要求出力禁止 1：RSPIのDMA転送要求出力許可（注）
5～0	—	000000	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

注.　RSPIのDMA転送要求を許可した場合、INT2MSKR3レジスタのRSPIビットに1を設定してINTCへの割り込みを発生させないようにすることを推奨します。

14.3.12 DMA イネーブルレジスタ 2 (DMAER2)

DMAER2 は、読み出し／書き込み可能な32 ビットのレジスタで、ADC、TMR、及び RIICモジュールからのDMA 転送要求の許可／禁止を設定します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	DMAE_ADC_SCAN	DMAE_TMR	—	DMAE_IIC9	DMAE_IIC8	DMAE_IIC7	DMAE_IIC6	DMAE_IIC5	DMAE_IIC4	DMAE_IIC3	DMAE_IIC2	DMAE_IIC1	DMAE_IIC0
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	R/W	R/W	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～13	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
12	DMAE_ADC_SCAN	0	R/W	ADC_SCAN0、1 DMA イネーブル 0：ADCのDMA 転送要求出力禁止 1：ADCのDMA 転送要求出力許可 (注1)
11	DMAE_TMR	0	R/W	TMR DMA イネーブル 0：TMRのDMA 転送要求出力禁止 1：TMRのDMA 転送要求出力許可 (注2)
10	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
9	DMAE_IIC9	0	R/W	IIC9 DMA イネーブル 0：IIC9のDMA 転送要求出力禁止 1：IIC9のDMA 転送要求出力許可 (注3)
8	DMAE_IIC8	0	R/W	IIC8 DMA イネーブル 0：IIC8のDMA 転送要求出力禁止 1：IIC8のDMA 転送要求出力許可 (注3)
7	DMAE_IIC7	0	R/W	IIC7 DMA イネーブル 0：IIC7のDMA 転送要求出力禁止 1：IIC7のDMA 転送要求出力許可 (注3)
6	DMAE_IIC6	0	R/W	IIC6 DMA イネーブル 0：IIC6のDMA 転送要求出力禁止 1：IIC6のDMA 転送要求出力許可 (注3)
5	DMAE_IIC5	0	R/W	IIC5 DMA イネーブル 0：IIC5のDMA 転送要求出力禁止 1：IIC5のDMA 転送要求出力許可 (注3)
4	DMAE_IIC4	0	R/W	IIC4 DMA イネーブル 0：IIC4のDMA 転送要求出力禁止 1：IIC4のDMA 転送要求出力許可 (注3)

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
3	DMAE_IIC3	0	R/W	IIC3 DMA イネーブル 0：IIC3のDMA 転送要求出力禁止 1：IIC3のDMA 転送要求出力許可（注3）
2	DMAE_IIC2	0	R/W	IIC2 DMA イネーブル 0：IIC2のDMA 転送要求出力禁止 1：IIC2のDMA 転送要求出力許可（注3）
1	DMAE_IIC1	0	R/W	IIC1 DMA イネーブル 0：IIC1のDMA 転送要求出力禁止 1：IIC1のDMA 転送要求出力許可（注3）
0	DMAE_IIC0	0	R/W	IIC0 DMA イネーブル 0：IIC0のDMA 転送要求出力禁止 1：IIC0のDMA 転送要求出力許可（注3）

注1. ADCのDMA転送要求を許可した場合、INT2MSKR1 レジスタのADC0 ビット及びADC1 ビットに1 を設定してINTC への割り込みを発生させないようにすることを推奨します。
2. TMRのDMA 転送要求を許可した場合、INT2MSKR レジスタのTMR01 ビット、TMR23 ビット、及びTMR45 ビットに1 を設定してINTC への割り込みを発生させないようにすることを推奨します。
3. RIICのDMA 転送要求を許可した場合、INT2MSKR2、INT2MSKR3 レジスタの対応ビットに1 を設定してINTC への割り込みを発生させないようにすることを推奨します。

14.4　動作説明

DMA 転送要求があると、DMAC は決められたチャネルの優先順位に従って転送を開始し、転送終了条件が満たされると転送を終了します。転送要求にはオートリクエスト、外部リクエスト、周辺モジュールリクエストの 3 種類のモードがあります。バスモードは、バーストモードとサイクルスチールモードを選択することができます。

14.4.1　DMA転送要求

DMA 転送要求はデータの転送元又は転送先に発生させるのが基本的な使い方ですが、転送元でも転送先でもない外部デバイスや周辺モジュールに発生させる使い方もできます。

転送要求の選択はDMAチャネルごとにRS3～0 ビット（CHCR レジスタのビット11～8）、及びDMARS0～5 レジスタによって行います。

(1)　オートリクエストモード（チャネル0～23）：RS[3:0]＝0100

オートリクエストモードは、メモリ同士の転送や、転送要求を発生できない内蔵モジュールとメモリ転送のように、転送要求信号が外部から来ない場合に、DMAC 内部で自動的に転送要求信号を発生するモードです。AE ビット（DMAOR レジスタのビット 2）、NMIF ビット（同ビット 1）、及び TE ビット（CHCR レジスタのビット 1）が 0 、DME ビット（同ビット 0）が 1 のとき、各チャネルの DE ビット（CHCR レジスタのビット 0）を 1 にすると転送が開始されます。

(2)　外部リクエストモード（チャネル0、1）：RS[3:0]＝0000

外部リクエストモードは、DREQ0、DREQ1 端子に入力される外部デバイスからの転送要求信号（外部リクエスト）によって転送を開始させるモードです。DMA チャネル0、1 のみ有効です。AE ビット、NMIF ビット、及びTE ビットが0 、DME ビット及びDE ビットが1 のとき、$\overline{\text{DREQ}}$が入力されると転送が開始されます。

$\overline{\text{DREQ0}}$、$\overline{\text{DREQ1}}$ 端子に入力される転送要求信号 をエッジで検出するかレベルで検出するかは、表14.5 に示すDL ビット、DS ビット（CHCR0,1 レジスタのビット7、6）で選択します。転送要求元は必ずしもデータの転送元か転送先である必要はありません。

表14.5　DL、DS ビットによる外部リクエスト検出の選択

CHCRn (n = 0～3)		外部リクエスト検出方法
DS	DL	
0	0	L レベル検出
	1	H レベル検出
1	0	立ち下がりエッジ検出
	1	立ち上がりエッジ検出

外部リクエストが受け付けられると、受け付けたリクエストに対するアクノリッジ（$\overline{\text{DACK}}$）出力開始後、CLKOUTの1サイクル経過するまで、次の外部リクエストは受け付けられません。

なお、レベル検出選択時は、DO ビット（CHCR0、1 レジスタのビット23）によって、表14.6に示す 2 種類の外部リクエスト受付タイミングを選択できます。

表14.6　レベル検出時の外部リクエスト受付タイミング

DO ビット	受付タイミング
0	オーバラン0：$\overline{\text{DACK}}$出力終了からCLKOUTの1サイクル経過以降に受け付け
1	オーバラン1：$\overline{\text{DACK}}$出力開始からCLKOUTの1サイクル経過以降に受け付け

DOビット：CHCR0、1 レジスタのビット23

図14.2～図14.5に$\overline{\text{DREQ}}$入力検出タイミング例を、図14.6、図14.7に$\overline{\text{TEND}}$出力タイミング例を示します。

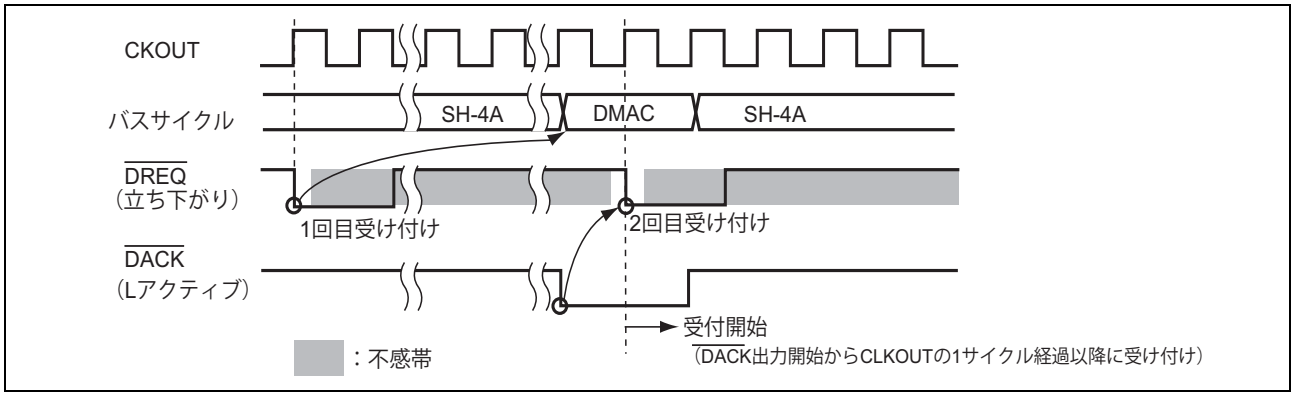


図 14.2　サイクルスチールモード・エッジ検出時の$\overline{\text{DREQ}}$ 入力検出タイミング例

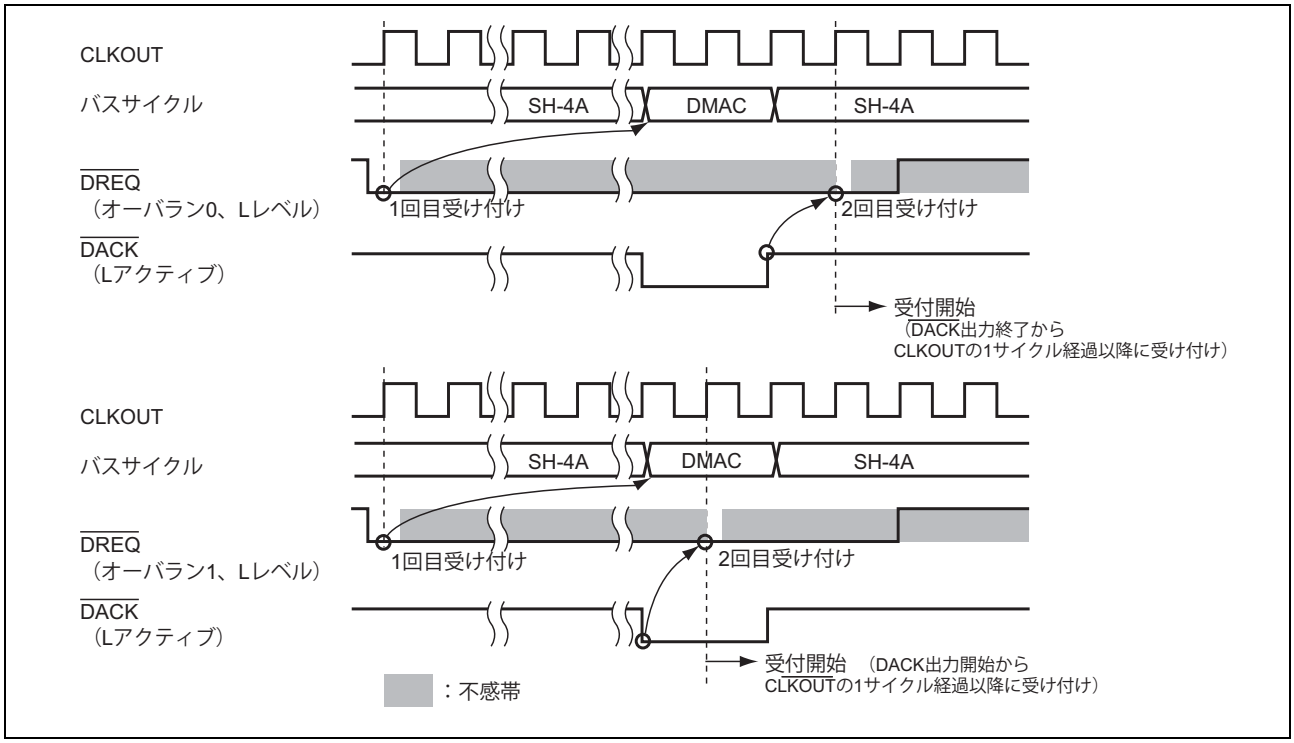


図 14.3　サイクルスチールモード・レベル検出時の$\overline{\text{DREQ}}$ 入力検出タイミング例

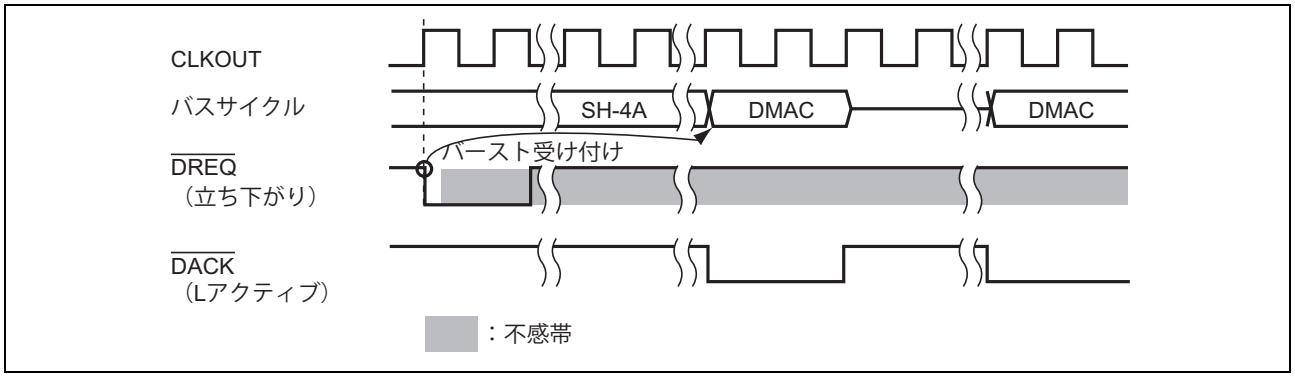


図 14.4　バーストモード・エッジ検出時の$\overline{\text{DREQ}}$ 入力検出タイミング例

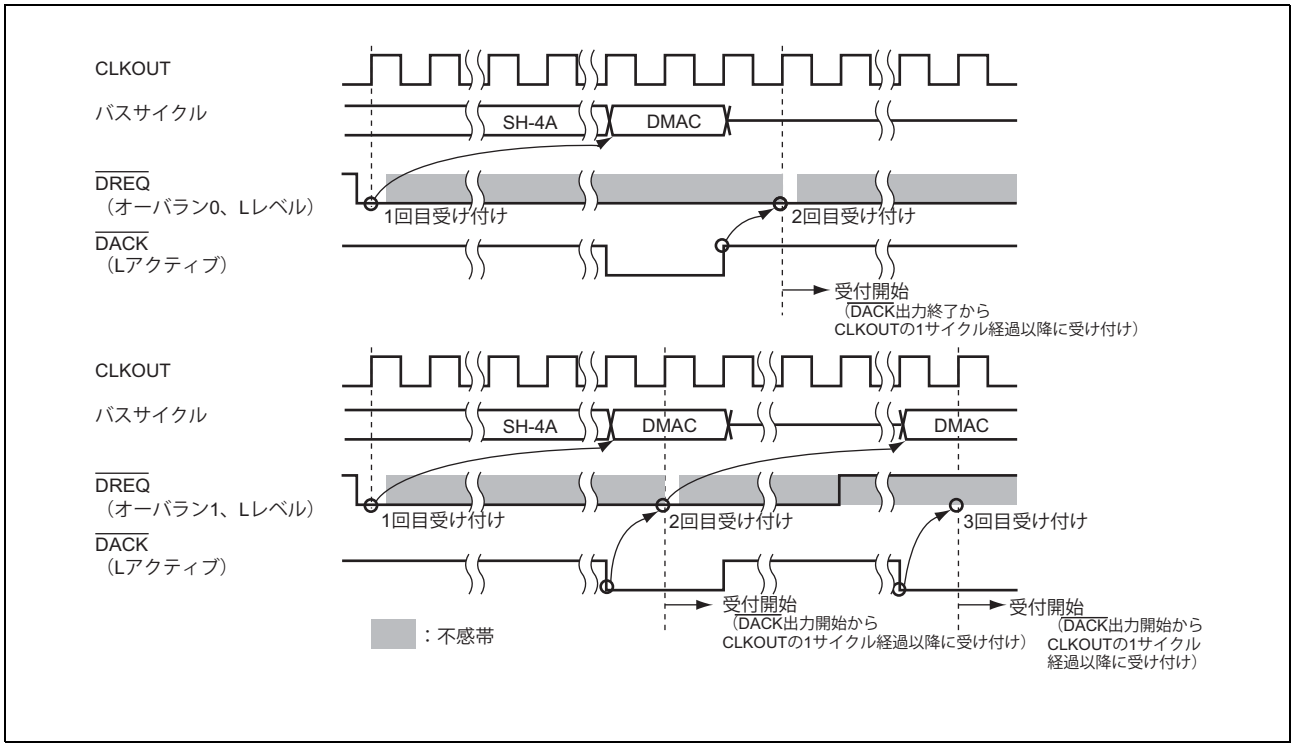


図 14.5　バーストモード・レベル検出時の$\overline{\text{DREQ}}$ 入力検出タイミング例

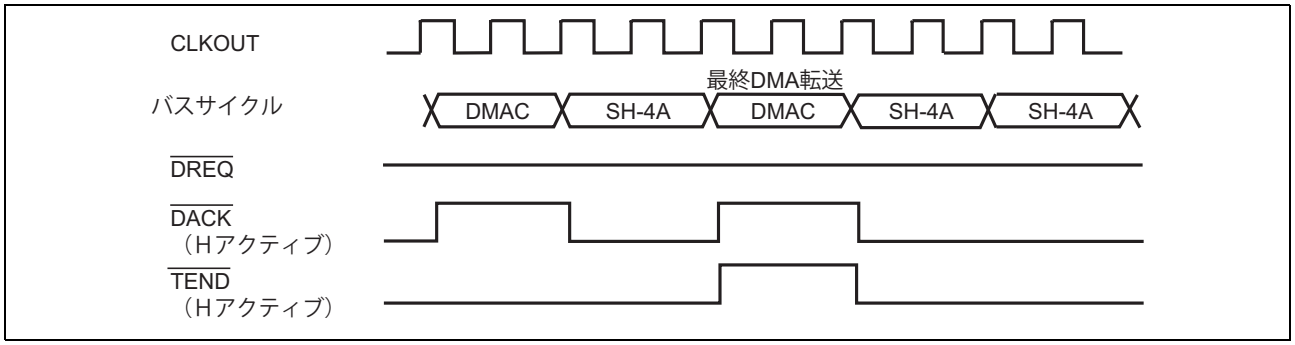


図 14.6　TEND 出力タイミング例（サイクルスチール・レベル検出）

8 ビット外部デバイスや16 ビット外部デバイスにロングワードアクセスしたり、8 ビット外部デバイスにワードアクセスする場合、データをアライメントするため、図14.7に示すように、DACK 出力、及びTEND 出力が分割される場合があります。

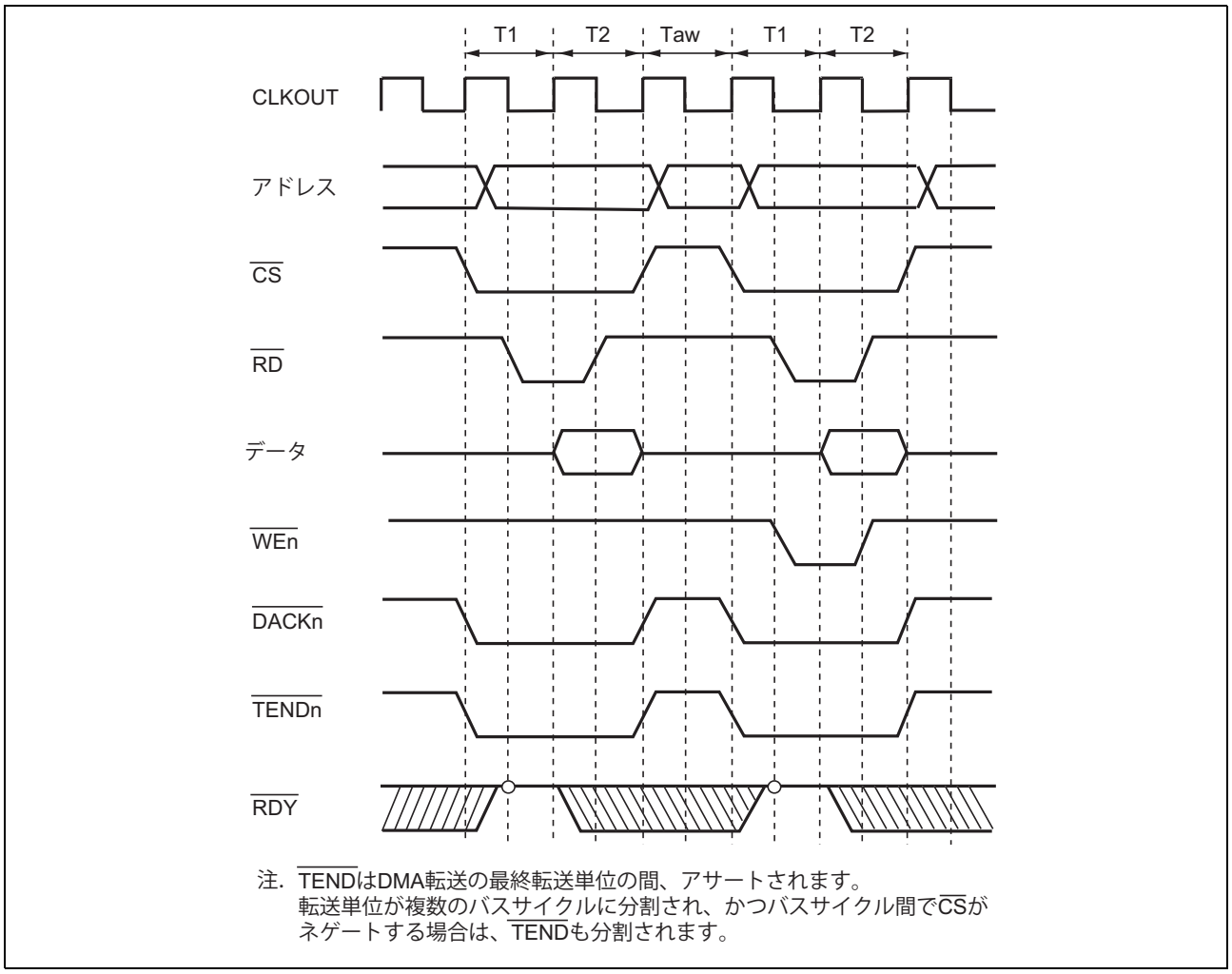


図 14.7　TEND 出力タイミング例
（ノーウェイト、アイドルサイクル1、16 ビットデバイスへのロングワードアクセス）

(3)　周辺モジュールリクエストモード（チャネル0～23）：RS[3:0]＝1000

周辺モジュールリクエストモードでは、周辺モジュールからのDMA転送要求信号によって転送が実行されます。DMA転送要求信号は、DMARS0～DMARS11にて設定するSCIF2、SCIF3、SCIF4、SIM、SDHI、CRYPTO ENGINE、RSPI、eMMC、RIIC、TMRからの送信データエンプティ転送要求と受信データフル転送要求、ADC0、ADC1、ARC4からの転送要求があります。

AEビット及びNMIFビットが0、DMEビット及びDEビットが1のとき、転送要求信号が入力されると転送が開始されます。

転送要求をSCIF2の送信データエンプティ転送要求に設定した場合、転送先を当該SCIF2のトランスミットFIFOデータレジスタ（送信データバッファ）とする必要があります。同様に転送要求をSCIF2の受信データフル転送要求に設定した場合、転送元を当該SCIF2のレシーブFIFOデータレジスタ（受信データバッファ）とする必要があります。これらはSCIF3、SCIF4、SIM、SDHI、CRYPTO ENGINE、RSPI、eMMC、RIIC、TMRも同様です。

表14.7　MID/RIDビットによる内蔵周辺モジュールリクエストの選択

DMAC チャネル	DMARS		DMA 転送要求元	DMA 転送要求信号	転送元	転送先
	MID	RID				
0～5	101000	01	ARC4 入力部	PUSH (TPR データエンプティ)	任意	TPR
		10	ARC4 出力部	POP (TCR データフル)	TCR	任意
	101010	11	ADC0	ADCI0 (A/D 変換終了割り込み)	ADDRn_0（注）	任意
	101011	11	ADC1	ADCI1 (A/D 変換終了割り込み)	ADDRn_1（注）	任意
	110001	01	SDHI 送信部	TXI (送信データエンプティ)	任意	SD_BUF0
		10	SDHI 受信部	RXI (受信データフル)	SD_BUF0	任意
	001000	01	CRYPTO ENGINE	WRRDYB_4	任意	CRYPTO ENGINE
		10		WRRDYB_0	任意	CRYPTO ENGINE
	001010	01		RDRDYB_0	CRYPTO ENGINE	任意
		10		INTEGRATE_RDRDYB	CRYPTO ENGINE	任意
	011100	11		WRRDYB_1	任意	CRYPTO ENGINE
	011101	11		RDRDYB_1	CRYPTO ENGINE	任意
	110100	11	eMMC 送信部	dmareq_mmc4_n[0]	任意	CE_DATA
	110101	11	eMMC 受信部	dmareq_mmc4_n[1]	CE_DATA	任意
6～11	001000	01	SCIF2 送信部	TXI (送信FIFO データエンプティ割り込み)	任意	SCFTDR2
		10	SCIF2 受信部	RXI (受信FIFO データフル割り込み)	SCFRDR2	任意
	001010	01	SCIF3 送信部	TXI (送信FIFO データエンプティ割り込み)	任意	SCFTDR3
		10	SCIF3 受信部	RXI (受信FIFO データフル割り込み)	SCFRDR3	任意
	010000	01	SCIF4 送信部	TXI (送信FIFO データエンプティ割り込み)	任意	SCFTDR4
		10	SCIF4 受信部	RXI (受信FIFO データフル割り込み)	SCFRDR4	任意
	101000	01	SIM 送信部	TXI (送信FIFO データエンプティ割り込み)	任意	SCTDR
		10	SIM 受信部	RXI (受信FIFO データフル割り込み)	SCRDR	任意
	110000	01	RSPI 送信部	TXI (送信データエンプティ割り込み)	任意	SPDR
		10	RSPI 受信部	RXI (受信データフル割り込み)	SPDR	任意

DMAC チャネル	DMARS		DMA 転送要求元	DMA 転送要求信号	転送元	転送先
	MID	RID				
12～17	011100	11	TMR_0	t80_tmadtg_n	任意	任意
	011101	11	TMR_2	t81_tmadtg_n	任意	任意
	001000	01	IIC0	TXI (送信データエンプティ割り込み)	任意	ICDRT
		10		RXI (受信データフル割り込み)	ICDRR	任意
	001010	01	IIC1	TXI (送信データエンプティ割り込み)	任意	ICDRT
		10		RXI (受信データフル割り込み)	ICDRR	任意
	101000	01	IIC2	TXI (送信データエンプティ割り込み)	任意	ICDRT
		10		RXI (受信データフル割り込み)	ICDRR	任意
	101010	11	IIC3	TXI (送信データエンプティ割り込み)	任意	ICDRT
	101011	11		RXI (受信データフル割り込み)	ICDRR	任意
	110001	01	IIC4	TXI (送信データエンプティ割り込み)	任意	ICDRT
		10		RXI (受信データフル割り込み)	ICDRR	任意
18～23	001000	01	IIC5	TXI (送信データエンプティ割り込み)	任意	ICDRT
		10		RXI (受信データフル割り込み)	ICDRR	任意
	001010	01	IIC6	TXI (送信データエンプティ割り込み)	任意	ICDRT
		10		RXI (受信データフル割り込み)	ICDRR	任意
	010000	01	IIC7	TXI (送信データエンプティ割り込み)	任意	ICDRT
		10		RXI (受信データフル割り込み)	ICDRR	任意
	010001	01	IIC8	TXI (送信データエンプティ割り込み)	任意	ICDRT
		10		RXI (受信データフル割り込み)	ICDRR	任意
	010100	01	IIC9	TXI (送信データエンプティ割り込み)	任意	ICDRT
		10		RXI (受信データフル割り込み)	ICDRR	任意
	110100	11	ADC0_SCAN	dmascan_adscan_n	ADDRn_0 (注)	任意
	110101	11	ADC1_SCAN	dmascan_adscan_n	ADDRn_1 (注)	任意

注.　n = A～H

14.4.2　チャネルの優先順位

DMAC は、同時に複数のチャネルに対して転送要求があった場合には、決められた優先順位に従って転送を行います。チャネルの優先順位は、PR1,0 ビット（DMAOR レジスタのビット 9、8）の設定により、固定、ラウンドロビンの 2 種類のモードから選択できます。

チャネル 0～5、6～11、12～17、18～23 の優先順位の関係はラウンドロビンです。

リセット直後の優先順位は CH0～5 ＞ CH6～11 ＞ CH12～17 ＞ CH18～23 です。

(1)　固定モード

固定モードではチャネルの優先順位は変化しません。

固定モードは以下に示す 2 種類から選択できます。

- チャネル 0～5
  CH0 > CH1 > CH2 > CH3 > CH4 > CH5
  CH0 > CH2 > CH3 > CH1 > CH4 > CH5
- チャネル 6～11
  CH6 > CH7 > CH8 > CH9 > CH10 > CH11
  CH6 > CH8 > CH9 > CH7 > CH10 > CH11
- チャネル 12 ～17
  CH12 > CH13 > CH14 > CH15 > CH16> CH17
  CH12 > CH14 > CH15 > CH13 > CH16 > CH17
- チャネル 18 ～23
  CH18 > CH19 > CH20 > CH21 > CH22 > CH23
  CH18 > CH20 > CH21 > CH19 > CH22 > CH23

これらの選択も、PR1,0 ビットで設定します。

(2)　ラウンドロビンモード

ラウンドロビンモードでは、1 つのチャネルで、1 転送単位（バイト、ワード、ロングワード、16 バイト、又は 32 バイト単位）の転送が終了するごとにそのチャネルの優先順位が一番低くなるように優先順位を変更します。

この動作を図 14.8 に示します。なおリセット直後のラウンドロビンモードの優先順位は以下のようになります。

CH0 ＞ CH1 ＞ CH2 ＞ CH3 ＞ CH4 ＞ CH5
CH6 ＞ CH7 ＞ CH8 ＞ CH9 ＞ CH10 ＞ CH11
CH12 ＞ CH13 ＞ CH14 ＞ CH15 ＞ CH16 ＞ CH17
CH18 ＞ CH19 ＞ CH20 ＞ CH21 ＞ CH22 ＞ CH23

ラウンドロビンモードを指定した場合、対応するチャネル（DMAOR0 の場合はチャネル 0 ～5、DMAOR1 の場合はチャネル 6～11、DMAOR2 の場合はチャネル 12～17、DMAOR3 の場合はチャネル 18 ～23）はすべて同じバスモードに設定してください。これらのチャネルにおいて、サイクルスチールモードとバーストモードの混在はできません。

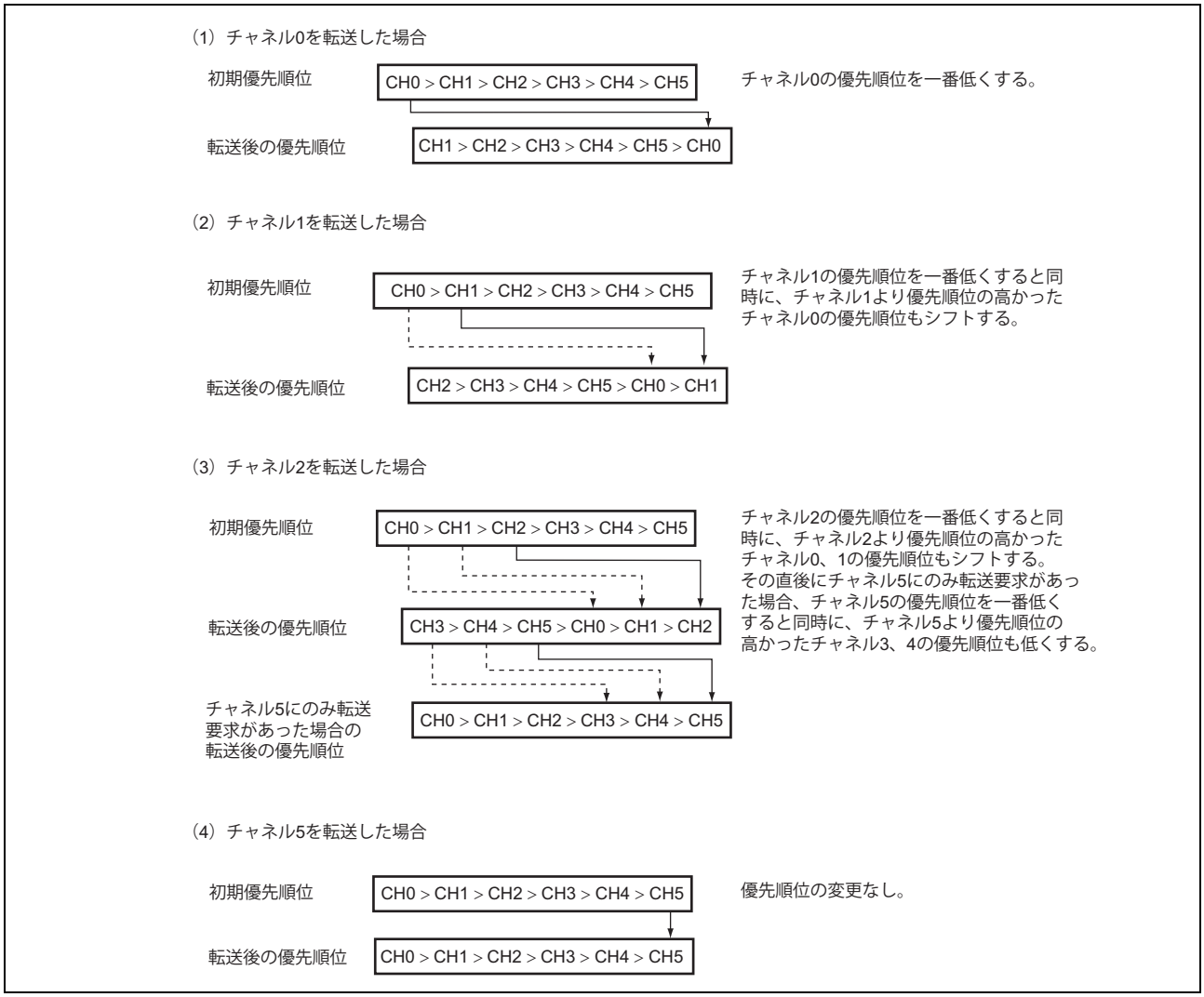


図 14.8　ラウンドロビンモード（例：チャネル0～5）

図 14.9 にチャネル 0 とチャネル 3 に同時に転送要求が発生し、チャネル 0 の転送中にチャネル 1 の転送要求が発生した場合のチャネルの優先順位の変化を示します。この場合の DMAC の動作は以下のようになります。

1. チャネル0とチャネル3に同時に転送要求が発生します。
2. チャネル0のほうがチャネル3より優先順位が高いので、チャネル0の転送を開始します（チャネル3は転送待ち）。
3. チャネル0の転送中にチャネル1に転送要求が発生します（チャネル1とチャネル3は転送待ち）。
4. チャネル0の転送を終了すると、チャネル0の優先順位を一番低くします。
5. この時点でチャネル1のほうがチャネル3より優先順位が高いので、チャネル1の転送を開始します（チャネル3は転送待ち）。
6. チャネル1の転送を終了すると、チャネル1の優先順位を一番低くします。
7. チャネル3の転送を開始します。
8. チャネル3の転送を終了すると、チャネル3の優先順位が一番低くなるように、チャネル3と一緒にチャネル2の優先順位を低くします。

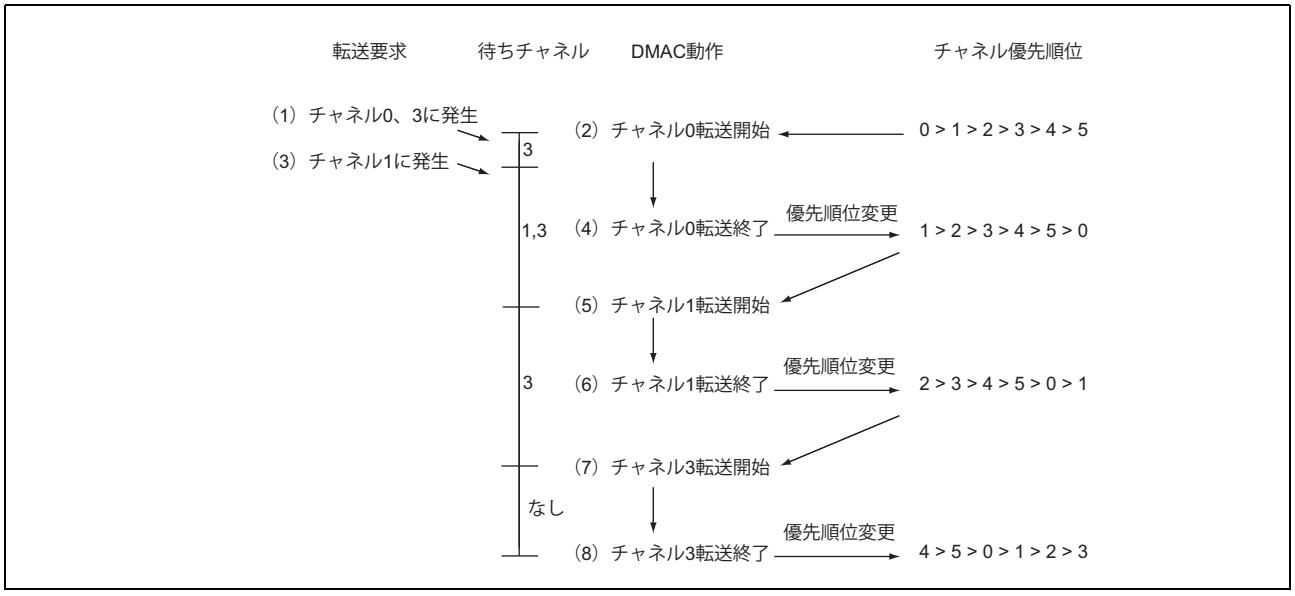


図 14.9　ラウンドロビンモードでのチャネル優先順位（例：チャネル0～5）

14.4.3　DMA転送の種類

アドレスモードは、デュアルアドレスモードをサポートします。また、表14.8にDMA転送の種類を示します。各モードによって、使用できるリクエストモードやチャネルが異なります。

表14.8　DMA転送の種類

バスモード		LCKNビット	TBビット	CMS[1:0]ビット	リクエストモード（使用可能チャネル）	データ転送モード（使用可能チャネル）
サイクルスチールモード	通常モード1	0	0	00	・外部リクエスト（0、1） ・オートリクエスト（0～23） ・周辺モジュールリクエスト（0～23）	・通常モード（0～23） ・リピートモード（0～3、6～9、12～15、18～21） ・リロードモード（0～3、6～9、12～15、18～21）
	通常モード2	1	0	00		
	インタミッテントモード16	0/1	0	10		
	インタミッテントモード64	0/1	0	11		
バーストモード		0	1	00	・外部リクエスト（0、1） ・オートリクエスト（0～23）	

LCKNビット　：CHCRレジスタのビット30
TBビット　　：CHCRレジスタのビット5
CMS[1:0]ビット：DMAORレジスタのビット13、12

(1)　デュアルアドレスモード

デュアルアドレスモードは、転送元と転送先をともにアドレスによってアクセスするモードです。転送元と転送先は外部でも内部でもかまいません。このモードでは、DMACは、読み出しサイクルで転送元を、書き込みサイクルで転送先をアクセスするため、2つのバスサイクルで転送を行います。このとき、転送データは一時的にDMACに格納されます。たとえば、図14.10のような外部メモリ同士の転送では、読み出しサイクルで一方の外部メモリからデータがDMACに読み出され、続く書き込みサイクルでそのデータがもう一方の外部メモリに書き込まれます。

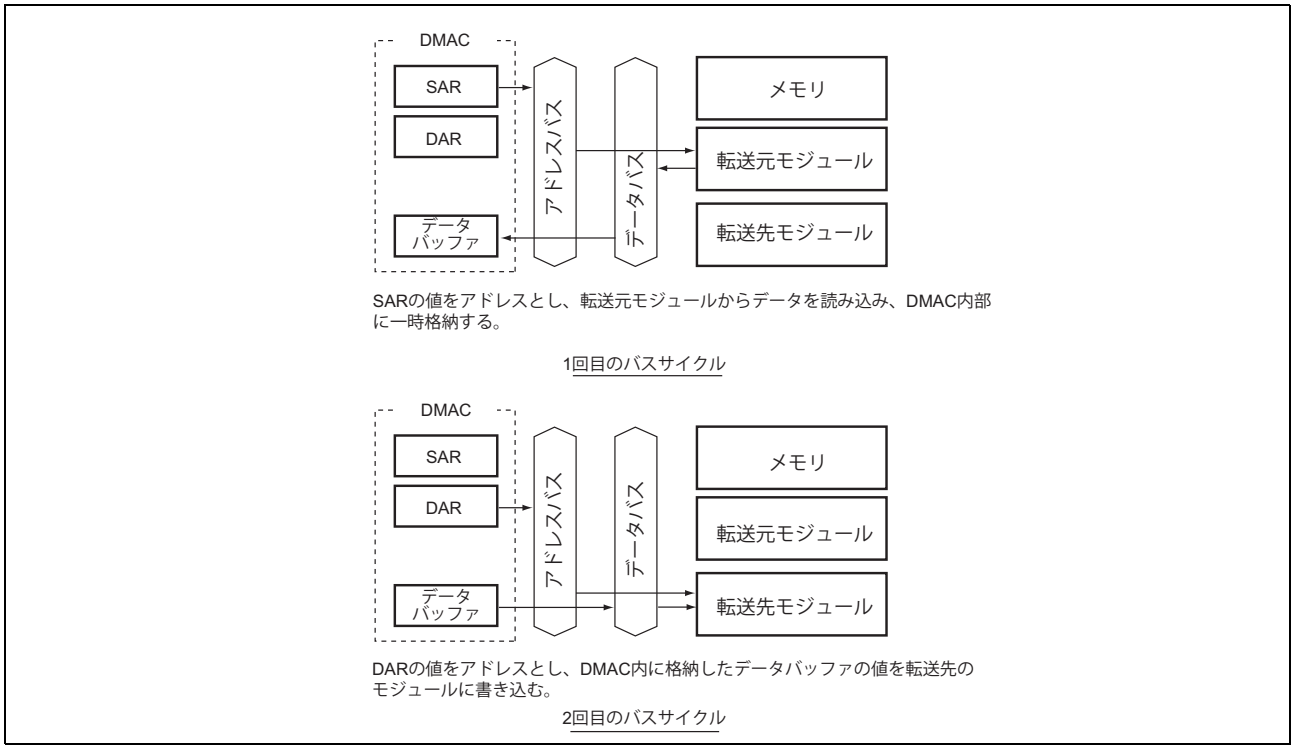


図14.10　デュアルアドレスモードのデータフロー

転送要求は、オートリクエスト、外部リクエスト、周辺モジュールリクエストのいずれでも可能です。DACK はリードサイクルあるいはライトサイクルに出力可能です。リードサイクルとライトサイクルのどちらに出力するかはCHCR レジスタによって設定可能です。

図14.11 にDMA 転送タイミング例を示します。

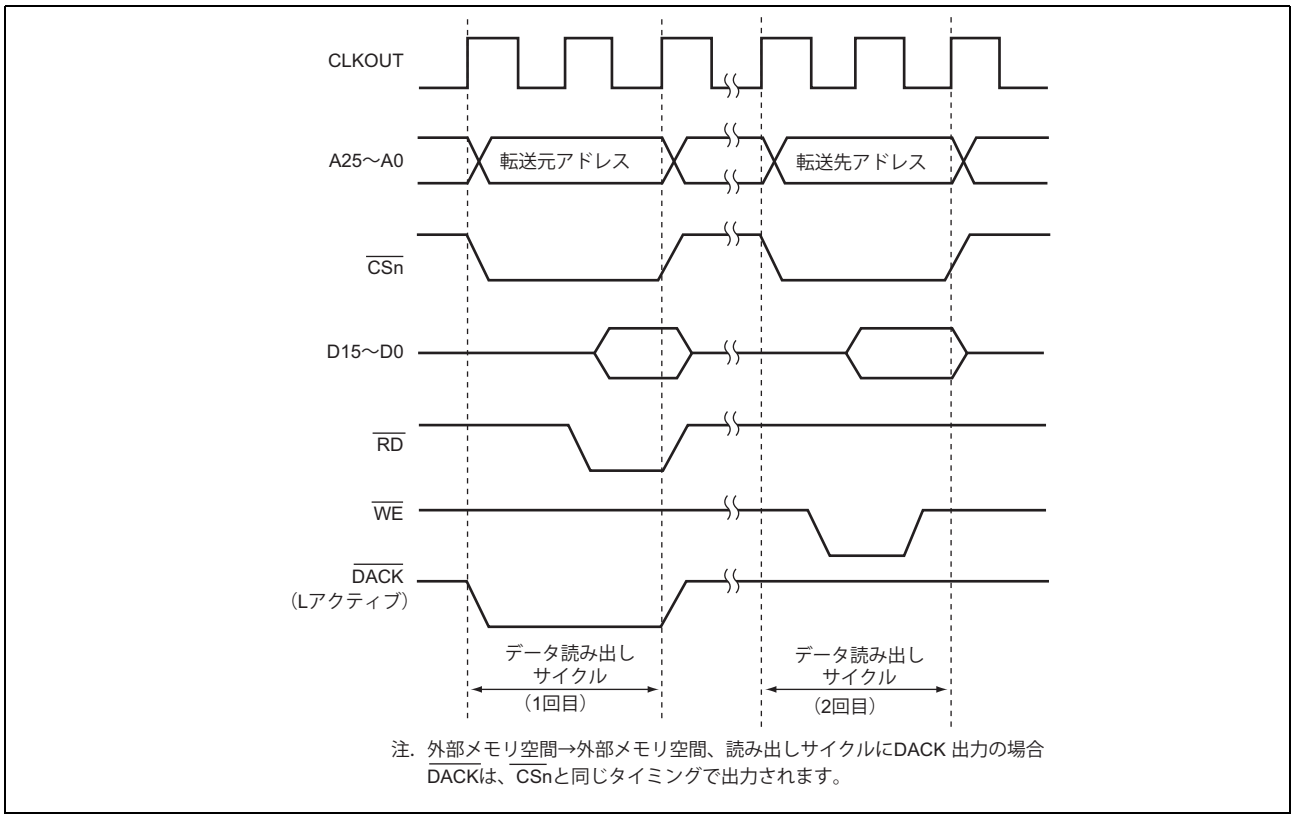


図 14.11　DMA 転送タイミング例（転送元：通常メモリ、転送先：通常メモリ）

(2)　バスモード

表14.8にバスモードを示します。バスモードによって、使用できるリクエストモードやチャネルが異なります。

(a) サイクルスチールモード

- **通常モード1（CHCRレジスタのLCKNビット＝0、CHCRレジスタのTBビット＝0）**
  サイクルスチールの通常モード1では、DMACは一回の転送単位（バイト、ワード、ロングワード、16バイト、又は32バイト単位）の転送を終了するたびにSuperHywayバスのバス権を他のバスマスタに渡します。その後転送要求があれば、次の転送要求を発行し、バス権を取得し、再び1転送単位の転送を行い、その転送を終了するとまたSuperHywayバスのバス権を他のバスマスタに渡します。これを転送終了条件が満たされるまで繰り返します。

図14.12にサイクルスチール通常モード1のDMA転送タイミング例を示します。

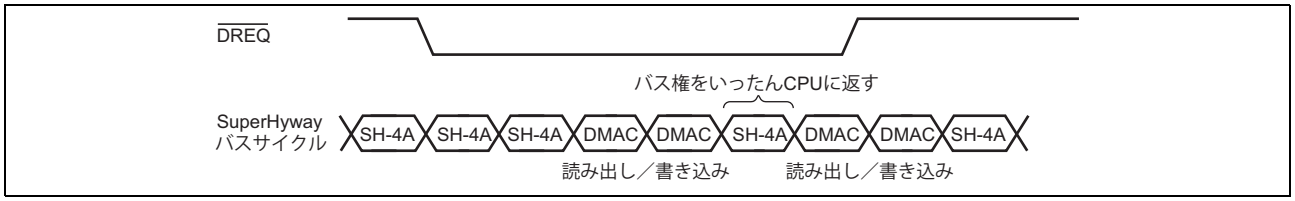


図 14.12　サイクルスチール通常モード1のDMA転送例（$\overline{\text{DREQ}}$ Lレベル検出）

- **通常モード2（CHCRレジスタのLCKNビット＝1、CHCRレジスタのTBビット＝0）**
  サイクルスチールの通常モード2では、DMACはSuperHywayバスのバス権の確保は行わず、1転送単位の読み出しサイクル、書き込みサイクルごとにSuperHywayバスのバス権を取りに行く転送です。図14.13にサイクルスチールモード2でのDMA転送タイミング例を示します。

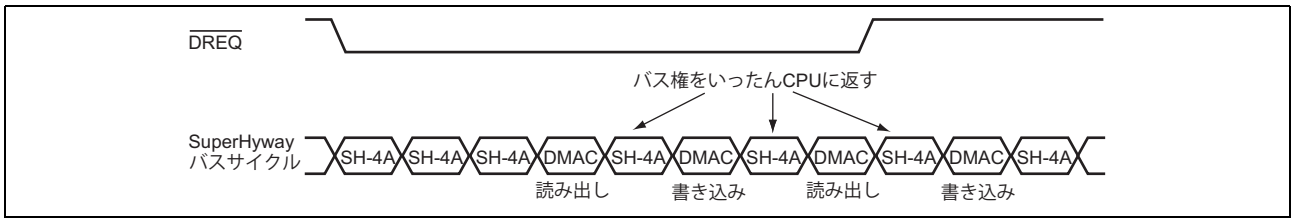


図 14.13　サイクルスチール通常モード2のDMA転送例（$\overline{\text{DREQ}}$ Lレベル検出）

- **インタミッテントモード16（DMAORレジスタのCMSビット＝10、CHCRレジスタのLCKNビット＝0又は1、CHCRレジスタのTBビット＝0）、**
  インタミッテントモード64（DMAORレジスタのCMSビット＝11、CHCRレジスタのLCKNビット＝0又は1、CHCRレジスタのTBビット＝0）
  サイクルスチールのインタミッテントモードでは、DMACは1回の転送単位（バイト、ワード、ロングワード、16バイト、又は32バイト単位）の転送を終了するたびに、SuperHywayバスのバス権を他のバスマスタに渡します。その後転送要求があれば、Pckで8クロック又は32クロック待った後に、次の転送要求を発行し、再び1転送単位の転送を行い、その転送を終了すると、またSuperHywayバスのバス権を他のバスマスタに渡します。これを転送終了条件が満たされるまで繰り返します。このためDMA転送によるバス占有割合を、サイクルスチール通常モード1、通常モード2に比べ、低く抑えることが可能です。
  なお、DMACが再び次の転送要求を発行するときに、キャッシュミスによるエントリの更新などが行われているときなどは、DMA転送がさらに待たされる場合があります。
  インタミッテントモードは、DMAOR0に対応する全チャネル（チャネル0～5）、又はDMAOR1に対応する全チャネル（チャネル6～11）のバスモードがサイクルスチールモードであることが必要です。
  図14.14にサイクルスチールインタミッテントモードのDMA転送タイミング例を示します。

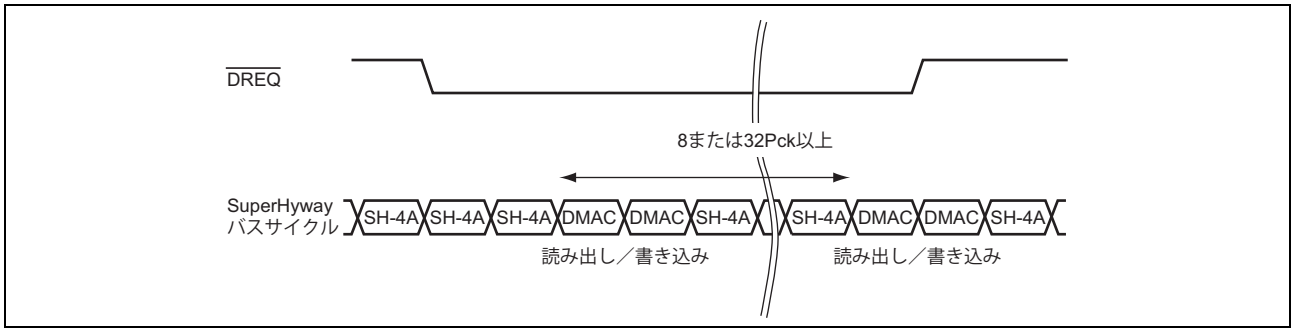


図 14.14　サイクルスチールインタミッテントモードのDMA 転送例（$\overline{\text{DREQ}}$ L レベル検出）

(b) バーストモード（LCKN＝0、TB＝1）

バーストモードではDMAC は一度 SuperHyway バスのバス権を取ると、転送終了条件が満たされるまでSuperHyway バスのバス権を解放せずに転送を続けます。ただし、外部リクエストモードで、$\overline{\text{DREQ}}$ をレベルで検出する場合には、$\overline{\text{DREQ}}$ がアクティブなレベルでなくなると、転送終了条件が満たされていなくても、すでに要求を受け付けたDMA 転送終了後に他のバスマスタにSuperHyway バスのバス権を渡します。

バーストモードは、周辺モジュールが転送要求元となっている場合には使用できません。

図14.15 にバーストモードのDMA 転送タイミングを示します。

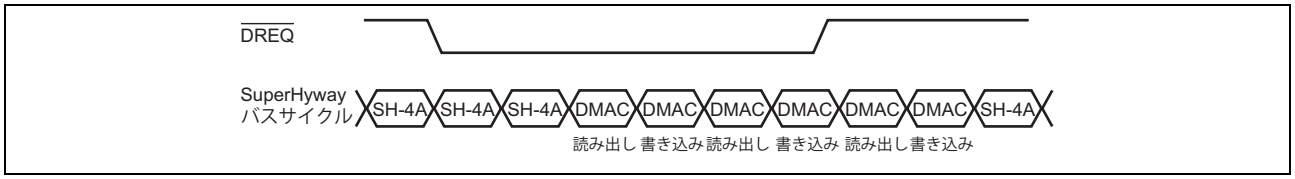


図 14.15　バーストモードのDMA 転送例（$\overline{\text{DREQ}}$ L レベル検出）

(3) DMA 転送区間

表14.9 にオートリクエストモードでのDMA 転送区間、表14.10 に外部リクエストモードでのDMA 転送区間、表14.11 に周辺モジュールリクエストモードでのDMA 転送区間を示します。

○：転送可能
×：転送不可

表14.9　オートリクエストモードでのDMA 転送区間

転送元	転送先			
	LBSC 空間	DDR 空間	周辺モジュール（注）	IL メモリ
LBSC 空間	○	○	○	○
DDR 空間	○	○	○	○
周辺モジュール（注）	○	○	○	○
IL メモリ	○	○	○	○

注．転送元又は転送先が周辺モジュールの場合、レジスタで許されるアクセスサイズでの転送。

表14.10　外部リクエストモードでのDMA 転送区間（チャネル0、1 のみ）

転送元	転送先			
	LBSC 空間	DDR 空間	周辺モジュール（注1）	IL メモリ
LBSC 空間	○	○（注2）	○	○
DDR 空間	○（注3）	×	○（注3）	○（注3）
周辺モジュール（注1）	○	○（注2）	○	○
IL メモリ	○	○（注2）	○	○

注1. 転送元又は転送先が周辺モジュールの場合、レジスタで許されるアクセスサイズでの転送。
2. AM ビット（CHCR レジスタのビット17）を0（読み出しサイクルでDACK を出力）に設定した場合は転送可能です。
3. AM ビット（CHCR レジスタのビット17）を1（書き込みサイクルでDACK を出力）に設定した場合は転送可能です。

表14.11　周辺モジュールリクエストモードでのDMA 転送区間

転送元	転送先			
	LBSC 空間	DDR 空間	周辺モジュール（注）	IL メモリ
LBSC 空間	×	×	○	×
DDR 空間	×	×	○	×
周辺モジュール（注）	○	○	○	○
IL メモリ	×	×	○	×

注．転送元又は転送先が周辺モジュールの場合、レジスタで許されるアクセスサイズでの転送。転送元又は転送先は周辺リクエストの要求元レジスタである必要があります。また、サイクルスチールモードのみ選択可能です。

(4)　バスモードとチャネルの優先順位

優先順位固定モード（CH0＞CH1）において、チャネル1がバーストモード転送中でも、それより優先順位の高いチャネル0に転送要求が発生すると、ただちにチャネル0の転送を開始します。

このとき、チャネル0もバーストモードの場合は、優先順位の高いチャネル0の転送がすべて終了してから、チャネル1の転送を継続します。

また、チャネル0がサイクルスチールモードの場合、まず優先順位の高いチャネル0が1転送単位の転送を行った後、バス権を解放せずに連続してチャネル1が転送されます。その後も、チャネル0→チャネル1→チャネル0→チャネル1というように交互に転送が行われます。

この例を図14.16に示します。競合するバーストモードが複数チャネルある場合は、その中で一番優先順位の高いチャネルが優先実行されます。

DMA転送を複数チャネルで行う場合は、競合するすべてのバースト転送が終了するまで、バス権はバスマスタに開放しません。

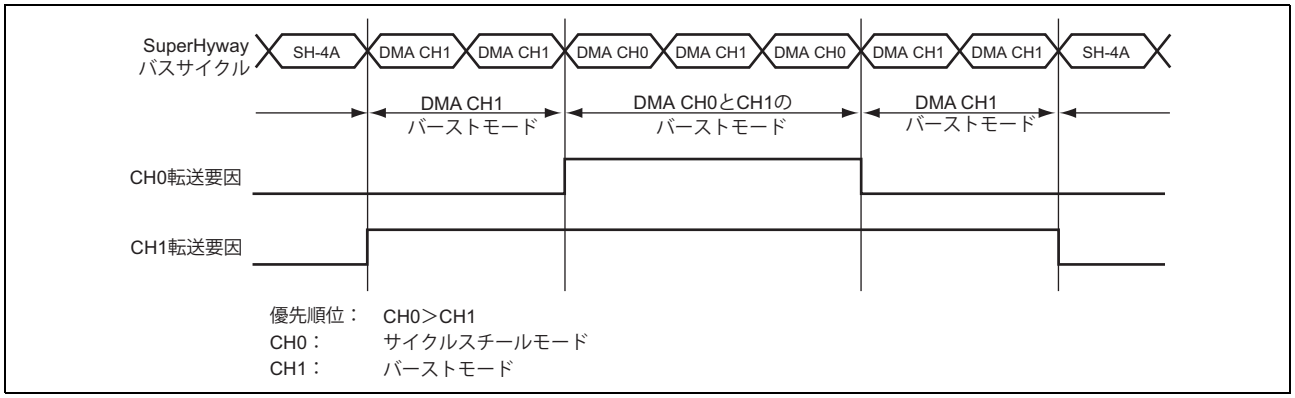


図 14.16　複数チャネルが動作する場合のバス状態

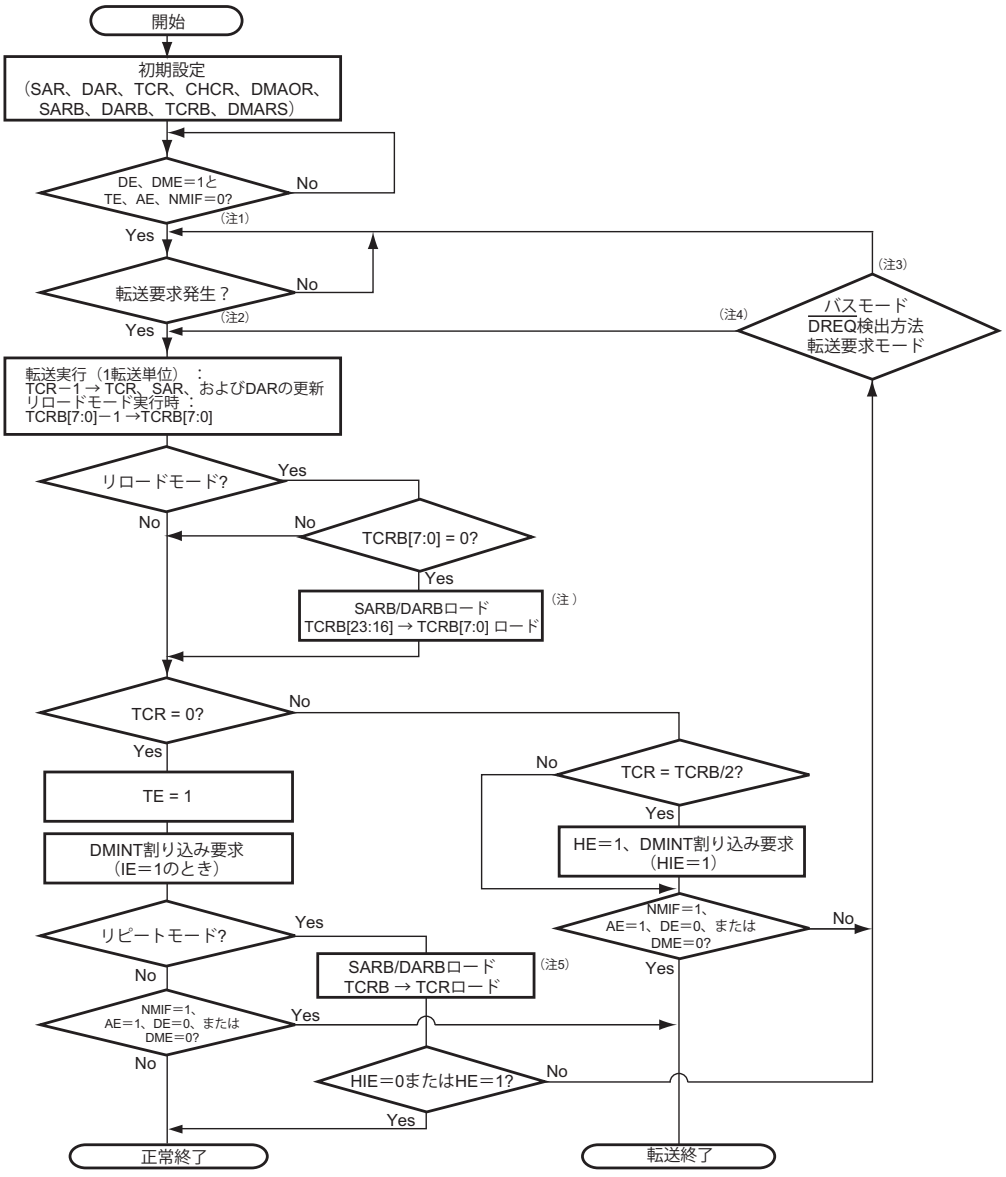
ラウンドロビンモードでは、図14.9に示した仕様で優先順位が変化します。ただし、バスモードがサイクルスチールモードのチャネルとバーストモードのチャネルを混在させることはできません。

14.4.4　転送フロー

DMAソースアドレスレジスタ（SAR）、DMAデスティネーションアドレスレジスタ（DAR）、DMAトランスファカウントレジスタ（TCR）、DMAチャネルコントロールレジスタ（CHCR）、DMAオペレーションレジスタ（DMAOR）、DMA拡張リソースセレクタ（DMARS）に目的の転送条件設定後、DMACは以下の順序でデータを転送します。

1. オートリクエストモード時は、DME＝1、TE＝0、AE＝0、NMIF＝0のとき、DE＝1にすると、転送を開始します。外部リクエスト及び周辺モジュールリクエスト時は、DE＝1、DME＝1、TE＝0、AE＝0、NMIF＝0のとき転送要求が発生すると、転送を開始します。
2. 1回の転送（1転送単位：TS2～TS0の設定により決定）を行うごとに、TCRの値を1デクリメントします。
3. 指定された回数の転送を終える（TCRの値が0になる）と、転送を正常に終了します。このときCHCRのIEビット＝1であれば、CPUにDMINT割り込みを発生します。
4. DMACによるアドレスエラー又はNMI割り込みが発生した場合には、転送を中断します。またCHCRのDEビット又はDMAORのDMEビットを“0”にしたときも転送を中断します。

図14.17にDMA転送のフローチャートを示します。



注1. リピートモード実行時、HIE＝1 かつHE＝0 （ハーフエンド割り込みを許可し、
HE＝1になった後HE＝0にクリアした場合）であれば、TE＝1 でも転送要求を受け付けます。
2. オートリクエストの場合、NMIF＝0,AE＝0 かつ、TE＝0 もしくはTE＝1、HE＝0、HIE＝1
（リピートモード時）で、DE、DME が1 にセットされると転送を開始します。
3. バーストモードでDREQ がレベル検出(外部リクエスト)か、サイクルスチールモード
4. バーストモードでDREQ がエッジ検出(外部リクエスト)か、バーストモードでオートリクエスト
5. SAR 及びDAR へのロードは、各モードの動作条件によって異なります。

図 14.17　DMA 転送フローチャート

14.4.5　データ転送モード

(1)　リピートモード

リピートモードを選択すると、転送元アドレス／転送先アドレス／転送回数を再設定することなく、繰り返しDMA転送を実行できます。RPT[2:0]ビットの設定により、それら３つの設定値を繰り返し使用する（RPT[2:0]＝001）、転送先アドレス／転送回数の設定値を繰り返し使用する（RPT[2:0]＝010）、転送元アドレス／転送回数の設定値を繰り返し使用する（RPT[2:0]＝011）のいずれかが選択できます。

図14.18にリピートモードを示します。

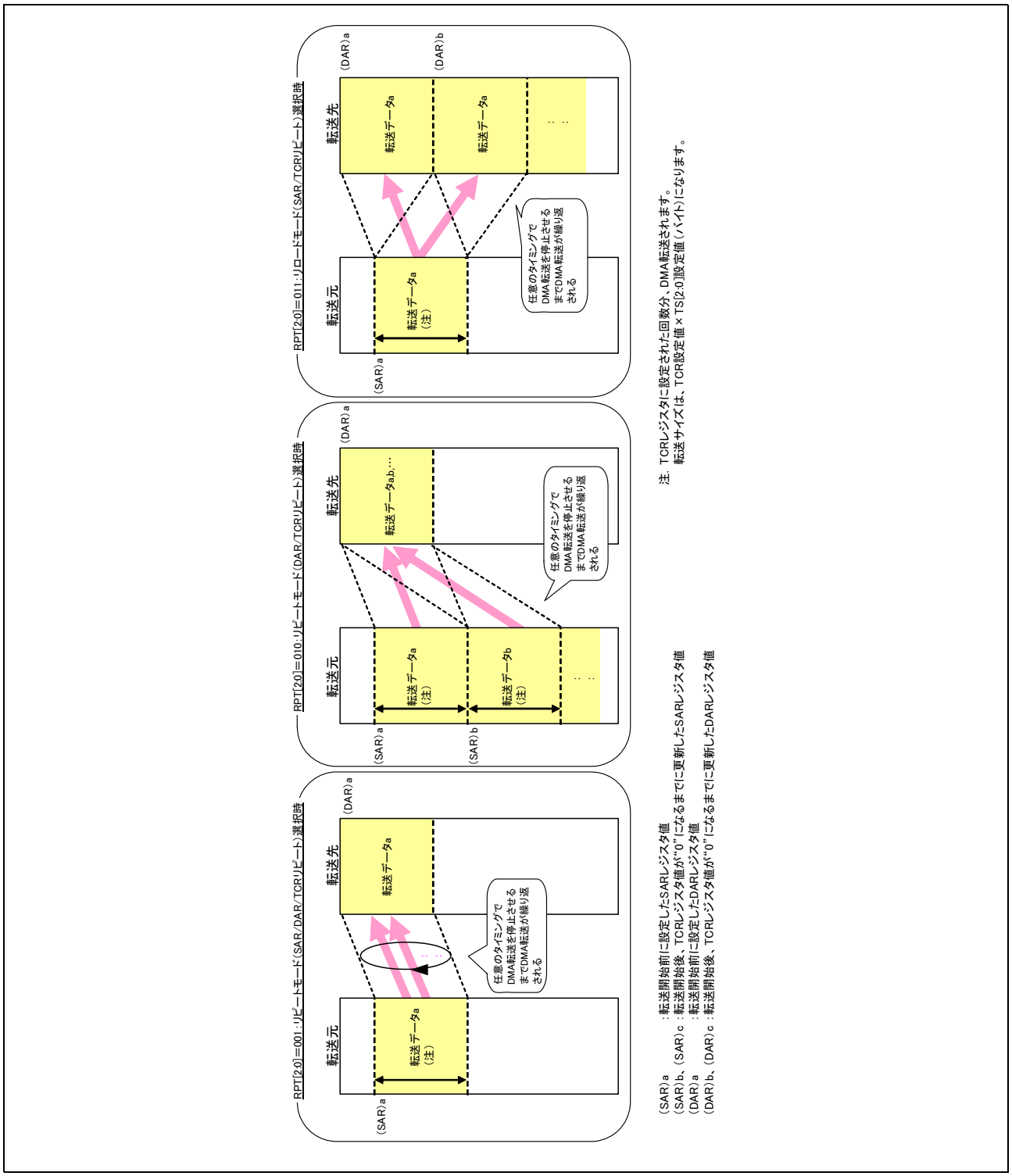


図 14.18　リピートモード

また、リピートモードをハーフエンド機能と同時に使用することで、ダブルバッファ転送を仮想的に実行できます。以下に、外部メモリから40ワードのデータを取り込むごとに順次処理を行う例について説明します。

1. DMACの設定
   SARに外部メモリのアドレスを設定します。
   DARに内部メモリのデータ格納領域のアドレスを設定します。
   TCRにH'50（80回）を設定します。
   CHCRに以下の設定をします。

RPT（ビット27、26、25）＝B'010	：リピートモード（DARをリピート領域として使用）
HIE（ビット18）＝B'1	：TCR/2の割り込み発生
DM（ビット15、14）＝B'01	：DARはインクリメント
SM（ビット13、12）＝B'00	：SARは固定
IE（ビット2）＝B'1	：割り込み許可
DE（ビット0）＝B'1	：DMA転送許可

   この他、TB、TSなど使用条件に合わせて設定。
   DMAORのCMS、PRを使用条件に合わせて設定し、DMEに1を設定します。
2. 1.の設定によりDMA転送開始
3. TCRが初期設定値の1/2になり割り込み発生。
   割り込み処理にて、CHCRを読み出しHE（ビット19）が1があることを確認した後HEを0にし、DARに設定したアドレスから40ワード分のデータの処理を実行。
4. TCRが0になり割り込み発生。
   割り込み処理にて、CHCRを読み出しTE（ビット1）が1であることを確認した後TEを0にし、DARに設定したアドレス＋40のアドレスから40ワード分のデータの処理を実行。
   この際、DMACでは、DARにDARBの値がコピーされ初期化されるとともに、TCRにもTCRBの値がコピーされ、初期値CH80に戻ります。
5. 以後、2.～4.がDME＝B'0もしくはDE＝B'0が設定されるか、NMI割り込みが発生するまで繰り返し実行されます（3.でHEを0にしなかった場合、又は4.でTEを0にしなかった場合、HE＝1かつTE＝1の条件で停止します）。

つまり、本機能を使用することで、順次受け取るデータの格納バッファと信号処理用のデータバッファとを交互に切り替えながら、逐次処理が可能となります。

(2) リロードモード

リロードモードを選択すると、TCR＝0になるまで、転送元アドレス／転送先アドレスを再設定することなく、TCRB[23:16]に設定した回数分DMA転送を実行できます。RPT[2:0]ビットの設定により、転送元アドレス／転送先アドレスの設定値を繰り返し使用する（RPT[2:0]＝101）、転送先アドレスの設定値を繰り返し使用する（RPT[2:0]＝110）、転送元アドレスの設定値を繰り返し使用する（RPT[2:0]＝111）のいずれかが選択できます。

このモードは、特定エリアを使ったデータ転送を繰り返し行う際に有効です。

図14.19にリロードモードを示します。

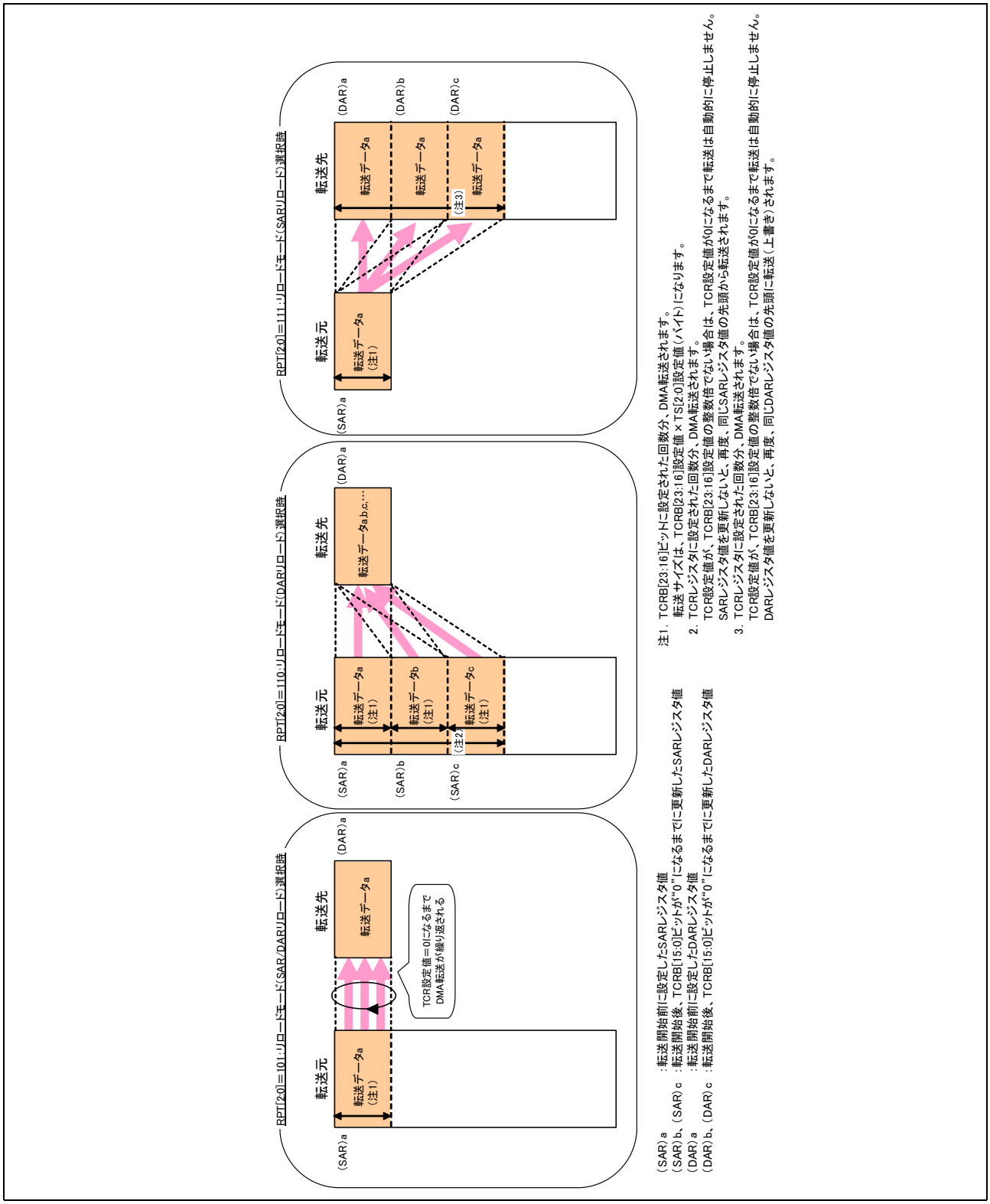


図 14.19　リロードモード転送

リロードモード時は、TCRB をリロードカウンタとして使用します。「14.3.6 DMA トランスファカウントレジスタ B0 ～ 3、6 ～ 9、12 ～ 15、18 ～ 21 （TCRB0 ～ 3、TCRB6 ～ 9、TCRB12 ～ 15、TCRB18 ～ 21）」を参照し、TCRB を設定してください。

14.5 使用上の注意

本DMAC を使用する際は、以下のことに注意してください。

14.5.1 モジュールストップについて

本 DMAC 動作中に、MSTPCR レジスタ設定によるモジュールストップを行わないでください。モジュールストップさせた場合、動作中の転送内容は保証できません。

14.5.2 アドレスエラーについて

DMA アドレスエラーが発生した場合、下記手順を行った後、DMAOR に対応する全チャネルの再設定をしてから転送を開始してください。

1. 下記モジュール関連レジスタへのダミーリード
   - LBSC　：BCR（バスステートコントロールレジスタ）
   - INTC　：INT2B3（内部モジュール割り込み要因レジスタ3）
     INT2A04（割り込み要因レジスタ04）
     INT2A05（割り込み要因レジスタ05）
   - IL メモリ
   - ETHER
2. SYNCO命令を発行
3. DMAアドレスエラーの発生したDMAORに対応する全チャネルの再設定
   - DMAOR0 レジスタの AE ビットが1にセットされた場合はチャネル0～5の再設定
   - DMAOR1 レジスタの AE ビットが1にセットされた場合はチャネル6～11の再設定
   - DMAOR2 レジスタの AE ビットが1にセットされた場合はチャネル12～17の再設定
   - DMAOR3 レジスタの AE ビットが1にセットされた場合はチャネル18～23の再設定

14.5.3 バーストモード転送時の注意

バーストモード転送中は、そのチャネルの転送が完了するまでスリープモードに遷移させないでください。

14.5.4 $\overline{\text{DACK}}$、$\overline{\text{TEND}}$ の分割出力

8 ビット外部デバイスや16 ビット外部デバイスに対するロングワードアクセス時、又は8 ビット外部デバイスに対するワードアクセス時など、DMA 転送単位が複数のバスサイクルに分割され、かつバスサイクル間でCS がネゲートする場合、データをアライメントするため$\overline{\text{CSn}}$ 同様に$\overline{\text{DACK}}$ 出力及び$\overline{\text{TEND}}$ 出力も分割されるので注意してください。

14.5.5 DMINT 割り込みのクリアについて

クリアしたDMINT 割り込みを再度受け付けないようにするために、INT2B3、INT2A04、INT2A05 レジスタの該当フラグが0 になったことを確認した後にBL ビットを0にするか、又はRTE 命令を実行してください。

14.5.6　外部バス幅を超えるDMA 転送サイズにおけるCSn 出力の設定

1 回のDMA 転送が複数のバスサイクルに分かれる場合 (注1)、それらのバスサイクル間でCSn がネゲートされないように設定してください (注2)。設定の詳細は表14.12 を参照してください。

バスサイクル間でCSn がネゲートされる設定をおこなった場合、DREQ のサンプリングが正しく行われず、誤動作する可能性があります。

注．LBSC 外部バス幅以上のDMA 転送単位で転送を行う場合。
例：8、16 ビットバス幅のエリアにロングワード（32 ビット）、16、32 バイト転送を行った場合、又は8 ビットのエリアにワード（16 ビット）転送を行った場合。

注．バスサイクル間でCSn がネゲートされる場合、DACK 出力もネゲートされます（DACK が分割されます）。

14.5.7　DACK のアサートとDREQ 検出について

2 回以上のDMA 転送において、DREQ レベル検出オーバラン1 、及びDREQ エッジ検出の場合、それぞれのDMA 転送の間もDACK がアサートされ続けてしまう場合 (注) があります。この場合、DMA 転送が途中で停止状態となり、正しく行われない可能性がありますので、下記のように設定して、それぞれのDMA 転送の間にアイドルを1 サイクル以上挿入してください。

転送元がLBSC 空間で、読み出しサイクルにDACK を出力する設定（CHCR レジスタのAM ビット＝0）の場合
(1) IWRRD＝B'001～B'111（別空間リードーリードサイクル間アイドルを1 サイクル以上挿入）
(2) IWRRS＝B'001～B'111（同一空間リードーリードサイクル間アイドルを1 サイクル以上挿入）

転送先がLBSC 空間で、書き込みサイクルにDACK を出力する設定（CHCR レジスタのAM ビット＝1）の場合
(1) IWW＝B'00～B'111（ライトーリード／ライトーライトサイクル間アイドルを1 サイクル以上挿入）

IWRRD ビット：CSnBCR レジスタのビット18～16
IWRRS ビット ：CSnBCR レジスタのビット14～12
IWW ビット：CSnBCR レジスタのビット30～28

注．転送元がLBSC 空間で読み出しサイクルにDACK を出力する設定の場合、又は転送先がLBSC 空間で書き込みサイクルにDACK を出力する設定の場合で、アイドルサイクルなしを設定（CSnBCR レジスタのIWRRD ビット、IWRRS ビット、IWW ビットにB'000 を設定）した場合。転送元と転送先がともにLBSC 空間の場合は該当しません。

表14.12 に1 回のDMA 転送におけるバスサイクル発生数とLBSC のレジスタ設定を示します。本設定により、複数のバスサイクルが発生した場合においても、CSn はネゲートされません。なお、下記設定において、転送元又は転送先のどちらか一方のみがLBSC 空間の場合、2 回以上のDMA 転送の間もDACK がアサートされ続けてしまうのを避けるため、CSnBCR レジスタのIWRRD ビット、IWRRS ビット 又はIWW ビットをB'001～B'111 に設定してください。この場合、16 バイト転送では複数のバスサイクルが発生し、かつそれらバスサイクルの間でCSn がネゲートされるためDREQ のサンプリングが正しく行われず、誤動作する可能性がありますので注意してください。

表14.12　1回のDMA 転送におけるバスサイクル発生数とLBSC のレジスタ設定
（SRAM、バーストROM、バイト制御SRAM インタフェース使用時）

バス幅[ビット]	DMA 転送のアクセスサイズ	バスサイクル発生数	$\overline{\text{CSn}}$ がネゲートされない設定	
			IWRRD、IWRRS、又は IWW	ADS 、及び ADH
8	バイト	1	任意	任意
	ワード	2	任意	B'000
	ロングワード	4	任意	B'000
	16 バイト	16	B'000	B'000
	32 バイト	32	任意	B'000
16	バイト	1	任意	任意
	ワード	1	任意	任意
	ロングワード	2	任意	B'000
	16 バイト	8	B'000	B'000
	32 バイト	16	任意	B'000

注.　IWRRD ビット：CSnBCR レジスタのビット18～16
IWRRS ビット　：CSnBCR レジスタのビット14～12
IWW ビット　　：CSnBCR レジスタのビット30～28
ADS ビット　　：CSnWCR レジスタのビット30～28
ADH ビット　　：CSnWCR レジスタのビット26～24

15. シリアルペリフェラルインタフェース（SPI0）

本LSIは、外部SPIフラッシュメモリからのブート機能を実現するためのシリアルペリフェラルインタフェース（SPI0）を内蔵しています。SPI0は、「外部SPIフラッシュメモリ→内蔵ILメモリ」と「外部SPIフラッシュメモリ→（SHwy経由）→外部DDR3メモリ」の2種類のデータ転送を行います。

SPI0の位置付けを図15.1に示します。

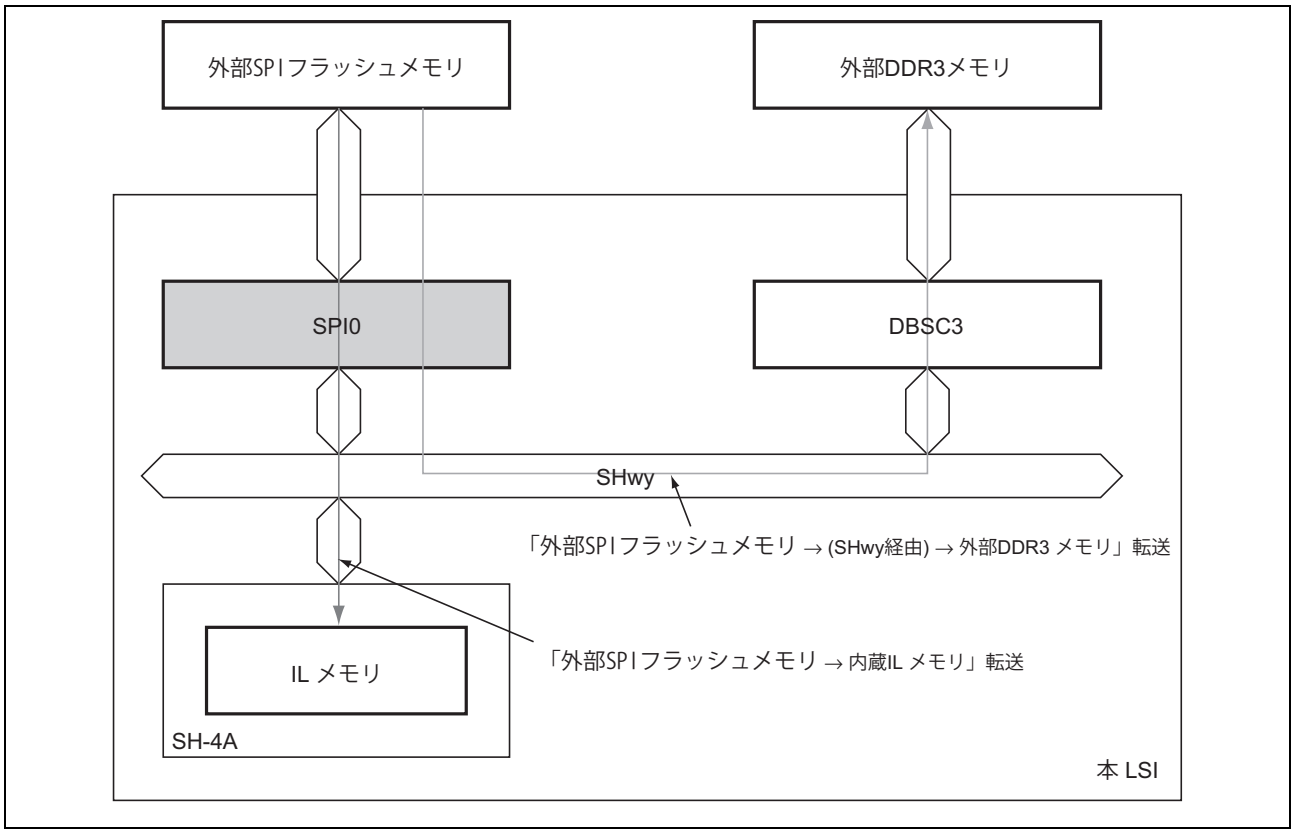


図 15.1　SPI0 の位置付け

図15.1に示すようにSPI0は、外部SPIフラッシュメモリとSHwyに接続され、「外部SPIフラッシュメモリ→ 内蔵ILメモリ」転送と「外部SPIフラッシュメモリ→（SHwy経由）→外部DDR3メモリ」転送を制御します。

15.1 特長

15.1.1 特長

SPI0 の特長を以下に示します。

- 転送データサイズ
  内蔵ILメモリアクセス、外部DDR3メモリアクセスともに32バイト単位

- 最大転送バイト数
  内蔵ILメモリアクセス：2,048バイト固定
  外部DDR3メモリアクセス：最大128Mバイトの設定が可能

- 送信FIFO／受信FIFO
  各8ビット×32段（32バイト）

- シリアルデータ
  MSBからの送信／受信、LSBからの送信／受信を選択可能

- ソフトウェアリセット
  ソフトウェアリセット可能
  送信FIFO／受信FIFOをリセット可能

- 割り込み要求
  - 転送終了割り込み
  - 送信FIFOエンプティ割り込み
  - 送信FIFOフル割り込み
  - 受信FIFOエンプティ割り込み
  - 受信FIFOフル割り込み

- 4本のチップセレクト信号
  ４本のチップセレクト信号でそれぞれの外部SPIフラッシュメモリを制御可能

- デュアルアウトプットモードをサポート
  注.デュアルインプットモードには対応していません。

- ABR (オルタネートブートブロックリカバリ) 機能
  SPI0は、チップセレクト領域 0に接続されたSPI フラッシュメモリ空間（上位半分、もしくは下位半分の領域）がブート領域になります。
  ABR機能により、メモリ空間の上位半分、もしくは下位半分を自動的にブート領域に割り付けます。
  ABR機能の詳細については、「17. リセット、ウォッチドッグタイマ（WDT）」を参照してください。
  専用端子のBOOTFMSによる、最初の読み出しアクセス時にSPI フラッシュメモリ空間の上位半分（BOOTFMS＝H）、または下位半分（BOOTFMS＝L）を選択できます。

- 外部SPIフラッシュメモリのサイズは4種類(1MB、2MB、4MB、8MB)から選択（その他のサイズには対応していません）
  BOOTSZ0、BOOTSZ1端子により、SPI フラッシュサイズ（1MB、2MB、4MB、8MB）を指定可能

- アクセス可能なSPI フラッシュメモリ空間について
  (i) SP0-SS0端子を使用
    a) 読み出し動作時
      - 接続されているSPI フラッシュメモリの上位半分の空間
      （SPI フラッシュメモリの上位半分の空間からブート時、またはOR0 のFMS ビット＝1 時）
      - 接続されているSPI フラッシュメモリの全空間
      （SPI フラッシュメモリの下位半分の空間からブート時、またはOR0 のFMS ビット＝0 時）

b) 書き込み動作時
接続されているSPIフラッシュメモリの全空間（1MB、2MB、4MB、8MB）

(ii) $\overline{\text{SP0-SS1}}$端子、$\overline{\text{SP0-SS2}}$端子、$\overline{\text{SP0-SS3}}$端子を使用
a) 読み出し／書き込み動作時
SPIフラッシュメモリの全空間（1MB、2MB、4MB、8MB）

- ライトプロテクト領域のサイズを３種類から選択可能
BOOTWPSZ0、BOOTWPSZ1端子でライトプロテクト領域のサイズ(64KB、128KB、256KB)を選択します。ライトプロテクト領域はメモリ空間の上位半分と下位半分の最下位アドレスから割り付けられます。BOOTWP端子でライトプロテクト領域のライトプロテクト機能を制御します。

15.1.2　外部SPIフラッシュメモリからのブートシーケンス

MD6端子でSH-4Aのブート動作を制御します。MD6端子がHの状態でパワーオンリセットを解除すると外部SPIフラッシュメモリからブート動作を開始します。ブート動作は最初にハードウェア転送を行い、その後、ソフトウェア転送を行います。転送条件は「バースト長を３２バイト固定」、及び「アドレスインクリメントアクセス」です。

(1)　ハードウェアデータ転送

- 外部SPIフラッシュメモリ → 内蔵ILメモリ
MD6端子がHの状態でパワーオンリセットを解除するとハードウェアデータ転送を開始します。この転送でソフトウェアデータ転送を行うための初期設定プログラム及びリセット例外処理プログラムを内蔵ILメモリに転送してください。リセット例外処理に関しては「17. リセット、ウォッチドッグタイマ（WDT）」を参照してください。

(2)　ソフトウェアデータ転送

- 外部SPIフラッシュメモリ →（SHwy経由）→ 外部DDR3メモリ
ソフトウェアデータ転送はSH-4AでSPIDMCORのDMENビットを"1"にすると転送を開始します。ソフトウェアデータ転送でプログラムを外部DDR3メモリに展開してください。

15.2　ブロック図

SPI0 のブロック図を図15.2 に示します。図15.2 に示すようにSPI0 は、SPI コアとSPI SHwyIF から構成されます。

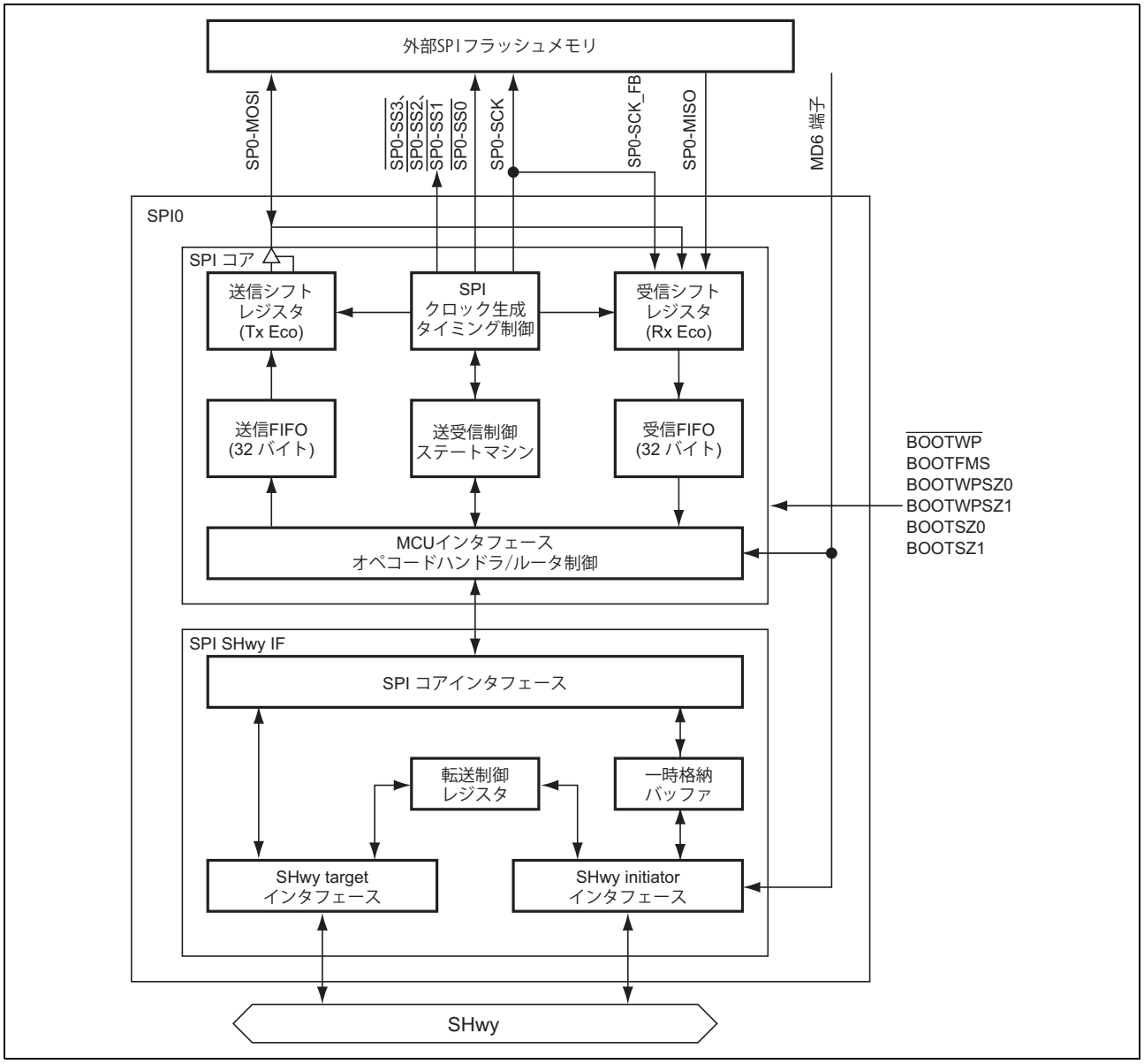


図 15.2　ブロック図

15.3 入出力端子

SPI0 の入出力端子を表15.1 に示します。

表15.1 端子構成

名 称	記号	入出力	機 能
SPI0 マスタ出力	SP0-MOSI	入出力	SPI0 マスタデータ入出力端子
SPI0 マスタ入力	SP0-MISO	入力	SPI0 マスタデータ入力端子
SPI0 クロック	SP0-SCK	出力	SPI0 シリアルクロック出力端子
SPI0 クロックフィードバック	SP0-SCK_FB	入力	SPI0 シリアルクロックフィードバック入力端子
SPI0 チップセレクト 3	$\overline{\text{SP0-SS3}}$	出力	SPI0 スレーブデバイス3 セレクト出力端子
SPI0 チップセレクト2	$\overline{\text{SP0-SS2}}$	出力	SPI0 スレーブデバイス2 セレクト出力端子
SPI0 チップセレクト 1	$\overline{\text{SP0-SS1}}$	出力	SPI0 スレーブデバイス1 セレクト出力端子
SPI0 チップセレクト0	$\overline{\text{SP0-SS0}}$	出力	SPI0 スレーブデバイス0 セレクト出力端子
SPI0 ブートフラッシュライトプロテクト	$\overline{\text{BOOTWP}}$	入力	L ：SPI0ライトプロテクト有効 H ：SPI0ライトプロテクト無効
SPI0 ライトプロテクトサイズ	BOOTWPSZ0、BOOTWPSZ1	入力	SPI1 フラッシュライトプロテクトエリアのサイズを選択 LL ：256 KB LH ：512 KB HL ：1 MB HH ：設定禁止
SPI ブートフラッシュメモリ領域選択 （ABR開始アドレス）	BOOTFMS	入力	SPI0のABR動作の初期ロード領域を選択 L ：SPI0はSPI フラッシュメモリエリアの下半分からロード H ：SPI0はSPI フラッシュメモリエリアの上半分からロード
SPI ブートフラッシュメモリデバイスサイズ選択	BOOTSZ0、BOOTSZ1	入力	SPI0 フラッシュロジカルサイズ（ABR用）を設定 LL ：1 MB LH ：2 MB HL ：4 MB HH ：8 MB
SPI0 モジュール設定	SPI0VER	入力	Lを入力してください
SPI0 ブートイネーブル	MD6	入力	MD 6 端子の状態がH レベルのとき、SPI0のブート機能は有効です。 その際、LBSCの $\overline{\text{CS0}}$ 空間は使用できません。

15.4　レジスタの説明

SPI0 のレジスタ構成、及び各処理モードにおけるレジスタの状態を表15.2 に示します。

指定されたビット幅で、レジスタにアクセスしてください。指定されたビット幅以外のサイズでレジスタにアクセスした場合、動作は保証できません。

表15.2　レジスタ構成

名 称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
					パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウエアリセット(注2)
WDMA 転送先アドレスレジスタ	SPIWDMADR	R/W	H'FE00 1018	32	H'0020 0000	H'0020 0000	H'0020 0000
WDMA転送語数レジスタ	SPIWDMCNTR	R/W	H'FE00 1020	32	H'0000 0800	H'0000 0800	H'0000 0800
DMA コントロールレジスタ	SPIDMCOR	R/W	H'FE00 1028	32	H'0000 000X	H'0000 000X	H'0000 000X
割り込みステータスレジスタ	SPIDMINTSR	R/W	H'FE00 1188	32	H'0000 000X	H'0000 000X	H'0000 000X
割り込みマスクレジスタ	SPIDMINTMR	R/W	H'FE00 1190	32	H'0000 0007	H'0000 0007	保持
SPI コア送信バッファレジスタ	TBR	W	H'FE00 2000	32	H'XXXX XXXX	H'XXXX XXXX	H'XXXX XXXX
SPI コア受信バッファレジスタ	RBR	R	H'FE00 2000	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
SPI コアコントロール／ステータスレジスタ1	CR1	R/W	H'FE00 2008	32	H'0000 00AX	H'0000 00AX	保持
SPIコアコントロールレジスタ2	CR2	R/W	H'FE00 2010	32	H'0000 0007	H'0000 0007	保持
SPI コアコントロールレジスタ3	CR3	R/W	H'FE00 2018	32	H'0000 00XX	H'0000 00XX	保持
SPI コアコントロールレジスタ4	CR4	R/W	H'FE00 2020	32	H'0000 0002	H'0000 0002	保持
SPI コアコントロールレジスタ5	CR5	R/W	H'FE00 2028	32	H'0000 0000	H'0000 0000	保持
SPI コアコントロールレジスタ6	CR6	R/W	H'FE00 2030	32	H'0000 0000	H'0000 0000	保持
SPI コアコントロールレジスタ7（インデックスレジスタ）	CR7	R/W	H'FE00 2038	32	H'0000 0000	H'0000 0000	保持
SPIコアコントロールレジスタ8（データレジスタ）	CR8	R/W	H'FE00 2040	32	H'0000 0000	H'0000 0000	保持
SPI オペレーションレジスタ0（コンフィグレーションインプット状態）	OR0	R/W	N/A（注1）	32	H'0000 00XX	H'0000 00XX	保持
SPI オペレーションレジスタ1（WRPG オペコード）	OR1	R/W	N/A（注1）	32	H'0000 0002	H'0000 0002	保持
SPI オペレーションレジスタ2（ER32 オペコード）	OR2	R/W	N/A（注1）	32	H'0000 0052	H'0000 0052	保持
SPI オペレーションレジスタ3（ER64 オペコード）	OR3	R/W	N/A（注1）	32	H'0000 00D8	H'0000 00D8	保持
SPI オペレーションレジスタ4（ERSC オペコード）	OR4	R/W	N/A（注1）	32	H'0000 0020	H'0000 0020	保持
SPI オペレーションレジスタ5（ERC1 オペコード）	OR5	R/W	N/A（注1）	32	H'0000 0060	H'0000 0060	保持
SPI オペレーションレジスタ6（ERC2 オペコード）	OR6	R/W	N/A（注1）	32	H'0000 00C7	H'0000 00C7	保持
SPI オペレーションレジスタ7（READ オペコード）	OR7	R/W	N/A（注1）	32	H'0000 0003	H'0000 0003	保持
SPI オペレーションレジスタ8（RDFT オペコード）	OR8	R/W	N/A（注1）	32	H'0000 000B	H'0000 000B	保持

SPI オペレーションレジスタ 9（RDDO オペコード）	OR9	R/W	N/A（注1）	32	H'0000 003B	H'0000 003B	保持
SPI オペレーションレジスタ A（WPA ビット23～16）	ORA	R/W	N/A（注1）	32	H'0000 0000	H'0000 0000	保持
SPI オペレーションレジスタ B（WPA ビット15～8）	ORB	R/W	N/A（注1）	32	H'0000 0000	H'0000 0000	保持
SPI オペレーションレジスタ C（WPA ビット7～0）	ORC	R/W	N/A（注1）	32	H'0000 0000	H'0000 0000	保持
SPI オペレーションレジスタ D（WpM ビット23～16）	ORD	R/W	N/A（注1）	32	H'0000 0000	H'0000 0000	保持
SPI オペレーションレジスタ E（WpM ビット15～8）	ORE	R/W	N/A（注1）	32	H'0000 0000	H'0000 0000	保持
SPI オペレーションレジスタ F（WpM ビット7～0）	ORF	R/W	N/A（注1）	32	H'0000 0000	H'0000 0000	保持

注1. インデックス レジスタ（CR7）、データレジスタ（CR8）の一組を介してアクセスできないレジスタです。
2. SPIDMCOR レジスタの DMRST ビットを1に設定してください。

15.4.1　WDMA 転送先アドレスレジスタ（SPIWDMADR）

SPIWDMADR は、読み出し／書き込み可能な32 ビットのレジスタで、DMA 転送時のデータの転送先の外部DDR3 メモリアドレスを設定します。

本レジスタの値は、パワーオンリセット、マニュアルリセット、及び SPI SHwyIF のソフトウェアリセット（DMRST ビット（SPIDMCOR レジスタ のビット31））時に初期化されます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	WDMADR[31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	WDMADR[15:5]											—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 22	WDMADR31 ～ WDMADR22	0	R/W	DMA 転送先アドレス 本ビットは、DMA 転送時のデータ転送先の外部DDR3メモリアドレスを設定します
21	WDMADR21	1	R/W	
20 ～ 5	WDMADR20 ～ WDMADR5	0	R/W	
4 ～ 0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

15.4.2　WDMA 転送語数レジスタ（SPIWDMCNTR）

SPIWDMCNTR は、読み出し／書き込み可能な32 ビットのレジスタで、DMA 転送時のデータの転送語数（バイト数）を設定します。

本レジスタの値は、パワーオンリセット、マニュアルリセット及びSPI SHwyインタフェースのソフトウェアリセット(DMRST ビット（SPIDMCOR レジスタのビット31）を” 1 ”に設定)時に初期化されます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	WDMCNT[31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	WDMCNT[15:5]											—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 12	WDMCNT31 ～ WDMCNT12	0	R/W	DMA 転送語数 本ビットは、DMA 転送時のデータの転送語数を32 バイト単位で設定します。
11	WDMCNT11	1	R/W	
10 ～ 5	WDMCNT10～ WDMCNT5	0	R/W	
4～ 0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

15.4.3　DMAコントロールレジスタ（SPIDMCOR）

SPIDMCOR は、SPI SHwyIF の動作／停止の制御を行います。

本レジスタの値は、ビット31（DMRST）を除きパワーオンリセット、マニュアルリセット、及びSPI SHwyIF のソフトウェアリセット（SPIDMCOR レジスタ のDMRST ビットを 1 に設定）時に初期化されます。ビット31（DMRST）は、パワーオンリセット、及びマニュアルリセットにて初期化されます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	DMRST	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	DMEN
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0/1 (注)
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31	DMRST	0	R/W	SPI SHwyIF ソフトウェアリセット 本ビットは、SPI SHwyIF をリセットし、転送を中止します。 読み出すと常に0 が読み出されます。 0：ソフトウェアリセット無効 1：ソフトウェアリセット有効
30 ～ 1	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
0	DMEN	0/1(注)	R/W	SPI SHwyIF イネーブル 本ビットは、SPI SHwyIF のDMA 転送動作を許可／禁止します。 0：動作停止 1：動作許可

注．　DMEN ビットの初期値は、MD6 端子の設定によって異なります。
MD6 = L 時　：DMEN = 0（動作停止）
MD6 = H 時　：DMEN = 1 （動作許可）

15.4.4　割り込みステータスレジスタ（SPIDMINTSR）

SPIDMINTSR は、SPI SHwyIF の転送終了割り込み要因を示します。

本レジスタの値は、パワーオンリセット、マニュアルリセット、及び SPI SHwyIF のソフトウェアリセット時に初期化されます。割り込みマスクレジスタ（SPIDMINTMR）で転送終了割り込みが許可されていれば、SH-4A に対して割り込みを要求します。

SPIDMINTSR の各ビットは、1 書き込みで 0 クリアされます。0 書き込み時は無視されます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	DMEND	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	X	X
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/(W)	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 3	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
2	DMEND	0	R/(W)	転送終了 本ビットは、SPIWDMCNTR に設定された分のデータ転送が終了したことを示します。 0：SPIWDMCNTR に設定された分のデータ転送が終了していない 1：SPIWDMCNTR に設定された分のデータ転送が終了した
1、0	—	X	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

15.4.5　割り込みマスクレジスタ（SPIDMINTMR）

SPIDMINTMR は、SPI SHwyIF の転送終了割り込み要因をマスクします。

本レジスタの値は、パワーオンリセット、及び SPI SHwyIF のマニュアルリセット（SPIDMCOR レジスタ の DMRST ビットを” 1 ”に設定）時に初期化されます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	DMENDM	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 3	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
2	DMENDM	1	R/W	DMEND 割り込み要因マスク 本ビットは、DMEND 割り込み要因のマスクを設定します。 0：DMEND 割り込み要因をマスクしない 1：DMEND 割り込み要因をマスクする
1、0	—	1	—	リザーブビット （読み出すと“1”が読めます。書き込む値は“1”にしてください）

15.4.6　SPI コア送信バッファレジスタ（TBR）

TBR は、書き込みのみ可能な32 ビットのレジスタで、外部SPI フラッシュメモリへ転送するデータを設定します。

TBR にデータを書き込むごとに、送信FIFO のライトポインタがインクリメントされます。送信FIFO の状態は、TBE、TBF ビット（CR 1 レジスタ のビット7、6）から読み出され検出されます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	TXD							
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	W	W	W	W	W	W	W	W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～8	—	—	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
7～0	TXD	—	W	送信データ 本ビットは、外部SPI フラッシュメモリへ転送するデータを設定します。

15.4.7　SPI コア受信バッファレジスタ（RBR）

RBR は、読み出しのみ可能な32 ビットのレジスタで、外部SPI フラッシュメモリから受信したデータを示します。

RBR のデータを読み出すごとに、受信FIFO のリードポインタがインクリメントされます。受信FIFO の状態は、RBE、RBF ビット（CR 1 レジスタのビット5、4）から読み出され検出されます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	RXD							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～8	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
7～0	RXD	0	R	受信データ 本ビットは、外部SPI フラッシュメモリから受信したデータを示します。

15.4.8　SPI コアコントロール／ステータスレジスタ 1（CR1）

CR1 は、読み出し／書き込み可能な32 ビットのレジスタで、SPI コア内送信FIFO／受信FIFO の状態を示し、SP0-SS3、SP0-SS2、SP0-SS1、SP0-SS0 端子出力の許可／禁止を設定します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	TBE	TBF	RBE	RBF	—	SSDB	SSD	SSA
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0/1 (注)
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R	R	R	R	—	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 8	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
7	TBE	1	R	SPI コア内送信FIFO エンプティフラグ 本ビットは、SPI コア内送信FIFO がエンプティであることを示します。TBEI ビット（CR4 レジスタのビット7）が”1” のとき、本フラグが”1” になるとSPI コア内送信FIFO エンプティ割り込みが発生します。 [セット条件] データ送信によりSPI コア内送信FIFO がエンプティになったとき パワーオンリセット及びFIFO リセット（RSTF ビット（CR2 レジスタのビット7）＝1）時 [クリア条件] TBR に送信データが書き込まれて、SPI コア内送信FIFO がエンプティでなくなったとき
6	TBF	0	R	SPI コア内送信FIFO フルフラグ 本ビットは、SPI コア内送信FIFO がフルであることを示します。CR4 レジスタ のTBFI ビットが”1” のとき、本フラグが”1” になるとSPI コア内送信FIFO フル割り込みが発生します。 [セット条件] TBR に送信データが書き込まれて、SPI コア内送信FIFO がフルになったとき [クリア条件] データ送信によりSPI コア内送信FIFO がフルでなくなったとき パワーオンリセット及びFIFO リセット（CR2 レジスタのRSTF ビット＝1）時

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
5	RBE	1	R	SPI コア内受信FIFO エンプティフラグ 本ビットは、SPI コア内受信FIFO がエンプティであることを示します。RBEI ビット（CR4 レジスタのビット5）が”1” のとき、本フラグが”1” になるとSPI コア内受信FIFO エンプティ割り込みが発生します。 ［セット条件］ RBR の最後の受信データが読み出され、SPI コア内受信FIFO がエンプティになったとき パワーオンリセット及びFIFO リセット（CR2 レジスタのRSTF ビット＝1）時 ［クリア条件］ データ受信によりSPI コア内受信FIFO がエンプティでなくなったとき
4	RBF	0	R	SPI コア内受信FIFO フルフラグ 本ビットは、SPI コア内受信FIFO がフルであることを示します。RBFI ビット（CR4 レジスタのビット4）が”1” のとき、本フラグが”1” になるとSPI コア内受信FIFO フル割り込みが発生します。 ［セット条件］ データ受信によりSPI コア内受信FIFO がフルになったとき ［クリア条件］ RBR の受信データが読み出され、SPI コア内受信FIFO がフルでなくなったとき パワーオンリセット及びFIFO リセット（CR2 レジスタのRSTF ビット＝1）時
3	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
2	SSDB	0	R/W	バースト終了による $\overline{\text{SP0-SS3}}$、$\overline{\text{SP0-SS2}}$、$\overline{\text{SP0-SS1}}$、$\overline{\text{SP0-SS0}}$ デアサートイネーブル 本ビットは、バースト終了による $\overline{\text{SP0-SS3}}$、$\overline{\text{SP0-SS2}}$、$\overline{\text{SP0-SS1}}$、SP0-SS0 のネゲートの許可／禁止の設定します。詳細はSSD ビットの説明を参照してください。
1	SSD	0	R/W	SPI サイクル終了による $\overline{\text{SP0-SS3}}$、$\overline{\text{SP0-SS2}}$、$\overline{\text{SP0-SS1}}$、$\overline{\text{SP0-SS0}}$ デアサートイネーブル 本ビットは、SPI サイクル終了による $\overline{\text{SP0-SS3}}$、$\overline{\text{SP0-SS2}}$、$\overline{\text{SP0-SS1}}$、SP0-SS0 のネゲートを制御します。SSDB、SSD ビットの設定により下記の3 モードを選択することができます。 • モード 0 (SSDB = 0、SSD = 0) SSD ビットに1 が書き込まれるまで、$\overline{\text{SP0-SS3}}$、$\overline{\text{SP0-SS2}}$、$\overline{\text{SP0-SS1}}$、SP0-SS0 はネゲートされない。 • モード 1 (SSDB = 0/1、SSD = 1) $\overline{\text{SP0-SS3}}$、$\overline{\text{SP0-SS2}}$、$\overline{\text{SP0-SS1}}$、SP0-SS0 はSPI サイクル終了により自動的にネゲートされる。 • モード 2 (SSDB = 1、SSD = 0) $\overline{\text{SP0-SS3}}$、$\overline{\text{SP0-SS2}}$、$\overline{\text{SP0-SS1}}$、SP0-SS0 は、最後のSPI サイクル終了によってのみ自動的にネゲートされる。最後のSPI サイクルは、SPI コア内送信FIFO がエンプティになりかつプリフェッチ要求がない（PFC ビット（CR3 レジスタのビット7～0）＝0）という条件で識別される。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
0	SSA	0/1(注)	R/W	$\overline{\text{SP0-SS3}}$、$\overline{\text{SP0-SS2}}$、$\overline{\text{SP0-SS1}}$、$\overline{\text{SP0-SS0}}$ アサートイネーブル 本ビットは、SPI サイクルによる $\overline{\text{SP0-SS3}}$、$\overline{\text{SP0-SS2}}$、$\overline{\text{SP0-SS1}}$、$\overline{\text{SP0-SS0}}$のアサートの許可／禁止を設定します。 0: TBE ビット、PFC ビットの状態にかかわらず、$\overline{\text{SP0-SS3}}$、$\overline{\text{SP0-SS2}}$、$\overline{\text{SP0-SS1}}$、$\overline{\text{SP0-SS0}}$ のアサートを行わず、SPI サイクルを開始しません。 1: TBE ビット、PFC ビットの状態により、$\overline{\text{SP0-SS3}}$、$\overline{\text{SP0-SS2}}$、$\overline{\text{SP0-SS1}}$、$\overline{\text{SP0-SS0}}$ のアサートを行い、SPI サイクルを開始します。（SPI 送信サイクルはTBE＝0 の状態で、SPI 受信サイクルはTBE＝1 かつCR3 レジスタのPFC ビット>0 の状態で開始されます。）

注. SSA ビットの初期値は、MD6 端子の設定により変動します。
MD6 = L 時　: SSA = 0 （許可しない）
MD6 = H 時　: SSA = 1（許可する）

15.4.9　SPI コアコントロールレジスタ 2（CR2）

CR2 は、読み出し／書き込み可能な32 ビットのレジスタで、SPI コアの動作を制御します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	RSTF	—	CPOL	CPHA	L1M0	DIVCODE		
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 8	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
7	RSTF	0	R/W	SPI コア内送信FIFO／受信FIFO リセット 本ビットは、SPI コア内送信FIFO／受信FIFO をリセットします。 0：FIFO リセット無効。 1：FIFO リセット有効。SPI コア内送信FIFO のライトポインタ、SPI コア内受信FIFO のリードポインタをリセットし、CR1 レジスタのTBE、TBF ビットに”１”をセットし、CR1 レジスタのRBE、RBF ビットを”１”にクリアします。
6	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
5	CPOL	0	R/W	SP0-SCK 極性選択 本ビットは、SP0-SCK インアクティブ信号レベルを設定します。 0：SP0-SCK はL レベル時にインアクティブとなります。 1：SP0-SCK はH レベル時にインアクティブとなります。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
4	CPHA	0	R/W	SP0-SCK 位相選択 本ビットは、SP0-SCK の位相を選択し、データをドライブ、及びラッチします。 0：データのドライブは$\overline{\text{SP0-SS3}}$、$\overline{\text{SP0-SS2}}$、$\overline{\text{SP0-SS1}}$、$\overline{\text{SP0-SS0}}$の立ち下がりエッジとSP0-SCK の偶数エッジで行われます。データのラッチは、SP0-SCK の奇数エッジで行われます。 1：データのドライブは、SP0-SCK の奇数エッジで行われます。データのラッチはSP0-SCK の偶数エッジで行われます。
3	L1M0	0	R/W	シリアルデータの選択 本ビットは、MSB ファーストかLSB ファーストを選択しし、シリアルデータを転送します。 0：MSB ファーストモードに設定します。転送時は、TBR[7]が最初でTBR[0]が最後に送信されます。受信時は、RBR[7]が最初でRBR[0]が最後に受信されます。 1：LSB ファーストモードに設定します。転送時は、TBR[0]が最初でTBR[7]が最後に送信されます。受信時は、RBR[0]が最初でRBR[7]が最後に受信されます。
2 1 0	DIVCODE[2] DIVCODE[1] DIVCODE[0]	1 1 1	R/W R/W R/W	SP0-SCK 分周比 本ビットは、SP0-SCK の分周比を設定します。 SP0-SCK はSHwy クロックを分周したものです。 分周値　SP0-SCK 周波数 000: 設定禁止　— 001: 設定禁止　— 010: 設定禁止　— 011: 4　48 MHz 100: 5　38.4 MHz 101: 6　32 MHz 110: 7　27.4 MHz 111: 8　24 MHz

15.4.10 SPI コアコントロールレジスタ3（CR3）

CR3は、読み出し／書き込み可能な32ビットのレジスタで、SPI受信サイクル数を指定するためのプリフェッチカウントを設定します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	PFC							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～8	—	—	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
7～0	PFC	0/1(注)	R/W	プリフェッチカウント 本ビットは、SPI受信サイクル数を指定するためのプリフェッチカウントを設定します。 • ケース1 (PFC = 0) プリフェッチは行われません。 • ケース2 (PFC = H'FF) 設定禁止 本設定は、自動実行される初期ブートロード時（MD6 = L）にのみ使用できます。ブートコードを2KBロードした後、PFCビットの値 を H'00 から H'20 に変更してください。 • ケース3 (0 < PFC ≤ H'20) ケース2と同様にプリフェッチが行われます。ただし、プリフェッチによりPFCのデクリメントが行われます。PFCが0になると、プリフェッチは終了します。 • ケース4 (H'20 < PFC < H'FF) 設定禁止

注．PFCビットの初期値は、MD6端子の設定により変動します。
MD6 = L 時　: H'00
MD6 = H時　: H'FF
MD6端子の状態がHレベルのとき、PFCの初期値は無効のためブートプログラムには終了処理が必要です。
「15.5.5 SPI データ転送時の概略動作」を参照してください。

15.4.11 SPI コアコントロールレジスタ4（CR4）

CR4 は、読み出し／書き込み可能な32 ビットのレジスタで、SPI コア内送信FIFO／受信FIFO 割り込みイネーブル SP0-SS3、SP0-SS2、SP0-SS1、SP0-SS0選択を設定します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	TBEI	TBFI	RBEI	RBFI	SSS1	Wp Abort	SpiS0	SSS0
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～8	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
7	TBEI	0	R/W	SPI コア内送信FIFO エンプティ割り込みイネーブル 0：SPI コア内送信FIFO エンプティ割り込みを許可しません。 1：SPI コア内送信FIFO エンプティ割り込みを許可します。
6	TBFI	0	R/W	SPI コア内送信FIFO フル割り込みイネーブル 0：SPI コア内送信FIFO フル割り込みを許可しません。 1：SPI コア内送信FIFO フル割り込みを許可します。
5	RBEI	0	R/W	SPI コア内受信FIFO エンプティ割り込みイネーブル 0：SPI コア内受信FIFO エンプティ割り込みを許可しません。 1：SPI コア内受信FIFO エンプティ割り込みを許可します。
4	RBFI	0	R/W	SPI コア内受信FIFO フル割り込みイネーブル 0：SPI コア内受信FIFO フル割り込みを許可しません。 1：SPI コア内受信FIFO フル割り込みを許可します。
3	SSS1	0	R/W	SPI フラッシュチップセレクト 1 SSS0 ビットの説明を参照してください。
2	WpAbort	0	R/W	SPI フラッシュライトプロテクトアボート ハードウェアで 1 を設定すると、常に SPI フラッシュサイクル（このサイクルのオペコードはOR6からOR1に格納されたオペコードのうちの 1 つと等しい）を検出し、アボートします。 その際、本ビットを ”0” にクリアできます。”0” 書き込みは無効です。
1	SpiS0	1	R	SPI FSM （Finite State Machine）アイドルステート 0：SPI FSM がSPI サイクルを処理中であることを示します。新しいSPI サイクルを受け入れる準備ができていないことを示します。 1：SPI FSM がアイドル状態であることを示します。新しい SPI サイクルを受け入れる準備ができていることを示します。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
0	SSS0	0	R/W	SPI フラッシュチップセレクト 0 SSS1と SSS0 ビットを同時に選択し、アクティブなSPI フラッシュチップセレクト信号を以下のとおりに割り当てます。 {SSS1,SSS0}: アクティブなSPI フラッシュチップセレクト信号 00: $\overline{\text{SP0-SS0}}$ 端子に割り当て 01: $\overline{\text{SP0-SS1}}$ 端子に割り当て 10: $\overline{\text{SP0-SS2}}$ 端子に割り当て 11: $\overline{\text{SP0-SS3}}$ 端子に割り当て

15.4.12 SPI コアコントロールレジスタ 5 (CR5)

CR5 はTxFIFO の状態を示すレジスタです。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	TBFCN							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 8	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
7～ 0	TBFCN	0	R	TxFIFOデータ格納数カウンタ TxFIFOに格納されているデータ数を示します。TxFIFOエンプティの時は0、TxFIFOフルの時は32になります。 H'00 : TxFIFO エンプティ H'01~H'1F : TxFIFOに格納されているデータ数 H'20 : TxFIFO フル

15.4.13 コアコントロールレジスタ 6 (CR6)

CR6 はRxFIFO の状態を示すレジスタです。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	RBFCN							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 8	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
7～ 0	RBFCN	0	R	RxFIFOデータ格納数カウンタ RxFIFOに格納されているデータ数を示します。RxFIFOエンプティ時は0、RxFIFOフルの時は32になります。 H'00 : RxFIFO エンプティ H'01~H'1F : RxFIFOに格納されているデータ数 H'20 : RxFIFO フル

15.4.14 SPI コアコントロールレジスタ 7 (CR7)

CR7はオペレーションレジスタ（OR0～ORF）をアクセスするためのインデックスレジスタです。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	INX							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～8	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

7～0	INX	0	R/W	OR0～ORFをアクセスするためのインデックスを設定します。 H'00 : OR0 H'01 : OR1 H'02 : OR2 H'03 : OR3 H'04 : OR4 H'05 : OR5 H'06 : OR6 H'07 : OR7 H'08 : OR8 H'09 : OR9 H'0A : ORA H'0B : ORB H'0C : ORC H'0D : ORD H'0E : ORE H'0F : ORF

15.4.15 SPI コアコントロールレジスタ 8 (CR8)

CR8はオペレーションレジスタ(OR0～ORF)のデータレジスタです。CR7のINXビットで設定したインデックスに対応するオペレーションレジスタの読み出し/書き込みが可能です。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	DAT							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～8	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
7～0	DAT	0	R/W	OR0～ORFの読み出し及び書き込むデータを指定します。

15.4.16 SPI オペレーションレジスタ 0 (OR0) (コンフィグレーションピン)、Index = 0

OR0は、専用のコンフィグレーション信号とPOR端子の状態を設定するレジスタです。インデックスレジスタ（CR7）、データレジスタ（CR8）を介してアクセス可能です。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	WpSzSl	RDDOen	FMSZ		WPSZ		WPn	FMS
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	X	X	X	X	X	X
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 8	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
7	WpSzSl	0	R/W	ライトプロテクトサイズ指定方法選択ビット ライトプロテクトサイズを指定する方法を選択します。 0：BOOTWPSZ1、BOOTWPSZ0端子で指定 1：ORD～ORFのWpM[23:0]で指定
6	RDDOen	0	R/W	デュアル出力モードでの読み出し 1：デュアル出力モード選択時、SPI フラッシュはOR9 に設定されたRDDOオペコードと等しいオペコード値の読み出しを実行します。 0：シングル出力モード選択時、SPI フラッシュはオペコード値の設定に関わらず、読み出しを実行します。
5、4	FMSZ	X	R	フラッシュメモリサイズ BOOTSZ0 と BOOTSZ1 端子の状態を示します。
3、2	WPSZ	X	R	フラッシュライトプロテクトサイズ BOOTWPSZ0 と BOOTWPSZ1 端子の状態を示します。
1	WPn	X	R	ライトプロテクト（Lアクティブ時） $\overline{\text{BOOTWP}}$端子の状態を示します。
0	FMS	X	R	フラッシュメモリ空間選択ビット SP0_SS0端子と接続する外部SPIフラッシュメモリへリードアクセスする空間を示します。 0：上位半分 1：下位半分

ライトプロテクト領域のサイズを以下の表に示します。ORAの説明も参照して下さい。

[BOOTSZ1, BOOTSZ0] ＼ [BOOTWPSZ1, BOOTWPSZ0]		[LL]	[LH]	[HL]	[HH]
[LL]	1 MB	64 KB	128 KB	256 KB	リザーブ
[LH]	2 MB	64 KB	128 KB	256 KB	リザーブ
[HL]	4 MB	64 KB	128 KB	256 KB	リザーブ
[HH]	8 MB	64 KB	128 KB	256 KB	リザーブ

ライトプロテクト領域のプログラマブルベースアドレスはORA～ORCレジスタのWpM[23:0]に格納されます。そのデフォルト値は0x000000（最下位セグメント）です。

デュアルアウトプットモードでDMA機能を使用する場合、以下の設定をしてください。

1. DMAの転送数（SPIWDMCNTR）とプリフェッチカウンタの数（CR3レジスタのPFCビット）は同じ値でかつ、偶数にしてください。
2. SPIWDMCNTRとCE3レジスタのPFCビットは受信FIFOをリセット(CR2レジスタのRSTFビットを"1"から"0")した後に設定してください。

15.4.17 SPIオペレーションレジスタ1 (OR1) (WRPG)、Index = 1

OR1は、インデックスレジスタ(CR7)、データレジスタ(CR8)を介してアクセス可能なレジスタです。このレジスタの初期値（H'02）は外部SPIフラッシュメモリのライトページのオペコードです。接続する外部SPIフラッシュメモリのオペコード値が異なる場合は値を書き換えてください。このオペコードはライトプロテクト機能によって、外部SPIフラッシュメモリのライトプロテクト領域への送信を禁止することが出来ます。

OR2～OR6も同様に、ライトプロテクト機能によって、外部SPIフラッシュメモリのライトプロテクト領域へ送信を禁止することができます。

例えば、WPnビット、WPSZビット、及びFMSZビットがそれぞれ”0”のとき、ライトプロテクト領域のサイズは4KBで、デフォルトベースアドレスは0x0番地から0x000FFF番地になります。この場合、SPIフラッシュによるM番地（0x0 ≦ M ≦ 0xFFF）への書き込み（WRPGビット（OR1レジスタのビット7～0）の値と等しいオペコードを使用）はできません。その際、WpAbortフラッグ（CR4レジスタのビット2）は1に設定されます。同様に、アクセスアドレスがライトプロテクト領域に配置され、OR2～OR6に指定した各ビット値と等しいオペコードが使用されている場合も、SPIフラッシュによるセクター消去、ブロック消去、及びチップ消去を実行できません。また、BOOTWP端子の状態がLレベルのときも、本レジスタは書き換えできません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	WRPG							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～8	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
7～0	WRPG	H'02	R/W	書き込みページオペコード 本レジスタに0x00を書き込むとライトプロテクトのオペコードは無効化されます。 注.　このオペコードのデフォルト値が、SPIコントローラに接続されているSPIフラッシュメモリのものと異なっている場合、SPIフラッシュメモリにアクセスする前に、SPIフラッシュメモリのオペコード値と一致するよう変更する必要があります。

15.4.18 SPI オペレーションレジスタ 2 (OR2) (ER32)、Index = 2

OR2の初期値(H'52)は外部SPIフラッシュメモリの32Kバイトブロックイレーズのオペコードです。接続する外部SPIフラッシュメモリのオペコード値が異なる場合は値を書き換えてください。BOOTWP端子の状態がLのとき、本レジスタは書き換えできません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	ER32							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 8	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
7 ～ 0	ER32	H'52	R/W	32 KB ブロック消去オペコード 本レジスタに0x00 を書き込むとライトプロテクトのオペコードは無効化されます。 注. このオペコードのデフォルト値が、SPIコントローラに接続されているSPIフラッシュメモリのものと異なっている場合、SPIフラッシュメモリにアクセスする前に、SPIフラッシュメモリのオペコード値と一致するよう変更する必要があります。

15.4.19 SPI オペレーションレジスタ 3 (OR3) (ER64)、Index = 3

OR3の初期値(H'D8)は外部SPIフラッシュメモリの64Kバイトブロックイレーズのオペコードです。接続する外部SPIフラッシュメモリのオペコード値が異なる場合は値を書き換えてください。BOOTWP端子の状態がLのとき、本レジスタは書き換えできません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	ER64							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 8	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

7～0	ER64	H'D8	R/W	64 KB ブロック消去オペコード 本レジスタに0x00 を書き込むとライトプロテクトのオペコードは無効化されます。 注. このオペコードのデフォルト値が、SPIコントローラに接続されているSPIフラッシュメモリのものと異なっている場合、SPIフラッシュメモリにアクセスする前に、SPIフラッシュメモリのオペコード値と一致するよう変更する必要があります。

15.4.20 SPI オペレーションレジスタ 4 (OR4) (ERSC)、Index = 4

OR4 の初期値 (H'20) は外部 SPI フラッシュメモリのセクタイレーズのオペコードです。接続する外部 SPI フラッシュメモリのオペコード値が異なる場合は値を書き換えてください。$\overline{\text{BOOTWP}}$ 端子の状態が L のとき、本レジスタは書き換えできません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	ERSC							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～8	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
7～0	ERSC	H'20	R/W	セクター消去オペコード 本レジスタに0x00 を書き込むとライトプロテクトのオペコードは無効化されます。 注. このオペコードのデフォルト値が、SPIコントローラに接続されているSPIフラッシュメモリのものと異なっている場合、SPIフラッシュメモリにアクセスする前に、SPIフラッシュメモリのオペコード値と一致するよう変更する必要があります。

15.4.21 SPI オペレーションレジスタ 5 (OR5) (ERC1)、Index = 5

OR2 の初期値 (H'60) は外部 SPI フラッシュメモリのチップイレーズのオペコードです。接続する外部 SPI フラッシュメモリのオペコード値が異なる場合は値を書き換えてください。$\overline{\text{BOOTWP}}$ 端子の状態が L のとき、本レジスタは書き換えできません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	ERC1							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 8	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
7 ～ 0	ERC1	H'60	R/W	チップ消去オペコード1 本レジスタに0x00 を書き込むとライトプロテクトのオペコードは無効化されます。 注. このオペコードのデフォルト値が、SPIコントローラに接続されているSPIフラッシュメモリのものと異なっている場合、SPIフラッシュメモリにアクセスする前に、SPIフラッシュメモリのオペコード値と一致するよう変更する必要があります。

15.4.22 SPI オペレーションレジスタ 6 (OR6) (ERC2)、Index = 6

OR6 の初期値 (H'C7) は外部 SPI フラッシュメモリのチップイレーズ２のオペコードです。接続する外部 SPI フラッシュメモリのオペコード値が異なる場合は値を書き換えてください。$\overline{\text{BOOTWP}}$ 端子の状態が L のとき、本レジスタは書き換えできません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	ERC2							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	1
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～ 8	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

7 ～ 0	ERC2	H'C7	R/W	チップ消去オペコード2 本レジスタに0x00 を書き込むとライトプロテクトのオペコードは無効化されます。 注. このオペコードのデフォルト値が、SPIコントローラに接続されているSPIフラッシュメモリのものと異なっている場合、SPIフラッシュメモリにアクセスする前に、SPIフラッシュメモリのオペコード値と一致するよう変更する必要があります。

15.4.23 SPI オペレーションレジスタ 7 (OR7) (READ)、Index = 7

OR7の初期値(H'03)は外部SPIフラッシュメモリのリードのオペコードです。接続する外部SPIフラッシュメモリのオペコード値が異なる場合は値を書き換えてください。OR0 レジスタのFMSビットが 1 のとき、外部 SPI フラッシュメモリのリードは上位半分の空間にアクセスします。例えば、M 番地（M < Flash_Memory_Byte/2）にアクセスすると、M+(Flash_Memory_Byte/2）番地のデータをリードします。N 番地（Flash_Memory_Byte/2 ≦ N）にアクセスすると、N番地のデータをリードします。なお、OR8、OR9も同じ動作になります。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	READ							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 8	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
7 ～ 0	READ	H'03	R/W	読み出しオペコード 注. このオペコードのデフォルト値が、SPIコントローラに接続されているSPIフラッシュメモリのものと異なっている場合、SPIフラッシュメモリにアクセスする前に、SPIフラッシュメモリのオペコード値と一致するよう変更する必要があります。

15.4.24 SPI オペレーションレジスタ 8 (OR8) (RDFT)、Index = 8

OR8の初期値(H'0B)は外部SPIフラッシュメモリの高速リードのオペコードです。接続する外部SPIフラッシュメモリのオペコード値が異なる場合は値を書き換えてください。OR0のFMSビットが1のときはOR7の説明と同じ動作になります。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	RDFT							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～8	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
7～0	RDFT	H'0B	R/W	高速読み出しオペコード 注. このオペコードのデフォルト値が、SPIコントローラに接続されているSPIフラッシュメモリのものと異なっている場合、SPIフラッシュメモリにアクセスする前に、SPIフラッシュメモリのオペコード値と一致するよう変更する必要があります。

15.4.25 SPI オペレーションレジスタ 9 (OR9) (RDDO)、Index = 9

OR9の初期値(H'3B)は外部SPIフラッシュメモリのデュアルアウトプットモードのオペコードです。接続する外部SPIフラッシュメモリのオペコード値が異なる場合は値を書き換えてください。FMSビット（OR0レジスタのビット0）が1のときはOR7の説明と同じ動作になります。

OR9のデュアルアウトプットモードでの読み出し動作は次のとおりです。RDDOenビット（OR0レジスタのビット6）が”1”のとき、SPIコントローラはデュアルアウトプットモードでの読み出しを実行します。次にこのRDDOenビットが”1”の間、あらゆるSPIサイクルの最初の送信バイトの値（このバイトはSPIフラッシュオペコードバイトの値とみなされます）で判定を行います。このバイト値とOR9のRDDOビット値が等しい場合、デュアルアウトプットモードでデータを読み出します。一方、OR0のRDDOenビットが”0”の 場合、最初の送信バイトの値に関わらず、シングルシリアル入力／出力モードを備えたSPI標準動作のみで読み出します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	RDDO							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	1
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～8	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
7～0	RDDO	H'3B	R/W	デュアル出力読み出しオペコード 注. このオペコードのデフォルト値が、SPIコントローラに接続されているSPIフラッシュメモリのものと異なっている場合、SPIフラッシュメモリにアクセスする前に、SPIフラッシュメモリのオペコード値と一致するよう変更する必要があります。

15.4.26 SPI オペレーションレジスタ A (ORA) (WPA2)、Index = 0xA

ORAは、ライトプロテクト領域のベースアドレス[23:16]を設定するレジスタです。「15.3 入出力端子」、CR7、CR8、及びORDの説明も参照してください。BOOTWP 端子の状態がLレベルのとき、本レジスタは書き換え出来ません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	WPA2							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 8	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
7 ～0	WPA2	H'00	R/W	ライトプロテクトベースアドレスバイト2 本ビットは、ライトプロテクト領域のベースアドレスのビット[23:16]を示します。

15.4.27 SPI オペレーションレジスタ B (ORB) (WPA1)、Index = 0xB

ORBは、ライトプロテクト領域のベースアドレス[15:8]を設定するレジスタです。「15.3 入出力端子」、CR7、CR8、及びORDの説明も参照してください。BOOTWP 端子の状態がLレベルのとき、本レジスタは書き換え出来ません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	WPA1							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 8	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
7 ～ 0	WPA1	H'00	R/W	ライトプロテクトベースアドレスバイト1 本ビットは、ライトプロテクト領域のベースアドレスのビット[15:8] を示します。

15.4.28 SPI オペレーションレジスタ C (ORC) (WPA0)、Index = 0xC

ORCは、ライトプロテクト領域のベースアドレス[7:0]を設定するレジスタです。「15.3 入出力端子」、CR7、CR8、及びORDの説明も参照してください。BOOTWP 端子の状態がLレベルのとき、本レジスタは書き換えできません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	WPA0							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 8	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
7 ～ 0	WPA0	H'00	R/W	ライトプロテクトベースアドレスバイト0 本ビットは、ライトプロテクト領域のベースアドレスのビット[7:0] を示します。

15.4.29 SPI オペレーションレジスタ D (ORD) (WPM2)、Index = 0xD

ORD は、インデックスレジスタ（CR7）、データレジスタ（CR8）を介してアクセス可能なレジスタで、24 ビットのライトプロテクトマスク（WpM[23:0]）のビット 23 ～ 16 を含みます。OR0 レジスタの WpSzSl ビットが " 1 " のとき、WpM[23:0] ビットで指定するライトプロテクトサイズは、WpM = (WpSize − 1) で求められます。その際のライトプロテクト領域サイズはフラッシュページサイズの倍数で定義されます。「15.3 入出力端子」の説明も参照してください。$\overline{\text{BOOTWP}}$ 端子の状態が L レベルのとき、本レジスタは書き換えできません。

ORD ～ ORF の WpM[23:0] はライトプロテクトサイズを設定します。WpM[23:0] でライトプロテクトサイズを設定した場合、BOOTWPSZ0、BOOTWPSZ1、BOOTSZ0、BOOTSZ1 端子で指定した、ライトプロテクトサイズは無効になります。

まず、ベースアドレス 0x000000 で始まる 1 MB のライトプロテクト領域が 1 つだけの場合を例に示します。WPSZ、及び FMSZ ビットの値に関わらず、動作は以下のとおりです。

1. ライトプロテクト領域サイズを計算します（WpSize = 1 Mbyte = 2^20）
2. ライトプロテクトマスクサイズを計算します。（WpM = WpSize - 1 = 2^20 - 1 = 0x0FFFFF）
3. WpM を ORD、ORE、及び ORF に満たします。（ORD = 0x0F, ORE = 0xFF, ORF = 0xFF）
4. ベースアドレス 0x000000 を ORA、ORB、及び ORC レジスタに設定します。（ORA = 0x00, ORB = 0x00, 0RC = 0x00）
5. WpSzSl ビット（OR0 レジスタのビット 7）を " 1 " に設定します。

次に、ベースアドレス 0x000000 と 0x400000 で始まる 1 MB のライトプロテクト領域が 2 つの場合を例に示します。8 MB のフラッシュサイズ（FMSZ[1:0] = {1,1}）に関わらず、動作は以下のとおりです。

1. ライトプロテクト領域サイズを計算します（WpSize = 1 Mbyte = 2^20）
2. ライトプロテクトマスクサイズを計算します。（WpM = WpSize - 1 = 2^20 - 1 = 0x0FFFFF）
3. WpM + (Flash_Memory_Byte_Size/2) を ORD、ORE、及び ORF レジスタに満たします。（ORD = 0x4F, ORE = 0xFF, ORF = 0xFF）
4. ベースアドレス 0x000000 を ORA、ORB、及び ORC レジスタに設定します。（ORA = 0x00, ORB = 0x00, 0RC = 0x00）
5. OR0 レジスタの WpSzSl ビットを " 1 " に設定します。

ライトプロテクト領域についての詳細は、図 15.8 を参照ください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	WpM2							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 8	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は"0"にしてください）
7 ～ 0	WpM2	H'00	R/W	ライトプロテクトマスクバイト 2 本ビットは、WpM[23:16] ビットを示します。

15.4.30 SPI オペレーションレジスタ E (ORE) (WPM1)、Index = 0xE

ORE は、ライトプロテクトサイズ（WpM[15:8]）を設定するレジスタです。「15.3 入出力端子」、CR7、CR8、及び ORD レジスタの説明も参照してください。BOOTWP 端子の状態が L レベルのとき、本レジスタは書き換えできません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	WpM1							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 8	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
7～ 0	WpM1	H'00	R/W	ライトプロテクトマスクバイト1 本ビットは、WpM[15:8] ビットを示します。

15.4.31 SPI オペレーションレジスタ F (ORF) (WPM0)、Index = 0xF

ORE は、ライトプロテクトサイズ（WpM[7:0]）を設定するレジスタです。「15.3 入出力端子」、CR7、CR8、及び ORD レジスタの説明も参照してください。BOOTWP 端子の状態が L レベルのとき、本レジスタは書き換えできません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

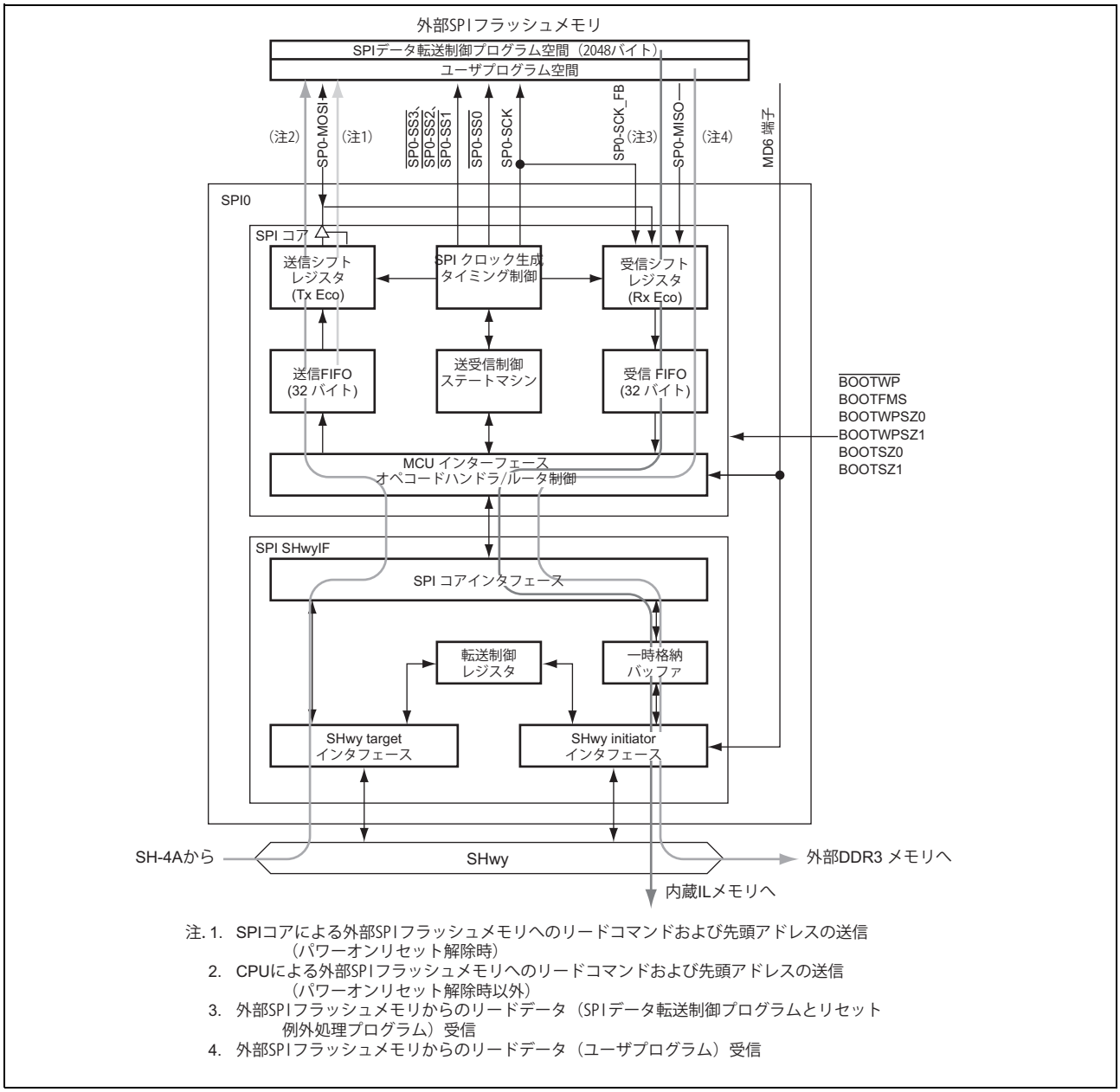
ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	WpM0							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 8	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
7 ～ 0	WpM0	H'00	R/W	ライトプロテクトマスクバイト0 本ビットは、WpM[7:0] ビットを示します。

15.5　SPI ブート機能の動作説明

15.5.1　データ転送の種類

SPI0 の外部SPI フラッシュメモリとのデータ転送の種類を図15.3 に示します。



注. 1. SPIコアによる外部SPIフラッシュメモリへのリードコマンドおよび先頭アドレスの送信（パワーオンリセット解除時）
2. CPUによる外部SPIフラッシュメモリへのリードコマンドおよび先頭アドレスの送信（パワーオンリセット解除時以外）
3. 外部SPIフラッシュメモリからのリードデータ（SPIデータ転送制御プログラムとリセット例外処理プログラム）受信
4. 外部SPIフラッシュメモリからのリードデータ（ユーザプログラム）受信

図 15.3　SPI0 の外部SPI フラッシュメモリとのデータ転送の種類

図15.3 に示すように、SPI0 の外部SPI フラッシュメモリとのデータ転送には以下の4 種類が存在します。

1. SPIコアによる外部SPI フラッシュメモリへのリードコマンド及び先頭アドレスの送信
（送信FIFO → 外部SPI フラッシュメモリ）
2. SH-4Aによる外部SPI フラッシュメモリへのリードコマンド及び先頭アドレスの送信
（SH-4A → SHwy Targetインタフェース → 送信FIFO → 外部SPI フラッシュメモリ）
3. 外部SPI フラッシュメモリからのリードデータ（SPIデータ転送制御プログラムとリセット例外処理プログラム）受信
（外部 SPI フラッシュメモリ → 受信 FIFO → 一時格納バッファ → SHwy Initiator インタフェース → 内蔵IL メモリ）
4. 外部SPI フラッシュメモリからのリードデータ（ユーザプログラム）受信
（外部 SPI フラッシュメモリ → 受信 FIFO → 一時格納バッファ → SHwy Initiator インタフェース → 外部DDR メモリ）

上記のように外部 SPI フラッシュメモリへのリードコマンド及び先頭アドレスの送信経路と外部 SPI フラッシュメモリからのリードデータ受信経路は、それぞれ2 種類ずつ存在します。

15.5.2　ブートモード（MD6）端子

SPI0 には、パワーオンリセット時の下記1.～3.を設定するブートモード（MD6）端子が存在します。

1. SPIコア内部レジスタの初期化
2. SPIコア内部送信FIFOの初期化
3. SPI SHwyIF内部レジスタの初期化

MD6 端子の状態による SPI コア内部レジスタ、SPI コア内部送信 FIFO、SPI SHwyIF 内部レジスタの初期化を表15.4 に示します。

表15.3　MD6 端子の状態による各初期化の方法

No.	項目	MD6 端子状態	
		L	H
1	SPI コア内部 レジスタの初期化	CR1: SSA = 0 （$\overline{\text{SP0-SSn}}$ のアサートを許可しない） CR2: DIVCODE = B'111（SP0-SCK はSHwy クロックの1/8分周） CR3: PFC = H'00（プリフェッチなし） ディスエーブル状態に初期化	CR1: SSA = 1 （$\overline{\text{SP0-SSn}}$ のアサートを許可する） CR2: DIVCODE = B'111（SP0-SCKはSHwy クロックの1/8分周） CR3: PFC = H'FF（プリフェッチあり） イネーブル状態に初期化
2	SPI コア内部 送信FIFOの初期化	ライトポインタ／リードポインタ H'00/H'00 送信FIFO バッファ 1 段目 : H'00 送信FIFO バッファ 2 段目 : H'00 送信FIFO バッファ 3 段目 : H'00 送信FIFO バッファ 4 段目 : H'00 エンプティ状態に初期化	ライトポインタ／リードポインタ H'04/H'00 送信FIFO バッファ 1 段目 : H'03（リードコマンド） 送信FIFO バッファ 2 段目 : H'00（先頭アドレス上位） 送信FIFO バッファ 3 段目 : H'00（先頭アドレス中位） 送信FIFO バッファ 4 段目 : H'00（先頭アドレス下位） 4 バイトのデータ（リードコマンドと先頭アドレス）あり状態に初期化
3	SPI SHwyIF 内部 レジスタの初期化	SPIWDMCNTR: WDMCNT[31:0] 0（DMA 転送語数）=H'00000000 (0 バイト) SPIDMCOR: DMEN = 0 （SPI SHwy IF ディスエーブル） ディスエーブル状態に初期化	SPIWDMCNTR: WDMCNT[31:0] （DMA 転送語数）=H'00000800 （2048 バイト） SPIDMCOR: DMEN = 1 （SPI SHwy IF イネーブル） イネーブル状態に初期化

また、MD6 端子は上記の他に SHwy パケットルータでも使用され、内蔵 IL メモリの空間割り付けが制御されます。

MD6 端子の状態による内蔵IL メモリの空間割り付けを表15.5 に示します。

表15.4　MD6 端子の状態による内蔵IL メモリの空間割り付け

No.	MD6 端子状態	動作状態
1	H	CS0 空間／内蔵 IL メモリ空間
2	L	内蔵 IL メモリ空間

15.5.3　外部SPI フラッシュメモリ内部空間

外部 SPI フラッシュメモリ内部空間を「SPI データ転送制御プログラムとリセット例外処理プログラム空間」と「ユーザプログラム空間」の2 空間に分ける必要があります。

以下に、2 空間の内容を示します。

- **SPI データ転送制御プログラムとリセット例外処理プログラム空間**
  - 外部 SPI フラッシュメモリの 0 番地から 2048 バイトの空間を「SPI データ転送制御プログラムとリセット例外処理プログラム空間」としてください。
  - 本空間へは、MD 6 端子＝H でパワーオンリセット解除時に「SPI データ転送制御プログラムとリセット例外処理プログラム空間」を格納します。
    SPI データ転送制御プログラムは、外部 DDR3 メモリへのデータ転送を行うための DDR3IF 内部レジスタ設定、外部 SPI フラッシュメモリ → 外部 DDR3 メモリ のデータ転送終了割り込み処理を行うための INTC、SH-4A 内部 SR レジスタ設定、外部 DDR3 メモリへのデータ転送を行うための SPISHwyIF レジスタ設定を行います。

- **ユーザプログラム空間**
  - 「SPI データ転送制御プログラムとリセット例外処理プログラム空間」に続く空間を「ユーザプログラム空間」としてください。
  - 本空間へは、任意のユーザプログラムを格納します。
  - キャッシュ ON はユーザプログラム内で行ってください。

15.5.4　外部SPI フラッシュメモリに対するリードコマンド発行及び先頭アドレス出力

外部 SPI フラッシュメモリから内蔵 IL メモリへの転送を行うためには、外部 SPI フラッシュメモリに対して「リードコマンド」の発行と「先頭アドレス」の出力を行わなければなりません。

「リードコマンド」と「先頭アドレス」は、SPI コア内部の送信 FIFO へ書き込むことで外部 SPI フラッシュメモリへ出力します。

SH-4A による SPI SHwyIF 内部レジスタのイネーブルビット（DMEN ビット（SPIDMCOR レジスタ のビット 0））設定時は、SH-4A が「リードコマンド」と「先頭アドレス」を SPI コア内部の送信 FIFO へ書き込みますが、MD6 端子＝H でパワーオンリセット解除時は、SPI コア内部送信 FIFO の初期化で「リードコマンド」と「先頭アドレス」を設定します。

外部 SPI フラッシュメモリに対して「リードコマンド」の発行と「先頭アドレス」の出力を行うための SPI コア内部送信 FIFO へのデータ書き込み／設定方法を表 15.6 に示します。

表 15.5　「リードコマンド」の発行と「先頭アドレス」の出力を行うための設定方法／SPI コア内部送信 FIFO へのデータ書き込み設定方法

No.	ケース	書き込み Initiator	送信FIFO 書き込み段（設定段）	種類	アクセス サイズ	書き込み値（設定値）	備考
1	MD6 端子＝H で パワーオンリセット解除時	—（パワーオンリセットでの初期化）	1	リードコマンド	—	H'03	
			2	先頭アドレス（上位）	—	H'00	
			3	先頭アドレス（中位）	—	H'00	
			4	先頭アドレス（下位）	—	H'00	

2	SH-4A による SPI SHwyIF 内部レジスタのイネーブルビット設定時	SH-4A	1	リードコマンド	32 ビット（下位8 ビットが有効データ）	H'03	
			2	先頭アドレス（上位）	32 ビット（下位8 ビットが有効データ）	任意	
			3	先頭アドレス（中位）	32 ビット（下位8 ビットが有効データ）		
			4	先頭アドレス（下位）	32 ビット（下位8 ビットが有効データ）		

15.5.5　SPI データ転送時の概略動作

以下に、「MD6 端子＝1 でパワーオンリセット解除時」と「SH-4A による SPI SHwyIF 内部レジスタのイネーブルビット(SPIDMCOR レジスタ の DMEN ビット)設定時」の SPI データ転送概略動作を示します。

なお、「MD6 端子＝1 でパワーオンリセット解除時」の動作(手順1～9)と「SH-4A による SPI SHwyIF 内部レジスタのイネーブルビット設定時」の動作(手順10～17)は、一連の動作となります。

• MD6端子＝1でパワーオンリセット解除時

本タイミングでは、外部 SPI フラッシュメモリから内蔵 IL メモリへ SPI データ転送制御用プログラムとリセット例外処理プログラムを転送します。

1. 本LSIにMD6端子＝1としてパワーオンリセットを入力します。
2. SPI0は、MD6端子＝1を受けて「表13.4 MD6端子の状態による各初期化の方法」に従い、SPIコア内部レジスタ、送信FIFOとSPI SHwyIF内部レジスタを初期化します。

レジスタ初期化

3. パワーオンリセットにより、SPIコア内送信FIFOに設定された外部SPI フラッシュメモリへのリードコマンドと転送するプログラムの先頭アドレスがSP0-MOSI端子から外部SPIフラッシュメモリへ送信されます。
4. 外部SPIフラッシュメモリからのリードデータ（SPIデータ転送制御用プログラム/リセット例外処理プログラム）は、SP0-MISO端子経由でSPIコア内受信FIFOに格納されます。
5. SPIコア内受信FIFOにデータが格納されると、SPI SHwyIFが受信データを読み出し、一時格納バッファに格納します。
6. SPI SHwyIFは、SHwyに32バイトストアのリクエストパケットを出力し、レスポンスパケットが返ってきたところで32バイト転送を終了します。
7. 2048バイト分4.、5.、6.を繰り返して外部SPI フラッシュメモリ→内蔵ILメモリへデータを転送します。
8. 2048バイト分のデータ転送を終了したところでSPI SHwyIF内部レジスタのイネーブルビットをクリアします。
9. SH-4Aは、内蔵ILメモリに対して命令フェッチを開始し、SPIデータ転送制御用プログラムを実行します。

SPI データ転送制御用プログラム及びリセット例外処理プログラム転送

・ SH-4AによるSPI SHwyIF内部レジスタのイネーブルビット設定時

本タイミングでは､外部SPI フラッシュメモリ.外部DDR3メモリへユーザプログラムを転送します。

10. SH-4Aは、SPIデータ転送制御用プログラムを実行して、
    - SPIプリフェッチの停止（CR3にH'0000 0000ライト）
    - SPIコア内送信FIFO及び受信FIFOのリセット(CR2レジスタのRSTFビット = 1 → 0)
    - SPIコアの停止（CR1にH'0000 0002ライト)
    - DDR3IFのレジスタ設定及び外部DDR3メモリの初期化
    - SPI SHwyIF転送終了割り込み要求を処理するためのINTCのレジスタ設定及びSH-4A SRの設定
    - 外部SPI フラッシュメモリへのリードコマンドとユーザプログラムの先頭アドレスをSPIコア内送信FIFOへ設定
    - 外部DDR3メモリへのユーザプログラム転送のためのSPI SHwyIFのレジスタ設定を行います。
11. SPIコア内送信FIFOに設定された外部SPI フラッシュメモリへのリードコマンドとユーザプログラムの先頭アドレスは、SP0-MOSI端子から外部SPI フラッシュメモリへ送信されます。
12. 外部SPIフラッシュメモリからのリードデータ（ユーザプログラム）は、SP0-MISO端子経由でSPIコア内受信FIFOに格納されます。
13. SPIコア内受信FIFOにデータが格納されるとSPI SHwyIFが受信データを読み出し、一時格納バッファに格納します。
14. SPI SHwyIFは、SHwyに32バイトリストアのリクエストパケットを出力し、レスポンスパケットが返ってきたところで1回の32バイト転送を終了します。
15. SPI SHwyIF内部転送語数レジスタ(SPIWDMCNTR) に設定された分のために手順12～14を繰り返して、外部SPI フラッシュメモリから外部DDR3メモリへ転送します。
16. SPI SHwyIF内部転送語数レジスタ（SPIWDMCNTR）に設定された分のデータ転送を終了したところでSPI SHwyIF内部レジスタのイネーブルビットをクリアし、転送終了割り込み要求を出力します。
17. SH-4Aは、SPI0からの転送終了割り込み要求により、割り込み処理を実行するために外部DDR3メモリに格納されているユーザプログラムに分岐します。

ユーザプログラム転送

15.6　SPI コア機能の動作説明

15.6.1　SPI 送信サイクル

一般に、SPI 送信サイクルは、SSA＝1（SP0-SS3、SP0-SS2、SP0-SS1、及びSP0-SS0はアサートイネーブル）でかつTBE＝0（送信FIFO はエンプティでない）の状態で開始されます。送信データをSP0-MOSI 端子から出力するためには、SSA＝1 にした状態で、TBR にデータを書き込む必要があります。SSA＝1 かつTBE＝0 の状態が与えられると、送信FIFO からデータが読み出され、SP0-SS3、SP0-SS2、SP0-SS1、及びSP0-SS0 がアサートされ、SP0-MOSI からシリアルに1 バイトデータを送出するために8 サイクルのSP0-SCK クロックからなる SPI サイクルが開始されます。1 バイト分のデータの送出を終えると、次の1 バイトデータが送信FIFO から読み出され、すべてのデータが送信されるまでSPI サイクルが繰り返されます。送信 FIFO 内の最後のデータが送信されると、TBE ＝1（送信 FIFO はエンプティ）にセットされます。

送信終了時に SP0-SS3、SP0-SS2、SP0-SS1、及びSP0-SS0がネゲートされるかどうかは、SSD ビットとSSDB ビットの設定に依存します。

- SSD＝1 の場合、すべてのSPI サイクルの終わりで SP0-SS3、SP0-SS2、SP0-SS1、及びSP0-SS0 はネゲートされます。
- SSD＝0 でかつSSDB＝0 の場合、SP0-SS3、SP0-SS2、SP0-SS1、及びSP0-SS0 はアサートされたままになりますが、送信 FIFO に再びデータが書き込まれるまでは何のSPI サイクルも生成されません。この設定の場合、SSD ビットに”1” が書き込まれると SP0-SS3、SP0-SS2、SP0-SS1、及びSP0-SS0 はネゲートされます。
- SSD ＝0 でかつ SSDB ＝1 の場合、送信 FIFO がエンプティになる最後の SPI サイクルの終わりでSP0-SS3、SP0-SS2、SP0-SS1、及びSP0-SS0はネゲートされます。

詳細はSSD ビット（CR1 レジスタのビット1）の説明を参照してください。

N 回のSPI 送信サイクルを中断なしで発生させたい場合、SSA＝1 の設定を後回しにし、先に送信FIFO にN バイトデータを書き込みます。この際、N は送信FIFO サイズより小さいか等しくなるべきです。さもないと、書き込んだデータは送信FIFO フル（TBF＝1）により無視されます。

送信状況は、TBE ビット及びTBF ビットを読み出すことによって把握できます。TBE は、送信 FIFO にデータが書き込まれることによってクリアされ、データ送信により送信 FIFO がエンプティになることでセットされます。TBF は、送信FIFO がフルになることでセットされ、送信FIFO がフルでなくなることによりクリアされます。TBF＝1 の間、TBR に書き込まれた送信データは無視されます。

15.6.2　SPI 受信サイクル

一般に、SPI 受信サイクルは、保留された送信タスクがなく、プリフェッチ要求が有効の状態で開始されます。SP0-MISO 端子から受信データを受け取るためには、PFC ビット（CR3 レジスタのビット7～0）にN（期待される受信バイト数）を書き込む必要があります。そして、SSA＝1 にセットすることでSPI 受信サイクルが開始されます。SSA＝1 かつPFC>0 の状態が与えられると、SP0-SS3、SP0-SS2、SP0-SS1、及びSP0-SS0 とSP0-SCK がアサートされ、外部SPI デバイスへのSPI サイクルが開始され、

SP0-MISO を通して戻されたデータを受信します。完全な1 バイトデータを受信すると、受信したデータは受信FIFO に格納され、RBE＝0 にクリアされ、受信FIFO に読み出し可能なデータがあることを示します。受信 FIFO がフルになると、RBF ＝1 にセットされ、受信 FIFO がフルでなくなるまでSPI 受信サイクルは一時停止されます。SPI 受信サイクルごとにPFC の値はデクリメントされ、PFC ＝0 になるとSPI 受信サイクルは停止されます。

受信終了時に SP0-SS3、SP0-SS2、SP0-SS1、及びSP0-SS0 がネゲートされるかどうかは、SSD ビットとSSDB ビットの設定に依存します。詳細はCR1 レジスタのSSD ビットの説明を参照してください。

PFC には、SPI 受信サイクルの停止、短縮、延長のためにいつでも新しい値を書き込むことができます。

受信状況は、RBE ビット及びRBF ビットを読み出すことによってによって把握できます。RBE は、受信FIFO がデータ受信によってエンプティでなくなることによってクリアされ、受信FIFO の全データが読み出されてエンプティになることでセットされます。RBF は、受信 FIFO がフルになることでセットされ、受信 FIFO がフルでなくなることによりクリアされます。RBE ＝1 の間、RBR からのデータ読み出しは無効となります。

15.6.3　SPI 送信に続く SPI 受信

N バイトのSPI 送信の後にP バイトのSPI 受信を行うためには、下記のような設定が必要です。

- SSA＝0にクリア （SP0-SS3、SP0-SS2、SP0-SS1、及び SP0-SS0アサートをディセーブルにします）
- 送信FIFOのNバイト書き込み（Nは送信FIFOサイズより小さくか等しくする必要があります）
- PFCにPを書き込み（Nバイトの送信に続く受信サイクルの回数を指定します）
- SSD＝0、SSDB＝1に設定（バースト終了による SP0-SS3、SP0-SS2、SP0-SS1、及び SP0-SS0 ネゲートに設定します）
- SSA＝1にセット
（SP0-SS3、SP0-SS2、SP0-SS1、及び SP0-SS0 アサートをイネーブルにし、SPI送信サイクルを開始します）
- BE＝1になるのを待つ（受信FIFOにデータが格納されるのを待ちます）
- RBRを読み出し（RBRを読み、受信FIFOから受信データを読み出します）

SSA、TBE、PFC の値によってSPI サイクルの開始が制御されますが、SPI 送信サイクルの方がSPI 受信サイクルより高い優先度を与えられています。

- {SSA、TBE、PFC}={0xx}: なし（SPIサイクルは開始されない）
- {SSA、TBE、PFC}={10x}: 送信（SPI送信サイクルが開始されます）
- {SSA、TBE、PFC}={11n}: 受信（PFC>0でかつTBE＝1の場合SPI受信サイクルが開始されます）
- {SSA、TBE、PFC}={110}: なし（PFC＝＝0でかつTBE＝1の場合SPIサイクルは開始されない）

15.6.4　フラッシュメモリコントロール

SPI フラッシュメモリサイズはBOOTSZ0、及びBOOTSZ1 端子で指定しライトプロテクトサイズはBOOTWPSZ0、及びBOOTWPSZ1端子で指定します。表15.6にフラッシュメモリサイズとライトプロテクトサイズの関係を示します。

アクセス可能なSPI フラッシュメモリ空間について

(i) SP0-SS0端子を使用

a) 読み出し動作時
- 接続されている SPI フラッシュメモリの上位半分の空間（SPI フラッシュメモリの上位半分の空間からブート時、またはOR0 レジスタの FMS ビット＝1 時）
- 接続されている SPI フラッシュメモリの全空間（SPI フラッシュメモリの下位半分の空間からブート時、またはOR0 レジスタの FMS ビット＝0 時）

b) 書き込み動作時
接続されているSPI フラッシュメモリの全空間（1MB、2MB、4MB、8MB）

(ii) SP0-SS1端子、SP0-SS2端子、SP0-SS3端子を使用

a) 読み出し／書き込み動作時
SPI フラッシュメモリの全空間（1MB、2MB、4MB、8MB）

表15.6　フラッシュメモリサイズ仕様

[BOOTWPSZ1, BOOTWPSZ0] / [BOOTSZ1, BOOTSZ0]		[LL]	[LH]	[HL]	[HH]
[LL]	1 MB	64 KB	128 KB	256 KB	リザーブ
[LH]	2 MB	64 KB	128 KB	256 KB	リザーブ
[HL]	4 MB	64 KB	128 KB	256 KB	リザーブ
[HH]	8 MB	64 KB	128 KB	256 KB	リザーブ

15.6.5　ライトプロテクト機能

ライトプロテクト機能はBOOTWP端子で外部SPIフラッシュメモリの上位半分と下位半分のライトプロテクト領域を保護する機能です。ライトプロテクト機能はSP0_SS端子と接続した外部SPIフラッシュメモリに対して有効です。

ライトプロテクト機能の特長を以下に示します。

- $\overline{\text{BOOTWP}}$ 端子の状態がLレベルのとき、ライトプロテクト機能は有効です。
- WPSzSlビットでライトプロテクト領域の設定方法を選択します。
  0：チップセレクト領域0のみの場合、BOOTWPSZ1/0 端子でライトプロテクト空間サイズを指定します。また、ORA～ORC レジスタでライトプロテクト領域の開始アドレスを指定します。この場合、ORD～ORF レジスタでは指定できません。
  1：ORD～ORF レジスタでライトプロテクト領域サイズを指定します。また、ORA～ORC レジスタでライトプロテクト領域の開始アドレスを指定します。
- ORA～ORCレジスタにライトプロテクト領域の最下位アドレスを設定します。最上位アドレスはライトプロテクトサイズが上位半分、下位半分の空間を越えない範囲を設定してください。ライトプロテクトサイズはBOOTWPSZ1/0、またはORD～ORFレジスタのどちらかで指定します。ORD～ORFレジスタは「2^N - 1 (N = 0、1、2、3、4、…)」のサイズを設定してください。
- パワーオンリセット、マニュアルリセット後はORA ～ORF レジスタは0 に初期化されます。$\overline{\text{BOOTWP}}$ 端子の状態がLレベルのとき、ORA～ORF レジスタの書き込みは無効です。
- 2つのライトプロテクト領域はSPI フラッシュメモリの上位半分と下位半分の空間に実装されます。

表15.7　ライトプロテクトサイズ仕様

BOOTWP	'L'		'H'
WPSzSl (レジスタ OR0[7])	'0'	'1'	無効
開始アドレス	ORAまたはORCで指定	ORAまたはORCで指定	
ライトプロテクト領域サイズ	BOOTWPSZ1/0で指定	ORD ～ ORF で指定	

SPI0 が命令、及びアドレスを発行している期間は $\overline{\text{BOOTWP}}$ 端子の状態を変更しないでください。$\overline{\text{BOOTWP}}$端子の更新制約期間があり、この期間は $\overline{\text{BOOTWP}}$ 端子の状態を固定してください。図 15.4に更新制約期間を示します。

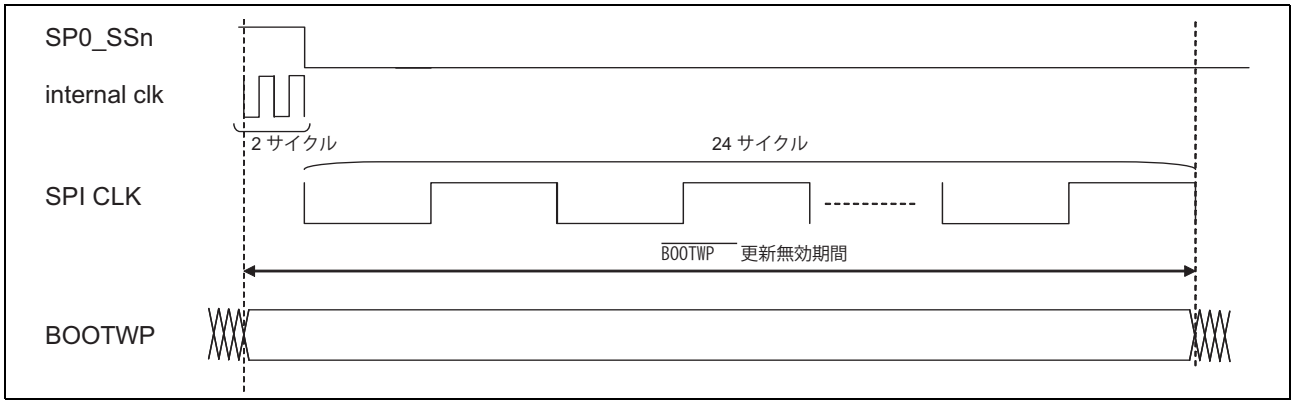


図 15.4　$\overline{\text{BOOTWP}}$ 端子の更新制約期間

ライトプロテクト領域には境界制約があります。図 15.5、図 15.6 にライトプロテクト領域の制約を示します。「15.4.29 SPI オペレーションレジスタ D (ORD) (WPM2)、Index = 0xD」にライトプロテクト領域サイズの計算式を示します。

■ WPSzSI == '0'

BOOTWPSZ [1 : 0]	ORA ～ ORC	ORD ～ ORF
L,L: 64 KB	64KB 境界で設定	NA
L,H: 128 KB	128KB 境界で設定	NA
H,L: 256 KB	256KB 境界で設定	NA

注1. {ORA, ORB, ORC } = M * WP サイズ (M = 0, 1, 2, … と M * WP サイズ < フラッシュサイズ)
注2. ソフトウェアにより、いずれの値でもORA～ORC レジスタに書き込み可能ですが、SH7752は書き込まれる値が正確かどうか判別しません。ソフトウェアで意図しない値をORA～ORCレジスタに設定した場合、その動作は保証できません。

例.1. BOOTWPSZ[1 : 0] == L,L (64 KB)
{ORA, ORB, ORC} = H'00, H'00, H'00 or H'01, H'00 , H'00 or H'02, H'00, H'00 or ...
例.2. BOOTWPSZ[1 : 0] == L,H (128 KB)
{ORA, ORB, ORC} = H'00, H'00, H'00 or H'02, H'00 , H'00 or H'04, H'00, H'00 or ...
例.3. BOOTWPSZ[1 : 0] == L,L (64 KB)
{ORA, ORB, ORC} = H'00, H'05, H'00 or H'01, H'00, H'FF or H'02, H'01, H'00 or ... 、意図しない値

図 15.5　ライトプロテクト領域の境界制約（WpSzSI ビットが 0 の場合）

■ WpSzSl = '1'

BOOTWPSZ[1:0]	ORA ～ORC	ORD ～ ORF
NA	ORD～ORF レジスタで設定した境界で設定	フラッシュページサイズの倍数に応じて、(2^N - 1) + M と等しい値でなければならない。

注　1. { ORD, ORE, ORF } = (2^N - 1) + M (N = 0, 1, 2, 3, 4, ...)
フラッシュページサイズが 256バイト のとき、N = 8, 9, ...

2. （M）は指定したフラッシュメモリサイズの中間アドレス
BOOTSZ[1:0] = 1 Mbyte の中間アドレス（M）は H'08 0000
BOOTSZ[1:0] = 2 Mbytesの中間アドレス（M）は H'10 0000
BOOTSZ[1:0] = 4 Mbytesの中間アドレス（M）は H'20 0000
BOOTSZ[1:0] = 8 Mbytes の中間アドレス（M）は H'40 0000

3. ソフトウェアにより、いずれの値でもORA～ORC、及びORD～ORF レジスタに書き込み可能ですが、SH7752は書き込まれる値が正確かどうか判別しません。
ソフトウェアで意図しない値をORA～ORC、及びORD～ORF レジスタに設定した場合、その動作は保証できません。

4. { ORA to ORC } + WPサイズ < M

例.1. {ORA, ORB, ORC} = H'00 , H'00 , H'00 or H'01 ,H'00 , H'00 or H'02 , H'00 , H'00 or ...
{ORD, ORE, ORF} = H'20 , H'FF , H'FF (BOOTSZ[1:0] = 4 MB)
すなわち、ORA、ORB、及びORC レジスタで指定したアドレスから64KBの空間

例.2. {ORA, ORB, ORC} = H'00 , H'00 , H'00 or H'01 , H'00 , H'00 or H'02 , H'00 , H'00 or ...
{ORD, ORE, ORF} = H'20 , H'0F , H'F5、意図しない値

図 15.6　ライトプロテクト領域の境界制約（WpSzSl ビットが 0 の場合）

２つのライトプロテクト領域はフラッシュメモリの空間に配置されます。最初の空間は下位半分で、次の空間は上位半分です。図 15.7、図 15.8にライトプロテクト領域例を示します。

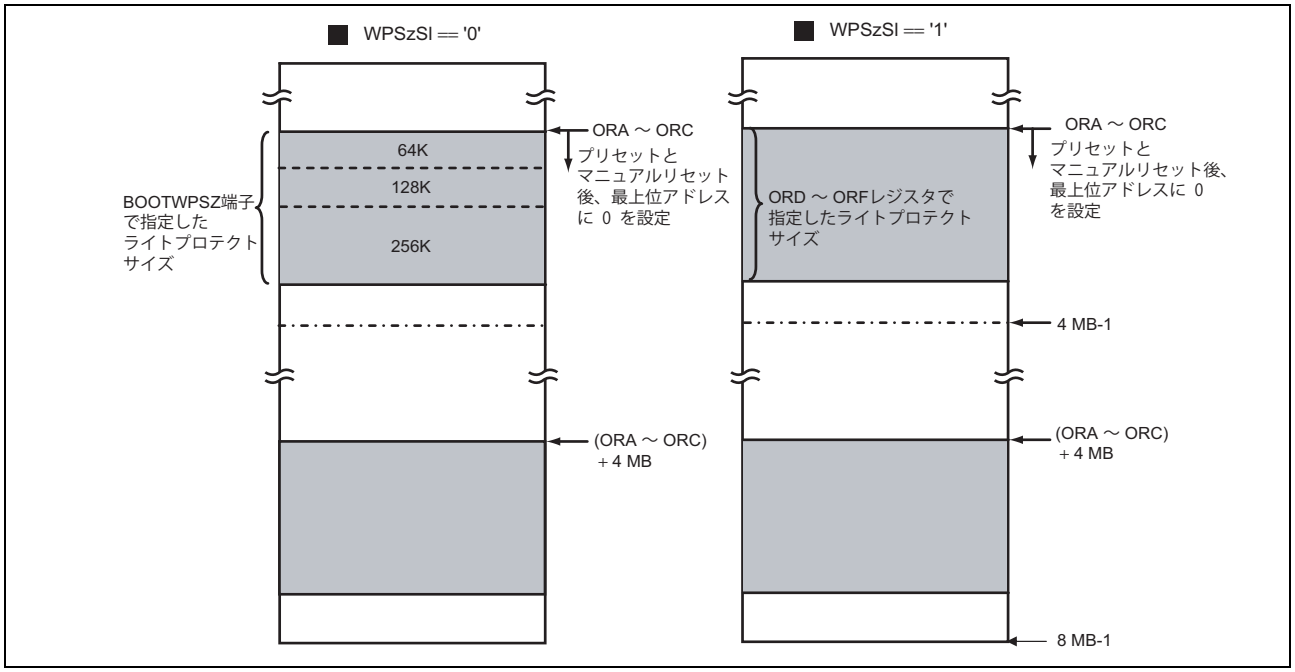


図 15.7　ライトプロテクトメモリマップ例
({BOOTWPSZ1, BOOTWPSZ0} = {HH} = 8 MB)

■ 例: 1 MBのSPI フラッシュメモリ (BOOTSZ[1:0] = L,L),
{ORA,ORB,ORC} = H'001000, {ORD,ORE,ORF} = H'080FFF

MIRROR CRTM を行うため、以下のルールに従ってください。

1. ライトプロテクト空間サイズを計算
   WpSize = 4 KB = 2^12
2. ライトプロテクトマスク空間サイズを計算
   WpM = WpSize - 1 = 2^12 - 1 = H'00 0FFF
3. フラッシュサイズに基く中間アドレスを計算
   1MBのフラッシュメモリの中間アドレス（M）はH'08 0000
4. ORD、ORE、及びORFレジスタ設定
   中間アドレス + WpM = H'08 0FFF
5. ORA、ORB、及びORCレジスタ設定
   ライトプロテクトサイズの倍数 = H'00 1000に設定

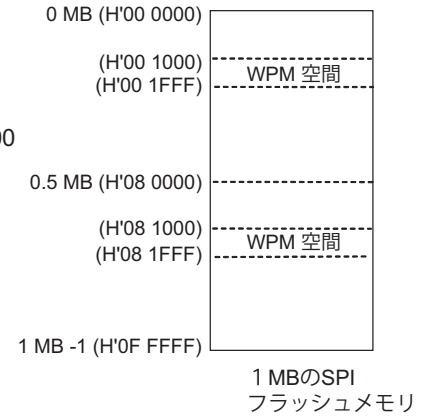


図 15.8　ORD～ORF レジスタに関する計算方法

15.7　使用上の注意事項

15.7.1　CPHA ビットの制限

1. 制限

CPHA ビット（CR2 レジスタのビット4）を”1”に設定することはできません。以下の通り設定してください。

- SPI デバイスで、{CPOL, CPHA} = {1,1} モードを使用しないでください。{CPOL, CPHA} = {0,0} を使用してください。
- SPI デバイスで {CPOL, CPHA} = {0,1} モードを使用しないでください。{CPOL, CPHA} = {1,0} モードを使用してください。

2. 説明

CPHA ビットを”1”に設定している場合、誤作動により SPI0 モジュールでロングパスの遅延が発生します。

15.7.2　CS0 空間アクセス制限（MD6 端子＝H）

1. 制限

MD6 端子の状態が H で、SPI 0 のブート機能が有効の場合、CS0 空間はアクセスできません。表15.1 、MD6 端子の説明を参照してください。

2. 説明

MD6 端子の状態が H の場合、CS0 空間は SH-4A の ILRAM 空間に割り当てられます。

15.7.3　書き込みデータサイズの制限

1. 制限

ライトプロテクト機能が有効の場合、書き込みデータサイズは28バイト以下に制限されます。SPI0 モジュールには 32 バイトの書き込むための FIFO バッファがあります。ライトプロテクト機能が有効の場合、この FIFO への最初の書き込みシーケンスの最大サイズは32バイトです。その32バイトは、１バイトの命令、３バイトのアドレス、及び28バイトの書き込みデータから構成されます。

2. 説明

28 バイト以上のデータをライトプロテクト領域に書き込むと、不正なデータが外部 SPI フラッシュメモリに出力されます。しかし、この不正な動作が発生しても、ライトプロテクト領域は保護されます。

不正な動作は、以下のすべての条件を満たす場合、発生します。

A. ライトプロテクト機能が有効

B. ライトプロテクト領域にデータを書き込む

C. FIFO バッファへ２回以上連続して書き込む

16. クロック発振器（CPG）

クロック発振器（CPG）は本LSIの内蔵周辺モジュール、及び外部バスインタフェースに供給するクロックの生成と低消費電力の制御を行います。クロック発振器は、水晶発振回路、PLL回路、分周回路、及び制御部で構成されます。

16.1 特長

- 本LSI内部用のクロックを生成
  CPU、キャッシュ、TLBで使用するCPUクロック（Ick）と、SuperHywayで使用するSHwyクロック（SHck）、内蔵周辺モジュールへ供給する周辺クロック（Pck）を生成します。
- 本LSI外部用のクロックを生成
  外部バスインタフェースで使用する外部バスクロック（CLKOUT）とDDR3インタフェースで使用するDDR3クロック（DDRck）を生成します。
- クロックモード
  CPGへのクロック入力について水晶発振子入力か外部クロック入力かを選択できます。
  CPUクロックの逓倍率の組み合わせを2種類のクロック動作モードから選択できます。
- 低消費電力モードの制御
  スリープモードでのクロック停止、及びモジュールストップモードでの特定モジュールの停止が可能です（スリープモード、モジュールストップモードについては、「18. 低消費電力モード」を参照してください）。

図16.1 にCPG のブロック図を示します。

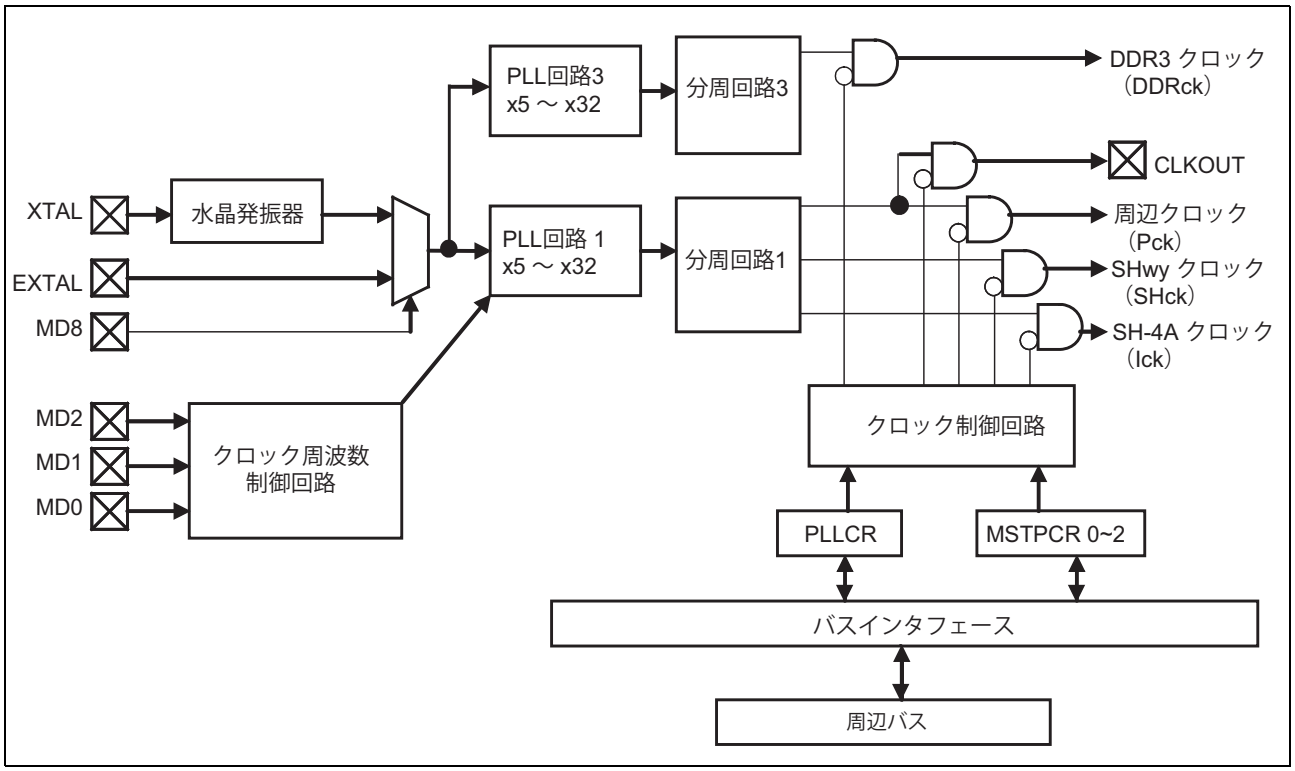


図 16.1　CPG ブロック図

CPG の各ブロックは次のように機能します。

(1)　水晶発振回路

XTAL、EXTAL 端子に水晶発振子を接続して使用する場合の発振回路です。
水晶発振回路はMD8 端子の設定により使用可能となります。

(2)　PLL 回路1

PLL 回路1 は、水晶発振回路 又はEXTAL 端子からの入力クロック周波数を、5～32 倍に逓倍する機能を持ちます。

(3)　分周回路1

分周回路1 は、CPU クロック（Ick）、SHwy クロック（SHck）、周辺クロック（Pck）を生成します。

(4)　PLL 回路3

PLL 回路3 は、水晶発振回路又はEXTAL 端子からの入力クロック周波数を、5～32 倍に逓倍する機能を持ちます。

(5)　分周回路3

分周回路3 は、DDR3クロック（DDRck）を生成します。

(6)　PLL 制御レジスタ（PLLCR）

PLL 制御レジスタには、CLKOUT 出力のON/OFF 制御ビットが割り当てられています。

(7)　モジュールストップレジスタ0～2（MSTPCR0～2）

モジュールストップレジスタ 0 ～ 2 には、各周辺モジュールの動作／停止を制御するビットが割り当てられています。本レジスタの仕様については「18. 低消費電力モード」を参照してください。

16.2 入出力端子

CPG の端子構成を表16.1 に示します。

表16.1 CPG の端子構成と機能

端子名	機能	入出力	説 明
MD0 MD1 MD2	クロック動作モード設定	入力	LLL：クロック動作モード0（表16.2参照） LLH：クロック動作モード1 注. 上記以外は設定禁止。
MD8	クロック端子機能設定	入力	L：外部クロック入力（EXTAL端子に外部クロック信号を入力） H：水晶発振子接続（EXTAL/XTAL端子間に水晶発振子を接続）
XTAL	水晶発振子	出力	水晶発振子を接続します。
EXTAL	水晶発振子／ 外部クロック	入力	水晶発振子を接続します。また、外部クロック信号を入力することもできます。
CLKOUT	システムクロック出力	出力	外部デバイスにシステムクロックを供給します。

16.3 クロック動作モード

モード制御端子（MD0、MD1 、及びMD2）の組み合わせとクロック動作モードの関係を表16.2 に示します。

表16.2 クロック動作モード

クロック動作モード	モード端子（注1）			Ick		SHck		Pck		DDRck	
	MD2	MD1	MD0	周波数比（注2）	周波数（注3）	周波数比（注2）	周波数（注3）	周波数比（注2）	周波数（注3）	周波数比（注2）	周波数（注3）
0	L	L	L	8	384MHz	4	192MHz	1	48MHz	11	528MHz
1	L	L	H	12	576MHz	4	192MHz	1	48MHz	11	528MHz

注1. 上記以外のモード端子（MD2、MD1 、及びMD0）の組み合わせは設定しないでください
2. 水晶発振回路又はEXTAL 端子からの入力クロック周波数を1 としたときの各クロック周波数比です。
3. EXTAL周波数が48MHzの場合。

16.4　レジスタの説明

CPG のレジスタ構成を表16.3 に示します。

指定されたビット幅でレジスタにアクセスしてください。指定されたビット幅以外のサイズでレジスタにアクセスした場合、動作は保証できません。

表16.3　レジスタ構成

名 称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態	
					パワーオンリセット	マニュアルリセット
PLL 制御レジスタ	PLLCR	R/W	H'FFC8 0024	32	H'0000 F000	保持

16.4.1　PLL制御レジスタ（PLLCR）

PLLCR は、読み出し／書き込み可能な32 ビットのレジスタで、CLKOUT 端子からのクロック出力の有無の指定を行います。PLLCR はロングワードアクセスのみ可能です。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	CKOFF	—
初期値：	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
15 ～ 12	—	1	—	リザーブビット（書き込む値は“1”にしてください）
11 ～ 2	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
1	CKOFF	0	R/W	CLKOUT 出力停止 0：CLKOUT 端子からクロックを出力する 1：CLKOUT 端子からクロックを出力しない （端子状態はHi-Z）
0	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

16.5　発振回路例

CPGには発振子を接続、又は外部で生成されたクロックを入力してください。
発振回路例を以下に示します。

16.5.1　発振子の接続例（MD8＝H）

図16.2にEXTAL端子とXTAL端子の間に発振子を接続した例を示します。
図中の、Rf、Rd、Cin、Coutなどの回路定数は、発振子によって異なります。発振子メーカの推奨する値に設定してください。

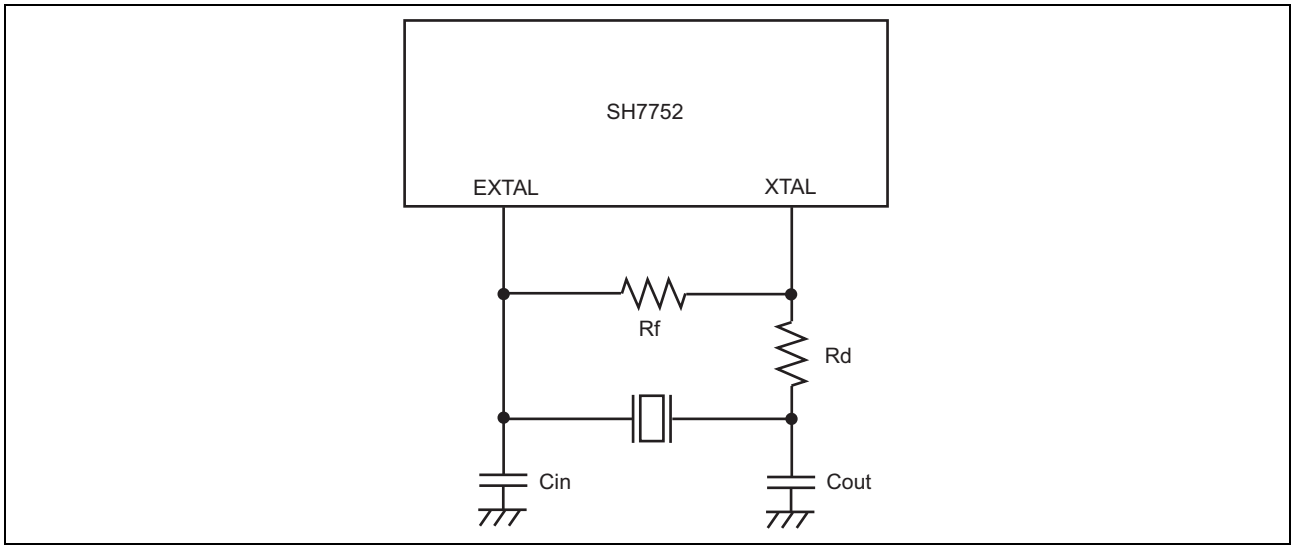


図 16.2　発振子の接続例

16.5.2　外部で生成されたクロックの入力例（MD8＝L）

図16.3に外部で生成されたクロックの入力例を示します。
この場合、EXTAL端子に外部で生成されたクロックを入力し、XTAL端子は開放してください。

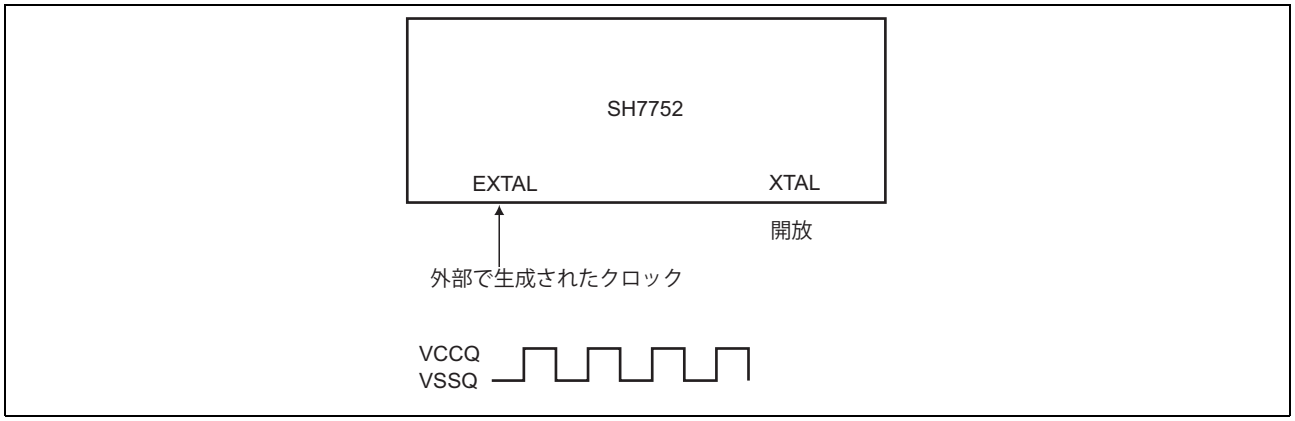


図 16.3　外部で生成されたクロックの入力例

17. リセット、ウォッチドッグタイマ（WDT）

リセット、ウォッチドッグタイマ（WDT）は、リセット制御部とウォッチドッグタイマ制御部から構成され、パワーオンリセット時のシーケンス制御と、本 LSI 内部及び外部周辺デバイスのリセットを制御します。

WDT は 3 チャネルのタイマでありウォッチドッグタイマ又はインターバルタイマとしても使用可能です。

各チャネルの使用可能な機能を表 17.1 に示します。

表 17.1　リセット、ウォッチドッグタイマ（WDT）機能一覧表

	入力クロック	インターバルタイマモード	ウォッチドッグタイマモード	SPI0のブートリカバリ	ABR（オルタネートブートブロックリカバリ）	マニュアルリセットの発生
WDT0	16種類のカウンタ入力クロック	使用可能	使用可能	使用可能	N/A	使用可能
WDT1	16種類のカウンタ入力クロック 8種類のSUBカウンタ入力クロック	使用可能	使用可能	使用可能	N/A	使用可能
WDT2	16種類のカウンタ入力クロック	N/A	N/A	N/A	使用可能	N/A （ABR機能によるソフトウェアリセット）

図17.1 にウォッチドッグタイマ（WDT）のブロック図を示します。

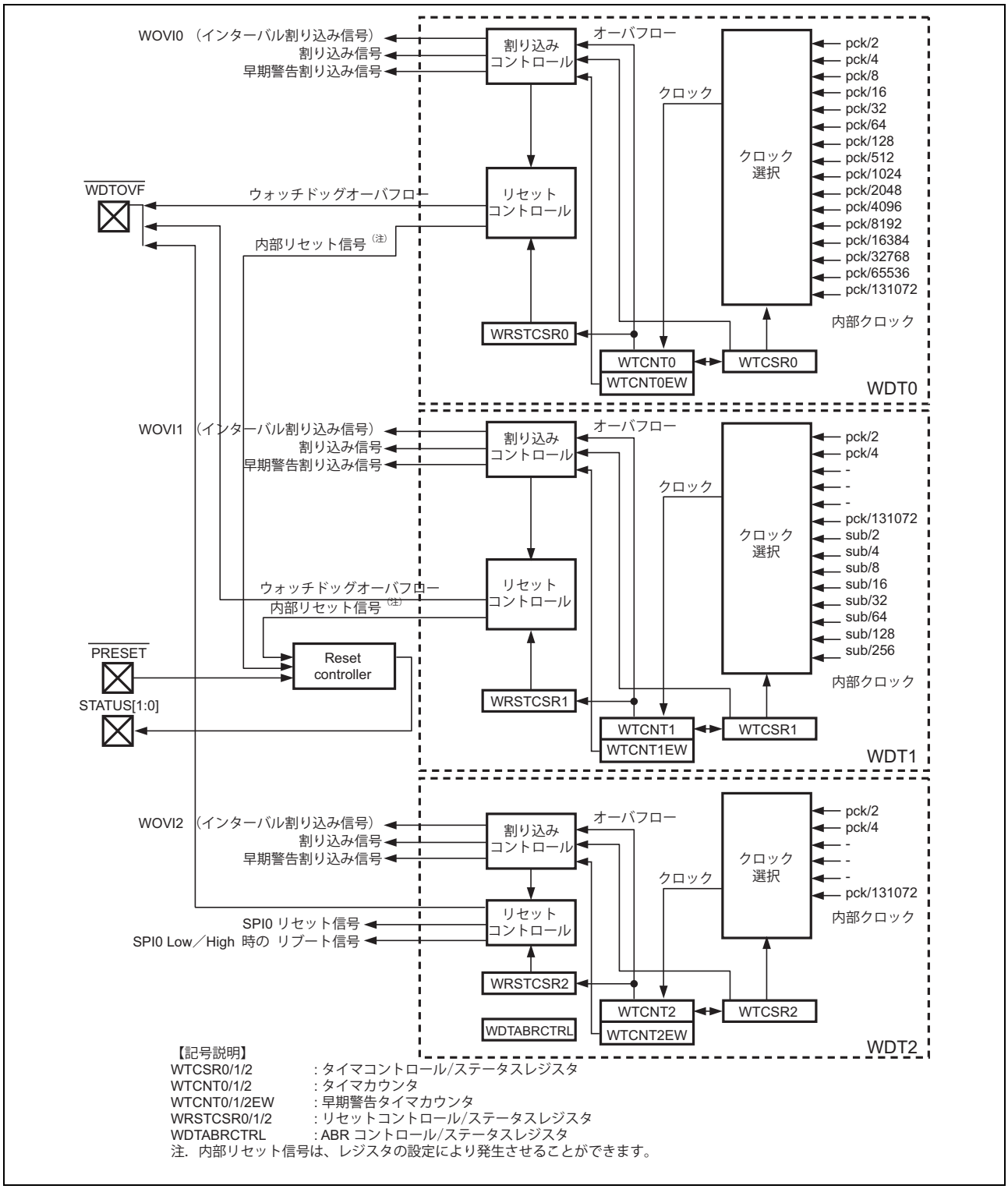


図 17.1　WDTのブロック図

17.1 WDT0とWDT1

17.1.1 特長

ウォッチドッグタイマ（WDT0、WDT1）は16ビットタイマです。システムの暴走を監視するウォッチドッグタイマモードと一定周期をカウントするインターバルタイマモードがあります。

入力クロック

16種類のカウンタ入力クロック（WDT0、WDT1）を選択可能

8種類のSUBカウンタ入力クロック（WDT 1）を選択可能

タイマモード

ウォッチドッグタイマモード

WDT0とWDT1は、カウンタがオーバフローすると、外部に$\overline{\text{WDTOVF}}$信号を出力します。カウンタがオーバフローするタイミングで本LSI内部をリセットするかどうかを選択可能です。リセットする場合、本LSIはSPI0からブートします。（SPI0ブート機能の詳細は「15. シリアルペリフェラルインタフェース（SPI0）」で説明しています。）

インターバルタイマモード

WDT0とWDT1は、カウンタがオーバフローすると、インターバルタイマ割り込み（WOVI）が発生します。

早期警告タイマカウンタ

WDT0とWDT1は、早期警告カウンタがオーバフローすると、早期警告割り込みが発生します。（ウォッチドッグタイマとインターバルタイマの両モードともに発生）

17.1.2 入出力端子

WDT0とWDT1の端子構成と機能を表17.2に示します。

表17.2　WDT0とWDT1の端子構成と機能

端子名	機能	入出力	説 明
$\overline{\text{PRESET}}$	パワーオンリセット	入力	この信号がLレベルになると、本LSIはリセット状態になります。
SUB-CLKIN	クロック入力	入力	32.768kHzのクロック出力端子です
$\overline{\text{WDTOVF}}$	ウォッチドッグタイマオーバフロー	出力	WDTからのオーバフロー出力信号

17.1.3　レジスタの説明

表17.3 にWDT0 と WDT1 のレジスタ構成を示します。WTCSR、WRSTCSR は容易に書き換えられないように、ライト方法が一般のレジスタと異なっています。詳細は、「17.7.1 レジスタアクセス時の注意」を参照してください。

指定されたビット幅で、レジスタにアクセスしてください。指定されたビット幅以外のサイズでレジスタにアクセスした場合、動作は保証できません。

表17.3　WDT0 と WDT1 のレジスタ構成

名 称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態	
					パワーオンリセット	マニュアルリセット
タイマカウンタ0	WTCNT0	R/W	H'FFCC 0000	16	H'0000	H'0000
タイマコントロール／ステータスレジスタ0	WTCSR0	R/W	H'FFCC 0002	8	H'10	H'10
リセットコントロール／ステータスレジスタ0	WRSTCSR0	R/W	H'FFCC 0003	8	H'00	保持（注）
早期警告タイマカウンタ 0	WTCNT0EW	R/W	H'FFCC 0004	16	H'0000	H'0000
タイマカウンタ1	WTCNT1	R/W	H'FFCD 0000	16	H'0000	H'0000
タイマコントロール／ステータスレジスタ1	WTCSR1	R/W	H'FFCD 0002	8	H'00	H'00
リセットコントロール／ステータスレジスタ1	WRSTCSR1	R/W	H'FFCD 0003	8	H'00	保持（注）
早期警告タイマカウンタ 1	WTCNT1EW	R/W	H'FFCD 0004	16	H'0000	H'0000

注．EOVFビットのみ、ウォッチドックタイマオーバフロー及びマニュアルリセットのいずれの場合でも“0”になります。

17.1.3.1　タイマカウンタ（WTCNT0 と WTCNT1）

WTCNT は、リード／ライト可能な16 ビットのアップカウンタです。WTCNT は、WTCSR のTME ビットが0のとき、H'0000 に初期化されます。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	WTCNT0/WTCNT1															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

17.1.3.2　早期警告タイマカウンタ（WTCNT0EW とWTCNT1EW）

WTCNTEW は、リード／ライト可能な16 ビットのアップカウンタです。WTCNTEW は、WTCSR のTME ビットが0のとき、H'0000に初期化されます。WTCNT がオーバフローしたとき、TME ビットが1であればWTCNTEW に早期警告割り込みを発生させるための新しい値を設定可能です。この動作の詳細を、ウォッチドッグタイマモードは図17.2、インターバルタイマモードは図17.3に示します。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	WTCNT0EW/WTCNT1EW															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

17.1.3.3　タイマコントロール／ステータスレジスタ（WTCSR0、WTCSR1）

WTCSRは、WTCNT に入力するクロック、モードの選択などを行います。

•WTCSR_0

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	OVF	WT/$\overline{IT}$	TME	—	CKS[3:0]			
初期値：	0	0	0	1	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	—	R/W	R/W	R/W	R/W

•WTCSR_1

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	OVF	WT/$\overline{IT}$	TME	PSS	CKS[3:0]			
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	OVF	0	R/W	オーバフローフラグ インターバルタイマモードでWTCNT がオーバフローしたことを示します。フラグをクリアするための0 クリアのみ可能です。 [セット条件] • インターバルタイマモードでWTCNT がオーバフロー(H'FFFF→H'0000) したとき ただし、ウォッチドッグタイマモードで、内部リセット要求を選択した場合は、セット後、内部リセットにより自動的にクリアされます。 [クリア条件] • 1 の状態をリードした後、0 をライトしたとき
6	WT/$\overline{IT}$	0	R/W	タイマモードセレクト ウォッチドッグタイマとして使用するか、インターバルタイマとして使用するかを選択します。 0：インターバルタイマモード WTCNT がオーバフローしたとき、インターバルタイマ割り込み（WOVI）を要求します。 1：ウォッチドッグタイマモード WTCNT がオーバフローしたとき、外部へ$\overline{WDTOVF}$ を出力します。
5	TME	0	R/W	タイマイネーブル このビットを1 にセットするとWTCNT がカウントを開始します。 クリアするとWTCNT はカウント動作を停止し、H'0000 に初期化されます。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
4	—	1	—	WDT0 ：リザーブビット （読み出すと“1”が読めます。書き込む値は“1”にしてください）
	PSS	0	R/W	WDT1：分周クロック選択 0：Pckベースの分周クロックをカウント 1：SUBckベースの分周クロックをカウント
3～0	CKS[3:0]	0000	R/W	クロックセレクト3～0 WTCNT に入力するクロックを選択します。（ ）内はPck＝48MHz、SUBck＝32.768kHz のときのオーバフロー周期を表します。 • WTCSR=1、PSS=0（WDT0、WDT1） 0000：Pck/2 (2.7 ms) 0001：Pck/4 (5.5 ms) 0010：Pck/8 (10.9 ms) 0011：Pck/16 (21.8 ms) 0100：Pck/32 (43.7 ms) 0101：Pck/64 (87.4 ms) 0110：Pck/128 (174.8 ms) 0111：Pck/512 (699.04 ms) 1000：Pck/1024 (1.4 s) 1001：Pck/2048 (2.8 s) 1010：Pck/4096 (5.6 s) 1011：Pck/8192 (12.2 s) 1100：Pck/16384 (22.4 s) 1101：Pck/32768 (44.8 s) 1110：Pck/65536 (89.5 s) 1111：Pck/131072 (179 s) • WTCSR_1.PSS＝1（WDT1 のみ） CSK[2:0] ビットの設定のみ有効。CSK[3] ビットの設定は無効。 000：SUBck/2 (4 s) 001：SUBck/4 (8 s) 010：SUBck/8 (16 s) 011：SUBck/16 (32 s) 100：SUBck/32 (64 s) 101：SUBck/64 (128 s) 110：SUBck/128 (256 s) 111：SUBck/256 (512 s)

17.1.3.4　リセットコントロール／ステータスレジスタ（WRSTCSR0 と WRSTCSR1）

WRSTCSR は、WTCNT のオーバフローによる内部リセット信号の発生を制御し、内部リセット信号の種類を選択します。WRSTCSR は、$\overline{\text{PRESET}}$ 端子からのリセット信号でH'00 に初期化されます。WDT のオーバフローによる内部リセット信号では初期化されません。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	WOVF	RSTE	—	EOVF	EWE	NMIE	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	—	R/W	R/W	R/W	—	—

（注） フラグをクリアするための0ライトのみ可能です。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	WOVF	0	R/W	ウォッチドッグタイマオーバフローフラグ ウォッチドッグタイマモードで、WTCNT がオーバフローするとセットされます。インターバルタイマモードではセットされません。0 ライトのみ可能です。 [セット条件] ウォッチドッグタイマモードでWTCNT がオーバフロー (H'FFFF→H'0000) したとき [クリア条件] 1 の状態をリードした後、0 をライトしたとき
6	RSTE	0	R/W	リセットイネーブル ウォッチドッグタイマモードでWTCNT がオーバフローしたとき、WDTによるマニュアルリセットの実行を可能にします。 0：マニュアルリセット禁止 1：マニュアルリセット許可
5	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
4	EOVF	0	R/W	早期警告オーバフローフラッグ ウォッチドッグタイマとインターバルタイマの両モードともに、WTCNTEWがオーバフローするとセットされます。0 ライトのみ可能です。 [セット条件] ウォッチドッグタイマモードでWTCNTEWがオーバフロー (H'FFFF → H'0000) したとき [クリア条件] 1 の状態をリードした後、0 をライトしたとき
3	EWE	0	R/W	早期警告割り込みイネーブル 早期警告割り込みを許可にします。WTCNTEWがオーバフローすると、EOVF フラッグは 1 にセットされます。ただし、早期警告割り込みの発生はEWE ビットの設定によります。 0：早期警告割り込み禁止 1：早期警告割り込み許可
2	NMIE	0	R/W	インターバルタイマ割り込みイネーブル インターバルタイマ割り込みを許可にします。インターバルタイマモードでWTCNTがオーバフローすると、NMIE ビットの設定により割り込みを発生します。 0：インターバルタイマ割り込み禁止 1：インターバルタイマ割り込み許可
1、0	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

17.2 WDT2

17.2.1 特長

ウォッチドッグタイマ（WDT2）は、一定周期でカウントするタイマを使用して、SH7752のブート中、及びSPI0 からデータ転送中にシステムの暴走を監視する機能を実現します。

入力クロック
3つのオーバフロー時間（SPI0 ABR 遅延時間）

オルタネートブートブロックリカバリ (ABR)機能搭載
オルタネートブートブロックリカバリ機能を搭載しています。WDT2 のカウンタがオーバフローすると、SPI0（注）へリセット信号とリブート信号を発生します。これにより、SPI フラッシュデバイスの上位半分か下位半分の空間からSPI0が起動され、ブート処理を開始します。

注1. WDT2はブートシーケンス中の異常を監視する機能です。本LSIのブートシーケンスが正常に行われた後はWDT2を停止してください。WDT2のカウンタがオーバフローすると、WDTOVF 信号を出力しABR 処理を開始しますが、マニュアルリセットは発生しません。そのため、WDT2ではシステムが暴走しても復帰できない可能性があります。システムの暴走を監視する場合はWDT0又はWDT1を使用してください。
2. SPI0の詳細は、「15. シリアルペリフェラルインタフェース（SPI0）」を参照してください。

17.2.2 入出力端子

表 17.4にWDT2 の端子構成と機能を示します。

表17.4　WDT2 の端子構成と機能

端子名	機能	入出力	説 明
$\overline{\text{PRESET}}$	パワーオンリセット入力端子	入力	端子にL レベルを入力することによりパワーオンリセット状態に遷移します。
BOOTFMS	ブート端子	入力	SPI フラッシュメモリ空間を設定する端子です。 読み出しアクセス時にSPI フラッシュメモリ空間の上位半分（BOOTFMS = H ）か下位半分（BOOTFMS =L ）を指定します。
WDTFOT1、WDTFOT0	ABR用入力端子1、0	入力	WDT2の分周クロックの値を初期化する端子です。
$\overline{\text{WDTOVF}}$	ウォッチドッグタイマオーバフロー	出力	ウォッチドッグタイマモード時のカウンタオーバフロー信号出力

17.2.3　レジスタの説明

表17.5にWDT2 のレジスタ構成を示します。WTCSR、WRSTCSR、WDTABRCTRLは容易に書き換えられないように、ライト方法が一般のレジスタと異なっています。詳細は、「17.7.1 レジスタアクセス時の注意」を参照してください。WTCNT2 がオーバフロー後、選択したクロックの 64 サイクル経過するまでは、WTCSR2、WRSTCSR2、WDTABRCTRLにライトできません。

SPI0 のレジスタ構成、及び各処理モードにおけるレジスタの状態を表17.5 に示します。

表17.5　WDT2のレジスタ構成

名 称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態	
					パワーオンリセット	マニュアルリセット
タイマカウンタ 2	WTCNT2	R/W	H'FFF9 0000	16	H'0000	（保持/H'0000）（注4）
タイマコントロール／ステータスレジスタ 2	WTCSR2	R/W	H'FFF9 0002	8	H'10（注1）	保持
リセットコントロール／ステータスレジスタ 2	WRSTCSR2	R/W	H'FFF9 0003	8	H'00（注2）	保持
早期警告タイマカウンタ 2	WTCNT2EW	R/W	H'FFF9 0004	16	H'0000	H'0000
ABR コントロール／ステータスレジスタ	WDTABRCTRL	R/W	H'FFF9 0006	8	H'E8（注3）	保持

注1. WTCSR2 は、WDTFOT1,0 = L,L のときのみ H'10 に初期化されます。詳細はレジスタの説明を参照してください。
2. WRSTCSR2 は、WDTFOT1,0 = L,L のときのみ H'00 に初期化されます。詳細はレジスタの説明を参照してください。
3. WDTABRCTRL は、BOOTFMS = L のとき H'E8 に初期化され、WDTABRCTRL は BOOTFMS = H のとき H'F8 に初期化されます。
4. マニュアルリセット時、WTCNT2 のレジスタ状態はADIS ビット（WDTABRCTRL レジスタのビット0）に依存します。
   ADISビット＝0のとき：保持
   ADISビット＝1のとき：H'0000 に初期化

17.2.3.1　タイマカウンタ（WTCNT2）

WTCNT は、リード／ライト可能な16 ビットのアップカウンタです。WTCNT は、WTCSR のTME ビットが”0”のとき、H'0000 に初期化されます。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	WTCNT2															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

17.2.3.2　早期警告タイマカウンタ（WTCNT2EW）

WTCNTEW は、リード／ライト可能な16 ビットのアップカウンタです。WTCNTEW は、WTCSR のTME ビットが”0”のとき、H'0000 に初期化されます。TME ビットが”1”のとき、WTCNTEW に新しい値を設定するとWTCNTEW がオーバフローしたときに早期警告割り込みを発生します。この動作の詳細を、ウォッチドッグタイマモードは図17.2、インターバルタイマモードは図17.3に示します。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	WTCNT2EW															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

17.2.3.3　タイマコントロール／ステータスレジスタ（WTCSR2）

WTCSR は、WTCNT に入力するクロック、WTCNT でカウントを開始するかどうかの選択などを行います。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	WT/$\overline{IT}$	TME	—	CKS[3:0]			
初期値：	0	(0/1) (注)	(0/1) (注)	1	(0/1) (注)	(0/1) (注)	(0/1) (注)	(0/1) (注)
R/W：	—	R	R/W	—	R	R	R	R

注. WDTFOT1,0 = L,L のとき、
初期値はWT/IT=0、TME=0、及びCKS[3:0]=0000 です。
WDTFOT1,0 = L,H/H,L/H,H のとき、対応する初期値は
WT/IT=1, TME=1, CKS[3:0]=1100/ 1101/1110 です。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
6	WT/$\overline{IT}$	(0/1)（注）	R	ABR 機能イネーブル ABR 機能が使用可能かどうかをを示します。初期値はWDTFOT1 端子とWDTFOT0 端子の設定によります。初期値は変更しないでください。 0：ABR 機能が無効 1：ABR 機能が有効 WTCNT がオーバフローするとき$\overline{WDTOVF}$信号が出力され、本LSIは ABR のリブート処理を開始します。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
5	TME	(0/1)（注）	R/W	タイマイネーブル このビットを1 にセットすると、WTCNT はカウントを開始します。クリアするとWTCNT はカウント動作を停止し、H'00 に初期化されます。
4	—	1	—	リザーブビット（書き込む値は“1”にしてください）
3～0	CKS[3:0]	（注）	R	クロックセレクト3～0 WTCNT に入力するクロックを選択します。（ ）内はPck＝48MHz、SUBck＝32.768kHz のときのオーバフロー周期を表します。 WDTFOT1、及びWDTFOT0 端子で指定する値を使用することを推奨します。 0000：ABR 機能無効 1100：Pck/16384 (22.4 s) 1101：Pck/32768 (44.8 s) 1110：Pck/65536 (89.5 s)

注.　WDTFOT1,0 = L,L のとき、初期値はWT/$\overline{IT}$ = 0、TME = 0、及びCKS[3:0] = 0000 です。
WDTFOT1,0 = L,H/H,L/H,H のとき、対応する初期値はWT/$\overline{IT}$ = 1、TME = 1、及びCKS[3:0] = 1100/ 1101/1110 です。

17.2.3.4　リセットコントロール／ステータスレジスタ（WRSTCSR2）

WRSTCSR は、WTCNT のオーバフローによる内部リセット信号の発生を制御し、内部リセット信号の種類を選択します。WRSTCSR は、$\overline{PRESET}$ 端子からのリセット信号でH'00 に初期化されます。WDT のオーバフローによる内部リセット信号では初期化されません。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	WOVF	—	—	EOVF	EWE	—	ABR[1:0]	
初期値：	0	0	0	0	0	0	(0/1) (注)	(0/1) (注)
R/W：	R/W	—	—	R/W	R/W	—	R	R

注.　WDTFOT1,0 =L,H/H,L/H,H のとき、ABR[1:0]の対応する初期値は00/01/10/11です。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	WOVF	0	R/W	ウォッチドッグタイマオーバフローフラグ ウォッチドッグタイマモードで、WTCNT がオーバフローするとセットされます。インターバルタイマモードではセットされません。0 ライトのみ可能です。 [セット条件] ウォッチドッグタイマモードでWTCNT がオーバフロー(H'FFFF→H'0000) したとき [クリア条件] 1 の状態をリードした後、0 をライトしたとき
6、5	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
4	EOVF	0	R/W	早期警告オーバフローフラグ WTCNTEWがオーバフローするとセットされます。0 ライトのみ可能です。 [セット条件] ウォッチドッグタイマモードでWTCNTEWがオーバフロー(H'FFFF → H'0000) したとき [クリア条件] 1 の状態をリードした後、0 をライトしたとき
3	EWE	0	R/W	早期警告割り込みイネーブル 早期警告割り込みを可能にします。WTCNTEWがオーバフローすると、EOVF フラグは 1 にセットされます。ただし、早期警告割り込みの発生はEWE ビットの設定によります。 0：WTCNTEWがオーバフロー時、早期警告割り込み発生せず 1：WTCNTEWがオーバフロー時、早期警告割り込み発生
2	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
1、0	ABR[1:0]	(0/1)（注）	R R	本ビットWDTFOT1、0は端子に入力されたレベルを示します。 ABR[1]：WDTFOT1 端子 ABR[0]：WDTFOT0 端子 0：L レベル 1：H レベル

注．WDTFOT1,0 = L,H/H,L/H,H のとき、ABR[1:0] の対応する初期値は 00/01/10/11 です。

17.2.3.5　ウォッチドッグ ABR コントロールステータスレジスタ（WDTABRCTRL）

WDTABRCTRL はSPI0から本LSI へのブート機能とリブート機能を制御します。本LSIは、パワーオンリセット後、BOOTFMS 端子の状態に応じてSPI0からブートを開始します。また、HALF ビットはSPI0のブート空間を示します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	HALF	—	AHALF	ASRT	ADIS
初期値：	1	1	1	(0/1) (注)	1	0	0	0
R/W：	—	—	—	R	—	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7～5	—	1	—	リザーブビット（書き込む値は“1”にしてください）
4	HALF	(0/1)（注）	R	SPI0 のブート空間を示します。本ビットを書き込みできません。 0：SPI0 の下位半分の空間からブート 1：SPI0 の上位半分の空間からブート
3	—	1	—	リザーブビット（書き込む値は“1”にしてください）
2	AHALF	0	R/W	ソフトウェアによるリブート ソフトウェアで、SPI0 の上位半分か下位半分の空間からリブートさせたいとき、本ビットに ”0” か “1” を書き込みます。その後、リブート処理を開始するため ASRT に“1” を書き込みます。

1	ASRT	0	R/W	ABR 開始 ソフトウェアで本ビットに 1 を書き込むと、リブート処理を開始し、本LSI はSPI0 からリブートを開始します。“1” を書き込むと、自動的に” 0” にクリアされます。
0	ADIS	0	R/W	ABR 無効 WDT2 カンウンタがオーバフローしたとき（WDTFOT1、WDTFOT0 = 00 の場合を除く）、本LSI でABR リブートを開始するかどうか選択可能です。 0：ABR リブート機能有効 1：ABR リブート機能無効

注．BOOTFMS = L のとき、パワーオンリセット後に HALF ビット は” 0” に初期化されます。その後、本LSIは SPI0 の下位半分の空間からブートを開始します。
BOOTFMS = H のとき、パワーオンリセット後にHALF ビット は“1” に初期化されます。その後、本LSIはSPI0 の上位半分の空間からブートを開始します。
ソフトウェアのリブート（ASRT=1）により、SPI0 の上位半分か下位半分の空間から行われるブート処理は本ビットには影響しません。

17.3 リセット

17.3.1 特長

リセット方法

- パワーオンリセット（電源投入時にリセット）
- マニュアルリセット（ウォッチドッグタイマのオーバフローにより発生するリセットで、プログラムはリセットの必要がないモジュールを指定可能）本リセット機能はWDT0、WDT1のみに適用可能です。WDT2はマニュアルリセットを発生しません。
- ソフトウェアリセット
  ソフトウェアで、対応するモジュールをリセット／リセットリリースの状態（通常状態）に設定可能

17.3.2 入出力端子

表17.6にリセットの端子構成と機能を示します。

表17.6　リセットの端子構成と機能

端子名	機能	入出力	説 明
STATUS[1:0]（注）	ステータス出力	出力	プロセッサの動作状態を表します。 HH：リセット HL：スリープモード LL：通常動作

注．STATUS[1:0]端子は、PWMX、GPIO端子とマルチプレクスされています。

17.3.3 レジスタの説明

表17.7　レジスタ構成

レジスタ名	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
					パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウエアリセット
マニュアルリセットコントロールレジスタ0	MRSTCR0	R/W	H'FFD5 0030	32	H'FE1F FE7F	保持	保持
マニュアルリセットコントロールレジスタ1	MRSTCR1	R/W	H'FFD5 0034	32	H'FFF3 FFFF	保持	保持
マニュアルリセットコントロールレジスタ2	MRSTCR2	R/W	H'FFC1 0040	32	H'FFA0 FEFF	保持	保持
ソフトウェアリセットレジスタ0	SRSTR0	R/W	H'FFD5 0038	32	H'0000 0000	保持	保持
ソフトウェアリセットレジスタ1	SRSTR1	R/W	H'FFD5 003C	32	H'0000 0000	保持	保持
ソフトウェアリセットレジスタ2	SRSTR2	R/W	H'FFC1 0048	32	H'0000 0000	保持	保持

17.3.3.1　マニュアルリセットコントロールレジスタ 0 （MRSTCR0）

MRSTCR0 は、各機能ごとにマニュアルリセットによる初期化の許可／禁止を設定するレジスタです。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	PWMX PCSR	RSPI	—	SIM	CRYPTO ENGINE	SDHI	ARC4	—	—	—	—	—	RIIC7	RIIC6	RIIC5	RIIC4
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	1	1	1	1	1
R/W：	R/W	R/W	—	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RIIC3	RIIC2	RIIC1	RIIC0	SCIF4	SCIF3	SCIF2	SCIF1	SCIF0	FRT	EVC	CRC	ADC1	ADC0	ETHER	DMAC
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31	PWMXPCSR	1	R/W	PWMX 周辺クロックセレクトレジスタ0、1 0 ：PWMX の PCSR0/PCSR1 レジスタのマニュアルリセット禁止 1 ：PWMX の PCSR0/PCSR1 レジスタのマニュアルリセット許可
30	RSPI	1	R/W	RSPI マニュアルリセットイネーブル 0：RSPIのマニュアルリセット禁止 1：RSPIのマニュアルリセット許可
29	—	1	—	リザーブビット（書き込む値は“1”にしてください）
28	SIM	1	R/W	SIM マニュアルリセットイネーブル 0：SIMのマニュアルリセット禁止 1：SIMのマニュアルリセット許可
27	CRYPTO ENGINE	1	R/W	CRYPTO ENGINE マニュアルリセットイネーブル 0：CRYPTO ENGINEのマニュアルリセット禁止 1：CRYPTO ENGINEのマニュアルリセット許可
26	SDHI	1	R/W	SDHI マニュアルリセットイネーブル 0：SDHIのマニュアルリセット禁止 1：SDHIのマニュアルリセット許可
25	ARC4	1	R/W	ARC4 マニュアルリセットイネーブル 0：ARC4のマニュアルリセット禁止 1：ARC4のマニュアルリセット許可
24～21	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
20	—	1	—	リザーブビット（書き込む値は“1”にしてください）
19	RIIC7	1	R/W	RIIC ch7 マニュアルリセットイネーブル 0：RIIC ch 7のマニュアルリセット禁止 1：RIIC ch 7のマニュアルリセット許可
18	RIIC6	1	R/W	RIIC ch6 マニュアルリセットイネーブル 0：RIIC ch 6のマニュアルリセット禁止 1：RIIC ch 6のマニュアルリセット許可

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
17	RIIC5	1	R/W	RIIC ch5 マニュアルリセットイネーブル 0：RIIC ch 5のマニュアルリセット禁止 1：RIIC ch 5のマニュアルリセット許可
16	RIIC4	1	R/W	RIIC ch4 マニュアルリセットイネーブル 0：RIIC ch 4のマニュアルリセット禁止 1：RIIC ch 4のマニュアルリセット許可
15	RIIC3	1	R/W	RIIC ch3 マニュアルリセットイネーブル 0：RIIC ch 3のマニュアルリセット禁止 1：RIIC ch 3のマニュアルリセット許可
14	RIIC2	1	R/W	RIIC ch2 マニュアルリセットイネーブル 0：RIIC ch 2のマニュアルリセット禁止 1：RIIC ch 2のマニュアルリセット許可
13	RIIC1	1	R/W	RIIC ch1 マニュアルリセットイネーブル 0：RIIC ch 1のマニュアルリセット禁止 1：RIIC ch 1のマニュアルリセット許可
12	RIIC0	1	R/W	RIIC ch0 マニュアルリセットイネーブル 0：RIIC ch 0のマニュアルリセット禁止 1：RIIC ch 0のマニュアルリセット許可
11	SCIF4	1	R/W	SCIF4 マニュアルリセットイネーブル 0：SCIF4のマニュアルリセット禁止 1：SCIF4のマニュアルリセット許可
10	SCIF3	1	R/W	SCIF3 マニュアルリセットイネーブル 0：SCIF3のマニュアルリセット禁止 1：SCIF3のマニュアルリセット許可
9	SCIF2	1	R/W	SCIF2 マニュアルリセットイネーブル 0：SCIF2のマニュアルリセット禁止 1：SCIF2のマニュアルリセット許可
8	SCIF1	0	R/W	SCIF1 マニュアルリセットイネーブル 0：SCIF1のマニュアルリセット禁止 1：SCIF1のマニュアルリセット許可
7	SCIF0	0	R/W	SCIF0 マニュアルリセットイネーブル 0：SCIF0のマニュアルリセット禁止 1：SCIF0のマニュアルリセット許可
6	FRT	1	R/W	FRT マニュアルリセットイネーブル 0：FRTのマニュアルリセット禁止 1：FRTのマニュアルリセット許可
5	EVC	1	R/W	EVC マニュアルリセットイネーブル 0：EVCのマニュアルリセット禁止 1：EVCのマニュアルリセット許可
4	CRC	1	R/W	CRC マニュアルリセットイネーブル 0：CRCのマニュアルリセット禁止 1：CRCのマニュアルリセット許可

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
3	ADC1	1	R/W	ADC ch15 ～ 8 マニュアルリセットイネーブル 0：ADC ch 15 ～ 8のマニュアルリセット禁止 1：ADC chs 15 ～ 8のマニュアルリセット許可
2	ADC0	1	R/W	ADC ch7 ～ 0 マニュアルリセットイネーブル 0：ADC ch 7 ～ 0のマニュアルリセット禁止 1：ADC chs 7 ～ 0のマニュアルリセット許可
1	ETHER	1	R/W	ETHER マニュアルリセットイネーブル 0：ETHERのマニュアルリセット禁止 1：ETHERのマニュアルリセット許可
0	DMAC	1	R/W	DMAC マニュアルリセットイネーブル 0：DMACのマニュアルリセット禁止 1：DMACのマニュアルリセット許可

17.3.3.2　マニュアルリセットコントロールレジスタ 1 （MRSTCR1）

MRSTCR1 は、各機能ごとにマニュアルリセットによる初期化の許可／禁止を設定するレジスタです。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	USBPHY	—	—	—	—	—	—	—	—	SECROM	—	SGPIO	—	—	RIIC9	RIIC8
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	1
R/W：	R/W	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	—	R/W	—	—	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	USB0	USB1	TMU345	TMU012	TMR45	TMR23	TMR01	PWMX3	PWMX2	PWMX1	PWMX0	—	—	—	—
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W：	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31	USBPHY	1	R/W	USBPHY マニュアルリセットイネーブル 0：USBPHYのマニュアルリセット禁止 1：USBPHYのマニュアルリセット許可
30 ～ 23	—	1	—	リザーブビット（書き込む値は“1”にしてください）
22	SECROM	1	R/W	SECROM マニュアルリセットイネーブル 0：SECROMのマニュアルリセット禁止 1：SECROMのマニュアルリセット許可
21	—	1	—	リザーブビット（書き込む値は“1”にしてください）
20	SGPIO	1	R/W	SGPIO マニュアルリセットイネーブル 0：SGPIOのマニュアルリセット禁止 1：SGPIOのマニュアルリセット許可
19、18	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
17	RIIC9	1	R/W	RIIC ch9 マニュアルリセットイネーブル 0：RIIC ch 9のマニュアルリセット禁止 1：RIIC ch 9のマニュアルリセット許可
16	RIIC8	1	R/W	RIIC ch8 マニュアルリセットイネーブル 0：RIIC ch 8のマニュアルリセット禁止 1：RIIC ch 8のマニュアルリセット許可
15	—	1	—	リザーブビット（書き込む値は“1”にしてください）
14	USB0	1	R/W	USB0 マニュアルリセットイネーブル 0：USB0のマニュアルリセット禁止 1：USB0のマニュアルリセット許可
13	USB1	1	R/W	USB1 マニュアルリセットイネーブル 0：USB1のマニュアルリセット禁止 1：USB1のマニュアルリセット許可
12	TMU345	1	R/W	TMU ch5 ～ 3 マニュアルリセットイネーブル 0：TMU ch 5 ～ 3のマニュアルリセット禁止 1：TMU ch 5 ～ 3のマニュアルリセット許可
11	TMU012	1	R/W	TMU ch2 ～ 0 マニュアルリセットイネーブル 0：TMU ch 2 ～ 0のマニュアルリセット禁止 1：TMU ch 2 ～ 0のマニュアルリセット許可
10	TMR45	1	R/W	TMR ch4 、5 マニュアルリセットイネーブル 0：TMR ch 4 、5のマニュアルリセット禁止 1：TMR ch 4 、5のマニュアルリセット許可
9	TMR23	1	R/W	TMR ch2 、3 マニュアルリセットイネーブル 0：TMR ch 2 、3のマニュアルリセット禁止 1：TMR ch 2 、3のマニュアルリセット許可
8	TMR01	1	R/W	TMR ch0 、1 マニュアルリセットイネーブル 0：TMR ch 0、1のマニュアルリセット禁止 1：TMR ch 0 、1のマニュアルリセット許可
7	PWMX3	1	R/W	PWMX3 マニュアルリセットイネーブル 0：PWMX3のマニュアルリセット禁止 1：PWMX3のマニュアルリセット許可
6	PWMX2	1	R/W	PWMX2 マニュアルリセットイネーブル 0：PWMX2のマニュアルリセット禁止 1：PWMX2のマニュアルリセット許可
5	PWMX1	1	R/W	PWMX1 マニュアルリセットイネーブル 0：PWMX1のマニュアルリセット禁止 1：PWMX1のマニュアルリセット許可
4	PWMX0	1	R/W	PWMX0 マニュアルリセットイネーブル 0：PWMX0のマニュアルリセット禁止 1：PWMX0のマニュアルリセット許可
3 ～ 0	—	1	—	リザーブビット（書き込む値は“1”にしてください）

17.3.3.3　マニュアルリセットコントロールレジスタ 2（MRSTCR2）

MRSTCR2 は、各機能ごとにマニュアルリセットによる初期化の許可／禁止を設定するレジスタです。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	SPI0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	SPI1	—	—	—	—	—
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	GETHER	—	—	ECD	—	—	eMMC	—	DMAC2/3	—	—	PWMU
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W：	—	—	—	—	R/W	—	—	R/W	—	—	R/W	—	R/W	—	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31	SPI0	1	R/W	SPI0 マニュアルリセットイネーブル 0：SPI0 のマニュアルリセット禁止 1：SPI0 のマニュアルリセット許可 注．　MD6 端子= H、及び MD9 端子=L のとき、SPI0 はマニュアルリセット後にブート処理を開始します。
30 ～ 23	—	1	—	リザーブビット（書き込む値は“1”にしてください）
22	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
21	SPI1	1	R/W	SPI1マニュアルリセットイネーブル 0：SPI1 のマニュアルリセット禁止 1：SPI1 のマニュアルリセット許可
20～16	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
15～12	—	1	—	リザーブビット（書き込む値は“1”にしてください）
11	GETHER	1	R/W	GETHER マニュアルリセットイネーブル 0：GETHER のマニュアルリセット禁止 1：GETHER のマニュアルリセット許可
10、9	—	1	—	リザーブビット（書き込む値は“1”にしてください）
8	ECD	0	R/W	ECD マニュアルリセットイネーブル 0：ECD のマニュアルリセット禁止 1：ECD のマニュアルリセット許可
7、6	—	1	—	リザーブビット（書き込む値は“1”にしてください）
5	eMMC	1	R/W	eMMC マニュアルリセットイネーブル 0：eMMC のマニュアルリセット禁止 1：eMMC のマニュアルリセット許可
4	—	1	—	リザーブビット（書き込む値は“1”にしてください）
3	DMAC2/3	1	R/W	DMAC2/3 マニュアルリセットイネーブル 0：DMAC2/3 のマニュアルリセット禁止 1：DMAC2/3 のマニュアルリセット許可
2、1	—	1	—	リザーブビット（書き込む値は“1”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
0	PWMU	1	R/W	PWMU マニュアルリセットイネーブル 0：PWMU のマニュアルリセット禁止 1：PWMU のマニュアルリセット許可

17.3.3.4　ソフトウエアリセットレジスタ0 （SRSTR0）

SRSTR0 は、各機能ごとにソフトウェアリセットを発行します。ビットに1 を書き込むと、対応する機能がリセット状態になります。リセット状態を解除するには対応するビットに0 を書き戻してください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	PWMX PCSR	RSPI	—	SIM	CRYPTO ENGINE	SDHI	ARC4	—	—	—	—	—	RIIC7	RIIC6	RIIC5	RIIC4
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	—	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RIIC3	RIIC2	RIIC1	RIIC0	SCIF4	SCIF3	SCIF2	SCIF1	SCIF0	FRT	EVC	CRC	ADC1	ADC0	ETHER	DMAC
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31	PWMXPCSR	0	R/W	PWMX ソフトウェアリセットの周辺クロックセレクトレジスタ 0、1 (PCSR0/PCSR1) 0 ：通常状態 1 ：リセット状態
30	RSPI	0	R/W	RSPI ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
29	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
28	SIM	0	R/W	SIM ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
27	CRYPTO ENGINE	0	R/W	CRYPTO ENGINE ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
26	SDHI	0	R/W	SDHI ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
25	ARC4	0	R/W	ARC4 ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
24～20	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
19	RIIC7	0	R/W	RIIC ch7 ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
18	RIIC6	0	R/W	RIIC ch6 ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
17	RIIC5	0	R/W	RIIC ch5 ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：Reset IIC ch 5
16	RIIC4	0	R/W	RIIC ch4 ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
15	RIIC3	0	R/W	RIIC ch3 ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
14	RIIC2	0	R/W	RIIC ch2 ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
13	RIIC1	0	R/W	RIIC ch1 ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
12	RIIC0	0	R/W	RIIC ch0 ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
11	SCIF4	0	R/W	SCIF4 ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
10	SCIF3	0	R/W	SCIF3 ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
9	SCIF2	0	R/W	SCIF2 ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
8	SCIF1	0	R/W	SCIF1 ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
7	SCIF0	0	R/W	SCIF0 ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
6	FRT	0	R/W	FRT ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
5	EVC	0	R/W	EVC ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
4	CRC	0	R/W	CRC ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
3	ADC1	0	R/W	ADC ch15～8 ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
2	ADC0	0	R/W	ADC ch7～0 ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
1	ETHER	0	R/W	ETHER ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
0	DMAC	0	R/W	DMAC ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態

17.3.3.5　ソフトウェアリセットレジスタ 1 （SRSTR1）

SRSTR1 は、各機能ごとにソフトウェアリセットを発行します。ビットに”1” を書き込むと、対応する機能がリセット状態になります。リセット状態を解除するには対応するビットに”0” を書き戻してください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	USBPHY	—	—	—	—	—	—	—	—	SECROM	—	SGPIO	—	—	RIIC9	RIIC8
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	—	R/W	—	—	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	USB0	USB1	TMU345	TMU012	TMR45	TMR23	TMR01	PWMX3	PWMX2	PWMX1	PWMX0	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31	USBPHY	0	R/W	USBPHY ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
30～23	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
22	SECROM	0	R/W	SECROM ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
21	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
20	SGPIO	0	R/W	SGPIO ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
19、18	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
17	RIIC9	0	R/W	RIIC ch9 ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
16	RIIC8	0	R/W	RIIC ch8 ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
15	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
14	USB0	0	R/W	USB0 ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
13	USB1	0	R/W	USB1 ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
12	TMU345	0	R/W	TMU ch5 ～ 3 ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
11	TMU012	0	R/W	TMU ch2 ～ 0 ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
10	TMR45	0	R/W	TMR ch4 、5 ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
9	TMR23	0	R/W	TMR ch2 、3 ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
8	TMR01	0	R/W	TMR ch0 、1 ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
7	PWMX3	0	R/W	PWMX3 ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
6	PWMX2	0	R/W	PWMX2 ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
5	PWMX1	0	R/W	PWMX1 ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
4	PWMX0	0	R/W	PWMX0 ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
3～0	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

17.3.3.6　ソフトウェアリセットレジスタ 2 （SRSTR2）

SRSTR2 は、各機能ごとにソフトウェアリセットを発行します。ビットに ”1” を書き込むと、対応する機能がリセット状態になります。リセット状態を解除するには対応するビットに ”0” を書き戻してください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	SPI1	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	GETHER	—	—	ECD	—	—	eMMC	—	DMAC2/3	—	—	PWMU
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	R/W	—	—	R/W	—	—	R/W	—	R/W	—	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～22	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
21	SPI1	0	R/W	SPI1 ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
20～12	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
11	GETHER	0	R/W	GETHER ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
10、9	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
8	ECD	0	R/W	ECD ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
7、6	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
5	eMMC	0	R/W	eMMC ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態
4	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
3	DMAC2/3	0	R/W	DMAC2/3 ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
2、1	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
0	PWMU	0	R/W	PWMU ソフトウェアリセット 0：通常状態 1：リセット状態

17.4　動作説明

17.4.1　リセット要求

リセットには、パワーオンリセットとマニュアルリセットがあります。それぞれの発生要因を説明します。

17.4.1.1　パワーオンリセット

1. 要因：
   - PRESET端子からLレベルを入力した場合
   - H-UDIリセットが発生した場合
     詳細は「42. ユーザデバッグインタフェース（H-UDI）」を参照してください。
2. 遷移先アドレス：H'A000 0000
3. 遷移時動作：
   例外コードH'000 をEXPEVT にセットします。VBR、SR の初期化を行い、PC＝H'A000 0000 に分岐します。初期化により、VBR レジスタはH'0000 0000 にセットされます。SR は、MD、RB、BL ビットが”1” にセットされ、FD ビットが”0” にクリアされ、割り込みマスクレベル（IMASK3～IMASK0）が B'1111 にセットされます。CPU 及び周辺モジュールの初期化を行います。詳細は、各章のレジスタの説明を参照してください。電源投入時には必ず $\overline{\text{PRESET}}$ 端子にL レベルを入力してください。また、H-UDI を初期化するために、$\overline{\text{TRST}}$端子にL レベルを入力する必要があります。

以下は、ハードウェアにより SH-4A の動作を初期化するコードで、パワーオンリセットを発生します。

```
Power_on_reset()
{
        EXPEVT = H'0000 0000;
        VBR = H'0000 0000;
        SR.MD = 1;
        SR.RB = 1;
        SR.BL = 1;
        SR.IMASK = B'1111;
        SR.FD = 0;
        Initialize_CPU();
        Initialize_Module(PowerOn);
        PC = H'A000 0000;
}
```

17.4.1.2　マニュアルリセット

1. 要因：
   - BLビット（SRレジスタのビット28）が”1”のときユーザブレークを除く一般例外が発生した場合
   - WT/$\overline{IT}$ビット（WTCSRレジスタのビット6）が”1”かつRSTEビット（WRSTCSRレジスタのビット6）が”1”の状態で、WDTCNTがオーバフロー発生した場合
2. 遷移先アドレス：H'A000 0000
3. 遷移時動作：

   例外コードH'020をEXPEVTにセットします。VBR、SRの初期化を行い、PC＝H'A000 0000に分岐します。初期化により、VBRレジスタはH'0000 0000にセットされます。MD、RB、BLビット（SRレジスタのビット30、29、28）が”1”にセットされ、FDビット（SRレジスタのビット15）が”0”にクリアされ、割り込みマスクレベル（IMASK3～IMASK0）がB'1111にセットされます。CPU及び周辺モジュールの初期化を行います。詳細は、各章のレジスタの説明を参照してください。以下は、ハードウェアによりSH-4Aの動作を初期化するコードで、マニュアルリセットを発生します。

```
Manual_reset()
{
        EXPEVT = H'0000 0020;
        VBR = H'0000 0000;
        SR.MD = 1;
        SR.RB = 1;
        SR.BL = 1;
        SR.IMASK = B'1111;
        SR.FD = 0;
        Initialize_CPU();
        Initialize_Module(Manual);
        PC = H'A000 0000;
        }
```

17.4.2　ウォッチドッグタイマモード

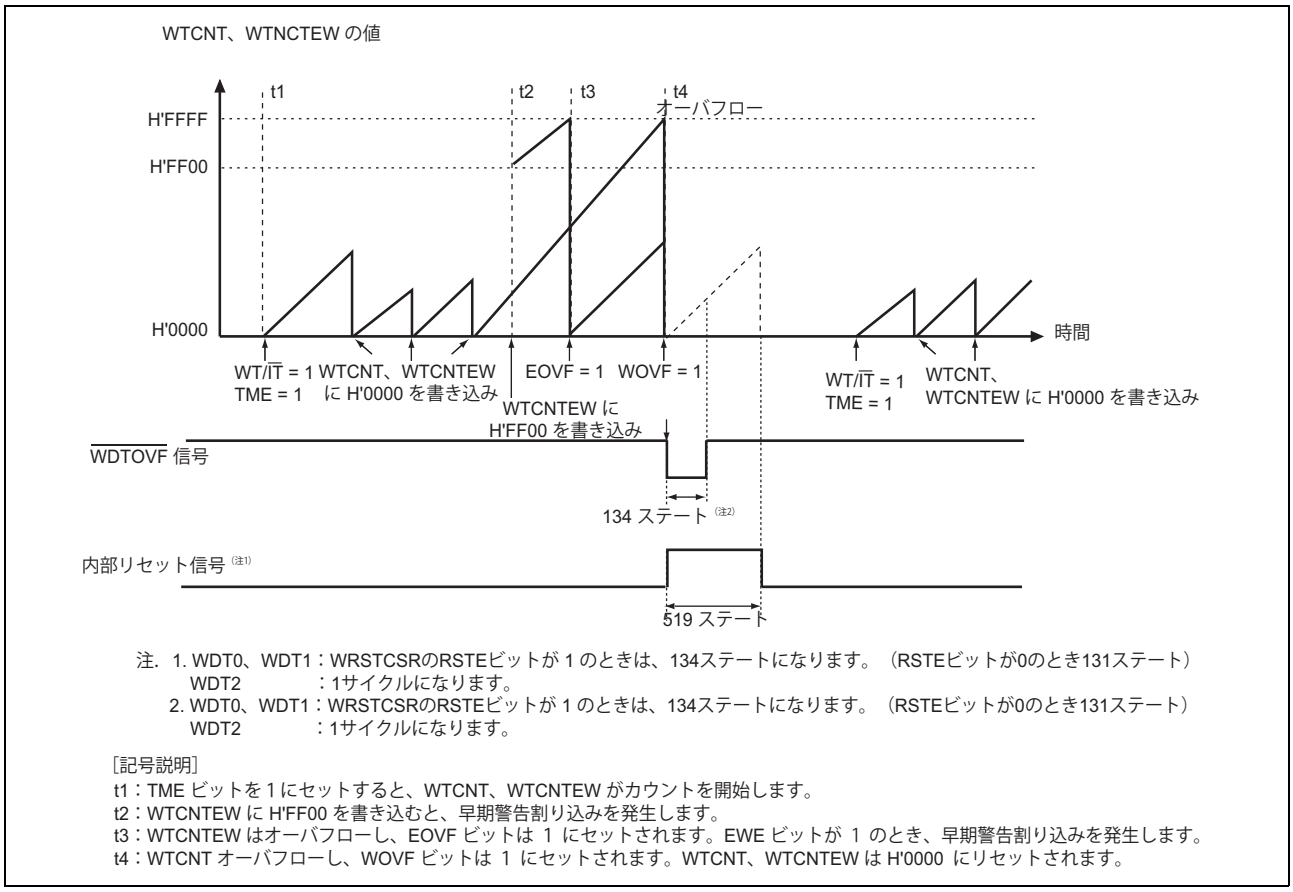
ウォッチドッグタイマモードとして使用するときは、WTCSR レジスタの WT/$\overline{IT}$ ビットと TME ビット（WTCSR レジスタのビット 5）を”1” に設定してください。

ウォッチドッグタイマとして動作しているとき、システムの暴走などにより WTCNT の値が書き換えられずオーバフローすると、$\overline{WDTOVF}$ 信号が出力されます。システムが正常に動作している間は、WTCNT のオーバフローは発生しません。WTCNT がオーバフローする前に必ず WTCNT の値を書き換えて（通常は H’00 をライトする）、オーバフローを発生させないようにプログラムしてください。さらに、ウォッチドッグタイマモード時には、$\overline{WDTOVF}$ 信号を用いて LSI 内部をリセットすることができます。WRSTCSR レジスタ の RSTE ビットを 1 にセットしておくと、WTCNT がオーバフローしたときに、$\overline{WDTOVF}$ 信号と同時に、本 LSI の内部をリセットする信号が発生します。$\overline{PRESET}$ 端子からの入力信号によるリセットと WDT のオーバフローによるリセットが同時に発生したときは、$\overline{PRESET}$ 端子によるリセットが優先され、WOVF ビット（WRSTCSR レジスタのビット 7）は”0” にクリアされます。

WDT0 と WDT1 の $\overline{WDTOVF}$ 信号は、WRSTCSR レジスタ の RSTE ビットが”1” のとき Pck で 134 ステート、WRSTCSR レジスタの RSTE ビットが”0”のとき Pck で 131 ステートの間出力されます。内部リセット信号は、Pck で 519 ステートの間出力されます。ウォッチドッグタイマモードで WTCNT がオーバフローすると、WRSTCSR レジスタ の WOVF ビットが”1 ”にセットされます。また、WRSTCSR の RSTE ビットが 1 にセットしてあると、WTCNT がオーバフローしたとき、本 LSI 全体に対して内部リセット信号を発生します。

WDT2 の $\overline{WDTOVF}$ 信号は、WDT2 がオーバフローしたとき 1 サイクルの間出力されます。WDT2 がオーバフローしたとき、内部リセットを発生しません。代わりに、リブート信号を発生し、本 LSI は SPI0 の上位半分か下位半分の空間からプログラムの起動を開始します。

早期警告カウンタは WTCNT がオーバフローする前に、早期警告割り込みを発生するよう設定可能です。



注. 1. WDT0、WDT1：WRSTCSRのRSTEビットが 1 のときは、134ステートになります。（RSTEビットが0のとき131ステート）
WDT2　　：1サイクルになります。
2. WDT0、WDT1：WRSTCSRのRSTEビットが 1 のときは、134ステートになります。（RSTEビットが0のとき131ステート）
WDT2　　：1サイクルになります。

［記号説明］
t1：TME ビットを 1 にセットすると、WTCNT、WTCNTEW がカウントを開始します。
t2：WTCNTEW に H'FF00 を書き込むと、早期警告割り込みを発生します。
t3：WTCNTEW はオーバフローし、EOVF ビットは 1 にセットされます。EWE ビットが 1 のとき、早期警告割り込みを発生します。
t4：WTCNT オーバフローし、WOVF ビットは 1 にセットされます。WTCNT、WTCNTEW は H'0000 にリセットされます。

図 17.2　ウォッチドッグタイマモード時の動作

17.4.3　インターバルタイマモード

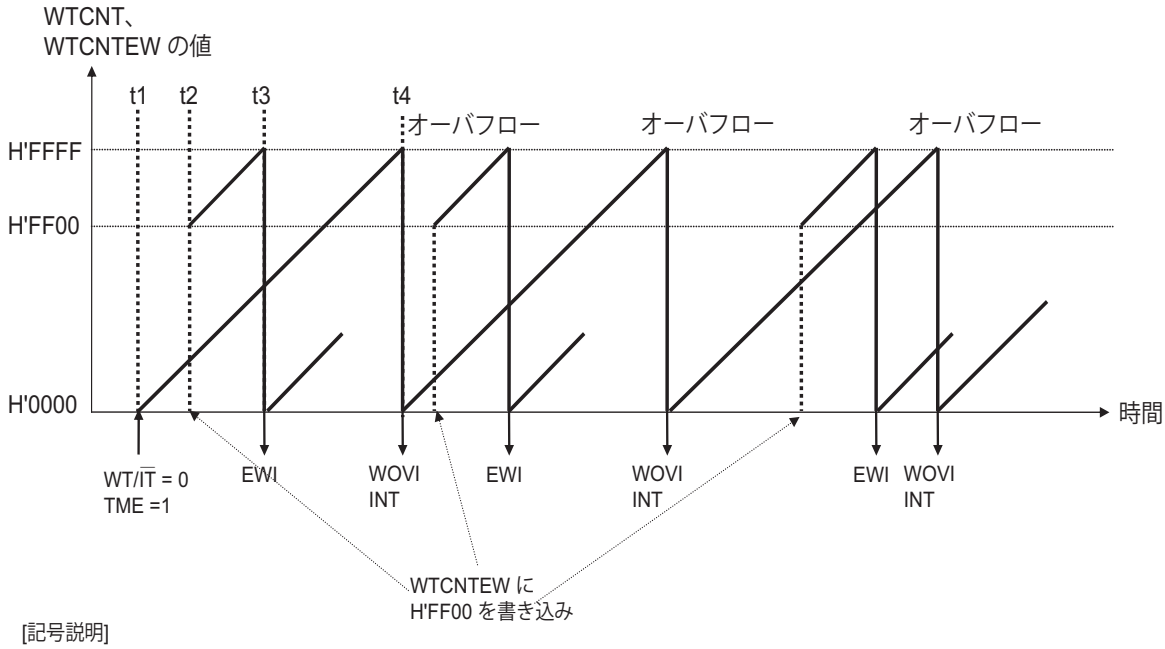
インターバルタイマとして使用するときは、WTCSR のWT/$\overline{IT}$ ビットが0、WTCSR のTME ビットが1に設定してください。

インターバルタイマとして動作しているときは、WTCNT がオーバフローするごとにインターバルタイマ割り込み（WOVI）が発生します。したがって、一定時間ごとに割り込みを発生させることができます。

インターバルタイマモードでWTCNT がオーバフローすると、

- OVF ビット（WTCSR レジスタのビット7）が”1” にセットされ、同時にインターバルタイマ割り込み（WOVI）が要求されます。
- NMIE ビット（WRSTCSR レジスタのビット2）が” 1 ”の場合割り込みが要求されます。

早期警告カウンタ（WTCNTEW）はWTCNT がオーバフローする前に、早期警告割り込みを発生するよう設定可能です。



[記号説明]
WOVI: インターバルタイマ割り込み要求発生
INT　: 割り込み要求発生（NMIE ビットが 1 のとき）
EWI　: 早期警告割り込み要求発生（EWE ビット が 1 のとき）

t1：TME ビットを1、WT/IT ビットを 0 にセットすると、WTCNT、WTCNTEW がインターバルタイマモードでカウントを開始します。
t2：WTCNTEW に H'FF00 を書き込むと、早期警告割り込みを発生します。
t3：WTCNTEW はオーバフローし、EOVF ビットは 1 にセットされます。EWE ビットが 1 のとき、早期警告割り込みを発生します。
t4：WTCNT オーバフローし、OVF ビットは 1 にセットされます。WOVI 信号が発生します。NMIE ビットが 1 のとき割り込みを発生します。

図 17.3　インターバルタイマモード時の動作

17.5　リセット中の端子タイミング

17.5.1　$\overline{\text{PRESET}}$端子によるパワーオンリセット

パワーオンリセットは、パワーオンリセット状態に遷移した際にPLL をリセットするため、PLL 発振安定時間を確保する必要があります。PLL 発振安定時間は、PLL1 発振安定時間とPLL2 発振安定時間を合計した時間です。

PRESET 端子入力をL レベルからH レベルに変化させた後、リセット保持時間を経過するまでLSI 内部でリセット状態を継続しています。リセット保持時間は、EXTAL 端子入力の入力周期の 5000 サイクル未満になります。

17.5.1.1　電源投入シーケンス

電源投入時は、必ず$\overline{\text{PRESET}}$ 端子にL レベルを入力してください。また、H-UDI を初期化するために、$\overline{\text{TRST}}$端子にL レベルを入力する必要があります。

STATUS[1:0]がリセット状態を表示するタイミングは非同期になります。また、通常状態を表示するタイミングは周辺クロック（Pck）同期であるため、EXTAL 端子入力、CLKOUT 端子出力とは非同期になります。

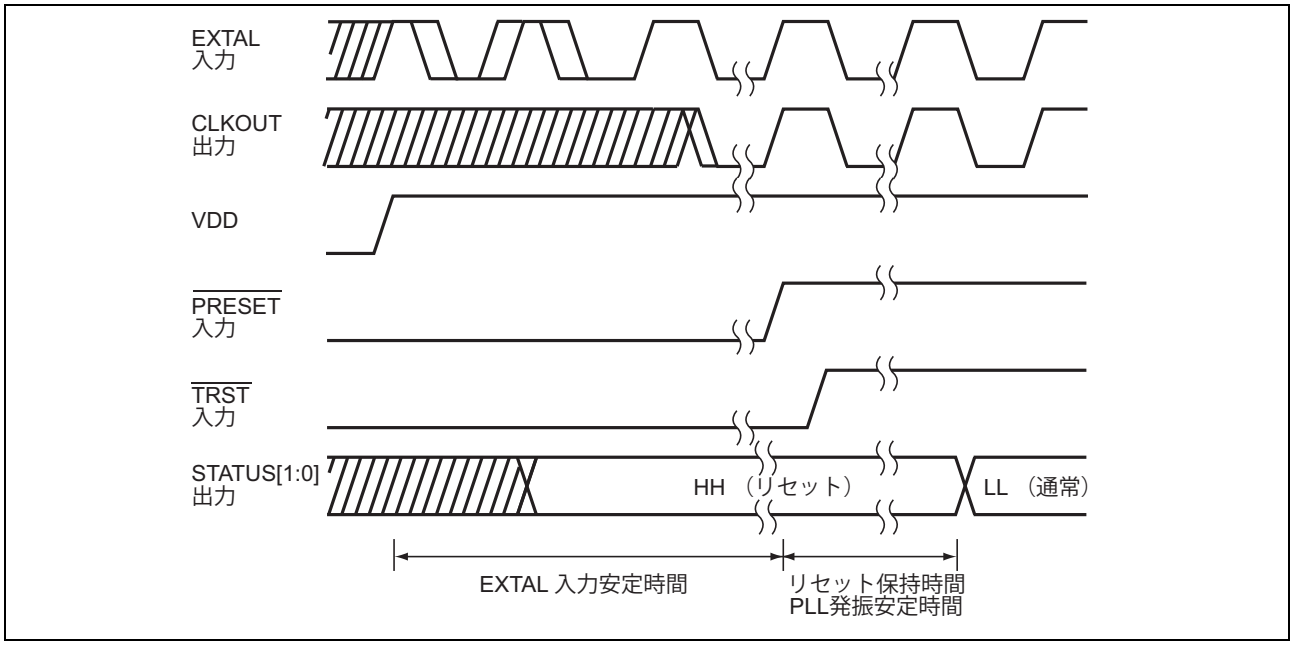


図 17.4　電源投入シーケンス

17.5.1.2　通常動作中にPRESET端子からパワーオンリセットを発生させた場合

通常動作中にPRESET端子にLレベルを入力してパワーオンリセットを発生させた場合、PLL発振安定時間を確保する必要があります。

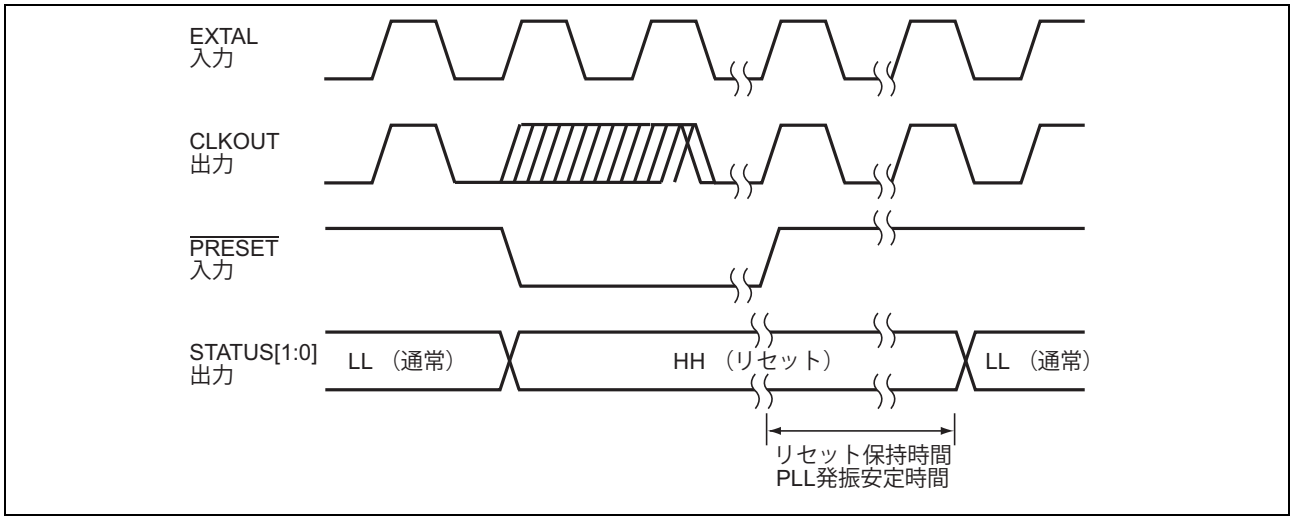


図 17.5　通常動作中のPRESET端子によるパワーオンリセット

17.5.1.3　スリープ中にPRESET端子からパワーオンリセットを発生させた場合

スリープ中にPRESET端子にLレベルを入力してパワーオンリセットを発生させた場合、PLL発振安定時間を確保する必要があります。

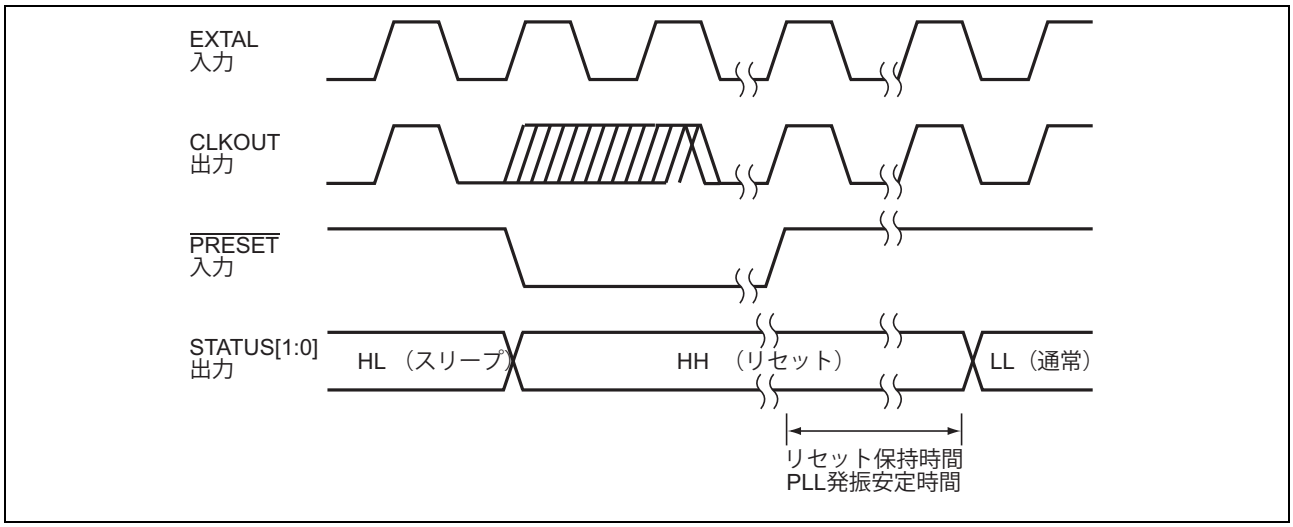


図 17.6　スリープ中のPRESET端子によるパワーオンリセット

17.5.2　WDTオーバフローによるマニュアルリセット

WDT オーバフローによるマニュアルリセットの期間（WDT マニュアルリセット時間）は、周辺クロック（Pck）周期の519 サイクルになります。

STATUS[1:0]がリセット状態、通常状態を表示するタイミングは周辺クロック（Pck）同期であるため、EXTAL端子入力、CLKOUT 端子出力とは非同期になります。

17.5.2.1　通常動作中にWDT オーバフローによりマニュアルリセットを発生させた場合

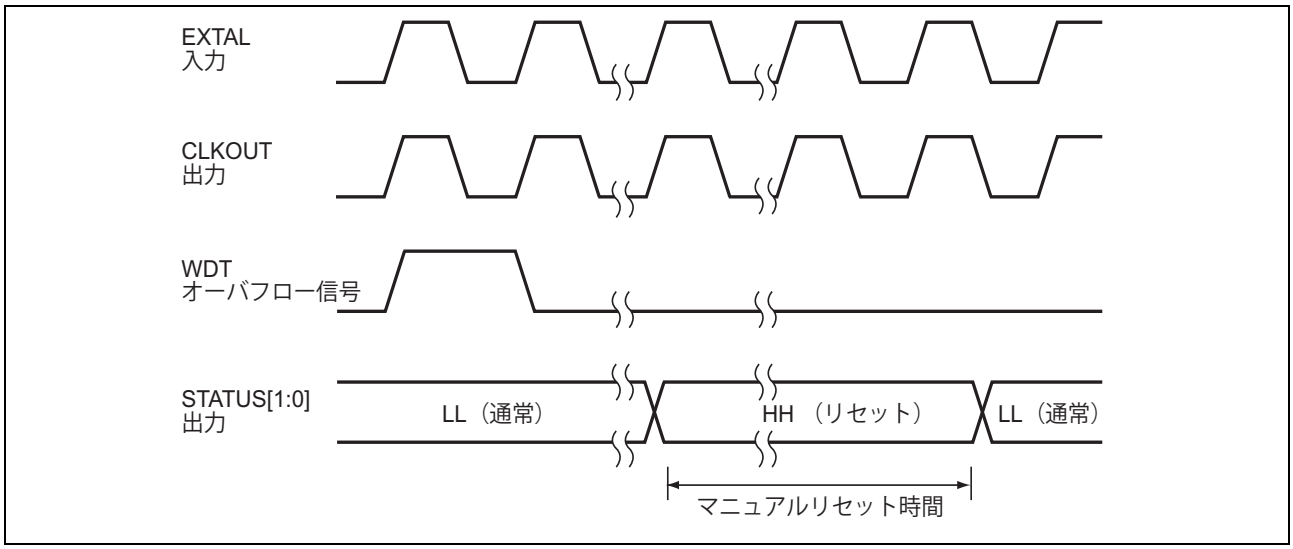


図 17.7　通常動作中のWDT オーバフローによるマニュアルリセット

17.5.2.2　スリープ中にWDT オーバフローによりマニュアルリセットを発生させた場合

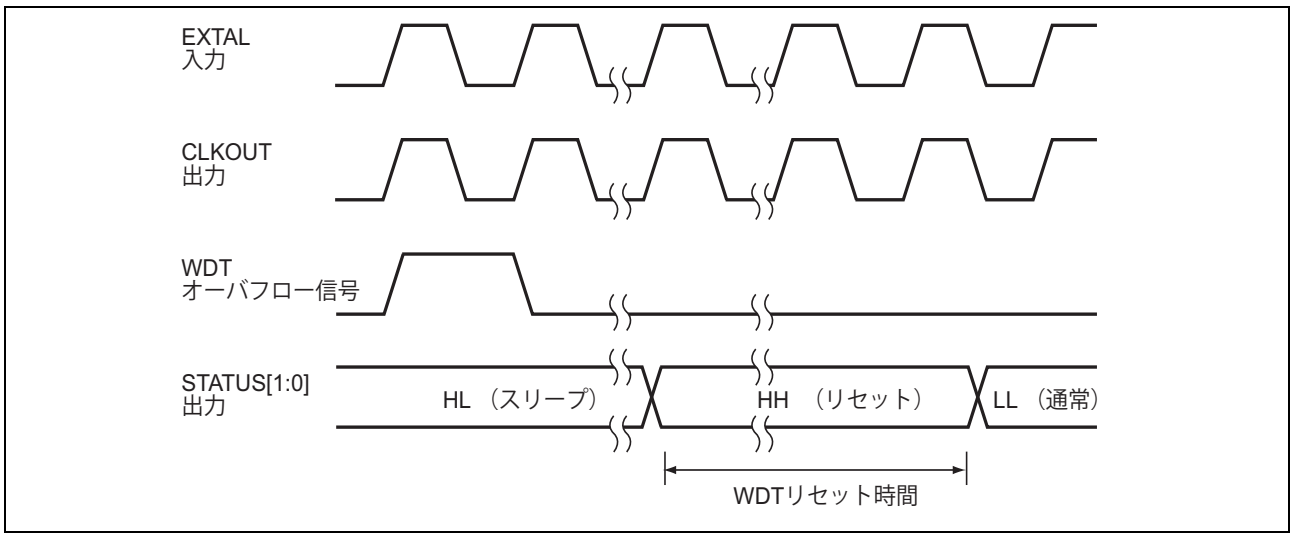


図 17.8　スリープ中のWDT オーバフローによるマニュアルリセット

17.6　割り込み要因

割り込み要因は以下の３つがあります。

- WOVI：インターバルタイマモードでWTCNT がオーバフローした場合
- INT：インターバルタイマモードでNMIE ビットが ”1” のときに、WTCNT がオーバフローした場合
- EWI:インターバルタイマとウォッチドッグタイマの両モードともにEWE ビット が” 1 ” のときに、WTCNTEW がオーバフローした場合

インターバルタイマモードでWTCNT がオーバフローすると割り込みを発生し、同時にOVF フラグは1 にセットされます。割り込み例外処理で必ずOVF フラグを ”0” にクリアしてください。

WTCNTEW がオーバフローすると早期警告割り込みを発生し、同時にEOVF フラグは”0” にセットされます。割り込み例外処理で必ずEOVF フラグを ”0”にクリアしてください。

表17.8　WDT の割り込み要因

名 称	割り込み要因	割り込みフラグ
WOVI	WTCNTオーバフロー	OVF
EWI	WTCNTEWオーバフロー	EOVF
INT	WTCNTオーバフロー	OVF

17.7　使用上の注意事項

17.7.1　レジスタアクセス時の注意

WTCSR、WRSTCSR、WDTABRCTRL は容易に書き換えられないように、ライト方法が一般のレジスタと異なっています。次の方法で、リード／ライトを行ってください。WDT2の説明も参照ください。

17.7.1.1　WTCSR、WRSTCSR、WDTABRCTRL へのライト

WTCNT、WTCNTEW へライトするときは、必ずワード転送命令を使用してください。バイト転送命令では、ライトできません。

WTCSR、WRSTCSR、WDTABRCTRL へライトするときは、必ず 図 17.9 に示すアドレスとデータを使用してください。バイト転送命令では、ライトできません。

WRSTCSR レジスタの WOVF ビットへ ”0” をライトする場合と、WOVF ビット以外のビットにライトする場合では、ライトの方法が異なります。このため、図 17.9 に示すようにデータをライトしてください。ライトすると、WOVF ビットが ”0” にクリアされます。このとき、WRSTCSR の WOVF ビット以外の他のビットは影響を受けません。

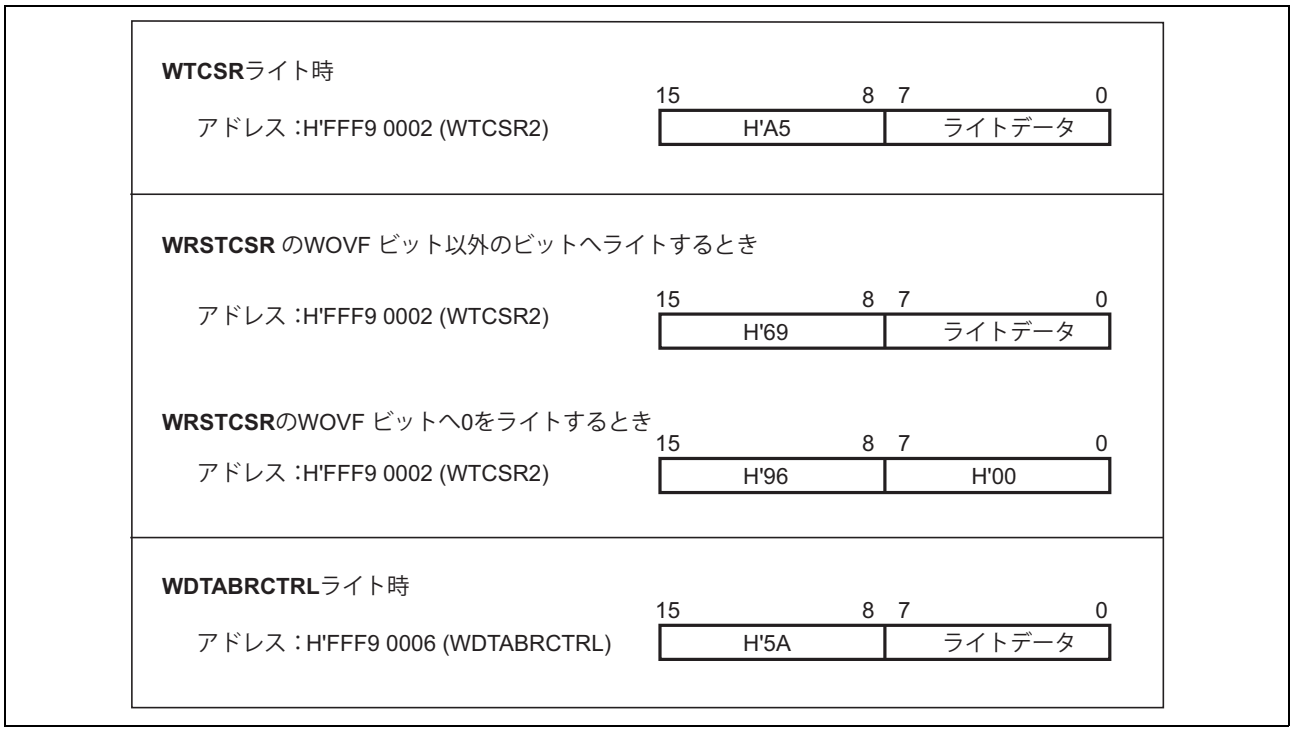


図 17.9　WDT2の WTCSR、WRSTCSR、WDTABRCTRL へのライト

17.7.1.2　WTCNT、WTCSR、WRSTCSR からのリード

リードは、一般のレジスタと同様の方法で行うことができます。WTCNT、WTCSR、WRSTCSR、WTCNTEW、WDTABRCTRL は表 17.3、表 17.5 に示すアドレスに割り当てられています。

17.7.2　タイマカウンタ（WTCNT）のライトとカウントアップの競合（WTCNT）

WTCNT のライトサイクル中のT2 ステートでカウントアップが発生しても、カウントアップされずにWTCNTへのカウンタライトが優先されます。これを図17.10 に示します。

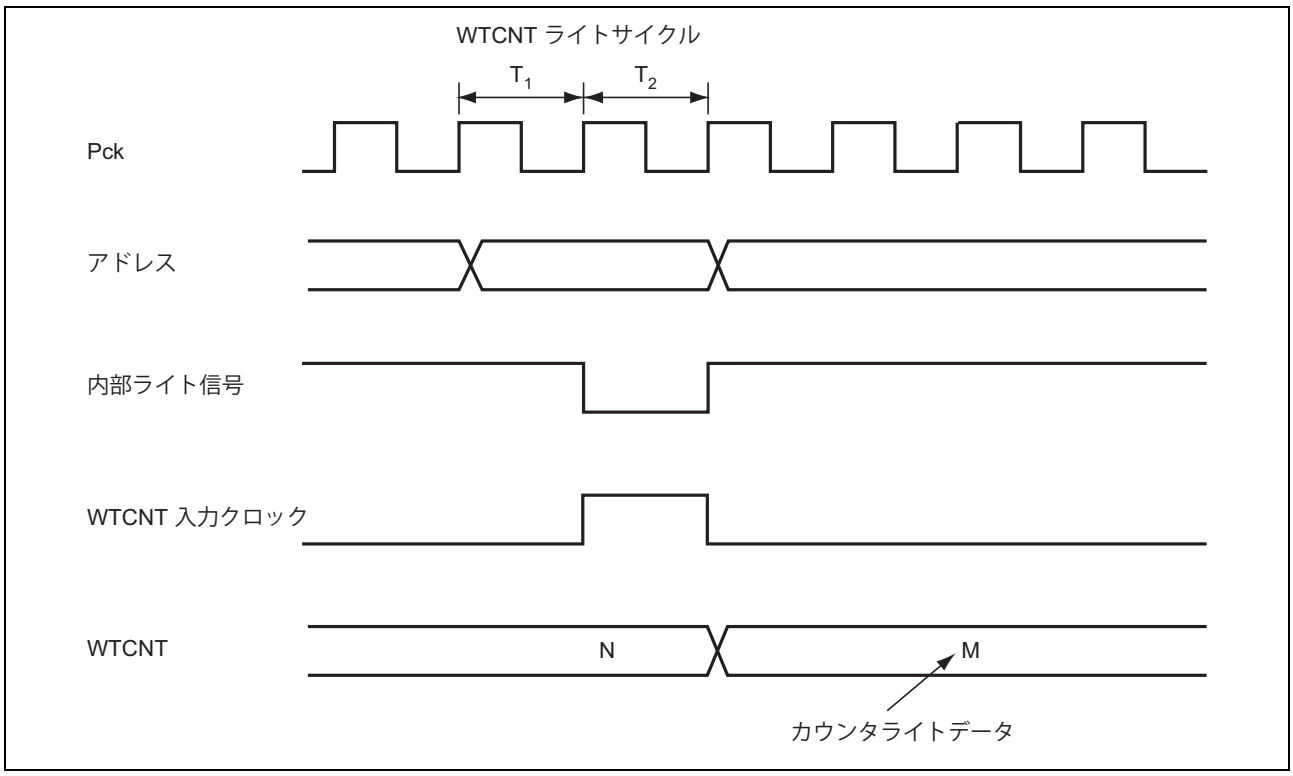


図 17.10　WTCNT のライトとカウントアップの競合

17.7.3　WTCSR のビットの書き換えについて

ウォッチドッグタイマモードとインターバルタイマモードの切り替えを行う、WTCSR レジスタのWT/IT ビットを書き替えるときは、WTCSR レジスタ のTME ビットを0 にし、WDT を停止させてから行ってください。

また、CKS2～0 ビット（WTCSR レジスタ のビット3～0）、及びPSS ビット（WDT1 のみ）においても、WTCSR レジスタ のTME ビットを”0” にし、WDT を停止させてから書き換えを行ってください。

17.7.4　オルタネートブートブロックリカバリ（WDT2）

WDT2は、ブートシーケンス中の異常を監視し、リブートする機能を持っています。パワーオンリセット後、WDTFOT1、WDTFOT0 端子に "LL" と異なるレベルを入力するとカウントを開始します。リブートのインターバルタイムはWTCSR レジスタに指定したPck ベースの分周クロックに基づいています。WTCNT2をリフレッシュできず、オーバフローすると、SPI0へリブート信号を発生します。シリアルペリフェラルインタフェース（SPI0）のリブートプロセスについては、15章を参照してください

WTCNT2 がオーバフローすると、SPI0へリブート信号を発生し、本LSIはSPI0の上位半分か下位半分の空間からリブートします。その時、WTCSR2 の状態はOVF ビット以外保持され、WRSTCSR2、WDTABRCTRL の状態はすべて保持されます。

WTCNT2 がオーバフロー後、選択したクロックの64サイクル経過するまでは、WTCSR2、WRSTCSR2、WDTABRCTRL にライトできません。つまり、WTCNT2はウォッチドッグタイマモードでカウントアップし続けます。

ABR機能は新しいブートコードが正確でない場合、本LSI をリブートします。

17.7.5 $\overline{\text{WDTOVF}}$ 信号によるシステムのリセット

$\overline{\text{WDTOVF}}$ 信号を $\overline{\text{PRESET}}$ 端子に入力すると、本 LSI は正しく初期化できません。$\overline{\text{WDTOVF}}$ 信号は $\overline{\text{PRESET}}$ 端子に入力しないようにしてください。$\overline{\text{WDTOVF}}$ 信号でシステム全体をリセットするときは、図 17.11 の示すような回路で行ってください。

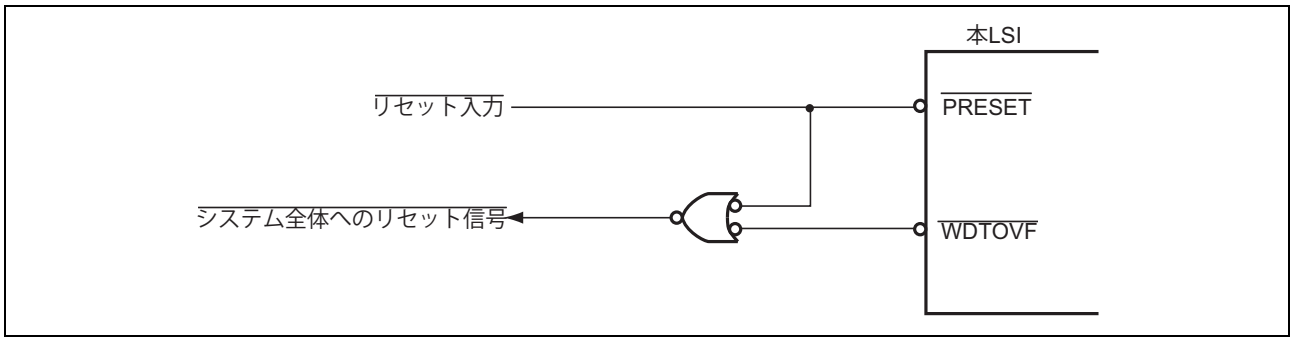


図 17.11　$\overline{\text{WDTOVF}}$ 信号によるシステムのリセット回路例

17.8 使用上の注意事項

17.8.1 制限

MRSTCR0 レジスタの値と MRSTCR1 レジスタの値は、初期プログラムのブート後、ユーザの指定する値に設定する必要があります。

17.8.2 概略

MRSTCR0 レジスタと MRSTCR1 レジスタの初期値”1”はパワーオンリセット時に”0”にセットされる可能性があります。ユーザが MRSTCR0 レジスタと MRSTCR1 レジスタの初期値を使用する場合、初期値を再設定する必要があります。また、MRSTCR2 レジスタの初期値”1”はパワーオンリセット時には変更できません。

18. 低消費電力モード

低消費電力モードでは、内蔵モジュールの一部とCPUが機能を停止します。これによって、消費電力を低減させることができます。

18.1 特長

- スリープモード／モジュールストップモードのサポート

18.1.1 低消費電力モードの種類

低消費電力モードには、次の2モードがあります。

- スリープモード
- モジュールストップモード

プログラム実行状態から各モードへ遷移する条件、各モードでのCPUや内蔵モジュールなどの状態、各モードの解除方法を表18.1に示します。

表18.1 低消費電力モードの状態

低消費電力モード	遷移条件	状態					解除方法
		CPG	SH-4A	内蔵メモリ	内蔵モジュール	出力端子	
スリープ	SLEEP命令を実行	動作	停止（レジスタ内容は保持）	保持	動作	動作	(1) 割り込み (2) パワーオンリセット (3) マニュアルリセット
モジュールストップ	MSTPCR0～MSTPCR2の該当ビットを1にする。	動作	動作	動作	指定モジュールが停止	直前の状態を保持	MSTPCR0～MSTPCR2の該当ビットを0にする。

18.2 入出力端子

低消費電力モードに関連する端子を表18.2に示します。

表18.2 端子構成

端子名	機能	入出力	説明
STATUS1	処理状態	出力	本LSIの動作状態を表します。
STATUS0			STATUS1　STATUS0　動作状態 H　H　：リセット H　L　：スリープモード L　L　：通常動作

18.3　レジスタの説明

低消費電力モードのレジスタ構成を表18.3 に示します。

指定されたビット幅でレジスタにアクセスしてください。指定されたビット幅以外のサイズでレジスタにアクセスした場合、動作は保証できません。

なお、初期値と異なる値を書き込む必要のあるリザーブビットがありますので、注意してください。

表18.3　レジスタ構成

名称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態	
					パワーオンリセット	マニュアルリセット
モジュールストップレジスタ0	MSTPCR0	R/W	H'FFC8 0030	32	H'0000 1000	保持
モジュールストップレジスタ1	MSTPCR1	R/W	H'FFC8 0034	32	H'0000 0000	保持
モジュールストップレジスタ2	MSTPCR2	R/W	H'FFC1 0028	32	H'0000 0000	保持

注.　モジュールストップレジスタ0～2については、図16.1 も参照してください。

18.3.1　モジュールストップレジスタ0（MSTPCR0）

MSTPCR0 は、読み出し／書き込み可能な32 ビットのレジスタで、割り当てられた各モジュールに対し、個別に動作、停止の指定ができます。

MSTPCR0 は、ロングワード（32 ビット）アクセスのみ可能です。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	DMAC	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	SDHI	—	SPI0	EVC	RIIC
初期値：	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	—	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～22	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
21	DMAC	0	R/W	DMAC モジュールストップビット DMAC ビットを”1” にセットすると、DMAC へのクロック供給を停止します。 クロック停止に移行する場合は、DMA オペレーションレジスタ（DMAOR）のビット0（DME）が0 であるか、又はDMA チャネルコントロールレジスタn（CHCRn、n=0～11）のビット”1”（TE）がすべて”1” であることを確認後、DMAC ビットを”1” にしてください。 0：DMAC は動作 1：DMAC へのクロック供給を停止
20～13	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
12	—	1	—	リザーブビット （読み出すと“1”が読めます。書き込む値は“1”にしてください）
11 ～5	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
4	SDHI	0	R/W	SDHI モジュールストップビット SDHI ビットを1 にセットすると、SDHI へのクロック供給を停止します。 0：SDHI は動作 1：SDHI へのクロック供給を停止
3	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“1”にしてください）
2	SPI0	0	R/W	SPI0 モジュールストップビット SPI0 ビットを1 にセットすると、SPI0 へのクロック供給を停止します。 0：SPI0 は動作 1：SPI0 へのクロック供給を停止
1	EVC	0	R/W	EVC モジュールストップビット EVC ビットを1 にセットすると、EVC へのクロック供給を停止します。 0：EVC は動作 1：EVC へのクロック供給を停止
0	RIIC	0	R/W	RIIC モジュールストップビット RIIC ビットを1 にセットすると、RIIC0～7 へのクロック供給を停止します。 0：RIIC は動作 1：RIIC へのクロック供給を停止

注. DMAC モジュールのストップモード移行中に、スリープ命令を発行する場合は、以下の点に注意してください。
（1）モジュールストップレジスタ0（MSTPCR0）のDMAC ビットを”1” にするときは、DMAC の転送動作が終了したことを確認してから行ってください。
（2）スリープ命令を発行する前にMSTPCR0 レジスタを2 回ダミーリードしてください。

18.3.2　モジュールストップレジスタ1（MSTPCR1）

MSTPCR1は、読み出し／書き込み可能な32ビットのレジスタで、割り当てられた各モジュールに対し、個別に動作、停止の指定ができます。

MSTPCR1は、ロングワードアクセスのみ可能です。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	SIM	RSPI	—	—	—	ETHER	ARC4	FRT	CRC	—	TMR45	TMR23	TMR01
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	R/W	R/W	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	—	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	CRYPTO ENGINE	TMU1	TMU0	SCIF4	SCIF3	SCIF2	ADC1	ADC0	PWMX 23	PWMX 01	SCIF1	SCIF0	USB1	USB0	PWMX 67	PWMX 45
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
30、29	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“1”にしてください）
28	SIM	0	R/W	SIM モジュールストップビット SIM ビットを1にセットすると、SIM へのクロック供給を停止します。 0：SIM は動作 1：SIM へのクロック供給を停止
27	RSPI	0	R/W	RSPI モジュールストップビット RSPI ビットを1にセットすると、RSPI へのクロック供給を停止します。 0：RSPI は動作 1：RSPI へのクロック供給を停止
26	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
25	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
24	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“1”にしてください）
23	ETHER	0	R/W	ETHERモジュールストップビット ETHERビットを1にセットすると、ETHER0、1へのクロック供給を停止します。 0：ETHER0、1は動作 1：ETHER0、1へのクロック供給を停止
22	ARC4	0	R/W	ARC4 モジュールストップビット ARC4 ビットを1にセットすると、ARC4 へのクロック供給を停止します。 0：ARC4 は動作 1：ARC4 へのクロック供給を停止

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
21	FRT	0	R/W	FRT モジュールストップビット FRT ビットを1 にセットすると、FRT へのクロック供給を停止します。 0：FRT は動作 1：FRT へのクロック供給を停止
20	CRC	0	R/W	CRC モジュールストップビット CRC ビットを1 にセットすると、CRC へのクロック供給を停止します。 0：CRC は動作 1：CRC へのクロック供給を停止
19	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“1”にしてください）
18	TMR45	0	R/W	TMR45 モジュールストップビット TMR45 ビットを1 にセットすると、TMR チャネル4、5 へのクロック供給を停止します。 0：TMR チャネル4、5 は動作 1：TMR チャネル4、5 へのクロック供給を停止
17	TMR23	0	R/W	TMR23 モジュールストップビット TMR23 ビットを1 にセットすると、TMR チャネル2、3 へのクロック供給を停止します。 0：TMR チャネル2、3 は動作 1：TMR チャネル2、3 へのクロック供給を停止
16	TMR01	0	R/W	TMR01 モジュールストップビット TMR01 ビットを1 にセットすると、TMR チャネル0、1 へのクロック供給を停止します。 0：TMR チャネル0、1 は動作 1：TMR チャネル0、1 へのクロック供給を停止
15	CRYPTO ENGINE	0	R/W	CRYPTO ENGINEモジュールストップビット CRYPTO ENGINE ビットを1 にセットすると、CRYPTO ENGINEモジュールへのクロック供給を停止します。 0：CRYPTO ENGINE は動作 1：CRYPTO ENGINE へのクロック供給を停止
14	TMU1	0	R/W	TMU1 モジュールストップビット TMU1 ビットを1 にセットすると、TMU チャネル3～5 へのクロック供給を停止します。 0：TMU チャネル3～5 は動作 1：TMU チャネル3～5 へのクロック供給を停止
13	TMU0	0	R/W	TMU0 モジュールストップビット TMU0 ビットを1 にセットすると、TMU チャネル0～2 へのクロック供給を停止します。 0：TMU チャネル0～2 は動作 1：TMU チャネル0～2 へのクロック供給を停止

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
12	SCIF4	0	R/W	SCIF4 モジュールストップビット SCIF4 ビットを1 にセットすると、SCIF4 へのクロック供給を停止します。 0：SCIF4 は動作 1：SCIF4 へのクロック供給を停止
11	SCIF3	0	R/W	SCIF3 モジュールストップビット SCIF3 ビットを1 にセットすると、SCIF3 へのクロック供給を停止します。 0：SCIF3 は動作 1：SCIF3 へのクロック供給を停止
10	SCIF2	0	R/W	SCIF2 モジュールストップビット SCIF2 ビットを1 にセットすると、SCIF2 へのクロック供給を停止します。 0：SCIF2 は動作 1：SCIF2 へのクロック供給を停止
9	ADC1	0	R/W	ADC1 モジュールストップビット ADC1 ビットを1 にセットすると、ADC1 へのクロック供給を停止します。 0：ADC1 は動作 1：ADC1 へのクロック供給を停止
8	ADC0	0	R/W	ADC0 モジュールストップビット ADC0 ビットを1 にセットすると、ADC0 へのクロック供給を停止します。 0：ADC0 は動作 1：ADC0 へのクロック供給を停止
7	PWMX23	0	R/W	PWMX23 モジュールストップビット PWMX23 ビットを1 にセットすると、PWMX チャネル2、3 へのクロック供給を停止します。 0：PWMX チャネル2、3 は動作 1：PWMX チャネル2、3 へのクロック供給を停止
6	PWMX01	0	R/W	PWMX01 モジュールストップビット PWMX01 ビットを1 にセットすると、PWMX チャネル0、1 へのクロック供給を停止します。 0：PWMX チャネル0、1 は動作 1：PWMX チャネル0、1 へのクロック供給を停止
5	SCIF1	0	R/W	SCIF1 モジュールストップビット SCIF1 ビットを1 にセットすると、SCIF1 へのクロック供給を停止します。 0：SCIF1 は動作 1：SCIF1 へのクロック供給を停止
4	SCIF0	0	R/W	SCIF0 モジュールストップビット SCIF0 ビットを1 にセットすると、SCIF0 へのクロック供給を停止します。 0：SCIF0 は動作 1：SCIF0 へのクロック供給を停止

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
3	USB1	0	R/W	USB1 モジュールストップビット USB1 ビットを1 にセットすると、USB1 へのクロック供給を停止します。 0：USB1 は動作 1：USB1 へのクロック供給を停止
2	USB0	0	R/W	USB0 モジュールストップビット USB0 ビットを1 にセットすると、USB0 へのクロック供給を停止します。 0：USB0 は動作 1：USB0 へのクロック供給を停止
1	PWMX67	0	R/W	PWMX67 モジュールストップビット PWMX67 ビットを1 にセットすると、PWMX チャネル6、7 へのクロック供給を停止します。 0：PWMX チャネル6、7 は動作 1：PWMX チャネル6、7 へのクロック供給を停止
0	PWMX45	0	R/W	PWMX45 モジュールストップビット PWMX45 ビットを1 にセットすると、PWMX チャネル4、5 へのクロック供給を停止します。 0：PWMX チャネル4、5 は動作 1：PWMX チャネル4、5 へのクロック供給を停止

18.3.3　モジュールストップレジスタ 2 (MSTPCR2)

MSTPCR2 は、読み出し／書き込み可能な32 ビットのレジスタで、割り当てられた各モジュールに対し、個別に動作、停止の指定ができます。

MSTPCR2 は、ロングワードアクセスのみ可能です。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	GETHER	PWMU	eMMC	—	ECD	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	—	R/W	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	SCIF0/SCIF1	—	—	USPHY	—	—	—	SGPIO	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	R/W	—	—	R/W	—	—	—	R/W	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 23	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
22	GETHER	0	R/W	GETHER モジュールストップビット GETHER ビットを1 にセットすると、GETHER へのクロック供給を停止します。 0：GETHER は動作 1：GETHER へのクロック供給を停止
21	PWMU	0	R/W	PWMU モジュールストップビット PWMU ビットを1 にセットすると、PWMU へのクロック供給を停止します。 0：PWMU は動作 1：PWMUへのクロック供給を停止
20	eMMC	0	R/W	eMMC モジュールストップビット eMMC ビットを1 にセットすると、eMMCへのクロック供給を停止します。 0：eMMCは動作 1：eMMCへのクロック供給を停止
19	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“1”にしてください）
18	ECD	0	R/W	ECD モジュールストップビット ECD ビットを1 にセットすると、ECDへのクロック供給を停止します。 0：ECDは動作 1：ECDへのクロック供給を停止
17、16	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“1”にしてください）
15～10	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
9	SCIF0/SCIF1	0	R/W	SCIF0/SCIF1 モジュールストップビット SCIF0/SCIF1 ビットを1 にセットすると、SCIF0/SCIF1へのクロック供給を停止します。 0：SCIF0/SCIF1は動作 1：SCIF0/SCIF1へのクロック供給を停止
8、7	—	00	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
6	USPHY	0	R/W	USB-PHYモジュールストップビット USPHY ビットを1 にセットすると、USB-PHYへのクロック供給を停止します。 0：USB-PHYは動作 1：USB-PHYへのクロック供給を停止
5	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
4、3	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“1”にしてください）
3	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
2	SGPIO	0	R/W	SGPIOモジュールストップビット SGPIOビットを1 にセットすると、SGPIOへのクロック供給を停止します。 0：SGPIOは動作 1：SGPIOへのクロック供給を停止
1	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“1”にしてください）
0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

18.4 スリープモード

18.4.1 スリープモードへの遷移

プログラム実行状態でSLEEP命令を実行すると、スリープモードへ移行します。CPUはSLEEP命令実行後に停止しますが、CPUのレジスタ内容は保持されます。

CPU以外の内蔵モジュールは動作を続けます。また、CLKOUT端子からはクロックが出力されつづけます。

スリープモードでは、STATUS1端子にHレベルが、STATUS0端子にLレベルが出力されます。

18.4.2 スリープモードの解除

スリープモードは、割り込み（NMI、IRQ/$\overline{\text{IRL}}$[7:0]、内蔵モジュール）、及びリセットにより解除されます。

スリープモード中は、SRレジスタのBLビットが1でも、割り込みを受け付けます。必要に応じて、SLEEP命令実行前にSPC、SSR等をスタックに退避してください。

(1) 割り込みによる解除

NMI、IRQ/$\overline{\text{IRL}}$[7:0]、内蔵モジュールの各割り込みが発生すると、スリープモードが解除され、割り込み例外処理が実行されます。INTEVTレジスタには、割り込み要因に対応したコードがセットされます。

(2) リセットによる解除

$\overline{\text{PRESET}}$端子によるパワーオンリセット、及びウォッチドッグタイマオーバフロー時に発生するマニュアルリセットにより、スリープモードは解除されます。

18.5　モジュールストップモード

18.5.1　モジュールストップモードへの遷移

モジュールストップレジスタ（MSTPCR0～2）の各ビットに1をセットすることで、それぞれ対応した内蔵モジュールへのクロック供給を停止させることができます。

モジュールストップ状態にある各モジュールは、モジュールストップ状態に遷移する直前の状態が保持され続けます。レジスタ設定値も停止前の状態を保持します。また、外部端子も停止前の状態を保持します。モジュールストップ状態から復帰すると、停止前の状態から動作を開始します。

注. モジュールの動作が完了してアイドル状態にあり、外部端子や他のモジュールからの起動要因もありえない状態でビットに1をセットしてください。
なお、A/Dデータレジスタの内容は保持されません。

18.5.2　モジュールストップモードの解除

モジュールストップモードの解除は、モジュールストップレジスタ（MSTPCR0～2）の各ビットを0にするか、又はパワーオンリセットにより行います。

18.6　STATUS 端子の変化タイミング

18.6.1　リセットの場合

「17.5 リセット中の端子タイミング」を参照してください。

18.6.2　スリープ解除の場合

スリープモード中に割り込みが発生した場合のSTATUS 端子の変化タイミングを図18.1 に示します。

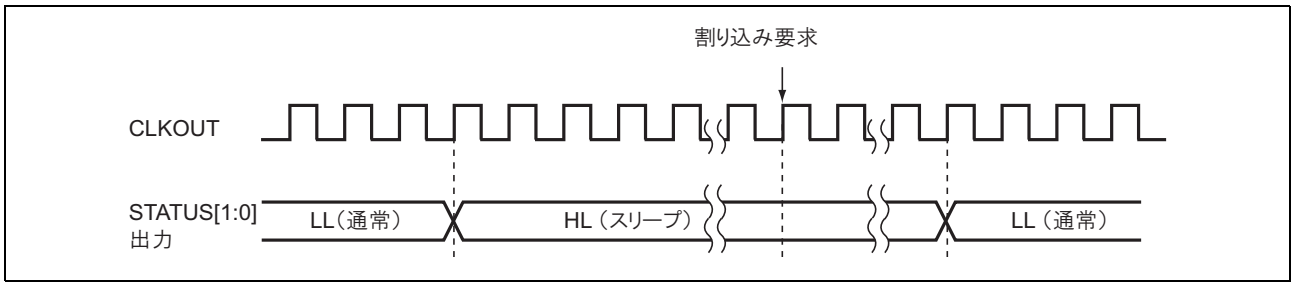


図 18.1　スリープモード中に割り込みが発生した場合のSTATUS 出力

19. 14 ビットPWM タイマ（PWMX）

本LSI は8 チャネルの14 ビットPWM（Pulse Width Modulation）を内蔵しています。LSI 外部にローパスフィルタを接続することにより、14 ビットD/A 変換器として使用できます。

19.1 特長

- リップルの少ないパルス分割方式
- 13種類の分解能を選択可能
  周辺クロック周波数の1、2、4、8、12、16、32、64、128、256、1024、4096、16384分周
- 2種類の基本周期を設定可能
  基本周期 T×64
  基本周期 T×256（T＝分解能）
- 26種類の動作クロック（基本周期2種類×分解能13種類）を選択可能

PWMX（D/A）のブロック図を図 19.1に示します。

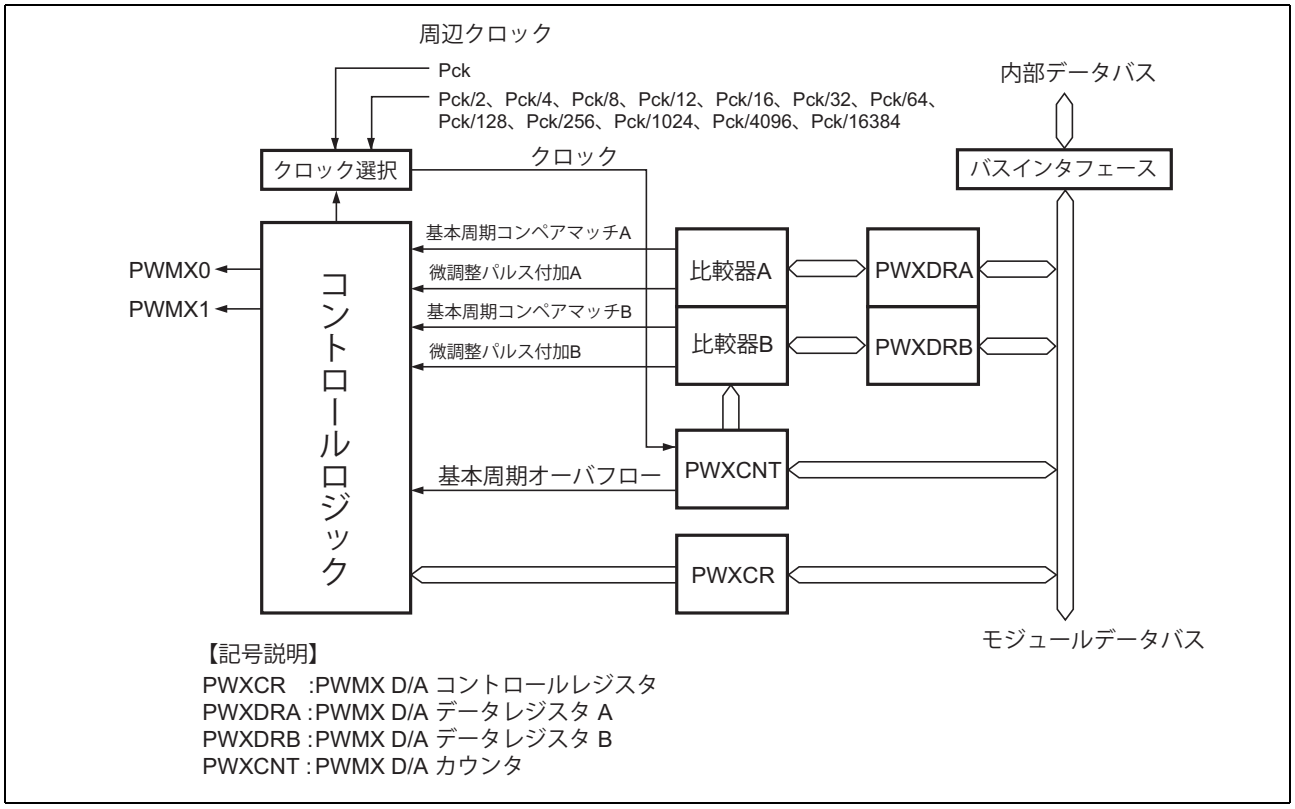


図 19.1　PWMX（D/A）のブロック図

19.2 入出力端子

PWMX（D/A）の入出力端子を表19.1 に示します。

表19.1 端子構成

ユニット	名 称	記号	入出力	機 能
0	PWMX 出力端子 0	PWMX0	出力	PWMX_0 チャネルA のPWM 出力
	PWMX 出力端子 1	PWMX1	出力	PWMX_0 チャネルB のPWM 出力
1	PWMX 出力端子 2	PWMX2	出力	PWMX_1 チャネルA のPWM 出力
	PWMX 出力端子 3	PWMX3	出力	PWMX_1 チャネルB のPWM 出力
2	PWMX 出力端子 4	PWMX4	出力	PWMX_2 チャネルA のPWM 出力
	PWMX 出力端子 5	PWMX5	出力	PWMX_2 チャネルB のPWM 出力
3	PWMX 出力端子 6	PWMX6	出力	PWMX_3 チャネルA のPWM 出力
	PWMX 出力端子 7	PWMX7	出力	PWMX_3 チャネルB のPWM 出力

19.3 レジスタの説明

PWMX（D/A）のレジスタ構成を表19.2に示します。

指定されたビット幅でレジスタにアクセスしてください。指定されたビット幅以外のサイズでレジスタにアクセスした場合、動作は保証できません。

表19.2 レジスタ構成

ユニット	名称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
						パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウエアリセット
0	PWMX (D/A) カウンタ 0	PWXCNT0	R/W	H'FFF0 0006	16	H'0003	H'0003	H'0003
	PWMX (D/A) データレジスタA0	PWXDRA0	R/W	H'FFF0 0000	16	H'FFFF	H'FFFF	H'FFFF
	PWMX (D/A) データレジスタ B0	PWXDRB0	R/W	H'FFF0 0006	16	H'FFFF	H'FFFF	H'FFFF
	PWMX (D/A) コントロールレジスタ 0	PWXCR0	R/W	H'FFF0 0000	8	H'30	H'30	H'30
1	PWMX (D/A) カウンタ 1	PWXCNT1	R/W	H'FFF1 0006	16	H'0003	H'0003	H'0003
	PWMX (D/A) データレジスタ A1	PWXDRA1	R/W	H'FFF1 0000	16	H'FFFF	H'FFFF	H'FFFF
	PWMX (D/A) データレジスタ B1	PWXDRB1	R/W	H'FFF1 0006	16	H'FFFF	H'FFFF	H'FFFF
	PWMX (D/A) コントロールレジスタ 1	PWXCR1	R/W	H'FFF1 0000	8	H'30	H'30	H'30
2	PWMX (D/A) カウンタ 2	PWXCNT2	R/W	H'FFF4 0006	16	H'0003	H'0003	H'0003
	PWMX (D/A) データレジスタA2	PWXDRA2	R/W	H'FFF4 0000	16	H'FFFF	H'FFFF	H'FFFF
	PWMX (D/A) データレジスタ B2	PWXDRB2	R/W	H'FFF4 0006	16	H'FFFF	H'FFFF	H'FFFF
	PWMX (D/A) コントロールレジスタ 2	PWXCR2	R/W	H'FFF4 0000	8	H'30	H'30	H'30
3	PWMX (D/A) カウンタ3	PWXCNT3	R/W	H'FFF5 0006	16	H'0003	H'0003	H'0003
	PWMX (D/A) データレジスタ A3	PWXDRA3	R/W	H'FFF5 0000	16	H'FFFF	H'FFFF	H'FFFF
	PWMX (D/A) データレジスタ B3	PWXDRB3	R/W	H'FFF5 0006	16	H'FFFF	H'FFFF	H'FFFF
	PWMX (D/A)コントロールレジスタ 3	PWXCR3	R/W	H'FFF5 0000	8	H'30	H'30	H'30
共通	周辺クロックセレクトレジスタ 0	PCSR0	R/W	H'FFF2 0000	8	H'00	H'00	H'00
	周辺クロックセレクトレジスタ1	PCSR1	R/W	H'FFF2 0001	8	H'00	H'00	H'00

注. PWXDRAとPWXCR、PWXDRBとPWXCNTのアドレスは同一です。レジスタの切り替えはPWXCNT又はPWXDRBのREGS ビットで行います。

19.3.1 PWMX（D/A）カウンタ（PWXCNT）

PWXCNT は14 ビットのリード／ライト可能なアップカウンタです。入力クロックはPWXCR のCKS ビットにより選択します。PWXCNT は、2 チャネルのPWMX（D/A）のタイムベースとして使用されます。14 ビット精度で使用する場合には全ビットを、12 ビット精度で使用する場合には上位2 ビットを無視し、下位12 ビットを利用します。PWXCNT は8 ビット単位のアクセスはできません。常に16 ビット単位でアクセスしてください。詳細は「19.4 バスマスタとのインタフェース」を参照してください。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	UC7	UC6	UC5	UC4	UC3	UC2	UC1	UC0	UC8	UC9	UC10	UC11	UC12	UC13	—	REGS
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15～8	UC7 ～UC0	0	R/W	下位アップカウンタ
7 ～ 2	UC8 ～ UC13	0	R/W	上位アップカウンタ
1	—	1	—	リザーブビット（書き込む値は“1”にしてください）
0	REGS	1	R/W	レジスタセレクト PWXDRA とPWXCR、PWXDRB とPWXCNT は同一のアドレスに配置されています。このビットはアクセス可能にするレジスタを選択します。これらのレジスタを変更する場合には、あらかじめこのビットを設定してから行ってください。 0：PWXDRA とPWXDRB がアクセス可能 1：PWXCR とPWXCNT がアクセス可能

19.3.2　PWMX（D/A）データレジスタA、B（PWXDRA、PWXDRB）

PWXDRA はPWMX（D/A）チャネルA に、PWXDRB はPWMX（D/A）チャネルB に対応します。PWXDR は8 ビット単位のアクセスはできません。常に16 ビット単位でアクセスしてください。詳細は「19.4 バスマスタとのインタフェース」を参照してください。

- PWXDRA

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	DA13	DA12	DA11	DA10	DA9	DA8	DA7	DA6	DA5	DA4	DA3	DA2	DA1	DA0	CFS	—
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—

- PWXDRB

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	DA13	DA12	DA11	DA10	DA9	DA8	DA7	DA6	DA5	DA4	DA3	DA2	DA1	DA0	CFS	REGS
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

- PWXDRA

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15～2	DA13 ～ DA0	1	R/W	D/A データ13～0 D/A 変換データを設定します。このレジスタの値はPWXCNT の値と常に比較されており、基本周期ごとに出力波形のデューティを選択します。また、分解能幅の付加パルスを出力するか否かを選択します。この動作を可能にするためには、このレジスタをある範囲の値に設定する必要があります。この範囲は本レジスタのCFS ビットによって設定します。範囲外の値を設定するとPWM出力は固定されます。 12 ビット精度で使用する場合には、DA0、DA1 をそれぞれ0 に固定します。 この下位2 ビットデータはPWXCNT レジスタのUC12、13 ビットとの比較を行いません。
1	CFS	1	R/W	キャリアフリーケンシセレクト 0：基本周期＝分解能（T）×64 で動作 DA13～DA0 の値の範囲はH'0100～H'3FFF 1：基本周期＝分解能（T）×256 で動作 DA13～DA0 の値の範囲はH'0040～H'3FFF
0	—	1	—	リザーブビット（書き込む値は“1”にしてください）

• PWXDRB

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15～2	DA13 ～ DA0	1	R/W	D/A データ 13～0 D/A 変換データを設定します。このレジスタの内容は、PWXCNT の値と常に比較されており、基本周期ごとに出力波形のデューティを選択します。また、分解能幅の付加パルスを出力するか否かを選択します。この動作を可能にするためには、このレジスタをある範囲の値に設定する必要があります。この範囲は本レジスタのCFS ビットによって設定します。範囲外の値をPWXDR に設定するとPWM 出力は固定されます。 12 ビット精度で使用する場合には、DA0、DA1 をそれぞれ0 に固定します。 この2 ビットデータはPWXCNT レジスタのUC12、13 ビットとの比較を行いません。
1	CFS	1	R/W	キャリアフリーケンシセレクト 0：基本周期＝分解能（T）×64 で動作 DA13～DA0 の値の範囲はH'0100～H'3FFF 1：基本周期＝分解能（T）×256 で動作 DA13～DA0 の値の範囲はH'0040～H'3FFF
0	REGS	1	R/W	レジスタセレクト PWXDRA とPWXCR、PWXDRB とPWXCNT は同一のアドレスに配置されています。このビットはアクセス可能にするレジスタを選択します。これらのレジスタを変更する場合には、あらかじめこのビットを設定してから行ってください。 0：PWXDRA とPWXDRB がアクセス可能 1：PWXCR とPWXCNT がアクセス可能

19.3.3　PWMX（D/A）コントロールレジスタ（PWXCR）

PWXCR は、出力の許可、出力位相及び動作速度を選択します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	PWME	—	—	OEB	OEA	OS	CKS
初期値：	0	0	1	1	0	0	0	0
R/W：	—	R/W	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	—	0	—	リザーブビット （書き込む値は“0”にしてください）
6	PWME	0	R/W	PWMX イネーブル PWXCNT の動作／停止を選択します。 0：PWXCNT は14 ビットのアップカウンタとして動作 1：PWXCNT＝H'0003 で停止
5、4	—	1	—	リザーブビット （書き込む値は“1”にしてください）
3	OEB	0	R/W	アウトプットイネーブルB PWMX（D/A）チャネルB の出力の許可／禁止を選択します。 0：PWMX（D/A）チャネルB 出力（PWX1、PWX3、PWX5、PWX7 出力端子）を禁止 1：PWMX（D/A）チャネルB 出力（PWX1、PWX3、PWX5、PWX7 出力端子）を許可
2	OEA	0	R/W	アウトプットイネーブルA PWMX（D/A）チャネルA の出力の許可／禁止を選択します。 0：PWMX（D/A）チャネルA 出力（PWX0、PWX2、PWX4、PWX6 出力端子）を禁止 1：PWMX（D/A）チャネルA 出力（PWX0、PWX2、PWX4、PWX6 出力端子）を許可
1	OS	0	R/W	アウトプットセレクト PWMX(D/A)の出力位相を選択します。 0：PWMX（D/A）直接出力 1：PWMX（D/A）反転出力
0	CKS	0	R/W	クロックセレクト PWMX（D/A）の分解能を選択します。分解能は13 種類から選択できます。 0：分解能（T）＝周辺クロック周期（Pck）で動作 1：分解能（T）＝周辺クロック周期（Pck）の2、4、8、12、16、32、64、128、256、1024、4096、16384分周 で動作

19.3.4　周辺クロックセレクトレジスタ0（PCSR0）

PCSR0 は、PWXCR1、PWXCR0 のCKS ビットとあわせてPWMX_1、PWMX_0 の動作速度を選択します。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	PWCKX 1B	PWCKX 1A	PWCKX 0B	PWCKX 0A	PWCKX 1C	PWCKX 1D	PWCKX 0D	PWCKX 0C
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7、6	PWCKX1B、PWCKX1A	00	R/W	PWMX_1 クロックセレクト PWMX_1 のPWXCR レジスタのCKS ビットが1 の状態でクロックを選択します。表19.3 を参照してください。
5、4	PWCKX0B、PWCKX0A	00	R/W	PWMX_0 クロックセレクト PWMX_0 のPWXCR のCKS が1 の状態でクロックを選択します。表19.3 を参照してください。
3	PWCKX1C	0	R/W	PWMX_1 クロックセレクト PWMX_1 のPWXCR レジスタのCKS ビットが1 の状態でクロックを選択します。表19.3 を参照してください。
2	PWCKX1D	0	R/W	PWMX_1 クロックセレクト PWMX_1 のPWXCR レジスタのCKS ビットが1 の状態でクロックを選択します。表19.3を参照してください。
1	PWCKX0D	0	R/W	PWMX_0 クロックセレクト PWMX_0 のPWXCR レジスタのCKS ビットが1 の状態でクロックを選択します。表19.3を参照してください。
0	PWCKX0C	0	R/W	PWMX_0 クロックセレクト PWMX_0 のPWXCR レジスタのCKS ビットが1 の状態でクロックを選択します。表19.3を参照してください。

19.3.5　周辺クロックセレクトレジスタ1（PCSR1）

PCSR1 は、PWXCR3、PWXCR2 のCKS ビットとあわせてPWMX_3、PWMX_2 の動作速度を選択します。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	PWCKX3B	PWCKX3A	PWCKX2B	PWCKX2A	PWCKX3C	PWCKX3D	PWCKX2D	PWCKX2C
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7、6	PWCKX3B、PWCKX3A	00	R/W	PWMX_3 クロックセレクト PWMX_3 のPWXCR レジスタのCKS ビットが1 の状態でクロックを選択します。表19.3 を参照してください。
5、4	PWCKX2B、PWCKX2A	00	R/W	PWMX_2 クロックセレクト PWMX_2 のPWXCR レジスタのCKS ビットが1 の状態でクロックを選択します。表19.3を参照してください。
3	PWCKX3C	0	R/W	PWMX_3 クロックセレクト PWMX_3 のPWXCR レジスタのCKS ビットが1 の状態でクロックを選択します。表19.3を参照してください。
2	PWCKX3D	0	R/W	PWMX_3 クロックセレクト PWMX_3 のPWXCR レジスタのCKS ビットが1 の状態でクロックを選択します。表19.3を参照してください。
1	PWCKX2D	0	R/W	PWMX_2 クロックセレクト PWMX_2 のPWXCR レジスタのCKS ビットが1 の状態でクロックを選択します。表19.3を参照してください。
0	PWCKX2C	0	R/W	PWMX_2 クロックセレクト PWMX_2 のPWXCR レジスタのCKS ビットが1 の状態でクロックを選択します。表19.3を参照してください。

表19.3　PWMX_3、PWMX_2、PWMX_1、PWMX_0 のクロックセレクト

PWCKX0D PWCKX1D PWCKX2D PWCKX3D	PWCKX0C PWCKX1C PWCKX2C PWCKX3C	PWCKX0B PWCKX1B PWCKX2B PWCKX3B	PWCKX0A PWCKX1A PWCKX2A PWCKX3A	分解能（T）
0	0	0	0	周辺クロック（Pck）/ 2 で動作
0	0	0	1	周辺クロック（Pck）/ 64 で動作
0	0	1	0	周辺クロック周期（Pck）/ 128 で動作
0	0	1	1	周辺クロック周期（Pck）/ 256 で動作
0	1	0	0	周辺クロック周期（Pck）/ 1024 で動作
0	1	0	1	周辺クロック周期（Pck）/ 4096 で動作
0	1	1	0	周辺クロック周期（Pck）/ 16384 で動作
0	1	1	1	設定禁止
1	0	0	0	周辺クロック周期（Pck）/ 4 で動作
1	0	0	1	周辺クロック周期（Pck）/ 8 で動作
1	0	1	0	周辺クロック周期（Pck）/ 16 で動作
1	0	1	1	周辺クロック周期（Pck）/ 32 で動作
1	1	0	0	周辺クロック周期（Pck）/ 12 で動作
1	1	0	1	設定禁止
1	1	1	0	設定禁止
1	1	1	1	設定禁止

19.4　バスマスタとのインタフェース

PWXCNT、PWXDRA、PWXDRB は16 ビットのレジスタです。一方、バスマスタとPWMX モジュールの間のデータバスは8 ビット幅です。したがって、バスマスタがこれらのレジスタをアクセスするには、8 ビットのテンポラリレジスタ（TEMP）を介して行います。各レジスタのリード／ライトは次のような動作で行われます。

(1)　**レジスタへのライト時の動作**

上位バイトのライトにより、上位バイトのデータがTEMP にストアされます。次に下位バイトのライトにより、TEMP にある上位バイトの値と合わせて16 ビットデータとしてレジスタにライトされます。

(2)　**レジスタからのリード時の動作**

上位バイトのリードにより、上位バイトの値はCPU に転送され、下位バイトの値はTEMP に転送されます。次に下位バイトのリードにより、TEMP にある下位バイトの値がCPU に転送されます。

これらのレジスタのアクセスはMOV 命令を使用し、常に16 ビット単位で行い、上位バイト、下位バイトの順序で行ってください。上位バイトのみ、下位バイトのみのアクセスではデータは正しく転送されません。

例1. PWXCNT へのライト

```
MOV.W R0, @PWXCNT       PWXCNT へR0 の内容をライト
```

例2. PWXDRA のリード

```
MOV.W @PWXDRA, R0       PWXDRA の内容をR0 に転送
```

19.5　動作説明

PWX 端子からは、図 19.2 に示すような PWM 波形が出力されます。1 変換周期中に発生するパルス（CFS＝0の場合256 個、CFS＝1 の場合64 個）のL(0) レベル幅の合計（T_L）がPWXDR のDA13～DA0 と対応しています。OS ＝ 0 の場合、この波形が直接出力されます。OS ＝ 1 の場合、この波形が反転して出力されます。このときH(1) レベル幅の合計（T_H）がPWXDR のDA13～DA0 と対応しています。出力波形を図 19.3、図 19.4に示します。

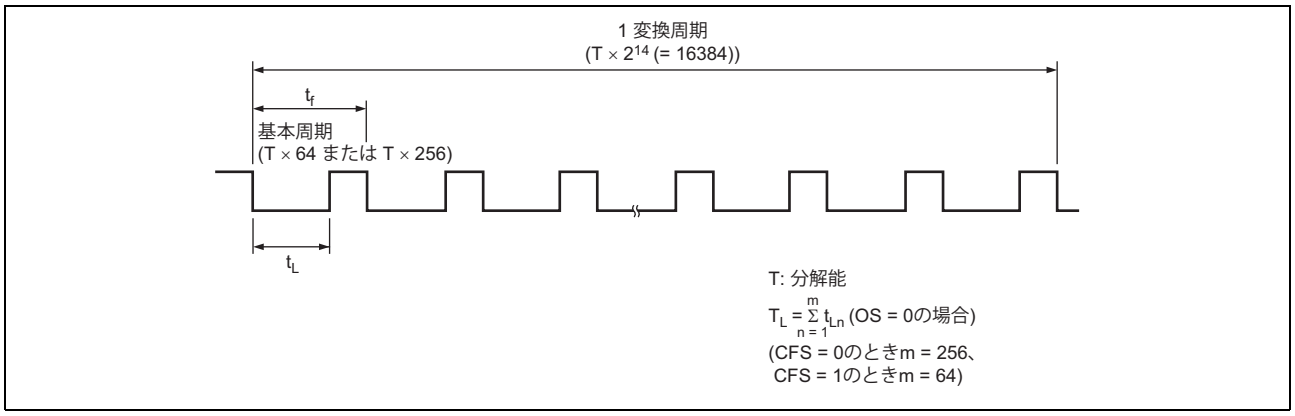


図 19.2　PWMX（D/A）の動作

CKS、CFS の設定と、分解能、基本周期、変換周期との関係を表 19.4 に示します。PWXDR の DA13～DA0 がある値以上でないと PWM 出力は固定レベルとなります。また、OS ビットと出力波形の関係を図 19.3 と図 19.4に示します。

表19.4　設定値と動作内容　（Pck = 33MHz 時の例）

PCSR				CKS	分解能T (μs)	CFS	基本周期	変換周期	TL/TH (OS = 0 / OS = 1)	変換精度（ビット数）	ビットデータ				変換周期（注） (ms)
PWCKX0～PWCKX3											DA3	DA2	DA1	DA0	
D	C	B	A												
—	—	—	—	0	0.02	0	1.33 (μs) /750.0kHz	341.33 (μs)	常時L/Hレベル出力 DA13～0＝H'0000～H'00FF （データ値）×T DA13～0＝H'0100～H'3FFF	14	—	—	—	—	0.34
										12	—	—	0	0	0.08
										10	0	0	0	0	0.02
						1	5.33 (μs) /187.5kHz	341.33 (μs)	常時L/Hレベル出力 DA13～0＝H'0000～H'003F （データ値）×T DA13～0＝H'0040～H'3FFF	14	—	—	—	—	0.34
					(Pck)					12	—	—	0	0	0.08
										10	0	0	0	0	0.02
0	0	0	0	1	0.04	0	2.66 (μs) /375.0kHz	682.66 (μs)	常時L/Hレベル出力 DA13～0＝H'0000～H'00FF （データ値）×T DA13～0＝H'0100～H'3FFF	14	—	—	—	—	0.68
										12	—	—	0	0	0.17
										10	0	0	0	0	0.04
						1	10.66 (μs) /93.7kHz	682.66 (μs)	常時L/Hレベル出力 DA13～0＝H'0000～H'003F （データ値）×T DA13～0＝H'0040～H'3FFF	14	—	—	—	—	0.68
					(Pck/2)					12	—	—	0	0	0.17
										10	0	0	0	0	0.04
0	0	0	1	1	1.33	0	85.33 (μs) /11.7kHz	21.84 (ms)	常時L/Hレベル出力 DA13～0＝H'0000～H'00FF （データ値）×T DA13～0＝H'0100～H'3FFF	14	—	—	—	—	21.84
										12	—	—	0	0	5.46
										10	0	0	0	0	1.36
						1	341.33 (μs) /2.9kHz	21.84 (ms)	常時L/Hレベル出力 DA13～0＝H'0000～H'003F （データ値）×T DA13～0＝H'0040～H'3FFF	14	—	—	—	—	21.84
					(Pck/64)					12	—	—	0	0	5.46
										10	0	0	0	0	1.36
0	0	1	0	1	2.66	0	170.66 (μs) /5.8kHz	43.69 (ms)	常時L/Hレベル出力 DA13～0＝H'0000～H'00FF （データ値）×T DA13～0＝H'0100～H'3FFF	14	—	—	—	—	43.69
										12	—	—	0	0	10.92
										10	0	0	0	0	2.73
						1	682.66 (μs) /1.4kHz	43.69 (ms)	常時L/Hレベル出力 DA13～0＝H'0000～H'003F （データ値）×T DA13～0＝H'0040～H'3FFF	14	—	—	—	—	43.69
					(Pck/128)					12	—	—	0	0	10.92
										10	0	0	0	0	2.73
0	0	1	1	1	5.33	0	341.33 (μs) /2.9kHz	87.38 (ms)	常時L/Hレベル出力 DA13～0＝H'0000～H'00FF （データ値）×T DA13～0＝H'0100～H'3FFF	14	—	—	—	—	87.38
										12	—	—	0	0	21.84
										10	0	0	0	0	5.46
						1	1365.33 (μs) /0.7kHz	87.38 (ms)	常時L/Hレベル出力 DA13～0＝H'0000～H'003F （データ値）×T DA13～0＝H'0040～H'3FFF	14	—	—	—	—	87.38
					(Pck/256)					12	—	—	0	0	21.84
										10	0	0	0	0	5.46
0	1	0	0	1	21.33	0	1.36 (ms) /732.4Hz	349.52 (ms)	常時L/Hレベル出力 DA13～0＝H'0000～H'00FF （データ値）×T DA13～0＝H'0100～H'3FFF	14	—	—	—	—	349.52
										12	—	—	0	0	87.38
										10	0	0	0	0	21.84
						1	5.46 (ms) /183.1Hz	349.52 (ms)	常時L/Hレベル出力 DA13～0＝H'0000～H'003F （データ値）×T DA13～0＝H'0040～H'3FFF	14	—	—	—	—	349.52
					(Pck/1024)					12	—	—	0	0	87.38
										10	0	0	0	0	21.84

PCSR PWCKX0～PWCKX3 D	C	B	A	CKS	分解能T (μs)	CFS	基本周期	変換周期	TL/TH (OS = 0 / OS = 1)	変換精度（ビット数）	ビットデータ DA3	DA2	DA1	DA0	変換周期（注） (ms)
0	1	0	1	1	85.33 (Pck/4096)	0	5.46 (ms) /183.1Hz	1.39 (s)	常時L/Hレベル出力 DA13～0＝H'0000～H'00FF （データ値）×T DA13～0＝H'0100～H'3FFF	14	—	—	—	—	1398.10
										12	—	—	0	0	349.52
										10	0	0	0	0	87.38
						1	21.84 (ms) /45.7Hz	1.39 (s)	常時L/Hレベル出力 DA13～0＝H'0000～H'003F （データ値）×T DA13～0＝H'0040～H'3FFF	14	—	—	—	—	1398.10
										12	—	—	0	0	349.52
										10	0	0	0	0	87.38
0	1	1	0	1	341.33 (Pck/16384)	0	21.84 (ms) /45.7Hz	5.59 (s)	常時L/Hレベル出力 DA13～0＝H'0000～H'00FF （データ値）×T DA13～0＝H'0100～H'3FFF	14	—	—	—	—	5592.40
										12	—	—	0	0	1398.10
										10	0	0	0	0	349.52
						1	87.38 (ms) /11.4Hz	5.59 (s)	常時L/Hレベル出力 DA13～0＝H'0000～H'003F （データ値）×T DA13～0＝H'0040～H'3FFF	14	—	—	—	—	5592.40
										12	—	—	0	0	1398.10
										10	0	0	0	0	349.52
0	1	1	1	1	禁止	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1	0	0	0	1	0.08 (Pck/4)	0	5.33 (μs) /187.5kHz	1.36 (ms)	常時L/Hレベル出力 DA13 ～ 0 = H'0000 ～H'00FF （データ値）× T DA13 ～0 = H'0100 ～H'3FFF	14	—	—	—	—	1.36
										12	—	—	0	0	0.34
										10	0	0	0	0	0.08
						1	21.33 (μs) /46.8kHz	1.36 (ms)	常時L/Hレベル出力 DA13 ～ 0 = H'0000 ～H'003F （データ値）× T DA13 ～0 = H'0040 ～H'3FFF	14	—	—	—	—	1.36
										12	—	—	0	0	0.34
										10	0	0	0	0	0.08
1	0	0	1	1	0.16 (Pck/8)	0	10.66 (μs) /93.7kHz	2.73 (ms)	常時L/Hレベル出力 DA13 ～0 = H'0000 ～ H'00FF （データ値）× T DA13 ～0 = H'0100 ～H'3FFF	14	—	—	—	—	2.73
										12	—	—	0	0	0.68
										10	0	0	0	0	0.17
						1	42.66 (μs) /23.4kHz	2.73 (ms)	常時L/Hレベル出力 DA13 ～ 0 = H'0000 ～H'003F （データ値）× T DA13 ～0 = H'0040 ～H'3FFF	14	—	—	—	—	2.73
										12	—	—	0	0	0.68
										10	0	0	0	0	0.17
1	0	1	0	1	0.33 (Pck/16)	0	21.33 (μs) /46.8kHz	5.46 (ms)	常時L/Hレベル出力 DA13 ～0 = H'0000 ～ H'00FF （データ値）× T DA13 ～0 = H'0100 ～H'3FFF	14	—	—	—	—	5.46
										12	—	—	0	0	1.36
										10	0	0	0	0	0.34
						1	85.33 (μs) /11.7kHz	5.46 (ms)	常時L/Hレベル出力 DA13 ～0 = H'0000 ～ H'003F （データ値）× T DA13 ～0 = H'0040 ～H'3FFF	14	—	—	—	—	5.46
										12	—	—	0	0	1.36
										10	0	0	0	0	0.34
1	0	1	1	1	0.66 (Pck/32)	0	42.66 (μs) /23.4kHz	10.92 (ms)	常時L/Hレベル出力 DA13 ～ 0 = H'0000 ～H'00FF （データ値）× T DA13 ～0 = H'0100 ～H'3FFF	14	—	—	—	—	10.92
										12	—	—	0	0	2.73
										10	0	0	0	0	0.68
						1	170.66 (μs) /5.85kHz	10.92 (ms)	常時L/Hレベル出力 DA13 ～ 0 = H'0000 ～H'003F （データ値）× T DA13 ～0 = H'0040 ～H'3FFF	14	—	—	—	—	10.92
										12	—	—	0	0	2.73
										10	0	0	0	0	0.68

PCSR				CKS	分解能T (μs)	CFS	基本周期	変換周期	TL/TH (OS = 0 / OS = 1)	変換精度（ビット数）	ビットデータ				変換周期（注） (ms)
PWCKX0 ～ PWCKX3											DA3	DA2	DA1	DA0	
D	C	B	A												
1	1	0	0	1	0.25	0	16 (μs) /62.5kHz	4.09 (ms)	常時L/H レベル出力 DA13 ～0 = H'0000 ～ H'00FF （データ値）× T DA13 ～0 = H'0100 ～H'3FFF	14	—	—	—	—	4.09
										12	—	—	0	0	1.02
										10	0	0	0	0	0.25
					(Pck/12)	1	64 (μs) /15.6kHz	4.09 (ms)	常時L/H レベル出力 DA13 ～0 = H'0000 ～ H'003F （データ値）× T DA13 ～0 = H'0040 ～H'3FFF	14	—	—	—	—	4.09
										12	—	—	0	0	1.02
										10	0	0	0	0	0.25
1	1	0	1	1	禁止	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1	1	1	0	1	禁止	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1	1	1	1	1	禁止	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

注. DA3～DA0 ビットを固定することにより得られる変換周期です。

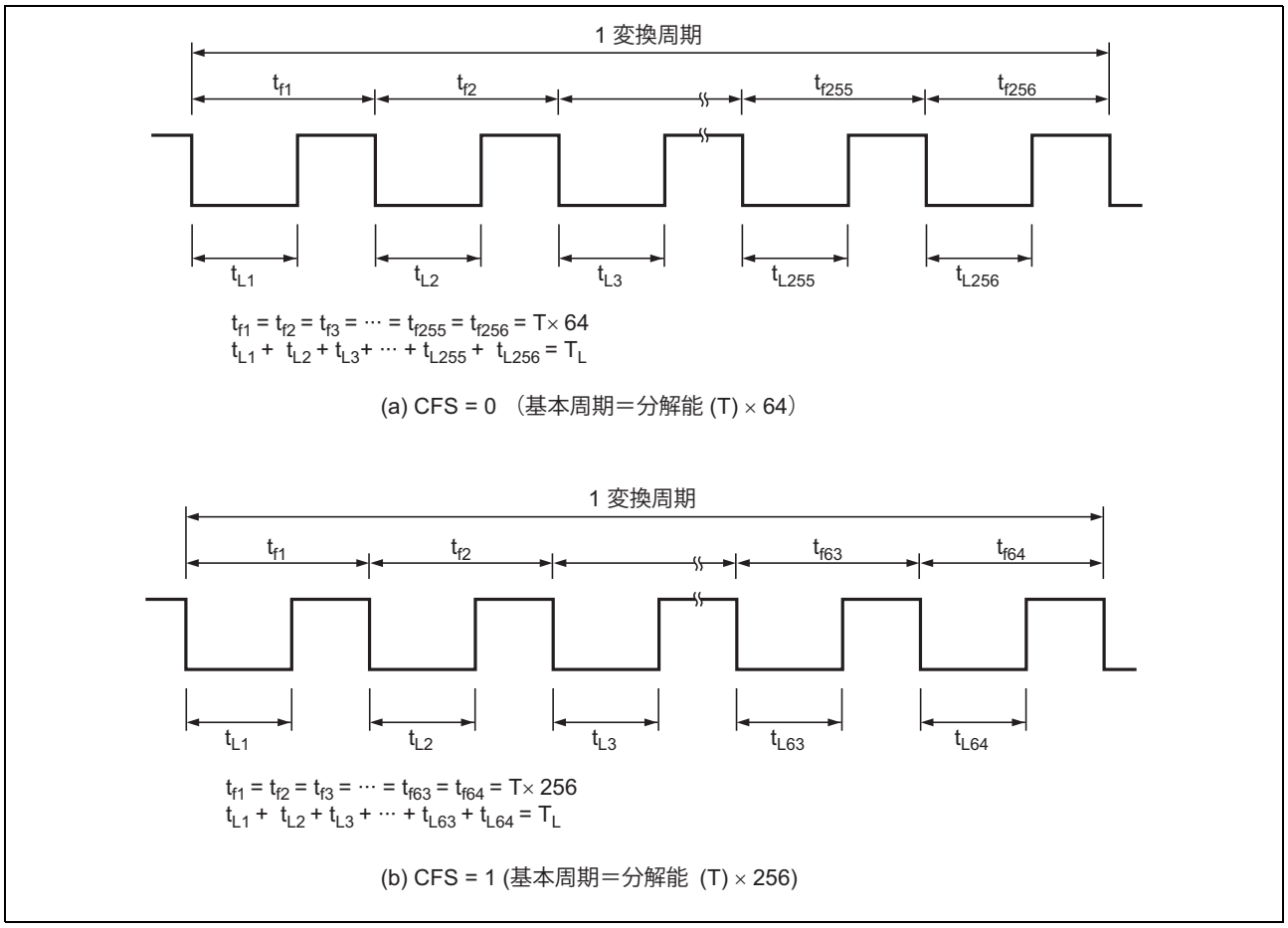


図 19.3　出力波形（OS＝0、PWXDR はT_Lに対応）

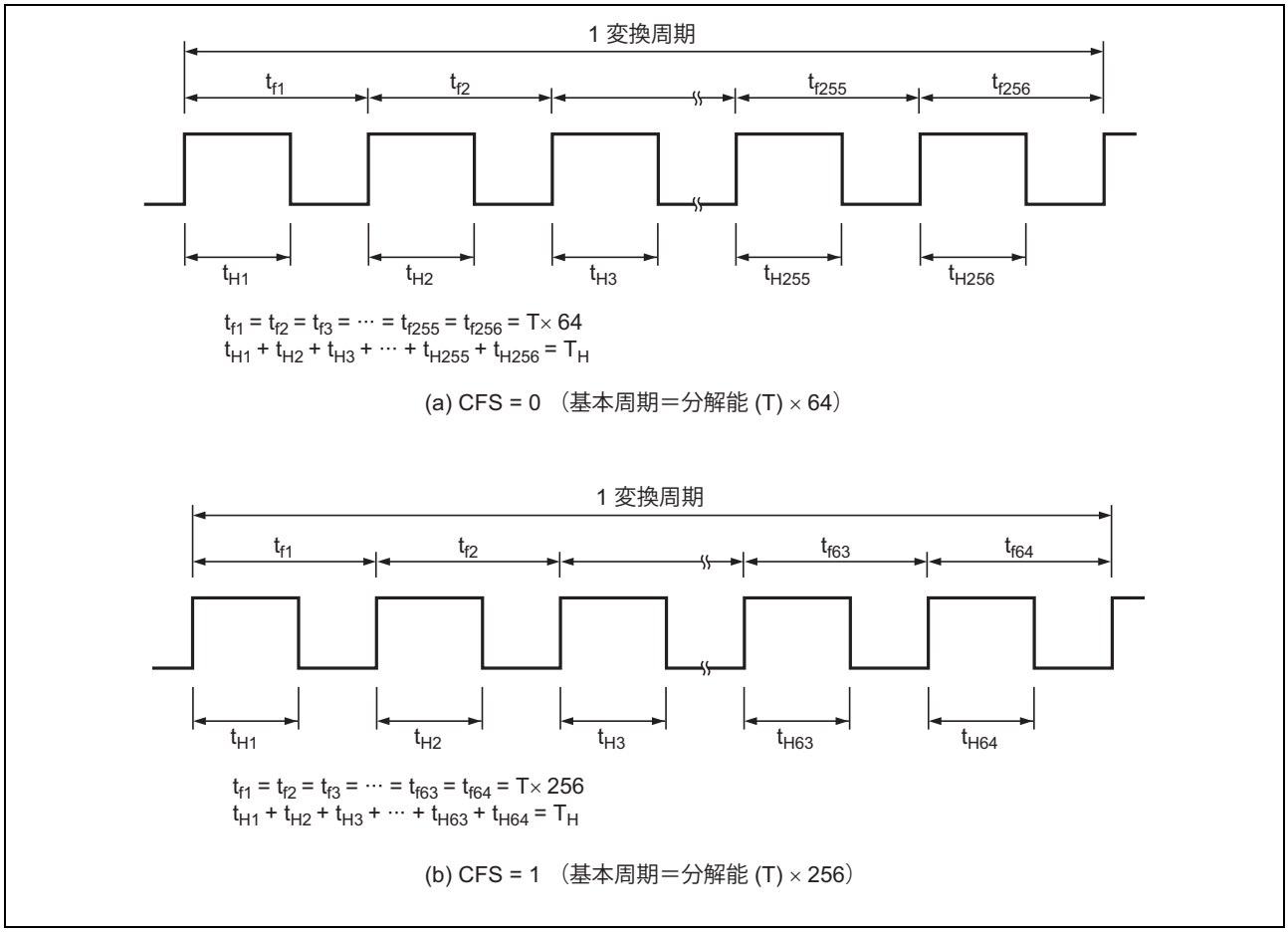


図 19.4　出力波形（OS＝1、PWXDR はT_Hに対応）

付加パルスについては、CFS＝1（基本周期＝分解能（T）×256）かつOS＝1（PWM 反転出力）の設定を例に示します。CFS＝1 のとき、図 19.5 に示すようにPWXDR の上位8 ビット（DA13～DA6）で基本パルスのデューティ比が、次の6 ビット（DA5～DA0）で付加パルスの位置が決定されます。

表19.5に付加パルスの位置を示します。

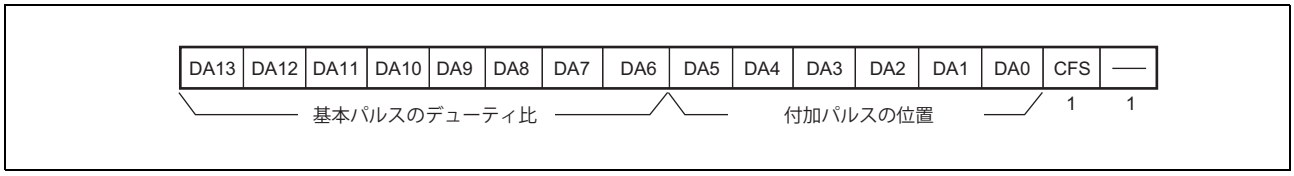


図 19.5　CFS＝1 のときのD/A データレジスタの構成

ここでは、PWXDR ＝ H'0207（B'0000 0010 0000 0111）の場合を考えます。図 19.6 に出力波形を示します。CFS＝1 であり、上位8 ビットの値がB'0000 0010 ですので、基本パルスはH 幅が2/256×（T）のデューティ比となります。

次に続く6 ビットの値がB'0000 01 ですので、表19.5 より、付加パルスは基本パルスNo.63 の位置でのみ出力されます。付加パルスは基本パルスに1/256×（T）だけ追加される形となります。

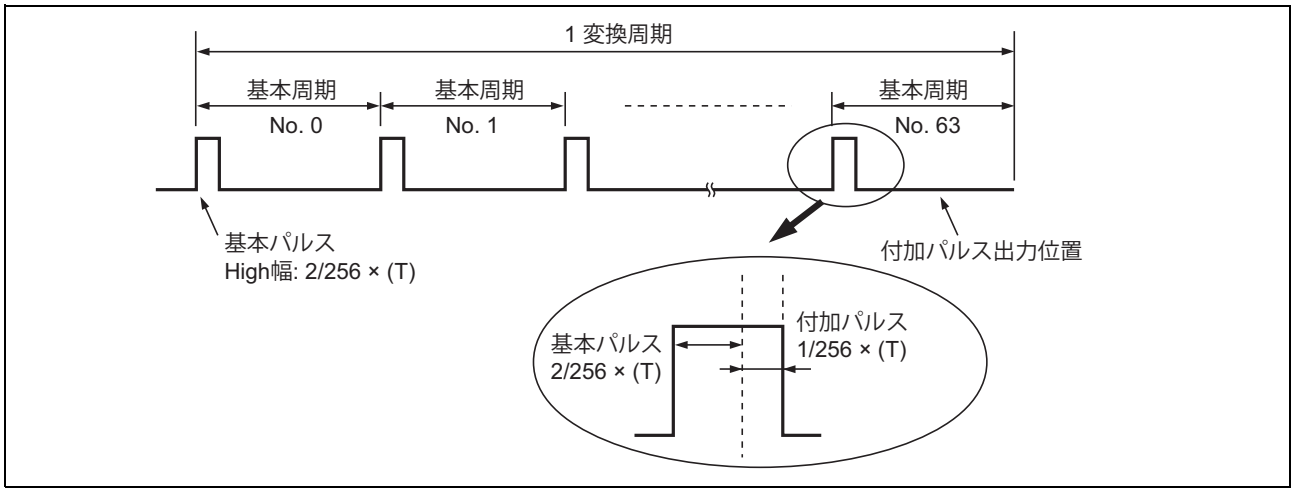
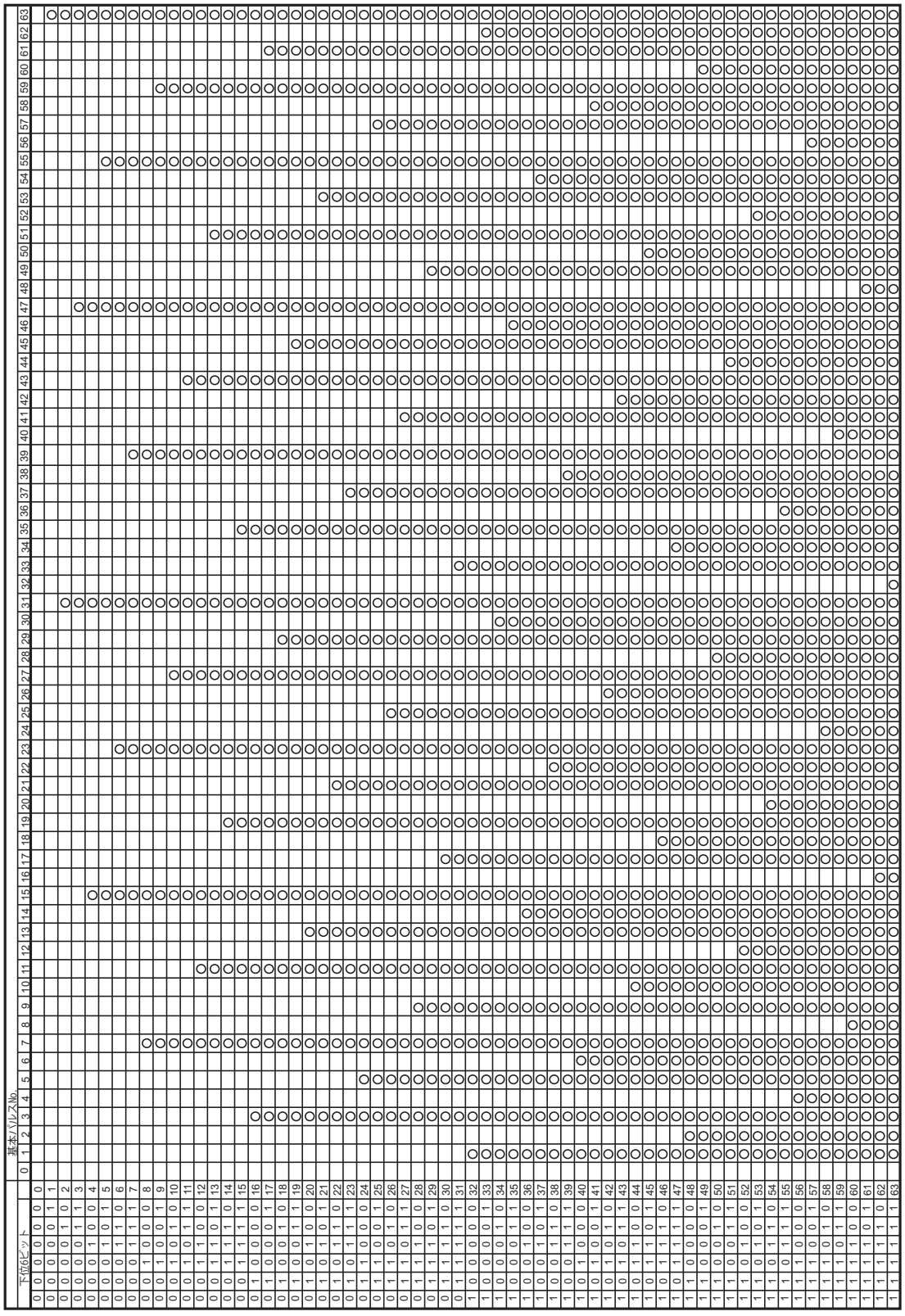


図 19.6　PWXDR＝H'0207 のときの出力波形（OS＝1）

なお、CFS＝0（基本周期＝分解能（T）×64）の場合、基本パルスのデューティ比は上位6 ビットで、付加パルスの位置はその次の8 ビットで決定されるという点以外は、同様な考え方となります。

表19.5　基本パルスに対する付加パルスの位置（CFS＝1 の場合）



20. 16 ビットフリーランニングタイマ（FRT）

本LSI は、16 ビットフリーランニングタイマ（FRT : Free Running Timer）を内蔵しています。FRT は16 ビットのフリーランニングカウンタ（FRC）をベースにしています。

20.1 特長

- 3種類のカウンタ入力クロックを選択可能
  3種類の周辺クロック（Pck/2、Pck/8、Pck/32）のうちから選択できます。
- 2本の独立したコンパレータ
  2種類のコンペアマッチ割り込みが可能です。
- カウンタのクリア指定が可能
  コンペアマッチAによりカウンタの値をクリアすることができます。
- 3種類の割り込み要因
  コンペアマッチ×2要因、オーバフロー ×1要因があり、それぞれ独立に要求することができます。
- 自動加算機能による特殊動作
  OCRA の内容にOCRAR、及びOCRAF の内容を自動的に加算し、ソフトウェアの介在なしに周期的な割り込みを生成することができます。

FRT のブロック図を図20.1 に示します。

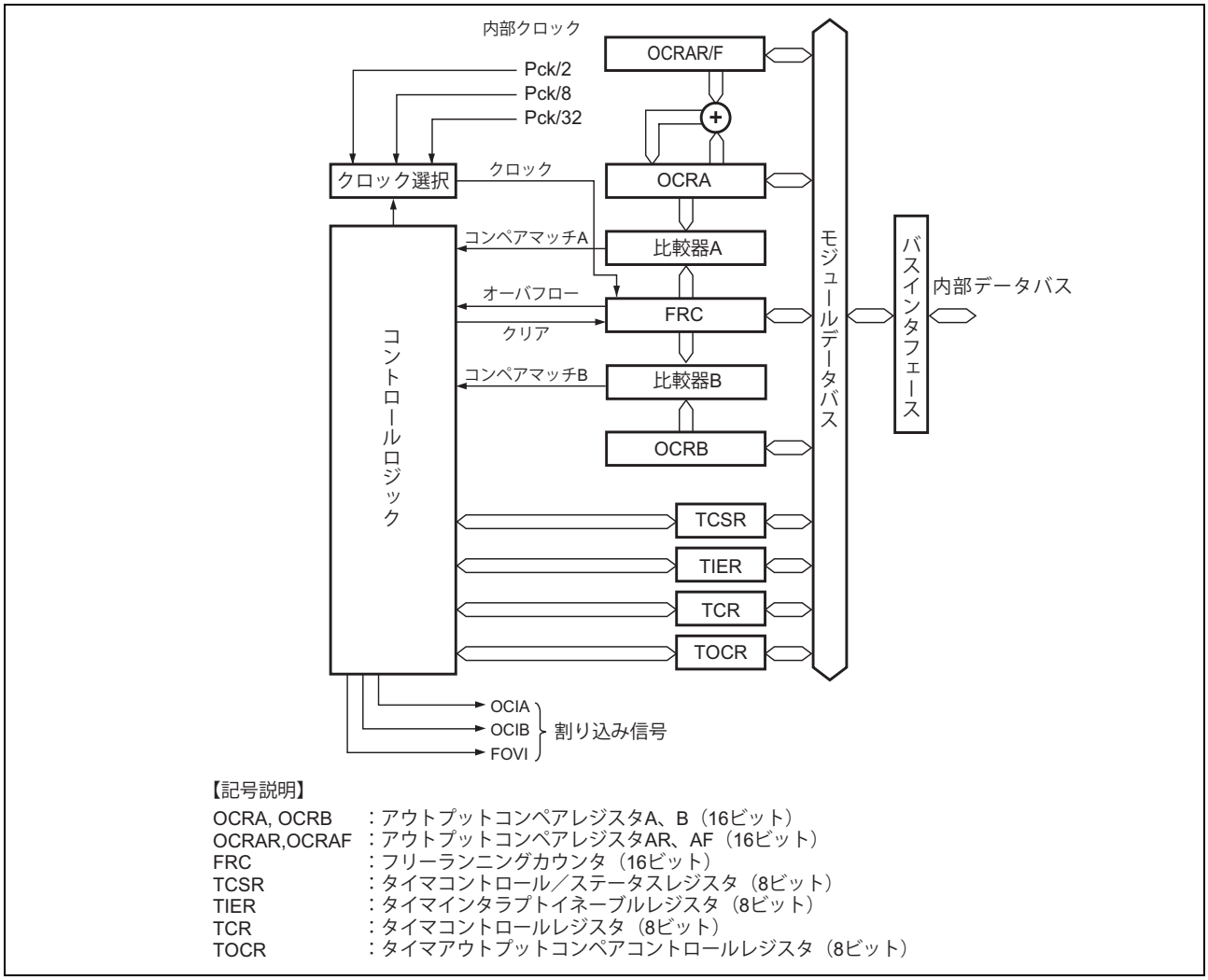


図 20.1　16 ビットフリーランニングタイマのブロック図

20.2　レジスタの説明

FRTのレジスタ構成、及び各処理モードにおけるレジスタの状態を表20.1 に示します。

指定されたビット幅を使用し、レジスタにアクセスする必要があります。指定されたビット幅以外のサイズでレジスタにアクセスする場合、動作保証はできません。

表20.1　レジスタ構成

名 称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
					パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウェアリセット
フリーランニングカウンタ	FRC	R/W	H'FFEA 0002	16	H'0000	H'0000	H'0000
アウトプットコンペアレジスタ A	OCRA	R/W	H'FFEA 0004 (注1)	16	H'FFFF	H'FFFF	H'FFFF
アウトプットコンペアレジスタ B	OCRB	R/W	H'FFEA 0004 (注1)	16	H'FFFF	H'FFFF	H'FFFF
アウトプットコンペアレジスタ AR	OCRAR	R/W	H'FFEA 0008	16	H'FFFF	H'FFFF	H'FFFF
アウトプットコンペアレジスタ AF	OCRAF	R/W	H'FFEA 000A	16	H'FFFF	H'FFFF	H'FFFF
タイマインタラプトイネーブルレジスタ	TIER	R/W	H'FFEA 0000	8	H'01	H'01	H'01
タイマコントロール／ステータスレジスタ	TCSR	R/W (注2)	H'FFEA 0001	8	H'00	H'00	H'00
タイマコントロールレジスタ	TCR	R/W	H'FFEA 0006	8	H'00	H'00	H'00
タイマアウトプットコンペアコントロールレジスタ	TOCR	R/W	H'FFEA 0007	8	H'00	H'00	H'00

注1.　OCRA とOCRB のアドレスは同一です。レジスタの切り替えはTOCR のOCRS ビットで行います。
2.　フラグをクリアするための0 ライトのみ可能です。

20.2.1　フリーランニングカウンタ（FRC）

FRC は16 ビットのリード／ライト可能なアップカウンタです。入力クロックはTCR のCKS1、CKS0 ビットにより選択します。FRC はコンペアマッチA によりクリアすることができます。FRC が H'FFFF からH'0000 にオーバフローすると、TCSR のOVF が1 にセットされます。FRC は8 ビット単位のアクセスはできません。常に16ビットでアクセスしてください。FRC の初期値はH'0000 です。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

20.2.2　アウトプットコンペアレジスタ A、B（OCRA、OCRB）

OCRA、OCRB は 16 ビットのリード／ライト可能なレジスタです。OCRA、OCRB の値は常に FRC の値と比較されます。両者の値が一致（コンペアマッチ）すると、TCSR の OCFA、OCFB フラグが 1 にセットされます。OCR は 8 ビット単位のアクセスはできません。常に 16 ビットでアクセスしてください。OCR の初期値は H'FFFF です。

• OCRA

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

• OCRB

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

20.2.3　アウトプットコンペアレジスタ AR、AF（OCRAR、OCRAF）

OCRAR、OCRAF は 16 ビットのリード／ライト可能なレジスタです。TOCR の OCRAMS ビットを 1 にセットすると、OCRA が OCRAR、OCRAF を使用した動作モードに設定されます。OCRAR、OCRAF の値は交互に OCRA に自動的に加算され、OCRA に書き込まれます。書き込みはコンペアマッチ A のタイミングで行われます。

OCRAMS ビットを 1 にセットした後の最初のコンペアマッチ A では、OCRAF が加算されます。コンペアマッチ A の動作は、OCRAR、OCRAF のいずれを加算した後のコンペアマッチかによって異なります。

OCRA の自動加算機能を使用する場合には、FRC の入力クロックを内部クロック Pck/2 で、かつ OCRAR（又は OCRAF）の値を H'0001 以下に設定しないでください。

OCRAR、OCRAF は 8 ビット単位のアクセスはできません。常に 16 ビット単位でアクセスしてください。OCRAR、OCRAF の初期値は H'FFFF です。

• OCRAR

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

• OCRAF

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

20.2.4　タイマインタラプトイネーブルレジスタ（TIER）

TIER は、割り込み要求の許可／禁止を制御します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	OCIAE	OCIBE	OVIE	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	1
R/W：	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～ 4	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
3	OCIAE	0	R/W	アウトプットコンペアインタラプトA イネーブル TCSR のOCFA フラグが1 にセットされたとき、OCFA フラグによる割り込み要求（OCIA）を許可又は禁止します。 0：OCFA による割り込み要求（OCIA）を禁止 1：OCFA による割り込み要求（OCIA）を許可
2	OCIBE	0	R/W	アウトプットコンペアインタラプトB イネーブル TCSR のOCFB フラグが1 にセットされたとき、OCFB フラグによる割り込み要求（OCIB）を許可又は禁止します。 0：OCFB による割り込み要求（OCIB）を禁止 1：OCFB による割り込み要求（OCIB）を許可
1	OVIE	0	R/W	タイマオーバフローインタラプトイネーブル TCSR のOVF フラグが1 にセットされたとき、OVF フラグによる割り込み要求（FOVI）を許可又は禁止します。 0：OVF による割り込み要求（FOVI）を禁止 1：OVF による割り込み要求（FOVI）を許可
0	—	1	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

20.2.5　タイマコントロール／ステータスレジスタ（TCSR）

TCSRはステータスの表示、及びカウンタクリアの選択を行います

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	OCFA	OCFB	OVF	CCLRA
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～ 4	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
3	OCFA	0	R/W(注)	アウトプットコンペアフラグA FRC とOCRA の値が一致したことを示すステータスフラグです。フラグをクリアするための0 ライトのみ可能です。 ［セット条件］ FRC＝OCRA になったとき ［クリア条件］ OCFA＝1 の状態でOCFA をリード後、OCFA に0 をライトしたとき
2	OCFB	0	R/W(注)	アウトプットコンペアフラグB FRC とOCRB の値が一致したことを示すステータスフラグです。フラグをクリアするための0 ライトのみ可能です。 ［セット条件］ FRC＝OCRB になったとき ［クリア条件］ OCFB＝1 の状態でOCFB をリード後、OCFB に0 をライトしたとき
1	OVF	0	R/W(注)	オーバフローフラグ FRC のオーバフローの発生を示すフラグです。フラグをクリアするための0 ライトのみ可能です。 ［セット条件］ FRC の値がオーバフロー（H'FFFF→H'0000）したとき ［クリア条件］ OVF＝1 の状態でOVF をリード後、OVF に0 をライトしたとき
0	CCLRA	0	R/W(注)	カウンタクリアA コンペアマッチA（FRC とOCRA の一致信号）によりFRC をクリアするか、しないかを選択します。 0：FRC のクリアを禁止 1：コンペアマッチA によりFRC をクリア

注.　“1”を書き込んでも値は変化しません。

20.2.6　タイマコントロールレジスタ（TCR）

TCR は、FRC の入力クロックの選択を行います。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	CKS1	CKS0
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～ 2	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
1 0	CKS1 CKS0	0 0	R/W R/W	クロックセレクト1、0 FRC に入力するクロックを選択します。 00：内部クロック Pck/2 をカウント 01：内部クロック Pck/8 をカウント 10：内部クロック Pck/32 をカウント 11：設定禁止

20.2.7　タイマアウトプットコンペアコントロールレジスタ（TOCR）

TOCR は、アウトプットコンペアレジスタ A、B のアクセスの切り替え制御、OCRA の動作モードの切り替え制御を行います。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	OCRAMS	OCRE	OCRS	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
6	OCRAMS	0	R/W	アウトプットコンペアA モードセレクト OCRA を通常の動作モードにするか、OCRAR、OCRAF を使用した動作モードにするかを選択します。 0：OCRA を通常の動作モードに設定 1：OCRA をOCRAR、OCRAF を使用した動作モードに設定
5	OCRE	0	R/W	アウトプットコンペアレジスタイネーブル OCRAR、OCRAF へのアクセスイネーブル制御を行います。 0：OCRAR、OCRAF へのアクセス不可 1：OCRAR、OCRAF へのアクセス可能
4	OCRS	0	R/W	アウトプットコンペアレジスタセレクト OCRA とOCRB のアドレスは同一です。このアドレスをリード／ライトするとき、どちらのレジスタを選択するか制御します。OCRA、OCRB の動作には影響を与えません。 0：OCRA レジスタを選択 1：OCRB レジスタを選択
3 ～ 0	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

20.3　動作タイミング

20.3.1　FRC のカウントタイミング

FRC のカウントタイミングを図20.2 に示します。

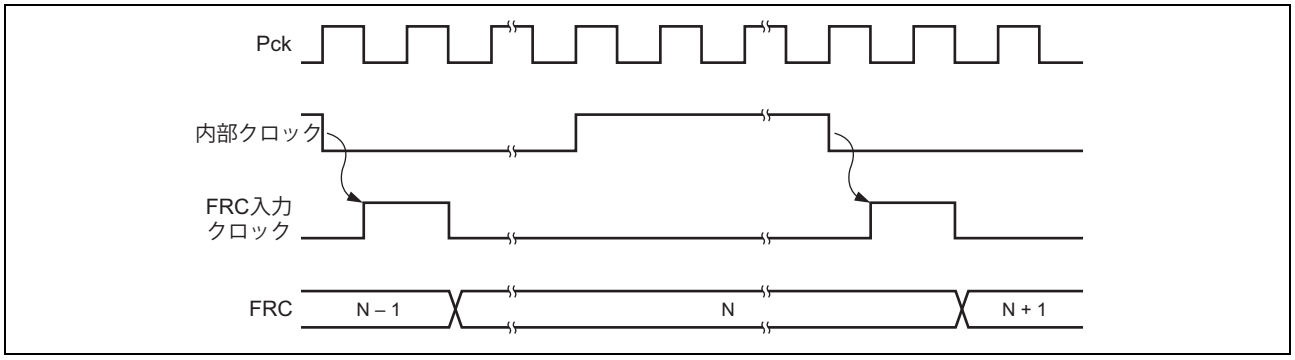


図 20.2　FRC のカウントタイミング

20.3.2　コンペアマッチタイミング

コンペアマッチ信号は、FRC と OCR の値が一致した最後のステート（FRC が一致したカウント値を更新するタイミング）で発生します。コンペアマッチA タイミングを図20.3 に示します。

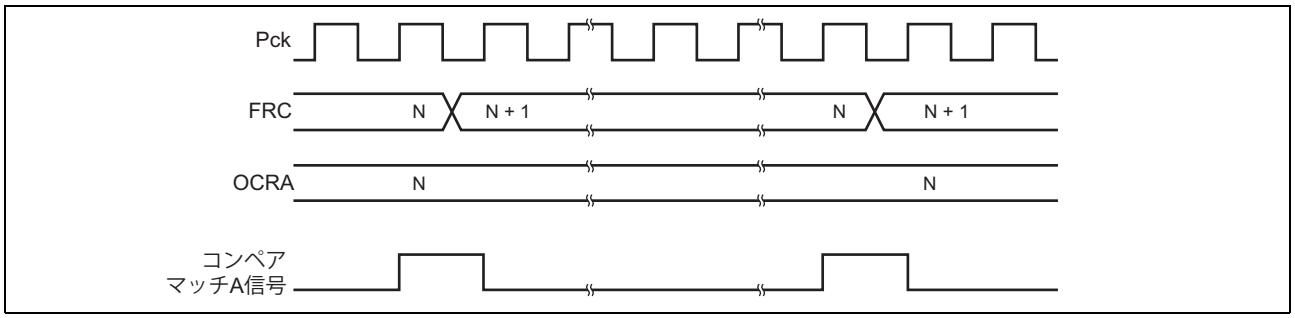


図 20.3　コンペアマッチA タイミング

20.3.3　FRC のクリアタイミング

FRC はコンペアマッチA 信号でクリアすることができます。このタイミングを図20.4 に示します。

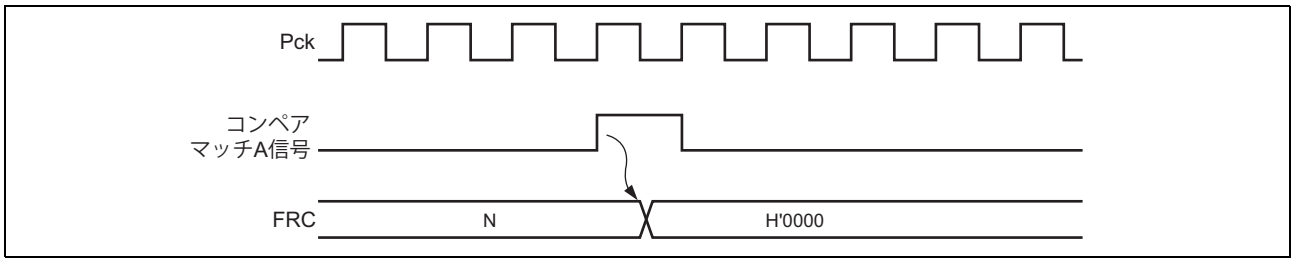


図 20.4　コンペアマッチA 信号によるFRC のクリアタイミング

20.3.4　アウトプットコンペアフラグ(OCF)のセットタイミング

OCFA、OCFB フラグは、OCRA、OCRB と FRC の値が一致したとき出力されるコンペアマッチ信号により1にセットされます。コンペアマッチ信号は値が一致した最後のステート（FRC が一致したカウント値を更新するタイミング）で発生します。OCRA、OCRB と FRC の値が一致した後、カウントアップクロックが発生するまでコンペアマッチ信号は発生しません。OCFA、OCFB フラグのセットタイミングを図20.5 に示します。

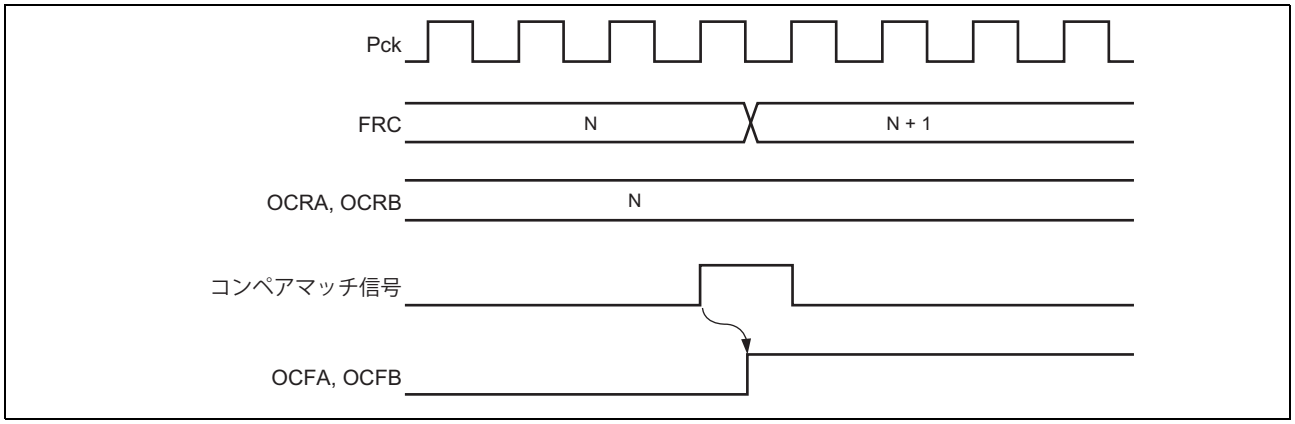


図 20.5　OCFA、OCFB フラグのセットタイミング

20.3.5　FRC オーバーフローフラグ(OVF)のセットタイミング

OVF フラグは、FRC がオーバフロー（H'FFFF→H'0000）したとき1 にセットされます。OVF フラグのセットタイミングを図20.6 に示します。

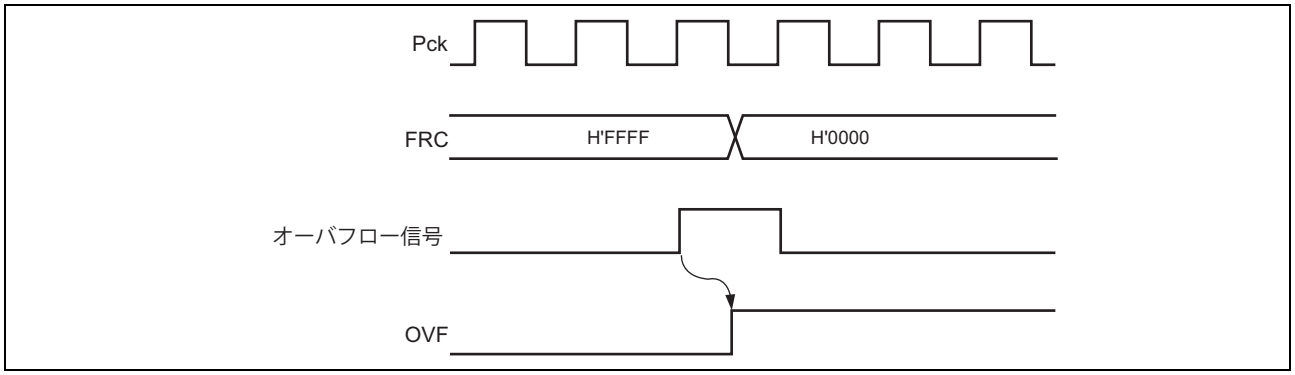


図 20.6　OVF フラグのセットタイミング

20.3.6　自動加算タイミング

TOCR の OCRAMS ビットが 1 にセットされている場合、OCRAR、OCRAF の内容は交互に OCRA に自動加算され、OCRA のコンペアマッチが発生すると OCRA に書き込まれます。OCRA の書き込みタイミングを図20.7に示します。

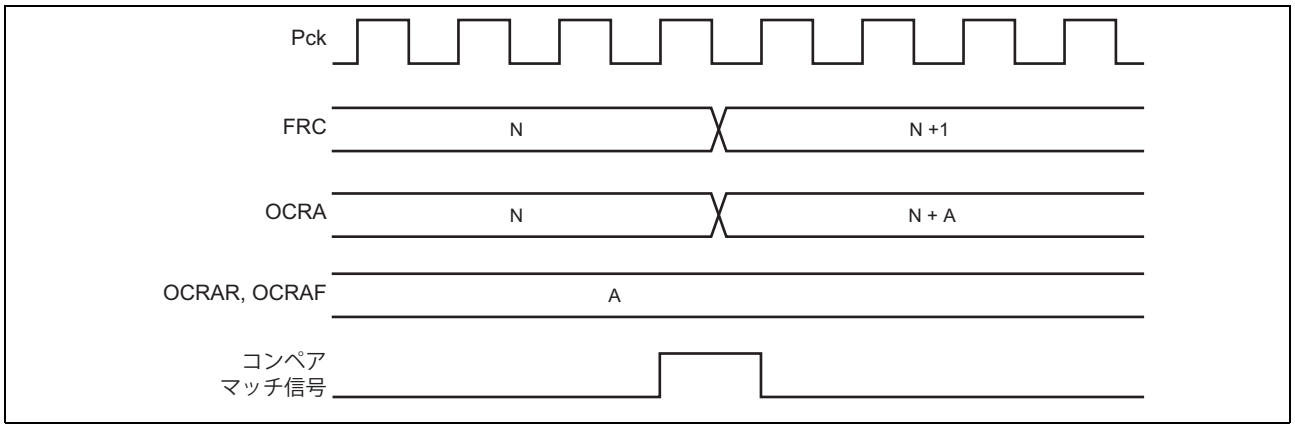


図 20.7　OCRA の自動加算タイミング

20.4　割り込み要因

FRT の割り込み要因はOCIA、OCIB 、及びFOVI の3 つあります。各割り込み要因はTIER の各割り込みイネーブルビットで許可又は禁止され、割り込みコントローラに送られます。表20.2 に各割り込み要因を示します。

表20.2　FRT 割り込み要因

名 称	割り込み要因	割り込みフラグ
OCIA	OCRAのコンペアマッチ	OCFA
OCIB	OCRBのコンペアマッチ	OCFB
FOVI	FRC のオーバフロー	OVF

FRT の割り込みは、割り込みコントローラにて1 要因（FRTI）に束ねられます。3 つのうちどの割り込み要因が発生したかについては、TCSR を読み出すことによって確認可能です。

20.5　使用上の注意事項

20.5.1　FRC のライトとクリアの競合

FRC のライトサイクルの次のステートでカウンタクリア信号が発生すると、FRC へのライトは行われず、FRCのクリアが優先されます。このタイミングを図20.8 に示します。

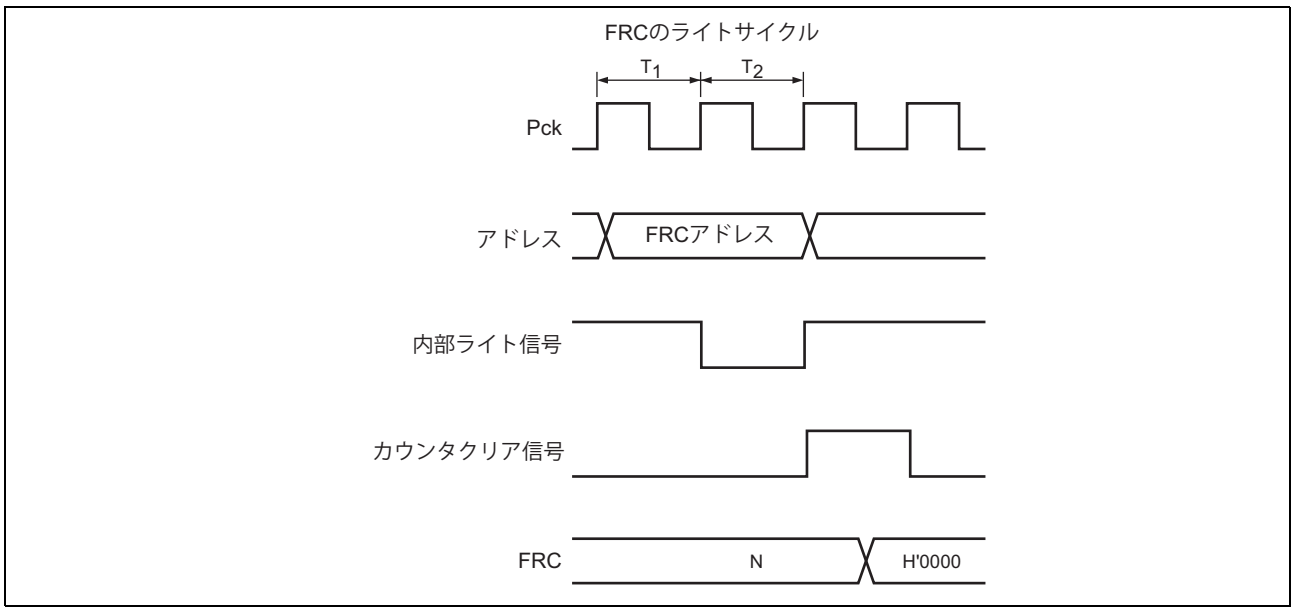


図 20.8　FRC のライトとクリアの競合

20.5.2　FRC のライトとカウントアップの競合

FRC のライトサイクルの次のステートでカウントアップが発生しても、カウントアップされず、カウンタライトが優先されます。このタイミングを図20.9 に示します。

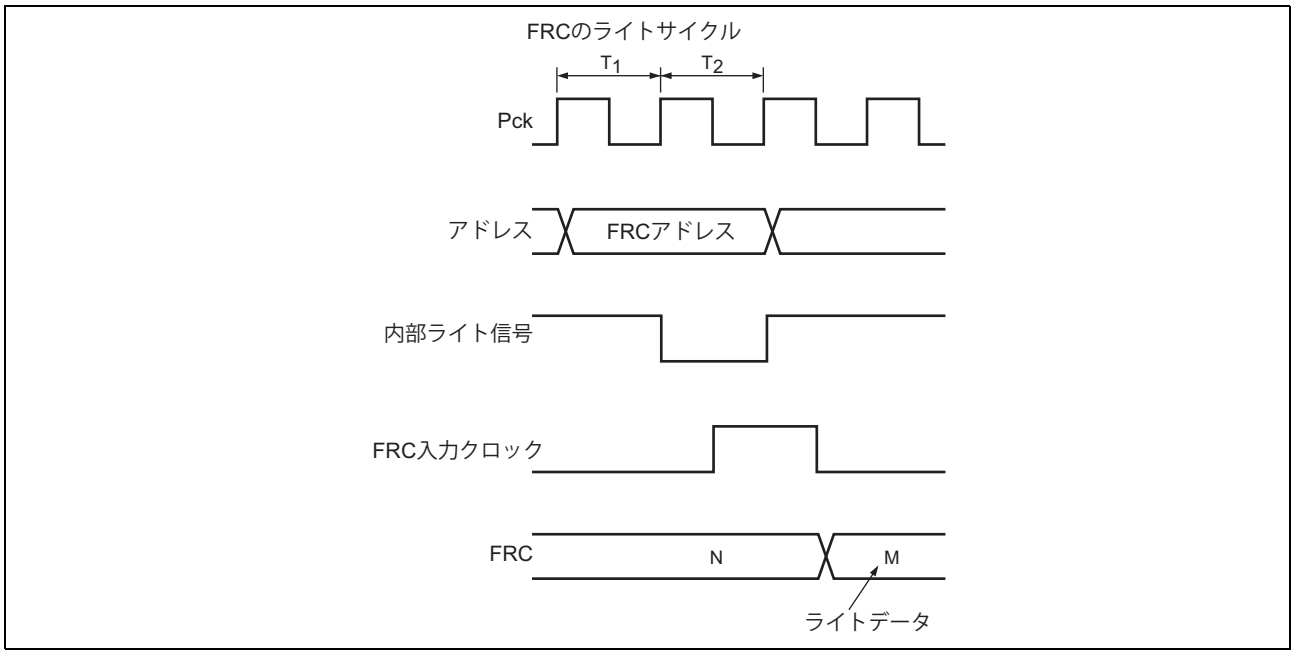


図 20.9　FRC のライトとカウントアップの競合

20.5.3　OCR のライトとコンペアマッチの競合

OCRA、OCRB のライトサイクルの次のステートでコンペアマッチが発生した場合、OCR のライトが優先され、コンペアマッチ信号は禁止されます。このタイミングを図20.10 に示します。

OCRA の自動加算機能を選択しているとき、OCRA、OCRAR、OCRAF ライトサイクルの次のステートでコンペアマッチが発生した場合、OCRA、OCRAR、OCRAF のライトが優先され、コンペアマッチ信号が禁止されるため、自動加算結果のライトは行われません。このタイミングを図20.11 に示します。

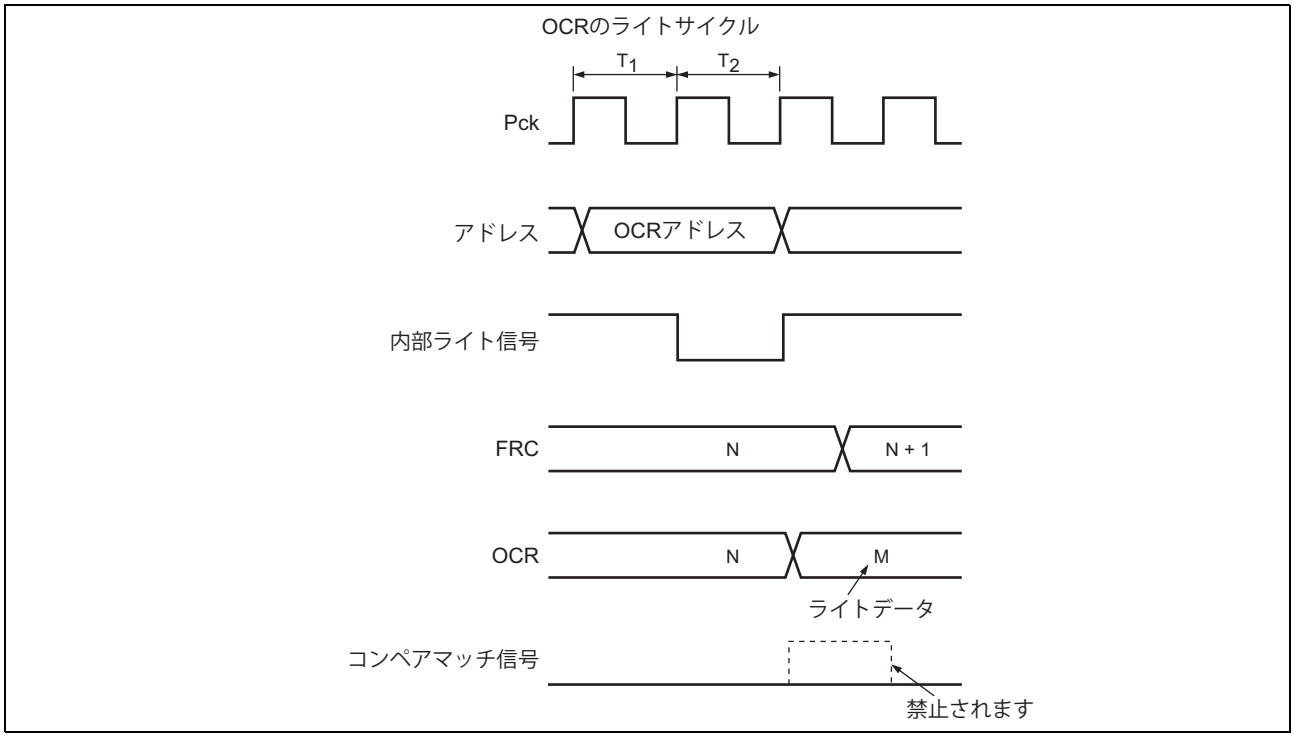


図 20.10　OCR のライトとコンペアマッチの競合（自動加算機能を使用していない場合）

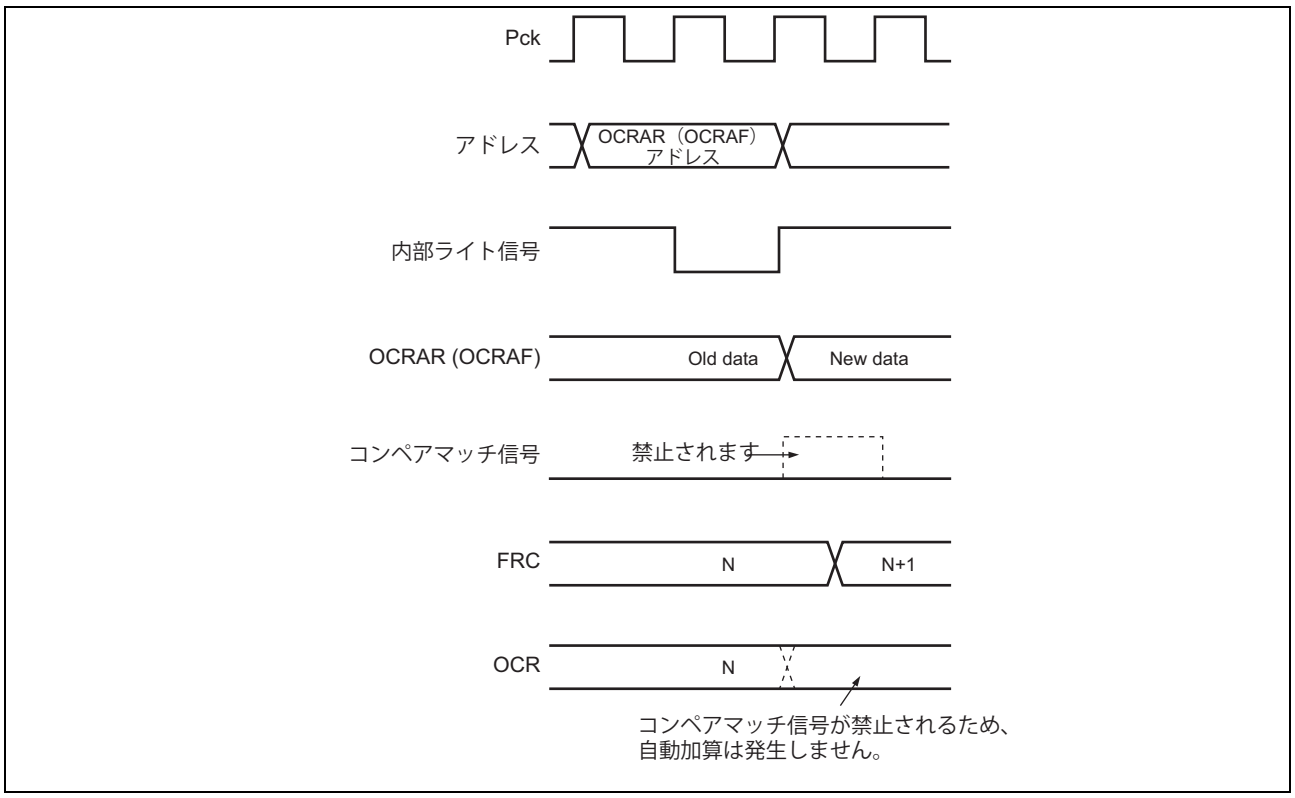
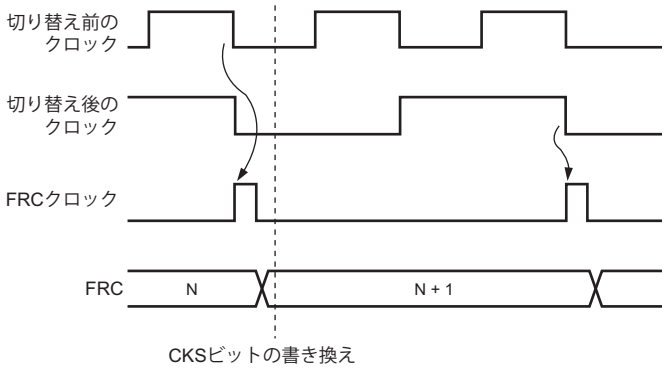
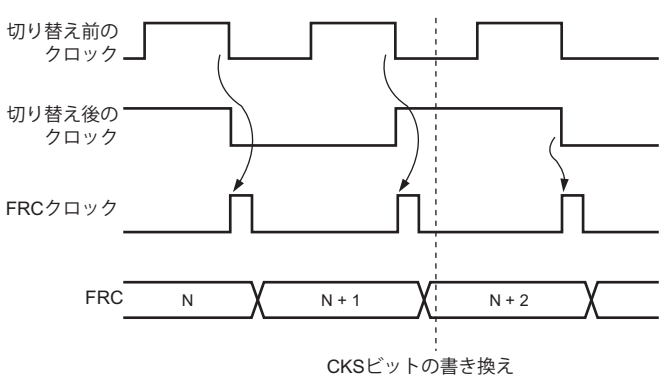
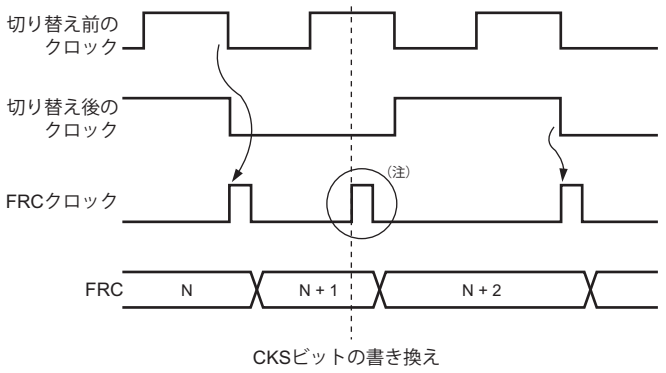


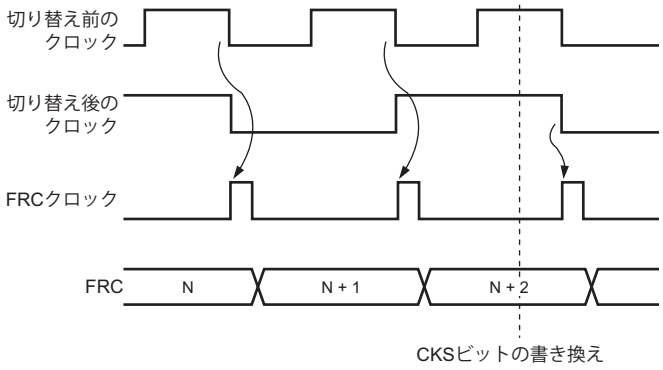
図 20.11　OCRAR/OCRAF ライトとコンペアマッチの競合（自動加算機能を使用している場合）

20.5.4　内部クロックの切り替えとカウンタの動作

内部クロックを切り替えるタイミングによっては、FRC がカウントアップされてしまう場合があります。内部クロックの切り替えタイミング（CKS1、CKS0 ビットの書き換え）と FRC 動作の関係を表 20.3 に示します。内部クロックを使用する場合、周辺クロック (Pck) を分周した内部クロックの立ち下がりエッジを検出して FRC クロックを生成しています。そのため、表 20.3 の No.3 のように切り替え前のクロック H→切り替え後のクロック L レベルになるような切り替えを行うと、切り替えタイミングを立ち下がりエッジとみなして FRC クロックが発生し、FRC がカウントアップされてしまいます。

表 20.3　内部クロックの切り替えと FRC 動作

No.	TCKS1、CKS0 ビット 書き換えタイミング	FRC 動作
1	L → L レベルの切り替え	
2	L → H レベルの切り替え	
3	H → L レベルの切り替え	

No.	TCKS1、CKS0ビット 書き換えタイミング	FRC動作
4	H → Hレベルの切り替え	

注.　切り替えのタイミングを立ち下がりエッジとみなすために発生し、FRCはカウントアップされます。

21. 8-Bit Timers （TMR）

本LSIは、8ビットのカウンタをベースにした2チャネルの8ビットタイマを3ユニット（ユニット0、ユニット1、ユニット2）、合計6チャネル内蔵しています。2本のレジスタとのコンペアマッチ信号により、カウンタのリセット、割り込み要求など、多機能タイマとして種々の応用が可能です。

図21.1、図21.2、図21.3にユニット0、ユニット1、ユニット2のブロック図を示します。

本文中では、ユニット0（チャネル0、チャネル1）について説明しています。他のユニットも同一機能です。

21.1 特長

- 6種類のクロックを選択可能
  6種類の周辺クロック（Pck/2、Pck/8、Pck/32、Pck/64、Pck/1024、Pck/8192）のうちから選択できます。
- カウンタのクリア指定が可能
  コンペアマッチA、コンペアマッチBのうちから選択できます。
- 2チャネルのカスケード接続が可能（TMR_0、TMR_1）
  TMR_0を上位、TMR_1を下位とする16ビットタイマとして動作可能です（16ビットカウントモード）。
  TMR_1はTMR_0のコンペアマッチをカウント可能です（コンペアマッチカウントモード）。
- 3種類の割り込み要因
  コンペアマッチA、コンペアマッチB、オーバフローの3種類の割込み要因があり、それぞれ独立に要求することができます。
- A/D変換器の変換スタートトリガを生成可能
- DMA転送のスタートトリガを生成可能

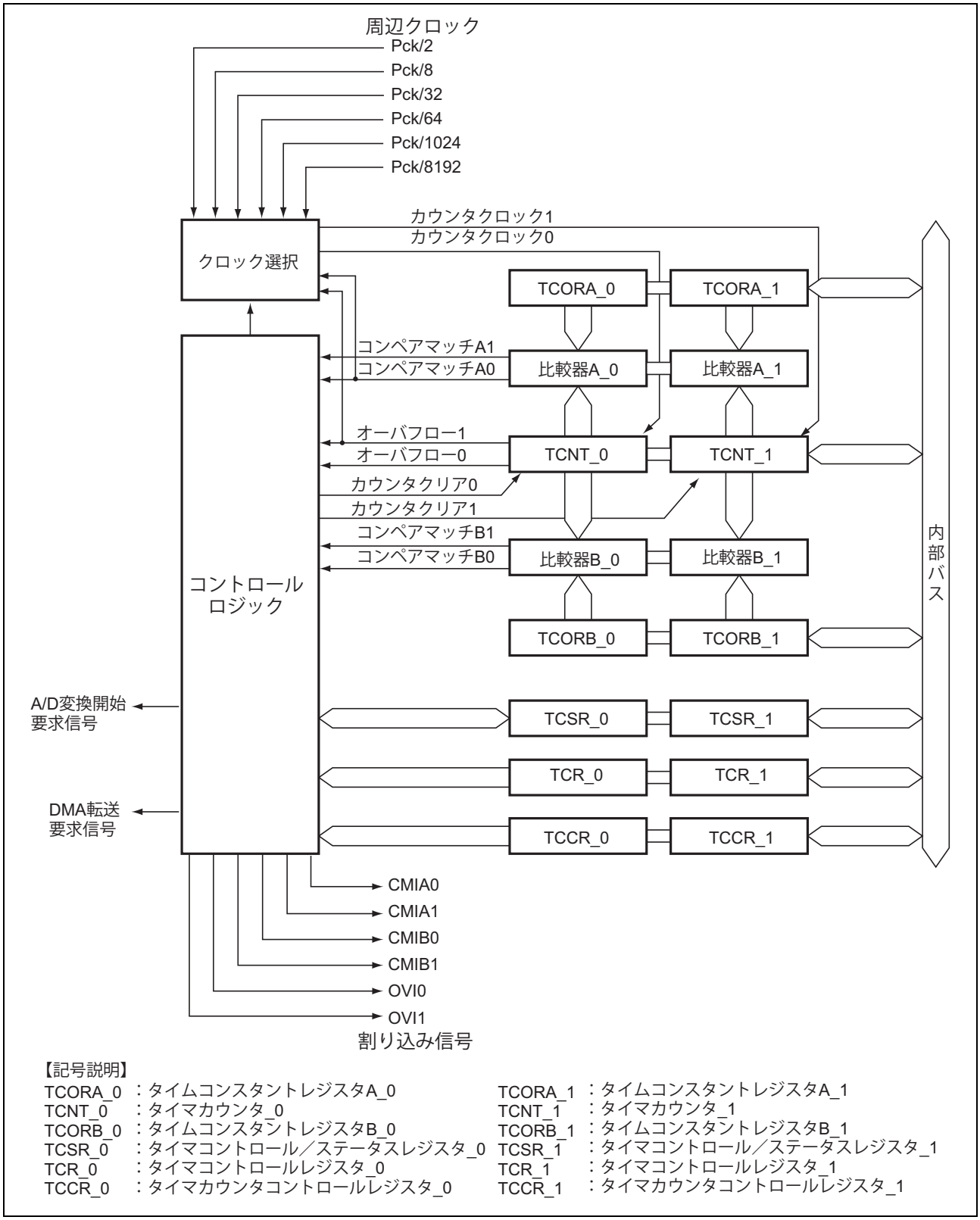


図 21.1　8 ビットタイマ（ユニット0）のブロック図

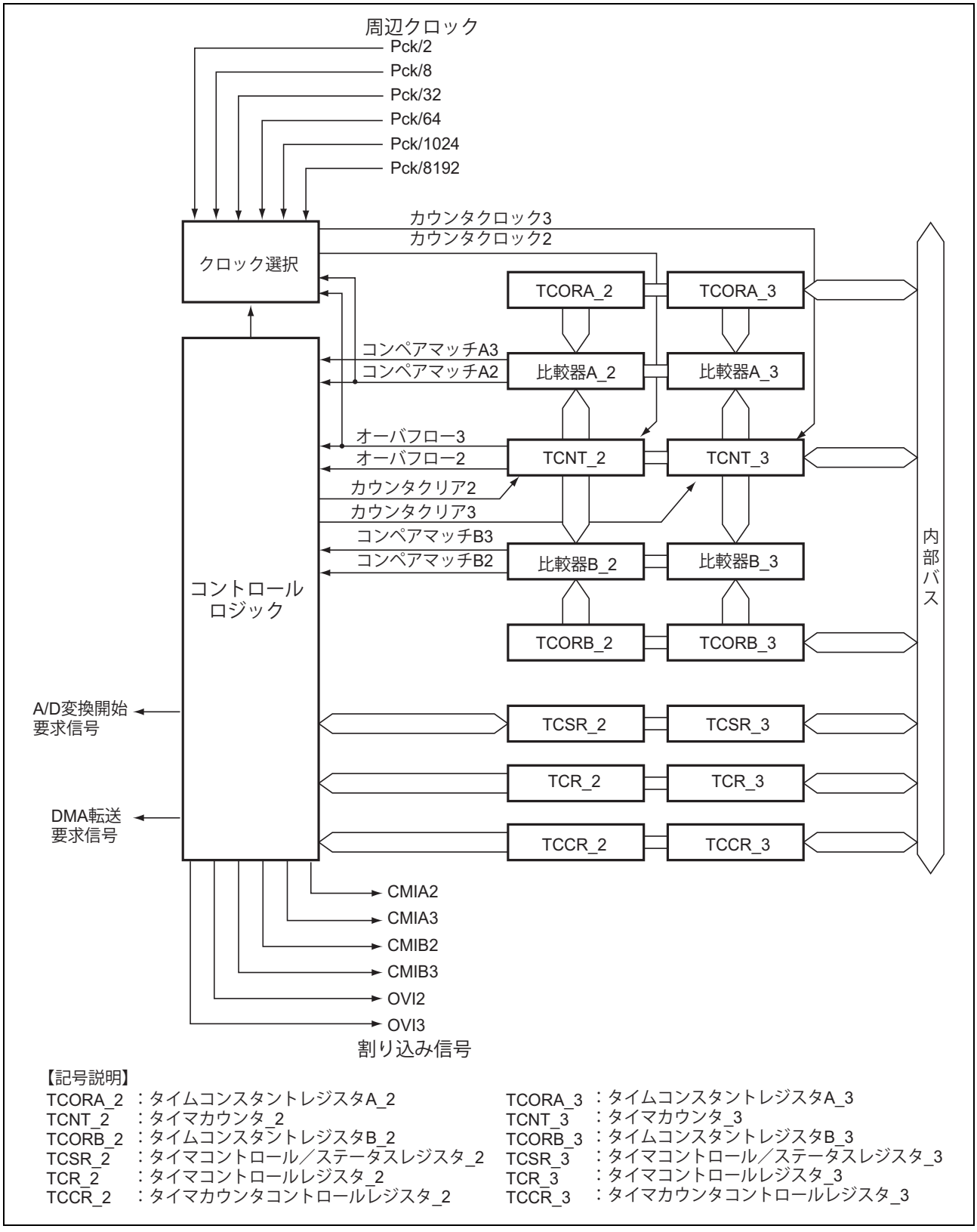


図 21.2　8 ビットタイマ（ユニット1）のブロック図

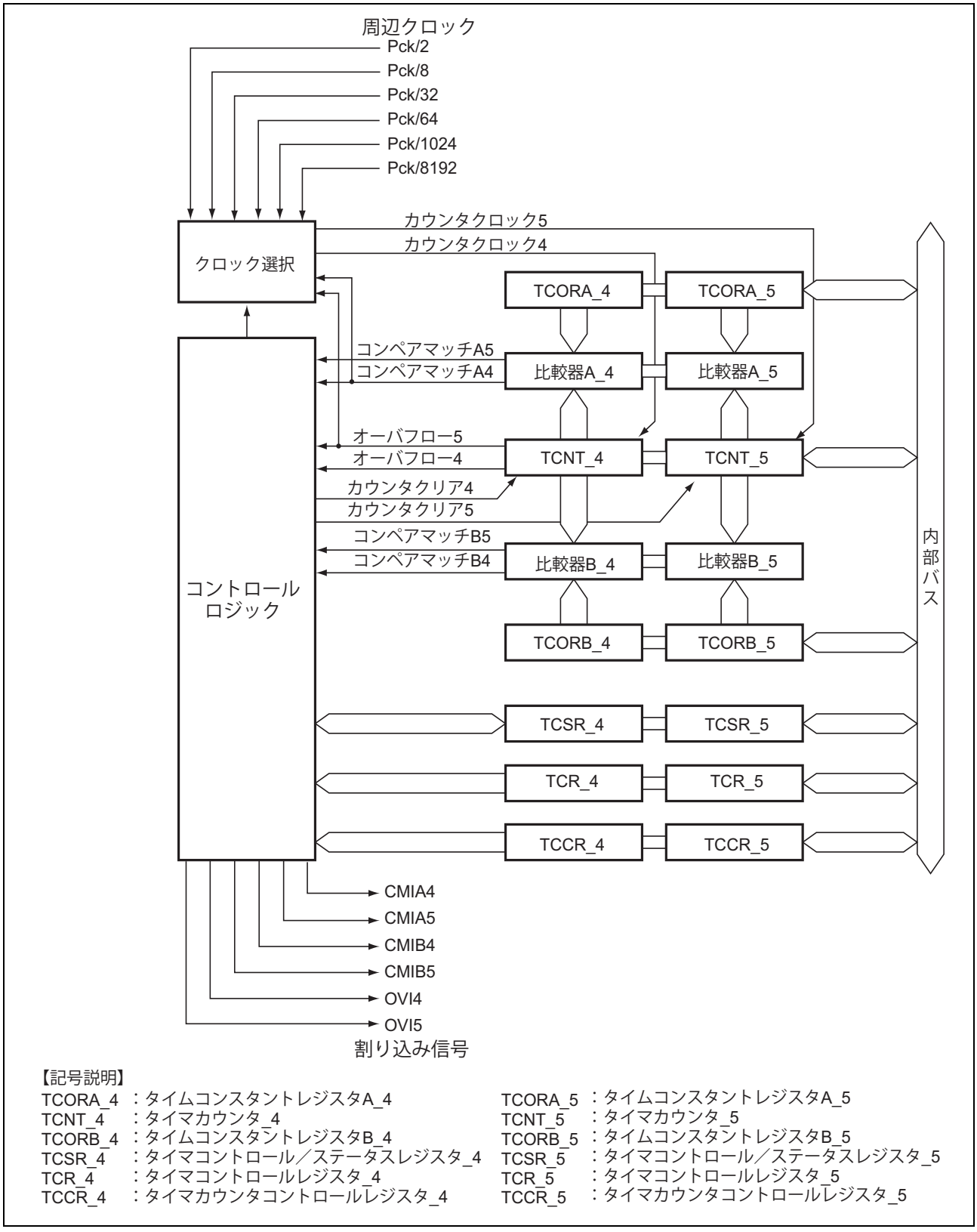


図 21.3　8 ビットタイマ（ユニット2）のブロック図

21.2 レジスタの説明

TMRのレジスタ構成、及び各処理モードにおけるレジスタの状態を表21.1に示します。

指定されたビット幅でレジスタにアクセスしてください。指定されたビット幅以外のサイズでレジスタにアクセスした場合、動作は保証できません。

表21.1 レジスタ構成

ユニット	チャネル	名 称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
							パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウェアリセット
0	0	タイマカウンタ_0	TCNT_0	R/W	H'FFE0 0008	8、16	H'00	H'00	H'00
		タイムコンスタントレジスタ A_0	TCORA_0	R/W	H'FFE0 0004	8、16	H'FF	H'FF	H'FF
		タイムコンスタントレジスタ B_0	TCORB_0	R/W	H'FFE0 0006	8、16	H'FF	H'FF	H'FF
		タイマコントロールレジスタ_0	TCR_0	R/W	H'FFE0 0000	8	H'00	H'00	H'00
		タイマカウンタコントロールレジスタ_0	TCCR_0	R/W	H'FFE0 000A	8	H'00	H'00	H'00
		タイマコントロール／ステータスレジスタ_0	TCSR_0	R/W	H'FFE0 0002	8	H'00	H'00	H'00
	1	タイマカウンタ_1	TCNT_1	R/W	H'FFE0 0009	8	H'00	H'00	H'00
		タイムコンスタントレジスタ A_1	TCORA_1	R/W	H'FFE0 0005	8	H'FF	H'FF	H'FF
		タイムコンスタントレジスタ B_1	TCORB_1	R/W	H'FFE0 0007	8	H'FF	H'FF	H'FF
		タイマコントロールレジスタ_1	TCR_1	R/W	H'FFE0 0001	8	H'00	H'00	H'00
		タイマカウンタコントロールレジスタ_1	TCCR_1	R/W	H'FFE0 000B	8	H'00	H'00	H'00
		タイマコントロール／ステータスレジスタ_1	TCSR_1	R/W	H'FFE0 0003	8	H'10	H'10	H'10
1	2	タイマカウンタ_2	TCNT_2	R/W	H'FFE1 0038	8、16	H'00	H'00	H'00
		タイムコンスタントレジスタ A_2	TCORA_2	R/W	H'FFE1 0034	8、16	H'FF	H'FF	H'FF
		タイムコンスタントレジスタ B_2	TCORB_2	R/W	H'FFE1 0036	8、16	H'FF	H'FF	H'FF
		タイマコントロールレジスタ_2	TCR_2	R/W	H'FFE1 0030	8	H'00	H'00	H'00
		タイマカウンタコントロールレジスタ_2	TCCR_2	R/W	H'FFE1 003A	8	H'00	H'00	H'00
		タイマコントロール／ステータスレジスタ_2	TCSR_2	R/W	H'FFE1 0032	8	H'00	H'00	H'00

ユニット	チャネル	名 称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
							パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウェアリセット
1	3	タイマカウンタ_3	TCNT_3	R/W	H'FFE1 0039	8	H'00	H'00	H'00
		タイムコンスタントレジスタ A_3	TCORA_3	R/W	H'FFE1 0035	8	H'FF	H'FF	H'FF
		タイムコンスタントレジスタ B_3	TCORB_3	R/W	H'FFE1 0037	8	H'FF	H'FF	H'FF
		タイマコントロールレジスタ_3	TCR_3	R/W	H'FFE1 0031	8	H'00	H'00	H'00
		タイマカウンタコントロールレジスタ_3	TCCR_3	R/W	H'FFE1 003B	8	H'00	H'00	H'00
		タイマコントロール／ステータスレジスタ_3	TCSR_3	R/W	H'FFE1 0033	8	H'10	H'10	H'10
2	4	タイマカウンタ_4	TCNT_4	R/W	H'FFE2 0048	8、16	H'00	H'00	H'00
		タイムコンスタントレジスタ A_4	TCORA_4	R/W	H'FFE2 0044	8、16	H'FF	H'FF	H'FF
		タイムコンスタントレジスタ B_4	TCORB_4	R/W	H'FFE2 0046	8、16	H'FF	H'FF	H'FF
		タイマコントロールレジスタ_4	TCR_4	R/W	H'FFE2 0040	8	H'00	H'00	H'00
		タイマカウンタコントロールレジスタ_4	TCCR_4	R/W	H'FFE2 004A	8	H'00	H'00	H'00
		タイマコントロール／ステータスレジスタ_4	TCSR_4	R/W	H'FFE2 0042	8	H'00	H'00	H'00
	5	タイマカウンタ_5	TCNT_5	R/W	H'FFE2 0049	8	H'00	H'00	H'00
		タイムコンスタントレジスタ A_5	TCORA_5	R/W	H'FFE2 0045	8	H'FF	H'FF	H'FF
		タイムコンスタントレジスタ B_5	TCORB_5	R/W	H'FFE2 0047	8	H'FF	H'FF	H'FF
		タイマコントロールレジスタ_5	TCR_5	R/W	H'FFE2 0041	8	H'00	H'00	H'00
		タイマカウンタコントロールレジスタ_5	TCCR_5	R/W	H'FFE2 004B	8	H'00	H'00	H'00
		タイマコントロール／ステータスレジスタ_5	TCSR_5	R/W	H'FFE2 0043	8	H'10	H'10	H'10

21.2.1　タイマカウンタ（TCNT）

TCNT は8 ビットのリード／ライト可能なアップカウンタです。TCNT_0、TCNT_1 を16 ビットレジスタとしてワードアクセスすることも可能です。クロックは、TCR のCKS2～CKS0 ビット、及びTCCR のICKS1、ICKS0 ビットにより選択します。TCNT は、コンペアマッチA 信号、コンペアマッチB 信号によりクリアすることができます。いずれの信号でクリアするかは、TCR のCCLR1、CCLR0 ビットにより選択します。また、TCNT がオーバフロー（H'FF→H'00）すると、TCSR のOVF が1 にセットされます。TCNT の初期値はH'00 です。

	TCNT_0								TCNT_1							
ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0	7	6	5	4	3	2	1	0
ビット名：																
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

21.2.2　タイムコンスタントレジスタA（TCORA）

TCORA は8 ビットのリード／ライト可能なレジスタです。TCORA_0、TCORA_1 を16 ビットレジスタとしてワードアクセスすることも可能です。TCORA の値はTCNT と常に比較され、一致するとTCSR のCMFA が1 にセットされます。ただし、TCORA へのライトサイクルのT2 ステートでの比較は禁止されています。TCORA の初期値はH'FF です。

	TCORA_0								TCORA_1							
ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0	7	6	5	4	3	2	1	0
ビット名：																
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

21.2.3　タイムコンスタントレジスタB（TCORB）

TCORB は8 ビットのリード／ライト可能なレジスタです。TCORB_0、TCORB_1 を16 ビットレジスタとしてワードアクセスすることも可能です。TCORB の値はTCNT と常に比較され、一致するとTCSR のCMFB が1 にセットされます。ただし、TCORB へのライトサイクルのT2 ステートでの比較は禁止されています。TCORB の初期値はH'FF です。

	TCORB_0								TCORB_1							
ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0	7	6	5	4	3	2	1	0
ビット名：																
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

21.2.4　タイマコントロールレジスタ（TCR）

TCR はTCNT の入力クロックの選択、TCNT のクリア条件指定、各割り込み要求の制御を行います。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	CMIEB	CMIEA	OVIE	CCLR1	CCLR0	CKS2	CKS1	CKS0
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	CMIEB	0	R/W	コンペアマッチインタラプトイネーブルB TCSR のCMFB が1 にセットされたとき、CMFB による割り込み要求（CMIB）の許可又は禁止を選択します。 0：CMFB による割り込み要求（CMIB）を禁止 1：CMFB による割り込み要求（CMIB）を許可
6	CMIEA	0	R/W	コンペアマッチインタラプトイネーブルA TCSR のCMFA が1 にセットされたとき、CMFA による割り込み要求（CMIA）の許可又は禁止を選択します。 0：CMFA による割り込み要求（CMIA）を禁止 1：CMFA による割り込み要求（CMIA）を許可
5	OVIE	0	R/W	タイマオーバフローインタラプトイネーブル TCSR のOVF が1 にセットされたとき、OVF による割り込み要求（OVI）の許可又は禁止を選択します。 0：OVF による割り込み要求（OVI）を禁止 1：OVF による割り込み要求（OVI）を許可
4 3	CCLR1 CCLR0	0 0	R/W R/W	カウンタクリア1、0 TCNT のクリア条件を指定します。 00：クリアを禁止 01：コンペアマッチA によりクリア 10：コンペアマッチB によりクリア 11：設定禁止
2 1 0	CKS2 CKS1 CKS0	0 0 0	R/W R/W R/W	クロックセレクト2～0 TCNT に入力するクロックとカウント条件を選択します。表21.2 を参照してください。

21.2.5 タイマカウンタコントロールレジスタ（TCCR）

TCCR はTCNT の内部クロックの選択の制御を行います。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	ICKS1	ICKS0
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～ 2	—	0	—	リザーブビット （書き込む値は“0”にしてください）
1 0	ICKS1 ICKS0	0 0	R/W R/W	インターナルクロックセレクト1、0 ICKS1、0 は、TCR のCKS2～0 ビットとともに、内部クロックを選択します。表21.2 を参照してください。

表21.2　TCNT に入力するクロックとカウント条件

チャネル	TCR			TCCR		説 明
	ビット2 CKS2	ビット1 CKS1	ビット0 CKS0	ビット1 ICKS1	ビット0 ICKS0	
TMR_0	0	0	0	—	—	クロック入力を禁止
	0	0	1	0	0	内部クロック：Pck/8 立ち上がりエッジでカウント
				0	1	内部クロック：Pck/2 立ち上がりエッジでカウント
				1	0	内部クロック：Pck/8 立ち下がりエッジでカウント
				1	1	内部クロック：Pck/2 立ち下がりエッジでカウント
	0	1	0	0	0	内部クロック：Pck/64立ち上がりエッジでカウント
				0	1	内部クロック：Pck/32 立ち上がりエッジでカウント
				1	0	内部クロック：Pck/64立ち下がりエッジでカウント
				1	1	内部クロック：Pck/32 立ち下がりエッジでカウント
	0	1	1	0	0	内部クロック：Pck/8192 立ち上がりエッジでカウント
				0	1	内部クロック：Pck/1024 立ち上がりエッジでカウント
				1	0	内部クロック：Pck/8192 立ち下がりエッジでカウント
				1	1	内部クロック：Pck/1024 立ち下がりエッジでカウント
	1	0	0	—	—	TCNT_1 のオーバフロー信号でカウント（注）
TMR_1	0	0	0	—	—	クロック入力を禁止
	0	0	1	0	0	内部クロック：Pck/8 立ち上がりエッジでカウント
				0	1	内部クロック：Pck/2 立ち上がりエッジでカウント
				1	0	内部クロック：Pck/8 立ち下がりエッジでカウント
				1	1	内部クロック：Pck/2 立ち下がりエッジでカウント
	0	1	0	0	0	内部クロック：Pck/64 立ち上がりエッジでカウント
				0	1	内部クロック：Pck/32 立ち上がりエッジでカウント
				1	0	内部クロック：Pck/64 立ち下がりエッジでカウント
				1	1	内部クロック：Pck/32 立ち下がりエッジでカウント
	0	1	1	0	0	内部クロック：Pck/8192 立ち上がりエッジでカウント
				0	1	内部クロック：Pck/1024 立ち上がりエッジでカウント
				1	0	内部クロック：Pck/8192 立ち下がりエッジでカウント
				1	1	内部クロック：Pck/1024 立ち下がりエッジでカウント
	1	0	0	—	—	TCNT_0 のコンペアマッチA でカウント（注）
All	1	0	1	—	—	設定禁止
	1	1	0	—	—	設定禁止
	1	1	1	—	—	設定禁止

注.　TMR_0 のクロック入力をTCNT_1 のオーバフロー信号とし、TMR_1 のクロック入力をTCNT_0 のコンペアマッチ信号とするとカウントアップクロックが発生しません。この設定は行わないでください。

21.2.6　タイマコントロール／ステータスレジスタ（TCSR）

TCSR はステータスフラグの表示、及びA/D 変換開始要求の制御を行います。

• TCSR_0

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	CMFB	CMFA	OVF	ADTE	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W	—	—	—	—

• TCSR_1

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	CMFB	CMFA	OVF	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	1	0	0	0	0
R/W：	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	—	—	—	—	—

• TCSR_0

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	CMFB	0	R/W（注）	コンペアマッチフラグB ［セット条件］ TCNT の値とTCORB の値が一致したとき ［クリア条件］ CMFB＝1 の状態でCMFB をリードした後、CMFB に0 をライトしたとき
6	CMFA	0	R/W（注）	コンペアマッチフラグA ［セット条件］ TCNT の値とTCORA の値が一致したとき ［クリア条件］ CMFA＝1 の状態でCMFA をリードした後、CMFA に0 をライトしたとき
5	OVF	0	R/W（注）	タイマオーバフローフラグ ［セット条件］ TCNT の値がH'FF からH'00 にオーバフローしたとき ［クリア条件］ OVF＝1 の状態でOVF をリードした後、OVF に0 をライトしたとき
4	ADTE	0	R/W	A/D トリガ、DMA トリガイネーブル コンペアマッチAによるA/D変換、及びDMA転送の開始要求の許可又は禁止を選択します。 0: コンペアマッチAによるA/D変換、及びDMA転送の開始要求を禁止 1: コンペアマッチAによるA/D変換、及びDMA転送の開始要求を許可
3 ～ 0	—	0	—	リザーブビット （書き込む値は“0”にしてください）

注.　“1”を書いても変化しません。

• TCSR_1

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	CMFB	0	R/W（注）	コンペアマッチフラグB ［セット条件］ TCNT の値とTCORB の値が一致したとき ［クリア条件］ CMFB＝1 の状態でCMFB をリードした後、CMFB に0 をライトしたとき
6	CMFA	0	R/W（注）	コンペアマッチフラグA ［セット条件］ TCNT の値とTCORA の値が一致したとき ［クリア条件］ CMFA＝1 の状態でCMFA をリードした後、CMFA に0 をライトしたとき
5	OVF	0	R/W（注）	タイマオーバフローフラグ ［セット条件］ TCNT の値がH'FF からH'00 にオーバフローしたとき ［クリア条件］ OVF＝1 の状態でOVF をリードした後、OVF に0 をライトしたとき
4	—	1	—	リザーブビット （書き込む値は“1”にしてください）
3 ～ 0	—	0	—	リザーブビット （書き込む値は“0”にしてください）

注. “1”を書いても変化しません。

21.3 動作タイミング

21.3.1 TCNT のカウントタイミング

内部クロック動作の場合のTCNT のカウントタイミングを図21.4 に示します。

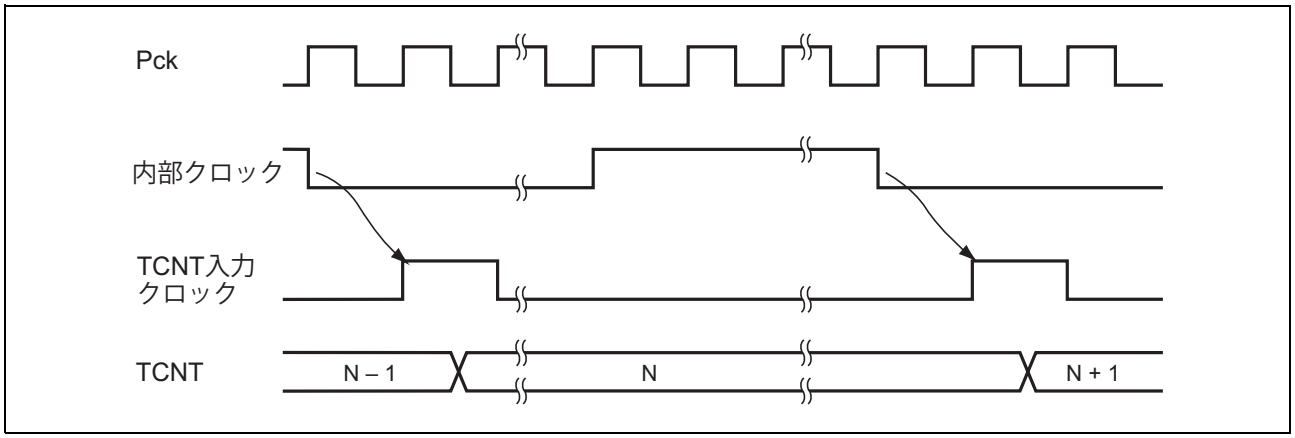


図 21.4 内部クロック立ち下がりエッジ動作時のカウントタイミング

21.3.2 コンペアマッチ時のCMFA、CMFB フラグのセットタイミング

TCSR の CMFA、CMFB フラグは、TCOR と TCNT の値が一致したとき出力されるコンペアマッチ信号により 1 にセットされます。コンペアマッチ信号は、一致した最後のステート（TCNT が一致したカウント値を更新するタイミング）で発生します。したがって、TCNT と TCOR の値が一致した後、TCNT 入力クロックが発生するまでコンペアマッチ信号は発生しません。CMF フラグのセットタイミングを図 21.5 に示します。

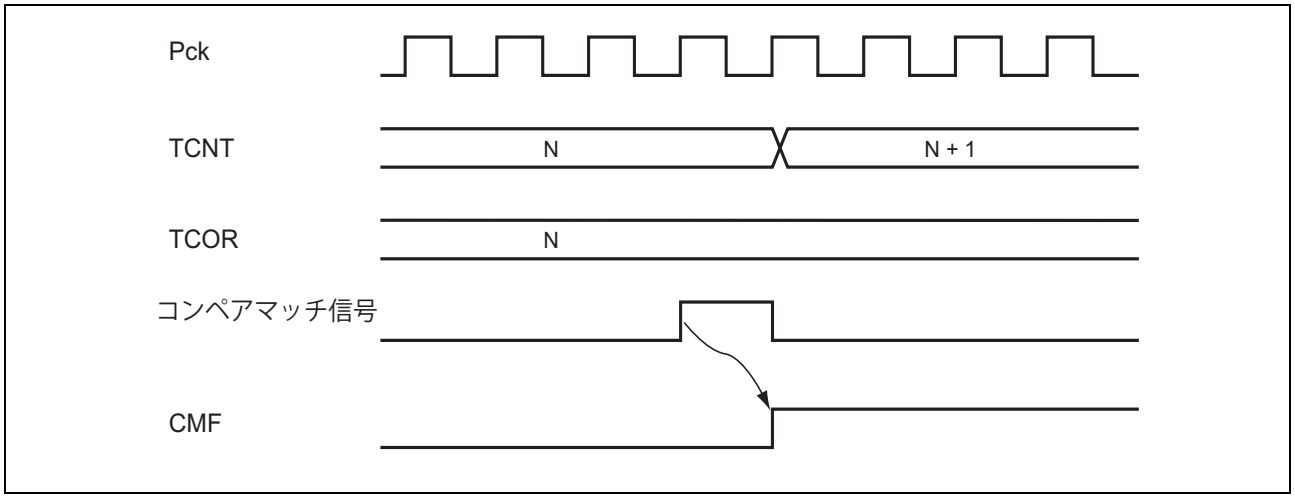


図 21.5 コンペアマッチ時のCMF フラグのセットタイミング

21.3.3 コンペアマッチによるカウンタクリアタイミング

TCNT は、TCR のCCLR1、CCLR0 ビットの選択によりコンペアマッチA 又はコンペアマッチB でクリアされます。コンペアマッチによるカウンタクリアタイミングを図21.6 に示します。

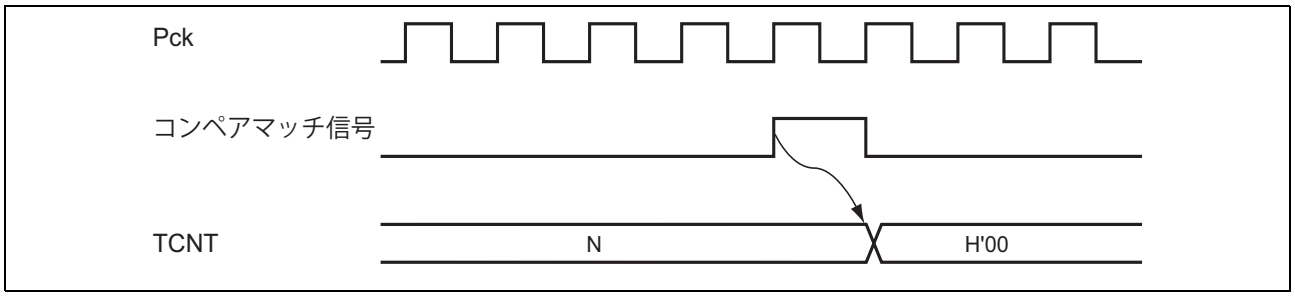


図 21.6 コンペアマッチによるカウンタクリアタイミング

21.3.4 オーバフローフラグ（OVF）のセットタイミング

TCSR のOVF は、TCNT がオーバフロー（H'FF→H'00）したとき出力されるオーバフロー信号により1 にセットされます。OVF フラグのセットタイミングを図21.7 に示します。

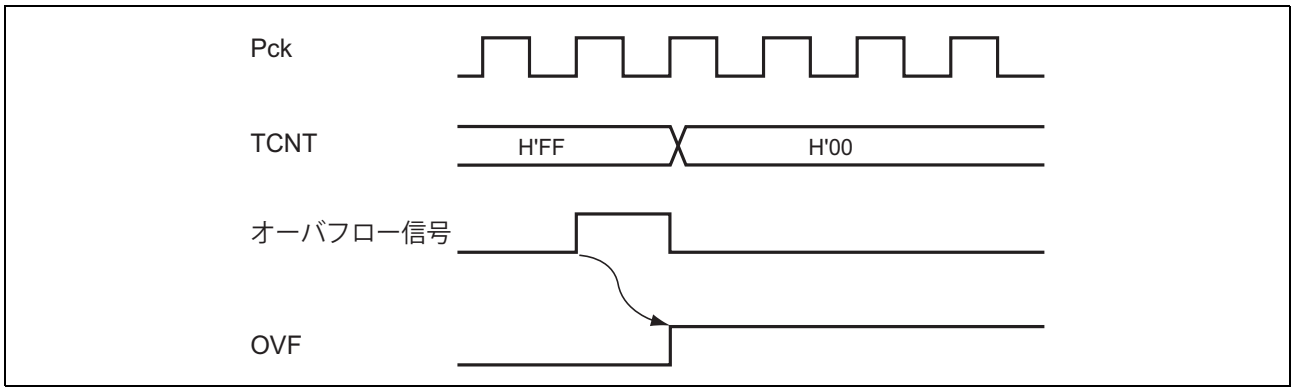


図 21.7 OVF フラグのセットタイミング

21.4 カスケード接続時の動作

TCR_0、TCR_1 のいずれか一方のCKS2～CKS0 ビットをB'100 に設定すると、2 チャネルの8 ビットタイマはカスケード接続されます。この場合、1 本の 16 ビットタイマとして使用する 16 ビットカウントモードか、又はチャネル 0 の 8 ビットタイマのコンペアマッチをチャネル 1 のタイマでカウントするコンペアマッチカウントモードにすることができます。

21.4.1 16ビットカウントモード

TCR_0 のCKS2～CKS0 ビットがB'100 のとき、タイマはチャネル0 を上位8 ビット、チャネル1 を下位8 ビットとする1 チャネルの16 ビットタイマとして動作します。

(1) コンペアマッチフラグのセット

- TCSR_0のCMFフラグは、16ビットのコンペアマッチが発生したとき1にセットされます。
- TCSR_1のCMFフラグは、下位8ビットのコンペアマッチが発生したとき1にセットされます。

(2) カウンタクリア指定

- TCR_0のCCLR1、CCLR0ビットでコンペアマッチによるカウンタクリアを設定した場合、16ビットのコンペアマッチが発生したとき16ビットカウンタ（TCNT_0、TCNT_1の両方）がクリアされます。
- TCR_1のCCLR1、CCLR0ビットの設定は無効になります。下位8ビットのみのカウンタクリアはできません。

21.4.2 コンペアマッチカウントモード

TCR_1 のCKS2～CKS0 ビットがB'100 のとき、TCNT_1 はチャネル0 のコンペアマッチA をカウントします。チャネル 0、1 の制御はそれぞれ独立に行われます。CMF フラグのセット、割り込みの発生、カウンタクリアなどは各チャネルの設定に従います。

21.5 割り込み要因

21.5.1 割り込み要因

8 ビットタイマTMR_0、TMR_1 の割り込み要因は、CMIA、CMIB、OVI の3 種類があります。表21.3 に各割り込み要因を示します。各割り込み要因は、TCR 又はTCSR の各割り込みイネーブルビットにより許可又は禁止が設定され、割り込みコントローラに送られます。

表21.3 8 ビットタイマTMR_0、TMR_1 の割り込み要因

名 称	割り込み要因	割り込みフラグ
CMIA0	TCORA_0 のコンペアマッチ	CMFA
CMIB0	TCORB_0 のコンペアマッチ	CMFB
OVI0	TCNT_0 のオーバフロー	OVF
CMIA1	TCORA_1 のコンペアマッチ	CMFA
CMIB1	TCORB_1 のコンペアマッチ	CMFB
OVI1	TCNT_1 のオーバフロー	OVF

TMR_0、TMR_1 の割り込みは、割り込みコントローラにて 1 要因（TMR01I）に束ねられます。6 つのうちどの割り込み要因が発生したかについては、TCSR_0、TCSR_1 を読み出すことによって確認可能です。

21.5.2 A/D 変換器の起動

TMR_0 のコンペアマッチA により A/D 変換器0 を、TMR_2 のコンペアマッチA により A/D 変換器1 を起動することができます。

TMR_0 のコンペアマッチA の発生により、TCSR_0 のCMFA フラグが1 にセットされたとき、ADTE ビットが1 にセットされていれば、A/D 変換器0 に対してA/D 変換の開始を要求します。この時A/D 変換器0 側で、8 ビットタイマの変換トリガが選択されていれば、A/D 変換が開始されます。TMR_2 とA/D 変換器1 の関係も同様です。

21.5.3 DMA転送器の起動

TMR_0のコンペアマッチA、及び TMR_2のコンペアマッチAにより DMA 転送器を起動することができます。転送の開始要求を許可する場合は、TCSR_n (n=0,2)の ADTE ビットを 1 にセットしてください。

21.6 使用上の注意

21.6.1 周期設定上の注意

コンペアマッチによるカウンタクリアを設定した場合、TCNT はTCOR の値と一致した最後のステート（TCNT が一致したカウント値を更新するタイミング）でクリアされます。このため、カウンタの周波数は次の式になります（f：カウンタ周波数、Pck：周辺クロック周波数、N：TCOR の設定値）。

$$f = Pck / (N + 1)$$

21.6.2 TCNT のライトとカウンタクリアの競合

図 21.8 のように TCNT のライトサイクル中の T2 ステートでカウンタクリアが発生すると、カウンタへのライトは行われずクリアが優先されます。

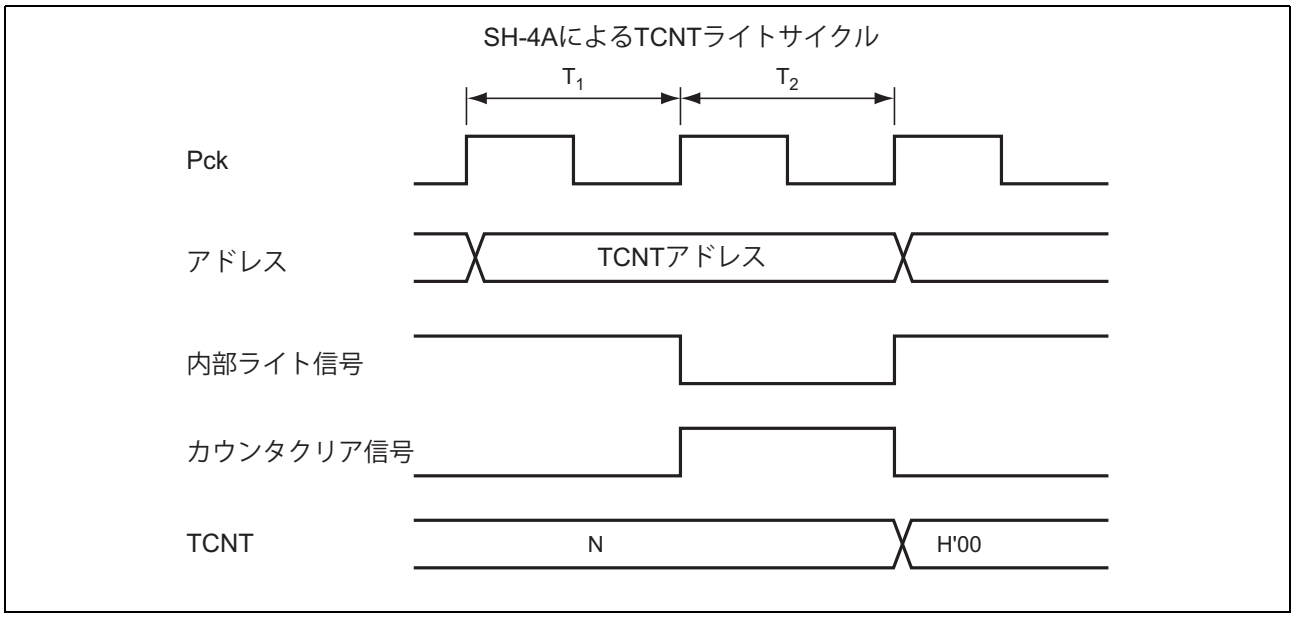


図 21.8 TCNT のライトとクリアの競合

21.6.3 TCNT のライトとカウントアップの競合

図 21.9 のように TCNT のライトサイクル中の T2 ステートでカウントアップが発生しても、カウントアップされずカウンタライトが優先されます。

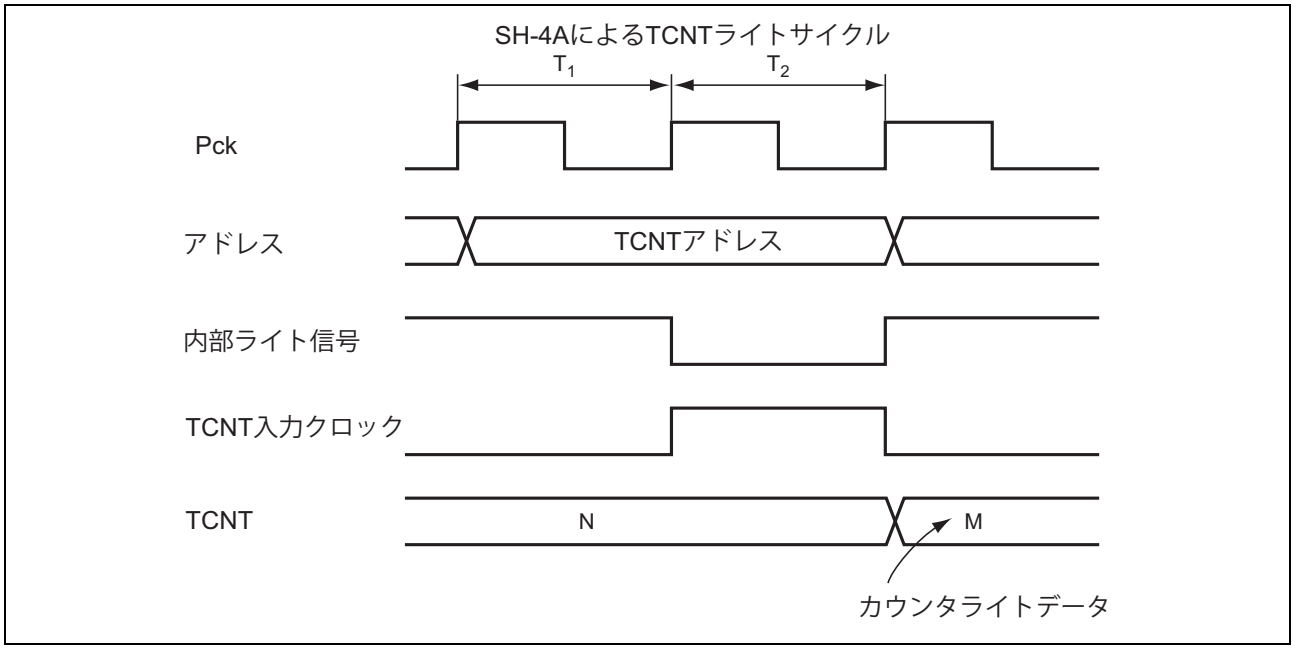


図 21.9　TCNT のライトとカウントアップの競合

21.6.4　TCOR のライトとコンペアマッチの競合

図21.10 のようにTCOR のライトサイクル中のT2 ステートでコンペアマッチが発生しても、TCOR のライトが優先されコンペアマッチ信号は禁止されます。

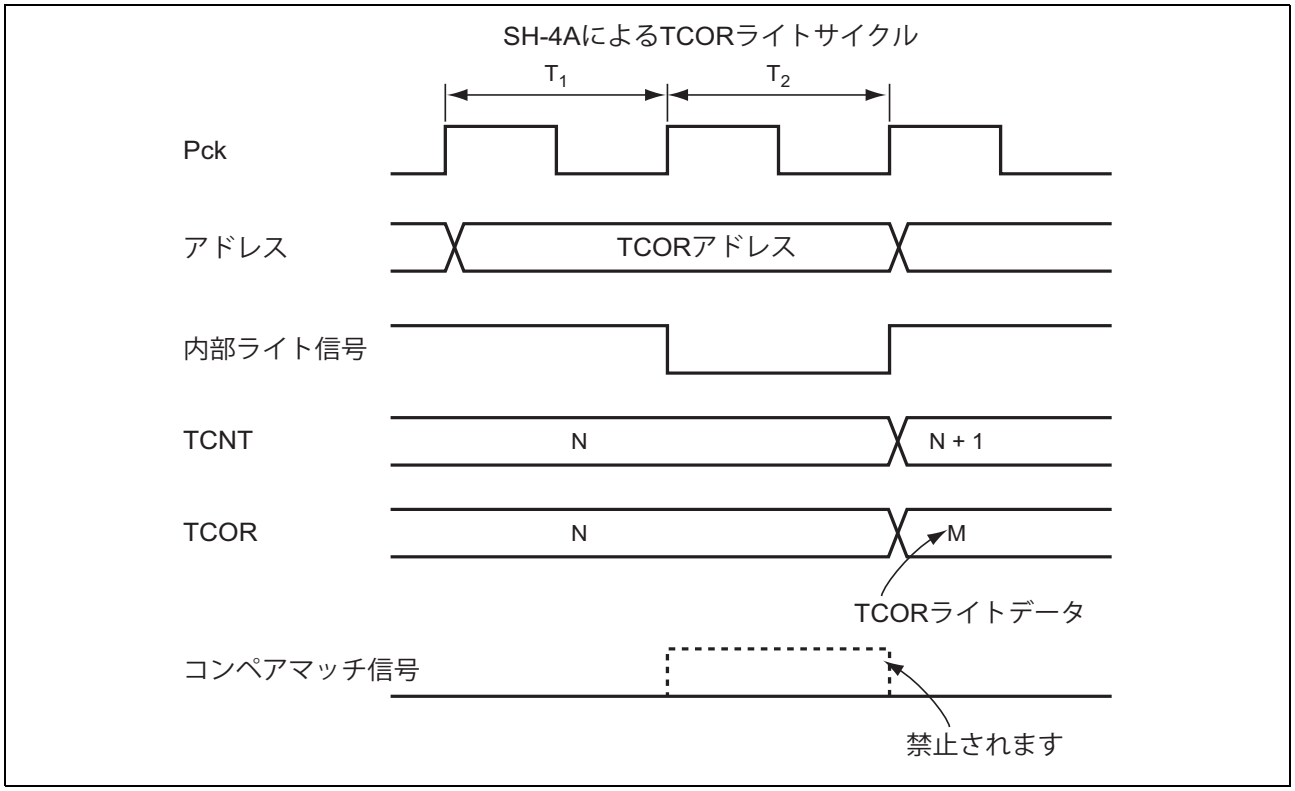


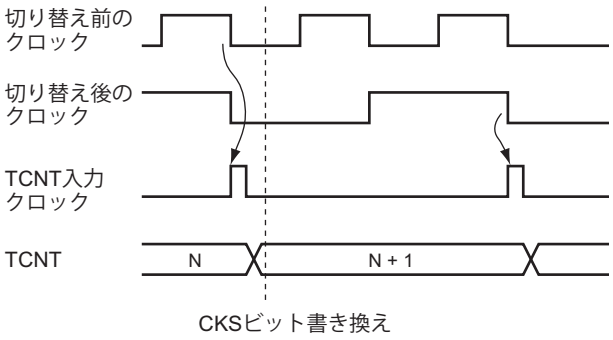
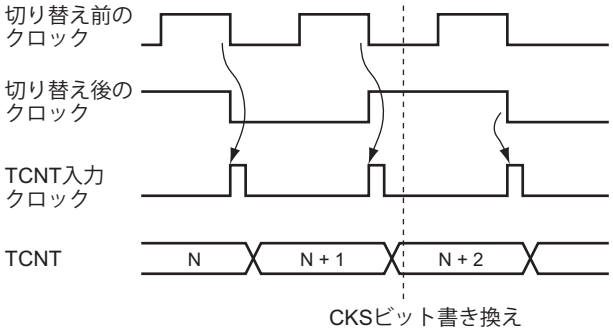
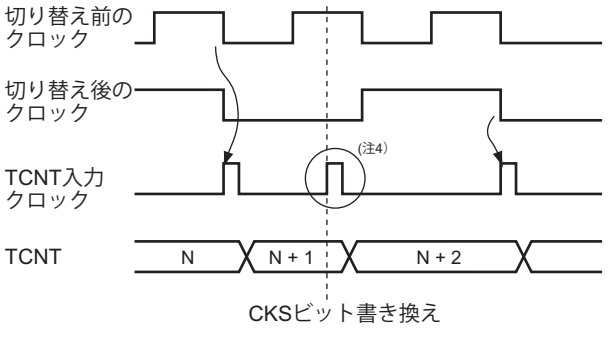
図 21.10　TCOR のライトとコンペアマッチの競合

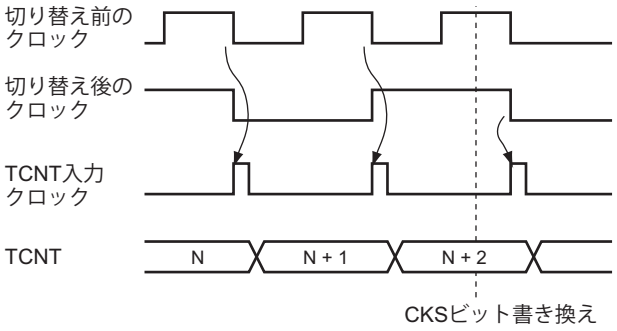
21.6.5　内部クロックの切り替えとTCNT の動作

内部クロックを切り替えるタイミングによっては、TCNT がカウントアップされてしまう場合があります。内部クロックの切り替えタイミング（CKS1、CKS0 ビットの書き換え）とTCNT 動作の関係を表21.4 に示します。内部クロックからTCNT クロックを生成する場合、内部クロックの立ち上がりエッジ、又は立ち下がりエッジで検出しています。そのため、たとえば立ち下がりエッジを選択している場合表21.4 のNo.3 のように、H→L レベルになるようなクロックの切り替えを行うと、切り替えタイミングを立ち下がりエッジとみなしてTCNT クロックが発生し、TCNT がカウントアップされてしまいます。立ち上がりエッジを選択している場合も同様です。

また、内部クロックの立ち上がりエッジと立ち下がりエッジを切り替えるときも、TCNT がカウントアップされることがあります。

表21.4　内部クロックの切り替えとTCNT の動作

No.	CKS1、CKS0 ビット 書き換えタイミング	TCNT クロックの動作
1	L→L レベル（注1）の切り替え	
2	L→H レベル（注2）の切り替え	
3	H→L レベル（注3）の切り替え	

No.	CKS1、CKS0 ビット 書き換えタイミング	TCNT クロックの動作
4	H →H レベルの切り替え	

注1. L レベル→停止、及び停止→L レベルの場合を含みます。
2. 停止→H レベルの場合を含みます。
3. H レベル→停止の場合を含みます。
4. 切り替えのタイミングを立ち下がりエッジとみなすために発生し、TCNT はカウントアップされてしまいます。

21.6.6 カスケード接続時のモード設定

16 ビットカウンタモードとコンペアマッチカウントモードを同時に設定した場合、TCNT_0、TCNT_1 の入力クロックが発生しなくなるためカウンタが停止して動作しません。この設定は行わないでください。

21.6.7 モジュールストップの設定

モジュールストップレジスタにより、TMR の動作禁止／許可を設定することが可能です。初期値では、TMR は動作します。詳細は、「18. 低消費電力モード」を参照してください。

21.6.8 モジュールストップ時の割り込み

割り込みが要求された状態でモジュールストップすると、SH-4A の割り込み要因の起動要因のクリアができません。事前に割り込みをディスエーブルにするなどしてから、モジュールストップモードとしてください。

22. タイマユニット（TMU）

本LSIは6チャネル（チャネル0～5）の32ビットタイマにより構成される32ビットタイマユニット（TMU：Timer Unit）を内蔵しています。

22.1 特長

TMUには次のような特長があります。

- 各チャネルとも、オートリロード方式の32ビットダウンカウンタを搭載
- チャネル2は、インプットキャプチャ機能を搭載
- チャネル0～2は、外部クロック選択時もしくはチャネル2インプットキャプチャ機能使用時には、外部クロックの入力エッジとして立ち上がりエッジ／立ち下がりエッジ選択可能
- 各チャネルとも、任意の時点で読み出し／書き込み可能なオートリロード用の32ビットタイマコンスタントレジスタ、及び32ビットダウンカウンタを搭載
- チャネル0～2は、6種類のカウンタ入力クロックを選択可能
  外部クロック（TCLK）、5種類の周辺クロック（Pck/4、Pck/16、Pck/64、Pck/256、Pck/1024）（ただし、Pckは周辺クロック）
- チャネル3～5は、5種類のカウンタ入力クロックを選択可能
  5種類の周辺クロック（Pck/4、Pck/16、Pck/64、Pck/256、Pck/1024）
- 2種類の割り込み要因
  アンダフロー×1要因（各チャネル）、インプットキャプチャ×1要因（チャネル2）があります。

図22.1 にTMU のブロック図を示します。

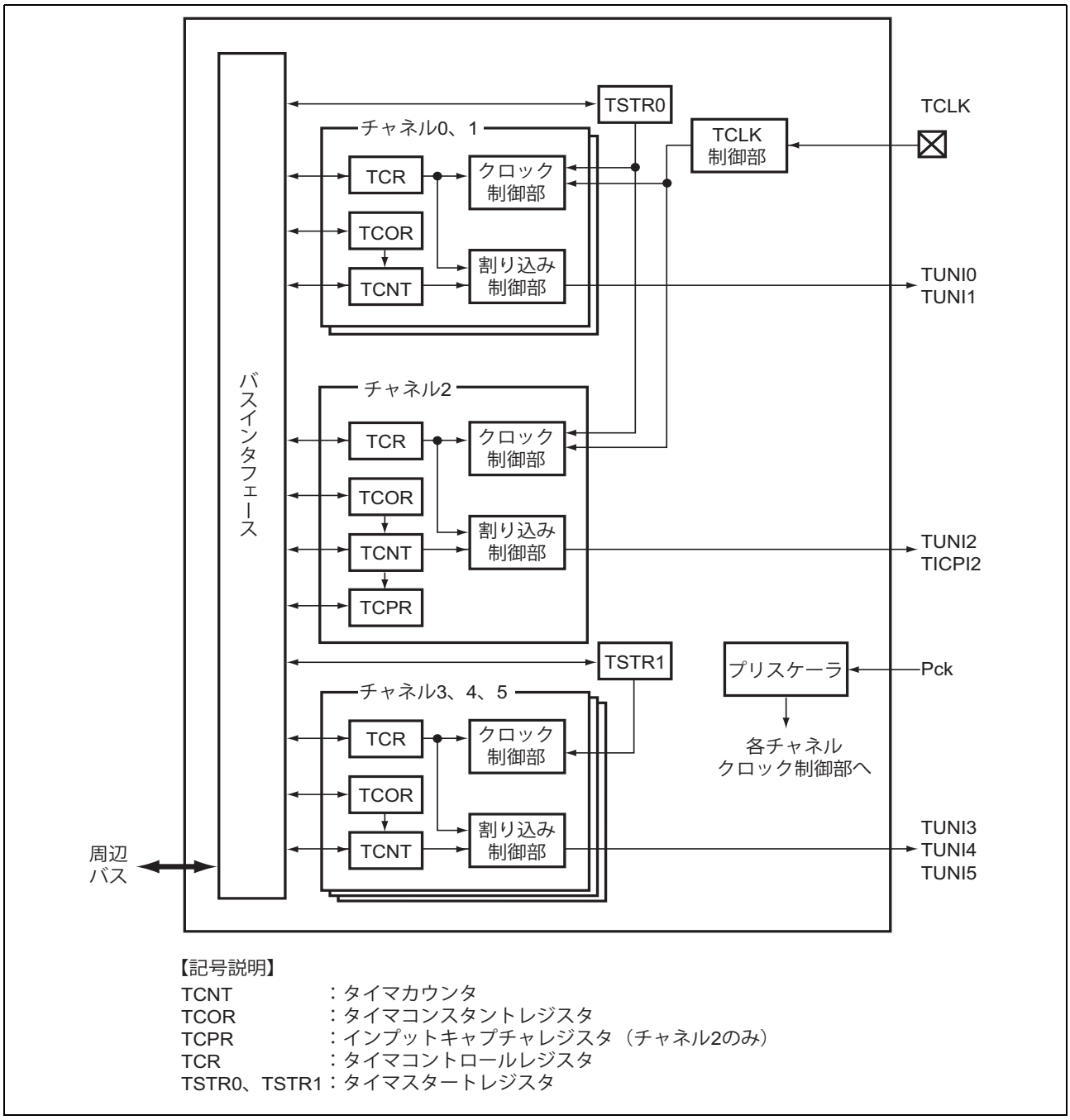


図 22.1　TMU のブロック図

22.2　入出力端子

表22.1 にTMU の端子構成を示します。

表22.1　端子構成

端子名	機 能	入出力	説 明
TCLK	タイマクロック	入力	タイマの外部クロック入力 チャネル2 のインプットキャプチャ信号端子としても使用できます

22.3 レジスタの説明

TMU のレジスタ構成、及び各処理モードにおけるレジスタの状態を表22.2 に示します。

指定されたビット幅でレジスタにアクセスしてください。指定されたビット幅以外のサイズでレジスタにアクセスした場合、動作は保証できません。

表22.2　レジスタ構成

チャネル	名称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
						パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウェアリセット
012 共通	タイマスタートレジスタ0	TSTR0	R/W	H'FE43 0004	8	H'00	H'00	H'00
0	タイマコンスタントレジスタ0	TCOR0	R/W	H'FE43 0008	32	H'FFFF FFFF	H'FFFF FFFF	H'FFFF FFFF
	タイマカウンタ0	TCNT0	R/W	H'FE43 000C	32	H'FFFF FFFF	H'FFFF FFFF	H'FFFF FFFF
	タイマコントロールレジスタ0	TCR0	R/W	H'FE43 0010	16	H'0000	H'0000	H'0000
1	タイマコンスタントレジスタ1	TCOR1	R/W	H'FE43 0014	32	H'FFFF FFFF	H'FFFF FFFF	H'FFFF FFFF
	タイマカウンタ1	TCNT1	R/W	H'FE43 0018	32	H'FFFF FFFF	H'FFFF FFFF	H'FFFF FFFF
	タイマコントロールレジスタ1	TCR1	R/W	H'FE43 001C	16	H'0000	H'0000	H'0000
2	タイマコンスタントレジスタ2	TCOR2	R/W	H'FE43 0020	32	H'FFFF FFFF	H'FFFF FFFF	H'FFFF FFFF
	タイマカウンタ2	TCNT2	R/W	H'FE43 0024	32	H'FFFF FFFF	H'FFFF FFFF	H'FFFF FFFF
	タイマコントロールレジスタ2	TCR2	R/W	H'FE43 0028	16	H'0000	H'0000	H'0000
	インプットキャプチャレジスタ2	TCPR2	R	H'FE43 002C	32	Retained	Retained	Retained
345 共通	タイマスタートレジスタ1	TSTR1	R/W	H'FE44 0004	8	H'00	H'00	H'00
3	タイマコンスタントレジスタ3	TCOR3	R/W	H'FE44 0008	32	H'FFFF FFFF	H'FFFF FFFF	H'FFFF FFFF
	タイマカウンタ3	TCNT3	R/W	H'FE44 000C	32	H'FFFF FFFF	H'FFFF FFFF	H'FFFF FFFF
	タイマコントロールレジスタ3	TCR3	R/W	H'FE44 0010	16	H'0000	H'0000	H'0000
4	タイマコンスタントレジスタ4	TCOR4	R/W	H'FE44 0014	32	H'FFFF FFFF	H'FFFF FFFF	H'FFFF FFFF
	タイマカウンタ4	TCNT4	R/W	H'FE44 0018	32	H'FFFF FFFF	H'FFFF FFFF	H'FFFF FFFF
	タイマコントロールレジスタ4	TCR4	R/W	H'FE44 001C	16	H'0000	H'0000	H'0000
5	タイマコンスタントレジスタ5	TCOR5	R/W	H'FE44 0020	32	H'FFFF FFFF	H'FFFF FFFF	H'FFFF FFFF
	タイマカウンタ5	TCNT5	R/W	H'FE44 0024	32	H'FFFF FFFF	H'FFFF FFFF	H'FFFF FFFF
	タイマコントロールレジスタ5	TCR5	R/W	H'FE44 0028	16	H'0000	H'0000	H'0000

22.3.1　タイマスタートレジスタ（TSTR0、TSTR1）

TSTR は、読み出し／書き込み可能な8 ビットのレジスタです。TCNT を動作させるか、停止させるかを選択します。

• TSTR0

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	STR2	STR1	STR0
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～ 3	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
2	STR2	0	R/W	カウンタスタート2 TCNT2 を動作させるか、停止させるかを選択します。 0：TCNT2 のカウント動作は停止 1：TCNT2 はカウント動作する
1	STR1	0	R/W	カウンタスタート1 TCNT1 を動作させるか、停止させるかを選択します。 0：TCNT1 のカウント動作は停止 1：TCNT1 はカウント動作する
0	STR0	0	R/W	カウンタスタート0 TCNT0 を動作させるか、停止させるかを選択します。 0：TCNT0 のカウント動作は停止 1：TCNT0 はカウント動作する

• TSTR1

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	STR5	STR4	STR3
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～ 3	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
2	STR5	0	R/W	カウンタスタート5 TCNT5 を動作させるか、停止させるかを選択します。 0：TCNT5 のカウント動作は停止 1：TCNT5 はカウント動作する
1	STR4	0	R/W	カウンタスタート4 TCNT4 を動作させるか、停止させるかを選択します。 0：TCNT4 のカウント動作は停止 1：TCNT4 はカウント動作する

0	STR3	0	R/W	カウンタスタート3 TCNT3 を動作させるか、停止させるかを選択します。 0：TCNT3 のカウント動作は停止 1：TCNT3 はカウント動作する

22.3.2　タイマコンスタントレジスタ（TCORn）（n＝0～5）

TCOR は、読み出し／書き込み可能な32 ビットレジスタです。TCNT のカウントダウンの結果、アンダフローが発生すると、このTCOR の値がTCNT にセットされ、TCNT はセットされた値からカウントダウンを続けます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

22.3.3　タイマカウンタ（TCNTn）（n＝0～5）

TCNT は、読み出し／書き込み可能な32 ビットレジスタです。TCNT は、TCR のTPSC2～TPSC0 ビットにより選択した入力クロックにより、カウントダウン動作を行います。

TCNT のカウントダウン動作の結果、アンダフローが発生すると、対応するチャネルのTCR のUNF が1 にセットされます。また、同時にTCNT には、TCOR の値が設定され、設定された値からカウントダウン動作を続けます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

22.3.4　タイマコントロールレジスタ（TCRn）（n＝0～5）

TCR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットレジスタです。カウントクロックの選択、外部クロック選択時のエッジの選択、TCNT のアンダフロー発生を示すフラグが 1 にセットされたときの割り込み発生の制御を行います。また、チャネル2 のTCR はインプットキャプチャ機能の制御、及びインプットキャプチャ時の割り込み発生の制御を行います。

• TCR0、TCR1、TCR3、TCR4、TCR5

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	UNF	—	—	UNIE	CKEG1	CKEG0	TPSC2	TPSC1	TPSC0
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	R/W (注2)	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

• TCR2

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	ICPF	UNF	ICPE1	ICPE0	UNIE	CKEG1	CKEG0	TPSC2	TPSC1	TPSC0
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	R/W (注2)	R/W (注2)	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 ～ 10	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
9	ICPF（注１）	0	R/W（注２）	インプットキャプチャ割り込みフラグ チャネル2 のみの機能で、インプットキャプチャの発生を示すステータスフラグです。 0：インプットキャプチャが発生していないことを示します ［クリア条件］ICPF に0 を書き込んだとき 1：インプットキャプチャが発生したことを示します ［セット条件］インプットキャプチャが発生したとき
8	UNF	0	R/W（注２）	アンダフローフラグ TCNT のアンダフローの発生を示すステータスフラグです。 0：TCNT がアンダフローを起こしていないことを示します ［クリア条件］UNF に0 を書き込んだとき 1：TCNT がアンダフローを起こしたことを示します ［セット条件］TCNT がアンダフローを起こしたとき

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 6	ICPE1（注1） ICPE0（注1）	0 0	R/W R/W	インプットキャプチャ制御 チャネル2 のみの機能で、インプットキャプチャ機能を使用するかどうか、及び使用時の割り込み発生を許可するかどうかを制御します。 TCLK 端子の立ち上がりエッジ／立ち下がりエッジのいずれかを使ってTCPR2 にTCNT2 の値をセットするかは、CKEG ビットで設定します。 TCR2 のICPF ビットが0 のときのみ、TCNT2 の値がTCPR2 にセットされます。ICPF ビットが1 のときは、インプットキャプチャが発生してもTCPR2 はセットされません。 00：インプットキャプチャ機能を使用しないことを示します 01：設定禁止 10：インプットキャプチャ機能を使用するが、インプットキャプチャによる割り込み（TICPI2）を許可しないことを示します。 11：インプットキャプチャ機能を使用し、またインプットキャプチャによる割り込み（TICPI2）を許可することを示します。
5	UNIE	0	R/W	アンダフロー割り込み制御 TCNT のアンダフローの発生を示すステータスフラグUNF が1 にセットされたときに割り込み発生を許可するかどうかを制御します。 0：アンダフローによる割り込み（TUNI）を許可しない 1：アンダフローによる割り込み（TUNI）を許可する
4 3	CKEG1 CKEG0	0 0	R/W R/W	クロックエッジ1、0 外部クロック選択時もしくはインプットキャプチャ機能使用時に、外部クロックの入力エッジを選択します。 00：立ち上がりエッジでカウント／インプットキャプチャレジスタセット 01：立ち下がりエッジでカウント／インプットキャプチャレジスタセット 1X：立ち上がり／立ち下がりの両エッジでカウント／インプットキャプチャレジスタセット
2 1 0	TPSC2 TPSC1 TPSC0	0 0 0	R/W R/W R/W	タイマプリスケーラ2～0 TCNT のカウントクロックを選択します。 000：Pck/4 でカウント 001：Pck/16 でカウント 010：Pck/64 でカウント 011：Pck/256 でカウント 100：Pck/1024 でカウント 101：設定禁止 110：設定禁止 111：外部クロック（TCLK）でカウント（注3）

X：Don't care

注1.　チャネル0、1、3、4、5 ではリザーブビットです（初期値0、書き込む値は“1”にしてください）。
2.　“1”を書き込んでも値は変化しません。
3.　チャネル3、4、5 では設定禁止です。

22.3.5　インプットキャプチャレジスタ2（TCPR2）

TCPR2 は、チャネル 2 のみに内蔵されているインプットキャプチャ機能用の読み出し専用の 32 ビットレジスタです。TCR2 の ICPE ビット、及び CKEG ビットによって、インプットキャプチャ機能を制御します。インプットキャプチャが発生すると、TCNT2 の値が TCPR2 にコピーされます。TCR2 の ICPF ビットが 0 のときのみ TCPR2 にセットします。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

22.4　動作説明

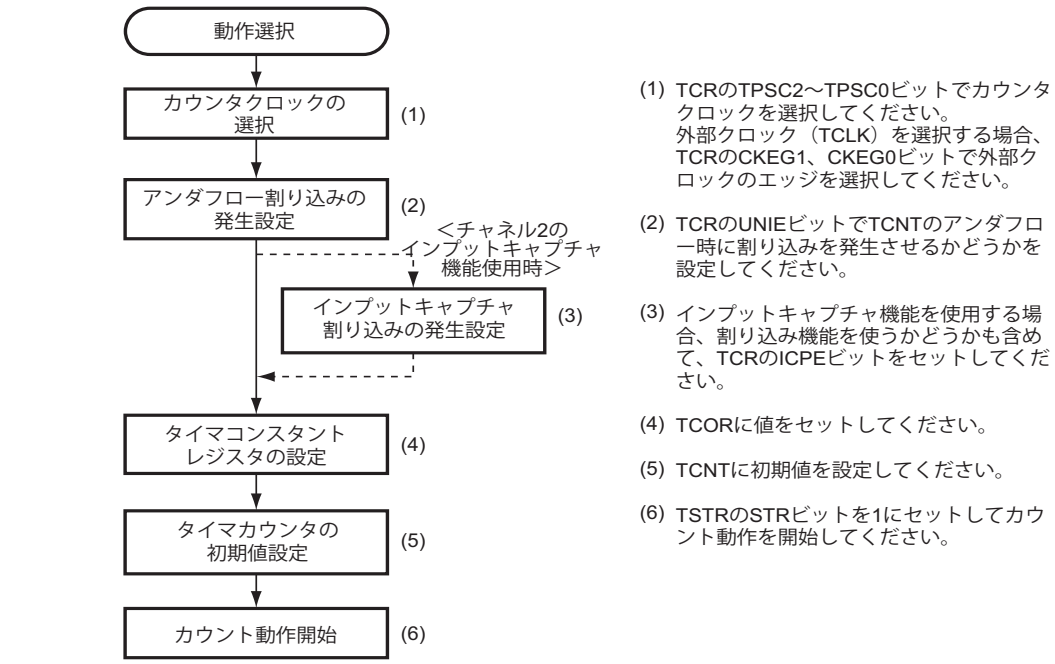
各チャネルには、32 ビットのタイマカウンタ（TCNT）と 32 ビットのタイマコンスタントレジスタ（TCOR）があります。TCNT は、カウントダウン動作を行います。オートリロード機能によって周期カウント動作又は外部イベントカウント動作が可能です。また、チャネル 2 には、インプットキャプチャ機能があります。

22.4.1　カウンタの動作

TSTR0～TSTR1 の STR5～STR0 ビットを 1 にセットすると、対応するチャネルの TCNT はカウント動作を開始します。TCNT がアンダフローすると対応する TCR の UNF フラグが 1 にセットされます。このとき、TCR の UNIE ビットが 1 ならば、SH-4A に割り込みを要求します。また、このとき TCNT には TCOR から値がコピーされ、カウントダウン動作を継続します（オートリロード機能）。

(1)　カウント動作の設定手順例

図 22.2 にカウント動作の設定手順例を示します。



注.　割り込みが発生した場合、割り込みハンドラ中で要因となったフラグをクリアしてください。
クリアせずに割り込み許可状態にすると、再度割り込みが発生してしまいます。

図 22.2　カウント動作設定手順例

(2)　オートリロードカウント動作

図22.3にTCNTのオートリロード動作を示します。

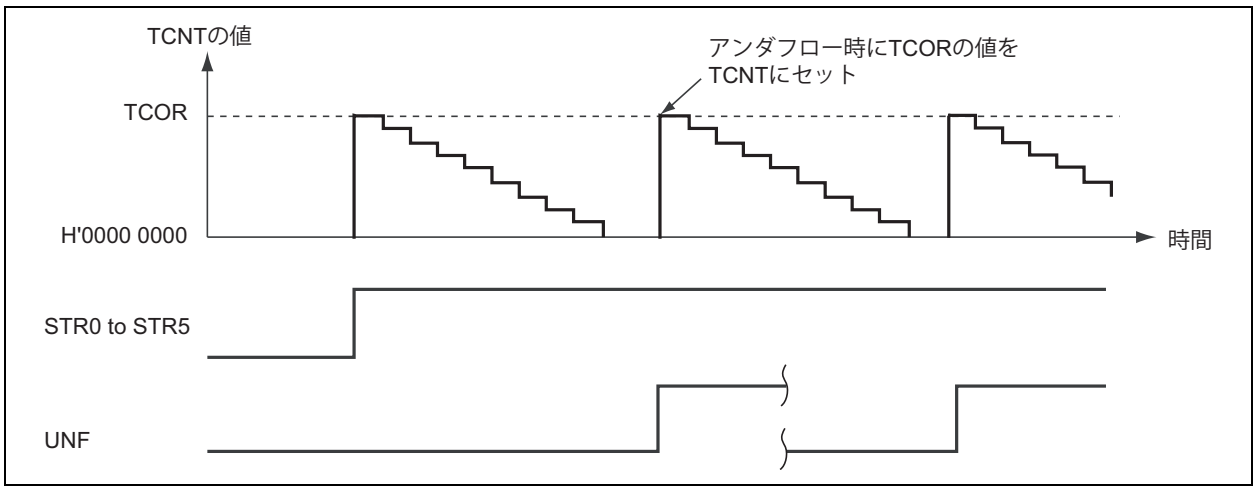


図 22.3　TCNT のオートリロード動作

(3)　TCNT のカウントタイミング

- **内部クロック動作の場合**

TCRのTPSC2～TPSC0ビットにより、カウントクロックとして周辺クロックを分周した5種類のクロック（Pck/4、Pck/16、Pck/64、Pck/256、Pck/1024）を選択できます。

この時のタイミングを図22.4に示します。

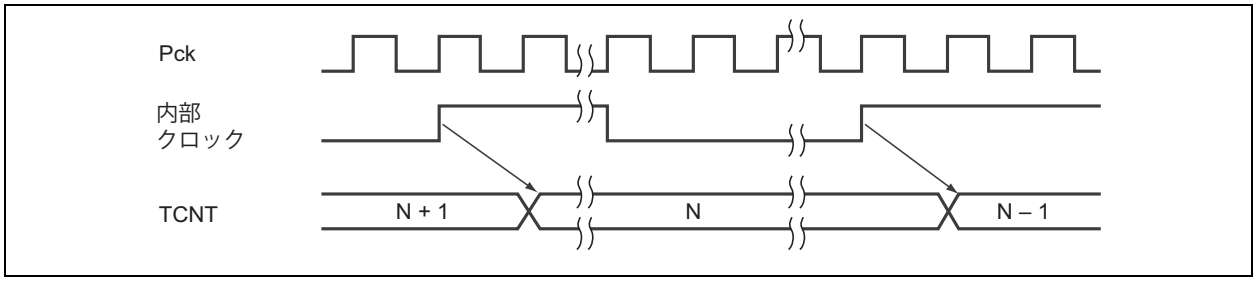


図 22.4　内部クロック動作時のカウントタイミング

- **外部クロック動作の場合**

チャネル0、1、2では、TCRのTPSC2～TPSC0ビットにより、タイマ用クロックとして外部クロック端子（TCLK）からの入力を選択できます。また、TCRのCKEG1、CKEG0ビットにより検出エッジを選択できます。外部クロックの検出は、立ち上がり／立ち下がり／両エッジの選択が可能です。

図22.5に両エッジ検出時のタイミングを示します。

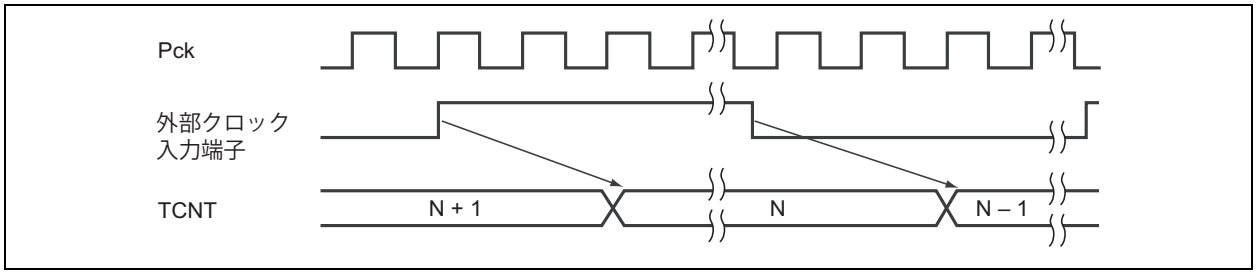


図 22.5　外部クロック動作時のカウントタイミング

22.4.2　インプットキャプチャ機能

チャネル2には、インプットキャプチャ機能があります。
インプットキャプチャ機能を利用するには、以下のような設定順序で行います。

1. TCRのTPSC2～TPSC0ビットでのタイマの動作クロックを内部クロックに設定します。
2. TCRのICPE1、ICPE0ビットでインプットキャプチャ機能の使用、及び使用の際に割り込みを発生させるかを指定します。
3. TCRのCKEG1、CKEG0ビットでTCLK端子の立ち上がり／立ち下がりのどのエッジを使用してTCPR2にTCNTの値をセットするかを指定します。

インプットキャプチャ発生時、TCR2のICPFビットが0のときのみ、TCNT2の値をTCPR2にセットします。図22.6にインプットキャプチャ機能使用時の動作タイミングを示します（TCLKの立ち上がりエッジ使用）。

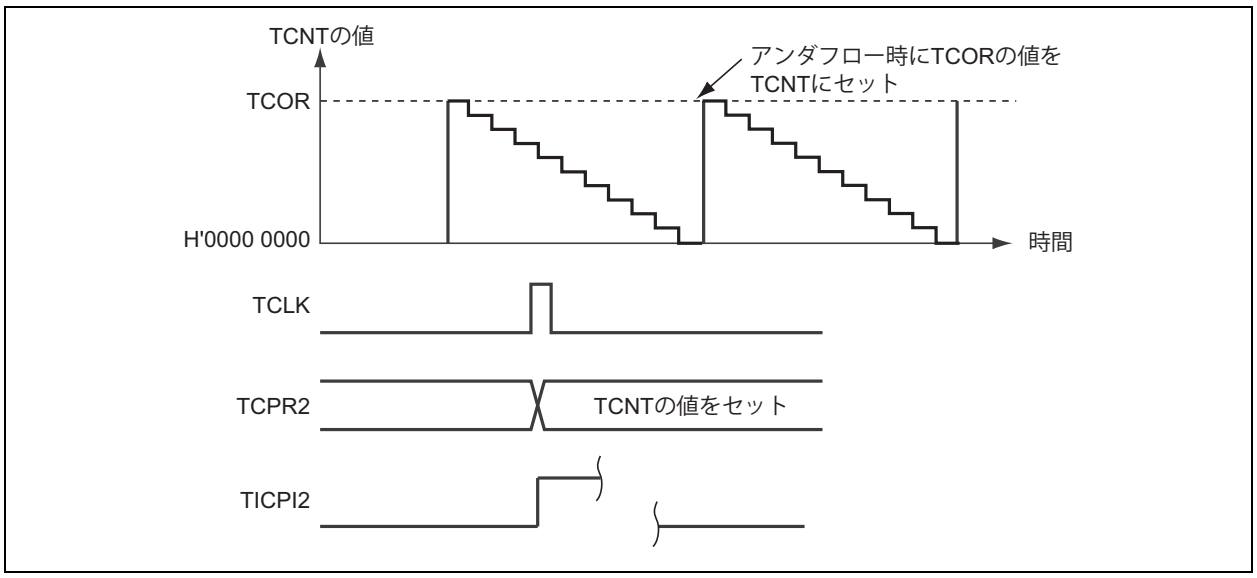


図 22.6　インプットキャプチャ機能使用時の動作タイミング

22.5　割り込み

TMUには7個の割り込み要因があり、アンダフロー割り込みが6要因、インプットキャプチャ機能使用時のインプットキャプチャ割り込みが1要因です。アンダフロー割り込みは各チャネルで、インプットキャプチャ割り込みはチャネル2のみで発生します。

UNFビットが1であり、そのチャネルの割り込み許可ビットが1のとき、アンダフロー割り込み要求を発生します（チャネルごと）。

インプットキャプチャ機能使用時、インプットキャプチャ要求が発生するとTCR2のICPFビットが1でTCR2のインプットキャプチャ制御ビット（ICPE1、ICPE0）が11の場合に割り込み要求が発生します。

表22.3にTMUの割り込み要因を示します。

表22.3　TMUの割り込み要因

チャネル	割り込み要因	内 容
0	TUNI0	アンダフロー割り込み0
1	TUNI1	アンダフロー割り込み1
2	TUNI2	アンダフロー割り込み2
	TICPI2	インプットキャプチャ割り込み2
3	TUNI3	アンダフロー割り込み3
4	TUNI4	アンダフロー割り込み4
5	TUNI5	アンダフロー割り込み5

22.6 使用上の注意事項

22.6.1 レジスタの書き込みについて

TMU のレジスタに書き込むときには、必ず TSTR の該当チャネルのスタートビット（STR5 ～ STR0）をクリアして、タイマのカウント動作を停止させてください。

ただし、TSTR の書き込み、TCR の UNF、ICPF ビットのクリアは、カウント動作中に行うことができます。カウント動作中にフラグ（UNF、ICPF）をクリアする際は、クリアするビット以外は変更しないようにしてください。

22.6.2 TCNT レジスタの読み出しについて

TCNT レジスタの読み出し時に、タイマのカウント動作との同期処理を行っています。タイマカウント動作とレジスタの読み出し処理が同時に行われた場合は、同期処理により TCNT カウンタのカウントダウン動作前の値が読み出されます。

22.6.3 外部クロック周波数について

チャネル 0、1、2 への外部クロック（TCLK）入力周波数は Pck/4 を超えないようにしてください。

23. ギガビットイーサネットコントローラ（GETHER）

本LSIは、イーサネットあるいはIEEE802.3のMAC（Media Access Control）層規格に準拠したギガビットイーサネットコントローラ（GETHER）を内蔵しています。GETHERは、同規格に合致する物理層LSI（PHY-LSI）と接続することにより、イーサネット／IEEE802.3フレームの送受信を行うことができます。本LSI内蔵のイーサネットコントローラはMAC層インタフェースを2系統（以後、0系、1系と表記します）内蔵しており、それぞれ独立に送信及び受信動作をさせることができます。

GETHERは、専用のダイレクトメモリアクセスコントローラ（E-DMAC）を内蔵しており、送受信するイーサネットフレームデータを、メモリ上の送受信バッファとの間で高速に転送することが可能です。

また、GETHERは、転送処理を制御するTSU（Transfer Switching Unit）を内蔵し、0系及び1系間のMAC層コントローラ間で相互にデータを転送することができます。

23.1 特長

- MAC（Media Access Control）機能
- データフレームの組み立て／分解（IEEE802.3, 2000Edition準拠フレーム形式）
- 10Mbps、100Mbps、及び1000Mbps転送に対応
- 全二重モード及び半二重モード対応
- 2チャネル内蔵（GETHER0、GETHER1）
- IEEE802.3x準拠のフロー制御が可能
  IEEE802.3準拠PHYインタフェースをサポート
  RGMII (Reduced Gigabit Media Independent Interface)
  上位プロトコルサポート（チェックサム）機能
- チャネル間転送用スイッチングユニット搭載（転送用FIFO：6Kバイト）
- E-DMAC（イーサネットコントローラダイレクトメモリアクセスコントローラ）機能
  GETHERと外部／内部メモリ間データ転送可能
  2チャネル内蔵
  32バイトバースト転送可能
  1フレーム／1ディスクリプタ、1フレーム／複数ディスクリプタ方式（マルチバッファ）対応可能
  転送データ幅：32ビット
  送受信FIFO搭載（送信用：2Kバイト、受信用：12Kバイト）

図23.1にGETHERの構成を示します。

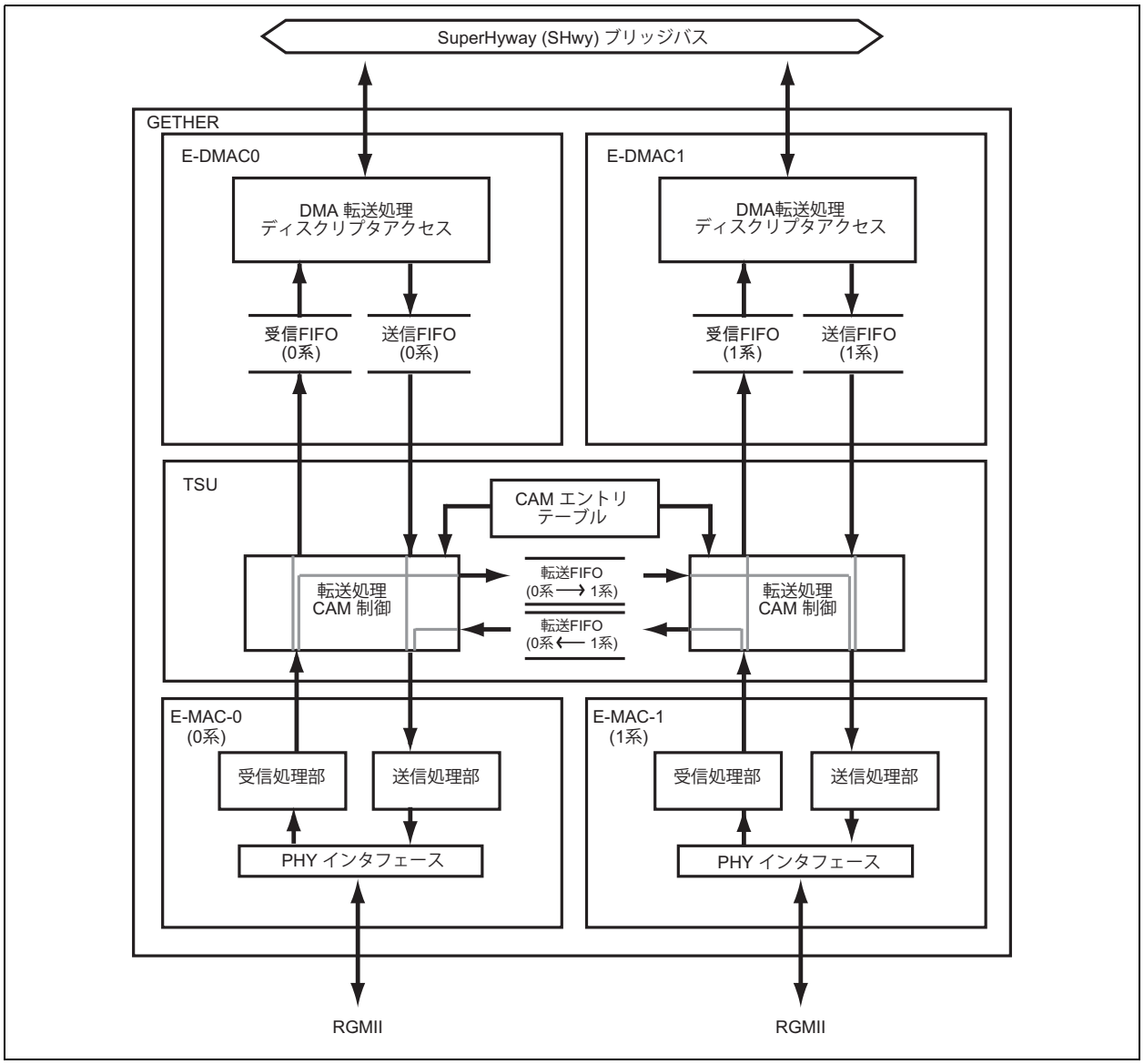


図 23.1　GETHER の構成

23.2　入出力端子

GETHER の端子構成を表23.1 に示します。

表23.1　端子構成

名称	系	記号	入出力	機能
送信クロック	0	ET0-TXC	出力	送信信号用クロック出力
送信データ		ET0-TD[3:0]	出力	4ビットの送信データ用出力端子
送信制御		ET0-TX_CTL	出力	送信信号用 制御信号出力
受信クロック		ET0-RXC	入力	受信信号用 クロック入力
受信データ		ET0-RD[3:0]	入力	4ビットの受信データ用入力端子
受信制御		ET0-RX_CTL	入力	受信信号用 制御信号入力
管理用クロック		ET0-MDC（注1）	出力	MDIO による転送情報のクロック信号
管理用データ		ET0-MDIO（注1）	入出力	管理情報を交換する為の双方向のデータ端子
送信クロック	1	ET1-TXC	出力	送信信号用クロック出力
送信データ		ET1-TD[3:0]	出力	4ビットの送信データ用出力端子
送信制御		ET1-TX_CTL	出力	送信信号用 制御信号出力
受信クロック		ET1-RXC	入力	受信信号用 クロック入力
受信データ		ET1-RD[3:0]	入力	4ビットの受信データ用入力端子
受信制御		ET1-RX_CTL	入力	受信信号用 制御信号入力
管理用クロック		ET1-MDC（注1）	出力	MDIO による転送情報のクロック信号号
管理用データ		ET1-MDIO（注1）	入出力	管理情報を交換する為の双方向のデータ端子
125MHz 基準クロック	共通	RGMII-MAC-CLK	入力	ETHER RGMII リファレンスクロック

注1. 図23.23に示すように、MDIO端子、MDC端子はRMII、RGMIIでマルチプレックスされ、2つのチャネルでのみ利用できます。切り替えビットはRMII1ビット又はRMII0ビット（GBECONTレジスタのビット17,16）に設定されています（「23.3.98　Gigabit イーサネットコントロールレジスタ（GBECONT）」参照）。

23.3　レジスタの説明

GETHER のレジスタ構成と各処理状態におけるレジスタの状態を表23.2 に示します。

CAM エントリテーブル関連のレジスタを除く各レジスタ略号の末尾の数字は、2 つのイーサネットインタフェースポートの番号（0 系または1 系の別）を表します。本文中では、レジスタ略号中の番号の記載を一部省略しています。

表23.2　レジスタ構成

名称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
					パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウエアリセット
ソフトウェアリセットレジスタ	ARSTR	R/W	H'FEE0 1800	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
E-MAC モードレジスタ	ECMR0	R/W	H'FEE0 0500	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
E-MAC ステータスレジスタ	ECSR0	R/W	H'FEE0 0510	32	H'0000 000X	H'0000 000X	H'0000 000X
E-MAC 割り込み許可レジスタ	ECSIPR0	R/W	H'FEE0 0518	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
PHY 部インタフェースレジスタ	PIR0	R/W	H'FEE0 0520	32	H'0000 000X	H'0000 000X	H'0000 000X
MAC アドレス上位設定レジスタ	MAHR0	R/W	H'FEE0 05C0	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
MAC アドレス下位設定レジスタ	MALR0	R/W	H'FEE0 05C8	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
受信フレーム長レジスタ	RFLR0	R/W	H'FEE0 0508	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
送信リトライオーバカウンタレジスタ	TROCR0	R/W	H'FEE0 0700	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
遅延衝突検出カウンタレジスタ	CDCR0	R/W	H'FEE0 0708	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
キャリア消失カウンタレジスタ	LCCR0	R/W	H'FEE0 0710	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CRC エラーフレーム受信カウンタレジスタ	CEFCR0	R/W	H'FEE0 0740	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
フレーム受信エラーカウンタレジスタ	FRECR0	R/W	H'FEE0 0748	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
64 バイト未満フレーム受信カウンタレジスタ	TSFRCR0	R/W	H'FEE0 0750	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
指定バイト超フレーム受信カウンタレジスタ	TLFRCR0	R/W	H'FEE0 0758	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
端数ビットフレーム受信カウンタレジスタ	RFCR0	R/W	H'FEE0 0760	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
キャリア拡張消失カウンタレジスタ	CERCR0	R/W	H'FEE0 0768	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
キャリア拡張エラーカウンタレジスタ	CEECR0	R/W	H'FEE0 0770	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
マルチキャストアドレスフレーム受信カウンタレジスタ	MAFCR0	R/W	H'FEE0 0778	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
自動PAUSE フレーム設定レジスタ	APR0	R/W	H'FEE0 0554	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
手動PAUSE フレーム設定レジスタ	MPR0	R/W	H'FEE0 0558	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
自動PAUSE フレーム再送回数設定レジスタ	TPAUSER0	R/W	H'FEE0 0564	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
PAUSE フレーム送信カウンタレジスタ	PFTCR0	R	H'FEE0 055C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
PAUSE フレーム受信カウンタレジスタ	PFRCR0	R	H'FEE0 0560	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000

名称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
					パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウエアリセット
GETHER モードレジスタ	GECMR0	R/W	H'FEE0 05B0	32	H'0000 0020	H'0000 0020	H'0000 0020
バーストサイクル回数上限設定レジスタ	BCULR0	R/W	H'FEE0 05B4	32	H'0000 0800	H'0000 0800	H'0000 0800
インバンドステータスモード設定レジスタ	IBSMR0	R/W	H'FEE0 0530	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
インバンドステータスレジスタ	IBSR0	R	H'FEE0 0534	32	H'0000 000X	H'0000 000X	H'0000 000X
スピード／全二重／リンクモードレジスタ	SDLR0	R	H'FEE0 0538	32	H'0000 0009	H'0000 0009	H'0000 0009
RGMIIモード設定	RGMIIMR0	R/W	H'FEE0 053C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
ブロードキャストフレーム受信カウント設定レジスタ	GBE_BCFRR0	R/W	H'FEE0 056C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
BCFRRカウントリセット	GBE_CRBCFRR0	R/W	H'FEE0 0570	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
MDIO コントローラステータス	MDIOSTS0	R	H'FEE0 0780	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
MDIO コントローラコマンド	MDIOCMD0	R/W	H'FEE0 0784	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
MDIO コントローラアドレス	MDIOADR0	R/W	H'FEE0 0788	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
MDIO コントローラデータ	MDIODAT0	R/W	H'FEE0 078C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
MDIO コントローラモード設定	MDIOMOD0	R/W	H'FEE0 0790	32	H'8000 00FF	H'8000 00FF	H'8000 00FF
E-MAC モードレジスタ	ECMR1	R/W	H'FEE0 0D00	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
E-MAC ステータスレジスタ	ECSR1	R/W	H'FEE0 0D10	32	H'0000 000X	H'0000 000X	H'0000 000X
E-MAC 割り込み許可レジスタ	ECSIPR1	R/W	H'FEE0 0D18	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
PHY 部インタフェースレジスタ	PIR1	R/W	H'FEE0 0D20	32	H'0000 000X	H'0000 000X	H'0000 000X
MAC アドレス上位設定レジスタ	MAHR1	R/W	H'FEE0 0DC0	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
MAC アドレス下位設定レジスタ	MALR1	R/W	H'FEE0 0DC8	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
受信フレーム長レジスタ	RFLR1	R/W	H'FEE0 0D08	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
送信リトライオーバカウンタレジスタ	TROCR1	R/W	H'FEE0 0F00	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
遅延衝突検出カウンタレジスタ	CDCR1	R/W	H'FEE0 0F08	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
キャリア消失カウンタレジスタ	LCCR1	R/W	H'FEE0 0F10	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CRC エラーフレーム受信カウンタレジスタ	CEFCR1	R/W	H'FEE0 0F40	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
フレーム受信エラーカウンタレジスタ	FRECR1	R/W	H'FEE0 0F48	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
64 バイト未満フレーム受信カウンタレジスタ	TSFRCR1	R/W	H'FEE0 0F50	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
指定バイト超フレーム受信カウンタレジスタ	TLFRCR1	R/W	H'FEE0 0F58	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
端数ビットフレーム受信カウンタレジスタ	RFCR1	R/W	H'FEE0 0F60	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
キャリア拡張消失カウンタレジスタ	CERCR1	R/W	H'FEE0 0F68	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
キャリア拡張エラーカウンタレジスタ	CEECR1	R/W	H'FEE0 0F70	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
マルチキャストアドレスフレーム受信カウンタレジスタ	MAFCR1	R/W	H'FEE0 0F78	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000

名称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
					パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウエアリセット
自動PAUSE フレーム設定レジスタ	APR1	R/W	H'FEE0 0D54	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
手動PAUSE フレーム設定レジスタ	MPR1	R/W	H'FEE0 0D58	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
自動PAUSE フレーム再送回数設定レジスタ	TPAUSER1	R/W	H'FEE0 0D64	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
PAUSE フレーム送信カウンタレジスタ	PFTCR1	R	H'FEE0 0D5C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
PAUSE フレーム受信カウンタレジスタ	PFRCR1	R	H'FEE0 0D60	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
GETHER モードレジスタ	GECMR1	R/W	H'FEE0 0DB0	32	H'0000 0020	H'0000 0020	H'0000 0020
バーストサイクル回数上限設定レジスタ	BCULR1	R/W	H'FEE0 0DB4	32	H'0000 0800	H'0000 0800	H'0000 0800
インバンドモード設定	IBSMR1	R/W	H'FEE0 0D30	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
インバンドステータスレジスタ	IBSR1	R	H'FEE0 0D34	32	H'0000 000X	H'0000 000X	H'0000 000X
スピード／全二重／リンクモードレジスタ	SDLR1	R	H'FEE0 0D38	32	H'0000 0009	H'0000 0009	H'0000 0009
RGMIIモード設定	RGMIIMR1	R/W	H'FEE0 0D3C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
ブロードキャストフレーム受信カウント設定レジスタ	GBE_BCFRR1	R/W	H'FEE0 0D6C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
BCFRRカウントリセット	GBE_CRBCFRR1	R/W	H'FEE0 0D70	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
MDIO コントローラステータス	MDIOSTS1	R	H'FEE0 0F80	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
MDIO コントローラコマンド	MDIOCMD1	R/W	H'FEE0 0F84	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
MDIO コントローラアドレス	MDIOADR1	R/W	H'FEE0 0F88	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
MDIO コントローラデータ	MDIODAT1	R/W	H'FEE0 0F8C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
MDIOMDIO コントローラモード設定	MDIOMOD1	R/W	H'FEE0 0F90	32	H'8000 00FF	H'8000 00FF	H'8000 00FF
TSU カウンタリセットレジスタ	TSU_CTRST	R/W	H'FEE0 1804	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
転送イネーブルレジスタ（0→1 系）	TSU_FWEN0	R/W	H'FEE0 1810	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
転送イネーブルレジスタ（1→0 系）	TSU_FWEN1	R/W	H'FEE0 1814	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
転送FIFO 容量選択レジスタ	TSU_FCM	R/W	H'FEE0 1818	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
転送FIFO オーバフロー予告設定レジスタ（0 系）	TSU_BSYSL0	R/W	H'FEE0 1820	32	H'0000 003F	H'0000 003F	H'0000 003F
転送FIFO オーバフロー予告設定レジスタ（1 系）	TSU_BSYSL1	R/W	H'FEE0 1824	32	H'0000 003F	H'0000 003F	H'0000 003F
送信・転送優先制御モードレジスタ（0 系）	TSU_PRISL0	R/W	H'FEE0 1828	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
送信・転送優先制御モードレジスタ（1 系）	TSU_PRISL1	R/W	H'FEE0 182C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
受信・転送機能設定レジスタ（0→1 系）	TSU_FWSL0	R/W	H'FEE0 1830	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
受信・転送機能設定レジスタ（1→0 系）	TSU_FWSL1	R/W	H'FEE0 1834	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000

名称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
					パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウエアリセット
転送機能設定レジスタ（共通）	TSU_FWSLC	R/W	H'FEE0 1838	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
Qtag 追加・削除設定レジスタ（0→1 系）	TSU_QTAG0	R/W	H'FEE0 1840	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
Qtag 追加・削除設定レジスタ（1→0 系）	TSU_QTAG1	R/W	H'FEE0 1844	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
転送ステータスレジスタ	TSU_FWSR	R/W	H'FEE0 1850	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
転送ステータス割り込みマスクレジスタ	TSU_FWINMK	R/W	H'FEE0 1854	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
Qtag 追加・削除設定レジスタ（0→1 系）	TSU_ADQT0	R/W	H'FEE0 1848	32	H'8100 0000	H'8100 0000	H'8100 0000
Qtag 追加・削除設定レジスタ（1→0 系）	TSU_ADQT1	R/W	H'FEE0 184C	32	H'8100 0000	H'8100 0000	H'8100 0000
VLANtag 設定レジスタ（0 系）	TSU_VTAG0	R/W	H'FEE0 1858	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
VLANtag 設定レジスタ（1 系）	TSU_VTAG1	R/W	H'FEE0 185C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル設定ビジーレジスタ	TSU_ADSBSY	R	H'FEE0 1860	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブルイネーブル設定レジスタ	TSU_TEN	R/W	H'FEE0 1864	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブルPOST設定1レジスタ	TSU_POST1	R/W	H'FEE0 1870	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブルPOST設定2レジスタ	TSU_POST2	R/W	H'FEE0 1874	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブルPOST設定3レジスタ	TSU_POST3	R/W	H'FEE0 1878	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブルPOST設定4レジスタ	TSU_POST4	R/W	H'FEE0 187C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル0Hレジスタ	TSU_ADRH0	R/W	H'FEE0 1900	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル1Hレジスタ	TSU_ADRH1	R/W	H'FEE0 1908	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル2Hレジスタ	TSU_ADRH2	R/W	H'FEE0 1910	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル3Hレジスタ	TSU_ADRH3	R/W	H'FEE0 1918	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル4Hレジスタ	TSU_ADRH4	R/W	H'FEE0 1920	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル5Hレジスタ	TSU_ADRH5	R/W	H'FEE0 1928	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル6Hレジスタ	TSU_ADRH6	R/W	H'FEE0 1930	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル7Hレジスタ	TSU_ADRH7	R/W	H'FEE0 1938	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル8Hレジスタ	TSU_ADRH8	R/W	H'FEE0 1940	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル9Hレジスタ	TSU_ADRH9	R/W	H'FEE0 1948	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000

名称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
					パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウエアリセット
CAM エントリテーブル10Hレジスタ	TSU_ADRH10	R/W	H'FEE0 1950	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル11Hレジスタ	TSU_ADRH11	R/W	H'FEE0 1958	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル12Hレジスタ	TSU_ADRH12	R/W	H'FEE0 1960	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル13Hレジスタ	TSU_ADRH13	R/W	H'FEE0 1968	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル14Hレジスタ	TSU_ADRH14	R/W	H'FEE0 1970	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル15Hレジスタ	TSU_ADRH15	R/W	H'FEE0 1978	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル16Hレジスタ	TSU_ADRH16	R/W	H'FEE0 1980	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル 17Hレジスタ	TSU_ADRH17	R/W	H'FEE0 1988	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル18Hレジスタ	TSU_ADRH18	R/W	H'FEE0 1990	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル19Hレジスタ	TSU_ADRH19	R/W	H'FEE0 1998	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル20Hレジスタ	TSU_ADRH20	R/W	H'FEE0 19A0	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル21Hレジスタ	TSU_ADRH21	R/W	H'FEE0 19A8	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル22Hレジスタ	TSU_ADRH22	R/W	H'FEE0 19B0	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル23Hレジスタ	TSU_ADRH23	R/W	H'FEE0 19B8	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル24Hレジスタ	TSU_ADRH24	R/W	H'FEE0 19C0	32	H'00000000	H'00000000	H'00000000
CAM エントリテーブル25Hレジスタ	TSU_ADRH25	R/W	H'FEE0 19C8	32	H'00000000	H'00000000	H'00000000
CAM エントリテーブル26Hレジスタ	TSU_ADRH26	R/W	H'FEE0 19D0	32	H'00000000	H'00000000	H'00000000
CAM エントリテーブル27Hレジスタ	TSU_ADRH27	R/W	H'FEE0 19D8	32	H'00000000	H'00000000	H'00000000
CAM エントリテーブル28Hレジスタ	TSU_ADRH28	R/W	H'FEE0 19E0	32	H'00000000	H'00000000	H'00000000
CAM エントリテーブル29Hレジスタ	TSU_ADRH29	R/W	H'FEE0 19E8	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル30Hレジスタ	TSU_ADRH30	R/W	H'FEE0 19F0	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル31Hレジスタ	TSU_ADRH31	R/W	H'FEE0 19F8	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル0Lレジスタ	TSU_ADRL0	R/W	H'FEE0 1904	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル1Lレジスタ	TSU_ADRL1	R/W	H'FEE0 190C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000

名称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
					パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウエアリセット
CAM エントリテーブル2L レジスタ	TSU_ADRL2	R/W	H'FEE0 1914	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル3L レジスタ	TSU_ADRL3	R/W	H'FEE0 191C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル4L レジスタ	TSU_ADRL4	R/W	H'FEE0 1924	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル5L レジスタ	TSU_ADRL5	R/W	H'FEE0 192C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル6L レジスタ	TSU_ADRL6	R/W	H'FEE0 1934	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル7L レジスタ	TSU_ADRL7	R/W	H'FEE0 193C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル8L レジスタ	TSU_ADRL8	R/W	H'FEE0 1944	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル9L レジスタ	TSU_ADRL9	R/W	H'FEE0 194C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル10L レジスタ	TSU_ADRL10	R/W	H'FEE0 1954	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル11L レジスタ	TSU_ADRL11	R/W	H'FEE0 195C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル12L レジスタ	TSU_ADRL12	R/W	H'FEE0 1964	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル13L レジスタ	TSU_ADRL13	R/W	H'FEE0 196C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル14L レジスタ	TSU_ADRL14	R/W	H'FEE0 1974	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル15L レジスタ	TSU_ADRL15	R/W	H'FEE0 197C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル16L レジスタ	TSU_ADRL16	R/W	H'FEE0 1984	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル17L レジスタ	TSU_ADRL17	R/W	H'FEE0 198C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル18L レジスタ	TSU_ADRL18	R/W	H'FEE0 1994	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル19L レジスタ	TSU_ADRL19	R/W	H'FEE0 199C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル20L レジスタ	TSU_ADRL20	R/W	H'FEE0 19A4	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル21L レジスタ	TSU_ADRL21	R/W	H'FEE0 19AC	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル22L レジスタ	TSU_ADRL22	R/W	H'FEE0 19B4	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル23L レジスタ	TSU_ADRL23	R/W	H'FEE0 19BC	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル24L レジスタ	TSU_ADRL24	R/W	H'FEE0 19C4	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル25L レジスタ	TSU_ADRL25	R/W	H'FEE0 19CC	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000

名称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
					パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウエアリセット
CAM エントリテーブル26L レジスタ	TSU_ADRL26	R/W	H'FEE0 19D4	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル27L レジスタ	TSU_ADRL27	R/W	H'FEE0 19DC	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル28L レジスタ	TSU_ADRL28	R/W	H'FEE0 19E4	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル29L レジスタ	TSU_ADRL29	R/W	H'FEE0 19EC	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル30L レジスタ	TSU_ADRL30	R/W	H'FEE0 19F4	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CAM エントリテーブル31L レジスタ	TSU_ADRL31	R/W	H'FEE0 19FC	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
送信フレーム数カウンタレジスタ（0 系）（正常送信のみ）	TXNLCR0	R	H'FEE0 1880	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
送信フレーム数カウンタレジスタ（0 系）（正常及び障害発生を含むすべて）	TXALCR0	R	H'FEE0 1884	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
受信フレーム数カウンタレジスタ（0 系）（正常受信のみ）	RXNLCR0	R	H'FEE0 1888	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
受信フレーム数カウンタレジスタ（0 系）（正常及び障害発生を含むすべて）	RXALCR0	R	H'FEE0 188C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
転送フレーム数カウンタレジスタ（1→0 系）（正常転送のみ）	FWNLCR0	R	H'FEE0 1890	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
転送フレーム数カウンタレジスタ（1→0 系）（正常及び障害発生を含むすべて）	FWALCR0	R	H'FEE0 1894	32	H'00000000	H'00000000	H'00000000
送信フレーム数カウンタレジスタ（1 系）（正常送信のみ）	TXNLCR1	R	H'FEE0 18A0	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
送信フレーム数カウンタレジスタ（1 系）（正常及び障害発生を含むすべて）	TXALCR1	R	H'FEE0 18A4	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
受信フレーム数カウンタレジスタ（1 系）（正常受信のみ）	RXNLCR1	R	H'FEE0 18A8	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
受信フレーム数カウンタレジスタ（1 系）（正常及び障害発生を含むすべて）	RXALCR1	R	H'FEE0 18AC	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
転送フレーム数カウンタレジスタ（0→1 系）（正常転送のみ）	FWNLCR1	R	H'FEE0 18B0	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
転送フレーム数カウンタレジスタ（0→1 系）（正常及び障害発生を含むすべて）	FWALCR1	R	H'FEE0 18B4	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
E-DMAC 起動レジスタ	EDSR0	W	H'FEE0 0000	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
E-DMAC モードレジスタ	EDMR0	R/W	H'FEE0 0400	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
E-DMAC 送信要求レジスタ	EDTRR0	R/W	H'FEE0 0408	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
E-DMAC 受信要求レジスタ	EDRRR0	R/W	H'FEE0 0410	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
送信ディスクリプタリスト先頭アドレスレジスタ	TDLAR0	R/W	H'FEE0 0010	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000

名称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
					パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウエアリセット
送信ディスクリプタフェッチアドレスレジスタ	RDLAR0	R/W	H'FEE0 0030	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
E-MAC/E-DMAC ステータスレジスタ	EESR0	R/W	H'FEE0 0428	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
E-MAC/E-DMAC ステータス割り込み許可レジスタ	EESIPR0	R/W	H'FEE0 0430	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
送受信ステータスコピー指示レジスタ	TRSCER0	R/W	H'FEE0 0438	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
受信ミスドフレームカウンタレジスタ	RMFCR0	R/W	H'FEE0 0440	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
送信FIFO しきい値指定レジスタ	TFTR0	R/W	H'FEE0 0448	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
FIFO 容量指定レジスタ	FDR0	R/W	H'FEE0 0450	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
受信方式制御レジスタ	RMCR0	R/W	H'FEE0 0458	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
受信ディスクリプタフェッチアドレスレジスタ	RDFAR0	R/W	H'FEE0 0034	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
受信ディスクリプタ処理済アドレスレジスタ	RDFXR0	R/W	H'FEE0 0038	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
受信ディスクリプタ最終フラグレジスタ	RDFFR0	R/W	H'FEE0 003C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
送信ディスクリプタフェッチアドレスレジスタ	TDFAR0	R/W	H'FEE0 0014	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
送信ディスクリプタ処理済アドレスレジスタ	TDFXR0	R/W	H'FEE0 0018	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
送信ディスクリプタ最終フラグレジスタ	TDFFR0	R/W	H'FEE0 001C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
オーバフロー予告FIFO しきい値設定レジスタ	FCFTR0	R/W	H'FEE0 0468	32	H'0017 00FF	H'0017 00FF	H'0017 00FF
受信データパディング挿入設定レジスタ	RPADIR0	R/W	H'FEE0 0460	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
E-DMAC起動レジスタ	EDSR1	W	H'FEE0 0800	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
E-DMACモードレジスタ	EDMR1	R/W	H'FEE0 0C00	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
E-DMAC送信要求レジスタ	EDTRR1	R/W	H'FEE0 0C08	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
E-DMAC受信要求レジスタ	EDRRR1	R/W	H'FEE0 0C10	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
送信ディスクリプタリスト先頭アドレスレジスタ	TDLAR1	R/W	H'FEE0 0810	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
受信ディスクリプタリスト先頭アドレスレジスタ	RDLAR1	R/W	H'FEE0 0830	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
E-MAC/E-DMAC ステータスレジスタ	EESR1	R/W	H'FEE0 0C28	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
E-MAC/E-DMAC ステータス割り込み許可レジスタ	EESIPR1	R/W	H'FEE0 0C30	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
送受信ステータスコピー指示レジスタ	TRSCER1	R/W	H'FEE0 0C38	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
受信ミスドフレームカウンタレジスタ	RMFCR1	R/W	H'FEE0 0C40	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
送信FIFO しきい値指定レジスタ	TFTR1	R/W	H'FEE0 0C48	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
FIFO 容量指定レジスタ	FDR1	R/W	H'FEE0 0C50	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000

名称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
					パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウエアリセット
受信方式制御レジスタ	RMCR1	R/W	H'FEE0 0C58	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
受信ディスクリプタフェッチアドレスレジスタ	RDFAR1	R/W	H'FEE0 0834	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
受信ディスクリプタ処理済アドレスレジスタ	RDFXR1	R/W	H'FEE0 0838	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
受信ディスクリプタ最終フラグレジスタ	RDFFR1	R/W	H'FEE0 083C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
送信ディスクリプタフェッチアドレスレジスタ	TDFAR1	R/W	H'FEE0 0814	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
送信ディスクリプタ処理済アドレスレジスタ	TDFXR1	R/W	H'FEE0 0818	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
送信ディスクリプタ最終フラグレジスタ	TDFFR1	R/W	H'FEE0 081C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
オーバフロー予告FIFO しきい値設定レジスタ	FCFTR1	R/W	H'FEE0 0C68	32	H'0017 00FF	H'0017 00FF	H'0017 00FF
受信データパディング挿入設定レジスタ	RPADIR1	R/W	H'FEE0 0C60	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
Gigabit イーサネットコントロールレジスタ	GBECONT	R/W	H'FFC1 0100	32	H'0000 0000	Retained	Retained

23.3.1　ソフトウェアリセットレジスタ（ARSTR）

ARSTR は、GETHER すべてのブロック（E-MAC、TSU 及びE-DMAC）をリセットします。本レジスタのARSTビットに”1” を書き込むことにより、GETHER のすべてのブロックに対しソフトウェアリセットが発行されます（周辺クロック Pck の 128 サイクルの間）。ARST ビットを読み出すと常に ”0” が読み出されます。ソフトウェアリセットの発行期間中は、GETHER のすべてのブロックに対するレジスタアクセスを禁止します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ARST
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～1	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
0	ARST	0	R/W	ソフトウェアリセット 本ビットに”1” を書き込むと、GETHER のすべてのブロックに対しソフトウェアリセットが発行されます（周辺クロックPckで128サイクル間）。”0” を書き込んでも何も行われません。読み出し時は常に”0” が読み出されます。ソフトウェアリセットの発行期間中は、GETHER のすべてのブロックに対するレジスタアクセスを禁止します。また、以下のレジスタは、ソフトウェアリセットでは初期化されません。 TSU_ADRH0 ～ TSU_ADRH31、TSU_ADRL0 ～ TSU_ADRL31 E-MAC-1→E-MAC-0、E-MAC-0→E-MAC-1 転送機能を用いる場合は、必ず、ARST を使用してリセットをしてください。SWRT 及びSWRR ビット（EDMR レジスタのビット1、0）によるソフトウェアリセットでは、E-MAC-1 とE-MAC-0 間の転送機能部（TSU）はリセットされません。

23.3.2　E-MAC モードレジスタ（ECMR）

ECMR は、読み出しまたは書き込み可能な 32 ビットのレジスタで、GETHER の動作モードを指定するレジスタです。通常、本レジスタの設定は、リセット後の初期設定時に行います。

動作モードは、送信及び受信機能が無効な状態で設定してください。動作モードを切り替える場合は、EDMR レジスタの SWRT 及び SWRR ビットにより、E-MAC 及び E-DMAC を初期状態に戻してから再設定してください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	TRCCM	—	—	RCSC	—	DPAD	RZPF	ZPF	PFR	RXF	TXF
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	R/W	—	—	R/W	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	MCT	—	—	—	MPDE	—	—	RE	TE	—	ILB	—	DM	PRM
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	R/W	—	—	—	R/W	—	—	R/W	R/W	—	R/W	—	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～27	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
26	TRCCM	0	R/W	カウンタクリアモード カウンタレジスタのクリア方法を設定します。各レジスタの説明を参照してください。 0：当該レジスタに、任意の値を書き込むと 0クリアされます。 1：当該レジスタを読み出すと0クリアされます。
25、24	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
23	RCSC	0	R/W	サムチェック計算 受信フレームデータ部のサムチェックの自動計算（ハードウェア計算）を行うかどうかを指定します。 0：サムチェック自動計算を行いません。 1：サムチェック自動計算を行います。 ただし、VLANtag を含むフレームに対するサムチェック自動計算はサポートしておりません。
22	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
21	DPAD	0	R/W	データパディング 0：60 バイト未満のデータにパディングを行い、60 バイトのデータとして送信します 1：60 バイト未満のデータにパディングを行わず、そのまま送信します
20	RZPF	0	R/W	0TIMEPAUSE フレーム受信 0：TIME パラメータ値が0 のPAUSE フレームの受信が無効です 1：TIME パラメータ値が0 のPAUSE フレームの受信が有効です

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
19	ZPF	0	R/W	0TIMEPAUSE フレーム使用許可 • 0TIMEPAUSE フレーム使用許可 0：TIME パラメータ値が0 のPAUSE フレーム制御を無効にする Timer 値の示す時間が経過するまで、次のフレーム送信を行いません。Timer 値の示す時間が0 のPAUSE フレームを受信した場合、PAUSE フレームを破棄します。 1：TIME パラメータ値が0 のPAUSE フレーム制御を有効にするTimer 値の示す時間が経過していない状態で、受信FIFO のデータ量がFCFTR レジスタ設定値未満になるとTimer 値が0 の自動PAUSE フレームを送信します。Timer 値の示す時間が0 のPAUSE フレームを受信した場合、送信待ち状態を解除します。
18	PFR	0	R/W	PAUSE フレーム受信モード 0：PAUSE フレームをE-DMAC に転送しません 1：PAUSE フレームをE-DMAC に転送します
17	RXF	0	R/W	受信系フロー制御動作モード 0：PAUSE フレームの検出機能が無効になります 1：受信時系のフロー制御機能が有効になります
16	TXF	0	R/W	送信系フロー制御動作モード 0：送信系のフロー制御機能が無効になります （自動PAUSE フレームは送信されません。） 1：送信系のフロー制御機能が有効になります （必要に応じて自動PAUSE フレームが送信されます。）
15、14	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
13	MCT	0	R/W	マルチキャストアドレスフレーム受信モード 0：CAM エントリテーブル0～31（H/L）レジスタで設定したマルチキャストアドレス以外のフレームのみ受信します。ただし、内蔵CAM エントリテーブル参照が無効になっているときは、マルチキャストアドレスフレームをすべて受信します。 1：CAM エントリテーブル0～31（H/L）レジスタで設定したマルチキャストアドレスのみ受信します。
12 ～ 10	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
9	MPDE	0	R/W	Magic Packet 検出許可 イーサネットからの起動を有効にするため、ハードウェアによるMagic Packetの検出機能を許可するかしないかの選択を行います。 0：Magic Packet の検出を許可しません 1：Magic Packet の検出を許可する
8、7	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
6	RE	0	R/W	受信許可 本ビットを受信機能有効（RE＝1）から無効（RE＝0）としたときに受信中のフレームがあれば、当該フレームの受信終了まで受信機能は有効となります。 0：受信機能を無効にする 1：受信機能を有効にする
5	TE	0	R/W	送信許可 本ビットを送信機能有効（TE＝1）から無効（TE＝0）としたときに送信中のフレームがあれば、当該フレームの送信終了まで送信機能は有効となります。 0：送信機能を無効にする 1：送信機能を有効にする
4	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
3	ILB	0	R/W	内部ループバックモード GETHER 内部でのループバックモードを指定します。 0：通常のデータ送受信を行う 1：DM＝1 のとき、GETHER 内のE-MAC 内部でのデータの折り返しを行う
2	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
1	DM	0	R/W	デュプレックスモード GETHER の転送方式を指示します。 0：半二重転送方式を指定する 1：全二重転送方式を指定する
0	PRM	0	R/W	プロミスキャスモード 本ビットを設定するとすべてのイーサネットフレームが受信できます。すべてのイーサネットフレームとは、宛先アドレス、ブロードキャストアドレス、マルチキャストビットなどの違いやそれらの有効、無効の状態に関係なくすべての受信可能なフレームのことです。 0：GETHER は、通常動作を行う 1：GETHER は、プロミスキャスモード動作を行う

注.　TE 及びRE ビットを除くすべてのビットは、送信機能が無効（TE＝0）かつ受信機能が無効（RE＝0）の状態で書き換えてください。

23.3.3　E-MAC ステータスレジスタ（ECSR）

ECSR は、読み出しまたは書き込み可能な 32 ビットのレジスタで、E-MAC 内のステータスを表示するレジスタです。本ステータスは、割り込みによって CPU に通知することが可能です。PFROI、MPD、ICD に 1 を書き込むと、対応するフラグをクリアできます。0 を書き込んだ場合は、フラグに影響を与えません。また割り込みを発生するビットは、ECSIPR の対応するビットによって割り込みを許可または禁止することができます。

本ステータスレジスタが要因で発生する割り込みは、0 系では E-DMAC0、1 系では E-DMAC1 の EESR レジスタ ECI ビットに反映されます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	PFROI	—	—	MPD	ICD
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	—	—	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 5	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
4	PFROI	0	R/W	PAUSE フレーム再送リトライオーバ フロー制御を用いる際の PAUSE フレームの再送において、再送回数が PAUSE フレーム再送回数設定レジスタ（TPAUSER）に設定した再送上限値を超えたことを表します。 0：PAUSE フレーム再送信回数が上限値を超えていない 1：PAUSE フレーム再送信回数が上限値を超えた
3、2	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
1	MPD	0	R/W	Magic Packet 検出 回線上から Magic Packet を検出したことを表します。 0：Magic Packet を検出していない 1：Magic Packet を検出した
0	ICD	0	R/W	不正キャリア検出 回線上で PHY-LSI が不正なキャリアを検出したことを表します。ただし、PHY-LSI から入力される信号の変化がソフトウェアの認識時間よりも早く変化するような場合は、正しい情報が得られないことがあります。採用する PHY-LSI のタイミングを参照してください。 0：PHY-LSI は、回線上で不正キャリアを検出していない 1：PHY-LSI は、回線上で不正キャリアを検出した 注．　転送速度が 1000Mbps のとき、 ICD は対応していません。

23.3.4　E-MAC 割り込み許可レジスタ（ECSIPR）

ECSIPR は、読み出しまたは書き込み可能な 32 ビットのレジスタで、ECSR によって報告される割り込み要因の許可を指示します。各ビットは、ECSR のビットに対応する割り込みを許可することができます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	PFROIP	—	—	MPDIP	ICDIP
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	—	—	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～5	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
4	PFROIP	0	R/W	PAUSE フレーム再送割り込み許可ビット 0：PFROI の割り込み通知を禁止 1：PFROI の割り込み通知を許可
3、2	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
1	MPDIP	0	R/W	Magic Packet 検出割り込み許可ビット 0：MPD の割り込み通知を禁止 1：MPD の割り込み通知を許可
0	ICDIP	0	R/W	不正キャリア検出割り込み許可ビット 0：ICD の割り込み通知を禁止 1：ICD の割り込み通知を許可 注．　転送速度が1000Mbpsのとき、 ICDは対応していません。

23.3.5　PHY 部インタフェースレジスタ（PIR）

PIR は、読み出しまたは書き込み可能な32 ビットのレジスタで、MDIO を経由してPHY-LSI 内部のレジスタにアクセスする手段を提供します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	MDI	MDO	MMD	MDC
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～4	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
3	MDI	不定	R	マネジメントデータイン ET_MDIO 端子のレベルを表します。
2	MDO	0	R/W	マネジメントデータアウト MMD ビットが1 のとき、本ビットに設定された値をET_MDIO 端子より出力します。
1	MMD	0	R/W	マネジメントモード ET_MDIO端子のリード／ライト方向を規定します。 0：リード方向を規定 1：ライト方向を規定
0	MDC	0	R/W	マネジメントデータクロック 本ビットに設定された値をET_MDC 端子より出力し、PHY-LSI へのマネジメントデータクロックを供給します。MII レジスタへのアクセス方法については、「23.5.1　MII レジスタのアクセス方法」を参照してください。

23.3.6　MAC アドレス上位設定レジスタ（MAHR）

MAHR は、読み出しまたは書き込み可能な 32 ビットのレジスタで、48 ビットの MAC アドレスの上位 32 ビットを設定します。通常、本レジスタの設定は、リセット後の初期設定時に行います。MAC アドレスの設定は、送信及び受信機能が有効な状態で書き換えることを禁止します。EDMR の SWRT 及び SWRR ビットにより E-MAC 及び E-DMAC を初期状態に戻してから再設定してください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	MA[47:32]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	MA[31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	MA[47:16]	すべて 0	R/W	MAC アドレスビット 47 ～ 16 MAC アドレスの上位 32 ビットを設定します。 MAC アドレスが 01-23-45-67-89-AB（16 進数表示）である場合、本レジスタには H'01234567 を設定します。

23.3.7　MAC アドレス下位設定レジスタ（MALR）

MALR は、読み出しまたは書き込み可能な 32 ビットのレジスタで、48 ビットの MAC アドレスの下位 16 ビットを設定します。通常、本レジスタの設定は、リセット後の初期設定時に行います。MAC アドレスの設定は、送信または受信機能が有効な状態で書き換えることを禁止します。EDMR の SWRT 及び SWRR ビットにより E-MAC 及び E-DMAC を初期状態に戻してから再設定してください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	MA[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

15 ～ 0	MA[15:0]	すべて0	R/W	MACアドレスビット15～0 MAC アドレスの下位16 ビットを設定します。 MAC アドレスが01-23-45-67-89-AB（16 進数表示）である場合、本レジスタにはH'000089AB を設定します。

23.3.8　受信フレーム長上限レジスタ（RFLR）

RFLR は、読み出しまたは書き込み可能な32 ビットのレジスタで、本LSI が受信することのできる最大フレーム長をバイト単位で指定します。本レジスタは、受信機能が有効な状態での書き換えを禁止します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	RFL[17:16]	
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RFL[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～18	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
17～ 0	RFL[17:0]	すべて0	R/W	受信フレームデータ長 ここでのフレームデータは、宛先アドレスからCRC データまでを含んだ範囲となりますが、実際には、宛先アドレスからデータまでがメモリ上に転送されます。CRC データは含まれません。ここで指定された値を超えたデータを受信したとき、設定された値を超えた分のデータは破棄されます。 H'00000 ～ H'005EE: 1,518 バイト H'005EF: 1,519 バイト H'005F0: 1,520 バイト ：　： H'007FF: 2,047 バイト H'00800: 2,048 バイト ：　： H'01000: 4,096 バイト ：　： H'10000: 65,536 バイト ：　： H'20000 ～ H'3FFFF: 131,072 バイト

23.3.9　送信リトライオーバカウンタレジスタ（TROCR）

TROCR は、送信時に再送を合わせて16 回の試行で送信できなかったフレーム数を示す16 ビットのカウンタです。送信を16 回失敗すると、本レジスタは1 カウントアップします。本レジスタの値が、H'0000FFFF になるとカウントアップを停止します。本レジスタは、TRCCM ビット（ECMR レジスタのビット26）＝1 の場合、読み出し時に0 クリアされます。

ECMR レジスタのTRCCM ビット＝0 の場合、本レジスタへ任意の値を書き込むことにより0 クリアされます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TROC[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～16	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
15 ～ 0	TROC[15:0]	すべて0	R/W	送信リトライオーバカウント 送信時に、再送を合わせて16 回の試行で送信できなかったフレームのカウント数を表します。

23.3.10　遅延衝突検出カウンタレジスタ（CDCR）

CDCR は、送信開始以降すべての回線上の衝突回数を示す16 ビットのカウンタで、H'0000FFFF になるとカウントアップを停止します。本レジスタは、ECMR レジスタのTRCCM ビット＝1 の場合、読み出し時に0 クリアされます。

ECMR レジスタのTRCCM ビット＝0 の場合、本レジスタへ任意の値を書き込むことにより0 クリアされます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	COSDC[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

15～0	COSDC[15:0]	すべて0	R/W	衝突検出カウント 送信開始からのすべての衝突の回数を表します。

23.3.11 キャリア消失カウンタレジスタ（LCCR）

LCCR は、データの送信中にキャリアが消失した回数を示す16 ビットのカウンタで、H'0000FFFF になるとカウントアップを停止します。本レジスタは、ECMR レジスタの TRCCM ビット＝1 の場合、読み出し時に0 クリアされます。

ECMR レジスタのTRCCM ビット＝0 の場合、本レジスタへ任意の値を書き込むことにより0 クリアされます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	LCC[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
15 ～ 0	LCC[15:0]	すべて0	R/W	キャリア消失カウント データ送信中にキャリアが消失した回数を表します。

23.3.12 CRC エラーフレーム受信カウンタレジスタ（CEFCR）

CEFCR は、CRC エラーとなったフレームの受信回数を示す16 ビットのカウンタで、H'0000FFFF になるとカウントアップを停止します。本レジスタは、ECMR レジスタの TRCCM ビット＝1 の場合、読み出し時に0 クリアされます。

ECMR レジスタのTRCCM ビット＝0 の場合、本レジスタへ任意の値を書き込むことにより0 クリアされます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	CEFC[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
15～ 0	CEFC[15:0]	すべて0	R/W	CRCエラーフレームカウント CRC エラーとなったフレームを受信した回数を表します。

23.3.13 フレーム受信エラーカウンタレジスタ（FRECR）

FRECR は、PHY-LSI から入力される ET_RX-ER 端子により受信エラーとなったフレームの個数を示す16 ビットのカウンタです。ET_RX-ER 端子がアクティブになるごとに1 カウントアップします。本レジスタの値が H'0000FFFF になるとカウントアップを停止します。本レジスタは、ECMR レジスタの TRCCM ビット＝1 の場合、読み出し時に0 クリアされます。ECMR レジスタの TRCCM ビット＝0 の場合、本レジスタへ任意の値を書き込むことにより 0 クリアされます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	FREC[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
15 ～ 0	FREC[15:0]	すべて0	R/W	フレーム受信エラーカウント フレームを受信中にエラーとなった回数を表します。

23.3.14 64 バイト未満フレーム受信カウンタレジスタ （TSFRCR）

TSFRCR は、64 バイト未満のフレームを受信した回数を示す 16 ビットのカウンタです。本レジスタの値が H'0000FFFF になるとカウントアップを停止します。本レジスタは、ECMR レジスタの TRCCM ビット＝1 の場合、読み出し時に0クリアされます。ECMR レジスタの TRCCM ビット＝0 の場合、本レジスタへ任意の値を書き込むことにより 0 クリアされます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TSFC[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
15 ～ 0	TSFC[15:0]	すべて0	R/W	64バイト未満フレーム受信カウント 64 バイト未満のフレームを受信した回数を表します。

23.3.15 指定バイト超フレーム受信カウンタレジスタ（TLFRCR）

TLFRCR は、受信フレーム長上限レジスタ（RFLR）で指定した値を超えるフレームを受信した回数を示す16ビットのカウンタです。本レジスタの値がH'0000FFFF になるとカウントアップを停止します。端数ビットを含むフレームを受信した場合は、本レジスタはカウントアップしません。この場合は、端数ビットフレーム受信カウンタレジスタ（RFCR）に反映されます。本レジスタは、ECMR レジスタの TRCCM ビット＝1 の場合、読み出し時に0 クリアされます。ECMR レジスタの TRCCM ビット＝0 の場合、本レジスタへ任意の値を書き込むことにより 0 クリアされます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TLFC[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
15 ～ 0	TLFC[15:0]	すべて0	R/W	指定バイト超フレーム受信カウント RFLR の値を超えるフレームを受信した回数を表します。

23.3.16 端数ビットフレーム受信カウンタレジスタ（RFCR）

RFCR は、8 ビットに満たない端数ビットデータを含むフレームを受信した回数を示す16 ビットのカウンタで、H'0000FFFF になるとカウントアップを停止します。本レジスタは、ECMR レジスタのTRCCM ビット＝1 の場合、読み出し時に0クリアされます。ECMR レジスタのTRCCM ビット＝0 の場合、本レジスタへ任意の値を書き込むことにより0 クリアされます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RFC[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
15 ～ 0	RFC[15:0]	すべて0	R/W	端数ビットフレーム受信カウント 端数ビットデータを含むフレームを受信した回数を表します。

23.3.17 キャリア拡張消失カウンタレジスタ（CERCR）

CERCR は、キャリア拡張を消失したフレームを受信した回数を示す16 ビットのカウンタで、H'0000FFFF になるとカウントアップを停止します。本レジスタは、ECMR レジスタのTRCCM ビット＝1 の場合、読み出し時に0 クリアされます。

ECMR レジスタのTRCCM ビット＝0 の場合、本レジスタへ任意の値を書き込むことにより0 クリアされます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	CERC[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
15 ～ 0	CERC[15:0]	すべて0	R/W	キャリア拡張消失フレーム受信カウント キャリア拡張を消失したフレームを受信した回数を表します。

23.3.18 キャリア拡張エラーカウンタレジスタ（CEECR）

CEECR は、キャリア拡張が不正なフレームを受信した回数を示す16 ビットのカウンタで、H'0000FFFF になるとカウントアップを停止します。本レジスタは、ECMR レジスタのTRCCM ビット＝1 の場合、読み出し時に0 クリアされます。

ECMR レジスタのTRCCM ビット＝0 の場合、本レジスタへ任意の値 を書き込むことにより0 クリアされます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	CEEC[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

15 ～ 0	CEEC[15:0]	すべて0	R/W	キャリア拡張エラーカウント キャリア拡張が不正なフレームを受信した回数を表します。

23.3.19 マルチキャストアドレスフレーム受信カウンタレジスタ（MAFCR）

MAFCR は、マルチキャストアドレスを指定するフレームを受信した回数を示す16 ビットのカウンタで、H'0000FFFF になるとカウントアップを停止します。本レジスタの 0 クリア方法は、本レジスタは、ECMR レジスタのTRCCM ビット＝1 の場合、読み出し時に0 クリアされます。ECMR レジスタのTRCCM ビット＝0 の場合、本レジスタへ任意の値を書き込むことにより 0 クリアされます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	MAFC[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
15 ～ 0	MAFC[15:0]	すべて0	R/W	マルチキャストアドレスフレームカウント マルチキャストフレームを受信した回数を表します。

23.3.20 自動PAUSE フレーム設定レジスタ（APR）

APR は、自動PAUSE フレームのTIME パラメータ値を設定します。自動PAUSE フレームを送信するときに、このレジスタに設定した値をPAUSE フレームのTIME パラメータとして使用します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	AP[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
15 ～ 0	AP[15:0]	すべて0	R/W	自動PAUSE 自動PAUSE フレームのTIME パラメータ値を設定します。このとき1 ビットは、512 ビット時間を表します。 送信時のフロー制御機能（PAUSE フレーム送信）を有効とした場合（TXF ビット（ECMR レジスタのビット16）=1）、本ビットにはH'0000 以外の値を設定してください。 H'0000：ー H'0001：512×1 ビット時間 H'0002：512×2 ビット時間 ：　： H'FFFF：512×65535 ビット時間 注．ビット時間は、転送速度に応じて以下のようになります。 1000Mbps 時：1 ビット時間＝1ns 100Mbps 時：1 ビット時間＝10ns 10Mbps 時：1 ビット時間＝100ns

23.3.21 手動PAUSE フレーム設定レジスタ（MPR）

MPR は、手動PAUSE フレームのTIME パラメータ値を設定します。手動PAUSE フレームを送信するときに、このレジスタに設定した値をPAUSE フレームのTIME パラメータとして使用します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	MP[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
15 ～ 0	MP[15:0]	すべて0	R/W	手動PAUSE 手動PAUSE フレームのTIME パラメータ値を設定します。このとき1 ビットは、512 ビット時間を表します。 H'0000：ー H'0001：512×1 ビット時間 H'0002：512×2 ビット時間 ：　： H'FFFF：512×65535 ビット時間 注．ビット時間は、転送速度に応じて以下のようになります。 1000Mbps 時：1 ビット時間＝1ns 100Mbps 時：1 ビット時間＝10ns 10Mbps 時：1 ビット時間＝100ns

23.3.22 自動PAUSE フレーム再送回数設定レジスタ（TPAUSER）

TPAUSER は、自動PAUSE フレームの再送回数の上限値を設定します。本レジスタは、送信機能が有効な状態での書き換えを禁止します。本レジスタは、送信機能が有効な状態で書き換えることを禁止します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TPAUSE[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
15 ～ 0	TPAUSE[15:0]	すべて0	R/W	自動PAUSE フレーム再送回数上限値 H'0000：再送回数無制限 H'0001：再送回数は、1 回 ：　： H'FFFF：再送回数は、65535 回

23.3.23 PAUSE フレーム送信カウンタレジスタ（PFTCR）

PFCTR は、PAUSE フレームを送信した回数を示す16 ビットのカウンタです。本レジスタは、読み出し時に0クリアされます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PFTXC[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
15 ～ 0	PFTXC[15:0]	すべて0	R	PAUSE フレーム送信カウント 自動PAUSE フレームと手動PAUSE フレームの送信回数をあわせて表します。

23.3.24 PAUSE フレーム受信カウンタレジスタ（PFRCR）

PFCTR は、PAUSE フレームを受信した回数を示す16 ビットのカウンタです。本レジスタは、読み出し時に0クリアされます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PFRXC[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
15 ～ 0	PFRXC[15:0]	すべて0	R	PAUSE フレーム受信カウント 受信時のフロー制御機能有効（RXF ビット（ECMR レジスタのビット17）＝1）時、PAUSE フレームを受信した回数を表します。

23.3.25 GETHER モードレジスタ（GECMR）

GECMR は、GETHER の動作モードを設定します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	SPEED[1:0]		—	—	BSE	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	B'10		0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W		—	—	R/W	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 6	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
5、4	SPEED[1:0]	B'10	R/W	転送速度 00:10 Mbps 01:100 Mbps 10:1000 Mbps 11:リザーブ
3、2	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
1	BSE	0	R/W	バースト転送許可 0：バースト転送を行いません。 1：転送速度が1Gbps で、半二重転送モード（DM ビット（ECMR レジスタのビット1）=0）時、バースト転送を行います。
0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

23.3.26 バーストサイクル回数上限設定レジスタ（BCULR）

BCULR は、バーストサイクル回数の上限値を設定します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	BSTLMT[11:0]											
初期値：	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 12	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
11 ～ 0	BSTLMT[11:0]	H'800	R/W	バーストサイクル上限値 バーストサイクルの上限値を設定します。バーストタイマが本レジスタの設定値を超えるとバースト転送を終了します。フレームの転送中に、バーストタイマが本レジスタの設定値を超えたとき、転送中のフレームの転送終了を待ってバースト転送を終了します。 H'000～H'100：バーストサイクル数は、256 サイクル H'101：バーストサイクル数は、257 サイクル ：　　： H'FFE：バーストサイクル数は、4094 サイクル H'FFF：バーストサイクル数は、4095 サイクル 注．1 サイクル＝32ns です。

23.3.27 インバンドステータスモード設定レジスタ（IBSMR）

IBSMR レジスタは E-MAC の動作モードの選択にインバンドステータスフィールドを使用するか設定します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	SEL_SPEED	SEL_DUPLEX	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 3	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
2	SEL_SPEED	0	R/W	スピード選択 0: GECMR レジスタの値を使用 1: インバンドステータスフィールドからの情報を使用 注．PHY がインバンドステータスフィールドに適合しない場合は、本ビットに“0”をセットしてください。
1	SEL_DUPLEX	0	R/W	デュプレックス選択 0: ECMR レジスタの DM ビット値を使用 1: インバンドステータスフィールドからの情報を使用 注．PHY がインバンドステータスフィールドに適合しない場合は、本ビットに“0”をセットしてください。

0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

注.　インバンドステータスフィールドはPHYに関する情報をE-MACに通知出来るオプションです。リンクの状態（アップ又はダウン）、転送速度(10M,100M,1G)、デュプレクシング（半二重又は全二重）をRGMIIインタフェースで指示します。本レジスタの値を設定する前に送信（TEビット（ECMRレジスタのビット5）をクリア）と受信（REビット（ECMRレジスタのビット6）をクリア）を無効にしてください。

23.3.28 インバンドステータス（IBSR）

IBSRレジスタはRGMIIインタフェースのインバンドステータス（注1）を示します。

注1. インバンドステータスはRGMIIインタフェースを使用してPHYからE-MACへリンクの状態（アップ/ダウン）、転送速度、デュプレックス（半二重/全二重）を通知するオプション機能です。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	INBAND_SPEED		INBAND_DUPLEX	INBAND_LINK
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	X	X	X	X
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R (注)	R (注)	R (注)	R (注)

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 4	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
3、2	INBAND_SPEED	XX	R（注）	インバンドステータス速度 10：1Gbps 01：100Mbps 00：10Mbps
1	INBAND_DUPLEX	X	R（注）	インバンドステータスデュプレックス 0：半二重 1：全二重
0	INBAND_LINK	X	R（注）	インバンドステータスリンク 0：リンクオフ（リンクダウン） 1：リンクオン（リンクアップ）

注.　インバンドステータスをサポートしないPHYを使用するときは、読み出した値は不定となります。

23.3.29 E－MACモードのスピード／デュプレックス通知（SDLR）

SDLRはE-MACの動作モード（スピードとデュプレックス）を示します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	SPEED		INBAND_DUPLEX	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	B'10		0	1
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R		R/W	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 4	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
3、2	SPEED	B'10	R	スピード 10：1Gbps 01：100Mbps 00：10Mbps
1	INBAND_DUPLEX	0	R	デュプレックス 0：半二重 1：全二重
0	—	1	—	リザーブビット （読み出すと“1”が読めます。書き込む値は“1”にしてください）

23.3.30 RGMIIモードレジスタ（RGMIIMR）

RGMIIMRはRGMIIインタフェースを設定するレジスタです。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	DOWN_CNT												—	DLY_MTXC		
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	DLY_MTXC				—	—	—	—	DLY_MHTX	DLY_GHTX	DIS_RXCRR	DIS_MRXER	—	DIS_MCRSFCI	DIS_GCRSFCI	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	—	R/W	R/W	—

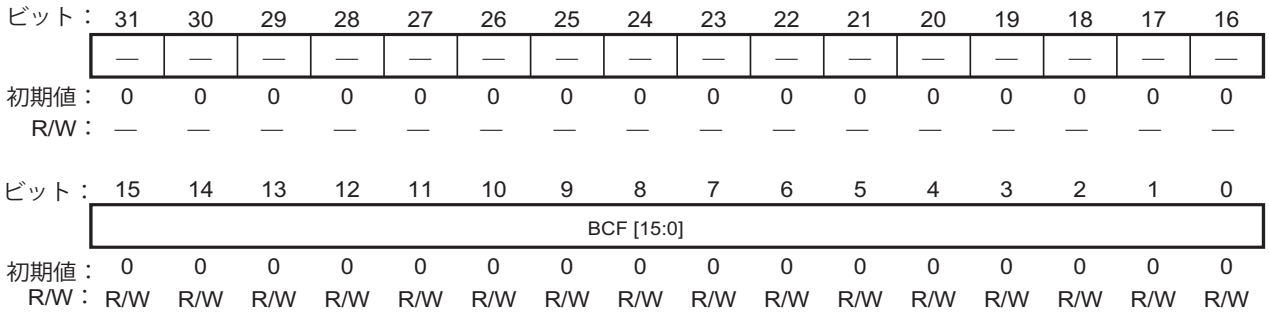
ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～20	DOWN_CNT	すべて0	R/W	250-MHz クロックダウンカウンタ 本フィールドでは、250-MHz クロック（1 サイクル = 4 ns）の 1 サイクルごとにカウントダウンを行います。すべてのビットが0のとき、カウントが停止します。 注． 800 (H'320) がDOWN_CNTに書き込まれると、DOWN_CNTは 3.2 µs （3200 ns）になります。
19	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
18 ～12	DLY_MTXC	すべて0	R/W	10/100-Mbps動作におけるETn-TXC遅延値を示します。 0：0サイクル遅延 1：1サイクル遅延 ： 49：49サイクル遅延 50：50サイクル遅延（50サイクル早着） ： 99：99サイクル遅延（1サイクル早着）（注1） 100～127：リザーブ これらのビット値が変わると、ETn-TXC遅延の新しい値への反映は最大で3.2 µs (3200ns)かかります。したがって、追加の送受信の前に少なくとも3.2 µs 待つことで新しい値が有効になるようにしてください。
11 ～ 8	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
7	DLY_MHTX	0	R/W	10/100Mbps時の半二重操作用の送信遅延モード（デバッグで使用）。 初期値として本ビットに0をセットしてください。
6	DLY_GHTX	0	R/W	1Gbps時の半二重操作用の送信遅延モード（デバッグで使用）。 初期値として本ビットに0をセットしてください。
5	DIS_RXCRR	0	R/W	10/100 Mbps動作におけるキャリアセンシング受信ディセーブルビットです。 0：キャリアセンス (PLS_Carrier.Indicate) 値はCRSとして使用されます。 1：キャリアセンス (PLS_Carrier.Indicate) 値はCRSとして使用されません。 注． 初期値として本ビットに“0”をセットしてください。
4	DIS_MRXER	0	R/W	10/100 Mbps 動作におけるRX_ER ディセーブルビットです。 0：ETn-RXC の立ち上がり、立ち下がりエッジの ETn-RX_CTL 排他的論理和(XOR)はRX_ERビットとして使用されます。 1：ETn-RXC の立ち上がり、立ち下がりエッジの ETn-RX_CTL 排他的論理和(XOR)はRX_ERビットとして使用されません。 注． 初期値として本ビットに“0”をセットしてください。
3	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
2	DIS_MCRSFCI	0	R/W	10/100-Mbps動作中のCRSジャッジメントにおけるディセーブルFCIビットです。 0：FCI（不正キャリア）はCRSとして使用されます。 1：FCI（不正キャリア）はCRSとして使用されません。 注. 初期値として本ビットに“0”をセットしてください。
1	DIS_GCRSFCI	0	R/W	10/100-Mbps動作中のCRSジャッジメントにおけるディセーブルFCIビットです（デバッグで使用）。 初期値として本ビットに“0”をセットしてください。
0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

注1. 250MHz時、1サイクル＝4ns
2. 本レジスタを設定する前に送信（ECMRレジスタのTEビットをクリア）と受信（EMCRレジスタのREビットをクリア）を無効にしてください。DLY_MTXCを変更する場合、追加で送受信する前に少なくとも3.2μs待ってください。10/100Mbps動作用の設定は1Gbps動作時に使用しません。また、1Gbps動作用の設定は10/100Mbps動作時に使用しません。そのためリセット後、初期値設定以降にRGMIIMRレジスタを変更しないでください。

23.3.31 ブロードキャストフレーム受信カウント設定レジスタ（GBE_BCFRR）

BCFRRは連続して受信するブロードキャストフレームの数をセットするレジスタです。



ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
15 ～ 0	BCF15 to BCF0	すべて0	R/W	連続ブロードキャストフレーム受信カウント設定 DA（宛先アドレス）は受信数がビットの設定値に達するまでブロードキャストアドレスを含むフレームを受信できます。フレーム数が設定値を上回った場合は、次のブロードキャストフレームは廃棄されます。 H'0000：制限なし H'0001：1フレーム受信 ：　： H'FFFF： 65535フレーム受信

23.3.32 BCFRRカウントリセット（GBE_CRBCFRR）

CRBCFRRはBCFRRのカウンタをリセットします。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	CNT[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
15 ～ 0	CNT15 to CNT0	すべて0	R/W	CNT ビットはBCFRRカウンタがオーバーフローし、BCFRRの値を超えたときにのみインクリメントします。 CNT ビットがH’FFFFになると、カウントアップが停止します。 最終フレームがブロードキャストされると、CNTビットはインクリメントされません。

23.3.33 MDIOコントローラステータス（MDIOSTS）

MDIOSTS はPHY部レジスタアクセスの状態を指定するのに使用されます（MDIOアクセス）。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	BSY
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 1	—	0	—	リザーブビット（読み出すと“0”が読めます）
0	BSY	0	R	PHY部 レジスタアクセスビジーフラグ 0：アクセス有効 1：ビジー状態 本ビットが”1”にセットされたときは、MDIOCMD、MDIOADR、MDIODAT、MDIOMOD レジスタに書き込まないでください。

23.3.34 MDIOコントローラコマンド（MDIOCMD）

MDIOCMD はPHY部レジスタアクセスのコマンドを指定するのに使用されます（MDIOアクセス）。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	OP	
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 2	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
1、0	OP	すべて0	R/W	PHY レジスタにアクセスするオペレーションコード 00：設定禁止 01：ライト 10：リード 11：設定禁止 BSYビット（MDIOSTS レジスタのビット0）が1にセットされたときは、本レジスタに書き込まないでください。

23.3.35 MDIOコントローラアドレス（MDIOADR）

MDIOADR レジスタはPHYアドレスとPHY レジスタアドレスを設定します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	A[9:5]					A[4:0]				
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 10	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
9 ～5	A[9:5]	すべて0	R/W	PHYアドレス5 ビット
4 ～ 0	A[4:0]	すべて0	R/W	PHY レジスタアドレス5 ビット

注.　MDIOSTS レジスタのBSYビットが”1”のときは、本レジスタに書き込まないでください。

23.3.36 MDIOコントローラデータ（MDIODAT）

MDIODATレジスタは書き込み時、PHYへの書き込みデータを設定します。読み出し時はPHYからの読み出しデータを格納します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	D[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
15 ～ 0	D[15:0]	すべて0	R/W	PHY レジスタデータ 書き込み時：書き込み用のデータ 読み出し時：データの読み出し

注.　MDIOSTSレジスタのBSYビットが“1”のときは、本レジスタに書き込まないでください。

23.3.37 MDIOコントローラモード設定（MDIOMOD）

MDIOMODレジスタはMDIOコントローラの動作モードをセットします。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	SEL_MDIO	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	CYC_OCLK							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31	SEL_MDIO	1	R/W	PHY レジスタアクセスセレクト（MDIOアクセスセレクト） 0：MDIOコントローラを使用 1：PIRレジスタを使用（初期値）。
30 ～ 8	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～ 0	CYC_OCLK	すべて1	R/W	システムクロックサイクル数としてのMDC （MDIOコントロールクロック）の半周期 H’00：7 サイクル H’01：7 サイクル : H’06：7 サイクル H’07：8 サイクル H’08：9 サイクル H’09：10 サイクル : H’FE：255 サイクル H’FF：256 サイクル（初期値） MDCクロックの半周期が少なくとも200 nsになるようにビットをセットしてください。 サンプル計算: システムクロック周波数が133 MHz （1 サイクル - 7.5 ns）のとき、27 サイクルは200 nsになり→設定値は H’ 1 A (26)です。 7.5 x 27＝ 202.5 ≧ 200 サンプル設定 66.66 MHz (15 ns)のシステムクロック: 設定 ≧ H’0D (13); (14 サイクル x 15 ns - 210 ns) 133.33 MHz (7.5 ns)のシステムクロック: 設定 ≧ H’1A (26); (27 サイクル x 7.5 ns - 202.5 ns) 266.6 MHz (3.75 ns)のシステムクロック: 設定 ≧ H’35 (53); (54 サイクル x 3.75 ns - 210 ns)

注.　PHY レジスタへのアクセス中にビットへ書き込むことは禁止されています。

23.3.38 TSU カウンタリセットレジスタ（TSU_CTRST）

TSU_CTRST は、送信、受信、及び転送フレーム数カウンタを0 にクリアします。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	CTRST	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	R/W	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 9	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
8	CTRST	0	R/W	TSU カウンタリセット 本ビットに1を書き込むと TXNLCR0/TXNLCR1、TXALCR0/TXALCR1、RXNLCR0/RXNLCR1、RXALCR0/RXALCR1、FWNLCR0/FWNLCR1、FWALCR0/FWALCR1 レジスタが“0”になります。“0”を書き込んでも、本ビットに影響はなく、常に“0”が読み出されます。
7 ～ 0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

23.3.39 転送イネーブルレジスタ（0→1 系）（TSU_FWEN0）

TSU_FWEN0 は、E-MAC-0 からE-MAC-1 への転送動作（転送FIFO への書き込み）を許可または禁止します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	FWEN0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31	FWEN0	0	R/W	0→1 系転送動作イネーブル 0：0→1 系転送動作を禁止 1：0→1 系転送動作を許可 転送FIFO 容量選択レジスタ TSU_FCM のFCM[2:0]の値をH'4 に設定した場合は、本ビットを”1” にセットすることを禁止します。
30 ～ 0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

23.3.40 転送イネーブルレジスタ（1→0 系）（TSU_FWEN1）

TSU_FWEN1 は、E-MAC-1 からE-MAC-0 への転送動作（転送FIFO への書き込み）を許可または禁止します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	FWEN1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31	FWEN1	0	R/W	1→0 系転送動作イネーブル 0：1→0 系転送動作を禁止 1：1→0 系転送動作を許可 転送FIFO 容量選択レジスタ TSU_FCM のFCM[2:0]の値をH'3 に設定した場合は、本ビットを”1” にセットすることを禁止します。
30 ～ 0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

23.3.41 転送FIFO 容量選択レジスタ（TSU_FCM）

TSU_FCM は、E-MAC-0、E-MAC-1 相互間の転送動作時に用いる、TSU 内の転送 FIFO の容量を選択します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	FCM[2:0]		
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 3	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
2 ～ 0	FCM[2:0]	すべて0	R/W	転送FIFO 容量 H'0：0→1 系：3K バイト、1→0 系：3K バイト H'1：0→1 系：4K バイト、1→0 系：2K バイト H'2：0→1 系：5K バイト、1→0 系：1K バイト H'3：0→1 系：6K バイト、1→0 系：使用しない H'4：0→1 系：使用しない、1→0 系：6Kバイト H'5：0→1 系：1K バイト、1→0 系：5K バイト H'6：0→1 系：2K バイト、1→0 系：4K バイト H'7：設定禁止 いったん転送動作を許可した後（TSU_FWEN0 のFWEN0 または TSU_FWEN1のFWEN1 を”1” にセットした後）の本レジスタへの書き込みは無効です。 転送FIFO に「設定した容量－64 バイト」以上のデータが格納されると、オーバフローを検出し転送途中のフレームは破棄されます。

23.3.42 転送FIFO オーバフロー予告設定レジスタ（0 系）（TSU_BSYSL0）

TSU は、転送動作時に転送 FIFO 内に書き込まれたデータ量があるしきい値を超えると、E-MAC-0/1 に対し転送 FIFO への書き込みができなくなることを予告通知する機能を有しています。TSU_BSYSL0 は、転送動作時TSUからE-MAC-0 に対し、転送FIFO への書き込みができなくなることを予告通知するときの転送FIFO のしきい値を設定します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	BSYSL0[5:0]					
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 6	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
5 ～ 0	BSYSL0[5:0]	111111	R/W	転送動作時、TSU からE-MAC-0 に対し、転送FIFO への書き込みができなくなることを予告通知するときの0→1 系転送FIFO 容量のしきい値を、256 バイト単位で設定します。 H'00：0 バイト H'01：256 バイト H'02：512 バイト ：　　： H'29：12,032 バイト H'30：12,288 バイト H'31～H'3F は、設定無効です（予告通知は常にしません）。 転送FIFO の書き込み容量が、本ビットで設定したしきい値を超えると、TSUからE-MAC-0 に対し転送FIFO への書き込みができなくなることを予告通知します。その後、転送FIFO の書き込み容量が本しきい値を16 バイト下回ると予告通知を停止します。 H'00 を設定したときは、常にTSU からE-MAC-0 に対し転送FIFO への書き込みができなくなることを予告通知します。設定値がTSU_FCM のFCM[2:0]で設定した0→1 系転送FIFO 容量以上（同じ値を含む）のときは、TSU はE-MAC-0に対し転送FIFO への書き込みができなくなることを予告通知しません。 いったん転送動作を許可した後（TSU_FWEN0 のFWEN0 またはTSU_FWEN1のFWEN1 を”1” にセットした後）の本レジスタへの書き込み動作を禁止します。 また、転送動作のイネーブルビット（TSU_FWEN0 のFWEN0 またはTSU_FWEN1 のFWEN1）を0 にクリアしたときは、TSU からE-MAC-0 に対する転送FIFO への書き込み不可の予告通知は停止します。

23.3.43 転送FIFO オーバフロー予告制御設定レジスタ（1 系）（TSU_BSYSL1）

TSU は、転送動作時に転送 FIFO 内に書き込まれたデータ量があるしきい値を超えると、E-MAC-0/1 に対し、転送FIFO への書き込みができなくなることを予告通知する機能を有しています。TSU_BSYSL1 は、転送動作時TSU から E-MAC-1 に対し、転送FIFO への書き込みができなくなることを予告通知するときの転送FIFO のしきい値を設定します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	BSYSL1[5:0]					
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 6	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
5 ～ 0	BSYSL1[5:0]	すべて1	R/W	転送動作時、TSU からE-MAC-1 に対し、転送FIFO への書き込みができなくなることを予告通知するときの1→0 系転送FIFO 容量のしきい値を256 バイト単位で設定します。 H'00：0 バイト H'01：256 バイト H'02：512 バイト ：　： H'16：5632 バイト H'17：5888 バイト H'18～H'3F は、設定無効です（予告通知は常にしません）。 転送FIFO の書き込み容量が、本ビットで設定したしきい値を超えると、TSUからE-MAC-1 に対し転送FIFO への書き込みができなくなることを予告通知します。その後、転送FIFO の書き込み容量が本しきい値を16 バイト下回ると予告通知を停止します。 H'00 を設定したときは、常にTSU からE-MAC-1 に対し転送FIFO への書き込みができなくなることを予告通知します。設定値がTSU_FCM のFCM2～FCM0で設定した1→0 系転送FIFO 容量以上（同じ値を含む）のときは、TSU はE-MAC-1 に対し転送FIFO への書き込みができなくなることを予告通知しません。 いったん転送動作を許可した後（TSU_FWEN0 のFWEN0 またはTSU_FWEN1のFWEN1 を”1” にセットした後）の本レジスタへの書き込み動作を禁止します。 また、転送動作のイネーブルビット（TSU_FWEN0 のFWEN0 またはTSU_FWEN1 のFWEN1）を0 にクリアしたときは、TSU からE-MAC-1 に対する転送FIFO への書き込み不可の予告通知は停止します。

23.3.44 送信・転送優先制御モードレジスタ（0 系）（TSU_PRISL0）

TSU_PRISL0 は、E-MAC-0 へのE-DMAC からの送信要求と1→0 系転送動作が競合したときの、優先制御モードを設定します。いったん転送動作を許可した後（TSU_FWEN0 のFWEN0 またはTSU_FWEN1 のFWEN1 を”1”にセットした後）の本レジスタへの書き込みは禁止します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	PRIMD0[2:0]			—	—	—	—	PRISL0[7:0]							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 15	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
14 ～ 12	PRIMD0[2:0]	すべて 0	R/W	E-MAC-0の送信と1→0 系転送動作の優先制御モードを設定します。 H'0：ラウンドロビン H'1：送信優先 H'2：転送優先 H'4：ラウンドロビン、ただし転送FIFO 使用量がPRISL0[7:0]の設定値を超えると転送優先に切り替え H'5：送信優先、ただし転送FIFO 使用量がPRISL0[7:0]の設定値を超えると転送優先に切り替え その他：設定禁止
11 ～ 8	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
7 ～ 0	PRISL0[7:0]	すべて0	R/W	PRIMD0[2:0]をH'4 またはH'5 に設定したとき、転送優先への切り替えが生じる際の1→0 系転送FIFO 容量のしきい値を64 バイト単位で設定します。 H'00：0 バイト H'01：64 バイト H'02：128 バイト ：　： H'5E：6016 バイト H'5F：6080 バイト H'60～H'FF は、設定禁止です。 H'00 を設定したときは、常に転送優先となります。設定値がTSU_FCM のFCM[2:0]で設定した1→0 系転送FIFO 容量以上のときは、PRIMD0[2:0]がH'4の場合は常にラウンドロビンに、PRIMD0[2:0]がH'5 の場合は常に送信優先になります。

23.3.45 送信・転送優先制御モードレジスタ（1 系）（TSU_PRISL1）

TSU_PRISL1 は、E-MAC-1 へのE-DMAC からの送信要求と0→1 系転送動作が競合したときの、優先制御モードを設定します。いったん転送動作を許可した後（TSU_FWEN0 のFWEN0 またはTSU_FWEN1 のFWEN1 を1にセットした後）の本レジスタへの書き込みは禁止します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	PRIMD1[2:0]			—	—	—	—	PRISL1[7:0]							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～15	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
14 ～ 12	PRIMD1[2:0]	すべて0	R/W	E-MAC-1の送信と0→1 系転送動作の優先制御モードを設定します。 H'0：ラウンドロビン H'1：送信優先 H'2：転送優先 H'4：ラウンドロビン、ただし転送FIFO 使用量がPRISL1[7:0]の設定値を超えると転送優先に切り替え H'5：送信優先、ただし転送FIFO 使用量がPRISL1[7:0]の設定値を超えると転送優先に切り替え その他：設定禁止
11 ～ 8	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
7 ～ 0	PRISL1[7:0]	すべて0	R/W	PRIMD1[2:0]をH'4 またはH'5 に設定したとき、転送優先への切り替えが生じる際の0→1 系転送FIFO 容量のしきい値を64 バイト単位で設定します。 H'00：0 バイト H'01：64 バイト H'02：128 バイト ：　： H'5E：6016 バイト H'5F：6080 バイト H'60～H'FF は、は設定禁止です。 H'00 を設定したときは、常に転送優先となります。設定値がTSU_FCM のFCM[2:0]で設定した0→1 系転送FIFO 容量以上のときは、PRIMD[2:0]がH'4 の場合は常にラウンドロビンに、PRIMD1[2:0]がH'5 の場合は常に送信優先になります。

23.3.46 受信・転送機能設定レジスタ（0→1 系）（TSU_FWSL0）

TSU_FWSL0 は、0 系受信及び0→1 系転送動作に際し、フレーム種別ごとの処理方法（転送または転送禁止）を設定します。転送処理に際し、マルチキャストフレームと宛先が本LSI 以外のフレームについてはCAM の判定を参照して処理方法を決定することができます（詳細は、「23.4.5　CAM 機能」を参照してください）。いったん転送動作を許可した後（TSU_FWEN0 の FWEN0 または TSU_FWEN1 の FWEN1 を1 にセットした後）の本レジスタへの書き込みは禁止します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	FW50	FW40	FW30	FW20	FW10	—	—	—	RMSA0	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	R/W	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～13	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
12	FW50	0	R/W	0 系からのフレームがMACコントロールフレームのときの処理方法を設定します。 0：フレームを転送しない 1：フレームを1 系に転送
11	FW40	0	R/W	0 系からのフレームが本LSI 宛のときの処理方法を設定します。 0：フレームを転送しない 1：フレームを1 系に転送
10	FW30	0	R/W	0 系からのフレームがBroadcast のときの処理方法を設定します。 0：フレームを転送しない 1：フレームを1 系に転送
9	FW20	0	R/W	0 系からのフレームがマルチキャストのときの処理方法を設定します。 0：CAM ヒット：フレームを1 系に転送、CAM ミスヒット：フレームを転送しない 1：CAM ヒット：フレームを転送しない、CAM ミスヒット：フレームを1 系に転送
8	FW10	0	R/W	0 系からのフレームの宛先が本LSI 以外のときの処理方法を設定します。 0：CAM ヒット：フレームを1 系に転送、CAM ミスヒット：フレームを転送しない 1：CAM ヒット：フレームを転送しない、CAM ミスヒット：フレームを1 系に転送
7 ～ 5	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
4	RMSA0	0	R/W	0 系からの受信フレームのSA（ソースアドレス）がエントリテーブルに登録されていない場合の処理方法を設定します。 0：フレームを受信しない 1：フレームを受信する。 ただし、VLANtag 判定により破棄となったフレームは受信しません。 ソースアドレスがエントリテーブルに未登録のフレームを受信した場合は、フレームを受信するしないにかかわらずキャリア拡張エラーを発行します。
3 ～ 0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

23.3.47 受信・転送機能設定レジスタ（1→0 系）（TSU_FWSL1）

TSU_FWSL1 は、1 系受信及び1→0 系転送動作に際し、フレーム種別ごとの処理方法（転送または転送禁止）を設定します。転送処理に際し、マルチキャストフレームと宛先が本LSI 以外のフレームについてはCAM の判定を参照して処理方法を決定することができます（詳細は、「23.4.5　CAM 機能」を参照してください）。いったん転送動作を許可した後（TSU_FWEN0 の FWEN0 または TSU_FWEN1 の FWEN1 を1 にセットした後）の本レジスタへの書き込みは禁止します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	FW51	FW41	FW31	FW21	FW11	—	—	—	RMSA1	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	R/W	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 13	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
12	FW51	0	R/W	1 系からのフレームがMACコントロールフレームのときの処理方法を設定します。 0：フレームを転送しない 1：フレームを0 系に転送
11	FW41	0	R/W	1 系からのフレームが本LSI 宛のときの処理方法を設定します。 0：フレームを転送しない 1：フレームを0 系に転送
10	FW31	0	R/W	1 系からのフレームがBroadcast のときの処理方法を設定します。 0：フレームを転送しない 1：フレームを0 系に転送

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
9	FW21	0	R/W	1 系からのフレームがマルチキャストのときの処理方法を設定します。 0：CAM ヒット：フレームを0 系に転送、CAM ミスヒット：フレームを転送しない 1：CAM ヒット：フレームを転送しない、CAM ミスヒット：フレームを0 に転送
8	FW11	0	R/W	1 系からのフレームの宛先が本LSI 以外のときの処理方法を設定します。 0：CAM ヒット：フレームを0 系に転送、CAM ミスヒット：フレームを転送しない 1：CAM ヒット：フレームを転送しない、CAM ミスヒット：フレームを0 に転送
7 ～ 5	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
4	RMSA1	0	R/W	1 系からの受信フレームのSA（ソースアドレス）がエントリテーブルに登録されていない場合の処理方法を設定します。 0：フレームを受信しない 1：フレームを受信する ただし、VLANtag 判定により破棄となったフレームは受信しません。 ソースアドレスがエントリテーブルに未登録のフレームを受信した場合は、フレームを受信するしないにかかわらずキャリア拡張エラーを発行します。
3～ 0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

23.3.48 転送機能設定レジスタ（共通）（TSU_FWSLC）

CAM を使用する場合は、TSU_POST1～TSU_POST4 レジスタにより、CAM エントリテーブル中の参照する部分（一部または全部）を指定することができます。TSU_FWSLC は、TSU_POST1～TSU_POST4 レジスタによる設定のイネーブルを設定します。いったん転送動作を許可した後（TSU_FWEN0 の FWEN0 またはTSU_FWEN1 のFWEN1 を1 にセットした後）の本レジスタへの書き込みは禁止します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	POSTENU	POSTENL	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	R/W	R/W	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 14	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
13	POSTENU	0	R/W	CAM エントリテーブル0～15 のPOST フィールド設定（TSU_POST1 及びTSU_POST2 レジスタによる設定）を有効にします。 0：POST フィールド設定無効（CAM エントリテーブルは、0 系受信時のみ参照） 1：POST フィールド設定有効（CAM エントリテーブル参照条件は、POST フィールド設定に従う）
12	POSTENL	0	R/W	CAM エントリテーブル16～31 のPOST フィールド設定（TSU_POST3 及びTSU_POST4 レジスタによる設定）を有効にします。 0：POST フィールド設定無効（CAM エントリテーブルは、1 系受信時のみ参照） 1：POST フィールド設定有効（CAM エントリテーブル参照条件は、POST フィールド設定に従う）
11 ～ 0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

23.3.49 Qtag 追加・削除設定レジスタ（0→1 系）（TSU_QTAG0）

TSU_QTAGM0 は、0→1 系転送動作の際の通常のイーサネットフレーム（Qtag なし）からIEEE802.1Q 対応フレーム（Qtag 付き）へのQtag 追加機能、及びIEEE802.1Q 対応フレーム（Qtag 付き）から通常のイーサネットフレーム（Qtag なし）へのQtag 削除機能を設定します。いったん転送動作を許可した後（TSU_FWEN0 のFWEN0 またはTSU_FWEN1 のFWEN1 を”1” にセットした後）の本レジスタへの書き込みは禁止します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	QTAG0[2:0]		
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 3	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
2 ～ 0	QTAG0[2:0]	すべて0	R/W	0→1 系転送動作時のQtag 追加及び削除機能を設定します。 H'0：Qtag 追加及び削除機能なし H'1：Qtag 追加及び削除機能なし H'2：Qtag 付きフレームからQtag を削除 H'3：Qtag なしフレームにQtag を追加 （MAC コントロールフレームに追加なし） H'4：Qtag 追加及び削除機能なし H'5：設定禁止 H'6：設定禁止 H'7：Qtag なしフレームにQtag を追加 （MAC コントロールフレームに追加あり） いったん転送動作を許可した後（TSU_FWEN0 のFWEN0 またはTSU_FWEN1のFWEN1 を”1” にセットした後）の本レジスタへの書き込みは禁止します。

23.3.50 Qtag 追加・削除設定レジスタ（1→0 系）（TSU_QTAG1）

TSU_QTAG1 は、1→0 系転送動作の際の通常のイーサネットフレーム（Qtag なし）からIEEE802.1Q 対応フレーム（Qtag 付き）へのQtag 追加機能、及びIEEE802.1Q 対応フレーム（Qtag 付き）から通常のイーサネットフレーム（Qtag なし）へのQtag 削除機能を設定します。いったん転送動作を許可した後（TSU_FWEN0 のFWEN0 またはTSU_FWEN1 のFWEN1 を”1” にセットした後）の本レジスタへの書き込みは禁止します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	QTAG1[2:0]		
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 3	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

2 ～ 0	QTAG1[2:0]	すべて0	R/W	1→0 系転送動作時のQtag 追加及び削除機能を設定します。 H'0：Qtag 追加及び削除機能なし H'1：Qtag 追加及び削除機能なし H'2：Qtag 付きフレームからQtag を削除 H'3：Qtag なしフレームにQtag を追加 （MAC コントロールフレームに追加なし） H'4：Qtag 追加及び削除機能なし H'5：設定禁止 H'6：設定禁止 H'7：Qtag なしフレームにQtag を追加 （MAC コントロールフレームに追加あり） いったん転送動作を許可した後（TSU_FWEN0 のFWEN0 またはTSU_FWEN1のFWEN1 を”1” にセットした後）の本レジスタへの書き込みは禁止します。

23.3.51 転送ステータスレジスタ（TSU_FWSR）

TSU_FWSR は、読み出しまたは書き込み可能な32 ビットのレジスタで、転送動作中のステータスを表示します。本ステータスは、転送ステータス割り込みマスクレジスタ（TSU_FWINMK）を設定することにより、割り込み要因としてCPU に通知することが可能です。”1” にセットされたステータスビットは、該当ビットに”1” を書き込むことにより、0 にクリアされます（ステータスビットは、0 クリアされるまで値を保持します）。

本ステータスレジスタが要因で発生する割り込みは、EINT2 となります。割り込みの優先順位については、「10.4.6　割り込み例外処理と優先順位」を参照ください。

また、転送動作中に、RBSY1、RBSY0 以外のエラーが発生した場合、転送フレームは削除されます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	OVF0	RBSY0	RINT60	RINT50	RINT40	RINT30	RINT20	RINT10
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	OVF1	RBSY1	RINT61	RINT51	RINT41	RINT31	RINT21	RINT11
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 24	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
23	OVF0	0	R/W	0→1 系転送FIFO オーバフロー検出 0→1 系転送FIFO にオーバフローが発生したときは、”1” にセットされます。
22	RBSY0	0	R/W	E-MAC-0 オーバフロー予告信号出力 TSU_BSYSL0 のしきい値が有効で、そのしきい値を超えたときに、”1” にセットされます。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
21	RINT60	0	R/W	E-MAC-0 キャリア拡張消失エラー検出 E-MAC-0 にて、キャリア拡張を消失したフレームを受信したときは、“1”にセットされます。
20	RINT50	0	R/W	E-MAC-0 端数ビットフレーム受信 E-MAC-0 にて、8 ビットに満たない端数ビットデータを含むフレームを受信したときは、“1”にセットされます。
19	RINT40	0	R/W	E-MAC-0 指定バイト超フレーム受信 E-MAC-0 にて、RFLR0 の設定値を超えるフレームを受信したときは、“1”にセットされます。
18	RINT30	0	R/W	E-MAC-0 64 バイト未満フレーム受信 E-MAC-0 にて、64 バイト未満のフレームを受信したときは、“1” にセットされます。
17	RINT20	0	R/W	E-MAC-0 フレーム受信エラー E-MAC-0 にて、PHY-LSI から入力されるRX-ER 端子による受信エラーが検出されたときは、“1” にセットされます。
16	RINT10	0	R/W	E-MAC-0 CRC エラーフレーム受信 E-MAC-0 にて、受信フレームがCRC エラーとなったときは、“1” にセットされます。
15 ～ 8	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
7	OVF1	0	R/W	1→0 系転送FIFO オーバフロー検出 1→0 系転送FIFO にオーバフローが発生したときは、“1” にセットされます。
6	RBSY1	0	R/W	E-MAC-1 オーバフロー予告信号出力 TSU_BSYSL1 のしきい値が有効で、そのしきい値を超えたときに、“1”にセットされます。
5	RINT61	0	R/W	E-MAC-1 キャリア拡張消失エラー検出 E-MAC-1 にて、キャリア拡張を消失したフレームを受信したときは、“1” にセットされます。
4	RINT51	0	R/W	E-MAC-1 端数ビットフレーム受信 E-MAC-1 にて、8 ビットに満たない端数ビットデータを含むフレームを受信したときは、“1” にセットされます。
3	RINT41	0	R/W	E-MAC-1 指定バイト超フレーム受信 E-MAC-1 にて、RFLR1 の設定値を超えるフレームを受信したときは、“1” にセットされます。
2	RINT31	0	R/W	E-MAC-1 64 バイト未満フレーム受信 E-MAC-1 にて、64 バイト未満のフレームを受信したときは、“1” にセットされます。
1	RINT21	0	R/W	E-MAC-1 フレーム受信エラー E-MAC-1 にて、PHY-LSI から入力されるRX-ER 端子による受信エラーが検出されたときは、“1”にセットされます。
0	RINT11	0	R/W	E-MAC-1 CRC エラーフレーム受信 E-MAC-1 にて、受信フレームがCRC エラーとなったときは、“1” にセットされます。

23.3.52 転送ステータス割り込みマスクレジスタ（TSU_FWINMK）

TSU_FWINMK は、読み出しまたは書き込み可能な 32 ビットのレジスタで、TSU_FWSR の各ステータスビットに対する割り込みマスクを設定します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	OVFM0	RBSYM0	RINTM60	RINTM50	RINTM40	RINTM30	RINTM20	RINTM10
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	OVFM1	RBSYM1	RINTM61	RINTM51	RINTM41	RINTM31	RINTM21	RINTM11
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 24	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
23	OVFM0	0	R/W	0→1 系転送FIFO オーバフロー検出割り込みマスク 0：割り込み禁止 1：割り込み許可
22	RBSYM0	0	R/W	E-MAC-0 オーバフロー予告信号出力割り込みマスク 0：割り込み禁止 1：割り込み許可
21	RINTM60	0	R/W	E-MAC-0 キャリア拡張消失割り込みマスク 0：割り込み禁止 1：割り込み許可
20	RINTM50	0	R/W	E-MAC-0 端数ビットフレーム受信割り込みマスク 0：割り込み禁止 1：割り込み許可
19	RINTM40	0	R/W	E-MAC-0 指定バイト超フレーム受信割り込みマスク 0：割り込み禁止 1：割り込み許可
18	RINTM30	0	R/W	E-MAC-0 64 バイト未満フレーム受信割り込みマスク 0：割り込み禁止 1：割り込み許可
17	RINTM20	0	R/W	E-MAC-0 フレーム受信エラー割り込みマスク 0：割り込み禁止 1：割り込み許可
16	RINTM10	0	R/W	E-MAC-0 CRC エラーフレーム受信割り込みマスク 0：割り込み禁止 1：割り込み許可
15 ～ 8	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	OVFM1	0	R/W	1→0 系転送FIFO オーバフロー検出割り込みマスク 0：割り込み禁止 1：割り込み許可
6	RBSYM1	0	R/W	E-MAC-1 オーバフロー予告信号出力割り込みマスク 0：割り込み禁止 1：割り込み許可
5	RINTM61	0	R/W	E-MAC-1 キャリア拡張消失割り込みマスク 0：割り込み禁止 1：割り込み許可
4	RINTM51	0	R/W	E-MAC-1 端数ビットフレーム受信割り込みマスク 0：割り込み禁止 1：割り込み許可
3	RINTM41	0	R/W	E-MAC-1 指定バイト超フレーム受信割り込みマスク 0：割り込み禁止 1：割り込み許可
2	RINTM31	0	R/W	E-MAC-1 64 バイト未満フレーム受信割り込みマスク 0：割り込み禁止 1：割り込み許可
1	RINTM21	0	R/W	E-MAC-1 フレーム受信エラー割り込みマスク 0：割り込み禁止 1：割り込み許可
0	RINTM11	0	R/W	E-MAC-1 CRC エラーフレーム受信割り込みマスク 0：割り込み禁止 1：割り込み許可

23.3.53 追加Qtag 値設定レジスタ（0→1 系）（TSU_ADQT0）

TSU_ ADQT0 は、0→1 系転送動作で通常のイーサネットフレーム（Qtag なし）からIEEE802.1Q 対応フレーム（Qtag 付き）への変換操作の際（Qtag 追加機能を用いる場合で、TSU_QTAG0 の QTAG0[2:0] ビットをH'3 あるいはH'7 に設定した際）、追加するQtag のデータを設定します。いったん転送動作を許可した後（TSU_FWEN0 のFWEN0 またはTSU_FWEN1 のFWEN1 を“1”にセットした後）の本レジスタへの書き込みは禁止します。

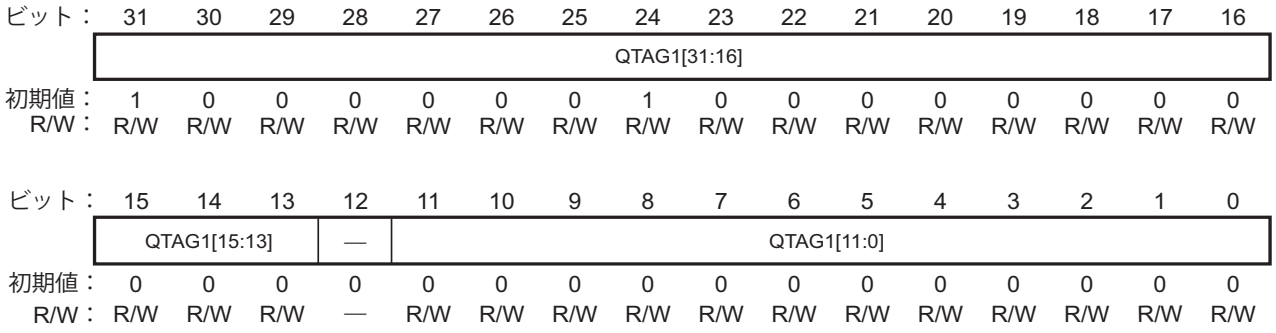
ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	QTAG0[31:16]															
初期値：	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	QTAG0[15:13]			—	QTAG0[11:0]											
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	QTAG0[31:16]	H'8100	R/W	上位16 ビット（QTAG0[31:16]）の書き込む値は、必ずH'8100 としてください（Qtag の拡張フレームフォーマットであることを表します）。リード時に読み出される値は、H'8100 となります。
15 ～ 13	QTAG0[15:13]	H'0	R/W	優先順位設定（PRT） Qtag 付きフレームの処理優先順位を設定します。設定方法の詳細は、IEEE802.1Q に規定されたQtag 制御に関する仕様を参照してください。
12	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
11 ～ 0	QTAG0[11:0]	H'000	R/W	V-LAN ID 設定（VID） Qtag 付きフレームを、V-LAN をサポートするシステムで扱う場合に設定します。設定方法の詳細は、IEEE802.1Q に規定されたQtag 制御に関する仕様を参照してください。

23.3.54 追加Qtag 値設定レジスタ（1→0 系）（TSU_ADQT1）

TSU_ADQT1 は、1→0 系転送動作で通常のイーサネットフレーム（Qtag なし）からIEEE802.1Q 対応フレーム（Qtag 付き）への変換操作の際（Qtag 追加機能を用いる場合で、TSU_QTAG1 の QTAG1[2:0] ビットをH'3 またはH'7 に設定した際）、追加するQtag のデータを設定します。いったん転送動作を許可した後（TSU_FWEN0 のFWEN0 またはTSU_FWEN1 のFWEN1 を“1”にセットした後）の本レジスタへの書き込みは禁止します。



ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	QTAG1[31:16]	H'8100	R/W	上位16 ビット（QTAG1[31:16]）の書き込む値は必ずH'8100 としてください（Qtag の拡張フレームフォーマットであることを表します）。読み出し時に読み出される値は、H'8100 となります。
15 ～ 13	QTAG1[15:13]	H'0	R/W	優先順位設定（PRT） Qtag 付きフレームの処理優先順位を設定します。設定方法の詳細は、IEEE802.1Q に規定されたQtag 制御に関する仕様を参照してください。
12	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

11 ～ 0	QTAG1[11:0]	H'000	R/W	V-LAN ID 設定（VID） Qtag 付きフレームを、V-LAN をサポートするシステムで扱う場合に設定します。設定方法の詳細は、IEEE802.1Q に規定された Qtag 制御に関する仕様を参照してください。

23.3.55 VLANtag 設定レジスタ（0 系）（TSU_VTAG0）

TSU_VTAG0 は、0 系受信動作で、VLAN 番号によるフレームの受信／破棄判定機能を有効にするか、また、そのときのVLAN 番号を設定します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	VTAG0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	VID0[11:0]											
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31	VTAG0	0	R/W	0 系VLANtag 判定機能 0：VLAN 番号によるフレームの受信／破棄判定機能を無効にします 1：VLAN 番号によるフレームの受信／破棄判定機能を有効にします
30 ～ 12	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
11 ～ 0	VID0[11:0]	すべて0	R/W	V-LAN ID 設定（VID） 0 系受信フレームの受信するVLAN 番号を設定します。

23.3.56 VLANtag 設定レジスタ（1 系）（TSU_VTAG1）

TSU_VTAG1 は、1 系受信動作で、VLAN 番号によるフレームの受信／破棄判定機能を有効にするか、また、そのときのVLAN 番号を設定します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	VTAG1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	VID1[11:0]											
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31	VTAG1	0	R/W	1 系VLANtag 判定機能 0：VLAN 番号によるフレームの受信／破棄判定機能を無効にします。 1：VLAN 番号によるフレームの受信／破棄判定機能を有効にします。
30 ～ 12	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
11 ～ 0	VID1[11:0]	すべて0	R/W	V-LAN ID 設定（VID） 1 系受信フレームの受信するVLAN 番号を設定します。

23.3.57 CAM エントリテーブル設定ビジーレジスタ（TSU_ADSBSY）

CAM エントリテーブルレジスタ（TSU_ADRH0 ～ TSU_ADRH31、TSU_ADRL0 ～ TSU_ADRL31）をレジスタ書き込みで設定すると、本レジスタの ADSBSY ビットが “1” にセットされます（TSU 内部でCAM エントリテーブルレジスタの内容をCAM 制御部へ反映させる作業が完了すると、ADSBSY ビットは自動的に0 に復帰します）。

本レジスタの ADSBSY ビットが “1” にセットされている期間は、TSU_ADRH0 ～ TSU_ADRH31 及びTSU_ADRL0～TSU_ADRL31 へのアクセスを禁止します。本レジスタは、読み出し専用のステータスレジスタです。書き込みは禁止します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ADSBSY
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～1	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
0	ADSBSY	0	R	CAM エントリテーブル設定ビジー TSU_ADRH0～TSU_ADRH31 及びTSU_ADRL0～TSU_ADRL31 をレジスタライトで設定すると、“1” にセットされます。TSU 内部でCAM エントリテーブルレジスタの内容をCAM 制御部へ反映させる作業が完了すると、ADSBSY ビットは自動的に0 に復帰します。本ビットが“1” にセットされている期間は、TSU_ADRH0～TSU_ADRH31 及びTSU_ADRL0～TSU_ADRL31 へのアクセスを禁止します。本レジスタへの書き込み動作は、禁止します。

23.3.58 CAM エントリテーブルイネーブル設定レジスタ（TSU_TEN）

TSU_TEN は、TSU_ADRH0～TSU_ADRH31 及びTSU_ADRL0～TSU_ADRL31 の有効または無効を設定するレジスタです。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	TEN0	TEN1	TEN2	TEN3	TEN4	TEN5	TEN6	TEN7	TEN8	TEN9	TEN10	TEN11	TEN12	TEN13	TEN14	TEN15
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TEN16	TEN17	TEN18	TEN19	TEN20	TEN21	TEN22	TEN23	TEN24	TEN25	TEN26	TEN27	TEN28	TEN29	TEN30	TEN31
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31	TEN0	0	R/W	CAM エントリテーブル0（TSU_ADRH0、TSU_ADRL0）設定 0：無効 1：有効
30	TEN1	0	R/W	CAM エントリテーブル1（TSU_ADRH1、TSU_ADRL1）設定 0：無効 1：有効
29	TEN2	0	R/W	CAM エントリテーブル2（TSU_ADRH2、TSU_ADRL2）設定 0：無効 1：有効
28	TEN3	0	R/W	CAM エントリテーブル3（TSU_ADRH3、TSU_ADRL3）設定 0：無効 1：有効
27	TEN4	0	R/W	CAM エントリテーブル4（TSU_ADRH4、TSU_ADRL4）設定 0：無効 1：有効
26	TEN5	0	R/W	CAM エントリテーブル5（TSU_ADRH5、TSU_ADRL5）設定 0：無効 1：有効
25	TEN6	0	R/W	CAM エントリテーブル6（TSU_ADRH6、TSU_ADRL6）設定 0：無効 1：有効
24	TEN7	0	R/W	CAM エントリテーブル7（TSU_ADRH7、TSU_ADRL7）設定 0：無効 1：有効
23	TEN8	0	R/W	CAM エントリテーブル8（TSU_ADRH8、TSU_ADRL8）設定 0：無効 1：有効

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
22	TEN9	0	R/W	CAM エントリテーブル9（TSU_ADRH9、TSU_ADRL9）設定 0：無効 1：有効
21	TEN10	0	R/W	CAM エントリテーブル10（TSU_ADRH10、TSU_ADRL10）設定 0：無効 1：有効
20	TEN11	0	R/W	CAM エントリテーブル11（TSU_ADRH11、TSU_ADRL11）設定 0：無効 1：有効
19	TEN12	0	R/W	CAM エントリテーブル12（TSU_ADRH12、TSU_ADRL12）設定 0：無効 1：有効
18	TEN13	0	R/W	CAM エントリテーブル13（TSU_ADRH13、TSU_ADRL13）設定 0：無効 1：有効
17	TEN14	0	R/W	CAM エントリテーブル14（TSU_ADRH14、TSU_ADRL14）設定 0：無効 1：有効
16	TEN15	0	R/W	CAM エントリテーブル15（TSU_ADRH15、TSU_ADRL15）設定 0：無効 1：有効
15	TEN16	0	R/W	CAM エントリテーブル16（TSU_ADRH16、TSU_ADRL16）設定 0：無効 1：有効
14	TEN17	0	R/W	CAM エントリテーブル17（TSU_ADRH17、TSU_ADRL17）設定 0：無効 1：有効
13	TEN18	0	R/W	CAM エントリテーブル18（TSU_ADRH18、TSU_ADRL18）設定 0：無効 1：有効
12	TEN19	0	R/W	CAM エントリテーブル19（TSU_ADRH19、TSU_ADRL19）設定 0：無効 1：有効
11	TEN20	0	R/W	CAM エントリテーブル20（TSU_ADRH20、TSU_ADRL20）設定 0：無効 1：有効
10	TEN21	0	R/W	CAM エントリテーブル21（TSU_ADRH21、TSU_ADRL21）設定 0：無効 1：有効
9	TEN22	0	R/W	CAM エントリテーブル22（TSU_ADRH22、TSU_ADRL22）設定 0：無効 1：有効

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
8	TEN23	0	R/W	CAM エントリテーブル23（TSU_ADRH23、TSU_ADRL23）設定 0：無効 1：有効
7	TEN24	0	R/W	CAM エントリテーブル24（TSU_ADRH24、TSU_ADRL24）設定 0：無効 1：有効
6	TEN25	0	R/W	CAM エントリテーブル25（TSU_ADRH25、TSU_ADRL25）設定 0：無効 1：有効
5	TEN26	0	R/W	CAM エントリテーブル26（TSU_ADRH26、TSU_ADRL26）設定 0：無効 1：有効
4	TEN27	0	R/W	CAM エントリテーブル27（TSU_ADRH27、TSU_ADRL27）設定 0：無効 1：有効
3	TEN28	0	R/W	CAM エントリテーブル28（TSU_ADRH28、TSU_ADRL28）設定 0：無効 1：有効
2	TEN29	0	R/W	CAM エントリテーブル29（TSU_ADRH29、TSU_ADRL29）設定 0：無効 1：有効
1	TEN30	0	R/W	CAM エントリテーブル30（TSU_ADRH30、TSU_ADRL30）設定 0：無効 1：有効
0	TEN31	0	R/W	CAM エントリテーブル31（TSU_ADRH31、TSU_ADRL31）設定 0：無効 1：有効

23.3.59 CAM エントリテーブルPOST 設定1 レジスタ（TSU_POST1）

CAM を使用する場合は、TSU_POST1～TSU_POST4 レジスタにより、各CAM エントリテーブルごとにそのエントリテーブルを参照する条件を指定することができます。TSU_POST1 は、TSU_ADRH0～TSU_ADRH7 及びTSU_ADRL0～TSU_ADRL7 を参照する条件を指定します。本レジスタの設定は、POSTENU ビット（TSU_FWSLC レジスタのビット13）が”1” のとき有効になります。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	POST0[3:0]				POST1[3:0]				POST2[3:0]				POST3[3:0]			
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	POST4[3:0]				POST5[3:0]				POST6[3:0]				POST7[3:0]			
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 28	POST0[3:0]	すべて0	R/W	CAMエントリテーブル0 を参照する条件を設定します。複数のビットを”1” にセットすることにより、複数の条件を選択することが可能です。 POST0[3]：0 系の受信時にCAM エントリテーブル0 を参照 POST0[2]：0→1 系の転送時にCAM エントリテーブル0 を参照 POST0[1]：1 系の受信時にCAM エントリテーブル0 を参照 POST0[0]：1→0 系の転送時にCAM エントリテーブル0 を参照
27 ～ 24	POST1[3:0]	すべて0	R/W	CAMエントリテーブル1 を参照する条件を設定します。複数のビットを”1” にセットすることにより、複数の条件を選択することが可能です。 POST1[3]：0 系の受信時にCAM エントリテーブル1 を参照 POST1[2]：0→1 系の転送時にCAM エントリテーブル1 を参照 POST1[1]：1 系の受信時にCAM エントリテーブル1 を参照 POST1[0]：1→0 系の転送時にCAM エントリテーブル1 を参照
23 ～ 20	POST2[3:0]	すべて0	R/W	CAMエントリテーブル2 を参照する条件を設定します。複数のビットを”1” にセットすることにより、複数の条件を選択することが可能です。 POST2[3]：0 系の受信時にCAM エントリテーブル2 を参照 POST2[2]：0→1 系の転送時にCAM エントリテーブル2 を参照 POST2[1]：1 系の受信時にCAM エントリテーブル2 を参照 POST2[0]：1→0 系の転送時にCAM エントリテーブル2 を参照
19 ～ 16	POST3[3:0]	すべて0	R/W	CAMエントリテーブル3 を参照する条件を設定します。複数のビットを”1” にセットすることにより、複数の条件を選択することが可能です。 POST3[3]：0 系の受信時にCAM エントリテーブル3 を参照 POST3[2]：0→1 系の転送時にCAM エントリテーブル3 を参照 POST3[1]：1 系の受信時にCAM エントリテーブル3 を参照 POST3[0]：1→0 系の転送時にCAM エントリテーブル3 を参照
15 ～ 12	POST4[3:0]	すべて0	R/W	CAMエントリテーブル4 を参照する条件を設定します。複数のビットを”1” にセットすることにより、複数の条件を選択することが可能です。 POST4[3]：0 系の受信時にCAM エントリテーブル4 を参照 POST4[2]：0→1 系の転送時にCAM エントリテーブル4 を参照 POST4[1]：1 系の受信時にCAM エントリテーブル4 を参照 POST4[0]：1→0 系の転送時にCAM エントリテーブル4 を参照
11～ 8	POST5[3:0]	すべて0	R/W	CAMエントリテーブル5 を参照する条件を設定します。複数のビットを”1” にセットすることにより、複数の条件を選択することが可能です。 POST5[3]：0 系の受信時にCAM エントリテーブル5 を参照 POST5[2]：0→1 系の転送時にCAM エントリテーブル5 を参照 POST5[1]：1 系の受信時にCAM エントリテーブル5 を参照 POST5[0]：1→0 系の転送時にCAM エントリテーブル5 を参照

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～ 4	POST6[3:0]	すべて0	R/W	CAMエントリテーブル6 を参照する条件を設定します。複数のビットを1 にセットすることにより、複数の条件を選択することが可能です。 POST6[3]：0 系の受信時にCAM エントリテーブル6 を参照 POST6[2]：0→1 系の転送時にCAM エントリテーブル6 を参照 POST6[1]：1 系の受信時にCAM エントリテーブル6 を参照 POST6[0]：1→0 系の転送時にCAM エントリテーブル6 を参照
3 ～ 0	POST7[3:0]	すべて0	R/W	CAMエントリテーブル7 を参照する条件を設定します。複数のビットを1 にセットすることにより、複数の条件を選択することが可能です。 POST7[3]：0 系の受信時にCAM エントリテーブル7 を参照 POST7[2]：0→1 系の転送時にCAM エントリテーブル7 を参照 POST7[1]：1 系の受信時にCAM エントリテーブル7 を参照 POST7[0]：1→0 系の転送時にCAM エントリテーブル7 を参照

23.3.60 CAM エントリテーブルPOST 設定2 レジスタ（TSU_POST2）

CAM を使用する場合は、TSU_POST1～TSU_POST4 レジスタにより、各CAM エントリテーブルごとにそのエントリテーブルを参照する条件を指定することができます。TSU_POST2 は、TSU_ADRH8 ～ TSU_ADRH15 及びTSU_ADRL8 ～ TSU_ADRL15 を参照する条件を指定します。本レジスタの設定は、TSU_FWSLC レジスタのPOSTENU ビットが1 のとき有効になります。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	POST8[3:0]				POST9[3:0]				POST10[3:0]				POST11[3:0]			
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	POST12[3:0]				POST13[3:0]				POST14[3:0]				POST15[3:0]			
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 28	POST8[3:0]	すべて0	R/W	CAMエントリテーブル8 を参照する条件を設定します。複数のビットを1 にセットすることにより、複数の条件を選択することが可能です。 POST8[3]：0 系の受信時にCAM エントリテーブル8 を参照 POST8[2]：0→1 系の転送時にCAM エントリテーブル8 を参照 POST8[1]：1 系の受信時にCAM エントリテーブル8 を参照 POST8[0]：1→0 系の転送時にCAM エントリテーブル8 を参照

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
27 ～ 24	POST9[3:0]	すべて0	R/W	CAMエントリテーブル9 を参照する条件を設定します。複数のビットを”1” にセットすることにより、複数の条件を選択することが可能です。 POST9[3] : 0 系の受信時にCAM エントリテーブル9 を参照 POST9[2] : 0→1 系の転送時にCAM エントリテーブル9 を参照 POST9[1] : 1 系の受信時にCAM エントリテーブル9 を参照 POST9[0] : 1→0 系の転送時にCAM エントリテーブル9 を参照
23 ～ 20	POST10[3:0]	すべて0	R/W	CAMエントリテーブル10 を参照する条件を設定します。複数のビットを”1” にセットすることにより、複数の条件を選択することが可能です。 POST10[3] : 0 系の受信時にCAM エントリテーブル10 を参照 POST10[2] : 0→1 系の転送時にCAM エントリテーブル10 を参照 POST10[1] : 1 系の受信時にCAM エントリテーブル10 を参照 POST10[0] : 1→0 系の転送時にCAM エントリテーブル10 を参照
19 ～ 16	POST11[3:0]	すべて0	R/W	CAMエントリテーブル11 を参照する条件を設定します。複数のビットを”1” にセットすることにより、複数の条件を選択することが可能です。 POST11[3] : 0 系の受信時にCAM エントリテーブル11 を参照 POST11[2] : 0→1 系の転送時にCAM エントリテーブル11 を参照 POST11[1] : 1 系の受信時にCAM エントリテーブル11 を参照 POST11[0] : 1→0 系の転送時にCAM エントリテーブル11 を参照
15 ～ 12	POST12[3:0]	すべて0	R/W	CAMエントリテーブル12 を参照する条件を設定します。複数のビットを”1” にセットすることにより、複数の条件を選択することが可能です。 POST12[3] : 0 系の受信時にCAM エントリテーブル12 を参照 POST12[2] : 0→1 系の転送時にCAM エントリテーブル12 を参照 POST12[1] : 1 系の受信時にCAM エントリテーブル12 を参照 POST12[0] : 1→0 系の転送時にCAM エントリテーブル12 を参照
11 ～ 8	POST13[3:0]	すべて0	R/W	CAMエントリテーブル13 を参照する条件を設定します。複数のビットを”1” にセットすることにより、複数の条件を選択することが可能です。 POST13[3] : 0 系の受信時にCAM エントリテーブル13 を参照 POST13[2] : 0→1 系の転送時にCAM エントリテーブル13 を参照 POST13[1] : 1 系の受信時にCAM エントリテーブル13 を参照 POST13[0] : 1→0 系の転送時にCAM エントリテーブル13 を参照
7 ～ 4	POST14[3:0]	すべて0	R/W	CAMエントリテーブル14 を参照する条件を設定します。複数のビットを”1” にセットすることにより、複数の条件を選択することが可能です。 POST14[3] : 0 系の受信時にCAM エントリテーブル14 を参照 POST14[2] : 0→1 系の転送時にCAM エントリテーブル14 を参照 POST14[1] : 1 系の受信時にCAM エントリテーブル14 を参照 POST14[0] : 1→0 系の転送時にCAM エントリテーブル14 を参照

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
3 ～ 0	POST15[3:0]	すべて0	R/W	CAMエントリテーブル15 を参照する条件を設定します。複数のビットを”1” にセットすることにより、複数の条件を選択することが可能です。 POST15[3] : 0 系の受信時にCAM エントリテーブル15 を参照 POST15[2] : 0→1 系の転送時にCAM エントリテーブル15 を参照 POST15[1] : 1 系の受信時にCAM エントリテーブル15 を参照 POST15[0] : 1→0 系の転送時にCAM エントリテーブル15 を参照

23.3.61 CAM エントリテーブルPOST 設定3 レジスタ（TSU_POST3）

CAM を使用する場合は、TSU_POST1 ～TSU_POST4 レジスタにより、各CAM エントリテーブルごとにそのエントリテーブルを参照する条件を指定することができます。TSU_POST3 は、TSU_ADRH16～TSU_ADRH23 及びTSU_ADRL16 ～TSU_ADRL23 を参照する条件を指定します。本レジスタの設定は、TSU_FWSLC レジスタのPOSTENL ビットが”1” のとき有効になります。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	POST16[3:0]				POST17[3:0]				POST18[3:0]				POST19[3:0]			
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	POST20[3:0]				POST21[3:0]				POST22[3:0]				POST23[3:0]			
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 28	POST16[3:0]	すべて0	R/W	CAMエントリテーブル16 を参照する条件を設定します。複数のビットを”1” にセットすることにより、複数の条件を選択することが可能です。 POST16[3] : 0 系の受信時にCAM エントリテーブル16 を参照 POST16[2] : 0→1 系の転送時にCAM エントリテーブル16 を参照 POST16[1] : 1 系の受信時にCAM エントリテーブル16 を参照 POST16[0] : 1→0 系の転送時にCAM エントリテーブル16 を参照
27～ 24	POST17[3:0]	すべて0	R/W	CAMエントリテーブル17 を参照する条件を設定します。複数のビットを”1” にセットすることにより、複数の条件を選択することが可能です。 POST17[3] : 0 系の受信時にCAM エントリテーブル17 を参照 POST17[2] : 0→1 系の転送時にCAM エントリテーブル17 を参照 POST17[1] : 1 系の受信時にCAM エントリテーブル17 を参照 POST17[0] : 1→0 系の転送時にCAM エントリテーブル17 を参照

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
23 ～ 20	POST18[3:0]	すべて0	R/W	CAMエントリテーブル18 を参照する条件を設定します。複数のビットを”1” にセットすることにより、複数の条件を選択することが可能です。 POST18[3] : 0 系の受信時にCAM エントリテーブル18 を参照 POST18[2] : 0→1 系の転送時にCAM エントリテーブル18 を参照 POST18[1] : 1 系の受信時にCAM エントリテーブル18 を参照 POST18[0] : 1→0 系の転送時にCAM エントリテーブル18 を参照
19 ～ 16	POST19[3:0]	すべて0	R/W	CAMエントリテーブル19 を参照する条件を設定します。複数のビットを”1”にセットすることにより、複数の条件を選択することが可能です。 POST19[3] : 0 系の受信時にCAM エントリテーブル19 を参照 POST19[2] : 0→1 系の転送時にCAM エントリテーブル19 を参照 POST19[1] : 1 系の受信時にCAM エントリテーブル19 を参照 POST19[0] : 1→0 系の転送時にCAM エントリテーブル19 を参照
15 ～ 12	POST20[3:0]	すべて0	R/W	CAMエントリテーブル20 を参照する条件を設定します。複数のビットを”1” にセットすることにより、複数の条件を選択することが可能です。 POST20[3] : 0 系の受信時にCAM エントリテーブル20 を参照 POST20[2] : 0→1 系の転送時にCAM エントリテーブル20 を参照 POST20[1] : 1 系の受信時にCAM エントリテーブル20 を参照 POST20[0] : 1→0 系の転送時にCAM エントリテーブル20 を参照
11 ～ 8	POST21[3:0]	すべて0	R/W	CAMエントリテーブル21 を参照する条件を設定します。複数のビットを”1” にセットすることにより、複数の条件を選択することが可能です。 POST21[3] : 0 系の受信時にCAM エントリテーブル21 を参照 POST21[2] : 0→1 系の転送時にCAM エントリテーブル21 を参照 POST21[1] : 1 系の受信時にCAM エントリテーブル21 を参照 POST21[0] : 1→0 系の転送時にCAM エントリテーブル21 を参照
7 ～ 4	POST22[3:0]	すべて0	R/W	CAMエントリテーブル22 を参照する条件を設定します。複数のビットを”1” にセットすることにより、複数の条件を選択することが可能です。 POST22[3] : 0 系の受信時にCAM エントリテーブル22 を参照 POST22[2] : 0→1 系の転送時にCAM エントリテーブル22 を参照 POST22[1] : 1 系の受信時にCAM エントリテーブル22 を参照 POST22[0] : 1→0 系の転送時にCAM エントリテーブル22 を参照
3～ 0	POST23[3:0]	すべて0	R/W	CAMエントリテーブル23 を参照する条件を設定します。複数のビットを”1”にセットすることにより、複数の条件を選択することが可能です。 POST23[3] : 0 系の受信時にCAM エントリテーブル23 を参照 POST23[2] : 0→1 系の転送時にCAM エントリテーブル23 を参照 POST23[1] : 1 系の受信時にCAM エントリテーブル23 を参照 POST23[0] : 1→0 系の転送時にCAM エントリテーブル23 を参照

23.3.62 CAM エントリテーブルPOST 設定4 レジスタ（TSU_POST4）

CAM を使用する場合は、TSU_POST1～TSU_POST4 レジスタにより、各CAM エントリテーブルごとにそのエントリテーブルを参照する条件を指定することができます。TSU_POST4 は、TSU_ADRH24～TSU_ADRH31 及びTSU_ADRL24～TSU_ADRL31 を参照する条件を指定します。本レジスタの設定は、TSU_FWSLC レジスタのPOSTENL ビットが”1” のとき有効になります。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	POST24[3:0]				POST25[3:0]				POST26[3:0]				POST27[3:0]			
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	POST28[3:0]				POST29[3:0]				POST30[3:0]				POST31[3:0]			
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 28	POST24[3:0]	すべて0	R/W	CAMエントリテーブル24 を参照する条件を設定します。複数のビットを”1”にセットすることにより、複数の条件を選択することが可能です。 POST24[3]：0 系の受信時にCAM エントリテーブル24 を参照 POST24[2]：0→1 系の転送時にCAM エントリテーブル24 を参照 POST24[1]：1 系の受信時にCAM エントリテーブル24 を参照 POST24[0]：1→0 系の転送時にCAM エントリテーブル24 を参照
27 ～ 24	POST25[3:0]	すべて0	R/W	CAMエントリテーブル25 を参照する条件を設定します。複数のビットを”1”にセットすることにより、複数の条件を選択することが可能です。 POST25[3]：0 系の受信時にCAM エントリテーブル25 を参照 POST25[2]：0→1 系の転送時にCAM エントリテーブル25 を参照 POST25[1]：1 系の受信時にCAM エントリテーブル25 を参照 POST25[0]：1→0 系の転送時にCAM エントリテーブル25 を参照
23 ～ 20	POST26[3:0]	すべて0	R/W	CAMエントリテーブル26 を参照する条件を設定します。複数のビットを”1”にセットすることにより、複数の条件を選択することが可能です。 POST26[3]：0 系の受信時にCAM エントリテーブル26 を参照 POST26[2]：0→1 系の転送時にCAM エントリテーブル26 を参照 POST26[1]：1 系の受信時にCAM エントリテーブル26 を参照 POST26[0]：1→0 系の転送時にCAM エントリテーブル26 を参照
19 ～ 16	POST27[3:0]	すべて0	R/W	CAMエントリテーブル27 を参照する条件を設定します。複数のビットを”1”にセットすることにより、複数の条件を選択することが可能です。 POST27[3]：0 系の受信時にCAM エントリテーブル27 を参照 POST27[2]：0→1 系の転送時にCAM エントリテーブル27 を参照 POST27[1]：1 系の受信時にCAM エントリテーブル27 を参照 POST27[0]：1→0 系の転送時にCAM エントリテーブル27 を参照

15 ～ 12	POST28[3:0]	すべて0	R/W	CAMエントリテーブル28 を参照する条件を設定します。複数のビットを”1” にセットすることにより、複数の条件を選択することが可能です。 POST28[3]：0 系の受信時にCAM エントリテーブル28 を参照 POST28[2]：0→1 系の転送時にCAM エントリテーブル28 を参照 POST28[1]：1 系の受信時にCAM エントリテーブル28 を参照 POST28[0]：1→0 系の転送時にCAM エントリテーブル28 を参照
11 ～ 8	POST29[3:0]	すべて0	R/W	CAMエントリテーブル29 を参照する条件を設定します。複数のビットを”1” にセットすることにより、複数の条件を選択することが可能です。 POST29[3]：0 系の受信時にCAM エントリテーブル29 を参照 POST29[2]：0→1 系の転送時にCAM エントリテーブル29 を参照 POST29[1]：1 系の受信時にCAM エントリテーブル29 を参照 POST29[0]：1→0 系の転送時にCAM エントリテーブル29 を参照
7 ～ 4	POST30[3:0]	すべて0	R/W	CAMエントリテーブル30 を参照する条件を設定します。複数のビットを”1”にセットすることにより、複数の条件を選択することが可能です。 POST30[3]：0 系の受信時にCAM エントリテーブル30 を参照 POST30[2]：0→1 系の転送時にCAM エントリテーブル30 を参照 POST30[1]：1 系の受信時にCAM エントリテーブル30 を参照 POST30[0]：1→0 系の転送時にCAM エントリテーブル30 を参照
3 ～ 0	POST31[3:0]	すべて0	R/W	CAMエントリテーブル31 を参照する条件を設定します。複数のビットを”1”にセットすることにより、複数の条件を選択することが可能です。 POST31[3]：0 系の受信時にCAM エントリテーブル31 を参照 POST31[2]：0→1 系の転送時にCAM エントリテーブル31 を参照 POST31[1]：1 系の受信時にCAM エントリテーブル31 を参照 POST31[0]：1→0 系の転送時にCAM エントリテーブル31 を参照

23.3.63 CAM エントリテーブル0～31H レジスタ（TSU_ADRH0 ～ TSU_ADRH31）

TSU_ADRH0 ～ TSU_ADRH31 は、受信または転送の際に CAM に参照されるエントリテーブルです。本レジスタでは48 ビットのMAC アドレスの上位32 ビットを設定します。最大32 エントリのMAC アドレスを登録することができます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	ADRHn[31:16] (n = 0 to 31)															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	ADRHn[15:0] (n = 0 to 31)															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	ADRHn[31:0] (n: 0 ～ 31)	すべて0	R/W	MACアドレスビット MAC アドレスの上位32 ビットを設定します。 MAC アドレスが01-23-45-67-89-AB（16 進数表示）である場合、本レジスタにはH'01234567 を設定します。

注．CAM エントリテーブルは下記の手順に従って設定してください。
1. TSU_ADSBSY のADSBSY ビットが”0” であることを確認します。
2. TSU_ADRH0～TSU_ADRH31 により、MAC アドレスの上位32 ビットを設定します。
3. TSU_ADRL0～TSU_ADRL31 により、MAC アドレスの下位16 ビットを設定します。

23.3.64 CAM エントリテーブル0～31L レジスタ（TSU_ADRL0 ～ TSU_ADRL31）

TSU_ADRL0 ～ TSU_ADRL31 は、受信または転送の際にCAM に参照されるエントリテーブルです。本レジスタでは48 ビットのMAC アドレスの下位16 ビットを設定します。最大32 エントリのMAC アドレスを登録することができます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	ADRLn[15:0] (n = 0 ~ 31)															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
15 ～ 0	ADRLn[15:0] (n: 0 ～ 31)	すべて0	R/W	MACアドレスビット MAC アドレスの下位16 ビットを設定します。 MAC アドレスが01-23-45-67-89-AB（16 進数表示）である場合、本レジスタにはH'000089AB を設定します。

注．CAM エントリテーブルは下記の手順に従って設定してください。
1. TSU_ADSBSY のADSBSY ビットが“0” であることを確認します。
2. TSU_ADRH0～TSU_ADRH31 により、MAC アドレスの上位32 ビットを設定します。
3. TSU_ADRL0～TSU_ADRL31 により、MAC アドレスの下位16 ビットを設定します。

23.3.65 送信フレーム数カウンタレジスタ（0 系）（正常送信のみ）（TXNLCR0）

TXNLCR0 は、E-MAC-0 にて正常に送信が完了したフレーム数を示す32 ビットのカウンタです。値が H'FFFFFFFF になるとカウントアップを停止します。本レジスタへのリード動作によってカウンタの値は、0 にクリアされます。本レジスタへの書き込みはできません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	NTC0[31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	NTC0[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	NTC0[31:0]	すべて0	R	0系送信フレームカウンタビット 正常に送信が完了したフレームのカウント数を表します。

23.3.66 送信フレーム数カウンタレジスタ（0 系）（正常及び障害発生を含むすべて）（TXALCR0）

TXALCR0 は、E-MAC-0 にて障害が発生した送信フレーム数を含んだ送信フレーム数を示す32 ビットのカウンタです。値が H'FFFFFFFF になるとカウントアップを停止します。本レジスタへのリード動作によってカウンタの値は、0 にクリアされます。本レジスタへの書き込みはできません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	TC0[31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TC0[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	TC0[31:0]	すべて0	R	0系送信フレームカウンタビット 正常に送信された送信フレーム及び障害が発生した送信フレームのカウント数を表します。

23.3.67 受信フレーム数カウンタレジスタ（0 系）（正常受信のみ）（RXNLCR0）

RXNLCR0 は、E-MAC-0 にて正常に受信が完了したフレーム数を示す 32 ビットのカウンタです。値が H'FFFFFFFF になるとカウントアップを停止します。本レジスタへのリード動作によってカウンタの値は、0 にクリアされます。本レジスタへの書き込みはできません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	NRC0[31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	NRC0[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	NRC0[31:0]	すべて 0	R	0 系受信フレームカウンタビット 正常に受信が完了したフレームのカウント数を表します。

23.3.68 受信フレーム数カウンタレジスタ（0 系）（正常及び障害発生を含むすべて）（RXALCR0）

RXALCR0 は、E-MAC-0 にて障害が発生した送信フレーム数を含んだ送信フレーム数を示す 32 ビットのカウンタです。値が H'FFFFFFFF になるとカウントアップを停止します。本レジスタへのリード動作によってカウンタの値は、0 にクリアされます。本レジスタへの書き込みはできません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	RC0[31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RC0[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	RC0[31:0]	すべて 0	R	0 系受信フレームカウンタビット 正常に受信された受信フレーム及び障害が発生した受信フレームのカウント数を表します。

23.3.69 転送フレーム数カウンタレジスタ（1→0 系）（正常転送のみ）（FWNLCR0）

FWNLCR0 は、1→0 系の転送動作での正常に転送が完了したフレーム数を示す32 ビットのカウンタです。値が H'FFFFFFFF になるとカウントアップを停止します。本レジスタへのリード動作によってカウンタの値は、0 にクリアされます。本レジスタへの書き込みはできません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	NFC0[31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	NFC0[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	NFC0[31:0]	すべて0	R	1→0 系転送フレームカウンタビット 正常に転送が完了したフレームのカウント数を表します。

23.3.70 転送フレーム数カウンタレジスタ（1→0 系）（正常及び障害発生を含むすべて）（FWALCR0）

FWALCR0 は、1→0 系の転送動作での障害が発生した転送フレーム数を含んだ転送フレーム数を示す32 ビットのカウンタです。値が H'FFFFFFFF になるとカウントアップを停止します。本レジスタへのリード動作によってカウンタの値は0 にクリアされます。本レジスタへの書き込みはできません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	FC0[31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	FC0[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	FC0[31:0]	すべて0	R	1→0 系転送フレームカウンタビット 正常に転送された転送フレーム及び障害が発生した転送フレームのカウント数を表します。

23.3.71 送信フレーム数カウンタレジスタ（1 系）（正常送信のみ）（TXNLCR1）

TXNLCR1 は、E-MAC-1 にて正常に送信が完了したフレーム数を示す32 ビットのカウンタです。値が H'FFFFFFFF になるとカウントアップを停止します。本レジスタへの読み出し動作によってカウンタの値は、0 にクリアされます。本レジスタへの書き込みはできません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	NTC1[31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	NTC1[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	NTC1[31:0]	すべて0	R	1系送信フレームカウンタビット 正常に送信が完了したフレームのカウント数を表します。

23.3.72 送信フレーム数カウンタレジスタ（1 系）（正常及び障害発生を含むすべて）（TXALCR1）

TXALCR1 は、E-MAC-1 にて障害が発生した送信フレーム数を含んだ送信フレーム数を示す32 ビットのカウンタです。値が H'FFFFFFFF になるとカウントアップを停止します。本レジスタへのリード動作によってカウンタの値は、0 にクリアされます。本レジスタへの書き込みはできません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	TC1[31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TC1[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	TC1[31:0]	すべて0	R	1系送信フレームカウンタビット 正常に送信された送信フレーム及び障害が発生した送信フレームのカウント数を表します。

23.3.73 受信フレーム数カウンタレジスタ（1 系）（正常受信のみ）（RXNLCR1）

RXNLCR1 は、E-MAC-1 にて正常に受信が完了したフレーム数を示す 32 ビットのカウンタです。値が H'FFFFFFFF になるとカウントアップを停止します。本レジスタへの読み出し動作によってカウンタの値は、0 にクリアされます。本レジスタへの書き込みはできません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	NRC1[31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	NRC1[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	NRC1[31:0]	すべて0	R	1系受信フレームカウンタビット 正常に受信が完了したフレームのカウント数を表します。

23.3.74 受信フレーム数カウンタレジスタ（1 系）（正常及び障害発生を含むすべて）（RXALCR1）

RXALCR1 は、E-MAC-1 にて障害が発生した送信フレーム数を含んだ送信フレーム数を示す 32 ビットのカウンタです。値が H'FFFFFFFF になるとカウントアップを停止します。本レジスタへのリード動作によってカウンタの値は、0 にクリアされます。本レジスタへの書き込みはできません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	RC1[31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RC1[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	RC1[31:0]	すべて0	R	1系受信フレームカウンタビット 正常に受信された受信フレーム及び障害が発生した受信フレームのカウント数を表します。

23.3.75 転送フレーム数カウンタレジスタ（0→1 系）（正常転送のみ）（FWNLCR1）

FWNLCR1 は、0→1 系の転送動作での正常に転送が完了したフレーム数を示す32 ビットのカウンタです。値が H'FFFFFFFF になるとカウントアップを停止します。本レジスタへの読み出し動作によってカウンタの値は、0 にクリアされます。本レジスタへの書き込みはできません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	NFC1[31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	NFC1[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	NFC1[31:0]	すべて0	R	0→1 系転送フレームカウンタビット 正常に転送が完了したフレームのカウント数を表します。

23.3.76 転送フレーム数カウンタレジスタ（0→1 系）（正常及び障害発生を含むすべて）（FWALCR1）

FWALCR1 は、0→1 系の転送動作での障害が発生した転送フレーム数を含んだ転送フレーム数を示す32 ビットのカウンタです。値が H'FFFFFFFF になるとカウントアップを停止します。本レジスタへのリード動作によってカウンタの値は、0 にクリアされます。本レジスタへの書き込みはできません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	FC1[31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	FC1[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	FC1[31:0]	すべて0	R	0→1 系転送フレームカウンタビット 正常に転送された転送フレーム及び障害が発生した転送フレームのカウント数を表します。

23.3.77 E-DMAC 起動レジスタ（EDSR）

EDSR は、E-DMAC の送信部、受信部の起動を指定します。本レジスタは書き込みのみ可能で読み出しは無効です。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ENT	ENR
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	W	W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 2	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
1	ENT	0	W	E-DMAC 送信部起動 0：E-DMAC 送信部を停止します。 1：E-DMAC 送信部を起動します。
0	ENR	0	W	E-DMAC 受信部起動 0：E-DMAC 受信部を停止します。 1：E-DMAC 受信部を起動します。

23.3.78 E-DMAC モードレジスタ（EDMR）

EDMR は、読み出しまたは書き込み可能な 32 ビットのレジスタで、E-DMAC のリセット指示及び送受信ディスクリプタ長を指定します。本レジスタの設定は、送信機能、受信機能が有効になる前（EDTRR の TR ビットまたは、RR ビット（EDRRR のビット 0）を”1” とする以前）に行います。ただし、SWRR と SWRT ビットは、送信機能、受信機能が有効になった後でも書き込むことが可能です。データ送信中に本レジスタによってソフトウェアリセットを実行すると、回線上に異常データを送出する可能性があります。本レジスタによる送受信ディスクリプタ長の指定、TDLAR、RDLAR 等の設定値、ECMR（E-MAC モードレジスタ）の設定値、他 E-DMAC、E-MAC の動作に関わるレジスタ設定値を変更するには、本レジスタのソフトウェアリセットを実行後設定します。

本レジスタのソフトウェアリセットを実行する場合は、必ず、SWRT ビットと SWRR ビットに同時に ”1” を書き込んでください。SWRT ビットと SWRR ビットに ”1” をライトすることにより E-DMAC の TDLAR、RDLAR、RMFCR を除く E-DMAC の各レジスタと、E-MAC の各レジスタを初期化することができます。TSU のレジスタ（レジスタ名が TSU_ で始まるレジスタ）は初期化されません。EDMR0 の SWRT 及び SWRR ビットでは E-DMAC0 と E-MAC-0 関係の各レジスタが、EDMR1 の SWRT 及び SWRR ビットでは E-DMAC1 と E-MAC-1 関係の各レジスタが初期化されます。転送イネーブルレジスタ（0→1 系）（TSU_FWEN0）、転送イネーブルレジスタ（1→0 系）（TSU_FWEN1）により、TSU で転送動作を許可している場合は、本ビットによるソフトウェアリセットは行わないでください。なお、ソフトウェアリセットの発行期間中（周辺クロック Pck で 32 サイクル）は、イーサネット関係のすべてのモジュールに対するレジスタアクセスを禁止します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	DE	DL[1:0]		—	—	SWRT	SWRR
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	—	—	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 7	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
6	DE	0	R/W	送受信フレームエンディアン 送受信 FIFO・送受信バッファ間のフレームデータ DMA 転送時のエンディアンを設定します。 0：ビッグエンディアンモード（ロングワードアクセス） 1：リトルエンディアンモード（ロングワードアクセス）
5、4	DL[1:0]	00	R/W	送受信ディスクリプタ長 ディスクリプタ長を指定します（「23.4.1　ディスクリプタとディスクリプタリスト」参照）。 00：16 バイト 01：32 バイト 10：64 バイト 11：リザーブ（設定不可）
3、2	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
1	SWRT	0	R/W	送信FIFO 制御部ソフトウェアリセット ［書き込み時］ 0：無効 1：ソフトウェアリセット起動 ［読み出し時］ 0：ソフトウェアリセット未実行（あるいは完了） 1：ソフトウェアリセット実行中 注．　転送中に本ビットは設定しないでください。
0	SWRR	0	R/W	受信FIFO 制御部ソフトウェアリセット ［書き込み時］ 0：無効 1：ソフトウェアリセット起動 ［読み出し時］ 0：ソフトウェアリセット未実行（あるいは完了） 1：ソフトウェアリセット実行中 注．　転送中に本ビットは設定しないでください。

23.3.79 E-DMAC 送信要求レジスタ（EDTRR）

EDTRR は、読み出しまたは書き込み可能な32 ビットのレジスタで、E-DMAC に送信指示を行います。本レジスタのTR ビットに11 を書き込んだ後、E-DMAC はTDLAR に指示されているアドレスの送信ディスクリプタを読み込みます。この送信ディスクリプタの TACT ビットが 1（有効）であれば、E-DMAC による送信DMA 転送が開始します。以降、最初の送信ディスクリプタによるDMA 転送が完了すると、E-DMAC は次の送信ディスクリプタを読み込み TACT ビットが有効であれば、送信 DMA 動作を継続します。また、送信ディスクリプタの TACT ビットが 0（無効）の場合は、TR ビットをクリアして送信 DMAC の動作を停止します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	TR[1:0]	
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 2	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
1、0	TR[1:0]	00	R/W	送信要求 00、01、10：送信停止状態 00、01、あるいは10 を書き込んだ場合、E-DMAC は、現在処理中の送信ディスクリプタのDMA 転送を終了し、その次の送信ディスクリプタを読み込んだ後に、TR ビットをクリアします（それまでに検出した有効な送信ディスクリプタに対してはライトバックまで完了させます）。また、E-DMAC は、送信ディスクリプタの枯渇あるいは送信完了を検出した場合、TR ビットをクリアします（それまでに検出した有効な送信ディスクリプタに対してはライトバックまで完了させます）。 11：E-DMAC による送信DMA 動作中 11 を書き込んだ後は、E-DMAC は送信ディスクリプタの読み込みを開始します。

23.3.80 E-DMAC 受信要求レジスタ（EDRRR）

EDRRR は、読み出しまたは書き込み可能な32 ビットのレジスタで、E-DMAC に受信指示を行います。本レジスタのRR ビットに1 を書き込んだ後、E-DMAC はRDLAR に指示されているアドレスの受信ディスクリプタを読み込みます。この受信ディスクリプタのRACT ビットが1（有効）で受信FIFO に受信したフレームがあれば、E-DMAC による受信DMA 転送が開始します。以降、最初の受信ディスクリプタによるDMA 転送が完了すると、E-DMAC は次の受信ディスクリプタを読み込みRACT ビットが有効であれば、受信DMA 動作を継続します。ただし、受信FIFO に受信データがない場合には、E-DMAC は受信DMA 動作を待機状態にします。また、受信ディスクリプタのRACT ビットが0（無効）の場合は、RR ビットをクリアして受信DMAC の動作を停止します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

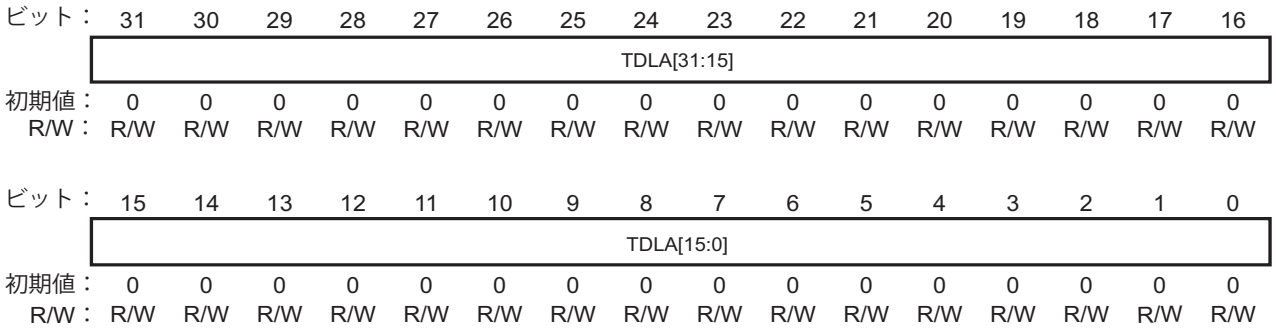
ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	RR
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 1	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
0	RR	0	R/W	受信要求 0：受信機能を無効にする（注） 0 を書き込んだ場合、E-DMAC は、1 フレームのDMA 転送を終了した時点で受信機能を停止し、RR ビットをクリアします。 また、受信ディスクリプタの枯渇を検出した場合、E-DMAC は、RR ビットをクリアします。 1：受信ディスクリプタを読み込み、E-DMAC 受信可能状態となる

注.　フレームの受信中に受信機能を無効にした場合、受信ディスクリプタのライトバックが正常に動作せず、以降の受信ディスクリプタの読み込みポインタが異常となるため、E-DMAC は正常な動作ができなくなります。この場合、再度E-DMAC を受信可能状態とするためには、EDMR0（EDMR1）のSWRT 及びSWRR ビットによりソフトウェアリセットを実行してください。E-DMAC をソフトウェアリセットせずに受信機能を無効とするには、ECMR0（ECMR1）のRE ビットにより受信機能を無効とします。次に、E-DMAC の受信が完了し受信ディスクリプタのライトバックが確認できた後、本レジスタの受信機能を無効にしてください。

23.3.81 送信ディスクリプタリスト先頭アドレスレジスタ（TDLAR）

TDLAR は、読み出しまたは書き込み可能な32 ビットのレジスタで、送信ディスクリプタリストの先頭アドレスを設定します。各ディスクリプタは、EDMR のDL ビットで示すディスクリプタ長に合致する境界構成とします。送信中に本レジスタを書き換えることは、禁止します。本レジスタの書き換えは、E-DMAC 送信要求レジスタ（EDTRR）のTR ビット（＝00）による送信停止状態で行ってください。



ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～0	TDLA[31:0]	すべて0	R/W	送信ディスクリプタの先頭アドレス 指定したディスクリプタ長によって下位ビットを以下のように設定します。 16 バイトバウンダリ：TDLA[3:0]＝0000 32 バイトバウンダリ：TDLA[4:0]＝00000 64 バイトバウンダリ：TDLA[5:0]＝000000

23.3.82 受信ディスクリプタリスト先頭アドレスレジスタ（RDLAR）

RDLAR は、読み出しまたは書き込み可能な32 ビットのレジスタで、受信ディスクリプタリストの先頭アドレスを設定します。各ディスクリプタは、EDMR のDL ビットで示すディスクリプタ長に合致する境界構成とします。受信中に本レジスタを書き換えることは禁止します。本レジスタの書き換えは、E-DMAC 受信要求レジスタ（EDRRR）のRR ビット（＝0）による受信停止状態で行ってください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	RDLA[31:15]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RDLA[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～0	RDLA[31:0]	すべて0	R/W	受信ディスクリプタの先頭アドレス 指定したディスクリプタ長によって下位ビットを以下のように設定します。 16 バイトバウンダリ：RDLA[3:0]＝0000 32 バイトバウンダリ：RDLA[4:0]＝00000 64 バイトバウンダリ：RDLA[5:0]＝000000

23.3.83 E-MAC/E-DMAC ステータスレジスタ（EESR）

EESR は、読み出しまたは書き込み可能な32 ビットのレジスタで、E-MAC とE-DMAC を合わせた通信ステータスを表示します。本レジスタは、割り込み要因として報告されます。各ビットは、1 を書き込むことでクリアされます（ただし、ビット22（ECI）はリード専用で、1 を書き込んでもクリアされません）。0 を書き込んでも、各ビットの状態には影響しません。各割り込み要因はE-MAC/E-DMAC ステータス割り込み許可レジスタ（EESIPR）の当該ビットによってマスクすることが可能です。

本ステータスレジスタが要因で発生する割り込みは、0 系ではGEINT0、1 系ではGEINT1 となります。割り込みの優先順位については、「10.4.6　割り込み例外処理と優先順位」を参照ください。GEINT2 は、TSU にあるTSU_FWSR が要因の割り込みです。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	TWB[1:0]		TC[1]	TUC	ROC	TABT	RABT	RFCOF	—	ECI	TC[0]	TDE	TFUF	FR	RDE	RFOF
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	DLC	CD	TRO	RMAF	—	CELF	RRF	RTLF	RTSF	PRE	CERF
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31、30	TWB[1:0]	00	R/W	ライトバック完了 フレーム送信完了後のE-DMAC からの当該ディスクリプタへのライトバックが完了したことを示します。本動作は、送信フレームの最後を含む送信ディスクリプタのTWBI ビットが1 にセットされているときのみ有効です。 00：ライトバック未完了または送信未指示 11：ライトバック完了 その他：無効
29	TC[1]	0	R/W	フレーム送信完了 TC[0] ビットとの組み合わせで、送信ディスクリプタによって指定されたデータをすべてE-MAC 部から送信したことを示します。1 フレーム／1 ディスクリプタでは、1 フレームの送信が完了し次のディスクリプタ内の送信ディスクリプタ有効ビット（TACT）がセットされていなかった場合、また1 フレーム／複数ディスクリプタであるマルチバッファフレーム処理ではフレーム最後のデータを送信し、次のディスクリプタ内の送信ディスクリプタ有効ビット（TACT）がセットされていなかった場合に送信完了とみなし、本ビットが1 となります。 フレーム送信完了後は、E-DMAC は送信状態を当該ディスクリプタにライトバックします。 TC[1:0] 00：送信未完了または送信未指示 11：送信完了 その他：無効
28	TUC	0	R/W	送信アンダフローフレームライトバック完了 0：送信アンダフローを起こしたフレームのライトバックが完了していない 1：送信アンダフローを起こしたフレームのライトバックが完了した
27	ROC	0	R/W	受信オーバフローフレームライトバック完了 0：受信アンダフローを起こしたフレームのライトバックが完了していない 1：受信アンダフローを起こしたフレームのライトバックが完了した
26	TABT	0	R/W	送信中断検出 フレーム送信時、障害等によりE-MAC がフレーム送信を中断したことを示します。 0：フレーム送信中断未発生または送信未指示 1：フレーム送信中断発生
25	RABT	0	R/W	受信中断検出 フレーム受信時、障害等によりE-MAC がフレーム受信を中断したことを示します。 0：フレーム受信中断未発生または受信未指示 1：フレーム受信中断発生

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
24	RFCOF	0	R/W	受信フレームカウンタオーバフロー 受信FIFO 内のフレームカウンタがオーバフローしたことを示します。 0：受信フレームカウンタがオーバフローしていない 1：受信フレームカウンタがオーバフローした
23	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
22	ECI	0	R	E-MAC ステータスレジスタ要因 本ビットは、リード専用です。ECSR の要因がクリアされると、本ビットもクリアされます。 0：E-MAC ステータス割り込み要因未検出 1：E-MAC ステータス割り込み要因検出
21	TC[0]	0	R/W	フレーム送信完了 TC[1]ビットとの組み合わせで、送信ディスクリプタによって指定されたデータをすべてE-MAC 部から送信したことを示します。詳しくは、TC[1]ビットの説明を参照してください。
20	TDE	0	R/W	送信ディスクリプタ枯渇 1 フレーム／複数ディスクリプタであるマルチバッファフレーム処理で前ディスクリプタがフレームの最終でない場合は、E-DMAC が送信ディスクリプタを読み込んだときに、ディスクリプタ内の送信ディスクリプタ有効ビット（TACT）がセットされていなかったことを示します。結果として不完全なフレームを送出する場合があります。 0：送信ディスクリプタ有効ビットTACT＝1 を検出 1：送信ディスクリプタ有効ビットTACT＝0 を検出 送信ディスクリプタ枯渇（TDE＝1）が発生した場合は、ソフトウェアリセットしてから送信起動をかけてください。このとき、送信ディスクリプタリスト先頭アドレスレジスタ（TDLAR）に格納されているアドレスからの開始となります。
19	TFUF	0	R/W	送信FIFO アンダフロー フレームを送信中に送信FIFO にアンダフローが発生したことを示します。回線上には、不完全なデータが送出されます。 0：アンダフロー未発生 1：アンダフロー発生
18	FR	0	R/W	フレーム受信 フレームを受信し、受信ディスクリプタを更新したことを示します。本ビットは、1 フレームを受信するたびに1 にセットされます。 0：フレーム未受信 1：フレーム受信済み

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
17	RDE	0	R/W	受信ディスクリプタ枯渇 E-DMAC が受信DMA のため読み込んだ受信ディスクリプタの RACT ビットが0（無効）であったことを示します。 受信ディスクリプタ枯渇（RDE＝1）が発生した場合は、RACT ビット＝0 となっていた受信ディスクリプタをRACT＝1 に設定し EDRRR のRR ビットに1を書き込むことで、受信を再開することができます。 0：受信ディスクリプタ有効ビットRACT＝1 を検出 1：受信ディスクリプタ有効ビットRACT＝0 を検出
16	RFOF	0	R/W	受信FIFO オーバフロー フレームを受信中に受信FIFO がオーバフローしたことを示します。 0：オーバフロー未発生 1：オーバフロー発生
15 ～ 11	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
10	DLC	0	R/W	キャリア消失検出 フレームを送信中にキャリア消失を検出したことを示します。 0：キャリア消失未検出 1：キャリア消失検出
9	CD	0	R/W	遅延衝突検出 フレームを送信中に遅延衝突を検出したことを示します。 0：遅延衝突未検出 1：遅延衝突検出
8	TRO	0	R/W	送信リトライオーバ フレームを送信中にリトライオーバが発生したことを示します。これは、E-MAC が送信を開始後、バックオフアルゴリズムに基づく 15 回の再送をあわせ全部で 16 回の送信試行に失敗したことを示します。 0：送信リトライオーバ未検出 1：送信リトライオーバ検出
7	RMAF	0	R/W	マルチキャストアドレスフレーム受信 0：マルチキャストアドレスフレーム未受信 1：マルチキャストアドレスフレーム受信
6	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
5	CELF	0	R/W	キャリア拡張消失 1 ギガビット／半二重転送モード時、キャリア拡張が消失したことを示します。 フレームとキャリア拡張の長さの合計がSLOT_TIME（4096bit）未満であることを示します。 0：キャリア拡張消失未発生 1：キャリア拡張消失発生
4	RRF	0	R/W	端数ビットフレーム受信 0：端数ビットフレーム未受信 1：端数ビットフレーム受信

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
3	RTLF	0	R/W	ロングフレーム受信エラー RFLR で設定した受信フレーム長上限値を超えるバイト数のフレームを受信したことを示します。 0：ロングフレーム未受信 1：ロングフレーム受信
2	RTSF	0	R/W	ショートフレーム受信エラー 64 バイト未満のフレームを受信したことを示します。 0：ショートフレーム未受信 1：ショートフレーム受信
1	PRE	0	R/W	PHY-LSI 受信エラー 0：PHY-LSI 受信エラー未検出 1：PHY-LSI 受信エラー検出
0	CERF	0	R/W	受信フレームCRC エラー 0：CRC エラー未検出 1：CRC エラー検出

23.3.84 E-MAC/E-DMAC ステータス割り込み許可レジスタ（EESIPR）

EESIPR は、読み出しまたは書き込み可能な 32 ビットのレジスタで、E-MAC/E-DMAC ステータスレジスタ（EESR）の各ビットに対応する割り込み許可レジスタです。各ビットは、1 をライトすることで割り込みが許可されます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	TWB1IP	TWB0IP	TC1IP	TUCIP	ROCIP	TABTIP	RABTIP	RFCOFIP	—	ECIIP	TC0IP	TDEIP	TFUFIP	FRIP	RDEIP	RFOFIP
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	DLCIP	CDIP	TROIP	RMAFIP	—	CELFIP	RRFIP	RTLFIP	RTSFIP	PREIP	CERFIP
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31	TWB1IP	0	R/W	ライトバック完了割り込み許可 0：ライトバック完了割り込み禁止 1：ライトバック完了割り込み許可
30	TWB0IP	0	R/W	ライトバック完了割り込み許可 0：ライトバック完了割り込み禁止 1：ライトバック完了割り込み許可
29	TC1IP	0	R/W	フレーム送信完了割り込み許可 0：フレーム送信完了割り込み禁止 1：フレーム送信完了割り込み許可

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
28	TUCIP	0	R/W	送信アンダフローフレームライトバック完了 0：送信アンダフローフレームライトバック完了割り込み禁止 1：送信アンダフローフレームライトバック完了割り込み許可
27	ROCIP	0	R/W	受信オーバフローフレームライトバック完了 0：送信オーバフローフレームライトバック完了割り込み禁止 1：送信オーバフローフレームライトバック完了割り込み許可
26	TABTIP	0	R/W	送信中断検出割り込み許可 0：受信中断検出割り込み禁止 1：受信中断検出割り込み許可
25	RABTIP	0	R/W	受信中断検出割り込み許可 0：受信中断検出割り込み禁止 1：受信中断検出割り込み許可
24	RFCOFIP	0	R/W	受信フレームカウンタオーバフロー割り込み許可 0：受信フレームカウンタオーバフロー割り込み禁止 1：受信フレームカウンタオーバフロー割り込み許可
23	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
22	ECIIP	0	R/W	E-MAC ステータスレジスタ要因割り込み許可 0：E-MAC ステータス割り込み禁止 1：E-MAC ステータス割り込み許可
21	TC0IP	0	R/W	フレーム送信完了割り込み許可 0：フレーム送信完了割り込み禁止 1：フレーム送信完了割り込み許可
20	TDEIP	0	R/W	送信ディスクリプタ枯渇割り込み許可 0：送信ディスクリプタ枯渇割り込み禁止 1：送信ディスクリプタ枯渇割り込み許可
19	TFUFIP	0	R/W	送信FIFO アンダフロー割り込み許可 0：アンダフロー割り込み禁止 1：アンダフロー割り込み許可
18	FRIP	0	R/W	フレーム受信割り込み許可 0：フレーム受信割り込み禁止 1：フレーム受信割り込み許可
17	RDEIP	0	R/W	受信ディスクリプタ枯渇割り込み許可 0：受信ディスクリプタ枯渇割り込み禁止 1：受信ディスクリプタ枯渇割り込み許可
16	RFOFIP	0	R/W	受信FIFO オーバフロー割り込み許可 0：オーバフロー割り込み禁止 1：オーバフロー割り込み許可
15 ～ 11	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
10	DLCIP	0	R/W	キャリア消失検出割り込み許可 0：キャリア消失検出割り込み禁止 1：キャリア消失検出割り込み許可

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
9	CDIP	0	R/W	遅延衝突検出割り込み許可 0：遅延衝突割り込み禁止 1：遅延衝突割り込み許可
8	TROIP	0	R/W	送信リトライオーバ割り込み許可 0：送信リトライオーバ割り込み禁止 1：送信リトライオーバ割り込み許可
7	RMAFIP	0	R/W	マルチキャストアドレスフレーム受信割り込み許可 0：マルチキャストアドレスフレーム受信割り込み禁止 1：マルチキャストアドレスフレーム受信割り込み許可
6	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
5	CELFIP	0	R/W	キャリア拡張消失割り込み許可 0：キャリア拡張消失割り込み禁止 1：キャリア拡張消失割り込み許可
4	RRFIP	0	R/W	端数ビットフレーム受信割り込み許可 0：端数ビットフレーム受信割り込み禁止 1：端数ビットフレーム受信割り込み許可
3	RTLFIP	0	R/W	ロングフレーム受信エラー割り込み許可 0：ロングフレーム受信エラー割り込み禁止 1：ロングフレーム受信エラー割り込み許可
2	RTSFIP	0	R/W	ショートフレーム受信エラー割り込み許可 0：ショートフレーム受信エラー割り込み禁止 1：ショートフレーム受信エラー割り込み許可
1	PREIP	0	R/W	PHY-LSI 受信エラー割り込み許可 0：PHY-LSI 受信エラー割り込み禁止 1：PHY-LSI 受信エラー割り込み許可
0	CERFIP	0	R/W	受信フレームCRC エラー割り込み許可 0：CRC エラー割り込み禁止 1：CRC エラー割り込み許可

23.3.85 送受信ステータスコピー指示レジスタ（TRSCER）

TRSCERは、E-MAC/E-DMACステータスレジスタ（EESR）のビット26、25、7及びビット5からビット0で報告される、送信及び受信ステータス情報を当該ディスクリプタのTFEまたはRFEビットに反映するか否かを指示します。本レジスタの各ビットは、EESRのビット26、25、7及びビット5からビット0に対応します。

各ビットに0を設定すると、送信ステータス（EESRのビット26）は送信ディスクリプタのTFEビットに、また受信ステータス（EESRのビット25、7及びビット5からビット0）は受信ディスクリプタのRFEビットに、各ステータスビットのいずれかの1状態をTFEまたはRFEの1状態として反映します。

1を設定すると、該当する要因が発生してもディスクリプタに反映されません。LSIのリセット後は、各ビットは0に設定されています。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	TABTCE	RABTCE
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	RMAFCE	—	CELFCE	RRFCE	RTLFCE	RTSFCE	PRECE	CERFCE
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 18	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
17	TABTCE	0	R/W	TABT ビットコピー指示 0：TABT ビットのステータスを送信ディスクリプタのTFE ビットに反映します 1：該当する要因が発生しても送信ディスクリプタのTFE ビットに反映しません
16	RABTCE	0	R/W	RABT ビットコピー指示 0：RABT ビットのステータスを受信ディスクリプタのRFE ビットに反映します 1：該当する要因が発生しても受信ディスクリプタのRFE ビットに反映しません
15 ～ 8	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
7	RMAFCE	0	R/W	RMAF ビットコピー指示 0：RMAF ビットのステータスを受信ディスクリプタのRFE ビットに反映します 1：該当する要因が発生しても受信ディスクリプタのRFE ビットに反映しません
6	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
5	CELFCE	0	R/W	CELF ビットコピー指示 0：CELF ビットのステータスを受信ディスクリプタのRFE ビットに反映します 1：該当する要因が発生しても受信ディスクリプタのRFE ビットに反映しません
4	RRFCE	0	R/W	RRF ビットコピー指示 0：RRF ビットのステータスを受信ディスクリプタのRFEビットに反映します 1：該当する要因が発生しても受信ディスクリプタのRFE ビットに反映しません
3	RTLFCE	0	R/W	RTLF ビットコピー指示 0：RTLF ビットのステータスを受信ディスクリプタのRFE ビットに反映します 1：該当する要因が発生しても受信ディスクリプタのRFE ビットに反映しません
2	RTSFCE	0	R/W	RTSF ビットコピー指示 0：RTSF ビットのステータスを受信ディスクリプタのRFE ビットに反映します 1：該当する要因が発生しても受信ディスクリプタのRFE ビットに反映しません
1	PRECE	0	R/W	PRE ビットコピー指示 0：PRF ビットのステータスを受信ディスクリプタのRFEビットに反映します 1：該当する要因が発生しても受信ディスクリプタのRFE ビットに反映しません
0	CERFCE	0	R/W	CERF ビットコピー指示 0：CERF ビットのステータスを受信ディスクリプタのRFE ビットに反映します 1：該当する要因が発生しても受信ディスクリプタのRFE ビットに反映しません

23.3.86 ミスドフレームカウンタレジスタ（RMFCR）

RMFCR は、受信時に受信バッファに収容しきれずに破棄されたフレーム数を示す16 ビットのカウンタです。受信FIFO がオーバフローすると、このFIFO 内にある受信フレームは破棄されます。このときに破棄するフレームの数をカウントアップします。本レジスタの値が H'FFFF になるとカウントアップを停止します。カウンタの値をクリアする際は、本レジスタにH'0000 を書き込んでください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	MFC[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
15 ～ 0	MFC[15:0]	すべて0	R/W	ミスドフレームカウンタ 受信時に、受信バッファに転送しきれずに破棄されたフレーム数を示します。

23.3.87 送信FIFO しきい値指定レジスタ（TFTR）

TFTR は、読み出しまたは書き込み可能な32 ビットのレジスタで、最初の送信を開始するまでの送信FIFO のしきい値を指定します。実際のしきい値は、設定した数値の 4 倍の値に相当します。E-MAC は送信FIFO 内のデータ数が本レジスタで指定されたバイト数を超えるか、送信FIFO が満杯、または1 フレーム分のデータ書き込みが行われると送信を開始します。なお送信動作中（TR[1:0] ビット（EDTRR レジスタのビット1、0）=11）の本レジスタへの書き込みは禁止です。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	TFT[10:0]										
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 11	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

10 ～ 0	TFT[10:0]	すべて0	R/W	送信FIFO しきい値 送信FIFO のしきい値は、必ずFDR で指定したFIFO 容量値より小さい32 バイト単位の値で設定してください。 H'000：ストア＆フォワードモード H'008：32 バイト H'010：64 バイト H'018：128 バイト ：　： H'07F：508 バイト H'080：512 バイト ：　： H'0FF：1020 バイト H'100：1024 バイト ：　： H'1FF：2044 バイト H'200：2048 バイト 注.　H'201～H'7FF の設定は禁止されています。

注.　1フレーム分のデータ書き込みが完了する以前に送信を開始する場合には、アンダフローの発生に注意が必要です。

23.3.88　FIFO 容量指定レジスタ（FDR）

FDR は、読み出しまたは書き込み可能な32 ビットのレジスタで、送信及び受信FIFO の容量を指定します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	TFD[2:0]			—	—	RFD[5:0]					
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 11	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
10 ～ 8	TFD[2:0]	すべて0	R/W	送信FIFO 容量 最大2K バイトある送信FIFO の容量を256 バイトから2K バイトまで、256 バイト単位で指定します。送受信開始後は、設定値を変更することを禁止します。 H'00：256 バイト H'01：512 バイト ：　： H'07：2048 バイト

7、6	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
5 ～ 0	RFD[5:0]	すべて0	R/W	受信FIFO 容量 最大8K バイトある受信FIFO の容量を256 バイトから12K バイトまで、256 バイト単位で指定します。送受信開始後は、設定値を変更することを禁止します。 H'00：256バイト H'01：512バイト H'02：768バイト H'03：1024 バイト H'04：1280バイト ：　： H'07：2048バイト ：　： H'1F: 8192 バイト ：　： H'2F：12288 バイト 注．　H'30 ～ H'3F の設定は禁止されています。

23.3.89　受信方式制御レジスタ（RMCR）

RMCR は、読み出しまたは書き込み可能な32 ビットのレジスタで、フレームを受信時のECMR 内にあるREビットの制御の方法を指定します。なお本レジスタの設定は、受信停止状態で行ってください。

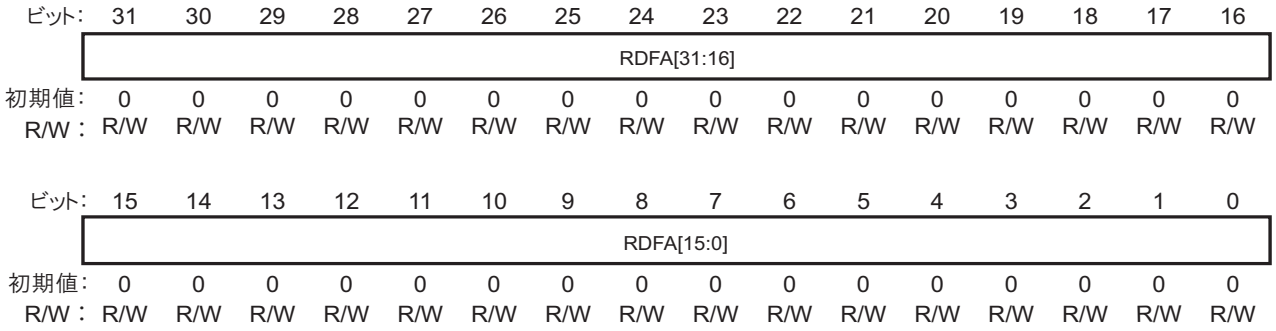
ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	RNC
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～1	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
0	RNC	0	R/W	受信許可制御 フレーム受信を継続する／しないを設定します。 0：1 つのフレームを受信完了すると、E-DMAC は受信ステータスをディスクリプタに書き込んでEDRRR のRR ビットを0 とします。 1：1 つのフレームを受信完了すると、E-DMAC は受信ステータスをディスクリプタに書き込み（ライトバック）します。さらにE-DMAC は次のディスクリプタを読み込み、次のフレームの受信に備えます。

23.3.90 受信ディスクリプタフェッチアドレスレジスタ（RDFAR）

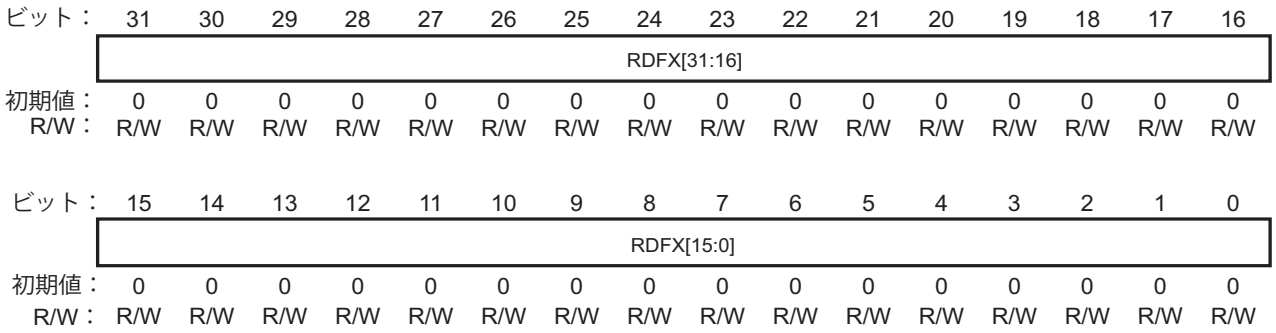
RDFAR は、E-DMAC が受信ディスクリプタからディスクリプタ情報をフェッチする際に必要となるディスクリプタ先頭アドレスを格納します。本レジスタに表示されるアドレスをモニタすることにより、E-DMAC がどの受信ディスクリプタ情報をもとに処理を実行しているかを認識できます。E-DMAC が実行しているディスクリプタフェッチ処理とレジスタの読み出しの値が一致していない場合もあります。初期設定の際は、処理を開始する受信ディスクリプタのアドレスを設定してください。



ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	RDFA[31:0]	すべて0	R/W	受信ディスクリプタフェッチアドレス 受信中に本レジスタへの書き込みは禁止です。

23.3.91 受信ディスクリプタ処理済アドレスレジスタ（RDFXR）

RDFXR は、E-DMAC が、直前にライトバック処理を完了した受信ディスクリプタ先頭アドレスを格納します。本レジスタに表示されるアドレスをモニタすることにより、E-DMAC がどの受信ディスクリプタまで処理を実行したか認識できます。初期設定の際は、RDFAR レジスタ設定値の 1 つ前の受信ディスクリプタのアドレスを設定してください。



ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	RDFX[31:0]	すべて0	R/W	受信ディスクリプタ処理済アドレス 受信中に本レジスタへの書き込みは禁止です。

23.3.92 受信ディスクリプタ最終フラグレジスタ（RDFFR）

RDFFR は、RDFX でアドレスされる、直前にライトバック処理を完了した受信ディスクリプタが受信ディスディスクリプタ列（ディスクリプタリスト）の最終であるかどうかを示します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	RDLF
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 1	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
0	RDLF	0	R/W	受信ディスクリプタ列最終フラグ RDFXR でアドレスされる、直前にライトバック処理を完了した受信ディスクリプタが受信ディスディスクリプタ列（ディスクリプタリスト）の最終であるかどうかを示します。 0：受信ディスクリプタ列の最終でない 1：受信ディスクリプタ列の最終である

23.3.93 送信ディスクリプタフェッチアドレスレジスタ（TDFAR）

E-DMAC が送信ディスクリプタからディスクリプタ情報をフェッチする際に必要となるディスクリプタ先頭アドレスを格納します。本レジスタに表示されるアドレスをモニタすることにより、E-DMAC がどの送信ディスクリプタ情報をもとに処理を実行しているか認識できます。E-DMAC が実行しているディスクリプタフェッチ処理とレジスタの読み出しの値が一致していない場合もあります。初期設定の際は、処理を開始する送信ディスクリプタのアドレスを設定してください。

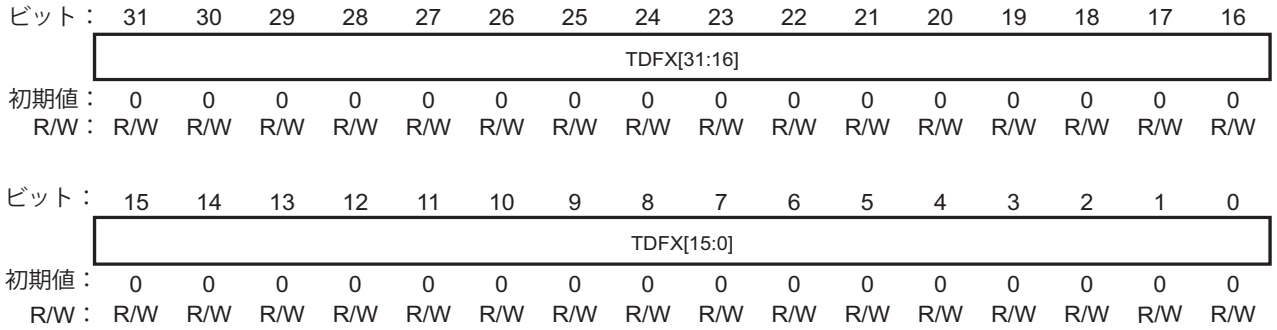
ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	TDFA[31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TDFA[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	TDFA[31:0]	すべて0	R/W	送信ディスクリプタフェッチアドレス 送信中に本レジスタへの書き込みは禁止です。

23.3.94 送信ディスクリプタ処理済アドレスレジスタ（TDFXR）

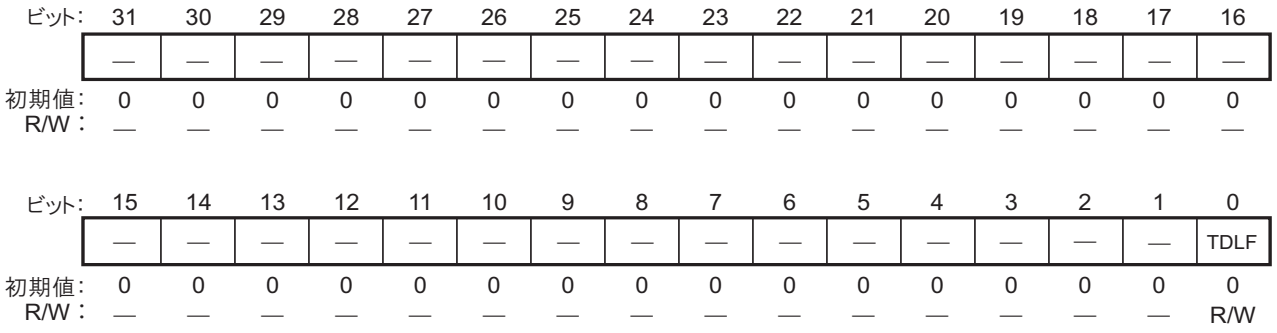
TDFXR は、E-DMAC が、直前にライトバック処理を完了した送信ディスクリプタ先頭アドレスを格納します。本レジスタに表示されるアドレスをモニタすることにより、E-DMAC がどの送信ディスクリプタまで処理を実行したか認識できます。初期設定の際は、TDFAR レジスタレジスタ設定値の1 つ前の送信ディスクリプタのアドレスを設定してください。



ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	TDFX[31:0]	すべて0	R/W	送信ディスクリプタ処理済アドレス 送信中に本レジスタへの書き込みは禁止です。

23.3.95 送信ディスクリプタ最終フラグレジスタ（TDFFR）

TDFFR は、TDFXR でアドレスされる、直前にライトバック処理を完了した送信ディスクリプタが送信ディスディスクリプタ列（ディスクリプタリスト）の最終であるかどうかを示します。



ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～1	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
0	TDLF	0	R/W	送信ディスクリプタ列最終フラグ TDFXR でアドレスされる、直前にライトバック処理を完了した送信ディスクリプタが送信ディスディスクリプタ列（ディスクリプタリスト）の最終であるかどうかを示します。 0：送信ディスクリプタ列の最終でない 1：送信ディスクリプタ列の最終である

23.3.96 オーバフロー予告FIFO しきい値設定レジスタ（FCFTR）

FCFTR は、読み出しまたは書き込み可能な32 ビットのレジスタで、E-MAC のフロー制御の設定を行います。受信FIFO データ容量（RFD[7:0]）、受信フレーム数（RFF[4:0]）によるしきい値を設定できます。

RFD の設定条件によりフロー制御をオンにするとき、FIFO 容量設定レジスタ（FDR）で設定した受信FIFO 容量値と同じ設定である場合は、（FIFO データ容量－64）バイトでフロー制御をオンにします。たとえばFDR のRFD＝7、FCFTR のRFD＝7 の場合は、受信FIFO 内に（2,048－64）バイトのデータを格納されたとき、フロー制御がオンになります。なお本レジスタのRFD の設定値は、FDR のRFD の設定値と同じか小さい値を設定してください。

フロー制御のオンは、RFF[4:0] またはRFD[7:0]のいずれかの設定条件を満たしたときになります。フロー制御のオフは、いずれの設定条件も満たしていない（解除）ときになります。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	RFF[4:0]				
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	RFD[7:0]							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 21	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
20 ～ 16	RFF[4:0]	H'17	R/W	受信FIFO オーバフロー予告信号送出しきい値 H'00：受信フレームを受信FIFO 内に1 フレーム格納完了時 H'01：受信フレームを受信FIFO 内に2 フレーム格納完了時 ：　： H'16：受信フレームを受信FIFO 内に23 フレーム格納完了時 H'17：受信フレームを受信FIFO 内に24 フレーム格納完了時 H'18～H'1F：設定禁止
15 ～ 8	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
7 ～0	RFD[7:0]	H'FF	R/W	受信FIFO オーバフロー予告信号送出しきい値 H'00：受信FIFOに256 - 32バイトのデータが格納されたとき H'01：受信FIFOに512 - 32バイトのデータが格納されたとき ：　： H'06：受信FIFOに1,792 - 32バイトのデータが格納されたとき H'07：受信FIFOに2,048 - 64バイトのデータが格納されたとき ：　： H'FF：受信FIFOに65536 - 64バイトのデータが格納されたとき

23.3.97 受信データパディング挿入設定レジスタ（RPADIR）

RPADIR は、読み出しまたは書き込み可能な32 ビットのレジスタで、受信データのパディングの挿入を行うレジスタです。本レジスタを再設定するときは、E-DMAC モードレジスタ（EDMR）のSWRT 及びSWRR ビットでソフトウェアリセットしてから行ってください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	PADS[4:0]				
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PADR[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 21	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
20 ～ 16	PADS[4:0]	H'00	R/W	パディングサイズ H'00：パディング挿入なし H'01：1 バイト挿入 ：　： H'1F：31 バイト挿入
15 ～ 0	PADR[15:0]	H'0000	R/W	パディング範囲 H'0000：1 バイト目にパディングサイズ分挿入 H'0001：2 バイト目にパディングサイズ分挿入 ：　： H'FFFF：64K バイト目にパディングサイズ分挿入

23.3.98 Gigabit イーサネットコントロールレジスタ（GBECONT）

GBECONTはGETHER動作モードを制御します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	RG1 PUDIS	RG0 PUDIS	—	—	RMII1	RMII0
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	—	—	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	RX1DLY			—	TX1DLY			—	RX0DLY			—	TX0DLY		
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	R/W	R/W	R/W	—	R/W	R/W	R/W	—	R/W	R/W	R/W	—	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 22	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
21	RG1PUDIS	0	R/W	RGMII ポート1 のプルアップを無効にします。 0：プルアップを有効にします。 1：プルアップを無効にします。
20	RG0PUDIS	0	R/W	RGMII ポート0のプルアップを無効にします。 0：プルアップを有効にします。 1：プルアップを無効にします。
19、18	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
17	RMII1	0	R/W	MDC/MDIOポート1用のコントロールソースを選択します。 0：RGMII1 (GETHER) 1：RMII1 (ETHER)
16	RMII0	0	R/W	MDC/MDIOポート0用のコントロールソースを選択します。 0：RGMII0 (GETHER) 1：RMII0 (ETHER)
15	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
14 ～ 12	RX1DLY	000	R/W	ポート1用に受信クロックの遅延をセットします。 000：0° 遅延 010：–10° 遅延 011：10° 遅延 100：90° 遅延 110：80° 遅延 111：100° 遅延
11	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
10 ～ 8	TX1DLY	000	R/W	ポート1用に送信クロックの遅延をセットします。 000：0° 遅延 010：–10° 遅延 011：10° 遅延 100：90° 遅延 111：100° 遅延 注．　ループバックテストの間に100（90°遅延）をセットしてください。
7	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
6 ～ 4	RX0DLY	000	R/W	ポート0用に受信クロックの遅延をセットします。 000：0° 遅延 010：–10° 遅延 011：10° 遅延 100：90° 遅延 110：80° 遅延 111：100° 遅延
3	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
2 ～ 0	TX0DLY	000	R/W	ポート1用に送信クロックの遅延をセットします。 000：0° 遅延 010：–10° 遅延 011：10° 遅延 100：90° 遅延 110：80° 遅延 111：100° 遅延 注．　ループバックテストの間に100（90°遅延）をセットしてください。

23.4 動作説明

GETHER は、以下の3 つの機能から構成されています。

- DMA転送制御部（E-DMAC）：メモリ上の送受信バッファと送受信FIFO間のDMA転送
- MAC制御部（E-MAC）：送信／受信FIFOとRGMII間の送信／受信処理
- 転送制御部（TSU）：1系と0系間の転送処理及びCAM処理

E-DMAC は、E-DMAC に内蔵されているダイレクトメモリアクセス（DMA）機能を使用し、ユーザが指定するイーサネットフレームデータの格納先（アクセス可能なメモリ空間：送信バッファ／受信バッファ）と送信／受信FIFO との間でフレームデータの転送を行います。ユーザがCPU を介して直接送信／受信FIFO のデータを読み書きすることはできません。

E-DMAC がDMA 転送を行うためには、ディスクリプタと呼ぶ送信／受信データの格納アドレス等が書かれた情報（データ）が必要になります。E-DMAC は、ディスクリプタに書かれた情報に従って送信データを送信バッファから読み出す、あるいは受信データを受信バッファへ書き込みます。このディスクリプタは、読み書き可能なメモリ空間に配置されます。ディスクリプタを複数個並べ、ディスクリプタ列（リスト）化することによって、複数のイーサネットフレームデータの送信／受信を連続的に行うことができます。

E-DMAC は、0 系と1 系の2 系統あります。送信、受信とも、0 系と1 系それぞれ独立して動作します。

E-MAC は、送信FIFO に書き込まれたデータからイーサネットフレームを構成し、RGMIIへ送信します。また、RGMIIから受信したイーサネットフレームのCRC チェックを行った後、分解し受信FIFO に書き込みます。

E-MAC は、0 系と1 系の2 系統あります。それぞれE-DMAC の0 系と1 系と対応しています。

TSU は、0 系のE-MAC と1 系のE-MAC 間でイーサネットフレームデータの転送を行います。TSU は、E-DMAC とE-MAC の間に位置し、CAM エントリテーブルを参照しながら、E-MAC に入力されたイーサネットフレームのDA（宛先アドレス）を元に、以下のいずれかの処理を選択します。

1. 受信し受信FIFOに書き込む
2. 転送のみ実行し転送FIFOに書き込む
3. 受信し受信FIFOに書き込むとともに転送FIFOにも書き込む
4. 破棄する

TSU は、0 系から1 系、1 系から0 系への転送をそれぞれ別々に処理をします。

図23.2 にフレームデータ経路と各種設定の概要を示します。

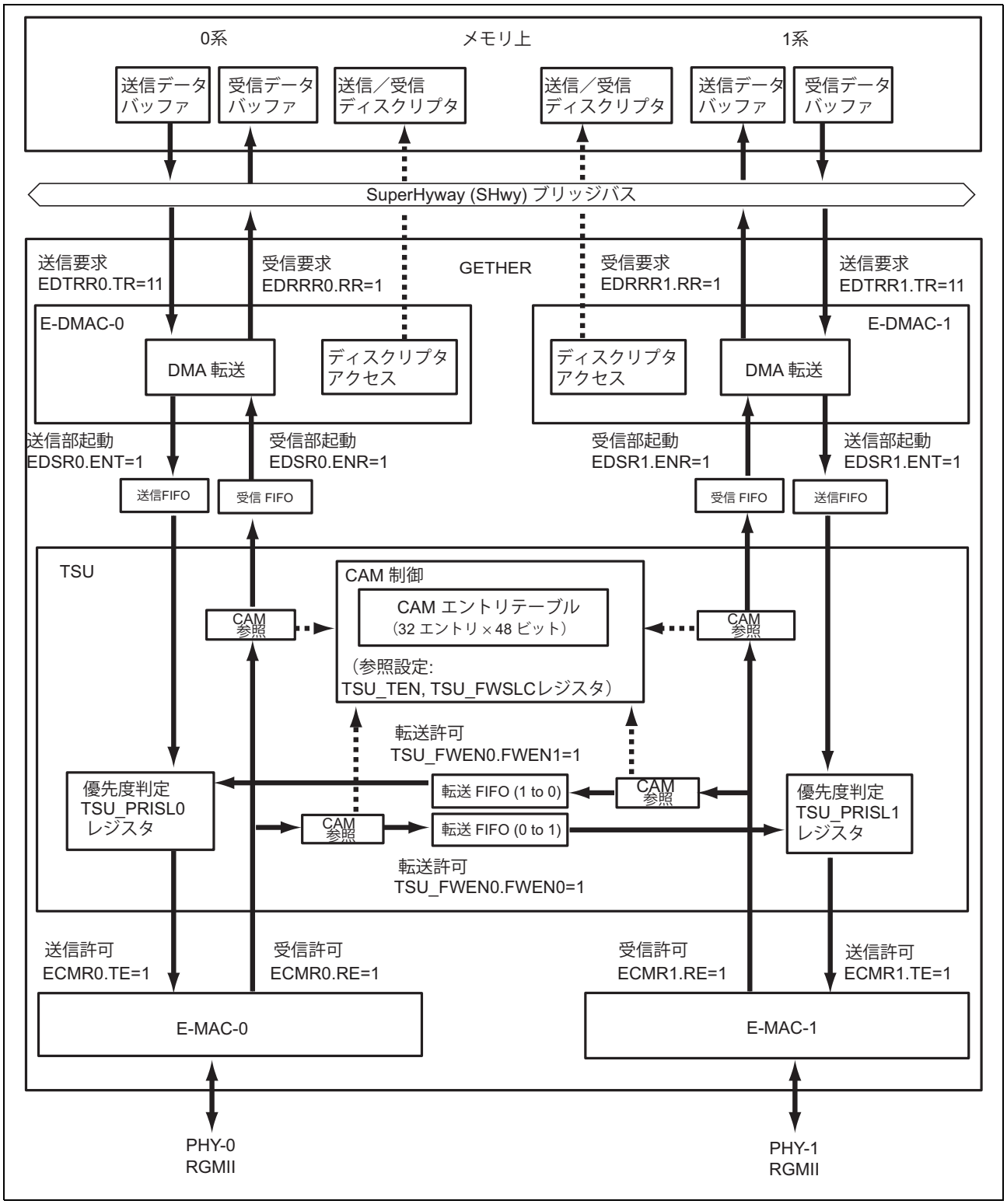


図 23.2　GETHER のデータ経路と各種設定

23.4.1　ディスクリプタとディスクリプタリスト

E-DMAC は、メモリ空間上に書き込まれたディスクリプタと呼ぶ情報（データ）に従ってDMA 転送を行います。ディスクリプタには、送信ディスクリプタと受信ディスクリプタの2 種類があります。DMA 転送を起動する前に、ソフトウェアで、送信／受信フレームデータの格納アドレス等の DMA 転送に関する情報を設定しておく必要があります。

E-DMAC は、EDTRR のTR ビットが1 1／EDRRR のRR ビットが1 になると、送信／受信ディスクリプタを自律的に読み込み、ディスクリプタに記述された情報に従って、送信／受信バッファと送信／受信FIFO の間で、フレームデータのDMA 伝送を行います。フレームデータの送信／受信が完了した後には、E-DMAC がディスクリプタの有効／無効ビットを無効とし、送信／受信の結果をディスクリプタ上のステータスビットに反映します。

ディスクリプタは、読み書き可能なメモリ空間に配置し、先頭ディスクリプタ（E-DMAC が最初に読み込むディスクリプタ）のアドレスをTDLAR/RDLAR に設定します。複数のディスクリプタをディスクリプタ列（ディスクリプタリスト）として用意する場合には、EDMR の DL[0:1] ビットに設定したディスクリプタ長に従って連続したアドレス（メモリ番地）に配置します。

E-DMAC には、0 系と 1 系の2 系統あります。0 系と 1 系及び送信と受信それぞれのDMAC は独立して動作します。0 系と 1 系及び送信と受信用のディスクリプタを、各ディスクリプタのアドレス空間が重ならないように配置してください。アドレスが重なるとE-DMAC は正常に動作をしません。

(1)　送信ディスクリプタ

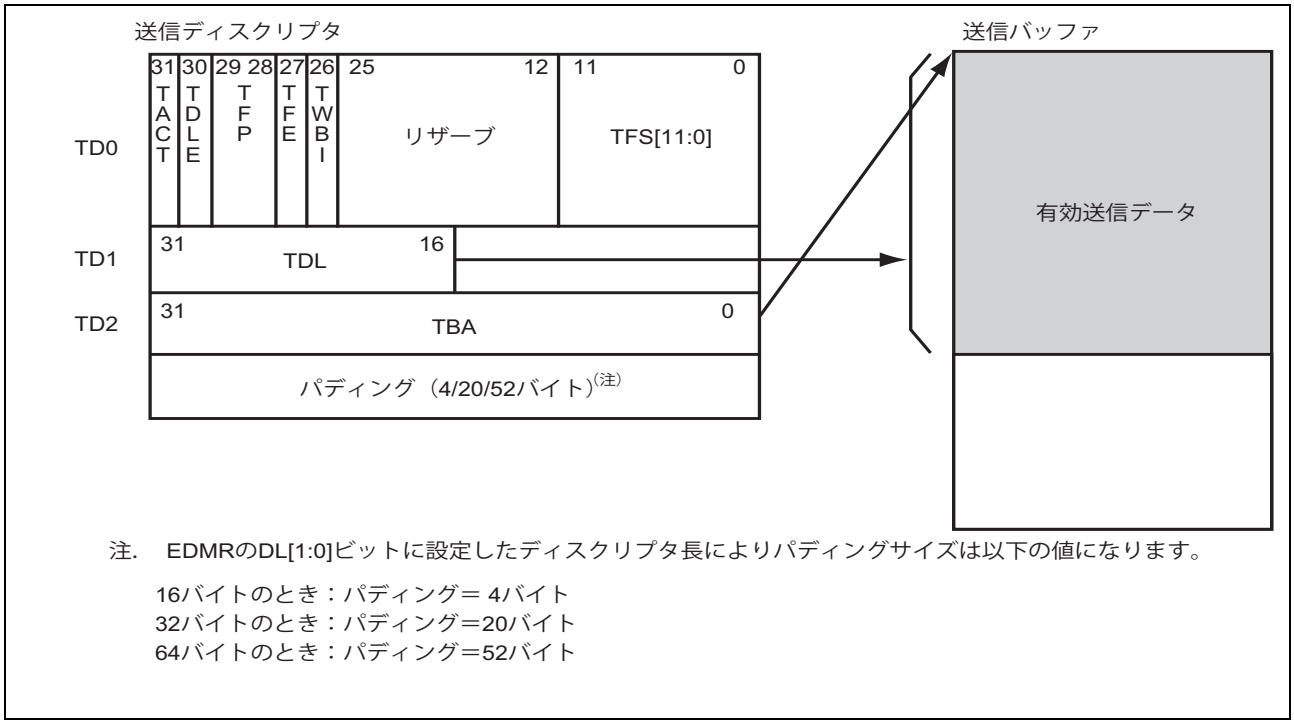
図23.3 に送信ディスクリプタの構成と送信バッファの関係を示します。

送信ディスクリプタは、データの先頭から32 ビット単位にTD0、TD1、TD2 及びパディングで構成されます。

最後のパディングはEDMR のDL[1:0] ビットで指定するディスクリプタ長に従い長さが決まります。

TD0 は、送信ディスクリプタの有効／無効、ディスクリプタの構成情報及びステータス情報を示します。TD1 は、そのディスクリプタで指示する転送すべき送信バッファのデータ長（TDL）を示します。TD2 は、転送する送信バッファの先頭アドレス（TBA）を示します。

本ディスクリプタの指示内容により、ディスクリプタ 1 個で 1 フレームの送信データを全部指定すること（1フレーム／1 バッファ）あるいはディスクリプタ複数個で1 フレームの送信データを指定すること（1 フレーム／マルチバッファ）が可能です。1 フレーム／マルチバッファの具体例としては、イーサネットフレーム中毎回の送信で固定的に使われるデータ部分を複数のディスクリプタで参照するという方法があります。たとえば、イーサネットフレーム中の宛先アドレス、送信元アドレスのデータを複数のディスクリプタで共有して、残りのデータを各々別のバッファに格納するという方法が考えられます。



注.　EDMRのDL[1:0]ビットに設定したディスクリプタ長によりパディングサイズは以下の値になります。

16バイトのとき：パディング＝ 4バイト
32バイトのとき：パディング＝20バイト
64バイトのとき：パディング＝52バイト

図 23.3　送信ディスクリプタと送信バッファの関係

(a)　送信ディスクリプタ 0（TD0）

TD0 は、EDTRR の TR ビット＝ 11 とする以前に、ユーザがあらかじめディスクリプタの有効／無効ビットの設定やディスクリプタの構成を設定します。イーサネットフレームの送信が完了した後に、E-DMAC がディスクリプタの有効／無効ビットを無効にし、ステータス情報を書き込みます。これをライトバックと呼びます。

使用にあたっては、ユーザがあらかじめビット 31 ～ 28、26 にディスクリプタの構成に従った値を書き込んでください。またビット 27、25 ～ 0 には 0 を書き込んでください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31	TACT	0	R/W	送信ディスクリプタ有効／無効 当該ディスクリプタが有効または無効であることを示します。本ビットを有効とする際には、あらかじめ送信データを送信バッファ（ユーザの指定する送信データ格納先）に格納した後、本ビットに 1 を書き込みます。また、E-DMAC はデータの転送を完了すると本ビットを 0 クリアします。 0：本送信ディスクリプタが無効 初期値の状態か 0 を書き込んだ後の状態、またはユーザが 1 を書き込んだ後の場合には E-DMAC のデータ転送処理終了により本ビットが 0 クリアされたことを示します。 E-DMAC のディスクリプタ読み込みの際に、本状態が認識されると E-DMAC は EDTRR の TR ビットを 0 クリアし、E-DMAC の送信に関わる転送動作は停止します。 1：本送信ディスクリプタが有効ユーザが 1 を書き込んだ後、まだデータ転送を行っていないか、あるいはデータ転送中であることを示します。 E-DMAC は連続する複数個のディスクリプタ列（ディスクリプタリスト）が存在する場合に、連続するディスクリプタの本ビットが有効であることにより動作を継続することができます。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
30	TDLE	0	R/W	送信ディスクリプタリスト最終 本ディスクリプタがディスクリプタ列（ディスクリプタリスト）の最終であるかどうかを示します。 0：最終のディスクリプタリストではない E-DMAC は本ディスクリプタの転送が完了した後、連続するディスクリプタリストの次のディスクリプタを読み込みます。 1：最終のディスクリプタリストである E-DMAC は本ディスクリプタの転送が完了した後、TDLAR が示すアドレスにあるディスクリプタを読み込みます。
29、28	TFP[1:0]	00	R/W	送信フレーム内位置 本ディスクリプタの情報が送信フレームの先頭かその途中または最終かを示します。 00：本ディスクリプタの情報はフレームの中間である 01：本ディスクリプタの情報はフレームの最後である 10：本ディスクリプタの情報はフレームの先頭である 11：本ディスクリプタの情報はフレームの先頭と最後を含む（1 フレーム／1 ディスクリプタ（1 バッファ）である） 【参考】 1 フレームを分割して使用する際の分割数に応じたディスクリプタ列における本ビットの指定要領を示します。 • 1 フレーム／1 ディスクリプタの場合 1 番目のディスクリプタ：TFP[1:0] = 11 • 1 フレーム／2 ディスクリプタの場合 1 番目のディスクリプタ：TFP[1:0] = 10 2 番目のディスクリプタ：TFP[1:0] = 01 • 1 フレーム／3 ディスクリプタの場合 1 番目のディスクリプタ：TFP[1:0] = 10 2 番目のディスクリプタ：TFP[1:0] = 00 3 番目のディスクリプタ：TFP[1:0] = 01 以降、分割数が多い場合には、中間の TFP[1:0] = 00 であるディスクリプタを追加していくことでディスクリプタ列を構成します。
27	TFE	0	R/W	送信フレームエラー発生 送信フレームに何らかのエラーが発生したことを示します。 0：TFS[11:0]のすべてのビットの値が0 1：TFS[11:0]のいずれかのビットの値が1 TRSCER レジスタで、TFS[8:0]の要因単位にマスクすることができます。ただし、TFS[11:9]はマスクすることができません。 本ビットはE-DMAC によってライトバックされます。
26	TWBI	0	R/W	ライトバック完了割り込み通知 0：ライトバック完了割り込みを通知しません。 1：本ディスクリプタへのライトバック完了後、TWB[1:0]ビット（EESR レジスタのビット31、30）に11 をセットし、CPU にライトバック完了割り込みを通知します。 本ビットは、送信フレームの最後を含むディスプリプタ（TFP＝01 あるいは11）でのみ有効です。本ビットはライトバックによって0 に書き換わります。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
25 ～ 12	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
11 ～0	TFS[11:0]	すべて0	R/W	送信フレームステータス 当該フレームのステータスを示します。以下のビットは、E-DMAC によりライトバックされ、1 で当該の事象が発生したことを示します。 • TFS[11:10]：リザーブ（書き込み値は0 としてください） • TFS[9]：送信FIFO アンダフロー（EESR のTUC ビットに相当） • TFS[8]：送信中断検出（EESR のTABT ビットに相当） • TFS[7:3]：リザーブ（書き込み値は0 としてください） • TFS[2]：キャリア損失検出（EESR のDLC ビットに相当） • TFS[1]：遅延衝突検出（EESR のCD ビットに相当） • TFS[0]：送信タイムアウトEESR のTRO ビットに相当）

(b)　送信ディスクリプタ1（TD1）

TD1 は、当該ディスクリプタが使用する送信バッファのデータ長を示します。
ユーザがE-DMAC の読み込み開始前に設定してください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	TDL	すべて0	R/W	送信バッファデータ長（単位：バイト） 当該送信バッファのデータ長をバイト単位で設定します。最大長は64K－32（H'FFE0）バイトです。
15 ～ 0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

(c)　送信ディスクリプタ2（TD2）

TD2 は、32 ビット幅の当該送信バッファの先頭アドレスを示します。アドレス値はロングワード境界としてください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	TBA	すべて0	R/W	送信バッファ先頭アドレス 当該送信バッファの先頭アドレスを4バイト境界で設定します。

ディスクリプタの設定で以下のような設定を行った場合、E-DMAC はシステムリセットを行うまで、正常動作に復帰しませんので注意してください。

- TFP（送信フレーム内位置）が論理的に間違った設定
  例：あるディスクリプタA でTFP＝11 と設定し、次のディスクリプタB でTFP＝01 と設定した。ディスクリプタB が示す送信フレームの先頭部を示すディスクリプタが存在しないことになります。
- TBL（送信バッファ長）を0 とした設定

送信フレームを3 つ以上の送信ディスクリプタに分割した場合、E-DMAC は以下のようにライトバックします。

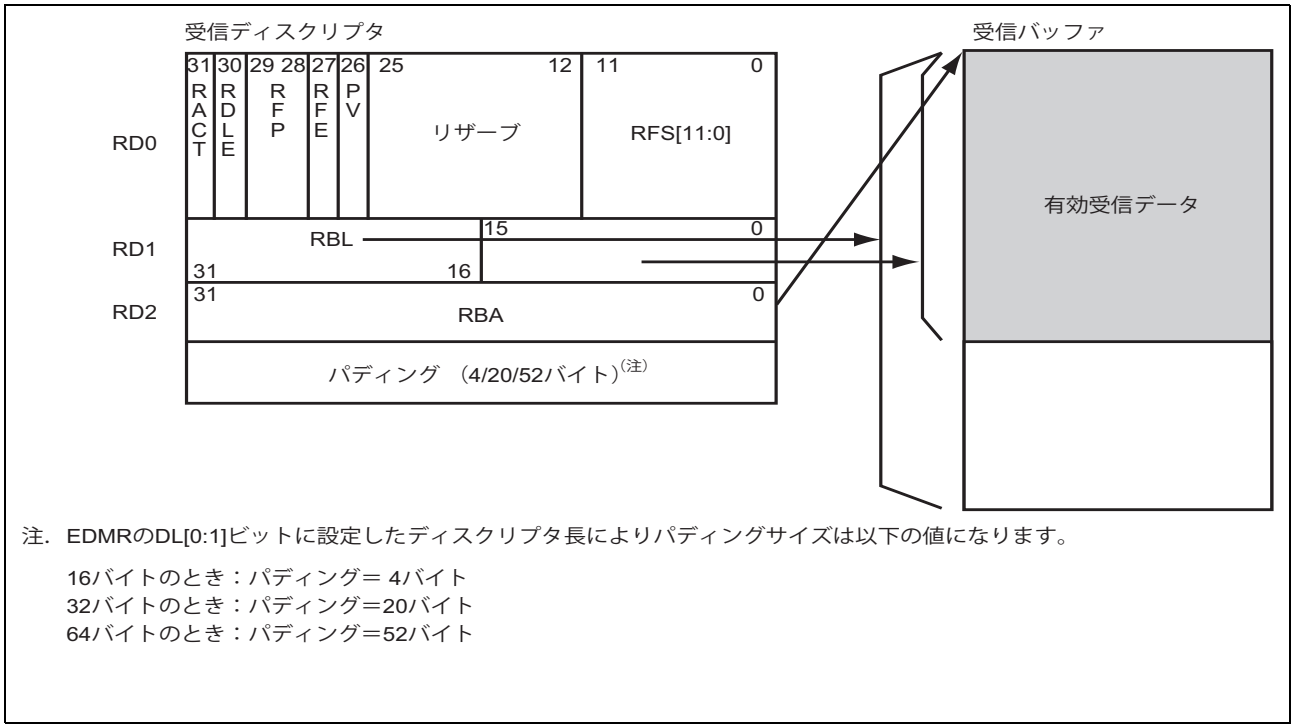
- 送信フレームの先頭を含む送信ディスクリプタ（TFP＝10 あるいはTFP＝11）と送信フレームの最後を含む送信ディスクリプタ（TFP＝01 あるいはTFP＝11）に対してのみライトバックをします。
- 送信フレームの中間に対応する送信ディスクリプタ（TFP＝00）に対してはライトバックしません。

ただし、TFE（送信フレームエラー発生）やTFS（送信フレームステータス）は、送信フレームの最後を含む送信ディスクリプタ（TFP＝01 あるいはTFP＝11）にのみライトバックされます。

また、ソフトウェアで送信ディスクリプタを再設定する場合は、未処理の送信ディスクリプタの上書き（再設定）を防ぐために、送信フレームの最後を含む送信ディスクリプタ（TFP＝01 あるいはTFP＝11）がライトバックされている（TACT ＝ 0 になっている）ことを再設定の前にあらかじめ確認する必要があります。

(2)　受信ディスクリプタ

図23.4 に受信ディスクリプタと受信バッファの関係を示します。受信ディスクリプタは、データの先頭から32 ビット単位にRD0、RD1、RD2、及びパディングで構成されます。最後のパディングはEDMRの DL[0:1] ビットで指定するディスクリプタ長に従い長さが決まります。RD0 は、受信ディスクリプタの有効／無効、ディスクリプタの構成情報、及びステータス情報を示します。RD1 は、そのディスクリプタで指示する受信可能な受信バッファのデータ長（RBL）と受信したフレームのデータ長（RDL）を示します。RD2 は、受信データを格納する受信バッファの先頭アドレス（RBA）を示します。本ディスクリプタの指示内容により、ディスクリプタ 1 個で 1 フレームの受信データ全部を受信バッファに格納すること（1 フレーム／1 バッファ）あるいはディスクリプタ複数個で 1 フレームの受信データを受信バッファに格納すること（1 フレーム／マルチバッファ）が可能です。1 フレーム／マルチバッファのケースとしては、あらかじめ複数のディスクリプタ列（ディスクリプタリスト）を用意しておき、各ディスクリプタの RBL を 500 バイトとしたときに 1514 バイトのイーサネットフレームを受信したとします。この場合、受信したイーサネットフレームは最初のディスクリプタから順に 500 バイトずつバッファに転送され、最後の 14 バイトだけが 4 つ目のバッファに転送されます。このようにE-DMAC は、受信したフレームがディスクリプタの RBL を超える長さのフレームを受信した場合には、連続する次のディスクリプタを使用していくことによって受信バッファに転送していきます。また、1 フレーム／マルチバッファの効率的な具体例としては、イーサネットフレーム中の処理レイヤの異なる情報をバッファによって分離するという方法があります。たとえば、イーサネットフレーム中の宛先アドレス、送信元アドレス、及びタイプフィールドのデータをバッファ 1（RBL を 14 バイトに指定）に格納し、残りのデータをバッファ 2（RBL を 1500 バイトに指定）に格納するという方法があります。もちろん、複数のディスクリプタを用意してすべてのディスクリプタの RBL を 1514 バイト（イーサネットフレームの最大長）以上にすれば、すべての受信フレームを1 バッファに収めることができます。



注．EDMRのDL[0:1]ビットに設定したディスクリプタ長によりパディングサイズは以下の値になります。

16バイトのとき：パディング＝ 4バイト
32バイトのとき：パディング＝20バイト
64バイトのとき：パディング＝52バイト

図 23.4　受信ディスクリプタと受信バッファの関係

(a)　受信ディスクリプタ0（RD0）

RD0は、EDRRRのRRビット＝1後のE-DMACがディスクリプタ情報の読み込みを開始する以前に、ユーザがあらかじめディスクリプタの有効／無効ビットの設定、及びディスクリプタリストが最終か否かを設定します。

イーサネットフレームの受信バッファへのDMA転送が完了した後、E-DMACがディスクリプタの有効／無効ビットを無効とし、ステータス情報を書き込みます。これをライトバックと呼びます。

使用にあたっては、ユーザがあらかじめビット31、30にディスクリプタの構成に従った値を書き込んでください。また、ビット29～0には0を書き込んでください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31	RACT	0	R/W	受信ディスクリプタ有効／無効 本ディスクリプタが有効または無効であることを示します。本ビットを有効とする際には、あらかじめ受信バッファ（ユーザの指定する受信データ格納先）を用意した後、本ビットに1を書き込みます。また、E-DMACはデータの転送を完了すると本ビットを0クリアします。 0：本受信ディスクリプタが無効 初期値の状態か0を書き込んだ後の状態、またはユーザが1を書き込んだ後の場合にはE-DMACのデータ転送処理終了により本ビットが0クリアされたことを示します。 E-DMACのディスクリプタ読み込みの際に、本状態が認識されるとE-DMACはEDRRRのRRビットを0クリアし、E-DMACの受信にかかわる転送動作は停止します。 1：本受信ディスクリプタが有効 ユーザが1を書き込んだ後、まだデータ転送を行っていないか、あるいはデータ転送中であることを示します。 E-DMACは連続する複数個のディスクリプタ列（ディスクリプタリスト）が存在する場合に、連続するディスクリプタの本ビットが有効であることにより動作を継続することができます。
30	RDLE	0	R/W	受信ディスクリプタリスト最終 本ディスクリプタがディスクリプタ列（ディスクリプタリスト）の最終であるかどうかを示します。 0：最終のディスクリプタリストではない E-DMACは本ディスクリプタの転送が完了した後、連続するディスクリプタリストの次のディスクリプタを読み込みます。 1：最終のディスクリプタリストである E-DMACは本ディスクリプタの転送が完了した後、RDLARが示すアドレスにあるディスクリプタを読み込みます。

29、28	RFP[1:0]	00	R/W	受信フレーム内位置 本ディスクリプタの情報が受信フレームの先頭かその途中または最終かをE-DMAC がライトバックによって示します。 00：本ディスクリプタの情報はフレームの中間である 01：本ディスクリプタの情報はフレームの最後である 10：本ディスクリプタの情報はフレームの先頭である 11：本ディスクリプタの情報はフレームの先頭と最後を含む （1 フレーム／1 ディスクリプタ（1 バッファ）である） 【参考】 1 フレームを受信した後のフレームとディスクリプタの関係を示します。 • 1 フレーム／1 ディスクリプタの場合 1 番目のディスクリプタ：RFP[1:0] = 11 • 1 フレーム／2 ディスクリプタの場合 1 番目のディスクリプタ：RFP[1:0] = 10 2 番目のディスクリプタ：RFP[1:0] = 01 • 1 フレーム／3 ディスクリプタの場合 1 番目のディスクリプタ：RFP[1:0] = 10 2 番目のディスクリプタ：RFP[1:0] = 00 3 番目のディスクリプタ：RFP[1:0] = 01 以降、分割数が多い場合には、中間のRFP[1:0] = 00 であるディスクリプタが増えることになります。
27	RFE	0	R/W	受信フレームエラー発生 受信フレームに何らかのエラーが発生したことを示します。 0：RFS[11:0]のすべてのビットの値が0 1：RFS[11:0]のいずれかのビットの値が1 TRSCER レジスタで、RFS[8:0]の要因単位にマスクすることができます。ただし、RFS[11:9]はマスクすることができません。 本ビットはE-DMAC によってライトバックされます。
26	PV	0	R/W	パディング挿入 本ディスクリプタで処理した受信フレームが、RPADIR レジスタで指定された パディングが挿入されている受信フレームかどうかを示します。 0：パディングの挿入なし 1：パディングの挿入あり 本ビットは、ライトバック処理で書き換えられます。
25 ～ 12	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

11 ～ 0	RFS[11:0]	すべて0	R/W	受信フレームステータス 当該フレームのステータスを示します。以下のビットは1 で当該の事象が発生したことを示します。また、RFS[9]～RFS[0]の事象が発生した場合にはフレームの受信は不完全です。 • RFS[11:10]：リザーブ • RFS[9]：受信FIFO オーバフロー（EESR のRFOF ビットに相当） • RFS[8]：受信中断検出（EESR のRABT ビットに相当） • RFS[7]：マルチキャストアドレスフレームを受信（EESR のRMAF ビットに相当） • RFS[6]：リザーブ • RFS[5]：キャリア拡張消失（EESR のCELF ビットに相当） • RFS[4]：端数ビットフレーム受信（EESR のRRF ビットに相当） • RFS[3]：ロングフレーム受信エラー（EESR のRTLF ビットに相当） • RFS[2]：ショートフレーム受信エラー（EESR のRTSF ビットに相当） • RFS[1]：PHY-LSI 受信エラー（EESR のPRE ビットに相当） • RFS[0]：受信フレームCRC エラー（EESR のCERF ビットに相当）

(b)　受信ディスクリプタ1（RD1）

RD1 は、当該ディスクリプタが使用できる受信バッファのデータ長をユーザが指定し、フレーム受信後にはE-DMAC が受信したフレーム長を示します。

ユーザがE-DMAC の読み込み開始前に設定してください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	RBL	すべて0	R/W	受信バッファデータ長（単位：バイト、32 バイト境界で指定） 当該受信バッファの受信可能なデータ長を32 バイトの整数倍で設定します。 最大長は64K－32（H'FFE0）バイトです。
15 ～ 0	RDL	すべて0	R	受信データ長 受信バッファに格納された受信フレームのデータ長を示します。 受信バッファに転送される受信データには、フレームの最後であるCRC データ（4 バイト）が含まれていません。また、受信フレーム長は、このCRC データを含めない（有効データバイト）語数が報告されます。 1 フレーム／複数バッファ（ディスクリプタ）となった場合には、最終ディスクリプタの本受信データ長のみが有効です。途中のディスクリプタの受信データ長は意味を持ちません。 受信可能な最大受信データ長は以下のようになります。 パディング機能無効時：64K－1（H'FFFF）バイト パディング機能有効時：64K－32（H'FFE0）バイト

(c)　受信ディスクリプタ2（RD2）

RD2は、当該受信バッファの先頭アドレスを示します。受信バッファの開始アドレスの設定は、32バイトを境界として設定してください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	RBA	すべて0	R/W	受信バッファ先頭アドレス 当該受信バッファの先頭アドレスを32バイト境界で設定します。

E-DMACは、RBA（受信バッファアドレス）に設定されたアドレスから32バイト単位で受信フレームを受信バッファへDMA転送します。したがって、RBL（受信バッファ長）へは32バイトの整数倍を設定してください。

以下のようにデータが32バイトに満たない場合は、無効なデータが書き込まれます。

【転送例】

受信フレーム長＝170バイト、必要な受信バッファ容量＝192バイト（32バイト×6）の場合、6回目のDMAにおいて、無効なデータも受信バッファにDMA転送されます（DMAデータ32バイト中、前半の10バイトは有効データで後半の22バイトは無効データ）。

受信データパディング挿入設定レジスタ（RPADIR）を設定することで、受信フレームの任意の位置に1か所だけ値0をパディングすることが可能です。パディングサイズは1バイト単位で任意であり、最小1バイト、最大31バイトです。受信フレームにパディングを行う場合は、「受信フレーム長＋パディングサイズ」分の受信バッファ領域が必要です。なお、RPADIRの設定はすべての受信フレームに対して有効です。

RFE（受信フレームエラー発生）、PV（パディング挿入）、RFS（受信フレームステータス）、及びRFL（受信フレーム長）は、受信フレームの最後を含む受信ディスクリプタ（RFP＝01あるいは11）にのみライトバックされます。

ソフトウェアで受信ディスクリプタを再設定する場合は、未処理の受信ディスクリプタの上書き（再設定）を防ぐために、受信ディスクリプタがライトバックされている（RACT＝0になっている）ことを再設定の前にあらかじめ確認する必要があります。

(3) ディスクリプタと送受信バッファ

(a) 送信

送信ディスクリプタごとに1つの送信バッファを保持します。E-DMACは、送信ディスクリプタで示された送信バッファに格納されている送信フレームを送信FIFOへ転送します。また、複数の送信ディスクリプタで示された各送信バッファに格納されている送信フレームをそれぞれ連結して1つの送信フレームとして送信FIFOへ転送することも可能です。

図23.5に送信ディスクリプタと送信バッファとの関係を示します。

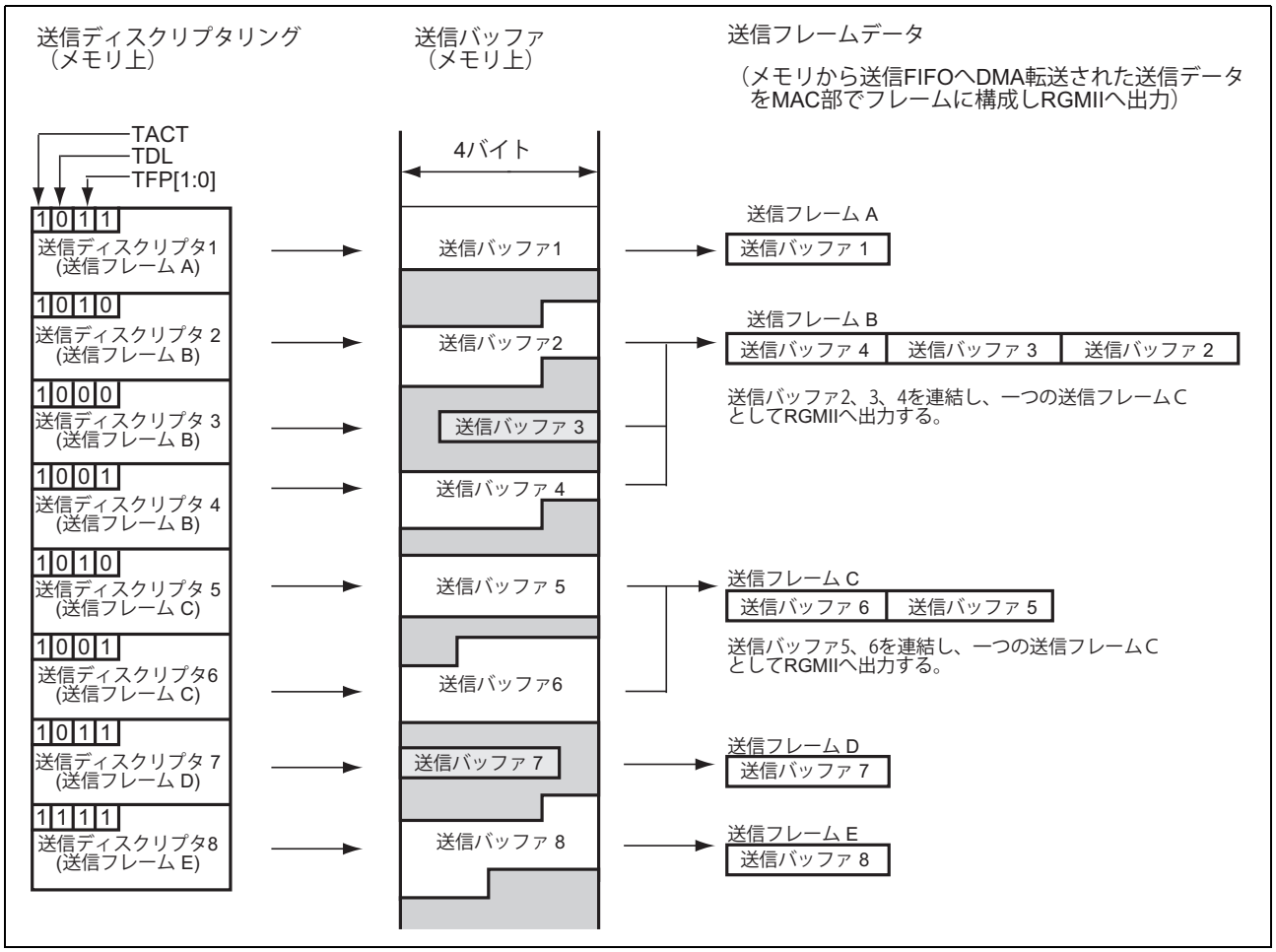


図 23.5　送信ディスクリプタと送信バッファとの関係

(b)　受信

受信ディスクリプタごとに1つの受信バッファを保持します。E-DMACは、受信ディスクリプタで示された受信バッファへ受信FIFOから受信したフレームを格納します。ここで、受信フレームのサイズが受信バッファのサイズをオーバする場合は、別の受信ディスクリプタで示された受信バッファへ当該受信フレームのオーバした部分を格納します。このように、1つの受信フレームを複数の受信バッファに分けて格納することも可能です。

図23.6に受信ディスクリプタと受信バッファとの関係を示します。

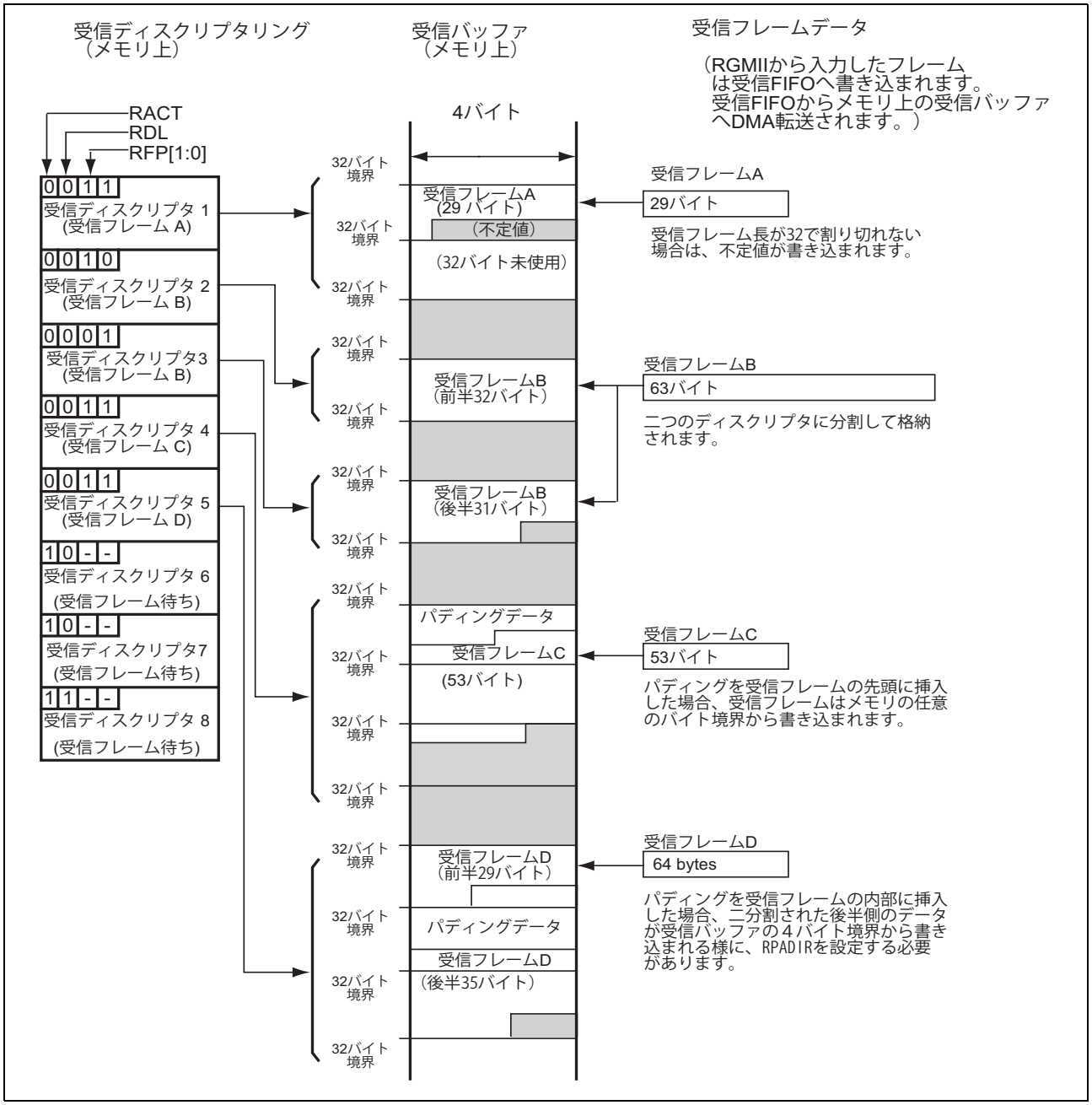


図 23.6　受信ディスクリプタと受信バッファとの関係

(4) ディスクリプタポインタ

E-DMAC は、送信ディスクリプタ及び受信ディスクリプタのメモリ上のアドレスや処理順序を以下に示すレジスタを用いて制御します。

1. 送信ディスクリプタ関連

- TDLAR レジスタ：送信ディスクリプタリストの先頭ディスクリプタのアドレス
- TDFAR レジスタ：処理すべき送信ディスクリプタのアドレス
- TDFXR レジスタ：処理を最後に完了した（ライトバックした）送信ディスクリプタのアドレス
- TDFFR レジスタ（DL ビット）: TDFXR で示された送信ディスクリプタの TDLE 値が 1 かどうかを指示

2. 受信ディスクリプタ関連

- RDLAR レジスタ：受信ディスクリプタリストの先頭ディスクリプタのアドレス
- RDFAR レジスタ：処理すべき受信ディスクリプタのアドレス
- RDFXR レジスタ：処理を最後に完了した（ライトバックした）受信ディスクリプタのアドレス
- RDFFR レジスタ（DL ビット）: RDFXR で示された受信ディスクリプタの RDLE 値が 1 かどうかを指示送信ディスクリプタ及び受信ディスクリプタはそれぞれリング構成をとっています。処理した送信ディスクリプタ（受信ディスクリプタ）の TDLE（RDLE）値が 0 であった場合、当該ディスクリプタの次に位置するディスクリプタを処理します。次に位置するディスクリプタとは、処理した送信ディスクリプタ（受信ディスクリプタ）のアドレスに、E-DMAC モードレジスタ（EDMR）のディスクリプタ長ビット（DL）で指定されたディスクリプタ長を加算して得られたアドレスに存在する送信ディスクリプタ（受信ディスクリプタ）です。一方、処理した送信ディスクリプタ（受信ディスクリプタ）の TDLE（RDLE）値が 1 であった場合、次に処理するディスクリプタは TDLAR（RDLAR）で示された送信ディスクリプタ（受信ディスクリプタ）です。図 23.7 に送信／受信ディスクリプタリングとリードポインタの関係の例を示します。

送信ディスクリプタに関しては、必ず送信フレームを 5 つ以上ポイントすることができる大きさのリスト構成にしてください。送信フレームを 4 つ以下しかポイントできないリスト構成の場合、E-DMAC の動作保証はいたしません（すなわち、4 つ以下の送信フレームでリング内のすべての送信ディスクリプタを使用するという設定は行わないでください）。一方、受信ディスクリプタリストについては、このような制約はありません。たとえば、1 つの受信フレームでリスト内のすべての受信ディスクリプタを使用しても問題ありません。

初期設定では、ソフトウェアでディスクリプタリストの先頭アドレスを、TDLAR（RDLAR）レジスタと TDFAR（RDFAR）に、ディスクリプタリストの最終ディスクリプタのアドレスを TDFXR（RDFXR）に設定してください。

E-DMAC は、ディスクリプタを処理するごとに、TDFAR（RDFAR）、TDFXR（RDFXR）、TDFFR レジスタの DL ビット（RDFFR レジスタの DL ビット）をそれぞれ更新します。

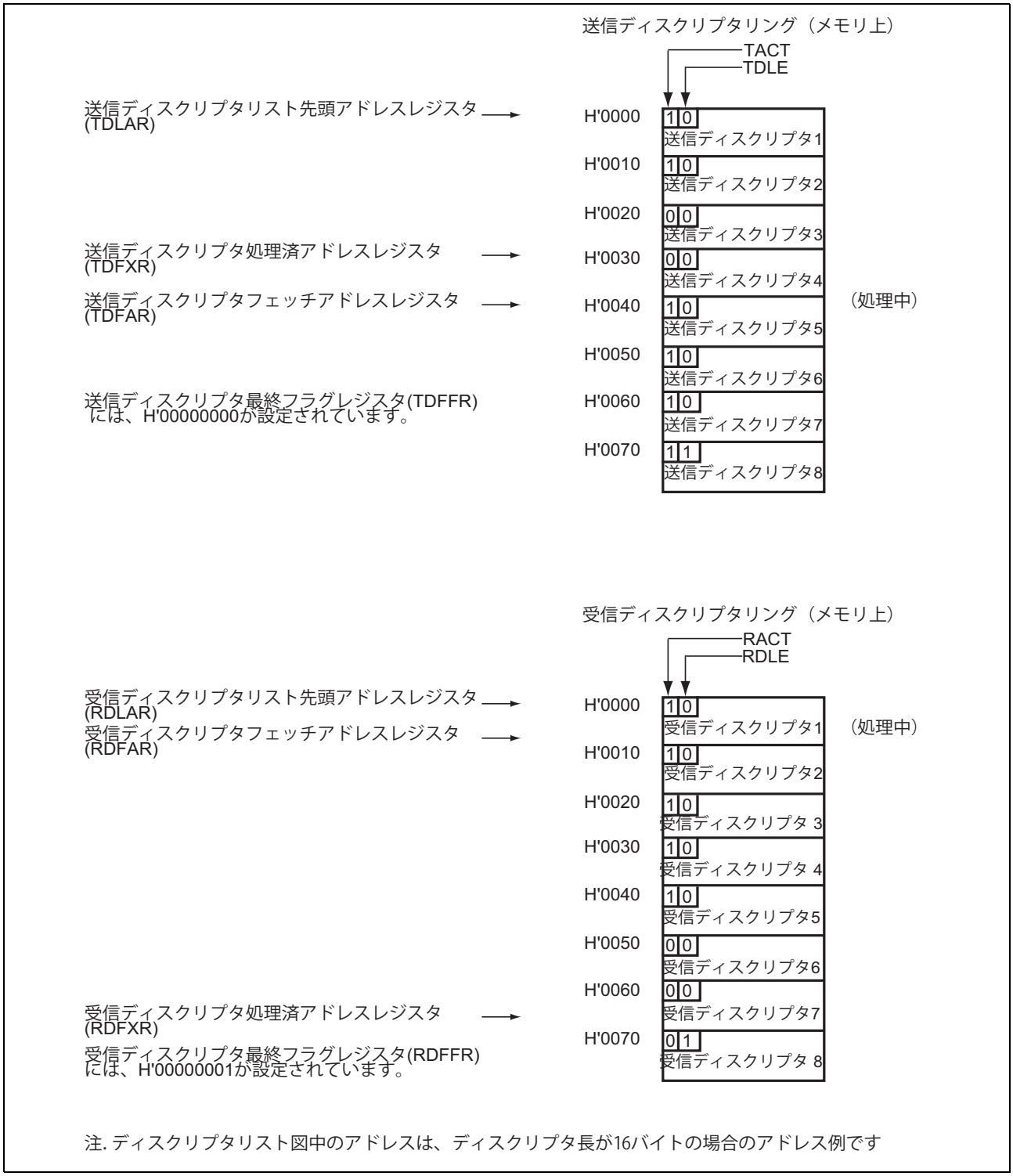


図 23.7　送受信ディスクリプタとディスクリプタポイントレジスタとの関連

23.4.2　送信動作

(1)　送信手順とフロー

E-DMAC モードレジスタ（ECMR）の TE ビットが 1 の状態で E-DMAC 送信要求レジスタ（EDTRR）の送信要求ビット（TR）に 11 が書き込まれたときに、送信 FIFO に 32 バイト以上の空きがあれば、E-DMAC は送信ディスクリプタリストから前回使用したディスクリプタの次のディスクリプタ（初回起動時は送信ディスクリプタ先頭アドレスレジスタ（TDLAR）で示すディスクリプタ）を読み込みます。

読み込んだディスクリプタの TACT ビットが 1（有効）の場合は、E-DMAC は TD2 で指定される送信バッファ先頭アドレスから順次送信フレームデータを読み出して送信 FIFO に転送します。E-MAC は送信フレームを作成し RGMII に向けて送信を開始します。ディスクリプタ内で指示されるバッファ長分の DMA 転送後、TFP の値によって以下のような処理を行います。

- TFP ＝ 10（フレーム開始）
  DMA 転送後、ディスクリプタのライトバック（TACT ビットの 0 書き込み）を行います。
- TFP ＝ 01 or 11（フレーム終了）
  フレームの送信完了後、ディスクリプタのライトバック（TACT ビットの 0 及びステータスの書き込み）を行います。
- TFP ＝ 00（フレーム継続）
  ディスクリプタのライトバックは行いません。TACT ビットは 1 のままですので注意してください。

読み込んだディスクリプタの TACT ビットが 1（有効）の間は、E-DMAC はディスクリプタの読み込みとフレームの送信を継続します。

読み込んだディスクリプタの TACT ビットが 0（無効）の場合は、E-DMAC は以下の処理を行った後、送信処理を終了します。

- E-DMAC 送信要求レジスタ（EDTRR）の TR ビットに 00 を書き込みます。
- E-DAC/E-DMAC ステータスレジスタ（EESR）の TC ビットに 11 を書き込み、CPU に対して割り込みを発生させます。

なお、E-DMAC は、送信 FIFO に最大で 4 フレーム分のデータを格納することが可能です。

E-MAC 送信処理部は、以下の条件が成立すると、送信 FIFO から送信データを読み出しフレームに組み立てて RGMII へ送信します。

- 送信 FIFO に送信 FIFO しきい値指定レジスタ（TFTR）で設定したバイト数以上のデータが格納された。
- 送信 FIFO に 1 フレーム以上のデータが格納された。
- 送信 FIFO に空き領域がなくなった。（RGMII への送信待ちデータでフルになっている）

図 23.8 に、送信フローの例を示します。

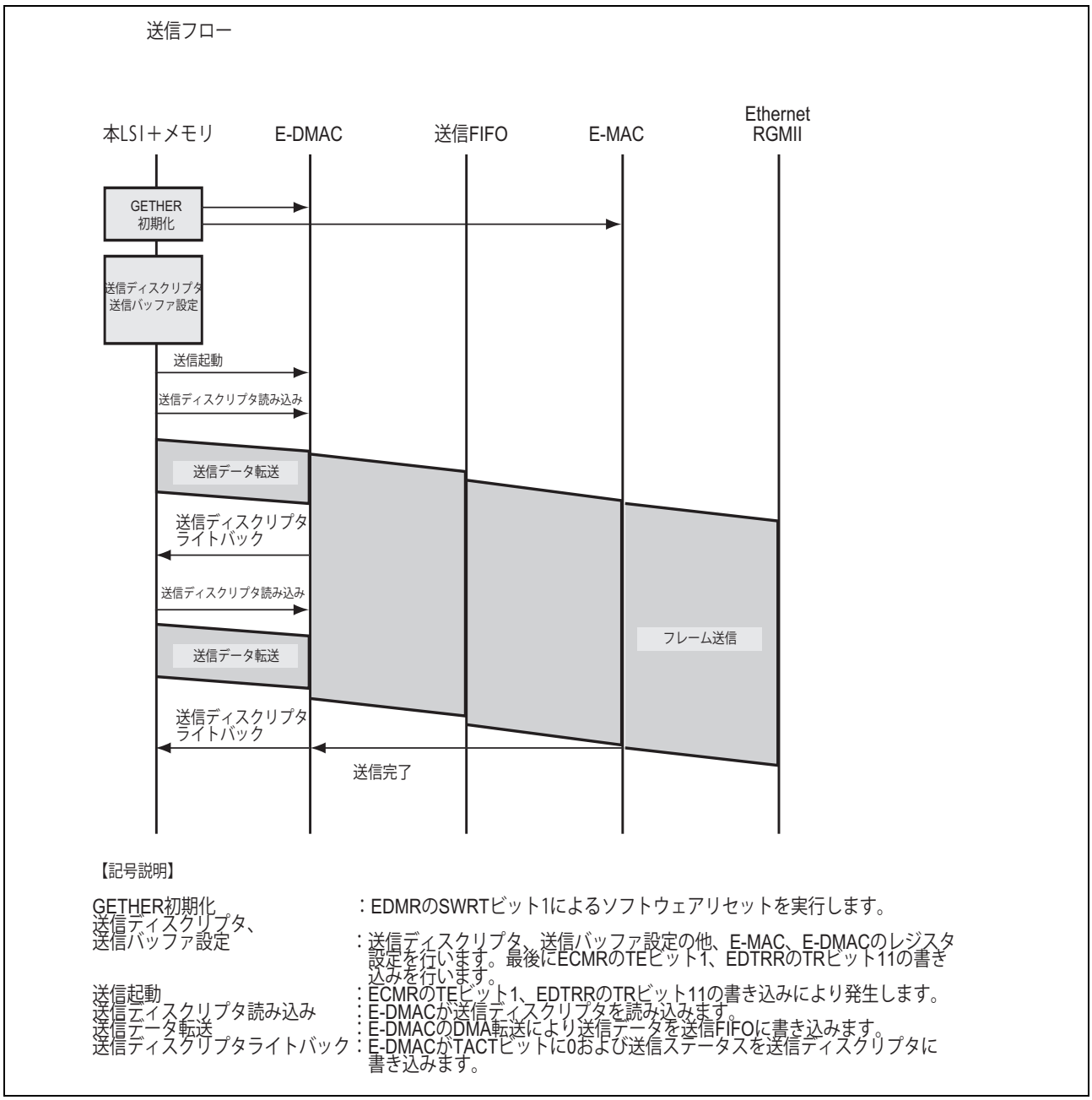
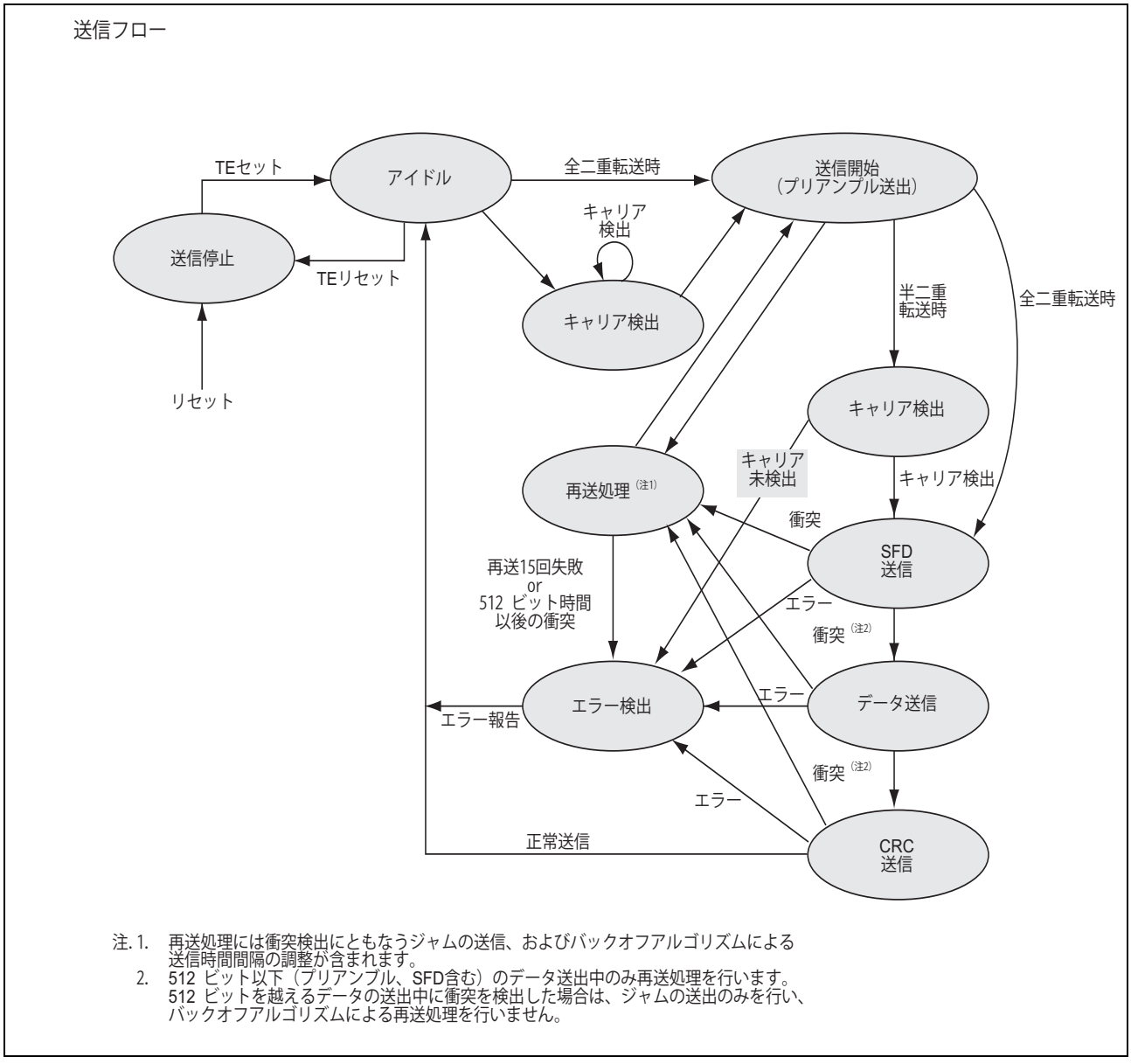


図 23.8　送信フローの例（1 フレーム／2 ディスクリプタ）

E-MAC 送信部の状態遷移図を図23.9 に示します。この動作は、0 系及び1 系共に共通です。

1. E-MACモードレジスタ（ECMR）の送信許可ビット（TE）がセットされると、送信アイドル状態に遷移します。
2. 送信 E-DMAC から送信要求があると、E-MAC はキャリア検出、フレーム間隔時間の送信延期を経てプリアンブルをRGMIIに送信します。キャリア検出を必要としない全二重転送方式を選択しているときには、送信E-DMACから送信要求があると即座にプリア ンブルを送出します。
3. SFD、データ、CRC を順次送信します。送信を終了すると送信E-DMACが送信終了割り込み（TC）を発生します。データ送信中に衝突発生あるいはキャリア未検出状態となるとそれぞれを割り込み要因として報告します。
4. フレーム間隔時間を経た後は、アイドル状態に遷移し、以後送信データがあれば送信を継続します。



注. 1. 再送処理には衝突検出にともなうジャムの送信、およびバックオフアルゴリズムによる送信時間間隔の調整が含まれます。
2. 512 ビット以下（プリアンブル、SFD含む）のデータ送出中のみ再送処理を行います。512 ビットを越えるデータの送出中に衝突を検出した場合は、ジャムの送出のみを行い、バックオフアルゴリズムによる再送処理を行いません。

図 23.9　E-MAC 送信部状態遷移図

(2) 送信エラー処理

(a) 送信アボート

送信FIFOからRGMIIへのフレーム送信中に送信エラーを検出すると、送信FIFOからRGMIIへの該当フレームのデータ送出を中断します。また、送信バッファから送信FIFOへの当該フレームのDMA転送がまだ終了していない場合は、本DMA転送も同様に中断します。

送信エラー終了した送信フレームに関連する送信ディスクリプタのライトバックの終了後、E-MAC/E-DMACステータスレジスタ（EESR）の送信中断検出ビット（TABT）に1を書き込み、CPUへ割り込みを発生します。以降の送信ディスクリプタに対する動作は、通常動作と同様となります。

(b) 送信FIFOのアンダフロー

送信FIFOからRGMIIへのフレーム送信中に送信FIFOが空（送信FIFOのアンダフロー）になると、E-MACは、当該送信フレームのRGMIIへの送信を強制的に中断します。このとき、E-MACがE-DMACから受信した当該フレームは途中で切断されたフレームとなります。そしてE-MACは以下の動作を行います。

- E-MAC/E-DMACステータスレジスタ（EESR）の送信FIFOアンダフロービット（TFUF）に1を書き込み、CPUへ割り込みを発生します。
- 該当送信フレームに対する送信ディスクリプタにライトバック
- 上記ライトバックの終了後、E-DAC/E-DMACステータスレジスタ（EESR）の送信FIFOアンダフローライトバック完了ビット（TUC）に1を書き込み、CPUへ割り込みを発生します。

以降の送信ディスクリプタに対する動作は、通常動作と同様となります。

E-MACは、送信FIFOに送信FIFOしきい値指定レジスタ（TFTR）で設定したバイト数以上のデータが格納されるまで送信FIFOからRGMIIへのフレーム送信を開始しません。本TFTRを有効利用することにより、送信FIFOのアンダフローの発生頻度を制御することが可能です。

(c) 送信ディスクリプタの枯渇

読み込んだ送信ディスクリプタのTACTビットが0（無効）の場合で、前回処理したディスクリプタのTFPビットが00あるいは10の場合、送信ディスクリプタが枯渇したと判断し、E-MAC/E-DMACステータスレジスタ（EESR）の送信ディスクリプタ枯渇（TDE）に1を書き込み、SH-4Aへ割り込みを発生します。

送信ディスクリプタ枯渇が発生したときは、ソフトウェアリセットを実行した後に送信処理を起動してください。

23.4.3 受信動作

(1) 受信手順とフロー

E-MAC受信部は、RGMIIから入力したフレームを、プリアンブル、SFD、データ及びCRCデータに分解し、DA（宛先アドレス）からデータまでを受信FIFOに書き込みます。受信FIFOには最大24フレームまで書き込むことが可能です。E-MAC受信部の状態遷移図を図23.10に示します。この動作は、0系及び1系共に共通です。

1. E-MACモードレジスタ（ECMR）の受信許可ビット（RE）が1にセットされると、受信アイドル状態に遷移します。
2. 受信パケットのプリアンブルに続くSFD（スタートフレームデリミタ）を検出すると受信処理を開始します。
   不当パターンの場合は、フレームを破棄します。
3. 通常モードでは、フレームのDA（宛先アドレス）が本LSI宛の場合、ブロードキャストフレームの場合、またはマルチキャストフレームの場合にデータ受信を開始します。プロミスキャスモードでは、フレームの種類にかかわらずデータ受信を開始します。
4. RGMIIからのデータ受信後、フレームデータ部のCRCチェックを行います。結果は受信FIFOへフレームデータをライトした後、ディスクリプタ内にステータスとして反映されます。異常時は、エラーステータスを報告します。

フレームを受信後、ECMR内のREビットが1に設定されていると、次のフレーム受信に備えます。

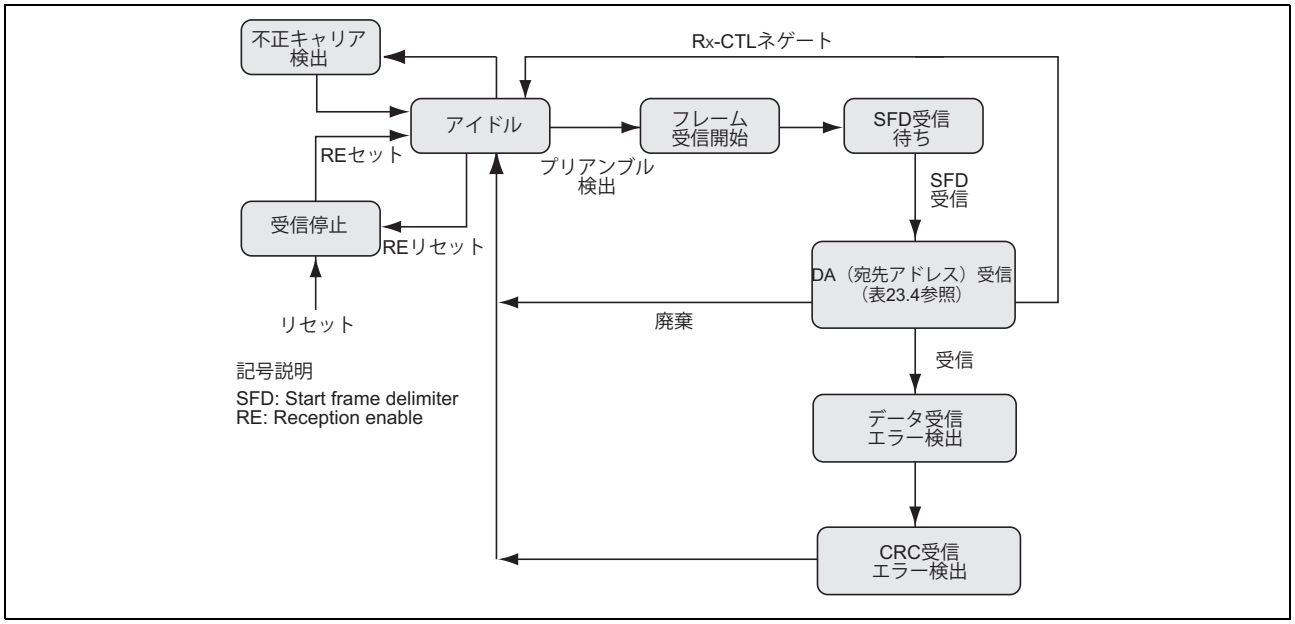


図 23.10　E-MAC 受信部状態遷移図

また、受信時のフレーム処理ではCAM の判定を参照することができます（CAM 機能を使用する場合については、「23.4.5　CAM 機能」を参照してください）。

ECMR のRE ビットが1 の状態でE-DMAC 受信要求レジスタ（EDRRR）の受信要求ビット（RR）に1 を書き込むと、E-DMAC は受信ディスクリプタリストから前回使用したディスクリプタの次のディスクリプタ（初回起動時は受信ディスクリプタ先頭アドレスレジスタ（RDLAR）で示すディスクリプタ）を読み込んだ後に受信待機状態となります。E-DMAC は、受信FIFO に32 バイト以上のデータ格納されているか、受信フレームの最終バイトが格納されている場合、受信ディスクリプタのRACT ビットが1（有効）の受信ディスクリプタに従い受信FIFOのデータをRD2 で指定される受信バッファに転送します。

受信したフレームのデータ長がRD1 で与えられるバッファ長よりも大きい場合は、E-DMAC はバッファが満了となった時点でディスクリプタにライトバック（RFP＝10 or 00）を行った後、次のディスクリプタを読み込みます。そして新たなRD2 によって指定される受信バッファに引き続きデータを転送します。

以下の条件が成立すると、当該ディスクリプタにライトバック（RFP ＝ 11 or 01）を行った後に、E-MAC/E-DMAC ステータスレジスタ（EESR）のフレーム受信完了ビット（FR）に 11 を書き込み、CPU に割り込みを発生します。

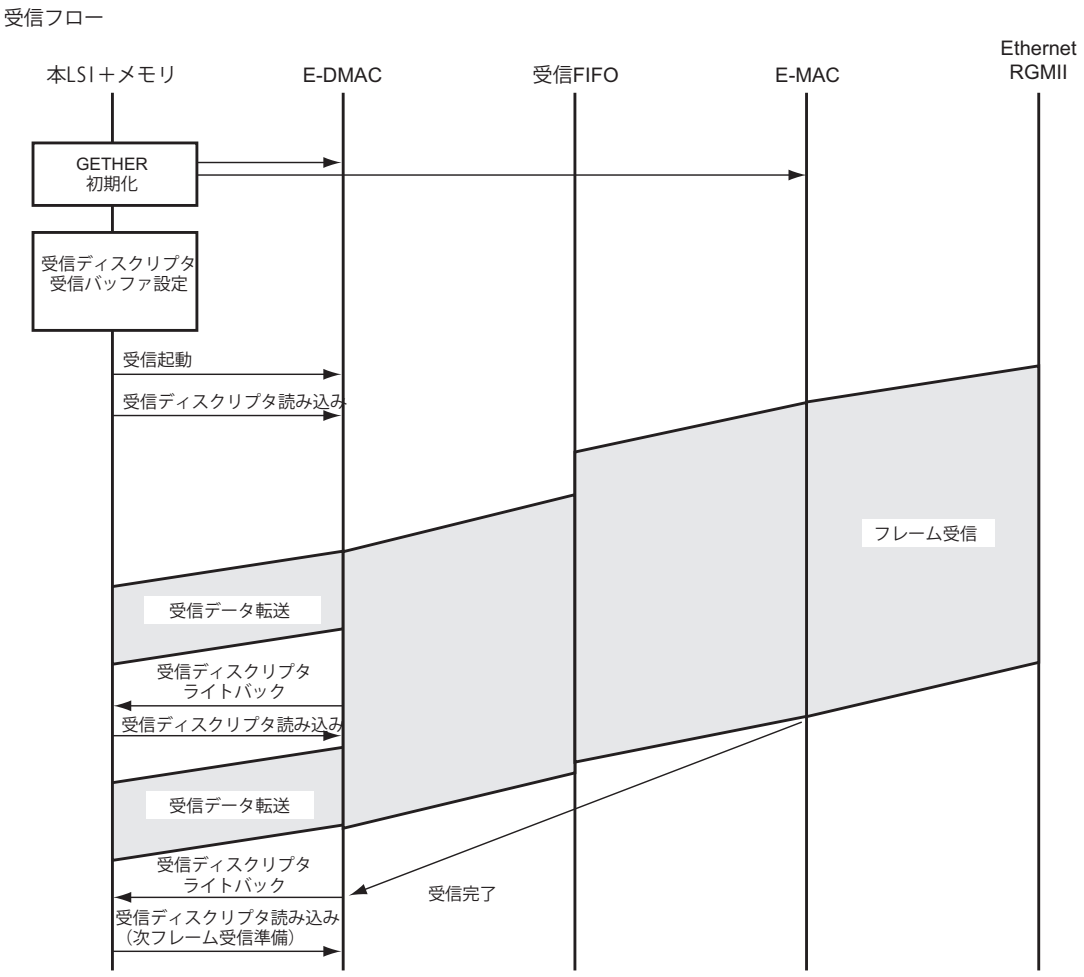
- 受信バッファがDMA転送でフルになった。
- 受信フレームの最終バイトの受信バッファへのDMA転送が終了した。

当該フレームの受信処理が終了した後、次のディスクリプタを読み込み受信待機状態となります。このとき、受信FIFO に32 バイト以上のデータが格納されているか、受信フレームの最終バイトが格納されている場合、続けて次の受信ディスクリプタの処理を行います。

読み込んだ受信ディスクリプタのTACT ビットが0（無効）の場合は、受信ディスクリプタが枯渇したと判断し、E-MAC/E-DMAC ステータスレジスタ（EESR）の受信ディスクリプタ枯渇（PDE）に1 を書き込み、CPU へ割り込みを発生します。

なお、連続してフレームを受信するには、受信方式制御レジスタ（RMCR）内の受信コントロールビット（RNC）を1 に設定してください。初期値は0 です。

図23.11 に、受信フローの例を示します。



【記号説明】

GETHER初期化	：EDMRのSWRRビット1によるソフトウェアリセットを実行します。
受信ディスクリプタ、 受信バッファ設定	：受信ディスクリプタ、受信バッファ設定の他、E-MAC、E-DMACのレジスタ設定を行います。最後にECMRのREビット1、EDRRRのRRビット1の書き込みを行います。
受信起動	
受信ディスクリプタ読み込み	：ECMRのREビット1、EDRRRのRRビット1の書き込みにより発生します。
受信データ転送	：E-DMACが受信ディスクリプタを読み込みます。
受信ディスクリプタライトバック	：E-DMACのDMA転送により受信データを受信FIFOから受信バッファに書き込みます。 ：E-DMACがRACTビットに0を書き込み、受信ディスクリプタに受信ステータスを書き込みます。

図 23.11　受信フローの例（1 フレーム／2 ディスクリプタ）

(2) 受信エラー処理

(a) 受信エラー

受信エラーが発生した場合、受信エラーフレームに関連する受信ディスクリプタのライトバックの終了後、E-MAC/E-DMAC ステータスレジスタ（EESR）のフレーム受信完了ビット（FR）及び受信中断検出ビット（RABT）に1 を設定し、CPU へ割り込みを発生します。

なお、RGMII から受信したフレームのバイト長が 32 バイト未満のときに受信エラーが発生した場合は、当該フレームの受信バッファへのDMA 転送は行いません。この場合、E-DMAC 内部で当該受信フレームを破棄します（フラッシュ機能）。ただし、受信データパディング挿入設定レジスタ（RPADIR）により受信フレームにパディング挿入した場合は、パディングバイト数を含めた長さが32 バイト未満であるときに本フラッシュ機能が働きます。

(b) 受信FIFO のオーバフロー

下記どちらかの状態のときは、E-MAC はRGMIIからの受信フレームを格納する領域がないためRGMIIからフレームを受信することができません。この状態では E-MAC へ新たに転送してきた受信フレームは、すべてE-MAC 内部で破棄されます（受信FIFO のオーバフロー）。

- 受信FIFOがDMA転送待ちデータでフルになった（受信FIFOに空き領域がない）
- DMA転送待ち受信フレーム数が計24になった（受信フレーム情報管理領域に空きがない：最大管理フレーム数は24）

前者によりオーバフローした場合、受信FIFO オーバフロービット（RFOF）（EESR レジスタのビット16）に”1” をセットし、SH-4A へ割り込みを発生します。一方、後者によりオーバフローした場合、受信フレームカウンタオーバフロービット（RFCOF）（EESR レジスタのビット24）に”1” をセットし、SH-4A へ割り込みを発生します。また、オーバフローで受信フレームを1 つ破棄するごとに、ミスドフレームカウンタレジスタ（RMFCR）をカウントアップします。ただし、受信FIFO 空き容量不足により途中で切断された受信フレームについては、RMFCR のカウントアップの対象外です。なお、受信FIFO 空き容量不足により受信フレームを途中で切断した（途中までは受信 FIFO に格納した）場合、E-DMAC は以下の動作を行います。

- 受信FIFOに格納済みの切断フレームを受信バッファへDMA転送
- 上記DMA転送の終了後、該当受信ディスクリプタをライトバック
- 上記ライトバックの終了後、EESRの受信FIFOオーバフローフレームライトバック完了ビット（ROC）に1をセットし、SH-4Aへ割り込みを発生

受信 FIFO が DMA 転送待ちデータでフルの場合、受信 FIFO から受信バッファへの DMA 転送が行われ、受信FIFO に32 バイト以上の空き領域が生じると、RGMIIからのフレーム受信が再び可能になります。一方、DMA 転送待ち受信フレーム数が計24 の場合、受信FIFO から受信バッファへの1 フレーム以上のDMA 転送が完了すると、RGMIIからのフレーム受信が再び可能になります。なお、RGMIIからのフレーム受信を再開する際、E-DMAC はフレームの先頭からのみ受信を再開します。

(c) フロー制御

E-DMAC は、受信FIFO の受信データ量あるいは受信フレーム数が以下の状態になった場合、E-MAC へ通知し、E-MAC から受信FIFO への書き込みを制御することができます

- 受信 FIFO の使用容量が、オーバフロー予告 FIFO しきい値設定レジスタ（FCFTR）で設定したデータ容量を超えた場合
- 受信FIFOの受信フレーム数が、FCFTRで設定したフレーム数を超えた場合

受信データ量のしきい値は、256～65536 バイト（256 バイト刻み）が設定可能です。

受信フレームのしきい値は、1～24 フレーム（1 フレーム刻み）が設定可能です。

(d) 受信ディスクリプタの枯渇

読み込んだディスクリプタのRACT ビットが0（無効）の場合は、受信ディスクリプタが枯渇したと判断し、DMA 転送処理を停止し、以下の動作を行います。

- EDRRRのRRビットに0を書き込む
- EESRの受信ディスクリプタ枯渇ビット（RDE）に1をセットし、CPUへ割り込みを発生

再度、受信バッファへの DMA 転送を行うためには、ソフトウェアが割り込み要因をクリアし、受信ディスクリプタを再設定し、EDRRR のRR ビットに1 を書き込む必要があります。

なお、受信ディスクリプタが枯渇した場合においても、受信FIFO容量や受信フレーム情報管理領域に空きがあれば、RGMII受信FIFOへのフレーム受信は継続します。したがって、受信ディスクリプタが枯渇した場合でも、オーバフローする前に受信バッファへのDMA転送を再開させることができれば、RGMIIからの受信フレームを破棄することなく受信バッファへDMA転送することが可能です。

23.4.4　転送動作

(1)　転送手順とフロー

GETHERは、E-MAC-0またはE-MAC-1のいずれかが受信したフレームをもう一方のE-MACに転送する機能を有しています。転送動作が有効になっている場合は、E-MACから入力されたフレームはTSU部で転送FIFOと受信FIFOの双方に送られ、受信系では受信するか否か、転送系では転送するか否かをそれぞれ独立に判定します。

なお、転送動作をさせるため両E-MACはプロミスキャスモードに設定し、両E-MAC内のMACアドレスは、同じMACアドレスを設定してください（以後このMACアドレスを本LSIのMACアドレスと呼びます）。

転送フレームの処理方法（転送／破棄）の設定は、TSU_FWSL0及びTSU_FWSL1で行います。転送処理に際し転送FIFOを通過したフレームは、E-MAC-0からE-MAC-1への転送のときはE-MAC-1から、E-MAC-1からE-MAC-0への転送のときはE-MAC-0からRGMIIに送られます。その際にE-DMACからの送信フレームとの競合が発生することがあります。競合が発生した場合の処理の優先順位は、TSU_PRISL0/1で設定することができます。また、転送FIFOの利用率がレジスタ（TSU_PRISL0/1）で設定された値よりも上回ったときに優先的に転送FIFOのフレームを送信する機能があり、これにより転送FIFOの溢れによるフレーム欠損を未然に防ぐことができます。

マルチキャストフレームと宛先が本LSI以外のフレームについては、転送時のフレーム処理にCAMの判定を参照することができます（CAM機能についての詳細は、「23.4.5　CAM機能」を参照してください）。表23.4に転送フレーム処理の設定（CAM未使用時）を示します。

表23.3　転送フレーム処理（CAM未使用時）

フレーム種類	転送機能設定レジスタビット	フレーム処理
本LSI宛フレーム	FW40/1 = 0	破棄
	FW40/1 = 1	転送
ブロードキャストフレーム	FW30/1 = 0	破棄
	FW30/1 = 1	転送
マルチキャストフレーム	FW20/1 = 0	破棄
	FW20/1 = 1	転送
本LSI以外を宛先とするフレーム	FW10/1 = 0	破棄
	FW10/1 = 1	転送

23.4.5　CAM 機能

E-MAC 部分に入力されたフレームは、次の 4 種類に分類されます。(1) 本 LSI 宛ユニキャスト、(2) ブロードキャスト、(3) マルチキャスト、及び (4) 他宛ユニキャスト。このうち、(1) 及び (2) の MAC アドレスは固定であり、レジスタ設定のみで判定を行います。したがって、CAM を用いて受信及び転送するかどうかの判定を行うのは、(3) マルチキャスト、(4) 他宛ユニキャストのみです（ユニキャストフレームのうち、当該フレーム内の宛先MAC アドレスが本LSI と一致するフレームを本LSI 宛ユニキャストフレーム、一致しないフレームを他宛ユニキャストフレームと称しています)。

さらに、TSU では CAM を利用する他宛ユニキャスト及びマルチキャストフレームの受信と転送の判定を TSU 内蔵の CAM エントリテーブルを参照して行います。本機能を使用することにより、受信不要なフレームデータの蓄積による受信 FIFO のオーバフローを未然に防ぎ、受信判定要否のための CPU 処理を低減できます。

また、POST テーブルは、4 ビットから構成され、それぞれ 0 系受信、1 系受信、0→1 転送、及び 1→0 転送に対応し、当該ビットが 1 のとき CAM 判定結果を受信と転送の判定に使用します。つまり、POST テーブルの該当ビットが 0 の場合は、受信と転送判定は表 18.2 に示す CAM 未使用時の判定と同じとなります。

内蔵 CAM は 32 エントリの MAC アドレスを登録できるエントリテーブルを有しており、その内容は TSU_ADRH0～TSU_ADRH31 及び TSU_ADRL0～TSU_ADRL31 で設定することができます。内蔵 CAM エントリテーブル参照の有効／無効の設定は、CAM 判定を行うかどうかを設定する CAM エントリテーブルイネーブル設定レジスタと CAM 判定結果を受信及び転送判定に使用するかを設定する CAM エントリテーブル POST 設定レジスタにより行います。受信時の内蔵 CAM エントリテーブル参照が有効になっている場合は、フレームの中の宛先アドレスと CAM エントリテーブルに登録された MAC アドレスを比較することにより、E-MAC に入力されたフレームを E-DMAC に引き渡す（E-DMAC にフレームを受信させる）か破棄するかが判定されます。また、転送動作が有効でかつ転送時の内蔵 CAM エントリテーブル参照が有効になっているとき、マルチキャストフレームと宛先が本 LSI 以外のフレームについては、フレームの中の宛先アドレスと CAM エントリテーブルに登録された MAC アドレスを比較することにより該当フレームを転送するか破棄するかを判定することができます。表 23.5 に E-MAC-0→E-DMAC0 または E-MAC-1→E-DMAC1 受信動作時のフレームの種類に対する処理方法（受信または破棄）の対応を、表 23.6 に E-MAC-0→E-MAC-1 または E-MAC-1→E-MAC-0 転送動作時のフレームの種類に対する処理方法（転送または破棄）の対応を示します。

表23.4　受信フレーム処理

CAMエントリテーブル参照結果	フレーム種類	PRM = 0 通常モード		PRM = 1 プロミスキャスモード	
		MCT = 0	MCT = 1	MCT = 0	MCT = 1
CAMヒット（アドレス一致）	本LSI 宛フレーム	破棄		破棄	
	ブロードキャストフレーム	破棄		破棄	
	マルチキャストフレーム	破棄	受信	破棄	受信
	本LSI 以外を宛先とするフレーム	受信		破棄	
CAMミスヒット（アドレス不一致）	本LSI 宛フレーム	受信		受信	
	ブロードキャストフレーム	受信		受信	
	マルチキャストフレーム	受信	破棄	受信	破棄
	本LSI 以外を宛先とするフレーム	破棄		受信	
CAMディセーブル	本LSI 宛フレーム	CAMミスヒットと同じ			
	ブロードキャストフレーム				
	マルチキャストフレーム				
	本LSI 以外を宛先とするフレーム				

【記号説明】
MCT ビット（ECMR レジスタのビット 13）：マルチキャスト受信モード（0：CAM ミスヒット時受信、1：CAM ヒット時受信）

表23.5　転送フレーム処理（CAM 使用時）

フレーム種類	転送機能設定レジスタビット	CAMヒット	CAMミスヒット
マルチキャストフレーム	FW20/1 = 0	転送	破棄
	FW20/1 = 1	破棄	転送
本LSI 以外を宛先とするフレーム	FW10/1 = 0	転送	破棄
	FW10/1 = 1	破棄	転送

注．　マルチキャストフレームと本LSI 以外を宛先とするフレームのみCAM の参照が可能です。本LSI 宛フレーム、及びブロードキャストフレームの処理は、CAM 参照の有無にかかわらず転送機能設定レジスタの値に従います。

23.4.6　マルチバッファフレーム（1 フレーム／複数ディスクリプタ）の送受信処理について

(1)　マルチバッファフレームの送信処理

マルチバッファフレームの送信中にエラーが発生した場合は、E-DMAC は図 23.12 に示す処理を行います。

図中で送信ディスクリプタが無効（TACT ビットが 0）である部分は、すでにバッファデータを正常に送信した部分を、送信ディスクリプタが有効（TACT ビットが 1）である部分は、バッファデータが未送信であることを示します。送信ディスクリプタが有効（TACT ビットが 1）である最初のディスクリプタ部分でフレーム送信エラーが発生した場合は、即座に送信を停止して TACT ビットを 0 クリアします。その後、次のディスクリプタをリードし、送信フレーム内の位置を TFP1、TFP0 ビットをもとに判断していきます（継続[B'00]または終了[B'01]）。

継続ディスクリプタである場合は、TACT ビットを 0 クリアするのみで、すぐに次ディスクリプタのリードを行います。最終ディスクリプタである場合は、TACT ビットを 0 クリアするのみでなく、TFE 及び TFS ビットへのライトバックも同時に行います。エラー発生後から最終ディスクリプタへのライトバックまでの間は、バッファ上のデータは送信しません。E-MAC/E-DMAC ステータス割り込み許可レジスタ（EESIPR）でエラー割り込みが許可されている場合は、最終ディスクリプタのライトバック直後に割り込みが発生します。

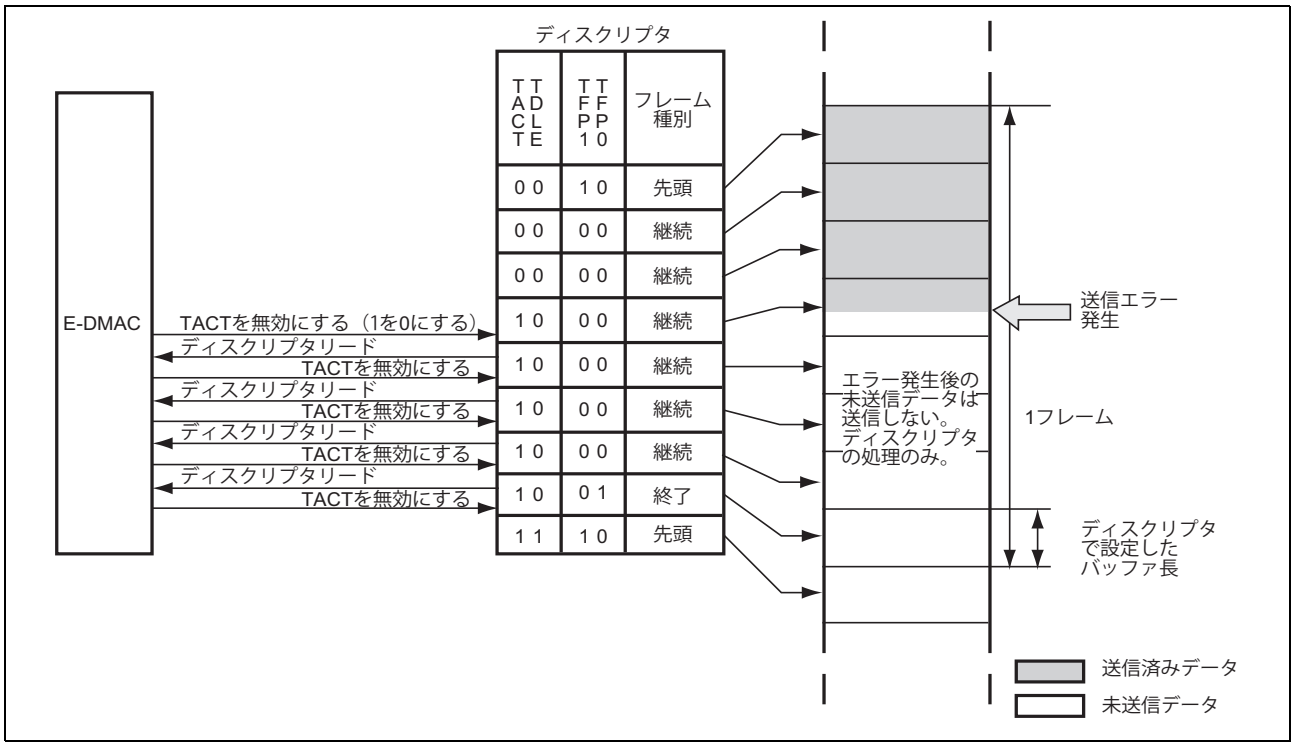


図 23.12　送信エラー発生後の E-DMAC 動作

(2)　マルチバッファフレームとなるケースの受信処理

受信フレームが複数のバッファに分割されマルチバッファフレームとなるケースでの受信中にエラーが発生した場合は、E-DMAC は図23.13 に示す処理を行います。

図中で受信ディスクリプタが無効（RACT ビットが0）である部分はすでにバッファに格納されるデータを正常に受信した部分を、受信ディスクリプタが有効（RACT ビットが 1）である部分は未受信バッファであることを示します。図中のディスクリプタ部分でフレーム受信エラーが発生した場合は、該当するディスクリプタにステータスのライトバックを行います。

EESIPR でエラー割り込みを許可している場合は、ライトバック直後に割り込みが発生します。新しいフレームの受信要求がある場合には、エラーが発生したバッファの次のバッファから引き続き受信を行います。

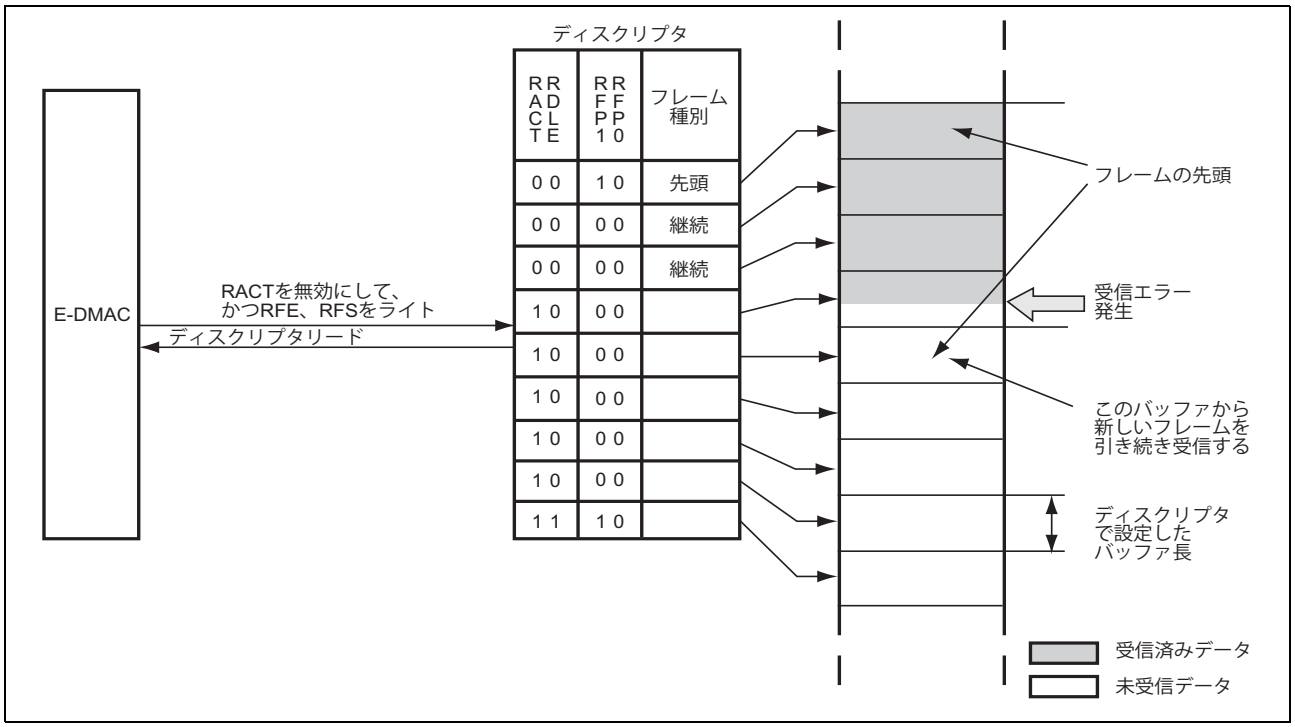


図 23.13　受信エラー発生後のE-DMAC 動作

23.4.7　受信データへのパディング挿入について

E-DMAC は、受信データ処理能力の向上のため、受信データの任意のバイト位置に 1 ～ 3 バイトのパディングを挿入できます。この機能を使用することで、たとえば、イーサネットフレームの MAC ヘッダ（14 バイト）の後に 2 バイトのパディングを挿入することによって以降のデータを 4 バイト境界の先頭に置くことができます。

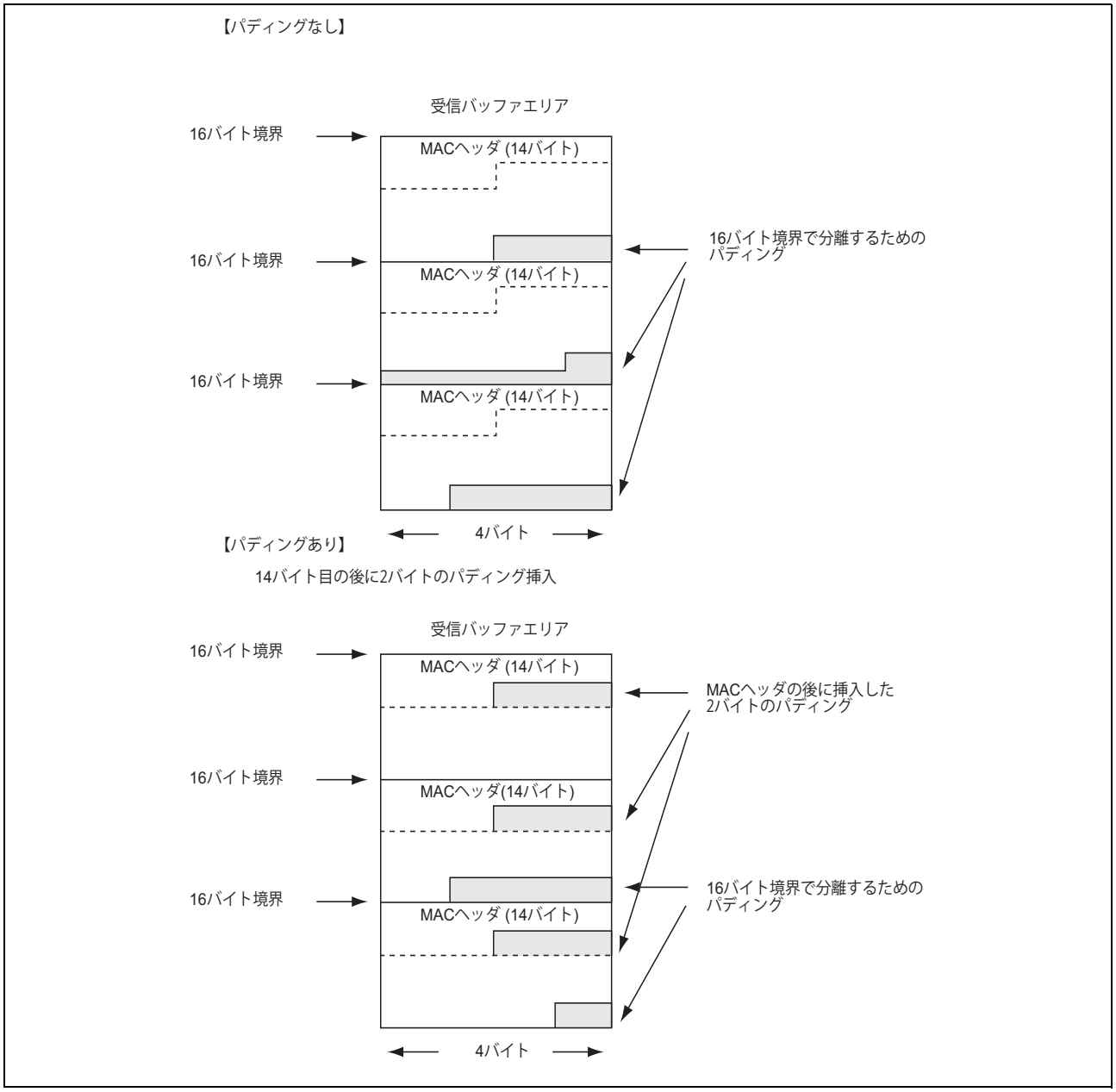


図 23.14　受信データへのパディング挿入

23.4.8　割り込み動作

(1)　割り込み要因

GETHER からCPU に対して発行する割り込みには、0 系送受信割り込み（GEINT0）、1 系送受信割り込み（GEINT1）、1 系・0 系間転送割り込み（GEINT2）の3 種類があります。表23.7 に、3 種類の割り込みとそれぞれの割り込みの要因、割り込み要因が発生したときに設定される割り込みステータスレジスタ／ビット、及び割り込み発生タイミングを示します。

GEINT0 とGEINT1 は、0 系あるいは1 系の送受信動作に関連して発生する割り込みです。割り込み要因が発生するとEESR0 レジスタあるいはEESR1 にセットされるとともにCPU に対して割り込みを発行します。ただし、割り込み要因によっては、レジスタへのセット／割り込みの発行が、割り込み要因を検出した直後ではなく、ディスクリプタへのライトバックが完了した時点のものもあります。E-MAC ステータスレジスタ要因（ECI ビット）を除く各割り込みの要因は、対応する要因ビットに 1 を書き込むことによりクリアされます。E-MAC ステータスレジスタ要因（ECI ビット）の割り込み要因は、ECSR レジスタの対応するビットに ”1” を書き込むことによりクリアされます。これらの割り込み要因は、クリアされるまではその値を保持します。GEINT0 と GEINT1 の各割り込み要因は、EESIPR0 あるいは EESIPR1 レジスタの対応するビットをセットすることにより割り込みを発行することが許可されます。また、E-MAC ステートレジスタ要因（ECI ビット）に含まれる個々の割り込み要因は、ECSIPR レジスタの対応するビットをセットすることにより割り込みを発行することが許可されます。許可ビットの初期値は割り込み禁止の状態になっています。

GEINT2 は、1 系から0 系あるいは0 系から1 系への転送動作に関連して発生する割り込みです。各割り込み要因が発生すると、TSU_FWSR レジスタの対応するビットがセットされるとともに、CPU に対し割り込みを発行します。GEINT2 の各割り込み要因は、対応するビットに 1 を書き込むことによりクリアされます。クリアされるまでその割り込みを保持します。GEINT2　の各割り込み要因は、TSU_FWINMK レジスタの対応するビットをセットすることにより割り込みを発行することが許可されます。初期値は、割り込み禁止の状態になっています。

表23.7 に、3 種類の割り込みとそれぞれの割り込みの要因、割り込み要因が発生したときに設定される割り込みステータスレジスタ／ビット、及び割り込み発生タイミングを示します。

表23.6　GETHER割り込み一覧

割り込み種類	割り込み要因	レジスタ、ビット名	レジスタ、ビット名割り込み発生タイミング
0系送受信割り込み(GEINT0)	ライトバック完了	EESR0.TWB	ライトバック後
	送信アンダフローフレームライトバック完了	EESR0.TUC	ライトバック後
	受信オーバフローフレームライトバック完了	EESR0.ROC	ライトバック後
	送信中断検出	EESR0.TABT	ライトバック後
	受信中断検出	EESR0.RABT	ライトバック後
	受信フレームカウンタオーバフロー	EESR0.RFCOF	割り込み要因検出時
	E-MACステータスレジスタ要因	EESR0.ECI	割り込み要因検出時
	フレーム送信完了	EESR0.TC	ライトバック後
	送信ディスクリプタ枯渇	EESR0.TDE	割り込み要因検出時
	送信FIFO アンダフロー	EESR0.TFUF	割り込み要因検出時
	フレーム受信	EESR0.FR	ライトバック後
	受信ディスクリプタ枯渇	EESR0.RDE	割り込み要因検出時
	受信FIFO オーバフロー	EESR0.RFOF	割り込み要因検出時
	キャリア消失検出	EESR0.DLC	割り込み要因検出時
	遅延衝突検出	EESR0.CD	割り込み要因検出時
	送信リトライオーバ	EESR0.TRO	割り込み要因検出時
	マルチキャストアドレスフレーム受信	EESR0.RMAF	ライトバック後
	キャリア拡張消失	EESR0.CELF	ライトバック後
	端数ビットフレーム受信	EESR0.RRF	ライトバック後
	ロングフレーム受信エラー	EESR0.RTLF	ライトバック後
	ショートフレーム受信エラー	EESR0.RTSF	ライトバック後
	PHY-LSI 受信エラー	EESR0.PRE	ライトバック後
	受信フレームCRC エラー	EESR0.CERF	ライトバック後

割り込み種類	割り込み要因	レジスタ、ビット名	レジスタ、ビット名割り込み発生タイミング
1 系送受信割り込み(GEINT1)	ライトバック完了	EESR1.TWB	ライトバック後
	送信アンダフローフレームライトバック完了	EESR1.TUC	ライトバック後
	受信オーバフローフレームライトバック完了	EESR1.ROC	ライトバック後
	送信中断検出	EESR1.TABT	ライトバック後
	受信中断検出	EESR1.RABT	ライトバック後
	受信フレームカウンタオーバフロー	EESR1.RFCOF	割り込み要因検出時
	E-MACステータスレジスタ要因	EESR1.ECI	割り込み要因検出時
	フレーム送信完了	EESR1.TC	ライトバック後
	送信ディスクリプタ枯渇	EESR1.TDE	割り込み要因検出時
	送信FIFO アンダフロー	EESR1.TFUF	割り込み要因検出時
	フレーム受信	EESR1.FR	ライトバック後
	受信ディスクリプタ枯渇	EESR1.RDE	割り込み要因検出時
	受信FIFO オーバフロー	EESR1.RFOF	割り込み要因検出時
	キャリア消失検出	EESR1.DLC	割り込み要因検出時
	遅延衝突検出	EESR1.CD	割り込み要因検出時
	送信リトライオーバ	EESR1.TRO	割り込み要因検出時
	マルチキャストアドレスフレーム受信	EESR1.RMAF	ライトバック後
	キャリア拡張消失	EESR1.CELF	ライトバック後
	端数ビットフレーム受信	EESR1.RRF	ライトバック後
	ロングフレーム受信エラー	EESR1.RTLF	ライトバック後
	ショートフレーム受信エラー	EESR1.RTSF	ライトバック後
	PHY-LSI 受信エラー	EESR1.PRE	ライトバック後
	受信フレームCRC エラー	EESR1.CERF	ライトバック後

割り込み種類	割り込み要因	レジスタ、ビット名	レジスタ、ビット名割り込み発生タイミング
1 系・0 系間転送割り込み(GEINT2)	0→1 系転送FIFO オーバフロー検出	TSU_FWSR.OVF0	割り込み要因検出時
	E-MAC-0 オーバフロー予告信号出力	TSU_FWSR.RBSY0	割り込み要因検出時
	E-MAC-0 キャリア拡張消失エラー検出	TSU_FWSR.RINT60	割り込み要因検出時
	E-MAC-0 端数ビットフレーム受信	TSU_FWSR.RINT50	割り込み要因検出時
	E-MAC-0 指定バイト超フレーム受信	TSU_FWSR.RINT40	割り込み要因検出時
	E-MAC-0 64 バイト未満フレーム受信	TSU_FWSR.RINT30	割り込み要因検出時
	E-MAC-0 フレーム受信エラー	TSU_FWSR.RINT20	割り込み要因検出時
	E-MAC-0 CRC エラーフレーム受信	TSU_FWSR.RINT10	割り込み要因検出時
	0→1 系転送FIFO オーバフロー検出	TSU_FWSR.OVF1	割り込み要因検出時
	E-MAC-1オーバフロー予告信号出力	TSU_FWSR.RBSY1	割り込み要因検出時
	E-MAC-1キャリア拡張消失エラー検出	TSU_FWSR.RINT61	割り込み要因検出時
	E-MAC-1端数ビットフレーム受信	TSU_FWSR.RINT51	割り込み要因検出時
	E-MAC-1指定バイト超フレーム受信	TSU_FWSR.RINT41	割り込み要因検出時
	E-MAC-1 64 バイト未満フレーム受信	TSU_FWSR.RINT31	割り込み要因検出時
	E-MAC-1フレーム受信エラー	TSU_FWSR.RINT21	割り込み要因検出時
	E-MAC-1CRC エラーフレーム受信	TSU_FWSR.RINT11	割り込み要因検出時

23.4.9　起動手順

以下の手順でGETHER を起動してください。

(1)　リセット

1.　パワーオンリセット
2.　E-DMAC送信部／受信部の起動（ディスクリプタエンジン起動）
   • E-DMAC起動レジスタ（EDSR）の設定：ENT=1、ENR=1
3.　ソフトウェアリセット
   • E-DMACモードレジスタ（EDMR）の設定：SWRR=1、SWRT=1（同時に設定のこと）
4.　ディスクリプタエントリテーブルの初期化
5.　ソフトウェアリセットの解除確認
   • E-DMACモードレジスタ（EDMR）の確認：SWRR=0、SWRT=0に戻っていること

(2)　ディスクリプタリング登録

メモリに構成されたディスクリプタリングのアドレスをディスクリプタエントリテーブルに登録します。

1.　送信ディスクリプタの設定
   • 送信ディスクリプタリスト先頭アドレスレジスタ（TDLAR）の設定
   • 送信ディスクリプタフェッチアドレスレジスタ（TDFAR）の設定
   • 送信ディスクリプタ処理済アドレスレジスタ（TDFXR）の設定
   • 送信ディスクリプタ最終フラグレジスタ（TDFFR）の設定：TDFXRが示すディスクリプタがディスクリプタリストの最終である場合、H'0000 0001を設定

2.　受信ディスクリプタの設定
   • 受信ディスクリプタリスト先頭アドレスレジスタ（RDLAR）の設定
   • 受信ディスクリプタフェッチアドレスレジスタ（RDFAR）の設定

- 受信ディスクリプタ処理済アドレスレジスタ（RDFXR）の設定
- 受信ディスクリプタ最終フラグレジスタ（RDFFR）の設定：RDFXRが示すディスクリプタがディスクリプタリストの最終である場合、H'0000 0001を設定

(3)　レジスタ設定

必要に応じて以下のレジスタを設定してください。

1.　E-DMAC関連レジスタの設定

- E-DMACモードレジスタ（EDMR）の設定：動作モード他
- E-DAC/E-DMACステータス割り込み許可レジスタ（EESIPR）の設定：割り込みマスク
- 送受信ステータスコピー指示レジスタ（TRSCER）の設定：エラーマスク
- 送信FIFOしきい値指定レジスタ（TFTR）の設定：送信FIFOしきい値
- FIFO容量指定レジスタ（FDR）の設定：外部FIFO容量値
- 受信方式制御レジスタ（RMCR）の設定：受信起動リセット方法
- 受信データパディング挿入設定レジスタ（RPADIR）の設定：受信データへのパディング挿入
- オーバフロー予告FIFOしきい値設定レジスタ（FCFTR）の設定：受信BSY送出しきい値

2.　E-MAC関連レジスタの設定

- E-MACモードレジスタ（ECMR）の設定：送信、受信仕様
- E-MAC割り込み許可レジスタ（ECSIPR）の設定：割り込みマスク
- MACアドレス上位設定レジスタ（MAHR）の設定：MACアドレス
- MACアドレス下位設定レジスタ（MALR）の設定：MACアドレス
- 受信フレーム長上限レジスタ（RFLR）の設定：受信フレーム長上限
- PHY-INT極性設定レジスタ（PIPR）の設定：ET_PHY-INT端子の極性
- 自動PAUSEフレーム設定レジスタ（APR）の設定：自動PAUSEフレームTIMEパラメータ値
- 手動PAUSEフレーム設定レジスタ（MPR）の設定：手動PAUSEフレームTIMEパラメータ値
- 自動PAUSEフレーム再送回数設定レジスタ（TPAUSER）の設定：PAUSEフレーム再送回数上限値
- GETHERモードレジスタ（GECMR）の設定：転送速度等
- バーストサイクル回数上限設定レジスタ（BCULR）の設定：バーストサイクル上限値

(4)　起動

1.　E-DMAC送受信機能の起動

- E-DMAC送信要求レジスタ（EDTRR）の設定：TR＝11
- E-DMAC受信要求レジスタ（EDRRR）の設定：RR＝1

2.　E-MAC送受信機能の起動

- E-MACモードレジスタ（ECMR）の設定：TE＝1、RE=1

23.4.10　フロー制御

GETHERは、全二重動作時に、IEEE802.3x準拠のフロー制御をサポートしています。フロー制御は、受信と送信の双方の動作に対して適用することができます。フロー制御をするときのPAUSEフレームの送信には、次の（1）、（2）の方法があります。

(1)　自動PAUSEフレーム送信

受信フレームに対しては、受信FIFOに書き込まれたデータ量が、オーバフロー予告FIFOしきい値設定レジスタ（FCFTR）に設定された値に達するとPAUSEフレームを自動的に送信します。このときのPAUSEフレームに含まれるTIMEパラメータ値は、自動PAUSEフレーム設定レジスタ（APR）で設定します。PAUSEフレームの再送回数上限を規定しない場合、自動PAUSEフレームの送信は、受信FIFO内のデータが読み出されてデータ量がFCFTR設定値未満になるまで繰り返されます。また、PAUSEフレーム再送回数設定レジスタ（TPAUSER）によりPAUSEフレームの再送信回数の上限値を1～65535回の範囲で設定することができます。この場合は、自動PAUSEフレームの送信は、受信FIFO内のデータ量がFCFTR設定値未満になるか、送信回数がTPAUSERの設定値に達するまで繰り返されます。送信回数カウンタは、いったん受信FIFO内のデータ量がFCFTR設定値未満になった後、次のPAUSEフレームが送信される時点で0クリアされます。

自動PAUSE フレームの送信は、E-MAC モードレジスタ（ECMR）のTXF ビットが1 の場合に有効になります。

(2)　手動PAUSE フレーム送信

ソフトウェアからの指示により、PAUSE フレームを送信することができます。手動 PAUSE フレーム設定レジスタ（MPR）へTimer 値を書き込むと、手動PAUSE フレームの送信を開始します。この手順によるPAUSE フレームの送信は1 回（1 フレーム）のみです。

(3)　PAUSE フレーム受信

PAUSE フレームを受信した場合、TIME パラメータ値の示す時間が経過するまで、次のフレーム送信を待ちます。送信中のフレームについては、送信を継続します。PAUSE フレームの受信はE-MAC モードレジスタ（ECMR）のRXF ビットが1 の場合に有効となります。PAUSE フレーム受信回数をカウントします。

(4)　0 TIME PAUSE フレーム制御

TIME パラメータ値が 0 の PAUSE フレームによるフロー制御を行うことができます。TIME パラメータ値が 0 の PAUSE フレーム制御を有効／無効するかを、E-MAC モードレジスタ（ECMR）の ZPF ビットで指定することができます。

- TIMEパラメータ値が0のPAUSEフレーム制御有効時

  TIMEパラメータ値の示す時間が経過していない状態で、受信FIFOの容量がオーバフロー予告FIFOしきい値設定レジスタ（FCFTR）の設定値未満になると、TIMEパラメータ値が0のPAUSEフレームを送信します。

  TIMEパラメータ値が0のPAUSEフレームを受信した場合、フレーム送信待ち状態を解除します。
- TIMEパラメータ値が0のPAUSEフレーム制御無効時

  TIMEパラメータ値が0のPAUSEフレームを送信しません。また、TIMEパラメータ値が0のPAUSEフレームを受信した場合は、そのPAUSEフレームを破棄します。

23.4.11　Magic Packet の検出

GETHER は、Magic Packet の検出機能を有しています。本機能は、ホスト装置などからLAN に接続される各種周辺装置を起動する機能（WOL：Wake-On-LAN）を提供します。これによって、ホスト装置などから送出される Magic Packet を周辺装置が受信し、周辺装置がみずから起動するシステムを構築できます。Magic Packet を検出したときには、それ以前に受信していたブロードキャストパケット等によって受信FIFO にはデータが蓄積され、E-MAC には受信ステータスなどが報告されています。本割り込み処理から通常の動作に復帰するためには、ソフトウェアリセットレジスタ（ARSTR）のARST ビットによりE-MAC、TSU、及びE-DMAC の初期化を実行してください。

Magic Packet においては、宛先アドレスにかかわらず受信を行います。結果として、Magic Packet 内のフォーマットで指定される宛先に合致する場合のみ有効となり ET_WOL 端子が有効となります。Magic Packet に関する詳細については、AMD 社の技術資料を参照してください。

本LSI を用いてWOL を利用するには、以下のような設定順序で行います。

1. 各種割り込み許可／マスクレジスタによって割り込み要因の出力を禁止します。
2. E-MACモードレジスタ（ECMR）のMagic Packet検出許可ビット（MPDE）を設定します。
3. E-MAC 割り込み許可レジスタ（ECSIPR）の Magic Packet 検出割り込み許可ビット（MPDIP）をイネーブルに設定します。
4. 必要なら CPU の動作モードをスリープモードあるいは周辺機能をモジュールスタンバイモードに設定します。
5. Magic Packetを検出すると、CPUには割り込みが通知されます。

23.4.12 IEEE802.1Q Qtag 使用方法

GETHER は、IEEE802.1Q 対応フレームの処理をサポートしており、転送動作に際して処理するフレームに対しQtag の付加及び削除を行うことができます。本機能により、QoS 対応フレームを送信及び受信することができます。転送時、一方の E-MAC に接続されているイーサネット装置が QoS 対応フレームを送受信できない場合は、本 LSI では通常の IEEE802.3 フレームに変換して転送することができます。Qtag 追加または削除処理を行うかどうかは、Qtag 追加・削除設定レジスタ（TSU_QTAGM0/1）で決定します。Qtag 追加処理を行う場合は、追加するQtag の内容をQtag 値設定レジスタ（TSU_ADQT0/1）で設定することができます。図 23.15 に Qtag 付加機能の概略を、図 23.16 に通常のイーサネットフレームとIEEE802.1Q 準拠（Qtag 付き）フレームとの比較を示します。Qtag の設定方法の詳細は、IEEE802.1Q に規定されたQtag 制御に関する仕様を参照してください。

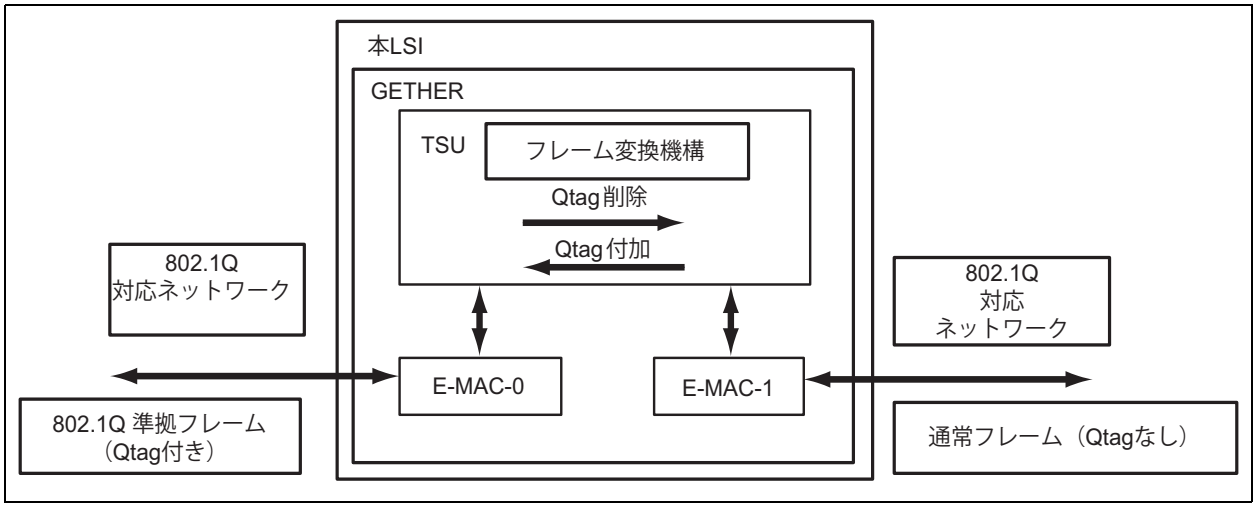


図 23.15　Qtag 付加機能の概略

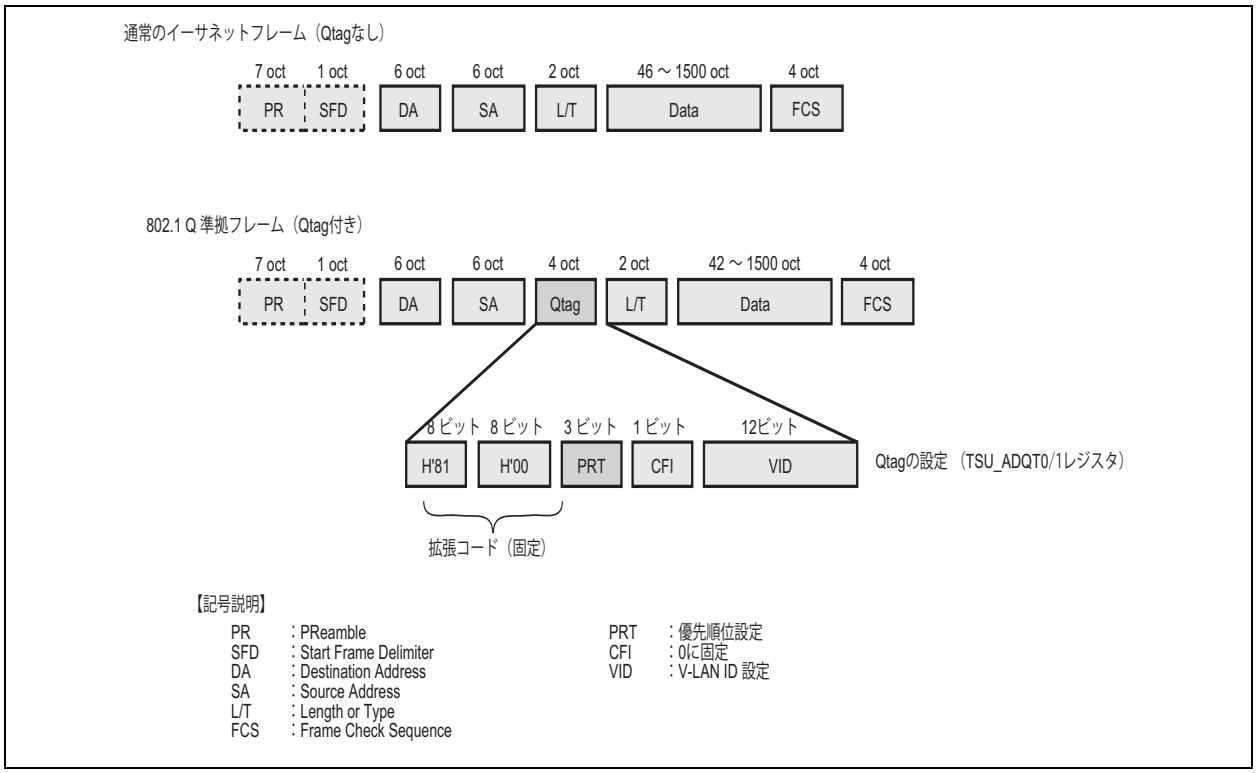


図 23.16　通常のイーサネットフレームとIEEE802.1Q 準拠（Qtag 付き）フレームとの比較

23.5　PHY-LSI との接続

23.5.1　MII レジスタのアクセス方法

PHY-LSI 内にある MII レジスタへは、本 LSI の PHY 部インタフェースレジスタ（PIR）を経由してアクセスします。IEEE802.3u で規定される MII フレームフォーマットに従い、シリアルインタフェースとして接続します。

(1)　MII 管理フレームのフォーマット

MII 管理フレームのフォーマットを図23.17 に示します。MII レジスタをアクセスするには、(2) で示す手順に従う管理フレームをプログラムによって実現します。

アクセス種別	MII管理フレーム							
項目	PRE	ST	OP	PHYAD	REGAD	TA	DATA	IDLE
ビット数	32	2	2	5	5	2	16	
リード	1..1	01	10	00001	RRRRR	Z0	D..D	
ライト	1..1	01	01	00001	RRRRR	10	D..D	X

【記号説明】

PRE　：32個の連続した1
ST　：フレームの先頭を示す01のライト
OP　：アクセス種別を示すコードのライト
PHYAD　：PHY-LSIのアドレスが1番の場合、0001をライト（MSBから順次ライト）。このビットは、PHY-LSIアドレスによって可変となる。
REGAD　：レジスタアドレスが1番の場合、0001をライト（MSBから順次ライト）。このビットは、PHY-LSIのレジスタアドレスによって可変となる。
TA　：MIIインタフェース上でデータの送信元を切り換える時間
　（a）ライト時は10をライト
　（b）リード時は、「バス解放」（Z0と表記）を行う
DATA　：16ビットのデータ。MSBから順次ライトあるいはリード
　（a）ライト時は、16ビットデータのライト
　（b）リード時は、16ビットデータのリード
IDLE　：次のMII管理フォーマット入力までの待機時間
　（a）ライト時は、「単独バス解放」（Xと表記）を行う
　（b）リード時は、すでにTA時にバス解放済みであり制御不要

図 23.17　MII 管理フレームフォーマット

(2)　MII レジスタアクセス手順

プログラムは、PHY 部インタフェースレジスタ（PIR）を経由して MII レジスタをアクセスします。アクセスは、1 ビット単位のデータライト、1 ビット単位のデータをリードし、バスの解放及び単独バス解放の組み合わせによって実現します。MII レジスタアクセスタイミング例を図23.18 に示します。アクセスタイミングは、PHY-LSI の種類によって異なります。

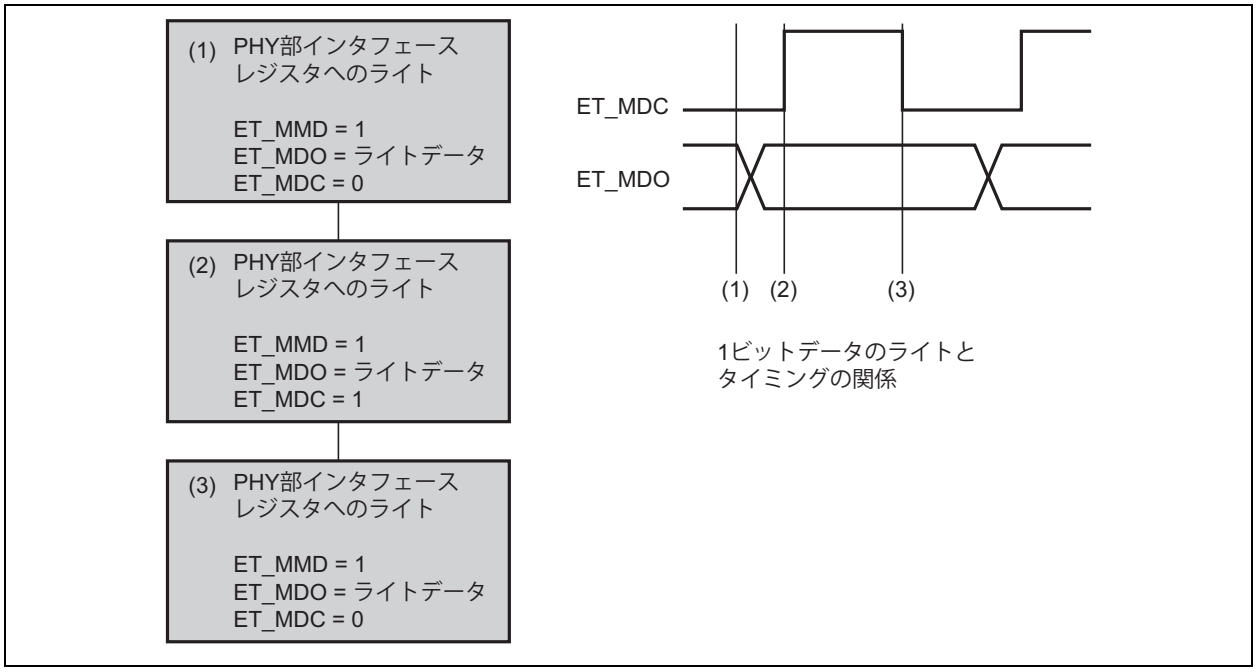


図 23.18　1 ビットデータのライトフロー

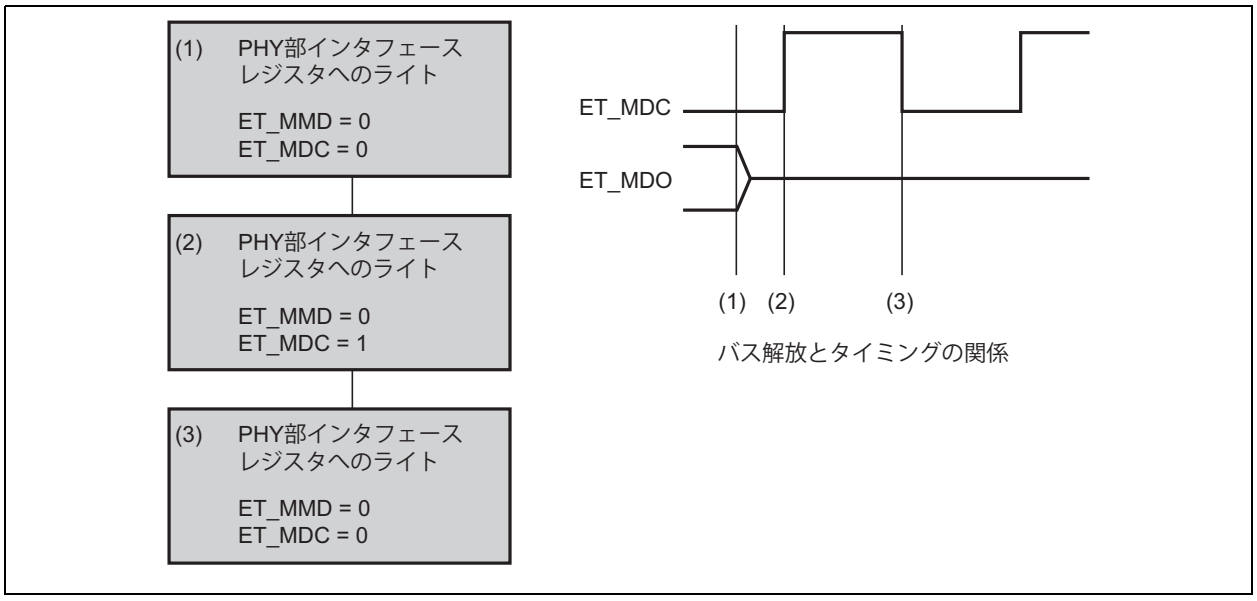


図 23.19　バス解放フロー（図23.32 中のリード時のTA）

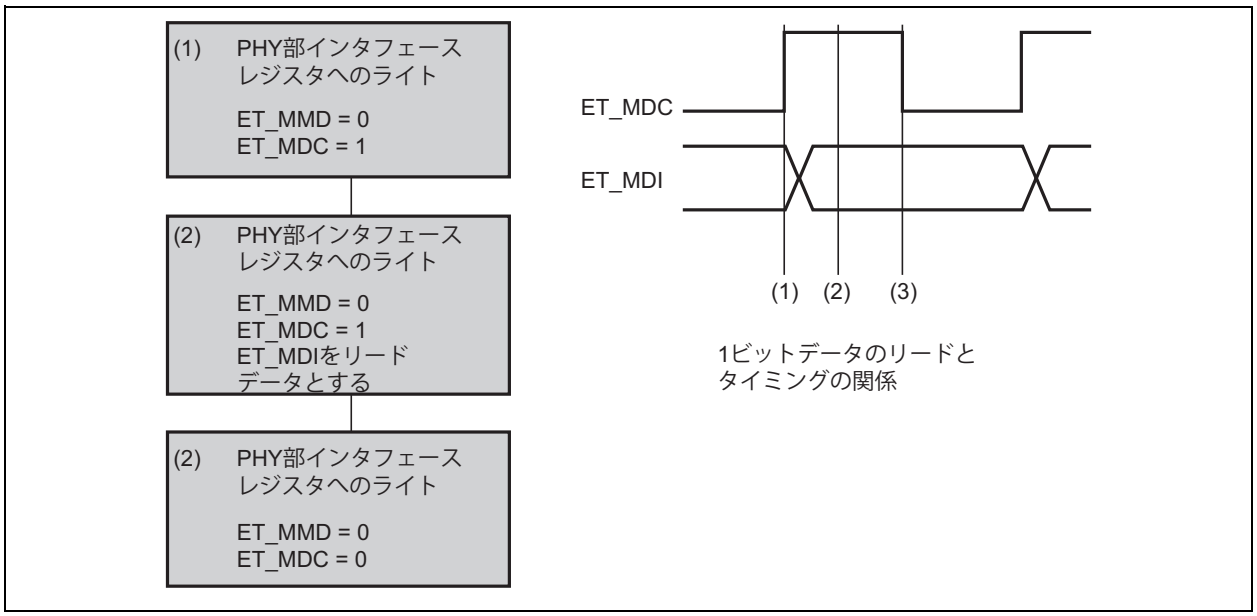


図 23.20　1 ビットデータのリードフロー

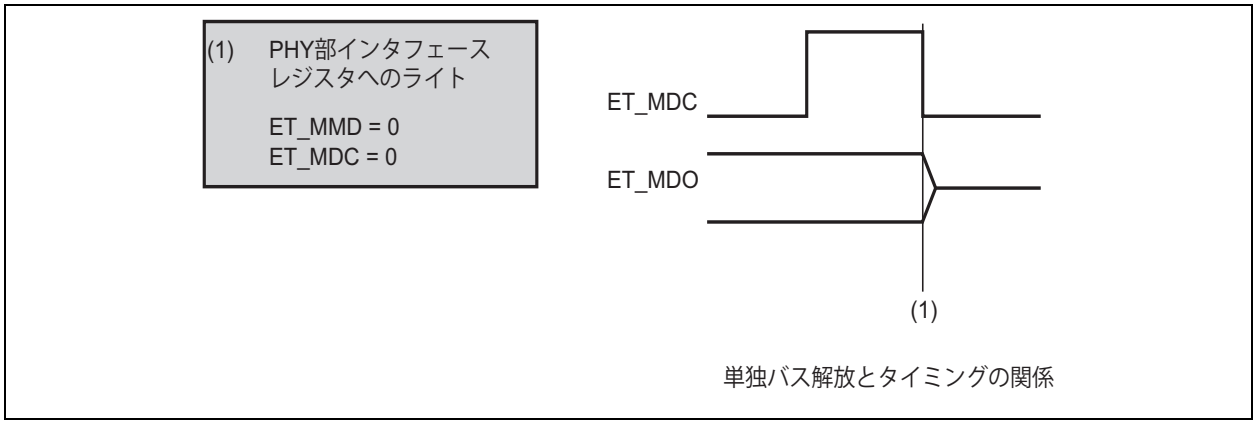


図 23.21　単独バス解放フロー（図23.17のライト時のIDLE）

23.6　使用上の注意事項

23.6.1　イーサネットフレームのサムチェック計算

本LSIでは、受信フレームのサムチェックデータを計算することができます。サムチェックの計算対象は、イーサネットフレームのデータ部分（長さ／タイプフィールドの直後から、CRCデータの直前まで）です。計算方法は、16ビットごとの加算のみで、ビットの反転は行っていません。

注．VLANTagが挿入されたフレームに対しても、先頭15バイト目以降、CRCデータの直前までを計算対象としますのでご注意ください。

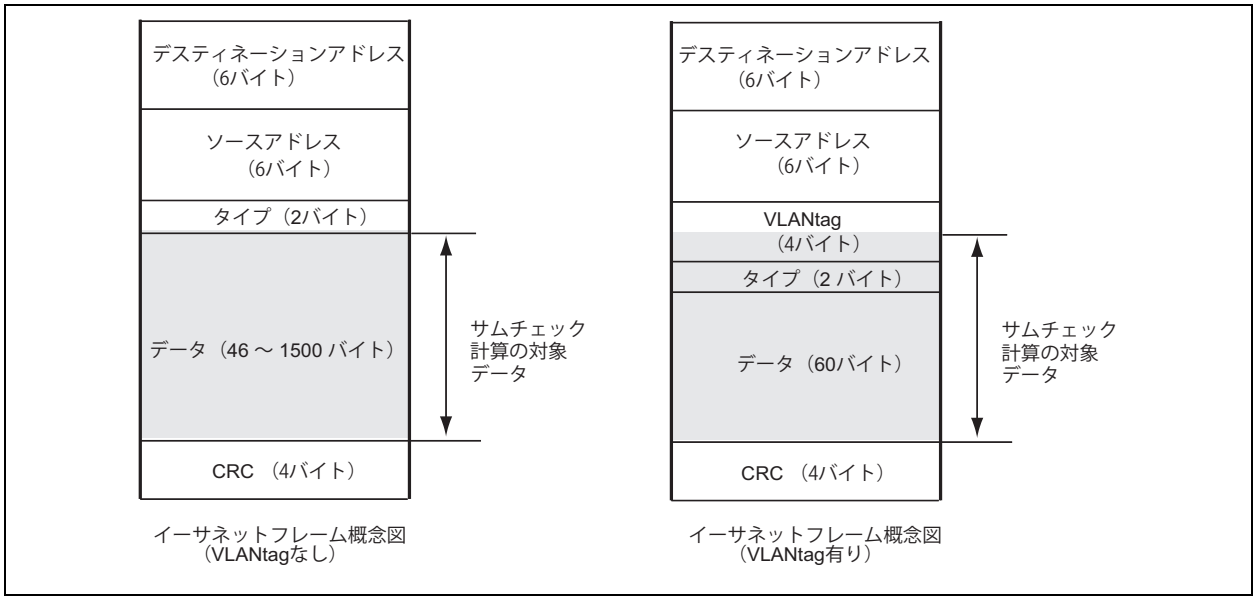


図 23.22　サムチェック計算の対象データ

23.6.2　TSU 使用時の注意

本LSIのTSUは、100BASE-Tのデータ転送まで対応した仕様となっております。1000BASE-TでTSUを使用した場合もデータ転送に関しては、転送性能は100BASE-T相当となりますのでご注意ください。

23.6.3　GETHER、ETHERとの組み合わせで3チャネル以上を使用する場合の注意事項

図23.23 はMDIO端子、MDC端子 がRMII(ETHER)、RGMII(GETHER) でマルチプレックスされ、2 つのチャネルでのみ利用できることを示します。GETHER、ETHERとの組み合わせで3チャネル以上を使用しなければならないときは、MDIO端子、MDC端子の代わりにRIIC などの端子を使用してください。

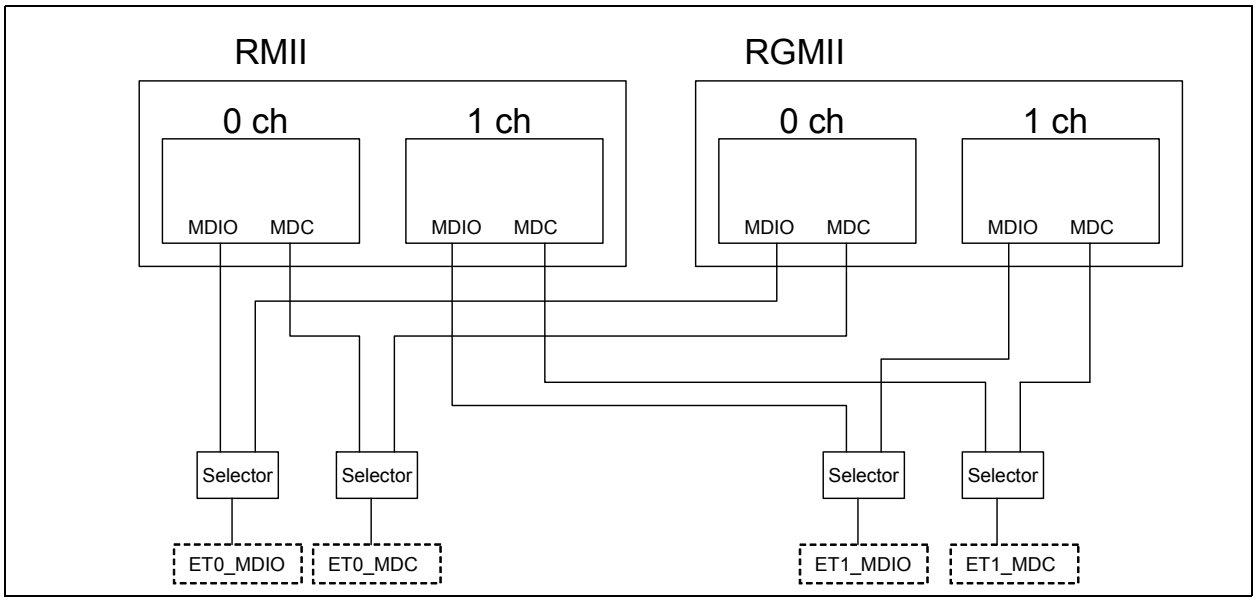


図 23.23　RMII、RGMIIの構成

24. イーサネットコントローラ(ETHER)

本LSIは、オンチップイーサネットコントローラ（ETHER）を内蔵しています。ETHERはイーサネットあるいはIEEE802.3のMAC（Media Access Control）層規格に準拠したイーサネットコントローラ（EtherC）を内蔵しています。EtherCは、同規格に合致する物理層LSI（PHY-LSI）と接続することにより、イーサネット／IEEE802.3フレームの送受信を行うことができます。本LSI内蔵のイーサネットコントローラはMAC層インタフェースを2系統（以降、0系、1系と表記します）内蔵しており、それぞれ独立に送信及び受信動作をさせることができます。

ETHERはまた、イーサネットコントローラ（EtherC）に直結した2チャネルのダイレクトメモリアクセスコントローラ（E-DMAC0/1）を内蔵しています。E-DMACは、E-DMAC内蔵のDMACを使用し、E-DMAC内の送信／受信FIFOとユーザが指定するデータ格納先（バッファ）との間の送受信データの転送をDMA転送により行います。このDMA転送時に、E-DMACが参照する情報を送信／受信ディスクリプタと呼び、ユーザがメモリ上に配置します。

この機能によってSH-4Aの負荷を軽減し、効率の良いデータ送受信制御を行うことができます。E-DMAC0はEtherCのMAC-0に対して、E-DMAC1はEtherCのMAC-1に対してのデータ送受信を制御します（以下、E-DMAC0で制御される系統を0系、E-DMAC1で制御される系統を1系と称します）。

Figure 24.1にETHERの構成を示します。

24.1 特長

- イーサネット／IEEE802.3フレームの送受信
- 10Mbps及び100Mbps転送への対応
- 全二重モード及び半二重モード対応
- RMII（Reduced Media Independent Interface）対応
- 送信／受信2チャネルの独立したDMAC内蔵
- ディスクリプタ管理方式によるSH-4A負荷の軽減
- 送受信フレームステータスのディスクリプタへの反映
- DMAブロック転送（16バイト単位）によるシステムバスの効率使用
- シングルフレーム、マルチバッファ方式対応可能
- 受信データへのパディング挿入によるソフトウェアの処理能力の向上

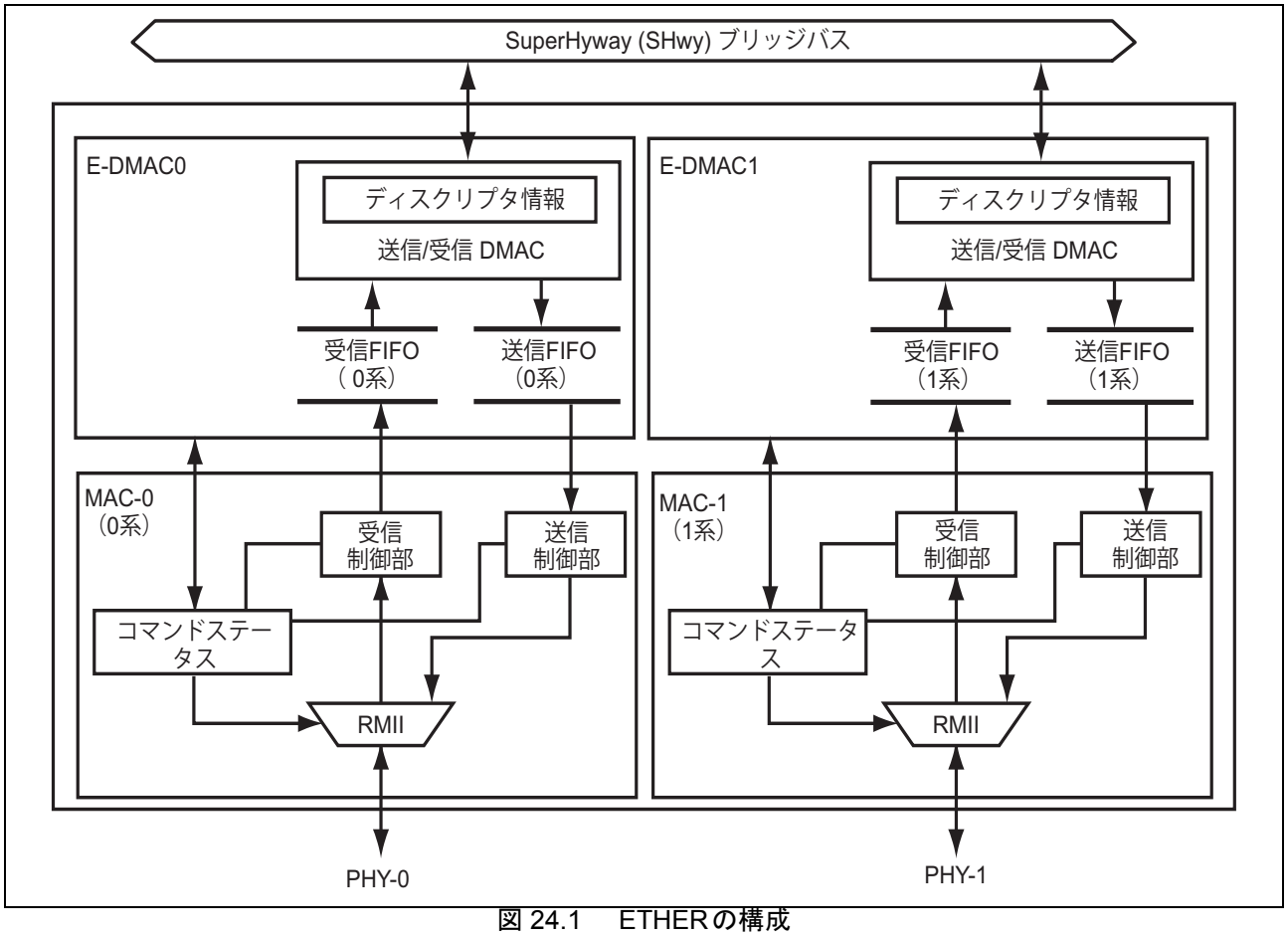


図 24.1 ETHERの構成

24.2 入出力端子

Ether の端子構成を表24.1 に示します。

表24.1　端子構成

系	名称	略称	入出力	機能
0	送受信クロック	RMII0-REFCLK	入力	送受信信号用タイミング参照信号
	送信イネーブル	RMII0-TXEN	出力	TXD 端子上に送信データが準備できたことを示します
	送信データ	RMII0-TXD1、RMII0-TXD0	出力	2ビットの送信データ用端子
	キャリア検出／データ有効	RMII0-CRS_DV	入力	キャリア検出／受信データ有効信号の入力端子
	受信データ	RMII0-RXD1、RMII0-RXD0	入力	2ビットの受信用入力端子
	受信エラー	RMII0-RX_ER	入力	受信中に発生したエラーを通知する端子
	管理用データクロック	ET0-MDC（注1）	出力	MDIO による情報転送用の参照クロック信号
	管理用データ入出力	ET0-MDIO（注1）	入出力	本LSI とPHYとの間で管理情報を交換するための双方向信号
1	送受信クロック	RMII1-REFCLK	入力	送受信信号用タイミング参照信号
	送信イネーブル	RMII1-TXEN	出力	TXD 端子上に送信データが準備できたことを示します
	送信データ	RMII1-TXD1、RMII1-TXD0	出力	2ビットの送信データ用端子
	キャリア検出／データ有効	RMII1-CRS_DV	入力	キャリア検出／受信データ有効信号の入力端子
	受信データ	RMII1-RXD1、RMII1-RXD0	入力	受信中に発生したエラーを通知する端子
	受信エラー	RMII1-RX_ER	入力	データ受信中に発生したエラー状態を認識
	管理用クロック	ET1-MDC（注1）	出力	MDIO による転送情報のクロック信号
	管理用データ	ET1-MDIO（注1）	入出力	管理情報を交換する為の双方向のデータ端子

注1.　図24.15に示すように、MDIO/MDC端子はRMII/RGMII内でマルチプレクスされていて、2チャネルのみ使用可能です。切り替えビットはGBECONT レジスタのRMII1 ビット又はRMII0ビットで設定されます。（「23.3.98 Gigabit イーサネットコントロールレジスタ（GBECONT）」参照）

24.3 レジスタの説明

Ether のレジスタ構成と各処理モードにおけるレジスタの状態を表24.2 に示します。

表24.2　レジスタ構成

系	レジスタ名	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
						パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウエアリセット
0	EtherC モードレジスタ	ECMR0	R/W	H'FEF0 0100	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	EtherC ステータスレジスタ	ECSR0	R/W	H'FEF0 0110	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	EtherC 割り込み許可レジスタ	ECSIPR	R/W	H'FEF0 0118	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	受信フレーム長上限レジスタ	RFLR0	R/W	H'FEF0 0108	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	PHY 部インタフェースレジスタ	PIR0	R/W	H'FEF0 0120	32	H'0000 000X	H'0000 000X	H'0000 000X
	MAC アドレス上位設定レジスタ	MAHR0	R/W	H'FEF0 01C0	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	MAC アドレス下位設定レジスタ	MALR0	R/W	H'FEF0 01C8	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	送信リトライオーバカウンタレジスタ	TROCR0	R/W	H'FEF0 01D0	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	遅延衝突検出カウンタレジスタ	CDCR0	R/W	H'FEF0 01D4	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	キャリア消失カウンタレジスタ	LCCR0	R/W	H'FEF0 01D8	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	キャリア未検出カウンタレジスタ	CNDCR0	R/W	H'FEF0 01DC	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	CRC エラーフレーム受信カウンタレジスタ	CEFCR0	R/W	H'FEF0 01E4	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	フレーム受信エラーカウンタレジスタ	FRECR0	R/W	H'FEF0 01E8	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	64 バイト未満フレーム受信カウンタレジスタ	TSFRCR0	R/W	H'FEF0 01EC	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	指定バイト超フレーム受信カウンタレジスタ	TLFRCR0	R/W	H'FEF0 01F0	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	端数ビットフレーム受信カウンタレジスタ	RFCR0	R/W	H'FEF0 01F4	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	マルチキャストアドレスフレーム受信カウンタレジスタ	MAFCR0	R/W	H'FEF0 01F8	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	IPG 設定レジスタ	IPGR0	R/W	H'FEF0 0150	32	H'0000 0014	H'0000 0014	H'0000 0014
	自動PAUSE フレーム設定レジスタ	APR0	R/W	H'FEF0 0154	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	手動PAUSE フレーム設定レジスタ	MPR0	R/W	H'FEF0 0158	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	自動PAUSE フレーム再送回数設定レジスタ	TPAUSER0	R/W	H'FEF0 0164	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	乱数生成カウンタ上限値設定レジスタ	RDMLR0	R/W	H'FEF0 0140	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	受信PAUSE フレームカウンタレジスタ	RFCF0	R/W	H'FEF0 0160	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	PAUSE フレーム再送回数設定レジスタ	TPAUSECR0	R/W	H'FEF0 0168	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000

系	レジスタ名	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
						パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウエアリセット
0	Broadcast フレーム受信回数設定レジスタ	BCFRR0	R/W	H'FEF0 016C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	指定フレーム超Broadcast連続受信カウンタレジスタ	CRBCFRR0	R/W	H'FEF0 0170	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	送受信レート設定レジスタ	RTRATE0	R/W	H'FEF0 01FC	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	E-DMAC モードレジスタ	EDMR0	R/W	H'FEF0 0000	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	E-DMAC 送信要求レジスタ	EDTRR0	R/W	H'FEF0 0008	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	E-DMAC 受信要求レジスタ	EDRRR0	R/W	H'FEF0 0010	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	送信ディスクリプタリスト先頭アドレスレジスタ	TDLAR0	R/W	H'FEF0 0018	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	受信ディスクリプタリスト先頭アドレスレジスタ	RDLAR0	R/W	H'FEF0 0020	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	EtherC/E-DMAC ステータスレジスタ	EESR0	R/W	H'FEF0 0028	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	EtherC/E-DMAC ステータス割り込み許可レジスタ	EESIPR0	R/W	H'FEF0 0030	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	送受信ステータスコピー指示レジスタ	TRSCER0	R/W	H'FEF0 0038	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	ミスドフレームカウンタレジスタ	RMFCR0	R	H'FEF0 0040	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	送信FIFO しきい値指定レジスタ	TFTR0	R/W	H'FEF0 0048	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	FIFO 容量指定レジスタ	FDR0	R/W	H'FEF0 0050	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	受信方式制御レジスタ	RMCR0	R/W	H'FEF0 0058	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	送信FIFO アンダランカウントレジスタ	TFUCR0	R/W	H'FEF0 0064	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	受信FIFO オーバフローカウントレジスタ	RFOCR0	R/W	H'FEF0 0068	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	受信バッファライトアドレスレジスタ	RBWAR0	R	H'FEF0 00C8	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	受信ディスクリプタフェッチアドレスレジスタ	RDFAR0	R	H'FEF0 00CC	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	送信バッファリードアドレスレジスタ	TBRAR0	R	H'FEF0 00D4	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	送信ディスクリプタフェッチアドレスレジスタ	TDFAR0	R	H'FEF0 00D8	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	フロー制御開始FIFO しきい値設定レジスタ	FCFTR0	R/W	H'FEF0 0070	32	H'0007 0007	H'0007 0007	H'0007 0007
	受信データパディング挿入設定レジスタ	RPADIR0	R/W	H'FEF0 0078	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	送信割り込み設定レジスタ	TRIMD0	R/W	H'FEF0 007C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
1	EtherC モードレジスタ	ECMR1	R/W	H'FEF0 0900	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	EtherC ステータスレジスタ	ECSR1	R/W	H'FEF0 0910	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000

系	レジスタ名	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
						パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウエアリセット
1	EtherC 割り込み許可レジスタ	ECSIPR	R/W	H'FEF0 0918	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	受信フレーム長上限レジスタ	RFLR1	R/W	H'FEF0 0908	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	PHY 部インタフェースレジスタ	PIR1	R/W	H'FEF0 0920	32	H'0000 000X	H'0000 000X	H'0000 000X
	MAC アドレス上位設定レジスタ	MAHR1	R/W	H'FEF0 09C0	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	MAC アドレス下位設定レジスタ	MALR1	R/W	H'FEF0 09C8	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	送信リトライオーバカウンタレジスタ	TROCR1	R/W	H'FEF0 09D0	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	遅延衝突検出カウンタレジスタ	CDCR1	R/W	H'FEF0 09D4	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	キャリア消失カウンタレジスタ	LCCR1	R/W	H'FEF0 09D8	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	キャリア未検出カウンタレジスタ	CNDCR1	R/W	H'FEF0 09DC	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	CRC エラーフレーム受信カウンタレジスタ	CEFCR1	R/W	H'FEF0 09E4	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	フレーム受信エラーカウンタレジスタ	FRECR1	R/W	H'FEF0 09E8	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	64 バイト未満フレーム受信カウンタレジスタ	TSFRCR1	R/W	H'FEF0 09EC	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	指定バイト超フレーム受信カウンタレジスタ	TLFRCR1	R/W	H'FEF0 09F0	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	端数ビットフレーム受信カウンタレジスタ	RFCR1	R/W	H'FEF0 09F4	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	マルチキャストアドレスフレーム受信カウンタレジスタ	MAFCR1	R/W	H'FEF0 09F8	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	IPG 設定レジスタ	IPGR1	R/W	H'FEF0 0950	32	H'0000 0014	H'0000 0014	H'0000 0014
	自動PAUSE フレーム設定レジスタ	APR1	R/W	H'FEF0 0954	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	手動PAUSE フレーム設定レジスタ	MPR1	R/W	H'FEF0 0958	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	自動PAUSE フレーム再送回数設定レジスタ	TPAUSER1	R/W	H'FEF0 0964	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	乱数生成カウンタ上限値設定レジスタ	RDMLR1	R/W	H'FEF0 0940	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	受信PAUSE フレームカウンタレジスタ	RFCF1	R/W	H'FEF0 0960	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	PAUSE フレーム再送回数設定レジスタ	TPAUSECR1	R/W	H'FEF0 0968	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	Broadcast フレーム受信回数設定レジスタ	BCFRR1	R/W	H'FEF0 096C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	指定フレーム超Broadcast連続受信カウンタレジスタ	CRBCFRR1	R/W	H'FEF0 0970	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	送受信レート設定レジスタ	RTRATE1	R/W	H'FEF0 09FC	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000

系	レジスタ名	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
						パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウエアリセット
1	E-DMAC モードレジスタ	EDMR1	R/W	H'FEF0 0800	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	E-DMAC 送信要求レジスタ	EDTRR1	R/W	H'FEF0 0808	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	E-DMAC 受信要求レジスタ	EDRRR1	R/W	H'FEF0 0810	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	送信ディスクリプタリスト先頭アドレスレジスタ	TDLAR1	R/W	H'FEF0 0818	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	受信ディスクリプタリスト先頭アドレスレジスタ	RDLAR1	R/W	H'FEF0 0820	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	EtherC/E-DMAC ステータスレジスタ	EESR1	R/W	H'FEF0 0828	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	EtherC/E-DMAC ステータス割り込み許可レジスタ	EESIPR1	R/W	H'FEF0 0830	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	送受信ステータスコピー指示レジスタ	TRSCER1	R/W	H'FEF0 0838	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	ミスドフレームカウンタレジスタ	RMFCR1	R	H'FEF0 0840	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	送信FIFO しきい値指定レジスタ	TFTR1	R/W	H'FEF0 0848	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	FIFO 容量指定レジスタ	FDR1	R/W	H'FEF0 0850	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	受信方式制御レジスタ	RMCR1	R/W	H'FEF0 0858	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	送信FIFO アンダランカウントレジスタ	TFUCR1	R/W	H'FEF0 0864	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	受信FIFO オーバフローカウントレジスタ	RFOCR1	R/W	H'FEF0 0868	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	受信バッファライトアドレスレジスタ	RBWAR1	R	H'FEF0 08C8	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	受信ディスクリプタフェッチアドレスレジスタ	RDFAR1	R	H'FEF0 08CC	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	送信バッファリードアドレスレジスタ	TBRAR1	R	H'FEF0 08D4	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	送信ディスクリプタフェッチアドレスレジスタ	TDFAR1	R	H'FEF0 08D8	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	フロー制御開始FIFO しきい値設定レジスタ	FCFTR1	R/W	H'FEF0 0870	32	H'0007 0007	H'0007 0007	H'0007 0007
	受信データパディング挿入設定レジスタ	RPADIR1	R/W	H'FEF0 0878	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
	送信割り込み設定レジスタ	TRIMD1	R/W	H'FEF0 087C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000

24.3.1 EtherC モードレジスタ (ECMR)

ECMR は、読み出し又は書き込み可能な32 ビットのレジスタで、イーサネットコントローラの動作モードを指定するレジスタです。通常、本レジスタの設定は、リセット後の初期設定時に行います。

動作モードの設定は、送信及び受信機能が有効な状態で書き換えることを禁止します。動作モードを切り換える場合には、EDMR 内にあるSWR により、EtherC 及びE-DMAC を初期状態に戻してから再設定を行います。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	TPC	ZPF	PFR	RXF	TXF
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	PRCEF	—	—	MPDE	—	—	RE	TE	—	ILB	—	DM	PRM
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	R/W	—	—	R/W	—	—	R/W	R/W	—	R/W	—	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ~ 21	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
20	TPC	0	R/W	PAUSE フレーム送信 0：PAUSE 期間中にはPAUSE フレームを送信しません 1：PAUSE 期間中でもPAUSE フレームを送信します
19	ZPF	0	R/W	0time PAUSE フレーム使用許可 0：TIME パラメータが0 のPAUSE フレーム制御を無効にするTimer 値の示す時間が経過するまで、次のフレーム送信を行いません。 Timer 値の示す時間が0 のPAUSE フレームを受信した場合、PAUSE フレームを破棄します。 1：TIME パラメータが0 のPAUSE フレーム制御を有効にするTimer 値の示す時間が経過していない状態で、受信FIFO のデータ量がFCFTR 設定値未満になるとTimer 値が0 の自動PAUSE フレームを送信します。 Timer 値の示す時間が0 のPAUSE フレームを受信した場合、送信待ち状態を解除します。
18	PFR	0	R/W	PAUSE フレーム受信モード 0：PAUSE フレームをE-DMAC へ転送しません 1：PAUSE フレームをE-DMAC へ転送します
17	RXF	0	R/W	受信系フロー制御動作モード 0：PAUSE フレームの検出機能が無効になります 1：受信系のフロー制御機能が有効になります
16	TXF	0	R/W	送信系フロー制御動作モード 0：PAUSE フレームの検出機能が無効になります （自動PAUSE フレームは送信されません） 1：送信系のフロー制御機能が有効になります （必要に応じて自動PAUSE フレームが送信されます）
15 ~ 13	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
12	PRCEF	0	R/W	CRC エラーフレーム受信許可 0：CRC エラーとなった受信フレームをエラーとする 1：CRC エラーとなった受信フレームをエラーとしない
11、10	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
9	MPDE	0	R/W	Magic Packet 検出許可 イーサネットからの起動を有効にするため、ハードウェアによるMagic Packetの検出機能を許可するかしないかの選択を行います。 0：Magic Packet の検出を許可しない 1：Magic Packet の検出を許可する
8、7	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
6	RE	0	R/W	受信許可 本ビットを受信機能有効（RE＝1）から無効（RE＝0）としたときに受信中のフレームがあれば、当該フレームの受信終了まで受信機能は有効となります。 0：受信機能を無効にする 1：受信機能を有効にする
5	TE	0	R/W	送信許可 本ビットを送信機能有効（TE＝1）から無効（TE＝0）としたときに送信中のフレームがあれば、当該フレームの送信終了まで送信機能は有効となります。 0：送信機能を無効にする 1：送信機能を有効にする
4	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
3	ILB	0	R/W	内部ループバックモード EtherC 内部でのループバックモードを指定します。 0：通常のデータ送受信を行う 1：DM＝1 のとき、EtherC 内のMAC 内部でのデータの折り返しを行う
2	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
1	DM	0	R/W	デュプレックスモード EtherC の転送方式を指示します。 0：半二重転送方式を指定する 1：全二重転送方式を指定する
0	PRM	0	R/W	プロミスキャスモード 本ビットを設定すると、すべてのイーサネットフレームを受信することができます。このときすべてのイーサネットフレームとは、宛先アドレス、ブロードキャストアドレス、マルチキャストビットなどの相違や有無にかかわらず、受信可能なすべてのフレームを表します。 0：EtherC は、通常動作を行う 1：EtherC は、プロミスキャスモード動作を行う

24.3.2　EtherC ステータスレジスタ （ECSR）

ECSR は、読み出し又は書き込み可能な32 ビットのレジスタで、EtherC 内のステータスを表示するレジスタです。本ステータスは、割り込みによって SH-4A に通知することが可能です。LCHNG、MPD、ICD に 1 を書き込むと、対応するフラグをクリアできます。0 を書き込んだ場合は、フラグに影響を与えません。また割り込みを発生するビットは、ECSIPR の対応するビットによって割り込みを許可又は禁止することができます。

本ステータスレジスタが要因で発生する割り込みは、E-DMAC のEESR レジスタECI ビットに反映されます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	BFR	PSRTO	—	—	MPD	ICD
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	—	—	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～6	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
5	BFR	0	R/W	Broadcast フレーム連続受信割り込み Broadcast フレーム連続受信 カウントがBroadcast フレーム連続受信カウントレジスタ（BCFRR）に設定された値を超えたことを表します。 0: Broadcast フレーム連続受信カウントがBCFRR値を超えていない 1: Broadcast フレーム連続受信カウントがBCFRR値を超えた
4	PSRTO	0	R/W	PAUSE フレーム再送リトライオーバ フロー制御を用いる際のPAUSE フレームの再送において、再送回数が自動PAUSE フレーム再送回数設定レジスタ（TPAUSER）に設定した再送上限値を超えたことを表します。 0：PAUSE フレーム再送回数が上限値を超えていない 1：PAUSE フレーム再送回数が上限値を超えた
3、2	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
1	MPD	0	R/W	Magic Packet 検出 回線上からMagic Packet を検出したことを表します。 0：Magic Packet を検出していない 1：Magic Packet を検出した
0	ICD	0	R/W	不正キャリア検出 回線上でPHY-LSI が不正なキャリアを検出したことを表します。ただし、PHY-LSI から入力される信号の変化がソフトウェアの認識時間よりも早く変化するような場合は、正しい情報が得られないことがあります。採用するPHY-LSIのタイミングを参照してください。 0：PHY-LSI は、回線上で不正キャリアを検出していない 1：PHY-LSI は、回線上で不正キャリアを検出した

24.3.3 EtherC 割り込み許可レジスタ（ECSIPR）

ECSIPR は、読み出し又は書き込み可能な 32 ビットのレジスタで、ECSR によって報告される割り込み要因の許可を指示します。各ビットは、ECSR のビットに対応する割り込みを許可することができます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	BFSIPR	PSRTOIP	—	—	MPDIP	ICDIP
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	—	—	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 6	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
5	BFSIPR	0	R/W	Broadcast フレーム連続受信割り込み許可 0：ECSR の対応するビットによる割り込みを禁止 1：ECSR の対応するビットによる割り込みを許可
4	PSRTOIP	0	R/W	PAUSE フレーム再送リトライオーバ割り込み許可ビット 0：PRSTO の割り込み通知を禁止 1：PRSTO の割り込み通知を許可
3、2	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
1	MPDIP	0	R/W	Magic Packet 検出割り込み許可ビット 0：MPD の割り込み通知を禁止 1：MPD の割り込み通知を許可
0	ICDIP	0	R/W	不正キャリア検出割り込み許可ビット 0：ICD の割り込み通知を禁止 1：ICD の割り込み通知を許可

24.3.4　PHY部インタフェースレジスタ（PIR）

PIR は、読み出し又は書き込み可能な32 ビットのレジスタで、RMII を経由してPHY-LSI 内部のレジスタにアクセスする手段を提供します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	MDI	MDO	MMD	MDC
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	不定	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 4	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
3	MDI	不定	R	MII マネージメントデータイン MDIO 端子のレベルを表します。
2	MDO	0	R/W	MII マネージメントデータアウト MMD ビットが1 のとき、本ビットに設定された値をMDIO 端子より出力します。
1	MMD	0	R/W	MII マネージメントモード MII とのデータのリード／ライト方向を規定します。 0：リード方向を規定 1：ライト方向を規定
0	MDC	0	R/W	MII マネージメントデータクロック 本ビットに設定された値をMDC 端子より出力し、MII へのマネージメントデータクロックを供給します。MII レジスタへのアクセス方法については、「24.4.6 MII レジスタのアクセス方法」を参照してください。

24.3.5　MACアドレス上位設定レジスタ（MAHR）

MAHR は、読み出し又は書き込み可能な32 ビットのレジスタで、48 ビットのMAC アドレスの上位32 ビットを設定します。通常、本レジスタの設定は、リセット後の初期設定時に行います。MAC アドレスの設定は、送信及び受信機能が有効な状態で書き換えることを禁止します。EDMR のSWR ビットによりEtherC 及びE-DMAC を初期状態に戻してから再設定してください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	MA [47:32]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	MA [31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	MA47～ MA16	0	R/W	MACアドレスビット MAC アドレスの上位32 ビットを設定します。 MAC アドレスが01-23-45-67-89-AB（16 進数表示）である場合、本レジスタにはH'01234567 を設定します。

24.3.6　MACアドレス下位設定レジスタ（MALR）

MALR は、読み出し又は書き込み可能な32 ビットのレジスタで、48 ビットのMAC アドレスの下位16 ビットを設定します。通常、本レジスタの設定は、リセット後の初期設定時に行います。MAC アドレスの設定は、送信又は受信機能が有効な状態で書き換えることを禁止します。EDMR の SWR ビットによりEtherC 及びE-DMAC を初期状態に戻してから再設定してください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	MA [15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～ 16	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
15～ 0	MA15～ MA0	0	R/W	MACアドレスビット15～0 MAC アドレスの下位16 ビットを設定します。 MAC アドレスが01-23-45-67-89-AB（16 進数表示）である場合、本レジスタにはH'000089AB を設定します。

24.3.7　受信フレーム長上限レジスタ（RFLR）

RFLR は、読み出し又は書き込み可能な32 ビットのレジスタで、本LSI が受信することのできる最大フレーム長をバイト単位で指定します。本レジスタは、受信機能が有効な状態での書き換えを禁止します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	RFL[11:0]											
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 12	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
11 ～ 0	RFL11 ～ RFL0	0	R/W	受信フレームデータ長11～0 ここでのフレームデータは、宛先アドレスからCRC データまでを含んだ範囲となりますが、実際には、宛先アドレスからデータまでがメモリ上に転送されます。CRC データは含まれません。ここで指定された値を超えたデータを受信したとき、設定された値を超えた分のデータは廃棄されます。 H'000～H'5EE：1,518 バイト H'5EF：1,519 バイト H'5F0：1,520 バイト ：　： H'7FF：2,047 バイト H'800～H'FFF：2,048 バイト 上記以外：設定禁止

24.3.8　送信リトライオーバカウンタレジスタ（TROCR）

TROCR は、送信時に再送を合わせて16 回の試行で送信できなかったフレーム数を示す32 ビットのカウンタです。送信を 16 回失敗すると、本レジスタは1 カウントアップします。本レジスタの値が、H'FFFFFFFF になるとカウントアップを停止します。本レジスタへの書き込み動作によってカウンタの値は、0 にクリアされます。書き込む値は、いずれでもかまいません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	TROC [31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TROC [15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～ 0	TROC31～ TROC0	0	R/W	送信リトライオーバカウント 送信時に、再送を合わせて16 回の試行で送信できなかったフレームのカウント数を表します。

24.3.9　遅延衝突検出カウンタレジスタ（CDCR）

CDCR は、送信開始以降すべての回線上の遅延衝突回数を示す32 ビットのカウンタで、H'FFFFFFFF になるとカウントアップを停止します。本レジスタへの書き込み動作によってカウンタの値は0 にクリアされます。書き込む値は、いずれでもかまいません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	COSDC [31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	COSDC [15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～0	COSDC31～COSDC0	0	R/W	遅延衝突検出カウント 送信開始からのすべての遅延衝突の回数を表します。

24.3.10　キャリア消失カウンタレジスタ（LCCR）

LCCR は、データの送信中にキャリアが消失した回数を示す32 ビットのカウンタで、H'FFFFFFFF になるとカウントアップを停止します。本レジスタへの書き込み動作によってカウンタの値は0 にクリアされます。書き込む値は、いずれでもかまいません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	LCC [31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	LCC [15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～0	LCC31～LCC0	0	R/W	消失キャリアカウント データ送信中に消失したキャリアのカウント数を表します。

24.3.11 キャリア未検出カウンタレジスタ（CNDCR）

CNDCR は、プリアンブルを送出中にキャリアを検出できなかった回数を示す32 ビットのカウンタで、H'FFFFFFFF になるとカウントアップを停止します。本レジスタへの書き込み動作によってカウンタの値は0 にクリアされます。書き込む値は、いずれでもかまいません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	CNDC [31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	CNDC [15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～0	CNDC31～CNDC0	0	R/W	キャリア未検出カウント 未検出キャリアのカウント数を表します。

24.3.12 CRC エラーフレーム受信カウンタレジスタ（CEFCR）

CEFCR は、CRC エラーとなったフレームの受信回数を示す 32 ビットのカウンタで、H'FFFFFFFF になるとカウントアップを停止します。本レジスタへの書き込み動作によってカウンタの値は0 にクリアされます。書き込む値は、いずれでもかまいません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	CEFC [31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	CEFC [15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～0	CEFC31～CEFC0	0	R/W	CRC エラーフレームカウント CRC エラーとなったフレームを受信したカウント数を表します。

24.3.13 フレーム受信エラーカウンタレジスタ（FRECR）

FRECR は、PHY-LSI から入力される RX-ER 端子により受信エラーとなったフレームの個数を示す 32 ビットのカウンタです。RX-ER 端子がアクティブになるごとに 1 カウントアップします。本レジスタの値が H'FFFFFFFF になるとカウントアップを停止します。本レジスタへの書き込み動作によってカウンタの値は、0 にクリアされます。書き込む値は、いずれでもかまいません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	FREC [31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	FREC [15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	FREC31 ～ FREC0	0	R/W	フレーム受信エラーカウント フレームを受信中にエラーとなったカウント数を表します。

24.3.14 64 バイト未満フレーム受信カウンタレジスタ（TSFRCR）

TSFRCR は、64 バイト未満のフレームを受信したことを示す 32 ビットのカウンタです。本レジスタの値が H'FFFFFFFF になるとカウントアップを停止します。本レジスタへの書き込み動作によってカウンタの値は、0 にクリアされます。書き込む値は、いずれでもかまいません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	TSFC [31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TSFC [15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	TSFC31 ～ TSFC0	0	R/W	64バイト未満フレーム受信カウント 64 バイト未満のフレームを受信したカウント数を表します。

24.3.15 指定バイト超フレーム受信カウンタレジスタ（TLFRCR）

TLFRCRは、受信フレーム長上限レジスタ（RFLR）で指定した値を超えるフレームを受信したことを示す32ビットのカウンタです。本レジスタの値がH'FFFFFFFFになるとカウントアップを停止します。端数ビットを含むフレームを受信した場合は、本レジスタはカウントアップしません。この場合は、端数ビットフレーム受信カウンタレジスタ（RFCR）に反映されます。本レジスタへの書き込み動作によってカウンタの値は、0にクリアされます。書き込む値は、いずれでもかまいません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	TLFC [31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TLFC [15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	TLFC31 ～ TLFC0	0	R/W	指定バイト超フレーム受信カウント RFLRの値を超えるフレームを受信したカウント数を表します。

24.3.16 端数ビットフレーム受信カウンタレジスタ（RFCR）

RFCRは、8ビットに満たない端数ビットデータを含むフレームを受信したことを示す32ビットのカウンタで、H'FFFFFFFFになるとカウントアップを停止します。本レジスタへの書き込み動作によってカウンタの値は、0にクリアされます。書き込む値は、いずれでもかまいません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	RFC [31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RFC [15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～ 0	RFC31～ RFC0	0	R/W	端数ビットフレーム受信カウント 端数ビットデータを含むフレームを受信したカウント数を表します。

24.3.17 マルチキャストアドレスフレーム受信カウンタレジスタ（MAFCR）

MAFCR は、マルチキャストアドレスを指定するフレームを受信したことを示す32 ビットのカウンタで、H'FFFFFFFF になるとカウントアップを停止します。本レジスタへの書き込み動作によってカウンタの値は、0 にクリアされます。書き込む値は、いずれでもかまいません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	MAFC [31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	MAFC [15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～0	MAFC31～MAFC0	0	R/W	マルチキャストアドレスフレームカウント マルチキャストフレームを受信したカウント数を表します。

24.3.18 IPG 設定レジスタ（IPGR）

IPGR は、IPG（InterPacketGap）の値を設定するレジスタです。EtherC モードレジスタ（ECMR）の送受信機能が有効な状態での書き換えは、禁止します（詳細は「24.4.8 IPG 設定による動作」を参照してください）。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	IPG [4:0]				
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～5	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
4～0	IPG4～IPG0	H'14	R/W	Inter Packet Gap 4 ビット時間ごとにIPG 値を設定します。 H'00：16 ビット時間 H'01：20 ビット時間 ：　： H'14：96 ビット時間（デフォルト） ：　： H'1F：140 ビット時間

24.3.19 自動PAUSE フレーム設定レジスタ（APR）

APR は、自動PAUSE フレームのTIME パラメータ値を設定します。

自動 PAUSE フレームを送信するときに、このレジスタに設定した値を PAUSE フレームの TIME パラメータとして使用します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	AP [15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～16	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
15～0	AP15～AP0	0	R/W	自動PAUSE 自動PAUSE フレームのTIME パラメータ値を設定します。このとき1 ビットは、512 ビット時間を表します。

24.3.20 手動PAUSE フレーム設定レジスタ（MPR）

MPR は、手動PAUSE フレームのTIME パラメータ値を設定します。

手動 PAUSE フレームを送信するときに、このレジスタに設定した値を PAUSE フレームの TIME パラメータとして使用します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	MP [15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
15 ～ 0	MP15～MP0	0	R/W	手動PAUSE 手動PAUSE フレームのTIME パラメータ値を設定します。このとき1 ビットは、512 ビット時間を表します。読み出すと不定値が読み出されます。

24.3.21 自動PAUSE フレーム再送回数設定レジスタ（TPAUSER）

TPAUSER は、自動PAUSE フレームの再送回数の上限値を設定します。本レジスタは、送信機能が有効な状態での書き換えを禁止します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TPAUSE [15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
15 ～ 0	TPAUSE15～TPAUSE0	0	R/W	自動PAUSE フレーム再送回数上限値 H'0000：再送回数無制限 H'0001：再送回数は1 回 ：　： H'FFFF：再送回数は65535 回

24.3.22 乱数生成カウンタ上限値設定レジスタ（RDMLR）

RDMLR は乱数生成部で使用しているカウンタの上限値を設定することができるレジスタです。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	RMD [19:16]			
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RMD [15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 20	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
19～ 0	RMD19 ～ RMD0	0	R/W	乱数生成部で使用しているカウンタの上限値 H'0000：通常の動作での設定値です。 H'0001～H'FFFF：カウンタの上限値がこの設定になります。

24.3.23 受信PAUSE フレームカウンタレジスタ（RFCF）

RFCF はPAUSE フレームの受信カウンタです。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	RPAUSE [7:0]							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 8	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
7 ～ 0	RPAUSE7 ～ RPAUSE0	0	R/W	PAUSE フレームの受信回数

24.3.24 PAUSE フレーム再送回数カウンタレジスタ（TPAUSECR）

TPAUSECR はPAUSE フレームの再送回数を示すカウンタです。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TXP [15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～ 16	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
15 ～ 0	TXP15 ～ TXP0	0	R/W	PAUSE フレームの再送回数

24.3.25 Broadcast フレーム受信回数設定レジスタ（BCFRR）

BCFRR はBroadcast フレーム連続受信回数を設定するレジスタです。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	BCF [15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～16	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
15～0	BCF15～BCF0	0	R/W	Broadcast フレームの連続受信回数設定 DA がブロードキャストアドレスのフレームを、設定した回数値まで受信することが可能であり、設定を越えて受信した場合は、以降のブロードキャストフレームを破棄します。 H'0000：受信回数制限なし H'0001：1 フレーム受信 ：　： H'FFFF：65535 フレーム受信

24.3.26 指定フレーム超Broadcast連続受信カウンタレジスタ（CRBCFRR）

CRBCFRR は Broadcast フレーム受信回数設定レジスタ（BCFRR) で設定した値を超えた Broadcast フレーム連続受信の回数を示す16ビットのカウンタです。本レジスタの値がH'FFFFになるとカウントアップを停止します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	CNT[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～16	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
15～0	CNT15～ CNT0	0	R/W	指定フレーム超Broadcast連続受信カウンタ Broadcastフレームの連続受信がBCFRRの設定値を超えた後、Broadcastフレーム以外のフレームを受信したときにCNTは増加します。

表24.3　BCFRR カウンタとCRBCFRR（BCFRR = 3）

フレーム	B	B	B	B	M	M	B	B	B	M	B	B	B	B	M	M
受け入れ/拒絶	a	a	a	r	a	a	a	a	a	a	a	a	a	r	a	a
BCFRRのカウンタ	1	2	3	3	0	0	1	2	3	0	1	2	3	4	0	0
CRBCFRR	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2

【記号説明】

B　：Broadcastフレーム

M　：マルチキャストフレーム

a　：受け入れ

r　：拒絶

24.3.27 送受信レート設定レジスタ（RTRATE）

RTRATE は、送受信レートを設定します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	RTM
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～1	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
0	RTM	0	R/W	送受信レート 0: 10 Mbps 1: 100 Mbps

24.3.28 E-DMAC モードレジスタ（EDMR）

EDMR は、読み出し又は書き込み可能な 32 ビットのレジスタで、E-DMAC の動作モードを指定します。本レジスタの設定は、通常リセット後の初期設定時に行います。データ送信中に本レジスタによって EtherC 及び E-DMAC を初期化すると、回線上に異常データを送出する可能性があります。動作モードの設定は、送信と受信機能が有効状態で置き替えることを禁止します。動作モードを切り替えるには、ソフトウェアリセットビット（SWR）により、EtherC 及び E-DMAC を初期状態に戻してから再設定してください。なお、EtherC 及び E-DMAC の初期化完了までの所要時間は、周辺クロック Pck で 32 サイクルです。このため、EtherC 及び E-DMAC 内のレジスタアクセスは、周辺クロック Pck で 32 サイクル経過後に行ってください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	DE	DL1	DL0	—	—	—	SWR
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	—	—	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 7	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
6	DE	0	R/W	ビッグ／リトルエンディアンモード指定 0：ビッグエンディアンモード（ロングワードアクセス） 1：リトルエンディアンモード（ロングワードアクセス） 送受信データについて有効になります。 送受信ディスクリプタ、レジスタについては無効です。 （ビッグエンディアンのみサポート）
5 4	DL1 DL0	0 0	R/W R/W	送受信ディスクリプタ長の指定 00：16 バイト 01：32 バイト 10：64 バイト 11：リザーブ（設定不可）
3 ～ 1	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
0	SWR	0	R/W	ソフトウェアリセット 書き込み時 0：無効 1：内部ハードウェアをリセットします。リセットされるレジスタは表24.2 を参照してください。 注．本ビットによるソフトウエアリセットはSRSTR0 レジスタのETHER ビットと同じです （「17.3.3.4 ソフトウエアリセットレジスタ 0 （SRSTR0）」）。 系0 と系1 はそれぞれEDMR0 レジスタのSWR ビットとEDMR1 レジスタの SWR ビットによりリセットされます。 両方の系は（系0 と系1）SRSTR0 レジスタのETHER ビットによって同時にリセットされます。

24.3.29 E-DMAC 送信要求レジスタ（EDTRR）

EDTRR は、読み出し又は書き込み可能な 32 ビットのレジスタで、E-DMAC に送信指示を行います。1 つのフレームの送信を終了すると、次のディスクリプタを読み込みます。このディスクリプタ内の送信ディスクリプタ有効ビットが有効であれば、送信を継続します。また、送信ディスクリプタ有効ビットが無効の場合は、TR ビットをクリアして送信DMAC の動作を停止します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	TR
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～1	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
0	TR	0	R/W	送信要求 0：送信停止状態。0 を書き込んでも送信は停止しません。送信の終了は、送信ディスクリプタ内の有効ビットで制御します。 1：送信開始。該当するディスクリプタを読み込み、送信有効ビットが1 であるフレームを送信します。

24.3.30 E-DMAC 受信要求レジスタ（EDRRR）

EDRRR は、読み出し又は書き込み可能な 32 ビットのレジスタで、E-DMAC に受信指示を行います。E-DMACは、受信要求ビットがセットされると当該受信ディスクリプタを読み込みます。ディスクリプタ内のディスクリプタ有効ビットが有効であれば、EtherC からの受信要求に備えます。受信バッファ分の受信が完了すると、E-DMAC は次のディスクリプタを読み込みフレームの受信に備えます。このとき、受信ディスクリプタの受信ディスクリプタ有効ビットが無効の場合は、RR ビットをクリアして受信DMAC の動作を停止します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	RR
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W

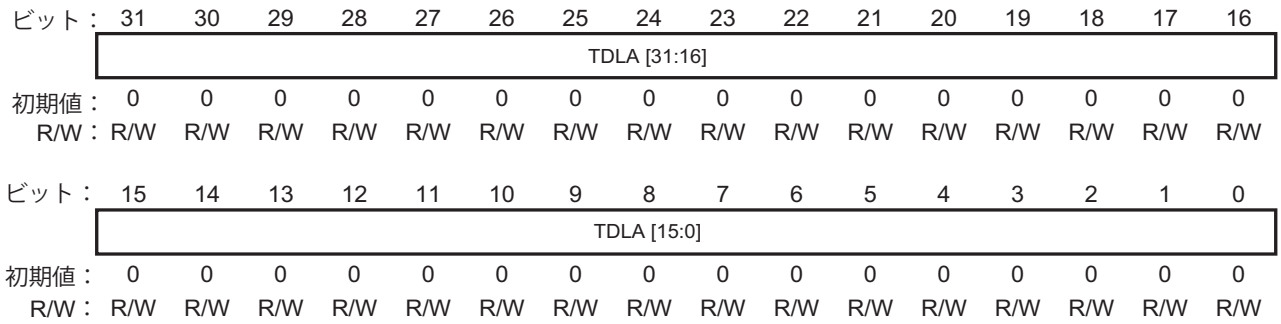
ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～1	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
0	RR	0	R/W	受信要求 0：受信機能を無効にします（注） 1：受信ディスクリプタを読み込み、E-DMAC 受信可能状態にします

注.　フレームの受信中に受信機能を無効にした場合、受信ディスクリプタのライトバックが正常に動作せず、以降の受信ディスクリプタの読み込みポインタが異常となるため、E-DMAC は正常な動作ができなくなります。この場合、再度E-DMAC を受信可能状態とするためには、EDMR のSWR ビットによりソフトウェアリセットを実行してください。E-DMAC をソフトウェアリセットせずに受信機能を無効とするには、ECMR のRE ビットにより受信機能を無効とします。次に、E-DMAC の受信が完了し受信ディスクリプタのライトバックが確認できた後、本レジスタの受信機能を無効にしてください。

24.3.31 送信ディスクリプタリスト先頭アドレスレジスタ（TDLAR）

TDLAR は、読み出し又は書き込み可能な32 ビットのレジスタで、送信ディスクリプタリストの先頭アドレスを設定します。各ディスクリプタは、EDMR のDL ビットで示すディスクリプタ長に合致する境界構成とします。送信中に本レジスタを書き換えることは、禁止します。本レジスタの書き換えは、E-DMAC 送信要求レジスタ（EDTRR）のTR ビット（＝0）による送信停止状態で行ってください。



ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	TDLA31 ～ TDLA0	0	R/W	送信ディスクリプタの先頭アドレス 指定したディスクリプタ長によって下位ビットを以下のように設定します。 16 バイトバウンダリ：TDLA[3:0]＝0000 32 バイトバウンダリ：TDLA[4:0]＝00000 64 バイトバウンダリ：TDLA[5:0]＝000000

24.3.32 受信ディスクリプタリスト先頭アドレスレジスタ（RDLAR）

RDLAR は、読み出し又は書き込み可能な32 ビットのレジスタで、受信ディスクリプタリストの先頭アドレスを設定します。各ディスクリプタは、EDMR の DL ビットで示すディスクリプタ長に合致する境界構成とします。受信中に本レジスタを書き換えることは、禁止します。本レジスタの書き換えは、E-DMAC 受信要求レジスタ（EDRRR）の RR ビット（＝0）による受信停止状態で行ってください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	RDLA [31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RDLA [15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～0	RDLA31～RDLA0	0	R/W	受信ディスクリプタの先頭アドレス 指定したディスクリプタ長によって下位ビットを以下のように設定します。 16 バイトバウンダリ：RDLA[3:0]＝0000 32 バイトバウンダリ：RDLA[4:0]＝00000 64 バイトバウンダリ：RDLA[5:0]＝000000

24.3.33 EtherC/E-DMAC ステータスレジスタ（EESR）

EESR は、読み出し又は書き込み可能な32 ビットのレジスタで、EtherC と E-DMAC を合わせた通信ステータスを表示します。本レジスタは、割り込み要因として報告されます。各ビットは、1 をライトすることでクリアされます（ただし、ビット 22（ECI）はリード専用で、1 をライトしてもクリアされません）。0 をライトしても、各ビットの状態には影響しません。各割り込み要因は EtherC/E-DMAC ステータス割り込み許可レジスタ（EESIPR）の当該ビットによってマスクすることが可能です。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	TWB	—	—	—	TABT	RABT	RFCOF	—	ECI	TC	TDE	TFUF	FR	RDE	RFOF
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	R/W	—	—	—	R/W	R/W	R/W	—	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	CND	DLC	CD	TRO	RMAF	—	—	RRF	RTLF	RTSF	PRE	CERF
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
30	TWB	0	R/W	ライトバック完了 フレーム送信完了後のE-DMAC からの当該ディスクリプタへのライトバックが完了したことを示します。本動作は、TRIMD のTIS ビットが1 にセットされているときのみ有効です 0：ライトバック未完了又は送信未指示 1：ライトバック完了
29 ～ 27	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
26	TABT	0	R/W	送信中断検出 フレーム送信時、障害等によりEtherC がフレーム送信を中断したことを示します。 0：フレーム送信中断未発生又は送信未指示 1：フレーム送信中断発生
25	RABT	0	R/W	受信中断検出 フレーム受信時、障害等によりEtherC がフレーム受信を中断したことを示します。 0：フレーム受信中断未発生又は受信未指示 1：フレーム受信中断発生
24	RFCOF	0	R/W	受信フレームカウンタオーバフロー 受信FIFO 内のフレームカウンタがオーバフローしたことを示します。 0：受信フレームカウンタがオーバフローしていない 1：受信フレームカウンタがオーバフローした
23	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
22	ECI	0	R	EtherC ステータスレジスタ要因 本ビットは、リード専用です。EtherC にあるECSR の要因がクリアされると、本ビットもクリアされます。 0：EtherC ステータス割り込み要因未検出 1：EtherC ステータス割り込み要因検出
21	TC	0	R/W	フレーム送信完了 送信ディスクリプタによって指定されたデータをすべてEtherC より送信したことを示します。1 フレーム／1 バッファ処理では、1 フレームの送信が完了した場合、また、マルチバッファフレーム処理ではフレーム最後のデータを送信し、次のディスクリプタ内の送信ディスクリプタ有効ビット（TACT）がセットされていなかった場合に送信完了とみなし、本ビットが1 となります。フレーム送信完了後は、E-DMAC は転送状態を当該ディスクリプタにライトバックします。 0：転送未完了又は転送未指示 1：転送完了

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
20	TDE	0	R/W	送信ディスクリプタ枯渇 マルチバッファフレーム処理で前ディスクリプタがフレームの最終でない場合は、E-DMAC が送信ディスクリプタを読み込んだときに、ディスクリプタ内の送信ディスクリプタ有効ビット（TACT）がセットされていなかったことを示します。結果として不完全なフレームを送出する場合があります。 0：送信ディスクリプタ有効ビットTACT＝1 を検出 1：送信ディスクリプタ有効ビットTACT＝0 を検出 送信ディスクリプタ枯渇（TDE＝1）が発生した場合は、ソフトウェアリセットしてから送信起動をかけてください。このとき、送信ディスクリプタリスト先頭アドレスレジスタ（TDLAR）に格納されているアドレスからの開始となります。
19	TFUF	0	R/W	送信FIFO アンダフロー フレームを送信中に送信FIFO にアンダフローが発生したことを示します。回線上には、不完全なデータが送出されます。 0：アンダフロー未発生 1：アンダフロー発生
18	FR	0	R/W	フレーム受信 フレームを受信し、受信ディスクリプタを更新したことを示します。本ビットは、1 フレームを受信するたびに1 にセットされます。 0：フレーム未受信 1：フレーム受信済み
17	RDE	0	R/W	受信ディスクリプタ枯渇 受信ディスクリプタ枯渇（RDE＝1）が発生した場合は、当該受信ディスクリプタをRACT＝1 に設定し受信起動をかけることで、受信を再開することができます。 0：受信ディスクリプタ有効ビットRACT＝1 を検出 1：受信ディスクリプタ有効ビットRACT＝0 を検出
16	RFOF	0	R/W	受信FIFO オーバフロー フレームを受信中に受信FIFO がオーバフローしたことを示します。 0：オーバフロー未発生 1：オーバフロー発生
15 ～ 12	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
11	CND	0	R/W	キャリア未検出 キャリアの検出状態を示します。 0：送信開始時にキャリア検出 1：キャリア未検出
10	DLC	0	R/W	キャリア消失検出 フレーム送信中のキャリア消失を検出したことを示します。 0：キャリア消失未検出 1：キャリア消失検出
9	CD	0	R/W	遅延衝突検出 フレーム送信中に遅延衝突を検出したことを示します。 0：遅延衝突未検出 1：遅延衝突検出

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
8	TRO	0	R/W	送信リトライオーバ フレーム送信中にリトライオーバが発生したことを示します。これは、EtherCが送信を開始後、バックオフアルゴリズムに基づく15 回の再送をあわせ全部で16 回の送信試行に失敗したことを示します。 0：送信リトライオーバ未検出 1：送信リトライオーバ検出
7	RMAF	0	R/W	マルチキャストアドレスフレーム受信 0：マルチキャストアドレスフレーム未受信 1：マルチキャストアドレスフレーム受信
6、5	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
4	RRF	0	R/W	端数ビットフレーム受信 0：端数ビットフレーム未受信 1：端数ビットフレーム受信
3	RTLF	0	R/W	ロングフレーム受信エラー EtherC のRFLRで設定した受信フレーム長上限値を超えるバイト数のフレームを受信したことを示します。 0：ロングフレーム未受信 1：ロングフレーム受信
2	RTSF	0	R/W	ショートフレーム受信エラー 64 バイト未満のフレームを受信したことを示します。 0：ショートフレーム未受信 1：ショートフレーム受信
1	PRE	0	R/W	PHY-LSI 受信エラー 0：PHY-LSI 受信エラー未検出 1：PHY-LSI 受信エラー検出
0	CERF	0	R/W	受信フレームCRC エラー 0：CRC エラー未検出 1：CRC エラー検出

24.3.34 EtherC/E-DMAC ステータス割り込み許可レジスタ（EESIPR）

EESIPR は、読み出し又は書き込み可能な32 ビットのレジスタで、EtherC/E-DMAC ステータスレジスタ（EESR）の各ビットに対応する割り込み許可レジスタです。各ビットは、1 をライトすることで割り込みが許可されます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	TWBIP	—	—	—	TABTIP	RABTIP	RFCOFIP	—	ECIIP	TCIP	TDEIP	TFUFIP	FRIP	RDEIP	RFOFIP
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	R/W	—	—	—	R/W	R/W	R/W	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	CNDIP	DLCIP	CDIP	TROIP	RMAFIP	—	—	RRFIP	RTLFIP	RTSFIP	PREIP	CERFIP
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
30	TWBIP	0	R/W	ライトバック完了割り込み許可 0：ライトバック完了割り込み禁止 1：ライトバック完了割り込み許可
29 ～ 27	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
26	TABTIP	0	R/W	送信中断検出割り込み許可 0：送信中断検出割り込み禁止 1：送信中断検出割り込み許可
25	RABTIP	0	R/W	受信中断検出割り込み許可 0：受信中断検出割り込み禁止 1：受信中断検出割り込み許可
24	RFCOFIP	0	R/W	受信フレームカウンタオーバフロー割り込み許可 0：受信フレームカウンタオーバフロー割り込み禁止 1：受信フレームカウンタオーバフロー割り込み許可
23	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
22	ECIIP	0	R/W	EtherC ステータスレジスタ要因割り込み許可 0：EtherC ステータス割り込み禁止 1：EtherC ステータス割り込み許可
21	TCIP	0	R/W	フレーム送信完了割り込み許可 0：フレーム送信完了割り込み禁止 1：フレーム送信完了割り込み許可
20	TDEIP	0	R/W	送信ディスクリプタ枯渇割り込み許可 0：送信ディスクリプタ枯渇割り込み禁止 1：送信ディスクリプタ枯渇割り込み許可
19	TFUFIP	0	R/W	送信FIFO アンダフロー割り込み許可 0：アンダフロー割り込み禁止 1：アンダフロー割り込み許可
18	FRIP	0	R/W	フレーム受信割り込み許可 0：フレーム受信割り込み禁止 1：フレーム受信割り込み許可
17	RDEIP	0	R/W	受信ディスクリプタ枯渇割り込み許可 0：受信ディスクリプタ枯渇割り込み禁止 1：受信ディスクリプタ枯渇割り込み許可
16	RFOFIP	0	R/W	受信FIFO オーバフロー割り込み許可 0：オーバフロー割り込み禁止 1：オーバフロー割り込み許可
15 ～ 12	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
11	CNDIP	0	R/W	キャリア未検出割り込み許可 0：キャリア未検出割り込み禁止 1：キャリア未検出割り込み許可

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
10	DLCIP	0	R/W	キャリア消失検出割り込み許可 0：キャリア消失検出割り込み禁止 1：キャリア消失検出割り込み許可
9	CDIP	0	R/W	遅延衝突検出割り込み許可 0：遅延衝突割り込み禁止 1：遅延衝突割り込み許可
8	TROIP	0	R/W	送信リトライオーバ割り込み許可 0：送信リトライオーバ割り込み禁止 1：送信リトライオーバ割り込み許可
7	RMAFIP	0	R/W	マルチキャストアドレスフレーム受信割り込み許可 0：マルチキャストアドレスフレーム受信割り込み禁止 1：マルチキャストアドレスフレーム受信割り込み許可
6、5	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
4	RRFIP	0	R/W	端数ビットフレーム受信割り込み許可 0：端数ビットフレーム受信割り込み禁止 1：端数ビットフレーム受信割り込み許可
3	RTLFIP	0	R/W	ロングフレーム受信エラー割り込み許可 0：ロングフレーム受信エラー割り込み禁止 1：ロングフレーム受信エラー割り込み許可
2	RTSFIP	0	R/W	ショートフレーム受信エラー割り込み許可 0：ショートフレーム受信エラー割り込み禁止 1：ショートフレーム受信エラー割り込み許可
1	PREIP	0	R/W	PHY-LSI 受信エラー割り込み許可 0：PHY-LSI 受信エラー割り込み禁止 1：PHY-LSI 受信エラー割り込み許可
0	CERFIP	0	R/W	受信フレームCRC エラー割り込み許可 0：CRC エラー割り込み禁止 1：CRC エラー割り込み許可

24.3.35 送受信ステータスコピー指示レジスタ（TRSCER）

TRSCER は、EtherC/E-DMAC ステータスレジスタのビット7、ビット4 で報告される、受信ステータス情報を当該ディスクリプタのRFE に反映するか否かを指示します。

本レジスタの各ビットは、EtherC/E-DMAC ステータスレジスタ（EESR）のビット7 及びビット4 に対応し、各ビットに0 を設定すると、受信ステータス（EESR のビット7 及びビット4）は受信ディスクリプタのRFE ビットに反映されます。1 を設定すると、該当する要因が発生してもディスクリプタに反映されません。LSI のリセット後は、各ビットは0 に設定されています。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	RMAFCE	—	—	RRFCE	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	—	—	R/W	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～8	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
7	RMAFCE	0	R/W	RAMF ビットコピー指示 0：RAMF ビットのステータスを受信ディスクリプタのRFE ビットに反映する。 1：該当する要因が発生しても受信ディスクリプタのRFE ビットに反映しない。
6、5	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
4	RRFCE	0	R/W	RRF ビットコピー指示 0：RAMF ビットのステータスを受信ディスクリプタのRFE ビットに反映する。 1：該当する要因が発生しても受信ディスクリプタのRFE ビットに反映しない。
3～0	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

24.3.36 ミスドフレームカウンタレジスタ（RMFCR）

RMFCR は、受信時に受信バッファに収容しきれずに廃棄されたフレーム数を示す16 ビットのカウンタです。受信FIFO がオーバフローすると、このFIFO 内にある受信フレームは廃棄されます。このときに廃棄するフレームの数をカウントアップします。本レジスタの値が H'FFFF になるとカウントアップを停止します。カウンタの値は、本レジスタを読むと 0 にクリアされます。本レジスタへのライトは、他に影響を与えません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	MFC[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
15～ 0	MFC15～MFC0	0	R	ミスドフレームカウンタ 受信時に、受信バッファに転送しきれずに廃棄されたフレーム数を示します。

24.3.37 送信FIFO しきい値指定レジスタ（TFTR）

TFTR は、読み出し又は書き込み可能な 32 ビットのレジスタで、最初の送信を開始するまでの送信FIFO のしきい値を指定します。実際のしきい値は、設定した数値の4 倍の値に相当します。EtherC は送信FIFO 内のデータ数が本レジスタで指定されたバイト数を越えるか、送信FIFO が満杯、又は1 フレーム分のデータ書き込みが行われると送信を開始します。なお本レジスタの設定は、送信停止状態で行ってください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	TFT[10:0]										
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 11	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

10 ～ 0	TFT10～ TFT0	0	R/W	送信FIFO しきい値 送信FIFO のしきい値は、必ずFDR で指定したFIFO 容量値より小さい値に設定してください。 H'000：ストア＆フォワードモード H'001～H'00C：設定禁止 H'00D：52 バイト H'00E：56 バイト ：： H'01F：124 バイト H'020：128 バイト ：： H'03F：252 バイト H'040：256 バイト ：： H'07F：508 バイト H'080：512 バイト ：： H'0FF：1020 バイト H'100：1024 バイト ：： H'1FF：2044 バイト H'200：2048 バイト H'201 ～ H'7FF：設定禁止

注1. 1 フレーム分のデータ書き込みが完了する以前に送信を開始する場合には、アンダフローの発生に注意が必要です。
2. 送受信FIFO 容量よりも本レジスタの設定値が大きいときの動作は保証しません。

24.3.38 FIFO 容量指定レジスタ（FDR）

FDR は、読み出し又は書き込み可能な32 ビットのレジスタで、送信及び受信FIFO の容量を指定します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	TFD[4:0]					—	—	—	RFD[4:0]				
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～13	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
12～8	TFD4～TFD0	B'00000	R/W	送信FIFO 容量 送信FIFO の容量を指定します。送受信開始後は、設定値を変更することを禁止します。 00000：256 バイト 00001：512 バイト 00010：768 バイト 00011：1024 バイト 00100：1280 バイト 00101：1536 バイト 00110：1792 バイト 00111：2048 バイト 上記以外：設定禁止
7～5	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
4 ～0	RFD4～RFD0	B'00000	R/W	受信FIFO 容量 受信FIFO の容量を指定します。送受信開始後は、設定値を変更することを禁止します。 00000：256 バイト 00001：512 バイト 00010：768 バイト 00011：1024 バイト 00100：1280 バイト 00101：1536 バイト 00110：1792 バイト 00111：2048 バイト 上記以外：設定禁止

注.　送受信FIFO 容量よりも本レジスタの設定値が大きいときの動作は保証しません。

24.3.39 受信方式制御レジスタ（RMCR）

RMCR は、読み出し又は書き込み可能な32 ビットのレジスタで、フレームを受信するときのEDRRR のRR ビットの制御方法を指定します。なお本レジスタの設定は、受信停止状態で行ってください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	RNC	RNR
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 2	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
1	RNC	0	R/W	受信起動ビットnon リセットモード指定 0：nop 1：EDRRR の受信起動ビット（RR）のリセットをソフトウェア制御にします。フェッチしたディスクリプタのRACT ビットが0 の場合（受信ディスクリプタ枯渇）でも、EDRRR の受信起動ビット（RR）をセルフリセットせず、連続して受信ディスクリプタのフェッチを行い受信フレームのDMA を継続します。

0	RNR	0	R/W	受信起動ビットリセット 0：EDRR の受信起動ビット（RR）は、1 フレームの受信が完了したときハードウェアでセルフクリアします。 1 フレーム単位の制御が可能です。 後続の受信フレームを受信する場合は、再度EDRRR の受信起動ビットを設定する必要があります。 1：EDRRR の受信起動ビット（RR）は、上位ソフトウェアにより制御します。受信起動ビット（RR）に1 書き込み後は、RR に0 書き込みを行うまでハードウェアが自律的に受信ディスクリプタのフェッチを行いフレームを受信します。複数フレームを連続で受信可能となります。連続受信を行う場合は、受信起動ビットリセットを1 に設定することを推奨します。ただし、受信ディスクリプタ枯渇を検出した場合は、ハードウェアでRR をセルフクリアします。

24.3.40 送信FIFO アンダランカウント（TFUCR）

送信 FIFO がアンダランした回数を示すレジスタです。カウンタの値は、本レジスタへの書き込み動作で0 クリアされます。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	UNDER[15:0]															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
15 ～0	UNDER15～ UNDER0	0	R/W	送信FIFO アンダフロー数 送信FIFO におけるアンダフローが発生した回数が設定されます。 カウント値が、H'FFFF となったら停止します。

24.3.41 受信FIFO オーバフローカウント（RFOCR）

受信FIFO がオーバフローした回数を示すレジスタです。カウンタの値は、本レジスタへの書き込み動作で0 クリアされます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	OVER[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
15 ～ 0	OVER15～OVER0	0	R/W	受信FIFO オーバフロー数 受信FIFO におけるオーバフローが発生した回数が設定されます。 カウント値が、H'FFFF となったら停止します。

24.3.42 受信バッファライトアドレスレジスタ（RBWAR）

RBWAR は、E-DMAC が受信バッファにデータを書き込むとき、受信バッファ内で書き込みの対象となるバッファアドレスを格納します。本レジスタに表示されるアドレスをモニタすることにより、E-DMAC が受信バッファ内のどの辺のアドレスに対し処理を実行しているかを認識できます。E-DMAC が実行しているバッファライト処理とレジスタの読み出しの値が一致していない場合もあります。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	PBWA[31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PBWA[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～0	RBWA31～RBWA0	0	R	受信バッファライトアドレス 本ビットは読み出し専用です。書き込みは禁止です。

24.3.43 受信ディスクリプタフェッチアドレスレジスタ（RDFAR）

RDFAR は、E-DMAC が受信ディスクリプタからディスクリプタ情報をフェッチする際に必要となるディスクリプタ先頭アドレスを格納します。本レジスタに表示されるアドレスをモニタすることにより、E-DMAC がどの辺の受信ディスクリプタ情報をもとに処理を実行しているかを認識できます。E-DMAC が実行しているディスクリプタフェッチ処理とレジスタの読み出しの値が一致していない場合もあります。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	RDFA[31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RDFA[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	RDFA31 ～ RDFA0	0	R	受信ディスクリプタフェッチアドレス 本ビットは読み出し専用です。書き込みは禁止です。

24.3.44 送信バッファリードアドレスレジスタ（TBRAR）

TBRAR は、E-DMAC が送信バッファからデータを読み出すとき、送信バッファ内で読み出しの対象となるバッファアドレスを格納します。本レジスタに表示されるアドレスをモニタすることにより、E-DMAC が送信バッファ内のどの辺のアドレスに対し処理を実行しているかを認識できます。E-DMAC が実行しているバッファリード処理とレジスタの読み出しの値が一致していない場合もあります。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	TBRA[31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TBRA[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～0	TBRA31～ TBRA0	0	R	送信バッファリードアドレス 本ビットは読み出し専用です。書き込みは禁止です。

24.3.45 送信ディスクリプタフェッチアドレスレジスタ（TDFAR）

TDFARは、E-DMACが送信ディスクリプタからディスクリプタ情報をフェッチする際に必要となるディスクリプタ先頭アドレスを格納します。本レジスタに表示されるアドレスをモニタすることにより、E-DMACがどの辺の送信ディスクリプタ情報をもとに処理を実行しているか認識できます。E-DMACが実行しているディスクリプタフェッチ処理とレジスタの読み出しの値が一致していない場合もあります。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	TDFA[31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TDFA[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	TDFA31 ～ TDFA0	0	R	送信ディスクリプタフェッチアドレス 本ビットは読み出し専用です。書き込みは禁止です。

24.3.46 フロー制御開始FIFO しきい値設定レジスタ（FCFTR）

FCFTRは、読み出し又は書き込み可能な32ビットのレジスタで、EtherCのフロー制御の設定（自動PAUSE送信のしきい値設定）を行います。受信FIFOデータ容量（RFDO2～RFDO0）、受信フレーム数（RFFO2～RFFO0）によるしきい値を設定できます。受信FIFOデータ容量しきい値判定及び受信フレーム数しきい値判定の論理和を条件として、フロー制御を開始します。

RFDの設定条件によりフロー制御をオンにするとき、FIFO容量設定レジスタ（FDR）で設定した受信FIFO容量値と同じ設定である場合は、（FIFOデータ容量－64）バイトでフロー制御をオンにします。たとえばFDRのRFD＝1、FCFTRのRFDO＝1の場合は、受信FIFO内に（512－64）バイトのデータを格納されたとき、フロー制御がオンになります。なお本レジスタのRFDOの設定値は、FDRのRFDの設定値と同じか小さい値を設定してください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	RFFO[2:0]		
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	RFDO[2:0]		
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 19	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

18 17 16	RFFO2 RFFO1 RFFO0	1 1 1	R/W R/W R/W	受信フレーム数オーバフロー BSY 送出しきい値 000：受信フレームを受信FIFO 内に2 フレーム格納完了時 001：受信フレームを受信FIFO 内に4 フレーム格納完了時 010：受信フレームを受信FIFO 内に6 フレーム格納完了時 : 110：受信フレームを受信FIFO 内に14 フレーム格納完了時 111：受信フレームを受信FIFO 内に16 フレーム格納完了時
15 ～ 3	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
2 1 0	RFDO2 RFDO1 RFDO0	1 1 1	R/W R/W R/W	受信FIFO オーバフロー BSY 送出しきい値 000：受信FIFO 内に256－32 バイトのデータ容量を格納時 001：受信FIFO 内に512－32 バイトのデータ容量を格納時 : 110：受信FIFO 内に1792－32 バイトのデータ容量を格納時 111：受信FIFO 内に2048－64 バイトのデータ容量を格納時

24.3.47 受信データパディング挿入設定レジスタ（RPADIR）

RPADIR は、読み出し又は書き込み可能な32 ビットのレジスタで、受信データに対するパディングの挿入の設定を行うレジスタです。本レジスタを再設定するときは、E-DMAC モードレジスタ（EDMR）のSWR ビットでリセットしてから行ってください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	PADS[1:0]	
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	PADR[5:0]					
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 18	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
17 16	PADS1 PADS0	0 0	R/W R/W	パディングサイズ 00：パディング挿入なし 01：1 バイト挿入 10：2 バイト挿入 11：3 バイト挿入
15 ～6	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

5 ～ 0	PADR5～ PADR0	0	R/W	パディング範囲 H'00：受信データの1バイト目の直前にパディングサイズ分挿入 H'01：受信データの2バイト目の直前にパディングサイズ分挿入 : H'3E：受信データの63バイト目の直前にパディングサイズ分挿入 H'3F：受信データの64バイト目の直前にパディングサイズ分挿入

24.3.48 送信割り込み設定レジスタ（TRIMD）

TRIMDは、読み出し又は書き込み可能な32ビットのレジスタで、送信動作時にフレームごとのライトバック完了をEESRのTWBビット及び割り込みにて通知するかどうかを指定します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	TIM	—	—	—	TIS
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	—	—	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 5	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
4	TIM	0	R/W	送信割り込みモード 0：毎送信フレームモード 送信フレーム毎ライトバック完了時に割り込み。 1：割り込みモード 送信ディスクリプタTWBIビット設定ディスクリプタのライトバック完了時に割り込み。
3～ 1	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
0	TIS	0	R/W	送信割り込み設定 0：割り込み未設定 TIMビットで指定したモードでの割り込み通知を行わない。 TISビット＝0のとき、TIMビットの設定は無効。 1：割り込み設定 TIMビットで指定したモードでEESRのTWBビットを1とし割り込み通知を行う。

24.4　動作説明

24.4.1　ディスクリプタ

通信プログラムは、送受信の開始に先立ってメモリ上に送信及び受信の各ディスクリプタリストを作成します。そして、このリストの先頭アドレスを送信又は受信ディスクリプタリスト先頭アドレスレジスタに設定します。

ディスクリプタの開始アドレスの設定は、E-DMAC モードレジスタ（EDMR）で設定したディスクリプタ長に従ったアドレス境界に設定してください。送信バッファの開始アドレスの設定は、ロングワードを境界として設定する必要はなく、ワード境界、バイト境界としてもかまいません。

(1)　送信ディスクリプタ

図 24.2 に送信ディスクリプタと送信バッファの関係を示します。

本ディスクリプタの指示により、送信フレームと送信バッファの構成を 1 フレーム／1 バッファ又は 1 フレーム／マルチバッファのように関連付けることが可能です。送信バッファ長（TBL）1 ～ 16 バイトの指定を行う際は、バッファアドレスは32 バイト境界にする必要があります。なお、送信バッファ長（TBL）0バイトの指定の動作は保証されません。

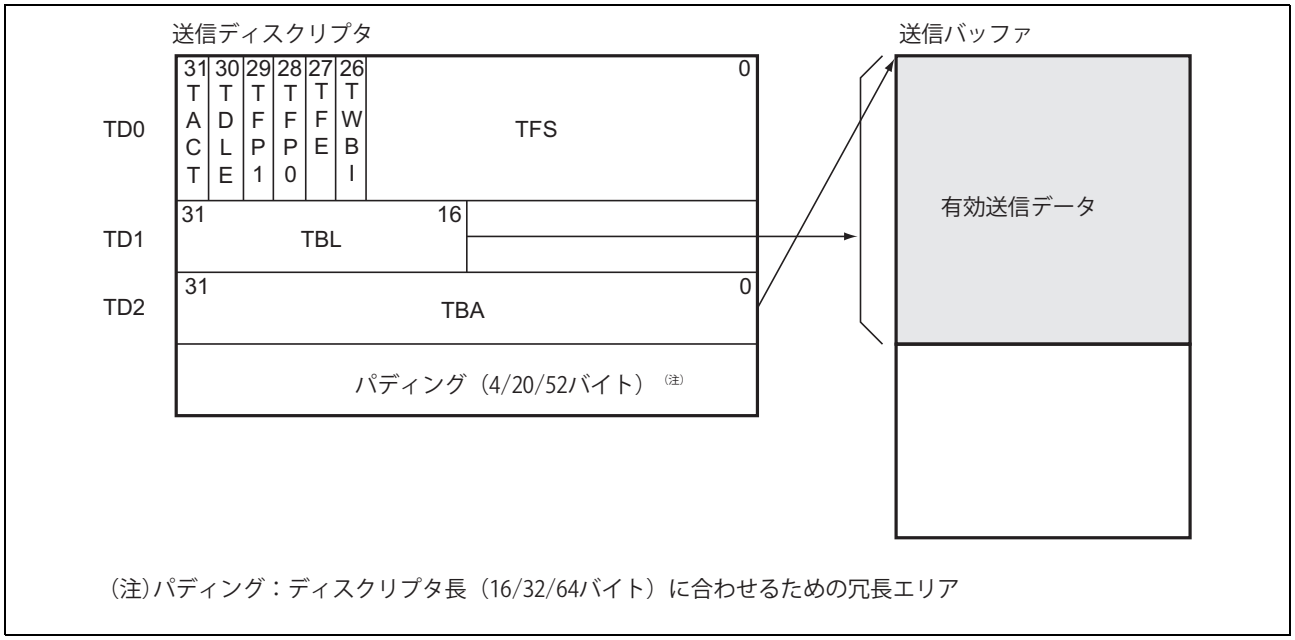


図 24.2　送信ディスクリプタと送信バッファの関係

（a） 送信ディスクリプタ0（TD0）

TD0は、送信フレームのステータスを示します。これによりフレーム送信状態を連絡します。

ビット：	31 (注)	30	29	28	27 (注)	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	TACT	TDLE	TFP[1:0]		TFE	TWBI	TFS									
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TFS															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

（注） ライトバックされるビットです。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31（注）	TACT	0	R/W	送信ディスクリプタ有効 当該ディスクリプタが有効であることを示します。本ビットはソフトウェアによってセット（＝1）され、送信フレームを転送完了したとき、又は何らかの要因により送信がアボートされたときにハードウェアによりクリアされます。
30	TDLE	0	R/W	送信ディスクリプタリング最終 本ビットをセット（＝1）すると、当該ディスクリプタがディスクリプタリングの最終であることを示します。
29 28	TFP1 TFP0	0	R/W	送信フレーム内位置1、0 送信バッファと送信フレームの関連づけを行います。前後のディスクリプタにおいて、本ビット及びTBL ビットの設定は、理論的に正しい関係を維持してください。 00：本ディスクリプタで指示する送信バッファのフレーム送信を維持する（フレームを完結しない） 01：本ディスクリプタで指示する送信バッファはフレームの最後を含む（フレームを完結する） 10：本ディスクリプタで指示する送信バッファはフレームの先頭である（フレームを完結しない） 11：本ディスクリプタで指示する送信バッファの内容が1 フレームに相当する（1 フレーム／1 バッファ）
27（注）	TFE	0	R/W	送信フレームエラー ビット25～0 に示す送信フレームステータスのいずれかのビットがセットされていることを示します。 0：送信時にエラーがなかった 1：送信中に何らかのエラーがあった
26	TWBI	0	R/W	ライトバック完了後割り込み指示 （TRIMD の設定により有効となります。） 0：nop 1：本ディスクリプタへのライトバック完了後割り込みます。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
25 ～ 0	TFS25～ TFS0	0	R/W	送信フレームステータス フレーム送信中のエラーステータスを表示します。 TFS25～9：予約（書き込み時は0 としてください） TFS8：送信アボート検出 （TFS3～0 のいずれかのビットがセットされたことを示します） TFS7～4：予約（書き込み時は0 としてください） TFS3：ノーキャリア検出（EESR のCND ビットに相当） TFS2：キャリア消失検出（EESR のDLC ビットに相当） TFS1：送信中の遅延衝突検出（EESR のCD ビットに相当） TFS0：送信リトライオーバ（EESR のTRO ビットに相当）

注.　ライトバックされるビットです。

（b） 送信ディスクリプタ1（TD1）

TD1 は、送信バッファ長を示します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	TBL															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	TBL	0	R/W	送信バッファ長 対象となる送信バッファの有効バイト長を示します。
15～ 0	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

（c） 送信ディスクリプタ2（TD2）

TD2は、当該送信バッファの先頭アドレスを示します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	TBA															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

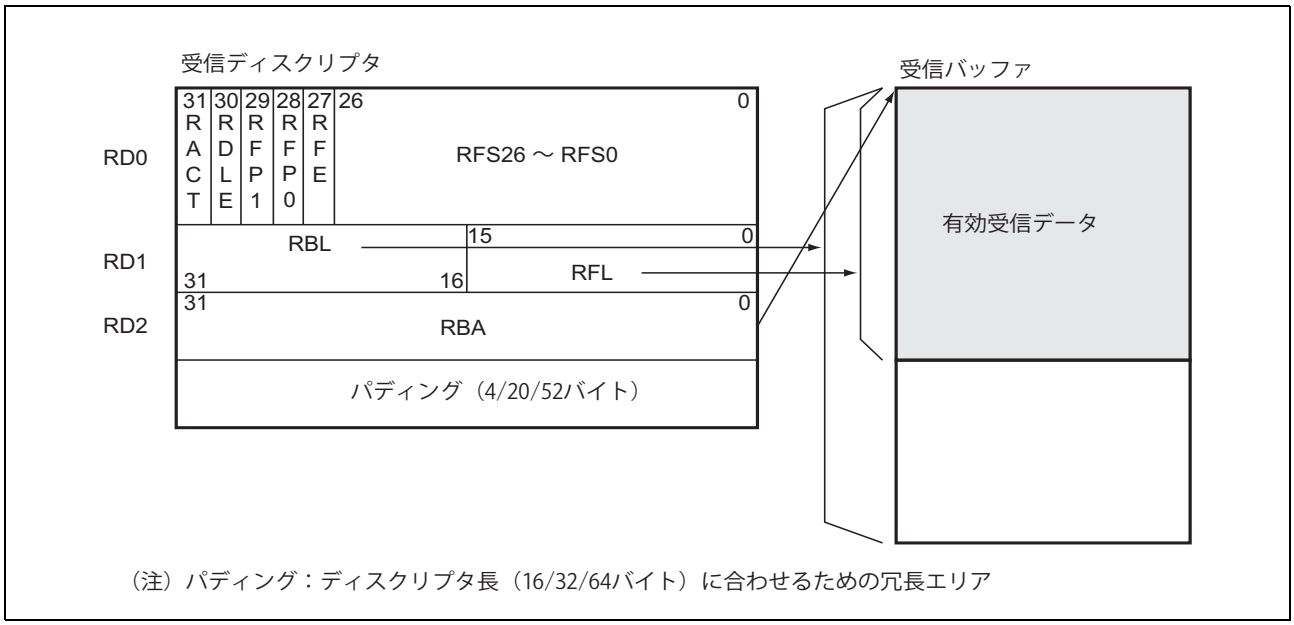
ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TBA															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	TBA	0	R/W	送信バッファアドレス 送信バッファの先頭アドレスを示します。

(2) 受信ディスクリプタ

図24.3に受信ディスクリプタと受信バッファの関係を示します。受信バッファのアドレスは32バイトバウンダリで設定してください。受信バッファ長（RBL）0バイト のディスクリプタ指定の動作は保証されません。

すべての受信フレームを1バッファに収めることができます。



（注）パディング：ディスクリプタ長（16/32/64バイト）に合わせるための冗長エリア

図 24.3　受信ディスクリプタと受信バッファの関係

（a） 受信ディスクリプタ0（RD0）

RD0は、受信フレームのステータスを示します。SH-4A、E-DMACはRD0を使用してフレーム受信の状態を報告します。

ビット：	31 (注)	30	29 (注)	28 (注)	27 (注)	26 (注)	25 (注)	24 (注)	23 (注)	22 (注)	21 (注)	20 (注)	19 (注)	18 (注)	17 (注)	16 (注)
	RACT	RDLE	RFP[1:0]		RFE	RFS										
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15 (注)	14 (注)	13 (注)	12 (注)	11 (注)	10 (注)	9 (注)	8 (注)	7 (注)	6 (注)	5 (注)	4 (注)	3 (注)	2 (注)	1 (注)	0 (注)
	RFS															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

（注）ライトバックされるビットです。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31（注）	RACT	0	R/W	受信ディスクリプタ有効 当該ディスクリプタが有効であることを示します。このビットはソフトウェアによってセット（＝1）され、受信フレームをRD2で示されるバッファアドレスに転送し、フレームすべてを転送完了したとき、又は受信バッファがいっぱいになった場合にハードウェアによりクリア（＝0）されます。
30	RDLE	0	R/W	受信ディスクリプタリング最終 本ビットをセット（＝1）すると、当該ディスクリプタがディスクリプタリングの最終であることを示します。
29（注） 28（注）	RFP1 RFP0	0 0	R/W R/W	受信フレーム内位置1、0 受信バッファと受信フレームの関連づけを行います。 00：本ディスクリプタで指示する受信バッファのフレーム受信を維持する（フレームを完結しない） 01：本ディスクリプタで指示する受信バッファはフレームの最後を含む（フレームを完結する） 10：本ディスクリプタで指示する受信バッファはフレームの先頭である（フレームを完結しない） 11：本ディスクリプタで指示する受信バッファの内容が1フレームに相当する（1フレーム/1バッファ）
27（注）	RFE	0	R/W	受信フレームエラー ビット26～0に示す受信フレームステータスのいずれかのビットがセットされていることを示します。ただし、RFS7、RFS4の情報を本ビットに反映するか否かは、TRSCERによって設定可能です。 0：受信時にエラーがなかった 1：受信中に何らかのエラーがあった

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
26 ～ 0（注）	RFS26～RFS0	0	R/W	受信フレームステータス フレーム受信中のエラーステータスを表示します。 RFS26～10：予約（書き込み時は0 としてください） RFS9：受信FIFO オーバフロー（EESR のRFOF ビットに相当） RFS8：アボート検出 （RFS9、RFS3～0 のいずれかのビットがセットされたことを示します） RFS7：マルチキャストアドレスフレームを受信 （EESR のRMAF ビットに相当） RFS6、5：予約（書き込み時は0 としてください） RFS4：端数ビットフレーム受信エラー （EESR のRRS ビットに相当） RFS3：ロングフレーム受信エラー （EESR のRTLF ビットに相当） RFS2：ショートフレーム受信エラー （EESR のRTSF ビットに相当） RFS1：PHY-LSI 受信エラー（EESR のPRE ビットに相当） RFS0：受信フレームCRC エラー検出 （EESR のCERF ビットに相当）

注.　ライトバックされるビットです。

（b）　受信ディスクリプタ1（RD1）

RD1 は、受信バッファ長を示します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	RBL															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15 (注)	14 (注)	13 (注)	12 (注)	11 (注)	10 (注)	9 (注)	8 (注)	7 (注)	6 (注)	5 (注)	4 (注)	3 (注)	2 (注)	1 (注)	0 (注)
	RFL															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

（注）ライトバックされるビットです。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	RBL	0	R/W	受信バッファ長 対象となる受信バッファのバイト長を示します。 バッファ長は32×n の大きさで設定してください。 1 フレーム／1 バッファ（ディスクリプタ）のときは、受信フレーム長はCRC データを除き1514 バイトが最大です。よって受信バッファ長の指定は、最大受信フレーム長に16 バイト境界を考慮した値である1520 バイト（H'05F0）を設定します。
15～0（注）	RFL	0	R	受信フレーム長 バッファ内に格納された受信フレームの長さ（バイト数）を示します。 RPADIR で指定されたパディング分のバイト数は含みません。フレームの最後を含むディスクリプタにライトバックされます。

注.　ライトバックされるビットです。

（c）　受信ディスクリプタ2（RD2）

RD2 は、当該受信バッファの先頭アドレスを示します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	RBA															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RBA															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	RBA	0	R/W	受信バッファアドレス 受信バッファの先頭アドレスを示します。 バッファアドレスは32 バイト境界に設定してください。

24.4.2　送信機能

(1)　ETHER 送信動作

ETHER 送信部は、送信E-DMAC から送信要求があると、送信データをフレームに組み立ててRMII に出力します。RMII を経由した送信データは、PHY-LSI によって回線上に送出されます。Ether 送信部の状態遷移図を図24.4 に示します。

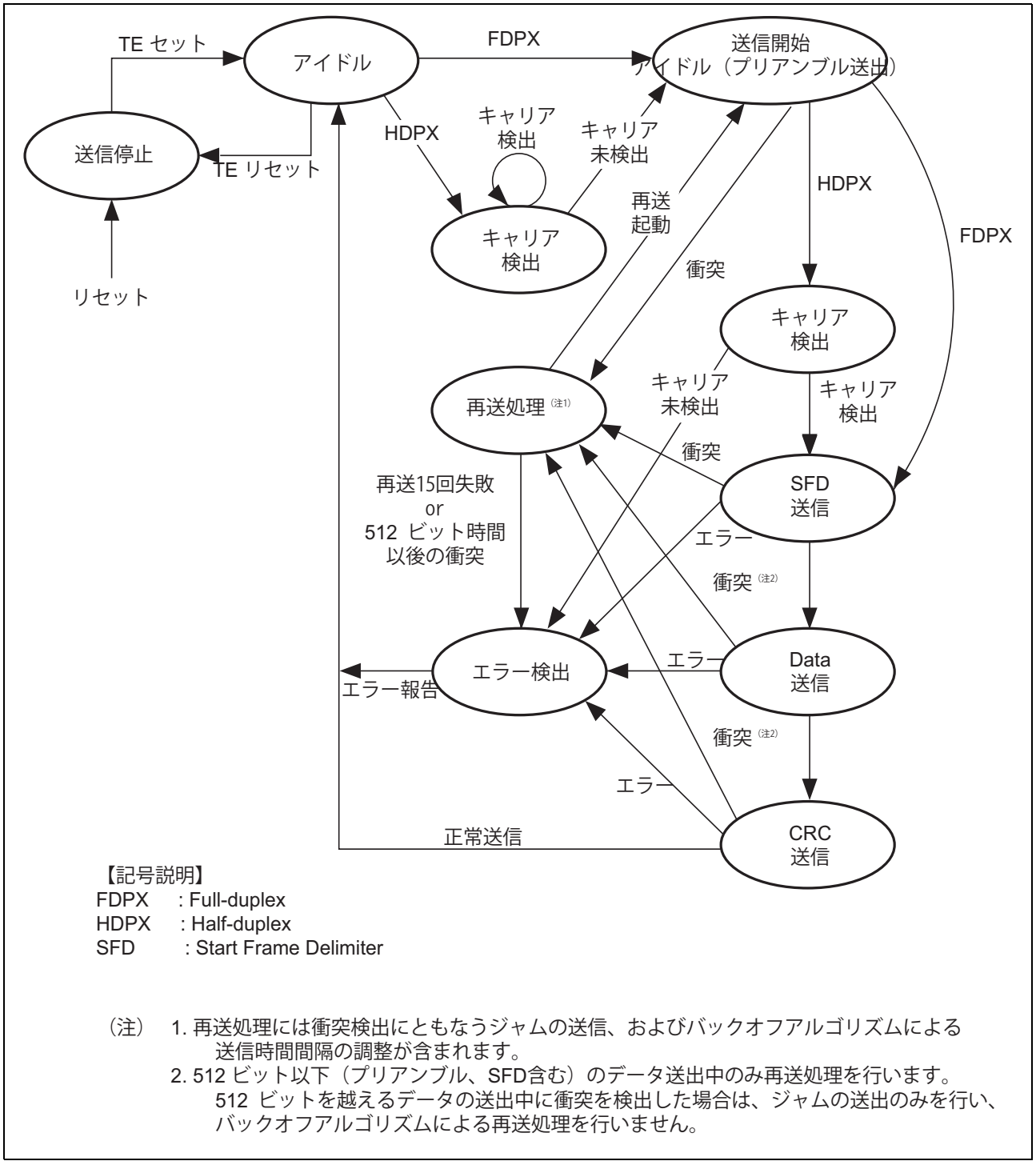


図 24.4　EtherC 送信部状態遷移図

1. 送信許可（TE）ビットがセットされると、送信アイドル状態に遷移します。
2. 送信E-DMACから送信要求があるとEtherCは、キャリア検出、フレーム間隔時間の送信延期を経てプリアンブルをRMIIに送出します。キャリア検出を必要としない全二重転送方式を選択しているときには、送信E-DMACから送信要求があると即座にプリアンブルを送出します。
3. SFD、データ、CRCを順次送信します。送信を終了すると送信E-DMACが送信終了割り込み（TC）を発生します。データ送信中に衝突発生あるいはキャリア未検出状態となるとそれぞれを割り込み要因として報告します。
4. フレーム間隔時間を経た後は、アイドル状態に遷移し、以後送信データがあれば送信を継続します。

(2) E-DMAC 送信動作

送信機能が有効でTE ビット（ECMR レジスタのビット5）が”1” の時にE-DMAC 送信要求レジスタ（EDTRR）の送信要求ビット（TR）をセットすると、E-DMACは送信ディスクリプタリストから前回使用したディスクリプタの次のディスクリプタ（初期状態では送信ディスクリプタ先頭アドレスレジスタ（TDLAR）で示すディスクリプタ）を読み込みます。読み込んだディスクリプタのTACT ビットが有効な場合は、E-DMAC はTD2 で指定される送信バッファ先頭アドレスから順次送信フレームデータを読み出してEtherC に転送します。EtherC は送信フレームを作成しRMII に向けて送信を開始します。ディスクリプタ内で指示されるバッファ長分のDMA 転送後、TFP の値によって以下のような処理を行います。

1. TFP＝00 or 10（フレーム継続）：
   DMA転送後、ディスクリプタのライトバック（TACTビット）を行います。
2. TFP＝01 or 11（フレーム終了）：
   フレームの送信完了後、ディスクリプタのライトバック（TACTビット及びステータス）を行います。

読み込んだディスクリプタのTACT ビットが有効な間は、E-DMAC ディスクリプタの読み込みとフレームの送信を継続します。TACT ビットが無効なディスクリプタを読み込むと、E-DMAC はEDTRRのTR ビットをリセットして送信処理を完了します。

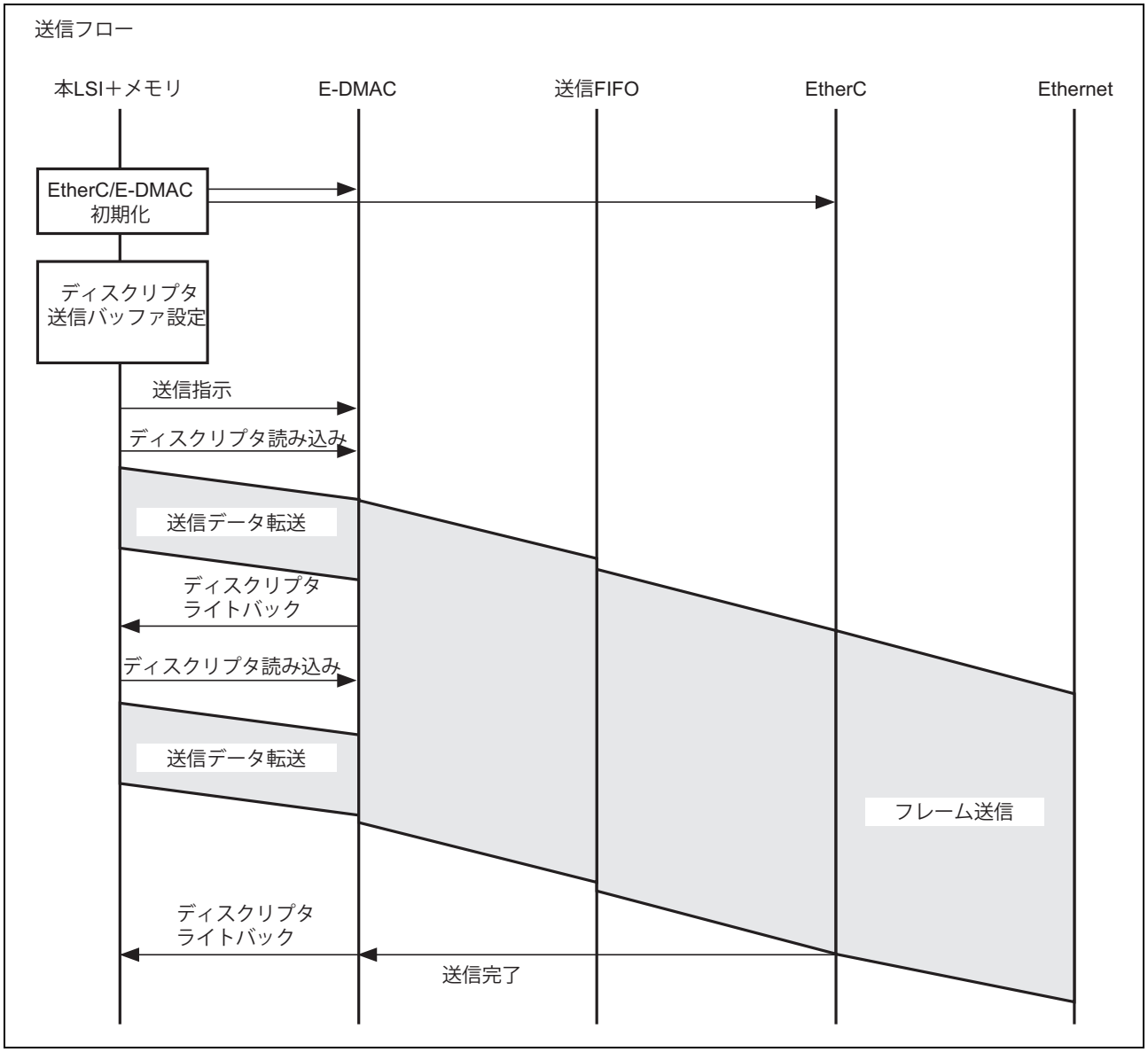


図 24.5　送信フローの例

24.4.3　受信動作

(1)　EtherC 受信動作

EtherC 受信部は、RMII より入力されたフレームをプリアンブル、SFD、データ及び CRC データに分解し、受信 E-DMAC には DA（宛先アドレス）から CRC データまでを出力します。EtherC 受信部の状態遷移図を図 24.6 に示します。

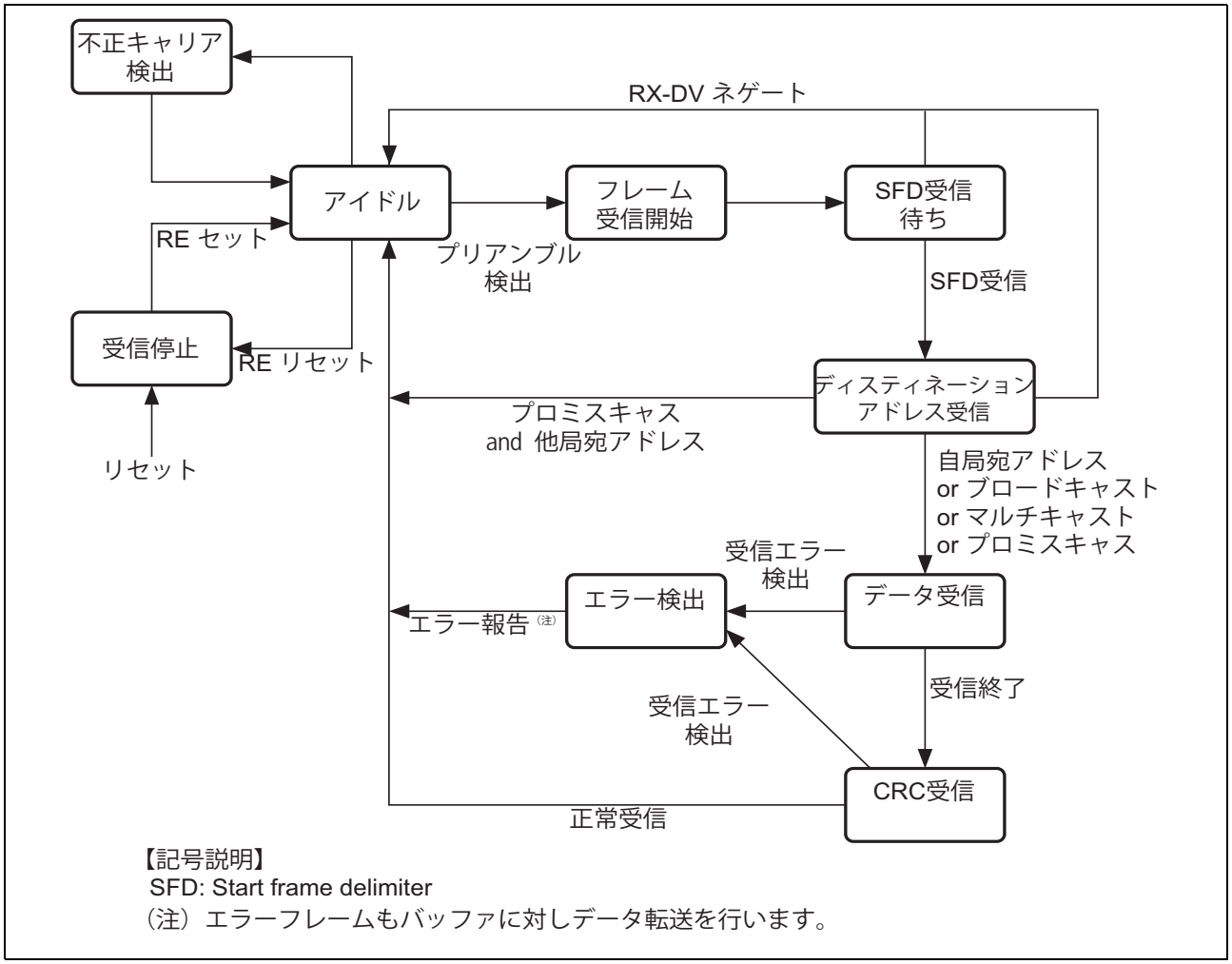


図 24.6　EtherC 受信部状態遷移図

1. 受信許可（RE）ビットがセットされると、受信アイドル状態に遷移します。
2. 受信パケットのプリアンブルに続く SFD（スタートフレームデリミタ）を検出すると受信処理を開始します。
   不当パターンの場合は、フレームを破棄します。
3. 通常モードでは、フレームのデスティネーションアドレスが本LSI宛の場合、ブロードキャストフレームの場合、又はマルチキャストフレームの場合にデータ受信を開始します。プロミスキャスモードでは、フレームの種類にかかわらずデータ受信を開始します。
4. RMIIからのデータ受信後、フレームデータ部のCRCチェックを行います。結果はメモリ上へのフレームデータをライトした後、ディスクリプタ内にステータスとして反映されます。異常時は、エラーステータスを報告します。
5. 1フレームを受信後、EtherCモードレジスタ内の受信許可ビットが設定（RE＝1）されていると、次のフレーム受信に備えます。

(2)　E-DMAC 受信動作

受信機能が有効でSH-4A がE-DMAC 受信要求レジスタ（EDRRR）の受信要求ビット（RR）をセットすると、E-DMAC は受信ディスクリプタリストから前回使用したディスクリプタの次のディスクリプタ（初期状態では受信ディスクリプタ先頭アドレスレジスタ（RDLAR）で示すディスクリプタ）を読み込んだ後に受信待機状態となります。RACT ビットが有効で、かつ自局あてのフレームを受信すると、RD2で指定される受信バッファに転送します。受信したフレームのデータ長がRD1 で与えられるバッファ長よりも大きい場合は、E-DMAC はバッファが満了となった時点でディスクリプタにライトバック（RFP＝10 or 00）を行った後に次のディスクリプタを読み込みます。そして新たなRD2 によって指定される受信バッファに引き続きデータを転送します。フレームの受信が完了した場合、又は何らかのエラーでフレーム受信を中断した場合は、当該ディスクリプタにライトバック（RFP＝11 or 01）を行った後に受信処理を終了します。そして次のディスクリプタを読み込み受信待機状態となります。

なお連続してフレームを受信するには、受信方式制御レジスタ（RMCR）内の受信コントロールビット（RNC）を1 に設定してください。初期化後は0 になっています。

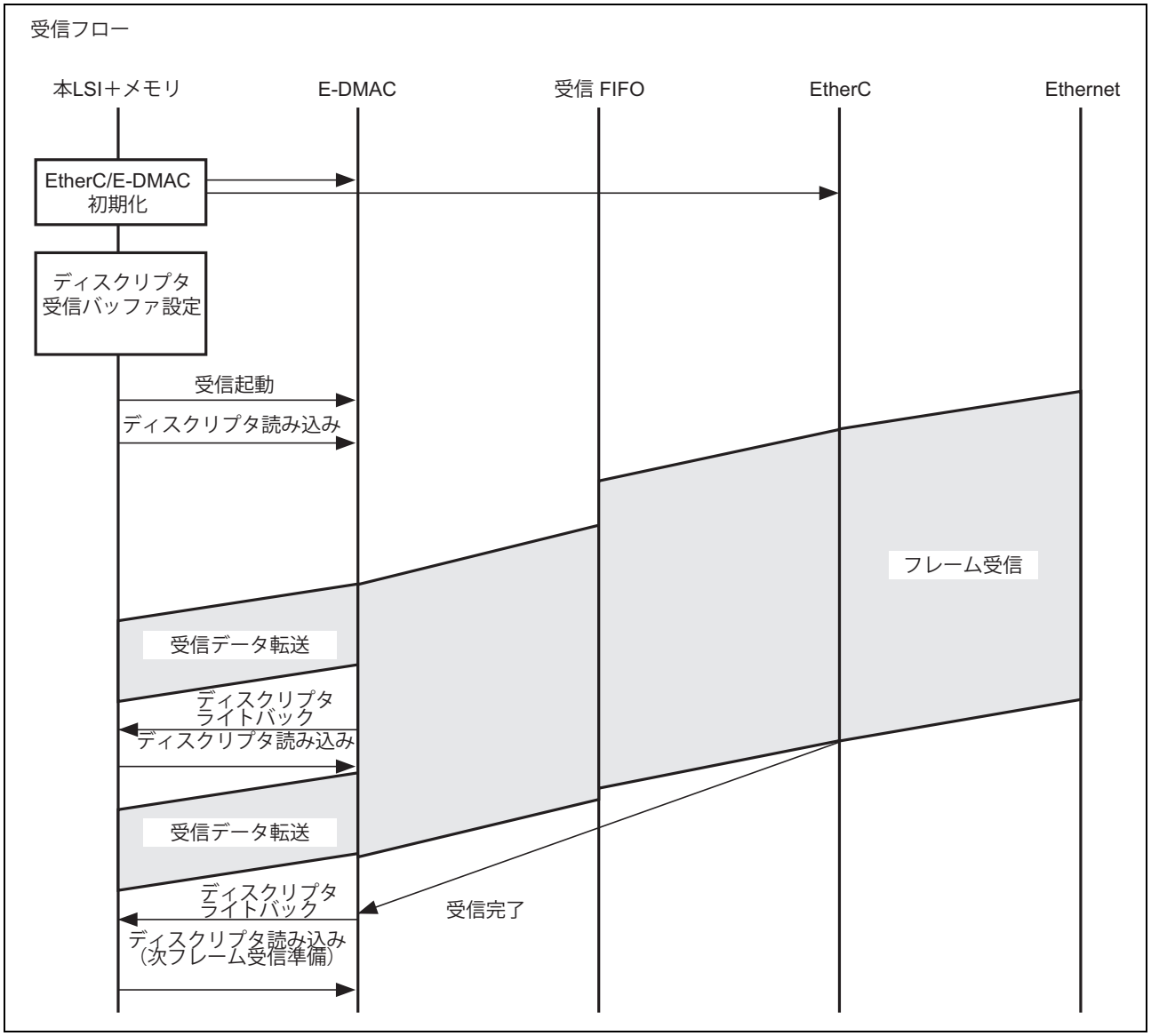


図 24.7 受信フローの例

24.4.4　マルチバッファフレームの送受信処理について

(1)　マルチバッファフレームの送信処理

マルチバッファフレームの送信中にエラーが発生した場合は、E-DMAC は図24.8 に示す処理を行います。

図中で送信ディスクリプタが無効（TACT ビットが0）である部分は、すでにバッファデータを正常に送信した部分を、送信ディスクリプタが有効（TACT ビットが1）である部分は、バッファデータが未送信であることを示します。送信ディスクリプタが有効（TACT ビットが1）である最初のディスクリプタ部分でフレーム送信エラーが発生した場合は、即座に送信を停止して TACT ビットを 0 クリアします。その後、次のディスクリプタをリードし、送信フレーム内の位置を TFP1、TFP0 ビットをもとに判断していきます（継続 [B'00] 又は終了 [B'01]）。継続ディスクリプタである場合は、TACT ビットを 0 クリアするのみで、すぐに次ディスクリプタのリードを行います。最終ディスクリプタである場合は、TACT ビットを0 クリアするのみでなく、TFE 及びTFS ビットへのライトバックも同時に行います。エラー発生後から最終ディスクリプタへのライトバックまでの間は、バッファ上のデータは送信しません。EtherC/E-DMAC ステータス割り込み許可レジスタ（EESIPR）でエラー割り込みが許可されている場合は、最終ディスクリプタのライトバック直後に割り込みが発生します。

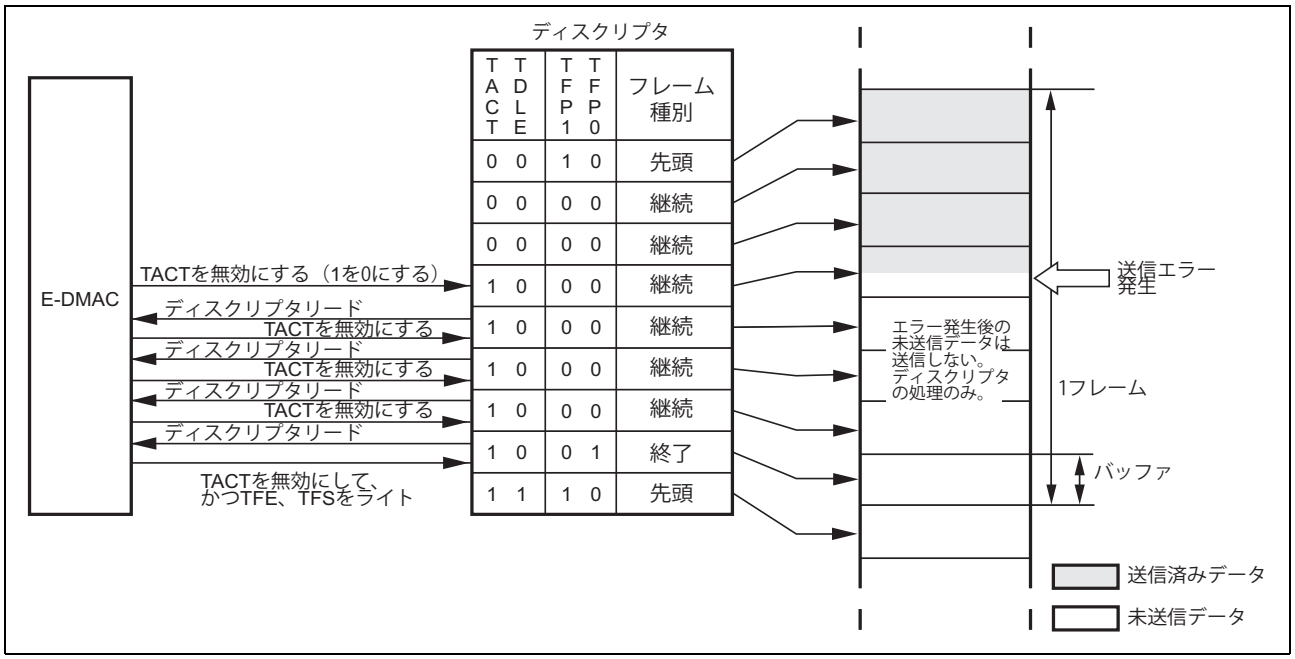


図 24.8　送信エラー発生後のE-DMAC 動作

(2) マルチバッファフレームの受信処理

マルチバッファフレームの受信中にエラーが発生した場合は、E-DMAC は図24.9 に示す処理を行います。図中で受信ディスクリプタが無効（RACT ビットが 0）である部分はすでにバッファデータを正常に受信した部分を、受信ディスクリプタが有効（RACT ビットが 1）である部分は未受信バッファであることを示します。図中でRACT ビットが1 である最初のディスクリプタ部分でフレーム受信エラーが発生した場合は、ディスクリプタにステータスのライトバックを行います。

EtherC/E-DMAC ステータス割り込み許可レジスタ (EESIPR) でエラー割り込みを許可している場合は、ライトバック直後に割り込みが発生します。新しいフレームの受信要求がある場合には、エラーが発生したバッファの次のバッファから引き続き受信を行います。

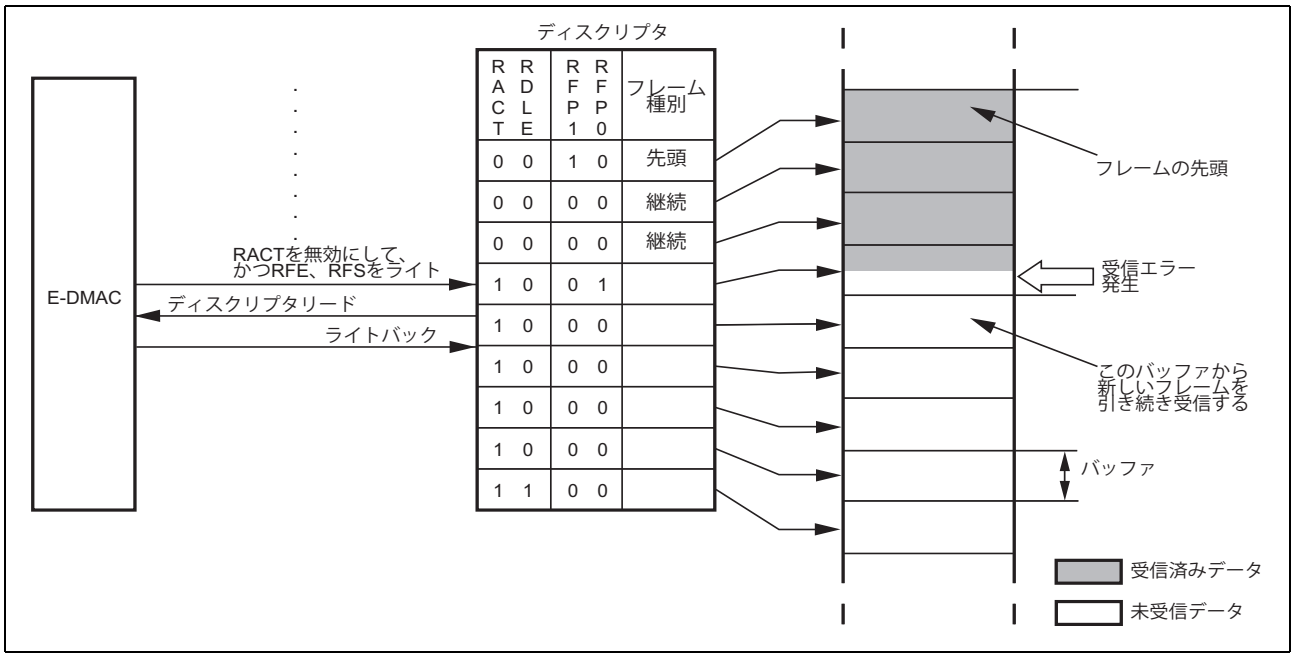


図 24.9　受信エラー発生後のE-DMAC 動作

24.4.5　RMII フレームタイミング

RMII フレームの送信及び受信タイミングを図24.10 に示します。

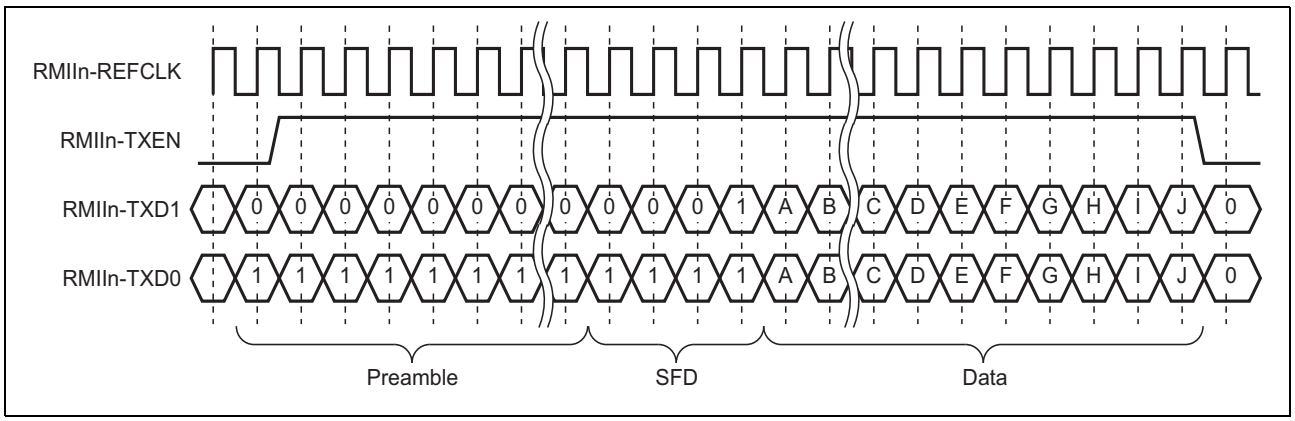


図 24.10　(1) RMII フレーム送信タイミング（正常送信時）

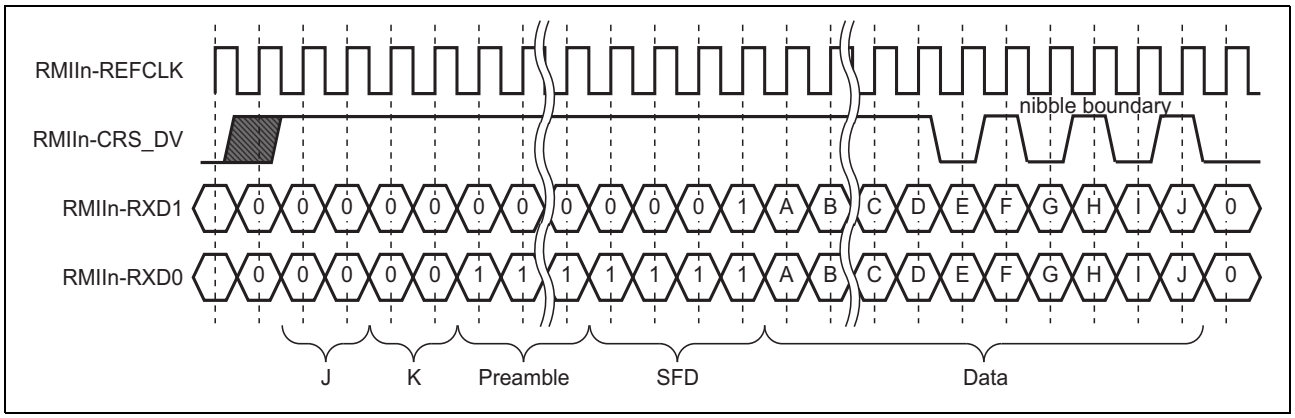


図 24.10　（2）RMII フレーム送信タイミング（正常受信時）

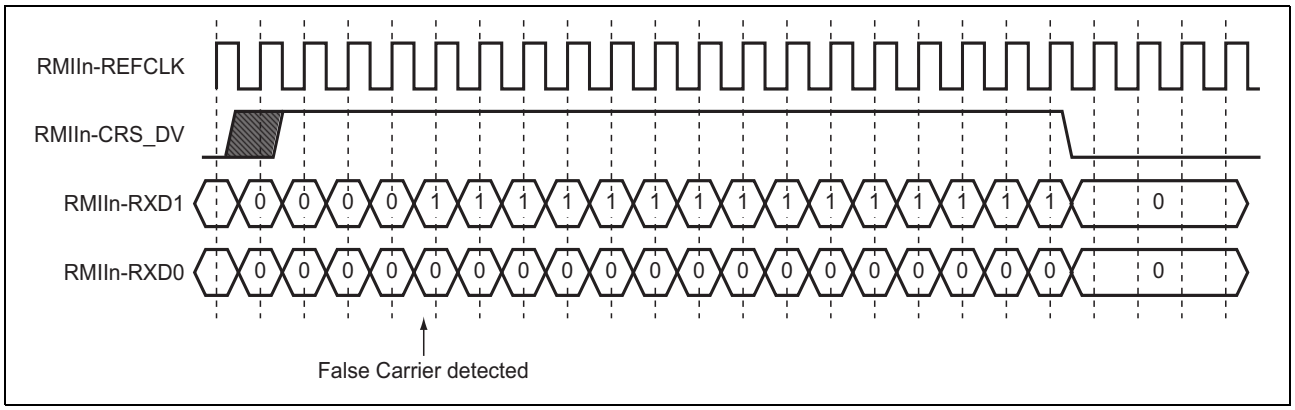


図 24.10　(3)　RMII フレーム受信タイミング（False Carrier を伴う受信時）

24.4.6　MII レジスタのアクセス方法

PHY-LSI 内にある MII レジスタへは、本 LSI の PHY 部インタフェースレジスタ（PIR）を経由してアクセスします。IEEE802.3u で規定される MII フレームフォーマットに従い、シリアルインタフェースとして接続します。

(1)　MII 管理フレームのフォーマット

MII 管理フレームのフォーマットを図 24.11 に示します。MII レジスタをアクセスするには、「(2) MII レジスタアクセス手順」で示す手順に従う管理フレームをプログラムによって実現します。

アクセス種別	MII管理フレーム							
項目	PRE	ST	OP	PHYAD	REGAD	TA	DATA	IDLE
ビット数	32	2	2	5	5	2	16	
リード	1..1	01	10	00001	RRRRR	Z0	D..D	
ライト	1..1	01	01	00001	RRRRR	10	D..D	X

【記号説明】

PRE　：32個の連続した1
ST　：フレームの先頭を示す01のライト
OP　：アクセス種別を示すコードのライト
PHYAD　：PHY-LSIのアドレスが1番の場合、0001をライト（MSBから順次ライト）。このビットは、PHY-LSIアドレスによって可変となる。
REGAD　：レジスタアドレスが1番の場合、0001をライト（MSBから順次ライト）。このビットは、PHY-LSIのレジスタアドレスによって可変となる。
TA　：MIIインタフェース上でデータの送信元を切り換える時間
　（a）ライト時は10をライト
　（b）リード時は、「バス解放」（Z0と表記）を行う
DATA　：16ビットのデータ。MSBから順次ライトあるいはリード
　（a）ライト時は、16ビットデータのライト
　（b）リード時は、16ビットデータのリード
IDLE　：次のMII管理フォーマット入力までの待機時間
　（a）ライト時は、「単独バス解放」（Xと表記）を行う
　（b）リード時は、すでにTA時にバス解放済みであり制御不要

図 24.11　MII 管理フレームフォーマット

(2) MII レジスタアクセス手順

プログラムは、PHY 部インタフェースレジスタ（PIR）を経由して MII レジスタをアクセスします。アクセスは、1 ビット単位のデータライト、1 ビット単位のデータをリードし、バスの解放及び単独バス解放の組み合わせによって実現します。MII レジスタアクセスタイミング例を図24.12 に示します。アクセスタイミングは、PHY-LSI の種類によって異なります。

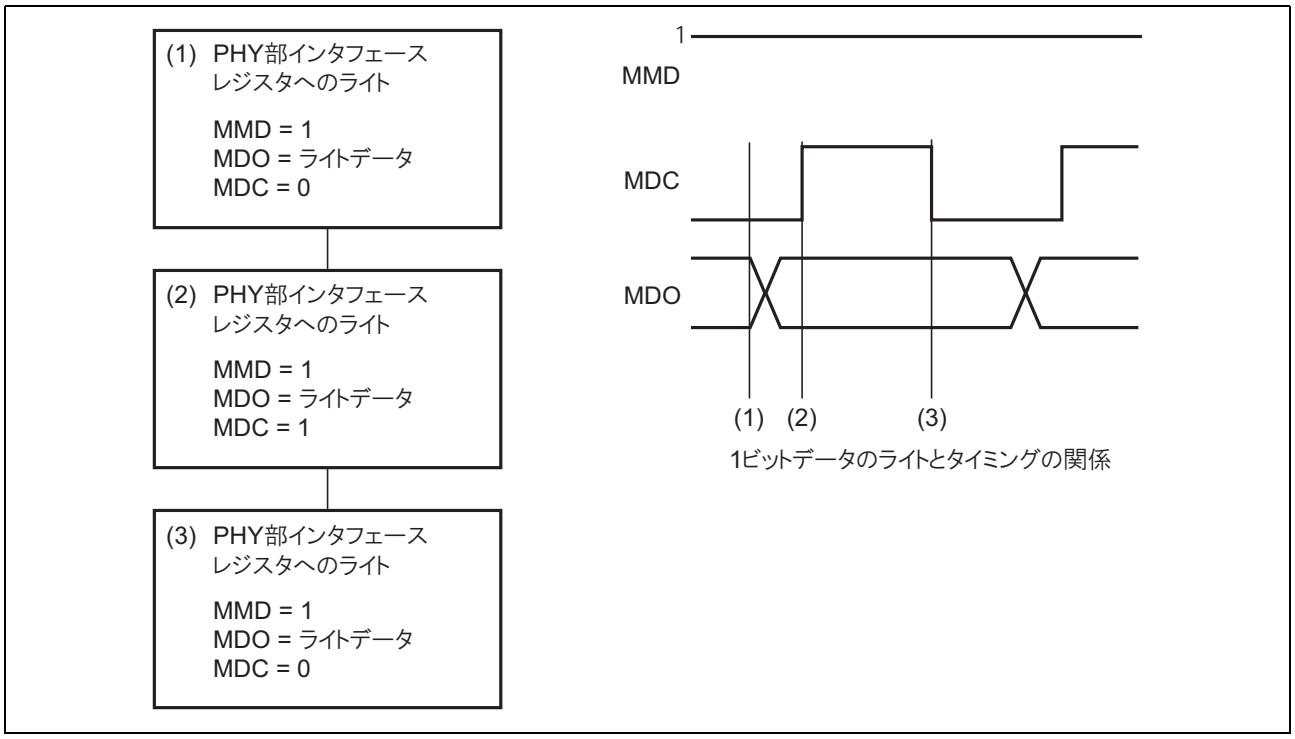


図 24.12 (1) 1 ビットデータのライトフロー

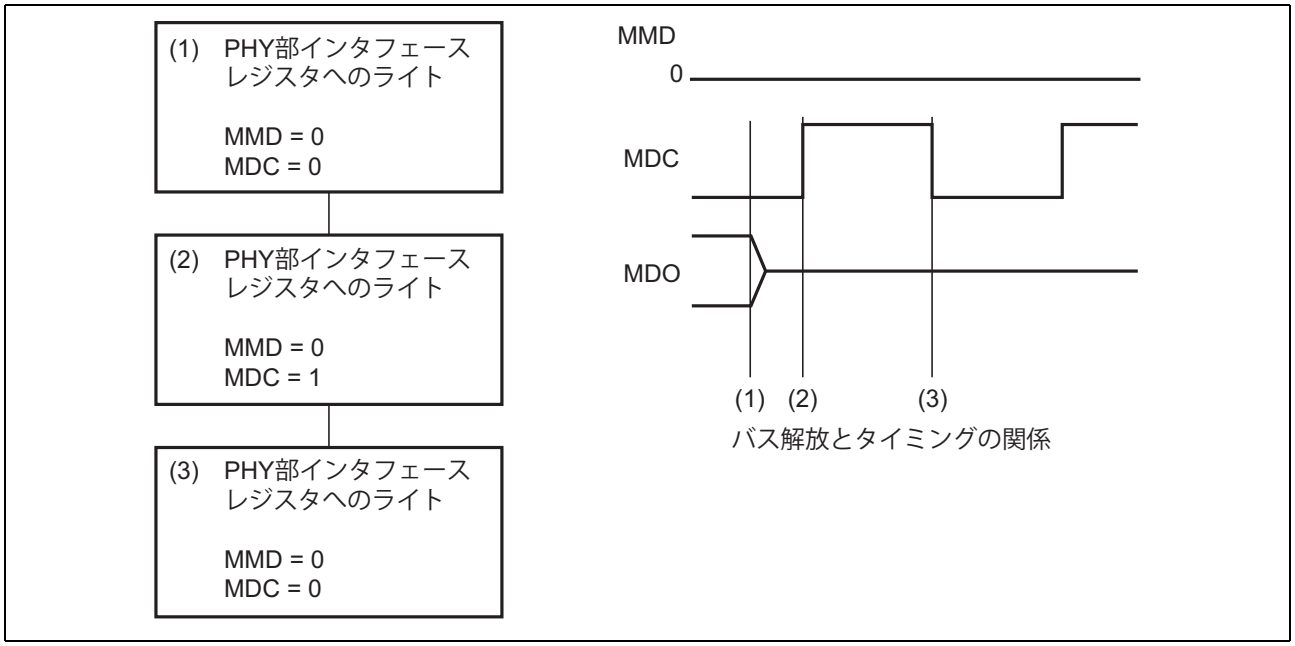


図 24.12 (2) バス解放フロー（図24.11 中のリード時のTA）

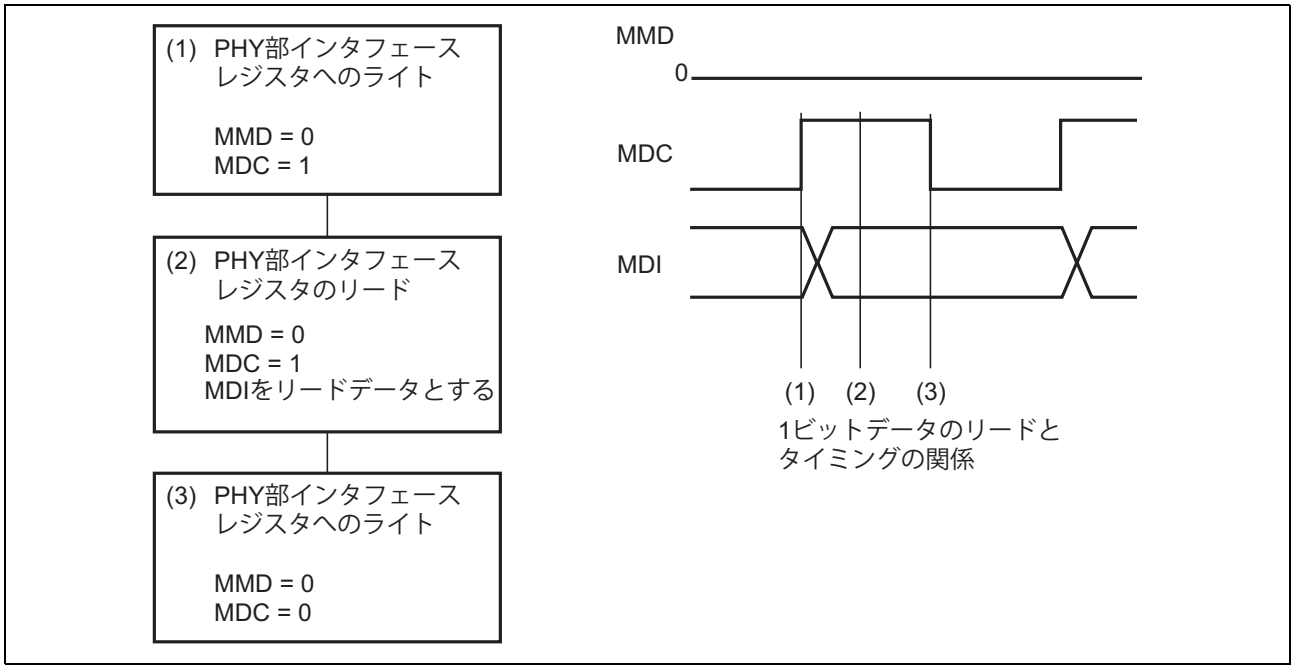


図 24.12 （3） 1 ビットデータのリードフロー

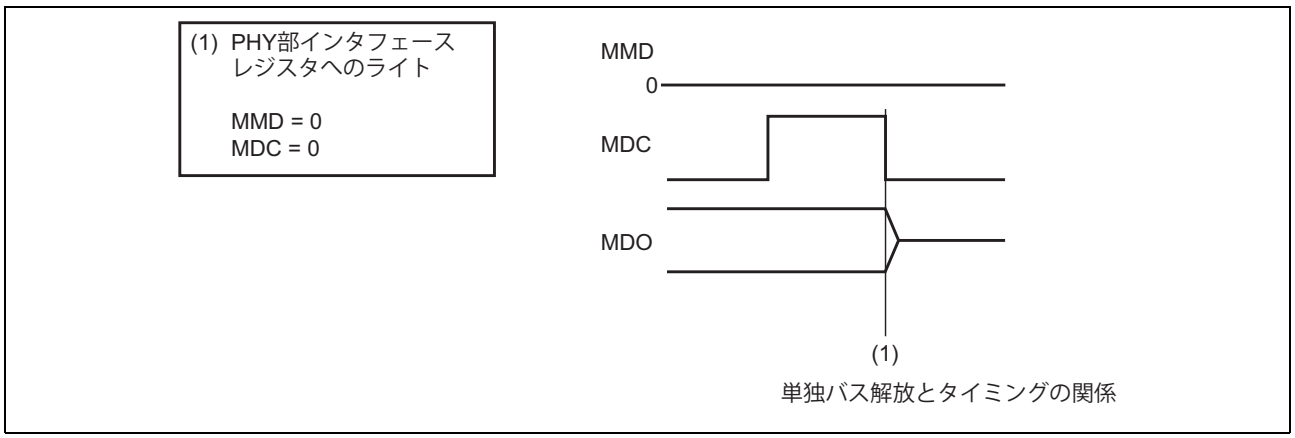


図 24.12 (4) 単独バス解放フロー（図24.11 中のライト時のIDLE）

24.4.7　Magic Packet の検出

EtherC は、Magic Packet の検出機能を有しています。本機能は、ホスト装置などからLAN に接続される各種周辺装置を起動する機能（WOL：Wake-On-LAN）を提供します。これによって、ホスト装置などから送出される Magic Packet を周辺装置が受信し、周辺装置がみずから起動するシステムを構築できます。Magic Packet を検出したときには、それ以前に受信していたブロードキャストパケット等によって受信 FIFO にはデータが蓄積され、EtherC には受信ステータスなどが報告されています。本割り込み処理から通常の動作に復帰するためには、E-DMAC モードレジスタ（EDMR）の SWR ビットにより EtherC 及びE-DMAC の初期化を実行してください。

Magic Packet においては、宛先アドレスにかかわらず受信を行います。結果として、Magic Packet 内のフォーマットで指定される宛先に合致する場合のみ有効となります。Magic Packet に関する詳細については、AMD 社の技術資料を参照してください。

本LSI を用いてWOL を利用するには、以下のような設定順序で行います。

1. 各種割り込み許可／マスクレジスタによって割り込み要因の出力を禁止します。
2. EtherCモードレジスタ（ECMR）のMagic Packet検出許可ビット（MPDE）を設定します。
3. EtherC 割り込み許可レジスタ（ECSIPR）の Magic Packet 検出割り込み許可ビット（MPDIP）をイネーブルに設定します。
4. 必要なら SH-4A の動作モードをスリープモードあるいは周辺機能をモジュールスタンバイモードに設定します。
5. Magic Packetを検出すると、SH-4Aには割り込みが通知されます。

24.4.8　IPG 設定による動作

EtherC は、送信フレーム間の無送信期間IPG（Inter Packet Gap）を変更する機能を有しています。IPG 設定レジスタ（IPGR）の設定値を変更することで、伝送効率を標準値よりも上げたり下げたりすることが可能です。なおIPG の設定はIEEE802.3 標準で定められています。設定を変更するときは、同じネットワークでそれぞれの機器がうまく動作するかどうかの確認作業を十分に行ってください。

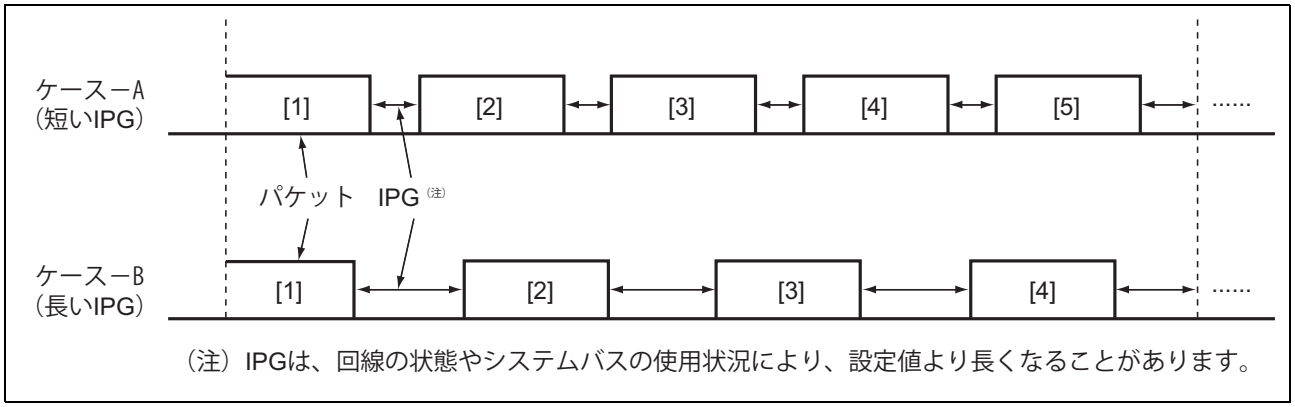


図 24.13　IPG の変更による伝送効率の違い

24.4.9　フロー制御

EtherC は、全二重動作時にIEEE802.3x 準拠のフロー制御機能をサポートしています。フロー制御は、受信と送信の双方の動作に対して適用することができます。フロー制御をするときのPAUSE フレームの送信には、次の手順があります。

(1)　自動PAUSE フレームの送信

受信フレームに対しては、受信FIFO（E-DMAC に内蔵）に書き込まれたデータ量がE-DMAC 内蔵のフロー制御開始FIFO しきい値設定レジスタ（FCFTR）に設定された値に達するとPAUSE フレームを自動送信します。このときのPAUSE フレームに含まれるTIME パラメータは、自動PAUSE フレーム設定レジスタ（APR）で設定します。自動PAUSE フレームの送信は、受信FIFO 内のデータが読み出されてデータ量がFCFTR 設定値未満になるまで繰り返されます。また、自動PAUSE フレーム再送回数設定レジスタ（TPAUSER）によりPAUSE フレームの再送信回数の上限値を設定することもできます。この場合は、受信FIFO 内のデータ量がFCFTR 設定値未満になるか、送信回数がTPAUSER の設定値に達するまでPAUSE フレームの送信が繰り返されます。自動PAUSE フレームの送信はEtherC モードレジスタ（ECMR）のTXF ビットが1 の場合に有効となります。

(2)　手動PAUSE フレームの送信

ソフトウェアからの指示により、PAUSE フレームを送信します。手動PAUSE フレーム設定レジスタ（MPR）へのTimer 値を書き込むと、手動PAUSE フレームの送信を開始します。この手順によるPAUSE フレームの送信は、1 回のみです。

(3)　PAUSE フレームの受信

PAUSE フレームを受信した場合、Timer 値の示す時間が経過するまで、次のフレーム送信を待ちます。ただし、送信中のフレームについては送信を継続します。PAUSE フレームの受信はEtherC モードレジスタ（ECMR）のRXF ビットが1 の場合に有効となります。

24.4.10　PHY-LSI との接続

図24.14 にAMD 社のAM79C875 との接続例を示します。

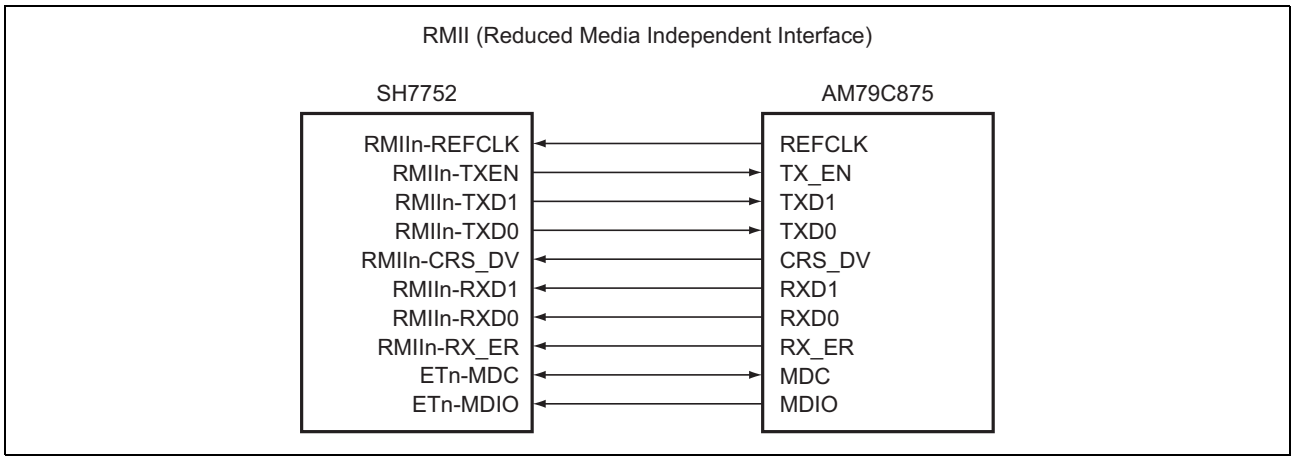


図 24.14　（RMII インタフェース）AM79C875 との接続例

24.5　使用上の注意事項

EtherC を使用する際は、以下のことに注意してください。

24.5.1　フロー制御不具合その1

全二重モードで受信系フロー制御を有効（ECMR のRXF ビット＝1）にしている場合、PAUSE フレームを受信すると、以降、通常の自局宛ユニキャストフレーム（CRC エラーでない非 PAUSE フレーム）を受信する度に、先のPAUSE フレームで指定されたタイムパラメータが不正に適用されてしまいます。結果、不必要な待ち時間が発生し、送信スループットが低下することがあります。なお、タイムパラメータ値は、次のPAUSE フレームを受信するまで保持されます。

本不具合は、相手局が本LSI と同様、TIME PAUSE フレーム送信機能をサポートしている場合、以下のとおり回避可能です。本LSI の0TIMEPAUSE フレームの使用を許可（ECMR のZPF ビット＝1）にしておき、相手局から 0TIMEPAUSE フレームを受信することで、EtherC 内部で不正に保持されたタイムパラメータをクリアします。これにより、不正な送信待ち時間を抑止することができます。

24.5.2　フロー制御不具合その2

全二重モードで受信系／送信系フロー制御を共に有効（ECMR のRXF＝1/TXF ビット＝1）にしていて、PAUSE期間が発生した場合、非PAUSE フレームの送信は待たされます（これは正常動作）が、PAUSE フレームの送信も不正に待たされてしまいます。IEEE802.3 では、PAUSE 期間中の非PAUSE フレームの送信は禁止されていますが、PAUSE フレームの送信は許可されています。

相手局からの要求によって（即ち、相手局からのPAUSE フレームの受信によって）、PASUE 期間が発生している場合、相手局の負荷は高く、逆に自局の負荷は比較的軽い状態であると言えます。よって、この期間にPAUSEフレームを送信する必要度は通常低く、本不具合の影響は使用上、低くなります。

24.5.3　GETHER、ETHERとの組み合わせで3チャネル以上を使用する場合の注意事項

図24.15 はMDIO端子、MDC端子 がRMII(ETHER)、RGMII(GETHER) でマルチプレックスされ、2つのチャネルでのみ利用できることを示します。GETHER、ETHERとの組み合わせで3チャネル以上を使用しなければならないときは、MDIO端子、MDC端子の代わりにRIIC などの端子を使用してください。

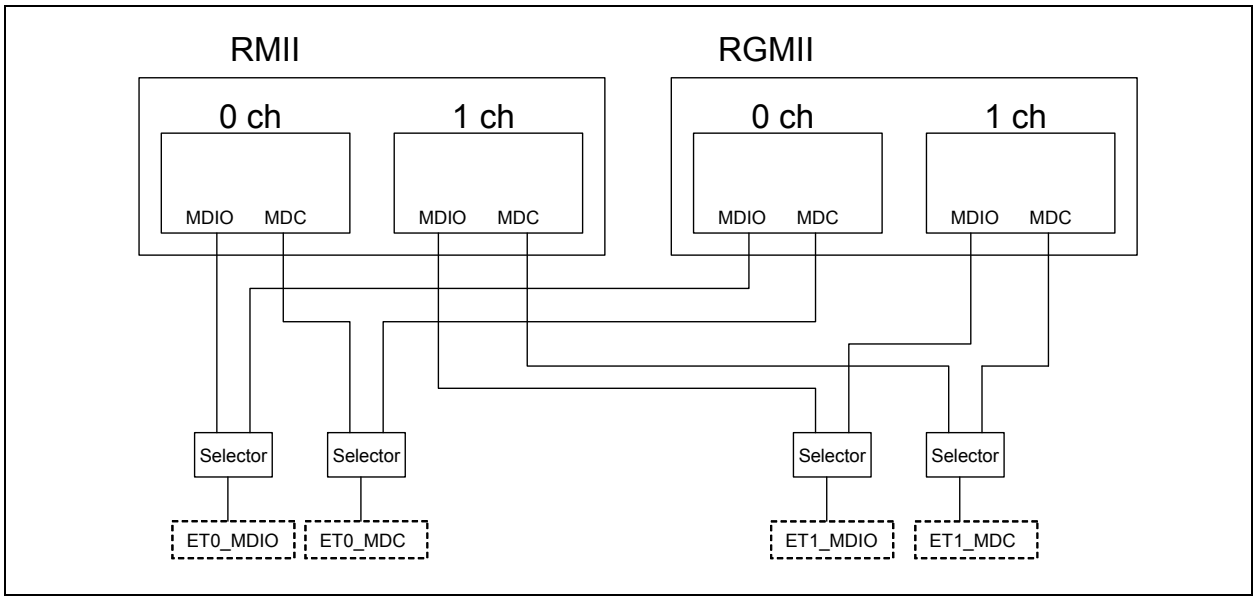


図 24.15　RMII、RGMIIの構成

25. I2C バスインタフェース（RIIC）

SH7752は、10チャネルのI2Cバスインタフェース（RIIC）を内蔵しています。

RIIC は、NXP 社が提唱する I2C バス（Inter-IC-Bus）インタフェース方式に準拠しており、そのサブセット機能を搭載しています。

25.1 概要

表25.1 にRIIC の仕様を、図25.1 にRIIC のブロック図を、図25.2 に入出力端子の外部回路接続例（I2C バス構成例）を示します。表25.2 にRIIC で使用する入出力端子を示します。

表25.1　RIICの仕様

項目	内容
通信フォーマット	• I2Cバスフォーマット/SMBusフォーマット • マスタ/スレーブ選択可能 • 設定した転送速度に応じた各種セットアップ時間、ホールド時間、バスフリー時間を自動確保
転送速度	～1Mbps
SCLクロック	• マスタ時、SCLクロックのデューティ比を4%～96%の範囲で設定可能
条件発行・条件検出	スタートコンディション/リスタートコンディション/ストップコンディションの自動生成、スタートコンディション（リスタートコンディション含む）/ストップコンディション検出可能
スレーブアドレス	• スレーブアドレスを3セット設定可能 • 7ビット/10ビットアドレスフォーマット対応（混在可能） • ジェネラルコールアドレス検出、デバイスIDアドレス検出、SMBusのホストアドレス検出可能
アクノリッジ応答	• 送信時、アクノリッジビットの自動ロード ノーアクノリッジ受信時に次送信データ転送の自動中断が可能 • 受信時、アクノリッジビットの自動送出 8クロック目と9クロック目の間にウェイトありを選択すると、受信データ内容に応じたアクノリッジビット応答のソフトウェア制御が可能（返信についてはACK 又はNACKから選択できます）
ウェイト機能	• 受信時、SCLクロックのLowホールドによるウェイトが可能 8クロック目と9クロック目の間をウェイト（このときに 受信データフル割り込みのタイミングを選択できます） 9クロック目と次の送信の1クロック目の間をウェイト（WAIT機能）
SDA出力遅延機能	• ノーアクノリッジ送信を含むデータ送信の出力タイミングを遅延させることが可能
アービトレーション	• マルチマスタ対応 他のマスタとのSCLクロック衝突時、SCLクロックの同期動作可能 スタートコンディション発行競合時、SDAライン上の信号の状態が不一致ならアービトレーションロスト検出可能 マスタ時、送信データ不一致でアービトレーションロスト検出可能 • バスビジー中のスタートコンディション発行でアービトレーションロスト検出可能（スタートコンディションの二重発行防止） • ノーアクノリッジ送信時、SDAライン上の信号の状態が不一致ならアービトレーションロスト検出可能 • スレーブ送信時、データ不一致でアービトレーションロスト検出可能
タイムアウト検出機能	• 内蔵タイムアウト検出機能によりSCLクロックの長時間停止を検出可能
ノイズ除去	• SCL、SDA入力にデジタルノイズフィルタを内蔵、ノイズ除去幅をプログラマブルに調整可能

項目	内容
割り込み要因	• 4種類 通信エラー/イベント発生（AL検出、NACK検出、タイムアウト検出、スタートコンディション検出（リスタートコンディション含む）、ストップコンディション検出） 受信データフル（スレーブアドレス一致時含む） 送信データエンプティ（スレーブアドレス一致時含む） 送信終了

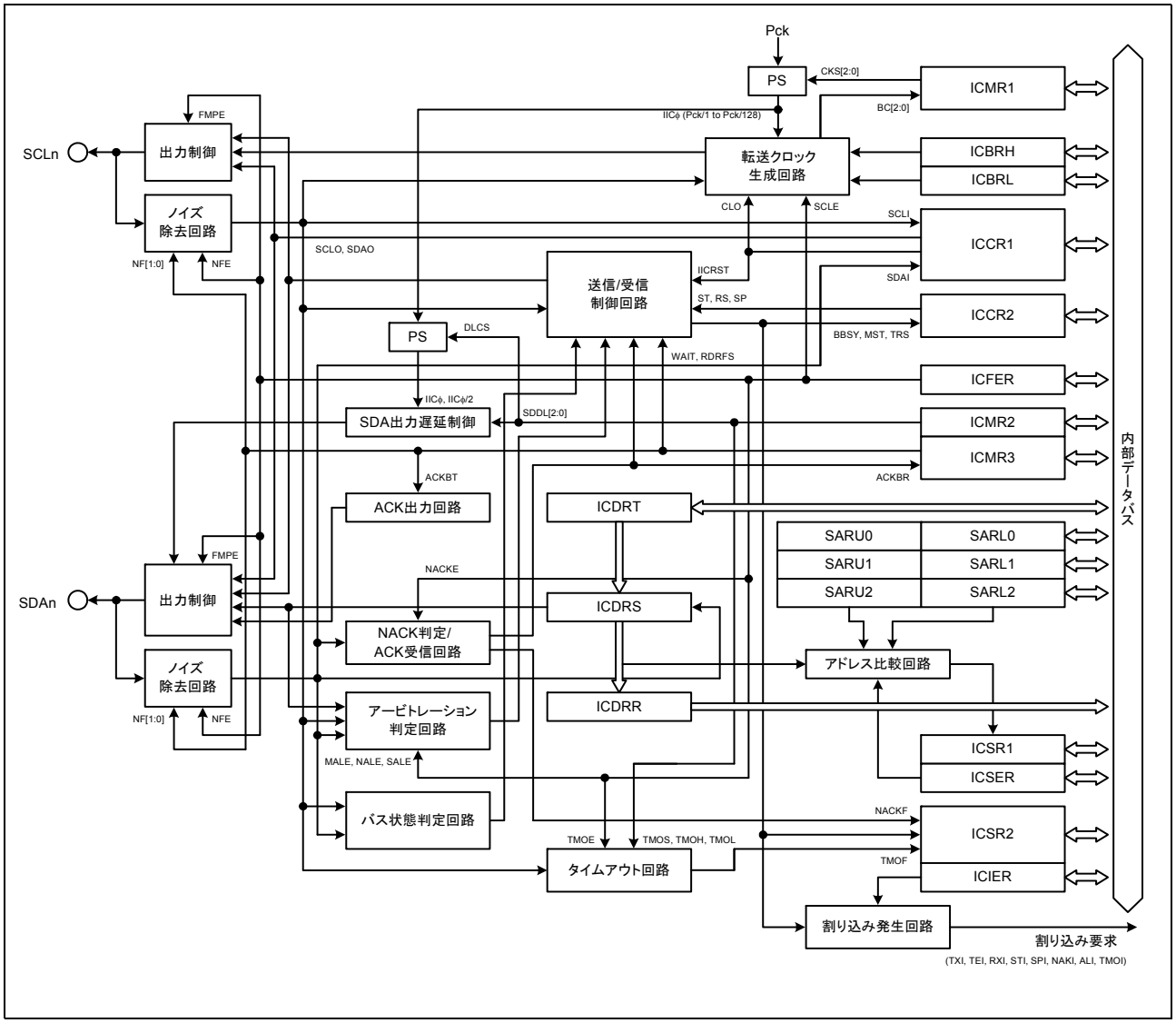


図 25.1　RIIC のブロック図

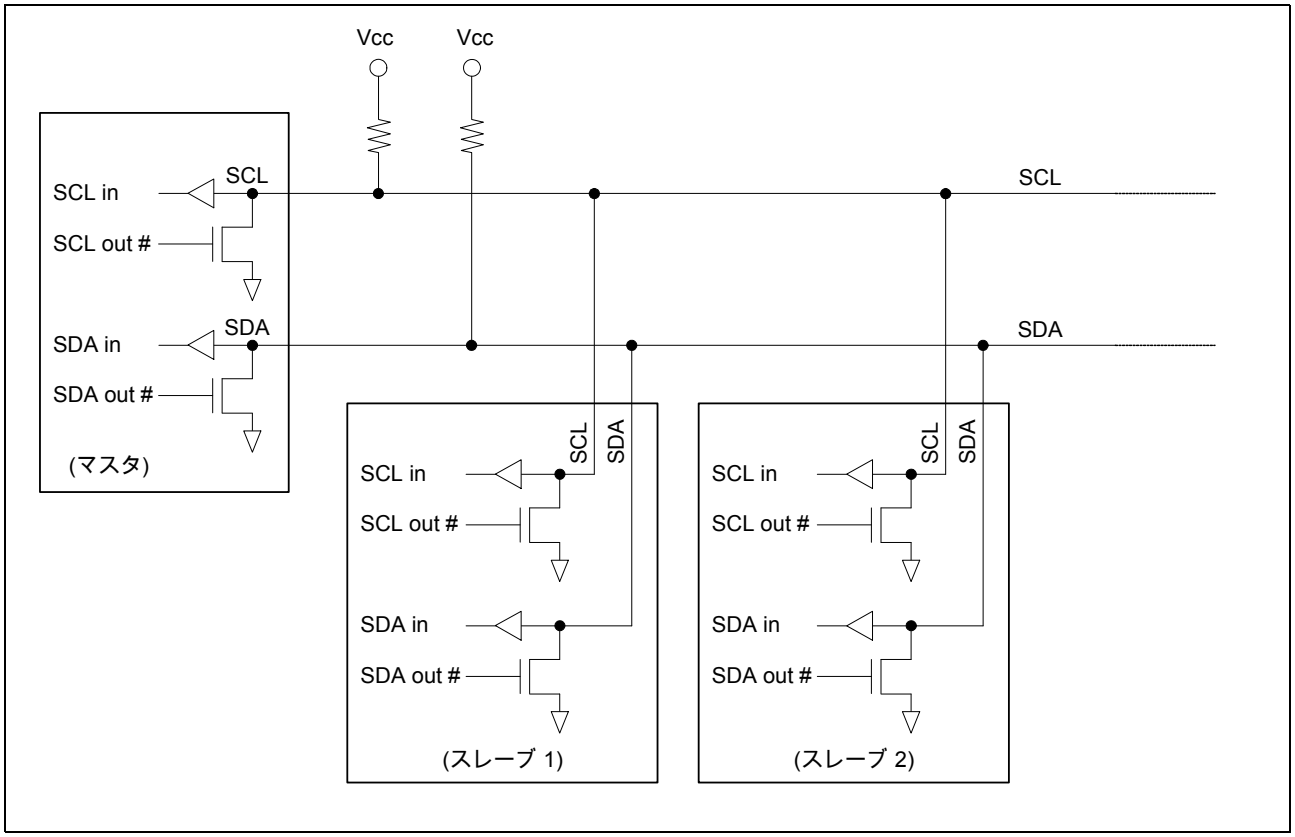


図 25.2　入出力端子の外部回路接続例
（I2C バス構成例）

表25.2　RIICの入出力端子

チャネル	端子名	入出力	機能
RIIC0	SCL0	I/O	RIIC0 側シリアルクロック入出力端子
	SDA0	I/O	RIIC0 側シリアルデータ入出力端子
RIIC1	SCL1	I/O	RIIC1 側シリアルクロック入出力端子
	SDA1	I/O	RIIC1 側シリアルデータ入出力端子
RIIC2	SCL2	I/O	RIIC2 側シリアルクロック入出力端子
	SDA2	I/O	RIIC2 側シリアルデータ入出力端子
RIIC3	SCL3	I/O	RIIC3 側シリアルクロック入出力端子
	SDA3	I/O	RIIC3 側シリアルデータ入出力端子
RIIC4	SCL4	I/O	RIIC4 側シリアルクロック入出力端子
	SDA4	I/O	RIIC4 側シリアルデータ入出力端子
RIIC5	SCL5	I/O	RIIC5側シリアルクロック入出力端子
	SDA5	I/O	RIIC5 側シリアルデータ入出力端子
RIIC6	SCL6	I/O	RIIC6 側シリアルクロック入出力端子
	SDA6	I/O	RIIC6 側シリアルデータ入出力端子
RIIC7	SCL7	I/O	RIIC7 側シリアルクロック入出力端子
	SDA7	I/O	RIIC7 側シリアルデータ入出力端子
RIIC8	SCL8	I/O	RIIC8 側シリアルクロック入出力端子
	SDA8	I/O	RIIC8 側シリアルデータ入出力端子
RIIC9	SCL9	I/O	RIIC9側 シリアルクロック入出力端子
	SDA9	I/O	RIIC9側シリアルデータ入出力端子

25.2　レジスタの説明

表25.3にRIIC のレジスター一覧を示します。

表25.3　RIICのレジスター一覧

チャネル	レジスタ名	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
						パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウエアリセット
RIIC0	I²C バスコントロールレジスタ 1	ICCR1	R/W	H'FE50 0000	8	H'1F	H'1F	H'1F
	I²C バスコントロールレジスタ2	ICCR2	R/W	H'FE50 0001	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスモードレジスタ 1	ICMR1	R/W	H'FE50 0002	8	H'08	H'08	H'08
	I²C バスモードレジスタ2	ICMR2	R/W	H'FE50 0003	8	H'06	H'06	H'06
	I²C バスモードレジスタ3	ICMR3	R/W	H'FE50 0004	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスファンクションイネーブルレジスタ	ICFER	R/W	H'FE50 0005	8	H'72	H'72	H'72
	I²C バスステータスイネーブルレジスタ	ICSER	R/W	H'FE50 0006	8	H'09	H'09	H'09
	I²C バスインタラプトイネーブルレジスタ	ICIER	R/W	H'FE50 0007	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスステータスレジスタ1	ICSR1	R/W	H'FE50 0008	8	H'00	H'00	H'00
	I²Cバスステータスレジスタ 2	ICSR2	R/W	H'FE50 0009	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタ L0	SARL0	R/W	H'FE50 000A	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタU0	SARU0	R/W	H'FE50 000B	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタL1	SARL1	R/W	H'FE50 000C	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタ U1	SARU1	R/W	H'FE50 000D	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタL2	SARL2	R/W	H'FE50 000E	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタU2	SARU2	R/W	H'FE50 000F	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスビットLレベルレジスタ	ICBRL	R/W	H'FE50 0010	8	H'FF	H'FF	H'FF
	I²Cバスビットレベルレジスタ	ICBRH	R/W	H'FE50 0011	8	H'FF	H'FF	H'FF
	I²C バス送信データレジスタ	ICDRT	R/W	H'FE50 0012	8	H'FF	H'FF	H'FF
	I²Cバス受信データレジスタ	ICDRR	R	H'FE50 0013	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスシフトレジスタ	ICDRS	—	—	8	—	—	—
RIIC1	I²C バスコントロールレジスタ1	ICCR1	R/W	H'FE51 0000	8	H'1F	H'1F	H'1F
	I²C バスコントロールレジスタ 2	ICCR2	R/W	H'FE51 0001	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスモードレジスタ1	ICMR1	R/W	H'FE51 0002	8	H'08	H'08	H'08
	I²C バスモードレジスタ2	ICMR2	R/W	H'FE51 0003	8	H'06	H'06	H'06
	I²C バスモードレジスタ3	ICMR3	R/W	H'FE51 0004	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスファンクションイネーブルレジスタ	ICFER	R/W	H'FE51 0005	8	H'72	H'72	H'72
	I²C バスステータスイネーブルレジスタ	ICSER	R/W	H'FE51 0006	8	H'09	H'09	H'09
	I²Cバスインタラプトイネーブルレジスタ	ICIER	R/W	H'FE51 0007	8	H'00	H'00	H'00
	I²Cバスステータスレジスタ1	ICSR1	R/W	H'FE51 0008	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスステータスレジスタ2	ICSR2	R/W	H'FE51 0009	8	H'00	H'00	H'00

チャネル	レジスタ名	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
						パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウエアリセット
RIIC1	スレーブアドレスレジスタL0	SARL0	R/W	H'FE51 000A	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタ U0	SARU0	R/W	H'FE51 000B	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタ L1	SARL1	R/W	H'FE51 000C	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタU1	SARU1	R/W	H'FE51 000D	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタL2	SARL2	R/W	H'FE51 000E	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタU2	SARU2	R/W	H'FE51 000F	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスビットLレベルレジスタ	ICBRL	R/W	H'FE51 0010	8	H'FF	H'FF	H'FF
	I²Cバスビットレベルレジスタ	ICBRH	R/W	H'FE51 0011	8	H'FF	H'FF	H'FF
	I²C バス送信データレジスタ	ICDRT	R/W	H'FE51 0012	8	H'FF	H'FF	H'FF
	I²C バス受信データレジスタ	ICDRR	R	H'FE51 0013	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスシフトレジスタ	ICDRS	—	—	8	—	—	—
RIIC2	I²C バスコントロールレジスタ1	ICCR1	R/W	H'FE52 0000	8	H'1F	H'1F	H'1F
	I²C バスコントロールレジスタ 2	ICCR2	R/W	H'FE52 0001	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスモードレジスタ1	ICMR1	R/W	H'FE52 0002	8	H'08	H'08	H'08
	I²C バスモードレジスタ2	ICMR2	R/W	H'FE52 0003	8	H'06	H'06	H'06
	I²C バスモードレジスタ3	ICMR3	R/W	H'FE52 0004	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスファンクションイネーブルレジスタ	ICFER	R/W	H'FE52 0005	8	H'72	H'72	H'72
	I²Cバスステータスイネーブルレジスタ	ICSER	R/W	H'FE52 0006	8	H'09	H'09	H'09
	I²Cバスインタラプトイネーブルレジスタ	ICIER	R/W	H'FE52 0007	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスステータスレジスタ1	ICSR1	R/W	H'FE52 0008	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスステータスレジスタ2	ICSR2	R/W	H'FE52 0009	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタL0	SARL0	R/W	H'FE52 000A	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタU0	SARU0	R/W	H'FE52 000B	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタL1	SARL1	R/W	H'FE52 000C	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタU1	SARU1	R/W	H'FE52 000D	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタL2	SARL2	R/W	H'FE52 000E	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタU2	SARU2	R/W	H'FE52 000F	8	H'00	H'00	H'00
	I²CバスビットLレベルレジスタ	ICBRL	R/W	H'FE52 0010	8	H'FF	H'FF	H'FF
	I²C バスビットレベルレジスタ	ICBRH	R/W	H'FE52 0011	8	H'FF	H'FF	H'FF
	I²C バス送信データレジスタ	ICDRT	R/W	H'FE52 0012	8	H'FF	H'FF	H'FF
	I²C バス受信データレジスタ	ICDRR	R	H'FE52 0013	8	H'00	H'00	H'00
	I²Cバスシフトレジスタ	ICDRS	—	—	8	—	—	—
RIIC3	I²C バスコントロールレジスタ 1	ICCR1	R/W	H'FE53 0000	8	H'1F	H'1F	H'1F
	I²C バスコントロールレジスタ2	ICCR2	R/W	H'FE53 0001	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスモードレジスタ1	ICMR1	R/W	H'FE53 0002	8	H'08	H'08	H'08
	I²C バスモードレジスタ2	ICMR2	R/W	H'FE53 0003	8	H'06	H'06	H'06

チャネル	レジスタ名	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
						パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウエアリセット
RIIC3	I²C バスモードレジスタ 3	ICMR3	R/W	H'FE53 0004	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスファンクションイネーブルレジスタ	ICFER	R/W	H'FE53 0005	8	H'72	H'72	H'72
	I²C バスステータスイネーブルレジスタ	ICSER	R/W	H'FE53 0006	8	H'09	H'09	H'09
	I²Cバスインタラプトイネーブルレジスタ	ICIER	R/W	H'FE53 0007	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスステータスレジスタ1	ICSR1	R/W	H'FE53 0008	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスステータスレジスタ2	ICSR2	R/W	H'FE53 0009	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタL0	SARL0	R/W	H'FE53 000A	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタU0	SARU0	R/W	H'FE53 000B	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタL1	SARL1	R/W	H'FE53 000C	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタU1	SARU1	R/W	H'FE53 000D	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタL2	SARL2	R/W	H'FE53 000E	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタ U2	SARU2	R/W	H'FE53 000F	8	H'00	H'00	H'00
	I²Cバスビットレベルレジスタ	ICBRL	R/W	H'FE53 0010	8	H'FF	H'FF	H'FF
	I²C バスビットHレベルレジスタ	ICBRH	R/W	H'FE53 0011	8	H'FF	H'FF	H'FF
	I²C バス送信データレジスタ	ICDRT	R/W	H'FE53 0012	8	H'FF	H'FF	H'FF
	I²C バス受信データレジスタ	ICDRR	R	H'FE53 0013	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスシフトレジスタ	ICDRS	—	—	8	—	—	—
RIIC4	I²C バスコントロールレジスタ 1	ICCR1	R/W	H'FE54 0000	8	H'1F	H'1F	H'1F
	I²C バスコントロールレジスタ2	ICCR2	R/W	H'FE54 0001	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスモードレジスタ1	ICMR1	R/W	H'FE54 0002	8	H'08	H'08	H'08
	I²C バスモードレジスタ2	ICMR2	R/W	H'FE54 0003	8	H'06	H'06	H'06
	I²Cバスモードレジスタ 3	ICMR3	R/W	H'FE54 0004	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスファンクションイネーブルレジスタ	ICFER	R/W	H'FE54 0005	8	H'72	H'72	H'72
	I²C バスステータスイネーブルレジスタ	ICSER	R/W	H'FE54 0006	8	H'09	H'09	H'09
	I²Cバスインタラプトイネーブルレジスタ	ICIER	R/W	H'FE54 0007	8	H'00	H'00	H'00
	I²Cバスステータスレジスタ 1	ICSR1	R/W	H'FE54 0008	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスステータスレジスタ2	ICSR2	R/W	H'FE54 0009	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタL0	SARL0	R/W	H'FE54 000A	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタU0	SARU0	R/W	H'FE54 000B	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタL1	SARL1	R/W	H'FE54 000C	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタU1	SARU1	R/W	H'FE54 000D	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタ L2	SARL2	R/W	H'FE54 000E	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタU2	SARU2	R/W	H'FE54 000F	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスビットレベルレジスタ	ICBRL	R/W	H'FE54 0010	8	H'FF	H'FF	H'FF

チャネル	レジスタ名	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
						パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウエアリセット
RIIC4	I²C バスビットHレベルレジスタ	ICBRH	R/W	H'FE54 0011	8	H'FF	H'FF	H'FF
	I²C バス送信データレジスタ	ICDRT	R/W	H'FE54 0012	8	H'FF	H'FF	H'FF
	I²C バス受信データレジスタ	ICDRR	R	H'FE54 0013	8	H'00	H'00	H'00
	I²Cバスシフトレジスタ	ICDRS	—	—	8	—	—	—
RIIC5	I²C バスコントロールレジスタ1	ICCR1	R/W	H'FE55 0000	8	H'1F	H'1F	H'1F
	I²C バスコントロールレジスタ2	ICCR2	R/W	H'FE55 0001	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスモードレジスタ1	ICMR1	R/W	H'FE55 0002	8	H'08	H'08	H'08
	I²C バスモードレジスタ2	ICMR2	R/W	H'FE55 0003	8	H'06	H'06	H'06
	I²C バスモードレジスタ3	ICMR3	R/W	H'FE55 0004	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスファンクションイネーブルレジスタ	ICFER	R/W	H'FE55 0005	8	H'72	H'72	H'72
	I²C バスステータスイネーブルレジスタ	ICSER	R/W	H'FE55 0006	8	H'09	H'09	H'09
	I²C バスインタラプトイネーブルレジスタ	ICIER	R/W	H'FE55 0007	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスステータスレジスタ1	ICSR1	R/W	H'FE55 0008	8	H'00	H'00	H'00
	I²Cバスステータスレジスタ2	ICSR2	R/W	H'FE55 0009	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタL0	SARL0	R/W	H'FE55 000A	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタU0	SARU0	R/W	H'FE55 000B	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタL1	SARL1	R/W	H'FE55 000C	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタU1	SARU1	R/W	H'FE55 000D	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタL2	SARL2	R/W	H'FE55 000E	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタU2	SARU2	R/W	H'FE55 000F	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスビットLレベルレジスタ	ICBRL	R/W	H'FE55 0010	8	H'FF	H'FF	H'FF
	I²C バスビットHレベルレジスタ	ICBRH	R/W	H'FE55 0011	8	H'FF	H'FF	H'FF
	I²C バス送信データレジスタ	ICDRT	R/W	H'FE55 0012	8	H'FF	H'FF	H'FF
	I²Cバス受信データレジスタ	ICDRR	R	H'FE55 0013	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスシフトレジスタ	ICDRS	—	—	8	—	—	—
RIIC6	I²C バスコントロールレジスタ1	ICCR1	R/W	H'FE56 0000	8	H'1F	H'1F	H'1F
	I²C バスコントロールレジスタ2	ICCR2	R/W	H'FE56 0001	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスモードレジスタ1	ICMR1	R/W	H'FE56 0002	8	H'08	H'08	H'08
	I²C バスモードレジスタ2	ICMR2	R/W	H'FE56 0003	8	H'06	H'06	H'06
	I²C バスモードレジスタ 3	ICMR3	R/W	H'FE56 0004	8	H'00	H'00	H'00
	I²Cバスファンクションイネーブルレジスタ	ICFER	R/W	H'FE56 0005	8	H'72	H'72	H'72
	I²C バスステータスイネーブルレジスタ	ICSER	R/W	H'FE56 0006	8	H'09	H'09	H'09
	I²Cバスインタラプトイネーブルレジスタ	ICIER	R/W	H'FE56 0007	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスステータスレジスタ 1	ICSR1	R/W	H'FE56 0008	8	H'00	H'00	H'00

チャネル	レジスタ名	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
						パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウエアリセット
RIIC6	I²C バスステータスレジスタ2	ICSR2	R/W	H'FE56 0009	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタ L0	SARL0	R/W	H'FE56 000A	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタU0	SARU0	R/W	H'FE56 000B	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタL1	SARL1	R/W	H'FE56 000C	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタU1	SARU1	R/W	H'FE56 000D	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタL2	SARL2	R/W	H'FE56 000E	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタU2	SARU2	R/W	H'FE56 000F	8	H'00	H'00	H'00
	I²CバスビットLレベルレジスタ	ICBRL	R/W	H'FE56 0010	8	H'FF	H'FF	H'FF
	I²C バスビットHレベルレジスタ	ICBRH	R/W	H'FE56 0011	8	H'FF	H'FF	H'FF
	I²C バス送信データレジスタ	ICDRT	R/W	H'FE56 0012	8	H'FF	H'FF	H'FF
	I²C バス受信データレジスタ	ICDRR	R	H'FE56 0013	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスシフトレジスタ	ICDRS	—	—	8	—	—	—
RIIC7	I²C バスコントロールレジスタ1	ICCR1	R/W	H'FE57 0000	8	H'1F	H'1F	H'1F
	I²C バスコントロールレジスタ2	ICCR2	R/W	H'FE57 0001	8	H'00	H'00	H'00
	I²Cバスモードレジスタ 1	ICMR1	R/W	H'FE57 0002	8	H'08	H'08	H'08
	I²C バスモードレジスタ2	ICMR2	R/W	H'FE57 0003	8	H'06	H'06	H'06
	I²Cバスモードレジスタ 3	ICMR3	R/W	H'FE57 0004	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスファンクションイネーブルレジスタ	ICFER	R/W	H'FE57 0005	8	H'72	H'72	H'72
	I²C バスステータスイネーブルレジスタ	ICSER	R/W	H'FE57 0006	8	H'09	H'09	H'09
	I²C バスインタラプトイネーブルレジスタ	ICIER	R/W	H'FE57 0007	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスステータスレジスタ1	ICSR1	R/W	H'FE57 0008	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスステータスレジスタ2	ICSR2	R/W	H'FE57 0009	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタL0	SARL0	R/W	H'FE57 000A	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタU0	SARU0	R/W	H'FE57 000B	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタL1	SARL1	R/W	H'FE57 000C	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタU1	SARU1	R/W	H'FE57 000D	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタL2	SARL2	R/W	H'FE57 000E	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタU2	SARU2	R/W	H'FE57 000F	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスビットLレベルレジスタ	ICBRL	R/W	H'FE57 0010	8	H'FF	H'FF	H'FF
	I²CバスビットHレベルレジスタ	ICBRH	R/W	H'FE57 0011	8	H'FF	H'FF	H'FF
	I²C バス送信データレジスタ	ICDRT	R/W	H'FE57 0012	8	H'FF	H'FF	H'FF
	I²C バス受信データレジスタ	ICDRR	R	H'FE57 0013	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスシフトレジスタ	ICDRS	—	—	8	—	—	—

チャネル	レジスタ名	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
						パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウエアリセット
RIIC8	I²C バスコントロールレジスタ 1	ICCR1	R/W	H'FE58 0000	8	H'1F	H'1F	H'1F
	I²C バスコントロールレジスタ 2	ICCR2	R/W	H'FE58 0001	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスモードレジスタ1	ICMR1	R/W	H'FE58 0002	8	H'08	H'08	H'08
	I²C バスモードレジスタ 2	ICMR2	R/W	H'FE58 0003	8	H'06	H'06	H'06
	I²C バスモードレジスタ3	ICMR3	R/W	H'FE58 0004	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスファンクションイネーブルレジスタ	ICFER	R/W	H'FE58 0005	8	H'72	H'72	H'72
	I²C バスステータスイネーブルレジスタ	ICSER	R/W	H'FE58 0006	8	H'09	H'09	H'09
	I²Cバスインタラプトイネーブルレジスタ	ICIER	R/W	H'FE58 0007	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスステータスレジスタ1	ICSR1	R/W	H'FE58 0008	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスステータスレジスタ2	ICSR2	R/W	H'FE58 0009	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタL0	SARL0	R/W	H'FE58 000A	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタU0	SARU0	R/W	H'FE58 000B	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタL1	SARL1	R/W	H'FE58 000C	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタU1	SARU1	R/W	H'FE58 000D	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタ L2	SARL2	R/W	H'FE58 000E	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタ U2	SARU2	R/W	H'FE58 000F	8	H'00	H'00	H'00
	I²Cバスビット L レベルレジスタ	ICBRL	R/W	H'FE58 0010	8	H'FF	H'FF	H'FF
	I²C バスビット H レベルレジスタ	ICBRH	R/W	H'FE58 0011	8	H'FF	H'FF	H'FF
	I²C バス送信データレジスタ	ICDRT	R/W	H'FE58 0012	8	H'FF	H'FF	H'FF
	I²Cバス受信データレジスタ	ICDRR	R	H'FE58 0013	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスシフトレジスタ	ICDRS	—	—	8	—	—	—
RIIC9	I²C バスコントロールレジスタ 1	ICCR1	R/W	H'FE59 0000	8	H'1F	H'1F	H'1F
	I²C バスコントロールレジスタ2	ICCR2	R/W	H'FE59 0001	8	H'00	H'00	H'00
	I²Cバスモードレジスタ1	ICMR1	R/W	H'FE59 0002	8	H'08	H'08	H'08
	I²C バスモードレジスタ2	ICMR2	R/W	H'FE59 0003	8	H'06	H'06	H'06
	I²C バスモードレジスタ3	ICMR3	R/W	H'FE59 0004	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスファンクションイネーブルレジスタ	ICFER	R/W	H'FE59 0005	8	H'72	H'72	H'72
	I²C バスステータスイネーブルレジスタ	ICSER	R/W	H'FE59 0006	8	H'09	H'09	H'09
	I²C バスインタラプトイネーブルレジスタ	ICIER	R/W	H'FE59 0007	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスステータスレジスタ1	ICSR1	R/W	H'FE59 0008	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスステータスレジスタ2	ICSR2	R/W	H'FE59 0009	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタL0	SARL0	R/W	H'FE59 000A	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタU0	SARU0	R/W	H'FE59 000B	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタL1	SARL1	R/W	H'FE59 000C	8	H'00	H'00	H'00

チャネル	レジスタ名	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
						パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウエアリセット
RIIC9	スレーブアドレスレジスタU1	SARU1	R/W	H'FE59 000D	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタ L2	SARL2	R/W	H'FE59 000E	8	H'00	H'00	H'00
	スレーブアドレスレジスタU2	SARU2	R/W	H'FE59 000F	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスビットL レベルレジスタ	ICBRL	R/W	H'FE59 0010	8	H'FF	H'FF	H'FF
	I²C バスビットH レベルレジスタ	ICBRH	R/W	H'FE59 0011	8	H'FF	H'FF	H'FF
	I²C バス送信データレジスタ	ICDRT	R/W	H'FE59 0012	8	H'FF	H'FF	H'FF
	I²C バス受信データレジスタ	ICDRR	R	H'FE59 0013	8	H'00	H'00	H'00
	I²C バスシフトレジスタ	ICDRS	—	—	8	—	—	—

25.2.1　I2C バスコントロールレジスタ1（ICCR1）

ICCR1 レジスタは、RIIC の動作/ 停止、RIIC の内部状態のリセット、SCL クロックの追加出力、SCLn 端子/SDAn 端子の操作、SCLn 端子/SDAn 端子のモニタなどを行うレジスタです。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	ICE	IICRST	CLO	SOWP	SCLO	SDAO	SCLI	SDAI
初期値:	0	0	0	1	1	1	1	1
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	ICE	0	R/W	I2C バスインタフェース許可ビット（注1） 0：RIICは機能停止（SCLn端子/SDAn端子はポート機能） 1：RIICは転送動作可能（SCLn端子/SDAn端子はバス駆動）
6	IICRST	0	R/W	I2C バスインタフェース内部リセットビット 0：RIIC/内部リセット解除 1：RIIC/内部リセット状態 （ビットカウンタのクリア、SCLn/SDAn出力ラッチを解除）
5	CLO	0	R/W	SCLクロック追加出力ビット 0：SCLクロックを追加で出力しない（通常状態） 1：SCLクロックを1クロック追加で出力する （1クロック出力後、自動的に“0”になる）
4	SOWP	1	R/W	SCLO/SDAOライトプロテクトビット（注2） “0”を書くとSCLO、SDAOビットに値が書き込める （読むと“1”が読める）
3	SCLO	1	R/W	SCL出力制御ビット（注2）（注3） 読み出し時 0：SCLn端子はLow出力 1：SCLn端子はハイインピーダンス 書き込み時 0：SCLn端子をLow出力に変更 1：SCLn端子をハイインピーダンスに変更 （外部プルアップ抵抗によりHigh出力）
2	SDAO	1	R/W	SDA出力制御ビット（注2）（注3） 読み出し時 0：SDAn端子はLow出力 1：SDAn端子はハイインピーダンス 書き込み時 0：SDAn端子をLow出力に変更 1：SDAn端子をハイインピーダンスに変更 （外部プルアップ抵抗によりHigh出力）
1	SCLI	1	R	SCLバス入力モニタビット 0：SCLn端子入力はLow 1：SCLn端子入力はHigh

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
0	SDAI	1	R	SDAバス入力モニタビット 0：SDAn端子入力はLow 1：SDAn端子入力はHigh

注1.　SCLn端子/SDAn端子はGPIOと兼用になっていますので、以下のレジスタ設定も併せて実施してください。

チャネル	GPIO 設定
RIIC0 ～ RIIC9	PRCR = h'0000、RSCR = h'0000、PMCR = h'0000 （ただし、RIIC8及びRIIC9を使用する場合は、H'FFEC 006E番地にH'0Cを設定してください）

注2.　SDAOビット及びSCLOビットを書き換える場合は、同時にSOWPビットを“0”にしてください。
3.　通信中に書き込みをしないでください。通信中に値を変更すると、送信/受信動作の異常動作やAL エラーが発生する場合があります。

ICE ビット（I²C バスインタフェース許可ビット）

RIIC の転送動作可能/機能停止を選択します。

ICE ビットを“0”（機能停止）にするとSCLn 端子/SDAn 端子はポート機能になります。また、ICE ビットが“0” のときIICRST ビットを“1” にするとRIIC リセット、ICE ビットが“1” のときIICRST ビットを“1” にすると内部リセットになります。

なお、予期せぬ通信開始を防止するためRIIC のレジスタの設定を行う際には、ICE ビットを“0”（機能停止）にし、すべてのレジスタ設定が完了した後ICE ビットを“1”（転送動作可能状態）にしてください。

IICRST ビット（I²C バス内部リセットビット）

RIIC の内部状態をリセットします。

IICRST ビットを“1” にすると、RIIC リセット又は内部リセットを行うことができます。

RIIC リセット、内部リセットはICE ビットとの組み合わせによって決定します。表25.4 にRIIC のリセットの種類を示します。

RIIC リセットではBBSY フラグ（ICCR2 レジスタのビット7）を含めた全レジスタ及び内部状態を、内部リセットではビットカウンタ（BC[2:0] ビット（ICMR1 レジスタのビット2～0））、I²Cバスシフトレジスタ（ICDRS）、I²C バスステータスレジスタ（ICSR1、ICSR2）及び内部状態をリセットします。各レジスタのリセット状況については、「25.14 リセット状況」を参照してください。

動作中（ICE ビット=1 の状態）、通信不具合などによりバス状態やRIIC がハングアップしたときにIICRST ビットを“1” にすると、ポートの設定、RIIC の各コントロールレジスタや設定レジスタを初期化せずにRIIC の内部状態をリセットすることができます。

またRIIC がLow を出力したままハングアップした場合、内部状態をリセットすることでSCLn 端子/SDAn 端子をハイインピーダンスにしてバスを解放することができます。

注.　スレーブモード時でマスタデバイスと通信中にバスハングアップなどによりIICRST ビットで内部リセットを行うと、マスタデバイスの状態と異なる状態（主に双方のビットカウンタ情報に差異が生じる）になる可能性があるため、スレーブモード時には基本的に内部リセットは行わず、復帰処理はマスタデバイスから行うようにしてください。もし、RIIC がスレーブモード時にSCLn ラインをLow 出力状態のままハングアップして内部リセットが必要な場合には、内部リセット後にマスタデバイスからリスタートコンディション発行、又はストップコンディション発行後スタートコンディション発行から通信をやり直すようにしてください。スレーブデバイスのみ単独でリセットを行い、マスタデバイスからスタートコンディション又はリスタートコンディション発行がないまま通信が再開された場合、双方の動作状態に差異が生じたまま動作することになるため同期ズレの原因になります。

表25.4　RIICのリセットの種類

IICRST	ICE	状態	内容
1	0	RIIC リセット	RIIC全レジスタ及び内部状態をリセット
	1	内部リセット	ICMR1 レジスタのBC[2:0]ビット、ICSR1、ICSR2、ICDRS レジスタ及び内部状態をリセット

CLO ビット（SCL クロック追加出力ビット）

SCL クロックを1 クロック単位で追加出力をする機能で、デバッグ時又は異常処理時に使用します。
通常は“0” にしてください。正常な通信動作中に使用すると通信エラーの原因になります。
本機能の詳細については、「25.11.2 SCL クロック追加出力機能」を参照してください。

SOWP ビット（SCLO/ SDAO ライトプロテクトビット）

SCLO、SDAO ビットへの書き込みを制御します。

SCLO ビット（SCL 出力制御ビット）

SCLn 端子の出力レベルを制御します。また、SCLn 端子の出力状態を示します。

SDAO ビット（SDA 出力制御ビット）

SDAn 端子の出力レベルを制御します。また、SDAn 端子の出力状態を示します。

SCLI ビット（SCL バス入力モニタビット）

SCLn 端子の入力レベルを示します。

SDAI ビット（SDA バス入力モニタビット）

SDAn 端子の入力レベルを示します。

25.2.2　I2C バスコントロールレジスタ2（ICCR2）

ICCR2 レジスタは、I2C バスインタフェースの制御を行うレジスタで、I2C バスの占有/解放、送受信モード選択、マスタ/スレーブモード選択などの機能を持ちます。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	BBSY	MST	TRS	-	SP	RS	ST	-
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R/W(注)	R/W(注)	—	R/W	R/W	R/W	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	BBSY	0	R	バスビジー検出フラグ 0：I2Cバスが解放状態（バスフリー状態） 1：I2Cバスが占有状態（バスビジー状態又はバスフリーの期間中）
6	MST	0	R/W（注）	マスタ/スレーブモードビット 0：スレーブモード 1：マスタモード
5	TRS	0	R/W（注）	送信/受信モードビット 0：受信モード 1：送信モード
4	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

3	SP	0	R/W	ストップコンディション発行要求ビット 0：ストップコンディションの発行を要求しない 1：ストップコンディションの発行を要求する
2	RS	0	R/W	リスタートコンディション発行要求ビット 0：リスタートコンディションの発行を要求しない 1：リスタートコンディションの発行を要求する
1	ST	0	R/W	スタートコンディション発行要求ビット 0：スタートコンディションの発行を要求しない 1：スタートコンディションの発行を要求する
0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

注.　ICMR1 レジスタの MTWP ビットが“1”のとき、書き込めます。

BBSY フラグ（バスビジー検出フラグ）

I2C バスの占有（バスビジー）/ 解放状態（バスフリー）を示します。

SCLn ラインが High の状態で SDAn ラインが High から Low に変化すると、スタートコンディションが発行されたと認識して“1” になります。

SCLn ラインが High の状態で SDAn ラインが Low から High に変化すると、ストップコンディションが発行されたと認識し、バスフリーの時間（ICBRL レジスタに設定した時間）スタートコンディション検出がないとき“0” になります。

［“1” になる条件］

- スタートコンディションを検出したとき

［“0” になる条件］

- ストップコンディションを検出後、バスフリーの時間（ICBRL レジスタに設定した時間）スタートコンディション検出がないとき
- ICE ビット（ICCR1 レジスタのビット 7）が“0” の状態で IICRST ビット（ICCR1 レジスタのビット 6）に“1” を書いたとき（RIIC リセット）

MST ビット（マスタ / スレーブモードビット）

マスタモード/ スレーブモードを示すビットです。

MST ビットが “0” のときスレーブモード、MST ビットが “1” のときマスタモードを表し、TRS ビットとの組み合わせで RIIC の動作モードを表します。

MST ビットは、スタートコンディションの発行、ストップコンディションの発行 / 検出などで “1”/“0” になり、動作モードは自動的にマスタモード又はスレーブモードに移行します。ICMR1 レジスタの MTWP ビットが“1” のとき書き込みはできますが、通常では書き込みの必要はありません。

［“1” になる条件］

- スタートコンディション発行要求によるスタートコンディションが正常に発行されたとき（ST ビットが“1” の状態で、スタートコンディションを検出したとき）
- MTWP ビット（ICMR1 レジスタのビット 7）が“1” の状態で“1” を書いたとき

［“0” になる条件］

- ストップコンディションを検出したとき
- AL フラグ（ICSR2 レジスタのビット 1）が“1” になったとき（アービトレーションロスト）
- ICMR1 レジスタの MTWP ビットが“1” の状態で“0” を書いたとき
- ICCR1 レジスタの IICRST ビットに“1” を書き、RIIC リセット又は内部リセットしたとき

TRS ビット（送信/ 受信モードビット）

送信/ 受信モードを示すビットです。

TRS ビットが“0” のとき受信モード、TRS ビットが“1” のとき送信モードを表し、MST ビットとの組み合わせでRIIC の動作モードを表します。

TRS ビットは、スタートコンディションの発行/ 検出及びR/$\overline{W}$ ビットなどで“1”/“0” になり、動作モードは自動的に送信モード又は受信モードに移行します。ICMR1 レジスタのMTWP ビットが“1” のとき書き込みはできますが、通常では書き込みの必要はありません。

[“1” になる条件]

- スタートコンディション発行要求により正常にスタートコンディションが発行されたとき（ST ビットが“1” の状態で、スタートコンディションを検出したとき）
- マスタモード時、スレーブアドレスに付加したR/$\overline{W}$ ビットが“0” のとき
- スレーブモード時、受信したスレーブアドレスがICSER　レジスタで有効にしたアドレスと一致し、かつR/$\overline{W}$ ビットに“1” を受信したとき
- ICMR1 レジスタのMTWP ビットが“1” の状態で“1” を書いたとき

[“0” になる条件]

- ストップコンディションを検出したとき
- ICSR2 レジスタのAL フラグが“1” になったとき（アービトレーションロスト）
- マスタモード時、スレーブアドレスに付加したR/$\overline{W}$ ビットが“1” のとき
- スレーブモード時、受信したスレーブアドレスがICSER　レジスタで有効にしたアドレスと一致し、かつR/$\overline{W}$ ビットに“0” を受信したとき（ジェネラルコールアドレス含む）
- スレーブモード時、リスタートコンディションを検出したとき（ICCR2.BBSY=1、ICCR2.MST=0 の状態でスタートコンディションを検出したとき）
- ICMR1 レジスタのMTWP ビットが“1” の状態で“0” を書いたとき
- ICCR1 レジスタのIICRST ビットに“1” を書いた時

SP ビット（ストップコンディション発行要求ビット）

マスタモードでストップコンディションの発行を要求します。

SP ビットが“1” になるとストップコンディションの発行を要求し、BBSY フラグが“1”（バスビジー）でかつMST ビットが“1”（マスタモード）のとき、ストップコンディションの発行を行います。

ストップコンディション発行の詳細動作については、「25.10.3 ストップコンディション発行動作」を参照してください。

[“1” になる条件]

- SP = 0 を読み出した後” 1 ”を書いたとき

[“0” になる条件]

- SP = 1 を読み出した後”0”を書いたとき
- ストップコンディションの発行が完了したとき、又はストップコンディションを検出したとき
- ICSR2 レジスタのAL フラグが“1” になったとき（アービトレーションロスト）
- スタートコンディション及びリスタートコンディションを検出したとき
- ICCR1 レジスタのIICRST ビットに“1” を書き、RIIC リセット又は内部リセットしたとき

注1. BBSY フラグ=0（バスフリー）のとき書き込みはできません。
2. リスタートコンディション発行中にSP ビットを“1” にしないでください。

RS ビット（リスタートコンディション発行要求ビット）

マスタモードでリスタートコンディションの発行を要求します。

RS ビットが“1” になるとリスタートコンディションの発行を要求し、BBSY フラグが“1”（バスビジー）でかつMST ビットが“1”（マスタモード）のとき、リスタートコンディションの発行を行います。

リスタートコンディション発行の詳細動作については、「25.10.2 リスタートコンディション発行動作」を参照してください。

［“1” になる条件］
- “1” を書いたとき

［“0” になる条件］
- “0” を書いたとき
- リスタートコンディションの発行が完了したとき、又はスタートコンディションを検出したとき
- ICSR2 レジスタの AL フラグが“1” になったとき（アービトレーションロスト）
- ICCR1 レジスタの IICRST ビットに“1” を書き、RIIC リセット又は内部リセットしたとき

注1. BBSY フラグが”0”のとき（バスフリー）、RS ビットに書き込めません。
2. ストップコンディション発行中に RS ビットを“1” にしないでください
3. マスタモード以外で RS ビットに“1”（リスタートコンディション発行要求）を書いた場合、リスタートコンディションはその動作モードでは発行されずに RS ビットは“1” のままになります。このまま動作モードをマスタモードに移行させた場合、リスタートコンディションが発行される可能性がありますので注意してください。

ST ビット（スタートコンディション発行要求ビット）

マスタモードへの移行及びスタートコンディションの発行を要求します。

ST ビットが“1” になるとスタートコンディションの発行を要求し、BBSY フラグが“0”（バスフリー）のときスタートコンディションの発行を行います。

スタートコンディション発行の詳細については、「25.10.1 スタートコンディション発行動作」を参照してください。

［“1” になる条件］
- “1” を書いたとき

［“0” になる条件］
- “0” を書いたとき
- スタートコンディションの発行が完了したとき
- ICSR2 レジスタの AL フラグが“1” になったとき（アービトレーションロスト）
- ICCR1 レジスタの IICRST ビットに“1” を書き、RIIC リセット又は内部リセットしたとき

注. ST ビットは、BBSY フラグが“0”（バスフリー）のとき、“1”（スタートコンディション発行要求）にしてください。BBSY フラグが“1”（バスビジー）のとき、ST ビットを“1”（スタートコンディション発行要求）にすると、スタートコンディション発行エラーとしてアービトレーションロストが発生しますので注意してください。

25.2.3　I2Cバスモードレジスタ1（ICMR1）

ICMR1 レジスタは、RIIC の内部基準クロックソースを選択したり、転送ビット数情報を得たり、ICCR2 レジスタのMST、TRS ビットのライトプロテクトを制御したりするレジスタです。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	MTWP	CKS[2:0]			BCWP	BC[2:0]		
初期値:	0	0	0	0	1	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	MTWP	0	R/W	MST/TRS ライトプロテクトビット 0：ICCR2 レジスタのMST、TRS ビットへの書き込み禁止 1：ICCR2 レジスタのMST、TRS ビットへの書き込み許可
6 ～ 4	CKS[2:0]	0	R/W	内部基準クロック (IICφ)選択ビット（注1） b6 b5 b4 0 0 0 : Pck 0 0 1 : Pck/2 0 1 0 : Pck/4 0 1 1 : Pck/8 1 0 0 : Pck/16 1 0 1 : Pck/32 1 1 0 : Pck/64 1 1 1 : Pck/128
3	BCWP	1	R/W	BC ライトプロテクトビット（注2） 0：BC[2:0]の値を設定許可（読むと“1”が読めます）
2 ～ 0	BC[2:0]	0	R/W	ビットカウンタ（注2） b2 b1 b0 0 0 0 : 9 ビット 0 0 1 : 2 ビット 0 1 0 : 3 ビット 0 1 1 : 4 ビット 1 0 0 : 5 ビット 1 0 1 : 6 ビット 1 1 0 : 7 ビット 1 1 1 : 8 ビット

注1. タイムアウト検出機能（TMOE ビット（ICFER レジスタのビット0）＝1）が使用できるのは、“000”（Pck）を設定した場合だけですので注意してください。
2. BC[2:0]ビットは、BCWP ビット＝0と同時に（1命令で）書き換えてください。

MTWP ビット（MST/TRS ライトプロテクトビット）

ICCR2 レジスタのMST、TRS ビットへの書き込みを制御します。

CKS[2:0] ビット（内部基準クロック選択ビット）

RIIC の内部基準クロックソース（IICφ）を選択します。

BCWP ビット（BC ライトプロテクトビット）

BC[2:0] ビットへの書き込みを制御します。

BC[2:0] ビット（ビットカウンタ）

SCLn ラインの立ち上がりでダウンカウントを行うカウンタで、読み出すと残りの転送ビット数を知ることができます。読み出し及び書き込みはできますが、通常ではアクセスする必要はありません。

なお、書き込みを行う場合には転送するデータのビット数＋ 1 を指定し（データにアクノリッジ1 ビットが付加されて転送される）、転送フレーム間でかつSCLn ラインがLow の状態で行ってください。

BC[2:0] ビットはアクノリッジを含むデータ転送終了時、自動的に“000b” に戻ります。

25.2.4　I²C バスモードレジスタ 2（ICMR2）

ICMR2 レジスタは、タイムアウト検出機能、SDA 出力遅延機能を持つレジスタです。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	DLCS	SDDL[2:0]			—	TMOH	TMOL	TMOS
初期値:	0	0	0	0	0	1	1	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	—	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	DLCS	0	R/W	SDA出力遅延クロックソース選択ビット 0：SDA出力遅延カウンタのクロックソースに内部基準クロック (IICϕ) を選択 1：SDA出力遅延カウンタのクロックソースに内部基準クロックの2分周 (IICϕ/2) を選択
6～4	SDDL[2:0]	0	R/W	SDA出力遅延カウンタ • ICMR2 レジスタの DLCS = 0 (IICϕ)のとき b6 b5 b4 0 0 0 : 出力遅延なし 0 0 1 : 1 IICϕ サイクル 0 1 0 : 2 IICϕ サイクル 0 1 1 : 3 IICϕ サイクル 1 0 0 : 4 IICϕ サイクル 1 0 1 : 5 IICϕ サイクル 1 1 0 : 6 IICϕ サイクル 1 1 1 : 7 IICϕ サイクル • ICMR2 レジスタの DLCS = 1 (IICϕ/2)のとき b6b5b4 0 0 0 : 出力遅延なし 0 0 1 : 1 or 2 IICϕ サイクル 0 1 0 : 3 or 4 IICϕ サイクル 0 1 1 : 5 or 6 IICϕ サイクル 1 0 0 : 7 or 8 IICϕ サイクル 1 0 1 : 9 or 10 IICϕ サイクル 1 1 0 : 11 or 12 IICϕ サイクル 1 1 1 : 13 or 14 IICϕ サイクル
3	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
2	TMOH	1	R/W	タイムアウトHカウント制御ビット 0：SCLnラインがHighでカウント禁止 1：SCLnラインがHighでカウント有効
1	TMOL	1	R/W	タイムアウトLカウント制御ビット 0：SCLnラインがLowでカウント禁止 1：SCLnラインがLowでカウント有効

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
0	TMOS	0	R/W	タイムアウト検出時間選択ビット 0：ロングモードを選択 1：ショートモードを選択

DLCS ビット（SDA 出力遅延クロックソース選択ビット）

SDA 出力遅延時間のクロックソースに内部基準クロック（IICφ）か、内部基準クロックの2 分周（IICφ/2）かを選択するビットです。

SDDL[2:0] ビット（SDA 出力遅延カウンタ）

SDDL[2:0] ビットの設定値により、SDA 出力を遅延させることができます。SDA 出力遅延カウンタは、DLCS ビットで選択したクロックソースによりカウントします。また、この機能の設定はアクノリッジビット送出を含むすべてのSDA 出力に適用されます。

本機能の詳細については、「25.5 SDA 出力遅延機能」を参照してください。

注1. SDA 出力遅延の設定は、I2C バス規格（データ有効時間/ アクノリッジ有効時間（注2）内）又はSMBus 規格（データホールド時間：300ns 以上、かつSCL クロックのLow 幅－データセットアップ時間：250ns の範囲内）に収まるようにしてください。規格外を設定した場合、通信デバイスとの通信破綻を引き起こすか、バスの状態によっては見かけ上スタートコンディション又はストップコンディションになる可能性がありますので注意してください。

注2. データ有効時間/ アクノリッジ有効時間
3,450ns（～100kbps ：スタンダードモード[Sm]）
900ns（～400kbps ：ファストモード[fm]）
450ns（～1Mbps ：ファストモードプラス[fm+]）

TMOH ビット（タイムアウトH カウント制御ビット）

タイムアウト検出機能有効時（TMOE ビット（ICFER レジスタのビット0）=1）にSCLn ラインがHigh 期間中にタイムアウト検出機能の内部カウンタのカウントアップを有効にするか禁止にするかを選択するビットです。

TMOL ビット（タイムアウトL カウント制御ビット）

タイムアウト検出機能有効時（ICFER レジスタのTMOE ビット=1）にSCLn ラインがLow 期間中にタイムアウト検出機能の内部カウンタのカウントアップを有効にするか禁止にするかを選択するビットです。

TMOS ビット（タイムアウト検出時間選択ビット）

タイムアウト検出機能有効時（ICFER レジスタのTMOE ビット=1）にタイムアウト検出時間を選択するビットで、“0”にするとロングモード、“1”にするとショートモードになります。ロングモードではタイムアウト検出用内部カウンタが16 ビットカウンタとして、またショートモードでは14 ビットカウンタとして動作し、SCLn ラインがTMOH、TMOL ビットで選択された状態になったとき、内部基準クロック (IICϕ) をカウントソースとしてアップカウントを行います。

タイムアウト検出機能の詳細については、「25.11.1 タイムアウト検出機能」を参照してください。

25.2.5　I²C バスモードレジスタ 3（ICMR3）

ICMR3 レジスタは、アクノリッジ送受信機能、RIIC 受信動作における RDRF フラグ、WAIT 動作などを制御するレジスタです。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	SMBS	WAIT	RDRFS	ACKWP	ACKBT	ACKBR	NF[1:0]	
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	W	R/W	R	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	SMBS	0	R/W	SMBus/I²C バス選択ビット 0: I²C バス選択（SCL/SDAの入力バッファはシュミットタイプが選択される） 1: SMBus 選択（SCL/SDAの入力バッファはCMOSタイプが選択される）
6	WAIT	0	R/W	WAITビット（注1） 0：WAITなし （9クロック目と1クロック目の間をLowにホールドしない） 1：WAITあり （9クロック目と1クロック目の間をLowにホールドする） • LowホールドはICDRRレジスタの読み出しで解除
5	RDRFS	0	R/W	RDRFフラグセットタイミング選択ビット（注1） 0：SCLクロックの9クロック目の立ち上がり時に“1”になる （8クロック目の立ち下がりでSCLnラインをLowにホールドしない） 1：SCLクロックの8クロック目の立ち上がり時に“1”になる （8クロック目の立ち下がりでSCLnラインをLowにホールドする） • LowホールドはACKBTビットへの書き込みで解除
4	ACKWP	0	W	ACKBTライトプロテクトビット 0：ACKBTビットへの書き込み禁止 1：ACKBTビットへの書き込み許可（注2）
3	ACKBT	0	R/W	送信アクノリッジビット（注2） 0：アクノリッジビットに“0”を送出（ACK送信） 1：アクノリッジビットに“1”を送出（NACK送信）
2	ACKBR	0	R	受信アクノリッジビット 0：アクノリッジビットに“0”を受信（ACK受信） 1：アクノリッジビットに“1”を受信（NACK受信）
1、0	NF[1:0]	00	R/W	ノイズフィルタ段数選択ビット b1 b0 0 0：1-IICφ 以下のノイズを除去（フィルタは1段） 0 1：2-IICφ 以下のノイズを除去（フィルタは2段） 1 0：3-IICφ 以下のノイズを除去（フィルタは3段） 1 1：4-IICφ 以下のノイズを除去（フィルタは4段）

注1.　WAITビット及びRDRFSビットは、受信モードのみ有効、送信モード時は無効です。
2.　ACKWPビットは、ACKBTビットへの書き込みと同時に“1”にしても、ACKBTビットに書き込みはできません。

SMBS ビット（SMBus/I2C バス選択ビット）

SMBS ビットを“1”にすると、SMBus が選択されHOAE ビット（ICSER レジスタのビット7）が有効になります。

WAIT ビット（WAIT ビット）

WAIT ビットは、受信モードにおいて1 バイト受信ごとに受信データバッファ（ICDRR レジスタ）の読み出しが完了するまで、SCL クロックの9 クロック目と1 クロック目の間をLow にホールドするかどうかを制御します。

WAITビットが“0”のとき、SCLクロックの9クロック目と1クロック目の間のLowホールドは行わず、受信動作をそのまま継続します。RDRFS ビットと WAIT ビットがともに“0” のとき、ダブルバッファによる連続受信動作が可能です。

WAIT ビットが“1” のとき、1 バイト受信ごとに9 クロック目の立ち下がり以降、ICDRR レジスタの値が読み出されるまでの間SCLn ラインをLow にホールドします。これにより1 バイトごとの受信動作が可能です。

注. WAIT ビットを“0” にする場合は、ICDRR を先に読んでから“0” にしてください。

RDRFS ビット（RDRF フラグセットタイミング選択ビット）

受信モードにおいてRDRF フラグのセットタイミング及びSCL クロックの8 クロック目の立ち下がりでSCLn ラインのLow ホールドを行うかどうかを選択します。

RDRFS ビットが“0” のとき、8 クロック目の立ち下がりでSCLn ラインのLow ホールドは行わず、9 クロック目の立ち上がりでRDRF フラグを“1” にします。

RDRFS ビットが“1” のとき、RDRF フラグは8 クロック目の立ち上がりで“1” にし、8 クロック目の立ち下がりでSCLn ラインをLow にホールドします。このSCLn ラインのLow ホールドはACKBT ビットへの書き込みにより解除されます。

この設定のとき、データ受信後アクノリッジビット送出前にSCLn ラインを自動的にLow にホールドするため、受信データの内容に応じてACK（ACKBT ビットが“0”）又はNACK（ACKBT ビットが“1”）を送出する処理が可能です。

ACKWP ビット（ACKBT ライトプロテクトビット）

ACKBT ビットへの書き込みを制御します。

ACKBT ビット（送信アクノリッジビット）

受信モード時にアクノリッジのタイミングで送出するビットを設定します。

[“1” になる条件]

- ACKWP ビットが“1” の状態で“1” を書いたとき

[“0” になる条件]

- ACKWP ビットが“1” の状態で“0” を書いたとき
- ストップコンディションの発行を検出したとき（SP ビット（ICCR2 レジスタのビット3）が“1”の状態でストップコンディションを検出したとき）
- ICCR1 レジスタのICE ビットが“0” の状態でICCR1 レジスタのIICRST ビットに“1” を書いたとき（RIIC リセット）

注. ACKBT ビットに書き込みを行う場合には、ACKWP ビットが“1” の状態で行ってください。
ACKWP ビットが“0” の状態で書き込みを行った場合には、ACKBT ビットへの書き込みは無効となります。

ACKBR ビット（受信アクノリッジビット）

送信モード時に受信デバイスから受け取ったアクノリッジビットの内容を格納します。

[“1” になる条件]

• TRS ビット（ICCR2 レジスタのビット 5）が“1” の状態でアクノリッジビットに“1” を受信したとき

［“0” になる条件］

• ICCR2 レジスタの TRS ビットが“1” の状態でアクノリッジビットに“0” を受信したとき

• ICCR1 レジスタの ICE ビットが“0” の状態で ICCR1 レジスタの IICRST ビットに“1” を書いたとき（RIIC リセット）

NF[1:0] ビット（ノイズフィルタ段数選択ビット）

デジタルノイズフィルタの段数を選択します。

注. ノイズフィルタで除去するノイズ幅の設定は、SCLn ラインの High/Low 幅よりも狭くしてください。（SCL クロックの幅：High 幅又は Low 幅のいずれか短い方）－｛1.5 内部基準クロック同期（IICφ）｝と同じか、それ以上に設定した場合は、RIIC のノイズフィルタ機能により SCL クロックをノイズとみなし、正常に動作することができなくなる可能性がありますので注意してください。

25.2.6 I2C バスファンクションイネーブルレジスタ（ICFER）

CFER レジスタは、タイムアウト検出機能、アービトレーションロスト、NACK 受信時の受信動作、SCL 同期回路、デジタルノイズフィルタ回路の使用/ 不使用などを制御するレジスタです。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	FMPE	SCLE	NFE	NACKE	SALE	NALE	MALE	TMOE
初期値:	0	1	1	1	0	0	1	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	FMPE	0	RW	Fast-mode Plus 許可ビット 0：SCLn 端子/SDAn 端子に fm+ 用スロープ制御回路を使用しない 1：SCLn 端子/SDAn 端子に fm+ 用スロープ制御回路を使用する
6	SCLE	1	RW	SCL 同期回路許可ビット 0：SCL 同期回路無効 1：SCL 同期回路有効
5	NFE	1	RW	デジタルノイズフィルタ回路許可ビット 0：デジタルノイズフィルタ回路を使用しない 1：デジタルノイズフィルタ回路を使用する
4	NACKE	1	RW	NACK 受信転送中断許可ビット 0：NACK 受信時、転送を中断しない（転送中断禁止） 1：NACK 受信時、転送を中断する（転送中断許可）
3	SALE	0	RW	スレーブアービトレーションロスト検出許可ビット 0：スレーブアービトレーションロスト検出禁止 1：スレーブアービトレーションロスト検出許可
2	NALE	0	RW	NACK 送信アービトレーションロスト検出許可ビット 0：NACK 送信アービトレーションロスト検出禁止 1：NACK 送信アービトレーションロスト検出許可

1	MALE	1	RW	マスタアービトレーションロスト検出許可ビット 0：マスタのアービトレーションロスト検出禁止 （アービトレーションロスト検出機能を無効にし、アービトレーションロスト発生によるICCR2 レジスタのMST、TRS ビットの自動クリアを行わない） 1：マスタアービトレーションロスト検出許可 （アービトレーションロスト検出機能を有効にし、アービトレーションロスト発生によるICCR2 レジスタのMST、TRS ビットの自動クリアを行う）
0	TMOE	0	RW	タイムアウト検出機能許可ビット 0：タイムアウト検出機能無効 1：タイムアウト検出機能有効

FMPE ビット（ファストモードプラス許可ビット）

ファストモードプラス[fm+] 用のスロープ制御回路を使用するかどうかを選択します。

FMPE ビットを“1” にすると I2C バスのファストモードプラス [fm+] のスロープ制御規格（tof）に準拠したスロープ制御回路が選択され、“0” にするとI2C バスのスタンダードモード[Sm] 及びファストモード[fm] のスロープ制御規格（tof）に準拠したスロープ制御回路が選択されます。

通信速度を I2C バス規格の～ 1Mbps（ファストモードプラス [fm+]）で使用する場合は“1” にし、それ以外の通信速度（～ 100kbps[Sm]、～ 400kbps[fm]）又はSMBus（10kbps ～ 100kbps）で使用する場合は“0” にしてください。

SCLE ビット（SCL 同期回路許可ビット）

SCL 入力クロックに対して、SCL クロックの同期化を行うかどうかを選択します。通常は“1” にしてください。

SCLE ビットを “0”（SCL 同期回路無効）にすると、クロック同期を行いません。この設定の場合、RIICはSCLn ラインの状態に関わらずICBRH 及びICBRL レジスタで設定された転送速度のSCL クロックを出力します。そのため、I2C バスラインのバス負荷が規格値よりも大幅に大きい場合や、マルチマスタにおいてSCL クロック出力が重なった場合など、規格外の短いクロックになる可能性がありますので注意してください。また SCL 同期回路無効の場合、スタートコンディション・リスタートコンディション・ストップコンディションの発行及びSCL クロック追加出力の連続出力にも影響します。

SCLE ビットはデバッグ中に、設定した転送速度が出力されているかどうかを確認する場合などを除き“0” にしないでください。

NFE ビット（デジタルノイズフィルタ回路許可ビット）

デジタルノイズフィルタ回路の使用/ 不使用を選択します。

NACKE ビット（NACK 受信転送中断許可ビット）

送信モード時、スレーブデバイスから NACK を受信した場合に転送動作を継続するか中断するかを選択します。通常は“1” にしてください。

NACKE ビットが“1” のとき、NACK を受信した場合、次の転送動作を中断します。

NACKE ビットが“0” のとき、受信アクノリッジの内容に関わらず次の転送動作を継続します。

NACK 受信転送中断機能の詳細については、「25.8.2 NACK 受信転送中断機能」を参照してください。

SALE ビット（スレーブアービトレーションロスト検出許可ビット）

スレーブ送信モード時、送出中の値と異なる値がバス上で検出された場合（同じアドレスのスレーブがバス上に存在した場合や、ノイズの影響などにより送信データと不一致が生じた場合など）にアービトレーションロストを発生させるかどうかを選択します。

NALE ビット（NACK 送信アービトレーションロスト検出許可ビット）

受信モード時、NACK 送出中に ACK が検出された場合（同じアドレスのスレーブがバス上に存在した場合や、2 つ以上のマスタが同時に同一のスレーブデバイスを選択しそれぞれ受信バイト数が異なる場合など）にアービトレーションロストを発生させるかどうかを選択します。

MALE ビット（マスタアービトレーションロスト検出許可ビット）

マスタモード時にアービトレーションロスト検出機能の有効/ 無効を決定します。通常は“1” にしてください。

TMOE ビット（タイムアウト検出機能許可ビット）

タイムアウト検出機能の有効/ 無効を選択します。
タイムアウト検出機能の詳細については、「25.11.1 タイムアウト検出機能」を参照してください。

25.2.7　I2C バスステータスイネーブルレジスタ（ICSER）

ICSER レジスタは、スレーブアドレス比較、ジェネラルコールアドレス検出、デバイス ID コマンド検出、ホストアドレス検出の有効/ 無効を選択するレジスタです。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	HOAE	—	DIDE	—	GCAE	SAR2E	SAR1E	SAR0E
初期値:	0	0	0	0	1	0	0	1
R/W:	R/W	—	R/W	—	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	HOAE	0	R/W	ホストアドレス許可ビット 0：ホストアドレス検出は無効 1：ホストアドレス検出は有効
6	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
5	DIDE	0	R/W	デバイスIDアドレス検出許可ビット 0：デバイスIDアドレス検出は無効 1：デバイスIDアドレス検出は有効
4	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
3	GCAE	1	R/W	ジェネラルコールアドレス許可ビット 0：ジェネラルコールアドレス検出は無効 1：ジェネラルコールアドレス検出は有効
2	SAR2E	0	R/W	スレーブアドレスレジスタ2許可ビット 0：SARL2、SARU2の設定値は無効 1：SARL2、SARU2の設定値は有効

1	SAR1E	0	R/W	スレーブアドレスレジスタ1許可ビット 0：SARL1、SARU1の設定値は無効 1：SARL1、SARU1の設定値は有効
0	SAR0E	1	R/W	スレーブアドレスレジスタ0許可ビット 0：SARL0、SARU0の設定値は無効 1：SARL0、SARU0の設定値は有効

HOAE ビット（ホストアドレス許可ビット）

SMBS ビット（ICMR3 レジスタのビット7）が“1” の場合、ホストアドレス（0001 000b）を受信したとき、無視するかどうかを選択します。

ICMR3 レジスタの SMBS ビットが“1” でかつ HOAE ビットが“1” の場合、受信したスレーブアドレスがホストアドレスと一致すると、RIIC は SARLm、SARUm レジスタ（m=0 ～ 2）で設定したスレーブアドレスとは無関係にホストアドレスと認識し、受信動作を行います。

ICMR3 レジスタの SMBS ビットが“0” 又は HOAE ビットが“0” の場合、受信したスレーブアドレスがホストアドレスと一致しても無視されます。

DIDE ビット（デバイス ID アドレス検出許可ビット）

スタートコンディション又はリスタートコンディション検出後の第 1 フレームにデバイス ID アドレス（1111 100b）を受信した場合、デバイス ID アドレスと認識して動作させるかどうかを選択します。

DIDE ビットが“1” の場合、受信した第1 フレームがデバイス ID アドレスと一致した場合、RIIC はデバイス ID アドレスを受信したと認識し、続く R/$\overline{W}$ ビットが“0”[W] のとき第2 フレーム目以降をスレーブアドレスとみなして受信動作を継続します。

DIDE ビットが“0” の場合、受信した第1 フレームがデバイス ID アドレスと一致しても無視され、第1 フレームを通常のスレーブアドレスとみなして動作します。

デバイス ID アドレス検出の詳細については、「25.7.3 デバイス ID アドレス検出機能」を参照してください。

GCAE（ジェネラルコールアドレス許可ビット）

ジェネラルコールアドレス（0000 000b ＋ 0[W] : All“0”）を受信した場合、無視するかどうかを選択します。

GCAE ビットが“1” の場合、受信したスレーブアドレスがジェネラルコールアドレスと一致すると、RIIC は SARLm、SARUm レジスタ（m=0 ～ 2）で設定したスレーブアドレスとは無関係にジェネラルコールアドレスと認識し、受信動作を行います。

GCAE ビットが“0” の場合、受信したスレーブアドレスがジェネラルコールアドレスと一致しても無視されます。

SAREm ビット（スレーブアドレスレジスタ m 許可ビット）（m= 0 ～ 2）

SARLm、SARUm レジスタで設定したスレーブアドレスを有効にするかどうかを選択します。

SARmE ビットを“1” にすると、SARLm、SARUm レジスタの設定値が有効になり、受信したスレーブアドレスと比較が行われます。

SARmE ビットを“0” にすると、SARLm、SARUm レジスタの設定値が無効になり、受信したスレーブアドレスと一致しても無視されます。

25.2.8　I2C バスインタラプトイネーブルレジスタ（ICIER）

ICIER レジスタは、各種割り込み要因の使用/ 不使用を選択します。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	TIE	TEIE	RIE	NAKIE	SPIE	STIE	ALIE	TMOIE
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	TIE	0	R/W	送信データエンプティ割り込み許可ビット 0：送信データエンプティ割り込み（TXI）の禁止 1：送信データエンプティ割り込み（TXI）の許可
6	TEIE	0	R/W	送信終了割り込み許可ビット 0：送信終了割り込み（TEI）の禁止 1：送信終了割り込み（TEI）の許可
5	RIE	0	R/W	受信データフル割り込み許可ビット 0：受信データフル割り込み（RXI）の禁止 1：受信データフル割り込み（RXI）の許可
4	NAKIE	0	R/W	NACK受信割り込み許可ビット 0：NACK受信割り込み（NAKI）の禁止 1：NACK受信割り込み（NAKI）の許可
3	SPIE	0	R/W	ストップコンディション検出割り込み許可ビット 0：ストップコンディション検出割り込み（SPI）の禁止 1：ストップコンディション検出割り込み（SPI）の許可
2	STIE	0	R/W	スタートコンディション検出割り込み許可ビット 0：スタートコンディション検出割り込み（STI）の禁止 1：スタートコンディション検出割り込み（STI）の許可
1	ALIE	0	R/W	アービトレーションロスト割り込み許可ビット 0：アービトレーションロスト割り込み（ALI）の禁止 1：アービトレーションロスト割り込み（ALI）の許可
0	TMOIE	0	R/W	タイムアウト割り込み許可ビット 0：タイムアウト割り込み（TMOI）の禁止 1：タイムアウト割り込み（TMOI）の許可

TIE ビット（送信データエンプティ割り込み許可ビット）

TDRE フラグ（ICSR2 レジスタのビット7）が1” のとき、送信データエンプティ割り込み（TXI）の許可/ 禁止を選択します。

TEIE ビット（送信終了割り込み許可ビット）

TEND フラグ（ICSR2 レジスタのビット6）が“1” のとき、送信終了割り込み（TEI）の許可/ 禁止を選択します。TEI 割り込みは、TEND フラグを“0” にするか、又はTEIE ビットを“0” にすることで解除できます。

RIE ビット（受信データフル割り込み許可ビット）

RDRF フラグ（ICSR2 レジスタのビット 5）が“1” のとき、受信データフル割り込み（RXI）の許可/ 禁止を選択します。

NAKIE ビット（NACK 受信割り込み許可ビット）

NACKF フラグ（ICSR2 レジスタのビット 4）が“1” のとき、NACK 受信割り込み（NAKI）の許可/ 禁止を選択します。NAKI 割り込みは、NACKF フラグを“0” にするか、又はNAKIE ビットを“0” にすることで解除できます。

SPIE ビット（ストップコンディション検出割り込み許可ビット）

STOP フラグ（ICSR2 レジスタのビット 3）が“1” のとき、ストップコンディション検出割り込み（SPI）の許可/ 禁止を選択します。SPI 割り込みは、STOP フラグを“0” にするか、又はSPIE ビットを“0” にすることで解除できます。

STIE ビット（スタートコンディション検出割り込み許可ビット）

START フラグ（ICSR2 レジスタのビット 2）が“1” のとき、スタートコンディション検出割り込み（STI）の許可/ 禁止を選択します。STI 割り込みは、START フラグを“0” にするか、又はSTIE ビットを“0” にすることで解除できます。

ALIE ビット（アービトレーションロスト割り込み許可ビット）

ICSR2 レジスタのAL フラグが“1” のとき、アービトレーションロスト割り込み（ALI）の許可/ 禁止を選択します。ALI 割り込みは、AL フラグを“0” にするか、又はALIE ビットを“0” にすることで解除できます。

TMOIE ビット（タイムアウト割り込み許可ビット）

TMOF フラグ（ICSR2 レジスタのビット 0）が“1” のとき、タイムアウト割り込み（TMOI）の許可/ 禁止を選択します。TMOI 割り込みは、TMOF フラグを“0” にするか、又はTMOIE ビットを“0” にすることで解除できます。

25.2.9　I2C バスステータスレジスタ1（ICSR1）

ICSR1 レジスタは、各種アドレス検出のステータスの確認を行うレジスタです。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	HOA	—	DID	—	GCA	AAS2	AAS1	AAS0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	—	R/W	—	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	HOA	0	R/W	ホストアドレス検出フラグ 0：ホストアドレス未検出 1：ホストアドレス検出 • 受信したスレーブアドレスがホストアドレス（0001 000b）と一致した場合
6	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
5	DID	0	R/W	デバイスID アドレス検出フラグ 0：デバイスID アドレス未検出 1：デバイスID アドレス検出 • スタートコンディション直後の第1フレームがデバイスID アドレス（1111 100b）＋0[W]と一致した場合
4	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
3	GCA	0	R/W	ジェネラルコールアドレス検出フラグ 0：ジェネラルコールアドレス未検出 1：ジェネラルコールアドレス検出 • 受信したスレーブアドレスがジェネラルコールアドレス（All“0”）と一致した場合
2	AAS2	0	R/W	スレーブアドレス2検出フラグ 0：スレーブアドレス2未検出 1：スレーブアドレス2検出 • SARU2 レジスタのFS ビット=0（7 ビットアドレスフォーマット選択）の場合、受信したスレーブアドレスがSARL2 レジスタのSVA[7:1]と一致したとき • SARU2 レジスタのFS ビット=1（10 ビットアドレスフォーマット選択）の場合、受信したスレーブアドレスが1111 0b＋SARU2 レジスタのSVA[9:8]に一致し、それに続くアドレスがSARL2 レジスタと一致したとき （“1”になるタイミングは、SARL2 一致判定フレームのSCL クロックの9 クロック目の立ち上がり時）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
1	AAS1	0	R/W	スレーブアドレス1検出フラグ 0：スレーブアドレス1未検出 1：スレーブアドレス1検出 • SARU1レジスタのFSビット=0（7ビットアドレスフォーマット選択）の場合、受信したスレーブアドレスがSARL1レジスタのSVA[7:1]と一致したとき • SARU1レジスタのFSビット=1（10ビットアドレスフォーマット選択）の場合、受信したスレーブアドレスが1111 0b＋SARU1レジスタのSVA[9:8]に一致し、それに続くアドレスがSARL1レジスタと一致したとき （“1”になるタイミングは、SARL1一致判定フレームのSCLクロックの9クロック目の立ち上がり時）
0	AAS0	0	R/W	スレーブアドレス0検出フラグ 0：スレーブアドレス0未検出 1：スレーブアドレス0検出 • SARU0レジスタのFSビット=0（7ビットアドレスフォーマット選択）の場合、受信したスレーブアドレスがSARL0レジスタのSVA[7:1]と一致したとき • SARU0レジスタのFSビット=1（10ビットアドレスフォーマット選択）の場合、受信したスレーブアドレスが1111 0b＋SARU0レジスタのSVA[9:8]に一致し、それに続くアドレスがSARL0レジスタと一致したとき （“1”になるタイミングは、SARL0一致判定フレームのSCLクロックの9クロック目の立ち上がり時）

HOA フラグ（ホストアドレス検出フラグ）

［“1” になる条件］

• ICSER レジスタの HOAE ビットが “1”（ホストアドレス検出有効）の状態で、受信したスレーブアドレスがホストアドレス（0001 000b）と一致したとき、そのフレームの SCL クロックの 9 クロック目の立ち上がり

［“0” になる条件］

• “1” を読んだ後、“0” を書いたとき
• ストップコンディションを検出したとき
• ICMR3 レジスタの SMBS ビットに “0” 又は ICSER レジスタの HOAE ビットに “0” を書いたとき
• ICSER レジスタの HOAE ビットが “1”（ホストアドレス検出有効）の状態で、受信したスレーブアドレスがホストアドレス（0001 000b）と不一致のとき、そのフレームの SCL クロックの 9 クロック目の立ち上がり
• ICCR1 レジスタの IICRST ビットに “1” を書いたとき

DID フラグ（デバイス ID アドレス検出フラグ）

［“1” になる条件］

• DIDE ビット（ICSER レジスタのビット 5）が “1”（デバイス ID アドレス検出有効）の状態で、スタートコンディション検出又はリスタートコンディション検出後の第 1 フレームがデバイス ID アドレス（1111 100b）＋ 0[W] と一致したとき、そのフレームの SCL クロックの 9 クロック目の立ち上がり

［“0” になる条件］

• “1” を読んだ後、“0” を書いたとき
• ストップコンディションを検出したとき

- ICSER レジスタの DIDE ビットが“1”（デバイス ID アドレス検出有効）の状態で、スタートコンディション検出又はリスタートコンディション検出後の第 1 フレームがデバイス ID アドレス（1111 100b）と不一致のとき、そのフレームの SCL クロックの 9 クロック目の立ち上がり
- ICSER レジスタの DIDE ビットが“1”（デバイス ID アドレス検出有効）の状態で、スタートコンディション検出又はリスタートコンディション検出後の第 1 フレームがデバイス ID アドレス（1111 100b）＋ 0[W] と一致し、続く第 2 フレームがスレーブアドレス 0 ～ 2 のすべてと不一致のとき、そのフレームの SCL クロックの 9 クロック目の立ち上がり
- ICCR1 レジスタの IICRST ビットに“1” を書いたとき

GCA フラグ（ジェネラルコールアドレス検出フラグ）

[“1” になる条件]

- GCAE ビット（ICSER レジスタのビット 3）が“1”（ジェネラルコールアドレス検出有効）の状態で、受信したスレーブアドレスがジェネラルコールアドレス（0000 000b ＋ 0[W]）と一致したとき、そのフレームの SCL クロックの 9 クロック目の立ち上がり

[“0” になる条件]

- “1” を読んだ後、“0” を書いたとき
- ストップコンディションを検出したとき
- ICSER レジスタの GCAE ビットが“1”（ジェネラルコールアドレス検出有効）の状態で、受信したスレーブアドレスがジェネラルコールアドレス（0000 000b ＋ 0[W]）と不一致のとき、そのフレームの SCL クロックの 9 クロック目の立ち上がり
- ICCR1 レジスタの IICRST ビットに“1” を書いたとき

AASm フラグ（スレーブアドレス m 検出フラグ）（m= 0 ～ 2）

[“1” になる条件]

【7 ビットアドレスフォーマット選択時: SARUm レジスタの FS ビット = 0】

- SARmE ビット（ICSER レジスタのビット 2 ～ 0）が“1”（スレーブアドレス m 検出有効）の状態で、受信したスレーブアドレスが SVA[7:1] ビット（SARLm レジスタのビット 7 ～ 1）と一致したとき、そのフレームの SCL クロックの 9 クロック目の立ち上がり

【10 ビットアドレスフォーマット選択時: SARUm レジスタの FS ビット = 1】

- ICSER レジスタの SARmE ビットが“1”（スレーブアドレス m 検出有効）の状態で、受信したスレーブアドレスが 11110b ＋ SVA[9:8] ビット（SARUm レジスタのビット 2、1）と一致し、それに続くアドレスが SARL m レジスタと一致したとき、そのフレームの SCL クロックの 9 クロック目の立ち上がり

[“0” になる条件]

- “1” を読んだ後、“0” を書いたとき
- ストップコンディションを検出したとき
- ICCR1 レジスタの IICRST ビットに“1” を書いたとき

【7 ビットアドレスフォーマット選択時: SARUm レジスタの FS ビット = 0】

- ICSER レジスタの SARmE ビットが“1”（スレーブアドレス m 検出有効）の状態で、受信したスレーブアドレスが SARLm レジスタの SVA[7:1] と不一致のとき、そのフレームの SCL クロックの 9 クロック目の立ち上がり

【10 ビットアドレスフォーマット選択時: SARU レジスタの FS ビット = 1】

- ICSER レジスタの SARmE ビットが“1”（スレーブアドレス m 検出有効）の状態で、受信したスレーブアドレスが 11110b ＋ SARUm レジスタの SVA[9:8] と不一致のとき、そのフレームの SCL クロックの 9 クロック目の立ち上がり
- ICSER レジスタの SARE ビットが“1”（スレーブアドレス m 検出有効）の状態で、受信したスレーブアドレスが 11110b ＋ SARUm レジスタの SVA[9:8] と一致し、それに続くアドレスが SARLm レジスタと不一致のとき、そのフレームの SCL クロックの 9 クロック目の立ち上がり

25.2.10 I²C バスステータスレジスタ2（ICSR2）

ICSR2 レジスタは、各種割り込み要求フラグ及びステータスの確認を行うレジスタです。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	TDRE	TEND	RDRF	NACKF	STOP	START	AL	TMOF
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	TDRE	0	R/W	送信データエンプティフラグ 0：ICDRT レジスタに送信データあり 1：ICDRT レジスタに送信データなし
6	TEND	0	R/W	送信終了フラグ 0：データ送信中 1：データ送信終了
5	RDRF	0	R/W	受信データフルフラグ 0：ICDRR レジスタに受信データなし 1：ICDRR レジスタに受信データあり
4	NACKF	0	R/W	NACK検出フラグ 0：NACK未検出 1：NACK検出
3	STOP	0	R/W	ストップコンディション検出フラグ 0：ストップコンディション未検出 1：ストップコンディション検出
2	START	0	R/W	スタートコンディション検出フラグ 0：スタートコンディション未検出 1：スタートコンディション検出
1	AL	0	R/W	アービトレーションロストフラグ 0：アービトレーションロストの発生なし 1：アービトレーションロストの発生あり
0	TMOF	0	R/W	タイムアウト検出フラグ 0：タイムアウト未検出 1：タイムアウト検出

TDRE フラグ（送信データエンプティフラグ）

［“1” になる条件］

- ICDRT レジスタからICDRS レジスタにデータ転送が行われ、ICDRT レジスタが空になったとき
- ICCR2 レジスタのTRS ビットが“1” になったとき
  - (a) スタートコンディション（リスタートコンディション含む）検出後、ICCR2 レジスタのMST ビットが“1” のとき
  - (b) 受信モードから送信モードになったとき
  - (c) CMR1 レジスタのMTWP ビットが“1” の状態で、“1” を書いたとき
- 受信したスレーブアドレスが一致し、TRS ビットが“1” のとき

［“0” になる条件］

- ICDRT レジスタへデータを書いたとき
- ICCR2 レジスタのTRS ビットが“0” になったとき
  (a)　ストップコンディションを検出したとき
  (b)　送信モードから受信モードになったとき
  (c)　ICMR1 レジスタのMTWP ビットが“1” の状態で、“0” を書いたとき
- ICCR1 レジスタのIICRST ビットに“1” を書いたとき

TEND フラグ（送信終了フラグ）

[“1” になる条件]
- TDRE フラグが“1” の状態で、SCL クロックの9 クロック目の立ち上がり

[“0” になる条件]
- “1” を読んだ後、“0” を書いたとき
- ICDRT レジスタへデータを書いたとき
- ストップコンディションを検出したとき
- ICCR1 レジスタのIICRST ビットに“1” を書いたとき

RDRF フラグ（受信データフルフラグ）

[“1” になる条件]
- ICDRS レジスタからICDRR レジスタに受信データが転送されたとき、ICMR3 レジスタのRDRFS ビットの設定によりSCL クロックの8 又は9 クロック目の立ち上がりで“1” になります。
- スタートコンディション（リスタートコンディション含む）検出後、受信したスレーブアドレスが一致しICCR2 レジスタのTRS ビットが“0” のとき

[“0” になる条件]
- “1” を読んだ後、“0” を書いたとき
- ICDRR レジスタを読んだとき
- ICCR1 レジスタのIICRST ビットに“1” を書いたとき

NACKF フラグ（NACK 検出フラグ）

[“1” になる条件]
- ICFER レジスタのNACKE ビットが“1”（転送中断許可）の状態で、送信モード時に受信デバイスからアクノリッジがなかった（NACK を受信した）とき

[“0” になる条件]
- “1” を読んだ後、“0” を書いたとき
- ICCR1 レジスタのIICRST ビットに“1” を書いたとき

注．NACKF フラグが“1” になるとRIIC は通信動作を中断します。NACKF フラグが“1” の状態で送信モード時にICDRT レジスタへの書き込みや、受信モード時にICDRR レジスタの読み出しを行っても、送信/ 受信動作は行われません。通信動作を再開する場合はNACKF フラグを“0” にしてください。

STOP フラグ（ストップコンディション検出フラグ）

[“1” になる条件]
- ストップコンディションを検出したとき

[“0” になる条件]
- “1” を読んだ後、“0” を書いたとき
- ICCR1 レジスタのIICRST ビットに“1” を書いたとき

START フラグ（スタートコンディション検出フラグ）

［“1” になる条件］
- スタートコンディション（リスタートコンディション含む）を検出したとき

［“0” になる条件］
- “1” を読んだ後、“0” を書いたとき
- ストップコンディションを検出したとき
- ICCR1 レジスタの IICRST ビットに“1” を書いたとき

AL フラグ（アービトレーションロストフラグ）

スタートコンディション発行時やアドレス及びデータ送信時において、バス競合などによりバス占有権を喪失（アービトレーションロスト）したことを示します。RIIC は送信中に SDAn ラインのレベルを監視し、出力データと SDAn ラインのレベルが一致しない場合 AL フラグを“1” にしてバスが他のデバイスによって占有されたことを示します。

このほか、RIIC では設定によりマスタモード時に NACK 送信中のアービトレーションロストの検出やスレーブモード時にデータ送信中のアービトレーションロストの検出も可能です。

［“1” になる条件］

【マスタアービトレーションロスト検出有効時：ICFER レジスタの MALE ビット＝ 1】
- マスタ送信モード時のデータ送信（スレーブアドレス送信含む）において、ACK 期間を除く SCL クロックの立ち上がりで自分が出した SDA 信号と SDAn ライン上の信号の状態が不一致（内部 SDA 出力が High 出力（＝ SDAn 端子はハイインピーダンス状態）で、SDAn ラインに Low を検出）したとき
- ICCR2 レジスタの ST ビットが“1”(スタートコンディション発行要求)の状態でスタートコンディションを検出したとき、自分が出した SDA 信号と SDAn ライン上の信号の状態が不一致のとき
- ICCR2 レジスタの BBSY フラグが“1” の状態で ICCR2 レジスタの ST ビットが“1”（スタートコンディション発行要求）に設定したとき

【NACK アービトレーションロスト検出有効時：ICFER レジスタの NALE ビット＝ 1】
- 受信モード時の NACK 送信において、ACK 期間の SCL クロックの立ち上がりで自分が出した SDA 信号と SDAn ライン上の信号の状態が不一致のとき

【スレーブアービトレーションロスト検出有効時：ICFER レジスタの SALE ビット＝ 1】
- スレーブ送信モード時のデータ送信において、ACK 期間を除く SCL クロックの立ち上がりで自分が出した SDA 信号と SDAn ライン上の信号の状態が不一致のとき

［“0” になる条件］
- “1” を読んだ後、“0” を書いたとき
- ICCR1 レジスタの IICRST ビットに“1” を書いたとき

表 25.5　アービトレーションロスト発生要因と各アービトレーションロスト許可機能との関係

ICFER			ICSR2	エラー内容	アービトレーションロスト発生要因
MALE	NALE	SALE	AL		
1	(注)	(注)	1	スタートコンディション発行エラー	ICCR2 レジスタの ST=1 の状態でスタートコンディション検出時に自分が出した SDA 信号と SDAn ライン上の信号の状態が不一致のとき
					ICCR2 レジスタの BBSY=1 の状態で ICCR2 レジスタの ST=1 にしたとき
			1	送信データ不一致	マスタ送信モードで送信データ（スレーブアドレス送信含む）とバス状態が不一致のとき
(注)	1	(注)	1	NACK 送信不一致	マスタ受信モード又はスレーブ受信モードで NACK 送信時に ACK を検出したとき
(注)	(注)	1	1	送信データ不一致	スレーブ送信モードで送信データとバス状態が不一致のとき

注．　Don't care

TMOF フラグ（タイムアウト検出フラグ）

SCLn ラインの状態が一定期間変化しない場合、タイムアウトを認識して“1” になります。
［“1” になる条件］
- ICFER レジスタの TMOE ビットが“1”（タイムアウト検出機能有効）で、かつマスタモード又はスレーブ指定された状態でICMR2 レジスタのTMOH、TMOL、TMOS ビットで選択された条件の期間SCLn ラインの状態に変化がないとき

［“0” になる条件］
- “1” を読んだ後、“0” を書いたとき
- ICCR1 レジスタのIICRST ビットに“1” を書いたとき

25.2.11 スレーブアドレスレジスタLm（SARLm）（m= 0 ～ 2）

SARLm レジスタは、スレーブアドレスm（7 ビットアドレス又は10 ビットアドレス下位8 ビット）を設定するレジスタです。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	SVA[7:1]							SVA0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7～1	SVA[7:1]	0	R/W	7ビットアドレス/10ビットアドレス下位ビット スレーブアドレスを設定してください。 • SARUm レジスタのFS ビット=0（7ビットアドレスフォーマット選択）のとき、SVA[7:1]ビットは7ビットスレーブアドレスになる • SARUm レジスタのFS ビット=1（10ビットアドレスフォーマット選択）のとき、SVA[7:1]ビットはSVA0ビットと合わせて10ビットスレーブアドレスの下位8ビットアドレスになる
0	SVA0	0	R/W	10ビットアドレス最下位ビット スレーブアドレスを設定してください。 • SARUm レジスタのFS ビット=0（7ビットアドレスフォーマット選択）のとき、SVA0ビットは無効になる • SARUm レジスタのFS ビット=1（10ビットアドレスフォーマット選択）のとき、SVA0ビットが有効になり、SVA[7:1]ビットと合わせて10ビットスレーブアドレスの下位8ビットアドレスになる

SVA[7:1] ビット（7 ビットアドレス/10 ビットアドレス下位ビット）

7 ビットアドレスフォーマット選択時（FS ビット（SARUmレジスタのビット0）=0）、7 ビットアドレスとして機能し、10 ビットアドレスフォーマット選択時（SARUm レジスタのFS ビット=1）、SVA0 ビットと合わせて10 ビットアドレス下位8 ビットとして機能します。

ICSER レジスタのSARmE ビットが“0” のとき設定値は無視されます。

SVA0 ビット（10 ビットアドレス最下位ビット）

10 ビットアドレスフォーマット選択時（SARUm レジスタの FS ビット=1）、10 ビットアドレス最下位ビットとして機能し、SVA[7:1] ビットと合わせて 10 ビットアドレス下位 8 ビットを設定します。

ICSER レジスタの SARmE ビットが“1”（SARLm、SARUm レジスタ有効）でかつ SARUm レジスタの FS ビットが“1” のとき設定値が有効になり、SARUm レジスタの FS ビット又は SARmE ビットが“0” のとき設定値は無視されます。

25.2.12 スレーブアドレスレジスタ Um（SARUm）（m= 0 ～ 2）

SARUm レジスタは、7 ビット/10 ビットアドレスフォーマットの選択と 10 ビットスレーブアドレス上位ビットのを設定を行うレジスタです。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	SVA[9:8]		FS
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7～3	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
2、1	SVA[9:8]	00	R/W	10 ビットアドレス上位ビット スレーブアドレスを設定してください。 • SARUm レジスタの FS ビット=0（7 ビットアドレスフォーマット選択）のとき、SVA[9:8] ビットは無効になる • SARUm レジスタの FS ビット=1（10 ビットアドレスフォーマット選択）のとき、SVA[9:8] ビットが有効になり、10 ビットスレーブアドレスの上位 2 ビットアドレスになる
0	FS	0	R/W	7 ビット/10 ビットアドレスフォーマット選択ビット 0：7 ビットアドレスフォーマット選択 1：10 ビットアドレスフォーマット選択

SVA[9:8] ビット（10 ビットアドレス上位ビット）

10 ビットアドレスフォーマット選択時（FS ビット=1）、10 ビットアドレスの上位 2 ビットアドレスとして機能します。

ICSER レジスタの SARmE ビットが“1”（SARLm、SARUm レジスタ有効）でかつ SARUm レジスタの FS ビットが“1” のとき設定値が有効になり、SARUm レジスタの FS ビット又は SARmE ビットが“0” のとき設定値は無視されます。

FS ビット（7 ビット/10 ビットアドレスフォーマット選択ビット）

スレーブアドレス m（SARLm、SARUm レジスタ）を 7 ビットアドレスにするか、10 ビットアドレスにするかを選択します。

ICSER レジスタの SARmE ビットが“1”（SARLm、SARUm レジスタ有効）でかつ SARUm レジスタの FS ビットが“0” のとき、スレーブアドレス m は 7 ビットアドレスフォーマットが選択され、SARLm レジスタの SVA[7:1] ビットの設定値が有効になり SVA[9:8] ビット及び SVA0 ビット（SARLm レジスタのビット 0）の設定値は無視されます。

ICSER レジスタの SARmE ビットが “1”（SARLm、SARUm レジスタ有効）でかつ SARUm レジスタの FS ビットが “1” のとき、スレーブアドレス m は 10 ビットアドレスフォーマットが選択され、SVA[9:8] ビット、SARLm レジスタの設定値が有効になります。

ICSER レジスタの SARmE ビットが “0”（SARLm、SARUm レジスタ無効）のとき SARUm レジスタの FS ビットの設定値は無効です。

25.2.13 I²C バスビットレート L レベルレジスタ（ICBRL）

ICBRL レジスタは、SDA 内部入力遅延と SCL クロックの Low 幅を設定するレジスタです。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	SDID [1 : 0]		—	BRL[4:0]				
初期値:	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W:			—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7、6	SDID [1:0]	11	R/W	SDA 内部入力遅延ビット b7 b6 0 0 : 1 IICϕ サイクル 0 1 : 2 IICϕ サイクル 1 0 : 4 IICϕ サイクル 1 1 : 入力遅延なし
5	—	1	—	リザーブビット （読み出すと “1” が読めます。書き込む値は “1” にしてください）
4 ～ 0	BRL [4:0]	1	R/W	ビットレート Low 幅設定ビット SCL クロックの Low 幅の値を設定

BRL ビットは CKS[2:0] ビット（ICMR1 レジスタのビット 6 ～ 4）で選択した内部基準クロックソース（IICφ）で Low 幅をカウントします。ICBRL レジスタの BRL はマスターモード時に有効です。RIIC をスレーブモードでのみ使用する場合には、本レジスタに Low 幅を設定する必要はありません。

SDID[1:0] ビットは SDA 内部入力遅延を設定します。入力された SDA のレベル変化を検出する信号を SDID ビットで設定された IICφ サイクル分遅延します。

それにより SDA がデータインプットホールドタイム（tSDAH)違反の信号で、立下り / 立ち上がりエッジが急峻な場合に、スタートコンディション / ストップコンディションの誤検出を起こり難くすることができます。

25.2.14 I²C バスビットレートHレベルレジスタ（ICBRH）

ICBRHレジスタはSCLクロックのHigh幅を設定するための5ビットのレジスタで、マスタモード時に有効です。RIIC を常にスレーブモードで使用する場合には、High 幅を設定する必要はありません。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	BRH[4:0]				
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W:	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～ 5	—	1	—	リザーブビット （読み出すと“1”が読めます。書き込む値は“1”にしてください）
4 ～ 0	BRH[4:0]	1	R/W	ビットレートHigh幅設定ビット SCLクロックのHigh幅の値を設定

ICBRH レジスタはICMR1 レジスタのCKS[2:0] ビットで選択された内部基準クロックソース（IICφ）でHigh 幅をカウントします。

I²C 転送速度及びSCL クロックのデューティ比は以下の式で算定します。

転送速度 = IICφ/(tr(注1) x IICφ + tf(注1) x IICφ + ICBRH + ICBRL + 4 + フィルタ段数(注2) x 2 + 1(注3))

SCLnのLow 幅/High 幅：

Low 幅 = (ICBRL + 2 + フィルタ段数(注2)) x 1/IICφ + 1/IICφ(注3)

High 幅 = (ICBRH + 2 + フィルタ段数(注2)) x 1/IICφ + 1/IICφ(注3)

注1. tr: SCLn ライン立ち上がり時間
tf: SCLn ライン立ち下がり時間
tr と tfは全体のバスライン静電容量 [Cb] とプルアップ抵抗[Rp]によって変動します。
詳細についてはNXP セミコンダクターズ社のI²C バス規格書を参照してください。

2. デジタルノイズフィルタの段数はICMR3のNF[1:0] ビットによって設定されます。

3. IICφ = Pck (CKS[2:0] = 000)のときに限り必要です。

ICBRH、ICBRL レジスタの値の設定例を表 25.6に示します。

表25.6　転送速度に対するICBRH、ICBRL レジスタの設定例

転送速度 (kbps)	動作周波数PCLK（MHz）		
	48		
	CKS[2:0]	ICBRH	ICBRL
100	011	23 (H'17)	23 (H'17)
400	001	20 (H'14)	19 (H'13)
1000	000	14 (H'0E)	14 (H'0E)

注.　表内のICBRH、ICBRLは以下の値で計算されています。
SCLn ライン立ち上がり時間(tr)）を～100kbps以下[Sm]は1000ns、～400kbps[Fm]は300ns、～1Mbps[Fm+]は120ns
SCLn ライン立ち下がり時間 (tf)を～400kbps以下[Sm/Fm]は300ns、～1Mbps[Fm+]は120n
SCLn ライン立ち上がり時間 (tr)とSCLn ライン立ち下がり時間(tf)の規格値については、NXP 社のI²C バス規格書を参照してください。
SCL負荷のため、実際の周波数は計算した値より低くなります。その場合はICBRH とICBRLの値を下げて、周波数を調整することが必要です。

25.2.15 I2C バス送信データレジスタ（ICDRT）

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
初期値:	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ICDRT レジスタは、送信データを格納する8 ビットの読み書き可能なレジスタです。

I2C バスシフトレジスタ（ICDRS）の空きを検出すると、ICDRT レジスタに書き込まれた送信データが ICDRS レジスタへ転送され、送信モード時にデータ送信を開始します。ICDRT レジスタと ICDRS レジスタはダブルバッファ構造になっているため、ICDRS レジスタのデータ送信中に、次に送信するデータを ICDRT レジスタに書いておくと連続送信動作が可能です。

ICDRT レジスタは常に読み出し/書き込み可能です。ICDRT レジスタへの送信データの書き込みは、送信データエンプティ割り込み（TXI）要求が発生したときに1 回だけ行ってください。

25.2.16 I2Cバス受信データレジスタ（ICDRR）

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R

ICDRR レジスタは、受信データを格納する8 ビットの読み出し専用のレジスタです。

1 バイトのデータの受信が終了すると、受信したデータは I2C バスシフトレジスタ（ICDRS）から ICDRR レジスタへ転送され、次のデータを受信可能にします。

ICDRS レジスタと ICDRR レジスタはダブルバッファ構造になっているため、ICDRS レジスタのデータ受信中に、すでに受信したデータを ICDRR レジスタから読んでおくと連続受信動作が可能です。

ICDRR レジスタに書き込みはできません。ICDRR レジスタの読み出しは、受信データフル割り込み（RXI）要求が発生したときに1 回だけ行ってください。

受信データを ICDRR レジスタから読み出ししないまま（ICSR2 レジスタの RDRF フラグが“1” の状態のまま）次の受信データを受け取ると、RIIC は RDRF フラグが次に“1” になるタイミングの1 つ手前の SCLn クロックで自動的に Low ホールドを行います。

25.2.17 I2C バスシフトレジスタ（ICDRS）

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
初期値:	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W:	—(注)	—(注)	—(注)	—(注)	—(注)	—(注)	—(注)	—(注)

注. 送信時に、データはICDRT レジスタからICDRS レジスタへ転送されます。受信時に、データはICDRS レジスタから ICDRR レジスタへ転送されます。

ICDRS レジスタは、データを送信/受信するためのシフトレジスタです。

送信時はICDRT レジスタから送信データがICDRS レジスタに転送され、SDAn 端子からデータが送信されます。受信時は1 バイトのデータの受信が終了すると、データが ICDRS レジスタから ICDRR レジスタへ転送されます。

ICDRS レジスタは直接アクセスすることはできません。

25.3　動作説明

25.3.1　通信データフォーマット

I2C バスフォーマットは、8 ビットのデータと 1 ビットのアクノリッジで構成されています。スタートコンディション及びリスタートコンディションに続くフレームは、アドレスフレームでマスタデバイスが通信先であるスレーブデバイスを指定するのに使用します。指定されたスレーブは新たにスレーブが指定されるか、ストップコンディションが発行されるまで有効です。

図25.3 にI2C バスフォーマットを、図25.4 にI2C バスタイミングを示します。

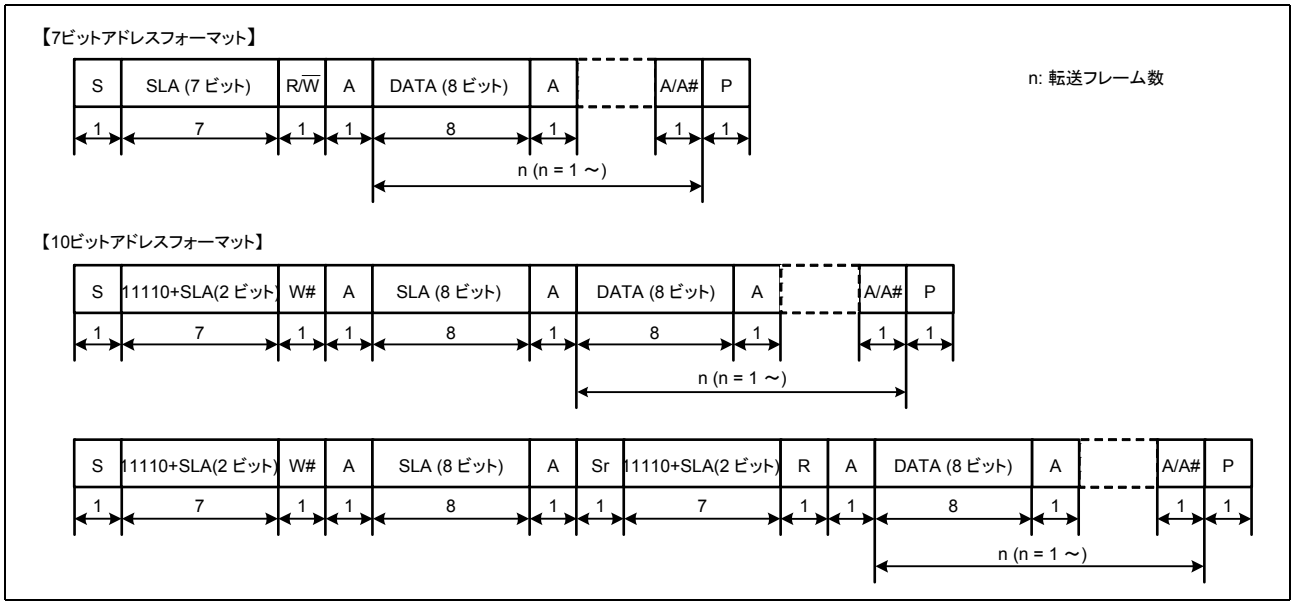


図 25.3　I2C バスフォーマット

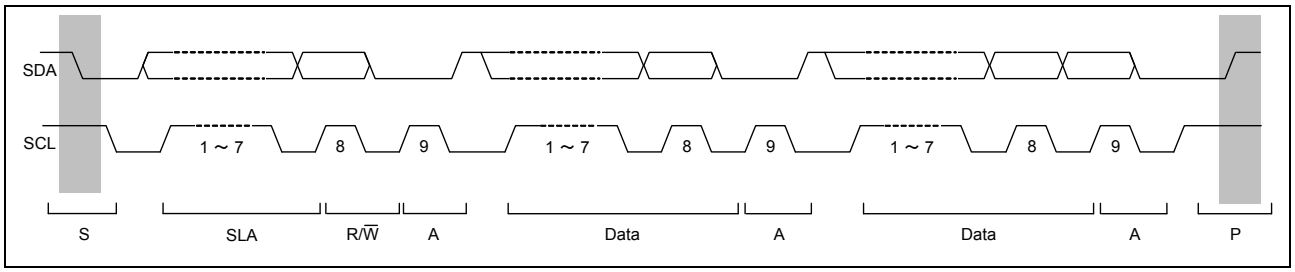


図 25.4　I2C バスタイミング（SLA=7 ビットの場合）

【記号説明】

S　：スタートコンディションを示します。マスタデバイスが、SCLnラインがHighの状態でSDAnラインがHighからLowに変化します。

SLA　：スレーブアドレスを示します。マスタデバイスがスレーブデバイスを選択します。

R/W　：送信/受信の方向を示します。“1”のときスレーブデバイスからマスタデバイスへ、“0”のときマスタデバイスからスレーブデバイスへデータを送信します。

A　：アクノリッジを示します。受信デバイスがSDAnラインをLowにします（マスタ送信モード時：スレーブデバイスがアクノリッジを返します。マスタ受信モード時：マスタデバイスがアクノリッジを返します）。

Sr　：リスタートコンディションを示します。マスタデバイスが、SCLn ラインが High の状態でセットアップ時間経過後にSDAnラインがHighからLowに変化します。

DATA　：送受信データを示します。

P　：ストップコンディションを示します。マスタデバイスが、SCLnラインがHighの状態でSDAnラインがLowからHighに変化します。

25.3.2　初期設定

データの送信/受信を開始する場合、図25.5 に示す手順に従ってRIIC を初期化してください。

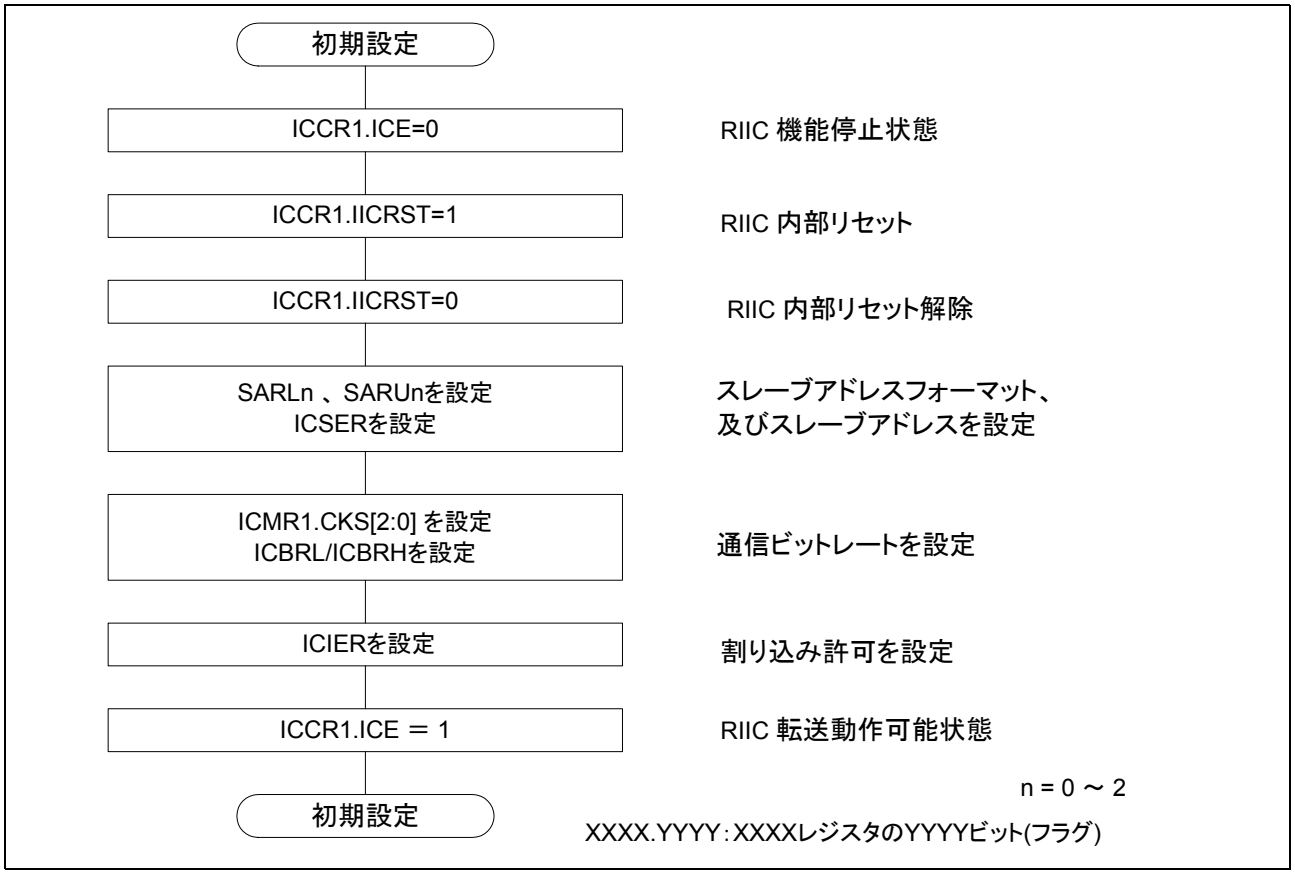


図 25.5　RIIC の初期化フローチャート例

25.3.3　マスタ送信動作

マスタ送信では、マスタデバイスである RIIC が SCL クロックと送信データを出力して、スレーブデバイスがアクノリッジを返します。図25.6 にマスタ送信の使用例を、図25.7 ～図25.9 にマスタ送信の動作タイミングを示します。

以下にマスタ送信の送信手順と動作を示します。

1. ICCR1 レジスタの ICE ビットを“0”（機能停止状態）にしたまま ICCR1 レジスタの IICRST ビットを“1”（内部リセット）にした後、“0”（リセット解除）にします。これにより ICSR1 レジスタの各フラグや内部状態の初期化を行います。その後、SARLn、SARUn、ICSER、ICMR1、ICBRH、ICBRL レジスタ (n=0 ～ 2) を設定し、その他のレジスタは必要に応じて設定してください（RIIC の初期設定については図25.5 参照）。必要なレジスタの設定が終了したら、ICE ビットを“1”（転送可能状態）にしてください。すでに RIIC の初期化が完了している場合、この手順は不要です。
2. ICCR2 レジスタの BBSY フラグを読んでバスが解放状態であることを確認した後、ST ビット（ICCR2 レジスタのビット1）に“1” を書きます（スタートコンディション発行要求）。RIIC はスタートコンディション発行要求を受け付けると、スタートコンディションを発行します。RIIC はスタートコンディションを検出すると BBSY フラグ、ICSR2 レジスタの START フラグを自動的に “1” にし、ST ビットを自動的に“0” にします。このとき ST ビットが“1”の状態で自分が出した SDA 信号と SDAn ラインの状態がずれることなくスタートコンディションを検出した場合、RIIC は ST ビットによるスタートコンディション発行が正しく行われたと認識し、ICCR2 レジスタの MST、TRS ビットを自動的に“1” にしてマスタ送信モードになります。また ICSR2 レジスタの TDRE フラグ は、TRS ビット=1 により自動的に“1” になります。
3. ICSR2 レジスタの TDRE フラグが“ 1 ” であることを確認した後、ICDRT レジスタに送信データ（スレーブアドレスと R/$\overline{W}$ ビット）を書いてください。ICDRT レジスタに送信データを書くと TDRE フレジスタのラグは自動的に “0” になり、ICDRT レジスタから ICDRS レジスタにデータが転送されて、再び TDRE フラグが“1” になります。R/$\overline{W}$ ビットを含むスレーブアドレスの送信が完了すると、送信された R/$\overline{W}$ ビットにより自動的に TRS ビットが変更され送信モード/ 受信モードが選択されます。RIIC は R/$\overline{W}$ ビット=0 を受信すると、引き続きマスタ送信モードの状態を継続します。このとき ICSR2 レジスタの NACKF フラグが“1” なら、スレーブデバイスが認識されていないか、あるいは通信不良が発生しているかですので、ストップコンディションを発行してください。ストップコンディションの発行は ICCR2 レジスタの SP ビットに“1” を書くことで行われます。なお 10 ビットアドレスフォーマットで送信する場合は、まず 1 回目のアドレス送信処理で ICDRT レジスタに 1111 0b+ スレーブアドレスの上位2 ビット＋ W を書き、2 回目のアドレス送信処理で ICDRT レジスタにスレーブアドレスの下位8 ビットを書いてください。
4. ICSR2 レジスタの TDRE フラグが“ 1 ” であることを確認した後、送信データを ICDRT レジスタに書いてください。なお、送信データの準備ができるまで、又はストップコンディションを発行するまでの間 RIIC は自動的に SCLn ラインを Low にホールドします。
5. 送信する全バイトを ICDRT レジスタに書いた後、ICSR2 レジスタの TEND フラグが“1” になるまで待ってから ICCR2 レジスタの SP ビットに “1” を書いてください（ストップコンディション発行要求）。RIIC はストップコンディション発行要求を受け付けると、ストップコンディションを発行します。
6. RIIC はストップコンディションを検出すると、ICCR2 レジスタの MST、TRS ビットが自動的に“00b” になり、スレーブ受信モードに移行します。また、ストップコンディション検出により ICSR2 レジスタの TDRE、TEND フラグも自動的に“0” になり、ICSR2 レジスタの STOP フラグが“1” になります。
7. ICSR2 レジスタの STOP フラグが“ 1 ” であることを確認した後、次通信のために ICSR2 レジスタの NACKF、STOP フラグを “0”にしてください。

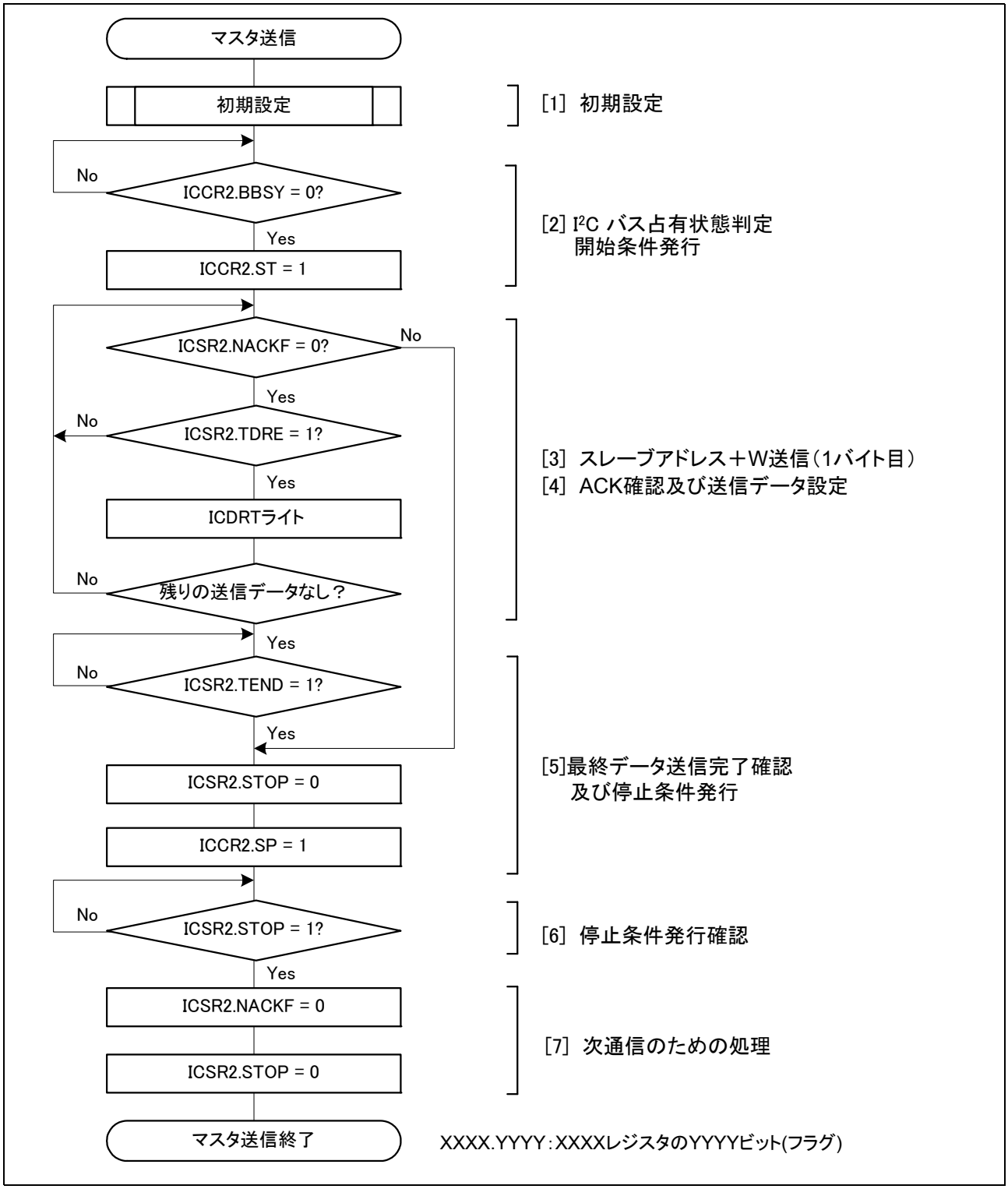


図 25.6　マスタ送信のフローチャート例

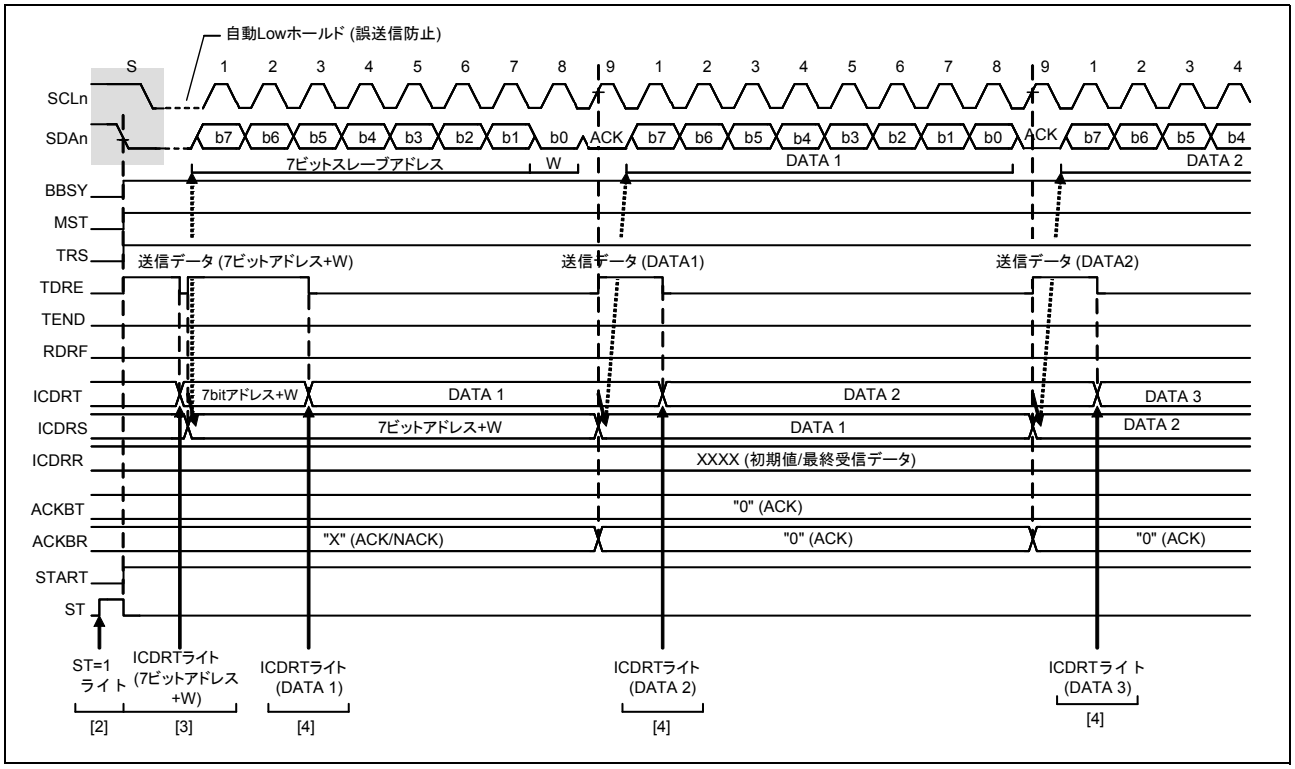


図 25.7　マスタ送信の動作タイミング（1）（7 ビットアドレスフォーマットのとき）

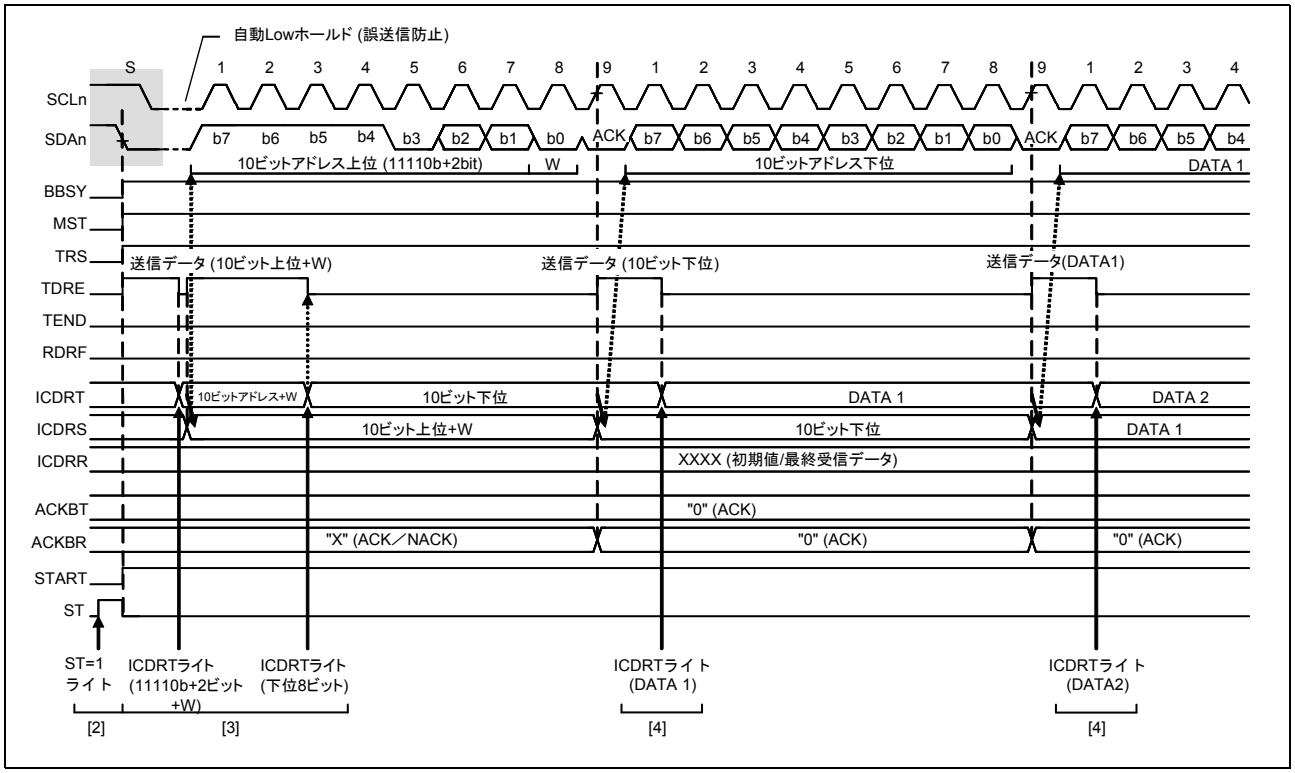


図 25.8　マスタ送信の動作タイミング（2）（10 ビットアドレスフォーマットのとき）

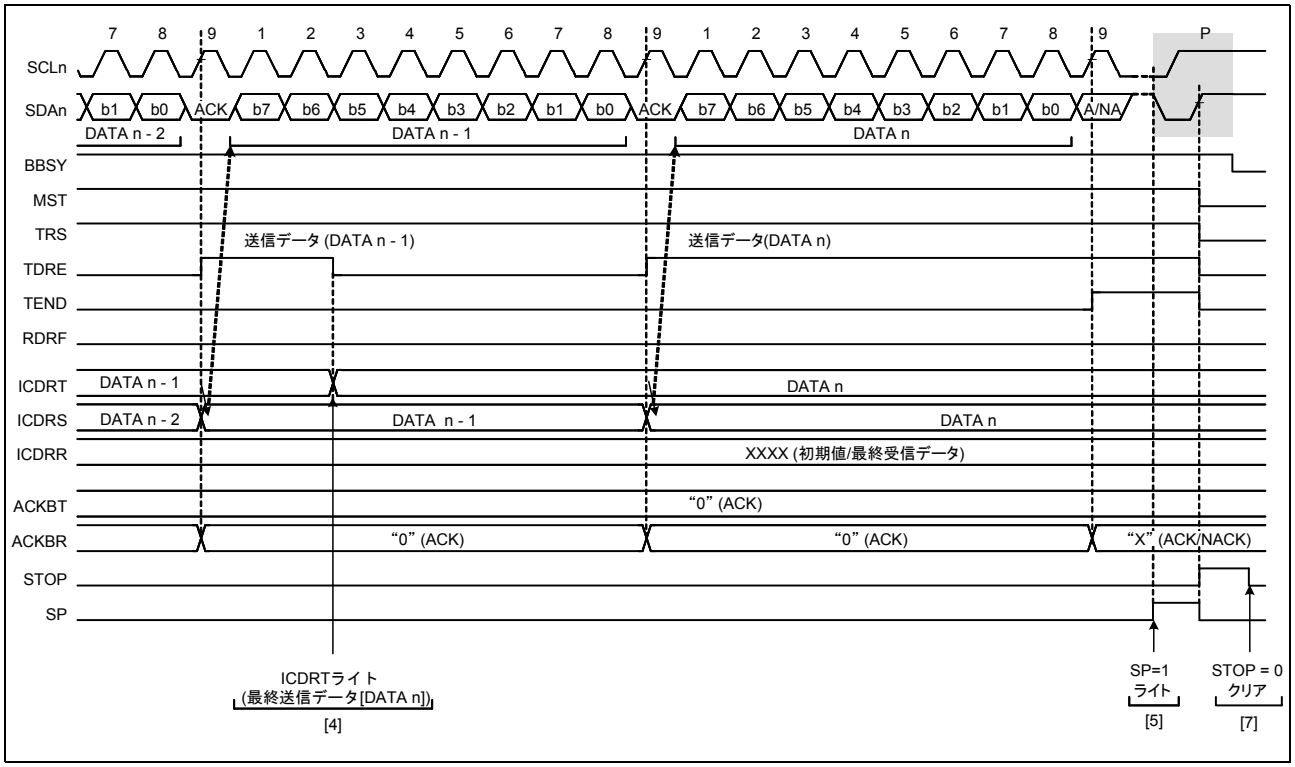


図 25.9　マスタ送信の動作タイミング（3）

25.3.4　マスタ受信動作

マスタ受信では、マスタデバイスである RIIC が SCL クロックを出力し、スレーブデバイスからデータを受信して、アクノリッジを返します。最初にスレーブデバイスにスレーブアドレスを送信する必要があるため、まずマスタ送信モードでスレーブアドレスを送信し、その後マスタ受信モードでデータを受信します。

図 25.10 にマスタ受信の使用例（7 ビットアドレスフォーマットの場合）を、図 25.11 ～図 25.13 にマスタ受信の動作タイミングを示します。

以下にマスタ受信の受信手順と動作を示します。

1. ICCR1 レジスタの ICE ビットを“0”（機能停止状態）にしたまま ICCR1 レジスタの IICRST ビットを“1”（内部リセット）にした後、“0”（リセット解除）にします。これにより ICSR1 レジスタの各フラグや内部状態の初期化を行います。その後、ICCR2、ICMR1、ICMR2、ICMR3、SARLn、SARUn (n = 0 ～ 2)、ICBRH、ICBRL を設定してください（RIIC の初期設定については図 25.5 参照）。必要なレジスタの設定が終了した後、ICE ビットを“1”（転送可能状態）にしてください。すでに RIIC の初期化が完了している場合、この手順は不要です。
2. ICCR2 レジスタの BBSY フラグを読んでバスが解放状態であることを確認した後、ICCR2 レジスタの ST ビットに“1” を書きます（スタートコンディション発行要求）。RIIC はスタートコンディション発行要求を受け付けると、スタートコンディションを発行します。RIIC はスタートコンディションを検出すると BBSY フラグ、ICSR2 レジスタの START フラグを自動的に“1” にし、ST ビットを自動的に“0” にします。このとき ST ビットが“1”の状態で自分が出した SDA 信号と SDAn ラインの状態がずれることなくスタートコンディションを検出した場合、RIIC は ST ビットによるスタートコンディション発行が正しく行われたと認識し、ICCR2 レジスタの MST、TRS ビットを自動的に“1” にしてマスタ送信モードになります。また ICSR2 レジスタの TDRE フラグは、TRS ビット=1 により自動的に“1” になります。
3. ICSR2 レジスタの TDRE フラグが“ 1 ” であることを確認した後、ICDRT レジスタに送信データ（スレーブアドレスと R/$\overline{W}$ ビット）を書いてください。ICDRT レジスタに送信データを書くと TDRE フ

ラグは自動的に“0” になり、ICDRT レジスタからICDRS レジスタにデータが転送されて、再びTDRE フラグが“1” になります。R/W ビットを含むスレーブアドレスの送信が完了すると、送信されたR/W ビットにより自動的にICCR2 レジスタのTRS ビットが変更され送信モード/ 受信モードが選択されます。RIIC はR/W ビット= 1 を受信すると、9 クロック目の立ち上がりでTRS ビットを“0” にしてマスタ受信モードに移行します。このとき TDRE フラグは “0” に、ICSR2 レジスタの RDRF フラグは自動的に“1” になります。このときICSR2 レジスタのNACKF フラグが“1” なら、スレーブデバイスが認識されていないか、あるいは通信不良が発生しているかですので、ストップコンディションを発行してください。ストップコンディションの発行はICCR2 レジスタのSP ビットに“1” を書くことで行えます。なお、10 ビットアドレスフォーマットでマスタ受信を行う場合は、まずマスタ送信で10 ビットアドレスを送信した後、リスタートコンディションを発行します。その後、1111 0b+ スレーブアドレスの上位2 ビット＋ R を送信することで、マスタ受信モードに移行します。

4. ICSR2 レジスタのRDRF フラグが“1” であることを確認した後、ダミーでICDRR レジスタを読むと、RIIC はSCL クロックを出力して受信動作を開始します。
5. 1 バイトのデータ受信が終了し、RDRFS ビット（ICMR3 レジスタのビット5）で設定したSCL クロックの8 クロック目、あるいは9 クロック目の立ち上がりで、ICSR2 レジスタの RDRF フラグが “1” になります。このとき ICDRR レジスタを読むと、受信したデータを読むことができ、同時に RDRF フラグは自動的に “0” になります。また SCL クロックの9 クロック目のアクノリッジビットには、ACKBT ビット（ICMR3 レジスタのビット3）に設定された値が返信されます。また、次の受信バイトが最終バイトー 1 の場合、ICDRR レジスタ（最終バイトー 2 バイト目）を読む前にWAIT ビット（ICMR3 レジスタのビット6）を“1”（WAIT あり）にしてください。これにより、続く 6 の処理（ICMR3・・・＝“1”(NACK)）が他割り込みなどにより遅れた場合でも最終バイトでNACK 出力を可能にするとともに、最終バイトの受信時に 9 クロック目の立ち下がりで SCLn ラインを Low に固定して、ストップコンディション発行可能状態にすることができます。
6. ICMR3 レジスタの RDRFS ビットが “0” でスレーブデバイスに次のデータ受信で通信終了であることを通知する必要がある場合には、ICMR3 レジスタのACKBT ビットを“1”（NACK）にしてください。
7. ICDRR レジスタ（最終バイトー 1 バイト目）読み出し後、ICSR2 レジスタのRDRF フラグが“1” であることを確認してから、ICCR2 レジスタのSP ビットに“1” を書いて（ストップコンディション発行要求）、ICDRR レジスタ（最終バイト）を読んでください。RIIC はICDRR レジスタの読み出しにより、WAIT 状態が解除され、9 クロック目のLow 出力終了又はSCL ラインのLow ホールド解除後にストップコンディションを発行します。
8. RIIC はストップコンディションを検出すると、ICCR2 レジスタのMST、TRS ビットは自動的に“00b” になり、スレーブ受信モードに移行します。また、ストップコンディション検出によりICSR2 レジスタのSTOP フラグが“1” になります。
9. 次通信のためにICSR2 レジスタのNACKF、STOP フラグを “0”にしてください。

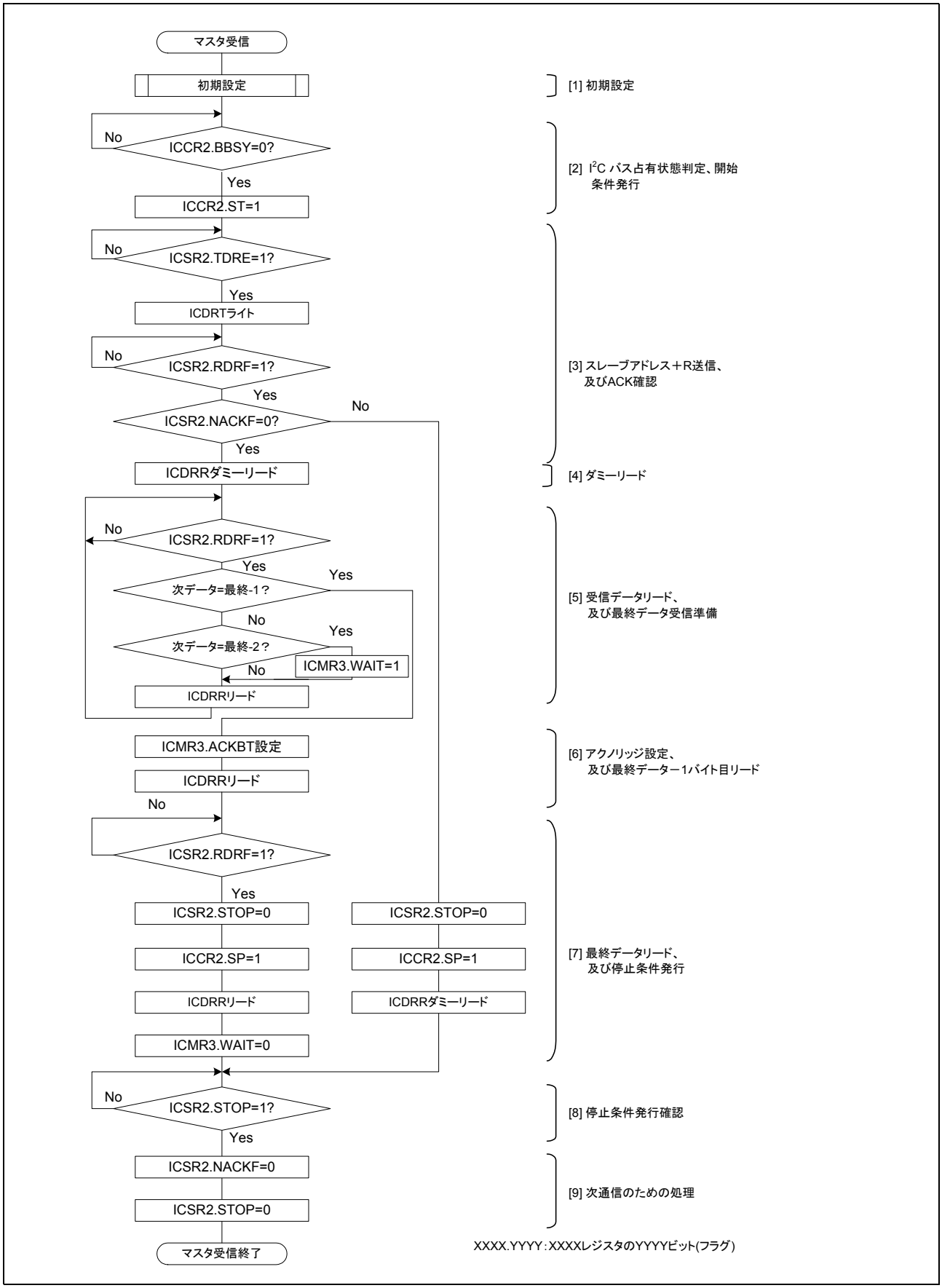


図 25.10　マスタ受信のフローチャート例（7 ビットアドレスフォーマットの場合）

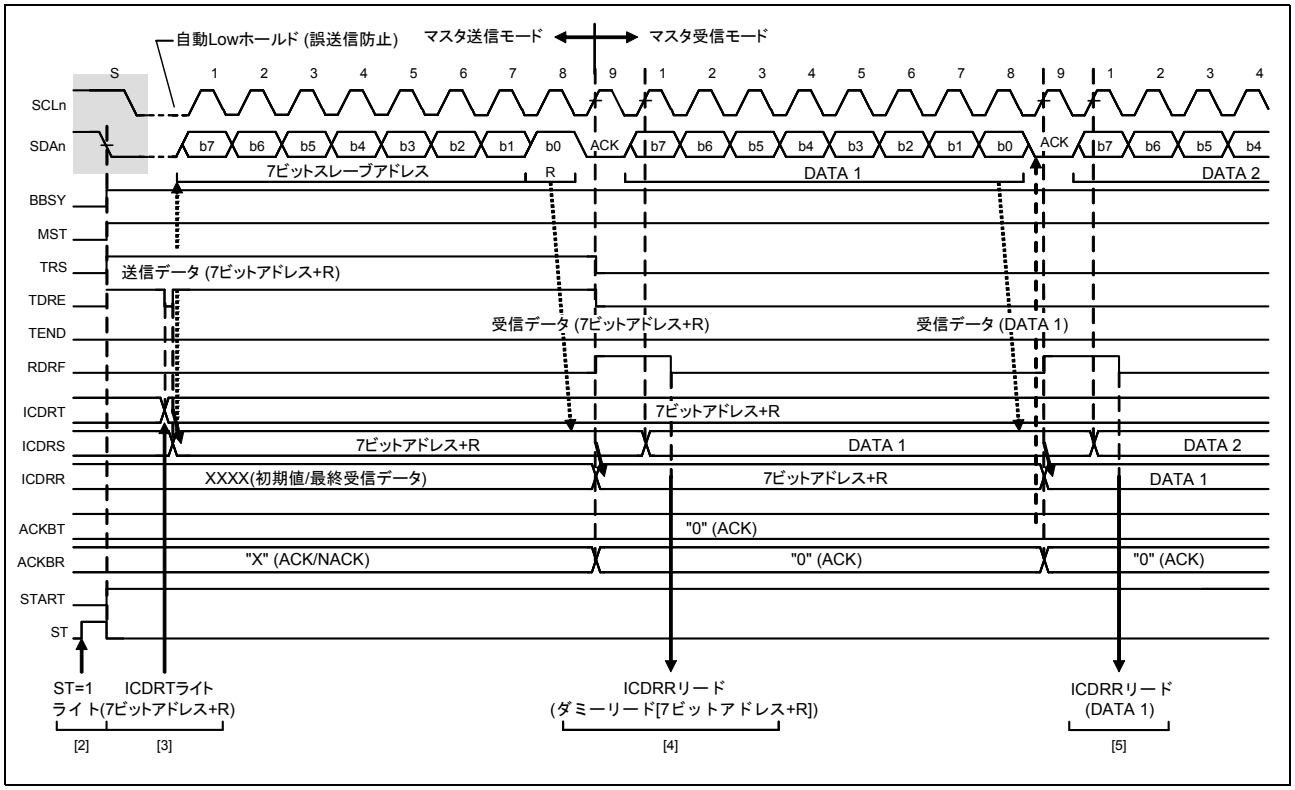


図 25.11　マスタ受信の動作タイミング（1）（7 ビットアドレスフォーマット、RDRFS=0 のとき）

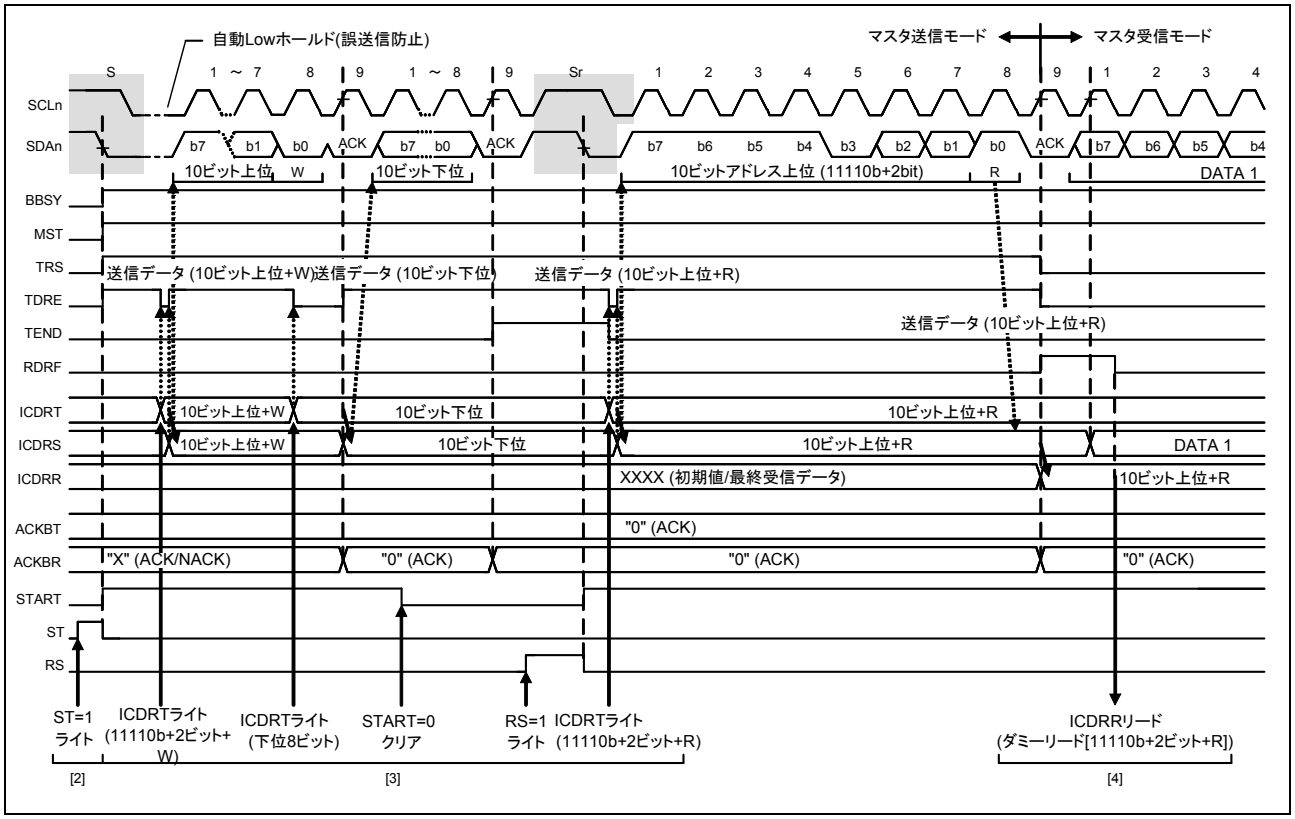


図 25.12　マスタ受信の動作タイミング（2）（10 ビットアドレスフォーマット、RDRFS=0 のとき）

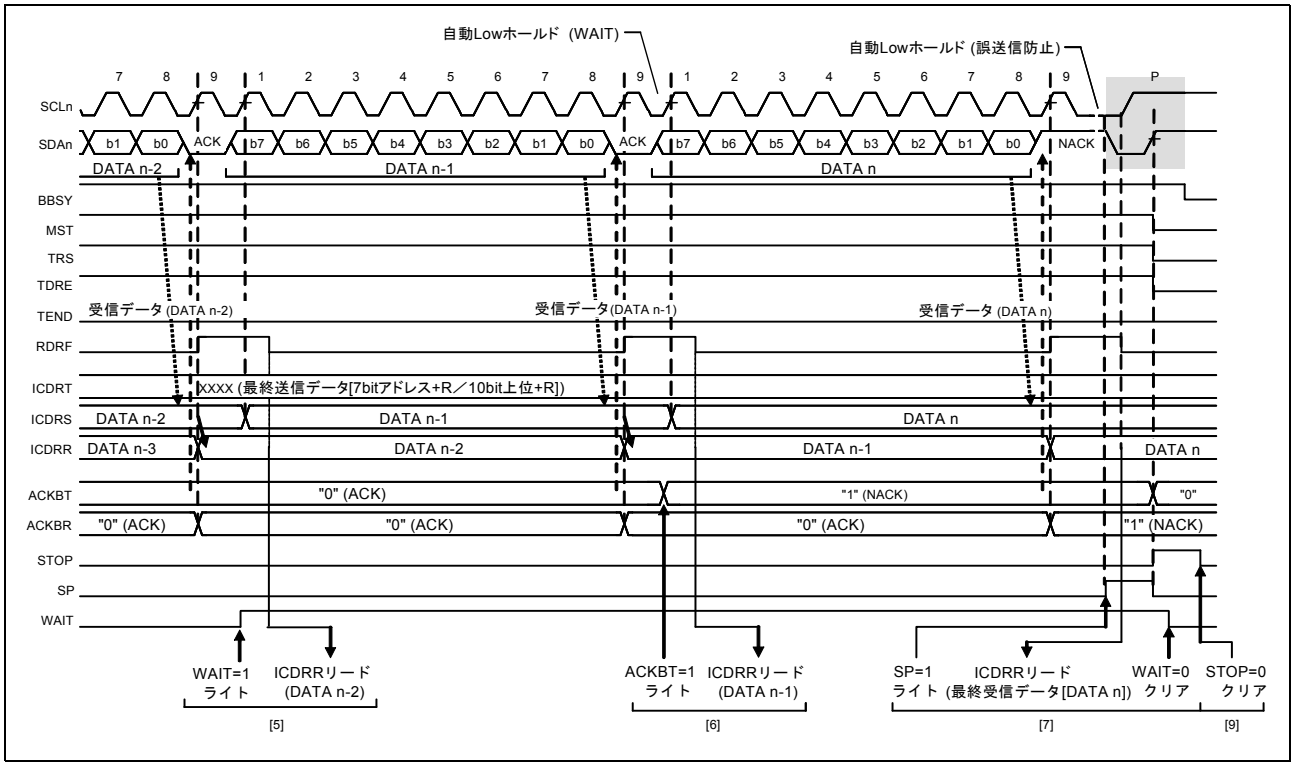


図 25.13　マスタ受信の動作タイミング（3）（RDRFS=0 のとき）

25.3.5　スレーブ送信動作

スレーブ送信では、マスタデバイスが SCL クロックを出力し、スレーブデバイスである RIIC がデータを送信し、マスタデバイスがアクノリッジを返します。

図 25.14 にスレーブ送信の使用例を示します。図 25.15、図 25.16 にスレーブ送信の動作タイミングを示します。

以下にスレーブ送信の送信手順と動作を示します

1. 図 25.5 に示す手順で RIIC を初期設定してください。初期設定完了後、RIIC はスレーブアドレスが一致するまで待機状態となります。
2. RIIC はスレーブアドレスが一致した場合、SCL クロックの 9 クロック目の立ち上がりで該当する HOA、GCA、AASn ビット（n=0 ～ 2）（ICSR1 レジスタのビット 7、3、2 ～ 0）のいずれかを “1” にし、SCL クロックの 9 クロック目のアクノリッジビットに ICMR3 レジスタの ACKBT ビットに設定した値を返信します。このとき受信した R/$\overline{W}$ ビットが “1” のとき、ICCR2 レジスタの TRS ビット及び ICSR2 レジスタの TDRE フラグを “1” にし、自動的にスレーブ送信モードに切り替わります。
3. ICSR2 レジスタの TDRE フラグが “1” であることを確認した後、ICDRT レジスタに送信データを書いてください。このとき、ICFER レジスタの NACKE ビットが “1” の状態でマスタデバイスからアクノリッジがなかった（NACK を受信した）場合、RIIC は次の通信動作を中断します。
4. ICSR2 レジスタの NACKF フラグが “1” になるか、又は最終送信データを ICDRT レジスタに書いた後、ICSR2 レジスタの TDRE フラグが “1” の状態で、ICSR2 レジスタの TEND フラグが “1” になるまで待ってください。ICSR2 レジスタの NACKF フラグが “1” 又は TEND フラグが “1” の場合、RIIC は 9 クロック目の立ち下がり以降 SCLn ラインを Low にホールドします。
5. ICSR2 レジスタの NACKF フラグが “1” 又は ICSR2 レジスタの TEND フラグが “1” の場合、終了処理のため ICDRR レジスタをダミーで読んでください。これにより SCLn ラインを開放します。
6. RIIC はストップコンディションを検出すると、ICSR1 レジスタの HOA、GCA、AASn ビット (n=0 ～ 2)、ICSR2 レジスタの TDRE、TEND フラグ、ICCR2 レジスタの TRS ビットを自動的に “0” にし、スレーブ受信モードに移行します。
7. 次通信のために ICSR2 レジスタの NACKF、STOP フラグを “0” にしてください

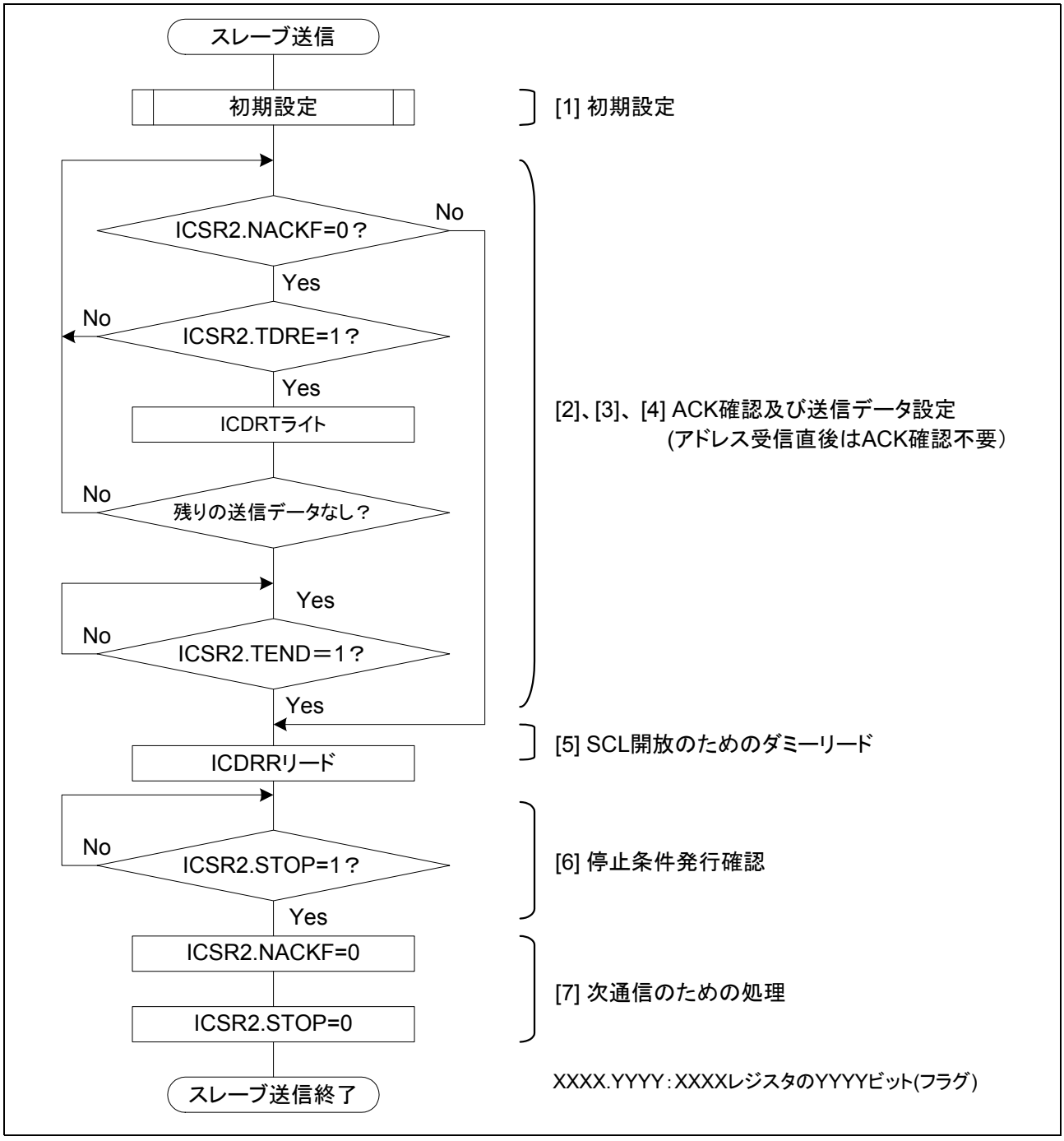


図 25.14　スレーブ送信のフローチャート例

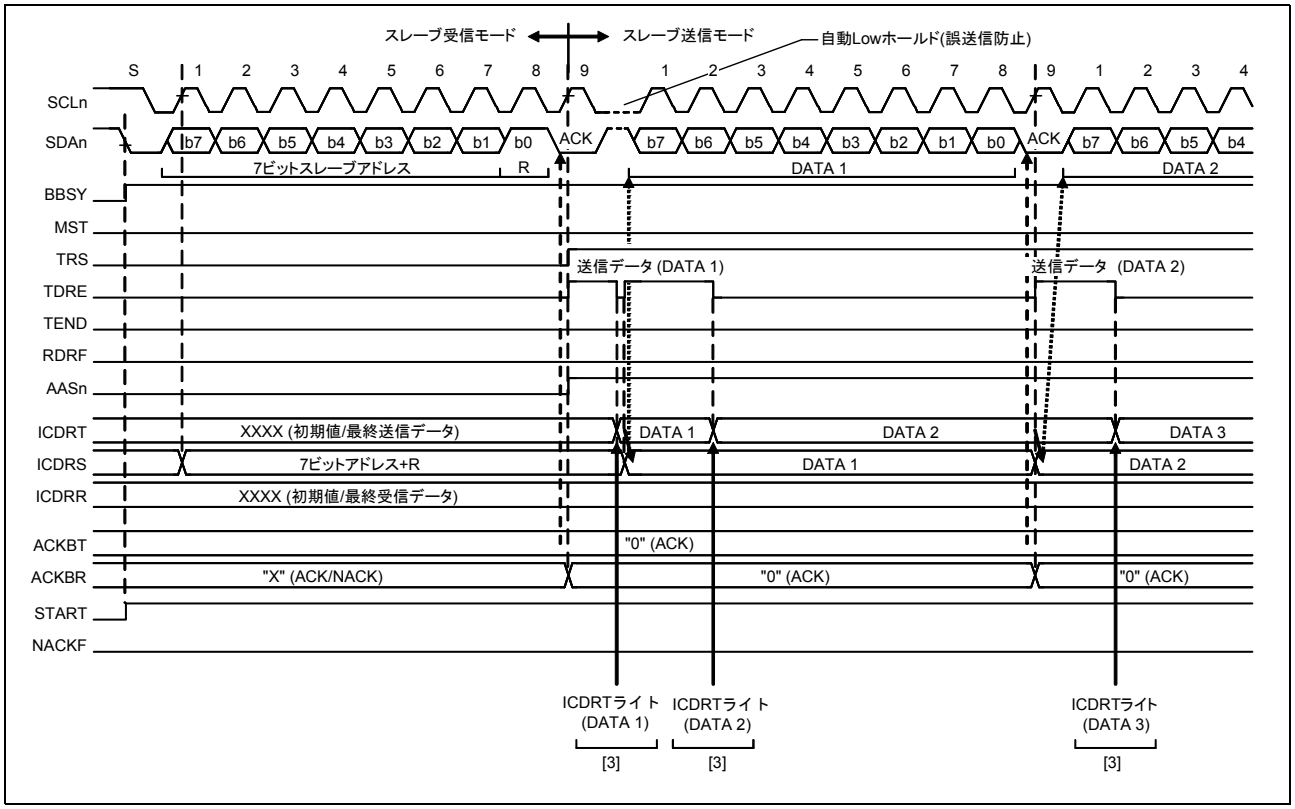


図 25.15　スレーブ送信の動作タイミング（1）（7 ビットアドレスフォーマットのとき）

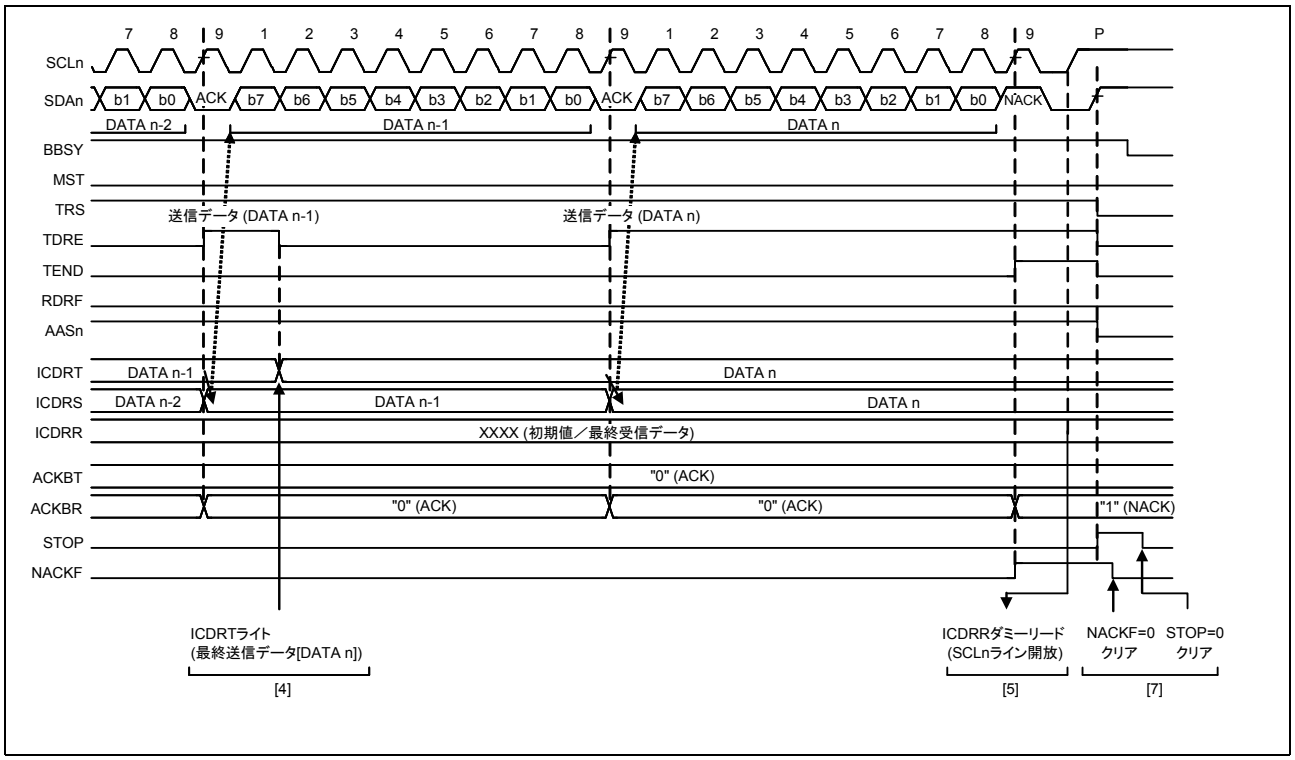


図 25.16　スレーブ送信の動作タイミング（2）

25.3.6　スレーブ受信動作

スレーブ受信では、マスタデバイスがSCL クロックと送信データを出力し、スレーブデバイスであるRIICがアクノリッジを返します。

図25.17 にスレーブ受信の使用例を図25.18、図25.19 にスレーブ受信の動作タイミングを示します。

以下にスレーブ受信の受信手順と動作を示します。

1. 図25.5 に示す手順でRIIC を初期設定してください。初期設定完了後、RIIC はスレーブアドレスが一致するまで待機状態となります。
2. RIIC はスレーブアドレスが一致した場合、RIIC はSCL クロックの9 クロック目の立ち上がりで該当するICSR1 レジスタのHOA、GCA、AASn ビット(n=0 ～ 2) のいずれかを“1” にし、SCL クロックの9 クロック目のアクノリッジビットにICMR3 レジスタのACKBT ビットに設定した値を返信します。このとき受信したR/$\overline{W}$ ビットが“0” なら、スレーブ受信モードの状態を継続し、ICSR2 レジスタのRDRF フラグを“1” にします。
3. ICSR2 レジスタのSTOP フラグが“0” で、かつICSR2 レジスタのRDRF フラグが“1” であることを確認したら、最初の1 回目はICDRR レジスタをダミーで読んでください（なお、ダミーで読んだ受信データは7 ビットアドレスフォーマット時にスレーブアドレス＋ R/$\overline{W}$ ビット、10 ビットアドレスフォーマット時は下位8 ビットアドレスになります)。
4. ICDRR レジスタを読むとRIIC はICSR2 レジスタのRDRF フラグを自動的に“0” にします。なお、ICDRR レジスタの読み出しが遅れて、RDRF フラグが“1” になった状態で次のデータを受信すると、RIIC はRDRF フラグが " 1” になるタイミングの1 つ手前のSCL クロック立ち下がりでSCLn ラインをLow にホールドします。このLow ホールドはICDRR レジスタを読むことで解除されRIIC はSCLn ラインを開放します。ICSR2 レジスタのSTOP フラグが“1” で、かつICSR2 レジスタのRDRF フラグが“1” の場合、又は全データ受信が完了するタイミングでICDRR レジスタ（最終データ) を読んでください。
5. RIIC はストップコンディションを検出すると、ICSR1 レジスタのHOA、GCA、AASn ビット(n=0 ～ 2) を自動的に “0”にします。
6. 次通信のためにICSR2 レジスタの STOP フラグを “0” にしてください。

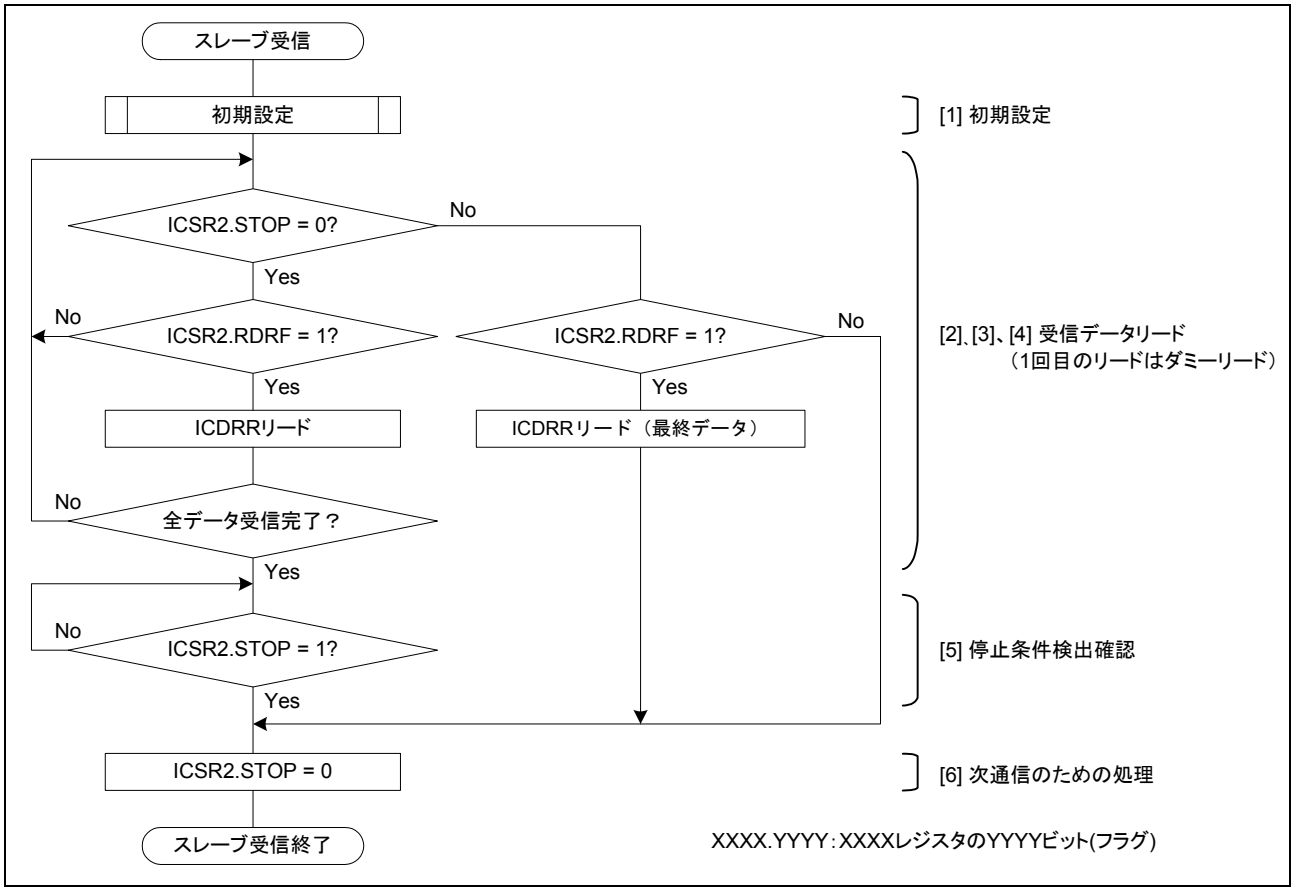


図 25.17　スレーブ受信のフローチャート例

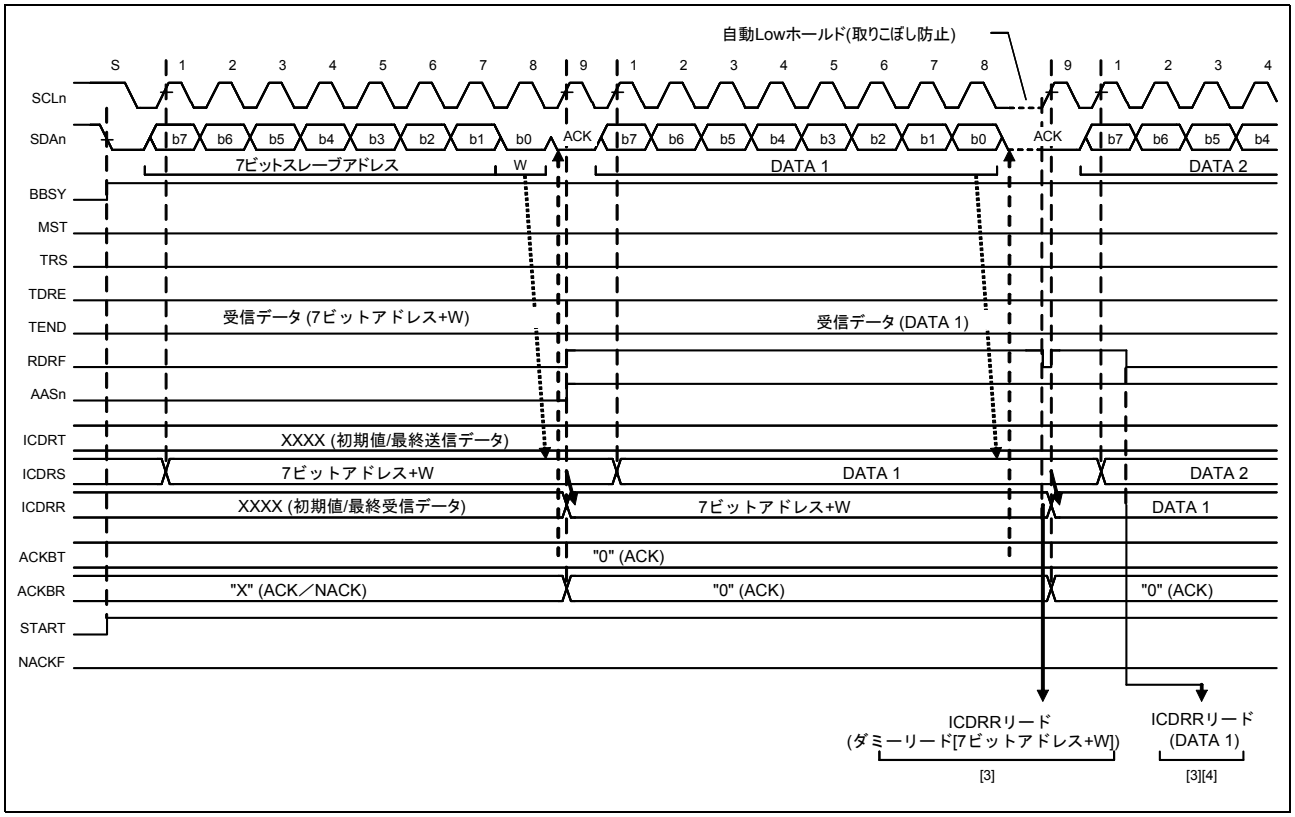


図 25.18　スレーブ受信の動作タイミング（1）（7 ビットアドレスフォーマット、RDRFS=0 のとき）

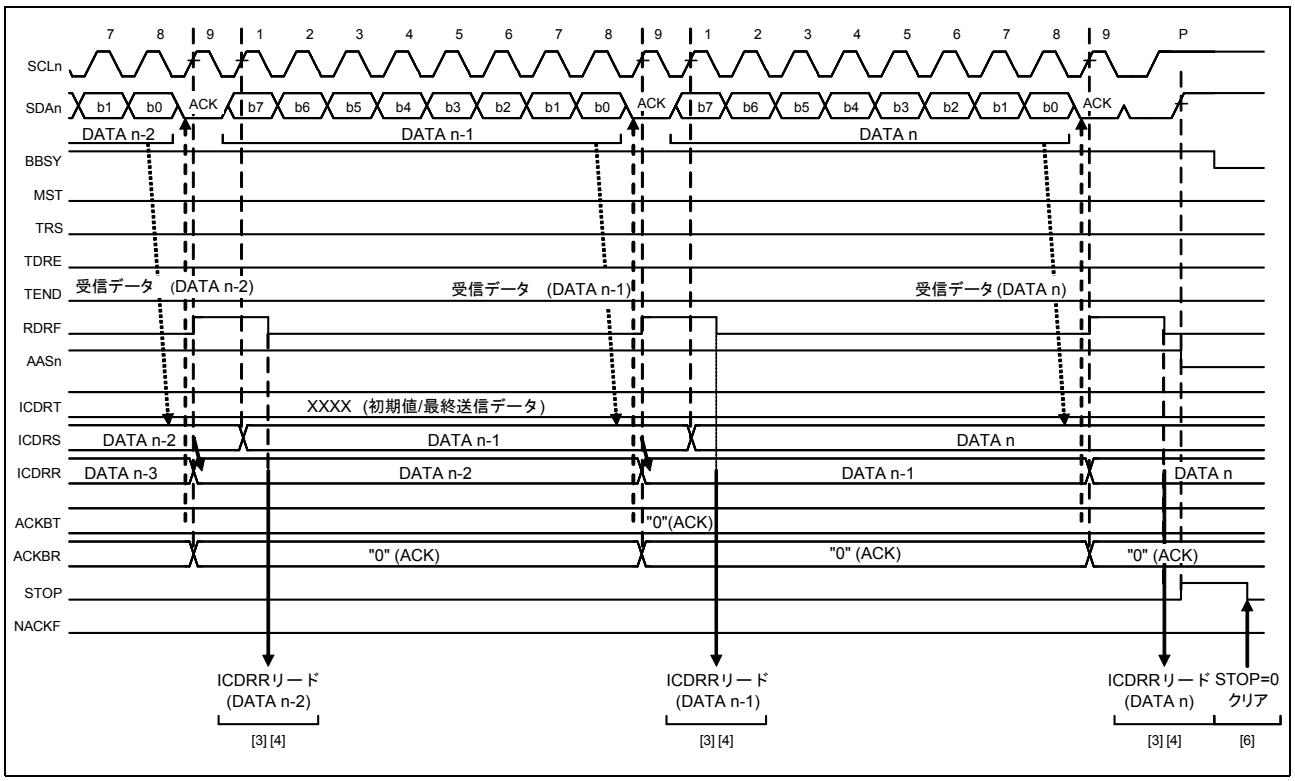


図 25.19　スレーブ受信の動作タイミング（2）（RDRFS=0 のとき）

25.4　SCL 同期回路

RIIC の SCL クロック生成は SCLn ラインの立ち上がりを検出すると、ICBRH レジスタで設定された High 幅のカウントを開始し、High 幅のカウントが終了すると SCLn ラインを Low にドライブして立ち下げます。また SCLn ラインの立ち下がりを検出すると、ICBRL レジスタで設定された Low 幅のカウントを開始し、Low 幅のカウントが終了すると SCLn ラインの Low ドライブを終了して SCLn ラインを開放します。これにより SCL クロックを生成します。

I²C バスをマルチマスタで使用する場合、SCL クロックは他のマスタデバイスとの競合により SCL クロック同士が衝突する場合があります。SCL クロックが衝突した場合、マスタデバイスは SCL クロックの同期化を行う必要があります。この SCL クロックの同期はビットごとに行う必要があり、RIIC はマスタモード時に SCLn ラインを監視してビットごとに同期を取りながら SCL クロックを生成する機能（SCL 同期回路）を備えています。

RIIC が SCLn ラインの立ち上がりを検出し ICBRH レジスタで設定された High 幅のカウント中に他のマスタデバイスの SCL クロック出力により SCLn ラインが立ち下げられた場合、RIIC は SCLn ラインの立ち下がりを検出すると High 幅のカウントアップ動作を中断し、SCLn ラインの Low ドライブを行うのと同時に ICBRL レジスタで設定された Low 幅のカウントアップを開始します。Low 幅のカウントが終了すると SCLn ラインの Low ドライブを終了して SCLn ラインを開放します。このとき他のマスタデバイスの SCL クロックの Low 幅が RIIC で設定された Low 幅よりも長い場合、SCL クロックの Low 幅は延長されます。他のマスタデバイスの Low 幅出力が終了すると、SCLn ラインが開放され SCL クロックが立ち上がります。そのため SCL クロック出力衝突時の SCL クロックの High 幅は短いクロックに同期し、Low 幅は長いクロックに同期化されます。なお、この SCL 同期は ICFER レジスタの SCLE ビットが “1” のとき有効です。

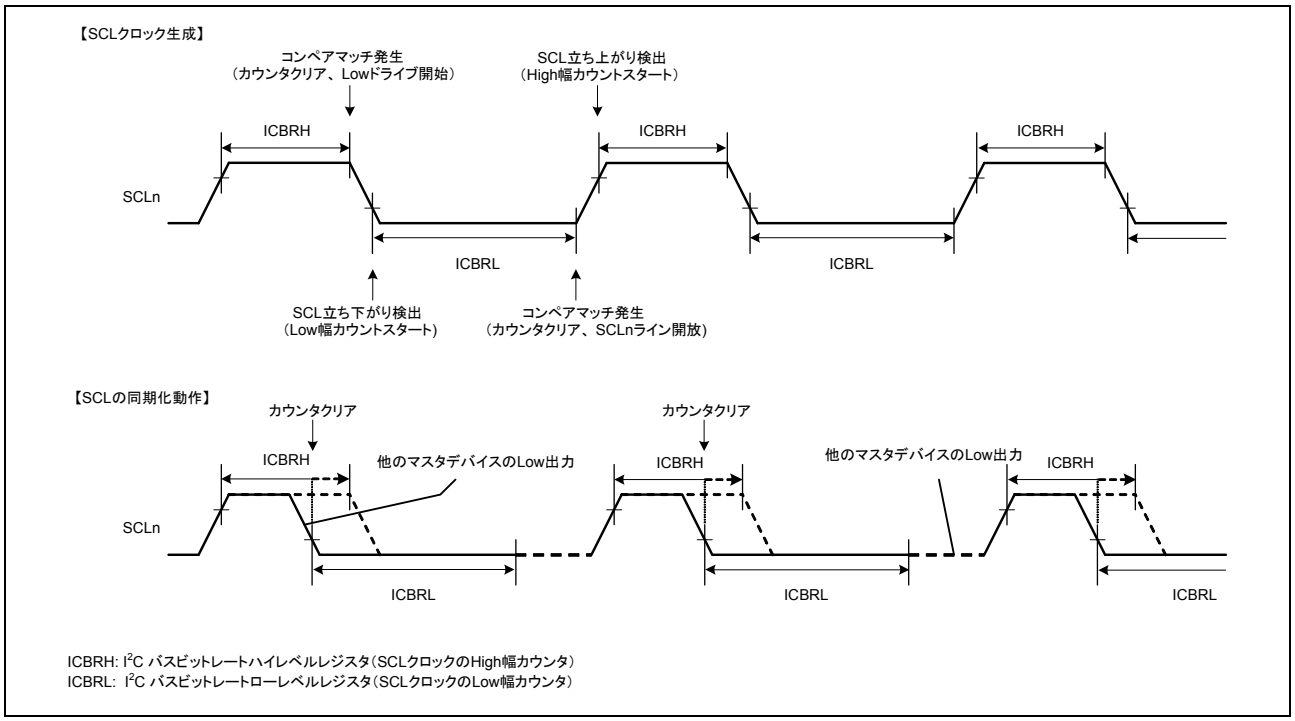


図 25.20　RIIC の SCL クロック生成及び SCL 同期化動作

25.5　SDA 出力遅延機能

RIIC にはSDA 出力遅延機能を備えています。SDA 出力遅延機能は、すべてのSDA 出力タイミング（発行動作（開始/ 再開始/ 停止）、データ出力、ACK/NACK 出力）を遅延させることができます。

SDA 出力遅延機能は、SCL クロックの立ち下がり検出からSDA 出力を遅延させ、確実にSCL クロックのLow 期間中にSDA 出力を行うことで、通信デバイスの誤認動作を防ぐ目的で使用する機能で、SMBus のデータホールド時間:300ns（min）の規格を満たす目的でも使用することができます。

このSDA 出力遅延機能はSDDL[2:0] ビット（ICMR2 レジスタのビット6～4）が“000b” 以外のとき有効で、SDDL[2:0] ビットが“000b”のとき無効です。

SDA 出力遅延機能が有効（SDDL[2:0] ビットが“000b” 以外）のとき、SDA 出力遅延カウンタはICMR2 レジスタのDLCS ビットで選択された内部基準クロック（IICφ）又はその2 分周クロック（IICφ/2）をカウントソースとしてSDDL[2:0] ビットで設定されたサイクル数分のカウント動作を行い、遅延サイクル分のカウントが終了した時点でRIIC はSDA 出力（発行動作（開始/ 再開始/ 停止）、データ出力、ACK/NACK 出力）を行います。

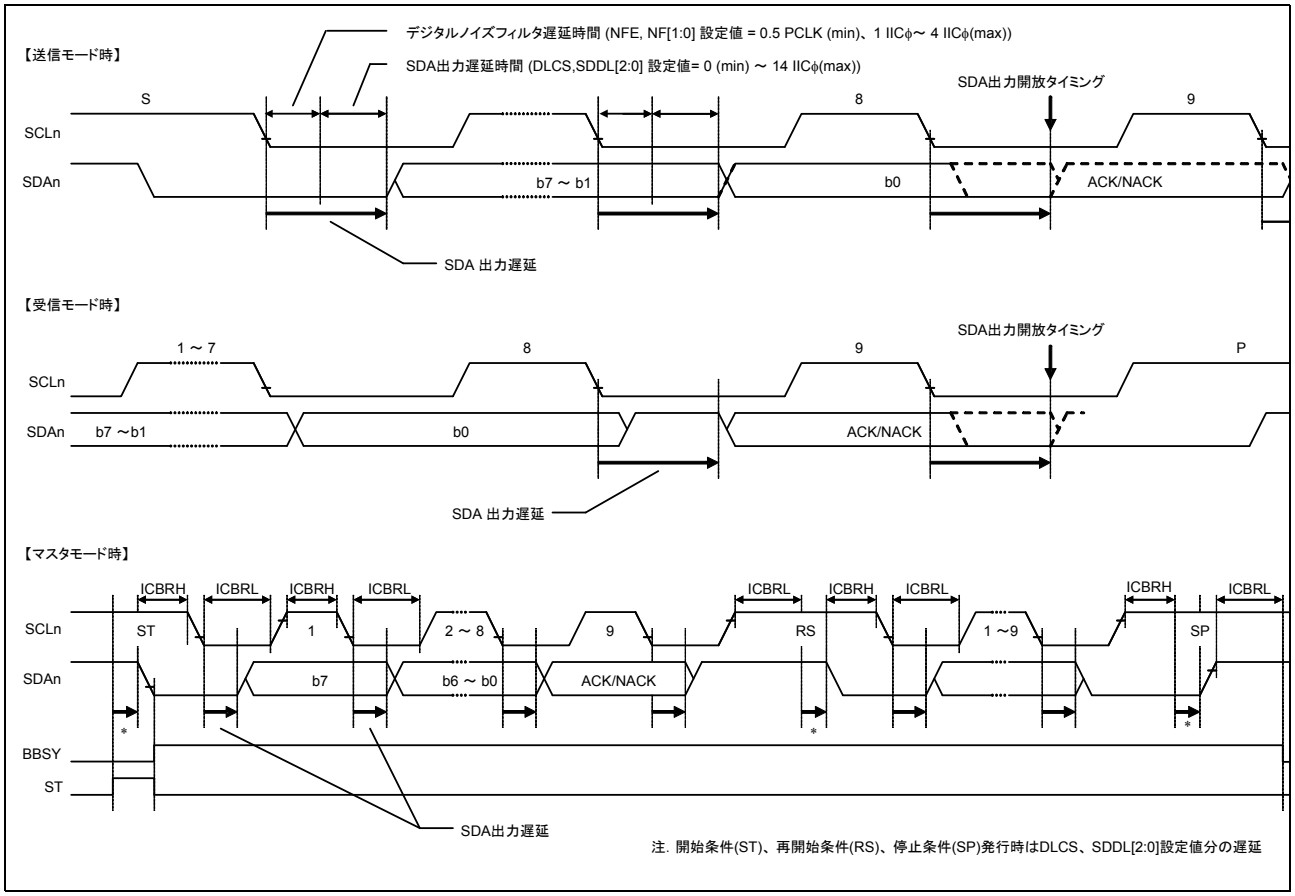


図 25.21　SDA 出力遅延タイミング

25.6　デジタルノイズフィルタ回路

SCLn 端子及びSDAn 端子の状態は、デジタルノイズフィルタ回路を経由して内部に取り込まれます。図25.22 にデジタルノイズフィルタ回路のブロック図を示します。

RIIC に内蔵されているデジタルノイズフィルタ回路は、4 段の直列に接続されたフリップフロップ回路と一致検出回路で構成されています。

デジタルノイズフィルタの有効段数はNF[1:0] ビット（ICMR3 レジスタのビット1、0）で選択し、ノイズ除去能力は選択した有効段数に応じて1IICφ ～ 4IICφサイクル分となります。

SCLn 端子入力信号（又はSDAn端子入力信号）はPckの立ち下がりでサンプリングされ、ICMR3 レジスタのNF[1:0] ビットで設定された有効段数のフリップフロップ回路出力がすべて一致したとき、そのレベルが内部信号として伝えられ、一致しない場合は前の値を保持します。

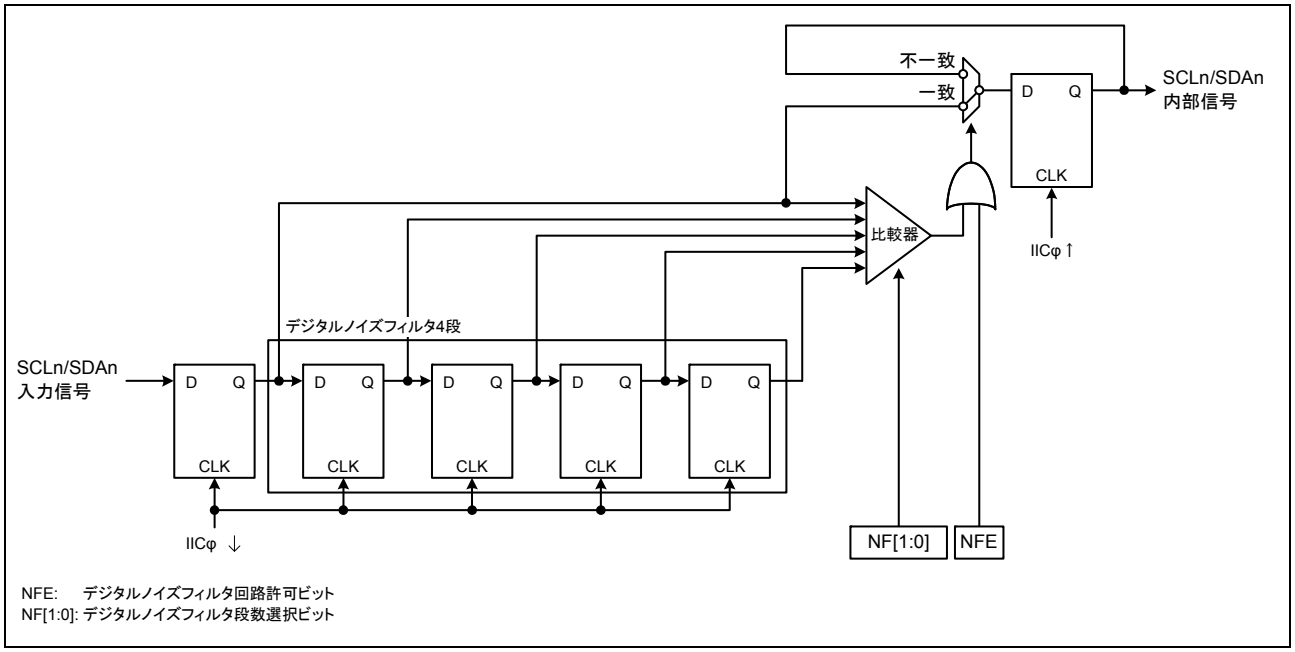


図 25.22　デジタルノイズフィルタ回路のブロック図

25.7　アドレス一致検出機能

RIIC はジェネラルコールアドレス、ホストアドレスの他に 3 種類のスレーブアドレスを設定可能です。またスレーブアドレスには7 ビットアドレス又は10 ビットアドレスの設定が可能です。

25.7.1　スレーブアドレス一致検出機能

RIIC は3 種類のスレーブアドレスを設定可能で、それぞれに応じたスレーブアドレス検出機能を備えています。ICSER レジスタの SARnE ビット (n=0 ～ 2) が“1” のとき、SARUn/SARLn レジスタ (n=0 ～ 2) に設定されたスレーブアドレスを検出することができます。

RIIC は設定されたスレーブアドレス一致を検出すると、SCL クロックの9 クロック目の立ち下がりで該当する ICSR1 レジスタの AASn フラグ (n=0～2) を“1” にし、続く R/$\overline{W}$ ビットにより ICSR2 レジスタの RDRF フラグ又は ICSR2 レジスタの TDRE フラグを “1” にします。これにより受信データフル割り込み（RXI）又は送信データエンプティ割り込み（TXI）を発生させることができ、AASn フラグを確認することでどのスレーブアドレスが指定されたかを識別することができます。

図25.23 ～図25.25 にAASn フラグが“1” になるタイミングを示します。

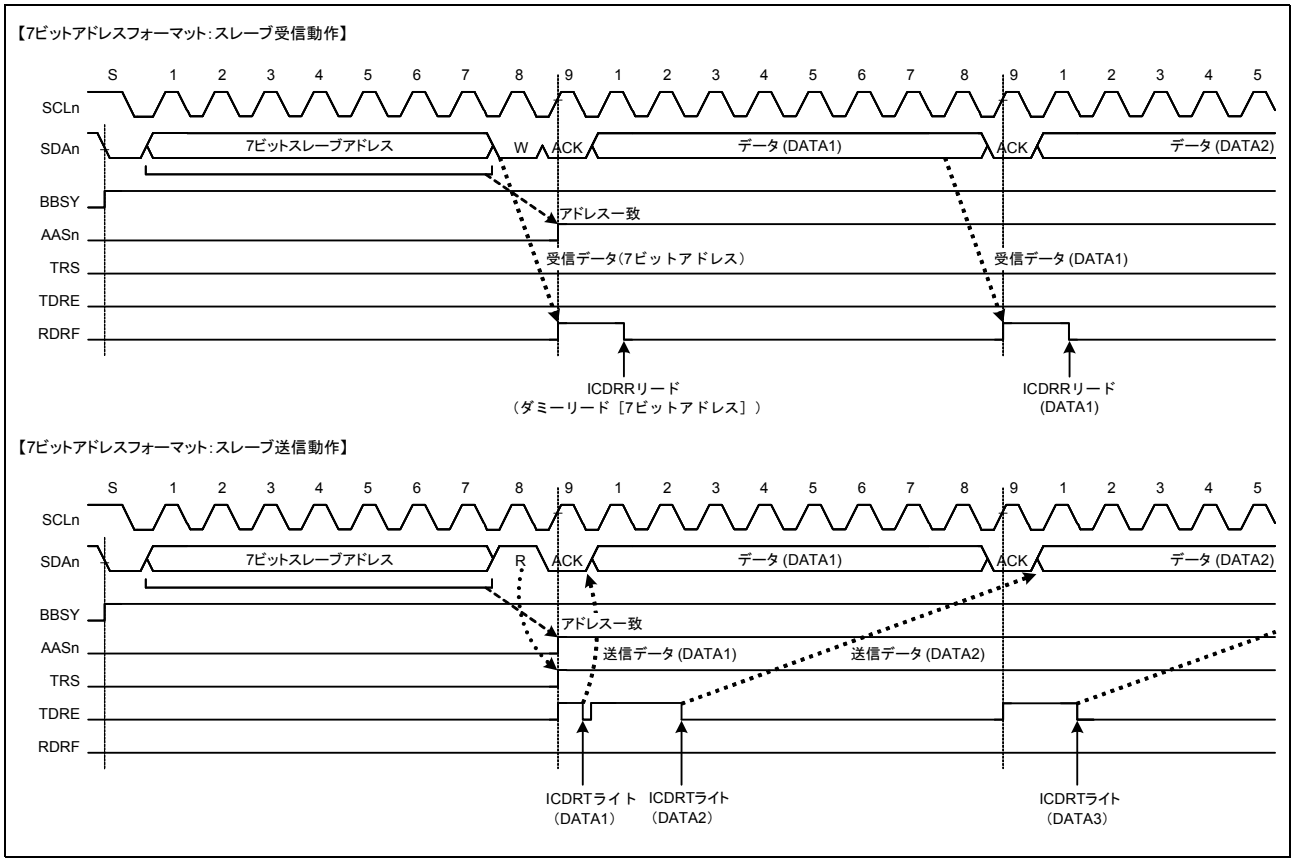


図 25.23　7 ビットアドレスフォーマット選択時にAASn フラグが“1” になるタイミング

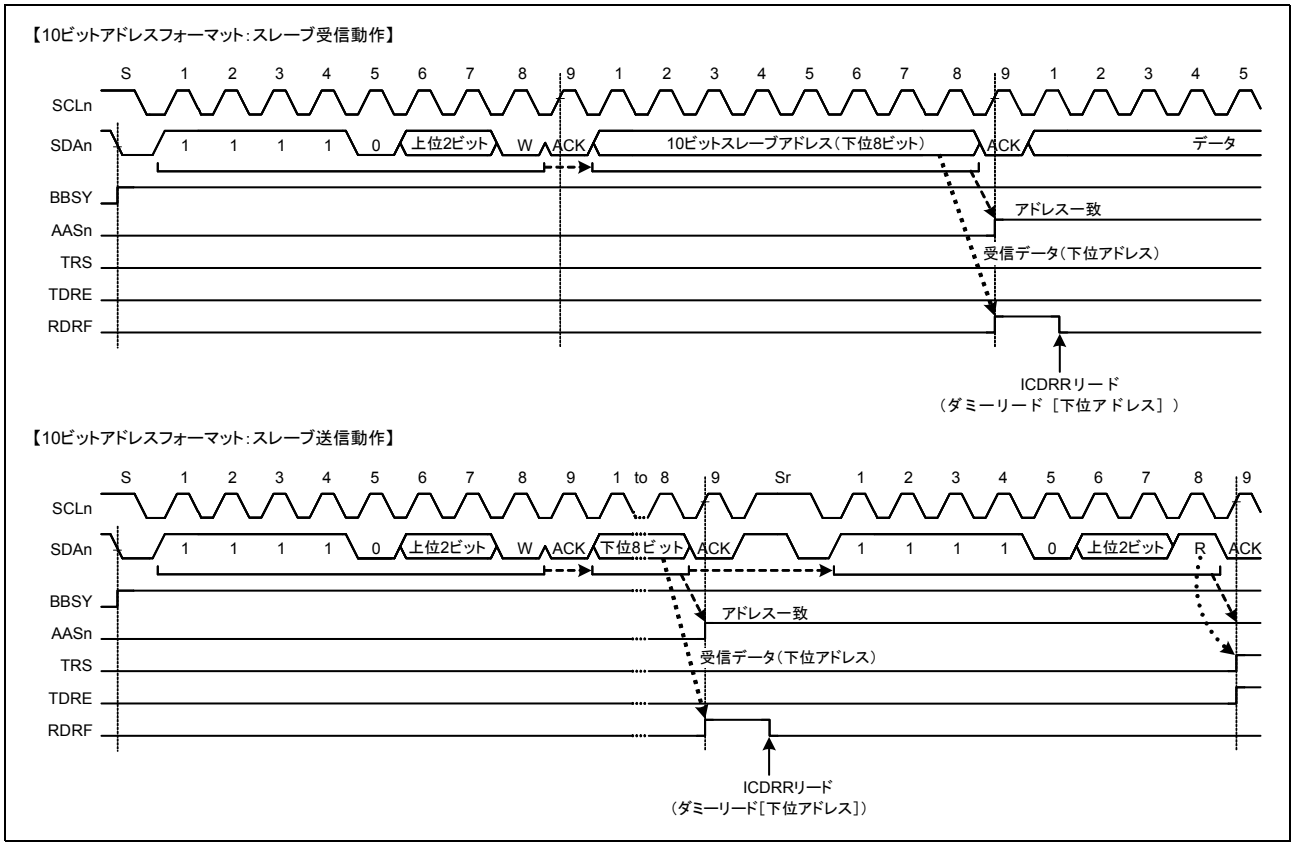


図 25.24　10 ビットアドレスフォーマット選択時にAASn フラグが“1” になるタイミング

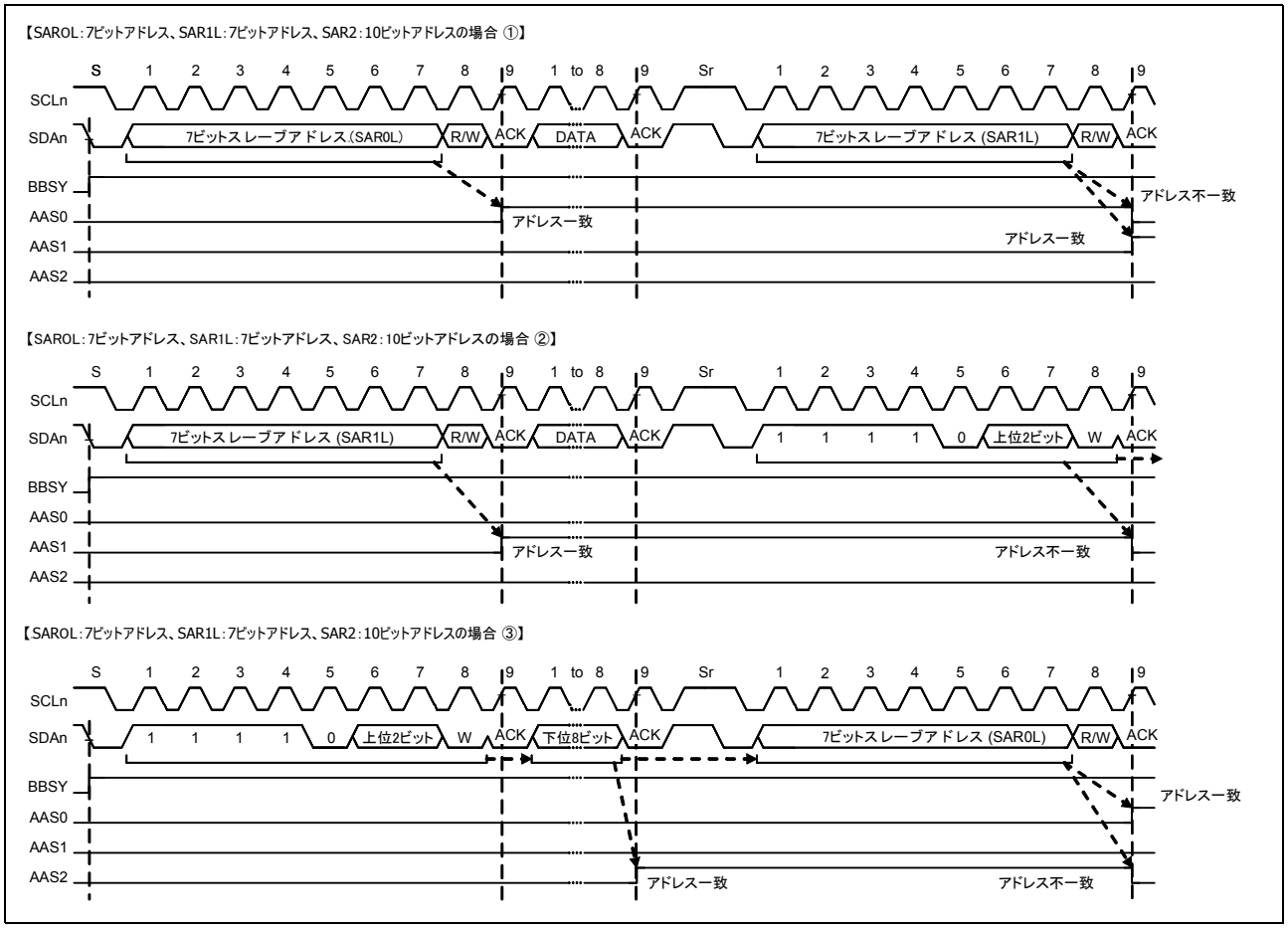


図 25.25　7 ビット/10 ビットアドレスフォーマット混在時にAASnフラグが“1”/“0” になるタイミング

25.7.2　ジェネラルコールアドレス検出機能

RIIC はジェネラルコールアドレス（0000 000b ＋ 0[W]）の検出機能を備えています。ICSER レジスタの GCAE ビットが“1” のとき、ジェネラルコールアドレスを検出することができます。

スタートコンディション又はリスタートコンディション後のアドレスが 0000 000b ＋ 1[R]（スタートバイト）だった場合、RIIC はこのアドレスを All“0” のスレーブアドレスと認識し、ジェネラルコールアドレスとみなしません。

RIIC はジェネラルコールアドレスを検出すると、SCL クロックの 9 クロック目の立ち下がりで ICSR1 レジスタの GCA フラグを“1” にし、同時に ICSR2 レジスタの RDRF フラグを“1” にします。これにより受信データフル割り込み（RXI）を発生させることができ、GCA フラグを確認することでジェネラルコールアドレスが送信されたことを認識することができます。

なお、ジェネラルコールアドレス検出後の動作は通常のスレーブ受信動作と同じです。

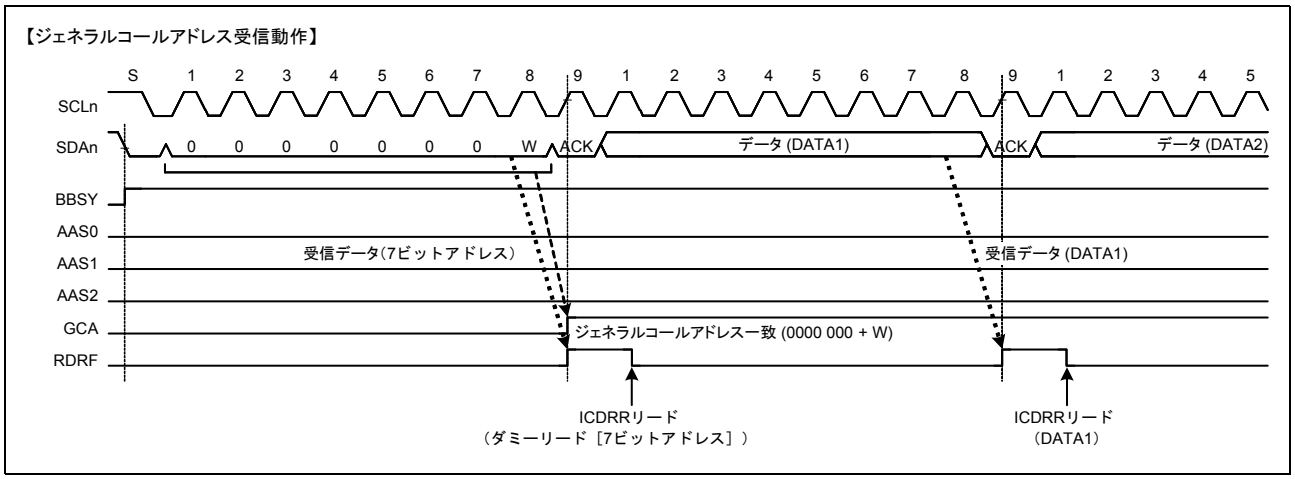


図 25.26　ジェネラルコールアドレス受信時に GCA フラグが“1” になるタイミング

25.7.3　デバイスID アドレス検出機能

RIIC はI2C バス（Rev.03）に準拠したデバイスID アドレスの検出機能を備えています。ICSER レジスタのDIDE ビットを“1” にした状態で、スタートコンディション又はリスタートコンディション後の1 バイト目に1111 100b を受信すると、RIIC はこのアドレスをデバイスID アドレスと認識し、続くR/W ビットが“0” のときSCL クロックの9 クロック目の立ち上がりでICSR1 レジスタのDID フラグを“1” にした後、2 バイト目以降と自スレーブアドレスとの比較動作を行います。この2 バイト目以降のアドレスがスレーブアドレスレジスタの値と一致した場合、該当するICSR1 レジスタのAASｎ フラグ(ｎ=0 ～ 2) が“1” になります。

その後スタートコンディション又はリスタートコンディション後の1 バイト目が再びデバイスID アドレス（1111 100b）と一致し、続くR/W ビットが“1” のときRIIC は続く2 バイト目以降はアドレス比較動作を行わず、ICSR2 レジスタのTDRE フラグを“1” にします。

デバイスID アドレス検出機能は、自スレーブアドレスと不一致あるいは自スレーブアドレス一致後のリスタートコンディション後のアドレスがデバイスID アドレスと不一致の場合、DID フラグを“0” にします。そのため、TDRE=1 確認後 DID フラグをチェックすることで、デバイスID を受信したことを確認することができます。

なお、一連のデバイスID 受信後にホストに送信するデバイスID フィールドとして必要な情報（3 バイト分：メーカ[12 ビット] ＋部品識別[9 ビット] ＋リビジョン[3 ビット]）は、通常の送信データと同様あらかじめ準備してください。また、デバイスID フィールドに必要な情報の詳細についてはNXP 社にお問い合わせください。

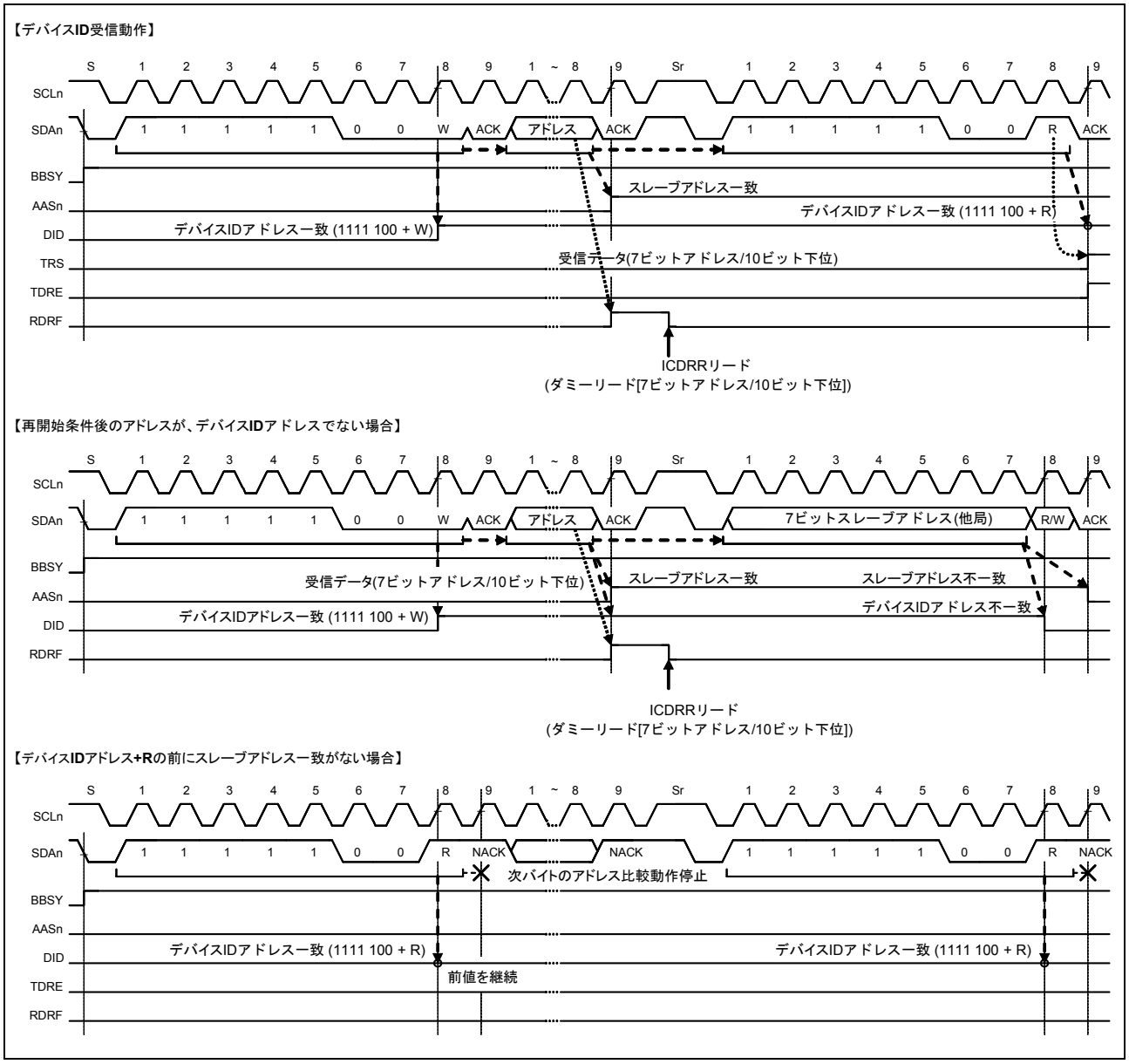


図 25.27　デバイス ID アドレス受信時の AASn、DID フラグセット/ クリアタイミング

25.7.4　ホストアドレス検出機能

RIIC にはSMBus 動作時にホストアドレス検出機能を備えています。ICMR3 レジスタのSMBS ビットが“1” のときHOAE ビット（ICSER レジスタのビット7）を“1” にすると、スレーブ受信モード（ICCR2 レジスタのMST、TRS ビット=00b）にホストアドレス（0001 000b）を検出することが可能です。

RIIC はホストアドレスを検出すると、SCL クロックの9 クロック目の立ち下がりでICSR1 レジスタのHOA フラグを“1” にし、Wr ビット（R/W ビットに“0” を受信）のときICSR2 レジスタのRDRF フラグを“1” にします。これにより受信データフル割り込み(RXI) を発生させることができ、HOA フラグを確認することでスマートバッテリなどからホストアドレスが送信されたことを認識することができます。

なお、ホストアドレス（0001 000b）に続くビットがRd ビット（R/W ビットに“1” を受信）の場合においてもホストアドレスを検出することが可能です。また、ホストアドレス検出後の動作は通常のスレーブ動作と変わりありません。

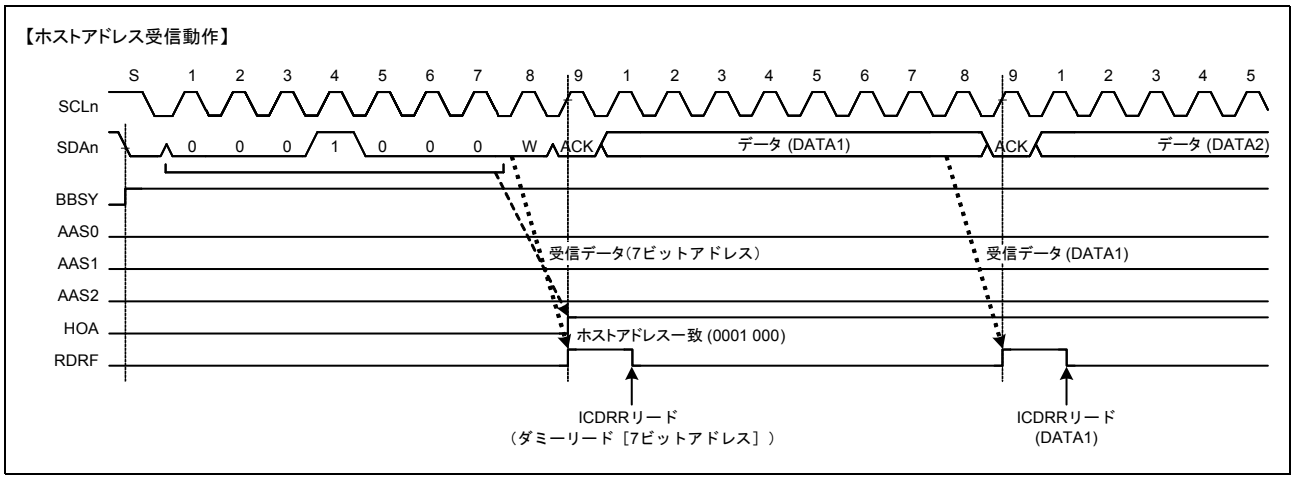


図 25.28　ホストアドレス受信時にHOA フラグが“1” になるタイミング

25.8　SCL の自動Low ホールド機能

25.8.1　送信データ誤送信防止機能

RIIC は送信モード時（ICCR2 レジスタの TRS ビット=1）、シフトレジスタ（ICDRS レジスタ）が空の状態でかつ送信データ（ICDRT レジスタ）が書かれていない場合、以下に示す区間、自動的にSCLn ラインのLow ホールドを行います。このLow ホールドは送信データの書き込みが行われるまでの期間Low 区間を延長し、意図しない送信データの誤送信を防止します。

《マスタ送信モード》
- スタートコンディション/ リスタートコンディション発行後のLow 区間
- 9 クロック目と次の1クロック目との間のLow 区間

《スレーブ送信モード》
- 9 クロック目と次の1クロック目との間のLow 区間

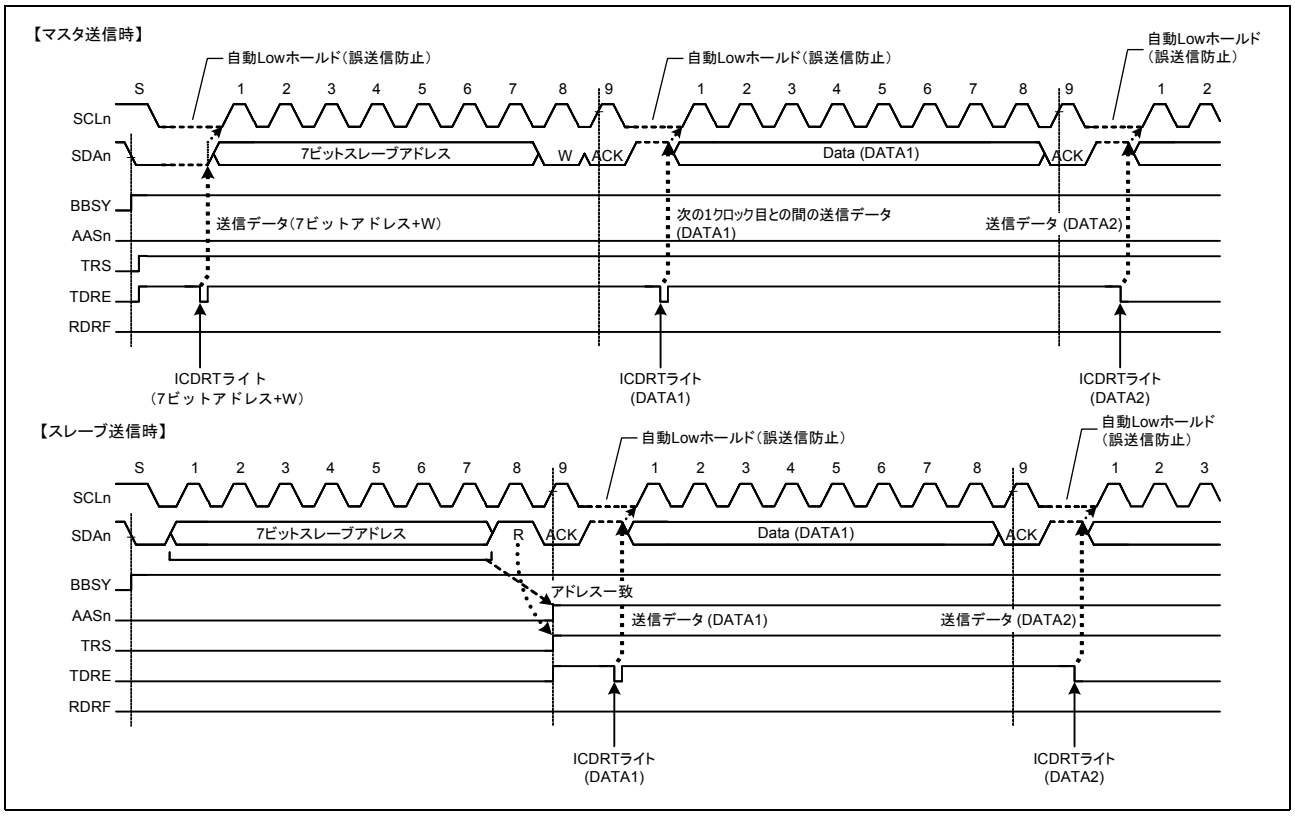


図 25.29　送信モードの自動Low ホールド動作

25.8.2　NACK 受信転送中断機能

RIIC は送信モード時（ICCR2 レジスタの TRS ビット=1）に NACK を受信した場合、転送動作を中断する機能を備えています。この機能は ICFER レジスタの NACKE ビットが“1”（転送中断許可）のとき有効で、NACK 受信時にすでに次の送信データが書き込まれていた場合（ICSR2 レジスタの TDRE フラグ=0 の状態）、SCL クロックの 9 クロック目の立ち下がり時の次のデータ送信動作を自動的に中断します。これにより次送信データの MSB ビットが“0” のときの SDAn ライン Low 出力固定を防止することができます。

なお NACK 受信転送中断機能で転送動作が中断された場合（ICSR2 レジスタの NACKF フラグ=1）、以後の送信動作及び受信動作は行いません。動作を再開するには NACKF フラグを“0” にしてください。またマスタ送信モードの場合には NACKF フラグを “0” にした後、リスタートコンディション発行又はストップコンディション発行後にスタートコンディション発行を行って、動作をやり直してください。

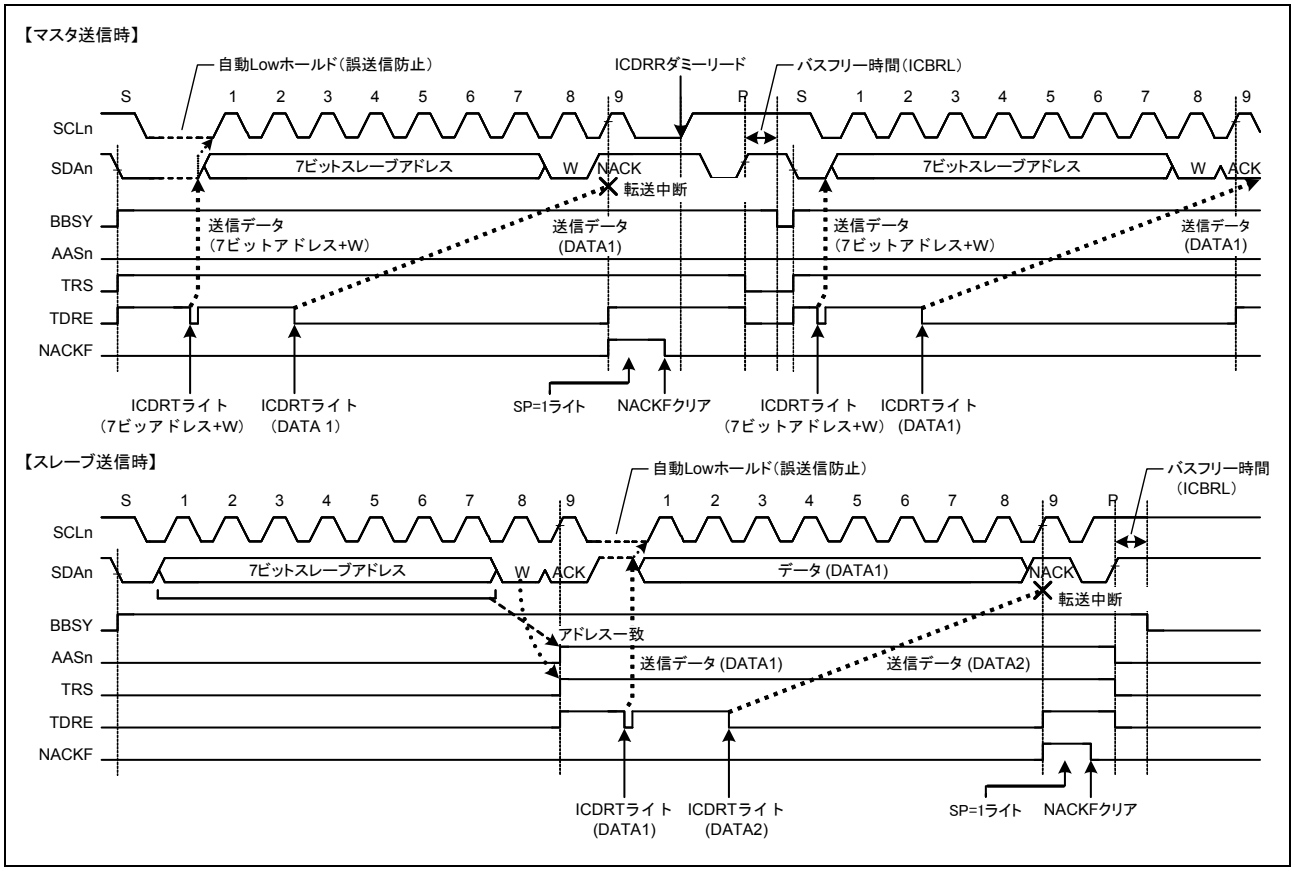


図 25.30　NACK 受信時の転送中断動作（NACKE=1 のとき）

25.8.3　受信データ取りこぼし防止機能

RIIC は受信モード時（ICCR2 レジスタの TRS ビット=0）、受信データフル（ICSR2 レジスタの RDRF フラグ=1）の状態で受信データ（ICDRR レジスタ）の読み出しが 1 転送フレーム以上遅れるなどの応答処理遅延が発生した場合、次のデータ受信の 1 つ手前で自動的に SCLn ラインの Low ホールドを行い、受信データの取りこぼしを未然に防止します。

この自動 Low ホールドによる取りこぼし防止機能は、最終受信データの読み出し処理が遅れて、その間にストップコンディション後に自スレーブアドレスを指定された場合にも有効で、ストップコンディション後自スレーブアドレスと不一致の場合にはこの Low ホールドは行わないため、他の通信を阻害しません。

また、RIIC では ICMR3 レジスタの WAIT、RDRFS ビットの組み合わせにより Low ホールドを行う区間を選択することができます。

(1)　WAIT ビットによる 1 バイト受信動作 / 自動 Low ホールド機能

ICMR3 レジスタの WAIT ビットを“1” にすると、RIIC は WAIT ビット機能による 1 バイト受信動作になります。ICMR3 レジスタの RDRFS ビットが“0” のとき、RIIC は SCL クロックの 8 クロック目の立ち下がりから 9 クロック目の立ち下がり期間のアクノリッジビットには自動的に ICMR3 レジスタの ACKBT ビットの内容が送出され、9 クロック目立ち下がりを検出すると WAIT ビット機能により自動的に SCLn ラインを Low にホールドします。この Low ホールドは ICDRR レジスタの読み出しによって解除されます。そのため 1 バイトごとの受信動作が可能となります。

なお WAIT ビット機能は、マスタ受信モード時又はスレーブ受信モード時でかつ自スレーブアドレス（ジェネラルコールアドレス、ホストアドレス含む）と一致した以降の受信フレームから有効になります。

(2)　RDRFS ビットによる 1 バイト受信動作（ACK/NACK 送出制御）/ 自動 Low ホールド機能

ICMR3 レジスタの RDRFS ビットを“1” にすると、RIIC は RDRFS ビット機能による 1 バイト受信動作になります。RDRFS ビットを“1” にすると、受信データフルフラグ（ICSR2 レジスタの RDRF フラグ）が“1” になるタイミングが SCL クロックの 8 クロック目の立ち上がりに変更され、8 クロック目の立ち下がりを検出すると自動的に SCLn ラインを Low にホールドします。この Low ホールドは ICMR3 レジスタの ACKBT ビットへの書き込みによって解除され、ICDRR レジスタの読み出しでは解除されません。そのため 1 バイトごとに受信したデータの内容に応じた ACK/NACK 送出の受信動作が可能となります。

なお RDRFS ビット機能は、マスタ受信モード時又はスレーブ受信モード時でかつ自スレーブアドレス（ジェネラルコールアドレス、ホストアドレス含む）と一致した以降の受信フレームから有効になります。

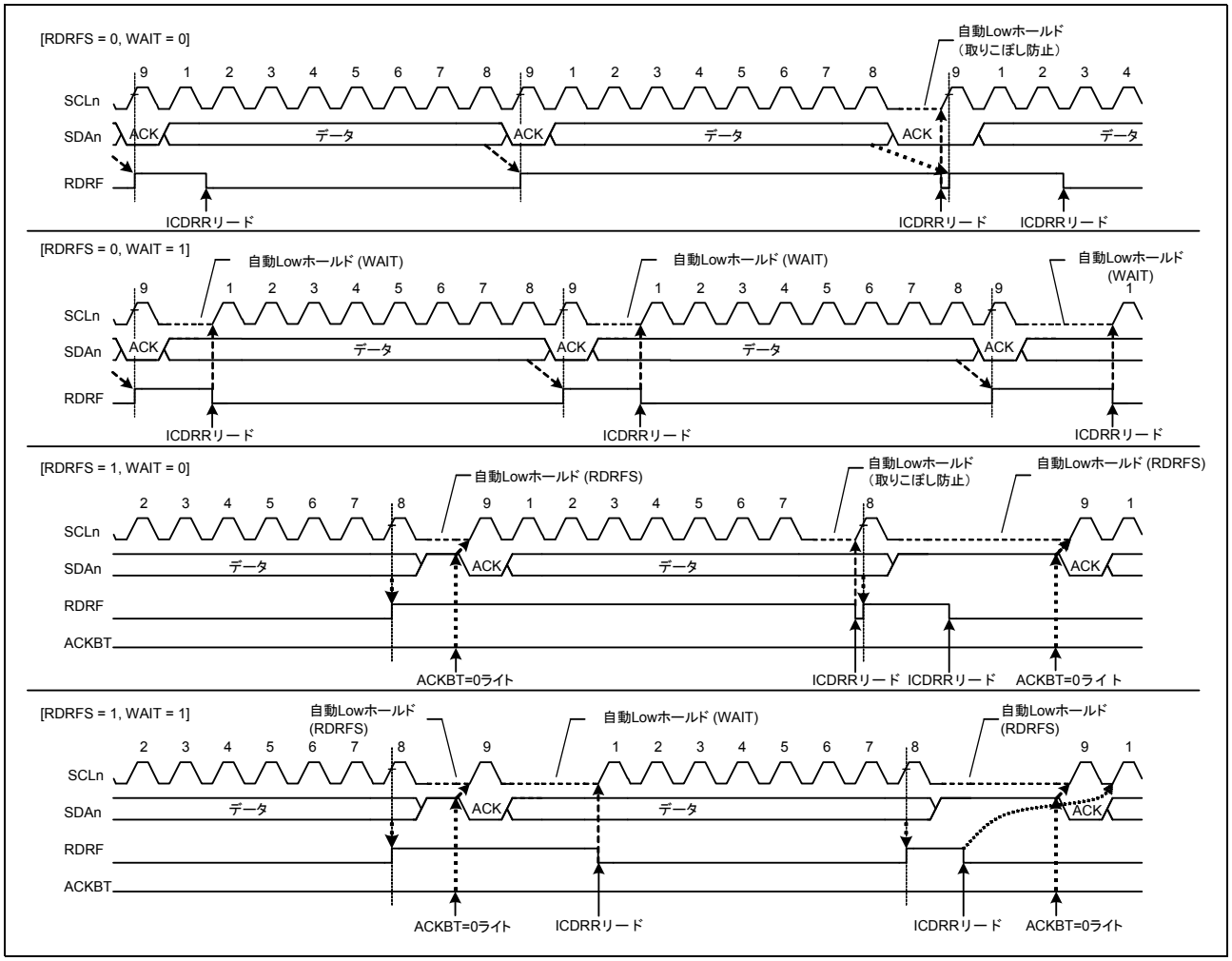


図 25.31　受信モードの自動Low ホールド動作（RDRFS、WAIT ビット）

25.9　アービトレーションロスト検出機能

RIIC にはI2C バス規格で定めている通常のアービトレーションロスト検出機能の他に、スタートコンディションの二重発行防止、NACK 送信時のアービトレーションロスト検出やスレーブ送信時におけるアービトレーションロスト検出機能も備えています。

25.9.1　マスタアービトレーションロスト検出機能（MALE ビット）

RIIC はスタートコンディション発行の際SDAn ラインをLow にしますが、これよりも早く他のマスタデバイスがスタートコンディションを発行してSDAn ラインをLow にした場合、アービトレーションロストを発生させ、他のマスタデバイスの通信を優先します。同様にICCR2 レジスタのBBSY フラグが“1”（バスビジー中）のときにICCR2 レジスタのST ビットを“1” にするとアービトレーションロストが発生し、他のマスタデバイスの通信を優先します。スタートコンディションは生成しません。

またスタートコンディション発行が正常に行われた場合、アドレス送信を含む送信データ（SDA 信号）とSDAn ラインに不一致が生じた場合（自分が出したSDA 出力がHigh 出力（＝ SDAn 端子はハイインピーダンス状態）で、SDA ラインにLow を検出したとき）、アービトレーションロストを発生させます。

マスタアービトレーションロストが発生した場合、RIIC は直ちにスレーブ受信モードに移行します。このときジェネラルコールアドレスを含むスレーブアドレス一致があった場合にはスレーブ動作を継続します。

なおマスタアービトレーションロスト検出は、MALE ビット（ICFER レジスタのビット1）が“1”（マスタアービトレーションロスト検出許可）の状態で以下に示す条件が成立したとき、アービトレーションロストを検出します。

［マスタアービトレーションロスト条件］

- ICCR2 レジスタのBBSY フラグ=0 の状態でICCR2 レジスタのST ビット=1 によるスタートコンディション発行時にSDA 信号とSDAn ライン上の信号の状態が不一致のとき（スタートコンディション発行エラー）
- ICCR2 レジスタのBBSY フラグ=1 でICCR2 レジスタのST ビットを“1” にしたとき（スタートコンディション二重発行エラー）
- マスタ送信モード時（ICCR2 レジスタのMST、TRS ビット=11b）、アクノリッジを除く送信データ（SDA 信号）とSDAn ライン上の信号の状態が不一致のとき

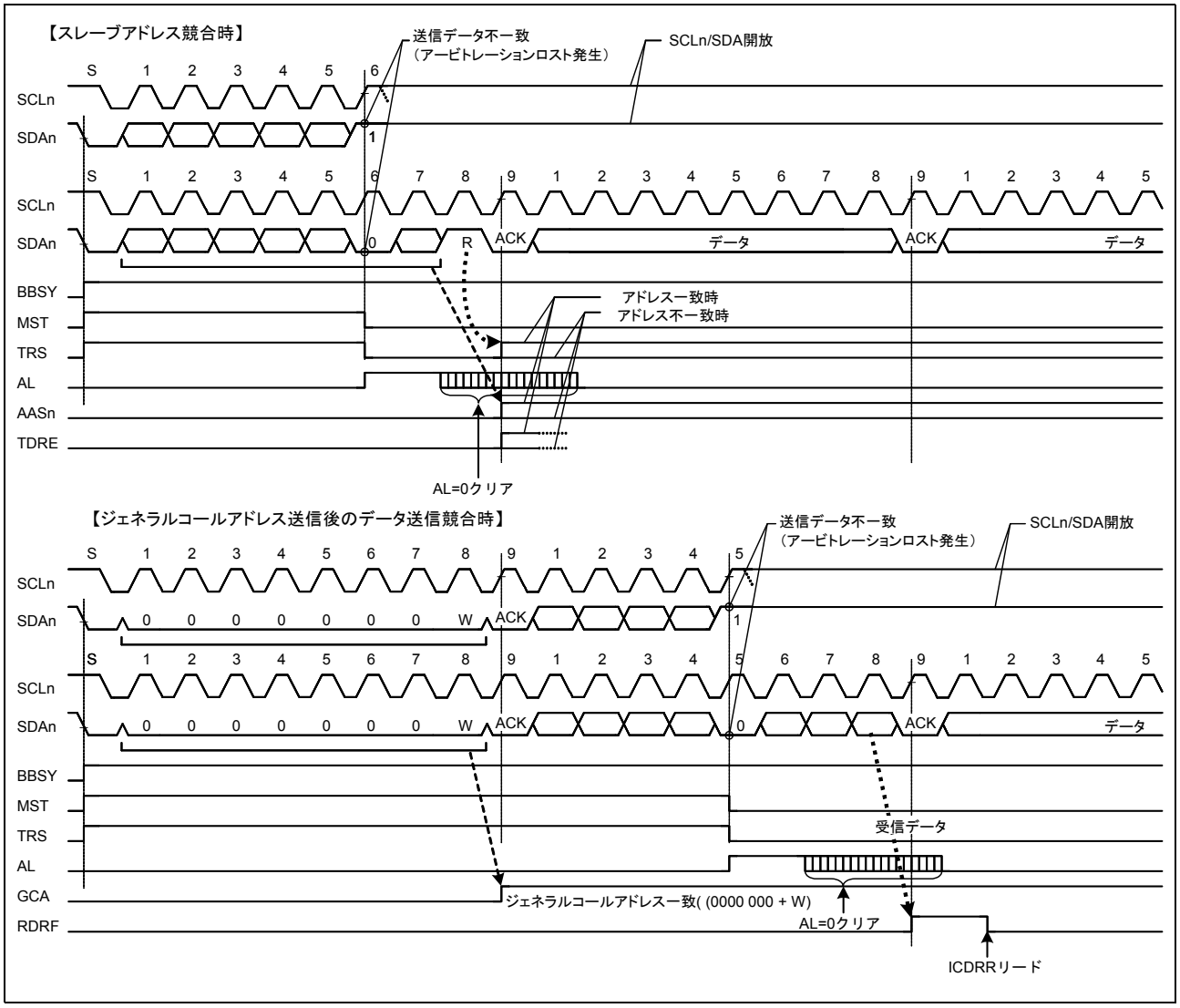


図 25.32　マスタアービトレーションロスト検出動作例（MALE=1 のとき）

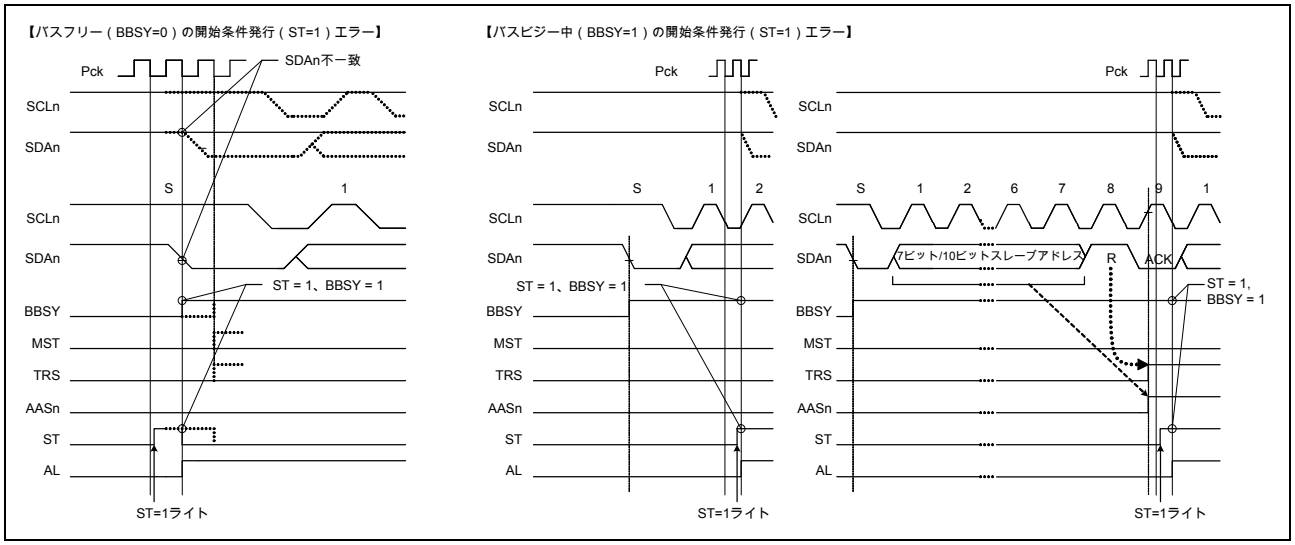


図 25.33　スタートコンディション発行時のアービトレーションロスト（MALE=1 のとき）

25.9.2　NACK 送信アービトレーションロスト検出機能（NALE ビット）

RIIC は受信モード時でNACK 送信時に自分が出したSDA 信号とSDA ライン上の信号の状態が不一致の場合（自分が出したSDA 出力がHigh 出力（＝ SDAn 端子はハイインピーダンス状態）で、SDA ラインにLow を検出したとき）、アービトレーションロストを発生させる機能を備えています。このアービトレーションロスト機能は、主にマルチマスタのシステムにおいて2 つ以上のマスタが同時に同一スレーブデバイスからデータを受信する際にNACK 送信とACK 送信が衝突することで発生します。これは2 つ以上のマスタデバイス

が1 つのスレーブデバイスを介して共通の情報のやり取りする際に起こり得ます。図25.34 にNACK 送信アービトレーションロスト検出動作例を示します。

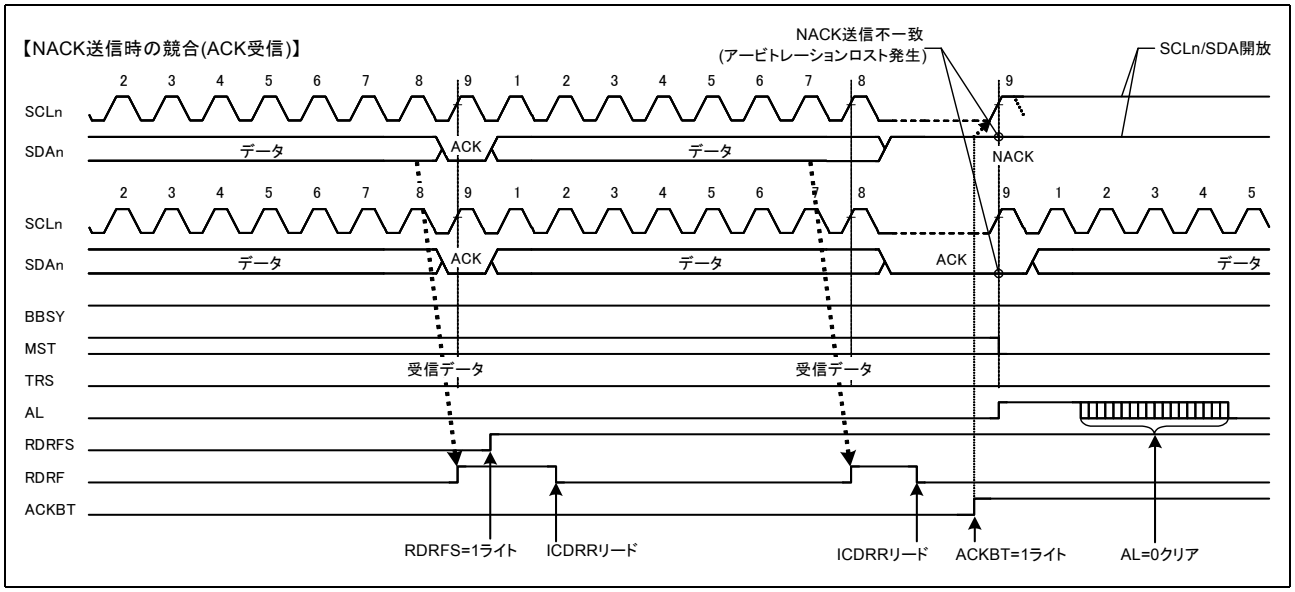


図 25.34　NACK 送信アービトレーションロスト検出動作例（NALE=1 のとき）

2 つのマスタデバイス（マスタA、マスタB）と1 つのスレーブデバイスがバス上に接続されている場合を例に挙げて説明します。マスタA はスレーブデバイスから2 バイト受信、マスタB はスレーブデバイスから4 バイト分のデータ受信を行うものとします。

このときマスタA とマスタB が同時にスレーブデバイスをアクセスした場合、スレーブアドレスは同じであるため、マスタA、マスタB ともスレーブデバイスアクセス時にアービトレーションロストが発生しません。そのためマスタA、マスタB ともどちらもバス権を取得したものと認識して動作します。ここでマスタA は、スレーブデバイスから最終バイトである2 バイト分の受信が完了した時点でNACK を送信します。一方マスタB は、スレーブデバイスから必要な4 バイト受信に満たないためACK 送信を行います。このときマスタA のNACK 送信とマスタB のACK 送信の衝突が発生します。一般的にこのような状況が発生した場合、マスタA はマスタB が出したACK 送信を検出できないままストップコンディション発行動作を行うため、マスタB のSCL クロック出力と競合し通信を阻害します。

RIIC はこのようなNACK 送信時にACK を受信した場合、他のマスタデバイスと競合負けが発生したことを検知しアービトレーションロストを発生させることができます。

NACK 送信アービトレーションロストが発生した場合、RIIC は直ちにスレーブ一致状態を解除してスレーブ受信モードに移行します。これによりストップコンディション発行を未然に防ぎ、バスの通信阻害を防止することが可能です。

また SMBus の ARP コマンド処理において、アサインアドレスの UDID（ユニークデバイスアイデンティファイ）不一致時の NACK 送信以降、及びアサインアドレス確定後の Get UDID（汎用）の NACK 送信以降の余剰処理（FFh 送信処理）を省くことができます。

なおNACK 送信アービトレーションロスト検出は、NALE ビット（ICFER レジスタのビット2）が“1”（NACK 送信アービトレーションロスト検出許可）の状態で以下に示す条件が成立したとき、アービトレーションロストを検出します。

［NACK 送信アービトレーションロスト条件］

- NACK送信時（ICMR3 レジスタのACKBT ビット=1）、自分が出したSDA信号とSDAnライン上の信号の状態が不一致のとき（ACK を受信したとき）

25.9.3　スレーブアービトレーションロスト検出機能（SALE ビット）

RIIC は、スレーブ送信時に送信データ（自分が出したSDA 信号）とSDA ライン上の信号の状態に不一致が生じた場合（自分が出したSDA 出力がHigh 出力（＝ SDAn 端子はハイインピーダンス状態）で、SDA ラインにLow を検出したとき）、アービトレーションロストを発生させる機能を備えています。このアービトレーションロスト機能は、主にSMBus のUDID（ユニークデバイスアイデンティファイ）送信時に使用します。

スレーブアービトレーションロストが発生した場合、RIIC は直ちにスレーブ一致状態を解除してスレーブ受信モードに移行します。

この機能によりSMBus のUDID 送信時のデータ衝突検出及びデータ衝突以降の余剰処理（FFh 送信処理）を省くことができます。

なおスレーブアービトレーションロスト検出は、SALE ビット（ICFER レジスタのビット3）が“1”（スレーブアービトレーションロスト検出許可）の状態で以下に示す条件が成立したとき、アービトレーションロストを検出します。

［スレーブアービトレーションロスト条件］

- スレーブ送信モード時（ICCR2 レジスタのMST、TRS ビット=01b）、アクノリッジを除く送信データ（自分が出したSDA 信号）とSDAn ライン上の信号の状態が不一致のとき

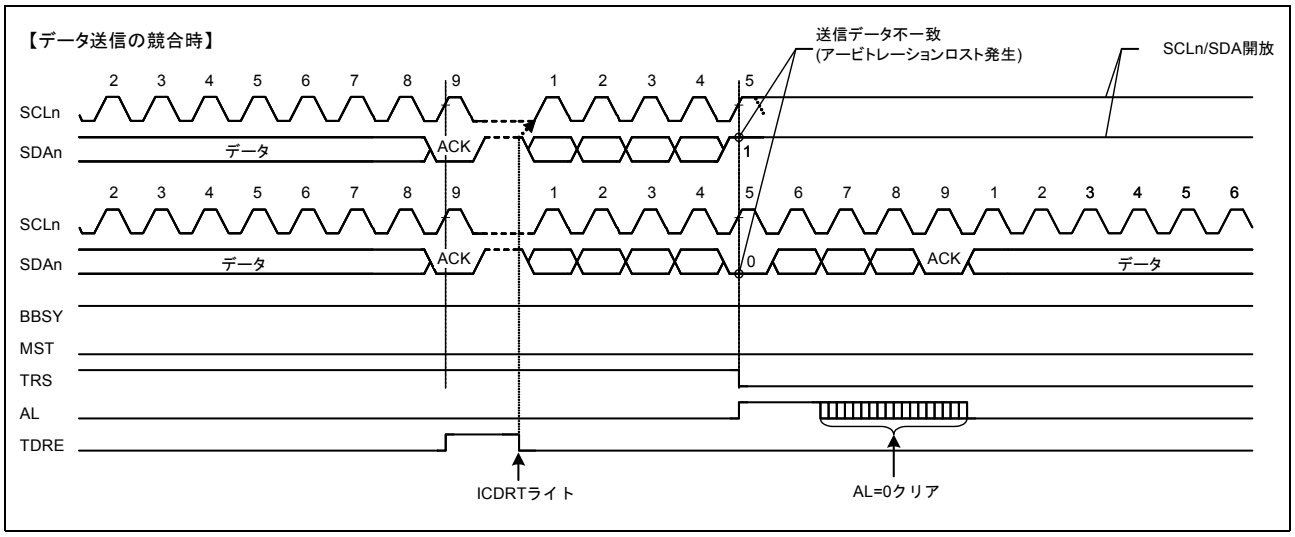


図 25.35　スレーブアービトレーションロスト検出動作例（SALE=1 のとき）

25.10 スタートコンディション、リスタートコンディション、ストップコンディション発行機能

25.10.1 スタートコンディション発行動作

RIIC は、ICCR2 レジスタの ST ビットによりスタートコンディションの発行を行います。

ST ビットを“1”にすると、スタートコンディション発行の要求が行われ ICCR2 レジスタの BBSY フラグが“0”（バスフリー）の状態のときスタートコンディションの発行を行います。スタートコンディションが正常に発行された場合、RIIC は自動的にマスタ送信モードに移行します。

スタートコンディションの発行は、以下のシーケンスに従って行われます。

［スタートコンディション発行動作］

(1) SDAn ラインを立ち下げ（High から Low に遷移）
(2) ICBRH レジスタで設定した時間スタートコンディションのホールド時間を確保
(3) SCLn ラインを立ち下げ（High から Low に遷移）
(4) SCLn ラインの Low を検出後、ICBRL レジスタで設定した時間 SCLn ラインの Low 幅を確保

25.10.2 リスタートコンディション発行動作

RIIC は RS ビット（ICCR2 レジスタのビット 2）によりリスタートコンディションの発行を行います。

RS ビットを“1”にするとリスタートコンディション発行の要求が行われ、RIIC は ICCR2 レジスタの BBSY フラグが“1”（バスビジー）の状態でかつ MST ビット（ICCR2 レジスタのビット 6）が“1”（マスタモード）のとき、リスタートコンディションの発行を行います。

リスタートコンディションの発行は、以下のシーケンスに従って行われます。

［リスタートコンディション発行動作］

(1) SDAn ラインを開放
(2) ICBRL レジスタで設定した時間 SCLn ラインの Low 幅を確保
(3) SCLn ラインを開放（Low から High に遷移）
(4) SCLn ラインの High 検出後、ICBRL レジスタで設定した時間リスタートコンディションのセットアップ時間を確保
(5) SDAn ラインを立ち下げ（High から Low に遷移）
(6) ICBRH レジスタで設定した時間リスタートコンディションのホールド時間を確保
(7) SCLn ラインを立ち下げ（High から Low に遷移）
(8) SCL ラインの Low を検出後、ICBRL レジスタで設定した時間 SCLn ラインの Low 幅を確保

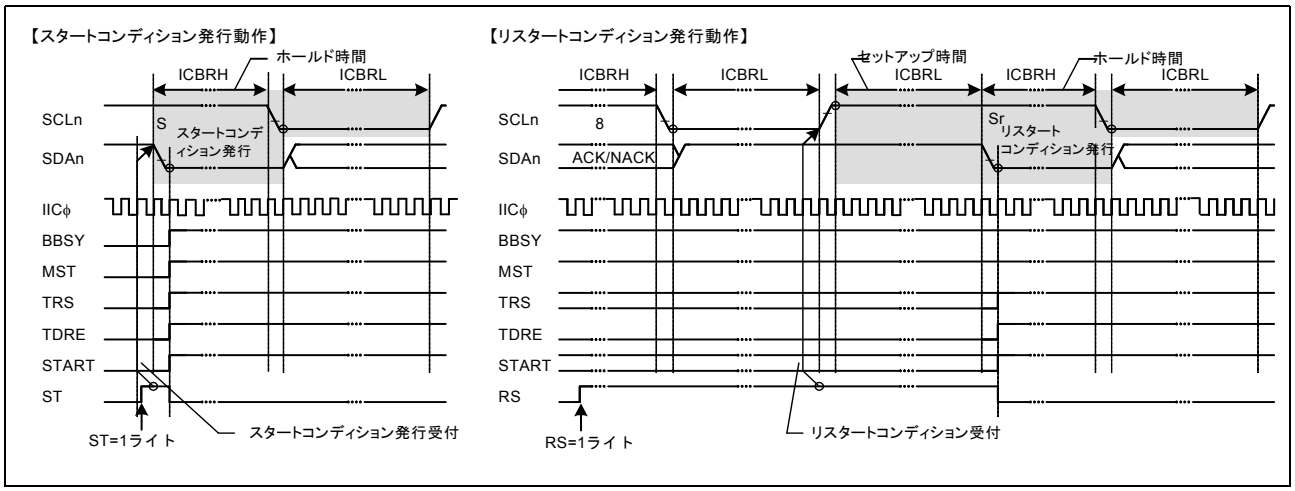


図 25.36　スタートコンディション/ リスタートコンディション発行動作タイミング（ST、RS ビット）

25.10.3 ストップコンディション発行動作

RIIC はICCR2 レジスタのSP ビットによりストップコンディションの発行を行います。

SP ビットを“1” にするとストップコンディション発行の要求が行われ、RIIC はICCR2 レジスタのBBSY フラグが“1”（バスビジー）の状態でかつICCR2 レジスタのMST ビットが“1”（マスタモード）のとき、ストップコンディションの発行を行います。

ストップコンディションの発行は、以下のシーケンスに従って行われます。

［ストップコンディション発行動作］

(1) SDAn ラインを立ち下げ（High からLow に遷移）
(2) ICBRL レジスタで設定した時間SCLn ラインのLow 幅を確保
(3) SCLn ラインを開放（Low からHigh に遷移）
(4) SCLn ラインのHigh 検出後、ICBRH レジスタで設定した時間ストップコンディションのセットアップ時間を確保
(5) SDAn ラインを開放（Low からHigh に遷移）
(6) ICBRL レジスタで設定した時間バスフリー時間を確保
(7) BBSY フラグクリア（バス権解放）

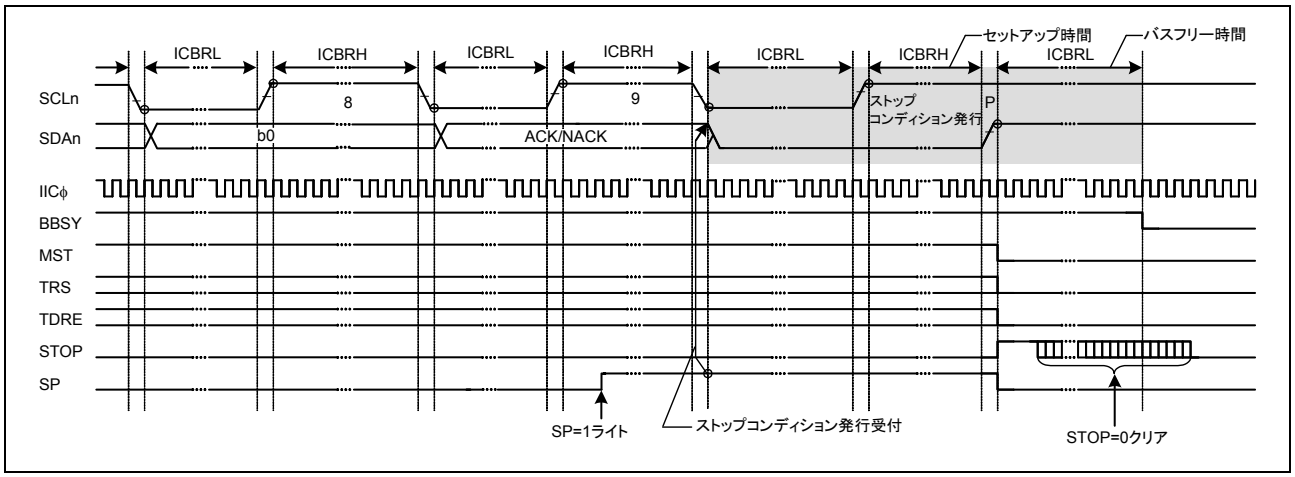


図 25.37　ストップコンディション発行動作タイミング（SP ビット）

25.11　バスハングアップ

I2C バスでは主にノイズ等の影響により、マスタデバイスとスレーブデバイス間で同期ズレが発生すると、SCLn ラインやSDAn ラインが固定されたままバスハングアップを起こす場合があります。

RIIC は、このバスハングアップ状態に対しSCLn ラインを監視することで、バスハングアップ状態を検出できるタイムアウト検出機能や、同期ズレによるバスハングアップ状態を解除するためのSCL クロック追加出力機能及びRIIC/ 内部リセット機能を備えています。

また、SCLO、SDAO、SCLI、SDAI ビット（ICCR1 レジスタのビット3、２、１、0）を確認することで、RIIC 自身がSCLn ライン /SDAn ラインにLow 出力しているか、あるいは通信デバイス側がLow 出力しているかどうかを確認することが可能です。

25.11.1　タイムアウト検出機能

RIIC にはSCLn ラインに一定時間以上変化が見られない状態を検出するタイムアウト検出機能を備えています。RIIC はバスがビジー状態のとき、SCLn ラインがLow 又はHigh に固定されたまま一定時間以上経過したことを検知し、バスの異常状態を検出することができます。

タイムアウト検出機能はSCLn ラインの状態を監視し、Low 又はHigh の時間を内部カウンタでカウントします。タイムアウト検出機能はSCLn ラインに変化（立ち上がり / 立ち下がり）があった場合、内部カウンタをリセットし、変化がない場合カウント動作を続けます。SCLn ラインに変化がないまま内部カウンタがオーバフローすると、RIIC はタイムアウトを検出しバス異常状態を知らせることができます。

このタイムアウト検出機能はICFER レジスタのTMOE ビットが“1” のとき有効で、マスタモード時はバスビジー時（ICCR2 レジスタのBBSY フラグ=1 の状態）、スレーブモード時はBBSY フラグが“1” の状態でかつ自スレーブアドレス一致時（ICSR1 レジスタ≠ 00h）のときSCLn ラインのLow 固定又はHigh 固定のバス異常状態を検出します。

タイムアウト検出機能の内部カウンタは、ICMR1 レジスタのCKS[2:0] ビットで設定された内部基準クロック（IICφ）をカウントソースとして動作し、ロングモード選択時（ICMR2 レジスタのTMOS ビット=0）16 ビットカウンタ、ショートモード選択時（TMOS ビット=1）14 ビットカウンタとなります。

また内部カウンタのカウント動作は、SCLn ラインがLow 状態のときカウントさせるか、High 状態のときカウントさせるか、あるいはその両方をカウントさせるかをICMR2 レジスタのTMOH、TMOL ビットの設定により選択することが可能です。なおTMOH、TMOL ビットの両方を“0” にした場合は、内部カウント動作を行いません。

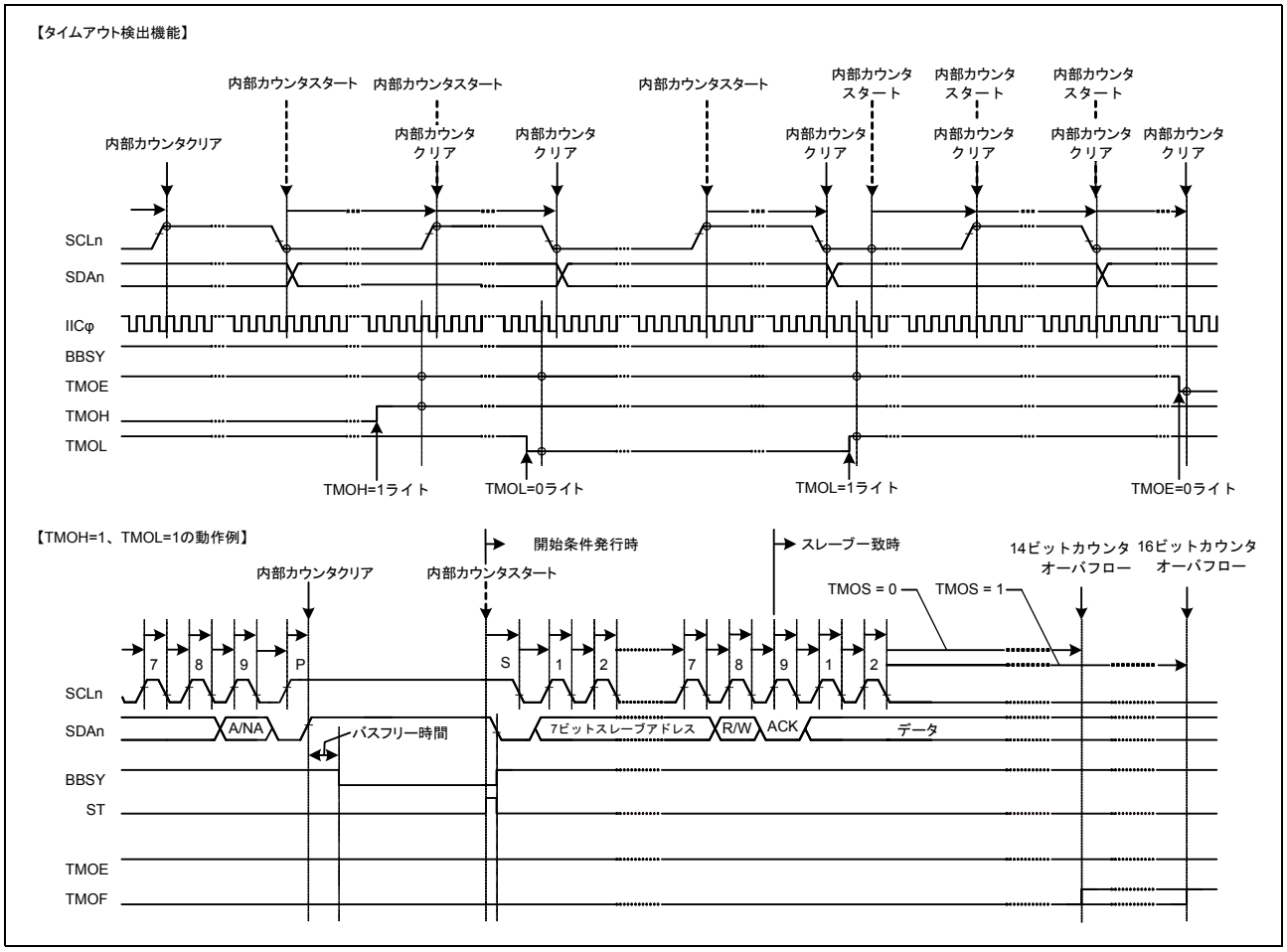


図 25.38　タイムアウト検出機能（TMOE、TMOS、TMOH、TMOL ビット）

25.11.2 SCL クロック追加出力機能

RIIC にはマスタモード時、スレーブデバイスとの同期ズレによるスレーブデバイスの SDAn ライン Low 固定状態を開放するための SCL クロック追加出力機能を備えています。

SCL クロック追加出力機能は、SCL クロックを 1 クロック単位で追加出力をする機能で、主にマスタモード時にスレーブデバイスが SDAn ラインを Low 固定状態のままストップコンディションを発行できない場合に、スレーブデバイスの SDAn ライン固定状態を開放させることに使用します。通常は使用しないでください。正常な通信動作中に使用すると通信異常の原因になります。

SCL クロック追加出力はマスターモード時に、CLO ビット（ICCR1 レジスタのビット 5）を “1” にすると、ICMR1 レジスタの CKS[2:0] ビット、ICBRH、ICBRL レジスタで設定された転送速度の SCL クロックが 1 クロック分追加クロックとして出力されます。1 クロック分の追加クロック出力が終了すると CLO ビットは自動的に “0” になります。そのためソフトウェアで CLO ビットが “0” であることを確認後 “1” を書くことにより、追加クロックを連続的に出力することができます。

RIIC がマスタモード時にノイズ等の影響によりスレーブデバイスとの同期ズレが原因でスレーブデバイスが SDAn ラインを Low 固定状態のままストップコンディションを発行できないバス異常状態のとき、SCL クロック追加出力機能を使用して追加クロックを 1 クロックずつ出力することでスレーブデバイスの SDAn ラインの Low 固定状態を開放させ、バス状態を復帰させることができます。このスレーブデバイスの SDAn ライン開放は ICCR1 レジスタの SDAI ビットをチェックすることで確認することができます。スレーブデバイスの SDAn ライン開放を確認した後、通信を終了させるため再度ストップコンディション発行を行ってください。なお、この機能を使用する場合は ICFER レジスタの MALE ビットを “0”（マスタアービトレーションロスト検出禁止）にして使用してください。MALE ビットが “1”（マスタアービトレーションロスト検出許可）の場合、ICCR1 レジスタの SDAO ビットの値と SDAn ラインが不一致のときアービトレーションロストが発生しますので注意してください。

[ICCR1 レジスタのCLO ビットの出力条件]

- バスフリー状態（ICCR2 レジスタのBBSY フラグ=0）又はマスタモード（ICCR2 レジスタのMST ビット=1、BBSY フラグ=1 の状態）のとき
- 通信デバイスがSCLn ラインをLow ホールドにしていない状態のとき

図25.39 にSCL クロック追加出力機能（CLO ビット）を示します。

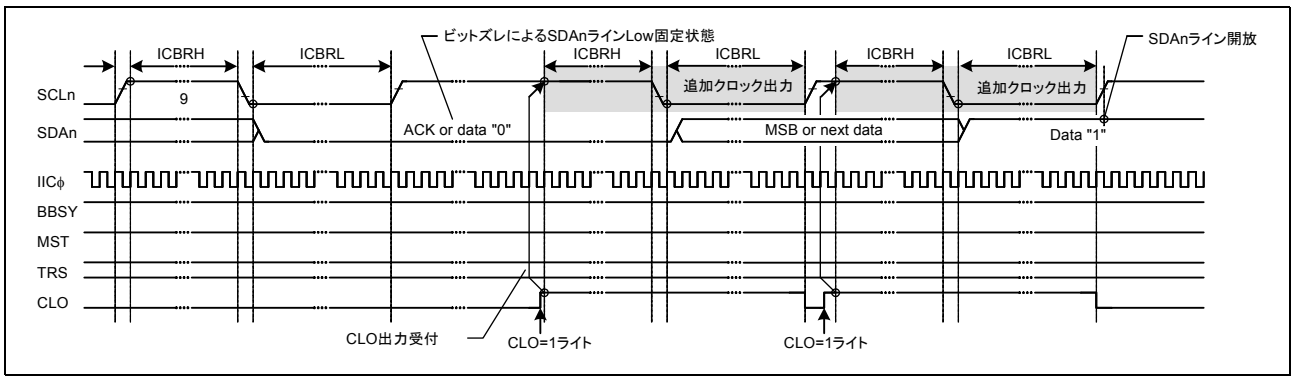


図 25.39　SCL クロック追加出力機能（CLO ビット）

25.11.3 RIIC/ 内部リセット

RIIC はRIIC モジュールをリセットするための機能を備えています。リセットには2 種類のリセットがあり、1 つはICCR2 レジスタのBBSY フラグを含めた全レジスタの初期化を行うRIIC リセット、もう1 つは各種設定値を保持したままスレーブアドレス一致状態の解除や内部カウンタの初期化などを行う内部リセットです。

ICCR1 レジスタのICE ビットが”0”のときにICCR1 レジスタのIICRST ビットを”1”にするとRIICリセットになり、ICCR1 レジスタのICE ビットが”1”のときにICCR1 レジスタのIICRST ビットを”1”にすると内部リセットになります

リセット後はICCR1 レジスタのIICRST ビットを“0” にしてください。

いずれのリセットもSCLn 端子 /SDAn 端子の出力状態を解除しハイインピーダンス状態に戻すため、バスハングアップ状態の解除にも利用できます。

なおスレーブ動作時のリセットは、マスタデバイスとの同期ズレを引き起こす原因になりますので使用は極力避けてください。またRIIC リセット（ICCR1 レジスタのICE、IICRST ビット=01b）のリセット中はスタートコンディションなどのバス状態を監視できませんので注意してください。

RIIC/ 内部リセットの詳細については、「25.14 リセット状況」を参照してください。

25.12 SMBus 動作

RIIC は SMBus（Ver.2.0）に準拠した通信動作が可能です。SMBus 通信を行うには、ICMR3 レジスタの SMBS ビットを“1” にして SCLn 端子/SDAn 端子機能の SMBus に準拠した入力レベルを選択してください。転送速度は SMBus 規格の 10kbps ～ 100kbps の範囲に収まるよう ICMR1 レジスタの CKS[2:0] ビット、ICBRH、ICBRL レジスタを設定し、データホールド時間:300ns（min）の規格を守るよう DLCS ビット（ICMR2 レジスタのビット 7）及び ICMR2 レジスタの SDDL[2:0] ビットの値を決定してください。RIIC をスレーブデバイスのみの動作で使用する場合には、転送速度の設定は不要です。

なお SMBus デバイスデフォルトアドレス（1100 001b）はスレーブアドレスレジスタ L0 ～ L2（SARL0、SARL1、SARL 2）のいずれか 1 本を使用し、該当する SARU n レジスタの FS ビット (n=0 ～ 2)（7 ビット/10 ビットアドレスフォーマット選択ビット）は“0”（7 ビットアドレスフォーマット）を選択してください。

また、UDID（ユニークデバイスアイデンティファイ）送信時には、ICFER レジスタの SALE ビットを“1” にしてスレーブアービトレーションロスト検出機能を有効にしてください。

25.12.1 SMBus タイムアウト測定

(1) スレーブデバイスのタイムアウト測定

SMBus 通信では、スレーブデバイスは以下に示す区間（タイムアウト間隔：$T_{LOW:SEXT}$）を計測する必要があります。

- **スタートコンディションからストップコンディション**

スレーブデバイスでタイムアウト測定を行う場合、RIIC のスタートコンディション検出割り込み（STI）、ストップコンディション検出割り込み（SPI）を利用してスタートコンディション検出からストップコンディション検出までの時間を TMU 又は TMR タイマを使用してその区間を計測することで行います。このタイムアウト測定時間は SMBus 規格のクロック Low の累積時間［スレーブデバイス］$T_{LOW:SEXT}$：25ms（max）以内である必要があります。

TMU 又は TMR で計測した時間が、SMBus 規格のクロック Low 検出のタイムアウト $T_{TIMEOUT}$：25ms（min）を超えた場合、スレーブデバイスはバス解放動作を行う必要があります。スレーブデバイスのバス解放動作を行うには ICCR1 レジスタの IICRST ビットに“1” を書き、RIIC の内部リセットを行ってください。内部リセットを行うと RIIC は SCLn 端子/SDAn 端子のバス駆動を中止し、端子をハイインピーダンス状態にすることができます。これによりバス解放を行うことができます。

(2) マスタデバイスのタイムアウト測定

SMBus 通信のマスタデバイスは以下に示す区間（タイムアウト間隔：$T_{LOW:MEXT}$）を計測する必要があります。

- **スタートコンディションからアクノリッジビット**
- **アクノリッジビットから次のアクノリッジビット**
- **アクノリッジビットからストップコンディション**

マスタデバイスでタイムアウト測定を行う場合、RIIC のスタートコンディション検出割り込み（STI）、ストップコンディション検出割り込み（SPI）、及び送信終了割り込み（TEI）又は受信データフル割り込み（RXI）を利用して、それぞれの区間を TMU 又は TMR タイマを使用して各区間の時間を計測することで行います。このタイムアウト測定時間は SMBus 規格のクロック Low の累積時間［マスタデバイス］$T_{LOW:MEXT}$：10ms（max）以内である必要があり、スタートコンディションからストップコンディションまでのすべての $T_{LOW:MEXT}$ を加算した結果が $T_{LOW:SEXT}$：25ms（max）以内である必要があります。

ACK 受信タイミング（SMBCLK の 9 クロック目の立ち上がり）は、マスタ送信モード時（マスタトランスミッタ）は ICSR2 レジスタの TEND フラグ、マスタ受信モード時（マスタレシーバ）は ICSR2 レジスタの RDRF フラグで見る必要があります。そのためマスタ送信時は 1 バイト送信動作を行い、マスタ受信時は最終バイト受信の 1 つ手前までは ICMR3 レジスタの RDRFS ビットを “0” で使用してください。RDRFS ビットが“0” のとき、RDRF フラグは SMBCLK の 9 クロック目の立ち上がりで“1” になります。

TMU 又はTMR で計測した時間が、SMBus 規格のクロックLow の累積時間［マスタデバイス］$T_{LOW:MEXT}$：10ms（max）又は各計測時間の加算した結果が、SMBus 規格のクロックLow 検出のタイムアウト$T_{TIMEOUT}$：25ms（min）を超えた場合、マスタデバイスはトランザクションの中止動作を行う必要があります。マスタ送信時には即座に送信動作（ICDRT レジスタへの書き込み動作）を中止してください。マスタデバイスのトランザクション中止動作はストップコンディションを発行することで行われます。

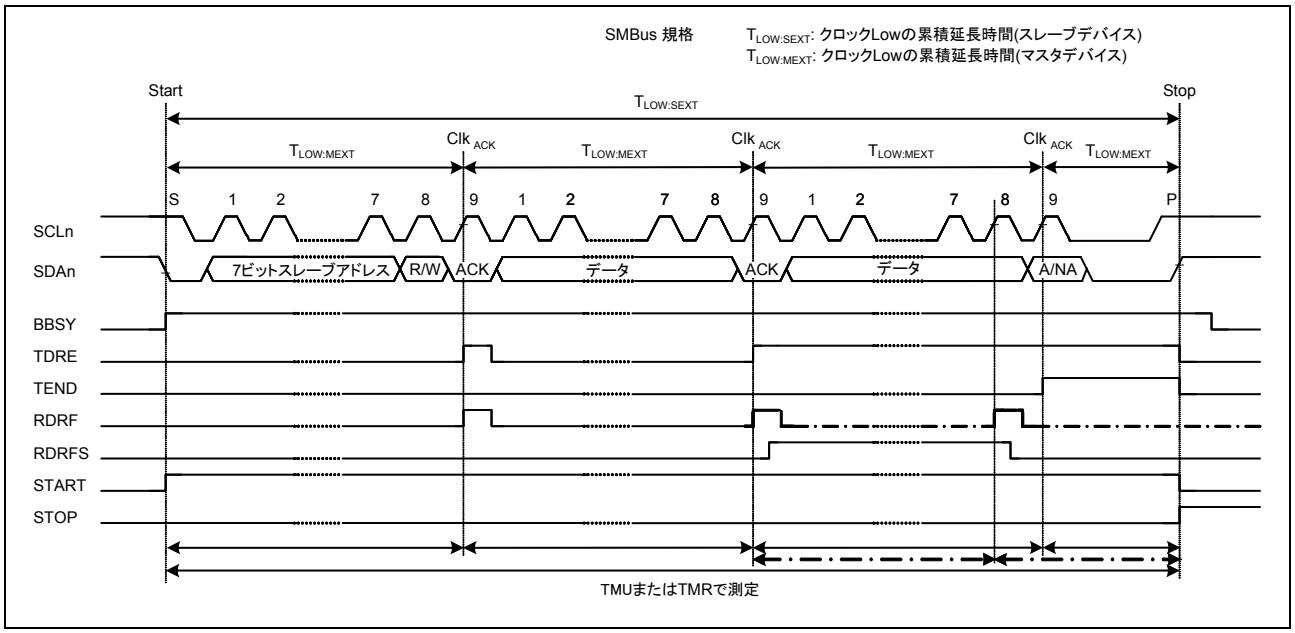


図 25.40　SMBus タイムアウト測定

25.12.2 SMBus ホスト通知プロトコル/Notify ARP master

SMBus ではスレーブデバイスがSMBus ホスト（又はARP マスタ）に対し、一時的にマスタデバイスとなり自スレーブアドレスを通知（又は要求）することができます。

SH7752 をSMBus ホスト（又はARP マスタ）として動作させる場合、スレーブデバイスからのホストアドレス（0001 000b）送信をスレーブアドレスとして検出する必要があり、RIIC ではこのホストアドレスの検出機能を備えています。ホストアドレスをスレーブアドレスとして検出する場合は、ICMR3 レジスタのSMBS ビットを“1”、ICSER レジスタのHOAE ビットを“1” にしてください。なおホストアドレス検出後の動作は、通常のスレーブ動作と同じです。

25.13 割り込み要因

RIIC の割り込み要因には、通信エラー/ イベント発生（アービトレーションロスト検出、NACK 検出、タイムアウト検出、スタートコンディション検出、ストップコンディション検出）、受信データフル、送信データエンプティ、送信終了の4 種類があります。

表 25.7 に各割り込み一覧を示します。受信データフル及び送信データエンプティ割り込み要求により、DMAC を起動してデータ転送を行うことができます。

表25.7　割り込み要因

略称	割り込み要因	割り込みフラグ	DMAC の起動	優先順位	割り込み条件
TXI	送信データエンプティ	TDRE	可能	高 ↓ 低	TDRE = 1 かつ TIE = 1
TEI	送信終了	TEND	不可能		TEND = 1 かつ TEIE = 1
RXI	受信データフル	RDRF	可能		RDRF = 1 かつ RIE = 1
EEI	通信エラー / イベント発生	AL、NACKF、TMOF、START、STOP	不可能		AL = 1 かつ ALIE = 1 NACKF = 1 かつ NAKIE = 1 TMOF = 1 かつ TMOIE = 1 START = 1 かつ STIE = 1 STOP = 1 かつ SPIE = 1

割り込み処理の中でそれぞれのフラグをクリア又はマスクしてください。

【割り込み処理上の注意】

(1) CPU　から周辺モジュールへの書き込みと命令と、実際にモジュールに書き込まれるタイミングには、レイテンシがあります。割り込みフラグをクリア又はマスクした場合は再度フラグを読み、クリア又はマスクビット書き込みの完了を確認した後に割り込み処理から復帰させてください。モジュールへの書き込み完了を確認せずに割り込み処理から復帰させた場合、再度同一の割り込みが発生する可能性があります。

(2) TXI 割り込みはエッジ割り込みのためクリアの必要はありません。また TXI 割り込みの条件となる ICSR2 レジスタの TDRE フラグは、ICDRT レジスタへの送信データの書き込み、あるいはストップコンディションの検出（ICSR2 レジスタの STOP フラグ=1）で自動的に“0” になります。

(3) RXI 割り込みはエッジ割り込みのためクリアの必要はありません。また RXI 割り込みの条件となる ICSR2 レジスタの RDRF フラグは、ICDRR レジスタの読み出しで自動的に“0” になります。

(4) ICSR2 レジスタの TEND フラグは、ICDRT レジスタへの送信データの書き込み、あるいはストップコンディションの検出（ICSR2 レジスタの STOP フラグ=1）で自動的に“0” になります。

[DMA 送信の注意事項]

DMA 要求のために TXI を使用するときは、TDRE がアサートされていることを確認してから DMAC (CHCR レジスタの DE=1) を開始してください。

25.14　リセット状況

RIIC はチップリセット、RIIC リセット及び内部リセットのリセット機能を持っています。表 25.8 に各リセットのリセット範囲及びリセット状況を示します。

表25.8　　リセット状況

		チップリセット	RIIC リセット（ICE ビット=0、IICRST ビット=1）	内部リセット（ICE ビット=1、IICRST ビット=1）	スタートコンディション/リスタートコンディション検出	ストップコンディション条件検出
ICCR1	ICE、IICRST	リセット	保持	保持	動作 (保持)	動作(保持)
	SCLO、SDAO		リセット	リセット		
	それ以外			保持		
ICCR2	BBSY	リセット	リセット	動作	動作	動作
	ST			リセット	リセット	動作(保持)
	それ以外					リセット
ICMR1	BC[2:0]	リセット	リセット	リセット	リセット	動作 (保持)
	それ以外			保持	動作 (保持)	
ICMR2		リセット	リセット	保持	動作 (保持)	動作 (保持)
ICMR3		リセット	リセット	保持	動作 (保持)	動作(保持)
ICFER		リセット	リセット	保持	動作(保持)	動作 (保持)
ICSER		リセット	リセット	保持	動作 (保持)	動作 (保持)
ICIER		リセット	リセット	保持	動作(保持)	動作 (保持)
ICSR1		リセット	リセット	リセット	動作 (保持)	リセット
ICSR2	TDRE、TEND	リセット	リセット	リセット	動作 (保持)	リセット
	START				動作	
	STOP				動作 (保持)	動作
	それ以外					動作(保持)
SARL0 ～ SARL2 SARU0～ SARU2		リセット	リセット	保持	動作(保持)	動作 (保持)
ICBRH、ICBRL		リセット	リセット	保持	動作 (保持)	動作(保持)
ICDRT		リセット	リセット	保持	動作 (保持)	動作(保持)
ICDRR		リセット	リセット	保持	動作 (保持)	動作(保持)
ICDRS		リセット	リセット	リセット	動作(保持)	動作 (保持)
タイムアウト検出機能		リセット	リセット	動作	動作	動作
バスフリー時間計測		リセット	リセット	動作	動作	動作

25.15 使用上の注意事項

25.15.1 RXIと TXIの制限

RXI、TXI割り込みを使用する場合は、DMACを経由して割り込み要求を発生させてください。詳細については、「10.7.4 RIIC割り込み及びIRQ8～15割り込み使用時の注意」を参照してください。

25.15.2 タイムアウト検出機能の制限

CKS [2:0] ビット≠ 000 設定時、タイムアウト検出機能を有効（TMOE ビット＝ 1）にすると、通信が正しく行われているにも関わらず、TMOE ビット＝ 1 設定時からタイムアウト検出時間経過後にタイムアウトが検出されます。

従って、タイムアウト検出機能を使用する場合は、CKS[2:0]＝000（PCk）を設定してください。

25.15.3 マスタ受信におけるストップコンディション発行要求の注意事項

以下のいずれかの場合、マスタ受信の9クロック目と停止条件の間に、1クロック挿入される場合があります。

この1クロックが通信に影響を及ぼす場合は、図25.41の手順を実行してください。

- マスタ受信において、9クロック目の立ち下がり後のL期間中に、SP=1書き込みとICDRRレジスタ読み出しが連続する場合
- マスタ受信において、9クロック目の立ち下がりとSP= 1 書き込みがRIIC内部で同時に認識された後、ICDRRレジスタを読み出した場合
- SP=1書き込み後に、マスタ受信の9クロック目の立ち下がりとICDRRレジスタ読み出しがRIIC内部で同時に認識された場合

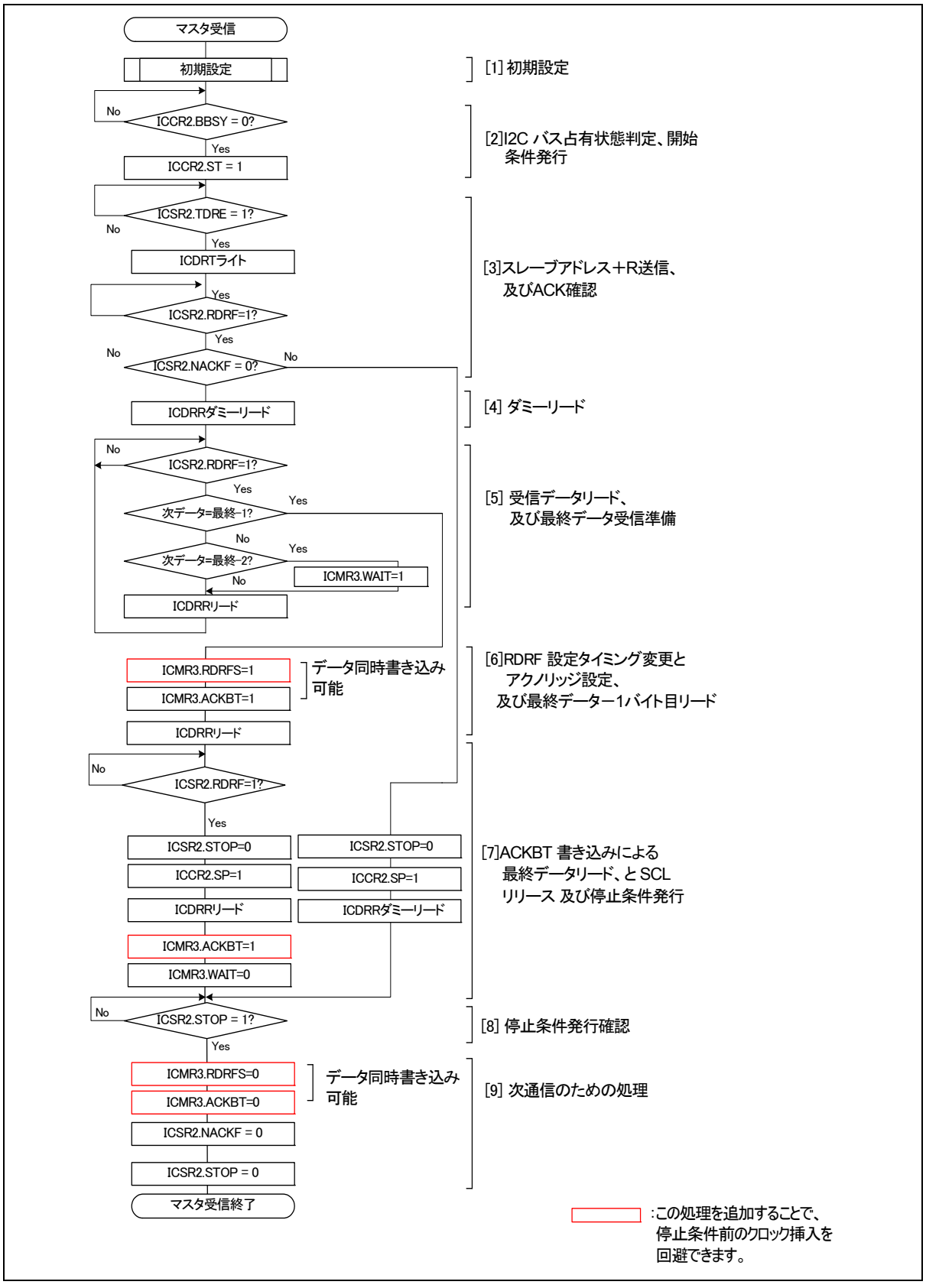


図 25.41　マスタ受信フローチャートの例（7 ビットアドレスフォーマット）

26. シリアルペリフェラルインタフェース1（SPI1）

本LSIは、外部SPIデバイスとの通信機能を実現するためのシリアルペリフェラルインタフェース（SPI1）を内蔵しています。SPI1は、SH-4Aから外部SPIデバイスを制御する機能SH-4A SPI Controller（PSC）から構成されています。

図26.1にSPI1の構成を示します

26.1 特長

- SPIマスタ通信対応
- 最大SPIクロック周波数は48MHz
- 内蔵クロック分周回路により、1分周～8分周のSPIクロック周波数設定可能
- シングルバイト転送及びバースト転送モードに対応
- 送受信にFIFOバッファを各々32段内蔵
- 1つのSPIバスで2つのSPIデバイスに対応するため2本のチップセレクト信号（$\overline{\text{SP1-SS0}}$、$\overline{\text{SP1-SS1}}$）搭載
- SPIフラッシュメモリの4種類の論理サイズ（2、4、8、16 Mバイト）をサポート（他のサイズはサポートしていません）。
  ストラップ端子FLSHSZ1、FLSHSZ0で2、4、8、16 Mバイトから希望する論理サイズを選択可能
- セグメント用の書き込み保護機能（本機能は$\overline{\text{SP1-SS0}}$のみサポート）。
  専用端子$\overline{\text{WP}}$でSPIフラッシュメモリエリアの下半分と上半分の最下位セグメントの書き込みを保護。ストラップ端子WPSZ1、WPSZ0で希望する書き込み保護サイズを選択可能（256、512 Kバイト又は1 Mバイト）

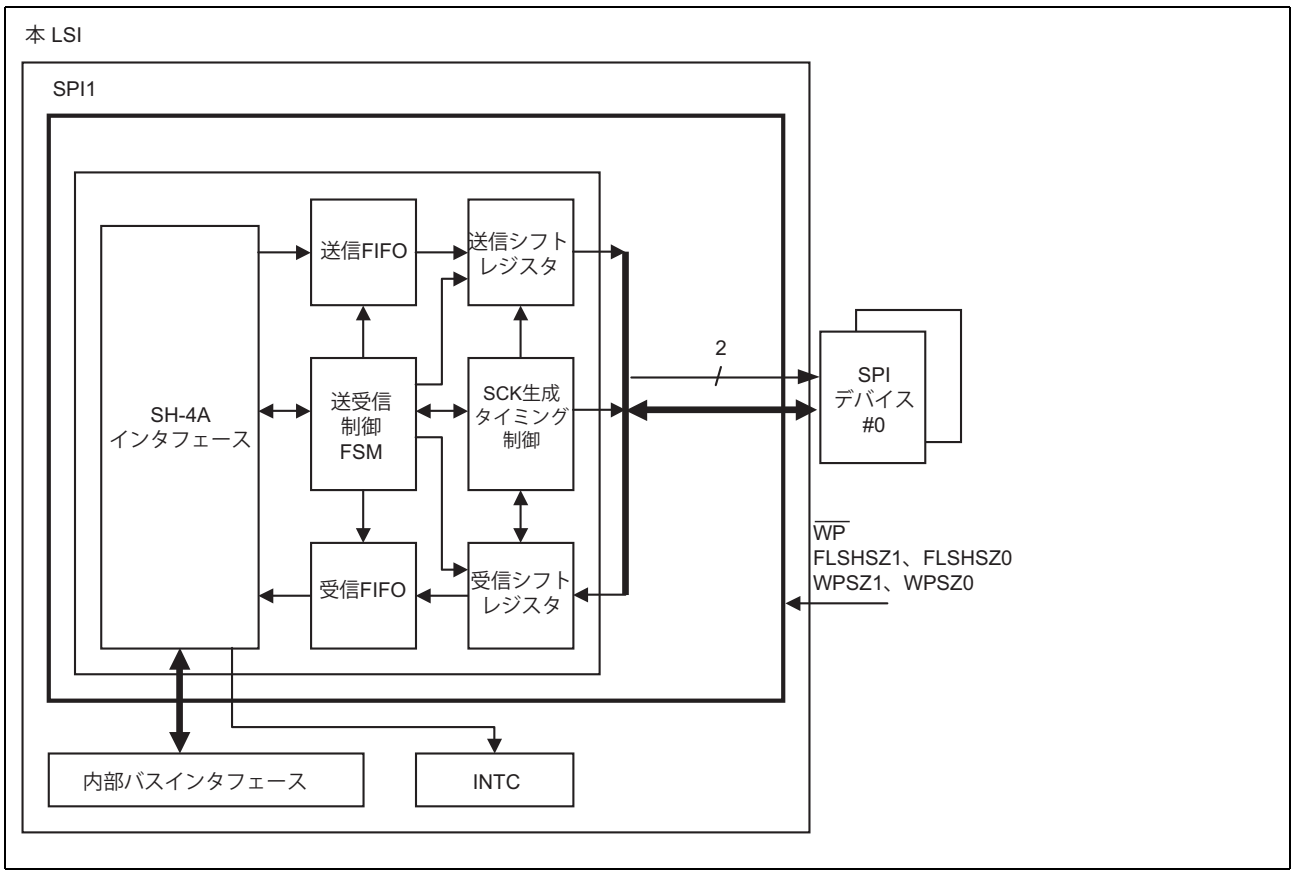


図 26.1　SPI1 の構成

26.2 入出力端子

SPI1 の端子構成を表26.1 に示します。

表26.1　端子構成

区分	記号	機能	入出力	説明
SPI1 バス インタフェース	SP1-MOSI	SPI1 マスタ出力	出力	SPI1 マスタデータ出力端子です。
	SP1-MISO	SPI1 マスタ入力	入力	SPI1 マスタデータ入力端子です。
	SP1-SCK	SPI1 クロック	出力	SPI1 シリアルクロック出力端子です
	SP1-SCK_FB	SPI1 クロック フィードバック	入力	SPI1 シリアルクロックフィードバック入力端子です。
	$\overline{\text{SP1-SS1}}$	SPI1 チップセレクト1	出力	SPI1 スレーブデバイス1 セレクト出力端子です。
	$\overline{\text{SP1-SS0}}$	SPI1 チップセレクト0	出力	SPI1 スレーブデバイス0 セレクト出力端子です。
SPI フラッシュ制御	$\overline{\text{WP}}$	書き込み保護	入力	SPI1 書き込み保護 L：書き込み保護有効 H：書き込み保護無効 （本機能は$\overline{\text{SP1-SS0}}$のみサポート）
パワーオンリセット ストラップ入力 （注）	FLSHSZ1、 FLSHSZ0	フラッシュサイズ	入力	SPI1 フラッシュサイズ L, L：2 MB L, H：4 MB H, L：8 MB H, H：16 MB
	WPSZ1、 WPSZ0	書き込み保護サイズ	入力	SPI1 フラッシュ書き込み保護エリアのサイズ選択 L, L：256 KB L, H：512 KB H, L：1 MB H, H：予約 （書き込み保護機能は $\overline{\text{SP1-SS0}}$のみサポート）

注.　上記ストラップ端子の状態は、POR （パワーオンリセット）時に、$\overline{\text{PRESET}}$の立ち上がりエッジでサンプルされます。

26.3　レジスタの説明

SPI1 のレジスタ構成を表26.2 に示します。

指定されたビット幅でレジスタにアクセスしてください。指定されたビット幅以外のサイズでレジスタにアクセスした場合、動作は保証できません。

表26.2　レジスタ構成

名称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
					パワーオンリセット	ソフトウエアリセット	マニュアルリセット
送信バッファレジスタ	TBR	W	H'FFD8 EE70	8	H'00	H'00	H'00
受信バッファレジスタ	RBR	R	H'FFD8 EE70	8	H'00	H'00	H'00
コントロールレジスタ 1	CR1	R/W	H'FFD8 EE72	8	H'A0	H'A0	H'A0
コントロールレジスタ 2	CR2	R/W	H'FFD8 EE74	8	H'01	H'01	H'01
コントロールレジスタ 3	CR3	R/W	H'FFD8 EE76	8	H'00	H'00	H'00
コントロールレジスタ4	CR4	R/W	H'FFD8 EE78	8	H'02	H'02	H'02
コントロールレジスタ 5	CR5	R	H'FFD8 EE7A	8	H'00	H'00	H'00
コントロールレジスタ 6	CR6	R	H'FFD8 EE7C	8	H'00	H'00	H'00
コントロールレジスタ 7	CR7	R	H'FFD8 EE7E	8	H'XX	H'XX	H'XX
コントロールレジスタ 9	CR9	R	H'FFD8 EE82	8	H'02	H'02	H'02
コントロールレジスタ 10	CR10	R	H'FFD8 EE84	8	H'D8	H'D8	H'D8
コントロールレジスタ 11	CR11	R	H'FFD8 EE86	8	H'C7	H'C7	H'C7

注.　このモジュールを使用される場合は、POR解除後にSH-4Aからアドレス(H'FFD8 EE80)にH'40 を書いてから使用して下さい。

26.3.1　送信バッファレジスタ（TBR）

SH-4Aは、TBR を介して送信FIFO に送信データを書き込みます。TBR とRBR は同じSH-4Aアドレスを共有しています。TBR への書き込み毎に、送信FIFO のライトポインタがインクリメントされます。送信FIFO の状態は、TBEビット（CR1レジスタのビット7）、TBF（CR1レジスタのビット6）ビットにて確認可能です。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	TxD[7:0]							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	W	W	W	W	W	W	W	W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～ 0	TxD[7:0]	0	W	送信データ 書き込まれたデータはSP1-MOSI 出力より送信されます。

26.3.2　受信バッファレジスタ（RBR）

SH-4Aは、RBR を介して受信FIFO に格納された受信データを読み出します。TBR とRBR は同じSH-4Aアドレスを共有しています。RBR の読み出し毎に、受信FIFO のリードポインタがインクリメントされます。受信FIFO の状態は、RBEビット（CR1レジスタのビット5）、RBF ビット（同ビット4）にて確認可能です。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	RxD[7:0]							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～ 0	RxD[7:0]	0	R	受信データ SPI-MISO 入力より受信したデータが格納されます。

26.3.3　コントロールレジスタ1（CR1）

CR1は、送信FIFO及び受信FIFOのステータスビットと、チップセレクトのアサート／デアサートを制御するビットを保持しています。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	TBE	TBF	RBE	RBF	—	SSDB	SSD	SSA
初期値：	1	0	1	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	—	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	TBE	1	R	送信FIFO エンプティフラグ TBE は、送信によって送信FIFO が空になったときに1 にセットされます。また、ハードウェアリセットやFIFO リセット（CR2.RstF=1）によっても1 にセットされます。 TBE は、ファームウェアがTBR を介して送信FIFO に1 バイト以上書き込むと0 にクリアされます。 送信FIFO エンプティ割り込みが有効（CR4.TBEI=1）のとき、TBE=1 によってINTC に割り込み要求が出力されます。
6	TBF	0	R	送信FIFO フルフラグ TBF は、ファームウェアによる書き込みで送信FIFO がフルになったときに1にセットされます。 TBF は、送信によって送信FIFO に空きができたときに0 にクリアされます。 また、ハードウェアリセットやFIFO リセット（CR2.RstF=1）によっても0 にクリアされます。 送信FIFO フル割り込みが有効（CR4.TBFI=1）のとき、TBF=1 によってINTCに割り込み要求が出力されます。
5	RBE	1	R	受信FIFO エンプティフラグ RBE は、ファームウェアが受信FIFO から最後のバイトを読み出し受信FIFOが空になったときに1 にセットされます。また、ハードウェアリセットやFIFOリセット（CR2.RstF=1）によっても1 にセットされます。 RBE は、受信によって1 バイト以上のデータが受信FIFO に書き込まれると0にクリアされます。 受信FIFO エンプティ割り込みが有効（CR4.RBEI=1）のとき、RBE=1 によってINTC に割り込み要求が出力されます。
4	RBF	0	R	受信FIFO フルフラグ RBF は、受信によって受信FIFO がフルになると1 にセットされます。 RBF は、ファームウェアによる読み出しで受信FIFO に空きができたときに0にクリアされます。また、ハードウェアリセットやFIFO リセット（CR2.RstF=1）によっても0 にクリアされます。 受信FIFO フル割り込みが有効（CR4.RBFI=1）のとき、RBF=1 によってINTCに割り込み要求が出力されます。
3	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
2	SSDB	0	R/W	バースト転送時チップセレクトデアサートイネーブル SSDB は、バースト転送終了時のチップセレクトデアサートを制御します。詳細はSSD ビットの説明を参照してください。
1	SSD	0	R/W	チップセレクトデアサートイネーブル SSDB とSSD は、下記に示す3 つのチップセレクトデアサートモードを選択するのに用いられます。 {SSDB,SSD} チップセレクトデアサートモード B'00：モード0。チップセレクト信号は、ファームウェアがSSD に1 を書き込むまでデアサートされません。 B'x1：モード1。チップセレクト信号は、各々のSPI サイクル終了時に自動的にデアサートされます。 B'10：モード2。チップセレクト信号は、最後のSPI サイクル終了時に自動的にデアサートされます。最後ではないSPI サイクル終了時にはアサートされたままになります。最後のSPI サイクルは、送信FIFO が空（TBE=1）になること及びプリフェッチ要求がペンディングされていない（PFC==0）状態で認識されます。
0	SSA	0	R/W	チップセレクトアサートイネーブル SPI サイクルを発行するためのチップアサート動作を制御します。 0：チップセレクトアサート無効。TBE とPFC の状態に関わらず、チップセレクト信号はアサートされず、SPI サイクルは発行されません。 1：チップセレクトアサート有効。SSA=1 かつTBE=0 のときに、チップセレクト信号がアサートされ、SPI 送信サイクルが発行されます。また、SSA=1かつPFC>0 のときに、チップセレクト信号がアサートされ、SPI 受信サイクルが発行されます。

26.3.4　コントロールレジスタ2（CR2）

CR2 は、SPI 動作モードとSPI 信号プロトコルの制御を行います。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	RstF	—	CPOL	CPHA	L1M0	DIVCODE[2:0]		
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	1
R/W：	R/W	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	RstF	0	R/W	FIFO リセット 0: FIFO リセットを解除します。 1: 送信FIFO と受信FIFO の読み出しポインタ、書き込みポインタをリセットします。TBE、RBE ビットは1 にセットされ、CR1 レジスタのTBF、RBF ビットは0 にクリアされます。
6	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
5	CPOL	0	R/W	SCK 極性セレクト CPOL は、クロックが非アクティブ時のSP1-SCK クロックの出力レベルを制御します。 0：SP1-SCK は非アクティブ時L レベルを出力 1：SP1-SCK は非アクティブ時H レベルを出力
4	CPHA	0	R/W	SCK 位相セレクト CPHA は、SPI サイクルにおいてSP1-MOSI 出力をドライブする信号エッジとSP1-MISO 入力をキャプチャする信号エッジを選択します。 • CPOL = 0 でクロックがL レベル（0）でアイドル状態のとき CPHA = 0：クロック立ち上がりエッジ時にデータを読み込みます （L レベルから H レベルへのクロック遷移） データは立ち下がりエッジ時に変化します （H レベルからL レベルへのクロック遷移） CPHA = 1：クロック立ち下がりエッジ時にデータを読み込みます （H レベルからL レベルへのクロック遷移） データは立ち上がりエッジ時に変化します （L レベルから H レベルへのクロック遷移） • CPOL = 1でクロックがH レベル（1）でアイドル状態のとき CPHA = 0：クロック立ち下がりエッジ時にデータを読み込みます （H レベルからL レベルへのクロック遷移） データは立ち上がりエッジ時に変化します （L レベルから H レベルへのクロック遷移） CPHA = 1：クロック立ち上がりエッジ時にデータを読み込みます （L レベルから H レベルへのクロック遷移） データは立ち下がりエッジ時に変化します （H レベルからL レベルへのクロック遷移） 図 26.2 はそれぞれの場合のデータフォーマットを示します。
3	L1M0	0	R/W	シリアルデータLSB/MSB セレクト 0：MSB ファーストモード。送信サイクルにおいて、TBR[7]（MSB）が最初に送信され、TBR[0]が最後に送信されます。受信サイクルにおいて、RBR[7]（MSB）が最初に受信され、RBR[0]が最後に受信されます。 1：LSB ファーストモード。送信サイクルにおいて、TBR[0]（LSB）が最初に送信され、TBR[7]が最後に送信されます。受信サイクルにおいて、RBR[0]（LSB）が最初に受信され、RBR[7]が最後に受信されます。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
2 ～ 0	DIVCODE[2:0]	001	R/W	SCK 分周コード DIVCODE はSP1-SCK の分周値を設定するのに用いられます。 SP1-SCK 分周値=DIVCODE＋1 DIVCODE の有効値は0～7 です。 DIVCODE　分周値　SP1-SCK 周波数 000　1　48 MHz 001　2　24 MHz 010　3　16 MHz 011　4　12 MHz 100　5　9.6 MHz 101　6　8 MHz 110　7　6.9 MHz 111　8　6 MHz

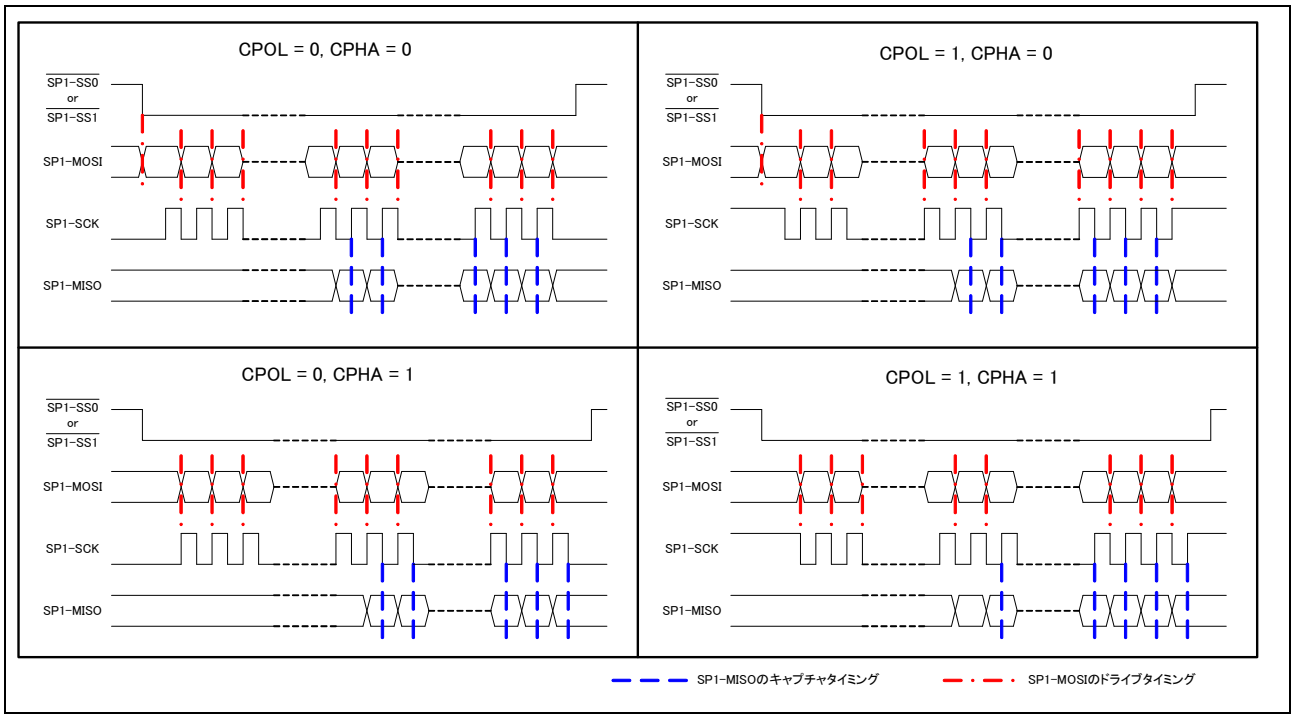


図 26.2　データフォーマット

26.3.5　コントロールレジスタ3（CR3）

CR3は、SPIデバイスからデータをプリフェッチするために実行されるSPI受信サイクルの回数を設定します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	PFC[7:0]							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～ 0	PFC[7:0]	0	R/W	プリフェッチカウント PFC = 0: プリフェッチは実施されません。 PFC = H'01 ～ H'20: プリフェッチが実施されますが、PFC値は各SPI受信サイクルでデクリメントされます。PFC = 0になるとプリフェッチが終了します。 PFC = H'21 ～ H'FF: 設定禁止

26.3.6　コントロールレジスタ4（CR4）

CR4は、FIFOフル／エンプティ割り込み制御とチップセレクト信号のルート選択を行います。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	TBEI	TBFI	RBEI	RBFI	—	Wp Abort	SpiS0	SSS
初期値：	0	0	0	0	0	0	1	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	—	R/W (注)	R	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	TBEI	0	R/W	送信FIFO エンプティ割り込みイネーブル 0: 送信FIFO エンプティ割り込みを無効にします。 1: 送信FIFO エンプティ割り込みを有効にします。CR1.TBE=1のときにINTCに割り込み要求が出力されます。
6	TBFI	0	R/W	送信FIFO フル割り込みイネーブル 0: 送信FIFO フル割り込みを無効にします。 1: 送信FIFO フル割り込みを有効にします。CR1.TBF=1のときにINTC に割り込み要求が出力されます。
5	RBEI	0	R/W	受信FIFO エンプティ割り込みイネーブル 0: 受信FIFO エンプティ割り込みを無効にします。 1: 受信FIFOエンプティ割り込みを有効にします。CR1.RBE=1のときにINTCに割り込み要求が出力されます。
4	RBFI	0	R/W	受信FIFO フル割り込みイネーブル 0: 受信FIFO フル割り込みを無効にします。 1: 受信FIFO フル割り込みを有効にします。CR1.RBF=1のときにINTC に割り込み要求が出力されます。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
3	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
2	WpAbort	0	R/W（注）	SPIフラッシュ ライトプロテクトアボート WpAbort は、下記に示すSPIフラッシュサイクルが検出されアボートされたときにハードウェアによって1にセットされます。 • 書き込み保護アドレス空間への書き込み（WRIT） • 書き込み保護アドレス空間を対象としたセクター消去（SE） • バルク消去（BE）
1	SpiS0	1	R	SPI アイドルステートS0 0：SPI がSPI サイクルを処理中であることを示します。新しいSPI サイクルを受け入れる準備ができていないことを示します。 1：SPI がアイドルステートS0 の状態であることを示します。新しいSPI サイクルを受け入れる準備ができていることを示します。
0	SSS	0	R/W	チップセレクト信号ルートセレクト 0：アクティブなチップセレクト信号を$\overline{\text{SP1-SS0}}$ 端子に割り当てます。 1：アクティブなチップセレクト信号を$\overline{\text{SP1-SS1}}$ 端子に割り当てます。

注.　1書き込みによる0 クリアのみ可能です。0 書き込みは無効です。

26.3.7　コントロールレジスタ5（CR5）

PSC は、32 バイト送信FIFO を内蔵しています。送信FIFO 内の有効（書き込まれた）データバイト数はCR5 レジスタに格納されます。SH-4A は、CR5 の値を確認することによってオーバランなしでSPI デバイスに送出可能な書き込みデータバイト数を決めることができます。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	TBFcn[5:0]					
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7、6	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
5～0	TBFcn[5:0]	0	R	送信FIFO 有効データカウント TBFcn の有効値は0～32 になります。 TBFcn = N(N = 0 ～31): N バイトの送信FIFO が書き込みデータで満たされています。故に、M=（32-N）バイトがまだ書き込み可能です。SH-4A は、オーバランなしに更にM バイトのデータ書き込みが可能です。 TBFcn = 32: 送信FIFO がフルの状態です。オーバランを防ぐために、SH-4A は送信FIFO に空きができるまでデータ書き込みを待たなければなりません。オーバランが発生すると、送信FIFO に書き込まれたデータは無視されます。

26.3.8　コントロールレジスタ6（CR6）

PSC は、32 バイト受信 FIFO を内蔵しています。受信 FIFO 内の有効データバイト数は CR6 レジスタに格納されます。SH-4A は、CR6 の値を確認することによって読み出し可能なSPI 読み出しデータバイト数を決めることができます。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	RBFcn[5:0]					
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7、6	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
5 ～0	RBFcn[5:0]	0	R	受信FIFO 有効データカウント RBFcn の有効値は0～32 になります RBFcn = 0:受信FIFO が空の状態です。SH-4A が読み出し可能なSPI 読み出しデータバイトはありません。アンダーランを防ぐために、RBFcn=0 の間はSH-4A はSPI 読み出しデータを読み出してはいけません。アンダーランが発生すると、SH-4A リードは無視され、無効値が返されます。 RBFcn = N (N = 1 ～ 32): N バイトの受信FIFO がSPI 読み出しデータで満たされています。SH-4Aは、アンダーランなしにN バイトのSPI 読み出しデータを読み出すことができます。

26.3.9　コントロールレジスタ7（CR7）

CR7 は、ストラップ入力信号の状態を格納します。SH-4A は、CR7 を介してストラップ入力信号の状態を確認することができます。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	Wpn	—	—	FlshSz[1]	WpSz[1:0]		—	FlshSz[0]
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	Wpn	不定	R	$\overline{\text{WP}}$ 端子入力状態を示します。
6、5	—	不定	R	リザーブビット（読み出すと不定値が読めます）
4	FlshSz[1]	不定	R	FLSHSZ1 ストラップ入力状態を示します。
3、2	WpSz[1:0]	不定	R	WPSZ1、WPSZ0 ストラップ入力状態を示します。
1	—	不定	R	リザーブビット（読み出すと不定値が読めます）
0	FlshSz[0]	不定	R	FLSHSZ0 ストラップ入力状態を示します。

26.3.10 コントロールレジスタ9（CR9）

CR9は、SPIフラッシュライトオペコードバイトの値を保持します。$\overline{WP}$ = L（書き込み保護有効）時、このコマンドを使用して、図26.3に示すWPMのアドレスに書き込もうとすると、書き込み保護機能が働き、SPIフラッシュには何も送信されず、データが書き込まれることはありません。また、このとき送信FIFOはクリアされ、CR4レジスタのWpAbortビットがセットされます。

値はH'02で、WRIT (Write Data)コマンドのオペコードが割り付けられており、値を変更することはできません。SPIフラッシュデバイスによってはライトオペコードの値が異なる場合がありますが、その場合は書き込み保護機能が働きませんので、ご注意ください。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	OpWrR[7:0]							
初期値：	0	0	0	0	0	0	1	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～ 0	OpWrR[7:0]	H'02	R	SPI ライトオペコード

26.3.11 コントロールレジスタ10（CR10）

CR10は、SPIフラッシュセクター消去オペコードバイトの値を保持します。$\overline{WP}$ = L (書き込み保護有効)時、このコマンドを使用して、図26.3に示すWPMのアドレスのデータを消去しようとすると、書き込み保護機能が働き、SPIフラッシュには何も送信されず、データが消去されることはありません。また、このとき送信FIFOはクリアされ、CR4レジスタのWpAbortビットがセットされます。

値はH'D8で、SE (Sector Erase)コマンドのオペコードが割り付けられており、値を変更することはできません。SPIフラッシュデバイスによってはセクター消去オペコードの値が異なる場合がありますが、その場合は書き込み保護機能が働きませんので、ご注意ください。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	OpSeR[7:0]							
初期値：	1	1	0	1	1	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～ 0	OpSeR[7:0]	H'D8	R	SPI フラッシュセクター消去オペコード

26.3.12 コントロールレジスタ11（CR11）

CR11は、SPIフラッシュバルク消去オペコードバイトの値を保持します。$\overline{WP}$ = L（書き込み保護有効）時、このコマンドを使用して(バルク消去のため、アドレス指定は不要)、データを消去しようとすると、書き込み保護機能が働き、SPIフラッシュには何も送信されず、データが消去されることはありません。また、このとき送信FIFOはクリアされ、CR4レジスタのWpAbortビットがセットされます。

値はH'C7で、BE (Bulk Erase)コマンドのオペコードが割り付けられており、値を変更することはできません。SPIフラッシュデバイスによってはバルク消去オペコードの値が異なる場合がありますが、その場合は書き込み保護機能が働きませんので、ご注意ください。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	OpBeR[7:0]							
初期値：	1	1	0	0	0	1	1	1
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7～0	OpBeR[7:0]	H'C7	R	SPIフラッシュバルク消去オペコード

26.4 機能説明

PSC は、SH-4A と外部SPI デバイス（SPIフラッシュ を含む）との間のSPI 同期シリアル転送を提供する機能です。PSCは、最小のソフトウェア制御オーバヘッドで、ファームウェアの送信データレジスタへの書き込みによるSPI 送信サイクルとファームウェアの受信データレジスタからの読み出しによるプリフェッチSPI 受信サイクルを自動的に生成するようにプログラムされることが可能です。PSC は、効率的な転送を実現するために32 バイトの送信FIFO と32 バイトの受信FIFO を内蔵し、FIFO のフル／エンプティ割り込みにも対応しています。プログラム可能な分周回路を持った最大48MHzのベースクロック周波数とプログラム可能なチップセレクト信号デアサートが、広い範囲のSPI デバイスとCPLD I/O 拡張デバイスへの効果的なインタフェースを実現しています。

26.4.1 パワーオンリセットストラップ入力信号

$\overline{\text{PRESET}}$ の立ち上がりエッジでサンプリングされる下記に示すストラップ入力信号は、SPI1 の機能を制御するために用いられます。

- FLSHSZ[1:0] （フラッシュサイズ）
  SPI端子に接続されたSPIフラッシュのサイズを指定します。B'00のときに2MB、B'01のときに4MB、B'10のときに8MB、B'11のときに16MBを示します。
- WPSZ[1:0]（書き込み保護サイズ）
  図26.3で示すWPMと名付けられた書き込み保護メモリ空間のサイズを指定します。WPMは、$\overline{\text{WP}}$端子がL（書き込み保護有効）のときに、$\overline{\text{SPI-SS0}}$にのみ設定されます。WPSZ[1:0]がB'00のとき64KB、B'01のとき128KB、B'10のとき256KBを示します。B'11は設定禁止です。

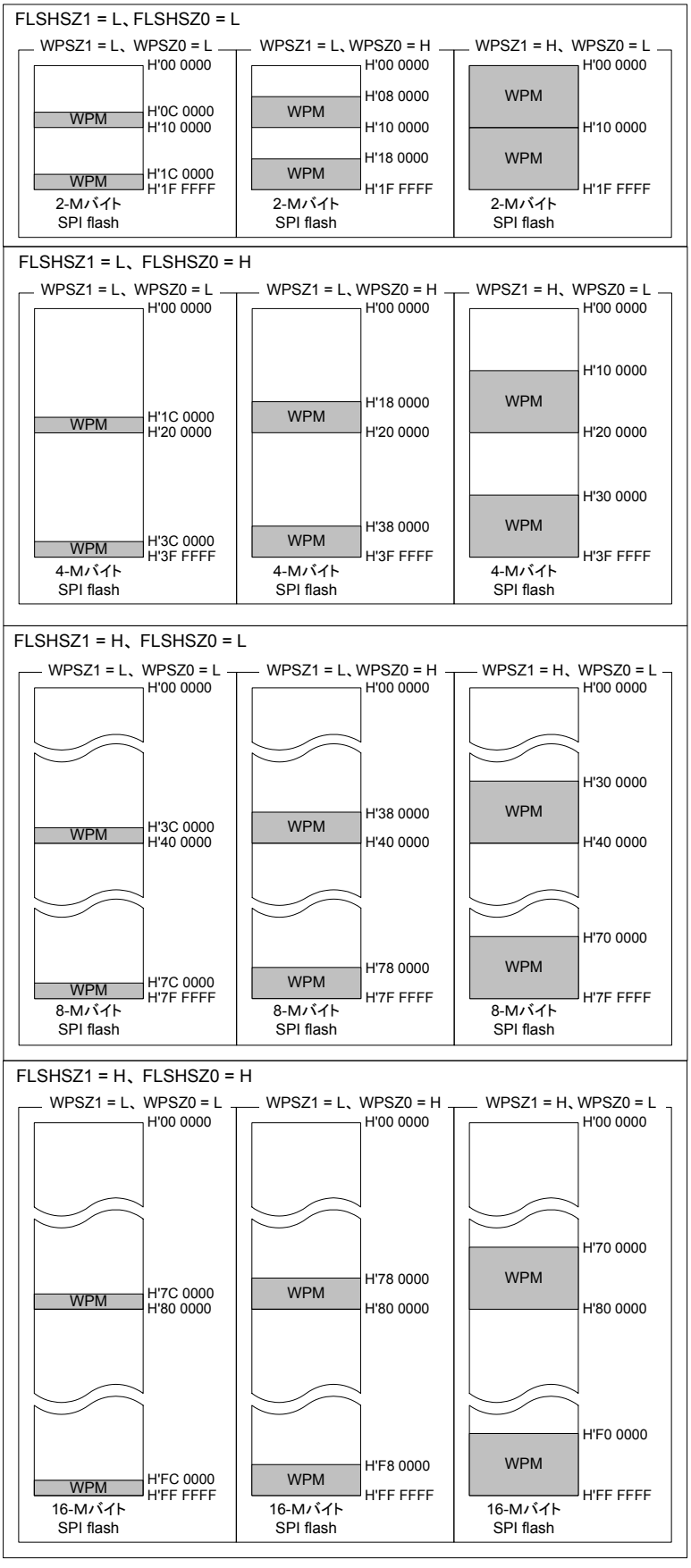


図 26.3　SPIフラッシュメモリマップ

26.4.2　SPI1 の構成と動作

(1)　SPI インタフェース論理

SPI インタフェースは、送信回路と受信回路で構成されています。送信回路は、送信シフトレジスタ、送信バッファレジスタ（TBR）とその拡張送信 FIFO で構成されています。受信回路は、受信シフトレジスタ、受信バッファレジスタ（RBR）とその拡張受信 FIFO で構成されています。この中で、TBR と RBR が SH-4A ファームウェアからアクセス可能です。送信シフトレジスタ、送信 FIFO、受信シフトレジスタ、受信 FIFO は SH-4A ファームウェアによるステータス確認ができませんが、送信 FIFO の空／フル（CR1 レジスタの TBE ビット／TBF ビット）、受信 FIFO の空／フル（CR1 レジスタの RBE ビット／RBF ビット）の状態は SH-4A ファームウェアによる確認が可能です。

ファームウェアは、CR1.SSA（チップセレクトアサートイネーブル）、CR1.SSD（チップセレクトデアサートイネーブル）、CR1.SSDB（バースト転送時チップセレクトデアサートイネーブル）と名付けられた制御ビットを介し、SPI サイクルを開始する又は終了するためにチップセレクト信号のアサートとデアサートを制御することができます。

(2)　SPI 送信サイクル

一般に、チップセレクト信号アサート有効を示す CR1.SSA=1 で且つ送信 FIFO が 1 バイト以上のデータで満たされていることを示す CR1.TBE=0 時は、SPI 送信回路は SPI 送信サイクルを開始します。SP1-MOSI 端子からデータバイトを送信するために、SH-4A ファームウェアは、SSA ビット（CR1 レジスタのビット 0）に 1 を書き込み、TBR にデータバイトを書き込んで送信 FIFO にデータを入れます。CR1.SSA=1 且つ CR1.TBE=0 の条件が与えられると、送信回路は、送信 FIFO からデータバイトを 1 度に 1 バイトずつ得て、チップセレクト信号をアサートし、予め定義された SPI フォーマットで SP1-MOSI 端子からシリアルにそのバイトをシフト出力するために 8SCK クロックの SPI サイクルを開始します。そのバイトの送信が終わると、送信回路は、次のバイトを送信 FIFO から得て、送信 FIFO に置かれたすべてのデータバイトが送信されるまで SPI サイクルを繰り返します。送信 FIFO の最後のバイトが送信されると、送信回路は、送信 FIFO が空であることを示す TBE ビット（CR1 レジスタのビット 7）を 1 にセットします。

送信 FIFO が空であることを示す CR1.TBE=1 による送信の終わりで、送信回路は、下記に示す CR1.SSD と CR1.SSDB の設定により、チップセレクト信号をデアサートして送信を終了するかしないかを選択します。

もし CR1.SSD=1 であれば、チップセレクト信号はあらゆる SPI サイクルの終わりでデアサートされます。もし CR1.SSD=0 かつ CR1.SSDB=0 であれば、送信回路はチップセレクト信号をアサートしたままにしますが、送信 FIFO に再び 1 バイト以上のデータが満たされるまで SPI サイクルを生成しません。この設定においては、SH-4A ファームウェアが CR1.SSD を 1 にセットしたとき送信トランザクションが終了するとチップセレクト信号がデアサートされます。

最後に、CR1.SSD=0 かつ CR1.SSDB=1 であれば、送信回路は、送信 FIFO が空になった直後に送信を終了するためにチップセレクト信号をデアサートします。チップセレクト信号のアサート／デアサートの詳細については、「(5) チップセレクト信号デアサートモード」を参照してください。

サイクル間連続して N 回の SPI 送信サイクルを行うために、ファームウェアは、N 回分の送信データバイトを送信 FIFO に書き込み終わるまで SSA ビットを 1 にセットしません。ここで、N は送信 FIFO サイズ以下の値にしてください。そうしなければ、CR1.TBF=1 で示される送信 FIFO がフルになったときに、書き込まれたバイトは無視されます。

送信ステータスは、TBE ビット（CR1 レジスタのビット 7）と TBF ビット（CR1 レジスタのビット 6）を介して確認されることができます。TBE ビットは、送信 FIFO がファームウェアにより 1 バイト以上のデータで満たされると 0 にクリアされ、送信 FIFO が送信により空になると 1 にセットされます。TBF ビットは、送信 FIFO がフルになると 1 にセットされ、送信 FIFO がフルの状態から 1 バイトでも減ると 0 にクリアされます。CR1.TBF=1 の間にファームウェアによって TBR に書き込まれた送信データは無視されます。

(3)　SPI 受信サイクル

一般に、SPI 受信回路は、保留状態の送信がなく且つプリフェッチ要求がアクティブのときに SPI 受信サイクルを開始します。SP1-MISO 端子からデータバイトを受信するために、SH-4A ファームウェアはプリフェッチカウントレジスタ（CR3）に N（希望する受信バイト数）を書き込みます。それから、

SPI 受信サイクルを開始するためにSSA ビット（CR1 レジスタのビット0）を1 にセットします。CR1.SSA=1 且つCR3.PFC ＞0 の条件が与えられると、受信回路は、外部SPI デバイスにSPI サイクルを発行するためにチップセレクト信号とSCK をアサートし、SP1-MISO 端子を介して返されたデータを受信します。完全な入力データバイトを受信すると、受信回路は、それを受信FIFO に入れ、受信FIFO がファームウェアが読み出すための1 バイト以上のデータで満たされていることを示すRBE ビット（CR1 レジスタのビット5）を0 にクリアします。受信IFO がフルのとき、受信回路は、RBF ビット（CR1 レジスタのビット4）を1 にセットし、受信FIFO に空きができるまでスケジュールされた受信サイクルをサスペンドします。受信回路は、各々のSPI 受信サイクルでPFC ビット（CR3 レジスタのビット7～0）をカウントダウンし、PFC が0 になったとき受信を停止します。

SPI 受信サイクルの終わりでのチップセレクト信号のデアサートは、「(5) チップセレクト信号デアサートモード」に記述されているようにSSD ビット（CR1 レジスタのビット1）とSSDB ビット（CR1 レジスタのビット2）によって制御されます。

ファームウェアは、SPI 受信サイクルを停止（PFCnew=0）、削減（PFCnew<PFCcurrent）、又は延長（PFCcurrent<PFCnew）するために、CR3.PFC に1 常時新しい値を書き込むことができます。

受信ステータスは、RBE ビットとRBF ビットを介して確認されることができます。CR1.RBE は、受信FIFO が受信により1 バイト以上のデータで満たされると0 にクリアされ、受信FIFO がファームウェアによる読み出しで空になったとき1 にセットされます。RBF ビット は、受信FIFO がフルになると1 にセットされ、受信FIFO に空きができると0 にクリアされます。CR1.RBE=1 の間にファームウェアがRBR を読み出すと、無効値が返されます。SPI 受信サイクルについての詳細は、「(5) チップセレクト信号デアサートモード」を参照してください。

(4) SPI 送信によって続くSPI 受信

N バイトの送信によって続くP バイトの受信を実施するために、ファームウェアは次のような設定を行います。

1. SSA ビット（CR1 レジスタのビット0）を0 にクリア。（チップセレクト信号アサートを無効にします。）
2. 送信FIFO にN バイト書き込み。（N は送信FIFO サイズ以下の値に設定してください。そうしないと書き込まれたデータは消失します。）
3. PFC ビット（CR3 レジスタのビット7～0）にP を設定。（N バイト送信直後に実行される受信サイクル数を指定します。）
4. CR1.SSD=0、CR1.SSDB=1 に設定。（バースト転送終了時にチップセレクト信号がデアサートされるように設定します。）
5. SSA ビット（CR1 レジスタのビット0）を1 にセット。（チップセレクト信号アサートを有効にし、SPI送信サイクルを開始します。）
6. RBE ビット（CR1 レジスタのビット5）が0 にクリアされるのを待つ。（受信によって受信FIFO にデータが満たされるのを待ちます。）
7. RBR をリード。（受信FIFO から受信したデータバイトを得るためにRBR を読み出します。）

SPI トランザクションの開始時、送受信回路は、SSA ビット（CR1 レジスタのビット0）、TBE ビット（CR1 レジスタのビット7）、PFC ビット（CR3 レジスタの7～0）による制御の元、下記に示すようにSPI 受信サイクルよりもSPI 送信サイクルにより高い優先度を与えます。

- SSA=0、TBE=X、PFC=X のとき：なし。（ファームウェアはSPI サイクルが開始されないように設定します。）
- SSA=1、TBE=0、PFC=X のとき：送信サイクル。（ファームウェアはSPI サイクルを開始するように設定し、送信FIFO は空ではありません。）
- SSA=1、TBE=1、PFC=n のとき：受信サイクル。（ファームウェアはSPI サイクルを開始するように設定し、送信FIFO は空で、PFC>0 の状態です。）
- SSA=1、TBE=1、PFC=0 のとき：なし。（ファームウェアはSPI サイクルを開始するように設定しますが、送信FIFO は空で、PFC=0 の状態です。）

(5) チップセレクト信号デアサートモード

以下に示すとおり、チップセレクト信号デアサートモードにはSSDBビット（CR1レジスタのビット2）とSSDビット（CR1レジスタのビット1）によって制御される3つのモードがあります。

（a）モード0（SSDB=0、SSD=0）

送受信回路は、ファームウェアによってSSDに1が書かれるまでSPIサイクルの終わりでチップセレクト信号をデアサートしません。

（b）モード1（SSDB=X、SSD=1）

送受信回路は、各々のSPIサイクルの終わりで自動的にチップセレクト信号をデアサートします。

（c）モード2（SSDB=1、SSD=0）

送受信回路は、最後のSPIサイクルの終わりで自動的にチップセレクト信号をデアサートしますが、それ以外のSPIサイクルの終わりではチップセレクト信号をアサートしたままにします。最後のSPIサイクルは、送信FIFOが空且つプリフェッチ要求が保留中でない状態（即ちPFC==0）によって識別されます。

26.5　使用上の注意事項

26.5.1　$\overline{WP}$ 更新の制約

SPI1 がコマンドとアドレスを発行しているときに $\overline{WP}$ 端子は変更できません。$\overline{WP}$ 端子の更新禁止期間があります。$\overline{WP}$ 端子は更新禁止期間に安定させる必要があります。図26.4は禁止期間を示します。

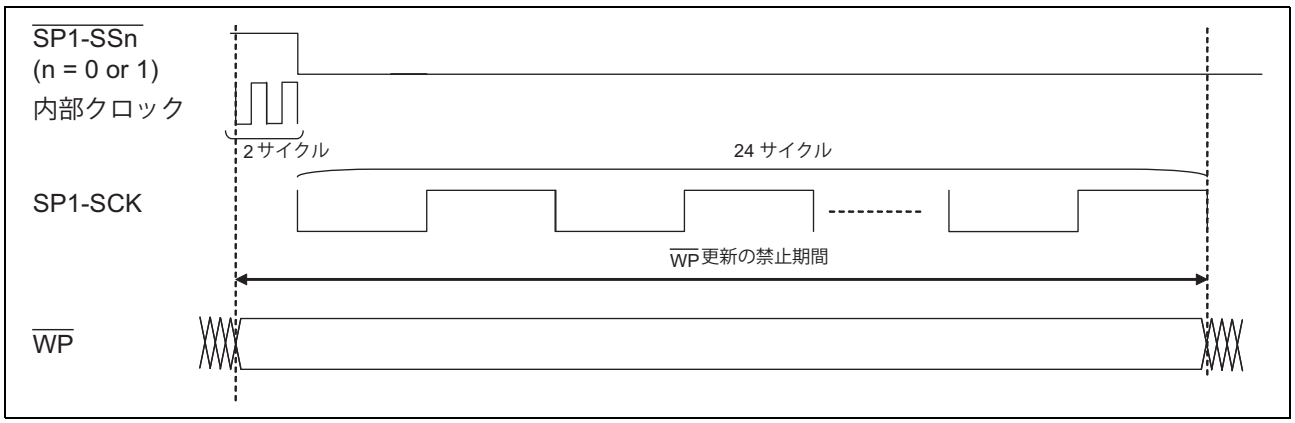


図 26.4　$\overline{WP}$ 更新の制約

26.5.2　使用上の注意事項

このモジュールを使用される場合は、 POR解除後にSH-4Aからアドレス(H'FFD8 EE80)にH'40を書いてから使用して下さい。

27. FIFO 内蔵シリアルコミュニケーションインタフェース0、1（SCIF0、SCIF1）

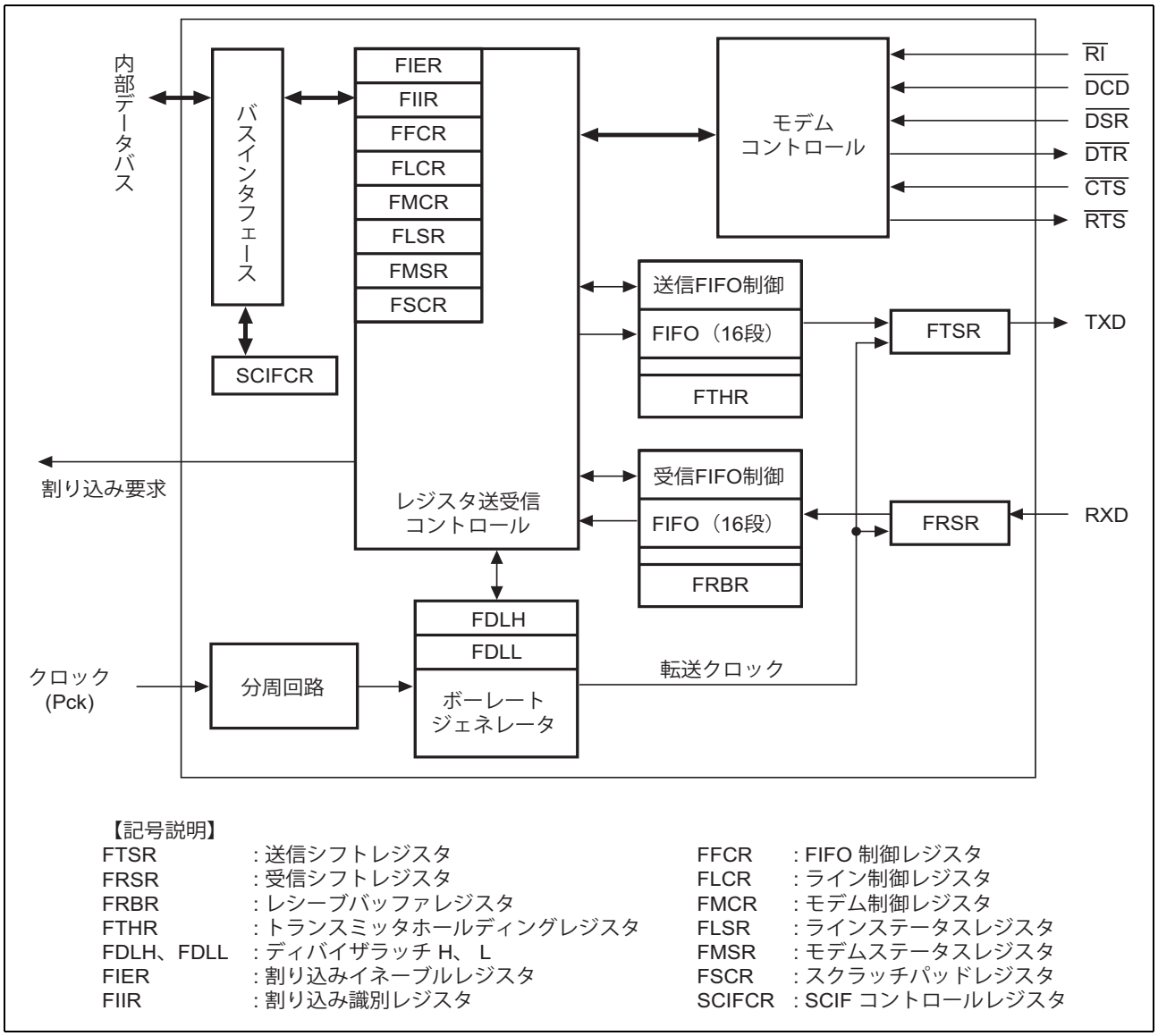
本LSI は、2 チャネルのFIFO バッファ内蔵のシリアルコミュニケーションインタフェース（SCIF）を内蔵しています。SCIF は調歩同期式のシリアル通信が可能です。通信方式は調歩同期式で、Universal Asynchronous Receiver/Transmitter（UART）などの標準の調歩同期式通信用LSI とのシリアル通信ができます。送受信にFIFO バッファを各々 16 段内蔵しており、効率の良い高速連続通信を行うことができます。

27.1　特長

- 16550 レジスタは以下の点を除き準拠しています。
  - スティックパリティはサポートしていません。
  - DMAモードはサポートしていません。
  - FMCRのOUT2ビットが割り込みを制御します。
  - SCIFCR レジスタを追加
- 全二重通信が可能
  独立した送信部と受信部を備えているので、送信と受信を同時に行うことができます。また、送信部及び受信部ともに16段のFIFOバッファ構造になっており、シリアルデータの連続送受信ができます。
- 内蔵ボーレートジェネレータにより任意のビットレートを選択可能
- モデムコントロール機能内蔵

調歩同期式モード：
- データ長：5～8ビットから選択可能
- パリティ：偶数パリティ／奇数パリティ／パリティなしから選択可能
- ストップビット長：1、1.5、2ビットから選択可能
- 受信エラーの検出：パリティエラー、オーバランエラー、フレーミングエラー
- ブレークの検出

SCIF のブロック図を図27.1 に示します。



【記号説明】

FTSR	: 送信シフトレジスタ	FFCR	: FIFO 制御レジスタ
FRSR	: 受信シフトレジスタ	FLCR	: ライン制御レジスタ
FRBR	: レシーブバッファレジスタ	FMCR	: モデム制御レジスタ
FTHR	: トランスミッタホールディングレジスタ	FLSR	: ラインステータスレジスタ
FDLH、FDLL	: ディバイザラッチ H、 L	FMSR	: モデムステータスレジスタ
FIER	: 割り込みイネーブルレジスタ	FSCR	: スクラッチパッドレジスタ
FIIR	: 割り込み識別レジスタ	SCIFCR	: SCIF コントロールレジスタ

図 27.1　SCIF のブロック図

27.2　入出力端子

SCIF の入出力端子を表27.1 に示します。

表27.1　端子構成

チャネル	端子名	機能	入出力	説明
0	TXD0	送信データ	出力	送信データ出力端子
	RXD0	受信データ	入力	受信データ入力端子
	$\overline{\text{RI0}}$	リングインジケータ	入力	リングインジケータ入力端子
	$\overline{\text{DCD0}}$	データキャリア検出	入力	データキャリア検出入力端子
	$\overline{\text{DSR0}}$	データセットレディ	入力	データセットレディ入力端子
	$\overline{\text{DTR0}}$	データターミナルレディ	出力	データターミナルレディ出力端子
	$\overline{\text{CTS0}}$	送信許可	入力	モデム制御信号で送信許可入力端子
	$\overline{\text{RTS0}}$	送信要求	出力	モデム制御信号で送信要求出力端子
1	TXD1	送信データ	出力	チャネル1 の送信データ出力端子
	RXD1	受信データ	入力	チャネル1 の受信データ入力端子
	$\overline{\text{RI1}}$	リングインジケータ	入力	チャネル1 のリングインジケータ入力端子
	$\overline{\text{DCD1}}$	データキャリア検出	入力	チャネル1 のデータキャリア検出入力端子
	$\overline{\text{DSR1}}$	データセットレディ	入力	チャネル1 のデータセットレディ入力端子
	$\overline{\text{DTR1}}$	データターミナルレディ	出力	チャネル1 のデータターミナルレディ出力端子
	$\overline{\text{CTS1}}$	送信許可	入力	モデム制御信号で送信許可入力端子
	$\overline{\text{RTS1}}$	送信要求	出力	モデム制御信号で送信要求出力端子

27.3　レジスタの説明

SCIF のレジスタ構成と各処理モードにおけるレジスタの状態をを表27.2 に示します。

指定されたビット幅でレジスタにアクセスしてください。指定されたビット幅以外のサイズでレジスタにアクセスした場合、動作は保証できません。

表27.2　レジスタ構成

チャネル	名 称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態				
						パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウェアリセット	SCIFRST	REGRST
0	受信シフトレジスタ_0	FRSR_0	—	—	—	—	—	—	—	—
	レシーブバッファレジスタ_0	FRBR_0	R	H'FE41 0000	8	H'00	H'00	H'00	H'00	H'00
	送信シフトレジスタ_0	FTSR_0	—	—	—	—	—	—	—	—
	トランスミッタホールディングレジスタ_0	FTHR_0	W	H'FE41 0000	8	—	—	—	—	—
	ディバイザラッチH_0	FDLH_0	R/W	H'FE41 0001	8	H'00	H'00	H'00	保持	H'00
	ディバイザラッチL_0	FDLL_0	R/W	H'FE41 0000	8	H'00	H'00	H'00	保持	H'00
	割り込みイネーブルレジスタ_0	FIER_0	R/W	H'FE41 0001	8	H'00	H'00	H'00	保持	H'00
	割り込み識別レジスタ_0	FIIR_0	R	H'FE41 0002	8	H'01	H'01	H'01	保持	H'01
	FIFO 制御レジスタ_0	FFCR_0	W	H'FE41 0002	8	H'00	H'00	H'00	保持	H'00
	ライン制御レジスタ_0	FLCR_0	R/W	H'FE41 0003	8	H'00	H'00	H'00	保持	H'00
	モデム制御レジスタ_0	FMCR_0	R/W	H'FE41 0004	8	H'00	H'00	H'00	保持	H'00
	ラインステータスレジスタ_0	FLSR_0	R	H'FE41 0005	8	H'60	H'60	H'60	保持	H'60
	モデムステータスレジスタ_0	FMSR_0	R	H'FE41 0006	8	H'00	H'00	H'00	保持	H'00
	スクラッチパッドレジスタ_0	FSCR_0	R/W	H'FE41 0007	8	H'00	H'00	H'00	保持	H'00
	SCIF コントロールレジスタ_0	SCIFCR_0	R/W	H'FE41 0008	8	H'00	H'00	H'00	保持	保持

チャネル	名 称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態				
						パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウェアリセット	SCIFRST	REGRST
1	受信シフトレジスタ_1	FRSR_1	—	—	—	—	—	—	—	—
	レシーブバッファレジスタ_1	FRBR_1	R	H'FE42 0000	8	H'00	H'00	H'00	H'00	H'00
	送信シフトレジスタ_1	FTSR_1	—	—	—	—	—	—	—	—
	トランスミッタホールディングレジスタ_1	FTHR_1	W	H'FE42 0000	8	—	—	—	—	—
	ディバイザラッチH_1	FDLH_1	R/W	H'FE42 0001	8	H'00	H'00	H'00	保持	H'00
	ディバイザラッチL_1	FDLL_1	R/W	H'FE42 0000	8	H'00	H'00	H'00	保持	H'00
	割り込みイネーブルレジスタ_1	FIER_1	R/W	H'FE42 0001	8	H'00	H'00	H'00	保持	H'00
	割り込み識別レジスタ_1	FIIR_1	R	H'FE42 0002	8	H'01	H'01	H'01	保持	H'01
	FIFO 制御レジスタ_1	FFCR_1	W	H'FE42 0002	8	H'00	H'00	H'00	保持	H'00
	ライン制御レジスタ_1	FLCR_1	R/W	H'FE42 0003	8	H'00	H'00	H'00	保持	H'00
	モデム制御レジスタ_1	FMCR_1	R/W	H'FE42 0004	8	H'00	H'00	H'00	保持	H'00
	ラインステータスレジスタ_1	FLSR_1	R	H'FE42 0005	8	H'60	H'60	H'60	保持	H'60
	モデムステータスレジスタ_1	FMSR_1	R	H'FE42 0006	8	H'00	H'00	H'00	保持	H'00
	スクラッチパッドレジスタ_1	FSCR_1	R/W	H'FE42 0007	8	H'00	H'00	H'00	保持	H'00
	SCIF コントロールレジスタ_1	SCIFCR_1	R/W	H'FE42 0008	8	H'00	H'00	H'00	保持	保持

27.3.1　受信シフトレジスタ (FRSR)

FRSR はRXD 端子から入力されたシリアルデータをパラレルデータに変換するための受信用レジスタです。シリアルデータはLSB（ビット0）から受信したデータを格納します。1 フレーム分のシリアルデータを受信すると、データはFRBR に転送されます。

FRSR はSH-4Aからはリードできません。

27.3.2　レシーブバッファレジスタ (FRBR)

FRBR は受信したシリアルデータを格納するための8 ビットのリード専用レジスタで、FLCR のDLAB ビットが0 のときアクセス可能です。FLSR のDR ビットがセットされているとき、正しいデータをリードすることができます。

FIFO イネーブルでレジスタをリードしたとき、受信FIFO の先頭をリードします。受信FIFO が満杯になると、それ以降の受信データは失われ、オーバランエラーになります。

FIFO ディスエーブルでは、次のデータを受信する前に必ずFRBR のデータをリードしてください。リードする前にデータを受信すると上書きされ、オーバランエラーになります。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	FRBR[7:0]							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R

27.3.3　送信シフトレジスタ (FTSR)

FTSR はTXD 端子からパラレルデータをシリアルデータに変換して送信するレジスタです。1 フレーム分のシリアルデータを送信すると、データはFTHR から転送されます。シリアルデータはLSB（ビット0）から送信されます。

FTSR はSH-4Aからはライトできません。

27.3.4　トランスミッタホールディングレジスタ (FTHR)

FTHR は送信するシリアルデータを格納するための8 ビットのライト専用レジスタで、FLCR のDLAB ビットが0 のときアクセス可能です。FLSR のTHRE ビットがセットされているとき、送信データをライトすることができます。

FIFO イネーブルでTHRE ビットがセットされているとき、FIFO が満杯になるまでデータをライトすることができます。FIFO が満杯の状態でデータをライトすると、ライトしたデータは無効になります。

FIFO ディスエーブルでTHRE ビットがセットされているとき、FTHR にデータをライトすると、THRE ビットはクリアされます。THRE ビットがセットされていないときにFTHR にデータをライトすると、データは上書きされます。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	FTHR[7:0]							
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	W	W	W	W	W	W	W	W

27.3.5　ディバイザラッチH、L (FDLH、FDLL)

FDLH、FDLLはボーレートを設定するための8ビットのリード／ライト可能なレジスタで、FLCRのDLABビットが1のときアクセス可能です。分周値は1～（$2^{16}-1$）の範囲で設定可能です。FDLH、FDLLが0（初期値）のとき分周回路は停止します。ビットレートエラーを考慮してビット値を設定してください(表27.4参照)。

ボーレートは以下の計算で求まります。

ボーレート＝（ボーレートジェネレータに入力するクロックの周波数）／（16×ディバイザ値）

•FDLH

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	FDL[15:8]							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

•FDLL

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	FDL[7:0]							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

27.3.6　割り込みイネーブルレジスタ (FIER)

FIERは割り込みの許可／禁止を設定するための8ビットのリード／ライト可能なレジスタで、FLCRのDLABビットが0のときアクセス可能です。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	EDSSI	ELSI	ETBEI	ERBFI
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7～4	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
3	EDSSI	0	R/W	モデムステータス割り込みイネーブル 0：モデムステータス割り込み禁止 1：モデムステータス割り込み許可
2	ELSI	0	R/W	受信ラインステータス割り込みイネーブル 0：受信ラインステータス割り込み禁止 1：受信ラインステータス割り込み許可
1	ETBEI	0	R/W	FTHRエンプティ割り込みイネーブル 0：FTHRエンプティ割り込み禁止 1：FTHRエンプティ割り込み許可

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
0	ERBFI	0	R/W	受信データレディ割り込みイネーブル FIFO イネーブル時は、キャラクタタイムアウト割り込みイネーブルと兼用です。 0：受信データレディ割り込み禁止 キャラクタタイムアウト割り込み禁止 1：受信データレディ割り込み許可 キャラクタタイムアウト割り込み許可

27.3.7　割り込み識別レジスタ (FIIR)

FIIR は割り込み要因を識別するための8 ビットのリード専用レジスタです。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	FIFOE[1:0]		—	—	INTID[2:0]			INT PEND
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	1
R/W：	R	R	—	—	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7、6	FIFOE[1:0]	00	R	FIFO イネーブル1、0 送信／受信FIFO の設定状態を示します。 00：送信／受信FIFO ディスエーブル 11：送信／受信FIFO イネーブル 01: 設定禁止 10: 設定禁止
5、4	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
3～1	INTID[2:0]	000	R	インタラプトID2～ID0 実行待ちの割り込みの中でもっとも優先順位の高い割り込みを示します。詳細は表27.3 を参照してください。 000：モデムステータス 001：FTHR エンプティ 010：受信データレディ 011：受信ラインステータス 110：キャラクタタイムアウト（FIFO イネーブル時）
0	INTPEND	1	R	インタラプトペンディング 実行待ちの割り込みの有無を示すビットです。詳細は表27.3 を参照してください。 0：実行待ちの割り込みあり 1：実行待ちの割り込みなし

表27.3　割り込み制御機能

FIIR				割り込みセット／クリア			
INTID			INTPEND	優先順位	割り込みの種類	割り込み要因	割り込みクリア
2	1	0					
0	0	0	1	—	割り込みなし	なし	—
0	1	1	0	1（高）	受信ラインステータス	オーバランエラー、パリティエラー、フレーミングエラー、ブレーク割り込み	FLSR リード
0	1	0	0	2	受信データレディ	受信データあり、トリガレベル	FRBR リード又は受信FIFO がトリガレベル以下
1	1	0	0	2	キャラクタタイムアウト（FIFO イネーブル時）	受信FIFOにデータが1キャラクタ以上ある状態で、4 キャラクタタイムの間受信FIFO にデータの入出力がない	FRBR リード
0	0	1	0	3	FTHR エンプティ	FTHR エンプティ	FIIR リード又はFTHR ライト
0	0	0	0	4（低）	モデムステータス	CTS、DSR、RI、DCD	FMSR リード

27.3.8　FIFO 制御レジスタ (FFCR)

FFCR は送信／受信FIFO を制御するための8 ビットのライト専用レジスタです。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	RCVRTRIG[1:0]		—	—	—	XMITFRST	RCVRFRST	FIFOE
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	W	W	—	—	—	W	W	W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7、6	RCVRTRIG[1:0]	00	W	受信FIFO 割り込みトリガレベル1、0 割り込みを発生するトリガレベルを設定します。 00：1 バイト受信で割り込み発生 01：4 バイト受信で割り込み発生 10：8 バイト受信で割り込み発生 11：14 バイト受信で割り込み発生
5～3	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
2	XMITFRST	0	W	送信FIFO リセット 1 をライトすると送信FIFO の全データがクリアされます。ただし、FTSR のデータはクリアされません。 このビットは自動的にクリアされます。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
1	RCVRFRST	0	W	受信FIFO リセット 1 をライトすると受信FIFO の全データがクリアされます。ただし、FRSR のデータはクリアされません。 このビットは自動的にクリアされます。
0	FIFOE	0	W	FIFO イネーブル 0：送信／受信FIFO ディスエーブル 送受信FIFO の全データはクリアされます。 1：送信／受信FIFO イネーブル

27.3.9　ライン制御レジスタ (FLCR)

FLCR は送受信データのフォーマットを設定する8 ビットのリード／ライト可能なレジスタです。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	DLAB	BREAK	—	EPS	PEN	STOP	CLS[1:0]	
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	DLAB	0	R/W	ディバイザラッチアドレスビット FDLL、FDLH はFRBR/FTHR、FIER と同一アドレスに配置されています。このビットはどちらのレジスタをアクセスするかを選択します。 0：FRBR/FTHR、FIER のリード／ライト許可 1：FDLL、FDLH のリード／ライト許可
6	BREAK	0	R/W	ブレークコントロール シリアル出力信号TXD をL レベルにしてブレークを発生させます。 ブレーク状態はビットをクリアすることにより解除されます。 0：ブレーク解除 1：ブレーク発生
5	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
4	EPS	0	R/W	パリティセレクト PEN ビットが1 のとき、パリティの偶数／奇数を選択します。 0：奇数パリティ 1：偶数パリティ
3	PEN	0	R/W	パリティイネーブル 送信時のパリティビットの付加、受信時のパリティチェックあり／なしの選択を行ないます。 0：パリティビットの付加／チェックなし 1：パリティビットの付加／チェックあり

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
2	STOP	0	R/W	ストップビット 送信時のストップビットの長さを選択します。受信時は設定にかかわらず、最初に受信したストップビットのみをチェックします。 0：1 ストップビット 1：1.5 ストップビット（データ長が5 ビットのとき） 2 ストップビット（データ長が6～8 ビットのとき）
1、0	CLS[1:0]	00	R/W	キャラクタレングスセレクト1、0 送受信キャラクタのデータ長を設定します。データ長は5～8 ビットを設定可能です。 00：5 ビット 01：6 ビット 10：7 ビット 11：8 ビット

27.3.10 モデム制御レジスタ (FMCR)

FMCR は出力信号を制御する8 ビットのリード／ライト可能なレジスタです。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	LOOP BACK	OUT2	OUT1	RTS	DTR
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～ 5	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
4	LOOPBACK	0	R/W	ループバックテスト ループバックテスト機能が許可されると、送信データ出力と受信データ入力が内部で接続されます。また、モデム制御出力 (DTR、RTS、OUT1、OUT2) とモデム制御入力 (DSR、CTS、RI、DCD) も内部で接続されます。受信入力端子 (RXD、DSR、CTS、RI、DCD) は外部との接続が切り離され、送信出力端子 (TXD、DTR、RTS) は‘High’に固定されます。したがって、ループデバックテスト時には、送信データは直ちに受信されます。また、割り込みの許可／禁止はSCIFCR のOUT2LOOP ビットとFIER で設定します。 0：ループバックテスト機能を禁止 1：ループバックテスト機能を許可

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
3	OUT2	0	R/W	$\overline{\text{OUT2}}$ 信号制御 • 通常動作時 0：割り込み禁止 1：割り込み許可 • ループバックテスト時 0: $\overline{\text{DCD}}$ 内にHレベルを入力。 外部 $\overline{\text{DCD}}$ 端子に影響はありません。 1: $\overline{\text{DCD}}$ 内にLレベルを入力。 外部 $\overline{\text{DCD}}$ 端子に影響はありません。
2	OUT1	0	R/W	$\overline{\text{OUT1}}$ 信号制御 • 通常動作時 動作に影響を与えません。 • ループバックテスト時 0: $\overline{\text{RI}}$ 内にHレベルを入力。 外部 $\overline{\text{RI}}$ 端子に影響はありません。 1: $\overline{\text{RI}}$ 内にLレベルを入力。 外部 $\overline{\text{RI}}$ 端子に影響はありません。
1	RTS	0	R/W	$\overline{\text{リクエストトゥーセンド}}$ $\overline{\text{RTS}}$ の出力レベルを制御します。 0: $\overline{\text{RTS}}$ 出力はHレベル 1: $\overline{\text{RTS}}$ 出力はLレベル
0	DTR	0	R/W	$\overline{\text{データターミナルレディ}}$ $\overline{\text{DTR}}$ の出力レベルを制御します。 0: $\overline{\text{DTR}}$ 出力はHレベル 1: $\overline{\text{DTR}}$ 出力はLレベル

27.3.11 ラインステータスレジスタ (FLSR)

FLSR はデータ転送のステータスを示す8 ビットのリード専用レジスタです。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	RXFIFOERR	TEMT	THRE	BI	FE	PE	OE	DR
初期値：	0	1	1	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	RXFIFOERR	0	R	受信FIFO エラー FIFO イネーブル時に、パリティエラー、フレーミングエラー、ブレーク割り込みのデータエラーのいずれかが発生したことを示します。 • FIFO イネーブル時 0：受信FIFO エラーなし ［クリア条件］ FRBR をリードするか、又はFIFO クリアによってエラー要因となるデータがFIFOになくなった状態でFLSRをリードしたとき 1：受信FIFO エラーあり ［セット条件］ FIFO イネーブル時、パリティエラー、フレーミングエラー、ブレーク割り込みのいずれかが発生したとき • FIFO ディスエーブル時 常に0 が読み出されます。
6	TEMT	1	R	トランスミッタエンプティ 送信データがあるかどうかを示します。 • FIFO イネーブル時 0：送信FIFO 又はFTSR に送信データあり ［クリア条件］ FTHR に送信データをライトしたとき 1：送信FIFO とFTSR に送信データなし ［セット条件］ 送信FIFO とFTSR の送信データがなくなったとき • FIFO ディスエーブル時 0：FTHR 又はFTSR に送信データあり ［クリア条件］ FTHR に送信データをライトしたとき 1：FTHR とFTSR に送信データなし ［セット条件］ FTHR とFTSR の送信データがなくなったとき

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
5	THRE	1	R	FTHR エンプティ 送信のための新しいデータの受け入れ準備ができていることを示します。 • FIFO ディスエーブル時 0：FTHR に送信データあり ［クリア条件］ FTHR に送信データをライトしたとき 1：FTHR に送信データなし ［セット条件］ FTHR のデータをFTSR に転送完了したとき • FIFO イネーブル時 0：送信FIFO に1 バイト以上の送信データあり ［クリア条件］ FTHR に送信データをライトしたとき 1：送信FIFO に送信データなし ［セット条件］ 送信FIFO が空になったとき
4	BI	0	R	ブレーク割り込み 受信データのブレーク信号の検出を示します。FIFO イネーブル時には、FIFO 内の個々の受信データにより発生し、この受信データがFIFO の最上位にあるとき、セットされます。また、次のデータ受信は、受信データ入力がマーク状態に遷移し有効なスタートビットを受信した後に開始します。 0：ブレーク信号未検出 ［クリア条件］ FLSR をリードしたとき 1：ブレーク信号検出 ［セット条件］ フレーミングエラーを伴うデータを受信したとき、引き続き1フレーム長以上スペース0（Lレベル）の場合
3	FE	0	R	フレーミングエラー 受信データのストップビットが無効であることを示します。FIFOイネーブル時には、FIFO 内の個々の受信データにより発生しこの受信データがFIFO の最上位にあるときにセットされます。フレーミングエラー後、UART は再同期化を実行します。この際、フレーミングエラーは次のスタートビットによるものと想定し、このスタートビットをサンプリングしてスタートビットとします。 0：フレーミングエラーなし ［クリア条件］ FLSR をリードしたとき 1：フレーミングエラーあり ［セット条件］ 受信データのストップビットが無効であったとき

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
2	PE	0	R	パリティエラー FLCR のPEN ビットが1 のとき、受信したデータにパリティエラーがあることを示します。FIFO イネーブル時には、FIFO 内の個々の受信データにより発生し、この受信データがFIFO の最上位にあるときにセットされます。 0：パリティエラーなし ［クリア条件］ FLSR をリードしたとき ただし、オーバランエラー時にセットされた場合はFLSR を2回リード 1：パリティエラーあり ［セット条件］ 受信データがパリティエラーだったとき
1	OE	0	R	オーバランエラー オーバランエラーが発生したことを示します。 • FIFO イネーブル時 FIFO が満杯になり、次のデータの受信が完了したときにオーバランエラーが発生します。FIFO の全データは保持されますが、最後に受信したデータは失われます。 0：オーバランエラーなし ［クリア条件］ FLSR をリードしたとき 1：オーバランエラー ［セット条件］ オーバランエラー発生したとき • FIFO ディスエーブル時 FRBR の受信データがリードする前に次のデータを受信完了したときにオーバランエラーが発生し、前のデータは失われます。
0	DR	0	R	データレディ FRBR 又はFIFO に受信データが格納されたことを示します。 0：受信データなし ［クリア条件］ FRBR をリード、又はFIFO 内の全データをリードしたとき 1：受信データあり ［セット条件］ データを受信したとき

27.3.12 モデムステータスレジスタ (FMSR)

FMSR はモデム制御端子の状態又は変化を示す8 ビットのリード専用レジスタです。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	DCD	RI	DSR	CTS	DDCD	TERI	DDSR	DCTS
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	DCD	0	R	データキャリア検出 $\overline{\text{DCD}}$ 入力端子の反転した状態を示します。
6	RI	0	R	リングインジケータ $\overline{\text{RI}}$入力端子の反転した状態を示します。
5	DSR	0	R	データセットレディ $\overline{\text{DSR}}$ 入力端子の反転した状態を示します。
4	CTS	0	R	クリアトゥセンド $\overline{\text{CTS}}$ 入力端子の反転した状態を示します。
3	DDCD	0	R	デルタデータキャリア検出 DDCD ビットをリード後に $\overline{\text{DCD}}$ 入力信号が変化したことを示します。 0：FMSR リード後、$\overline{\text{DCD}}$ 入力信号変化なし ［クリア条件］ FMSR をリードしたとき 1：FMSR リード後、$\overline{\text{DCD}}$ 入力信号が変化 ［セット条件］ $\overline{\text{DCD}}$ 入力信号が変化したとき
2	TERI	0	R	トレイリングエッジリングインジケータ TERI ビットをリード後に $\overline{\text{RI}}$ 入力信号が立ち上がったことを示します。 0：FMSR リード後、$\overline{\text{RI}}$ 入力信号変化なし ［クリア条件］ FMSR をリードしたとき 1：FMSR リード後、$\overline{\text{RI}}$ 入力信号が立ち上がった ［セット条件］ $\overline{\text{RI}}$ 入力端子が立ち上がったとき
1	DDSR	0	R	デルタデータセットレディ DDSR ビットをリード後に $\overline{\text{DSR}}$ 入力信号が変化したことを示します。 0：FMSR リード後、$\overline{\text{DSR}}$ 入力信号変化なし ［クリア条件］ FMSR をリードしたとき 1：FMSR リード後、$\overline{\text{DSR}}$ 入力信号が変化 ［セット条件］ $\overline{\text{DSR}}$ 入力信号が変化したとき

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
0	DCTS	0	R	デルタクリアトゥーセンド DCTS ビットをリード後に CTS 入力信号が変化していることを示します。 0：FMSR リード後、CTS 入力信号変化なし ［クリア条件］ FMSR をリードしたとき 1：FMSR リード後、CTS 入力信号が変化 ［セット条件］ CTS 入力信号が変化したとき

27.3.13 スクラッチパッドレジスタ (FSCR)

FSCR は8 ビットのリード／ライト可能なレジスタです。このレジスタはSCIF の制御には使用しません。プログラムの一時的なデータ保持に使用することができます。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	FSCR[7:0]							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

27.3.14 SCIF コントロールレジスタ (SCIFCR)

SCIFCR はSCIF の動作を制御する 8 ビットのリード／ライト可能なレジスタです。本レジスタを読み出した後には同じチャネルの SCIF レジスタ (SCIFCR 以外) をダミーリードしてください。詳細については、「27.6.2 SCIFCR に対するリードアクセス」を参照してください。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	OUT2 LOOP	CKSEL[1:0]		SCIF RST	REG RST
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7～5	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
4	OUT2LOOP	0	R/W	OUT2 ループバック ループバックテスト時、割り込みの許可／禁止を設定します。 0：ループバックテスト時の割り込みを許可 1：ループバックテスト時の割り込みを禁止
3、2	CKSEL[1:0]	00	R/W	クロック選択1、0 ボーレートジェネレータに入力するクロックを選択します。 00: クロック (Pck) の26 分周クロック 01: クロック (Pck) の13 分周クロック 10: クロック (Pck) の2 分周クロック 11: リザーブ（設定禁止）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
1	SCIFRST(注)	0	R/W	SCIF リセット ボーレートジェネレータ、FRSR、FTSR をリセットします。 0：通常動作 1：リセット
0	REGRST（注）	0	R/W	レジスタリセット SCIFCR 以外で SH-4A からアクセス可能なレジスタをリセットします。 0：通常動作 1：レジスタリセット

注.　正しく動作させるために、２つのリセットビット（SCIFRST 、REGRST）は同時にリセットしてください。1つのビットのみをリセットすると予期しない動作が起こる事があります。これらの ビットをデアサートするときは、SCIFRSTビットを先にデアサートしてください。

27.4　動作説明

27.4.1　ボーレート

SCIF はボーレートジェネレータを内蔵しており、FDLH、FDLL と SCIFCR の CKSEL ビットにより、任意のボーレートを設定できます。表 27.4にクロック (Pck) が48MHz の場合のボーレートの設定例を示します。

表27.4　ボーレートの設定例（Pck＝48MHz の場合）

CKSEL1、CKSEL0	B'00（26分周）		B'01（13分周）		B'10（2分周）	
ボーレート	FDLH、FDLL	エラー (%)	FDLH、FDLL	エラー (%)	FDLH、FDLL	エラー (%)
1200	96	0.16 %	192	0.16 %	1250	0.00 %
2400	48	0.16 %	96	0.16 %	625	0.00 %
3600	32	0.16 %	64	0.16 %	416	0.16 %
4800	24	0.16 %	48	0.16 %	312	0.16 %
7200	16	0.16 %	32	0.16 %	208	0.16 %
9600	12	0.16 %	24	0.16 %	156	0.16 %
14400	8	0.16 %	16	0.16 %	104	0.16 %
19200	6	0.16 %	12	0.16 %	78	0.16 %
28800	4	0.16 %	8	0.16 %	52	0.16 %
38400	3	0.16 %	6	0.16 %	39	0.16 %
57600	2	0.16 %	4	0.16 %	26	0.16 %
115200	1	0.16 %	2	0.16 %	13	0.16 %
230400	—	—	1	0.16 %	—	—
750000	—	—	—	—	2	0.00 %
1500000	—	—	—	—	1	0.00 %

27.4.2　調歩同期式通信の動作

調歩同期式シリアル通信のフォーマットを図 27.2 に示します。1 フレームは、スタートビット（L レベル）から始まり送受信データ（LSB ファースト：最下位ビットから）、パリティビット、ストップビット（H レベル）の順で構成されます。調歩同期式シリアル通信では、通信回線は通常マーク状態（H レベル）に保たれています。SCIF は通信回線を監視し、スペース状態（L レベル）を検出するとスタートビットとみなしてシリアル通信を開始します。SCIF 内部では、送信部と受信部は独立していますので、全二重通信を行うことができます。また、送信部と受信部が個々に16 段のFIFO バッファ構造になっていますので、送信及び受信中にデータのリード／ライトができ、連続送受信が可能です。

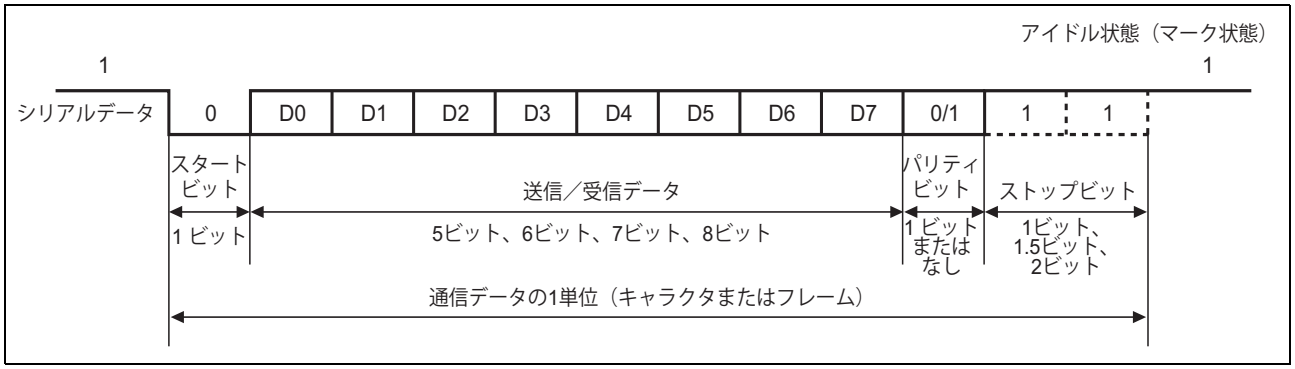


図 27.2　シリアル送信／受信データフォーマットの例
（8 ビットデータ／パリティあり／2 ストップビット）

27.4.3　SCIF の初期化

データ送受信の前に図27.3 のフローチャート例に従って初期化を行ってください。

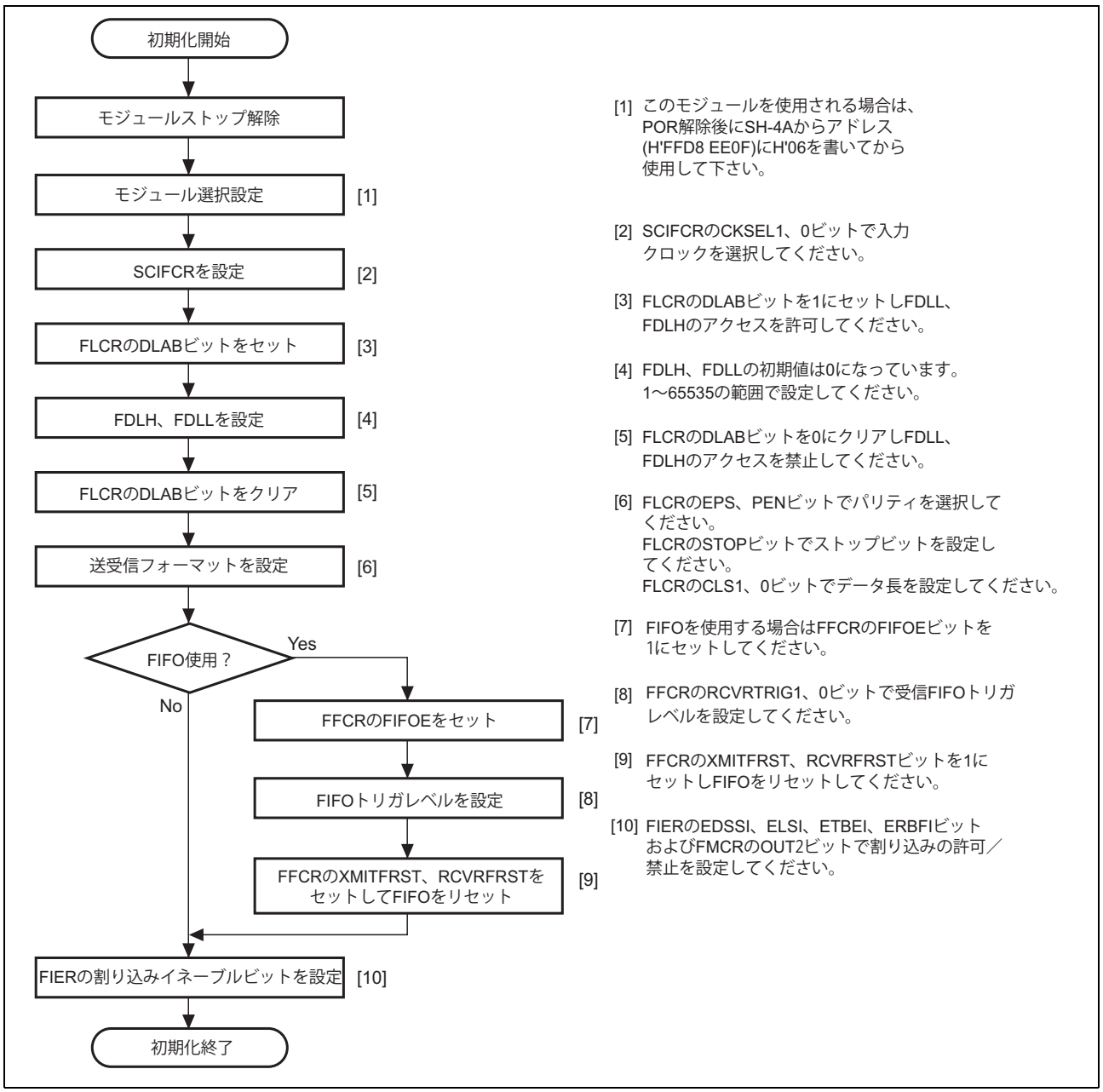


図 27.3　初期化フローチャートの例

27.4.4　シリアルデータ送信

図27.4 に送信フローチャートの例を示します。

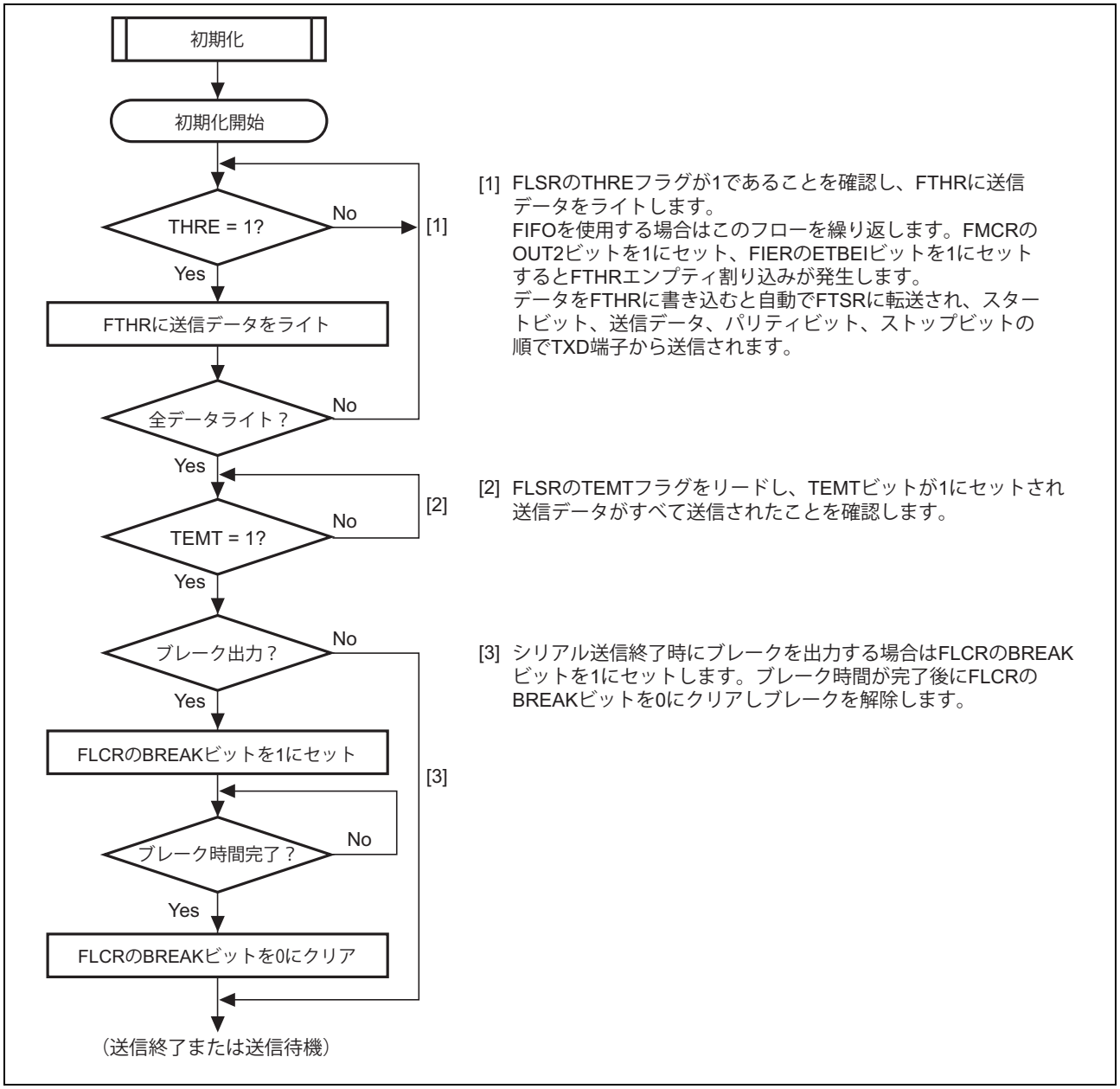


図 27.4　データ送信フローチャートの例

27.4.5　シリアルデータ受信

図27.5 に受信フローチャートの例を示します。

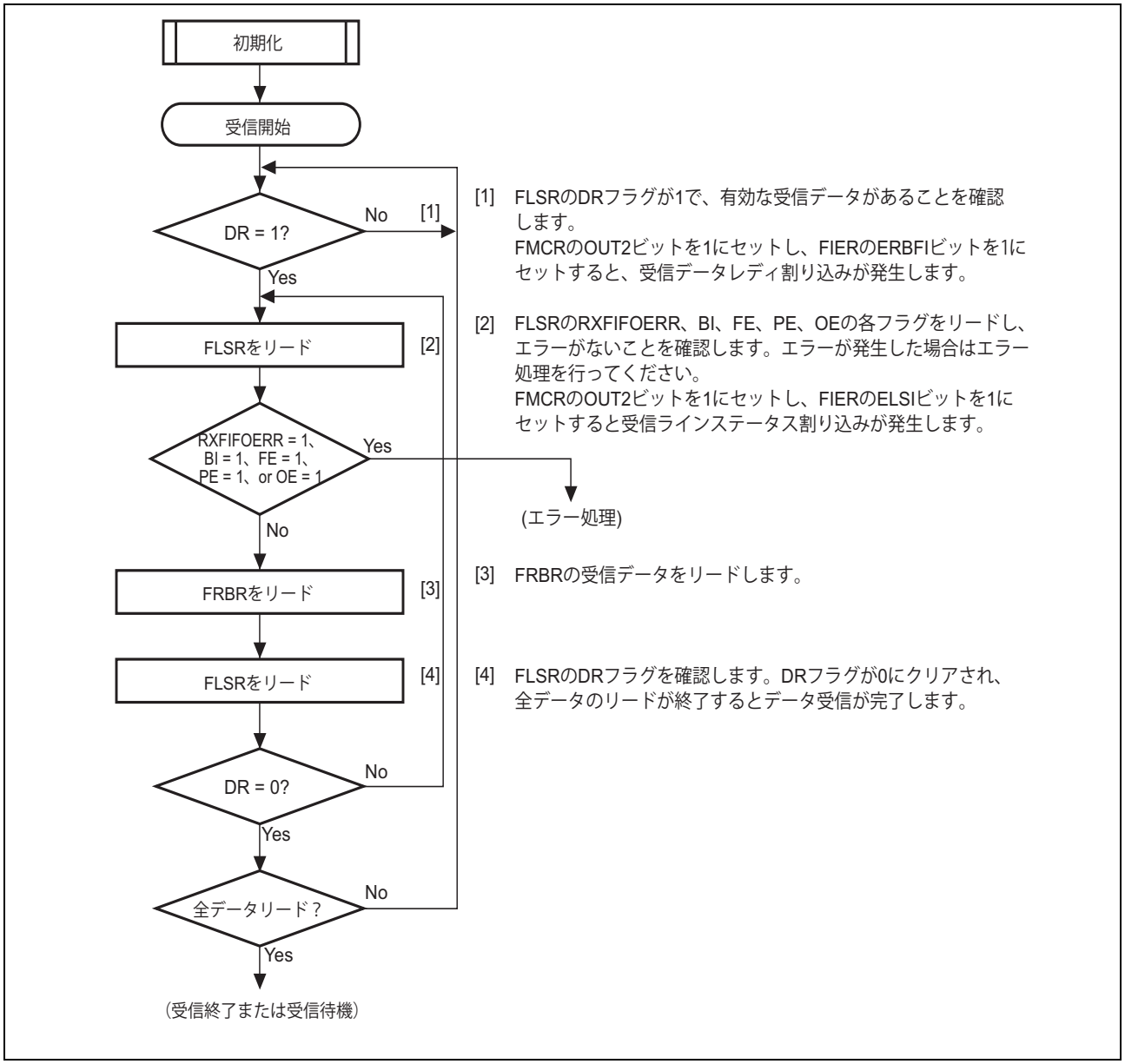


図 27.5　データ受信フローチャートの例

27.4.6　フロー制御を行った送受信

CTS/RTS を使用したフロー制御を行う場合の送受信の例を示します。

(1)　初期化

図27.6 に初期化フローチャートの例を示します。

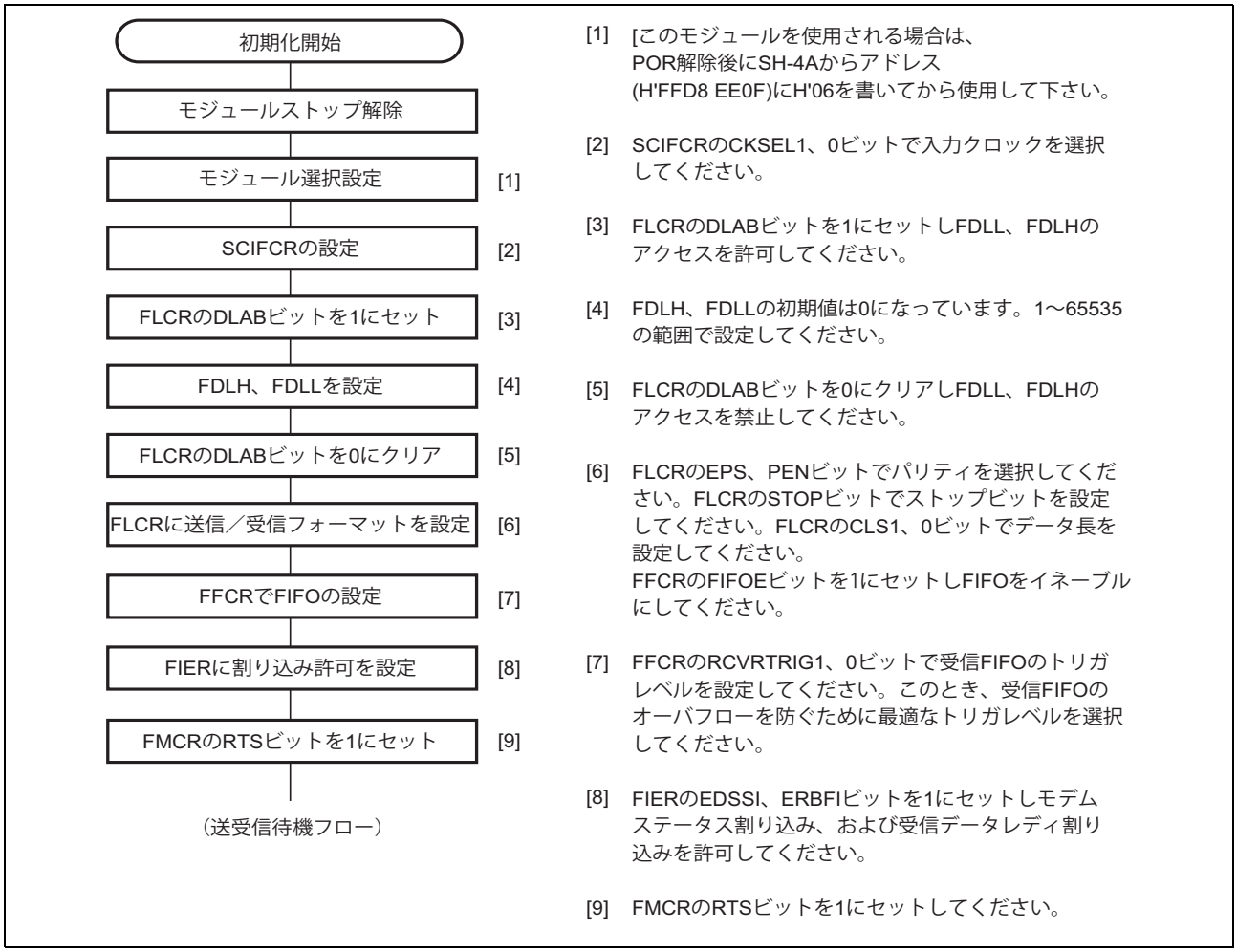


図 27.6　初期化フローチャートの例

(2)　送受信待機

図27.7 に送受信待機フローチャートの例を示します。

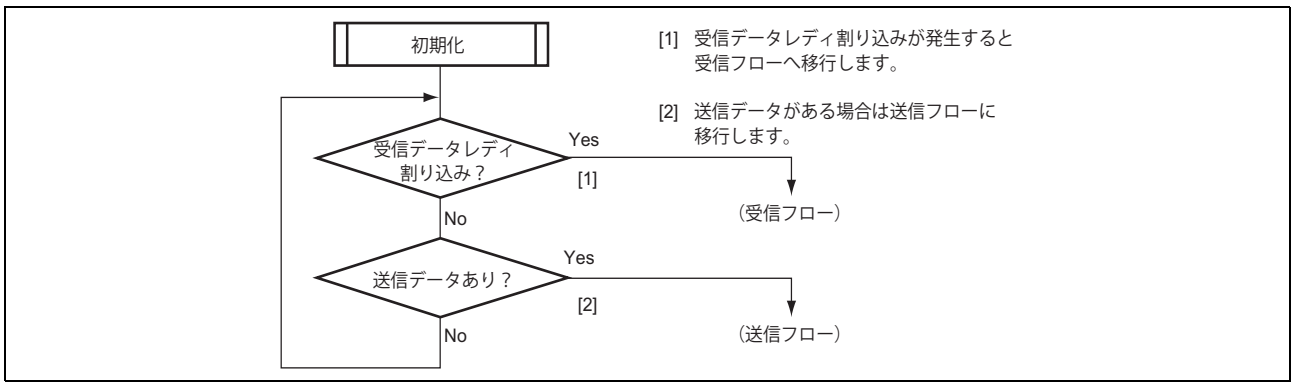


図 27.7　送受信待機フローチャートの例

(3)　送信

図27.8 に送信フローチャートの例を示します。

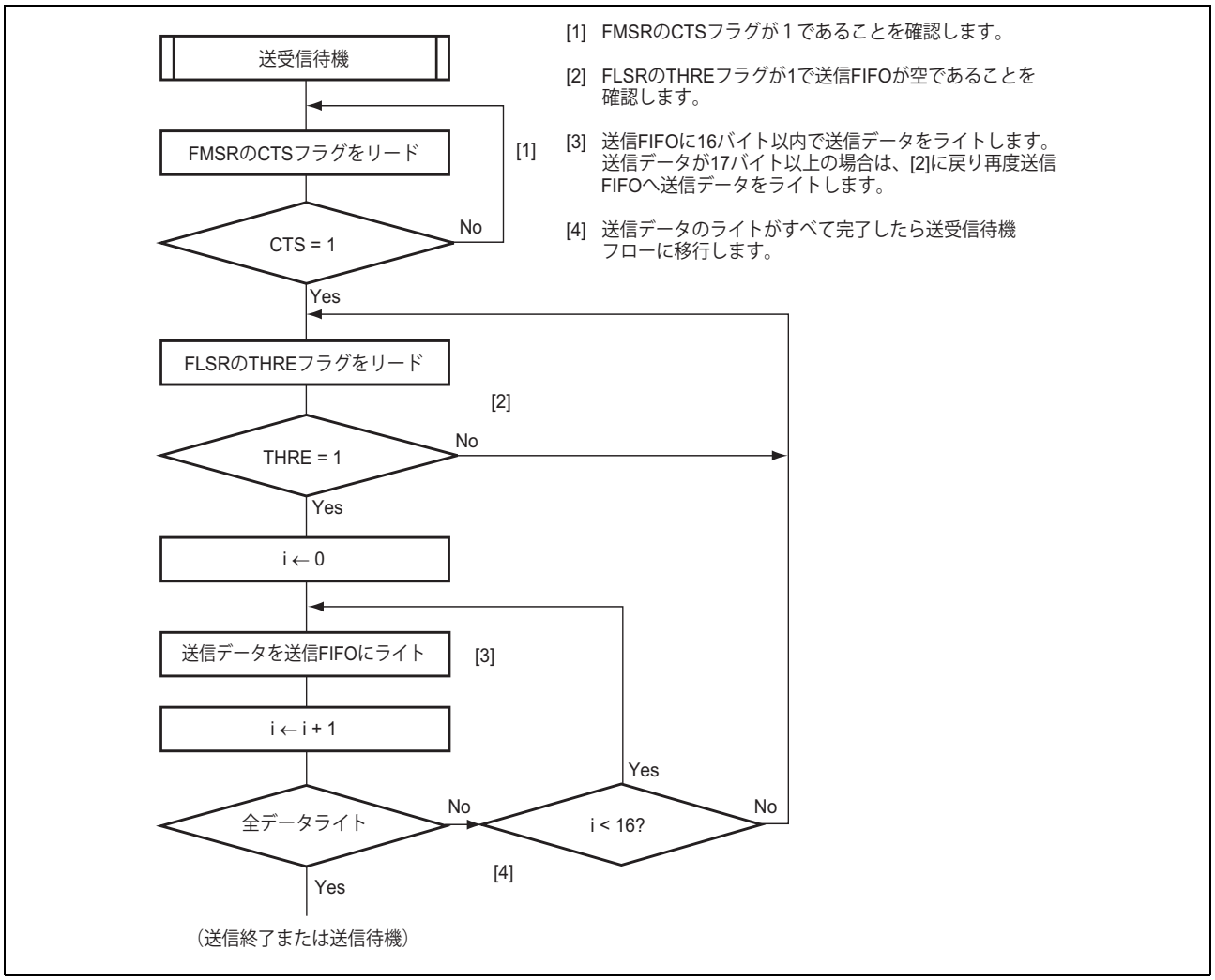


図 27.8　送信フローチャートの例

(4) 送信中断

図27.9 に送信中断フローチャートの例を示します。

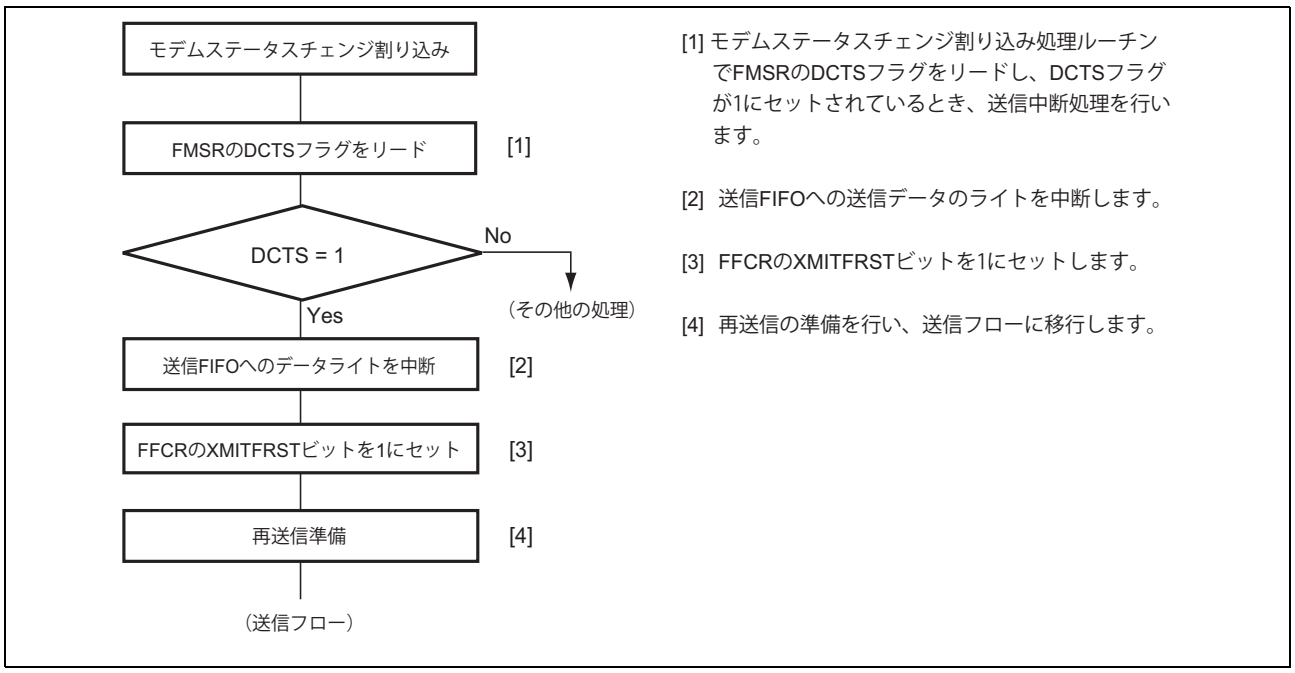


図 27.9　送信中断フローチャートの例

(5) 受信

図27.10 に受信フローチャートの例を示します。

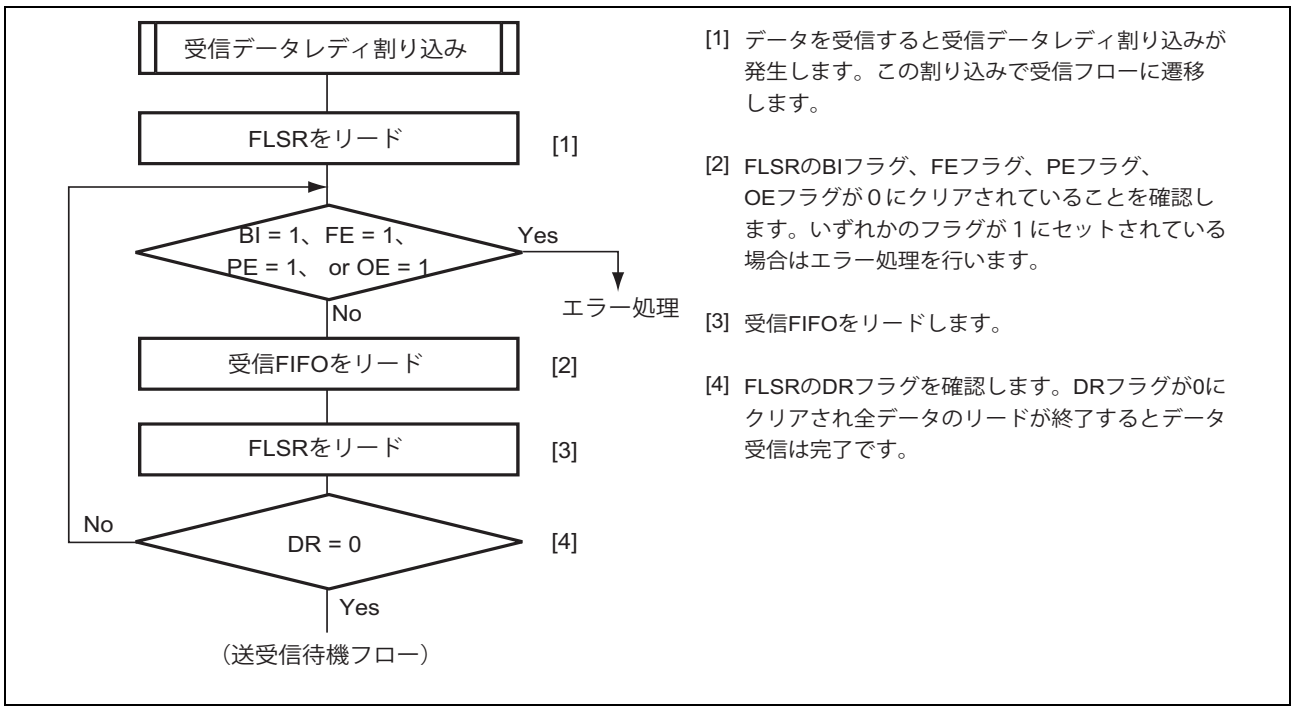


図 27.10　受信フローチャートの例

(6)　受信中断

図27.11 に受信中断フローチャートの例を示します。

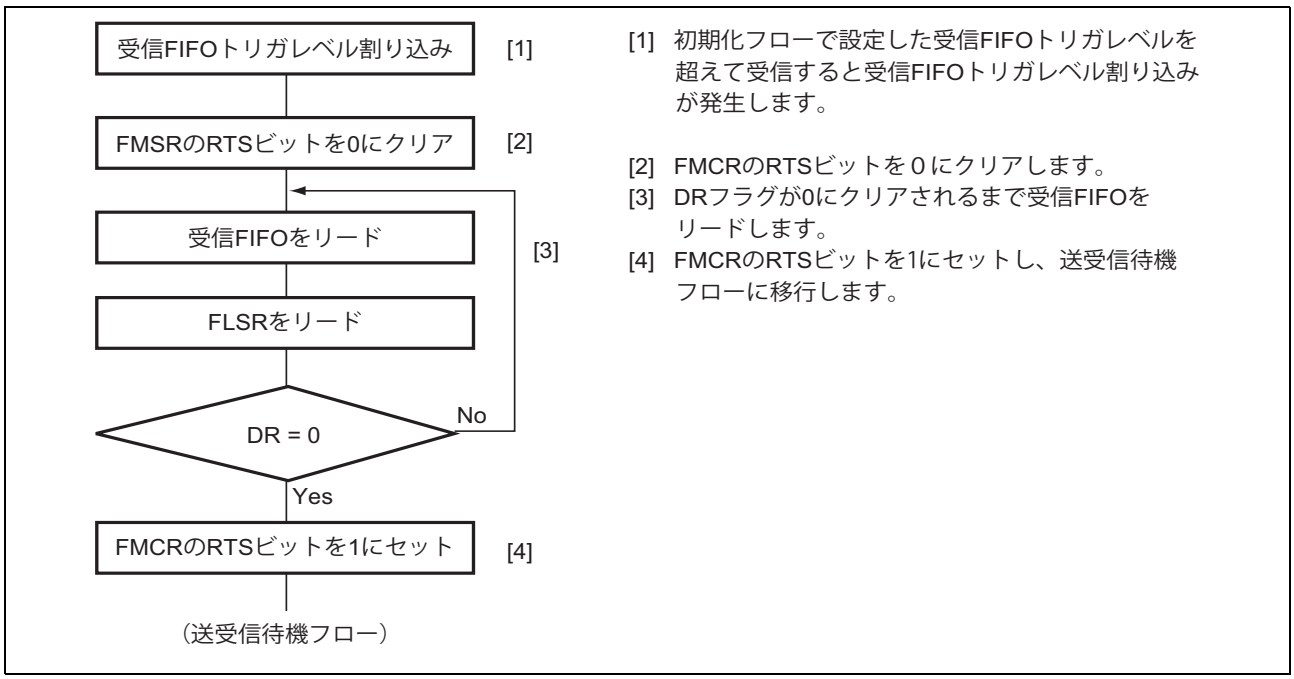


図 27.11　受信中断フローチャートの例

27.5　割り込み要因

表27.5 に割り込み要因を示します。各割り込み要因には共通の1 つの割り込みベクタが割り当てられています。

表27.5　割り込み要因

名 称	割り込み要因	優先順位
受信ラインステータス	オーバランエラー、パリティエラー、フレーミングエラー、 ブレーク割り込み	高 ↑ ↓ 低
受信データレディ	受信データあり、FIFO トリガレベル	
キャラクタタイムアウト （FIFO イネーブル時）	受信FIFO にデータが1 キャラクタ以上ある状態で、4 キャラクタタイム間受信FIFO にデータの入出力がない	
FTHR エンプティ	FTHR エンプティ	
モデムステータス	CTS、DSR、RI、DCD	

27.6　使用上の注意事項

27.6.1　キャラクタタイムアウト割り込みセット/クリアが同時に発生する場合

キャラクタタイムアウト割り込みを格納する FIIR レジスタ において「セット」動作は「クリア」動作より優先順位が高くなっています。「セット」（キャラクタタイムアウトが発生）と「クリア」（FRBR レジスタの読み出し）が同時に発生したときは、割り込みが要因はクリアされず、セットされたままになります。

タイムアウト割り込みを監視するときは、FLSR レジスタのDR ビットをポーリングしてください。次に、FRBR を読み出して割り込みをクリアしてください。図27.12にフローチャートの例を示します。

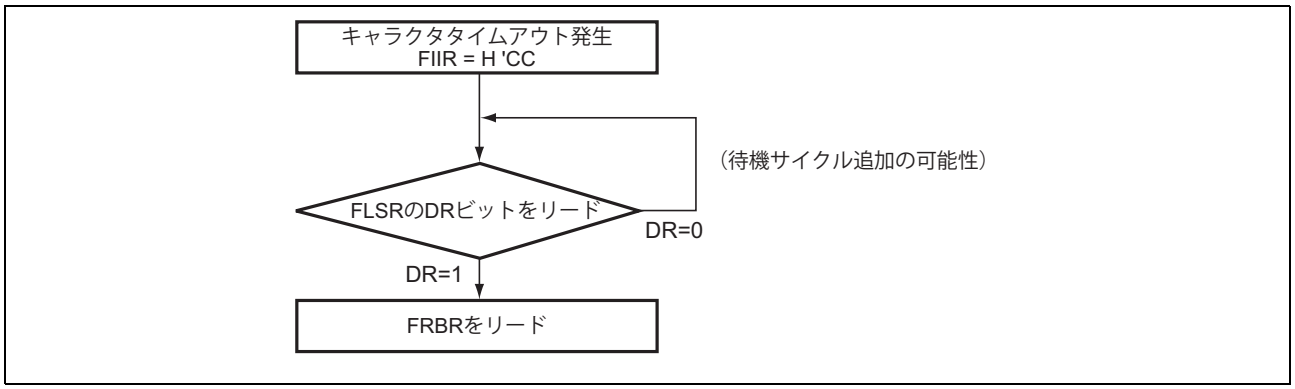


図 27.12　キャラクタタイムアウト割り込みクリアフローチャートの例

キャラクタタイムアウト割り込みをクリアするために FRBR レジスタを読み出してください。DR = 0 のときは、読み出したデータは無効となり廃棄されます。しかし、確定した DR = 0 と読み出している FRBR の間に次のデータがあるときは、FRBR を読み出したデータは有効です。有効なデータが失われるのを防ぐために、FRBR を読み出す前に次のデータ (DR = 1) を待つ必要があります。

27.6.2　SCIFCR に対するリードアクセス

本レジスタを読み出した後は、同じチャネルの SCIF レジスタ (SCIFCR 以外) をダミーリードしてください。ダミーリードがされないと、SH-4A は他のチャネルにある SCIF レジスタから正しく値を読み出すことができません。

例：

(1)　SCIFCR_0 の読み出し

(2)　FMCR_0 の読み出し（ダミーリード）

28. FIFO 内蔵シリアルコミュニケーションインタフェース2、3、4（SCIF2、SCIF3、SCIF4）

本LSI は、3 チャネルのFIFO バッファ内蔵のシリアルコミュニケーションインタフェース（SCIF）を内蔵しています。SCIF は、調歩同期式とクロック同期式の2 方式でシリアル通信ができます。

送受信にFIFO バッファをおのおの16 段内蔵しており、効率の良い高速連続通信を行うことができます。

28.1　特長

SCIF には次のような特長があります。

- 調歩同期式モード

  キャラクタ単位で同期をとる調歩同期方式でシリアルデータの通信を行います。Universal AsynchronousReceiver/Transmitter（UART）やAsynchronous Communication Interface Adapter（ACIA）など標準の調歩同期式通信用LSIとのシリアルデータ通信ができます。

  シリアルデータ通信フォーマットを8種類のフォーマットから選択できます。

  -データ長：7ビット、又は8ビット

  -ストップビット長：1ビット、又は2ビット

  -パリティ：偶数パリティ、奇数パリティ、又はパリティなし

  -受信エラーの検出：パリティエラー、フレーミングエラー、オーバランエラーを検出

  -ブレークの検出：フレーミングエラーが発生し、引き続き1フレーム長以上スペース0（L レベル）の場合、ブレークを検出します。また、フレーミングエラー発生時にRXD 端子のレベルをシリアルポートレジスタ（SCSPTR）から直接読み出すことによってもブレークを検出できます。

- クロック同期式モード

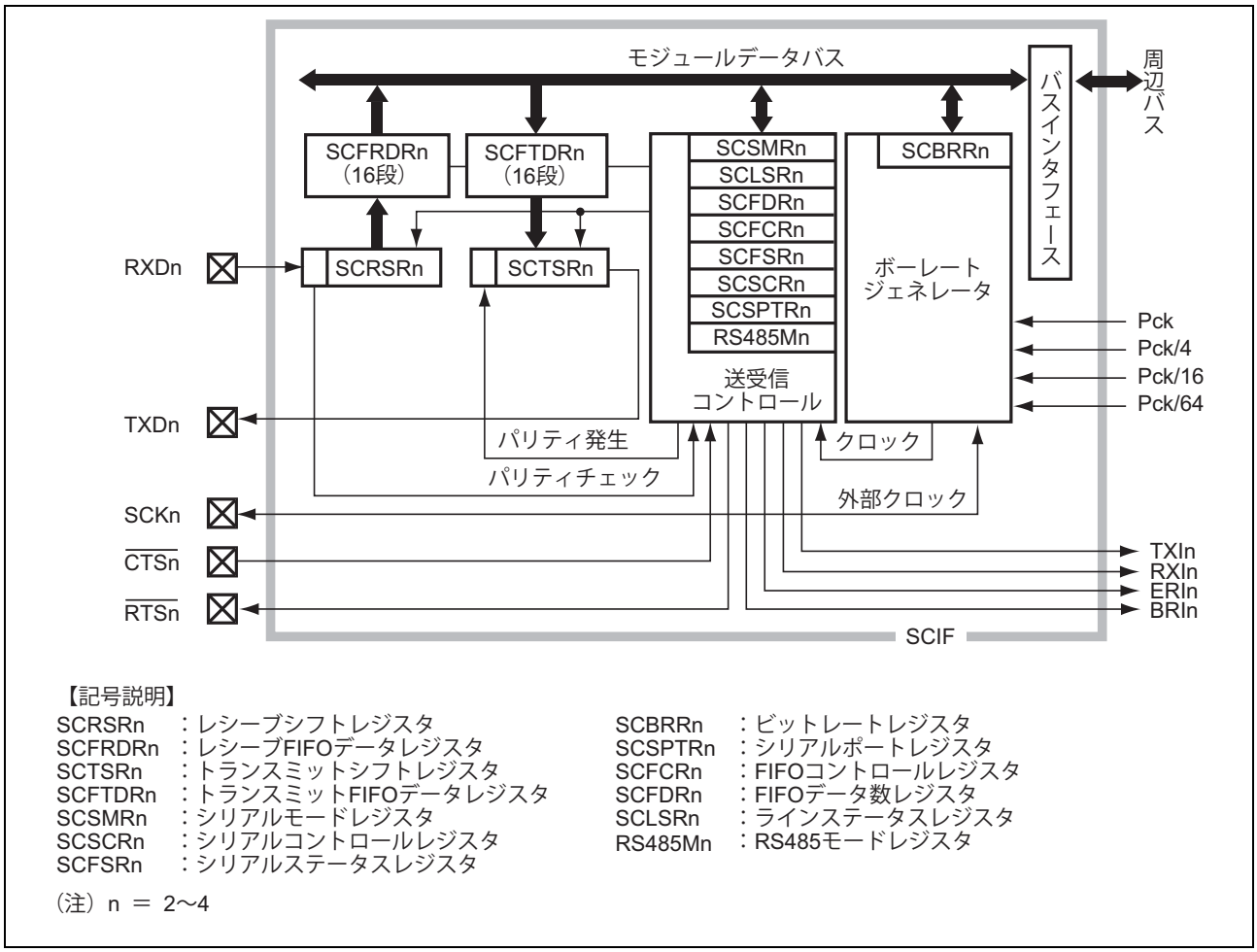
  クロックに同期してシリアルデータ通信を行います。クロック同期式通信機能を持つ他のLSIとのシリアルデータ通信ができます。シリアルデータ通信フォーマットは1種類です。

  -データ長：8ビット

  -受信エラーの検出：オーバランエラーを検出

- 全二重通信が可能
  独立した送信部と受信部を備えているので、送信と受信を同時に行うことができます。また送信部及び受信部ともに16段のFIFOバッファ構造になっているのでシリアルデータの連続送信、連続受信ができます。
- データの送受信はLSBが先頭（LSB First）
- 内蔵ボーレートジェネレータにより任意のビットレートを選択可能
- クロックソース：ボーレートジェネレータからの内部クロック、又はSCK端子からの外部クロックから選択可能
- 4種類の割り込み要因
  送信FIFOデータエンプティ、ブレーク、受信FIFOデータフル、受信エラーの4種類の割り込み要因があり、それぞれ独立に要求することができます。
- 送信FIFOデータエンプティ時と受信FIFO内に受信データがあるとき、DMA転送要求を出すことにより、DMAコントローラ（DMAC）を起動させてデータの転送を行うことができます。
- SCIFを使用しないときは、消費電力低減のためSCIFに対してクロックの供給を止めて動作を停止させることができます。
- 調歩同期式モードにおいてモデムコントロール機能（$\overline{\text{RTS}}$、$\overline{\text{CTS}}$）を内蔵しています。
- 送受信 FIFO レジスタ内のデータ数及び受信 FIFO レジスタ内の受信データの受信エラー数を知ることができます。
- 調歩同期式モードにおいて、受信時、タイムアウトエラー（DR）を検出できます。
- RS-485 半二重方向制御をサポート

図28.1 にSCIF のブロック図を、図28.2～図28.6 にI/O ポートのブロック図を示します。本LSI は3 チャネルあります。図28.1、図28.4～図28.6 ではチャネル番号をn（n＝2～4）と表記しています。



【記号説明】

SCRSRn	：レシーブシフトレジスタ	SCBRRn	：ビットレートレジスタ
SCFRDRn	：レシーブFIFOデータレジスタ	SCSPTRn	：シリアルポートレジスタ
SCTSRn	：トランスミットシフトレジスタ	SCFCRn	：FIFOコントロールレジスタ
SCFTDRn	：トランスミットFIFOデータレジスタ	SCFDRn	：FIFOデータ数レジスタ
SCSMRn	：シリアルモードレジスタ	SCLSRn	：ラインステータスレジスタ
SCSCRn	：シリアルコントロールレジスタ	RS485Mn	：RS485モードレジスタ
SCFSRn	：シリアルステータスレジスタ		

（注）n ＝ 2～4

図 28.1　SCIF のブロック図

SCIF のI/O ポートのブロック図を図28.2～図28.6 に示します。

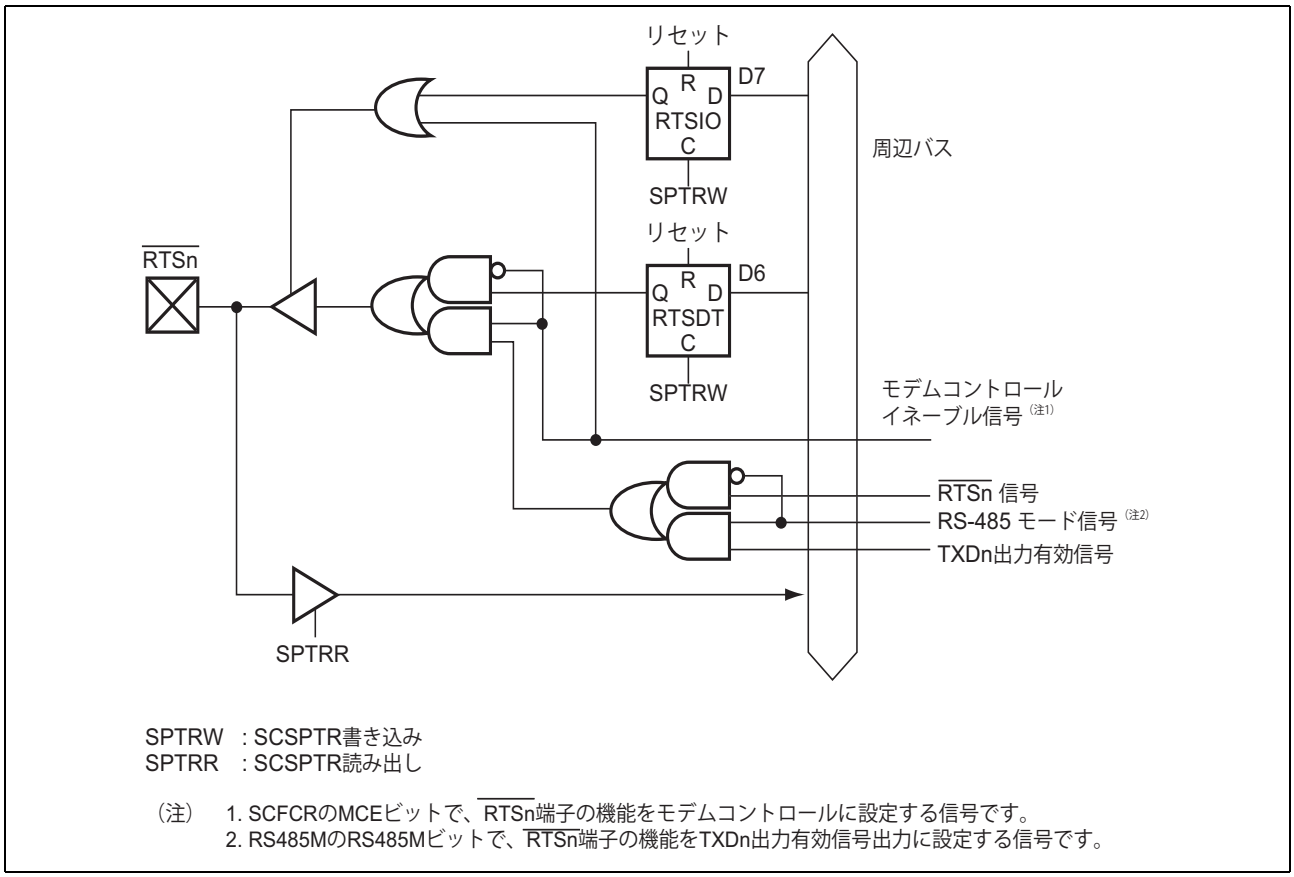


図 28.2　RTSn 端子（n＝2～4）

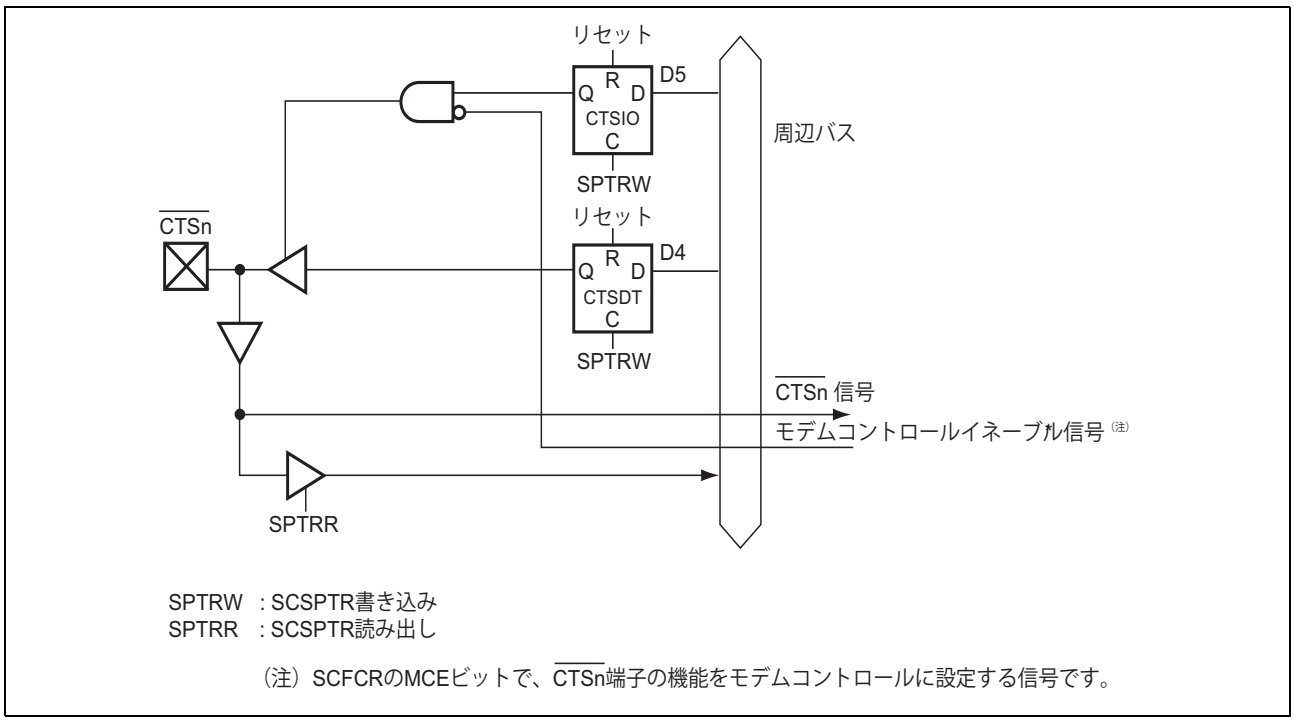


図 28.3　CTSn 端子（n＝2～4）

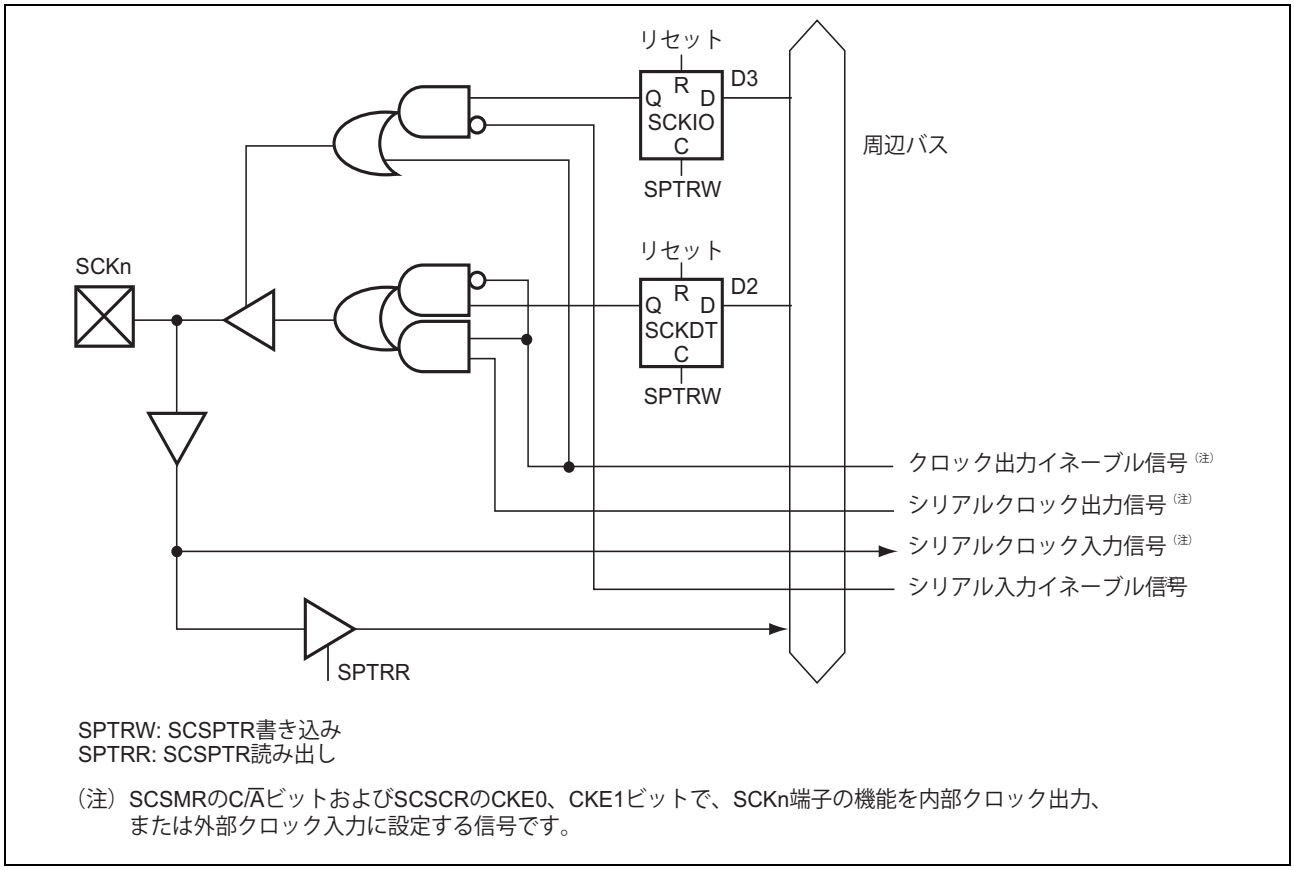


図 28.4　SCKn 端子（n＝2～4）

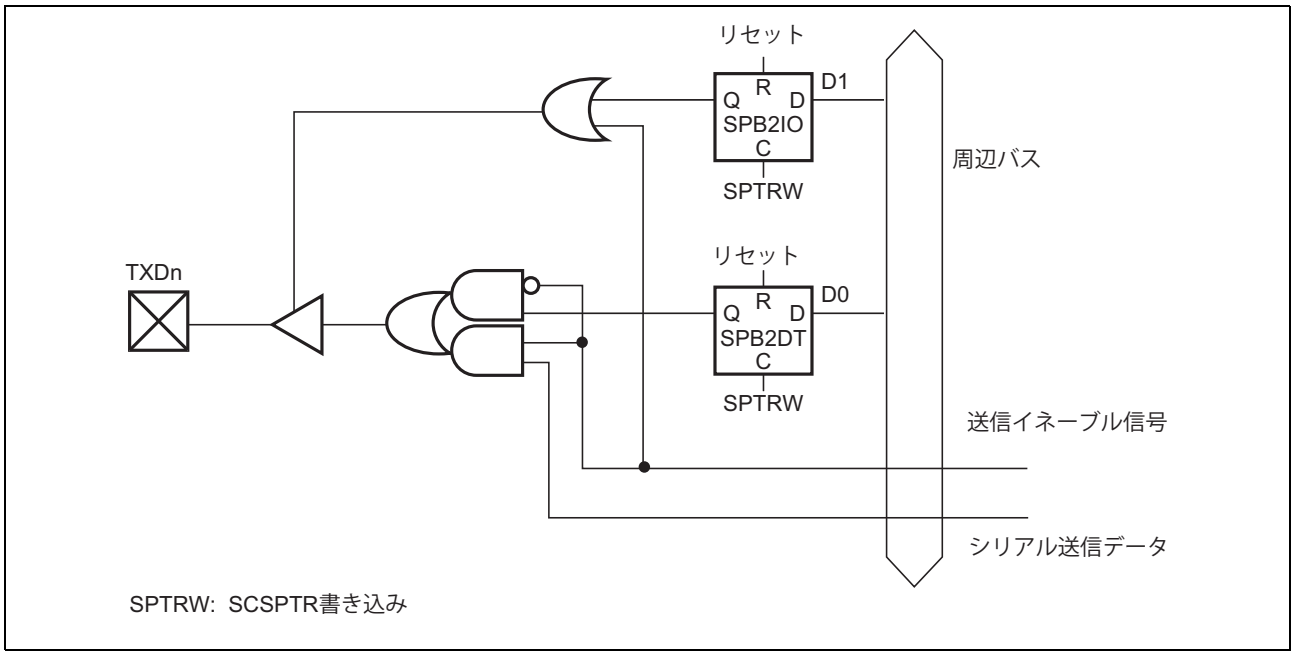


図 28.5　TXDn 端子（n＝2～4）

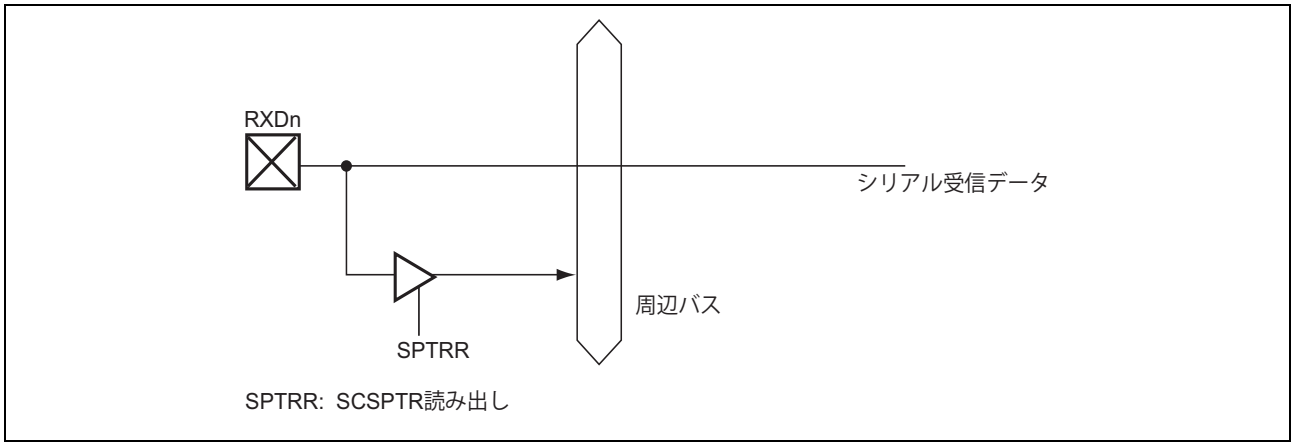


図 28.6　RXDn 端子（n＝2～4）

28.2　入出力端子

SCIF の端子構成を表28.1 に示します。

表28.1　SCIF の端子構成

チャネル	端子名	機能	入出力	説明
2	SCK2	シリアルクロック端子	入出力	クロック入出力
	RXD2	受信データ端子	入力	受信データ入力
	TXD2	送信データ端子	出力	送信データ出力
	$\overline{\text{CTS2}}$	クリアトゥセンド端子	入出力	送信可
	$\overline{\text{RTS2}}$	リクエストトゥセンド端子	入出力	送信要求
3	SCK3	シリアルクロック端子	入出力	クロック入出力
	RXD3	受信データ端子	入力	受信データ入力
	TXD3	送信データ端子	出力	送信データ出力
	$\overline{\text{CTS3}}$	クリアトゥセンド端子	入出力	送信可
	$\overline{\text{RTS3}}$	リクエストトゥセンド端子	入出力	送信要求
4	SCK4	シリアルクロック端子	入出力	クロック入出力
	RXD4	受信データ端子	入力	受信データ入力
	TXD4	送信データ端子	出力	送信データ出力
	$\overline{\text{CTS4}}$	クリアトゥセンド端子	入出力	送信可
	$\overline{\text{RTS4}}$	リクエストトゥセンド端子	入出力	送信要求

注.　SCIF の動作設定をSCSMR のC/$\overline{\text{A}}$ ビット、SCSCR のTE、RE、CKE1、CKE0 ビット及びSCFCR のMCE ビットで行うことにより、シリアル端子として機能します。ブレーク状態の送出、検出は、SCIF のSCSPTR によって行うことができます。

28.3　レジスタの説明

SCIF のレジスタ構成と各処理モードにおけるレジスタの状態をを表28.2 に示します。

指定されたビット幅でレジスタにアクセスしてください。指定されたビット幅以外のサイズでレジスタにアクセスした場合、動作は保証できません。

表28.2　レジスタ構成

チャネル	名 称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
						パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウェアリセット
2	レシーブシフトレジスタ 2	SCRSR2	—	—	—	—	—	—
	レシーブFIFO データレジスタ2	SCFRDR2	R	H'FE4B 0014	8	不定	不定	不定
	トランスミットシフトレジスタ2	SCTSR2	—	—	—	—	—	—
	トランスミットFIFOデータレジスタ2	SCFTDR2	W	H'FE4B 000C	8	不定	不定	不定
	シリアルモードレジスタ2	SCSMR2	R/W	H'FE4B 0000	16	H'0000	H'0000	H'0000
	シリアルコントロールレジスタ2	SCSCR2	R/W	H'FE4B 0008	16	H'0000	H'0000	H'0000
	シリアルステータスレジスタ2	SCFSR2	R/W（注1）	H'FE4B 0010	16	H'0060	H'0060	H'0060
	ビットレートレジスタ2	SCBRR2	R/W	H'FE4B 0004	8	H'FF	H'FF	H'FF
	FIFO コントロールレジスタ2	SCFCR2	R/W	H'FE4B 0018	16	H'0000	H'0000	H'0000
	FIFO データ数レジスタ2	SCFDR2	R	H'FE4B 001C	16	H'0000	H'0000	H'0000
	シリアルポートレジスタ2	SCSPTR2	R/W	H'FE4B 0020	16	H'00XX	H'00XX	H'00XX
	ラインステータスレジスタ2	SCLSR2	R/W（注2）	H'FE4B 0024	16	H'0000	H'0000	H'0000
	RS485 モードレジスタ2	RS485M2	R/W	H'FE4B 0028	16	H'0000	H'0000	H'0000

チャネル	名 称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
						パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウェアリセット
3	レシーブシフトレジスタ3	SCRSR3	—	—	—	—	—	—
	レシーブFIFOデータレジスタ3	SCFRDR3	R	H'FE4C 0014	8	不定	不定	不定
	トランスミットシフトレジスタ3	SCTSR3	—	—	—	—	—	—
	トランスミットFIFOデータレジスタ3	SCFTDR3	W	H'FE4C 000C	8	不定	不定	不定
	シリアルモードレジスタ3	SCSMR3	R/W	H'FE4C 0000	16	H'0000	H'0000	H'0000
	シリアルコントロールレジスタ3	SCSCR3	R/W	H'FE4C 0008	16	H'0000	H'0000	H'0000
	シリアルステータスレジスタ3	SCFSR3	R/W（注1）	H'FE4C 0010	16	H'0060	H'0060	H'0060
	ビットレートレジスタ3	SCBRR3	R/W	H'FE4C 0004	8	H'FF	H'FF	H'FF
	FIFOコントロールレジスタ3	SCFCR3	R/W	H'FE4C 0018	16	H'0000	H'0000	H'0000
	FIFOデータ数レジスタ3	SCFDR3	R	H'FE4C 001C	16	H'0000	H'0000	H'0000
	シリアルポートレジスタ3	SCSPTR3	R/W	H'FE4C 0020	16	H'00XX	H'00XX	H'00XX
	ラインステータスレジスタ3	SCLSR3	R/W（注2）	H'FE4C 0024	16	H'0000	H'0000	H'0000
	RS485モードレジスタ3	RS485M3	R/W	H'FE4C 0028	16	H'0000	H'0000	H'0000
4	レシーブシフトレジスタ4	SCRSR4	—	—	—	—	—	—
	レシーブFIFOデータレジスタ4	SCFRDR4	R	H'FE4D 0014	8	不定	不定	不定
	トランスミットシフトレジスタ4	SCTSR4	—	—	—	—	—	—
	トランスミットFIFOデータレジスタ4	SCFTDR4	W	H'FE4D 000C	8	不定	不定	不定
	シリアルモードレジスタ4	SCSMR4	R/W	H'FE4D 0000	16	H'0000	H'0000	H'0000
	シリアルコントロールレジスタ4	SCSCR4	R/W	H'FE4D 0008	16	H'0000	H'0000	H'0000
	シリアルステータスレジスタ4	SCFSR4	R/W（注1）	H'FE4D 0010	16	H'0060	H'0060	H'0060
	ビットレートレジスタ4	SCBRR4	R/W	H'FE4D 0004	8	H'FF	H'FF	H'FF
	FIFOコントロールレジスタ4	SCFCR4	R/W	H'FE4D 0018	16	H'0000	H'0000	H'0000
	FIFOデータ数レジスタ4	SCFDR4	R	H'FE4D 001C	16	H'0000	H'0000	H'0000
	シリアルポートレジスタ4	SCSPTR4	R/W	H'FE4D 0020	16	H'00XX	H'00XX	H'00XX
	ラインステータスレジスタ4	SCLSR4	R/W（注2）	H'FE4D 0024	16	H'0000	H'0000	H'0000
	RS485モードレジスタ4	RS485M4	R/W	H'FE4D 0028	16	H'0000	H'0000	H'0000

注1.　ビット7～4、1、0はフラグをクリアするための0書き込みのみ可能です。
2.　ビット0はフラグをクリアするための0書き込みのみ可能です。

レジスタ、端子、割り込みの機能は各チャネルで同じであるため、以下チャネル番号n（n＝2～4）は省略しています。

28.3.1　レシーブシフトレジスタ（SCRSR）

SCRSR は、シリアルデータを受信するためのレジスタです。

SCIF は、SCRSR にRXD 端子から入力されたシリアルデータをLSB（ビット0）から受信した順にセットし、パラレルデータに変換します。1 バイトのデータ受信を終了すると、データは自動的に SCFRDR へ転送されます。

SCRSR は、SH-4A から直接読み出し／書き込みできません。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	SCRSR[7:0]							
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—

28.3.2　レシーブFIFO データレジスタ（SCFRDR）

SCFRDR は、受信したシリアルデータを格納する8 ビット長の16 段FIFO レジスタです。

SCIF は、1 バイトのシリアルデータの受信が終了すると、SCRSR から SCFRDR へ受信したシリアルデータを転送して格納し、受信動作を完了します。この後、SCRSR は受信可能になり、SCFRDR がいっぱいになる16 バイトデータまで連続した受信動作が可能です。

SCFRDR は、読み出し専用レジスタですのでSH-4Aから書き込むことはできません。

また、SCFRDR に受信データがない状態で読み出した値は不定値になります。SCFRDR 内の受信データがいっぱいになると、以降のシリアルデータは失われます。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	SCFRDR[7:0]							
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R

28.3.3　トランスミットシフトレジスタ（SCTSR）

SCTSR は、シリアルデータを送信するためのレジスタです。

SCIF は、SCFTDR から送信データをいったんSCTSR に転送し、LSB（ビット0）から順にTXD 端子に送り出すことでシリアルデータ送信を行います。1 バイトのデータ送信を終了すると自動的にSCFTDR からSCTSR へ次の送信データを転送し、送信を開始します。

SCTSR は、SH-4A から直接読み出し／書き込みできません。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	SCTSR[7:0]							
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—

28.3.4　トランスミットFIFO データレジスタ（SCFTDR）

SCFTDR は、シリアル送信するデータを格納する8 ビット長の16 段FIFO レジスタです。

SCIF は、送信データがSCFTDR に書き込まれたとき、SCTSR が空ならば、SCFTDR に書き込まれた送信データをSCTSR に転送してシリアル送信を開始します。

SCFTDR は、書き込み専用レジスタですのでSH-4Aから読み出すことはできません。SCFTDR 内の送信データが16 バイトでいっぱいのときは次のデータを書き込むことはできません。書き込んだデータは無視されます。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	SCFTDR[7:0]							
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	W	W	W	W	W	W	W	W

28.3.5　シリアルモードレジスタ（SCSMR）

SCSMR は、SCIF のシリアル通信フォーマットの設定と、ボーレートジェネレータのクロックソースを選択するための16 ビットのレジスタです。

SCSMR は、常にSH-4A による読み出し／書き込みが可能です。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	C/$\overline{A}$	CHR	PE	O/$\overline{E}$	STOP	—	CKS[1:0]	
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 ～ 8	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
7	C/$\overline{A}$	0	R/W	コミュニケーションモード SCIF の動作モードを調歩同期式モード又はクロック同期式モードのいずれかから選択します。 0：調歩同期式モード 1：クロック同期式モード
6	CHR	0	R/W	キャラクタレングス 調歩同期式モードのデータ長を7 ビット／8 ビットデータのいずれかから選択します。クロック同期式モードでは、CHR の設定にかかわらず、データ長は8 ビットデータ固定です。7 ビットデータを選択した場合、MSBビット（SCFTDR レジスタのビット7）は送信されません。 0：8 ビットデータ 1：7 ビットデータ

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
5	PE	0	R/W	パリティイネーブル 調歩同期式モードでは、送信時にパリティビットの付加を、受信時にパリティビットのチェックを行うかどうかを選択します。クロック同期式モードでは、PE ビットの設定にかかわらずパリティビットの付加及びチェックは行いません。 0：パリティビットの付加、及びチェックを禁止 1：パリティビットの付加、及びチェックを許可（注） 注．PE ビットに1 をセットすると送信時には、O/$\overline{E}$ ビットで指定した偶数、又は奇数パリティを送信データに付加して送信します。受信時には、受信したパリティビットがO/E ビットで指定した偶数、又は奇数パリティになっているかどうかをチェックします。
4	O/$\overline{E}$	0	R/W	パリティモード パリティの付加やチェックを偶数パリティ、又は奇数パリティのいずれで行うかを選択します。O/E ビットの設定は、調歩同期式モードでPE ビットに1 を設定しパリティビットの付加やチェックを許可したときのみ有効になります。クロック同期式モードや、調歩同期式モードでパリティの付加やチェックを禁止している場合には、O/E ビットの指定は無効です。 0：偶数パリティ 1：奇数パリティ 偶数パリティに設定すると送信時には、パリティビットと送信キャラクタを合わせて、その中の1 の数の合計が偶数になるようにパリティビットを付加して送信します。受信時には、パリティビットと受信キャラクタを合わせて、その中の1 の数の合計が偶数であるかどうかをチェックします。 奇数パリティに設定すると送信時には、パリティビットと送信キャラクタを合わせて、その中の1 の数の合計が奇数になるようにパリティビットを付加して送信します。受信時には、パリティビットと受信キャラクタを合わせて、その中の1 の数の合計が奇数であるかどうかをチェックします。
3	STOP	0	R/W	ストップビットレングス 調歩同期式モードでのストップビットの長さを1 ビット／2 ビットのいずれかから選択します。ストップビットの設定は調歩同期式モードでのみ有効です。クロック同期式モードに設定した場合にはストップビットは付加されませんので、このビットの設定は無効です。 0：1 ストップビット（注1） 1：2 ストップビット（注2） なお受信時には、STOP ビットの設定にかかわらず、受信したストップビットの1 ビット目のみをチェックします。ストップビットの2 ビット目が1 の場合はストップビットとして扱いますが、0 の場合は次の送信キャラクタのスタートビットとして扱います。 注1. 送信時には、送信キャラクタの最後尾に1 ビットの1（ストップビット）を付加して送信します。 2. 送信時には、送信キャラクタの最後尾に2 ビットの1（ストップビット）を付加して送信します。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
2	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
1、0	CKS[1:0]	00	R/W	クロックセレクト1、0 内蔵ボーレートジェネレータへの入力クロックを選択します。CKS1、CKS0 ビットの設定でPck、Pck/4、Pck/16、Pck/64 の4種類から選択できます。 選択したクロックと、ビットレートレジスタの設定値、及びボーレートの関係については、「28.3.8 ビットレートレジスタ（SCBRR）」を参照してください。 00：Pck 01：Pck/4 10：Pck/16 11：Pck/64 注．　Pck：周辺クロック

28.3.6　シリアルコントロールレジスタ（SCSCR）

SCSCR は、SCIF の送信／受信動作、シリアルクロック出力、割り込み要求の許可／禁止、及び送信／受信クロックソースの選択を行うレジスタです。

SCSCR は、常にSH-4Aによる読み出し／書き込みが可能です。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	TIE	RIE	TE	RE	REIE	—	CKE[1:0]	
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15～8	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
7	TIE	0	R/W	トランスミットインタラプトイネーブル SCFTDR からSCTSR へシリアル送信データが転送され、SCFTDR 内のデータ数が送信トリガ設定数以下になり、SCFSR のTDFE フラグが1 にセットされたときに、送信FIFO データエンプティ割り込み（TXI）要求の発生を許可／禁止します。 TXI の解除は、SCFSR のTDFE フラグの1 を読み出した後、SCFTDR に送信トリガ設定数より多い送信データを書き込み、SCFSR のTDFE フラグを0 にするか、又はTIE を0 にすることで行うことができます。 0：送信FIFO データエンプティ割り込み（TXI）要求を禁止 1：送信FIFO データエンプティ割り込み（TXI）要求を許可

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
6	RIE	0	R/W	レシーブインタラプトイネーブル SCFSR のRDF フラグ又はDR フラグが1 にセットされたときの受信データフル割り込み（RXI）要求、SCFSR のER フラグが1 にセットされたときの受信エラー割り込み（ERI）要求、SCFSR のBRK フラグ又はSCLSR のORER フラグが1 にセットされたときのブレーク割り込み（BRI）要求の発生を許可／禁止します。 0：受信データフル割り込み（RXI）要求、及び受信エラー割り込み（ERI）要求、ブレーク割り込み（BRI）要求を禁止 1：受信データフル割り込み（RXI）要求、及び受信エラー割り込み（ERI）要求、ブレーク割り込み（BRI）要求を許可 注．RXI 割り込み要求の解除は、SCFSR のRDF フラグ又はDR フラグの1 を読み出した後で0 にするか、RIE ビットを0 にすることで行えます。ERI、BRI 割り込み要求の解除は、SCFSR のER、BRK、SCLSR のORER の各フラグで1 を読み出した後、0 にするか、RIE、REIE ビットを0 にすることで行えます。
5	TE	0	R/W	トランスミットイネーブル SCIF のシリアル送信動作の開始を許可／禁止します。 TE ビットが1 のときに、SCFTDR に送信データを書き込むとシリアル送信を開始します。 0：送信動作を禁止 1：送信動作を許可（注） 注．なお、TE ビットを1 にセットする前に必ずSCSMR、SCFCR の設定を行い、送信FIFO をリセットしてください。
4	RE	0	R/W	レシーブイネーブル SCIF のシリアル受信動作の開始を許可／禁止します。 RE ビットが1 のときに調歩同期式モードの場合はスタートビットを、クロック同期式モードでは同期クロック入力をそれぞれ検出すると、シリアル受信を開始します。 RE ビットを0 にしてもSCFSR のER、BRK、FER、PER、RDF、DR、SCLSR のORER の各フラグは影響を受けず、状態を保持しますので注意してください。 この状態でスタートビットを検出すると、シリアル受信を開始します。 0：受信動作を禁止 1：受信動作を許可（注） 注．なお、RE ビットを1 にセットする前に必ずSCSMR、SCFCRの設定を行い、受信フォーマットを決定し、受信FIFO をリセットしてください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
3	REIE	0	R/W	レシーブエラーインタラプトイネーブル 受信エラー割り込み（ERI）要求、ブレーク割り込み（BRI）要求の発生を許可／禁止します。ただし、REIE ビットの設定は RIE ビットが0 のときのみ有効です。 受信エラー割り込み（ERI）要求、ブレーク割り込み（BRI）要求の解除は、SCFSR のER、BRK、SCLSR のORER の各フラグで1 を読み出した後で0 にするか、RIE とREIE ビットを0 にすることで行えます。 RIE を0 に設定しても、REIE を1 に設定すれば、ERI、BRI 割り込み要求は発生します。DMA 転送時にERI、BRI 割り込み要求を割り込みコントローラへ通知したいときに設定します。 0：受信エラー割り込み（ERI）要求、ブレーク割り込み（BRI）要求を禁止 1：受信エラー割り込み（ERI）要求、ブレーク割り込み（BRI）要求を許可
2	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
1、0	CKE[1:0]	00	R/W	クロックイネーブル1、0 SCIF のクロックソースの選択、及びSCK 端子からのクロック出力の許可／禁止を設定します。CKE1 ビットとCKE0 ビットの組み合わせによってSCK 端子をシリアルクロック出力端子にするか、又はシリアルクロック入力端子にするかが決まります。ただしCKE0 ビットの設定は、内部クロック動作（CKE1＝0）のときにのみ有効です。外部クロック動作（CKE1＝1）の場合は、CKE0 ビットの設定は無効です。また、SCSMR でSCIFの動作モードを決定する前に、必ずCKE1、CKE0 ビットの設定をしてください。 • 調歩同期式 00：内部クロック／SCK 端子はSCSPTR の設定によりポートとして使用可能 01：内部クロック／SCK 端子はクロック出力（注1） 1x：外部クロック／SCK 端子はクロック入力（注2） • クロック同期式 0x：内部クロック／SCK 端子は同期クロック出力 1x：外部クロック／SCK 端子は同期クロック入力 【記号説明】x：Don't care 注1. 出力クロックの周波数はビットレートの16 倍 2. 入力クロックの周波数はビットレートの16 倍

28.3.7　シリアルステータスレジスタ（SCFSR）

SCFSR は16 ビット長のレジスタです。上位8 ビットはSCFRDR 内のデータの受信エラー数を、下位8 ビットはSCIF の動作状態を示します。

SCFSR の上位8 ビットは常にSH-4A から読み出すことができます。SCFSR の下位8 ビットは常にSH-4Aから読み出し／書き込みできます。ただし、ER、TEND、TDFE、BRK、RDF、DR の各フラグへ1 を書き込むことはできません。また、これらを0 にするためには、あらかじめ1 を読み出しておく必要があります。なお、FER フラグ、及びPER フラグは読み出し専用であり、書き込むことはできません。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PERC[3:0]				FERC[3:0]				ER	TEND	TDFE	BRK	FER	PER	RDF	DR
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R	R	R/W (注)	R/W (注)

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15～12	PERC[3:0]	0000	R	パリティエラー数 SCFRDR に格納されている受信データで、パリティエラーの発生しているデータ数を示します。ER ビット（SCFSR レジスタのビット7）がセットされた後、PERC ビットで示される値がパリティエラー発生データ数を示します。SCFRDR の16 バイトの受信データのすべてがパリティエラーを伴う場合、PERC ビットは0 を表示します。
11 ～ 8	FERC[3:0]	0000	R	フレーミングエラー数 SCFRDR に格納されている受信データで、フレーミングエラーの発生しているデータ数を示します。ER ビット（SCFSR レジスタのビット7）がセットされた後、FERC ビットで示される値がフレーミングエラー発生データ数を示します。 SCFRDR の16 バイトの受信データのすべてがフレーミングエラーを伴う場合、FERC ビットは0 を表示します。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	ER	0	R/W（注）	レシーブエラー 受信時にフレーミングエラー、パリティエラーが発生したことを示します。 RE ビット（SCSCR レジスタのビット4）を0 にしたときには、ER フラグは影響を受けず以前の状態を保持します。レシーブエラーが発生しても受信データはSCFRDR に転送され、受信動作を続けます。SCFRDR から読み出すデータに受信エラーがあるかどうかは、SCFSR のFER、PER ビットで判定できます。 0：受信時にフレーミングエラー又はパリティエラーが発生していないことを表示 [クリア条件] • パワーオンリセット、マニュアルリセット時 • ER＝1 の状態を読み出した後、0 を書き込んだとき 1：受信時にフレーミングエラー又はパリティエラーが発生したことを表示 [セット条件] • 受信終了時に受信データの最後尾のストップビットが1 であるかどうかをチェックし、ストップビットが0 であったとき（注） • 受信時の受信データとパリティビットを合わせた1 の数がO/E ビット（シリアルモードレジスタ（SCSMR）のビット4）で指定した偶数／奇数パリティの設定と一致しなかったとき 注．2 ストップモードのときは、1 ビット目のストップビットが1 であるかどうかのみを判定し、2 ストップビット目のストップビットはチェックしません。
6	TEND	1	R/W（注）	トランスミットエンド 送信キャラクタの最後尾ビットの送信後にSCFTDR に有効なデータがなく、送信を終了したことを示します。 0：送信中であることを表示 [クリア条件] • SCFTDR に送信データを書き込み、TEND フラグが1 の状態を読み出した後、TEND フラグに0 を書き込んだとき • DMAC でSCFTDR へデータを書き込んだとき 1：送信を終了したことを表示 [セット条件] • パワーオンリセット、マニュアルリセット時 • TE ビット（SCSCR レジスタのビット5）が0 のとき • 1 バイトのシリアル送信キャラクタの最後尾ビットの送信後にSCFTDR に送信データがないとき

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
5	TDFE	1	R/W（注）	トランスミットFIFO データエンプティ SCFTDR からSCTSR にデータ転送が行われ、SCFTDR 内のデータ数がSCFCR のTTRG1、TTRG0 ビットで設定した送信トリガデータ数以下になり、SCFTDR に送信データを書き込むことが可能になったことを示します。 0：SCFTDR 内の送信データ数が送信トリガ設定数より多いことを表示 [クリア条件] • TDFE＝1 の状態を読み出した後、SCFTDR に送信トリガ設定数を超える送信データを書き込み、0 を書き込んだとき • DMACでSCFTDRに送信トリガ設定数を超えるデータを書き込んだとき 1：SCFTDR の送信データ数が送信トリガ設定数以下であることを表示 [セット条件] • パワーオンリセット、マニュアルリセット時 • SCFTDR の送信データ数が送信動作によって送信トリガ設定数以下になったとき（注） 注．SCFTDR は16 バイトのFIFO レジスタですのでTDFE＝1 で書き込むことができる最大データ数は、16－（送信トリガ設定数）になります。これより多くデータを書き込んだ場合は無視されます。また、SCFTDR 内のデータ数はSCFDR の上位8ビットに示されます。
4	BRK	0	R/W(注)	ブレーク検出 受信データのブレーク信号を検出して示します。 0：ブレーク信号を受信していないことを表示 [クリア条件] • パワーオンリセット、マニュアルリセット時 • BRK＝1 の状態を読み出した後、0 を書き込んだとき 1：ブレーク信号を受信したことを表示（注） [セット条件] • フレーミングエラーを伴うデータを受信したとき、引き続き1フレーム長以上スペース0（L レベル）の場合 注．ブレーク検出すると受信データ（H'00）のFIFO への転送は停止します。ブレークが終了し、受信信号がマーク1 に戻ると受信データの転送が再開します。
3	FER	0	R	フレーミングエラー表示 調歩同期式モードで、次にSCFRDR から読み出すデータにフレーミングエラーがあったかどうかを表示します。 0：次にSCFRDR から読み出す受信データにフレーミングエラーが発生しなかったことを表示 [クリア条件] • パワーオンリセット、マニュアルリセット時 • 次にSCFRDR から読み出す受信データにフレーミングエラーなし 1：次にSCFRDR から読み出す受信データにフレーミングエラーが発生したことを表示 [セット条件] • 次にSCFRDR から読み出す受信データにフレーミングエラーあり

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
2	PER	0	R	パリティエラー表示 調歩同期式モードで、次にSCFRDR から読み出すデータにパリティエラーがあったかどうかを表示します。 0：次にSCFRDR から読み出す受信データにパリティエラーが発生しなかったことを表示 [クリア条件] • パワーオンリセット、マニュアルリセット時 • 次にSCFRDR から読み出す受信データにパリティエラーなし 1：次にSCFRDR から読み出す受信データにパリティエラーが発生していることを表示 [セット条件] • 次にSCFRDR から読み出すデータにパリティエラーあり
1	RDF	0	R/W（注）	レシーブFIFO データフル 受信したデータがSCRSR からSCFRDR に転送され、SCFRDR 内の受信データ数が、SCFCR のRTRG1、RTRG0 ビットで設定した受信トリガデータ数以上になったことを示します。 0：SCFRDR 内の受信データ数が受信トリガ設定数より少ないことを表示 [クリア条件] • パワーオンリセット、マニュアルリセット時 • RDF＝1 を読み出した後、SCFRDR 内の受信データ数が受信トリガ設定数より少なくなるまでSCFRDR を読み出し、0 を書き込んだとき • DMAC でSCFRDR 内の受信データ数が受信トリガ設定数より少なくなるまでSCFRDR を読み出したとき 1：SCFRDR 内の受信データ数が受信トリガ設定数以上であることを表示 [セット条件] • SCFRDR に受信トリガ設定数以上の受信データが格納されたとき 注．SCFRDR は16 バイトのFIFO レジスタです。RDF＝1 で少なくとも受信トリガ設定数のデータを読み出すことができます。SCFRDR が空の状態でデータを読み出すと不定値が読み出されます。なおSCFRDR 内の受信データ数はSCFDR の下位8ビットに示されます。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
0	DR	0	R/W（注）	レシーブデータレディ 調歩同期式モードでは、SCFRDR に受信トリガ設定数未満のデータがあり、かつ最後に受信したデータのストップビットから15etu 時間以上、次のデータが来ないことを示します。クロック同期式モードに設定した場合はセットされません。 0：受信中又は正常に受信完了してSCFRDR に受信データが残っていないことを表示 ［クリア条件］ • パワーオンリセット、マニュアルリセット時 • DR＝1 を読み出した後、SCFRDR 内の受信データをすべて読み出し、0 を書き込んだとき • DMAC でSCFRDR 内の受信データをすべて読み出したとき 1：次の受信データが来ないことを表示 ［セット条件］ • SCFRDR に受信トリガ設定数未満のデータがあり、かつ最後に受信したデータのストップビットから15etu 時間以上次のデータが来ないとき 【記号説明】etu（Elementary Time Unit：1 ビットの転送期間の略） 注．　15etu 時間は、8 ビット長1 ストップビットフォーマット時の1.5フレーム時間に相当します。

注．　フラグをクリアするために0 を書き込むことのみ可能です。

28.3.8　ビットレートレジスタ（SCBRR）

SCBRR は、SCSMR のCKS1、CKS0 ビットで選択されるボーレートジェネレータの動作クロックと合わせて、シリアル送信／受信のビットレートを設定する8 ビットのレジスタです。ビットレート誤差を考慮して本レジスタ値を設定してください（ビットレート誤差の計算式は以下を参照してください）。

SCBRR は、常にSH-4Aによる読み出し／書き込みが可能です。

SCBRR の設定値は以下の計算式で求められます。

〔調歩同期式モード〕

$$N = \frac{Pck}{64 \times 2^{2n-1} \times B} \times 10^6 - 1$$

〔クロック同期式モード〕

$$N = \frac{Pck}{8 \times 2^{2n-1} \times B} \times 10^6 - 1$$

B ：ビットレート（bit/s）

N ：ボーレートジェネレータのSCBRR の設定値（0≦N≦255）

Pck ：周辺モジュール用動作周波数（MHz）

n ：0、1、2、3

（n とボーレートジェネレータ入力クロックの関係は、表28.3 を参照してください）

表28.3　SCSMR の設定値

n	ボーレートジェネレータ入力クロック	SCSMR の設定値	
		CKS1	CKS0
0	Pck	0	0
1	Pck/4	0	1
2	Pck/16	1	0
3	Pck/64	1	1

注．調歩同期式モードのビットレート誤差は、以下の計算式で求められます。

$$\text{誤差 (\%)} = \left\{ \frac{\text{Pck} \times 10^6}{(N + 1) \times B \times 64 \times 2^{2n - 1}} - 1 \right\} \times 100$$

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	SCBRR[7:0]							
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

28.3.9　FIFO コントロールレジスタ（SCFCR）

SCFCR は送信／受信の各 FIFO レジスタのリセット及びトリガデータ数の設定を行うレジスタです。またループバックテストの許可ビットを含んでいます。

SCFCR は、常に SH-4A による読み出し／書き込みが可能です。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	RSTRG[2:0]			RTRG[1:0]		TTRG[1:0]		MCE*	TFCL	RFCL	LOOP
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15～11	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
10～8	RSTRG[2:0]	000	R/W	$\overline{\text{RTS}}$ 出力アクティブトリガ SCFRDR 内に格納された受信データ数が下に示すトリガ設定数以上になったとき、RTS 信号はHレベルになります。 000:15 001:1 010:4 011:6 100:8 101:10 110:12 111:14

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7、6	RTRG[1:0]	00	R/W	レシーブFIFO データ数トリガ SCFSR のRDF フラグをセットする受信データ数を設定するビットです。SCFRDR 内に格納された受信データ数が下に示すトリガ設定数以上になったときRDF フラグをセットします。 • 調歩同期式モード 00:1 01:4 10:8 11:14 • クロック同期式モード 00:1 01:2 10:8 11:14
5、4	TTRG[1:0]	00	R/W	トランスミットFIFO データ数トリガ SCFSR のTDFE フラグをセットする未送信のデータ数を設定するビットです。 送信動作によりSCFTDR 内の送信データ数が、下に示すトリガ設定数以下になったときTDFE フラグをセットします。 00: 8 (8) 01:4 (12) 10: 2 (14) 11: 0 (16) 注．（）内の値はフラグ発生時のSCFTDR の空き数を示します。
3	MCE	0	R/W	モデムコントロールイネーブル モデムコントロール信号$\overline{\text{CTS}}$、$\overline{\text{RTS}}$ を有効にします。クロック同期モードではMCE ビットを常に0 にしてください。 0：モデム信号を無効（注） 1：モデム信号を有効 注．$\overline{\text{CTS}}$ は入力値にかかわらず0 アクティブに、$\overline{\text{RTS}}$ 出力も0 に固定します。
2	TFCL	0	R/W	トランスミットFIFO データ数レジスタクリア トランスミットFIFO データ数レジスタ内の送信データ数を0 にします。 0：クリアしない 1：FIFO データ数を0 にする 注．パワーオンリセット、マニュアルリセット時にはリセット動作が行われます。
1	RFCL	0	R/W	レシーブFIFO データ数レジスタクリア レシーブFIFO データ数レジスタ内の受信データ数を0 にします。 0：クリアしない 1：FIFO データ数を0 にする 注．パワーオンリセット、マニュアルリセット時にはリセット動作が行われます。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
0	LOOP	0	R/W	ループバックテスト 送信出力端子（TXD）と受信入力端子（RXD）、$\overline{\text{RTS}}$ 端子と $\overline{\text{CTS}}$ 端子を内部で接続し、ループバックテストを可能にします。 0：ループバックテストを禁止 1：ループバックテストを許可

28.3.10 FIFO データ数レジスタ（SCFDR）

SCFDR は、SCFTDR 及び SCFRDR 内に格納されているデータ数を示す 16 ビット長のレジスタです。上位 8 ビットは SCFTDR 内の送信データ数を、下位 8 ビットは SCFRDR 内の受信データ数を示します。

SCFDR は常に SH-4A から読み出すことができます。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	TFDC[4:0]					—	—	—	RFDC[4:0]				
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	R	R	R	R	R	—	—	—	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 ～ 13	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
12 ～ 8	TFDC[4:0]	0	R	トランスミット FIFO データ数 SCFTDR 内に格納されている未送信のデータ数を示します。 H'00 は送信データがないことを、H'10 は SCFTDR に最大数（16 バイト）の送信データが格納されていることを示します。
7～ 5	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
4 ～ 0	RFDC[4:0]	0	R	レシーブ FIFO データ数 SCFRDR 内に格納されている受信データ数を示します。H'00 は受信データがないことを、H'10 は SCFRDR に最大数（16 バイト）の受信データが格納されていることを示します。

28.3.11 シリアルポートレジスタ（SCSPTR）

SCSPTR は、常に SH-4A による読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、SCIF の端子にマルチプレクスされたポートの入出力及びデータを制御します。ビット 1、0 によって RXD 端子から入力データを読み出し、TXD 端子へ出力データを書き込むことができ、シリアル送受信のブレークを制御します。

パワーオンリセット、マニュアルリセット時にビット 6、4、2、0 を除いたすべてのビットが 0 に初期化されます。ビット 6、4、2、0 は不定です。SCSPTR はモジュールストップ時には初期化されません。

シリアルポートを使用して SCIF 端子の値を読み出す場合、周辺クロックの 2 サイクル前の値を読み出しますので注意してください。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	RTSIO	RTSDT	CTSIO	CTSDT	SCKIO	SCKDT	SPB2IO	SPB2DT
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	0	—
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 ～ 8	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
7	RTSIO	0	R/W	シリアルポートRTSポート入出力 シリアルポートのRTS端子の入出力を指定します。実際にRTS端子をポート出力端子としてRTSDT ビットで設定した値を出力する場合は、MCE ビット（SCFCR レジスタのビット3）を0 に設定してください。 0：RTS 端子にRTSDT ビットの値を出力しないことを示します 1：RTS 端子にRTSDT ビットの値を出力することを示します
6	RTSDT	—	R/W	シリアルポートRTSポートデータ シリアルポートのRTS端子の入出力データを指定します。入力か出力かはRTSIO ビットで指定します。出力の場合、RTSDT ビットの値がRTS端子に出力されます。RTSIO ビットの値にかかわらず、RTSDT ビットからはRTS端子の値が読み出されます。パワーオンリセット、マニュアルリセット後の初期値は不定です。 0：入出力データがL レベルであることを示します 1：入出力データがH レベルであることを示します
5	CTSIO	0	R/W	シリアルポートCTSポート入出力 シリアルポートのCTS端子の入出力を指定します。実際にCTS端子をポート出力端子としてCTSDT ビットで設定した値を出力する場合は、MCE ビット（SCFCR レジスタのビット3）を0 に設定してください。 0：CTS端子にCTSDT ビットの値を出力しないことを示します 1：CTS端子にCTSDT ビットの値を出力することを示します

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
4	CTSDT	—	R/W	シリアルポートCTSポートデータ シリアルポートのCTS端子の入出力データを指定します。入力か出力かはCTSIO ビットで指定します。出力の場合、CTSDT ビットの値がCTS端子に出力されます。CTSIO ビットの値にかかわらず、CTSDT ビットからはCTS端子の値が読み出されます。パワーオンリセット、マニュアルリセット後の初期値は不定です。 0：入出力データがL レベルであることを示します 1：入出力データがH レベルであることを示します
3	SCKIO	0	R/W	シリアルポートクロックポート入出力 シリアルポートのSCK 端子の入出力を指定します。実際にSCK 端子をポート出力端子としてSCKDT ビットで設定した値を出力する場合は、SCSCR のCKE1、CKE0 ビットを0 に設定してください。 0：SCK 端子にSCKDT ビットの値を出力しないことを示します 1：SCK 端子にSCKDT ビットの値を出力することを示します
2	SCKDT	—	R/W	シリアルポートクロックポートデータ シリアルポートのSCK 端子の入出力データを指定します。入力か出力かはSCKIO ビットで指定します。出力の場合、SCKDT ビットの値がSCK端子に出力されます。SCKIO ビットの値にかかわらず、SCKDT ビットからはSCK 端子の値が読み出されます。 パワーオンリセット、マニュアルリセット後の初期値は不定です。 0：入出力データがL レベルであることを示します 1：入出力データがH レベルであることを示します
1	SPB2IO	0	R/W	シリアルポートブレーク入出力 シリアルポートのTXD 端子の出力条件を指定します。実際にTXD 端子をポート出力端子としてSPB2DT ビットで設定した値を出力する場合は、TE ビット（SCSCR レジスタのビット5）を0 に設定してください。 0：TXD 端子にSPB2DT ビットの値を出力しないことを示します 1：TXD 端子にSPB2DT ビットの値を出力することを示します
0	SPB2DT	—	R/W	シリアルポートブレークデータ シリアルポートのRXD 端子の入力データ及びTXD 端子の出力データを指定します。TXD 端子の出力条件はSPB2IO ビットで指定します。TXD端子を出力に設定した場合、SPB2DT ビットの値がTXD 端子に出力されます。SPB2IO ビットの値にかかわらず、SPB2DT ビットからはRXD 端子の値が読み出されます。パワーオンリセット、マニュアルリセット後の初期値は不定です。 0：入出力データがL レベルであることを示します 1：入出力データがH レベルであることを示します

28.3.12 ラインステータスレジスタ（SCLSR）

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ORER
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W (注)

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15～1	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
0	ORER	0	R/W（注）	オーバランエラー 受信時にオーバランエラーが発生して異常終了したことを示します。 0：受信中、又は正常に受信を完了したことを表示 [クリア条件] • パワーオンリセット、マニュアルリセット時 • ORER＝1 の状態を読み出した後、0 を書き込んだとき SCSCR の RE ビットを0 にしたときには、ORER フラグは影響を受けず以前の状態を保持します。 1：受信時にオーバランエラーが発生したことを表示 [セット条件] • SCFRDR が最大数（16 バイト）のデータを受信した状態で次のシリアル受信を完了したとき SCFRDR ではオーバランエラーが発生する前の受信データを保持し、後から受信したデータが失われます。さらに、ORER＝1 にセットされた状態で、以降のシリアル受信を続けることはできません。

注.　フラグをクリアするために0 を書き込むことのみ可能です。

28.3.13 RS485 モードレジスタ（RS485M）

RS485M は16 ビットのレジスタで、RS485 モードの制御を行います。RS485M は常に SH-4A による読み出し／書き込みが可能です。.

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	RS485M	RS485_SD[2:0]			RS485_ED[3:0]			
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15～8	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
7	RS485M	0	R/W	RS-485 送信モード RTS 端子を外部 RS-485 トランシーバ向けの出力有効信号として使用してRS-485 半二重方向制御を有効にするか無効にするかを指定します 。この設定はSCFCRのモデムコントロールイネーブル (MCE) 端子が1のときのみ有効になります。 0: RS-485 送信モード無効 1: RS-485 送信モード有効
6～4	RS485_SD[2:0]	000	R/W	開始遅延時間設定 TXD 端子に出力される送信データの出力開始遅延時間を設定します。 本設定はRS485=1 のときのみ有効になります。 000：開始遅延時間は0 データビット時間 001：開始遅延時間は1 データビット時間 ： 111：開始遅延時間は7 データビット時間
3～0	RS485_ED[3:0]	0000	R/W	終了遅延時間設定 RTS 端子に出力されるTXD 出力有効信号の終了遅延時間（0 から1 へのネゲートタイミング）を設定します。本設定はRS485=1 のときのみ有効になります。 0000：終了遅延時間は0 データビット時間 0001：終了遅延時間は1 データビット時間 ： 1111：終了遅延時間は15 データビット時間

28.4　動作説明

28.4.1　概要

SCIF は、キャラクタ単位で同期をとりながら通信する調歩同期式モードと、クロックパルスにより同期をとりながら通信するクロック同期式モードの2 方式でシリアル通信ができます。調歩同期式モードの動作については、「28.4.2 調歩同期式モードの動作」を参照してください。

送受信おのおのに16 段のFIFO バッファを内蔵しており、CPU のオーバヘッドを減らし、高速連続通信が可能です。また、モデムコントロール信号としてRTS、CTS 信号を内蔵しています。送受信フォーマットの選択は、SCSMR で行います。これを表28.4 に示します。また、SCIF のクロックソースは、SCSMR のC/A ビット及びSCSCR のCKE1、CKE0 ビットの組み合わせで決まります。これを表28.5 に示します。

注．各チャネルにおける動作はモデムコントロールを除き同じであるため、以下の説明ではチャネル番号n(n=2、3、4)は省略しています。

(1)　調歩同期式モード

- データ長：7ビット／8ビットから選択可能
- データの送受信はLSBが先頭（LSB First）
- パリティの付加及び1ビット／2ビットのストップビットの付加を選択可能（これらの組み合わせにより送信／受信フォーマット、及びキャラクタ長を決定）
- .受信時にフレーミングエラー、パリティエラー、レシーブFIFOデータフル、オーバランエラー、レシーブデータレディ、及びブレークの検出が可能
- 送受信FIFO レジスタのおのおのの格納データ数を表示
- SCIFのクロックソース：周辺クロック（Pck）／SCK端子入力から選択可能
  周辺クロック（Pck）を選択した場合：SCIFはボーレートジェネレータのクロックで動作
  （SCK端子からビットレートの16倍の周波数でクロックを出力可能）
  SCK端子入力を選択した場合：ビットレートの16倍の周波数でクロックを入力することが必要
  （内蔵ボーレートジェネレータを使用しない）

(2)　クロック同期式モード

- データ長：8ビットに固定
- データの送受信はLSBが先頭（LSB First）
- 受信時にオーバランエラーの検出が可能
- SCIFのクロックソース：周辺クロック（Pck）／SCK端子入力から選択可能
  周辺クロック（Pck）を選択した場合：SCIFはボーレートジェネレータのクロックで動作し、同期クロックを外部へ出力
  SCK端子入力を選択した場合：入力同期クロックで動作
  （内蔵ボーレートジェネレータを使用しない）

表28.4　SCSMR の設定値とシリアル送信／受信フォーマット

SCSMR の設定値				モード	SCIF の送信／受信フォーマット		
ビット 7: C/A	ビット 6: CHR	ビット 5: PE	ビット 3: STOP		データ長	パリティビット	ストップビット長
0	0	0	0	調歩同期式モード	8ビットデータ	なし	1 ビット
			1				2 ビット
		1	0			あり	1ビット
			1				2 ビット
	1	0	0		7ビットデータ	なし	1 ビット
			1				2 ビット
		1	0			あり	1 ビット
			1				2 ビット
1	x	x	x	クロック同期式モード	8ビットデータ	なし	なし

注．　x: Don't care

表28.5　SCSMR、SCSCR の設定とSCIF のクロックソースの選択

SCSMR	SCSCR Settings		モード	クロックソース	SCK 端子の機能
ビット 7: C/A	ビット 1: CKE1	ビット 0: CKE0			
0	0	0	調歩同期式モード	内部	SCIF はSCK 端子を使用しません
		1			ビットレートの16 倍の周波数でクロックを出力
	1	0		外部	ビットレートの16 倍の周波数でクロックを入力
		1			
1	0	0	クロック同期式モード	内部	同期クロックを出力
		1			
	1	0		外部	同期クロックを入力
		1			

28.4.2　調歩同期式モードの動作

調歩同期式モードは、通信開始を意味するスタートビットと通信終了を意味するストップビットとをデータに付加したキャラクタを送信／受信し、1 キャラクタ単位で同期をとりながらシリアル通信を行うモードです。

SCIF 内部では、送信部と受信部は独立していますので、全二重通信を行うことができます。また、送信部と受信部がともに16 段のFIFO バッファ構造になっていて、送信／受信中にデータの読み出し／書き込みができるので、連続送信／受信が可能です。

調歩同期式シリアル通信の一般的なフォーマットを図28.7 に示します。

調歩同期式シリアル通信では、通常、通信回線はマーク状態（H レベル）に保たれています。SCIF は通信回線を監視し、スペース（L レベル）になったところをスタートビットとみなしてシリアル通信を開始します。

シリアル通信の1 キャラクタは、スタートビット（L レベル）から始まり、データ（LSB ファースト：最下位ビットから）、パリティビット（H ／L レベル）、最後にストップビット（H レベル）の順で構成されています。

調歩同期式モードでは、SCIF は受信時にスタートビットの立ち下がりエッジで同期化を行います。また、SCIF はデータを1 ビット期間の16 倍の周波数で入出力するクロックの8 番目でサンプリングしますので、各ビットの中央で通信データが取り込まれます。

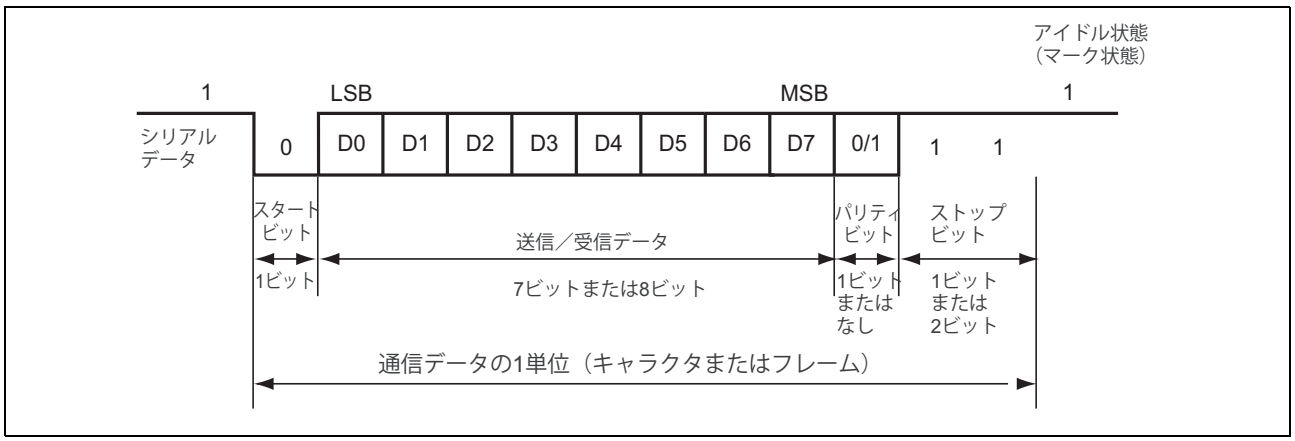


図 28.7　調歩同期式通信のデータフォーマット
（8 ビットデータ／パリティあり／2 ストップビットの例）

(1) 送信／受信フォーマット

設定可能な送信／受信フォーマットを、表28.6 に示します。

送信／受信フォーマットは8 種類あり、SCSMR の設定により選択できます。

表28.6　シリアル送信／受信フォーマット（調歩同期式モード）

SCSMRの設定			シリアル送信/受信フォーマットとフレーム長											
CHR	PE	STOP	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
0	0	0	S	8ビットデータ								STOP			
0	0	1	S	8ビットデータ								STOP	STOP		
0	1	0	S	8ビットデータ								P	STOP		
0	1	1	S	8ビットデータ								P	STOP	STOP	
1	0	0	S	7ビットデータ							STOP				
1	0	1	S	7ビットデータ							STOP	STOP			
1	1	0	S	7ビットデータ							P	STOP			
1	1	1	S	7ビットデータ							P	STOP	STOP		

【記号説明】

S　　：スタートビット
STOP　：ストップビット
P　　：パリティビット

(2) クロック

SCIF の送受信クロックは、SCSMR の C/$\overline{A}$ ビット及び SCSCR の CKE1、CKE0 ビットの設定により、内蔵ボーレートジェネレータの生成した内部クロック又はSCK 端子から入力された外部クロックの2 種類から選択できます。SCIF のクロックソースの選択については表28.5 を参照してください。

外部クロックを SCK 端子に入力する場合には、使用するビットレートの 16 倍の周波数でクロックを入力してください。

内部クロックで動作させるとき、SCK 端子からクロックを出力することができます。このとき出力されるクロックの周波数はビットレートの16 倍です。

(3) SCIF の初期化（調歩同期式）

データの送信／受信前には、まずSCSCR のTE ビット、及びRE ビットを0 にした後、以下の順でSCIF を初期化してください。動作モードの変更、通信フォーマットの変更などの場合には必ず、TE ビット及びREビットを0 にしてから次の手順で変更を行ってください。

1. TEビットを0にすると、SCTSRが初期化されます。TE、REビットを0にしても、SCFSR、SCFTDR、及びSCFRDRの内容は保持されますので注意してください。
2. TEビットの0クリアは、送信データをすべて送信しSCFSRのTENDフラグがセットされた後に行ってください。送信中でも0クリア可能ですが、送信中のデータは0クリア後、マーク状態になります。また再度TEビットを1にセットして送信開始する前にSCFCRのTFCLビットをいったん1にセットしてSCFTDRをリセットしてください。
3. 外部クロックを使用している場合には、動作が不確実になりますので初期化を含めた動作中にクロックを止めないでください。

図28.8 にSCIF の初期化フローチャートの例を示します。

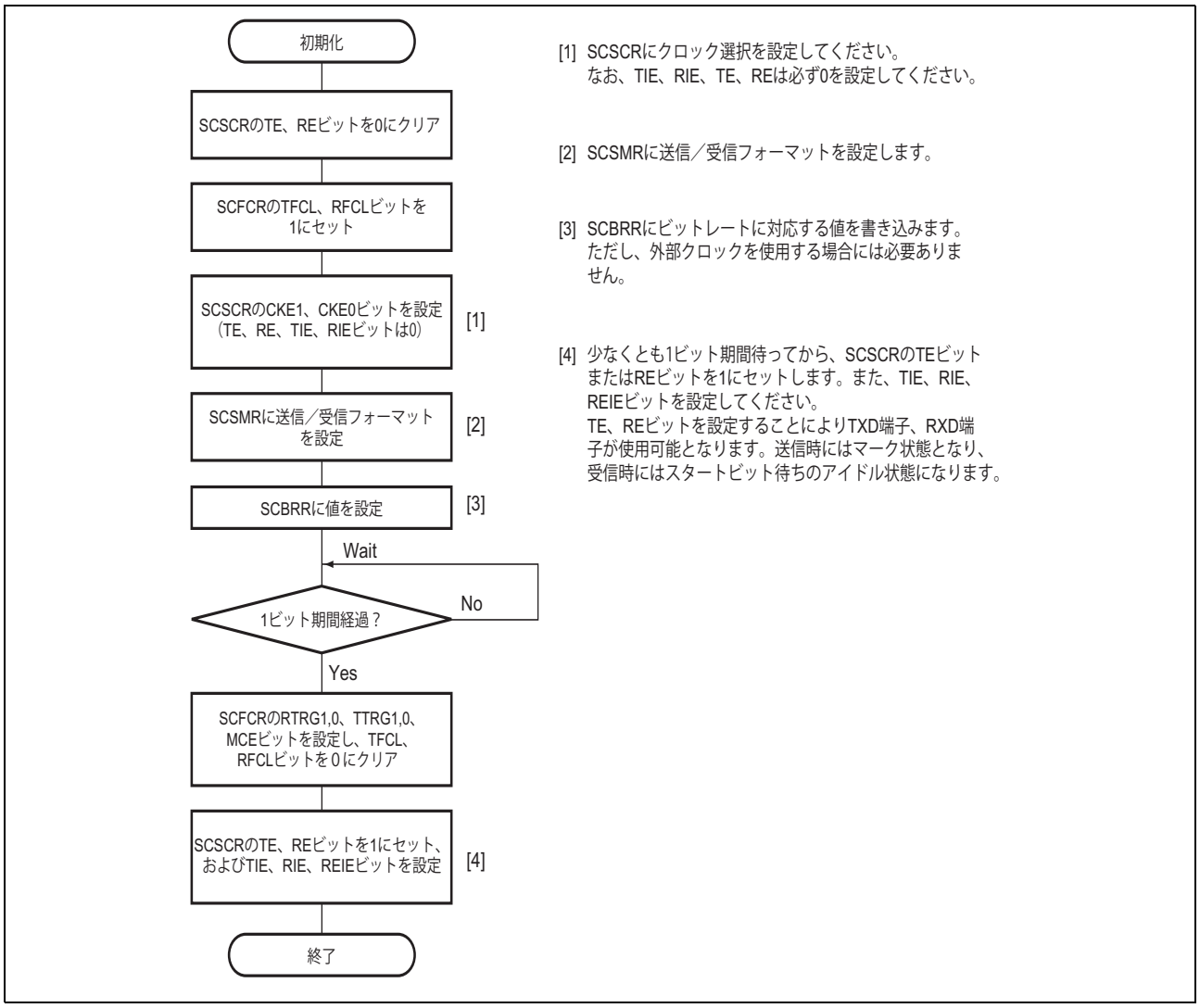


図 28.8　SCIF の初期化フローチャートの例

(4)　シリアルデータ送信（調歩同期式）

図28.9 にシリアル送信のフローチャートの例を示します。

シリアルデータ送信は、SCIF を送信動作可能状態に設定した後、以下の手順を参考に行ってください。

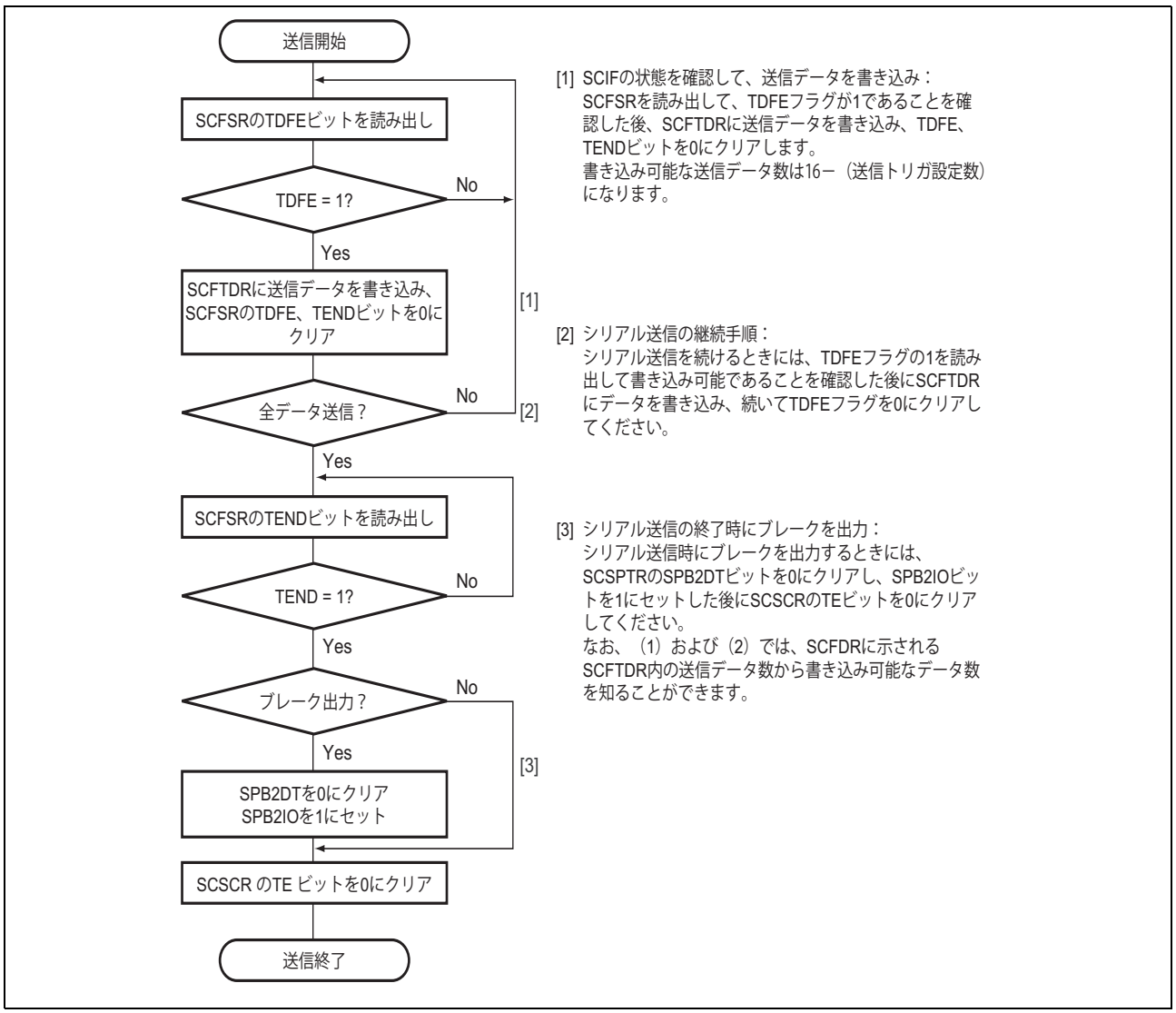


図 28.9　シリアル送信のフローチャートの例

SCIF はシリアル送信時に以下のように動作します。

1. SCIFは、SCFTDRにデータが書き込まれると、SCFTDRからSCTSRにデータを転送し、送信を開始します。SCFTDR にはSCFSR の TDFE フラグが1であることを確認して送信データを書き込んでください。書き込み可能なデータ数は少なくとも16－（送信トリガ設定数）です。
2. SCFTDRからSCTSRへデータが転送され、送信を開始すると、SCFTDRに送信データがなくなるまで連続して送信動作を続けます。途中、SCFTDR内の送信データ数がSCFCRで設定した送信トリガ数以下になったとき、TDFEフラグをセットします。このとき、TIEビット（SCSCRレジスタのビット7）が1にセットされていると送信FIFOデータエンプティ割り込み（TXI）要求を発生します。
   シリアル送信データは、以下の順にTXD 端子から送り出されます。

   (a) スタートビット：1ビットの0が出力されます。

   (b) 送信データ：8ビット又は7ビットのデータがLSBから順に出力されます。

   (c) パリティビット（偶数パリティ、又は奇数パリティ）が出力されます。
   なお、パリティビットを出力しないフォーマットも選択できます。

   (d) ストップビット：1ビット又は2ビットの1（ストップビット）が出力されます。

   (e) マーク状態：次の送信を開始するスタートビットを送り出すまで1を出力し続けます。
3. SCIFは、ストップビットを送出するタイミングでSCFTDRの送信データをチェックします。データがあるとSCFTDRからSCTSRにデータを転送し、ストップビットを送り出した後、次フレームのシリアル送信を開始します。ストップビットを送り出した後、送信データがないとSCFSRのTENDフラグに1をセットし、TXD端子から1を出力するマーク状態になります。

調歩同期式モードでの送信時の動作例を図28.10 に示します。

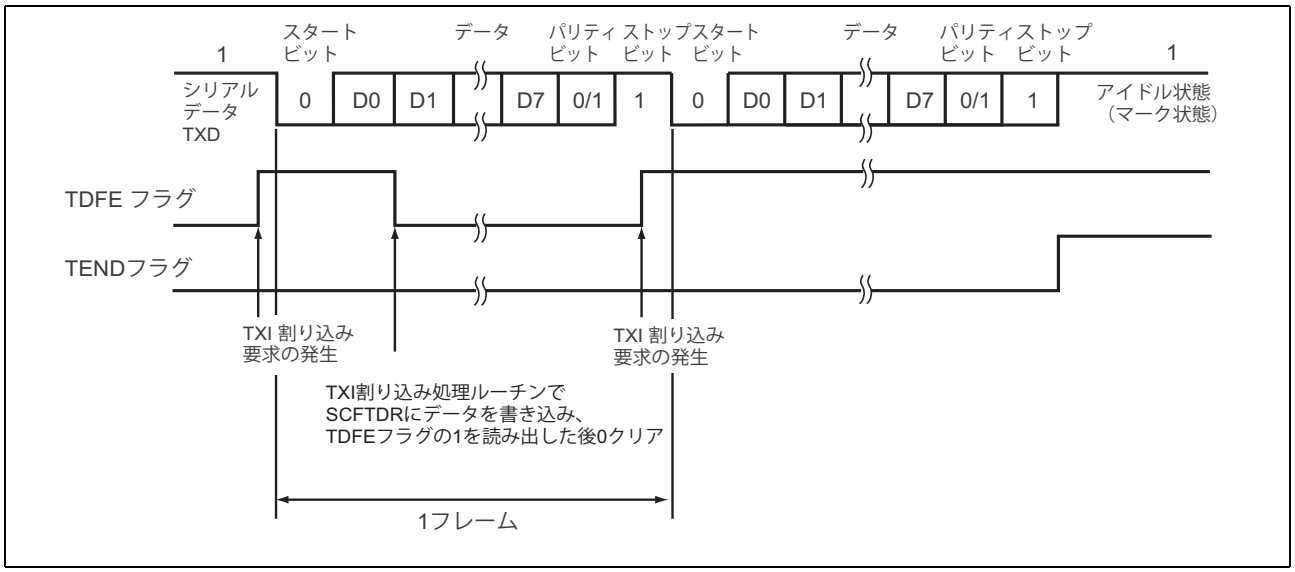


図 28.10　送信時の動作例（8 ビットデータ／パリティあり／1 ストップビットの例）

4. モデムコントロールイネーブル時は $\overline{\text{CTS}}$ 入力値によって送信動作を停止／再開することができます。$\overline{\text{CTS}}$ が1になると現在送信中のときは1フレーム送信終了後マーク状態になります。$\overline{\text{CTS}}$ を0にすると再びスタートビットから次の送信データを出力します。

. モデムコントロール時の動作例を図28.11に示します。

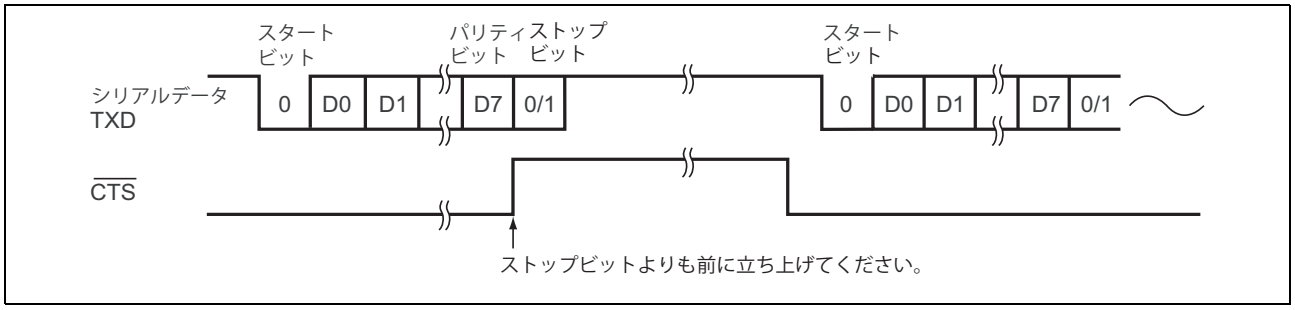


図 28.11　モデムコントロール（$\overline{\text{CTS}}$）時の動作例

(5)　シリアルデータ受信（調歩同期式）

図28.12にシリアル受信フローチャートの例を示します。

シリアルデータ受信は、SCIFを受信動作可能状態に設定した後、図28.12の手順で行ってください。

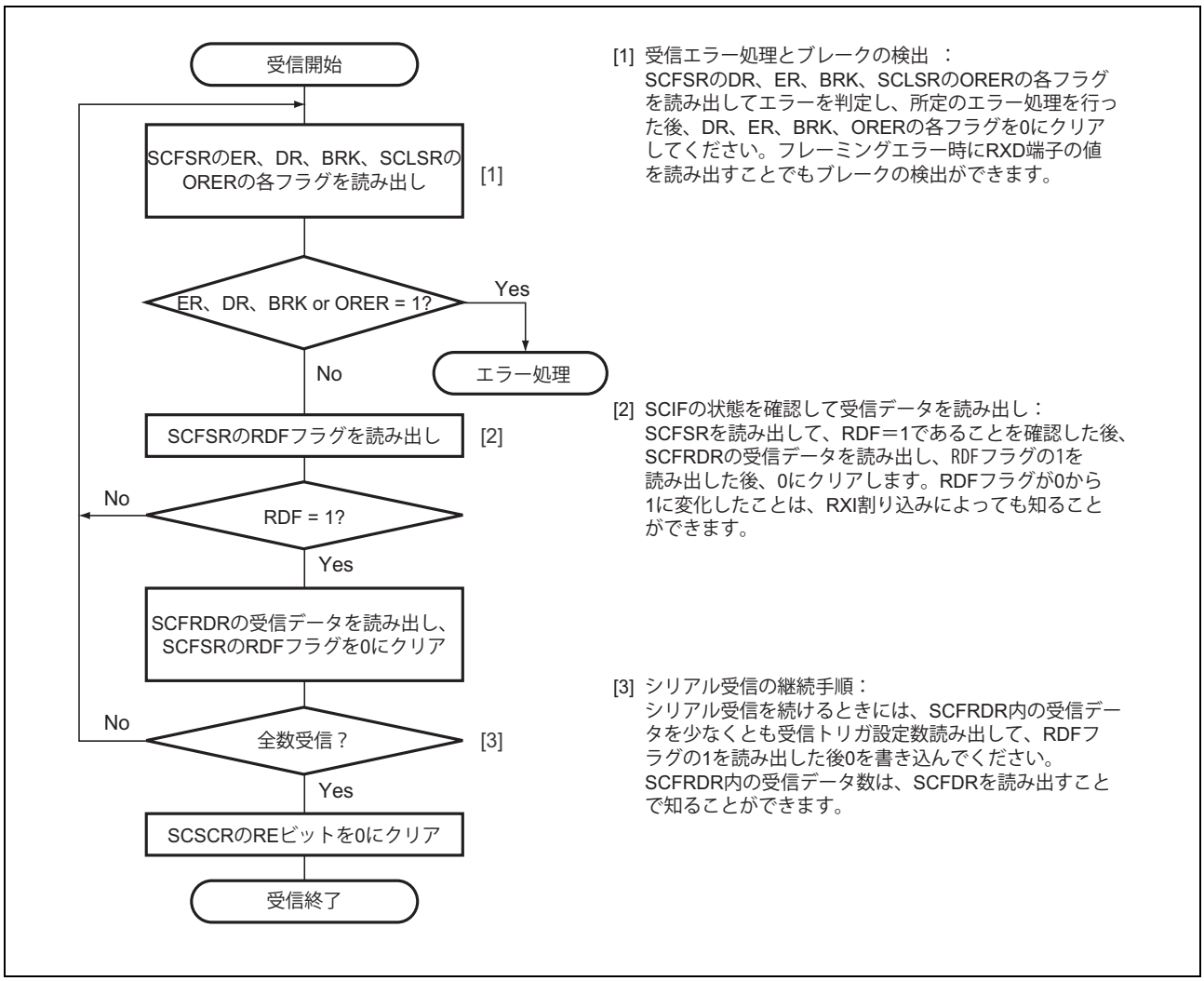
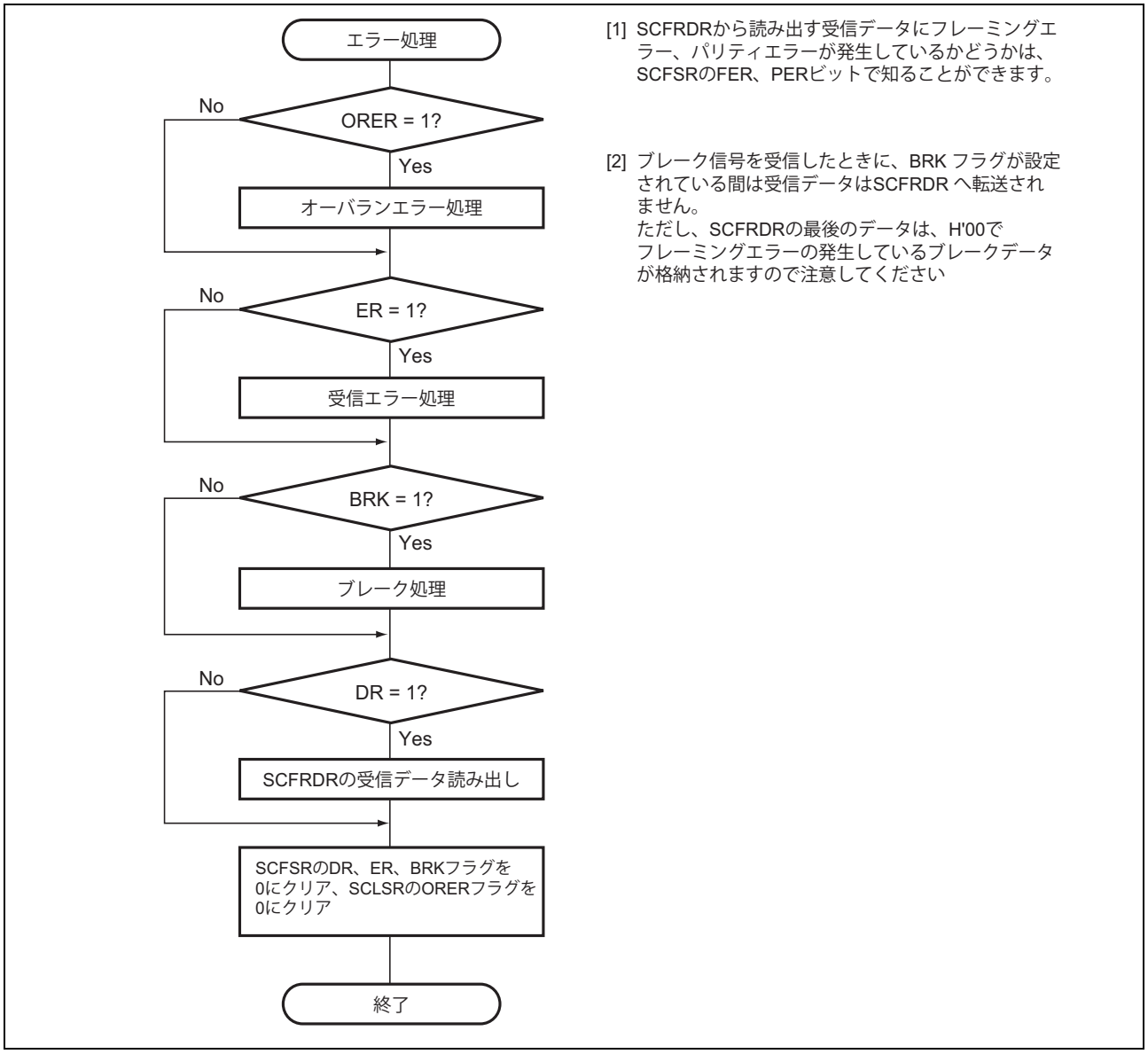


図 28.12　シリアル受信のフローチャートの例（1）



[1] SCFRDRから読み出す受信データにフレーミングエラー、パリティエラーが発生しているかどうかは、SCFSRのFER、PERビットで知ることができます。

[2] ブレーク信号を受信したときに、BRK フラグが設定されている間は受信データはSCFRDR へ転送されません。
ただし、SCFRDRの最後のデータは、H'00でフレーミングエラーの発生しているブレークデータが格納されますので注意してください

図 28.12　シリアル受信のフローチャートの例（2）

SCIF は受信時に以下のように動作します。

1. SCIFは通信回線を監視し、スタートビットの0を検出すると内部を同期化し、受信を開始します。
2. 受信したデータをSCRSRのLSBからMSBの順に格納します。
3. パリティビット及びストップビットを受信します。
   受信後、SCIF は以下のチェックを行います。

   (a) ストップビットチェック：ストップビットが1 であるかをチェックします。
   ただし、2 ストップビットの場合、1 ビット目のストップビットのみをチェックします。

   (b) 受信データをSCRSR からSCFRDR に転送できる状態であるかをチェックします。(注)

   (c) オーバランエラーチェック：ORER フラグが 0 であり、オーバランエラーが発生していないことをチェックします。(注)

   (a) ブレークチェック：BRK フラグが0 であり、ブレーク状態でないことをチェックします。(注)
   (b) (c) (d) のチェックがパスしたとき、SCFRDR に受信データが格納されます。

   注. パリティエラー、フレーミングエラーが発生しても受信動作を続けます。

4. RDFフラグ又はDRフラグが1になったとき、RIEビット（SCSCRレジスタのビット6）が1にセットされていると受信FIFOデータフル割り込み（RXI）要求を発生します。
   また、ER フラグが 1 になったとき、RIE ビット（SCSCR レジスタのビット 6）又は REIE ビット（SCSCR レジスタのビット 3）が 1 にセットされていると受信エラー割り込み（ERI）要求を発生します。
   さらに、BRKフラグ又はORERフラグが1になったとき、SCSCRのRIEビット又はREIEビットが1にセットされていると、ブレーク受信割り込み（BRI）要求を発生します。

調歩同期式モード受信時の動作例を図28.13 に示します。

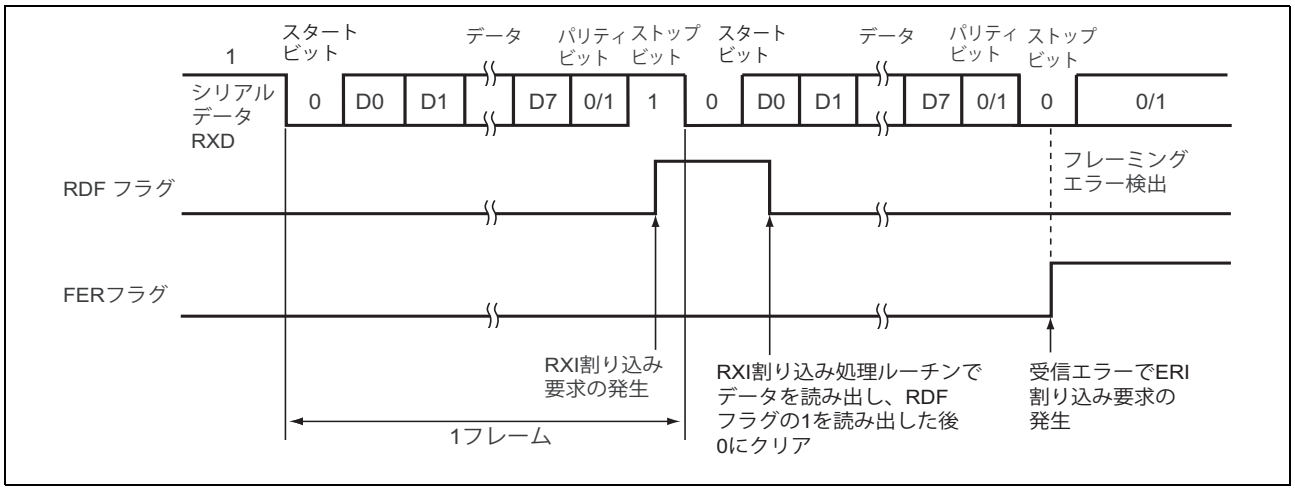


図 28.13　SCIF の受信時の動作例
（8 ビットデータ／パリティあり／1 ストップビットの例）

5. モデムコントロールイネーブル時は、SCFRDR の空き状況によって $\overline{\text{RTS}}$ 信号を出力します。$\overline{\text{RTS}}$ が0のときは受信可能状態です。$\overline{\text{RTS}}$ が1のときはSCFRDR内のデータ数が、$\overline{\text{RTS}}$ 出力アクティブトリガ設定数以上であることを示します。$\overline{\text{RTS}}$ 出力アクティブトリガ値は、「28.3.9 FIFO コントロールレジスタ（SCFCR）」のビット10～8で指定します。また、SCSCR の RE ビットが0のときも、$\overline{\text{RTS}}$ が1になります。

. モデムコントロール時の動作例を図28.14に示します。

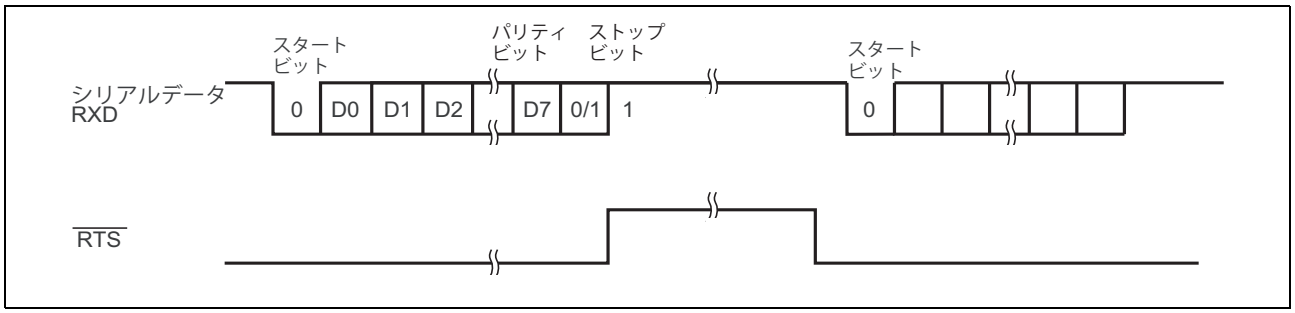


図 28.14　モデムコントロール（$\overline{\text{RTS}}$）時の動作例

28.4.3　クロック同期式モードの動作

クロック同期式モードは、クロックパルスに同期してデータを送信／受信するモードで、高速シリアル通信に適しています。

SCIF 内部では、送信部と受信部は独立していますので、クロックを共有することで全二重通信ができます。また、送信部と受信部がともに 16 段の FIFIO バッファ構造になっていますので送信／受信中にデータの読み出し／書き込みができ連続送信／受信が可能です。

クロック同期式シリアル通信の一般的なフォーマットを図28.15 に示します。

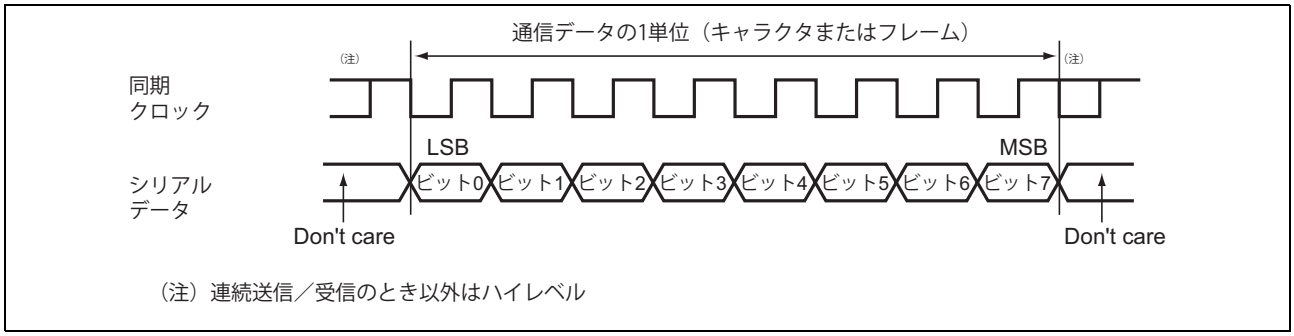


図 28.15　クロック同期式通信のデータフォーマット

クロック同期式シリアル通信では、通信回線のデータは同期クロック立ち下がりから次の立ち下がりまで出力されます。また、クロックの立ち上がりでデータの確定が保証されます。

シリアル通信の1キャラクタは、LSB から始まり最後にMSB が出力されます。最終データ出力後の通信回線の状態は最終データの状態を保ちます。

クロック同期式モードでは、SCIF は同期クロックの立ち上がりに同期してデータを受信します。

(1)　送信／受信フォーマット

8 ビット固定です。パリティビットの付加はできません。

(2)　クロック

SCSMR の C/$\overline{A}$ ビットと SCSCR レジスタの CKE1、CKE0 ビットの設定により内蔵ボーレートジェネレータの生成した内部クロック、又は、SCK 端子から入力された外部同期クロックの2 種類から選択できます。SCIF のクロックソース選択については、表28.5 を参照してください。

内部クロックで動作させるとき、SCK 端子から同期クロックが出力されます。同期クロックは1 キャラクタの送受信で8 パルス出力され、送信／受信を行わないときにはH レベルに固定されます。受信動作のみの場合、内部クロックを選択するとSCSCR レジスタ のRE ビットが1 の間、受信 FIFO 内データ数が受信トリガ設定数に達するまでクロックパルスが出力されます。

(3)　SCIF の初期化（クロック同期式）

データの送信／受信前にSCSCR レジスタのTE、RE ビットを0 にした後、以下の手順でSCIF を初期化してください。

モードの変更、通信フォーマットの変更などの場合には必ず、TE、及びRE ビットを0 にしてから下記手順で変更してください。TE ビットを0 にするとSCTSR が初期化されます。RE ビットを0 にしてもRDF、PER、FER、ORER の各フラグ、及びSCFRDR の内容は保持されますので注意してください。

図28.16 にSCIF の初期化フローチャート例を示します。

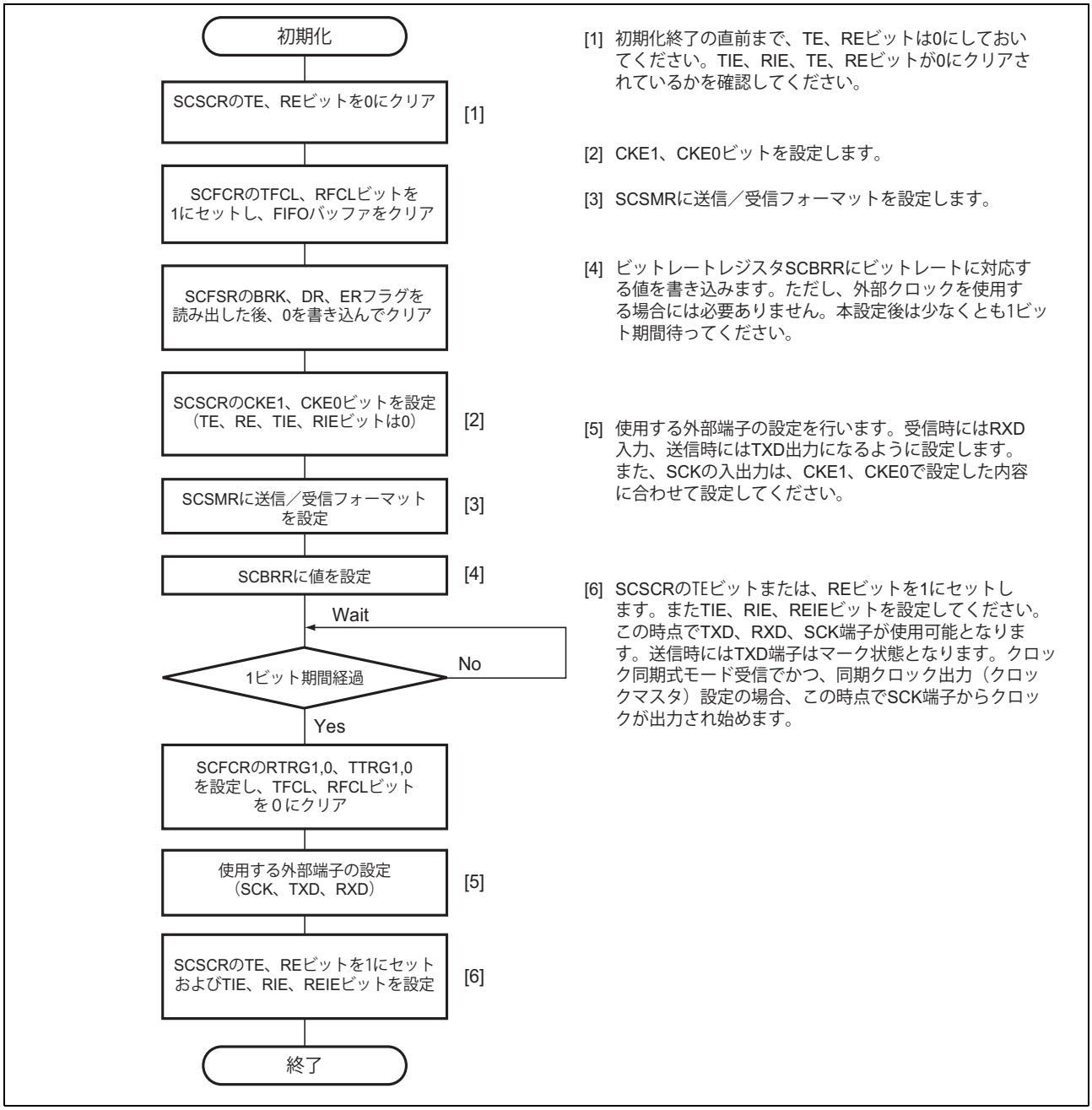


図 28.16　SCIF 初期化フローチャートの例

(4)　シリアルデータ送信（クロック同期式）

図28.17 にシリアル送信のフローチャートの例を示します。

シリアルデータの送信は、SCIF を送信動作可能状態に設定した後、以下の手順で行ってください。

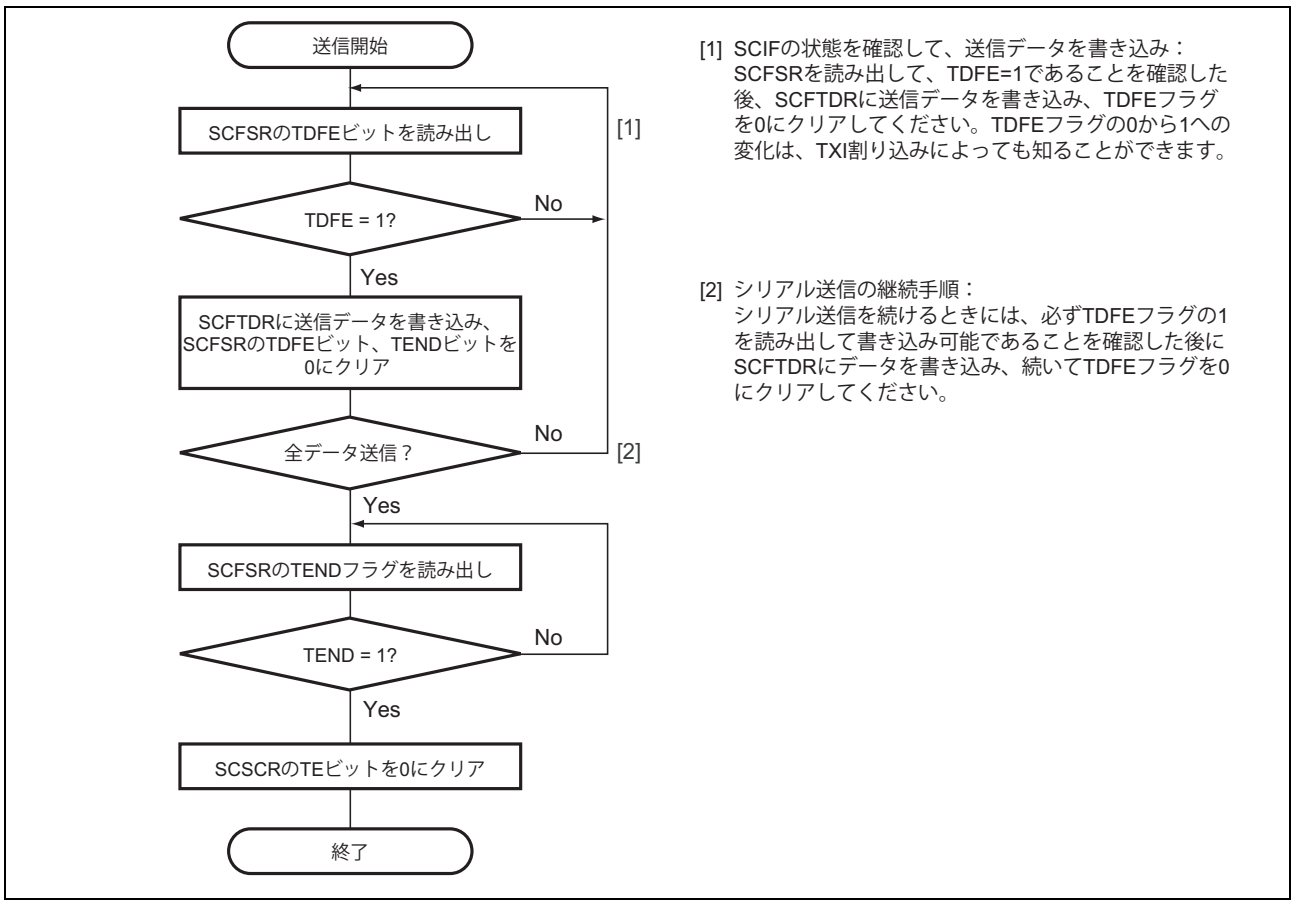


図 28.17　シリアル送信のフローチャートの例

SCIF はシリアル送信時に以下のように動作します。

1. SCIFは、SCFTDRにデータが書き込まれると、SCFTDRからSCTSRにデータを転送し、送信を開始します。
   SCFTDRにはSCFSRのTDFEフラグが1であることを確認して送信データを書き込んでください。書き込み可能なデータ数は少なくとも16－（送信トリガ設定数）です。
2. SCFTDRからSCTSRへデータが転送され、送信を開始すると、SCFTDRに送信データがなくなるまで連続して送信動作を続けます。途中、SCFTDR内の送信データ数がSCFCRで設定したトリガ数以下になったとき、TDFEフラグをセットします。このときSCSCRのTIEビットが1にセットされていると送信FIFOデータエンプティ割り込み（TXI）要求を発生します。
3. クロック出力モードに設定したときには、SCIFは1データに対し同期クロック8パルス出力します。外部クロックに設定したときには、入力クロックに同期してデータを出力します。
   シリアル送信データは、LSBから順にTXD端子から送り出されます。
4. SCIFは、最終ビットを送り出すタイミングでSCFTDRの送信データをチェックします。送信データがあるとSCFTDRからSCTSRにデータを転送し、次のフレームのシリアル送信を開始します。送信データがないと、最終ビットを送り出した後、SCFSRのTENDフラグを1にセットし、トランスミットデータ端子（TXD端子）は状態を保持します。
5. シリアル送信終了後、SCSCRのCKE1ビットが0のとき、SCK端子から出力する同期クロックはHレベル固定になります。
   図28.18 にクロック同期式のSCIF の送信時の動作例を示します。

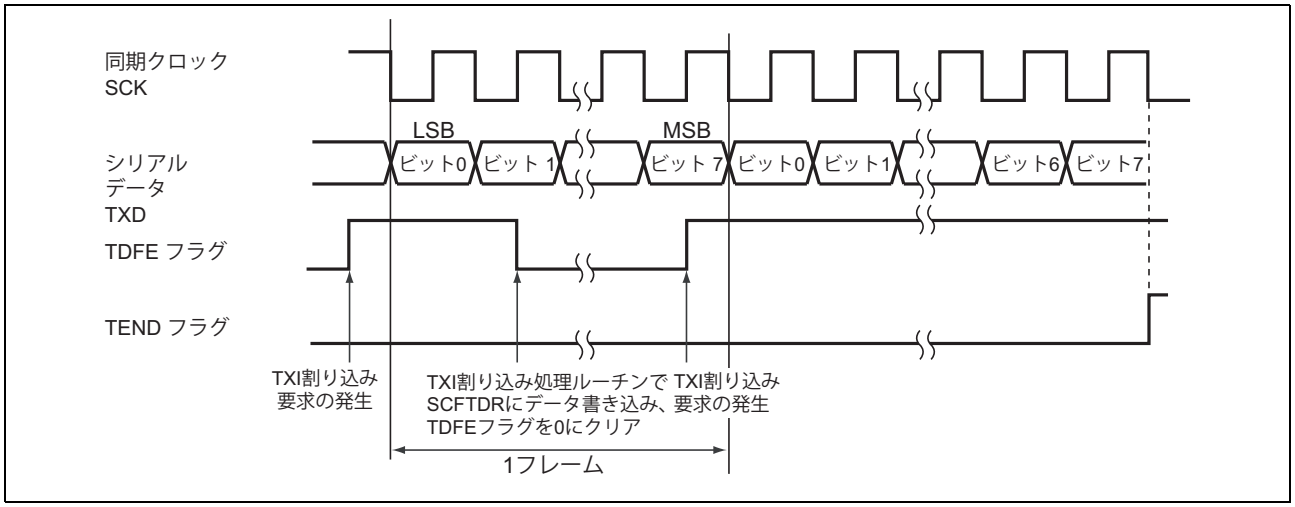


図 28.18　SCIF 送信時の動作例

(5)　シリアルデータ受信（クロック同期式）

図28.19にシリアル受信のフローチャート例を示します。

シリアルデータの受信は、SCIF を受信動作可能状態に設定した後、以下の手順で行ってください。

SCIF の初期化を行わずに、動作モードを調歩同期式モードからクロック同期式モードに切り替える際には、必ず、SCLSR のORER、SCFSR のPER、FER の各フラグが0 にクリアされていることを確認してください。

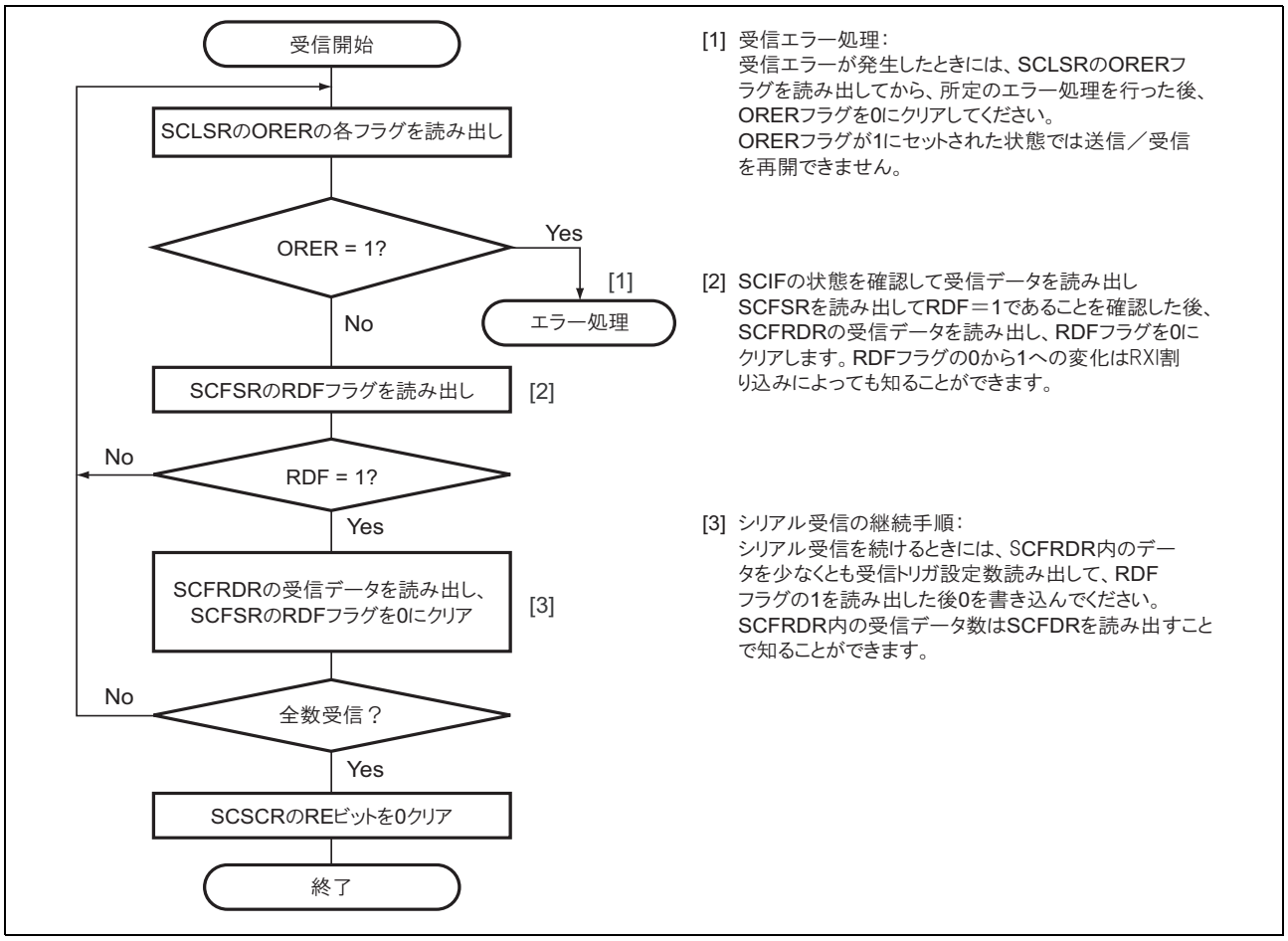


図 28.19　シリアル受信のフローチャートの例（1）

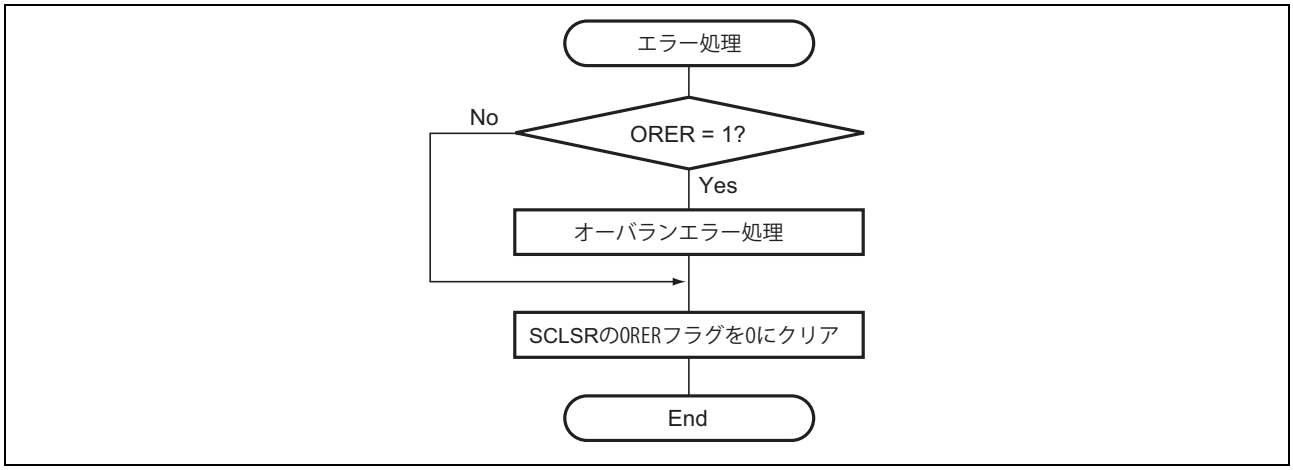


図 28.19　シリアル受信のフローチャートの例（2）

SCIF はシリアル受信時に以下のように動作します。

1. SCIF は同期クロックの入力又は出力に同期して受信を開始します。
2. 受信したデータを SCRSR の LSB から MSB の順に格納します。
   受信後、SCIF は受信データを SCRSR から SCFRDR に転送できる状態であるかをチェックし、このチェックがパスしたとき SCFRDR に受信データが格納されます。
   エラーチェックでオーバランエラーを検出すると以後の受信動作ができません。
3. RDF フラグが 1 になったとき、RIE ビット（SCSCR レジスタのビット 6）が 1 にセットされていると受信 FIFO データフル割り込み（RXI）要求を発生します。また、ORER フラグが 1 になったとき、RIE ビット（SCSCR レジスタのビット 3）が 1 にセットされているとブレーク割り込み（BRI）要求を発生します。
   図 28.21 にクロック同期式の SCIF の受信時の動作例を示します。

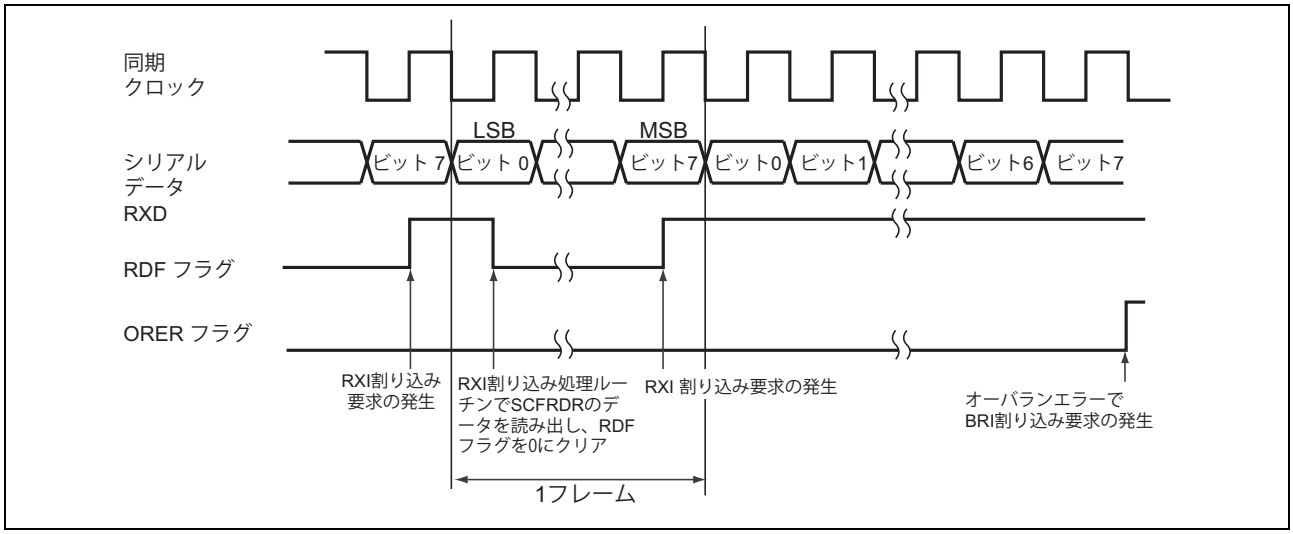


図 28.20　SCIF の受信時の動作例

(6)　シリアルデータ送受信同時動作（クロック同期式）

図28.22 にシリアル送受信同時動作のフローチャートの例を示します。

シリアルデータの送受信同時動作は、SCIF を送受信動作可能状態に設定した後、以下の手順に従って行ってください。

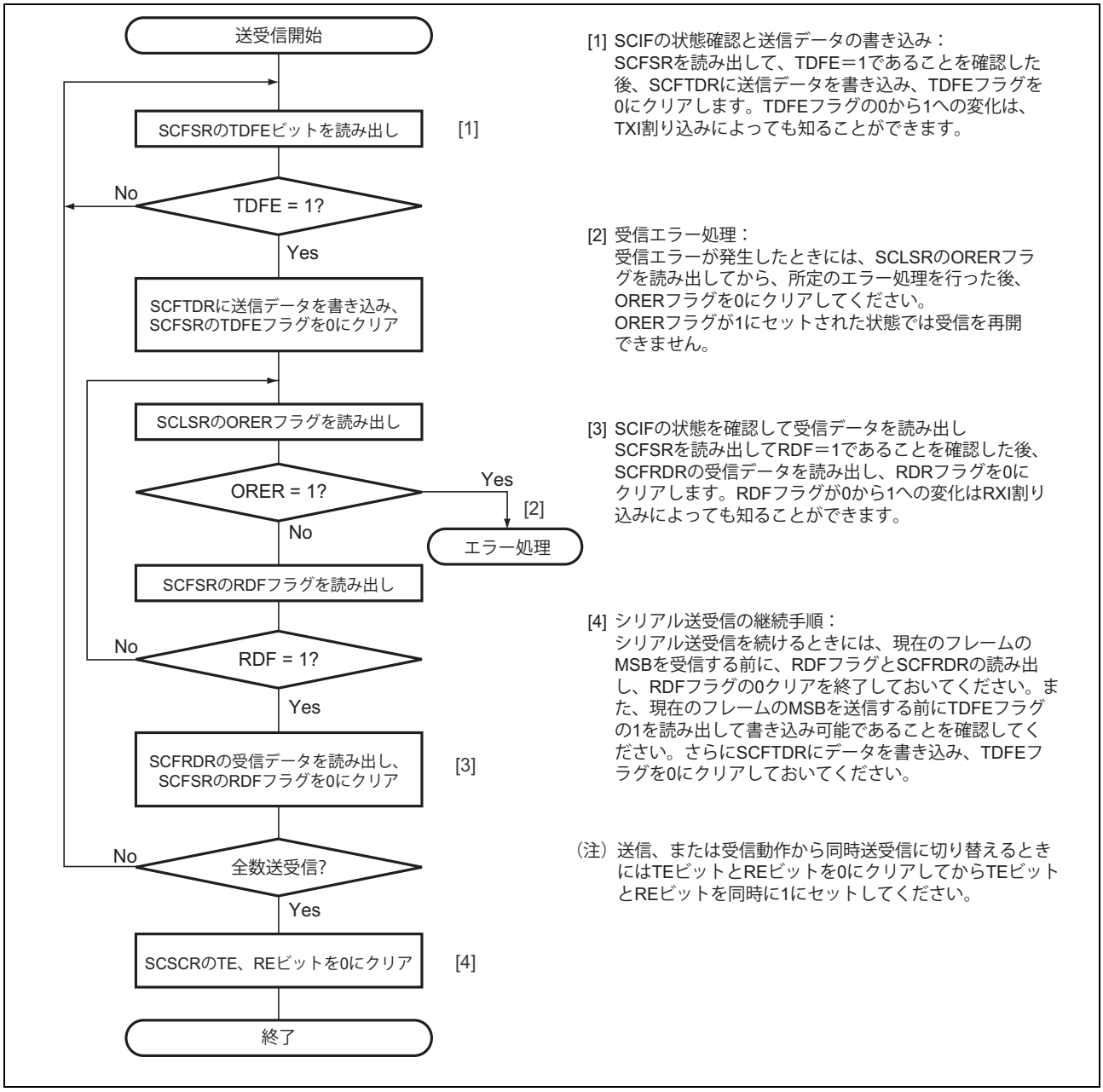


図 28.21　シリアル送受信のフローチャートの例

28.4.4　RS-485 送信モード

SCIFnの各RTS信号は、外部RS-485トランシーバと併用できるように半二重の方向を交互制御する信号として構成できます。RS485モードでは、該当SCIFnのキャラクタ送信期間中に半二重送信イネーブル制御信号がアサートされます。このRS-485半二重送信イネーブル信号は送信された各キャラクタブロックの前後で開始、停止遅延をプログラムできます(開始遅延が0 から7 ビット、停止遅延が0から15ビット)。開始遅延と停止遅延はRS485M レジスタにおいてそれぞれ別のSCIFn モジュールに対して独立してプログラム可能です。

図28.23にRS-485 SCIFn 送信モード関連の波形を示します。

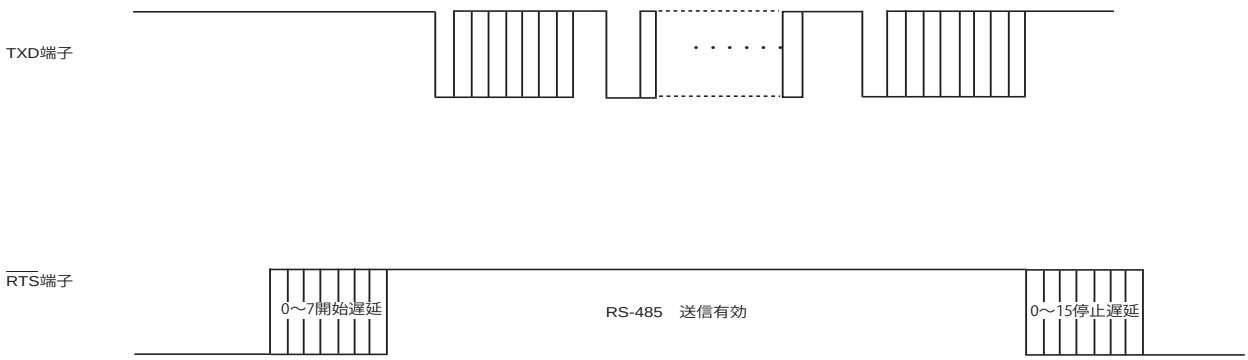


図 28.22　RS-485 SCIFn 送信モード関連の信号波形

28.5　SCIF 割り込み要因とDMAC

SCIF はチャネルごとに、送信 FIFO データエンプティ割り込み（TXI）要求、受信エラー割り込み（ERI）要求、受信FIFO データフル割り込み（RXI）要求、ブレーク割り込み（BRI）要求の4 種類の割り込み要因を持っています。

表28.7 に各割り込み要因と優先順位を示します。各割り込み要因は、SCSCR のTIE、RIE、REIE ビットで、許可又は禁止ができます。また、各割り込み要求はそれぞれ独立に割り込みコントローラに送られます。

TIE ビットにより TXI が許可されている場合、SCFSR のTDFE フラグが1 にセットされると、TXI 割り込み要求と送信FIFO データエンプティ DMA転送要求が発生します。TIE ビットにより TXI が禁止されている場合、TDFE フラグが1 にセットされると、送信FIFO データエンプティ DMA 転送要求のみが発生します。送信 FIFO データエンプティ DMA 転送要求で、DMAC を起動してデータ転送を行うことができます。

RIE ビットにより RXI が許可されている場合、SCFSR のRDF フラグ又はDR フラグが1 にセットされると、RXI 割り込み要求と受信FIFO データフルDMA 転送要求が発生します。RIE ビットにより RXI が禁止されている場合、RDF フラグ又はDR フラグが1 にセットされると、受信FIFO データフルDMA 転送要求のみが発生します。受信 FIFO データフル DMA 転送要求で、DMAC を起動してデータ転送を行うことができます。なお、DR フラグが1 にセットされたことによるRXI 割り込み又は受信FIFO データフルDMA 転送要求は、調歩同期モード時のみ発生します。

SCFSR のBRK フラグ又はSCLSR のORER フラグが1 にセットされると、BRI 割り込み要求が発生します。DMAC を使って送受信を行う場合は、先にDMAC を設定し、イネーブル状態にしてからSCIF の設定を行ってください。また、割り込みコントローラへRXI、TXI 割り込み要求を出さない設定にしてください。割り込み要求を出す設定にした場合、割り込みコントローラへの割り込み要求は割り込み処理プログラムとは無関係にDMAC によってクリアされます。

SCSCR のRIE ビットを0 に設定し、REIE ビットを1 に設定すると、RXI 割り込み要求を出さずにERI 割り込み要求だけを出すことができます。

表28.7　SCIF 割り込み要因

割り込み要因	内 容	DMAC の起動	リセット解除時の優先順位
ERI	受信エラー（ER）による割り込み	不可	高
RXI	受信FIFO データフル（RDF）又は受信データレディ（DR）（注）による割り込み	可	↑
BRI	ブレーク（BRK）又はオーバランエラー（ORER）による割り込み	不可	
TXI	送信FIFO データエンプティ（TDFE）による割り込み	可	低

注.　DR によるRXI 割り込みは、調歩同期モード時のみ可能です。

28.6　使用上の注意事項

SCIF を使用する際は、以下のことに注意してください。

(1)　SCFTDR への書き込みと TDFE フラグについて

SCFSR の TDFE フラグは SCFTDR 内に書き込んだ送信データ数が、SCFCR の TTRG1、0 ビットで設定した送信トリガ数以下になったときセットされます。TDFE がセットされた後、SCFTDR の空きデータ数まで送信データを書き込むことができ、効率よい連続送信が可能となります。

しかし TDFE フラグは SCFTDR に書き込まれているデータ数が送信トリガ数以下の場合には、1 を読み出し後、0 にしても再び 1 にセットされます。TDFE のクリアは送信トリガ数より多い送信データが SCFTDR に格納されたときに行ってください。

SCFTDR 内の送信データ数は SCFDR で知ることができます。

(2)　SCFRDR の読み出しと RDF フラグについて

SCFSR の RDF フラグは、SCFRDR 内の受信データ数が SCFCR の RTRG1、0 ビットで設定した受信トリガ数以上になったときセットします。RDF がセットされた後、SCFRDR からトリガ数分の受信データを読み出すことで効率のよい連続受信が可能です。

ただし、読み出し後も SCFRDR 内のデータ数がトリガ数以上の場合、RDF フラグを 0 にしても再び 1 にセットされますので、SCFRDR 内のデータ数がトリガ数より少なくなるように受信データを読み出した後、RDF フラグの 1 を読み出し 0 にクリアしてください。

SCFRDR 内の受信データ数は SCFDR で知ることができます。

(3)　ブレークの検出と処理について

フレーミングエラー（FER）検出時に RXD 端子の値を直接読み出すことによっても、ブレークを検出できます。

ブレークでは、RXD 端子からの入力がすべて 0 になりますので、FER フラグがセットされ、またパリティエラー（PER）もセットされる場合があります。

SCIF は、ブレークを検出すると SCFRDR への受信データの転送は停止しますが、受信動作は続けています。

(4)　ブレークの送り出し

TXD 端子は、SCSPTR の SPB2IO、SPB2DT ビットで入出力条件とレベルを決めることができます。これを使ってブレークの送り出しができます。

シリアル送信の初期化から TE ビットを 1 にセット（送信可能）するまでは、TXD 端子として機能しません。この間は、マーク状態は SPB2DT ビットの値で代替されます。このため、最初は SPB2IO と SPB2DT ビットを 1 に設定（出力、H レベル）しておきます。

シリアル送信時にブレークを送り出したいときは SPB2DT ビットを 0（L レベル）にした後、TE ビットを 0 にクリア（送信停止）します。TE ビットを 0 にすると現在の送信状態とは無関係に送信部は初期化され、TXD 端子からは 0 が出力されます。

(5)　調歩同期式モードの受信データサンプリングタイミングと受信マージン

調歩同期式モードでは、SCIF は転送レートの 16 倍を周波数とする基本クロックで動作しています。

受信時に SCIF は、スタートビットの立ち下がりを基本クロックでサンプリングして、内部を同期化します。また、受信データを基本クロックの 8 クロック目の立ち上がりエッジで内部に取り込みます。

これを図 28.24 に示します。

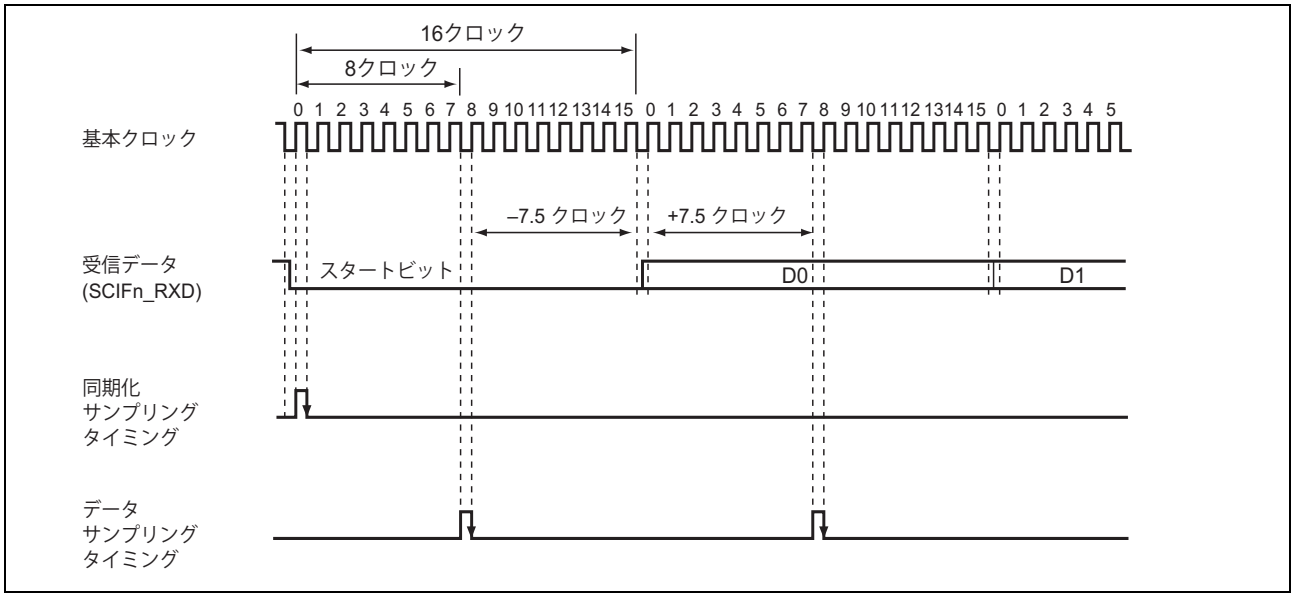


図 28.23　調歩同期式の受信データサンプリングタイミング

したがって、調歩同期式モードでの受信マージンは式（1）のように表すことができます。

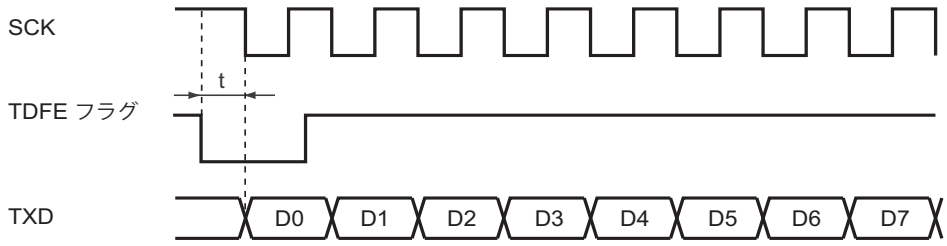
$$M = \left| (0.5 - \frac{1}{2N}) - (L - 0.5)F - \frac{|D - 0.5|}{N}(1 + F) \right| \times 100\ \% \quad \text{.....(1)}$$

M:受信マージン（%）
N:クロックに対するビットレートの比（N＝16）
D:クロックデューティ（D＝0～1.0）
L:フレーム長（L＝9～12）
F:クロック周波数の偏差の絶対値
式（1）で、F＝0、D＝0.5 とすると、受信マージンは式（2）より 46.875%となります。
D ＝0.5、F＝0 のとき
$M = (0.5 - 1 / (2 \times 16)) \times 100\% = 46.875\%$ .....式(2)

ただし、この値はあくまでも計算上の値ですので、システム設計の際には20～30%の余裕を持たせてください。

(6) クロック同期式モードでDMAC によりSCFTDR を更新する場合の注意事項

クロック同期式モードにおいてSCK 端子入力を使用する場合、DMAC によるSCFTDR の更新後、周辺クロック（Pck）で5 サイクル以上経過した後にSCK 端子にクロックを入力してください。SCFTDR の更新後4 サイクル以内に送信クロックを入力すると誤動作することがあります（図28.25）。



（注）　外部クロックで動作させるときは、t>4に設定してください。

図 28.24　DMAC による同期クロック転送例

28.7　実装上の注意事項

28.7.1　TXDのデフォルト 出力値

(1)　設定

両SCIF （本LSIとターゲットデバイス）を初期化する前に、まずSCSPTR レジスタのSPB2IOビットとSPB2DTビットを1に設定してください。図28.26に示すフローチャート例を使用してください。

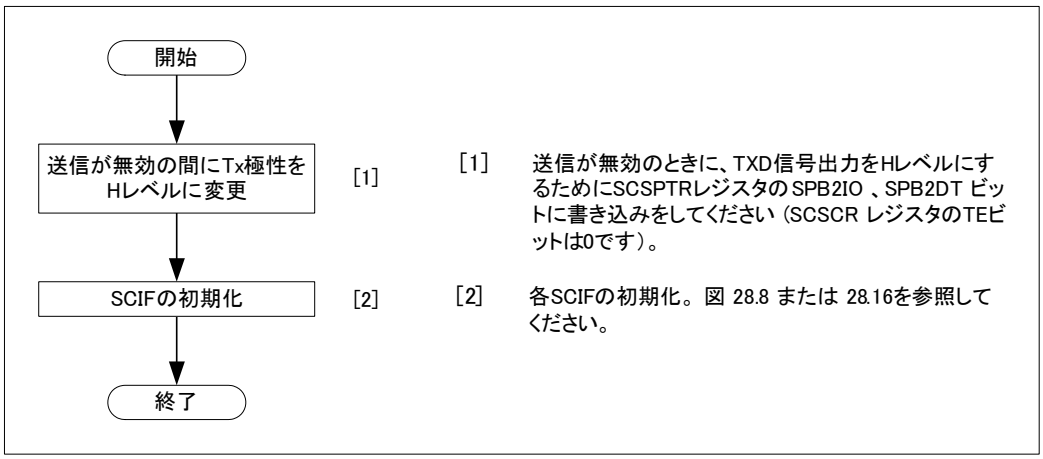


図 28.25　初期化フローチャートの例

(2)　概略

デフォルト設定では、SCIF2、3、4の外部TXD端子は ハイインピーダンスになり、内部TXD信号はLレベルになります （内部信号はSerMUXモードを設定することでSCIF0/1に接続できます。例については 図29.5を参照してください。)。ターゲットデバイスがこれを受け取った場合は、L レベルはSCIF データフォーマットで「データ送信開始（START）」を意味するため、データキャプチャを開始する可能性があります。したがって、まずSCIF2、3、4の TXD極性をH レベルに変更してください。

29. シリアルコミュニケーションインタフェース端子マルチプレクス機能 (SERMUX)

シリアルコミュニケーションインタフェース端子マルチプレクス機能(SERMUX)はCOM1、COM2、RACポートに４つのシリアルインタフェースモジュール（SCIF0～SCIF3）のインタフェース端子を割り付ける機能です。端子の割り付けは13のモード（シリアルマルチプレクスモード０～６、８～D）から選択することが出来ます。

パワーオンリセット後、シリアルマルチプレクスモード８が選択されています。このとき、SCIF0はRACポート、SCIF1はCOM2ポートと接続されます。

シリアルマルチプレクス機能は以下の６つのレジスタがあります。

- シリアルマルチプレクスレジスタ 0 （SMR0）
- シリアルマルチプレクスレジスタ 1 (SMR1)
- シリアルマルチプレクスレジスタ 2 (SMR2): SCIF2 モデムステータス
- シリアルマルチプレクスレジスタ 3 (SMR3): SCIF2 モデム制御
- シリアルマルチプレクスレジスタ 4 (SMR4): SCIF3モデムステータス
- シリアルマルチプレクスレジスタ 5 (SMR5): SCIF3モデム制御

なお、SCIF についての詳細は「27. FIFO 内蔵シリアルコミュニケーションインタフェース0、1（SCIF0、SCIF1）」及び「28. FIFO 内蔵シリアルコミュニケーションインタフェース2、3、4（SCIF2、SCIF3、SCIF4）」を参照してください。

29.1　特長

- COM1、COM2、RACポートを内部で接続することが可能
- 13種類のシリアルマルチプレクスモードに対応
- SCIF2及びSCIF3にモデム制御信号($\overline{\text{DTR}}$)の出力制御機能、モデムステータス信号($\overline{\text{DSR}}$、$\overline{\text{DCD}}$、$\overline{\text{RI}}$)のモニタ機能
- SCIF2及びSCIF3のモデムステータス信号で割り込み要求(MIR2、MIR3)を発生させることが可能

29.2　入出力端子

SERMUXの入出力端子構成を表29.1、SCIF0～SCIF3の入出力信号を表29.2に示します。

表29.1　(1) ポート入出力端子

ポート	端子名	入出力	機 能
COM1ポート	COM1-TXD	出力	COM1 ポートの送信データ出力端子
	COM1-RXD	入力	COM1 ポートの受信データ入力端子
	$\overline{\text{COM1-CTS}}$	入力	COM1 ポートの送信許可入力端子
	$\overline{\text{COM1-RTS}}$	出力	COM1 ポートの送信要求出力端子
COM2ポート	COM2-TXD	出力	COM2 ポートの送信データ出力端子
	COM2-RXD	入力	COM2 ポートの受信データ入力端子
	$\overline{\text{COM2-RI}}$	入力	COM2 ポートのリングインジケータ入力端子
	$\overline{\text{COM2-DCD}}$	入力	COM2 ポートのデータキャリア検出入力端子
	$\overline{\text{COM2-DSR}}$	入力	COM2 ポートのデータセットレディ入力端子
	$\overline{\text{COM2-DTR}}$	出力	COM2 ポートのデータターミナルレディ出力端子
	$\overline{\text{COM2-CTS}}$	入力	COM2 ポートの送信許可入力端子
	$\overline{\text{COM2-RTS}}$	出力	COM2 ポートの送信要求出力端子
RACポート	RAC-TXD	入出力	RAC ポートの送信データ入出力端子
	RAC-RXD	入出力	RAC ポートの受信データ入出力端子
	$\overline{\text{RAC-RI}}$	入出力	RAC ポートのリングインジケータ入出力端子
	$\overline{\text{RAC-DCD}}$	入出力	RAC ポートのデータキャリア検出入出力端子
	$\overline{\text{RAC-DSR}}$	入出力	RAC ポートのデータセットレディ入出力端子
	$\overline{\text{RAC-DTR}}$	入出力	RAC ポートのデータターミナルレディ入出力端子
	$\overline{\text{RAC-CTS}}$	入出力	RAC ポートの送信許可入出力端子
	$\overline{\text{RAC-RTS}}$	入出力	RAC ポートの送信要求入出力端子
SCIF2ポート	TXD2	出力	SCIF2 ポートの送信データ出力端子
	RXD2	入力	SCIF2 ポートの受信データ入力端子
	$\overline{\text{CTS2}}$	入力	SCIF2ポートの送信許可入力端子
	$\overline{\text{RTS2}}$	出力	SCIF2 ポートの送信要求出力端子
SCIF3ポート	TXD3	出力	SCIF3 ポートの送信データ出力端子
	RXD3	入力	SCIF3 ポートの受信データ入力端子
	$\overline{\text{CTS3}}$	入力	SCIF3ポートの送信許可入力端子
	$\overline{\text{RTS3}}$	出力	SCIF3ポートの送信要求出力端子

表29.2　(2) 内部デバイス入出力信号

ポート	端子名	入出力	機 能
SCIF0ポート	SCIF0-TXD	入力	SCIF0ポートの送信データ入力信号
	SCIF0-RXD	出力	SCIF0 ポートの受信データ出力信号
	$\overline{\text{SCIF0-RI}}$	出力	SCIF0 ポートのリングインジケータ出力信号
	$\overline{\text{SCIF0-DCD}}$	出力	SCIF0 ポートのデータキャリア検出出力信号
	$\overline{\text{SCIF0-DSR}}$	出力	SCIF0 ポートのデータセットレディ出力信号
	$\overline{\text{SCIF0-DTR}}$	入力	SCIF0 ポートのデータターミナルレディ入力信号
	$\overline{\text{SCIF0-CTS}}$	出力	SCIF0 ポートの送信許可出力信号
	$\overline{\text{SCIF0-RTS}}$	入力	SCIF0 ポートの送信要求入力信号
SCIF1ポート	SCIF1-TXD	入力	SCIF1 ポートの送信データ入力信号
	SCIF1-RXD	出力	SCIF1ポートの受信データ出力信号
	$\overline{\text{SCIF1-RI}}$	出力	SCIF1 ポートのリングインジケータ出力信号
	$\overline{\text{SCIF1-DCD}}$	出力	SCIF1 ポートのデータキャリア検出出力信号
	$\overline{\text{SCIF1-DSR}}$	出力	SCIF1 ポートのデータセットレディ出力信号
	$\overline{\text{SCIF1-DTR}}$	入力	SCIF1 ポートのデータターミナルレディ入力信号
	$\overline{\text{SCIF1-CTS}}$	出力	SCIF1 ポートの送信許可出力信号
	$\overline{\text{SCIF1-RTS}}$	入力	SCIF1 ポートの送信要求入力信号
SCIF2 ポート	SCIF2-TXD	入力	SCIF2 ポートの送信データ入力信号
	SCIF2-RXD	出力	SCIF2 ポートの受信データ出力信号
	$\overline{\text{SCIF2-CTS}}$	出力	SCIF2ポートの送信許可出力信号
	$\overline{\text{SCIF2-RTS}}$	入力	SCIF2 ポートの送信要求入力信号
SCIF3ポート	SCIF3-TXD	入力	SCIF3 ポートの送信データ入力信号
	SCIF3-RXD	出力	SCIF3ポートの受信データ出力信号
	$\overline{\text{SCIF3-CTS}}$	出力	SCIF3ポートの送信許可出力信号
	$\overline{\text{SCIF3-RTS}}$	入力	SCIF3 ポートの送信要求入力信号

29.3　レジスタの説明

表29.3にSERMUXのレジスタ構成、及び各リセット時のレジスタの状態を示します。

指定されたビット幅でレジスタにアクセスしてください。指定されたビット幅以外のサイズでレジスタにアクセスした場合、動作は保証できません。

表29.3　レジスタ構成

名称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態	
					パワーオンリセット	マニュアルリセット
シリアルマルチプレクスレジスタ 0	SMR0	R/W	H'FE47 0000	8	H'30	保持
シリアルマルチプレクスレジスタ 1	SMR1	R	H'FE47 0001	8	H'0X	保持
シリアルマルチプレクスレジスタ 2	SMR2	R	H'FE47 0002	8	H'X0	保持
シリアルマルチプレクスレジスタ 3	SMR3	R/W	H'FE47 0003	8	H'00	保持
シリアルマルチプレクスレジスタ 4	SMR4	R	H'FE47 0004	8	H'X0	保持
シリアルマルチプレクスレジスタ 5	SMR5	R/W	H'FE47 0005	8	H'00	保持

29.3.1　シリアルマルチプレクスレジスタ0（SMR0）

SMR0は、シリアルマルチプレクス機能や各モードの制御をするレジスタです。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	MSIE3	MSIE2	MS3	SME	BUSY	MS2	MS1	MS0
初期値:	0	0	1	1	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	MSIE3	0	R/W	SCIF 3 のモデムステータス割り込み有効 0：割り込み無効 1：DDCD3、TERI3、DDSR3、DCTS3による割り込み有効
6	MSIE2	0	R/W	SCIF2 のモデムステータス割り込み有効 0：割り込み無効 1：DDCD2、TERI2、DDSR2、DCTS2による割り込み有効
5	MS3	1	R/W	シリアルマルチプレクスモード選択 3 詳細は本レジスタの MS[2:0] ビットの説明を参照してください。
4	SME	1	R/W	シリアルマルチプレクス機能有効 0：シリアルマルチプレクス機能無効 1：シリアルマルチプレクス機能有効
3	BUSY	0	R	ビジー 端子切り替え制御中であることを示すビットです。本ビットが1の間、SMR0に対する書き込みは無効になります。 0：端子切り替え制御待ち状態 [クリア条件] SMR0への書き込みからPckの２サイクル後 1：端子切り替え制御中 [セット条件] SMR0 への書き込み

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
2 ～ 0	MS[2:0]	0	R/W	シリアルマルチプレクスモード選択 [2:0] MS3、及びMS[2:0] で構成されている MS[3:0] ビットにより、13種類のモードからマルチプレクスモードの端子が 1 つ選択可能です。本ビットによる制御は、SME ビットが 1 のとき有効になります。 MS[3:0]: シリアルマルチプレクスモード選択 0000: シリアルマルチプレクスモード 0に設定 0001: シリアルマルチプレクスモード 1に設定 0010: シリアルマルチプレクスモード 2に設定 0011: シリアルマルチプレクスモード 3に設定 0100: シリアルマルチプレクスモード 4に設定 0101: シリアルマルチプレクスモード5に設定 0110: シリアルマルチプレクスモード 6に設定 0111: 設定禁止 1000: シリアルマルチプレクスモード 8に設定 1001: シリアルマルチプレクスモード 9に設定 1010: シリアルマルチプレクスモード Aに設定 1011: シリアルマルチプレクスモード Bに設定 1100: シリアルマルチプレクスモード Cに設定 1101: シリアルマルチプレクスモード Dに設定 1110 ～ 1111: リザーブ

29.3.2　シリアルマルチプレクスレジスタ1（SMR1）

SMR1 はポートの端子状態をモニタをするレジスタです。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	$\overline{\text{DCD}}$	$\overline{\text{RI}}$	$\overline{\text{DSR}}$	—
初期値:	0	0	0	0	X	X	X	X
R/W:	—	—	—	—	R	R	R	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～ 4	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
3	$\overline{\text{DCD}}$	X	R	$\overline{\text{DCD}}$ 端子モニタ シリアルマルチプレクスモード0、2、5 のとき、$\overline{\text{COM2-DCD}}$ 端子状態をモニタ。
2	$\overline{\text{RI}}$	X	R	$\overline{\text{RI}}$ 端子モニタ シリアルマルチプレクスモード0、2、5 のとき、$\overline{\text{COM2-RI}}$ 端子状態をモニタ。
1	$\overline{\text{DSR}}$	X	R	$\overline{\text{DSR}}$ 端子モニタ シリアルマルチプレクスモード0、2、5 のとき、$\overline{\text{COM2-DSR}}$ 端子状態をモニタ。
0	—	X	—	リザーブビット

29.3.3　シリアルマルチプレクスレジスタ2（SMR2）

SMR2は、SCIF 2のモデムステータスを示すレジスタです。SCIF 2モジュール自身は、モデムステータス入力（DCD、RI、DSR、CTS）に対応していません。本レジスタが、モデムステータス入力のシミュレーション機能を備えています。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	DCD2	RI2	DSR2	CTS2	DDCD2	TERI2	DDSR2	DCTS2
初期値:	X	X	X	X	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	DCD2	X	R	DCD2に入力される信号のモニタビットです。信号レベルに対して、反転した論理値を示します。 0：入力信号がHレベル 1：入力信号がLレベル
6	RI2	X	R	RI2に入力される信号のモニタビットです。信号レベルに対して、反転した論理値を示します。 0：入力信号がHレベル 1：入力信号がLレベル
5	DSR2	X	R	DSR2に入力される信号のモニタビットです。信号レベルに対して、反転した論理値を示します。 0：入力信号がHレベル 1：入力信号がLレベル
4	CTS2	X	R	CTS2に入力される信号のモニタビットです。信号レベルに対して、反転した論理値を示します。 0：入力信号がHレベル 1：入力信号がLレベル
3	DDCD2	0	R	DCD2が0から1（入力信号の立ち下がりエッジ）もしくは1から0（入力信号の立ち上がりエッジ）に変化した時、1になります。MSIE2ビット（SMR0レジスタのビット6）とDDCDE2ビット（SMR3レジスタのビット7）が1の場合、MIR2割り込みが発生します。 このビットは読み出すと0になります。
2	TERI2	0	R	RI2が0から1（入力信号の立ち下がりエッジ）に変化した時、1になります。MSIE2ビット（SMR0レジスタのビット6）とTERIE2ビット（SMR3レジスタのビット6）が1の場合、MIR2割り込みが発生します。 このビットは読み出すと0になります。
1	DDSR2	0	R	DSR2が0から1（入力信号の立ち下がりエッジ）もしくは1から0（入力信号の立ち上がりエッジ）に変化した時、1になります。MSIE2ビット（SMR0レジスタのビット6）とDDSRE2ビット（SMR3レジスタのビット5）が1の場合、MIR2割り込みが発生します。 このビットは読み出すと0になります。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
0	DCTS2	0	R	CTS2が0から1（入力信号の立ち下がりエッジ）もしくは1から0（入力信号の立ち上がりエッジ）に変化した時、1になります。MSIE2ビット（SMR0レジスタのビット6）とDDSRE2ビット（SMR3レジスタのビット5）が1の場合、MIR2割り込みが発生します。 このビットは読み出すと0になります。

29.3.4　シリアルマルチプレクスレジスタ3（SMR3）

SMR3は、SCIF 2のモデム制御を示すレジスタです。SCIF 2モジュール自身は、モデム制御出力(DTR)に対応していません。本レジスタが、モデム制御出力のシミュレーション機能を備えています。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	DDCDE2	TERIE2	DDSRE2	DCTSE2	DO2	RO2	—	DTR2
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	DDCDE2	0	R/W	割り込み有効ビットです。本ビットとMSIE2ビットが共に1の場合、DDCD2ビット（SMR2レジスタのビット3）が1になると、MIR2割り込みが発生します。 0：割り込み無効 1：割り込み有効
6	TERIE2	0	R/W	割り込み有効ビットです。本ビットとMSIE2ビット（SMR0レジスタのビット6）が共に1の場合、TERI2ビット（SMR2レジスタのビット2）ビットが1になると、MIR2割り込みが発生します。 0：割り込み無効 1：割り込み有効
5	DDSRE2	0	R/W	割り込み有効ビットです。本ビットとMSIE2ビット（SMR0レジスタのビット6）が共に1の場合、DDSR2ビット（SMR2レジスタのビット1）が1になると、MIR2割り込みが発生します。 0：割り込み無効 1：割り込み有効
4	DCTSE2	0	R/W	割り込み有効ビットです。本ビットとMSIE2ビット（SMR0レジスタのビット6）が共に1の場合、DCTS2ビット（SMR2レジスタのビット0）が1になると、MIR2割り込みが発生します。 0：割り込み無効 1：割り込み有効
3	DO2	0	R/W	DO2で設定した値に応じて、信号を出力します。反転した論理値で値を設定します。 0：Hレベルを出力 1：Lレベルを出力

2	RO2	0	R/W	RO2で設定した値に応じて、信号を出力します。反転した論理値で値を設定します。 0：Hレベルを出力 1：Lレベルを出力
1	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
0	DTR2	0	R/W	DTR2で設定した値に応じて、信号を出力します。反転した論理値で値を設定します。 0：Hレベルを出力 1：Lレベルを出力

29.3.5　シリアルマルチプレクスレジスタ4（SMR4）

SMR4は、SCIF3のモデムステータスを示すレジスタです。SCIF3モジュール自身は、モデムステータス入力（DCD、RI、DSR、CTS）に対応していません。本レジスタが、モデムステータス入力のシミュレーション機能を備えています。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	DCD3	RI3	DSR3	CTS3	DDCD3	TERI3	DDSR3	DCTS3
初期値:	X	X	X	X	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	DCD3	X	R	DCD3に入力される信号のモニタビットです。信号レベルに対して、反転した論理値を示します。 0：入力信号がHレベル 1：入力信号がLレベル
6	RI3	X	R	RI3に入力される信号のモニタビットです。信号レベルに対して、反転した論理値を示します。 0：入力信号がHレベル 1：入力信号がLレベル
5	DSR3	X	R	DSR3に入力される信号のモニタビットです。信号レベルに対して、反転した論理値を示します。 0：入力信号がHレベル 1：入力信号がLレベル
4	CTS3	X	R	CTS3に入力される信号のモニタビットです。信号レベルに対して、反転した論理値を示します。 0：入力信号がHレベル 1：入力信号がLレベル
3	DDCD3	0	R	DCD3が0から1（入力信号の立ち下がりエッジ）もしくは1から0（入力信号の立ち上がりエッジ）に変化した時、1になります。MSIE3ビット（SMR0レジスタのビット7）とDDCDE3ビット（SMR5レジスタのビット7）が1の場合、MIR3割り込みが発生します。 このビットは読み出すと0になります。
2	TERI3	0	R	RI3が0から1（入力信号の立ち下がりエッジ）に変化した時、1になります。MSIE3ビット（SMR0レジスタのビット7）とTERIE3ビット（SMR5レジスタのビット6）が1の場合、MIR3割り込みが発生します。 このビットは読み出すと0になります。
1	DDSR3	0	R	DSR3が0から1（入力信号の立ち下がりエッジ）もしくは1から0（入力信号の立ち上がりエッジ）に変化した時、1になります。MSIE3ビット（SMR0レジスタのビット7）とDDSRE3ビット（SMR5レジスタのビット5）が1の場合、MIR3割り込みが発生します。 このビットは読み出すと0になります。

0	DCTS3	0	R	CTS3が0から1（入力信号の立ち下がりエッジ）もしくは1から0（入力信号の立ち上がりエッジ）に変化した時、1になります。MSIE3ビット（SMR0レジスタのビット7）とDCTSE3ビット（SMR5レジスタのビット4）が1の場合、MIR3割り込みが発生します。 このビットは読み出すと0になります。

29.3.6　シリアルマルチプレクスレジスタ5（SMR5）

SMR3は、SCIF3のモデム制御を示すレジスタです。SCIF3モジュール自身は、モデム制御出力(DTR)に対応していません。本レジスタが、モデム制御出力のシミュレーション機能を備えています。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	DDCDE3	TERIE3	DDSRE3	DCTSE3	DO3	RO3	—	DTR3
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	DDCDE3	0	R/W	割り込み有効ビットです。本ビットとMSIE3ビット（SMR0レジスタのビット7）が共に1の場合、DDCD3ビット（SMR4レジスタのビット3）が1になると、MIR3割り込みが発生します。 0：割り込み無効 1：割り込み有効
6	TERIE3	0	R/W	割り込み有効ビットです。本ビットとMSIE3ビット（SMR0レジスタのビット7）が共に1の場合、TERI3ビット（SMR4レジスタのビット2）が1になると、MIR3割り込みが発生します。 0：割り込み無効 1：割り込み有効
5	DDSRE3	0	R/W	割り込み有効ビットです。本ビットとMSIE3ビット（SMR0レジスタのビット7）が共に1の場合、DDSR3ビット（SMR4レジスタのビット1）が1になると、MIR3割り込みが発生します。 0：割り込み無効 1：割り込み有効
4	DCTSE3	0	R/W	割り込み有効ビットです。本ビットとMSIE3ビット（SMR0レジスタのビット7）が共に1の場合、DCTS3ビット（SMR4レジスタのビット0）が1になると、MIR3割り込みが発生します。 0：割り込み無効 1：割り込み有効
3	DO3	0	R/W	DO3で設定した値に応じて、信号を出力します。反転した論理値で値を設定します。 0：Hレベルを出力 1：Lレベルを出力
2	RO3	0	R/W	RO3で設定した値に応じて、信号を出力します。反転した論理値で値を設定します。 0：Hレベルを出力 1：Lレベルを出力
1	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

0	DTR3	0	R/W	DTR3で設定した値に応じて、信号を出力します。反転した論理値で値を設定します。 0：Hレベルを出力 1：Lレベルを出力

29.4　動作モード

シリアルマルチプレクスモードはSMR0レジスタのMS2～MS0ビットで13種類のモードを選択することが出来ます。モード毎にシリアルインタフェース（SCIF0～SCIF4）とポート(COM1、COM2、RAC、SCIF2、SCIF3)の接続が異なります。

SCIF2、SCIF3はモデム制御信号、及びモデムステータス信号に対応していません。代わりに二つのシミュレーション機能があります。

- モデム制御信号出力機能
  シリアルインタフェース又はポートとSMR3、SMR5レジスタのDTRi、DOi、ROiビット（i=2、3）が接続される場合、モデム制御信号の代わりに出力信号を制御することができます。

- モデムステータス信号モニタ機能
  シリアルインタフェースもしくはポートとSMR2、SMR4レジスタのDCDj、RIj、DSRj、CTSjビット（j=2、3）が接続される場合、モデムステータス信号（$\overline{\text{DSR}}$、$\overline{\text{DCD}}$、$\overline{\text{RI}}$）をモニタすることができます。シリアルインタフェース端子もしくはポートとSMR1、SMR2、SMR4レジスタのモニタビットが接続されない場合、モニタビットは0になります。

COM2ポートの$\overline{\text{COM2-TXD}}$とSCIF2のSCK2、COM2ポートの$\overline{\text{COM2-DCD}}$とSCIF3のSCK3、COM2ポートの$\overline{\text{COM2-DSR}}$とSCIF4のSCK4は端子を兼用しています。COM2ポートを使用する場合、SCIF2、SCIF3、SCIF4はクロック同期式シリアル通信モードを使用することができません。

シリアルマルチプレクスモード１、３、６とシリアルマルチプレクスモード無効時、SCIF2のCTS2とRTS2は端子と接続されますがTXD2とRXD2は端子と接続されませんので、SCIF2を使用することはできません。

29.4.1～29.4.14にシリアルマルチプレクスモード0～6、8～Dの端子接続とシリアルマルチプレクスモード無効時の端子接続を示します。

29.4.1　シリアルマルチプレクスモード0

図29.1にシリアルマルチプレクスモード0の端子接続を示します。このモードではSCIF0をCOM1ポート、SCIF2をSCIF2ポート、SCIF3をCOM2ポートに接続します。SCIF1はポートに接続されませんので使用できません。SCIF3ポートとRACポートはシリアルインタフェースと接続しません。

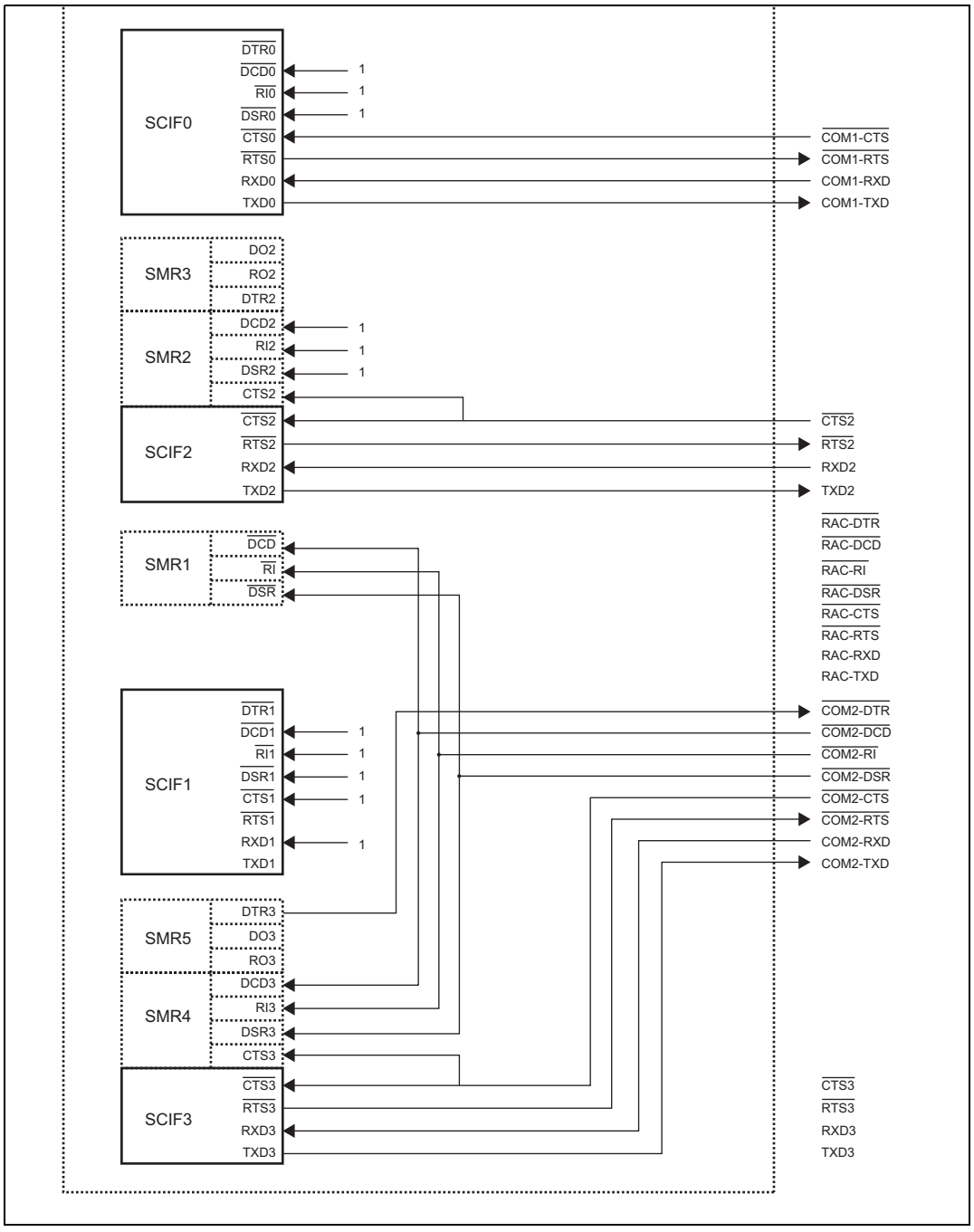


図 29.1　シリアルマルチプレクスモード0 時の端子接続

29.4.2　シリアルマルチプレクスモード1

図29.2にシリアルマルチプレクスモード1の端子接続を示します。このモードではSCIF0をCOM1ポート、SCIF3をSCIF3ポートに接続します。SCIF1とSCIF2はポートに接続されませんので使用できません。COMポートとRACポートを接続します。SCIF2ポートはシリアルインタフェースと接続しません。

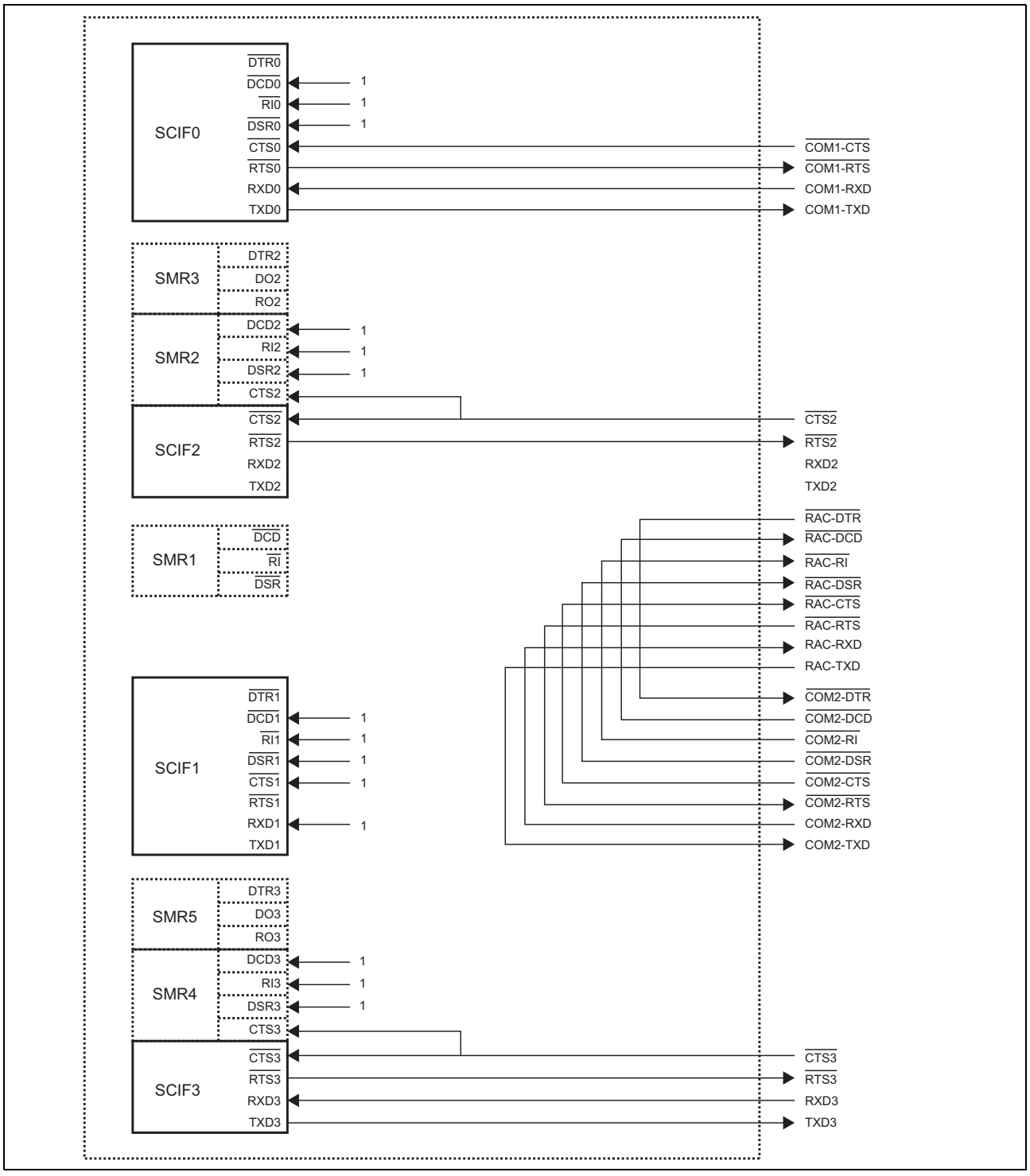


図 29.2　シリアルマルチプレクスモード1 時の端子接続

29.4.3　シリアルマルチプレクスモード2

図29.3にシリアルマルチプレクスモード2の端子接続を示します。このモードではSCIF0をCOM1ポート、SCIF1をCOM2ポート、SCIF2をSCIF2ポートに接続します。SCIF3はCOM2の入力ポートに接続します。SCIF3ポートとRACポートはシリアルインタフェースと接続しません。

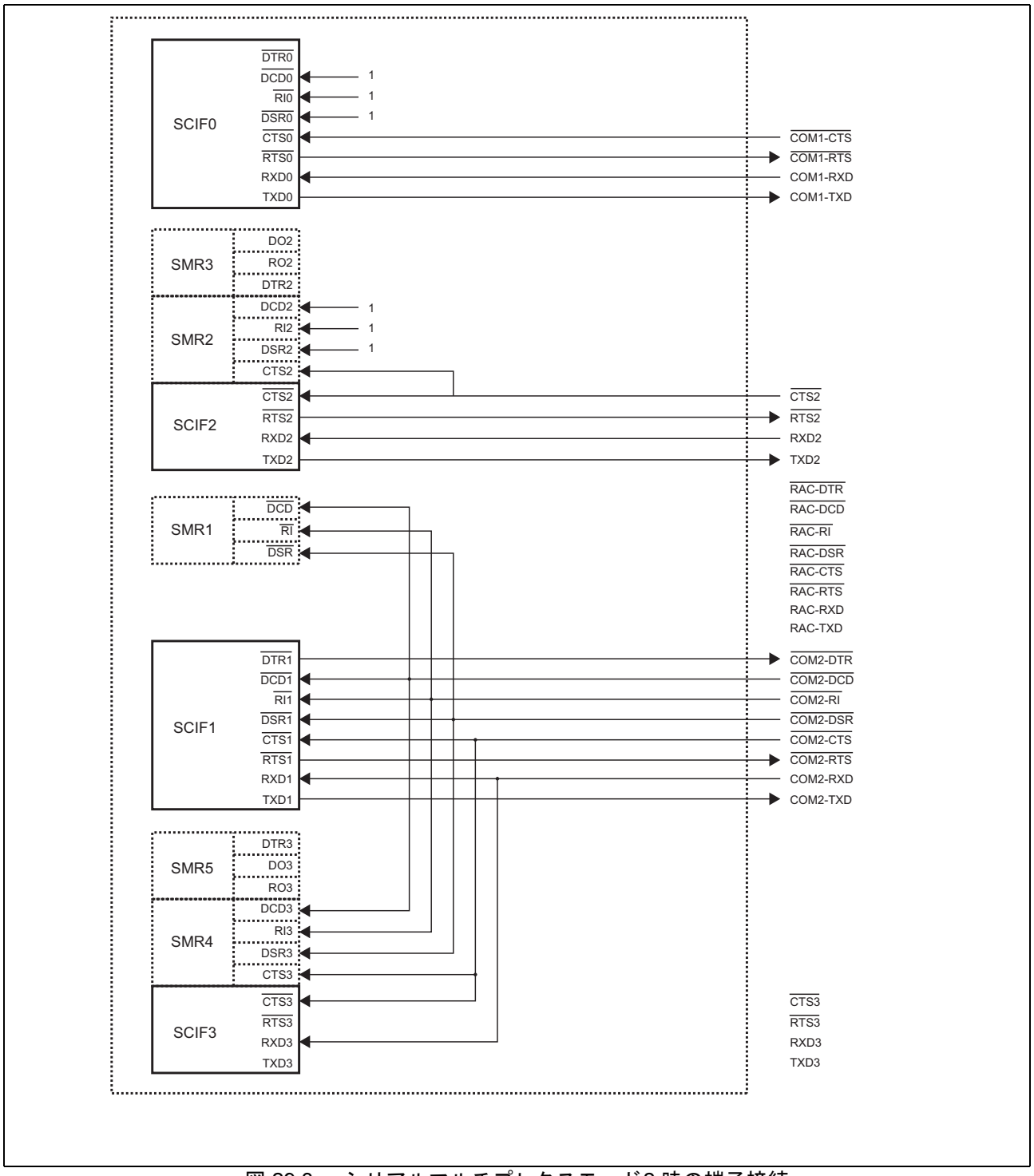


図 29.3　シリアルマルチプレクスモード2 時の端子接続

29.4.4　シリアルマルチプレクスモード 3

図29.4にシリアルマルチプレクスモード3の端子接続を示します。このモードではSCIF0をCOM1ポート、SCIF1をCOM2ポート、SCIF3をSCIF3ポートに接続します。SCIF2はポートに接続されませんので使用できません。RACポートはCOM2の入力ポートと接続します。SCIF2ポートはシリアルインタフェースと接続しません。

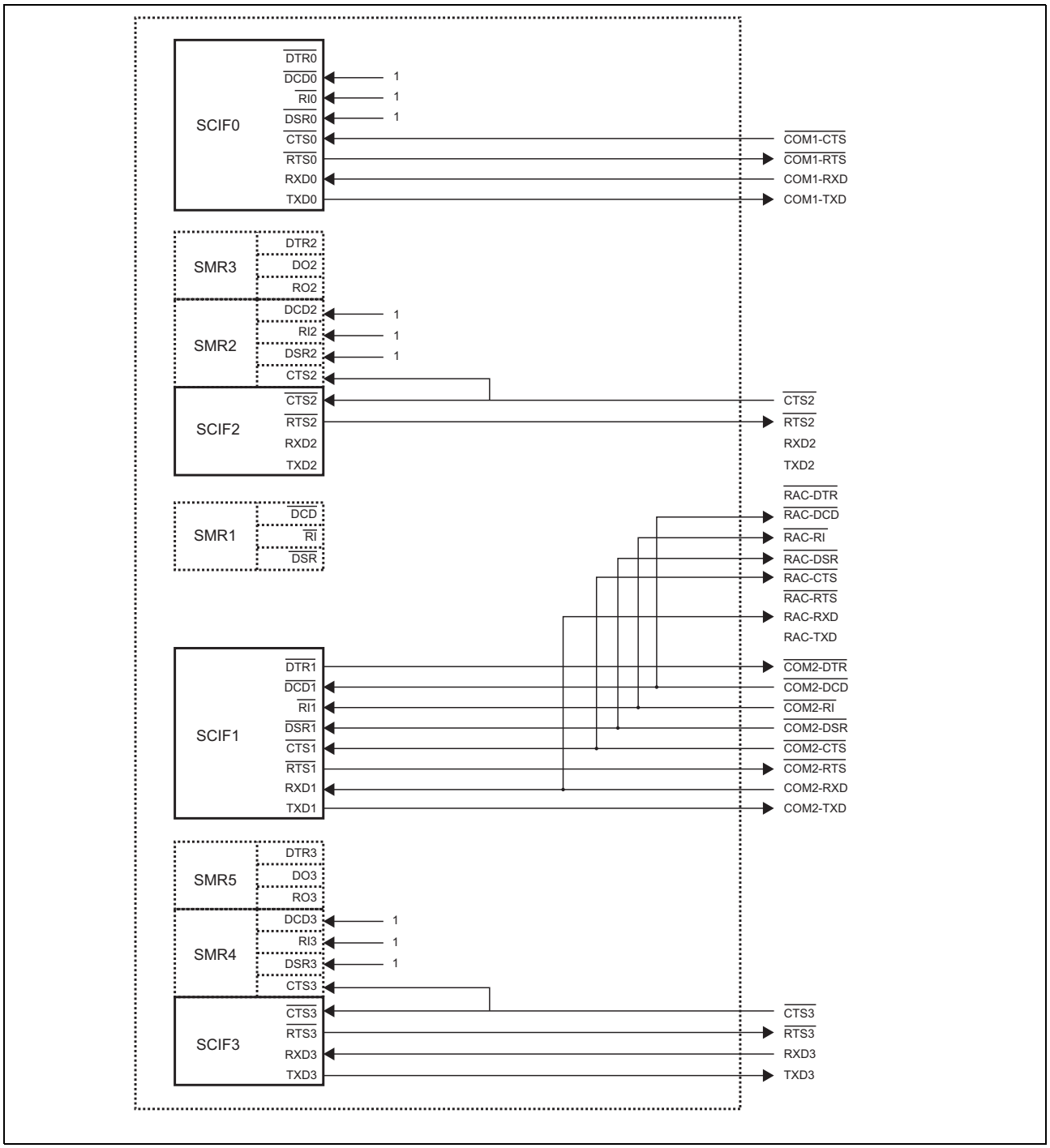


図 29.4　シリアルマルチプレクスモード3 時の端子接続

29.4.5　シリアルマルチプレクスモード 4

図29.5にシリアルマルチプレクスモード4の端子接続を示します。このモードではSCIF0をCOM2ポート、SCIF2をSCIF2ポートに接続します。SCIF1とSCIF3を内部接続し、ポートと接続しません。COM1ポート、RACポート、SCIF3ポートはシリアルインタフェースと接続しません。

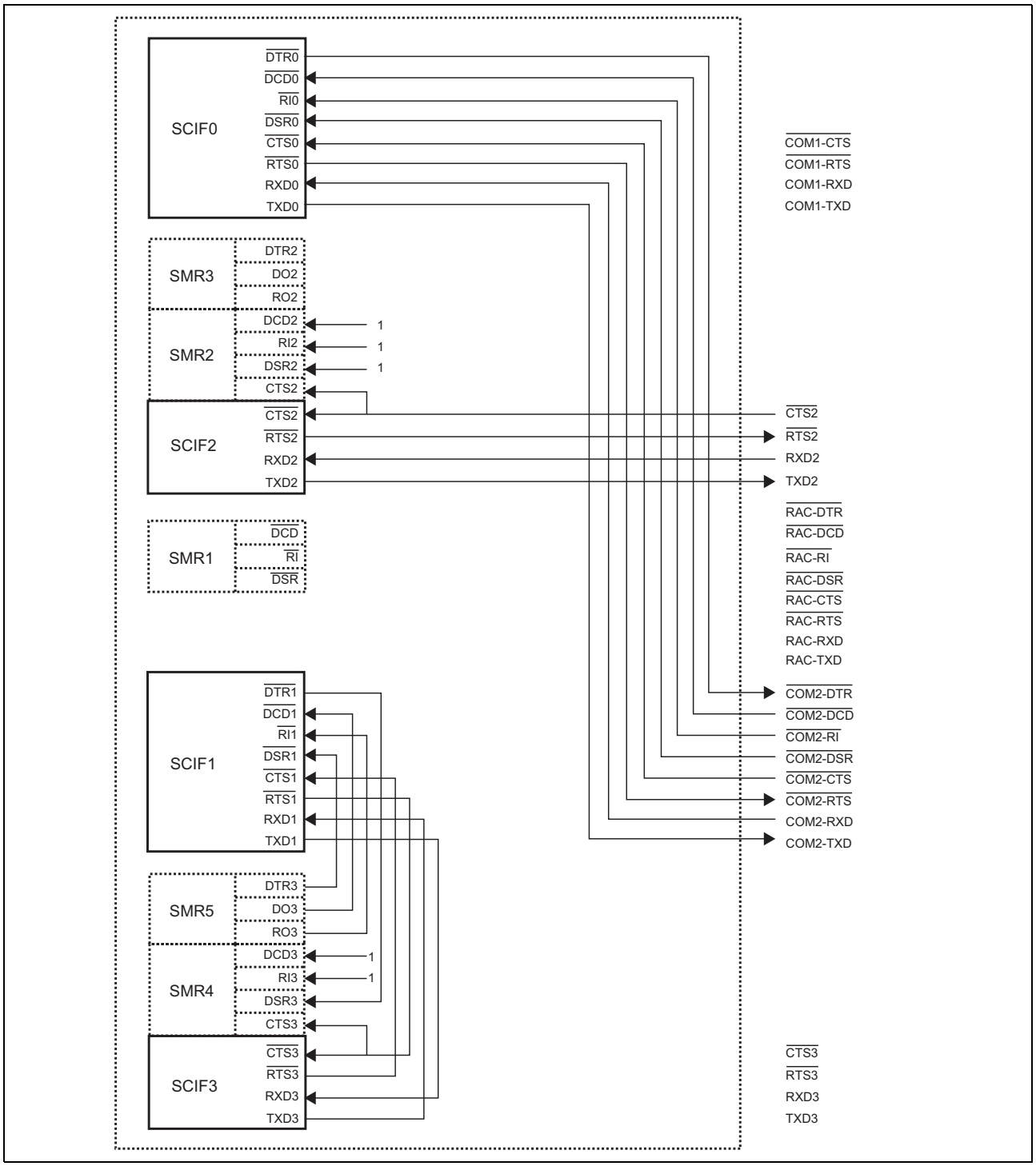


図 29.5　シリアルマルチプレクスモード4時の端子接続

29.4.6　シリアルマルチプレクスモード 5

図29.6にシリアルマルチプレクスモード5の端子接続を示します。このモードではSCIF0をRACポート、SCIF2をCOM2ポートに接続します。SCIF1とSCIF3を内部接続し、ポートと接続しません。COM1ポート、SCIF2ポート、SCIF3ポートはシリアルインタフェースと接続しません。

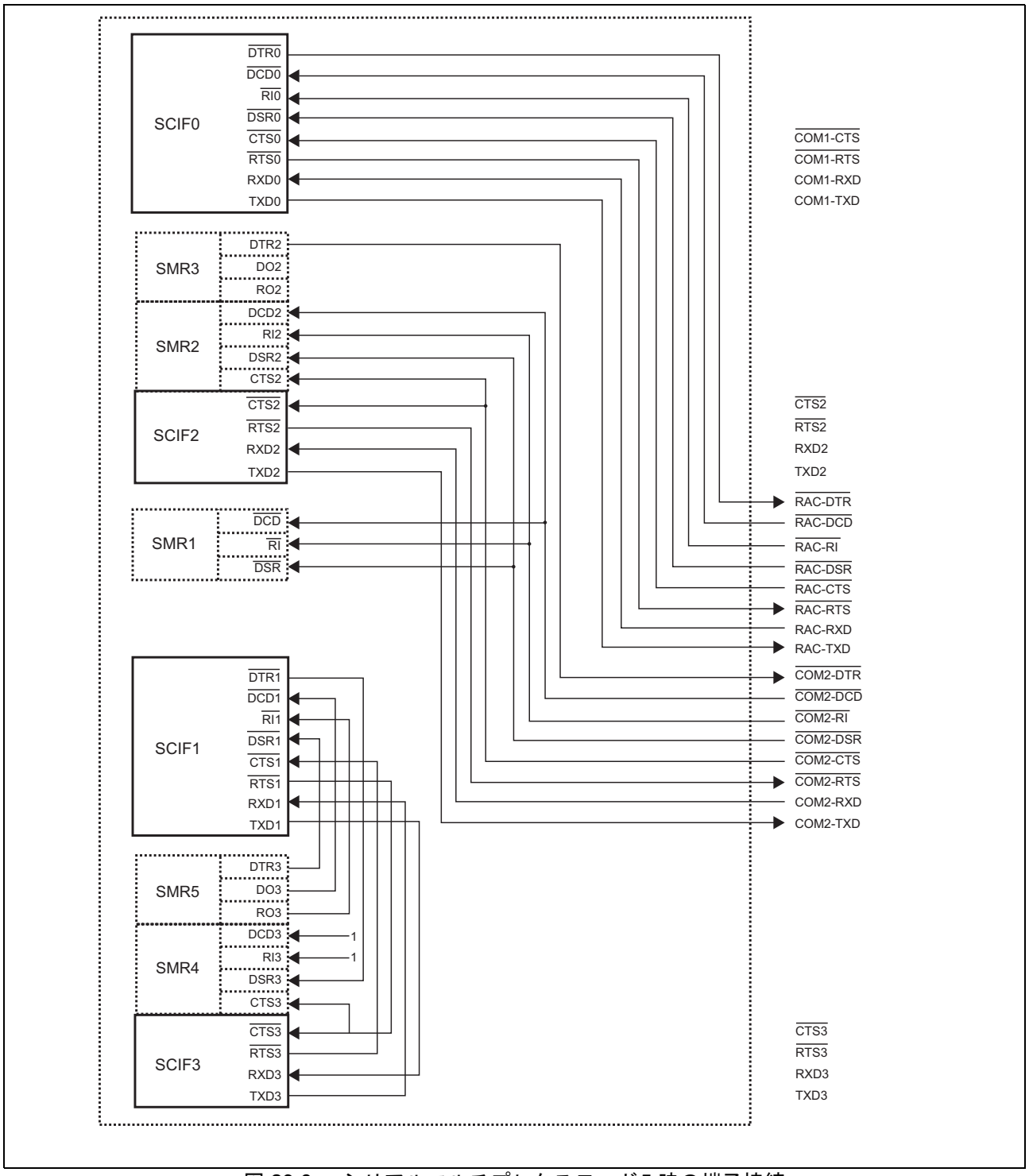


図 29.6　シリアルマルチプレクスモード5 時の端子接続

29.4.7　シリアルマルチプレクスモード 6

図29.7にシリアルマルチプレクスモード6の端子接続を示します。このモードではSCIF0をCOM2ポート、SCIF1をRACポート、SCIF3をSCIF3ポートに接続します。SCIF2はポートに接続されませんので使用できません。COM1ポート、SCIF2ポートはシリアルインタフェースと接続しません。

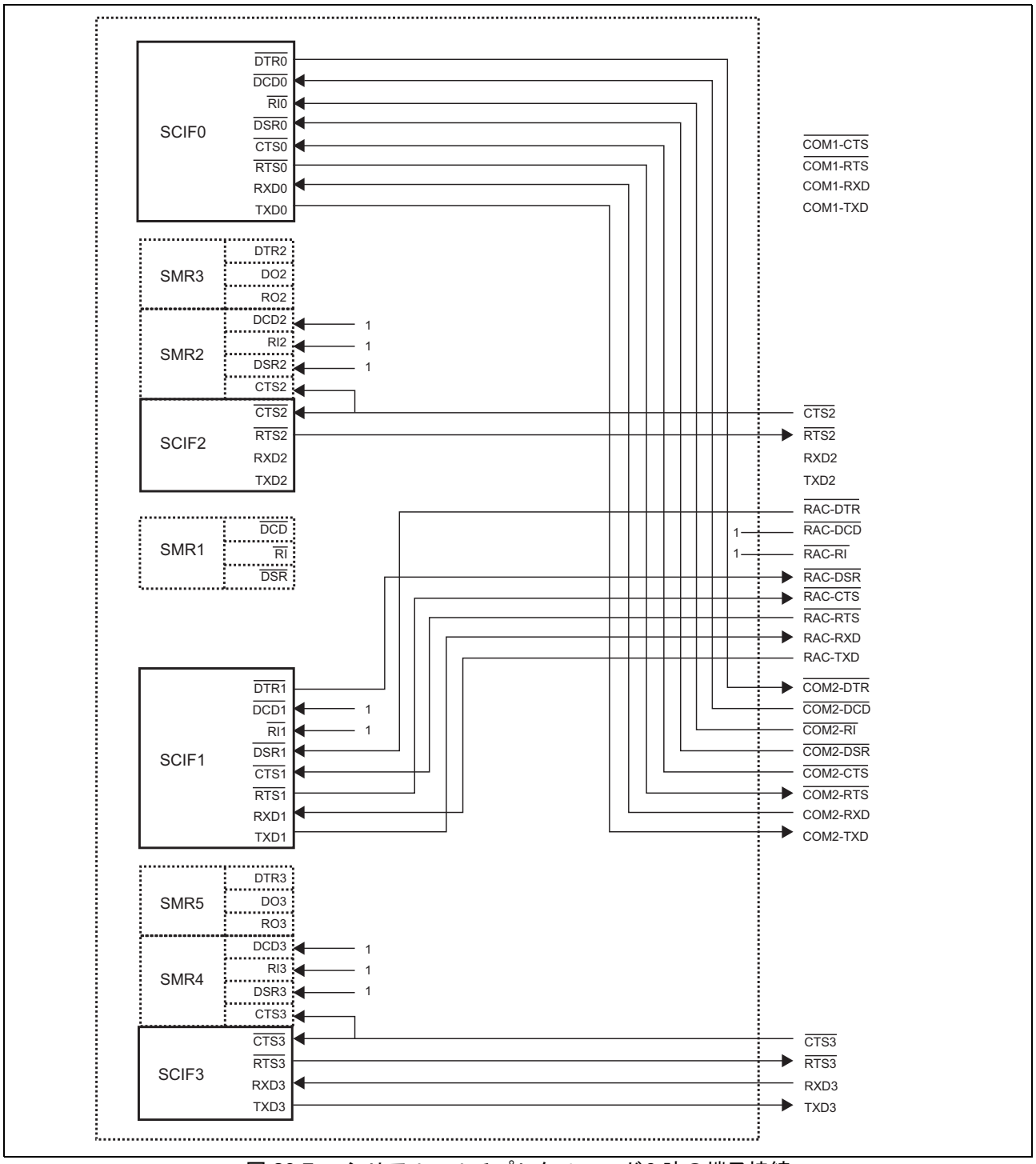


図 29.7　シリアルマルチプレクスモード6 時の端子接続

29.4.8　シリアルマルチプレクスモード 8

図29.8にシリアルマルチプレクスモード8の端子接続を示します。このモードではSCIF0をRACポート、SCIF1をCOM2ポート、SCIF2をRACの入力ポート、SCIF3をCOM2の入力ポートに接続します。COM1ポート、SCIF2ポート、SCIF3ポートはシリアルインタフェースと接続しません。

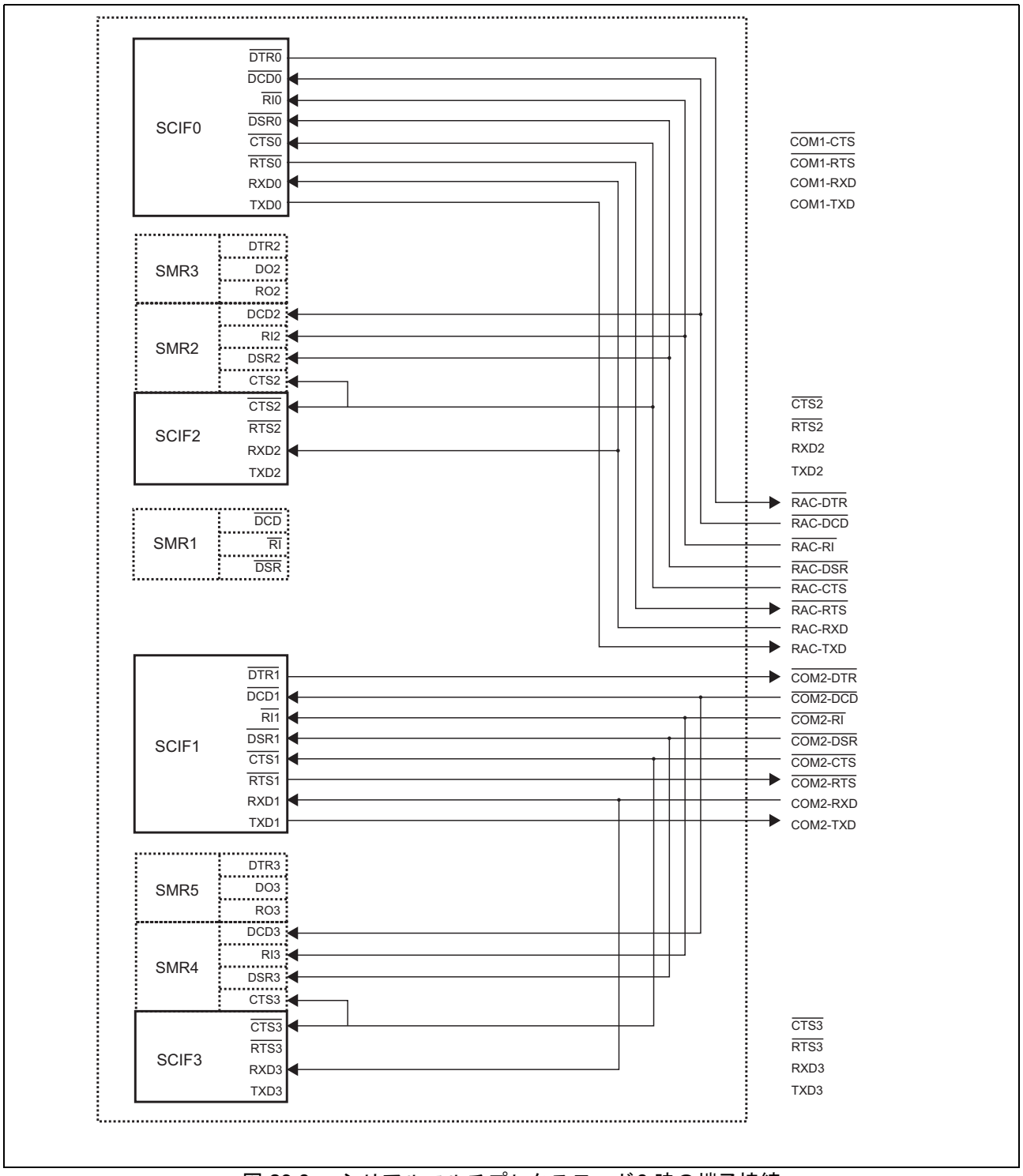


図 29.8　シリアルマルチプレクスモード8 時の端子接続

29.4.9　シリアルマルチプレクスモード 9

図29.9にシリアルマルチプレクスモード9の端子接続を示します。このモードではSCIF0をRACポート、SCIF2をRACの入力ポートに接続します。SCIF1とSCIF3を内部接続し、ポートと接続しません。COM1ポート、COM2ポート、SCIF2ポート、SCIF3ポートはシリアルインタフェースと接続しません。

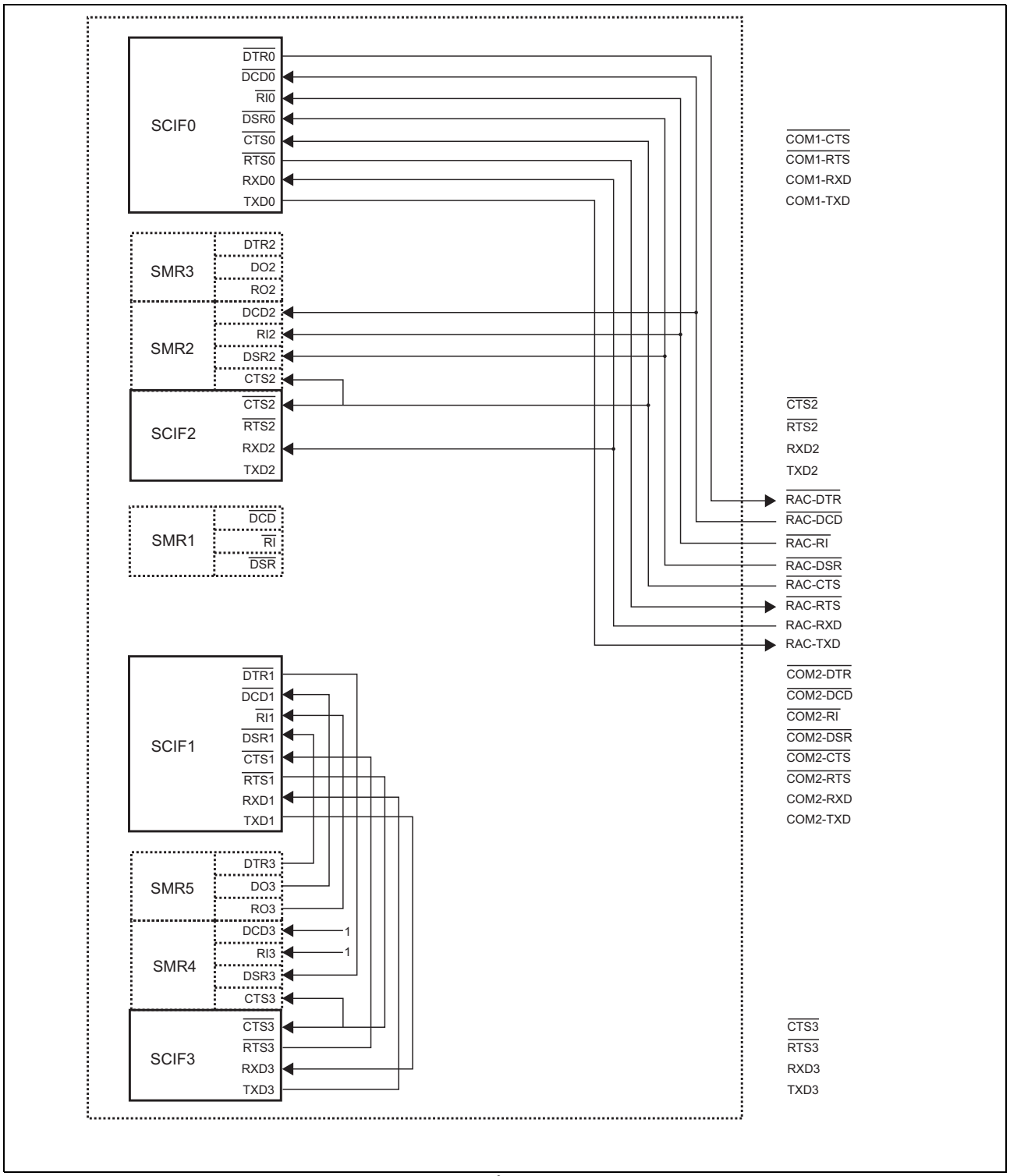


図 29.9　シリアルマルチプレクスモード9 時の端子接続

29.4.10 シリアルマルチプレクスモード A

図 29.10 にシリアルマルチプレクスモード A の端子接続を示します。このモードでは SCIF1 を COM2 ポート、SCIF2 を RAC ポート、SCIF3 を COM2 の入力ポートに接続します。SCIF0 はポートに接続されませんので使用できません。COM1 ポート、SCIF2 ポート、SCIF3 ポートはシリアルインタフェースと接続しません。

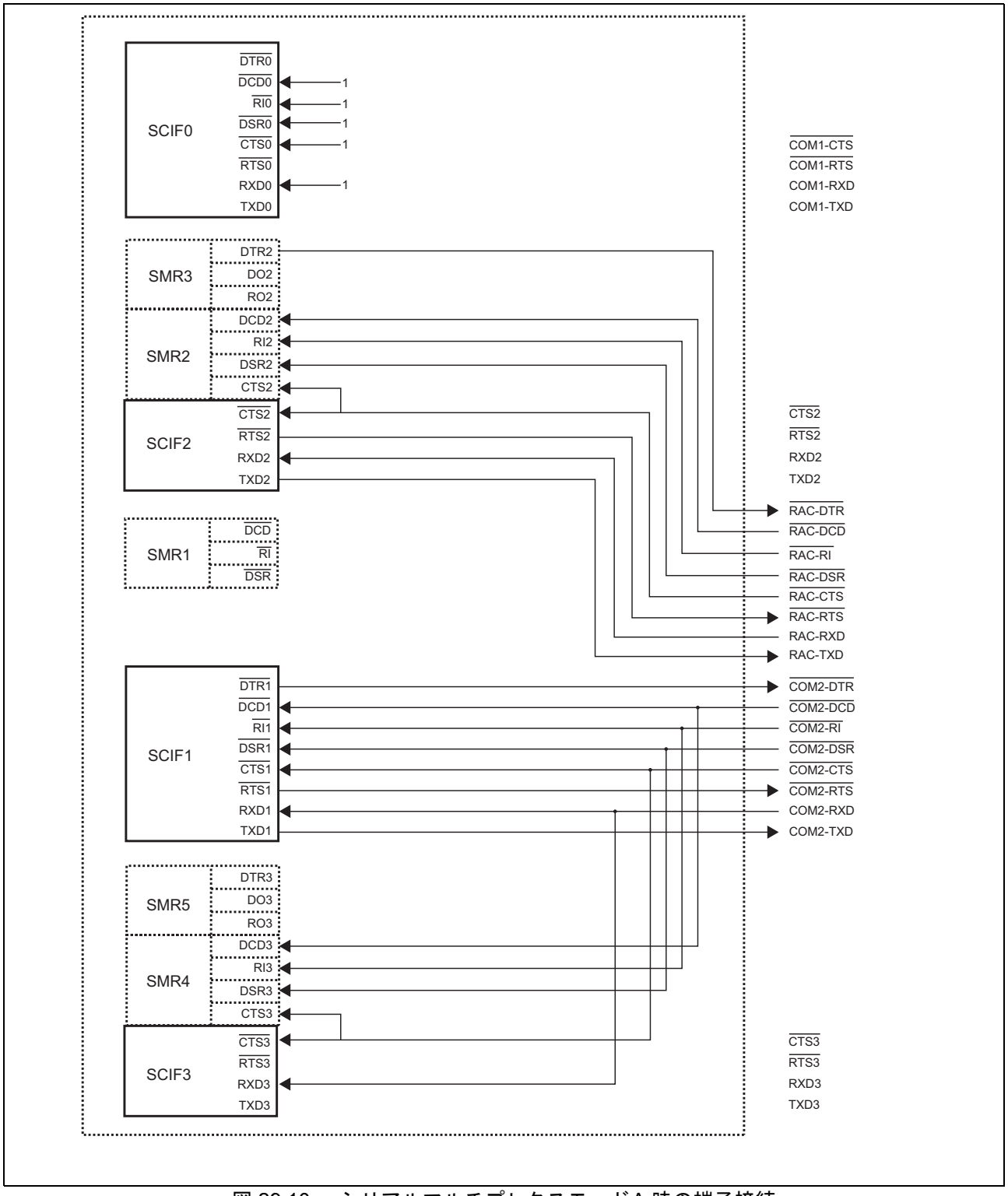


図 29.10　シリアルマルチプレクスモード A 時の端子接続

29.4.11　シリアルマルチプレクスモード B

図29.11にシリアルマルチプレクスモードBの端子接続を示します。このモードではSCIF2をRACポートに接続します。SCIF0はポートに接続されませんので使用できません。SCIF1とSCIF3は内部接続し、ポートと接続しません。COM1 ポート、COM2 ポート、SCIF2 ポート、SCIF3 ポートはシリアルインタフェースと接続しません。

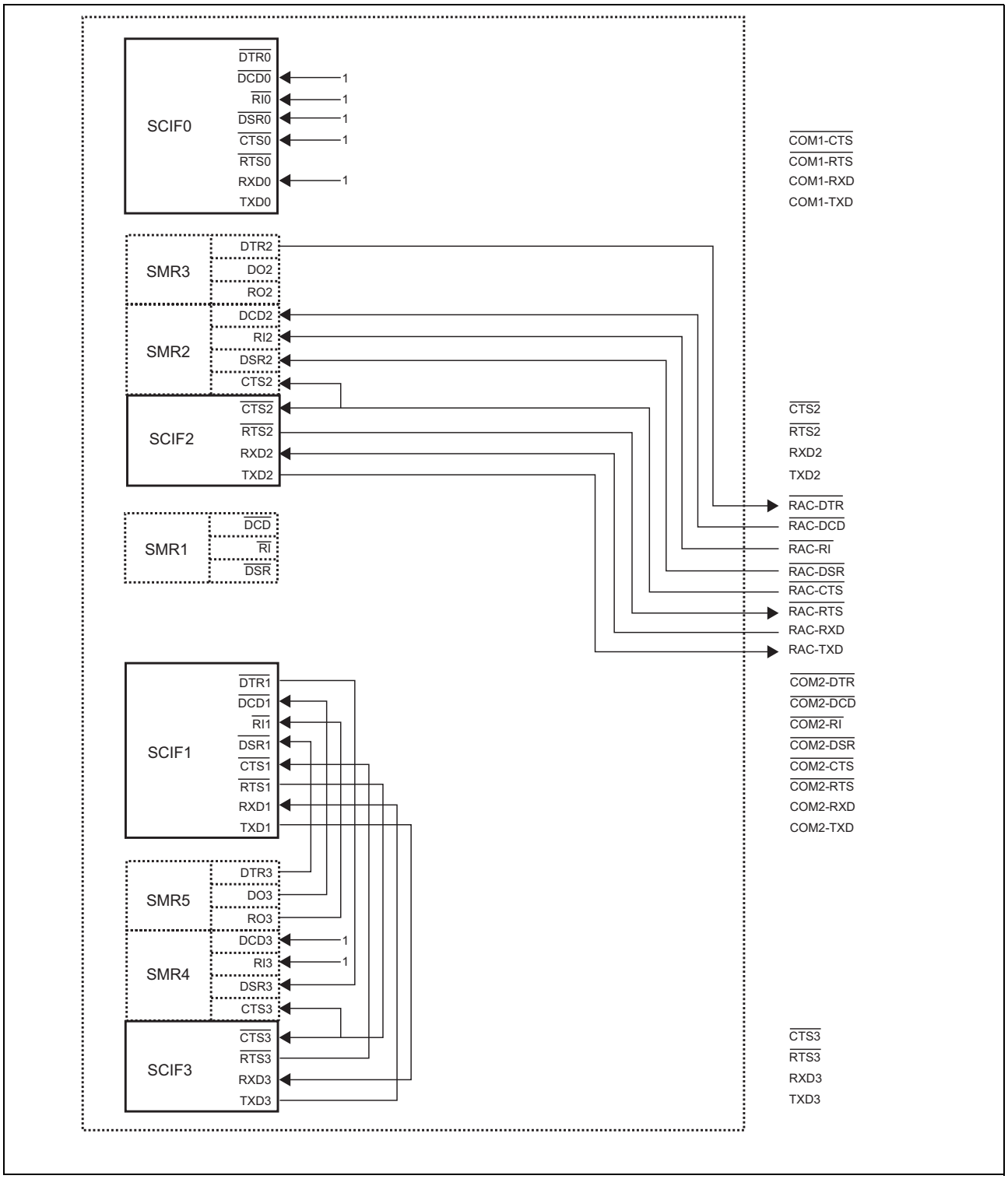


図 29.11　シリアルマルチプレクスモードB 時の端子接続

29.4.12 シリアルマルチプレクスモード C

図 29.12 にシリアルマルチプレクスモード C の端子接続を示します。このモードでは SCIF1 を COM2 ポート、SCIF3 を COM2 の入力ポートに接続します。SCIF0 と SCIF2 を内部接続し、ポートと接続しません。COM1 ポート、RAC ポート、SCIF2 ポート、SCIF3 ポートはシリアルインタフェースと接続しません。

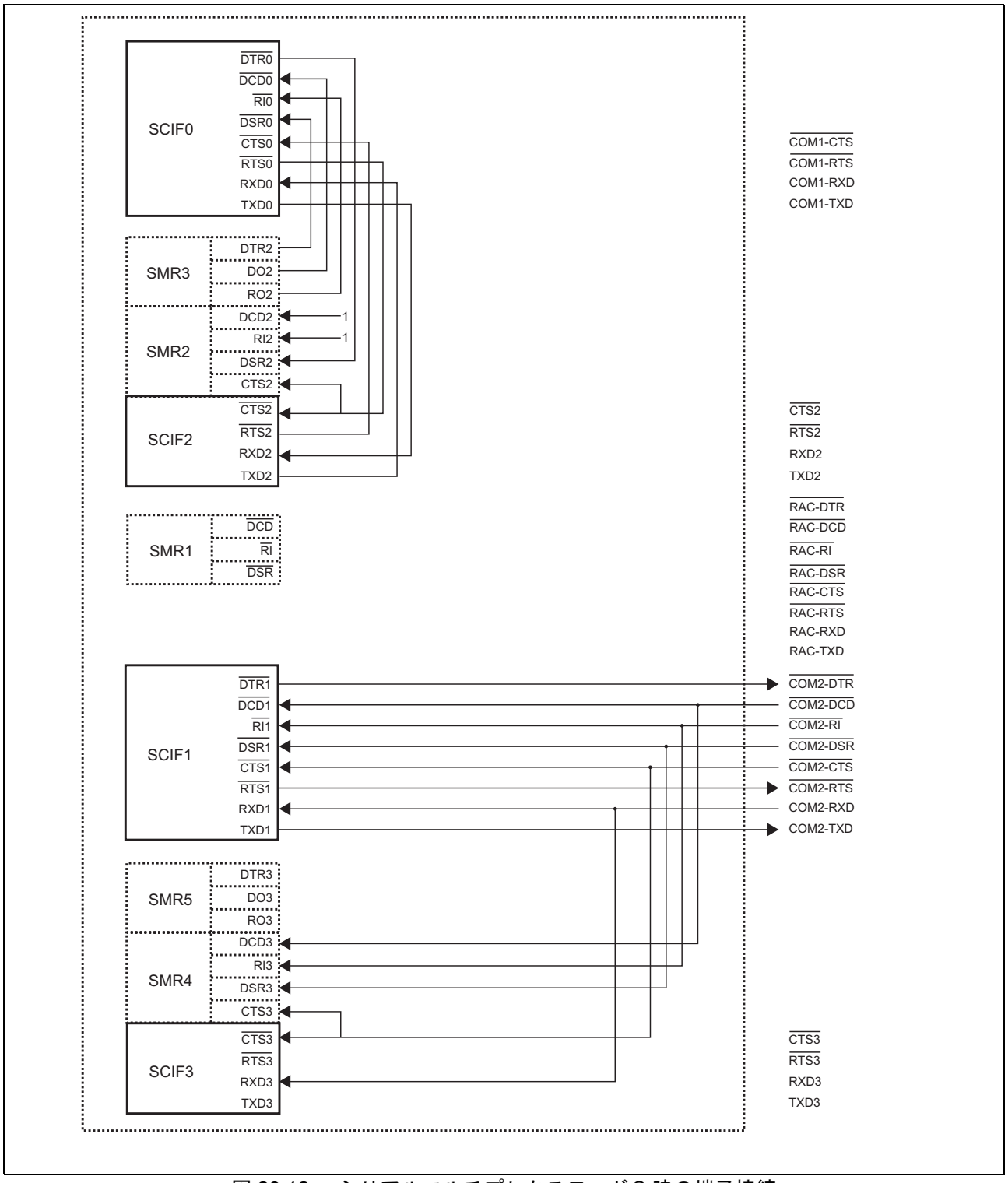


図 29.12　シリアルマルチプレクスモード C 時の端子接続

29.4.13 シリアルマルチプレクスモード D

図29.13にシリアルマルチプレクスモードDの端子接続を示します。このモードではSCIF0とSCIF2を内部接続、SCIF1とSCIF3を内部接続し、ポートと接続しません。COM1ポート、COM2ポート、RACポート、SCIF2ポート、SCIF3ポートはシリアルインタフェースと接続しません。

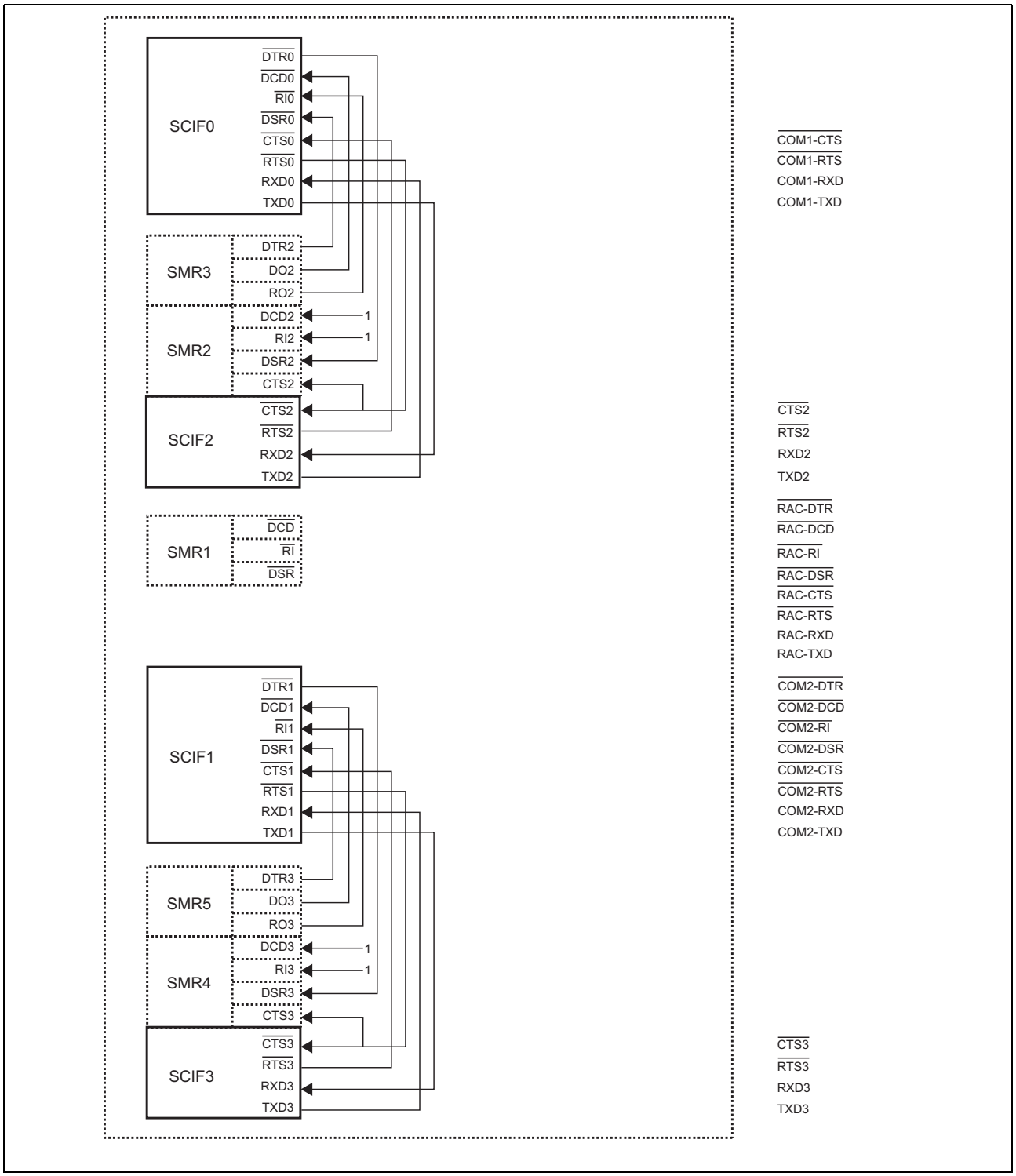


図 29.13　シリアルマルチプレクスモードD 時の端子接続

29.4.14　シリアルマルチプレクスディスエーブル時の接続

図 29.14 にシリアルマルチプレクス機能無効時の端子接続を示します。シリアルマルチプレクス機能無効時は SCIF0 を RAC ポート、SCIF1 を COM2 ポート、SCIF3 を SCIF3 ポートに接続します。SCIF2 はポートに接続されませんので使用できません。COM1 ポート、SCIF2 ポートはシリアルインタフェースと接続しません。

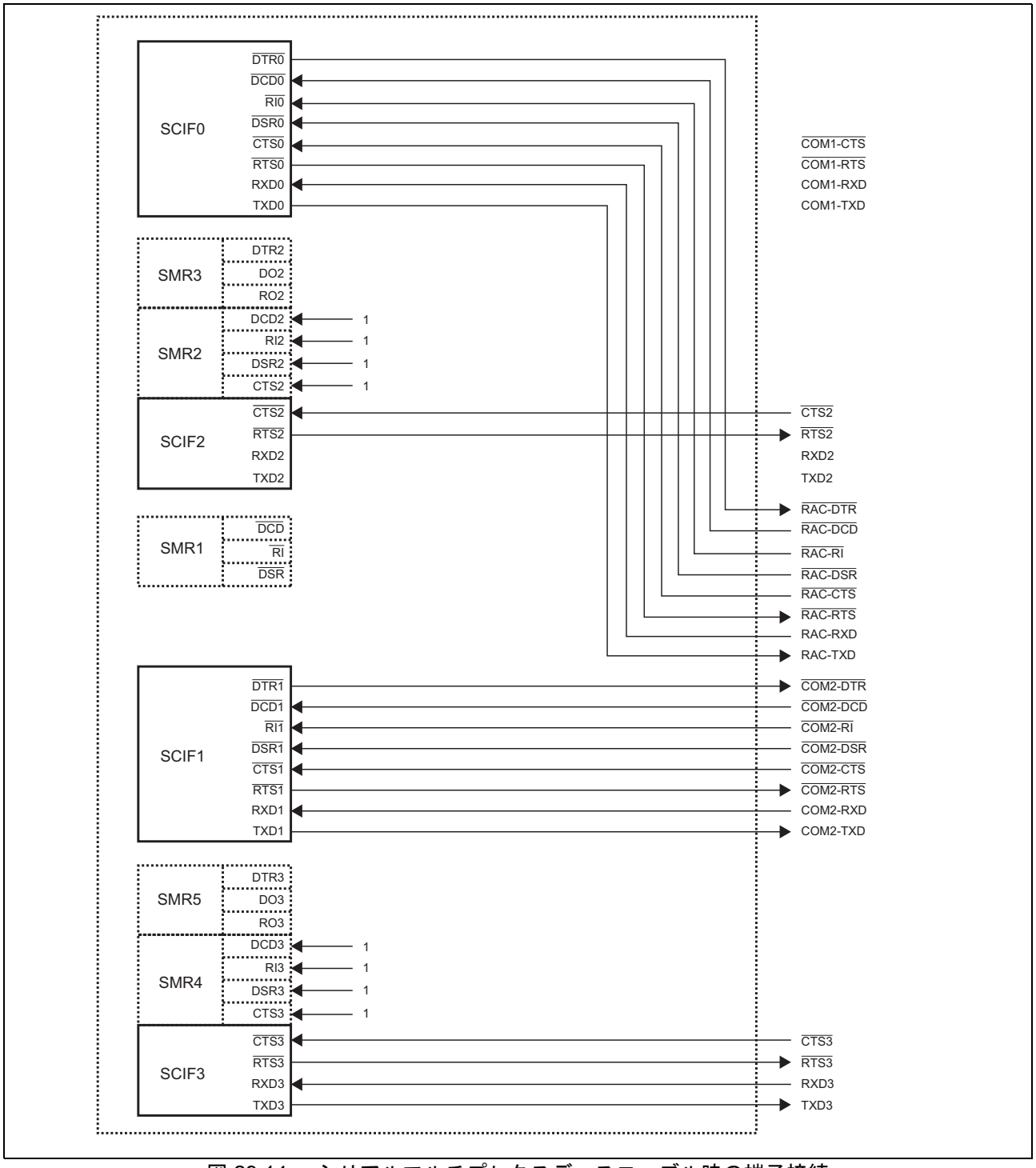


図 29.14　シリアルマルチプレクスディスエーブル時の端子接続

30. SIM カードモジュール(SIM)

スマートカードインタフェースは、ISO/IEC 7816-3（Identification Card）に対応したIC カード（スマートカード）インタフェースをサポートしています。

30.1 特長

- 通信機能
  調歩式半二重伝送
  プロトコル形式T＝0モードとT＝1モードの選択可能
  データ長：8ビット
  パリティビットの生成及びチェック
  キャラクタ保護追加時間を選択可能
  1etu当たりの出力クロック数を選択可能
  T＝0モードで受信モードにおけるエラーシグナル（パリティエラー）の送出
  T＝0モードで送信モードにおけるエラーシグナルの検出とキャラクタの自動再送信
  T＝1モードで最小キャラクタ間隔11etu（N＝255）選択可能（etu：Elementary Time Unit）
  ダイレクトコンベンション／インバースコンベンションの選択可能
  出力クロックをハイ又はローの状態に固定可能
- 内蔵ボーレートジェネレータによる任意のビットレートの選択可能
- 4種類の割り込み要因
  送信データエンプティ、受信データフル、送受信エラー、送信完了
- DMA転送
  送信データエンプティDMA転送要求と受信データフルDMA転送要求により、ダイレクトメモリアクセスコントローラ（DMAC）を起動させてデータの転送を行うことができます。
- T＝0モードで作業待ち時間、T＝1モードでキャラクタ待ち時間を観測可能

スマートカードインタフェースのブロック図を図30.1 に示します。

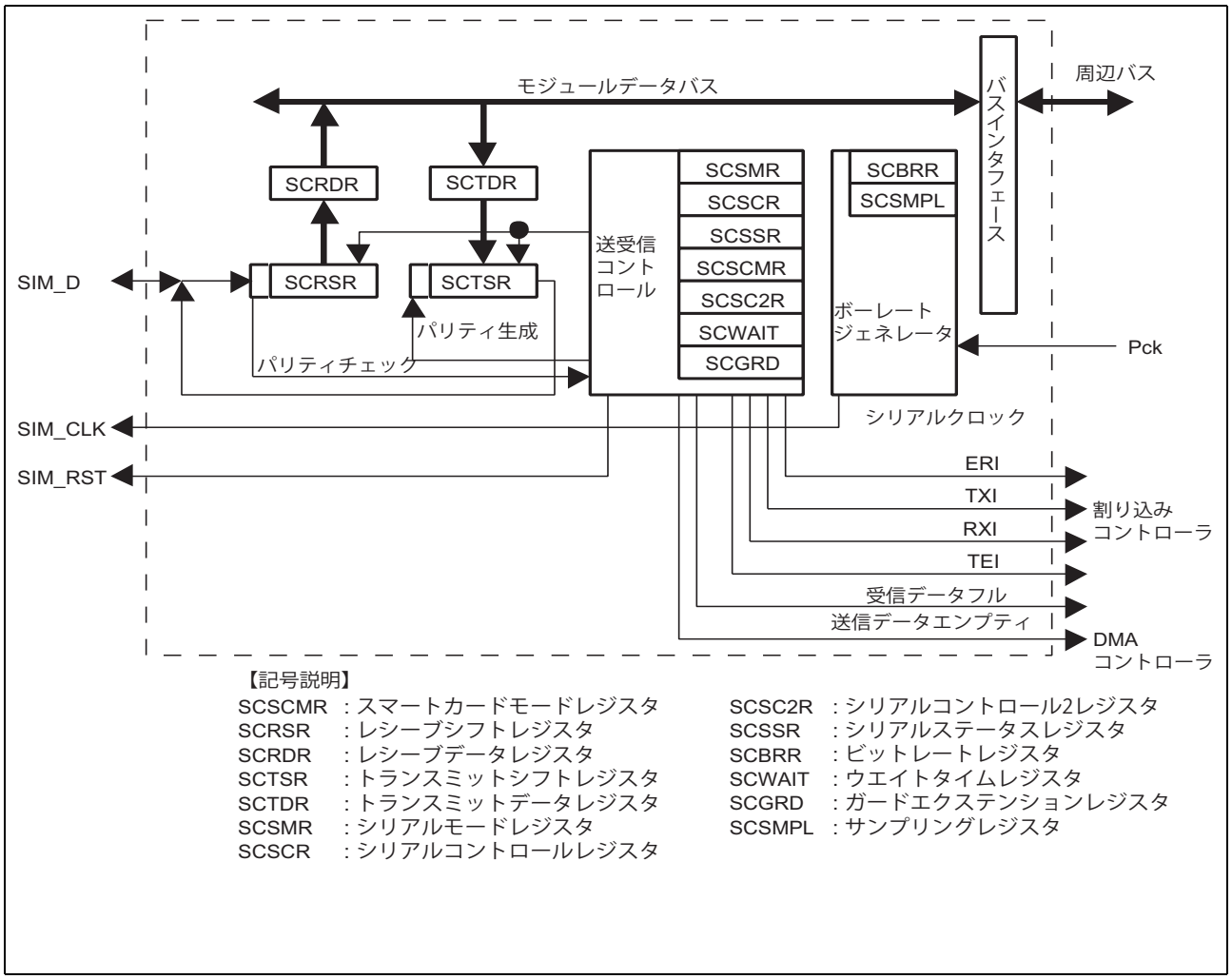


図 30.1　スマートカードインタフェース

30.2　入出力端子

スマートカードインタフェースの端子構成を表30.1 に示します。

表30.1　端子構成

名称	略称	入出力	機 能
トランスミット／レシーブデータ	SIM_D（注）	入出力	送受信データ入出力
クロック出力	SIM_CLK	出力	クロック出力
スマートカードリセット	SIM_RST	出力	スマートカードリセット出力

注.　送信及び受信動作を説明するために、送信データ側をTXD と、受信データ側をRXD と記載します。

30.3 レジスタの説明

SIM カードモジュールのレジスタ構成と各処理モードにおけるレジスタの状態をを表 30.2 に示します。

指定されたビット幅でレジスタにアクセスしてください。指定されたビット幅以外のサイズでレジスタにアクセスした場合、動作は保証できません。

表30.2 レジスタ構成

名 称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
					パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウェアリセット
シリアルモードレジスタ	SCSMR	R/W	H'FE49 0000	8	H'20	H'20	H'20
ビットレートレジスタ	SCBRR	R/W	H'FE49 0002	8	H'07	H'07	H'07
シリアルコントロールレジスタ	SCSCR	R/W	H'FE49 0004	8	H'00	H'00	H'00
トランスミットシフトレジスタ	SCTSR	—	—	—	H'FF	H'FF	H'FF
トランスミットデータレジスタ	SCTDR	R/W	H'FE49 0006	8	H'FF	H'FF	H'FF
シリアルステータスレジスタ	SCSSR	R/W	H'FE49 0008	8	H'84	H'84	H'84
レシーブシフトレジスタ	SCRSR	—	—	—	H'00	H'00	H'00
レシーブデータレジスタ	SCRDR	R	H'FE49 000A	8	H'00	H'00	H'00
スマートカードモードレジスタ	SCSCMR	R/W	H'FE49 000C	8	H'01	H'01	H'01
シリアルコントロール2レジスタ	SCSC2R	R/W	H'FE49 000E	8	H'00	H'00	H'00
ガードエクステンションレジスタ	SCGRD	R/W	H'FE49 0012	8	H'00	H'00	H'00
ウェイトタイムレジスタ	SCWAIT	R/W	H'FE49 0010	16	H'0000	H'0000	H'0000
サンプリングレジスタ	SCSMPL	R/W	H'FE49 0014	16	H'0173	H'0173	H'0173

30.3.1　シリアルモードレジスタ（SCSMR）

SCSMR は、読み出し／書き込み可能な 8 ビットのレジスタで、スマートカードインタフェースの通信フォーマットの設定を選択します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	O/$\overline{E}$	—	—	—	—
初期値：	0	0	1	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	R/W	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7、6	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
5	—	1	—	リザーブビット （読み出すと“1”が読めます。書き込む値は“1”にしてください）
4	O/$\overline{E}$	0	R/W	パリティモード パリティの付加やチェックを偶数パリティ、又は奇数パリティのいずれで行うかを選択します。 0：偶数パリティ（注1） 1：奇数パリティ（注2） 注. 1. 偶数パリティに設定すると送信時には、パリティビットと送信キャラクタをあわせて、その中の 1 の数の合計が偶数になるようにパリティビットを付加して送信します。受信時には、パリティビットと受信キャラクタを合わせて、その中の 1 の数の合計が偶数であるかどうかをチェックします。 2. 奇数パリティに設定すると送信時には、パリティビットと送信キャラクタを合わせて、その中の 1 の数の合計が奇数になるようにパリティビットを付加して送信します。受信時には、パリティビットと受信キャラクタを合わせて、その中の 1 の数の合計が奇数であるかどうかをチェックします。
3 ～0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

30.3.2　ビットレートレジスタ (SCBRR)

SCBRR は、読み出し／書き込み可能な8 ビットのレジスタで、送信／受信のビットレートを設定します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	BRR[2:0]		
初期値：	0	0	0	0	0	1	1	1
R/W：	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7～3	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
2	BRR2	1	R/W	送信／受信のビットレート2～0 を設定します。
1	BRR1	1	R/W	
0	BRR0	1	R/W	

SCBRR の設定値は以下の計算式で求められます。

$$\text{sck_frequency} = \frac{\text{Pck}}{2\,(\text{brr} + 1)}$$

Pck＝ 周辺クロック周波数 とsck_frequency の単位はMHz です。

30.3.3　シリアルコントロールレジスタ (SCSCR)

SCSCR は、読み出し／書き込み可能な8 ビットのレジスタで、スマートカードインタフェースの送信／受信動作、シリアルクロック出力、割り込み要求の許可／禁止の選択を行います。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	TIE	RIE	TE	RE	WAIT_IE	TEIE	CKE[1:0]	
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	TIE	0	R/W	トランスミットインタラプトイネーブル トランスミットデータレジスタ（SCTDR）からトランスミットシフトレジスタ（SCTSR）へシリアル送信データが転送されシリアルステータスレジスタ（SCSSR）のTDRE フラグが1 にセットされたときに、送信データエンプティ割り込み（TXI）要求の発生を許可／禁止します。 0：送信データエンプティ割り込み（TXI）要求を禁止（注） 1：送信データエンプティ割り込み（TXI）要求を許可 注. TXI の解除は、TDRE フラグを0 にするか、又はTIE を0 にすることで行うことができます。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
6	RIE	0	R/W	レシーブインタラプトイネーブル シリアル受信データがレシーブシフトレジスタ（SCRSR）からレシーブデータレジスタ（SCRDR）へ転送されてSCSSR のRDRF フラグが1 にセットされたときの受信データフル割り込み（RXI）要求、及びパリティエラー、オーバランエラー、エラーシグナルステータスによる送受信エラー割り込み（ERI）要求の発生を許可／禁止します。 0：受信データフル割り込み（RXI）要求、及び送受信エラー割り込み（ERI）要求を禁止（注1、2） 1：受信データフル割り込み（RXI）要求、及び送受信エラー割り込み（ERI）要求を許可（注2） 注. 1. RXI、及びERI 割り込み要求の解除は、RDRF フラグ、又はPER、ORER、ERS フラグを0 にするか、RIE ビットを0 にすることで行えます。 2. ウェイトエラーによる割り込み（ERI）要求の許可／禁止は、本レジスタ のWAIT_IE ビットで行えます。
5	TE	0	R/W	トランスミットイネーブル シリアル送信動作を許可／禁止します。 0：送信動作を禁止（注1） 1：送信動作を許可（注2、3） 注. 1. SCSSR のTDRE フラグは1 に固定されます。 2. この状態で、SCTDR に送信データを書き込むと、送信動作が開始します。なお、TE ビットを1 にセットする前に必ずシリアルモードレジスタ（SCSMR）、スマートカードモードレジスタ（SCSCMR）の設定を行い、送信フォーマットを決定してください。 3. TE ビットを0 にしてもERS フラグは影響を受けず、状態を保持しますので注意してください。
4	RE	0	R/W	レシーブイネーブル シリアル受信動作を許可／禁止します。 0：受信動作を禁止（注1） 1：受信動作を許可（注2） 注. 1. RE ビットを0 にしてもRDRF、PER、ERS、ORER、WAIT_ER の各フラグは影響を受けず、状態を保持しますので注意してください。 2. この状態でスタートビットを検出すると、シリアル受信を開始します。なお、RE ビットを1 にセットする前に必ずSCSMR、SCSCMRの設定を行い、受信フォーマットを決定してください。
3	WAIT_IE	0	R/W	ウェイトイネーブル ウェイトエラーによる割り込み要求を許可／禁止します。 0：ウェイトエラーによる割り込み（ERI）要求を禁止 1：ウェイトエラーによる割り込み（ERI）要求を許可

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
2	TEIE	0	R/W	トランスミットエンドインタラプトイネーブル 送信が終了してTEND フラグが1 にセットされたときの、送信終了割り込み（TEI）要求の発生を許可／禁止します。 0：送信終了割り込み（TEI）要求を禁止（注） 1：送信終了割り込み（TEI）要求を許可（注） 注. TEI の解除は、SCSSRのTDREフラグの1を読み出した後、SCTDRに送信データを書き込んでTEND ビットを0 にするか、TEIEビットを0 にすることで行うことができます。
1 0	CKE1 CKE0	0 0	R/W R/W	クロックイネーブル1、0 スマートカードインタフェースのクロックソースの選択、及びSIM_CLK端子からのクロック出力の許可／禁止を設定します。 00：出力端子としてLレベル出力固定 01：出力端子としてクロック出力 10：出力端子としてHレベル出力固定 11：出力端子としてクロック出力

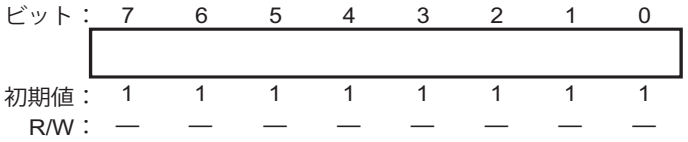
30.3.4　トランスミットシフトレジスタ (SCTSR)

SCTSR は、シリアルデータを送信するためのシフトレジスタです。

スマートカードインタフェースは、トランスミットデータレジスタ（SCTDR）から送信データをいったん SCTSR に転送し、LSB 又は MSB から順に SIM_TXD 端子に送り出すことでシリアルデータ送信を行います。

1 バイトのデータ送信を終了すると自動的に SCTDR から SCTSR へ次の送信データを転送し、送信を開始します。シリアルステータスレジスタ（SCSSR）の TDRE フラグが 1 にセットされている場合には、SCTDR から SCTSR へのデータ転送を行いません。

SH-4A やDMAC から、直接SCTSR の読み出し／書き込みをすることはできません。

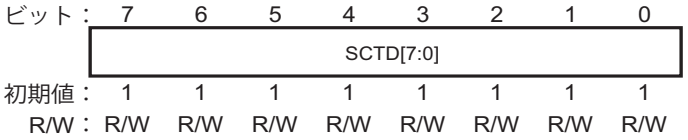


ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～ 0	—	H'FF	—	スマートカードインタフェース SH-4A やDMAC から、直接SCTSR の読み出し／書き込みをすることはできません。

30.3.5　トランスミットデータレジスタ (SCTDR)

SCTDR は、読み出し／書き込み可能な 8 ビットのレジスタで、シリアル送信するデータを格納します。

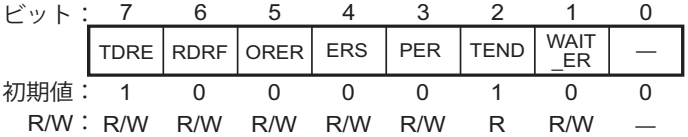
スマートカードインタフェースは、トランスミットシフトレジスタ（SCTSR）が空であることを検出すると、SCTDR に書き込まれた送信データを SCTSR に転送してシリアル送信を開始します。SCTSR のシリアルデータ送信中に SCTDR に次の送信データを書き込んでおくと、連続シリアル送信ができます。



ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7～0	SCTD7 ～ SCTD0	H'FF	R/W	トランスミットデータ シリアル送信するデータを格納

30.3.6　シリアルステータスレジスタ (SCSSR)

SCSSR は、読み出し／書き込み可能な 8 ビットのレジスタで、スマートカードインタフェースの動作状態を示します。



ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	TDRE	1	R/W	トランスミットデータレジスタエンプティ トランスミットデータレジスタ（SCTDR）からトランスミットシフトレジスタ（SCTSR）にデータ転送が行われSCTDR に次のシリアル送信データを書き込むことが可能になったことを示します。 0：SCTDR に有効な送信データが書き込まれていることを表示 【クリア条件】 • TE ビット（SCSCR レジスタのビット5）が1 のときにSCTDR へデータを書き込んだとき • TDRE に0 を書き込んだとき 1：SCTDR に有効な送信データがないことを表示 【セット条件】 • リセット時 • TE ビット（SCSCR レジスタのビット5）が0 のとき • SCTDR からSCTSR にデータ転送が行われSCTDR にデータの書き込みが可能になったとき
6	RDRF	0	R/W	レシーブデータレジスタフル 受信したデータがレシーブデータレジスタ（SCRDR）に格納されていることを示します。 0：SCRDR に有効な受信データが格納されていないことを表示 【クリア条件】 • リセット時 • SCRDRのデータを読み出したとき • RDRF に0 を書き込んだとき 1：SCRDR に有効な受信データが格納されていることを表示 【セット条件】 シリアル受信が正常終了し、SCRSR からSCRDR へ受信データが転送されたとき 注.T＝0 モードでは、受信時パリティエラーを検出したとき、SCRDRの内容とRDRF フラグは影響を受けず以前の状態を保持します。一方、T＝1 モードでは、受信時パリティエラーを検出したとき受信データがSCRDR に転送されRDRF フラグは1 にセットされます。なお、T＝0 とT1 の両モードともに、シリアルコントロールレジスタ（SCSCR）のRE ビットを0 にしても、SCRDR の内容とRDRF フラグは影響を受けず以前の状態を保持します。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
5	ORER	0	R/W	オーバランエラー 受信時にオーバランエラーが発生して異常終了したことを示します。 0：受信中、又は正常に受信を完了したことを表示（注1） 【クリア条件】 • リセット時 • ORER に0 を書き込んだとき 1：受信時にオーバランエラーが発生したことを表示（注2） 【セット条件】 RDRF＝1 の状態で次のシリアル受信を完了したとき 注. 1. RE ビット（SCSCR レジスタのビット4）を0 にしたときには、ORER フラグは影響を受けず以前の状態を保持します。 2. SCRDR ではオーバランエラーが発生する前の受信データが失われ、オーバランエラー発生時に受信したデータを保持します。さらに、ORER＝1 にセットされた状態で、以降のシリアル受信を続けることはできません。
4	ERS	0	R/W	エラーシグナルステータス このフラグは送信時に受信側から送り返されるエラーシグナルのステータスを示します。T＝1 モードのときはセットされません。 0：受信側からパリティエラーの検出を示すエラーシグナルが送出されなかったことを表示 【クリア条件】 • リセット時 • ERS に0 を書き込んだとき 1：受信側からパリティエラーの検出を示すエラーシグナルが送出されたことを表示 【セット条件】 エラーシグナルをサンプリングしたとき 注. TE ビット（SCSCR レジスタのビット5）を0 にしても、ERS フラグは影響を受けず以前の状態を保持します。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
3	PER	0	R/W	パリティエラー 受信時にパリティエラーが発生して異常終了したことを示します。 0：受信中、又は正常に受信を完了したことを表示（注1） 【クリア条件】 • リセット時 • PER に0 を書き込んだとき 1：受信時にパリティエラーが発生したことを表示（注2） 【セット条件】 受信時の受信データとパリティビットを合わせた論理1 の数が、シリアルモードレジスタ（SCSMR）のO/E ビットで指定した偶数パリティ／奇数パリティの設定と一致しなかったとき 注. 1.RE ビット（SCSCR レジスタのビット4）を0 にしたときには、PER フラグは影響を受けず以前の状態を保持します。 2. T＝0 モードでは、パリティエラーが発生したときの受信データはSCRDR に転送されず、RDRF フラグはセットされません。一方、T＝1 モードでは、パリティエラーが発生したときの受信データはSCRDR に転送され、RDRF フラグはセットされます。パリティエラーが発生したときは、次のパリティビットのサンプリングタイミングまでに、PER フラグを0 にしてください。
2	TEND	1	R	トランスミットエンド 送信を終了したことを示します。 TEND フラグは読み出し専用ですので、書き込むことはできません。 0：送信中であることを表示 【クリア条件】 SCTDR からSCTSR に送信データが転送され、シリアル送信が開始したとき 1：送信を終了したことを表示 【セット条件】 • リセット時 • 1 バイトのシリアルキャラクタ及びパリティビット送信後にERS＝0（正常送信）のとき 注. TEND フラグはキャラクタ保護時間が終了する1etu 前にセットされます。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
1	WAIT_ER	0	R/W	ウェイトエラー このフラグはウェイトタイマのエラーステータスを示します。 0：2 つの連続するキャラクタの先端間隔が、SCWAIT で設定したetu を超過していないことを表示 【クリア条件】 • リセット時 • WAIT_ER に0 を書き込んだとき 1：2 つの連続するキャラクタの先端間隔が、SCWAIT で設定したetu を超過していることを表示 【セット条件】 • T＝0 モードの場合、受信するキャラクタとその直前に送信又は受信したキャラクタの先端間隔が（60×SCWAIT の値：作業待ち時間）etu を超過したとき • T＝1 モードの場合、2 つの連続する受信キャラクタの先端間隔が（SCWAIT の値：キャラクタ保護時間）etu を超過したとき 注. 1. RE ビット（SCSCR レジスタのビット4）を0 にしても、WAIT_ER フラグは影響を受けず以前の状態を保持します。 2. T＝0 の場合は、RE ビットを0 から1 にセットしたときにWAIT_ER フラグのセット条件が満たされてもWAIT_ER フラグはセットされない場合がありますのでご注意ください。このとき、RE ビットを1 にセットした後、最後の送信又は受信から60×（SCWAIT＋n）etu（n は0 以上の整数：RE ビットを1 にセットするタイミングに依存）後にWAIT_ER フラグがセットされます。ただし、RE ビットを1 にセットした後60etu 以内にキャラクタを受信した場合、WAIT_ER フラグはセットされないことがあります。 3. T＝0 の場合は、最後の送信又は受信から60×（SCWAIT＋n）etu 後にWAIT_ER フラグをセットしたくない場合は、スマートカードモードレジスタ（SCSCMR）のプロトコルビット（PB）にて、T＝0 からT＝1 に設定し、再びT＝0 に戻してください。また、T＝1 の場合は、最後の受信から、（SCWAIT）etu 後にWAIT_ER フラグをセットしたくない場合は、スマートカードモードレジスタ（SCSCMR）のプロトコルビット（PB）にてT＝1 からT＝0 に設定し、再びT＝1 に戻してください。
0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

30.3.7　レシーブシフトレジスタ (SCRSR)

SCRSR は、シリアルデータを受信するためのレジスタです。

スマートカードインタフェースは、SCRSR に SIM_RXD 端子から入力されたシリアルデータを LSB 又は MSB から受信した順にセットし、パラレルデータに変換します。1 バイトのデータ受信を終了すると、データは自動的に SCRDR へ転送されます。SH-4A や DMAC から直接 SCRSR の読み出し／書き込みをすることはできません。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～ 0	—	0	—	スマートカードインタフェース SH-4A や DMAC から直接 SCRSR の読み出し／書き込みをすることはできません。

30.3.8　レシーブデータレジスタ (SCRDR)

SCRDR は、読み出し専用の 8 ビットのレジスタで、受信したシリアルデータを格納します。

スマートカードインタフェースは、1 バイトのシリアルデータの受信が終了すると、レシーブシフトレジスタ（SCRSR）から SCRDR へ受信したシリアルデータを転送して格納し、受信動作を完了します。この後、SCRSR は受信可能になります。このように、SCRSR と SCRDR はダブルバッファになっているため連続した受信動作が可能です。SCRDR は SH-4A や DMAC から書き込むことはできません。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	SCRD[7:0]							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～ 0	SCRD7～ SCRD0	H'00	R	レシーブデータ 受信したシリアルデータを格納

30.3.9　スマートカードモードレジスタ (SCSCMR)

SCSCMR は、スマートカードインタフェースの機能の選択を行う 8 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタです。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	LCB	PB	—	SDIR	SINV	RST	SMIF
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	1
R/W：	—	R/W	R/W	—	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	—	0	—	リザーブビット (読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください)
6	LCB	0	R/W	ラストキャラクタ このビットが1 に設定されるとキャラクタ保護時間は2etu になり、ガードエクステンションレジスタの設定は無効になります。 0：キャラクタ保護時間はガードレジスタの値によって決まります 1：キャラクタ保護時間は2etu になります
5	PB	0	R/W	プロトコル プロトコル形式T＝0 又はT＝1 を選択します。 0：スマートカードインタフェースはT＝0 プロトコルで動作 1：スマートカードインタフェースはT＝1 プロトコルで動作
4	—	0	—	リザーブビット (読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください)
3	SDIR	0	R/W	スマートカードデータトランスファディレクション シリアル／パラレル変換のフォーマットを選択します。 0：SCTDR の内容をLSB ファーストで送信 受信データをLSB ファーストとしてSCRDR に格納 1：SCTDR の内容をMSB ファーストで送信 受信データをMSB ファーストとしてSCRDR に格納
2	SINV	0	R/W	スマートカードデータインバート データのロジックレベルの反転を指定します。ビット3 の機能を組み合わせインバースコンベンションカードとの送受信に使用します。SINV は、パリティビットの値には影響しません。 0：SCTDR の内容をそのまま送信 受信データをそのままSCRDR に格納 1：SCTDR の内容を反転してデータを送信 受信データを反転してSCRDR に格納
1	RST	0	R/W	スマートカードリセット スマートカードインタフェースのSIM_RST 端子の出力を制御します。 0：スマートカードインタフェースのSIM_RST 端子はL レベルを出力 1：スマートカードインタフェースのSIM_RST 端子はH レベルを出力
0	SMIF	1	R/W	スマートカードインタフェースモードセレクト このビットは常に1 が読み出されます。書き込む値も常に1 にしてください。

30.3.10 シリアルコントロール2 レジスタ (SCSC2R)

SCSC2R は、読み出し／書き込み可能な 8 ビットのレジスタで、受信データフル割り込み（RXI）要求の許可／禁止の選択を行います。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	EIO	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	—	—	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	EIO	0	R/W	エラー割り込みオンリー EIO ビットが1 のとき、RIE ビット（SCSCR レジスタのビット6）が1 にセットされていても、SH-4A へ受信データフル割り込み（RXI）を要求しません。この設定でDMAC を使用した場合、SH-4A はERI 要求のみを処理します。 受信データフル割り込み（RXI）要求はRIE ビットの設定によって決まります。
6 ～ 0	—	0	—	リザーブビット 読み出すと常に0 が読み出されます。書き込む値も常に0 にしてください。

30.3.11 ガードエクステンションレジスタ (SCGRD)

SCGRD は 8 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタです。キャラクタ保護追加時間を設定します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	SCGRD[7:0]							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7～ 0	SCGRD7 ～ SCGRD0	H’00	R/W	ガードエクステンション スマートカードへ送信されたキャラクタのうち、キャラクタ保護追加時間を示します。2 つの連続したキャラクタ先端間の間隔は、このレジスタの値がH'00 のとき12 etu（追加なし）を示しH'01 のとき13 etu、…、H'FEのとき266 etu になります。また、このレジスタの値がH'FF の場合2 つの連続したキャラクタ先端間の間隔は、T＝1 モードで11etu 、T＝0 モードでは12etu になります。

30.3.12 ウェイトタイムレジスタ (SCWAIT)

SCWAIT は16 ビットの読み出し／書き込みが可能なレジスタです。2 つの連続したキャラクタの先端間隔が、設定した値（単位：etu）を超過するとウェイトタイムエラーを発生します。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	SCWAIT[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 ～0	SCWAIT15 ～ SCWAI T0	H'0000	R/W	ウェイトタイムレジスタ • T＝0 モードでは、このレジスタは作業待ち時間を設定できます。受信するキャラクタと、その直前に送信又は受信したキャラクタの先端間隔が（60×このレジスタで設定する値）etu を超過したらWAIT_ER フラグが1 にセットされます。但し、SCWAIT＝H'0000 を設定した場合60etu 後にWAIT_ER フラグがセットされます。 • T＝1 モードでは、このレジスタはキャラクタ待ち時間を設定できます。受信する２つの連続したキャラクタの先端間隔が、（このレジスタで設定する値）etu を超過したらWAIT_ER フラグが1 にセットされます。ただし、SCWAIT＝H'0000～H'0002 を設定した場合、RE ビットを1 に設定した直後はキャラクタ受信を待たずに1etu 以内に、その後はキャラクタの先端受信から1etu 後にWAIT_ER フラグがセットされます。

30.3.13 サンプリングレジスタ (SCSMPL)

SCSMPL は16 ビットで読み出し／書き込み可能なレジスタです。1etu あたりのシリアルクロックサイクル数を設定します。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	SCSMPL[10:0]										
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1	0	0	1	1
R/W：	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15～ 11	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
10 ～ 0	SCSMPL10 ～ SCSMPL0	H'173	R/W	1etu あたりのシリアルクロックサイクル数設定値 1etu あたりのシリアルクロックサイクル数は（SCSMPL の値＋1）です。SCSMPL に書き込む値は、必ずH'0007 以上にしてください。

30.4　動作説明

30.4.1　概要

スマートカードインタフェースの主な機能は次のとおりです。

- フレームは、8ビットデータとパリティビットで構成されます。
- 送信時は、パリティビットの終了から次のフレーム開始まで、SCGRD、及びSCSCMRのLCBビット、PBビットで設定したキャラクタ保護時間をおきます。
- T＝0モードの受信時にパリティエラーを検出した場合、スタートビットから10.5etu経過後エラーシグナルとしてLレベルを1etu期間出力します。
- T＝0モードの送信時はエラーシグナルをサンプリングすると、2etu以上経過後、自動的に同じデータを送信します。
- 調歩同期式通信機能のみサポートし、クロック同期式通信機能はありません。

30.4.2　データフォーマット

図30.2にスマートカードインタフェースのデータフォーマットを示します。スマートカードインタフェースは受信時に1フレームごとにパリティチェックを行います。

T＝0モードで受信時にパリティエラーが検出された場合、送信側に対してエラーシグナルを送り返し、データの再送信要求をします。送信時はエラーシグナルをサンプリングすると同じデータを再送信します。

T＝1モードで受信時にパリティエラーが検出された場合、エラーシグナルを送り返しません。送信時はエラーシグナルのサンプリングとデータの再送信を行いません。

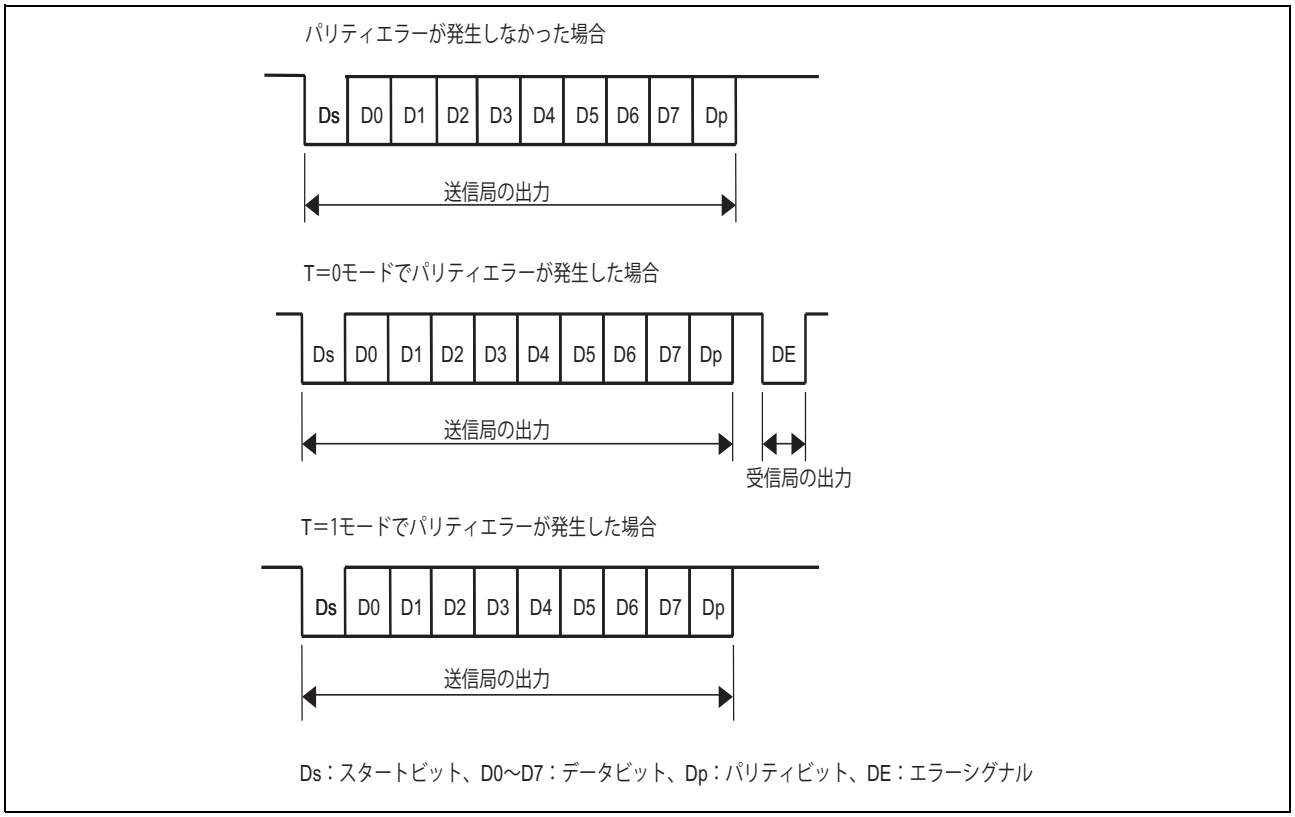


図30.2　スマートカードインタフェースのデータフォーマット

動作シーケンスは次のようになっています。

①データ線は、未使用時にはハイインピーダンス状態であり、プルアップ抵抗によりHレベルに固定されます。
②送信側は、1フレームのデータ送信を開始します。データのフレームは、スタートビット（Ds：Lレベル）から開始します。この後に、8ビットのデータビット（D0～D7）とパリティビット（Dp）が続きます。
③スマートカードインタフェースでは、この後にデータ線をハイインピーダンスに戻します。データ線はプルアップ抵抗によりHレベルになります。
④受信側は、パリティチェックを行います。
パリティエラーがなく正常に受信した場合、そのまま次のデータ受信を待ちます。
一方、パリティエラーが発生した場合は、T＝0モードのとき、エラーシグナル（DE：Lレベル）を出力し、データの再送信を要求します。受信局は、規定の期間エラーシグナルを出力した後、再び信号線をハイインピーダンスにします。信号線はプルアップ抵抗によりHレベルに戻ります。T＝1モードのときは、パリティエラーが発生してもエラーシグナルを出力しません。
⑤送信側は、エラーシグナルを受信しなかった場合、次のフレームのデータ送信に移ります。
一方、T＝0モードでエラーシグナルを受信した場合は、エラーとなったデータを②に戻り再送信します。
T＝1モードではエラーシグナルの受信、及び再送信をしません。

30.4.3　レジスタ設定

スマートカードインタフェースで使用するレジスタのビットマップを表30.3に示します。
0又は1が表示されているビットは、必ず表示されている値を設定してください。以下にそれ以外のビットの設定方法について説明します。

表30.3　スマートカードインタフェースでのレジスタ設定

レジスタ	ビット							
	ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	ビット3	ビット2	ビット1	ビット0
SCSMR	0	0	1	$\overline{O/E}$	0	0	0	0
SCBRR	0	0	0	0	0	BRR2	BRR1	BRR0
SCSCR	TIE	RIE	TE	RE	WAIT_IE	TEIE	CKE1	CKE0
SCTDR	SCTD7	SCTD6	SCTD5	SCTD4	SCTD3	SCTD2	SCTD1	SCTD0
SCSSR	TDRE	RDRF	ORER	ERS	PER	TEND	WAIT_ER	0
SCRDR	SCRD7	SCRD6	SCRD5	SCRD4	SCRD3	SCRD2	SCRD1	SCRD0
SCSCMR	0	LCB	PB	0	SDIR	SINV	RST	1
SCSC2R	EIO	0	0	0	0	0	0	0
SCWAIT	SCWAIT15 ～ SCWAIT0							
SCGRD	SCGRD7～ SCGRD0							
SCSMPL	SCSMPL10～ SCSMPL0、ビット11 ～15は0							

- **シリアルモードレジスタ（SCSMR）の設定**
  O/$\overline{E}$ビットはICカードがダイレクトコンベンション時は0を設定し、インバースコンベンション時は1を設定します。
- **ビットレートレジスタ（SCBRR）の設定**
  ビットレートを設定します。設定値の算出方法は「30.4.4 クロック」を参照してください。
- **シリアルコントロールレジスタ（SCSCR）の設定**
  TIE、RIE、TEIE、WAIT_IEビットで各種割り込みの許可／禁止を選択します。
  TE、REビットのどちらかを1にセットすることで、送信／受信を選択します。
  CKE1、CKE0 ビットはクロック出力状態を選択します。詳細は「30.4.4 クロック」を参照してください。
- **スマートカードモードレジスタ（SCSCMR）の設定**
  SDIRビット及びSINVビットは、ICカードがダイレクトコンベンション時はどちらも0を設定し、インバースコンベンション時はどちらも1を設定します。
  SMIFビットは必ず1を書き込みます。
  以下に2種類のICカード（ダイレクトコンベンションタイプとインバースコンベンションタイプ）に対するレジスタ設定値と開始キャラクタでの波形例を図30.3に示します。
  ダイレクトコンベンションタイプでは、論理1レベルを状態Zに、論理0レベルを状態Aに対応付け、LSBファーストで送受信する方式です。上記の開始キャラクタのデータはH'3Bとなります。パリティビットは、スマートカードの規程により偶数パリティで1となります。
  インバースコンベンションタイプでは、論理1レベルを状態Aに、論理0レベルを状態Zに対応付け、MSBファーストで送受信する方式です。図30.3の開始キャラクタのデータはH'3Fとなります。パリティビットは、スマートカードの規程により偶数パリティで論理0となり、状態Zが対応します。

なお、SINVビットによる反転はデータビットD7～D0のみとなっています。パリティビットの反転のためにSCSMRのO/$\overline{E}$ビットを奇数パリティモードに設定します。送信、受信とも同様です。

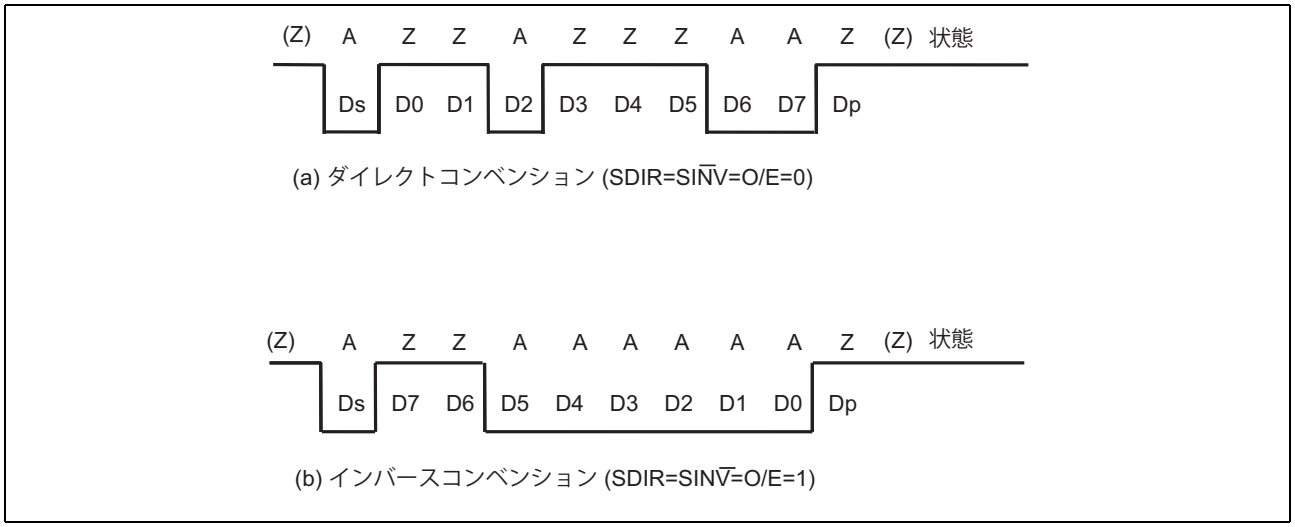


図 30.3　開始キャラクタの波形例

30.4.4　クロック

スマートカードインタフェースにおける送受信クロックは内蔵ボーレートジェネレータの生成した内部クロックのみ使用できます。このとき、ビットレートはビットレートレジスタ（SCBRR）とサンプリングレジスタ（SCSMPL）で設定され、以下に示す計算式になります。ビットレートの例を表30.4に示します。

このときCKE0＝1でクロック出力を選択するとSIM_CLK端子からはビットレートを（SCSMPL＋1）倍した周波数のクロックが出力されます。

$$B = Pck \times 10^6 / \{(S+1) \times 2 (N+1)\}$$

B = ビットレート（bits/秒）
Pck = 周辺モジュール用動作周波数
S = SCSMPL 設定値 ($0 \leq S \leq 2047$)
N = SCBRR 設定値 ($0 \leq N \leq 7$).

表30.4　SCBRR の設定に対するビットレート（bits/秒）の例(Pck = 48 MHz、SCSMPL = 356)

SCBRR 設定値	SCK周波数(MHz)	ビットレート（bits/秒）
7	3	8403
6	3.429	9603
5	4	11204
4	4.8	13445
3	6	16806
2	8	22308
1	12	33613
0	24	67226

注.　ビットレートは小数点以下を四捨五入した数値です。

30.4.5　データの送信／受信動作

(1)　初期化

データの送受信の前に、以下の手順でスマートカードインタフェースを初期化してください。送信モードから受信モードへの切り替え、受信モードから送信モードへの切り替えにおいても初期化が必要です。初期化のフロー例を図30.4 に示します。以下の①～⑦は、図30.4 に対応します。

① シリアルコントロールレジスタ（SCSCR）のTE、REビットを0にします。
② シリアルステータスレジスタ（SCSSR）のエラーフラグPER、ORER、ERS、WAIT_ERを0にしてください。
③ シリアルモードレジスタ（SCSMR）のパリティビット（O/$\overline{E}$ビット）を設定してください。
④ スマートカードモードレジスタ（SCSCMR）の LCB、PB、SMIF、SDIR、SINV ビットを設定してください。
⑤ ビットレートに対応する値をビットレートレジスタ（SCBRR）に設定します。
⑥ シリアルコントロールレジスタ（SCSCR）のクロックソースの選択ビット（CKE1、CKE0ビット）を設定してください。このとき、TIE、RIE、TE、RE、TEIE、WAIT_IEビットは、0に設定してください。CKE0ビットを1にセットした場合は、SIM_CLK端子からクロック出力されます。
⑦ 少なくとも、1etu期間待ってから、SCSCRのTIE、RIE、TE、RE、TEIE、WAIT_IEビットを設定してください。自己診断以外はTEビットとREビットを同時にセットしないでください。

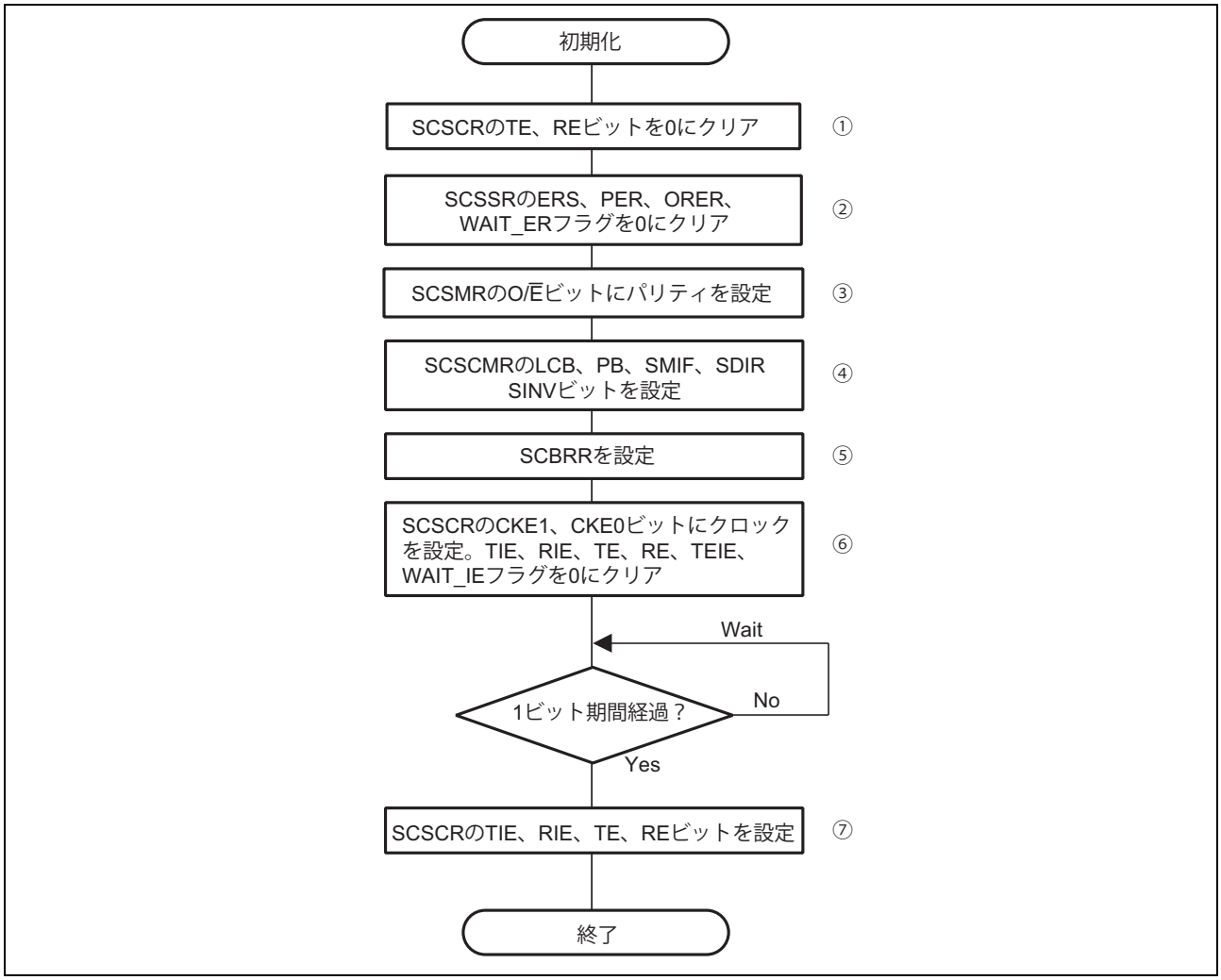


図 30.4　初期化のフロー例

(2)　シリアルデータ送信

スマートカードモードにおけるデータ送信ではエラーシグナルのサンプリングと再送信処理があります。送信処理フローの例を図30.5 に示します。以下の①～⑥は、図30.5 の①～⑥に対応します。

①「(1) 初期化」の手順に従いスマートカードインタフェースモードに初期化します。
② SCSSR のエラーフラグ ERS ビットが 0 にされていることを確認してください。
③ SCSSR の TDRE フラグが 1 にセットされていることが確認できるまで、②、③を繰り返してください。
④ SCTDR に送信データを書き込んで、送信動作を行います。このとき、TDRE フラグは自動的に 0 にクリアされます。スタートビットの送信が開始されると TEND フラグは自動的に 0 にクリアされ、TDRE フラグは自動的に 1 にセットされます。
⑤ 連続してデータを送信する場合は、②に戻ってください。
⑥ 送信を終了する場合は、TE ビットを 0 にします。

以上の一連の処理は、割り込み処理が可能です。

TIE ビット（SCSCR レジスタのビット 7）を 1 にセットし、割り込み要求を許可しておいたとき、送信が開始し TDRE フラグが 1 にセットされると、送信データエンプティ割り込み（TXI）要求を発生します。RIE ビット（SCSCR レジスタのビット 6）を 1 にセットし、割り込み要求を許可しておいたとき、送信時にエラーが発生し、ERS フラグが 1 にセットされると、送受信エラー割り込み（ERI）要求を発生します。

詳細は「(5) 割り込み動作」を参照してください。

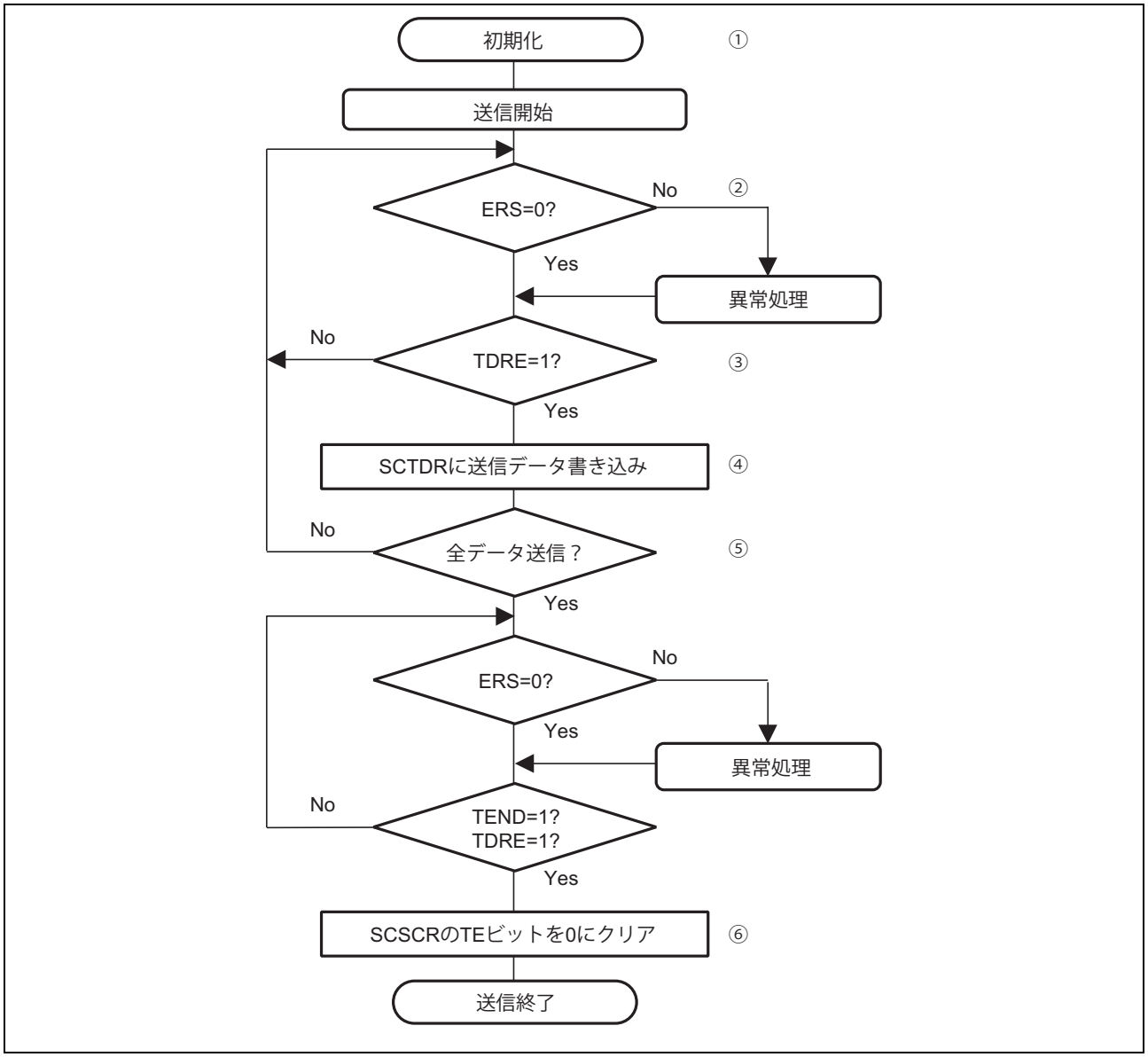


図 30.5　送信処理フローの例

(3)　シリアルデータ受信

スマートカードモードのデータ受信処理フローの例を図30.6 に示します。以下の①～⑥は、図30.6 の①～⑥に対応します。

① スマートカードインタフェースを「(1) 初期化」に従い初期化します。
② SCSSR の PER、ORER、WAIT_ER フラグが 0 であることを確認してください。どちらかのフラグがセットされている場合は、所定の受信異常処理を行った後、PER、ORER、WAIT_ER フラグを 0 にしてください。
③ RDRF フラグが 1 であることを確認できるまで②、③を繰り返してください。
④ SCRDR から受信データを読み出してください。
⑤ 継続してデータを受信する場合は、②に戻ってください。
⑥ 受信を終了する場合は、RE ビットを 0 にします。

以上の一連の処理は、割り込み処理が可能です。

RIE ビットを 1、EIO ビットを 0 にセットしておいたとき RDRF フラグが 1 にセットされると、受信データフル割り込み（RXI）要求が発生します。また、RIE ビット（SCSCR レジスタのビット 6）を 1 にセットし受信時にエラーが発生し、ORER、PER、WAIT_ER フラグのいずれかが 1 にセットされると、送受信エラー割り込み（ERI）要求を発生します。

詳細は「(5) 割り込み動作」を参照してください。

なお、受信時にパリティエラーが発生し PER が 1 にセットされた場合、T = 0 では受信したデータは SCRDR に転送されませんのでこのデータを読み出すことはできません。T = 1 では受信したデータは SCRDR に転送されますので、このデータを読み出すことができます。

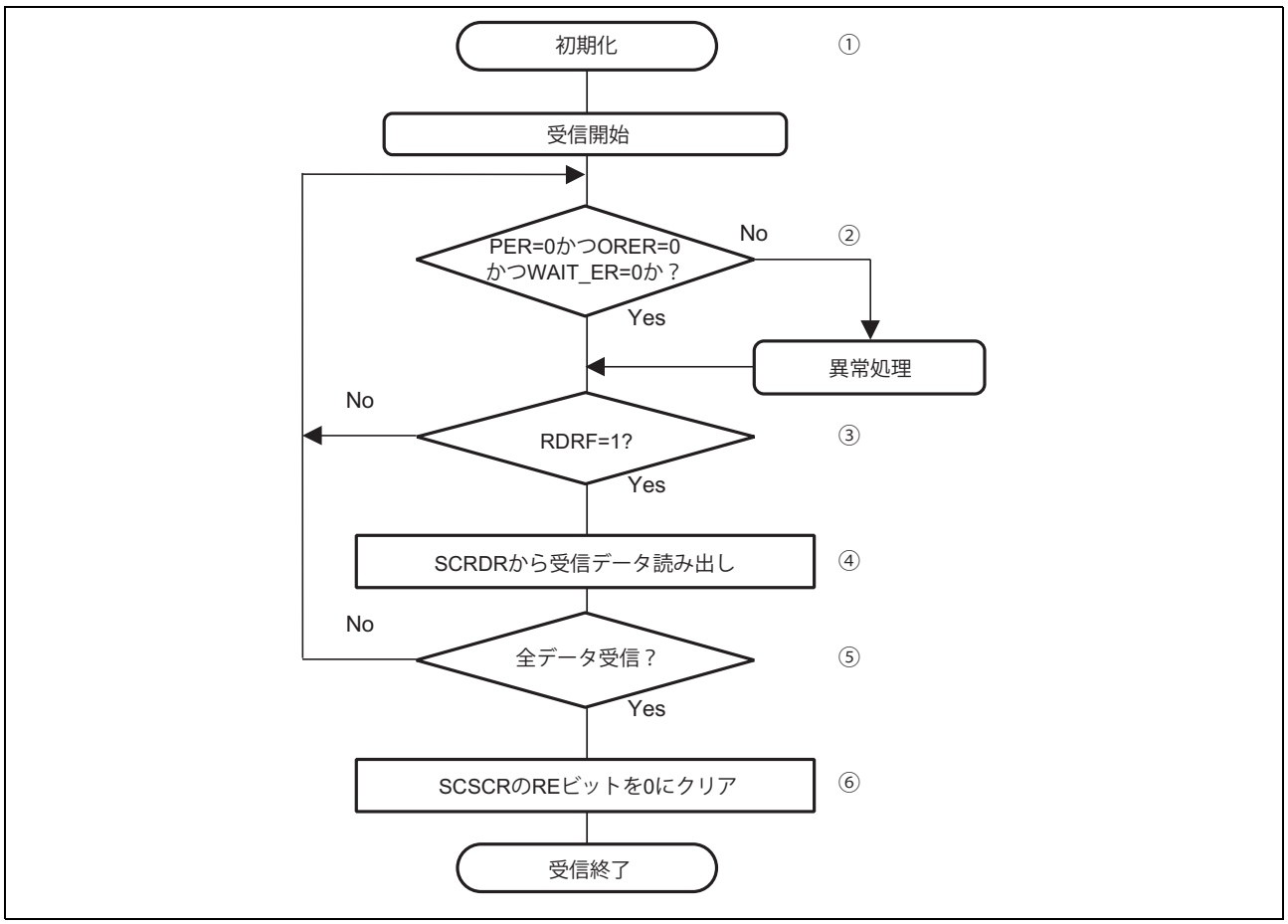


図 30.6　受信処理フローの例

(4)　モード切り替え動作

受信モードから送信モードに切り替える場合、受信動作が完了していることを確認した後、初期化から開始し、RE＝0、TE＝1 に設定してください。受信動作の完了はRDRF フラグで確認できます。

送信モードから受信モードに切り替える場合、送信動作が完了していることを確認した後、初期化から開始し、TE＝0、RE＝1 に設定してください。送信動作の完了はTDRE、TEND フラグで確認できます。

(5)　割り込み動作

スマートカードインタフェースでは、送信データエンプティ割り込み（TXI）要求、送受信エラー割り込み（ERI）要求、受信データフル割り込み（RXI）要求、送信終了割り込み（TEI）要求の 4 種類の割り込み要因があります。

- SCSSR のTDRE フラグが1 にセットされると、TXI 要求が発生します。
- SCSSR のRDRF フラグが1 にセットされると、RXI 要求が発生します。
- SCSSR のERS、ORER、PER、WAIT_ER フラグが1 にセットされると、ERI 要求が発生します。
- SCSSR のTEND フラグがセットされると、TEI 要求が発生します。

表30.5 にスマートカードインタフェースの割り込み要因を示します。各割り込み要求はSCSCR のTIE、RIE、TEIE、WAIT_IE 及びSCSC2R のEIO ビットで許可又は禁止できます。また、各割り込み要求はそれぞれ独立に割り込みコントローラに送られます。

表30.5　スマートカードインタフェース割り込み要因

動作状態		フラグ	マスクビット	割り込み要因
送信モード	正常動作	TDRE	TIE	TXI
		TEND	TEIE	TEI
	エラー	ERS	RIE	ERI
受信モード	正常動作	RDRF	RIE、EIO	RXI
	エラー	ORER、PER	RIE	ERI
		WAIT_ER	WAIT_IE	ERI

(6) DMAC によるデータ転送動作

スマートカードインタフェースは、DMAC を使って送受信を行うことができます。

送信動作では、SCSSR の TDRE フラグが 1 にセットされると、送信データエンプティー DMA 転送要求が発生します。あらかじめ DMAC の起動要因に送信データエンプティー DMA 転送要求を設定しておけば、送信データエンプティー DMA 転送要求により DMAC を起動してデータ転送を行うことができます。

T＝0 モードのとき、送信時にエラーシグナルを受信した場合、自動的に同じデータを再送信します。この再送信のとき DMA 転送要求は発生しませんので DMAC に指定したバイト数の送信ができます。

DMAC で送信データ処理を行い、SH-4A への割り込み要求でエラー処理を行う場合、TIE ビット（SCSCR レジスタのビット 7）を 0 にセットし TXI 要求が発生しないようにして、RIE ビット（SCSCR レジスタのビット 6）を 1 にセットして ERI 要求が発生するようにしてください。エラーシグナルを受信したときにセットされる ERS フラグは、自動的にクリアされませんので SH-4A への割り込み要求でクリアしてください。

受信動作では、SCSSR の RDRF フラグが 1 にセットされると受信データフル DMA 転送要求が発生します。あらかじめ DMAC の起動要因に受信データフル DMA 転送要求を設定しておけば、受信データフル DMA 転送要求により DMAC を起動してデータ転送を行うことができます。

T ＝ 0 モードのとき、受信時にパリティエラーが発生した場合データの再送信要求をします。このとき RDRF フラグはセットされず DMA 転送要求は発生しませんので DMAC に指定したバイト数の受信ができます。

DMAC で受信データ処理を行い、SH-4A への割り込み要求でエラー処理を行う場合、RIE ビットを 1、EIO ビット（SCSC2R レジスタのビット 7）を 1 にセットして、RXI 要求が発生せず ERI 要求のみ発生するように設定してください。

受信エラーによりセットされる PER、ORER、WAIT_ER フラグは自動的にクリアされませんので SH-4A への割り込み要求でクリアしてください。

なお、DMAC を使って送受信を行う場合は、必ず先に DMAC を設定し、イネーブル状態にしてからスマートカードインタフェースの設定を行ってください。

30.5　使用上の注意事項

スマートカードインタフェースを使用する際は、以下のことに注意してください。

(1)　受信データタイミングと受信マージン

SCSMPL レジスタが初期値の場合、スマートカードインタフェースは転送レートの372 倍の周波数の基本クロックで動作しています。

受信時にスマートカードインタフェースは、スタートビットの立ち下がりをシリアルクロックでサンプリングして、内部を同期化します。また、受信データをシリアルクロックの186 クロック目の立ち上がりエッジで内部に取り込みます。これを図30.7 に示します。

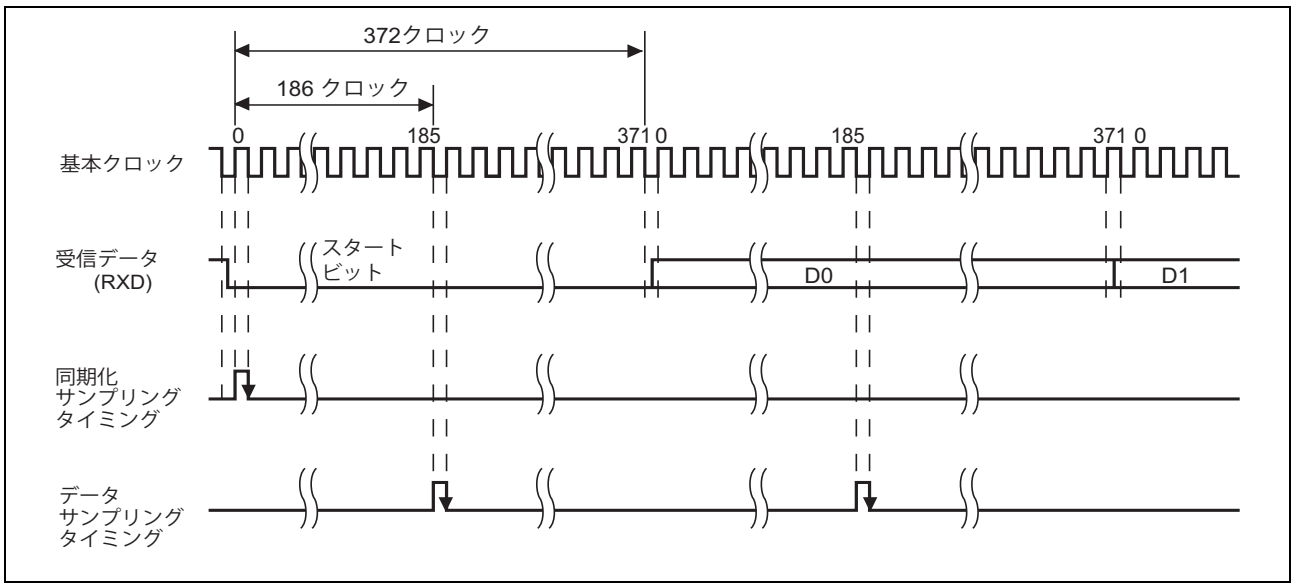


図 30.7　スマートカードモード時の受信データサンプリングタイミング

したがって、受信マージンは、次の式のように表すことができます。

スマートカードモード時の受信マージン式

$$M = \left| \left(0.5 - \frac{1}{2N}\right) - (L - 0.5)F - \frac{|D - 0.5|}{N}(L + F) \right| \times 100\%$$

M: 受信マージン（%）
N: クロックに対するビットレートの比 (N ＝372)
D: クロックデューティ (D ＝0 ～ 1.0)
L: フレーム長 (L ＝ 10)
F: クロック周波数の偏差の絶対値

上式で、F＝0、D＝0.5 とすると、受信マージン式は次のようになります。

D＝0.5、F＝0 のとき、

M ＝ (0.5 – 1/2 × 372) × 100%

＝49.866%

(2)　再転送動作

スマートカードインタフェースがそれぞれ受信モードの場合と、送信モードの場合の再転送動作を、次に示します。

- スマートカードインタフェースが受信モードの場合の再転送動作（T＝0）

  スマートカードインタフェースが受信モードの場合の再転送動作を図30.8 に示します。図30.8 の(1)～（5）は、以下の動作に対応します。

1. 受信したパリティビットをチェックした結果、エラーが検出されると、PERビット（SCSSRレジスタのビット3）が自動的に1にセットされます。このとき、RIEビット（SCSCRレジスタのビット6）がイネーブルになっていれば、ERI要求が発生します。次のパリティビットのサンプリングタイミングまでに、PERビットを0にしてください。
2. パリティエラーが発生したフレームでは、RDRFビット（SCSSRレジスタのビット6）はセットされません。
3. 受信したパリティビットをチェックした結果、エラーが検出されない場合は、PERビットはセットされません。
4. 受信したパリティビットをチェックした結果、エラーが検出されない場合は、正常に受信動作が完了したと判断して、RDRFビットが自動的に1にセットされます。このときRIEビットが1、EIOビットが0になっていれば、RXI要求が発生します。
5. 正常なフレームを受信した場合、エラーシグナルを送信するタイミングで端子はハイインピーダンス状態を保持します。

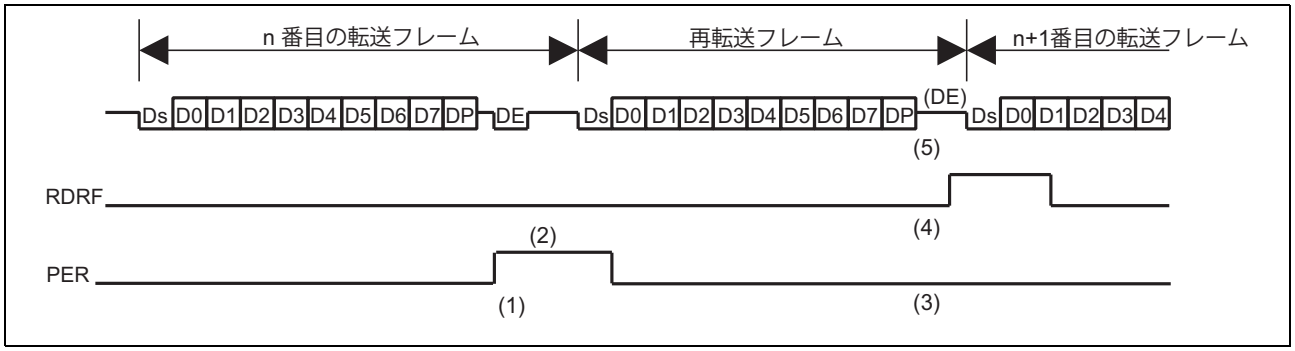


図 30.8　スマートカードインタフェース受信モードの場合の再転送動作

• スマートカードインタフェースが送信モードの場合の再転送動作（T＝0）

スマートカードインタフェースが送信モードの場合の再転送動作を図30.9に示します。図30.9の（1）～（4）は、以下の動作に対応します。

1. 1フレーム分の送信を完了した後、受信側からエラーシグナルが返されると、ERSビット（SCSSRレジスタのビット4）が1にセットされます。このとき、RIEビット（SCSCRレジスタのビット6）が許可になっていれば、ERI要求が発生します。次のパリティビットのサンプリングタイミングまでに、SCSSRのERSビットを0にしてください。
2. T＝0モードのとき異常を示すエラーシグナルを受信したフレームでは、SCSSRのTENDビットはセットされません。
3. 受信側からエラーシグナルが返ってこない場合は、ERSビット（SCSSRレジスタのビット2）はセットされません。
4. 受信側からエラーシグナルが返ってこない場合は、再転送を含む1フレームの送信が完了したと判断して、TENDビットが1にセットされます。このときTIEビット（SCSCRレジスタのビット7）がイネーブルになっていれば、TEI割り込み要求を発生します。

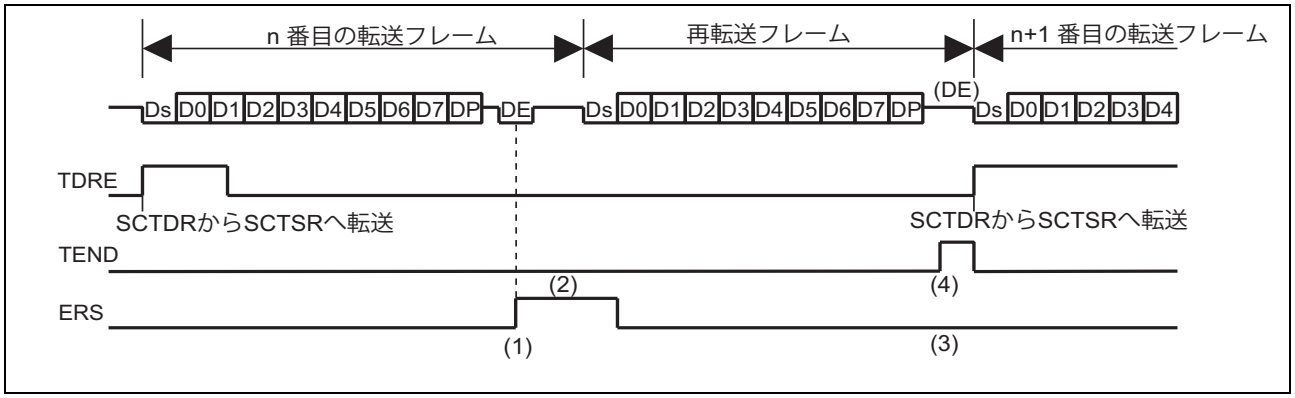


図 30.9　スマートカードインタフェース送信モードの場合の再転送動作スタンバイモード（クロックストップ）

(3)　スタンバイモードの切り替え

スマートカードインタフェースモードとスタンバイモード間でモード切り替えを行う際、クロックデューティを保持するため、下記の切り替え手順で処理してください。切り替え手順を図 30.10 に示します。図30.10 の（1）～（7）は、以下の操作に対応します。

- スマートカードインタフェースモードからスタンバイモードに遷移するとき

1. シリアルコントロールレジスタ（SCSCR）のTEビットとREビットに0を書き込み、送信／受信動作を停止させます。同時に、CKE1ビットをスタンバイモード時の出力固定状態の値に設定します。
2. CKE0ビット（SCSCRのビット0）に0を書き込み、クロックを停止させます。
3. シリアルクロックの1クロック周期の間待ちます。この間に、デューティを守って、指定のレベルでクロック出力は固定されます。
4. スタンバイ状態に遷移させます。

- スタンバイモードからスマートカードインタフェースモードに戻すとき

1. スタンバイ状態を解除します。
2. CKE1ビット（SCSCRのビット1）をスタンバイ開始時の出力固定状態（現在のSIM_CLK端子の状態）の値に設定します。
3. SCSCRのCKE0ビットに1を書き込みクロックを出力させます。正常なデューティにてクロック信号発生を開始します。

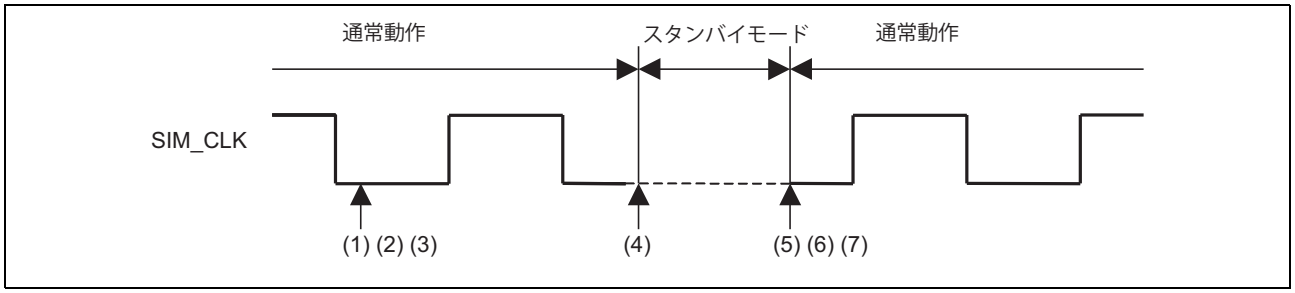


図 30.10　クロック停止、再起動手順

(4)　電源投入とクロック

電源投入時からクロックデューティを確保するためには、下記の切り替え手順で処理をしてください。

1. 初期状態は、ポート入力でありハイインピーダンスです。電位を固定するには、プルアップ抵抗／プルダウン抵抗を使用します。
2. CKE1ビット（SCSCRのビット1）で指定の出力に固定します。
3. CKE0ビット（SCSCRのビット0）を1に設定して、クロック出力を開始します。

(5)　端子接続

スマートカードインタフェースに関する端子接続例を図30.11 に示します。

スマートカードとの通信においては、1 本のデータ伝送線で送信と受信が行われます。また、データ伝送線は、抵抗で電源V_{CC}側にプルアップしてください。

スマートカードインタフェースで生成するクロックをIC カードで使用する場合は、SIM_CLK 端子出力をIC カードのCLK 端子に入力します。IC カードで、内部クロックを使用する場合は接続不要です。

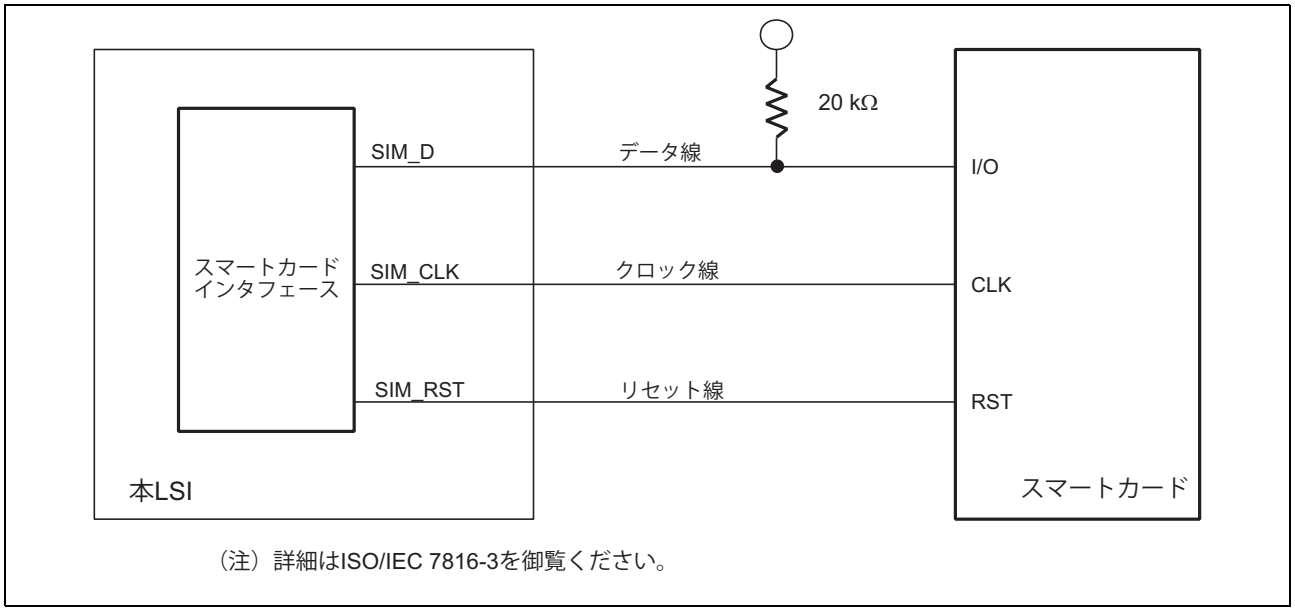


図 30.11　スマートカードインタフェース端子接続例

注.　IC カードを接続しないでRE＝TE＝1 に設定すると、閉じた送信／受信が可能となり自己診断をすることができます。

(6)　送信終了割り込みについて

連続送信時、TEIE（SCSCR レジスタのビット 2）が常に 1 にセットされていると TEND ビット（SCSSR レジスタのビット 2）は送信終了時に毎回 1 にセットされるため、必要のない送信終了割り込み（TEI）要求が発生します。

最後の送信データをトランスミットデータレジスタ（SCTDR）に書き込んでトランスミットシフトレジスタ（SCTSR）が送信を開始してから、シリアルコントロールレジスタ（SCSCR）のビット 2（TEIE）を 1 にセットすることで、不要な TEI 割り込み要求の発生を回避することができます。

図 30.12 に TEIE を 1 にセットするタイミングの波形を示します。

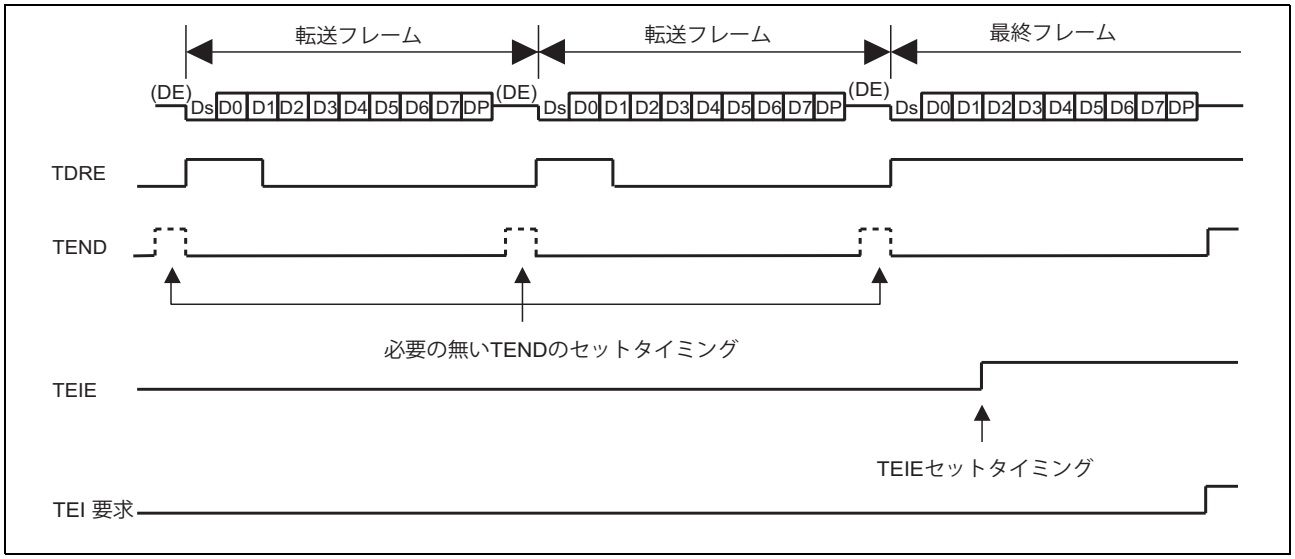


図 30.12　TEIE セットタイミング

31. USBファンクションモジュール0（USB0）

本USBファンクションモジュール0 (USB0) は、USB ファンクションコントロール機能を備えたUSB コントローラです。USB（Universal Serial Bus）規格2.0 のハイスピード転送、フルスピード転送に対応します。また、本モジュールは、USB トランシーバを内蔵し、USB 規格で定義されている全転送タイプに対応しています。

データ転送用に8.5K バイトのバッファメモリを内蔵し、デフォルトコントロールパイプを含む最大10本のパイプを使用できます。また、パイプ1～9 に対しては、通信を行う周辺デバイスやユーザシステムに合わせた任意のエンドポイント番号の割り付けが可能です。

なお、USBホスト/ファンクションモジュール1(USB1)で、USBファンクションを選択した場合のUSBファンクションコントロール機能も、本USB0と同様です。

31.1　特長

(1)　USB ハイスピード対応のファンクションコントローラを内蔵

- ハイスピード転送（480Mbps）とフルスピード転送（12Mbps）に対応
- ハイスピード／フルスピードUSB トランシーバ内蔵

(2)　少ない外付け素子かつ省スペース実装が可能

- VBUS信号を本モジュールの入力端子に直接接続可能
- D+プルアップ抵抗内蔵
- D+、D-終端抵抗内蔵（ハイスピード動作時）
- D+、D-出力抵抗内蔵（フルスピード動作時）

(3)　USB 通信の全種類のデータ転送タイプに対応

- コントロール転送
- バルク転送
- インタラプト転送（High Bandwidthは非対応）
- アイソクロナス転送（High Bandwidthは非対応）

(4)　内部バスインタフェース

- 専用のDMAインタフェースを1チャネル内蔵（SUDMAC）

(5)　パイプコンフィギュレーション

- 8.5Kバイトの USB通信用バッファメモリを内蔵
- 最大10本のパイプを選択可能（デフォルトコントロールパイプを含む）
- プログラマブルなパイプ構成
- パイプ1～9は任意のエンドポイント番号を割り付け可能
- 各パイプの設定可能な転送条件は以下の通り。

パイプ0　　：コントロール転送専用のパイプ（デフォルトコントロールパイプ：DCP）、64バイト固定シングルバッファ
パイプ1、2　：バルク転送又はアイソクロナス転送を選択可能なパイプ、連続転送モード、バッファサイズはプログラマブル（最大2Kバイトでダブルバッファ指定可能）
パイプ3～5　：バルク転送用のパイプ、連続転送モード、バッファサイズはプログラマブル（最大2Kバイトでダブルバッファ指定可能）
パイプ6～9　：インタラプト転送用のパイプ、64バイト固定シングルバッファ

(6)　その他の機能

- リセットハンドシェイク自動応答による、ハイスピード動作もしくはフルスピード動作の自動認識
- コントロール転送ステージ管理機能
- デバイスステート管理機能
- SET_ADDRESSリクエストに対する自動応答機能
- NAK応答割り込み機能（NRDY）
- SOF補間機能
- トランザクションカウントによるトランスファ終了機能

- BRDY割り込みイベント通知タイミング変更機能（BFRE）
- D0FIFO ポートで指定したパイプのデータ読み出し後自動バッファメモリクリア機能（DCLRM）
- トランスファ終了による応答PIDのNAK設定機能（SHTNAK）

31.2　入出力端子

USB0 の端子構成を表31.1 に示します。

表31.1　USB0 の端子構成

端子名	名称	入出力	機能
USDP0	USB D+ データ	入出力	USB 内蔵トランシーバD+入出力です。 USB バスのD+端子に接続してください。
USDM0	USB D- データ	入出力	USB 内蔵トランシーバD-入出力です。 USB バスのD-端子に接続してください。
VBUS0	Vbus入力	入力	USB ケーブル接続モニタ端子です。 USB バスのVbus に接続してください。Vbusの接続／切断を検出することができます。USB バスのVbusと接続しない場合は、5Vに固定してください。
REFRIN	リファレンス入力	入力	基準抵抗接続用端子です。 USB 1 でも使用します。 5.6KΩ±1%抵抗を介してグランドに接続してください（VSS：ボール番号AE19 （推奨）、AF19、又は AD22）。
VCCQ-USB	USBアナログ3.3V 用電源	—	トランシーバ部アナログ端子電源です。
VSS	グランド	—	グランド
VDD-USB	USBデジタル1.2V 用電源	—	トランシーバ部デジタルコア電源です。

31.3　リセット

USBトランシーバはリセットで初期化され、USBポートとUSBコントローラは切断状態になります。

USBを使用する場合は、先ずPHYポートコントロールレジスタを設定してトランシーバとコントローラ間の接続を有効にし、次にPHYリセットレジスタをリセット解除に設定します。

これは、USB0ファンクションモジュールとUSB1ホスト/ファンクションモジュールとに共通する事項です。

31.3.1　PHY インタフェースレジスタの説明

USB PHY リセットを制御するレジスタの構成を表 31.2 に示します。

表31.2　レジスタ構成

レジスタ名	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
					パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウエアリセット
PHYリセットレジスタ	RESET	R/W	H'FE5F 0000	16	H'0100	H'0100	H'0100
PHYポートコントロールレジスタ	PORTSEL	R/W	H'FE5F 000A	16	H'0000	H'0000	H'0000

31.3.2　PHYリセットレジスタ（RESET）

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	PLLEN	—	—	—	RESET_1	—	—	—	RESET_0
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	R/W	—	—	—	R/W	—	—	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 ～ 9	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
8	PLLEN	1	R/W	USB PHYの PLLのスタンバイコントロール 0：待機中 1：動作中
7 ～ 5	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
4	RESET_1	0	R/W	USB ポート1 のリセット信号 0：リセット中 1：リセット解除
3 ～ 1	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
0	RESET_0	0	R/W	USB ポート 0 のリセット信号 0：リセット中 1：リセット解除

リセットにより RESET_1 ビットとRESET_0 ビットは 0 に初期化されるので、USBを使用する前に各ビットに 1 を書き込み USB PHY リセットを解除してください。リセットを解除する前にPHYポートコントロールレジスタを設定する必要があります。また、USB1ではUSB ポート 1 のホストとファンクションを切り替える必要もあります。

31.3.3　PHYポートコントロールレジスタ（PORTSEL）

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	PT_SEL	
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15～2	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
1、0	PT_SEL	00	R/W	USB ポートセレクト 00：USB ポート非選択 01：設定禁止 10：PHY ポート 0：USB0、PHY ポート 1 ：USB1 11：設定禁止 PHY リセットを解除する前に、本ビットを”10” にセットしてください。

USB ポートが切断されている場合、UTMI PHY 信号は以下の値に固定されます。

表31.3　ポートが非選択時のシグナルステータス

固定される信号	値	信号名
UTMI PHY 信号	1 に固定	TERMSELECT、TX_ENABLE_N、XCVRSELECT[0]、DPPULLDOWN、DMPULLDOWN
	0 に固定	DATAIN、TXVALID、TXVALIDH、SUSPENDM、OPEMODE[1:0]、TX_DAT、TX_SE0、XCVRSELECT[1]、FSLSSERIALMODE
USB0コントローラ信号、USB1 コントローラ信号	1 に固定	HOSTDISCONNECT
	0 に固定	DATAOUT、TXREADY、RXACTIVE、RXVALID、RXVALIDH、RXERROR、RX_DP、RX_DM、RX_RCV、LINESTATE、VBUSON

31.4　システムコンフィギュレーション

USB0ファンクションモジュールとUSB1ホスト/ファンクションモジュールのブロック図を図31.1に示します。

USB0 とUSB1 のファンクションコントローラはそれぞれ、内部データバスに接続される専用DMAC(SUDMAC)を持っています。 USBファンクションコントローラとDMAC(SUDMAC)の相関について表31.4に示します。

USB0、USB1 と通信するメモリはDDR（DBSC 経由）に限ります。ILRAM、OLRAM、外部メモリ（LBSC経由）は使用できません。

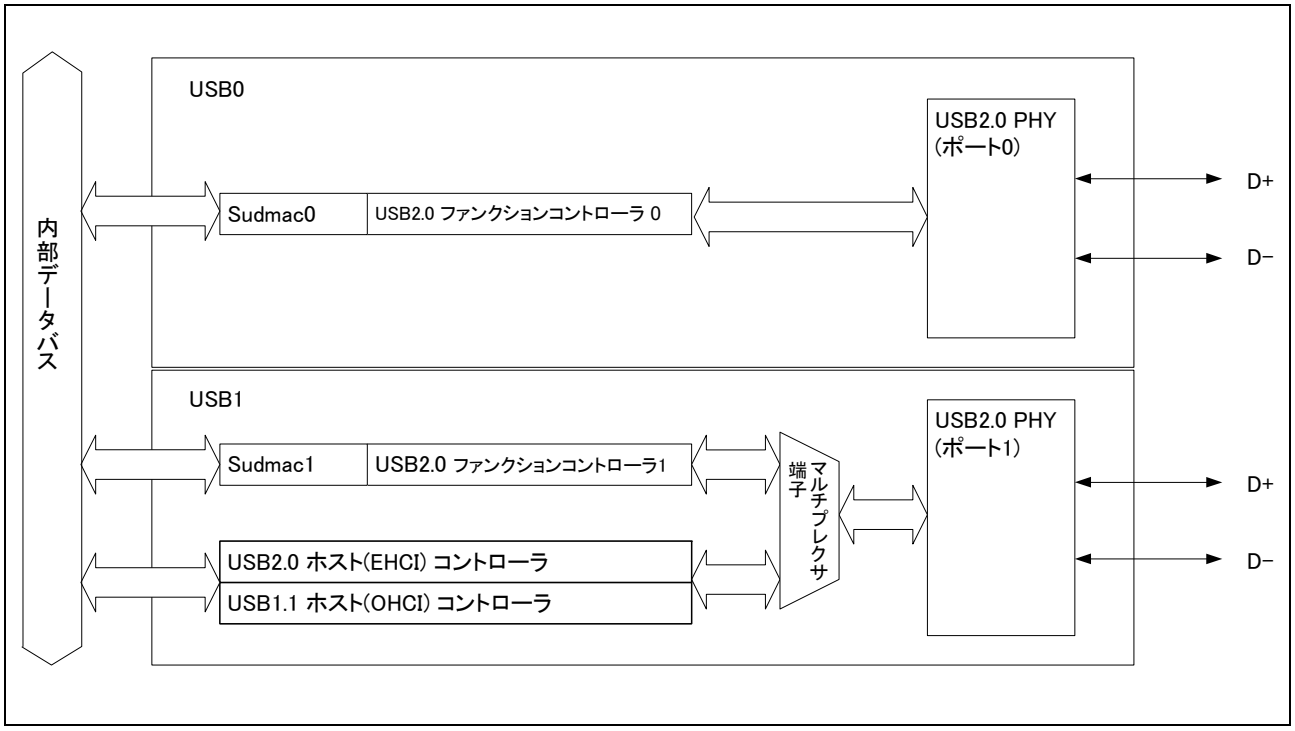


図 31.1　USB0モジュールとUSB1 モジュールのブロック図

表31.4　USB ファンクションコントローラとDMAC（SUDMAC）の相関

USBポート	ファンクション	DMAC
ポート 0	USB 2.0ファンクションコントローラ 0 ベースアドレス = H'FE45 0000	SUDMAC0 ベースアドレス = H'FE45 1000
ポート1	USB 2.0ファンクションコントローラ1 ベースアドレス = H'FE4F 0000	SUDMAC1 ベースアドレス = H'FE4F 0300

31.5　レジスタの説明

USB0/USB1 のファンクションコントローラのレジスタ構成を表 31.5 に示します。

表31.5　レジスタ構成

レジスタ名	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
					パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウエアリセット
システムコンフィギュレーションコントロールレジスタ	SYSCFG	R/W	ベースアドレス + H'000	16	H'0020	H'0020	H'0020
SH-4Aバスウエイト設定レジスタ	BUSWAIT	R/W	ベースアドレス + H'002	16	H'000F	H'000F	H'000F
システムコンフィギュレーションステータスレジスタ	SYSSTS	R	ベースアドレス + H'004	16	H'000X	H'000X	H'000X
デバイスステートコントロールレジスタ	DVSTCTR	R/W	ベースアドレス + H'008	16	H'0000	H'0000	H'0000
テストモードレジスタ	TESTMODE	R/W	ベースアドレス + H'00C	16	H'0000	H'0000	H'0000
CFIFOポートレジスタ	CFIFO	R/W	ベースアドレス + H'014	8/16/32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
CFIFOポート選択レジスタ	CFIFOSEL	R/W	ベースアドレス + H'020	16	H'0000	H'0000	H'0000
CFIFOポートコントロールレジスタ	CFIFOCTR	R/W	ベースアドレス + H'022	16	H'0000	H'0000	H'0000
D0FIFOポート選択レジスタ	D0FIFOSEL	R/W	ベースアドレス + H'028	16	H'0000	H'0000	H'0000
D0FIFO ポートコントロールレジスタ	D0FIFOCTR	R/W	ベースアドレス + H'02A	16	H'0000	H'0000	H'0000
割り込み許可レジスタ	INTENB	R/W	ベースアドレス + H'030	16	H'0000	H'0000	H'0000
BRDY割り込み許可レジスタ	BRDYENB	R/W	ベースアドレス + H'036	16	H'0000	H'0000	H'0000
NRDY割り込み許可レジスタ	NRDYENB	R/W	ベースアドレス + H'038	16	H'0000	H'0000	H'0000
BEMP割り込み許可レジスタ	BEMPENB	R/W	ベースアドレス + H'03A	16	H'0000	H'0000	H'0000
SOF出力コンフィグレーションレジスタ	SOFCFG	R/W	ベースアドレス + H'03C	16	H'0000	H'0000	H'0000
割り込みステータスレジスタ	INTSTS	R/W	ベースアドレス + H'040	16	H'X0X0	H'X0X0	H'X0X0
BRDY割り込みステータスレジスタ	BRDYSTS	R/W	ベースアドレス + H'046	16	H'0000	H'0000	H'0000
NRDY割り込みステータスレジスタ	NRDYSTS	R/W	ベースアドレス + H'048	16	H'0000	H'0000	H'0000
BEMP割り込みステータスレジスタ	BEMPSTS	R/W	ベースアドレス + H'04A	16	H'0000	H'0000	H'0000
フレームナンバーレジスタ	FRMNUM	R/W	ベースアドレス + H'04C	16	H'0000	H'0000	H'0000
マイクロフレームナンバーレジスタ	UFRMNUM	R	ベースアドレス + H'04E	16	H'0000	H'0000	H'0000

レジスタ名	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
					パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウエアリセット
USBアドレスレジスタ	USBADDR	R	ベースアドレス + H'050	16	H'0000	H'0000	H'0000
USBリクエストタイプレジスタ	USBREQ	R	ベースアドレス + H'054	16	H'0000	H'0000	H'0000
USBリクエストバリューレジスタ	USBVAL	R	ベースアドレス + H'056	16	H'0000	H'0000	H'0000
USBリクエストインデックスレジスタ	USBINDX	R	ベースアドレス + H'058	16	H'0000	H'0000	H'0000
USBリクエストレングスレジスタ	USBLENG	R	ベースアドレス + H'05A	16	H'0000	H'0000	H'0000
DCPマックスパケットサイズレジスタ	DCPMAXP	R/W	ベースアドレス + H'05E	16	H'0040	H'0040	H'0040
DCPコントロールレジスタ	DCPCTR	R/W	ベースアドレス + H'060	16	H'0040	H'0040	H'0040
パイプウィンドウ選択レジスタ	PIPESEL	R/W	ベースアドレス + H'064	16	H'0000	H'0000	H'0000
パイプコンフィギュレーションレジスタ	PIPECFG	R/W	ベースアドレス + H'068	16	H'0000	H'0000	H'0000
パイプバッファ指定レジスタ	PIPEBUF	R/W	ベースアドレス + H'06A	16	H'0000	H'0000	H'0000
パイプマックスパケットサイズレジスタ	PIPEMAXP	R/W	ベースアドレス + H'06C	16	H'0000	H'0000	H'0000
パイプ周期制御レジスタ	PIPEPERI	R/W	ベースアドレス + H'06E	16	H'0000	H'0000	H'0000
パイプ1コントロールレジスタ	PIPE1CTR	R/W	ベースアドレス + H'070	16	H'0000	H'0000	H'0000
パイプ2コントロールレジスタ	PIPE2CTR	R/W	ベースアドレス + H'072	16	H'0000	H'0000	H'0000
パイプ3コントロールレジスタ	PIPE3CTR	R/W	ベースアドレス + H'074	16	H'0000	H'0000	H'0000
パイプ4コントロールレジスタ	PIPE4CTR	R/W	ベースアドレス + H'076	16	H'0000	H'0000	H'0000
パイプ5コントロールレジスタ	PIPE5CTR	R/W	ベースアドレス + H'078	16	H'0000	H'0000	H'0000
パイプ6コントロールレジスタ	PIPE6CTR	R/W	ベースアドレス + H'07A	16	H'0000	H'0000	H'0000
パイプ7コントロールレジスタ	PIPE7CTR	R/W	ベースアドレス + H'07C	16	H'0000	H'0000	H'0000
パイプ8コントロールレジスタ	PIPE8CTR	R/W	ベースアドレス + H'07E	16	H'0000	H'0000	H'0000
パイプ9コントロールレジスタ	PIPE9CTR	R/W	ベースアドレス + H'080	16	H'0000	H'0000	H'0000
パイプ1トランザクションカウンタイネーブルレジスタ	PIPE1TRE	R/W	ベースアドレス + H'090	16	H'0000	H'0000	H'0000
パイプ1トランザクションカウンタレジスタ	PIPE1TRN	R/W	ベースアドレス + H'092	16	H'0000	H'0000	H'0000

レジスタ名	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
					パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウエアリセット
パイプ2 トランザクションカウンタイネーブルレジスタ	PIPE2TRE	R/W	ベースアドレス + H'094	16	H'0000	H'0000	H'0000
パイプ2 トランザクションカウンタレジスタ	PIPE2TRN	R/W	ベースアドレス + H'096	16	H'0000	H'0000	H'0000
パイプ3トランザクションカウンタイネーブルレジスタ	PIPE3TRE	R/W	ベースアドレス + H'098	16	H'0000	H'0000	H'0000
パイプ3 トランザクションカウンタレジスタ	PIPE3TRN	R/W	ベースアドレス + H'09A	16	H'0000	H'0000	H'0000
パイプ4トランザクションカウンタイネーブルレジスタ	PIPE4TRE	R/W	ベースアドレス + H'09C	16	H'0000	H'0000	H'0000
パイプ4トランザクションカウンタレジスタ	PIPE4TRN	R/W	ベースアドレス + H'09E	16	H'0000	H'0000	H'0000
パイプ5トランザクションカウンタイネーブルレジスタ	PIPE5TRE	R/W	ベースアドレス + H'0A0	16	H'0000	H'0000	H'0000
パイプ5 トランザクションカウンタレジスタ	PIPE5TRN	R/W	ベースアドレス + H'0A2	16	H'0000	H'0000	H'0000
UTMI サスペンドモードレジスタ	SUSPMODE	R/W	ベースアドレス + H'102	16	H'0000	H'0000	H'0000

注.　ベースアドレスに関しては、表 31.4 のファンクションの欄を参照してください。

31.5.1　システムコンフィギュレーションコントロールレジスタ（SYSCFG）

SYSCFG は、ハイスピード動作の許可、DP 端子の制御及び本モジュールの動作許可制御を行うレジスタです。

本レジスタは、パワーオンリセットで初期化されます。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	HSE	—	—	DPRPU	—	—	—	USBE
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	—	—	R/W	—	—	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 ～ 8	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
7	HSE	0	R/W	ハイスピード動作許可 0：ハイスピード動作禁止（フルスピード動作のみ許可します） 1：ハイスピード動作許可（本モジュールが通信スピードを検出します） HSE＝0 を設定した場合、本モジュールはフルスピード動作を行います。HSE＝1 を設定した場合、本モジュールはリセットハンドシェークプロトコルを実行し、その結果に従い自動的にハイスピード又はフルスピード動作を行います。 本ビットの書き換えは、DPRPU＝0 のときに行ってください。
6	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
5	—	1	—	リザーブビット （読み出すと“1”が読めます。書き込む値は“1”にしてください）
4	DPRPU	0	R/W	D+ライン抵抗制御 D+ラインのプルアップの禁止／許可を指定します。 0：プルアップ禁止 1：プルアップ許可 本ビットを”1”に設定すると、本モジュールはD+ラインを3.3Vにプルアップし、USB ホストに対してアタッチを通知することができます。また、本ビットを”1” から”0” に変更することにより、本モジュールはD+ラインのプルアップを解消しますので、USB ホストに対してデタッチしたと見せることができます。
3～ 1	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
0	USBE	0	R/W	USB モジュール動作許可 本モジュールの動作禁止／許可を指定します。 0：USB モジュール動作禁止 1：USB モジュール動作許可 本ビットを ”1” から”0” に変更したときに初期化されるレジスタとビットを表31.6 に示します。 本ビットの変更は、SUSPM＝1 のときに行ってください。

表31.6　USBE＝0 書き込みにより初期化されるレジスタ

レジスタ名	ビット名
SYSSTS	LNST
DVSTCTR	RHST
INTSTS	DVSQ
USBADDR	USBADDR
USEREQ	bRequest、bmRequestType
USBVAL	wValue
USBINDX	wIndex
USBLENG	wLength

31.5.2　SH-4Aバスウエイトレジスタ（BUSWAIT）

BUSWAITは、SH-4Aから本モジュールに対するアクセスウエイト数を指定します。初期値はH'000Fです。初期化ルーチンでH'0002以上の値に設定してください。

本レジスタは、パワーオンリセットで初期化されます。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	BWAIT[3:0]			
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 ～ 4	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
3 ～ 0	BWAIT[3:0]	1111	R/W	SH-4Aバスウエイト 本モジュールに対するアクセスウエイト数を設定します。 0000：設定禁止 0001：設定禁止 0010：2 ウエイト (アクセスサイクル4) 0011：3 ウエイト (アクセスサイクル5) 0100：4 ウエイト (アクセスサイクル6) 0101：5 ウエイト(アクセスサイクル7) 0110：6 ウエイト (アクセスサイクル8) 0111：7 ウエイト(アクセスサイクル9) 1000：8 ウエイト (アクセスサイクル10) 1001：9 ウエイト (アクセスサイクル11) 1010：10ウエイト (アクセスサイクル12 1011：11ウエイト (アクセスサイクル13) 1100：12 ウエイト (アクセスサイクル14) 1101：13 ウエイト (アクセスサイクル15) 1110：14 ウエイト (アクセスサイクル16 1111：15 ウエイト (アクセスサイクル17) （初期値）

31.5.3　システムコンフィギュレーションステータスレジスタ（SYSSTS）

SYSSTS は、USB データバスのラインステータス（D+及びD-ライン）をモニタします。
本レジスタは、パワーオンリセット及びUSB リセットで初期化されます。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	LNST[1:0]	
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 ～ 2	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
1、0	LNST[1:0]	不定（注）	R	USB データラインステータスモニタ USB データバスライン（D+ライン、D-ライン）のステータスが表示されます。USB データバスラインステータスを表31.7 に示します。 本ビットの参照は、アタッチ処理（DPRPU＝1 設定）以後に行ってください。

注．　USDP0、USDM0 端子の状態に依存します。

表31.7　USB データバスラインステータス表

LNST[1]	LNST[0]	フルスピード動作時	ハイスピード動作時	Chirp 動作時
0	0	SE0	Squelch	Squelch
0	1	J state	Not squelch	Chirp J
1	0	K state	Invalid	Chirp K
1	1	SE1	Invalid	Invalid

【記号説明】
Chirp　：ハイスピード動作許可の状態（HSE ビット（SYSCFG レジスタのビット7）が1）でリセットハンドシェイクプロトコル（RHSP）実行中
Squelch　:SE0 又はアイドル状態
Not squelch：ハイスピードJ-State 又はハイスピードK-State
Chirp J　：Chirp J state
Chirp K　：Chirp K state

31.5.4　デバイスステートコントロールレジスタ（DVSTCTR）

DVSTCTR は、USB データバスの状態制御及び確認をします。

本レジスタは、パワーオンリセットで初期化されます。USB バスリセットでは、WKUP ビットは初期化されます。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	WKUP	—	—	—	—	—	RHST[2:0]		
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	R/W (注)	—	—	—	—	—	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 ～ 9	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
8	WKUP	0	R/W（注）	ウェイクアップ出力 USB バス上へのリモートウェイクアップ（レジューム信号出力）禁止／許可を指定します。 0：リモートウェイクアップ信号非出力 1：リモートウェイクアップ信号出力 本モジュールは、リモートウェイクアップ信号の出力時間を管理しています。 本ビットに”1” を設定すると、本モジュールは10ms のK-State を出力した後、本ビットを”0” にします。 USB 規格では、リモートウェイクアップ信号の送信までに最短5ms のUSB バスアイドル状態を保持する必要があります。このため、本モジュールは、サスペンド状態を検出した直後に本ビットに1 を書き込んでも、2ms 待ってからK-State を出力します。 注．本ビットへの”1” 書き込みは、デバイスステートがサスペンド（DVSQビット（INTSTS レジスタのビット6～4）は1xx）であり、かつUSB ホストからリモートウェイクアップが許可されている場合にのみ行ってください。本ビットに”1” を書き込む場合は、サスペンド中であっても内部クロックを停止しないでください。
7 ～ 3	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
2 ～ 0	RHST[2:0]	000	R	リセットハンドシェイク リセットハンドシェイクの状態を表示します。 000：通信速度不定 100：リセットハンドシェイク処理中 010：フルスピード接続時 011：ハイスピード接続時 HSE＝1 を設定している場合、本モジュールがUSBバスリセットを検出すると、本ビットは100 を示します。その後、本モジュールがChirpK を出力し、USBホストからのChirpJK を３回検出した時点で本ビットは011 を示します。 ChirpK 出力後、2.5ms 以内にハイスピードに確定しなければ、本ビットは010を示します。 HSE＝0 を設定している場合、本モジュールがUSBバスリセットを検出すると、本ビットは010 を示します。 本モジュールがUSB バスリセットを検出後、RHST ビットが010又は011に確定した時点で、DVST 割り込みが発生します。

注．　”1”書き込みのみ有効です。

31.5.5　テストモードレジスタ（TESTMODE）

TESTMODE は、ハイスピード動作時のUSB テスト信号出力を制御します。
本レジスタは、パワーオンリセットで初期化されます。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	UTST[3:0]			
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 ～ 4	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
3 ～ 0	UTST[3:0]	0000	R/W	テストモード 本ビットに値を書き込むことにより、本モジュールは、ハイスピード動作時のUSB テスト信号を出力します。 本モジュールのテストモード動作表を表 31.8 に示します。 ハイスピード通信時のUSB ホストからのSetFeature リクエストに従って本ビットを書き込んでください。 本ビットに 0001～0100 を設定している時には、本モジュールはサスペンド状態へ遷移しません。 テストモード設定後、通常のUSB 通信を行う場合は、パワーオンリセットを実施してください。

表31.8　テストモード動作表

テストモード	UTST ビット設定
通常動作	0000
Test_J	0001
Test_K	0010
Test_SE0_NAK	0011
Test_Packet	0100
リザーブ	0101 ～ 1111

31.5.6　FIFO ポートレジスタ（CFIFO）

FIFOポートは、FIFOバッファメモリへのデータ読み出し/書き込みを行うポートレジスタで、CFIFOとD0FIFOの2つのポートがあります。

CFIFO ポートのみ、CFIFO バッファメモリへのデータのリード／ライトを行うレジスタで構成されています。

各FIFO ポートには、以下の特徴があります。

- DCP用FIFOバッファへのアクセスは、CFIFOポートを通して行ってください。
- D0FIFOポートは専用のDMA バス (SUDMAC)に接続されているので、SH-4Aからはアクセスできません。
- FIFOポート固有の機能を使用する場合は、CURPIPEビットに設定するパイプ番号（選択パイプ）を変更できません（DMA転送機能使用時など）。
- FIFOポートを構成するレジスタ群は、他のFIFOポートに影響を与えることはありません。
- 同一パイプを別々のFIFOポートに割り当てないでください。
- FIFOバッファの状況には、アクセス権がSH-4A側にある場合とSIE側にある場合の２種類があります。FIFOバッファのアクセス権がSIE側にある場合は、SH-4Aからアクセスができません。

本レジスタは、パワーオンリセットで初期化されます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	FIFOPORT[31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	FIFOPORT[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～0	FIFOPORT [31:0]	H'0000 0000	R/W	FIFOポート 本ビットにアクセスすることにより、FIFO バッファからの受信データを読み出し、もしくはFIFO バッファへの送信データの書き込みを行います。 本レジスタへのアクセスは、コントロールレジスタ（CFIFOCTR）のFRDY ビットが1 を示しているときのみ可能です。 本レジスタの有効ビットは、MBW ビットの設定値及びBIGENDビットの設定値により異なります。有効ビットを、表31.9～表31.11に示します。

表31.9　32 ビットアクセス時のエンディアン動作表（MBW ビット= 10 時）

BIGENDビット	31 ～ 24ビット	23 ～ 16ビット	15 ～ 8ビット	7 ～ 0ビット
0	N + 3 アドレス	N + 2 アドレス	N + 1 アドレス	N + 0 アドレス
1	N + 0 アドレス	N + 1 アドレス	N + 2 アドレス	N + 3 アドレス

表31.10　16 ビットアクセス時のエンディアン動作表（MBW ビット= 01 時）

BIGENDビット	31 ～ 24ビット	23 ～ 16ビット	15 ～ 8ビット	7 ～ 0ビット
0	書き込み：無効、読み出し：禁止（注）		N + 1 アドレス	N + 0 アドレス
1	N + 0 アドレス	N + 1 アドレス	書き込み：無効、読み出し：禁止（注）	

注.　無効レジスタへのワードリード又はバイトリードは禁止です。

表31.11　8 ビットアクセス時のエンディアン動作表（MBW ビット= 00 時）

BIGENDビット	31 ～ 24ビット	23～ 16ビット	15 ～ 8ビット	7 ～ 0ビット
0	書き込み：無効、読み出し：禁止（注）			N + 0 アドレス
1	N + 0 アドレス	書き込み：無効、読み出し：禁止（注）		

注.　無効レジスタへのワードリード又はバイトリードは禁止です。

31.5.7　FIFO ポート選択レジスタ（CFIFOSEL、D0FIFOSEL）

CFIFOSEL 、D0FIFOSELは、FIFO ポートに割り当てるパイプの選択、各FIFO ポートへのアクセスの制御をします。

CFIFOSEL 、D0FIFOSELのCURPIPE ビットに同一のパイプを指定しないでください。また、CURPIPEビット（D0FIFOSEL レジスタのビット3～0）の設定がB'0000 場合には、パイプ指定なしとなります。

なお、DMA 転送許可状態でパイプ番号の変更は行わないでください。

本レジスタは、パワーオンリセットで初期化されます。

(1)　CFIFOSEL

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RCNT	REW	—	—	MBW[1:0]		—	BIGEND	—	—	ISEL	—	CURPIPE[3:0]			
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W (注)	—	—	R/W	R/W	—	R/W	—	—	R/W	—	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15	RCNT	0	R/W	リードカウントモード DTLN ビット（CFIFOCTR レジスタのビット11～0）の読み出しモードを指定します。 0：CFIFO の全受信データ読み出し終了時にDTLN ビットを0クリア （ダブルバッファの場合は一面のみ読み出し終了時） 1：CFIFO 受信データ読み出しごとにDTLN ビットをカウントダウン
14	REW	0	R/W（注）	バッファポインタリワインド バッファポインタのリワインドをする／しないを指定します。 0：バッファポインタリワインドしない 1：バッファポインタリワインドする 選択パイプが受信方向の場合に、FIFO バッファの読み出し中に本ビットに”1”を設定すると、FIFO バッファの最初のデータから読み出しを行うことができます（ダブルバッファの場合は読み出し中の一面の最初のデータからの再読み出し可能状態になります）。 REW＝1 の設定とCURPIPE ビットの設定変更を同時に行わないでください。 REW＝1 の設定は、必ずFRDY＝1 であることを確認してから行ってください。 送信方向のパイプに対してFIFO バッファの最初のデータから書き込みをやり直す場合は、BCLR ビットを使用してください。
13、12	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
11、10	MBW[1:0]	00	R/W	CFIFO ポートアクセスビット幅 CFIFO ポートへのアクセスビット幅を指定します。 00：8 ビット幅 01：16 ビット幅 10：32 ビット幅 11：設定禁止 選択パイプが受信方向の場合、本ビットの設定後読み出しを開始したときには、すべてのデータの読み出しが完了するまでMBW ビットの変更を行わないでください。 また選択パイプが受信方向の場合、CURPIPE ビットとMBW ビットを同時に設定してください。 選択パイプが送信方向の場合、バッファメモリへの書き込み処理実行中に8 ビット幅から16 ビット幅／32 ビット幅、又は16 ビット幅から32 ビット幅へのビット幅切り替えは行えません。 8 ビット／16 ビット幅の設定でも、バイトアクセス制御することにより、奇数バイトの書き込みは可能です。
9	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
8	BIGEND	0	R/W	CFIFO ポートエンディアン制御 CFIFOポートのバイトエンディアンを指定します。必ず”1 “を設定してください。 0：リトルエンディアン 1：ビッグエンディアン
7、6	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
5	ISEL	0	R/W	DCP 選択時のCFIFO ポートアクセス方向 0：バッファメモリ読み出し選択 1：バッファメモリ書き込み選択 選択パイプがDCP のときに、本ビットを変更するときは、本ビットへの書き込み後、読み出しを行い、書き込み値と読み出し値が一致することを確認してから、次の処理に進んでください。 FIFO バッファへのアクセスの途中で本ビットの設定を変更した場合、それまでのアクセスを保持し、本ビットの設定を書き戻し後、続けてアクセスする事ができます。 本ビットの設定は、CURPIPE ビットの設定と同時に行ってください。
4	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
3 ～ 0	CURPIPE[3:0]	0000	R/W	CFIFO ポートアクセスパイプ指定 CFIFO ポート経由で、データの読み出し又は書き込みを行いたいパイプ番号を設定してください。 0000：DCP 0001：パイプ1 0010：パイプ2 0011：パイプ3 0100：パイプ4 0101：パイプ5 0110：パイプ6 0111：パイプ7 1000：パイプ8 1001：パイプ9 1010 ～ 1111：リザーブ 本ビットを変更するときは、本ビットへの書き込み後、読み出しを行い、書き込み値と読み出し値が一致することを確認してから、次の処理に進んでください。 CFIFOSEL レジスタ、D0FIFOSEL レジスタのCURPIPE ビットに同じパイプ番号を設定しないでください。 FIFO バッファへのアクセスの途中で本ビットの設定を変更した場合、それまでのアクセスを保持し、本ビットの書き戻し後、続けてアクセスすることができます。

注.　”0”読み出しのみ有効です。

(2)　D0FIFOSEL

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RCNT	REW	DCLRM	DREQE	—	—	—	—	—	—	—	—	CURPIPE[3:0]			
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W (注)	R/W	R/W	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15	RCNT	0	R/W	リードカウントモード D0FIFOCTR レジスタのDTLN ビットの読み出しモードを指定します。 0：D0FIFOの全受信データ読み出し終了時にDTLN ビットを0クリア （ダブルバッファの場合は一面分の読み出し終了時） 1：D0FIFO受信データ読み出しごとにDTLN ビットカウントダウン BFRE ビットに”1” を設定してD0FIFOにアクセスを行う場合は、本ビットに”0”を設定してください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
14	REW	0	R/W（注）	バッファポインタリワインド バッファポインタのリワインドをする／しないを指定します。 0：バッファポインタリワインドしない 1：バッファポインタリワインドする 選択パイプが受信方向の場合に、FIFO バッファの読み出し中に本ビットに”1”を設定すると、FIFO バッファの最初のデータから読み出しを行うことができます（ダブルバッファの場合は読み出し中の一面の最初のデータからの再読み出し可能状態になります）。 REW＝1 の設定とCURPIPE ビットの設定変更を同時に行わないでください。 REW＝1 の設定は、必ずFRDY＝1 であることを確認してから行ってください。 BFRE ビットに”1”を設定してD0FIFOにアクセスを行う場合は、ショートパケットデータを読み出し終えた状態で本ビットに”1”を設定しないでください。 送信方向のパイプに対してFIFOバッファの最初のデータから書き込みをやり直す場合は、BCLR ビットを使用してください。
13	DCLRM	0	R/W	選択パイプのデータ読み出し後の自動バッファメモリクリアモード 選択パイプのデータ読み出し後、自動バッファメモリクリアの禁止／許可を指定します。 0：自動バッファクリアモード禁止 1：自動バッファクリアモード許可 本ビットに” 1” を設定した場合、選択パイプに割り当てたFIFO バッファが空の状態でZero-Length packet を受信したとき、又はBFRE＝1 設定時にショートパケット受信しデータ読み出しを完了時に、FIFO バッファへのBCLR＝1処理を本モジュールが行います。 BRDYM＝1 に設定して本モジュールを使用するときには、必ず本ビットに”0”を設定してください。
12	DREQE	0	R/W	DMA 転送要求許可 DMA 転送要求発行の禁止／許可を指定します。 0：DMA 転送要求禁止 1：DMA 転送要求許可 DMA 転送要求発行を許可する場合、CURPIPE ビット設定後に本ビットに”1”を設定してください。 CURPIPE ビット設定を変更するときには、本ビットに“0”を設定した後で変更を行ってください。
11 ～ 9	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
8	—	0	—	リザーブビット 書き込み直前に読み出した値を書き込むようにしてください。 注．　パワーオンリセット直後の初期値は“0”ですが、本モジュールの初期化ルーチンで必ず”1” を書き込んでください。
7 ～4	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
3 ～ 0	CURPIPE[3:0]	0000	R/W	FIFO ポートアクセスパイプ指定 D0FIFOポート経由で、データの読み出し又は書き込みを行いたいパイプ番号を設定してください。 0000：指定なし 0001：パイプ1 0010：パイプ2 0011：パイプ3 0100：パイプ4 0101：パイプ5 0110：パイプ6 0111：パイプ7 1000：パイプ8 1001：パイプ9 1010 ～ 1111：リザーブ 本ビットを変更するときは、本ビットへの書き込み後、読み出しを行い、書き込み値と読み出し値が一致することを確認してから、次の処理に進んでください。 CFIFOSEL レジスタ、D0FIFOSEL レジスタのCURPIPE ビットに同じパイプ番号を設定しないでください。 FIFO バッファへのアクセスの途中で本ビットの設定を変更した場合、それまでのアクセスを保持し、本ビットの書き戻し後、続けてアクセスする事ができます。

注.　”0”読み出しのみ有効です。

31.5.8　FIFO ポートコントロールレジスタ（CFIFOCTR、D0FIFOCTR）

CFIFOCTR 、D0FIFOCTR は、バッファメモリの書き込み終了、SH-4A 側バッファクリア、及びFIFO ポートアクセス可能かどうかを設定するレジスタです。本レジスタには、各 FIFO ポートに対応しています。

本レジスタは、パワーオンリセットで初期化されます。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	BVAL	BCLR	FRDY	—	DTLN[11:0]											
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W (注2)	R/W (注1)	R	—	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15	BVAL	0	R/W（注2）	バッファメモリ有効フラグ CURPIPE に指定したパイプ（選択パイプ）のSH-4A 側のFIFO バッファの書き込み終了時に”1” を指定します。 0：無効 1：書き込み終了 選択パイプが送信方向のとき、以下の場合に本ビットに”1” を設定してください。 本モジュールはSH-4A側のFIFO バッファをSIE 側にし、送信可能状態にします。 • ショートパケットの送信を行いたいとき、データ書き込み終了時に本ビットに”1” を設定 • Zero-Length パケットの送信を行いたいとき、FIFO バッファへデータを書き込む前に本ビットに”1” を設定 • 連続転送モードのパイプに対して、MaxPacketSize の自然数倍かつBufferSize未満のデータ書き込み後に本ビットに”1” を設定 非続転送モードのパイプに対してMaxPacketSize 分のデータを書き込むと、本モジュールが本ビットを”1” にし、SH-4A側のFIFO バッファをSIE 側にして、送信可能状態にします。 本ビットへの”1” 書き込みは、本モジュールがFRDY＝1 を示しているときに実施してください。 選択パイプが受信方向のときには、本ビットへの”1” 書き込みを行わないでください。
14	BCLR	0	R/W（注1）	SH-4Aバッファクリア 選択パイプのSH-4A側のFIFO バッファをクリアする場合に”1” を指定します。 0：無効 1：SH-4A側バッファメモリクリア 選択パイプにアサインされているFIFO バッファがダブルバッファ設定の場合で、両面共に読み出し可能状態である場合でも、本モジュールは片面のFIFOバッファのみをクリアします。 選択パイプがDCP の場合は、FIFO バッファがSH-4A 側、SIE 側にかかわらず、BCLR＝1 設定により本モジュールはFIFO バッファをクリアします。SIE 側のバッファをクリアするときには、DCP のPID ビットを必ずNAK に設定した後でBCLR＝1 を行ってください。 選択パイプが送信方向の場合、BVAL ビットとBCLR ビットへ同時に”1” を書き込んだ場合には、本モジュールはそれ以前に書き込んだデータをクリアし、Zero-Length パケットを送信可能な状態にします。 選択パイプがDCP 以外の場合、本ビットへの”1” 書き込みは、本モジュールがFRDY＝1 を示しているときに実施してください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
13	FRDY	0	R	FIFOポートレディ SH-4A（DMAC）からFIFO ポートにアクセス可能かどうかが表示されます。 0：FIFO ポートアクセス不可 1：FIFO ポートアクセス可能 以下の場合には、本モジュールはFRDY＝1 を表示しますが、読み出すべきデータがないためFIFO ポートからのデータ読み出しはできません。これらのケースでは、BCLR＝1 を設定してFIFO バッファのクリアを行い、次のデータ送受信を行える状態にしてください。 • 選択パイプにアサインされているFIFO バッファが空の状態でZero-Lengthパケット受信した場合。 • BFRE＝1 設定時に、ショートパケットを受信し、データ読み出しを完了した場合。
12	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
11 ～ 0	DTLN[11:0]	H'000	R	受信データ長 受信データ長が表示されます。 FIFO バッファ読み出し中の本ビットの値は、RCNT ビットの設定値により以下のように異なります。 • RCNT＝0 設定時： SH-4A（DMAC）がFIFO バッファ 1 面分の受信データを読み出し完了するまで、本モジュールは受信データ長を本ビットに表示します。 BFRE＝1 設定時には、読み出しが完了してもBCLR＝1 を行うまでは本モジュールは受信データ長を保持します。 • RCNT＝1 設定時： 読み出し毎に本モジュールはDTLN ビットの表示をダウンカウントします。 （MBW＝0 設定時は-1、MBW＝1 設定時は-2 ずつダウンカウント） 1 面分のFIFO バッファ読み出し完了時に、本モジュールはDTLN＝0 を表示します。ただし、ダブルバッファ設定時かつFIFO バッファ 1 面分の受信データの読み出しを完了する前にもう1 面分のFIFO バッファに受信完了した場合は、先の1 面分の読み出し完了時に後の1 面分の受信データ長をDTLN ビットに表示します。 RCNT＝1 設定時に、FIFO バッファ読み出し途中で本ビットの値を読み出すときには、FIFO ポートへのリードサイクル後150ns 後までに本モジュールは本ビットの更新値を表示します。

注1.　”0” 読み出し、”1” 書き込みのみ有効です。
2.　”1” 書き込みのみ有効です。

31.5.9　割り込み許可レジスタ（INTENB）

INTENBは、各割り込みマスクの指定を行います。本レジスタに”1”を設定したビットに対応する割り込みを本モジュールが検出した場合に、本モジュールはUSB割り込みを発生します。

本モジュールは、本レジスタの設定値（割り込み通知の禁止／許可）にかかわらず、各割り込み要因の検出条件を満たしたときにINTSTSレジスタの対応するステータスビットに”1”を表示します。

各割り込み要因に対応するINTSTSレジスタのステータスビットが”1”を示している状態で、本レジスタの対応する割り込み許可ビットを0から1に変更すれば､本モジュールはUSB割り込み発生します。

本レジスタは、パワーオンリセットで初期化されます。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	VBSE	RSME	SOFE	DVSE	CTRE	BEMPE	NRDYE	BRDYE	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15	VBSE	0	R/W	VBUS割り込み許可 VBINT割り込み検出時、USB割り込み出力の禁止／許可を指定します。 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可
14	RSME	0	R/W	レジューム割り込み許可 RESM割り込み検出時、USB割り込み出力の禁止／許可を指定します。 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可
13	SOFE	0	R/W	フレーム番号更新割り込み許可 SOFR割り込み検出時、USB割り込み出力の禁止／許可を指定します。 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可
12	DVSE	0	R/W	デバイスステート遷移割り込み許可 DVST割り込み検出時、USB割り込み出力の禁止／許可を指定します。 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可
11	CTRE	0	R/W	コントロール転送ステージ遷移割り込み許可 CTRT割り込み検出時、USB割り込み出力の禁止／許可を指定します。 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可
10	BEMPE	0	R/W	バッファエンプティ割り込み許可 BEMP割り込み検出時、USB割り込み出力の禁止／許可を指定します。 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
9	NRDYE	0	R/W	バッファノットレディ応答割り込み許可 NRDY 割り込み検出時、USB 割り込み出力の禁止／許可を指定します。 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可
8	BRDYE	0	R/W	バッファレディ割り込み許可 BRDY 割り込み検出時、USB 割り込み出力の禁止／許可を指定します。 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可
7 ～ 0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

31.5.10 BRDY 割り込み許可レジスタ（BRDYENB）

BRDYENB は、各パイプのBRDY 割り込み検出時に、BRDY ビット（INTSTS レジスタのビット8）を1 に設定することを禁止するか／許可するかを指定します。

本レジスタに”1” を設定したパイプに対して、本モジュールがBRDY 割り込みを検出した場合に、本モジュールはBRDYSTS レジスタのPIPEBRDY ビットの対応するビットに”1” を表示し、INTSTS レジスタのBRDY ビットに”1” を表示し、BRDY 割り込みを発生します。

BRDYSTS レジスタの PIPEBRDY ビットの少なくともひとつのビットが ”1” を示している状態で、本レジスタの対応する割り込み許可ビットを0 から1 に変更すれば、本モジュールはBRDY 割り込みを発生します。

本レジスタは、パワーオンリセットで初期化されます。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	PIPE9 BRDYE	PIPE8 BRDYE	PIPE7 BRDYE	PIPE6 BRDYE	PIPE5 BRDYE	PIPE4 BRDYE	PIPE3 BRDYE	PIPE2 BRDYE	PIPE1 BRDYE	PIPE0 BRDYE
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 ～ 10	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
9	PIPE9BRDYE	0	R/W	パイプ9 のBRDY 割り込み許可 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可
8	PIPE8BRDYE	0	R/W	パイプ8 のBRDY 割り込み許可 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可
7	PIPE7BRDYE	0	R/W	パイプ7 のBRDY 割り込み許可 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可
6	PIPE6BRDYE	0	R/W	パイプ6 のBRDY 割り込み許可 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
5	PIPE5BRDYE	0	R/W	パイプ5のBRDY割り込み許可 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可
4	PIPE4BRDYE	0	R/W	パイプ4のBRDY割り込み許可 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可
3	PIPE3BRDYE	0	R/W	パイプ3のBRDY割り込み許可 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可
2	PIPE2BRDYE	0	R/W	パイプ2のBRDY割り込み許可 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可
1	PIPE1BRDYE	0	R/W	パイプ1のBRDY割り込み許可 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可
0	PIPE0BRDYE	0	R/W	パイプ0のBRDY割り込み許可 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可

31.5.11 NRDY割り込み許可レジスタ（NRDYENB）

NRDYENBは、各パイプのNRDY割り込み検出時にNRDYビット（INTSTSレジスタのビット9）を”1”に設定することを禁止する／許可するかを指定します。

本レジスタに”1”を設定したパイプに対して、本モジュールがNRDY割り込み要因を検出した場合に、本モジュールはNRDYSTSレジスタのPIPENRDYビットの対応するビットに”1”を表示し、INTSTSレジスタのNRDYビットに”1”を表示し、NRDY割り込みを発生します。

NRDYSTSレジスタのPIPENRDYビットの少なくともひとつのビットが”1”を示している状態で、本レジスタの対応する割り込み許可ビットを”0”から”1”に変更すれば、本モジュールはNRDY割り込みを発生します。

本レジスタは、パワーオンリセットで初期化されます。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	PIPE9NRDYE	PIPE8NRDYE	PIPE7NRDYE	PIPE6NRDYE	PIPE5NRDYE	PIPE4NRDYE	PIPE3NRDYE	PIPE2NRDYE	PIPE1NRDYE	PIPE0NRDYE
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 ～ 10	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
9	PIPE9NRDYE	0	R/W	パイプ9 のNRDY 割り込み許可 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可
8	PIPE8NRDYE	0	R/W	パイプ8 のNRDY 割り込み許可 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可
7	PIPE7NRDYE	0	R/W	パイプ7 のNRDY 割り込み許可 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可
6	PIPE6NRDYE	0	R/W	パイプ6 のNRDY 割り込み許可 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可
5	PIPE5NRDYE	0	R/W	パイプ5 のNRDY 割り込み許可 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可
4	PIPE4NRDYE	0	R/W	パイプ4 のNRDY 割り込み許可 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可
3	PIPE3NRDYE	0	R/W	パイプ3 のNRDY 割り込み許可 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可
2	PIPE2NRDYE	0	R/W	パイプ2 のNRDY 割り込み許可 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可
1	PIPE1NRDYE	0	R/W	パイプ1 のNRDY 割り込み許可 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可
0	PIPE0NRDYE	0	R/W	パイプ0 のNRDY 割り込み許可 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可

31.5.12 BEMP 割り込み許可レジスタ（BEMPENB）

BEMPENB は、各パイプのBEMP 割り込み検出時にBEMP ビット（INTSTS レジスタのビット10）を”1” に設定することを禁止する／許可するかを指定します。

本レジスタに”1” を設定したパイプに対して、本モジュールがBEMP 割り込み要因を検出した場合に、本モジュールはBEMPSTS レジスタのPIPEBEMP ビットの対応するビットに”1” を表示し、INTSTS レジスタのBEMP ビットに”1” を表示し、BEMP 割り込みを発生します。

BEMPSTS レジスタのPIPEBEMP ビットの少なくともひとつのビットが”1” を示している状態で、本レジスタの対応する割り込み許可ビットを0 から1 に変更すれば、本モジュールはBEMP 割り込みを発生します。

本レジスタは、パワーオンリセットで初期化されます。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	PIPE9 BEMPE	PIPE8 BEMPE	PIPE7 BEMPE	PIPE6 BEMPE	PIPE5 BEMPE	PIPE4 BEMPE	PIPE3 BEMPE	PIPE2 BEMPE	PIPE1 BEMPE	PIPE0 BEMPE
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 ～ 10	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
9	PIPE9BEMPE	0	R/W	パイプ9 のBEMP 割り込み許可 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可
8	PIPE8BEMPE	0	R/W	パイプ8 のBEMP 割り込み許可 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可
7	PIPE7BEMPE	0	R/W	パイプ7 のBEMP 割り込み許可 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可
6	PIPE6BEMPE	0	R/W	パイプ6 のBEMP 割り込み許可 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可
5	PIPE5BEMPE	0	R/W	パイプ5 のBEMP 割り込み許可 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可
4	PIPE4BEMPE	0	R/W	パイプ4 のBEMP 割り込み許可 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可
3	PIPE3BEMPE	0	R/W	パイプ3 のBEMP 割り込み許可 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可
2	PIPE2BEMPE	0	R/W	パイプ2 のBEMP 割り込み許可 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
1	PIPE1BEMPE	0	R/W	パイプ1のBEMP 割り込み許可 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可
0	PIPE0BEMPE	0	R/W	パイプ0のBEMP 割り込み許可 0：割り込み出力禁止 1：割り込み出力許可

31.5.13 SOF 出力コンフィグレーションレジスタ（SOFCFG）

SOFCFG は、各パイプのBRDY 割り込みステータスクリアタイミングを指定します。
本レジスタは、パワーオンリセットで初期化されます。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	BRDYM	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0(注)	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	—	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 ～ 7	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
6	BRDYM	0	R/W	各パイプのBRDY 割り込みステータスクリアタイミング設定 各パイプの BRDY 割り込みステータスをクリアするタイミングを指定します。 0：ステータスをクリア 1：FIFO バッファの読み出し又はFIFO バッファへの書き込み動作により本モジュールがステータスをクリア
5	—	0（注）	—	リザーブビット 本ビットはリザーブビットです。直前に読み出した値を書き込むようにしてください。 注．パワーオンリセット直後の初期値は”0” ですが、本モジュールの初期化ルーチンで必ず”1” に設定してください。
4～0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

31.5.14 割り込みステータスレジスタ（INTSTS）

INTSTS は、各検出された割り込みのステータスを表示します。
本レジスタは、パワーオンリセットで初期化されます。また、USB バスリセットでDVSQ[2:0] ビットは初期化されます。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	VBINT	RESM	SOFR	DVST	CTRT	BEMP	NRDY	BRDY	VBSTS	DVSQ[2:0]			VALID	CTSQ[2:0]		
初期値：	0	0	0	(注1)	0	0	0	0	(注3)	(注2)	(注2)	(注2)	0	0	0	0
R/W：	R/W (注6)	R/W (注6)	R/W (注6)	R/W (注6)	R/W (注6)	R	R	R	R	R	R	R	R/W (注6)	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15	VBINT	0	R/W（注6）	VBUS 割り込みステータス（注4）（注5） 0：VBUS 割り込み非発生 1：VBUS 割り込み発生 本モジュールがVBUS 端子入力値の変化（Hレベルからレベルへの変化あるいはLレベルからHレベルへの変化）を検出したときに、本ビットに”1” を表示します。本モジュールはVBUS 端子の入力値を、VBSTS ビットに表示します。VBINT 割り込み発生時は、VBSTS ビット読み出しの数度一致を行い、チャタリング除去を実施してください。
14	RESM	0	R/W（注6）	レジューム割り込みステータス（注4）（注5） 0：レジューム割り込み非発生 1：レジューム割り込み発生 本モジュールがサスペンド状態（DVSQ＝1XX）であり、かつ、USDP0端子の立ち下がりを検出したときに、本ビットに”1” を表示します。
13	SOFR	0	R/W（注6）	フレーム番号更新割り込みステータス（注4） 0：SOF 割り込み非発生 1：SOF 割り込み発生 フレームナンバーの更新時に本モジュールは本ビットに”1” を表示します。（本割り込みは、1ms 毎に検出します。） USB ホストからのSOF パケットが破損したときでも、内部補間により、本モジュールはSOFR 割り込みを検出します。
12	DVST	0/1（注1）	R/W（注6）	デバイスステート遷移割り込みステータス（注4） 0：デバイスステート遷移割り込み非発生 1：デバイスステート遷移割り込み発生 本モジュールがデバイスステートの変化を検出したときに、本モジュールはDVSQ の値を更新し、本ビットに”1” を表示します。 本割り込みが発生したときには、本モジュールが次のデバイスステートステート遷移を検出する前に、ステータスクリアを実施してください。
11	CTRT	0	R/W（注6）	コントロール転送ステージ遷移割り込みステータス（注4） 0：コントロール転送ステージ遷移割り込み非発生 1：コントロール転送ステージ遷移割り込み発生 本モジュールがコントロール転送のステージ遷移を検出したときに、本モジュールはCTSQ の値を更新し、本ビットに”1” を表示します。 本割り込みが発生したときには、本モジュールがコントロール転送の次のステージ遷移を検出するまでに、ステータスクリアを実施してください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
10	BEMP	0	R	バッファエンプティ割り込みステータス 0：BEMP 割り込み非発生 1：BEMP 割り込み発生 BEMPENB レジスタのPIPEBEMPE ビットに”1” を設定したパイプに対応するBEMPSTS レジスタのPIPEBEMP ビットのうち、少なくともひとつが”1” の状態になったとき（BEMP 割り込み通知を許可したパイプのうち少なくともひとつに対し本モジュールがBEMP 割り込み状態を検出したとき）に、本モジュールは本ビットに”1” を表示します。 PIPEBEMP ステータスのアサート条件は、「31.7.2(3)　BEMP 割り込み」を参照ください。 PIPEBEMPE ビットで許可を設定しているパイプに対応するPIPEBEMP ビットすべてに”0” を書き込むと、本モジュールは本ビットを”0” にクリアします。 本ビットに対して”0” を書き込んでも、本ビットの0 クリアを行うことはできません。
9	NRDY	0	R	バッファノットレディ割り込みステータス 0：NRDY 割り込み非発生 1：NRDY 割り込み発生 NRDYENB レジスタのPIPENRDYE ビットに”1” を設定したパイプに対応するNRDYSTS レジスタのPIPENRDY ビットのうち、少なくともひとつが”1” の状態になったとき（NRDY 割り込み通知を許可したパイプのうち少なくともひとつに対し本モジュールがNRDY 割り込み状態を検出したとき）に、本モジュールは本ビットに”1” を表示します。 PIPENRDY ステータスのアサート条件は、「31.7.2(2)　NRDY 割り込み」を参照ください。 PIPENRDYE ビットで許可を設定しているパイプに対応するPIPENRDY ビットのすべてに”0” を書き込むと、本モジュールは本ビットを”0” にクリアします。 本ビットに対して”0” を書き込んでも、本ビットの”0” クリアを行うことはできません。
8	BRDY	0	R	バッファレディ割り込みステータス BRDY 割り込みステータスが表示されます。 0：BRDY 割り込み非発生 1：BRDY 割り込み発生 BRDYENB レジスタのPIPEBRDYE ビットに”1” を設定したパイプに対応するBRDYSTS レジスタのPIPEBRDY ビットのうち、少なくともひとつが”1”の状態になったとき（BRDY 割り込み通知を許可したパイプのうち少なくともひとつに対し本モジュールがBRDY 割り込み状態を検出したとき）に、本モジュールは本ビットに”1” を表示します。 PIPEBRDY ステータスのアサート条件は、「31.7.2(1)　BRDY 割り込み」を参照ください。 PIPEBRDYE ビットで許可を設定しているパイプに対応するPIPEBRDY ビットのすべてに”0” を書き込むと、本モジュールは本ビットを”0” にクリアします。 本ビットに対して”0” を書き込んでも、本ビットの”0” クリアを行うことはできません。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	VBSTS	0/1（注3）	R	VBUS 入力ステータス 0：VBUS 端子がLレベル 1：VBUS 端子がHレベル
6 ～ 4	DVSQ[2:0]	000/001 （注2）	R	デバイスステート 000：パワードステート 001：デフォルトステート 010：アドレスステート 011：コンフィギュレーションステート 1xx：サスペンドステート
3	VALID	0	R/W（注6）	USB リクエスト受信 0：未検出 1：セットアップパケット受信
2 ～ 0	CTSQ[2:0]	000	R	コントロール転送ステージ 000：アイドル又はセットアップステージ 001：コントロールリードデータステージ 010：コントロールリードステータスステージ 011：コントロールライトデータステージ 100：コントロールライトステータスステージ 101：コントロールライト（NoData）ステータスステージ 110：コントロール転送シーケンスエラー 111：リザーブ

注1. パワーオンリセットのときB'0、USB バスリセットのときB'1 です。
2. パワーオンリセットのときB'000、USB バスリセットのときB'001 です。
3. VBUS 端子がHレベルのとき”1” 、Lレベルのとき”0” です。
4. VBINT ビット、RESM ビット、SOFR ビット、DVST ビット、又はCTRT ビットをクリアする場合は、クリアしたいビットにのみ”0” を、その他のビットには”1” を書き込んでください。”0” を示しているステータスビットへの”0”の書き込みを行わないでください。
5. VBINT ビット、RESM ビットが示すステータス変化をクロック停止中でも検出し、対応する割り込みが許可されていれば割り込みを通知します。ステータスのクリアはクロック許可後に行ってください。
6. 0 書き込みのみ有効です。

31.5.15 BRDY 割り込みステータスレジスタ（BRDYSTS）

BRDYSTS は、各パイプのBRDY 割り込みステータスを表示します。
本レジスタは、パワーオンリセットで初期化されます。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	PIPE9 BRDY	PIPE8 BRDY	PIPE7 BRDY	PIPE6 BRDY	PIPE5 BRDY	PIPE4 BRDY	PIPE3 BRDY	PIPE2 BRDY	PIPE1 BRDY	PIPE0 BRDY
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)	R/W (注1)

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 ～ 10	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
9	PIPE9BRDY	0	R/W（注1）	パイプ9のBRDY割り込みステータス（注2） 0：割り込み非発生 1：割り込み発生
8	PIPE8BRDY	0	R/W（注1）	パイプ8のBRDY割り込みステータス（注2） 0：割り込み非発生 1：割り込み発生
7	PIPE7BRDY	0	R/W（注1）	パイプ7のBRDY割り込みステータス（注2） 0：割り込み非発生 1：割り込み発生
6	PIPE6BRDY	0	R/W（注1）	パイプ6のBRDY割り込みステータス（注2） 0：割り込み非発生 1：割り込み発生
5	PIPE5BRDY	0	R/W（注1）	パイプ5のBRDY割り込みステータス（注2） 0：割り込み非発生 1：割り込み発生
4	PIPE4BRDY	0	R/W（注1）	パイプ4のBRDY割り込みステータス（注2） 0：割り込み非発生 1：割り込み発生
3	PIPE3BRDY	0	R/W（注1）	パイプ3のBRDY割り込みステータス（注2） 0：割り込み非発生 1：割り込み発生
2	PIPE2BRDY	0	R/W（注1）	パイプ2のBRDY割り込みステータス（注2） 0：割り込み非発生 1：割り込み発生
1	PIPE1BRDY	0	R/W（注1）	パイプ1のBRDY割り込みステータス（注2） 0：割り込み非発生 1：割り込み発生
0	PIPE0BRDY	0	R/W（注1）	パイプ0のBRDY割り込みステータス（注2） 0：割り込み非発生 1：割り込み発生

注1.　BRDYM＝0設定の場合、本レジスタの各ビットが示すステータスをクリアする場合は、クリアしたいビットにのみ”0”を、その他のビットには”1”を書き込んでください。
2.　BRDYM＝0設定の場合、本割り込みのクリアは、必ずFIFOアクセスを行う前に実施してください。

31.5.16　NRDY割り込みステータスレジスタ（NRDYSTS）

NRDYSTSは、各パイプのNRDY割り込みステータスを表示します。
本レジスタは、パワーオンリセットで初期化されます。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	PIPE9 NRDY	PIPE8 NRDY	PIPE7 NRDY	PIPE6 NRDY	PIPE5 NRDY	PIPE4 NRDY	PIPE3 NRDY	PIPE2 NRDY	PIPE1 NRDY	PIPE0 NRDY
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 ～ 10	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
9	PIPE9NRDY	0	R/W（注）	パイプ9 のNRDY 割り込みステータス 0：割り込み非発生 1：割り込み発生
8	PIPE8NRDY	0	R/W（注）	パイプ8 のNRDY 割り込みステータス 0：割り込み非発生 1：割り込み発生
7	PIPE7NRDY	0	R/W（注）	パイプ7 のNRDY 割り込みステータス 0：割り込み非発生 1：割り込み発生
6	PIPE6NRDY	0	R/W（注）	パイプ6 のNRDY 割り込みステータス 0：割り込み非発生 1：割り込み発生
5	PIPE5NRDY	0	R/W（注）	パイプ5 のNRDY 割り込みステータス 0：割り込み非発生 1：割り込み発生
4	PIPE4NRDY	0	R/W（注）	パイプ4 のNRDY 割り込みステータス 0：割り込み非発生 1：割り込み発生
3	PIPE3NRDY	0	R/W（注）	パイプ3 のNRDY 割り込みステータス 0：割り込み非発生 1：割り込み発生
2	PIPE2NRDY	0	R/W（注）	パイプ2 のNRDY 割り込みステータス 0：割り込み非発生 1：割り込み発生
1	PIPE1NRDY	0	R/W（注）	パイプ1 のNRDY 割り込みステータス 0：割り込み非発生 1：割り込み発生
0	PIPE0NRDY	0	R/W（注）	パイプ0 のNRDY 割り込みステータス 0：割り込み非発生 1：割り込み発生

注.　本レジスタの各ビットが示すステータスをクリアする場合は、クリアしたいビットにのみ”0” を、その他のビットには”1” を書き込んでください。

31.5.17 BEMP 割り込みステータスレジスタ（BEMPSTS）

BEMPSTS は、各パイプのBEMP 割り込みステータスを表示します。
本レジスタは、パワーオンリセットで初期化されます。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	PIPE9 BEMP	PIPE8 BEMP	PIPE7 BEMP	PIPE6 BEMP	PIPE5 BEMP	PIPE4 BEMP	PIPE3 BEMP	PIPE2 BEMP	PIPE1 BEMP	PIPE0 BEMP
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 ～ 10	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
9	PIPE9BEMP	0	R/W（注）	パイプ9 のBEMP 割り込みステータス 0：割り込み非発生 1：割り込み発生
8	PIPE8BEMP	0	R/W（注）	パイプ8 のBEMP 割り込みステータス 0：割り込み非発生 1：割り込み発生
7	PIPE7BEMP	0	R/W（注）	パイプ7 のBEMP 割り込みステータス 0：割り込み非発生 1：割り込み発生
6	PIPE6BEMP	0	R/W（注）	パイプ6 のBEMP 割り込みステータス 0：割り込み非発生 1：割り込み発生
5	PIPE5BEMP	0	R/W（注）	パイプ5 のBEMP 割り込みステータス 0：割り込み非発生 1：割り込み発生
4	PIPE4BEMP	0	R/W（注）	パイプ4 のBEMP 割り込みステータス 0：割り込み非発生 1：割り込み発生
3	PIPE3BEMP	0	R/W（注）	パイプ3 のBEMP 割り込みステータス 0：割り込み非発生 1：割り込み発生
2	PIPE2BEMP	0	R/W（注）	パイプ2 のBEMP 割り込みステータス 0：割り込み非発生 1：割り込み発生
1	PIPE1BEMP	0	R/W（注）	パイプ1 のBEMP 割り込みステータス 0：割り込み非発生 1：割り込み発生
0	PIPE0BEMP	0	R/W（注）	パイプ0 のBEMP 割り込みステータス 0：割り込み非発生 1：割り込み発生

注.　本レジスタの各ビットが示すステータスをクリアする場合は、クリアしたいビットのみに”0” を、他のビットには”1” を書き込んでください。

31.5.18 フレームナンバーレジスタ（FRMNUM）

FRMNUMは、アイソクロナスエラー通知の要因判別及びフレーム番号等の表示をします。
本レジスタは、パワーオンリセットで初期化されます。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15	OVRN	0	R/W（注）	オーバラン／アンダーラン検出ステータス アイソクロナス転送を行っているパイプに対するオーバラン／アンダーランエラー検出の有無が表示されます。 0：エラーなし 1：エラー発生 本ビットに”0” を書き込むことにより、本ビットを”0” にクリアすることができます。このとき、本レジスタの他のビットには”1” を書き込んでください。 以下のいずれかの場合に、本モジュールが本ビットに”1” を表示します。 • 転送タイプがアイソクロナスの送信方向パイプにおいて、FIFO バッファに送信データの書き込みが完了していないのにIN トークン を受信したとき。 • 転送タイプがアイソクロナスの受信方向パイプにおいて、少なくとも一面分のFIFO バッファの空がない状態で、OUT トークンを受信したとき。
14	CRCE	0	R/W（注）	受信データエラー アイソクロナス転送中のパイプに対するCRC エラーやビットスタッフィングエラーの検出ステータスが表示されます。 0：エラーなし 1：エラー発生 本ビットに”0” を書き込むことにより本ビットを”0” にクリアすることができます。 このとき本レジスタの他のビットには”1” を書き込んでください。 CRC エラーの検出時には、本モジュールは内部NRDY 割り込み要求を発生させません。
13 ～ 11	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
10 ～ 0	FRNM[10:0]	H'000	R	フレーム番号 本モジュールは、1ms に1回のSOF 発行タイミング又はSOF 受信時に本ビットを書き換え、最新のフレーム番号を表示します。 本ビットを読み出すときは、2 度一致で読み出してください。

注.　”0”書き込みのみ有効です。

31.5.19 マイクロフレームナンバーレジスタ（UFRMNUM）

UFRMNUMは、マイクロフレーム番号を表示します。
本レジスタは、パワーオンリセットで初期化されます。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	UFRNM[2:0]		
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 ～ 3	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
2 ～ 0	UFRNM[2:0]	000	R	マイクロフレーム マイクロフレーム番号が確認できます。 ハイスピード動作時は、本モジュールは、本ビットにマイクロフレーム番号を表示します。 ハイスピード以外での動作時には、本ビットにB'000 を表示します。 本ビットを読み出すときは、2度一致で読み出してください。

31.5.20 USB アドレスレジスタ（USBADDR）

USBADDR は、USB アドレスを表示します。
本レジスタは、パワーオンリセット及びUSB バスリセットで初期化されます。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	USBADDR[6:0]						
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 ～ 7	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
6 ～0	USBADDR [6:0]	H'00	R	USB アドレス SET_ADDRESS リクエストを正常に処理したときに、ホストから割り付けられたUSB アドレスを表示します。本モジュールがUSB リセットを検出したとき、本ビットにH'00 を表示します。

31.5.21 USB リクエストタイプレジスタ（USBREQ）

USBREQ は、コントロール転送のセットアップリクエストを格納するためのレジスタです。
USBREQ は、受信したbRequest 及びbmRequestType の値が格納されます。
本レジスタは、パワーオンリセット及びUSB バスリセットで初期化されます。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	BREQUEST[7:0]								BMREQUESTTYPE[7:0]							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 ～ 8	BREQUEST [7:0]	H'00	R	リクエスト USB リクエストbRequest の値を格納します。 SETUP トランザクションで受信したUSB リクエストデータ値を表示します。書き込みは無効です。
7 ～ 0	BMREQUEST-TYPE[7:0]	H'00	R	リクエストタイプ USB リクエストbmRequestType の値を格納します。 SETUP トランザクションで受信したUSB リクエストデータ値を表示します。書き込みは無効です。

31.5.22 USB リクエストバリューレジスタ（USBVAL）

USBVAL は、受信したwValue の値が格納されます。
本レジスタは、パワーオンリセット及びUSB バスリセットで初期化されます。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	WVALUE[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 ～ 0	WValue[15:0]	H'0000	R	バリュー USB リクエストwValue の値を格納します。 SETUP トランザクションで受信したUSB リクエストwValue の値を表示します。本ビットへの書き込みは無効です。

31.5.23 USB リクエストインデックスレジスタ（USBINDX）

コントロール転送のセットアップリクエストを格納するためのレジスタです。
USBINDX は、受信したwIndex の値が格納されます。
本レジスタは、パワーオンリセット及びUSB バスリセットで初期化されます。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	WINDEX[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 ～ 0	WINDEX[15:0]	H'0000	R	インデックス USB リクエストwIndex の値を格納します。 SETUP トランザクションで受信したUSB リクエストwIndex の値を表示します。本ビットへの書き込みは無効です。

31.5.24 USB リクエストレングスレジスタ（USBLENG）

コントロール転送のセットアップリクエストを格納するためのレジスタです。
USBLENG は、受信したwLength の値が格納されます。
本レジスタは、パワーオンリセット及びUSB バスリセットで初期化されます。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	WLENGTH[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 ～ 0	WLENGTH [15:0]	H'0000	R	レングス USB リクエストwLength の値を格納します。 SETUP トランザクションで受信したUSB リクエストwLength の値を表示します。本ビットへの書き込みは無効です。

31.5.25 DCP マックスパケットサイズレジスタ（DCPMAXP）

DCPMAXP は、DCP に対して、マックスパケットサイズを指定します。
本レジスタは、パワーオンリセットで初期化されます。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	MXPS[6:0]						
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 ～ 7	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
6 ～ 0	MXPS[6:0]	H'40	R/W	マックスパケットサイズ DCP の最大データペイロード（マックスパケットサイズ）を本ビットに設定してください。 初期値は、H'40（64 バイト）です。 MXPS ビットの設定は、USB 規格に準拠した値を設定してください。 MXPS ビットの設定は、PID＝NAK 及びCURPIPE ビットに未設定時に実施してください。 対応するパイプのPID ビット（DCPCTR レジスタのビット1、0）をBUF からNAK へ変更してから本ビットを変更する場合には、PBUSY＝0 を確認してから本ビットを変更してください。ただし、本モジュールがPID ビットをNAK に変更した場合には、PBUSY ビットの確認は必要ありません。 MXPS＝0 の設定でのFIFO バッファへの書き込み、又はPID＝BUF の設定は行わないでください。

注.　MXPS[2:0] ビットは B'000 に固定されます。

31.5.26 DCP コントロールレジスタ（DCPCTR）

DCPCTR は、DCP に対して、バッファメモリステータスの確認、データPID シーケンスビットの変更と確認、及び応答PID の設定を行います。

本レジスタは、パワーオンリセットで初期化されます。また、USB バスリセットでCCPL、PID[1:0] ビットは初期化されます。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	BSTS	—	—	—	—	—	—	SQCLR	SQSET	SQMON	PBUSY	—	—	CCPL	PID[1:0]	
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	—	—	—	—	—	—	R/W (注1)	R/W (注1)	R	R	—	—	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15	BSTS	0	R	バッファステータス DCP FIFO バッファへのアクセス可否ステータスが表示されます。 0：バッファアクセス不可 1：バッファアクセス可 本ビットの意味は、ISEL ビット（CFIFOSEL レジスタのビット5）の設定値により以下のように異なります。 • ISEL＝0 のとき、受信データの読み出しが可能かどうかを表示します。 • ISEL＝1 のとき、送信データの書き込みが可能かどうかを表示します。
14 ～ 9	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
8	SQCLR	0	R/W（注）	トグルビットクリア DCP の転送において、次のトランザクションのシーケンストグルビットの期待値をDATA0 に設定する事ができます。 0：無効 1：DATA0 指定 本ビットは常に0 を表示します。 SQCLR ビットとSQSET ビットに同時に”1” を設定しないでください。 本ビットへの1 設定は、PID＝NAK 及びCURPIPE が未設定時に実施してください。 対応するパイプのPID ビットをBUF からNAK へ変更してから本ビットに”1” を設定する場合には、PBUSY＝0 を確認してから本ビットを変更してください。ただし、本モジュールがPID ビットをNAK に変更した場合には、PBUSY ビットの確認は必要ありません。
7	SQSET	0	R/W（注）	トグルビットセット DCP の転送において、次のトランザクションのシーケンストグルビットの期待値をDATA1 に設定することができます。 0：無効 1：DATA1 指定 SQCLR ビットとSQSET ビットに同時に”1” を設定しないでください。 本ビットへの1 設定は、PID＝NAK 及びCURPIPE が未設定時に実施してください。 対応するパイプのPID ビットをBUF からNAK へ変更してから本ビットに”1” を設定する場合には、PBUSY＝0 を確認してから本ビットを変更してください。ただし、本モジュールがPID ビットをNAK に変更した場合には、PBUSY ビットの確認は必要ありません。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
6	SQMON	1	R	シーケンストグルビットモニタ DCP の転送において、次のトランザクションのシーケンストグルビットの期待値が表示されます。 0：DATA0 1：DATA1 トランザクションが正常処理すると本モジュールは本ビットをトグルさせます。ただし、受信方向転送時のDATA-PID ミスマッチ発生時には、本ビットをトグルさせません。 SETUP パケット正常受信時に、本モジュールは本ビットを”1” にセット（期待値をDATA1 に設定）します。 また、本モジュールはステータスステージのIN/OUT トランザクションでは本ビットを参照しません。また正常終了してもトグルさせません。
5	PBUSY	0	R	パイプビジー DCP がPID ビットをBUF からNAK に変更した場合に、DCP のトランザクションで使用されなくなったかを表示します。 0：DCP はトランザクションで未使用 1：DCP はトランザクションで使用 本モジュールは、当該パイプのUSB トランザクションを開始したときに本ビットを”0” から”1” に変更します。ひとつのトランザクションが終了したときに本ビットを”1” から”0” に変更します。 PID＝NAK を設定した後、本ビットを読み出すことにより、パイプ設定変更が可能になったかどうかを確認することができます。 詳細は「31.7.3 (1)　パイプコントロールレジスタの切り替え手順」を参照してください。
4、3	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
2	CCPL	0	R/W	コントロール転送終了許可 本ビットを ”1” にすることによりコントロール転送のステータスステージの終了許可を設定します。 0：無効 1：コントロール転送終了許可 対応する PID ビットがBUF のとき、本ビットに”1” を設定すると、本モジュールはコントロール転送のステージを完了させます。 即ち、コントロールリード転送時ではUSB ホストからのOUT トランザクションに対してACK ハンドシェイクを送信し、コントロールライト及びノーデータコントロール転送時ではUSB ホストからのIN トランザクションに対してZero-Length パケットを送信します。ただし、SET_ADDRESS リクエスト検出時は、本ビットの設定値に関係なく本モジュールはSETUP ステージからステータスステージ完了まで自動応答を行います。 新たな SETUP パケットを受信したときに、本モジュールは本ビットを”1” から”0” に変更します。 VALID＝1 のとき、本ビットへの”1” 書き込みを行うことが出来ません。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
1、0	PID[1:0]	00	R/W	応答PID 本ビットでコントロール転送における本モジュールの応答を制御します。 00：NAK 応答 01：BUF 応答（バッファ状態に従う） 10：STALL 応答 11：STALL 応答 以下の場合には本モジュールが本ビットの値を変更します。 • 本モジュールがSETUP パケットを受信したときに、本モジュールは本ビットをPID＝NAK に変更します。このとき、本モジュールはVALID＝1を表示し、VALID＝0 を設定するまでは本ビットの変更を行うことはできません。 • 本ビットにBUF を設定しているときに、本モジュールがMaxPacketSize を超えるデータを受信した場合、本モジュールはPID＝STALL（11）を表示します。 • 本モジュールがコントロール転送シーケンスエラーを検出した場合、PID＝STALL（1x）を表示します。 • 本モジュールがUSB バスリセットを検出した場合、PID＝NAK を表示します。 SET_ADDRESS リクエスト処理（自動処理）時には、本モジュールは本ビットの設定値を参照しません。

注.　読み出すと常に”0” が読み出されます。書き込みは”1” のみ有効です。

31.5.27 パイプウィンドウ選択レジスタ（PIPESEL）

パイプ1～9の設定は、PIPESEL、PIPECFG、PIPEBUF、PIPEMAXP、PIPEPERI、PIPEnCTR、PIPEnTRE及びPIPEnTRN レジスタで行ってください。

PIPESEL レジスタにて使用するパイプを指定した後、PIPECFG、PIPEBUF、PIPEMAXP 及びPIPEPERIレジスタに、各パイプの機能設定を行います。なお、PIPEnCTR、PIPnTRE、及びPIPnTRN レジスタは、PIPESEL レジスタによるパイプ選択とは無関係に設定可能です。

パワーオンリセット及びUSB バスリセット時は、選択されているパイプだけではなく、すべてのパイプのレジスタの該当ビットが初期化されます。

本レジスタは、パワーオンリセットで初期化されます。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	PIPESEL[3:0]			
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 ～ 4	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
3 ～ 0	PIPESEL[3:0]	0000	R/W	パイプウィンドウ選択 書き込み／読み出しをの対象とするPIPECFG レジスタ、PIPEBUF レジスタ、PIPEMAXP レジスタ、PIPEPERI レジスタに対応するパイプ番号を指定します。 0000：未選択 0001：パイプ1 0010：パイプ2 0011：パイプ3 0100：パイプ4 0101：パイプ5 0110：パイプ6 0111：パイプ7 1000：パイプ8 1001：パイプ9 1010~1111：リザーブ 本ビットで指定したパイプ番号に対応するPIPECFG、PIPEBUF、PIPEMAXP、PIPEPERI レジスタの読み出し／書き込みができます。 本ビットに 0000 を設定したときは、PIPECFG レジスタ、PIPEBUF レジスタ、PIPEMAXP レジスタ、PIPEPERI レジスタ、及びPIPEnCTR レジスタの各ビットに、すべて”0” が読み出されます。書き込みは無効です。

31.5.28 パイプコンフィギュレーションレジスタ（PIPECFG）

パイプ1～9に対して、各パイプの転送タイプ、バッファメモリのアクセス方向、及びエンドポイント番号の指定、また連続転送モードか非連続転送モードか、シングルバッファかダブルバッファか、及び転送終了時のパイプ動作を禁止するか否かの選択をします。本レジスタは、パワーオンリセットで初期化されます。また、USBバスリセットでTYPE[1:0]は初期化されます。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TYPE[1:0]		—	—	—	BFRE	DBLB	CNTMD	SHT NAK	—	—	DIR	EPNUM[3:0]			
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15、14	TYPE[1:0]	00	R/W	転送タイプ PIPESEL ビットに指定したパイプ（選択パイプ）の転送タイプを指定します。 • パイプ1、2 の場合 00：パイプ不使用 01：バルク転送 10：設定禁止 11：アイソクロナス転送 • パイプ3～5 の場合 00：パイプ不使用 01：バルク転送 10：設定禁止 11：設定禁止 • パイプ6～9 の場合 00：パイプ不使用 01：設定禁止 10：インタラプト転送 11：設定禁止 選択パイプをPID＝BUF に設定する（選択したパイプを使用したUSB 通信を開始する）前に、必ず本ビットを”00” 以外の値に設定してください。本ビットの変更は、選択パイプのPID ビットがNAK 状態のときに行ってください。選択パイプのPID ビットをBUF からNAK へ変更してから本ビットを変更する場合には、PBUSY＝0 を確認してから本ビットを変更してください。ただし、本モジュールがPID ビットをNAK に変更した場合には、PBUSY ビットの確認は必要ありません。
13 ～ 11	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
10	BFRE	0	R/W	BRDY 割り込み動作指定 本モジュールからSH-4Aへのの選択パイプに関するBRDY 割り込みの発行タイミングを指定します 0：データ送受信でBRDY 割り込み 1：データ読み出し完了時にBRDY 割り込み 選択パイプがPIPE1 ～ PIPE5のとき有効です。 本ビットに”1” を設定し、かつ選択パイプを受信方向で使用している場合、本モジュールは、トランスファの終了を検出し、そのパケットを読み出し終えたときにBRDY 割り込みを発行します。 この設定で BRDY 割り込みが発生したときには、BCLR＝1 の書き込み処理を行う必要があります。BCLR＝1 を行うまでは選択パイプに割り付けられたFIFO バッファは受信可能状態になりません。 本ビットに”1” を設定し、かつ、選択パイプを送信方向で使用している場合、本モジュールはBRDY 割り込みを発生させません。 詳細は、「31.7.2 (1)　BRDY 割り込み」を参照してください。 本ビットの変更は、PID＝NAK 及びCURPIPE ビットにパイプが未設定の状態のときに実施してください。 また、選択パイプを使用したUSB 通信を行った後、本ビットの設定を変更する場合には、CSSTSビット、PIDビット、CURPIPEビットの状態に加え、ACLRM＝1、ACLRM＝0 を連続して書き込み、選択パイプに割り付けられたFIFOバッファのクリアを実行してください。 選択パイプのPID ビットをBUF からNAK へ変更してから本ビットを変更する場合には、PBUSY＝0 を確認してから本ビットを変更してください。ただし、本モジュールがPID ビットをNAK に変更した場合には、PBUSY ビットの確認は必要ありません。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
9	DBLB	0	R/W	ダブルバッファモード 選択パイプが使用するFIFO バッファがシングルバッファかダブルバッファかを指定します。 0：シングルバッファ 1：ダブルバッファ 本ビットはパイプ1～5 選択時に有効です。 本ビットに”1” を設定している場合、本モジュールは選択パイプに対し、BUFSIZE ビット（PIPEBUF レジスタのビット14～10）で指定したFIFO バッファサイズを2 面分割り当てます。 すなわち、本モジュールが選択パイプに対して割り当てるFIFO バッファの容量は以下のとおりです。 (BUFSIZE+1).64.(DBLB+1) [バイト] 本ビットに”1” を設定し、かつ選択パイプを送信方向で使用している場合、本モジュールはBRDY 割り込みを発生させません。 詳細は、「31.7.2 (1)　BRDY 割り込み」を参照してください。 本ビットの変更は、PID＝NAK、及びCURPIPE ビットにパイプ番号未設定の状態のときに実施してください。 また、選択パイプを使用したUSB 通信を行った後、本ビットの設定を変更する場合には、CSSTSビット、PIDビット、CURPIPEビットの状態に加え、ACLRM＝1、ACLRM＝0 を連続して書き込み、選択パイプに割り付けられたFIFOバッファのクリアを実行してください。 選択パイプのPID ビットをBUF からNAK へ変更してから本ビットを変更する場合には、PBUSY＝0 を確認してから本ビットを変更してください。ただし、本モジュールがPID ビットをNAK に変更した場合には、PBUSY ビットの確認は必要ありません。
8	CNTMD	0	R/W	連続転送モード 選択パイプを連続転送モードで通信させるかどうかを指定します。 0：非連続転送モード 1：連続転送モード 本ビットは、PIPESEL ビットでパイプ1～5を選択し、かつバルク転送選択時（TYPE＝01）に有効です。 本ビットの変更は、PID＝NAK、及びCURPIPE ビットにパイプ番号未設定の状態のときに実施してください。 また、選択パイプを使用したUSB 通信を行った後、本ビットの設定を変更する場合には、CSSTSビット、PIDビット、CURPIPEビットの状態に加え、ACLRM＝1、ACLRM＝0 を連続して書き込み、選択パイプに割り付けられたFIFOバッファのクリアを実行してください。 選択パイプのPID ビットをBUF からNAK へ変更してから本ビットを変更する場合には、PBUSY＝0 を確認してから本ビットを変更してください。ただし、本モジュールがPID ビットをNAK に変更した場合には、PBUSY ビットの確認は必要ありません。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	SHTNAK	0	R/W	トランスファ終了時のパイプ禁止 選択パイプが受信方向の場合に、トランスファ終了時にPID をNAK に変更するかどうかを指定します。 0：トランスファ終了時にパイプ継続 1：トランスファ終了時にパイプ禁止 本ビットは、選択パイプがパイプ1～パイプ5であり、かつ、受信方向である場合に有効なビットです。 受信方向パイプに対して本ビットに”1” を設定している場合、本モジュールは、選択パイプに対しトランスファの終了を判定したときに選択パイプに対応するPID ビットをNAK に変更します。本モジュールは、以下条件が満たされたときにトランスファ終了と判定します。 • ショートパケットデータ (Zero-Length パケットを含む) を正常に受信したとき。 • トランザクションカウンタを使用し、トランザクションカウンタ分のパケットを正常受信したとき。 本ビットの変更は、PID＝NAK の状態のときに実施してください。 選択パイプのPID ビットをBUF からNAK へ変更してから本ビットを変更する場合には、PBUSY＝0 を確認してから本ビットを変更してください。ただし、本モジュールがPID ビットをNAK に変更した場合には、PBUSY ビットの確認は必要ありません。 送信方向パイプに対しては、本ビットを”0” に設定してください。
6、5	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
4	DIR	0	R/W	転送方向 選択パイプの転送方向を指定します。 0：受信方向 1：送信方向 本ビットに”0” を設定している場合、本モジュールは選択パイプを受信方向に、本ビットに”1” を設定している場合、本モジュールは選択パイプを送信方向に使用します。 本ビットの変更は、PID＝NAK 及びCURPIPE ビットにパイプ未設定の状態のときに実施してください。 また、選択パイプを使用したUSB 通信を行った後、本ビットの設定を変更する場合には、PIDビット、CURPIPEビットの状態に加え、ACLRM＝1、ACLRM＝0 を連続して書き込み、選択パイプに割り付けられたFIFOバッファのクリアを実行してください。 選択パイプのPID ビットをBUF からNAK へ変更してから本ビットを変更する場合には、PBUSY＝0 を確認してから本ビットを変更してください。ただし、本モジュールがPID ビットをNAK に変更した場合には、PBUSY ビットの確認は必要ありません。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
3 ～ 0	EPNUM[3:0]	0000	R/W	エンドポイント番号 選択パイプのエンドポイント番号を指定します。 0000 の設定は、未使用パイプを意味します。 本ビットの変更は、PID＝NAK の状態のときに実施してください。 選択パイプのPID ビットをBUF からNAK へ変更してから本ビットを変更する場合には、PBUSY＝0 を確認してから本ビットを変更してください。ただし、本モジュールがPID ビットをNAK に変更した場合には、PBUSY ビットの確認は必要ありません。 DIR ビットとEPNUM ビットの設定の組み合わせが他のパイプの設定と重複しないように設定してください。（EPNUM＝0000 の設定は重複可能です。）

31.5.29 パイプバッファ指定レジスタ（PIPEBUF）

PIPEBUFは、パイプ1～9に対して、バッファサイズ及びバッファ番号を指定します。
本レジスタは、パワーオンリセットで初期化されます。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	BUFSIZE[4:0]					—	—	BUFNMB[7:0]							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
14 ～ 10	BUFSIZE[4:0]	H'00	R/W	バッファサイズ PIPESELビットに指定したパイプ（選択パイプ）のバッファサイズを指定します。単位はブロック数であり、1ブロックは64バイトです。 00000（H'00）：64バイト 00001（H'01）：128バイト ：　： 11111（H'1F）：2Kバイト DBLB＝1を設定している場合、本モジュールは選択パイプに対し、本ビットで指定したFIFOバッファサイズを2面分割り当てます。 本モジュールが選択パイプに対して割り当てるFIFOバッファの容量は以下のとおりです。 (BUFSIZE+1)　x 64 x (DBLB+1) [バイト] 選択パイプに応じて、本ビットに設定可能な値が異なります。 パイプ1～5の場合：BUFSIZE＝H'00～H'1Fを設定してください。 パイプ6～9の場合：BUFSIZE＝H'00を設定してください。 CNTMD＝1で使用する場合は、本ビットに、MaxPacketSizeの整数倍の値を設定してください。 本ビットの変更は、PID＝NAK及びCURPIPEビットにパイプ未設定の状態のときに実施してください。 選択パイプのPIDビットをBUFからNAKへ変更してから本ビットを変更する場合には、PBUSY＝0を確認してから本ビットを変更してください。ただし、本モジュールがPIDビットをNAKに変更した場合には、PBUSYビットの確認は必要ありません。
9、8	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～ 0	BUFNMB[7:0]	H'00	R/W	バッファ番号 選択パイプのFIFO バッファ番号をH'04～H'87 で指定します。 選択パイプとしてパイプ1～5 を設定している場合、本ビットにはユーザシステムに合わせた値を設定することができます。 BUFNMB＝0～3 はDCP 専用です。 BUFNMB＝4 はパイプ6 専用です。 ただしパイプ6 を使用しない場合、他のパイプで使用可能です。 選択パイプがパイプ6 の場合、本ビットへの書き込みは無効で、モジュールがBUFNMB＝4 を自動的に割り付けます。 BUFNMB＝5 はパイプ7 専用です。 ただしパイプ7 を使用しない場合、他のパイプで使用可能です。 選択パイプがパイプ7 の場合、本ビットへの書き込みは無効で、モジュールがBUFNMB＝5 を自動的に割り付けます。 BUFNMB＝6 はパイプ8 専用です。 ただしパイプ8 を使用しない場合、他のパイプで使用可能です。 選択パイプがパイプ8 の場合、本ビットへの書き込みは無効で、モジュールがBUFNMB＝6 を自動的に割り付けます。 BUFNMB＝7 はパイプ9 専用です。 ただしパイプ9 を使用しない場合、他のパイプで使用可能です。 選択パイプがパイプ9 の場合、本ビットへの書き込みは無効で、モジュールがBUFNMB＝7 を自動的に割り付けます。 本ビットの変更は、PID＝NAK 及びCURPIPE ビットにパイプ未設定の状態のときに実施してください。 選択パイプのPID ビットをBUF からNAK へ変更してから本ビットを変更する場合には、PBUSY＝0 を確認してから本ビットを変更してください。 ただし、本モジュールがPID ビットをNAK に変更した場合には、PBUSY ビットの確認は必要ありません。

31.5.30 パイプマックスパケットサイズレジスタ（PIPEMAXP）

PIPEMAXPは、パイプ1～9に対して、マックスパケットサイズを指定します。
本レジスタは、パワーオンリセットで初期化されます。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	MXPS[10:0]										
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 (注)	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 ～ 11	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
10 ～0	MXPS[10:0]	（注）	R/W	マックスパケットサイズ 選択パイプの最大データペイロード（マックスパケットサイズ）を指定します。パイプごとに設定可能な値の範囲を以下に示します。 パイプ 1、2：1 バイト (H'001)～1024 バイト (H'400) パイプ3～5：8 バイト（H'008）、16 バイト（H'010）、32バイト（H'020）、64 バイト（H'040）、512 バイト（H'200）（[2:0]のビットはありません。） パイプ6～9：1 バイト (H'001）～64 バイト（H'040） MXPS ビットの設定は、転送タイプ毎にUSB 規格に準拠した値を設定してください。 アイソクロナスパイプをスプリットトランザクションで通信する場合には、MXPS ビットには188 バイト以下の値を設定してください。 選択パイプのPID ビットをBUF からNAK へ変更してから本ビットを変更する場合には、PBUSY＝0 を確認してから本ビットを変更してください。ただし、本モジュールがPID ビットをNAK に変更した場合には、PBUSY ビットの確認は必要ありません。 MXPS＝0 の設定でのFIFO バッファへの書き込み、又はPID＝BUF の設定は行わないでください。

注.　PIPESEL レジスタのPIPESEL ビットでパイプを選択していないときH'000、選択しているときH'040 です。

31.5.31 パイプ周期制御レジスタ（PIPEPERI）

パイプ1～9に対して、アイソクロナスIN転送時のインターバルエラーによってバッファフラッシュ機能を動作させるか否かの選択、及びインターバルエラーの検出間隔の設定をします。

本レジスタは、パワーオンリセットで初期化されます。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	IFIS	—	—	—	—	—	—	—	—	—	IITV[2:0]		
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	R/W	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 ～ 13	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
12	IFIS	0	R/W	アイソクロナスIN バッファフラッシュ PIPESEL ビットに指定したパイプ（選択パイプ）がアイソクロナスIN 転送の場合に、バッファフラッシュ有無を指定します。 0：バッファフラッシュしない 1：バッファフラッシュする 選択パイプの転送タイプがアイソクロナス、かつ転送方向がIN転送の場合において、IITV ビットに設定したインターバル毎の（マイクロ）フレーム中にUSB ホストからIN トークントークンを本モジュールが受信しなかった場合に、本モジュールが自動的にFIFO バッファをクリアする機能です。 ダブルバッファ設定時（DBLB＝1 設定時）は、本モジュールがクリアするのは古い方の1 面分データのみです。 FIFO バッファクリアのタイミングは、IN トークン を受信するはずの（マイクロ）フレーム直後のSOF パケット受信時です。またSOF パケットが破損した場合でも内部補間機能によりSOF を受信すべきタイミングにクリアを行います。 選択パイプの転送タイプがアイソクロナス以外の場合は、本ビットへは”0”を設定してください。
11 ～ 3	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
2 ～ 0	IITV[2:0]	000	R/W	インターバルエラー検出間隔 選択パイプのインターバルエラー検出間隔をフレームタイミングの2 のn乗で指定してください。 本ビットの設定は、PID＝NAK、及びCURPIPE ビットに未設定時に実施してください。 選択パイプのPID ビットをBUF からNAK へ変更してから本ビットを変更する場合には、PBUSY＝0 を確認してから本ビットを変更してください。ただし、本モジュールがPID ビットをNAK に変更した場合には、PBUSY ビットの確認は必要ありません。本ビットを設定し、USB 通信を行った後で別の値に変更する場合には、PID＝NAK 設定後ACLRM＝1 をセットし、インタバルタイマの初期化を行って下さい。 パイプ3～5 に対しては、本ビットは存在しません。パイプ3～5 に対応する本ビットの位置には000 を設定してください。

31.5.32 パイプn コントロールレジスタ（PIPEnCTR）（n = 1 ～ 9）

パイプ 1～9 に対して、バッファメモリステータスの確認、データ PID シーケンスビットの変更と確認、自動応答モードにするか否かの選択、自動バッファクリアモードにするか否かの選択、及び応答PIDの設定を行います。本設定は、PIPESEL レジスタによるパイプ選択とは無関係に設定可能です。

本レジスタは、パワーオンリセットで初期化されます。また、USB バスリセットでPID[1:0] ビットは初期化されます。

(1) PIPEnCTR （n = 1 ～ 5）

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	BSTS	INBUFM	—	—	—	AT REPM	ACLRM	SQCLR	SQSET	SQMON	PBUSY	—	—	—	PID[1:0]	
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	—	—	—	R/W	R/W	R/W (注)	R/W (注)	R	R	—	—	—	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15	BSTS	0	R	バッファステータス 当該パイプのFIFO バッファステータスが表示されます。 0：SH-4A からのバッファアクセス不可 1：SH-4A からのバッファアクセス可 本ビットの意味は、DIR、BFRE 及びDCLRM ビットの設定値により表31.12 に示すように異なります
14	INBUFM	0	R	送信バッファモニタ 当該パイプが送信方向の場合に、当該パイプのFIFO バッファステータスが表示されます。 0：バッファメモリに送信可能データなし 1：バッファメモリに送信可能データあり 当該パイプを送信方向（DIR＝1）に設定している場合に、ソフトウェア（又はDMAC）が少なくとも1 面分のデータをFIFO バッファに書き込み完了したときに、本モジュールは本ビットに1 を表示します。 書き込みが完了している面のFIFO バッファ上のデータを本モジュールがすべて送信完了したときに、本モジュールは本ビットに0 を表示します。ダブルバッファ使用時（DBLB＝1 設定時）には、本モジュールが2 面分のデータを送信完了しかつソフトウェア（又はDMAC）が1 面分のデータ書き込みを完了していないときに、本ビットに0 を表示します。 当該パイプを受信方向（DIR＝0）に設定している場合には、本ビットはBSTS ビットと同じ値を示します。
13 ～ 11	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
10	ATREPM	0	R/W	自動応答モード 当該パイプの自動応答禁止／許可を指定します。 0：自動応答禁止 1：自動応答許可 当該パイプの転送タイプをバルクに設定している場合、本ビットへの1設定が可能です。 本ビットに”1”を設定した場合、USBホストからのトークンに対し本モジュールは以下のように応答します。 (1) 当該パイプがBulk IN転送（TYPE＝01かつDIR＝1を設定）の場合ATREPM＝1かつPID＝BUFを設定している場合、INトークンに対して本モジュールはZero-Lengthパケットを送信します。 USBホストからのACK受信の度に（1トランザクションはINトークン受信→Zero Lengthパケット送信→ACK受信）、本モジュールはシーケンストグルビット（DATA-PID）の更新（トグル）を行います。 BRDY割り込み、BEMP割り込みは発生させません。 (2) 当該パイプがBulk OUT転送（TYPE＝01かつDIR＝0を設定）の場合 ATREPM＝1かつPID＝BUFを設定している場合、OUTトークン（又はPINGトークン）に対して本モジュールはNAK応答を行い、NRDY割り込みを発生させます。 本ビットの変更は、PID＝NAK設定時に実施してください。 対応するパイプのPIDビットをBUFからNAKへ変更してから本ビットを変更する場合にはPBUSY＝0を確認してから本ビットを変更してください。ただし、本モジュールがPIDビットをNAKに変更した場合には、PBUSYビットの確認は必要ありません。 本ビットを“1”に設定してUSB通信を行う場合、FIFOバッファは必ず空の状態で設定を行ってください。本ビットを”1”に設定してUSB通信を行っている期間はFIFOバッファへの書き込みを行わないでください。 当該パイプの転送タイプがアイソクロナス転送の場合、本ビットには必ず”0”を設定してください。
9	ACLRM	0	R/W	自動バッファクリアモード 当該パイプの自動バッファクリアモードの禁止／許可を指定します。 0：禁止 1：許可（全バッファ初期化） 当該パイプに割り付けたFIFOバッファの内容をすべて削除したい場合に、ACLRMビットに1、0を連続して書き込んでください。 本ビットに1、0を連続して設定した場合に本モジュールがクリアする内容と、当該項目のクリアが必要なケースについて表31.13に示します。本ビットの変更は、PID＝NAK設定時に実施してください。 対応するパイプのPIDビットをBUFからNAKへ変更してから本ビットを変更する場合には、PBUSY＝0を確認してから本ビットを変更してください。ただし、本モジュールがPIDビットをNAKに変更した場合には、PBUSYビットの確認は必要ありません。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
8	SQCLR	0	R/W（注）	トグルビットクリア 当該パイプの次回トランザクションにおけるシーケンストグルビットの期待値をDATA0 にクリアするときに”1” を指定します。 0：無効 1：DATA0 指定 本ビットに”1” を設定すると本モジュールは当該パイプのシーケンストグルビットの期待値をDATA0 に設定します。本モジュールは、常に本ビットに”0” を表示します。 SQCLR ビットへの”1” 設定は、PID＝NAK 設定時に実施してください。 対応するパイプのPID ビットをBUF からNAK へ変更してから本ビットに”1” を設定する場合には、PBUSY＝0 を確認してから本ビットを変更してください。ただし、本モジュールがPID ビットをNAK に変更した場合には、PBUSY ビットの確認は必要ありません。
7	SQSET	0	R/W（注）	トグルビットセット 当該パイプの次回トランザクションにおけるシーケンストグルビットの期待値をDATA1 にセットするときに”1” を指定します。 0：無効 1：DATA1 指定 本ビットに”1” を設定すると本モジュールは当該パイプのシーケンストグルビットの期待値をDATA1 に設定します。本モジュールは、常に本ビットに”0” を表示します。 SQSET ビットへの”1” 設定は、PID＝NAK 設定時に実施してください。 対応するパイプのPID ビットをBUF からNAK へ変更してから本ビットに”1” を設定する場合には、PBUSY＝0 を確認してから本ビットを変更してください。ただし、本モジュールがPID ビットをNAK に変更した場合には、PBUSY ビットの確認は必要ありません。
6	SQMON	0	R	トグルビット確認 当該パイプの次回トランザクションにおけるシーケンストグルビットの期待値が表示されます。 0：DATA0 1：DATA1 当該パイプの転送タイプがアイソクロナス転送以外の場合、トランザクションが正常処理すると本モジュールは本ビットをトグルさせます。ただし、受信方向転送時のDATA-PID ミスマッチ発生時には、本ビットをトグルさせません。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
5	PBUSY	0	R	パイプビジー 当該パイプを現在トランザクションで使用中かどうかが表示されます。 0：当該パイプはトランザクションで未使用 1：当該パイプはトランザクションで使用 本モジュールは、当該パイプのUSB トランザクションを開始したときに本ビットを”0” から”1” に変更します。ひとつのトランザクションが終了したときに本ビットを”1” から”0” に変更します。 PID＝NAK を設定した後、本ビットを読み出すことにより、パイプ設定変更が可能になったかどうかを確認することができます。 詳細は「31.7.3(1)　パイプコントロールレジスタの切り替え手順」を参照してください。
4 ～ 2	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
1、0	PID[1:0]	00	R/W	応答PID 当該パイプの次回トランザクションにおける応答方法を指定します。 00：NAK 応答 01：BUF 応答（バッファ状態に従う） 10：STALL 応答 11：STALL 応答 本ビットのデフォルト値はNAK です。当該パイプでUSB 転送を行う場合には本ビットをBUF に変更してください。PID ビットの設定値ごとの本モジュールの基本動作（通信パケットにエラーがない場合の動作）は表31.14のとおりです。 当該パイプがUSB 通信中であるときに、本ビットをBUFからNAK に変更する場合、NAK を書き込んだ後、実際に当該パイプのUSB 転送がNAK 状態に遷移したことを確認するためにPBUSY＝1 であることを確認してください。ただし、本モジュールが本ビットをNAK に変更した場合には、PBUSY ビットの確認は必要ありません。 以下の場合には本モジュールが本ビットの値を変更します。 • 当該パイプが受信方向の場合、かつ選択パイプのSHTNAK ビットに”1” を設定している場合、本モジュールがトランスファー終了を認識したときに、PID＝NAK を表示します。 • 当該パイプに対し、MaxPacketSize を超えるペイロードのデータパケットを受信した場合、本モジュールはPID＝STALL（11）を表示します。 • USB バスリセットを検出した場合、本モジュールはPID＝NAK を表示します。 本ビットの設定は以下の手順で行ってください。 • NAK（00）状態からSTALL 状態にする場合には、10 を書き込んでください。 • BUF（01）状態からSTALL 状態にする場合には、11 を書き込んでください。 • STALL（11）からNAK 状態にする場合には、一度10 を書き込んでから00 を書き込んでください。 • STALL 状態からBUF 状態にする場合には、一度NAK (00)状態に変更し、その後、BUF (01)状態にして下さい。

注.　”0”読み出し、”1” 書き込みのみ有効です。

表31.12　BSTS ビットの動作

DIRビット	BFRE ビット	DCLRM ビット	BSTS ビットの意味
0	0	0	0：データの読み出し完了 1：データの読み出し可能
		1	この組み合わせは設定禁止です。
	1	0	1：データの読み出し可能 注．　データの読み出しが完了した後でBCLR＝1 を書き込んだときにこのビットは0になります。
		1	0：データの読み出し完了 1：データの読み出し可能
1	0	0	0：データの読み出し完了 1：データの読み出し可能
		1	この組み合わせは設定禁止です。
	1	0	この組み合わせは設定禁止です。
		1	この組み合わせは設定禁止です。

表31.13　ACLRM＝1 設定時に本モジュールがクリアする内容

番号	ACLRM ビット操作によるクリア内容	クリアが必要なケース
1	当該パイプに割り付けたFIFO バッファのすべての内容 (ダブルバッファ設定時はFIFO バッファを２面ともクリア)	
2	当該パイプの転送タイプがアイソクロナス転送の場合、インターバルカウント値	インターバルカウント値のリセットを行いたい場合
3	BFRE ビットに関する内部フラグ	BFRE ビットの設定値変更時
4	FIFO バッファトグル制御	DBLB ビットの設定値変更時
5	トランザクションカウントに関する内部フラグ	トランザクションカウント機能の強制終了実行時

表31.14　PID ビットによる本モジュールの動作一覧

PID ビット	転送タイプ	転送方向 （DIR ビット）	本モジュールの動作
00 (NAK)	バルク、又は インタラプト	設定値に依存しない	USB ホストからのトークンにNAK 応答を行う ただし、ATREPM＝1 設定時の動作はATREPM ビットの説明を参照してください。
	アイソクロナス	設定値に依存しない	USB ホストからのトークンに無応答を行う
01 (BUF)	バルク	受信方向(DIR = 0)	USB ホストからのOUT トークンに対し、当該パイプに対応するFIFO バッファが受信可能な状態ならばデータを受信しACK応答を行う。受信可能な状態でなければNAK 応答を行う。 USB ホストからのPING トークンに対し、当該パイプに対応するFIFO バッファが受信可能な状態ならばACK 応答を行う。受信可能な状態でなければNYET 応答を行う
	インタラプト	受信方向 (DIR = 0)	USB ホストからのOUT トークンに対し、当該パイプに対応するFIFO バッファが受信可能な状態ならばデータを受信しACK応答を行う。受信可能な状態でなければNAK 応答を行う
	バルク、又は インタラプト	送信方向 (DIR = 1)	対応するFIFO バッファが送信可能な状態ならばUSB ホストからのトークンに対しデータを送信する。送信可能でなければNAK 応答を行う
	アイソクロナス	受信方向 (DIR = 0)	USB ホストからのOUT トークンに対し、当該パイプに対応するFIFO バッファが受信可能な状態ならばデータを受信する。 受信可能な状態でなければデータを破棄する。
	アイソクロナス	送信方向 (DIR = 1)	対応するFIFO バッファが送信可能な状態ならばUSB ホストからのトークンに対しデータを送信する。送信可能でなければZero-Length パケットを送信する
10 (STALL)又は 11 (STALL)	バルク、又は インタラプト	設定値に依存しない	USB ホストからのトークンにSTALL 応答を行う。
	アイソクロナス	設定値に依存しない	USB ホストからのトークンに無応答を行う。

(2) PIPEnCTR （n = 6 ～ 9）

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	BSTS	—	—	—	—	—	ACLRM	SQCLR	SQSET	SQMON	PBUSY	—	—	—	PID[1:0]	
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	—	—	—	—	—	R/W	R/W (注1)	R/W (注1)	R	R	—	—	—	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15	BSTS	0	R	バッファステータス 当該パイプのFIFO バッファステータスが表示されます。 0：バッファアクセス不可 1：バッファアクセス可 本ビットの意味は、DIR、BFRE 及びDCLRM ビットの設定値により表31.12 に示すように異なります
14 ～ 10	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
9	ACLRM	0	R/W	自動バッファクリアモード（注2）（注3） 当該パイプの自動バッファクリアモードの禁止／許可を指定します。 0：自動バッファクリアモード禁止 1：自動バッファクリアモード許可（全バッファ初期化） 当該パイプに割り付けたFIFO バッファの内容をすべて削除したい場合に、ACLRM ビットに1、0 を連続して書き込んでください。 本ビットに 1、0 を連続して設定した場合に本モジュールがクリアする内容と、当該項目のクリアが必要なケースについて表31.15 に示します。 本ビットの変更は、PID＝NAK 及び当該パイプをCURPIPE ビットに未設定時に実施してください。 対応するパイプのPID ビットをBUF からNAK へ変更してから本ビットを変更する場合には、PBUSY＝0 を確認してから本ビットを変更してください。ただし、本モジュールがPID ビットをNAK に変更した場合には、PBUSY ビットの確認は必要ありません。
8	SQCLR	0	R/W（注1）	トグルビットクリア（注2）（注3） 当該パイプの次回トランザクションにおけるシーケンストグルビットの期待値をDATA0 にクリアするときに”1” を指定します。 0：無効 1：DATA0 指定 本ビットに”1” を設定すると本モジュールは当該パイプのシーケンストグルビットの期待値をDATA0 に設定します。本モジュールは、常に本ビットに”0” を表示します。 SQCLR ビットへの”1” 設定は、PID＝NAK 設定時に実施してください。 対応するパイプのPID ビットをBUF からNAK へ変更してから本ビットに”1” を設定する場合には、PBUSY＝0 を確認してから本ビットを変更してください。ただし、本モジュールがPID ビットをNAK に変更した場合には、PBUSY ビットの確認は必要ありません。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	SQSET	0	R/W（注1）	トグルビットセット（注2）（注3） 当該パイプの次回トランザクションにおけるシーケンストグルビットの期待値をDATA1 にセットするときに”1” を指定します。 0：無効 1：DATA1 指定 本ビットに”1” を設定すると本モジュールは当該パイプのシーケンストグルビットの期待値をDATA1 に設定します。本モジュールは、常に本ビットに”0” を表示します。 SQSET ビットへの”1” 設定は、PID＝NAK 設定時に実施してください。 対応するパイプのPID ビットをBUF からNAK へ変更してから本ビットに”1” を設定する場合には、PBUSY＝0 を確認してから本ビットを変更してください。ただし、本モジュールがPID ビットをNAK に変更した場合には、PBUSY ビットの確認は必要ありません。
6	SQMON	0	R	トグルビット確認 当該パイプの次回トランザクションにおけるシーケンストグルビットの期待値が表示されます。 0：DATA0 1：DATA1 当該パイプの転送タイプがアイソクロナス転送以外の場合、トランザクションが正常処理すると本モジュールは本ビットをトグルさせます。ただし、受信方向転送時のDATA-PID ミスマッチ発生時には、本ビットをトグルさせません。
5	PBUSY	0	R	パイプビジー 当該パイプを現在USB バスで使用中かどうかが表示されます。 0：当該パイプをUSB バスにて未使用 1：当該パイプをUSB バスにて使用 本モジュールは、当該パイプのUSB トランザクションを開始したときに本ビットを”0” から”1” に変更します。ひとつのトランザクションが終了したときに本ビットを”1” から”0” に変更します。 PID＝NAK を設定した後、本ビットを読み出すことにより、パイプ設定変更が可能になったかどうかを確認することができます。 詳細は「31.7.3　(1)　パイプコントロールレジスタの切り替え手順」を参照してください。
4 ～ 2	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
1、0	PID[1:0]	00	R/W	応答PID 当該パイプの次回トランザクションにおける応答方法を指定します。 00：NAK 応答 01：BUF 応答（バッファ状態に従う） 10：STALL 応答 11：STALL 応答 本ビットのデフォルト値はNAK です。当該パイプでUSB 転送を行う場合には本ビットをBUF に変更してください。PID ビットの設定値毎の本モジュールの基本動作（通信パケットにエラーがない場合の動作）は表31.14のとおりです。 当該パイプがUSB 通信中であるときに、本ビットをBUFからNAK に変更する場合、NAK を書き込んだ後、実際に当該パイプのUSB転送がNAK 状態に遷移したことを確認するためにPBUSY＝1 であることを確認してください。ただし、本モジュールが本ビットをNAK に変更した場合には、PBUSY ビットの確認は必要ありません。 以下の場合には本モジュールが本ビットの値を変更します。 • 当該パイプが受信方向の場合、かつ選択パイプのSHTNAK ビットに”1” を設定している場合、本モジュールがトランスファー終了を認識したときに、PID＝NAK を表示します。 • 当該パイプに対し、MaxPacketSize を超えるペイロードのデータパケットを受信した場合、本モジュールはPID＝STALL（11）を表示します。 • USB バスリセットを検出した場合、本モジュールはPID＝NAK を表示します。 本ビットの設定は以下の手順で行ってください。 • NAK（00）状態からSTALL 状態にする場合には、10 を書き込んでください。 • BUF（01）状態からSTALL 状態にする場合には、11 を書き込んでください。 • STALL（11）からNAK 状態にする場合には、一度10 を書き込んでから00 を書き込んでください。 • STALL 状態からBUF 状態にする場合には、一度NAK(00) 状態に変更し、その後、BUF(01) 状態にして下さい。

注1.　”0” 読み出し、”1” 書き込みのみ有効です。
2.　ACLRM ビット、SQCLR ビット、又は、SQSET ビットの設定は、以下の条件を守って行ってください。PID＝NAK 時及び選択パイプをCURPIPE に設定していないときに設定してください。
3.　ACLRM ビット、SQCLR ビット、又はSQSET ビットの設定を、PID＝BUF からNAK へ変更した後で変更する場合は、選択パイプのPBUSY＝0 を確認してから行ってください。ハードウェア制御にてPID がNAK に変更された場合には、PBUSY ビットの確認は必要ありません。

表31.15　ACLRM＝1 設定時に本モジュールがクリアする内容

番号	ACLRM ビット操作によるクリア内容	クリアが必要なケース
1	選択パイプに割り付けたFIFO バッファのすべての内容	
2	BFRE ビットに関する内部フラグ	BFRE ビットの設定値変更時
3	トランザクションカウントに関する内部フラグ	トランザクションカウント機能の強制終了実行時

31.5.33 パイプn トランザクションカウンタイネーブルレジスタ（PIPEnTRE）（n = 1 ～ 5）

PIPEnTRE は、パイプ1～5 に対応するトランザクションカウンタの無効／有効の指定や、カウンタクリアの指定を行います。

本レジスタは、パワーオンリセットで初期化されます。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	TRENB	TRCLR	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 ～ 10	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
9	TRENB	0	R/W	トランザクションカウンタ許可 トランザクションカウンタ無効／有効を指定します。 0：トランザクションカウンタ機能無効 1：トランザクションカウンタ機能有効 受信パイプに対して、TRNCNT ビットに総パケット数を設定した後で本ビットに”1” を設定すると、本モジュールはTRNCNT ビットの設定値と同数のパケット受信を終了したときに以下の制御を行います。 • 連続送受信モード使用（CNTMD＝1 設定）時、受信完了時にFIFO バッファがフルの状態でなくても、SH-4A側にトグルさせます。 • SHTNAK＝1 設定時、TRNCNT ビットの設定値と同数のパケット受信を終了時点で対応するパイプのPID ビットをNAKに変更します。 • BFRE＝1 設定時、TRNCNT ビットの設定値と同数のパケット受信を終了し最後のデータを読み出し終えたときに、BRDY 割り込みをアサートします。 送信パイプについては、本ビットに”0” を設定してください。 トランザクションカウント機能を使用しない場合は、本ビットに”0” を設定してください。 トランザクションカウント機能を使用する場合、本ビットに”1” を設定する前にTRNCNT ビットの設定を行ってください。また、トランザクションカウントの対象となる最初のパケットを受信する前に本ビットに”1” を設定してください。
8	TRCLR	0	R/W	トランザクションカウンタクリア 当該パイプに対応するトランザクションカウンタの現在のカウント値をクリアし、本ビットに”0” を表示します。 0：無効 1：カレントカウンタクリア
7～0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

注.　本レジスタの各ビットの変更は、PID＝NAK 時に実施してください。
対応するパイプのPID ビットをBUF からNAK へ変更したあとで各ビットの設定値を変更する場合には、PBUSY＝0 を確認してから本ビットを変更してください。ただし、本モジュールがPID ビットをNAK に変更した場合には、PBUSY ビットの確認は必要ありません。

31.5.34 パイプn トランザクションカウンタレジスタ（PIPEnTRN）（n = 1 ～ 5）

PIPEnTRN は、パイプ1～5 に対応するトランザクションカウンタです。

本レジスタは、パワーオンリセットで初期化されます。また、USB バスリセットで設定値が保持されます。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TRNCNT[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 ～ 0	TRNCNT[15:0]	H'0000	R/W	トランザクションカウンタ ライト時： DMA 転送のトランザクション回数を設定します。 リード時： TRENB＝0 の場合は設定したトランザクション回数が表示されます。 TRENB＝1 の場合はカウント中のトランザクション回数が表示されます。 本モジュールは、受信時の状態が以下のすべて満たしたときに本ビットを”1” インクリメントします。 • TRENB＝1 である • パケット受信時に（TRNCNT 設定値≠現在のカウント値+1）である • 受信したパケットのペイロードがMXPS ビットへの設定値と一致した 本モジュールは、以下のいずれかの条件が満たされたときに本ビットの表示を”0” にクリアします。 • 以下の条件がすべて満たされたとき TRENB＝1 である パケット受信時に (TRNCNT 設定値＝現在のカウント値+1)である 受信したパケットのペイロードがMXPS ビットへの設定値と一致した • 以下条件がすべて満たされたとき TRENB＝1 である ショートパケットを受信した • 以下の条件がすべて満たされたとき TRENB＝1 である TRCLR ビットに”1” を設定した
15 ～ 0	TRNCNT[15:0]	H'0000	R/W	送信パイプついては、本ビットに”0” を設定してください。 トランザクションカウント機能を使用しない場合は、本ビットに”0” を設定してください。 本ビットの変更は、PID＝NAK、かつTRENB＝0 設定時に実施してください。 対応するパイプのPID ビットをBUF からNAK へ変更してから本ビットを変更する場合には、PBUSY＝0 を確認してから本ビットを変更してください。ただし、本モジュールがPID ビットをNAK に変更した場合には、PBUSY ビットの確認は必要ありません。 本ビットの値を変更する場合は、TRENB＝1 を設定する前にTRCLR＝1 を実施してください。

31.5.35 UTMIサスペンドモードレジスタ（SUSPMODE）

SUSPMODE はUTMIへの SuspendM 信号を制御するレジスタです。

本レジスタはパワーオンリセットにより初期化されます。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	SUSPM	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	R/W	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
14	SUSPM	0	R/W	UTMI SuspendM 制御 UTMI への SuspendM 信号を制御します。 0：UTMI サスペンドモード 1：UTMI 通常モード 初期値は 0 で、UTMI の初期状態はサスペンドモードの状態です。本コントローラを開始する前に本ビットを ”1” にしてください。 UTMI規格に準拠したデバイスでは、クロック出力は通常 SuspendM 信号で制御できます。SuspendM = 0 のとき、LINK へのクロック供給を停止します。 SUSPM ビットが” 0” のとき（UTMI クロック停止中）、このコントローラへの書き込み無効です（読み出しは可能）。ただし、以下のレジスタへの書き込みは　SUSPM ビットが ”0” のときでも有効です。 SYSCFG BUSWAIT SUSPMODE UTMI クロック停止状態（SUSPM = 0）でSYSCFG レジスタに設定した値は、UTMI クロック発振を開始した（SUSPM = 1）後に反映されます。
13 ～ 0	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

31.6　SUDMACレジスタの構成

USB0/USB1 SUDMACのレジスタ構成を表31.16に示します。

表31.16　レジスタ構成

レジスタ名	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
					パワーオンリセット	ソフトウエアリセット	マニュアルリセット
コンフィグレーションレジスタ	CH0CFG	R/W	ベースアドレス + H'000	32	H'0000 0030	H'0000 0030	H'0000 0030
ベースアドレス レジスタ	CH0BA	R/W	ベースアドレス + H'010	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
ベースバイトカウントレジスタ	CH0BBC	R/W	ベースアドレス + H'018	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
カレントアドレスレジスタ	CH0CA	R	ベースアドレス + H'020	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
カレントバイトカウントレジスタ	CH0CBC	R	ベースアドレス + H'028	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
DMAイネーブルレジスタ	CH0DEN	R/W	ベースアドレス + H'030	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
DMA ステータスクリアレジスタ	DSTSCLR	W	ベースアドレス + H'038	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
DMAバッファコントロールレジスタ	DBUFCTRL	R/W	ベースアドレス + H'03C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
DMA割り込みコントロールレジスタ	DINTCTRL	R/W	ベースアドレス + H'040	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
DMA割り込みステータスレジスタ	DINTSTS	R	ベースアドレス + H'044	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
DMA割り込みステータスクリアレジスタ	DINTSTSCLR	R/W	ベースアドレス + H'048	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
SHwy転送コントロールレジスタ	CH0SHCTRL	R/W	ベースアドレス + H'050	32	H'0908 0000	H'0908 0000	H'0908 0000

注.　ベースアドレスに関しては、表31.4のDMACの欄を参照してください。

31.6.1　コンフィグレーションレジスタ（CH0CFG）

CH0CFG は、DMAC の構成を指定するレジスタです。

本レジスタはパワーオンリセットにより初期化されます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	SEND BUFM	—	—	—	RCV ENDM	—	—	WAIT[1:0]		—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	R/W	—	—	—	R/W	—	—	R/W	R/W	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 13	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
12	SENDBUFM	0	R/W	送信バッファモード 0：DMA転送終了にてLINKの送信FIFOバッファを書込み完了状態にし、送信可能状態にします 1：DMA転送終了後、LINKの送信FIFOバッファを書込み可能状態のまま継続します DMA 転送後、SH-4A で FIFO に追加の書き込み（フッターデータ等）を行う場合は、本ビットに ”1” を書き込んでください。また、追加のデータを書き込む前に、CFIFO への LINK の FIFO ポートを切り替えてください。 本ビットに ”1” を設定した場合でも、転送データサイズがマックスパケットサイズの整数倍のとき、DMA 転送終了時にLINK の送信用 FIFOバッファは書き込み完了の状態に設定されます。
11 ～ 9	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
8	RCVENDM	0	R/W	受信データ転送終了モード 0：トランスファ単位でのDMA転送終了 1：ベースバイトカウントでDMA 転送終了
7、6	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
5、4	WAIT	11	R/W	ローカルバスアクセスウェイト 11　：3 ウェイト 上記以外：設定禁止
3 ～ 0	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

31.6.2　ベースアドレスレジスタ（CH0BA）

CH0BA は、SHwy へアクセスする先頭アドレスを指定するレジスタです。

本レジスタはパワーオンリセットにより初期化されます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	BA[31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	BA[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	BA	H'0000 0000	R/W	SHwy アクセス先頭アドレス SHwy へアクセスする先頭アドレスを指定します。 本ビット 31～0 は SHwy へアクセスするアドレスのビット31～0 に対応しています。 DMA 転送を開始するとき、この値がカレントアドレスビット（CA）にコピーされ、SHwy へのアクセスアドレスとして使用されます。 注1. 下位の3ビットは 0 のみ設定可能です。 2. DMA転送を禁止（DEN = 0）しているときのみ設定可能です。

31.6.3　ベースバイトカウントレジスタ（CH0BBC）

CH0BBC は、DMA 転送バイト数を指定するレジスタです。

本レジスタはパワーオンリセットにより初期化されます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	BBC[25:16]									
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	BBC[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 26	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
25 ～ 0	BBC	H'000 0000	R/W	DMA 転送バイト数 DMA 転送するバイト数を設定します。 1バイト（0x000_0001）～（64M - 1）バイト（0x3FF_FFFF）を転送バイト数を設定できます。 注1. DMA転送を禁止（DEN = 0）しているときのみ設定可能です。 2. 送信データ転送（SHwy → ローカルバス）選択時、もしくは、RCVENDM = 1時の受信データ転送（ローカルバス→ SHwy）選択時、本レジスタが”0”の状態でDMA転送を許可（DEN = 1）しないでください。

31.6.4　カレントアドレスレジスタ（CH0CA）

CH0CAは、現在の転送アドレスを示すレジスタです。

本レジスタはパワーオンリセットにより初期化されます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	CA[31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	CA[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	CA	H'0000 0000	R	カレントアドレス 現在の転送先アドレスを示します。 本ビット31～0はSHwyへアクセスするアドレスのビット31～0に対応しています。 DMA転送を開始するとき、ベースアドレスビット（BA）に設定した値が本レジスタにコピーされます。SHwy上で1パケット（32バイト）転送ごとにその値を更新します。（現在の転送バイト数 + ベースアドレス） CH0STCLRのステータスクリアビットに”1”を書き込むと、CAビットは初期値(すべて“0”)になります。

31.6.5　カレントバイトカウントレジスタ（CH0CBC）

CH0CBC は、現在転送しているバイト数を示すレジスタです。

本レジスタはパワーオンリセットにより初期化されます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	CBC[25:16]									
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	CBC[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 26	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
25 ～ 0	CBC	H'000 0000	R	カレントバイト数 転送したバイト数を示します。 DMA 転送を開始後、SHwy上で 1 パケット（32 バイト）転送ごとに本ビットの値を更新し、現在の転送バイト数を示します。 CH0STCLRのステータスクリアビットに ”1” を書き込むと、CBC ビットは初期値(すべて “0”) になります。

31.6.6　DMAイネーブルレジスタ（CH0DEN）

CH0DENは、DMA 転送を許可／禁止するレジスタです。

本レジスタはパワーオンリセットにより初期化されます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	DEN
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 1	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
0	DEN	0	R/W	DMA転送許可 0：禁止 1：許可 本ビットが ”1” のとき、DMA-FIFOから転送要求信号により、DMA 転送を開始します。 本ビットは以下の(1) もしくは (2)のとき、ハードウェアにより ”0” クリアされます。 (1) DMA 転送の終了時 (2) SHwy レスポンスエラーが発生したとき DMA転送中に、本ビットを クリア”0” するとDMA 転送は停止します。 この場合に SHwy へのアクセスが実行中であると、本ビットは1が読み出され、SHwy へのアクセスが完了するとハードウェアにより ”0” クリアされます。 またこの場合では、転送終了割り込み（CH0ENDS）は発生しません。 注. ソフトウエアによりDMA 転送を停止させた場合、SUDMAC の残りのデータは保証されません。ステータス（CH0STCLR = 1）をクリアし、かつUSB-LINK IP 内の対応するPIPE のバッファも（BCLRビットで）クリアしてください（残りのDMA 転送を再開できません）。また、USB通信を完全に停止した状態（USBディスコネクト、もしくは相手デバイスのよる通信の停止）で、DMA転送を停止させた場合は、SUDMAC内の残りのデータ転送を再開できます。詳細は、CH0BUFWビットの説明を参照してください。

31.6.7　DMA ステータスクリアレジスタ（DSTSCLR）

DSTSCLR はDMA のステータスビットを クリアするレジスタです。

本レジスタはパワーオンリセットにより初期化されます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	CH0STCLR
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 1	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
0	CH0STCLR	0	W	DMA ステータスクリア 0：無効 1：DMA ステータスをクリア 本ビットに ”1” を書き込むと以下のステータスビットは ”0” になり、DMA転送の初期ステータスを保持します。 • カレントアドレスレジスタ • カレントバイトカウントレジスタ 本ビットへ ”0” を書いても変化しません。 読み出すと ”0” が読めます。 注1. DMA 転送中のときに（DEN = 1）、CH0STCLR に ”1” を書き込まないでください。 2. CH0BUFW = 1 を書き込んだ後は、CH0BUFS = 1（バッファデータ転送中）のとき、CH0BUFW = 1 の書き込みは禁止です。

31.6.8　DMA バッファコントロールレジスタ（DBUFCTRL）

DBUFCTRL は、DMA バッファを制御するレジスタです。

本レジスタはパワーオンリセットにより初期化されます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	CH0BUFW	—	—	—	—	—	—	—	CH0BUFS
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	R/W	—	—	—	—	—	—	—	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 9	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
8	CH0BUFW	0	R/W	DMA バッファデータ転送許可 0：禁止 1：許可 USB通信を完全に停止した状態（USBディスコネクト、もしくは相手デバイスのよる通信の停止）で、DEN ビット（CH0DEN レジスタのビット0）に ”0” を書き込むと、DMA 転送は停止します。その状態で本ビットへの設定を行うと、DMA バッファの残りの未転送のデータをSHwy へ転送します。 SHwyへの転送が終了すると、本ビットの値はハードウェアの動作により“0”になります。 本ビットへの設定での転送終了時、転送終了割り込みを発生しません。（レスポンスエラーを検出するときのみ、エラー割り込みを発生します。） 転送開始後、転送が完了したのを確認するためにCH0BUFW ビットを読み出してください。 注1. DEN = 1時、もしくはUSB LINK との転送中は、本ビットに“1”を書き込まないでください。また、CH0DEN レジスタのDEN ビットに 0 を書き込み後、DEN ビットをポーリングし DEN ビットの値が 0 か（SHwyバッファの転送を完了）確認後に、本ビットに値を設定してください。 2. DMA バッファにデータが残っていないとき（CH0BUFS = 0）、本ビットに“1”を書き込まないでください。 3. 送信データ転送（SHwy →ローカルバス）が選択されているとき、本ビットに“1”を書き込まないでください。 4. CH0BUFWに1 を書き込み転送を開始した後、ハードウェアにより本ビットが“0”になるまでは、DMA 転送開始（DEN = 1）、及びステータスビットのクリア（CH0STCLR = 1）はしないでください。
7 ～1	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
0	CH0BUFS	0	R	DMA バッファステータス 0：DMA バッファにデータなし 1：DMA バッファにデータあり 本ビットが”1” のとき、DMA バッファには未転送のデータがあります。

31.6.9　DMA割り込みコントロールレジスタ（DINTCTRL）

DINTCTRLは、割り込み（UDMAC_INT_N）を許可／禁止するレジスタです。

本レジスタはパワーオンリセットにより初期化されます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	CH0 ERRE	—	—	—	—	—	—	—	CH0 ENDE
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	R/W	—	—	—	—	—	—	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 9	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
8	CH0ERRE	0	R/W	SHwy レスポンスエラー検出割り込み許可 0：禁止 1：許可 SHwy レスポンスエラー検出割り込みを許可／禁止します。 本ビットに”0” を書き込むと、SHwy レスポンスエラー検出割り込みは発生しません。 本ビットに”1” を書き込むと、SHwy レスポンスパケットでエラーが検出したとき、割り込み要求を割り込みコントローラに発生します。 また、CH0ERRS ビットが ”1” の間に本ビットの値を ”0” から ”1” に変更した場合、割り込み要求を割り込みコントローラに発生します。
7 ～1	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
0	CH0ENDE	0	R/W	DMA 転送終了割り込み許可 0：禁止 1：許可 DMA 転送終了割り込みを許可／禁止できます。 本ビットに”0” を書き込むと、DMA 転送終了割り込みは発生しません。 本ビットに ”1” を書き込むと、DMA 転送終了を検出したとき、割り込み要求を割り込みコントローラに発生します。 また、CH0ENDS ビットが ”1” の間に本ビットの値を ”0” から ”1” に変更した場合、割り込み要求を割り込みコントローラに発生します。

31.6.10 DMA割り込みステータスレジスタ（DINTSTS）

DINTSTSは、現在の割り込みステータスを示すレジスタです。

本レジスタはパワーオンリセットにより初期化されます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	CH0 ERRS	—	—	—	—	—	—	—	CH0 ENDS
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	R	—	—	—	—	—	—	—	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 9	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
8	CH0ERRS	0	R	SHwy レスポンスエラー検出割り込みステータス 0：SHwy レスポンスエラーを未検出 1：SHwy レスポンスエラーを検出 SHwy レスポンスエラー検出時、本ビットは ”1” にセットされます。CH0ERRC ビットに ”1” を書き込むと、本ビットをクリアできます。CH0BUFW ビット（DBUFCTRL レジスタのビット8）によりバッファの転送を許可しエラーを検出した場合も、同様の動作になります。 エラーを検出したとき、ハードウェアの動作によりDEN ビットを ”0” にし、DMA 転送を強制終了します。また、ステータスをクリア（CH0STCLR = 1）するまで、カレントアドレスとカレントバイトカウントは保持されます。またこの場合、DMA 転送終了割り込み（CH0ENDS）はアサートされません。
7 ～ 1	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
0	CH0ENDS	0	R	DMA 転送終了割り込みステータス 0：DMA 転送終了を未検出 1：DMA 転送終了を検出 DMA 転送終了を検出したとき、本ビットは”1” にセットされます。 CH0ENDC ビットに ”1” を書き込むと、本ビットをクリアできます。

31.6.11 DMA割り込みステータスクリアレジスタ（DINTSTSCLR）

DINTSTSCLR は、割り込みステータスビットを クリアするレジスタです。
本レジスタはパワーオンリセットにより初期化されます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	CH0 ERRC	—	—	—	—	—	—	—	CH0 ENDC
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	R/W	—	—	—	—	—	—	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 9	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
8	CH0ERRC	0	R/W	SHwy レスポンスエラー検出割り込みステータスクリア 0：無効 1：SHwy レスポンスエラー検出割り込みステータスクリア 本ビットに ”1” を書き込むと、SHwy レスポンスエラー検出割り込みステータスビットは ”0”になります。 読み出すと“0”が読めます。
7 ～ 1	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
0	CH0ENDC	0	R/W	DMA 転送終了割り込みステータスをクリア 0：無効 1：DMA 転送終了割り込みステータスをクリア 本ビットに ”1” を書き込むと、DMA 転送終了割り込みステータスビットは” 0”になります。 読み出すと“0”が読めます。

31.6.12 SHwy転送コントロールレジスタ（CH0SHCTRL）

CH0SHCTRL は、SHwy 上の転送を制御するレジスタです。
本レジスタはパワーオンリセットにより初期化されます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	PRITIME				—	—	—	—	—	—	—	PRIEN
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—	—	—	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 28	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
27	—	1	—	リザーブビット（書き込む値は“1”にしてください）
26、25	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
24	—	1	—	リザーブビット（書き込む値は“1”にしてください）
23 ～ 20	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
19	—	1	—	リザーブビット（書き込む値は“1”にしてください）
18～ 12	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
11 ～ 8	PRITIME[3:0]	H'0	R/W	連続プライオリティカウント 0：初期値 出力するハイプライオリティの連続回数を指定します。 注． 連続プライオリティ制御カウンタは、転送終了後、自動的に” 0” になります。
7 ～ 1	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
0	PRIEN	0	R/W	プライオリティ制御許可 0：禁止 1：許可 本ビットへの設定は、DMA PIPE の設定を変更するときのみ行ってください。また、本ビットの使用は、対応するDMA チャネル用に設定したPIPE がインタラプト転送、もしくはアイソクロナス転送のときのみに限ります。 プライオリティ制御中は、USBバスのBandwidthは確保しますが、SH-4A、及びグラフィックモジュールなどの他のモジュール用のBandwidth は確保できなくなるので、USB データ転送が最優先事項であるときのみ使用してください。

31.7　動作説明

31.7.1　システム制御及び発振制御

本節では、本モジュールの初期設定に必要なレジスタ操作及び消費電力制御を行うために必要なレジスタについて説明します。

(1)　リセット

本モジュールのリセット種別の一覧を表 31.17 に示します。なお、各リセット動作後のレジスタ初期化状態については、「31.5　レジスタの説明」を参照してください。

表31.17　リセット種別一覧表

名称	操 作
パワーオンリセット	$\overline{\text{PRESET}}$ 端子からのLレベル入力
USBバスリセット	本モジュールがD+、D-ラインから自動検出

(2)　ハイスピード動作の許可

本モジュールは、USB 通信速度（通信ビットレート）をハイスピード動作又はフルスピード動作のどちらかに設定できます。本モジュールでハイスピード動作を許可する場合は、SYSCFG レジスタのHSE ビットを1 に設定してください。ハイスピード動作が許可されている場合は、本モジュールがリセットハンドシェイクプロトコルを実行し、USB 通信速度を自動的に設定します。リセットハンドシェイクの結果は、RHST ビット（DVSTCTR レジスタのビット2～0）で確認できます。

ハイスピード動作が禁止されている場合は、本モジュールはフルスピードでのみ動作します。

HSE ビットの変更は、D+のプルアップ禁止状態（DPRPU＝0）のときに行ってください。

(3)　USB データバス抵抗制御

本モジュールとUSB コネクタの接続図を図 31.2 に示します。

本モジュールは、D+信号のプルアップ抵抗を内蔵しています。SYSCFG レジスタのDPRPU ビットの設定により、D+信号のプルアップを設定してください。

また、本モジュールはD+、D- 信号のハイスピード動作時の終端抵抗とフルスピード動作時の出力抵抗の制御を行います。ホストコントローラとの接続後の内蔵抵抗の切り替えは、リセットハンドシェイク、サスペンド、レジューム検出により本モジュールが自動的に行います。

なお、ホストコントローラと通信中にSYSCFG レジスタの DPRPU ビットに ”0” を設定した場合は、USB データラインのプルアップ抵抗（又は終端抵抗）をディスエーブルにしますので、USB ホストにデバイスの切断を通知することができます。

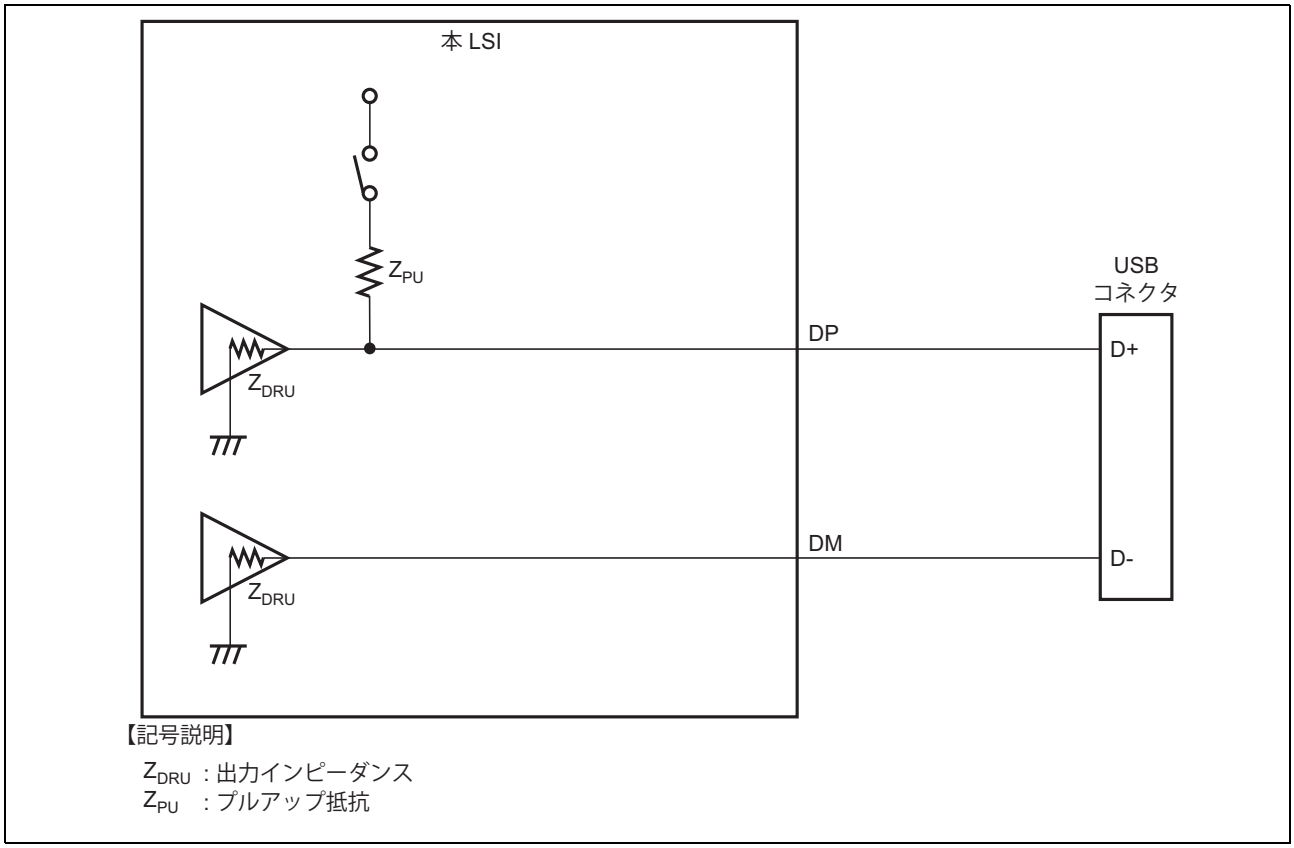


図 31.2　USB コネクタ接続図

31.7.2　割り込み機能

本モジュールの割り込み発生条件一覧表を表31.18に示します。

これらの割り込み発生条件が成立し、対応する割り込み許可レジスタにて割り込み出力許可に設定されているとき、本モジュールは割り込みコントローラ（INTC）へUSB割り込み要求を発行します。

表31.18　割り込み発生条件一覧表

ビット	割り込み名称	割り込み発生条件	関連ステータス
VBINT	VBUS割り込み	• VBUS0入力端子の状態変化を検出したとき（L→H、H→Lの両方の変化）	VBSTS
RESM	レジューム割り込み	• サスペンド状態においてUSBバスの状態変化を検出したとき（J-State→K-State又はJ-State→SE0）	—
SOFR	フレーム番号更新割り込み	• フレーム番号の異なるSOFパケットを受信したとき	—
DVST	デバイスステート遷移割り込み	• デバイスステートの遷移を検出したとき USBバスリセット検出 サスペンド状態検出 SET_ADDRESSリクエストの受信 SET_CONFIGURATIONリクエストの受信	DVSQ
CTRT	コントロール転送ステージ遷移割り込み	• コントロール転送のステージ遷移を検出したとき セットアップステージ完了 コントロールライト転送ステータスステージ遷移 コントロールリード転送ステータスステージ遷移 コントロール転送完了 コントロール転送シーケンスエラー発生	CTSQ
BEMP	バッファエンプティ割り込み	• バッファメモリ中の全データを送信してバッファが空になったとき • マックスパケットサイズを超えたパケットを受信したとき	BEMPSTS.PIPEBEMP
NRDY	バッファノットレディ割り込み	• INトークン／OUTトークン／PINGトークンに対してNAKを応答したとき。 • アイソクロナス転送でデータ受信時にCRCエラー、ビットスタッフエラーが発生したとき • アイソクロナス転送でデータ受信時にオーバラン／アンダーランが発生したとき	NRDYSTS.PIPENRDY
BRDY	バッファレディ割り込み	• バッファがレディ（リード又はライト可能状態）になったとき	BRDYSTS.PIPEBRDY

注.　レジスタ名が示されていないビットのレジスタはすべてINTSTSです。

本モジュールの割り込み関連図を図31.3に示します。

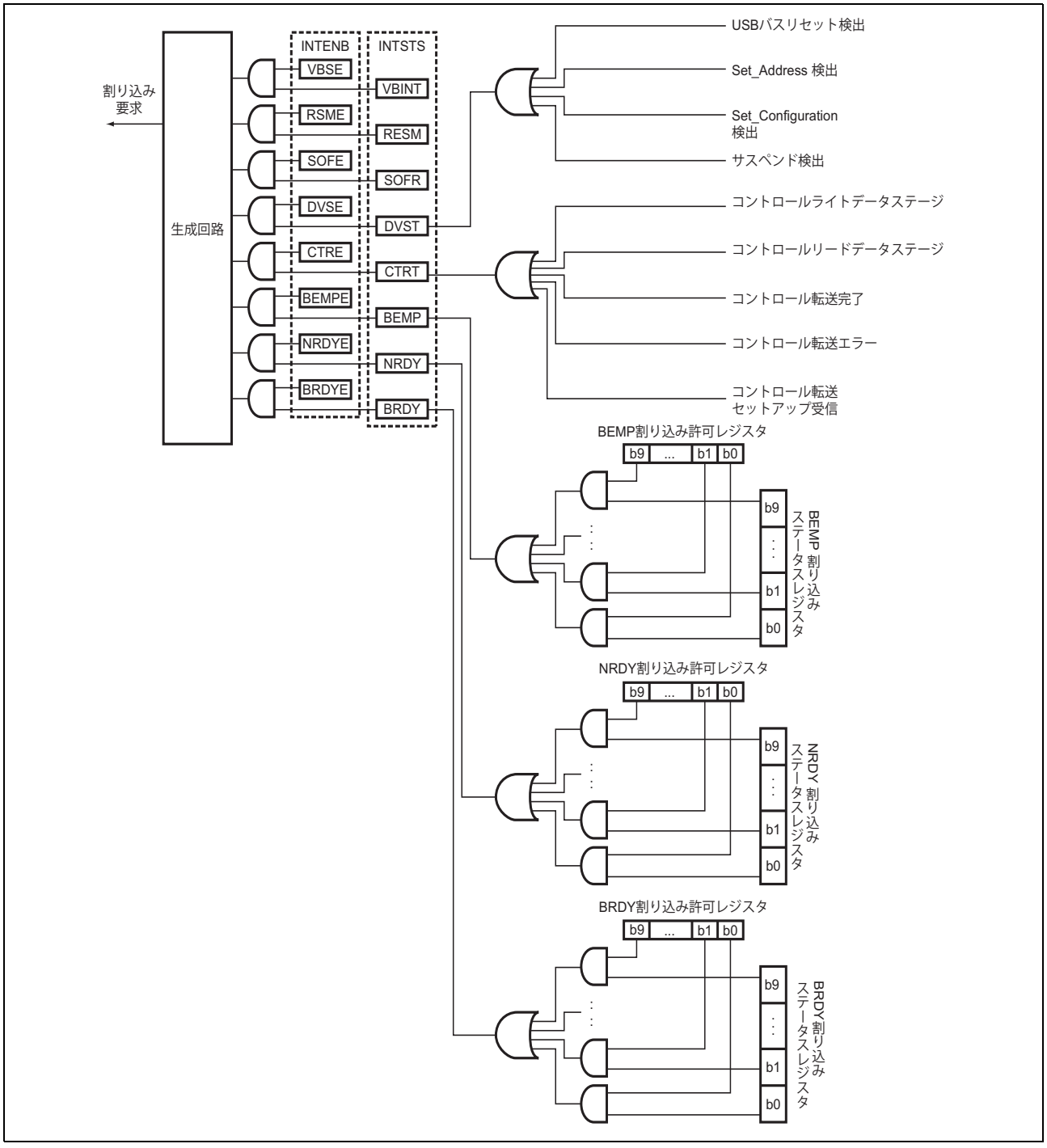


図 31.3　割り込みの関連図

(1)　BRDY 割り込み

各パイプが下記の条件を満たしたときに、本モジュールはBRDYSTS レジスタの該当ビットを”1 ”にセットします。このとき、当該パイプに対応するBRDYENB レジスタのPIPEBRDYE ビットを”1 ”に設定し、かつ、INTENB レジスタのBRDYE ビットを”1 ”に設定していれば、本モジュールはBRDY 割り込みを発生させます。

BRDY 割り込みは、BRDYM ビット及び各パイプのBFRE ビットの設定により、発生条件及びクリア方法が異なります。

(a) BRDYM＝0 かつBFRE＝0 設定時

この設定の場合、BRDY 割り込みはFIFO ポートにアクセス可能になったことを示す割り込みになります。

本モジュールは、下記に示す条件の場合に、内部BRDY 割り込み要求トリガを発生させ、要求トリガ発生パイプに対応するPIPEBRDY ビットに1 を表示します。

1. 送信方向に設定したパイプの場合

- DIR ビットを0から1に変更したとき。
- 当該パイプに割り付けたFIFOバッファへのSH-4Aからの書き込みが不可状態のとき（BSTSビット読み出し値が0のとき）に、本モジュールが当該パイプのパケット送信を完了したとき。
  連続送受信モードに設定した場合には、FIFOバッファ一面分のデータの送信完了時に要求トリガが発生します。
- FIFOバッファをダブルバッファに設定しているときで、FIFOバッファ書き込み完了時にもう一方のFIFOバッファが空であったとき。
  FIFOバッファ書き込み中にもう一方が送信完了になっても、現在書き込み中の面が書き込み完了になるまでは要求トリガは発生しません。
- 転送タイプがアイソクロナスのパイプにおいて、ハードウェアによるバッファフラッシュが発生したとき。
- ACLRM ビットに1を書き込むことより、FIFOバッファが書き込み不可状態から書き込み可能状態になったとき。

DCP に対しては（即ち、コントロール転送でのデータ送信においては）要求トリガは発生しません。

2. 受信方向に設定したパイプの場合

- 当該パイプに割り付けたFIFOバッファへのSH-4Aからの読み出しが不可状態のとき（BSTSビット読み出し値が0のとき）に、パケット受信が正常に完了し、FIFOバッファが読み出し可能状態になったとき。
  データPID ミスマッチのトランザクションに対しては要求トリガは発生しません。
  連続送受信モードの場合には、MaxPacketSizeのデータサイズで、かつまだバッファに空きがある場合には要求トリガは発生しません。
  ショートパケットを受信した場合には、FIFOバッファに空きがあっても要求トリガは発生します。
  トランザクションカウンタを使用している場合には、設定値分のパケットを受信時に要求トリガは発生しま す。このとき、FIFOバッファにまだ空きがあっても要求トリガは発生します。
- FIFOバッファをダブルバッファに設定しているときで、FIFOバッファ読み出し完了時にもう一方のFIFOバッファも読み出し可能状態であったとき
  読み出し中にもう一方が受信完了しても、現在読み出し中の面が読み出し完了になるまで要求トリガは発生しません。

コントロール転送のステータスステージでの通信では本割り込みは発生しません。

当該パイプに対応するBRDYSTS レジスタのPIPEBRDY ビットに0 を書き込むことにより、当該パイプのPIPEBRDY 割り込みステータスを0 にクリアすることができます。このとき、他のパイプに対応するビットには1 を書き込んでください。

本割り込みステータスのクリアは、必ずFIFO バッファへのアクセスを行う前に実施してください。

(b) BRDYM＝0 かつBFRE＝1 設定時

この設定の場合、本モジュールは、受信パイプにおいて1 トランスファー分の全データ読み出し完了時に、BRDY割り込み発生と判断し、本レジスタの当該パイプに対応するビットに1 を表示します。

本モジュールは、以下のいずれかのときに1 トランスファーにおける最後のデータを受信したと判定します。

- Zero-Lengthパケットを含むショートパケットを受信したとき
- トランザクションカウンタ (TRNCNT ビット) を使用し、TRNCNT ビット設定値分のパケットを受信したとき

上記判定条件を満たした後、そのデータの読み出しが完了したときに、本モジュールは1 トランスファ分の全データ読み出し完了と判断します。

FIFO バッファが空の状態で Zero-Length パケット受信した場合は、Zero-Length パケットデータがSH-4A 側へトグルされた時点で、本モジュールは1 トランスファー分の全データ読み出し完了と判断します。この場合、次のトランスファを開始するためには、対応する BCLR ビット（FIFOCTR レジスタのビット14）に1 を書き込んでください。

本設定の場合には、本モジュールは送信パイプに対してBRDY 割り込みを検出しません。

当該パイプに対応するPIPEBRDY ビットに0 を書き込むことにより、当該パイプのPIPEBRDY割り込みステータスを0 にクリアすることができます。このとき他のパイプに対応するビットには1 を書き込んでください。

本モードを使用するときには、トランスファ分の処理を終了するまでBFRE ビットの設定値を変更しないでください。

途中で BFRE ビットを変更する場合には、ACLRM ビットにより対応するパイプのFIFO バッファをすべてクリアしてください。

(c) BRDYM＝1 かつBFRE＝0 設定時

この設定の場合、PIPEBRDY ビットの値は各パイプのBSTS ビットに連動します。即ち、BRDY 割り込みステータスはFIFO バッファの状態によって本モジュールが1、0 を表示します。

1. 送信方向に設定したパイプの場合
   FIFO ポートにデータが書き込み可能な状態であれば1 を表示し、書き込み不可の状態になれば0 を表示します。
   ただしDCP の送信パイプが書き込み可能であっても、BRDY 割り込みは発生しません。

2. 受信方向に設定したパイプの場合
   FIFO ポートにデータが読み出し可能な状態であれば1 を表示し、すべてのデータを読み出したら（読み出し不可の状態になったら）0 を表示します。
   FIFO バッファが空でZero-Length パケットを受信した場合、BCLR ＝1 を書き込むまで該当ビットには1 が表示されBRDY 割り込みは発生し続けます。

本設定時、PIPEBRDY ビットの0 クリアを行うことはできません。
BRDYM＝1 設定時は、BFRE ビットは必ずすべて（全パイプ）0 に設定してください。
BRDY 割り込み発生タイミング図を図 31.4 に示します。

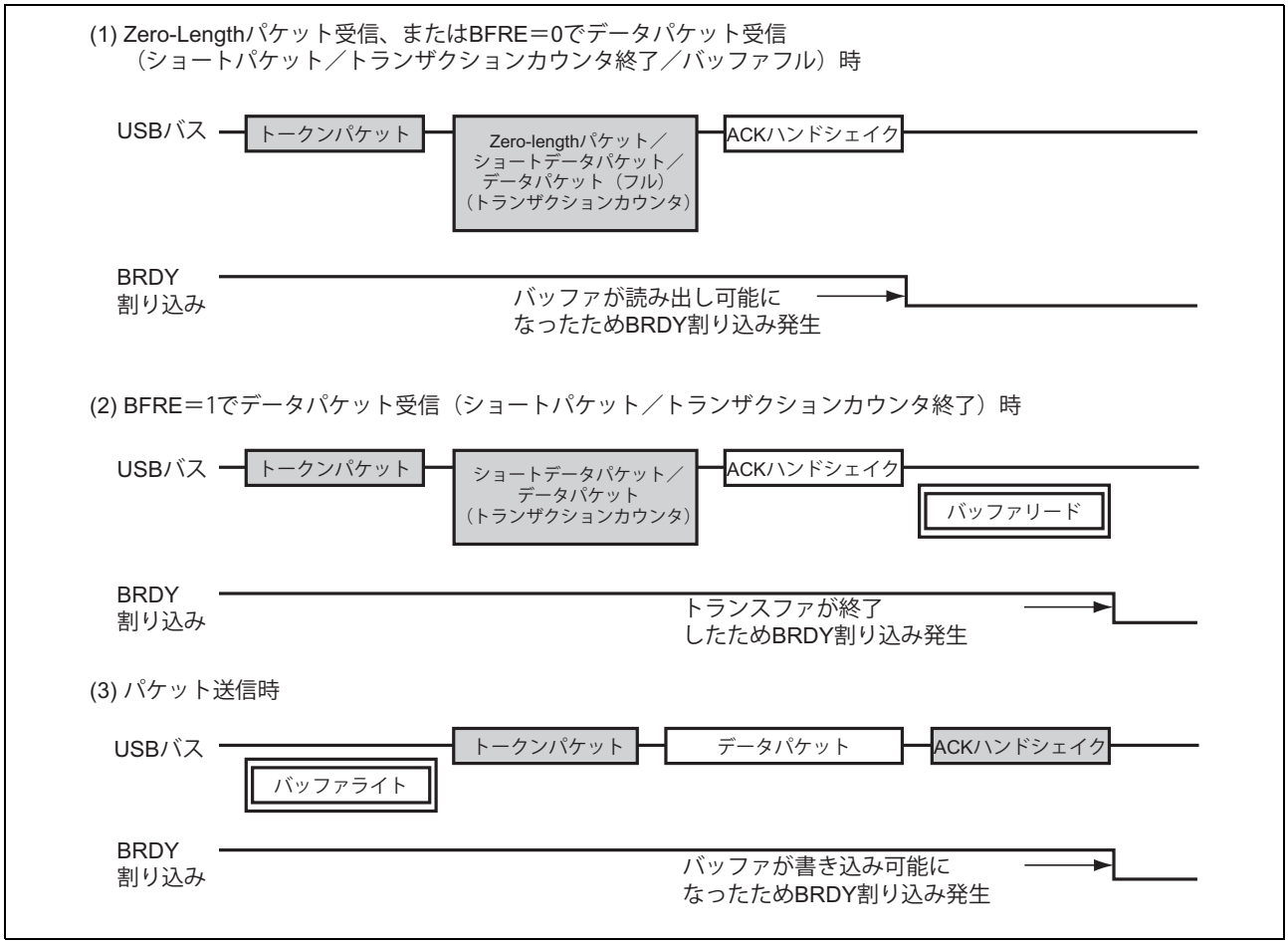


図 31.4　BRDY 割り込み発生タイミング図

(2)　NRDY 割り込み

PID ＝ BUF に設定したパイプに対して、本モジュールが内部 NRDY 割り込み要求を発生させた場合に、本モジュールはNRDYSTS レジスタのPIPENRDY ビットの対応するビットに1 を表示します。このとき、NRDYENB レジスタの対応するビットに 1 が設定されている場合、本モジュールは INTSTS レジスタのNRDY ビットに1 を表示し、USB 割り込みを発生します。

本モジュールが、あるパイプに対して内部NRDY 割り込み要求を発生させる条件を以下に示します。ただし、コントロール転送ステータスステージ実行時は割り込み要求を発生させません。

1. 送信方向パイプの場合
   - FIFOバッファに送信データがない状態でIN トークンを受信したとき
     IN トークン受信時に本モジュールはNRDY割り込み要求を発生させPIPENRDY ビットに1を表示します。
     割り込み発生パイプの転送タイプがアイソクロナスの場合、本モジュールはZero-Lengthパケットを送信し、OVRN ビットに1を表示します。

2. 受信方向パイプの場合
   - FIFOバッファに空きがない状態でOUT トークンを受信したとき
     割り込み発生パイプの転送タイプがアイソクロナスの場合、OUT トークン受信時に本モジュールはNRDY割り込み要求を発生させ、PIPENRDY ビットに1を表示し、OVRN ビットに1を表示します。
     割り込み発生パイプの転送タイプがアイソクロナス以外の場合、本モジュールは、OUT トークンに続くデータ受信後 NAK ハンドシェークを送信するときにNRDY 割り込み要求を発生させ、PIPENRDY ビットに1を表示します。
     ただし、再送時（DATA-PID ミスマッチ発生時）には、NRDY 割り込み要求を発生させません。また、DATAパケットにエラーがある場合にも、発生させません。

   - FIFOバッファに空きがない状態でPING トークンを受信したとき
     PING トークン受信時に本モジュールはNRDY割り込み要求を発生させPIPENRDY ビットに1を表示します。

   - 転送タイプがアイソクロナスのパイプにおいて、インターバルフレーム内に正常受信されなかったとき
     SOF 受信のタイミングで本モジュールは、NRDY 割り込み要求を発生させ、PIPENRDY ビットに1を表示します。

NRDY 割り込み発生タイミング図を図 31.5 に示します。

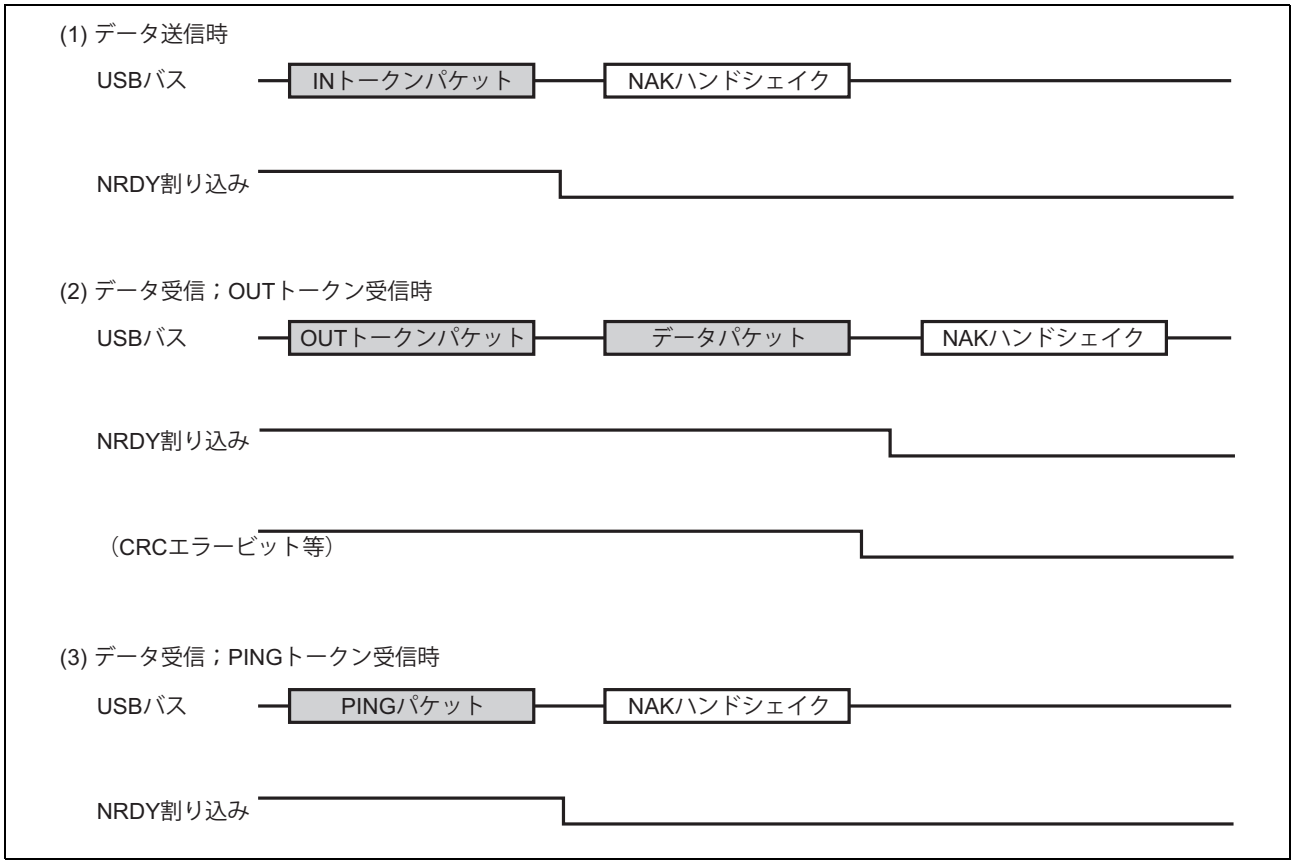


図 31.5　NRDY 割り込み発生タイミング図

(3)　BEMP 割り込み

PID ＝ BUF に設定したパイプに対して、本モジュールが、BEMP 割り込みを検出した場合に、本モジュールはBEMPSTS レジスタの PIPEBEMP ビットの対応するビットに 1 を表示します。このとき、BEMPENB レジスタの対応するビットに 1 が設定されている場合、本モジュールはINTSTS レジスタの BEMP ビットに1 を表示し、USB 割り込みを発生します。

以下の場合に、本モジュールは内部BEMP 割り込み要求を発生させます。

1. 送信方向パイプにおいて、送信完了時（Zero-Lengthパケットの送信時を含む) に、対応するパイプのFIFOバッファが空のとき。
   シングルバッファ設定時は、DCP 以外のパイプに対してはBRDY 割り込みと同時に内部 BEMP 割り込み要求を発生させます。
   ただし、以下の場合は内部BEMP割り込み要求を発生させません。
   - ダブルバッファ設定時に、1 面分のデータ送信完了時にソフトウェア（DMAC）が SH-4A 側のFIFOバッファに対する書き込みを開始している場合
   - また､ACLRM ビット又はBCLR ビットに1を書き込むことによるバッファクリア(エンプティ)。
   - コントロール転送ステータスステージのIN転送（Zero-Lengthパケット送信）時

2. 受信方向パイプの場合
   MaxPacketSizeの設定値より大きなデータサイズを正常受信したとき。
   この場合、本モジュールは、BEMP割り込み要求を発生させ、PIPEBEMP ビットの対応するビットに1を表示し、受信データを破棄し、対応するパイプのPID ビットをSTALL（11）に変更します。このとき本モジュールは、STALL応答を行います。

   ただし、以下の場合は内部BEMP割り込み要求を発生させません。
   - 受信データにCRCエラー、又はビットスタッフィングエラー等を検出したとき
   - SETUP トランザクション実行時

PIPEBEMP ビットに0を書き込むことにより、ステータスをクリアすることができます。
PIPEBEMP ビットに1を書き込んでも、何もしません。
BEMP 割り込み発生タイミング図を図 31.6 に示します。

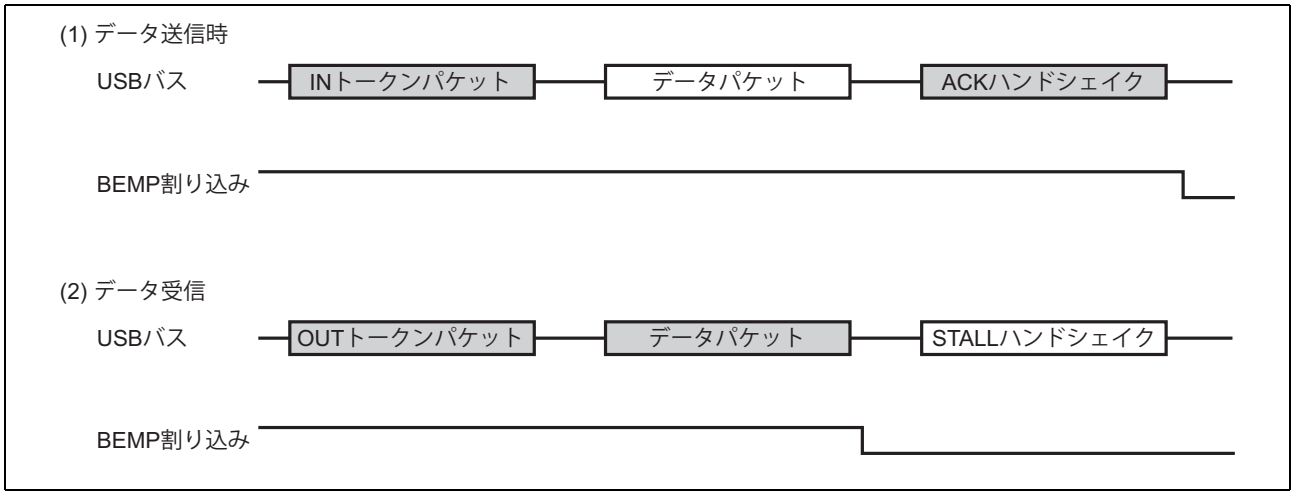


図 31.6　BEMP 割り込み発生タイミング図

(4)　デバイスステート遷移割り込み

本モジュールのデバイスステート遷移図を図31.7に示します。本モジュールは、デバイスステートを管理し、デバイスステート遷移割り込みが発生します。ただし、サスペンドからの復帰（レジューム信号検出）は、レジューム割り込みで検出します。デバイスステート遷移割り込みは、INTENBレジスタで個別に割り込みの許可又は禁止を設定することができます。また、遷移したデバイスステートは、INTSTSレジスタのDVSQビットにて確認できます。

デフォルトステートに遷移する場合には、リセットハンドシェイクプロトコルの終了後に、デバイスステート遷移割り込みが発生します。

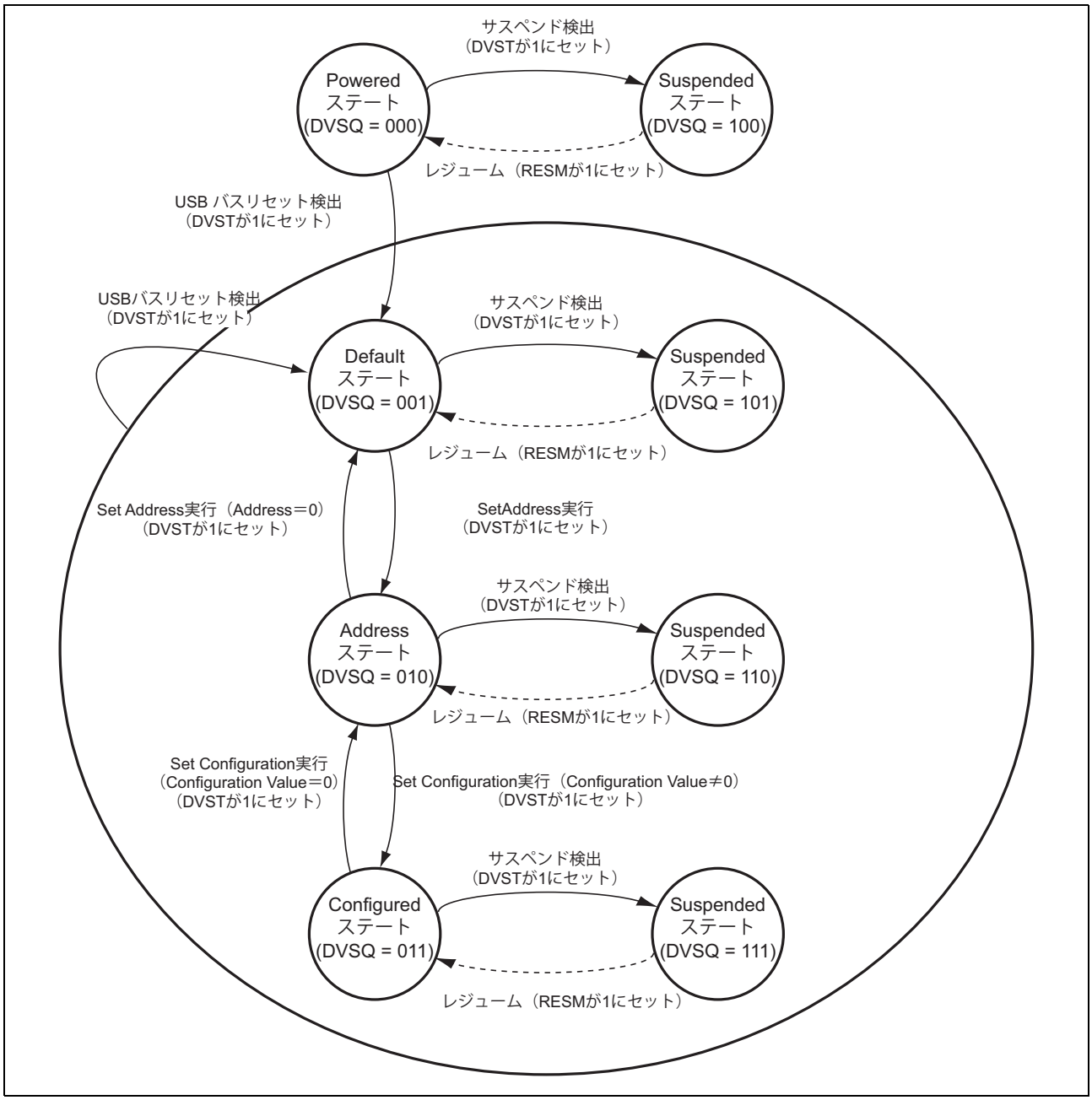


図 31.7　デバイスステート遷移図

(5) コントロール転送ステージ遷移割り込み

本モジュールのコントロール転送ステージ遷移図を図31.8に示します。本モジュールは、コントロール転送のシーケンスを管理し、コントロール転送ステージ遷移割り込みが発生します。コントロール転送ステージ遷移割り込みは、INTENBレジスタで個別に割り込みの許可又は禁止を設定することができます。また、遷移した転送ステージはCTSQビット（INTSTSレジスタのビット2～0）にて確認できます。

コントロール転送のシーケンスエラーを下記に示します。エラーが発生した場合は、DCPCTRレジスタのPIDビットがB'1x（STALL応答）になります。

1. コントロールリード転送時
   - データステージのINトークンに対して、一度もデータ転送していない状態でOUT又はPINGトークンを受信
   - ステータスステージでINトークン受信
   - ステータスステージでデータパケットがDATAPID＝DATA0のパケットを受信

2. コントロールライト転送時
   - データステージのOUTトークンに対して、一度もACK応答していない状態でINトークンを受信
   - データスステージで最初のデータパケットがDATAPID＝DATA0のパケットを受信
   - ステータスステージでOUT又はPINGトークン受信

3. コントロールライトノーデータコントロール転送時
   - ステータスステージでOUT又はPINGトークン受信

なお、コントロールライト転送データステージで、受信データ数がUSBリクエストのwLength値を超えた場合は、コントロール転送シーケンスエラーと認識できません。また、コントロールリード転送ステータスステージで、Zero-Lengthパケット以外のパケット受信には、ACK応答を行い正常終了します。

シーケンスエラーによるCTRT割り込み発生時（SERR＝1設定）は、CTSQ＝110の値がシステムからCTRT＝0書き込み（割り込みステータスクリア）するまで保持されます。このため、CTSQ＝110が保持されている状態では、新しいUSBリクエストを受信しても、セットアップステージ完了のCTRT割り込みは発生しません（セットアップステージ完了は、本モジュールで保持されており、割り込みステータスクリア後に、セットアップステージ完了割り込みが発生します）。

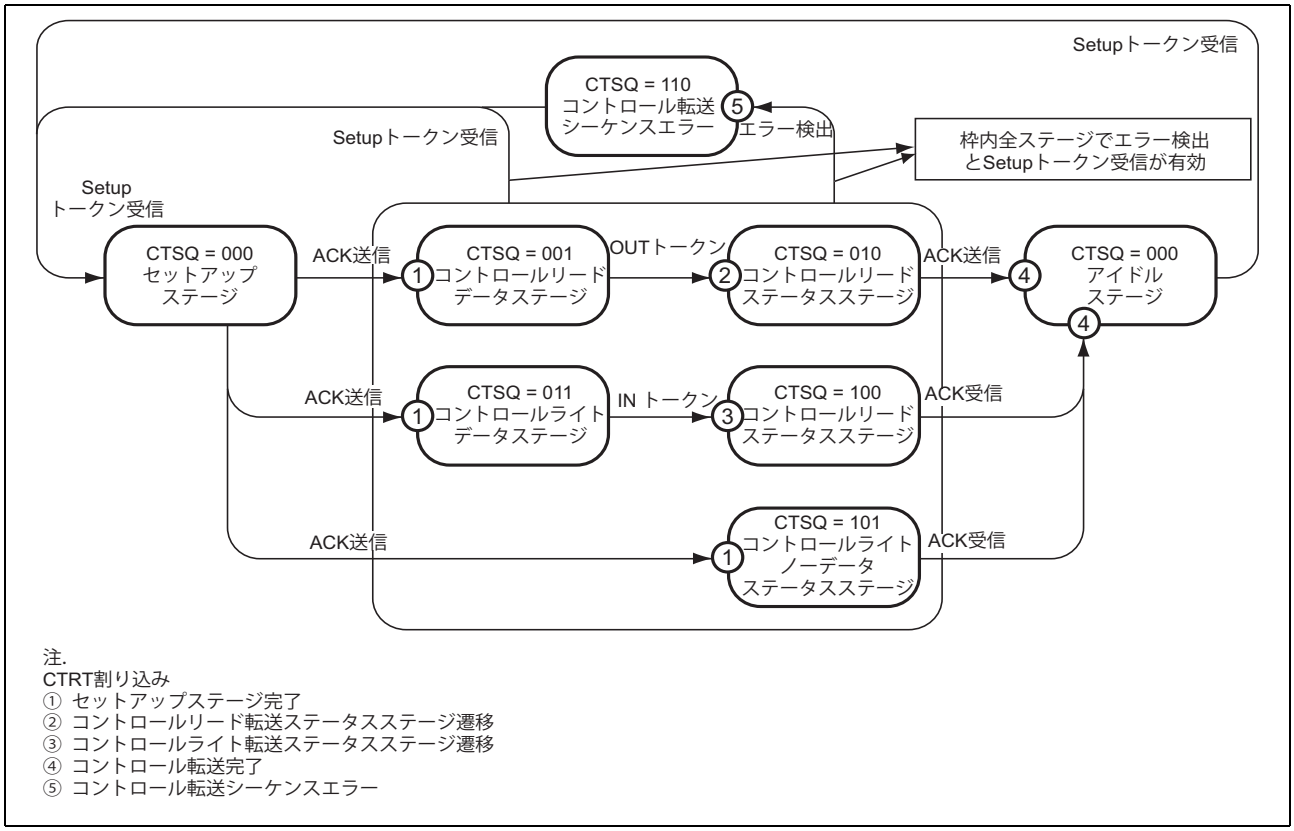


図 31.8　コントロール転送ステージ遷移図

(6)　フレーム更新割り込み

本モジュールのSOFR 割り込み出力タイミング例を図 31.9 に示します。

フレーム番号が更新されたときにSOFR 割り込みが発生します。

本モジュールは、フルスピード動作中に新しいSOF パケットを検出すると、フレーム番号を更新してSOFR 割り込みを発生します。しかし、ハイスピード動作中はμSOF ロック状態にならないと、フレーム番号を更新せずSOFR 割り込みも発生しません。また、SOF の補間機能も動作しません。μSOF ロック状態とは、エラーなしでフレーム番号の異なるμSOF パケットを2 回連続受信することです。

なお、μSOF ロック監視開始条件及びμSOF ロック監視停止条件は下記1.、2.のとおりです。

1. μSOFロック監視開始条件
   USBE＝1
2. μSOFロック監視停止条件
   USBE＝0、USBバスリセット受信、又はサスペンド検出

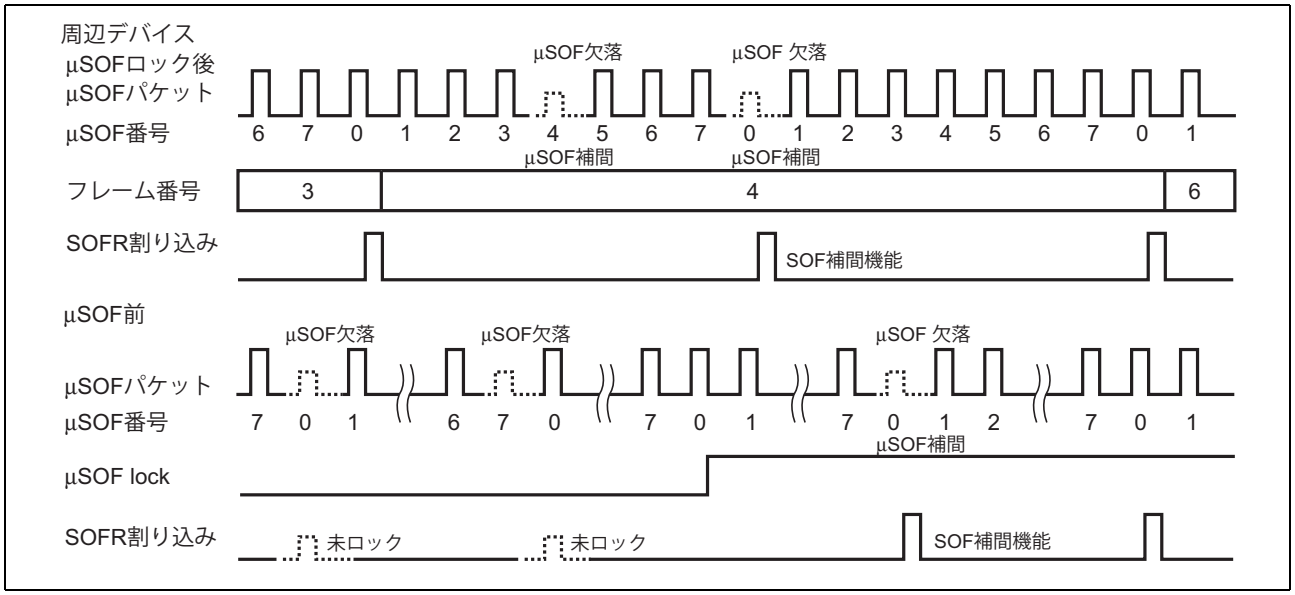


図 31.9　SOFR 割り込み出力タイミングの例

(7)　VBUS 割り込み

VBUS0 端子に変化があった場合にVBUS 割り込みが発生します。VBSTS ビット（INTSTS レジスタのビット7）にてVBUS0端子のレベルを確認できます。VBUS割り込みによってホストコントローラの接続及び切断の確認ができます。

ただし、ホストコントローラが接続された状態でシステムが起動された場合は、VBUS0 端子が変化しないため、最初のVBUS 割り込みが発生しません。

(8)　レジューム割り込み

デバイスステートがサスペンド状態でUSB バス状態が変化（J-State→K-State 又はJ-State→SE0）したときにレジューム割り込みが発生します。レジューム割り込みによってサスペンド状態からの復帰を検出します。

31.7.3　パイプコントロール

本モジュールのパイプ設定項目一覧表を表31.19に示します。USBデータ転送は、エンドポイントと呼ばれる論理パイプにて、データ通信を行う必要があります。本モジュールにはデータ転送用に10本のパイプがあります。

各パイプは、システムの仕様に合わせて設定を行ってください。

表31.19　パイプ設定項目一覧表

レジスタ名	ビット名	設定内容	備考
PIPECFG	TYPE	転送タイプを指定	パイプ1～9：設定可
	BFRE	BRDY割り込みモードを選択	パイプ1～パイプ5：設定可
	DBLB	ダブルバッファを選択	パイプ1～パイプ5：設定可
	CNTMD	連続転送又は非連続転送を選択	DCP：設定可 パイプ1、パイプ2：設定可（バルク転送選択時のみ設定可能） パイプ3～パイプ5：設定可
	DIR	転送方向を選択	IN又はOUT設定可
	EPNUM	エンドポイント番号	パイプ1～パイプ9：設定可 パイプ使用時は0000以外に設定
	SHTNAK	トランスファ終了時のパイプ禁止選択	DCP：設定可 パイプ1、パイプ2：設定可（バルク転送選択時のみ設定可能） パイプ3～パイプ5：設定可
PIPEBUF	BUFSIZE	バッファメモリサイズ	DCP：設定不可（64バイト固定） パイプ1～パイプ5：設定可（最大2Kバイトまで指定可） パイプ6～パイプ9：設定不可（64バイト固定）
	BUFNMB	バッファメモリ番号	DCP：設定不可（領域H'0固定） パイプ1～パイプ5:設定可（領域H'8～H'87で指定可） パイプ6～パイプ9：設定不可（領域H'4～H'7固定）
DCPMAXP PIPEMAXP	MXPS	マックスパケットサイズ	USB規格に準拠した設定
PIPEPERI	IFIS	バッファフラッシュ	パイプ1、パイプ2：設定可（アイソクロナス転送選択時のみ） パイプ3～パイプ5：設定不可 パイプ6～パイプ9：設定不可
	IITV	インターバルカウンタ	パイプ1、パイプ2:設定可（アイソクロナス転送選択時のみ） パイプ3～パイプ5：設定不可 パイプ6～パイプ9：設定不可
DCPCTR PIPEnCTR	BSTS	バッファステータス	DCPはISELビットにより、受信／送信バッファ状態の切り替え
	INBUFM	INバッファモニタ	パイプ1～パイプ5搭載
	ATREPM	自動応答モード	パイプ1～パイプ5：設定可
	ACLRM	自動バッファクリア	パイプ1～パイプ9：設定可
	SQCLR	シーケンスクリア	データトグルビットのクリア
	SQSET	シーケンスセット	データトグルビットのセット
	SQMON	シーケンス確認	データトグルビットの確認
	PBUSY	パイプビジー確認	
	PID	応答PID	「31.7.3 (6)　応答PID」を参照してください。

レジスタ名	ビット名	設定内容	備 考
PIPEnTRE	TRENB	トランザクションカウント許可	パイプ1 ～ パイプ5：設定可
	TRCLR	カレントトランザクションカウンタのクリア	パイプ1 ～ パイプ5：設定可
PIPEnTRN	TRNCNT	トランザクションカウンタ	パイプ1 ～ パイプ5：設定可

(1)　パイプコントロールレジスタの切り替え手順

パイプコントロールレジスタの以下のビットは、USB 通信が不許可（PID＝NAK）であるときのみ書き換えが可能です。

USB 通信許可（PID＝BUF）状態では設定禁止であるレジスタ
- DCPMAXP レジスタの各ビット
- DCPCTR レジスタのSQCLR ビット、SQSET ビット
- PIPECFG レジスタ、PIPEBUF レジスタ、PIPEMAXP レジスタ、PIPEPERI レジスタの各ビット
- PIPExCTR レジスタのATREPM ビット、ACLRM ビット、SQCLR ビット、SQSET ビット
- PIPExTRE レジスタ、PIPExTRN レジスタの各ビット

USB 通信許可（PID＝BUF）状態から、上記ビットを切り替える際は以下の手順に従ってください。
1. パイプコントロールレジスタのビット変更要求発生。
2. 当該パイプのPIDをNAKに変更。
3. 当該パイプのPBUSYビットが0になるまで待つ。
4. パイプコントロールレジスタのビット変更開始。

またパイプコントロールレジスタの以下のビットは、CFIFOSEL、D0FIFOSEL レジスタのいずれのCURPIPE ビットにも設定されていないパイプ情報のみ書き換えが可能です。

FIFO-PORT のCURPIPE に設定中に設定禁止であるレジスタ
- DCPMAXP レジスタの各ビット
- PIPECFG レジスタ、PIPEBUF レジスタ、PIPEMAXP レジスタ、PIPEPERI レジスタの各ビット

パイプ情報を変更する場合には、CURPIPE ビットの設定を変更パイプ以外に指定してください。なお、DCP についてはパイプ情報修正後、BCLR にてバッファのクリア処理をしてください。

(2)　転送タイプ

PIPECFGレジスタのTYPE ビットにて各パイプの転送タイプを設定します。各パイプに設定可能な転送タイプを下記に示します。
- DCP：設定不要（コントロール転送固定）です。
- パイプ1、2：バルク転送又はアイソクロナス転送を設定してください。
- パイプ3～5：バルク転送を設定してください。
- パイプ6～9：インタラプト転送を設定してください。

(3)　エンドポイント番号

PIPECFG レジスタのEPNUM ビットにて各パイプのエンドポイント番号を設定します。DCP は、エンドポイント0 に固定されています。他のパイプは、エンドポイント1 からエンドポイント15 までの設定が可能です。
- DCP：設定不要（エンドポイント0固定）です。
- パイプ1～9：1から15までを選択して設定してください。

ただし、DIR ビットとEPNUMビットの組み合わせが重複しないように設定してください。

(4)　マックスパケットサイズ設定

DCPMAXPレジスタ及びPIPEMAXPレジスタのMXPS ビットにて各パイプのマックスパケットサイズを設定します。DCP 及びパイプ1～5 はUSB 規格で定義されているすべてのマックスパケットサイズに

設定が可能です。パイプ6～9は最大64バイトがマックスパケットサイズの上限です。マックスパケットサイズは転送を開始する前（PID＝BUF）に設定してください。

- DCP：ハイスピード動作時は64を設定してください。
- DCP：フルスピード動作時は、8、16、32、64から選択して設定してください。
- パイプ1～5：ハイスピードバルク転送時は、512を設定してください。
- パイプ1～5：フルスピードバルク転送時は、8、16、32、64から選択して設定してください。
- パイプ1、2：ハイスピードアイソクロナス転送時は、1から1024の値を設定してください。
- パイプ1、2：フルスピードアイソクロナス転送時は、1から1023の値を設定してください。
- パイプ6～9：1から64の値を設定してください。

インタラプト転送及びアイソクロナス転送のHigh Bandwidthは未対応です。

(5) トランザクションカウンタ（パイプ1～5読み出し方向）

本モジュールは、データパケット受信方向で、指定回数のトランザクションが終了した場合に、トランスファ終了と認識できます。トランザクションカウンタは、D0FIFOポートにて選択されているパイプが、バッファメモリからデータ読み出し方向で設定されている場合に動作する機能です。トランザクションカウンタには、トランザクション回数を指定するTRNCNTレジスタと、内部でトランザクションをカウントするカレントカウンタがあり、カレントカウンタが指定回数に一致すると、バッファメモリが読み出し可能状態となります。TRCLRビットにて、トランザクションカウンタ機能のカレントカウンタを初期化し、トランザクションを最初からカウントし直すことができます。TRENBビットの設定により、TRNCNTレジスタ読み出し時の情報が異なります。

- TRENB＝0：設定したトランザクションカウンタ値が読み出せます。
- TRENB＝1：内部でカウントしたカレントカウンタ値が読み出せます。

TRCLRビットの操作条件は下記のとおりです。

- トランザクションカウント中、かつ、PID＝BUFの場合は、カレントカウンタはクリアできません。
- バッファ内にデータが残っている状態ではカレントカウンタはクリアできません。

(6) 応答PID

DCPCTRレジスタ及びPIPEnCTRレジスタのPIDビットにて各パイプの応答PIDを設定します。
各設定における本モジュールの動作は下記のとおりです。
応答PIDは、ホストからのトランザクションに対する応答を指定します。

- NAK設定：発生したトランザクションに対して常にNAK応答します。
- BUF設定：バッファメモリの状況に応じてトランザクションに応答します。
- STALL設定：発生したトランザクションに対して常にSTALL応答します。

注.セットアップトランザクションに対しては、PIDの設定にかかわらず、常にACK応答し、レジスタにUSBリクエストを格納します。

PIDビットは、トランザクション結果により本モジュールによる書き込みが発生する場合があります。本モジュールによりPIDビットへの書き込みが発生するのは以下の場合です。

- NAK設定：以下の場合にPID＝NAKとなり、トランザクションに対して常にNAK応答します。
  SETUPトークンを正常に受信したとき（DCPのみ）
  バルク転送時にSHTNAKビット（PIPECFGレジスタのビット7）を1に設定し、トランザクションカウンタが終了したとき、又はショートパケットを受信したとき
- BUF設定：本モジュールによるBUF書き込みはありません。
- STALL設定：以下の場合にPID＝STALLとなり、トランザクションに対して常にSTALL応答します。
  受信データパケットでマックスパケットサイズオーバエラーを検出したとき
  コントロール転送シーケンスエラーを検出したとき（DCPのみ）

(7) データPIDシーケンスビット

コントロール転送のデータステージ、バルク転送、インタラプト転送において正常なデータ転送が行われると、本モジュールによりデータPIDのシーケンスビットが自動的にトグル動作します。次に送出されるデータPIDのシーケンスビットは、DCPCTRレジスタ及びPIPEnCTRレジスタのSQMONビットにて確認できます。データ送信時はACKハンドシェイク受信タイミングで、データ受信時はACKハン

ドシェイク送信タイミングでシーケンスビットが切り替わります。また、DCPCTR レジスタ及びPIPEnCTR レジスタのSQCLR ビット、SQSET ビットにてデータPID シーケンスビットを変更可能です。

コントロール転送では、ステージ遷移時に本モジュールが自動的にシーケンスビットを設定します。セットアップステージ終了時はDATA0 になり、ステータスステージではDATA1 で応答します。このため、設定は必要ありません。

ClearFeature リクエストの送信又は受信時などは、データPID シーケンスビットを設定する必要がありますので注意してください。

なお、アイソクロナス転送設定パイプは、SQSET ビットによるシーケンスビット操作を行うことはできません。

(8) 応答PID＝NAK 機能

本モジュールには、PIPECFG レジスタのSHTNAK ビットに”1” を設定することで、トランスファの最後（ショートパケット受信又はトランザクションカウンタでモジュールが自動識別）のデータパケット受信タイミングで、パイプ動作を禁止（応答PID＝NAK）する機能があります。

この機能を使用することで、バッファメモリをダブルバッファで使用している場合に、トランスファ単位でのデータパケットの受信が可能です。また、パイプ動作が禁止された場合は、再度パイプ許可（応答PID＝BUF）設定を行う必要があります。

なお、本機能はバルク転送時のみ動作することが可能です。

(9) オート応答モード

バルク転送のパイプ（パイプ1～5）において、ATREPM ビット（PIPEnCTR レジスタのビット10）に1 をセットすると、オート応答モードとなります。OUT 転送時（DIR ＝ 0）にはOUT-NAK モードとなり、IN 転送時（DIR＝1）にはNull 自動応答モードとなります。

- OUT-NAK モード

  バルク OUT 転送のパイプにおいて、ATREPM ビットに1 をセットすると、OUT トークン又はPINGトークンに対してNAK 応答し、NRDY 割り込みを出力します。通常モードからOUT-NAK モードへ設定するためには、パイプ動作禁止状態（応答PID＝NAK）でOUT-NAK モードに設定して、パイプ動作許可（応答PID＝BUF）を行ってください。パイプ動作許可後に、OUT-NAK モードが有効になります。ただし、パイプ動作禁止にする直前でOUT トークンを受け付けた場合には、そのトークンのデータは正常に受信され、ホストへACK 応答されます。

  OUT-NAK モードから通常モードへ遷移させるためには、パイプ動作禁止状態（応答PID＝NAK）でOUT-NAKモードを解除して、パイプ動作許可（応答PID＝BUF）を行ってください。通常モードでは、OUT データ受信が可能となり、PING トークンに対しては、バッファが受信可能であればACK を返します。

- Null 自動応答モード

  バルク IN 転送のパイプにおいて、ATREPM ビットに1 をセットすると、Zero-Length パケットを送信し続けます。

  通常モードからNull 自動応答モードへ設定するためには、パイプ動作禁止状態（応答PID＝NAK）で、Null 自動応答モードに設定して、パイプ動作許可（応答 PID ＝ BUF）を行ってください。パイプ動作許可後に、Null 自動応答モードが有効になります。ただし、Null 自動応答モードへ設定する場合には、バッファ内は空の状態である必要があります。INBUFM ビットが 0 であることで確認してください。INBUFM ビットが 1 の場合には、バッファ内にデータが存在しているため、ACLRM ビットにより空にしてください。また、Null 自動応答モードへの設定中には、FIFO ポートからのデータ書き込みは行わないでください。

  Null 自動応答モードから通常モードへ遷移させるためには、パイプ動作禁止状態（応答PID＝NAK）をZero-Length パケット送信分ウェイト（フルスピード時：10μs、ハイスピード時：3μs）した後、Null 自動応答モードを解除してください。通常モードでは、FIFO ポートからの書き込みが可能となり、パイプ動作許可（応答PID＝BUF）を行うことにより、ホストへのパケット送信が可能となります。

31.7.4　FIFO バッファメモリ

(1)　FIFO バッファメモリ割り当て

本モジュールのFIFO バッファメモリマップ例を図31.10に示します。FIFO バッファメモリはSH-4Aと本モジュールが共用する領域です。FIFO バッファメモリの状況には、アクセス権がシステム（SH-4A側）にある場合と本モジュール（SIE 側）にある場合があります。

FIFO バッファメモリは、パイプごとに独立した領域を設定します。メモリ領域は、64 バイトを 1 ブロックとして、ブロック先頭番号とブロック数（PIPEBUF レジスタのBUFNMB 及びBUFSIZE ビット）で設定します。

CNTMD ビット（PIPECFG レジスタのビット 8）にて連続転送モードを選択した場合には、BUFSIZEビットの設定は、必ずマックスパケットサイズの整数倍になるように設定してください。またPIPECFGレジスタのDBLB ビットにてダブルバッファを選択した場合には、同一パイプに対してPIPEBUF レジスタのBUFSIZE ビットにて指定したメモリ領域を 2 面分割り当てられます。

また、バッファメモリへのアクセス（データ読み書き）は2 本のFIFO ポートを使用します。FIFO ポートに割り当てるパイプは、C/D0FIFOSEL レジスタのCURPIPE ビットにてパイプ番号を指定します。

各パイプのバッファステータスは、DCPCTR レジスタ及びPIPEnCTR レジスタのBSTS ビット、INBUFM ビットで確認できます。また、FIFO ポートのアクセス権は、FRDY ビット（CFIFOCTR レジスタ及びD0FIFOCTR レジスタのビット13）で確認できます。

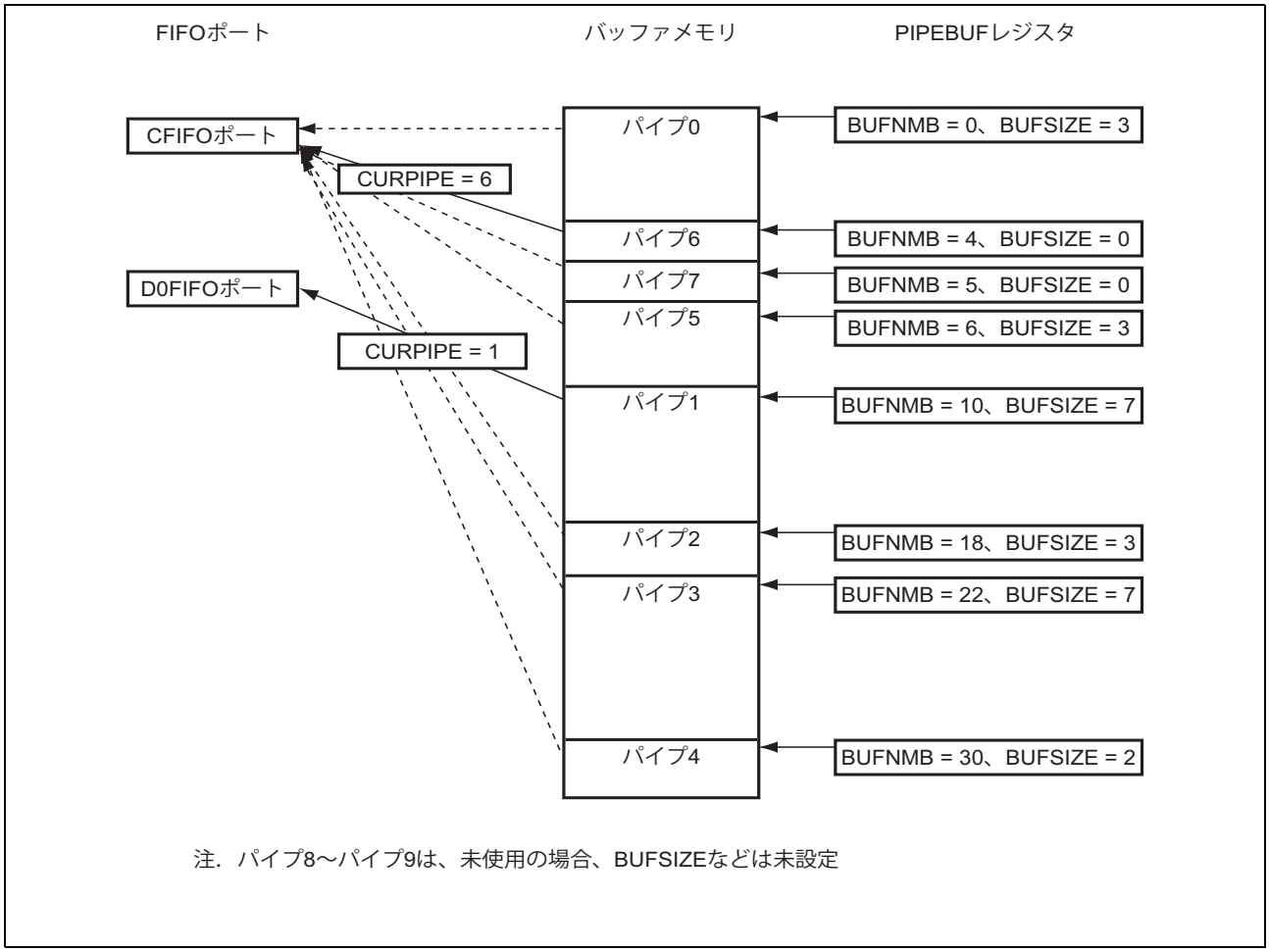


図 31.10　バッファメモリマップ例

- **バッファステータス**
  本モジュールのバッファステータス表を表 31.20 及び表 31.21 に示します。バッファメモリステータスをBSTS ビット（DCPCTR レジスタのビット 15）及びINBUFM ビット（PIPEnCTR レジスタのビット 14）にて確認できます。バッファメモリのアクセス方向は、DIR ビット（PIPECFG レジスタのビット 4）又はCFIFOSEL レジスタのISEL ビット（DCP 選択時）で、バッファメモリのアクセス方向を指定します。

  なお、INBUFM ビットは送信方向のパイプ 1～5 でのみ有効です。

  送信側の転送パイプをダブルバッファに設定している場合、BSTS ビットはSH-4A 側のバッファの状態を、INBUFM ビットはSIE 側のバッファの状態を判断するために使用します。SH-4A（DMAC）によるFIFO ポートへの書き込みが遅く、BEMP 割り込みではバッファの空きが判別できない場合に、INBUFM ビットで送信完了を確認できます。

表31.20　BSTS ビットによるバッファステータス表

ISEL 又はDIR	BSTS	バッファメモリの状態
0 （受信方向）	0	受信データなし、又は受信中 FIFO ポートからの読み出し不可
0（受信方向）	1	受信データあり、又はZero-Length パケット受信 FIFO ポートからの読み出し可能 ただし、Zero-Length パケット受信時は読み出し不可のためバッファクリアが必要
1 （送信方向）	0	送信を完了していない FIFO ポートへの書き込み不可
1 （送信方向）	1	送信完了 SH-4A は書き込み可能

表31.21　INBUFM ビットによるバッファステータス表

DIR	INBUFM	バッファメモリの状態
0 （受信方向）	無効	無効
1 （送信方向）	0	送信可能データを送信完了した 送信可能データなし
1（送信方向）	1	送信可能データがFIFO ポートから書き込まれた 送信可能データあり

- FIFO バッファクリア

  本モジュールによる FIFO バッファメモリのクリア一覧表を表 31.22 に示します。バッファメモリは、BCLR、DCLRM、ACLRM ビットにてクリアできます。

表31.22　バッファクリアー覧表

ビット名	BCLR	DCLRM	ACLRM
レジスタ	CFIFOCTR レジスタ D0FIFOCTR レジスタ	D0FIFOSEL レジスタ	PIPEnCTR レジスタ
機能	SH-4A 側バッファメモリをクリアします。	指定パイプのデータを読み出した後で、自動でバッファメモリをクリアするモードです。	受信したパケットをすべて破棄する自動バッファクリアモードです。
クリア方法	1ライトでクリア	1：モード有効 0：モード無効	1：モード有効 0：モード無効

- バッファ領域

  本モジュールのバッファメモリマップを表31.23 に示します。バッファメモリには、あらかじめパイプに割り当てられている専用固定領域及びユーザ設定が可能なユーザ領域があります。
  DCP 用バッファは、コントロールリード転送及びコントロールライト転送で、同一領域を使用する専用固定領域です。
  パイプ 6～9 領域は、あらかじめ領域を割り当ててありますが、パイプ6～9 を使用しない場合はユーザ領域としてパイプ1～5 に割り当てて使用可能です。
  各パイプで領域が重ならないように設定してください。特にダブルバッファ設定時は領域が設定値の倍になりますので注意してください。
  また、マックスパケットサイズ未満の設定値でバッファサイズ指定は行わないでください。

表31.23　バッファメモリマップ

バッファメモリ番号	バッファサイズ	パイプ設定	備考
H'0	64バイト	DCP専用固定領域	シングルバッファ
H'1 ～ H'3	—	使用禁止	—
H'4	64バイト	パイプ6用固定領域	シングルバッファ
H'5	64バイト	パイプ7用固定領域	シングルバッファ
H'6	64バイト	パイプ8用固定領域	シングルバッファ
H'7	64バイト	パイプ9用固定領域	シングルバッファ
H'8 ～ H'87	最大8192バイト	パイプ1 ～パイプ5 ユーザ領域	ダブルバッファ設定可能、連続転送可能

- **自動バッファクリアモード機能**
  本モジュールには、ACLRM ビット（PIPEnCTR レジスタのビット9）に”1” を設定することで、受信したすべてのデータパケットを破棄します。ただし、正常なデータパケットを受信した場合は、ホストコントローラに対してACK 応答を行います。なお、本機能はバッファメモリ読み出し方向のみ設定可能です。
  また、ACLRM ビットに ”1” を設定し、続けて ”0” を設定することで、アクセス方向に関係なく、選択パイプのバッファメモリをクリアできます。
  ハードウェアの内部シーケンス実行時間として、ACLRM ビットへの1 書き込みと0 書き込みの間隔を100ns以上とってください。

- **バッファメモリ仕様（シングル／ダブル設定）**
  パイプ 1～5は、DBLB ビット（PIPECFG レジスタのビット9）にてシングルバッファ又はダブルバッファを選択できます。ダブルバッファは同一パイプに対して PIPEBUF レジスタの BUFSIZE ビットにて指定したメモリ領域を2 面分割り当てる機能です。本モジュールのバッファメモリ設定例を図31.11 に示します。

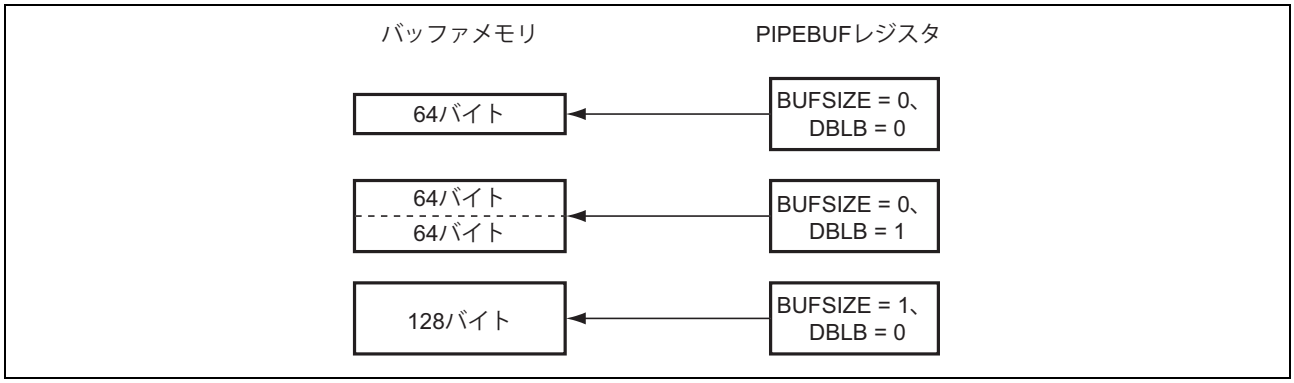


図 31.11　バッファメモリ設定例

- **バッファメモリ動作（連続転送設定）**
  PIPECFG レジスタのCNTMD ビットにて連続転送モード、又は非連続転送モードを選択できます。この選択は、パイプ1～5に対して有効です。
  連続転送モード機能は、複数のトランザクションを連続して送受信する機能です。連続転送モード設定時は、各パイプに割り当てられたバッファサイズまでSH-4Aへ割り込みを発生させずにデータ転送ができます。
  連続送信モードでは、書き込みデータをマックスパケットサイズで分割して送信します。バッファサイズ未満のデータ送信（ショートパケット又はマックスパケットサイズの整数倍でバッファサイズ未満）の場合には、送信データの書き込み後BVAL＝1 を設定する必要があります。

連続受信モードでは、バッファサイズまでのパケット受信、トランザクションカウントの終了、又はショートパケットを受信するまで割り込みは発生しません。
CNTMD ビット設定値と FIFO バッファに対する送受信完了判定方法の関係を表 31.24 に示します。

表31.24　CNTMD ビット設定値とFIFO バッファに対する送受信完了判定方法の関係

連続転送モード	読み出し可能状態、送信可能判定方法
非連続転送 (CNTMD = 0)	受信方向設定時（DIR＝0）FIFO バッファ読み出し可能状態になる条件： ・本モジュールが1 パケット受信したとき
	送信方向設定時（DIR＝1）FIFO バッファ送信可能状態になる条件： 以下のいずれかを満たしたとき ・ソフトウェア（又はDMAC）がマックスパケットサイズ分のデータをFIFO バッファに書き込んだ。 ・ソフトウェア（又はDMAC）がショートパケット分のデータ（0 バイトの場合を含む）をFIFO バッファに書き込み、BVAL＝1 を書き込んだ。
連続転送 (CNTMD = 1)	受信方向設定時（DIR＝0）FIFO バッファ読み出し可能状態になる条件： ・選択パイプに割り当てられたFIFO バッファに受信したデータのバイト数と、割り当てられたバイト数（(BUFSIZE+1) x 64）が等しくなったとき ・ 本モジュールがZero-Length パケット以外のショートパケットを受信したとき ・ 選択パイプに割り当てられたFIFO バッファにすでにデータが格納されている状態で、本モジュールがZero-Length パケットを受信したとき。 ・選択パイプに対して設定したトランザクションカウンタ回数分のパケットを受信したとき
	送信方向設定時（DIR＝1）FIFO バッファ送信可能状態になる条件： 以下のいずれかをを満たしたとき ・ソフトウェア（又はDMAC）が書き込んだデータ数が、選択パイプに割り当てられたFIFO バッファサイズ1 面分と等しくなったとき。 ・ソフトウェア（又はDMAC）が、選択パイプに割り当てられたFIFO バッファサイズ1 面分よりも小さいデータ数（0 バイトの場合を含む）をFIFO バッファに書き込み、BVAL＝1 を書き込んだとき。

本モジュールのバッファメモリ動作例を図 31.12に示します。

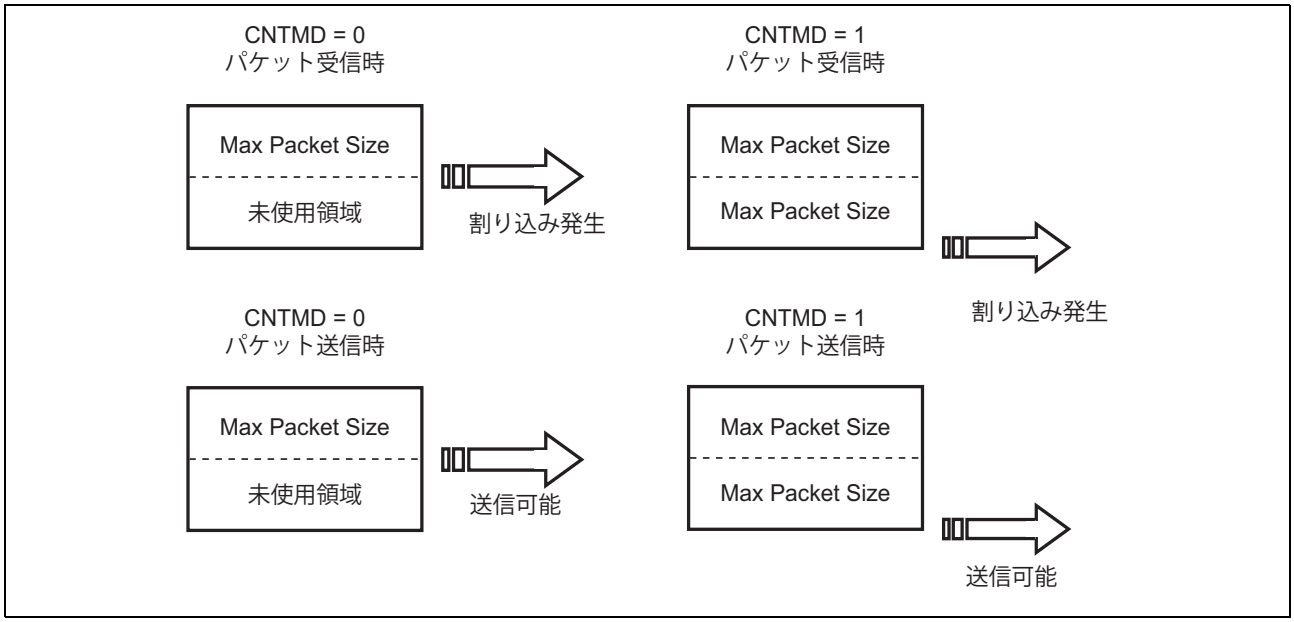


図 31.12　バッファメモリ動作例

(2)　FIFO ポートの機能

本モジュールの FIFO ポート機能設定表を表 31.25 に示します。データ書き込みアクセス時は、バッファフル（非連続転送時はマックスパケットサイズ数）まで書き込みを行うと、自動的に送信可能状態となります。バッファフル（非連続転送時はマックスパケットサイズ数）未満のデータを送信可能状態にするには、BVAL ビット（C/D0FIFOCTR レジスタのビット 15）による書き込み終了設定が必要です。また、Zero-Length パケットの送信は、同レジスタの BCLR ビットによるバッファクリアの上、BVAL ビットによる書き込み終了設定が必要です。

読み出しアクセス時は、すべてのデータを読み出すと、自動的に新しいパケット受信可能状態になります。ただし、Zero-Length パケット受信時（DTLN ＝ 0）は、データは読み出せませんので、同レジスタの BCLR ビットによるバッファクリアが必要です。受信データ長は、C/D0FIFOCTR レジスタの DTLN ビットにて確認します。

表 31.25　FIFO ポート機能設定表

レジスタ名	ビット名	機能	備考
C/D0FIFOSEL	RCNT	DTLN 読み出しモード選択	
	REW	バッファメモリリワインド（再読み出し、再書き込み）	
	DCLRM	指定パイプの受信データ読み出し後自動クリア	D0FIFO 専用
	DREQE	DMA 転送許可	D0FIFO 専用
	MBW	FIFO ポートアクセスビット幅	CFIFO 専用
	BIGEND	FIFO ポートエンディアン選択	CFIFO 専用
	ISEL	FIFO ポートアクセス方向	DCP 専用
	CURPIPE	カレントパイプ選択	
C/D0FIFOCTR	BVAL	バッファメモリ書き込み終了	
	BCLR	SH-4A 側バッファメモリクリア	
	DTLN	受信データ長確認	

(a) FIFO ポート選択

各 FIFO ポートで選択可能なパイプ表を表 31.26 に示します。C/D0FIFOSEL レジスタの CURPIPE ビットにて、アクセスするパイプを選択します。パイプ選択後、書き込んだ CURPIPE 値が正しく読み出せたのを確認してから（前回のパイプ番号が読み出された場合には、本コントローラがパイプ変更処理中である事を示します）FRDY ＝ 1 を確認し FIFO ポートへアクセスしてください。

また、MBW ビットでアクセスするバス幅を選択してください。バッファメモリアクセス方向は、PIPECFG レジスタの DIR ビットに従います。ただし、DCP のみ ISEL ビットにより決定します。

表 31.26　パイプ別 FIFO ポートアクセス表

パイプ	アクセス方法	使用可能なポート
DCP	SH-4A アクセス	CFIFO ポートレジスタ
パイプ 1 ～パイプ 9	SH-4A アクセス	CFIFO ポートレジスタ
	DMA アクセス	D0FIFO ポートレジスタ

(b) REW ビット

現在アクセス中のパイプアクセスを一時的に中断し、別のパイプに対するアクセスを行い、再度現在のパイプ処理を継続して行うことができます。このような処理には、REWビット（C/D0FIFOSELレジスタのビット14）を使用します。

C/D0FIFOSELレジスタのCURPIPEビット設定と同時にREWビットを1に設定してパイプ選択を行うと、バッファメモリの読み出し又は書き込みポインタをリセットし、最初のバイトから読み出し又は書き込みを行うことができます。また、0に設定しパイプ選択を行うと、バッファメモリの読み出し又は書き込みポインタをリセットせずに、前回選択時の続きから継続してデータの読み書きができます。

FIFOポートへアクセスするには、パイプ選択後、FRDY＝1を確認する必要があります。

(3)　DMA転送（D0FIFOポート）

(a) DMA転送概要

パイプ1～9は、DMACを使用してFIFOポートにアクセス可能です。DMAに設定したパイプのバッファがアクセス可能になったとき、DMA転送要求を出力します。

CURPIPEビットにDMA転送を行うパイプを選択するよう設定してください。なお、DMA転送中は選択しているパイプを変更しないでください。

(b) D0FIFO自動クリアモード（D0FIFOポート読み出し方向）

本モジュールは、DCLRMビット（D0FIFOレジスタのビット13）に1を書き込むことで、バッファメモリからのデータ読み出しを完了した場合に、選択パイプのバッファメモリを自動的にクリアします。

各設定での、パケット受信とバッファメモリクリア処理の関連事項を表31.27に示します。表31.27に示すように、BFREビットの設定値によりバッファクリア条件が異なりますが、クリアが必要などのような状態においても、DCLRMビットを使用することでバッファクリアが不要になり、ソフトウェアを介在させないDMA転送が可能になります。

なお、本機能はバッファメモリ読み出し方向のみ設定できます。

表31.27　パケット受信とバッファメモリクリア処理の関連表

パケット受信時のバッファ状態	レジスタ設定			
	DCLRM = 0		DCLRM = 1	
	BFRE = 0	BFRE = 1	BFRE = 0	BFRE = 1
バッファフル	クリア不要	クリア不要	クリア不要	クリア不要
Zero-length パケット受信	クリア必要	クリア必要	クリア不要	クリア不要
通常のショートパケット受信	クリア不要	クリア必要	クリア不要	クリア不要
トランザクションカウント終了	クリア不要	クリア必要	クリア不要	クリア不要

31.7.5　コントロール転送（DCP）

コントロール転送のデータステージのデータ転送は、デフォルトコントロールパイプ（DCP）を使用します。

DCP のバッファメモリは、コントロールリード及びコントロールライト共用の固定領域で 64 バイトシングルバッファです。バッファメモリへのアクセスは、CFIFO ポートのみ可能です。

(a)　セットアップステージ

本モジュールは、本モジュールに対する正常なセットアップパケットに対して必ずACK 応答します。セットアップステージの本モジュールの動作を以下に示します。

1. 新しいセットアップパケットを受信すると、本モジュールは以下のビットをセットします。
   - INTSTS レジスタのVALIDビットを”1”にセット
   - DCPCTR レジスタのPIDビットをNAKにセット
   - DCPCTR レジスタのCCPLビットを”0”にセット
2. セットアップパケットに引き続きデータパケット受信すると、本モジュールは、USB リクエストのパラメータを、USBREQ レジスタ、USBVAL レジスタ、USBINDX レジスタ、及びUSBLENG レジスタに格納します。

コントロール転送に対する応答処理は、必ずVALID＝0 を設定後に行ってください。VALID＝1 状態ではPID＝BUF 設定が行えず、データステージを終了することができません。

VALID ビットの機能により、本モジュールは、コントロール転送中に新しいUSB リクエストを受信した場合には処理中のリクエスト処理を中断し、最新のリクエストに対する応答を行うことができます。

また、本モジュールは、受信したUSB リクエストの方向ビット（bmRequestType のビット 7）及びリクエストデータ長（wLength）を自動判別し、コントロールリード転送、コントロールライト転送、及びコントロールライトノーデータ転送を識別し、ステージ遷移を管理します。間違ったシーケンスに対しては、コントロール転送ステージ遷移割り込みのシーケンスエラーが発生し、ソフトウェアに通知します。本モジュールのステージ管理については図31.8 を参照してください。

(b)　データステージ

受信したUSB リクエストに対応したデータ転送をDCP にて行ってください。DCP バッファメモリへアクセスする前に、CFIFOSEL レジスタのISEL ビットにてアクセス方向指定を行ってください。

転送データがDCP バッファメモリのサイズより大きい場合には、コントロールライト転送ではBRDY 割り込みを、コントロールリード転送ではBEMP 割り込みを使用してデータ転送を行ってください。

ハイスピード動作時のコントロールライト転送では、バッファメモリの状況に応じてNYET ハンドシェイク応答を行います。

(c)　ステータスステージ

DCPCTR レジスタのPID ビットがPID＝BUF の状態で、CCPL ビットに”1” を設定することによりコントロール転送を終了します。

上記設定後、セットアップステージで確定したデータ転送方向に従い、本モジュールが自動的にステータスステージを実行します。具体的には下記のとおりです。

- **コントロールリード転送の場合**
  本モジュールはZero-Lengthパケットの送信を行い、USBホストからのACK応答を受信します。
- **コントロールライト転送、ノーデータコントロール転送の場合**
  USBホストからのZero-Lengthパケットを受信し、ACK応答を送信します。

(d)　コントロール転送自動応答機能

本モジュールは、正常なSET_ADDRESS リクエストに自動応答します。SET_ADDRESS リクエストに下記のエラーがある場合は応答が必要です。

- コントロールリード転送以外の場合：bmRequestType ≠ H'00
- リクエストエラーの場合：wIndex ≠ H'00
- ノーデータコントロール転送以外の場合：wLength ≠ H'00
- リクエストエラーの場合：wValue ＞ H'7F

- デバイスステートエラーのコントロール転送：DVSQ＝011（Configured）

SET_ADDRESS以外のすべてのリクエストには対応する応答が必要です。

31.7.6　バルク転送（パイプ1～5）

バルク転送は、バッファメモリ使用方法（シングル／ダブルバッファ設定、又は連続／非連続転送モード設定）の選択ができます。バッファメモリサイズは、最大2Kバイトまで設定可能です。バッファメモリの状態は本モジュールが管理し、NYETハンドシェイクには自動応答します。

本モジュールのNYETハンドシェイク応答表を表31.28に示します。本モジュールのNYET応答は、下記の条件に従います。ただし、ショートパケット受信時は、NYETパケット応答をせずにACK応答となります。また、コントロールライト転送のデータステージも同様です。

表31.28　NYETハンドシェイク応答表

DCPCTRレジスタのPIDビット設定値	バッファメモリの状態	トークン	応答	備考
NAK/STALL	—	SETUP	ACK	—
	—	IN/OUT/PING	NAK/STALL	—
BUF	—	SETUP	ACK	—
	RCV-BRDY1	OUT/PING	ACK	OUTトークン受信時はデータパケットを受信
	RCV-BRDY2	OUT	NYET	データパケット受信、受信不能通知
	RCV-BRDY2	OUT (Short)	ACK	データパケット受信、受信可能通知
	RCV-BRDY2	PING	ACK	受信可能通知
	RCV-NRDY	OUT/PING	NAK	受信不能通知
	TRN-BRDY	IN	DATA0/DATA1	データパケット送信
	TRN-NRDY	IN	NAK	TRN-NRDY

【記号説明】
RCV-BRDY1　：OUT/PINGトークン受信時にバッファメモリに2パケット分以上の空き領域がある
RCV-BRDY2　：OUTトークン受信時にバッファメモリに1パケット分の空き領域しかない
RCV-NRDY　：PINGトークン受信時にバッファメモリに空き領域がない
TRN-BRDY　：INトークン受信時にバッファメモリに送信データがある
TRN-NRDY　：INトークン受信時にバッファメモリに送信データがない

31.7.7　インタラプト転送（パイプ6～9）

本モジュールは、ホストコントローラが管理している周期に従ってインタラプト転送を行います。インタラプト転送の場合、PINGパケットは無視（無応答になる）します。また、NYETハンドシェイクを送信せず、ACK、NAK、STALL応答を行います。

なお、本モジュールは、インタラプト転送のHigh-Bandwidth転送には対応していません。

31.7.8　アイソクロナス転送（パイプ1、2）

本モジュールは、アイソクロナス転送に対して下記の機能を備えています。

- アイソクロナス転送のエラー情報通知
- インターバルカウンタ（IITVビット指定）
- アイソクロナスIN転送データセットアップコントロール（IDLY機能）
- アイソクロナスIN転送バッファフラッシュ機能（IFISビット指定）

本モジュールは、アイソクロナス転送のHigh-Bandwidth転送には対応していません。

(1)　アイソクロナス転送のエラー検出

本モジュールは、アイソクロナス転送のエラー発生を管理可能なように、下記のエラー情報の検出機能を持っています。本モジュールがエラーを検出する優先順位とエラー検出に伴って発生させる割り込みについて表31.29及び表31.30に示します。

1. PIDエラー
   - 受信パケットのPIDが不正な場合
2. CRCエラー、ビットスタッフィングエラー
   - 受信パケットのCRCにエラーがあった場合又はビットスタッフィングが不正な場合
3. マックスパケットサイズオーバ
   - 受信パケットのデータサイズがマックスパケットサイズの設定値を超えていた
4. オーバラン、アンダーランエラー
   - IN方向（送信）の転送時にINトークン受信時にバッファメモリにデータがない場合
   - OUT方向（受信）の転送時にOUTトークン受信したがバッファメモリに空き領域がない場合
5. インターバルエラー
   - アイソクロナスIN転送でインターバルフレームにINトークンを受信できなかった場合
   - アイソクロナスOUT転送でインターバルフレーム以外にOUTトークンを受信した場合

表31.29　トークン受信時のエラー検出

検出の優先順位	エラー	発生する割り込みとステータス
1	PIDエラー	割り込み発生せず（破損パケットとして無視）。
2	CRCエラー、ビットスタッフィングエラー	割り込み発生せず（破損パケットとして無視）。
3	オーバラン、アンダーランエラー	NRDY 割り込みを発生させ、OVRN ビットをセットします。 IN トークンに対してZero-Length パケットを送信します。 OUT トークンに対してはデータパケットを受信しません。
4	インターバルエラー	NRDY割り込みを発生させます。

表31.30　データパケット受信時のエラー検出

検出の優先順位	エラー	発生する割り込みとステータス
1	PIDエラー	割り込み発生せず（破損パケットとして無視）。
2	CRCエラー、ビットスタッフィングエラー	NRDY割り込みを発生させて、CRCE ビットをセットします。
3	マックスパケットサイズオーバエラー	BEMP 割り込みを発生させて、PID をSTALL にセットします。

(2)　DATA-PID

本モジュールは、High-Bandwidth 転送には対応していません。受信したPID に対する対応を以下に示します。

1. IN方向
   - DATA0：データパケットのPIDとして送信します。
   - DATA1：送信しません。
   - DATA2：送信しません。
   - mDATA：送信しません。
2. OUT方向（フルスピード動作時）
   - DATA0：データパケットのPIDとして正常受信します。
   - DATA1：データパケットのPIDとして正常受信します。
   - DATA2：パケットを無視します。
   - mDATA：パケットを無視します。

3. OUT方向（ハイスピード動作時）
- DATA0：データパケットのPIDとして正常受信します。
- DATA1：データパケットのPIDとして正常受信します。
- DATA2：データパケットのPIDとして正常受信します。
- mDATA：データパケットのPIDとして正常受信します。

(3) インターバルカウンタ

IITV ビット（PIPEPERI レジスタのビット2～0）によりアイソクロナス転送のインターバルを設定できます。インターバルカウンタにより、表31.31 に示す機能を実現します。

表31.31　インターバルカウンタの機能

転送方向	機能	検出条件
IN	送信バッファフラッシュ機能	アイソクロナスIN 転送でインターバルフレームにIN トークンを正常受信できない。
OUT	トークン未受信の通知	アイソクロナスOUT 転送でインターバルフレームにOUT トークンを正常受信できない。

インターバルのカウントは、SOF の受信又は補間されたSOF で行いますので、SOF が破損しても等時性を保つことができます。設定できるフレーム間隔は2^{IITV}フレーム又は2^{IITV}マイクロフレームです。

(a) カウンタの初期化

本モジュールは、下記の条件でインターバルカウンタを初期化します。

- パワーオンリセット
  IITV ビットが初期化されます。
- ACLRMによるバッファメモリ初期化
  IITV ビットは初期化されませんがカウントは初期化されます。ACLRM ビットを0にすることにより、IITVの設定値からカウントを開始します。

インターバルカウンタが初期化された後は、正常にパケットを転送したあとに、下記1.又は2.の条件でインターバルのカウントを開始します。

1. PID＝BUF状態でINトークンに対して、データを送信後のSOF受信
2. PID＝BUF状態でOUT トークンのデータを受信後のSOF受信

なお、下記の条件ではインターバルカウンタは初期化されません。

1. PIDビットをNAK又はSTALLに設定した場合
   インターバルタイマは停止しません。次のインターバルにトランザクションの実行を試みます。
2. USBバスリセット及びUSBサスペンド
   IITV ビットは初期化されません。SOFを受信すると、受信前の値からカウントを開始します。

(b) インターバルカウントと転送制御

1. 選択パイプがアイソクロナスOUT転送パイプの場合

IITV ビットに設定したインターバル毎の（マイクロ）フレーム中に DATA パケットを受信しなかったとき、本コントローラはNRDY割り込みを発生させます。

DATA パケットに CRC エラー等のエラーが発生したために受信できなかったとき、又は FIFO バッファがフルのために本モジュールがデータを受信できなかったときにも NRDY 割り込みを発生させます。

NRDY 割り込みの発生のタイミングは、SOF パケット受信時です。また SOF パケットが破損した場合でも内部補間機能により SOF を受信すべきタイミングに割り込みを発生させます。

ただしIITV＝0以外のときには、インターバルカウント開始後のインターバル毎のSOFパケット受信時にNRDY割り込みを発生させます。

インターバルタイマ起動後、PIDビットにNAKを設定した場合、本モジュールはSOFパケットを受信してもNRDY割り込みを発生させません。

インターバルのカウント開始条件は、IITVビットの設定値により異なります。

• IITV＝0のとき：選択パイプのPIDビットをBUFに変更した次の（マイクロ）フレームからインターバルのカウントを開始します。

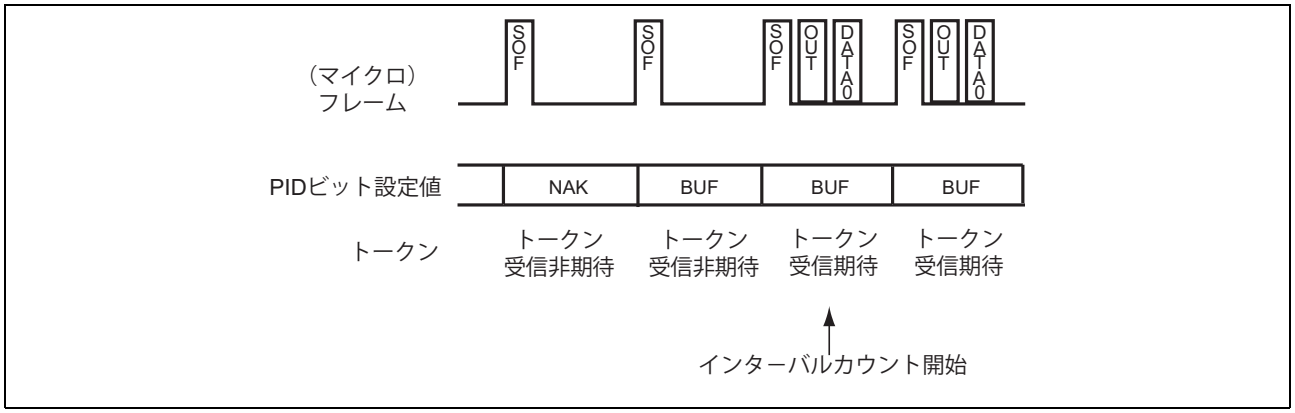


図 31.13　IITV＝0 の場合の（マイクロ）フレームとトークン 受信期待有無の関係

• IITV＝0以外のとき：選択パイプのPIDビットをBUFに変更した後最初のDATAパケット正常受信完了時点からインターバルのカウントを開始します。

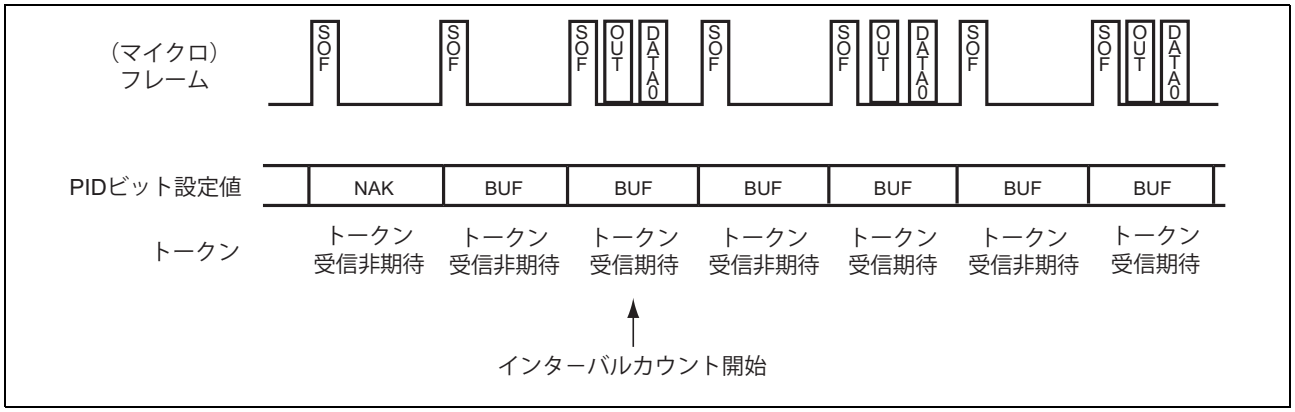


図 31.14　IITV＝0 以外の場合の（マイクロ）フレームとトークン 受信期待有無の関係

2. 選択パイプがアイソクロナスIN転送パイプの場合

IFIS＝1と組み合わせて使用します。IFIS＝0の場合にはIITVビットへの設定値とは関係なく、受信したトークンに応答してデータパケットを送信します。

IFIS＝1を設定している場合、FIFOバッファに送信可能なデータが存在している状態で、IITVビットに設定したインターバル毎の（マイクロ）フレーム中にINトークンを受信しなかったとき、本モジュールはFIFOバッファをクリアします。
INトークンにCRCエラー等のバスエラーが発生したために本モジュールが正常受信できなかった場合にもクリアを行います。
FIFOバッファクリアのタイミングは、SOFパケット受信時です。またSOFパケットが破損した場合でも内部補間機能によりSOFを受信すべきタイミングにFIFOバッファクリアを行います
インターバルのカウント開始条件は、IITV ビットの設定値により異なります。（OUT 時と同様です）
インターバルカウント条件は以下のいずれかの場合です。

- **本モジュールがハードウェアリセットされた場合**
  （このとき、IITVビットへの設定値も0にクリアされます。）
- **ACLRM＝1を設定した場合**

(4)　アイソクロナス転送送信データセットアップ

本モジュールのアイソクロナスデータ送信では、バッファメモリにデータ書き込み後、SOF パケットを検出した次のフレームでデータパケットの送出が可能になります。この機能をアイソクロナス転送送信データセットアップ機能と呼びます。この機能により、送信を開始したフレームを特定することができます。

バッファメモリをダブルバッファで使用している場合で、両方のバッファの書き込みが終了している場合も、転送可能状態になるバッファメモリは先に書き込みを終了した1 面だけとなります。このため同一フレームで、複数のIN トークンを受信しても、送出されるバッファメモリはただ1 パケット分となります。

IN トークンの受信時に、バッファメモリが送信可能状態であればデータ転送し正常応答します。しかし、バッファメモリが送信不能状態であれば、Zero-Length パケットを送出しアンダーランエラーとなります。

本モジュールで、IITV＝0（毎フレーム）を設定した場合のアイソクロナス転送送信データセットアップ機能による送信例を図 31.15 に示します。Zero-Length パケット送出は図中で網掛けNull と表示しています。

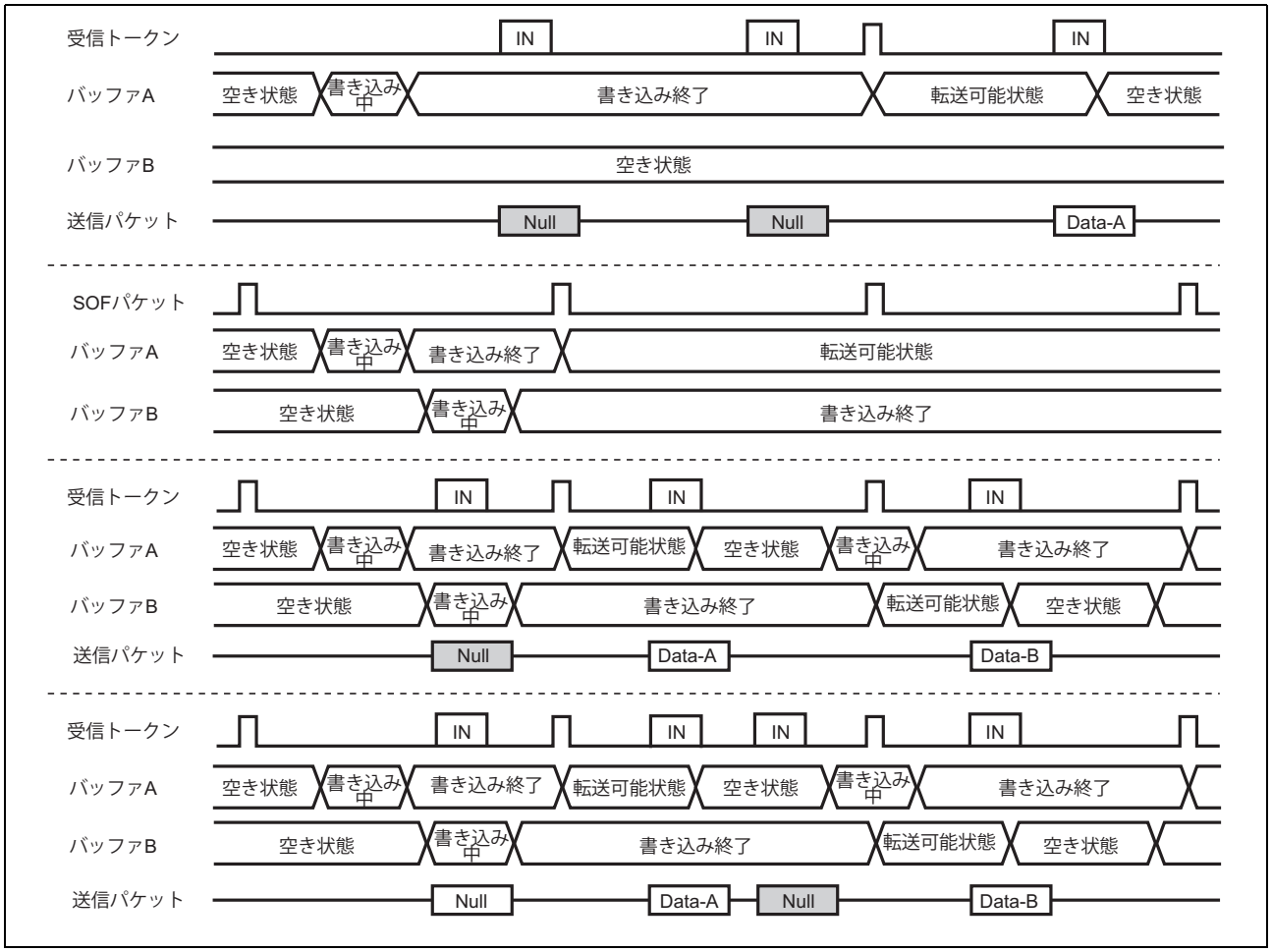


図 31.15　データセットアップ機能動作例

(5)　アイソクロナス転送送信バッファフラッシュ

本モジュールは、アイソクロナスデータ送信でインターバルフレームにIN トークンを受信せず、次フレームのSOF またμSOF パケットを受信した場合は、IN トークン破損として扱い、送信可能状態となっているバッファをクリアし、そのバッファを書き込み可能状態とします。

また、このときにダブルバッファで使用しており両方のバッファの書き込みが終了している場合は、破棄したバッファメモリを同インターバルフレームで送信されたものとみなして、SOF 又はμSOF パケット受信で破棄されていないバッファメモリを転送可能状態とします。

バッファフラッシュ機能はIITV ビット設定値により動作開始タイミングが異なります。

- IITV＝0の場合
  パイプが有効となった次のフレームからバッファフラッシュ動作します。
- IITV＝0以外の場合
  最初の正常なトランザクション以降バッファフラッシュ動作します。

本モジュールのバッファフラッシュ機能の動作例を図 31.16に示します。ただし、設定されたインターバル間隔外（インターバルフレーム前のトークン）に対しては、データセットアップ状態に従い、書き込みデータの送出又はアンダーランエラーとしてZero-Length パケットを送出します。

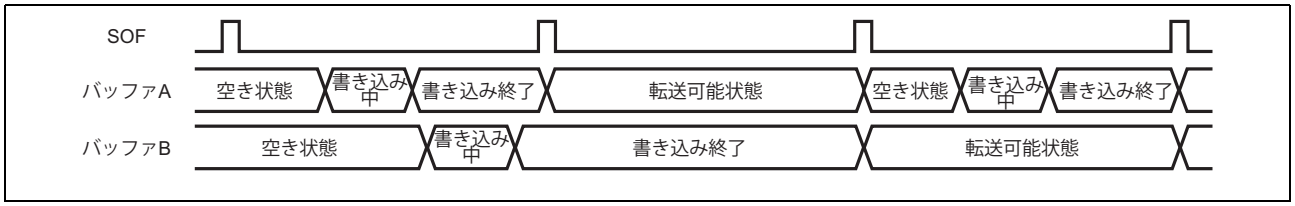


図 31.16　バッファフラッシュ機能動作例

本モジュールのインターバルエラー発生例を図 31.17 に示します。インターバルエラーは下記の 5 種類です。図中の①タイミングでインターバルエラーが発生しバッファフラッシュ機能が動作します。

インターバルエラーはIN 転送時にバッファフラッシュ機能が動作し、OUT 転送時はNRDY 割り込みが発生します。

受信パケットエラーなどの NRDY 割り込みとオーバランエラーとの区別は OVRN ビットで判定してください。

図中網掛けのトークンに対してはバッファメモリの状態に応じた応答になります。

1. IN方向
   - バッファ転送可能状態であればデータ転送し正常応答
   - バッファ転送不能状態であればZero-Lengthパケット送信しアンダーランエラー

2. OUT方向
   - バッファ受信可能状態であればデータ受信し正常応答
   - バッファ受信不能状態であればデータ破棄しオーバランエラー

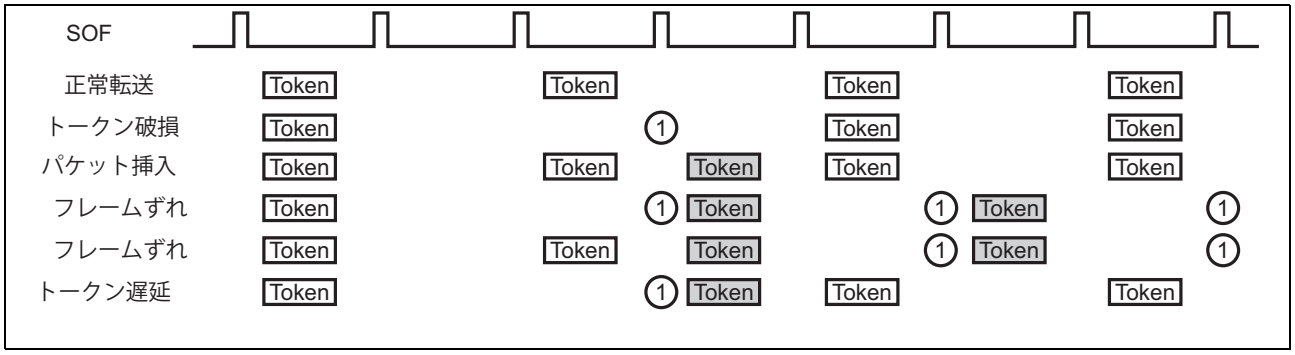


図 31.17　IITV＝1 のときのインターバルエラー発生例

31.7.9　SOF 補間機能

SOF パケットの破損又は欠落のために、1ms（フルスピード動作時）又は 125µs（ハイスピード動作時）間隔で SOF パケットを受信できなかった場合に、本モジュールは SOF を補間します。SOF 補間動作の開始は USBE ビット（SYSCFG レジスタのビット 0）が 1、SUSPM ビット（SUSPMODE レジスタのビット 14）が 1 かつ SOF パケット受信となります。また、下記の条件で補間機能が初期化されます。

- パワーオンリセット
- USB バスリセット
- サスペンド検出

また、SOF 補間は次の仕様で動作します。

- フレーム間隔（125µs 又は 1ms）はリセットハンドシェイクプロトコルの結果に従う。
- SOF パケット受信までは補間機能は動作しない。
- 最初の SOF パケット受信後は内部クロック 48MHz で 125µs 又は 1ms をカウントし補間する。
- 2 回目以降の SOF パケットを受信後は前回の受信間隔を用いて補間する。
- サスペンド時及び USB バスリセット受信中は補間しない。
  （ハイスピード時のサスペンド移行では最終パケットから 3ms の間は補間を継続します）

本モジュールは、SOF パケットの受信に基づいて下記の機能を動作させますが、SOF パケットが欠落した場合には SOF 補間を行うため、正常動作を継続させることができます。

- フレーム番号及びマイクロフレーム番号の更新
- SOFR 割り込みタイミング及び µSOF ロック
- アイソクロナス転送インターバルカウント

フルスピード動作時に SOF パケットが欠落した場合には、FRNM ビット（FRMNUM レジスタのビット 10～0）は更新されません。ハイスピード動作時に µSOF パケットが欠落した場合には、UFRNM ビット（UFRMNUM レジスタのビット 2～0）が更新されます。ただし、UFRNM＝000 の µSOF パケットが欠落した場合には、FRNM ビットは更新されません。この場合は、継続する UFRNM＝000 以外の µSOF パケットが正常に受信されても FRNM ビットは更新されません。

31.7.10 SUDMAC

(1) SUDMAC機能

SUDMAC 機能を表 31.32 に示します。

表31.32　SUDMAC機能

項目	機能
チャネル	1チャネル
転送方向	受信データ転送（ローカルバス→SHwy）／トランスミットデータ転送（SHwy→ローカルバス）
転送要求	ファンクションコントローラからのDMA 転送要求信号
最大転送バイト	1バイト～64Mバイト
アドレス空間	4G バイト（8バイトのアライメント）
転送方法	LOAD32、STORE32
アドレッシングモード	インクリメントのみ
バッファ	（64 ビット×4）×2
割り込み要求	DMA 転送終了割り込み／SHwy 応答エラー検出割り込み
ローカルバスアクセスウェイトサイクル	0～15 のウェイトサイクルを指定可能（ローカルバスの転送レートが50Mバイト／秒以下になるよう、適切なウェイトサイクルを指定してください。）
転送バッファモード	DMA 転送終了後に、送信バッファを書き込み完了か書き込み準備の状態に設定可能
受信データ転送終了モード	DMA 転送を転送単位で、もしくはベースバイトカウントに従って終了可能
DMA バッファデータ転送	DMA バッファ内の未転送のデータはSHwyへ転送可能

表 31.33 にSUDMAC 転送終了の判定を示します。

表31.33　SUDMAC 転送終了の判定

転送方向	受信データ転送終了モード	DMA 転送終了の判定
受信データ転送（ローカルバス→SHwy）	DMA 転送を転送単位で終了（RCVENDM = 0 時）	以下の (1) ～ (3)の条件のいずれかの場合にDMA 転送終了とします。 (1) ショートパケットデータを受信し、SHwyに転送したとき (2) Zero-Length packet をFIFO ポートに発生したとき (3) トランザクションカウンタ分のパケットを受信し、トランザクションカウント機能有効でSHwyに転送したとき
	DMA 転送をベースバイトカウントに従い終了（RCVENDM = 1 時）	カレントバイトカウント（CBC ビット）がベースバイトカウント（BBC ビット）と一致し、SHwyへの転送が完了したとき、DMA 転送終了とします。
送信データ転送（SHwy→ローカルバス）	—	カレントバイトカウント（CBC ビット）がベースバイトカウント（BBC ビット）と一致し、ローカルバスへの転送が完了したとき、DMA 転送終了とします。

(2)　SUDMAC 転送

(a) 受信データ転送

受信データの転送手順を図31.18 に示します。

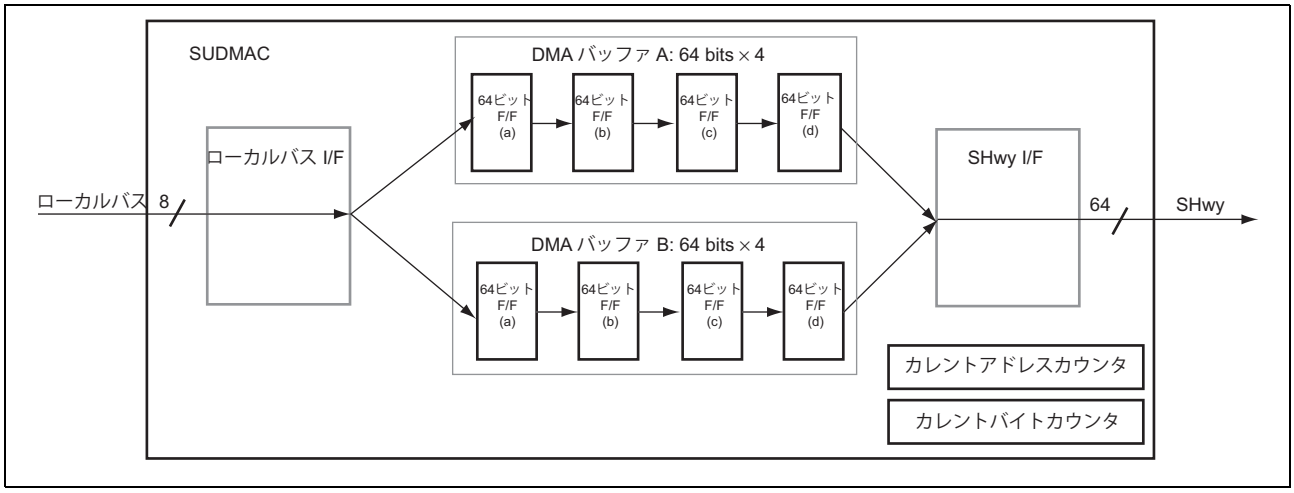


図 31.18　受信データの転送手順

- SUDMAC は、64 ビット×4×2面のバッファ（DMAバッファ AとDMAバッファ B）を持ちます。
- ローカルバス幅を８ ビットに固定してください（ファンクションコントローラの MBW ビット（D0FIFOSEL レジスタのビット11、10）に 00 を設定してください）。
- SUDMAC はファンクションコントローラから DMA 転送要求を検出すると、ローカルバスから連続32回データを読み出し、そのデータをDMA バッファ A に格納します。
- 32 バイトのデータがDMA バッファ Aに格納されたら、SHwyに対してSTORE32 を発行し、そのデータを転送します。
- DMA バッファ AがSHwyにアクセスしている間に、ローカルバスからの読み出しデータはDMA バッファ B に格納されます。これにより、データの連続転送を可能にします。
- DMAバッファ Aからのデータ転送を完了し、DMA バッファ Bに32 バイトのデータが格納されていれば、SHwyに対してSTORE32を発行し、DMA バッファ B のデータを転送します。

受信データの転送例を図 31.19 に示します。

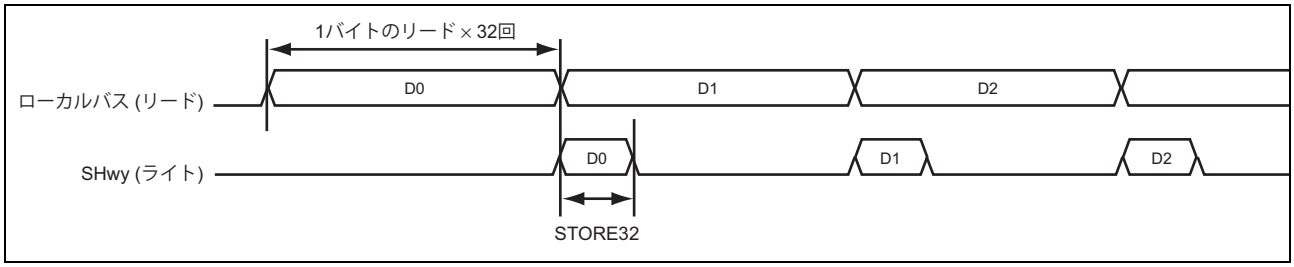


図 31.19　受信データの転送例

(b) 送信データ転送

送信データの転送手順を図31.20 に示します。

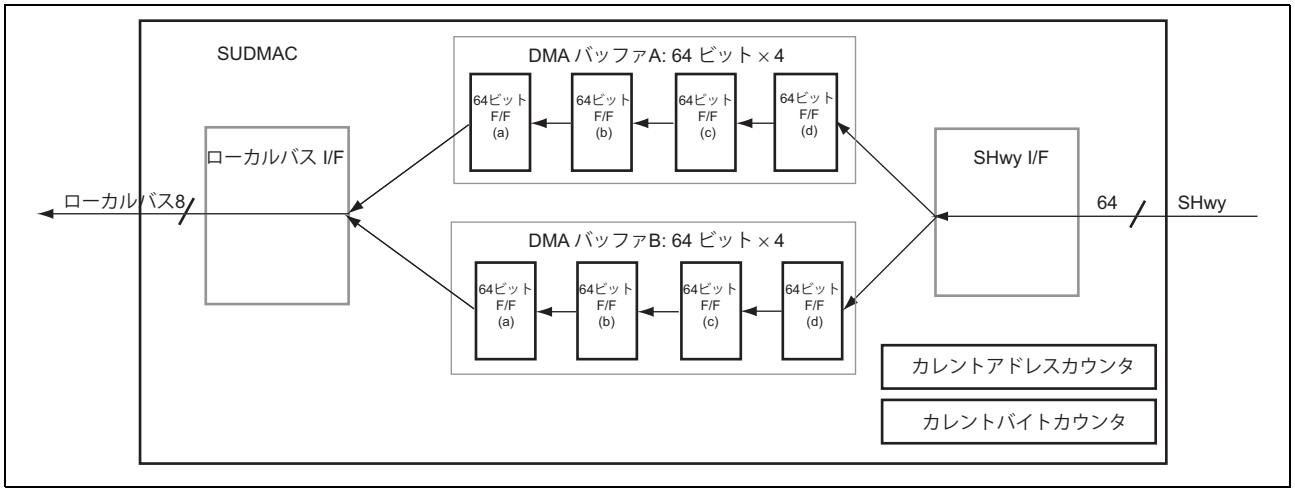


図 31.20　送信データの転送手順

- SUDMAC は、64 ビット×4×2面のバッファ（DMAバッファ AとDMAバッファ B）があります。
- ローカルバス幅を 8 ビットに固定してください(ファンクションコントローラのD0FIFOSEL レジスタのMBW ビットを 00 に設定してください)。
- ファンクションコントローラからDMA転送要求を検出すると、SHwyにLOAD32を発行し、DMA バッファ A のSHwyから読み出されたデータを格納します。
- 32 バイトのデータがDMA バッファ Aに格納されたら、ローカルバスに連続32回データを書き込みます。
- DMA バッファ Aがローカルバスにアクセスしている間に、SHwyからの読み出しデータはDMA バッファ B に格納されます。これにより、データの連続転送を可能にします。
- DMAバッファ Aからのデータ転送を完了し、32 バイトデータをDMA バッファ Bに保持する場合、ローカルバスにライトアクセスし、DMA バッファ B のデータを転送します。

送信データの転送例を図31.21 に示します。

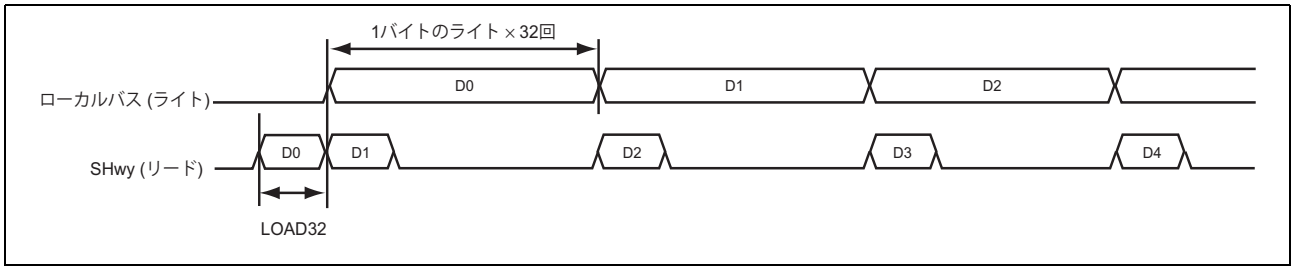


図 31.21　送信データの転送例

(3) SUDMAC転送ソフトウェアのフローチャート例

(a) 受信データを転送するソフトウェアのフローチャート例

受信データを転送するソフトウェアの手順例を図 31.22 に示します。

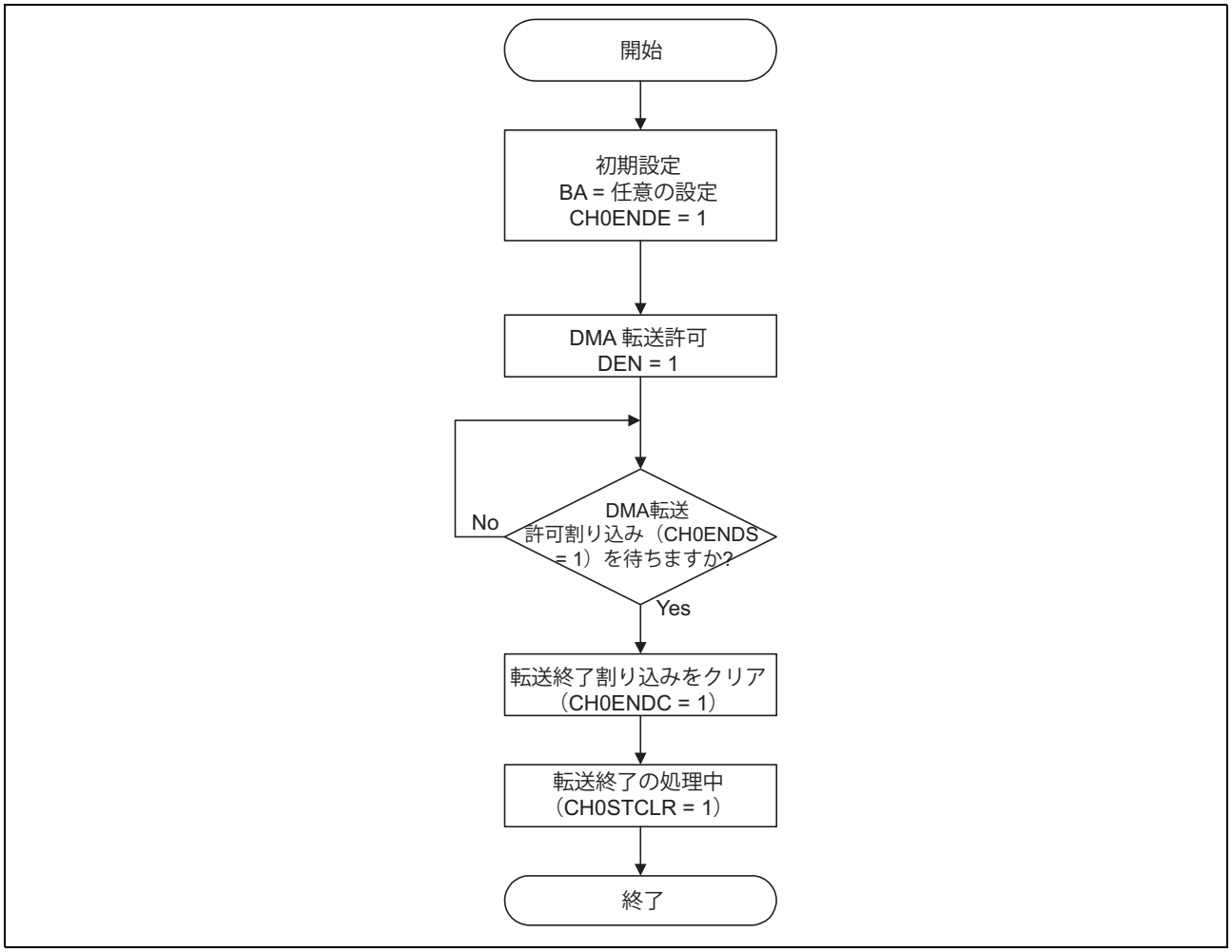


図 31.22　受信データを転送するソフトウェアフローチャート例

1. 受信データを転送の場合、DMA 転送を許可する前に以下の初期設定（a）～（d）を行う必要があります。
   (a) 受信終了モード（RCVENDM）を設定します。
   (a') 転送終了条件としてベースバイトカウントを上記（b）(RCVENDM = 1) で設定した場合、転送バイトカウントをベースバイトカウント（BBC）に設定します。
   (b) 転送先のベースアドレス（BA）を設定します。
   (c) 転送終了時に割り込みを発生させるため、転送終了割り込み許可 (CH0ENDE) に 1 を書き込んでください。
2. DMA 転送を許可します。ファンクションコントローラから DMA 転送要求を検出すると、SUDMACがDMA 転送を開始します。
3. DMA 転送終了時、 転送終了割り込みを発生します （CH0ENDS = 1）。
4. 転送終了割り込みをクリアします （CH0ENDC = 1）。
5. 転送終了処理として、DMA ステータスのクリア（CH0STCLR = 1）をします。これでカレントアドレス（CA）とカレントバイト（CBC）が初期化されます。

(b) 送信データ転送のソフトウェアフローチャート

送信データを転送するソフトウェアの手順例を図 31.23 に示します。

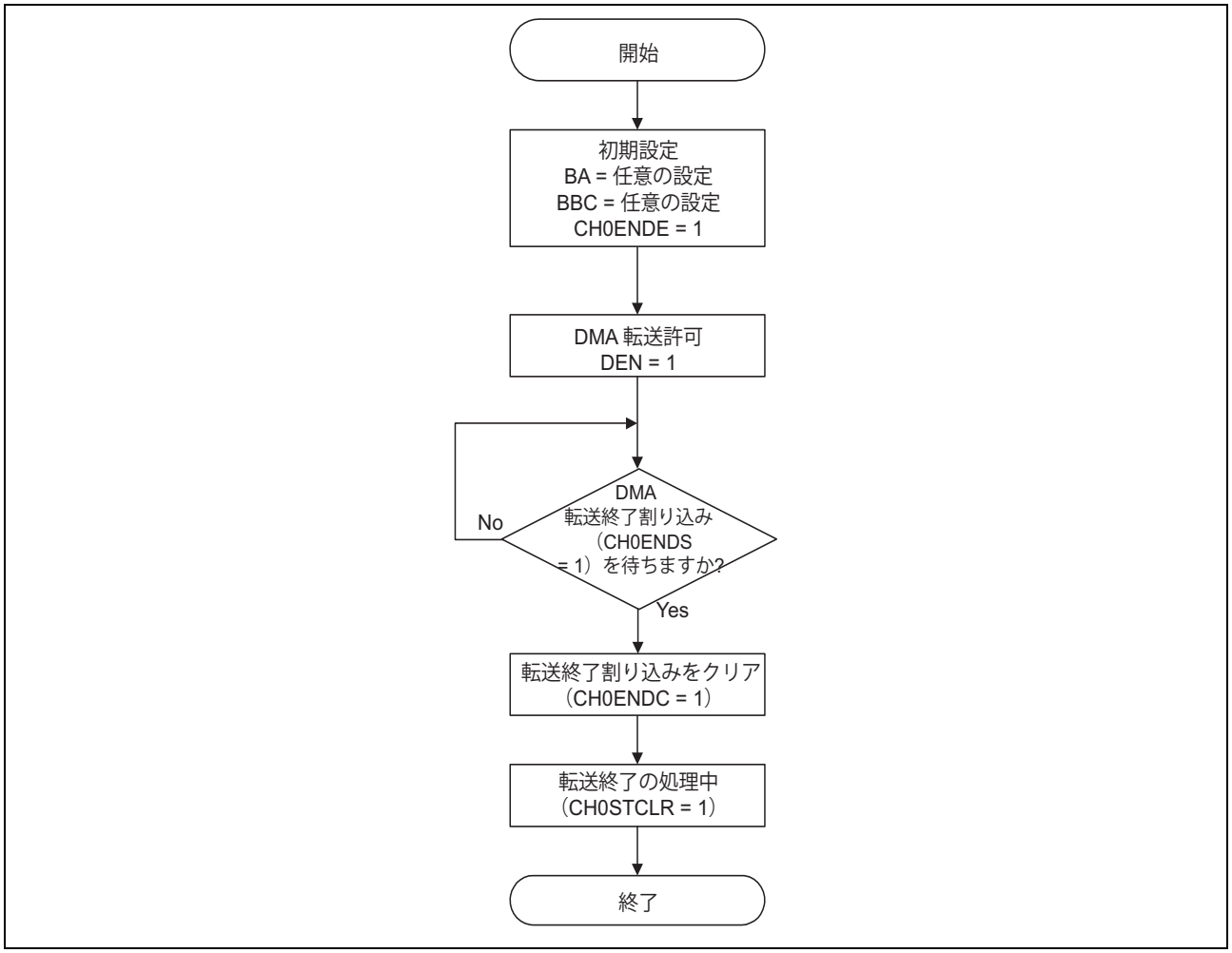


図 31.23　送信データを転送するソフトウェアフローチャート例

1. 送信データ転送の場合、DMA 転送を許可する前に、以下の初期設定（a）～（e）を行う必要があります。
   (a) 送信バッファモード（SENDBUFM）を設定します。
   (b) 転送先のベースアドレス（BA）を設定します。
   (c) ベースバイトカウント（BBC）ビットの転送バイトカウントを設定します。
   (d) 転送終了時に割り込みを発生させるため、転送終了割り込み許可ビット(CH0ENDE)に ”1” を書き込んでください。
2. DMA 転送を許可します。 ファンクションコントローラから DMA 転送要求を検出すると、SUDMAC が DMA 転送を開始します。
3. DMA 転送終了時、 転送終了割り込みを発生します （CH0ENDS = 1）。
4. 転送終了割り込みをクリアします （CH0ENDC = 1）。
5. 転送終了処理として、 DMA ステータスをクリア （CH0STCLR = 1） します。 これでカレントアドレス （CA） とカレントバイト （CBC） が初期化されます。

32. USB ホスト/ファンクションモジュール 1 （USB1）

USB ホスト/ファンクション モジュール 1 (USB1) は USB ホスト コントローラ機能と USB ファンクション コントローラを備えた USB コントローラです。USB ホスト コントローラと USB ファンクションコントローラは互いに排他的に使用できます。

USB ホスト コントローラは EHCI (Enhanced Host Controller Interface) と OHCI (Open Host Controller Interface) によって構成されています。EHCI はハイスピード転送、OHCI はフルスピード又はロースピード転送に使用されます。

本モジュールの USB ファンクション コントーラは本 LSI に実装されている USB0 ファンクション コントローラ 0 と同じです。USB ファンクション コントローラの詳細については「31. USB ファンクションモジュール 0（USB0）」を参照してください。

USB0 、USB1 と通信するメモリは DDR（DBSC 経由）に限ります。ILRAM、OLRAM、外部メモリ（LBSC 経由）は使用できません。

32.1　特長

(1)　EHCI と OHCI をサポートするホストコントローラ (HC)

- Universal Serial Bus 規格の 2.0 に準拠
- 「Enhanced Host Controller Interface Specification for Universal Serial Bus、Revision 1.0」に準拠
  - ハイスピード転送（480 Mbps）に対応
- 「Open Host Controller Interface Specification for USB、Release 1.0a」に準拠
  - フルスピード転送（12 Mbps）とロースピード転送（1.5 Mbps）に対応
  - キーボード/マウスのレガシーエミュレーションは非対応
- 電源用 IC のインタフェースを装備

(2)　USB ハイスピード対応のファンクションコントローラを内蔵

- ハイスピード転送（480Mbps）とフルスピード転送（12Mbps）に対応
- ハイスピード／フルスピード USB トランシーバ内蔵

(3)　少ない外付け素子かつ省スペース実装が可能

- VBUS 信号を本モジュールの入力端子に直接接続可能
- D+プルアップ抵抗内蔵
- D+、D-終端抵抗内蔵（ハイスピード動作時）
- D+、D-出力抵抗内蔵（フルスピード動作時）

(4)　USB 通信の全種類のデータ転送タイプに対応

- コントロール転送
- バルク転送
- インタラプト転送（High Bandwidth は非対応）
- アイソクロナス転送（High Bandwidth は非対応）

(5)　ファンクションコントローラの内部バスインタフェース

- ファンクションコントローラに専用の DMA インタフェースを 1 チャネル内蔵 (SUDMAC)

(6)　ファンクション コントローラのパイプコンフィギュレーション

- 8.5K バイトの USB 通信用バッファメモリを内蔵
- 最大 10 本のパイプを選択可能（デフォルトコントロールパイプを含む）
- プログラマブルなパイプ構成
- パイプ 1～9 は任意のエンドポイント番号を割り付け可能
- 各パイプの設定可能な転送条件は以下の通り。

  パイプ 0 :　コントロール転送専用のパイプ（デフォルトコントロールパイプ : DCP）、64 バイト固定シングルバッファ

  パイプ 1 、2 :　バルク転送又はアイソクロナス転送を選択可能なパイプ、連続転送モード、バッファサイズはプログラマブル（最大 2K バイトでダブルバッファ指定可能）

  パイプ 3 ～ 5 : バルク転送専用のパイプ、連続転送モード、バッファサイズはプログラマブル（最大 2K バイトでダブルバッファ指定可能）

パイプ6 ～ 9：インタラプト転送専用のパイプ、64バイト固定シングルバッファ

(7)　ファンクション コントローラのその他の機能

- リセットハンドシェイク自動応答による、ハイスピード動作もしくはフルスピード動作の自動認識
- コントロール転送ステージ管理機能
- デバイスステート管理機能
- SET_ADDRESSリクエストに対する自動応答機能
- NAK応答割り込み機能（NRDY）
- SOF補間機能
- トランザクションカウントによるトランスファ終了機能
- BRDY割り込みイベント通知タイミング変更機能（BFRE）
- D0FIFOポートで指定したパイプのデータ読み出し後自動バッファメモリクリア機能（DCLRM）
- トランスファ終了による応答PIDのNAK設定機能（SHTNAK）

32.2　入出力端子

USB1 の端子構成を表32.1 に示します。

表32.1　USB1 の端子構成

端子名	名称	入出力	機能
USDP1	USB D+ データ	入出力	USB 内蔵トランシーバD+ 入出力です。 USB バスのD+端子に接続してください。
USDM1	USB D- データ	入出力	USB 内蔵トランシーバD– 入出力です。 USB バスのD-端子に接続してください。
VBUS1	VBUS入力	入力	USB ケーブル接続モニタ端子です。 USB バスのVBUS に接続してください。VBUS の接続／切断を検出することができます。USB バスのVBUS と接続しない場合は、5V に固定してください。
VBUS_EN	VBUS 電源許可	出力	VBUS 電源出力信号です。 ホスト コントローラモードのみ使用可能です。 VBUS 電源コントロールICのVBUSイネーブルピンに接続してください。VBUSの電源を制御することができます。
VBUS_OC	過電流信号入力	入力	VBUS 電源コントロールICの過電流通知信号 です。 VBUS 電源コントロールICの過電流通知信号に接続してください。
REFRIN	リファレンス入力	入力	基準抵抗接続用端子です。 USB0でも使用します。 5.6 kΩ ±1% 抵抗を介してトランシーバ部グランドに接続してください（VSS: ボール番号 AE19 (推奨)、AF19、又はAD22)。
VCCQ-USB	USBアナログ3.3 V用電源	—	トランシーバ部アナログ端子電源です。
VSS	グランド	—	グランド
VDD-USB	USB デジタル1.2 V用電源	—	トランシーバ部デジタルコア電源です。

32.3　リセット

USB トランシーバはリセットで初期化され、USB ポートと USB コントローラは切断状態になります。

USB を使用する場合は、先ず USB1 ポートコントローラ選択レジスタでホストかファンクションを選択し、次に PHY ポートコントロールレジスタを設定してトランシーバとコントローラ間の接続を有効にした後、PHY リセットレジスタをリセット解除に設定します。

PHY インタフェースの初期化については、「31. USB ファンクションモジュール 0（USB0）」の 31.3 リセットの項を参照してください。

32.4　USB1 端子 マルチプレクサ

USB1 端子マルチプレクサは USB ホストコントローラ又は USB ファンクションコントローラから USB ポート 1 への接続を制御します。USB1 モジュールがリセットされると、USB ファンクションコントローラは直ちに選択、接続されます。

32.4.1　ブロック図

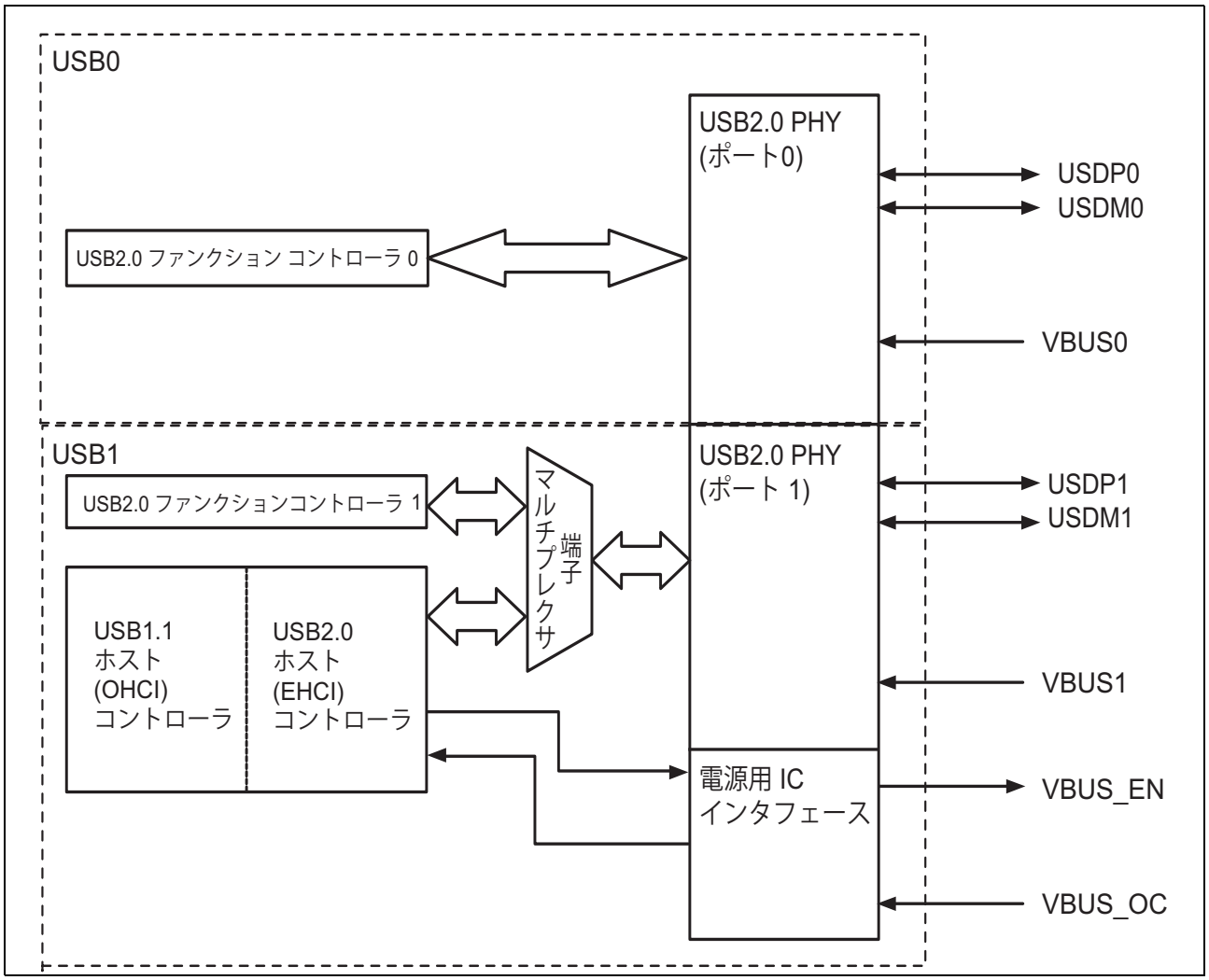


図 32.1　ブロック図

32.4.2　レジスタの説明

USBポート 1で使用されるコントローラを選択する際のレジスタ構成を表 32.2 に示します。

表32.2　レジスタ構成

レジスタ名	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
					パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウェアリセット
USB1 ポートコントローラ選択レジスタ	PORT1SEL	R/W	H'FE4F 2000	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
USB1 割り込みステータスレジスタ	USB1INTSTS	R	H'FE4F 2008	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000

32.4.3　USB1 ポートコントローラ選択レジスタ（PORT1SEL）

本レジスタはUSB1ポートで使用されるコントローラを選択します。PHYポートがPHY リセットレジスタでリセットされるときに限り修正できます。

リセットで初期化されます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	FSEL
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～1	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
0	FSEL	0	R/W	USB1 ポートで使用されるコントローラを選択します。 0: ファンクション コントローラ 1: ホスト コントローラ（EHCI/OHCI）

32.4.4　USB1 割り込みステータスレジスタ（USB1INTSTS）

本レジスタは読み取り専用で、モジュールがUSB1 割り込みを発生させたことを示します。
リセットで初期化されます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	OHCI
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	EHCI	—	—	—	FUNC DMAC	—	—	—	FUNC
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	R	—	—	—	R	—	—	—	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～17	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
16	OHCI	0	R	OHCI モジュールの割り込み発生の有無を示すビットです。 0：割り込み発生なし 1：割り込み発生あり
15 ～ 9	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
8	EHCI	0	R	EHCIモジュールの割り込み発生の有無を示すビットです。 0：割り込み発生なし 1：割り込み発生あり
7～ 5	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
4	FUNCDMAC	0	R	ファンクション モジュール用のSUDMACの割り込み発生の有無を示すビットです。 0：割り込み発生なし 1：割り込み発生あり
3～ 1	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
0	FUNC	0	R	ファンクションモジュールの割り込み発生の有無を示すビットです。 0：割り込み発生なし 1：割り込み発生あり

32.5　レジスタの説明

USB1（ホスト コントローラ）のレジスタ構成と各処理モードにおけるレジスタの状態 を表32.3に示します。USB1 ファンクション コントローラと SUDMAC のレジスタ構成については、「31. USB ファンクションモジュール0（USB0）」を参照してください。

表32.3　レジスタ構成

レジスタ名	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
					パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウェアリセット
Capability レジスタ	HCCAPBASE	R	H'FE4F 1000	32	H'0100 0010	H'0100 0010	H'0100 0010
Structural Parameters レジスタ	HCSPARAMS	R	H'FE4F 1004	32	H'0000 1212	H'0000 1212	H'0000 1212
Capability Parameters レジスタ	HCCPARAMS	R	H'FE4F 1008	32	H'0000 A016	H'0000 A016	H'0000 A016
USB command レジスタ	USBCMD	R/W	H'FE4F 1010	32	H'0008 0B00	H'0008 0B00	H'0008 0B00
USB status レジスタ	USBSTS	R/W	H'FE4F 1014	32	H'0000 1000	H'0000 1000	H'0000 1000
USB interrupt enable レジスタ	USBINTR	R/W	H'FE4F 1018	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
USB frame index レジスタ	FRINDEX	R/W	H'FE4F 101C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
Control data structure segment レジスタ	CTRLSEG	—	H'FE4F 1020	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
Periodic frame list base address レジスタ	PLSTBASE	R/W	H'FE4F 1024	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
Current asynchronous list address レジスタ	ALSTADDR	R/W	H'FE4F 1028	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
Configured flag レジスタ	CFGFLAG	R/W	H'FE4F 1050	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
Port status and control レジスタ	PORTSC	R/W	H'FE4F 1054	32	H'0000 2000	H'0000 2000	H'0000 2000
EHCI IP内蔵バッファ制御レジスタ1	EIIBC1	R/W	H'FE4F 1094	32	H'0040 0040	H'0040 0040	H'0040 0040
EHCI IP 内蔵バッファ制御レジスタ 2	EIIBC2	R/W	H'FE4F 109C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
HcRevision レジスタ	HCREV	R/W	H'FE4F 1800	32	H'0000 0010	H'0000 0010	H'0000 0010
HcControl レジスタ	HCCTRL	R/W	H'FE4F 1804	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
HcCommandStatus レジスタ	HCCMDSTS	R/W	H'FE4F 1808	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
HcInterruptStatus レジスタ	HCINTSTS	R/W	H'FE4F 180C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
HcInterruptEnable レジスタ	HCINTENB	R/W	H'FE4F 1810	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
HcInterruptDisable レジスタ	HCINTDIS	R/W	H'FE4F 1814	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
HcHCCA レジスタ	HCHCCA	R/W	H'FE4F 1818	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
HcPeriodCurrentED レジスタ	HCPCED	R	H'FE4F 181C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
HcControlHeadED レジスタ	HCCHED	R/W	H'FE4F 1820	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
HcControlCurrentED レジスタ	HCCCED	R/W	H'FE4F 1824	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
HcBulkHeadED レジスタ	HCBHED	R/W	H'FE4F 1828	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
HcBulkCurrentED レジスタ	HCBCED	R/W	H'FE4F 182C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
HcDoneHead レジスタ	HCDH	R	H'FE4F 1830	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
HcFmInterval レジスタ	HCFI	R/W	H'FE4F 1834	32	H'0000 2EDF	H'0000 2EDF	H'0000 2EDF

レジスタ名	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
					パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウェアリセット
HcFmRemaining レジスタ	HCFR	R/W	H'FE4F 1838	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
HcFmNumber レジスタ	HCFN	R/W	H'FE4F 183C	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
HcPeriodicStart レジスタ	HCPS	R/W	H'FE4F 1840	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
HcLSThreshold レジスタ	HCLST	R/W	H'FE4F 1844	32	H'0000 0628	H'0000 0628	H'0000 0628
HcRhDescriptorA レジスタ	HCRDA	R/W	H'FE4F 1848	32	H'FF00 0902	H'FF00 0902	H'FF00 0902
HcRhDescriptorB レジスタ	HCRDB	R/W	H'FE4F 184C	32	H'0006 0000	H'0006 0000	H'0006 0000
HcRhStatus レジスタ	HCRSTS	R/W	H'FE4F 1850	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
HcRhPortStatus レジスタ	HCRPSTS	R/W	H'FE4F 1854	32	H'0000 0X00	H'0000 0X00	H'0000 0X00
パワーイネーブルコントロールレジスタ	OCPOWEN	R/W	H'FE5F 0002	16	H'1001	H'1001	H'1001
過電流コントロール レジスタ	OCMSK	R/W	H'FE4F 2004	32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
EHCI データアライメントコントロール レジスタ	EHCIDATAC	R/W	H'FE4F E018	32	H'0001 0000	H'0001 0000	H'0001 0000
OHCI データアライメントコントロールレジスタ	OHCIDATAC	R/W	H'FE4F E118	32	H'0001 0000	H'0001 0000	H'0001 0000

注.　上記に記載されていないアドレスへの書き込みはしないでください。書き込みが行われた場合は、正しい動作は保証できません。不定値は常に上記記載以外のアドレスから読み出されます。

32.5.1　USB ファンクション コントローラレジスタ

USB1、USB0に内蔵されているUSB ファンクションコントローラとその SUDMACはレジスタ空間を除き同じです。USB ファンクション コントローラレジスタの仕様については「31. USBファンクションモジュール0（USB0）」を参照してください。

32.5.2　EHCI コントローラレジスタ

USB1に実装されている ホスト コントローラの1つ EHCI コントローラは共通インタフェースを備え、ハイスピード転送に対応する標準コントローラです。EHCI コントローラは EHCI Specification for Universal Serial Bus、Revision 1.0 に準拠しています。EHCI の詳細については関連する仕様書を参照してください。

(1)　Capability レジスタ （HCCAPBASE）

本レジスタは EHCI オペレーショナルレジスタ空間の先頭と HCのバージョンを示します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	HCIVERSION															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	CAPLENGTH							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～16	HCIVERSION	H'0100	R	ホスト コントローラインタフェースバージョン 本HCで対応しているEHCI改訂番号 のBCD暗号化を含む２バイトのレジスタです。最上位バイトには大幅な修正(H'01) が最下位バイトには若干の修正が行われます(H'00)。
15～8	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
7～ 0	CAPLENGTH	H'10	R	Capability レジスタ長 本レジスタはUSBCMD レジスタを探すためにレジスタベースにオフセットとして追加されるときに使用されます。

(2)　Structural Parameters レジスタ（HCSPARAMS）

本レジスタはHCの構造パラメータを示します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	DPN				—	—	—	PI
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R	R	R	R	—	—	—	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	N_CC				N_PCC				PRR	—	—	PPC	N_PORTS			
初期値：	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	—	—	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～ 24	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
23 ～ 20	DPN	0000	R	Debug Port Number 本モジュールはデバッグポート非対応です。
19～ 17	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
16	PI	0	R	Port Indicators (P_INDICATOR) 本モジュールはポートインディケータコントロール非対応です。
15～ 12	N_CC	0001	R	Number of Companion Controller (N_CC) 本モジュールはcompanion USB 1.1 host controller (OHCI) を1つ搭載しています。ホスト コントローラ ルートポートはハイスピードのデバイスに加えてフルスピードとロースピードのデバイスをサポートしています。
11～ 8	N_PCC	0010	R	Number of Ports per Companion Controller (N_PCC) 1つのコンパニオンHCが持つポートの数を示します。ソフトウェア用のポートルーティングを構成するときに用いられます。本モジュールに関しては、N_PORT = 2、N_CC = 1、N_PCC=2のように1つのコンパニオンコントローラが2つのダウンストリームポートをサポートしています。しかし、実際に使用できるのは1ダウンストリームポートです （PHYに接続）。したがって、コンパニオンコントローラで制御されるポートの数は1つです。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	PRR	0	R	Port Routing Rules それぞれのポートをどのコンパニオンHC に割り当てるかを定めるルーティングルールを指定します。 0：N_PCC 個数分つづ、cHC の若い番号順に割り当てます。 N_PORT=8、N_CC=2、N_PCC=4 だとすると、No1～No4 のポートは最初のコンパニオンHCに、No5～No8 のポートは2 番目のコンパニオンHC。 1：HCSP-PORTROUTE に割り当てルールを定義し、それに従って割り当てます。 本ビットは1つのコンパニオンコントローラがすべてのポートを制御することを示します。
6、5	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
4	PPC	1	R	Port Power Control (PPC) ポート電源のON、OFF を切り替え可能かを示します。 0：ポート電源は切り替え不可。 1：ポート電源は切り替え可能。 本ビットの値は各ポートステータスとコンロールレジスタの機能に影響を与えます。（「32.5.2 (12) Port status and control レジスタ（PORTSC）」参照）
3 ～ 0	N_PORTS	0010	R	N_PORTS HCが持つ物理的ダウンストリームポートの数を示します。この値によってオペレーショナルレジスタ空間のポートレジスタの個数も決まります。本ビットでは本モジュールに関して2つのダウンストリームがあることが示されていますが、実際に使用できるのは1つです（PHYに接続）。

(3)　Capability Parameters レジスタ（HCCPARAMS）

本レジスタは HC の能力に関するパラメータ群を示します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	EECP								IST				—	ASPC	PFLF	AC
初期値：	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	—	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
15 ～ 8	EECP	H'A0	R	EHCI Extended Capabilities Pointer (EECP) ケイパビリティ 一覧を示します。 H'00：エクステンデッド ケイパビリティは実行されていません。 H'00以外：最初の EHCI エクステンデッド ケイパビリティの PCIコンフィグレーションスペースがオフセットされます。 本モジュールにPCI インタフェースがないため、本ビットは意味がありません。
7～4	IST	0001	R	Isochronous Scheduling Threshold ホスト コントローラを実行する現在の位置に関連して、アイソクロナススケジュールを確実に更新できることを示します。 ビット7＝0： 下位３ビット：マイクロフレームは新しい状態になる前にアイソクロナス データ構造体（1つ以上）を保持できます。 ビット7=1：1フレーム 分丸ごとキャッシングするのでホストソフトウェアは アイソクロナスデータ構造体をキャッシングできます。
3	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
2	ASPC	1	R	Asynchronous Schedule Park Capability アシンクロナススケジュール 内のハイスピード用キューヘッド(QH)に対するパーク機能を有効にするかを指定します。 0：パーク 機能はサポートしません。 1：パーク 機能 をサポートします。 この場合、Asynchronous Schedule Park ModeEnable ビット、Asynchronous Schedule Park Mode Count ビット（USBCMD レジスタのビット11、9～8）によりパーク機能を使うことができます。
1	PFLF	1	R	Programmable Frame List Flag フレームリスト のサイズが可変かどうかを指定します。 0：フレームリストの要素数は1024 で固定。 この場合、USBCMD レジスタのFrame List Size は読み出し専用であり、0 となります。 1：フレームリストの要素数を変更できます（512、256 に変更することができます）。 Frame List Sizeビット（USBCMD レジスタのビット3,2）により変更できます。フレームリストは常に 4K ページ境界で調整されます。この条件でフレームリストが常に物理的に連続していることを保証しています。
0	AC	0	R	64-bit Addressing Capability 32ビットアドレッシングと64ビットアドレッシングのいずれを使用するかを決定します。 0：32ビットアドレッシング 1：64ビットアドレッシング 本モジュールは32ビットアドレッシングのみをサポートしています。

(4) USB command レジスタ（USBCMD）

本レジスタはシリアルバスホスト コントローラで実行されるコマンドを示します。レジスタに書き込むことで実行予定のコマンドが生じます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	ITC							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	ASPME	—	ASPMC		LHCR	IAAD	ASE	PSE	FLS		HCRESET	RS
初期値：	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	R/W	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 24	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
23～ 16	ITC	H'08	R/W	Interrupt Threshold Control ホスト コントローラがハードウェア割り込みを発生させる頻度（割り込みの最大間隔）を示します。有効値のみが以下に記載されています。本レジスタに無効値を書き込んだ場合には、不定となります。 H'00：設定禁止 H'01：1マイクロフレーム H'02：2マイクロフレーム H'04：4マイクロフレーム H'08：8マイクロフレーム（初期値、1ms） H'10：16マイクロフレーム(2 ms) H'20：32マイクロフレーム (4 ms) H'40：64マイクロフレーム (8 ms) HCHalted ビット（USBSTS レジスタのビット12）が“0” のときに修正すると不定な値となります。
15 ～ 12	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
11	ASPME	1	R/W	Asynchronous Schedule Park Mode Enable アシンクロナススケジュールのパークモードを有効にします。 0：パークモードは無効 1：パークモードは有効
10	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
9、8	ASPMC	H'3	R/W	Asynchronous Schedule Park Mode Count 連続したトランザクションの数を示します。これは横断的なアシンクロナススケジュールを継続する前にホスト コントローラがハイスピードキューの先頭より実行することが許可されているものです。有効値は H'1 ～ H'3 です。Asynchronous Schedule Park Mode Enable が”1”のとき本ビットに”0”を書き込まないでください。不定な値となります。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	LHCR	0	R/W	Light Host Controller Reset 本ビットに”1”をセットすると、ドライバはポートの状態やコンパニオンHCに影響を与えることなくEHCI コントローラをリセットできます。 0：Light Host Controller Reset は完了。 HC を再初期化してください。 1：Light Host Controller Reset 実行中。
6	IAAD	0	R/W	Interrupt on Async Advance Doorbell HCに対して、アシンクロナススケジュールの処理を進めたときに割り込みを発生させるように依頼するためのものです。 本ビットに”1”が書き込まれる必要があります。HCがすべてのキャッシュされたスケジュールの状態を取り込んだ場合、Interrupt on Async Advance ビット（USBSTS レジスタのビット5）がセットされます。 0：USBINTR レジスタのInterrupt on Async Advance Enable が”1”にセットされた後にセットします。 1：HCは次の割り込みスレショールドで割り込みを発生させます。 アシンクロナススケジュールが無効のときに本ビットに”1”を書き込まないでください。不定な値となります。
5	ASE	0	R/W	Asynchronous Schedule Enable HC がアシンクロナススケジュールを実行するか、もしくは実行しないでスキップするかを指定します。 0：アシンクロナススケジュール を処理しません。 1：ALSTADDR レジスタを使って、アシンクロナススケジュール を処理します。
4	PSE	0	R/W	Periodic Schedule Enable HC がピリオデックスケジュールを実行するか、もしくは実行しないでスキップするかを指定します。 0：ピリオデックスケジュール を処理しません。 1：PLSTBASE レジスタを使って、ピリオデックスケジュールを処理します。
3、2	FLS	00	R/W	Frame List Size フレームリストのサイズを規定します。 このビットで規定したフレームリスト のサイズによって、FRINDEX レジスタのどのビットをFrame List Current Index のために使うかが決まります。 00：1024 要素 （4096 バイト）（初期値） 01：512 要素 （2048 バイト） 10：256 要素 （1024 バイト） –リソースが制約されている環境用 11：リザーブ

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
1	HCRESET	0	R/W	Host Controller Reset (HCRESET) HC をリセットします。このビットによりHC がリセットされた場合、ルートハブ のレジスタについては、チップのハードウェアリセットと同様になります。 このビットに”1”をセットした場合、HC内のパイプライン、タイマ、カウンタ、ステート・マシン などがリセットされ、初期値がセットされます。また、その時点で行われているすべての転送が直ちに終了します。 ダウンストリームポートにはこのリセットはドライブされません。 ポートレジスタ、ポートステート・マシンを含めたすべてのオペレーショナルレジスタは初期値に戻されます。ポート のオーナシップはコンパニオン HCに戻されます。そのため、リセット後HC を再度動作状態に戻すために、HC を再初期化する必要があります。 HCがリセット処理が完了したときにビットをクリアします。リセット処理中に本ビットをクリアしてリセット処理を中断させることはできません。また、HCHalted ビット（USBSTS レジスタのビット12）が”0” のときは、このHCRESET をセットすることはできません。HCが不定となります。
0	RS	0	R/W	Run/Stop 0：”0” がセットされた場合、HCは現在実行中のすべての通信を完了させて、動作を停止します。 HCHalted ビット（USBSTS レジスタのビット12）で、HCが実行中の転送を完了させて、停止状態に遷移したかを確認できます。 1：”1” である間、HCはスケジュールを実行しつづけます。 HC がHalt 状態のとき（USBSTS レジスタのHCHalted ビットが”1”のとき）には、このRun/Stop を”1”にセットしないでください。不定な値となります。

(5) USB status レジスタ（USBSTS）

本レジスタは割り込みなどホスト コントローラの各種のステータス情報を示します。シリアルバスからの通信により生じた結果は示されていません。”1”を書き込むことで本ビットをクリアします。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	ASS	PSS	REC	HC HALT	—	—	—	—	—	—	IAA	HSE	FLR	PCD	USBER RINT	USB INT
初期値：	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～16	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
15	ASS	0	R	Asynchronous Schedule Status アシンクロナススケジュールの現在の状態を示します。 0：アシンクロナススケジュール が無効 1：アシンクロナススケジュール が有効 本ビットとUSBCMD レジスタのAsynchronous Schedule Enable ビットが一致していれば、アシンクロナススケジュールが有効か無効 か確認可能です。
14	PSS	0	R	Periodic Schedule Status ピリオデックスケジュールの現在の状態を示します。 0：ピリオデックスケジュール が無効 1：ピリオデックスケジュールが有効 このビットとPeriodic Schedule Enable ビット（USBCMD レジスタのビット4）が一致していれば、ピリオデックスケジュールが有効 か無効 か確認可能です。
13	REC	0	R	Reclamation 読み出し専用のステータスビットで、アシンクロナススケジュールが空の状態を検出した場合にセットされます。
12	HCHALT	1	R	HCHalted 0：USBCMD レジスタのRun/Stop ビットが1 である場合。 1：USBCMD レジスタのRun/Stop ビットがクリアされて、HC が停止した場合。 USBCMD レジスタのRun/Stop ビットのクリアは、ソフトウェア、ハードウェアからも行われます（内部エラーなどの場合）。
11～6	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
5	IAA	0	R/W	Interrupt on Async Advance HCがアシンクロナススケジュールを進めたときに、Interrupt On Async Advance Doorbell ビット（USBCMD レジスタ のビット6）に”1”を書き込むことで割り込み発生を強制することができます。 本ステータスビットは、割り込み要因を示します。 ”1”を書き込んで本ビットをクリアします。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
4	HSE	0	R/W	Host System Error 内部バスアクセスの最中に重大なエラーが起こった場合に、HCが本ビットを”1”にセットします。 このエラーが起こった場合、HC はRun/Stop ビット（USBCMDレジスタのビット0）を”0 ”にして、スケジュールされているトランスファディスクリプタ(TD)が実行されないようにします。 ”1”を書き込んで本ビットをクリアします。
3	FLR	0	R/W	Frame List Rollover FRINDEXレジスタが最大値から0 へロール オーバした場合に、HCが本ビットを”1”にセットします。 ロール オーバの実際の値はFrame List Size によって異なります。例えば、(USBCMD レジスタのFrame List Sizeでプログラミングされているように）Frame List Sizeが1024 にセットされていれば、FRINDEX[13]がトグルするたびに ロール オーバします。同様に、512 なら、FRINDEX[12]がトグルするたびに ロール オーバします。 ”1”を書き込んで本ビットをクリアします。
2	PCD	0	R/W	Port Change Detect このビットは、以下の場合にHC がセットします。 • Port Owner ビットが”0” であるポートで、Port Owner ビットが”1” になった場合。 • サスペンド中のポートで、J-K の遷移を検出し、Force Resume Transition ビットが”0 ”から”1”に変化した場合。 • Connect Status Changeが”1”で、Port Owner ビットに”1” を書き込み、ポートのオーナシップを放棄した場合。 ”1”を書き込んで本ビットをクリアします。
1	USBERRINT	0	R/W	USB Error Interrupt (USBERRINT) USB 転送がエラーになった場合に（つまり、エラーカウンタがアンダフローした場合）、HC が本ビットを”1”にセットします。 IOCが”1”となったTDがエラーになった場合は、本ビットとUSBSTSレジスタのUSBINT ビットの両方がセットされます。 ”1”を書き込んで本ビットをクリアします。
0	USBINT	0	R/W	USB Interrupt (USBINT) HCがUSB 転送が完了した際に本ビットを”1”にセットし、その結果IOCが”1”となってTD がリタイアします。 ショートパケットが検出された場合（受信したデータサイズが、期待していたサイズより少なかった場合）にもHCは本ビットを”1”にセットします。 ”1”を書き込んで本ビットをクリアします。

(6)　USB interrupt enable レジスタ（USBINTR）

本レジスタは対応するソフトウェアの割り込み通知を有効又は無効にします。ビットがセットされ、対応する割り込みがアクティブの場合は、ホストへの割り込みが発生します。イベントのポーリングを許可するために本レジスタで無効となった割り込み要因はまだUSBSTS レジスタにで発生します。

各種割り込み許可ビットには割り込みしきい値メカニズムに従っているかが記載されています。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	AAE	HSEE	FLRE	PCIE	UEIE	UIE
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 6	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
5	AAE	0	R/W	Interrupt on Async Advance Enable 0：無効 1：有効 本ビットが”1”で、かつInterrupt on Async Advance ビット（USBSTS レジスタのビット5）が”1”にセットされていれば、HC はハードウェア割り込みを発生させます。ソフトウェアで Interrupt on Async Advance ビットをクリアするとハードウェアの割り込みが通知されます。
4	HSEE	0	R/W	Host System Error Enable 0：無効 1：有効 本ビットが”1”で、かつHost System Error ビット（USBSTS レジスタのビット4）が”1”にセットされていれば、HC はハードウェア割り込みを発生させます。ソフトウェアで Host System Error ビットをクリアするとハードウェアの割り込みが通知されます。
3	FLRE	0	R/W	Frame List Rollover Enable 0：無効 1：有効 本ビットが”1”で、かつFrame List Rollover ビット（USBSTS レジスタのビット3）が”1”にセットされていれば、HC はハードウェア割り込みを発生させます。ソフトウェアでFrame List Rollover ビットをクリアするとハードウェアの割り込みが通知されます。
2	PCIE	0	R/W	Port Change Interrupt Enable 0：無効 1：有効 本ビットが”1”で、かつPort Change Detect ビット（USBSTS レジスタのビット2）が”1”にセットされていれば、HC はハードウェア割り込みを発生させます。ソフトウェアで Port Change Detect ビットをクリアするとハードウェアの割り込みが通知されます。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
1	UEIE	0	R/W	USB Error Interrupt Enable 0：無効 1：有効 本ビットが”1”で、かつUSBERRINT ビット（USBSTS レジスタのビット1）が”1”にセットされていれば、HCはハードウェア割り込みを発生させます。ソフトウェアで USBSTS レジスタのUSBERRINTビットをクリアするとハードウェアの割り込みが通知されます。
0	UIE	0	R/W	USB Interrupt Enable 0：無効 1：有効 本ビットが”1”で、かつUSBINT ビット（USBSTS レジスタのビット0）が”1”にセットされていれば、HCはハードウェア割り込みを発生させます。ソフトウェアで USBSTS レジスタのUSBINTビットをクリアするとハードウェアの割り込みが通知されます。

(7)　USB frame index レジスタ （FRINDEX）

HC がピリオデックフレームリストを参照するときに本レジスタを使用します。このレジスタは 125µs ごとアップデートされます（各マイクロフレームに 1 回）。ピリオデックスケジュールを実行している間にピリオデックフレームリストへの特別なエントリを選別する際に [N:3] ビットを使用します。インデックスで使用されているビット数はフレームリストのサイズによって異なり、Frame List Size ビット（USBCMD レジスタのビット3,2）からセットします。

このレジスタはロングワードで書き込みをする必要があります。バイトで書き込むと不定な値となります。HCHalted ビット（USBSTS レジスタのビット 12）で記載したように、HC が Halted state になるまで本レジスタには書き込めません。Run/Stop ビット（USBCMD レジスタのビット 0）が ”1” にセットされているときに本レジスタに書き込むと不定な値となります。また、SOF 値にも影響を及ぼします。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	FI													
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 14	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
13 ～ 0	FI	H'0000	R/W	Frame Index 各フレームの最後に、この値がインクリメントされます（例：マイクロフレーム）。フレームリストのカレンドインデックス のために[N:3]ビットを使います。つまり、フレームリストのそれぞれの場所へのアクセスは、8 マイクロフレーム（1 フレーム）ごとに行われます。以下はFrame List Size ビット（USBCMD レジスタのビット3,2）のN ベースの値を示します。

Frame List Size（USBCMD）	要素数	N
00	1024	12
01	512	11
10	256	10
11	リザーブ	—

本レジスタからSOF トークン用のSOF フレーム番号を発生あるいは管理します。FRINDEX の値はSOF トークン値より 125 µs （1 マイクロフレーム）進んでいる必要があります。SOF 値は11 ビットシャドーレジスタとして実行される可能性があります。したがって、このシャドーレジスタは11 ビットで名称はSOFV です。SOFV は8 マイクロフレームごとに更新します (1 ミリ秒)。例えば、FRINDEX[2:0] が0 から”1”にインクリメントするたびにSOFV インクリメントします。

ソフトウェアによる場合は現在のマイクロフレーム番号を発生されるために FRINDEX の値を使用する必要があります。これは、ハイスピードのアイソクロノススケジューリングとクライアントドライバが求める「get micro-frame number」を提供するためです。したがって、チップがリセットしたり FRINDEX に書き込む場合にはFRINDEX と SOFV の値は一致している必要があります。FRINDEX に書き込む場合はFRINDEX[13:3] ～ SOFV[10:0] まで書き込む必要があります。更新を可能な限り簡素化するために、下位3 ビットが111 あるいは000 のときは書き込めません。

(8) Control data structure segment レジスタ (CTRLSEG)

本レジスタはすべての EHCI データ構造体の上位 32 ビット [63:32] を示します。64 ビット Addressing Capability ビット（HCCPARAMS レジスタのビット0）が0 のとき、本レジスタは使用されません。ソフトウェアによる場合は本レジスタに書き込めず、読み出した場合は”0”に戻ります。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～0	—	H'0000 0000	—	本モジュールは 32 ビットアドレッシングのみをサポートしているため、本レジスタはリザーブビットとなります。

(9) Periodic frame list base address レジスタ（PLSTBASE）

システムメモリ内のピリオデックフレームリストの先頭アドレスを含む 32 ビットのレジスタです。ソフトウェアを使用するときは、HC がピリオデックスケジュールを実行する前にこのレジスタをロードします。物理メモリポインタで参照されるメモリ構造体は 4K バイトで調整されることになっています。このレジスタと FRINDEX レジスタによって、HC がピリオデックフレームリストを順序どおりに処理できることになります。アクセスはロングワードで実行してください、バイトで書き込むと不定な値となります。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	BASE															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	BASE				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 12	BASE	H'0 0000	R/W	Base Address それぞれ[31:12] のメモリアドレス信号に対応します。
11 ～ 0	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください） ランタイムのときはビット値は不定となります。

(10) Current asynchronous list address レジスタ（ALSTADDR）

次に実行されるアシンクロナス QH のアドレスを含む 32 ビットのレジスタです。本レジスタの [4:0] ビットはソフトウェアで修正できず、読み出されると必ず ”0” に戻ります。この物理メモリポインタで参照されるメモリ構造体は32バイト（キャッシュライン）で調整されることになっています。アクセスはロングワードで実行してください、バイトで書き込むと不定な値となります。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	LPL															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	LPL											—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～5	LPL	H'000 0000	R/W	Link Pointer Low それぞれ [31:5]のメモリアドレス信号に対応します。 QHの参照に限ります。
4～ 0	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

(11) Configured flag レジスタ（CFGFLAG）

ポートのオーナシップを示す 32 ビットのレジスタです。アクセスはロングワードで実行してください、バイトで書き込むと不定な値となります。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	CF
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～1	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
0	CF	0	R/W	Configure Flag HC構成処理の最後の動作として本ビットをセットします。本ビットはデフォルトのポートルーティングルールを規定します。 0 : それぞれのポートは、それぞれ対応のHCににルーティングされます。 1 : 全ポートは、HCにルーティングされます。

(12) Port status and control レジスタ（PORTSC）

HCで実際に実装されたポートレジスタの数はHCSPARAMレジスタで確認できます。入力パラメータに必要なポートの数を決める際にこの情報を使用します。SH7752では1ポートしか使用できませんので、PORTSC1レジスタのみが有効となります。すべてのポートは以下の構造を有しています。

ポートの初期状態：
- デバイスは接続されていない
- ポートは無効

ポート電源制御を有するとき、ポート電源を”1”にセットして電源をポートに適用するまでポートの状態を変更することはできません。電源がポート上で安定するまで、ポートの状態の変更を試みることはできません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	WKOC_E	WKDSCNT_E	WKCNNT_E	PTC			
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PIC		PO	PP	LSTATE		—	PR	SUSP	FPR	OCC	OCA	PEC	PE	CSC	CCS
初期値：	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R/W	R/W	R/W	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～23	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
22	WKOC_E	0	R/W	Wake on Over-Current Enable 0：ポート電源が”0”のとき 1：ウエイクアップイベントとして、ポートの過電流検出を有効にします。
21	WKDSCNNT_E	0	R/W	Wake on Disconnect Enable 0：ポート電源が”0”のとき 1：ウエイクアップイベントとして、デバイスの切断検出を有効にします。
20	WKCNNT_E	0	R/W	Wake on Connect Enable 0：ポート電源が”0”のとき 1：ウエイクアップイベントとして、デバイスの接続検出を有効にします。
19～ 16	PTC	0000	R/W	Port Test Control ポートのテストモードを制御します。テストモードのエンコードは以下のとおり（0110 ～ 1111は設定禁止）： 0000: テストモード無効 0001: Test J_STATE 0010: Test K_STATE 0011: Test SE0_NAK 0100: Test Packet 0101: Test FORCE_ENABLE
15、14	PIC	00	R/W	Port Indicator Control 本モジュールはポートインディケータコントロールをサポートしません。ビットに書き込んでも無効です。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
13	PO	1	R/W	Port Owner Configure Flag ビット（CFGFLAG レジスタのビット0）が0→1になった場合は、このビットは無条件で”0” になります。逆にConfigure Flag ビットが”0” になった場合、このビットは無条件で”1 ”になります。 接続されたデバイスがハイスピード デバイスでなかった場合、本ビットをセットし、オーナシップを解放します。 本ビットが”1”の場合、接続されたデバイスはハイスピードではありません。コンパニオンHCがこのポートのオーナーシップであり、ポートを制御しています。
12	PP	0	R/W	Port Power HCはポート電源制御スイッチを持っています。本ビットはスイッチの現在の状況を示します（0 = off、1 = on）。本ビットが ”0” つまりポート電源がOFF の場合はポートが機能しないので、接続・切断の検知なども行われません。過電流 が検出された場合で、PPC=1 である場合は、そのポートのPP ビットはHC によって”1”から”0”にクリアされ、ポート電源がOFFにされます。
11、10	LSTATE	00	R	Line State 現在のD+/D-の論理レベルを示します。D+が11ビット目、D-が10ビット目に示されます。このビットはポートリセット／ポートイネーブル処理に先立って、ロースピード デバイスの接続を検知するために使われます。このビットの値は、ポートイネーブルが0 かつ本レジスタのCurrent Connect Statusが”1”である場合のみ有効です。 ビットのエンコードを以下に示します。 [11:10]ビット　USBの状態　説明 00　SE0　ロースピードデバイスではありません。EHCI リセットを行ってください。 10　J-state　ロースピードデバイスではありません。EHCI リセットを行ってください。 01　K-state　ロースピードデバイスです。ポートのオーナーシップを解放してください。 11　不定　ロースピードデバイスではありません。EHCI リセットを行ってください。 本レジスタのPort Powerが”0”のとき、このビットの値は不定となります。
9	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

<table>
<tr><th>ビット</th><th>ビット名</th><th>初期値</th><th>R/W</th><th>説 明</th></tr>
<tr><td>8</td><td>PR</td><td>0</td><td>R/W</td><td>Port Reset
0：ポートはリセット 中ではありません。
1：ポートはリセット中です。
本ビットに書き込み”0”から”1”にすると、USB2.0 仕様書で規定されたバスリセット処理が開始します。バスリセット処理を完了するために、本ビットに0 ライトする必要があります。USB2.0 仕様書で規定されたリセット期間が完了するまで、このビットを”1”に保ちつづける必要があります。
注1. このビットを0→1 にする場合は、本レジスタのPort Enabledビットを”0 ”にする必要があります。
2. このビットを”0” にしても、このビットが”0” になるのは多少遅延します。
このビットをリードしても、リセット処理が完了するまでは、”0” が読み出されません。ポートがハイスピードモードの場合で、リセットが完了した場合は、HC は自動的にポートを有効にします（PortEnable=1）。HC はこのビットを”0” にセットしてから2ms 以内に、リセットを完了させてポートを安定させる必要があります。たとえば、ポートリセット中にハイスピード デバイスの接続を検知した場合、このビットを”0” にセットしてから2ms 以内に、ポートを有効にする必要があります。
3. 本ビットを使う際には、HCHalted ビット（USBSTS レジスタのビット12）を”0”にする必要があります。
HCは、HCHaltedが”1 ”である間は、このPortReset ビットを”1”に保ちつづける必要があります。
ポート電源が”0”のとき、このビットは”0”となります。</td></tr>
<tr><td>7</td><td>SUSP</td><td>0</td><td>R/W</td><td>Suspend
0：ポートはサスペンド状態ではありません。
1：ポートはサスペンド状態です。
Port Enabled とSuspend ビットのセットにより、ポートの状態は以下のようになります。
<table>
<tr><th>ビット [Port Enabled、Suspend]</th><th>ポートの状態</th></tr>
<tr><td>0X</td><td>無効</td></tr>
<tr><td>10</td><td>有効</td></tr>
<tr><td>11</td><td>サスペンド</td></tr>
</table>
サスペンド 状態では、このポートのダウンストリームへのデータの伝播はブロックされます。ただし、Port Reset は伝わります。転送が処理中でビットに”1”が書き込まれた場合、現在の転送の最後の段階でデータのブロックが行われます。サスペンド 状態では、ポートはレジュームを検出することができます。
ポートがサスペンド状態になるまでこのビットは変化しません。また、現在の転送がUSBで処理中の場合、ポートのサスペンドに遅れが生じる可能性があります。
本ビットを”0”にしてもHCは無視します。HC は以下の条件が成立したら無条件でこのビットをクリアします。
• Force Port Resume ビットを0→1 にセット。
• Port Reset ビットを0→1 にセット。
ポートが有効でなく（つまり、Port Enable ビットが0のとき）本ビットを”1”にセットしたとき、不定となります。
ポート電源が”0”のとき、このビットは”0”となります。</td></tr>
</table>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
6	FPR	0	R/W	Force Port Resume 0：ポートはレジューム（K 状態）を検知してないし、ドライブもしていません。 1：ポートがレジューム したことを検知もしくは、レジュームをドライブしていることを検知しました。 Suspend ビットの値により、本ビットの機能面での定義は異なります。たとえば、ポートがサスペンド状態ではなく（Suspend ビット＆PortEnable ビットがともに”1”）本ビットを”1”にすると、バスの効果は不定となります。 本ビットに”1”をセットしてレジューム信号を起動します。J→K の遷移が検知されたため本ビットが”1”になったときはPort Change Detect ビット（USBSTS レジスタのビット2）も”1”にセットされます。本ビットが”1”にセットされたときはHCはPort Change Detect ビットをセットできません。 注． EHCI がポートのオーナである場合は、レジューム の処理はUSB2.0 仕様書に従います。このビットが”1” である間中、レジューム信号（Full-Speed K）をドライブしつづけます。適切な時間だけレジューム して、十分な時間レジュームしたあと、このビットに0 をセットする必要があります。このビットを1→0 にセットすると、ポートはハイスピード モードに戻ります（バスをハイスピード のアイドル にフォースする）。このビットは、ハイスピードのアイドルにスイッチできるまでは0 を書き込まれても”1” のままです。HCはソフトウェアがこのビットに”0” を書き込んでから2ms 以内にこのスイッチを完了する必要があります。 ポート電源が”0”のとき、このビットは”0”となります。
5	OCC	0	R/W	Over-Current Change 0：状態に変化はありません。 1：ポートの過電流状態が非アクティブ からアクティブ 状態に変化したことを示します。 ソフトウェアはこのビットに”1”を書き込むことで、このビットをクリアすることができます。
4	OCA	0	R	Over-Current Active 0：ポートは過電流状態にはありません。 1：ポート は過電流状態にあります。 本ビットは 過電流状態が取り除かれたら、自動的に”0” へとクリアされます。
3	PEC	0	R/W	Port Enable/Disable Change 0：状態に変化はありません。 1：ポートの有効/無効の状態が変化したことを示します。 このビットが”1”にセットされるのは、EOF2 の時点でポートが無効になるような条件が存在していて、ポートが無効にになった場合のみです。本ビットに”1”を書き込むことでクリアします。 ポート電源が”0”のとき、このビットは”0”となります。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
2	PE	0	R/W	Port Enabled/Disabled 0：ポートが無効（デフォルト） 1：ポートが有効 ポートが有効になるのは、ポートリセットを行ったときのみであり、ソフトウェアが本ビットをセットすることでポートを有効にすることはできません。ポートを有効にできるのはHC だけです。 HCは、リセットシーケンスによって接続デバイスがハイスピードデバイスであると確定したときのみ、本ビットをセットすることができます。 ポートは、フォルトコンディションになった場合（ディスコネクト 発生やその他フォルトイベント）、もしくはソフトウェアによってのみ無効にされます。 注1. ポートの状態が本当に変化するまでは、このビットの状態は変化しません。 HC の別の処理やバス の処理などで、ポートが有効／無効 になるのが遅れる場合があります。 2. このビットが”0”でポートが無効のときはダウンストリーム にデータは伝播しません。ただし、リセットは伝わります。 ポート電源が”0”のとき、このビットは”0”となります。
1	CSC	0	R/W	Connect Status Change 0：変化ありません。 1：Current Connect Status が変化がありました。 本ビットをクリアしていなくても、ポートのデバイス接続状態になんらかの変化が起これば、HC は本ビットをセットします。例えば、変化した条件がをクリアする前に挿入の状態は2回変化し、ハブハードウェアはすでにセットされたビットとして「セット」されます（つまり、ビットはセットされたままです）。”1 ”を書き込むことで、このビットを”0”にクリアすることができます。 ポート電源が”0”のとき、このビットは”0”となります。
0	CCS	0	R	Current Connect Status 0：デバイスがポートに存在していません。 1：デバイスがポートに存在しています。 このビットは、ポートの状態を反映するものであり、Connect Status Changeビットがセットされるようなイベントが発生してもそれに直接は影響されません。 ポート電源が”0”のとき、このビットは”0”となります。

(13) EHCI IP内蔵バッファ制御レジスタ1（EIIBC1）

EHCI IP 内部にはUSB転送時に使用する1024 バイトバッファを搭載しています。本バッファはUSB バスへの転送とAHBマスタ転送の調停を行っており、転送開始しきい値を本レジスタで設定することができます。

OUT転送の場合、AHBマスタリードにより本1Kバイトバッファに送信データを一端保存し、OUT_THRESHOLDビットで設定した値×4バイト、または、 q HEAD/iTD/siTDで設定したMaxPacketSizeまでデータが保存されると、実際のUSB OUT転送が開始されます。何らかの原因でAHBマスタリードが遅くなり、USB転送速度を超えた場合、EHCI規格で規定されたデータバッファエラーが発生し、CRCエラーのパケットを送信し再送します（アイソクロナスの場合は再送なし）。そのため、OUT_THRESHOLDビットは最大値H'FFを設定して頂くことを推奨します。

IN転送の場合、USB IN転送で受信したデータを本1K バイトバッファに一端保存し、IN_THRESHOLDビットで設定した値×4 バイトまでデータが保存されるとAHBマスタライトが発生します。IN転送の場合、IN_THRESHOLDビットの値に係わらずAHBマスタライトが遅くなってもデータバッファエラーは発生しませんが、小さい値に設定するとAHBバスのリクエストが分割され転送効率が落ちる可能性があるため、IN_THRESHOLDビットはH'40を設定して頂くことを推奨します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	OUT_THRESHOLD							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	IN_THRESHOLD							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 24	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
23～ 16	OUT_THRESHOLD	H'40	R/W	EHCI IP 転送用内部バッファ USB OUT転送開始しきい値 （4 バイト/1 ビット） 推奨値 ：OUT_THRESHOLD [7:0] = H'FF EHCIが使用されるとき、OUT_THRESHOLDの値と関係なく、BUFFER_ENABLE ビット（EIIBC2 レジスタのビット0）を”1”にしてください。
15 ～ 8	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
7 ～0	IN_THRESHOLD	H'40	R/W	EHCI IP 転送用内部バッファ AHBマスタライト開始しきい値（4 バイト/1 ビット） 推奨値 ：IN_THRESHOLD [7:0] = H'40 EHCIが使用されるとき、IN_THRESHOLDの値と関係なくBUFFER_ENABLE ビット（EIIBC2 レジスタのビット0）を”1”にしてください。

(14) EHCI IP内蔵バッファ制御レジスタ 2 （EIIBC2）

EHCI IP 内蔵バッファ制御レジスタ 2 は EHCI 転送の内蔵バッファ機能を有効にするレジスタです。EHCIが使用されるときは、本レジスタのBUFFER_ENABLE ビットに常に”１”をセットしてください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	BUFFER ENABLE
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 1	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
0	BUFFER_ENABLE	0	R/W	EHCI IP OUT/IN 転送に有効な転送用内部バッファファンクション 0：転送用内部バッファファンクションは無効です。 1：転送用内部バッファファンクションは有効です。 EHCIが使用されるとき、常にビットに”1”をセットしてください。

32.5.3　OHCI コントローラレジスタ

USB1 に実装されている別の HC である OHCI コントローラは EHCI コンパニオンコントローラとして機能します。Universal Serial Bus Specification Revision 2.0 規格でハイスピード転送をサポートする EHCI と異なり、OHCI コントローラは Universal Serial Bus Specification Revision 1.1 でフルスピードとロースピードの転送をサポートします。OHCI コントローラは標準コントローラです。OHCI の詳細については、Open Host Controller Interface Specification for USB Revision 1.0a を参照してください。

(1)　HcRevision レジスタ （HCREV）

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	REV							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 8	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
7 ～ 0	REV	H'10	R	Revision ハードウェアがサポートする Open HCI 仕様のリビジョン番号を示します。本 USB HC は、Open HCI 1.0 仕様をサポートしています。

(2)　HcControl レジスタ （HCCTRL）

本レジスタは HC の動作モードを割り当てます。Host Controller Function State と Remote Wakeup Command fields を除く本レジスタのすべてのビットはホストコントローラドライバ(HCD) により修正されます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	RWE	RWC	IR	HCFS		BLE	CLE	IE	PLE	CBSR	
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～11	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
10	RWE	0	R/W	Remote Wakeup Enable リモートウェイクアップ信号をサポートしている場合、このビットでリモートウェイクアップ機能を有効にします。USB ホストモジュールではリモートウェイクアップ信号をサポートしていないので、このビットは無視されます。必ず”0”を書き込んでください。
9	RWC	0	R/W	Remote Wakeup Connected HCがリモートウェイクアップ信号をサポートするかどうかを示します。リモートウェイクアップがサポートされ、使用されている場合、システムファームウエアがパワーオンシステムテスト(POST)の間に本ビットを設定します。本ファンクションはサポートされていません。
8	IR	0	R/W	Interrupt Routing 割り込みの通知先を指定します。このファンクションはサポートされていません。本モジュールにはPCIインタフェースがないため、通常の割り込みとシステムマネージメント割り込み(SMI)は同様に扱われます。すべての割り込みは割り込みコントローラに接続します（INTC）。
7、6	HCFS	00	R/W	Host Controller Functional State 00：USB リセット 01：USB レジューム 10：USB 動作 11：USB サスペンド HCDがのStart Of Frameビット（HcInterruptStatus レジスタのビット2）を読み出すことでSOFを送信し始めたかどうかを示します。 USBサスペンド状態のときに限り、HCは本ビットを変更できます。HCは、ダウンストリームのポートから送信されたレジューム信号を検出すると、強制的にUSBサスペンド状態をUSBレジューム状態に切り替えます。 HCはソフトウェアリセットの後にUSBサスペンド状態になり、ハードウェアリセットの後にUSB 状態になります。後者の場合、ルートハブもリセットされ、ダウンストリームのポートにリセット信号をアサートします。
5	BLE	0	R/W	Bulk List Enable このビットをセットすると、バルクリストの処理を有効にします。リストの処理を決定するときはHCはいつでも本ビットをチェックします。無効のときは、HCDはリストを修正します。HcBulkCurrentED レジスタが削除予定のエンドポイントを指しているときは、HCDはリストの処理が再度できなくなる前にHcBulkCurrentED レジスタを更新して、ポインタを進める必要があります。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
4	CLE	0	R/W	Control List Enable このビットをセットすると、コントロールリストの処理を有効にします。クリアになった場合は、コントロールリストの処理は次のSOFの後には行われません。リストの処理を決定するときはHCはいつでも本ビットをチェックします。無効のときは、HCDはリストを修正します。HcControlCurrentEDが 削除予定のエンドポイントを指しているときは、HCDはリストの処理が再度できなくなる前にHcControlCurrentEDを更新してポインタを進める必要があります。
3	IE	0	R/W	Isochronous Enable ピリオデックリストが有効なとき、このビットをクリアすると、アイソクロナスリストを無効にします。ピリオデックリスト処理中に、HCはアイソクロナスエンドポイント を見つけると、このビットの状態をチェックします。セット（有効）のときは、エンドポイントの処理が継続します。クリア（無効）のときは、ピリオデックリストの処理が停止します（現在はアイソクロナスエンドポイントのみが含まれています）そしてバルク/コントロールリストの処理が開始します。本ビットをセットすることで次のフレーム（現在のフレームではなく）で効果を出すことが保証されます。
2	PLE	0	R/W	Periodic List Enable このビットをセットすると、ピリオデックリスト（インタラプトリストとアイソクロナスリスト）の処理を有効にします。クリアになると、次のSOFの後にピリオデックリストの処理は発生しません。フレーム内のピリオデック転送を行う前に、HCはこのビットの状態をチェックします。
1、0	CBSR	00	R/W	Control Bulk Service Ratio CBSR バルクエンドポイント1個に対するコントロールエンドポイントの処理数 00：1:1 01：2:1 10：3:1 11：4:1 バルクエンドポイント1 個に対し、いくつのコントロールエンドポイントを処理するかを指定します。すべての非周期リスト処理を行う前に、他のコントロールエンドポイントの処理を続けるか、あるいはバルクエンドポイントに切り替えるかを決定するにあたって、HCはどれだけのノンエンプティコントロールエンドポイントが処理されたかをインターナルカウントで規定された割合と比較しなければなりません。インターナルカウントは境界を越えるときに保持されます。リセットのときは、HCDがこの値を再設定する必要があります。

(3) HcCommandStatus レジスタ（HCCMDSTS）

本レジスタはHCDが発行するコマンドを受け取るのと、HCの現在の状態を反映するのに使用します。HCD に対しては「設定用の書き込み」レジスタとなります。本レジスタのビットに ”1” を書き込むと対応するビットが ”1” にセットされます。”0” を書き込むと対応するビットは変化しません。HCDは以前発行されたコマンドの改ざんを気にすることなく複数の異なるコントローラを HC へ発行できます。すべてのビットに正常にリードアクセスできます。

HC が scheduling overrun エラーを検出したフレームの数が Scheduling Overrun Count ビット（HcCommandStatus レジスタのビット 17、16）に示されています。このエラーは、ピリオデックリストが EOF の前に完成しなかったときに発生します。Scheduling overrun エラーが検出されたとき、HC はカウンタをインクリメントし、HcInterruptStatus レジスタに Scheduling Overrun ビットをセットします。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	SOC	
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	OCR	BLF	CLF	HCR
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 18	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
17、16	SOC	00	R	Scheduling Overrun Count ビット値はscheduling overrunエラーごとにインクリメントされます。カウント値11 のあとにインクリメントが起こると、値は00 に戻ります。Scheduling Overrun ビット（HcInterruptStatus レジスタのビット0）がセットされるたびに、このビットの値がインクリメントされます。本ビット、HCDがすべての繰り返し起こるスケジューリングも問題をモニタするのに使用されます。
15 ～ 4	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
3	OCR	0	R/W	Ownership Change Request OS HCDがHCの制御リクエストを変更するときに本ビットがセットされます。ソフトウェアでこのビットをセットすると、Ownership Change ビット（HcInterruptStatus レジスタのビット30）がセットされます。このビットは、OS HCDから次のリクエストがあるまでソフトウェアでクリアできます。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
2	BLF	0	R/W	Bulk List Filled このビットがセットされているとき、バルクリストにアクティブエンドポイント があることを示します。このビットは、ソフトウェアとHCのどちらからもセットできます。 HCは、バルクリストの先頭から処理を開始するたびに、このビットをクリアします。 0：バルクリストの処理は開始されません。 1：バルクリストの処理が開始され、BFが”0”にセットされます。 リストにTDがあるときはBulk List Filledが”1”にセットされ、バルクリスト処理が継続します。 リストにTDがないときは、Bulk List Filledは 0 のままです。HCはバルクリストの処理を完了し、バルクリストの処理は停止します。
1	CLF	0	R/W	Control List Filled このビットがセットされているとき、コントロールリストにアクティブエンドポイント があることを示します。このビットは、ソフトウェアとHCのどちらからもセットできます。 HCは、コントロールリストの先頭から処理を開始するたびに、このビットをクリアします。 0：コントロールリストの処理は開始されません。 1：コントロールリストの処理が開始され、Control List Filled が”0”にセットされます。 リストにTDがあるときはControl List Filled が”1”にセットされ、コントロールリスト処理が継続します。 リストにTDがなくControl List Filledがセットされないときは、Control List Filledは ”0” のままです。HCはコントロールリストの処理を完了し、コントロールリストの処理は停止します。
0	HCR	0	R/W	Host Controller Reset このビットをセットすると、ソフトウェアリセットを開始します。HCの機能上の状態と関係なく、異なる記載がされているもの（例：HcControlのInterrupt Routing ビット）を除き、ほとんどのオペレーショナルレジスタがリセットされるUSBサスペンドステートへ移行します。ホストバスアクセスは許可されていません。リセット動作が完了すると、HCがこのビットをクリアします。本ビットはセットされるとルートハブ へのリセットは行われず、連続したリセット信号はダウンストリームポートにアサートされません。

(4) HcInterruptStatus レジスタ（HCINTSTS）

このレジスタのすべてのビットのセットはハードウェアが行い、クリアはソフトウェアが行います。

本レジスタはハードウェア割り込みの原因となる様々なイベントを示します。イベントが発生すると、HCは対応するビットを本レジスタにセットします。ビットがセットされて、HcInterruptEnableレジスタの割り込みが有効になるとハードウェアの割り込みが発生し（「(5) HcInterruptEnable レジスタ（HCINTENB）」参照）、Master Interrupt Enable ビットがセットされます。ハードウェア割り込みが発生すると、割り込みコントローラ (INTC)の割り込み要因レジスタ(INT2A01)のUSB1 ビットもセットされます。ビットをクリアするときは、対応するビットに1 を書き込んでください。HCD はこれらのビットをセット、クリアを行いません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	OC	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	R/W	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	RHSC	FNO	UE	RD	SF	WDH	SO
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
30	OC	0	R/W	Ownership Change Ownership Change Request ビット（HcCommand Status レジスタのビット3）がセットされると、このビットがセットされます。 ”1”を書き込むとクリアになります。
29 ～ 7	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
6	RHSC	0	R/W	Root Hub Status Change HcRhStatus レジスタ又はHcRhPortStatus レジスタの値が変化すると、このビットがセットされます。 ”1”を書き込むとクリアになります。
5	FNO	0	R/W	Frame Number Overflow Frame Number のビット15 の値が”0” から”1” へ、又は”1” から”0” へ変化し、HccaFrameNumber が更新すると、このビットがセットされます。 ”1”を書き込むとクリアになります。
4	UE	0	R/W	Unrecoverable Error HC が USB に関わらないシステムエラーを検出すると、このビットがセットされます。HCD は HC がリセットされると本ビットをクリアします。 ”1” を書き込むとクリアになります。
3	RD	0	R/W	Resume Detected HC がダウンストリームポートからのレジューム信号を検出すると、このビットがセットされます。ノーレジューム信号からレジューム信号への遷移があったときに本ビットがセットされます。HCD が USB レジューム状態をセットしたとき、本ビットはセットされません。 ”1” を書き込むとクリアになります。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
2	SF	0	R/W	Start of Frame フレームマネージャが Start of Frame（フレーム開始）のイベントを通知すると、このビットがセットされます。SOF トークンも同時に発生します。 ”1” を書き込むとクリアになります。
1	WDH	0	R/W	Writeback Done Head HC が HcDoneHead レジスタの値を HccaDoneHead に書き込むと、このビットがセットされます。本ビットがクリアになるまで HccaDoneHead は更新されません。HccaDoneHead が保存された後に限り、HCD は本ビットをクリアできます。 ”1” を書き込むとクリアになります。
0	SO	0	R/W	Scheduling Overrun リストプロセッサが、スケジュールオーバランが発生したと判断し、HccaFrameNumber が更新すると、このビットがセットされます。スケジュールオーバランが発生すると、Scheduling Overrun Count ビット（HcCommandStatus レジスタのビット 17、16）がインクリメントされます。 ”1” を書き込むとクリアになります。

(5) HcInterruptEnable レジスタ（HCINTENB）

HcInterruptEnable レジスタの各種イネーブルビットは HcInterruptStatus レジスタの関連する割り込みビットに対応します。HcInterruptEnable レジスタはハードウェア割り込みを発生されるイベントを制御するのに使用されます。HcInterruptStatus レジスタ、HcInterruptEnable レジスタの各対応するビット、Master Interrupt Enable ビット がセットされるとハードウェアの割り込みがリクエストされます。ハードウェア割り込みが発生すると、割り込みコントローラ (INTC) の割り込み要因レジスタ (INT2A01) の USB1 ビットもセットされます。

このレジスタのビットに ”1 ” を書き込むと、対応するビットがセットされます。ただし、”0” を書き込んでもビットの値は変化しません。読み出すと、本レジスタの現在の値が返されます。HcInterruptDisable レジスタを使用して割り込みを無効にしてください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	MIE	OC	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	RHSC	FNO	UE	RD	SF	WDH	SO
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31	MIE	0	R/W	Master Interrupt Enable 0：無視されます。 1：以下のビットで有効にした割り込みの発生を許可します。
30	OC	0	R/W	Ownership Change Enable 0：無視されます。 1：所有権の変更（Ownership Change）による割り込みを有効にします。
29～7	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
6	RHSC	0	R/W	Root Hub Status Change Enable 0：無視されます。 1：ルートハブ状態の変更（Root Hub Status Change）による割り込みを有効にします。
5	FNO	0	R/W	Frame Number Overflow Enable 0：無視されます。 1：フレーム番号のオーバフロー（Frame Number Overflow）による割り込みを有効にします。
4	UE	0	R/W	Unrecoverable Error Enable 0：無視されます。 1：回復できないエラー（Unrecoverable Error）による割り込みを有効にします。
3	RD	0	R/W	Resume Detected Enable 0：無視されます。 1：開始信号の検出（Resume Detected）による割り込みを有効にします。
2	SF	0	R/W	Start of Frame Enable 0：無視されます。 1：フレームの開始（Start of Frame）による割り込みを有効にします。
1	WDH	0	R/W	Writeback Done Head Enable 0：無視されます。 1：Writeback Done Head による割り込みを有効にします。
0	SO	0	R/W	Scheduling Overrun Enable 0：無視されます。 1：スケジュールオーバラン（Scheduling Overrun）による割り込みを有効にします。

(6) HcInterruptDisable レジスタ（HCINTDIS）

HcInterruptDisable レジスタの各種 Disable ビットは HcInterruptStatus レジスタの関連する割り込みビットに対応します。HcInterruptDisable レジスタと HcInterruptEnable レジスタは対になっています。このレジスタのビットに”1 ”を書き込むと、HcInterruptEnable レジスタの対応するビットがクリアされます。ただし、”0” を書き込んでもビットの値は変化しません。読み出すと、本レジスタの現在の値が返されます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	MIE	OC	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	RHSC	FNO	UE	RD	SF	WDH	SO
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31	MIE	0	R/W	Master Interrupt Disable 0：無視されます。 1：すべての割り込みの発生を禁止します。 本ビットはハードウェア又はソフトウェアリセットの後にセットされます。 ”1” を書き込むとクリアになります。
30	OC	0	R/W	Ownership Change Disable 0：無視されます。 1：HC所有権の変更（Ownership Change）による割り込みを禁止します。 ”1” を書き込むとクリアになります。
29～7	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
6	RHSC	0	R/W	Root Hub Status Change Disable 0：無視されます。 1：ルートハブ状態の変更（Root Hub Status Change）による割り込みを禁止します。 ”1” を書き込むとクリアになります。
5	FNO	0	R/W	Frame Number Overflow Disable 0：無視されます。 1：フレーム番号のオーバフロー（Frame Number Overflow）による割り込みを禁止します。 ”1” を書き込むとクリアになります。
4	UE	0	R/W	Unrecoverable Error Disable 0：無視されます。 1：回復できないエラー（Unrecoverable Error）による割り込みを禁止します。 ”1” を書き込むとクリアになります。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
3	RD	0	R/W	Resume Detected Disable 0：無視されます。 1：開始信号の検出（Resume Detected）による割り込みを禁止します。 ”1”を書き込むとクリアになります。
2	SF	0	R/W	Start of Frame Disable 0：無視されます。 1：フレームの開始（Start of Frame）による割り込みを禁止します。 ”1”を書き込むとクリアになります。
1	WDH	0	R/W	Writeback Done Head Disable 0：無視されます。 1：Writeback Done Head による割り込みを禁止します。 ”1”を書き込むとクリアになります。
0	SO	0	R/W	Scheduling Overrun Disable 0：無視されます。 1：スケジュールオーバラン（Scheduling Overrun）による割り込みを禁止します。 ”1”を書き込むとクリアになります。

(7)　HcHCCA レジスタ（HCHCCA）

本レジスタはHC通信領域の物理アドレスを含みます。HCDはすべて1をHcHCCAに書き込み、HcHCCAの内容を読み出してアライメントのルールを決定します。下位ビットの”0”の数を調べることでアライメントが評価されます。最小アライメントは256バイトです。したがって、読み出されると0から7ビットは”0”を返す必要があります。制御構造を保持し、HCとHCDの両方がアクセスする割り込みデーブルを保持するときに本領域は使用されます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	HCCA															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	HCCA								—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 8	HCCA	H'00 0000	R/W	HCCAベースアドレスへのポインタ
7 ～ 0	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

(8) HcPeriodCurrentED レジスタ（HCPCED）

本レジスタは現在のアイソクロナスあるいはインタラプトエンドポイントディスクリプタ の物理アドレスを含みます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	PCED															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PCED												—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 4	PCED	H'000 0000	R	Period Current ED 現在のピリオデックリスト先頭エンドポイント へのポインタ。ピリオデックエンドポイントが処理された後、本レジスタの内容が更新されます。HCD は内容を読み出してどのエンドポイントが現在処理中かを決めます。
3 ～ 0	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は “0” にしてください）

(9) HcControlHeadED レジスタ（HCCHED）

本レジスタはコントロールリストの先頭エンドポイントの物理アドレスを含みます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	CHED															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	CHED												—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～4	CHED	H'000 0000	R/W	Control Head ED コントロールリストの先頭エンドポイント へのポインタ
3～ 0	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は “0” にしてください）

(10) HcControlCurrentED レジスタ（HCCCED）

本レジスタはコントロールリストの先頭エンドポイントの物理アドレスを含みます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	CCED															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	CCED												—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～4	CCED	H'000 0000	R/W	Control Current ED このポインタは現在のエンドポイントに使用した後、次のエンドポイントに進みます。HCは最後のフレームで止めたところからリストの処理を継続します。Control List Enableビット（HcControl レジスタのビット4）がクリアになったときに限り、HCDは本レジスタを修正できます。セットされると、HCDは本レジスタの瞬間値のみを読み出します。コントロールリストの終端を示すために、最初は”0”にセットされています。
3 ～ 0	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

(11) HcBulkHeadED レジスタ（HCBHED）

本レジスタはバルクリストの先頭エンドポイントの物理アドレスを含みます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	BHED															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	BHED												—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 4	BHED	H'000 0000	R/W	Bulk Head ED バルクリストの先頭エンドポイント へのポインタ
3～ 0	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

(12) HcBulkCurrentED レジスタ（HCBCED）

本レジスタはバルクリストの先頭エンドポイントの物理アドレスを含みます。バルクリストはラウンドロビンモードで使用されますので、リストへの挿入でエンドポイントの順位がつけられます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	BCED															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	BCED												—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 4	BCED	H'000 0000	R/W	Bulk Current ED このポインタは現在のエンドポイントに使用した後、次のエンドポイントに進みます。HCは最後のフレームで止めたところからリストの処理を継続します。Bulk List Enableビット（HcControlレジスタのビット5）がクリアになったときに限り、HCDは本レジスタを修正できます。セットされると、HCDは本レジスタの瞬間値のみを読み出します。バルクリストの終端を示すために、最初は”0”にセットされています。
3～0	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

(13) HcDoneHead レジスタ（HCDH）

本レジスタはDone queueに追加され、最後に完了したTDの物理アドレスを含みます。レジスタの内容が定期的にHCCAに書き込まれるため、HCDは本レジスタを読み出す必要はありません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	DH															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	DH												—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 4	DH	H'000 0000	R	Done Head TD が完了すると、HcDoneHeadの内容を次のTDビットに書き込みます。HC は本TDのアドレスで HcDoneHead の内容を上書きします。HCが本レジスタの内容をHCCAに書き込むときは常に”0”にセットされます。
3 ～ 0	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

(14) HcFmInterval レジスタ（HCFI）

本レジスタはフレームにおけるビットタイムインターバル（２つの連続した SOF）を示す14ビット値と HC がスケジュールオーバランを起こすことなく送受信できるフルスピード最大パケットサイズを示す15ビット値を含みます。HCDは各SOFに新しい値を書き込むことでFrameIntervalに小規模な修正を行います。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	FIT	FSMPS														
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	FI													
初期値：	0	0	1	0	1	1	1	0	1	1	0	1	1	1	1	1
R/W：	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31	FIT	0	R/W	Frame Interval Toggle 新しい値を本レジスタのFrame Interval ビットにロードするたびに、HCDがこのビットの値を反転します。
30 ～ 16	FSMPS	H'0000	R/W	FS Largest Data Packet 各フレームの最初で最大データパケットカウンタ（Largest Data Packet Counter）にロードする値を指定します。カウンタ値はHCが１回にスケジュールオーバランを発生させることなく一定の期間に送受信できるビットの最大データを示します。HCDがビット値を計算します。
15、14	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
13～0	FI	H'2EDF	R/W	Frame Interval フレーム長を（ビット時間—1）の形で指定します。1 フレームあたり12,000 ビット時間の場合、11,999 を指定します。HCDはHCをリセットする前に本ビットの現在の値を格納します。HCが本ビットをリセットして通常の値にすることから、HostControllerResetビット（HcCommandStatus レジスタのビット0）をセットすることによって行います。リセットシーケンスの完了にあたって、HCDは 格納したデータのリストアを選択できます。

(15) HcFmRemaining レジスタ（HCFR）

本レジスタは現在のフレームの残りのビット時間を示す14ビットダウンカウンタです。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	FRT	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	FR													
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31	FRT	0	R/W	Frame Remaining Toggle Frame Remaining ビットに値がロードされると、このビットに Frame IntervalToggle ビット（HcFmInterval レジスタのビット 31）の値がロードされます。HCDは本ビットを使用してFrame Interval ビットとFrame Remainingビットを同期します。
30 ～ 14	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
13 ～ 0	FR	H'0000	R/W	Frame Remaining このビットは14 ビットのダウンカウンタで、フレームのタイミングを決めるために用います。HCがUSB 動作 状態にあるとき、このカウンタは、12 MHz のクロックごとにデクリメントします。カウンタ値が0 になったときが、フレームの終わりです。このとき、カウンタにはFrame Interval ビット（HcFmInterval レジスタのビット13～0）の値がリロードされます。また、HCの状態がUSB動作 に遷移するタイミングでも、このカウンタはリロードされます。

(16) HcFmNumber レジスタ（HCFN）

本レジスタは16ビットのカウンタです。HCとHCDで生じているイベントのタイミング基準を示します。HCDは本レジスタで指定されている16ビット値を使用してレジスタに頻繁にアクセスすることなく32ビットのフレーム番号を発生させます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	FN															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
15～ 0	FN	H'0000	R/W	Frame Number Frame Remaining ビット（HcFmRemaining レジスタのビット 13～0）へのロードと同時に、値をインクリメントします。カウンタ値は、H'FFFF を超えると H'0000 に戻ります。USB 動作状態になると、本レジスタは自動的にインクリメントされます。HC が各フレームの境界でフレーム番号をインクリメントし SOF を送信後、そのフレームで先頭エンドポイントを読み出す前に 内容が HCCA に書き込まれます。HCCA への書き込みの後、HC は Start Of Frame ビット（HcInterruptStatus レジスタのビット 2）をセットします。

(17) HcPeriodicStart レジスタ（HCPS）

本レジスタは 14 ビットプログラマブルの値を持ち、HC における最も早いピリオデックリストの処理開始時間を決定します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	PS													
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 14	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
13 ～ 0	PS	H'0000	R/W	Periodic Start ハードウェアリセット後、このビットはクリアになります。HC が初期化されている間、本レジスタがセットされます。HcFmInterval より約 10%少なく値が計算されます。基準値は H'3E67 です。HcFmRemaining が指定された値に達するとピリオデックリストの処理がコントロール/バルク処理よりも優先的に行われます。したがって、HC は現在処理中のコントロールあるいはバルク送信が完了した後に割り込みリストの処理を開始します。

(18) HcLSThreshold レジスタ（HCLST）

本レジスタは 12 ビットプログラマブルの値を持ち HC が EOF の前に最大 8 バイトの ロースピードパケットを送信するかどうかの決定に使用されます。HC、HCD のいずれもこの値を変更できません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	LST											
初期値：	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 12	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
11 ～ 0	LST	H'628	R/W	LS Threshold フレームマネージャが、現在のフレームでロースピードトランザクションを行えるかどうかを判断するために必要な値をセットします。HcFmRemaining レジスタの Frame Remaining ビットが本ビット以上のときに限りトランザクションが開始します。この値は送信とセットアップ オーバヘッドを考慮にいれて計算されます。

(19) HcRhDescriptiorA レジスタ（HCRDA）

本レジスタはルートハブの特性を持つ２つのレジスタのうちの１番目のレジスタです。HCD がハブクラスディスクリプタのディスクリプタ長（11）、ディスクリプタタイプ（TBD）とハブコントローラカレント（0）ビットをエミュレートします。他のビットはすべて HcRhDescriptorA と HcRhDescriptorB レジスタにあります。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	POTPGT								—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	NOCP	OCPM	DT	NPS	PSM	NDP							
初期値：	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0
R/W：	—	—	—	R/W	R/W	R	R/W	R/W	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～24	POTPGT	H'FF	R/W	Power On To Power Good Time 本ビットはHCDがルートハブのpowered-on portにアクセスする前の持続時間を指定します。このビットの値は、2ms 単位で指定します。持続時間はPOTPGT x 2 msで計算します。
23 ～13	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
12	NOCP	0	R/W	No Over Current Protection USB HCが全体の過電流通知を行うかどうかを指定します。本ビットがクリアになると本レジスタのOver Current Protection Mode ビットは全体あるいはポートごとの通知を指定します。 0：過電流状態を通知します。 1：過電流状態を通知しません。
11	OCPM	1	R/W	Over Current Protection Mode USB ホスト全体の過電流通知を行うかどうかを指定します。リセット時には、電源切り替えモードと同じモードが本ビットに反映されます。このビットのセットは、本レジスタのNo Over Current Protection ビットがクリアされているときにのみ有効です。 0：全体の過電流を通知します。 1：個別の過電流を通知します。
10	DT	0	R	Device Type USB HCが複合デバイスでないことを示します。ルートハブを複合デバイスにすることはできません。本ビットは常に”0”が読み出されます。
9	NPS	0	R/W	No Power Switching USB HCが全体の電源切り替えをサポートしているかどうかを指定します。本ビットがクリアになると本レジスタのPower Switching Mode ビットは全体の電源切り替えあるいはポートごとの通知を指定します。 0：ポートの電源切り替えは可能です。 1：ポートは常に電源オン状態です。
8	PMS	1	R/W	Power Switching Mode USB HCが全体の電源切り替えをサポートしているかどうかを指定します。このビットのセットは、本レジスタのNo Power Switching ビットがクリアされているときのみ有効です。 0：全体の電源を切り替えます。 1：個別に電源を切り替えます。 このモードで、ポートパワーをグローバルスイッチ（全体）又はポートごとのスイッチのいずれかで制御することが可能になります。Port Power Control Mask ビット（HcRhDescriptorB レジスタのビット31～16）がセットされると、ポートはport powerコマンドだけに反応します（Set/ClearPortPower）。ポートマスクがクリアになると、全体の電源切り替えのみがポートを制御します（Set/ClearGlobalPower）。
7～0	NDP	H'02	R	Number Downstream Ports USB HCが1つのダウンストリームポートをサポートしていることを示します。これらのビットが本モジュールに関して2を示していますが、HCポート1のみがPHYに接続されています。HCポート2はPHYに接続されていません。

(20) HcRhDescriptorB レジスタ（HCRDB）

本レジスタはルートハブの特性を持つ2つのレジスタのうちの2番目のレジスタです。システムの初期化時に、ルートハブをセットするために、このレジスタに書き込みます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	PPCM															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	DR															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	PPCM	H'0006	R/W	Port Power Control Mask このビットは、No Power Switching ビット（HcRhDescriptiorA レジスタのビット9）がクリアされ、Power Switching Mode ビット（同ビット8）がセットされているとき（個別のポート切り替え時）のみ、有効です。このビットをセットすると、ポートは個別ポート電源切り替えコマンド（Set/ClearPortPower）でのみ切り替えられます。このビットをクリアすると、ポートは全体ポート電源切り替えコマンド（Set/ClearGlobalPower）でのみ切り替えられます。デバイスが全体電源切り替えモードになると（Power Switching Mode = 0）、このビットは無効になります。 ビットとポートの対応 ビット 16：リザーブ ビット 17：ポート1 ビット18 ～ 31：リザーブ
15 ～ 0	DR	H'0000	R/W	Device Removable 各ビットがルートハブのポート専用です。 0：デバイスは取り外し可能です。 1：デバイスは取り外し不可です。 ビットとポートの対応 ビット 0：リザーブ ビット 1：ポート1 ビット 2 ～ 15：リザーブ

(21) HcRhStatus レジスタ（HCRSTS）

本レジスタは２つの部分に分かれます。ロングワードの下位ワードは Hub Status ビットを示し、上位ワードは Hub Status Change ビットを示します。書き込む値は常に”0”にしてください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	CRWE	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	OCIC	LPSC
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	W	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	DRWE	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	OCI	LPS
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31	CRWE	0	W	（ライト時）Clear Remote Wakeup Enable ”1” を書き込むと、本レジスタの Device Remote Wakeup Enable ビットをクリアします。”0” を書き込んでも変化しません。
30 ～ 18	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
17	OCIC	0	R/W	OverCurrent Indicator Change 本レジスタの Over Current Indicator ビットが変化すると、このビットがセットされます。”1” を書き込むとビットをクリアします。”0” を書き込んでも変化しません。
16	LPSC	0	R/W	（リード時）Local Power Status Change 本 LSI ではサポートしません。読み出し値は常に 0 です。 （ライト時）Set Global Power 全体電源モードのとき (Power Switching Mode = 0)、”1” を書き込むとすべてのポートに電源が投入されます（clear Port Power Status）。個別電源モードのとき、Port Power Control Mask ビット（HcRhDescriptorB レジスタのビット 31 ～ 16）がセットされていないポートのみ Port Power Status ビット（HcRhPortStatus レジスタのビット 8）がセットされます。”0” を書き込んでも変化しません。
15	DRWE	0	R/W	（リード時）Device Remove Wakeup Enable ポートの Connect Status Change をリモートウェイクアップイベントとして有効にします。 0：無効 1：有効 （ライト時）Set Remove Wakeup Enable ”1” を書き込むと Device Remote Wakeup Enable ビットをセットします。”0” を書き込んでも変化しません。
14 ～ 2	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
1	OCI	0	R	OverCurrent Indicator 本ビットは全体通知が導入されているときに過電流状態を通知します。 0：すべての電源は正常です。 1：過電流状態です。 個別ポート過電流保護が導入された場合、本ビットは常に”0”です。
0	LPS	0	R/W	（リード時）Local Power Status 本 LSI ではサポートしません。読み出し値は常に”0” です。 （ライト時）Clear Global Power 全体電源モードのとき (Power Switching Mode = 0)、”1” を書き込むとすべてのポートの電源が切れます（clear Port Power Status）。個別電源モードのとき、Port Power Control Mask ビット（HcRhDescriptorB レジスタのビット 31～16）がセットされていないポートのみ Port Power Status がクリアになります。”0” を書き込んでも変化しません。

(22) HcRhPortStatus レジスタ（HCRPSTS）

本レジスタはポートごとのイベントを通知し、制御するのに使用されます。

Number Downstream Ports はハードウェアに実装されている HcRhPortStatus レジスタの数を示します。SH7752 はポート 1 しか使用できませんので、HcRhPortStatus レジスタのみが有効です。下位ワードはポートの状態を反映するのに、上位ワードはステータスチェンジビットを反映するのに使用されます。一部のステータスビットは特定の書き込み特性を持って実装されます （以下参照）。チェンジポートステータスへの書き込み中にトランザクション（トークンからハンドシェークまで）が発生したときは、トランザクションが完了するまでポートステータスチェンジは延期します。リザーブビットへの書き込む値は常に”0”にしてください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	PRSC	OCIC	PSSC	PESC	CSC
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	LSDA	PPS	—	—	—	PRS	POCI	PSS	PES	CCS
初期値：	0	0	0	0	0	0	X	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～21	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
20	PRSC	0	R/W	Port Reset Status Change 10ms ポートリセット信号の出力完了でセットされます。“1” を書き込むとビットをクリアします。”0 “を書き込んでも変化しません。 0：ポートリセットは未完了です。 1：ポートリセットは完了しています。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
19	OCIC	0	R/W	Port OverCurrent Indicator Change 個別ポートベースで過電流状態が通知されたときに限り有効です。Over Current Indicator ビットが変化すると、このビットがセットされます。“1 “を書き込むとビットをクリアします。”0” を書き込んでも変化しません。 0：Port OverCurrent Indicatorは変更されていません。 1：Port OverCurrent Indicatorは変更されました。
18	PSSC	0	R/W	Port Suspend Status Change ポートのレジュームシーケンスが完了したことを示します。本シーケンスには20s レジュームパルス、LS EOP、3ms 再同期による遅延を含みます。”1” を書き込むとビットをクリアします。”0” を書き込んでも変化しません。Port Reset Status Changeがセットされても本ビットはクリアされます。 0：レジュームは未完了です。 1：レジュームは完了しています。
17	PESC	0	R/W	Port Enable Status Change ハードウェアのイベントにより、ポートが無効になっている（HcRhPortStatus レジスタのPort Enable Statusビットがクリアされている）ことを示します。変更しても本ビットはセットされません。”1” を書き込むとビットをクリアします。”0”を書き込んでも変化しません。 0：Port Enable Statusは変化していません。 1：Port Enable Statusが変化しています。
16	CSC	0	R/W	Connect Status Change 接続あるいは切断イベントが検出されたことを示します。”1” を書き込むとビットをクリアします。”0”を書き込んでも変化しません。Set Port Reset、Set Port Enable、Set Port Suspendの書き出し時にCurrent Connect Status がクリアになると強制的にドライバがセットされます。ポートが切断されたときにこれらの書き込みが発生しないので、接続状態を再評価するためです。 0：Current Connect Statusは変化していません。 1：Current Connect Statusは変化しています。 注．Device Removableビットがセットされると、デバイスが接続されたことをシステムに通知するために、本ビットはルートハブリセットの後にのみセットされます。
15～10	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
9	LSDA	X	R/W	（リード時）Low Speed Device Attached 接続されているデバイスのスピード（及びバスアイドル）を示します。セットされると、ロースピードデバイスがこのポートに接続されます。クリアになると、フルスピードデバイスがこのポートに接続されます。Current Connect Status ビットがセットされているときのみ有効です。 0：フルスピード 1：ロースピード （ライト時）Clear Port Power ”1” を書き込むとビットをクリアします。”0”を書き込んでも変化しません。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
8	PPS	0	R/W	（リード時）Port Power Status 電源切り替えモードにかかわらず、ポートの電源状態を示します。過電流状態が検出されると本ビットはクリアされます。本レジスタのSet Port Power又はSet Global Powerビット（HcRhStatus レジスタのビット16）に書き込むことでセットされます。本レジスタのClear Port Powerあるいは Clear Global Power（HcRhStatus レジスタのビット0）に書き込むことでクリアされます。どの電源スイッチが有効かどうかを決定するのは Power Switching Mode（HcRhDescriptiorA レジスタ8）と Port Power Control Mask（HcRhDescriptorB レジスタのビット31～16）です。全体電源モードでは （Power Switching Mode = 0)、Set/Clear Global Powerのみが本ビットを制御します。個別電源切り替えでは (Power Switching Mode = 1)、Port Power Control Maskビットがセットされると、Set/Clear Port Power コマンドのみが有効となります。マスクされていないときは Set/Clear Global Powerコマンドが有効になります。ポートパワーが無効になると、本レジスタのCurrent Connect Status、Port Enable Status、Port Suspend Status、Port Reset Statusがリセットされます。 0：ポートの電源はオフ。 1：ポートの電源はオン。 （ライト時）Set Port Power ”1”を書き込むと、Port Power Status ビットをセットします。”0”を書き込んでも変化しません。 注．No Power Switching ビット（HcRhDescriptiorA レジスタのビット9）がセットされていると、このビットの読み出し値は常に”1” です。
7～5	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
4	PRS	0	R/W	（リード時）Port Reset Status Set Port Resetに書き込んで本ビットがセットされると、ポートリセット信号がアサートされます。リセットが完了し、Port Reset Status Change がセットされるとクリアされます。Current Connect Statusがクリアされると本ビットはセットされません。 0：ポートリセット信号はアクティブではありません。 1：ポートリセット信号はアクティブです。 （ライト時）Set Port Reset ”1”を書き込むと、Port Reset Status ビットをセットします。”0”を書き込んでも変化しません。本レジスタのCurrent Connect Statusビットがクリアされると書き込みにより Port Reset Statusではなく Connect Status Changeビット（PORTSC レジスタのビット1）がセットされます。これは切断されたポートへポートリセット信号のアサートを試みているドライバに通知されます。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
3	POCI	0	R/W	（リード時）Port OverCurrent Indicator No Over Current Protection ビット（HcRhDescriptiorA レジスタのビット12）がクリアされ本レジスタのOver Current Protection Mode ビットがセットされているときのみ有効です。個別ポートの過電流通知がサポートされていないときは”0”になります。クリアされるとすべての電源動作は正常になります。セットされると、ポートに過電流状態が存在します。常に過電流入力信号が反映されます。 0：過電流状態は検出されていません。 1：過電流状態が検出されています。 （ライト時）Clear Suspend Status ”1” を書き込むと、対応するポートの選択的再開シーケンスを開始します。”0 ” を書き込んでも変化しません。Suspend Statusがセットされたときに限り、リセットが開始します。
2	PSS	0	R/W	（リード時）Port Suspend Status ポートが サスペンドあるいはレジュームシーケンスにあることを示します。本ビットはSet Suspend Stateの書き込みでセットされ、レジュームインターバルの終点で本レジスタのPort Suspend Status Changeがセットされるとクリアされます。本レジスタのCurrent Connect Statusビットがクリアされると本ビットがセットされません。また、Port Reset Status Change（HcRhPortStatus レジスタのビット20）がポートリセットの終点でセットされるか、HCがUSBレジュームクリアされます。アップストリームレジュームが進行中のときは、これがHCに伝えられます。 0：ポートは非サスペンド状態。 1：ポートはサスペンド状態。 （ライト時）Set Port Suspend ”1” を書き込むとビットをクリアします。”0” を書き込んでも変化しません。Current Connect Status ビットがクリアされると、書き込みによってPort Suspend Statusではなく本レジスタのConnect Status Changeがセットされます。これは切断されたポートへサスペンド信号のアサートを試みているドライバに通知されます。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
1	PES	0	R/W	（リード時）Port Enable Status ポートが有効か無効かを示します。過電流状態、切断時、電源オフ、パケットの混信のようなバス動作エラーが検出されたとき、ルートハブは本ビットをクリアにします。この変更によって、本レジスタのPort Enable Status Change もセットされます。本レジスタのSet Port Enableに書き込むことで本ビットがセットされ、Clear Port Enableに書き込むことでクリアされます。本レジスタのCurrent Connect Status がクリアされると本ビットはセットされません。また、このビットがセットされるのはReset Status Changeがセットされてポートのリセットが完了したときあるいはSuspend Status Changeがセットされてポートが一時停止したときです。 0：ポートは無効です。 1：ポートは有効です。 （ライト時）Set Port Enable ”1” を書き込むと、Port Enable Status ビットをセットします。”0” を書き込んでも変化しません。本レジスタのCurrent Connect Statusがクリアされると書き込みによってPort Enable Statusではなく本レジスタのConnect Status Changeがセットされます。これは切断されたポートへの通信を試みているドライバに通知されます。
0	CCS	0	R/W	（リード時）Current Connect Status 本ビットはダウンストリームポートの現在の状態を反映します。 0：デバイスが接続されていません。 1：デバイスが接続されています。 （ライト時）Clear Port Enable ”1” を書き込むとビットをクリアします。”0” を書き込んでも変化しません。Current Connect Statusは書き込んでも変化しません。 注. Device Removeable ビット（HcRhDescriptorB レジスタの15～0ビット）がセットされていると（取り外し不可）、このビットの読み出し値は常に”1” です。

32.5.4　パワーイネーブルコントロールレジスタ（OCPOWEN）

本レジスタは VBUS_EN 出力信号（VBUS 電源出力イネーブル）と VBUS_OC 入力信号（過電流通知）を制御します。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	OVER CRNT MASK	—	—	—	—	—	—	—	PWR _POL	—	—	—	PWR _CNTL
初期値：	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
R/W：	—	—	—	R/W	—	—	—	—	—	—	—	R/W	—	—	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 ～13	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
12	OVERCRNT_MASK	1	R/W	Over-Current Mask Control 0 :HCへの信号はマスクされません。 1 :HCへの信号はLレベルに固定されマスクされます（デフォルト）。
11 ～5	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
4	PWR_POL	0	R/W	Power Enable Signal Polarity Control 0 :Power control信号は反転せずに出力されます（デフォルト）。 1 :Power control 信号は反転後に出力されます。
3～1	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
0	PWR_CNTL	1	R/W	Power Enable Signal Output Control VBUS_EN 信号が出力できるように本ビットは入出力バッファを有効にします。 0 :PWR_POLビットから制御されるように、Power control信号はHCから出力されます。 1 : VBUS_EN 端子はHi-Z 出力状態になります（デフォルト）。

表32.4　IC電源イネーブル信号制御

PWR_CNTL	PWR_POL	VBUS_EN 端子
1	—	High-Z
0	0	HCからのPower control信号は反転せずに出力されます。
0	1	HCからのPower control 信号は反転後に出力されます。

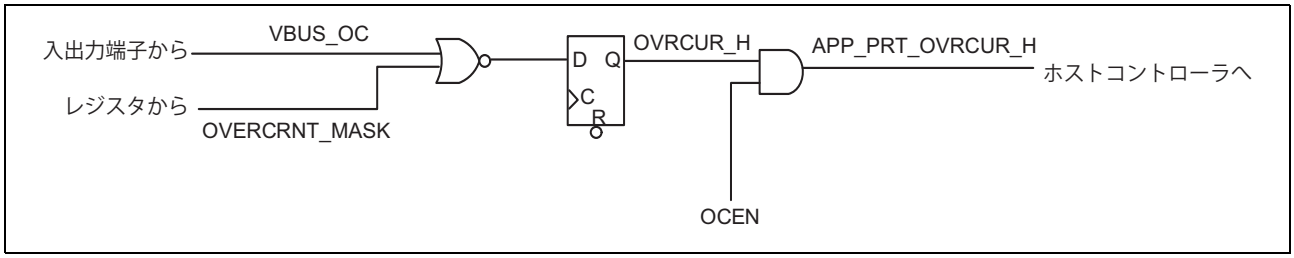


図 32.2　信号制御

32.5.5　過電流コントロールレジスタ（OCMSK）

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	OCEN
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 1	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
0	OCEN	0	R/W	Over-Current Notification Enable 本ビットは過電流信号をHCに通知するかどうかを決定します。 0 : 過電流信号はマスクされ、信号レベルは”0”に固定されます（デフォルト）。 1 : 過電流信号は有効です。

32.5.6　EHCI データアラインメントコントロールレジスタ（EHCIDATAC）

EHCI コントローラがメモリにアクセスするときに本レジスタは使用されているデータアラインメント法を制御します。これはUSB HCが開始される前にセットされる必要があります。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	DATA
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 17	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
16	DATA	1	R/W	Transfer Data Access用のData Alignment Control 0 : データは4バイトユニットに調整されます（リトルエンディアン用）。 1 : データは1バイトユニットに調整されます（ビッグエンディアン用）。
15 ～0	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

32.5.7　OHCI データアラインメントコントロールレジスタ（OHCIDATAC）

OHCI コントローラがメモリにアクセスするときに本レジスタは使用されているデータアラインメント法を制御します。これはUSB HCが開始される前にセットされる必要があります。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	DATA
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～17	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
16	DATA	1	R/W	Transfer Data Access用のData Alignment Control 0：データは4バイトユニットに調整されます（リトルエンディアン用）。 1：データは1バイトユニットに調整されます（ビッグエンディアン用）。
15～0	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

32.6　USB HCによるデータの格納

32.6.1　データの格納

USB HCはSH-4Aエンディアン設定に従って メモリを回復し、送信します。以下にUSBコントローラがデータをメモリから読み出す方法を示します。

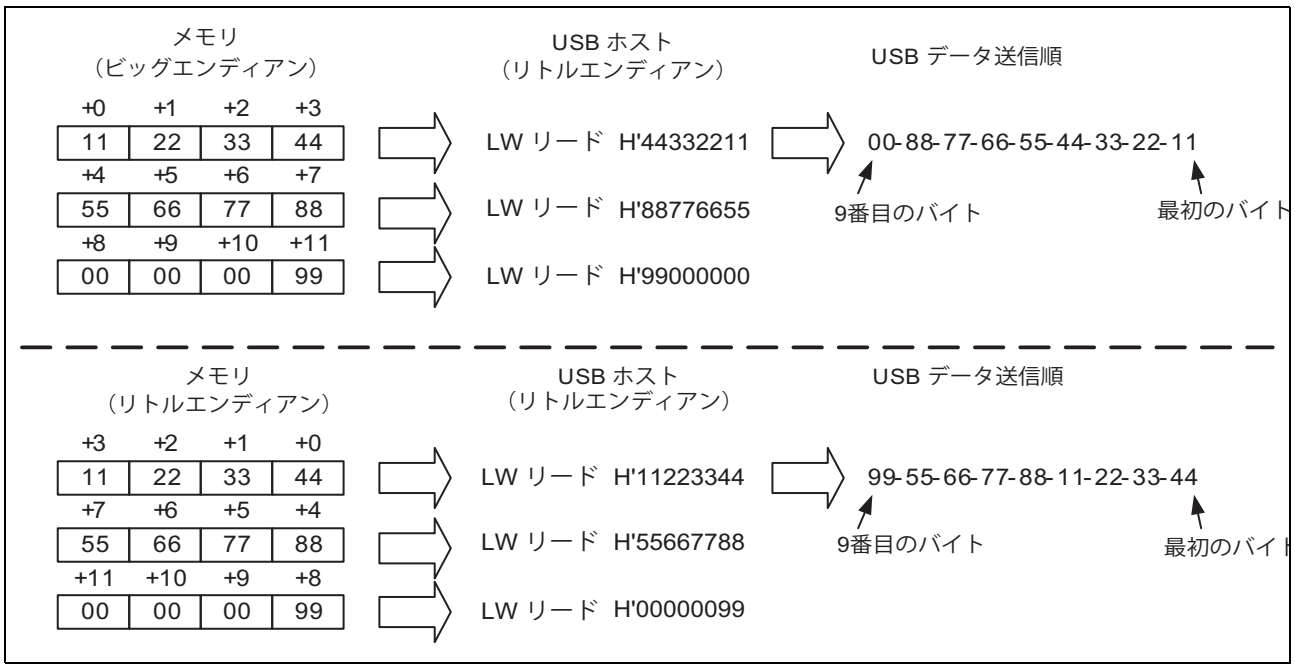


図 32.3　データの格納

ビッグエンディアンが SH-4A用にセットされると、図の上半分のようにデータが送信されます。リトルエンディアンがセットされると、図の下半分のようにデータが送信されます。両方とも送信例を示します。受信も同様に行われます。つまり、データがメモリに格納される前にエンディアンの転換が自動的に行われます。

32.6.2　ディスクリプタテーブルの格納

USB HCはUSBデータの送信で使用されたのとは異なる方法で送信を制御するのに使用されたディスクリプタテーブルを取り扱い、送信します。USB HC はリトルエンディアンが常にメモリ用にセットされていると仮定してメモリからディスクリプタテーブルを読み出します。つまり、対応する規格で定義されたメモリ上のEHCI/OHCI ディスクリプタテーブルを準備しておくことが必要だということです。

すべてのディスクリプタテーブルは 32 ビットでメモリにおいてはロングワードの境界で調整される必要があることに注意してください。

さらに、EHCI/OHCI 用のディスクリプタと送受信バッファも DDR メモリ用に調整されなければならないことに注意してください。ILRAM と外部SRAM用に調整することはできません。

33. CRC 演算器

CRC（Cyclic Redundancy Check）演算器は、データブロックの誤り検出を行います。

33.1 特長

- 8ビット単位の任意のデータ長に対してCRCコードを生成
- CRC演算は8ビットずつ並列に実行
- 生成多項式を3つの多項式から選択可能
- LSBファースト通信用CRCコード生成／MSBファースト通信用CRCコード生成の選択が可能

図33.1 にCRC 演算器のブロック図を示します。

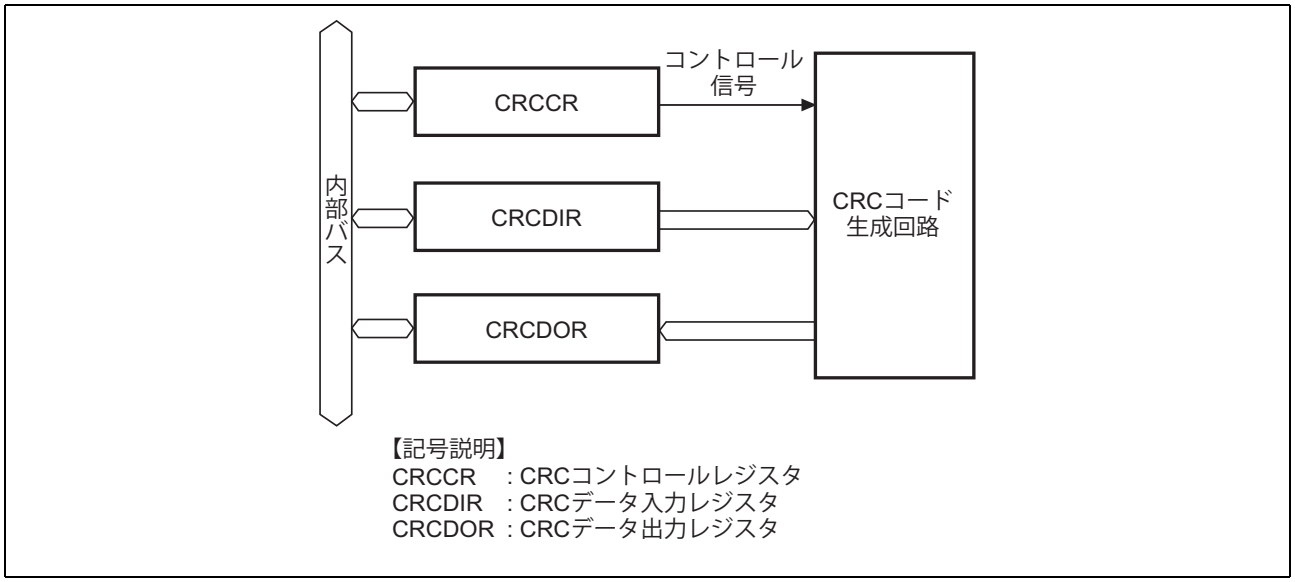


図 33.1 ブロック図

33.2 レジスタの説明

CRC 演算器のレジスタ構成を表33.1 に示します。

指定されたビット幅でレジスタにアクセスしてください。指定されたビット幅以外のサイズでレジスタにアクセスした場合、動作は保証できません。

表33.1 レジスタ構成

名 称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
					パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウェアリセット
CRC コントロールレジスタ	CRCCR	R/W	H'FFEB 0000	8	H'00	H'00	H'00
CRC データ入力レジスタ	CRCDIR	R/W	H'FFEB 0001	8	H'00	H'00	H'00
CRC データ出力レジスタ	CRCDOR	R/W	H'FFEB 0002	16	H'0000	H'0000	H'0000

33.2.1 CRCコントロールレジスタ（CRCCR）

CRCCR はCRC 演算器の初期化、演算切り替え、生成多項式を選択します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	DORCLR	—	—	—	—	LMS	G1	G0
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	W	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	DORCLR	0	W	CRCDOR クリア このビットに1を書くと、CRCDOR がH'0000 になります。 0を書いてもフラグは変化しません。
6 ～ 3	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
2	LMS	0	R/W	CRC 演算切り替え LSB ファースト通信用CRC コード生成か、MSB ファースト通信用CRC コード生成かを選択します。 0：LSB ファーストで通信する場合のCRC 演算を行います。CRCDOR の内容（CRC コード）を2 バイトに分けて送信する場合、下位バイト（ビット7～0）を先に送信します。 1：MSB ファーストで通信する場合のCRC 演算を行います。CRCDOR の内容（CRC コード）を2 バイトに分けて送信する場合、上位バイト（ビット15～8）を先に送信します。
1 0	G1 G0	0 0	R/W R/W	CRC 生成多項式切り替え 多項式を選択します。 00：選択禁止 01：$X^8 + X^2 + X + 1$ 10：$X^{16} + X^{15} + X^2 + 1$ 11：$X^{16} + X^{12} + X^5 + 1$

33.2.2 CRCデータ入力レジスタ（CRCDIR）

CRCDIR は8 ビットのリード／ライト可能なレジスタです。CRCDIR にCRC 演算対象のバイトを書き込むとCRCDOR に結果が得られます。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

33.2.3 CRCデータ出力レジスタ（CRCDOR）

CRCDOR は16 ビットのリード／ライト可能なレジスタです。CRCDOR クリア後、CRCDIR にCRC 演算対象のバイトを書き込むとCRCDOR に結果が得られます。CRC 演算対象のバイトにCRC 演算結果を追加して書き込んだ場合、CRC エラーがなければ結果はH'0000 になります。CRCCR レジスタの ビット1、0 をG1＝0、G0＝1 と指定した場合、下位バイトに結果が得られます。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

33.3 動作説明

CRC 演算器は、LSB ファースト／MSB ファースト通信用 CRC コードを生成します。以下に CRCCR の G1、G0 ビットを B'11 として $X^{16}+X^{12}+X^{5}+1$ の多項式を使用し、16 進数 H'F0 データについて CRC コードを生成する使用例を示します。

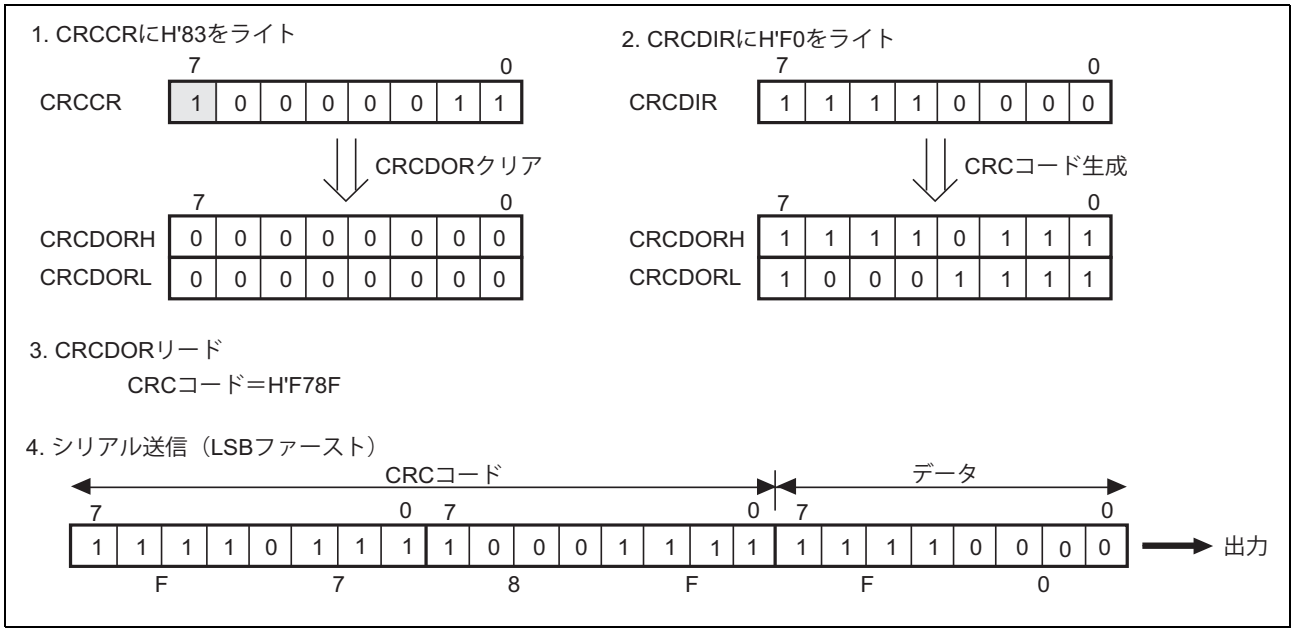


図 33.2 LSB ファーストでのデータ送信

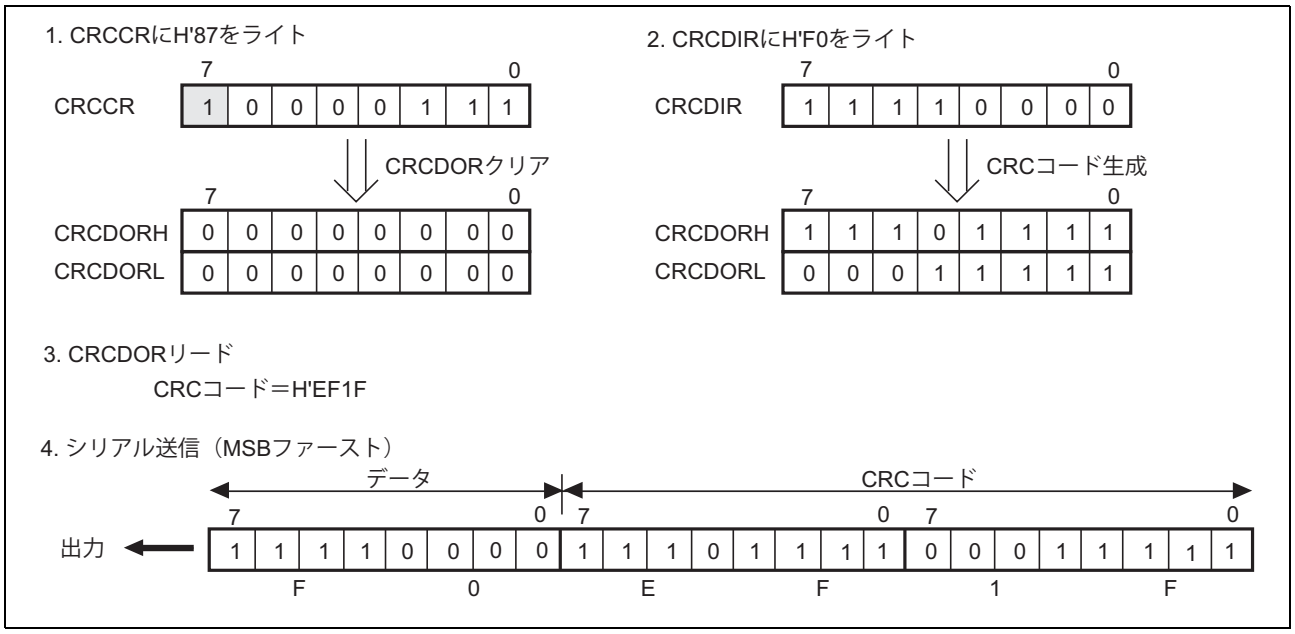


図 33.3 MSB ファーストでのデータ送信

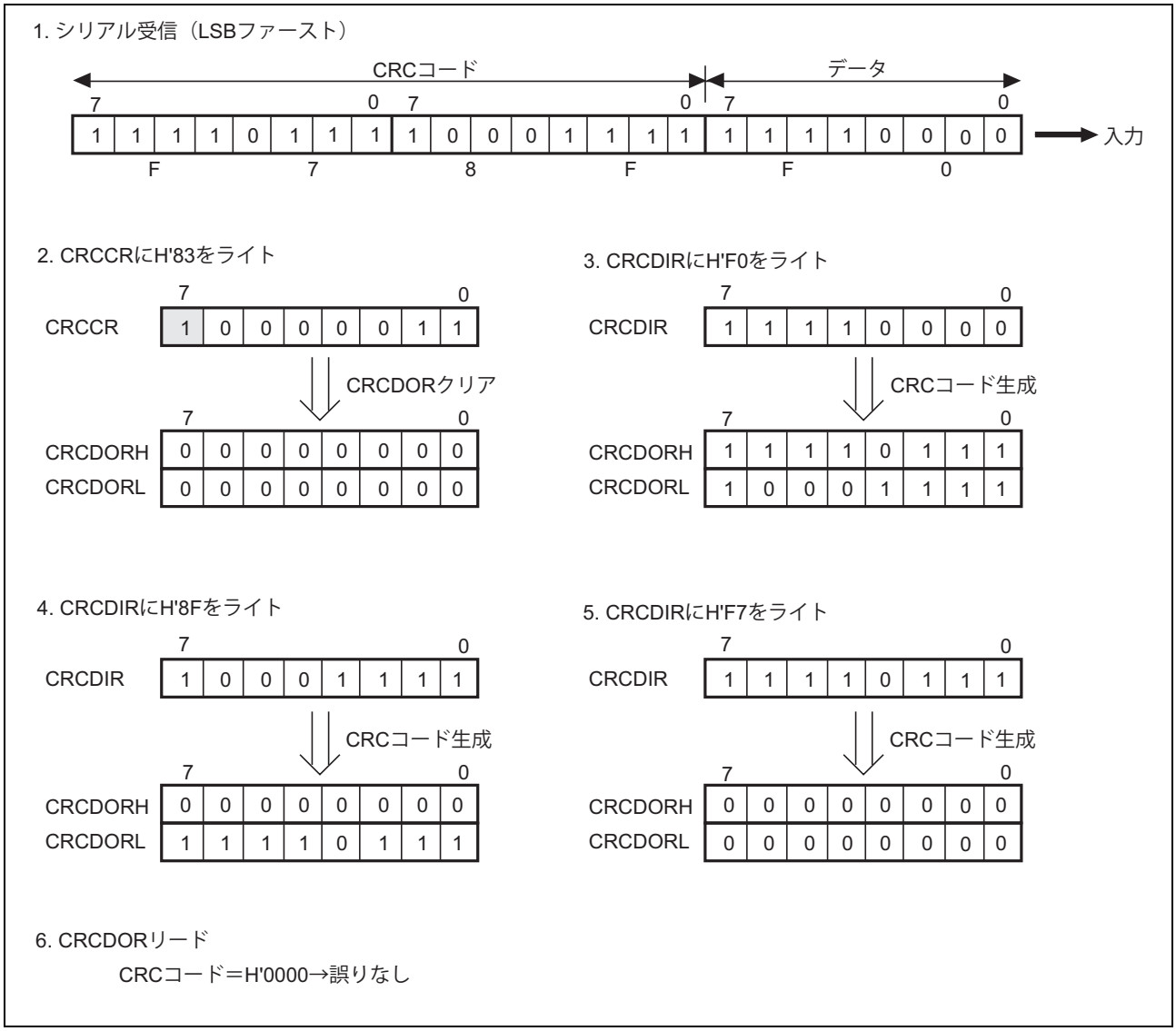


図 33.4 LSB ファーストでのデータ受信

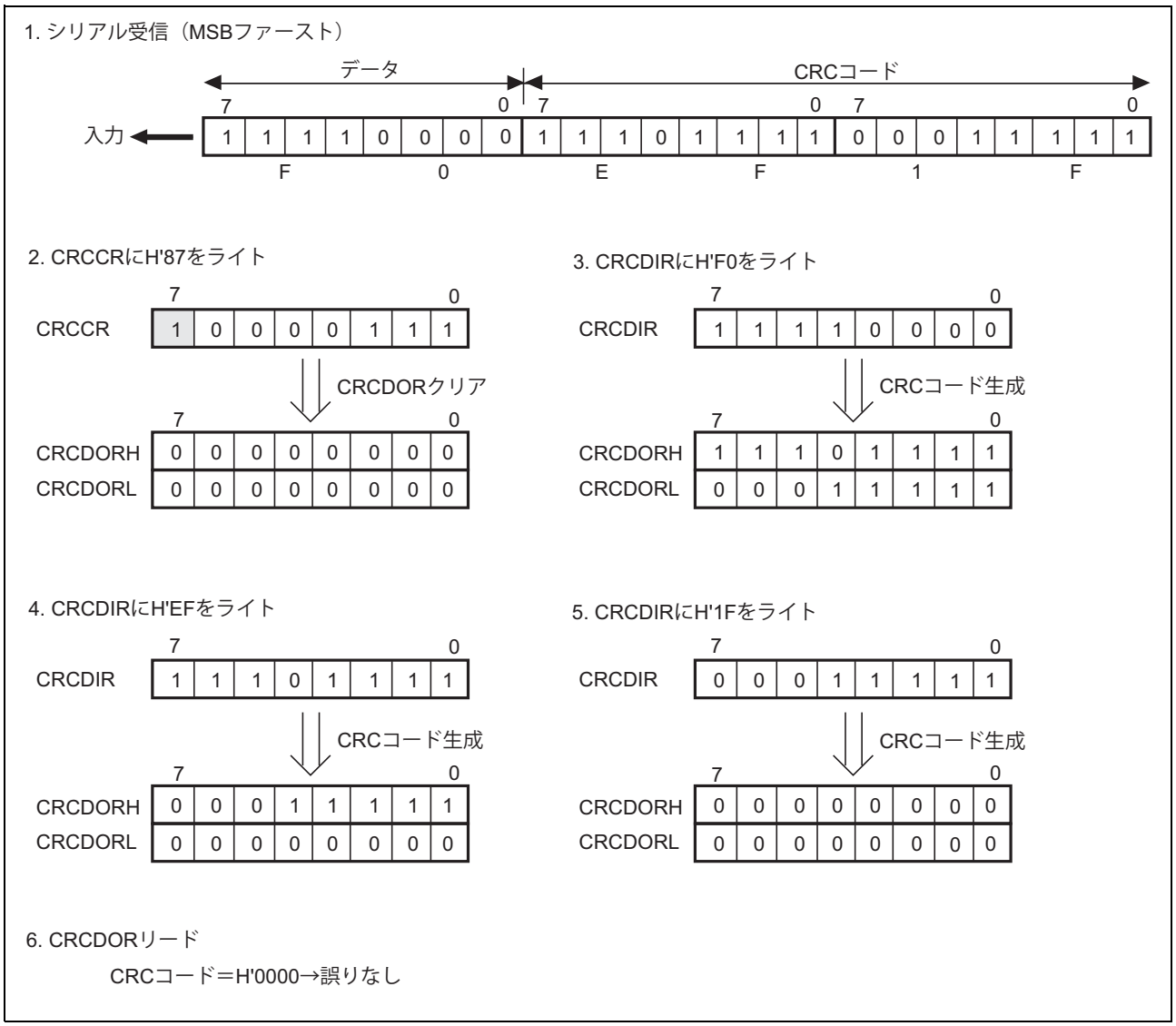


図 33.5 MSB ファーストでのデータ受信

33.4 使用上の注意事項

LSB ファーストで送信する場合と MSB ファーストで送信する場合とでは、CRC コードを送る順序が異なりますので、注意してください。

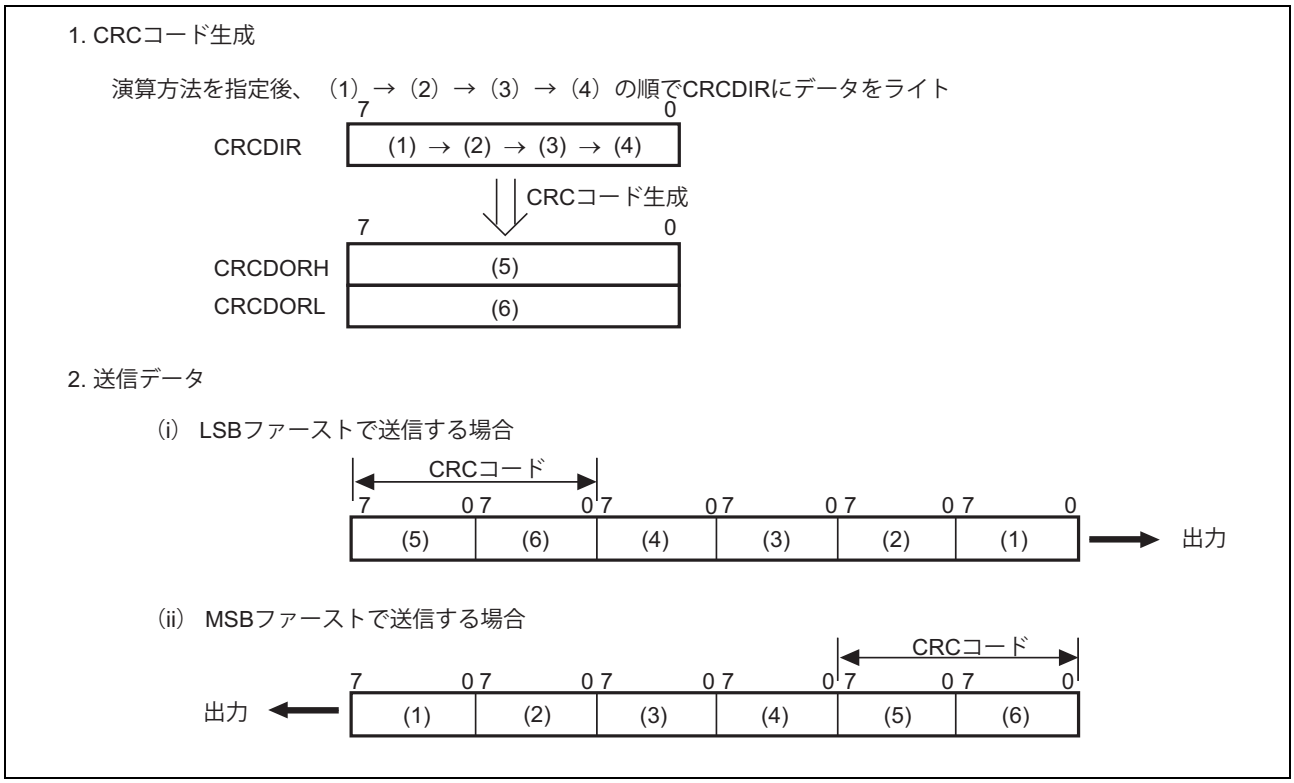


図 33.6 LSB ファーストと MSB ファーストの送信データ

34. ルネサスシリアルペリフェラルインタフェース（RSPI）

本LSIは、独立した1チャネルのルネサスシリアルペリフェラルインタフェース（RSPI）を備えています。RSPIは、全二重同期式のシリアル通信ができます。複数のプロセッサや周辺デバイスとの高速なシリアル通信機能を備えています。

34.1 特長

本LSIのRSPIには次のような特長があります。

1. RSPI転送機能
   - RSPI-MOSI（Master Out Slave In）、RSPI-MISO（Master In Slave Out）、RSPI-SSL0 / RSPI-SSL1（Slave Select）、RSPI-RSPCK（RSPI Clock）信号を使用して、SPI動作（4線式）／クロック同期式動作（3線式）でシリアル通信が可能。
   - 送信専用の動作が可能
   - マスタ／スレーブモードでのシリアル通信が可能。
   - モードフォルトエラー検出が可能。
   - オーバランエラー検出が可能。
   - シリアル転送クロックの極性を変更可能。
   - シリアル転送クロックの位相を変更可能。

2. データフォーマット
   - MSBファースト／LSBファーストの切り替え可能。
   - 転送ビット長を8、9、10、11、12、13、14、15、16、20、24、32ビットに変更可能。
   - 送信／受信バッファは128ビット。
   - 一度の送受信で最大4フレームを転送（1フレームは最大32ビット）。

3. バッファ構成
   - 送信／受信バッファ構成はダブルバッファ。

4. SSL制御機能
   - 2本のSSL信号(RSPI-SSL0、RSPI-SSL1)あり。
   - マスタ設定時には、RSPI-SSL0、RSPI-SSL1信号を出力。
   - スレーブ設定時には、RSPI-SSL0信号は入力、RSPI-SSL1信号はHi-Z。
   - SSL出力のアサートからRSPI-RSPCK動作までの遅延（RSPI-RSPCK遅延）を設定可能。
   - 設定範囲：1～8 RSPI-RSPCK。設定単位：1 RSPI-RSPCK
   - RSPI-RSPCK停止からSSL出力のネゲートまでの遅延（SSLネゲート遅延）を設定可能。
   - 設定範囲：1～8 RSPI-RSPCK。設定単位：1 RSPI-RSPCK
   - 次アクセスのSSL出力アサートのウェイト（次アクセス遅延）を設定可能。
   - 設定範囲：1～8 RSPI-RSPCK。設定単位：1RSPI-RSPCK
   - SSL極性変更機能。

5. マスタ転送時の制御方式
   - 最大8コマンドで構成された転送をシーケンシャルにループ実行可能。
   - 各コマンドに設定可能な項目は、以下のとおり。
   - SSL信号値、ビットレート、RSPI-RSPCK極性／位相、転送データ長、LSB/MSBファースト、バースト、RSPI-RSPCK遅延、SSLネゲート遅延、次アクセス遅延。
   - 送信バッファへのライトで転送を起動可能。
   - CPUによるSPTEFビットクリアで転送を起動可能。
   - SSLネゲート時のRSPI-MOSI信号値を設定可能。

6. 割り込み要因
   - マスカブルな割り込み要因あり。
   - RSPI受信割り込み（受信バッファフル）。
   - RSPI送信割り込み（送信バッファエンプティ）。

- RSPIエラー割り込み（モードフォルト、オーバラン）。
- RSPI アイドル割り込み（RSPI アイドル）

7. その他
- ループバックモードあり。
- RSPIディスエーブル（初期化）機能あり。

34.1.1　内部ブロック図

図34.1 にRSPI 内部ブロック図を示します。

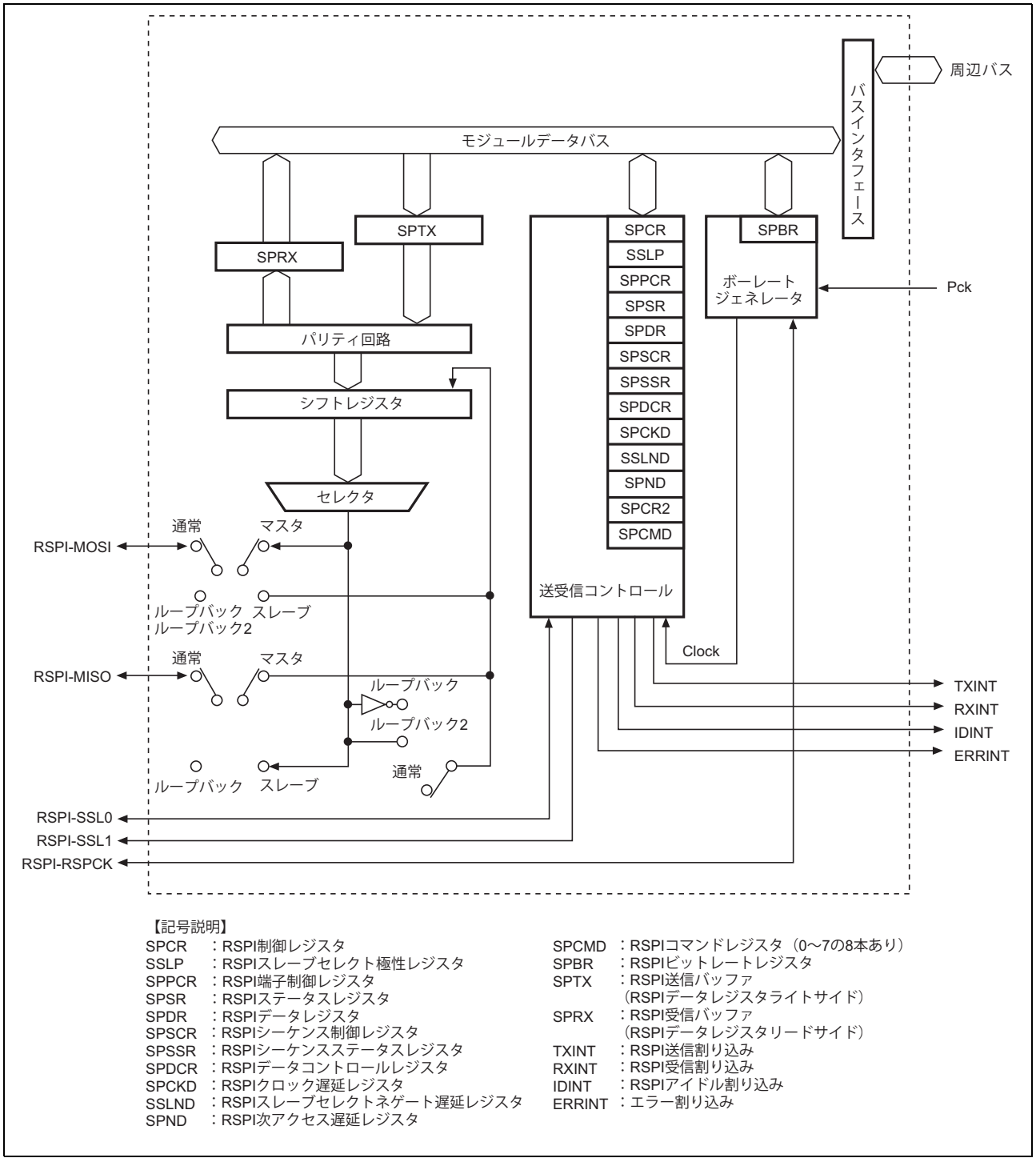


図 34.1　RSPI のブロック図

34.2　入出力端子

RSPI は、34.1 に示すシリアル端子を持っています。RSPI-SSL0 端子の入出力方向は、シングルマスタ設定の場合には出力、スレーブ設定の場合には入力に RSPI が自動的に切り替えます。RSPI-RSPCK、RSPI-MOSI、RSPI-MISO の入出力方向は、マスタ／スレーブ設定と RSPI-SSL0 入力レベルに応じて、RSPI が自動的に切り替えます（「34.4.2 RSPI 端子の制御」を参照）。

表 34.1　端子構成

名称	端子名	入出力	機能
RSPI クロック端子	RSPI-RSPCK	入出力	RSPIのクロック入出力
マスタ送出データ端子	RSPI-MOSI	入出力	RSPIのマスタ送出データ
スレーブ送出データ端子	RSPI-MISO	入出力	RSPIのスレーブ送出データ
スレーブセレクト0 端子	RSPI-SSL0	入出力	RSPIのスレーブセレクト
スレーブセレクト1 端子	RSPI-SSL1	出力	RSPIのスレーブセレクト

34.3 レジスタの説明

RSPI には、表34.2 に示す内部レジスタがあります。これらのレジスタにより、マスタ／スレーブモードの指定、転送フォーマットの指定、及び送信部／受信部の制御を行うことができます。

表34.2　レジスタ構成

名称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
					パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウェアリセット
RSPI 制御レジスタ	SPCR	R/W	H'FE48 0000	8	H'00	H'00	H'00
RSPI スレーブセレクト極性レジスタ	SSLP	R/W	H'FE48 0001	8	H'00	H'00	H'00
RSPI 端子制御レジスタ	SPPCR	R/W	H'FE48 0002	8	H'00	H'00	H'00
RSPI ステータスレジスタ	SPSR	R/W	H'FE48 0003	8	H'20	H'20	H'20
RSPI データレジスタ	SPDR	R/W	H'FE48 0004	16、32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
RSPI シークエンス制御レジスタ	SPSCR	R/W	H'FE48 0008	8	H'00	H'00	H'00
RSPI シークエンスステータスレジスタ	SPSSR	R	H'FE48 0009	8	H'00	H'00	H'00
RSPI ビットレートレジスタ	SPBR	R/W	H'FE48 000A	8	H'FF	H'FF	H'FF
RSPI データ制御レジスタ	SPDCR	R/W	H'FE48 000B	8	H'00	H'00	H'00
RSPI クロック遅延レジスタ	SPCKD	R/W	H'FE48 000C	8	H'00	H'00	H'00
RSPI スレーブセレクトネゲート遅延レジスタ	SSLND	R/W	H'FE48 000D	8	H'00	H'00	H'00
RSPI 次アクセス遅延レジスタ	SPND	R/W	H'FE48 000E	8	H'00	H'00	H'00
RSPI 制御レジスタ 2	SPCR2	R/W	H'FE48 000F	8	H'00	H'00	H'00
RSPI コマンドレジスタ 0	SPCMD0	R/W	H'FE48 0010	16	H'070D	H'070D	H'070D
RSPI コマンドレジスタ 1	SPCMD1	R/W	H'FE48 0012	16	H'070D	H'070D	H'070D
RSPI コマンドレジスタ 2	SPCMD2	R/W	H'FE48 0014	16	H'070D	H'070D	H'070D
RSPI コマンドレジスタ 3	SPCMD3	R/W	H'FE48 0016	16	H'070D	H'070D	H'070D
RSPI コマンドレジスタ 4	SPCMD4	R/W	H'FE48 0018	16	H'070D	H'070D	H'070D
RSPI コマンドレジスタ 5	SPCMD5	R/W	H'FE48 001A	16	H'070D	H'070D	H'070D
RSPI コマンドレジスタ 6	SPCMD6	R/W	H'FE48 001C	16	H'070D	H'070D	H'070D
RSPI コマンドレジスタ 7	SPCMD7	R/W	H'FE48 001E	16	H'070D	H'070D	H'070D

34.3.1 RSPI 制御レジスタ（SPCR）

SPCR は、RSPI の動作モードを設定するためのレジスタです。SPCR は、常にCPU による読み出し／書き込みが可能です。SPE ビットが 1 で RSPI 機能がイネーブルである状態において MSTR ビット、MODFEN ビット、TXMD ビットの設定値を変更した場合には、以降の動作は保証されません。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	RXINTE	SPE	TXINTE	ERRINTE	MSTR	MODFEN	TXMD	SPMS
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	RXINTE	0	R/W	RSPI 受信割り込みイネーブル RSPI がシリアル転送完了後の受信バッファ書き込みを検出し、SPRF ビット（RSPI ステータスレジスタ（SPSR）のビット7）を1 にした場合のRSPI 受信割り込み要求の発生を許可／禁止するためのビットです。 0：RSPI 受信割り込み要求の発生を禁止する 1：RSPI 受信割り込み要求の発生を許可する
6	SPE	0	R/W	RSPI 機能イネーブル 本ビットを1 にすることにより、RSPI 機能が有効になります。MODF ビット（RSPI ステータスレジスタ（SPSR）のビット2）が1 の場合には、SPE ビットを1 に設定することはできません（「34.4.8 エラー検出」を参照）。SPE ビットを0 にすると、RSPI 機能は無効化されて、モジュール機能の一部が初期化されます（「34.4.9 RSPI の初期化」を参照）。 0：RSPI 機能を無効化する 1：RSPI 機能を有効化する
5	TXINTE	0	R/W	RSPI 送信割り込みイネーブル RSPI が送信バッファエンプティを検出し、SPTEF ビット（RSPI ステータスレジスタ（SPSR）のビット5）を1 にした場合のRSPI 送信割り込み要求の発生を許可／禁止するためのビットです。 RSPI ディスエーブル（SPE ビットが0）の状態では、SPTEF ビットが1 になります。このため、RSPI ディスエーブル状態でTXINTE を1 に設定すると、RSPI 送信割り込み要求が発生することに注意してください。 0：RSPI 送信割り込み要求の発生を禁止する 1：RSPI 送信割り込み要求の発生を許可する
4	ERRINTE	0	R/W	RSPI エラー割り込みイネーブル RSPI がモードフォルトエラーを検出してMODF ビット（RSPI ステータスレジスタ（SPSR）のビット2）を1 にした場合、又はRSPI がオーバランエラーを検出してSPSR のOVRF ビットを1 にした場合のRSPI エラー割り込み要求の発生を許可／禁止するためのビットです（「34.4.8 エラー検出」を参照）。 0：RSPI エラー割り込み要求の発生を禁止する 1：RSPI エラー割り込み要求の発生を許可する

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
3	MSTR	0	R/W	RSPI マスタ／スレーブモード選択 RSPI のマスタ／スレーブモードを選択するためのビットです。また、RSPIはMSTR ビットの設定に従って、RSPI-RSPCK、RSPI-MOSI、RSPI-MISO、RSPI-SSL1端子の方向を決定します。 0：スレーブモード 1：マスタモード
2	MODFEN	0	R/W	モードフォルトエラー検出イネーブル モードフォルトエラーの検出を許可／禁止するためのビットです（「34.4.8 エラー検出」を参照）。また、RSPI はMODFEN ビットとMSTR ビットとの組み合わせに従って、RSPI-SSL0 端子の入出力方向を決定します（「34.4.2 RSPI 端子の制御」を参照）。 0：モードフォルトエラー検出を禁止する 1：モードフォルトエラー検出を許可する
1	TXMD	0	R/W	通信動作モード選択 全二重同期式のシリアル通信か送信専用の動作を選択するためのビットです。TXMD ビットに 1 を書き込んで通信を行う場合、送信のみ行い受信を行いません（「34.4.6 通信動作モード」を参照してください）。 TXMD ビットに 1 を書き込むと、受信バッファフルの割り込み要求を発生しません。 0：全二重同期式のシリアル通信可能 1：送信専用の動作が可能
0	SPMS	0	R/W	RSPI モード選択ビット SPI 動作（4 線式）／クロック同期式動作（3 線式）を選択するためのビットです。 クロック同期式動作を行う場合はSSL 端子を使用せず、RSPI-RSPCK端子、RSPI-MOSI端子、RSPI-MISO 端子の3 端子を用いて通信を行います。マスタモード（MSTR = 1）でクロック同期式動作を実施する場合、RSPI コマンドレジスタ（SPCMD）のCPHA ビットに 0 か 1 を書きます。スレーブモード（MSTR = 0）でクロック同期式動作を実施する場合、CPHA ビットに 1 を書いてください。CPHA ビットに 0 を書き込んだ場合の動作は保証しません。 0：SPI 動作（4 線式） 1：クロック同期式動作

34.3.2　RSPI スレーブセレクト極性レジスタ（SSLP）

SSLP は、RSPI のRSPI-SSL0、RSPI-SSL1信号の極性を設定するためのレジスタです。SSLP は、常にCPU による読み出し／書き込みが可能です。RSPI 制御レジスタ（SPCR）のSPE ビットが1 でRSPI 機能がイネーブルである状態において、CPU がSSLP を書き換えた場合には、以降の動作は保証されません。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	SSL1P	SSL0P
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7～2	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
1	SSL1P	0	R/W	SSL 信号極性設定ビット SSL 信号の極性を設定するためのビットです。SSLiP（i = 1、0）の設定値が、SSLi 信号のアクティブ極性を示します。 0：SSLi 信号は0 アクティブ 1：SSLi 信号は1 アクティブ
0	SSL0P	0	R/W	

34.3.3 RSPI 端子制御レジスタ（SPPCR）

SPPCR は、RSPI の端子モードを設定するために使用されるレジスタです。SPPCR は、常にCPU による読み出し／書き込みが可能です。SPE ビット（RSPI 制御レジスタ（SPCR）のビット 6）が 1 で RSPI 機能がイネーブルである状態において、CPU が SPPCR を書き換えた場合には、以降の動作は保証されません。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	MOIFE	MOIFV	—	—	SPLP2	SPLP
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	R/W	R/W	—	—	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7、6	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
5	MOIFE	0	R/W	RSPI-MOSI アイドル値固定イネーブル マスタモードのRSPI が、SSL ネゲート期間（バースト転送におけるSSL 保持期間を含む）にRSPI-MOSI 出力値を固定するために使用するビットです。MOIFE が0 の場合には、RSPI はSSL ネゲート期間中に前回のシリアル転送の最終データをRSPI-MOSI に出力します。MOIFE が1 の場合には、RSPI はMOIFV ビットに設定された固定値をRSPI-MOSI に出力します。 0：RSPI-MOSI 出力値は前回転送の最終データ 1：RSPI-MOSI 出力値はMOIFV ビットの設定値
4	MOIFV	0	R/W	RSPI-MOSI アイドル固定値 マスタモードでMOIFE ビットが1 の場合には、RSPI はMOIFV ビットの設定に従って、SSL ネゲート期間（バースト転送におけるSSL 保持期間を含む）のRSPI-MOSI信号値を決定します。 0：RSPI-MOSI アイドル固定値は0 1：RSPI-MOSI アイドル固定値は1
3、2	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
1	SPLP2	0	R/W	RSPI ループバック2 SPLP2 ビットを1 にすると、RSPI はRSPI-MISO 端子とシフトレジスタ間、RSPI-MOSI 端子とシフトレジスタ間の経路を遮断し、シフトレジスタの入力経路と出力経路を接続します。（ループバックモード） 0：通常モード 1：ループバックモード（送信データ=受信データ）
0	SPLP	0	R/W	RSPI ループバック SPLP ビットを1 にすると、RSPI はRSPI-MISO 端子とシフトレジスタ間、RSPI-MOSI 端子とシフトレジスタ間の経路を遮断し、シフトレジスタの入力経路と出力経路（反転）を接続します。（ループバックモード） 0：通常モード 1：ループバックモード（送信データの反転=受信データ）

34.3.4 RSPI ステータスレジスタ（SPSR）

SPSR は、RSPI の動作状態を示すフラグを格納したレジスタです。SPSR は、常にCPU による読み出しが可能です。CPU からSPSR への書き込みは、一定条件下においてのみ有効です。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	SPRF	—	SPTEF	—	PERF	MODF	IDLNF	OVRF
初期値：	0	0	1	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	—	R/W	—	R/W	R/W	R	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	SPRF	0	R/W	RSPI 受信バッファフルフラグ RSPI データレジスタ（SPDR）の受信バッファの状態を示すビットです。通信動作モード選択ビット（TXMD）（RSPI 制御レジスタ（SPCR）のビット1）が 0 で、かつSPRF ビットが 1 の状態でシリアル転送が終了すると、RSPI はシフトレジスタからSPDR に受信データを転送して、このビットを1 にします。また、RSPI はTXMD ビットが 0 のとき、全二重同期式のシリアル通信を行いますので、送信データの最後尾ビットの送信時でもあります。 【クリア条件】 • SPRF＝1 の状態を読み出した後、SPRF に0 を書き込んだとき • 受信データをSPDR からリードしたとき • システムリセット SPRF ビットが1 の状態でシリアル転送が終了した場合には、RSPI はシフトレジスタからSPDR に受信データを転送しません。OVRF ビット（SPSR レジスタの0）が1 の状態では、SPRF ビットを0 から1 に変更することができません（「34.4.8 エラー検出」を参照）。 0：SPDR に有効な受信データなし 1：SPDR に有効な受信データあり
6	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
5	SPTEF	1	R/W	RSPI 送信バッファエンプティフラグ RSPI データレジスタ（SPDR）の送信バッファの状態を示すビットです。RSPI 初期化後、又は送信データを送信バッファからシフトレジスタへ転送後に、RSPIは本ビットを 1 にします。SPTEF ビットが 0 の状態で、かつシフトレジスタが空の場合、送信バッファからシフトレジスタへデータをコピーします。 【クリア条件】 • SPTEF ＝1 の状態を読み出した後、SPTEFに0 を書き込んだとき • 送信データをSPDR から書き込んだとき SPTEF = 1 の状態のみ SPDR にデータを書き込めます。SPTEF = 0 の状態で、SPDR の送信バッファにデータを書き込んだ場合、送信バッファのデータを更新しません。 0：送信バッファのデータあり 1：送信バッファのデータなし

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
4	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
3	PERF	0	R/W	パリティエラーフラグ パリティエラーの発生状況を示すビットです。SPCR レジスタの TXMD ビットが 0 の状態、又はSPPE ビット（SPCR2 レジスタのビット0）が 1の状態でシリアル転送を終了すると、RSPIはパリティエラーを検出し PERF ビットを 1 にします。 【クリア条件】 • PERF＝1 の状態を読み出した後、PERF に0 を書き込んだとき • システムリセット 0：パリティエラーなし 1：パリティエラー発生
2	MODF	0	R/W	モードフォルトエラーフラグ モードフォルトエラーの発生状況を示すビットです。MSTR = 0 で MODFEN ビット（SPCR レジスタのビット2）を 1 にすると、スレーブモードの場合にデータ転送に必要なRSPI-RSPCK サイクルが終了する前にRSPI-SSL0 端子をネゲートし、モードフォルトエラーを検出します。RSPI-SSL0 信号のアクティブレベルは、RSPI スレーブセレクト極性レジスタ（SSLP）のSSL0P ビットによって決定します。 【クリア条件】 • MODF＝1 の状態を読み出した後、MODF に0 を書き込んだとき • システムリセット 0：モードフォルトエラーなし 1：モードフォルトエラー発生
1	IDLNF	0	R	RSPI アイドルフラグ RSPI の転送状況を示すビットです。マスタモード時、SPTEF ビット（SPSR レジスタのビット5）が1 の状態で、SPE ビット（SPCR レジスタのビット6）が 000 （シーケンスの開始時）の場合、次のデータを準備しないので、RSPI は転送を実施しません。したがって、IDLNF ビットは 0 になります。 マスタモード時とスレーブモード時ともに、SPCR レジスタの SPE ビットが 0 （RSPI 機能無効）の場合、本ビットは 0 になります。 【クリア条件】 • マスタモード時 • SPCR レジスタのSPI ビットが 0 （RSPI 初期化） 【セット条件】 • 以下の条件をすべて満たした時 -SPSR レジスタのSPTEF ビットが 1 （次のデータを準備しない） -SPSSR のSPCP ビットが 000 （ループ状態時にトップコマンドポインタでシーケンス制御） -RSPI 内部シーケンサがアイドル状態へ遷移 （次アクセス遅延を完了するまで動作） 【クリア条件】 • スレーブ時 SPCR レジスタのSPE ビットが 0（RSPI 初期化） SPE ビットを 1 にすると、IDLNF ビットは 1 になります。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
0	OVRF	0	R/W	オーバランエラーフラグ オーバランエラーの発生状況を示すビットです。通信動作モード選択ビット（TXMD）（RSPI 制御レジスタ（SPCR）のビット1）が 0 の状態で、SPRF ビット（SPSR レジスタのビット7）が 1 の場合、シリアル転送を終了するとRSPI はオーバランエラーを検出し、OVRF ビットを 1 にします。 【クリア条件】 • OVRF＝1 の状態を読み出した後、OVRF に0 を書き込んだとき • システムリセット 0：オーバランエラーなし 1：オーバランエラー発生

注.　フラグをクリアするため1 を読み出した後に0 を書き込むことのみ可能です。

34.3.5　RSPI データレジスタ（SPDR）

SPDR は、RSPI 送受信用のデータを格納するバッファです。

送信用バッファ（SPTX）と受信用バッファ（SPRX）は独立したバッファで、これらのバッファが SPDR にマッピングされています。

SPDR へのリード／ライトは、RSPI データコントロールレジスタ（SPDCR）の RSPI ロングワードアクセス／ワードアクセス設定ビット（SPLW）の設定によって、ワード／ロングワードで行ってください。SPLW が 0 のとき、SPDR は、64 ビットのバッファで最大 16 ビットの 4 フレームから構成され、SPLW が 1 のとき、SPDR は、128 ビットのバッファで最大32 ビットの4 フレームから構成されます。

SPDR の使用するフレーム長はRSPI データコントロールレジスタ（SPDCR）のフレーム数設定ビット（SPFC1 ～ SPFC0）によって決定され、使用するビット長は RSPI コマンドレジスタ（SPCMD）の RSPI データ長設定ビット（SPB3～0）によって決定されます。

SPDR への書き込みを要求した場合には、RSPI ステータスレジスタ（SPSR）の SPTEF ビットが 1 にされていれば、RSPI が SPDR の送信バッファにデータを書き込みます。SPTEF ビットが 0 の状態では、RSPI はSPDR の送信バッファを更新しません。

SPDR からの読み出しを要求した場合には、RSPI データコントロールレジスタ（SPDCR）の RSPI 受信／送信データ選択ビット（SPRDTD）が 0 であれば、受信バッファを読み出し、1 であれば送信バッファを読み出します。

送信バッファを読み出す場合には、直前に書き込んだ値が読み出されます。また、RSPI ステータスレジスタ（SPSR）のSPTEF ビットが0 の状態では、送信バッファを読み出しません。

通常の使用方法では、SPRDTD を0 とし、SPSR のSPRF ビットの1 状態（受信バッファに未リードのデータが格納された状態）で、受信バッファ読み出しを実行します。SPSR の SPRF ビット又はOVRF ビットが1 の状態では、RSPI はシリアル転送終了時にSPDR の受信バッファを更新しません。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	SPD31	SPD30	SPD29	SPD28	SPD27	SPD26	SPD25	SPD24	SPD23	SPD22	SPD21	SPD20	SPD19	SPD18	SPD17	SPD16
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	SPD15	SPD14	SPD13	SPD12	SPD11	SPD10	SPD9	SPD8	SPD7	SPD6	SPD5	SPD4	SPD3	SPD2	SPD1	SPD0
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

34.3.6 RSPI シーケンス制御レジスタ（SPSCR）

SPSCR は、RSPI がマスタ動作する場合のシーケンス制御方式を設定するためのレジスタです。SPSCR は、常に CPU による読み出し／書き込みが可能です。RSPI 制御レジスタ（SPCR）の MSTR ビットと SPE ビットが 1 で、マスタモードの RSPI 機能がイネーブルである状態において、CPU が SPSCR を書き換えた場合には、以降の動作は保証されません。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	SPSLN2	SPSLN1	SPSLN0
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7～3	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
2～0	SPSLN2～SPSLN0	0	R/W	RSPI シーケンス長設定 マスタモードの RSPI がシーケンス動作を行う場合のシーケンス長を設定するためのビットです。マスタモードの RSPI は SPSLN2～SPSLN0 ビットに設定し、シーケンス長に応じて、参照する RSPI コマンドレジスタ 0～7（SPCMD0～7）と参照順を変更します。 なお、SPSLN2～SPSLN0 ビットの設定、シーケンス長、参照する RSPI コマンドレジスタ 0～7（SPCMD0～7）の関係は以下のとおりです。 スレーブモードの RSPI では、常に SPCMD0 を参照します。 シーケンス長　参照する SPCMD レジスタ（番号） 000　1　0 → 0 → … 001　2　0 → 1 → 0 → … 010　3　0 → 1 → 2 → 0 → … 011　4　0 → 1 → 2 → 3 → 0 → … 100　5　0 → 1 → 2 → 3 → 4 → 0 → … 101　6　0 → 1 → 2 → 3 → 4 → 5 → 0 → … 110　7　0 → 1 → 2 → 3 → 4 → 5 → 6 → 0 → … 111　8　0 → 1 → 2 → 3 → 4 → 5 → 6 → 7 → 0 → …

34.3.7　RSPI シーケンスステータスレジスタ（SPSSR）

SPSSR は、RSPI がマスタ動作する場合のシーケンス制御の状態を示すレジスタです。SPSSR は、常にCPU による読み出しが可能です。CPU からSPSSR への書き込みは無視されます。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	SPECM2	SPECM1	SPECM0	—	SPCP2	SPCP1	SPCP0
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	R	R	R	—	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
6～4	SPECM2～SPECM0	0	R	RSPI エラーコマンド RSPI のシーケンス制御で、エラー検出時にコマンドポインタ（SPCP2～SPCP0 ビット）で指されていたRSPI コマンドレジスタ0～7（SPCMD0～SPCMD7）を示すビットです。RSPI はエラー検出時のみ、SPECM2～SPECM0 ビットを更新します。RSPI ステータスレジスタ（SPSR）のOVRF ビットとMODF ビットがともに0 で、エラーが発生していない場合には、SPECM2～SPECM0 の値には意味がありません。なお、SPECM2～SPECM0 ビットと SPCMD0～SPCMD7の設定の関係は以下のとおりです。 また、RSPI のエラー検出機能については、「34.4.8 エラー検出」を参照してください。また、RSPI のシーケンス制御については、「34.4.10 SPI動作」を参照してください。 (1)マスタモード動作 000：SPCMD0 001：SPCMD1 010：SPCMD2 011：SPCMD3 100：SPCMD4 101：SPCMD5 110：SPCMD6 111：SPCMD7
3	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
2～0	SPCP2～SPCP0	0	R	RSPI コマンドポインタ RSPI のシーケンス制御で、現在ポインタで指されているRSPIコマンドレジスタ0～7（SPCMD0～SPCMD7）を示すビットです。なお、SPCP2～SPCP0 ビットと SPCMD0～SPCMD7の設定の関係は以下のとおりです。 また、RSPI のシーケンス制御については、「34.4.10 SPI動作」を参照してください。 (1)マスタモード動作 000：SPCMD0 001：SPCMD1 010：SPCMD2 011：SPCMD3 100：SPCMD4 101：SPCMD5 110：SPCMD6 111：SPCMD7

34.3.8　RSPI ビットレートレジスタ（SPBR）

SPBR は、マスタモード時のビットレート設定に使用するレジスタです。SPBR は、常に CPU による読み出し／書き込みが可能です。のMSTR ビット（RSPI 制御レジスタ（SPCR）のビット3）とSPE ビット（同ビット6）が1 で、マスタモードのRSPI機能がイネーブルである状態において、CPU がSPBR を書き換えた場合には、以降の動作は保証されません。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	SPR7	SPR6	SPR5	SPR4	SPR3	SPR2	SPR1	SPR0
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

RSPI をスレーブモードで使用する場合には、SPBR、BRDV の設定に関係なく、入力クロックのビットレートに依存します。

ビットレートはSPBR の設定値とRSPI コマンドレジスタ（SPCMD0～7）のBRDV1～0 ビットの設定値の組み合わせで決定されます。ビットレートの計算式は下記のとおりです。計算式中でn はSPBR の設定値（0、1、2、…、255）、N はBRDV1～0 ビットの設定値（0、1、2、3）です。

$$\text{ビットレート} = \frac{f\,(Pck)}{2 \times (n + 1) \times 2^{N}}$$

SPBR レジスタ、BRDV[1:0]ビットの設定値とビットレートの関係の例を表34.3 に示します。

表34.3　SPBR レジスタ、BRDV[1:0]ビットの設定値とビットレート

SPBRの設定値（n）	BRDV[1:0]の設定値（N）	分周比	ビットレート
			Pck = 48 MHz
0	0	2	24.0 Mbps
1	0	4	12.0 Mbps
2	0	6	8.00 Mbps
3	0	8	6.00 Mbps
4	0	10	4.80 Mbps
5	0	12	4.00 Mbps
5	1	24	2.00 Mbps
5	2	48	1.00 Mbps
5	3	96	500 kbps
255	3	4096	11.7 kbps

34.3.9 RSPI データコントロールレジスタ（SPDCR）

SPDCR は、SPDR レジスタに格納できるフレーム数を設定、SPDR レジスタの読み出し、SPDR レジスタへのアクセス幅をロングワードアクセス／ワードアクセスに設定するためのレジスタです。

RSPI コマンドレジスタ（SPCMD）のRSPI データ長設定ビット（SPB3～0）、RSPI シーケンス制御レジスタ（SPSCR）のシーケンス長設定ビット（SPSLN2～0）、RSPI データコントロールレジスタ（SPDCR）のフレーム数設定ビット（SPFC1～0）の組み合わせから1 回の送受信起動で最大4 フレームを送受信できます。

SPDCR は、常にCPU による読み出し／書き込みが可能です。SPE ビット（RSPI 制御レジスタ（SPCR）のビット6）が1でRSPI 機能がイネーブルである状態において、CPU がSPDCR を書き換えた場合には、以降の動作は保証されません。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	SPLW	SPRDTD	SLSEL1	SLSEL0	SPFC1	SPFC0
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7、6	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
5	SPLW	0	R/W	RSPI ロングワードアクセス／ワードアクセス設定ビット RSPI ロングワードアクセス／ワードアクセス設定ビット（SPLW）は、RSPIデータレジスタ（SPDR）へのアクセス幅を設定します。SPLW が0 のときはワードアクセス、SPLW が1 のときはロングワードアクセスでSPDR にアクセスしてください。 また、SPLW が0 のとき、RSPI コマンドレジスタ（SPCMD）のRSPI データ長設定ビット（SPB3～0）の設定は、8～16 ビットに設定してください。 20、24、32 ビットに設定した場合の動作は保証されません。 0：SPDR レジスタへはワードアクセス 1：SPDR レジスタへはロングワードアクセス
4	SPRDTD	0	R/W	RSPI 受信／送信データ選択ビット RSPI 受信／送信データ選択ビット（SPRDTD）は、RSPI データレジスタ（SPDR）の読み出す値を受信バッファとするか、送信バッファとするか選択します。 送信バッファを読み出した場合、SPDR へ直前に書き込んだ値が読み出されます。送信バッファの読み出しは、のSPTEF ビット（RSPI ステータスレジスタ（SPSR）のビット5）が1 の状態であるときに行ってください。 0：SPDR は受信バッファを読み出す 1：SPDR は送信バッファを読み出す （ただし、SPTEF ビットが1 のとき）

<table>
<tr><th>ビット</th><th>ビット名</th><th>初期値</th><th>R/W</th><th>説 明</th></tr>
<tr><td>3
2</td><td>SLSEL1
SLSEL0</td><td>0
0</td><td>R/W
R/W</td><td>SSL 端子出力選択ビット
マスタモード時、SSL 端子出力を制御するためのビットです。以下に示すビットの組み合わせに従い、汎用入出力かSSL出力を選択するにはSSL 端子を使用します。SLSEL1 = 1、SLSEL0 = 1の場合の動作は保証しません。
<table>
<tr><td></td><td>SLSEL1 = 0
SLSEL0 = 0</td><td>SLSEL1 = 0
SLSEL0 = 1</td><td>SLSEL1 = 1
SLSEL0 = 0</td><td>SLSEL1 = 1
SLSEL0 = 1</td></tr>
<tr><td>RSPI-SSL1</td><td>出力</td><td>入出力</td><td>出力</td><td>設定禁止</td></tr>
<tr><td>RSPI-SSL0</td><td>出力</td><td>出力</td><td>出力</td><td></td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>1
0</td><td>SPFC1
SPFC0</td><td>0
0</td><td>R/W
R/W</td><td>フレーム数設定ビット
SPDR レジスタに格納できるフレーム数を設定するビットです。RSPI コマンドレジスタ（SPCMD）のRSPI データ長設定ビット（SPB3～0）、RSPIシーケンス制御レジスタ（SPSCR）のRSPI シーケンス長設定ビット（SPSLN2～0）、RSPI データコントロールレジスタ（SPDCR）のフレーム数設定ビット（SPFC1～0）の設定により1 回の送受信起動で最大4 フレームを送受信できます。
また、SPFC1、SPFC0 は、RSPI ステータスレジスタ（SPSR）のRSPI 受信バッファフルフラグ（SPRF）をセットする受信データ数の設定を行います。表34.4 にSPDR レジスタに格納できるフレームの構成と送受信設定の組み合せ例を示します。組み合せ例に示した以外の設定を行った場合には、以後の動作は保証されません。</td></tr>
</table>

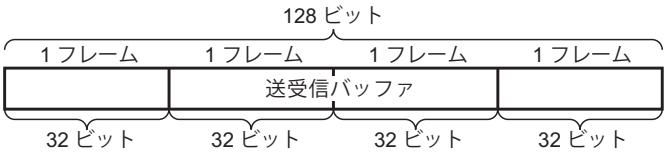
表34.4　フレーム数設定ビットの組み合わせ

設定	SPB3～SPB0	SPSLN2 ～ SPSLN0	SPFC1、SPFC0	転送するフレーム数	SPRF を1 に、SPTEF を0 にするフレーム数
1-1	M	000	00	1	1
1-2	M	000	01	2	2
1-3	M	000	10	3	3
1-4	M	000	11	4	4
2-1	M、N	001	01	2	2
2-2	M、N	001	11	4	4
3	M、N、O	010	10	3	3
4	M、N、O、P	011	11	4	4
5	M、N、O、P、Q	100	00	5	1
6	M、N、O、P、Q、R	101	00	6	1
7	M、N、O、P、Q、R、S	110	00	7	1
8	M、N、O、P、Q、R、S、T	111	00	8	1

【記号説明】

M、N、O、P、Q、R、S、T：SPB3～0 で設定できるデータ長

• フレームの配列



• 送受信設定の組み合わせ例
1 回の起動で表 の1-1～8 の設定時に以下のようにデータが送受信できます。

設定 1-1　M ビット（1フレームのみ）

設定 1-2　M ビット（1フレーム目）　M ビット（2フレーム目）

設定 1-3　M ビット（1フレーム目）　M ビット（2フレーム目）　M ビット（3フレーム目）

設定 1-4　M ビット（1フレーム目）　M ビット（2フレーム目）　M ビット（3フレーム目）　M ビット（4フレーム目）

設定 2-1　M ビット（1 フレーム目）　N ビット（2 フレーム目）

設定 2-3　M ビット（1フレーム目）　N ビット（2フレーム目）　M ビット（3フレーム目）　N ビット（4フレーム目）

設定 3　M ビット（1フレーム目）　N ビット（2フレーム目）　O ビット（3フレーム目）

設定 4　M ビット（1フレーム目）　N ビット（2フレーム目）　O ビット（3フレーム目）　P ビット（4フレーム目）

設定 5　M ビット（1フレーム目）　N ビット（2フレーム目）　O ビット（3フレーム目）　P ビット（4フレーム目）
Q ビット（5フレーム目）

設定 6　M ビット（1フレーム目）　N ビット（2フレーム目）　O ビット（3フレーム目）　P ビット（4フレーム目）
Q ビット（5フレーム目）　R ビット（6フレーム目）

設定 7　M ビット（1フレーム目）　N ビット（2フレーム目）　O ビット（3フレーム目）　P ビット（4フレーム目）
Q ビット（5フレーム目）　R ビット（6フレーム目）　S ビット（7フレーム目）

設定 8　M ビット（1フレーム目）　N ビット（2フレーム目）　O ビット（3フレーム目）　P ビット（4フレーム目）
Q ビット（5フレーム目）　R ビット（6フレーム目）　S ビット（7フレーム目）　T ビット（8フレーム目）

図 34.2　フレームの配列と送受信設定の組み合わせ例

34.3.10 RSPI-RSPCK 遅延レジスタ（SPCKD）

SPCKD は、SCKDEN ビット（RSPI コマンドレジスタ（SPCMD）のビット15）が1 の状態における、SSL 信号アサート開始からRSPI-RSPCK 発振までの期間（RSPI-RSPCK 遅延）を設定するためのレジスタです。SPCKD は、常にCPU による読み出し／書き込みが可能です。MSTR ビット（RSPI 制御レジスタ（SPCR）のビット3）とSPE ビット（同ビット6）が1 で、マスタモードのRSPI がイネーブルである状態において、CPU がSPCKD を書き換えた場合には、以降の動作は保証されません。

RSPI をスレーブモードで使用する場合には、SCKDL[2:0]に000 を設定してください。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	SCKDL2	SCKDL1	SCKDL0
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7～3	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
2 1 0	SCKDL2 SCKDL1 SCKDL0	0 0 0	R/W R/W R/W	RSPI-RSPCK 遅延設定 SPCMD のSCKDEN ビットが1 の場合のRSPI-RSPCK 遅延値を設定するためのビットです。 SCKDL2～SCKDL0 とRSPI-RSPCK 遅延値の関係は以下のとおりです。 000：1 RSPI-RSPCK 001：2 RSPI-RSPCK 010：3 RSPI-RSPCK 011：4 RSPI-RSPCK 100：5 RSPI-RSPCK 101：6 RSPI-RSPCK 110：7 RSPI-RSPCK 111：8 RSPI-RSPCK

34.3.11 RSPI スレーブセレクトネゲート遅延レジスタ（SSLND）

SSLND は、マスタモードの RSPI がシリアル転送の最終 RSPI-RSPCK エッジを送出してから SSL 信号をネゲートするまでの期間（SSL ネゲート遅延）を設定するためのレジスタです。SSLND は、常に CPU による読み出し／書き込みが可能です。MSTR ビット（RSPI 制御レジスタ（SPCR）のビット 3）と SPE ビット（同ビット 6）が 1 で、マスタモードの RSPI がイネーブルである状態において、CPU が SSLND を書き換えた場合には、以降の動作は保証されません。

RSPI をスレーブモードで使用する場合には、SLNDL[2:0]に 000 を設定してください。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	SLNDL2	SLNDL1	SLNDL0
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7～3	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
2 1 0	SLNDL2 SLNDL1 SLNDL0	0 0 0	R/W R/W R/W	SSL ネゲート遅延設定 マスタモード時の RSPI の SSL ネゲート遅延値を設定するためのビットです。 SLNDL2～SLNDL0 と SSL ネゲート遅延値の関係は以下のとおりです。 000：1 RSPI-RSPCK 001：2 RSPI-RSPCK 010：3 RSPI-RSPCK 011：4 RSPI-RSPCK 100：5 RSPI-RSPCK 101：6 RSPI-RSPCK 110：7 RSPI-RSPCK 111：8 RSPI-RSPCK

34.3.12 RSPI 次アクセス遅延レジスタ（SPND）

SPND は、SPNDEN ビット（RSPI コマンドレジスタ（SPCMD）のビット13）が1 の状態における、シリアル転送終了後の SSL 信号の非アクティブ期間（次アクセス遅延）を設定するためのレジスタです。SPND は、常にCPU による読み出し／書き込みが可能です。MSTR ビット（RSPI 制御レジスタ（SPCR）のビット3）と SPE ビット（同ビット6）が1 で、マスタモードの RSPI がイネーブルである状態において、CPU がSPND を書き換えた場合には、以降の動作は保証されません。

RSPI をスレーブモードで使用する場合には、SPNDL[2:0]に000 を設定してください。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	SPNDL2	SPNDL1	SPNDL0
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7～3	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
2 1 0	SPNDL2 SPNDL1 SPNDL0	0 0 0	R/W R/W R/W	RSPI 次アクセス遅延設定 SPCMD のSPNDEN ビットが1 の場合の次アクセス遅延を設定するためのビットです。 SLNDL2～SLNDL0 の設定と次アクセス遅延値の関係は以下のとおりです。 000：1 RSPI-RSPCK + 2 Pck 001：2 RSPI-RSPCK + 2 Pck 010：3 RSPI-RSPCK + 2 Pck 011：4 RSPI-RSPCK + 2 Pck 100：5 RSPI-RSPCK + 2 Pck 101：6 RSPI-RSPCK + 2 Pck 110：7 RSPI-RSPCK + 2 Pck 111：8 RSPI-RSPCK + 2 Pck

34.3.13 RSPI 制御レジスタ 2 (SPCR2)

SPCR2 は、RSPI の動作モードを設定するためのレジスタです。SPCR は、常に CPU による読み出し／書き込みが可能です。SPE ビット（RSPI 制御レジスタ（SPCR）のビット6）が1 でRSPI 機能がイネーブルである状態において、SPOE ビット、SPPE ビットの設定値を変更した場合には、以降の動作は保証されません。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	PTE	IDINTE	SPOE	SPPE
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7～4	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
3	PTE	0	R/W	パリティセルフダイアグノシス パリティ機能が正常か確認するため、パリティ回路のセルフダイアグノシス機能を有効にします。 0：パリティ回路のセルフダイアグノシス機能を無効化する 1：パリティ回路のセルフダイアグノシス機能を有効化する
2	IDINTE	0	R/W	RSPI アイドル割り込みイネーブル RSPI がアイドル状態であることを検出してIDLNF ビット（RSPI ステータスレジスタ （SPSR)のビット1）を 1 にした場合、RSPI アイドル割り込み要求の発生を許可／禁止 するためのビットです。 0：RSPI アイドル割り込み要求の発生を禁止する 1：RSPI アイドル割り込み要求の発生を許可する
1	SPOE	0	R/W	パリティモード 偶数パリティに設定すると、パリティビットと送受信キャラクタを合わせて、その中の1 の数の合計が偶数になるようにパリティビットを付加して送受信します。同様に、奇数パリティに設定すると、パリティビットと送受信キャラクタを合わせて、その中の1 の数の合計が奇数になるようにパリティビットを付加して送受信します。 ただし、SPOE ビットは本レジスタのSPPE ビットが 1 の場合のみ有効です。 0：偶数パリティで送受信します 1：奇数パリティで送受信します

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
0	SPPE	0	R/W	パリティイネーブル パリティ機能を有効／無効化します。 通信動作モード選択ビット（TXMD）（RSPI 制御レジスタ（SPCR）のビット1）が 0 で SPPE ビットが 1 の場合、送信時にパリティビットを付加し、受信時にパリティチェックを行います。ただし、TXMD ビットが 1 で SPPE ビットが 1 の場合は、送信時にパリティビットを付加しますが、受信時にパリティチェックを行いません。 0：パリティビットの付加、及びチェックを禁止 1：TXMD = 0 の場合は、パリティビットの付加を許可、チェックを許可 TXMD = 1 の場合は、パリティビットの付加を許可、チェックを禁止

34.3.14 RSPI コマンドレジスタ (SPCMD)

本RSPI には、SPCMD が8 本あります（SPCMD0～SPCMD7）。SPCMD0～SPCMD7 は、マスタモードのRSPI の転送フォーマットを設定するために使用されます。また、SPCMD0 の一部のビットは、スレーブモードのRSPI の転送フォーマットを設定するためにも使用されます。マスタモードのRSPI はRSPI シーケンス制御レジスタ（SPSCR）のSPSLN2～SPSLN0 ビットの設定に従ってシーケンシャルにSPCMD0～7 を参照し、参照したSPCMDに設定されたシリアル転送を実行します。

SPCMD は、常にCPU による読み出し／書き込みが可能です。

SPCMD レジスタの設定はSPTEF ビット（RSPI ステータスレジスタ（SPSR）のビット5）が1 の状態でそのSPCMD を参照して送信するデータを設定する前に実施してください。

マスタモードのRSPI が参照しているSPCMD は、RSPI シーケンスステータスレジスタ（SPSSR）のSPCP2～0 ビットにより確認できます。また、スレーブモードのRSPI がイネーブルな状態において、SPCMD0 をCPU が書き換えた場合には、以降の動作は保証されません。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8
	SCKDEN	SLNDEN	SPNDEN	LSBF	SPB3	SPB2	SPB1	SPB0
初期値：	0	0	0	0	0	1	1	1
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	SSLKP		SSLA1	SSLA0	BRDV1	BRDV0	CPOL	CPHA
初期値：	0	0	0	0	1	1	0	1
R/W：	R/W	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15	SCKDEN	0	R/W	RSPI-RSPCK 遅延設定イネーブル マスタモードのRSPI が、SSL 信号をアクティブにしてからRSPI-RSPCK を発振するまでの期間（RSPI-RSPCK 遅延）を設定するためのビットです。SCKDENが0 の場合には、RSPI はRSPI-RSPCK 遅延を1RSPI-RSPCK にします。SCKDEN が1 の場合には、RSPI はRSPI-RSPCK 遅延レジスタ（SPCKD）の設定に従ったRSPI-RSPCK 遅延でRSPI-RSPCK の発振を開始します。 RSPI をスレーブモードで使用する場合には、SCKDEN に0 を設定してください。 0：RSPI-RSPCK 遅延は1RSPI-RSPCK 1：RSPI-RSPCK 遅延はRSPI-RSPCK 遅延レジスタ（SPCKD）の設定値

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
14	SLNDEN	0	R/W	SSL ネゲート遅延設定イネーブル マスタモードのRSPI が、RSPI-RSPCK を発振停止してからSSL 信号を非アクティブにするまでの期間（SSL ネゲート遅延）を設定するためのビットです。SLNDEN が0 の場合には、RSPI は SSL ネゲート遅延を1RSPI-RSPCK にします。SLNDEN が1 の場合には、RSPI はスレーブセレクトネゲート遅延レジスタ（SSLND）の設定に従ったRSPI-RSPCK 遅延でSSL をネゲートします。 RSPI をスレーブモードで使用する場合には、SLNDEN に0 を設定してください。 0：SSL ネゲート遅延は1RSPI-RSPCK 1：SSL ネゲート遅延はスレーブセレクトネゲート遅延レジスタ（SSLND）の設定値
13	SPNDEN	0	R/W	RSPI 次アクセス遅延イネーブル マスタモードのRSPI がシリアル転送を終了してSSL 信号を非アクティブにしてから、次アクセスのSSL 信号アサートを可能にするまでの期間（次アクセス遅延）を設定するためのビットです。SPNDEN が0 の場合には、RSPI は次アクセス遅延を1RSPI-RSPCK + 2Pck にします。SPNDEN が1 の場合には、RSPI は RSPI 次アクセス遅延レジスタ（SPND）の設定に従った次アクセス遅延を挿入します。 RSPI をスレーブモードで使用する場合には、SPNDEN に0 を設定してください。 0：次アクセス遅延は1RSPI-RSPCK + 2Pck 1：次アクセス遅延はRSPI 次アクセス遅延レジスタ（SPND）の設定値
12	LSBF	0	R/W	RSPI LSB ファースト マスタモード／スレーブモードのRSPI のデータフォーマットを、MSB ファースト／LSB ファーストに設定するためのビットです。 0：MSB ファースト 1：LSB ファースト
11 10 9 8	SPB3 SPB2 SPB1 SPB0	0 1 1 1	R/W R/W R/W R/W	RSPI データ長設定 マスタモード／スレーブモードのRSPI の転送データ長を設定するためのビットです。 0100～0111：8 ビット 1000：9 ビット 1001：10 ビット 1010：11 ビット 1011：12 ビット 1100：13 ビット 1101：14 ビット 1110：15 ビット 1111：16 ビット 0000：20 ビット 0001：24 ビット 0010、0011：32 ビット

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	SSLKP	0	R/W	SSL 信号レベル保持 マスタモードのRSPI がシリアル転送する場合に、現コマンドに対応するSSL ネゲートタイミングから次コマンドに対応するSSL アサートタイミングの間に、現コマンドのSSL 信号レベルを保持するか、ネゲートするかを設定するビットです。 RSPI をスレーブモードで使用する場合には、SSLKP に0 を設定してください。 0：転送終了時に全SSL 信号をネゲート 1：転送終了後から次アクセス開始までSSL 信号レベルを保持
6	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
5 4	SSLA1 SSLA0	0 0	R/W R/W	SSL 信号アサート設定 マスタモードのRSPI がシリアル転送する場合のSSL 信号のアサートを制御するためのビットです。SSLAi（i は 0 か 1）の設定値が、RSPI-SSL0 信号とRSPI-SSL1 信号のアサートを制御します。SSL 信号アサート時の信号極性は、RSPI スレーブセレクト極性レジスタ（SSLP）の設定値に依存します。 RSPI をスレーブモードで使用する場合には、SSLA0 と SSLA1 ビットに B'00 を設定してください。 00：RSPI-SSL0 01：RSPI-SSL1
3 2	BRDV1 BRDV0	1 1	R/W R/W	ビットレート分周設定 ビットレートを決定するために使用するレジスタです。BRDV1、0 ビットとRSPI ビットレートレジスタ（SPBR）の設定値の組み合わせでビットレートを決定します。SPBR の設定値は、ベースとなるビットレートを決定します。BRDV1～0 ビットの設定値は、ベースのビットレートに対して 分周なし／2 分周／4 分周／8 分周したビットレートを選択するために使用します。SPCMD0～3 にはそれぞれ異なるBRDV1、0 の設定を行うことができます。このため、コマンドごとに異なるビットレートでシリアル転送を実行することが可能です。 00：ベースのビットレートを選択 01：ベースのビットレートの2 分周を選択 10：ベースのビットレートの4 分周を選択 11：ベースのビットレートの8 分周を選択
1	CPOL	0	R/W	RSPI-RSPCK 極性設定 マスタモード／スレーブモードのRSPI のRSPI-RSPCK極性を設定するためのビットです。RSPI モジュール間のデータ通信を行う場合、モジュール間で同一のRSPI-RSPCK 極性を設定する必要があります。 0：アイドル時のRSPI-RSPCK が0 1：アイドル時のRSPI-RSPCK が1
0	CPHA	1	R/W	RSPI-RSPCK 位相設定 マスタモード／スレーブモードのRSPI のRSPI-RSPCK位相を設定するためのビットです。RSPI モジュール間のデータ通信を行う場合、モジュール間で同一のRSPI-RSPCK 位相を設定する必要があります。 0：奇数エッジでデータサンプル、偶数エッジでデータ変化 1：奇数エッジでデータ変化、偶数エッジでデータサンプル

34.4　動作説明

本章では、シリアル転送期間という用語を、有効データのドライブ開始から最終有効データの取り込みまでの期間を意味する用語として使用しています。

34.4.1 RSPI 動作の概要

RSPI は、スレーブモード（SPI 動作）、マスタモード（SPI 動作）、スレーブモード（クロック同期式動作）、マスタモード（クロック同期式動作）での同期式のシリアル転送が可能です。RSPI のモードは、RSPI 制御レジスタ（SPCR）の MSTR ビット、MODFEN ビット、SPMS ビットによって設定可能です。表34.5 に RSPI のモードと SPCR 設定の関係、及び各モードの概要をまとめます。

表34.5　RSPI のモードと SPCR 設定の関係及び各モードの概要

モード	スレーブ（SPI 動作）	マスタ（SPI 動作）	スレーブ（クロック同期式動作）	マスタ（クロック同期式動作）
MSTR ビットの設定	0	1	0	1
MODFEN ビットの設定	0 or 1	0	0	0
SPMS ビットの設定	0	0	1	1
RSPI-RSPCK 信号	入力	出力	入力	出力
RSPI-MOSI 信号	入力	出力	入力	出力
RSPI-MISO 信号	出力／Hi-Z	入力	出力	入力
RSPI-SSL0 信号	入力	出力	Hi-Z	Hi-Z
RSPI-SSL1 信号	Hi-Z	出力／Hi-Z	Hi-Z	Hi-Z
SSL 極性変更機能	あり	あり	—	—
転送レート	Up～Pck／8	Up～Pck／2	Up～Pck／8	Up～Pck／2
クロックソース	RSPI-RSPCK 入力	内蔵ボーレートジェネレータ	RSPI-RSPCK 入力	内蔵ボーレートジェネレータ
クロック極性	2種	2種	2種	2種
クロック位相	2種	2種	1種 (CPHA = 1)	2種
先頭転送ビット	MSB／LSB	MSB／LSB	MSB／LSB	MSB／LSB
転送データ長	8～32 ビット	8～32 ビット	8～32 ビット	8～32 ビット
バースト転送	可能 (CPHA = 1)	可能 (CPHA = 0、1)	—	—
RSPI-RSPCK 遅延制御	なし	あり	なし	あり
SSL ネゲート遅延制御	なし	あり	なし	あり
次アクセス遅延制御	なし	あり	なし	あり
転送起動方法	SSL 入力アクティブ又は RSPI-RSPCK 発振	SPTEF=1 で送信バッファ書き込み	RSPI-RSPCK 発振	SPTEF=1 で送信バッファ書き込み
送信バッファエンプティ検出	なし	あり	なし	あり
送信バッファエンプティ検出	あり	あり	あり	あり
受信バッファフル検出（注1）	あり	あり	あり	あり
オーバランエラー検出（注1）	あり	あり	あり	あり
パリティエラー検出（注1、注2）	あり	あり	あり	あり
モードフォルトエラー検出	あり (MODFEN = 1)	なし	なし	なし

注1.　TXMD ビット（SPCR レジスタのビット1）が 1 の場合は、受信バッファフル検出、オーバランエラー検出、及びパリティエラー検出を実施しません。
2.　SPPE ビット（SPCR2 レジスタのビット0）が 0 の場合は、パリティエラー検出を実施しません。

34.4.2 RSPI 端子の制御

RSPI は、RSPI 制御レジスタ（SPCR）の MSTR ビット、MODFEN、SPMS ビットと RSPI 端子制御レジスタ（SPPCR）の SPOM ビットの設定に従って、端子方向と出力モードを自動的に切り替えます。端子状態と各ビットの設定値の関係を表 34.6 に示します。

表 34.6　RSPI 端子の状態と制御ビット設定値の関係

モード	端子	端子の状態（注 1）
マスタ (SPI 動作) (MSTR = 1、MODFEN = 0、SPMS = 0)	RSPI-RSPCK	CMOS 出力
	RSPI-SSL0	CMOS 出力
	RSPI-SSL1	CMOS 出力/Hi-Z
	RSPI-MOSI	CMOS 出力
	RSPI-MISO	入力
スレーブ (SPI 動作) (MSTR = 0、SPMS = 0)	RSPI-RSPCK	入力
	RSPI-SSL0	入力
	RSPI-SSL1	Hi-Z
	RSPI-MOSI	入力
	RSPI-MISO*2	CMOS 出力/Hi-Z
マスタ (クロック同期式動作) (MSTR = 1、MODFEN = 0、SPMS = 1)	RSPI-RSPCK	CMOS 出力
	RSPI-SSL0～RSPI-SSL1（注 3）	Hi-Z
	RSPI-MOSI	CMOS 出力
	RSPI-MISO	入力
スレーブ (クロック同期式動作) (MSTR = 0、SPMS = 1)	RSPI-RSPCK	入力
	RSPI-SSL0～RSPI-SSL1（注 3）	Hi-Z
	RSPI-MOSI	入力
	RSPI-MISO	CMOS 出力

注 1.　RSPI 機能が選択されていないマルチファンクションピンには、RSPI の設定値は反映されません。
2.　RSPI-SSL0 が非アクティブレベル又は SPE ビット（SPCR レジスタのビット 6）が 0 の場合、端子状態が Hi-Z になります。
3.　クロック同期式動作時は、RSPI-SSL0、RSPI-SSL1 を入出力ポートとして使用可能。

シングルマスタモード (SPI 動作)、マルチマスタモード (SPI 動作) の RSPI は、MOIFE ビット（SPPCR レジスタのビット 5）と MOIFV ビットの設定に従って、SSL ネゲート期間（バースト転送における SSL 保持期間も含む）の RSPI-MOSI 信号値を表 34.7 のように決定します。

表 34.7　SSL ネゲート期間の RSPI-MOSI 信号値の決定方法

MOIFE	MOIFV	SSL ネゲート期間の RSPI-MOSI 信号値
0	0、1	前回転送の最終データ
1	0	常に 0
1	1	常に 1

34.4.3 RSPI システム構成例

(1) シングルマスタ／シングルスレーブ（本LSI＝マスタ）

図34.3 に、本LSI をマスタとして使用した場合のシングルマスタ／シングルスレーブのRSPI システムの構成例を示します。シングルマスタ／シングルスレーブの構成では、本LSI（マスタ）のRSPI-SSL0、RSPI-SSL1 出力は使用しません。RSPI スレーブのSSL 入力は0 に固定して、RSPI スレーブを常にセレクト状態にします。RSPI 制御レジスタ（SPCR）のCPHA ビットが0 の場合に相当する転送フォーマットでは、SSL 信号をアクティブレベルに固定することができないスレーブデバイスも存在します。SSL 信号を固定にできない場合には、本LSI のSSL 出力をスレーブデバイスのSSL 入力に接続してください。

本LSI（マスタ）は、RSPI-RSPCK とRSPI-MOSI を常にドライブします。RSPI スレーブは、RSPI-MISO を常にドライブします。

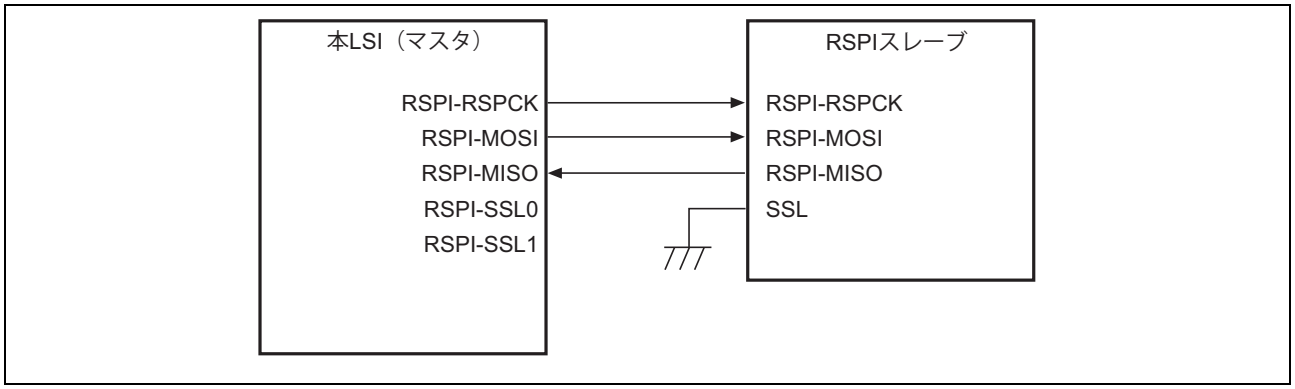


図 34.3　シングルマスタ／シングルスレーブの構成例（本LSI＝マスタ）

(2)　シングルマスタ／シングルスレーブ（本LSI＝スレーブ）

図34.4 に、本LSI をスレーブとして使用した場合のシングルマスタ／シングルスレーブのRSPI システム構成例を示します。本LSI をスレーブとして使用する場合には、RSPI-SSL0 端子をSSL 入力として使用します。RSPI マスタは、RSPI-RSPCK と RSPI-MOSI を常にドライブします。本 LSI（スレーブ）は、RSPI-MISO を常にドライブします。RSPI-SSL0 がアクティブレベルの場合、端子状態がHi-Z になります。

CPHA ビット（RSPI コマンドレジスタ（SPCMD）のビット0）を1 に設定したシングルスレーブ構成の場合には、本LSI（スレーブ）のRSPI-SSL0 入力を0 に固定して本LSI（スレーブ）を常に選択状態とし、シリアル転送を実行することも可能です（図34.5）。

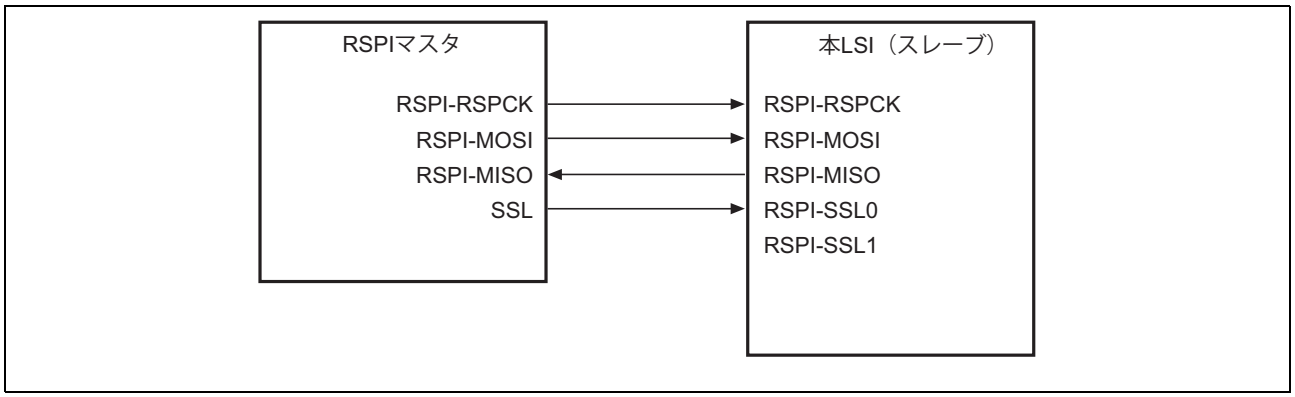


図 34.4　シングルマスタ／シングルスレーブの構成例（本LSI＝スレーブ）

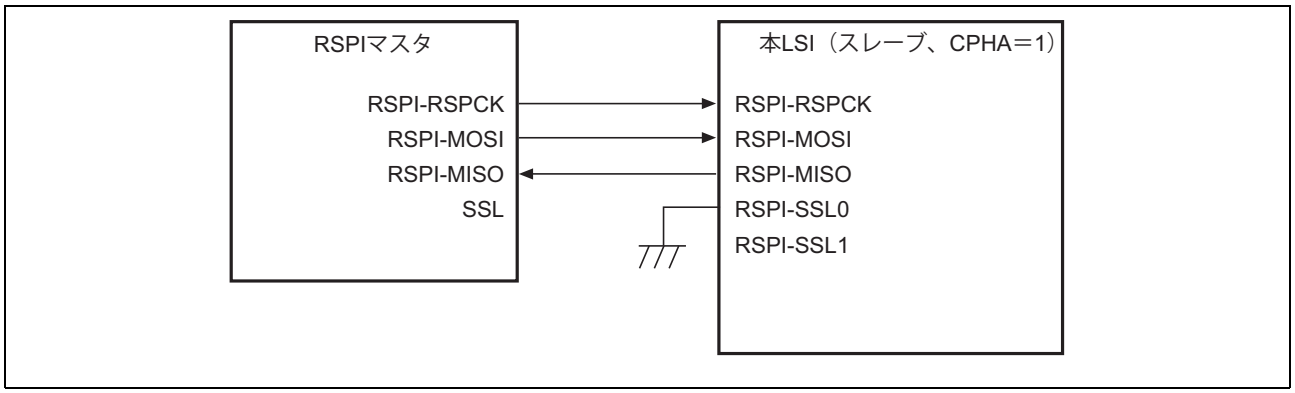


図 34.5　シングルマスタ／シングルスレーブの構成例（本LSI＝スレーブ、CPHA＝1）

(3)　シングルマスタ／マルチスレーブ（本LSI＝マスタ）

図34.6 に、本LSI をマスタとして使用した場合のシングルマスタ／マルチスレーブのRSPI システム構成例を示します。図34.6 の例では、本LSI（マスタ）と2 つのスレーブ(RSPIスレーブ０、RSPIスレーブ１)からRSPIシステムを構成しています。

本LSI（マスタ）のRSPI-RSPCK 出力とRSPI-MOSI 出力は、RSPIスレーブ０、RSPIスレーブ１ のRSPI-RSPCK 入力とRSPI-MOSI 入力に接続します。RSPIスレーブ０、RSPIスレーブ１ のRSPI-MISO 出力は、すべて本LSI（マスタ）のRSPI-MISO 入力に接続します。本LSI（マスタ）のRSPI-SSL0、RSPI-SSL1出力は、それぞれRSPIスレーブ０、RSPIスレーブ１ のSSL 入力に接続します。

本LSI（マスタ）は、RSPI-RSPCK、RSPI-MOSI、RSPI-SSL0、RSPI-SSL1を常にドライブします。RSPIスレーブ０、RSPIスレーブ１のうち、SSL 入力に0 を入力されているスレーブがRSPI-MISO をドライブします。

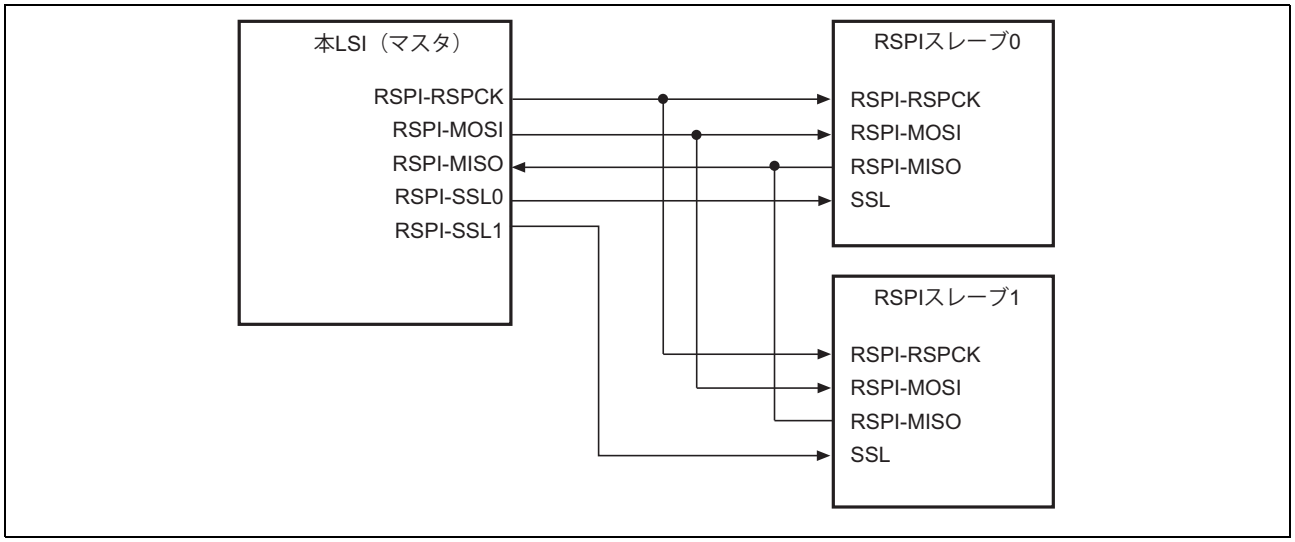


図 34.6　シングルマスタ／マルチスレーブの構成例（本LSI＝マスタ）

(4)　シングルマスタ／マルチスレーブ（本LSI＝スレーブ）

図34.7 に、本LSI をスレーブとして使用した場合のシングルマスタ／マルチスレーブのRSPI システム構成例を示します。図34.7 の例では、RSPI マスタと2 つの本LSI（スレーブX、スレーブY）からRSPI システムを構成しています。

RSPI マスタのRSPI-RSPCK 出力とRSPI-MOSI 出力は、本LSI（スレーブX、スレーブY）のRSPI-RSPCK 入力とRSPI-MOSI 入力に接続します。本LSI（スレーブX、スレーブY）のRSPI-MISO 出力は、RSPI マスタのRSPI-MISO 入力に接続します。RSPIマスタのSSLX 出力、SSLY 出力は、本LSI（スレーブX、スレーブY）のRSPI-SSL0 入力に接続します。

RSPI マスタは、RSPI-RSPCK、RSPI-MOSI、SSLX、SSLY を常にドライブします。本LSI（スレーブX、スレーブY）のうち、RSPI-SSL0 入力に0 を入力されているスレーブが、RSPI-MISO をドライブします。

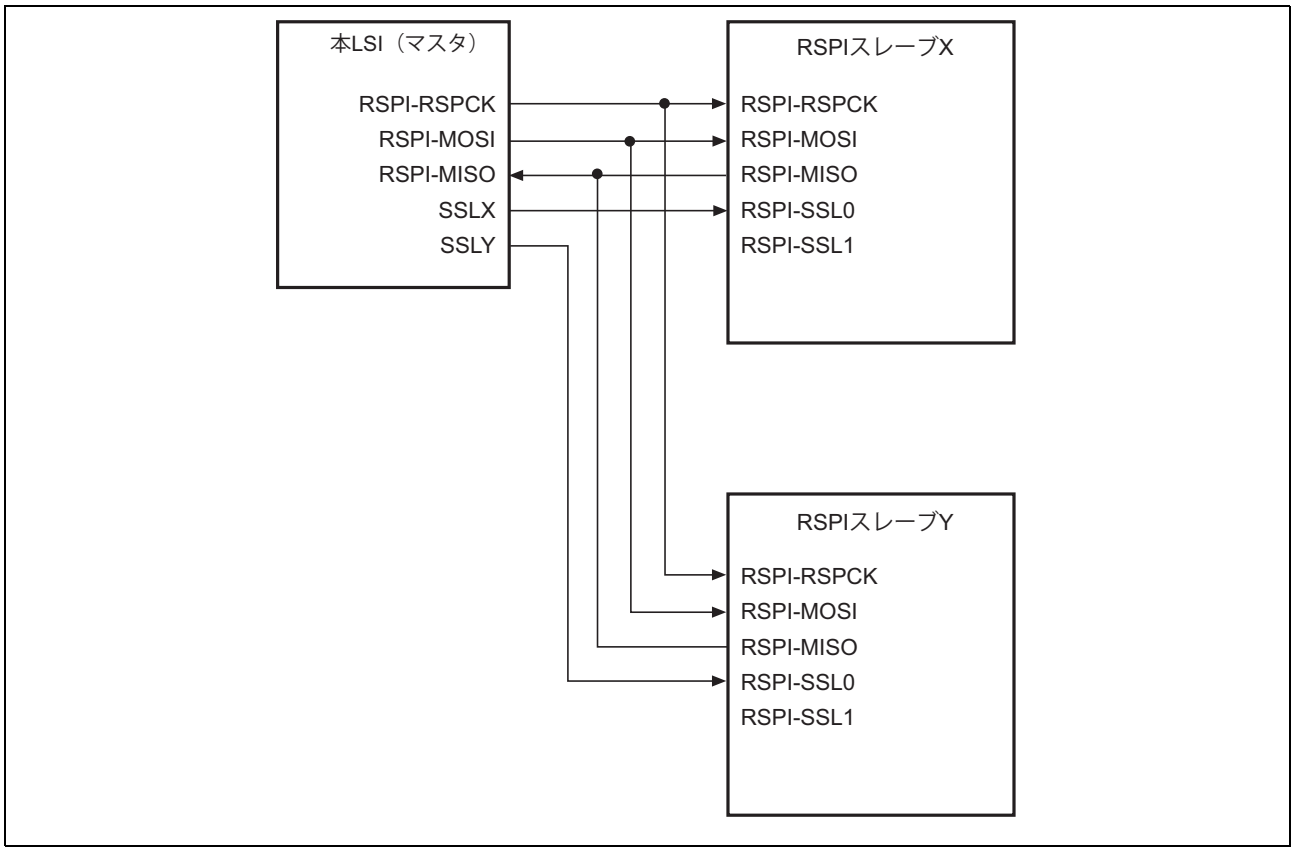


図 34.7　シングルマスタ／マルチスレーブの構成例（本LSI＝スレーブ）

(5)　マスタ（クロック同期式動作）／スレーブ（クロック同期式動作）（本LSI＝マスタ）

図34.8 に、本LSI をマスタとして使用した場合のマスタ（クロック同期式動作）／スレーブ（クロック同期式動作）の RSPI システムの構成例を示します。マスタ（クロック同期式動作）／スレーブ（クロック同期式動作）の構成では、本LSI（マスタ）のRSPI-SSL0、RSPI-SSL1 出力は使用しません。

本LSI（マスタ）は、RSPI-RSPCK と RSPI-MOSI を常にドライブします。RSPI スレーブは、RSPI-MISO を常にドライブします。

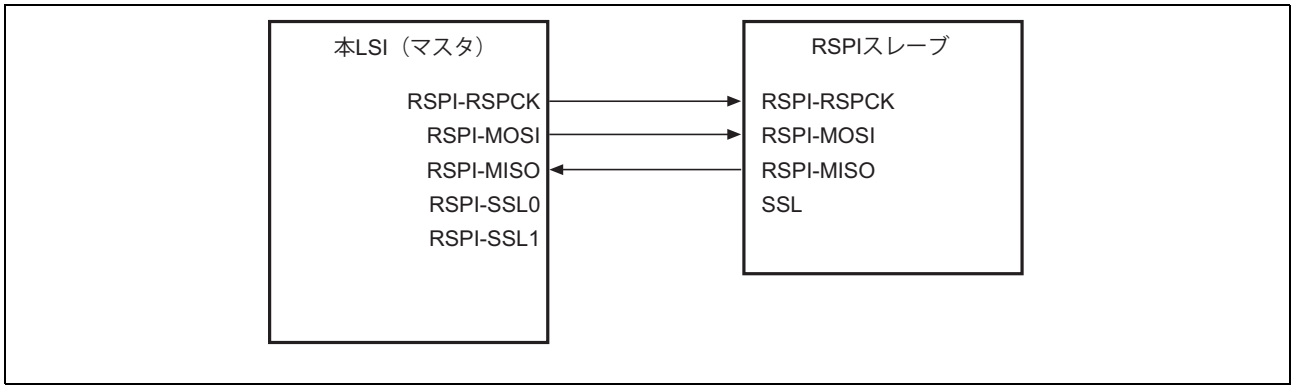


図 34.8　マスタ（クロック同期式動作）／スレーブ（クロック同期式動作）の構成例（本LSI＝マスタ）

(6)　マスタ（クロック同期式動作）／スレーブ（クロック同期式動作）（本LSI＝スレーブ）

図 34.9 に、本 LSI をスレーブとして使用した場合のマスタ（クロック同期式動作）／スレーブ（クロック同期式動作）のRSPI システム構成例を示します。本LSI をスレーブ（クロック同期式動作）として使用する場合には、本 LSI（スレーブ）は、RSPI-MISO を常にドライブし、RSPI マスタは、RSPI-RSPCK と RSPI-MOSI を常にドライブします。また、本LSI（スレーブ）のRSPI-SSL0、RSPI-SSL1 は使用しません。

CPHA ビット（RSPI コマンドレジスタ（SPCMD）のビット0）を1 に設定したシングルスレーブ構成の場合のみ、本LSI（スレーブ）はシリアル転送を実行することが可能です。

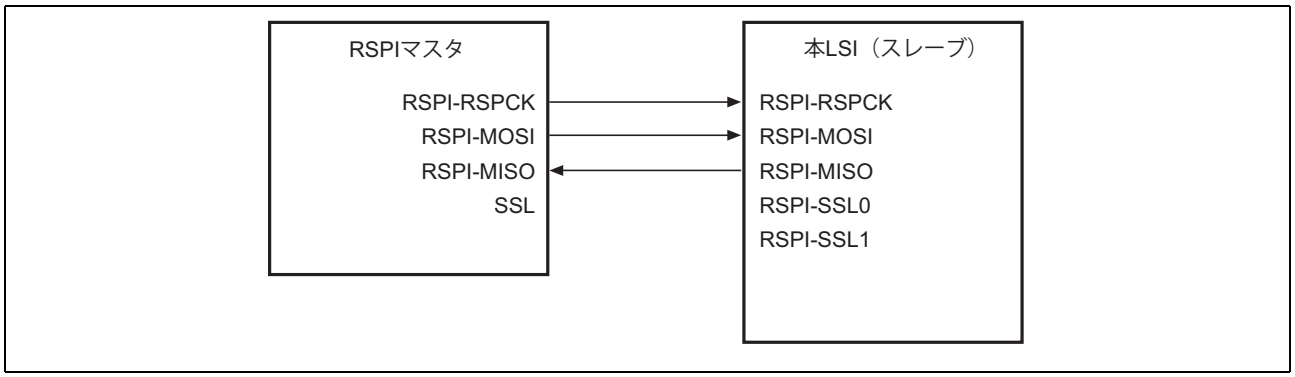


図 34.9　マスタ（クロック同期式動作）／スレーブ（クロック同期式動作）の構成例
（本LSI＝スレーブ、CPHA＝1）

34.4.4　転送フォーマット

(1)　CPHA＝0 の場合

図34.10 にRSPI コマンドレジスタ（SPCMD）のCPHA ビットが0 の場合に、8 ビットのデータをシリアル転送した場合の転送フォーマット例を示します。ただし、CPHA ビットが 0 の場合のクロック同期式動作（RSPI 制御レジスタ（SPCR）のSPMS ビットが1 の場合）は保証しません。図34.10 において、RSPI-RSPCK（CPOL ＝ 0）はSPCMD のCPOL ビットが0 の場合、RSPI-RSPCK（CPOL ＝ 1）はCPOL ビットが1 の場合のRSPI-RSPCK 信号波形です。サンプリングタイミングは、RSPI がシフトレジスタにシリアル転送データを取り込むタイミングを示しています。

各信号の入出力方向は、RSPI の設定に依存します。詳細は「34.4.2 RSPI 端子の制御」を参照してください。CPHA ビットが 0 の場合には、SSL 信号のアサートタイミングで、RSPI-MOSI 信号への有効データの出力とRSPI-MISO 信号への有効データのドライブが開始されます。SSL 信号のアサート後に発生する最初のRSPI-RSPCK 信号変化タイミングが最初の転送データ取り込みタイミングになり、このタイミング以降 1RSPI-RSPCK 周期ごとにデータがサンプリングされます。RSPI-MOSI 信号とRSPI-MISO 信号の変化タイミングは、常に転送データ取り込みタイミングの 1/2RSPI-RSPCK 周期後になります。CPOL ビットの設定値は、RSPI-RSPCK 信号の動作タイミングには影響を与えず、信号極性のみに影響を与えます。

t1 は、SSL 信号のアサートからRSPI-RSPCK 発振までの期間（RSPI-RSPCK 遅延）です。t2 は、RSPI-RSPCK 発振停止からSSL信号のネゲートまでの期間（SSL ネゲート遅延）です。t3 は、シリアル転送終了後に次転送のためのSSL 信号アサートを抑制するための期間（次アクセス遅延）です。t1、t2、t3 は、RSPI システム上のマスタデバイスによって制御されます。本LSI のRSPI がマスタモードである場合のt1、t2、t3 については、「34.4.10 SPI動作」を参照してください。

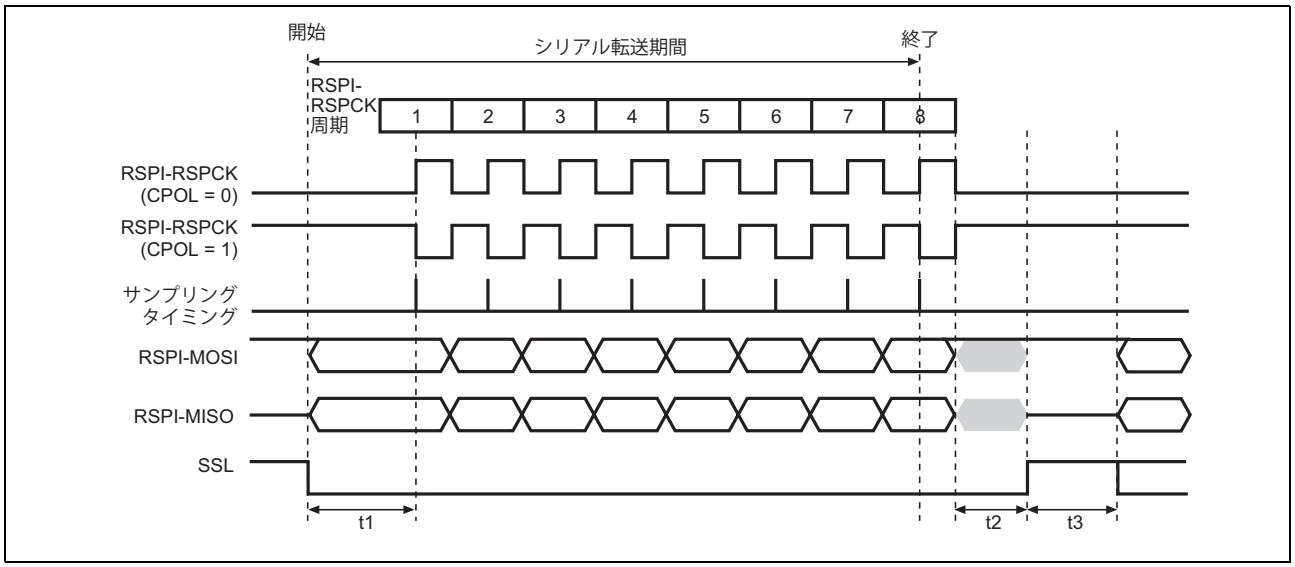


図 34.10　RSPI 転送フォーマット（CPHA＝0）

(2)　CPHA＝1 の場合

図 34.11 に CPHA ビット（RSPI コマンドレジスタ（SPCMD）のビット 0）が 1 の場合に、8 ビットのデータをシリアル転送した場合の転送フォーマット例を示します。ただし、SPMS ビット（RSPI 制御レジスタ（SPCR）のビット 0）が 1 の場合は SSL 信号を用いず、RSPI-RSPCK 信号、RSPI-MOSI 信号、RSPI-MISO 信号のみで通信を行います。図 34.11 において、RSPI-RSPCK（CPOL ＝ 0）は CPOL ビット（SPCMD レジスタのビット 1）が 0 の場合、RSPI-RSPCK（CPOL ＝ 1）は CPOL ビットが 1 の場合の RSPI-RSPCK 信号波形です。サンプリングタイミングは、RSPI がシフトレジスタにシリアル転送データを取り込むタイミングを示しています。各信号の入出力方向は、RSPI のモード（マスタ／スレーブ）に依存します。詳細は「34.4.2 RSPI 端子の制御」を参照してください。

CPHA ビットが 1 の場合には、SSL 信号のアサートタイミングで、RSPI-MISO 信号に無効データのドライブが開始されます。SSL 信号のアサート後に発生する最初の RSPI-RSPCK 信号変化タイミングで、RSPI-MOSI 信号と RSPI-MISO 信号への有効データの出力が開始され、このタイミング以降 1RSPI-RSPCK 周期ごとにデータが更新されます。転送データの取り込みは、常にこのタイミングの 1/2RSPI-RSPCK 周期後になります。CPOL ビットの設定値は RSPI-RSPCK 信号の動作タイミングには影響を与えず、信号極性のみに影響を与えます。t1、t2、t3 の内容は、CPHA ＝ 0 の場合と同様です。本 LSI の RSPI がマスタモードである場合の t1、t2、t3 については、「34.4.10 SPI 動作」を参照してください。

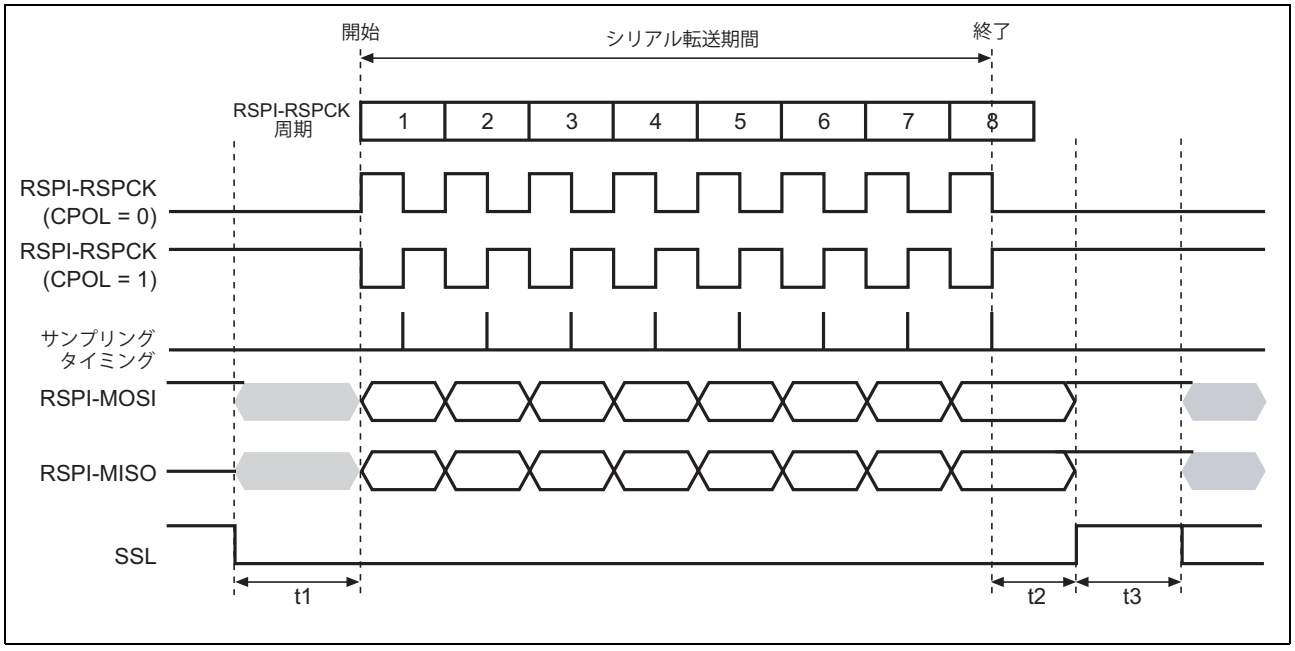


図 34.11　RSPI 転送フォーマット（CPHA＝1）

34.4.5　データフォーマット

RSPIのデータフォーマットは、RSPIコマンドレジスタ（SPCMD）とパリティ有効ビット(SPPE)（RSPIコントロールレジスタ2 (SPCR2) レジスタのビット0）の設定値に依存します。MSB／LSB ファーストにかかわらず、RSPI はRSPI データレジスタ（SPDR）のLSB から設定データ長分の範囲を転送データとして扱います。

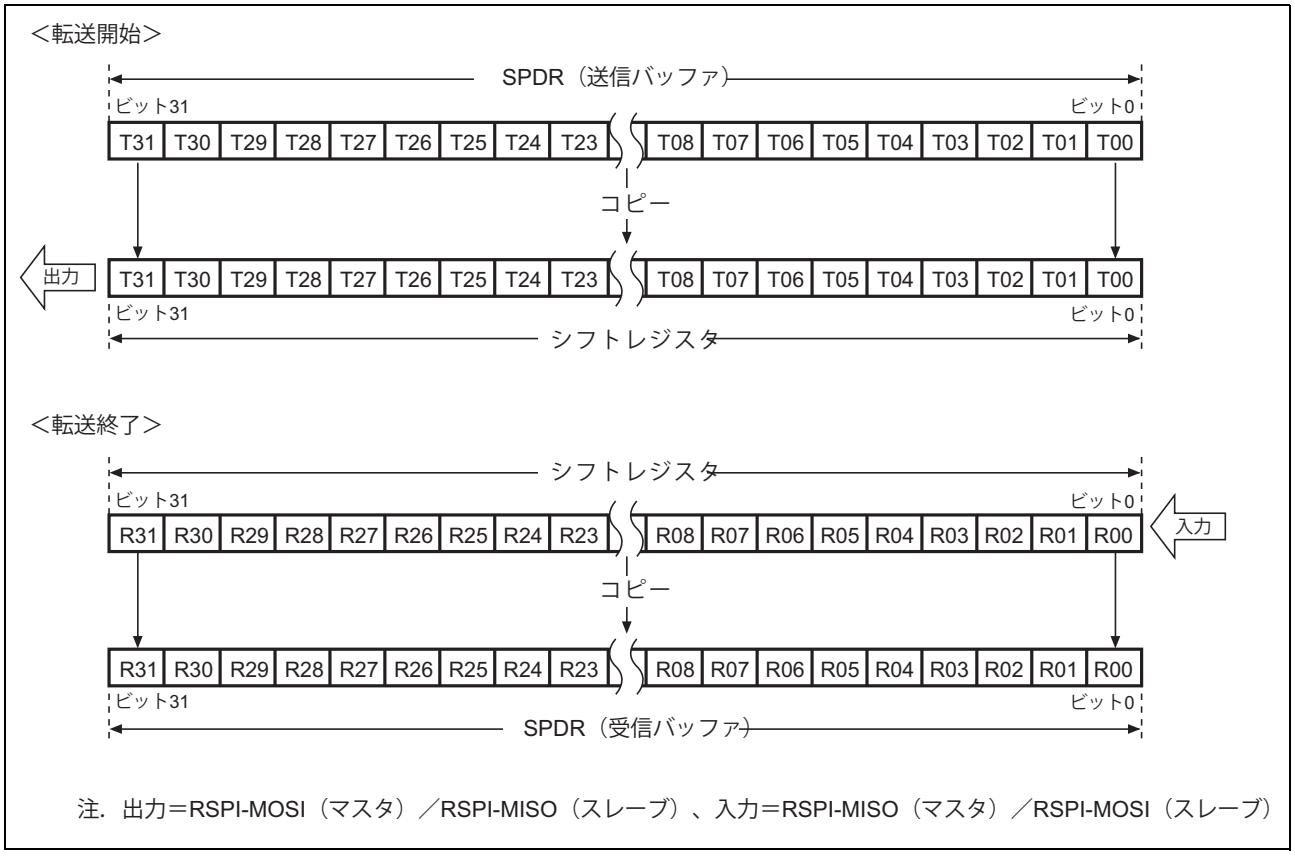
(1)　MSB ファースト転送（32 ビットデータ）

(a)　パリティ機能無効(SPPE=0)

図34.12 に、RSPI がデータ長32 ビットのMSB ファースト転送を実施する場合のRSPI データレジスタ（SPDR）とシフトレジスタの動作内容を示します。

CPU 又はDMAC は、SPDR の送信バッファにT31～T00 を書き込みます。SPTEF ビット（RSPI ステータスレジスタ（SPSR）のビット5）が0 かつシフトレジスタが空であれば、RSPI が送信バッファのデータをシフトレジスタにコピーし、シフトレジスタをフルにします。シリアル転送が開始されると、RSPI はシフトレジスタのMSB（ビット31）からデータを出力し、シフトレジスタのLSB（ビット0）からデータをシフトインします。32 ビット分のシリアル転送に必要なRSPI-RSPCK 周期を経過すると、シフトレジスタにはデータR31～R00 が格納されます。この状態で、全二重同期式のシリアル通信（TXMD = 0）の場合、RSPI はシフトレジスタからSPDR の受信バッファにデータをコピーし、シフトレジスタを空にします。

なお、CPU 又はDMAC がSPDR の送信バッファを書き込む前に、次のシリアル転送が起動されると、受信データR31～R00 がシフトレジスタからシフトアウトされます。



注. 出力＝RSPI-MOSI（マスタ）／RSPI-MISO（スレーブ）、入力＝RSPI-MISO（マスタ）／RSPI-MOSI（スレーブ）

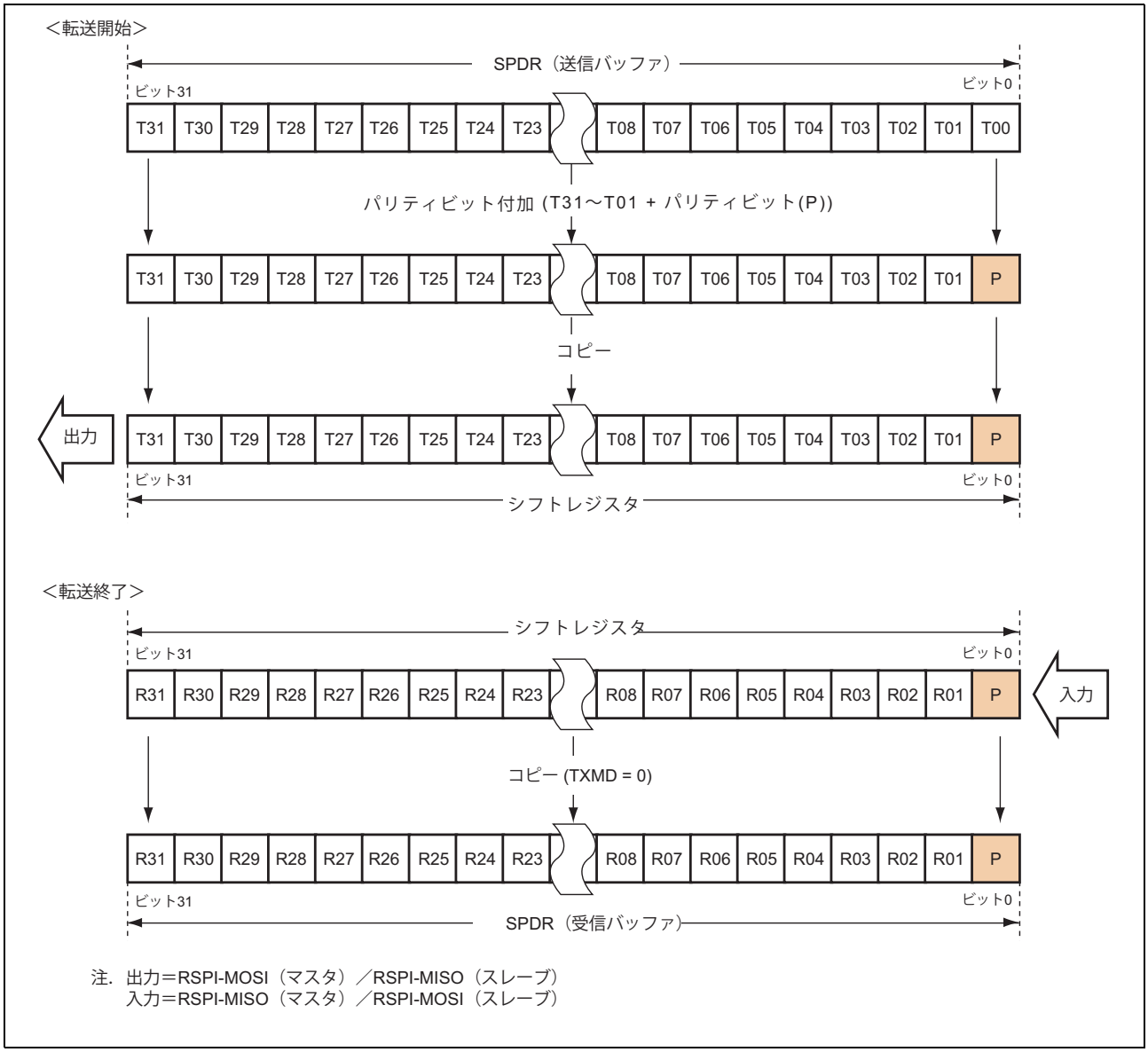
図 34.12　MSB ファースト転送（32 ビットデータ）

(b)　パリティ機能有効（SPPE = 1）

図34.13 に、RSPI がデータ長32 ビットのMSB ファースト転送を実施する場合のRSPI データレジスタ（SPDR）とシフトレジスタの動作内容を示します。

CPU 又はDMAC は、SPDR の送信バッファにT31 ～T00 を書き込みます。SPTEF ビット（RSPI ステータスレジスタ（SPSR）のビット5）が0 かつシフトレジスタが空であれば、RSPI がSPDR の送信バッファに格納されているデータ（T00）をパリティビット（P）に変換します。その後、RSPI はパリティビット（P）を付加したデータをシフトレジスタにコピーし、シフトレジスタをフルにします。シリアル転送が開始されると、RSPI はシフトレジスタのMSB（ビット31）からデータを出力し、シフトレジスタのLSB（ビット0）からデータをシフトインします。32 ビット分のシリアル転送に必要なRSPI-RSPCK 周期を経過すると、シフトレジスタにはデータR31 ～P が格納されます。この状態で、全二重同期式のシリアル通信（TXMD = 0）の場合、RSPI はシフトレジスタからSPDR の受信バッファにデータをコピーし、シフトレジスタを空にします。

なお、CPU 又はDMAC がSPDR の送信バッファを書き込む前に、次のシリアル転送が起動されると、受信データR31～P がシフトレジスタからシフトアウトされます。



注. 出力＝RSPI-MOSI（マスタ）／RSPI-MISO（スレーブ）
入力＝RSPI-MISO（マスタ）／RSPI-MOSI（スレーブ）

図 34.13　MSB ファースト転送（32 ビットデータ、パリティ機能有効）

(2)　MSB ファースト転送（24 ビットデータ）

(a)　パリティ機能無効(SPPE=0)

図34.14 に、RSPI が32 ビット以外のデータをMSB ファースト転送する例として、24 ビットのデータ転送を実施する場合のRSPI データレジスタ（SPDR）とシフトレジスタの動作内容を示します。

CPU 又はDMAC は、SPDR の送信バッファにT31～T00 を書き込みます。SPTEF ビット（RSPI ステータスレジスタ（SPSR）のビット5）が0 かつシフトレジスタが空であれば、RSPI がSPDR の送信バッファのデータをシフトレジスタにコピーし、シフトレジスタをフルにします。シリアル転送が開始されると、RSPI はシフトレジスタのビット23 からデータを出力し、シフトレジスタのLSB（ビット0）からデータをシフトインします。24 ビット分のシリアル転送に必要なRSPI-RSPCK 周期を経過すると、シフトレジスタのビット23～ビット0 には受信データR23～R00 が格納されます。シリアル転送完了後のシフトレジスタのビット24～ビット31 には、転送前のデータが保持されています。この状態で、全二重同期式のシリアル通信（TXMD = 0）の場合、RSPI はシフトレジスタからSPDR の受信バッファにデータをコピーし、シフトレジスタを空にします。

なお、CPU 又はDMAC がSPDR の送信バッファを書き込む前に、次のシリアル転送が起動されると、

受信データR23～R00 がシフトレジスタからシフトアウトされます。

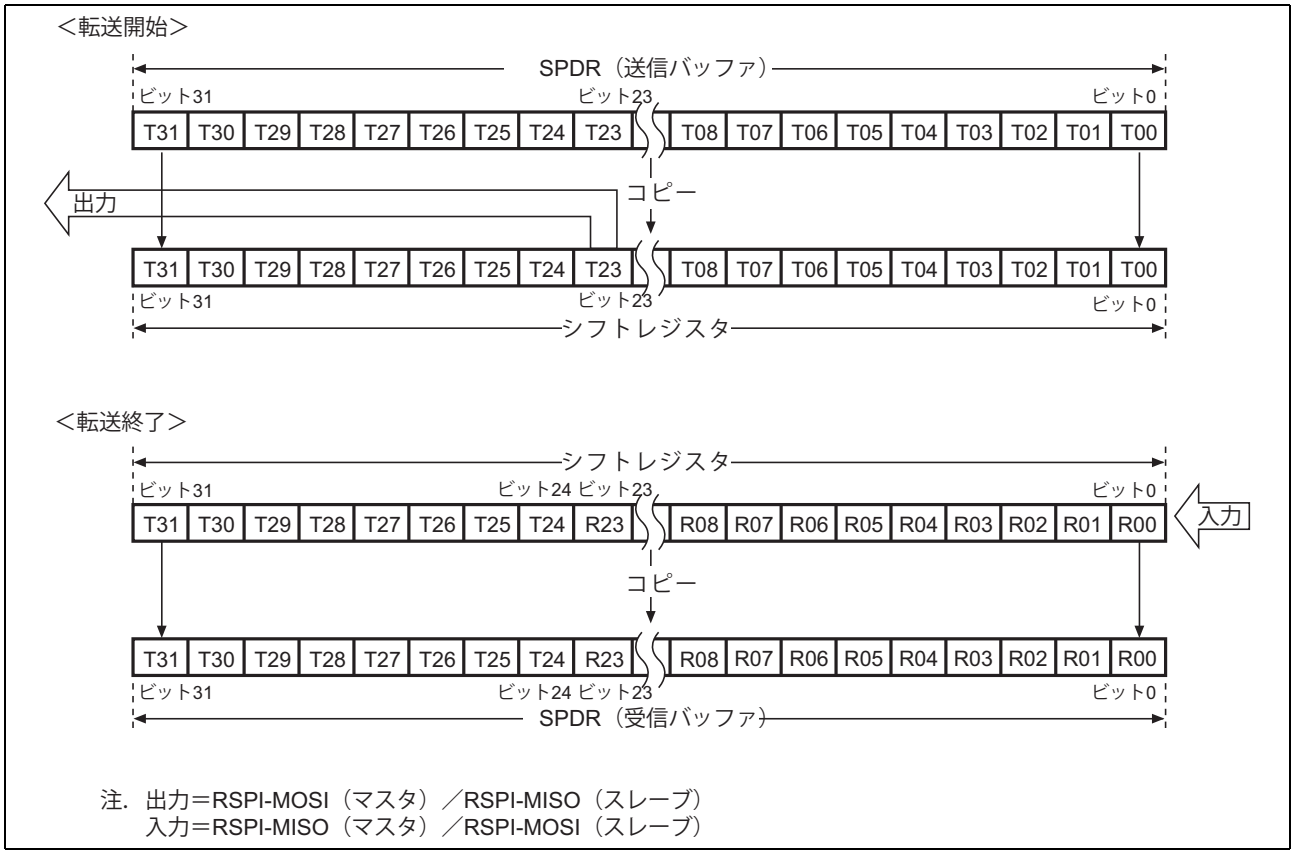


図 34.14　MSB ファースト転送（24 ビットデータ）

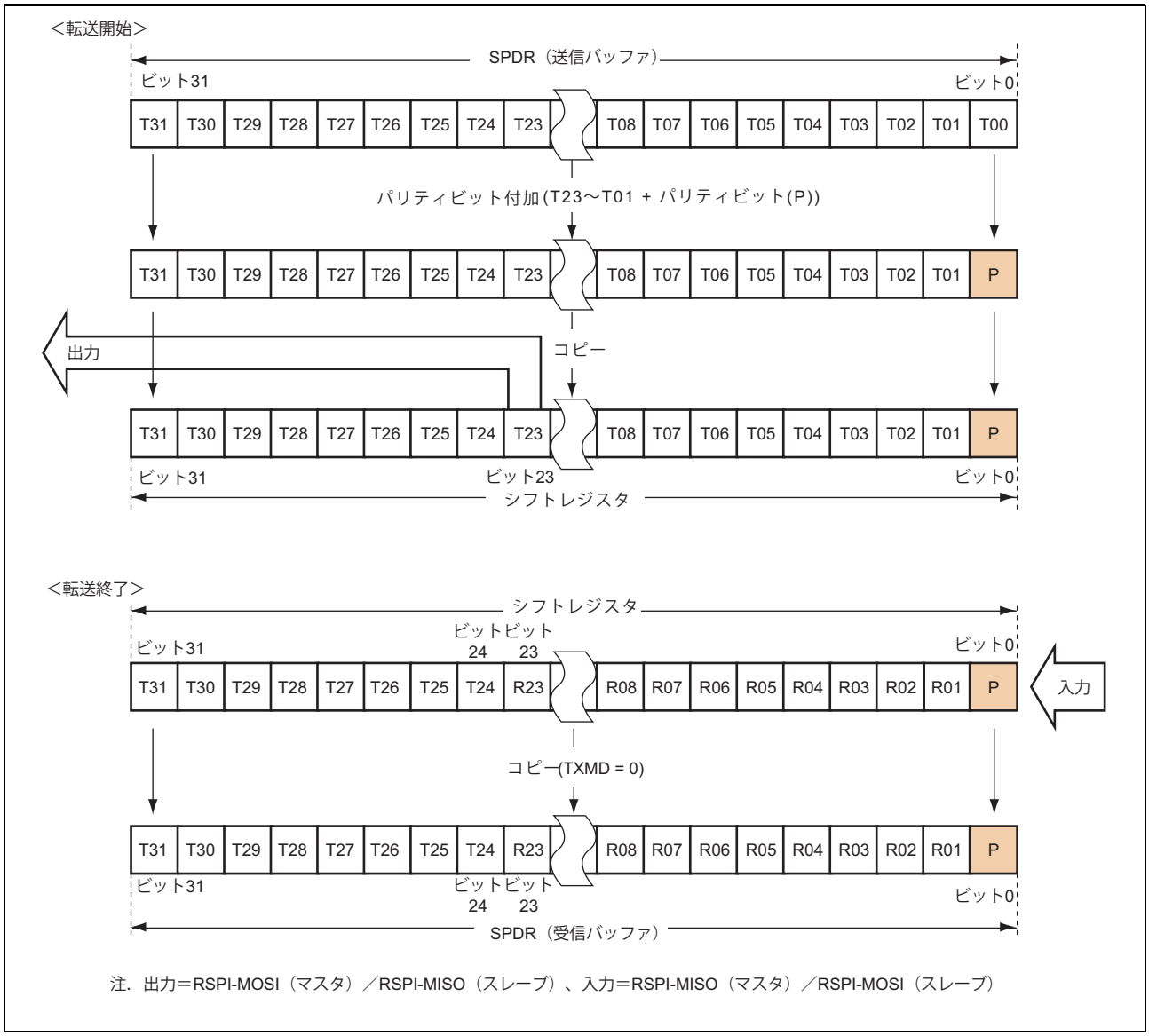
(b)　パリティ機能有効（SPPE = 1）

図34.15 に、RSPI がデータ長24 ビットのMSB ファースト転送（データ長32 ビット以外の転送動作を例に挙げます）を実施する場合のRSPI データレジスタ（SPDR）とシフトレジスタの動作内容を示します。

CPU 又はDMAC は、SPDR の送信バッファにT31～T00 を書き込みます。SPTEF ビット（RSPI ステータスレジスタ（SPSR）のビット5）が0 かつシフトレジスタが空であれば、RSPI がSPDR の送信バッファに格納されているデータ（T00）をパリティビット（P）に変換します。その後、RSPI はパリティビット（P）を付加したデータをシフトレジスタにコピーし、シフトレジスタをフルにします。

シリアル転送が開始されると、RSPI はシフトレジスタの MSB（ビット 23）からデータを出力し、シフトレジスタの LSB（ビット 0）からデータをシフトインします。23 ビット分のシリアル転送に必要な RSPI-RSPCK 周期を経過すると、シフトレジスタの 0～23 ビットに受信データ R23～P が格納されます。シリアル転送完了後のシフトレジスタのビット 24～ビット 31 には、転送前のデータが保持されています。この状態で、全二重同期式のシリアル通信（TXMD = 0）の場合、RSPI はシフトレジスタから SPDR の受信バッファにデータをコピーし、シフトレジスタを空にします。

なお、CPU 又は DMAC が SPDR の送信バッファを書き込む前に、次のシリアル転送が起動されると、受信データ R23～P がシフトレジスタからシフトアウトされます。



注. 出力＝RSPI-MOSI（マスタ）／RSPI-MISO（スレーブ）、入力＝RSPI-MISO（マスタ）／RSPI-MOSI（スレーブ）

図 34.15　MSB ファースト転送（24 ビットデータ、パリティ機能有効）

(3) LSB ファースト転送（32 ビットデータ）

(a) パリティ機能無効(SPPE=0)

図 34.16 に、RSPI がデータ長 32 ビットの LSB ファースト転送を実施する場合の RSPI データレジスタ（SPDR）とシフトレジスタの動作内容を示します。

CPU 又は DMAC は、SPDR の送信バッファに T31～T00 を書き込みます。SPTEF ビット（RSPI ステータスレジスタ（SPSR）のビット 5）が 0 かつシフトレジスタが空であれば、RSPI が SPDR の送信バッファのデータをシフトレジスタにビット順を逆転してコピーし、シフトレジスタをフルにします。シリアル転送が開始されると、RSPI はシフトレジスタの MSB（ビット 31）からデータを出力し、シフトレジスタの LSB（ビット 0）からデータをシフトインします。32 ビット分のシリアル転送に必要な RSPI-RSPCK 周期を経過すると、シフトレジスタにはデータ R00～R31 が格納されます。この状態で、全二重同期式のシリアル通信（TXMD = 0）の場合、RSPI はリザーブビットの順にシフトレジスタから SPDR の受信バッファにデータをコピーし、シフトレジスタを空にします。

なお、CPU 又は DMAC が SPDR の送信バッファを書き込む前に、次のシリアル転送が起動されると、受信データ R00～R31 がシフトレジスタからシフトアウトされます。

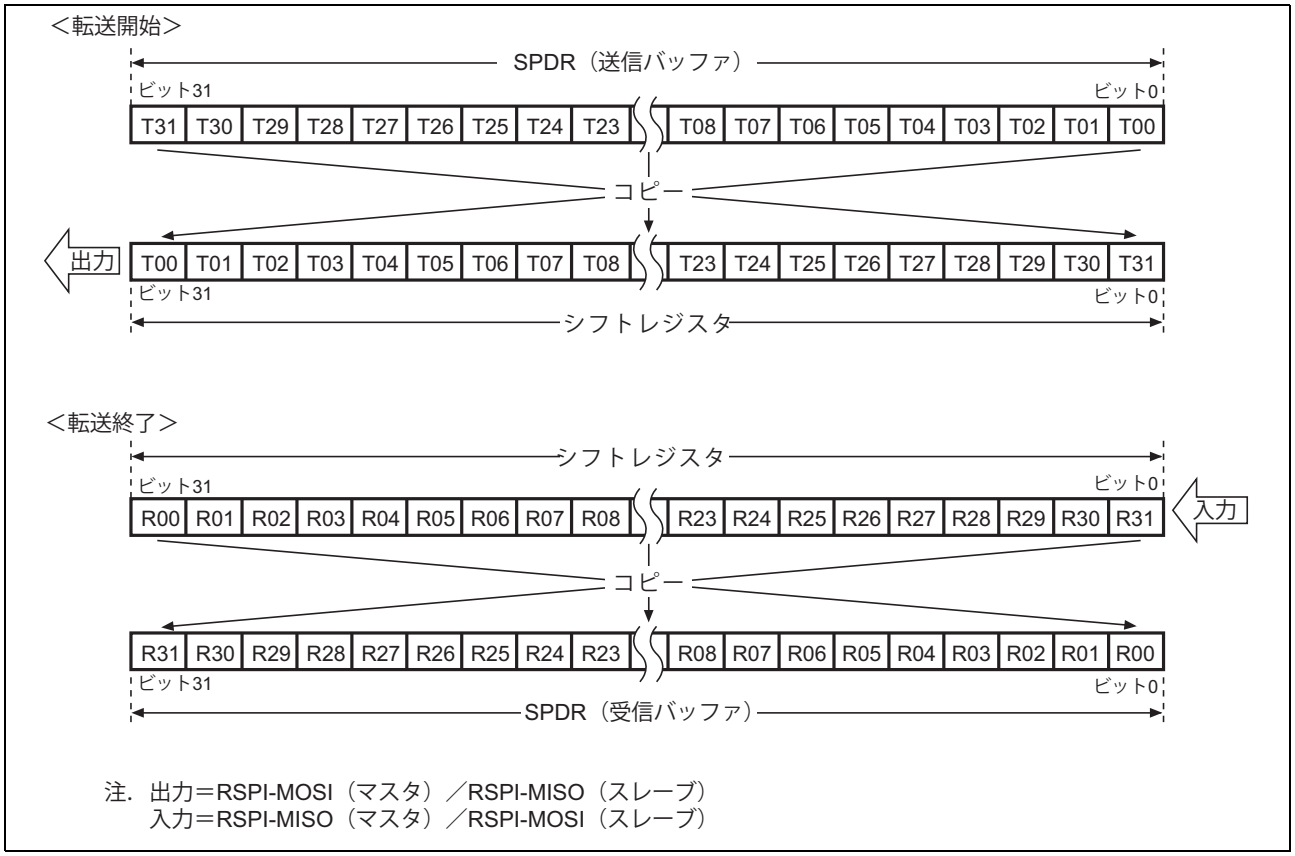


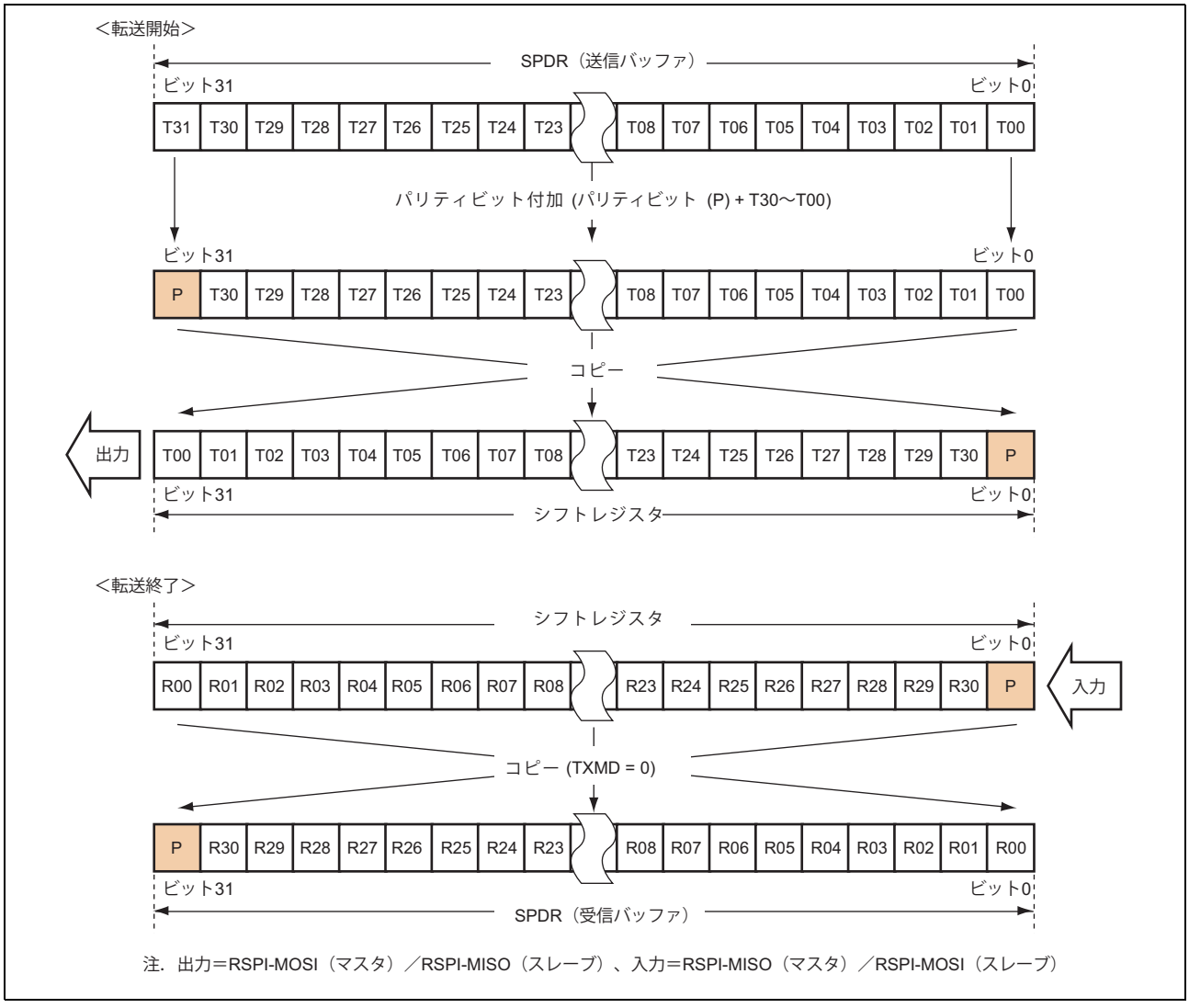
図 34.16　LSB ファースト転送（32 ビットデータ）

(b)　パリティ機能有効（SPPE = 1）

図 34.17 に、RSPI がデータ長 32 ビットの LSB ファースト転送を実施する場合の RSPI データレジスタ（SPDR）とシフトレジスタの動作内容を示します。

CPU 又は DMAC は、SPDR の送信バッファに T31～T00 を書き込みます。RSPI が SPDR の送信バッファに格納されているデータ（T31）をパリティビット（P）に変換します。SPTEF ビット（RSPI ステータスレジスタ（SPSR）のビット 5）が 0 かつシフトレジスタが空であれば、RSPI はパリティビット（P）を付加したデータのビット順を逆転してシフトレジスタにコピーし、シフトレジスタをフルにします。シリアル転送が開始されると、RSPI はシフトレジスタの MSB（ビット 31）からデータを出力し、シフトレジスタの LSB（ビット 0）からデータをシフトインします。32 ビット分のシリアル転送に必要な RSPI-RSPCK 周期を経過すると、シフトレジスタにはデータ R00～P が格納されます。この状態で、全二重同期式のシリアル通信（TXMD = 0）の場合、RSPI はシフトレジスタから SPDR の受信バッファにデータをコピーし、シフトレジスタを空にします。

なお、CPU 又は DMAC が SPDR の送信バッファを書き込む前に、次のシリアル転送が起動されると、受信データ R00～P がシフトレジスタからシフトアウトされます。



注．出力＝RSPI-MOSI（マスタ）／RSPI-MISO（スレーブ）、入力＝RSPI-MISO（マスタ）／RSPI-MOSI（スレーブ）

図 34.17　LSB ファースト転送（32 ビットデータ、パリティ機能有効）

(4) LSB ファースト転送（24 ビットデータ）

(a) パリティ機能無効(SPPE=0)

図34.18 に、RSPI が32 ビット以外のデータをLSB ファースト転送する例として、24 ビットのデータ転送を実施する場合のRSPI データレジスタ（SPDR）とシフトレジスタの動作内容を示します。

CPU 又はDMAC は、SPDR の送信バッファにT31～T00 を書き込みます。SPTEF ビット（RSPI ステータスレジスタ（SPSR）のビット5）が0 かつシフトレジスタが空であれば、RSPI がSPDR の送信バッファのデータをシフトレジスタにビット順を逆転してコピーし、シフトレジスタをフルにします。シリアル転送が開始されると、RSPI はシフトレジスタのMSB（ビット31）からデータを出力し、シフトレジスタのビット8 からデータをシフトインします。24 ビット分のシリアル転送に必要なRSPI-RSPCK 周期を経過すると、シフトレジスタのビット31～ビット8 には受信データR00～R23 が格納されます。シリアル転送完了後のシフトレジスタのビット7～ビット0 には、転送前のデータが保持されています。この状態で、全二重同期式のシリアル通信（TXMD = 0）の場合、RSPI はリザーブビットの順にシフトレジスタからSPDR の受信バッファにデータをコピーし、シフトレジスタを空にします。

なお、CPU 又はDMAC がSPDR の送信バッファを書き込む前に、次のシリアル転送が起動されると、受信データR00～R23 がシフトレジスタからシフトアウトされます。

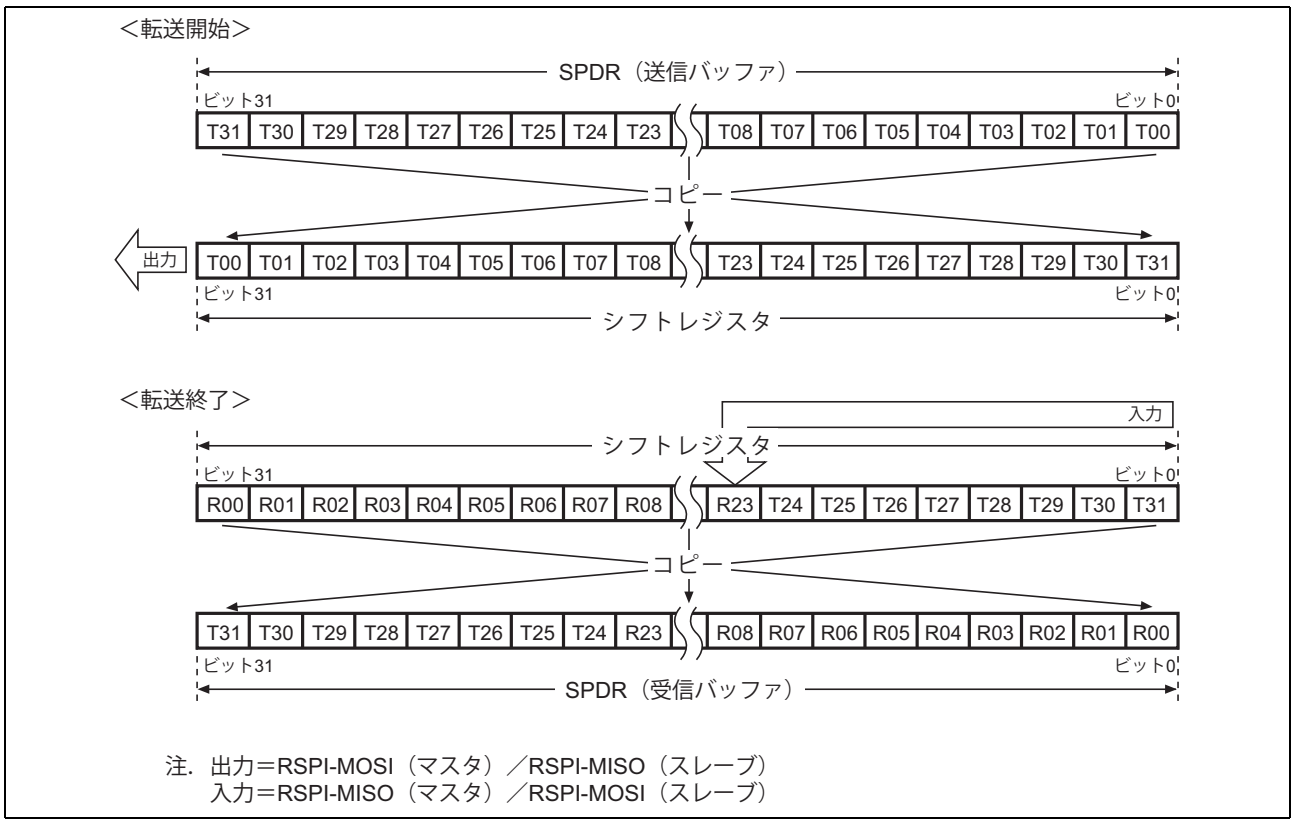


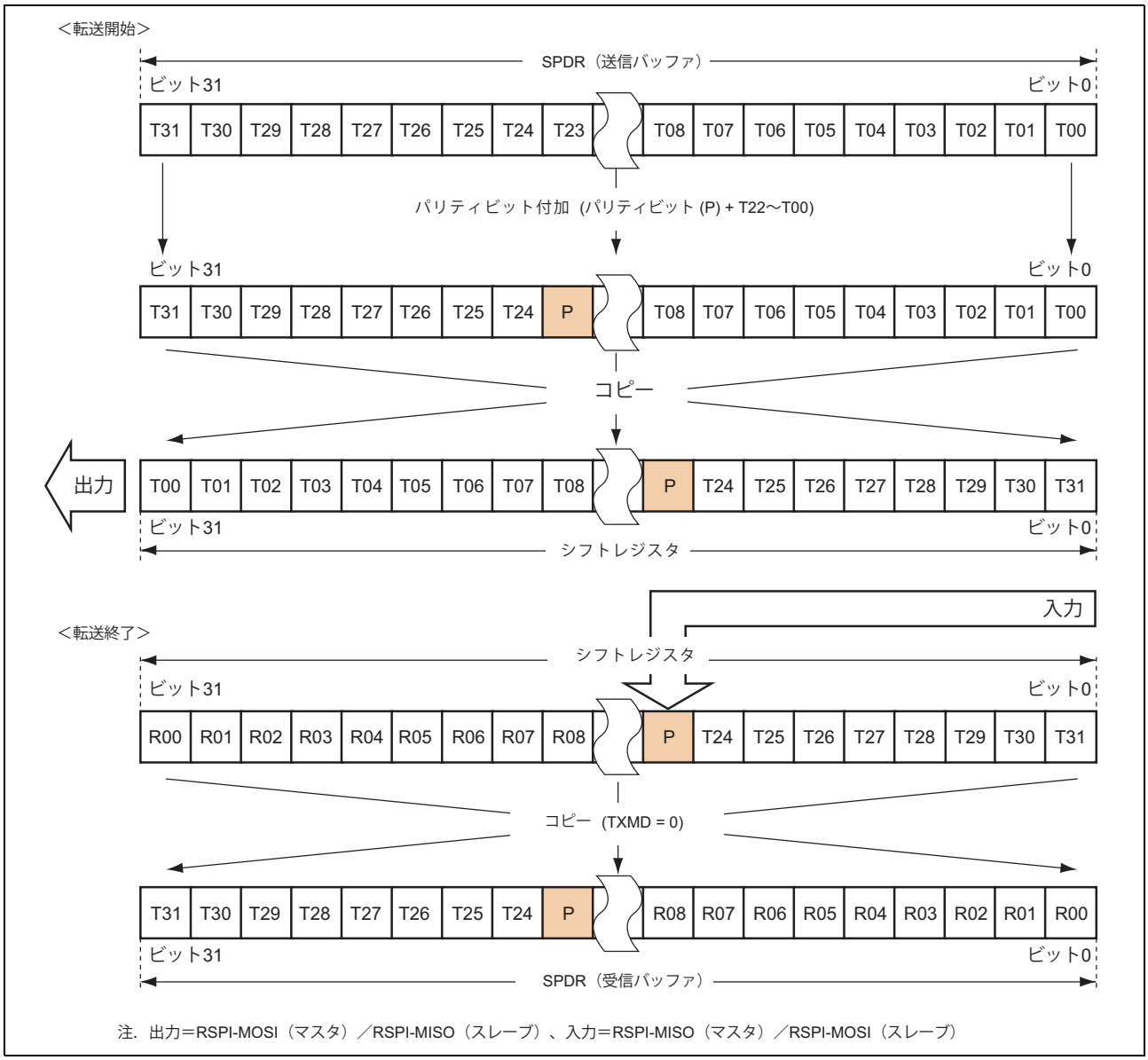
図 34.18　LSB ファースト（24 ビットデータ）

(b)　パリティ機能有効（SPPE = 1）

図34.19 に、RSPI がデータ長24 ビットのLSB ファースト転送（データ長32 ビット以外の転送動作を例に挙げます）を実施する場合の RSPI データレジスタ（SPDR）とシフトレジスタの動作内容を示します。

CPU 又はDMAC は、SPDR の送信バッファにT31～T00 を書き込みます。RSPI がSPDR の送信バッファに格納されているデータ（T23）をパリティビット（P）に変換します。SPTEF ビット（RSPI ステータスレジスタ（SPSR）のビット5）が0 かつシフトレジスタが空であれば、RSPI はパリティビット（P）を付加したデータのビット順を逆転してシフトレジスタにコピーし、シフトレジスタをフルにします。シリアル転送が開始されると、RSPI はシフトレジスタのMSB（ビット31）からデータを出力し、シフトレジスタの（ビット 8）からデータをシフトインします。24 ビット分のシリアル転送に必要なRSPI-RSPCK 周期を経過すると、シフトレジスタの31～8 ビットに受信データR00～P が格納されます。シリアル転送完了後のシフトレジスタのビット0～ビット7 には、転送前のデータが保持されています。この状態で、全二重同期式のシリアル通信の場合、RSPI はリザーブビットの順にシフトレジスタからSPDR の受信バッファにデータをコピーし、シフトレジスタを空にします。

なお、CPU 又はDMAC がSPDR の送信バッファを書き込む前に、次のシリアル転送が起動されると、受信データR00～P がシフトレジスタからシフトアウトされます。



注．出力＝RSPI-MOSI（マスタ）／RSPI-MISO（スレーブ）、入力＝RSPI-MISO（マスタ）／RSPI-MOSI（スレーブ）

図 34.19　LSB ファースト転送（24 ビットデータ、パリティ機能有効）

34.4.6　通信動作モード

通信動作モード選択ビット（TXMD）（RSPI 制御レジスタ（SPCR）のビット 1）で全二重同期式のシリアル通信か送信専用の動作を選択できます。図 34.20 と図 34.21 の SPDR アクセスは、RSPI データレジスタ（SPDR）へのアクセス状況を示しています。I はアイドル状態、W は書き込みサイクルを示しています。

(1)　全二重同期式のシリアル通信 (TXMD = 0)

図 34.20 に通信動作モード選択ビット（TXMD）（RSPI 制御レジスタ（SPCR）のビット 1）が 0 の設定の動作例を示します。図 34.20 の例では、CPHA ビット（RSPI コマンドレジスタ（SPCMD）のビット 0）が 1、CPOL（同ビット 1）が 0 の設定で、RSPI が 8 ビットのシリアル転送を実行しています。RSPI-RSPCK 波形の下に記載した数字は RSPI-RSPCK サイクル数（＝転送ビット数）を示しています。

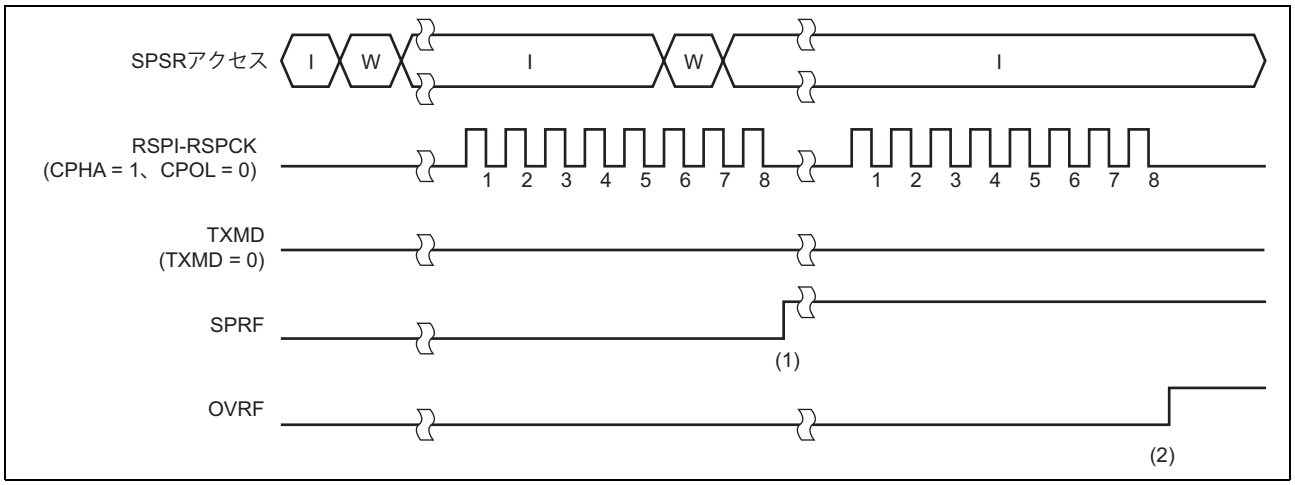


図 34.20　TXMD = 0 の動作例

以下に、図中の（1）、（2）に示したタイミングでのフラグの動作内容を説明します。

1. SPDR の受信バッファが空の状態でシリアル転送が終了すると、RSPI は SPRF ビット（SPSR レジスタのビット 7）を 1 にしてシフトレジスタの受信データを受信バッファにコピーします。
2. 前回シリアル転送時の受信データが SPDR の受信バッファに保持されている状態でシリアル転送を終了すると、RSPI は OVRF ビット（SPSR レジスタのビット 0）を 1 にしてシフトレジスタに受信データを破棄します。

全二重同期式のシリアル通信（TXMD = 0）は、送信データを転送し受信データを受信します。したがって、（1）、（2）のタイミングで SPRF ビットと OVRF ビットに 1 を設定してください。

(2)　送信専用の動作（TXMD = 1）

図 34.21 に通信動作モード選択ビット（TXMD）（RSPI 制御レジスタ（SPCR）のビット 1）が 1 の設定の動作例を示します。図34.21 の例では、SPFC1 ビット（RSPI データ制御レジスタ（SPDCR）のビット1）とSPFC0（同ビット0）が00、CPHA ビット（RSPI コマンドレジスタ（SPCMD）のビット0）が 1 の設定で、CPOL ビット （同ビット1）が 0 の設定の場合、RSPI が8 ビットのシリアル転送を実行します。RSPI-RSPCK波形の下に記載した数字はRSPI-RSPCK サイクル数（＝転送ビット数）を示しています。

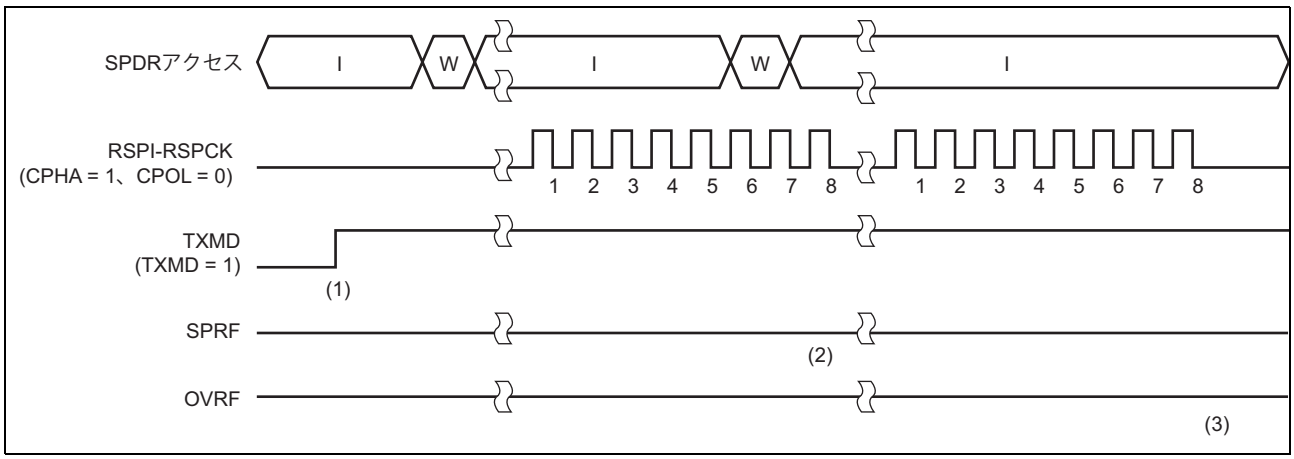


図 34.21　TXMD = 1 の動作例

以下に、図中の（1）～（3）に示したタイミングでのフラグの動作内容を説明します。

1. 送信専用の動作（TXMD = 1）にシフトする前に SPRF ビット（SPSR レジスタのビット 7） と OVRF ビット（ビット0）が 0 であるかを確認します。
2. 転送専用の動作（TXMD = 1）時に SPDR の受信バッファが空の状態でシリアル転送が終了すると、SPRF ビット（SPSR レジスタのビット 7）の値を 0 のまま保持し、シフトレジスタのデータを受信バッファにコピーしません。
3. 前回シリアル転送時の受信データが、SPDR の受信バッファに保持されていないので、シリアル転送を終了すると、OVRF ビットの値を 0 のまま保持し、シフトレジスタのデータを受信バッファにコピーしません。

送信専用の動作（TXMD = 1）の場合、送信データは転送しますが、受信データを受信しません。したがって、（1）～（3）のタイミングでSPRF ビットと OVRF ビットに 0 を設定してください。

34.4.7　送信バッファエンプティ／受信バッファフルフラグ

図34.22にRSPIステータスレジスタ（SPSR）のRSPI送信バッファエンプティフラグ（SPTEF）とRSPI受信バッファフルフラグ（SPRF）の動作例を示します。図34.22に記載したSPDRアクセスは、RSPIデータレジスタ（SPDR）へのアクセス状況を示しています。Iはアイドルサイクル、Wは書き込みサイクル、Rは読み出しサイクルを示しています。図34.16の例では、RSPIデータコントロールレジスタ（SPDCR）のSPFC[1:0]が00、RSPIコマンドレジスタ（SPCMD）のCPHAが1、CPOLが0の設定で、RSPIが8ビットのシリアル転送を実行しています。RSPI-RSPCK波形の下に記載した数字はRSPI-RSPCKサイクル数（＝転送ビット数）を示しています。

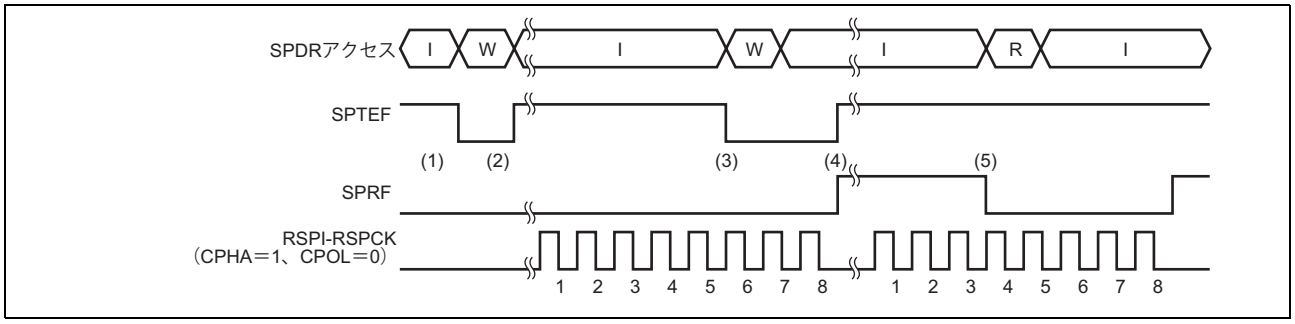


図 34.22　SPTEF、SPRF ビットの動作例

以下に、図中の（1）～（5）に示したタイミングでのフラグの動作内容を説明します。

1. SPDRの送信バッファが空の状態で、SPDRに送信データを書き込むと、RSPIはSPTEFビットを0にして送信バッファにデータを書き込みます。SPRFフラグは変化しません。
2. シフトレジスタが空の場合には、RSPIはSPTEFビットを1にして送信バッファのデータをシフトレジスタにコピーします。SPRFフラグは変化しません。なお、シリアル転送の開始方法は、RSPIのモードに依存します。詳細は、「34.4.10 SPI動作」及び「34.4.11 クロック同期式動作」を参照してください。
3. SPDRの送信バッファが空の状態で、SPDRに送信データを書き込むと、RSPIがSPTEFビットを0にして送信バッファにデータを書き込みます。SPRFフラグは変化しません。シフトレジスタにはシリアル転送中のデータが格納されているため、RSPIは送信バッファのデータをシフトレジスタにコピーしません。
4. SPDRの受信バッファが空の状態でシリアル転送が終了すると、RSPIはSPRFを1にしてシフトレジスタの受信データを受信バッファにコピーします。また、シリアル転送が終了するとシフトレジスタが空になるため、シリアル転送が終了する前に送信バッファがフルであった場合には、RSPIがSPTEFビットを1にして送信バッファのデータをシフトレジスタにコピーします。なお、オーバランエラー発生状態で、シフトレジスタから受信バッファへ受信データをコピーしなかった場合でも、シリアル転送が終了するとRSPIはシフトレジスタを空であると判定し、送信バッファからシフトレジスタへのデータ転送は可能な状態になります。
5. 受信バッファフルの状態で、SPDRを読み出すと、RSPIはSPRFを0にして、受信バッファのデータをチップ内部バスに送出します。

SPTEFビットが0の状態で、CPU又はDMACがSPDRを書き込んだ場合には、RSPIは送信バッファのデータを更新しません。SPDRを書き込む場合には、必ずSPTEFが1であることを確認してください。SPTEFがであることは、SPSRの読み出し、あるいはRSPI送信割り込みの利用によって確認できます。RSPI送信割り込みを利用する場合には、SPCRのTXINTEビットを1にしてください。

RSPIディスエーブル（SPCRのSPEビットが0）の場合には、SPTEFビットが1に初期化されます。このためRSPIディスエーブル状態でSPCRのTXINTEビットを1にすると、RSPI送信割り込みが発生します。SPRFビットが1の状態で、シリアル転送が終了した場合には、RSPIはシフトレジスタから受信バッファへのデータのコピーを行わず、オーバランエラーを検出します（「34.4.8 エラー検出」を参照）。受信データのオーバランを防ぐためには、シリアル転送の終了よりも前にSPRFビットを0にして

ください。SPRF が 1 であることは、SPSR の読み出し、あるいは RSPI 受信割り込みの利用によって確認できます。RSPI 受信割り込みを利用する場合には、SPCR の RXINTE ビットを 1 にしてください。

34.4.8　エラー検出

通常の RSPI のシリアル転送では、RSPI データレジスタ（SPDR）の送信バッファに書き込んだデータがシリアル送信され、シリアル受信されたデータを SPDR の受信バッファから読み出すことができます。SPDR へアクセスした場合の送受信バッファの状態やシリアル転送の開始／終了時の RSPI の状態によっては、通常以外の転送が実行される場合があります。

一部の通常以外の転送動作が発生した場合には、RSPI はオーバランエラー、パリティエラー又はモードフォルトエラーとして検出します。表 34.8 に、通常以外の転送動作と RSPI のエラー検出機能の関係を示します。

表 34.8　通常以外の転送の発生条件と RSPI のエラー検出機能

	発生条件	RSPI 動作	エラー検出
A	送信バッファフルの状態で、SPDR に書き込み。	送信バッファ内容を保持。 書き込みデータ欠落。	なし
B	スレーブモードで送信データをシフトレジスタにセットしていない状態で、シリアル転送開始。	前回シリアル転送時の受信データをシリアル送信。	なし
C	受信バッファエンプティの状態で、SPDR を読み出し。	前回シリアル受信データを出力。	なし
D	受信バッファフルの状態で、シリアル転送が終了。	受信バッファ内容を保持。 シリアル受信データ欠落。	オーバランエラー検出
E	全二重同期式のシリアル通信でパリティ機能有効時に誤ったパリティビットを受信。	パリティエラーフラグアサート。	パリティエラー検出
F	スレーブモードでシリアル転送中に RSPI-SSL0 入力信号がネゲート。	シリアル転送を中断。 送受信データ欠落。 RSPI-MISO 出力信号のドライブ停止。 RSPI ディスエーブル。	モードフォルトエラー検出

表 34.8 の A に示した動作に対しては、RSPI はエラーを検出しません。SPDR 書き込み時にデータを欠落させないために、必ず RSPI ステータスレジスタ（SPSR）の SPTEF ビットが 1 の状態で SPDR への書き込みを実施してください。

B に示した動作に対しても、RSPI はエラーを検出しません。RSPI では、シフトレジスタの更新前に起動されたシリアル転送において、前回シリアル転送時の受信データを送信し、B に示した動作をエラーとして扱いません。なお、前回シリアル転送時の受信データは、SPDR の受信バッファに保持されているので、正しく読み出されます（シリアル転送が終了する前に SPDR を読み出さないと、オーバランエラーが発生します）。

C に示した動作に対しても、RSPI はエラーを検出しません。不必要なデータを読み出さないようにするためには、SPSR の SPRF ビットが 1 の状態で SPDR の読み出しを実行するようにしてください。

D に示したオーバランエラーについては、「35.4.8 (1) オーバランエラー」で詳しく説明します。また、E に示したパリティエラーについては、「35.4.8 (2) パリティエラー」で説明します。また、F に示したモードフォルトエラーについては、「35.4.8 (3) モードフォルトエラー」で説明します。なお、SPSR の SPTEF ビットと SPRF ビットの動作については、「34.4.7 送信バッファエンプティ／受信バッファフルフラグ」を参照してください。

(1)　オーバランエラー

RSPI データレジスタ（SPDR）の受信バッファフル状態でシリアル転送が終了すると、RSPI はオーバランエラーを検出して SPSR の OVRF ビットを 1 にします。OVRF ビットが 1 の状態では、RSPI はシフトレジスタのデータを受信バッファにコピーしないので、受信バッファにはエラー発生前のデータが保持されます。SPSR の OVRF ビットを 0 にするためには、システムリセットを実施するか、OVRF ビットが 1 にセットされた状態の SPSR を CPU が読み出した後に、OVRF に 0 を書き込む必要があります。

図 34.23 に、SPSR の SPRF ビットと OVRF ビットの動作を示します。図 34.23 に SPSR と SPDR へのアクセス状況を示しています。I はアイドル状態、W は書き込みサイクル、R は読み出しサイクルを示しています。図 34.23 の例では、RSPI コマンドレジスタ（SPCMD）の CPHA が 1、CPOL が 0 の設定で、RSPI が 8 ビットのシリアル転送を実行しています。RSPI-RSPCK 波形の下に記載した数字は RSPI-RSPCK サイクル数（＝転送ビット数）を示しています。

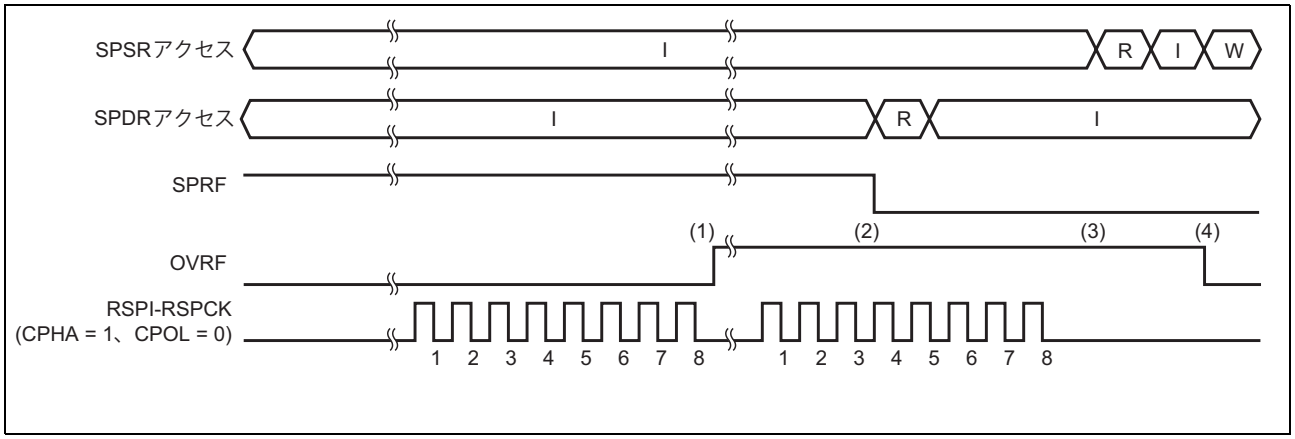


図 34.23　SPRF、OVRF ビットの動作例

以下に、図中の（1）～（4）に示したタイミングでのフラグの動作内容を説明します。

1. SPRFビットが1の状態（受信バッファフル）でシリアル転送が終了すると、RSPIがオーバランエラーを検出し、OVRFビットを1にします。RSPIはシフトレジスタのデータを受信バッファにコピーしません。SPPEビットが1でもパリティエラーを検出しません。また、マスタモードの場合には、RSPIはRSPIシーケンスステータスレジスタ（SPSSR）のSPECM 2～SPECM0ビットに、RSPIコマンドレジスタ（SPCMD）に対するポインタの値をコピーします。
2. SPDRを読み出すと、RSPIはSPRFビットを0にして受信バッファのデータを内部バスに出力します。受信バッファが空になっても、OVRFビットはクリアされません。
3. OVRFビットが1の状態（オーバランエラー）でシリアル転送が終了した場合には、RSPIはSPRFビットを0のまま更新しません。また、RSPIはシフトレジスタのデータを受信バッファにコピーしません。マスタモードのRSPIの場合に、RSPIはSPSSRのSPECM 2～SPECM0ビットを更新しません。オーバランエラー発生状態で、シフトレジスタから受信バッファへ受信データをコピーしなかった場合でも、シリアル転送が終了するとRSPIはシフトレジスタを空であると判定し、送信バッファからシフトレジスタへのデータ転送は可能な状態になります。
4. OVRFビットが1の状態でSPSRを読み出した後、OVRFに0を書き込むと、RSPIはOVRFビットをクリアします。

オーバランの発生は、SPSRの読み出しあるいはRSPIエラー割り込みとSPSRの読み出しによって確認できます。RSPIエラー割り込みを利用する場合には、RSPI制御レジスタ（SPCR）のERRINTEビットを1にしてください。RSPIエラー割り込みを利用せずにシリアル転送を実行する場合には、SPDRの読み出し直後にSPSRを読み出すなどの方法で、オーバランエラー発生を早期に検出できるように対処してください。RSPIをマスタモードで使用する場合、SPSSRのSPECM2～0ビットを読み出すことで、エラー発生時のSPCMDに対するポインタ値を確認できます。

オーバランエラーが発生してOVRFビットが1になると、OVRFビットをクリアするまで正常な受信動作ができなくなります。OVRFビットを0にクリアする条件は以下のとおりです。

- OVRFが1にされた状態のSPSRを読み出した後、OVRFに0を書き込む
- システムリセット

(2)　パリティエラー

RSPI 制御レジスタ（SPCR）のTXMD ビットに1を設定、及びRSPI 制御レジスタ2（SPCR2）のSPPE ビットに0 を設定して全二重同期式のシリアル通信を行うと、転送完了後にパリティエラーがあるかどうかを検出します。RSPI は受信データのパリティエラーを検出し、RSPI ステータスレジスタ（SPSR）のPERF ビットを 1 にします。RSPI はOVRF ビット が1 の状態でシフトレジスタのデータを受信バッファにコピーしないので、受信データに対してパリティエラー検出を実施しません。SPSR のOVRF ビットを0 にするためには、システムリセットを実施するか、PERF ビットを1 に設定した状態のSPSR をCPU が読み出した後に、PERF に0 を書き込む必要があります。

図34.24 にSPSR へのアクセス状況を示しています。I はアイドル状態、W は書き込みサイクル、R は読み出しサイクルを示しています。図 34.24 の例では、RSPI 制御レジスタ（SPCR）の TXMD ビットに1 を設定、及びRSPI 制御レジスタ 2 （SPCR2）の SPPE ビットに 0 を設定して全二重同期式のシリアル通信を実行しています。RSPI コマンドレジスタ（SPCMD）のCPHA が1、CPOL が0 の設定で、RSPI が8 ビットのシリアル転送を実行しています。RSPI-RSPCK 波形の下に記載した数字はRSPI-RSPCK サイクル数（＝転送ビット数）を示しています。

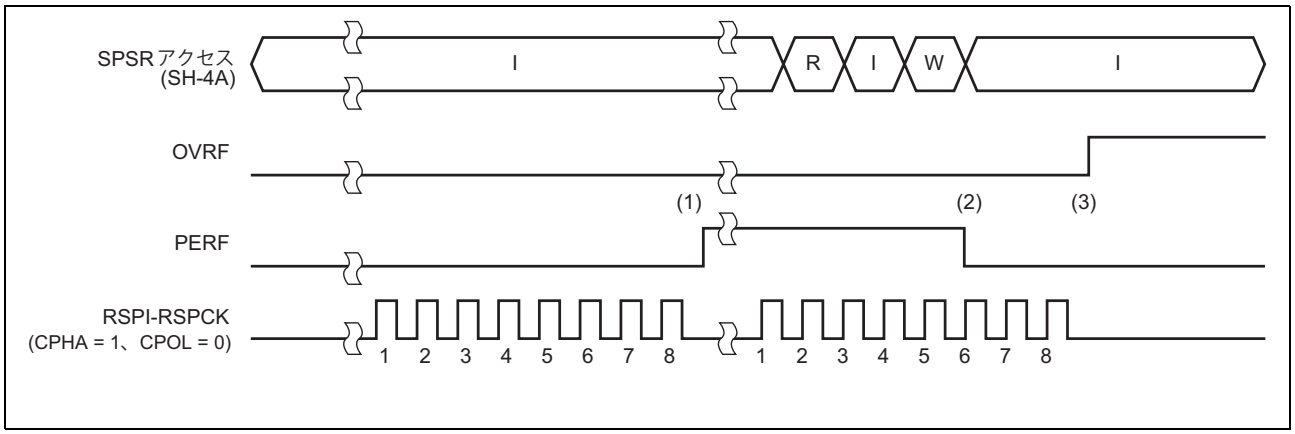


図 34.24　PERF ビットの動作例

以下に、図中の（1）～（3）に示したタイミングでのフラグの動作内容を説明します。

1. RSPI のオーバランエラーを検出しない状態でシリアル転送を終了すると、RSPI はシフトレジスタのデータを受信バッファにコピーします。このとき、RSPI は受信データを診断し、パリティエラーを検出するとPERF ビットを 1 にします。また、マスタモード時、RSPI はRSPI シーケンスステータスレジスタ（SPSSR）のSPECM0～2 ビットに、RSPI コマンドレジスタ（SPCMD）に対するポインタの値をコピーします。
2. PERF ビットが 1 でSPSR を読み出すと、CPUはPERF ビットに 0 を書き込みます。
3. RSPI のオーバランエラーを検出した状態でシリアル転送を終了すると、RSPI はシフトレジスタのデータを受信バッファにコピーしません。このとき、RSPI はパリティエラーを検出しません。

パリティエラーの発生は、SPSR の読み出し、あるいはRSPI エラー割り込みとSPSR の読み出しによって確認できます。RSPI エラー割り込みを利用する場合には、RSPI 制御レジスタ（SPCR）の ERRINTE ビットを1 にしてください。RSPI エラー割り込みを利用せずにシリアル転送を実行する場合には、SPSR を読み出すなどの方法で、パリティエラー発生を早期に検出できるように対処してください。RSPI をマスタモードで使用する場合、SPSSR の SPECM2 ～ 0 ビットを読み出すことで、エラー発生時の SPCMD に対するポインタ値を確認できます。

PERF ビットを0 にする条件は以下のとおりです。

- PERFが1にされた状態のSPSRを読み出した後、ERFに0を書き込む
- システムリセット

(3) モードフォルトエラー

MSTR ビットが 0 の場合には、RSPI はスレーブモードで動作します。スレーブモードの RSPI の MODFEN ビットが 1、SPMS ビットが 0 の場合、シリアル転送期間（有効データのドライブ開始から最終有効データの取り込みまで）に RSPI-SSL0 入力信号がネゲートされると、RSPI はモードフォルトエラーを検出します。

RSPI はモードフォルトエラーを検出すると、出力信号のドライブ停止及び SPCR レジスタの SPE ビットのクリアを実施します。SPE ビットがクリアされると RSPI 機能は無効化されます（「34.4.9 RSPI の初期化」を参照）。マルチマスタ構成の場合には、モードフォルトエラーを利用して出力信号のドライブと RSPI 機能を停止させ、マスタ権の解放を実現することが可能です。

モードフォルトエラーの発生は、SPSR の読み出し、あるいは RSPI エラー割り込みと SPSR の読み出しによって確認できます。RSPI エラー割り込みを利用する場合には、RSPI 制御レジスタ（SPCR）の ERRINTE ビットを 1 にしてください。RSPI エラー割り込みを利用せずにモードフォルトエラーを検出するためには、SPSR をポーリングする必要があります。RSPI をマスタモードで使用する場合、SPSSR の SPECM2～0 ビットを読み出すことで、エラー発生時の SPCMD に対するポインタ値を確認できます。

MODF ビットが 1 の状態では、RSPI は CPU による SPE ビットへの 1 の書き込みを無視します。モードフォルトエラー検出後に RSPI 機能を有効にするためには、必ず MODF ビットを 0 にしてください。MODF ビットを 0 にクリアする条件は以下のとおりです。

- MODF が 1 にされた状態の SPSR を CPU が読み出した後、CPU が MODF に 0 を書き込む
- システムリセット

34.4.9 RSPI の初期化

CPU が RSPI 制御レジスタ（SPCR）の SPE ビットに 0 を書き込んだ場合、又はモードフォルトエラー検出により RSPI が SPE ビットを 0 にクリアした場合には、RSPI は RSPI 機能を無効化し、モジュール機能の一部を初期化します。また、システムリセットが発生した場合には、RSPI はモジュール機能をすべて初期化します。以下に、SPE ビットのクリアによる初期化とシステムリセットによる初期化について説明します。

(1) SPE ビットのクリアによる初期化

SPCR の SPE ビットがクリアされた場合には、RSPI は以下に示す初期化を実施します。

- 実行中のシリアル転送を中断
- スレーブモードの場合、出力信号のドライブ停止（Hi-Z）
- RSPI 内部ステートの初期化
- RSPI ステータスレジスタ（SPSR）の SPTEF ビットの初期化

SPE ビットのクリアによる初期化では、RSPI の制御ビットは初期化されません。このため、CPU が SPE ビットに 1 を再設定すれば初期化前と同じ転送モードで RSPI を起動できます。

SPSR の SPRF ビット、OVRF ビット、MODF ビットの値は初期化されません。また、RSPI シーケンスステータスレジスタ（SPSSR）の値も初期化されません。このため、RSPI の初期化後も受信バッファのデータの読み出し、RSPI 転送時のエラー発生状況の確認が可能です。

SPSR の SPTEF ビットの値は、1 に初期化されます。このため、RSPI 初期化後に SPCR の TXINTE ビットが 1 に設定されていると、RSPI 送信割り込みが発生します。CPU で RSPI を初期化する場合に、RSPI 送信割り込みを禁止するためには、SPE ビットへの 0 書き込みと同時に TXINTE ビットにも 0 を書き込んでください。モードフォルトエラー検出後の RSPI 送信割り込みを禁止するためには、エラー処理ルーチンで TXINTE ビットに 0 を書き込んでください。

(2) システムリセット

システムリセットによる初期化では、(1) に記載の事項に加え、RSPI 制御用の全ビットの初期化、ステータスビットの初期化、データレジスタの初期化が実施され、RSPI が完全に初期化されます。

34.4.10 SPI動作

(1) マスタモード動作

(a) シリアル転送の開始

RSPI ステータスレジスタ（SPSR）のSPTEF ビットが1 の状態で、CPU 又はDMAC がRSPI データレジスタ（SPDR）へデータを書き込むと、RSPI はSPDR の送信バッファのデータを更新します。SPDR への書き込み、又はSPTEF の1 読み出し後の0 書き込みによってSPTEF ビットを0 にクリアした状態で、シフトレジスタが空の場合には、RSPI は送信バッファのデータをシフトレジスタにコピーしてシリアル転送を開始します。RSPI は、シフトレジスタに送信データをコピーするとシフトレジスタのステータスをフルに変更し、シリアル転送が終了するとシフトレジスタのステータスを空に変更します。シフトレジスタのステータスをCPU から参照することはできません。

なお、RSPI の転送フォーマットの詳細については、「34.4.4 転送フォーマット」を参照してください。SSL 出力信号の極性は、RSPI スレーブセレクト極性レジスタ（SSLP）の設定値に依存します。

(b) シリアル転送の終了

RSPI コマンドレジスタ（SPCMD）のCPHA ビットにかかわらず、RSPI はサンプルタイミングに対応するRSPI-RSPCK エッジを送出するとシリアル転送を終了します。RSPI ステータスレジスタ（SPSR）のSPRF ビットが0 で受信バッファに空きがある場合には、シリアル転送終了後にシフトレジスタからRSPI データレジスタ（SPDR）の受信バッファにデータをコピーします。

なお、最終サンプルタイミングは転送データのビット長に依存して変化します。マスタモードのRSPI のデータ長は、RSPI コマンドレジスタ（SPCMD）のSPB3～SPB0 ビットの設定値に依存します。SSL 出力信号の極性は、RSPI スレーブセレクト極性レジスタ（SSLP）の設定値に依存します。RSPI の転送フォーマットの詳細については、「34.4.4 転送フォーマット」を参照してください。

(c)　シーケンス制御

マスタモード時の転送フォーマットは、RSPI シーケンス制御レジスタ（SPSCR）、RSPI コマンドレジスタ 0 ～ 7（SPCMD0 ～ 7）、RSPI ビットレートレジスタ（SPBR）、RSPI クロック遅延値レジスタ（SPCKD）、RSPI スレーブセレクトネゲート遅延レジスタ（SSLND）、RSPI 次アクセス遅延値レジスタ（SPND）によって決定されます。

SPSCR は、マスタモードの RSPI で実行するシリアル転送のシーケンス構成を決定するためのレジスタです。SPCMD0 ～ 7 には、SSL 出力信号値、MSB／LSB ファースト、データ長、ビットレート設定の一部、RSPI-RSPCK 極性／位相、SPCKD の参照要否、SSLND の参照要否、SPND の参照要否が設定されています。SPBR にはビットレート設定の一部、SPCKD には RSPI クロック遅延値、SSLND には SSL ネゲート遅延、SPND には次アクセス遅延値が設定されています。

RSPI は、SPSCR に設定されたシーケンス長に従って、SPCMD0 ～ 7 の一部／全部からなるシーケンスを構成します。RSPI には、シーケンスを構成している SPCMD に対するポインタが存在します。このポインタの値は、RSPI シーケンスステータスレジスタ（SPSSR）の SPCP 2 ～ 0 ビットの読み出しによって CPU から確認可能です。RSPI 制御レジスタ（SPCR）の SPE ビットを 1 にして RSPI 機能をイネーブルにすると、RSPI はコマンドに対するポインタを SPCMD0 にセットし、シリアル転送の開始時に SPCMD0 の設定内容を転送フォーマットに反映します。RSPI は、各データ転送の次アクセス遅延期間が終了するたびにポインタをインクリメントします。シーケンスを構成している最終コマンドに対応するシリアル転送が終了すると、RSPI はポインタを SPCMD0 にセットするので、シーケンスは繰り返し実行されます。

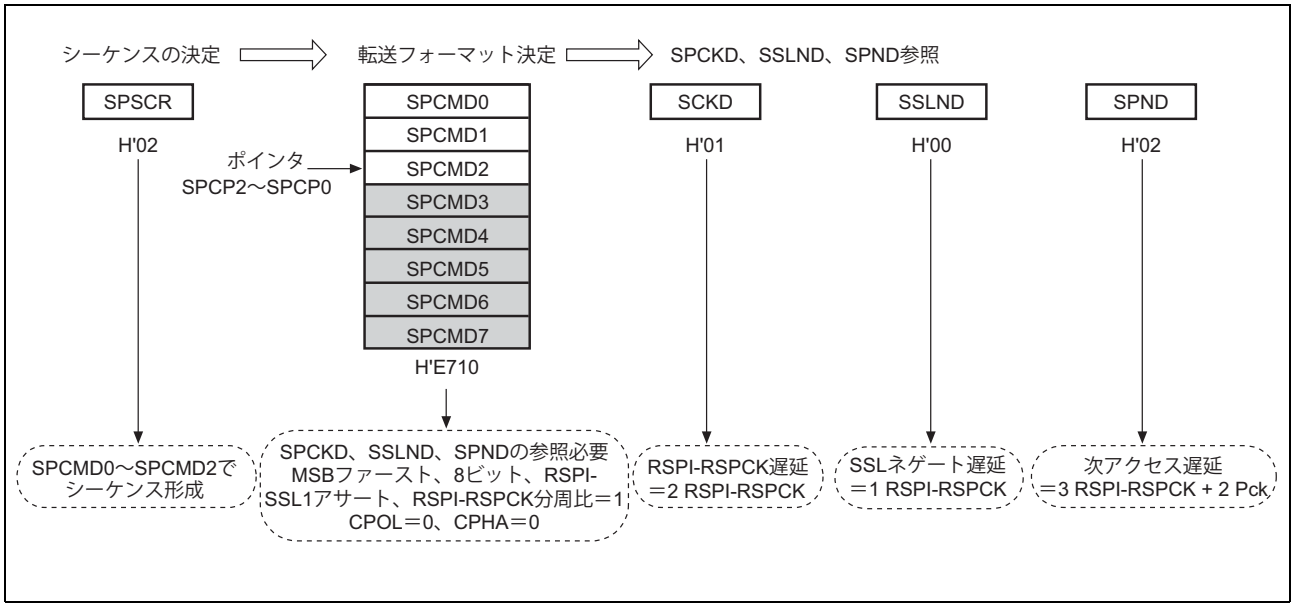


図 34.25　マスタモードでのシリアル転送方式の決定方法

(d)　バースト転送

RSPI が現在のシリアル転送で参照している RSPI コマンドレジスタ（SPCMD）の SSLKP ビットが 1 の場合には、RSPI はシリアル転送中の SSL 信号レベルを次のシリアル転送の SSL 信号アサート開始まで保持します。次のシリアル転送での SSL 信号レベルが、現在のシリアル転送での SSL 信号レベルと同じであれば、RSPI は SSL 信号アサート状態を保持したまま連続的にシリアル転送を実行することができます（バースト転送）。

図 34.26 に、SPCMD0 ～ 1 の設定を使用してバースト転送を実現した場合の SSL 信号動作例を示します。図 34.26 に記載した (1) ～ (7) の RSPI 動作内容について、以下に説明します。なお、SSL 出力信号の極性は、RSPI スレーブセレクト極性レジスタ（SSLP）の設定値に依存します。

(1) SPCMD0 にしたがった SSL 信号のアサートと RSPI-RSPCK 遅延の挿入を実施します。
(2) SPCMD0 にしたがったシリアル転送を実行します。
(3) SSL ネゲート遅延を挿入します。

(4)SPCMD0のSSLKPビットが1であるため、SPCMD0でのSSL信号値を保持します。この期間は、最短の場合にはSPCMD0の次アクセス遅延＋2Pck継続されます。最短期間を経過後にシフトレジスタが空の場合には、次転送のための送信データがシフトレジスタに格納されるまで、この期間を継続します。
(5)SPCMD1にしたがったSSL信号のアサートとRSPI-RSPCK遅延の挿入を実施します。
(6)SPCMD1にしたがったシリアル転送を実行します。
(7)SPCMD1のSSLKPビットが0であるため、SSL信号をネゲートします。また、SPCMD1にしたがった次アクセス遅延が挿入されます。

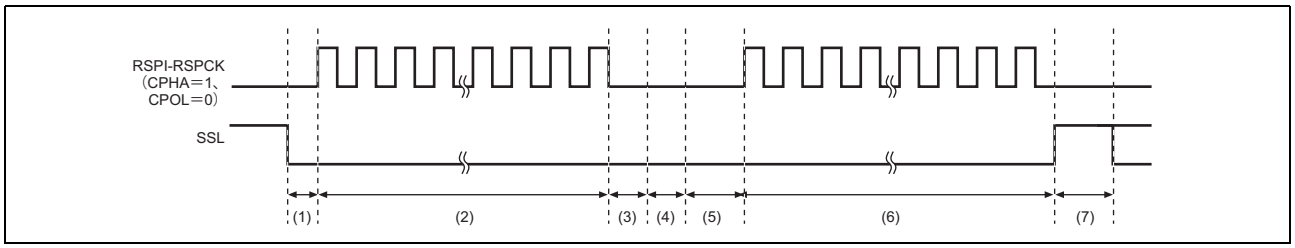


図 34.26　SSLKP ビットを利用したバースト転送動作の例

SSLKP ビットに 1 を設定した SPCMD での SSL 信号出力設定と、次転送で使用する SPCMD での SSL 信号出力設定が異なる場合、RSPI は次転送のコマンドに対応した SSL 信号のアサート時（図 34.26 の(5)）に SSL 信号状態を切り替えます。このような SSL 信号の切り替えが発生した場合、RSPI-MISO をドライブするスレーブが競合して信号レベルの衝突が発生する可能性があるので、注意してください。

マスタモードの RSPI は、SSLKP を使用しない場合の SSL 信号動作をモジュール内部で参照しています。SPCMD の CPHA ビットが 0 の場合でも、RSPI は内部で検出した次転送の SSL 信号のアサートを使用してシリアル転送を正確に開始できます。このため、マスタモードのバースト転送は、CPHA ビットの設定値にかかわらず実行できます。（「34.4.10 SPI 動作」参照）

(e)　RSPI-RSPCK 遅延（t1）

マスタモードの RSPI の RSPI-RSPCK 遅延値は、RSPI コマンドレジスタ（SPCMD）の SCKDEN ビットの設定と RSPI-RSPCK 遅延レジスタ（SPCKD）の設定に依存します。RSPI は、シリアル転送で参照する SPCMD をポインタ制御によって決定し、選択した SPCMD の SCKDEN ビットと SPCKD を使用して、表 34.9 のようにシリアル転送時の RSPI-RSPCK 遅延値を決定します。なお、RSPI-RSPCK 遅延の定義については、「34.4.4 転送フォーマット」を参照してください。

表 34.9　SCKDEN、SPCKD と RSPI-RSPCK 遅延の関係

SCKDEN	SPCKD	RSPI-RSPCK 遅延値
0	000～111	1 RSPI-RSPCK
1	000	1 RSPI-RSPCK
	001	2 RSPI-RSPCK
	010	3 RSPI-RSPCK
	011	4 RSPI-RSPCK
	100	5 RSPI-RSPCK
	101	6 RSPI-RSPCK
	110	7 RSPI-RSPCK
	111	8 RSPI-RSPCK

(f)　SSL ネゲート遅延（t2）

マスタモードの RSPI の SSL ネゲート遅延値は、RSPI コマンドレジスタ（SPCMD）の SLNDEN ビットの設定と SSL ネゲート遅延レジスタ（SSLND）の設定に依存します。RSPI は、シリアル転送

で参照するSPCMDをポインタ制御によって決定し、選択したSPCMDのSLNDENビットとSSLNDを使用して、表34.10のようにシリアル転送時のSSLネゲート遅延値を決定します。なお、SSLネゲート遅延の定義については、「34.4.4 転送フォーマット」を参照してください。

表34.10　SSLNDとSSLネゲート遅延の関係

SLNDEN	SSLND	SSLネゲート遅延値
0	000～111	1 RSPI-RSPCK
1	000	1 RSPI-RSPCK
	001	2 RSPI-RSPCK
	010	3 RSPI-RSPCK
	011	4 RSPI-RSPCK
	100	5 RSPI-RSPCK
	101	6 RSPI-RSPCK
	110	7 RSPI-RSPCK
	111	8 RSPI-RSPCK

(g)　次アクセス遅延（t3）

マスタモードのRSPIの次アクセス遅延は、RSPIコマンドレジスタ（SPCMD）のSPNDENビットの設定とRSPI次アクセス遅延レジスタ（SPND）の設定に依存します。RSPIは、シリアル転送で参照するSPCMDをポインタ制御によって決定し、選択したSPCMDのSPNDENビットとSPNDを使用して、表34.11のようにシリアル転送時のRSPI-RSPCK遅延を決定します。なお、次アクセス遅延の定義については、「34.4.4 転送フォーマット」を参照してください。

表34.11　SPNDEN、SPNDと次アクセス遅延の関係

SPNDEN	SPND	次アクセス遅延値
0	000～111	1 RSPI-RSPCK + 2 Pck
1	000	1 RSPI-RSPCK + 2 Pck
	001	2 RSPI-RSPCK + 2 Pck
	010	3 RSPI-RSPCK + 2 Pck
	011	4 RSPI-RSPCK + 2 Pck
	100	5 RSPI-RSPCK + 2 Pck
	101	6 RSPI-RSPCK + 2 Pck
	110	7 RSPI-RSPCK + 2 Pck
	111	8 RSPI-RSPCK + 2 Pck

(h)　初期化フロー

図34.27 に、SPI 動作時のRSPI をマスタモードで使用する場合の初期化フローの例を示します。なお、割り込みコントローラ、DMAC、入出力ポートの設定方法については、各ブロックの説明を参照してください

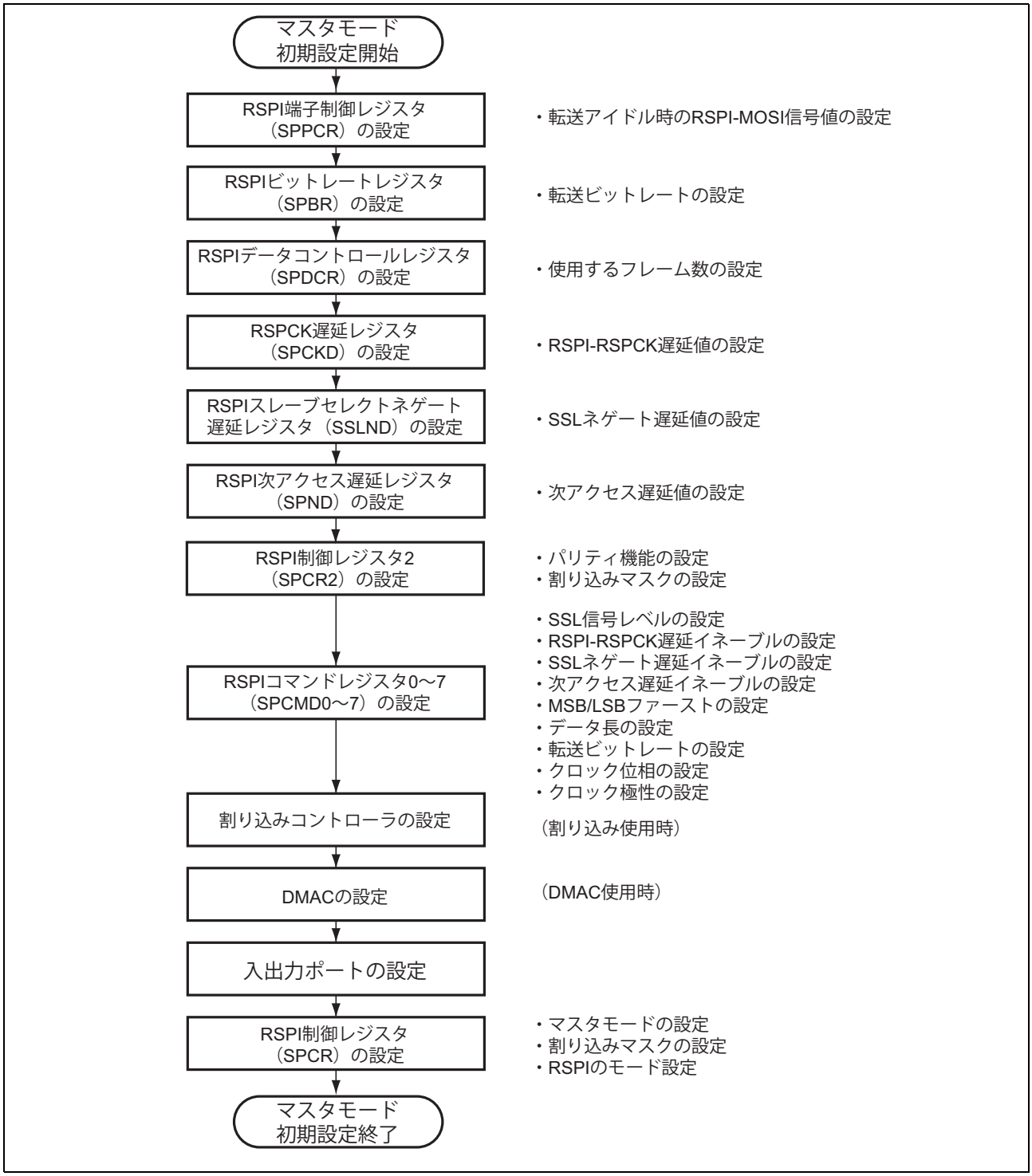


図 34.27　マスタモード時の初期化フロー例

(i)　転送動作フロー

図34.28 に、SPI 動作時、マスタモードの転送動作フローを示します。

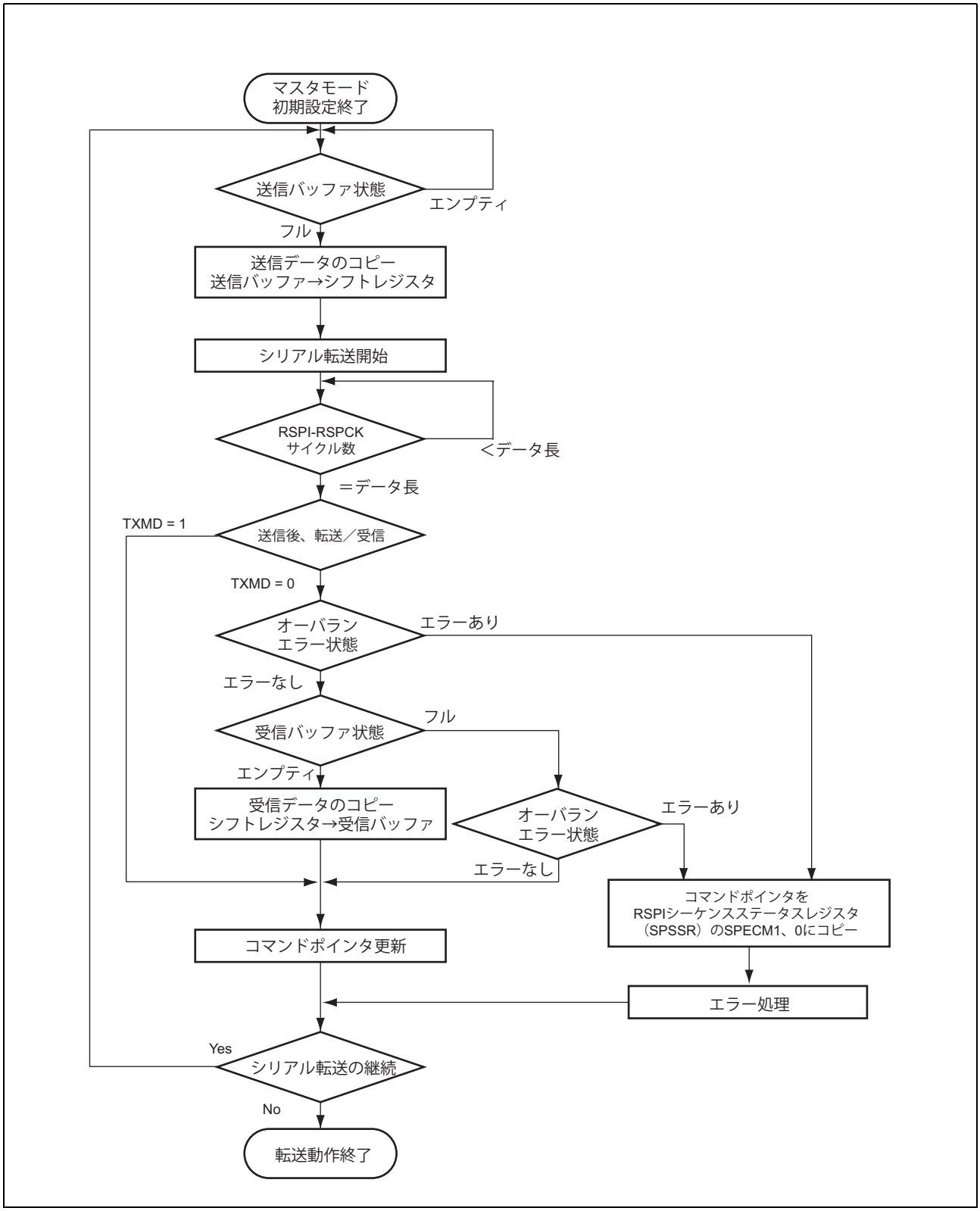


図 34.28　マスタモード時の転送動作フロー

(1)　スレーブモード動作

(a)　シリアル転送の開始

RSPI コマンドレジスタ 0（SPCMD0）の CPHA ビットが 0 の場合、RSPI が RSPI-SSL0 入力信号のアサートを検出すると、RSPI-MISO 出力信号への有効データのドライブを開始する必要があります。このため、RSPI-SSL0 入力信号のアサートがシリアル転送開始のトリガになります。

CPHA ビットが 1 の場合、RSPI は RSPI-SSL0 入力信号のアサート状態で最初の RSPI-RSPCK エッジを検出すると、RSPI-MISO 出力信号への有効データのドライブを開始する必要があります。このため、CPHA が 1 の場合には、RSPI-SSL0 信号アサート状態における最初の RSPI-RSPCK エッジがシリアル転送開始のトリガになります。

RSPI は、シフトレジスタが空の状態でシリアル転送の開始を検出した場合、シフトレジスタの状態をフルに変更し、シリアル転送中に送信バッファからシフトレジスタにデータがコピーできないようにします。シリアル転送の開始よりも前にシフトレジスタがフルであった場合、RSPI はシフトレジスタの状態をフルのまま変更しません。

CPHA ビットの設定に依存せず、RSPI が RSPI-MISO 出力信号のドライブを開始するタイミングは、RSPI-SSL0 信号アサートタイミングとなります。CPHA ビットの設定によって、RSPI が出力するデータの有効／無効が異なります。

なお、RSPI の転送フォーマットの詳細については、「34.4.4 転送フォーマット」を参照してください。RSPI-SSL0 入力信号の極性は、RSPI スレーブセレクト極性レジスタ（SSLP）の SSL0P ビットの設定値に依存します。

(b)　シリアル転送の終了

RSPI コマンドレジスタ 0（SPCMD0）の CPHA ビットにかかわらず、RSPI は最終サンプルタイミングに相当する RSPI-RSPCK エッジを検出するとシリアル転送を終了します。RSPI ステータスレジスタ（SPSR）の SPRF ビットが 0 で受信バッファに空きがある場合には、シリアル転送の終了後に、RSPI はシフトレジスタから RSPI データレジスタ（SPDR）の受信バッファに受信データをコピーします。また、SPRF ビットの値にかかわらず、RSPI はシリアル転送の終了後にシフトレジスタの状態を空に変更します。シリアル転送開始からシリアル転送終了の間に RSPI が RSPI-SSL0 入力信号のネゲートを検出するとモードフォルトエラーが発生します（「34.4.8 エラー検出」参照）。

なお、最終サンプルタイミングは転送データのビット長に依存して変化します。スレーブモードの RSPI のデータ長は SPCMD0 の SPB3～SPB0 ビットの設定値に依存します。RSPI-SSL0 入力信号の極性は、RSPI スレーブセレクト極性レジスタ（SSLP）の SSL0P ビットの設定値に依存します。RSPI の転送フォーマットの詳細については、「34.4.4 転送フォーマット」を参照してください。

(c)　シングルスレーブ時の注意点

RSPI コマンドレジスタ 0（SPCMD0）の CPHA ビットが 0 の場合には、RSPI は RSPI-SSL0 入力信号のアサートエッジを検出するとシリアル転送を開始します。図 34.5 の例に示したような構成で RSPI をシングルスレーブで使用する場合には、RSPI-SSL0 入力信号が常にアクティブ状態に固定されるため、CPHA を 0 に設定した RSPI ではシリアル転送を正しく開始できません。RSPI-SSL0 入力信号をアクティブ状態に固定する構成で、スレーブモード RSPI の送受信を正しく実行するためには、CPHA ビットを 1 にしてください。CPHA ビットを 0 にする必要がある場合には、RSPI-SSL0 入力信号を固定しないでください。

(d)　バースト転送

RSPI コマンドレジスタ 0（SPCMD0）の CPHA ビットが 1 の場合、RSPI-SSL0 入力信号のアサート状態を保持したままで、連続的なシリアル転送（バースト転送）を実行することが可能です。CPHA ビットが 1 の場合には、RSPI-SSL0 入力信号アクティブ状態における最初の RSPI-RSPCK エッジから最終ビット受信のためのサンプルタイミングまでが、シリアル転送期間に相当します。RSPI-SSL0 入力信号がアクティブレベルのままであっても、アクセスの開始を検出可能であるので、バースト転送に対応可能です。

CPHA ビットが 0 の場合には、(c) と同じ理由のために、バースト転送の 2 回目以降のシリアル転送を正しく実行できません。

(e)　初期化フロー

図 34.29 に、SPI 動作時、RSPI をスレーブモードで使用する場合の初期化フローの例を示します。なお、割り込みコントローラ、DMAC、入出力ポートの設定方法については、各ブロックの説明を参照してください

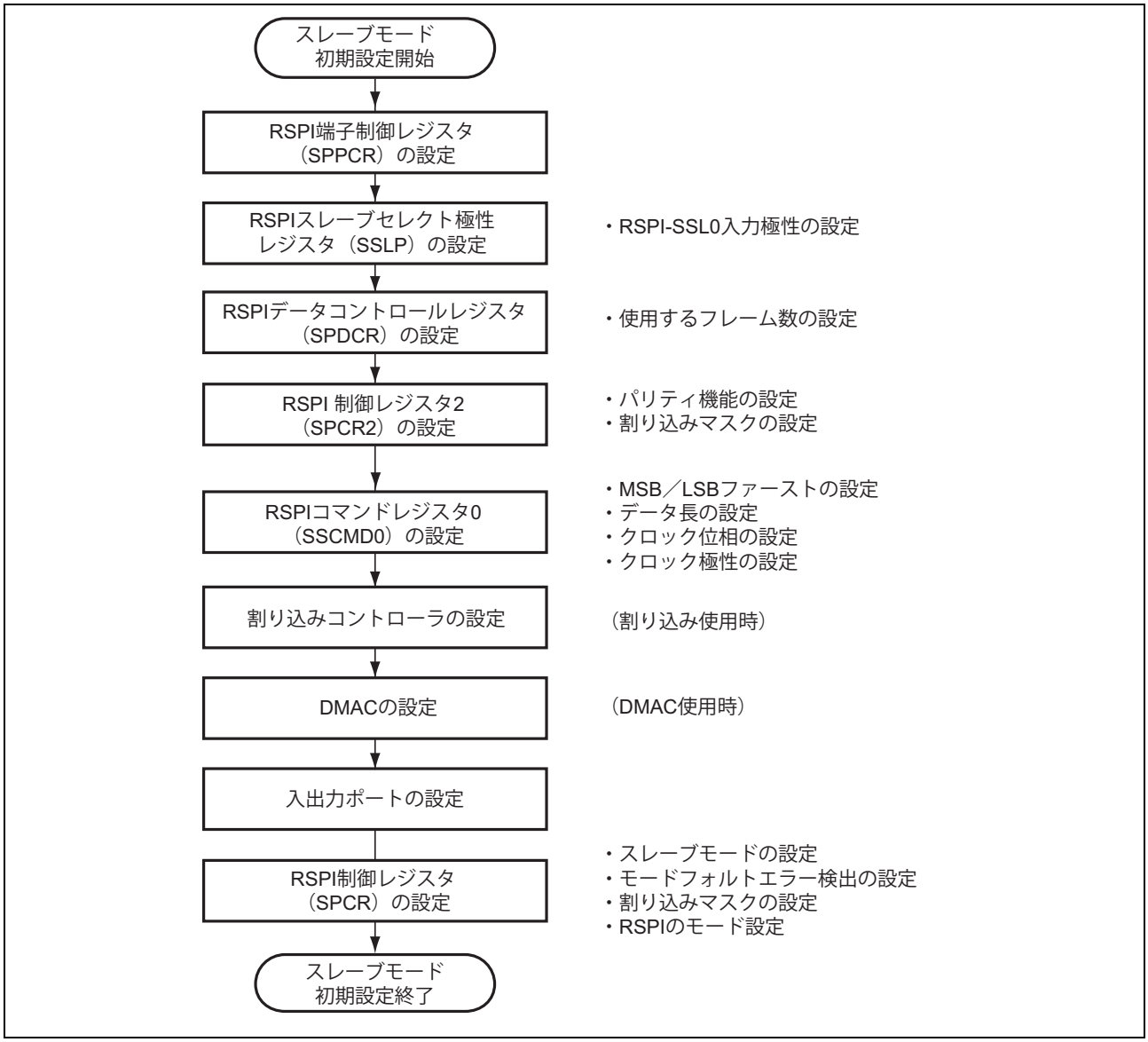


図 34.29　スレーブモード時の初期化フロー例

(f)　転送動作フロー（CPHA＝0）

図 34.30 に、SPI 動作時、RSPI コマンドレジスタ 0（SPCMD0）の CPHA ビットを 0 に設定したスレーブモードの RSPI の転送動作フローを示します。

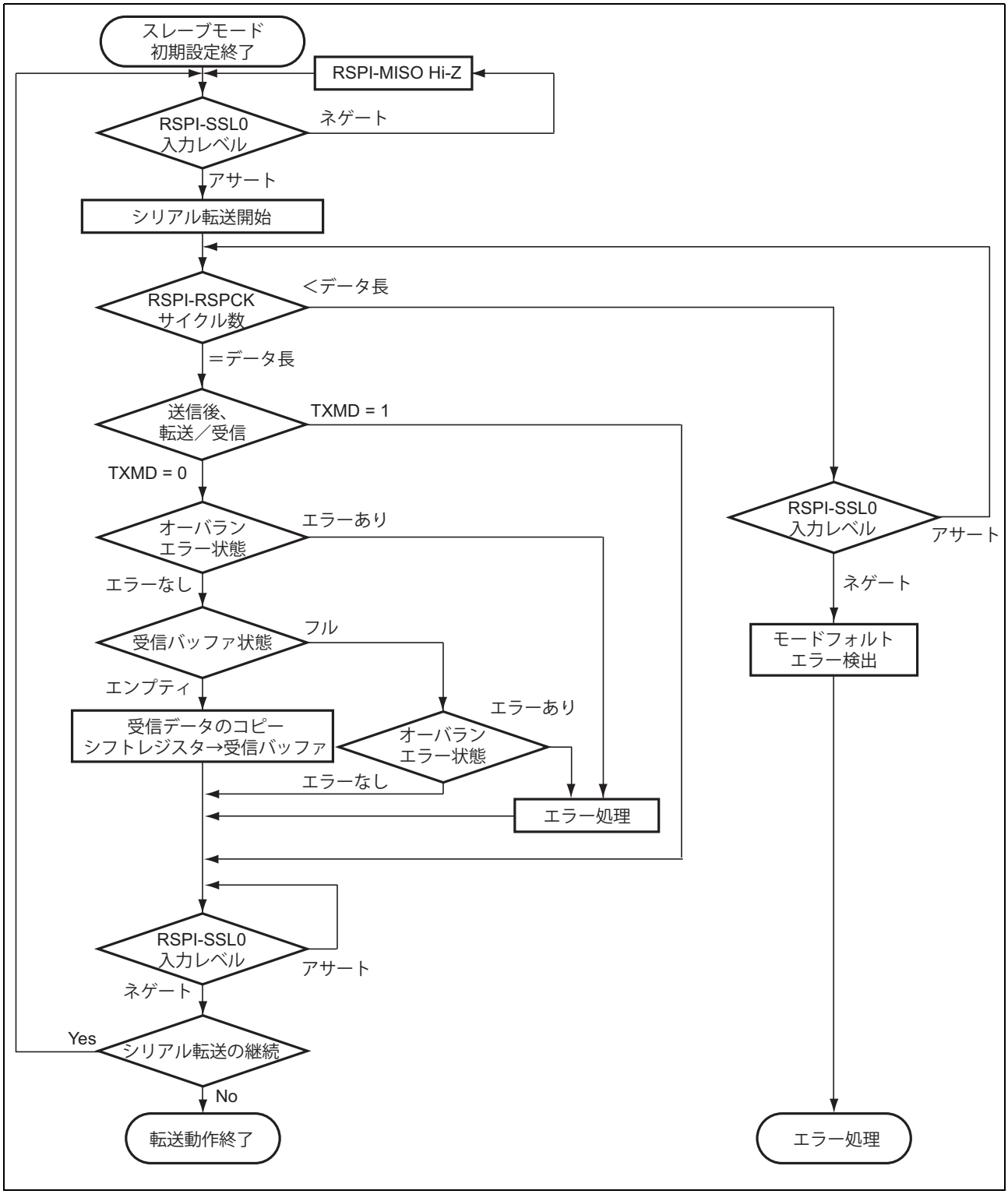


図 34.30　スレーブモード時の転送動作フロー（CPHA＝0）

(g)　転送動作フロー（CPHA＝1）

図 34.31 に、SPI 動作時、RSPI コマンドレジスタ 0（SPCMD0）の CPHA ビットを 1 に設定したスレーブモードの RSPI の転送動作フローを示します。MODFEN ビットを 0 に設定した状態でシリアル転送を開始し、データ長より短い RSPI-RSPCK サイクル数で RSPI-SSL0 入力レベルをネゲートした場合、以後の動作は保証されません。

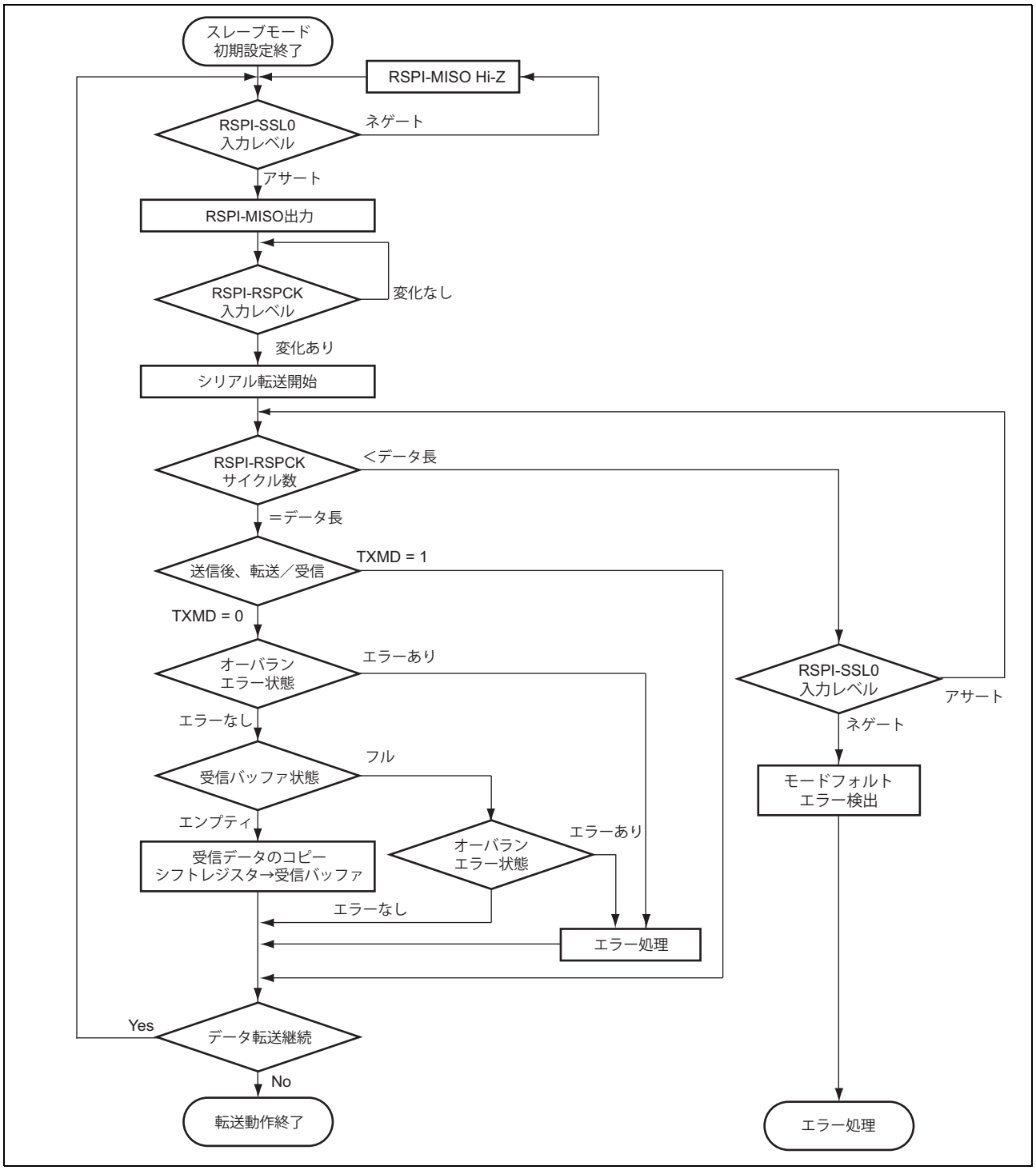


図 34.31　スレーブモード時の転送動作フロー（CPHA＝1）

34.4.11 クロック同期式動作

RSPI は、RSPI 制御レジスタ（SPCR）のSPMS ビットが1 であるとき、クロック同期式動作となります。クロック同期式動作は、SSL 端子を使用せず、RSPI-RSPCK、RSPI-MOSI、RSPI-MISO の 3 本の端子を用いて通信を行い、SSL 端子はIO ポートとして使用することができます。

クロック同期式動作は、SSL 端子を使用せず通信を行いますが、モジュール内部の動作は SPI 動作と同様の動作をします。

マスタ動作、スレーブ動作において、SPI 動作時と同様のフローで通信を行うことができますが、SSL 端子を使用しませんので、モードフォルトエラーの検出を行いません。

また、クロック同期式動作では、RSPI コマンドレジスタ（SPCMD）の CPHA ビットを 0 に設定した場合の動作について保証しておりません。

(1) マスタモード動作

(a) シリアル転送の開始

RSPI ステータスレジスタ（SPSR）の SPTEF ビットが 1 の状態で、RSPI データレジスタ（SPDR）へデータを書き込むと、RSPI はSPDR の送信バッファのデータを更新します。SPDR への書き込み、又はCPU から SPTEF の 1 読み出し後の 0 書き込みによって SPTEF ビットを 0 にクリアした状態で、シフトレジスタが空の場合には、RSPI は送信バッファのデータをシフトレジスタにコピーしてシリアル転送を開始します。RSPI は、シフトレジスタに送信データをコピーするとシフトレジスタのステータスをフルに変更し、シリアル転送が終了するとシフトレジスタのステータスを空に変更します。シフトレジスタのステータスをCPU から参照することはできません。

なお、RSPI の転送フォーマットの詳細については、「34.4.4 転送フォーマット」を参照してください。

(b) シリアル転送の終了

RSPI はサンプルタイミングに対応するRSPI-RSPCK エッジを送出するとシリアル転送を終了します。RSPI ステータスレジスタ（SPSR）の SPRF ビットが 0 で受信バッファに空きがある場合には、シリアル転送終了後にシフトレジスタから RSPI データレジスタ（SPDR）の受信バッファにデータをコピーします。なお、最終サンプルタイミングは転送データのビット長に依存して変化します。マスタモードのRSPI のデータ長は、RSPI コマンドレジスタ（SPCMD）のSPB3～SPB0 ビットの設定値に依存します。RSPI の転送フォーマットの詳細については、「34.4.4 転送フォーマット」を参照してください。

(c)　シーケンス制御

マスタモード時の転送フォーマットは、RSPI シーケンス制御レジスタ（SPSCR）、RSPI コマンドレジスタ 0～7（SPCMD0~7)、RSPI ビットレートレジスタ（SPBR）、RSPI クロック遅延値レジスタ（SPCKD）、RSPI スレーブセレクトネゲート遅延レジスタ（SSLND）、RSPI 次アクセス遅延値レジスタ（SPND）によって決定されます。クロック同期式動作時は、SSL 信号の出力を行いませんが、これらの設定は有効です。

SPSCR は、マスタモードの RSPI で実行するシリアル転送のシーケンス構成を決定するためのレジスタです。SPCMD0~7 には、SSL 出力信号値、MSB／LSB ファースト、データ長、ビットレート設定の一部、RSPI-RSPCK 極性／位相、SPCKD の参照要否、SSLND の参照要否、SPND の参照要否が設定されています。SPBR にはビットレート設定の一部、SPCKD には RSPI クロック遅延値、SSLND には SSL ネゲート遅延、SPND には次アクセス遅延値が設定されています。

RSPI は、SPSCR に設定されたシーケンス長に従って、SPCMD0~7 の一部／全部からなるシーケンスを構成します。RSPI には、シーケンスを構成している SPCMD に対するポインタが存在します。このポインタの値は、RSPI シーケンスステータスレジスタ（SPSSR）の SPCP 2～0 の読み出しによって CPU から確認可能です。RSPI 制御レジスタ（SPCR）の SPE ビットを 1 にして RSPI 機能をイネーブルにすると、RSPI はコマンドに対するポインタを SPCMD0 にセットし、シリアル転送の開始時に SPCMD0 の設定内容を転送フォーマットに反映します。RSPI は、各データ転送の次アクセス遅延期間が終了するたびにポインタをインクリメントします。シーケンスを構成している最終コマンドに対応するシリアル転送が終了すると、RSPI はポインタを SPCMD0 にセットするので、シーケンスは繰り返し実行されます。

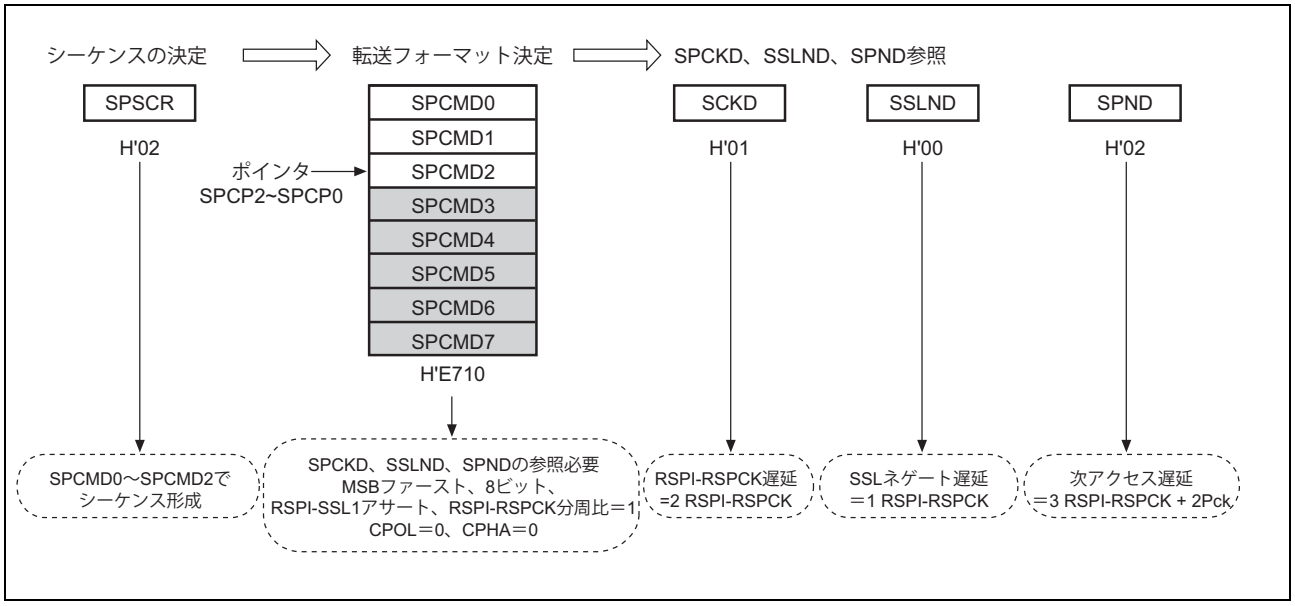


図 34.32　マスタモードでのシリアル転送方式の決定方法

(d)　初期化フロー

図 34.33 に、クロック同期式動作時の RSPI をマスタモードで使用する場合の初期化フローの例を示します。なお、割り込みコントローラ、DMAC、入出力ポートの設定方法については、各ブロックの説明を参照してください。

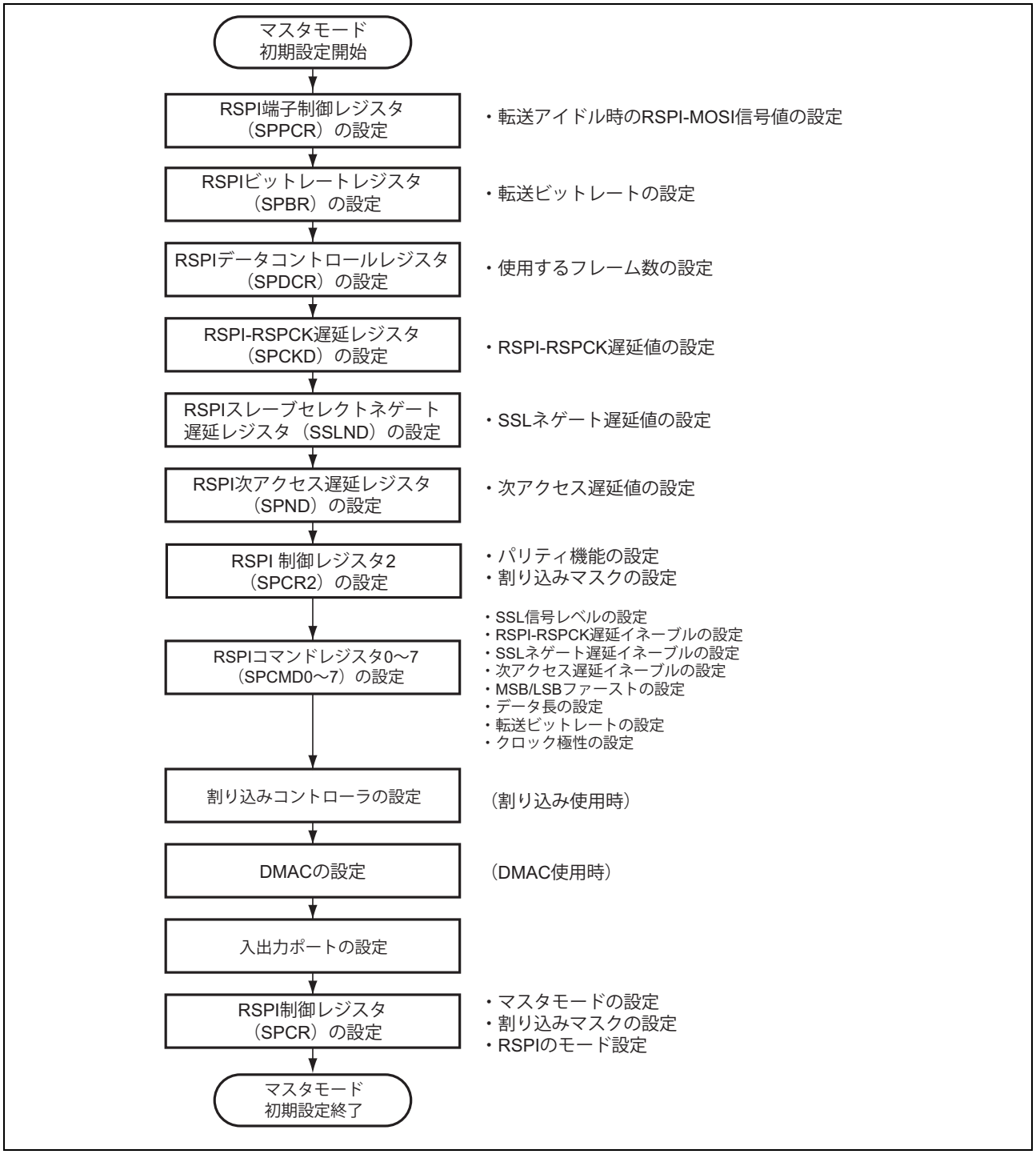


図 34.33　マスタモード時の初期化フロー例

(e)　転送動作フロー

図34.34 に、クロック同期式動作時、マスタモードの転送動作フローを示します。

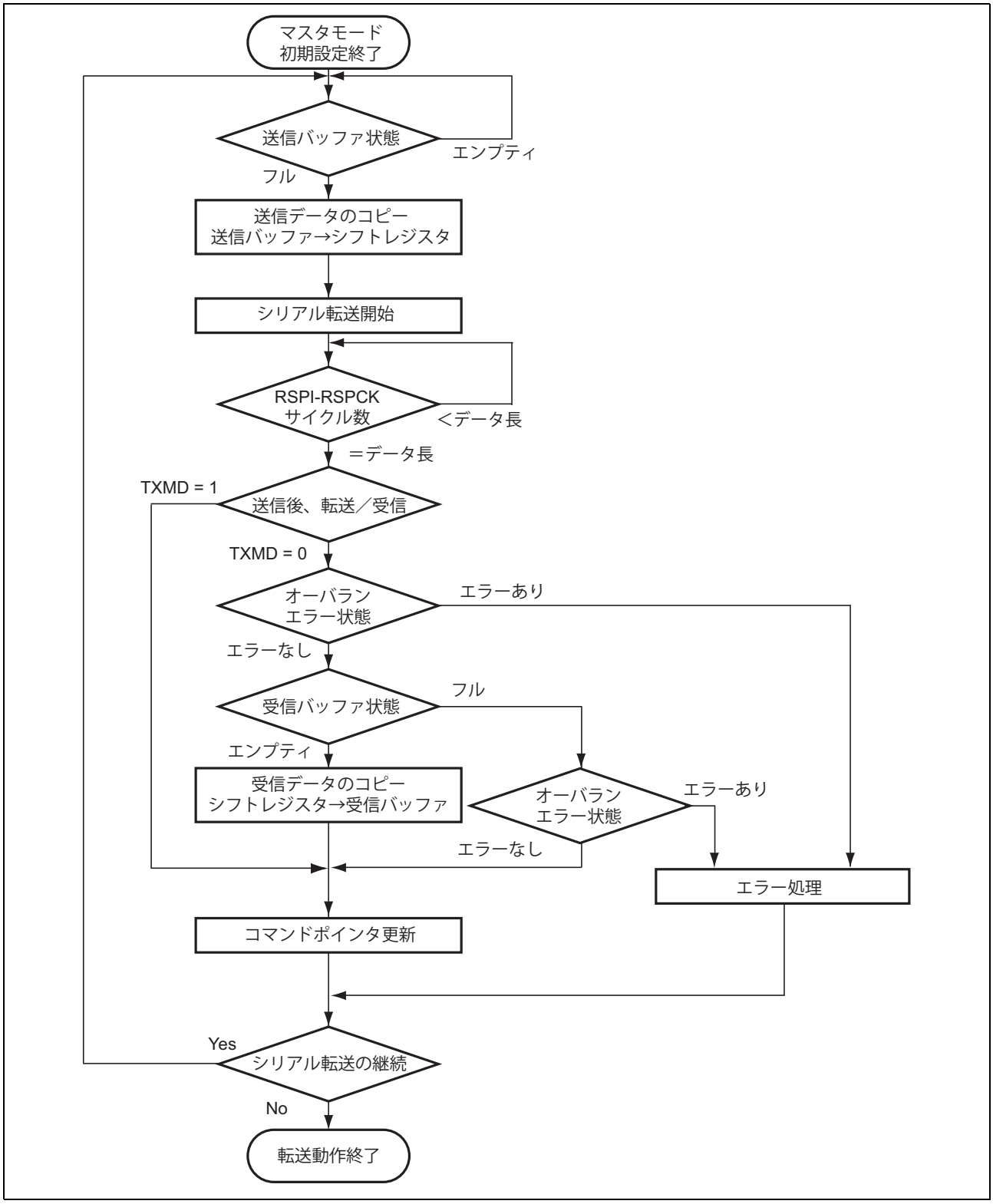


図 34.34　マスタモード時の転送動作フロー

(1) スレーブモード動作

(a) シリアル転送の開始

RSPI は、RSPI 制御レジスタ（SPCR）の SPMS ビットが 1 であるとき、最初の RSPI-RSPCK エッジがシリアル転送開始のトリガになります。

RSPI は、シフトレジスタが空の状態でシリアル転送の開始を検出した場合、シフトレジスタの状態をフルに変更し、シリアル転送中に送信バッファからシフトレジスタにデータがコピーできないようにします。シリアル転送の開始よりも前にシフトレジスタがフルであった場合、RSPI はシフトレジスタの状態をフルのまま変更しません。

SPMS ビットが 1 であるときは、RSPI は RSPI-MISO 出力信号を常にドライブします。

なお、RSPI の転送フォーマットの詳細については、「34.4.4 転送フォーマット」を参照してください。

(b) シリアル転送の終了

RSPI は最終サンプルタイミングに相当する RSPI-RSPCK エッジを検出するとシリアル転送を終了します。RSPI ステータスレジスタ（SPSR）の SPRF ビットが 0 で受信バッファに空きがある場合には、シリアル転送の終了後に、RSPI はシフトレジスタから RSPI データレジスタ（SPDR）の受信バッファに受信データをコピーします。また、SPRF ビットの値にかかわらず、RSPI はシリアル転送の終了後にシフトレジスタの状態を空に変更します。なお、最終サンプルタイミングは転送データのビット長に依存して変化します。スレーブモードの RSPI のデータ長は SPCMD0 の SPB3～SPB0 ビットの設定値に依存します。RSPI の転送フォーマットの詳細については、「34.4.4 転送フォーマット」を参照してください。

(c)　初期化フロー

図 34.35 に、クロック同期式動作時の RSPI をスレーブモードで使用する場合の初期化フローの例を示します。なお、割り込みコントローラ、DMAC、入出力ポートの設定方法については、各ブロックの説明を参照してください。

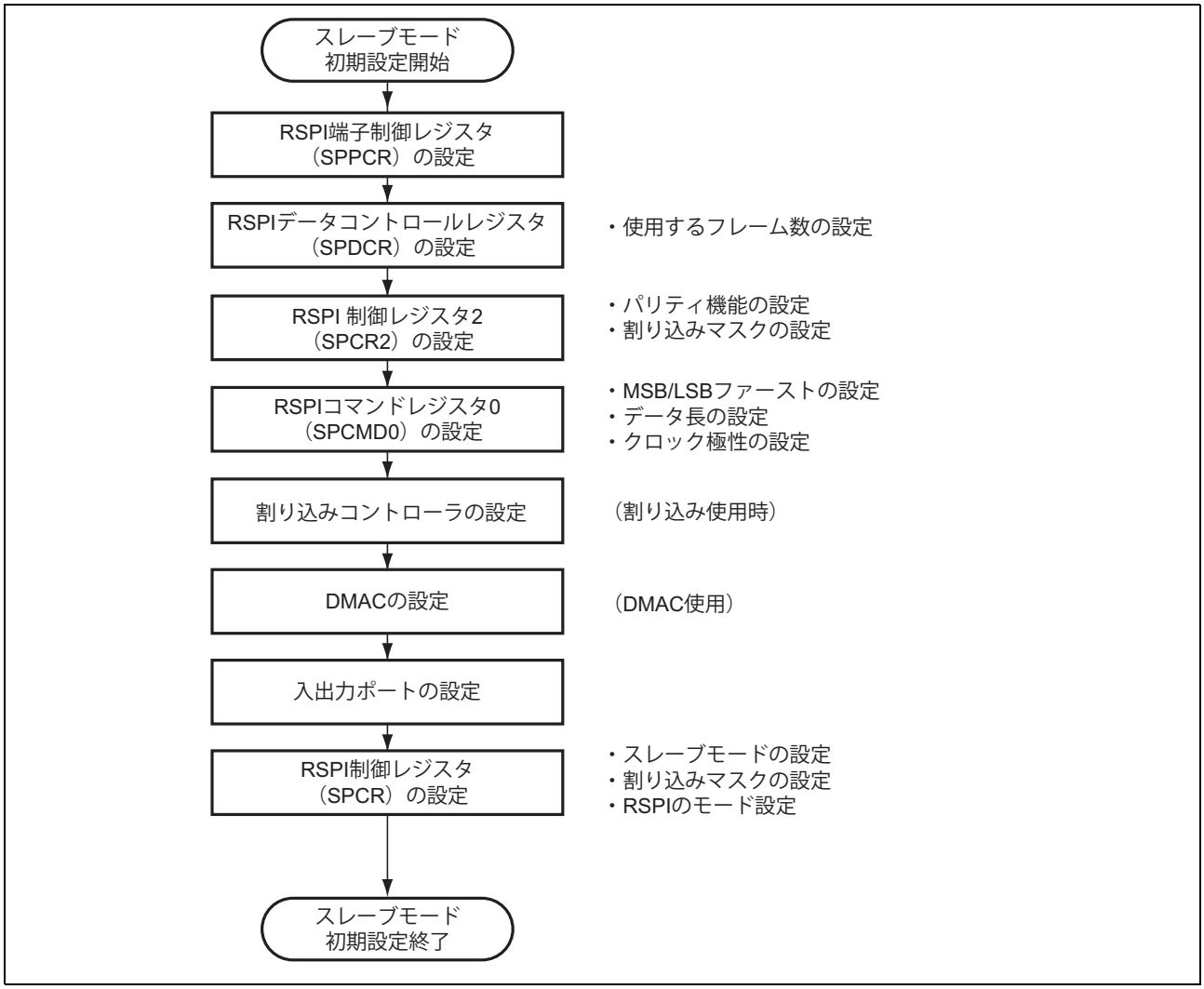


図 34.35　スレーブモード時の初期化フロー例

(d)　転送動作フロー

図34.36 に、クロック同期式動作時のRSPI の転送動作フローを示します。

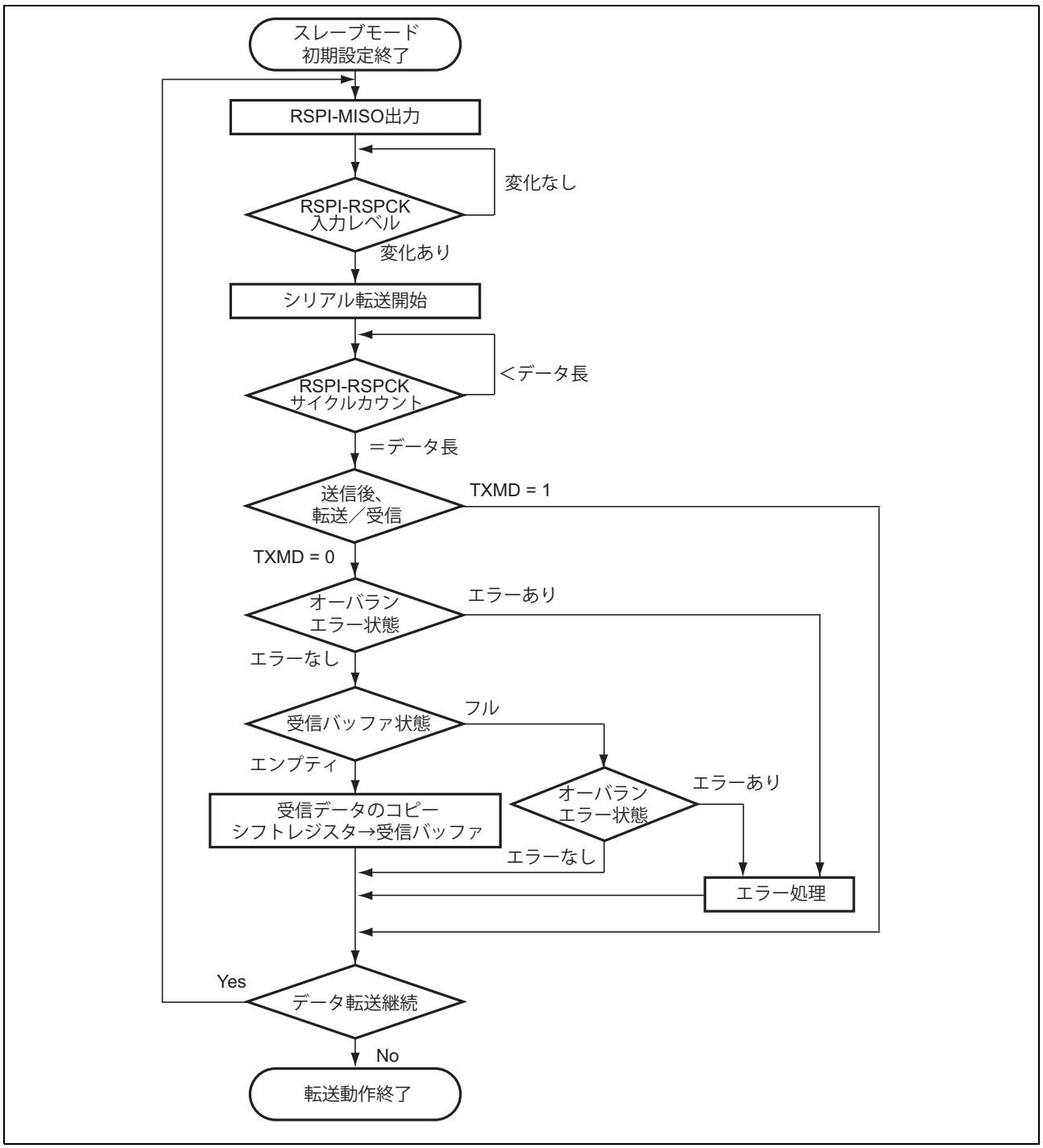


図 34.36　スレーブモード時の転送動作フロー（CPHA＝1）

34.4.12 エラー処理

図 34.37、図 34.38、図 34.39 に、RSPI のエラー処理を示します。マスタモード、スレーブモードで発生したエラーは、以下のエラー処理を行うことでエラー状態から復帰できます。

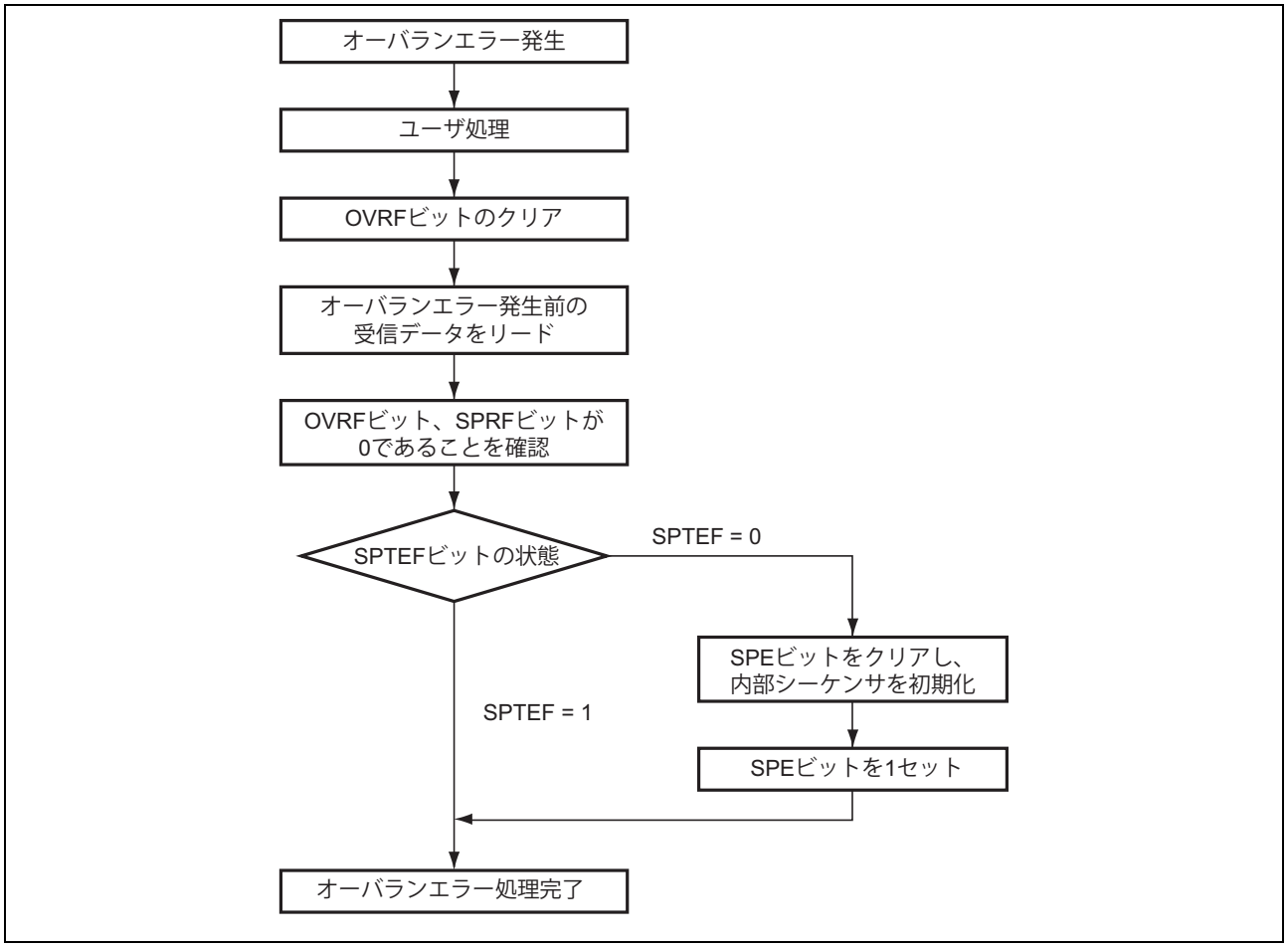


図 34.37　エラー処理（オーバランエラー）

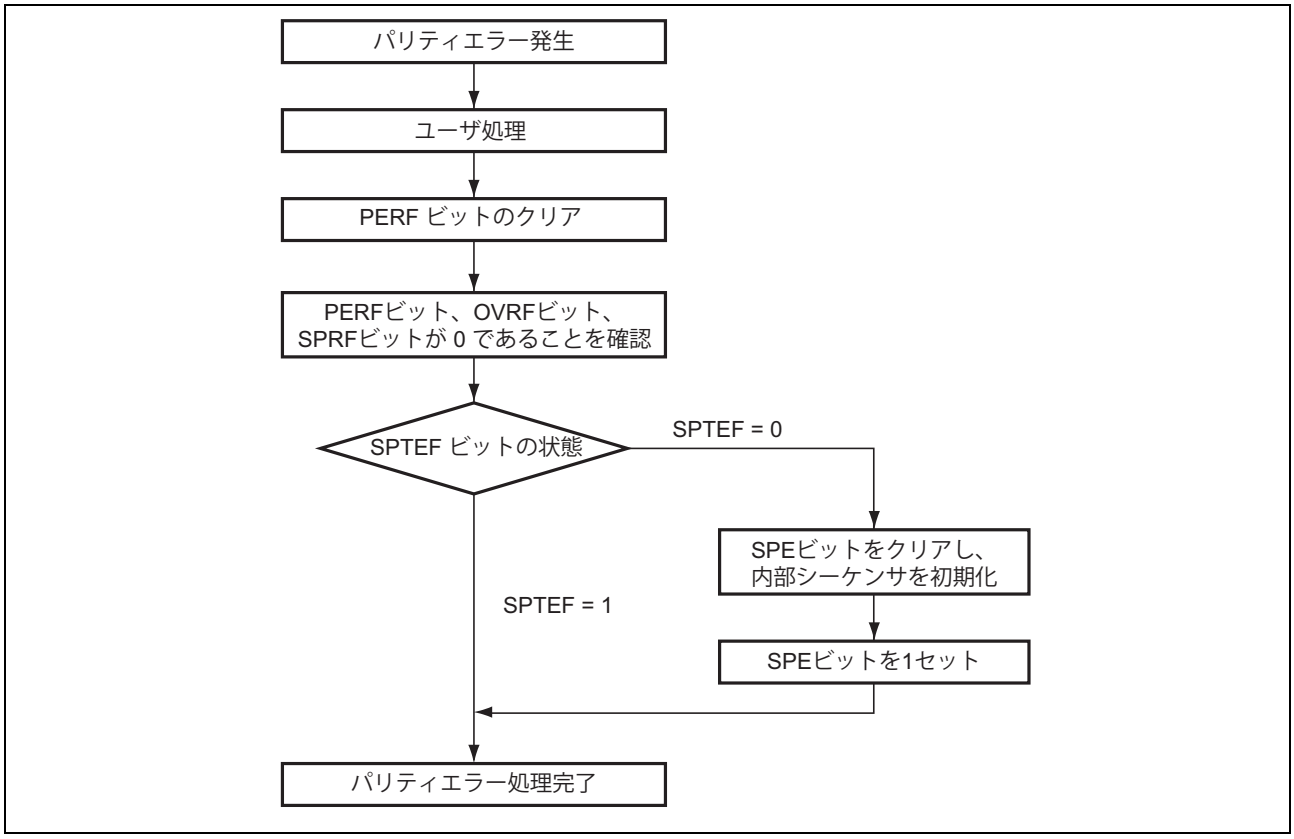


図 34.38　エラー処理（パリティエラー）

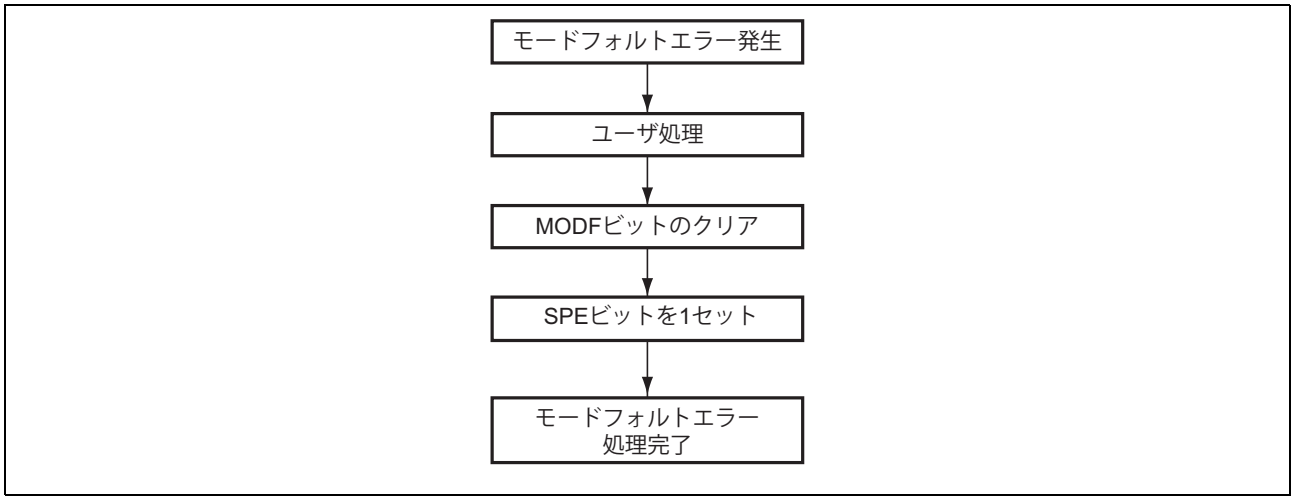


図 34.39　エラー処理（モードフォルトエラー）

34.4.13 ループバックモード

CPU がRSPI 端子制御レジスタ（SPPCR）のSPLP2 ビットかSPLP ビットに1 を書き込むと、RSPI はRSPI-MISO 端子とシフトレジスタ間、及びRSPI-MOSI 端子とシフトレジスタ間の経路を遮断し、シフトレジスタの入力経路と出力経路（反転）を接続します（ループバックモード）。ループバックモードでシリアル転送を実行すると、反転した送信データが受信データとなります。。

表34.12 に、SPLP2 ビットと SPLP ビットの設定と受信データの関係を示します。

表34.12　SPLP2 ビットと SPLP ビットの設定と受信データ

SPLP2	SPLP	受信データ
0	0	RSPI-MOSI 端子か RSPI-MISO 端子からの入力データ
0	1	送信データの反転
1	0	送信データ
1	1	送信データ

図 34.40 に、マスタモードのRSPI をループバックモードに設定した場合のシフトレジスタ入出力経路の構成を示します(SPLP2 = 0、SPLP = 1)。

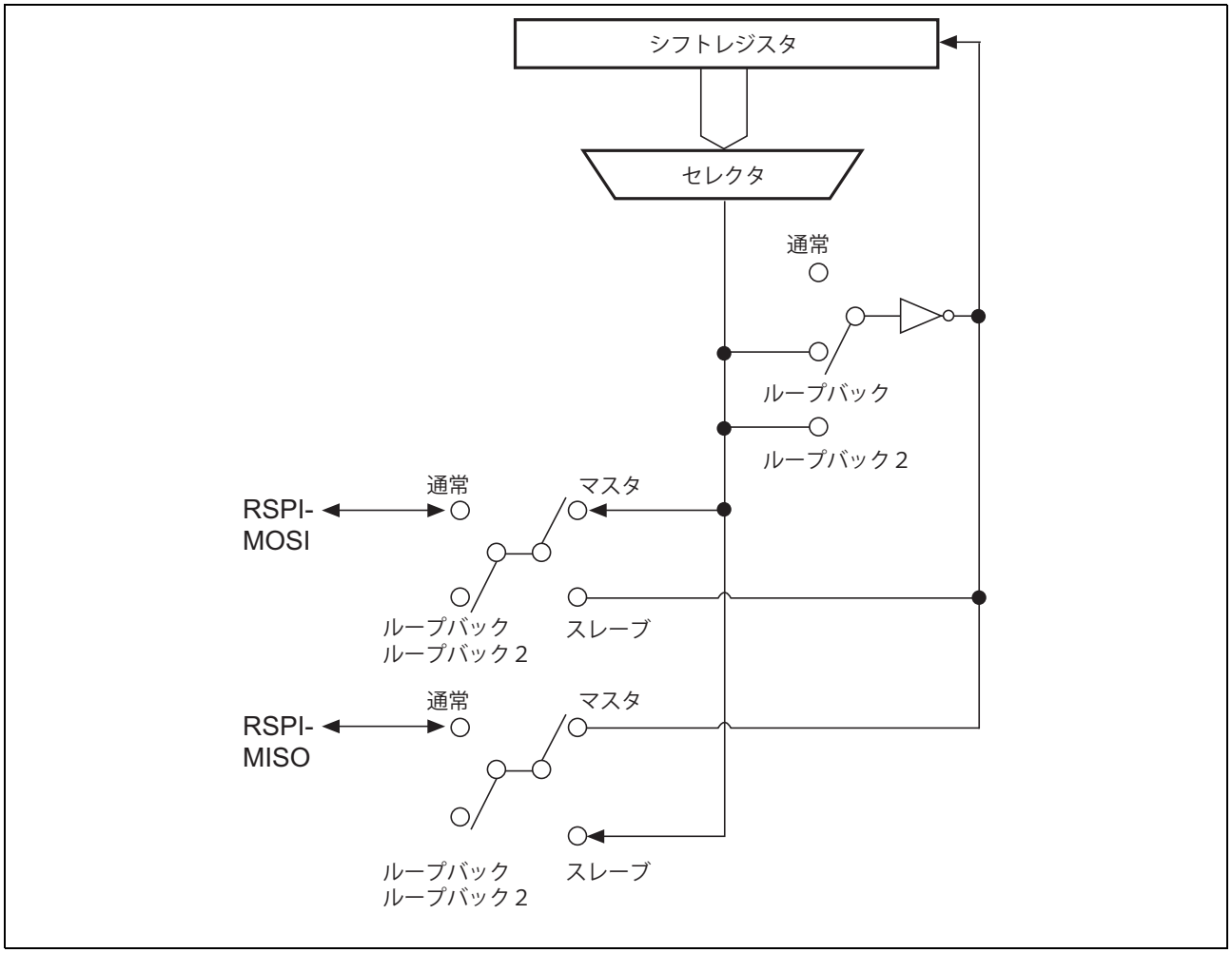


図 34.40　ループバックモード時のシフトレジスタ入出力構成（マスタモード）

34.4.14 パリティ機能のセルフダイアグノシス

パリティ回路は、送信データ用のパリティ付加ユニットと受信データ用のエラー検出ユニットで構成されています。図 34.41 にパリティ回路のセルフダイアグノシス機能のフローチャートを示します。パリティ回路のパリティ付加ユニットとエラー検出ユニットの欠陥を検出します。

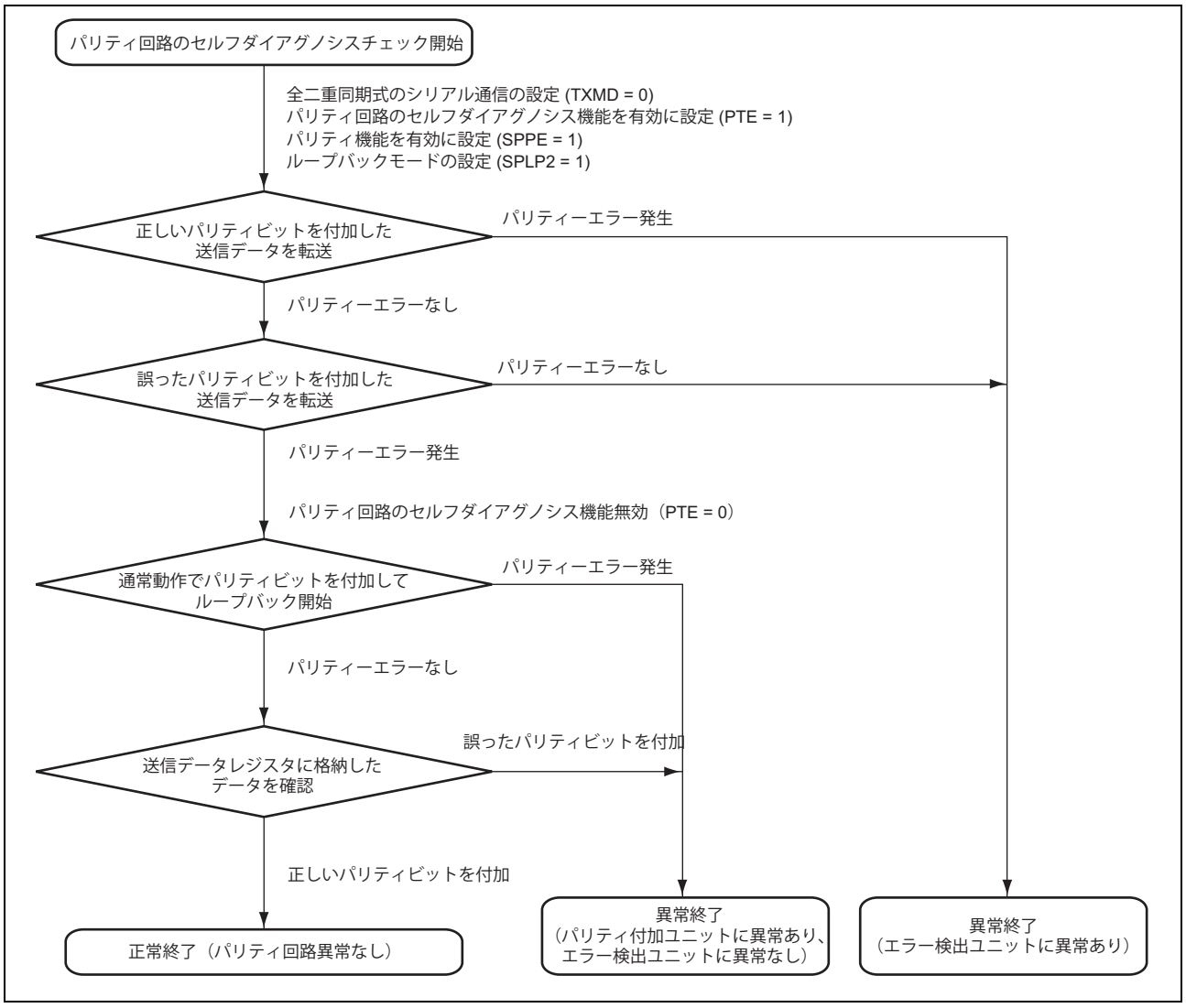


図 34.41　パリティ回路のセルフダイアグノシス機能のフローチャート

34.4.15 割り込み要求

RSPI の割り込み要因には、受信バッファフル、送信バッファエンプティ、モードフォルト、オーバラン、パリティ、アイドルがあります。また、受信バッファフル、送信バッファエンプティの割り込み要求でDMAC を起動し、データ転送を行うことができます。

モードフォルト、オーバラン、パリティの割り込み要求はERRINT のベクタアドレスに割り付けられているため、フラグによる要因の判断が必要です。表34.13 に、RSPI の割り込み要因を示します。

表34.13 の割り込み条件が成立すると、割り込みが発生します。CPU 又はDMAC によるデータ転送で割り込み要因をクリアしてください。

表34.13　RSPI の割り込み要因

名称	割り込み要因	割り込み条件	DMAC 起動	割り込みベクタ
RXINT	受信バッファフル	SPRIE=1 かつSPRF=1	○	H'1D80
TXINT	送信バッファエンプティ	SPTIE=1かつSPTEF=1	○	H'1DA0
ERRINT	モードフォルト	SPEIE=1かつMODF= 1	—	H'1DE0
	オーバラン	SPEIE=1かつOVRF=1	—	
	パリティ	SPEIE=1かつPERF=1	—	
IDINT	アイドル	SPIIE=1かつIDLNF=1	—	H'1DC0

35. イベントカウンタ（EVC）

イベントカウンタ（EVC）は、外部端子（EVENT0～EVENT15）入力イベントのカウントを行います。

35.1 特長

- 16チャネルの外部端子入力イベントを独立にカウント可能
- イベントは、立ち上がりエッジ／立ち下がりエッジを選択可能
- イベントカウント機能の有効／無効をチャネル毎に独立に設定可能

図35.1 にEVC のブロック図を示します。

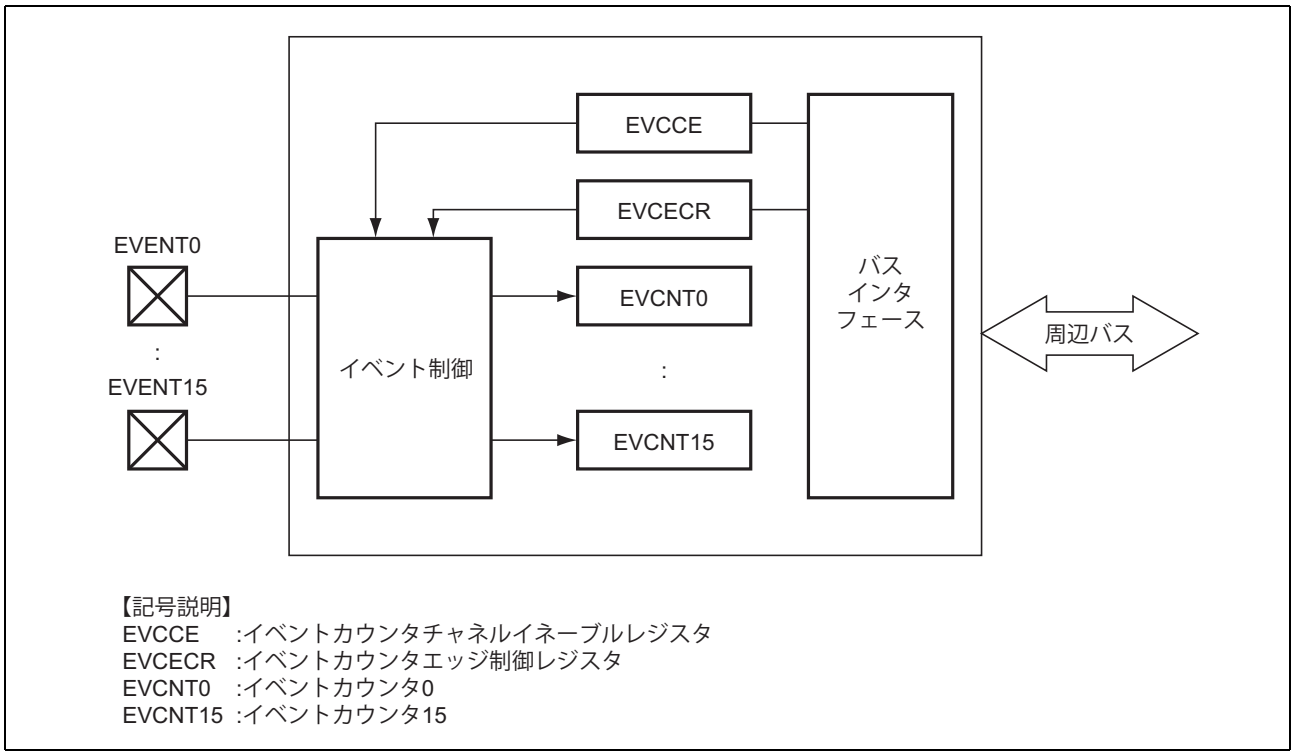


図 35.1　EVC ブロック図

35.2 入出力

EVC の端子構成を表35.1 に示します。

表35.1　EVC の端子構成

名称	記号	入出力	機 能
Event input 0（注1）	EVENT0	入力	外部イベント 0 入力用の入力端子です。
Event input 1（注1）	EVENT1	入力	外部イベント 1 入力用の入力端子です。
Event input 2（注1）	EVENT2	入力	外部イベント 2 入力用の入力端子です。
Event input 3（注1）	EVENT3	入力	外部イベント 3 入力用の入力端子です。
Event input 4（注1）	EVENT4	入力	外部イベント 4 入力用の入力端子です。
Event input 5（注1）	EVENT5	入力	外部イベント 5 入力用の入力端子です。
Event input 6（注1）	EVENT6	入力	外部イベント 6 入力用の入力端子です。
Event input 7（注1）	EVENT7	入力	外部イベント 7 入力用の入力端子です。
Event input 8（注2）	EVENT8	入力	外部イベント 8 入力用の入力端子です。
Event input 9（注2）	EVENT9	入力	外部イベント 9 入力用の入力端子です。
Event input 10（注2）	EVENT10	入力	外部イベント 10 入力用の入力端子です。
Event input 11（注2）	EVENT11	入力	外部イベント 11 入力用の入力端子です。
Event input 12（注2）	EVENT12	入力	外部イベント 12 入力用の入力端子です。
Event input 13（注2）	EVENT13	入力	外部イベント 13 入力用の入力端子です。
Event input 14（注2）	EVENT14	入力	外部イベント 14 入力用の入力端子です。
Event input 15（注2）	EVENT15	入力	外部イベント 15 入力用の入力端子です。

注1. EVENT0～EVENT7 端子はGPIO 機能及びLBSC 端子機能とマルチプレクスされています。イベントカウント機能を使用する場合はPSEL6、PSEL7 レジスタの設定が必要です。詳細は「40. 汎用入出力ポート（GPIO）」を参照してください。

2. EVENT8～EVENT15 端子はAD 入力機能とマルチプレクスされています。イベントカウント機能を使用する場合はADC を停止（ADCSR_1 レジスタのADST ビット＝0）してください。詳細は「39. A/D 変換器（ADC）」を参照してください。

35.3　レジスタの説明

EVC のレジスタ構成を表35.2 に示します。

指定されたビット幅でレジスタにアクセスしてください。指定されたビット幅以外のサイズでレジスタにアクセスした場合、動作は保証できません。

表35.2　レジスタ構成

名 称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
					パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウェアリセット
イベントカウンタチャネルイネーブルレジスタ	EVCCE	R/W	H'FFE8 0000	16	H'0000	H'0000	H'0000
イベントカウンタエッジ制御レジスタ	EVCECR	R/W	H'FFE8 0002	16	H'0000	H'0000	H'0000
イベントカウンタ 0	EVCNT0	R/W	H'FFE8 0004	16	H'0000	H'0000	H'0000
イベントカウンタ 1	EVCNT1	R/W	H'FFE8 0006	16	H'0000	H'0000	H'0000
イベントカウンタ 2	EVCNT2	R/W	H'FFE8 0008	16	H'0000	H'0000	H'0000
イベントカウンタ 3	EVCNT3	R/W	H'FFE8 000A	16	H'0000	H'0000	H'0000
イベントカウンタ 4	EVCNT4	R/W	H'FFE8 000C	16	H'0000	H'0000	H'0000
イベントカウンタ 5	EVCNT5	R/W	H'FFE8 000E	16	H'0000	H'0000	H'0000
イベントカウンタ 6	EVCNT6	R/W	H'FFE8 0010	16	H'0000	H'0000	H'0000
イベントカウンタ 7	EVCNT7	R/W	H'FFE8 0012	16	H'0000	H'0000	H'0000
イベントカウンタ 8	EVCNT8	R/W	H'FFE8 0014	16	H'0000	H'0000	H'0000
イベントカウンタ 9	EVCNT9	R/W	H'FFE8 0016	16	H'0000	H'0000	H'0000
イベントカウンタ 10	EVCNT10	R/W	H'FFE8 0018	16	H'0000	H'0000	H'0000
イベントカウンタ 11	EVCNT11	R/W	H'FFE8 001A	16	H'0000	H'0000	H'0000
イベントカウンタ 12	EVCNT12	R/W	H'FFE8 001C	16	H'0000	H'0000	H'0000
イベントカウンタ 13	EVCNT13	R/W	H'FFE8 001E	16	H'0000	H'0000	H'0000
イベントカウンタ 14	EVCNT14	R/W	H'FFE8 0020	16	H'0000	H'0000	H'0000
イベントカウンタ 15	EVCNT15	R/W	H'FFE8 0022	16	H'0000	H'0000	H'0000

35.3.1　イベントカウンタチャネルイネーブルレジスタ（EVCCE）

EVCCE は、読み出し／書き込み可能な16 ビットのレジスタで、イベントカウント機能の有効／無効制御を行います。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	EVC15E	EVC14E	EVC13E	EVC12E	EVC11E	EVC10E	EVC9E	EVC8E	EVC7E	EVC6E	EVC5E	EVC4E	EVC3E	EVC2E	EVC1E	EVC0E
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15	EVC15E	0	R/W	EVENT15 カウントイネーブル 0：EVENT15 端子イベント入力のカウント無効 1：EVENT15 端子イベント入力のカウント有効
14	EVC14E	0	R/W	EVENT14 カウントイネーブル 0：EVENT14 端子イベント入力のカウント無効 1：EVENT14 端子イベント入力のカウント有効
13	EVC13E	0	R/W	EVENT13 カウントイネーブル 0：EVENT13 端子イベント入力のカウント無効 1：EVENT13 端子イベント入力のカウント有効
12	EVC12E	0	R/W	EVENT12 カウントイネーブル 0：EVENT12 端子イベント入力のカウント無効 1：EVENT12 端子イベント入力のカウント有効
11	EVC11E	0	R/W	EVENT11 カウントイネーブル 0：EVENT11 端子イベント入力のカウント無効 1：EVENT11 端子イベント入力のカウント有効
10	EVC10E	0	R/W	EVENT10 カウントイネーブル 0：EVENT10 端子イベント入力のカウント無効 1：EVENT10 端子イベント入力のカウント有効
9	EVC9E	0	R/W	EVENT9 カウントイネーブル 0：EVENT9 端子イベント入力のカウント無効 1：EVENT9 端子イベント入力のカウント有効
8	EVC8E	0	R/W	EVENT8 カウントイネーブル 0：EVENT8 端子イベント入力のカウント無効 1：EVENT8 端子イベント入力のカウント有効
7	EVC7E	0	R/W	EVENT7 カウントイネーブル 0：EVENT7 端子イベント入力のカウント無効 1：EVENT7 端子イベント入力のカウント有効
6	EVC6E	0	R/W	EVENT6 カウントイネーブル 0：EVENT6 端子イベント入力のカウント無効 1：EVENT6 端子イベント入力のカウント有効
5	EVC5E	0	R/W	EVENT5 カウントイネーブル 0：EVENT5 端子イベント入力のカウント無効 1：EVENT5 端子イベント入力のカウント有効

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
4	EVC4E	0	R/W	EVENT4 カウントイネーブル 0：EVENT4 端子イベント入力のカウント無効 1：EVENT4 端子イベント入力のカウント有効
3	EVC3E	0	R/W	EVENT3 カウントイネーブル 0：EVENT3 端子イベント入力のカウント無効 1：EVENT3 端子イベント入力のカウント有効
2	EVC2E	0	R/W	EVENT2 カウントイネーブル 0：EVENT2 端子イベント入力のカウント無効 1：EVENT2 端子イベント入力のカウント有効
1	EVC1E	0	R/W	EVENT1 カウントイネーブル 0：EVENT1 端子イベント入力のカウント無効 1：EVENT1 端子イベント入力のカウント有効
0	EVC0E	0	R/W	EVENT0 カウントイネーブル 0：EVENT0 端子イベント入力のカウント無効 1：EVENT0 端子イベント入力のカウント有効

35.3.2　イベントカウンタエッジ制御レジスタ（EVCECR）

EVCECR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、イベントの検出エッジの選択を行います。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	EDS15	EDS14	EDS13	EDS12	EDS11	EDS10	EDS9	EDS8	EDS7	EDS6	EDS5	EDS4	EDS3	EDS2	EDS1	EDS0
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15	EDS15	0	R/W	EVENT15 エッジセレクト EVENT15 端子イベント入力の検出エッジを選択します。 0：立ち上がりエッジをカウント 1：立ち下がりエッジをカウント
14	EDS14	0	R/W	EVENT14 エッジセレクト EVENT14 端子イベント入力の検出エッジを選択します。 0：立ち上がりエッジをカウント 1：立ち下がりエッジをカウント
13	EDS13	0	R/W	EVENT13 エッジセレクト EVENT13 端子イベント入力の検出エッジを選択します。 0：立ち上がりエッジをカウント 1：立ち下がりエッジをカウント
12	EDS12	0	R/W	EVENT12 エッジセレクト EVENT12 端子イベント入力の検出エッジを選択します。 0：立ち上がりエッジをカウント 1：立ち下がりエッジをカウント
11	EDS11	0	R/W	EVENT11 エッジセレクト EVENT11 端子イベント入力の検出エッジを選択します。 0：立ち上がりエッジをカウント 1：立ち下がりエッジをカウント
10	EDS10	0	R/W	EVENT10 エッジセレクト EVENT10 端子イベント入力の検出エッジを選択します。 0：立ち上がりエッジをカウント 1：立ち下がりエッジをカウント
9	EDS9	0	R/W	EVENT9 エッジセレクト EVENT9 端子イベント入力の検出エッジを選択します。 0：立ち上がりエッジをカウント 1：立ち下がりエッジをカウント
8	EDS8	0	R/W	EVENT8 エッジセレクト EVENT8 端子イベント入力の検出エッジを選択します。 0：立ち上がりエッジをカウント 1：立ち下がりエッジをカウント
7	EDS7	0	R/W	EVENT7 エッジセレクト EVENT7 端子イベント入力の検出エッジを選択します。 0：立ち上がりエッジをカウント 1：立ち下がりエッジをカウント

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
6	EDS6	0	R/W	EVENT6 エッジセレクト EVENT6 端子イベント入力の検出エッジを選択します。 0：立ち上がりエッジをカウント 1：立ち下がりエッジをカウント
5	EDS5	0	R/W	EVENT5 エッジセレクト EVENT5 端子イベント入力の検出エッジを選択します。 0：立ち上がりエッジをカウント 1：立ち下がりエッジをカウント
4	EDS4	0	R/W	EVENT4 エッジセレクト EVENT4 端子イベント入力の検出エッジを選択します。 0：立ち上がりエッジをカウント 1：立ち下がりエッジをカウント
3	EDS3	0	R/W	EVENT3 エッジセレクト EVENT3 端子イベント入力の検出エッジを選択します。 0：立ち上がりエッジをカウント 1：立ち下がりエッジをカウント
2	EDS2	0	R/W	EVENT2 エッジセレクト EVENT2 端子イベント入力の検出エッジを選択します。 0：立ち上がりエッジをカウント 1：立ち下がりエッジをカウント
1	EDS1	0	R/W	EVENT1 エッジセレクト EVENT1 端子イベント入力の検出エッジを選択します。 0：立ち上がりエッジをカウント 1：立ち下がりエッジをカウント
0	EDS0	0	R/W	EVENT0 エッジセレクト EVENT0 端子イベント入力の検出エッジを選択します。 0：立ち上がりエッジをカウント 1：立ち下がりエッジをカウント

35.3.3　イベントカウンタ0～15（EVCNT0～EVCNT15）

EVCNT0～EVCNT15は、16本の読み出し／書き込み可能な16ビットのレジスタで、それぞれEVENT0～EVENT15端子入力で検出されたイベントの回数を格納します。バイト単位でのアクセスは禁止です。必ずワード単位でアクセスしてください。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

36. 暗号機能（ARC4）

本章は、守秘契約を結んでいただいたうえで公開いたします。
詳細は、弊社の営業担当にご確認ください。

37. 暗号エンジン（CRYPTO ENGINE）

本章は、守秘契約を結んでいただいたうえで公開いたします。
詳細は、弊社の営業担当にご確認ください。

38. SD ホストインタフェース（SDHI）

本章は、守秘契約を結んでいただいたうえで公開いたします。
詳細は、弊社の営業担当にご確認ください。

39. A/D 変換器（ADC）

本 LSI は 10 ビット精度の逐次比較方式 A/D 変換器を 2 ユニット内蔵しています。2 ユニット合わせて最大 16 チャネルのアナログ入力を選択することができます。

39.1 特長

- 分解能：10 ビット
- 入力チャネル：16 チャネル（1 ユニット当たり 8 チャネル）
- 最小変換時間：1 チャネル当たり 5.5µs
- 動作モード：3 種類
  - シングルモード　：1 チャネルの A/D 変換
  - マルチモード　　：1～4 チャネルの A/D 変換又は 1～8 チャネルの A/D 変換
  - スキャンモード　：1～4 チャネルの連続 A/D 変換又は 1～8 チャネルの連続 A/D 変換
- データレジスタ：16 本（1 ユニット当たり 8 本）
- 変換結果を各チャネルに対応した 16 ビットデータレジスタに保持
- サンプル＆ホールド機能付き
- A/D 変換開始方法：3 種類
  - ソフトウェア
  - 8 ビットタイマ（TMR）による変換開始トリガ
  - 外部トリガ信号
- 割り込み要因
  A/D 変換終了時に、A/D 変換終了割り込み（ADI）要求を発生可能
- モジュールスタンバイモードの設定可能

図 39.1 に A/D 変換器 0 のブロック図、図 39.2 に A/D 変換器 1 のブロック図を示します。

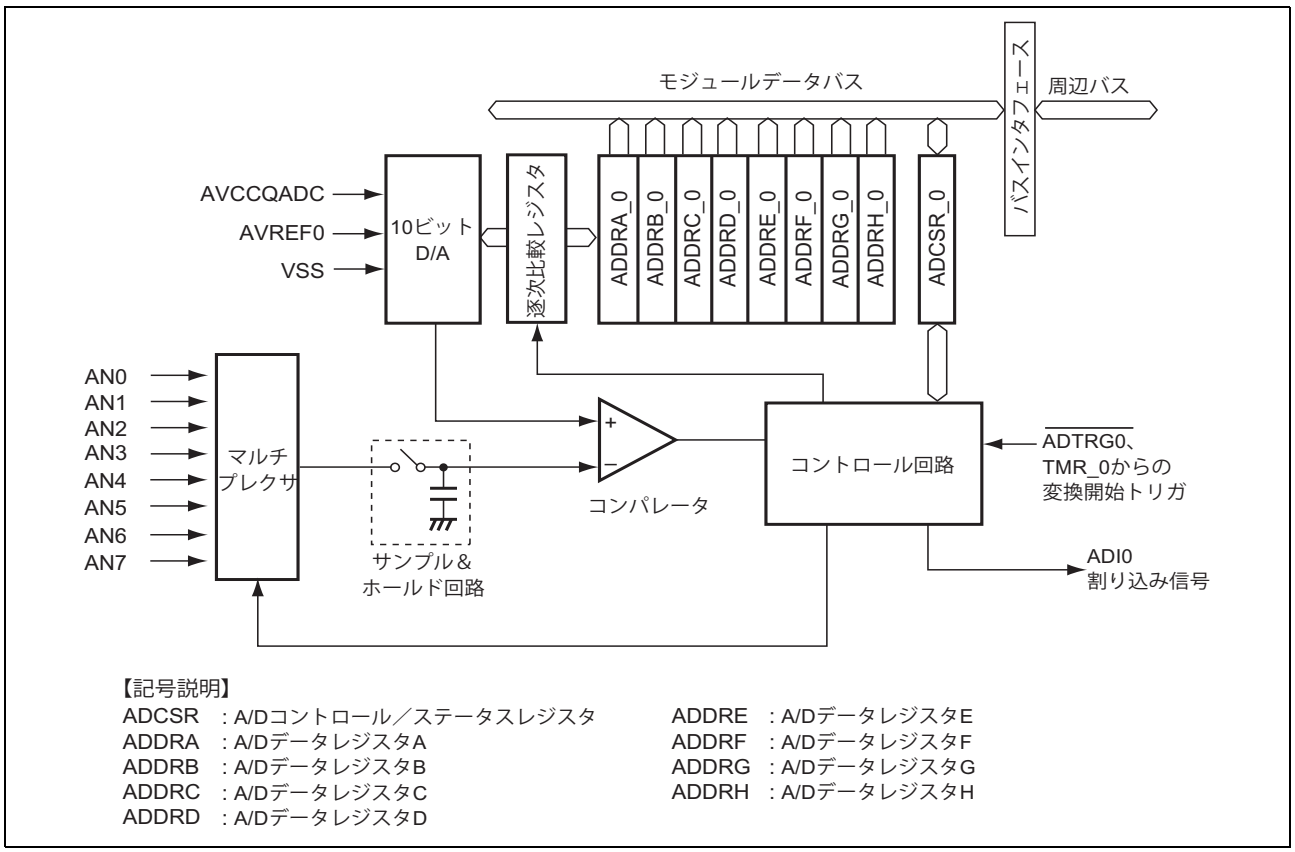


図 39.1　A/D 変換器 0 のブロック図

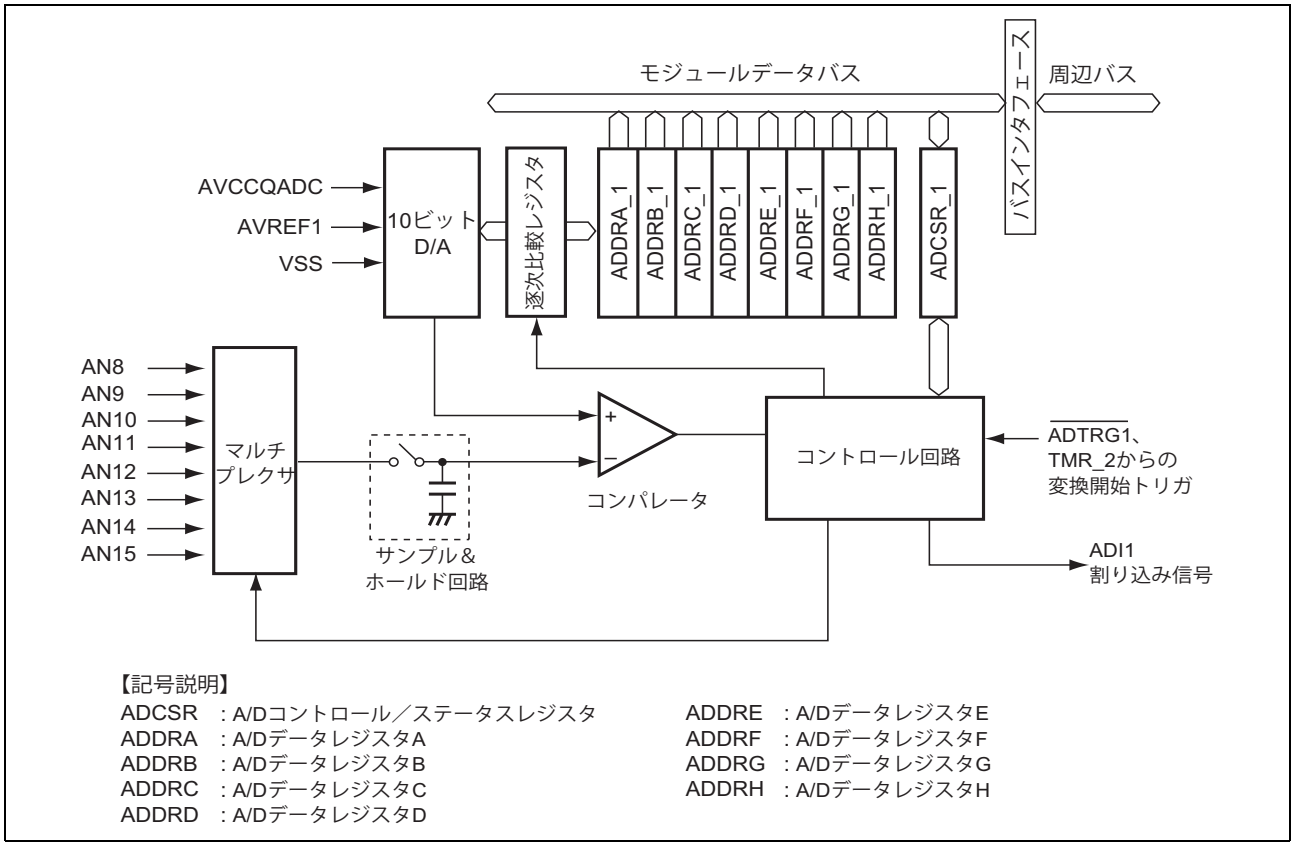


図 39.2　A/D 変換器1 のブロック図

39.2 入出力端子

A/D 変換器で使用する入力端子を表39.1 に示します。

表39.1　端子構成

ユニット	機能	端子名	入出力	説明
共用	アナログ電源端子	AVCCQADC	入力	アナログ部の電源端子
	グランド端子	VSS	入力	グランド端子及びA/D 変換の基準グランド
0	アナログ入力端子0	AN0	入力	アナログ入力
	アナログ入力端子1	AN1	入力	
	アナログ入力端子2	AN2	入力	
	アナログ入力端子3	AN3	入力	
	アナログ入力端子4	AN4	入力	
	アナログ入力端子5	AN5	入力	
	アナログ入力端子6	AN6	入力	
	アナログ入力端子7	AN7	入力	
	A/D 外部トリガ入力端子0	$\overline{\text{ADTRG0}}$	入力	A/D 変換開始のための外部トリガ入力
	リファレンス電源端子 0	AVREF0	入力	A/D変換器の基準電圧端子
1	アナログ入力端子8	AN8	入力	アナログ入力
	アナログ入力端子9	AN9	入力	
	アナログ入力端子10	AN10	入力	
	アナログ入力端子11	AN11	入力	
	アナログ入力端子12	AN12	入力	
	アナログ入力端子13	AN13	入力	
	アナログ入力端子14	AN14	入力	
	アナログ入力端子15	AN15	入力	
	A/D 外部トリガ入力端子1	$\overline{\text{ADTRG1}}$	入力	A/D 変換開始のための外部トリガ入力
	リファレンス電源端子 1	AVREF1	入力	A/D変換器の基準電圧端子

39.3 レジスタの説明

表39.2 にレジスタ構成と各リセット時のレジスタの状態を示します。

指定されたビット幅でレジスタにアクセスしてください。指定されたビット幅以外のサイズでレジスタにアクセスした場合、動作は保証できません。

表39.2　レジスタ構成

レジスタ名	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
					パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウェアリセット
A/D データレジスタ A_0	ADDRA_0	R	H'FFE3 0000	16	H'0000	H'0000	H'0000
A/D データレジスタ B_0	ADDRB_0	R	H'FFE3 0002	16	H'0000	H'0000	H'0000
A/D データレジスタ C_0	ADDRC_0	R	H'FFE3 0004	16	H'0000	H'0000	H'0000
A/D データレジスタ D_0	ADDRD_0	R	H'FFE3 0006	16	H'0000	H'0000	H'0000
A/D データレジスタ E_0	ADDRE_0	R	H'FFE3 0008	16	H'0000	H'0000	H'0000
A/D データレジスタ F_0	ADDRF_0	R	H'FFE3 000A	16	H'0000	H'0000	H'0000
A/D データレジスタ G_0	ADDRG_0	R	H'FFE3 000C	16	H'0000	H'0000	H'0000
A/D データレジスタ H_0	ADDRH_0	R	H'FFE3 000E	16	H'0000	H'0000	H'0000
A/D コントロール／ステータスレジスタ_0	ADCSR_0	R/W	H'FFE3 0010	16	H'0040	H'0040	H'0040
A/D データレジスタ A_1	ADDRA_1	R	H'FFE4 0000	16	H'0000	H'0000	H'0000
A/D データレジスタ B_1	ADDRB_1	R	H'FFE4 0002	16	H'0000	H'0000	H'0000
A/D データレジスタ C_1	ADDRC_1	R	H'FFE4 0004	16	H'0000	H'0000	H'0000
A/D データレジスタ D_1	ADDRD_1	R	H'FFE4 0006	16	H'0000	H'0000	H'0000
A/D データレジスタ E_1	ADDRE_1	R	H'FFE4 0008	16	H'0000	H'0000	H'0000
A/D データレジスタ F_1	ADDRF_1	R	H'FFE4 000A	16	H'0000	H'0000	H'0000
A/D データレジスタ G_1	ADDRG_1	R	H'FFE4 000C	16	H'0000	H'0000	H'0000
A/D データレジスタ H_1	ADDRH_1	R	H'FFE4 000E	16	H'0000	H'0000	H'0000
A/D コントロール／ステータスレジスタ_1	ADCSR_1	R/W	H'FFE4 0010	16	H'0040	H'0040	H'0040

39.3.1　A/D データレジスタA～H (ADDRA_i～ADDRH_i(i=0,1))

ADDRは、A/D変換された結果を格納する16ビットの読み出し専用レジスタで、ADDRA_i～ADDRH_iの16本があります。

A/D変換されたデータは10ビットデータで、変換されたチャネルに対応するADDRのビット15～6に転送され、保持されます。ビット5～0は読み出すと常に0が読み出されます。

ADDRへのアクセスは常に16ビット単位で行ってください。

ADDRは、パワーオンリセット、マニュアルリセット、及びモジュールスタンバイモードでH'0000に初期化されます。

アナログ入力チャネルとADDRの対応を表39.3に示します。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	DATA[9:0]										—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	—	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15 ～ 6	DATA[9:0]	すべて0	R	ビットデータ（10 ビット）
5 ～ 0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

表39.3　アナログ入力チャネルとADDRの対応

アナログ入力チャネル	変換結果が格納されるA/D データレジスタ
AN0	ADDRA_0
AN1	ADDRB_0
AN2	ADDRC_0
AN3	ADDRD_0
AN4	ADDRE_0
AN5	ADDRF_0
AN6	ADDRG_0
AN7	ADDRH_0
AN8	ADDRA_1
AN9	ADDRB_1
AN10	ADDRC_1
AN11	ADDRD_1
AN12	ADDRE_1
AN13	ADDRF_1
AN14	ADDRG_1
AN15	ADDRH_1

39.3.2　A/D コントロール／ステータスレジスタ（ADCSR）

ADCSR は、16 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、動作モードの選択、A/D 変換の動作制御、及び外部トリガ入力による A/D 変換開始の許可又は禁止の選択を行います。

ADCSR は、パワーオンリセット、マニュアルリセット、及びモジュールスタンバイモードで H'0040 に初期化されます。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	ADF	ADIE	ADST	—	TRGS[3:0]				CKS[1:0]		MDS[2:0]			CH[2:0]		
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15	ADF	0	R/W	A/D エンドフラグ A/D 変換の終了を示すステータスフラグです。 ［クリア条件］ • ADF＝1 の状態で ADF フラグを読み出した後、ADF フラグに 0 を書き込んだとき • ADI 割り込みにより DMAC が起動され、ADDR を読み出したとき ［セット条件］ • シングルモードで A/D 変換が終了したとき • マルチモードで選択されたすべてのチャネルの A/D 変換が終了したとき • スキャンモードで選択されたすべてのチャネルの A/D 変換が終了したとき
14	ADIE	0	R/W	A/D インタラプトイネーブル A/D 変換の終了による割り込み（ADI）要求の許可又は禁止を選択します。 ADIE ビットの設定は変換停止中に行ってください。 0：A/D 変換の終了による割り込み（ADI）要求を禁止 1：A/D 変換の終了による割り込み（ADI）要求を許可
13	ADST	0	R/W	A/D スタート A/D 変換の開始又は停止を選択します。A/D 変換中は 1 を保持します。 0：A/D 変換を停止 1：シングルモード時：A/D 変換を開始。指定したチャネルの A/D 変換が終了すると自動的にクリア。 マルチモード時：A/D 変換を開始。指定したすべてのチャネルを一巡して A/D 変換が終了すると自動的に 0 にクリア。 スキャンモード時：A/D 変換を開始。ソフトウェア、パワーオンリセット、マニュアルリセット、又はモジュールスタンバイモードへの遷移により 0 になるまで連続変換します。
12	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
11 ～ 8	TRGS[3:0]	0000	R/W	タイマトリガセレクト トリガ信号によるA/D 変換開始の許可又は禁止を選択します。 0000：外部トリガによるA/D 変換開始を禁止 0001：設定禁止 0010：設定禁止 0011：設定禁止 0100：設定禁止 0101：設定禁止 0110：設定禁止 0111：設定禁止 1000：設定禁止 1001：$\overline{\text{ADTRG}}$ によるA/D 変換開始 1010：TMR からの変換トリガによるA/D 変換開始 1011～1111：設定禁止
7、6	CKS[1:0]	01	R/W	クロックセレクト A/D変換時間の設定を行います。変換時間の設定は変換停止中（ADST=0）に行ってください。絶対精度を満足するためには、「39.4.5 入力サンプリングとA/D 変換時間」に記載する最小変換時間以上となるように設定してください。 なお、１ステートはPckの１サイクルです。 00：変換時間＝138ステート（Pckの138サイクル） 01：変換時間＝274ステート（Pckの274サイクル） 10：変換時間＝546ステート（Pckの546サイクル） 11：設定禁止
5 ～ 3	MDS[2:0]	000	R/W	マルチスキャンモード A/D 変換の動作モードを選択します。 0xx：シングルモード 100：マルチモード。1～4 チャネルのA/D 変換 101：マルチモード。1～8 チャネルのA/D 変換 110：スキャンモード。1～4 チャネルのA/D 変換 111：スキャンモード。1～8 チャネルのA/D 変換
2 ～ 0	CH[2:0]	000	R/W	チャネルセレクト ADCSR のMDS ビットとともにアナログ入力を選択します。 MDS[2:0]=0xxのとき / MDS[2:0]=100,110のとき / MDS[2:0]=101,111のとき 000: AN0 (AN8) / 000: AN0 (AN8) / 000: AN0 (AN8) 001: AN1 (AN9) / 001: AN0、AN1(AN8、AN9) / 001: AN0、AN1 (AN8、AN9) 010: AN2 (AN10) / 010: AN0 ～ AN2 (AN8～AN10) / 010: AN0 ～ AN2 (AN8 ～AN10) 011: AN3 (AN11) / 011: AN0 ～ AN3 (AN8～AN 11) / 011: AN0 ～ AN3 (AN8～AN 11) 100: AN4 (AN12) / 100: AN4 (AN12) / 100: AN0 ～ AN4 (AN8～AN 12) 101: AN5 (AN13) / 101: AN4、AN5 (AN12、AN13) / 101: AN0 ～ AN5 (AN8～AN 13) 110: AN6 (AN14) / 110: AN4 ～ AN6 (AN12～AN14) / 110: AN0 ～ AN6 (AN8～AN 14) 111: AN7 (AN15) / 111: AN4 ～ AN7 (AN12～ AN15) / 111: AN0 ～ AN7 (AN8～AN 15)

記号説明．x：Don't care

39.4　動作説明

A/D 変換器は逐次比較方式で分解能は10 ビットです。動作モードにはシングルモードとマルチモードとスキャンモードがあります。動作モードやアナログ入力チャネルの切り替えは、誤動作を避けるためADST ビット（ADCSR レジスタ のビット13）が0 の状態で行ってください。動作モードやアナログ入力チャネルの変更とADST ビットのセットは同時に行うことができます。

39.4.1　シングルモード

シングルモードは、1 チャネルのみのA/D 変換を行う場合に選択します。
シングルモードは、指定された1 チャネルのアナログ入力を以下のように1 回A/D 変換します。

1. ソフトウェア、TMR 又は外部トリガ入力によってADST ビット（ADCSR レジスタのビット13）が1にセットされると、選択されたチャネルのA/D変換を開始します。
2. A/D変換が終了すると、A/D変換結果がそのチャネルに対応するA/Dデータレジスタに転送されます。
3. A/D変換終了後、ADF ビット（ADCSR レジスタのビット15）が1にセットされます。このとき、ADIE ビット（ADCSR レジスタのビット14）が1にセットされていると、ADI割り込み要求を発生します。
4. ADSTビットはA/D変換中は1を保持し、変換が終了すると自動的に0になりA/D変換器は待機状態になります。

A/D 変換中に、モードやアナログ入力チャネルの切り替えを行う場合は、誤動作を避けるためにADST ビットを 0 にし、A/D 変換を停止した状態で行ってください。更新した後、ADST ビットを 1 にセットすると（モード及びチャネルの変換とADST ビットのセットは同時に行うことができます）、再びA/D 変換を開始します。

シングルモードでチャネル 1（AN1）が選択された場合の動作例を以下に示します。また、このときの動作タイミングを図39.3 に示します（動作例におけるビットの指定はADCSR_0 レジスタです）。

1. 動作モードをシングルモードに、入力チャネルをAN1 に（CH2 ＝ 0、CH1 ＝ 0、CH0 ＝ 1）、A/D割り込み要求許可（ADIE ＝ 1）に設定して、A/D変換を開始（ADST ＝ 1）します。
2. A/D変換が終了すると、A/D変換結果がADDRB_0に転送されます。同時に、ADF ＝ 1、ADST ＝ 0となり、A/D変換器0は変換待機となります。
3. ADF ＝ 1、ADIE ＝ 1となっているため、ADI0割り込み要求が発生します。
4. A/D割り込み処理ルーチンが開始されます。
5. ADF=1を読み出した後、ADFに0を書き込みます。
6. A/D変換結果（ADDRB_0）を読み出して、処理します。
7. A/D 割り込み処理ルーチンの実行を終了します。この後、ADST ビットを 1 にセットするとA/D変換が開始され2. ～7. を行います。

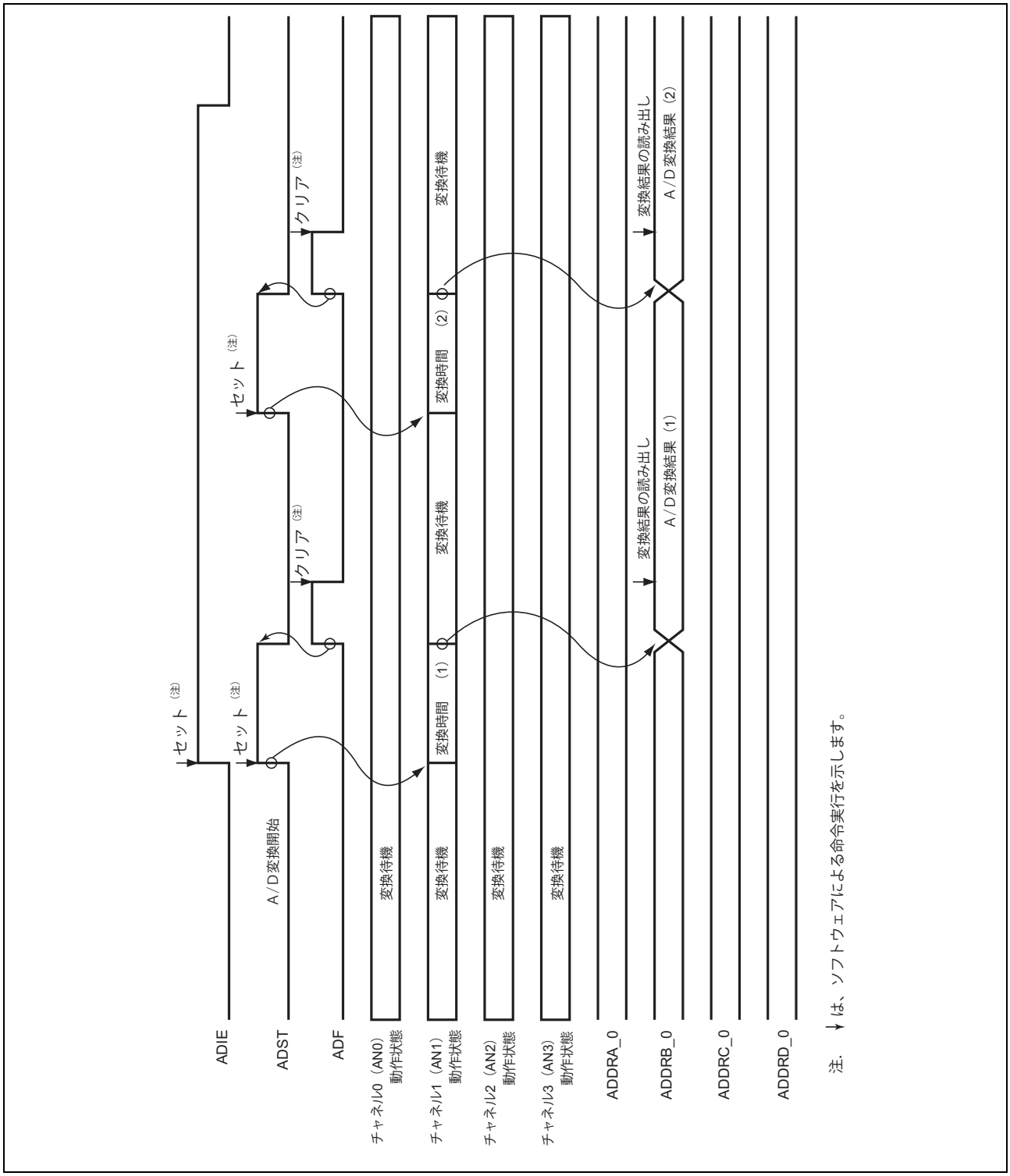


図 39.3　A/D 変換器の動作例（シングルモード、チャネル1 選択時）

39.4.2　マルチモード

マルチモードは、複数チャネル（1 チャネルを含む）のアナログ入力をそれぞれ1 回順次変換します。マルチモードは指定された最大8 チャネルのアナログ入力を以下のように1 回A/D 変換します。

1. ソフトウェア、TMR 又は外部トリガ入力によってADST ビット（ADCSR レジスタのビット13）が1にセットされると、アナログ入力チャネル番号の小さい順（たとえばAN0、AN1…AN3）にA/D変換を実行します。
2. それぞれのチャネルのA/D変換が終了すると、A/D変換結果は順次そのチャネルに対応するA/Dデータレジスタに転送されます。
3. 選択されたすべてのチャネルのA/D変換が終了すると、ADF ビット（ADCSR レジスタのビット15）が1にセットされます。このときADIE ビット（ADCSR レジスタのビット14）が1にセットされていると、ADI割り込み要求を発生します。
4. ADST ビットはA/D変換中は1を保持し、変換が終了すると自動的に0にクリアされてA/D変換器は待機状態になります。A/D 変換中にADST ビットを0にクリアすると変換を中止し、A/D 変換器は待機状態になります。
   ADF ビットは、ADF＝1を読み出した後、ADF ビットに0を書き込むとクリアされます。

A/D 変換は、指定したすべてのチャネルを一巡して変換します。変換された結果は、各チャネルに対応したADDR に転送され保持されます。

A/D 変換中に、モードやアナログ入力チャネルの切り替えを行う場合は、誤動作を避けるためにADST ビットを0 にクリアして、A/D 変換を停止した状態で行ってください。変更した後、ADST ビットに1 をセットすると（モード及びチャネルの変更とADST ビットのセットは同時に行うことができます）、第1チャネルが選択され、再びA/D 変換を開始します。

マルチモードで3 チャネル（AN0～AN2）を選択してA/D 変換を行う場合の動作例を以下に示します。また、このときの動作タイミングを図39.4 に示します。

1. 動作モードをマルチモード（MDS2＝1、MDS1＝0）に、アナログ入力チャネルをAN0～AN2（CH2＝0、CH1＝1、CH0＝0）に設定してA/D変換を開始（ADST＝1）します。
2. 第1チャネル（AN0）のA/D変換が開始され、A/D変換が終了すると、変換結果をADDRA_0に転送します。
3. 次に第2チャネル（AN1）が自動的に選択され、変換を開始します。
4. 同様に第3チャネル（AN2）まで変換を行います。
5. 選択されたすべてのチャネル（AN0～AN2）の変換が終了すると、ADF＝1となり、ADSTビットを0にして変換を終了します。
   このときADIE ビットが1であると、A/D変換終了後、ADI0割り込みを発生します。

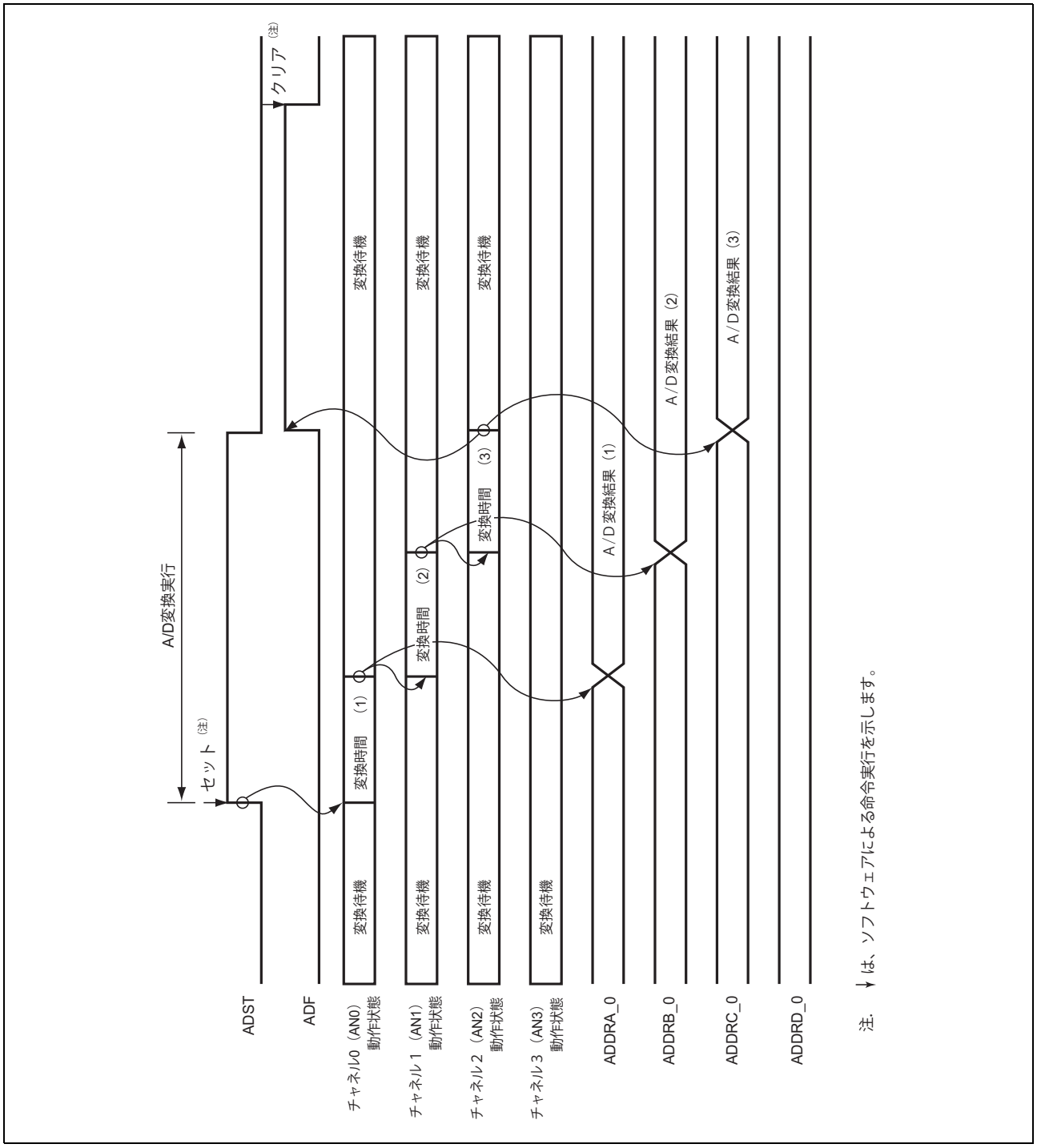


図 39.4 A/D 変換器の動作例（マルチモード、AN0～AN2 の3 チャネル選択時）

39.4.3　スキャンモード

スキャンモードは、複数チャネル（1 チャネルを含む）のアナログ入力を常にモニタするようなシステムに適します。スキャンモードは、指定された最大 8 チャネルのアナログ入力を以下のように順次連続して A/D 変換します。

1. ソフトウェア、TMR 又は外部トリガ入力によって ADST ビット（ADCSR レジスタのビット 13）が 1 にセットされると、アナログ入力チャネル番号の小さい順（たとえば AN0、AN1…AN3）に A/D 変換を実行します。
2. それぞれのチャネルの A/D 変換が終了すると、A/D 変換結果は順次そのチャネルに対応する A/D データレジスタに転送されます。
3. 選択されたすべてのチャネルの A/D 変換が終了すると、ADF ビット（ADCSR レジスタのビット 15）が 1 にセットされます。このとき ADIE ビット（ADCSR レジスタのビット 14）が 1 にセットされていると、ADI 割り込み要求を発生します。A/D 変換器は再びチャネル番号の小さい順に A/D 変換を実行します。
4. ADST ビットは自動的にクリアされず、1 にセットされている間は 2.～3. を繰り返します。ADST ビットを 0 にクリアすると A/D 変換を中止し、A/D 変換器は待機状態になります。
   ADF ビットは、ADF＝1 を読み出したあと、ADF ビットに 0 を書き込むとクリアされます。

A/D 変換中に、モードやアナログ入力チャネルの切り替えを行う場合は、誤動作を避けるために ADST ビットを 0 にクリアして、A/D 変換を停止した状態で行ってください。変更した後、ADST ビットに 1 をセットすると（モード及びチャネルの変更と ADST ビットのセットは同時に行うことができます）、第 1 チャネルが選択され、再び A/D 変換を開始します。

スキャンモードで 3 チャネル（AN0～AN2）を選択して A/D 変換を行う場合の動作例を以下に示します。また、このときの動作タイミングを図 39.5 に示します。

1. 動作モードをスキャンモード（MDS2＝1、MDS1＝1）に、アナログ入力チャネルを AN0～AN2（CH2＝0、CH1＝1、CH0＝0）に設定して A/D 変換を開始（ADST＝1）します。
2. 第 1 チャネル（AN0）の A/D 変換が開始され、A/D 変換が終了すると、変換結果を ADDRA_0 に転送します。
3. 次に第 2 チャネル（AN1）が自動的に選択され、変換を開始します。
4. 同様に第 3 チャネル（AN2）まで変換を行います。
5. 選択されたすべてのチャネル（AN0～AN2）の変換が終了すると、ADF＝1 となり、再び、第 1 チャネル（AN0）を選択し、連続して変換が行われます。このとき ADIE ビットが 1 であると、A/D 変換（第 3 チャネルの変換）終了後、ADI0 割り込みを発生します。
6. ADST ビットは自動的にクリアされず、ADST ビットが 1 にセットされている間は 2.～4. を繰り返します。繰り返している間は ADF＝1 を保持しています。ADST ビットを 0 にクリアすると、A/D 変換が停止します。ADF ビットは、ADF＝1 を読み出した後、ADF ビットに 0 を書き込むとクリアされます。

2.～4. を繰り返している間 ADF＝1 で ADIE＝1 の場合、常に ADI0 割り込みを発生します。第 3 チャネルの変換終了時点で割り込みを発生させたい場合は、割り込み発生後、ADF ビットを 0 にしてください。

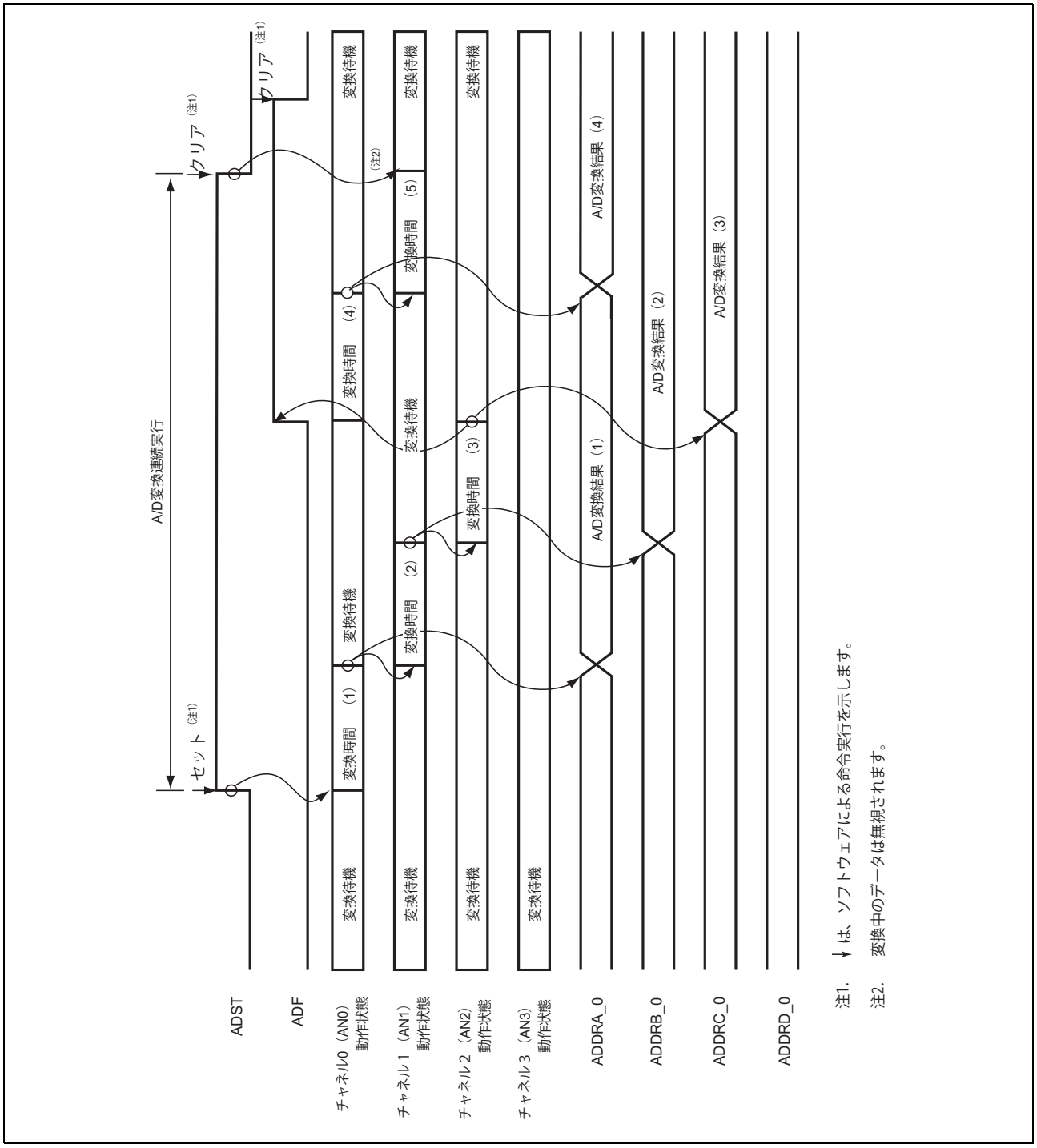


図 39.5　A/D 変換器の動作例（スキャンモード、AN0～AN2 の 3 チャネル選択時）

39.4.4　外部トリガ、TMR によるA/D 変換器の起動

外部トリガ、TMR からの A/D 変換要求によって、A/D 変換器を独立に起動することができます。外部トリガ、TMR からA/D 変換器を起動するときには、A/D トリガイネーブルビット（TRGS3～TRGS0）の設定を行います。この状態で外部トリガ、TMR のA/D 変換要求が発生すると、ADST ビット（ADCSR レジスタのビット13）を1 にセットします。これで、A/D 変換が開始されます。変換を行うチャネルは、ADCSR の CH2～CH0 ビットで決まります。ADST ビットが1 にセットされてから、A/D 変換が開始されるまでのタイミングは、ソフトウェアで ADST ビットに 1 を書き込んだ場合と同じです。なお、A/D 変換器 0 は外部トリガ ADTRG0、TMR_0 からのA/D 変換要求によって、A/D 変換器 1 は外部トリガ ADTRG1、TMR_2 からのA/D 変換要求によって起動することができます。

39.4.5　入力サンプリングとA/D 変換時間

A/D 変換器には、サンプル&ホールド回路が内蔵されています。A/D 変換器は、ADST ビット（ADCSR レジスタのビット13）が1 にセットされてからA/D 変換開始遅延時間（t_D）経過後、入力のサンプリングを行い、その後変換を開始します。A/D 変換のタイミングを図39.6 に示します。また、A/D 変換時間を表39.4 に示します。

A/D 変換時間（t_{CONV}）は、図39.6 に示すように、t_D と入力サンプリング時間（t_{SPL}）を含めた時間となります。ここで t_D は、ADCSR へのライトタイミングにより決まり、一定値とはなりません。そのため、変換時間は表39.4に示す範囲で変化します。

マルチモード及びスキャンモードの変換時間は、表 39.4 に示す値が 1 回目の変換時間となります。2 回目以降の変換時間は表39.5 に示す値となります。

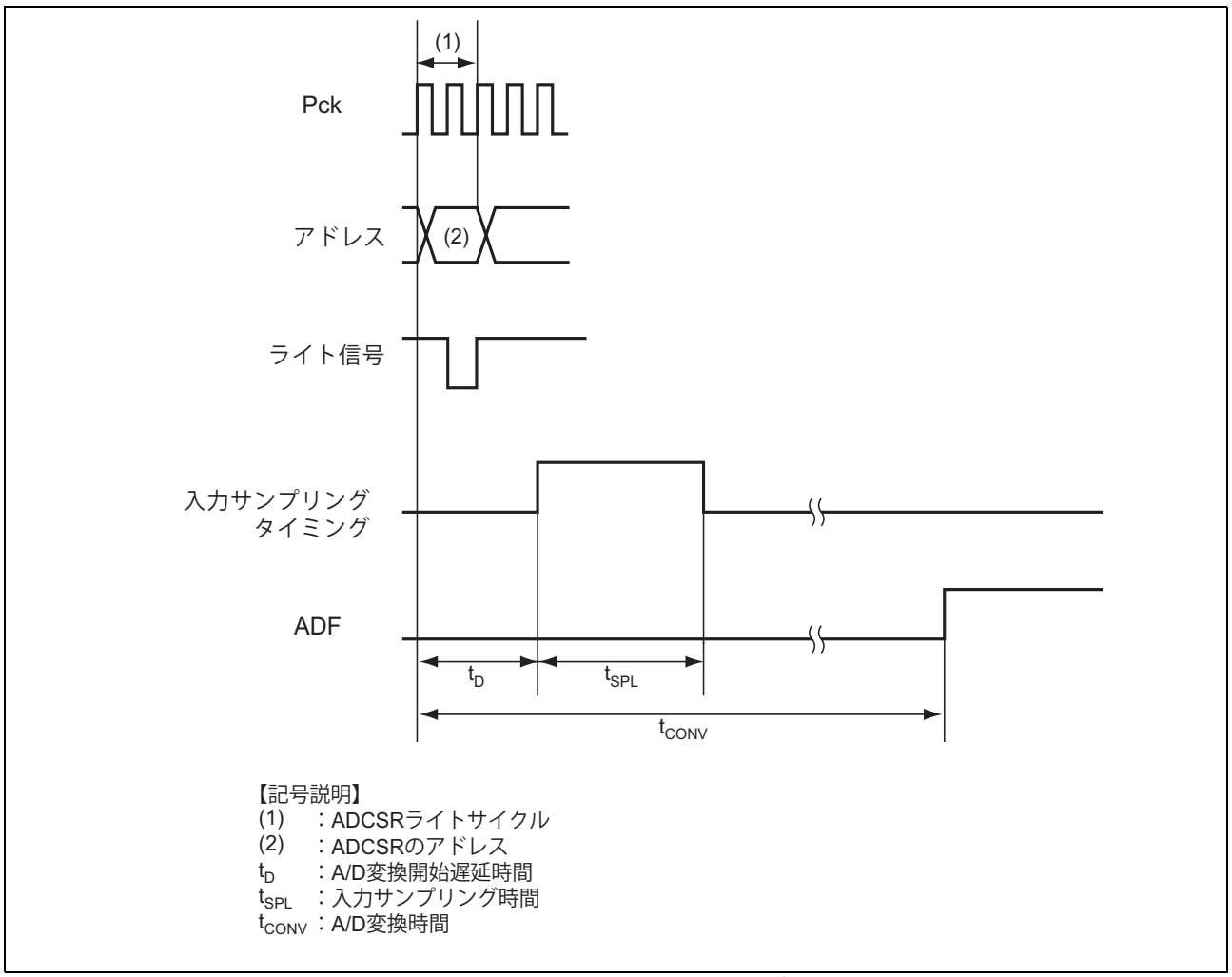


図 39.6　A/D 変換タイミング

表39.4　A/D 変換時間（シングルモード）

項目	記号	CKS1 = 0						CKS1 = 1		
		CKS0 = 0			CKS0 = 1			CKS0 = 0		
		Min.	Typ.	Max.	Min.	Typ.	Max.	Min.	Typ.	Max.
A/D 変換開始遅延時間	t_D	11	—	14	19	—	26	35	—	50
入力サンプリング時間	t_{SPL}	—	33	—	—	65	—	—	129	—
A/D 変換時間	t_{CONV}	135	—	138	267	—	274	531	—	546

注.　表中の数値の単位はステート（１ステートはPckの１サイクル）です。
以下に設定例を示します。
Pck=48MHz、CKS[1:0]=01の場合、A/D変換時間(tCONV)は
267(cycle)/48(MHz)＝5.56μs
となります。

表39.5　A/D 変換時間（マルチモード／スキャンモード）

CKS1	CKS0	変換時間（ステート）
0	0	128（固定）
	1	256（固定）
1	0	512（固定）

注.　表中の数値の単位はステート（１ステートはPckの１サイクル）です。

39.4.6　外部トリガ入力タイミング

A/D 変換は、外部トリガ入力により開始することも可能です。外部トリガ入力は、ADCSR の TRGS3～TRGS0 ビットが B'1001 にセットされているとき、$\overline{\text{ADTRG}}$ 端子から入力されます。$\overline{\text{ADTRG}}$ の立ち下がりエッジで、ADST ビット（ADCSR レジスタのビット 13）が 1 にセットされ、A/D 変換が開始されます。その他の動作は、シングルモード／マルチモード／スキャンモードによらず、ソフトウェアによって ADST ビットを 1 にセットした場合と同じです。このタイミングを図 39.7 に示します。

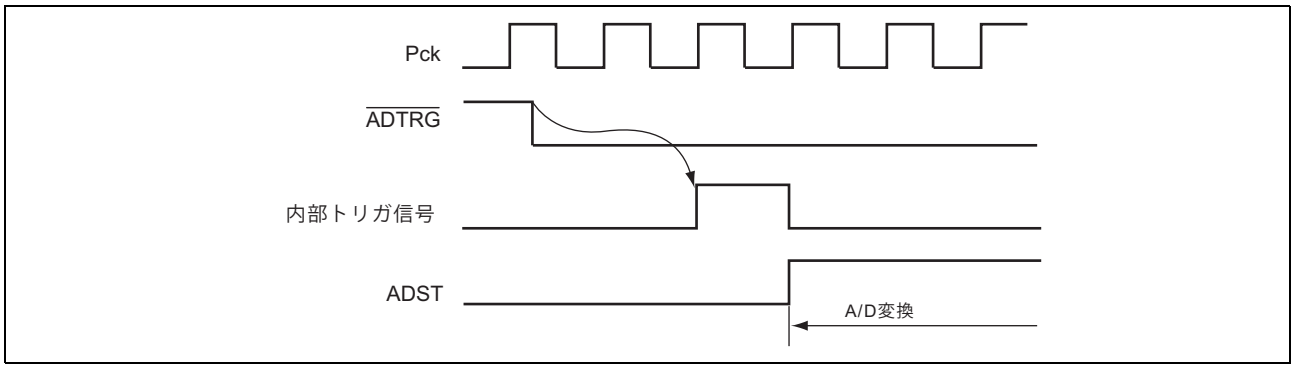


図 39.7　外部トリガ入力タイミング

39.5　割り込み要因とDMAC 転送要求

A/D 変換器は、A/D 変換が終了すると、A/D 変換終了割り込み（ADI）を発生します。ADI 割り込み要求は、A/D 変換終了後ADF ビット（ADCSR レジスタのビット15）が1 にセットされ、このときADIE ビット（ADCSR レジスタのビット14）が1 にセットされているとADI 割り込み要求を発生します。

後述のとおり、A/D 変換器の動作モードに応じて２種類のDMA転送要求信号を使用できます。

(1)　シングルモード

ADCI0 又は ADCI1 をDMACのDMA転送要求信号に設定すると、ADI割り込み信号発生時にDMACを起動できます。このとき、SH-4Aへの割り込み要求は発生されません。
ADI割り込み信号により、DMACを起動する場合、DMACによるデータ転送時にADCSRのADF ビットは自動的に0になります。

表39.6　割り込み要因とDMAC 転送要求の関係

割り込みの名称	割り込み要因	割り込みフラグ	DMAC 転送要求信号
ADI0	A/D変換器0のA/D変換終了割り込み	ADCSR_0のADF	ADCI0
ADI1	A/D変換器１のA/D変換終了割り込み	ADCSR_1のADF	ADCI1

(2)　スキャンモード又はマルチモード

ADC0_SCAN(ADC0-dmacscan_adscan_n)又はADC1_SCAN(ADC1-dmacscan_adscan_n)をDMACのDMA転送要求信号に設定すると、各チャネル(ANi(i=1～15))のA/D変換が終了する毎にDMA転送要求が発生します。したがって、変換終了時に変換結果データをDMACで転送します。
この場合、ADI割り込みを無効にしてください。A/D変換を終了する場合、DMAC転送終了時に発生するDMAC割り込みを使用してください
DMACによるデータ転送時にADCSRのADFビットは自動的に0になりません。

39.6　A/D 変換精度の定義

A/D 変換器は、アナログ入力チャネルから入力されたアナログ値をアナログ基準電圧と比較しながら、10 ビットのデジタル値に変換します。このときのA/D 変換の絶対精度、すなわち、入力アナログ値と出力デジタル値との偏差は、以下の誤差を含んでいます。

1. オフセット誤差
2. フルスケール誤差
3. 量子化誤差
4. 非直線性誤差

図39.8 に沿って、上記1.～4.の誤差を説明します。ただし、図ではわかりやすいように、10 ビットの中速A/D変換器を3 ビットの中速A/D 変換器に単純化しています。オフセット誤差とは、デジタル出力値が最小値（ゼロ電圧）B'0000000000（図では000）からB'0000000001（図では001）に変化するときの、実際のA/D 変換特性と理想A/D 変換特性との偏差（図39.8（1））です。フルスケール誤差とはデジタル出力値がB'1111111110（図では110）から最大値（フルスケール電圧）B'1111111111（図では111）に変化するときの、実際の A/D 変換特性と理想 A/D 変換特性との偏差（図 39.8（2））です。量子化誤差とは、A/D 変換器が本質的に有する誤差であり、1/2LSB で表されます（図 39.8（3））。非直線性誤差とは、ゼロ電圧からフルスケール電圧までの間の実際のA/D 変換特性と理想A/D 変換特性との偏差（図39.8（4））です。ただし、オフセット誤差、フルスケール誤差、量子化誤差は含みません。

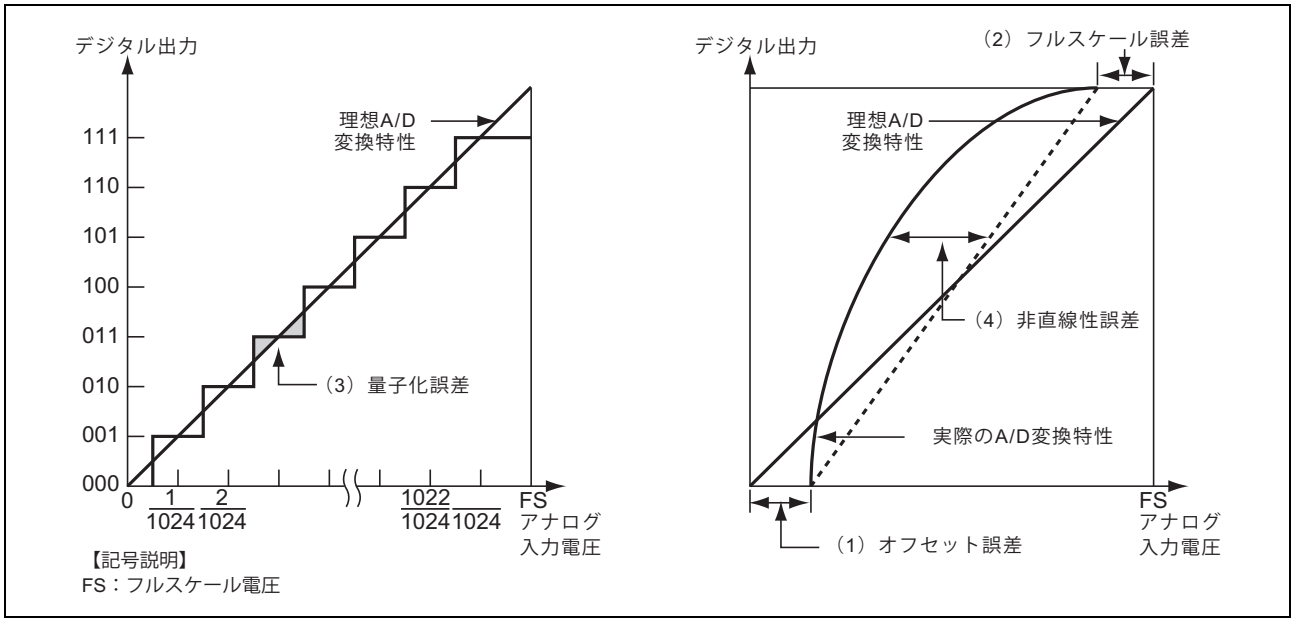


図 39.8　A/D 変換精度の定義

39.7　使用上の注意事項

A/D 変換器を使用する際は、以下のことに注意してください。

39.7.1　モジュールスタンバイモードの設定

モジュールストップレジスタにより、A/D 変換器の動作禁止／許可を設定することが可能です。初期値では、A/D 変換器は動作します。詳細は、「18. 低消費電力モード」を参照してください。

39.7.2　アナログ電圧の設定

以下に示す電圧の設定範囲を超えて LSI を使用した場合、LSI の信頼性に悪影響を及ぼすことがあります。

(1) アナログ入力電圧の範囲

A/D 変換中、アナログ入力端子 ANn に印加する電圧は VSS ≦ ANn ≦ AVCCQADC の範囲としてください。（n＝0～15）

(2) AVCCQADC 入力電圧

AVCCQADC 入力電圧は、VCCQ - 0.3 V ≦ AVCCQADC ≦ VCCQ としてください。さらに、A/D 変換器を使用しないときでも、AVCCQADC 端子をオープンにしないでください。使用しないときは、必ず AVCCQADC は電源（VCCQ）に接続してください。

(3) AVREFm (m = 0, 1) 入力電圧の設定範囲

AVREFm 端子によるリファレンス電圧範囲は 3.0 V ≦ AVREFm ≦ AVCCQADC にしてください。

39.7.3　ボード設計上の注意

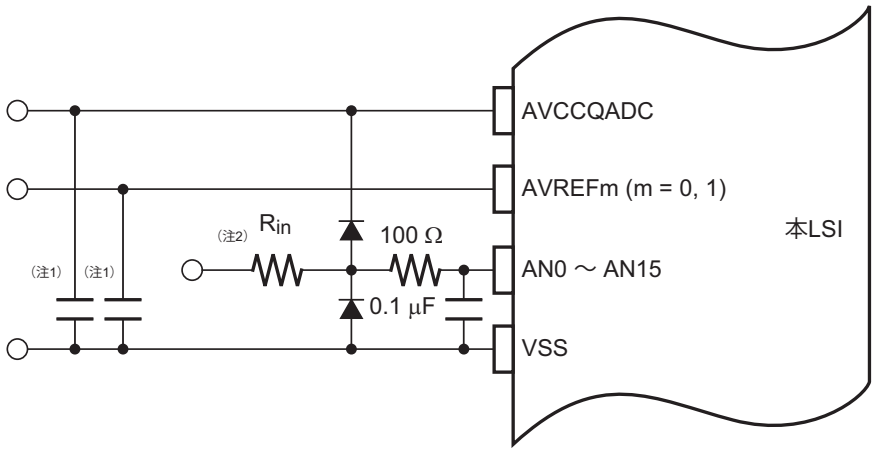
ボード設計時には、デジタル回路とアナログ回路をできるだけ分離してレイアウトしてください。また、デジタル回路の信号配線とアナログ回路の信号配線を交差させたり、近接させるようなレイアウトは極力避けてください。誘導などにより、アナログ回路の誤動作や、A/D 変換値に悪影響を及ぼします。

なお、アナログ入力信号（AN0 ～ AN15）、アナログ基準電圧 (AVREFm (m = 0, 1))、アナログ電源（AVCCQADC）は、アナロググランド（VSS）で、デジタル回路を分離してください。

39.7.4　アナログ入力端子の取り扱い

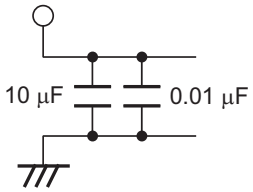
アナログ入力端子（AN0～AN15）には、過大サージなどの異常電圧による破壊を防ぐために、図 39.9 のような保護回路を接続してください。この図の回路は、ノイズによる誤差を抑える CR フィルタの機能も兼ねています。なお、図の回路はあくまでも設計例ですので、実際の使用条件を考慮の上、回路定数を決めてください。

図 39.10 にアナログ入力端子の等価回路を、表 39.7 にアナログ入力端子の規格を示します。



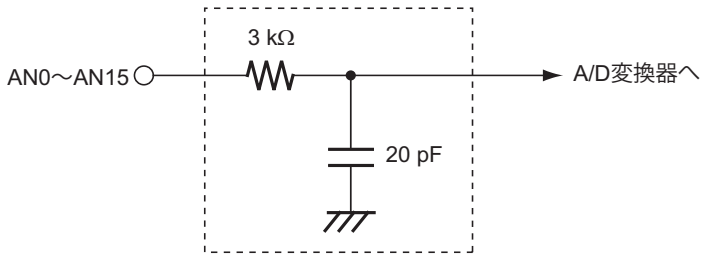
注.　数値は参考値です。

注1.



注2.　Rin：入力インピーダンス

図 39.9　アナログ入力端子の保護回路例



注.　数値は参考値です。

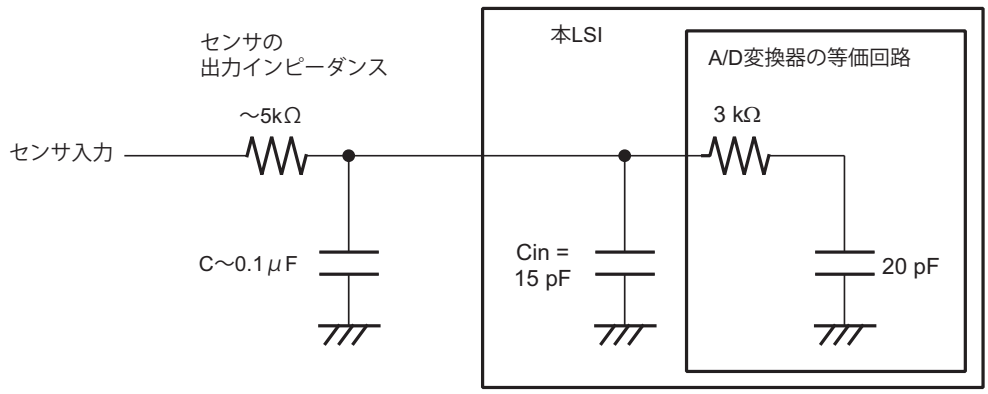
図 39.10　アナログ入力端子の等価回路

表39.7　アナログ入力端子の規格

項目	Min.	Max.	単位
アナログ入力容量	—	20	pF
許容信号源インピーダンス	—	5	kΩ

39.7.5　許容信号源インピーダンス

本LSI のアナログ入力は、信号源インピーダンスが5kΩ以下の入力信号に対し、変換精度が保証される設計となっております。これはA/D 変換器のサンプル&ホールド回路の入力容量をサンプリング時間内に充電するための規格で、センサの出力インピーダンスが5kΩを超える場合、充電不足が生じて、A/D 変換精度が保証できなくなります。シングルモードで変換を行うときに外部に大容量を設けている場合、入力の負荷は実質的に内部入力抵抗の3kΩだけになりますので、信号源インピーダンスは不問となります。ただし、ローパスフィルタとなりますので、微分係数の大きなアナログ信号（たとえば5mV/μs以上）には追従できないことがあります（図39.11）。高速のアナログ信号を変換する場合やスキャンモードで変換を行う場合には、低インピーダンスのバッファを入れてください。



注.　数値は参考値です。

図 39.11　アナログ入力回路の例

39.7.6　絶対精度への影響

容量を付加することにより、GND とのカップリングを受けることになります。GND にノイズがあると絶対精度が悪化する可能性がありますので、必ずAVss 等は電気的に安定なGND に接続してください。

またフィルタ回路が実装基板上でデジタル信号と交渉したり、アンテナとならないように注意してください。

40. 汎用入出力ポート（GPIO）

40.1 特長

本LSIは26組（ポートA～Z）の汎用ポート（入出力：187本、入力：9本）があります。汎用入出力ポート（GPIO）の各ポートは周辺モジュールの端子とマルチプレクスされており、関連レジスタでGPIO、周辺モジュールの選択を行います。

GPIOには次のような特長があります。

- それぞれのポート端子は、ポートコントロールレジスタで端子機能とプルアップMOS制御を端子ごとに行えるマルチプレクス端子です。
- ポートはそれぞれ端子のデータを格納するためのデータレジスタを1本ずつ持っています。

表40.1に汎用入出力ポート（GPIO）のレジスタで制御されるマルチプレクス端子を示します。

表40.1　ポートコントロールレジスタで制御されるマルチプレクス端子

ポート	ポートの機能 （関連モジュール）	その他の機能1 （関連モジュール）	その他の機能2 （関連モジュール）	その他の機能3 （関連モジュール）	入出力形態
A	PTA7 入出力（ポート）	$\overline{\text{BS}}$ 出力(LBSC)	—	—	
	PTA6 入出力（ポート）	$\overline{\text{RDWR}}$ 出力(LBSC)	—	—	
	PTA5 入出力（ポート）	$\overline{\text{WE1}}$ 出力(LBSC)	—	—	
	PTA4 入出力（ポート）	$\overline{\text{RDY}}$ 入力 (LBSC)	—	—	
	PTA3 入出力（ポート）	ET0–MDC 出力(RGMII or RMII)	—	—	
	PTA2 入出力（ポート）	ET0–MDIO 入出力(RGMII or RMII)	—	—	
	PTA1 入出力（ポート）	ET1–MDC 出力(RGMII or RMII)	—	—	
	PTA0 入出力（ポート）	ET1–MDIO 入出力(RGMII or RMII)	—	—	
B	PTB7 入出力（ポート）	IRQ15 入力(INTC)	—	—	ポート入力ノイズキャンセル回路
	PTB6 入出力（ポート）	IRQ14 入力(INTC)	—	—	
	PTB5 入出力（ポート）	IRQ13 入力(INTC)	—	—	
	PTB4 入出力（ポート）	IRQ12 入力(INTC)	—	—	
	PTB3 入出力（ポート）	IRQ11 入力(INTC)	—	—	
	PTB2 入出力（ポート）	IRQ10 入力(INTC)	—	—	
	PTB1 入出力（ポート）	IRQ9 入力(INTC)	—	—	
	PTB0 入出力（ポート）	IRQ8 入力(INTC)	TCLK 出力(TMU)	—	

ポート	ポートの機能 （関連モジュール）	その他の機能1 （関連モジュール）	その他の機能2 （関連モジュール）	その他の機能3 （関連モジュール）	入出力形態
C	PTC7 入出力（ポート）	IRQ7/$\overline{\text{IRL7}}$ 入力(INTC)	PWMU0 出力(PWMU)	—	ポート入力ノイズキャンセル回路
	PTC6 入出力（ポート）	IRQ6/$\overline{\text{IRL6}}$ 入力(INTC)	PWMU1 出力(PWMU)	—	
	PTC5 入出力（ポート）	IRQ5/$\overline{\text{IRL5}}$ 入力(INTC)	PWMU2 出力(PWMU)	—	
	PTC4 入出力（ポート）	IRQ4/$\overline{\text{IRL4}}$ 入力(INTC)	PWMU3 出力(PWMU)	—	
	PTC3 入出力（ポート）	IRQ3/$\overline{\text{IRL3}}$ 入力(INTC)	PWMU4 出力(PWMU)	—	
	PTC2 入出力（ポート）	IRQ2/$\overline{\text{IRL2}}$ 入力(INTC)	PWMU5 出力(PWMU)	—	
	PTC1 入出力（ポート）	IRQ1/$\overline{\text{IRL1}}$ 入力(INTC)	—	—	
	PTC0 入出力（ポート）	IRQ0/$\overline{\text{IRL0}}$ 入力(INTC)	—	—	
D	PTD6 入出力（ポート）	SP0-MISO 入力(SPI0)	—	—	—
	PTD4 入出力（ポート）	SP0-SCK_FB 入力(SPI0)	—	—	
	PTD2 入出力（ポート）	$\overline{\text{SP0-SS1}}$ 出力(SPI0)	$\overline{\text{DREQ0}}$ 入力(DMAC)	—	
	PTD1 入出力（ポート）	$\overline{\text{SP0-SS2}}$ 出力(SPI0)	$\overline{\text{DACK0}}$ 出力(DMAC)	—	
	PTD0 入出力（ポート）	$\overline{\text{SP0-SS3}}$ 出力(SPI0)	$\overline{\text{TEND0}}$ 出力(DMAC)	—	
E	PTE7 入出力（ポート）	RMII0-CRS_DV 入力(RMII)	—	—	—
	PTE6 入出力（ポート）	RMII0-TXD1 出力(RMII)	—	BOOTWPSZ1 入力(Strap)	
	PTE5 入出力（ポート）	RMII0-TXD0 出力(RMII)	—	BOOTWPSZ0 入力(Strap)	
	PTE4 入出力（ポート）	RMII0-TXEN 出力(RMII)	—	MD3 入力(Strap)	
	PTE3 入出力（ポート）	RMII0-REFCLK 入力(RMII)	—	—	
	PTE2 入出力（ポート）	RMII0-RXD1 入力(RMII)	—	—	
	PTE1 入出力（ポート）	RMII0-RXD0 入力(RMII)	—	—	
	PTE0 入出力（ポート）	RMII0-RX_ER 入力(RMII)	—	—	

ポート	ポートの機能 （関連モジュール）	その他の機能1 （関連モジュール）	その他の機能2 （関連モジュール）	その他の機能3 （関連モジュール）	入出力形態
F	PTF7 入出力（ポート）	RMII1-CRS_DV 入力(RMII)	—	—	—
	PTF6 入出力（ポート）	RMII1-TXD1 出力(RMII)	—	WDTFOT0 入力(Strap)	
	PTF5 入出力（ポート）	RMII1-TXD0 出力(RMII)	—	WDTFOT1 入力(Strap)	
	PTF4 入出力（ポート）	RMII1-TXEN 出力(RMII)	—	—	
	PTF3 入出力（ポート）	RMII1-REFCLK 入力(RMII)	—	—	
	PTF2 入出力（ポート）	RMII1-RXD1 入力(RMII)	$\overline{\text{RAC-RI}}$/$\overline{\text{RI0}}$ 入出力(SerMux)	—	
	PTF1 入出力（ポート）	RMII1-RXD0 入力(RMII)	—	—	
	PTF0 入出力（ポート）	RMII1-RX_ER 入力(RMII)	—	—	
G	PTG7 入出力（ポート）	BOOTFMS 入力(SPI0)	—	—	—
	PTG5 入出力（ポート）	A25 出力(LBSC)	MMCCLK 出力(eMMC)	—	
	PTG4 入出力（ポート）	A24 出力(LBSC)	MMCCMD 入出力(eMMC)	—	
	PTG3 入出力（ポート）	—	—	—	
	PTG2 入力（ポート）	$\overline{\text{WDTOVF}}$ 出力(WDT)	—	—	
	PTG1 入出力（ポート）	—	—	—	
	PTG0 入出力（ポート）	—	—	—	
H	PTH6 入出力（ポート）	SP1-MISO 入力(SPI1)	$\overline{\text{DREQ1}}$ 出力(DMAC)	—	—
	PTH4 入出力（ポート）	SP1-SCK_FB 入力(SPI1)	$\overline{\text{ADTRG1}}$ 入力(ADC)	—	
	PTH2 入出力（ポート）	$\overline{\text{SP1-SS1}}$ 出力(SPI1)	$\overline{\text{ADTRG0}}$ 入力(ADC)	—	
	PTH0 入出力（ポート）	—	—	—	

ポート	ポートの機能 （関連モジュール）	その他の機能1 （関連モジュール）	その他の機能2 （関連モジュール）	その他の機能3 （関連モジュール）	入出力形態
I	PTI7 入出力（ポート）	D15 入出力(LBSC)	SDWP 入力(SDHI)	—	—
	PTI6 入出力（ポート）	D14 入出力(LBSC)	SDCD 入力(SDHI)	—	
	PTI5 入出力（ポート）	D13 入出力(LBSC)	SDCLK 出力(SDHI)	—	
	PTI4 入出力（ポート）	D12 入出力(LBSC)	SDCMD 入出力(SDHI)	—	
	PTI3 入出力（ポート）	D11 入出力(LBSC)	SDDAT3 入出力(SDHI)	—	
	PTI2 入出力（ポート）	D10 入出力(LBSC)	SDDAT2 入出力(SDHI)	—	
	PTI1 入出力（ポート）	D9 入出力(LBSC)	SDDAT1 入出力(SDHI)	—	
	PTI0 入出力（ポート）	D8 入出力(LBSC)	SDDAT0 入出力(SDHI)	—	
J	PTJ6 入出力（ポート）	$\overline{\text{RTS3}}$ 入出力(SCIF)	—	—	—
	PTJ5 入出力（ポート）	$\overline{\text{CTS3}}$ 入出力(SCIF)	—	—	
	PTJ4 入出力（ポート）	TXD3 出力(SCIF)	—	—	
	PTJ3 入出力（ポート）	RXD3 入力(SCIF)	—	—	
	PTJ2 入出力（ポート）	$\overline{\text{RTS4}}$ 入出力(SCIF)	—	—	
	PTJ1 入出力（ポート）	RXD4 入力(SCIF)	—	—	
	PTJ0 入出力（ポート）	TXD4 出力(SCIF)	—	—	

ポート	ポートの機能 （関連モジュール）	その他の機能1 （関連モジュール）	その他の機能2 （関連モジュール）	その他の機能3 （関連モジュール）	入出力形態
K	PTK7 入出力（ポート）	COM2-TXD/TXD1 出力(SerMux)	SCK2 入出力(SCIF)	—	—
	PTK6 入出力（ポート）	COM2-RXD/RXD1 入力(SerMux)	—	—	
	PTK5 入出力（ポート）	$\overline{\text{COM2-RTS}}$/$\overline{\text{RTS1}}$ 出力(SerMux)	—	—	
	PTK4 入出力（ポート）	$\overline{\text{COM2-CTS}}$/$\overline{\text{CTS1}}$ 入力(SerMux)	—	—	
	PTK3 入出力（ポート）	$\overline{\text{COM2-DTR}}$/$\overline{\text{DTR1}}$ 出力(SerMux)	—	—	
	PTK2 入出力（ポート）	$\overline{\text{COM2-DSR}}$/$\overline{\text{DSR1}}$ 入力(SerMux)	SCK4 入出力(SCIF)	—	
	PTK1 入出力（ポート）	$\overline{\text{COM2-DCD}}$/$\overline{\text{DCD1}}$ 入力(SerMux)	SCK3 入出力(SCIF)	—	
	PTK0 入出力（ポート）	CLKOUT 出力(LBSC)	—	—	
L	PTL6 入出力（ポート）	RAC-RXD/RXD0 入出力(SerMux)	RXD2 入力(SCIF)	—	—
	PTL5 入出力（ポート）	$\overline{\text{RAC-RTS}}$/$\overline{\text{RTS0}}$ 入出力(SerMux)	$\overline{\text{CS5}}$ 出力(LBSC)	—	
	PTL4 入出力（ポート）	$\overline{\text{RAC-CTS}}$/$\overline{\text{CTS0}}$ 入出力(SerMux)	$\overline{\text{CS6}}$ 出力(LBSC)	—	
	PTL3 入出力（ポート）	$\overline{\text{RAC-DTR}}$/$\overline{\text{DTR0}}$ 入出力(SerMux)	—	—	
	PTL2 入出力（ポート）	$\overline{\text{RAC-DSR}}$/$\overline{\text{DSR0}}$ 入出力(SerMux)	AUDSYNC 出力(AUD)	—	
	PTL1 入出力（ポート）	$\overline{\text{RAC-DCD}}$/$\overline{\text{DCD0}}$ 入出力(SerMux)	AUDCK 出力(AUD)	—	
	PTL0 入出力（ポート）	RAC-TXD/TXD0 入出力(SerMux)	TXD2 出力(SCIF)	—	

ポート	ポートの機能 （関連モジュール）	その他の機能1 （関連モジュール）	その他の機能2 （関連モジュール）	その他の機能3 （関連モジュール）	入出力形態
M	PTM7 入出力（ポート）	$\overline{\text{CS4}}$ 出力(LBSC)	—	—	—
	PTM6 入出力（ポート）	$\overline{\text{RD}}$ 出力(LBSC)	—	—	
	PTM5 入出力（ポート）	$\overline{\text{WE0}}$ 出力(LBSC)	—	—	
	PTM4 入出力（ポート）	$\overline{\text{CS0}}$ 出力(LBSC)	—	—	
	PTM3 入出力（ポート）	SDA6 入出力(IIC)	—	—	
	PTM2 入出力（ポート）	SCL6 入出力(IIC)	—	—	
	PTM1 入出力（ポート）	SDA7 入出力(IIC)	—	—	
	PTM0 入出力（ポート）	SCL7 入出力(IIC)	—	—	
N	PTN6 入出力（ポート）	VBUS_EN 出力(USB)	—	—	—
	PTN5 入出力（ポート）	VBUS_OC 入力(USB)	—	—	
	PTN4 入出力（ポート）	—	SGPIO1-CLK 出力(SPGIO)	SPI0VER 入力(Strap)	
	PTN3 入出力（ポート）	—	SGPIO1-LOAD 出力(SPGIO)	BOOTSZ0 入力(Strap)	
	PTN2 入出力（ポート）	—	SGPIO1-DO 出力(SPGIO)	BOOTSZ1 入力(Strap)	
	PTN1 入出力（ポート）	—	SGPIO1-DI 入力(SPGIO)	—	
	PTN0 入出力（ポート）	—	SUB-CLKIN 入力(WDT)	—	

ポート	ポートの機能 （関連モジュール）	その他の機能1 （関連モジュール）	その他の機能2 （関連モジュール）	その他の機能3 （関連モジュール）	入出力形態
O	PTO7 入出力（ポート）	SGPIO0-CLK 出力(SGPIO)	—	MD10 入力(Strap)	—
	PTO6 入出力（ポート）	SGPIO0-LOAD 出力(SGPIO)	—	MD8 入力(Strap)	
	PTO5 入出力（ポート）	SGPIO0-DI 入力(SGPIO)	—	—	
	PTO4 入出力（ポート）	SGPIO0-DO 出力(SGPIO)	—	—	
	PTO3 入出力（ポート）	SGPIO2-CLK 出力(SGPIO)	COM1-TXD 出力(SerMux)	—	
	PTO2 入出力（ポート）	SGPIO2-LOAD 出力(SGPIO)	COM1-RXD 出力(SerMux)	MD1 入力(Strap)	
	PTO1 入出力（ポート）	SGPIO2-DI 入力(SGPIO)	$\overline{\text{COM1-RTS}}$ 出力(SerMux)	—	
	PTO0 入出力（ポート）	SGPIO2-DO 出力(SGPIO)	$\overline{\text{COM1-CTS}}$ 入力(SerMux)	MD0 入力(Strap)	
P	PTP7 入力（ポート）	EVENT15 入力(EVC)	AN15 入力(ADC)	—	—
	PTP6 入力（ポート）	EVENT14 入力(EVC)	AN14 入力(ADC)	—	
	PTP5 入力（ポート）	EVENT13 入力(EVC)	AN13 入力(ADC)	—	
	PTP4 入力（ポート）	EVENT12 入力(EVC)	AN12 入力(ADC)	—	
	PTP3 入力（ポート）	EVENT11 入力(EVC)	AN11 入力(ADC)	—	
	PTP2 入力（ポート）	EVENT10 入力(EVC)	AN10 入力(ADC)	—	
	PTP1 入力（ポート）	EVENT9 入力(EVC)	AN9 入力(ADC)	—	
	PTP0 入力（ポート）	EVENT8 入力(EVC)	AN8 入力(ADC)	—	

ポート	ポートの機能 （関連モジュール）	その他の機能1 （関連モジュール）	その他の機能2 （関連モジュール）	その他の機能3 （関連モジュール）	入出力形態
Q	PTQ6 入出力（ポート）	—	—	—	—
	PTQ5 入出力（ポート）	—	—	—	
	PTQ4 入出力（ポート）	—	—	—	
	PTQ3 入出力（ポート）	—	—	—	
	PTQ2 入出力（ポート）	—	—	—	
	PTQ1 入出力（ポート）	—	—	—	
	PTQ0 入出力（ポート）	—	—	—	
R	PTR7 入出力（ポート）	SDA8 入出力(IIC)	—	—	—
	PTR6 入出力（ポート）	SCL8 入出力(IIC)	—	—	
	PTR5 入出力（ポート）	SDA2 入出力(IIC)	—	—	
	PTR4 入出力（ポート）	SCL2 入出力(IIC)	—	—	
	PTR3 入出力（ポート）	SDA1 入出力(IIC)	—	—	
	PTR2 入出力（ポート）	SCL1 入出力(IIC)	—	—	
	PTR1 入出力（ポート）	SDA0 入出力(IIC)	—	—	
	PTR0 入出力（ポート）	SCL0 入出力(IIC)	—	—	

ポート	ポートの機能 （関連モジュール）	その他の機能1 （関連モジュール）	その他の機能2 （関連モジュール）	その他の機能3 （関連モジュール）	入出力形態
S	PTS7 入出力（ポート）	SDA9 入出力(IIC	—	—	—
	PTS6 入出力（ポート）	SCL9 入出力(IIC)	—	—	
	PTS5 入出力（ポート）	SDA5 入出力(IIC)	—	—	
	PTS4 入出力（ポート）	SCL5 入出力(IIC)	—	—	
	PTS3 入出力（ポート）	SDA4 入出力(IIC)	—	—	
	PTS2 入出力（ポート）	SCL4 入出力(IIC)	—	—	
	PTS1 入出力（ポート）	SDA3 入出力(IIC)	—	—	
	PTS0 入出力（ポート）	SCL3 入出力(IIC)	—	—	
T	PTT7 入出力（ポート）	PWMX7 出力(PWMX)	AUDATA3 出力(AUD)	MD2 入力(Strap)	シンク電流 12mA
	PTT6 入出力（ポート）	PWMX6 出力(PWMX)	AUDATA2 出力(AUD)	—	
	PTT5 入出力（ポート）	PWMX5 出力(PWMX)	AUDATA1 出力(AUD)	—	
	PTT4 入出力（ポート）	PWMX4 出力(PWMX)	AUDATA0 出力(AUD)	—	
	PTT3 入出力（ポート）	PWMX3 出力(PWMX)	STATUS1 出力(System)	—	
	PTT2 入出力（ポート）	PWMX2 出力(PWMX)	STATUS0 出力(System)	—	
	PTT1 入出力（ポート）	PWMX1 出力(PWMX)	—	—	
	PTT0 入出力（ポート）	PWMX0 出力(PWMX)	—	—	

ポート	ポートの機能 （関連モジュール）	その他の機能1 （関連モジュール）	その他の機能2 （関連モジュール）	その他の機能3 （関連モジュール）	入出力形態
U	PTU7 入出力（ポート）	—	—	—	—
	PTU6 入出力（ポート）	—	—	—	
	PTU5 入出力（ポート）	—	—	—	
	PTU4 入出力（ポート）	—	—	—	
	PTU3 入出力（ポート）	—	—	—	
	PTU2 入出力（ポート）	—	—	—	
	PTU1 入出力（ポート）	—	—	—	
	PTU0 入出力（ポート）	—	—	—	
V	PTV7 入出力（ポート）	A23 出力(LBSC)	$\overline{\text{COM2-RI}}$/$\overline{\text{RI1}}$ 入力(SerMux)	—	—
	PTV6 入出力（ポート）	A22 出力(LBSC)	RSPI-MOSI 入出力(RSPI)	—	
	PTV5 入出力（ポート）	A21 出力(LBSC)	RSPI-MISO 入出力(RSPI)	—	
	PTV4 入出力（ポート）	A20 出力(LBSC)	RSPI-RSPCK 入出力(RSPI)	—	
	PTV3 入出力（ポート）	A19 出力(LBSC)	$\overline{\text{RSPI-SSL0}}$ 入出力(RSPI)	—	
	PTV2 入出力（ポート）	A18 出力(LBSC)	$\overline{\text{RSPI-SSL1}}$ 入出力(RSPI)	—	
	PTV1 入出力（ポート）	A17 出力(LBSC)	EVENT7 入力(EVC)	—	
	PTV0 入出力（ポート）	A16 出力(LBSC)	EVENT6 入力(EVC)	—	

ポート	ポートの機能 （関連モジュール）	その他の機能1 （関連モジュール）	その他の機能2 （関連モジュール）	その他の機能3 （関連モジュール）	入出力形態
W	PTW7 入出力（ポート）	A15 出力(LBSC)	EVENT5 入力(EVC)	—	—
	PTW6 入出力（ポート）	A14 出力(LBSC)	EVENT4 入力(EVC)	—	
	PTW5 入出力（ポート）	A13 出力(LBSC)	EVENT3 入力(EVC)	—	
	PTW4 入出力（ポート）	A12 出力(LBSC)	EVENT2 入力(EVC)	—	
	PTW3 入出力（ポート）	A11 出力(LBSC)	EVENT1 入力(EVC)	—	
	PTW2 入出力（ポート）	A10 出力(LBSC)	EVENT0 入力(EVC)	—	
	PTW1 入出力（ポート）	A9 出力(LBSC)	$\overline{\text{CTS4}}$ 入出力(SCIF)	—	
	PTW0 入出力（ポート）	A8 出力(LBSC)	$\overline{\text{CTS2}}$ 入出力(SCIF)	—	
X	PTX7 入出力（ポート）	A7 出力(LBSC)	$\overline{\text{RTS2}}$ 入出力(SCIF)	—	—
	PTX6 入出力（ポート）	A6 出力(LBSC)	SIM_D 入出力(SIM)	—	
	PTX5 入出力（ポート）	A5 出力(LBSC)	SIM_CLK 出力(SIM)	—	
	PTX4 入出力（ポート）	A4 出力(LBSC)	SIM_RST 出力(SIM)	—	
	PTX3 入出力（ポート）	A3 出力(LBSC)	—	—	
	PTX2 入出力（ポート）	A2 出力(LBSC)	—	—	
	PTX1 入出力（ポート）	A1 出力(LBSC)	—	—	
	PTX0 入出力（ポート）	A0 出力(LBSC)	—	—	

ポート	ポートの機能 （関連モジュール）	その他の機能1 （関連モジュール）	その他の機能2 （関連モジュール）	その他の機能3 （関連モジュール）	入出力形態
Y	PTY7 入出力（ポート）	D7 入出力(LBSC)	—	—	—
	PTY6 入出力（ポート）	D6 入出力(LBSC)	—	—	
	PTY5 入出力（ポート）	D5 入出力(LBSC)	—	—	
	PTY4 入出力（ポート）	D4 入出力(LBSC)	—	—	
	PTY3 入出力（ポート）	D3 入出力(LBSC)	—	—	
	PTY2 入出力（ポート）	D2 入出力(LBSC)	—	—	
	PTY1 入出力（ポート）	D1 入出力(LBSC)	—	—	
	PTY0 入出力（ポート）	D0 入出力(LBSC)	—	—	
Z	PTZ7 入出力（ポート）	MMCDAT7 入出力(eMMC)	—	—	—
	PTZ6 入出力（ポート）	MMCDAT6 入出力(eMMC)	—	WPSZ1 入力(Strap)	
	PTZ5 入出力（ポート）	MMCDAT5 入出力(eMMC)	—	WPSZ0 入力(Strap)	
	PTZ4 入出力（ポート）	MMCDAT4 入出力(eMMC)	—	—	
	PTZ3 入出力（ポート）	MMCDAT3 入出力(eMMC)	—	MD6 入力(Strap)	
	PTZ2 入出力（ポート）	MMCDAT2 入出力(eMMC)	—	MD9 入力(Strap)	
	PTZ1 入出力（ポート）	MMCDAT1 入出力(eMMC)	—	FLSHSZ1 入力(Strap)	
	PTZ0 入出力（ポート）	MMCDAT0 入出力(eMMC)	—	FLSHSZ0 入力(Strap)	

注1.　表において、ハッチングの端子がリセット直後から使用できる端子機能です （ MD3 = H、MD6 = Lの場合)。
2.　周辺モジュール を使用する場合は、関連する端子の機能選択を行ってから、各モジュールの初期設定を行ってください。
3.　PTT7 ～ PTT0 はLED駆動(高駆動)ポートとして使用できます。
4.　MD0～MD3、MD5、MD6、MD8～MD10、FLSHSZ0、FLSHSZ1、WPSZ0、WPSZ1、BOOTSZ0、BOOTSZ1、SPI0VER、BOOTWPSZ0、BOOTWPSZ1、BOOTFMS、WDTFOT0、WDTFOT1 は、パワーオンリセット期間中のみ有効となります。

40.2　レジスタの説明

GPIO のレジスタ構成を表40.2 に示します。

指定されたビット幅でレジスタにアクセスしてください。指定されたビット幅以外のサイズでレジスタにアクセスした場合、動作は保証できません。

表40.2　レジスタ構成

名称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態	
					パワーオンリセット	マニュアルリセット
ポート A コントロールレジスタ	PACR	R/W	H'FFEC 0000	16	MD3=L かつ MD6=L のとき　：H'F000 上記以外のとき　：H'FF00	保持
ポート B コントロールレジスタ	PBCR	R/W	H'FFEC 0002	16	H'AAAA	保持
ポート C コントロールレジスタ	PCCR	R/W	H'FFEC 0004	16	H'AAAA	保持
ポート D コントロールレジスタ	PDCR	R/W	H'FFEC 0006	16	MD6=L のとき：H'333F MD6=H のとき：H'003F	保持
ポート E コントロールレジスタ	PECR	R/W	H'FFEC 0008	16	H'EAFF	保持
ポート F コントロールレジスタ	PFCR	R/W	H'FFEC 000A	16	H'EAFF	保持
ポート G コントロールレジスタ	PGCR	R/W	H'FFEC 000C	16	MD6=L のとき：H'0B8A MD6=H のとき：H'008A	保持
ポート H コントロールレジスタ	PHCR	R/W	H'FFEC 000E	16	H'3333	保持
ポート I コントロールレジスタ	PICR	R/W	H'FFEC 0010	16	MD3=L かつ MD6=L のとき　：H'0000 上記以外のとき　：H'AFFF	保持
ポート J コントロールレジスタ	PJCR	R/W	H'FFEC 0012	16	H'FFFF	保持
ポート K コントロールレジスタ	PKCR	R/W	H'FFEC 0014	16	H'FFFF	保持
ポート L コントロールレジスタ	PLCR	R/W	H'FFEC 0016	16	H'FFFF	保持
ポート M コントロールレジスタ	PMCR	R/W	H'FFEC 0018	16	MD6=L のとき：H'00AA MD6=H のとき：H'FFAA	保持
ポート N コントロールレジスタ	PNCR	R/W	H'FFEC 001A	16	H'C2AF	保持
ポート O コントロールレジスタ	POCR	R/W	H'FFEC 001C	16	H'AEAE	保持
ポート Q コントロールレジスタ	PQCR	R/W	H'FFEC 0020	16	H'EAAA	保持
ポート R コントロールレジスタ	PRCR	R/W	H'FFEC 0022	16	H'AAAA	保持
ポート S コントロールレジスタ	PSCR	R/W	H'FFEC 0024	16	H'AAAA	保持
ポート T コントロールレジスタ	PTCR	R/W	H'FFEC 0026	16	H'AFFF	保持
ポート U コントロールレジスタ	PUCR	R/W	H'FFEC 0028	16	H'0000	保持
ポート V コントロールレジスタ	PVCR	R/W	H'FFEC 002A	16	MD6=L のとき：H'0000 MD6=H のとき：H'FFFA	保持
ポート W コントロールレジスタ	PWCR	R/W	H'FFEC 002C	16	MD6=L のとき：H'0000 MD6=H のとき：H'AAAF	保持
ポート X コントロールレジスタ	PXCR	R/W	H'FFEC 002E	16	MD6=L のとき：H'0000 MD6=H のとき：H'FFFF	保持
ポート Y コントロールレジスタ	PYCR	R/W	H'FFEC 0030	16	MD6=L のとき：H'0000 MD6=H のとき：H'FFFF	保持
ポート Z コントロールレジスタ	PZCR	R/W	H'FFEC 0032	16	H'AAAA	保持
ポート A データレジスタ	PADR	R/W	H'FFEC 0034	8	H'XX	保持
ポート B データレジスタ	PBDR	R/W	H'FFEC 0036	8	H'XX	保持

名称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態	
					パワーオンリセット	マニュアルリセット
ポート C データレジスタ	PCDR	R/W	H'FFEC 0038	8	H'XX	保持
ポート D データレジスタ	PDDR	R/W	H'FFEC 003A	8	H'XX	保持
ポート E データレジスタ	PEDR	R/W	H'FFEC 003C	8	H'XX	保持
ポート F データレジスタ	PFDR	R/W	H'FFEC 003E	8	H'XX	保持
ポート G データレジスタ	PGDR	R/W	H'FFEC 0040	8	H'XX	保持
ポート H データレジスタ	PHDR	R/W	H'FFEC 0042	8	H'XX	保持
ポート I データレジスタ	PIDR	R/W	H'FFEC 0044	8	H'XX	保持
ポート J データレジスタ	PJDR	R/W	H'FFEC 0046	8	H'XX	保持
ポート K データレジスタ	PKDR	R/W	H'FFEC 0048	8	H'XX	保持
ポート L データレジスタ	PLDR	R/W	H'FFEC 004A	8	H'XX	保持
ポート M データレジスタ	PMDR	R/W	H'FFEC 004C	8	H'XX	保持
ポート N データレジスタ	PNDR	R/W	H'FFEC 004E	8	H'XX	保持
ポート O データレジスタ	PODR	R/W	H'FFEC 0050	8	H'XX	保持
ポート P データレジスタ	PPDR	R	H'FFEC 0052	8	H'XX	保持
ポート Q データレジスタ	PQDR	R/W	H'FFEC 0054	8	H'XX	保持
ポート R データレジスタ	PRDR	R/W	H'FFEC 0056	8	H'XX	保持
ポート S データレジスタ	PSDR	R/W	H'FFEC 0058	8	H'XX	保持
ポート T データレジスタ	PTDR	R/W	H'FFEC 005A	8	H'XX	保持
ポート U データレジスタ	PUDR	R/W	H'FFEC 005C	8	H'XX	保持
ポート Vデータレジスタ	PVDR	R/W	H'FFEC 005E	8	H'XX	保持
ポート W データレジスタ	PWDR	R/W	H'FFEC 0060	8	H'XX	保持
ポート X データレジスタ	PXDR	R/W	H'FFEC 0062	8	H'XX	保持
ポート Y データレジスタ	PYDR	R/W	H'FFEC 0064	8	H'XX	保持
ポート Z データレジスタ	PZDR	R/W	H'FFEC 0066	8	H'XX	保持
ピンセレクトレジスタ 0	PSEL0	R/W	H'FFEC 0070	16	H'0000	保持
ピンセレクトレジスタ 1	PSEL1	R/W	H'FFEC 0072	16	H'0000	保持
ピンセレクトレジスタ 2	PSEL2	R/W	H'FFEC 0074	16	H'0000	保持
ピンセレクトレジスタ 3	PSEL3	R/W	H'FFEC 0076	16	H'0000	保持
ピンセレクトレジスタ 4	PSEL4	R/W	H'FFEC 0078	16	H'0000	保持
ピンセレクトレジスタ 5	PSEL5	R/W	H'FFEC 007A	16	H'0000	保持
ピンセレクトレジスタ 6	PSEL6	R/W	H'FFEC 007C	16	H'0000	保持
ピンセレクトレジスタ 7	PSEL7	R/W	H'FFEC 0082	16	H'0000	保持
ノイズキャンセライネーブルレジスタ	NCER	R/W	H'FFEC 0068	16	H'0000	保持
ノイズキャンセラモードコントロールレジスタ	NCMCR	R/W	H'FFEC 006A	16	H'0000	保持
ノイズキャンセラ周期設定レジスタ	NCCSR	R/W	H'FFEC 006C	16	H'0000	保持

40.2.1　ポートA コントロールレジスタ（PACR）

PACR は、読み出し／書き込み可能な16 ビットのレジスタで、端子機能を選択します。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PA7MD[1:0]		PA6MD[1:0]		PA5MD[1:0]		PA4MD[1:0]		PA3MD[1:0]		PA2MD[1:0]		PA1MD[1:0]		PA0MD[1:0]	
初期値：	1	1	1	1	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 14	PA7MD1 PA7MD0	1 1	R/W R/W	PTA7モード 00: その他の機能 ($\overline{BS}$) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
13 12	PA6MD1 PA6MD0	1 1	R/W R/W	PTA6モード 00: その他の機能 ($\overline{RDWR}$) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
11 10	PA5MD1 PA5MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTA5モード 00: その他の機能 ($\overline{WE1}$) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
9 8	PA4MD1 PA4MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTA4モード 00: その他の機能 ($\overline{RDY}$) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
7 6	PA3MD1 PA3MD0	0 0	R/W R/W	PTA3モード 00: その他の機能 (ET0-MDC) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
5 4	PA2MD1 PA2MD0	0 0	R/W R/W	PTA2モード 00: その他の機能 (ET0-MDIO) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
3 2	PA1MD1 PA1MD0	0 0	R/W R/W	PTA1モード 00: その他の機能 (ET1-MDC) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
1 0	PA0MD1 PA0MD0	0 0	R/W R/W	PTA0モード 00: その他の機能 (ET1-MDIO) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）

注.　PA5MD1、PA5MD0、PA4MD1、及びPA4MD0ビットの初期値は、MD3及びMD6 端子の設定により異なります。MD3 = L かつ MD6 = Lのとき0、それ以外のとき1 になります。

40.2.2　ポートB コントロールレジスタ（PBCR）

PBCR は、読み出し／書き込み可能な16 ビットのレジスタで、端子機能を選択します。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PB7MD[1:0]		PB6MD[1:0]		PB5MD[1:0]		PB4MD[1:0]		PB3MD[1:0]		PB2MD[1:0]		PB1MD[1:0]		PB0MD[1:0]	
初期値：	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 14	PB7MD1 PB7MD0	1 0	R/W R/W	PTB7モード 00: その他の機能 (IRQ15) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
13 12	PB6MD1 PB6MD0	1 0	R/W R/W	PTB6モード 00: その他の機能 (IRQ14) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
11 10	PB5MD1 PB5MD0	1 0	R/W R/W	PTB5モード 00: その他の機能 (IRQ13) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
9 8	PB4MD1 PB4MD0	1 0	R/W R/W	PTB4モード 00: その他の機能 (IRQ12) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
7 6	PB3MD1 PB3MD0	1 0	R/W R/W	PTB3モード 00: その他の機能 (IRQ11) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
5 4	PB2MD1 PB2MD0	1 0	R/W R/W	PTB2モード 00: その他の機能 (IRQ10) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
3 2	PB1MD1 PB1MD0	1 0	R/W R/W	PTB1モード 00: その他の機能 (IRQ9) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
1 0	PB0MD1 PB0MD0	1 0	R/W R/W	PTB0モード 00: その他の機能 (IRQ8、TCLK) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止

40.2.3　ポートC コントロールレジスタ（PCCR）

PCCR は、読み出し／書き込み可能な16 ビットのレジスタで、端子機能を選択します。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PC7MD[1:0]		PC6MD[1:0]		PC5MD[1:0]		PC4MD[1:0]		PC3MD[1:0]		PC2MD[1:0]		PC1MD[1:0]		PC0MD[1:0]	
初期値：	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 14	PC7MD1 PC7MD0	1 0	R/W R/W	PTC7モード 00: その他の機能 (IRQ7/$\overline{\text{IRL7}}$、PWMU0) 01:ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
13 12	PC6MD1 PC6MD0	1 0	R/W R/W	PTC6 モード 00: その他の機能 (IRQ6/$\overline{\text{IRL6}}$、PWMU1) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
11 10	PC5MD1 PC5MD0	1 0	R/W R/W	PTC5 モード 00: その他の機能 (IRQ5/$\overline{\text{IRL5}}$、PWMU2) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
9 8	PC4MD1 PC4MD0	1 0	R/W R/W	PTC4 モード 00: その他の機能 (IRQ4/$\overline{\text{IRL4}}$、PWMU3) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
7 6	PC3MD1 PC3MD0	1 0	R/W R/W	PTC3 モード 00: その他の機能 (IRQ3/$\overline{\text{IRL3}}$、PWMU4) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
5 4	PC2MD1 PC2MD0	1 0	R/W R/W	PTC2 モード 00: その他の機能 (IRQ2/$\overline{\text{IRL2}}$、PWMU5) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
3 2	PC1MD1 PC1MD0	1 0	R/W R/W	PTC1 モード 00: その他の機能 (IRQ1/$\overline{\text{IRL1}}$) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
1 0	PC0MD1 PC0MD0	1 0	R/W R/W	PTC0 モード 00: その他の機能 (IRQ0/$\overline{\text{IRL0}}$) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止

40.2.4　ポートD コントロールレジスタ（PDCR）

PDCR は、読み出し／書き込み可能な16 ビットのレジスタで、端子機能を選択します。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	PD6MD[1:0]		—	—	PD4MD[1:0]		—	—	PD2MD[1:0]		PD1MD[1:0]		PD0MD[1:0]	
初期値：	0	0	0/1 (注)	0/1 (注)	0	0	0/1 (注)	0/1 (注)	0	0	1	1	1	1	1	1
R/W:	—	—	R/W	R/W	—	—	R/W	R/W	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15、14	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
13 12	PD6MD1 PD6MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTD6モード 00:その他の機能 (SP0-MISO) 01:ポート出力 10:ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11:ポート入力（プルアップMOS：オン）
11、10	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
9 8	PD4MD1 PD4MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTD4 モード 00: その他の機能 (SP0-SCK_FB) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
7、6	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
5 4	PD2MD1 PD2MD0	1 1	R/W R/W	PTD2 モード 00: その他の機能 (SP0-$\overline{SS1}$、$\overline{DREQ0}$) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
3 2	PD1MD1 PD1MD0	1 1	R/W R/W	PTD1 モード 00: その他の機能 (SP0-$\overline{SS2}$、$\overline{DACK0}$) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
1 0	PD0MD1 PD0MD0	1 1	R/W R/W	PTD0 モード 00: その他の機能 (SP0-$\overline{SS3}$、$\overline{TEND0}$) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）

注.　PD6MD1、PD6MD0、PD4MD1、及びPD4MD0 ビットの初期値は、MD6端子の設定により異なります。MD6 = L のとき1、MD6=Hのとき0になります。

40.2.5　ポートE コントロールレジスタ（PECR）

PECR は、読み出し／書き込み可能な16 ビットのレジスタで、端子機能を選択します。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PE7MD[1:0]		PE6MD[1:0]		PE5MD[1:0]		PE4MD[1:0]		PE3MD[1:0]		PE2MD[1:0]		PE1MD[1:0]		PE0MD[1:0]	
初期値：	1	1	1	0	1	0	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 14	PE7MD1 PE7MD0	1 1	R/W R/W	PTE7 モード 00: その他の機能 (RMII0-CRS_DV) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
13 12	PE6MD1 PE6MD0	1 0	R/W R/W	PTE6 モード 00: その他の機能 (RMII0-TXD1) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
11 10	PE5MD1 PE5MD0	1 0	R/W R/W	PTE5 モード 00: その他の機能 (RMII0-TXD0) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
9 8	PE4MD1 PE4MD0	1 0	R/W R/W	PTE4 モード 00: その他の機能 (RMII0-TXEN) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
7 6	PE3MD1 PE3MD0	1 1	R/W R/W	PTE3 モード 00: その他の機能 (RMII0-REFCLK) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
5 4	PE2MD1 PE2MD0	1 1	R/W R/W	PTE2 モード 00: その他の機能 (RMII0-RXD1) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
3 2	PE1MD1 PE1MD0	1 1	R/W R/W	PTE1 モード 00: その他の機能 (RMII0-RXD0) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
1	PE0MD1	1	R/W	PTE0 モード
0	PE0MD0	1	R/W	00: その他の機能 (RMII0-RX_ER) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）

40.2.6　ポートF コントロールレジスタ（PFCR）

PFCR は、読み出し／書き込み可能な16 ビットのレジスタで、端子機能を選択します。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PF7MD[1:0]		PF6MD[1:0]		PF5MD[1:0]		PF4MD[1:0]		PF3MD[1:0]		PF2MD[1:0]		PF1MD[1:0]		PF0MD[1:0]	
初期値：	1	1	1	0	1	0	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15	PF7MD1	1	R/W	PTF7 モード
14	PF7MD0	1	R/W	00: その他の機能 (RMII1-CRS_DV) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
13	PF6MD1	1	R/W	PTF6 モード
12	PF6MD0	0	R/W	00: その他の機能 (RMII1-TXD1) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
11	PF5MD1	1	R/W	PTF5 モード
10	PF5MD0	0	R/W	00: その他の機能 (RMII1-TXD0) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
9	PF4MD1	1	R/W	PTF4 モード
8	PF4MD0	0	R/W	00: その他の機能 (RMII1-TXEN) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
7	PF3MD1	1	R/W	PTF3 モード
6	PF3MD0	1	R/W	00: その他の機能 (RMII1-REFCLK) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
5 4	PF2MD1 PF2MD0	1 1	R/W R/W	PTF2 モード 00: その他の機能 (RMII1-RXD1、$\overline{\text{RAC-RI}}$/$\overline{\text{RI0}}$) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
3 2	PF1MD1 PF1MD0	1 1	R/W R/W	PTF1 モード 00: その他の機能 (RMII1-RXD0) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
1 0	PF0MD1 PF0MD0	1 1	R/W R/W	PTF0 モード 00: その他の機能 (RMII1-RX_ER) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）

40.2.7　ポートG コントロールレジスタ（PGCR）

PGCR は、読み出し／書き込み可能な16 ビットのレジスタで、端子機能を選択します。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PG7MD[1:0]		—	—	PG5MD[1:0]		PG4MD[1:0]		PG3MD[1:0]		PG2MD1	—	PG1MD[1:0]		PG0MD[1:0]	
初期値：	0	0	0	0	0/1 (注)	0	0/1 (注)	0/1 (注)	1	0	0	0	1	0	1	0
R/W:	R/W	R/W	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 14	PG7MD1 PG7MD0	0 0	R/W R/W	PTG7 モード 00: その他の機能 (BOOTFMS) 01: ポート出力 10: 設定禁止 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
13、12	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
11 10	PG5MD1 PG5MD0	0/1（注） 0	R/W R/W	PTG5 モード 00: その他の機能 (A25、MMCCLK) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
9 8	PG4MD1 PG4MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTG4 モード 00: その他の機能 (A24、MMCCMD) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 6	PG3MD1 PG3MD0	1 0	R/W R/W	PTG3 モード 00: 設定禁止 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
5	PG2MD1	0	R/W	PTG2 モード 0: その他の機能 ($\overline{\text{WDTOVF}}$) 1: ポート入力（プルアップMOS：オフ）
4	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
3 2	PG1MD1 PG1MD0	1 0	R/W R/W	PTG1 モード 00: 設定禁止 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
1 0	PG0MD1 PG0MD0	1 0	R/W R/W	PTG0 モード 00: 設定禁止 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止

注.　PG5MD1、PG4MD1、及びPG4MD0ビットの初期値は、MD6端子の設定により異なります。MD6 = Lのとき0、MD6 = Hのとき1になります。

40.2.8　ポートH コントロールレジスタ（PHCR）

PHCR は、読み出し／書き込み可能な16 ビットのレジスタで、端子機能を選択します。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	PH6MD[1:0]		—	—	PH4MD[1:0]		—	—	PH2MD[1:0]		—	—	PH0MD[1:0]	
初期値：	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1	1
R/W:	—	—	R/W	R/W	—	—	R/W	R/W	—	—	R/W	R/W	—	—	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15、14	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
13 12	PH6MD1 PH6MD0	1 1	R/W R/W	PTH6 モード 00: その他の機能 (SP1-MISO、$\overline{\text{DREQ1}}$) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
11、10	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
9 8	PH4MD1 PH4MD0	1 1	R/W R/W	PTH4 モード 00: その他の機能 (SP1-SCK_FB、$\overline{\text{ADTRG1}}$) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
7、6	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
5 4	PH2MD1 PH2MD0	1 1	R/W R/W	PTH2 モード 00: その他の機能 ($\overline{\text{SP1-SS1}}$、$\overline{\text{ADTRG0}}$) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
3、2	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
1 0	PH0MD1 PH0MD0	1 1	R/W R/W	PTH0 モード 00: 設定禁止 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）

40.2.9　ポートI コントロールレジスタ（PICR）

PICR は、読み出し／書き込み可能な16 ビットのレジスタで、端子機能を選択します。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PI7MD[1:0]		PI6MD[1:0]		PI5MD[1:0]		PI4MD[1:0]		PI3MD[1:0]		PI2MD[1:0]		PI1MD[1:0]		PI0MD[1:0]	
初期値：	0/1 (注)	0	0/1 (注)	0	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 14	PI7MD1 PI7MD0	0/1（注） 0	R/W R/W	PTI7 モード 00: その他の機能 (D15、SDWP) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
13 12	PI6MD1 PI6MD0	0/1（注） 0	R/W R/W	PTI6 モード 00: その他の機能 (D14、SDCD) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
11 10	PI5MD1 PI5MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTI5 モード 00: その他の機能 (D13、SDCLK) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
9 8	PI4MD1 PI4MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTI4 モード 00: その他の機能 (D12、SDCMD) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
7 6	PI3MD1 PI3MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTI3 モード 00: その他の機能 (D11、SDDAT3) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
5 4	PI2MD1 PI2MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTI2 モード 00: その他の機能 (D10、SDDAT2) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
3 2	PI1MD1 PI1MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTI1 モード 00: その他の機能 (D9、SDDAT1) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
1 0	PI0MD1 PI0MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTI0 モード 00: その他の機能 (D8、SDDAT0) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）

注.　PI7MD1～PI0MD1、及びPI5MD0～PI0MD0 ビットの初期値は、MD3及びMD6 端子の設定により異なります。
MD3 = L かつ MD6 = Lのとき0、それ以外のとき1になります。

40.2.10 ポートJ コントロールレジスタ（PJCR）

PJCR は、読み出し／書き込み可能な16 ビットのレジスタで、端子機能を選択します。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	PJ6MD[1:0]		PJ5MD[1:0]		PJ4MD[1:0]		PJ3MD[1:0]		PJ2MD[1:0]		PJ1MD[1:0]		PJ0MD[1:0]	
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W:	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15、14	—	1	—	リザーブビット （読み出すと“1”が読めます。書き込む値は“1”にしてください）
13 12	PJ6MD1 PJ6MD0	1 1	R/W R/W	PTJ6 モード 00: その他の機能 ($\overline{\text{RTS3}}$) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
11 10	PJ5MD1 PJ5MD0	1 1	R/W R/W	PTJ5 モード 00: その他の機能 ($\overline{\text{CTS3}}$) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
9 8	PJ4MD1 PJ4MD0	1 1	R/W R/W	PTJ4 モード 00: その他の機能 (TXD3) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
7 6	PJ3MD1 PJ3MD0	1 1	R/W R/W	PTJ3 モード 00: その他の機能 (RXD3) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
5 4	PJ2MD1 PJ2MD0	1 1	R/W R/W	PTJ2 モード 00: その他の機能 ($\overline{RTS4}$) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
3 2	PJ1MD1 PJ1MD0	1 1	R/W R/W	PTJ1 モード 00: その他の機能 (RXD4) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
1 0	PJ0MD1 PJ0MD0	1 1	R/W R/W	PTJ0 モード 00: その他の機能 (TXD4) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）

40.2.11 ポートK コントロールレジスタ（PKCR）

PKCR は、読み出し／書き込み可能な16 ビットのレジスタで、端子機能を選択します。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PK7MD[1:0]		PK6MD[1:0]		PK5MD[1:0]		PK4MD[1:0]		PK3MD[1:0]		PK2MD[1:0]		PK1MD[1:0]		PK0MD[1:0]	
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 14	PK7MD1 PK7MD0	1 1	R/W R/W	PTK7 モード 00: その他の機能(COM2-TXD、SCK2) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
13 12	PK6MD1 PK6MD0	1 1	R/W R/W	PTK6 モード 00: その他の機能(COM2-RXD) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
11 10	PK5MD1 PK5MD0	1 1	R/W R/W	PTK5 モード 00: その他の機能($\overline{COM2-RTS}$) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
9 8	PK4MD1 PK4MD0	1 1	R/W R/W	PTK4 モード 00: その他の機能(COM2-CTS) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
7 6	PK3MD1 PK3MD0	1 1	R/W R/W	PTK3 モード 00: その他の機能(COM2-DTR) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
5 4	PK2MD1 PK2MD0	1 1	R/W R/W	PTK2 モード 00: その他の機能(COM2-DSR、SCK4) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
3 2	PK1MD1 PK1MD0	1 1	R/W R/W	PTK1 モード 00: その他の機能(COM2-DCD、SCK3) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
1 0	PK0MD1 PK0MD0	1 1	R/W R/W	PTK0 モード 00: その他の機能(CLKOUT) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）

40.2.12 ポートL コントロールレジスタ（PLCR）

PLCR は、読み出し／書き込み可能な16 ビットのレジスタで、端子機能を選択します。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	PL6MD[1:0]		PL5MD[1:0]		PL4MD[1:0]		PL3MD[1:0]		PL2MD[1:0]		PL1MD[1:0]		PL0MD[1:0]	
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W:	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15、14	—	1	—	リザーブビット （読み出すと“1”が読めます。書き込む値は“1”にしてください）
13 12	PL6MD1 PL6MD0	1 1	R/W R/W	PTL6 モード 00: その他の機能 (RAC-RXD、RXD2) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
11 10	PL5MD1 PL5MD0	1 1	R/W R/W	PTL5 モード 00: その他の機能 (RAC-$\overline{\text{RTS}}$、$\overline{\text{CS5}}$) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
9 8	PL4MD1 PL4MD0	1 1	R/W R/W	PTL4 モード 00: その他の機能 (RAC-$\overline{\text{CTS}}$、$\overline{\text{CS6}}$) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
7 6	PL3MD1 PL3MD0	1 1	R/W R/W	PTL3 モード 00: その他の機能 (RAC-$\overline{\text{DTR}}$) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
5 4	PL2MD1 PL2MD0	1 1	R/W R/W	PTL2 モード（注） 00: その他の機能 (RAC-$\overline{\text{DSR}}$、AUDSYNC) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
3 2	PL1MD1 PL1MD0	1 1	R/W R/W	PTL1 モード（注） 00: その他の機能 (RAC-$\overline{\text{DCD}}$、AUDCK) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
1 0	PL0MD1 PL0MD0	1 1	R/W R/W	PTL0 モード 00: その他の機能 (RAC-TXD、TXD2) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）

注.　E10Aエミュレータのトレース機能を有効にすると、ビットの設定にかかわらず、これらのポートは強制的にAUDポートとなります。

40.2.13 ポートM コントロールレジスタ（PMCR）

PMCR は、読み出し／書き込み可能な16 ビットのレジスタで、端子機能を選択します。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PM7MD[1:0]		PM6MD[1:0]		PM5MD[1:0]		PM4MD[1:0]		PM3MD[1:0]		PM2MD[1:0]		PM1MD[1:0]		PM0MD[1:0]	
初期値：	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	1	0	1	0	1	0	1	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 14	PM7MD1 PM7MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTM7モード 00: その他の機能 ($\overline{CS4}$) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
13 12	PM6MD1 PM6MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTM6 モード 00: その他の機能 ($\overline{RD}$) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
11 10	PM5MD1 PM5MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTM5 モード 00: その他の機能 ($\overline{WE0}$) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
9 8	PM4MD1 PM4MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTM4 モード 00: その他の機能 ($\overline{CS0}$) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
7 6	PM3MD1 PM3MD0	1 0	R/W R/W	PTM3 モード 00: その他の機能 (SDA6) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
5 4	PM2MD1 PM2MD0	1 0	R/W R/W	PTM2 モード 00: その他の機能 (SCL6) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
3 2	PM1MD1 PM1MD0	1 0	R/W R/W	PTM1 モード 00: その他の機能 (SDA7) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
1 0	PM0MD1 PM0MD0	1 0	R/W R/W	PTM0 モード 00: その他の機能 (SCL7) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止

注.　PM7MD1～PM4MD1、及びPM7MD0～PM4MD0ビットの初期値は、MD6端子の設定により異なります。
MD6=Lのとき0、MD6=Hのとき1になります。

40.2.14 ポートN コントロールレジスタ（PNCR）

PNCR は、読み出し／書き込み可能な16 ビットのレジスタで、端子機能を選択します。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	PN6MD[1:0]		PN5MD[1:0]		PN4MD[1:0]		PN3MD[1:0]		PN2MD[1:0]		PN1MD[1:0]		PN0MD[1:0]	
初期値：	1	1	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	1	1	1
R/W:	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15、14	—	1	—	リザーブビット （読み出すと“1”が読めます。書き込む値は“1”にしてください）
13 12	PN6MD1 PN6MD0	0 0	R/W R/W	PTN6 モード 00: その他の機能 (VBUS_EN) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
11 10	PN5MD1 PN5MD0	0 0	R/W R/W	PTN5 モード 00: その他の機能 (VBUS_OC) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
9 8	PN4MD1 PN4MD0	1 0	R/W R/W	PTN4 モード 00: その他の機能 (SGPIO1-CLK) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
7 6	PN3MD1 PN3MD0	1 0	R/W R/W	PTN3 モード 00: その他の機能 (SGPIO1-LOAD) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
5 4	PN2MD1 PN2MD0	1 0	R/W R/W	PTN2 モード 00: その他の機能 (SGPIO1-DO) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
3 2	PN1MD1 PN1MD0	1 1	R/W R/W	PTN1 モード 00: その他の機能 (SGPIO1-DI) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
1 0	PN0MD1 PN0MD0	1 1	R/W R/W	PTN0 モード 00: その他の機能 (SUB-CLKIN) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）

40.2.15 ポートO コントロールレジスタ（POCR）

POCR は、読み出し／書き込み可能な16 ビットのレジスタで、端子機能を選択します。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PO7MD[1:0]		PO6MD[1:0]		PO5MD[1:0]		PO4MD[1:0]		PO3MD[1:0]		PO2MD[1:0]		PO1MD[1:0]		PO0MD[1:0]	
初期値：	1	0	1	0	1	1	1	0	1	0	1	0	1	1	1	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 14	PO7MD1 PO7MD0	1 0	R/W R/W	PTO7モード 00: その他の機能 (SGPIO0-CLK) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
13 12	PO6MD1 PO6MD0	1 0	R/W R/W	PTO6 モード 00: その他の機能 (SGPIO0-LOAD) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
11 10	PO5MD1 PO5MD0	1 1	R/W R/W	PTO5 モード 00: その他の機能 (SGPIO0-DI) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
9 8	PO4MD1 PO4MD0	1 0	R/W R/W	PTO4 モード 00: その他の機能 (SGPIO0-DO) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
7 6	PO3MD1 PO3MD0	1 0	R/W R/W	PTO3 モード 00: その他の機能 (SGPIO2-CLK、COM1-TXD) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
5 4	PO2MD1 PO2MD0	1 0	R/W R/W	PTO2 モード 00: その他の機能 (SGPIO2-LOAD、COM1-RXD) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
3 2	PO1MD1 PO1MD0	1 1	R/W R/W	PTO1 モード 00: その他の機能 (SGPIO2-DI、$\overline{\text{COM1-RTS}}$) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
1 0	PO0MD1 PO0MD0	1 0	R/W R/W	PTO0 モード 00: その他の機能 (SGPIO2-DO、$\overline{\text{COM1-CTS}}$) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）

40.2.16 ポートQ コントロールレジスタ（PQCR）

PQCR は、読み出し／書き込み可能な16 ビットのレジスタで、端子機能を選択します。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	PQ6MD[1:0]		PQ5MD[1:0]		PQ4MD[1:0]		PQ3MD[1:0]		PQ2MD[1:0]		PQ1MD[1:0]		PQ0MD[1:0]	
初期値：	1	1	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0
R/W:	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15、14	—	1	—	リザーブビット （読み出すと“1”が読めます。書き込む値は“1”にしてください）
13 12	PQ6MD1 PQ6MD0	1 0	R/W R/W	PTQ6 モード 00: 設定禁止 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
11 10	PQ5MD1 PQ5MD0	1 0	R/W R/W	PTQ5 モード 00: 設定禁止 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
9 8	PQ4MD1 PQ4MD0	1 0	R/W R/W	PTQ4 モード 00: 設定禁止 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
7 6	PQ3MD1 PQ3MD0	1 0	R/W R/W	PTQ3 モード 00: 設定禁止 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
5 4	PQ2MD1 PQ2MD0	1 0	R/W R/W	PTQ2 モード 00: 設定禁止 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
3 2	PQ1MD1 PQ1MD0	1 0	R/W R/W	PTQ1 モード 00: 設定禁止 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
1 0	PQ0MD1 PQ0MD0	1 0	R/W R/W	PTQ0 モード 00: 設定禁止 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止

40.2.17 ポートR コントロールレジスタ（PRCR）

PRCR は、読み出し／書き込み可能な16 ビットのレジスタで、端子機能を選択します。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PR7MD[1:0]		PR6MD[1:0]		PR5MD[1:0]		PR4MD[1:0]		PR3MD[1:0]		PR2MD[1:0]		PR1MD[1:0]		PR0MD[1:0]	
初期値：	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 14	PR7MD1 PR7MD0	1 0	R/W R/W	PTR7 モード 00: その他の機能(SDA8)（注） 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
13 12	PR6MD1 PR6MD0	1 0	R/W R/W	PTR6モード 00: その他の機能 (SCL8)（注） 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
11 10	PR5MD1 PR5MD0	1 0	R/W R/W	PTR5 モード 00: その他の機能 (SDA2) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
9 8	PR4MD1 PR4MD0	1 0	R/W R/W	PTR4 モード 00: その他の機能 (SCL2) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 6	PR3MD1 PR3MD0	1 0	R/W R/W	PTR3 モード 00: その他の機能 (SDA1) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
5 4	PR2MD1 PR2MD0	1 0	R/W R/W	PTR2 モード 00: その他の機能 (SCL1) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
3 2	PR1MD1 PR1MD0	1 0	R/W R/W	PTR1 モード 00: その他の機能 (SDA0) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
1 0	PR0MD1 PR0MD0	1 0	R/W R/W	PTR0 モード 00: その他の機能 (SCL0) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止

注.　その他の機能を使用する場合は、H'FFEC 006E番地にH'0Cを設定してください。

40.2.18 ポートS コントロールレジスタ（PSCR）

PSCR は、読み出し／書き込み可能な16 ビットのレジスタで、端子機能を選択します。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PS7MD[1:0]		PS6MD[1:0]		PS5MD[1:0]		PS4MD[1:0]		PS3MD[1:0]		PS2MD[1:0]		PS1MD[1:0]		PS0MD[1:0]	
初期値：	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 14	PS7MD1 PS7MD0	1 0	R/W R/W	PTS7 モード 00: その他の機能 (SDA9)（注） 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
13 12	PS6MD1 PS6MD0	1 0	R/W R/W	PTS6 モード 00: その他の機能 (SCL9)（注） 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
11 10	PS5MD1 PS5MD0	1 0	R/W R/W	PTS5 モード 00: その他の機能 (SDA5) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
9 8	PS4MD1 PS4MD0	1 0	R/W R/W	PTS4 モード 00: その他の機能 (SCL5) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
7 6	PS3MD1 PS3MD0	1 0	R/W R/W	PTS3 モード 00: その他の機能 (SDA4) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
5 4	PS2MD1 PS2MD0	1 0	R/W R/W	PTS2 モード 00: その他の機能 (SCL4) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
3 2	PS1MD1 PS1MD0	1 0	R/W R/W	PTS1 モード 00: その他の機能 (SDA3) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
1 0	PS0MD1 PS0MD0	1 0	R/W R/W	PTS0 モード 00: その他の機能 (SCL3) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止

注.　その他の機能を使用する場合は、H'FFEC 006E番地にH'0Cを設定してください。

40.2.19 ポートT コントロールレジスタ（PTCR）

PTCR は、読み出し／書き込み可能な16 ビットのレジスタで、端子機能を選択します。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PT7MD[1:0]		PT6MD[1:0]		PT5MD[1:0]		PT4MD[1:0]		PT3MD[1:0]		PT2MD[1:0]		PT1MD[1:0]		PT0MD[1:0]	
初期値：	1	0	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 14	PT7MD1 PT7MD0	1 0	R/W R/W	PTT7 モード（注） 00: その他の機能 (PWMX7、AUDATA3) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
13 12	PT6MD1 PT6MD0	1 0	R/W R/W	PTT6 モード（注） 00: その他の機能 (PWMX6、AUDATA2) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
11 10	PT5MD1 PT5MD0	1 1	R/W R/W	PTT5 モード（注） 00: その他の機能 (PWMX5、AUDATA1) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
9 8	PT4MD1 PT4MD0	1 1	R/W R/W	PTT4 モード（注） 00: その他の機能 (PWMX4、AUDATA0) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
7 6	PT3MD1 PT3MD0	1 1	R/W R/W	PTT3 モード 00: その他の機能 (PWMX3、STATUS1) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
5 4	PT2MD1 PT2MD0	1 1	R/W R/W	PTT2 モード 00: その他の機能 (PWMX2、STATUS0) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
3 2	PT1MD1 PT1MD0	1 1	R/W R/W	PTT1 モード 00: その他の機能 (PWMX1) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
1 0	PT0MD1 PT0MD0	1 1	R/W R/W	PTT0 モード 00: その他の機能 (PWMX0) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）

注.　E10Aエミュレータのトレース機能を有効にすると、ビットの設定にかかわらず、これらのポートは強制的にAUDポートとなります。

40.2.20 ポートU コントロールレジスタ（PUCR）

PUCR は、読み出し／書き込み可能な16 ビットのレジスタで、端子機能を選択します。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PU7MD[1:0]		PU6MD[1:0]		PU5MD[1:0]		PU4MD[1:0]		PU3MD[1:0]		PU2MD[1:0]		PU1MD[1:0]		PU0MD[1:0]	
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 14	PU7MD1 PU7MD0	0 0	R/W R/W	PTU7 モード 00: リザーブ 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
13 12	PU6MD1 PU6MD0	0 0	R/W R/W	PTU6 モード 00: リザーブ 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
11 10	PU5MD1 PU5MD0	0 0	R/W R/W	PTU5 モード 00: リザーブ 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
9 8	PU4MD1 PU4MD0	0 0	R/W R/W	PTU4 モード 00: リザーブ 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
7 6	PU3MD1 PU3MD0	0 0	R/W R/W	PTU3 モード 00: リザーブ 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
5 4	PU2MD1 PU2MD0	0 0	R/W R/W	PTU2 モード 00: リザーブ 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
3 2	PU1MD1 PU1MD0	0 0	R/W R/W	PTU1 モード 00: リザーブ 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
1 0	PU0MD1 PU0MD0	0 0	R/W R/W	PTU0 モード 00: リザーブ 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）

40.2.21 ポートV コントロールレジスタ（PVCR）

PVCR は、読み出し／書き込み可能な16 ビットのレジスタで、端子機能を選択します。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PV7MD[1:0]		PV6MD[1:0]		PV5MD[1:0]		PV4MD[1:0]		PV3MD[1:0]		PV2MD[1:0]		PV1MD[1:0]		PV0MD[1:0]	
初期値：	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0	0/1 (注)	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 14	PV7MD1 PV7MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTV7 モード 00: その他の機能 (A23、COM2-RI/RI1) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
13 12	PV6MD1 PV6MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTV6 モード 00: その他の機能 (A22、RSPI-MOSI) 01:ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
11 10	PV5MD1 PV5MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTV5 モード 00: その他の機能 (A21、RSPI-MISO) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
9 8	PV4MD1 PV4MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTV4 モード 00: その他の機能 (A20、RSPI-RSPCK) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
7 6	PV3MD1 PV3MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTV3 モード 00: その他の機能 (A19、RSPI-SSL0) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
5 4	PV2MD1 PV2MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTV2 モード 00: その他の機能 (A18、RSPI-SSL1) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
3 2	PV1MD1 PV1MD0	0/1（注） 0	R/W R/W	PTV1 モード 00: その他の機能 (A17、EVENT7) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
1 0	PV0MD1 PV0MD0	0/1（注） 0	R/W R/W	PTV0 モード 00: その他の機能 (A16、EVENT6) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止

注.　PV7MD1～PV0MD1 及びPV7MD0～PV2MD0 ビットの初期値は、MD6 端子の設定により異なります。MD6＝L のとき0、MD6＝H のとき1 になります。

40.2.22 ポートW コントロールレジスタ（PWCR）

PWCR は、読み出し／書き込み可能な16 ビットのレジスタで、端子機能を選択します。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PW7MD[1:0]		PW6MD[1:0]		PW5MD[1:0]		PW4MD[1:0]		PW3MD[1:0]		PW2MD[1:0]		PW1MD[1:0]		PW0MD[1:0]	
初期値：	0/1 (注)	0	0/1 (注)	0	0/1 (注)	0	0/1 (注)	0	0/1 (注)	0	0/1 (注)	0	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 14	PW7MD1 PW7MD0	0/1（注） 0	R/W R/W	PTW7 モード 00: その他の機能 (A15、EVENT5) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
13 12	PW6MD1 PW6MD0	0/1（注） 0	R/W R/W	PTW6 モード 00: その他の機能 (A14、EVENT4) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
11 10	PW5MD1 PW5MD0	0/1（注） 0	R/W R/W	PTW5 モード 00: その他の機能 (A13、EVENT3) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
9 8	PW4MD1 PW4MD0	0/1（注） 0	R/W R/W	PTW4 モード 00: その他の機能 (A12、EVENT2) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
7 6	PW3MD1 PW3MD0	0/1（注） 0	R/W R/W	PTW3 モード 00: その他の機能 (A11、EVENT1) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
5 4	PW2MD1 PW2MD0	0/1（注） 0	R/W R/W	PTW2 モード 00: その他の機能 (A10、EVENT0) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: 設定禁止
3 2	PW1MD1 PW1MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTW1 モード 00: その他の機能 (A9、$\overline{\text{CTS4}}$) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
1 0	PW0MD1 PW0MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTW0 モード 00: その他の機能 (A8、$\overline{\text{CTS2}}$) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）

注.　PW7MD1～PW0MD1及びPW1MD0～PW0MD0ビットの初期値は、MD6 端子の設定により異なります。MD6＝L のとき0、MD6＝H のとき1になります。

40.2.23 ポートX コントロールレジスタ（PXCR）

PXCR は、読み出し／書き込み可能な16 ビットのレジスタで、端子機能を選択します。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PX7MD[1:0]		PX6MD[1:0]		PX5MD[1:0]		PX4MD[1:0]		PX3MD[1:0]		PX2MD[1:0]		PX1MD[1:0]		PX0MD[1:0]	
初期値：	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 14	PX7MD1 PX7MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTX7 モード 00: その他の機能 (A7、$\overline{\text{RTS2}}$) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
13 12	PX6MD1 PX6MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTX6 モード 00: その他の機能 (A6、SIM_D) 01:ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
11 10	PX5MD1 PX5MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTX5 モード 00:その他の機能 (A5、SIM_CLK) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
9 8	PX4MD1 PX4MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTX4 モード 00: その他の機能 (A4、SIM_RST) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
7 6	PX3MD1 PX3MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTX3 モード 00: その他の機能 (A3) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
5 4	PX2MD1 PX2MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTX2 モード 00: その他の機能 (A2) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
3 2	PX1MD1 PX1MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTX1 モード 00: その他の機能 (A1) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
1 0	PX0MD1 PX0MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTX0 モード 00: その他の機能 (A0) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）

注.　PX7MD1～PX0MD1 及びPX7MD0～PX0MD0 ビットの初期値は、MD6 端子の設定により異なります。MD6＝L のとき0、MD6＝H のとき1になります。

40.2.24 ポートY コントロールレジスタ（PYCR）

PYCR は、読み出し／書き込み可能な16 ビットのレジスタで、端子機能を選択します。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PY7MD[1:0]		PY6MD[1:0]		PY5MD[1:0]		PY4MD[1:0]		PY3MD[1:0]		PY2MD[1:0]		PY1MD[1:0]		PY0MD[1:0]	
初期値：	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)	0/1 (注)
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 14	PY7MD1 PY7MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTY7 モード 00: その他の機能 (D7) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
13 12	PY6MD1 PY6MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTY6 モード 00: その他の機能 (D6) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
11 10	PY5MD1 PY5MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTY5 モード 00: その他の機能 (D5) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
9 8	PY4MD1 PY4MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTY4 モード 00: その他の機能 (D4) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
7 6	PY3MD1 PY3MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTY3 モード 00: その他の機能 (D3) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
5 4	PY2MD1 PY2MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTY2 モード 00: その他の機能 (D2) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
3 2	PY1MD1 PY1MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTY1 モード 00: その他の機能 (D1) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
1 0	PY0MD1 PY0MD0	0/1（注） 0/1（注）	R/W R/W	PTY0 モード 00: その他の機能 (D0) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）

注.　PY7MD1～PY0MD1 及びPY7MD0～PY0MD0 ビットの初期値は、MD6 端子の設定により異なります。MD6＝L のとき0、MD6＝H のとき1 になります。

40.2.25 ポートZ コントロールレジスタ（PZCR）

PZCR は、読み出し／書き込み可能な16 ビットのレジスタで、端子機能を選択します。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PZ7MD[1:0]		PZ6MD[1:0]		PZ5MD[1:0]		PZ4MD[1:0]		PZ3MD[1:0]		PZ2MD[1:0]		PZ1MD[1:0]		PZ0MD[1:0]	
初期値：	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 14	PZ7MD1 PZ7MD0	1 0	R/W R/W	PTZ7 モード 00: その他の機能 (MMCDAT7) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
13 12	PZ6MD1 PZ6MD0	1 0	R/W R/W	PTZ6 モード 00: その他の機能 (MMCDAT6) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
11 10	PZ5MD1 PZ5MD0	1 0	R/W R/W	PTZ5 モード 00: その他の機能 (MMCDAT5) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
9 8	PZ4MD1 PZ4MD0	1 0	R/W R/W	PTZ4 モード 00: その他の機能 (MMCDAT4) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
7 6	PZ3MD1 PZ3MD0	1 0	R/W R/W	PTZ3 モード 00: その他の機能 (MMCDAT3) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
5 4	PZ2MD1 PZ2MD0	1 0	R/W R/W	PTZ2 モード 00: その他の機能 (MMCDAT2) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
3 2	PZ1MD1 PZ1MD0	1 0	R/W R/W	PTZ1 モード 00: その他の機能 (MMCDAT1) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）
1 0	PZ0MD1 PZ0MD0	1 0	R/W R/W	PTZ0 モード 00: その他の機能 (MMCDAT0) 01: ポート出力 10: ポート入力（プルアップMOS：オフ） 11: ポート入力（プルアップMOS：オン）

40.2.26 ポートA データレジスタ（PADR）

PADR は、読み出し／書き込み可能な8 ビットのレジスタでポートA のデータを格納します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	PA7DT	PA6DT	PA5DT	PA4DT	PA3DT	PA2DT	PA1DT	PA0DT
初期値：	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7～0	PA7DT～ PA0DT	端子状態	R/W	■端子機能が汎用出力ポート又はその他の機能の出力端子の場合 本レジスタに書いた値が対応する端子から出力されます。 本レジスタを読み出すと、書いた値が読み出せます。 ■端子機能が汎用入力ポート又はその他の機能の入力端子の場合 本レジスタを読み出すと、対応する端子の状態が読み出せます。 本レジスタに値を書き込んでも反映されません。

40.2.27 ポートB データレジスタ（PBDR）

PBDR は、読み出し／書き込み可能な8 ビットのレジスタでポートB のデータを格納します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	PB7DT	PB6DT	PB5DT	PB4DT	PB3DT	PB2DT	PB1DT	PB0DT
初期値：	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～ 0	PB7DT～ PB0DT	端子状態	R/W	■端子機能が汎用出力ポート又はその他の機能の出力端子の場合 本レジスタに書いた値が対応する端子から出力されます。 本レジスタを読み出すと、書いた値が読み出せます。 ■端子機能が汎用入力ポート又はその他の機能の入力端子の場合 本レジスタを読み出すと、対応する端子の状態が読み出せます。 本レジスタに値を書き込んでも反映されません。

40.2.28 ポートC データレジスタ（PCDR）

PCDR は、読み出し／書き込み可能な8 ビットのレジスタでポートC のデータを格納します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	PC7DT	PC6DT	PC5DT	PC4DT	PC3DT	PC2DT	PC1DT	PC0DT
初期値：	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～ 0	PC7DT ～ PC0DT	端子状態	R/W	■端子機能が汎用出力ポート又はその他の機能の出力端子の場合 本レジスタに書いた値が対応する端子から出力されます。 本レジスタを読み出すと、書いた値が読み出せます。 ■端子機能が汎用入力ポート又はその他の機能の入力端子の場合 本レジスタを読み出すと、対応する端子の状態が読み出せます。 本レジスタに値を書き込んでも反映されません。

40.2.29 ポートD データレジスタ（PDDR）

PDDR は、読み出し／書き込み可能な8 ビットのレジスタでポートD のデータを格納します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	PD7DT	PD6DT	PD5DT	PD4DT	PD3DT	PD2DT	PD1DT	PD0DT
初期値：	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～ 0	PD7DT ～ PD0DT	端子状態	R/W	■端子機能が汎用出力ポート又はその他の機能の出力端子の場合 本レジスタに書いた値が対応する端子から出力されます。 本レジスタを読み出すと、書いた値が読み出せます。 ■端子機能が汎用入力ポート又はその他の機能の入力端子の場合 本レジスタを読み出すと、対応する端子の状態が読み出せます。 本レジスタに値を書き込んでも反映されません。

40.2.30 ポートE データレジスタ（PEDR）

PEDR は、読み出し／書き込み可能な8 ビットのレジスタでポートE のデータを格納します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	PE7DT	PE6DT	PE5DT	PE4DT	PE3DT	PE2DT	PE1DT	PE0DT
初期値：	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～0	PE7DT ～ PE0DT	端子状態	R/W	■端子機能が汎用出力ポート又はその他の機能の出力端子の場合 本レジスタに書いた値が対応する端子から出力されます。 本レジスタを読み出すと、書いた値が読み出せます。 ■端子機能が汎用入力ポート又はその他の機能の入力端子の場合 本レジスタを読み出すと、対応する端子の状態が読み出せます。 本レジスタに値を書き込んでも反映されません。

40.2.31 ポートF データレジスタ（PFDR）

PFDR は、読み出し／書き込み可能な8 ビットのレジスタでポートF のデータを格納します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	PF7DT	PF6DT	PF5DT	PF4DT	PF3DT	PF2DT	PF1DT	PF0DT
初期値：	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～ 0	PF7DT ～ PF0DT	端子状態	R/W	■端子機能が汎用出力ポート又はその他の機能の出力端子の場合 本レジスタに書いた値が対応する端子から出力されます。 本レジスタを読み出すと、書いた値が読み出せます。 ■端子機能が汎用入力ポート又はその他の機能の入力端子の場合 本レジスタを読み出すと、対応する端子の状態が読み出せます。 本レジスタに値を書き込んでも反映されません。

40.2.32 ポートG データレジスタ（PGDR）

PGDR は、読み出し／書き込み可能な8 ビットのレジスタでポートG のデータを格納します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	PG7DT	PG6DT	PG5DT	PG4DT	PG3DT	PG2DT	PG1DT	PG0DT
初期値：	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7～0	PG7DT～ PG0DT	端子状態	R/W	■端子機能が汎用出力ポート又はその他の機能の出力端子の場合 本レジスタに書いた値が対応する端子から出力されます。 本レジスタを読み出すと、書いた値が読み出せます。 ■端子機能が汎用入力ポート又はその他の機能の入力端子の場合 本レジスタを読み出すと、対応する端子の状態が読み出せます。 本レジスタに値を書き込んでも反映されません。

40.2.33 ポートH データレジスタ（PHDR）

PHDR は、読み出し／書き込み可能な8 ビットのレジスタでポートH のデータを格納します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	PH7DT	PH6DT	PH5DT	PH4DT	PH3DT	PH2DT	PH1DT	PH0DT
初期値：	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～ 0	PH7DT～PH0DT	端子状態	R/W	■端子機能が汎用出力ポート又はその他の機能の出力端子の場合 本レジスタに書いた値が対応する端子から出力されます。 本レジスタを読み出すと、書いた値が読み出せます。 ■端子機能が汎用入力ポート又はその他の機能の入力端子の場合 本レジスタを読み出すと、対応する端子の状態が読み出せます。 本レジスタに値を書き込んでも反映されません。

40.2.34 ポートI データレジスタ（PIDR）

PIDR は、読み出し／書き込み可能な8 ビットのレジスタでポートI のデータを格納します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	PI7DT	PI6DT	PI5DT	PI4DT	PI3DT	PI2DT	PI1DT	PI0DT
初期値：	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～ 0	PI7DT ～ PI0DT	端子状態	R/W	■端子機能が汎用出力ポート又はその他の機能の出力端子の場合 本レジスタに書いた値が対応する端子から出力されます。 本レジスタを読み出すと、書いた値が読み出せます。 ■端子機能が汎用入力ポート又はその他の機能の入力端子の場合 本レジスタを読み出すと、対応する端子の状態が読み出せます。 本レジスタに値を書き込んでも反映されません。

40.2.35 ポートJ データレジスタ（PJDR）

PJDR は、読み出し／書き込み可能な8 ビットのレジスタでポートJ のデータを格納します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	PJ6DT	PJ5DT	PJ4DT	PJ3DT	PJ2DT	PJ1DT	PJ0DT
初期値：	0	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態
R/W:	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
6 ～0	PJ6DT ～ PJ0DT	端子状態	R/W	■端子機能が汎用出力ポート又はその他の機能の出力端子の場合 本レジスタに書いた値が対応する端子から出力されます。 本レジスタを読み出すと、書いた値が読み出せます。 ■端子機能が汎用入力ポート又はその他の機能の入力端子の場合 本レジスタを読み出すと、対応する端子の状態が読み出せます。 本レジスタに値を書き込んでも反映されません。

40.2.36 ポートK データレジスタ（PKDR）

PKDR は、読み出し／書き込み可能な8 ビットのレジスタでポートK のデータを格納します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	PK7DT	PK6DT	PK5DT	PK4DT	PK3DT	PK2DT	PK1DT	PK0DT
初期値：	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～ 0	PK7DT ～ PK0DT	端子状態	R/W	■端子機能が汎用出力ポート又はその他の機能の出力端子の場合 本レジスタに書いた値が対応する端子から出力されます。 本レジスタを読み出すと、書いた値が読み出せます。 ■端子機能が汎用入力ポート又はその他の機能の入力端子の場合 本レジスタを読み出すと、対応する端子の状態が読み出せます。 本レジスタに値を書き込んでも反映されません。

40.2.37 ポートL データレジスタ（PLDR）

PLDR は、読み出し／書き込み可能な8 ビットのレジスタでポートL のデータを格納します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	PL6DT	PL5DT	PL4DT	PL3DT	PL2DT	PL1DT	PL0DT
初期値：	0	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態
R/W:	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
6 ～ 0	PL6DT ～ PL0DT	端子状態	R/W	■端子機能が汎用出力ポート又はその他の機能の出力端子の場合 本レジスタに書いた値が対応する端子から出力されます。 本レジスタを読み出すと、書いた値が読み出せます。 ■端子機能が汎用入力ポート又はその他の機能の入力端子の場合 本レジスタを読み出すと、対応する端子の状態が読み出せます。 本レジスタに値を書き込んでも反映されません。

40.2.38 ポートM データレジスタ（PMDR）

PMDR は、読み出し／書き込み可能な8 ビットのレジスタでポートM のデータを格納します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	PM7DT	PM6DT	PM5DT	PM4DT	PM3DT	PM2DT	PM1DT	PM0DT
初期値：	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～0	PM7DT～ PM0DT	端子状態	R/W	■端子機能が汎用出力ポート又はその他の機能の出力端子の場合 本レジスタに書いた値が対応する端子から出力されます。 本レジスタを読み出すと、書いた値が読み出せます。 ■端子機能が汎用入力ポート又はその他の機能の入力端子の場合 本レジスタを読み出すと、対応する端子の状態が読み出せます。 本レジスタに値を書き込んでも反映されません。 PTM3～PTM0端子はオープンドレインポートのため、これらのポートから“H” レベルを出力する場合には、外部プルアップ抵抗が必要です。

40.2.39 ポートN データレジスタ（PNDR）

PNDR は、読み出し／書き込み可能な8 ビットのレジスタでポートN のデータを格納します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	PN6DT	PN5DT	PN4DT	PN3DT	PN2DT	PN1DT	PN0DT
初期値：	0	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態
R/W:	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
6 ～ 0	PN7DT ～ PN0DT	端子状態	R/W	■端子機能が汎用出力ポート又はその他の機能の出力端子の場合 本レジスタに書いた値が対応する端子から出力されます。 本レジスタを読み出すと、書いた値が読み出せます。 ■端子機能が汎用入力ポート又はその他の機能の入力端子の場合 本レジスタを読み出すと、対応する端子の状態が読み出せます。 本レジスタに値を書き込んでも反映されません。

40.2.40 ポートO データレジスタ（PODR）

PODR は、読み出し／書き込み可能な8 ビットのレジスタでポートO のデータを格納します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	PO7DT	PO6DT	PO5DT	PO4DT	PO3DT	PO2DT	PO1DT	PO0DT
初期値：	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～ 0	PO7DT ～ PO0DT	端子状態	R/W	■端子機能が汎用出力ポート又はその他の機能の出力端子の場合 本レジスタに書いた値が対応する端子から出力されます。 本レジスタを読み出すと、書いた値が読み出せます。 ■端子機能が汎用入力ポート又はその他の機能の入力端子の場合 本レジスタを読み出すと、対応する端子の状態が読み出せます。 本レジスタに値を書き込んでも反映されません。

40.2.41 ポートP データレジスタ（PPDR）

PPDR は、読み出し可能な8 ビットのレジスタでポートP のデータを格納します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	PP7DT	PP6DT	PP5DT	PP4DT	PP3DT	PP2DT	PP1DT	PP0DT
初期値：	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～0	PP7DT ～ PP0DT	端子状態	R	本レジスタを読み出すと、対応する端子の状態が読み出せます。

40.2.42 ポートQ データレジスタ（PQDR）

PQDR は、読み出し／書き込み可能な8 ビットのレジスタでポートQ のデータを格納します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	PQ6DT	PQ5DT	PQ4DT	PQ3DT	PQ2DT	PQ1DT	PQ0DT
初期値：	0	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態
R/W:	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
6 ～ 0	PQ6DT ～ PQ0DT	端子状態	R/W	■端子機能が汎用出力ポート又はその他の機能の出力端子の場合 本レジスタに書いた値が対応する端子から出力されます。 本レジスタを読み出すと、書いた値が読み出せます。 ■端子機能が汎用入力ポート又はその他の機能の入力端子の場合 本レジスタを読み出すと、対応する端子の状態が読み出せます。 本レジスタに値を書き込んでも反映されません。

40.2.43 ポートR データレジスタ（PRDR）

PRDR は、読み出し／書き込み可能な8 ビットのレジスタでポートR のデータを格納します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	PR7DT	PR6DT	PR5DT	PR4DT	PR3DT	PR2DT	PR1DT	PR0DT
初期値：	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～ 0	PR7DT ～ PR0DT	端子状態	R/W	■端子機能が汎用出力ポート又はその他の機能の出力端子の場合 本レジスタに書いた値が対応する端子から出力されます。 本レジスタを読み出すと、書いた値が読み出せます。 ■端子機能が汎用入力ポート又はその他の機能の入力端子の場合 本レジスタを読み出すと、対応する端子の状態が読み出せます。 本レジスタに値を書き込んでも反映されません。 ポートRはオープンドレインポートのため、これらのポートから“H”レベルを出力する場合には、外部プルアップ抵抗が必要です

40.2.44 ポートS データレジスタ（PSDR）

PSDR は、読み出し／書き込み可能な8 ビットのレジスタでポートS のデータを格納します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	PS7DT	PS6DT	PS5DT	PS4DT	PS3DT	PS2DT	PS1DT	PS0DT
初期値：	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～ 0	PS7DT ～ PS0DT	端子状態	R/W	■端子機能が汎用出力ポート又はその他の機能の出力端子の場合 本レジスタに書いた値が対応する端子から出力されます。 本レジスタを読み出すと、書いた値が読み出せます。 ■端子機能が汎用入力ポート又はその他の機能の入力端子の場合 本レジスタを読み出すと、対応する端子の状態が読み出せます。 本レジスタに値を書き込んでも反映されません。 ポートSはオープンドレインポートのため、これらのポートから“H”レベルを出力する場合には、外部プルアップ抵抗が必要です。

40.2.45 ポートT データレジスタ（PTDR）

PTDR は、読み出し／書き込み可能な8 ビットのレジスタでポートT のデータを格納します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	PT7DT	PT6DT	PT5DT	PT4DT	PT3DT	PT2DT	PT1DT	PT0DT
初期値：	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～ 0	PT7DT～ PT0DT	端子状態	R/W	■端子機能が汎用出力ポート又はその他の機能の出力端子の場合 本レジスタに書いた値が対応する端子から出力されます。 本レジスタを読み出すと、書いた値が読み出せます。 ■端子機能が汎用入力ポート又はその他の機能の入力端子の場合 本レジスタを読み出すと、対応する端子の状態が読み出せます。 本レジスタに値を書き込んでも反映されません。

40.2.46 ポートU データレジスタ（PUDR）

PUDR は、読み出し／書き込み可能な8 ビットのレジスタでポートU のデータを格納します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	PU7DT	PU6DT	PU5DT	PU4DT	PU3DT	PU2DT	PU1DT	PU0DT
初期値：	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～ 0	PU7DT ～ PU0DT	端子状態	R/W	■端子機能が汎用出力ポート又はその他の機能の出力端子の場合 本レジスタに書いた値が対応する端子から出力されます。 本レジスタを読み出すと、書いた値が読み出せます。 ■端子機能が汎用入力ポート又はその他の機能の入力端子の場合 本レジスタを読み出すと、対応する端子の状態が読み出せます。 本レジスタに値を書き込んでも反映されません。

40.2.47 ポートV データレジスタ（PVDR）

PVDR は、読み出し／書き込み可能な8 ビットのレジスタでポートV のデータを格納します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	PV7DT	PV6DT	PV5DT	PV4DT	PV3DT	PV2DT	PV1DT	PV0DT
初期値：	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～ 0	PV7DT ～ PV0DT	端子状態	R/W	■端子機能が汎用出力ポート又はその他の機能の出力端子の場合 本レジスタに書いた値が対応する端子から出力されます。 本レジスタを読み出すと、書いた値が読み出せます。 ■端子機能が汎用入力ポート又はその他の機能の入力端子の場合 本レジスタを読み出すと、対応する端子の状態が読み出せます。 本レジスタに値を書き込んでも反映されません。

40.2.48 ポートW データレジスタ（PWDR）

PWDR は、読み出し／書き込み可能な8 ビットのレジスタでポートW のデータを格納します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	PW7DT	PW6DT	PW5DT	PW4DT	PW3DT	PW2DT	PW1DT	PW0DT
初期値：	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～0	PW7DT ～ PW0DT	端子状態	R/W	■端子機能が汎用出力ポート又はその他の機能の出力端子の場合 本レジスタに書いた値が対応する端子から出力されます。 本レジスタを読み出すと、書いた値が読み出せます。 ■端子機能が汎用入力ポート又はその他の機能の入力端子の場合 本レジスタを読み出すと、対応する端子の状態が読み出せます。 本レジスタに値を書き込んでも反映されません。

40.2.49 ポートX データレジスタ（PXDR）

PXDR は、読み出し／書き込み可能な8 ビットのレジスタでポートX のデータを格納します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	PX7DT	PX6DT	PX5DT	PX4DT	PX3DT	PX2DT	PX1DT	PX0DT
初期値：	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～ 0	PX7DT ～ PX0DT	端子状態	R/W	■端子機能が汎用出力ポート又はその他の機能の出力端子の場合 本レジスタに書いた値が対応する端子から出力されます。 本レジスタを読み出すと、書いた値が読み出せます。 ■端子機能が汎用入力ポート又はその他の機能の入力端子の場合 本レジスタを読み出すと、対応する端子の状態が読み出せます。 本レジスタに値を書き込んでも反映されません。

40.2.50 ポートY データレジスタ（PYDR）

PYDR は、読み出し／書き込み可能な8 ビットのレジスタでポートY のデータを格納します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	PY7DT	PY6DT	PY5DT	PY4DT	PY3DT	PY2DT	PY1DT	PY0DT
初期値：	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～ 0	PY7DT ～ PY0DT	端子状態	R/W	■端子機能が汎用出力ポート又はその他の機能の出力端子の場合 本レジスタに書いた値が対応する端子から出力されます。 本レジスタを読み出すと、書いた値が読み出せます。 ■端子機能が汎用入力ポート又はその他の機能の入力端子の場合 本レジスタを読み出すと、対応する端子の状態が読み出せます。 本レジスタに値を書き込んでも反映されません。

40.2.51 ポートZ データレジスタ（PZDR）

PZDR は、読み出し／書き込み可能な8 ビットのレジスタでポートZ のデータを格納します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	PZ7DT	PZ6DT	PZ5DT	PZ4DT	PZ3DT	PZ2DT	PZ1DT	PZ0DT
初期値：	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態	端子状態
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7 ～ 0	PZ7DT～ PZ0DT	端子状態	R/W	■端子機能が汎用出力ポート又はその他の機能の出力端子の場合 本レジスタに書いた値が対応する端子から出力されます。 本レジスタを読み出すと、書いた値が読み出せます。 ■端子機能が汎用入力ポート又はその他の機能の入力端子の場合 本レジスタを読み出すと、対応する端子の状態が読み出せます。 本レジスタに値を書き込んでも反映されません。

40.2.52 ピンセレクトレジスタ0（PSEL0）

PSEL0 は、読み出し／書き込み可能な16 ビットのレジスタで、ポートB（PTB）、ポートC（PTC）の「その他の機能」とマルチプレクスしている端子の機能を選択します。

「その他の機能」を使用する場合、PSEL0 を設定した後にポートコントロールレジスタを「その他の機能」に設定してください。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	PB0SEL	PC7SEL	PC6SEL	PC5SEL	PC4SEL	PC3SEL	PC2SEL	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 ～ 9	—	0	R/W	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
8	PB0SEL	0	R/W	ポートB（PTB0）の機能を選択します。 0：IRQ8機能を選択 1：TCLK機能を選択
7	PC7SEL	0	R/W	ポートC（PTC7）の機能を選択します。 0：IRQ7/$\overline{\text{IRL7}}$ 機能を選択 1：PWMU0 機能を選択
6	PC6SEL	0	R/W	ポートC（PTC6）の機能を選択します。 0：IRQ6/$\overline{\text{IRL6}}$ 機能を選択 1：PWMU1 機能を選択
5	PC5SEL	0	R/W	ポートC (PTC5) の機能を選択します。 0: IRQ5/$\overline{\text{IRL5}}$ 機能を選択 1: PWMU2 機能を選択

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
4	PC4SEL	0	R/W	ポートC (PTC4) の機能を選択します。 0: IRQ4/IRL4 機能を選択 1: PWMU3 機能を選択
3	PC3SEL	0	R/W	ポートC (PTC3) の機能を選択します。 0: IRQ3/IRL3 機能を選択 1: PWMU4 機能を選択
2	PC2SEL	0	R/W	ポートC (PTC2) の機能を選択します。 0: IRQ2/IRL2 機能を選択 1: PWMU5 機能を選択
1、0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

40.2.53 ピンセレクトレジスタ1（PSEL1）

PSEL1 は、読み出し／書き込み可能な16 ビットのレジスタで、ポートD（PTD）、ポートF（PTF）の「その他の機能」とマルチプレクスしている端子の機能を選択します。

「その他の機能」を使用する場合、PSEL1 を設定した後にポートコントロールレジスタを「その他の機能」に設定してください。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	PD2SEL	PD1SEL	PD0SEL	—	—	—	—	—	PF2SEL	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—	—	R/W	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 ～ 11	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
10	PD2SEL	0	R/W	ポートD (PTD2) の機能を選択します。 0: SP0-SS1 機能を選択 1: DREQ0 機能を選択
9	PD1SEL	0	R/W	ポートD (PTD1) の機能を選択します。 0: SP0-SS2 機能を選択 1: DACK0 機能を選択
8	PD0SEL	0	R/W	ポートD (PTD0) の機能を選択します。 0: SP0-SS3 機能を選択 1: TEND0 機能を選択
7 ～3	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
2	PF2SEL	0	R/W	ポートF (PTF2) の機能を選択します。 0: RMII1-RXD1 機能を選択 1: RAC-RI/RI0 機能を選択

1、0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

40.2.54 ピンセレクトレジスタ2（PSEL2）

PSEL2は、読み出し／書き込み可能な16ビットのレジスタで、ポートG（PTG）、ポートH（PTH）の「その他の機能」とマルチプレクスしている端子の機能を選択します。

「その他の機能」を使用する場合、PSEL2を設定した後にポートコントロールレジスタを「その他の機能」に設定してください。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	PG5SEL	PG4SEL	—	—	—	—	PH7SEL	PH6SEL	PH5SEL	PH4SEL	—	PH2SEL	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	R/W	R/W	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	—	R/W	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15、14	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
13	PG5SEL	0	R/W	ポートG (PTG5) の機能を選択します。 0: A25 機能を選択 1: MMCCLK 機能を選択
12	PG4SEL	0	R/W	ポートG (PTG4) の機能を選択します。 0: A24 機能を選択 1: MMCCMD 機能を選択
11 ～8	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
7	PH7SEL	0	R/W	ポートH(PTH7) の機能を選択します。 0: SP1-MOSI 機能を選択 1: $\overline{\text{TEND1}}$ 機能を選択
6	PH6SEL	0	R/W	ポートH (PTH6)の機能を選択します。 0: SP1-MISO 機能を選択 1: $\overline{\text{DREQ1}}$ 機能を選択
5	PH5SEL	0	R/W	ポートH (PTH5)の機能を選択します。 0: SP1-SCK 機能を選択 1: $\overline{\text{DACK1}}$ 機能を選択
4	PH4SEL	0	R/W	ポートH (PTH4) の機能を選択します。 0: SP1-SCK_FB 機能を選択 1: $\overline{\text{ADTRG1}}$ 機能を選択
3	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
2	PH2SEL	0	R/W	ポートH (PTH2) の機能を選択します。 0: $\overline{\text{SP1-SS1}}$ 機能を選択 1: $\overline{\text{ADTRG0}}$ 機能を選択

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
1、0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

40.2.55 ピンセレクトレジスタ3（PSEL3）

PSEL3 は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、ポート I（PTI）、ポート K（PTK）の「その他の機能」とマルチプレクスしている端子の機能を選択します。

「その他の機能」を使用する場合、PSEL3 を設定した後にポートコントロールレジスタを「その他の機能」に設定してください。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PI7SEL	PI6SEL	PI5SEL	PI4SEL	PI3SEL	PI2SEL	PI1SEL	PI0SEL	PK7SEL	—	—	—	—	PK2SEL	PK1SEL	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—	R/W	R/W	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15	PI7SEL	0	R/W	ポートI (PTI7) の機能を選択します。 0: D15 機能を選択 1: SDWP 機能を選択
14	PI6SEL	0	R/W	ポートI (PTI6) の機能を選択します。 0: D14 機能を選択 1: SDCD 機能を選択
13	PI5SEL	0	R/W	ポートI (PTI5) の機能を選択します。 0: D13 機能を選択 1: SDCLK 機能を選択
12	PI4SEL	0	R/W	ポートI (PTI4) の機能を選択します。 0: D12 機能を選択 1: SDCMD 機能を選択
11	PI3SEL	0	R/W	ポートI (PTI3) の機能を選択します。 0: D11 機能を選択 1: SDDAT3 機能を選択
10	PI2SEL	0	R/W	ポートI (PTI2) の機能を選択します。 0: D10 機能を選択 1: SDDAT2 機能を選択
9	PI1SEL	0	R/W	ポートI (PTI1) の機能を選択します。 0: D9 機能を選択 1: SDDAT1 機能を選択
8	PI0SEL	0	R/W	ポートI (PTI0) の機能を選択します。 0: D8 機能を選択 1: SDDAT0 機能を選択
7	PK7SEL	0	R/W	ポートK (PTK7) の機能を選択します。 0: COM2-TXD/TXD1 機能を選択 1: SCK2 機能を選択

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
6 ～ 3	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
2	PK2SEL	0	R/W	ポートK (PTK2) の機能を選択します。 0: $\overline{\text{COM2-DSR}}$/$\overline{\text{DSR1}}$ 機能を選択 1: SCK4 機能を選択
1	PK1SEL	0	R/W	ポートK (PTK1) の機能を選択します。 0: $\overline{\text{COM2-DCD}}$/$\overline{\text{DCD1}}$ 機能を選択 1: SCK3 機能を選択
0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

40.2.56 ピンセレクトレジスタ4（PSEL4）

PSEL4 は、読み出し／書き込み可能な16 ビットのレジスタで、ポートL（PTL）、ポートN（PTN）の「その他の機能」とマルチプレクスしている端子の機能を選択します。

「その他の機能」を使用する場合、PSEL4 を設定した後にポートコントロールレジスタを「その他の機能」に設定してください。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	PL6SEL	PL5SEL	PL4SEL	—	PL2SEL	PL1SEL	PL0SEL	—	—	—	PN4SEL	PN3SEL	PN2SEL	PN1SEL	PN0SEL
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	R/W	R/W	R/W	—	R/W	R/W	R/W	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
14	PL6SEL	0	R/W	ポートL (PTL6) の機能を選択します。 0: RAC-RXD/RXD0 機能を選択 1: RXD2 機能を選択
13	PL5SEL	0	R/W	ポートL (PTL5) の機能を選択します。 0: RAC-$\overline{\text{RTS}}$/$\overline{\text{RTS0}}$ 機能を選択 1: $\overline{\text{CS5}}$ 機能を選択
12	PL4SEL	0	R/W	ポートL (PTL4) の機能を選択します。 0: RAC-$\overline{\text{CTS}}$/$\overline{\text{CTS0}}$ 機能を選択 1: $\overline{\text{CS6}}$ 機能を選択
11	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
10	PL2SEL	0	R/W	ポートL (PTL2) の機能を選択します。（注） 0: RAC-$\overline{\text{DSR}}$/$\overline{\text{DSR0}}$ 機能を選択 1: AUDSYNC 機能を選択

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
9	PL1SEL	0	R/W	ポートL (PTL1) の機能を選択します。（注） 0: RAC-DCD/DCD0 機能を選択 1: AUDCK 機能を選択
8	PL0SEL	0	R/W	ポートL (PTL0) の機能を選択します。 0: RAC-TXD/TXD0 機能を選択 1: TXD2 機能を選択
7～5	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
4	PN4SEL	0	R/W	ポートN (PTN4) の機能を選択します。 0: 選択禁止 1: SGPIO1-CLK 機能を選択
3	PN3SEL	0	R/W	ポートN (PTN3) の機能を選択します。 0: 選択禁止 1: SGPIO1-LOAD 機能を選択
2	PN2SEL	0	R/W	ポートN (PTN2) の機能を選択します。 0: 選択禁止 1: SGPIO1-DO 機能を選択
1	PN1SEL	0	R/W	ポートN (PTN1) の機能を選択します。 0: 選択禁止 1: SGPIO1-DI 機能を選択
0	PN0SEL	0	R/W	ポートN (PTN0) の機能を選択します。 0: 選択禁止 1: SUB-CLKIN 機能を選択

注.　E10Aエミュレータのトレース機能を有効にすると、ビットの設定にかかわらず、これらのポートは強制的にAUDポートとなります。

40.2.57 ピンセレクトレジスタ5（PSEL5）

PSEL5は、読み出し／書き込み可能な16ビットのレジスタで、ポートO（PTO）、ポートT（PTT）の「その他の機能」とマルチプレクスしている端子の機能を選択します。

「その他の機能」を使用する場合、PSEL5を設定した後にポートコントロールレジスタを「その他の機能」に設定してください。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	PO3SEL	PO2SEL	PO1SEL	PO0SEL	PT7SEL	PT6SEL	PT5SEL	PT4SEL	PT3SEL	PT2SEL	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15～12	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
11	PO3SEL	0	R/W	ポートO (PTO3) の機能を選択します。 0: SGPIO2-CLK 機能を選択 1: COM1-TXD 機能を選択
10	PO2SEL	0	R/W	ポートO (PTO2) の機能を選択します。 0: SGPIO2-LOAD 機能を選択 1: COM1-RXD 機能を選択
9	PO1SEL	0	R/W	ポートO (PTO1) の機能を選択します。 0: SGPIO2-DI 機能を選択 1: COM1-RTS 機能を選択
8	PO0SEL	0	R/W	ポートO (PTO0) の機能を選択します。 0: SGPIO2-DO 機能を選択 1: COM1-CTS 機能を選択
7	PT7SEL	0	R/W	ポートT (PTT7) の機能を選択します。（注） 0: PWMX7 機能を選択 1: AUDATA3 機能を選択
6	PT6SEL	0	R/W	ポートT (PTT6) の機能を選択します。（注） 0: PWMX6 機能を選択 1: AUDATA2 機能を選択
5	PT5SEL	0	R/W	ポートT (PTT5) の機能を選択します。（注） 0: PWMX5 機能を選択 1: AUDATA1 機能を選択
4	PT4SEL	0	R/W	ポートT (PTT4) の機能を選択します。（注） 0: PWMX4 機能を選択 1: AUDATA0 機能を選択
3	PT3SEL	0	R/W	ポートT (PTT3) の機能を選択します。 0: PWMX3 機能を選択 1: STATUS1 機能を選択
2	PT2SEL	0	R/W	ポートT (PTT2) の機能を選択します。 0: PWMX2 機能を選択 1: STATUS0 機能を選択

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
1、0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

注.　E10Aエミュレータのトレース機能を有効にすると、ビットの設定にかかわらず、これらのポートは強制的にAUDポートとなります。

40.2.58 ピンセレクトレジスタ6（PSEL6）

PSEL6は、読み出し／書き込み可能な16ビットのレジスタで、ポートV（PTV）の「その他の機能」とマルチプレクスしている端子の機能を選択します。

「その他の機能」を使用する場合、PSEL6を設定した後にポートコントロールレジスタを「その他の機能」に設定してください。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	PV7SEL	PV6SEL	PV5SEL	PV4SEL	PV3SEL	PV2SEL	PV1SEL	PV0SEL
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15～8	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
7	PV7SEL	0	R/W	ポートV (PTV7) の機能を選択します。 0: A23 機能を選択 1: $\overline{\text{COM2-RI}}$/$\overline{\text{RI1}}$ 機能を選択
6	PV6SEL	0	R/W	ポートV (PTV6) の機能を選択します。 0: A22 機能を選択 1: RSPI-MOSI 機能を選択
5	PV5SEL	0	R/W	ポートV (PTV5) の機能を選択します。 0: A21 機能を選択 1: RSPI-MISO機能を選択
4	PV4SEL	0	R/W	ポートV (PTV4) の機能を選択します。 0: A20 機能を選択 1: RSPI-RSPCK機能を選択
3	PV3SEL	0	R/W	ポートV (PTV3) の機能を選択します。 0: A19 機能を選択 1: $\overline{\text{RSPI-SSL0}}$機能を選択
2	PV2SEL	0	R/W	ポートV (PTV2) の機能を選択します。 0: A18 機能を選択 1: $\overline{\text{RSPI-SSL1}}$ 機能を選択
1	PV1SEL	0	R/W	ポートV (PTV1) の機能を選択します。 0: A17 機能を選択 1: EVENT7 機能を選択

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
0	PV0SEL	0	R/W	ポートV (PTV0) の機能を選択します。 0: A16 機能を選択 1: EVENT6 機能を選択

40.2.59 ピンセレクトレジスタ7（PSEL7）

PSEL7は、読み出し／書き込み可能な16 ビットのレジスタで、ポートW（PTW）、ポートX（PTX）の「その他の機能」とマルチプレクスしている端子の機能を選択します。

「その他の機能」を使用する場合、PSEL7 を設定した後にポートコントロールレジスタを「その他の機能」に設定してください。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PW7SEL	PW6SEL	PW5SEL	PW4SEL	PW3SEL	PW2SEL	PW1SEL	PW0SEL	PX7SEL	PX6SEL	PX5SEL	PX4SEL	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15	PW7SEL	0	R/W	ポートW (PTW7) の機能を選択します。 0: A15 機能を選択 1: EVENT5 機能を選択
14	PW6SEL	0	R/W	ポートW (PTW6) の機能を選択します。 0: A14 機能を選択 1: EVENT4 機能を選択
13	PW5SEL	0	R/W	ポートW (PTW5) の機能を選択します。 0: A13 機能を選択 1: EVENT3 機能を選択
12	PW4SEL	0	R/W	ポートW (PTW4) の機能を選択します。 0: A12 機能を選択 1: EVENT2 機能を選択
11	PW3SEL	0	R/W	ポートW (PTW3) の機能を選択します。 0: A11 機能を選択 1: EVENT1 機能を選択
10	PW2SEL	0	R/W	ポートW (PTW2) の機能を選択します。 0: A10 機能を選択 1: EVENT0 機能を選択
9	PW1SEL	0	R/W	ポートW (PTW1) の機能を選択します。 0: A9 機能を選択 1: $\overline{\text{CTS4}}$ 機能を選択
8	PW0SEL	0	R/W	ポートW (PTW0) の機能を選択します。 0: A8 機能を選択 1: $\overline{\text{CTS2}}$ 機能を選択

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	PX7SEL	0	R/W	ポートX (PTX7) の機能を選択します。 0: A7 機能を選択 1: $\overline{\text{RTS2}}$ 機能を選択
6	PX6SEL	0	R/W	ポートX (PTX6) の機能を選択します。 0: A6 機能を選択 1: SIM_D 機能を選択
5	PX5SEL	0	R/W	ポートX (PTX5) の機能を選択します。 0: A5 機能を選択 1: SIM_CLK 機能を選択
4	PX4SEL	0	R/W	ポートX (PTX4) の機能を選択します。 0: A4 機能を選択 1: SIM_RST 機能を選択
3 ～ 0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

40.2.60 ノイズキャンセライネーブルレジスタ（NCER）

NCERは、読み出し／書き込み可能な16ビットのレジスタで、ポートB（PTB）、ポートC（PTC）のノイズキャンセル回路のイネーブルとディスエーブルをビットごとに制御します。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PB7NCE	PB6NCE	PB5NCE	PB4NCE	PB3NCE	PB2NCE	PB1NCE	PB0NCE	PC7NCE	PC6NCE	PC5NCE	PC4NCE	PC3NCE	PC2NCE	PC1NCE	PC0NCE
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 ～ 8	PB7NCE ～ PB0NCE	すべて0	R/W	ノイズキャンセル回路をイネーブルにして、NCCSR で設定したサンプリング周波数で端子状態をPBDR に取り込みます。 0：ノイズキャンセル回路無効 1：ノイズキャンセル回路有効
7 ～ 0	PC7NCE ～ PC0NCE	すべて0	R/W	ノイズキャンセル回路をイネーブルにして、NCCSR で設定したサンプリング周波数で端子状態をPCDR に取り込みます。 0：ノイズキャンセル回路無効 1：ノイズキャンセル回路有効

40.2.61 ノイズキャンセラモードコントロールレジスタ（NCMCR）

NCMCR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、ポート B（PTB）、ポート C（PTC）の入力信号で 1 期待か 0 期待かをビットごとに設定します。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PB7NCMC	PB6NCMC	PB5NCMC	PB4NCMC	PB3NCMC	PB2NCMC	PB1NCMC	PB0NCMC	PC7NCMC	PC6NCMC	PC5NCMC	PC4NCMC	PC3NCMC	PC2NCMC	PC1NCMC	PC0NCMC
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 ～ 8	PB7NCMC ～ PB0NCMC	すべて 0	R/W	ノイズキャンセル回路の動作モードを選択します。 0：0 が安定して端子に入力されている時に PBDR に 0 が格納されます。 1：1 が安定して端子に入力されている時に PBDR に 1 が格納されます。
7 ～ 0	PC7NCMC ～ PC0NCMC	すべて 0	R/W	ノイズキャンセル回路の動作モードを選択します。 0：0 が安定して端子に入力されている時に PCDR に 0 が格納されます。 1：1 が安定して端子に入力されている時に PCDR に 1 が格納されます。

40.2.62 ノイズキャンセラ周期設定レジスタ（NCCSR）

NCCSR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、ポート B（PTB）、ポート C（PTC）のノイズキャンセル回路のサンプリング周期を設定します。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	PBNCCK[2:0]			—	—	—	—	—	PCNCCK[2:0]		
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 ～ 11	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
10 ～ 8	PBNCCK2 ～ PBNCCK0	000	R/W	ポート B のノイズキャンセル回路のサンプリング周期を設定します Pck = 48 MHz 000 ：0.04 us　Pck/2 001 ：0.67 us　Pck/32 010 ：10.7 us　Pck/512 011 ：170.7 us　Pck/8192 100 ：682.7 us　Pck/32768 101 ：1.4 ms　Pck/65536 110 ：2.7 ms　Pck/131072 111 ：5.5 ms　Pck/262144

7 ～ 3	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
2 ～ 0	PCNCCK2 ～ PCNCCK0	000	R/W	ポートC のノイズキャンセル回路のサンプリング周期を設定します Pck = 48 MHz 000 ：0.04 us　Pck/2 001 ：0.67 us　Pck/32 010 ：10.7 us　Pck/512 011 ：170.7 us　Pck/8192 100 ：682.7 us　Pck/32768 101 ：1.4 ms　Pck/65536 110 ： 2.7 ms　Pck/131072 111 ： 5.5 ms　Pck/262144

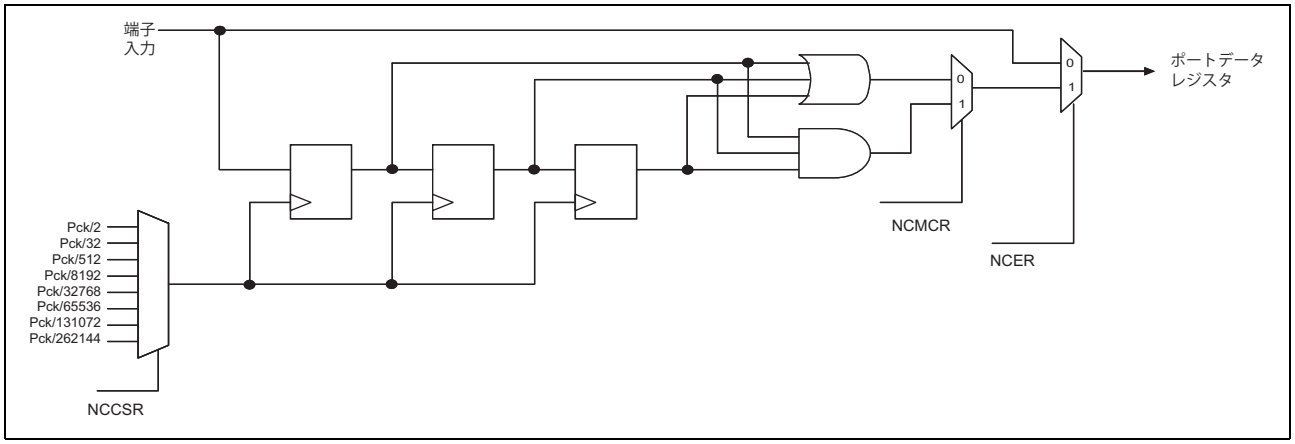


図 40.1　ノイズキャンセル回路

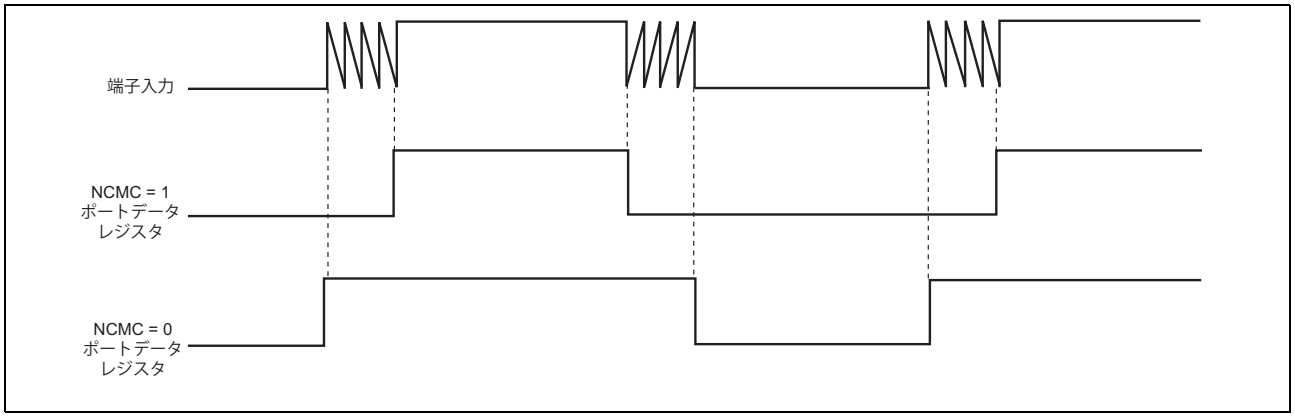


図 40.2　ノイズキャンセル回路動作概念図

40.3 使用例

汎用入出力ポート（GPIO）の設定手順の例を示します。

40.3.1 ポート出力機能

ポート出力機能の設定は、ポートコントロールレジスタ（PACR～POCR、PQCR～PZCR）の該当する2ビットにB'01を書き込んでください。ポートデータレジスタ（PADR～PODR、PQDR～PZDR）の該当するビットの値を端子に出力します。

40.3.2 ポート入力機能

ポート入力機能の設定は、ポートコントロールレジスタ（PACR～PZCR）の該当する2ビットにプルアップMOSを使用しない場合はB'10を、使用する場合はB'11を書き込んでください。ポートデータレジスタ（PADR～PZDR）の該当するビットから端子に入力している値が読み出せます。

また、「その他の機能」の入力端子に設定した端子に対しても、ポートデータレジスタ（PADR～PZDR）の該当するビットから端子状態が読み出せます。

40.3.3 周辺モジュール機能

周辺モジュール機能の設定は、まずピンセレクトレジスタ（PSEL0～PSEL7）で使用するモジュールを選択してください。

最後に、ポートコントロールレジスタ（PACR～PZCR）の該当する2ビットにB'00を書き込んでください。

40.3.4 AUD モジュール機能

E10Aエミュレータのトレース機能を有効にすると、ピンセレクトレジスタ(PSEL4、PSEL5)の設定、ポートコントロールレジスタ(PLCR、PTCR)の設定にかかわらず、以下のポートは強制的にAUDポートとなります。

AUDSYNC(PTL2)、AUDCK(PTL1)、AUDATA3(PTT7)、AUDATA2(PTT6)、AUDATA1(PTT5)、AUDATA0(PTT4)

41. ユーザブレークコントローラ（UBC）

ユーザブレークコントローラ（UBC）は、プログラムデバッグを容易にする機能を提供します。この機能を使用することにより、セルフモニタデバッガを容易に作成でき、インサーキットエミュレータを使用しなくても、本LSI単体で手軽にプログラムをデバッグできます。UBCに設定できるブレーク条件には、命令フェッチ又はオペランドの読み出し書き込み、オペランドのサイズ、データの内容、アドレスの値、及び命令フェッチのときの停止タイミングがあります。

41.1 特長

(1) ブレークチャネル数：2チャネル（チャネル0と1）
ユーザブレークは、チャネル0、1独立に、又は連続した（シーケンシャル）一つの条件として設定することができます（シーケンシャルブレーク設定：チャネル0のブレーク条件が一致した後チャネル1のブレーク条件の一致が発生、又はチャネル1のブレーク条件が一致した後チャネル0のブレーク条件の一致が発生し、しかも両者が同じバスサイクルで発生しないとき）。
以下のようなブレーク比較条件を設定できます。

- アドレス
  ASIDとアドレス32ビットから構成された40ビットの比較において、ASIDは全ビット比較又は全ビットマスクのいずれかを選択できます。
  アドレス32ビットの比較はビットごとにマスク可能で、ユーザは下位12ビット（4Kバイトページ）、下位10ビット（1Kバイトページ）、あるいは任意の大きさのページ等でアドレスをマスク可能です。

- データ
  チャネル1のみ、32ビットマスク可能。

- バスサイクル
  命令フェッチでのブレーク（PCブレーク）又はオペランドアクセスでのブレーク

- 読み出し又は書き込み

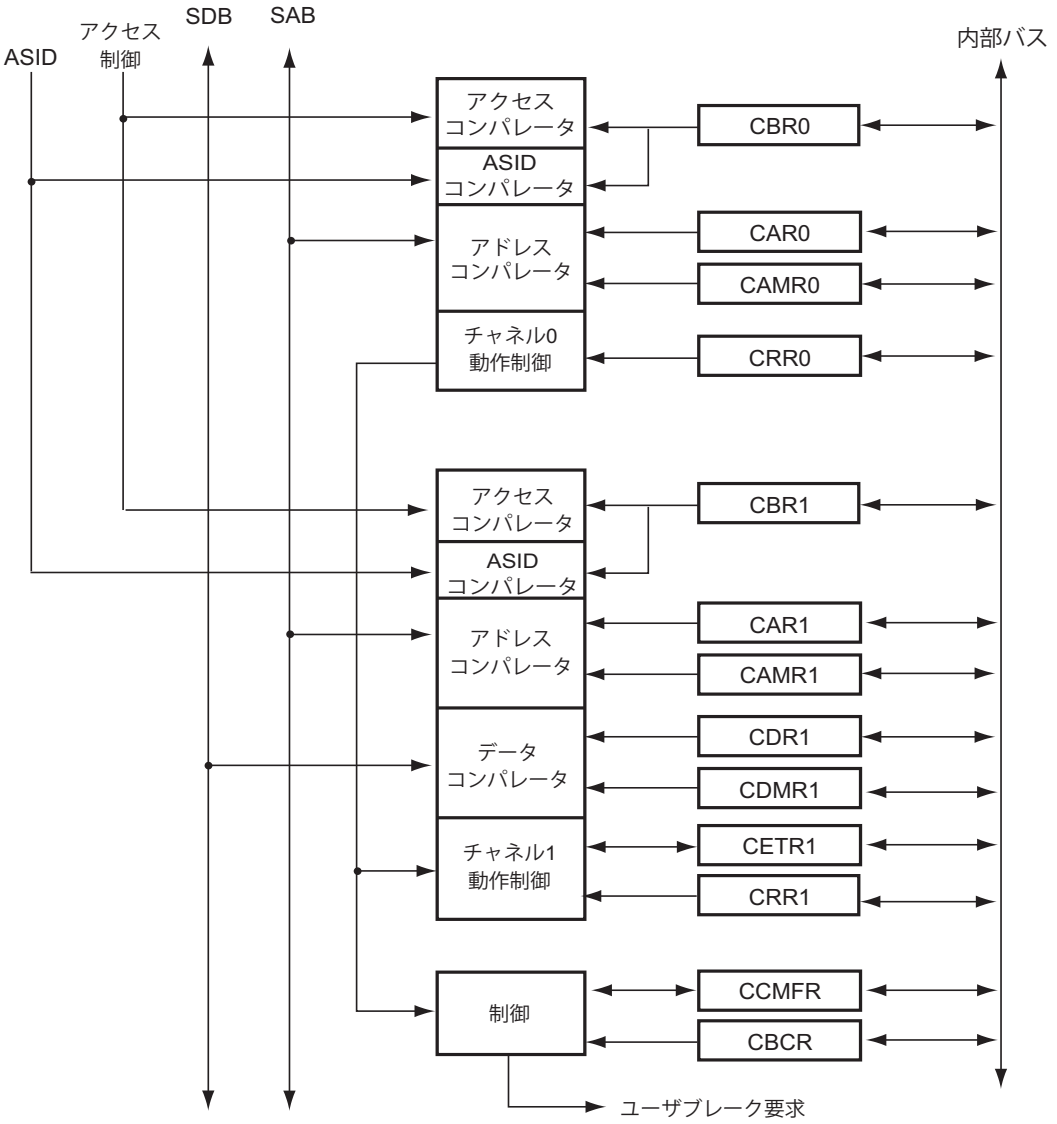
- オペランドサイズ
  バイト、ワード、及びロングワードをサポート

(2) ユーザ指定のユーザブレーク条件例外処理ルーチンを実行可能。

(3) PCブレークにおいて、ブレークを命令の実行の前に設定するか、後に設定するかを指定可能。

(4) ブレーク条件（チャネル1に対してのみ）として、最大$2^{12}-1$回まで繰り返し回数を指定可能。

図41.1 にUBC のブロック図を示します。



【記号説明】

CBR0	：マッチ条件設定レジスタ0	CAMR1	：マッチアドレスマスク設定レジスタ1
CRR0	：マッチ動作設定レジスタ0	CDR1	：マッチデータ設定レジスタ1
CAR0	：マッチアドレス設定レジスタ0	CDMR1	：マッチデータマスク設定レジスタ1
CAMR0	：マッチアドレスマスク設定レジスタ0	CETR1	：実行回数ブレークレジスタ1
CBR1	：マッチ条件設定レジスタ1	CCMFR	：チャネルマッチフラグレジスタ
CRR1	：マッチ動作設定レジスタ1	CBCR	：ブレークコントロールレジスタ
CAR1	：マッチアドレス設定レジスタ1	SAB	：オペランドアドレスバス
		SDB	：オペランドデータバス

図 41.1　UBC のブロック図

41.2　レジスタの説明

UBC のレジスタ構成を表41.1 に示します。

指定されたビット幅でレジスタにアクセスしてください。指定されたビット幅以外のサイズでレジスタにアクセスした場合、動作は保証できません。

表41.1　レジスタ構成

名称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態	
					パワーオンリセット	マニュアルリセット
マッチ条件設定レジスタ0	CBR0	R/W	H'FF20 0000	32	H'2000 0000	保持
マッチ動作設定レジスタ0	CRR0	R/W	H'FF20 0004	32	H'0000 2000	保持
マッチアドレス設定レジスタ0	CAR0	R/W	H'FF20 0008	32	H'XXX XXXX	保持
マッチアドレスマスク設定レジスタ0	CAMR0	R/W	H'FF20 000C	32	H'XXX XXXX	保持
マッチ条件設定レジスタ1	CBR1	R/W	H'FF20 0020	32	H'2000 0000	保持
マッチ動作設定レジスタ1	CRR1	R/W	H'FF20 0024	32	H'0000 2000	保持
マッチアドレス設定レジスタ1	CAR1	R/W	H'FF20 0028	32	H'XXX XXXX	保持
マッチアドレスマスク設定レジスタ1	CAMR1	R/W	H'FF20 002C	32	H'XXX XXXX	保持
マッチデータ設定レジスタ1	CDR1	R/W	H'FF20 0030	32	H'XXX XXXX	保持
マッチデータマスク設定レジスタ1	CDMR1	R/W	H'FF20 0034	32	H'XXX XXXX	保持
実行回数ブレークレジスタ1	CETR1	R/W	H'FF20 0038	32	H'0000 0XXX	保持
チャネルマッチフラグレジスタ	CCMFR	R/W	H'FF20 0600	32	H'0000 0000	保持
ブレークコントロールレジスタ	CBCR	R/W	H'FF20 0620	32	H'0000 0000	保持

上記のレジスタを書き換える命令を実行してから実際にその値が反映されるまでの期間は、所望のブレークが発生しない場合があります。コントロールレジスタが変更されるタイミングを知るためには、最後に書き込んだデータを読み出してください。それ以降の命令は、新しく書き込んだレジスタ値に対して有効です。

41.2.1　マッチ条件設定レジスタ0、1（CBR0、CBR1）

CBR0、CBR1は、読み出し／書き込み可能な32ビットのレジスタであり、それぞれチャネル0、チャネル1のブレーク条件を指定します。設定可能なブレーク条件は、(1) マッチフラグの有無、(2) ASIDの有無とその値、(3) データ値の有無、(4) オペランドサイズ、(5) 実行回数の有無、(6) バスタイプ、(7) 命令フェッチ又はオペランドアクセス、(8) 読み出し又は書き込みです。

• CBR0

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	MFE	AIE	MFI						AIV							
初期値：	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	SZ			—	—	—	—	CD		ID		—	RW		CE
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	—	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31	MFE	0	R/W	マッチフラグイネーブル マッチ条件に本レジスタのMFI ビットで指定したマッチフラグの値を含めるかどうかを指定します。指定したマッチフラグの値が1 のとき、条件一致となります。 0：マッチフラグはマッチ条件に含まれず、チェックされない 1：マッチ条件にマッチフラグを含める
30	AIE	0	R/W	ASID イネーブル マッチ条件に本レジスタのAIV ビットで指定したASID を含めるかどうかを指定します。 0：ASID はマッチ条件に含まれず、チェックされない 1：マッチ条件にASID を含める
29 ～ 24	MFI	100000	R/W	マッチフラグ指定（注） マッチ条件とするマッチフラグを指定します。 000000：CCMFR レジスタのMF0 ビット 000001：CCMFR レジスタのMF1 ビット 上記以外：リザーブ（設定禁止）
23 ～ 16	AIV	H’00	R/W	ASID 指定 マッチ条件とするASID 値を指定します。
15	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
14 ～ 12	SZ	000	R/W	オペランドサイズセレクト マッチ条件とするオペランドサイズを指定します。本ビットは、オペランドアクセスサイクルを対象とする場合のみ有効です。 000：オペランドサイズはマッチ条件に含まれず、チェックされない（すべてのサイズが対象となる） 001：バイトアクセスを対象とする 010：ワードアクセスを対象とする 011：ロングワードアクセスを対象とする 上記以外：リザーブ（設定禁止）
11 ～ 8	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
7、6	CD	00	R/W	バスセレクト マッチ条件とするバスを指定します。本ビットは、オペランドアクセスサイクルを対象とする場合のみ有効です。 00：オペランドアクセスにおいてオペランドバスを対象とする 上記以外：リザーブ（設定禁止）
5、4	ID	00	R/W	命令フェッチ／オペランドアクセスセレクト マッチ条件として、命令フェッチサイクル又はオペランドアクセスサイクルを指定します。 00：命令フェッチサイクル又はオペランドアクセスサイクルを対象とする 01：命令フェッチサイクルを対象とする 10：オペランドアクセスサイクルを対象とする 11：命令フェッチサイクル又はオペランドアクセスサイクルを対象とする
3	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
2、1	RW	00	R/W	バスコマンドセレクト マッチ条件として、読み出しサイクル又は書き込みサイクルを指定します。本ビットは、オペランドアクセスサイクルを対象とする場合のみ有効です。 00：読み出しサイクル又は書き込みサイクルを対象とする 01：読み出しサイクルを対象とする 10：書き込みサイクルを対象とする 11：読み出しサイクル又は書き込みサイクルを対象とする
0	CE	0	R/W	チャネルイネーブル チャネルを有効にするかどうかを指定します。本ビットに0 を設定した場合、他のビットの設定はすべて無効です。 0：本チャネルは無効 1：本チャネルは有効

注.　初期値はリザーブ（設定禁止）の状態になりますが、CBR0[0]に1を書き込む際に必ず000000 あるいは000001 を設定してください。
またMF0 ビット（CCRMF レジスタのビット0）が0 の状態で、本レジスタのMFE ビットを1 に、MFI ビットを000000 に設定するとチャネル0でヒットしなくなりますので注意してください。

• CBR1

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	MFE	AIE	MFI						AIV							
初期値：	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	DBE	SZ			ETBE	—	—	—	CD		ID		—	RW		CE
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	—	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31	MFE	0	R/W	マッチフラグイネーブル マッチ条件に本レジスタのMFI ビットで指定したマッチフラグの値を含めるかどうかを指定します。指定したマッチフラグの値が1のとき、条件一致となります。 0：マッチフラグはマッチ条件に含まれず、チェックされない 1：マッチ条件にマッチフラグを含める
30	AIE	0	R/W	ASID イネーブル マッチ条件に本レジスタのAIV ビットで指定したASID を含めるかどうかを指定します。 0：ASID はマッチ条件に含まれず、チェックされない 1：マッチ条件にASID を含める
29～24	MFI	100000	R/W	マッチフラグ指定（注1） マッチ条件とするマッチフラグを指定します。 000000：CCMFR レジスタのMF0 ビット 000001：CCMFR レジスタのMF1 ビット 上記以外：リザーブ（設定禁止）
23～16	AIV	0	R/W	ASID 指定 マッチ条件とするASID 値を指定します。
15	DBE	0	R/W	データ値イネーブル（注2） マッチ条件にデータ値を含めるかどうかを指定します。本ビットは、オペランドアクセスサイクルを対象とする場合のみ有効です。 0：データ値はマッチ条件に含まれず、チェックされない 1：マッチ条件にデータ値を含める
14～12	SZ	0	R/W	オペランドサイズセレクト マッチ条件とするオペランドサイズを指定します。本ビットは、オペランドアクセスサイクルを対象とする場合のみ有効です。 000：オペランドサイズはマッチ条件に含まれず、チェックされない（すべのサイズが対象となる） 001：バイトアクセスを対象とする 010：ワードアクセスを対象とする 011：ロングワードアクセスを対象とする 上記以外：リザーブ（設定禁止）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
11	ETBE	0	R/W	実行回数値イネーブル マッチ条件に実行回数値を含めるかどうかを指定します。このビットが1の場合、マッチ条件が成立した回数がCETR1 レジスタで指定した値と等しくなったとき、CRR1 レジスタで指定した動作が発生します。 0：実行回数値はマッチ条件に含まれず、チェックされない 1：マッチ条件に実行回数値を含める
10 ～ 8	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
7、6	CD	0	R/W	バスセレクト マッチ条件とするバスを指定します。本ビットは、オペランドアクセスサイクルを対象とする場合のみ有効です。 00：オペランドアクセスにおいてオペランドバスを対象とする 上記以外：リザーブ（設定禁止）
5、4	ID	0	R/W	命令フェッチ／オペランドアクセスセレクト マッチ条件として、命令フェッチサイクル又はオペランドアクセスサイクルを指定します。 00：命令フェッチサイクル又はオペランドアクセスサイクルを対象とする 01：命令フェッチサイクルを対象とする 10：オペランドアクセスサイクルを対象とする 11：命令フェッチサイクル又はオペランドアクセスサイクルを対象とする
3	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
2、1	RW	0	R/W	バスコマンドセレクト マッチ条件として、読み出しサイクル又は書き込みサイクルを指定します。本ビットは、オペランドアクセスサイクルを対象とする場合のみ有効です。 00：読み出しサイクル又は書き込みサイクルを対象とする 01：読み出しサイクルを対象とする 10：書き込みサイクルを対象とする 11：読み出しサイクル又は書き込みサイクルを対象とする
0	CE	0	R/W	チャネルイネーブル チャネルを有効にするかどうかを指定します。本ビットに0 を設定した場合、他のビットの設定はすべて無効です。 0：本チャネルは無効 1：本チャネルは有効

注.1　初期値はリザーブ（設定禁止）の状態になりますが、CBR1[0]に1を書き込む際に必ず000000 あるいは000001 を設定してください。また、MF1 ビット（CCRMF レジスタのビット1）が0 の状態で、本レジスタのMFE ビットを1 に、MFI ビットを000001 に設定するとチャネル1 でヒットしなくなりますので注意してください。

2.　データ値をマッチ条件に含める場合は、SZ ビットでオペランドサイズ（SZ=001又は010又は011）を指定してください。また、OCBI 命令はデータ値のないロングワード書き込み、PREF、OCBP、OCBWB 命令はデータ値のないロングワード読み出しとして扱います。これらの命令に対してマッチ条件を設定する場合、データ値を含めないようにしてください。

41.2.2　マッチ動作設定レジスタ0、1（CRR0、CRR1）

CRR0、CRR1は、読み出し／書き込み可能な32ビットのレジスタであり、それぞれチャネル0、チャネル1がマッチ条件を満たした場合の動作を指定します。設定可能な動作内容は、(1) 命令フェッチサイクルに対するブレークタイミング、(2) ブレーク要求の有無です。

・CRR0、CRR1

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	PCB	BIE
初期値：	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 14	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
13	—	1	—	リザーブビット （読み出すと“1”が読めます。書き込む値は“1”にしてください）
12～ 2	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
1	PCB	0	R/W	PC ブレークセレクト 命令フェッチサイクルのブレークタイミングが命令実行の前か後かを指定します。命令フェッチサイクル以外のブレークに対して、本ビットは無効です。 0：PC ブレークを命令実行前に設定する 1：PC ブレークを命令実行後に設定する
0	BIE	0	R/W	ブレークイネーブル チャネルのマッチ条件が成立したときに、ブレークを要求するかどうかを指定します。 0：ブレーク要求しない 1：ブレークを要求する

41.2.3　マッチアドレス設定レジスタ0、1（CAR0、CAR1）

CAR0、CAR1は、それぞれ読み出し／書き込み可能な32ビットのレジスタであり、チャネル0、チャネル1のブレーク条件とする仮想アドレスを指定します。

• CAR0

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	CA															
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	CA															
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～0	CA	不定	R/W	比較アドレス ブレーク条件とするアドレスを指定します。 CBR0 レジスタによりオペランドバスを指定した場合は、CA[31:0]にSABのアドレスを指定します。

• CAR1

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	CA															
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	CA															
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～0	CA	不定	R/W	比較アドレス ブレーク条件とするアドレスを指定します。 CBR1 レジスタによりオペランドバスを指定した場合は、CA[31:0]にSABのアドレスを指定します。

41.2.4　マッチアドレスマスク設定レジスタ0、1（CAMR0、CAMR1）

CAMR0、CAMR1は、それぞれ読み出し／書き込み可能な32ビットのレジスタであり、対応するチャネルのマッチアドレス設定レジスタによって指定されるアドレスビットのうちマスクするビットを指定します（マスクするビットに1を設定します）。

• CAMR0

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	CAM															
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	CAM															
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～0	CAM	不定	R/W	比較アドレスマスク CAR0 レジスタによって指定されるアドレスビットのうちマスクするビットを指定します（マスクするビットに1 を指定します）。 0：アドレスビットCA[n]は、ブレーク条件に含まれる 1：アドレスビットCA[n]はマスクされ、ブレーク条件に含まれない 注.n＝31～0

• CAMR1

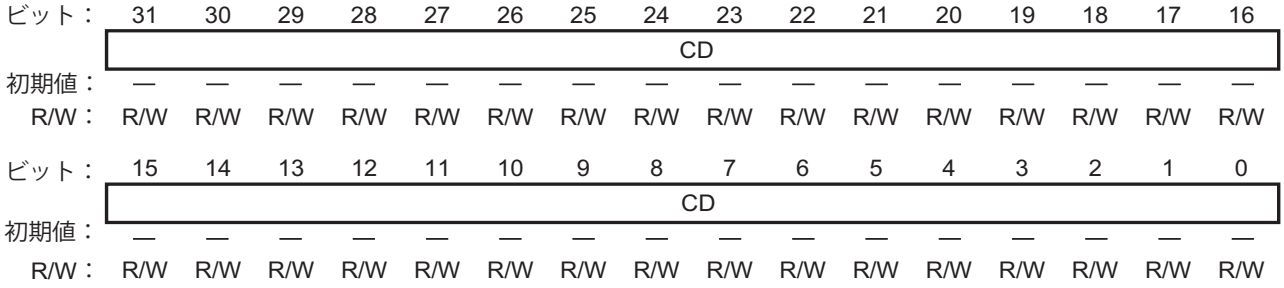
ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	CAM															
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	CAM															
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	CAM	不定	R/W	比較アドレスマスク CAR1 レジスタによって指定されるアドレスビットのうちマスクするビットを指定します（マスクするビットに1 を指定します）。 0：アドレスビットCA[n]は、ブレーク条件に含まれる 1：アドレスビットCA[n]はマスクされ、ブレーク条件に含まれない 注.n＝31～0

41.2.5　マッチデータ設定レジスタ1（CDR1）

CDR1は、読み出し／書き込み可能な32ビットのレジスタであり、チャネル1のブレーク条件とするデータ値を指定します。



ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～0	CD	不定	R/W	比較データ値 ブレーク条件とするデータ値を指定します。 CBR1 レジスタによりオペランドバスを指定した場合は、CD[31:0]にSDBのデータ値を指定します。

表41.2　マッチデータ設定レジスタの指定

CBR1 でのバスセレクト	CD[31:24]	CD[23:16]	CD[15:8]	CD[7:0]
オペランドバス（バイト）	Don't care	Don't care	Don't care	SDB7 ～ SDB0
オペランドバス（ワード）	Don't care	Don't care	SDB15 ～ SDB8	SDB7 ～ SDB0
オペランドバス（ロングワード）	SDB31 ～ SDB24	SDB23 ～ SDB16	SDB15 ～ SDB8	SDB7 ～ SDB0

注1.　データ値をマッチ条件に含める場合は、オペランドサイズを指定してください。
2.　OCBI 命令はデータ値のないロングワード書き込み、PREF、OCBP、OCBWB 命令はデータ値のないロングワード読み出しとして扱います。これらの命令に対してマッチ条件を設定する場合、データ値を含めないようにしてください。

41.2.6　マッチデータマスク設定レジスタ1（CDMR1）

CDMR1は、読み出し／書き込み可能な32ビットのレジスタであり、マッチデータよって指定されるデータ値のうちマスクするビットを指定します（マスクするビットに1を設定します）。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	CDM															
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	CDM															
初期値：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	CDM	不定	R/W	比較データ値マスク CDR1 レジスタによって指定されるデータ値のうちマスクするビットを指定します（マスクするビットに1 を指定します）。 0：データ値ビットCD[n]は、ブレーク条件に含まれる 1：データ値ビットCD[n]はマスクされ、ブレーク条件に含まれない 注.n＝31～0

41.2.7　実行回数ブレークレジスタ1（CETR1）

CETR1は、読み出し／書き込み可能な32ビットのレジスタであり、ブレークが発生するまでのチャネルヒット回数を指定します。指定できる最大値は$2^{12}-1$です。マッチ条件設定レジスタによりマッチ条件に実行回数値を含めた場合、チャネルがヒットするごとに本レジスタ値は1ずつデクリメントされ、レジスタ値がH'001になった後さらにヒットするとブレークが発生します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	CET											
初期値：	0	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W：	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 12	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
11 ～ 0	CET	不定	R/W	実行回数 ブレーク条件とする実行回数を指定します。

41.2.8　チャネルマッチフラグレジスタ（CCMFR）

CCMFR は、読み出し／書き込み可能な32 ビットのレジスタであり、各チャネルのマッチ条件が成立したかどうかを示します。チャネルのマッチ条件が成立した場合、対応するフラグビットに1 が設定されます。フラグのクリアは、クリアしたいビットを0、それ以外のビットを1 にしたデータを本レジスタに書き込むことで行います（書き込み値と現在値の論理積が書き込まれます）。本マッチフラグを用いることで、複数チャネルによるシーケンシャル動作を実現できます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	MF1	MF0
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 2	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
1	MF1	0	R/W	チャネル1 条件一致フラグ チャネル1 にセットしたマッチ条件が成立すると、このフラグは1 にセットされます。フラグをクリアするには、このビットに0 を書き込みます。 0：チャネル1 のマッチ条件不一致 1：チャネル1 のマッチ条件一致
0	MF0	0	R/W	チャネル0 条件一致フラグ チャネル0 にセットしたマッチ条件が成立すると、このフラグは1 にセットされます。フラグをクリアするには、このビットに0 を書き込みます。 0：チャネル0 のマッチ条件不一致 1：チャネル0 のマッチ条件一致

41.2.9　ブレークコントロールレジスタ（CBCR）

CBCR は、読み出し／書き込み可能な32 ビットのレジスタであり、ユーザブレークデバッグサポート機能を使用するかどうかを指定します。ユーザブレークデバッグサポート機能の詳細については、「41.4 ユーザブレークデバッグサポート機能」を参照してください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	UBDE
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～1	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
0	UBDE	0	R/W	ユーザブレークデバッグサポート機能イネーブル ユーザブレークデバッグサポート機能を使用するかどうかを指定します。 0：デバッグサポート機能を使用しない 1：デバッグサポート機能を使用する

41.3　動作説明

41.3.1　アクセスに関する用語の説明

命令フェッチとは、命令を取得するアクセスを指します。たとえば、分岐命令の実行による分岐先命令のフェッチは命令アクセスです。オペランドアクセスとは、命令実行による任意のメモリアクセスを指します。たとえば、命令MOV.W @(disp,PC),Rn のアドレス（PC＋disp×2＋4）に対するアクセスはオペランドアクセスです。「データ」という用語は「アドレス」との対比で使用します。

すべてのオペランドアクセスは、読み出しアクセス又は書き込みアクセスのいずれかに分類されます。次の命令は特別の注意が必要です。

- PREF、OCBP、及びOCBWB命令　：読み出しアクセスとして扱います。
- MOVCA.L、及びOCBI命令　：書き込みアクセスとして扱います。
- TAS.B命令　：1つの読み出しアクセス、1つの書き込みアクセスとして扱います。

PREF、OCBP、OCBWB、OCBI 命令によるオペランドアクセスはデータ値のないアクセスです。これらの命令に対してマッチ条件を設定する場合、データ値を含めないようにしてください。

すべてのオペランドアクセスは、オペランドサイズが定義されます。オペランドサイズには、バイト、ワード、ロングワードがあります。PREF、OCBP、OCBWB、MOVCA.L、OCBI 命令によるオペランドアクセスにおいては、オペランドサイズはロングワードとして定義されます。

41.3.2　ユーザブレーク動作の流れ

ブレーク条件の設定からユーザブレーク例外処理までの動作の流れは、次のとおりです。

1. マッチ条件とするオペランドサイズ、バス、命令フェッチ／オペランドアクセス、読み出し／書き込み条件を、マッチ条件設定レジスタ（CBR0又はCBR1）により指定します。ブレークアドレスをマッチアドレス設定レジスタ（CAR0、CAR1）、アドレスのマスク条件をマッチアドレスマスク設定レジスタ（CAMR0、CAMR1）により指定します。マッチ条件にASIDを含める場合は、AIEビット（マッチ条件設定レジスタのビット30）をセットし、AIVビット（同23～16ビット）によりASIDを指定します。マッチ条件にデータ値を含める場合は、DBE ビット（マッチ条件設定レジスタのビット15）をセットし、ブレークデータをマッチデータ設定レジスタ（CDR1）、データのマスク条件をマッチデータマスク設定レジスタ（CDMR1）により指定します。マッチ条件に実行回数を含める場合は、ETBEビット（マッチ条件設定レジスタのビット11）をセットし、実行回数条件を実行回数ブレークレジスタ（CETR1）により指定します。シーケンシャルブレークを設定する場合、MFEビット（マッチ条件設定レジスタのビット31）をセットし、シーケンス元チャネル番号をMFIにより指定します。

2. マッチ条件が成立した場合のブレーク要求の有無、命令フェッチによる条件成立の場合のブレーク位置を、マッチ動作設定レジスタ（CRR0、CRR1）により指定します。他のすべてのレジスタ、及びCE ビット（マッチ条件設定レジスタのビット0）を除くビットの設定が終了したのち、マッチ条件設定レジスタのCE ビットをセットし、再度マッチ条件設定レジスタを読み出してください。この手順により、コントロールレジスタの設定値が直後の後続命令から有効となることを保証できます。リセット後、初期状態のコントロールレジスタからCE ビット（CBR0、CBR1 レジスタのビット0）をセットした場合、意図しないブレークが発生する場合があります。

3. マッチ条件が成立すると、チャネルマッチフラグレジスタ（CCMFR）の該当する条件一致フラグ（MF1、MF0）がセットされます。さらに、マッチ動作設定レジスタ（CRR0、CRR1）の設定内容により、CPU へのブレーク要求が発生します。SR レジスタのBL ビットにより、ブレーク要求に対するCPU の動作が異なります。BL ビットが0 のとき、ブレーク要求は受理され所定の例外処理が行われますが、BL ビットが1 の場合例外処理は行われません。

4. マッチ条件の一致又は不一致をチェックするため、該当する条件一致フラグ（MF1、MF0）を使用することができます。フラグは条件一致によりセットされますが、自動的にクリアされません。フラグを再び使用できるようにするためには、チャネルマッチフラグレジスタ（CCMFR）に対するメモリストア命令により0を書き込んでください。

5. チャネル0及びチャネル1で設定したブレークがほぼ同時に発生する場合があります。CPUに対するブレーク要求は1つだけであっても、これらのブレークに対する条件一致フラグが2つともセットされる場合があります。

6. SRレジスタのBLビットが1の期間は、すべてのブレーク要求は受理されません。ただし、条件判定は行われ、一致した場合は条件一致フラグがセットされます。

7. シーケンシャル条件指定時、各チャネルのマッチ条件が成立するごとに該当する条件一致フラグがセットされます。シーケンス元チャネルのマッチ条件が成立し、シーケンス先チャネルのマッチ条件が未成立のときにシーケンス元チャネルのマッチ状態をクリアするには、シーケンス元チャネルの条件一致フラグをクリアしてください。

41.3.3　命令フェッチサイクルブレーク

1. マッチ条件設定レジスタ（CBR0 又は CBR1）に命令フェッチが設定されると、マッチ条件は命令フェッチとなります。マッチ条件によりブレーク要求を発生させる場合、該当するチャネルに対するBIEビット（マッチ動作設定レジスタ（CRR0又はCRR1）のビット0）をセットしてください。ブレークのタイミングを命令実行の前にするか後にするかは、PCBビット（マッチ動作設定レジスタ（CRR0又はCRR1）のビット1）で指定できます。マッチ条件として命令フェッチサイクルを指定する場合、マッチアドレス設定レジスタ（CAR0又はCAR1）のLSBを0にしてください。このビットが1にセットされているとブレークは発生しません。

2. 命令フェッチサイクルにおいて命令実行前ブレークを指定すると、命令がフェッチされ実行することが確定した時点でブレーク要求が発生します。したがって、この機能はオーバラン（分岐又は割り込みの遷移中にフェッチされ、しかも実行されない命令）によってフェッチされる命令には使用できません。命令実行前ブレークと他の例外との優先順位については、「6. 例外処理」を参照してください。遅延分岐命令の遅延スロットに対して実行前ブレークが指定されると、遅延分岐命令の実行前にブレークが発生します。ただし、RTE命令の遅延スロットには実行前ブレークを指定しないでください。

3. 命令フェッチサイクルにおいて命令実行後ブレークを指定すると、マッチ条件と一致した命令が実行されたのち、次の命令の実行前にブレークが発生します。実行前のブレークの場合と同様、オーバランによってフェッチされる命令には使用できません。命令実行後ブレークと他の例外との優先順位については、「6. 例外処理」を参照してください。遅延分岐命令及びその遅延スロットに対して実行後ブレークが指定されると、分岐先の最初の命令までブレークは発生しません。

4. チャネル1のマッチ条件として命令フェッチサイクルを指定すると、DBEビット（CBR1 レジスタのビット15）は無効となり、マッチデータ設定レジスタCDR1及びマッチデータマスク設定レジスタCDMR1の設定は無視されます。したがって、命令フェッチサイクルのブレークには、データ値を設定することはできません。

41.3.4　オペランドアクセスサイクルブレーク

1. オペランドアクセスサイクルブレークの場合、マッチ条件設定レジスタ（CBR0又はCBR1）のオペランドサイズ指定と、条件比較の対象となるアドレスとの関係は、以下のようになります。

表41.3　オペランドサイズ指定と比較対象アドレス

オペランドサイズセレクト	比較アドレスビット
ロングワード	アドレスビットA31～A2
ワード	アドレスビットA31～A1
バイト	アドレスビットA31～A0
マッチ条件に含まれない	ロングワードアクセス時のアドレスビットA31～A2 ワードアクセス時のアドレスビットA31～A1 バイトアクセス時のアドレスビットA31～A0

これは、たとえばマッチアドレス設定レジスタ（CAR0又はCAR1）にアドレスH'0000 1003を設定するとき、マッチ条件が成立するオペランドアクセスサイクルには、(他のすべての条件が成立すると仮定した場合）以下が含まれることを意味します。

アドレスH'0000 1000に対するロングワードアクセス
アドレスH'0000 1002に対するワードアクセス
アドレスH'0000 1003に対するバイトアクセス

2. チャネル1のマッチ条件にデータ値が含まれる場合
データ値をマッチ条件に含める場合は、SZビット（CBR1レジスタのビット14～12）によりロングワード、ワード、又はバイトを指定し、かつマッチデータ設定レジスタ（CDR1）及びマッチデータマスク設定レジスタ（CDMR1）を設定する必要があります。このとき、アドレス条件とデータ条件が一致するとマッチ条件が成立します。バイトアクセス、ワードアクセス、ロングワードアクセスに対するデータ値及びマスクは、それぞれCDR1及びCDMR1のビット7～0、ビット15～0、ビット31～0に設定します。

3. PREF、OCBP、OCBWB、OCBI命令によるオペランドアクセスはデータ値のないアクセスです。これらの命令に対するマッチ条件としてデータ値を含めた場合、マッチ条件は成立しません。

4. オペランドバスを選択している場合、条件が一致した命令の実行を完了し、次の命令を実行する直前にブレークが発生します。ただし、条件にデータ値を含める場合は、条件が一致した命令から数命令実行した後になる場合もあり、ブレークが発生する命令を特定することはできません。また、遅延分岐命令やその遅延スロットでこの種のブレークが発生した場合は、分岐先の最初の命令までブレークは発生しません。RTE命令の遅延スロットには、オペランドブレークを設定しないでください。また、データ値を条件に含める場合は、RTE命令の1～6命令前でブレークを発生させないでください。

41.3.5　シーケンシャルブレーク

1. マッチ条件設定レジスタ（CBR0、CBR1）のMFEビット（ビット31）及びMFIビット（ビット29～24）を設定することで、シーケンシャル条件（チャネル0マッチ条件が成立した後チャネル1マッチ条件が成立、又はその逆）を指定することができます。シーケンス元チャネルについては、マッチ条件設定レジスタのMFE、及びマッチ動作設定レジスタのBIEビット（ビット0）をクリアしてください。シーケンス先チャネルについては、マッチ条件設定レジスタのMFEビットをセットし、シーケンス元チャネル番号をMFIビットで指定します。シーケンシャル条件成立時のブレーク要求の有無は、シーケンス先マッチ動作設定レジスタのBIEビットにより指定します。シーケンシャル条件指定時、各チャネルのマッチ条件が成立するごとに該当する条件一致フラグがセットされます。シーケンス元チャネルのマッチ条件が成立し、シーケンス先チャネルのマッチ条件が未成立のときにシーケンス元チャネルのマッチ状態をクリアするには、シーケンス元チャネルの条件一致フラグをクリアしてください。
2. シーケンシャル条件指定では、チャネル1については実行回数ブレーク条件も指定することができます。
3. シーケンス元チャネルとシーケンス先チャネルのマッチ条件成立タイミングが接近している場合、シーケンシャル条件が保証されない場合があります。

• シーケンス元チャネル、シーケンス先チャネルとも命令フェッチサイクルでマッチ成立

命令Bは命令Aの0命令後	同じアドレスを設定するのと等価です。この設定は使用しないでください。
命令Bは命令Aの1命令後	シーケンシャル動作は保証されません。
命令Bは命令Aの2命令以上後	シーケンシャル動作は保証されます。

• シーケンス元チャネルは命令フェッチサイクルでマッチ成立、シーケンス先チャネルはオペランドアクセスサイクルでマッチ成立

命令Bは命令Aの0又は1命令後	シーケンシャル動作は保証されません。
命令Bは命令Aの2命令以上後	シーケンシャル動作は保証されます。

• シーケンス元チャネルはオペランドアクセスサイクルでマッチ成立、シーケンス先チャネルは命令フェッチサイクルでマッチ成立

命令Bは命令Aの0～5命令後	シーケンシャル動作は保証されません。
命令Bは命令Aの6命令以上後	シーケンシャル動作は保証されます。

• シーケンス元チャネル、シーケンス先チャネルともオペランドアクセスサイクルでマッチ成立

命令Bは命令Aの0～5命令後	シーケンシャル動作は保証されません。
命令Bは命令Aの6命令以上後	シーケンシャル動作は保証されます。

41.3.6　退避されるプログラムカウンタの値

ブレーク発生時は、実行を再開すべき命令のアドレスをSPCに退避し、例外処理状態に移行します。マッチ条件にデータ値を含む場合を除き、ブレークの発生する命令を一意に決定することができます。

1. 命令フェッチサイクル（命令実行前）をマッチ条件として指定する場合
   SPCには、マッチ条件と一致した命令のアドレスが退避されます。条件が一致した命令は実行されず、その前にブレークが発生します。ただし、遅延スロット命令で条件が一致した場合は、遅延分岐命令のアドレスがSPCに退避されます。

2. 命令フェッチサイクル（命令実行後）をマッチ条件として指定する場合
   SPCには、マッチ条件と一致した命令の次の命令のアドレスが退避されます。条件が一致した命令は実行され、次の命令の実行前にブレークが発生します。遅延分岐命令やその遅延スロットで一致した場合は、それらの命令は実行され、分岐先のアドレスがSPCに退避されます。

3. オペランドアクセス（アドレスのみ）をマッチ条件として指定する場合
   SPCには、ブレーク条件に一致した命令の直後の命令のアドレスが退避されます。条件に一致した命令が実行され、次の命令の実行前にブレークが発生します。ただし、遅延スロットで条件が一致した場合は、分岐先のアドレスがSPCに退避されます。

4. オペランドアクセス（アドレス＋データ）をマッチ条件として指定する場合
   データ値がマッチ条件に追加されると、マッチ条件に一致した命令は実行を完了します。1命令後から6命令後までのいずれかの命令の実行前にユーザブレークが発生し、その命令のアドレスがSPCに退避されます。ブレークが発生する場所を正確に決定することはできません。遅延スロット命令で条件が一致した場合は、分岐先アドレスがSPCに退避されます。また、条件に一致した命令の次命令が分岐命令である場合は、分岐命令や遅延スロットの実行まで完了した後にブレークが発生するときがあります。この場合も、SPCには分岐先のアドレスが退避されます。

41.4　ユーザブレークデバッグサポート機能

ユーザブレークデバッグサポート機能を用いることにより、CPU がユーザブレーク要求を受理した場合の分岐先アドレスを変更することができます。UBDE ビット（CBCR レジスタのビット 0）を 1 にセットすることにより、[VBR ＋オフセット] で表示されるアドレスへ分岐するかわりに DBR で示されるアドレスへ分岐します。ユーザブレークデバッグサポート機能のフローチャートを図 41.2 に示します。

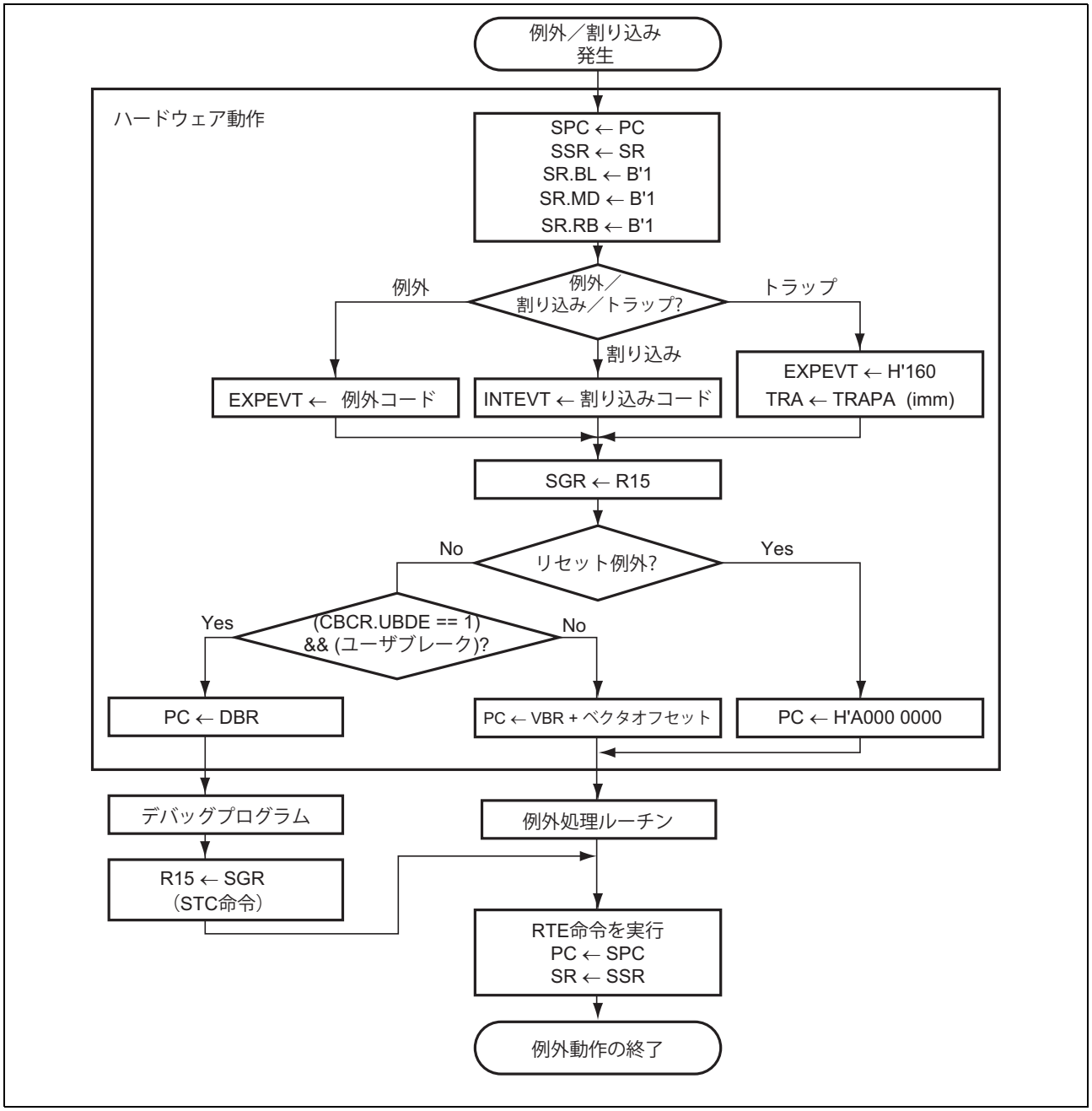


図 41.2　ユーザブレークデバッグサポート機能のフローチャート

41.5　ユーザブレーク使用例

(1)　命令フェッチサイクルに指定したマッチ条件

• 例1-1

レジスタ設定
CBR0 = H'0000 0013 / CRR0 = H'0000 2003 / CAR0 = H'0000 0404 / CAMR0 = H'0000 0000 /
CBR1 = H'0000 0013 / CRR1 = H'0000 2001 / CAR1 = H'0000 8010 / CAMR1 = H'0000 0006 /
CDR1 = H'0000 0000 / CDMR1 = H'0000 0000 / CETR1 = H'0000 0000 / CBCR = H'0000 0000
指定条件：チャネル0／チャネル1 独立条件

【チャネル0】
アドレス：H'0000 0404、アドレスマスク：H'0000 0000
バスサイクル：命令フェッチ（命令実行後）
ASID は条件に含まれない
【チャネル1】
アドレス：H'0000 8010、アドレスマスク：H'0000 0006
データ：H'0000 0000 、データマスク：H'0000 0000 、実行回数：H'0000 0000
バスサイクル：命令フェッチ（命令実行前）
ASID、データ値、実行回数は条件に含まれない

ユーザブレークは、アドレスH'0000 0404 の命令実行後、又はアドレスH'0000 8010～H'0000 8016 の命令実行前に発生します。

• 例1-2

レジスタ設定
CBR0 = H'4080 0013 / CRR0 = H'0000 2000 / CAR0 = H'0003 7226 / CAMR0 = H'0000 0000 /
CBR1 = H'C070 0013 / CRR1 = H'0000 2001 / CAR1 = H'0003 722E / CAMR1 = H'0000 0000 /
CDR1 = H'0000 0000 / CDMR1 = H'0000 0000 / CETR1 = H'0000 0000 / CBCR = H'0000 0000
指定条件：チャネル0 → チャネル1 シーケンシャルモード

【チャネル0】
アドレス：H'0003 7226、アドレスマスク：H'0000 0000 、ASID：H'80
バスサイクル：命令フェッチ（命令実行前）
【チャネル1】
アドレス：H'0003 722E 、アドレスマスク：H'0000 0000、ASID：H'70
データ：H'0000 0000、データマスク：H'0000 0000 、実行回数：H'0000 0000
バスサイクル：命令フェッチ（命令実行前）
データ値、実行回数は条件に含まれない

ASID＝H'80 かつアドレスH'0003 7226 の命令が実行された後、ASID＝H'70 かつアドレスH'0003 722E の命令実行前にユーザブレークが発生します。

• 例1-3

レジスタ設定
CBR0 = H'0000 0013 / CRR0 = H'0000 2001 / CAR0 = H'0002 7128 / CAMR0 = H'0000 0000 /
CBR1 = H'0000 0013 / CRR1 = H'0000 2001 / CAR1 = H'0003 1415 / CAMR1 = H'0000 0000 /
CDR1 = H'0000 0000 / CDMR1 = H'0000 0000 / CETR1 = H'0000 0000 / CBCR = H'0000 0000
指定条件：チャネル0／チャネル1 独立条件

【チャネル0】
アドレス：H'0002 7128 、アドレスマスク：H'0000 0000
バスサイクル：命令フェッチ（命令実行前）
ASID は条件に含まれない
【チャネル1】
アドレス：H'0003 1415、アドレスマスク：H'0000 0000

データ：H'0000 0000 、データマスク：H'0000 0000 、実行回数：H'0000 0000
バスサイクル：命令フェッチ（命令実行前）
ASID、データ値、実行回数は条件に含まれない

チャネル0 では、アドレスH'0002 7128 の命令実行前に発生します。チャネル1 では、命令フェッチは偶数アドレスに対して実行されるのでユーザブレークは発生しません。

• 例1-4
レジスタ設定
CBR0 = H'4080 0013 / CRR0 = H'0000 2000 / CAR0 = H'0003 7226 / CAMR0 = H'0000 0000 /
CBR1 = H'C070 0013 / CRR1 = H'0000 2001 / CAR1 = H'0003 722E / CAMR1 = H'0000 0000 /
CDR1 = H'0000 0000 / CDMR1 = H'0000 0000 / CETR1 = H'0000 0000 / CBCR = H'0000 0000
指定条件：チャネル0 → チャネル1 シーケンシャルモード

【チャネル0】
アドレス：H'0003 7226 、アドレスマスク：H'0000 0000 、ASID＝H'80
バスサイクル：命令フェッチ（命令実行前）

【チャネル1】
アドレス：H'0003 722E 、アドレスマスク：H'0000 0000 、ASID＝H'70
データ：H'0000 0000 、データマスク：H'0000 0000、実行回数：H'0000 0000
バスサイクル：命令フェッチ（命令実行前）
データ値、実行回数は条件に含まれない

ASID＝H'80 かつアドレスH'0003 7226 の命令が実行された後、ASID＝H'70 かつアドレスH'0003 722E の命令実行前にユーザブレークが発生します。

• 例1-5
レジスタ設定
CBR0 = H'0000 0013 / CRR0 = H'0000 2001 / CAR0 = H'0000 0500 / CAMR0 = H'0000 0000 /
CBR1 = H'0000 0813 / CRR1 = H'0000 2001 / CAR1 = H'0000 1000 / CAMR1 = H'0000 0000 /
CDR1 = H'0000 0000 / CDMR1 = H'0000 0000 / CETR1 = H'0000 0005 / CBCR = H'0000 0000
指定条件：チャネル0／チャネル1 独立条件

【チャネル0】
アドレス：H'0000 0500、アドレスマスク：H'0000 0000
バスサイクル：命令フェッチ（命令実行前）
ASID は条件に含まれない
【チャネル1】
アドレス：H'0000 1000 、アドレスマスク：H'0000 0000
データ：H'0000 0000、データマスク：H'0000 0000、実行回数：H'0000 0005
バスサイクル：命令フェッチ（命令実行前）
実行回数：5 回
ASID、データ値は条件に含まれない

チャネル0 では、ユーザブレークはアドレスH'0000 0500 の命令の実行前に生じます。チャネル1 では、ユーザブレークは、アドレスH'0000 1000 の命令を4 回実行した後、5 回目の命令実行前に生じます。

• 例1-6

レジスタ設定
CBR0 = H'4080 0013 / CRR0 = H'0000 2003 / CAR0 = H'0000 8404 / CAMR0 = H'0000 0FFF /
CBR1 = H'4070 0013 / CRR1 = H'0000 2001 / CAR1 = H'0000 8010 / CAMR1 = H'0000 0006 /
CDR1 = H'0000 0000 / CDMR1 = H'0000 0000 / CETR1 = H'0000 0000 / CBCR = H'0000 0000
指定条件：チャネル0／チャネル1 独立条件

【チャネル0】
アドレス：H'0000 8404、アドレスマスク：H'0000 0FFF 、ASID：H'80
バスサイクル：命令フェッチ（命令実行後）
【チャネル1】
アドレス：H'0000 8010 、アドレスマスク：H'0000 0006、ASID：H'70
データ：H'0000 0000 、データマスク：H'0000 0000 、実行回数：H'0000 0000
バスサイクル：命令フェッチ（命令実行前）
データ値、実行回数は条件に含まれない

ユーザブレークは、ASID＝H'80 でアドレスH'0000 8000～H'0000 8FFE の命令の実行後、又は、ASID＝H'70 でアドレスH'0000 8010～H'0000 8016 の命令の実行前に生じます。

(2) **オペランドアクセスサイクルに指定したマッチ条件**

• 例2-1

レジスタ設定
CBR0 = H'4080 0023 / CRR0 = H'0000 2001 / CAR0 = H'0012 3456 / CAMR0 = H'0000 0000 /
CBR1 = H'4070 A025 / CRR1 = H'0000 2001 / CAR1 = H'000A BCDE / CAMR1 = H'0000 00FF /
CDR1 = H'0000 A512 / CDMR1 = H'0000 0000 / CETR1 = H'0000 0000 / CBCR = H'0000 0000
指定条件：チャネル0／チャネル1 独立条件

【チャネル0】
アドレス：H'0012 3456 、アドレスマスク：H'0000 0000、ASID：H'80
バスサイクル：オペランドバス／オペランドアクセス／読み出し（オペランドサイズは条件に含まれない）
【チャネル1】
アドレス：H'000A BCDE、アドレスマスク：H'0000 00FF 、ASID：H'70
データ：H'0000 A512 、データマスク：H'0000 0000 、実行回数：H'0000 0000
バスサイクル：オペランドバス／オペランドアクセス／書き込み／ワード
実行回数は条件に含まれない

チャネル0 では、ユーザブレークは、ASID＝H'80 でアドレスH'0012 3454 に対するロングワードの読み出し、アドレスH'0012 3456 に対するワード読み出し、あるいはアドレスH'0012 3456 に対するバイト読み出しで生じます。チャネル1 では、ユーザブレークはASID＝H'70 でH'000A BC00～H'000A BCFE にワードH'A512 を書き込むときに生じます。

41.6　使用上の注意事項

1. UBCのレジスタの値を書き換える命令を実行してから実際にその値が反映されるまでの期間は、所望のブレークが発生しない場合があります。UBCレジスタを変更後、ブレーク対象の命令を実行する前に、以下の（1）～（3）のいずれかを実行してください。

   (1)　変更したレジスタをリードした後、RTE命令による分岐を実行してください
   （レジスタリードとRTE命令は連続している必要はありません）。
   (2)　変更したレジスタをリードした後、任意のアドレス（キャッシング不可領域でもよい）に対して、ICBI命令を実行してください（レジスタリードとICBI命令は連続している必要はありません）。
   (3)　UBCレジスタの変更前にIRMCR.R1＝0（初期値）と設定しておき、レジスタライト→レジスタリード→（もう一度同じ値を）レジスタライトというシーケンスでレジスタを更新してください。

   なお、複数のUBCレジスタを変更する場合には、それぞれについて上記の手順を踏む必要はありません。最後に変更するレジスタについてのみ、上記の手順が必要になります。

2. CRR0及びCRR1のPCBビットは、命令フェッチをマッチ条件にしたときのみ有効です。
3. シーケンシャル条件設定時、シーケンス元チャネルのマッチ条件成立後シーケンス先チャネルのマッチ条件が成立するとき、シーケンシャル条件が成立します。したがって、同一バスサイクルに対してチャネル0、及びチャネル1の条件一致が同時に発生するようにマッチ条件が設定されてもシーケンシャル条件は成立せず、ブレークは発生しません。
4. SLEEP命令に対しては、命令フェッチサイクルをマッチ条件とする命令実行後ブレークを発生させないでください。また、SLEEP命令の1～5命令前では、オペランドアクセスをマッチ条件とするブレークを発生させないでください。
5. ユーザブレークと他の例外が同一命令で発生した場合は、定められた優先順位で判定が行われます。優先順位に関しては、「6. 例外処理」を参照してください。より高い優先度の例外が発生した場合は、ユーザブレークは発生しません。

   - 命令実行前のブレークは他のどの例外よりも優先して受け付けられます。
   - 命令実行後ブレークやデータアクセスブレークは、より優先度の高い再実行型の例外（命令実行前ブレークを含む）と同時に発生した場合、再実行型の例外が受け付けられ、条件一致を示すフラグもセットされません。例外処理により再実行型の例外要因が解消され、同命令が再実行された完了する時点で改めてブレークが発生し、フラグがセットされます。
   - 命令実行後ブレークやオペランドアクセスブレークが、より優先度の高い完了型の例外（TRAPA）と同時に発生した場合は、ブレークは発生しませんが、条件一致を示すフラグはセットされます。

6. チャネル0、チャネル1において、マッチ条件が同時に独立して成立し、またその結果SPCの値が両方のブレークに対して同じ場合、ユーザブレークは一度だけ発生しますが、条件一致フラグは両チャネルともにセットされます。たとえば、
   アドレス110の命令（チャネル0で命令フェッチに対する実行後ブレーク）
   →SPC＝112、CCMFRMF0＝1
   アドレス112の命令（チャネル1で命令フェッチに対する実行前ブレーク）
   →SPC＝112、CCMFR.MF1＝1
7. RTE命令の遅延スロット命令に対して命令実行前ブレークやオペランドブレークを設定しないでください。またオペランドブレークにデータ値を含める場合には、RTE命令の1～6命令前でブレークを発生させないでください。
8. 実行ステートが2以上の命令において再実行型例外と実行後ブレークが競合した場合、再実行型例外が発生します。このとき、ブレーク条件の成立に対して、MF0ビット（CCMFRレジスタのビッ

ト0）及びMF1ビット（CCMFRレジスタのビット1）が1にセットされる場合と、セットされない場合があります。

42. ユーザデバッグインタフェース（H-UDI）

ユーザデバッグインタフェース（H-UDI）は、JTAG (IEEE 1149.1: IEEE Standard Test Access Port and Boundary-Scan Architecture) に準拠したシリアル入出力インタフェースで、エミュレータの接続に使用します。

42.1 特長

H-UDI は6 本の端子（TCK、TMS、TDI、TDO、$\overline{\text{TRST}}$、$\overline{\text{ASEBRK}}$/BRKACK）を持ちます。$\overline{\text{ASEBRK}}$/BRKACK を除く端子機能やシリアル転送プロトコルは、JTAG の規格に準拠します。さらにエミュレータ用端子として6本の信号（AUDSYNC、AUDCK、AUDATA3～AUDATA0）、チップモード指定端子として1 本の信号（MPMD）があります。エミュレータ用端子は兼用端子であり、GPIOのPLCR、PTCR、PSEL4、PSEL5 レジスタによって機能を切り替えます。なお、E10A エミュレータのトレース機能を有効にすると、レジスタの設定にかかわらず、これらの端子は強制的にエミュレータ用端子となります。

本LSI のH-UDI はバウンダリスキャン用TAP コントローラとバウンダリスキャン以外のH-UDI の機能を制御するTAP コントローラを分離しています。電源投入時を含め、$\overline{\text{TRST}}$ のアサートによりバウンダリスキャン用TAPコントローラが選択されるため、H-UDI の機能を利用するためには切り替えコマンドを入力する必要があります。また、バウンダリスキャン用TAP コントローラはSH-4A からアクセスすることはできません。

図42.1 にH-UDI のブロック図を示します。

H-UDI 回路は内部にTAP (Test Access Port) コントローラと、SDBPR、SDBSR、SDIR、SDINT の計4 本のレジスタを持ちます。SDBPR はJTAG のバイパスモードをサポートするためのレジスタ、SDBSR はJTAG のバウンダリスキャンモードをサポートするためのレジスタ、SDIR はコマンド用のレジスタ、SDINT はH-UDI 割り込み用のレジスタです。SDIR はTDI、TDO 端子から直接アクセスできます。

TAP コントローラ、制御レジスタ、及びバウンダリスキャン用TAP コントローラは$\overline{\text{PRESET}}$端子によるリセットでは初期化されません。$\overline{\text{TRST}}$ 端子をL レベルにするか、TMS 端子に“H” レベルを入力した状態でTCK 端子に を5 サイクル以上入力することによりリセットがかかります。その他の回路は、$\overline{\text{PRESET}}$端子によるリセット期間中にリセットがかかり初期化されます。

なお、H-UDI は、エミュレータとの接続に使用されるため、エミュレータを使用する場合は本インタフェースの機能を使用しないでください。また、エミュレータとの接続方法は各エミュレータのマニュアルを参照してください。

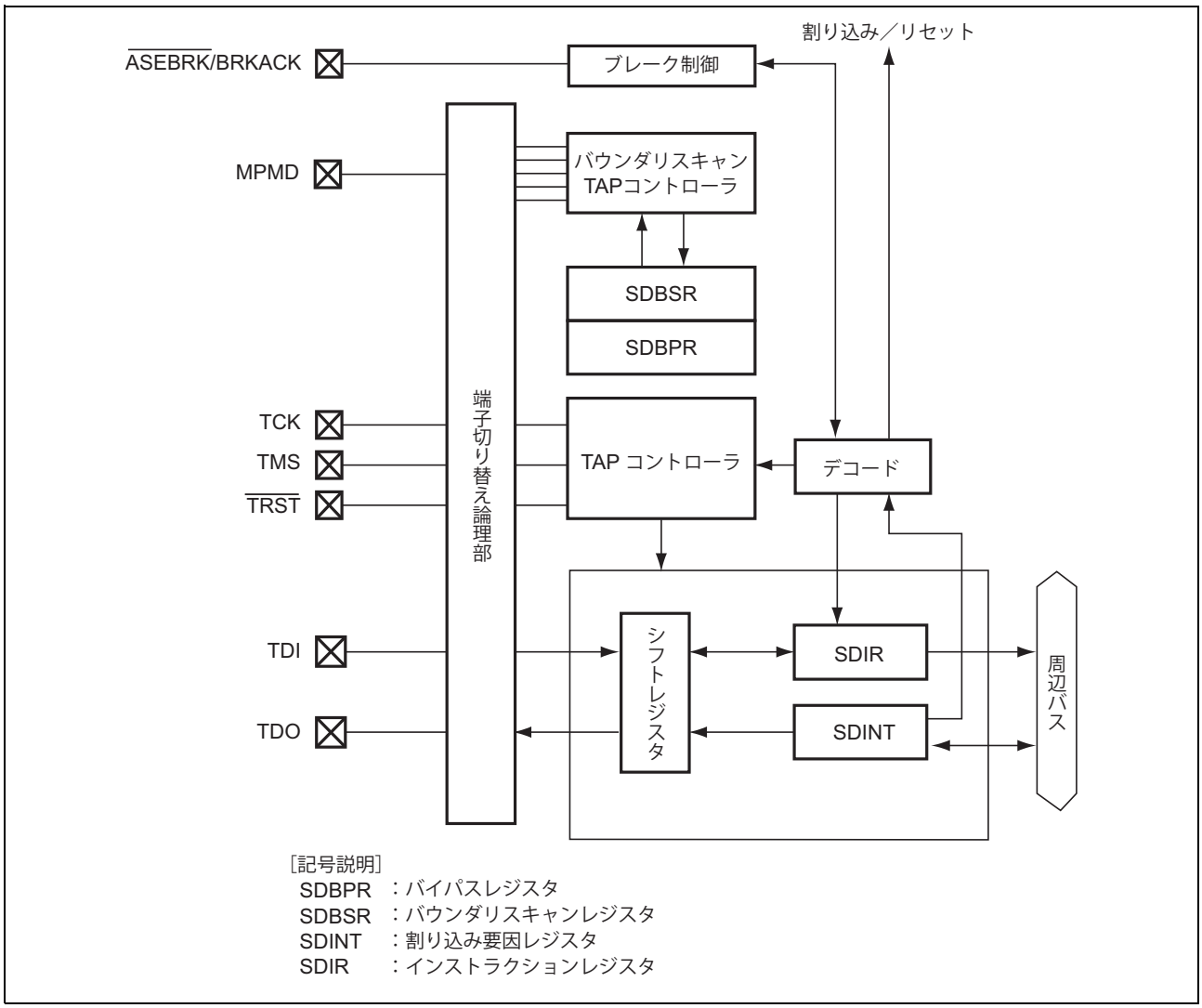


図 42.1　H-UDI のブロック図

42.2 入出力端子

H-UDI の端子構成を表42.1 に示します。

表42.1　H-UDI の端子構成

端子名	機 能	入出力	説明	未使用時
TCK	テスト クロック端子	入力	この端子への入力信号に同期してデータ入力端子TDI からH-UDI 回路にデータを与えるか、データ出力端子TDO からデータを読み出します。	オープン
TMS	テストモード セレクト端子	入力	TCK に同期してこの信号を変化させることで、TDI から入力するデータの意味を決定します。そのプロトコルはJTAG（IEEE 1149.1）規格に準拠します。	オープン（注1）
$\overline{\text{TRST}}$（注2）	テスト リセット端子	入力	TCK とは非同期に受け付け、L レベルでJTAG インタフェース回路に対するリセットがかかります。JTAG の利用の有無にかかわらず、電源投入時にTRST を一定期間L レベルにしなければなりません。これはIEEE の規格と異なります。	グランド固定 又は $\overline{\text{PRESET}}$ 接続（注3）
TDI	テストデータ 入力端子	入力	TCK に同期してこの端子への入力信号を変化させることでH-UDI 回路にデータを送ります	オープン（注1）
TDO	テストデータ 出力端子	出力	TCK に同期してこの端子からの出力信号を読むことで、H-UDI 回路からデータを読み出します。	オープン
$\overline{\text{ASEBRK}}$/ BRKACK	エミュレータ 用端子	入出力	エミュレータ専用の端子です。	オープン（注1）
AUDSYNC、AUDCK、AUDATA3 ～ AUDATA0	エミュレータ 用端子	出力	エミュレータ専用の端子です。	オープン
MPMD	チップモード 指定端子	入力	本LSIの動作モードを選択します。 L：エミュレーションモード H：ノーマルモード（チップモード）	オープン（注1）

注1. LSI内でプルアップされていますが、これらの端子を使用する場合、外部にプルアップ抵抗を付けても問題ありません。

2. H-UDI機能（エミュレータ接続、バウンダリスキャンテスト）を使用する場合は、電源投入時に$\overline{\text{PRESET}}$ と重複する期間TRST をL レベルにし、かつTRST 単独でも制御可能となるようにしてください。

3. グランド、$\overline{\text{PRESET}}$端子、又は$\overline{\text{PRESET}}$ と同じ挙動の端子と接続してください。

TCK の周波数が本LSI の周辺クロックの周波数より低くなるようにTCK あるいは本LSI のCPG の設定を行ってください。

42.3 バウンダリスキャン用TAP コントローラ（IDCODE、EXTEST、SAMPLE/PRELOAD、BYPASS）

本LSI のH-UDI は、バウンダリスキャン用TAP コントローラと、H-UDI リセット及びH-UDI 割り込み機能を制御するTAP コントローラを分離しています。電源投入時を含め、TRST アサートによりバウンダリスキャン用TAP コントローラが有効になり、JTAG で規定されているバウンダリスキャン機能を利用できます。また、H-UDI 切り替えコマンドを入力することで、H-UDI リセット及びH-UDI 割り込み機能が利用できるようになります。ただし、以下の制限事項が存在します。

- 以下の端子がバウンダリスキャンの対象から外れます。
  クロック関連信号（EXTAL、XTAL、RGMII-MAC-CLK)
  H-UDI関連信号 (TCK、TDI、TDO、TMS、TRST、MPMD)
  DBSC3関連端子
  USB関連端子 (USDP0、USDM0、VBUS0、REFRIN、USDP1、USDM1、VBUS1)
  ADC関連端子(AN0～AN15、AVREF0、AVREF1)
  その他の端子（IRQ8、IRQ9、IRQ10、IRQ11、IRQ12）
- バウンダリスキャン（IDCODE、EXTEST、SAMPLE/PRELOAD、BYPASS コマンド）実行時、TCK の最大周波数は2MHz です。
- H-UDI 側（外部コントローラ）からバウンダリスキャン用TAP コントローラへのアクセスサイズは8ビットです。

注. バウンダリスキャン時、MPMD 端子、PRESET 端子はHレベルに固定にしてください。

表42.2 に、バウンダリスキャン用TAP コントローラのサポートコマンドを示します。

表42.2　バウンダリスキャン用TAP コントローラのサポートコマンド

ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	ビット3	ビット2	ビット1	ビット0	説 明
0	1	0	1	0	1	0	1	IDCODE
1	1	1	1	1	1	1	1	BYPASS
0	0	0	0	0	0	0	0	EXTEST
0	1	0	0	0	0	0	0	SAMPLE/PRELOAD
上記以外								設定禁止

42.4 レジスタの説明

H-UDI のレジスタ構成を表42.3、表42.4 に示します。

指定されたビット幅でレジスタにアクセスしてください。指定されたビット幅以外のサイズでレジスタにアクセスした場合、動作は保証できません。

表42.3　レジスタ構成（SH-4A側）

名称	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態	
					パワーオンリセット(注1)	マニュアルリセット
インストラクションレジスタ	SDIR	R	H'FC11 0000	16	H'0EFF	保持
割り込み要因レジスタ	SDINT	R/W	H'FC11 0018	16	H'0000	保持
バウンダリスキャンレジスタ(注2)	SDBSR	—	—	—	—	—
バイパスレジスタ(注2)	SDBPR	—	—	—	—	—

注1. $\overline{\text{TRST}}$ 端子がLレベル、又はTAP コントローラがTest-Logic-Reset の状態で初期化されます。
2. SDBSR とSDBPR はSH-4A 側からアクセスできません。

表42.4　レジスタ構成（H-UDI側）

名称	略称	R/W	アクセスサイズ	レジスタの状態
				初期値（注1）
インストラクションレジスタ	SDIR	R/W	32	H'FFFF FFFD（注2）
割り込み要因レジスタ	SDINT	W（注3）	32	H'0000 0000
バウンダリスキャンレジスタ（注4）	SDBSR	—	—	—
バイパスレジスタ	SDBPR	R/W	1	X

注1. $\overline{\text{TRST}}$ 端子がLレベル、又はTAPコントローラがTest-Logic-Reset の状態で初期化されます。
2. H-UDI からの読み出し値は常にH'FFFF FFFDとなります。
3. H-UDI 割り込みコマンドにより最下位ビットへ1 を書き込むことができます。
4. SDBSR は JTAG バウンダリスキャンモードをサポートするシフトレジスタです。

42.4.1　インストラクションレジスタ（SDIR）

SDIR は、SH-4A からは読み出しのみ可能な16 ビットのレジスタです。シリアル入力（TDI 端子）から値（コマンド）をセットします。TRST ＝ L 又はTAP コントローラのTest Logic Reset ステートで初期状態になります。H-UDI からは、SH-4A の動作モードとは関係なく書き込みができます。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TI								—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15～8	TI	0000 1110	R（注）	テストインストラクションビット7～0 0110xxxx：H-UDI リセットネゲート 0111xxxx：H-UDI リセットアサート 101xxxxx：H-UDI 割り込み 00001110：初期状態 上記以外：設定禁止 注．H-UDI リセットを行ってもCPG 及びリセットモジュールの一部は初期化されません。
7～0	—	1	—（注）	リザーブビット 読み出すと常に1 が読み出されます。

注．　本レジスタはH-UDI側からのみ書き込みが可能です。

42.4.2　割り込み要因レジスタ（SDINT）

SDINT はH-UDI割り込み要求を示す16 ビットのレジスタです。

H-UDI 端子からSDIR に「H-UDI割り込み」コマンドをすると（Update-IR）、INTREQ ビットが1 になります。SDIR に「H-UDI 割り込み」コマンドがセットされている間、TDI端子とTDO 端子の間にSDINT が接続され、32 ビットのレジスタとして読み出せます。その場合、上位16 ビットが0 に、下位16 ビットがSDINTの内容になります。

SH-4A 側からはINTREQ ビットに0 を書き込むことしかできません。このビットが1 の間は割り込み要求が発行され続けますので、割り込み処理ルーチン内で必ず0 にしてください。このレジスタ値はTRST ＝ L 又はTAP コントローラのTest Logic Reset ステートで初期状態になります。

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	INTREQ
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15 ～1	—	0	—	リザーブビット 読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください
0	INTREQ	0	R/W	割り込み要求ビット 「H-UDI 割り込み」コマンドによる割り込み要求の有無を示します。SH-4Aからこのビットに0 を書き込むことにより割り込み要求をクリアできます。このビットに1 を書き込んだ場合は、直前の値を保持します。

42.4.3　バイパスレジスタ（SDBPR）

バイパスレジスタ（SDBPR）はJTAG のバイパスモードをサポートするための1 ビットのレジスタです。バウンダリスキャン用 TAP コントローラに BYPASS コマンドがセットされると、TDI と TDO の間に SDBPR が接続されます。SH-4A からはこのレジスタをアクセスできません。このレジスタはパワーオンリセットあるいは$\overline{\text{TRST}}$ = L でも初期化されません。ただし、Capture-DR ステートでは0 に初期化されます。

42.4.4　バウンダリスキャンレジスタ（SDBSR）

バウンダリスキャンレジスタ（SDBSR）はJTAG のバウンダリスキャンモードをサポートするためのレジスタです。本レジスタは外部入出力ピンの制御を行うために PAD 上に配置されたシフトレジスタで、SAMPLE/PRELOAD、EXTEST コマンドを用いて JTAG（IEEE Std1149.1）規格に準拠したバウンダリスキャンテストを行うことができます。チップのモードにかかわらずSH-4A からのアクセスはできません。このレジスタはパワーオンリセットあるいは$\overline{\text{TRST}}$ = L でも初期化されません。

42.5　動作説明

42.5.1　TAP 制御

図42.2 にTAP コントローラの内部状態を示します。JTAG で規定されている状態遷移に準拠しています。

- 遷移条件はTCKの立ち上がりエッジにおけるTMS値です。
- TDI値はTCKの立ち上がりエッジでサンプリングし、TCKの立ち下がりエッジでシフトします。
- TDO値はTCKの立ち下がりエッジで変化します。またTDOはShift-DR、Shift-IRステート以外ではハイインピーダンス状態です。
- TRST＝0への遷移で、TCKとは非同期で"Test-Logic-Reset"状態へ遷移します。

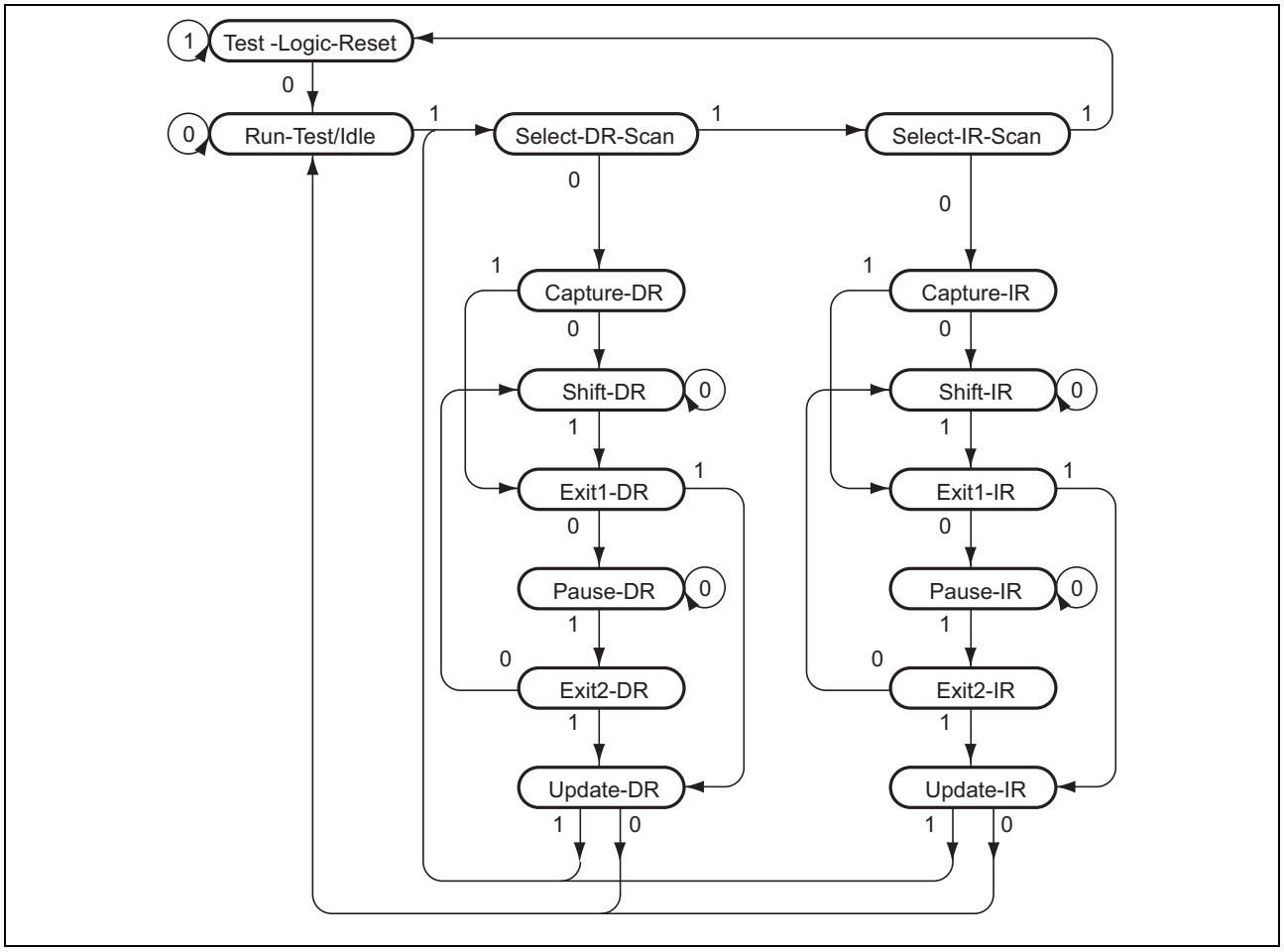


図 42.2　TAP 制御状態遷移図

42.5.2 H-UDI リセット

H-UDI 端子からH-UDI リセットアサートコマンド、H-UDI リセットネゲートコマンドをSDIR レジスタに設定することで、パワーオンリセットと同様のリセットを発行することができます（図42.3 参照）。H-UDIリセットアサートコマンドを設定してからH-UDI リセットネゲートコマンドを設定するまでに必要な時間は、パワーオンリセットをかけるためにPRESET端子をL レベルに保つ時間と同じです。

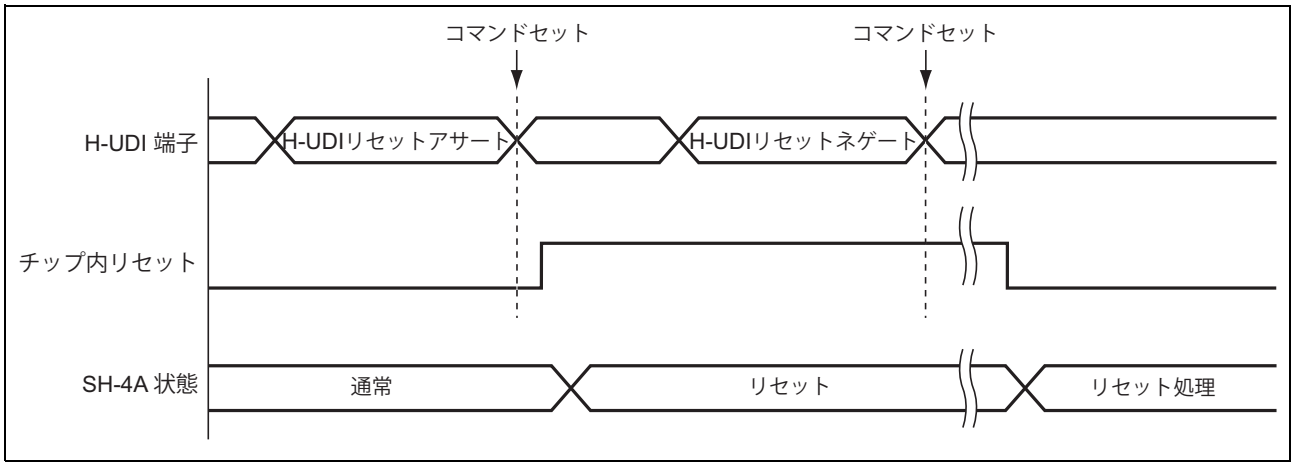


図 42.3　H-UDI リセット

42.5.3 H-UDI 割り込み

H-UDI 端子から H-UDI コマンドを SDIR レジスタに設定することで、割り込みを発生させることができます。H-UDI 割り込みは一般例外／割り込み動作であり、VBR に基づいたアドレスに分岐し、RTE 命令で復帰します。この時、割り込み事象レジスタ INTEVT に格納される例外コードは H'600 です。また割り込み優先順位は、割り込みコントローラの INT2PRI3 レジスタのビット 28～24 により設定することができます。

H-UDI 割り込みコマンドが SDIR レジスタに設定される（Update-IR）と、SDINT レジスタの INTREQ ビットが “1” になり、H-UDI 割り込み要求信号がアサートされます。ソフトウェアにより INTREQ ビットに “0” を書き込むまで、割り込み要求信号はネゲートされませんので、割り込み要求を取りこぼすことはありませんが、INTREQ ビットが “1” の間は割り込み要求がアサートされ続けますので、割り込み処理ルーチン内で必ず “0” にしてください。H-UDI 割り込みコマンドが SDIR にセットされている間は、TDI と TDO の間に SDINT が接続されます。

42.6 注意事項

1. SDIR レジスタに設定されたコマンドは、$\overline{\text{TRST}}$ ＝ L、又は TAP を Test-Logic-Reset 状態にすることによる初期化以外は、H-UDI から他のコマンドを書き込まない限り変化しません。
2. スリープモードは、H-UDI 割り込み、H-UDI リセットにより解除され、その後、それらの要求が受け付けられます。
3. H-UDI は、エミュレータの接続に使用されます。したがって、エミュレータを使用する場合には、H-UDI の機能は使用できません。
4. マスターモジュールから H-UDI のアサインされていないエリア (H'FC13 0000 ～ H'FC14 FFFF) にアクセスしないでください。
   マスターモジュールが H-UDI のアサインされていないエリア (H'FC13 0000 ～ H'FC14 FFFF) にアクセスすると、H-UDI モジュールは反応せず、SHwy バスは停止します。停止した SHwy バスは、パワーオンリセット信号がアサートされるまで回復しません。

43. eMMCホストインタフェース

本モジュールは、JEDEC STANDARD JESD84-A43 に対応したホストコントローラです。MMC（Multi Media Card）インタフェースを持つフラッシュメモリカードと接続することが可能です。

43.1 特徴

eMMCホストインタフェースモジュールの特長を以下に示します。

- 1/4/8 ビットの MMC bus に対応
- MMC クロック周波数≦周辺クロック周波数 Pck
- データバッファ：512 バイト×2
- 割り込み要求：２本（通常動作、エラー /タイムアウト）
- DMA 転送要求：バッファライト、バッファリード
- MMC モードサポート（SPI モードは非サポート）

43.2 モジュールの構成

本モジュールのブロック図を図 43.1に示します。

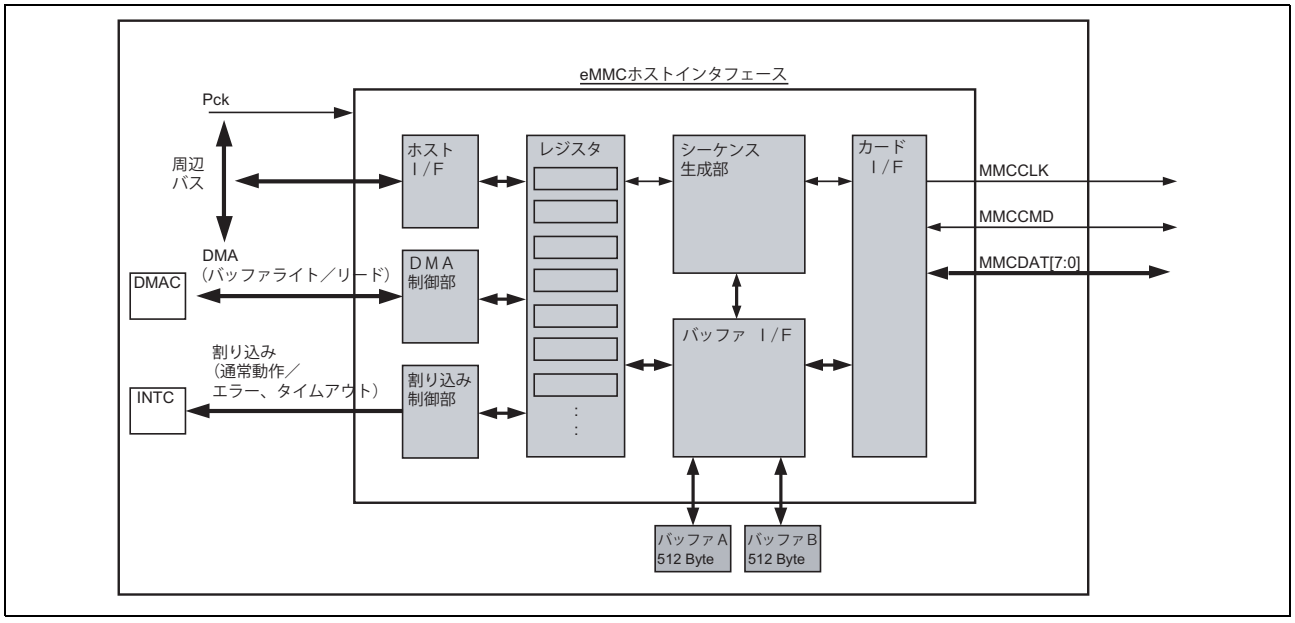


図 43.1　MMCホストインタフェースのブロック図

43.3　入出力端子

本モジュールの端子構成を表 43.1に示します。

表43.1　端子構成

名称	入出力	機能
MMCCLK	出力	MMCクロック
MMCCMD	入出力	コマンド／レスポンス
MMCDAT[7:0]	入出力	送信データ／受信データ

43.4　レジスタの説明

本モジュールのレジスタ構成を表 43.2に示します。

表43.2　レジスタ構成

レジスタ名	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
					パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウェアリセット
コマンド設定レジスタ	CE_CMD_SET	R/W	H'FFCB 0000	16、32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
アーギュメントレジスタ	CE_ARG	R/W	H'FFCB 0008	16、32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
自動CMD12 アーギュメントレジスタ	CE_ARG_CMD12	R/W	H'FFCB 000C	16、32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
コマンド制御レジスタ	CE_CMD_CTRL	R/W	H'FFCB 0010	16、32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
転送ブロック設定レジスタ	CE_BLOCK_SET	R/W	H'FFCB 0014	16、32	H'0000 0200	H'0000 0200	H'0000 0200
クロックコントロールレジスタ	CE_CLK_CTRL	R/W	H'FFCB 0018	16、32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
バッファアクセス設定レジスタ	CE_BUF_ACC	R/W	H'FFCB 001C	16、32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
レスポンスレジスタ３	CE_RESP3	R	H'FFCB 0020	16、32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
レスポンスレジスタ２	CE_RESP2	R	H'FFCB 0024	16、32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
レスポンスレジスタ１	CE_RESP1	R	H'FFCB 0028	16、32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
レスポンスレジスタ０	CE_RESP0	R	H'FFCB 002C	16、32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
自動CMD12 レスポンスレジスタ	CE_RESP_CMD12	R	H'FFCB 0030	16、32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
データレジスタ	CE_DATA	R/W	H'FFCB 0034	16（注1）、32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
割り込みフラグレジスタ	CE_INT	R/W	H'FFCB 0040	16、32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
割り込みマスクレジスタ	CE_INT_MASK	R/W	H'FFCB 0044	16、32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
ステータスレジスタ１	CE_HOST_STS1	R/W	H'FFCB 0048	16、32	H'X0XX 0000	H'X0XX 0000	H'X0XX 0000
ステータスレジスタ２	CE_HOST_STS2	R	H'FFCB 004C	16、32	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
バージョンレジスタ	CE_VERSION	R/W	H'FFCB 007C	16、32	H'0000 8000	H'0000 8000	H'0000 8000

注1.　16ビットアクセス時は(H'FFCB 0034)のみアクセス可能です。
2.　上記以外のレジスタにはアクセスしないでください。

43.4.1　コマンド設定レジスタ（CE_CMD_SET）

CE_CMD_SETは、コマンドシーケンスを設定するレジスタです。コマンドインデックスCMD[5:0]を含むビット31～16に書き込むとコマンドシーケンスが開始します。なお、コマンドシーケンス実行中（CE_HOST_STS1レジスタのCMDSEQビット＝1の時）はこのレジスタに書き込めません。

このレジスタの設定値は「43.8.10 CE_CMD_SET設定値」を参照してください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	CMD[5:0]						RTYP[1:0]		RBSY	—	WDAT	DWEN	CMLTE	CMD12EN
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RIDXC[1:0]		RCRC7C[1:0]		—	CRC16C	—	CRCSTE	TBIT	OPDM	—	—	—	—	DATW[1:0]	
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	—	R/W	—	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31、30	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
29～24	CMD[5:0]	000000	R/W	コマンドインデックス コマンドのインデックスを設定します。
23、22	RTYP[1:0]	00	R/W	レスポンスタイプ 00：レスポンス無し 01：6バイトのレスポンス(R1、R1b、R3、R4、R5) 10：17バイトのレスポンス(R2) 11：設定禁止
21	RBSY	0	R/W	レスポンスビジー選択 レスポンス受信時のビジーの有無を選択します。 0：レスポンスビジー無し 1：レスポンスビジー有り(R1b)
20	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
19	WDAT	0	R/W	データ有り/無し 0：データ無し 1：データ有り
18	DWEN	0	R/W	リード/ライト（注1） 0：カードからリード 1：カードへライト
17	CMLTE	0	R/W	シングルブロック転送/マルチブロック転送選択（注1） 0：シングルブロック転送 1：マルチブロック転送
16	CMD12EN	0	R/W	自動CMD12発行設定（マルチブロック転送時有効） 0：CMD12を自動発行しない 1：CMD12を自動発行する（＝自動CMD12）（注2）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15、14	RIDXC[1:0]	00	R/W	レスポンスインデックスチェック 6バイトレスポンスの[45:40]、又は17バイトレスポンスの[133:128]に対するチェック内容を設定します。 00：インデックスチェック （コマンドのインデックスと一致することを確認） 01：check bitsチェック （All 1になっていることを確認） 10：チェック無し 11：設定禁止
13、12	RCRC7C[1:0]	00	R/W	レスポンスCRC7チェック 6バイトレスポンス、又は17バイトレスポンスの[7:1]に対するチェック内容を設定します。 00：CRC7チェック （RTYP[1:0]ビット＝01にしてください） 01：check bitsチェック（All 1になっていることを確認） （RTYP[1:0]ビット＝01にしてください） 10：internal CRC7チェック（R2専用） （RTYP[1:0]ビット＝10にしてください） 11：チェック無し
11	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
10	CRC16C	0	R/W	リードデータCRC16チェック（注1） 0：リードデータのCRC16をチェックする 1：リードデータのCRC16をチェックしない （CMD14の時に使用）
9	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
8	CRCSTE	0	R/W	CRC status受信（注1） 0：ライト時CRC statusを受信する 1：ライト時CRC statusを受信しない（CMD19の時に使用）
7	TBIT	0	R/W	トランスミッションビット設定 0：コマンドのトランスミッションビット（[46]）を1にする 1：コマンドのトランスミッションビット（[46]）を0にする
6	OPDM	0	R/W	MMCCMD端子オープンドレイン出力モード設定 0：通常出力 1：オープンドレイン出力
5～2	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
1、0	DATW[1:0]	00	R/W	データバス幅設定（注1） 00：1ビット 01：4ビット 10：8ビット 11：設定禁止

注1. データ有りの時有効。
2. 自動CMD12発行選択時、転送ブロックサイズは512バイトに設定してください。また、RBSYビットは0にしてください（「43.7.2 自動CMD12発行」参照）。

43.4.2　アーギュメントレジスタ（CE_ARG）

CE_ARG は、コマンドのアーギュメントを設定するレジスタです。コマンドシーケンスを開始する（CE_CMD_SET レジスタの CMD[5:0] ビットに設定する）前にこのレジスタを設定してください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	ARG[31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	ARG[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31 ～ 0	ARG[31:0]	H'0000 0000	R/W	アーギュメント（コマンドの[39:8]）を設定

注.　自動CMD12 のアーギュメントは、CE_ARG_CMD12 で設定してください。

43.4.3　自動CMD12アーギュメントレジスタ（CE_ARG_CMD12）

CE_ARG_CMD12は、マルチブロック転送時にCMD12を自動発行するときの、自動CMD12のアーギュメントを設定するレジスタです。コマンドシーケンスを開始する（CE_CMD_SET レジスタのCMD[5:0] ビットに設定する）前にこのレジスタを設定してください。自動CMD12については、「43.7.2 自動CMD12 発行」を参照してください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	C12ARG[31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	C12ARG[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31 ～ 0	C12ARG[31:0]	H'0000 0000	R/W	自動CMD12のアーギュメント（コマンドの[39:8]）を設定

43.4.4　コマンド制御レジスタ（CE_CMD_CTRL）

CE_CMD_CTRLは、コマンドシーケンスの強制終了を設定するレジスタです。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	BREAK
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31 ～ 1	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
0	BREAK	0	R/W	コマンドシーケンス強制終了 コマンドシーケンスを中断する場合は、このビットが0のときに1を書き込んだ後、0を書き込んでください。 その後、CE_HOST_STS1レジスタのCMDSEQビットが0になると、次の処理が可能になります。

43.4.5　転送ブロック設定レジスタ（CE_BLOCK_SET）

CE_BLOCK_SETは、転送するデータのブロックサイズとブロック数を設定するレジスタです。コマンドシーケンスを開始する（CE_CMD_SETレジスタのCMD[5:0]ビットに設定する）前にこのレジスタを設定してください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	BLKCNT[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	BLKSIZ[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31 ～ 16	BLKCNT[15:0]	H'0000	R/W	転送ブロック数（注）
15 ～ 0	BLKSIZ[15:0]	H'0200	R/W	転送ブロックサイズ シングルブロック転送設定時：1～512バイト マルチブロック転送設定時　：512バイト

注.　マルチブロック転送時有効。

43.4.6　クロックコントロールレジスタ（CE_CLK_CTRL）

CE_CLK_CTRL は、MMC クロックの制御とタイムアウト値を設定するレジスタです。コマンドシーケンスを開始する（CE_CMD_SET レジスタの CMD[5:0] ビットに設定する）前にこのレジスタに設定してください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	CLKEN	—	—	—	—	CLKDIV[3:0]			
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	R/W	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	SRSPTO[1:0]		SRBSYTO[3:0]				SRWDTO[3:0]				—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31 ～ 25	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
24	CLKEN	0	R/W	MMCクロック出力制御 0：MMCクロックを出力しない（"L"固定） 1：MMCクロックを出力する
23 ～ 20	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
19 ～ 16	CLKDIV[3:0]	0000	R/W	MMCクロック周波数設定 0000：Pck/2 0001：Pck/2^2 ： 0111：Pck/2^8 1000：Pck/2^9 1001～1110：設定禁止 1111：Pck（反転出力）(注)
15、14	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は”0”にしてください）
13、12	SRSPTO[1:0]	00	R/W	レスポンスタイムアウト設定 00：64×MMCクロックの期間でタイムアウト 01：128×MMCクロックの期間でタイムアウト 10：256×MMCクロックの期間でタイムアウト 11：設定禁止
11 ～ 8	SRBSYTO[3:0]	0000	R/W	レスポンスビジータイムアウト設定 0000：2^{14}×MMCの期間でタイムアウト 0001：2^{15}×MMCの期間でタイムアウト ： 1110：2^{28}×MMCの期間でタイムアウト 1111：2^{29}×MMCの期間でタイムアウト

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7 ～ 4	SRWDTO[3:0]	0000	R/W	ライトデータタイムアウト/リードデータタイムアウト設定 0000：2^{14}×MMCクロックの期間でタイムアウト 0001：2^{15}×MMCクロックの期間でタイムアウト ： 1110：2^{28}×MMCクロックの期間でタイムアウト 1111：2^{29}×MMCクロックの期間でタイムアウト
3 ～ 0	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

注. CLKDIV[3:0]=1111に設定する場合、又はCLKDIV[3:0]=1111から他の値に設定変更する場合は、CLKEN=0（MMCクロック出力禁止）の状態でCLKDIV[3:0]に書き込んでください。

43.4.7 バッファアクセス設定レジスタ（CE_BUF_ACC）

CE_BUF_ACCは、データレジスタのアクセス方法とDMAの転送モードを設定するレジスタです。コマンドシーケンスを開始する（CE_CMD_SET レジスタのCMD[5:0] ビットに設定する）前にこのレジスタに設定してください。バッファの説明については「43.7.4 CE_DATAアクセス時のバッファアクセス選択機能」を参照してください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	DMAWEN	DMAREN	—	—	—	—	—	—	BUSW	ATYP
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31 ～ 26	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
25	DMAWEN	0	R/W	バッファライトDMA転送要求イネーブル 0：バッファライトDMA転送要求を禁止 1：バッファライトDMA転送要求を許可
24	DMAREN	0	R/W	バッファリードDMA転送要求イネーブル 0：バッファリードDMA転送要求を禁止 1：バッファリードDMA転送要求を許可
23 ～ 18	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は”0”にしてください）
17	BUSW	0	R/W	データレジスタアクセス幅選択 0：CE_DATAに32ビット単位でアクセス 1：CE_DATAに16ビット単位でアクセス
16	ATYP	0	R/W	バッファアクセス選択 0：バイト単位差し替え無し 1：バイト単位差し替え有り
15 ～ 0	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

43.4.8 レスポンスレジスタ３～０（CE_RESP3～0）

CE_RESP3～0は、受信したレスポンス値が格納されるレジスタです。レスポンス値のフォーマットについては「43.7.1 コマンド/レスポンスのフォーマット」を参照してください。

注. 自動CMD12に対するレスポンスは、CE_RESP_CMD12レジスタに格納されます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	RSP[127:112]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RSP[111:96]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31～0	RSP[127:96]	H'0000 0000	R	17バイトレスポンス（R2）の[127:96]を格納

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	RSP[95:80]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RSP[79:64]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31～0	RSP[95:64]	H'0000 0000	R	17バイトレスポンス（R2）の[95:64]を格納

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	RSP[63:48]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RSP[47:32]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31～0	RSP[63:32]	H'0000 0000	R	17バイトレスポンス（R2）の[63:32]を格納

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	RSP[31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RSP[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31 ～ 0	RSP[31:0]	H'0000 0000	R	6バイトレスポンスの[39:8]、又は 17バイトレスポンス（R2）の[31:0]を格納

43.4.9 自動CMD12レスポンスレジスタ（CE_RESP_CMD12）

CE_RESP_CMD12は、CMD12を自動発行した際に、CMD12に対するレスポンス値が格納されるレジスタです。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	RSP12[31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RSP12[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31 ～ 0	RSP12[31:0]	H'0000 0000	R	自動CMD12に対するレスポンスの[39:8]を格納

43.4.10 データレジスタ（CE_DATA）

CE_DATAは、バッファにアクセスするためのレジスタです。このレジスタに書き込むと、バッファに書き込まれます。このレジスタを読み出すと、バッファに格納されている値が読み出せます。16ビットアクセス時はDATA[31:16]のみアクセス可能です。ライトデータ/リードデータのフォーマットについては「43.7.5 データフォーマット」を参照してください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	DATA[31:16]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	DATA2[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31 ～ 0	DATA[31:0]	H'0000 0000	R/W	バッファライトデータ[31:0]/バッファリードデータ[31:0]

注.　このレジスタに書き込んだ場合は、BUFWENビットに"0"を書き込んでからCE_BLOCK_SETレジスタに値を設定してください。このレジスタを読み出した場合は、BUFWENビット（CE_INTレジスタのビット21に"0"を書き込んでからCE_BLOCK_SETレジスタに値を設定してください。

43.4.11 割り込みフラグレジスタ（CE_INT）

CE_INTは、コマンドシーケンス実行中の各種ステータスを表すレジスタです。各ビットはセット条件を満たすと1になります。ビットをクリアする際は、クリアするビットのみ0を設定し、それ以外のビットは1を設定してください。

エラー、タイムアウト発生時の処理については「43.7.6 エラー、タイムアウト発生時の本モジュールの処理」を参照してください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	CMD12 DRE	CMD12 RBE	CMD12 CRE	DT RANE	BUF RE	BUF WEN	BUF REN	—	—	RBSYE	CRSPE
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	—	—	R/W (注)	R/W (注)

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	CMD VIO	BUF VIO	—	—	WDAT ERR	RDAT ERR	RIDX ERR	RSP ERR	—	—	—	CRCS TO	WDAT TO	RDAT TO	RBSY TO	RSP TO
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W (注)	R/W (注)	—	—	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	—	—	—	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)	R/W (注)

注. 1を書くと0になります。0を書いても変化しません。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31～27	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
26	CMD12DRE	0	R/W (注1)	自動CMD12＆バッファリード完了 自動CMD12のレスポンスビジー及びバッファリードが完了すると"1"になります。(注2)

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
25	CMD12RBE	0	R/W (注1)	自動CMD12レスポンスビジー完了 自動CMD12のレスポンス受信及びレスポンスビジーが完了すると"1"になります。(注3)
24	CMD12CRE	0	R/W (注1)	自動CMD12コマンドレスポンス完了 自動CMD12のレスポンスを受信すると"1"になります。
23	DTRANE	0	R/W (注1)	データ送信完了 全ブロックの全データの送信が完了すると"1"になります。 •CRC statusを受信する（CRCSTEビット＝0）場合 CRC status後のビジー（データビジー）が完了したとき •CRC statusを受信しない（CRCSTEビット＝1）場合 データの送信が完了したとき
22	BUFRE	0	R/W (注1)	バッファリード完了 全ブロックの全データの受信が完了し、バッファからの読み出しが完了すると"1"になります。
21	BUFWEN	0	R/W (注1)	バッファライト可 バッファが空で書き込み可能になると"1"になります。(注4)
20	BUFREN	0	R/W (注1)	バッファリード可 バッファに転送ブロックサイズ分のデータが格納され読み出し可能になると"1"になります。(注5)
19、18	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
17	RBSYE	0	R/W (注1)	レスポンスビジー完了 レスポンス受信とレスポンスビジーが完了すると"1"になります。(注6)
16	CRSPE	0	R/W (注1)	コマンドレスポンス完了 コマンドレスポンスが完了すると"1"になります。(注7) • レスポンス無し（RTYP[1:0]ビット＝00）の場合 コマンドの送信が完了したとき • 6バイト又は17バイトのレスポンス （RTYP[1:0]ビット＝01又は10）の場合 レスポンスを受信したとき
15	CMDVIO	0	R/W (注1)	コマンド発行エラー コマンド発行に以下のようなエラーが発生すると"1"になります。 •下記のいずれかの組み合わせをCE_CMD_SET、CE_BLOCK_SETレジスタへ設定した状態で、CMD[5:0]ビット（CE_CMD_SETレジスタのビット29～24）へ書き込んだとき - レスポンス無し＋レスポンスビジー有り - レスポンス無し＋データ有り - データ無し＋CMD12を自動発行する - データ有り＋シングルブロック転送＋CMD12を自動発行する - データ有り＋レスポンスビジー有り＋ CMD12を自動発行する - データ有り＋転送ブロックサイズ=0 - データ有り＋転送ブロックサイズ≧513 - データ有り＋マルチブロック転送＋転送ブロック数=0 •コマンドシーケンス実行中にCMD[5:0]ビットへ書き込んだとき（このとき、コマンドシーケンスは自動停止しません）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
14	BUFVIO	0	R/W（注1）	バッファアクセスエラー バッファアクセス時に以下のようなエラーがあると"1"になります。このとき、コマンドシーケンスは自動停止しません。 • BLKSIZ[15:0]ビット（CE_BLOCK_SETレジスタのビット15～0）に設定したブロックサイズより多く CE_DATAへアクセスしたとき • カードからデータをリード中、BUFRENビットが"1"になっていない（DMA使用時は、バッファリードDMA転送要求が出ていない）にもかかわらずCE_DATAへアクセスしたとき • カードへデータをライト中、BUFWENビットが"1"になっていない（DMA使用時は、バッファライトDMA転送要求が出ていない）にもかかわらずCE_DATAへアクセスしたとき
13、12	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
11	WDATERR	0	R/W（注1）	ライトデータエラー ライトデータ（CRC statusのステータス値、又はCRC statusのエンドビット）にエラーがあると"1"になります。 このとき、コマンドシーケンスは自動停止します。
10	RDATERR	0	R/W（注1）	リードデータエラー リードデータのCRC16、又はエンドビットにエラーがあると"1"になります。 このとき、コマンドシーケンスは自動停止します。
9	RIDXERR	0	R/W（注1）	レスポンスインデックスエラー レスポンスのインデックスにエラーがあると"1"になります。 このとき、コマンドシーケンスは自動停止します。 •RIDXC[1:0]＝00の場合 コマンドのインデックスと一致していないとき •RIDXC[1:0]＝01の場合 いずれかのビットが"1"になっていないとき
8	RSPERR	0	R/W（注1）	レスポンスエラー レスポンスに以下のエラーがあると"1"になります。 このとき、コマンドシーケンスは自動停止します。 •トランスミッションビットが"1"のとき •エンドビットにエラーがあるとき •CRC7にエラーがあるとき RCRC7C[1:0]ビット（CE_CMD_SETレジスタのビット13、12）＝00の場合 6バイトレスポンスのCRC7がコマンドのCRC7と一致していないとき RCRC7C[1:0]＝01の場合 6バイトレスポンスのCRC7のいずれかのビットが"1"になっていないとき RCRC7C[1:0]＝10の場合 17バイトレスポンスのCRC7にエラーがあるとき
7～5	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
4	CRCSTO	0	R/W（注1）	CRC statusタイムアウト CRC statusを受信できないと"1"になります。 このとき、コマンドシーケンスは自動停止しません。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
3	WDATTO	0	R/W（注1）	ライトデータタイムアウト CRC status受信後、SRWDTO[3:0]ビット（CE_CLK_CTRLレジスタのビット7～4）に設定した期間を超えてビジーが続くと"1"になります。 このとき、コマンドシーケンスは自動停止しません。
2	RDATTO	0	R/W（注1）	リードデータタイムアウト リードコマンド送信後、又はリードデータ受信後、SRWDTO[3:0]ビット（CE_CLK_CTRLレジスタのビット7～4）に設定した期間以内に次のリードデータを受信できないと"1"になります。 このとき、コマンドシーケンスは自動停止しません。
1	RBSYTO	0	R/W（注1）	レスポンスビジータイムアウト コマンド（自動CMD12含む）送信後、SRBSYTO[3:0]ビット（CE_CLK_CTRLレジスタのビット11～8）に設定した期間を超えてビジーが続くと"1"になります。 このとき、コマンドシーケンスは自動停止しません。
0	RSPTO	0	R/W（注1）	レスポンスタイムアウト コマンド（自動CMD12含む）送信後、SRSPTO[1:0]ビット（CE_CLK_CTRLレジスタのビット13、12）に設定した期間以内にレスポンスが受信できないと"1"になります。 このとき、コマンドシーケンスは自動停止しません。

注1. “1”を書くと“0”になります。“0”を書いても変化しません。
2. CMD12DREが“1”になると、同時にCMD12RBE、CMD12CRE、BUFREビットも“1”になりますので、これらのビットも併せて“0”にしてください。
3. CMD12RBEが“1”になると、同時にCMD12CREビットも“1”になりますので、併せて“0”にしてください。
また、マルチブロックライト時にCMD12RBEが“1”になると、同時にDTRANEビットも“1”になりますので、併せて“0”にしてください。
4. バッファライトDMA転送要求を許可（DMAWENビット（CE_BUF_ACレジスタのビット25）＝1）している場合は“1”になりません。
5. バッファリードDMA転送要求を許可（DMAWENビット（CE_BUF_ACレジスタのビット25＝1）している場合は“1”になりません。
6. RBSYEが“1”になると、同時にCRSPEビットが“1”になりますので、併せて“0”にしてください。なお、自動CMD12のレスポンスとレスポンスビジーについては、CMD12RBEビットに反映されます。
7. 自動CMD12のレスポンスについては、CMD12CREビットに反映されます。

43.4.12 割り込みマスクレジスタ（CE_INT_MASK）

CE_INT_MASKは、CE_INTレジスタの割り込み出力を制御するレジスタです。CE_INT_MASKレジスタの各ビットに"1"を設定しているとき、CE_INTレジスタ内の対応ビットが"1"になると割り込み要求が発生します。

割り込みの詳細については「43.5 割り込み要求」を参照してください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	MCMD12DRE	MCMD12RBE	MCMD12CRE	MDTRANE	MBUFRE	MBUFWEN	MBUFREN	—	—	MRBSYE	MCRSPE
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	R/W	R/W

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	MCMDVIO	MBUFVIO	—	—	MWDATERR	MRDATERR	MRIDXERR	MRSPERR	—	—	—	MCRCSTO	MWDATTO	MRDATTO	MRBSYTO	MRSPTO
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31～27	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
26	MCMD12DRE	0	R/W	CMD12DRE割り込みマスク 0：CMD12DREビット（CE_INTレジスタのビット26）による割り込み出力を禁止 1：CMD12DREビット＝1のとき割り込み要求発生
25	MCMD12RBE	0	R/W	CMD12RBE割り込みマスク 0：CMD12RBEビット（CE_INTレジスタのビット25）による割り込み出力を禁止 1：CMD12RBEビット＝1のとき割り込み要求発生
24	MCMD12CRE	0	R/W	CMD12CRE割り込みマスク 0：CMD12CREビット（CE_INTレジスタのビット24）による割り込み出力を禁止 1：CMD12CREビット＝1のとき割り込み要求発生
23	MDTRANE	0	R/W	DTRANE割り込みマスク 0：DTRANEビット（CE_INTレジスタのビット23）による割り込み出力を禁止 1：DTRANEビット＝1のとき割り込み要求発生
22	MBUFRE	0	R/W	BUFRE割り込みマスク 0：BUFREビット（CE_INTレジスタのビット22）による割り込み出力を禁止 1：BUFREビット＝1のとき割り込み要求発生
21	MBUFWEN	0	R/W	BUFWEN割り込みマスク 0：BUFWENビット（CE_INTレジスタのビット21）による割り込み出力を禁止 1：BUFWENビット＝1のとき割り込み要求発生
20	MBUFREN	0	R/W	BUFREN割り込みマスク 0：BUFRENビット（CE_INTレジスタのビット20）による割り込み出力を禁止 1：BUFRENビット＝1のとき割り込み要求発生
19、18	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
17	MRBSYE	0	R/W	RBSYE割り込みマスク 0：RBSYEビット（CE_INTレジスタのビット17）による割り込み出力を禁止 1：RBSYEビット＝1のとき割り込み要求発生
16	MCRSPE	0	R/W	CRSPE割り込みマスク 0：CRSPEビット（CE_INTレジスタのビット16）による割り込み出力を禁止 1：CRSPEビット＝1のとき割り込み要求発生
15	MCMDVIO	0	R/W	CMDVIO割り込みマスク 0：CMDVIOビット（CE_INTレジスタのビット15）による割り込み出力を禁止 1：CMDVIOビット＝1のとき割り込み要求発生
14	MBUFVIO	0	R/W	BUFVIO割り込みマスク 0：BUFVIOビット（CE_INTレジスタのビット14）による割り込み出力を禁止 1：BUFVIOビット＝1のとき割り込み要求発生
13、12	—	0	00	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
11	MWDATERR	0	R/W	WDATERR割り込みマスク 0：WDATERRビット（CE_INTレジスタのビット11）による割り込み出力を禁止 1：WDATERRビット＝1のとき割り込み要求発生
10	MRDATERR	0	R/W	RDATERR割り込みマスク 0：RDATERRビット（CE_INTレジスタのビット10）による割り込み出力を禁止 1：RDATERRビット＝1のとき割り込み要求発生
9	MRIDXERR	0	R/W	RIDXERR割り込みマスク 0：RIDXERRビット（CE_INTレジスタのビット9）による割り込み出力を禁止 1：RIDXERRビット＝1のとき割り込み要求発生
8	MRSPERR	0	R/W	RSPERR割り込みマスク 0：RSPERRビット（CE_INTレジスタのビット8）による割り込み出力を禁止 1：RSPERRビット＝1のとき割り込み要求発生
7～5	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
4	MCRCSTO	0	R/W	CRCSTO割り込みマスク 0：CRCSTOビット（CE_INTレジスタのビット4）による割り込み出力を禁止 1：CRCSTOビット＝1のとき割り込み要求発生
3	MWDATTO	0	R/W	WDATTO割り込みマスク 0：WDATTOビット（CE_INTレジスタのビット3）による割り込み出力を禁止 1：WDATTOビット＝1のとき割り込み要求発生

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
2	MRDATTO	0	R/W	RDATTO割り込みマスク 0：RDATTOビット（CE_INTレジスタのビット2）による割り込み出力を禁止 1：RDATTOビット＝1のとき割り込み要求発生
1	MRBSYTO	0	R/W	RBSYTO割り込みマスク 0：RBSYTOビット（CE_INTレジスタのビット1）による割り込み出力を禁止 1：RBSYTOビット＝1のとき割り込み要求発生
0	MRSPTO	0	R/W	RSPTO割り込みマスク 0：RSPTOビット（CE_INTレジスタのビット0）による割り込み出力を禁止 1：RSPTOビット＝1のとき割り込み要求発生

43.4.13 ステータスレジスタ 1 （CE_HOST_STS1）

CE_HOST_STS1 は、転送完了したブロック数、MMCCMD 端子／MMCDAT 端子の状態、受信したレスポンスのインデックス、コマンドシーケンスの状態を示すレジスタです。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	CMD SEQ	CMD SIG	RSPIDX[5:0]						DATSIG[7:0]							
初期値：	0	−	0	0	0	0	0	0	−	−	−	−	−	−	−	−
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RCVBLK[15:0]															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31	CMDSEQ	0	R	コマンドシーケンス状態 0：コマンドシーケンス初期状態 1：コマンドシーケンス実行中
30	CMDSIG	—	R	MMCCMD端子状態 0：MMCCMD端子はLレベル 1：MMCCMD端子はHレベル
29 ～ 24	RSPIDX[5:0]	000000	R	レスポンスインデックス 6バイトレスポンスの[45:40]、又は、 17バイトレスポンスの[133:128]を表示します。
23 ～ 16	DATSIG[7:0]	—	R	MMCDAT[7:0]端子状態（注） 0：MMCDAT[7:0]端子はLレベル 1：MMCDAT[7:0]端子はHレベル 注． DATSIG[i]ビットがMMCDAT[i]端子状態を示します。
15 ～ 0	RCVBLK[15:0]	H'0000	R	転送完了ブロック数 •CE_CMD_SETレジスタのDWENビット＝0のとき カードから読み出したブロック数 •CE_CMD_SETレジスタのDWENビット＝1のとき カードへ書き込んだブロック数

注． 通信エラー又はタイムアウトが発生すると、MMCDAT[0]端子がL状態のままの場合があります。

43.4.14 ステータスレジスタ２（CE_HOST_STS2）

CE_HOST_STS2は、各種タイムアウト、各種エラーの状態を示すレジスタです。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	CRC STE	CRC 16E	AC12 CRCE	RSP CRC7E	CRC STEBE	RDAT EBE	AC12 REBE	RSP EBE	AC12 IDXE	RSP IDXE	—	—	—	CRCST[2:0]		
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	—	—	—	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	STRDAT TO	DATBSY TO	CRCST TO	AC12 BSYTO	RSP BSYTO	AC12 RSPTO	STRSP TO	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	R	R	R	R	R	R	R	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31	CRCSTE	0	R	CRC statusエラー CRC status値にエラーがあると"1"になります。
30	CRC16E	0	R	リードデータCRC16エラー リードデータのCRC16にエラーがあると"1"になります。
29	AC12CRCE	0	R	自動CMD12レスポンスCRC7エラー 自動CMD12に対するレスポンスのCRC7に以下のエラーがあると"1"になります。 •RCRC7C[1:0]＝00の場合 コマンドのCRC7と一致していないとき •RCRC7C[1:0]＝01の場合 いずれかのビットが"1"になっていないとき
28	RSPCRC7E	0	R	コマンドレスポンスCRC7エラー（自動CMD12以外） 6バイトレスポンス、又は17バイトレスポンスのCRC7に以下のエラーがあると"1"になります。 •RCRC7C[1:0]＝00の場合 6バイトレスポンスのCRC7がコマンドのCRC7と一致していないとき •RCRC7C[1:0]＝01の場合 6バイトレスポンスのCRC7のいずれかのビットが"1"になっていないとき •RCRC7C[1:0]＝10の場合 17バイトレスポンスのCRC7にエラーがあるとき
27	CRCSTEBE	0	R	CRC statusエンドビットエラー CRC statusのエンドビットにエラーがあると"1"になります。
26	RDATEBE	0	R	リードデータエンドビットエラー リードデータのエンドビットにエラーがあると"1"になります。
25	AC12REBE	0	R	自動CMD12レスポンスエンドビットエラー 自動CMD12に対するレスポンスのエンドビットにエラーがあると"1"になります。
24	RSPEBE	0	R	コマンドレスポンスエンドビットエラー（自動CMD12以外） レスポンスのエンドビットにエラーがあると"1"になります。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
23	AC12IDXE	0	R	自動CMD12レスポンスインデックスエラー 自動CMD12に対するレスポンスのインデックスにエラーがあると"1"になります。 •RIDXC[1:0]＝00の場合 コマンドのインデックスと一致していないとき •RIDXC[1:0]＝01の場合 いずれかのビットが"1"になっていないとき
22	RSPIDXE	0	R	コマンドレスポンスインデックスエラー（自動CMD12以外） レスポンスのインデックスにエラーがあると"1"になります。 •RIDXC[1:0]＝00の場合 コマンドのインデックスと一致していないとき •RIDXC[1:0]＝01の場合 いずれかのビットが"1"になっていないとき
21 ～ 19	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
18 ～ 16	CRCST[2:0]	000	R	CRC status 受信したCRC status値を表示します。
15	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）
14	STRDATTO	0	R	リードデータタイムアウト リードコマンド送信後、又はリードデータ受信後、SRWDTO[3:0]ビット（CE_CLK_CTRLレジスタのビット7～4）に設定した期間以内に次のリードデータが受信できないと"1"になります。
13	DATBSYTO	0	R	データビジータイムアウト CRC status受信後、SRWDTO[3:0]ビット（CE_CLK_CTRLレジスタのビット7～4）ビットに設定した期間を超えてビジーが続くと"1"になります。
12	CRCSTTO	0	R	CRC statusタイムアウト CRC statusを受信できないと"1"になります。
11	AC12BSYTO	0	R	自動CMD12レスポンスビジータイムアウト 自動CMD12送信後、SRBSYTO[3:0]ビット（CE_CLK_CTRLレジスタのビット11～8）に設定した期間を超えてビジーが続くと"1"になります。
10	RSPBSYTO	0	R	レスポンスビジータイムアウト コマンド（自動CMD12以外）送信後、SRBSYTO[3:0]ビット（CE_CLK_CTRLレジスタのビット11～8）に設定した期間を超えてビジーが続くと"1"になります。
9	AC12RSPTO	0	R	自動CMD12レスポンスタイムアウト 自動CMD12送信後、SRSPTO[1:0]ビット（CE_CLK_CTRLレジスタのビット13、12）に設定した期間以内にレスポンスが受信できないと"1"になります。
8	STRSPTO	0	R	レスポンスタイムアウト コマンド（自動CMD12以外）送信後、SRSPTO[1:0]ビット（CE_CLK_CTRLレジスタのビット13、12）に設定した期間以内にレスポンスを受信できないと"1"になります。
7 ～ 0	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

43.4.15 バージョンレジスタ（CE_VERSION）

CE_VERSIONは、本モジュールのバージョンナンバの表示とソフトウエアリセットを制御するレジスタです。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	SWRST	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	VERSION[15:0]															
初期値：	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31	SWRST	0	R/W	ソフトウエアリセット 0：ソフトウエアリセット解除（通常動作） 1：ソフトウエアリセット中
30 ～ 16	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は”0”にしてください）
15 ～ 0	VERSION[15:0]	H'8000	R	バージョンナンバ

43.5 割り込み要求

本モジュールの割り込み要求の仕様を表 43.3に示します。本モジュールには、通常動作割り込み、エラー/タイムアウト割り込みの2種類の割り込み要求があります。割り込み要求ビットが"1"、かつ割り込みマスクビットが"1"のとき割り込み要求が発生します。

表43.3 割り込み要求の仕様

割り込み要求ビット		割り込みマスクビット		割り込み要求
レジスタ名	ビット名	レジスタ名	ビット名	
CE_INT	CMD12DRE	CE_INT_MASK	MCMD12DRE	通常動作割り込み（MMC2）
	CMD12RBE		MCMD12RBE	
	CMD12CRE		MCMD12CRE	
	DTRANE		MDTRANE	
	BUFRE		MBUFRE	
	BUFWEN		MBUFWEN	
	BUFREN		MBUFREN	
	RBSYE		MRBSYE	
	CRSPE		MCRSPE	
	CMDVIO		MCMDVIO	
	BUFVIO		MBUFVIO	
	WDATERR		MWDATERR	エラー/タイムアウト割り込み
	RDATERR		MRDATERR	
	RIDXERR		MRIDXERR	
	RSPERR		MRSPERR	
	CRCSTO		MCRCSTO	
	WDATTO		MWDATTO	
	RDATTO		MRDATTO	
	RBSYTO		MRBSYTO	
	RSPTO		MRSPTO	

43.6　DMA仕様

本モジュールはバッファリード用とバッファライト用の２チャンネルのDMA 転送要求を持ちます。

43.6.1　バッファライトDMA

DMAWENビット（CE_BUF_ACCレジスタのビット25）が"1"のときバッファが空になると、バッファライトDMA転送要求が発生します。

DMA転送要求は、（BLKSIZ[15:0]ビットに設定した転送ブロックサイズ）×（BLKCNT[15:0]ビットに設定した転送ブロック数）の間発生し、最終ブロックの転送が終わると無効になります。このとき、BUFWENビット（CE_INTレジスタのビット21）は"1"になりません。

DMA転送中にエラーが発生するか、DMA転送が強制終了されると、コマンドシーケンスが自動停止するため、DMA転送要求は無効になります。

43.6.2　バッファリードDMA

DMAWENビット（CE_BUF_ACCレジスタのビット25）が"1"のとき、BLKSIZ[15:0]ビットに設定した転送ブロックサイズ分のデータがたまっていると、バッファリードDMA転送要求が発生します。

DMA転送要求は、（BLKSIZ[15:0]ビットに設定した転送ブロックサイズ）×（BLKCNT[15:0]ビットに設定した転送ブロック数）の間発生し、最終ブロックの転送が終わると無効になります。このとき、BUFWENビット（CE_INTレジスタのビット21）は"1"になりません。

DMA転送中にエラーが発生するか、DMA転送が強制終了されると、コマンドシーケンスが自動停止するため、DMA転送要求は無効になります。

43.7　動作説明

43.7.1　コマンド/レスポンスのフォーマット

送信するコマンドのフォーマットを図43.2に示します。CMD[5:0]ビット（CE_CMD_SETレジスタのビット29～24）に設定したコマンドインデックスとARG[31:0]ビット（CE_ARGレジスタのビット31～0）に設定したアーギュメントが反映されます。

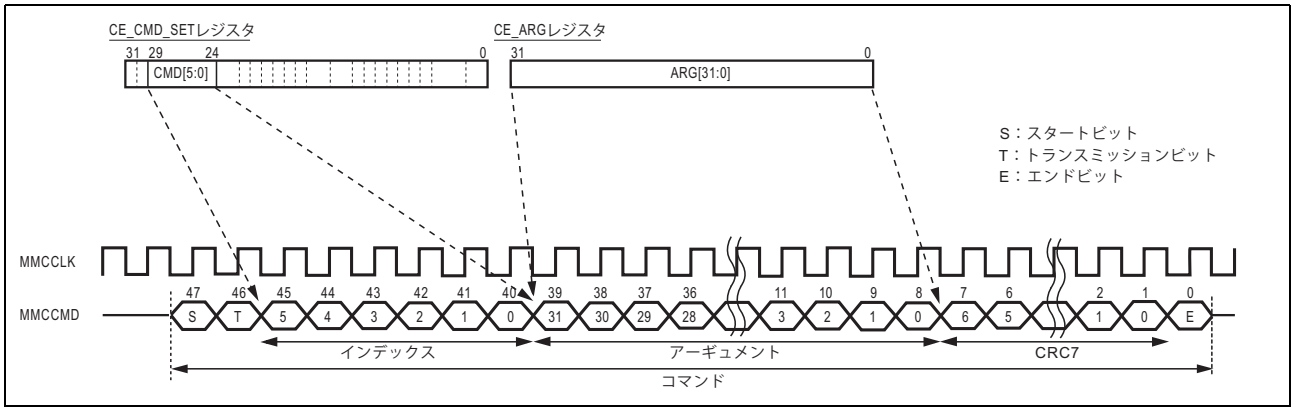


図 43.2　コマンドのフォーマット

6バイトレスポンス受信時のフォーマットを図43.3に、17バイトレスポンス(R2)受信時のフォーマットを図43.4に示します。受信したレスポンスインデックス値はRSPIDX[5:0]ビット（CE_HOST_STS1レジスタのビット29～24）に格納されます。また、受信したステータス値はCE_RESP0レジスタ又はCE_RESP3～0レジスタに格納されます。レスポンスのチェック内容は、RIDXC[1:0]ビット（CE_CMD_SETレジスタのビット15、14）とRCRC7C[1:0]ビット（CE_CMD_SETレジスタのビット13、12）で設定します。

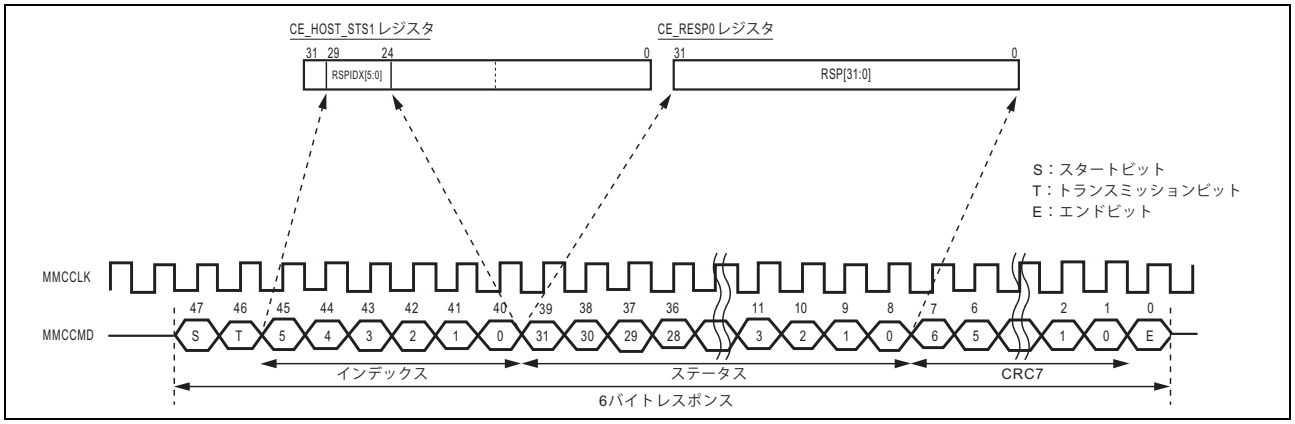


図 43.3　6バイトレスポンスのフォーマット

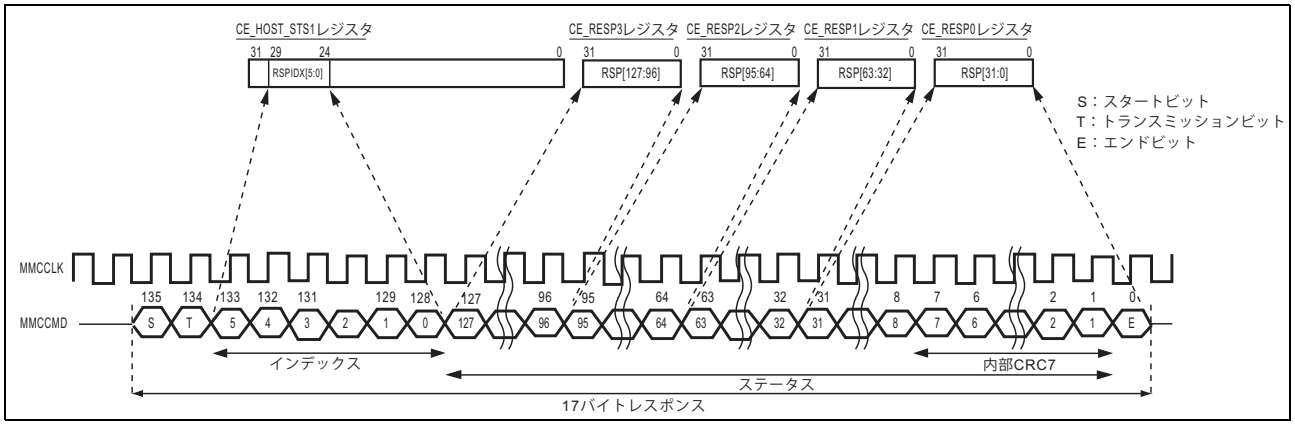


図 43.4　17バイトレスポンスのフォーマット（R2）

43.7.2　自動CMD12発行

CMD12EN ビット（CE_CMD_SET レジスタのビット 16）を 1 に設定しマルチブロック転送を行うと、CMD12 を自動で発行します。

図 43.5 にマルチブロックリード時の自動CMD12発行タイミングを示します。CMD12は、最終ブロック受信中にデータのエンドビットから 2 ビット前にコマンドのエンドビットが来るように発行されます。

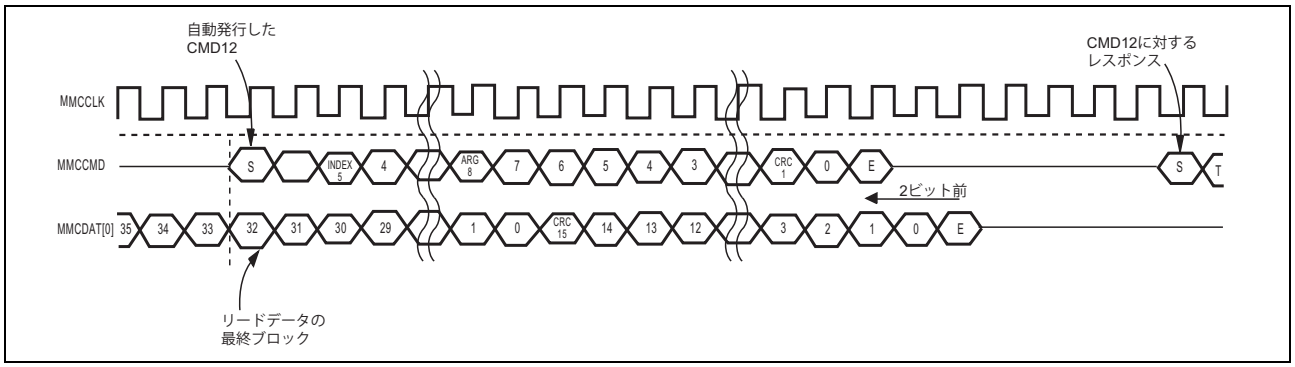


図 43.5　マルチブロックリード時の自動CMD12発行タイミング
（データバス幅1ビット：DATW[1:0]ビット＝00時）

図 43.6 にマルチブロックライト時の自動CMD12発行タイミングを示します。CMD12は、最終ブロックの送信後のデータビジーが終了した後に発行されます。

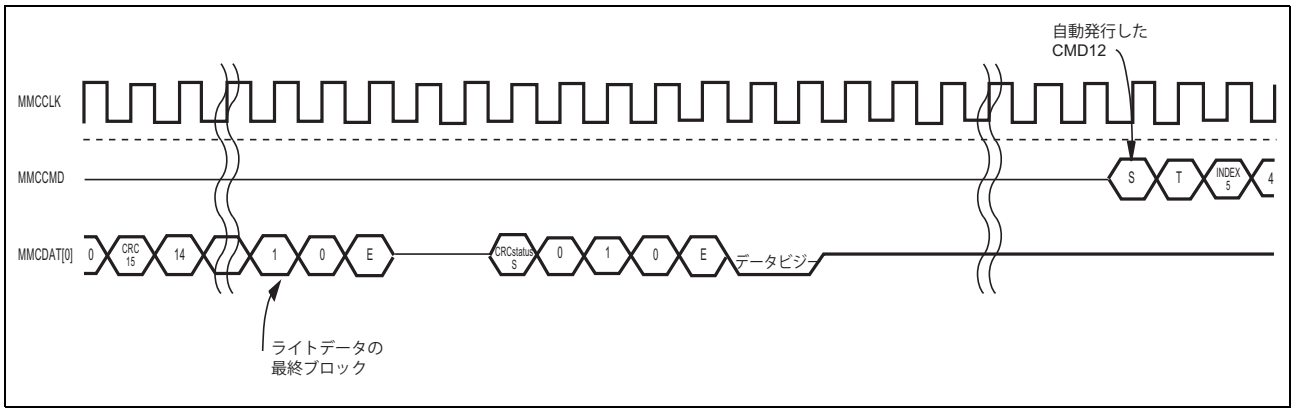


図 43.6　マルチブロックライト時の自動CMD12発行タイミング
（データバス幅1ビット：DATW[1:0]ビット＝00時）

なお、自動 CMD12 のアーギュメントは、CE_ARG_CMD12 レジスタに設定してください。CMD12 に対するレスポンス [39:8] は、CE_RESP_CMD12 レジスタに格納されます。また、レスポンス受信時のビジーを受信します。

43.7.3　バッファ構造とバッファアクセス

本モジュールは図 43.7 に示すように、2 つの512 バイトのRAMをダブルバッファとして使用します。

バッファには、CE_DATA を使ってアクセスします。転送ブロックサイズを4×n+1もしくは4×n+3 と設定した場合、16 ビットアクセス時は 4×n+2 バイトもしくは 4×(n+1) バイト分 CE_DATA にアクセスしてください。32 ビットアクセス時は4×(n+1)バイト分CE_DATA にアクセスしてください。(n=0,1,2,3,…,127)

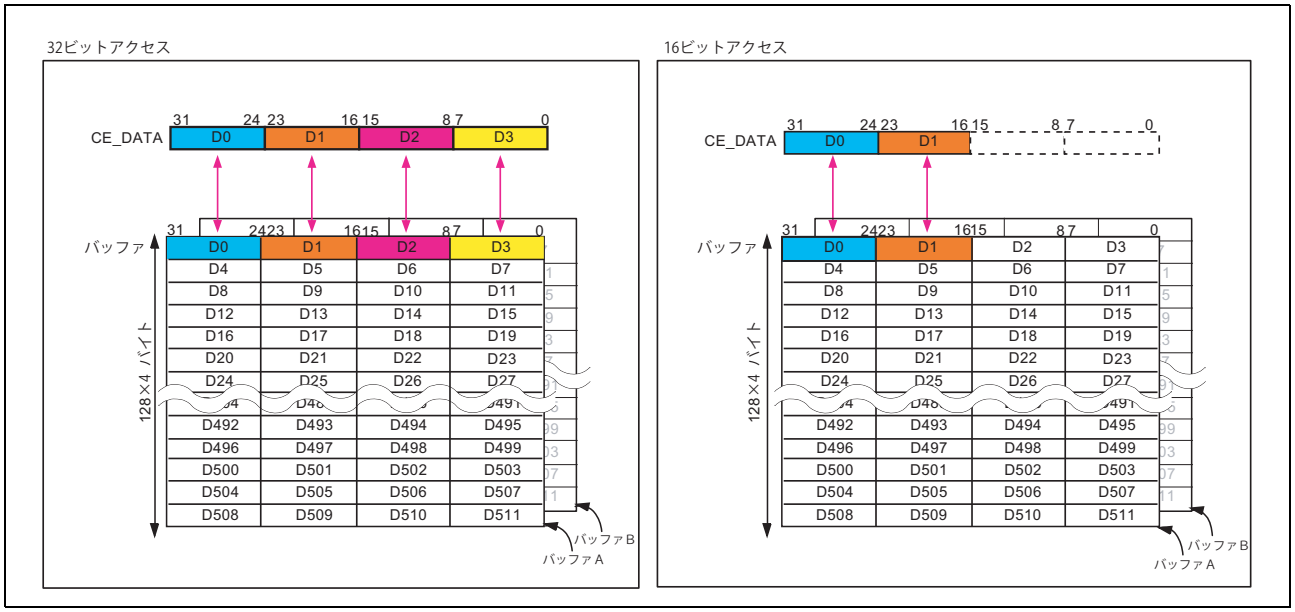


図 43.7　ダブルバッファの構造

43.7.4　CE_DATAアクセス時のバッファアクセス選択機能

ATYPビット（CE_BUF_ACCレジスタのビット16）によって、CE_DATAにライト、リードする際に、データを1バイト単位で差し替えてバッファをアクセスすることができます（バッファアクセス選択機能）。図43.8にバッファアクセス選択機能を示します。

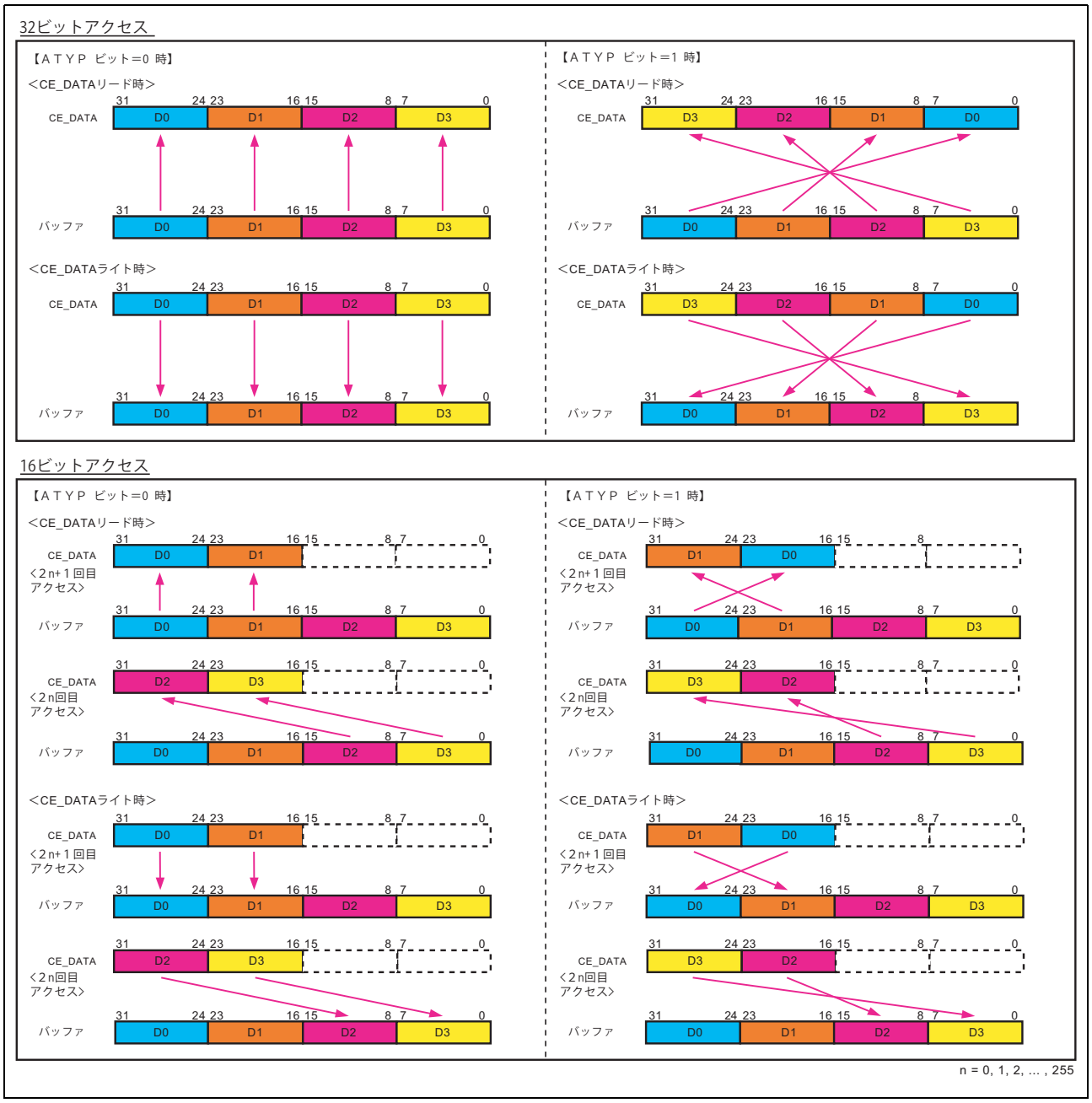


図 43.8　バッファアクセス選択機能

43.7.5　データフォーマット

データのフォーマットを図 43.9、図 43.10、図 43.11 に示します。送信（カードへの書き込み）時、バッファに格納されたデータを送信します。受信（カードからの読み出し）時、受信したデータをバッファに格納します。

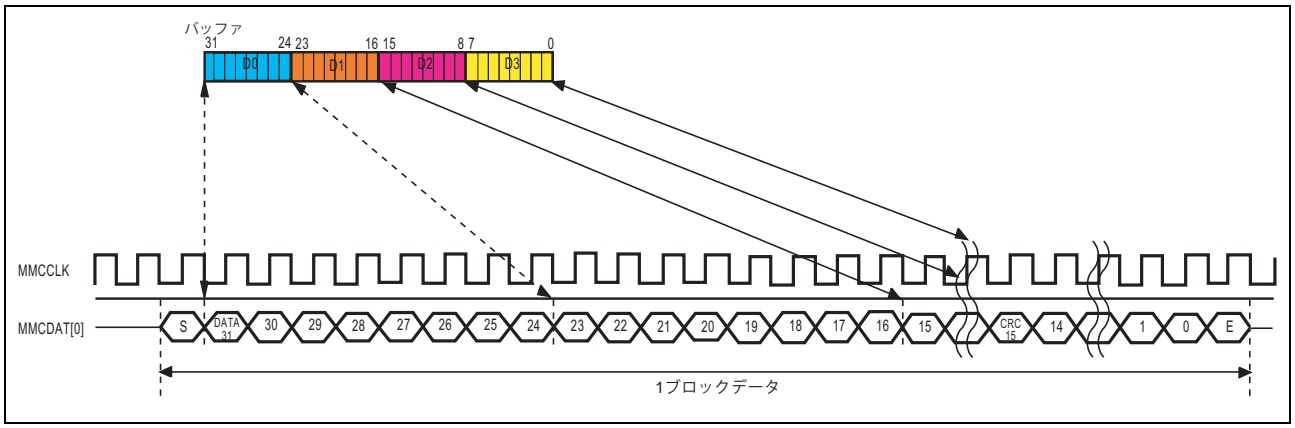


図 43.9　データのフォーマット（データバス幅 1 ビット：DATW[1:0] ビット＝00 時）

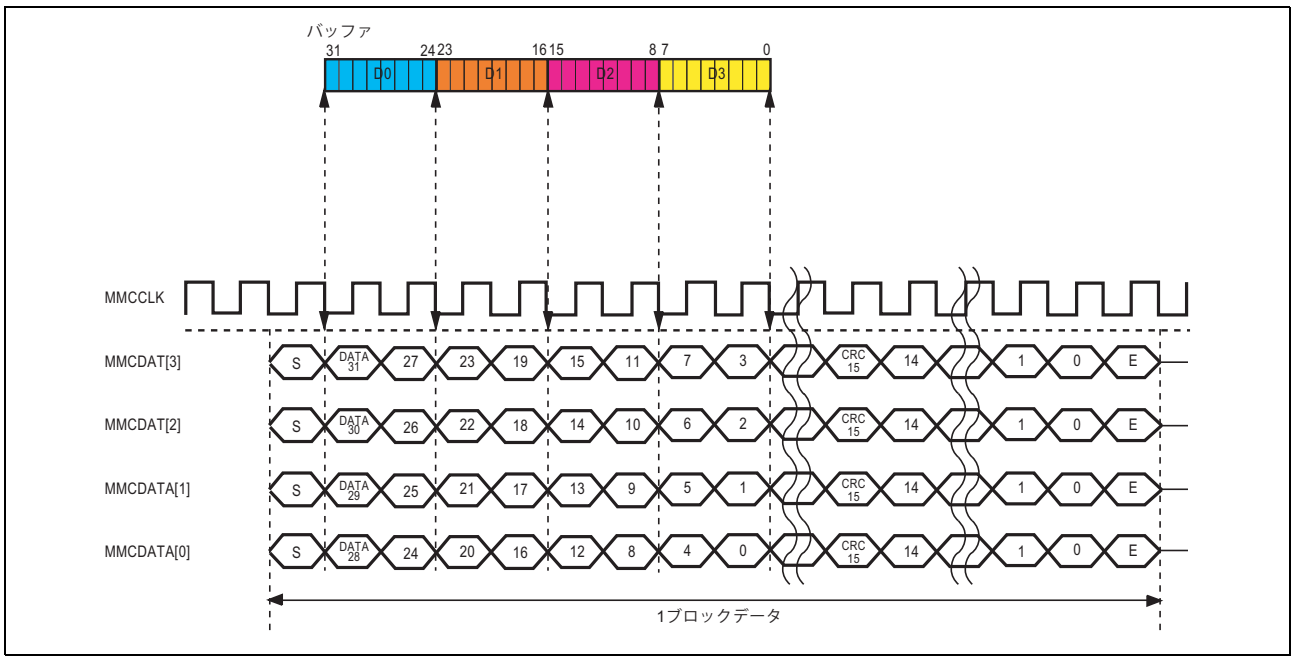


図 43.10　データのフォーマット（データバス幅 4 ビット：DATW[1:0] ビット＝01 時）

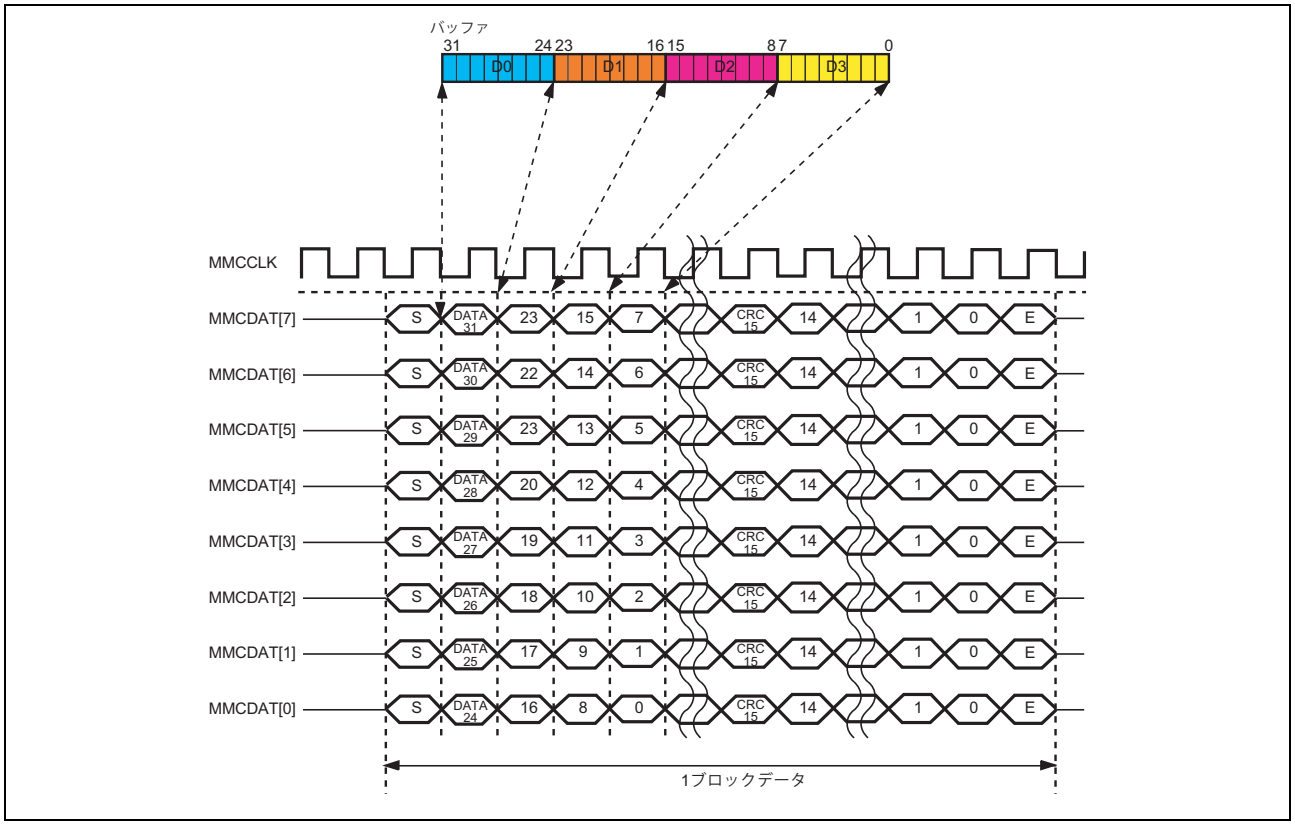


図 43.11　データのフォーマット（データバス幅8ビット：DATW[1:0]ビット＝10時）

43.7.6　エラー、タイムアウト発生時の本モジュールの処理

エラー、又はタイムアウトが発生したとき、コマンドシーケンスが実行中（CE_HOST_STS1レジスタのCMDSEQビット＝1）であれば、強制終了実施後、ソフトウエアリセットを実行してから、再度コマンドを発行してください。

なお、エラー発生時にバッファに格納されていた送信データ、受信データは保証されません。

43.8　設定例

代表的なコマンドシーケンスを実行する手順について説明します。

43.8.1　凡例

図に使用されている記号について図 43.12 に示します。

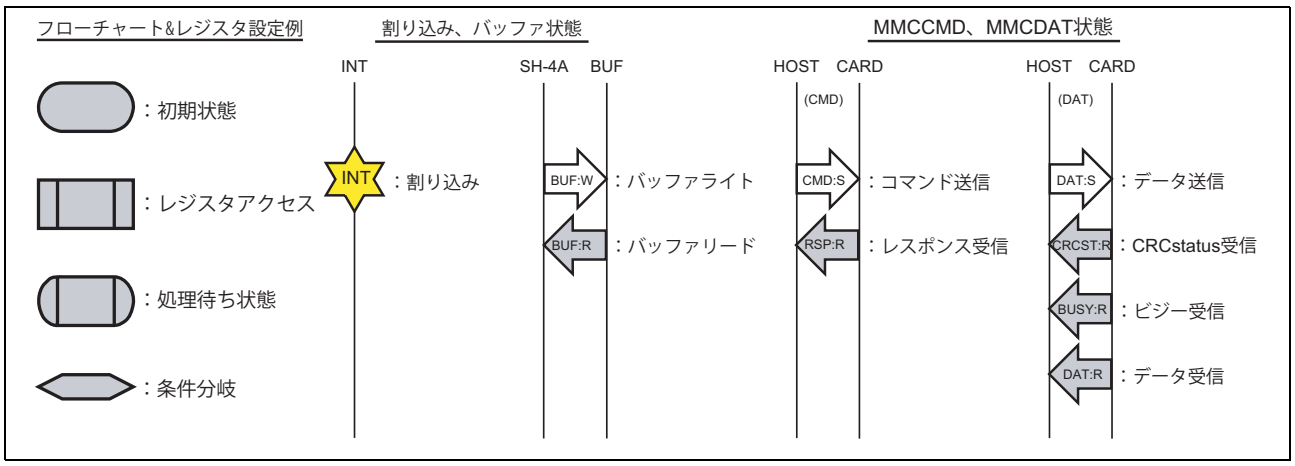


図 43.12　図中記載記号の凡例

43.8.2　コマンド送信設定例

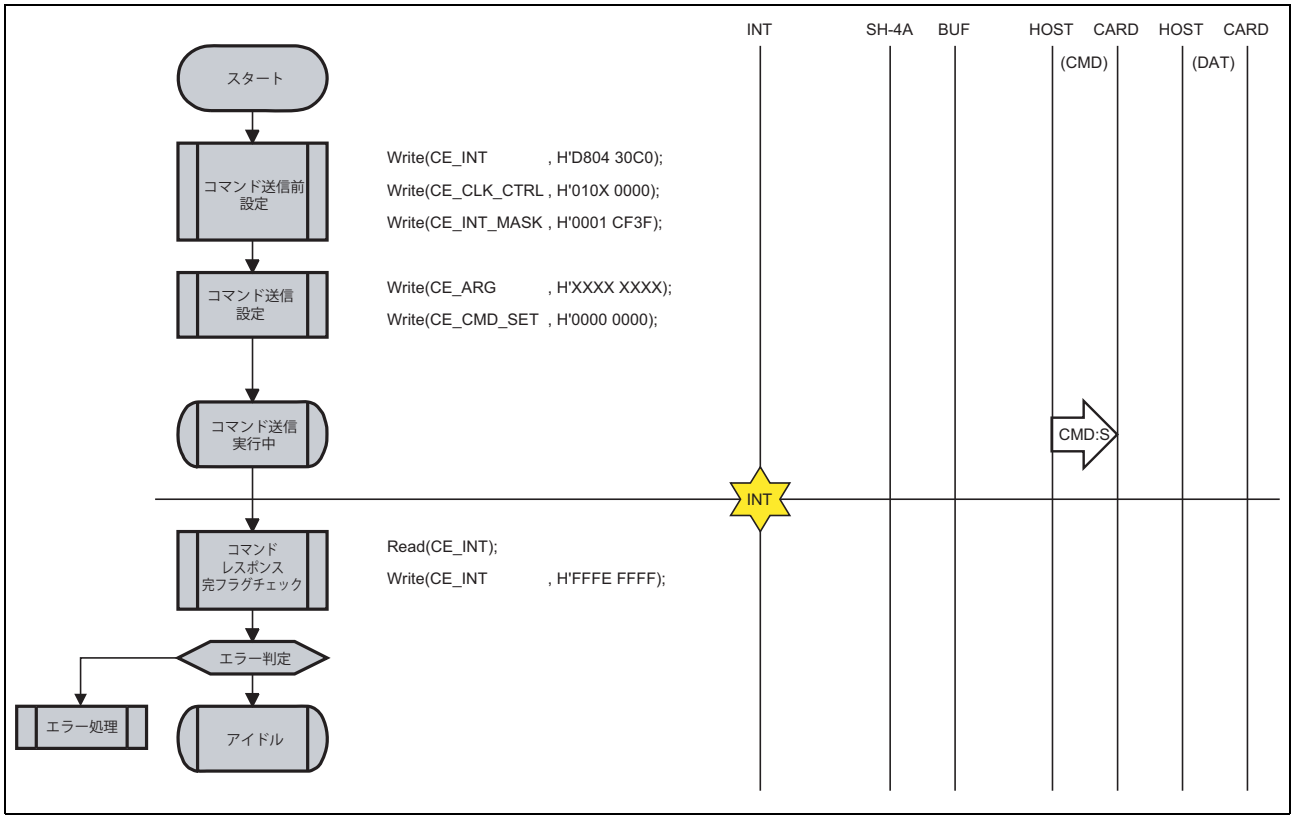


図 43.13　コマンド送信設定例（CMD0）

43.8.3 コマンド送信→レスポンス受信設定例

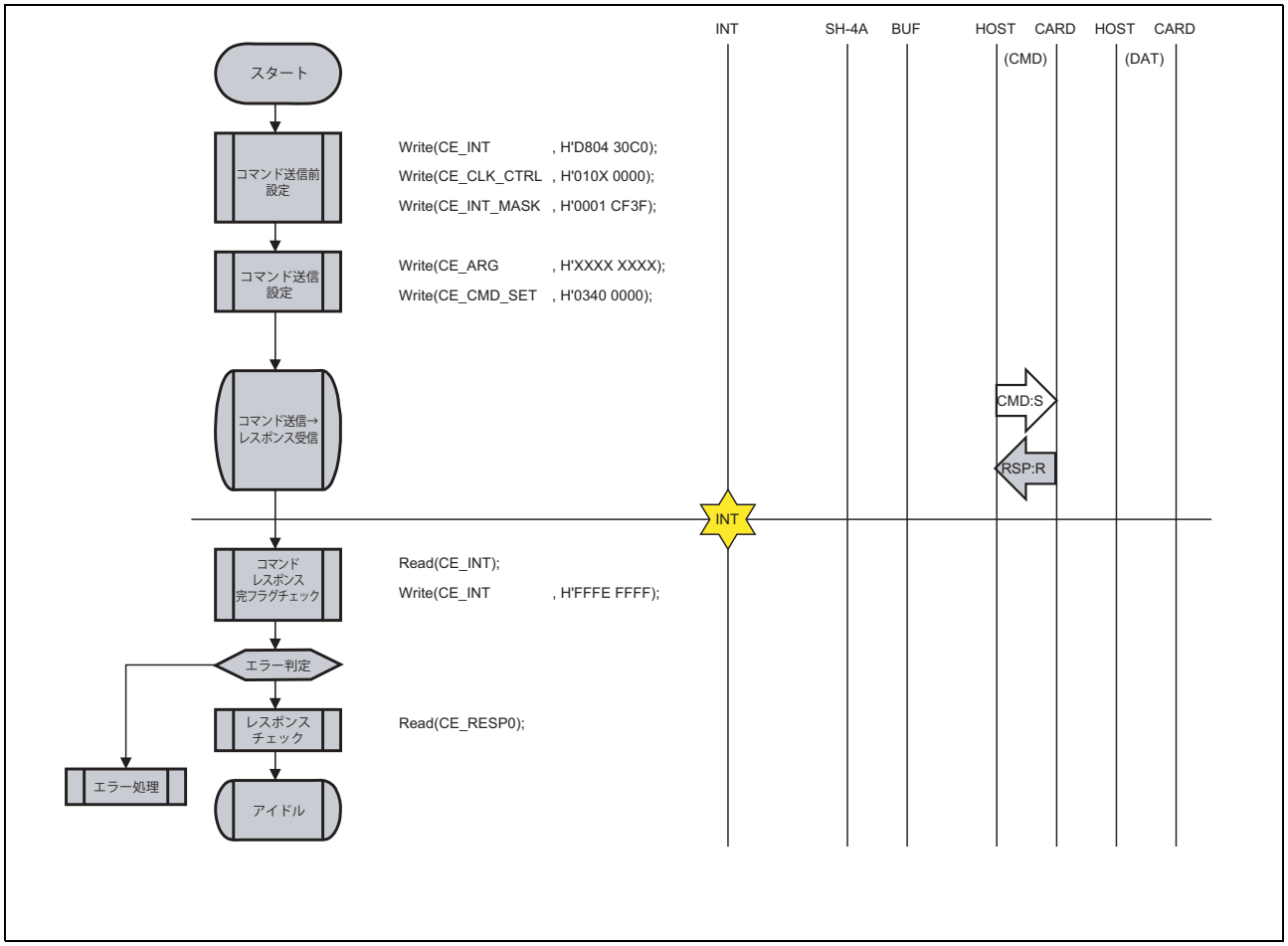


図 43.14 コマンド送信→レスポンス受信設定例（CMD13）

43.8.4　コマンド送信→レスポンス受信（レスポンスビジー有り）設定例

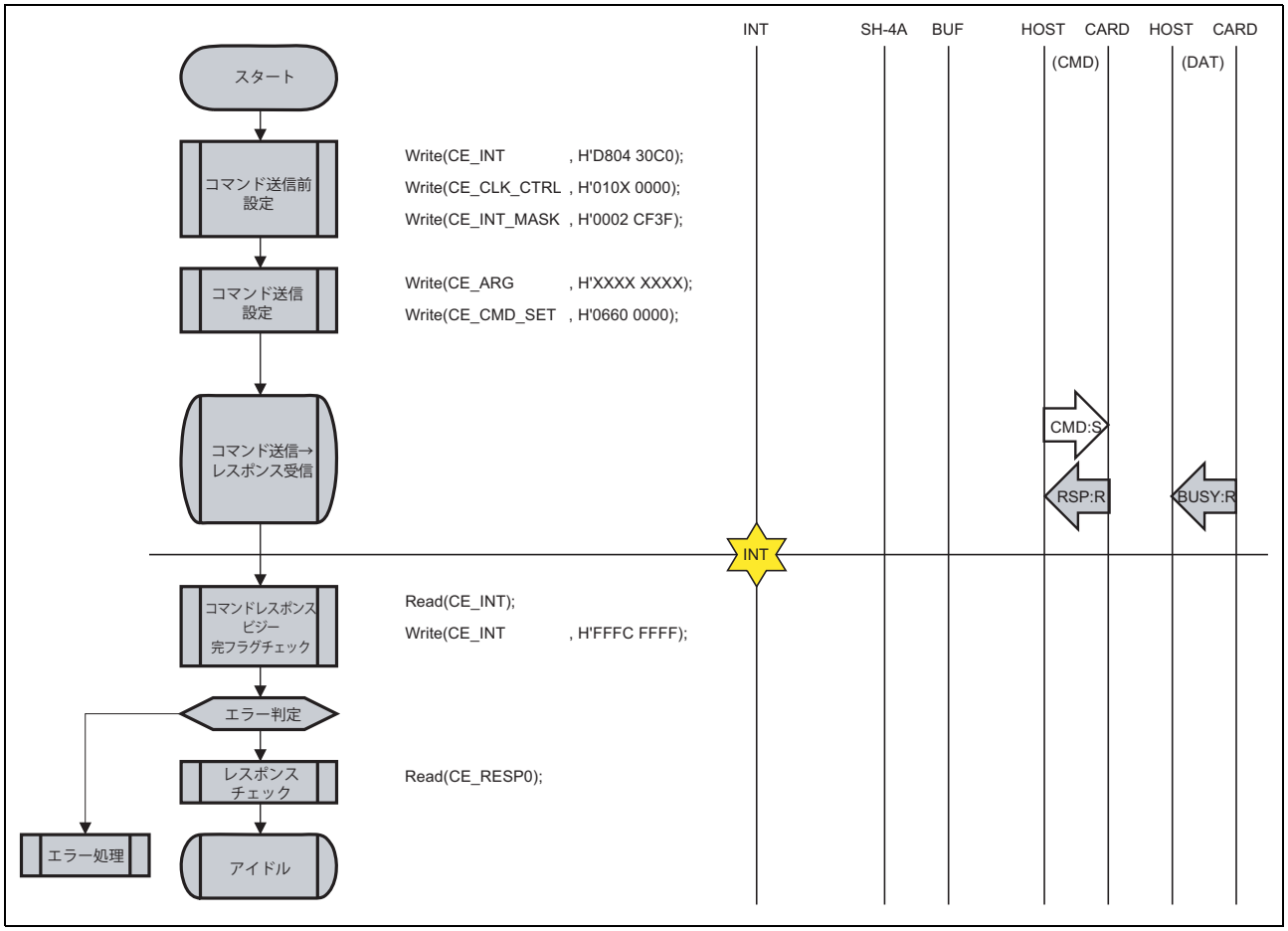


図 43.15　コマンド送信→レスポンス受信(レスポンスビジー有り)設定例（CMD6）

43.8.5 シングルブロックリード設定例

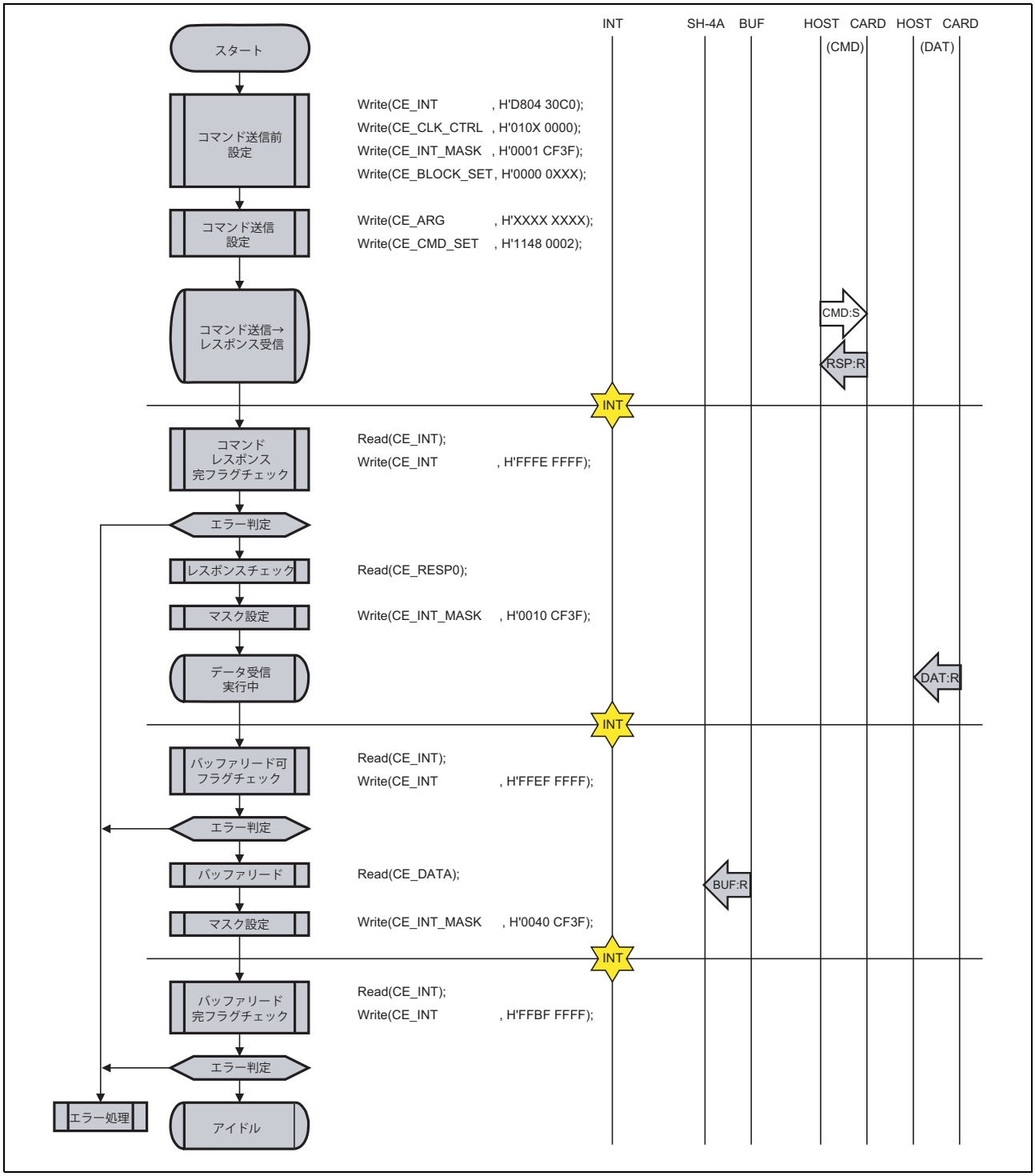


図 43.16 シングルブロックリード設定例（CMD17）

43.8.6 マルチブロックリード（自動CMD12 発行有り）設定例

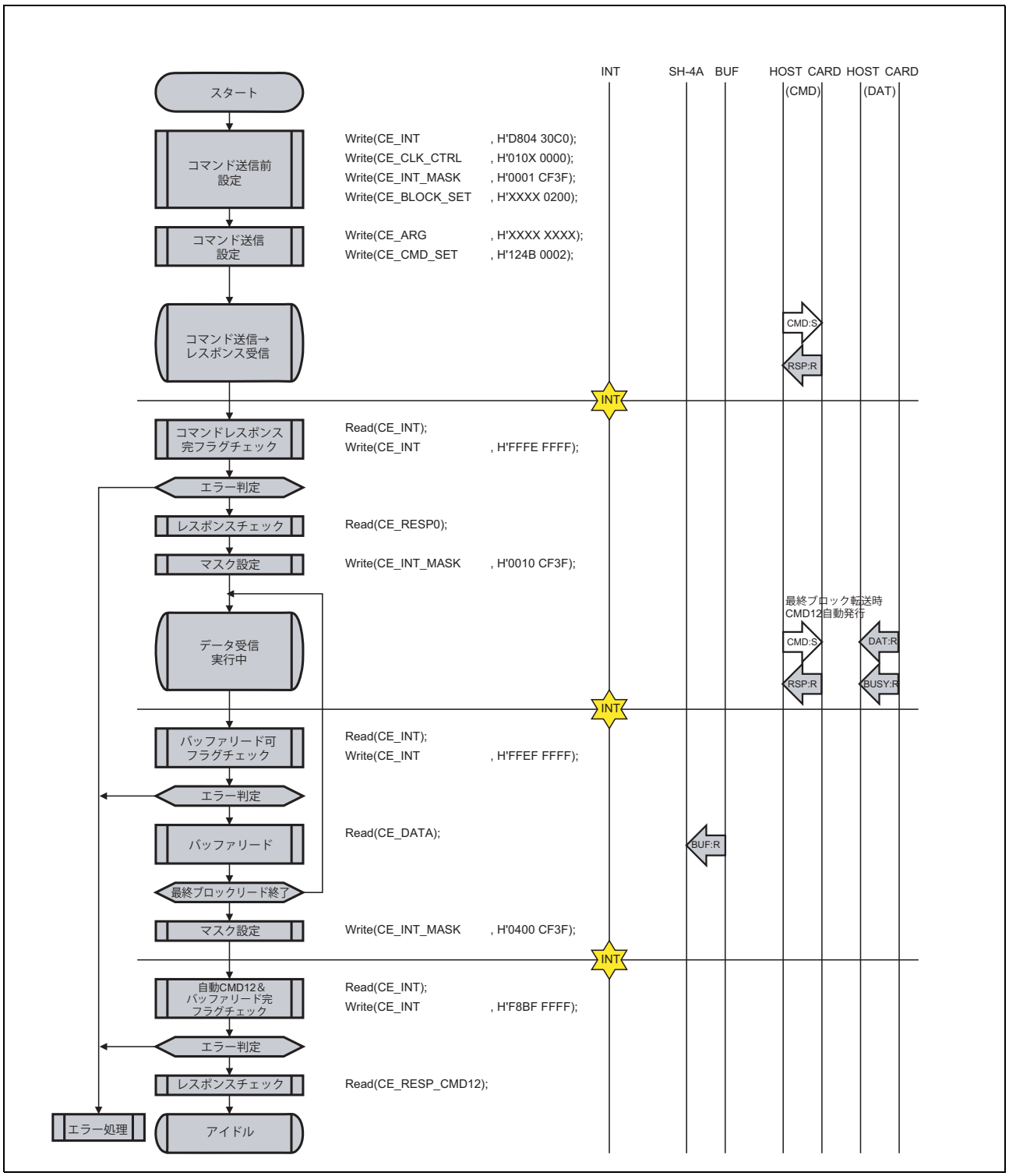


図 43.17 マルチブロックリード（自動CMD12 発行有り）設定例 （CMD18）

43.8.7 シングルブロックライト設定例

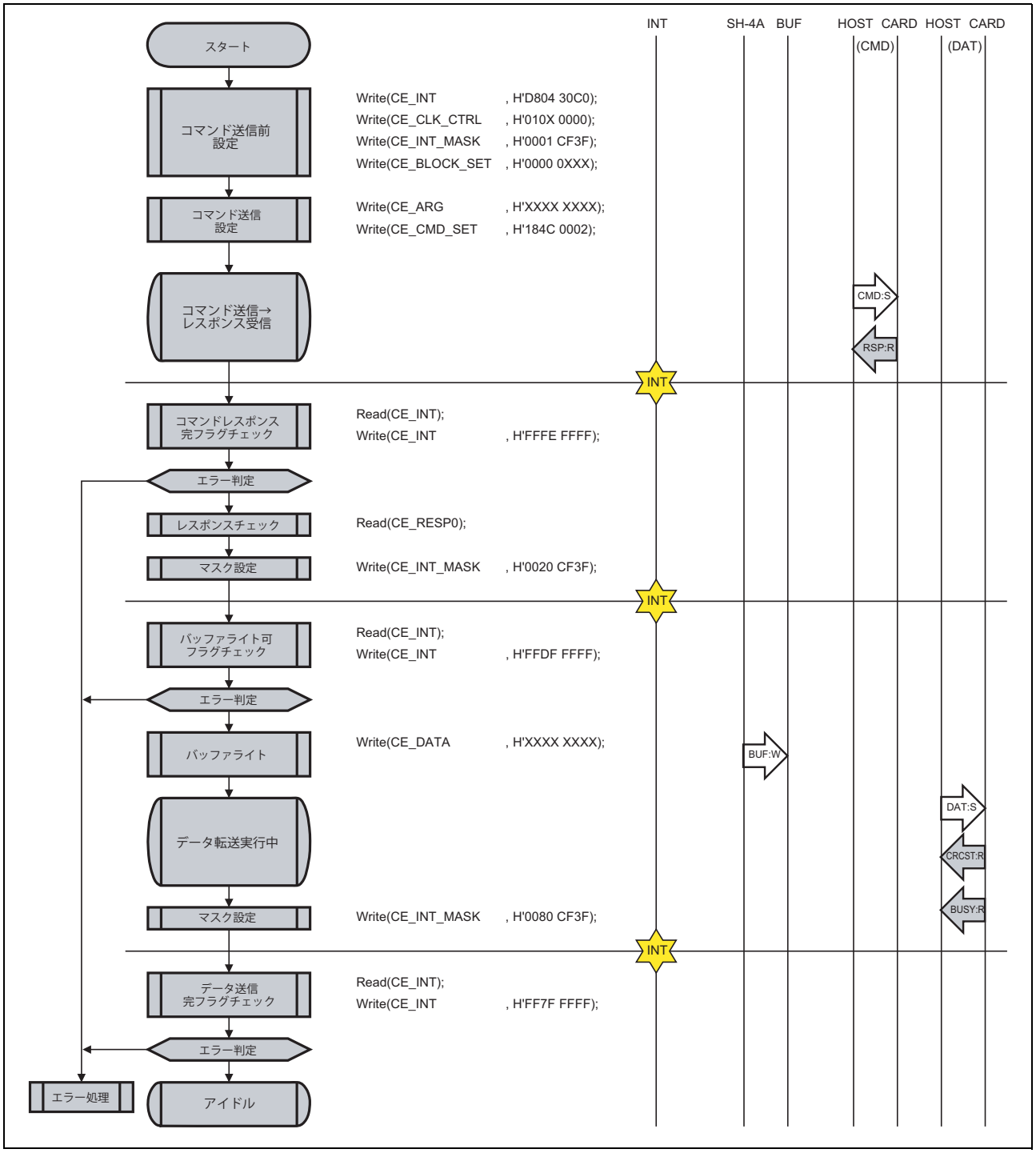


図 43.18 シングルブロックライト設定例（CMD24）

43.8.8 マルチブロックライト（自動CMD12発行有り）設定例

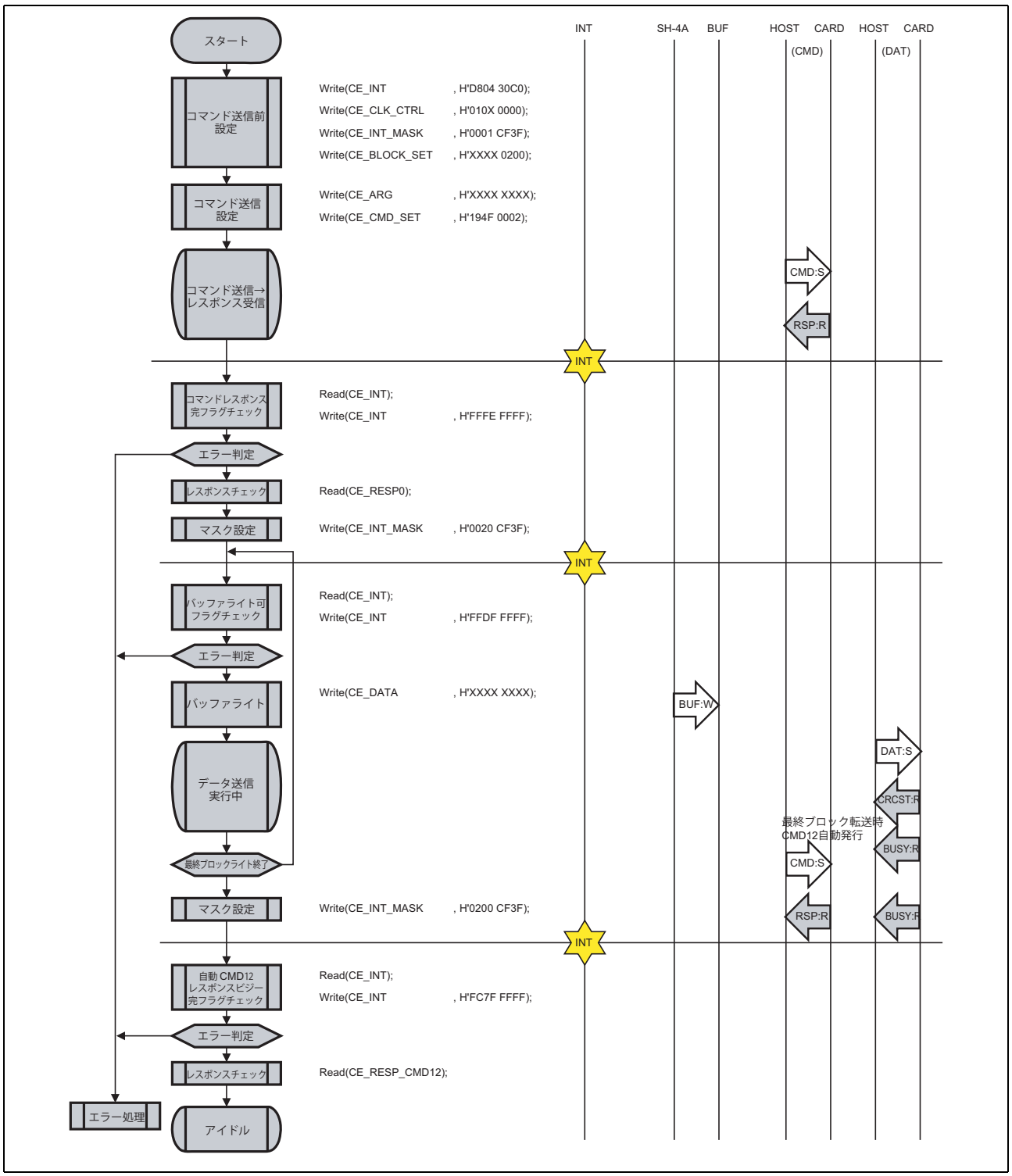


図 43.19 マルチブロックライト(自動CMD12発行有り)設定例（CMD25）

43.8.9 強制終了設定例

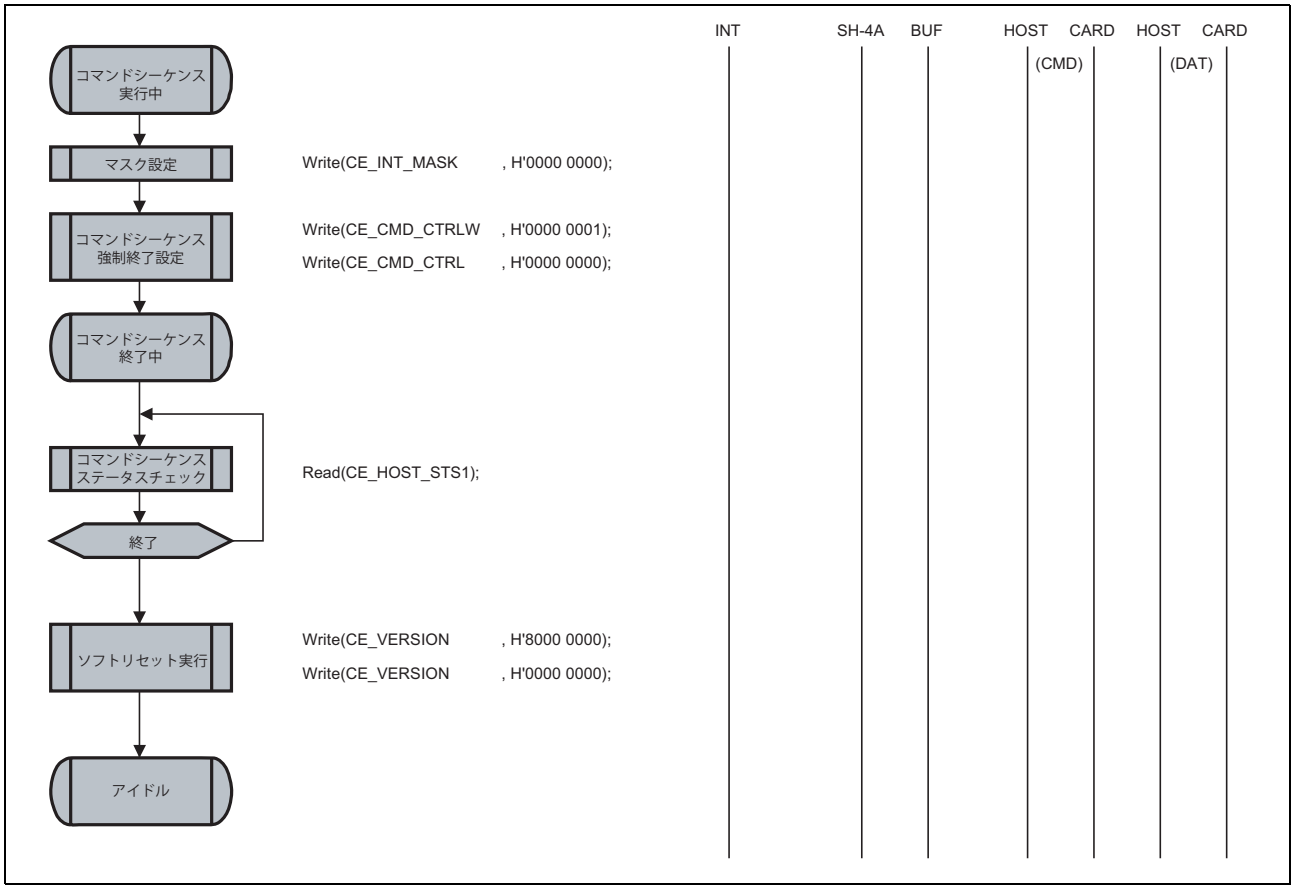


図 43.20 強制終了設定例

43.8.10 CE_CMD_SET設定値

コマンドを発行する際の設定値を表 43.4 に示します。

表43.4　CE_CMD_SET設定値

CMD	略称	RSP	CE_CMD_SET 設定値													
			CMD[5:0]	RTYP[1:0]	RBSY	WDAT	DWEN	CMLTE	CMD12EN	RIDXC[1:0]	RCRC7C[1:0]	CRC16C	CRCSTE	TBIT	OPDM	DATW
CMD0	GO_IDLE_STATE	-	H'00	00	0	0	0	0	0	00	00	0	0	0	0	00
CMD1	SEND_OP_COND	R3	H'01	01	0	0	0	0	0	01	01	0	0	0	0	00
CMD2	ALL_SEND_CID	R2	H'02	10	0	0	0	0	0	00	10	0	0	0	0	00
CMD3	SET_RELATIVE_ADDR	R1	H'03	00	0	0	0	0	0	00	00	0	0	0	0	00
CMD4	SET_DSR	-	H'04	00	0	0	0	0	0	00	00	0	0	0	0	00
CMD6	SWITCH	R1b	H'06	01	1	0	0	0	0	00	00	0	0	0	0	00
CMD7	SELECT/DESELECT_CARD	R1	H'07	01	0	0	0	0	0	00	00	0	0	0	0	00
	(dis->prg)	R1b	H'07	01	1	0	0	0	0	00	00	0	0	0	0	00
CMD8	SEND_EXT_CSD	R1	H'08	01	0	1	0	0	0	00	00	0	0	0	0	XX
CMD9	SEND_CSD	R2	H'09	10	0	0	0	0	0	01	10	0	0	0	0	00
CMD10	SEND_CID	R2	H'0A	10	0	0	0	0	0	01	10	0	0	0	0	00
CMD12	STOP_TRANSMISSION	R1b	H'0C	01	1	0	0	0	0	00	00	0	0	0	0	00
CMD13	SEND_STATUS	R1	H'0D	01	0	0	0	0	0	01	00	0	0	0	0	00
CMD14	BUSTEST_R	R1	H'0E	01	0	1	0	0	0	00	00	1	0	0	0	XX
CMD15	GO_INACTIVE_STATE	-	H'0F	00	0	0	0	0	0	00	00	0	0	0	0	00
CMD16	SET_BLOCKLEN	R1	H'10	01	0	0	0	0	0	00	00	0	0	0	0	00
CMD17	READ_SINGLE_BLOCK	R1	H'11	01	0	1	0	0	0	00	00	0	0	0	0	XX
CMD18	READ_MULTIPLE_BLOCK	R1	H'12	01	0	1	0	1	0	00	00	0	0	0	0	XX
	(Open-ended)	R1	H'12	01	0	1	0	1	1	00	00	0	0	0	0	XX
CMD19	BUSTEST_W	R1	H'13	01	0	1	1	0	0	00	00	0	1	0	0	XX
CMD23	SET_BLOCK_COUNT	R1	H'17	01	0	0	0	0	0	00	00	0	0	0	0	00
CMD24	WRITE_BLOCK	R1	H'18	01	0	1	1	0	0	00	00	0	0	0	0	XX
CMD25	WRITE_MULTIPLE_BLOCK	R1	H'19	01	0	1	1	1	0	00	00	0	0	0	0	XX
	(Open-ended)	R1	H'19	01	0	1	1	1	1	00	00	0	0	0	0	XX
CMD26	PROGRAM_CID	R1	H'1A	01	0	1	1	0	0	00	00	0	0	0	0	XX
CMD27	PROGRAM_CSD	R1	H'1B	01	0	1	1	0	0	00	00	0	0	0	0	XX
CMD28	SET_WRITE_PROT	R1b	H'1C	01	1	0	0	0	0	00	00	0	0	0	0	00
CMD29	CLR_WRITE_PROT	R1b	H'1D	01	1	0	0	0	0	00	00	0	0	0	0	00
CMD30	SEND_WRITE_PROT	R1	H'1E	01	0	1	0	0	0	00	00	0	0	0	0	XX
CMD35	ERASE_GROUP_START	R1	H'23	01	0	0	0	0	0	00	00	0	0	0	0	00
CMD36	ERASE_GROUP_END	R1	H'24	01	0	0	0	0	0	00	00	0	0	0	0	00
CMD38	ERASE	R1b	H'26	01	1	0	0	0	0	00	00	0	0	0	0	00
CMD39	FAST_IO	R4	H'27	01	0	0	0	0	0	00	00	0	0	0	0	00
CMD40	GO_IRQ_STATE (send CMD)	R5	H'28	01	0	0	0	0	0	00	00	0	0	0	0	00
	(send RSP)	R5	H'28	01	0	0	0	0	0	00	00	0	0	1	1	00
CMD42	LOCK_UNLOCK	R1	H'2A	01	0	1	1	0	0	00	00	0	0	0	0	XX
CMD55	APP_CMD	R1	H'37	01	0	0	0	0	0	00	00	0	0	0	0	00
CMD56	GEN_CMD (R)	R1	H'38	01	0	1	0	0	0	00	00	0	0	0	0	00
	(W)	R1	H'38	01	1	1	1	0	0	00	00	0	0	0	0	XX

44. シリアル汎用入出力ポート（SGPIO）

本LSIは3チャネル（チャネル0～2）のシリアル汎用入出力ポート(SGPIO)を内蔵しています。

44.1 特長

SGPIOには次のような特長があります。

- 汎用シフトレジスタ（対象IC：74LV595A、74LV165A）の通信プロトコルをサポート
- SClock周波数は10種類から選択可能（max:48MHz、min:93KHz）
- 128ビットの送信データレジスタと受信データレジスタを有しており、1ビットストリームで2～128ビットのデータを転送することが可能
- データ送信とデータ受信を同時実行可能（全2重通信）
- 単発転送モードと連続転送モードを搭載
- I/Oは3.3Vノーマル I/O（4mA-driver）を使用
- 2種類の割り込み要因（転送完了割り込み、ビット一致割り込み）

図 44.1 にSGPIOのブロック図を示します。

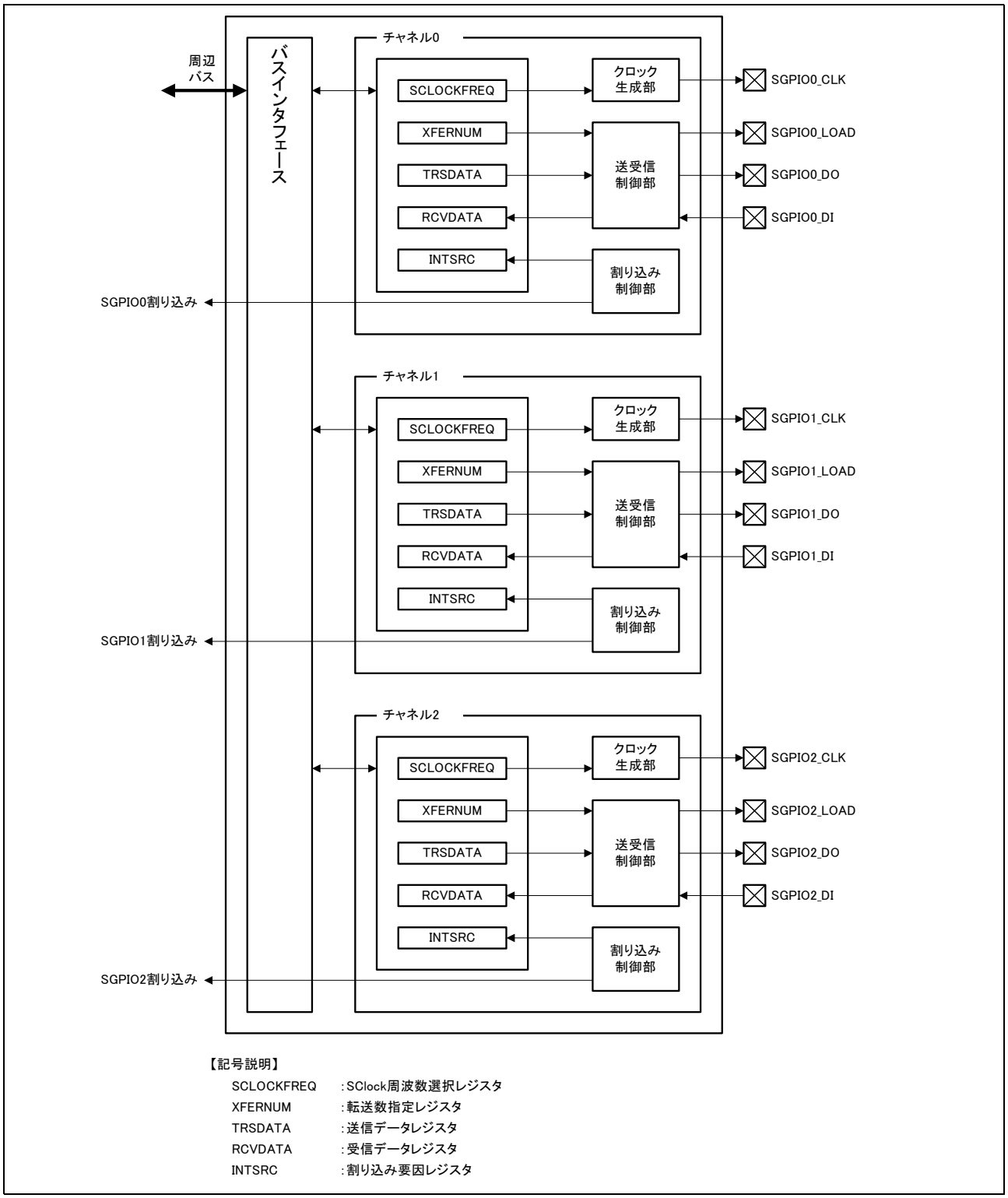


図 44.1　SGPIOのブロック図

44.2 入出力端子

表 44.1 に端子構成を示します。

表44.1　SGPIOの端子構成

端子名	信号名	機能	入出力	説明
SGPIO0-CLK SGPIO1-CLK SGPIO2-CLK	SClock	クロック	出力	ターゲットとの通信を行うための基準クロック 10種類の周波数から選択可能
SGPIO0-LOAD SGPIO1-LOAD SGPIO2-LOAD	SLoad	ロード	出力	ターゲットがデータロードするためのパルス信号 ビットストリーム転送開始時と終了時にパルス出力する
SGPIO0-DO SGPIO1-DO SGPIO2-DO	SDataOut	出力データ	出力	ターゲットに対する出力データ
SGPIO0-DI SGPIO1-DI SGPIO2-DI	SDataIn	入力データ	入力	ターゲットからの入力データ

44.3　レジスタの説明

表 44.2 にSGPIOのレジスタ構成と各処理モードにおけるレジスタの状態を示します。

SH-4AからSGPIOレジスタへのアクセスは32ビット単位としてください。32ビット以外の単位でアクセスした場合の動作は保証できません。

表44.2　SPGIOのレジスタ構成

名　　称	略称	R/W	アクセスサイズ	チャネル	アドレス	レジスタの状態		
						パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウエアリセット
転送設定レジスタ	XFERCFG	R/W	32	0	H'FFED 0000	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
				1	H'FFED 1000			
				2	H'FFED 2000			
転送数指定レジスタ	XFERNUM	R/W	32	0	H'FFED 0004	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
				1	H'FFED 1004			
				2	H'FFED 2004			
転送ビット位置モニタレジスタ	XFERBLMON	R	32	0	H'FFED 0008	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
				1	H'FFED 1008			
				2	H'FFED 2008			
SClock 周波数選択レジスタ	SCLOCKFREQ	R/W	32	0	H'FFED 000C	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
				1	H'FFED 100C			
				2	H'FFED 200C			
SGPIO ステートモニタレジスタ	STATEMON	R	32	0	H'FFED 0014	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
				1	H'FFED 1014			
				2	H'FFED 2014			
送信データレジスタ0	TRSDATA0	R/W	32	0	H'FFED 0100	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
				1	H'FFED 1100			
				2	H'FFED 2100			
送信データレジスタ1	TRSDATA1	R/W	32	0	H'FFED 0104	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
				1	H'FFED 1104			
				2	H'FFED 2104			
送信データレジスタ 2	TRSDATA2	R/W	32	0	H'FFED 0108	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
				1	H'FFED 1108			
				2	H'FFED 2108			
送信データレジスタ3	TRSDATA3	R/W	32	0	H'FFED 010C	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
				1	H'FFED 110C			
				2	H'FFED 210C			
受信データレジスタ0	RCVDATA0	R	32	0	H'FFED 0200	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
				1	H'FFED 1200			
				2	H'FFED 2200			
受信データレジスタ 1	RCVDATA1	R	32	0	H'FFED 0204	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
				1	H'FFED 1204			
				2	H'FFED 2204			

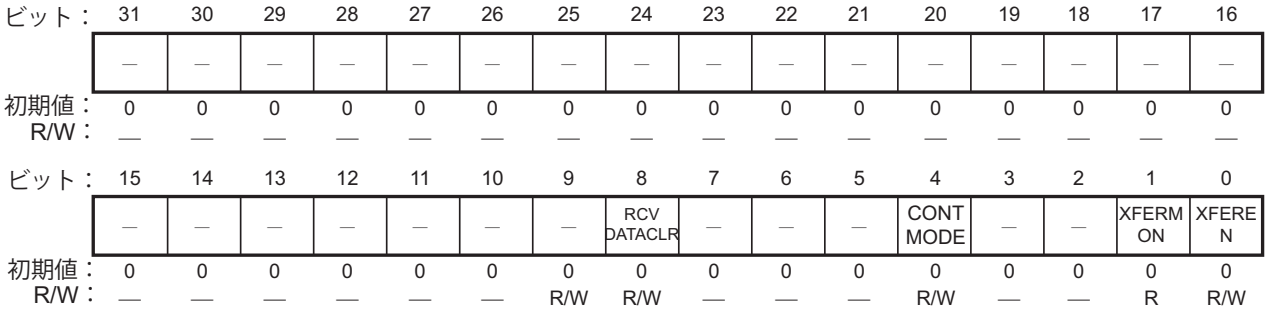
名　　称	略称	R/W	アクセスサイズ	チャネル	アドレス	レジスタの状態		
						パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウエアリセット
受信データレジスタ2	RCVDATA2	R	32	0	H'FFED 0208	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
				1	H'FFED 1208			
				2	H'FFED 2208			
受信データレジスタ 3	RCVDATA3	R	32	0	H'FFED 020C	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
				1	H'FFED 120C			
				2	H'FFED 220C			
割り込み許可レジスタ	INTEN	R/W	32	0	H'FFED 0300	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
				1	H'FFED 1300			
				2	H'FFED 2300			
割り込み要因レジスタ	INTSRC	R/W	32	0	H'FFED 0304	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
				1	H'FFED 1304			
				2	H'FFED 2304			
GPI設定レジスタ	GPICFG	R/W	32	0	H'FFED 0400	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
				1	H'FFED 1400			
				2	H'FFED 2400			
GPIラッチ有効レジスタ 0	GPILATCHEN0	R/W	32	0	H'FFED 0404	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
				1	H'FFED 1404			
				2	H'FFED 2404			
GPIラッチ有効レジスタ 1	GPILATCHEN1	R/W	32	0	H'FFED 0408	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
				1	H'FFED 1408			
				2	H'FFED 2408			
GPIラッチ有効レジスタ 2	GPILATCHEN2	R/W	32	0	H'FFED 040C	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
				1	H'FFED 140C			
				2	H'FFED 240C			
GPIラッチ有効レジスタ 3	GPILATCHEN3	R/W	32	0	H'FFED 0410	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
				1	H'FFED 1410			
				2	H'FFED 2410			
GPI極性レジスタ 0	GPIPOLARITY0	R/W	32	0	H'FFED 0414	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
				1	H'FFED 1414			
				2	H'FFED 2414			
GPI極性レジスタ 1	GPIPOLARITY1	R/W	32	0	H'FFED 0418	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
				1	H'FFED 1418			
				2	H'FFED 2418			
GPI極性レジスタ 2	GPIPOLARITY2	R/W	32	0	H'FFED 041C	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
				1	H'FFED 141C			
				2	H'FFED 241C			
GPI極性レジスタ 3	GPIPOLARITY3	R/W	32	0	H'FFED 0420	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
				1	H'FFED 1420			
				2	H'FFED 2420			

名　　称	略称	R/W	アクセスサイズ	チャネル	アドレス	レジスタの状態		
						パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウエアリセット
ビット一致レジスタ 0	BITMATCH0	R/W	32	0	H'FFED 0424	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
				1	H'FFED 1424			
				2	H'FFED 2424			
ビット一致レジスタ 1	BITMATCH1	R/W	32	0	H'FFED 0428	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
				1	H'FFED 1428			
				2	H'FFED 2428			
ビット一致レジスタ 2	BITMATCH2	R/W	32	0	H'FFED 042C	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
				1	H'FFED 142C			
				2	H'FFED 242C			
ビット一致レジスタ 3	BITMATCH3	R/W	32	0	H'FFED 0430	H'0000 0000	H'0000 0000	H'0000 0000
				1	H'FFED 1430			
				2	H'FFED 2430			

注.　このモジュールを使用される場合は、POR解除後にSH-4Aからアドレス(H'FFED 0500)にH'0000 0001を書いてから使用して下さい。

44.3.1　転送設定レジスタ（XFERCFG）

XFERCFGは、読み出し/書き込み可能な32ビットレジスタです。端子の出力制御や転送モードの設定を行います。



ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 10	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
9	—	0	R/W	リザーブビット 書き込む値は常に0に固定してください。
8	RCVDATACLR	0	R/W	受信データクリア 本ビットに1をライトすることにより、受信データレジスタが0になります。受信データレジスタが0になった後、本ビットは自動的に0になります。ビットストリーム転送中の本ビットへの書き込みは禁止です。
7 ～ 5	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
4	CONTMODE	0	R/W	連続転送モード 指定長のビットストリームを連続転送する際に1にしてください。連続転送中は本ビットが0になるまでビットストリーム転送を継続します。 0：無効（単発転送モード） 1：有効（連続転送モード）
3、2	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
1	XFERMON	0	R	転送状態モニタ 0：アイドル状態 1：転送中
0	XFEREN	0	R/W	転送有効 1の状態でのみビットストリーム転送が可能。 0クリアでSClock、SLoad、SDataOutはHレベルとなります。 0：無効 1：有効

44.3.2　転送数指定レジスタ（XFERNUM）

XFERNUMは、読み出し/書き込み可能な32ビットレジスタです。本レジスタへ転送ビット数を書き込むことによりビットストリーム転送を開始します。ビットストリーム転送中の本レジスタへの書き込みは禁止です。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	XFERNUM						
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～7	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
6～ 0	XFERNUM	0000000	R/W	1ビットストリームの転送ビット数指定（2～128ビット） 本ビットへのライトアクセスによりビットストリーム転送を開始します。XFERNUMの設定値と転送ビット数の関係は次の通り。 XFERNUM=1　転送ビット数：2　(注) 1ではない。 XFERNUM=2　転送ビット数：2 XFERNUM=3　転送ビット数：3 ： XFERNUM=126　転送ビット数：126 XFERNUM=127　転送ビット数：127 XFERNUM=0　転送ビット数：128

44.3.3　転送ビット位置モニタレジスタ（XFERBLMON）

XFERBLMONは、読み出し専用の32ビットレジスタです。ビットストリーム転送中の転送ビット位置を示します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

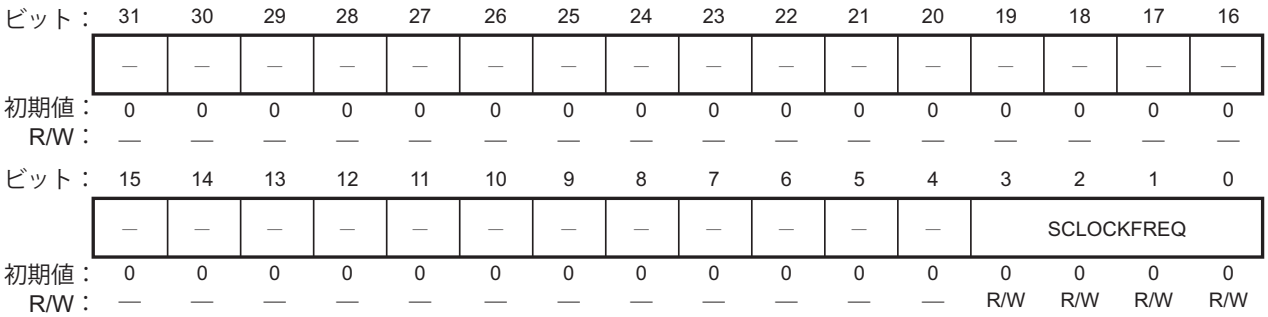
ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	XFERBLMON						
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 7	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
6 ～ 0	XFERBLMON	0000000	R	現在の転送ビット位置 転送中のビット位置が参照できます。例えば、8ビット目（bit7）を転送している際にはXFERBLMON=8となります。なお、アイドル状態（転送していない状態）、及び1ビットストームの最終ビット転送時にはXFERBLMON=0となります。

44.3.4　SClock周波数選択レジスタ（SCLOCKFREQ）

SCLOCKFREQは、読み出し/書き込み可能な32ビットレジスタです。SClockの周波数を設定します。本レジスタの設定は転送無効（XFEREN=0）の状態で行ってください。

なお、周波数設定はSGPIOのAC特性を満たす範囲で行ってください。特に48MHzを設定する場合は、外付けデバイスの性能を十分に調査した上で接続可否を判断してください。



ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 4	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
3 ～ 0	SCLOCKFREQ	0000	R/W	SClockの周波数設定。 転送無効（XFEREN=0）時のみライト可能です。 H'0: 24 MHz H'1: 12 MHz H'2: 6 MHz H'3: 3 MHz H'4: 1.5 MHz H'5: 750 kHz H'6: 375 kHz H'7: 187.5 kHz H'8: 93.75 kHz H'9-H'E: Reserved H'F: 48 MHz

44.3.5　SGPIOステートモニタレジスタ（STATEMON）

STATEMONは、読み出し専用の32ビットレジスタです。SGPIOコントローラのステートを示します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	STATEMON		
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R	R	R

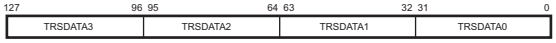
ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 3	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
2 ～ 0	STATEMON	000	R	SGPIO controllerのステート 000: bus release 001: idle 010: single_load 011: single_clock 100: continuous_load 101: continuous_clock 110-111: reserved

44.3.6　送信データレジスタ（TRSDATA0-3）

TRSDATA0-3は、読み出し/書き込み可能な32ビットレジスタです。SGPIO0-DO～SGPIO2-DOに出力する送信データを設定します。ビットストリーム転送中の本レジスタへの書き込みは禁止です。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	TRSDATAn															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

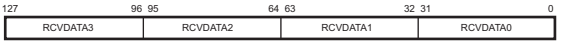
ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TRSDATAn															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～0	TRSDATAn	H'0000 0000	R/W	SGPIO0-DO～SGPIO2-DOに出力する送信データ（最大128ビット） 転送数指定レジスタの設定値に従ってLSBより順にビット出力します。 TRSDATA0.b0 → b1 → … → b31 → TRSDATA1.b0 → b1 → … 

44.3.7　受信データレジスタ（RCVDATA0-3）

RCVDATA0-3は、読み出し専用の32ビットレジスタです。SGPIO0-DI～SGPIO2-DIに入力された受信データを示します。ビットストリーム転送中の本レジスタの読み出しは禁止です。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	RCVDATAn															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R
ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RCVDATAn															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～0	RCVDATAn	H'0000 0000	R	SGPIO0-DI～SGPIO2-DIに入力された受信データ（最大128ビット） 転送数指定レジスタの設定値に従ってLSBより順にビット入力します。受信データクリアビット（RCVDATACLR）に1をライトすることで本レジスタが0になります。 RCVDATA0.b0 → b1 → … → b31 → RCVDATA1.b0 → b1 → … 

44.3.8　割り込み許可レジスタ（INTEN）

INTENは、読み出し/書き込み可能な32ビットレジスタです。割り込み許可の設定を行います。連続転送を行う場合は転送完了割込みを使用しないでください。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	BITMAT CHINTEN	XFEREN DINTEN
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31～2	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
1	BITMATCHINTEN	0	R/W	ビット極性一致割り込み許可 0:禁止 1:許可
0	XFERENDINTEN	0	R/W	転送完了割り込み許可 0:禁止 1:許可

44.3.9　割り込み要因レジスタ（INTSRC）

INTSRCは、読み出し/書き込み可能な32ビットレジスタです。割り込み要因を示します。割り込み要因をクリアする場合は、該当ビットに1をライトしてください。なお、割り込み許可レジスタ（INTEN）で割り込み禁止に設定した場合も、該当イベントが発生すると割り込み要因ビットはセットされます。ビットストリーム転送中の本レジスタへの書き込みは禁止です。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	BITMAT CHINT	XFER ENDINT
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 2	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
1	BITMATCHINT	0	R/W	ビット極性一致割り込み SGPIO0-DI～SGPIO2-DIからの入力ビット極性がGPIPOLARITYに設定した極性と一致した際にセットされます。
0	XFERENDINT	0	R/W	転送完了割り込み ビットストリーム転送が完了した際にセットされます。

44.3.10 GPI設定レジスタ（GPICFG）

GPICFGは、読み出し/書き込み可能な32ビットレジスタです。SGPIO0-DI～SGPIO2-DIに入力された受信データに対するビット一致判定（GPIラッチ判定）の有効/無効を設定します。ビットストリーム転送中の本レジスタへの書き込みは禁止です。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

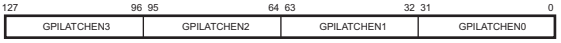
ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	GPIEN
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 2	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）
1	—	0	R/W	リザーブビット 書き込む値は常に0に固定してください。
0	GPIEN	0	R/W	GPI機能有効ビット 本ビットが1の場合のみGPIラッチ判定を行います。 0:無効 1:有効

44.3.11 GPIラッチ有効レジスタ（GPILATCHEN0-3）

GPILATCHEN0-3は、読み出し/書き込み可能な32ビットレジスタです。本レジスタで1に設定されたビットのみGPIラッチ判定の対象となります。ビットストリーム転送中の本レジスタへの書き込みは禁止です。

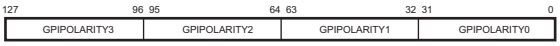
ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	GPILATCHENn															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	GPILATCHENn															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	GPILATCHENn	H'0000 0000	R/W	GPIラッチ判定するビット指定（最大128ビット） 0: 無効 1: 有効 

44.3.12 GPI極性レジスタ（GPIPOLARITY0-3）

GPIPOLARITY0-3は、読み出し/書き込み可能な32ビットレジスタです。GPIラッチ判定の期待値（アサート極性）を設定します。ビットストリーム転送中の本レジスタへの書き込みは禁止です。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	GPIPOLARITYn															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	GPIPOLARITYn															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	GPIPOLARITYn	H'0000 0000	R/W	GPIラッチ判定の期待値（アサート極性） 0: 入力データ=L 1: 入力データ=H 

44.3.13 ビット一致レジスタ（BITMATCH0-3）

BITMATCH0-3は、読み出し/書き込み可能な32ビットレジスタです。GPIラッチ判定でビット一致が発生した箇所が1になります。ビット一致が発生した箇所をクリアする場合は、該当ビットに1をライトしてください。また各ビットの論理和がビット一致割り込みの要因となります。ビット一致割り込みの要因をクリアする場合は、本レジスタの該当ビットに1をライトし、すべてのビットを0にした後、割り込み要因レジスタ（INTSRC）のBITMATCHINTビットにも1をライトしてください。ビットストリーム転送中の本レジスタの読み出し/書き込みは禁止です。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	BITMATCHn															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	BITMATCHn															
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 0	BITMATCHn	H'0000 0000	R/W	ビット一致が発生した箇所が1になります。 127　96 95　64 63　32 31　0 BITMATCH3 | BITMATCH2 | BITMATCH1 | BITMATCH0

44.4　動作説明

44.4.1　ビットストリーム構成

ビットストリーム転送には単発転送モードと連続転送モードが存在します。単発転送モードではビットストリーム転送のたびにレジスタ操作を行う必要がありますが、連続転送モードでは一度転送を開始するとレジスタ操作で停止しない限り、ビットストリーム転送を繰り返し実行することができます。

何れの転送モードにおいても、1回のビットストリーム転送で転送できるビット数は2～128ビットの範囲で選択することになります。

図 44.2 にビットストリームの構成図を示します。ビットストリーム転送は最初にSLoadのLパルスを出力し、次にSClockによるビット転送、最後に再びSLoadのLパルスを出力して完了となります。これは単一のチャネルに74LV165A（パラレル/シリアル変換IC）と74LV595A（シリアル/パラレル変換IC）を同時接続できるような構成となっています。74LV165Aと74LV595Aを同時接続した場合の接続例を図44.3に示します。最初のSLoadパルスは74LV165Aによるパラレルデータ（QA In）の取り込みのために出力し、最後のSLoadパルスは74LV595Aによるパラレルデータ（QA Out）の出力のために出力します。

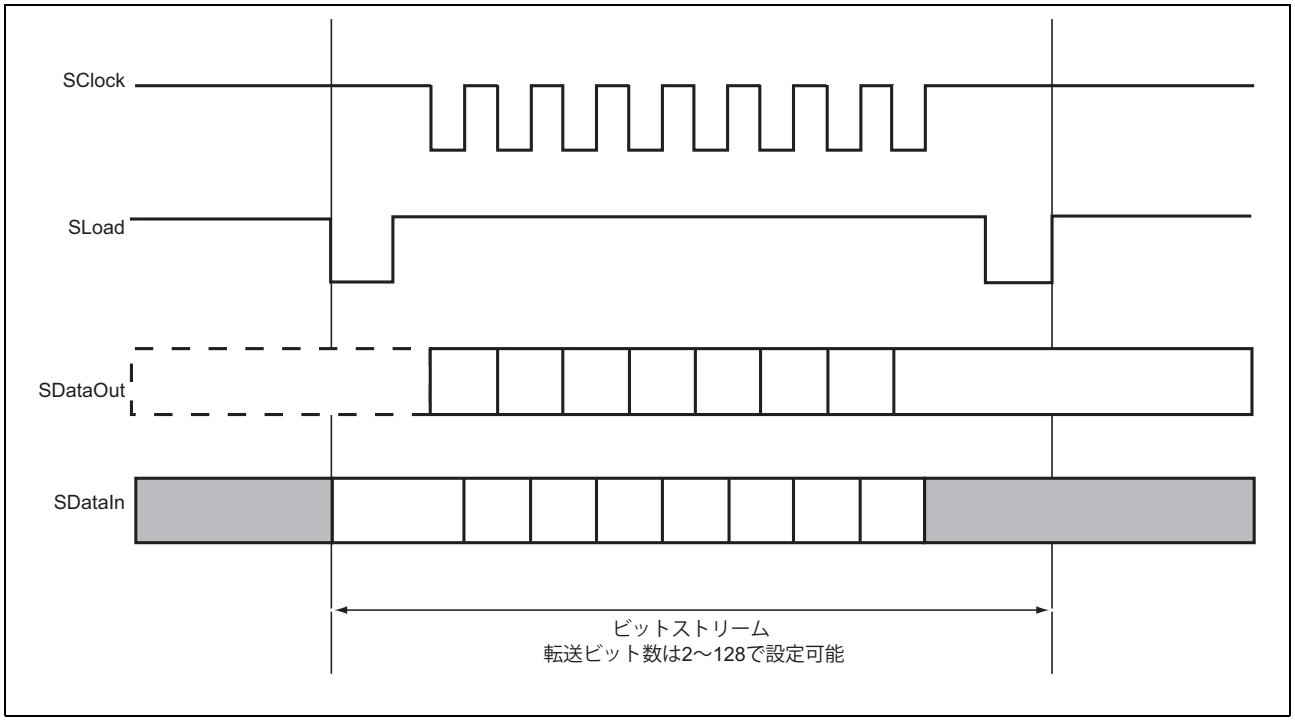


図 44.2　ビットストリーム構成

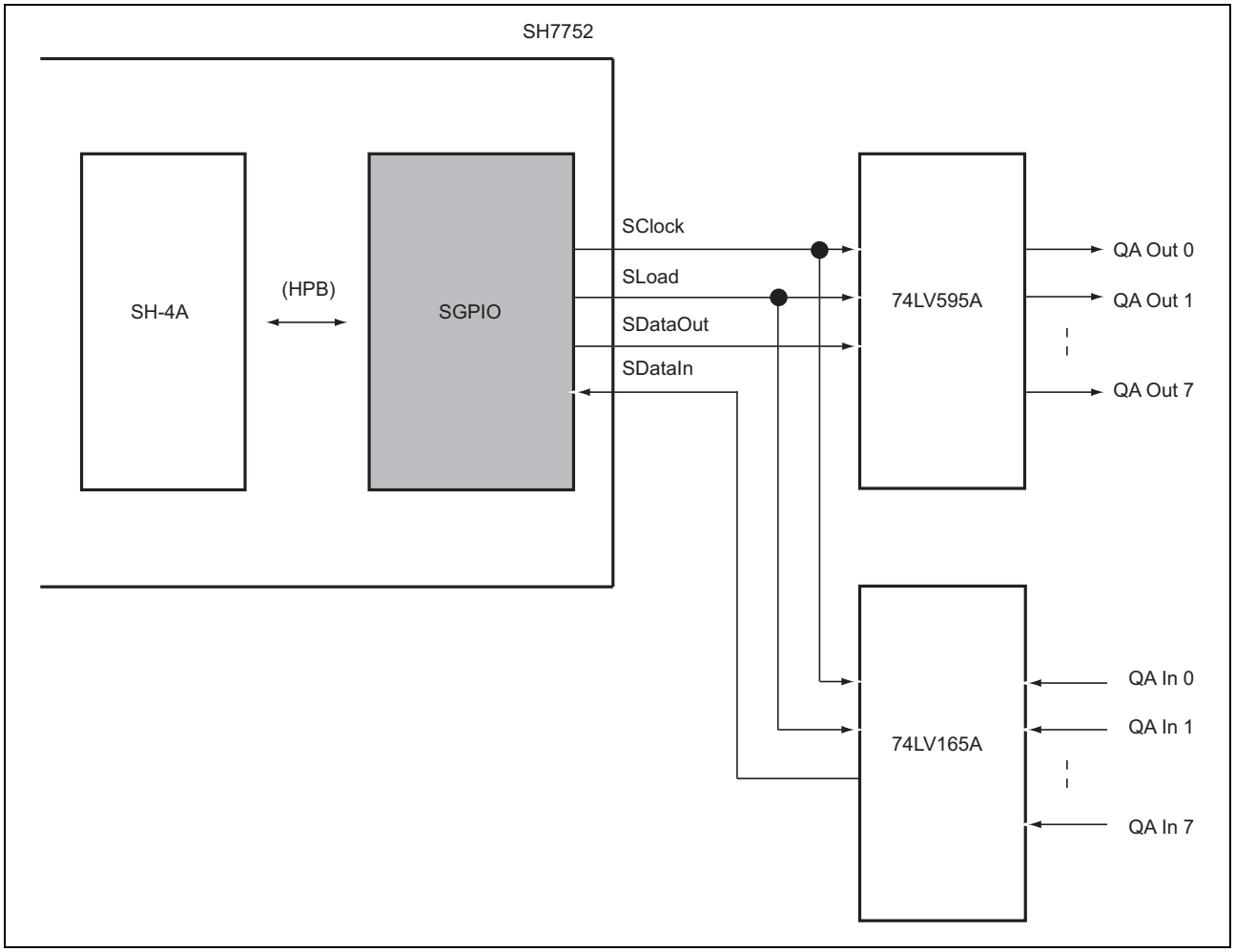


図 44.3　汎用シフトレジスタの接続例

44.4.2　出力端子制御

図 44.4 に出力端子制御のタイミング図を示します。出力端子である SClock、SLoad、SDataOut は転送有効ビット（XFEREN）が 0 である場合、出力が H レベルとなります。このため、ビットストリーム転送を行う際は XFEREN を 1 にして出力制御が可能な状態としてください。なお、XFEREN を 0 にするとビットストリーム転送中であっても直ぐに出力が H レベルとなります。

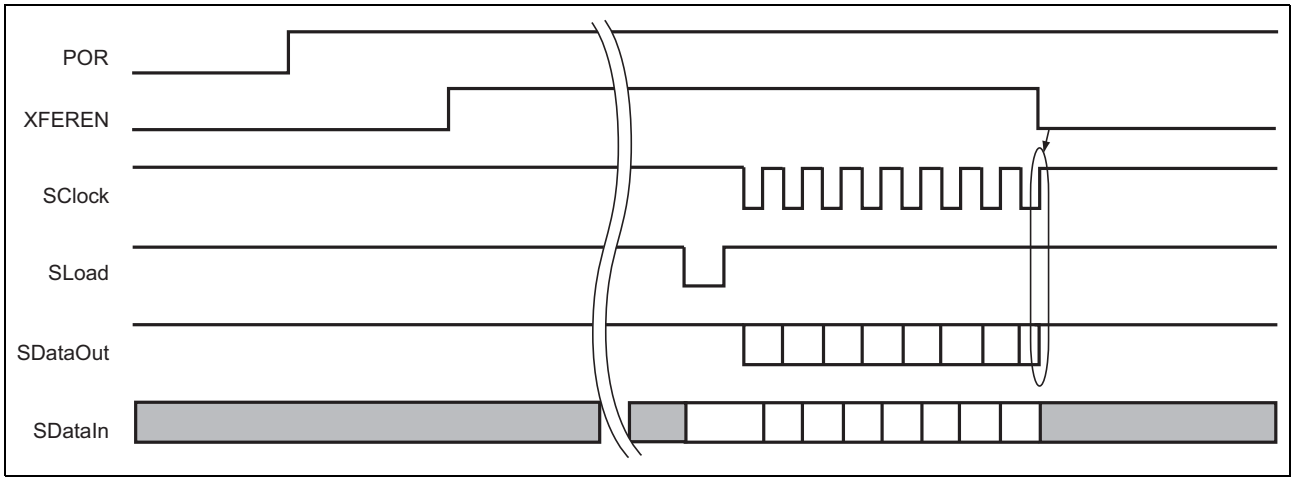


図 44.4　出力端子制御のタイミング図

44.4.3　単発転送モード

転送設定レジスタ（XFERCFG）の連続転送モードビット（CONTMODE）を0に設定して転送を開始すると単発転送が実現できます。図 44.5に単発転送のタイミング図を示します。

単発転送の設定手順例

1. XFERENを1に設定します。
2. CONTMODEを0（初期値は0）に設定します。
3. 割り込み許可レジスタ（INTEN）で転送完了割り込み（XFERENDINT）を許可します。
4. 送信データレジスタ（TRSDATA）に送信データを設定します。
5. 転送数指定レジスタ（XFERNUM）に転送ビット数を設定することで転送が開始されます。
6. XFERENDINTを検出して転送が完了したことを認識します。
7. 受信データレジスタ（RCVDATA）から受信データを確認します。
8. 割り込み要因レジスタ（INTSRC）に1をライトしてXFERENDINTをクリアします。

注．SGPIO入出力端子はGPIO入出力端子とピンマルチプレクスされておりますので、GPIOの章も参照ください。

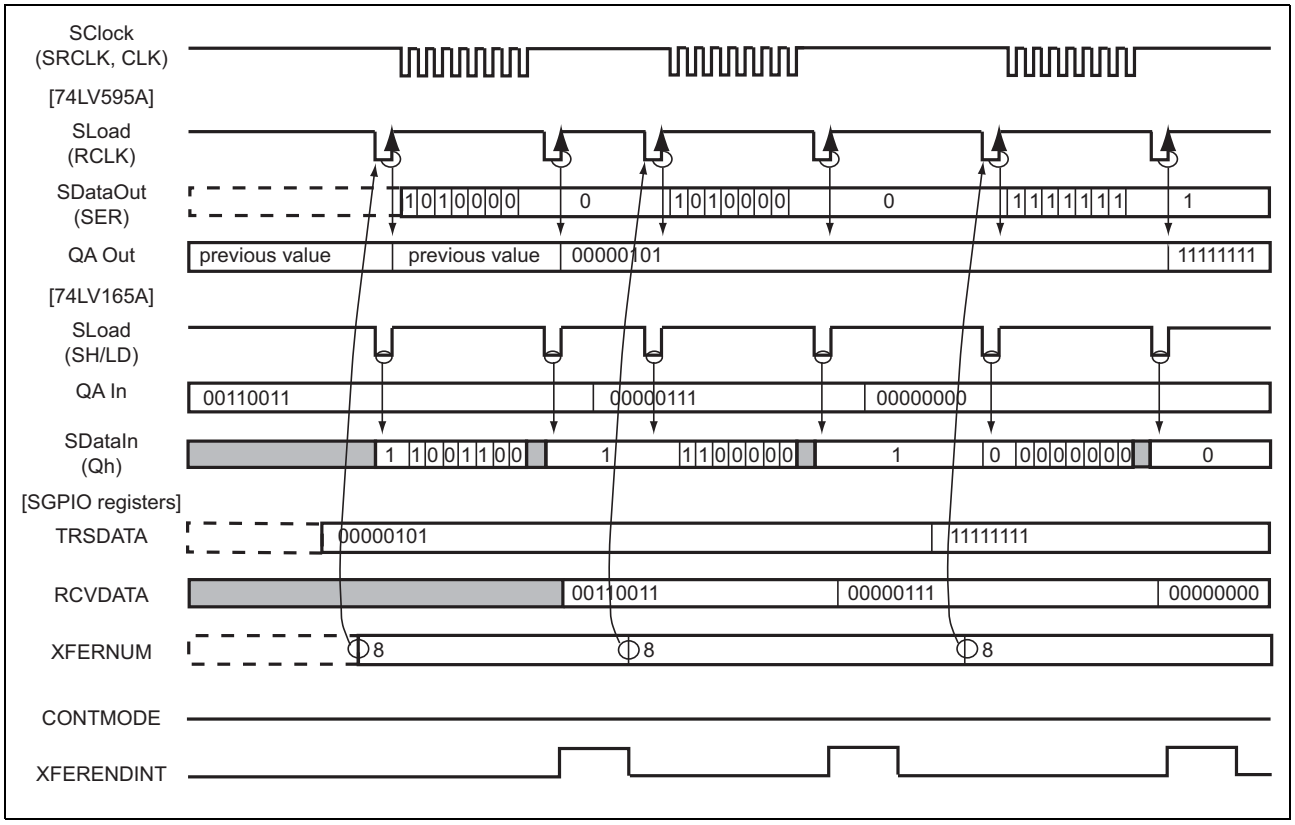


図 44.5　単発転送のタイミング図

44.4.4　連続転送モード

転送設定レジスタ（XFERCFG）の連続転送モードビット（CONTMODE）を1に設定して転送を開始すると連続転送が実現できます。図 44.6に連続転送のタイミング図を示します。

連続転送の設定手順例

1. XFERENを1に設定します。
2. CONTMODEを1（初期値は0）に設定します。
3. 送信データレジスタ（TRSDATA）に送信データを設定します。
4. 転送数指定レジスタ（XFERNUM）に転送ビット数を設定することで転送が開始されます。連続転送ではビットストリーム転送間のSLoadパルスは1回となります。
5. 転送を停止させるためにCONTMODEを0に設定します。
6. 転送モニタービット（XFERMON）が0になったことを検出して転送が完了したことを認識します。
7. 受信データレジスタ（RCVDATA）から受信データを確認します。

注．転送完了割り込み（XFERENDINT）は連続転送モードでは使用しないでください。
SGPIO入出力端子はGPIO入出力端子とピンマルチプレクスされておりますので、GPIOの章も参照ください。

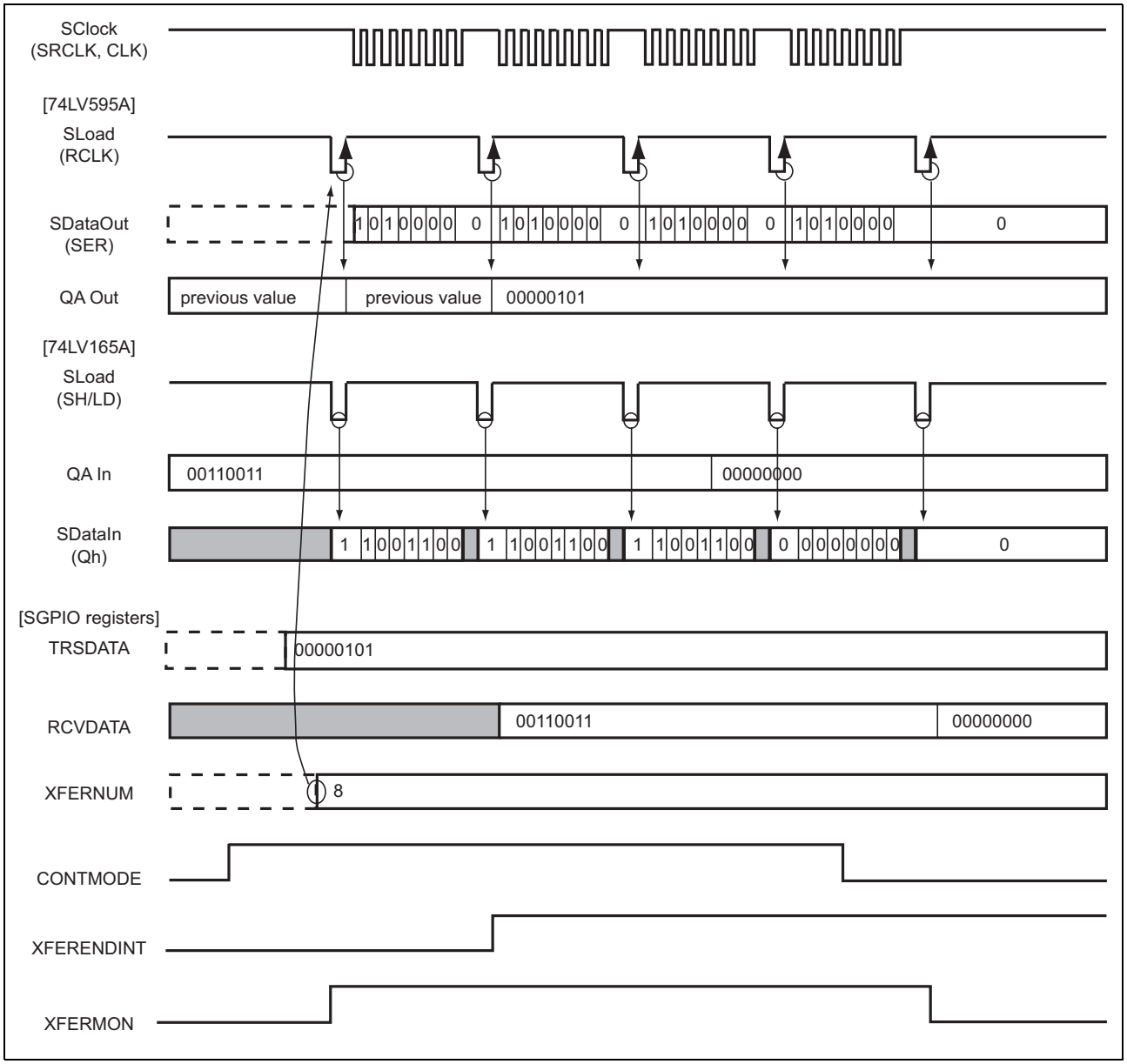


図 44.6　連続転送のタイミング図

44.4.5　割り込み

図44.7 に割り込み制御回路を示します。SGPIO割り込みは転送完了割り込み（XFERENDINT）とビット一致割り込み（BITMATCHINT）の 2 要因となります。割り込み許可レジスタ（INTEN）の設定により、任意の割り込みを禁止にすることができます。割り込みを禁止にした場合であっても割り込み要因ビットはセットされます。

(1)　転送完了割り込み（XFERENDINT）

XFERENDINT は 1 回のビットストリーム転送が完了した際にセットされます。XFERENDINT をクリアする場合はXFERENDINTに1をライトしてください。

(2)　ビット一致割り込み（BITMATCHINT）

BITMATCHINTは受信データ（RCVDATA）と期待値（GPIPOLARITY）が一致した際にセットされます。受信データと期待値の比較はビットストリーム転送の完了時に行われます。ビットごとにGPIラッチ有効レジスタ（GPILATCHEN）でビット比較処理の有効/無効を設定することができます。またビット一致レジスタ（BITMATCH）からビット一致が検出された箇所を確認することができます。BITMATCHINT をクリアする場合は、BITMATCH レジスタの該当ビットに 1 をライトした後にBITMATCHINTに1をライトしてください。

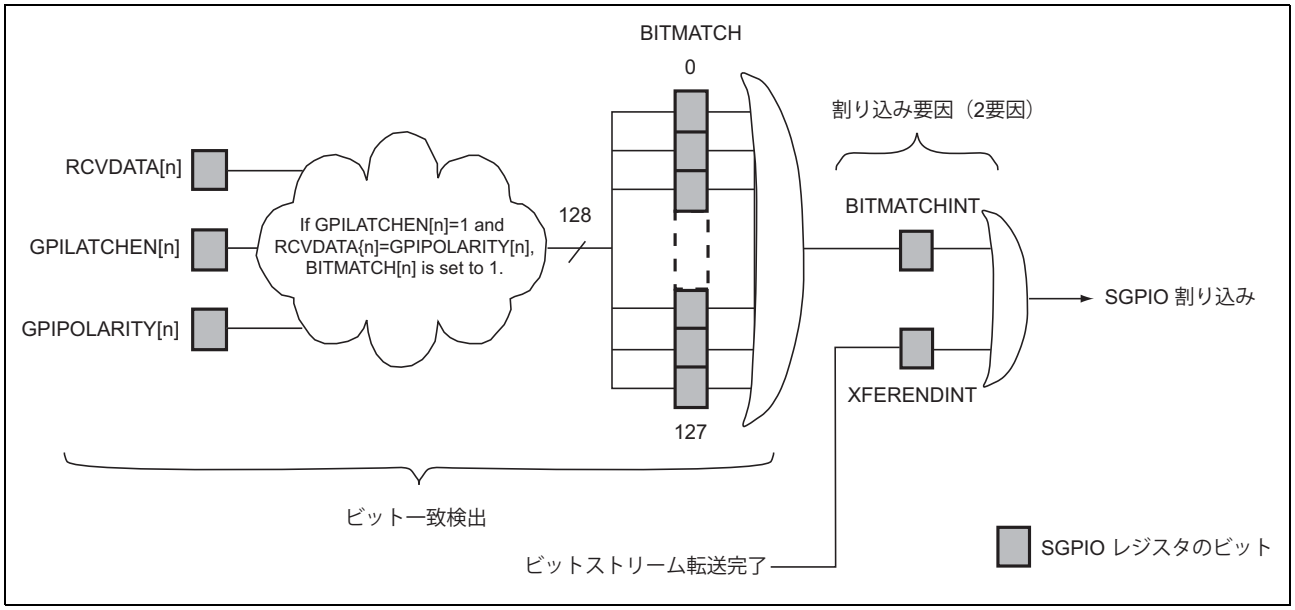


図 44.7　割り込み制御回路

44.5　使用上の注意事項

44.5.1　システム起動直後の転送

図 44.8 にシステム起動直後のタイミング図を示します。74LV595A をターゲットデバイスとして接続していた場合、起動直後の最初の SLoad 立ち上がりエッジで 74LV595A が出力する QA Out の値が不定になる可能性があります（最初の SLoad 立ち上がりエッジまでに SClock 出力がないため）。74LV595A の QA Out を確定させたい場合は、74LV595A にリセットを入れるなどの対策を施してください。

このモジュールを使用される場合は、POR 解除後に CPU からアドレス (H'FFED 0500) に H'0000 0001 を書いてから使用して下さい。

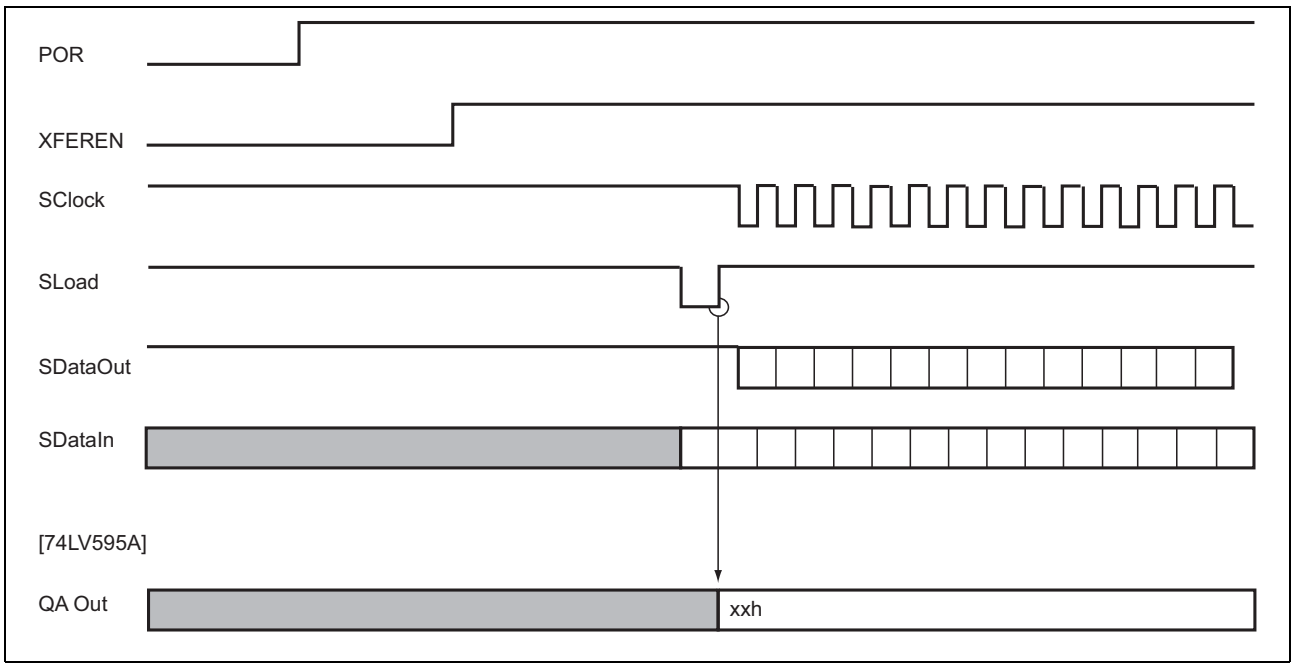


図 44.8　システム起動直後の転送

45. 8 ビットPWM タイマ（PWMU）

本LSIは8 ビットPWM タイマ（PWMU）を内蔵しています。このPWMU は6 チャネルのPWM 波形を出力します。PWMU の各PWM チャネルはそれぞれ独立して動作できます。8 ビットの単パルス方式により、6 チャネルの長周期のPWM 出力が可能です。16 ビット／12 ビットの単パルス方式により、3 チャネルの長周期のPWM 出力も可能です。また、8 ビットのパルス分割方式により、高いキャリア周波数のPWM 出力も可能です。LSI 外部にローパスフィルタを接続することにより、8 ビットD/A 変換器としても使用できます。

45.1　特長

- 4種類のカウントクロックソースを選択可能：Pck、Pck/2、Pck/4、Pck/8

- チャネル毎に独立動作、及び周期可変
  2チャネルのカスケード接続が可能
  チャネル1（上位）、チャネル0（下位）とする16/12ビット単パルスPWMタイマとして動作可能
  チャネル3（上位）、チャネル2（下位）とする16/12ビット単パルスPWMタイマとして動作可能
  チャネル5（上位）、チャネル4（下位）とする16/12ビット単パルスPWMタイマとして動作可能

- 8ビット単パルスモード
  最大188.2kHzのキャリア周波数での動作可能（48MHz動作時）
  デューティ比0/255～255/255のパルス出力設定可能
  PWM出力のイネーブル／ディスエーブルの切り替え、直接出力／反転出力の切り替えが可能

- 12ビット単パルスモード
  2チャネルをカスケード接続することで動作可能
  最大11.7kHzのキャリア周波数での動作可能（48MHz動作時）
  デューティ比0/4095～4095/4095のパルス出力設定可能
  PWM出力のイネーブル／ディスエーブルの切り替え、直接出力／反転出力の切り替えが可能

- 16ビット単パルスモード
  2チャネルをカスケード接続することで動作可能
  最大732.4Hzのキャリア周波数での動作可能（48MHz動作時）
  デューティ比0/65535～65535/65535のパルス出力設定可能
  PWM出力のイネーブル／ディスエーブルの切り替え、直接出力／反転出力の切り替えが可能

- 8ビットパルス分割モード
  最大3MHzのキャリア周波数での動作可能（48MHz動作時）
  デューティ比0/16～15/16のパルス出力設定可能
  PWM出力のイネーブル／ディスエーブルの切り替え、直接出力／反転出力の切り替えが可能

PWMUのブロック図を図45.1に示します。

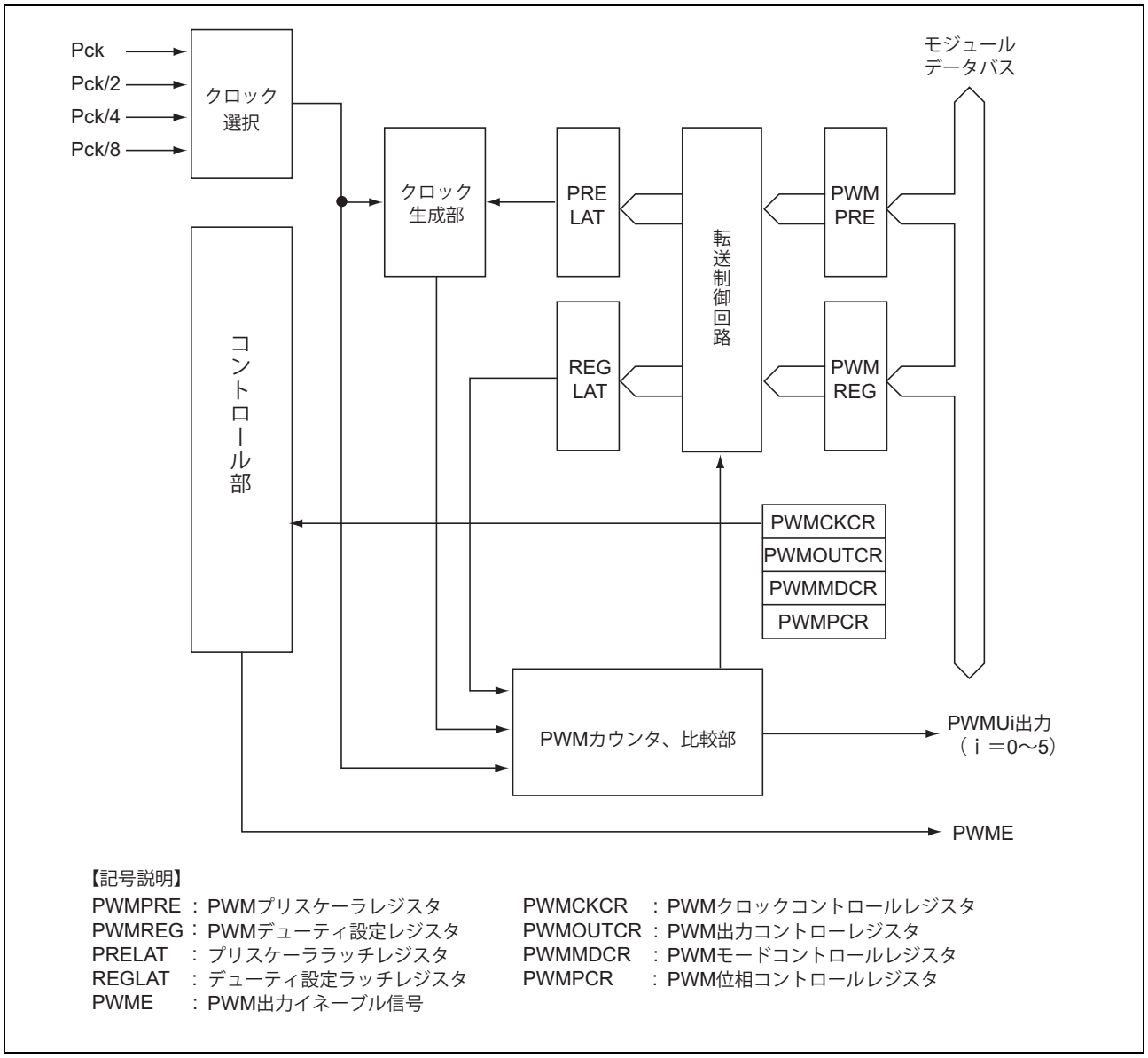


図 45.1　PWMU ブロック図

45.2　入出力端子

PWMU の端子構成を表45.1 に示します。

表45.1　端子構成

端子名	入出力	機 能
PWMU0	出力	PWMパルス出力 （8 ビット単パルス、8 ビットパルス分割）
PWMU1	出力	PWMパルス出力 （8/12/16 ビット単パルス、8 ビットパルス分割）
PWMU2	出力	PWMパルス出力 （8 ビット単パルス、8 ビットパルス分割）
PWMU3	出力	PWMパルス出力 （8/12/16 ビット単パルス、8 ビットパルス分割）
PWMU4	出力	PWMパルス出力 （8 ビット単パルス、8 ビットパルス分割）
PWMU5	出力	PWMパルス出力 （8/12/16 ビット単パルス、8 ビットパルス分割）

45.3　レジスタの説明

PWMU には以下のレジスタがあります。

表45.2　レジスタ構成

レジスタ名	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態		
					パワーオンリセット	マニュアルリセット	ソフトウェアリセット
PWM クロックコントロールレジスタ	PWMCKCR	R/W	H'FFD7 000C	8	H'00	H'00	H'00
PWM出力コントロールレジスタ	PWMOUTCR	R/W	H'FFD7 000D	8	H'00	H'00	H'00
PWMモードコントロールレジスタ	PWMMDCR	R/W	H'FFD7 000E	8	H'00	H'00	H'00
PWM位相コントロールレジスタ	PWMPCR	R/W	H'FFD7 000F	8	H'00	H'00	H'00
PWMプリスケーラレジスタ0	PWMPRE0	R/W	H'FFD7 0001	8	H'00	H'00	H'00
PWM プリスケーラレジスタ 1	PWMPRE1	R/W	H'FFD7 0003	8	H'00	H'00	H'00
PWM プリスケーラレジスタ 2	PWMPRE2	R/W	H'FFD7 0005	8	H'00	H'00	H'00
PWM プリスケーラレジスタ 3	PWMPRE3	R/W	H'FFD7 0007	8	H'00	H'00	H'00
PWM プリスケーラレジスタ 4	PWMPRE4	R/W	H'FFD7 0009	8	H'00	H'00	H'00
PWM プリスケーラレジスタ 5	PWMPRE5	R/W	H'FFD7 000B	8	H'00	H'00	H'00
PWM デューティ設定レジスタ 0	PWMREG0	R/W	H'FFD7 0000	8	H'00	H'00	H'00
PWM デューティ設定レジスタ 1	PWMREG1	R/W	H'FFD7 0002	8	H'00	H'00	H'00
PWM デューティ設定レジスタ 2	PWMREG2	R/W	H'FFD7 0004	8	H'00	H'00	H'00
PWM デューティ設定レジスタ 3	PWMREG3	R/W	H'FFD7 0006	8	H'00	H'00	H'00
PWM デューティ設定レジスタ 4	PWMREG4	R/W	H'FFD7 0008	8	H'00	H'00	H'00
PWM デューティ設定レジスタ 5	PWMREG5	R/W	H'FFD7 000A	8	H'00	H'00	H'00

45.3.1　PWM クロックコントロールレジスタ（PWMCKCR）

PWMCKCR はPWM クロックソースを選択します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	CLK1	CLK0	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	—	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7、6	CLK1、CLK0	0、0	R/W	クロック選択1、0 カウントクロックソースを選択します。 CLK1 CLK0 0　0：内部クロックPck を選択 0　1：内部クロックPck/2 を選択 1　0：内部クロックPck/4 を選択 1　1：内部クロックPck/8 を選択
5 ～ 0	—	0	—	リザーブビット （読み出すと“0”が読めます。書き込む値は“0”にしてください）

45.3.2　PWM 出力コントロールレジスタ（PWMOUTCR）

PWMOUTCR はPWM のチャネル毎の出力の許可／禁止、カウントの許可／禁止を制御します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	CNTMD 45B	CNTMD 23B	PWM5E	PWM4E	PWM3E	PWM2E	PWM1E	PWM0E
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	CNTMD45B	0	R/W	チャネル4、5　12 ビットカウントモード選択 0：チャネル4、5 を8 ビットカウントモードに設定します。 1：チャネル4、5 を12 ビットカウントモードに設定します。 12 ビットカウントモードを選択するときは16 ビットカウントモードは非選択（CNTMD45A=0）にしてください（表45.5参照）。
6	CNTMD23B	0	R/W	チャネル2、3　12 ビットカウントモード選択 0：チャネル2、3 を8 ビットカウントモードに設定します。 1：チャネル2、3 を12 ビットカウントモードに設定します。 12 ビットカウントモードを選択するときは16 ビットカウントモードは非選択（CNTMD23A=0）にしてください（表45.4参照）。
5	PWM5E(注)	0	R/W	PWMU5 出力イネーブルビット 0：PWMU5 出力禁止、カウント禁止 1：PWMU5 出力許可、カウント許可

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
4	PWM4E(注)	0	R/W	PWMU4 出力イネーブルビット • 8 ビット単パルス／パルス分割モード時 0：PWMU4 出力禁止、カウント禁止 1：PWMU4 出力許可、カウント許可 • 12/16 ビット単パルスモード時 0：PWMU4 出力禁止、カウント禁止 1：PWMU4 出力禁止、カウント許可
3	PWM3E(注)	0	R/W	PWMU3 出力イネーブルビット 0：PWMU3 出力禁止、カウント禁止 1：PWMU3 出力許可、カウント許可
2	PWM2E(注)	0	R/W	PWMU2 出力イネーブルビット • 8 ビット単パルス／パルス分割モード時 0：PWMU2 出力禁止、カウント禁止 1：PWMU2 出力許可、カウント許可 • 12/16 ビット単パルスモード時 0：PWMU2 出力禁止、カウント禁止 1：PWMU2 出力禁止、カウント許可
1	PWM1E(注)	0	R/W	PWMU1 出力イネーブルビット 0：PWMU1 出力禁止、カウント禁止 1：PWMU1 出力許可、カウント許可
0	PWM0E(注)	0	R/W	PWMU0 出力イネーブルビット • 8 ビット単パルス／パルス分割モード時 0：PWMU0 出力禁止、カウント禁止 1：PWMU0 出力許可、カウント許可 • 12/16 ビット単パルスモード時 0：PWMU0 出力禁止、カウント禁止 1：PWMU0 出力禁止、カウント許可

注.　12/16ビット単パルスモード時は、それぞれPWM0E/PWM1Eビット、PWM2E/PWM3Eビット、PWM4E/PWM5Eビットの２ビットを同時に“1”にしてください

45.3.3 PWM Mode Control Register (PWMMDCR)

PWMMDCR はPWM のチャネル毎のカウントモード、及び動作モードを選択します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	CNTMD01B	CNTMD01A	PWMSL5	PWMSL4	PWMSL3	PWMSL2	PWMSL1	PWMSL0
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	CNTMD01B	0	R/W	チャネル0、1　12 ビットカウントモード選択 0：チャネル0、1 を8 ビットカウントモードに設定します。 1：チャネル0、1 を12 ビットカウントモードに設定します。 12 ビットカウントモードを選択するときは16 ビットカウントモードは非選択（CNTMD01A=0）にしてください（表45.3参照）。
6	CNTMD01A	0	R/W	チャネル0、1　16 ビットカウントモード選択 0：チャネル0、1 を8 ビットカウントモードに設定します。 1：チャネル0、1 を16 ビットカウントモードに設定します。 16 ビットカウントモードを選択するときは12 ビットカウントモードは非選択（CNTMD01B=0）にしてください（表45.3参照）。
5	PWMSL5	0	R/W	チャネル5 動作モード選択 0：単パルスモード 1：パルス分割モード（8 ビットカウントモードに設定してください）
4	PWMSL4	0	R/W	チャネル4 動作モード選択 0：単パルスモード 1：パルス分割モード（8 ビットカウントモードに設定してください）
3	PWMSL3	0	R/W	チャネル3 動作モード選択 0：単パルスモード 1：パルス分割モード（8 ビットカウントモードに設定してください）
2	PWMSL2	0	R/W	チャネル2 動作モード選択 0：単パルスモード 1：パルス分割モード（8 ビットカウントモードに設定してください）
1	PWMSL1	0	R/W	チャネル1 動作モード選択 0：単パルスモード 1：パルス分割モード（8 ビットカウントモードに設定してください）
0	PWMSL0	0	R/W	チャネル0 動作モード選択 0：単パルスモード 1：パルス分割モード（8 ビットカウントモードに設定してください）

45.3.4　PWM 位相コントロールレジスタ（PWMPCR）

PWMPCR はPWM のチャネルごとのカウントモード、及び出力位相を選択します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	PH5S	PH4S	PH3S	PH2S	PH1S	PH0S	CNTMD 45A	CNTMD 23A
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	PH5S	0	R/W	チャネル5 出力位相選択 0：PWMU5 直接出力 1：PWMU5 反転出力
6	PH4S	0	R/W	チャネル4 出力位相選択 0：PWMU4 直接出力 1：PWMU4 反転出力
5	PH3S	0	R/W	チャネル3 出力位相選択 0：PWMU3 直接出力 1：PWMU3 反転出力
4	PH2S	0	R/W	チャネル2 出力位相選択 0：PWMU2 直接出力 1：PWMU2 反転出力
3	PH1S	0	R/W	チャネル1 出力位相選択 0：PWMU1 直接出力 1：PWMU1 反転出力
2	PH0S	0	R/W	チャネル0 出力位相選択 0：PWMU0 直接出力 1：PWMU0 反転出力
1	CNTMD45A	0	R/W	チャネル4、5　16 ビットカウントモード選択 0：チャネル4、5 を8 ビットカウントモードに設定します。 1：チャネル4、5 を16 ビットカウントモードに設定します。 16 ビットカウントモードを選択するときは12 ビットカウントモードは非選択（CNTMD45B=0）にしてください（表45.5参照）。
0	CNTMD23A	0	R/W	チャネル2、3　16 ビットカウントモード選択 0：チャネル2、3 を8 ビットカウントモードに設定します。 1：チャネル2、3 を16 ビットカウントモードに設定します。 16 ビットカウントモードを選択するときは12 ビットカウントモードは非選択（CNTMD23B=0）にしてください（表45.4参照）。

45.3.5　PWM プリスケーララッチレジスタ（PRELAT）

PRELAT は PWMPRE のシフトレジスタです。1 パルス出力完了時、PWMPRE のデータが自動的に PRELAT へ転送されます。CPU から直接アクセスすることはできません。

45.3.6　PWM デューティ設定ラッチレジスタ（REGLAT）

REGLAT は PWMREG のシフトレジスタです。1 パルス出力完了時、PWMREG のデータが自動的に REGLAT へ転送されます。CPU から直接アクセスすることはできません。

表45.3　チャネル0、1 のカウントモード

PWMMDCR の CNTMD01A	PWMMDCR の CNTMD01B	チャネル0、1 のカウントモード
0	0	8 ビットカウントモード
0	1	12 ビットカウントモード （上位：チャネル1、下位：チャネル0）
1	0	16 ビットカウントモード （上位：チャネル1、下位：チャネル0）
1	1	設定禁止

注.　12/16 ビットカウントモードを選択した場合は、単パルスモードに設定してください

表45.4　チャネル2、3 のカウントモード

PWMPCR の CNTMD23A	PWMOUTCR の CNTMD23B	チャネル2、3 のカウントモード
0	0	8 ビットカウントモード
0	1	12 ビットカウントモード （上位：チャネル3、下位：チャネル2）
1	0	16 ビットカウントモード （上位：チャネル3、下位：チャネル2）
1	1	設定禁止

注.　12/16 ビットカウントモードを選択した場合は、単パルスモードに設定してください。

表45.5　チャネル4、5 のカウントモード

PWMPCR の CNTMD45A	PWMOUTCR の CNTMD45B	チャネル4、5 のカウントモード
0	0	8 ビットカウントモード
0	1	12 ビットカウントモード （上位：チャネル5、下位：チャネル4）
1	0	16 ビットカウントモード （上位：チャネル5、下位：チャネル4）
1	1	設定禁止

注.　12/16 ビットカウントモードを選択した場合は、単パルスモードに設定してください。

45.3.7　PWM プリスケーラレジスタ0～5（PWMPRE0～PWMPRE5）

PWMPRE は8 ビットのリード／ライト可能なレジスタで、PWM 周期を設定します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	PWMPRE							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

PWMPRE の値をn とするとPWM 周期は以下のようになります。

(1)　8 ビット単パルスモード

PWM 周期＝［255×（n＋1）］/ 内部クロック周波数　（0≦n≦255）

表45.6　Pck＝48MHz 時の分解能、PWM 変換周期、キャリア周波数（8 ビットカウントモード）

内部クロック周波数	分解能	PWM変換周期		キャリア周波数	
		Min.	Max.	Min.	Max.
Pck	20.8 ns	5.3 μs	1.4 ms	735.3 Hz	188.2 kHz
Pck/2	41.7 ns	10.6 μs	2.7 ms	367.6 Hz	94.1 kHz
Pck/4	83.3 ns	21.3 μs	5.4 ms	183.8 Hz	47.1 kHz
Pck/8	166.7 ns	42.5 μs	10.9 ms	91.9 Hz	23.5 kHz

(2)　12 ビット単パルスモード

12 ビット単パルスモードに設定した場合は、PWMPRE0、PWMPRE2、PWMPRE4 がそれぞれ有効になります。PWMPRE1、PWMPRE3、PWMPRE5 の設定は無効です。

PWM 周期＝［4095×（n＋1）］/ 内部クロック周波数　（0≦n≦255）

表45.7　Pck＝48MHz 時の分解能、PWM 変換周期、キャリア周波数（12 ビットカウントモード）

内部クロック周波数	分解能	PWM変換周期		キャリア周波数	
		Min.	Max.	Min.	Max.
Pck	20.8 ns	85.3 μs	21.8 ms	45.8 Hz	11.7 kHz
Pck/2	41.7 ns	170.6 μs	43.7 ms	22.9 Hz	5.9 kHz
Pck/4	83.3 ns	341.3 μs	87.4 ms	11.4 Hz	2.9 kHz
Pck/8	166.7 ns	682.5 μs	174.7 ms	5.7 Hz	1.5 kHz

(3) 16 ビット単パルスモード

16 ビット単パルスモードに設定した場合は、PWMPRE0、PWMPRE2、PWMPRE4 がそれぞれ有効になります。PWMPRE1、PWMPRE3、PWMPRE5 の設定は無効です。

PWM 周期＝［65535×（n＋1）］/ 内部クロック周波数 （0≦n≦255）

表45.8　Pck＝48MHz 時の分解能、PWM 変換周期、キャリア周波数（16 ビットカウントモード）

内部クロック周波数	分解能	PWM変換周期		キャリア周波数	
		Min.	Max.	Min.	Max.
Pck	20.8 ns	1.4 ms	349.5 ms	2.9 Hz	732.4 Hz
Pck/2	41.7 ns	2.7 ms	699 ms	1.4 Hz	366.2 Hz
Pck/4	83.3 ns	5.5 ms	1.4 s	0.7 Hz	183.1 Hz
Pck/8	166.7 ns	10.9 ms	2.8 s	0.4 Hz	91.6 Hz

(4) 8 ビットパルス分割モード

PWM 周期＝［16×（n＋1）］/ 内部クロック周波数（0≦n≦255）
PWM 変換周期＝［256×（n＋1）］/ 内部クロック周波数（0≦n≦255）

表45.9　Pck＝48MHz 時の分解能、PWM 変換周期、キャリア周波数（8 ビットカウントモード）

内部クロック周波数	分解能	PWM変換周期		キャリア周波数（1/PWM 周期）	
		Min.	Max.	Min.	Max.
Pck	20.8 ns	5.3 μs	1.4 ms	11.7 kHz	3000 kHz
Pck/2	41.7 ns	10.7 μs	2.7 ms	5.9 kHz	1500 kHz
Pck/4	83.3 ns	21.3 μs	5.5 ms	2.9 kHz	750 kHz
Pck/8	166.7 ns	42.7 μs	10.9 ms	1.5 kHz	375 kHz

45.3.8　PWMデューティ設定レジスタ0～5（PWMREG0～PWMREG5）

PWMREGは8ビットのリード／ライト可能なレジスタで、PWM出力パルスのH期間（デューティ）を設定します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	PWMREG							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

(1)　8ビット単パルスモード

PWM出力するパルスのデューティ比を1/255の分解能で指定します。
PWMREGの値をmとすると出力パルスのH期間は以下のようになります。

出力パルスのH期間＝（PWM周期×m）/ 255　（0≦m≦255）

(2)　12ビット単パルスモード

PWM出力するパルスのデューティ比を1/4095の分解能で指定します。
PWMREGの値をmとすると出力パルスのH期間は以下のようになります。

出力パルスのH期間=（PWM周期×m）/ 4095　（0 ≦m ≦4095）

PWMREG1のビット3～0（上位）とPWMREG0（下位）、PWMREG3のビット3～0（上位）とPWMREG2（下位）、PWMREG5のビット3～0（上位）とPWMREG4（下位）の組み合わせで、パルスのH期間をそれぞれ設定します。

注．上位レジスタのビット7～4は無効です。また、下位側のレジスタを設定した後で、上位側のレジスタを設定してください。上位側のレジスタを先に設定すると期待通りの出力にならない場合があります。
なお、PWM出力中にPWMREGの値を書き換える場合、タイミングによっては上位側のレジスタ値の書き換えが間に合わず、意図しないデューティ比のパルスが出力される可能性があります。また、下位側レジスタの書き込みと上位側レジスタの書き込みの間に割り込み処理が入らないようにしてください。

(3)　16ビット単パルスモード

PWM出力するパルスのデューティ比を1/65535の分解能で指定します。
PWMREGの値をmとすると出力パルスのH期間は以下のようになります。

出力パルスのH期間＝（PWM周期×m）/ 65535　（0≦m≦65535）

PWMREG1（上位）とPWMREG0（下位）、PWMREG3（上位）とPWMREG2（下位）、PWMREG5（上位）とPWMREG4（下位）の組み合わせで、パルスのH期間をそれぞれ設定します。

注．下位側のレジスタを設定した後で、上位側のレジスタを設定してください。上位側のレジスタを先に設定すると期待通りの出力にならない場合があります。
なお、PWM出力中にPWMREGの値を書き換える場合、タイミングによっては上位側のレジスタ値の書き換えが間に合わず、意図しないデューティ比のパルスが出力される可能性があります。また、下位側レジスタの書き込みと上位側レジスタの書き込みの間に割り込み処理が入らないようにしてください。

(4)　8ビットパルス分割モード

PWM出力する基本パルスのデューティ比及び付加パルスの個数を指定します。PWMREGに設定する値のうち、上位4ビットは基本パルスのデューティ比を0/16～15/16まで1/16の分解能で指定し、下位4ビットは基本パルスで構成される変換周期内に付加パルスをいくつ付加するかを指定します。

45.4　動作説明

PWMUは、8ビット単パルスモード、12ビット単パルスモード、16ビット単パルスモード、及び8ビットパルス分割モードで動作します。

45.4.1　単パルスモード（8ビット、12ビット、16ビット）

8ビット単パルスモードのブロック図を図45.2に、12ビット単パルスモード、及び16ビット単パルスモードのブロック図を図45.3に示します。

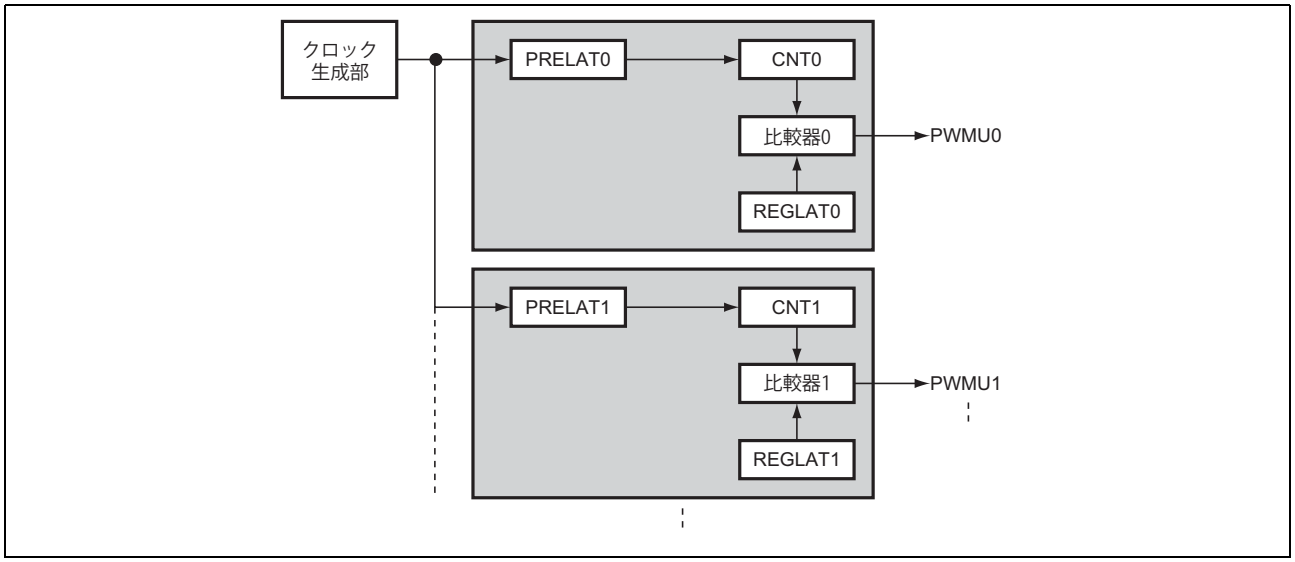


図45.2　8ビット単パルスモードのブロック図

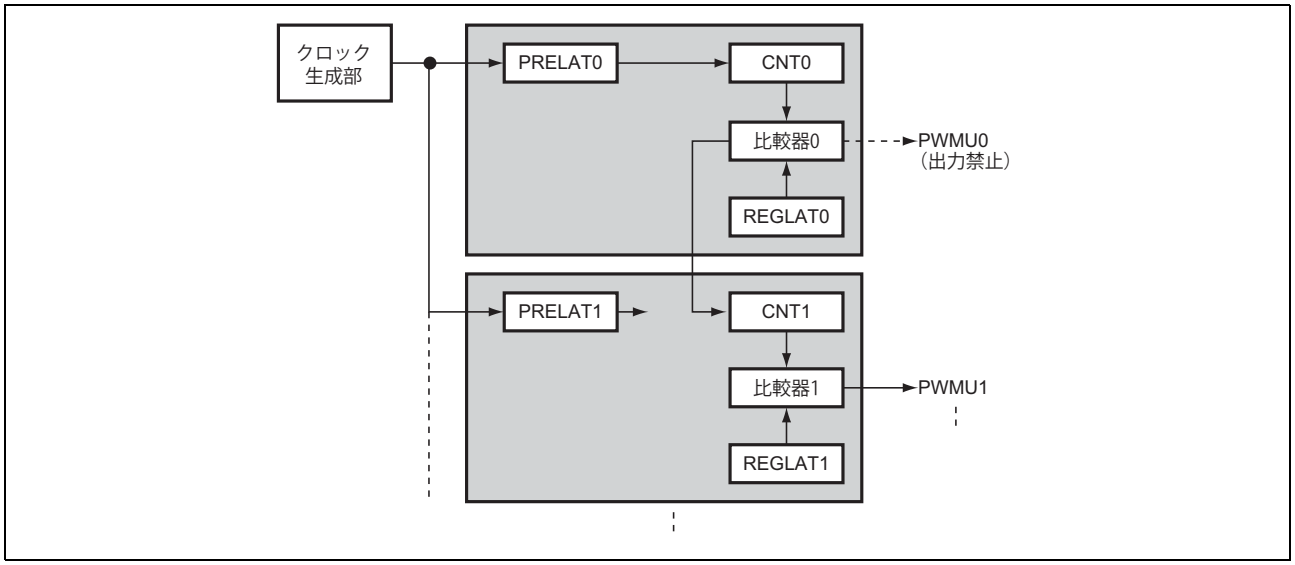


図45.3　12ビット、16ビット単パルスモードのブロック図

PWMOUTCRレジスタのPWMnEビット（n＝0～5）を1にセットすると、PWMUはHから始まるパルスを出力します。REGLATにはPWMREGの更新値が、PRELATにはPWMPREの更新値が書き込まれます。

REGLATの値がデューティカウンタの値より小さい時、PWMUはHを出力します（直接出力選択時）。デューティカウンタはPWMクロックによりカウントアップします。PWMクロックは、PRELATの値をダウンカウントして生成します。クロック生成用カウンタがH'00のとき、PWMクロックが生成されます。

デューティカウンタとクロック生成用カウンタの動作例を図45.4に示します。

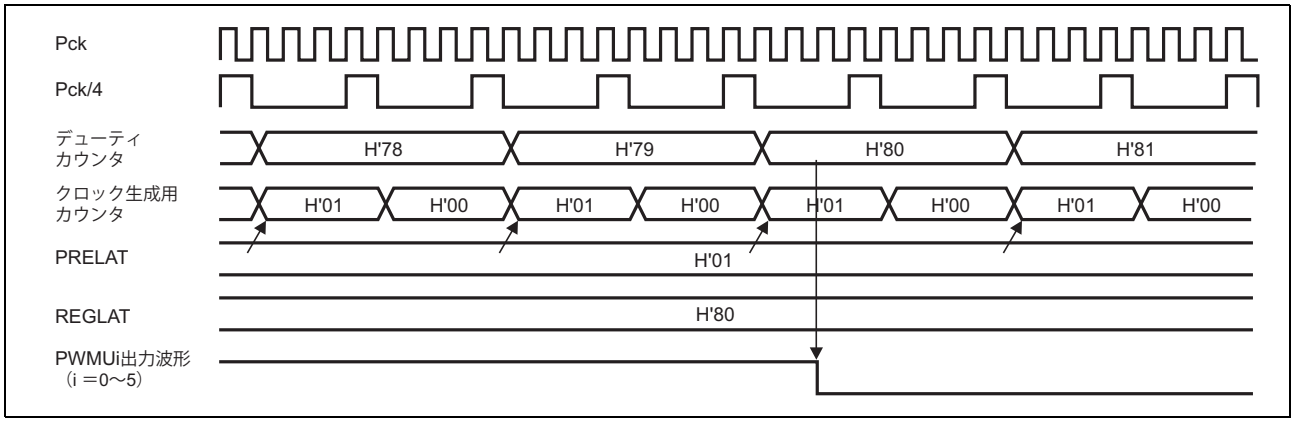


図45.4　デューティカウンタとクロック生成用カウンタの動作例
（カウントクロックソースにPck/4を選択、PWMPRE＝H'01、PWMREG＝H'80に設定した場合）

デューティカウンタの値とPWMU出力のタイミングを以下に示します。

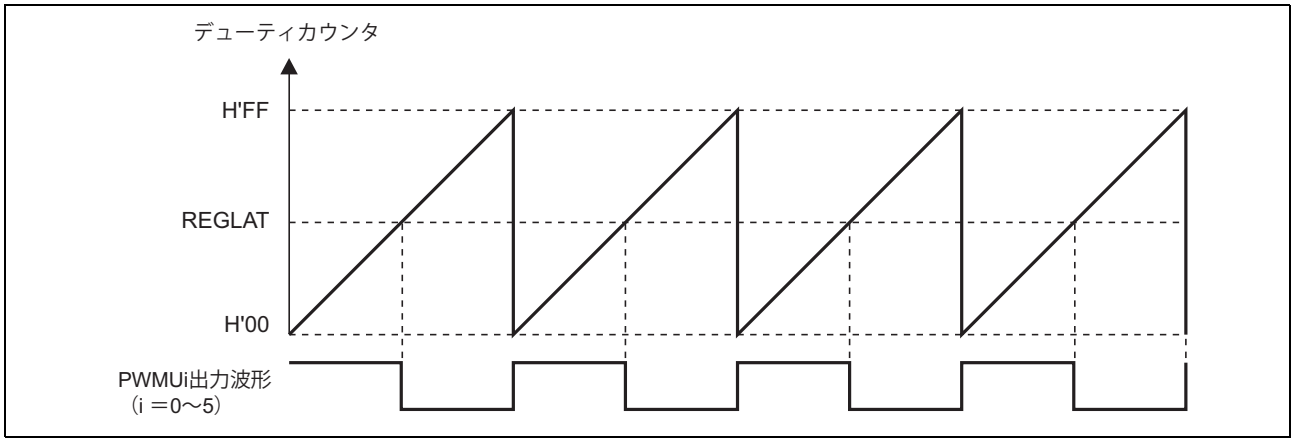


図45.5　デューティカウンタの値とPWMU出力のタイミング

PWM出力中にPWMREGを変更した場合、デューティカウンタがオーバフローした時（次のPWM周期の開始時）にPWMREGの値をREGLATにロードします。PWMREGを変更した場合のPWMU出力波形を以下に示します。

注.PWM出力中にPWMREGの値を書き換える場合、タイミングによっては上位側のレジスタ値の書き換えが間に合わず、意図しないデューティ比のパルスが出力される可能性があります。また、下位側レジスタの書き込みと上位側レジスタの書き込みの間に割り込み処理が入らないようにしてください。

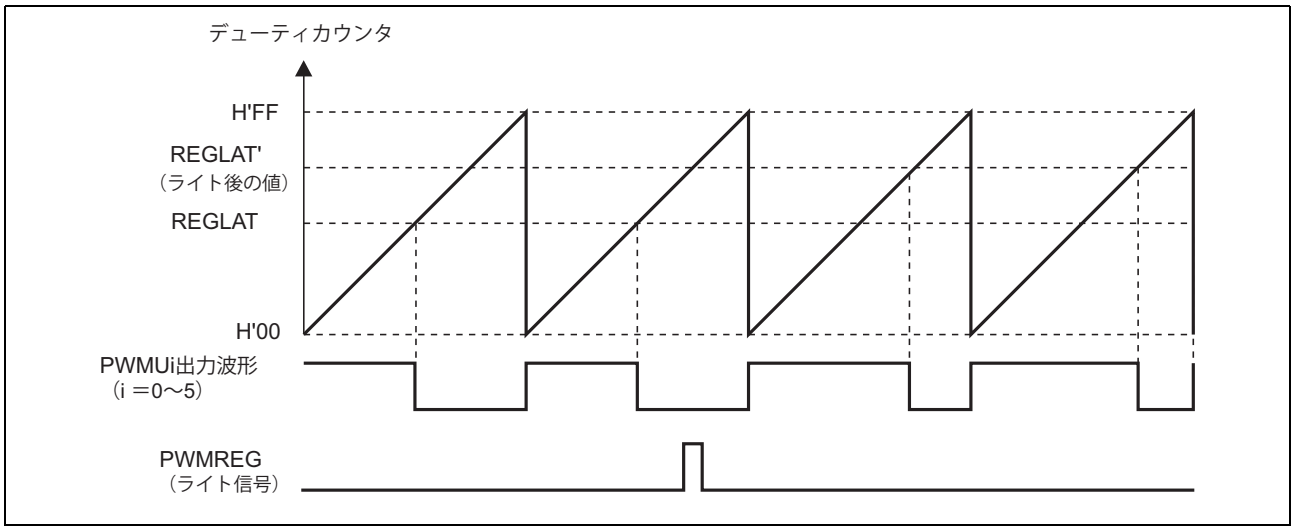


図 45.6　PWMREGを変更した場合のPWMU出力波形

PWM出力中にPWMPREを変更した場合、次のPWM周期から、PWM周期が変化します。クロック生成カウンタがアンダフローした時に、PWMPREの値をPRELATにロードします。PWMPREを変更した場合のPRELAT更新タイミングを以下に示します。

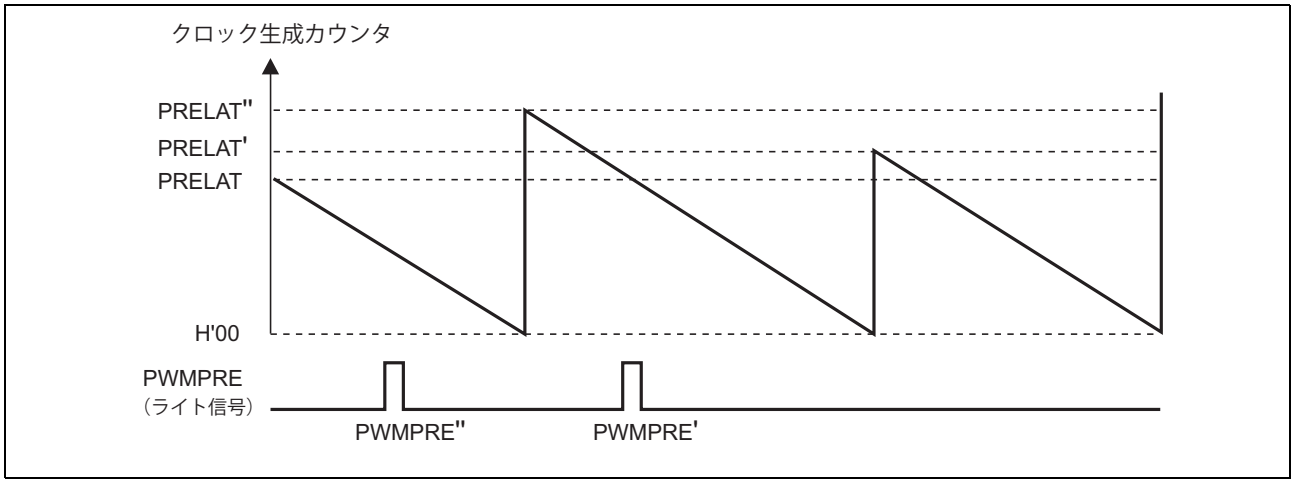
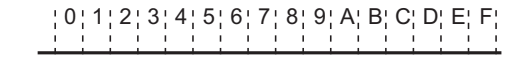
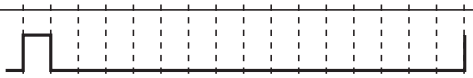
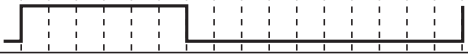
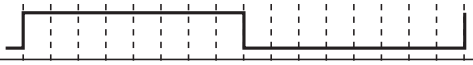
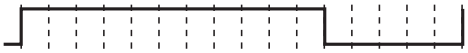


図 45.7　PWMPREを変更した場合のPRELAT更新タイミング

45.4.2 Pulse Division Mode

パルス分割モードでは、PWMREGの上位4ビットによって、基本パルスのデューティ比を0/16～15/16まで1/16の分解能で指定します。この基本パルス16パルス分を1変換周期と呼びます。以下に基本パルスのデューティ比を示します。

表45.10　基本パルスのデューティ比

PWMREGの上位4ビット	基本パルス波形（内部）
B'0000	
B'0001	
B'0010	
B'0011	
B'0100	
B'0101	
B'0110	
B'0111	
B'1000	
B'1001	
B'1010	
B'1011	
B'1100	
B'1101	
B'1110	
B'1111	

PWMREGの下位4ビットは、1変換周期中の16基本パルスに対する付加パルスの付加位置を指定します。付加パルスは、基本パルスの立ち上がりエッジの前に分解能分の幅のH期間（PHnS＝0の場合）を付加します。PWMREGの上位4ビットがB'0000の場合は基本パルスの立ち上がりエッジは存在しませんが、付加パルスの付加タイミングは同様です。以下に基本パルスに対応する付加パルスの位置を、図45.8に付加パルスタイミング例を、図45.9にパルス分割モード時のPWMU出力波形例を示します。

表45.11　基本パルスに対する付加パルスの位置

PWMREGの下位4ビット	基本パルス No.															
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
B'0000																
B'0001																O
B'0010								O								O
B'0011								O				O				O
B'0100				O				O				O				O
B'0101				O				O				O		O		O
B'0110				O		O		O				O		O		O
B'0111				O		O		O		O		O		O		O
B'1000		O		O		O		O		O		O		O		O
B'1001		O		O		O		O		O		O		O	O	O
B'1010		O		O		O	O	O		O		O		O	O	O
B'1011		O		O		O	O	O		O	O	O		O	O	O
B'1100		O	O	O		O	O	O		O	O	O		O	O	O
B'1101		O	O	O		O	O	O		O	O	O	O	O	O	O
B'1110		O	O	O	O	O	O	O		O	O	O	O	O	O	O
B'1111		O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O

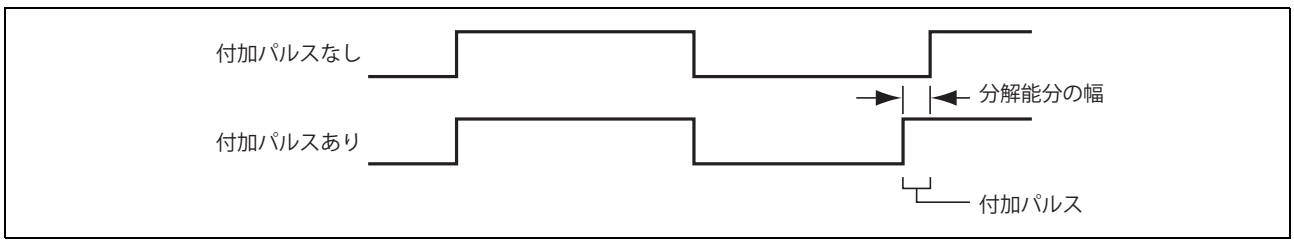


図 45.8　付加パルスタイミング例（PWMREG 上位4 ビットがB'1000）

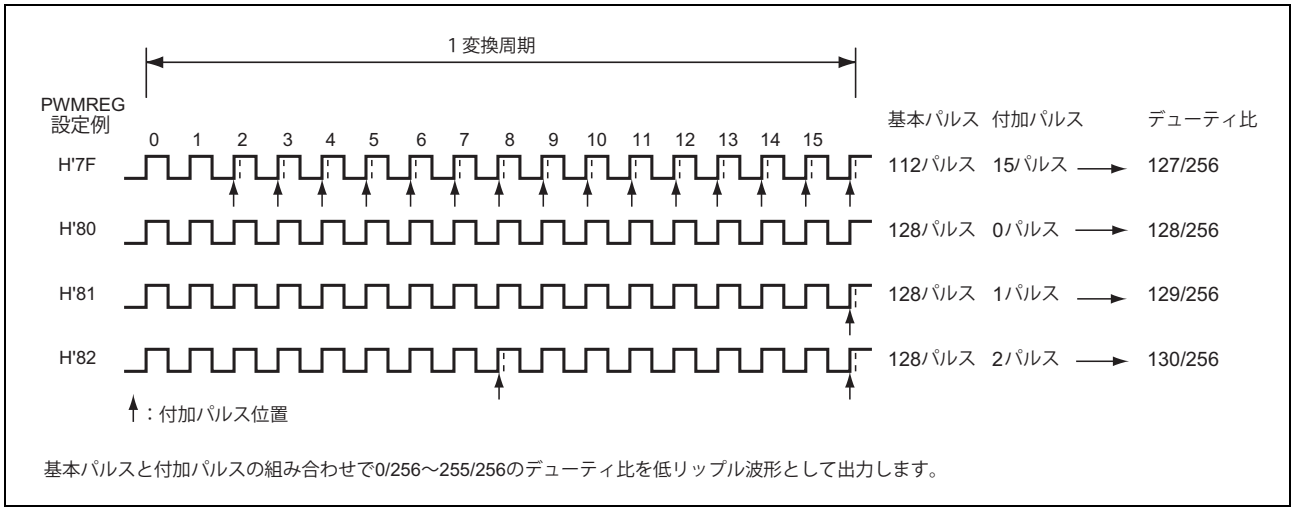


図 45.9　パルス分割モード時のPWMU出力波形例

45.4.3　D/A として使用する場合の回路例

PWMU 出力パルスを D/A として使用する場合の回路例を示します。ローパスフィルタを接続することにより、リップルの少ないアナログ出力を生成することが可能です。パルス分割モードを使用することで、よりリップルの少ないD/A 出力を行うことができます。

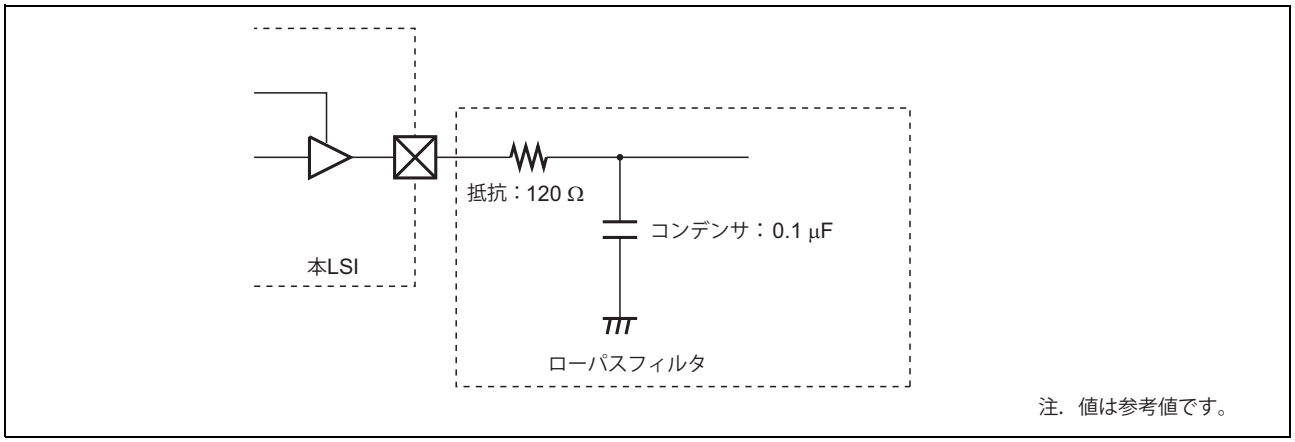


図 45.10　D/A として使用する場合の回路例

46. 電気的特性

46.1 絶対最大定格

表46.1 絶対最大定格

項目	記号	定格値	単位	測定条件
電源電圧（注）	VCCQ	-0.3 ～ +4.6	V	
	VCCQ-USB	-0.3 ～ +4.6		
	AVCCQADC	-0.3 ～ +4.6		
	VCCQ-GET	-0.3 ～ +2.0		
	VCCQ-DDR	-0.3 ～ +2.0		
	VDD	-0.3 ～ +1.8		
	VDD-PLL1	-0.3 ～ +1.8		
	VDD-PLL2	-0.3 ～ +1.8		
	VDD-PLL3	-0.3 ～ +1.8		
	VDD-PLL4	-0.3 ～ +1.8		
	VDD-USB	-0.3 ～ +1.8		
入力電圧 (VCCQ_デジタルブロック)	Vin	-0.3 ～ VCCQ+0.3		
入力電圧 (AVCCQADC ブロック)	Vin	-0.3 ～ AVCCQADC+0.3		
入力電圧 (VCCQ-GET)	Vin	0.3 ～ VCCQ-GET+0.3		
入力電圧 (VCCQ-USB ブロック)	Vin	-0.3 ～ VCCQ-USB+0.3		
入力電圧 (VCCQ-DDR ブロック)	Vin	-0.3 ～ VCCQ-DDR+0.3		
消費電力	Pd	Max. 5	W	TOPR = 25 °C
動作温度	Topr	0 ～ +70	°C	
保存温度	Tstg	-20 ～ +125		

注. 絶対最大定格を超えてLSI を使用した場合、LSI の永久破壊となることがあります。
それぞれの電源端子への印加電圧です。

46.2 電源投入・切断シーケンス

46.2.1 電源投入・切断シーケンス

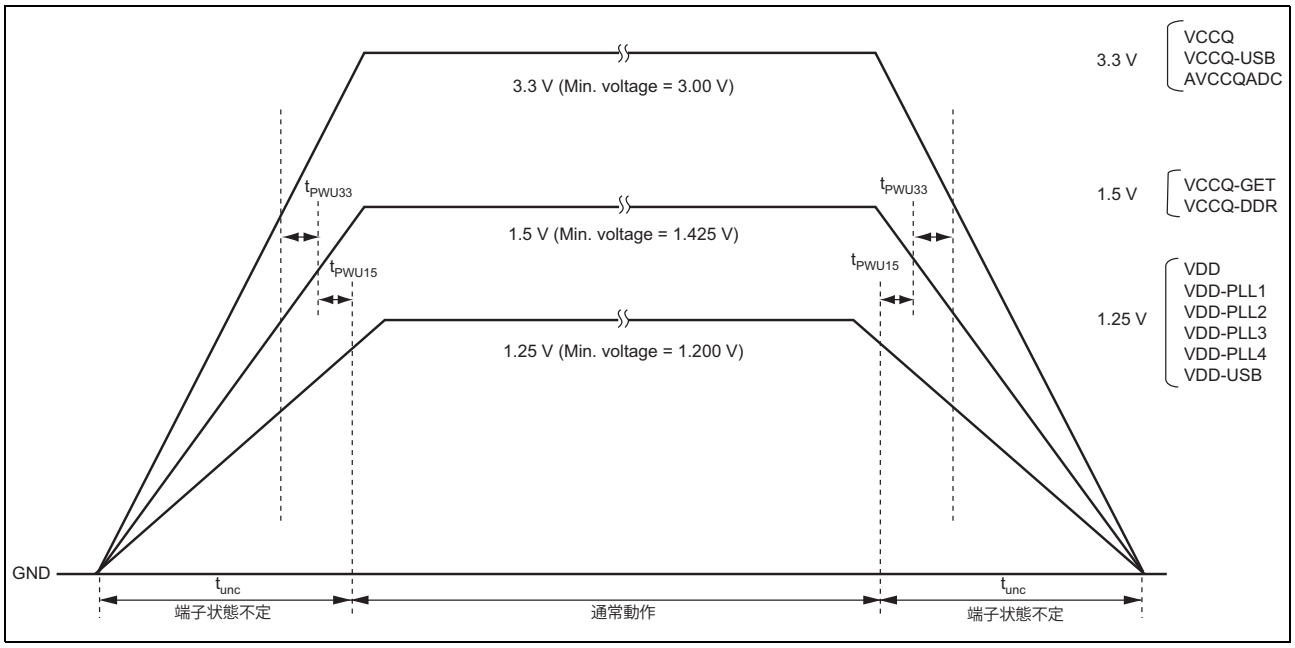


図 46.1 電源投入・切断シーケンス

表46.2 電源投入・切断時間

項 目	記号	Min.	Max.	単位
3.3V-1.5V 電源投入時間差（注1）	t_{PWU33}	0	—	msec
1.5V-1.25V 電源投入時間差（注1）	t_{PWU15}	0	—	msec
状態不定時間（注2）	t_{UNC}	—	100	msec

注1. 3.3V 電源を1.5V 電源よりも先に投入してください。1.5V 電源を1.25V 電源よりも先に投入してください。また、1.5V 電源を1.25V 電源よりも後に切断してください。3.3V 電源を1.5V 電源よりも後に切断してください。

2. 推奨値であり、厳密な設定を要求するものではありません。1.25V 電源がMin.電圧以上に到達するまで、及びMin.電圧以下になってからが状態不定期間となり、その期間は端子状態及び内部状態が不定となります。その状態によってシステム全体が誤動作を引き起こさないようシステム設計を行ってください。

46.3 DC 特性

46.3.1 DC特性 (1)

表46.3 DC 特性 (1)

項 目		記号	Min.	Typ.	Max.	単位	測定条件
電源電圧		VCCQ	3.00	3.30	3.60	V	
		VDD	1.20	1.25	1.30	V	
		VDD-PLL1 ～ VDD-PLL4	1.20	1.25	1.30	V	
A/D 電源電圧		AVCCQADC	3.00	3.30	3.60	V	
DBSC3 電源電圧		VCCQ-DDR	1.425	1.50	1.575	V	
DBSC3 基準電圧入力		M_VREF_DQ	VCCQ-DDR x 0.49	VCCQ-DDR x 0.50	VCCQ-DDR x 0.51	V	
USB 電源電圧		VCCQ-USB	3.00	3.30	3.60	V	
		VDD-USB	1.20	1.25	1.30	V	
RGMII 電源電圧		VCCQ-GET	1.425	1.50	1.575	V	
RGMII入力基準電圧		VREF-GET	0.68	0.75	0.80	V	
電源電流	通常動作	I_{CCQ}	—	—	300	mA	VCCQ + AVCCQADC + VCCQ-USB
		I_{DD}	—	—	939	mA	VDD + VDD-PLL1 ～ VDD-PLL4 + VDD-USB
		I_{DD15}	—	—	378	mA	VCCQ-DDR + VCCQ-GET
	スリープ／モジュールストップモード	I_{CCQ}	—	13	18	mA	VCCQ + AVCCQADC + VCCQ-USB
		I_{DD}	—	342	479	mA	VDD + VDD-PLL1 ～ VDD-PLL4 + VDD-USB
		I_{DD15}	—	170	181	mA	VCCQ-DDR + VCCQ-GET

46.3.2 DC 特性 (2)

表46.4 DC 特性(2)

項 目		記号	Min.	Typ.	Max.	単位	測定条件
入力リーク電流		Ilk	—	—	5	μA	VCCQ システム
		Ilk_USB	—	—	5	μA	
		Ilk_ADC	—	—	1	μA	AN0 ～ AN7
			—	—	5	μA	その他の端子
		Ilk_DDR	—	—	16	μA	
プルアップ抵抗	RGMII 端子（注）	$R_{pull-RGMII}$	30	65	140	kΩ	
	Other 端子（注）	R_{pull}	25	50	110	kΩ	
端子容量		C_L	—	—	5	pF	DBSC3 システム
			—	—	10	pF	VCCQ システム

注. RGMII 端子：
ET0-RX_CTL、ET1-RX_CTL、ET0-RXC、ET1-RXC、ET0-RD1、ET0-RD0、ET1-RD1、ET1-RD0、ET0-RD2、ET0-RD3、ET1-RD2、ET1-RD3、RGMII-MAC-CLK
その他の端子：
MMCDAT7 ～ MMCDAT0、SP0-MOSI、SP0-MISO、SP0-SCK、SP0-SCK_FB、SP0-SS0 ～ SP0-SS3、SP1-MOSI、SP1-MISO、SP1-SCK、SP1-SCK_FB、SP1-SS0、SP1-SS1、WP、BOOTFMS、BOOTWP、ET0-MDC、ET0-MDIO、ET1-MDC、ET1-MDIO、RMII0-CRS_DV、RMII0-RXD0、RMII0-RXD1、RMII0-TXD0、RMII0-TXD1、RMII0-RX_ER、RMII0-TXEN 、RMII0-REFCLK、RMII1-REFCLK、RMII1-CRS_DV、RMII1-RX_ER、RMII1-RXD0、RMII1-RXD1、RMII1-TXEN、RMII1-TXD0、RMII1-TXD1、A24 ～ A18、A9 ～ A0、D13 ～ D0、WE1、RDY、BS、RDWR、CS4、RD、WE0、CS0、PWMX7 ～ PWMX0、SGPIO0-CLK、SGPIO0-LOAD、SGPIO0-DI、SGPIO0-DO、SGPIO2-CLK、SGPIO2-LOAD、SGPIO2-DI、SGPIO2-DO、COM2-TXD、COM2-RXD、COM2-RTS、COM2-CTS、COM2-DTR、COM2-DSR、COM2-DCD、RTS3、CTS3、TXD3、RXD3、RTS4、RXD4、TXD4、RAC-TXD、RAC-RXD、RAC-RTS、RAC-CTS、RAC-DTR、RAC-DSR、RAC-DCD、WDTOVF、TMS、TRST 、TDI、TDO、MPMD、CLKOUT、ASEBRK

46.3.3 DC 特性 (USB トランシーバ、RIIC 関連端子を除く)

表46.5 DC 特性 (USB トランシーバ、RIIC 関連端子を除く)

項 目		記号	Min.	Typ.	Max.	単位	測定条件
入力Hレベル電圧	Xtal 端子	V_{IH}	VCCQ × 0.80	—	VCCQ+0.3	V	
	DBSC3 端子 (DC)		M_VREF_DQ + 0.1	—	—	V	
	(AC)		M_VREF_DQ + 0.175	—	—	V	RIIC
	RGMII 端子（注1） (DC)		VREF-GET + 0.1	—	VCCQ-GET + 0.3	V	
	(AC)		VREF-GET+ 0.2	—	—	V	
	上記以外の入出力端子		2.00	—	VCCQ+0.30	V	
入力Lレベル電圧	Xtal 端子	V_{IL}	VSS - 0.30	—	VCCQ×0.20	V	
	DBSC3 端子 (DC)		—	—	M_VREF_DQ - 0.1	V	
	(AC)		—	—	M_VREF_DQ - 0.175	V	
	RGMII 端子（注1） (DC)		-0.3	—	VREF-GET - 0.1	V	
	(AC)		—	—	VREF-GET- 0.2	V	
	上記以外の入出力端子		VSS - 0.30	—	0.80	V	
DBSC3 DC 差動入力レベル電圧		V_{IHD}	0.2	—	—	V	MDQS=H、VIN=VCCQ-DDR/2、VDD=1.25V、VCCQ-DDR=1.425～1.575V
		V_{ILD}	—	—	-0.2	V	MDQS=L、VIN=VCCQ-DDR/2、VDD=1.25V、VCCQ-DDR=1.425 ～ 1.575V
		V_{IN}	0.5 x VCCQ-DDR - 0.25	—	0.5 x VCCQ-DDR + 0.25	V	VIHD=200mV or VILD=-200mV、VDD=1.25V、VCCQ-DDR=1.425 ～ 1.575V
DBSC3 AC 差動入力クロスポイント電圧		V_{IX} (AC)	VCCQ-DDR - 0.15	—	VCCQ-DDR + 0.15	V	
シュミットトリガ入力電圧	L逆 スレショルド電圧	V_{T-}	VCCQ × 0.20	—	—	V	
	H逆スレショルド電圧	V_{T+}	—	—	VCCQ×0.7	V	
		$(V_{T+}) - (V_{T-})$	VCCQ × 0.02	—	—	V	
Hレベル出力電圧 (注3)	RGMII 端子（注1） (DC)	V_{OH}	VCCQ-GET - 0.4	—	—	V	
	(AC)		VCCQ-GET - 0.5	—	—	V	
	上記以外の入出力端子 (注2)		2.40	—	—	V	

項 目		記号	Min.	Typ.	Max.	単位	測定条件
L レベル出力電圧	RGMII 端子（注1）(DC)	V_{OL}	—	—	0.4	V	
	(AC)		—	—	0.5	V	
	上記以外の入出力端子（注2）		—	—	0.60	V	
DBSC3 AC 差動出力クロスポイント電圧		V_{OX} (AC)	M_VREF_DQ - 0.125	—	M_VREF_DQ + 0.125	V	

注1. RGMII 端子は高速トランシーバーロジック(HSTL)に準拠しています。
2. ADC、DBSC3端子を除く。
3. 出力許容電流値については、表46.9を参照してください。

46.3.4 DC 特性 (RIIC)

表46.6 DC 特性 (RIIC)

項 目	記号	Min.	Typ.	Max.	単位	測定条件
プルアップ電源電圧 (1)	VPU	2.7	3.3	3.6	V	
プルアップ電源電圧 (2)		4.5	5	5.5	V	
シュミットトリガ入力電圧	VT-	VCCQ × 0.3	—	—	V	
	VT+	—	—	VCCQ × 0.7	V	
	VT+ – VT-	(VCCQ × 0.05)	—	—	V	
入力H レベル電圧	VIH	VCCQ × 0.7	—	VCCQ + 0.3	V	
入力L レベル電圧	VIL	-0.3	—	VCCQ × 0.3	V	
出力L レベル電圧	VOL	—	—	0.4	V	IOL = 3 mA
IOL Std、Fm	IOL1	—	—	3	mA	VOL = 0.4 V
IOL Fm	IOL2	—	—	6	mA	VOL = 0.6 V
(IOL Fm+)	IOL3	—	—	20	mA	VOL = 0.4 V
3ステートリーク電流 （オフ状態）	IL	—	—	15	μA	VIN = 0.1 ～ 0.9 × VCCQ

46.3.5 DC 特性 （USB（ハイスピードトランシーバ））

表46.7 DC 特性 （USB （ハイスピードトランシーバ））

項 目		記号	Min.	Typ.	Max.	単位	測定条件
入力	コモンモード入力電圧範囲	VHSCM	-50	—	500	mV	
	差動入力電位	Vdiff	150	400	575	mV	
	スケルチ検出スレッショルド電圧 (差動電圧)	VHSSQ	100	—	150	mV	
	ディスコネクト検出電圧	VHSDSQ	525	—	625	mV	
出力	出力電流	IOUT	—	17.5	—	mA	
	アイドル状態	VHSOI	-20	—	20	mV	
	"H"出力電圧	VHSOH	360	—	440	mV	
	"L"出力電圧	VHSOL	-20	—	20	mV	

46.3.6 DC 特性 （USB（フルスピード／ロースピードトランシーバ））

表46.8 DC 特性 （USB（フルスピード／ロースピードトランシーバ））

項 目		記号	Min.	Typ.	Max.	単位	測定条件
入力	"H"入力電圧	VIH	2.0	—	—	V	
	"L" 入力電圧	VIL	—	—	0.8	V	
	シュミットトリガ入力特性	ΔV	—	0.2	—	V	
	差動入力感度	VDI	0.2	—	—	V	|D+ – D-|
	差動コモンモード範囲	VCM	0.8	—	2.5	V	
出力	"H"出力電圧	VOH	2.7	—	VCCQ	V	14.25 kΩ ～ GND
	"L" 出力電圧	VOL	—	—	0.4	V	1.425 kΩ ～ VCCQ

46.3.7 DC 特性 （出力許容電流値）

表46.9 出力許容電流値

項 目		記号	Min.	Typ.	Max.	単位	測定条件
出力電流	PTA0、PTA2、PTA4 ～ PTA7、PTB0、PTB3 ～ PTB5、PTC0 ～ PTC7、PTD0 ～ PTD2、PTD4、PTD6、PTE0 ～ PTE3、PTE7、PTF0 ～ PTF3、PTF7、PTG2、PTG7、PTH0、PTH2、PTH4、PTH6、PTI6、PTI7、PTJ0 ～ PTJ6、PTK1 ～ PTK7、PTL0、PTL3 ～ PTL6、PTM4 ～ PTM7、PTN0 ～ PTN3、PTN6、PTO0 ～ PTO2、PTO4 ～ PTO6、PTV0 ～ PTV3、PTV7、PTW0 ～ PTW7、PTX0 ～ PTX4、PTX6、PTX7、PTY0 ～ PTY7、SP0-SS0、SP1-SS0、ASEBRK/BRKACK	IOL	—	—	4	mA	
		IOH	—	—	-4	mA	
	PTA1、PTA3、PTB1、PTB2、PTB6、PTB7、PTE4 ～ PTE6、PTF4 ～ PTF6、PTG4、PTG5、PTI0 ～ PTI4、PTK0、PTN4、PTN5、PTO3、PTO7、PTU4 ～ PTU7、PTV4 ～ PTV6、PTX5、PTZ0 ～ PTZ7、SP0-MOSI、SP0-SCK、SP1-MOSI/TEND1、SP1-SCK/DACK1、TDO	IOL	—	—	8	mA	
		IOH	—	—	-8	mA	
	PTG0、PTG1、PTG3、PTI5、PTL1、PTL2、PTQ0 ～ PTQ6、PTT0 ～ PTT7、PTU0 ～ PTU3	IOL	—	—	12	mA	
		IOH	—	—	-12	mA	
	ET0-TD0 ～ ET0-TD3、ET1-TD0 ～ ET1-TD3、ET0-TX_CTL、ET1-TX_CTL、ET0-TXC、ET1-TXC	IOL	—	—	16	mA	
		IOH	—	—	-16	mA	
	PTM0 ～ PTM1、PTR0 ～ PTR7、PTS0 ～ PTS1、PTS4 ～ PTS7	IOL	—	—	6	mA	これらの端子をRIIC関連端子として使用する場合は、表46.6を参照してください。
	PTM2 ～ PTM3、PTS2 ～ PTS3	IOL	—	—	20	mA	これらの端子をRIIC関連端子として使用する場合は、表46.6を参照してください。

46.3.8 DC 特性（シュミットトリガ入力）

表46.10　シュミットトリガ入出力一覧

端子名	端子名	端子名	端子名
MPMD	PTG3	PTQ2	PTT0/PWMX0
NMI	PTG5/A25/MMCCLK	PTQ3	PTT1/PWMX1
$\overline{\text{PRESET}}$	PTI5/D13/SDCLK	PTQ4	PTT2/PWMX2/STATUS0
PTB0/IRQ8/TCLK	PTI6/D14/SDCD	PTQ5	PTT3/PWMX3/STATUS1
PTB1/IRQ9	PTI7/D15/SDWP	PTQ6	PTT4/PWMX4/AUDATA0
PTB2/IRQ10	PTL1/$\overline{\text{RAC-DCD}}$/$\overline{\text{DCD0}}$/AUDCK	PTR0/SCL0（注）	PTT5/PWMX5/AUDATA1
PTB3/IRQ11	PTL2/$\overline{\text{RAC-DSR}}$/$\overline{\text{DSR0}}$/ AUDSYNC	PTR1/SDA0（注）	PTT6/PWMX6/AUDATA2
PTB4/IRQ12	PTM0/SCL7（注）	PTR2/SCL1（注）	PTT7/PWMX7/AUDATA3/MD2
PTB5/IRQ13	PTM1/SDA7（注）	PTR3/SDA1（注）	PTU0
PTB6/IRQ14	PTM2/SCL6（注）	PTR4/SCL2（注）	PTU1
PTB7/IRQ15	PTM3/SDA6（注）	PTR5/SDA2（注）	PTU2
PTC0/IRQ0/$\overline{\text{IRL0}}$	PTP0/EVENT8/AN8	PTR6/SCL8（注）	PTU3
PTC1/IRQ1/$\overline{\text{IRL1}}$	PTP1/EVENT9/AN9	PTR7/SDA8（注）	PTV0/A16/EVENT6
PTC2/IRQ2/$\overline{\text{IRL2}}$/PWMU5	PTP2/EVENT10/AN10	PTS0/SCL3（注）	PTV1/A17/EVENT7
PTC3/IRQ3/$\overline{\text{IRL3}}$/PWMU4	PTP3/EVENT11/AN11	PTS1/SDA3（注）	PTW2/A10/EVENT0
PTC4/IRQ4/$\overline{\text{IRL4}}$/PWMU3	PTP4/EVENT12/AN12	PTS2/SCL4（注）	PTW3/A11/EVENT1
PTC5/IRQ5/$\overline{\text{IRL5}}$/PWMU2	PTP5/EVENT13/AN13	PTS3/SDA4（注）	PTW4/A12/EVENT2
PTC6/IRQ6/$\overline{\text{IRL6}}$/PWMU1	PTP6/EVENT14/AN14	PTS4/SCL5（注）	PTW5/A13/EVENT3
PTC7/IRQ7/$\overline{\text{IRL7}}$/PWMU0	PTP7/EVENT15/AN15	PTS5/SDA5（注）	PTW6/A14/EVENT4
PTG0	PTQ0	PTS6/SCL9（注）	PTW7/A15/EVENT5
PTG1	PTQ1	PTS7/SDA9（注）	

注．端子がシュミットトリガ入力になるのはRIICバスが選択されたとき（ICMR3.SMBSビット＝0）に限られます。

46.4 AC特性

46.4.1 クロック・制御信号タイミング

表46.11 クロック・制御信号タイミング

項 目	記号	Min.	Typ.	Max.	単位	参照図
EXTAL クロック入力周波数（注1、4）	f_{EX}	—	48	—	MHz	
EXTAL クロック入力サイクル時間（注4）	t_{EXcyc}	—	20.8	—	ns	46.2
EXTAL クロック入力Lレベルパルス幅（注4）	t_{EXL}	3.5	—	—	ns	46.2
EXTAL クロック入力Hレベルパルス幅（注4）	t_{EXH}	3.5	—	—	ns	46.2
EXTAL クロック入力立ち上がり時間（注4）	t_{EXr}	—	—	4	ns	46.2
EXTAL クロック入力立ち下がり時間（注4）	t_{EXf}	—	—	4	ns	46.2
CLKOUT クロック出力（注1、2）	t_{OP}	—	48	—	MHz	
CLKOUT クロック出力サイクル時間	$t_{CLKOUTcyc}$	—	20.8	—	ns	46.3
パワーオンEXTAL入力安定時間	t_{OSC1}	30	—	—	ms	46.4
ストラップピン（スタティック）（注5）セットアップ時間	t_{STRPS}	3	—	—	t_{cyc}（注3）	46.5
ストラップピン（スタティック）（注5）ホールド時間	t_{STRPH}	0	—	—	ns	46.5
$\overline{\text{PRESET}}$ アサート時間	t_{RESW}	20	—	—	t_{cyc}（注3）	46.4
PLL 発振安定時間	t_{PLL}	—	—	200	µs	46.6
$\overline{\text{TRST}}$ リセットホールド時間	t_{TRSTRH}	0	—	—	ns	46.4
PRESET入力立ち上がり時間 (20～80%)	t_{PRr}	—	—	100	ns	46.4

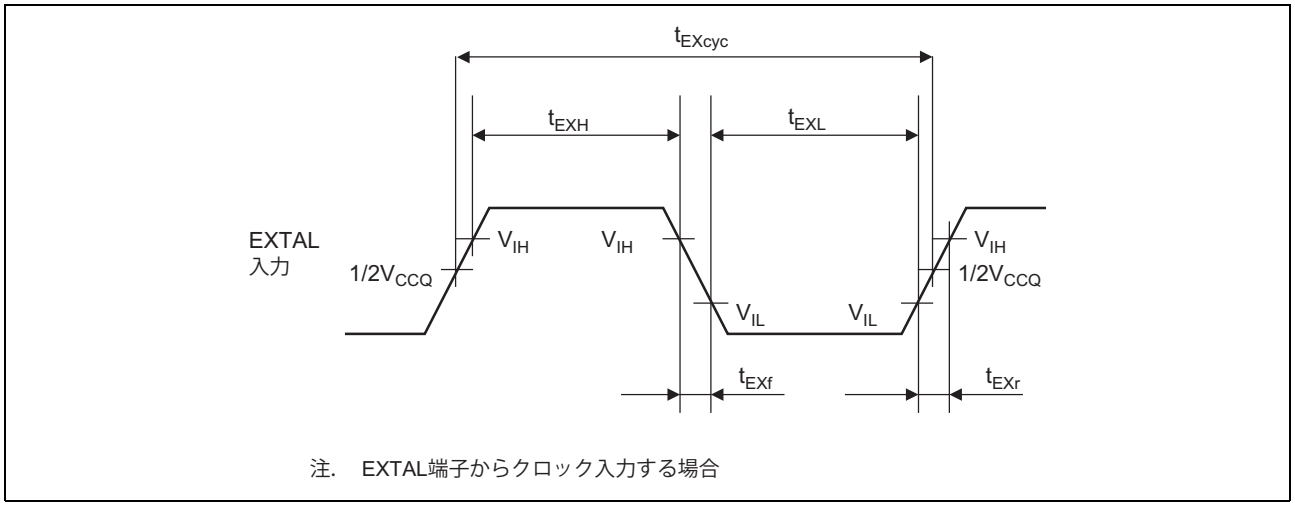
注1. 水晶発振子がEXTAL とXTAL に接続されているとき、周波数は48MHz になります。また、3 次オーバトーン水晶発振子は使用しないでください。

2. CLKOUT 端子への接続負荷容量は最大20pF としてください。

3. t_{cyc} はCLKOUT クロックの1 サイクル時間を示します。

4. EXTAL の周波数温度特性は ±100 ppmです。

5. ストラップピン：
MD0 ～ MD3、MD5、MD6、MD8 ～ MD10、FLSHSZ0 、FLSHSZ1、WPSZ0 、WPSZ1、BOOTSZ0 、BOOTSZ1、SPI0VER、BOOTWPSZ0 、BOOTWPSZ1、WDTFOT0、WDTFOT1、BOOTFMS



注. EXTAL端子からクロック入力する場合

図 46.2 EXTAL クロック入力タイミング

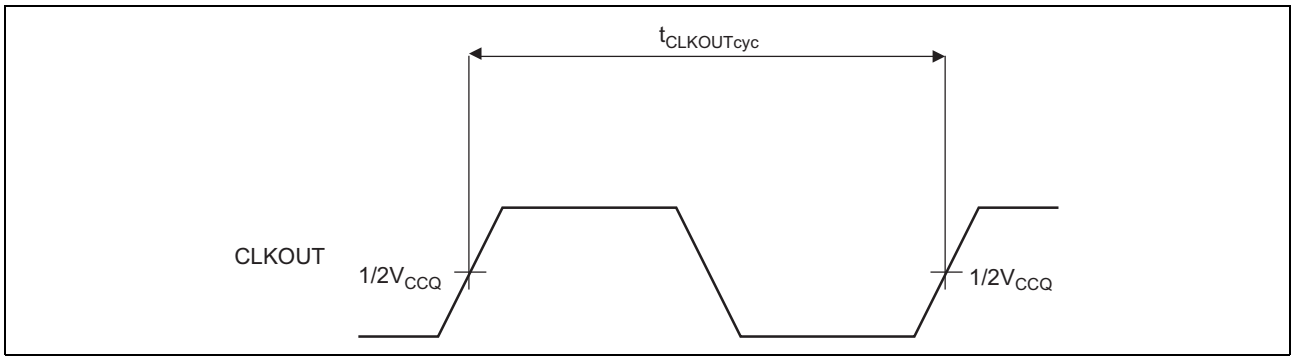


図 46.3 CLKOUT クロック出力タイミング

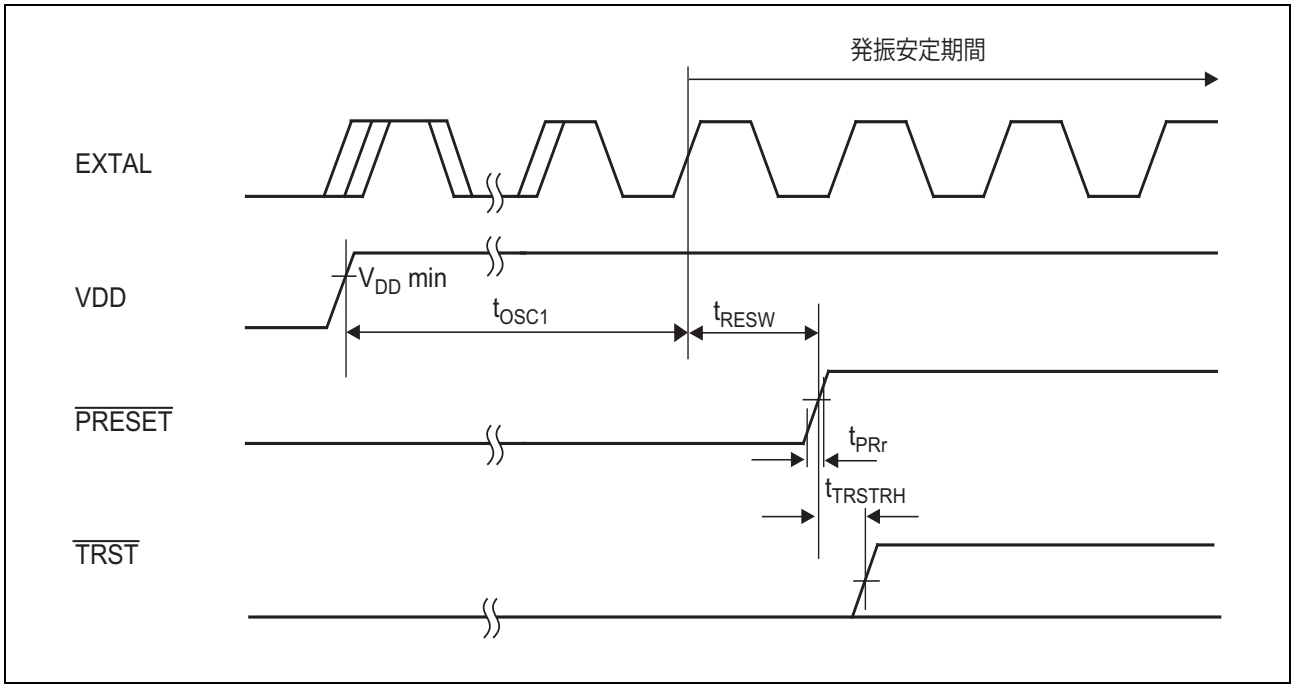


図 46.4 パワーオン時EXTAL入力発振安定時間

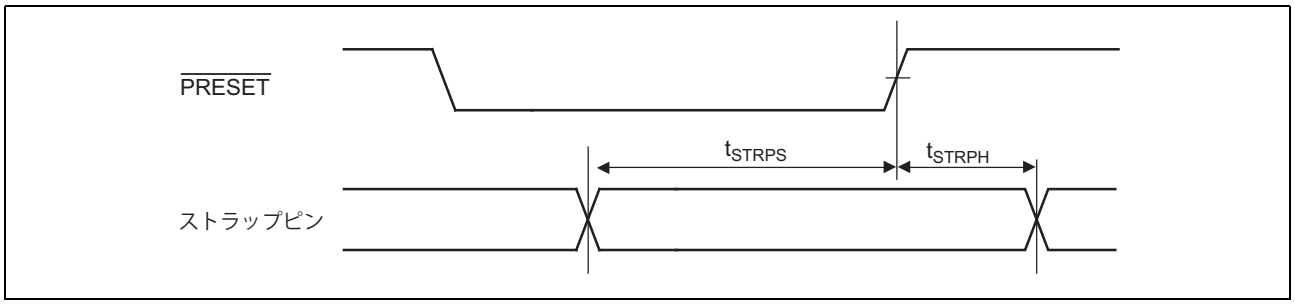


図 46.5 ストラップピンセットアップ／ホールドタイミング

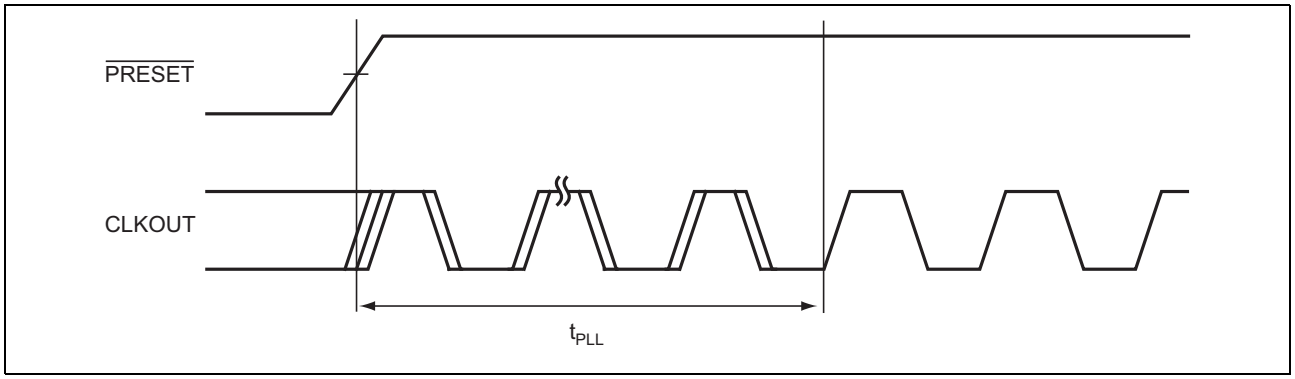


図 46.6 PLL 発振安定時間

46.4.2　バスタイミング

表46.12　バスタイミング

項 目	記号	Min.	Max.	単位	備考
アドレス遅延時間	t_{AD}	1	9	ns	
$\overline{BS}$ 遅延時間	t_{BSD}	1	9	ns	
$\overline{CSn}$ 遅延時間	t_{CSD}	1	9	ns	
$\overline{RDWR}$ 遅延時間	t_{RWD}	1	9	ns	
$\overline{RD}$ 遅延時間	t_{RSD}	1	9	ns	
読み出しデータセットアップ時間	t_{RDS}	6	—	ns	
読み出しデータホールド時間	t_{RDH}	2	—	ns	
$\overline{WEn}$ 遅延時間（立ち下がりエッジ時）	t_{WEDF}	1	9	ns	CLKOUT の立ち下がりエッジに対して
$\overline{WEn}$ 遅延時間	t_{WED1}	1	9	ns	
書き込みデータ遅延時間	t_{WDD}	1	9	ns	
$\overline{RDY}$ セットアップ時間	t_{RDYS}	6	—	ns	
$\overline{RDY}$ ホールド時間	t_{RDYH}	2	—	ns	

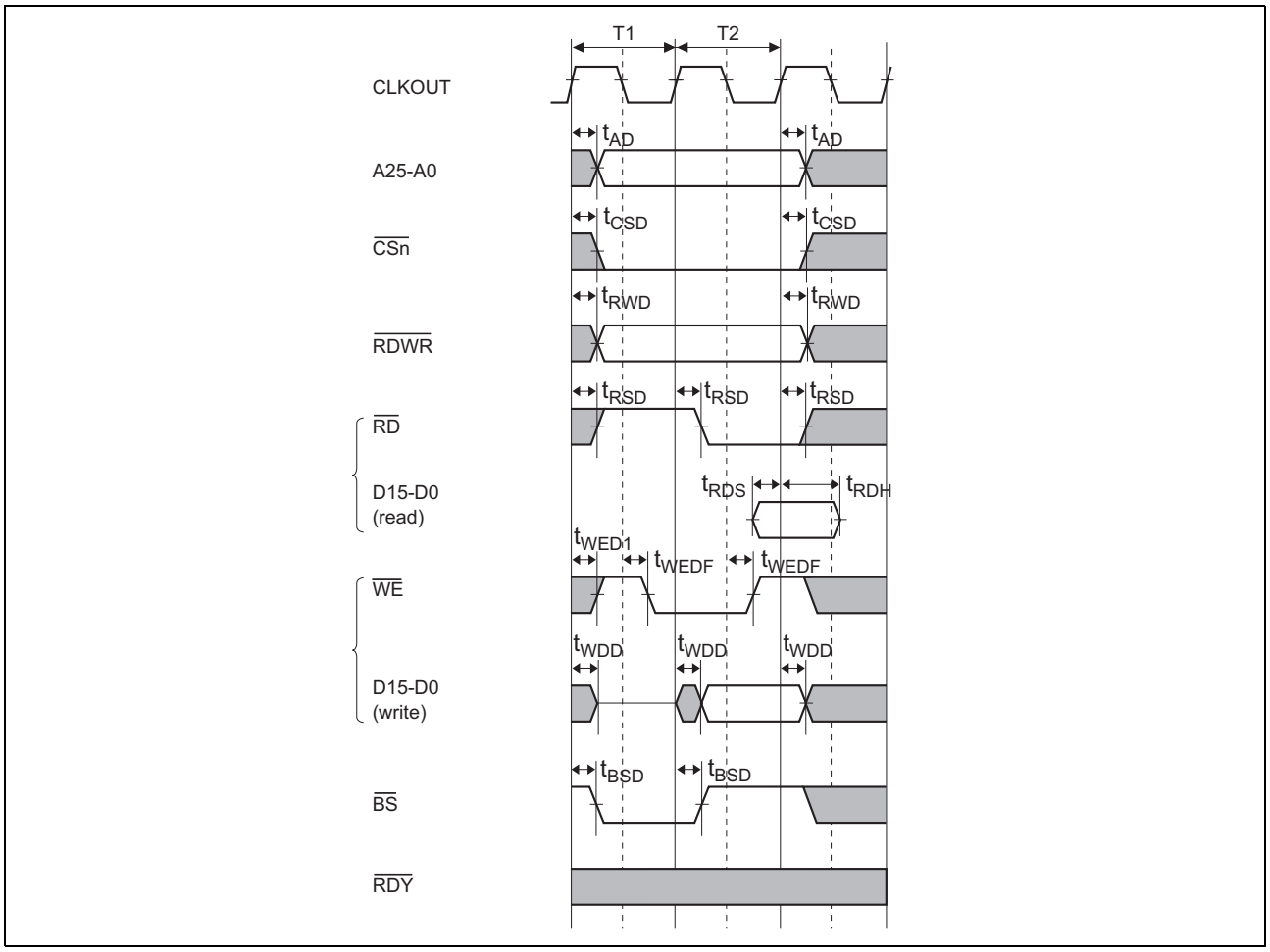


図 46.7　SRAM バスサイクル：基本バスサイクル（ノーウェイト）

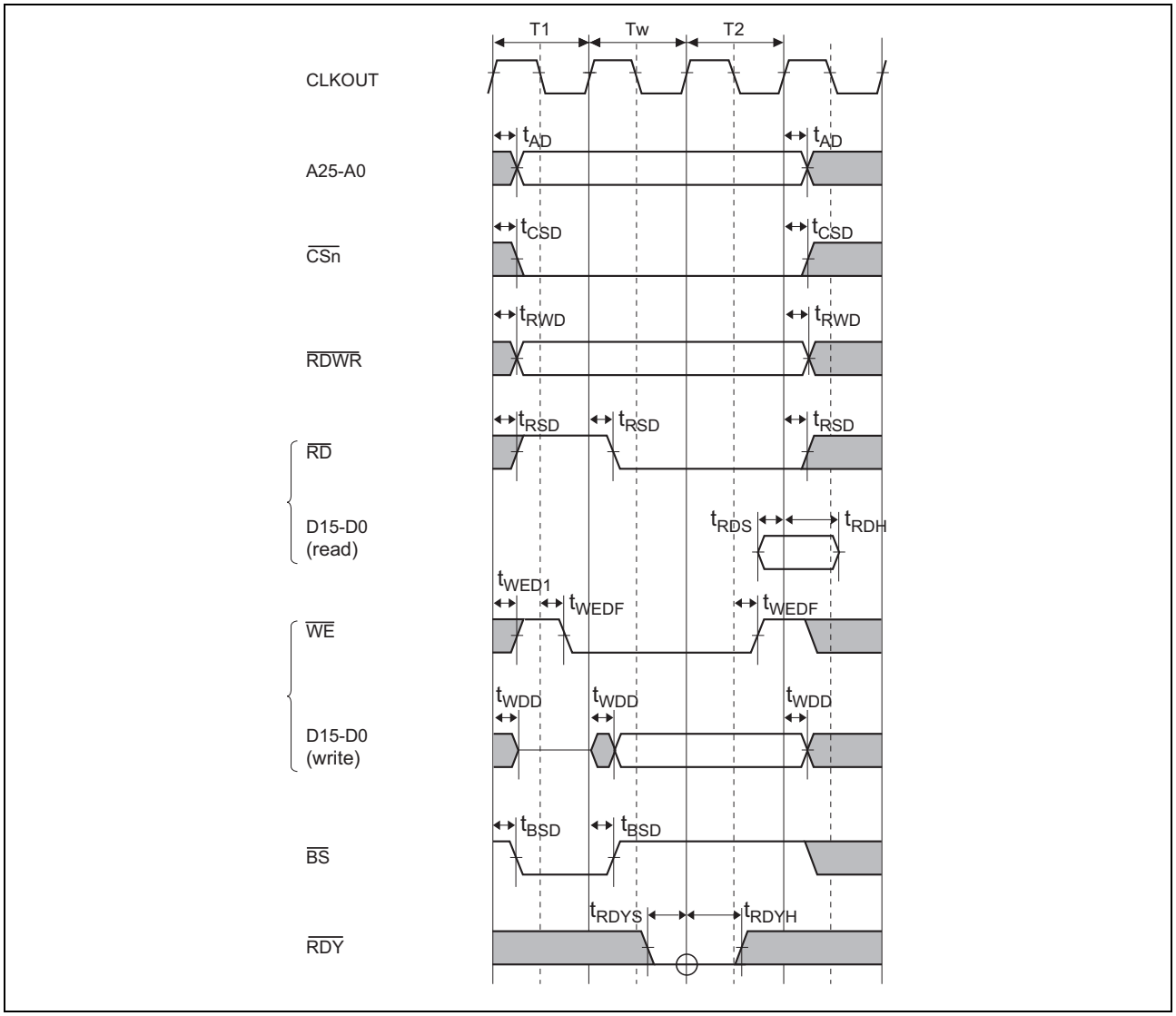


図 46.8 SRAM バスサイクル：基本バスサイクル（ソフトウェアウェイトのみ）

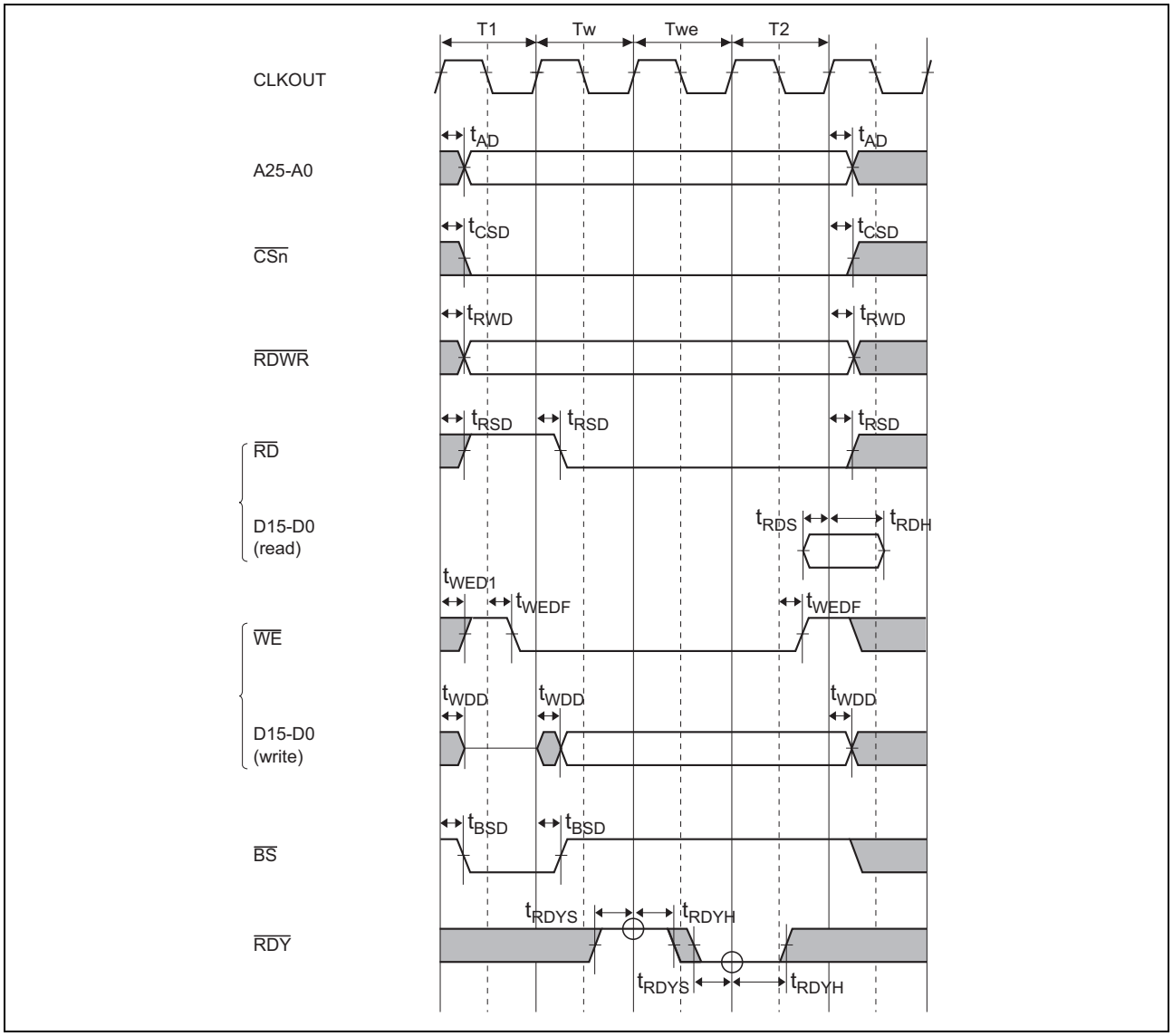


図 46.9 SRAM バスサイクル：基本バスサイクル
（ソフトウェアウェイト+RDY によるウェイト、RDY は同期入力）

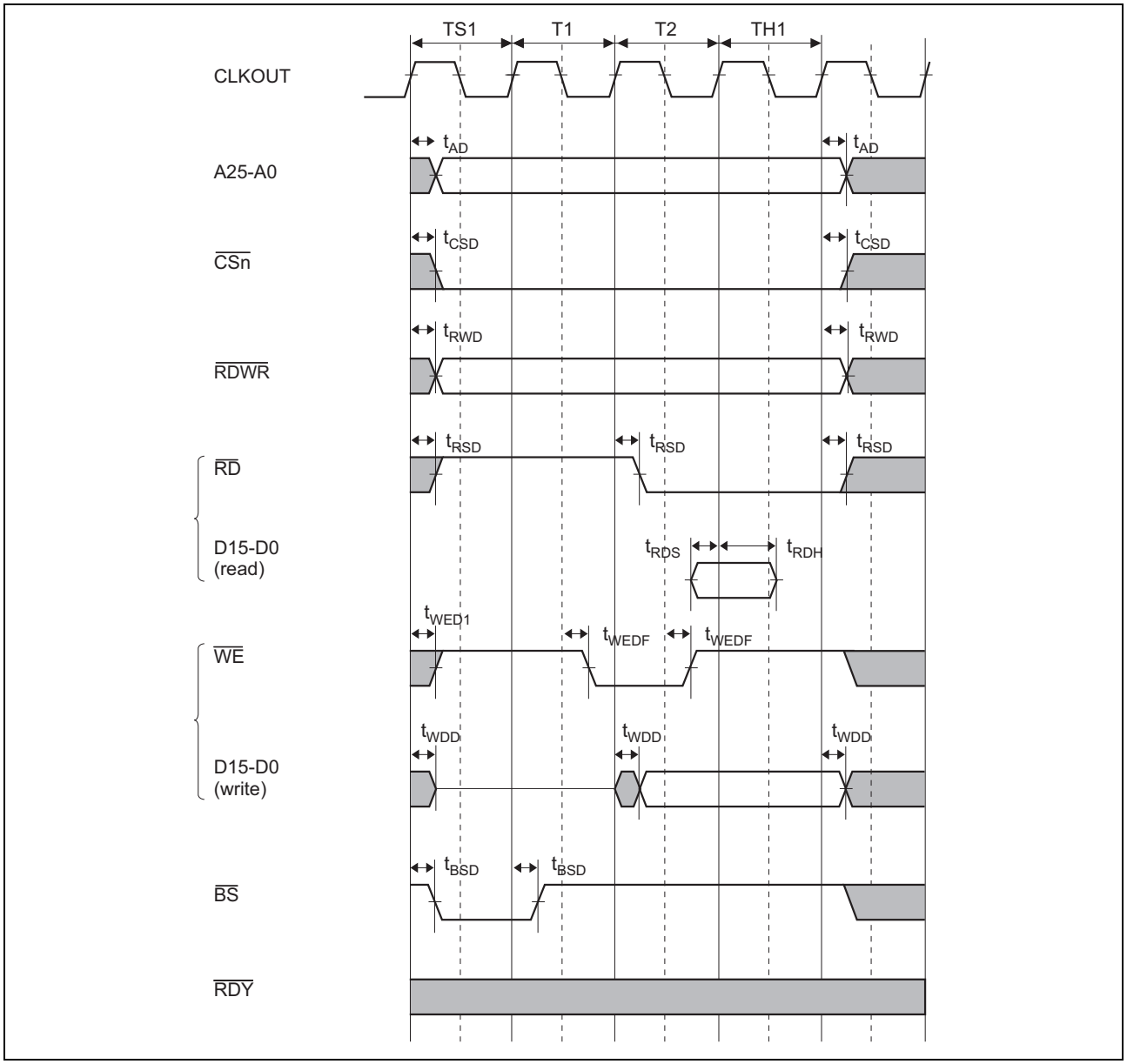


図 46.10 SRAM バスサイクル：基本バスサイクル
（ノーウェイト、アドレスセットアップ／ホールド挿入なし、RDS＝1、RDH＝0、WTS＝1、WTH＝1）

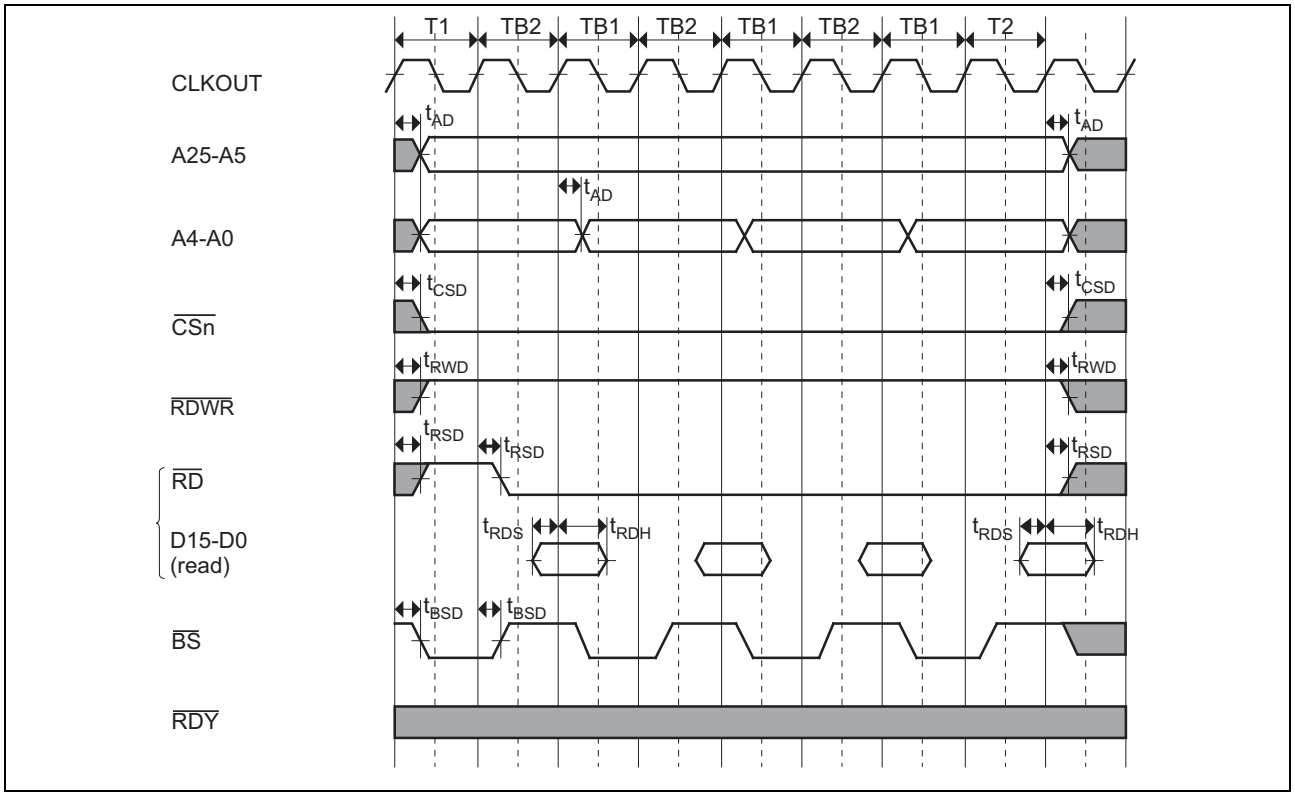


図 46.11 バーストROM バスサイクル（ノーウェイト）

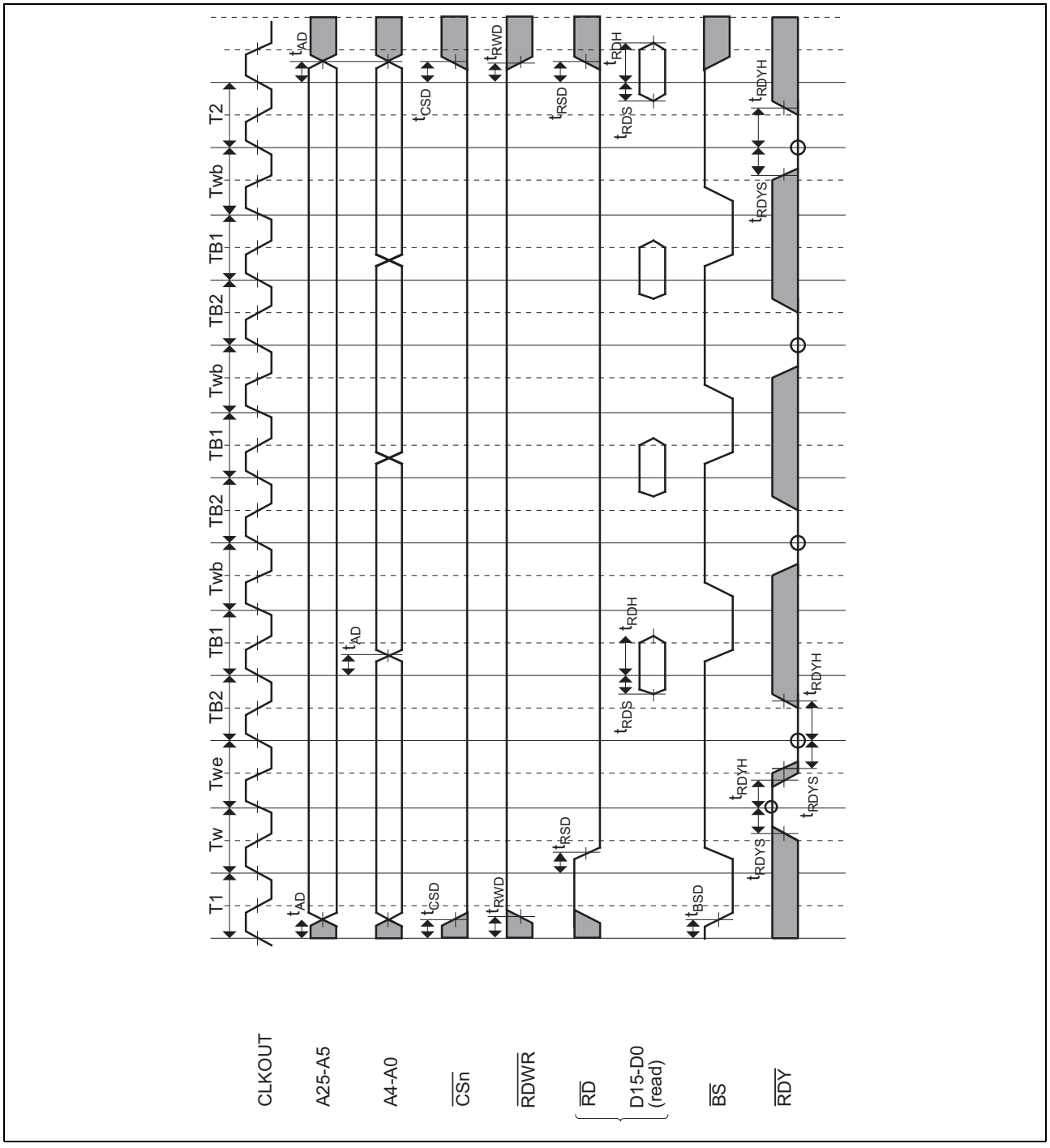


図 46.12 バーストROM バスサイクル
（1 番目のデータ：ソフトウェアウェイト+RDY によるウェイト
2、3、4 番目のデータ：ソフトウェアウェイトのみ）

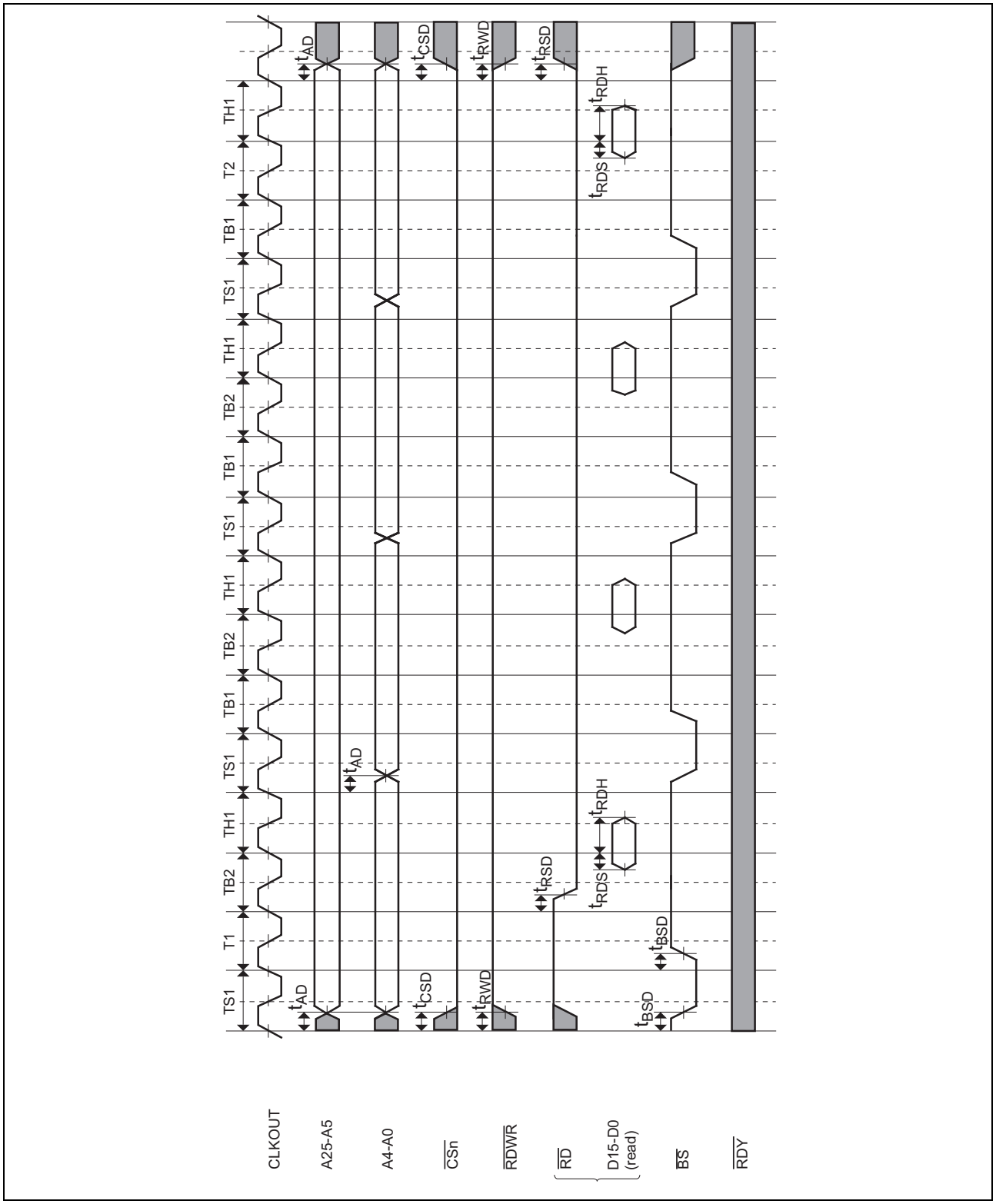


図 46.13 バーストROM バスサイクル
（ノーウェイト、アドレスセットアップ／ホールド挿入無し、RDS＝1、RDH＝0）

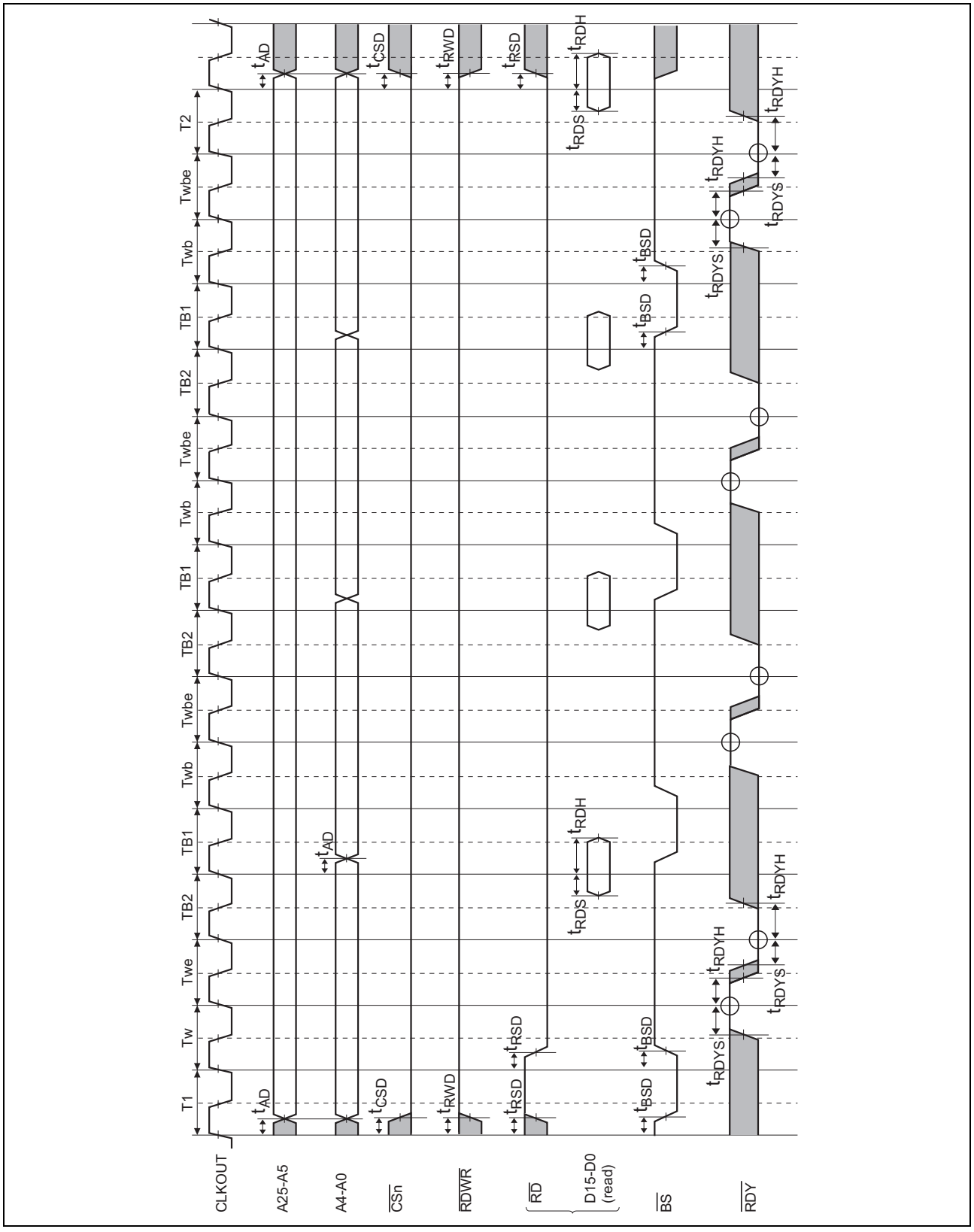


図 46.14 バーストROMバスサイクル
（ソフトウェアウェイト+ RDY によるウェイト）

46.4.3 DBSC3 モジュール信号タイミング

(1) 入力オーバシュート／アンダシュート特性

表46.13 入力オーバシュート／アンダシュート規定

項 目	定格値	単位	参照図
オーバーシュートエリアで許容されている最大ピーク振幅	0.3	V	46.15
アンダーシュートエリアで許容されている最大ピーク振幅	0.3	V	46.15
VCCQ-DDRを上回る最大オーバーシュートエリア	0.19	V-ns	46.15
VSSを下回る最大アンダーシュートエリア	0.19	V-ns	46.15

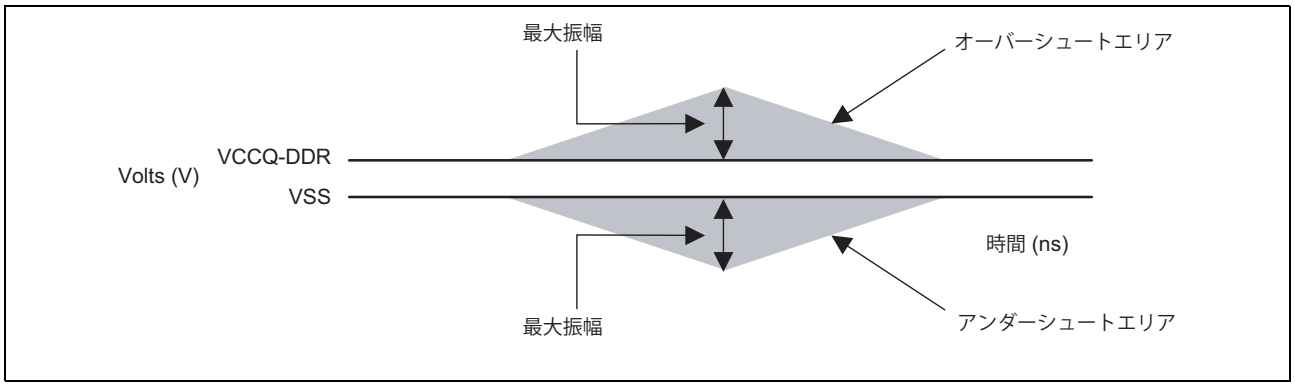


図 46.15 DBSC3 信号のオーバシュート／アンダシュート

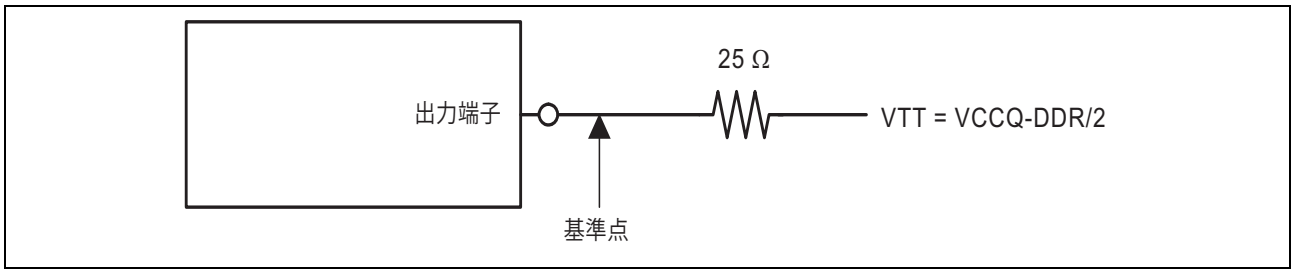


図 46.16 AC 特性測定条件

(2) AC特性

表46.14 DBSC3 モジュール信号タイミング

項 目	記号	Min.	Max.	単位	参照図
MCKクロック出力サイクル	tCK	1875	—	ps	46.17
MCK クロック出力H レベルパルス幅	tCH	0.43	0.57	tCK	
MCK クロック出力L レベルパルス幅	tCL	0.43	0.57	tCK	
アドレス／制御信号セットアップ時間	tIS (1T)	523	—	ps	46.18
（MCK 立ち上がりエッジに対する）	tIS (2T)	1513	—	ps	
アドレス／制御信号ホールド時間	tIH (1T)	523	—	ps	
（MCK 立ち上がりエッジに対する）	tIH (2T)	978	—	ps	
MDQS、$\overline{\text{MDQS}}$ 立ち上がり時間 （MCK 立ち上がりエッジに対する）	tDQSS	-0.183	0.183	tCK	46.19
MDQS、$\overline{\text{MDQS}}$ 立ち下がりセットアップ時間 （MCK 立ち上がりエッジに対する）	tDSS	0.267	—	tCK	
MDQS、$\overline{\text{MDQS}}$ 立ち下がりホールド時間 （MCK 立ち上がりエッジに対する）	tDSH	0.267	—	tCK	
MDQS、$\overline{\text{MDQS}}$ 差動出力H レベルパルス幅	tDQSH	0.45	0.55	tCK	46.20
MDQS、$\overline{\text{MDQS}}$ 差動出力L レベルパルス幅	tDQSL	0.45	0.55	tCK	
MDQS、$\overline{\text{MDQS}}$ ライトプレアンブル時間	tWPRE	0.9	—	tCK	
MDQS、$\overline{\text{MDQS}}$ ライトポストアンブル時間	tWPST	0.3	—	tCK	
MDQ/M$\overline{\text{DQM}}$ セットアップ時間 （DQS、$\overline{\text{DQS}}$ のVIH(AC)/VIL(AC)に対する）	tDS	284	—	ps	46.21
MDQ/M$\overline{\text{DQM}}$ ホールド時間 （DQS、$\overline{\text{DQS}}$ のVIH(AC)/VIL(AC)に対する）	tDH	284	—	ps	
MDQS、$\overline{\text{MDQS}}$・MCK、$\overline{\text{MCK}}$ 間スキュー	tDQSCK	-300	1300	ps	46.22
MDQ ホールド時間 （MDQS、$\overline{\text{MDQS}}$ に対する）	tQH	0.319	—	tCK	46.24
MDQS、$\overline{\text{MDQS}}$・MDQ 間スキュー	tDQSQ	—	225	ps	
MDQS、$\overline{\text{MDQS}}$ H レベルパルス幅	tQSH	0.38	—	tCK	46.23
MDQS、$\overline{\text{MDQS}}$ L レベルパルス幅	tQSL	0.38	—	tCK	
MDQS、$\overline{\text{MDQS}}$ リードプレアンブル時間	tRPRE	0.9	—	tCK	
MDQS、$\overline{\text{MDQS}}$ リードポストアンブル時間	tRPST	0.3	—	tCK	

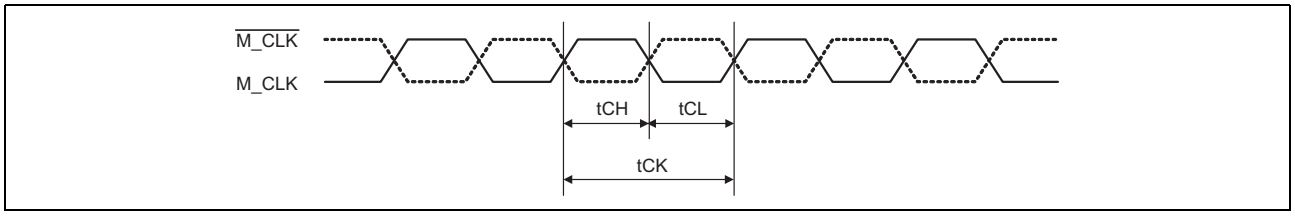


図 46.17 クロックタイミング

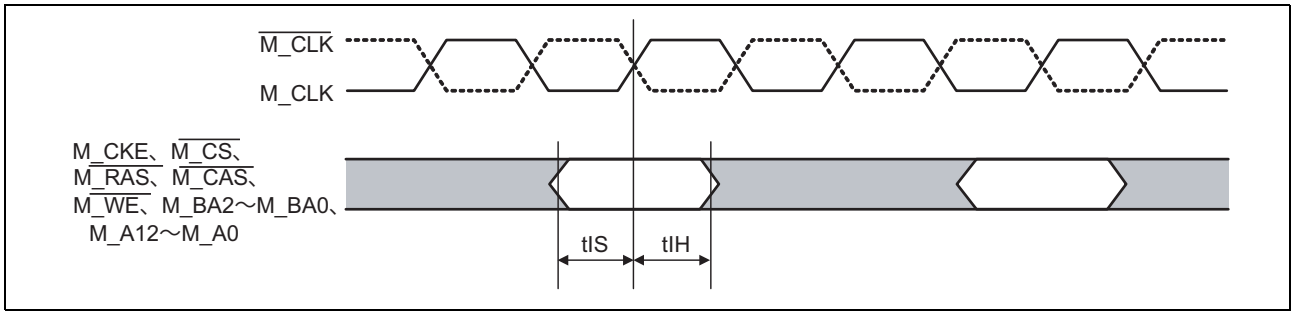


図 46.18 アドレスとコントロールタイミング

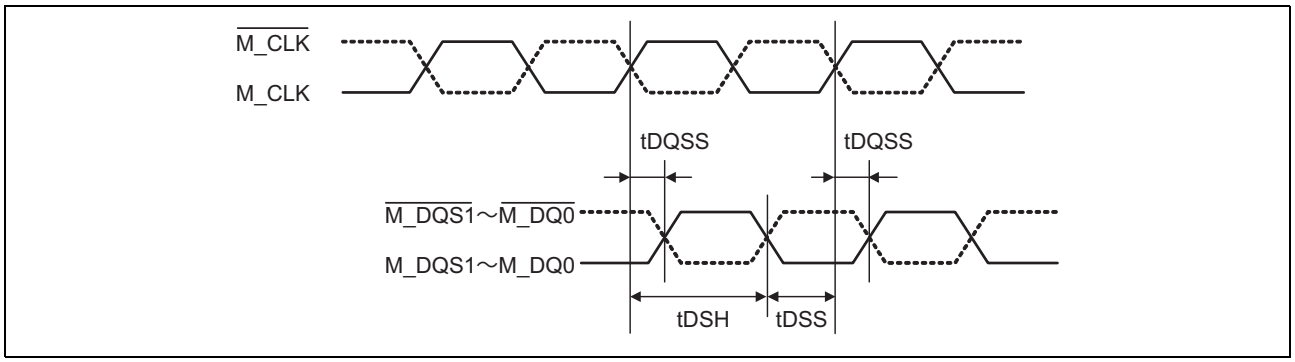


図 46.19 クロックとDQSタイミング（ライト時）

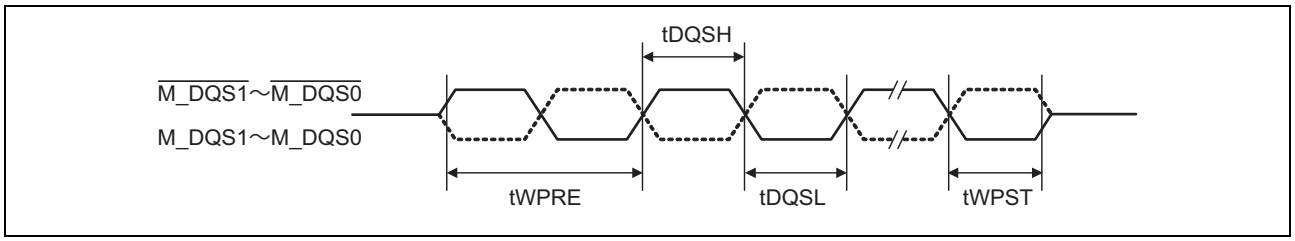


図 46.20 DQS タイミング（ライト時）

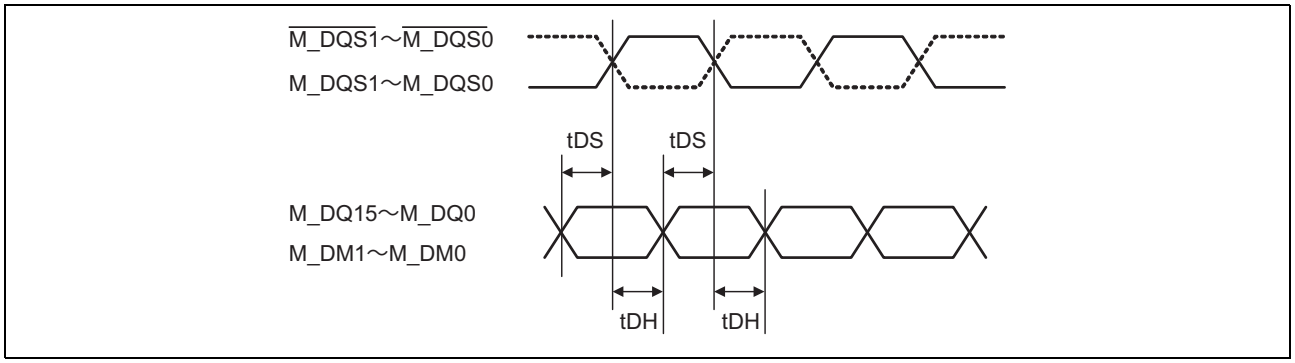


図 46.21 DQ/DM とDQSタイミング（ライト時）

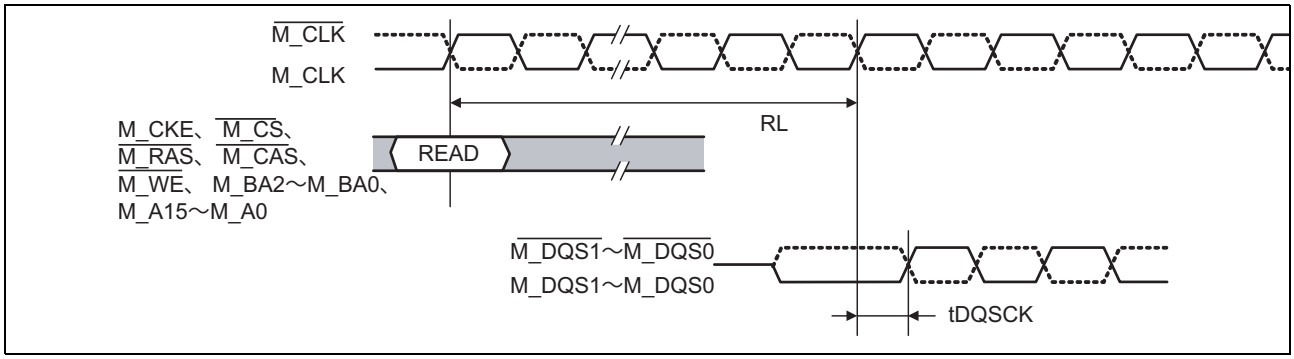


図 46.22 クロックに対するDQS出力波形の関係（リード時）

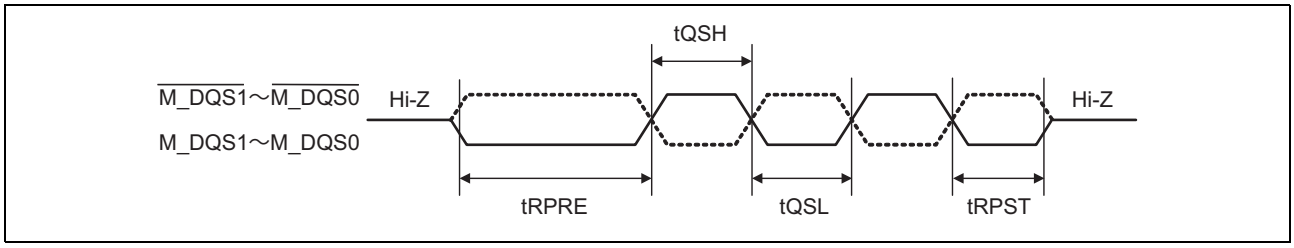


図 46.23 DQS タイミング（リード時）

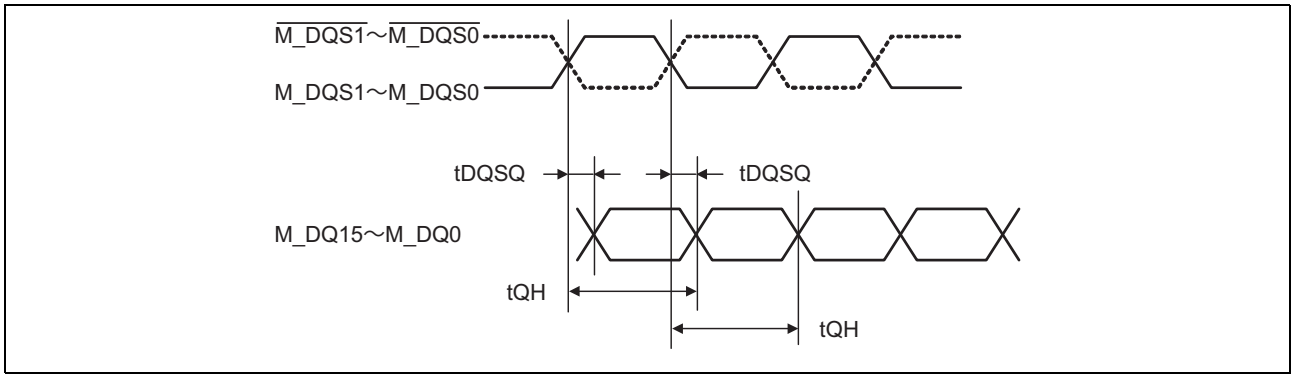


図 46.24 DQ とDQSタイミング（リード時）

46.4.4　INTC モジュール信号タイミング

表46.15　INTC モジュール信号タイミング

項 目	記号	Min.	Max.	単位	参照図	備考
NMI Hパルス幅	t_{NMIH}	5	—	t_{cyc}	46.25	通常動作時 スリープモード時
NMI Lパルス幅	t_{NMIL}	5	—	t_{cyc}	46.25	通常動作時 スリープモード時
IRQ15 ～ IRQ8、IRQ7/$\overline{IRL7}$ ～ IRQ0/$\overline{IRL0}$ セットアップ時間	t_{IRQS}	18	—	ns	46.26	IRQ 入力
IRQ15 ～ IRQ8、IRQ7/$\overline{IRL7}$ ～ IRQ0/$\overline{IRL0}$ ホールド時間	t_{IRQH}	1.5	—	ns	46.26	IRQ入力
IRQ7/$\overline{IRL7}$ ～ IRQ0/$\overline{IRL0}$ セットアップ時間	t_{IRLS}	18	—	ns	46.26	IRL 入力
IRQ7/$\overline{IRL7}$ ～ IRQ0/$\overline{IRL0}$ ホールド時間	t_{IRLH}	1.5	—	ns	46.26	IRL 入力

注．t_{cyc} はCLKOUT クロックの1 サイクル時間を示します。

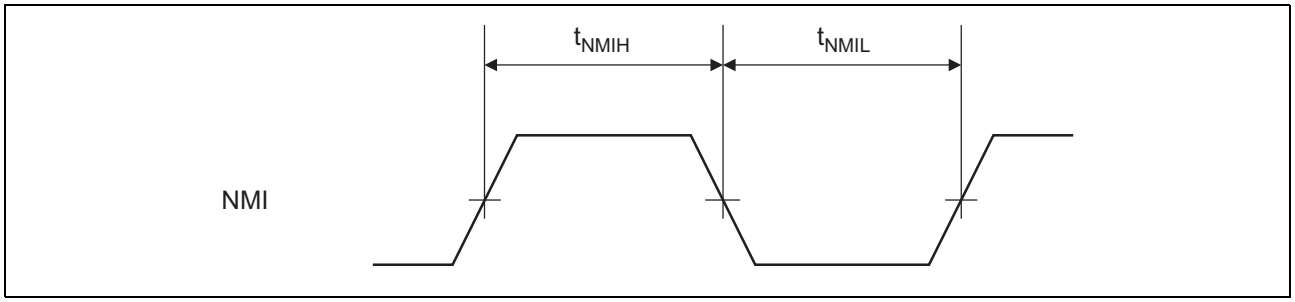


図 46.25　NMI 入力タイミング

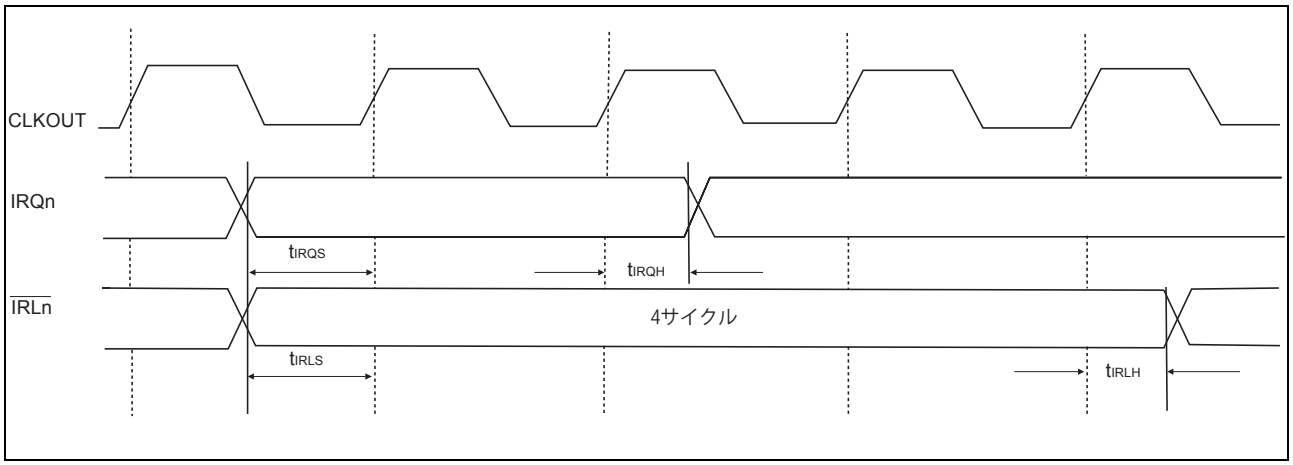


図 46.26　IRQ/$\overline{IRL}$ 入力タイミング

46.4.5 DMAC モジュール信号タイミング

表46.16 DMAC モジュール信号タイミング

項 目	記号	Min.	Max.	単位	参照図	備考
$\overline{\text{DREQn}}$ セットアップ時間	t_{DRQS}	6	—	ns	46.27	
$\overline{\text{DREQn}}$ ホールド時間	t_{DRQH}	4	—	ns	46.27	
$\overline{\text{TENDn}}$ 遅延時間	t_{TENDD}	—	9	ns	46.27	
$\overline{\text{DACKn}}$ 遅延時間	t_{DACKD}	—	9	ns	46.27	

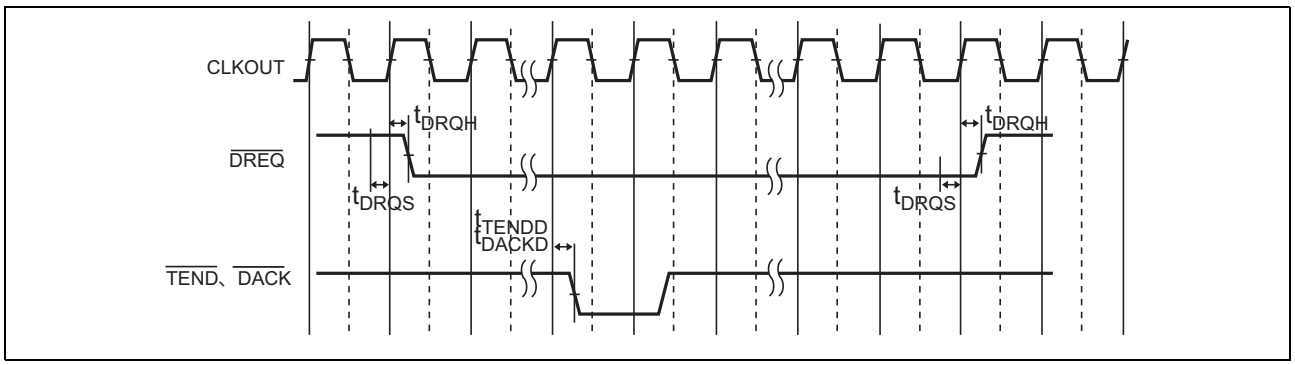


図 46.27 $\overline{\text{DREQ}}$/$\overline{\text{TEND}}$/$\overline{\text{DACK}}$ タイミング

46.4.6　SPI0 モジュール信号タイミング

表46.17　SPI0 モジュール信号タイミング

項 目	記号	Min.	Max.	単位	参照図
SP0-SCK クロック出力周波数	f_{SP0C}	—	48	MHz	
SP0-SCK クロック出力周期	t_{SP0C}	20.8	—	ns	46.28
SP0-SCK クロック出力L レベルパルス幅	t_{SP0CL}	8	—	ns	46.28
SP0-SCK クロック出力H レベルパルス幅	t_{SP0CH}	8	—	ns	46.28
SP0-SCK_FB クロック入力立ち上がり時間 （VCCQの20%～80%）	$t_{SP0FBCR}$	—	6	ns	46.29
SP0-SCK_FB クロック入力立ち下がり時間 （VCCQの20%～80% ）	$t_{SP0FBCF}$	—	6	ns	46.29
SP0-MISO/SP0-MOSI入力セットアップ時間 （SP0-SCK_FB 立ち上がり前）	$t_{SP0DVCH}$	2	—	ns	46.29
SP0-MISO/SP0-MOSI入力ホールド時間 （SP0-SCK_FB立ち上がり後）	$t_{SP0CHDX}$	10	—	ns	46.29
SP0-MOSI 出力有効時間（SP0-SCK 立ち上がり前）	$t_{SP0QVCH}$	t_{SP0C}/2-6	—	ns	46.28
SP0-MOSI 出力有効時間（SP0-SCK 立ち上がり後）	$t_{SP0CHQX}$	t_{SP0C}/2-6	—	ns	46.28
$\overline{\text{SP0-SS0}}$ ～ $\overline{\text{SP0-SS3}}$ 出力有効時間 （SP0-SCK 立ち上がり前）	$t_{SP0SLCH}$	t_{SP0C}/2-5	—	ns	46.28
$\overline{\text{SP0-SS0}}$ ～ $\overline{\text{SP0-SS3}}$ 出力有効時間 （SP0-SCK 立ち上がり後）	$t_{SP0CHSH}$	t_{SP0C}-15	—	ns	46.28

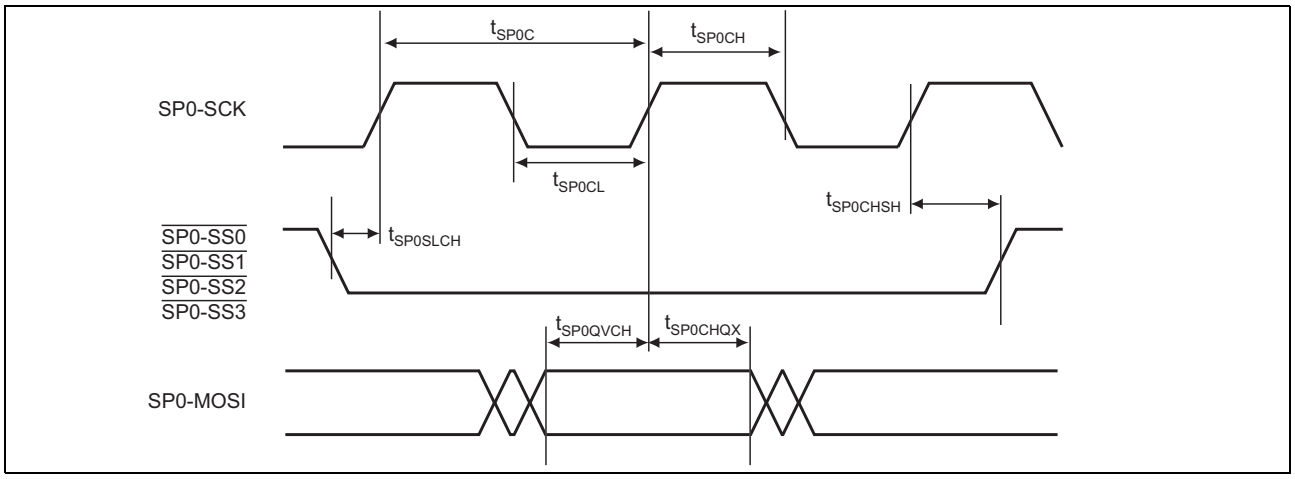


図 46.28　SPI0 出力信号タイミング

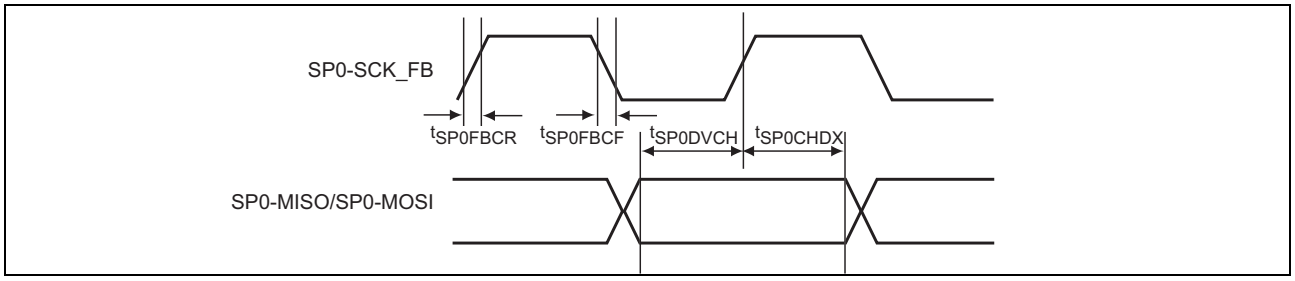
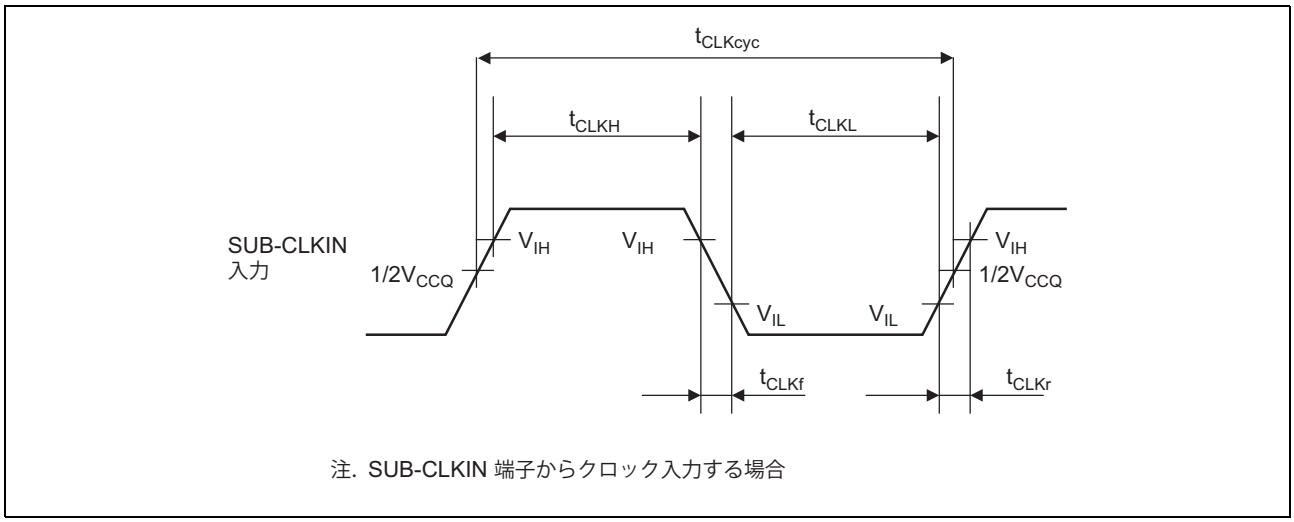


図 46.29　SPI0 入力信号タイミング

46.4.7 WDTモジュール信号タイミング

表46.18 WDT モジュール信号タイミング

項 目	記号	Min.	Typ.	Max.	単位	参照図
SUB-CLKIN クロック入力周波数	t_{CLK}	—	32.768	—	kHz	46.30
SUB-CLKIN クロック入力サイクル時間	t_{CLKcyc}	—	15.26	—	µs	46.30
SUB-CLKIN クロック入力Lレベルパルス幅	t_{CLKL}	7	—	—	µs	46.30
SUB-CLKIN クロック入力Hレベルパルス幅	t_{CLKH}	7	—	—	µs	46.30
SUB-CLKIN クロック入力立ち上がり時間	t_{CLKr}	—	—	4	ns	46.30
SUB-CLKIN クロック入力立ち下がり時間	t_{CLKf}	—	—	4	ns	46.30
オーバフロー出力遅延時間	t_{WOVD}	—	—	40	ns	46.31



注. SUB-CLKIN 端子からクロック入力する場合

図 46.30 SUB-CLKIN クロック入力タイミング

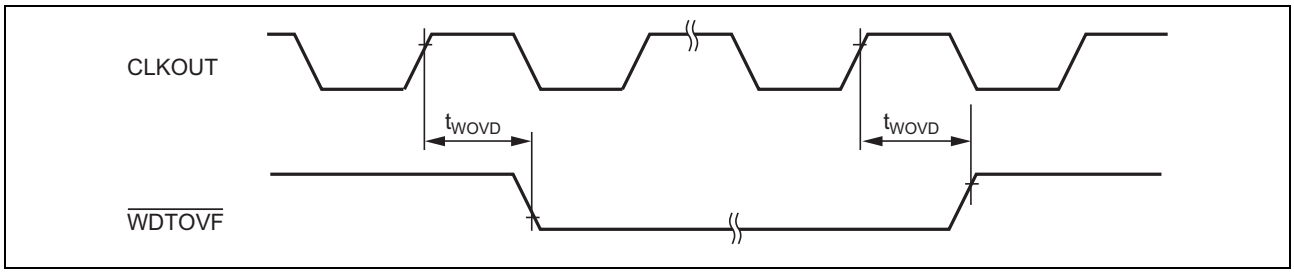


図 46.31 WDT 出力タイミング

46.4.8 PWMX モジュール信号タイミング

表46.19 PWMX モジュール信号タイミング

項 目	記号	Min.	Max.	単位	参照図
パルス出力遅延時間	t_{PWOD}	—	30	ns	46.32

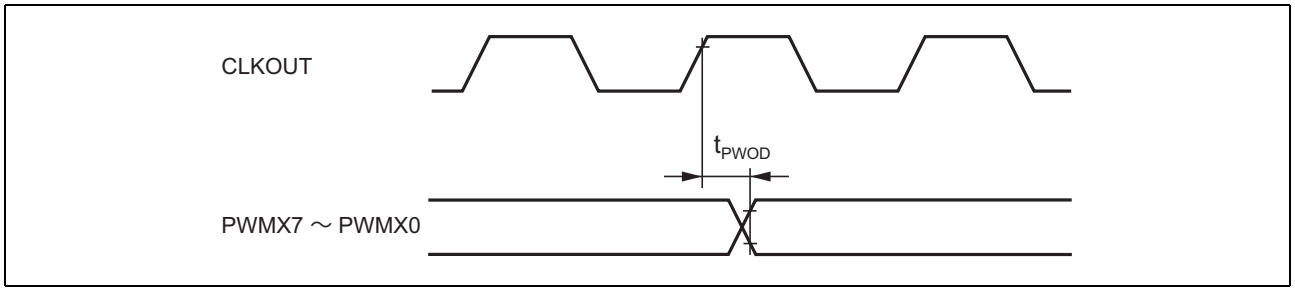


図 46.32 PWMX 出力タイミング

46.4.9 PWMU モジュール信号タイミング

表46.20 PWMU モジュール信号タイミング

項 目	記号	Min.	Max.	単位	参照図
パルス出力遅延時間	t_{PWOD}	—	30	ns	46.33

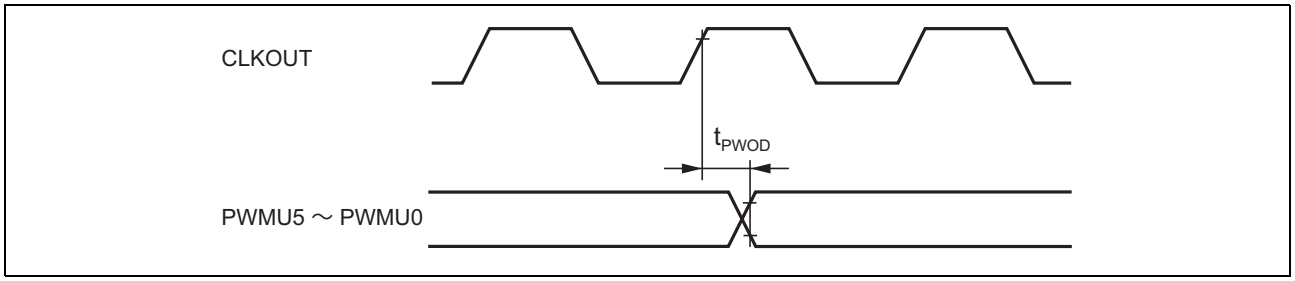


図 46.33 PWMU 出力タイミング

46.4.10 TMU モジュール信号タイミング

表46.21 TMU モジュール信号タイミング

項 目	記号	Min.	Max.	単位	参照図
タイマクロックHパルス幅	t_{TCLKWH}	4	—	t_{pcyc}	46.34
タイマクロックLパルス幅	t_{TCLKWL}	4	—	t_{pcyc}	46.34
タイマクロック立ち上がり時間	t_{TCLKr}	—	0.8	t_{pcyc}	46.34
タイマクロック立ち下がり時間	t_{TCLKf}	—	0.8	t_{pcyc}	46.34

注. t_{Pcyc} は周辺クロック（Pck）の1サイクル時間を示します。

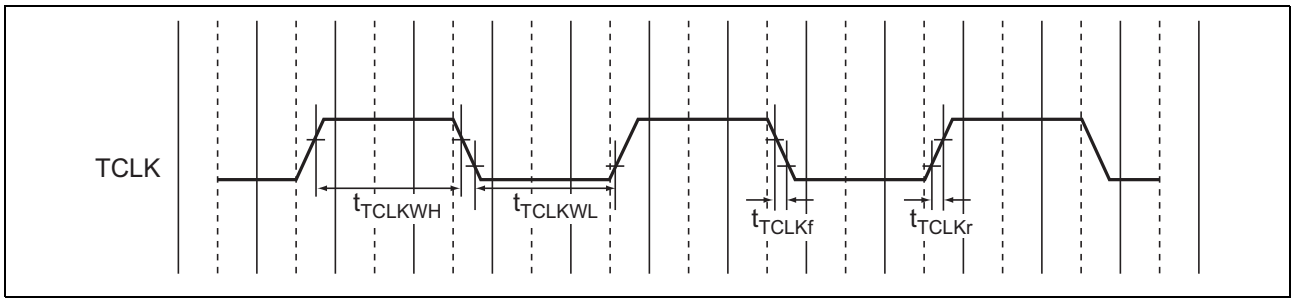


図 46.34 TCLK 入力タイミング

46.4.11 ETHER モジュール信号タイミング

表46.22　ETHER モジュール信号タイミング（RMII）

項 目		記号	Min.	Typ.	Max.	単位	参照図
RMIIn-REFCLK サイクル時間		t_{RTcyc}	20	—	—	ns	46.35
RMIIn-REFCLK デューティサイクル		t_{RTD}	35	—	65	%	
RMIIn-REFCLK Hパルス幅		t_{RTH}	5	—	—	ns	
RMIIn-REFCLK Lパルス幅		t_{RTL}	5	—	—	ns	
RMIIn-REFCLK 立ち上がり時間		t_{RTr}	—	—	4	ns	
RMIIn-REFCLK 立ち下がり時間		t_{RTf}	—	—	4	ns	
出力遅延時間	RMII0-TXEN、RMII1-TXEN	t_{RTEND}	2.5	—	12.5	ns	46.36
	RMII0-TXD1、RMII0-TXD0、RMII1-TXD1、RMII1-TXD0	t_{RETDDo}	2.5	—	12.5		
セットアップ時間	RMII0-CRS_DV、RMII1-CRS_DV	t_{RRDVS}	3	—	—		46.37
ホールド時間		t_{RRDVH}	1	—	—		
セットアップ時間	RMII0-RXD1、RMII0-RXD0、RMII1-RXD1、RMII1-RXD0	t_{RERDS}	3	—	—		
ホールド時間		t_{RERDH}	1	—	—		
セットアップ時間	RMII0-RX_ER、RMII1-RX_ER	t_{RRERS}	3	—	—		46.38
ホールド時間		t_{RRERH}	1	—	—		
ET0_MDIO 、ET1_MDIO 出力データホールド時間（注）		$t_{RMDIODH}$	5	—	18		46.39

注.　本規定を満足するように、プログラムで設定してください。

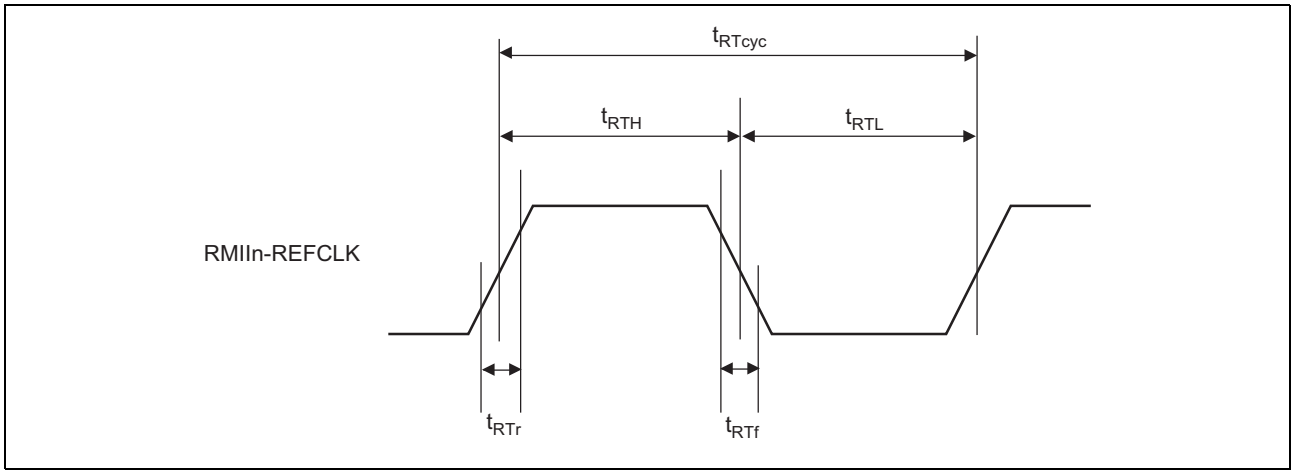


図 46.35　RMIIn-REFCLK クロック入力タイミング

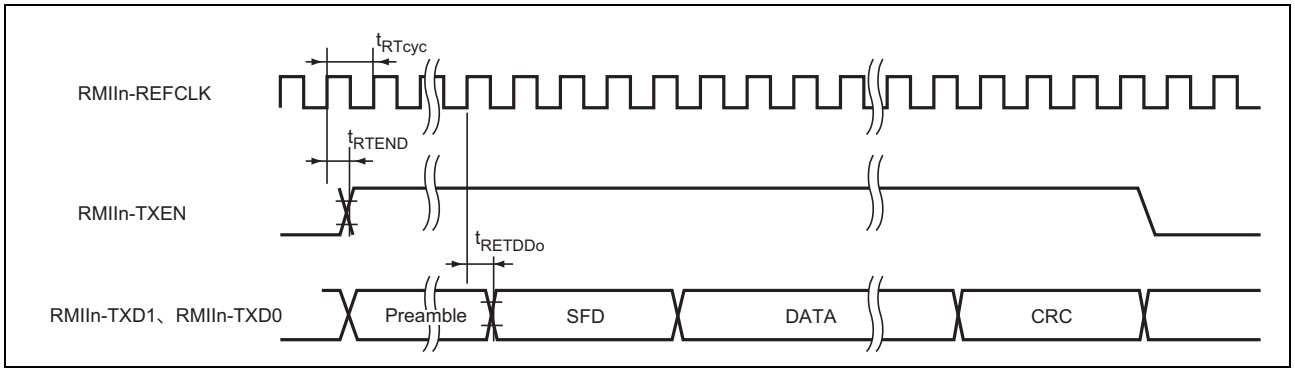


図 46.36 RMII 送信タイミング

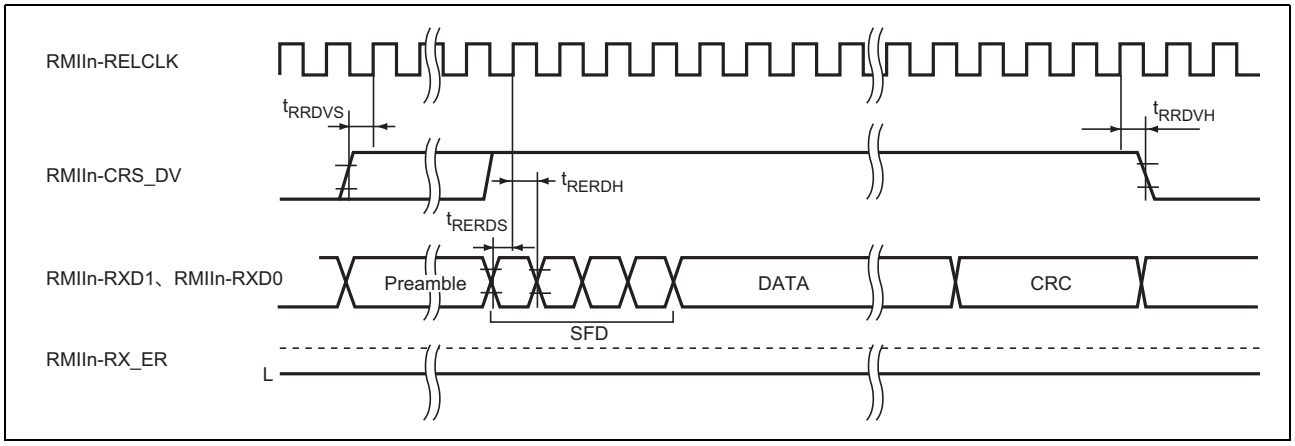


図 46.37 RMII 送信タイミング（正常動作時）

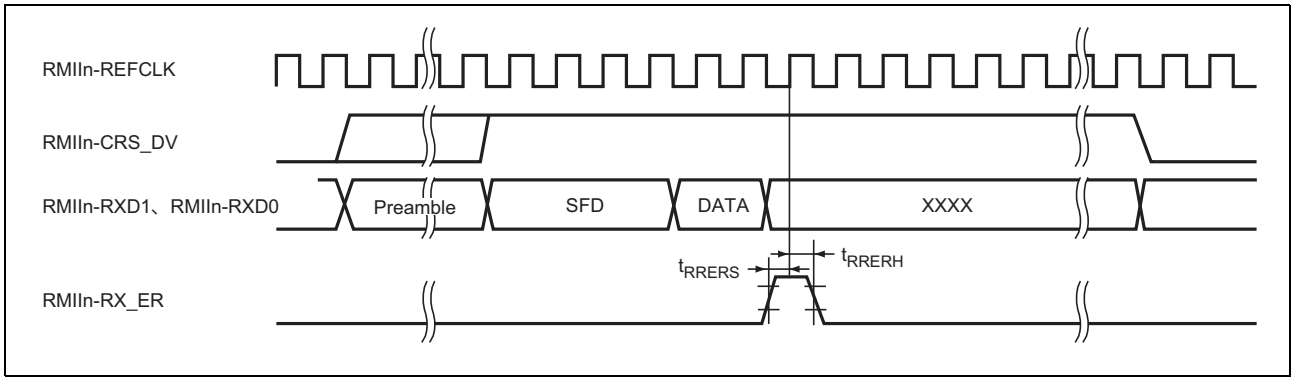


図 46.38 RMII受信タイミング（エラー発生ケース）

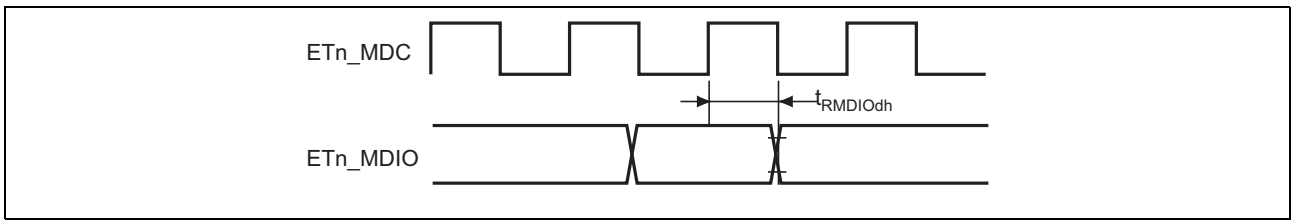


図 46.39 MDIO 出力タイミング

46.4.12 RGMII モジュール信号タイミング

表46.23 RGMII モジュール信号タイミング

項 目	記号	Min.	Typ.	Max.	単位	参照図
RGMII-MAC-CLK 入力クロック周期	$t_{MACCLKcyc}$	7.8	8.0	8.2	ns	46.40
RGMII-MAC-CLKデューティー比	$t_{MACCLKcyc}$	45.0	50.0	55.0	%	46.40
RGMII-MAC-CLK 入力立ち上がり時間(20%～80%)	$t_{MACCLKr}$	—	—	2.0	ns	46.40
RGMII-MAC-CLK 入力立ち下がり時間(20%～80%)	$t_{MACCLKf}$	—	—	2.0	ns	46.40
クロック出力データスキュー（受信時）	$T_{skew}T$	-500	0	500	ps	46.41
クロック入力データスキュー（受信時）	$T_{skew}R$	1	1.8	2.6	ns	46.41
データ出力セットアップ時間 （送信遅延時）	$T_{setup}T$	1.2	2.0	—	ns	46.42
データ出力ホールド時間 （送信遅延時）	$T_{hold}T$	1.2	2.0	—	ns	46.42
データ入力セットアップ時間（受信遅延時）	$T_{setup}R$	1.0	2.0	—	ns	46.42
データ入力ホールド時間（受信遅延時）	$T_{hold}R$	1.0	2.0	—	ns	46.42
クロック周期	T_{cyc}	7.2	8	8.8	ns	46.41
デューティー比（ギガビット）	Duty_G	45	50	55	%	46.41
デューティー比（10/100T）	Duty_T	40	50	60	%	46.41
立ち上がり／立ち下がり時間	T_r/T_f	—	—	0.75	ns	46.41

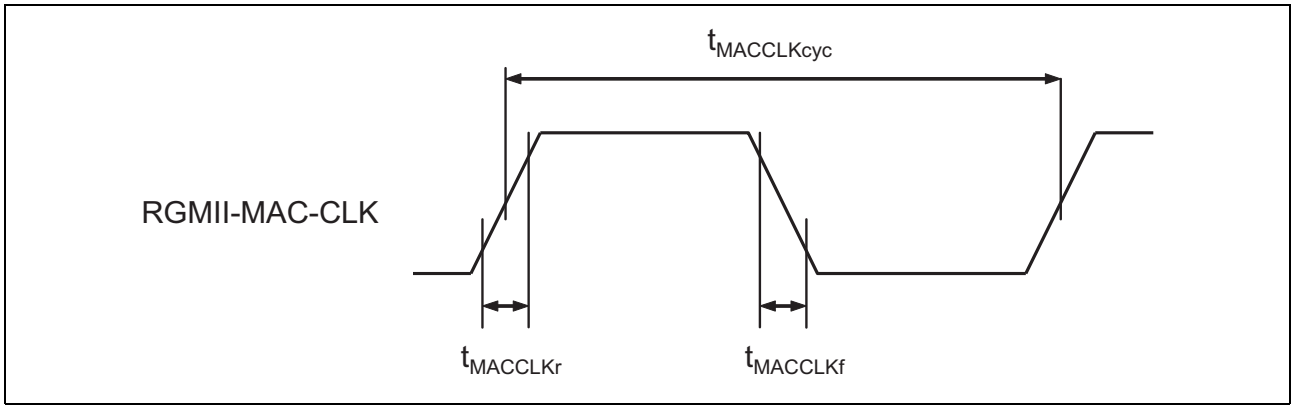


図 46.40 RGMII-MAC-CLK クロック入力タイミング

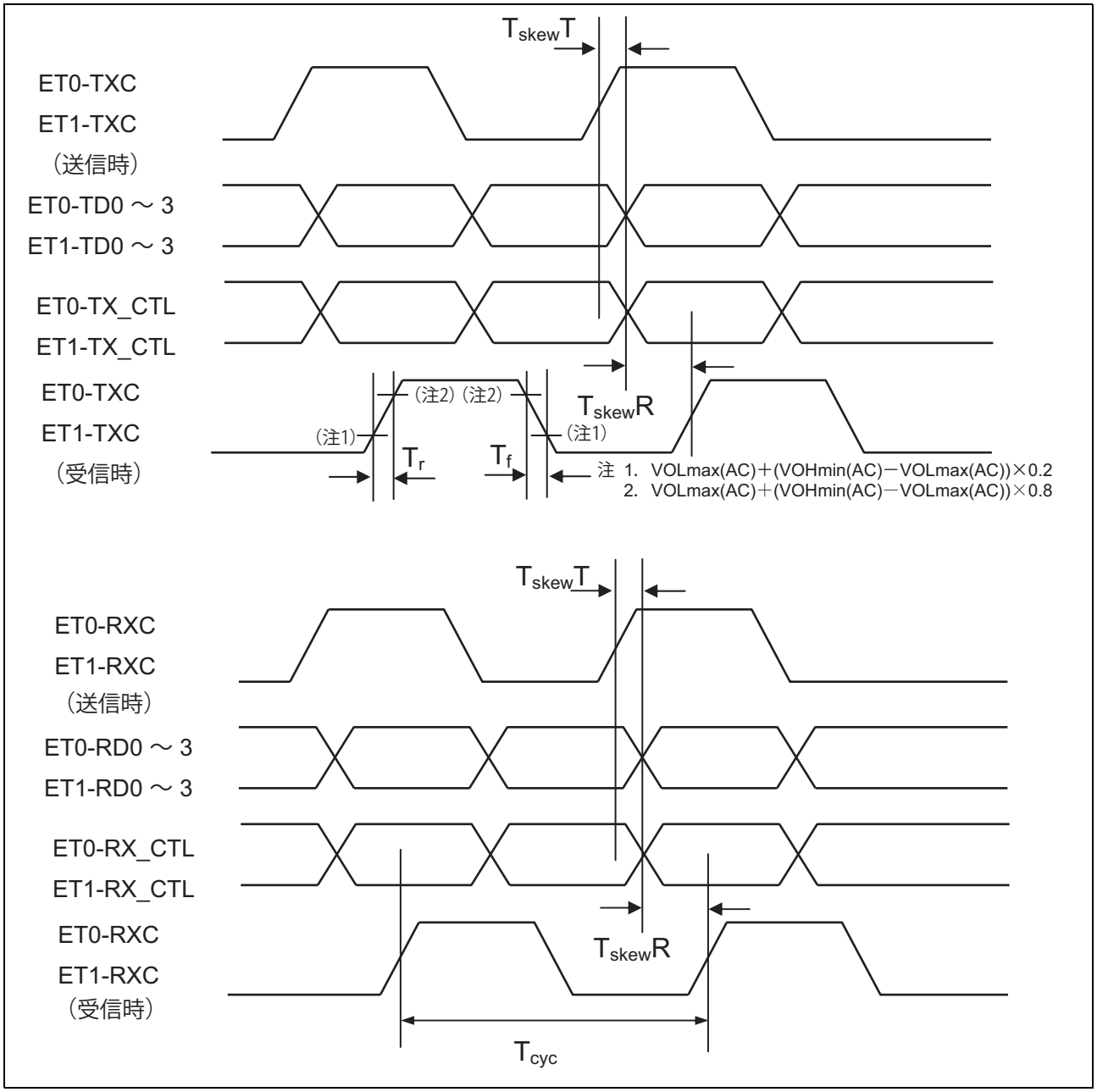


図 46.41　RGMII 補正 ACタイミング

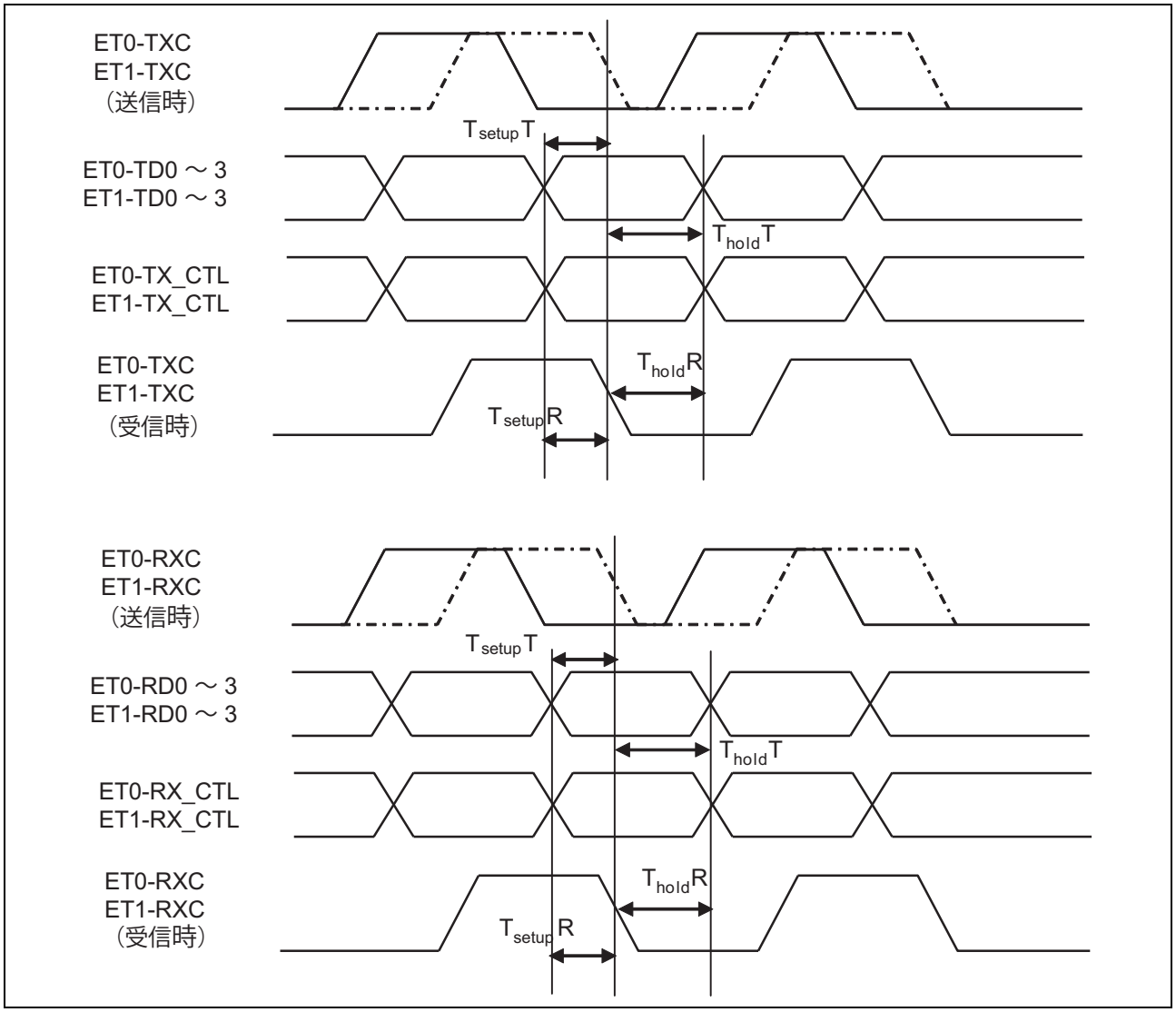


図 46.42　RGMII 補正ACタイミング

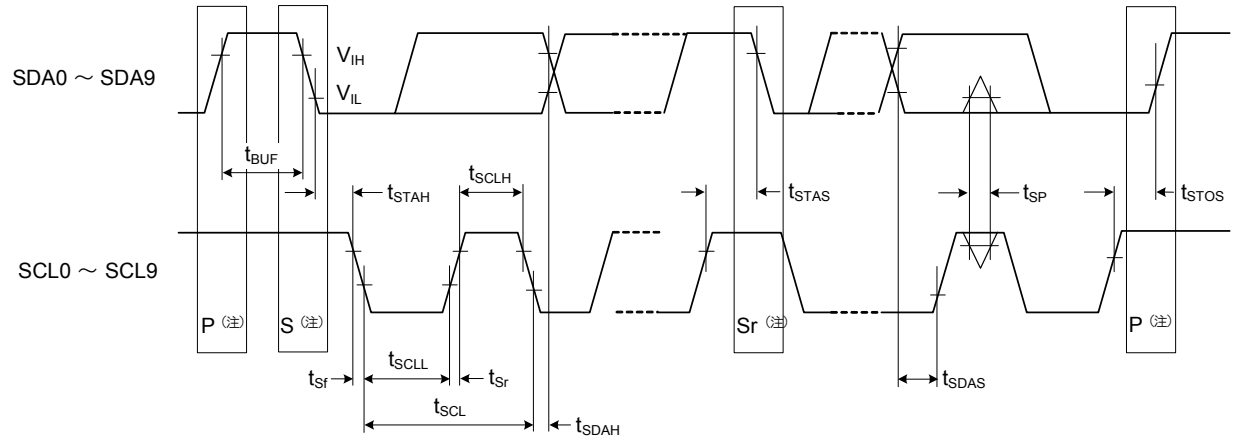
46.4.13 RIIC モジュール信号タイミング

表46.24　RIIC モジュール信号タイミング

項目		記号	Min. （注1）（注2）（注3）	Max.	単位	参照図
RIIC （標準モード） ICFER.FMPE = 0	SCL入力サイクル時間	t_{SCL}	4(12) × IICϕ + 1300	—	ns	46.43
	SCL入力Hレベルパルス幅	t_{SCLH}	2(6) × IICϕ	—	ns	
	SCL入力Lレベルパルス幅	t_{SCLL}	2(6) × IICϕ	—	ns	
	SCL、SDA入力立ち上がり時間	t_{Sr}	—	1000	ns	
	SCL、SDA入力立ち下がり時間	t_{Sf}	—	300	ns	
	SCL、SDA 入力スパイクパルス除去時間	t_{SP}	0	IICϕ	ns	
	SDA入力バスフリー時間	t_{BUF}	2(6) × IICϕ + internal_delay（注4）	—	ns	
	開始条件ホールド時間	t_{STAH}	IICϕ + internal_delay（注4）	—	ns	
	再送開始条件入力セットアップ時間	t_{STAS}	0	—	ns	
	停止条件入力セットアップ時間	t_{STOS}	0	—	ns	
	データ入力セットアップ時間	t_{SDAS}	IICϕ	—	ns	
	データ入力ホールド時間	t_{SDAH}	– internal_delay（注4）	—	ns	
	SCL、SDA容量性負荷	C_b	—	400	pF	
RIIC （高速モード） ICFER.FMPE = 0	SCL入力サイクル時間	t_{SCL}	4(12) × IICϕ+ 600	—	ns	46.43
	SCL入力Hレベルパルス幅	t_{SCLH}	2(6) × IICϕ	—	ns	
	SCL入力Lレベルパルス幅	t_{SCLL}	2(6) × IICϕ	—	ns	
	SCL、SDA入力立ち上がり時間	t_{Sr}	20 + 0.1C_b	300	ns	
	SCL、SDA入力立ち下がり時間	t_{Sf}	20 + 0.1C_b	300	ns	
	SCL、SDA 入力スパイクパルス除去時間	t_{SP}	0	IICϕ	ns	
	SDA入力 バスフリー時間	t_{BUF}	2(6) × IICϕ + internal_delay（注4）	—	ns	
	開始条件入力ホールド時間	t_{STAH}	IICϕ + internal_delay（注4）	—	ns	
	再送開始条件入力セットアップ時間	t_{STAS}	0	—	ns	
	停止条件入力セットアップ時間	t_{STOS}	0	—	ns	
	データ入力セットアップ時間	t_{SDAS}	IICϕ	—	ns	
	データ入力ホールド時間	t_{SDAH}	– internal_delay（注4）	—	ns	
	SCL、SDA容量性負荷	C_b	—	400	pF	

項目		記号	Min. （注1）（注2）（注3）	Max.	単位	参照図
RIIC （高速モード） ICFER.FMPE= 1	SCL入力サイクル時間	t_{SCL}	4(12) × IICϕ+ 240	—	ns	46.43
	SCL入力Hレベルパルス幅	t_{SCLH}	2(6) × IICϕ	—	ns	
	SCL入力Lレベルパルス幅	t_{SCLL}	2(6) × IICϕ	—	ns	
	SCL、SDA入力立ち上がり時間	t_{Sr}	—	120	ns	
	SCL、SDA入力立ち下がり時間	t_{Sf}	—	120	ns	
	SCL、SDA入力スパイクパルス除去時間	t_{SP}	0	IICϕ	ns	
	SDA入力バスフリー時間	t_{BUF}	2(6) × IICϕ	—	ns	
	開始条件入力ホールド時間	t_{STAH}	IICϕ	—	ns	
	再送開始条件入力セットアップ時間	t_{STAS}	0	—	ns	
	停止条件入力セットアップ時間	t_{STOS}	0	—	ns	
	データ入力セットアップ時間	t_{SDAS}	IICϕ	—	ns	
	データ入力ホールド時間	t_{SDAH}	0	—	ns	
	SCL、SDA容量性負荷	C_b	—	550	pF	

注1. デジタルフィルタ有効（ICFER.NFE = 1）で、ICMR3.NF[1:0]＝11の場合は、（　）内の数値を使用してください。
2. C_b はバスラインの総容量を示します。
3. IIC_Φは、CKS[2:0]ビットにより、Pckのn分周（n＝1、2、4、8、16、32、64、128）に設定できます。
4. internal_delay の設定により、以下のようになります。
SDID[1:0] = 00　--> internal_delay = 1IICϕ
SDID[1:0] = 01　--> internal_delay = 2IICϕ
SDID[1:0] = 10　--> internal_delay = 4IICϕ
SDID[1:0] = 11　--> internal_delay = 0（遅延なし）



注. S、 P、 Srは 以下を表します。
S: 開始条件
P: 停止条件
Sr: 再送開始条件

測定条件
V_{IH} = VCCQ x 0.7、V_{IL} = VCCQ x 0.3
V_{OL} = 0.6V、I_{OL} = 6mA(ICFER.FMPE = 0)
V_{OL} = 0.4V、I_{OL} = 20mA(ICFER.FMPE = 1)

図 46.43　RIIC バスインターフェース入出力タイミング

46.4.14 SPI1 モジュール信号タイミング

表46.25　SPI1 モジュール信号タイミング

項目	記号	Min.	Max.	単位	参照図
SP1-SCK クロック出力周波数	f_{SP1C}	—	48	MHz	
SP1-SCK クロック出力周期	t_{SP1C}	20.8	—	ns	46.44
SP1-SCK クロック出力Lレベルパルス幅	t_{SP1CL}	8	—	ns	46.44
SP1-SCK クロック出力Hレベルパルス幅	t_{SP1CH}	8	—	ns	46.44
SP1-SCK_FB クロック立ち上がり時間（VCCQの20%-80%）	$t_{SP1FBCR}$	—	6	ns	46.45
SP1-SCK_FB クロック立ち下がり時間（VCCQの20%-80%）	$t_{SP1FBCF}$	—	6	ns	46.45
SP1-MISO入力セットアップ時間(SP1-SCK_FB 立ち上がり)	$t_{SP1DVCH}$	2	—	ns	46.45
SP1-MISO入力ホールド時間 (SP1-SCK_FB 立ち上がり)	$t_{SP1CHDX}$	10	—	ns	46.45
SP1-MOSI 出力有効時間 (SP1-SCK立ち上がり前)	$t_{SP1QVCH}$	t_{SP1C}/2-6	—	ns	46.44
SP1-MOSI 出力有効時間 (SP1-SCK 立ち上がり後)	$t_{SP1CHQX}$	t_{SP1C}/2-6	—	ns	46.44
$\overline{\text{SP1-SS0}}$、$\overline{\text{SP1-SS1}}$ 出力有効時間 (SP1-SCK 立ち上がり前)	$t_{SP1SLCH}$	t_{SP1C}/2-5	—	ns	46.44
$\overline{\text{SP1-SS0}}$、$\overline{\text{SP1-SS1}}$ 出力有効時間(SP1-SCK立ち上がり後)	$t_{SP1CHSH}$	t_{SP1C}-15	—	ns	46.44

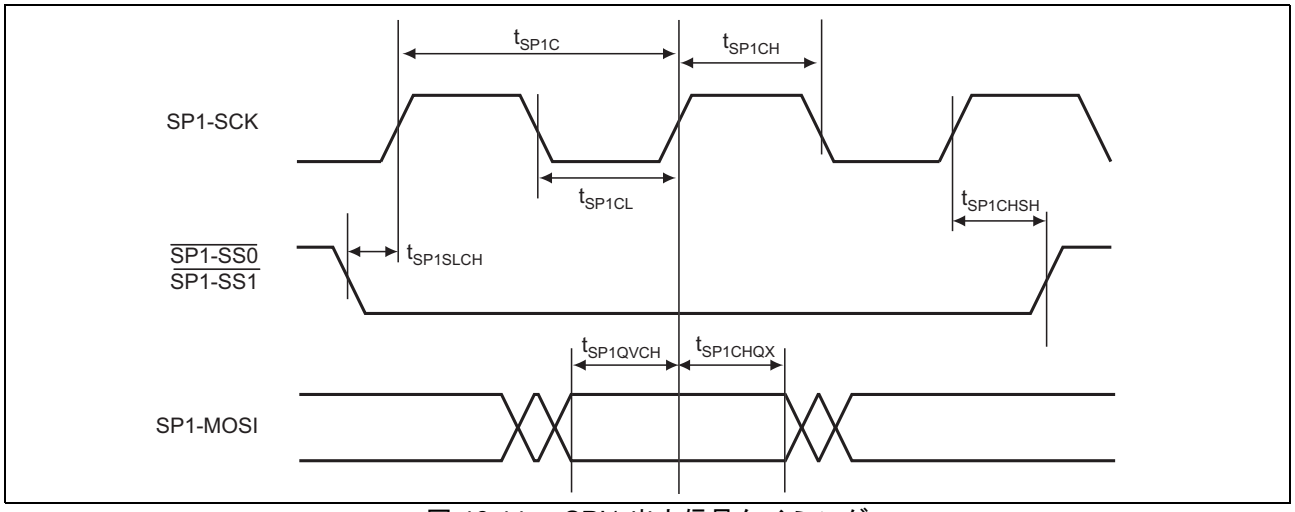


図 46.44　SPI1 出力信号タイミング

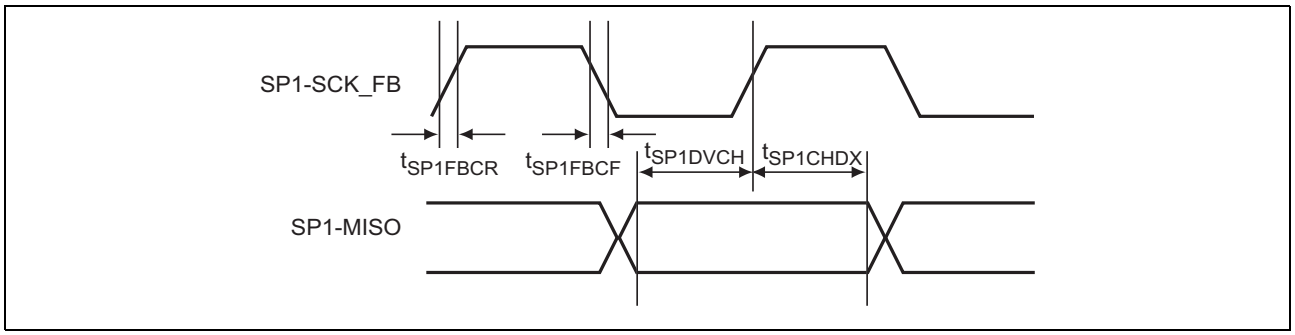


図 46.45　SPI入力信号タイミング

46.4.15 SCIF2～4 モジュール信号タイミング

表46.26　SCIF2～4 モジュール信号タイミング

項目	記号	Min.	Max.	単位	参照図	備考
入力クロックサイクル（調歩同期）	t_{Scyc}	4	—	t_{Pcyc}	46.46	
入力クロックサイクル（クロック同期）		12	—	t_{Pcyc}	46.46	
入力クロックパルス幅	t_{SCKW}	0.4	0.6	t_{Scyc}	46.46	
入力クロック立ち上がり時間	t_{SCKr}	—	0.8	t_{Pcyc}	46.46	
入力クロック立ち下がり時間	t_{SCKf}	—	0.8	t_{Pcyc}	46.46	
転送データ遅延時間	t_{TXD}	—	$4 \times t_{Pcyc} + 15$	ns	46.47	
受信データセットアップ時間（クロック同期）	t_{RXS}	16	—	ns	46.47	
受信データホールド時間（クロック同期）	t_{RXH}	$t_{Pcyc} + 5$	—	ns	46.47	

注.　t_{Pcyc} は周辺クロック（Pck）の1 サイクル時間を示します。

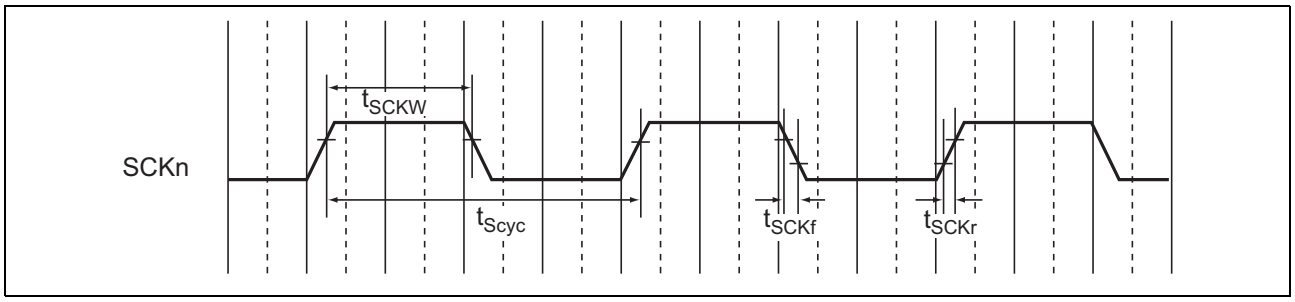


図 46.46　SCKn入力クロックタイミング（n＝2～4）

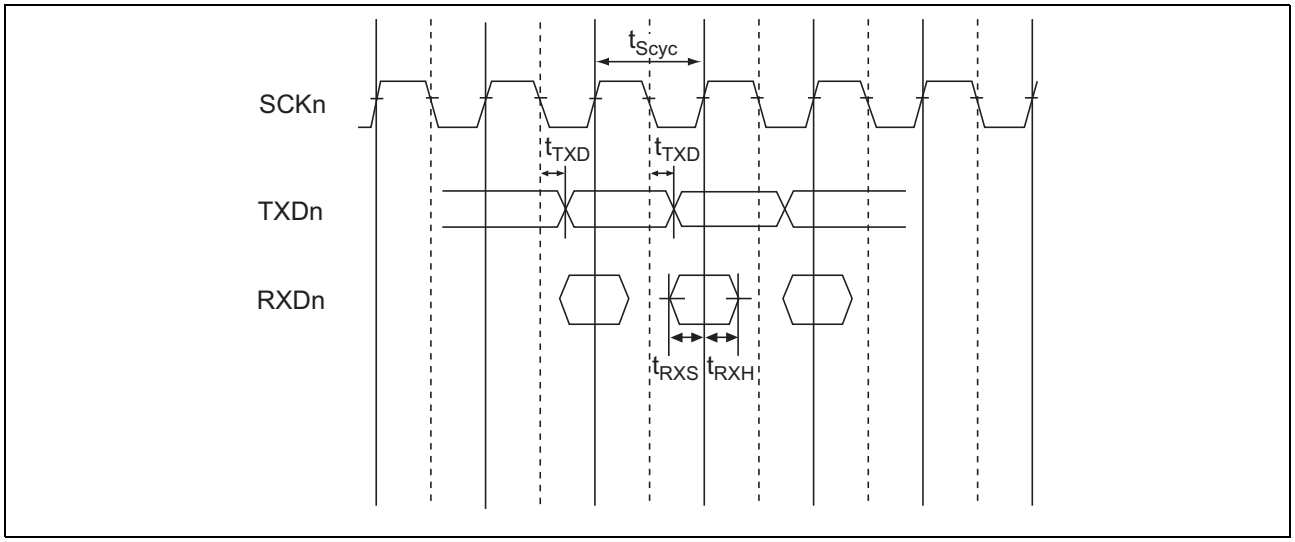


図 46.47　SCIFn クロック同期モード I/Oタイミング（n＝2～4）

46.4.16 USB0/USB1 モジュール信号タイミング

表46.27　USB0/USB1 トランシーバタイミング（フルスピード時）

項目	記号	Min.	Typ.	Max.	単位	参照図
立ち上がり時間	t_{FR}	4	—	20	ns	46.48
立ち下がり時間	t_{FF}	4	—	20	ns	
立ち上がり／立ち下がり時間比	t_{FR}/t_{FF}	90	—	111.11	%	

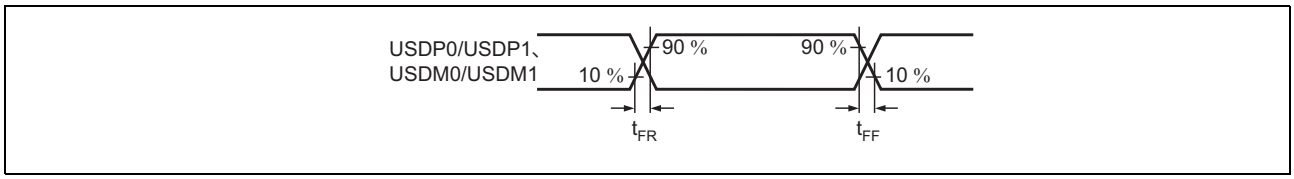


図 46.48　USDP0/USDP1、USDM0/USDM1 出力タイミング（フルスピード時）

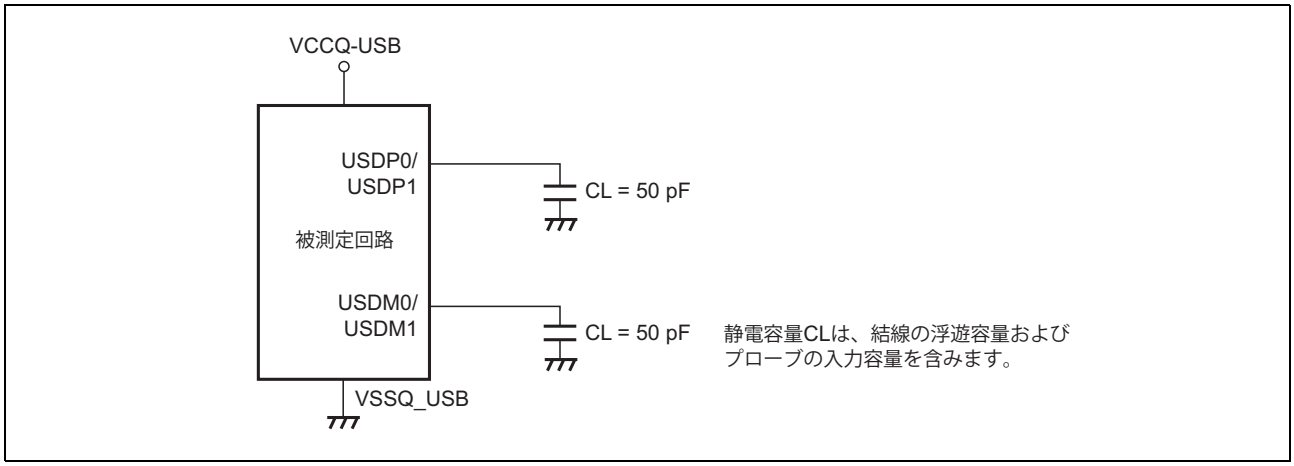


図 46.49　測定回路（フルスピード時）

表46.28　USB0/USB1 トランシーバタイミング（ハイスピード時）

項目	記号	Min.	Typ.	Max.	単位	参照図
立ち上がり時間	t_{HSR}	400	—	—	ps	46.50
立ち下がり時間	t_{HSF}	400	—	—	ps	
出力ドライバ抵抗	Z_{HSDRV}	40.5	—	49.5	Ω	

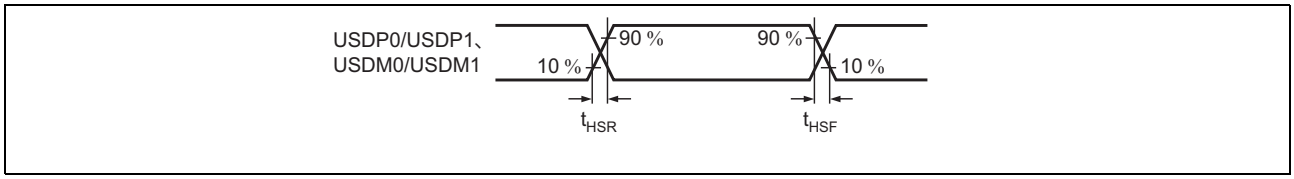


図 46.50　USDP0/USDP1、USDM0/USDM1 出力タイミング（ハイスピード時）

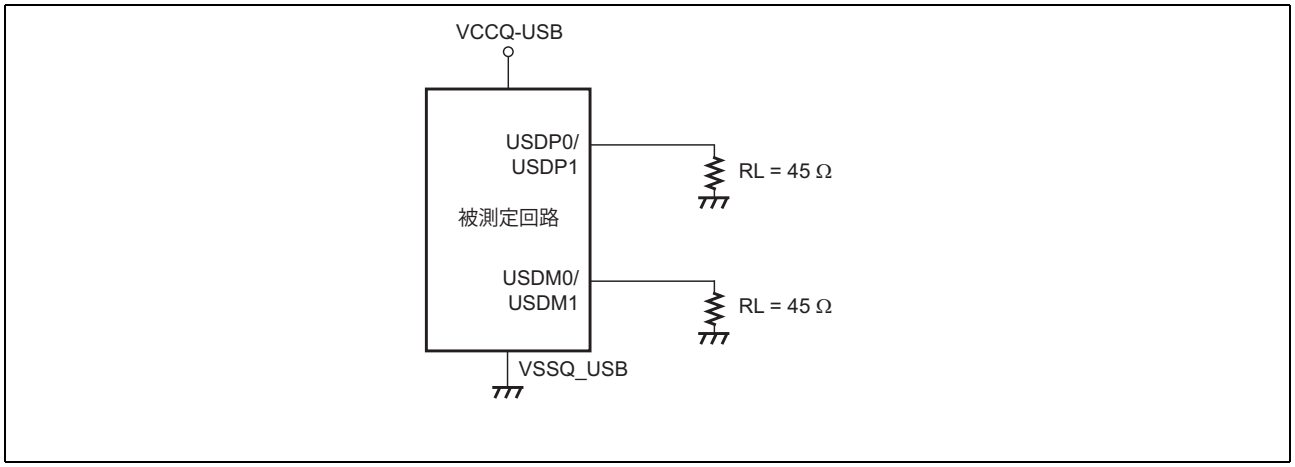


図 46.51 測定回路（ハイスピード時）

46.4.17 A/D モジュール信号タイミング

表46.29 A/D モジュール信号タイミング

項目	記号	Min.	Max.	単位	参照図
ADTRG0、ADTRG1 入力パルス幅	t_{TRGW}	2	—	t_{Pcyc}	46.52

注. t_{Pcyc} は周辺クロック（Pck）の1 サイクル時間を示します。

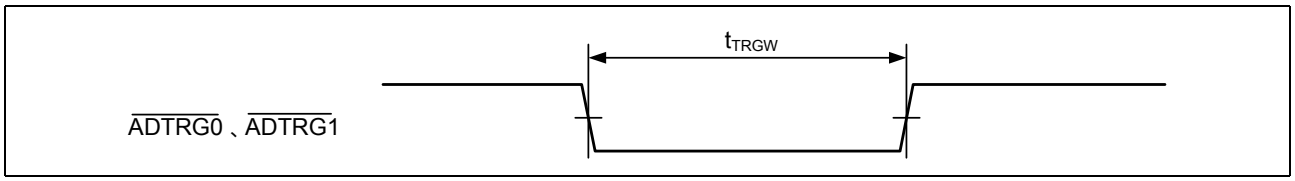


図 46.52 A/D 変換器外部トリガ 入力パルス幅

46.4.18 GPIO モジュール信号タイミング

表46.30 GPIO モジュール信号タイミング

項目		記号	Min.	Max.	単位	参照図
GPIO 出力遅延時間	PTM0 ～ PTM3、 PTR0 ～PTR7、 PTS0 ～ PTS7	t_{IOPD}	0	400	ns	46.53
	その他		0	12	ns	
GPIO入力セットアップ時間		t_{IOPS}	9	—	ns	46.53
GPIO入力ホールド時間		t_{IOPH}	1.5	—	ns	46.53

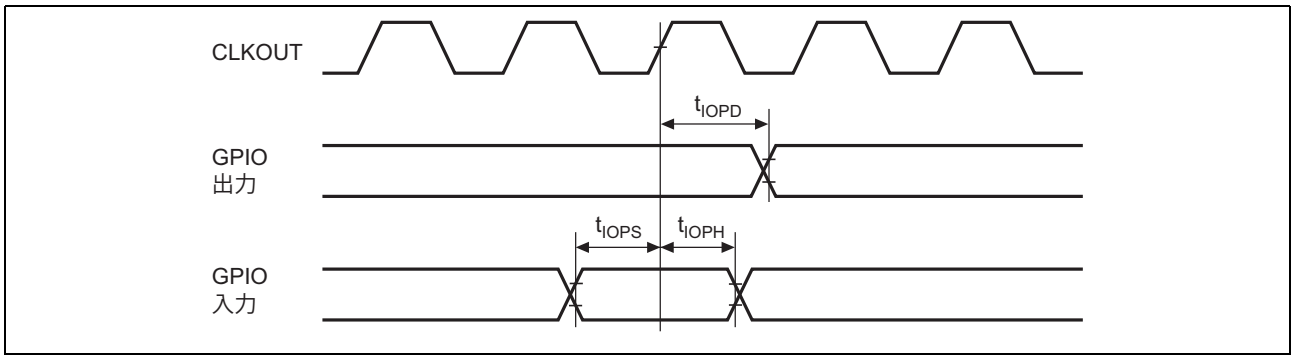


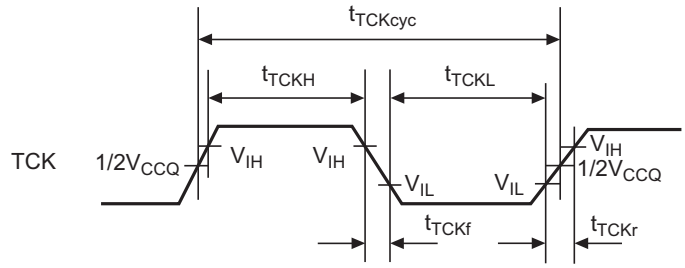
図 46.53 GPIO タイミング

46.4.19 H-UDI モジュール信号タイミング

表46.31　H-UDI モジュール信号タイミング

項目	記号	Min.	Max.	単位	参照図	備考
入力クロックサイクル	t_{TCKcyc}	50	—	ns	46.54、46.56	
入力クロックHパルス幅	t_{TCKH}	15	—	ns	46.54	
入力クロックLパルス幅	t_{TCKL}	15	—	ns	46.54	
入力クロック立ち上がり時間	t_{TCKr}	—	10	ns	46.54	
入力クロック立ち下がり時間	t_{TCKf}	—	10	ns	46.54	
$\overline{\text{ASEBRK}}$ セットアップ時間	$t_{ASEBRKS}$	10	—	t_{cyc}	46.55	
$\overline{\text{ASEBRK}}$ ホールド時間	$t_{ASEBRKH}$	10	—	t_{cyc}	46.55	
TDI/TMS セットアップ時間	t_{TDIS}	15	—	ns	46.56	
TDI/TMS ホールド時間	t_{TDIH}	15	—	ns	46.56	
TDO データ遅延時間	t_{TDO}	—	12	ns	46.56	
$\overline{\text{ASEBRK}}$ 端子パルス幅	t_{PINBRK}	2	—	t_{Pcyc}	46.57	

注1.　t_{cyc} はCLKOUT クロックの1 サイクル時間を示します。
2.　t_{Pcyc} は周辺クロック（Pck）の1 サイクル時間を示します。



注.　TCK端子からクロックを入力する場合

図 46.54　TCK 入力タイミング

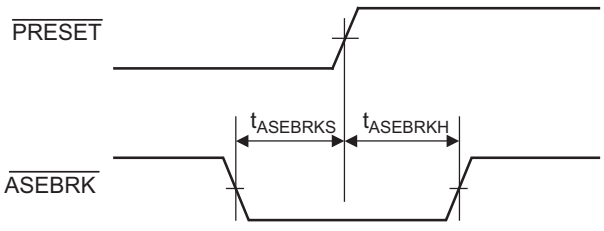


図 46.55　$\overline{\text{ASEBRK}}$セットアップ／ホールドタイミング

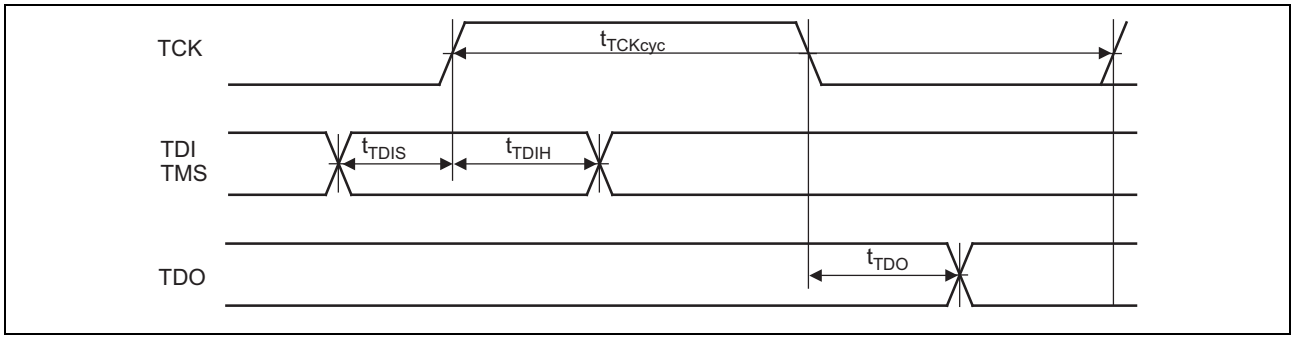


図 46.56 H-UDI データ転送タイミング

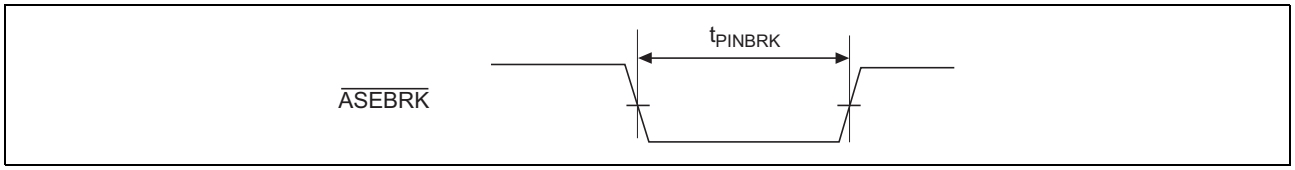


図 46.57 $\overline{\text{ASEBRK}}$ 端子パルス幅

46.4.20 RSPI モジュール信号タイミング

条件：tPcyc = 20.8ns

表46.32 RSPI タイミング

項目		記号	Min.	Typ.	Max.	単位	参照図
RSPCK クロックサイクル	マスタ	t_{SPcyc}	2	—	—	tPcyc	46.58
	スレーブ		4	—	—		
RSPCK クロックHレベルパルス幅	マスタ	t_{SPCKWH}	(tSPcyc – tSPCKR – tSPCKF) /2 – 3	—	—	ns	
	スレーブ		(tSPcyc – tSPCKR – tSPCKF) /2	—	—		
RSPCK クロックLレベルパルス幅	マスタ	t_{SPCKWL}	(tSPcyc – tSPCKR – tSPCKF) /2 – 3	—	—	ns	
	スレーブ		(tSPcyc – tSPCKR – tSPCKF) /2	—	—		
RSPCK クロック立ち上がり/立ち下がり時間	出力	t_{SPCKR}、t_{SPCKF}	—	3	5	ns	
	入力		—	—	1	µs	
データ入力セットアップ時間	マスタ	t_{SU}	25	—	—	ns	46.59 46.60 46.61 46.62
	スレーブ		20 -tPcyc	—	—		
データ入力ホールド時間	マスタ	t_H	10	—	—	ns	
	スレーブ		20	—	—		
SSL セットアップ時間	マスタ	t_{LEAD}	1	—	8	tSPcyc	
	スレーブ		5	—	—	tPcyc	
SSL ホールド時間	マスタ	t_{LAG}	1	—	8	tSPcyc	
	スレーブ		2	—	—	tPcyc	
データ出力遅延時間	マスタ	t_{OD}	—	—	25	ns	
	スレーブ		—	—	1.5 × tPcyc + 40	ns	
データ出力ホールド時間	マスタ	t_{OH}	–5	—	—	ns	
	スレーブ		–5	—	—		
連続送信遅延時間	マスタ	t_{TD}	tSPcyc + tPcyc	—	8 × tSPcyc + tPcyc	ns	
	スレーブ		2 × tPcyc	—	—		
MOSI、MISO立ち上がり/立ち下がり時間	出力	t_{DR}、t_{DF}	—	—	5	ns	
	入力		—	—	1	µs	
SSL 立ち上がり/立ち下がり時間	出力	t_{SSLR}、t_{SSLF}	—	—	5	ns	
	入力		—	—	1	µs	
スレーブアクセス時間		t_{SA}	—	—	2	tPcyc	46.61 46.62
スレーブアウト開放時間		t_{REL}	—	—	1.5	tPcyc	

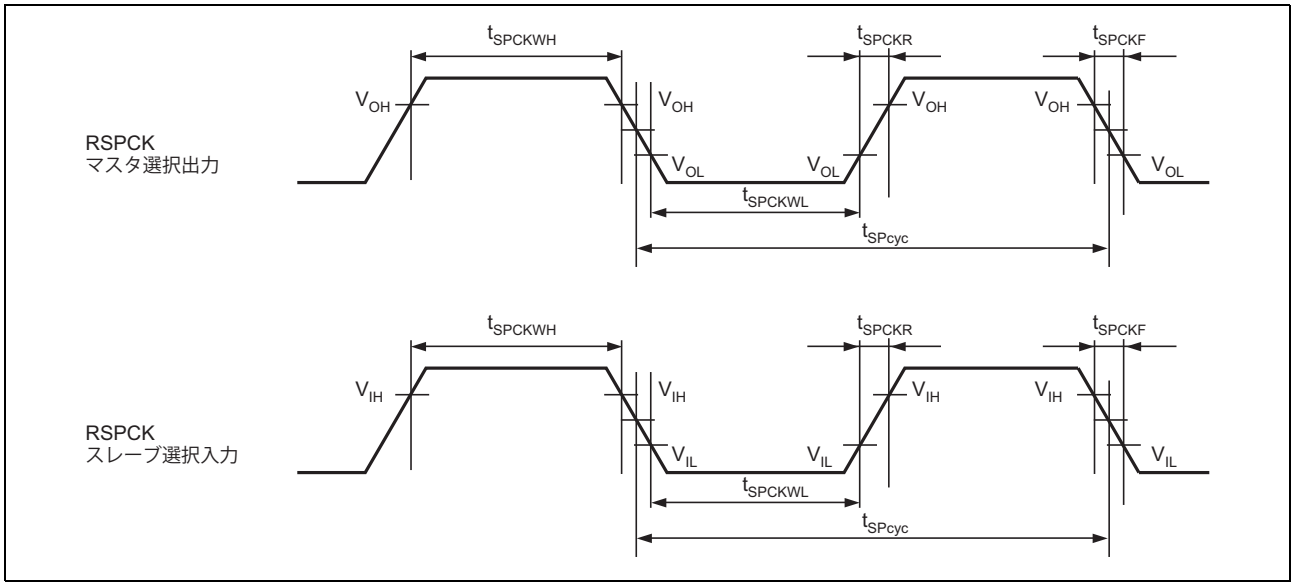


図 46.58 RSPI クロックタイミング

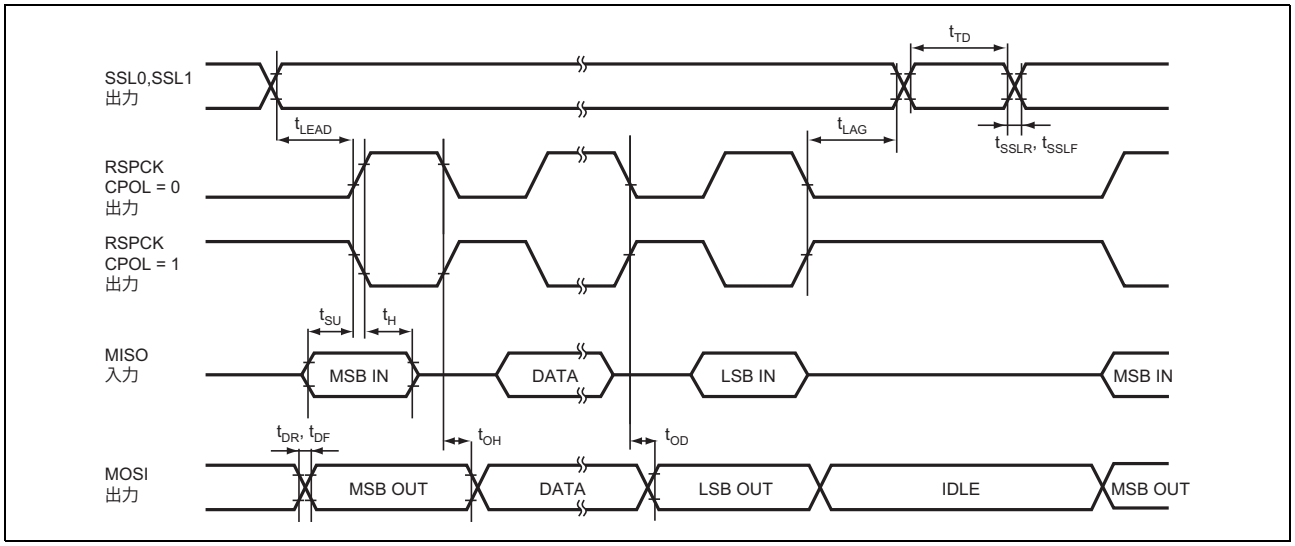


図 46.59 RSPI タイミング（マスタ、CPHA = 0）

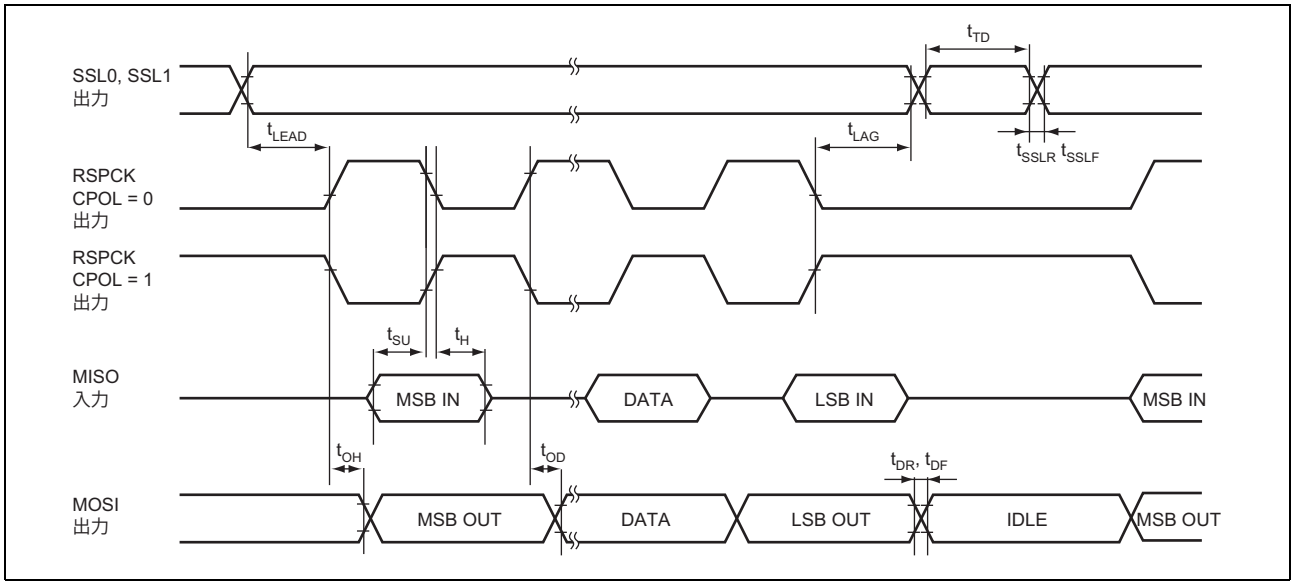


図 46.60 RSPI タイミング （マスタ、CPHA = 1）

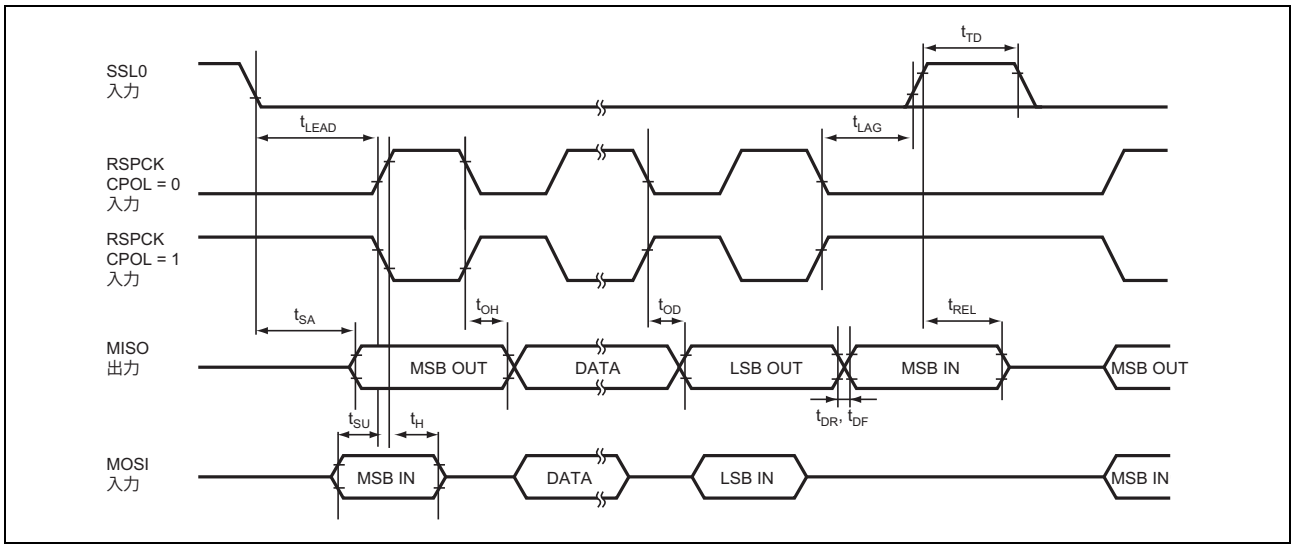


図 46.61 RSPI タイミング（スレーブ、CPHA = 0）

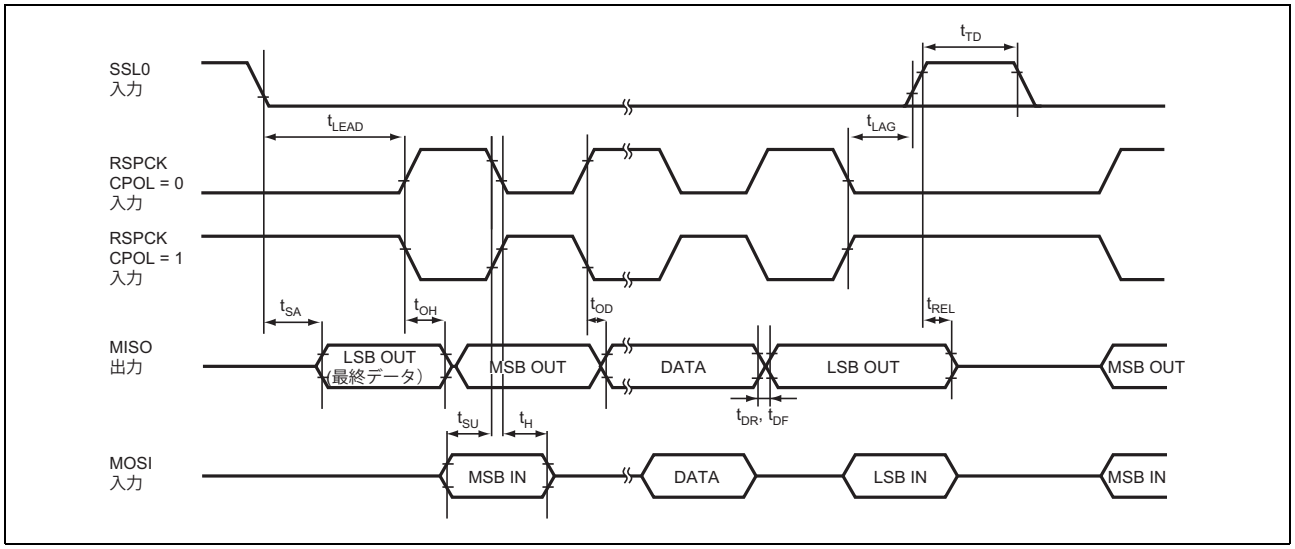


図 46.62　RSPI タイミング（スレーブ、CPHA = 1）

46.4.21 eMMC モジュール信号タイミング

表46.33 eMMC モジュール信号タイミング

項目	記号	Min.	Max.	単位	参照図
CLK クロックサイクル	t_{MMCCYC}	t_{PCYC}（注）	—	ns	46.63
CLK クロックL レベル幅	t_{MMCCWL}	6.5	—	ns	46.63
CLK クロックH レベル幅	t_{MMCCWH}	6.5	—	ns	46.63
CLK クロック立ち上がり時間 (VCCQの20%～80%)	t_{MMCCLH}	—	3	ns	46.63
CLKクロック立ち下がり時間 (VCCQの20%～80%)	t_{MMCCHL}	—	3	ns	46.63
CMD出力データ遅延	t_{MMCCMD}	–6.6	6.6	ns	46.63
DAT 出力データ遅延	t_{MMCDAD}	–6.6	6.6	ns	46.63
CMD入力データセットアップ	t_{MMCCMS}	4.0	—	ns	46.63
CMD入力データホールド	t_{MMCCMH}	2.5	—	ns	46.63
DAT 入力データセットアップ	t_{MMCDAS}	4.0	—	ns	46.63
DAT 入力データホールド	t_{MMCDAH}	2.5	—	ns	46.63

注. t_{PCYC} は周辺クロック（Pck）の1 サイクル時間を示します (Pck = 48 MHz)。

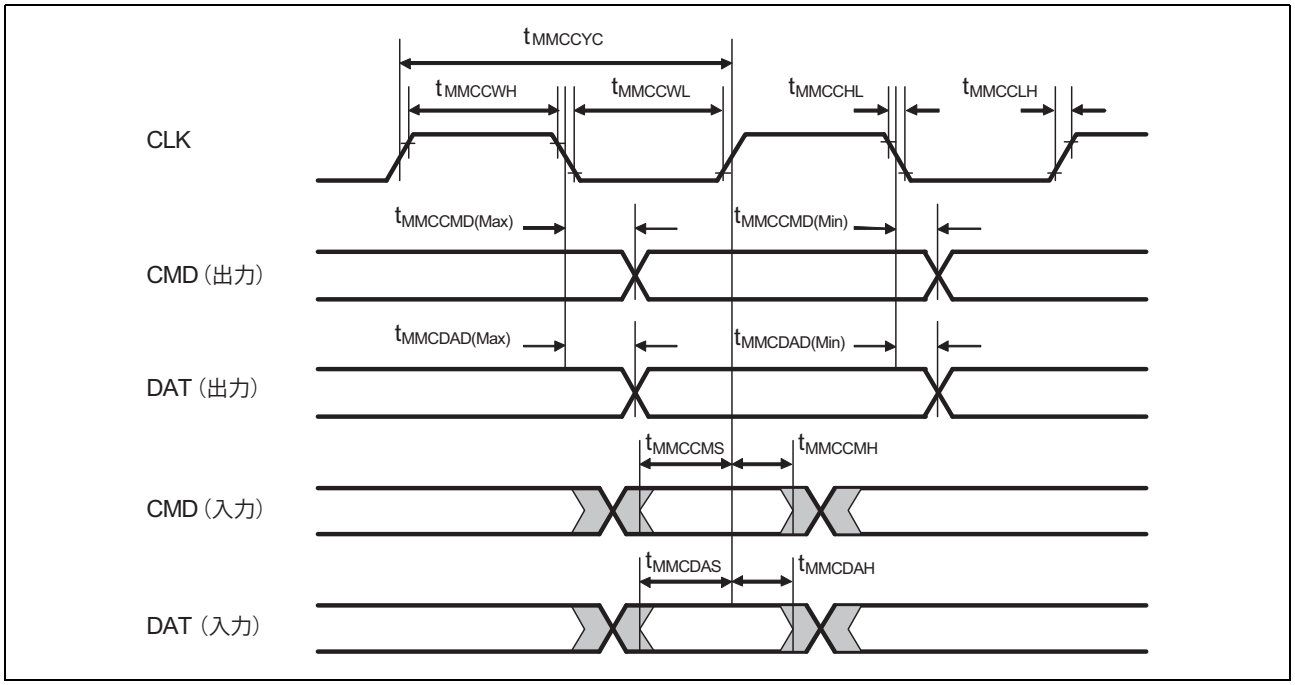


図 46.63 MMC クロックタイミング

46.4.22 SGPIO モジュール信号タイミング

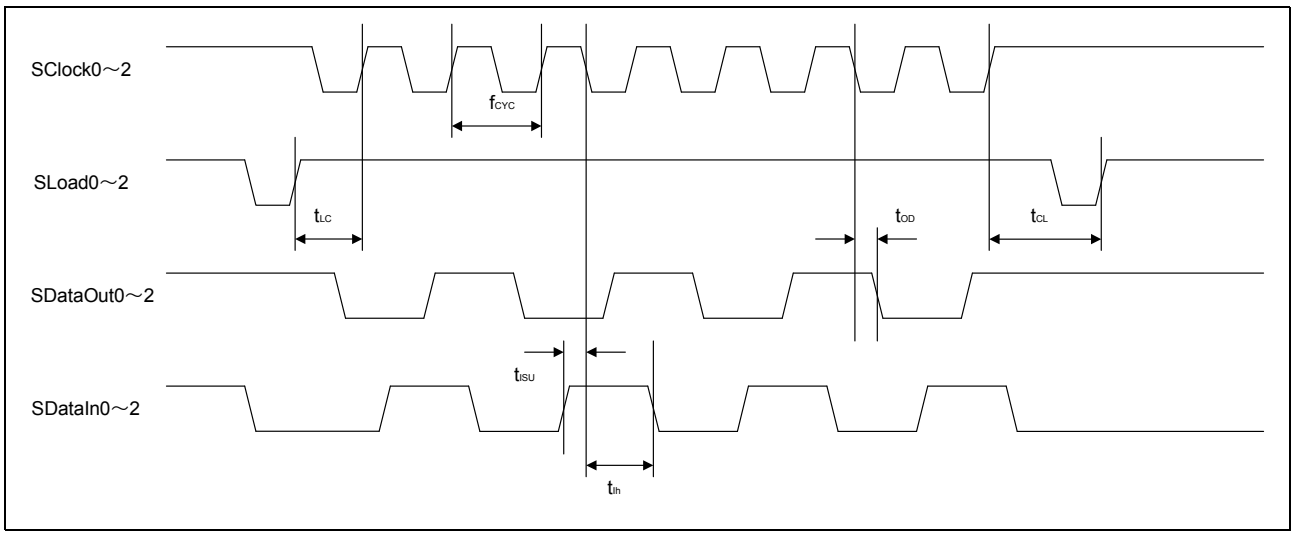


図 46.64 SGPIO クロックタイミング

表46.34 SGPIO モジュール信号タイミング

項目	記号	Min.	Max.	単位
SClock 周波数	f_{CYC}	—	48	MHz
SLoad ～ SClock 時間	t_{LC}	16.0	—	ns
SClcok ～ SLoad 時間	t_{CL}	20.0	—	ns
SDataOut 遅延時間	t_{OD}	-2.0	6.0	ns
SDataIn セットアップ時間	t_{ISU}	2.0	—	ns
SDataIn ホールド時間	t_{Ih}	8.0	—	ns

46.4.23 EVC モジュール信号タイミング

表46.35 EVC モジュール信号タイミング

項目	記号	Min.	Max.	単位
イベント入力Hパルス幅	t_{EVWH}	2	—	t_{pcyc}
イベント入力Lパルス幅	t_{EVWL}	2	—	t_{pcyc}

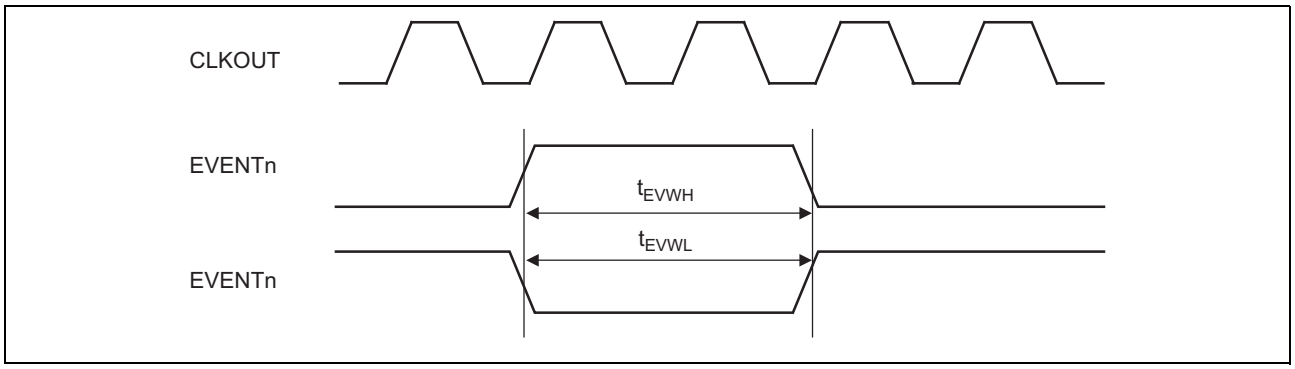


図 46.65 EVENT 入力信号タイミング

46.5 A/D 変換器特性

表46.36 A/D 変換器特性 （V_{DD} = 1.20 ～1.30V、V_{CCQ} = 3.0 ～3.6V、AV_{ref} = 3.0V ～ AV_{CC}、AV_{CC}= 3.0 ～3.6V）

項目	記号	Min.	Max.	単位
分解能	10	10	10	ビット
変換時間	5.5	—	—	μs
アナログ入力容量	—	—	20	pF
許容信号源インピーダンス	—	—	5	kΩ
非直線性誤差	—	—	±3.0(注)	LSB
オフセット誤差	—	—	±2.0(注)	LSB
フルスケール誤差	—	—	±2.0(注)	LSB
量子化誤差	—	—	±0.5(注)	LSB
絶対精度	—	—	±4.0	LSB

注. 参考値

付録

A. CPU 動作モードレジスタ（CPUOPM）

CPUOPM は、CPU の動作モードを切り替えるために使用します。本レジスタはH'FF2F 0000番地から32ビットサイズで読み出し／書き込みが可能です。本レジスタへ書き込む際には、必ずリザーブビットに初期値を書き込むようにしてください。リザーブビットに初期値以外の値を書き込んだ場合の動作は保証されません。

CPUOPM の更新は、CPU 以外の SuperHyway バスマスタからのアクセスでなく、SH-4A のストア命令で行ってください。また、CPUOPM 更新後、一度CPUOPM を読み出した後で、以下の1.又は2.のどちらかを実行してください。

1. RTE命令による分岐を実行してください。
2. 任意のアドレス（キャッシング不可領域でもよい）に対して、ICBI命令を実行してください。

1.又は2.の実行後、SH-4A は更新後のCPUOPM の値を用いて動作することが保証されます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	INTMU	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0
R/W:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	R/W	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 4	—	H'0000 032	—	リザーブビット（書き込む値はH'0000 032にしてください）
3	INTMU	0	R/W	割り込み動作モード切り替えビット 0：割り込みを受け付けてもSR レジスタのIMASK ビットの値は変化しません。 1：割り込みを受け付けた場合、受け付けたレベルをSR レジスタのIMASK ビットの値に自動的に設定します。
2 ～ 0	—	0	—	リザーブビット（書き込む値は“0”にしてください）

B. 命令プリフェッチとその副作用について

SH-4A は、先読みした命令を保持するためのバッファを内部に設けており、常に命令の先読みを行っています。

したがって、各メモリ空間の最終64 バイト領域にプログラムを配置しないでください。その領域にプログラムを配置した場合、メモリエリアを超えて命令の先読みのためのバスアクセスが発生する場合があります。

以下にこれが問題となるケースを示します。

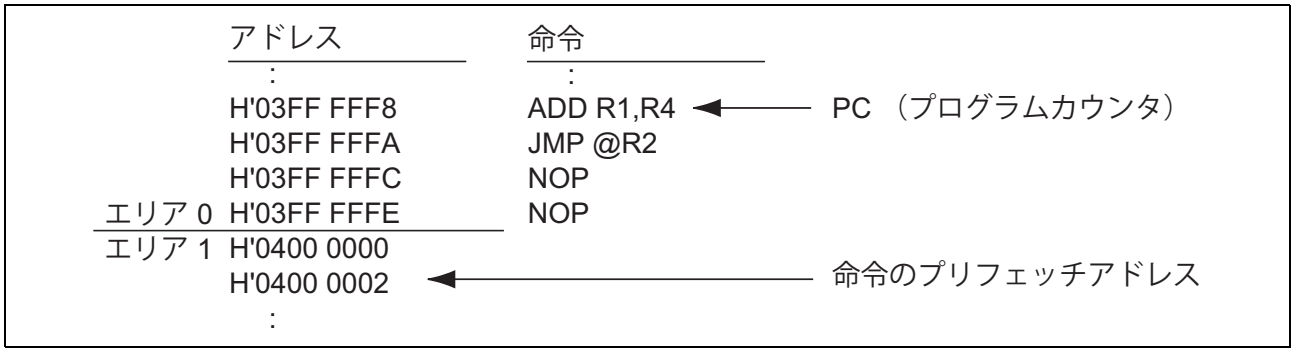


図 B.1 命令のプリフェッチ

図 B.1 では、PC（プログラムカウンタ）が指し示す命令（ADD）と、H'0400 0002 番地の命令フェッチが同時に行われるケースを想定しています。また、プログラムは、後続の JMP 命令、ディレイスロット命令の実行後、エリア 1 以外の領域に分岐するものと仮定します。

この場合、プログラムのフローから想定し得ないエリア 1 へのバスアクセス（命令のプリフェッチ）が発生する可能性があります。

(1) 命令のプリフェッチの副作用

1. 命令プリフェッチが引き起こす外部バスアクセスが原因でその領域に接続された FIFO などの外部デバイスが誤動作する場合が考えられます。
2. 命令プリフェッチが引き起こす外部バス要求に応答するデバイスが存在しない場合、ハングアップの原因になります。

(2) 回避方法

1. MMUを用いることで、これら不当な命令フェッチを回避することが可能です。
2. 各エリア最終64バイトの領域にプログラムを配置しないことで、回避することが可能です。

C. バージョンレジスタ（PVR、PRR）

SH-4A は、プロセッサコアのバージョンと製品のバージョンを示す読み出し専用のレジスタを内蔵しています。これらのレジスタの値を用いることにより、ソフトウェアからプロセッサのバージョン及び製品を区別することができ、拡張性の高いシステムを構築することが可能となります。

注. PVR レジスタのビット7～0 と、PRR レジスタのビット3～0 の値は必ずマスクをし、ソフトウェアに影響を与えないようにしてください。

表C.1 レジスタ構成

レジスタ名	略称	R/W	アドレス	アクセスサイズ	レジスタの状態	
					パワーオンリセット	マニュアルリセット
プロセッサバージョンレジスタ	PVR	R	H'FF00 0030	32	H'1030 0BXX	保持
プロダクトレジスタ	PRR	R	H'FF00 0044	32	H'0000 3114	保持

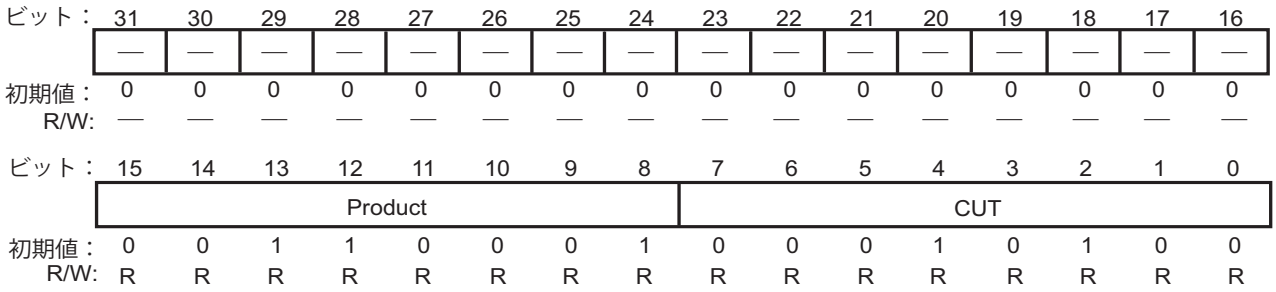
• PVR

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	CHIP								VER							
初期値：	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	CUT								—	—	—	—	—	—	—	—
初期値：	0	0	0	0	1	0	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～24	CHIP	H'10	R	プロセッサファミリの種別を示します。 SH-4A シリーズでは、必ず、H'10 が読み出されます。
23 ～ 16	VER	H'30	R	バージョンを示します。 SH-4A シリーズに大幅な機能拡張を行う場合に変更します。 本マニュアルでは、VER がH'30 以上の場合を対象としています。
15 ～ 8	CUT	H'0B	R	バージョンを示します。 SH-4A シリーズに小規模な修正を行う場合に変更します。
7 ～ 0	—	不定	—	不定値が読み出されます。 ソフトウェアからは読み出し後に必ずマスクをして使用してください。

• PRR



ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
31 ～ 16	—	0	—	リザーブビット
15～ 8	Product	H'31	R	バージョンを示します。 製品に大幅な機能拡張を行う場合に変更します。
7 ～ 0	CUT	H'14	R	バージョンを示します。 製品に小規模な修正を行う場合に変更します。

D. 外形寸法図

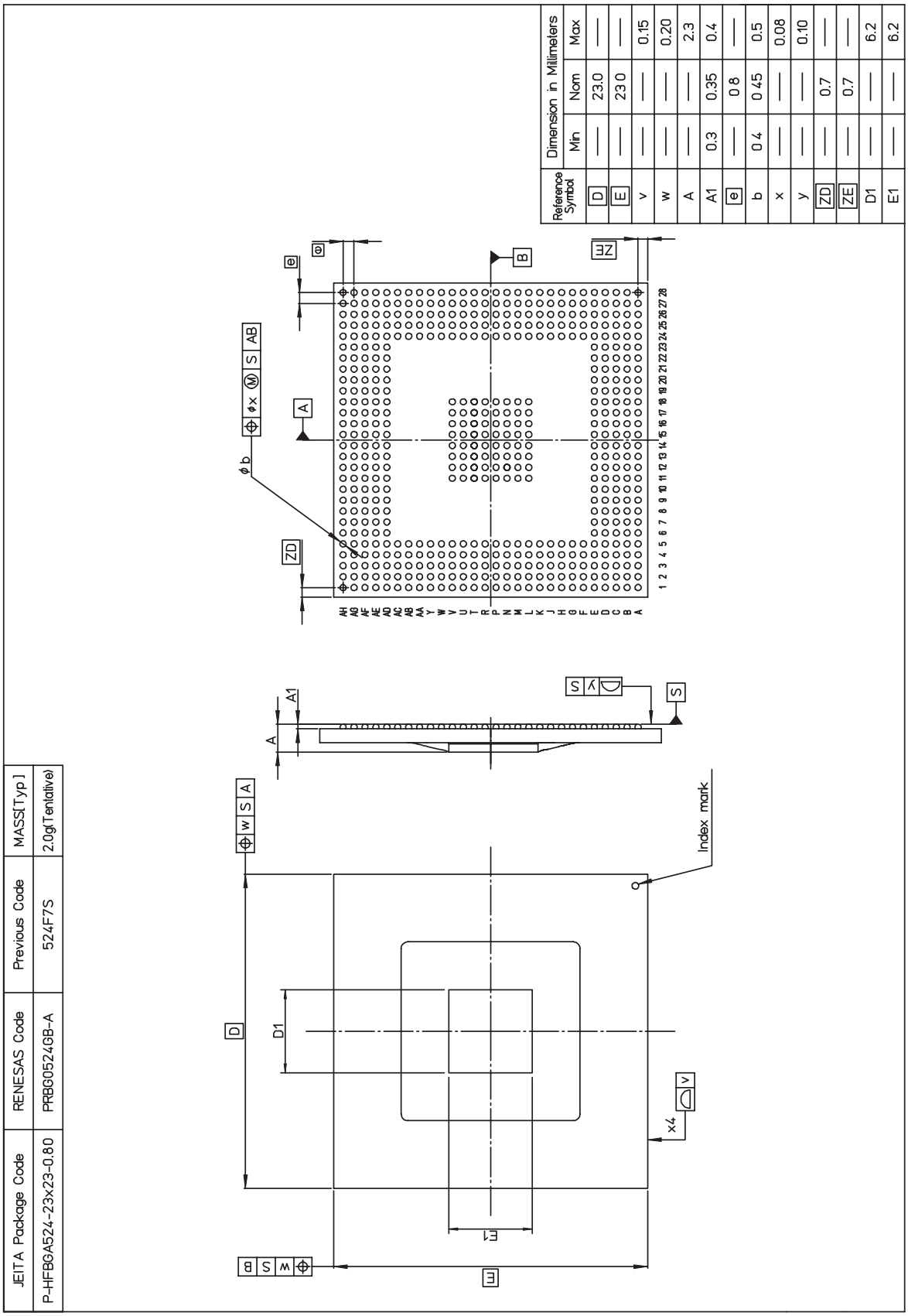


図 D.1 外形寸法図

E. ストラップピン一覧表

表E.1 ストラップピン一覧表

端子名	機能	説明	ストラップピン（注1）
MPMD	チップモード指定	L：エミュレーションモード H：ノーマルモード（チップモード）	Static
MD2、MD1、MD0	クロック動作モード設定	LLL：クロック動作モード0（注2） LLH：クロック動作モード1（注3） 注. 上記以外は設定禁止。	Static
MD3	バスモード設定	LBSCエリア0のバス幅を設定 L：16ビット H：8ビット	Static
MD5	エンディアン設定	LBSC、DBSC3バス及びSHwyバス用にSH-4Aのエンディアンを設定 L：ビッグエンディアン H：リトルエンディアン	Static
MD6、MD9	ブートモード設定	LL：LBSCブート HL：2KB SPIブート 注. 上記以外は設定禁止。	Static
MD8	クロック端子機能設定	L：外部クロック入力（EXTAL端子に外部クロック信号を入力） H：水晶発振子接続（EXTAL/XTAL端子間に水晶発振子を接続）	Static
MD10	CPUブートモード設定	L：32ビットブートモード H：29ビットブートモード	Static
FLSHSZ1、FLSHSZ0	SPI1フラッシュメモリサイズ設定	SPI1フラッシュメモリサイズを設定 LL ：2 MB LH ：4 MB HL ：8 MB HH ：16 MB	Static
WPSZ1、WPSZ0	SPI1フラッシュライトプロテクトエリアサイズ設定	SPI1フラッシュのライトプロテクトエリアサイズを設定 LL ：256 KB LH ：512 KB HL ：1 MB HH ：設定禁止	Static
$\overline{WP}$	SPI1フラッシュライトプロテクト設定	L ：SPI1ライトプロテクト有効 H ：SPI1ライトプロテクト無効	Dynamic
BOOTSZ1、BOOTSZ0	SPI0ブートフラッシュメモリサイズ設定	SPI0フラッシュメモリサイズ（ABR用）を設定 LL ：1 MB LH ：2 MB HL ：4 MB HH ：8 MB	Static
SPI0VER	SPI0モジュール設定	Lを入力してください	Static

端子名	機能	説明	ストラップピン（注1）
BOOTWPSZ1、BOOTWPSZ0	SPIブートフラッシュライトプロテクトエリアサイズ設定	SPI0フラッシュのライトプロテクトエリアサイズを設定 LL ：64 KB LH ：128 KB HL ：256 KB HH ：設定禁止	Static
BOOTFMS	SPIブートフラッシュメモリ領域選択 （ABR開始アドレス）	SPI0のABR動作の初期ロード領域を設定 L ：SPIフラッシュメモリエリアの下位半分からロード H ：SPIフラッシュメモリエリアの上位半分からロード	Static
$\overline{\text{BOOTWP}}$	SPI0ブートフラッシュライトプロテクト設定	L ：SPI0ライトプロテクト有効 H ：SPI0ライトプロテクト無効	Dynamic
WDTFOT1、WDTFOT0	ウォッチドッグタイマのABR遅延時間設定	SPI0のABR遅延時間を設定 LL ：ABR機能無効 LH ：22 秒 HL ：44 秒 HH ：88 秒	Static

注1. Static ：パワーオンリセットの間、入力レベルがラッチされます。
パワーオンリセット後、これらの端子は他の機能に使用できます。
Dynamic ：パワーオンリセットに関係なく入力レベルは有効です。

2. SH-4A クロック = 384 MHz、SHwyクロック = 192 MHz、ローカルバスクロック = 48 MHz、周辺クロック = 48 MHz
3. SH-4A clock = 576 MHz、SHwy clock = 192 MHz、ローカルバスクロック = 48 MHz、周辺クロック = 48 MHz

改訂記録	SH7752グループ ハードウェアマニュアル

Rev.	発行日	改訂内容	
		ページ	ポイント
1.00	2012.07.13	—	初版発行

SH7752グループ ユーザーズマニュアル
ハードウェア編

発行年月日　2012年7月13日　Rev.1.00

発行　　ルネサス エレクトロニクス株式会社
　　〒211-8668 神奈川県川崎市中原区下沼部 1753

ルネサス エレクトロニクス株式会社

■営業お問合せ窓口

http://www.renesas.com

※営業お問合せ窓口の住所・電話番号は変更になることがあります。最新情報につきましては、弊社ホームページをご覧ください。

ルネサス エレクトロニクス販売株式会社　〒100-0004　千代田区大手町2-6-2（日本ビル）　(03)5201-5307

■技術的なお問合せおよび資料のご請求は下記へどうぞ。
総合お問合せ窓口：http://japan.renesas.com/contact/

© 2012 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.
Colophon 1.1

R01UH0374JJ0100 Rev.1.00
2012.07.13

SH7752 グループ

ルネサス エレクトロニクス株式会社

R01UH0374JJ0100